

Basic Grammar a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)志渡岡 理恵・(SB)木口 圭子・(SC)島 高行・(SD)田丸 由美子

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、今まで英語について学習した内容を踏まえ、基本的な文法事項の復習をしながら、英文学科の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文を正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

- 第1週 インTRODクシヨ ン 英語の学習方法・辞書の使い方
- 第2週 文法の復習 品詞
- 第3週 文法の復習 時制
- 第4週 文法の復習 態
- 第5週 文法の復習 助動詞
- 第6週 文法の復習 不定詞
- 第7週 文法の復習 分詞
- 第8週 文法の復習 分詞構文
- 第9週 文法の復習 話法
- 第10週 文法の復習 比較
- 第11週 文法の復習 前置詞
- 第12週 読解の基礎
- 第13週 読解の応用
- 第14週 読解の実践
- 第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%。試験・レポート50%
フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

①綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社 ②大西泰斗・ポール・マクベイ『ハートで感じる英文法・決定版』NHK出版 ③Raymond Murphy, *English Grammar in Use*. CUP

【注意事項】

- ・英和辞典を必ず持参すること。
- ・演習科目であるため、積極的な参加が望まれる。

Basic Grammar b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)木口 圭子・(SB)田丸 由美子・(SC)村上 まどか・(SD)大関 啓子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「Basic Grammar a」で学修した内容を踏まえ、文法事項の復習をしながら、2年次以降の専門科目の学修に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につける。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を養う。

【授業の内容】

次の項目を念頭に置きながら、効果的な英語の学修を行なう。

- ・英語の語彙を増やす。
- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより速く、より正確に読む。

- 第1週 インTRODクシヨ ン さまざまな辞書と参考書の使い方
- 第2週 文法の復習 接続詞
- 第3週 文法の復習 法
- 第4週 文法の復習 関係詞
- 第5週 文法の復習 句
- 第6週 文法の復習 節
- 第7週 文法の復習 単文と複文
- 第8週 文法の復習 特殊構文
- 第9週 文法の復習 名詞
- 第10週 文法の復習 冠詞
- 第11週 文法の復習 動詞
- 第12週 長文読解の方法
- 第13週 長文読解の実践
- 第14週 長文の精読
- 第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%
試験・レポート50%
フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。指定図書として、以下の文法書を活用すること。
綿貫陽／ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社
大西泰斗／マクベイ『ハートで感じる英文法・決定版』NHK出版
Raymond Murphy *English Grammar in Use* ケンブリッジ大学出版局

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。
演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Reading a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)田丸 由美子・(SB)大関 啓子・(SC)木口 圭子・(SD)諏訪 友亮

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

今までの英語学習の語彙・文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週 インTRODクシヨ ン さまざまな辞書の使い方

第2週 長文1 大意把握、語彙確認

第3週 長文1 精読、文法確認

第4週 長文1 精読、問題演習

第5週 長文2 大意把握、語彙確認

第6週 長文2 精読、文法確認

第7週 長文2 精読、問題演習

第8週 長文3 大意把握、語彙確認

第9週 長文3 精読、文法確認

第10週 長文3 精読、問題演習

第11週 長文4 大意把握、語彙確認

第12週 長文4 精読、文法確認

第13週 長文4 精読、問題演習

第14週 長文読解の応用

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。
演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Reading b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)稲垣 伸一・(SB)西野 方子・(SC)田丸 由美子・(SD)木口 圭子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「Basic Reading a」で学習した内容を踏まえ、語彙・文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とします。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とします。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につけます。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進めます。内容は以下の通りです。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われます。

第1週 インTRODクシヨ ン さまざまな辞書の使い方

第2週 長文1 大意把握、語彙確認

第3週 長文1 精読、文法確認

第4週 長文1 精読、問題演習

第5週 長文2 大意把握、語彙確認

第6週 長文2 精読、文法確認

第7週 長文2 精読、問題演習

第8週 長文3 大意把握、語彙確認

第9週 長文3 精読、文法確認

第10週 長文3 精読、問題演習

第11週 長文4 大意把握、語彙確認

第12週 長文4 精読、文法確認

第13週 長文4 精読、問題演習

第14週 長文読解の応用

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合があります。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示されます。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。
演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれます。

Basic Speaking a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA) (SD) パーティウム, D・(SB) フルトン, スチュワート・(SC)

(SE) ラーソン, マイケル

1年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills and a foundation for further studies in the English language. This course is a required one-semester course for first-year students.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」 and 「協働力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

The main focus will be on improving students' English proficiency skills through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized.

1st week Introduction
2nd week Pronunciation Vowels
3rd week Pronunciation Consonants
4th week Intonation
5th week Self-introduction
6th week Group Introduction
7th week College Life
8th week Part-time Jobs
9th week Club Activities
10th week Travel
11th week Studying Abroad
12th week Hobby
13th week Future
14th week Family
15th week Group Work

The subjects will change according to the level of the class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation (70%), and completion of all assignments (30%). Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

Basic Speaking b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SD・SEクラス—

(SA) (SD) パーティウム, D・(SB) フルトン, スチュワート・(SC)

(SE) ラーソン, マイケル

1年 後期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

This is a required one-semester course that continues where "Basic Speaking a" finished. (Note however that this course is independent of "Basic Speaking a.") The purpose of this course is to enhance first-year students' basic English proficiency skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」 and 「研鑽力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

The main focus will be on improving students' proficiency through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized. The coursework will engage students in role-plays, information exchanges and group skits.

1st week Introduction
2nd week Pronunciation Vowels
3rd week Pronunciation Consonants
4th week Intonation
5th week Group Work
6th week Group Presentation
7th week Pair Work
8th week Pair Presentation
9th week Group Discussion
10th week Group Writing
11th week Pair Discussion
12th week Pair Writing
13th week Class Discussion
14th week Class Presentation
15th week Review

The subjects will change according to the level of the class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation (70%), and completion of all assignments (30%). Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

Effective Communication A

デヴェラ, ローナ・V・L・レビー, ロバート・C

1年 前期 1単位

◎: 国際的視野、○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The objectives of this course is to strengthen all aspects of the students' English speaking ability, incorporating the other skills as well, writing, reading and listening. In this course students will be given the opportunity to discuss, write and present about current topics in Japan and in the world. Through taking this course students will gain the necessary skills and confidence to make themselves more marketable in the global world. By the end of this course the students will feel comfortable participating in daily conversations, as well as in academic or public speaking situations.

【授業における到達目標】

The overall objective of this course is to give students the opportunity to develop as internationally minded citizens and to cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

1. Course introduction- Self-introduction
2. Topic 1: Family - read/ vocabulary/summarize
3. Topic 1: Family - group work/presentation
4. Topic 2: Friends - watch/vocabulary/write
5. Topic 2: Friends - group work/presentation
6. Grammar Day
7. Grammar Test
8. Prepare for mid-term presentation
9. Mid-term presentation
10. Topic 3: Culture - read/vocabulary/summarize
11. Topic 3: Culture - group work/presentation
12. Topic 4: Education - watch/vocabulary/write
13. Topic 4: Education - group work/presentation
14. Prepare for final presentation
15. Final presentation

【事前・事後学修】

Students should come prepared and have an interest in English. Students are required to preview the next class contents for about 1 hour. Students are required to review the taught class contents for about 1 hour.

【テキスト・教材】

Original handouts will be provided.

Students should bring a notebook.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Attitude 20%
- Midterm presentation 20%
- Final presentation 20%
- Writing/HW 20%
- Listening and speaking 20%

Students will receive their feedback in the 15th class.

【注意事項】

ネームカード作成のため、証明写真(縦3cm×横4cm)を提出してください。

Effective Communication B

デヴェラ, ローナ・V・L・レビー, ロバート・C

1年 後期 1単位

◎: 国際的視野、○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The objectives of this course is to strengthen all aspects of the students' English speaking ability, incorporating the other skills as well, writing, reading and listening. In this course students will be given the opportunity to discuss, write and present about current topics in Japan and in the world. Through taking this course students will gain the necessary skills and confidence to make themselves more marketable in the global world. By the end of this course the students will feel comfortable participating in daily conversations, as well as in academic or public speaking situations.

【授業における到達目標】

This course aims to give students the opportunity to develop as internationally minded citizens and to cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

1. Course introduction- Self-introduction
2. Topic 1: Sports - read/ vocabulary/summarize
3. Topic 1: Sports - group work/presentation
4. Topic 2: Work - watch/vocabulary/write
5. Topic 2: Work - group work/presentation
6. Grammar Day
7. Grammar Test
8. Prepare for mid-term presentation
9. Mid-term presentation
10. Topic 3: Food - read/vocabulary/summarize
11. Topic 3: Food - group work/presentation
12. Topic 4: Health - watch/vocabulary/write
13. Topic 4: Health - group work/presentation
14. Prepare for final presentation
15. Final presentation

【事前・事後学修】

Students should come prepared and have an interest in English. Students are required to preview the next class contents for 1 hour. Students are required to review the taught class contents for 1 hour.

【テキスト・教材】

Original handouts will be provided.

Students should bring a notebook.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Attitude 20%
- Midterm presentation 20%
- Final presentation 20%
- Writing/HW 20%
- Listening and speaking 20%

Students will receive their feedback in the 15th class.

【注意事項】

ネームカード作成のため、証明写真(縦3cm×横4cm)を提出してください。

Effective Communication C

レビー, ロバート・C

2年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The objective of the Effective Communication course is to strengthen all aspects of the student's English speaking ability, increase student's self-confidence and improve their oral fluency and pronunciation.

【授業における到達目標】

The course outline for Effective Communication will cover a variety of techniques and phrases that will help students take part in English discussions more confidently and effectively. Each week we will also go over different areas of basic pronunciation, intonation and stress.

【授業の内容】

Course Schedule

Week 1 Orientation. Rejoinders. Follow-up questions

Week 2 Effective presentation and PowerPoint techniques

Week 3 Confirmation Questions

Week 4 Clarifications with Question Words

Week 5 PowerPoint Presentation 1 info

Week 6 Expressing Probability

Week 7 Expressing Opinions

Week 8 PowerPoint Presentation 1

Week 9 PowerPoint Presentation 2 info

Week 10 Talking on the Telephone

Week 11 Talking on the Telephone Part 2

Week 12 PowerPoint Presentation 2

Week 13 Review and speaking test info

Week 14 Speaking test and interviews 1st half

Week 15 Speaking test and interviews 2nd half

【事前・事後学修】

For this course you should prepare yourself to participate actively in every class using only English. Please prepare a notebook for taking notes in class. Review the previous class material before the next class. Study outside of the classroom for at least an hour a day.

【テキスト・教材】

All materials are provided by the instructor.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Evaluation

Class participation 40%

PowerPoint presentations 40%

Speaking Test 20%

Students will be given direct feedback after every assignment.

【参考書】

No reference books necessary.

【注意事項】

Learning a new language requires motivation and effort. But when you are finally able to communicate in another language it is a great feeling.

Please find something you are interested in and enjoy English. Listen to music and study the lyrics. Go to karaoke and sing English songs with your friends. Read books and magazines. Use the Internet. Have fun!

Effective Communication D

レビー, ロバート・C

2年 後期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The objective of the Effective Communication course is to strengthen all aspects of the student's English speaking ability, increase student's self confidence and improve their oral fluency and pronunciation.

【授業における到達目標】

The course outline for Effective Communication will cover a variety of techniques and phrases that will help students take part in English discussions more confidently and effectively. Each week we will also go over different areas of basic pronunciation, intonation and stress.

【授業の内容】

Course Schedule

Week 1 Orientation. Rejoinders. Follow-up questions

Week 2 Effective presentation and PowerPoint techniques

Week 3 Confirmation Questions

Week 4 Clarifications with Question Words

Week 5 PowerPoint Presentation 1 info

Week 6 Expressing Probability

Week 7 Expressing Opinions

Week 8 PowerPoint Presentation 1

Week 9 PowerPoint Presentation 2 info

Week 10 Talking on the Telephone

Week 11 Talking on the Telephone Part 2

Week 12 PowerPoint Presentation 2

Week 13 Review and speaking test info

Week 14 Speaking test and interviews 1st half

Week 15 Speaking test and interviews 2nd half

【事前・事後学修】

For this course you should prepare yourself to participate actively in every class using only English. Please prepare a notebook for taking notes in class. Review the previous class material before the next class. Study outside of the classroom for at least an hour a day.

【テキスト・教材】

All materials are provided by the instructor

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Evaluation

Class participation 40%

PowerPoint presentations 40%

Speaking Test 20%

Students will be given direct feedback after every assignment.

【参考書】

No reference books necessary

【注意事項】

Learning a new language requires motivation and effort. But when you are finally able to communicate in another language it is a great feeling.

Please find something you are interested in and enjoy English. Listen to music and study the lyrics. Go to karaoke and sing English songs with your friends. Read books and magazines. Use the Internet. Have fun!

English Presentation a

Presentation in English

ラーソン, マイケル

2年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The aim of this elective one semester course is for students to improve their presentation skills.

【授業における到達目標】

This course will require students to engage in a number of activities - speeches, discussions, and presentations. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective and will help with their personal development as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills.

【授業の内容】

1st week Introduction
2nd week Reading 1: Vocabulary
3rd week Reading 2: Sentences
4th week Speaking 1: Conversation
5th week Speaking 2: News
6th week Speaking 3: Expressing Opinions
7th week Speaking 4: Questions and Answers
8th week Listening 1: Using the Internet
9th week Presentation 1: Preparation (Choosing a Topic)
10th week Presentation 2: Brainstorming
11th week Presentation 3: Practice Writing
12th week Presentation 4: Presentation in Groups
13th week Presentation 5: Peer Review
14th week Presentation 6: Questions and Answers
15th week Feedback

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%. Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

【参考書】

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their class will fail.
- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.
- Three tardies - coming to class late - equal one absence.

English Presentation b

Improve Presentation Skills in English

ラーソン, マイケル

2年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The aim of this elective one semester course is for students to improve their presentation skills. Especially, speaking and listening will be practised extensively. Students will also develop their discussion abilities and become more confident overall users of the English language.

【授業における到達目標】

This course will require students to engage in a number of speaking/listening activities - speeches, discussions, and presentations - on a number of topics linked to the ones in the textbook. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective and will help with their personal development as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills.

【授業の内容】

1st week Introduction
2nd week Reading 1: Using Authentic Materials
3rd week Reading 2: Description
4th week Writing 1: Topic Sentence
5th week Writing 2: Supporting Sentences, Concluding Sentence
6th week Reading and Writing 1: Comparison
7th week Reading and Writing 2: Classification
8th week Reading and Writing 3: Chronological Order
9th week Presentation 1: Preparation (Using the Internet)
10th week Presentation 2: Choosing a Topic
11th week Presentation 3: Reading and Writing
12th week Presentation 4: Presentation in Groups
13th week Presentation 5: Peer Review, Feedback
14th week Presentation 6: Questions and Answers
15th week Review

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%. Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

【参考書】

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their class will fail.
- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.

-Three tardies - coming to class late - equal one absence.

Essential Listening

英語運用能力を高め、積極的な国際的交流への参加を目指します。

市毛 洋子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

英語を聞き取る力を養成し、英語で意思伝達をするための土台作りをします。また、自分の伸ばすべき能力を発見し、その改善策を自ら探していきます。

【授業における到達目標】

リスニングをコミュニケーションに必要な要素の一つととらえ、聞くことだけに専念するのではなく、他3要素、話す、読む、書くを取り入れたタスクを行い英語運用能力全般の向上させながら、多様な価値観を理解し国際的感覚を身につけて世界に踏み出して活躍しようとする態度を養います。また、プロセスや成果を正しく評価するとともに学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって学修する態度を育みます。

【授業の内容】

まず、英語を聴くこと、使うことに慣れるよう、教科書にあるいろいろなトピックに関する会話を中心に学習していきます。特に基本的な会話表現を習得し目的にあったリスニングのし方（主題をつかむ、詳細を聴き取る、推測をする等）を身につけます。また、日頃より自分の身の回りのことについて簡単な英語で話せるように副教材を使って練習をします。

1. Introduction Unit 1 Getting to know you
2. Unit 2 Going places
3. Unit 3 What's the number?
4. Unit 4 Body language
5. Unit 5 Appearances
6. Unit 7 International food
7. Unit 8 Vacations
8. Expansion
9. Unit 10 Getting there?
10. Unit 11 World market
11. Unit 12 Making a difference
12. Unit 13 Stress and health
13. Unit 14 Personalities
14. Unit 15 Youth culture
15. Review

【事前・事後学修】

英語リスニングにおける自分なりの目的・目標にむけての自主学修計画を立て、学修の記録・自己評価をしていただきます。また、副教材を使い英会話の練習をしてください。

事前学修、次回の未知の単語などは調べておくこと。自分の学修計画に沿って学修し記録をとる。（学修時間、週1時間）

事後学修、授業内容を教科書付属のCDを聴き復習すること。（学修時間、週1時間）

【テキスト・教材】

Active Listening 2[Cambridge University Press、¥2,580(税抜)]
中山誠一他：脱文法100トピック実践英語トレーニング[ひつじ書房、2017、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度50% レポート10% グループプレゼンテーション20%
期末試験20%

プレゼンテーションのフィードバックは、グループ発表後に各グループに対してコメントを配布する。

期末試験のフィードバックは、授業最終回に答え合わせと解説を行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

Essential Listening

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The goal of this course is for students to practice their English listening, speaking, vocabulary, and communication skills. The activities students will do in class and the homework they will do outside of class will help them improve their English listening comprehension for practical and often talked about topics used in everyday life.

【授業における到達目標】

Students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Personal Information
3. Family
4. Daily Activities
5. Travel
6. Food and Drink
7. Describing People
8. Describing Things
9. Friends and Relationships
10. Health and Fitness
11. Leisure Time
12. The World of Work
13. Money
14. Past Experiences and Stories
15. Final Class Activities

【事前・事後学修】

Students should spend 30 minutes to preview the vocabulary for each unit before class and 45 minutes to review and complete the homework task for each unit after class.

Students will also need to spend 90 minutes on a weekly listening journal.

【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation Points - Teacher's Evaluation 35%

Homework Checks 30%

Listening Reports (3) 30%

Attendance 5%

Students will receive in-class oral feedback and written feedback on homework assignments.

【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)

*募集人数は40名です。

Essential Listening

鈴木 卓

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

主な目標は英語の聞き取り能力の向上です。そのために英語音声とその変化に関する知識を学び、実践練習を通して総合的な英語コミュニケーション能力の向上につなげていきます。聞き取り能力向上のためには、日常よく使われる語句や会話表現を多く知っておくことも不可欠なため、これも同時に学びます。さらに、聞き取った内容に対して応答したり、考えを述べたりといった活動を通じて、スピーキング能力の向上も視野に入れます。

【授業における到達目標】

この授業では、集中的な聞き取りと多量の聞き取りの練習と、ピア・ラーニング、アクティブ・ラーニング等の手法を通じて、「聞く」「話す」能力を高めます。また他国の文化や考え方に触れることにより、国際的視野を身につけます。さらに「100トピック」のテキストと音声を用いて、書き取りとQ&Aの練習をおこない、日本人や日本文化について英語で説明できるようにします。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を主に養います。

【授業の内容】

英語を聞きとる活動に加え、リピーティング・シャドーイング、そして聞き取った内容に対して応答する活動を主とします。毎回の授業で、英語を聞き取る際に使える各種ストラテジー（工夫・方法）を学んで、正確で効率的な聞き取りができるようにします。

また「100トピック」のテキストから毎回課題のユニットを予習し、次週のクイズに備えます（100トピックの使用ユニットは前週に指示します）

1. Introduction >Unit1 文脈からの予測
2. Unit1 続き
3. Unit 2 語句の言い換え
4. Unit 3 先読み
5. Unit 4 大意を理解する
6. Unit 5 スクリプト
7. Unit 7 要点に集中した聞き取り
8. まとめと振り返り > Unit 8 談話標識
9. Unit 9 背景知識
10. Unit 10 音の変化
11. Unit 11 固有名詞
12. Unit 12 視覚情報
13. Unit 13 語彙
14. Unit 14 数の表現
15. まとめと振り返り

上記に加えて、英語のポップスの聞き取り・書き取りを随時（学期中7～8曲）おこないます。

【事前・事後学修】

【事前学修】教材の付属CDを用いて、次回の授業範囲の音声聞き、練習問題に答える。『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』の指定されたユニットで書き取り練習をする。（週45分程度）

【事後学修】リピーティング、シャドウイング等による発音練習をおこなう。学期中に二回、自分で選んだインターネット上のビデオや音声等の聞き取りと書き取りをおこなって提出する。（週15分程度）

【テキスト・教材】

Takeuchi他：Listening Partner[Kinseido、2009、¥2,000(税抜)、ISBN 978-4-7647-3878-2]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（教室活動への積極的参加・課題や小テスト）40%
試験（中間試験・期末試験）60%

中間試験は解答を返却して、期末試験は問題を見ながら、それぞれ振り返りをおこなう。小テストは各自が採点して確認してから、教員が回収する。

【参考書】

中山誠一他『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』（ひつじ書房、2016年）1600円＋税

【注意事項】

ただ黙々と英語を聞き取る講義ではなく、書き取ったりリピートしたり会話したりと、積極的に手や口を動かすことが求められる授業です。そのかわり実践的なコミュニケーション力が身につきますのでがんばりましょう。

※募集人数は40名です。

Integrated English a

IE Presentation and Reading

担当教員全員

1年 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is enhancing students' English speaking and reading skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す（発表）」「読む」能力を向上させることをテーマにしています。

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking, and reading skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す（発表）」「読む」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

The goals of this course are for students 1. to improve their presentation skills and 2. to develop their reading skills through the use of graded reader books.

この授業の目標は1. 英語によるプレゼンテーションの技能を身につけることと2. 多読本を使って読解力を向上させることです。

Unit 0 What is a Presentation?

1. DAY 1: Practice the Sample Presentation

Unit 1 Describing Your Hometown

2. DAY 2: Make an Outline
3. DAY 3: Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster
4. DAY 4: Presentation 1

Unit 2 Product Development

5. DAY 5: Write a Product Proposal
6. DAY 6: Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster
7. DAY 7: Presentation 2

Unit 3 Which Hamburger Shop Do You Like the Best?

8. DAY 8: Read an Article and Make an Outline
9. DAY 9: Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster
10. DAY 10: Presentation 3

Unit 4 Fashion: Let's Look at the Data

11. DAY 11: Read an Article and Make an Outline
12. DAY 12: Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster
13. DAY 13: Rehearse Presentation
14. DAY 14: Final Presentation 1
15. DAY 15: Final Presentation 2

【事前・事後学修】

<Before class> Students should go over the material they will cover in the next class, and prepare answers for presentations. (2 hours)

<事前学修> 次の授業までに、次回習う内容に関する質問の答え

を準備し、発表に備えること（2時間）。

<After class> Students should review the material they covered in the previous lesson before the next class meeting. (2 hours)

<事後学修> 次の授業までに、前回習った内容をしっかり復習し身につけておくこと（2時間）。

【テキスト・教材】

Tomokazu Nakayama, Jacob Schnickel, and Juergen Bulach : Workbook for Presentation [Asahi Press, ¥1,500 (税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Presentation (4) - 40% プレゼンテーション (4回) - 40%

Book Reviews - 30% ブックレビュー - 30%

Participation Points - 30% 平常点 (授業態度) - 30%

*Feedback on assignments will be given in classes. 課題に関するフィードバックは授業中に行います。

【注意事項】

*Students must attend a total of two-thirds of all the classes to pass the course.

*Coming to class late three times equals one absence.

*English is the language of instruction.

*単位取得には、最低3分の2以上の出席が必要である。

*遅刻3回で欠席1回となる。

*授業は全て英語で行います。

Integrated English a (人間社会学部)

担当教員全員 (人間社会学部)

1年 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is enhancing students' English reading and writing skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「読む」「書く」能力を向上させることをテーマにしています。

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English reading and writing skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通して、「読む」「書く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディングとライティングの学習を行います。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル_2])

第1週 Guidance

第2週 Unit 1 Marketing/Reading 1: Unusual ideas to make a Buzz

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Psychology/ Reading 1: How colors make us think and feel

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Social Psychology/ Reading 1: Being polite from culture to culture

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Sociology/ Reading 2: The technology advantage

第12週 Unit 4 Application

第13週 TOEIC Preparation (4)

第14週 Review

第15週 In-class Examination

【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用します。必ず学習するUnitの予習をし、わからない単語は調べてくること。毎回単語確認のクイズがあります。最低2時間程度の予習時間が必要です。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。またmanabaに課題が出ることがありますので、定期的にmanabaをチェックして下さい。最低2時間の事後学修時間が必要です。

【テキスト・教材】

TOEIC (R) テスト公式問題集—新形式問題対応編[国際ビジネスコミュニケーション協会、2016]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(含ライティング)(60%)、単語クイズ(20%)、課題・宿題(20%)
フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

英語ネイティブ教員によるリスニング&スピーキングのクラスと同時進行で、毎週1コマずつ授業があります。こちらと併せて学習することで、英語の4技能すべてを向上させましょう。

Integrated English b

IE Speaking and Listening

担当教員全員

1年 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is enhancing students' English speaking and listening skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」能力を向上させることをテーマにしています。

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking (interaction) and listening skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す(やりとり)」「および「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

The goals of this course are for students to become able to use English in a variety of situations that may occur while traveling abroad and to be capable of talking about daily conversational topics. Students will also have the opportunity to learn practical English expressions for the upcoming Olympics/Paralympics.

この授業の目標は、受講者が、海外旅行中に遭遇する様々な場面に対応できる英語力と、日常生活のトピックについて英語で話す能力を身につけることです。また、オリンピックやパラリンピックの際に使用できる実践的な英語表現を学ぶ機会も設けられています。

1. Course introduction
2. Culture 1
3. Culture 2 / Olympics / Paralympics 1
4. Culture 3
5. Life 1 / Olympics / Paralympics 2
6. Life 2
7. Life 3 / Olympics / Paralympics 3
8. Interview 1
9. Human relations 1
10. Human relations 2 / Olympics / Paralympics 4
11. School and study 1
12. Arts and hobbies 1 / Olympics / Paralympics 5
13. Arts and hobbies 2
14. Interview 2
15. Final course review

【事前・事後学修】

<Before class>Students should go over the material they will cover in the next class, and prepare answers for interview tests. (2 hours)

<事前学修> 次の授業までに、次回習う内容に関する答えを準備し、インタビューテストに備えること(2時間)。

<After class>Students should review the material they covered in the previous lesson before the next class meeting. (2 hours)

<事後学修> 次の授業までに、前回習った内容をしっかり復習し身につけておくこと(2時間)。

【テキスト・教材】

『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』by 中山誠一, Jacob Schnickel, Juergen Bulach, 山内博之 (ひつじ書房) ¥ 1, 728 Olympic / Paralympic Language Reference Guide

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Interviews (2)- 40%面接 (2回)- 40%

Classwork - 20% 課題 - 20%

Participation Points - 40%平常点(授業態度)- 40%

*Feedback on assignments will be given in classes. 課題に関するフィードバックは授業中に行います。

【注意事項】

*Students must attend a total of two-thirds of the classes to pass the course.

*Coming to class late three times equals one absence.

*English is the language of instruction.

*単位修得には、最低3分の2以上の出席が必要である。

*遅刻3回で欠席1回となる。

*授業は全て英語で行います。

Integrated English b (人間社会学部)

担当教員全員 (人間社会学部)

1年 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is enhancing students' English speaking and listening skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」能力を向上させることをテーマにしています。

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking and listening skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通して、「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

英語運用能力を養うために、ネイティブ教員によるリスニングとスピーキングの学習を行います。

Listening & Speaking (テキスト[レベル_1])

第1週 Guidance

第2週 Unit 1 Business/Listening 1: Looking for a job

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Cultural Studies/ Listening 1: International advertising

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Sociology/ Listening 1: Places in danger

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Physiology/ Listening 1: What's your sense of humor

第12週 Unit 4 Application

第13週 TOEIC Preparation (4)

第14週 Review

第15週 In-class Examination

【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用します。必ず学習するUnitの予習をし、わからない単語は調べてくること。毎回単語確認のクイズがあります。最低2時間程度の予習時間が必要です。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。またmanabaに課題が出ることがありますので、定期的にmanabaをチェックして下さい。最低2時間の事後学修時間が必要です。

【テキスト・教材】

TOEIC (R) テスト公式問題集－新形式問題対応編[国際ビジネスコミュニケーション協会、2016]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(含スピーキング)(60%)、単語クイズ(20%)、課題・宿題(20%)

フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

日本人教員によるリーディング&ライティングの授業と同時進行し、英語の4技能のすべてを向上させましょう。

Intensive Reading a

語学エッセイで精読を学ぶ

(SA)村上 まどか

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

全米で人気を博する社会言語学者デボラ・タネンの著作を、日本人大学生向けに編注をほどこしたテキストで読みすすめます。男女間の会話分析を考察することによって、ジェンダー言語学、語用論の入門にもなります。

【授業における到達目標】

「話す」「聞く」と違って、教える側も高度な内容を扱うことができ、教わる側もひとりで心ゆくまで取り組むことができるリーディングは、成熟した日本人が最も身に着けるべき技能だと私は思います。英語読解力において大いに研鑽を積むと同時に、人間関係における洞察を深めてください。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 When not asking directions
- 第3週 To ask or not to ask
- 第4週 Negotiating from the inside out or the outside in
- 第5週 More on negotiating styles
- 第6週 Feasting on humble pie
- 第7週 Follow the leader
- 第8週 Saying "I'm sorry" when you're not
- 第9週 Taking blame and influencing people
- 第10週 Giving criticism
- 第11週 Ritual fighting
- 第12週 Mixing business and nonbusiness talk
- 第13週 Giving praise
- 第14週 Complaining as solidarity
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、次回にすすみそうなすべてのページを2時間かけて入念に予習すること。授業後は1時間復習を行ない、単語・文法事項の記憶を確実にすること。

【テキスト・教材】

Deborah Tannen, 奥田隆一・広瀬浩三編注：9時から5時までの会話 ― 職場における男女[松柏社、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席率を満たした上での（遅刻3回を欠席1回に数える）、100点満点の筆記試験。

【参考書】

原書 Deborah Tannen Talking from 9 to 5 (William Morrow, 1994) ほか授業内で紹介する。

【注意事項】

リーディングの授業は、復習よりも予習が大切である。辞書も毎回持参して、授業内にあらゆる疑問を解決すること。

Intensive Reading a

英文を正確に読む

(SB)土屋 結城

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

異文化理解についての英文を読み、英語のリーディング能力を高めるとともに、異文化への理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

英文を速く正確に読むためのリーディング能力を身につけること、さらに、読解を通して異文化についての理解を深めることを目標とする。
全学ディプロマ・ポリシーのうち、多角的な視点を以って世界に臨む「国際的な視野」と、学修を通して自己成長する「研鑽力」を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Unit 1 (述語動詞と準動詞)
- 第3週 Unit 2 (動名詞)
- 第4週 Unit 3 (不定詞)
- 第5週 Unit 4 (現在分詞)
- 第6週 Unit 5 (過去分詞)
- 第7週 Unit 6 (動詞の活用)
- 第8週 Unit 7 (現在形と原型の識別)
- 第9週 Unit 8 (過去形と過去分詞の識別)
- 第10週 Unit 9 (前置詞と名詞)
- 第11週 Unit 10 (2文型、3文型)
- 第12週 Unit 11 (4文型)
- 第13週 Unit 12 (主節と従属節)
- 第14週 Unit 13 (名詞節)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】該当箇所の予習をすること。(学修時間 週1時間)

【事後学修】授業で読んだ箇所の復習をし、定着を図ること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業に参加する態度、授業内課題)50%、試験50%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

Intensive Reading a

イギリス文学を読む

(SC)三井 淳子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

広く親しまれているArthur Conan DoyleによるSherlock Holmes Seiriesの作品からThe Red-Headed League とThe Adventure of the Copper Beechesを精読します。登場人物の会話から微妙なニュアンスを読みとって物語世界を楽しみ、親しむことも目的とします。英語独特の表現や日本語との構文の違いを理解しながら精読します。英語の読解力と語彙力を高めると同時に、作品が書かれた当時の背景にも理解を深め、様々な視点から作品を鑑賞、分析する力を養います。

【授業における到達目標】

到達目標：英文を正確に読み解く力を向上させると同時に、作品が書かれた当時の歴史的・文化的背景への造詣を深め、異文化への理解を促し、作品を多角的な視点から鑑賞する力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：異文化圏の文学作品を読むことにより国際的視野を養い、英文学作品を精読する学修を通じて自律的に学ぶ研鑽力を養成することを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週： イントロダクション
- 第2週： Chap.1: An Easy Job
- 第3週： Chap.2: Mr. Wilson is Put to a Test
- 第4週： Chap.3: A Job Suddenly Ends
- 第5週： Chap.4: Holmes Gathers Information
- 第6週： Chap.5: Setting the Trap
- 第7週： Chap.6: Holmes Explains the Plan
- 第8週： 作品の背景： ヴィクトリア時代のイギリス
- 第9週： Chap.7: A Job with Strange Requirements
- 第10週： Chap.8: The Work Begins
- 第11週： Chap.9: A Strange Observer
- 第12週： Chap.10: Miss Hunter Looks Around
- 第13週： Chap.11: Mr. Holmes has an Idea
- 第14週： Chap.12: Mr.Rucastle's Terrible fate.
- 第15週： まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回該当箇所の予習（週2時間）

事後学修：授業で扱った内容の復習（週1時間）

【テキスト・教材】

上村淳子他：Mystery Tour with Sherlock Holmes[センゲージ・ラーニング、2017、¥1,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業貢献、提出課題など）40%、定期試験60%で総合的に評価する。フィードバックは翌回以降の授業で行う。

【参考書】

シャーロックホームズからの言葉 諸兄 邦香著 研究社、新装版 総合英語 Empower Mastery Course 桐原書店など英文法参考書

【注意事項】

テキスト、辞書は毎授業必携すること。

30分以内の遅刻および早退は3回で1回の欠席とみなします。

Intensive Reading a

Hemingwayの短篇を読む

(SD)稲垣 伸一

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

Ernest Hemingwayの短篇3作品を精読することにより、英語で書かれた小説を読む訓練をします。

【授業における到達目標】

【到達目標】第1の目標は英語を正確に読む能力を身につけること、第2の目標は書き方の特徴を理解しながら内容を味わうことです。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】20世紀アメリカを代表する作家の作品を読むことにより、アメリカにおける書かれた時代特有の小説スタイルや内容を味わい、異文化圏の文学について考える契機とします。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 “The Killers” pp.1-3
- 第3週 “The Killers” pp.4-6
- 第4週 “The Killers” pp.7-9
- 第5週 “The Killers” pp.10-12
- 第6週 “The Killers” pp.13-14
- 第7週 “The Killers” についてのまとめ
- 第8週 テスト
- 第9週 “Indian Camp” pp.15-17
- 第10週 “Indian Camp” pp.18-20
- 第11週 “Indian Camp” についてのまとめ
- 第12週 “Cat in the Rain” pp.21-22
- 第13週 “Cat in the Rain” pp.23-24
- 第14週 “Cat in the Rain” p.25
- 第15週 “Cat in the Rain” についてのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指定されたページを辞書を使いながら予習する。（週2時間）

【事後学修】授業で読んだ範囲を英語と内容の両方から復習する。また、テスト前には読み終えた作品全体について復習しておく。（週2時間）

【テキスト・教材】

Ernest Hemingway: The Killers and Other Stories[南雲堂、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業での発表等）50点

試験(2回) 50点

授業中のディスカッションや提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行う。

【参考書】

授業中に指示します。

【注意事項】

英和辞典（できれば紙媒体の中英和程度）を持参してください。

Intensive Reading b

簡単な文学批評を一冊通して読んでみる

(SC) 諏訪 友亮

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

リーディングを伸ばすポイントは、とにかくたくさん量を読むことです。その際に、精読と速読（多読）の両方を同時に進める必要があるのですが、この授業はある程度の分量を精読しつつ、なおかつ文学関連の用語も英語で覚えてしまうことを目的としています。テキストはイギリスの高卒認定試験用のガイドブックで、試験対策の記述も含まれてはいるのですが、他方で文学についてとても簡単に解説してくれてもいます。本格的に英語の批評を読み始める前に、英語を勉強しつつ、こうした文章から用語に慣れ親しんでいきましょう。

【授業における到達目標】

1. 文学の用語やジャンルを英語である程度理解できる。
2. 毎週10ページほどの分量を読むことができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方、評価方法について、辞書について、など）、冒頭（Introduction, Ch.1）の読解
- 第2週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.7-16
- 第3週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.17-26
- 第4週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.27-36
- 第5週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.37-46
- 第6週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.47-56
- 第7週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.57-66
- 第8週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.67-76
- 第10週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.77-86
- 第11週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.87-96
- 第12週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.97-106
- 第13週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.107-116
- 第14週 Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, p.117-126
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：毎週該当ページを読んでくる（学修時間 週3時間）
- 事後学修：授業で出てきた用語や観点を整理しておく（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

Mr Bruff's Guide to A' Level English Literature, Independently published, 2017. 1500円程度（紙媒体を買えば電子書籍が無料で付いてきます）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の予習 40%、教場試験 60%。

成績についてはmanaba経由で簡単な講評を行います。

【参考書】

各種英和辞典、英英辞典、百科事典

【注意事項】

毎回辞書を持参しましょう。授業中のスマートフォンの操作は禁止します（タブレットの操作は可能）。

Intensive Reading b

英国文化について、英語のエッセイを読む

(SA)大関 啓子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文を訳読するのではなく、パラグラフ単位で速読し、大意をつかめるよう速読します。下記のような内容の英国田園生活についてのエッセイを平易明確な英語で読み、文学作品の理解、さらに英国文化・社会を考察します。

【授業における到達目標】

英文学科3年次の専門科目に対応できるよう、英語の読解能力を向上させることを目標とします。また全学ディプロマ・ポリシーのうち、学修による自己成長についての「研鑽力」、および多角的な考えと多様性に富む「国際的視野」を養うことを、目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 Preface
- 第3週 Garden
- 第4週 Tea
- 第5週 Food
- 第6週 Pub
- 第7週 Animals
- 第8週 Houses
- 第9週 Society
- 第10週 School
- 第11週 Church
- 第12週 Shopping
- 第13週 Walls
- 第14週 The Sweetest Month
- 第15週 Conclusion

この他、各週の授業の始めに、readingの小テストを行います。

【事前・事後学修】

- 事前学修として次週のReading passageを2時間程度、予習すること。
- 事後学修として小テストの結果を2時間程度復習し、作品内容の確認をすること。

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 小テスト40%・平常点（授業態度・課題等）30%・レポート30%として評価。平常点としては、毎週の授業における貢献度（内容の理解を深めるような意見や質問、発表など）を高く評価します。
- 小テストは毎回テスト後に教室で、レポートは期日と場所を指定して、フィードバックします。

【参考書】

その都度、指示します。

【注意事項】

授業に必ず辞書を持参する。

Intensive Reading b

英文を速く正確に読む

(SD)土屋 結城

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

異文化理解についての英文を読み、英語のリーディング能力を高めるとともに、異文化への理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

英文を速く正確に読むためのリーディング能力を身につけること、さらに、読解を通して異文化についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、多角的な視点を以って世界に臨む「国際的な視野」と、学修を通して自己成長する「研鑽力」を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Unit 1 (述語動詞と準動詞)
- 第3週 Unit 2 (動名詞)
- 第4週 Unit 3 (不定詞)
- 第5週 Unit 4 (現在分詞)
- 第6週 Unit 5 (過去分詞)
- 第7週 Unit 6 (動詞の活用)
- 第8週 Unit 7 (現在形と原型の識別)
- 第9週 Unit 8 (過去形と過去分詞の識別)
- 第10週 Unit 9 (前置詞と名詞)
- 第11週 Unit 10 (2文型、3文型)
- 第12週 Unit 11 (4文型)
- 第13週 Unit 12 (主節と従属節)
- 第14週 Unit 13 (名詞節)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】該当箇所の予習をすること。(学修時間 週1時間)

【事後学修】授業で読んだ箇所の復習をし、定着を図ること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業に参加する態度、授業内課題)50%、試験50%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

Intensive Reading b

イギリス文学を読む

(SB)三井 淳子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

チャールズ・ディケンズの“A Christmas Carol”を精読します。英語独特の表現や日本語との構文の違いをしっかりと把握し、読解力と語彙力を高めると同時に、作品の歴史的・文化的背景にも造詣を深め、作品を多角的な視点から鑑賞、分析する力を養います。登場人物の会話から微妙なニュアンスや行間を読みとり、それぞれの人物像や状況を心に描きながら物語世界に親しみましょう。

【授業における到達目標】

到達目標：英文を正確に読むと同時に、作品が書かれた当時の社会的背景にも造詣を深め、作品を様々な視点から読み解く力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：イギリスの文学作品を精読することにより、異文化圏への理解を深め、国際的な視野を養成する。精読という学修を通じて、自律的に学ぶ研鑽力を養う。

【授業の内容】

- 第1週： INTRODUCTION
- 第2週： 作品の背景について(ヴィクトリア時代のイギリス)
- 第3週： Chap. 1 (1) 序盤(～p.4)
- 第4週： Chap. 1 (2) 中盤(～p.8)
- 第5週： Chap. 1 (3) 終盤
- 第6週： Chap. 2 (1) 前半(～p.19)
- 第7週： Chap. 2 (2) 後半
- 第8週： Chap. 3 (1) 前半(～p.32)
- 第9週： Chap. 3 (2) 後半
- 第10週： Chap. 4 (1) 前半(～p.44)
- 第11週： Chap. 4 (2) 後半
- 第12週： Chap. 5 (1) 前半(～p.54)
- 第13週： Chap. 5 (2) 後半
- 第14週： 作品の背景について(ディケンズ)
- 第15週： まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回該当箇所の予習(週2時間)

事後学修：授業で扱った内容の復習(週1時間)

【テキスト・教材】

Dickens, Charles. 『“A Christmas Carol”』(Oxford, Bookworms, 2008) ¥772

および授業時にプリント配付

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業貢献、課題提出など)40%、定期試験60%で総合的に評価します。

フィードバックは翌回以降の授業時に行います。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

テキスト、辞書は毎回必携のこと。

Intermediate Speaking a

English for Communication

フルトン, スチュワート・ダーリン, マーティン

2年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The purpose of this elective one-semester course is to help second-year students develop their general English speaking and listening skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and「協働力」as a student of the English department.

【授業の内容】

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

1st week Introduction
2nd week Listening to authentic English
3rd week Listening Abilities
4th week Conversation 1: Elementary Level
5th week Conversation 2: Questions
6th week Conversation 3: Talking with Friends
7th week Conversation 4: Intermediate Level
8th week Travel
9th week Reservation (Reading the Information)
10th week Studying Abroad (Reading the Information)
11th week Talking with Teachers
12th week Explanation (Writing and Speaking)
13th week Classification (Writing and Speaking)
14th week Direction (Writing and Speaking)
15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns

【2 hours】. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards 【2 hours】.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

1. Participation-60%
2. One test-40%

Feedback will be given in every class.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

Intermediate Speaking b

English for Communication

フルトン, スチュワート・ダーリン, マーティン

2年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

This is an elective one semester course that continues where "Intermediate Speaking a" finished. (Please note, however, that this course is independent of "Intermediate Speaking a.") The course is designed to help second-year students to further develop their general English speaking and listening skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and「協働力」as a student of the English department.

【授業の内容】

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

1st week Introduction
2nd week Listening to authentic English
3rd week Listening Abilities
4th week Conversation 1: Advanced Level (Speaking)
5th week Conversation 2: Pair Work
6th week Conversation 3: Information Exchanges
7th week Conversation 4: Role Plays (Speaking and Writing)
8th week Conversation 5: Pair Presentation (Speaking and Reading)
9th week Pair Review
10th week Group Work
11th week Group Presentation
12th week Group Review (Peer Review in English, Feedback)
13th week Class Discussion
14th week Class Talk (Questions and Answers)
15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns

【2 hours】. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards 【2 hours】.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

1. Participation-60%
2. One test-40%

Feedback will be given in every class.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

Introduction to TOEFL

海外留学にチャレンジ

深瀬 有希子・宮下 いづみ

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業は、TOEFL形式（ITPおよびiBT）の問題を用いて、海外留学の際に必要とされるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を総合的に習得することを目指します。海外留学のための情報収集の仕方や、英語による講義のノートテイキングの方法も学習します。

【授業における到達目標】

国際的視野の獲得：多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を養うことを目標とします。

研鑽力の向上：学修を通して自己成長する力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 1 イントロダクション： 授業の内容、進め方、
e-learningを用いた予習復習の仕方、評価方法の説明
- 2 Unit 1: Topic: Advertising Skill Focus: Skimming
and Scanning
- 3 Unit 2: Topic: Sports Skill Focus: Making Inferences
- 4 Unit 3: Topic: Fraud Skill Focus: Using Context Clues
- 5 Unit 4: Topic: Storytelling Skill Focus: Identifying
and Using Rhetorical Structure
- 6 Unit 5: Topic: Language Skill Focus: Identifying
and Using Main Ideas and Details
- 7 発表 ①
- 8 まとめ ①
- 9 Unit 6: Topic: Tourism Skill Focus: Paraphrasing
- 10 Unit 7: Topic: Humor Skill Focus: Summarizing
- 11 Unit 8: Topic: Fashion Skill Focus: Comparing and
Contrasting
- 12 Unit 9: Topic: Punishment Skill Focus: Using Detailed
Examples
- 13 Unit 10: Topic: Marriage Skill Focus: Identifying
and Using Cohesive Devices
- 14 発表 ②
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、指定された課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

事後学習：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、授業で学習したことや間違った箇所を再確認し、理解すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Building Skills for the TOEFL iBT [North Star, ¥4,000 (税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）： 40%

発表（①②）： 30% まとめ（①②）： 30%

発表やまとめ、そのほか授業中に指示された課題についてのフィードバックは、翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

e-learning教材とテキスト教材の両方を用いて必ず予習と復習を行い、積極的に参加すること。

Japanese Culture

The Myth of Homogeneity and Japanese Culture

ブルナ, ルカーシュ

2年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

【授業のテーマ】

Japan, mostly for its geographical location and the foreign policy implemented by Japanese rulers, stayed in cultural isolation, with largely restricted relations to other nations and cultures, for a very long time during its history. This eventually led to the emergence of the myth which has been largely accepted and articulated by some Japanese politicians even in recent times: the myth of homogeneous society. However, is/has ever been Japanese society truly homogenous? In this class we will explore some “non-Japanese” elements of the Japanese society and culture.

【授業における到達目標】

In this course students will become aware of the diversity of modern Japanese culture and based on that learn to question some largely accepted views on Japanese culture. (国際的視野)

This course also aims to improve students' language skills and the ability to introduce Japanese culture in a language other than Japanese, in this case in English. (研鑽力)

【授業の内容】

1. Introduction
2. The Myth of Mono-ethnicity:
Has Japanese society ever been really homogeneous?
3. The World of the Ainu: Brief Introduction
4. The Culture of the Ainu in the Past and Now
5. The Culture of the Ainu (Movie Appreciation)
6. The Literature of the Ainu
7. The Culture of Okinawa: Brief Introduction
8. Before the War, After the War, and Present Days
9. Okinawa in the Okinawan Literature
10. The Culture of Okinawa (Movie Appreciation)
11. The World of “Zainichi” : Brief Introduction
12. Lost Identity: Being Korean in Japan
13. The Literature of Zainichi Koreans
14. Student Presentations I
15. Student Presentations II

【事前・事後学修】

Before class: Students are expected to read provided texts before each class and to prepare questions in case there is something they do not understand. (2 hours)

After class: Students are expected to review what they have learnt during the class and write reaction papers weekly. (2 hours)

【テキスト・教材】

No textbook required.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation (including reaction papers) 50%

Final Presentation 50%

Students will receive oral feed-back on their reaction papers and the final presentation during classes.

【参考書】

List of the reference books will be provided in class.

Japanese Culture

The Myth of Homogeneity and Japanese Culture

ブルナ, ルカーシュ

2年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

【授業のテーマ】

Japan, mostly for its geographical location and the foreign policy implemented by Japanese rulers, stayed in cultural isolation, with largely restricted relations to other nations and cultures, for a very long time during its history. This eventually led to the emergence of the myth which has been largely accepted and articulated by some Japanese politicians even in recent times: the myth of homogeneous society. However, is/has ever been Japanese society truly homogenous? In this class we will explore some “non-Japanese” elements of the Japanese society and culture.

【授業における到達目標】

In this course students will become aware of the diversity of modern Japanese culture and based on that learn to question some largely accepted views on Japanese culture. (国際的視野)

This course also aims to improve students' language skills and the ability to introduce Japanese culture in a language other than Japanese, in this case in English. (研鑽力)

【授業の内容】

1. Introduction
2. The Myth of Mono-ethnicity:
Has Japanese society ever been really homogeneous?
3. The World of the Ainu: Brief Introduction
4. The Culture of the Ainu in the Past and Now
5. The Culture of the Ainu (Movie Appreciation)
6. The Literature of the Ainu
7. The Culture of Okinawa: Brief Introduction
8. Before the War, After the War, and Present Days
9. Okinawa in the Okinawan Literature
10. The Culture of Okinawa (Movie Appreciation)
11. The World of “Zainichi” : Brief Introduction
12. Lost Identity: Being Korean in Japan
13. The Literature of Zainichi Koreans
14. Student Presentations I
15. Student Presentations II

【事前・事後学修】

Before class: Students are expected to read provided texts before each class and to prepare questions in case there is something they do not understand. (2 hours)

After class: Students are expected to review what they have learnt during the class and write reaction papers weekly. (2 hours)

【テキスト・教材】

No textbook required.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation (including reaction papers) 50%

Final Presentation 50%

Students will receive oral feed-back on their reaction papers and the final presentation during classes.

【参考書】

List of the reference books will be provided in class.

Japanese Literature

Japanese Literature in the World

ブルナ, ルカーシュ

2年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation (including reaction papers) 50%

Final Presentation 50%

Students will receive oral feed-back on their reaction papers and the final presentation during classes.

【参考書】

List of the reference books will be provided in class.

【授業のテーマ】

Japanese contemporary literature, represented by Murakami Haruki, Yoshimoto Banana, Kawakami Hiromi and many others, has gained world-wide popularity in recent years, with large numbers of translations being published in various languages every year. However, in this class we will focus on the period, when Japanese literature emerged on the world stage for the first time. First, we will learn about how Japanese culture was introduced in Europe and the United States in the second half of the 19th century, then we will focus on the reception of Japanese literature: we will explore how Japanese literature was perceived in the West in the first half of the 20th century, what aspects foreign readers and critics were interested in and finally how they interpreted Japanese literature.

【授業における到達目標】

The main objective of this course is to provide students with some basic information about the reception of Japanese literature in the world. Accordingly students will gain a new perspective on the ever-evolving cultural relations between the West and the East. (国際的視野)
This course also aims to improve students' language skills and the ability to introduce Japanese literature in a language other than Japanese, in this case in English. (研鑽力)

【授業の内容】

1. Introduction
2. Mutual Relations: The West Reaching Out to the East, The East Reaching Out to the West
3. The Charm of the Unknown: Reception of Japanese Culture in Europe in 1850-1900
4. A Cultural Phenomenon: *Japonism* in Art
5. Orientalism: Pierre Loti's *Madame Chrysantheme*
6. The Inner Life of the Japanese: Algernon Freeman-Mitford's *Tales of Old Japan*
7. August Pfizmaier and Edward Greey: First Translators of Japanese Literature
8. Literature as an Artwork: Hasegawa Takejiro and his crepe paper books
9. An "Interpreter" of Japanese Culture: Lafcadio Hearn
10. First Japanese Poet to write in English: Noguchi Yonejiro, his life and work
11. First International Best-seller: Tokutomi Roka's *Nami-ko*
12. A Glimpse into Modern Life in Japan: Futabatei Shimei's *An Adopted Husband*
13. The Father of Japanology: Serge Elisseeff, his life and work
14. Student Presentations I
15. Student Presentations II

【事前・事後学修】

Before class: Students are expected to read provided texts before each class and to prepare questions in case there is something they do not understand. (2 hours)

After class: Students are expected to review what they have learnt in the class. (2 hours)

【テキスト・教材】

No textbook required.

Japanese Literature

Japanese Literature in the World

ブルナ, ルカーシュ

2年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation (including reaction papers) 50%

Final Presentation 50%

Students will receive oral feed-back on their reaction papers and the final presentation during classes.

【参考書】

List of the reference books will be provided in class.

【授業のテーマ】

Japanese contemporary literature, represented by Murakami Haruki, Yoshimoto Banana, Kawakami Hiromi and many others, has gained world-wide popularity in recent years, with large numbers of translations being published in various languages every year. However, in this class we will focus on the period, when Japanese literature emerged on the world stage for the first time. First, we will learn about how Japanese culture was introduced in Europe and the United States in the second half of the 19th century, then we will focus on the reception of Japanese literature: we will explore how Japanese literature was perceived in the West in the first half of the 20th century, what aspects foreign readers and critics were interested in and finally how they interpreted Japanese literature.

【授業における到達目標】

The main objective of this course is to provide students with some basic information about the reception of Japanese literature in the world. Accordingly students will gain a new perspective on the ever-evolving cultural relations between the West and the East. (国際的視野)
This course also aims to improve students' language skills and the ability to introduce Japanese literature in a language other than Japanese, in this case in English. (研鑽力)

【授業の内容】

1. Introduction
2. Mutual Relations: The West Reaching Out to the East, The East Reaching Out to the West
3. The Charm of the Unknown: Reception of Japanese Culture in Europe in 1850-1900
4. A Cultural Phenomenon: *Japonism* in Art
5. Orientalism: Pierre Loti's *Madame Chrysantheme*
6. The Inner Life of the Japanese: Algernon Freeman-Mitford's *Tales of Old Japan*
7. August Pfizmaier and Edward Greey: First Translators of Japanese Literature
8. Literature as an Artwork: Hasegawa Takejiro and his crepe paper books
9. An "Interpreter" of Japanese Culture: Lafcadio Hearn
10. First Japanese Poet to write in English: Noguchi Yonejiro, his life and work
11. First International Best-seller: Tokutomi Roka's *Nami-ko*
12. A Glimpse into Modern Life in Japan: Futabatei Shimei's *An Adopted Husband*
13. The Father of Japanology: Serge Elisseeff, his life and work
14. Student Presentations I
15. Student Presentations II

【事前・事後学修】

Before class: Students are expected to read provided texts before each class and to prepare questions in case there is something they do not understand. (2 hours)

After class: Students are expected to review what they have learnt in the class. (2 hours)

【テキスト・教材】

No textbook required.

Paragraph Writing a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)猪熊 作巳・(SB)青砥 吉隆・(SC)西野 方子・(SD)深瀬 有希子・(SE)諏訪 友亮

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

「Basid Grammar a, b」 「Basic Reading a, b」 および「Basic Speaking a, b」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語運用能力を養成する。

【授業における到達目標】

この授業の目標は主に以下の2点です。第1に、英語のパラグラフの基本的な構造を学び、パラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、正しい文法で英語を書く練習を行い、最初は短い文から始め、最終的にはある程度の長さのパラグラフを書く能力を養成します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 1 Describing People 1: Introducing Yourself
- 第3週 Chapter 1 Describing People 2: Using Adjectives
- 第4週 Chapter 1 Describing People 3: The Verb Be
- 第5週 Chapter 2 Listing-Order 1: Using Conjunctions
- 第6週 Chapter 2 Listing-Order 2: The Simple Present
- 第7週 Chapter 3 Giving Instructions 1: Listing
- 第8週 Chapter 3 Giving Instructions 2: Negative Verbs
- 第9週 Chapter 3 Giving Instructions 3: Using Adverbs
- 第10週 Chapter 4 Time Order 1: Using Prepositions
- 第11週 Chapter 4 Time Order 2: Phrasal Verbs
- 第12週 Chapter 4 Time Order 3: Time and Space
- 第13週 Appendix 1: Journal Writing
- 第14週 Appendix 2: Grammar, Correction Symbols
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

【テキスト・教材】

開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加・課題） 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

授業には辞書（英和・和英）を必ず持参してください。

Paragraph Writing b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)諏訪 友亮・(SB)西野 方子・(SC)島 高行・(SD)青砥 吉隆・(SE)猪熊 作巳

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

1年次の英語科目に加え、「Paragraph Writing a」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語の運用能力についての理解と技術を養成します。

【授業における到達目標】

この授業で目指す目標は主に以下の2点です。第1に、さまざまなトピックを扱った英語のパラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、テーマ別のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いエッセイを書く能力を養成します。

これらの作業を通じ、「国際的視野」、「研鑽力」、「行動力」を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 5 Direction 1: Space Order
- 第3週 Chapter 5 Direction 2: Articles
- 第4週 Chapter 5 Direction 3: Topic Sentence, Supporting Sentences
- 第5週 Chapter 6 On the Job 1: Unity
- 第6週 Chapter 6 On the Job 2: Coherence
- 第7週 Chapter 6 On the Job 3: Progressive
- 第8週 Chapter 7 Remembering an Important Event 1: Past Tense
- 第9週 Chapter 7 Remembering an Important Event 2: Using Adjectives and Adverbs
- 第10週 Chapter 8 Memories of a Trip 1: Past Perfect
- 第11週 Chapter 8 Memories of a Trip 2: Concluding Sentences
- 第12週 Chapter 9 Looking Ahead 1: Future
- 第13週 Chapter 9 Looking Ahead 2: Writing a Paragraph
- 第14週 Appendix Further Journal Writing
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加・課題） 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【注意事項】

授業には辞書（英和・和英）を必ず持参すること。

Academic Writing

中村 太一

1年～3年 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

ある程度まとまった内容を効果的かつ明確に伝達するための基本的な英文構成法を習得することを主なねらいとします。

【授業における到達目標】

英文を構成する単位であるパラグラフの構造を理解するとともに、伝達内容に応じたさまざまなパラグラフの型に習熟することによって、正確に読み手にわかりやすい英文を書けるようになることを目標とします。課題作文に自主的に取り組むプロセスとフィードバックをとおして学修成果を実感できるようにし、自信をもって次の目標を自ら設定し、計画的に立案・実行できる力を養えるようにしていきます。

【授業の内容】

- 第1週 Course Introduction
- 第2週 What is a Paragraph? パラグラフとは?
- 第3週 The Topic Sentence 主題文とは?
- 第4週 Supporting Sentences 支持文とは?
- 第5週 Time Order 時間の順序
- 第6週 Space Order 空間の順序
- 第7週 Process and Direction 過程・手順と指示
- 第8週 Cause and Effect 因果関係による展開
- 第9週 Examples 例示による展開
- 第10週 Definition 定義による展開
- 第11週 Classification 分類による展開
- 第12週 Comparison and Contrast 比較・対照による展開
- 第13週 Review まとめと復習
- 第14週 Individual Presentation (1)
- 第15週 Individual Presentation (2)

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を予習し、未知の語（句）を調べておくとともに、課題作文のアウトライン（下書き）を作成しておくこと（学修時間 週2時間）

事後学修：授業であつかった語法・新出語（句）の復習をし、課題作文についてのフィードバックに基づいて最終稿を完成させること（学修時間 週1～2時間）

【テキスト・教材】

神保尚武他著：Get Your Message Across 効果的なパラグラフの書き方[南雲堂、2008、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への貢献度（積極的な発言・発表など）30%、提出課題 40%、プレゼンテーション 30%

提出課題に対するフィードバックは次回授業時に、プレゼンテーションに対するフィードバックは直後におこないます。

【参考書】

中山誠一・Jacob Schnickel・Juergen Bulach・山内博之著『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』（ひつじ書房 2017年）1,600円＋税

【注意事項】

英和辞典・和英辞典内蔵の電子辞書は必携です（できれば、英英辞典も利用できるものが望ましい）。

課題作文に関連したテーマを掘り下げて、第14・15週では英語によるプレゼンテーションをしてもらう予定です。

*募集人員は40名です。

Academic Writing

シュニッケル, ジェイコブ

1年～3年 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is basic academic writing in English.

【授業における到達目標】

This course aims to familiarize students with the basic components of writing a paragraph and to provide students the opportunity to complete several types of writing assignments. Through group and pair work activities, students will learn how to construct unified paragraphs with strong topic sentences and good supporting details. Moreover, students will experience writing as a process. In participating in this course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Written Self-Introduction
3. Skill Building-Common Errors
4. Descriptive Writing (Events)
5. Skill Building-Common Errors
6. Writing about Inventions
7. Skill Building-Common Errors
8. Descriptive Writing (People)
9. Skill Building-Common Errors
10. Descriptive Writing (Abilities)
11. Skill Building-Common Errors
12. Life Lessons
13. Skill Building-Common Errors
14. Final In-Class Writing
15. Course Review and Conclusion

【事前・事後学修】

<Before class>

Students will have weekly writing assignments, which will take from one to three hours.

<After class>

Students should read feedback from the instructor and make revisions to writing assignments before resubmitting in the next class.

【テキスト・教材】

Within 2: Curtis Kelly and Arlen Gargagliano[Cambridge University Press、2012、¥4,012(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Paragraph 1 20%

Paragraph 2 20%

Paragraph 3 20%

Essay 25%

Participation 15%

In class, students will be provided detailed feedback designed to help them improve their writing skills.

【注意事項】

*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

*Coming to class late three times equals one absence.

*募集人数は40名です。

Academic Writing

カズウェル, イアン・マイケル

1年～3年 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is basic academic writing in English.

【授業における到達目標】

This course aims to familiarize students with the basic components of writing a paragraph and to provide students the opportunity to complete several types of writing assignments. Through group and pair work activities, students will learn how to construct unified paragraphs with strong topic sentences and good supporting details. Moreover, students will experience writing as a process. In participating in this course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

Week 1	Getting Started
Week 2	Getting to know each other
Week 3	Mystery Guest
Week 4	Writing about a personal experience
Week 5	Class Cookbook
Week 6	Comparing & Contrasting
Week 7	Writing a Narrative
Week 8	Narrative Paragraphs
Week 9	Writing Emails
Week 10	Writing Invitations
Week 11	Week Class Restaurant Guide
Week 12	Writing for Travel
Week 13	Advantages & Disadvantages
Week 14	Putting it all together
Week 15	Review and Preparing for Test

【事前・事後学修】

<Before class>

students will have weekly writing assignments, which will take from one to three hours.

<After class>

students should read feedback from the instructor and make revisions to writing assignments before resubmitting in the next class.

【テキスト・教材】

Write Away Right Away
by David Martin

EFL Press

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Paragraph 1	20%
Paragraph 2	20%
Paragraph 3	20%
Essay	25%
Participation	15%

In class, students will be provided detailed feedback designed to help them improve their writing skills.

【注意事項】

*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

*Coming to class late three times equals one absence.

*募集人数は40名です。

Business English

リアン, リッキー・チ・ヤン

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is business, workplace, and career-related English. Students will have the chance to learn about and practice skills that are important and effective for successful communication in English for business, workplace, and career-related situations and experiences.

【授業における到達目標】

The goal of this course is to give students a general understanding of business communication in English. This class will help students develop English communication skills that can be used in real-life work situations. The activities and discussions we will do in this class will help prepare you to think about your future career and familiarize you with professional business-related communication and tasks.

【授業の内容】

1. Introduction
2. Talking about your job and company
3. Working in groups and participating in meetings
4. Talking about products
5. Talking about services
6. Talking about job features and phone talk
7. Writing business emails and group project
8. Writing professional resumes (CVs)
9. Job skills and abilities
10. Describing work experiences and duties
11. Job interviews 1
12. Job Interviews 2
13. Doing a presentation
14. Project Presentations
15. Course Review

【事前・事後学修】

Students should spend 1 hour to preview and review each unit before class and 1 hour to review and complete assigned homework for each lesson after class.

【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Attendance	5%
Student Participation - Teacher's Evaluation	20%
Weekly Homework	35%
Group Project Presentation	35%
Group Project Members' Peer Evaluation	5%

Oral and written feedback will be given to students in class and on homework assignments.

【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)
募集人数は35名です。

Business English

小池 アニータ

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

This is a course offering introductory instruction in business vocabulary, including useful business expressions which are usable in practical and professional business settings. This course is not designed as a traditional reading comprehension course, nor an English to Japanese text translation course, but attempts to integrate reading with speaking, writing and listening skills.

【授業における到達目標】

At the end of this course, you will

- be able to build your confidence when using new language in business situations.
- be able to use business vocabulary effectively
- be able to express your opinions regarding some business related fields.
- receive some valuable tips regarding cultural issues that arise in cross-cultural settings.

【授業の内容】

Class 1 Course Introduction
Class 2 A Global Leader
Class 3 Work and Leisure
Class 4 Workplace
Class 5 Eating out
Class 6 Travel
Class 7 Cultures 1
Class 8 Mid-term Test & Feedback
Class 9 Food and Entertaining
Class 10 Doing business internationally
Class 11 Cultures 2
Class 12 Communication Styles
Class 13 Jobs
Class 14 Companies
Class 15 Wrap-up, Feedback and Self-evaluation

【事前・事後学修】

Outside the class, students will have weekly assignment to do. Students will be asked to read a text or an article, or to search for some information before each class. Approximately 30 minutes will be needed. After each class, students are encouraged to review the vocabulary and content of the text learned in each class for 30 minutes at least.

【テキスト・教材】

Students are not required to buy a textbook in this course. All materials will be printed and distributed by the instructor.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation
(Speaking exercises with partner, assignments)30%.

Two Tests (Mid-term & Final) 70%.

Feedback from the teacher and Self-evaluation are also important and will be taken into consideration after each test.

【注意事項】

募集人数は35名です。

Effective Speaking

謝 淑愛

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

1. The course is designed to assist the students to learn the common expressions and vocabularies that they need to communicate in English.
2. The purpose of this course is to help students to improve their English communication skill and enhance their self-awareness and understanding of the globalization environment.
3. The class activities that they will practice are the kind of conversation they might have when speaking with foreigners, either in Japan or when travelling abroad.

【授業における到達目標】

Upon completion of this course, students would be able to:

1. Demonstrate speaking skills and presentation skills in English with confidence
2. Manage difficult communication situations and overcome communication barriers

【授業の内容】

Week 1: Course Introduction & Topic 1 (Meeting People)
Week 2: Topic 2: Sharing your daily life
Week 3: Topic 3: Talking about People (Personality)
Week 4: Topic 4: Talking about People (Appearance)
Week 5: Topic 5: Talking about Vacation
Week 6: Topic 6: Talking about Last weekend
Week 7: Group Work (Discussion Topic: Japanese Inn vs Western-Style Hotel)
Week 8: Group Work (Discussion Topic: Big City vs Small Town)
Week 9: Topic 7: Talking about foods and Recipes
Week 10: Topic 8: Talking about Travel
Week 11: Topic 9: Talking about Hometowns
Week 12: Topic 10: Talking about Future Plans
Week 13: Individual Presentation
Week 14: Speaking Test
Week 15: Summary of the course

【事前・事後学修】

Students should be fully prepared to participate in class discussions. Before the lesson, students should spend at least 2 hours go through the topic given a week earlier. Topic related activities will be given each week.

【テキスト・教材】

There will be no text book needed. Handouts (ppt slides, notes, articles, exercises) will be provided.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Valuation

Class Participation (20%)
Group Work (30%)
Individual Presentation (20%)
Speaking Test (30%)
Feedback: Feedback of the individual performance (presentation and speaking test) will be given at the end of the semester during the last class.

【参考書】

1. **Time to Communicate**
Author: Eric Bray
ISBN978-4-523-17791-3

【注意事項】

The lecture topics is subject to the class level

必要の都度、適宜配布する一方的な講義形式ではなく、双方向の演習形式を基本として授業を進めます。

ペアワークなど、さまざまな課題を組み込みながら授業を進めます。授業貢献度10%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題）

*募集人数は35名です。

Effective Speaking

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is English speaking and oral communication with others. Students will have opportunities to practice, use, and improve their English speaking skills.

【授業における到達目標】

The goal of this course is to give students many opportunities to speak and practice using English. The speaking and vocabulary activities done in this class will help students develop their confidence in using English. Each week, we will discuss a topic that will let students openly express and discuss their ideas and opinions. There will be lots of discussion, group work so that students can become better communicators.

【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Personal Profile & Likes/Dislikes
3. Daily Routines & Time
4. Family & Friends
5. Food & Drink
6. Entertainment
7. Work & Money
8. Dating & Love & Marriage
9. Education
10. Experiences
11. Health & Illness
12. Shopping
13. Abilities
14. Review 1 and Final Activities
15. Review 2 and Reflections

【事前・事後学修】

Students should spend 1 hour to preview each unit before class and 30 minutes to review each unit after class. Students will also need to spend about 30 minutes on a weekly homework assignment.

【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

In-Class Performance - Teacher's Evaluation 50%
 Weekly Homework Assignment 25%
 Final Speaking Test 20%
 Attendance 5%

Students will be given oral and written feedback on in-class performance and homework during class.

【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)
 募集人数は35名です。

Extensive Reading

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The objective of this course is for each student to read a cumulative number of 1 million words from a variety of English books. It is also for students to derive pleasure and knowledge from extensively reading English books and acquire the habit of continuing to read books after the course is complete.

【授業における到達目標】

We will train our ability to read actively while increasing reading speed. This will also be time for discussions and writing short responses and reports to reflect upon and share information about the content that was read.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Level 0, 250 words, Oxford Reading Tree
3. Level 1, 500 words, Penguin Readers 1
4. Level 2, 800 words, Oxford Bookworms 1
5. Level 3, 1300 words, Macmillan Elementary
6. Level 3, 1300 words, Oxford Bookworms 3
7. Level 4, 2000 words, Macmillan Intermediate
8. Level 4, 2000 words, Oxford Bookworm 4
9. Level 5, 2800 words, Penguin Readers 5
10. Level 6, 3000 words, Penguin Readers 6
11. Level 6, 3000 words, Penguin Readers 6
12. Level 6, 3000 words, Cambridge English Readers 6
13. Level 7, 3000 words, Arthur Ransom Series
14. Level 7, 5000 words, Harry Potter Series
15. Final class activities

【事前・事後学修】

Students should spend 30 minutes to prepare for each class and 30 minutes to review each unit after class. Students will also need to spend about 30 minutes on a weekly homework book report.

【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation Points - Teacher's Evaluation 15%
Attendance 10%
Book reports 75%

【注意事項】

受講に際して、英語のレベルは問いません。自分と向き合い、一緒に目標を達成してみたい方は是非受講してください。
募集人数は40名です。

Extensive Reading

めざせ100万語！

市毛 洋子

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、15回の授業を通じて累計読書語数100万語を目標に、英語多読本を読む楽しさを知り、本講座終了後も自発的に多読本を読み続ける習慣を身につけることをテーマにしています。

【授業における到達目標】

この授業では、卒業までに身につけるべき能力のうち、問題解決のために主体的に行動する能力を養成します。具体的には、再帰属訓練法に基づいて、主体的に多読本を読む習慣を身につけるとともに速読力を養成し、「読む」能力をCEFR水準のB1レベルまで高めることを目標にしています。再帰属訓練法とは、最初に各自の目標を定めて、その進捗状況を他者と共有しながら、目標を達成する学習法です。

【授業の内容】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション (目標設定) |
| 第2回 | Level 0 語彙250語レベル Oxford Reading Tree他 |
| 第3回 | Level 1 語彙500語レベル Penguin Readers 1他 |
| 第4回 | Level 2 語彙800語レベル Oxford Bookworms 1他 |
| 第5回 | Level 3 語彙1300語レベル Macmillan Elementary 他 |
| 第6回 | Level 3 語彙1300語レベル Oxford Bookworms 3 他 |
| 第7回 | Level 4 語彙2000語レベル Macmillan Intermediate他 |
| 第8回 | Level 4 語彙2000語レベル Oxford Bookworms 4 他 |
| 第9回 | Level 5 語彙2800語レベル Penguin Readers 5 他 |
| 第10回 | Level 5 語彙2800語レベル Oxford Bookworms 6 他 |
| 第11回 | Level 6 語彙3000語レベル Penguin Readers 6 他 |
| 第12回 | Level 6 語彙3000語レベル CER 6 他 |
| 第13回 | Level 6 語彙3000語レベル ARS 他 |
| 第14回 | Level 7 語彙5000語レベル Harry Potter Series 他 |
| 第15回 | まとめ |

CER= Cambridge English Readers

ARS= Arthur Ransom Series

【事前・事後学修】

第1回のオリエンテーション時に作成するワークシートに基づいて、事前学修として1時間、事後学修として1時間程度、多読本を読み進める必要があります。

【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のワークシート提出 (目標達成度)	40%
平常点 (担当教員とのカウンセリング)	20%
中間・まとめレポート	40%

※レポートは個別にカウンセリング時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

受講に際して、英語のレベルは問いません。自分と向き合い、一緒に目標を達成してみたい方は是非受講してください。
募集人数は40名です。

Global Studies a

Introduction to Bilingualism

時田 朋子

2・3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

The main aim of this course is to provide an overview of bilingualism. First, we explore bilingual individuals through the definition of bilingualism, their language acquisition, their intelligence, and their language use. Then we consider how bilinguals are connected to a society, examining the bilingual identity, the language maintenance, and the education. The students are also required to conduct a small research on bilingualism.

【授業における到達目標】

After taking this course, the students will be able to

- acquire basic knowledge about bilingualism
- explain what bilingualism is and who bilinguals are
- conduct a small research on bilingualism

【授業の内容】

Week 1: Introduction
Week 2: Who are bilinguals?
Week 3: Advantages and disadvantages of becoming bilinguals
Week 4: Bilingual acquisition
Week 5: Bilingualism and intelligence
Week 6: Bilingual language use (1): Language choice
Week 7: Bilingual language use (2): Code-switching
Week 8: Bilingualism and attitudes
Week 9: Language and identity
Week 10: Language maintenance and shift
Week 11: Bilingual education
Week 12: Project presentation and discussion (1)
Week 13: Project presentation and discussion (2)
Week 14: Project presentation and discussion (3)
Week 15: Conclusion

【事前・事後学修】

<Before class> Read the text and assigned materials carefully. (for two hours)

<After class> Review the class and submit assignments on the due date. (for two hours)

【テキスト・教材】

Handouts will be distributed in classes.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Your overall grade in the course will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 20%
- Presentation: 30%
- Final report: 50%

*Feedback on assignments will be given in classes.

【注意事項】

募集人数は40名です。

Global Studies b

シュニッケル, ジェイコブ

2・3年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

This course will introduce important concepts related to intercultural competence, which refers to a person's ability to interact respectfully and effectively with a member of another culture. Students will learn through a variety of engaging activities, including self assessment, role play, and group discussion. By participating in this course, students will learn more about their own cultures and how these might be similar to and different from other cultures.

This course is designed for students who plan to study abroad, those who have returned from studying abroad, international students visiting Japan from another country or anyone interested in the idea of intercultural communication.

【授業における到達目標】

This course aims to provide students a basic understanding of intercultural communication. Students will learn important fundamental concepts and study interesting real-world examples of intercultural communication. Students who complete the course will have a better understanding of their own cultures and how they are similar to and different from other cultures around the world.

【授業の内容】

1. Course Introduction
2. What is culture?
3. What is intercultural competence?
4. Role play 1
5. Intercultural competence: self reflection
6. Critical incidents 1
7. Cultural conditioning
8. Analogies for culture
9. Role play 2
10. Personal, cultural, universal
11. Objectivity and intercultural competence
12. Role play 3
13. Critical incidents 2
14. Student presentations
15. Course conclusion

【事前・事後学修】

Prior to each class meeting, students should write a reflection paper of the previous lesson, and they should read any assigned materials. Students should spend about two hours after class to review and complete assignments, and they should spend about two hours before class to prepare.

【テキスト・教材】

All materials will be distributed in class.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation: 20%

Weekly reflections: 40%

Final paper: 40%

Feedback will be given in written comments on their papers and verbally in class.

【注意事項】

*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

*Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

Global Studies d

Japanese Foods

松島 照彦・山崎 壮・於保 祐子

2・3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

In this course, students study English conversation through learning about “Japanese Foods.” As well as Japanese cuisine, its history, culture and health will be learned. The classes are composed of presentations and discussions by students along with lectures by teachers. Dictations using CDs or DVDs about Japanese foods are also planned. Active class participation of the students is requested.

The spoken language is only English in the classes. This course is intended for the students with the basic English conversation skills. Students are required to have EIKEN Grade 2 or the skills corresponding to “TOEIC550 class”.

Before each class, students need prepare vocabulary and paragraphs for the coming chapters of the textbook.

In the first class, students will be requested to make a 3 minute talk about self-introduction including the name, grade and department as well as hobbies or skills, birthplace, favorite foods, what they are good at cooking, and special foods or cuisines from their the birth place or where their family comes from.

Starting in the second class, the students must prepare for the essential words. The list of the words will be uploaded in “manaba course”. For the successive classes also, students will be expected for preparative works.

【授業における到達目標】

The aim of this course is to encourage students:

- (1) To cultivate the attitude to talk to and converse actively with foreign people, without hesitation and with pleasure.
- (2) To advance the ability of operational skills of English to CEFR A2 or B1 level and to broaden their international perspectives.
- (3) To acquire knowledge about Japanese foods and culture of Japan, so that you can introduce and propagate it to the world.

【授業の内容】

1. Self-introduction and ice breaking.
2. Vocabularies to describe Japanese foods.
3. Japanese foods I: History.
4. Japanese foods II: Seasonal events.
5. Japanese foods III: Course dinner.
6. Japanese Foods IV: Gifts from nature.
7. “Shun”: Sense of the seasons in Japanese foods
8. Tastes and flavors in Japanese foods
9. Manners and tips in Japanese foods
10. Hospitality conversations in restaurants
11. Japanese dishes good for health I (Tofu and miso soup)
12. Japanese dishes good for health II (Donburi and noodles)
13. Japanese dishes good for health III (Hot pot dishes)
14. Japanese dishes good for health IV (Bento)
15. Summary and presentation.

【事前・事後学修】

Precautions about the preparative works are noted above in English.

第1回の授業では、英語で自己紹介をする。名前、趣味、出身地、好きな食べ物、出身地の名物料理など3分間くらいの話準備すること。第2回は和食の表現に必要な語彙を学ぶ。必要な用語を manaba course に掲載するので訳語を調べておくこと(約500語ある

ので早めに着手すること)。第3回以降もプレゼンテーションが予定されている。プレゼンテーションの準備などに週4時間を要する。

【テキスト・教材】

濱田伊織：英語で伝える和食 Eat and speak Washoku. [マガジンランド、2015、¥1,500(税抜)]

中山誠一他：脱文法100トピック実践英語トレーニング[ひつじ書房、2017、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation 50%, Presentation 30%, Homework 20%.

Feedback for the homework and presentation will be given in each class.

【参考書】

日本料理の歴史(吉川弘文館、2007)熊倉功夫著、1700円

飲食店の接客英会話CD付き(三修社、2016)D・セイン著、1728円

日本語から引く「食」ことは英語辞典(小学館、2004)永井一彦、3240円

和食の英語表現事典(丸善出版、2016)亀田尚己、4104円

日本の家庭料理をやさしい英語で教えてみませんか?(ベレ出版、

2016)富永恵美子、1944円

英語でレッスン!外国人に教える和食の基本(IBCパブリッシング、

2016)秋山亜裕子、2160円

英語でガイド!外国人がいちばん知りたい和食のお作法CD付(リサ

ーチ出版、2018)植田一三監、上田歌子著、1728円

【注意事項】

この授業は基本的な英会話ができることを前提としています。英検2級、または「TOEIC550」の単位取得の要件を満たす学生を対象とします。

*募集人数は40名です。

Global Studies d

—Education—

清田 夏代

2・3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

Students would be able to understand the histories and theories of education from the course. These include themes such as the ideas and educational practices developed in old European societies, the building of the educational system in nineteenth century American society along with pressing issues of today, and characteristics of Japan's public education system and relevant difficulties associated with present times.

【授業における到達目標】

– Students are expected to understand how ideas and practices of education have developed in the context of social historical situations, the characteristics of the education system of Japan, and problems of education today.
– By gaining and utilizing 'international perspectives', students would be able to accept diversity, examine the world with multilateral and wide viewpoints, and deepen insights. Furthermore, by employing their academic skills, they would be able to understand the basic foundation and structure of different educational systems.

【授業の内容】

- 1 Introduction for 'Global Studies - education -'
- 2 A starting point - educators in ancient Greece -
- 3 Humanistics and education
- 4 Children as 'small adult'
- 5 Civilization and education
- 6 Development of children's culture
- 7 Children in factories
- 8 'The one best system'
- 9 Civil rights movements and education
- 10 Education as well-being
- 11 'Pygmalion in the classroom'
- 12 Nation states and education - characteristics of education in Japan -
- 13 A topic for the education system in Japan 1: child poverty
- 14 A topic for the education system in Japan 2: children with foreign backgrounds
- 15 Summary

【事前・事後学修】

<Before class> 1 hour
Students should read handouts carefully.
<After class> 3hours
Students should review lessons and study for final reports.

【テキスト・教材】

It will be distributed or announced every lesson.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Class participation: 50%

Final report: 50%

Reports would be returned with some comments.

【注意事項】

Students are required to submit reaction papers to the lecturer at the end of every lecture. The lecturer will check student attendance with these reaction paper submission. Students can make comments or questions on the reaction papers and the lecturer will answer them in the next lesson.

*募集人数は40名です。

Global Studies e

Global Studies e

謝 淑愛

2・3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

This course will discuss the definition of globalization and various issues in global studies such as the evolution of human rights.

Global Studies outlines some of the internal and external threats facing the modern nation-state.

The aim of this course is to enhance the understanding of global

phenomena by bringing the methodologies and discourses from various disciplines.

It also aims to develop students' understanding of the nature of globalization, its roles, structures and responsibilities to the world.

The course

provides framework that allows students to further develop lifelong learning skills of independent learning and study in relation to Global Studies.

Method of Delivery: Lectures and Hands-on assignment

【授業における到達目標】

1. To understand what constitute Global Studies, the structure, and relationships between international organizations and the nation-state
2. To learn the historical background to the development of the nation-state

【授業の内容】

Week 1: Course Introduction

Topic: The UN (United Nation) What the World Needs to Know (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 2: Topic: The UN (United Nation) What the World Needs to Know (2) Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 3: Topic: The UN (United Nation) Where Would we be without it (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 4: Topic: The UN (United Nation) Where Would we be without it (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 5: Topic: The Languages: Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 6: Topic: Gender Equality: It's about Time (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 7: Topic: Gender Equality: It's about Time (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 8: Mid-Semester Test

Week 9: Topic: Global Concepts of People around the world (Palestinian & Israeli 1) : Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 10: Topic: Global Concepts of People around the world (Palestinian & Israeli 2): Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 11: Topic: The Environment: Hottest Issue (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 12: Topic: The Environment: Hottest Issue (2):

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 13: Individual Presentation Part 1 (Current World Issues)

Week 14: Individual Presentation Part 2 (Current World

Issues)

Week 15: Summary of the Course

【事前・事後学修】

Students should be fully prepared to participate in class discussions. Before the lesson, students should spend at least 2 hours go through the notes and materials given. Topic related assignment will be given each week. Students are expected to complete the assignment before the next class (2 hours).

【テキスト・教材】

There will be no text book needed.

Handouts (ppt slides, notes, case studies) will be provided.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Class Participation (involve in class discussion and provide feedback (15%)

Presentation (20%)

Mid Term Test (25%)

Final Exam (40%)

*Feedback (presentation and test) will be given at the end of the semester during the last class.

【参考書】

1. Global Concepts (English for International Understanding)

Author: Jim Knudsen

ISBN:978-4-523-17688-6

2. An Introduction to Global Studies

Authors: Patricia J. Campbell, Aran Mackinnon, & Christy R. Stevens (2010)

ISBN: 978-1-4051-8736-7

【注意事項】

The lecture topics is subject to the class level

必要の都度、適宜配布する一方的な講義形式ではなく、双方向の演習形式を基本として授業を進めます。

ペアワークなど、さまざまな課題を組み込みながら授業を進めます。授業貢献度10% (授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題)

募集人数は40名です。

Global Studies f

Global Studies f

謝 淑愛

2・3年 前期・後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力

【授業のテーマ】

Course Description

This course will discuss the definition of globalization and various issues in global studies such as the evolution of human rights.

Global Studies outlines some of the internal and external threats facing the modern nation-state.

The aim of this course is to enhance the understanding of global

phenomena by bringing the methodologies and discourses from various disciplines.

It also aims to develop students' understanding of the nature of globalization, its roles, structures and responsibilities to the world.

The course provides framework that allows students to further develop

lifelong learning skills of independent learning and study in relation to Global Studies.

Method of Delivery: Lectures and Hands-on assignment

【授業における到達目標】

1. To understand what constitute Global Studies, the structure, and relationships between international organizations and the nation-state
2. To learn the historical background to the development of the nation-state
3. To identify the impact of the variety of external and internal environmental influences on international and globalization

【授業の内容】

Week 1: Course Introduction

Topic: Global Concepts of Places (China & India) (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 2:

Topic: Global Concepts of Places (China & India) (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 3:

Topic: The Environment: WWF (World Wildlife Fund) (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 4:

Topic: The Environment: WWF (World Wildlife Fund) (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 5: Quiz

Topic: The UNICEF & the Children

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 6:

Topic: WHO (World Health Organization) & Blood Donations (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 7:

Topic: WHO (World Health Organization) & Blood Donations (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 8: Mid-Semester Test

Week 9:

Topic: Global Concepts: Hopes. (Current World Problems) (1)

Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 10:

Topic: Global Concepts: Hopes. (Current World Problems) (2)

Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 11:

Topic: The Philanthropists & The Volunteers (1)
 Activities: Reading for Information & Key Concepts

Week 12:

Topic: The Philanthropists & The Volunteers (1)
 Activities: Vocabularies Expansion & Class Discussion

Week 13: Individual Presentation (Current World Issues)

Week 14: Individual Presentation (Current World Issues)

Week 15: Final Examination

【事前・事後学修】

Students should be fully prepared to participate in class discussions. Before the lesson, students should spend at least 2 hours go through the notes and materials given. Topic related assignment will be given each week. Students are expected to complete the assignment before the next class (2 hours).

【テキスト・教材】

There will be no text book needed.
 Handouts (ppt slides, notes, case studies) will be provided.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Class Participation (10%)
 Individual Presentation (20%)
 Quiz (10%)
 Mid Semester Test (30%)
 Final Exam (30%)

【参考書】

1. Global Concepts (English for International Understanding)

Author: Jim Knudsen
 ISBN:978-4-523-17688-6

2. An Introduction to Global Studies

Authors: Patricia J. Campbell, Aran Mackinnon, & Christy R. Stevens (2010)
 ISBN: 978-1-4051-8736-7

【注意事項】

The lecture topics is subject to the class level
 必要の都度、適宜配布する一方的な講義形式ではなく、双方向の演習形式を基本として授業を進めます。
 ペアワークなど、さまざまな課題を組み込みながら授業を進めます。授業貢献度10%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題）
 募集人数は40名です。

Grammar & Usage C

久保田 佳枝

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、英語を実用的に使うために必要な文法と構文の解説を行い、それらの構文を実際に使えるように覚え、練習をします。授業では、主に①各自が日本語文を英語にし、②その文を用いて日本語と英語の違いを解説（文法・構文を含む）、③その文を相手に伝わる英語へと修正する、という3つの過程を通して、相手に伝わる英語（主に口語文）を学んでいきます。

【授業における到達目標】

基礎的な構文に関係する文法の解説を行い、それらの構文を繰り返し演習し、実際に使えるようになることを目標とします。その上で、国際的視野と研鑽力の育成をも目指します。

【授業の内容】

1. オリエンテーション：授業の進め方・学習方法等の説明
2. 主語・目的語をはっきりさせる①・語法
3. 主語・目的語をはっきりさせる②・イディオム
4. 主語・目的語をはっきりさせる③・語法
5. 主語・目的語をはっきりさせる④・イディオム
6. 主語・目的語をはっきりさせる⑤・語法
7. 情報をシンプルにさせる①・イディオム
8. 情報をシンプルにさせる②・語法
9. 情報をシンプルにさせる③・イディオム
10. 情報をシンプルにさせる④・語法
11. 結論から述べる①・イディオム
12. 結論から述べる②・語法
13. 結論から述べる③・イディオム
14. 結論から述べる④・語法
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の学習範囲に目を通し、各構文の文法と日本語訳を書いてくること。（学修時間は週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を理解し、構文を暗記する。（学修時間は2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行わず、毎回の授業において小テスト等を実施する。
- ・平常点25%、小テスト等75%として総合評価を行う。
- ・リアクションペーパー等は次回授業でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要に応じて示す。

【注意事項】

第一回目の授業の際に、各授業後の勉強の仕方等を詳しく解説する。そのため、履修希望者はできるだけ出席してほしい。

Grammar & Usage C

英文法の必須事項の確認と問題演習

大島 幸治

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

すでに学習してきた英文法に関する必須事項を確認し、正確に英文を解釈したり、英語表現のニュアンスの違いを理解することで、英語で自信をもって情報発信できるようになることを目指します。TOEIC対策の英文法・語彙を視野に入れた問題演習を実施し、問題解説を行いながら、英語を実用的に使うための英文法の重要項目を修得します。授業中に質疑応答しながら、国際的視野と研鑽力の養成に資する話題提供や解説を加えていきます。

【授業における到達目標】

単語訳をただ当てはめて英文を理解するのではなく、英語の論理や英文に込められた意図やニュアンスの違いをできるように、知識の補充と理解の深化を目指します。具体的にはTOEICで出題される英文法問題を中心とした解答演習、毎回の課題とする単語学習を通じて、知識と語彙力を拡大してTOEICや英検などのスコアの上昇を目指して自己の学習成果を確認します。これにより学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 動詞と文型
- 第2週 動詞と時制
- 第3週 法助動詞
- 第4週 仮定法
- 第5週 態
- 第6週 準動詞
- 第7週 名詞と冠詞
- 第8週 代名詞
- 第9週 形容詞
- 第10週 形容詞句
- 第11週 形容詞節
- 第12週 副詞
- 第13週 副詞句
- 第14週 副詞節
- 第15週 比較・否定

【事前・事後学修】

授業で先渡しされたプリントで次回の授業テーマを予習すること（週2時間）。授業後は、授業で演習した問題を復習し、理解した内容を確認し、解答力をアップすること（週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての確認を行います。不定期に確認テストを5回実施し、その結果を集計して60%、期末試験40%、試験結果は授業最終回にフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限を超えた場合は抽選）

Grammar & Usage D

英文法の必須事項の確認と問題演習

大島 幸治

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

すでに学習してきた英文法に関する必須事項を確認し、実際に英文を書く演習を実施し、英語表現のニュアンスの違いに対する理解をさらに深めて、英語で自信をもって情報発信できるようになることを目指します。各種の英語検定を視野に入れながら、毎回の課題と単語学習、英作文演習、論述演習を加えていきます。英文法の重要項目については、質疑応答しながら補足説明していきます。

【授業における到達目標】

単語訳をただ当てるはめて英文を理解したり、日本語を英語に置き換える発想で英作文するのではなく、英語の論理や英文に込められた意図やニュアンスの違いを理解できるよう知識の補充と深化を目指します。具体的にはTOEICで出題される英文法・語彙問題への解答演習をベースにして知識と語彙力を拡大してスコアの上昇を目指し、英文を書く演習を通じて自己の学習成果を確認します。これにより学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 動詞と文型
- 第2週 動詞と時制
- 第3週 法助動詞
- 第4週 仮定法
- 第5週 態
- 第6週 準動詞
- 第7週 名詞と冠詞
- 第8週 代名詞
- 第9週 形容詞
- 第10週 形容詞句
- 第11週 形容詞節
- 第12週 副詞
- 第13週 副詞句
- 第14週 副詞節
- 第15週 比較・否定

【事前・事後学修】

授業で先渡しされたプリントで次回の授業テーマを予習すること（週2時間）。授業後は、授業で演習した問題を復習し、理解した内容を確認し、解答力をアップすること（週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての確認を行います。不定期に確認テストを5回実施し、その結果を集計して60%、期末試験40%、試験結果は授業最終回にフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限を超えた場合は抽選）

Grammar & Usage D

久保田 佳枝

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、英語を実用的に使うために必要な文法と構文の解説を行い、それらの構文を実際に使えるように覚え、練習をします。授業では、主に①各自が日本語文を英語にし、②その文を用いて日本語と英語の違いを解説（文法・構文を含む）、③その文を相手に伝わる英語へと修正する、という3つの過程を通して、相手に伝わる英語（主に口語文）を学んでいきます。

【授業における到達目標】

基礎的な構文に関する文法の解説を行い、それらの構文を繰り返し演習し、実際に使えるようになることを目標とします。その上で、国際的視野と研鑽力の育成をも目指します。

【授業の内容】

01. オリエンテーション：授業の進め方・学習方法等の説明
02. 主語・目的語をはっきりさせる①・語法
03. 主語・目的語をはっきりさせる②・イディオム
04. 情報をシンプルにさせる①・イディオム
05. 情報をシンプルにさせる②・語法
06. 結論から述べる①・イディオム
07. 結論から述べる②・語法
08. 細かい情報は省く①・イディオム
09. 細かい情報は省く②・語法
10. 細かい情報は省く③・イディオム
11. ストレートに言い換える①・語法
12. ストレートに言い換える②・イディオム
13. ストレートに言い換える③・語法
14. ストレートに言い換える④・イディオム
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の学習範囲に目を通し、各構文の文法と日本語訳を書いてくること。（学修時間は週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を理解し、構文を暗記する。（学修時間は2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行わず、毎回の授業において小テスト等を実施する。
- ・平常点25%、小テスト等75%として総合評価を行う。
- ・リアクションペーパー等は次回授業でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要に応じて呈示する。

【注意事項】

第一回目の授業の際に、各授業後の勉強の仕方等を詳しく解説する。そのため、履修希望者はできるだけ出席してほしい。

ICT基礎演習

コンピュータネットワークと私たちの暮らし

佐藤 健

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

現代は、「コンピュータ・ネットワーク」の正常稼働なくしてすべての社会活動がままならないほどにまで、我々の生活にネットワークが浸透している。しかし、ネットワークは通常「ブラックボックス」あるいは電気・ガス・水道・道路のような「社会インフラ」の一つとして扱われており、「中で何がどのように起こっているか」を理解した上で利用されていることはほとんどない。ビッグデータの解析、まちづくりや生活環境を保つためにICTが活用されている事例を研究し演習を行う。

【授業における到達目標】

ネットワークサービスの現状を正しく理解し、超スマート社会の実現にむけて課題を発見し、お互いが協力する「協働力」と「国際的視野」を養うことを目標としている。

【授業の内容】

- 第1週 受講上の注意点
- 第2週 ネットワークの基礎
- 第3週 プロトコルとOSI参照モデル
- 第4週 TCP/IPの歴史と構成
- 第5週 ビッグデータの解析
- 第6週 IoTの現状
- 第7週 オンデマンド（レポート作成と提出）
- 第8週 サーバー環境を構築する（UNIXのインストール）
- 第9週 オンデマンド（サーバー環境の調査）
- 第10週 中間発表
- 第11週 ネットワーク環境を構築する
- 第12週 無線LAN環境の調査
- 第13週 オンデマンド（ネットワーク環境の調査）
- 第14週 アプリケーションの利用
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

【事前・事後学修】

コンピュータを正確に操作するには、様々な利用形態を体験することにある。様々な社会システムを支えているネットワークコンピュータについて興味をもつことから始まる。事前学修として、学習システム上に用語の小テストを実施する。また、各授業週の内容を理解しているか確認するテストを事後学修として、実施する。授業全体としては、約60時間の学修時間が必要となる。

【テキスト・教材】

別途教場で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席時の小テスト：30%、授業時のレポート：30%、
期末課題：40%

レポートやデータの処理方法などは、随時フィードバックを行う。

【参考書】

教場で別途提示します。

【注意事項】

ICTスキルを向上するためには、ネットワークを介した適切なコミュニケーションの機会が必要です。ぜひ、学外（自宅等）でもインターネットの利用ができる環境を持つようにしてください。

Listening A

栗田 智子・霜田 敦子・田丸 由美子

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

リスニング用の機器・設備を使用して、多くの英語音声に触れることで、聞く力を高めるための基礎力を養います。聞く力の向上には、どれほど多くの単語や表現、文法の知識を身につけているか、自然な早さの発話を聞くことにどれほど慣れているか、などさまざまな事柄が関わってきます。また、音の変化に慣れることも重要です。この授業では、音の変化を中心にした聞き取り能力の向上につながる多くのヒントが得られるはずです。

【授業における到達目標】

学修を通して自己成長する力（研鑽力）によって得られた成果を実感して、自信を創出すること、英語を聞き取り、コミュニケーション能力を向上し、国際的視野から英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

【授業の内容】

1. はじめに 英語のリズムの基本 1
2. 基本練習 1 英語のリズムの基本 2
3. 基本練習 2 弱く発音される音の基本 1
4. 基本練習 3 弱く発音される音の基本 2
5. 基本練習 4 聞こえなくなる音の基本 1
6. 基本練習 5 聞こえなくなる音の基本 2
7. 基本練習 6 なくなる音の基本 1
8. 基本練習 7 なくなる音の基本 2
9. 基本練習 8 ひとつになる音・変わる音の基本 1
10. 基本練習 9 ひとつになる音・変わる音の基本 2
11. 基本練習 10 つながる音の基本 1
12. 基本練習 11 つながる音の基本 2
13. 基本練習 12 アクセント・イントネーションの基本 1
14. 基本練習 13 アクセント・イントネーションの基本 2
15. まとめ

内容の順番に変更がある場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：課題やその他の聞き取り教材に取り組む。

事後学修：授業の復習や他の教材に取り組む。

（事前・事後学修を合わせて週 2 時間以上）

【テキスト・教材】

開講時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗田 智子：提出物40%+平常点（授業態度）10%+期末テスト50%

霜田 敦子：定期試験（50%）+小テスト（30%）

+oral test（10%）+平常点（授業態度）（10%）

田丸由美子：定期試験（50%）+小テスト（30%）+課題（20%）

それぞれ次回授業か試験後または最終授業でフィードバックを行います。

【参考書】

必要に応じ、各クラスで授業時に適宜紹介します。

【注意事項】

授業内容は、担当教員によって多少異なることがあります。

私語などにより、他人への迷惑行為や授業の妨げになる行為があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることを伝えておきます。

Listening B

栗田 智子・霜田 敦子・田丸 由美子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野、○：研鑽力

【授業のテーマ】

「Listening A」に引き続き、リスニング用の機器・設備を使用して、多くの英語音声に触れることにより、聞く力をさらに高めるための演習を行います。聞く力の向上には、どれほど多くの単語や表現、文法の知識を身につけているか、自然な早さの発話を聞くことにどれほど慣れているか、などさまざまな事柄が関わります。また、音の変化に慣れることも重要です。この授業では、音の変化を中心にした聞き取り能力の向上につながる多くのヒントが得られるはずです。

【授業における到達目標】

学修を通して自己成長する力（研鑽力）によって得られた成果を実感して、自信を創出すること、英語を聞き取り、コミュニケーション能力を向上し、国際的視野から英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

【授業の内容】

1. はじめに 英語のリズムの練習 1
2. 発展練習 1 英語のリズムの練習 2
3. 発展練習 2 弱く発音される音の練習 1
4. 発展練習 3 弱く発音される音の練習 2
5. 発展練習 4 聞こえなくなる音の練習 1
6. 発展練習 5 聞こえなくなる音の練習 2
7. 発展練習 6 なくなる音の練習 1
8. 発展練習 7 なくなる音の練習 2
9. 発展練習 8 ひとつになる音・変わる音の練習 1
10. 発展練習 9 ひとつになる音・変わる音の練習 2
11. 発展練習 10 つながる音の練習 1
12. 発展練習 11 つながる音の練習 2
13. 発展練習 12 アクセント・イントネーションの練習 1
14. 発展練習 13 アクセント・イントネーションの練習 2
15. まとめ

内容の順番に変更がある場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：課題やその他の聞き取り教材に取り組む。

事後学修：授業の復習や他の教材に取り組む。

（事前・事後学修を合わせて週 2 時間以上）

【テキスト・教材】

開講時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗田 智子：提出物40%+平常点（授業態度）10%+期末テスト50%

霜田 敦子：定期試験（50%）+小テスト（30%）

+oral test（10%）+平常点（授業態度）（10%）

田丸由美子：定期試験（50%）+小テスト（30%）+課題（20%）

それぞれ次回授業か試験後または最終授業でフィードバックを行います。

【参考書】

必要に応じ、各クラスで授業時に適宜紹介します。

【注意事項】

授業内容は、担当要員によって多少異なることがあります。

私語などの他人への迷惑行為や授業の妨げになる行為があった場合は、退出してもらいます。また居眠りや、携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることを伝えておきます。

Listening C

田丸 由美子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英米の映画を教材として使用することで「教科書英語」ではない生の英語に触れていきます。

【授業における到達目標】

台詞の聞き取り練習や、登場人物になりきって台詞を言う練習を繰り返すことでリスニング能力を高めることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 授業の内容・予定の説明
 第2週 『チャーリーズ・エンジェル』 (1) 気軽な挨拶
 第3週 『チャーリーズ・エンジェル』 (2) 初対面の人への挨拶
 第4週 『チャーリーズ・エンジェル』 (3) 別れるときの挨拶
 第5週 『チャーリーズ・エンジェル』 (4) お礼の言い方と返答
 第6週 『チャーリーズ・エンジェル』 (5) 謝るときの表現とその返答
 第7週 『リアリティ・バイツ』 (1) 依頼の表現
 第8週 『リアリティ・バイツ』 (2) 承諾するときの表現
 第9週 『リアリティ・バイツ』 (3) 具体例の聞き方
 第10週 『リアリティ・バイツ』 (4) 許可を求めるときの表現
 第11週 『リアリティ・バイツ』 (5) 提案するときの表現
 第12週 『恋人までの距離』 (1) ものをすすめるときの表現
 第13週 『恋人までの距離』 (2) 前置き表現
 第14週 『恋人までの距離』 (3) 丁寧な表現
 第15週 『恋人までの距離』 (4) カジュアルな表現

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、授業のはじめに聞き取りテストを行います。前の週の授業で範囲になっていた部分の音声をよく聞いて、しっかり準備してきて下さい（学修時間 週1時間）。

【事後学修】その日に学習した表現はその日のうちに必ず覚えるようにしてください（学修時間 週1時間）。

【テキスト・教材】

初回授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、聞き取りテスト（25%）、提出物（15%）、発音練習（10%）。聞き取りテストと発音練習は毎回授業の最後に、提出物は次回授業時に、期末試験の結果は授業最終回にフィードバックを行います。

Listening D

田丸 由美子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英米の映画を教材として使用することで「教科書英語」ではない生の英語に触れていきます。

【授業における到達目標】

台詞の聞き取り練習や、登場人物になりきって台詞を言う練習を繰り返すことでリスニング能力を高めることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 授業の内容・予定の説明
 第2週 『僕たちのアナ・バナナ』 (1) 語彙力アップトレーニング
 第3週 『僕たちのアナ・バナナ』 (2) よく使う表現を覚える
 第4週 『僕たちのアナ・バナナ』 (3) よく使う表現を使ってみる
 第5週 『僕たちのアナ・バナナ』 (4) 基本的な文法事項の確認
 第6週 『僕たちのアナ・バナナ』 (5) スクリプトを読みながら聞く練習
 第7週 『魅せられて』 (1) ディクテーションの練習
 第8週 『魅せられて』 (2) 正しい発音を習得する
 第9週 『魅せられて』 (3) 物真似するように発音する練習
 第10週 『魅せられて』 (4) 感情移入しながら発音する練習
 第11週 『魅せられて』 (5) 登場人物になりきって発音する練習
 第12週 『シェルタリング・スカイ』 (1) スクリプトありで単文を発音する練習
 第13週 『シェルタリング・スカイ』 (2) スクリプトなしで単文を発音する練習
 第14週 『シェルタリング・スカイ』 (3) スクリプトありで長文を発音する練習
 第15週 『シェルタリング・スカイ』 (4) スクリプトなしで長文を発音する練習

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、授業のはじめに聞き取りテストを行います。前の週の授業で範囲になっていた部分の音声をよく聞いて、しっかり準備してきて下さい（学修時間 週1時間）。

【事後学修】その日に学習した表現はその日のうちに必ず覚えるようにしてください（学修時間 週1時間）。

【テキスト・教材】

初回授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、聞き取りテスト（25%）、提出物（15%）、発音練習（10%）。聞き取りテストと発音練習は毎回授業の最後に、提出物は次回授業時に、期末試験の結果は授業最終回にフィードバックを行います。

NPO・NGO論

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

国境を越えてビジネスを展開する企業の活動によって、新興国や途上国において、サプライチェーンにおける児童労働や資源の搾取、環境汚染、紛争地域における資源開発等、様々な社会問題が生じたことをきっかけに企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）の推進が強く求められています。CSRを推進し、地球規模の社会的課題を解決するためにNPO・NGOと企業の連携が求められています。

本講義は、NPO・NGOの基本的な仕組みを理解しながら、事例分析を通じて、企業の社会的責任（CSR）の推進においてNPO・NGOが果たす役割や活動の意義を理解することを目的とします。

【授業における到達目標】

地球規模で生じる社会、環境、人権等に関わる問題の現状や問題の解決に向けたNPO・NGOと企業の連携、国際的な取り組みについて学びます。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション：授業のねらい、進め方、企業のCSRと国際的課題の解決におけるNPO・NGOの役割
- 第2週 NPO・NGOとは：法と制度、設立、運営、資金調達
- 第3週 企業の社会的責任（CSR）とは
- 第4週 NPO・NGOとCSR：ドキュメンタリーの鑑賞
- 第5週 CSRに関する国際的規範・ルール
持続可能な開発目標（SDGs）
- 第6週 NPO・NGOと企業の連携
- 第7週 NPO・NGOとソーシャルビジネス（1）総論
- 第8週 ソーシャルビジネス（2）欧米における社会的企業
- 第9週 ソーシャルビジネス（3）BOPビジネス
- 第10週 連携事例研究（1）紛争鉱物
- 第11週 連携事例研究（2）人権
- 第12週 連携事例研究（3）貧困、認証制度
- 第13週 連携事例研究（4）労働問題
- 第14週 NPOをつくる：目的の設定、設立の手続きなど
- 第15週 まとめ：講義の講評

【事前・事後学修】

【事前】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのか理解するようにしてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト、教材については授業開始後、指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40％）と期末試験（60％）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【注意事項】

学生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画で示したテーマや順序が変更されることがあります。

Reading A

大島 幸治・河合 修一郎

1年 前期 1単位

◎：国際的視野、○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文を読み解いていく力を養います。担当教員ごとに選定された教材を使用します。

【授業における到達目標】

- 1) 英文全体を理解するために必要な文法を身につけます。
- 2) 英文を構成する単語の意味を知り、語彙力を高めます。
- 3) 英文の内容を通じて国際的な視野と研鑽力を磨きます。

【授業の内容】

以下に示した項目を含んだ英文を読み解く練習を実施していきます。番号は内容の順番と関係ありません。

1. 主部と述部、主語と述語動詞、主語の探求
2. 主語の修飾語、述語動詞の修飾語、目的語、補語
3. 能動と受動、動作と状態
4. 冠詞の処理
5. 代名詞の処理、Itの用法について
6. 接続詞、関係代名詞、関係副詞
7. 前置詞について
8. 否定の研究
9. 比較の研究
10. 仮定法の研究
11. 命令文
12. 疑問文の研究
13. 感嘆文の研究
14. 特殊語法の研究
15. 省略語法

【事前・事後学修】

授業以外に、以下に示す学習が必要です。

- 1) 与えられた教材に使われている単語の意味を調べ、必要と思われる文法の下調べを行うなど、週1時間程度の予習を行う。
- 2) 授業で学習した内容を見直し、週1時間程度復習を行う。

【テキスト・教材】

大島幸治

Yasuko Onjohji他共著『Quality of Life』南雲堂, 2010年(1700円+税)

河合修一郎

Bill Benfield・登美博之著『Polish up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂, 2005年(1800円+税)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

大島幸治

毎回授業冒頭の小テスト50%+授業内期末試験50%で評価する。小テストは翌週にフィードバックを行う。授業内期末試験は最終授業に解説とフィードバックを行う。

河合修一郎

毎回授業冒頭で行う小テスト(前回内容確認)の集計(100%)を成績とする。小テストのフィードバックは翌週授業で行う。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【注意事項】

- 1) 第1回目の授業で科目全体の注意事項を説明します。
- 2) 毎回必ず単語の意味を調べることができる辞書などを持参するようにしてください。

Reading B

大島 幸治・河合 修一郎

1年 後期 1単位

◎：国際的視野、○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文を読み解いていく力を養います。担当教員ごとに選定された教材を使用します。

【授業における到達目標】

- 1) 英文全体を理解するために必要な文法を身につけます。
- 2) 英文を構成する単語の意味を知り、語彙力を高めます。
- 3) 英文の内容を通じて国際的な視野と研鑽力を磨きます。

【授業の内容】

以下に示した項目を含んだ英文を読み解く練習を実施していきます。番号は内容の順番と関係ありません。

1. 助動詞の説明
2. 助動詞についての練習問題
3. 態についての説明
4. 態を含む文の練習問題
5. 不定詞の用法について
6. 不定詞を含む文の練習問題
7. 分詞の用法について
8. 分詞を含む文の練習問題
9. 動名詞の用法について
10. 動名詞を含む文の練習問題
11. 数詞についての説明
12. 数詞を含む文の練習問題
13. 完了時制について、その使い方
14. 完了形を含む文の練習問題
15. まとめ

【事前・事後学修】

授業以外に、以下に示す学習が必要です。

- 1) 与えられた教材に使われている単語の意味を調べ、必要と思われる文法の下調べを行うなど、週1時間程度の予習を行う。
- 2) 授業で学習した内容を見直し、週1時間程度復習を行う。

【テキスト・教材】

大島幸治

Yasuko Onjohji他共著『Quality of Life』南雲堂, 2010年(1700円+税)

河合修一郎

Bill Benfield・登美博之著『Polish up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂, 2005年(1800円+税)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

大島幸治

毎回授業冒頭の小テスト50%+授業内期末試験50%で評価する。小テストは翌週にフィードバックを行う。授業内期末試験は最終授業に解説とフィードバックを行う。

河合修一郎

毎回授業冒頭で行う小テスト(前回内容確認)の集計(100%)を成績とする。小テストのフィードバックは翌週授業で行う。

【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

【注意事項】

必ず毎回辞書を持参してください。授業開始時に注意事項を説明します。しっかり聞いて守りましょう。

Reading C

品詞から読み解く英語長文

河合 修一郎

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文を読んでいる途中で知らない単語にぶつかり、頭が真っ白になった経験は誰だって持っているはず。しかし、単語の意味が判らないと、もうそこでお終いなのだろうか。実は英語の文章にはヒントがいろいろ隠されており、そのひとつが品詞を見分けることなのだ。知らない単語でもその品詞を判断できれば文の構造も見えて来るし、他のヒントと併せて辞書を引かなくても文の意味はあらかじめ理解できるのである。

【授業における到達目標】

ただ日本語に訳して終わりの英語学習ではなくて、英語の論理をもとに、同等の英文が自分でも書けるようになることを目指します。

【授業の内容】

1. 導入
2. Open All Hours 1
3. Open All Hours 2
4. Feng Shui 1
5. Feng Shui 2
6. Vocabulary and Success
7. Cell Phone as Teen Talisman
8. The Charm of Harry Potter
9. Sparky--Believing in Yourself
10. Freddie the Leaf
11. Alcohol Abuse--To Drink or Not to Drink
12. Life Is Beautiful
13. Stevie Morris
14. What Is Psychology?
15. まとめ

以上、様々な文体の英文を正確に読み解く能力を養うことを目的とする。

【事前・事後学修】

今日はどんなことを学習するのか、テキストに目を通した上で授に臨むこと。(週2時間) 授業後は何度もテキストを読み返し、同等の英文を自分でも書けるところまで持っていく。(週2時間)

【テキスト・教材】

Bill Benfield・土屋 武久：Read Up 英文読解スキルビルダー[成美堂、2002、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての小テストを行い、その結果を集計して成績とする。(100%。採点済みの答案は翌週の授業で返却。)

【注意事項】

授業を欠席したり遅刻した場合は、その回のテストの成績がゼロになるので注意のこと。受講制限人数(40名)

Reading C

名作で心の旅をしよう

霜田 敦子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

目まぐるしい情報化社会の中で、ふと足を止め自分の心と対話することは大切なことです。そうした時間を持つ機会として、三つの名作『幸福の王子』『黒馬物語』『十二夜』を読みます。英語で作品を読むことで英語力向上を図るとともに、それぞれの作品が伝えるメッセージを受け取ってください。さらに、ほかの物語を多読し、ストーリーを読む楽しさを感じてください。

英文を速く正確に読むために、英文を意味のまとまりで区切って読み、英語の語順で理解する「フレーズ・リーディング」を学びます。フレーズ・リーディングは、意味のまとまりごとにスラッシュを入れ意味を確認していくことで、英語の語順のまま文章を素早く読むことができる技術です。また、言語は音を伴って初めて言語として機能します。授業では、黙読による速読に加えoverlapping や shadowingといった音読練習も行います。

【授業における到達目標】

- ・英語長文を速読の技術を使って直読直解できるようになる。
- ・ディプロマ・ポリシーの中で特に、「国際的視野」を持つ態度、および学修を通して自己成長する力「研鑽力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：授業の進めかた、評価基準、事前事後学習、授業中の注意の確認。
- 第2週 Unit 1 The Happy Prince
- 第3週 Unit 2 The Happy Prince (1) Reading
- 第4週 Unit 2 The Happy Prince (2) Review
- 第5週 Unit 3 Black Beauty (1) Reading
- 第6週 Unit 3 Black Beauty (2) Review
- 第7週 Unit 4 Black Beauty (1) Reading
- 第8週 Unit 4 Black Beauty (2) Review
- 第9週 Unit 5 Twelfth Night
- 第10週 Unit 6 Twelfth Night (1) Reading
- 第11週 Unit 6 Twelfth Night (2) Review
- 第12週 Unit 7 Twelfth Night (1) Reading
- 第13週 Unit 7 Twelfth Night (2) Review
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指定された箇所の予習とプリント課題を完成させること。(学修時間 週1時間)

【事後学修】小テストの課題に取り組むこと。Overlapping と shadowingを指定された回数行うこと。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

上村淳子：STORY BOX -Gifts from Great Tellers[センゲージ・ラーニング、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト 10%、和訳プリント 10%、WPM記録表 10%、多読手帳 10%、定期試験 50%、平常点(単語テスト、授業態度等) 10%による総合評価。小テストはテスト後、試験結果は次回授業でフィードバックを行う。

【注意事項】

- ・辞書必携。必ず電子辞書を持参すること。授業中のスマートフォンによる辞書検索は禁止。自動翻訳による和訳は受け取らない
- ・事前・事後学修をおろそかにしないこと。
- ・理由のない欠席、遅刻はしないこと。
- ・授業中のスマートホンの使用は禁止。必ず電源を切りカバンにしまうこと。守られない場合は成績に影響します。
- ・受講人数制限40名(制限を超えた場合、抽選)

Reading

品詞から読み解く英語長文

河合 修一郎

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文を読んでいる途中で知らない単語にぶつかり、頭が真っ白になった経験は誰だって持っているはず。しかし、単語の意味が判らないと、もうそこでお終いなのだろうか。実は英語の文章にはヒントがいろいろ隠されており、そのひとつが品詞を見分けることなのだ。知らない単語でもその品詞を判断できれば文の構造も見えて来るし、他のヒントと併せて辞書を引かなくても文の意味はあらかじめ理解できるのである。

【授業における到達目標】

ただ日本語に訳して終わりの英語学習ではなくて、英語の論理をもとに、同等の英文が自分でも書けるようになることを目指します。

【授業の内容】

1. 導入
2. The Appeal of Shakespeare 1
3. The Appeal of Shakespeare 2
4. Robeert Capa--A Photographer's Life 1
5. Robeert Capa--A Photographer's Life 2
6. Healthy, Refreshing Tea
7. Bathhouse to Be Sued for Racism
8. Couple Believe They've Found the KFC Recipe
9. A Youth Crisis in Japan?
10. What Is Linguistics?
11. Who Should Have Children?
12. Room for One More
13. English Dominating Singaporean Culture
14. Japanese Search for Identity in Names
15. まとめ

以上、様々な文体の英文を正確に読み解く能力を養うことを目的とする。

【事前・事後学修】

今日はどんなことを学習するのか、テキストに目を通した上で授に臨むこと。(週2時間) 授業後は何度もテキストを読み返し、同等の英文を自分でも書けるところまで持っていく。(週2時間)

【テキスト・教材】

Bill Benfield・土屋 武久：Read Up 英文読解スキルビルダー[成美堂、2002、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての小テストを行い、その結果を集計して成績とする。(100%。採点済みの答案は翌週の授業で返却。)

【注意事項】

授業を欠席したり遅刻した場合は、その回のテストの成績がゼロになるので注意のこと。受講制限人数(40名)

Reading

名作で心の旅をしよう

霜田 敦子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

目まぐるしい情報化社会の中で、ふと足を止め自分の心と対話することは大切なことです。そうした時間を持つ機会として、二つの名作『三銃士』と『アーサー王宮廷のコネチカット・ヤンキー』を読んでいきます。英語で作品を読むことで英語力向上を図るとともに、それぞれの作品が伝えるメッセージを受け取ってください。さらに、ほかの物語を多読し、ストーリーを読む楽しさを感じてください。

英文を速く正確に読むために、英文を意味のまとまりで区切って読み、英語の語順で理解する「フレーズ・リーディング」を学びます。フレーズ・リーディングは、意味のまとまりごとにスラッシュを入れ意味を確認していくことで、英語の語順のまま文章を素早く読むことができる技術です。また、言語は音を伴って初めて言語として機能します。授業では、黙読による速読に加え、overlappingやshadowingといった音読練習も行います。

【授業における到達目標】

- ・英語長文を速読の技術を使って直読直解できるようになる。
- ・ディプロマ・ポリシーの中で特に、「国際的視野」を持つ態度、および学修を通して自己成長する力「研鑽力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：授業の進めかた、評価基準、事前事後学習、授業中の注意の確認。
- 第2週 Unit 8 The Three Musketeers
- 第3週 Unit 9 The Three Musketeers (1) Reading
- 第4週 Unit 9 The Three Musketeers (2) Review
- 第5週 Unit 10 The Three Musketeers (1) Reading
- 第6週 Unit 10 The Three Musketeers (2) Review
- 第7週 Unit 11 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court
- 第8週 Unit 12 A Connecticut Yankee (1) Reading
- 第9週 Unit 12 A Connecticut Yankee (2) Review
- 第10週 Unit 13 A Connecticut Yankee (1) Reading
- 第11週 Unit 13 A Connecticut Yankee (2) Review
- 第12週 Unit 14 A Connecticut Yankee (1) Reading
- 第13週 Unit 14 A Connecticut Yankee (2) Review
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指定された箇所の予習とプリント課題を完成させること。(学修時間 週1時間)

【事後学修】小テストの課題に取り組むこと。Overlappingとshadowingを指定された回数行うこと。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

上村淳子：STORY BOX -Gifts from Great Tellers[センゲージ・ラーニング、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト 10%、和訳プリント 10%、WPM記録表 10%、多読手帳 10%
定期試験 50%、平常点(小テスト、授業態度等)10%による総合評価。
小テストはテスト後、試験結果は次回授業でフィードバックを行う。

【注意事項】

- ・辞書必携。必ず電子辞書を持参すること。授業中はスマートフォンによる辞書検索は禁止。自動翻訳による和訳は受け取らない。
- ・事前・事後学修をおろそかにしないこと。
- ・理由のない欠席・遅刻はしないこと。
- ・授業中のスマートホンの使用禁止。必ず電源を切りカバンにしまうこと。守られない場合は成績に影響します。
- ・受講人数制限40名(制限を超えた場合、抽選)

TOEIC550

テスト準備を通して、国際的視野を養います。

市毛 洋子

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

TOEICテスト問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につけることを目的にしたコースです。TOEICテストはどんな特徴があるのか？どのような準備をしたらいいのか？ まず、TOEICテストの特色を知ることからはじめ、特色にあった練習をしていきます。また、スコアUP だけではなく、TOEICテストには欠かせない英語コミュニケーションのための基礎的な単語や表現を練習しながら英語運用能力UPを目指します。

【授業における到達目標】

TOEICテストに向けた学習を通して将来ビジネス場面等で必要となる実践的英語運用能力の向上を目指すとともに、国際的感覚を身につけ世界に踏み出そうとする態度を養います。また、そのために必要な課題を自ら発見し、問題解決のための目標を設定して主体的に行動する力を養います。また、情報を処理する能力だけではなく、自ら情報を発信する力をつけるため副教材を使いながら英会話の向上も目指します。

【授業の内容】

- 第1週 TOEICテストとは？ (Unit 1 Daily Life)
- 第2週 Unit 2 Places
- 第3週 Unit 3 People
- 第4週 Unit 4 Travel
- 第5週 Unit 5 Business
- 第6週 Unit 6 Office
- 第7週 Unit 7 Technology
- 第8週 Unit 8 Personnel
- 第9週 Unit 9 Management
- 第10週 Unit 10 Purchasing
- 第11週 Unit 11 Finances
- 第12週 Unit 12 Media
- 第13週 Unit 13 Entertainment
- 第14週 Unit 14 Health
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修、次回の内容を確認し、単語の意味、使い方を必ず調べておくこと。(学修時間 週1時間)
事後学修、付属のCDを活用しながら授業の復習をすること。(学修時間 週1時間)
副教材を使って英会話の練習をしてください。

【テキスト・教材】

Mark D. Stfford : SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 2 [桐原書店、2017、¥1,944(税抜)]
中山誠一他：脱文法100トピック実践英語トレーニング[ひつじ書房、2017、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度 50% 中間テスト 10% 期末テスト 20%
レポート 20%
中間テスト結果は次回授業で、期末テストの結果は授業最終回にテストの答え合わせと解説をしてフィードバックを行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

TOEIC550

テスト準備を通して、国際的視野を養います。

鈴木 卓

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

TOEICテスト問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につけることを目的にしたコースです。TOEICテストはどんな特徴があるのか？どのような準備をしたらいいのか？ まず、TOEICテストの特色を知ることからはじめ、特色にあった練習をしていきます。また、スコアUP だけではなく、TOEICテストには欠かせない英語コミュニケーションのための基礎的な単語や表現を練習しながら英語運用能力UPを目指します。

【授業における到達目標】

TOEICテストに向けた学習を通して将来ビジネス場面等で必要となる実践的英語運用能力の向上を目指すとともに、国際的感覚を身につけ世界に踏み出そうとする態度を養います。また、そのために必要な課題を自ら発見し、問題解決のための目標を設定して主体的に行動する力を養います。また、情報を処理する能力だけではなく、自ら情報を発信する力をつけるため副教材を使いながら英会話の向上も目指します。

【授業の内容】

- 第1週 TOEICテストとは？ (Unit 1 Daily Life)
- 第2週 Unit 2 Places
- 第3週 Unit 3 People
- 第4週 Unit 4 Travel
- 第5週 Unit 5 Business
- 第6週 Unit 6 Office
- 第7週 Unit 7 Technology
- 第8週 Unit 8 Personnel
- 第9週 Unit 9 Management
- 第10週 Unit 10 Purchasing
- 第11週 Unit 11 Finances
- 第12週 Unit 12 Media
- 第13週 Unit 13 Entertainment
- 第14週 Unit 14 Health
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修、次回の内容を確認し、単語の意味、使い方を必ず調べておくこと。(学修時間 週1時間)
事後学修、付属のCDを活用しながら授業の復習をすること。(学修時間 週1時間)
副教材を使って英会話の練習をしてください。

【テキスト・教材】

中山誠一他：脱文法100トピック実践英語トレーニング[ひつじ書房、2017、¥1,600(税抜)]
Mark D. Stfford : SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST [桐原書店、2017、¥1,944(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度 50% 中間テスト 10% 期末テスト 20%
レポート 20%

中間テスト結果は次回授業で、期末テストの結果は授業最終回にテストの答え合わせと解説をしてフィードバックを行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

TOEIC a

—TOEIC L&Rの傾向と対策、そしてスコアアップ（その1）

羽賀 芳秋

1・2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

TOEICのスコアを上げるためには、1) 単語と文法の能力を高める、2) 数多く受験してテストに慣れる、3) 実際に使われている『現場の英語』に多数触れるという3点が必要です。

この授業では最新のTOEIC公式問題集を基本に、TOEICに“効く”語彙力や文法力を高めることによって、上記の3点をカバーし、TOEICとは何かからスタートして、着実にスコアアップにつなげることを目指します。

【授業における到達目標】

学科および本科目のディプロマ・ポリシーの指針に従い、このクラスのTOEICの学習によって、実務的な国際コミュニケーション能力を強化する一方で、英語文化圏の社会についての幅広い見識に触れることにより、国際社会の多様な価値観への理解、および広汎な研鑽力をも身に付けることを目指します。

【授業の内容】

★テキストの練習問題、および配付資料をもとに、TOEICの各項目を順次カバーし、合わせて語彙力や、基礎的な文法力を養います。毎回学習した単語・熟語の定着を図るため、次の授業の際に『TOEIC頻出単語ミニクイズ』を実施します。

また、ビジネスや英語圏文化の周辺知識として毎回多様な『映像素材』を取り入れています。

★《各回の主要な学習項目と内容》

1. オリエンテーション（主要素材の紹介、進め方）
2. リスニング部分 サンプル問題（Part 1-4）
3. リーディング部分 サンプル問題（Part 5-7）
4. Part 1 練習問題、重要単語と文法
5. Part 5 練習問題、重要単語と文法
6. Part 2 練習問題、重要単語と文法
7. Part 6 練習問題、重要単語と文法
8. Part 3 練習問題、重要単語と文法
9. Review Quiz #1、正解と解説、および前半の総括
10. Part 4 練習問題（前半7問）
11. Part 4 練習問題（後半3問）、重要単語と文法（全体）
12. Part 7 練習問題（前半10問）
13. Part 7 練習問題（後半5問）、重要単語と文法（全体）
14. Review Quiz #2、正解と解説、および後半の総括
15. TOEICの傾向と対策、周辺知識

【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回授業の前に発行される【manabaコースニュース】を読んで、指示に従って必要な準備をして授業に臨んでください。
- ・事後学修：当日勉強した単語や熟語などのTOEIC頻出表現を、必ずレビューし、不明確なところは調べて、確実に身につけておくようにしてください。これは毎回の単語クイズの準備ともなります。（事前事後学修、合わせて最低週2時間が目標）

【テキスト・教材】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集4』（CD2枚付：国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,024）ISBN-13：978-4906033539
〔最新版が出版された場合には変更することがあります〕
上記を主教材とし、語彙力などの補強にはプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

◆平常点(授業態度・クイズ等)40%・提出物20%・授業内試験等の結果40%の比率で総合的に評価します。各種試験結果については授業内でフィードバックしますので、今後の学習に役立ててください。

【注意事項】

- ◆このクラスの在籍者には、年間数回実施される学内および公開のTOEICを受験することが強く推奨されます。履修要件ではありませんが、スコアアップのためには必須ですので、必ず受験すること。
- ◆受講人数制限50名（制限人数を超えた場合抽選）

TOEIC b

—TOEIC L&Rの傾向と対策、そしてスコアアップ（その2）

羽賀 芳秋

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

TOEICのスコアを上げるためには、1) 単語と文法の能力を高める、2) 数多く受験してテストに慣れる、3) 実際に使われている『現場の英語』に多数触れるという3点が必要です。

この授業では最新のTOEIC公式問題集を基本に、TOEICに“効く”語彙力や文法力を高めることによって、上記の3点をカバーし、TOEICとは何かからスタートして、着実にスコアのアップにつなげることを目指します。

【授業における到達目標】

学科および本科目のディプロマ・ポリシーの指針に従い、このクラスのTOEICの学習によって、実務的な国際コミュニケーション能力を強化する一方で、英語文化圏の社会についての幅広い見識に触れることにより、国際社会の多様な価値観への理解、および広汎な研鑽力をも身に付けることを目指します。

【授業の内容】

★テキストの練習問題、および配付資料をもとに、TOEICの各項目を順次カバーし、合わせて語彙力や、基礎的な文法力を養います。毎回学習した単語・熟語の定着を図るため、次の授業の際に『TOEIC頻出単語ミニクイズ』を実施します。

また、ビジネスや英語圏文化の周辺知識として毎回多様な『映像素材』を取り入れています。

★《各回の主要な学習項目と内容》

1. オリエンテーション（主要素材の紹介、進め方）
2. リスニング部分 サンプル問題（part 1-4）
3. リーディング部分 サンプル問題（part 5-7）
4. Part 1 練習問題、重要単語と文法
5. Part 5 練習問題、重要単語と文法
6. Part 2 練習問題、重要単語と文法
7. Part 6 練習問題、重要単語と文法
8. Part 3 練習問題、重要単語と文法
9. Review Quiz #1、正解と解説、および前半の総括
10. Part 4 練習問題（前半7問）
11. Part 4 練習問題（後半3問）、重要単語と文法（全体）
12. Part 7 練習問題（前半10問）
13. Part 7 練習問題（後半5問）、重要単語と文法（全体）
14. Review Quiz #2、正解と解説、および後半の総括
15. TOEICの傾向と対策、周辺知識

【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回授業の前に発行される【manabaコースニュース】を読んで、指示に従って必要な準備をして授業に臨んでください。
- ・事後学修：当日勉強した単語や熟語などのTOEIC頻出表現を、必ずレビューし、不明確なところは調べて、確実に身につけておくようにしてください。これは毎回の単語クイズの準備ともなります。（事前事後学修、合わせて最低週2時間が目標）

【テキスト・教材】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集3』（CD2枚付：国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,024）ISBN-13：978-4906033539
〔最新版が出版された場合には変更することがあります〕
上記を主教材とし、語彙力の補強には別途プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

◆平常点(授業態度・クイズ等)40%・提出物20%・授業内試験等の結果40%の比率で総合的に評価します。各種試験結果については授業内でフィードバックしますので、今後の学習に役立ててください。

【注意事項】

- ◆このクラスの在籍者には、年間数回実施される学内および公開のTOEICを受験することが強く推奨されます。履修要件ではありませんが、スコアアップのためには必須ですので、必ず受験すること。
- ◆受講人数制限50名（制限人数を超えた場合抽選）

TOEICリーディング

中村 太一

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

英語の公的資格試験のひとつで、日本の大学生の受験人口が最も多いTOEIC Listening & Reading Testへの対策をおこないます。

【授業における到達目標】

TOEIC Listening & Reading Testで出題される問題形式とパターンに習熟し、問題解法のストラテジーを理解する過程で、リスニング力とリーディング力を高めていくことが目標です。と同時に、単に正解にたどり着くことだけでなく、正答の根拠を説明できるようになることを目指します。現状（現在の英語力）を正しく認識し、弱点を補強するための学習計画を立案して自律的に実行する能力を身につけられるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション
- 第2週 (L) 写真描写問題(1) (R) 単文穴埋め問題(1)
- 第3週 (L) 写真描写問題(2) (R) 単文穴埋め問題(2)
- 第4週 (L) 応答問題(1) (R) 単文穴埋め問題(3)
- 第5週 (L) 応答問題(2) (R) 単文穴埋め問題(4)
- 第6週 (L) 応答問題(3) (R) 単文穴埋め問題(5)
- 第7週 (L) 応答問題(4) (R) 長文穴埋め問題
- 第8週 (L) 会話問題(1) (R) 読解問題(1)
- 第9週 (L) 会話問題(2) (R) 読解問題(2)
- 第10週 (L) 会話問題(3) (R) 読解問題(3)
- 第11週 (L) 説明文問題(1) (R) 読解問題(4)
- 第12週 (L) 説明文問題(2) (R) 読解問題(5)
- 第13週 (L) 説明文問題(3) (R) 読解問題(6)
- 第14週 (L) まとめと整理
- 第15週 (R) まとめと整理

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を予習し、未知の語（句）を調べておくとともに、問題の解答を準備しておくこと（学修時間 週2時間）
事後学修：授業であつかった文法・語法や新出語（句）の復習をし、英文を暗記するほど何回も読み込むこと（学修時間 週1～2時間）

【テキスト・教材】

西谷敦子他著『TOEIC L&Rテスト戦略的トレーニング：レベル500』（朝日出版社 2019年）1,800円＋税
他に、TOEIC頻出語彙プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（積極的な発言・質問など）40%、期末テスト 60%で評価します。テスト結果は最終授業時にフィードバックをおこないます。

【注意事項】

TOEIC L&R Testにおいて高得点を目指すためには、継続的な学習とともに基礎固めが何より重要です。そのため、この授業は初めて受験する学生を主たる対象とし、丁寧に進めていくつもりです。もちろん、得点が伸び悩んでいる経験者で、学習方法を見直して再度チャレンジしたいと考えている学生にも配慮していきます。募集人数は40名です。

TOEICリーディング

若林 邦子

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

偉大な先人のプラス思考に触れ、成功の秘訣を探る。
偉大な先人たちのものの考え方、取り組み方をやさしい英文で読み、プラス思考を身につける。思考力を強化する。
論理的に読む訓練をし、リーディングスキルの上達を目指す。
TOEIC（400～600）。

【授業における到達目標】

英文の内容理解とリスニングの強化。
TOEIC（600）以上を目指す。
国際化の時代に対応出来る総合的な英語力を身につける。
人類の知恵に触れ、教養を高め、自己を磨く。

【授業の内容】

テープで英文を聞き、読み、英文を訳し、英文の内容について各自で考え、意見を発表する機会を提供する。

1. Honoring Your Teachers.
2. Knowing Yourself Better.
3. Learning to be Outgoing.
4. Secret of Creativity.
5. Effective Communication.
6. The Mind-Body Connection.
7. Developing Social Manners.
8. Striving for Teamwork.
9. Aiming for Self-Actualization.
10. Dreams.
11. Managing Your Time.
12. Friend.
13. Resilience : Stress.
14. Endure.
15. Leadership.

【事前・事後学修】

『事前学修』

英文訳と意見発表の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

『事後学修』

英文訳を復習し、内容について思考を深めること。
次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Edward Hoffman・町田哲司・井戸垣隆・玉井久之・田代直也・杉澤怜維子：人生を生き抜く叢智（日本語タイトル）＝ Words of Wisdom for a successful Life（英文タイトル）[朝日出版社、2009、¥1,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト80%、平常点（授業への積極参加）20%
フィードバックの課題は最終授業にて口頭で行います。

【参考書】

募集人数は40名です。

TOEICリーディング

TOEICスコアと英語運用能力の向上と国際的視野の養成

鈴木 卓

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

TOEICテストの問題に慣れ、頻出項目の学習をしながら、スコアを向上するための学習方法を身につけます。リーディングセクション(Part5-7)の出題形式と問題の解き方を学習しますが、単なる試験対策に終わらせず、広く応用できる実践的英語力の養成を目指します。また効果的に英語力を伸ばす学習方法を身に付けることにより、授業終了後も自分で継続的に英語力を伸ばせるようにします。

【授業における到達目標】

- ・TOEICリーディングセクションの各問題形式の理解
- ・TOEICテストのスコア向上
- ・英語運用能力全般の向上
- ・リーディングを通じ多様な文化や価値観に触れ国際的感覚を養う
- ・自己の英語力に応じた目標を設定し達成のために実行する力を養う
- ・自分や日本の生活・社会について英語で発信する力を養う

【授業の内容】

(各回における1と2の番号はそれぞれ対応するテキストを指す)

- 第1回 オリエンテーション、TOEICテストリーディングセクション概観
- 第2回 1. 品詞、2. 質問タイプ
- 第3回 1. 品詞、2. 基本文構造のとらえ方
- 第4回 1. 動詞、2. つなぎの働きをする語句
- 第5回 1. 動詞、2. 形容詞の代わりをする分詞、クイズ1
- 第6回 1. 接続詞、2. 分詞構文
- 第7回 1. 接続詞、2. 不定詞構文
- 第8回 1. 代名詞の指すもの、テスト1と解説
- 第9回 1. 前置詞、2. 関係詞
- 第10回 1. 名詞を修飾する言葉、2. 並列構造
- 第11回 1. 代名詞、2. 特殊構文
- 第12回 1. 関係詞、2. オンラインでのやりとり・商業広告、クイズ2
- 第13回 1. 関係詞、2. 求人広告・通信文
- 第14回 2. 請求書・通知書・メモなど、記事
- 第15回 振り返り、テスト2と解説

【事前・事後学修】

事前学修(週90分)：両教材の次回使用部分の問題を解き解説を理解しておく。学習した語句を語彙ログに記録する。わからない解説や疑問箇所があれば、質問シートに記入しておく

事後学修(週30分から90分)：前回の範囲の教材と授業の内容を復習し、学習内容を定着させる。クイズやテスト前には復習を行う

【テキスト・教材】

小石裕子：TOEIC TEST 英文法 出るとこだけ！[アルク、2016、¥1,296(税抜)]

小石裕子：TOEIC L&Rテスト 正攻法で攻めるパート7読解問題[語研、2017、¥1,600(税抜)]

中山誠一他：脱文法100トピック実践英語トレーニング[ひつじ書房、2017、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(ペアワークや音読等の教室活動への積極的参加・語彙ログや質問シート等の提出物)40%、クイズ(学期中2回実施)20%(実施後にピア採点しながら解説)、テスト(学期中2回実施)40%(実施後に解説)

【注意事項】

TOEICスコアだけではなく英語運用能力全般の向上を目指すため、スピーキングや音読等の練習も行う。したがって履修者には授業中に積極的に英語を使用する態度を求める。また教材の問題を解くのは授業中ではなく、毎週の事前学習であるため、毎回の予習が必須となる。*募集人数は40名です。

Workshop A

デヴェラ, ローナ・V・L

1年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

For this course, students who wish to work overseas or work with English speakers in an international environment will be able to hone verbal and written skills that are useful and practical in different workplace situations. Students will be oriented on different stages of the job-hunting process and they will also be trained to identify specific needs to make themselves competitive for employment in jobs using English. Through roleplays and discussions, students will be able to explore issues, options, and questions they have in relation to job search and employment preparation. At the end of the semester, they will organize their ideas into a final presentation or project.

【授業における到達目標】

The aim of the course is to help students develop basic language employability skills essential for job-hunting and to prepare them as future English-speaking professionals.

【授業の内容】

Week 1 Orientation/ Introduction to the course
Week 2 Identifying job skills
Week 3 Career plans and aspirations
Week 4 Personal goals
Week 5 Resume writing
Week 6 Writing a cover letter
Week 7 Job interviews
Week 8 Meetings and appointments
Week 9 Office telephone skills
Week 10 Writing business email
Week 11 Talking about one's company
Week 12 How to make small talk
Week 13 Handling complaints
Week 14 Consultation and preparation for the final presentation/ project
Week 15 Review/ Wrap-up

【事前・事後学修】

【事前学修】 Students should come to class prepared and complete all in-class work and assignments on time. (Approximately 1-2 hours a week)

【事後学修】 Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class material and readings to be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes and also prepare a file folder for keeping all printouts and assignments.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Class participation and attendance (20%)
In-class activities, homework, and other assignments (40%)
Final presentation/ project (40%)

【注意事項】

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

Workshop B

三田 薫

1年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際に海外の講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション
第2週 18, 19課 (父と母、彼氏と彼女)
第3週 20, 21課 (親と似ている、親友紹介)
第4週 自分で選んだトピック (名前の由来)
第5週 22, 23課 (親になる、子供のしつけ)
第6週 24, 25課 (配偶者、理想の結婚生活)
第7週 自分で選んだトピック (年齢)
第8週 26, 27課 (子供、起床時間)
第9週 28, 29課 (週末、長期休暇)
第10週 自分で選んだトピック (出身地)
第11週 30, 31課 (朝型・夜型、SNS)
第12週 32, 33課 (趣味、インドア派・アウトドア派)
第13週 自分で選んだトピック (身長・体重)
第14週 34課, 自分で選んだトピック (内向的・外向的)
第15週 自分で選んだトピック (体型)

(順番が変更になることがあります。)

オンラインで提供されている教材や、編入対策になる英文学教材でレッスンを受けることも可能です。

【事前・事後学修】

事前学修: 毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修: manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。

(事前・事後合わせて週2時間以上)

【テキスト・教材】

About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本) [株式会社アスク出版、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出（50％）、単語学習プログラムの達成度（20％）、スカイプ英会話の積極性（30％）
毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。

Workshop C

スカイプ英会話

三田 薫

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際に海外の講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話をを行うことにより、英会話力を高めることです。その上で国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 35, 36課（今の目標、退職後）
- 第3週 37, 38課（平日の過ごし方、朝食メニュー）
- 第4週 自分で選んだトピック（感動したこと）
- 第5週 39, 40課（自家用車、生活に満足）
- 第6週 41, 42課（今の習慣、好きなスポーツ）
- 第7週 自分で選んだトピック（悲しかったこと）
- 第8週 43, 44課（好きなテレビ番組、好きな映画）
- 第9週 45, 46課（好きな音楽、好きな本）
- 第10週 自分で選んだトピック（自分の夢）
- 第11週 47, 48課（楽器演奏、コレクション）
- 第12週 49, 50課（ネットショッピング、好きなタイプ）
- 第13週 自分で選んだトピック（将来の理想像）
- 第14週 51課、自分で選んだトピック（ボランティア活動）
- 第15週 自分で選んだトピック（兄弟）

（順番が変更になることがあります。）

オンラインで提供されている教材や、編入対策になる英文学教材でレッスンを受けることも可能です。

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。（事前・事後合わせて週2時間以上）

【テキスト・教材】

About Me 第2版（英語でスラスラ自分のことが言える本）[株式

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%) 毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。

W o r k s h o p D

Japanese culture in English

デヴェラ、ローナ・V・L

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

The course gives the students opportunity to study, research, and learn about the Japanese culture in English and to be able to communicate their ideas and views about their own culture to other English speakers. Topics for study will include history, customs and traditions, arts, popular culture, and language. Students can deepen their understanding of issues and cultural concepts concerning Japan and the Japanese people alongside further developing their English communication skills.

【授業における到達目標】

The course allows students to think critically about their own cultural identity and worldview as Japanese and to examine Japanese cultural concepts, as well as to evaluate these ideas in terms of their own understanding and experiences. Students will learn to: express their ideas and opinion about Japanese culture in English; think of these in comparison to other cultures; and discuss these with English speakers of different nationalities. They are encouraged to have a reflective and inquisitive attitude toward their study, making observations, building vocabulary, and taking notes.

【授業の内容】

- Week 1: Orientation/ Introduction to the Course
- Week 2: Defining culture
- Week 3: Japanese identity
- Week 4: Images and stereotypes of Japan
- Week 5: Start of group report presentations Topic 1
- Week 6: Group report presentation Topic 2
- Week 7: Group report presentation Topic 3
- Week 8: Midterm activity
- Week 9: Group report presentation Topic 4
- Week 10: Group report presentation Topic 5
- Week 11: Group report presentation Topic 6
- Week 12: Group report presentation Topic 7
- Week 13: Consultation
- Week 14: Final presentation/project
- Week 15: Review/ Wrap-up

【事前・事後学修】

【事前学修】 Students should come to class prepared and complete all in-class work and assignments on time. (Approximately 1-2 hours a week)

【事後学修】 Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class material and readings will also be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Class attendance and participation (30%)
- Final project/ presentation (30%)
- Midterm activity (20%)
- Homework and in-class activities (20%)

【注意事項】

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

Workshop

三田 薫

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際に海外の講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で行うのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 69, 70課 (アルバイト、学生時代に力を入れたこと)
- 第3週 71, 72課 (挑戦したい勉強、料理)
- 第4週 自分で選んだトピック (父と母の性格)
- 第5週 73, 74課 (おすすめの日本食、好きな食べ物)
- 第6週 75, 76課 (好きな飲み物、どんな家に住んでいる)
- 第7週 自分で選んだトピック (彼氏の性格)
- 第8週 77, 78課 (洋服の好み、外見で気にしていること)
- 第9週 79, 80課 (健康、ジム通い)
- 第10週 自分で選んだトピック (親友)
- 第11週 81, 82課 (ストレス解消法、運動)
- 第12週 83課, 自分で選んだトピック (おすすめの健康法)
- 第13週 84課, 自分で選んだトピック (コンプレックス)
- 第14週 自分で選んだトピック (理想の結婚生活)
- 第15週 自分で選んだトピック (起きる時間)

(順番が変更になることがあります。)

オンラインで提供されている教材や、編入対策になる英文学教材でレッスンを受けることも可能です。

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。(事前・事後合わせて週2時間以上)

【テキスト・教材】

About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本) [株式会社アスク出版、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%)
毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。

Workshop

三田 薫

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際に海外の講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 85, 86課 (持病、怪我)
- 第3週 87, 88課 (日本の観光地、学習塾)
- 第4週 自分で選んだトピック (週末の過ごし方)
- 第5週 89, 90課 (礼儀作法、伝統的な結婚式)
- 第6週 91, 92課 (お正月、労働時間)
- 第7週 自分で選んだトピック (朝型、夜型)
- 第8週 93, 94課 (社会問題、日本の四季)
- 第9週 95, 96課 (日本の代表的な文化、日本のアニメ)
- 第10週 自分で選んだトピック (習い事)
- 第11週 97課, 自分で選んだトピック (政治への関心)
- 第12週 98課, 自分で選んだトピック (女性の活躍)
- 第13週 99課, 自分で選んだトピック (宗教)
- 第14週 100課, 自分で選んだトピック (干支の動物)
- 第15週 自分で選んだトピック (平日の過ごし方)

(順番が変更になることがあります。)

オンラインで提供されている教材や、編入対策になる英文学教材でレッスンを受けることも可能です。

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。(事前・事後合わせて週2時間以上)

【テキスト・教材】

About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本) [株式会社アスク出版、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%)
毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

【注意事項】

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。

Writing A

藤原 正道・大島 幸治・河合 修一郎

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英文の正しい使い方と意味を修得します。自分ではわかっているつもりでも、ライティングなどをしてみると基礎的な文法事項が身につけていなかったと気がつくことがあります。文法学習とライティングなどを同時に行うことで、文法知識のあいまいな部分を明らかにし、実際に使える英語力の修得を目指します。

【授業における到達目標】

文法学習とライティングなどの学習を同時に行うことで、英語の正確な理解力と発信力を高めることを目標としています。文法知識に裏打ちされた英語理解力と発信力を修得することで、コミュニケーション力、英語および英語圏の社会・文化に関する知識の修得、さらに我が国の伝統の美と文化・精神について世界に発信しようとする態度を養うことを目指します。

【授業の内容】

1. 文の成り立ち	各品詞とその働き
2. 文の要素	主語と述語動詞
3. 文の種類 1	平叙文、否定文、疑問文
4. 文の種類 2	命令文、感嘆文、付加疑問文
5. 文の種類 3	単文、重文、複文
6. 名詞 1	普通、固有、集合など
7. 名詞 2	主格、目的格など
8. 名詞 3	人称、性など
9. 代名詞	指示、疑問、関係代名詞
10. 関係副詞、不定代名詞	one, some, anyなど
11. 形容詞	数量など
12. 比較、最上級	as～as, more～thanなど
13. 冠詞	定冠詞、不定冠詞など
14. 動詞 1	動詞の種類と文の用法
15. 動詞 2	完全自動詞、不完全自動詞など

順番は変更される場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲を予習し、わからないところを明確にしておいてください。週1時間以上

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。週1時間以上

【テキスト・教材】

大島 幸治：作成したオリジナルプリントを使用します。

河合 修一郎：Joan Mc Cannel著『Read Well, Write Well』（成美堂、2016年）2,000円＋税

藤原 正道：作成したオリジナルプリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

河合 修一郎：毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容について的小テストを行い、その結果を集計して成績とする（100%）、小テストは翌週の授業でフィードバックを行う。

大島 幸治：小テスト40%、平常点（授業への積極参加）20%、授業内テスト40%、次回授業でフィードバックを行います。

藤原 正道：小テスト90%、平常点（授業への積極参加）10%。次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

【注意事項】

- ・辞書を常に携帯すること。
- ・私語などによる授業妨害があった場合は、退室を求めます。また、居眠りや携帯電話などの使用により授業への積極的参加が認められない場合は、成績へ大いに反映します。

Writing B

藤原 正道・大島 幸治・河合 修一郎

1年 後期 1単位

◎：国際的視野、○：研鑽力

【授業のテーマ】

Writing Aで学習した内容について、一層定着、発展させて、正確な文法知識に基づいた英語作文の力を養います。

【授業における到達目標】

文法学習とライティングなどの学習を同時に行うことで、英語の正確な理解力と発信力を高めることを目標としています。文法知識に裏打ちされた英語理解力と発信力を修得することで、コミュニケーション力、英語および英語圏の社会・文化に関する知識の修得、さらに我が国の伝統の美と文化・精神について世界に発信しようとする態度を養うことを目指します。

【授業の内容】

1. 完全他動詞と不完全他動詞
2. 助動詞と本動詞の関係
3. 人称、数の一致
4. 不規則動詞の活用
5. 時制
6. 進行形
7. 完了形
8. 時制の一致
9. 仮定法
10. 受動態
11. 助動詞 1 (do, have, willなど)
12. 助動詞 2 (can, may, mustなど)
13. 直接話法と間接話法
14. 不定詞、分詞、動名詞
15. 副詞、前置詞、接続詞

内容の順番に変更がある場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲の問題を解いて予習し、わからないところを明確にしておいてください。週1時間以上

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。週1時間以上

【テキスト・教材】

大島 幸治：作成したオリジナルプリントを使用します。

河合 修一郎：Joan Mc Cannel著『Read Well, Write Well』（成美堂、2016年）2,000円＋税

藤原 正道：作成したオリジナルプリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

河合 修一郎：毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容について的小テストを行い、その結果を集計して成績とする（100%）、小テストは翌週の授業でフィードバックを行う。

大島 幸治：小テスト40%、平常点（授業への積極参加）20%、授業内テスト40%、次回授業でフィードバックを行います。

藤原 正道：小テスト90%、平常点（授業への積極参加）10%。次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

【注意事項】

- ・辞書を常に携帯すること。
- ・私語などによる授業妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用による授業への積極的参加が見られない場合は成績へ大いに反映します。

くらしの化学

山崎 壮・加藤木 秀章

1年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力

外部講師による講義の授業日と内容の予定は、講師の都合によって変更することがある。

第2回授業から、responを使って出席を確認するので、manaba courseの説明を参考にしてスマホにresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生には出席票（印刷物）を用意する。

【授業のテーマ】

私たちの生活の中の身近な現象、物質、科学技術にかかわる化学物質をとりあげて、物質の化学的特性が物質の機能性や生体影響（有効性、毒性）などの現象、さらには、環境問題、社会問題、経済活動に密接に関係していることを学ぶ。また、日常製品を購入・使用するときの商品選択の基礎知識になることも期待する。食品、金属、プラスチック、繊維などのテーマを歴史的な視点も交えながら扱う。

【授業における到達目標】

生活の中で目にすることを、社会にあふれる「にせ科学」や風評にまどわされない、科学的根拠に基づいて考える態度を修得することをめざす。

【授業の内容】

担当：加藤木

第1週 化学繊維の概説（歴史と種類など）

第2週 化学繊維で作られた衣服

第3週 衣服の染色

第4週 衣服の洗浄と界面活性剤

第5週 日常生活で使われるプラスチックの種類

第6週 身近な生活用品（金属・プラスチック製品）

担当：山崎

第7週 食の化学1：サプリメント、健康食品－機能成分とその有効性の根拠

第8週 食の化学2：遺伝子組換え食品－遺伝子組換え技術の基礎および普及の現状

第9週 食の化学3：食物アレルギー－発症メカニズムを分子レベルで考える

第10週 食の化学4：食品添加物－化学物質の安全性評価の考え方

第11週 環境の化学：水銀－化学的性質と毒性発現

第12週 ライフサイエンスの化学1：光る有機化合物－発光物質の化学

第13週 ライフサイエンスの化学2：医薬品の効果発現と生体内代謝－薬が働くしくみ

第14週 ライフサイエンスの化学3：皮膚の科学とスキンケア化粧品の成分と機能（仮題） 講師：ポーラ化成工業（株）多田明弘博士（交渉中）

第15週 工業製品の化学：メーク化粧品の技術開発とマーケティング（仮題） 講師：資生堂ジャパン（株）古賀 悠氏（交渉中）

【事前・事後学修】

外部講師による授業を除き、講義内容の関連事項を調査する課題レポート、または問題形式の確認テストを宿題として課す。提出はmanaba courseへのファイルのアップロード、または回答の入力で行う。（学修時間 週3時間）

未提出と期限後提出は減点する。問題形式の確認テストは解答・解説を配布するので、授業資料も参考にして自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

パワーポイントまたは配布プリントで授業を行うので、教科書は使用しない。外部講師による授業を除き、著作権上の問題を生じない範囲で、授業資料を授業後にmanaba courseにアップロードする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

加藤木が担当する授業に関する課題レポート（40%）、山崎が担当する授業に関する課題レポート（40%）、宿題提出（20%）。

2回の課題レポートの評価は、授業期間終了後にmanaba courseに回答する。

【注意事項】

くらしの化学

身の回りの化学物質の特徴を知ろう

菅野 元行

1年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活は様々な化学物質によって構成されています。そのため、身の回りの化学物質の特徴を知ることは、生活を豊かにすることにつながります。

本講義では、必要に応じて化学の基本を振り返りながら、身の回りの化学物質の性状を習得します。計算や暗記のイメージが強い受験の化学から離れて、生活のためになる化学を学びます。

【授業における到達目標】

身の回りの食品、物質の化学的特徴が理解できるようになる。
化学構造から大よその特徴を類推できるようになる。学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 宇宙と化学：元素の誕生
- 3 様々な元素、原子の構造
- 4 水分子がH₂Oである理由、共有結合
- 5 元素周期表、イオン結合
- 6 有機化合物、脂肪族の炭化水素
- 7 芳香族炭化水素、置換基の種類
- 8 食品の化学：アミノ酸とタンパク質
- 9 食品の化学：油脂と脂肪酸、DHA、EPA
- 10 食品の化学：様々なビタミン
- 11 食品の化学：硬水と軟水
- 12 食品の化学：糖類とアルコール
- 13 色と光の化学：光の種類、色素、染料
- 14 香りの化学：香料、消臭剤
- 15 高分子の化学：プラスチック、繊維

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。(週2時間)

【事後学修】課題A(各授業日の内容を文章にする)を設定しますので、復習に役立ててください。(週2時間)

【テキスト・教材】

参考書の書籍(図書館の指定図書)に沿って授業を進めます。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A(各授業日のまとめ)で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B(日用品の化学物質調査)、課題C(自然科学に関する展示の感想文)を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

【参考書】

齋藤勝裕『気になる化学の基礎知識』(技術評論社 2009年) 1, 580円+税(第8週以降使用予定)(図書館の指定図書にあります)、元素に関する書籍(図書館の指定図書にあります)高校で使用した化学の教科書がありましたら、適宜、参考にしてください。

【注意事項】

※毎回の授業時には、授業のポイントの記載(「成績評価の方法」参照)とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

くらしの人間工学

暮らしの中のデザインと技術について

佐藤 健

1年～ 前期・後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

日常生活の中で、私たちは、モノを使っています。モノには、手袋や被服のように日本人向けに作られたサイズがあるものから、自動車やスマートホンの様に世界中で使われるものまであります。モノづくりに関わる技術や人間行動を理解することで、私たちの暮らしがより安全で快適であることを理解していきます。さらに、わかりやすいデザインや仕組みは、世界標準ではない場合もあります。それぞれのライフスタイルにあった、くらしを支えるデザインや人間行動について考えることで、広く人間生活をとらえることを目標としています。自動車や家電製品なども例にあげて、電子レンジや洗濯機のスイッチ等の位置関係や色などでのインターフェースの構成についても具体的に学びます。なお、前期と後期で開講するキャンパスが異なります。どちらの授業を受けても同一の内容です。

【授業における到達目標】

くらしの中で体験しているデザインやサービスには理由があります。現状を正しく把握し、課題を発見できる能力や問題解決のための「研鑽力」について理解を助ける知識を習得する目標を持ちます。様々な背景のヒトについて理解をし、履修者がより少なければお互いを尊重し、高いコミュニケーション能力を持った「行動力」を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(履修状況の確認)
- 第2週 くらしの中における人間工学
- 第3週 基本的な人体計測
- 第4週 電気や映像による計測
- 第5週 家電のデザイン
- 第6週 自動車のデザイン(インダストリアルデザイン)
- 第7週 子供の安全と人間工学(キッズデザイン)
- 第8週 高齢者と人間工学(ユニバーサルデザイン)
- 第9週 障害福祉と人間工学(ユニバーサルデザイン)
- 第10週 中間評価(デザイン案の作成)
- 第11週 ヒューマンエラー(些細な間違いから事故まで)
- 第12週 ヒューマンエラー(事故事例に学ぶ)
- 第13週 特殊環境における人間工学
- 第14週 未来の日常生活と人間工学の役割
- 第15週 期末レポートの発表

【事前・事後学修】

毎回の授業で事前に小テストを実施します。授業終了後に学習内容の評価をする小レポートを提出します。事前と事後および、中間評価、期末レポート作成等を合わせて60時間程度の学修時間が必要です。事前事後学修として、近隣で開催される展示会や超福祉などのイベントを紹介します。

【テキスト・教材】

教場でオリジナルの資料を提示またはダウンロード可能とします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の小テスト45%(3点×15回分)、中間評価レポート25%、期末課題レポート30%とする。授業時に随時データ・レポート等のフィードバックを行う。

【参考書】

特になし

【注意事項】

特になし。ただし、聴覚や言語スキルによって理解を向上するために必要な対策は現場で調整します。

ことばと社会

日常生活から見出す言語と社会の関係

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ことばを取得し、日常的に使いこなしている人からすると、その活用があまりに当然であり、分析の対象にすることはほとんどない。しかし、ことばには不思議なことが無数にある。本講義では、日常的な言語的現象を理解するカギの一つである「社会」とことばの接点に着目しつつ、「ことばの不思議」を取り上げ、考察していく。ことに英語圏の事情と日本の事情を比較しながら授業を進め、異なる社会的・文化的背景によって、言語活用がいかに変わるのかに注目を当てる。また、オーセンティック教材の分析とロールプレイ・電子コミュニケーション（異文化圏利用者のTwitterへのフォローやコメント送信）を大きな軸にすることにより、異文化に対する理解を深めていく。上記を通し、社会とことばの影響を研究する社会言語学を学び始めるのに必要な基礎知識と理解を身につける。

【授業における到達目標】

本講義では、社会的な要因によって言語運用がいかに異なるのかを検討していく。到達目標として、ことばと社会の関係の基礎を理解し、その知識を活用して簡単な分析を行うことができるようになる。世界の文化的多様性や異文化コミュニケーションの現状の課題を理解する。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、まわりの言語的な現象への気づきができるようになる。あわせて、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1回：ことばと社会の再定義：英語と日本語の例を通してみる「ことばの不思議」と異文化コミュニケーション
 第2回：ニューヨーカーの英語を、日本語の方言に例えるなら…？
 ：ことばと地域／オーセンティック教材分析
 第3回：アメリカの女性も、女性らしいことば遣いをするか？：ことばと性差／ロールプレイ実施・オーセンティック教材分析
 第4回：もしかして、自分の学んだ英語は若くない？：ことばと世代（英語の歴史、社会、文化との関わり）／ロールプレイを実施・オーセンティック教材分析
 第5回：外国で下の名前で呼んでも、ボスはボス？：ポライトネス問題／ロールプレイ実施
 第6回：依頼を依頼として認めてもらうためには？：コミュニケーションスタイル／ロールプレイ実施
 第7回：旅する日本語、そこで出会う外国語は？：ことばとアイデンティティ／オーセンティック教材分析、異文化圏利用者のTwitterへのフォロー・コメント送信
 第8回：「キュートだよなー」には違和感ないが、“She’s so kawaii!”は？：言語接触／オーセンティック教材分析、異文化圏利用者のTwitterへのフォロー・コメント送信
 第9回：地図で見るMt. Takaosanの表示は誰のため？：言語政策／オーセンティック教材分析、異文化圏利用者のTwitterへのフォロー・コメント送信
 第10回：留学後、自分の日本語がどう変わるか？：言語の取得／ロールプレイ実施
 第11回：学校は英語、恋愛話はフランス語？：バイリンガリズム／オーセンティック教材分析
 第12回：東京で道に迷っている外国人に会ったら、何語で話せばよいか？：異文化コミュニケーション／ロールプレイ実施
 第13回：外国人が指摘される、日本人もする間違い？：言語とイメージ／オーセンティック教材分析、異文化圏利用者のTwitterへのフォロー・コメント送信
 第14回：ハリウッド映画を見続ければ、どんな英語を習得するか？：言語とメディアと文化／ロールプレイ実施・オーセンティック教材分析
 第15回：まとめ：改めて「社会言語学」と「異文化コミュニケーション」とは？／英語圏での生活体験のある講師たち（外国人ゲストスピーカー）による講義と質疑応答（定期試験は実施しない。）

【事前・事後学修】

- 1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと（週2時間）
- 2) 各回指定された課題に取り組むこと（週2時間）

【テキスト・教材】

真田信治・ダニエル＝ロング：社会言語学図集－日本語・中国語・英語解説[秋山書店、2010、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー・授業への積極的な参加）：40%、課題：60%

- 1) リアクションペーパーを参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答える。
- 2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

課題等について質問・相談があった場合、giancarlaunserschutz@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、[※]切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

*ゲストスピーカーの日程が前後する可能性がある。

ことばと生活

—社会言語学入門—

大塚 みさ

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

私たちの生活のさまざまな側面には、ことばが密接にかかわっています。まさに空気や水と同様に、私たちに不可欠な存在とすることができます。この点に着目して、社会生活におけることばの使用とその効果とを具体的な人間の行動とのかかわりの中でとらえることが、この授業の主なねらいです。

前半は主に社会言語学のいくつかのトピックを取り上げて、その具体例をみなさんと分析していきます。6月末から7月初旬には、ネーミングをテーマにグループワークを行います。学期末には、各自が興味のあるテーマを選んで、さらに深く掘り下げてレポートにまとめます。

毎回の授業にリアルタイムアンケート・システムresponを活用して、活発な意見交換の場を多数設けます。受講者全員が積極的に授業に参加し、互いに学び合うことによって、ことばへの関心と学習意欲が高まることを期待しています。

【授業における到達目標】

- ・ことばと日常生活や社会との関係を正しくとらえ、それを外に向けて発信しようとする「国際的視野」を養います。
- ・日本語のあるべき姿とその実際とを比較することによって、新たな知を想像する「美の探究」ができるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨーン世論調査結果を分析しよう
- 第2週 気になる日本語 1 「日本語の乱れ」について考えよう
- 第3週 気になる日本語 2 ら抜き言葉は乱れか変化か？
- 第4週 気になる日本語 3 文法的に気になる表現を点検しよう
- 第5週 気になる日本語 4 新方言を探ってみよう
- 第6週 年齢によることばの違い 1 バイト敬語とことばの位相
- 第7週 年齢によることばの違い 2 若者ことばと短縮語
- 第8週 年齢によることばの違い 3 略語とアクセント
- 第9週 年齢によることばの違い 4 ことばの世代差
- 第10週 男女によることばの違い 1 一男女が使うことばの違い
- 第11週 男女によることばの違い 2 一男女を指すことばの違い
- 第12週 ネーミングの諸相 1 一ネーミングのしくみと機能
- 第13週 ネーミングの諸相 2 一ネーミング会議を開いてみよう
- 第14週 ネーミングの諸相 3 一会議結果をプレゼンしよう
- 第15週 まとめ

※学外講師による講義を予定しています（日程未定）。

【事前・事後学修】

【事前学修】教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】プリントとresponとで授業内容を振り返り、教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

ワークシートを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート…70%、事前・事後学修課題…20%、

授業への積極的参加…10%

レポートは、後日個別にコメントして返却する形で、事前・事後学修課題は翌週授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

トピックごとに紹介します。

【注意事項】

- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。
- ・科目の性格柄、授業内容を一部変更する場合があります。
- ・最終回で各自のレポート内容についての報告会を行う予定です。

ことばの科学

—ことばについての身近な疑問に答えます—

三田 薫

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ふだん何気なく使っていることばについて科学してみましょう。どうしてチンパンジーは言葉が話せないのか、赤ちゃんはどうやって言葉を覚えていくのか、右脳と左脳の違いは何か、なぜLとRの聞き取りができないのか、どうしたら英単語を効率的に覚えられるのかといった身近なテーマについて1週ごとに考えていくうちに、言葉の本質が少しずつ見えてくることと思います。古代エジプト文字やベビーサインにも挑戦します。チョムスキーやソシュールの理論もやさしく解説します。語学以外の専門の方でも大丈夫です。自分が言葉話をしたり理解したりできることの不思議を一から学んでいきましょう。

【授業における到達目標】

この科目は、ことばの身近なテーマについて理解を深めることによって、「物事の真理を探究することによって、「美の探求」、特に「新たな知を創造しようとする態度」を養います。また言語の面白さを知ることにより、「研鑽力」、特に「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる」力を養うことを目指します。

【授業の内容】

1. 男と女の脳はこんなに違う
2. 右脳と左脳はこんなに違う
3. サルは頭がいいのになぜ話さない
4. 文字の歴史：ヒエログリフとハングル
5. 辞書対決：広辞苑とオックスフォード英語大辞典
6. LとRの聞き取りのメカニズム
7. ベビーサインと読み聞かせ
8. 子供は文法の天才？（オリジナル文法を作る3歳児）
9. 子供は文学の天才？（なぜ5歳児は物語が作れるのか？）
10. ヘレンケラーの言語習得（井戸水に触れてわかったこと）
11. 手話の不思議（日本手話と日本語対応手話）
12. 外国語（第二言語）習得（なぜ母語のようにいかないのか）
13. 単語記憶法（効果的な覚え方とは？）
14. 進化のプロセスと言語（共感の道具として発達した言語）
15. 人工知能の進歩の行方（どこまで人間言語に近づけるか）

【事前・事後学修】

- ・事前学修：各回の授業内容について、あらかじめ文献を読み理解を深めておいてください。
- ・事後学修：授業の最後に「確認テスト」の manaba での受験、授業後にオンラインレポートの提出があります。その他に、学期末レポートの提出があります。（事前・事後合わせて週4時間以上）

【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、確認テストとオンラインレポート40%、学期末レポート40%

毎週初めに、オンラインレポートについてフィードバックを行います。

アート&パブリッシング

橋本 愛樹

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

出版界の現状、全体像を把握できるようにする。特に美術書の出版・編集について、必要な知識を理解してもらいたい。

書籍・雑誌・文集・展覧会カタログなどを編集し、制作するための基本的な知識を与える。

実際的な編集実務を教示するにあたっては、現在制作進行中の書籍の実例も提供する。

【授業における到達目標】

出版界の構造（組織、出版物の流通形態）が理解できる。

書籍・雑誌の構造（作られかた）を把握できる。

特に美術における著作権について理解できる。

DPに関して：積極的に出版界に進出・活躍しようとする「意欲」「行動力」を身につける。

【授業の内容】

第1週 あいさつ。出版界とはどのような世界なのか。現在の出版界の状況はどういうものか。

第2週 編集とはどういう仕事なのか1：編集者になるための情報。

第3週 編集とはどういう仕事なのか2：さまざまな編集者の世界。

第4週 本の解剖。書籍はどのように出来ているのか。実例（実際の本）を解剖してみる。

第5週 書籍が誕生して、読者の手に渡るまでの流過程について。

第6週 出版物の流過程に関して、日本に特徴的な制度とは。

第7週 編集実務1：原稿依頼から本ができるまでの過程を解説。

第8週 編集実務2：特に美術書を編集するうえでの特別な知識と方法。

第9週 書籍のレイアウトについての基本的な知識。校正についての注意事項と、実際の校正紙を用いての演習。

第10週 印刷についての基本的な知識。製本と装幀の知識。実例を示しながら。

第11週 美術書における著作権について1：いわゆる掲載権について。

第12週 美術書における著作権について2：特に美術における著作権について、Q&Aを示す。

第13週 あらためて、出版・編集とは何なのか考えてみる。

第14週 期末レポート（授業内レポート）提出。

第15週 期末レポートを材料に、総合的に授業を振り返って質疑応答とまとめ。

【事前・事後学修】

事前学修は特にひつようない。編集には専門知識だけでなく、幅広い知識を身につけることが必要である。そのためには、とにかく本を読むこと、さらに、編集者の目で、本を「評価する」ことも大切である（週3時間程度）。

日頃から「本」について疑問に感じていることなど、授業中に質問してもらい、対話的に授業を進めたい（事後学修として、授業レポートの復習を週1時間程度）。

【テキスト・教材】

テキスト、教材は特に必要ない。

授業内容に関して、参考図書、プリント等はその都度配布、閲覧する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内でのレポート（60%）、平常点（授業への積極的な参加）40%

授業中に適宜フィードバックを行う。また、最後の授業時にレポートの講評を行う。

アートマネジメント論

社会における文化芸術のあり方を考える

杉浦 幹男

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

社会における文化芸術のあり方が変化しています。これまでの美しいものを鑑賞して楽しむ“娯楽”ではなく、より社会の中で多様な価値と役割を担うようになっていきます。平成29年6月、文化芸術基本法が制定され、平成31年に向けて文化庁が京都への移転が決定し、文化省の設立が議論されるなど、文化芸術への社会からの期待が高まっています。

こうした近年の動向を踏まえ、文化芸術と社会、市民をつなぐアートマネジメントへの期待も高まっていますが、それを担う人材がわが国では不足しています。大学等でアートマネジメントを学ぶ学科や専攻が多く作られています、いわゆる文化政策から現場のノウハウまで、その内容は必ずしも正しく捉えられていません。

本授業では、アートマネジメントの定義とわが国における現状を学び、求められる役割についての理解を深めます。その上で、教育、福祉、観光、産業、まちづくりなど、社会における文化芸術の多面的な利活用のあり方について考えていきます。

【授業における到達目標】

アートマネジメントを学ぶことにより、現在の文化芸術に求められる価値や役割を発見し、理解する能力を習得します。それにより文化芸術の視点から社会の多様な課題を見出し、解決するアートマネジメント人材に求められる創造的な研鑽力と行動力を身に着けます。あわせて、具体的な企画書作成ワークにより文化芸術の現場で具体的に議論することのできる協働力を身に着けます。

【授業の内容】

- 第1週 アートマネジメントの定義①（概念と歴史的背景）
- 第2週 アートマネジメントの定義②（欧州各国における考え方）
- 第3週 アートマネジメントの定義③（わが国における考え方と近年の動向）
- 第4週 アートマネジメントの現場①（美術館、ギャラリー）
- 第5週 アートマネジメントの現場②（劇場、音楽堂）
- 第6週 アートマネジメントの現場③（地域アーツカウンシル）
- 第7週 事例研究①（教育、福祉）
- 第8週 事例研究②（観光、産業）
- 第9週 事例研究③（まちづくり、防災他）
- 第10週 企画書作成ワーク①（課題設定）
- 第11週 企画書作成ワーク②（事業企画作成）
- 第12週 企画書作成ワーク③（実施計画作成）
- 第13週 企画書作成ワーク④（広報計画作成）
- 第14週 企画書作成ワーク⑤（予算書作成）
- 第15週 プレゼンテーション・総評

【事前・事後学修】

【事前学修】各回で示すレポート課題（問題提起）の回答に取り組むこと。第10週のグループワーク開始後は、各回で示される課題について、資料収集等、準備作業をすること。（学修時間週2時間）

【事後学修】授業後、レポート課題の見直しを行い、再提出すること。第10週のグループワーク開始後は、時間内で完了しなかった作業を完了すること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

企画書作成ワークによる課題40%、平常点（授業への積極的参加、提出課題）60%。各回の課題については、翌回にてフィードバックする。また全体のフィードバックについては第15週で各発表に対する講評を行う。

アサーティブコミュニケーション

自分も相手も大切にしたいコミュニケーション

矢田 早苗

1・2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：行動力

【授業のテーマ】

自己尊重のコミュニケーション、アサーティブを学びます。自分の意見を押し通すのではなく、自分の気持ちや意見を誠実に率直に対等に表現する力を身につけます。

友人関係、就職活動、社会人生活において、何度も立ち戻ることができる大切なコミュニケーション方法です。

【授業における到達目標】

- ・自分のコミュニケーションのクセに気づき、問題解決のための発言や行動につなげる力を修得します。
- ・一人で抱え込まず、頼んだり、相談したりできる協働力を培います。
- ・伝わるように伝えるための学習と各週の振り返りを通して、普段の生活での実践力、自己成長力、研鑽力を鍛えます。

【授業の内容】

- 第1週 アサーティブとは
- 第2週 自分のコミュニケーションを点検する
- 第3週 事例を通して考えるアサーティブのマインド
- 第4週 相手と向き合うときの姿勢・自己主張の権利と責任
- 第5週 率直に頼む
- 第6週 伝える内容の整理のしかた
- 第7週 伝える時のポイント
- 第8週 自分の事例でロールプレイ（率直に依頼する）
- 第9週 振り返り・自分の変化を確認する
- 第10週 適切なNOの伝え方
- 第11週 事例を通して考える
- 第12週 何に対してNOなのかNO的を絞る
- 第13週 自分の事例でロールプレイ（相手を尊重しながら断る）
- 第14週 自己信頼をはぐくむ（自分のいいところをふり返る）
- 第15週 自己信頼をはぐくむ（ほめ言葉を伝える／受け取る練習）

【事前・事後学修】

【事前学修】自分のコミュニケーションを観察し、どのような場面が苦手か、どのようなコミュニケーションのクセがあるのか、自己認知をした上で授業に臨む（学修時間週1時間）

【事後学修】授業で学んだアサーティブ・コミュニケーションの実践。コミュニケーションの取り方を振り返り記録する。

【テキスト・教材】

森田汐生：アサーティブ・トレーニング基礎講座[特定非営利活動法人アサーティブジャパン、2017、¥1,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実践的授業のため授業内の取組みと各回のレポートを重視し、期末レポートと併せて総合的に評価します。平常点50% 期末レポート50%。期末レポートについてのフィードバックは15週目におこないません。

【参考書】

『心が軽くなる！気持ちのいい伝え方ー「アサーティブ」な表現で人生が変わる』森田汐生（主婦の友社）

『怒りの上手な伝え方』森田汐生（すばる舎）

『気まづくならない自己主張のしかた「できるひと」が使っている38のアサーティブな言い方』（大和出版）

『気持ちが伝わる話しかた』森田汐生著（主婦の友社）

【注意事項】

受講人数制限24名（制限を超えた場合抽選となります）。体験型授業のため、欠席をしないよう自己管理をお願いします。

アジア経済・経営論

大木 博巳

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

国際貿易投資研究所「国際貿易と投資」

牛山隆一（2018）『ASEANの多国籍企業』文真堂

トラン・ヴァン・トゥ、大木博巳（2018）『ASEANの新輸出大国ベトナム』文真堂

【授業のテーマ】

世界経済で高成長を持続してきたアジア経済は転換期を迎えている。中国経済は減速し、タイやマレーシアのASEAN先発国も中所得国の罫で成長は大きく低下している。一方で、ベトナムがアセアンの新輸出大国として躍進し、ミャンマーでは工業化開発が始まり注目が集まっている。インドも好調な内需の取り込み目的とした外資系企業の進出が増加し始め、新たな経済発展が見込まれている。また、アジア最大の輸出先である米国では保護貿易主義が強まる気配である。アジアの経済統合を巡っては、米国が抜けたTPP（環太平洋パートナーシップ協定）を日本が主導してTPP11として再構築した。アジア太平洋地域における自由貿易体制のモメンタムを維持した。中国は、国内経済の成長減速を周辺地域との経済連携を通じて補う一帯一路構想を展開し、独自の経済圏の形成を狙っている。

本講義では第1はアジアと日本の係りを貿易、直接投資の視点から確認し、第2にアジアの市場の動きを日本企業および競合する韓国、中国、台湾などのアジア企業の活動から捉え、第3は今後のアジア経済の今後をアジアの市場統合の視点から、アジア経済の現状と直面している課題を把握し、明日のアジアと日本を展望する。

【授業における到達目標】

アジアと日本は、貿易投資のみならず人的面の交流も活発化して緊密度を増している。アジアの現状と問題点、課題を正しく認識することは、日本における問題発掘にもつながる。アジアを通じて日本が抱えている問題点を把握し、国際的視野の涵養と問題解決能力を磨く。

【授業の内容】

1. アジア経済・市場の見方
2. アジアと日本；貿易
3. アジアと日本；対外直接投資
4. アジアの投資環境比較
5. IT産業のグローバルサプライチェーンと台湾企業
6. ASEANにおける日本メーカーの世界戦略車の開発
7. ASEANの新輸出大国ベトナムの躍進と今後
8. ミャンマー経済の課題と展望
9. インド市場開拓と韓国企業の秘密
10. ASEANの多国籍企業
11. 中国経済の発展と中国の一帯一路構想
12. 日本の自由貿易協定（EPA：経済連携協定）
13. アジアの市場統合の動きについて
14. 日本の対外経済戦略とアジア
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前】指定した論文等を事前に目を通しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後】紹介した文献の熟読や課題（小テスト）に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（2回程度）40%、小テスト（授業の理解を確かめる課題を与え、翌授業に提出する）50%、平常点（授業への積極的参加）10%。

小テストについてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

ジェトロ世界貿易投資報告各年版
世界銀行ビジネスランキング、ジェトロ日系企業活動実態調査、JBIC海外事業展開調査報告等

アジア文化論

東南アジア地域研究入門

高橋 美和

2年 前期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

東南アジアの文化に関する入門的な授業。東南アジアは近年、日本人観光客も非常に増え、テレビのバラエティ番組などでも取り上げられることが多くなっており、より身近に感じている方も多いと思う。しかし、東南アジア地域に住む人々の暮らしや世界観・人生観について体系的に学ぶ機会は意外に少ないのではないだろうか。東南アジアという地域は、自然地理的にも言語や宗教といった文化面でも、非常に多様性の高い地域である。この興味の尽きない東南アジア地域の諸文化を、歴史的な背景を含め、立体的に概説する。

【授業における到達目標】

東南アジア地域の地理・歴史・文化に関する基礎的な知識を身につけ、同時代に生きる東南アジアの人々の暮らしや世界観についての共感的な理解への糸口をつかむことが目標である。これにより、国際的視野つまり多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 導入：身の回りの東南アジア
- 第2週 東南アジアを学ぶことの意義
- 第3週 東南アジアの自然地理
- 第4週 モンスーン気候での暮らし
- 第5週 東南アジアの歴史①：文化史を大きく捉える
- 第6週 東南アジアの歴史②：古代文明とインド化
- 第7週 東南アジアの歴史③：植民地時代
- 第8週 東南アジアの歴史④：独立と近代化
- 第9週 東南アジアの食文化①：伝統の食
- 第10週 東南アジアの食文化②：外来の食
- 第11週 東南アジアの言語と文字
- 第12週 宗教と暮らし①：上座仏教圏
- 第13週 宗教と暮らし②：イスラーム圏
- 第14週 宗教と暮らし③：精霊信仰、他
- 第15週 まとめ講義

※外部講師を招く回も予定している。

【事前・事後学修】

事前：事前の調べ物課題に取り組み、manaba上に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：学期中2回程度行うミニテストにそなえ、毎回復習をしっかりとしておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調べ物課題10%・ミニテスト20%・期末試験70%

提出物・テスト・試験ともに授業期間内にフィードバックする。

【参考書】

今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）2, 160円

その他は授業で紹介する。

アニメ・マンガ英語**武内 一良**

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、英訳されたマンガの英語、英語に吹き替えられたアニメの声優の英語表現、アニメの英語字幕に焦点を当て、声優の日本語表現やマンガの日本語と比較しながら、英語という言語を持つ英語圏の文化について学習していきます。

【授業における到達目標】

この科目は、以下の3つを主眼に置きます。

- 1 翻訳の本質を理解する。
- 2 言語に潜む文化の存在を確認する。
- 3 生きた英語表現を修得する。

ディプロマポリシーとの関係では、日本語と英語の新たな関係性を発見し英語を学ぶ楽しみを知ってもらう国際的視野に立ち、美の探究と研鑽力の向上を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と評価方法の説明
- 第2週 英語圏のマンガに使われる英語表記の確認
- 第3週 英語圏のマンガに使われる英語表記の分析
- 第4週 英語に翻訳されている日本のマンガの英語表記の確認
- 第5週 英語に翻訳されている日本のマンガの英語表記の分析
- 第6週 アニメ作品Aの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第7週 アニメ作品Aの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第8週 アニメ作品Bの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第9週 アニメ作品Bの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第10週 アニメ作品Cの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第11週 アニメ作品Cの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第12週 アニメ作品Dの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第13週 アニメ作品Dの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第14週 アニメ・マンガに見る言語と文化の研究報告
- 第15週 これまでの授業内容の確認

【事前・事後学修】

[事前学修] 授業で配付された教材（何度か使用します）に登場する語彙や表現の意味範囲は、最低でも1時間は時間を取り、確実に理解しておくようにしてください。

[事後学修] また授業終了後も、引き続き記憶が新しい内に1時間程度の復習をして新たな英語表現の定着を図ってください。

【テキスト・教材】

毎回教材となる印刷物を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業で行う議論の集大成として、言語と文化に関する独自の視点を研究報告書にまとめて提出してもらいます。評価はこの研究報告書（100%）を基に行います。フィードバックは、毎回次の授業で行います。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。また、授業に必ず英和辞典あるいは英和辞典として機能する機器類を持参してください。

アパレルCAD

衣服の設計図・パターンをPCで作成する

上條 里江

3年 前期 1単位

◎：行動力

『衣服の構成 ブラウス・ワンピース編』江川澄子監修 興陽館

【注意事項】

コンピューター、ソフトの操作の修得は使い慣れることが大切である為、遅刻、欠席の無いように受講すること。

【授業のテーマ】

衣料の設計をコンピューターで行う為の専門ソフト『CAD』はアパレル業界でどのように活用されているのか、パターンデータのデジタル化によって広がるクリエイションを理解したうえで、CADの基本操作を修得し、衣服の設計を行う。ここではスカート、ブラウスを教材として衣服の構造、構成、素材（布）の扱い方、デザイン、裁断、縫製、製品の取扱方など衣料設計に必要な知識を深め、パターンメイキングを学修する。

【授業における到達目標】

衣服設計のプロセスを探求し、CADソフトのアシストにより衣服設計をスムーズに行い、構成力を高めることができる。衣服設計をしていく中で、新たなデザインを創造する為の知識を修得できる。

【授業の内容】

- 第1週 アパレルCAD概論・作図の基本操作
- 第2週 タイトスカート作図・データの保存
ハンガーイラストの描き方
- 第3週 タイトスカートの組立
シルエット展開 フレアスカート
課題 ハンガーイラスト・フレアスカートの立体化
- 第4週 シルエット展開 ギャザースカート
課題 ハンガーイラスト
- 第5週 デザインスカート・縮小データの出力1
課題 デザインスカートの立体化
- 第6週 縫代付け・実物データ出力
課題 裁断とデザイン
- 第7週 囲み製図
課題 ブラウスのリサーチ
- 第8週 ブラウスのシルエット（ストレート・Aライン）
課題 ハンガーイラスト・Aラインブラウスの立体化
- 第9週 ブラウスのシルエット（フィット・プリンセスライン）
課題 ハンガーイラスト
- 第10週 袖・衿のバリエーション
課題 ハンガーイラスト ブラウスデザイン創作
- 第11週 ダーツを利用したデザイン
縮小データの出力2
- 第12週 ハイウエスト・ローウエストの切り替
課題 ハンガーイラスト ブラウスデザイン創作
- 第13週 応用課題・縮小データの出力3
- 第14週 応用課題
- 第15週 まとめ・縮小データの出力4

【事前・事後学修】

スカート・ブラウスの構成、設計について事前に復習しておく必要があります。

デザイン画を理解する力がパターン作成に欠かせない為、常に衣服を観察する事（デザインを構成する縫目、素材等）を心掛ける。

（学修時間 週1時間）

作成したパターンから制作されるデザインをハンガーイラストとして描く事と出力した縮小パターンを紙立体にすることを事後学修とします。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

縮小データの出力4 50%、縮小データ1, 2, 3 30%、ハンガーイラスト・パターンの立体化 20%、で評価する。

縮小データ出力4に関しては授業内でのフィードバックを行う。

その他の提出データは次回授業内でのフィードバックを行う。

【参考書】

『ファッション造形 スカート・パンツ編』小倉文子監修 興陽館

アパレルデザイン基礎

川上 梅
2年 前期 2単位
◎：研鑽力

【授業のテーマ】

衣服設計の基本となる人体の大きさや形、動作に伴う変化等を理解する。本授業では、人体の構造や運動機構、および体型把握法を学ぶ。次に、体型に関するデータを使用して、体型の男女差、加齢に伴う変化、地域差や人種差など、各集団の体型の特徴と差異について学ぶ。さらに、人体形態と衣服パターン・既製衣料サイズとの関連、パターンと衣服のシルエット・ディテールとの関連等、衣服設計の基礎事項について理解を深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

機能的・装飾的観点から衣服設計を理解し、衣服の本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

- 第1週 人体形態把握
- 第2週 人体区分と基準線
- 第3週 骨格と筋
- 第4週 運動機構、姿勢
- 第5週 計測点と計測部位
- 第6週 人体形態の把握法と計測誤差
- 第7週 成人体型
- 第8週 成長期の体型
- 第9週 動作に伴う体形変化と衣服のゆとり量
- 第10週 人体形態と既製衣料サイズシステム
- 第11週 人体形態と衣服パターンⅠ 胴原型
- 第12週 人体形態と衣服パターンⅡ 袖・衿原型
- 第13週 人体形態と衣服パターンⅢ パンツ・スカート原型
- 第14週 衣服のシルエットとディテール
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修] 小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

[事後学修] 小テスト・発表等を復習すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

アパレル設計論 アパレル生産論[日本衣料管理協会、2013、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、小テスト・レポート等(40%)で総合的に評価。小テストは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

アパレル生産論、アパレルデザイン実習を履修する学生は、本科目が基礎となりますので、是非、履修して下さい。

アパレルデザイン基礎実験

川上 梅
1年 前期 2単位 2時限連続
◎：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、布を使用した実験を通して、縫合や立体化、縁や開口部の処理、ポケットに関する縫製技術と理論的根拠を理解する。さらに、留め具や芯地・裏地等の副資材に関する知識を深め、衣服製作の基礎的技術を理解することを目標とする。

【授業における到達目標】

衣服の基本的な縫製技法を理解して習得し、それらを応用して簡単な衣服の製作ができる。

【授業の内容】

- 第1週 衣服製作に用いる道具
- 第2週 手縫いとミシン縫い
- 第3週 縫合と縫い代の処理
- 第4週 縁の処理Ⅰ 縫い割り
- 第5週 縁の処理Ⅱ 片返す
- 第6週 縁の処理Ⅲ 前端的始末
- 第7週 立体化技法
- 第8週 明きと留め具Ⅰ コンシールファスナー
- 第9週 明きと留め具Ⅱ 片返しファスナー
- 第10週 ベンツとスリット
- 第11週 ボタンホール
- 第12週 芯地と裏地
- 第13週 ポケット
- 第14週 布を飾る技法
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修] 次回授業の予習をしておくこと。(学修時間 週1時間)

[事後学修] 前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物(80%)と授業への積極参加(20%)で総合的に評価。提出物返却時にレポートにコメントを記し、フィードバックを行う。

アパレルデザイン実習 a

川上 梅

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

上衣と下衣の製作実習を通して、衣服設計の基礎的な知識を理解し、技法を習得する。平面である布素材を用いて、立体である人体を美しく被うための衣服パターン、各種衣服素材や芯地の取り扱い方、縫製技法などの基礎的事項を学び、これらを通して衣服製作の一連のプロセスを理解する。さらに、工業生産プロセスに沿った製作実習により、個別生産と工業生産の相違点や問題点を探る。

【授業における到達目標】

シャツブラウスとタイトスカートをデザインし、製作することができる。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容、用具の説明、衣服の構成と基礎パターン
- 第2週 衣服の構成
- 第3週 基礎パターン
- 第4週 基礎パターンからデザインパターンへの展開
- 第5週 下衣の製作実習1（裁断・印つけ）
- 第6週 下衣の製作実習2（仮縫い・試着・補正）
- 第7週 下衣の製作実習3（縫製）
- 第8週 下衣の製作実習4（縫製・作品の評価）
- 第9週 工業用パターンの製作（上衣）
- 第10週 縫製仕様書の作成、裁断、縫製作業の検討
- 第11週 縫製作業1（パーツ縫製1、身頃・衿の縫製）
- 第12週 縫製作業2（パーツ縫製2、袖の縫製）
- 第13週 縫製作業3（アSEMBリー縫製1、身頃と衿の組み立て）
- 第14週 縫製作業4（アSEMBリー縫製1、身頃と袖の組み立て）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕次回授業の内容を予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）と授業への積極参加（30%）で総合的に評価。提出物は返却時にレポートにコメントを記し、フィードバックを行う。

アパレルデザイン実習 b

松岡 久美子

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

アパレルデザイン実習aを引継ぎ、さらに構成技法を発展させた実習を行う。具体的には、ワンピースの個別製作を予定している。個々にデザインした衣服を具体化するパターン設計、デザインに適した素材と芯地、裏地などのパーツの選び方、その取扱い方、縫製法を学習し着装評価する。

さらに、より運動機能が求められるパンツについて、そのパターン設計と構成法について学習する。

【授業における到達目標】

アパレルデザイン実習bをさらに展開させた授業になります。衣服製作の一連のプロセス（デザイン・パターン製作・縫製・評価）が自分自身で出来るようになります。それにより、学修成果を実感し、自信を創出できます。それは、新たな知識を得たいという意欲と行動力につながります。

【授業の内容】

- 第1週 授業の内容、用具の説明、製作必要計測項目の人体計測、基礎パターンの設計
- 第2週 基礎パターンの適合度の確認、ワンピースの定義、構成のバリエーション、素材などについて
- 第3週 ワンピースパターンへの展開および応用デザインへの展開
- 第4週 個別製作ワンピースパターンの製作
- 第5週 ワンピース製作実習1－裁断、印つけ
- 第6週 ワンピース製作実習2－仮縫い組立て、試着補正
- 第7週 ワンピース製作実習3－本縫い たて方向の縫い合わせ
- 第8週 ワンピース製作実習4－本縫い よこ方向の縫い合わせ
- 第9週 ワンピース製作実習5－本縫い 見返し 裾の処理
- 第10週 ワンピース製作実習6－本縫い 裏身頃製作
- 第11週 ワンピース製作実習7－本縫い 袖作り 袖つけ
- 第12週 ワンピース製作最終仕上げ
- 第13週 下腿部の基礎パターンからパンツパターンへの展開
- 第14週 パンツ製作実習1－裁断、仮縫い組立て、試着補正
- 第15週 パンツ製作実習2－組立て、試着、パターン設計の評価
パンツは仮縫い用布使用 個人製作ではない
パンツ製作と並行してワンピース製作遅延者の作業も行う

【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達目標に達していない部分の取り組みを求めます。（学修時間 週1時間）

事後学修は、今回の実習内容についてプリントでの確認と要点の加筆をしてください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

各課題ごとに担当者作成のプリント、資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、レポート20%の総合評価。

提出作品は全員で試着評価、多様な構成技法を認識させます。

レポートでは実習内容の要点を知識として蓄積しているか確認します。講師の所見を加えて返却します。

【参考書】

衣服の参考書だけでなく、雑誌、新聞、TVなどメディアの情報が参考になる。

【注意事項】

毎回、講義、実習の説明、実習の組合せになる。忘れ物、欠席は進路に差がつくことになるので注意すること。

アパレルデザイン総合実習

松岡 久美子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

アパレルデザイン実習a、アパレルデザイン実習bで学習した衣服設計、衣服構成法を基礎に、衣服製作実習の総仕上げをする。

多層構造の衣服を設計、製作することにより、さらに高度の衣服立体化の技法を学ぶ。具体的には、ジャケットの個別製作により個々の人体にフィットしたパターン設計、デザインに適した素材、芯地の選択、取り扱い方、縫製法を学び着装評価する。

【授業における到達目標】

衣服製作の一連のプロセス（デザイン・パターン・縫製・評価）が自身で出来るようになる。技術の向上とともに、アパレル分野において知っておくべき専門用語、知識が習得できる。そして、新たな知識を得たいという意欲を生み、実際に実現しようとする行動力につなげることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業の内容、用具の説明、製作必要計測項目の計測、CADによる上半身原型の抽出
- 第2週 ジャケットの定義、構成のバリエーション、素材について、上半身原型の適合度の確認
- 第3週 基礎パターンメイキング、製作ジャケットパターンへの展開
- 第4週 袖のパターンメイキング、パターンの確認
- 第5週 裁断、芯地のプレス
- 第6週 印つけ、仮縫い組立て、試着補正
- 第7週 本縫い1－身頃
- 第8週 本縫い2－ポケット製作
- 第9週 本縫い3－身頃
- 第10週 本縫い4－衿つけ
- 第11週 見返しの裁断、裏地の裁断
- 第12週 本縫い5－裏地、袖作り
- 第13週 本縫い6－表、裏身頃合わせ
- 第14週 本縫い7－袖つけ
- 第15週 最終仕上げ

【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達目標に達していない部分の取り組みを求めます。（学修時間 週1時間）

事後学修は、今回の学修内容について、プリントでの確認と要点の加筆をしてください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

作成プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、レポート20%で評価します。

作品は学生全員で評価し、他作品からの知識を吸収します。

評価は毎回の講義、実技指導の理解度、完成度で評価します。

レポートでは、15回の授業内容が言葉で表現できるか確認し、所見を加えて返却します。

【参考書】

『文化ファッション体系服飾基礎講座（4）スーツ・ベスト』（文化服装学院教科書出版部）

【注意事項】

毎回、実習の説明、実習の組合せになる。忘れ物、欠席は進路に遅れが出ることになるので注意すること。

アパレル生産

大川 知子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

アパレル製品を量産化する為の、生産に関する基本的な知識を、原料/テキスタイル/副資材/縫製/編立と段階を踏みながら学ぶ。また、繊維機械の展示施設訪問等を通して、モノ作りの実態を知る。

【授業における到達目標】

1. アパレル製品の生産工程に関する基本的知識を深めながら、生産に関与する業者等、調達の基本を知ることができる。
2. 優れた製品を作る為の要点を体得する。
3. 学習を通して、モノ作りに対する広い視野を身に付け、本質を見抜くことが出来る「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション—何故、アパレル生産を学ぶのか
- 第2週 アパレルメーカーにおける生産担当の役割 ①社内の連動
- 第3週 アパレルメーカーにおける生産担当の役割 ②社外との連動
- 第4週 テキスタイルの生産と調達
- 第5週 ニット製品の生産
- 第6週 生産の実態と品質（校外学修を予定）
- 第7週 校外学修後のディスカッション
- 第8週 副資材の種類と選定
- 第9週 縫製工程の理解
- 第10週 工業用縫製ミシンの理解
※講師：縫製機器メーカーの実務担当者（予定）
- 第11週 量産に向けて必要な業務
- 第12週 縫製管理と効率化 ①工程分析
- 第13週 縫製管理と効率化 ②原価計算
- 第14週 物流の基礎基礎
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

一回ずつの内容に対して、予習復習をしておくこと（学修時間各2時間）。また、事前に課題を提示する場合もある（学修時間3時間程度）。

【テキスト・教材】

アパレル設計論/アパレル生産論〔(一社)日本衣料管理協会、2013、¥2,190(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、課題レポート等30%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

【参考書】

織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）。

【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

アメリカの文化と社会

実験国家にみるアイデンティティの構築

深瀬 有希子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アメリカ合衆国の文化社会について、複数の視点から総合的な理解を深めることを目標とする。広大な領土と多様な民族を抱えてきたアメリカ合衆国の、複雑かつユニークな歴史的背景から現代の文化や社会状況までを含む幅広い話題に触れ、異文化理解力を高めるとともに他者との協働のあり方を自ら検討する態度をも身につけることを目指す。

【授業における到達目標】

国際的視野：多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養う。研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

【授業の内容】

- ① イントロダクション—共時的感覚とグローバリゼーション
- ② コロニアリズム 1 アメリカン・ドリームの起源（歴史）
—コロンブスのアメリカ「発見」、異文化におけるコミュニケーションの在り方とその政治性
- ③ コロニアリズム 2 ポカホンタス神話（文化と社会）
—ディズニー映画の問題点、「他者」との遭遇を描くときのレトリックとその政治性（異文化コミュニケーションの課題）
- ④ ピューリタニズム 1 植民地時代の教育とリタラシー（歴史と社会）
- ⑤ ピューリタニズム 2 ゼノフォビアとセイラムの魔女狩り（社会と文化）
- ⑥ リパブリカニズム 1 信仰から信頼へ（社会と文化）
—フランクリンの13徳目や現代のスターたちが掲げる10ルールズからみるアメリカの行動規範
- ⑦ リパブリカニズム 2 コモン・センスとアメリカ独立宣言（歴史）
—歴代アメリカ大統領の演説やTwitterを分析、フォローする
- ⑧ 前半のまとめと小テスト 1
- ⑨ ロマンティシズム 1 アメリカ領土拡張と超絶主義—「明白な運命」と「涙の道」
- ⑩ ロマンティシズム 2 奴隷制度と南北戦争—黒人奴隷体験記のレトリックとその政治性（異文化におけるコミュニケーションの在り方）
- ⑪ 世紀転換期 1 ダーヴィニズム、リアリズム、ナチュラリズム
- ⑫ 世紀転換期 2 コスモポリタニズム、第一次世界大戦
- ⑬ ポストモダン・アメリカ 1 米ソ冷戦、核戦争
- ⑭ ポストモダン・アメリカ 2 公民権運動とヴェトナム戦争—「自由」とは何か、多文化社会の現代アメリカにて、生活体験のある講師たち（外国人ゲストスピーカー）による講義と質疑応答
- ⑮ 後半のまとめと小テスト 2

【事前・事後学修】

事前学修：指定されたトピックについて情報を収集し整理する。（学修時間、週2時間）事後学修：授業で提示された課題に関する資料（小説や映画）を読むまたは観る。（学修時間、週2時間）

【テキスト・教材】

巽孝之著『アメリカ文学史のキーワード』（講談社現代新書、2000年、約800円）その他、参考資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加度・レスポンスシート）30%、試験70%で評価する。フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

【参考書】

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年。約3,700円

【注意事項】

真摯な態度で授業に臨むこと。

アメリカ文化事情

久保田 佳枝

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は、アメリカ文化を多角的に学びながら、アメリカへの理解を深めていきます。具体的には、さまざまな人種・民族が入り混ざりながらも互いの文化を共生・共存させている多様性の魅力を考察していきます。コースの後半では、ハワイ海外研修参加に向けて、学びの焦点をハワイ州に当て、研修の準備を行います。

【授業における到達目標】

アメリカ社会に関する幅広い知識を習得すると同時に、ハワイ海外研修の準備を行うことです。そのような種々の学習や活動を通じて国際的視野を養いながら、美の探究や研鑽力の育成も目指します。

【授業の内容】

01. オリエンテーション
02. 概要（領土・国旗・国歌・人種等）
03. 帝国主義の国アメリカ
04. 移民の国アメリカ
05. 日米の関わり①（写真花嫁）
06. 日米の関わり②（日系人部隊）
07. 差別の国アメリカ①（黒人奴隷・差別等）
08. 差別の国アメリカ②（ロサンゼルス暴動）
09. 現代アメリカにおける日常生活①（生活ツール）
10. 現代アメリカにおける日常生活②（ショッピング）
11. 中間クイズ
12. ハワイ州（地理・歴史）
13. ハワイ州（パールハーバー・日系移民）
14. ハワイ州（自然）
15. 期末課題提出・まとめ

※ 上記は授業内容の一覧である。クラスの状況によって、順番が変更される場合がある。

※ 外部講師を予定している（日程未定）。

【事前・事後学修】

【事前学修】新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通して、アメリカに関連する情報を収集する。（学修時間は2時間）

【事後学修】授業内容をノート等にまとめ、理解を深める。（学修時間は2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点（授業への積極的な参加および貢献等）30%、manaba提出15%、中間クイズ20%、期末課題35%として総合評価を行う。
- ・リアクションシート等は次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に必要に応じて呈示する。

【注意事項】

ハワイ英語研修参加予定者は、この科目を必ず履修すること。

アメリカ文学・文化講義 a

アメリカン・スピリチュアリズムと女性解放

稲垣 伸一

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

19世紀アメリカ社会について関心があり、英語で書かれた当時の文献を読むことに挑戦してみようという知的好奇心あふれる学生の受講を歓迎します。

【授業のテーマ】

アメリカでは1848年、フォックス姉妹が経験した心霊現象(ロチェスター・ラッピング)を端緒として、人間の死後の霊と交信ができると信じるスピリチュアリズム(心霊主義)が流行しました。また、この時代は奴隷制廃止運動や女性解放運動が盛んとなった時代でもあり、スピリチュアリズムを信奉する人々の多くはこうした社会改革運動にも関わりました。この授業では19世紀アメリカで流行した近代スピリチュアリズムが、同時代の女性解放運動やユートピア運動と深く関係した事情やその時代的・思想的背景を探り、文学作品や映画への影響も考察します。

【授業における到達目標】

- ・様々な1次資料を読み、また図版等も提示しながら、19世紀アメリカの文化(スピリチュアリズム、社会改革運動、ユートピア運動)について理解を深める。
- ・19世紀アメリカの社会状況が同時代の文学作品にどのように反映しているか考察する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 スピリチュアリズムとは①ーロチェスター・ラッピング
- 第3週 スピリチュアリズムとは②ー社会改革運動との関係
- 第4週 スピリチュアリズムとは③ー流行の背景：短命化と消費社会
- 第5週 スピリチュアリズムとは④ー科学への信仰とホーソーン『七破風の家』
- 第6週 スピリチュアリズムと女性解放運動①ーセネカ・フォールズ女性大会前後
- 第7週 スピリチュアリズムと女性解放運動②ーステレオタイプの女性像と霊媒
- 第8週 スピリチュアリズムと女性解放運動③ー文学作品の中の女性霊媒
- 第9週 スピリチュアリズムと女性解放運動④ーメアリー・ゴーズ・ニコルズ
- 第10週 スピリチュアリズムと女性解放運動⑤ーヴィクトリア・ウッドハル
- 第11週 スピリチュアリズムとユートピア①ーフリーエ主義
- 第12週 スピリチュアリズムとユートピア②ーオナイダ・コミュニティ
- 第13週 スピリチュアリズムとユートピア③ーシェイカー
- 第14週 映画に見るスピリチュアリズム
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修(週2時間)：次回の内容についての配布物(英語で書かれた1次資料を含む)を読む。
- 事後学修(週2時間)：授業の内容を復習し、参考書を参照することにより各回のテーマについて理解を深める。

【テキスト・教材】

授業中に配付するプリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点40%(コメントペーパーの提出、受講態度)
- レポート60%
- 授業各回の最後にコメントペーパーを提出してもらい、その内容や疑問点を次回の授業冒頭で紹介することで、授業内容について理解を深めていきます。

【参考書】

- 稲垣伸一『スピリチュアル国家アメリカー「見えざるもの」に依存する超大国の行方』(河出書房新社、2018年)
- 吉村正和『心霊の文化史』(河出書房新社、2010年)

【注意事項】

アメリカ文学・文化講義 a

アメリカン・スピリチュアリズムと女性解放

稲垣 伸一

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

19世紀アメリカ社会について関心があり、英語で書かれた当時の文献を読むことに挑戦してみようという知的好奇心あふれる学生の受講を歓迎します。

【授業のテーマ】

アメリカでは1848年、フォックス姉妹が経験した心霊現象(ロチェスター・ラッピング)を端緒として、人間の死後の霊と交信ができると信じるスピリチュアリズム(心霊主義)が流行しました。また、この時代は奴隷制廃止運動や女性解放運動が盛んとなった時代でもあり、スピリチュアリズムを信奉する人々の多くはこうした社会改革運動にも関わりました。この授業では19世紀アメリカで流行した近代スピリチュアリズムが、同時代の女性解放運動やユートピア運動と深く関係した事情やその時代的・思想的背景を探り、文学作品や映画への影響も考察します。

【授業における到達目標】

- ・様々な1次資料を読み、また図版等も提示しながら、19世紀アメリカの文化(スピリチュアリズム、社会改革運動、ユートピア運動)について理解を深める。
- ・19世紀アメリカの社会状況が同時代の文学作品にどのように反映しているか考察する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 スピリチュアリズムとは①ーロチェスター・ラッピング
- 第3週 スピリチュアリズムとは②ー社会改革運動との関係
- 第4週 スピリチュアリズムとは③ー流行の背景：短命化と消費社会
- 第5週 スピリチュアリズムとは④ー科学への信仰とホーソーン『七破風の家』
- 第6週 スピリチュアリズムと女性解放運動①ーセネカ・フォールズ女性大会前後
- 第7週 スピリチュアリズムと女性解放運動②ーステレオタイプの女性像と霊媒
- 第8週 スピリチュアリズムと女性解放運動③ー文学作品の中の女性霊媒
- 第9週 スピリチュアリズムと女性解放運動④ーメアリー・ゴーズ・ニコルズ
- 第10週 スピリチュアリズムと女性解放運動⑤ーヴィクトリア・ウッドハル
- 第11週 スピリチュアリズムとユートピア①ーフリーエ主義
- 第12週 スピリチュアリズムとユートピア②ーオナイダ・コミュニティ
- 第13週 スピリチュアリズムとユートピア③ーシェイカー
- 第14週 映画に見るスピリチュアリズム
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修(週2時間)：次回の内容についての配布物(英語で書かれた1次資料を含む)を読む。
- 事後学修(週2時間)：授業の内容を復習し、参考書を参照することにより各回のテーマについて理解を深める。

【テキスト・教材】

授業中に配付するプリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点40%(コメントペーパーの提出、受講態度)
- レポート60%
- 授業各回の最後にコメントペーパーを提出してもらい、その内容や疑問点を次回の授業冒頭で紹介することで、授業内容について理解を深めていきます。

【参考書】

- 稲垣伸一『スピリチュアル国家アメリカー「見えざるもの」に依存する超大国の行方』(河出書房新社、2018年)
- 吉村正和『心霊の文化史』(河出書房新社、2010年)

【注意事項】

アメリカ文学・文化講義b

—モダン・ジャズをとおして見る物語的美学—

難波 雅紀

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

モダン・ジャズをとおして語られてきた、アメリカの物語性について考察する。小説や詩、劇とは異なる、サブカルチャーの一つのジャンルをとおして描かれるアメリカン・ナラティブの有り様を、ジャンルとしての歴史や特徴を踏まえつつ、特にビバップからハードバップの時代に数多く産み出された歌詞の分析をとおして考えていく。その際、英詩の伝統的な構造を踏まえ、リリック(抒情詩)の観点から文学におけるアメリカ詩と比較、対照する中で物語性を明らかにしよう心がけていく。主に、Miles DavisやJohn Coltrane、Wynton Marsalis、Helen Merrill、Sarah Vaughan、Diana Krallなどの演奏や歌唱を取り上げる。

【授業における到達目標】

モダン・ジャズを文学的なリリック(抒情詩)として分析し、その芸術形式をとおして表現されている物語的美学を理解することを目指す。それにより、相対的に自分にとって美とは何かを探求する姿勢を育み、人間としての研鑽力を培っていく。

【授業の内容】

- 第1回:モダン・ジャズとはどんな音楽か?(1)
—音楽ジャンルとしての誕生と発展
- 第2回:モダン・ジャズとはどんな音楽か?(2)
—英詩の伝統と歌詞の構造
- 第3回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(1)
—”You’d Be So Nice to Come Home to”
- 第4回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(2)
—”Summertime”
- 第5回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(3)
—”Day by Day”
- 第6回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(4)
—”Misty”
- 第7回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(5)
—”Autumn in New York”
- 第8回:モダン・ジャズのリリックとしての特徴(1)
—中間的まとめ
- 第9回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(6)
—”The Strange Fruit”
- 第10回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(7)
—”Unforgettable”
- 第11回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(8)
—”Cry Me a River”
- 第12回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(9)
—”Lover Letters”
- 第13回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(10)
—”Someone to Watch Over Me”
- 第14回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(11)
—”My One and Only Love”
- 第15回:モダン・ジャズのリリックとしての特徴(2)—総括

【事前・事後学修】

【事前学修】授業終了時に次回の授業で取り上げる演奏や歌唱を指定するので、試聴して音楽的、文学的な特徴を把握しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎授業での小レポートやリアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。また、音楽的な専門用語を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業終了時に次回の授業で取り上げる歌詞を配布するので、英詩としての特徴を把握しておくことが求められる。なお、毎授業での小レポート・リアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。成績評価は、小レポート・リアクションペーパー40%、学期末レポート60%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

【参考書】

相倉久人『新書で入門 ジャズの歴史』(新潮新書)
油井正一『ジャズの歴史物語』(アルテスパブリッシング)

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義b

—モダン・ジャズをとおして見る物語的美学—

難波 雅紀

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

モダン・ジャズをとおして語られてきた、アメリカの物語性について考察する。小説や詩、劇とは異なる、サブカルチャーの一つのジャンルをとおして描かれるアメリカン・ナラティブの有り様を、ジャンルとしての歴史や特徴を踏まえつつ、特にビバップからハードバップの時代に数多く産み出された歌詞の分析をとおして考えていく。その際、英詩の伝統的な構造を踏まえ、リリック(抒情詩)の観点から文学におけるアメリカ詩と比較、対照する中で物語性を明らかにするよう心がけていく。主に、Miles DavisやJohn Coltrane、Wynton Marsalis、Helen Merrill、Sarah Vaughan、Diana Krallなどの演奏や歌唱を取り上げる。

【授業における到達目標】

モダン・ジャズを文学的なリリック(抒情詩)として分析し、その芸術形式をとおして表現されている物語的美学を理解することを目指す。それにより、相対的に自分にとって美とは何かを探究する姿勢を育み、人間としての研鑽力を培っていく。

【授業の内容】

- 第1回:モダン・ジャズとはどんな音楽か?(1)
—音楽ジャンルとしての誕生と発展
- 第2回:モダン・ジャズとはどんな音楽か?(2)
—英詩の伝統と歌詞の構造
- 第3回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(1)
—”You’d Be So Nice to Come Home to”
- 第4回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(2)
—”Summertime”
- 第5回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(3)
—”Day by Day”
- 第6回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(4)
—”Misty”
- 第7回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(5)
—”Autumn in New York”
- 第8回:モダン・ジャズのリリックとしての特徴(1)
—中間的まとめ
- 第9回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(6)
—”The Strange Fruit”
- 第10回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(7)
—”Unforgettable”
- 第11回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(8)
—”Cry Me a River”
- 第12回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(9)
—”Lover Letters”
- 第13回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(10)
—”Someone to Watch Over Me”
- 第14回:歌詞の分析から見るアメリカの物語性(11)
—”My One and Only Love”
- 第15回:モダン・ジャズのリリックとしての特徴(2)—総括

【事前・事後学修】

【事前学修】授業終了時に次回の授業で取り上げる演奏や歌唱を指定するので、試聴して音楽的、文学的な特徴を把握しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎授業での小レポートやリアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。また、音楽的な専門用語を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業終了時に次回の授業で取り上げる歌詞を配布するので、英詩としての特徴を把握しておくことが求められる。なお、毎授業での小レポート・リアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。成績評価は、小レポート・リアクションペーパー40%、学期末レポート60%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

【参考書】

相倉久人『新書で入門 ジャズの歴史』(新潮新書)
油井正一『ジャズの歴史物語』(アルテスパブリッシング)

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義c

—ピューリタニズムとアメリカン・アイデンティティー

難波 雅紀

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

17世紀植民地時代のニューイングランドにおける思想を、現代のアメリカ文化、アメリカ政治との 関連を視野に入れつつ概観する。ピューリタニズムを始めとするキリスト教の神学や思想がアメリカン・ナラティヴおよびアメリカン・アイデンティティの形成に果たした役割に、とりわけ注目していく。

【授業における到達目標】

多様性を受容し、多角的な視点から世界を見ようとする態度、自分とは異なる価値観を持つ国内外の人々と、相互に理解、協力していこうとする姿勢を修得する。

【授業の内容】

- 第1回:導入と展望
- 第2回:西ヨーロッパにおける宗教改革
- 第3回:イギリスにおける宗教改革
- 第4回:旧約聖書と新約聖書
- 第5回:預言と成就
- 第6回:ニューイングランドの予型論的意味
- 第7回:ジョン・ウィンスロップと「丘の上の町」のヴィジョン
- 第8回:マサチューセッツ湾植民地の創設
- 第9回:アメリカン・アイデンティティの誕生(1)——千年王国
- 第10回:教会と国家
- 第11回:反律法主義論争
- 第12回:教会員資格と公民権
- 第13回:アメリカン・ナラティヴとしての回心体験告白
- 第14回:アメリカン・アイデンティティの誕生(2)——見える聖徒
- 第15回:ベンジャミン・フランクリンの『自叙伝』

【事前・事後学修】

【事前学修】宗教改革から17世紀イギリスを経て18世紀アメリカに至る世界史の流れに沿って授業を進めるので、事前にその概略を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】各回の講義で扱うキリスト教の神学、思想は非常に難解なので、特に専門用語については、指定図書等を利用して理解を深めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、リアクションペーパー・提出課題30%、学期末レポート70%により総合評価する。リアクションペーパーおよび提出課題は次回授業においてフィードバックを行なう。

【参考書】

秋山健監修『アメリカの嘆き——米文学史の中のピューリタニズム』(松柏社)

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義c

—ピューリタニズムとアメリカン・アイデンティティ—

難波 雅紀

3年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

17世紀植民地時代のニューイングランドにおける思想を、現代のアメリカ文化、アメリカ政治との 関連を視野に入れつつ概観する。ピューリタニズムを始めとするキリスト教の神学や思想がアメリカン・ナラティブおよびアメリカン・アイデンティティの形成に果たした役割に、とりわけ注目していく。

【授業における到達目標】

多様性を受容し、多角的な視点から世界を見ようとする態度、自分とは異なる価値観を持つ国内外の人々と、相互に理解、協力していこうとする姿勢を修得する。

【授業の内容】

- 第1回:導入と展望
- 第2回:西ヨーロッパにおける宗教改革
- 第3回:イギリスにおける宗教改革
- 第4回:旧約聖書と新約聖書
- 第5回:預言と成就
- 第6回:ニューイングランドの予型論的意味
- 第7回:ジョン・ウィンスロップと「丘の上の町」のヴィジョン
- 第8回:マサチューセッツ湾植民地の創設
- 第9回:アメリカン・アイデンティティの誕生(1)——千年王国
- 第10回:教会と国家
- 第11回:反律法主義論争
- 第12回:教会員資格と公民権
- 第13回:アメリカン・ナラティブとしての回心体験告白
- 第14回:アメリカン・アイデンティティの誕生(2)——見える聖徒
- 第15回:ベンジャミン・フランクリンの『自叙伝』

【事前・事後学修】

【事前学修】宗教改革から17世紀イギリスを経て18世紀アメリカに至る世界史の流れに沿って授業を進めるので、事前にその概略を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】各回の講義で扱うキリスト教の神学、思想は非常に難解なので、特に専門用語については、指定図書等を利用して理解を深めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、リアクションペーパー・提出課題30%、学期末レポート70%により総合評価する。リアクションペーパーおよび提出課題は次回授業においてフィードバックを行なう。

【参考書】

秋山健監修『アメリカの嘆き——米文学史の中のピューリタニズム』(松柏社)

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義d

1960年代にみる自由の諸相—公民権運動、核開発、ベトナム戦争

深瀬 有希子

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

公民権運動、核開発、ベトナム戦争といった多層的で複雑な1960年代の政治的展開を概観したのち、それらをうけて生み出されたアメリカ文学文化に見出される自由や国家の意味を考察する。人種・民族・ジェンダーなど複数の概念が交錯する60年代の文学文化に触れることにより、異文化理解はもちろんのこと、対象を多方面から分析する方法や論理的思考力を獲得することも目指す。

【授業における到達目標】

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

【授業の内容】

- 1 インTRODクダクシヨン：「ジム・クロウ」について
- 2 公民権運動の展開 1：「分離すれども平等」について
- 3 公民権運動の展開 2：シット・インからワシントン大行進へ
- 4 公民権運動の展開 3：アフアーマティヴ・アクション
- 5 マーチン・ルーサー・キングとマルコムX
- 6 公民権運動とジェンダー：アリス・ウォーカー『メリディアン』、キャスリン・ストケット『ヘルプ』、スパイク・リー『ゲット・オン・ザ・バス』
- 7 まとめ ①
- 8 ベトナム戦争の展開 1：米ソ冷戦
- 9 ベトナム戦争の展開 2：核開発、宇宙開発競争
- 10 ベトナム戦争の展開 3：ケネディ政権の動向
- 11 ベトナム戦争の展開 4：アメリカ国外からの反応
- 12 現代アメリカ戦争文学史概説
- 13 ポストモダン・アメリカの形成1：『地獄の黙示録』、『7月4日に生まれて』、『フォレスト・ガンブ』
- 14 ポストモダン・アメリカの形成2：『ミス・サイゴン』、ラン・カオ『モンキー・ブリッジ』
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：アメリカ（文学）史の基本的知識を確認しておくこと。

授業で扱う小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。

学修時間 週2時間。

事後学修：授業で扱われた小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。学修時間 週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レスポンスシート30%、試験70%で評価する。

フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

【参考書】

荒このみ『マルコムX—人権への闘い』（岩波新書、2009年）

川島正樹『アフアーマティヴ・アクションの行方』（名古屋大学出版会、2014年）

黒崎真『マーティン・ルーサー・キング—非暴力の闘士』（岩波新書、2018年）

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義d

1960年代にみる自由の諸相—公民権運動、核開発、ベトナム戦争

深瀬 有希子

3年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

公民権運動、核開発、ベトナム戦争といった多層的で複雑な1960年代の政治的展開を概観したのち、それらをうけて生み出されたアメリカ文学文化に見出される自由や国家の意味を考察する。人種・民族・ジェンダーなど複数の概念が交錯する60年代の文学文化に触れることにより、異文化理解はもちろんのこと、対象を多方面から分析する方法や論理的思考力を獲得することも目指す。

【授業における到達目標】

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

【授業の内容】

- 1 インTRODクダクシヨン：「ジム・クロウ」について
- 2 公民権運動の展開 1：「分離すれども平等」について
- 3 公民権運動の展開 2：シット・インからワシントン大行進へ
- 4 公民権運動の展開 3：アフアーマティヴ・アクション
- 5 マーチン・ルーサー・キングとマルコムX
- 6 公民権運動とジェンダー：アリス・ウォーカー『メリディアン』、キャスリン・ストケット『ヘルプ』、スパイク・リー『ゲット・オン・ザ・バス』
- 7 まとめ ①
- 8 ベトナム戦争の展開 1：米ソ冷戦
- 9 ベトナム戦争の展開 2：核開発、宇宙開発競争
- 10 ベトナム戦争の展開 3：ケネディ政権の動向
- 11 ベトナム戦争の展開 4：アメリカ国外からの反応
- 12 現代アメリカ戦争文学史概説
- 13 ポストモダン・アメリカの形成1：『地獄の黙示録』、『7月4日に生まれて』、『フォレスト・ガンブ』
- 14 ポストモダン・アメリカの形成2：『ミス・サイゴン』、ラン・カオ『モンキー・ブリッジ』
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：アメリカ（文学）史の基本的知識を確認しておくこと。

授業で扱う小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。

学修時間 週2時間。

事後学修：授業で扱われた小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。学修時間 週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レスポンスシート30%、試験70%で評価する。

フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

【参考書】

荒このみ『マルコムX—人権への闘い』（岩波新書、2009年）

川島正樹『アフアーマティヴ・アクションの行方』（名古屋大学出版会、2014年）

黒崎真『マーティン・ルーサー・キング—非暴力の闘士』（岩波新書、2018年）

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学研究A

南北戦争以前のアメリカにおける自然と文明

稲垣 伸一

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn*を読み、南北戦争以前のアメリカにおける自然と(宗教や奴隷制を含む)文明について考えます。

【授業における到達目標】

- ・作品の精読を通して英語を正確に読むことを目指す。
- ・特定の視点から作品について考え、舞台となる時代や場所について理解を深めることを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Chapter 1-3
- 第3週 Chapter 4-6
- 第4週 Chapter 7-9
- 第5週 Chapter 10-12
- 第6週 Chapter 13-15
- 第7週 Chapter 16-18
- 第8週 Chapter 19-21
- 第9週 Chapter 22-24
- 第10週 Chapter 25-27
- 第11週 Chapter 28-31
- 第12週 Chapter 32-35
- 第13週 Chapter 36-39
- 第14週 Chapter 40-42
- 第15週 Chapter the Last、まとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週3時間)：授業で読むことを予定している章を予習する。

事後学修(週1時間)：読んだ章について出された他人の意見や自分の意見を踏まえ、もう一度読んだ章の内容について考える。

【テキスト・教材】

Mark Twain: *Adventures of Huckleberry Finn* [Norton Critical Edition, 1999, ¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表) 50%
レポート 50%

授業中のディスカッション時に、教員がコメントすることにより、出された意見についてフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

授業前に必ず予習を行い、授業ではディスカッション等に積極的に参加してください。

アメリカ文学研究B

文学批評理論入門

深瀬 有希子

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

ジョナサン・カラー著 *Literary Theory: A Very Short Introduction* (1997)を読み、文学批評理論の基本的かつ重要概念を学ぶ。

【授業における到達目標】

第一に、本書の精読を通して、難解な英語を正確に読む力を養うことを目指す。第二に、修士論文の理論構築についてより意識的になることを目指す。

【授業の内容】

- ① インTRODクシヨン
- ② 第1章
- ③ 第2章
- ④ 第3章
- ⑤ 第4章
- ⑥ 先行研究論文の分析 1
- ⑦ 先行研究論文の分析 2
- ⑧ 批評理論の実践 1
- ⑨ 第5章
- ⑩ 第6章
- ⑪ 第7章
- ⑫ 第8章、9章
- ⑬ 先行研究論文の分析 3
- ⑭ 批評理論の実践 2
- ⑮ 批評理論の実践 3

【事前・事後学修】

事前学修：指定された範囲を精読し、不明点を明確にしておく。(学修時間 週2時間)

事後学修：教科書以外にも授業で紹介した文献を読み、重要概念の理解をより深める。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Jonathan Culler: *Literary Theory: A Very Short Introduction* [Oxford UP, 2011, ¥1,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表とディスカッション) 50%
レポート(2回) 50%

フィードバックは、授業におけるディスカッションおよびレポート返却時に行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

必ず予習を行い、ディスカッションに積極的に参加すること。

アメリカ文学研究C

ジェンダー規範の変容

佐々木 真理

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家や活動家たちが優れた演説や著作を残してきました。この演習の目標は、19世紀から20世紀の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性の権利問題とジェンダーに関する規範の変容を学びます。さらに、修士論文に向けて、研究方法・資料収集の方法についても学んでいきます。

【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性の地位や権利の問題、ジェンダーに関する問題について理解を深め、分析を行い、自らの考察をまとめることを目標とします。それによって国際的視野と研鑽力を培います。

【授業の内容】

19世紀終わりに出版された女性作家の作品を読み、時代背景や関係する思想を踏まえた上で、重要な箇所や問題点について、議論を行います。

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 19世紀女性参政権運動の背景
- 第3週 19世紀女性参政権運動の流れ
- 第4週 19世紀女性参政権運動の思想
- 第5週 19世紀前半の女性活動家の背景
- 第6週 19世紀前半の女性活動家の流れ
- 第7週 19世紀前半の女性活動家の思想
- 第8週 19世紀後半の女性活動家の背景
- 第9週 19世紀後半の女性活動家の流れ
- 第10週 19世紀後半の女性活動家の思想
- 第11週 20世紀前半の女性活動家の背景
- 第12週 20世紀前半の女性活動家の流れ
- 第13週 20世紀前半の女性活動家の思想
- 第14週 20世紀後半への展開
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでおくこと。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。

課題については次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

アメリカ文学研究演習A

Adventures of Huckleberry Finnの評論を読む

稲垣 伸一

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

Adventures of Huckleberry Finnの評論を読むことにより、この作品について複数の角度から検討します。

【授業における到達目標】

英語で書かれた評論を正確に読み、作品についての複数のアプローチを知ると同時に、作品の舞台となった時代や場所について理解を深めます。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 375-77
- 第3週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 378-80
- 第4週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 381-83
- 第5週 James R. Kincaid, "Voices on the Mississippi"
- 第6週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 385-87
- 第7週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 388-90
- 第8週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 391-92
- 第9週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 354-57
- 第10週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 358-60
- 第11週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 361-62
- 第12週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 362-66
- 第13週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 367-70
- 第14週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 371-74
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週3時間):読む予定の評論の該当部分をあらかじめ読んでおく。

事後学修(週1時間):授業で評論を読んだ時、およびディスカッション時に出た意見を踏まえ、評論の内容に沿ってもう一度作品について考える。

【テキスト・教材】

Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn [Norton Critical Edition, 1999, ¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表)50%

レポート 50%

読んでいる評論の内容やディスカッション時に出た意見について、教員がコメントすることによりフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業前に必ず予習を行い、授業ではディスカッション等に積極的に参加してください。

アメリカ文学研究演習B

アメリカ黒人女性文学批評

深瀬 有希子

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

ベル・フックス著 *Feminist Theory: From Margin to Center* (1984) を読み、公民権運動を経て構築されたアメリカ黒人女性文学批評の展開を辿り、その知識をもとに現代アメリカ黒人女性作家による詩および小説を分析する。

【授業における到達目標】

第一に、ベル・フックスの明快な英語を正確に読解できるようになることを目指す。第二に、アメリカ黒人文学批評やジェンダー批評の重要な概念を用いて、作品分析ができるようになることを目指す。

【授業の内容】

- ① 公民権運動の展開およびBlack Arts Movementについて
- ② 第1章
- ③ 第2章
- ④ 第3章
- ⑤ 第4章
- ⑥ 第5章
- ⑦ 黒人女性文学作品を読む (1)
- ⑧ まとめ (1)
- ⑨ 第6章
- ⑩ 第7章
- ⑪ 第8-9章
- ⑫ 第10-11章
- ⑬ 黒人女性文学作品を読む (2)
- ⑭ 第12章
- ⑮ まとめ (2)

【事前・事後学修】

【事前学修】 予定されている章を読み、不明点を明確にしておく。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 重要な批評概念を、教科書および授業中に紹介する他の文献を用いて再考する。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Pluto Press: bell hooks, *Feminist Theory: From Margin to Center* [2000、¥3,250(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表とディスカッション) 50%
レポート(二回) 50%
フィードバックは、授業におけるディスカッションおよびレポート返却時に行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

必ず予習を行い、ディスカッションに積極的に参加すること。

アメリカ文学研究演習C

女性のライフ・スタイルとアメリカ社会

佐々木 真理

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家たちが数々の優れた著作を残してきました。この演習の目標は、20世紀後半の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷を学び、21世紀の新たな可能性を探ることにあります。また、先行研究を読むことで、資料の分析方法と論文の書き方も学んでいきます。

【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷について、女性に関する諸問題の知識を培い、また、論文を精読することで、分析力と考察力を培います。それによって国際的視野と研鑽力を養います。

【授業の内容】

20世紀後半から21世紀にかけて発表された女性作家の著作を読みます。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 20世紀女性運動の背景 |
| 第3週 | 20世紀女性運動の流れ |
| 第4週 | 20世紀女性運動の思想 |
| 第5週 | 20世紀後半の女性活動家の背景 |
| 第6週 | 20世紀後半の女性活動家の流れ |
| 第7週 | 20世紀後半の女性活動家の思想 |
| 第8週 | 21世紀の女性活動家の背景 |
| 第9週 | 21世紀の女性活動家の流れ |
| 第10週 | 21世紀の女性活動家の思想 |
| 第11週 | 21世紀の女性活動家の活動 |
| 第12週 | 今後の女性活動家の思想 |
| 第13週 | 今後の女性活動家の展開 |
| 第14週 | 今後の女性活動家の展望 |
| 第15週 | まとめ |

【事前・事後学修】

【事前学修】 発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでおくこと。(学修時間 週3時間)

【事後学修】 その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題) 50%、期末試験50%。
課題については次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

アメリカ文学史 a

国民文学の創成から自然主義小説まで

稲垣 伸一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

19世紀から20世紀初頭までのアメリカ社会を概観しながら、それぞれの時代における文学の特徴について考察し、同時代に活躍した作家や思想家の作品を紹介します。

【授業における到達目標】

- ・それぞれの時代の文化的・文学的特徴を理解し、多くの作家・作品を知る。
- ・アメリカにおける作家・思想家の思想に触れ、読んだ文章の内容について理解を深めて、考察した内容を文章にまとめる能力を養成する。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
 第2週 国民文学の創世と成熟 (Washington Irving, James Fenimore Cooper)
 第3週 国民文学の創世と成熟 (Edgar Allan Poe)
 第4週 アメリカン・ルネッサンス (Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau)
 第5週 アメリカン・ルネッサンス (Walt Whitman)
 第6週 アメリカン・ルネッサンス (Herman Melville)
 第7週 アメリカン・ルネッサンス (Nathaniel Hawthorne)
 第8週 奴隷制を巡る作品 (Harriet Beecher Stowe)
 第9週 奴隷制を巡る作品 (Frederick Douglass, Harriet Jacobs)
 第10週 1860～1880年代ーリアリズムの小説 (Mark Twain)
 第11週 1860～1880年代ーリアリズムの小説 (Henry James)
 第12週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Stephen Crane)
 第13週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Frank Norris)
 第14週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Theodore Dreiser, Jack London)
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 (週1時間) : 次回の授業で扱う作家・作品を、テキストの該当箇所ですら予習する。

事後学修 (週3時間) : 授業各回の終了後、配付したプリントも参照して復習すること。また、授業で紹介された作品のうち関心を持ったものを読んでみる。

【テキスト・教材】

井上謙治『アメリカ小説入門』(研究社, 1995年) 2,300円
 授業で配布するプリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点 (コメントペーパー) 40%
- ・試験60%

コメントペーパーについては、書かれた質問等に対して次の回の授業冒頭で回答することによりフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に提示します。

【注意事項】

ただ講義を聴くのではなく、授業中に作品の一部を読み、紹介されている作品の内容について受講者が考える機会を持つよう授業を進めます。たくさんの気に入った作品に出会うために、紹介された作品を授業外で積極的に読むことを推奨します。

アメリカ文学史 b

20世紀から現代まで

佐々木 真理

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

20世紀初頭から現在までのアメリカ合衆国の文学の歴史と特色について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、代表的な作家及び作品を取り上げながら学びます。

【授業における到達目標】

アメリカ文学の特徴と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

毎回プリントを配布し、時代ごとにその歴史や社会的変化について説明した上で、作家及び作品について講義を行います。代表的な作品の抜粋のコピーを配布しますので、受講者はそれらを丹念に読み理解した上で、批評することが求められます。

- 第1週 第1次世界大戦前後① ガートルード・スタインとモダニズム
 第2週 第1次世界大戦前後② アーネスト・ヘミングウェイと失われた世代
 第3週 第1次世界大戦前後③ スコット・フィッツジェラルドとジャズ・エイジ
 第4週 第1次世界大戦前後④ ネラ・ラーセンとハーレム・ルネサンス
 第5週 第2次世界大戦前後① ウィリアム・フォークナーと南部文学
 第6週 第2次世界大戦前後② ジョン・スタインベックと抵抗の文学
 第7週 冷戦期① J・D・サリンジャーとシルヴィア・プラスと50年代
 第8週 冷戦期② テネシー・ウィリアムズとサザン・ルネサンス
 第9週 冷戦期③ トルーマン・カポーティとサザン・ルネサンス
 第10週 ポスト冷戦期① SFとポストモダニズム
 第11週 ポスト冷戦期② リチャード・ブローティガンとポストモダニズム
 第12週 ポスト冷戦期③ レイモンド・カーヴァーとミニマリズム
 第13週 21世紀② トニ・モリソンとマイノリティ文学
 第14週 21世紀③ エイミ・タンとアジア系アメリカ文学
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 期末試験の課題図書を読むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業の内容を復習し、期末試験の課題についてリサーチを行うこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業への積極参加・提出課題) 50%、期末試験50%。
 提出課題は次回の授業においてフィードバックを行う。

イギリスの文化と社会

イギリスの成り立ちと女性のライフスタイルの変化

志渡岡 理恵

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

イギリスの文化と社会を理解するために必要な基本事項を確認したうえで、イギリスの女性のライフスタイルの変化をたどりながら、文化と社会の関係について考えていく。

【授業における到達目標】

イギリスの歴史、国のありかた、社会のありように関する知識を定着させ、文学をはじめとする文化と社会の関係について理解し、イギリスの女性のライフスタイルの変化について考察を深めることを目指す。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を養う。

【授業の内容】

第1回：イントロダクション

第2回：イギリス連邦の文化の多様性およびコミュニケーションの

現状と課題

第3回：スコットランドの歴史、社会、文化

第4回：ウェールズの歴史、社会、文化

第5回：北アイルランドの歴史、社会、文化

第6回：王室と階級

第7回：植民地の女性

第8回：女性誌

第9回：ファッション

第10回：旅行文化

第11回：スポーツと「新しい女」

第12回：スクールガールと女子大生

第13回：サフラジェット

第14回：現代のイギリス（イギリスあるいは（旧）植民地での生活体験のあるゲストスピーカーによる講義と質疑応答）

第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回のテーマについて図書やインターネットで調べておくこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：各回で学んだことの中で特に関心を持った点についてリサーチを行い、考察を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。各回のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次回授業時に行う。

【参考書】

参考書・参考資料等

・坂井妙子『レディの赤面——ヴィクトリア朝社会と化粧文化』（勁草書房2013年）

・林田敏子（著）『戦う女、戦えない女——第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』（人文書院2013年）

・堀内真由美（著）『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』（白澤社2008年）

・井野瀬久美恵（著）『大英帝国という経験』（講談社2007年）

・戸矢理衣奈（著）『下着の誕生——ヴィクトリア朝の社会史』（講談社2000年）

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

イギリス文化事情

歴史から学ぶイギリス文化

太田 祐子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、イギリスの文化について、その歴史的背景を学びながら、現代におけるイギリスの国民性や生活の様子、さらには社会制度や芸術などの知識を深める。

【授業における到達目標】

イギリスの文化について理解を深めることができるようになる。学生が修得すべき、多様性を受容し多角的な視点を以って世界に臨む「国際的視野」を修得する。また、異文化における「美の探究」を行い、広い視野と深い洞察力を向上させ「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション：イギリスの文化
- 第2週 イギリスの歴史と風土
- 第3週 イギリスの社会と制度
- 第4週 イギリスの観光地
- 第5週 イギリスの自然
- 第6週 イギリスの料理
- 第7週 イギリスの娯楽
- 第8週 イギリスの住宅
- 第9週 イギリスの教育
- 第10週 イギリスの産業
- 第11週 イギリスの文学
- 第12週 イギリスの美術
- 第13週 イギリスの演劇
- 第14週 イギリスの女性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：教科書を読み、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱ったテーマの中から、興味を持ったことについて積極的に調査すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

近藤久雄、細川祐子、阿部美春：イギリスを知るための65章（第2版）[明石書店、2014、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 50%

平常点（発表、課題提出、コメントペーパー等）50%

課題は提出後コメントとともにフィードバックする。

【参考書】

『21世紀イギリス文化を知る事典』（東京書籍 2009年）

『イギリス文化入門』（三修社 2010年）

『概説 イギリス文化史』（ミネルヴァ書房 2002年）

イギリス文学・文化講義 a

—現代表象文化にみるアーサー・ロマンスと女性達—

大関 啓子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アーサー王伝説をテーマにした映像を中心に、アーサー王物語の世界を、「読む」だけではなく、「観て」「聞いて」広く鑑賞して、文学・音楽・美術など様々なジャンルから理解を深めます。

特に現代にも通じる女性たちの活躍に注目します。

【授業における到達目標】

1つの題材について、国・時代・ジャンルなどの、異なる研究方法をとりあげ、様々な角度から考察することにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

【授業の内容】

ケルト世界の伝説に起源するアーサー・ロマンスと総称されるロマンス群が、中世末期にトマス・マロリーにより集大成され、その後も、E. スペンサー、R. ワグナー等、多くの芸術家たちの限りない想像力をかき立て、特に19世紀、A. テニスンにより、ヴィクトリア朝の英雄崇拜理念に再構成されて、一般化しました。

その領域は文学にとどまらず、歴史・美術・音楽・演劇、そして現代では、映画の『スター・ウォーズ』やハリー・ポッター・シリーズ、さらにコンピュータ・ゲーム等、あらゆる分野に多大の刺激を与え、世界中に広まっていきました。20世紀以降の映像世界を見渡しただけでも、多くの名作があります。それらには、現代世界の様々な問題が反映されています。例えば、男性中心の中世社会の中で、文化・文学・教育等で輝いた女性達の存在に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 歴史のアーサーと中世の女性達
3. 映画『スター・ウォーズ』と映画『アーサー』
4. 映画『エクスカリバー』と映画『トリスタンとイゾー』
5. 中世に生き、導き、書いた女性マリー・ド・フランス
6. 中世装飾写本
7. 『ガウェイン卿と緑の騎士』における奥方の役割
8. トマス・マロリーの『アーサーの死』
9. 『シャロットの女』—ヴィクトリア朝の女性と教育
10. ウィリアム・モリスとアーサー王伝説—ラファエル前派
11. A. V. ビアズリーの *Morte Darthur*
12. リヒャルト・ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾー』
13. 夏目漱石の『菫露行』
14. ハリー・ポッターと『指輪物語』—現代の女性像
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について2時間程度、復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学・文化講義 a

—現代表象文化にみるアーサー・ロマンスと女性達—

大関 啓子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アーサー王伝説をテーマにした映像を中心に、アーサー王物語の世界を、「読む」だけではなく、「観て」「聞いて」広く鑑賞して、文学・音楽・美術など様々なジャンルから理解を深めます。

特に現代にも通じる女性たちの活躍に注目します。

【授業における到達目標】

1つの題材について、国・時代・ジャンルなどの、異なる研究方法をとりあげ、様々な角度から考察することにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

【授業の内容】

ケルト世界の伝説に起源するアーサー・ロマンスと総称されるロマンス群が、中世末期にトマス・マロリーにより集大成され、その後も、E. スペンサー、R. ワグナー等、多くの芸術家たちの限りない想像力をかき立て、特に19世紀、A. テニスンにより、ヴィクトリア朝の英雄崇拜理念に再構成されて、一般化しました。

その領域は文学にとどまらず、歴史・美術・音楽・演劇、そして現代では、映画の『スター・ウォーズ』やハリリー・ポッター・シリーズ、さらにコンピュータ・ゲーム等、あらゆる分野に多大の刺激を与え、世界中に広まっていきました。20世紀以降の映像世界を見渡しただけでも、多くの名作があります。それらには、現代世界の様々な問題が反映されています。例えば、男性中心の中世社会の中で、文化・文学・教育等で輝いた女性達の存在に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 歴史のアーサーと中世の女性達
3. 映画『スター・ウォーズ』と映画『アーサー』
4. 映画『エクスカリバー』と映画『トリスタンとイゾー』
5. 中世に生き、導き、書いた女性マリー・ド・フランス
6. 中世装飾写本
7. 『ガウェイン卿と緑の騎士』における奥方の役割
8. トマス・マロリーの『アーサーの死』
9. 『シャロットの女』—ヴィクトリア朝の女性と教育
10. ウィリアム・モリスとアーサー王伝説—ラファエル前派
11. A. V. ビアズリーの *Morte Darthur*
12. リヒャルト・ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾー』
13. 夏目漱石の『菫露行』
14. ハリー・ポッターと『指輪物語』—現代の女性像
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について2時間程度、復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学・文化講義b

—ケルト「異界」への旅—

大関 啓子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ヨーロッパ精神文化のルーツともいえるケルト民族の、異界と女性たちについての考え方を探り、その文学・文化への影響をたどります。中でも女性の生活や教育には注目します。

【授業における到達目標】

この講座では英文学を中心に、「読む」だけでなく、美術や音楽の世界にも触れながら、DVDやパワーポイントなどを使い、「見て」「聞いて」広く鑑賞して理解を深めることにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることが目標とします。それにより「美の探究」と「研鑽力」を高めます。

【授業の内容】

古代ヨーロッパを支配していたケルト人は、文字を持たず、口承によって多くの神話や民話を伝えました。彼らは美と真理を愛し、驚くべき想像力を駆使して優れた芸術を遺しましたが、ローマ人とゲルマン人の勢力におされ、西に追いやられた結果、今日ではかろうじて緑の島アイルランドやウェールズに生きています。

森や泉や巨石を聖所とする彼らの自然信仰は、異教であるキリスト教を受け入れながら、独自の文化を生み出しました。文学の世界では、アーサー王伝説などの中世騎士物語や、多くの妖精伝承、そしてW. B. イエイツ、ジョナサン・スウィフト、ジェームズ・ジョイス、ラファディオ・ハーンなどのアイリッシュ・ライターたちに、その想像力が受け継がれています。最近では、ハリー・ポッターの世界やJ. R. R. トールキンの『指輪物語』、C. S. ルイスの『ナルニア国物語』などにもその影響が見られます。特にケルト社会の女性たちの存在とその影響に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 幻の民ケルトとは？
3. 激情と創造の伝説—ケルトの起源と勢力
4. イギリス人とケルト人
5. 民族国家の興亡
6. 神々の変貌(ケルトの宗教)
7. ケルトの女性達
8. ケルトの教育
9. ケルトの芸術
10. 装飾写本『ケルズの書』とジェームズ・ジョイス
11. ケルトを聴く—エンヤ、ケルティック・ウーマン
12. ケルトを読む1—W. B. イエイツ、O. ワイルド、サミュエル・ベケット
13. ケルトを読む2—ジョナサン・スウィフト、ラファディオ・ハーン
14. ケルトを観る—ハリー・ポッターと『ナルニア国物語』
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・リアクションペーパー・課題提出等)30%、レポート70%として評価します。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学・文化講義b

—ケルト「異界」への旅—

大関 啓子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ヨーロッパ精神文化のルーツともいえるケルト民族の、異界と女性たちについての考え方を探り、その文学・文化への影響をたどります。中でも女性の生活や教育には注目します。

【授業における到達目標】

この講座では英文学を中心に、「読む」だけでなく、美術や音楽の世界にも触れながら、DVDやパワーポイントなどを使い、「見て」「聞いて」広く鑑賞して理解を深めることにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることが目標とします。それにより「美の探究」と「研鑽力」を高めます。

【授業の内容】

古代ヨーロッパを支配していたケルト人は、文字を持たず、口承によって多くの神話や民話を伝えました。彼らは美と真理を愛し、驚くべき想像力を駆使して優れた芸術を遺しましたが、ローマ人とゲルマン人の勢力におされ、西に追いやられた結果、今日ではかろうじて緑の島アイルランドやウェールズに生きています。

森や泉や巨石を聖所とする彼らの自然信仰は、異教であるキリスト教を受け入れながら、独自の文化を生み出しました。文学の世界では、アーサー王伝説などの中世騎士物語や、多くの妖精伝承、そしてW. B. イエイツ、ジョナサン・スウィフト、ジェームズ・ジョイス、ラフカディオ・ハーンなどのアイリッシュ・ライターたちに、その想像力が受け継がれています。最近では、ハリー・ポッターの世界やJ. R. R. トールキンの『指輪物語』、C. S. ルイスの『ナルニア国物語』などにもその影響が見られます。特にケルト社会の女性たちの存在とその影響に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 幻の民ケルトとは？
3. 激情と創造の伝説—ケルトの起源と勢力
4. イギリス人とケルト人
5. 民族国家の興亡
6. 神々の変貌(ケルトの宗教)
7. ケルトの女性達
8. ケルトの教育
9. ケルトの芸術
10. 装飾写本『ケルズの書』とジェームズ・ジョイス
11. ケルトを聴く—エンヤ、ケルティック・ウーマン
12. ケルトを読む1—W. B. イエイツ、O. ワイルド、サミュエル・ベケット
13. ケルトを読む2—ジョナサン・スウィフト、ラフカディオ・ハーン
14. ケルトを観る—ハリー・ポッターと『ナルニア国物語』
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学・文化講義c

物語絵画から読みとくヴィクトリア時代

土屋 結城

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像を探る。現代の日本ともイギリスとも異なる状況の社会で、女性がどのように生きることを求められたか、そしてどのように生きなければならなかったかを考察し、当時の女性の立場、生き方についての理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

ヴィクトリア時代のイギリス社会についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、知を求める「美の探究」の態度とリアクション・ペーパーやレポートを通して「研鑽力」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン (19世紀イギリスの状況について)
- 第2週 ヴィクトリア女王をめぐる物語
- 第3週 家庭の天使について(1) 19世紀の典型的なイメージ
- 第4週 家庭の天使について(2) 規範と逸脱
- 第5週 労働者と女性
- 第6週 ガヴァネスのイメージと実態
- 第7週 子供のイメージ
- 第8週 “fallen woman” (“The Bridge of Sigh”)
- 第9週 “fallen woman” (The Awakening Conscience)
- 第10週 信仰についての疑問
- 第11週 労働と社会
- 第12週 鉄道の発達
- 第13週 救貧院での生活
- 第14週 植民地へ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業範囲を予習し、時代背景について理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業で取り上げた内容について、各自復習し、自分なりの問題点を意識し、次回の授業にのぞむこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー40%、レポート60%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

イギリス文学・文化講義c

物語絵画から読みとくヴィクトリア時代

土屋 結城

3年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像を探る。現代の日本ともイギリスとも異なる状況の社会で、女性がどのように生きることを求められたか、そしてどのように生きなければならなかったかを考察し、当時の女性の立場、生き方についての理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

ヴィクトリア時代のイギリス社会についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、知を求める「美の探究」の態度とリアクション・ペーパーやレポートを通して「研鑽力」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン (19世紀イギリスの状況について)
- 第2週 ヴィクトリア女王をめぐる物語
- 第3週 家庭の天使について(1) 19世紀の典型的なイメージ
- 第4週 家庭の天使について(2) 規範と逸脱
- 第5週 労働者と女性
- 第6週 ガヴァネスのイメージと実態
- 第7週 子供のイメージ
- 第8週 “fallen woman” (“The Bridge of Sigh”)
- 第9週 “fallen woman” (The Awakening Conscience)
- 第10週 信仰についての疑問
- 第11週 労働と社会
- 第12週 鉄道の発達
- 第13週 救貧院での生活
- 第14週 植民地へ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業範囲を予習し、時代背景について理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業で取り上げた内容について、各自復習し、自分なりの問題点を意識し、次回の授業にのぞむこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー40%、レポート60%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

イギリス文学・文化講義 d

20世紀イギリス文学と翻案

伊澤 高志

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

20世紀イギリスの文学作品と映画などの翻案作品を比較しながら、その文化的背景や、作品への理論的アプローチについて学びます。

【授業における到達目標】

現代におけるイギリス文学と文化についての理解を深めることを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」、「知を求め、心の美を育む態度」、および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古典文学と翻案
- 第3回：植民地主義と大英帝国
- 第4回：ポストコロニアリズム
- 第5回：オリエンタリズム
- 第6回：他者イメージの構築
- 第7回：戦争と文学
- 第8回：階級と文学
- 第9回：児童と文学
- 第10回：民族と人種
- 第11回：移民問題
- 第12回：ジェンダーとセクシュアリティ
- 第13回：フェミニズム
- 第14回：ポストフェミニズム
- 第15回：まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業範囲の予習として、図書館等を利用して各トピックについて自分なりに学ぶこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

【参考書】

- イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』
- 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』
- 板倉徹一郎他編『映画でわかるイギリス文化入門』
- 川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010』
- 河野真太郎『戦う姫、働く少女』
- ピーター・バリー『文学理論講義——新しいスタンダード』
- 武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950』

イギリス文学・文化講義 d

20世紀イギリス文学と翻案

伊澤 高志

3年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

20世紀イギリスの文学作品と映画などの翻案作品を比較しながら、その文化的背景や、作品への理論的アプローチについて学びます。

【授業における到達目標】

現代におけるイギリス文学と文化についての理解を深めることを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」、「知を求め、心の美を育む態度」、および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古典文学と翻案
- 第3回：植民地主義と大英帝国
- 第4回：ポストコロニアリズム
- 第5回：オリエンタリズム
- 第6回：他者イメージの構築
- 第7回：戦争と文学
- 第8回：階級と文学
- 第9回：児童と文学
- 第10回：民族と人種
- 第11回：移民問題
- 第12回：ジェンダーとセクシュアリティ
- 第13回：フェミニズム
- 第14回：ポストフェミニズム
- 第15回：まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業範囲の予習として、図書館等を利用して各トピックについて自分なりに学ぶこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

【参考書】

- イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』
- 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』
- 板倉徹一郎他編『映画でわかるイギリス文化入門』
- 川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010』
- 河野真太郎『戦う姫、働く少女』
- ピーター・バリー『文学理論講義——新しいスタンダード』
- 武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950』

イギリス文学研究C

クレオール女性の自伝を読む

志渡岡 理恵

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

イギリスの植民地であったジャマイカに1805年に生まれたクレオール女性メアリー・シーコールの自伝をとりあげる。彼女は、クリミア戦争が勃発すると、クリミアへ向かい、負傷した兵士たちの治療や看護にあたった。強い意志と行動力で人生を切り拓いたシーコールの生の軌跡を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・現在も根強く残る人種差別の歴史的経緯を知ることにより、差別の構造を理解し、それに対処する術を模索できるようになることを目指す。
- ・女性が自分の生(life)について語る意義と困難を理解できるようになることを目指す。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：家系
- 第3回：パナマ
- 第4回：ホテル経営
- 第5回：コレラ
- 第6回：ゴルゴナ
- 第7回：黄熱病
- 第8回：トルコ
- 第9回：ナイチンゲール
- 第10回：教師
- 第11回：クリミアへ
- 第12回：クリミア戦争
- 第13回：治療と看護
- 第14回：別れ
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

- 事前学修：各回の該当箇所を精読し、自分の意見をまとめてくること。(学修時間 週2時間)
- 事後学修：授業で学んだことを復習し、不足していた部分についてリサーチを行い、作品理解を深めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Mary Seacole: Wonderful Adventures of Mrs Seacole in Many Lands [Penguin, 2005、※価格は洋書のため変動あり]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、期末レポート50%。発表に関するフィードバックは授業内で行う。

【参考書】

授業時に提示する。

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

イギリス文学研究D

パロディと諷刺の研究

島 高行

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

Jonathan Swift *Gulliver's Travels* (Part 1、Part2) を読み、パロディ研究の観点からこの作品を分析する。

【授業における到達目標】

精読により英語の読解力を伸ばす。そして社会的、歴史的コンテキストにおいて作品を理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 スウィフトについて
- 第3回 テキスト序文
- 第4回 テキスト パラテキストについて
- 第5回 旅行記文学について
- 第6回 テキスト 第1部第1章
- 第7回 同上 第2章
- 第8回 同上 第3章
- 第9回 同上 第4章
- 第10回 同上 第5章
- 第11回 同上 第6章
- 第12回 同上 第7, 8章
- 第13回 テキスト 第2部第1章～第3章
- 第14回 同上 第2部第4章～第8章
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：授業の予定範囲をよく読み、問題点を把握しておくこと。(週2時間)
- 事後学修：授業で示された参考文献を次回の授業までに読んでおくこと。(週2時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、平常点(授業への取り組み、発表)50%。授業内のレスポンス・シートについては、次回の授業の冒頭で紹介、対応する。

イギリス文学研究E

『嵐が丘』を読む

土屋 結城

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

19世紀イギリスの作家エミリー・ブロンテの作品 *Wuthering Heights* (1847) の前半 (第一世代の物語) を読む。

【授業における到達目標】

作品への理解を深めると同時に、出版当時の社会状況に鑑みつつ、『嵐が丘』がどのように受容されたかへの理解を深めることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 Chapter 1
- 第3週 Chapter 2
- 第4週 Chapter 3
- 第5週 Chapter 4
- 第6週 Chapter 5
- 第7週 Chapter 6
- 第8週 Chapter 7
- 第9週 Chapter 8
- 第10週 Chapter 9
- 第11週 Chapter 10
- 第12週 Chapter 11
- 第13週 Chapter 12
- 第14週 Chapter 13
- 第15週 Chapter 14、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

受講者は毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておく必要がある。(週2時間)

【事後学修】

授業で精読した箇所を復習する。(週2時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度20%、発表30%、レポート50%で評価する。フィードバックは翌回以降行う。

イギリス文学研究F

中世英文学研究 Geoffrey Chaucer

大関 啓子

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

中世英文学の名作を読み、イギリスのルーツともいうべきその社会や文化を体験します。

【授業における到達目標】

Geoffrey Chaucerの*The Canterbury Tales*をとりあげ、その背景となる文化をふまえて、英文学における伝統と個性の問題を考えます。特に封建社会の中で、意外に強くしなやかに生きた女性たちの生活に注目し、また英語・英文学史における英詩の父Chaucerを考える事により、その意義をとらえます。

学修による「研鑽力」を高め、文化の多様性を理解し、「国際的視野」を広げることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世イギリス社会、Geoffrey Chaucerとその時代について
- 第3週 中世イギリス文学の伝統
- 第4週 中世英語 (ME) と方言について
- 第5週 エルズミア写本
- 第6週 *The Canterbury Tales*の作品を選ぶ
(とりあげる作品については、受講者の希望を聞いてから選択します)
- 第7週 Tale I - Part 1(巡礼)
- 第8週 Tale I - Part 2(悪徳)
- 第9週 Tale I - Part 3(変容)
- 第10週 Tale II - Part 1(中世英国の女性たち)
- 第11週 Tale II - Part 2(中世英国の庶民)
- 第12週 Tale II - Part 3(中世英国の支配階級)
- 第13週 Tale III - Part 1(死と再生)
- 第14週 Tale III - Part 2(遊戯の意味)
- 第15週 Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各taleの予習を、2時間程度はしておくこと。また前回の授業で取り上げた作品について、各自鑑賞し、2時間程度はしっかり復習しておくこと。

【テキスト・教材】

教材は授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業態度・課題提出) 40%・レポート60%として評価。平常点については、毎週の授業時における貢献度 (作品理解を深めるような質問や発言) を高く評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

【参考書】

対象のtaleを選択した時点で、参考書を指示します。辞書については、基本的に下記の2種類を使用します。図書館または、英文学科研究室に備えてありますので、利用してください。

Oxford English Dictionary (Oxford University Press)

Middle English Dictionary (University of Michigan Press)

イギリス文学研究演習C

モダニズムとフェミニズム

志渡岡 理恵

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

モダニズムの代表的作家であり、フェミニストでもあったヴァージニア・ウルフのエッセイをとりあげる。彼女のモダニストとしての側面とフェミニストとしての側面がどのように関係しているのについて考える。

【授業における到達目標】

ウルフの文学観、ジェンダー観、2つの関係性について理解を深めることを目指す。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Modern Fiction（前半）
- 第3回：Modern Fiction（中盤）
- 第4回：Modern Fiction（後半）
- 第5回：Mr Bennet and Mrs Brown（前半）
- 第6回：Mr Bennet and Mrs Brown（中盤）
- 第7回：Mr Bennet and Mrs Brown（後半）
- 第8回：Professions for Women（前半）
- 第9回：Professions for Women（中盤）
- 第10回：Professions for Women（後半）
- 第11回：Memories of a Working Women's Guild（前半）
- 第12回：Memories of a Working Women's Guild（中盤）
- 第13回：Memories of a Working Women's Guild（後半）
- 第14回：Women Novelists
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回の該当箇所を精読し、自分の意見をまとめてくること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で学んだことを復習し、不足していた部分についてリサーチを行い、作品理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、期末レポート50%。発表へのフィードバックは授業内で行う。

【参考書】

授業時に提示する。

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

イギリス文学研究演習D

物語論研究

島 高行

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

キャラクターとアダプテーションを中心に、物語論が提起する様々な問題を学ぶ。後半は短編小説を読み、これまで学んだ方法を実際の作品分析に応用してみる。

【授業における到達目標】

物語論の基本を押さえたうえで、文学におけるキャラクターについての分析方法を学ぶ。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 Character vs.action
- 第3週 Flat and round character
- 第4週 Can characters be real?
- 第5週 Types
- 第6週 Adaptation as creative destruction
- 第7週 Duration and pace
- 第8週 Figurative language
- 第9週 Gaps
- 第10週 Focalization
- 第11週 The Man with the Twisted Lip
- 第12週 The Speckled Band
- 第13週 The Noble Bachelor
- 第14週 The Copper Beeches
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を読み、自分なりに問題を見つけておくこと。（週2時間）

事後学修：指示された参考文献を読む。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50点、授業での発表50点。授業内のレスポンス・シートについては、次回の授業の冒頭で紹介、対応する。

イギリス文学研究演習E

『嵐が丘』とその受容

土屋 結城

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

19世紀のイギリス作家エミリー・ブロンテの作品 *Wuthering Heights* (1847) の後半部分(第二世代の物語)を読む。日本における『嵐が丘』受容史にも触れる。

【授業における到達目標】

幅広い批評の対象となっている本作品を読み、さらにその批評や受容史に触れることにより、文学研究に必要な批判的な読解とはどのようなものか理解することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Chapter 15-16
- 第3週 Chapter 17
- 第4週 Chapter 18
- 第5週 Chapter 19-20
- 第6週 Chapter 21
- 第7週 Chapter 22-23
- 第8週 Chapter 24-25
- 第9週 Chapter 26-27
- 第10週 Chapter 28
- 第11週 Chapter 29
- 第12週 Chapter 30-31
- 第13週 Chapter 32
- 第14週 Chapter 33
- 第15週 Chapter 34、まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

受講者は毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておく必要がある。(週2時間)

【事後学修】

授業時に精読した箇所を復習すること。(週2時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度20%、発表30%、レポート50%で評価する。
フィードバックは翌回以降の授業で行う。

イギリス文学研究演習F

中世ロマンス文学演習

大関 啓子

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

中世ヨーロッパの口承文学の系譜として、アーサー王伝説の一環となる中世ロマンス文学作品を読み、その中にあるキリスト教的騎士道精神とケルト文化の影響を考えます。

【授業における到達目標】

表のギリシャ・ローマ文化に対し、ヨーロッパ文化の裏を成しているケルト民族の影響を探り、現代ヨーロッパ文化についての理解を深めます。また数少ない登場人物の女性に注目し、当時の女性の生き方についても考えたいと思います。

学修による「研鑽力」を高め、文化の多様性を理解し、「国際的視野」を広げることを目標とします。

【授業の内容】

以下の内容を予定しています。

ロマンス作品については、初回授業時に決めます。

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世ロマンス文学
- 第3週 ケルト民族の歴史と伝統
- 第4週 古代ケルトの信仰と芸術
- 第5週 ロマンズⅠーPart 1(宮廷社会)
- 第6週 ロマンズⅠーPart 2(騎士概念と身分)
- 第7週 ロマンズⅠーPart 3(騎士道)
- 第8週 ロマンズⅡーPart 1(馬上槍試合)
- 第9週 ロマンズⅡーPart 2(貴婦人の掟)
- 第10週 ロマンズⅡーPart 3(宮廷風恋愛)
- 第11週 ロマンズⅢーPart 1(恋愛と婚姻)
- 第12週 ロマンズⅢーPart 2(叙事詩と抒情詩)
- 第13週 ロマンズⅢーPart 3(口承文学と文字伝承)
- 第14週 現代ヨーロッパにおけるケルト
- 第15週 Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程予習し、大意をよみとること。

事後学修として、前回で取り上げた作品について、2時間程度鑑賞し、復習してまとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・課題等)40%、レポート60%で評価。平常点については、毎週の授業時における貢献度(作品の理解を深めるような意見や質問、発表など)を高く評価。

課題については、期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学史 a

『ベオウルフ』から近代小説の誕生まで

島 高行

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

アングロ・サクソン時代から18世紀半ばにいたるイギリス文学の歴史を概観する。それぞれの時代を代表する作品を紹介しつつ、それらがどのような歴史的条件のもとで生み出されてきたのかを明らかにする。

【授業における到達目標】

『ベオウルフ』の時代から18世紀にいたるまでのイギリス文学の歴史を学び、その特質を理解する。そのことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。また文学と社会、歴史との関連性を学ぶことにより、学ぶ楽しさを知ることを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 『ベオウルフ』と叙事詩の伝統
- 第3週 中世1 チョーサー
- 第4週 中世2 マロリイ他
- 第5週 ルネサンス1 スペンサー
- 第6週 ルネサンス2 シェイクスピア 喜劇
- 第7週 ルネサンス3 シェイクスピア 悲劇
- 第8週 ルネサンス4 シェイクスピア 四大悲劇
- 第9週 ルネサンス5 シェイクスピア ロマンズ劇
- 第10週 ルネサンス6 ジョン・ダン他
- 第11週 17世紀 革命と文学 ミルトン
- 第12週 18世紀 古典と文学 ポープ
- 第13週 18世紀 経済と文学 デフォー、スウィフト
- 第14週 18世紀 小説形式の多様化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う範囲を教科書で読み、主要な作品に目を通しておくこと。週2時間。

事後学修：授業で取りあげた作品だけでなく、関連する作品をできるだけ多く読むこと。週2時間。

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80パーセント、リアクションペーパー等授業内活動20パーセント。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業の冒頭で回答する。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

授業内で紹介した作品はできるだけ自分で読んでみる。

授業中の私語は厳禁。

遅刻の場合は、授業中であってもすぐに申し出ること。申し出のあった時間を記録する。

イギリス文学史 b

ロマン派から現代まで

土屋 結城

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

ロマン派から現代に至るまでのイギリス文学の作家、作品について学ぶとともに、作家、作品の背景にある思想、文化についても考察する。時代背景を色濃く映した作品を概観することにより、近代、現代のイギリス文学についての理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

近代、現代のイギリス文学についての理解を深め、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「研鑽力」と知を求めようとする「美の探究」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン（イギリスの歴史、文化について）
- 第2週 18、9世紀の詩（ロマン派）
- 第3週 19世紀初期の小説（ゴシック小説）
- 第4週 19世紀初期の小説（Jane Austen, Walter Scott）
- 第5週 19世紀中期の小説（Charles Dickens, William Makepeace Thackeray）
- 第6週 19世紀中期の小説（ブロンテ姉妹）
- 第7週 19世紀の児童文学（Lewis Carrollなど）
- 第8週 19世紀中期の詩（Robert Browning, Alfred Tennyson）
- 第9週 19世紀後期的小説（Joseph Conrad, Thomas Hardy）
- 第10週 19世紀の演劇（Oscar Wilde, George Bernard Shaw）
- 第11週 20世紀初頭の小説（モダニズムの小説）
- 第12週 20世紀初頭の詩（モダニズムの詩）
- 第13週 20世紀の演劇（Samuel Beckettなど）
- 第14週 現代の小説（Kazuo Ishiguroなど）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業内容を復習すること。授業で学んだ作品に触れること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

神山妙子編『はじめて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房、1989年）2800円+税

その他、適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、試験70%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

授業で解説する作品はなるべく手に入りやすい形態のものを紹介するので、できる限り多く読んだり見たりして作品そのものに触れること。

インターンシップ

3年 集前 1単位
◎：行動力

【授業のテーマ】

学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う。

【授業における到達目標】

インターンシップ演習で学んだことを企業、地方公共団体等における就業体験を通じて確認し、学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。インターンシップは以下、実習とする。

【授業の内容】

I. 実習期間及び時間数

大学が許可した同じ受入先で5日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。

履修している授業に支障がないよう、原則として夏期休暇中の日程を設定すること。

実習のための欠席は公欠扱いにはならない。

II. 実習内容

受入機関によるが、アルバイトとは異なる就業体験をお願いすること。報酬については、原則として無報酬。

食費・交通費については、受入機関の規定によるため、本学指定のインターンシップ受入計画書に記載していただくこと。

実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。

【事前・事後学修】

事前学修：受入機関の情報収集及び研究を行うこと。（2時間程度）

各日ごとの実習内容を意識し、実習当日の目標設定を行うこと。また、実習日ごとに振り返りと反省を行うこと。（各日1時間程度）

事後学修：インターンシップ報告書の作成を行うこと。（3時間程度）

【テキスト・教材】

インターンシップの手引き
インターンシップ報告書

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習内容および提出されたインターンシップ報告書をもとに単位を認定する。

【注意事項】

実習内容を的確にまとめ、インターンシップ報告書を作成し、受入機関から評価を記入・印をいただくこと。印がないものは無効となる。

単位認定を希望する場合は、所定の期間に教務課に申請すること。単位認定の申請をするためには、インターンシップ演習を修得していなければならない。

インターンシップ演習

土屋 結城・杉山 靖正
3年 前期 1単位
◎：協働力

【授業のテーマ】

インターンシップの意義を理解し、実社会におけるルールを知り、職業観・勤労観の育成を目指し、進路適性の確認と職業選択の機会とする。

【授業における到達目標】

組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク、グループ発表等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進めることができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 社会を知る ～社会・企業の構造と仕組み～
- 第3週 社会を知る ～企業活動について考える～
- 第4週 インターンシップの探し方、業界・企業研究方法
- 第5週 インターンシップ事例紹介
- 第6週 業界・企業理解を深める
- 第7週 自己分析の仕方
- 第8週 インターンシップの応募 ～応募書類の書き方①～
学生時代に力を注いだこと・自己PRを中心に
- 第9週 インターンシップの応募 ～応募書類の書き方②～
志望動機を中心に
- 第10週 インターンシップの応募 ～応募書類の書き方③～
実践編
- 第11週 マナー（挨拶、敬語等）
- 第12週 マナー（自己表現、身だしなみ、メイクアップ等）
- 第13週 インターンシップの目標設定
- 第14週 マナー（社会人としての立ち居振る舞い）
- 第15週 まとめ

※第2週から第14週の授業は、人事担当者等外部講師による講義を行う。なお、順番が変更になる場合もある。

【事前・事後学修】

事前学修：前回の授業を振り返り、授業内容の理解を深めておくこと。（週1時間程度）

事後学修：インターンシップ実習に向け、インターンシップ受入機関の情報収集及び研究を行うこと。（週1時間程度）

【テキスト・教材】

必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習結果についてフィードバックを行う。

平常点（授業への取り組み）：80% 提出課題：20%

平常点や提出課題に基づいて合否判定を行う。

【注意事項】

本講義はインターンシップ参加のために必要な基本的な心構えや社会に出るうえで必要な知識を身につけることを目的としているため、下記の事項を必ず守ること。

1. 欠席や遅刻は厳禁とし、節度ある態度で授業に臨む。
2. インターンシップの意義を理解し主体的かつ計画的に取り組む。
3. 社会人としていかにあるべきか、社会に学ぶという意識を常に持つ。

インターンシップの単位認定をするためには、この科目の修得が必須です。

※募集人数は70名です。

インテグレートッド・イングリッシュ a

担当教員全員

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

インテグレートッド・イングリッシュは週2回の授業がセットで1つの科目になっています。1つは日本人教員、1つはネイティブ教員が担当します。

インテグレートッド・イングリッシュは、インプット・アウトプット・インタラクションの3つの柱をバランスよく配し、世界とコミュニケーションできる素地を養います。前期のインテグレートッド・イングリッシュaでは、特にインプットに重点を置いて、総合的に英語力を高めていきます。

日本人クラスでは、リーディングやマイ辞書作り、プレゼンテーションの練習を行います。ネイティブクラスでは、リスニング、ディクテーションやプレゼンテーションの練習を行います。どちらのクラスでも、後期に本格的に行う海外学校サイト（iEARN）への投稿のための英文発信力の向上を目指します。

※iEARN（アイアーン）は世界140カ国の教育者が参加している安全で安心なグローバル教育ネットワークです。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、基礎的な英語力を身につけた上で「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」と「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」の育成を目指し、国際的な「研鑽力」を養います。

【授業の内容】

日本人クラス

1. 事前英語テスト
2. 前期オリエンテーション
3. Holiday Cardリーディングとマイ辞書作り
4. Holiday Cardリーディングとマイ辞書追加
5. Global Food Show & Tellリーディングとマイ辞書作り
6. Global Food Show & Tellリーディングとマイ辞書追加
7. Global Food Show & Tellリーディングとマイ辞書発表
8. Girl Risingビデオの視聴と英語字幕リーディング
9. Girl Risingビデオの英語字幕リーディングとマイ辞書作り
10. Girl Risingビデオの英語字幕リーディングとマイ辞書追加
11. Girl Risingの担当ビデオ選択とプレゼンテーション構想
12. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーションのドラフト
13. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション英文作成
14. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション
15. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション振り返り

ネイティブクラス

1. 前期事前ライティングテスト
2. Holiday Card基本英文のリスニングによるインプット
3. Holiday Card英文のリスニングによる理解
4. Holiday Card英文のディクテーション
5. Global Food Show & Tell英文リーディング
6. Global Food Show & Tell英文のリスニングによるインプット
7. Global Food Show & Tell英文のディクテーション
8. Girl Rising担当ビデオの映像チェック
9. Girl Rising担当ビデオのリスニング
10. Girl Rising担当ビデオのリスニングによる理解
11. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション準備
12. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション英文修正
13. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション発音練習
14. Girl Rising担当ビデオのプレゼンテーション大会
15. 前期事後ライティングテスト

【事前・事後学修】

・事前学修：次の授業までに、教材を読んで、わからない点、質問

したい部分を明らかにしておいてください。（学修時間 週2時間）

・事後学修：毎週の課題に取り組み、発表の練習をしてください。（学修時間 週2時間）

作成した英文は、修正点と共に返却され、改善されていきます。

【テキスト・教材】

教材は随時教員が指示、配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・日本人授業：課題：50%、平常点（授業態度・課題取り組み）：50%。
わからないところについて、毎時間質問に答えます。

・ネイティブ授業：課題：50%、平常点（授業態度・課題取り組み）：50%。プレゼンの方法や表現など、毎時間アドバイスします。

【注意事項】

・日本人授業、ネイティブ授業のどちらでも、3分の2以上の出席が必要です。

・遅刻3回で欠席1回となります。

・成績は日本人授業、ネイティブ授業両方の評価を合わせた評価となります。

インテグレートッド・イングリッシュ b

担当教員全員

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

インテグレートッド・イングリッシュは週2回の授業がセットで1つの科目になっています。1つは日本人教員、1つはネイティブ教員が担当します。

インテグレートッド・イングリッシュは、インプット・アウトプット・インタラクションの3つの柱をバランスよく配し、世界とコミュニケーションできる素地を養います。後期のインテグレートッド・イングリッシュbでは、特にアウトプットに重点を置いて、総合的に英語力を高めていきます。

日本人クラスでは、iEARNの3つのプロジェクトについてシンプルで通じる英文のライティングを行います。ネイティブクラスではiEARNの3つのプロジェクトについてのライティングとプレゼンテーションの練習を行います。どちらのクラスでも、適切な語彙、論理的な構成、自分の考えを含めた豊かな内容のライティングを目指し、学生の作成した英文を、海外に向けてiEARNを通じて発信し、海外から届くメッセージに答えるやりとりを体験します。それにより英文発信力の向上を目指します。

※iEARN（アイアーン）は世界140カ国の教育者が参加している安全で安心なグローバル教育ネットワークです。

【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、基礎的な英語力を身につけた上で「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」と「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」の育成を目指し、国際的な「研鑽力」を養います。

【授業の内容】

日本人クラス

1. Holiday Cardブレインストーミング
2. Holiday Card日本語ドラフト
3. Holiday Card英語ドラフト
4. Holiday Card完成
5. Global Foodレシピブレインストーミング
6. Global Foodレシピ日本語ドラフト
7. Global Foodレシピ英語ドラフト
8. Global Foodレシピ完成
9. Girl Risingエッセイブレインストーミング
10. Girl Risingエッセイ日本語ドラフト
11. Girl Risingエッセイ英語ドラフト
12. Girl Risingエッセイ英語修正
13. Girl Risingエッセイ英語完成
14. Girl RisingエッセイiEARNに投稿
15. 事後英語テスト

ネイティブクラス

1. 後期事前ライティングテスト
2. Holiday Card英文作成
3. Holiday Card英文修正
4. Holiday Cardプレゼンテーション
5. Global Foodレシピ英文作成
6. Global Food英文修正
7. Global Food英文完成
8. Global Foodプレゼンテーション
9. Girl Risingエッセイ英文構想
10. Girl Risingエッセイ英文作成
11. Girl Risingエッセイ英文修正
12. Girl Risingエッセイ英文完成
13. Girl Risingプレゼンテーション練習
14. Girl Risingプレゼンテーション

15. 後期事後ライティングテスト

【事前・事後学修】

- ・事前学修：次の授業までに、教材を読んで、わからない点、質問したい部分を明らかにしておいてください。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：毎週の課題に取り組み、発表の練習をしてください。（学修時間 週2時間）

作成した英文は、修正点と共に返却され、改善されていきます。

【テキスト・教材】

教材は随時教員が指示、配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・日本人授業：課題：50%、平常点（授業態度・課題取り組み）：50%。
わからないところについて、毎時間質問に答えます。
- ・ネイティブ授業：課題：50%、平常点（授業態度・課題取り組み）：50%。プレゼンの方法や表現など、毎時間アドバイスします。

【注意事項】

- ・日本人授業、ネイティブ授業のどちらでも、3分の2以上の出席が必要です。
- ・遅刻3回で欠席1回となります。
- ・成績は日本人授業、ネイティブ授業両方の評価を合わせた評価となります。

インテリアグラフィック演習

槇 究

3年 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

店舗デザインやインテリアデザインをはじめ、グラフィックを活用することで効果的なプレゼンテーション資料が作成できる分野は多い。この授業では、画像処理ソフトを利用して画像を加工し、ポスターを作成することで、インテリアデザインに有用なグラフィックデザインのテクニックを修得し、有効なプレゼンテーションを行う為の基礎を身に付ける。

【授業における到達目標】

- ・課題を通じて、Adobe Photoshop, Illustratorの実際的な使用方法を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。
 - ・デジタル画像の入出力について、基礎的な知識を身に付ける。
- そのことにより、美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、インテリアのカラーデザインをする力を身に付ける。

【授業の内容】

<インテリア・コラージュ>

インターネット等から室内、家具、照明などの素材を取り込み、それらを組み合わせた画像を作成する演習を実施する。Adobe Photoshopを使用する。

第1週 Adobe Photoshopの使用方法

第2週 背景画像の作成（1）

第3週 背景画像の作成（2）

第4週 背景画像の作成（3）

第5週 デジタル画像の入出力と後処理

第6週 家具の挿入（1）

第7週 家具の挿入（2）

第8週 絵を掛ける

第9週 照明効果とタイトル挿入

<ポスター制作>

Adobe Illustratorの使用方法について概説した後、ロゴ制作、作成したロゴ及びインテリア画像を用いたポスターを制作を行う。

第10週 Adobe Illustratorの基礎（1）

第11週 Adobe Illustratorの基礎（2）

第12週 ロゴマークの作成

第13週 ポスター作成（1）

第14週 ポスター作成（2）

第15週 名刺作成

【事前・事後学修】

事前に、配布プリントを良く読むこと。その他、演習に使用する素材の収集・撮影などを行うことがある。授業中に終了しなかった作業については、授業時間外に補い、進行に支障のないようにすること。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。また、manaba掲示板に作業のヒントについて書き込みをする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価の基準を明示した上で、作成した画像をmanabaにアップして、相互評価を実施する。それに基づいて改善していく。その上で、提出された最終課題をもとに判定する。

（課題：100%）

【参考書】

高野徹著『デザインに使うIllustrator』（MDN）

【注意事項】

欠席しないこと。これが最も重要である。また、Adobe Photoshopで画像処理を行った経験があるとよい。色彩設計演習aもしくはbを受講しておくことが望まれる。

インテリアコーディネート演習

山口 照也

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

インテリアコーディネート論で学んだ知識も生かし、インテリアコーディネートを実践していく上での基本技術を修得します。

「自分のため」から「他者のため」のインテリアコーディネートへとつなげ、インテリアの自由性と社会性も考えていく中で、「人・社会・自然」を考えた住環境デザインを目指します。

生活者がコーディネートしていることが多い「家具・照明・窓辺（ウィンドートリートメント）」と、専門家の知識も必要な「内装材・建具・造作部品・住宅設備機器・その他」を2つの課題でコーディネート案をつくり、プレゼンテーションしていきます。

【授業における到達目標】

【計画立案実行力や問題解決力である「行動力」を修得】

- ・自分が考えたインテリアコーディネートを具体的な計画案としてまとめられる計画力、図面表現力と伝達力を身につける。

【「美の探究」と「研鑽力」を修得】

- ・市場のインテリアエレメントの商品知識を深め、デザインバランスとコストバランスを身につける。

【授業の内容】

第1週 インテリアコーディネートの考え方と進め方

■課題Ⅰ：リファイン ～家具・照明・窓辺のコーディネート～

第2週 与条件からイメージやコンセプトをまとめる

第3週 家具・照明・窓辺に必要な商品情報を収集し整理する

第4週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる

第5週 プレゼンテーションと講評（自己評価＋学生評価＋講評）

■課題Ⅱ：リフォーム ～住まいのトータルコーディネート～

第6週 与条件から現状を分析し、問題点や改善案を考える

第7週 改善するインテリアエレメントの情報を収集し整理する

第8週 家具・照明のコーディネート計画をまとめる

第9週 内装材・建具のコーディネート計画をまとめる

第10週 造作部品・住宅設備機器のコーディネート計画をまとめる

第11週 その他必要な部分のコーディネート計画をまとめる

第12週 パースや模型で表現する

第13週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる

（現況図と計画図・カラースキーム・パースや模型写真）

第14週 プレゼンテーションと講評（自己評価＋学生評価＋講評）

第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：2つの制作課題に必要な予習・調査・エスキス・製図・模型製作に取り組むこと。（学修時間：40時間以上）

事後学修：授業中および提出物・発表での指摘事項を検討して課題作品に生かすこと。（学修時間：20時間以上）

【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題最終提出物とプレゼンテーション80%、授業取組姿勢と途中提出物20%とで評価します。

途中提出物と課題Ⅰ作品は次回授業でフィードバックし、課題Ⅱ作品はコメントを添えて返却します。。

【参考書】

『インテリアコーディネーターハンドブック統合版上』4300円＋税

『インテリアコーディネーターハンドブック統合版下』4300円＋税

（インテリア産業協会 2013年）

『建築のインテリアデザイン』（市ヶ谷出版社2006年）2500円＋税

【注意事項】

本講義を履修する前に「インテリアコーディネート論」を履修しておくことを薦めます。

インテリアコーディネーター論

山口 照也

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

インテリアコーディネーターという職能と資格が生まれのは1984年で、インテリアコーディネーターとは、「インテリアエレメントの流通過程において、消費者に対し、商品選択とインテリアの総合的構成等について適切な助言と提案を行う人」と定義されていて、現在でもその基本は変わっていないとされています。

本科目では、適切なインテリア商品選択力を身につけることを目的とし、インテリアコーディネーターを目指す人のテキストを参考書としつつ、インテリアエレメントごとにその基本知識とインテリアコーディネートのポイントを学修していきます。

ワークシートでは、インテリアコーディネーター資格試験練習問題とコーディネート演習問題があるので、資格試験にも役立ち、実践的なコーディネート手法も身につけられます。

【授業における到達目標】

- 【本質を見抜く「研鑽力」と課題を発見できる「行動力」を修得】
- ・インテリア空間を望ましくコーディネートするための分析力、考察力、問題解決力を身につける。
 - ・ワークシートを実施し、IC資格試験に役立たせたり、実践的コーディネート手法を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インテリアコーディネーターの誕生とその背景
- 第2週 インテリアコーディネーターの仕事
- 第3週 住宅用家具01 (分類・選び方・種類・基本構造)
- 第4週 住宅用家具02 (材料・家具金物・仕上げ・手入れ)
- 第5週 寝装・寝具
- 第6週 照明設備01 (光と感覚・光源と照明器具の種類)
- 第7週 照明設備02 (配光と照明方法・照明計画・施工・安全性)
- 第8週 建具製品・ウィンドートリートメント
- 第9週 造作部品・水回りの住宅設備機器
- 第10週 床仕上材・壁仕上材・天井仕上材
- 第11週 塗装仕上げ
- 第12週 テーブルウェアとキッチン用品・インテリアオーナメント
- 第13週 エクステリアエレメント
- 第14週 住まいのリフォーム
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に必要な現状調査分析・インテリア商品比較考察・問題解決改善検討や予習に取組むこと。(学修時間：30時間以上) *レポート課題はアクティブラーニングを考慮してま

す。
事後学修：講義復習となる10回のワークシートに取組むこと。(学修時間：30時間以上)

【テキスト・教材】

講義項目ごとに、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート課題70%、授業取組姿勢とワークシート30%で評価します。
ワークシートは次回授業でフィードバックし、レポート課題はコメントを添えて返却します。

【参考書】

- 『インテリアコーディネーターハンドブック統合版上』4300円＋税
 - 『インテリアコーディネーターハンドブック統合版下』4300円＋税 (インテリア産業協会 2013年)
 - 『やさしいインテリアコーディネート』(学芸出版社) 2600円＋税
 - 『建築のインテリアデザイン』(市ヶ谷出版社2006年) 2500円＋税
- その他、授業のなかで随時紹介します。

【注意事項】

本講義を履修する前に「インテリアデザイン論」を履修しておくことと講義内容の理解がスムーズになります。

インテリアデザイン演習

山口 照也

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

インテリアデザイン論で学んだ知識も生かし、インテリアデザインを実践する上での基本技術を修得していきます。「感じ取る・考える・つくる・伝える」を基本姿勢とし、身近なインテリア空間の問題点に目を向けて、改善案を考え、表現していく中で、「人・社会・自然」を考えたインテリアデザインを目指します。

建築の内部空間を考える演習と、モノ(インテリアエレメント)のあり方から内部空間を考える演習があるので、インテリアデザインだけでなく、建築デザインやプロダクトデザインを志す学生にも役立ちます。

【授業における到達目標】

- 【課題発見・計画立案実行・問題解決力である「行動力」を修得】
- ・自分が考えたインテリアデザインを具体的な計画案としてまとめられる計画力・図面表現力と伝達力を身につける。
- 【「美の探究」と自信創出の「研鑽力」を修得】
- ・インテリアを形成する「かたち・素材・色彩・光」に関する知識を演習する中で深める。

【授業の内容】

- 第1週 インテリアデザインの考え方と進め方
- 課題Ⅰ：空間で考えるインテリア
- 第2週 生理衛生空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第3週 個人生活空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第4週 共同生活空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第5週 提案する空間の計画案をまとめる(平面計画・断面計画)
- 第6週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる(テーマ・コンセプト・平面図・断面図・パース等)
- 第7週 作品展示と講評(自己評価＋学生評価＋講評)
- 課題Ⅱ：モノから考えるインテリア
- 第8週 自分の身近にあるインテリア空間のモノの現状を分析し、問題点を考える(与条件の整理・現況図作成)
- 第9週 問題点の改善案を考えながら、コンセプトやイメージをまとめる(分析と考察・着眼点・計画概要)
- 第10週 必要な資料収集と整理
- 第11週 計画案をまとめる(三面図等での平面計画・断面計画)
- 第12週 模型で表現する
- 第13週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる(テーマ・コンセプト・平面図・断面図・パース等)
- 第14週 プレゼンテーションと講評(自己評価＋学生評価＋講評)
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：2つの制作課題に必要な予習・調査・エスキス・製図・模型製作に取り組むこと。(学修時間：40時間以上)
事後学修：授業中および提出物・発表での指摘事項を検討して課題作品に生かすこと。(学修時間：20時間以上)

【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題最終提出物とプレゼンテーション80%、授業取組姿勢と途中提出物20%で評価します。
途中提出物と課題Ⅰ作品は次回授業でフィードバックし、課題Ⅱ作品はコメントを添えて返却します。

【参考書】

- 建築計画・設計シリーズ41『新・住宅Ⅰ』(市ヶ谷出版社2003年) 2800円＋税
- 『建築のインテリアデザイン』(市ヶ谷出版社2006年) 2500円＋税

【注意事項】

本講義を履修するに当たって、事前に「インテリアデザイン論」を履修しておくことを薦めます。

インテリアデザイン論

山口 照也

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

インテリアという言葉には、家具調度や室内装飾品等の「モノ」を指す場合と、内部（室内）の「空間」を指す場合があります。

本科目では、この2つの側面を考慮し、内部空間を構成している「モノ」であるインテリア構成部位（インテリアエレメント）のデザインから「内部空間」のあり方を考え、インテリア空間を計画するために必要な基礎とデザインのポイントを学修します。

人間の寸法・行為・心理の基本要素を基盤として、デザインの三大要素である形・素材・色彩を考え、インテリア構成部位（インテリアエレメント）ごとに人・社会・自然と関連させて、機能的役割と心理的役割を原点から考える授業です。

インテリア空間を構成部位ごとに考えていくので、モノのデザインであるプロダクトデザインにもつながり、モノとモノの関係から空間を考えていくことで、建築デザインにもつながります。

ワークシートを実施していくと、住宅のインテリア計画とインテリア製図の基礎的なスキルも身につきます。

【授業における到達目標】

【本質を見抜く「研鑽力」を修得】

インテリアエレメントの機能的役割と心理的役割を原点から考えていながら、デザインのポイントを身につける。

【「美の探究」と課題を発見できる「行動力」を修得】

インテリア空間をデザインするために必要な分析力・考察力・問題解決力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インテリアデザインとは
- 第2週 人間（寸法・行為・心理）を考える
- 第3週 かたちの考え方
- 第4週 素材・色彩の考え方
- 第5週 現状の住まいのインテリアを考える
- 第6週 床のデザイン
- 第7週 壁のデザイン
- 第8週 天井・架構のデザイン
- 第9週 窓・出入口のデザイン
- 第10週 屋内環境・設備のデザイン
- 第11週 家具のデザイン
- 第12週 あかりのデザイン
- 第13週 ファブリックス・テキスタイル等のデザイン
- 第14週 これからの住まいのインテリアを考える
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に必要な現状実測・事例調査・比較検討考察・問題解決改善検討や予習に取り組むこと。（学修時間：30時間以上）＊レポート課題はアクティブラーニングを考慮しています。

事後学修：講義復習となる10回のワークシートに取り組むこと。

（学修時間：30時間以上）

【テキスト・教材】

『建築のインテリアデザイン』（市ヶ谷出版社2006年）2500円＋税
講義項目ごとにプリントも配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート課題70%、授業取組姿勢とワークシート30%で評価します。

ワークシートは次回授業でフィードバックし、レポート課題はコメントを添えて返却します。

【参考書】

『建築計画・設計シリーズ41 新・住宅Ⅰ』（市ヶ谷出版社）
2800円＋税

『図解 住まいとインテリアデザイン』（彰国社）2400円＋税

その他、授業のなかで随時紹介します。

ウェディングコンサルティング演習

阿部 マリ子

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

新郎新婦と向き合うプランニングはもちろん、めまぐるしく変化するブライダルのマーケットや、トレンドのアイテムをある程度把握することも、ウェディングの業界では求められる事です。

この授業では、ブライダルのまさにトレンドを学び、より実務レベルで役に立つ「プランニング」の力をつけていきます。

結婚式を控えた【プレ花嫁】から絶大な人気を持つ【アートディレクター・ワキリエ氏】を招いた特別授業や、近隣ブライダル施設見学の校外実習も実施します。

*本授業はアクティブラーニングの手法を用いて行いますので受け身ではなく、主体的に参加して頂く必要があります。

ディスカッションや発表など毎授業実施します。

【授業における到達目標】

ウェディングにまつわる様々な知識を得た上で、【未来の自身のウェディングテーマ&ビジュアルボード】を完成させることにより、日本独特のウェディング文化への理解と共に、研鑽力、国際的視野、個々の感受性を高める。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ウェディングマーケットのトレンド
- 第3週 ウェディングプランナーの役割
- 第4週 ウェディングを取り巻く一般常識
- 第5週 ウェディングプランニングについて（特別授業）
- 第6週 パーティ当日までの流れ
- 第7週 ウェディングの基礎知識（ドレス）
- 第8週 ウェディングの基礎知識（挙式）
- 第9週 ウェディングの基礎知識（招待状他ペーパーアイテム）
- 第10週 ウェディングの基礎知識（料理・ドリンク・ケーキ）
- 第11週 ウェディングの基礎知識（ヘア・メイク）
- 第12週 ウェディングの基礎知識（装花・コーディネート）
- 第13週 ウェディングの基礎知識（その他アイテム）
- 第14週 課題プレゼンテーション
- 第15週 校外実習（近隣ブライダル施設見学）

【事前・事後学修】

【事前学修】ウェディングに関する雑誌やサイトを見て興味を持った内容について情報収集を行うこと。レポート・発表などの課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

【事後学修】提出レポートなどを復習すること。授業で紹介したサイトなどを見て復習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

資料は授業内で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内小テスト30%・授業内レポート20%・授業態度20%・プレゼンテーション30%

小テスト・コメントペーパーは次回授業時、プレゼンテーションは最終授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

エアライン演習

—思いやりを表現するために—

齋藤 明子・塩崎 純子

1年 後期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

航空会社の事例を中心に「ホスピタリティマインド」とは何か、日常生活で日々目にしているさまざまなサービスや接遇の例を通してその基礎的な概念を学びます。

さらに、観光産業の一例として、主にエアラインを取り上げ求められる資質について考察すると共に、社会におけるコミュニケーション能力を高めるための具体的な知識の修得を目標とします。

【授業における到達目標】

ホスピタリティマインドやマナーを通じて、プロトコルを学び、DPに掲げた「国際的視野・共働力・研鑽力」を身につけて欲しい。

【授業の内容】

1. ホスピタリティ・マインドについての基礎知識
2. 基本のマナー：第一印象の重要性
3. 身だしなみ
4. 挨拶
5. 立ち居振る舞い
6. 言葉遣いの基本① 敬語の基本
7. エアラインの接客対応① サービスドリル（接客対応）
8. 面接対策①（基本動作）
9. エアラインの接客対応② サービスドリル（機内対応）
10. 言葉遣いの基本② 接遇話法
11. 面接対策②（集団面接）
12. 職場のマナー
13. エアラインのサービス（ビデオ視聴）
14. 演習
15. 解説

【事前・事後学修】

- ・事前学修 配付する資料を、次回授業までに予習しておくこと。（学修時間 約2時間）
- ・事後学修 講義内容を必ず復習をすること。（学修時間 約2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業への積極参加、小テスト、レポート、授業での表現力）で総合的に判断します。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

試験結果は最終授業でフィードバックを行います。

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールや注意事項などを発表します。

エコビジネス演習

菅野 元行

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

環境社会形成に伴う演習を幅広く行うことができます。具体的には、環境社会（eco）検定や3R・低炭素社会検定の問題演習を通して環境社会形成のための理解を深める授業内容、またはエコビジネスの事例研究などのプロジェクトの策定について、履修生の希望に従い進めます。

【授業における到達目標】

- ①環境社会（eco）検定や3R・低炭素社会検定の問題演習を通して環境社会形成のための理解を深める。
 - ②エコビジネスの事例研究などのプロジェクトの策定を通して、環境社会形成の方法を理解する。
- 以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 eco検定に対応した演習（温暖化）
- 3 eco検定に対応した演習（気候変動）
- 4 eco検定に対応した演習（オゾン層）
- 5 eco検定に対応した演習（生物多様性）
- 6 eco検定に対応した演習（国際的取り組み）
- 7 eco検定に対応した演習（各種条約）
- 8 eco検定に対応した演習（エネルギー）
- 9 3R検定に対応した演習
- 10 低炭素社会検定に対応した演習
- 11 プロジェクト（PJ）策定の流れ or eco検定演習
- 12 エコビジネスPJの事例研究 or eco検定演習
- 13 エコビジネスPJの設定、調査 or eco検定演習
- 14 エコビジネスPJ提案発表・討論 or eco検定演習
- 15 振り返り・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】問題演習で分からなかった箇所については書籍やWebの検索により、周辺領域まで理解を深めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）80%、プロジェクトの発表内容20%。フィードバックは演習問題解答終了時やPJ提案発表の次の回に行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

- ※環境領域に関心があることが必要です。
- ※私語など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。同様の理由により、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。
- ※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。
- ※所属ゼミや学年は問いませんが、「生活ビジネスa（グリーンビジネス）」を修得・履修していることが望ましい。

オーストラリア英語研修

1年 集中 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この研修の目的は、オーストラリアメルボルンのストッツカレッジにおける英語研修と小学校におけるインターンシップ、ホームステイを通して、海外の言語と文化を体験し、参加学生の自立と英語力向上、視野の拡大を図ることにあります。

【授業における到達目標】

この科目の研修参加を通じて「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養います。また「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力や、「目標を設定して、計画を立案・実行できる」行動力の習得を目指します。

【授業の内容】

- 2020年2月頃。約1ヶ月間。
- 英語レッスン：現地の英語学校のクラスで受講
- アクティビティ：メルボルン市内見学
- インターンシップ：日本語教育を行っている地元小学校で、ティーチングアシスタントとして、第4週に5日間授業補助のインターンシップを行う。
- ホームステイ（3食込み）

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

【テキスト・教材】

必要な資料は現地英語クラス内で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の資料に基づき選択科目として2単位が認定されます(100%)

- ①現地での調査課題達成度40%
- ②現地英語レッスン・インターンシップ参加度40%
- ③現地での生活マナー20%

英語レッスンの教師から英語習得についてフィードバックがありません。

【注意事項】

- ①この科目履修は、専門教育科目「オーストラリア文化事情」「研修プレップ英語」の履修および単位取得見込みが条件となります。
- ②リスクマネジメントのために共通教育科目「海外研修」を履修することを強く勧めます。
- ③英会話練習のため「Workshop A~F」の履修を強く勧めます。
- ④事前指導参加態度が悪いと参加が認められなくなります。
- ⑤本研修は、GPAの成績によって応募できないこともあるので、履修要項を確認してください。

オーストラリア文化事情

三田 薫

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業ではオーストラリアのメルボルンに滞在することを想定して、その地で異文化交流するためのポイントを学んでいきます。私たち日本人はオーストラリアについてどんなイメージを持っているでしょうか。昼間はカンガルーやコアラとたわむれ、夕食は毎晩オージービーフのステーキ、マリンスポーツで遊んで暮らせる天国のような国というイメージを持っているとしたら、オーストラリア人に「それは違う」と言われてしまいます。そういった思い込みをできるだけ軌道修正しておきましょう。

滞在する国の文化を学ぶことはもちろん欠かせませんが、それと同時に自国の文化を知り、相手の国の人が日本について何を知らず何を考えているのかについて知っておくことも重要です。幸い海外には「日本が大好き」「日本はクール」と言ってくれる人がたくさんいます。そういう人たちの期待にこたえる異文化交流、日本紹介ができるようになりたいものです。

オーストラリアは世界中の人を受け入れ共存する道を模索している多文化主義の国です。研修で滞在するメルボルンでは、ESLクラスやホームステイ先、街中で、さまざまな国籍や文化の人と出会う機会があります。この授業で知識を深め、近い将来にオーストラリアを実際に訪れて、ぜひマルチカルチュラルな生活を体験してください。

【授業における到達目標】

この授業では、オーストラリアの生活、文化、社会について幅広く学ぶことにより、「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養うことを目指します。また「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」（美の探究）や「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力も養っていきます。

【授業の内容】

1. 異文化理解とは相手を知り、自分をより深く知ること
2. 国際色豊かな街、国際的イベントで賑わうメルボルン
3. 交通機関と公共施設の利用法
4. ホームステイ、水の使い方、病気の時は
5. ショッピングと防犯
6. 世界各国料理 グルメの街メルボルン
7. メルボルンでカフェ文化が発達した理由
8. オーストラリアの大自然
9. オーストラリアの小学校教育
10. 捕鯨問題：なぜあれほど反発されるのか
11. オーストラリアの高等教育
12. アボリジニーと移民の歴史、永住権取得
13. 太平洋戦争に対する各国の受け止め方
14. ESLクラスと文法用語
15. 学生レポート発表

(順序が変更になることがあります)

【事前・事後学修】

事前学修：各回の授業内容について、あらかじめ文献を読み理解を深めておいてください。

事後学修：授業の最後には「確認テスト」のmanabaでの受験、授業後にオンラインレポートを毎回提出します。その他に、学期末レポートを提出します。(事前・事後合わせて週4時間以上)

【テキスト・教材】

教材は必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、確認テストとオンラインレポート40%、学期末レポート40%

オンラインレポートと学期末レポートのフィードバックを翌週の授業で行います。

【注意事項】

「オーストラリア英語研修」参加者およびいつかオーストラリアに行ってみたい学生向けの授業です。「オーストラリア英語研修」参加者は必ず受講してください。

オープン講座 a

東京2020オリンピック・パラリンピック連携講座

深澤 晶久

1年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック連携講座とし、いよいよ1年半後に迫った開幕に向け、パートナー企業や組織委員会とも連携した特別講座とします。
- ◆前半では、大会のコンセプトである「多様性と調和」が求められる中で、観光産業・旅行業界のビジネスに関わる人材として必要な幅広い知識・技能を学び、自らの夢と可能性を広げるために、将来に向けて社会でどう生きていくのかを学びます。
- ◆後半では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解を深めます。
- ◆2年生から4年生の履修も歓迎します。

【授業における到達目標】

- ◆「オリンピック・パラリンピックと観光産業」
ビジネスの現場や観光産業構造・マーケット事例などを学び、グループワークやプレゼンテーションなどを通じて創造力や企画力を高め、社会人として求められる主体性・課題解決力・コミュニケーション能力・異文化理解などの力を磨きます。
- ◆「東京2020大会について」
その規模11万人とも言われるボランティア活動など、大会の概要を学び、行動への第一歩を支援します。
- ◆ディプロマポリシーに照らし合わせた時、国際的視野・行動力の向上に結びつけることとします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(講座説明・自己紹介等)
- 第2週 観光産業・旅行会社について知る
「ツーリズムビジネスと東京2020オフィシャル旅行サービスパートナーとしての役割」
- 第3週 インバウンド・訪日外国人へのおもてなしを知る
「接客について、異文化についての理解、インバウンド旅程管理とは」
- 第4週 ユニバーサルツーリズムを学ぶ
「高齢者・障がい者など、誰もが楽しめるツアーとは何か、そのプランニングについて」
- 第5週 東京2020に向けた自治体との取組みについて学ぶ
「旅行会社の視点からのアクセシビリティサポートとは」
- 第6週 グループワークに向けての課題設定
- 第7週 課題解決に向けたグループワーク①
- 第8週 課題解決に向けたグループワーク②
- 第9週 課題解決に向けたグループワーク③
- 第10週 プレゼンテーションと企業からのフィードバック(前半)
- 第11週 プレゼンテーションと企業からのフィードバック(後半)
- 第12週 東京2020大会の概要について(前半)
- 第13週 東京2020大会の概要について(後半)
- 第14週 レポート作成
- 第15週 講座のまとめと総括

【事前・事後学修】

- ◆新聞、書籍などを読むなど、観光産業・旅行会社に関する動きについて情報にアンテナを張り巡らす習慣をつけて下さい。
- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関心を持ち、世の中で発信されているオリンピック・パラリンピックに関する情報の収集を心がけて下さい。
- ◆事前・事後それぞれ週2時間の学修時間とします。

【テキスト・教材】

- ◆テキスト・教材は適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(取組姿勢・感想文・小レポートなど)	70%
レポート	30%

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manmabaアンケートにて総括的なフィードバックを行います。

【注意事項】

- ◆この講座では、レクチャー形式ではなく、グループワークを基本とした参加型の講座を目指します。
- ◆東京2020に関心のある学生の履修を希望します。2～4年生も可能
- ◆募集人数は40名です。

【選考方法】

4月1日(月)から教務課窓口にてエントリーシートを配布します。履修希望者はあらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出、選考を受けて下さい。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に自動登録されます。

オープン講座 c

シュニッケル, ジェイコブ

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

This course is designed to explore similarities and differences in women's leadership styles across cultures, through a collaborative exploration with a group of students from The American Women's College at Bay Path University (TAWC).

このコースは、日米における女性リーダーの相違点について、米国ベイ・パス大学(TAWC)と実践女子大学との共同プロジェクトを通じて考察することを目的とします。

【授業における到達目標】

This course aims to help students deepen their understanding of similarities and differences in women's leadership styles across cultures, based on the COIL model, or "collaborative online international learning," which means that, in this type of course, students in different countries use internet tools to work together on educational projects.

【授業の内容】

This course will combine two areas of study: intercultural communication and women's leadership. Moreover, because English will be the medium of communication between Jissen and TAWC students, this experience will provide authentic opportunities to use the language to communicate across cultures and to complete collaborative tasks.

1. Course introduction
2. What is culture and intercultural communication?
3. What is leadership?
4. Gender roles in Japan
5. Technological tools for collaboration
6. First contact with TAWC students
7. Interviewing techniques
8. Compiling interview data
9. Compiling interview data
10. Identifying shared habits, attitudes experiences of women leaders
11. Project work with TAWC students
12. Project work with TAWC students
13. Team Presentations
14. Planning for TAWC visit
15. Course review

【事前・事後学修】

<Before class> Students will be expected to read or watch specified materials. (1-2 hours)

<After class> Students will be expected to communicate with TAWC team members. (1-2 hours)

【テキスト・教材】

All materials will be distributed in class.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Weekly journal - 20%

Participation - 50%

Final paper - 30%

Feedback will be given verbally in class and in written comments on students' assignments.

【参考書】

Nothing required.

【注意事項】

Full participation in every aspect of this course is essential.

オープン講座①

編入学試験のための小論文

三浦 宏文

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

この講義は、4年制大学への編入学試験対策として、小論文の考え方や書き方を学んでいき、同時に一般社会人として必要な論理的思考力と表現力を鍛えていく講座です。

【授業における到達目標】

到達目標としては、以下の2つを挙げておきます。

(1) 名門4年制大学の編入学試験に合格できる思考力と文章力を身に付けます。

(2) 社会人に必要な論理的思考力と文章力を身に付けます。

【授業の内容】

私たちは、日本語を母語として生活しており、4年制大学へ進学する編入学試験ではもちろんのこと、そこで学んでいく上でも、社会人として働いていく上でも、論理的な思考力と表現力は必要とされ続けます。この講義では、そういったこれからずっと必要とされ続けていく論理的思考力と表現力を養成していきます。具体的には、様々な文章を読んで要点をまとめたり、あるテーマに関して自分なりの意見を論理的にまとめたり、映画やテレビドラマを観てそれについて論じたりして、論理的思考力と表現力のトレーニングをしていきます。

第1週 ガイダンス・私という人間 思考の準備運動(1)

第2週 スマートフォンを考える 思考の準備運動(2)

第3週 文章表現・論理の基礎(1) 表記のルール

第4週 文章表現・論理の基礎(2) 文体・表現のルール

第5週 文体表現・論理の基礎(3) 論理的文章のルール

第6週 要約の仕方

第7週 参考文献の提示・引用の仕方のルール

第8週 映画・ドラマを論じて見る(1) テレビドラマと倫理

第9週 論理のトリックを見抜く(1) 演繹・帰納のトリック

第10週 論理のトリックを見抜く(2) 例外・データ不足のトリック

第11週 4年制大学編入学試験過去問演習(1) 実践女子大学各学部

第12週 4年制大学編入学試験過去問演習(2) 日東駒専中堅大学

第13週 4年制大学編入学試験過去問演習(3) 早慶上智等難関大学

第14週 映画・ドラマを論じて見る(2) 映画と現実

第15週 講座のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考文献や関連書籍の調査をしておいてください。(学修時間週2時間)

【事後学修】授業内で与えられた課題は、必ず指定した期日までに提出してください。(学修時間 週2～3時間)

【テキスト・教材】

随時プリントを配付したり板書して説明したりして進めて行きますので、ノートやプリントを保存するファイルは準備しておいて下さい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

随時プリントを配付したり板書して説明したりして進めて行きますので、ノートやプリントを保存するファイルは準備しておいて下さい。

定期テスト60%。授業中に与える課題20%。講義中の発言・発表・コメントシートの提出点20%。

授業中の課題は、必ず次の授業内で返却しフィードバックします。

【参考書】

吉岡友治『大学院・大学編入学 社会人入試の小論文 改訂版 思考のメソッドとまとめ方』(実務教育出版2013年)1836円

樋口裕一『まるごと図解 面白いほど点が取れる小論文』(青春出版2008年)1382円

大野晋『日本語練習帳』(岩波新書1999年)799円

【注意事項】

受講人数制限50名(制限人数を超えた場合、抽選)

オープン講座②

大学編入学試験 英語対策講座

後藤 英一郎

1・2年 前期 1単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

この講座は、4年生大学への編入学試験を目指している学生を対象にしたものです。大学編入学試験の中で最も重要な科目は英語になります。特に編入学試験の英語は英文解釈能力とりわけ構文把握能力が要求されます。そこで、本講座では文法と構文を学びつつ、編入学試験に合格する実践力を効果的に磨いていきます。

なお、本講座では大学編入学試験で出題が予想されるレベルの英文を扱うことになります。そのため英検2級以上の英語力が必要となります。英語力は短期間で身につくものではありません。特に1年生の大学編入学を希望する意欲的な学生の参加を望みます。志望大学の合格を目指して頑張りましょう。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、英語を正確に読解するための知識と技能を高めて行きます。当該カリキュラムの内容をマスターすることで編入学試験に必要な英文を読解する能力が磨けるとともに、今後自らが高度な英語を研鑽する上での出発点となるでしょう。

なお、目標大学としては、全国の国公立大学、学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政・フェリス女子・東京女子・日本女子・共立女子などを目指します。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション、編入学試験の英語の傾向と対策

第2週 5文型

第3週 複文構造

第4週 共通関係

第5週 同格関係

第6週 否定

第7週 Itの用法

第8週 準動詞(1)

第9週 準動詞(2)

第10週 関係詞

第11週 比較

第12週 仮定

第13週 接続詞

第14週 倒置・挿入・省略

第15週 無生物主語・名詞構文

【事前・事後学修】

・事前学修：事前に授業資料を配付するので、予め自身で英文の内容を大まかに理解しながら英文を読み、併せて設問の解答を検討してください。(週1時間程度)

・事後学修：受講生の志望学部や大学などの個別事情に対応しつつ参考書や出題校などを紹介して、そのつど学修方法を指示します。(週1時間程度)

【テキスト・教材】

毎回、授業にて別途配付し指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50% 課題30% 平常点(授業への積極参加)20%

また、15回の半ばあたりで理解度チェックテストを実施いたします。課題及びチェックテストは次回にフィードバックします。

【参考書】

授業内にて、編入学試験対策として有用な参考書、問題集等について適宜紹介いたします。

【注意事項】

特に1年生の受講を強く推奨します。合格レベルまで達するには少なくとも1年以上の継続的な学習が必要だからです。

受講人数制限50名(制限人数を超えた場合、抽選)

オープン講座③

渋谷研究入門

松尾 昇治・三田 薫

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

大都市東京にある大学に通学する学生として、文化の発信拠点としての「渋谷」の知識を自然に身につけられる内容になっています。自分たちが通い、遊び、楽しむ、日本の代表的な街「渋谷」を知ることをテーマに授業を組み立てています。各分野の講師に「渋谷」を素材として「まち」を知るということについて学びます。

【授業における到達目標】

授業で学んだ内容を生かし、それぞれの地域で様々な活動に積極的に参加することができるように、下記の点を到達目標として考えています。

- (1) 国際都市・渋谷について学ぶなかで国際的視野を広める。
- (2) 授業で学んだ知識を生かして、渋谷で行われている各種活動に参加し、行動力、協働力を身に付ける。
- (3) 自分たちの住んでいる「まち」について、授業で学んだことを応用して調べる力も身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、渋谷の江戸から戦後までの変遷
- 第2週 盛り場渋谷の歴史（特別講師）
- 第3週 盛り場渋谷の今（特別講師）
- 第4週 渋谷文化と再開発、交通（特別講師）
- 第5週 渋谷の現在と未来（特別講師）
- 第6週 渋谷と文学（特別講師）
- 第7週 渋谷の美術館（特別講師）
- 第8週 渋谷のカルチャーと観光スポット（特別講師）
- 第9週 渋谷と神々（特別講師）
- 第10週 渋谷の地域資料
- 第11週 渋谷と下田歌子と実践女子学園（特別講師）
- 第12週 グループ毎にフィールドワークの事前準備
- 第13週 グループ毎にフィールドワークを実施（特別講師を予定）
- 第14週 フィールドワークの発表準備
- 第15週 グループの成果発表

※授業の順番は都合により変わります。

【事前・事後学修】

〔事前学修〕 通学路を往復するだけでなく渋谷駅あるいは表参道駅とキャンパスとの間で、普段とは違う道を歩いてみてください。新しいものもしくは授業で聞いた場所・モノなどに気が付いたら写真を撮っておいてください。（週1時間）

〔事後学修〕 渋谷区内で行われている様々な活動を参観するなどして、渋谷についての知見・発見を深めましょう。（週1時間）

【テキスト・教材】

- ・資料は担当される先生方がプリントを配付します。
- ・テキストは指定はしませんが、渋谷に関する図書など読んでみてください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・評価方法・基準
授業態度：20%、授業中個人レポート提出(manaba)：30%、学期末発表：50%
- ・毎回担当講師が変わります。質問等は次の授業で本学担当教員より回答します。
- ・提出されたレポートにコメントを記しフィードバックします。
- ・授業中や授業外に提出された個人レポートの中から、興味深いものについては発表の機会を設ける場合があります。

【参考書】

- 『渋谷学』石井研士著 弘文堂 2017 本体¥1,500
『渋谷・実践・常磐松 ～知っていますか過去・現在・未来』井上一雄著 ブイツーソリューション 2017 本体¥926 (Kindle版有)

【注意事項】

- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

オープン講座④

楽しい数学の基礎

村山 真一

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

身近な問題を取り上げ、基本的な数的処理について学びます。公式に当てはめるといった機械的な扱いではなく、数及びその計算の持つ意味をしっかりと理解することによって、得られた情報からの確に問題を解決する方法を学びます。SPI にも役に立つはずです。

【授業における到達目標】

- ・数式やその計算の意味をよく理解し、慣れ親しむことができる。
- ・与えられた条件を正しく理解し、問題を解決できる力を修得する。
- ・身近な数、特に確率や統計などに関して、問題意識を持って探求できるとともに、本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

- 第1週 単位当たりの量
- 第2週 様々な割合
- 第3週 数え上げの方法1（基本）
- 第4週 数え上げの方法2（煩雑な場合）
- 第5週 数学的確率と統計的確率
- 第6週 確率を求める1（基本）
- 第7週 確率を求める2（応用）
- 第8週 資料の整理とその読み取り
- 第9週 方程式の基本とその考え方
- 第10週 方程式の利用1（基本）
- 第11週 方程式の利用2（日常生活の中で）
- 第12週 座標と方程式
- 第13週 座標と領域
- 第14週 集合
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
次回扱う問題の内容をよく理解し、どのように解くのかを考えておくこと。解ける問題は解いてみること。（学修時間 週1時間）
- ・事後学修
授業で扱った内容（基本的な公式や考え方）を復習し、授業で扱った問題は必ず解くことができるようにしておくこと。毎日最低でも30分位は欠かさずに学修すること。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト40%、試験60%、で総合的に評価します。小テストは次の授業でフィードバックします。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

数学が苦手な人、歓迎です。
受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

オープン講座⑤

－就職対策講座－

板倉 文彦

1年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本学で学んだ実践力を企業等の組織で生かしていくためには、まずは就職活動に挑む必要があります。この科目では、その活動に必要なスキルを、キャリア・生活支援課開催の就職対策講座を受講することで身に付けていきます。

この講義を受講することで、就職活動の準備を整えることができます。

また、本講義と実践的な演習を行う「キャリアプロジェクト」を受講することで、就職対策を万全なものにすることができます。

【授業における到達目標】

社会において現状を正しく把握し課題発見できる「行動力」と、知を探究し学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

<第2週～第14週 キャリア・生活支援課開催の就職対策講座受講>

第2週 採用試験解説と基礎学力ミニテスト

第3週 筆記試験対策①（計算力を問われる問題）

第4週 筆記試験対策②（論理的思考力を問われる問題）

第5週 筆記試験対策③（応用力を問われる問題）

第6週 自己分析

第7週 自己PRの方法

第8週 就活書類について

第9週 就活書類の書き方

第10週 ビジネスマナー①（自己表現法）

第11週 ビジネスマナー②（基本のマナー）

第12週 グループディスカッション対策

第13週 面接対策

第14週 業界・企業研究方法

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：SPI について、苦手分野を中心として取り組む（週1時間以上）

事後学修：SPI についての講座の場合は、演習問題等を復習する。

その他の講座の場合は、自身の希望する企業に当てはめてシミュレーションを行う（週1時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な取組み）80%、課題（レポート）20%

提出課題については授業最終回にフィードバックを行う。

【注意事項】

- ◆欠席や遅刻は厳禁とし、節度ある態度で授業に臨むこと。
- ◆各回の講座の意義を理解し、主体的に取り組むこと。
- ◆授業内容の順番や内容が、一部変更になる場合があります。

カウンセリング演習

大内 佑子

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

心の健康の保持増進は社会的に大きな問題となっている。本講義は、カウンセリングの専門知識を学び基礎的技術を身につけた学生を対象として、それらを自主的・継続的に深めて学び深め続けるための方法や、自身や他者の心の健康のために積極的に活用していくための実践的な方法について体験的に学ぶ。

【授業における到達目標】

カウンセリングに関する専門知識、技術と倫理観を持つ心理の専門家として、心理的支援を要する者を理解し、コミュニケーションや問題解決の豊かな能力を発揮して、そうした人々への援助活動を主体的に実践できるようになる。また言語的・非言語的コミュニケーションに及ぼす文化的背景の影響を理解し、意識的に検討していくことのできる視点を育て、異文化間コミュニケーションに関する国際的視野を拡充する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：心の健康とカウンセリング
- 第2週 カウンセリングの前に：対人援助のための準備
- 第3週 コミュニケーションの基本実践
- 第4週 相手を理解する：かかわり
- 第5週 相手を理解する：質問技法1
- 第6週 相手を理解する：質問技法2
- 第7週 相手を理解する：観察技法
- 第8週 相手を理解する；基本的傾聴の連鎖
- 第9週 相手を理解する：感情
- 第10週 相手を援助する：目標設定
- 第11週 相手を援助する：技法の実践
- 第12週 相手を拡充：多様な領域でのカウンセリング（医療）
- 第13週 援助の拡充：多様な領域でのカウンセリング（学校）
- 第14週 援助の拡充：多様な領域でのカウンセリング（産業）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学習】関連する文献を参照し講義で出す課題に取り組む(学修時間 週2時間) 【事後学修】講義内容を中心に知識を復習する(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(ロールプレイやワークなどへの積極的参加・提出課題の評価)60%
期末課題40%
各回において全体への課題内容についてのフィードバック等を行う

【参考書】

毎回の講義内で各テーマに応じて紹介する

【注意事項】

履修に際し他の講義で学ぶことができる心理に関する基礎的専門知識を有していること。講義内ではペアワークやグループワーク、ディスカッションを多用する。そのため基本的に全ての講義回への出席と、遅刻早退などをせず他の受講生と強調して学びを深める積極的な参加態度を求める。授業内でリアクションペーパーの提出、また授業時間外に取り組むレポート課題を課す。

カウンセリング基礎

齋藤 順一

2年 前期 2単位

◎：協働力

【授業のテーマ】

カウンセリングの主要な理論や技法について概説し、人の心を理解し援助するアプローチとはどのようなものであるかについて学びます。また、心の健康教育の一環として、日常的に経験するストレスについての理論やストレスマネジメントについても紹介します。このような学習の中で、カウンセリングの基礎知識を日常に活かし、自己および他者理解につながる視点をもてるようになることを目指します。

【授業における到達目標】

- ・代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について理解する。
 - ・クライアントとの関係形成を念頭に置いた、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法の基礎について学ぶ。
 - ・多様なカウンセラーの職域（訪問支援、地域支援、および心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援を含む）、および職業倫理（クライアントとの関係性、プライバシーへの配慮等）について理解する。
- 学生が習得するべき「協働力」のうち、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する能力を高めることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：カウンセリングとは
- 第2週 カウンセリングのプロセス
- 第3週 傾聴技法（1）
- 第4週 傾聴技法（2）
- 第5週 人間性アプローチ
- 第6週 精神力動理論
- 第7週 認知行動理論（1）
- 第8週 認知行動理論（2）
- 第9週 カウンセリングの効用と限界
- 第10週 カウンセリングと職業倫理
- 第11週 訪問支援と地域支援
- 第12週 ストレスとは
- 第13週 ストレスマネジメント
- 第14週 リラクゼーション法
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業で扱うテーマについて、関連書籍などにあたり、問題意識をもって授業に臨めるようにしておいてください。(学修時間 週2時間)

事後学修：各回の授業内容および小テストを復習し、自分の言葉で説明できるように、内容の理解を深めておいてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキストの指定はありません。

必要な資料については授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（小テスト・小レポートなど）30%
最終試験 70%

小テスト、小レポートは次回授業時にフィードバックします。

【参考書】

講義内で必要に応じて紹介します。

【注意事項】

講義形式のみではなく、適宜グループでの話し合いやグループワークも取り入れながら、学習を進めていきます。積極的に授業に参加する態度が望まれます。

カリキュラム論 a

小学校における教育課程の意義及び編成の方法、評価を学ぶ

南雲 成二

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

「カリキュラム論a」は、教育職員免許法に定められた小学校一種免許状取得のために「教職に関する科目」群のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校における教育課程の意義及び編成の方法（評価・改善含）について理解することをねらいとする。

授業の主なテーマは、次のとおりである。

- ①教育課程（カリキュラム）の意義について学び、理解を深める。
- ②教育課程の歴史的変遷を踏まえ、各期の「学習指導要領の特徴と重点」をとらえる。
- ③教育課程の編成原理と教育実践の関わりについて理解を深める。「学び手も教え手も共に納得のいく学習構成の原理と方法研究」への理解も併せて深める。（教科書・教材の持つ機能の理解）
- ④学習指導要領に示された第1～6学年までのグランドデザインについての知見を高め、学習指導要領の要点理解を深める。中教審最終答申第197号の理解。（教育課程の評価・改善、教育課程開発と教師の役割、教育実践の意味と課題をとらえる。）
- ⑤幼小小連携と小中（高）一貫、高大接続を視野に入れた教育課程の探究。アクティブラーニングやディープラーニングについての基礎学習。

【授業における到達目標】

授業のテーマ「要点①～⑤」について、①②を土台に③と④と⑤について知識・理解を深め、第3学年の後期に控える「小学校教育実習4週間」と「幼稚園教育実習2週間」の基盤整備と実践現場への適応・最適化が図れるようにする。該当学年や担当クラスの学習内容や成長課題に対する教師の指導・支援内容の具体を修得する。また、「現状を正しく把握し、課題を発見できる力」と、「プロセスや成果を正しく評価し、課題解決につなげることができる力」の修得をめざす。

【授業の内容】

- 第1回 教育の目標とその計画、教育課程（カリキュラム）の意義
- 第2回 教育課程の法制①（学校教育法、学校教育施行令）
- 第3回 教育課程の法制②（学校教育施行規則）及びこれからのこれまでの状況把握 文科省『中央教育審議会最終答申』（平成28年12月21日第197号と補足資料）に学ぶ
- 第4回 教育課程の歴史的変遷～明治から昭和初期の教育課程～（幼稚園教育要領と小学校学習指導要領を中心に）
- 第5回 戦後の教育課程の変遷～戦後7回の学習指導要領の改訂内容と新学習指導要領の主要観点から学ぶ～
- 第6回 教育課程の内容（1）…方針、共通的な内容の取扱い
- 第7回 教育課程の内容（2）…授業時数の確保、総合的な学習の時間、教科「道徳」「特活」「外国語（英語）」等
- 第8回 教育課程の内容（3）…指導計画の作成。教育課程実施上の配慮事項や編集の手順について。
- 第9回 教育課程の評価・改善…（内部・関係者・第三者による学校評価～現状と課題（母校・実習校のHPを具体例に…）
- 第10回 「道徳」「特別活動」の教育課程編成と各学年教育実践。
- 第11回 「総合的な学習の時間」「外国語（英語）活動」の教育課程編成と各学年の授業実践（学級・学年経営デザイン）
- 第12回 学習指導要領に基づく小学校1年生から3年生までの教育課程編成と授業実践、及び学年・学級経営の課題
- 第13回 学習指導要領に基づく小学校4年生から6年生までの教育課程編成と授業実践、及び学年・学級経営の課題
- 第14回 教育課程（カリキュラム）の今日的課題と改革動向の理解 <中教審最終答申第197号と教育課程審議会の動向に注目>
- 第15回 今までの初等教育カリキュラム編成とこれからのカリキュラム編成について考察を深める。（ペダゴジーモデルとアンドラゴジーモデルの比較検討、状況的学習論、拡張的学習論、省察的学習論と学校教育カリキュラムの可能性を考

える。小学校教育におけるアクティブラーニング、ディープラーニングと教育課程編成を展望する。）

【事前・事後学修】

【事前学修】教育方法・技術、特別活動、道徳、児童指導法、教科教育法、教育学演習等の学習内容と関連して考察を深める。既習事項の整理整頓とテキストの要点把握や発表資料の作成、課題レポートに積極的に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポートや学習資料への指摘内容をヒントに復習を深める。テキストや補助資料を基に次回の授業範囲を予習し、内容把握を基に自分の考え・意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領解説総則編[¥155(税抜)]

国立政策研究所：評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校編13教科[教育出版社、¥335(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）50%、課題レポートへの取り組みや発表内容、ポートフォリオの創意工夫50%で、総合的に評価する。実施した小テストやミニレポートは次回授業、課題レポートやポートフォリオは、まとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

- ・安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』放送大学教育振興会：2006
- ・柴田義松編『教育課程論』学文社：2008
- ・田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房：2009
- ・田中耕治編『新しい時代の教育課程（改訂版）』有斐閣：2009
- ・天笠茂『カリキュラムを基盤とする学校経営』ぎょうせい：2013
- ・佐藤学・秋田喜代美他・志水宏吉他編集 岩波講座『教育変革への展望全7巻』2017.2完結

【注意事項】

- ★3年次「小学校教育実習（4週間）」と「幼稚園教育実習（2週間）」で、教育課程（カリキュラム編成）の実際を体験を通して学ぶ。この体験的学びと、出身小学校等のHP視聴を通し、子どもの生活実態・学習実態と直接むすぶカリキュラムデザイン（教育課程の評価・改善）のあり方と教師の仕事について考察を深める。
- ★2年次履修の『児童教育法』『特別活動』『道徳』、3年次までに履修の『各教科教育法』、4年次履修『教職実践演習』の演習内容と深く関連。学習記録の相互活用に積極的に取り組む。この2点の強化徹底が、教員採用試験の一次二次対策に直結する。

カリキュラム論b

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、教育課程・保育の計画等の意義や編成の原理・方法を「カリキュラム」という語源から、そして幼稚園教育要領・保育所保育指針等を基準に編成される教育課程・保育の計画という視点から理解する。さらに、教育課程編成、指導計画の作成・保育の計画（全体的な計画・指導計画）の作成の基本原理と方法について身に付ける。また、これらを学ぶ中で、カリキュラム・マネジメントの今日的意義とその重要性について理解を深める。

【授業における到達目標】

本授業では、「優れた教師の条件の一つとして教育課程（カリキュラム）編成能力がある」と言われることの意味を理解できるよう、教育課程・指導計画、保育の計画（全体的な計画・指導計画）等の意義及び編成の原理・方法を理解し、編成能力を身に付ける。併せて、カリキュラム・マネジメントの意義についての理解をめざす。

【授業の内容】

- 第1回 教育課程・保育の全体的な計画の意味と意義
- 第2回 幼稚園教育要領と教育課程・保育の全体的な計画
- 第3回 保育所保育指針と教育課程・保育の全体的な計画
- 第4回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と
教育課程・保育の全体的な計画
- 第5回 教育課程・保育の全体的な計画の役割と機能
- 第6回 教育課程編成・保育の全体的な計画作成
における基本原則
- 第7回 教育課程・保育の全体的な計画と教育・保育内容
- 第8回 子ども、幼稚園・保育所等、地域の実態の理解と
教育課程・保育の全体的な計画
- 第9回 教育課程・保育の全体的な計画と指導計画との関係
- 第10回 子ども、幼稚園・保育所等、地域の実態の理解と
指導計画（長期・短期）
- 第11回 指導計画（長期・短期）作成の基本原則と実際
- 第12回 カリキュラム・マネジメントの意義
- 第13回 カリキュラム・マネジメントの実際
- 第14回 教育課程・保育の全体的な計画と教育・保育の評価
- 第15回 教育課程・保育の計画の開発と今日的課題

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。
(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について
振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回
授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分
なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

文部科学省：幼稚園教育要領解説〔フレーベル館、2018、¥240(税抜)〕

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・
保育要領解説〔フレーベル館、2018、¥360(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、試験(60%) ※テキスト、資料プリント、ノート
の持ち込みは不可)、平常点〔授業への取り組み・提出課題〕
(20%)により総合的に評価する。小テストについては次回授業で
解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて、適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

キッズイングリッシュ

三田 薫

1・2年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

この授業では幼稚園、小学校、英語教室などで、子供に英語を教える方法を学んでいきます。年齢に合わせた英語指導法、子供を飽きさせない工夫、歌や絵本、ゲームやカードの活用法を学習し、模擬授業を行います。

また教師にならなくとも将来自分の子供と一緒に英語を楽しむコツ、高額教材を買わなくとも家庭で手軽にできる英語学習法、良い英語教室の選び方を紹介します。子供たちの不安を取り除き、子供たちが英語を好きになるきっかけとなれるようしっかり学び、楽しく練習していきましょう。

【授業における到達目標】

この授業で児童英語教育の様々な手法を学ぶことにより、児童の興味や発達段階に合わせて指導する力を身につけます。それを基にして行動力、特に現状を正しく把握し、課題を発見できる力や、目標を設定して、計画を立案・実行できる力の修得を目指します。また多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度（国際的視野）や、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）の養成につながるようグループ活動を行います。

【授業の内容】

1. カードの効果的な使い方1（チャンツと組み合わせる）
2. カードの効果的な使い方2（ゲームと組み合わせる）
3. 歌による音声教育1（無理なく参加させる導入法）
4. 歌による音声教育2（遊び歌の活用法）
5. TPRの指導法1（その効果）
6. TPRの指導法2（導入法）
7. 子供の集中力を持続させる活動（ゲームやタスク）
8. 発音練習（母音と子音の弱点克服）
9. 絵本の読み聞かせ1（本の種類と導入法）
10. 絵本の読み聞かせ2（CDの活用）
11. Phonicsの教材と指導法
12. Phonemic Awarenessの教材と指導法
13. 外国の児童英語教育
14. 模擬授業（準備）
15. 模擬授業（発表）

（順序が変更になることがあります）

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された課題についてグループで考えて準備してください。

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、授業後提出の課題に取り組んでください。（事前・事後合わせて週2時間以上）

【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、授業内発表40%、模擬授業30%

グループの発表について、教師およびクラスメートからフィードバックを受けます。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

キャリア・マネジメント論

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

【授業における到達目標】

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができます。

【授業の内容】

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べること（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

【テキスト・教材】

谷内篤博：大学生の職業意識とキャリア教育[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)]

谷内篤博：働く意味とキャリア形成[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説

をします。

【参考書】

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

【注意事項】

本講義は極めて連続性が強いので、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

キャリア・マネジメント論

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

1～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

【授業における到達目標】

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができる。

【授業の内容】

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べること（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

【テキスト・教材】

谷内篤博：大学生の職業意識とキャリア教育[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)]

谷内篤博：働く意味とキャリア形成[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説

をします。

【参考書】

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

【注意事項】

本講義は極めて連続性が強いいため、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

キャリア・マネジメント論

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

1～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

【授業における到達目標】

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができる。

【授業の内容】

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べる（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

【テキスト・教材】

谷内篤博：大学生の職業意識とキャリア教育[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)、※あると便利だが必ずしも買う必要はない。]

谷内篤博：働く意味とキャリア形成[勁草書房、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説

をします。

【参考書】

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

【注意事項】

本講義は極めて連続性が強いいため、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

キャリアデザイン

今、社会や企業が求める人材とは

深澤 晶久・植野 誠之

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

■目まぐるしく変化する社会情勢にあつて、就職活動戦線を勝ち抜き、社会で輝き続ける女性となるために必要な「人間力」とは、知識・スキルとは何か、また、社会は今、何を求めているかなどを深く考えます。

■「自ら選択し、考え、行動し、やりきる」ための主体性を育み、そしてチームでディスカッションを重ね、多様性が重視される現代社会で活躍するための、自らの可能性の発見とコミュニケーション力を身につけます。

【授業における到達目標】

■常に産業界の動向に注視し、社会が求める人材について深く学ぶとともに、実際の社会人からの講話なども通じ、できる限りリアリティの感じられる授業内容を通じ、社会人基礎力の養成に繋げる。

■学部学科を横断した学生が、幅広い社会や企業について講義や実際の課題解決のワークショップを経験することで、多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を身につけることなどでディプロマ・ポリシーの達成を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（講義説明・プログラム・自己紹介）
- 第2週 時代背景と女性の働き方の変遷
- 第3週 働くということとは
- 第4週 女性とキャリア形成
- 第5週 業種・企業・職種・仕事を知る
- 第6週 企業の見方・選び方
- 第7週 就活への準備と心得
- 第8週 自分を知る・自分を伝える
- 第9週 社会人から学ぶ「社会で必要な力」（フィールドワーク）
- 第10週 社会人基礎力から学ぶ適性診断（アセスメント）
- 第11週 コミュニケーション力の強化（ワークショップ）
- 第12週 「今、社会が求める人材とは」（外部講師）
- 第13週 キャリアを描く・10年後の姿を描く
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 講座のまとめと総括

【事前・事後学修】

事前学修：翌週への研究課題を提示します。（学修時間週2時間）

事後学修：キャリアプラン策定への各人の参考ポイントを整理する（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取組姿勢・態度・感想文・小レポートなど） 70点

レポート 30点

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manabaアンケートにて総括的なフィードバックを行ないます。

授業に遅刻・欠席しない覚悟で臨む学生の履修を期待します。

【参考書】

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」（かんき出版 2014年）

【注意事項】

○小テスト・小レポートも適宜実施します。

○グループワーク・ディスカッションなど参加型の授業とします。

○ゲストスピーカーも招聘し、リアリティのある授業とします。

【選考方法】4月1日（月）から教務課窓口でエントリーシートを配布します。履修希望者は、あらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出し、選考を受けてください。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に自動登録されます。

※詳細は教務課掲示板にて確認すること。

募集人数は40名です。

キャリアプロジェクト

－希望のキャリアを実現するために－

板倉 文彦・大島 雅浩

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

自分の希望するキャリアを歩むためには、まずはそれが実現可能な組織（企業・官公庁等）に入ることがその第一歩となります。

この科目ではそのために、社会人に向けての心構えから、就職活動において取り組むべき内容にどう対処していくかまでを実践的に学びます。これらの取り組みを通して希望の進路に近づくことで、将来的に社会で活躍できる人材となるためのスキルを身に付けていきます。

■この講義では、個人・グループワークを行います。自分の将来を考え、積極的に講義に参加する姿勢を求めます。

■本講義と就職活動の基礎を学ぶ「オープン講座⑤」を受講することで、就職対策を万全なものにすることができます。

■希望に合わせてクラス分けを行います（注意事項参照）。

- ・金融・大手企業志望クラス
- ・一般企業志望クラス

【授業における到達目標】

社会において現状を正しく把握し課題発見できる「行動力」と、知を探究し学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、社会人に向けての準備
- 第2週 経験者から学ぶ（外部講師）
- 第3週 企業・官公庁を知る
- 第4週 企業研究1（企業概要調査）
- 第5週 企業研究2（調査結果発表）
- 第6週 企業へのPRを学ぶ1（エントリーシート）
- 第7週 企業へのPRを学ぶ2（履歴書を作成する）
- 第8週 企業へのPRを学ぶ3（履歴書を仕上げる）
- 第9週 企業とのコミュニケーション1（基本）
- 第10週 企業とのコミュニケーション2（面接を通した自己PR）
- 第11週 企業とのコミュニケーション3（面接演習）
- 第12週 企業とのコミュニケーション4（グループワーク）
- 第13週 キャリアプランの作成
- 第14週 企業へのPRの実践
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修：自身が就職活動することを想定し、講義で想定される内容を自身の希望に合わせて考えてみる（週1時間以上）

・事後学修：講義で得た内容を、自分の活動に反映することをイメージして復習する（週1時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：成果物（課題等の提出物）60%、平常点（授業への積極参加、授業態度）40%

提出課題についてはその後の授業でフィードバックを行う。

【注意事項】

■履修希望者は、4月初旬から教務課にて配付されるエントリーシートを期日までに提出してください。

「金融・大手志望クラス」を希望する場合のみ、エントリーシートの提出に加え面接を行い選考します。

選考結果は4月上旬に掲示および Web 履修に登録する形で発表します。

キャリア英語 a

英文メールを和訳し、英語で返事を書こう

飯泉 恵美子

1・2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

前期のキャリア英語 a と後期のキャリア英語 b を通じて、グローバル化する社会に対応できる幅広い英語コミュニケーション能力の習得を目指します。

日々の生活や就職活動、会社内では、メールがあたりまえのように使用されています。この講座では、英語のメールを正しい日本語に訳し、返事を英語で書くことを通じて、状況に応じた英文和訳と英文ライティングの技法を学びます。メールを英語で書きたいと考えている学生や、就職後に英語のスキルをキャリアパスの一環として活用したいと考えている学生を歓迎します。この講座では、オンライン辞書や翻訳サイトの使い方のほか、正しい英文入力の方法も学習します。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「国際的視野」のうち、多様性を受容し、多角的視点を以って世界に望む態度を培うとともに、学修成果を実感して、自信を創出することができる「研鑽力」を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 オンライン辞書と翻訳サイトの利用方法
正しい英文入力の方法
- 第3週 Unit 1 自己紹介する
- 第4週 Unit 2 依頼する
- 第5週 Unit 3 アドバイスを求める
- 第6週 Unit 4 アドバイスや提案をする
- 第7週 Unit 1～4のLet's Writeのグループワーク
- 第8週 Unit 1～4の確認テストとタイピングテスト
- 第9週 Unit 5 約束する
- 第10週 Unit 6 謝罪する
- 第11週 Unit 7 予約する
- 第12週 Unit 8 苦情を述べる
- 第13週 Unit 5～8のLet's Writeのグループワーク
- 第14週 Unit 5～8のLet's Writeの確認テストとタイピングテスト
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

毎回の授業範囲について予習し、manabaから予習レポートを提出してください。グループワークの準備、英文タイピングの練習に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

講義を受けた後、提出した予習レポートに必要な修正を加えて完成させ、manabaから復習レポートを提出してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

Write Me Back Soon! [株式会社金星堂、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出（60%）、確認テスト（28%）、グループワーク（12%）。確認テストは次回授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

- ・受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ・初回講義を欠席しないようにしてください。
- ・このクラスを受講するにあたっては、高校までの基本的な文法を習得できていることを条件とします。
- ・積み上げ式の学習内容です。欠席した場合の遅れは各自で必ず補ってください。

キャリア英語 b

ビジネスで使われる英語を学ぼう

飯泉 恵美子

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

前期のキャリア英語 a と後期のキャリア英語 b を通じて、グローバル化する社会に対応できる幅広い英語コミュニケーション能力の習得を目指します。

日々の生活や就職活動、会社内では、メールがあたりまえのように使用されています。この講座では、英語のメールを正しい日本語に訳し、返事を英語で書くことを通じて、状況に応じた英文和訳と英文ライティングの技法を前半で学びます。後半では、学んだ内容をもとに、グループワークとプレゼンテーションを行い、学修内容をさらに深めます。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「国際的視野」のうち、多様性を受容し、多角的視点を以って世界に望む態度を培い、学修成果を実感して、自信を創出することができる「研鑽力」を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 9 招待する
- 第3週 Unit 10 道案内する
- 第4週 Unit 11 リマインダーを送る
- 第5週 Unit 12 誘いを断る
- 第6週 Unit 9～12のLet's Writeのグループワーク
- 第7週 Unit 9～12の確認テスト
- 第8週 グループワーク（作成）
- 第9週 グループワーク（完成）
- 第10週 グループワーク（発表）
- 第11週 プレゼンテーション（解説）
- 第12週 プレゼンテーション（プランニング）
- 第13週 プレゼンテーション（作成）
- 第14週 プレゼンテーション（完成・試演指導）
- 第15週 プレゼンテーション（発表）

【事前・事後学修】

【事前学修】

毎回の授業範囲について予習し、manabaから予習レポートを提出してください。グループワーク、プレゼンテーションの準備に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

講義を受けた後、提出した予習レポートに必要な修正を加えて完成させ、manabaから復習レポートを提出してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

Write Me Back Soon! [株式会社金星堂、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出（50%）、確認テスト（15%）、グループワーク（15%）、プレゼンテーション（20%）

【注意事項】

- ・受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ・初回講義を欠席しないようにしてください。
- ・このクラスを受講するにあたっては、高校までの基本的な文法を習得できていることを条件とします。
- ・積み上げ式の学習内容です。欠席した場合の遅れは各自で必ず補ってください。

キャリア開発実践論

リーダーシップとファシリテーションを学ぶ夏季集中講座

深澤 晶久・植野 誠之

3年 集後 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

(詳細は別途ご案内いたします。原則、全員が宿泊となります。)
○履修者については、1人20,000円(プラス消費税)程度の自己負担が発生します。外部施設(クロスウェーブ府中)での宿泊代、食事代の実費です。

【選考方法】4月1日(月)から教務課窓口にてエントリーシートを配布いたします。後日、面談を行います。選考結果は4月上旬に掲示およびWeb履修に登録する形で発表いたします。

【授業のテーマ】

社会が求める力とは何か、企業研修レベルの内容で、

◆「今の社会を知る」

～ダイバーシティとインクルージョンについて学ぶ～

◆社会人基礎力の中でも、とりわけ今、社会が求めている

「リーダーシップ」と「ファシリテーション」について学ぶ

ことを軸に、夏期休業期間中に2泊3日で外部研修施設を利用した集中講座形式で実施する授業です。4年生の参加も歓迎します。

【授業における到達目標】

◆企業研修レベルの内容で、「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶことで、今、社会で必要とされる力、すなわち社会人基礎力が養成されます。

◆また、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせた時、研鑽力、行動力、協働力の3つの能力が磨かれることを到達目標とします。

【授業の内容】

学外研修(第1週から第14週分)

1日目

■オリエンテーション(講座の進め方、講師紹介、自己紹介など)

■リーダーシップ講座

- ・社会人による基調講演「現代社会とリーダーシップ」
- ・リーダーシップの理論
- ・リーダーシップワークショップ

2日目

■ファシリテーション講座

- ・外部講師による基調講演「今、なぜファシリテーションか」
- ・ファシリテーションの理論
- ・ケーススタディから学ぶファシリテーション技術

3日目

■講座まとめ

第15週 講座全体のまとめ

※第1週から第14週分は、夏期休業中に外部研修施設で行います。

第15週は、渋谷キャンパスにて行います。

※夏期集中講座という特殊な形での授業となります。主体性を持って講座を履修する学生の参加を期待しています。

【事前・事後学修】

■夏期集中講座に向けて、リーダーシップならびにファシリテーションについての課題図書を読み、受講に向けてのプラン作成を行なう事前学修があります。

■事後学修は、夏期集中講座受講後、学内外において講座で学んだことを実際に活用し、レポートを作成いただきます。

■事前・事後、それぞれ約28時間程度の学修時間となります。

【テキスト・教材】

テキスト・教材は、夏期集中講座前に配布いたします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(講座における取組み姿勢、講座後の取組み内容など) 70%

レポート 30%

講座において課せられた課題に取り組み、第15週の講座のまとめにおいて振り返るとともに、個別のフィードバックを行ないます。

【参考書】

岩田松雄著「MISSION 元スターバックスCEOが教える働く理由」
(アスコム 2012年)

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」(かんき出版 2014年)

【注意事項】

○少人数制(渋谷・日野キャンパス合わせて20名程度)です。

○集中講座実施日は、2019年9月8日からの2泊3日となります。

キャリア実践演習

信頼される“できる”新入社員になるために

栗原 栄美

4年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

社会では、みなさんがどんなに「やる気」や「能力」を持っていても、それをアピールするコミュニケーション能力やマナー（態度等）を知らなければ、みなさんの想いを伝えることができず、仕事で成果を十分に発揮することはできません。

この講座では、入社後、即戦力として活躍してもらうために、そして自分らしく幸せなキャリアを築くために、社会に出た際に必要な常識・情報・知識・スキルを学びます。

【授業における到達目標】

- ① 会社・組織・役割について理解する
 - ② 社会人として評価されるビジネスマナーを学ぶ
 - ③ 働く人のための労働法規のポイントを理解する
- 以上により、社会で必要な「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（この講義の目的は？）
- 第2週 会社を知ろうⅠ（役割から組織について）
- 第3週 会社を知ろうⅡ（経営から利益について）
- 第4週 ビジネスマナーⅠ（オフィスの基本マナー）
- 第5週 ビジネスマナーⅡ（敬語の知識）
- 第6週 ビジネスマナーⅢ（電話・来客応対、名刺交換等の知識）
- 第7週 ビジネスマナーⅣ（ビジネス文書の知識）
- 第8週 働く人のための労働法Ⅰ（労働契約等）
- 第9週 働く人のための労働法Ⅱ（労働時間等）
- 第10週 働く人のための労働法Ⅲ（給料・手当等の基礎知識等）
- 第11週 働く人のための労働法Ⅳ（妊娠・出産・育児等）
- 第12週 働く人のための労働法Ⅴ（職場のパワハラ・セクハラ等）
- 第13週 上手に働く人になるためにⅠ（長く安定して働く）
- 第14週 上手に働く人になるためにⅡ（オフィスの人間関係）
- 第15週 上手に働く人になるためにⅢ（ストレスとの付き合い方）

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業内容を踏まえ、事前に関連するテーマを新聞等により、情報収集しておいてください。＜学修時間 週2時間＞

【事後学修】社会に出た際に役立つように授業内容を復習し、整理・理解に努め、自らの知識としてください。＜学修時間 週2時間＞

【テキスト・教材】

特にありません。授業前にレジュメを配布致します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー）30%、小テスト30%、レポート40%の割合を基準として総合的に評価します。リアクションペーパー等のフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜指示します。

【注意事項】

この講座は社会人として、実践上求められるスキルを学び、習得することを目的としています。このスキルは、企業が学生に求めているものであり、その有無を把握するためにエントリーシートを提出させ、面接を実施しているのです。就職先が決まっている人にも、就活中の人にも役立つものと確信しています。

自分らしいキャリアを築くためにも、信頼され得る社会人として、今から身につけておきたいこと、知っておきたいことをさまざまな角度から紹介していきます。

新入社員でも一目おかれる社会人になりましょう。

キャリア心理学

塚原 拓馬

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

キャリア心理学の理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに理論を踏まえた上でキャリア形成支援のありかたについて具体的に事例を交えて深く学ぶ。キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的姿勢を理解し、必要とされる場面において適切にクライアントの支援ができる力を理論的、技能的にも身に付けることを目的とする。また自身の「キャリア設計」につなげていくことも目標とする。

【授業における到達目標】

- ・キャリア形成支援のありかた及び自身のキャリア設計について修得する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キャリア心理学の理論
- 第3回 キャリア心理学の実践
- 第4回 キャリア発達論
- 第5回 職業選択と適性
- 第6回 人間行動の理解
- 第7回 前半まとめ（特別講座）
- 第8回 前半の課題と解説
- 第9回 自己コントロール
- 第10回 自己肯定感
- 第11回 社会的学習理論・意思決定論
- 第12回 組織内キャリア発達
- 第13回 キャリアカウンセリングとメンタルケア
- 第14回 キャリア設計
- 第15回 後半まとめ（特別講座）

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。心理学の基礎的な事項を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

石橋里美 2016 『キャリア開発の産業・組織心理学ワークブック ナカニシヤ出版』 ¥2500（税別）

必要に応じてレジメを配布する。初回授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前半試験（20%）および期末試験（80%）により評価する。小テストや課題は次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

宮城まり子 2002 『キャリアカウンセリング』 駿河台出版社 ¥1700（税別）

【注意事項】

外部講師により特別講座を行う予定である。

キリスト教概論b

キリスト教の歴史

小林 真知子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

キリスト教の歴史的展開を学ぶ。聖書に基づく神観・人間観・世界観がどのように理解され、解釈され、表現され、歴史的現実を動かしてきたのか。時代の制約と特質を考察しつつ、現代に至るまでのキリスト教共同体の成り立ち、価値観、思想的影響と文明の形成を辿る。

【授業における到達目標】

普遍的価値と歴史的相対性、啓示と理性、摂理と歴史意識、愛における自由、歴史を動かす存在の力などについての思考を練磨し、共同体の形成の本質を探る。重層的な歴史の諸相の多様な状況下で愛と信仰により生かされてきた人々の足跡を辿りながら、国際的視野を広げ、現代世界との対話を可能とする。

【授業の内容】

- I キリスト教の形成
 - 1 ヘブライズムとヘレニズム
 - 2 原始キリスト教共同体の形成
- II ヨーロッパ中世の形成
 - 1 中世の世界像
 - 2 スコラ哲学：アウグスティヌスとトマス・アクィナス
 - 3 ピュシスとノモス：アッシジのフランシスコ
 - 4 普遍論争と近代的思惟の萌芽
- III 近代市民社会の形成とキリスト教
 - 1 宗教改革 ルターとカルヴァン
 - 2 大航海時代 日本とキリスト教との出会い
 - 3 啓蒙思想 近代市民社会とキリスト教
 - 4 ロマン主義思潮とシュライエルマッハー
 - 5 普遍的統合の試み
- IV 現代とキリスト教
 - 1 自由主義キリスト教
 - 2 実存を問う信仰のあり方
 - 3 正統信仰への回帰と霊的な渴望
 - 4 平和への願い、多元的世界における諸宗教との対話

【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、自ら問いをたててみる。

(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、文献表を参考に関連書籍を読み、自らの立脚点を探りながら研究課題を整理する。

(週3時間程度)

【テキスト・教材】

授業資料、補助資料、データベース

manaba コースに掲載。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「授業の積極的参加」20%

「自己理解度を確認する小テスト」40%

Manabaの小テスト参加によりフィードバックを行う。

「期末課題レポートの提出」40%

(フィードバックは行わない)

【参考書】

The Pelican History of the Church

Vol.1, Henry Chadwick The Early Church

Vol.2, Western Society and the Church in the Middle Ages

Vol.3, The Reformation

Vol.4, The Church & the Age of Reason 1648-1789

Vol.5, The Church in the Age of Revolution

Vol.6, A History of Christian Missions

グレートブックスセミナー1

より良き社会を築くための知的な基盤

犬塚 潤一郎・須賀 由紀子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

皆さんの未来ではきっと、今とは違う社会になっているでしょう。その社会の一員となる皆さんには、それが今よりもより良きものとなるように学んでゆく責任があります。

プラトン、アリストテレス、セネカ、アウグスティヌス、トマス、パスカル、スピノザ……。古典を学ぶことは、人間にとって本当に大切なこと、自分が目指すべき社会のあり方について考えるための、具体的な手立てを与えてくれます。

グレートブックスセミナーは、古代から今日までの哲学者の思想に触れ、自分で思索し、そして議論することを楽しむ場です。読み、考え、語り合うことを通じて、社会で必要となる教養と批判的な思考能力を身につけましょう。

【授業における到達目標】

物事を理解し考えを深めるための基本的な概念を自分のものとし、論理的に考え、伝えることのできる能力を身につけます。今日のグローバル化した社会で大切にされる、知的基盤の形成を目的とします。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づく本質を見抜く力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：
- 第2週 テキスト討議：古代1 プラトン
- 第3週 テキスト討議：古代2 アリストテレス1
- 第4週 テキスト討議：古代3 アリストテレス2
- 第5週 テキスト討議：中世1 アウグスティヌス
- 第6週 テキスト討議：中世2 トマス1
- 第7週 テキスト討議：中世3 トマス2
- 第8週 テキスト討議：近代1 ペーコン
- 第9週 テキスト討議：近代2 ホッブス
- 第10週 テキスト討議：近代3 ロック
- 第11週 テキスト討議：近代4 モンテスキュー
- 第12週 テキスト討議：近代5 ルソー
- 第13週 テキスト討議：近代6 カント
- 第14週 テキスト討議：近代7 ヘーゲル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、テキストごとに、担当者がテキスト解釈を行い、他のメンバーがそれについて討議するセミナー形式で授業を進めます。

事前：各テキストは少量ですが、関連情報を含め、講義前までに充分読み込んでください。テキストの読み方が身につけられるように進めます。（学修時間 週2時間）

事後：討論を経た結果として理解したことを小論としてまとめてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

the Great Booksから抜粋したテキストと日本語訳のテキストを事前に配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前事後学習の内容を記述したノートを提出 60%、授業中の発表内容 20%、期末の小論文 20%。

発表内容については授業中、課題論文については次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示。

グレートブックスセミナー2 a

社会を基礎付けている世界観・人間観を考え直すこと

犬塚 潤一郎

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

科学技術が発達し、経済が拡大した現代社会。その限界が問われ、新しい社会づくりが目指されています。そのためには、問題の本質がどこにあり、これから何に取り組んでゆくべきなのか、根本から考え直す必要があるでしょう。

グローバル化した現代の産業や社会制度、生活の仕組みなどの基盤にあるものの考え方は、17世紀以降の西欧近代思想によって形成されてきたといわれます。新たな世界観・人間観を必要とする今日、西欧近代思想のテキストを読みながら、現代の社会や人間のあり方について考えてゆきましょう。

【授業における到達目標】

西洋近代社会の基礎となる概念を理解する。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき本質を見抜く力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：
- 第2週 テキスト討議： デカルト
- 第3週 テキスト討議： パスカル
- 第4週 テキスト討議： スピノザ
- 第5週 テキスト討議： ライブニッツ
- 第6週 テキスト討議： アダム・スミス
- 第7週 テキスト討議： マルサス
- 第8週 テキスト討議： ヘーゲル
- 第9週 テキスト討議： ミル
- 第10週 テキスト討議： ダーウィン
- 第11週 テキスト討議： トルストイ
- 第12週 テキスト討議： ニーチェ
- 第13週 テキスト討議： トインビー
- 第14週 テキスト討議： サルトル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、テキストごとに、担当者がテキスト解釈を行い、他のメンバーがそれについて討議するセミナー形式で授業を進めます。

事前：各テキストは少量ですが、関連情報を含め、講義前までに充分読み込んでください。テキストの読み方が身につけられるように進めます。（学修時間 週2時間）

事後：討論を経た結果として理解したことを小論としてまとめてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

the Great Booksから抜粋したテキストと日本語訳のテキストを事前に配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の討議・発表等アクティビティ70%、期末の小論文30%。

課題レポートについては、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示。

グレートブックスセミナー 2 b

須賀 由紀子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

1年次に学んだグレートブックスセミナーの手法を用い、古典の言葉に触れて、ことの本質を考えたり、社会を見つめるまなざしを豊かにしていきます。長い時を経て今日に伝えられている言葉を丁寧に読み込み、そこに言われていることの本質は何かを問いかけます。そして、言葉の多義的な意味世界を探索することを通して、多面的に発想する力を養います。また、自分の意見を発表したり、自分と異なる考えに耳を傾けて、場で作り上げていく知の空間を楽しみましょう。取り上げるテーマは、現代を豊かに生きる上で柱に置きたいもの（愛と美、幸福、自然、自由など）から選びます。西洋の古典書（グレートブックス）を柱としながら、日本の古典文学も対比的に取り入れ、より自分の生き方の問題に身近に感じられるようにしたいと考えています。大きな思想の体系の中に、「現在のわたし」を位置づけられるように取り組みます。

【授業における到達目標】

- ・本質から物事をとらえ、現代の暮らしや社会について考える姿勢が身につく。
- ・テキストの言葉に基づきながら、自分の考えを発表し、多様な価値観を持つ人々との相互理解を深め、新たな知を創造しようとする態度が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のねらい）
- 第2週 古典ギリシアの劇詩
- 第3週 ギリシア古典期1：プラトン
- 第4週 ギリシア古典期2：アリストテレス
- 第5週 ヘレニズム期：実践哲学と宗教哲学
- 第6週 聖書の文学的世界
- 第7週 中世教父の時代
- 第8週 中世最大の哲学・トマスの神学
- 第9週 ヒューマンイズムの時代の幕開け
- 第10週 ヒューマンイズムの文学
- 第11週 近代の思想から
- 第12週 日本の古典1：神話の世界
- 第13週 日本の古典2：歌謡の世界
- 第14週 詩歌の言葉の東西比較
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前にテキストをしっかりと読み、テキストの著者の意見を把握します。著者に関する関連情報も調べます。発表者は、発表レジメを用意します。（学修時間 週2.5時間）

【事後学修】その日の授業のまとめノートを作ります。（学修時間 週1.5時間）

【テキスト・教材】

the Great Booksから抜粋したテキストをもとに、日本語訳のテキストを、受講者でつくります。詳しくは、授業で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）30%、発表内容40%、期末のレポート30%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

グローバル・アートスタディズ a

絵巻を読み、表現する

中村 ひの

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

詞書と絵で構成され、物語を可視化する絵巻は、縦に対して横が極端に長い巻子の画面を生かし、日本独自の展開をした作品形態です。絵巻の構成要素である詞書と絵は展開をわかりやすく示すに留まらず、相互に補完することで、物語世界をより豊かにしています。この授業では、「変体かな」を学び、実際に詞書を読んでみるなどを通じて、絵巻作品を理解することを試みます。

絵巻の代表的な作品を取り上げ、「内容」と「文字」に親しみむことを目的とするとともに、その魅力を他の人に伝えるための手段として、特に英語によって日本美術を説明することや、情報の提供の仕方を実践から考えます。

【授業における到達目標】

- ・変体かなと日本美術に関する学習を通じ、日本の文化・精神を知流とともに、それを世界に発信しようとする「国際的視野」を高める
- ・絵巻の詞書を読むことを通じ、学生が習得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知ること、生涯にわたり知を探索し学問を続けることができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODククション 絵巻物とは 成り立ちと作品形態
 第2週 インTRODククション2 絵巻を説明してみる① 英語による情報提供とその検索
 第3週 絵巻を読む 長谷雄草紙①
 第4週 絵巻を読む 長谷雄草紙②
 第5週 絵巻を読む 長谷雄草紙③
 第6週 絵巻を読む 長谷雄草紙④
 第7週 絵巻を読む 長谷雄草紙⑤
 第8週 長谷雄草紙のまとめ 内容解釈
 第9週 絵巻を説明してみる② 絵巻の情報とアーカイブ
 第10週 絵巻を読む 化物草子①
 第11週 絵巻を読む 化物草子②
 第12週 絵巻を読む 化物草子④
 第13週 絵巻を説明してみる③「化物草子」の情報を確認する
 第14週 習熟状況についての確認
 第15週 まとめ 詞書から絵巻について考える

【事前・事後学修】

《事前学修》授業で取り扱う作品の基礎的な情報を知ることができる文献等を読み、内容や図版を確認する（学修時間 週2時間）。
 《事後学修》くずし字を復習し、自身で楷書してみる、変体仮名を読んでみるなどして覚える。課題が出る場合もある（学修時間 週2時間目安。課題内容によって変動あり）。

【テキスト・教材】

児玉幸多編「くずし字解説辞典 普及版」（株式会社東京堂出版、1970年）税込2376円 など。他、適宜授業内で案内する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験結果50%、出席点20%、平常点（授業への積極参加と、課題提出状況）30%
 提出課題は次ないし次々週で内容についてのフィードバックを行う。

【参考書】

小松茂美編『日本絵巻大成』各巻（中央公論社、1979—1979年）など

グローバル・アートスタディズ b

オルセー美術館の作品を読む

五十嵐 ジャンヌ

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

オルセー美術館と所蔵作品に関するテキストをもとに、19世紀フランスの美術史、社会、歴史、都市文化を学びます。フランス語初級文法を学びながら、フランス語文献を読むための基礎の習得を目指します。

【授業における到達目標】

フランス語の基本的な文法を修得することができます。辞書を使えば、フランス語文献を理解することができるようになります。外国語を読むという実感を通して、自信を創出することができます。フランス語文献の講読という実践を通して、国外の人々の考え方を理解することで、国際的視野を養うことができるようになります。フランス語圏の美術館で作品のキャプションや簡単な解説パネルを読むことができるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODククション（発音と基本）
 第2週 第1課文法（名詞・形容詞の性と数 不定冠詞と定冠詞 直説法現在形）
 第3週 第2課文法（第1群規則動詞の直説法現在形 否定文 疑問文 前置詞と定冠詞の縮約 基数形容詞）
 第4週 第2課テキスト「ヨンキント」講読
 第5週 第3課文法（不規則動詞の直説法現在形 所有形容詞 指示形容詞 命令形 感嘆文 主語代名詞on 形容詞tout）
 第6週 第3課テキスト「シスレー」講読
 第7週 第4課文法（不規則動詞の直説法現在形 近接未来 近接過去 部分冠詞 人称代名詞強勢形 非人称構文）
 第8週 第4課テキスト「アングル」講読
 第9週 中間テスト、まとめ、発音応用編
 第10週 第5課文法（不規則動詞の直説法現在形 形容詞と副詞の比較級・最上級 関係代名詞 強調構文）
 第11週 第5課テキスト「ルノワール」講読
 第12週 第6課文法（第2群規則動詞と不規則動詞の直説法現在形 疑問形容詞 疑問代名詞 序数形容詞）
 第13週 第6課テキスト「セザンヌ」講読
 第14週 講評
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

テキストの予習を前提とします。
 【事前学修】テキスト内の単語を調べてください。毎回、授業ははじめに行われる小テストに向けて、動詞の活用などを暗記してきてください。（学修時間 週2時間）
 【事後学修】小テストの復習、新たに学んだ文法を復習、テキスト講読の予習をしておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

中山真彦：オルセー美術館にて一初級フランス語総合教本[朝日出版社、2003、¥2,500(税抜)、※1978年の改版以降に出版されたものであれば可]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業への積極参加、予習、復習、宿題）30%で評価します。第9週目に、第4課までに学ぶ文法の間テストを行います。小テストや中間テスト採点后、テスト用紙を返却し、復習に役立ちます。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

テキスト講読を中心にします。

グローバル・アートスタディズ c

はじめてのイタリア語

久保寺 紀江

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

イタリア語を初めて学ぶ方を対象とした授業です。イタリア美術を深く知るためには、イタリア語の文献を読み、理解するということが不可欠です。この授業ではその大きな目的への第一歩として、会話や文献読解の基礎となる文法を楽しく学びましょう。イタリアには、魅力的な美術作品や世界遺産が豊かにあり、その文化に直接触れるため旅する機会も多いことでしょう。レオナルド・ダ・ヴィンチの残した言葉やミケランジェロの手紙をイタリア語で味わい、イタリア美術とそれを生み出した国を本当に深く理解できる日を目指して、イタリア語をはじめませんか。ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマなどの町や文化の様子も適宜画像で紹介します。イタリアの言語だけではなく、文化や生活など様々な側面を知ることによって、総合的な生きた言葉としてのイタリア語習得をめざしましょう。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき国際的視野において、国際感覚を身に着ける一助となる、イタリア語の基礎的語学力を修得し、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する力を身に着けることができる。

【授業の内容】

- 1 インTRODククション、イタリア語の特徴
- 2 アルファベットと発音の基本
- 3 ミラノ（1）ユースホステルで：あいさつ「こんにちは」、essereとavere「私は日本人です」
- 4 疑問文「君は～ですか?」、否定文「～ではありません」
- 5 ミラノ（2）ミラノを散歩：冠詞、「～がある／いる」
- 6 avereを使ったいろいろな表現「おなかがすきました」
- 7 ヴェネツィア（1）パルで：規則動詞
- 8 基本的な前置詞「マリアはローマに住んでいます」
- 9 ヴェネツィア（2）ヴェネツィアングラスのお店で：冠詞前置詞、形容詞
- 10 所有形容詞「私の本」、指示詞questoとquello
- 11 フィレンツェ（1）トラットリアで：従属動詞「ワインリストを見られますか?」
- 12 直接目的語代名詞「それをいただきます」
- 13 フィレンツェ（2）美術館：不規則動詞「～へ行きます」
- 14 間接目的語代名詞、動詞piacere「私は～が好き」
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回教科書付属のCDを聞いて、発音練習を繰り返し行ってください。（学修時間：週2時間）

事後学修：その回で学んだ文法、特に動詞の活用などを復習し、習得する練習をしてください。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

中矢慎子・入江たまよ：私のイタリアーLamia italiaー 改定新版（CD付）[朝日出版社、2016、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験25%、ミニ・レポート25%、授業内で行う練習課題と実践50% 課題の実践後、授業内でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

授業を補足するため、日本語訳や解説をプリントで配布します。

【注意事項】

イタリア語が少しできるだけで、イタリアを旅することが格段に楽しく豊かになります。文法を中心に授業は進められますが、文法がわかるとイタリア語は楽しい、心からそう感じられるような授業をめざします。また、内容や授業を進めるスピードは受講者の理解度や興味によって変更となることがあります。

グローバル・アートスタディズ d

文献史料を通して見る中国の歴史と文化

新井 崇之

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

この授業は、中国の文献史料（漢文などの歴史的な文書のこと）の基本的な読解方法を学び、中国の歴史や文化について理解を深めることを目的とします。また、授業中に現代中国語を取り上げ、簡単な会話や文章の読解方法についても学びます。

【授業における到達目標】

中国の文献史料は、漢文が基本となります。そこでこの授業では、主に漢文の文法構造や語句の調べ方を把握し、基本的な書き下しと日本語訳をできるようにします。さらに、現代中国語に関する基礎を学び、簡単な会話や、研究を進める上での文章の読解方法を修得します。以上、中国の文献史料の読解を通じて、研鑽力を養うとともに、東アジアという視点から日本を見つめる国際的視野を身につけます。

【授業の内容】

1. Introduction 授業の概要について
2. 史料読解の基礎① 漢文の基本構造と語意の調べ方
3. 史料読解の基礎② 書き下しと現代日本語訳の方法
4. 正史を読む① 正史二十四書について
5. 正史を読む② 四字熟語のもとになった故事
6. 唐詩を読む① 唐詩の概要
7. 唐詩を読む② 唐詩から見る唐代の文化
8. 茶書を読む① 中国の喫茶方法
9. 茶書を読む② 中国と日本の茶書に見る喫茶方法の違い
10. 美術鑑賞書を読む① 文人文化と工芸品
11. 美術鑑賞書を読む② 『長物志』に見る鑑賞の方法
12. 中国語のキャプションを読む
13. 中国語の図録を読む①
14. 中国語の図録を読む②
15. 授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回授業の最後に、次週の授業で読む文献史料に関する宿題を出します。（学修時間 週3時間）

事後学修：毎回提出して頂いた宿題を添削するので、その内容を再確認してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

毎回の授業では、担当教員が準備するパワーポイントとプリントを使用します。

文献史料を読解する際、使用する漢和辞典は、2017年に改訂された『角川 新字源』（角川書店、定価3000円）をおすすめします。加えて、現代中国語を読むための辞書があると、さらに良いです（電子辞書でも可）。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（宿題・授業への積極的な参加）70%。文献史料を読解するためには、事前に辞書を引くことが重要です。また、授業中にどの読み方が妥当か討論したいと思います。そこで本授業では、事前に課す宿題と、授業への積極的な参加を重視します。

期末レポート30%。本授業ではテストを行わず、学期末にレポートを1回課します。なお期末レポートの内容については、最終授業の際にフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【注意事項】

漢文や中国語の読解というと、難しく感じる人が多いと思いますが、ですが本授業では、前提知識を問わず、基本的な内容から講義します。漢字に苦手意識のある学生でも積極的に受講してください。

グローバル・アートスタディズ e

芸術論を読む

横山 奈那

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

20世紀アメリカで刊行された芸術に関する二つのテキスト、David Finn, How to Look at Everything (New York: Abrams, 2000)ならびにAlfred H. Barr Jr, Cubism and Abstract Art (New York: Museum of Modern Art, 1936)の一節を英語で精読することにより、本授業では芸術に関する基礎知識の修得、国際的視野の獲得、語学力の向上、文献を読解する能力の養成、研鑽力の育成を目指す。

授業は担当者によるプレゼンテーション（発表）形式で行う。発表担当者は、事前に作成した該当箇所の訳文・要約と関連事項の調査結果を報告する。発表後は出席者全員で内容について話し合う。

【授業における到達目標】

- ・英語の文献を読み解くことができるようになる。
- ・芸術の文献を読むために必要な専門用語や基礎知識が身につく。
- ・米国の理論を学ぶことで、芸術に関する国際的視野を持つことができるようになる。
- ・文献を様々な角度から検討することによって研鑽力を育てる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 講読① How to Look at Everything (Part 1) 第1-2段落
 第3週 講読② 同上、第3-4段落
 第4週 講読③ 同上、第5-6段落・まとめ
 第5週 講読④ How to Look at Everything (Part 2) 第1-2段落
 第6週 講読⑤ 同上、第3-4段落
 第7週 講読⑥ 同上、第5-7段落
 第8週 講読⑦ 同上、第8-10段落・まとめ
 第9週 講読⑧ Cubism and Abstract Art, 導入
 第10週 講読⑨ 同上、The early twentieth century
 第11週 講読⑩ 同上、'Abstract'
 第12週 講読⑪ 同上、Dialectic of abstract art
 第13週 講読⑫ 同上、Two main traditions of Abstract Art
 第14週 講読⑬ 同上、まとめ
 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】発表、レポート等の課題に取り組むこと。発表担当者は、訳文と段落の要約を記したレジュメを作成すること。また、関連事項（登場する芸術作品や芸術家等）についても図書館の文献を用いて調べること。担当者以外も単語や文法を精査し、内容の理解に努め、疑問点を挙げておくこと。（学修時間 週3時間）

【事後学修】授業で扱った内容、専門用語等を復習し、担当箇所以外の段落の要約を作成すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（発表とレジュメの内容、授業への貢献度）40%、平常点（課題の提出）30%、レポート30%

発表とレジュメの内容は発表時に口頭で、課題・レポートはmanabaを通じてフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

発表担当者以外も必ず予習したうえで授業に臨むこと。授業の進度や受講者の要望により、内容が変更になる場合がある。授業内での積極的な発言を歓迎する。発表の担当になっている日にやむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡し、発表分のレジュメをあらかじめ提出すること。授業には辞書（電子辞書可）を持参することが望ましい。

グローバル・アートスタディズ f

やさしい論文で学ぶレポート・論文の作成技術

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

大学の授業で提出するレポートや卒業論文は、どのような順序で何を準備すればよいのでしょうか。また大学教員はレポートや論文のどの点をどう評価するのでしょうか。この授業では、論文を早く正確に読む技術や、レポート・論文の作法に従って書く技術を身につけます。そのために必要となるのが、論理的に考え表現するスキルです。授業では、短い段落を書く練習からはじめます。慣れてきたら自らテーマを発見し、集めた情報を整理しながら、レポート・論文の中心となる論点を考えます。

自分の考えを明確に表現することは、ゼミでの口頭発表や就職活動にも役立ちます。協働学習によって、多様な価値観を身につけます。同時に、自ら考え、課題を発見し解決へと導くことができる行動力を修得します。

【授業における到達目標】

- ・レポート・論文の形式や構成を知り、問いが立てられる。
- ・論点を絞り、根拠を示し、事実と意見を区別し表現できる。
- ・パラグラフの構造を理解し、中心文と支持文を書くことができる。
- ・レポート・論文にふさわしい定型表現で書くことができる。
- ・引用や参考文献表記の規則に従い、作成することができる。
- ・提出前に推敲し文章を修正するなど、自己点検ができる。

【授業の内容】

- 第1週 アカデミックリテラシーとは何か、論文の構成
 第2週 思考の言語表現、brainstorming、口頭発表との比較
 第3週 パラグラフ・ライティングの方法論
 第4週 論文の定型表現、論理的文章と日米の作文比較
 第5週 執筆計画、問いの発見、主張の明確化
 第6週 主題の決定、funnel methodによる論点の設定
 第7週 アウトラインの組み立て、フォー・スクエア・ライティング・メソッド、インバーテッド・トライアングル・メソッド、アウトラインの検討
 第8週 論点の確認、序論・結論の執筆、情報の検索
 第9週 論文の定型表現、文献内容の要約、情報の取捨選択
 第10週 モデル論文の分析、本論の執筆、事実と意見の区別
 第11週 章立てと小見出し、文献表記ルール
 第12週 剽窃を防ぐ引用の方法、推敲と修正
 第13週 論文の評価観点とルーブリック、日本語表記のルール
 第14週 学習の振り返り、自己点検、教師の評価観点
 第15週 完成レポートのフィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業で扱う論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で配付した資料は、ノートと合わせて必ず見直し、授業内容を反芻しながら要点を整理してください。読解の要約やパラフレーズ、ライティングの課題は、必ず提出日までに準備してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、グループワーク、話し合いへの参加等）50%、提出物（クイズ、課題等）30%、期末レポート20%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【注意事項】

アクティブ・ラーニング授業のため、参加姿勢を重視します。

グローバル・キャリアデザイン

21世紀のグローバル社会で活躍する女性を目指して

深澤 晶久

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

◆この講座では、レクチャー形式ではなく、グループワークを基本とした参加型の講座を目指します。

◆40名程度のクラスで展開します。

◆学生が自ら主体的に創る授業を目指しますので、授業に遅刻・欠席しない覚悟で臨んで下さい。

【授業のテーマ】

■この講座では、「キャリアデザイン」を発展させ、グローバル化が一層加速する21世紀の日本社会で、実践女子大学の卒業生らしく働くための具体的なヒントを提示するとともに、国際社会で必要とされる「主体性」について共に学んで行くことをテーマとします。

■就職活動のテクニックやスキルを身につけるための講座ではありませんが、キャリアセンターとも連携して、就職活動に活きる内容を構築いたします。

■この講座を終えたときには、働くことにワクワク感を覚え、21世紀の社会を生き抜くための強さとしなやかさ、そして知性がさらに磨かれていることを目標とします。主体的な学生の受講を期待しています。

【授業における到達目標】

■産業界で求められている人材像を意識し、とりわけ加速度的にニーズの高まる女性として必要なキャリア意識を身につけると共に、数々の社会人のレクチャーから多様な働き方を理解し、社会人として活躍できる素養を養成します。

■ディプロマ・ポリシーに照らし合わせると、まさに「国際的視野」を兼ね備える態度を有し、同時にゲストスピーカーから社会で働くことの本質、即ち学修を通して自己成長する力を身につけ、数多く実施するワークショップなどを通じて、相互を活かして自らの役割を果たす力を養成することを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（講座説明、自己紹介等）
- 第2週 キャリアデザインの基礎
- 第3週 グローバル社会に求められる力とは
- 第4週 グローバル化が進む社会の理解とキャリア形成
- 第5週 企業人から学ぶコミュニケーション力（ワークショップ）
- 第6週 コミュニケーショントレーニング（グループワーク）
- 第7週 企業人から学ぶリーダーシップ（ワークショップ）
- 第8週 リーダーシップトレーニング（グループワーク）
- 第9週 先輩社員から学ぶ国際社会で必要な力
- 第10週 キャリアデザインを創る（自分史作り）
- 第11週 キャリアデザインを創る（キャリア戦略シート）
- 第12週 就職活動に向けての準備と心構え
- 第13週 先輩講話（就職活動を終えた先輩からの講話）
- 第14週 レポート作成
- 第15週 講座のまとめと総括

【事前・事後学修】

◆新聞やビジネス誌を読むなど、特に企業活動のグローバル化や女性の雇用に関する記事に着目して下さい。

◆また、授業外の時間などを使って、社会人との交流セッションなど、社会とのつながりを意識したカリキュラムを計画します。積極的に参加出来ることが望ましいと考えます。（詳細は、授業開始時のオリエンテーションでご案内します。）

事前・事後それぞれ週2時間の学修時間とします。

【テキスト・教材】

テキスト・教材は適宜配布します。

教材費として、1,000円程度の負担が発生します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取組姿勢・感想文・小レポートなど）70%

レポート 30%

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manabaアンケートにて総括的なフィードバックを行ないます。

また、授業への出席を重視いたします。

【参考書】

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」（かんき出版 2014年）

【注意事項】

グローバル・スタディーズ

国際ビジネスと法

神山 静香

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

国境を越えてビジネスを展開する企業が直面する問題を実際の事例の分析を通じて法的側面から考察します。企業組織や経営、商取引、契約交渉、紛争解決など、ビジネスに関わる法律やルールについて基本的な知識を修得するとともに、ビジネスの世界で大きな影響力をもつアメリカの法律についても知識を修得します。グローバル化が急速に進展する現代のビジネス社会で求められるビジネスセンスや「説得の技術」と言われる法律を学ぶことで交渉力や論理的な思考力などを養い、様々なビジネスの舞台で活躍するための素養を身につけることを目的とします。

【授業における到達目標】

現代のビジネスの潮流を理解すること及び会社法や証券法、国際取引法など、国際ビジネスに関わる法律やルールについて基本的な知識を修得することを目的とします。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 インTROダクシヨN 講義の目的と概要
- 第2週 国際取引
- 第3週 国際的なM&A（合併・買収）
- 第4週 国際的な事業提携
- 第5週 契約交渉と法的リスク
- 第6週 国際ビジネスと紛争
- 第7週 国際ビジネスに関わるトピックス（1）：
コーポレートガバナンスの国際比較
- 第8週 国際ビジネスに関わるトピックス（2）：
企業の社会的責任（CSR）・社会的企業
- 第9週 国際ビジネスに関わるトピックス（3）：紛争鉦物規制
- 第10週 国際ビジネスに関わるトピックス（4）：
新興国ビジネスと海外腐敗行為防止法
- 第11週 アメリカ商事判例の検討（1）会社法：取締役・取締役会
- 第12週 アメリカ商事判例の検討（2）会社法：経営支配権の争奪
- 第13週 アメリカ商事判例の検討（3）会社法：M&A・企業結合
- 第14週 アメリカ商事判例の検討（4）証券法：証券詐欺訴訟
- 第15週 講義の総括

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネットなどで情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください（学修時間 週2時間）。

【事後学修】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのかを理解するようにしてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト・教材については授業開始後、指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末試験（60%）に基づいて評価します。
小テストは次回授業でフィードバックします。

【参考書】

授業開始後に適宜、紹介します。

【注意事項】

学生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画で示したテーマや順序が変更されることがあります。

グローバル社会

映像で読み解く日本及び国際社会

行実 洋一

2・3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

現代のグローバル化した社会において、インターネットやテレビ、映画などのメディア・コンテンツを使って行われるコミュニケーションには、様々な文化的コンテキストのもとに語られる意識的・無意識的なメッセージや解釈コードが存在しますが、時としてそうしたものはなかなか気づかれません。

そこで本授業では、グローバル社会の現状とからめつつ、具体的な事例を使いながら、そうした「映像やコンテンツを読み解く」作業を通じて、現代社会の諸相を掘り下げていきます。

題材としては、西欧社会の特徴を色濃く反映したハリウッド作品やディズニーアニメ、日本の歴史や文化、風土のコンテキストを踏まえた上で初めて理解できる宮崎アニメなども取り上げる予定です。

【授業における到達目標】

このような作業を通じて、将来のコミュニケーションのスペシャリスト（クリエイター、ジャーナリスト、企業広報・宣伝担当、プレス、通訳、作家、ジャーナリスト、アナウンサーなど）を志す人のみならず、グローバル化した時代における社会人・生活者として豊かな文化的素養をつちかい、「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 グローバル社会とは何か
- 第3週 グローバル社会とメディア
- 第4週 テレビの文化的コンテキスト
- 第5週 映画の文化的コンテキスト
- 第6週 ネットの文化的コンテキスト
- 第7週 映像を読み解く～アメリカ社会と文化
- 第8週 映像を読み解く～ヨーロッパ社会と文化
- 第9週 映像を読み解く～日本社会と文化
- 第10週 映像を読み解く～IT社会における文化
- 第11週 映像を読み解く～欧米社会における女性
- 第12週 映像を読み解く～日本社会における女性
- 第13週 グローバリズムと人権
- 第14週 グローバリズムと環境社会
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- <事前学修>授業で対象とする映画や番組、映像等を指示するので、可能な限り事前に見ておいて下さい。（学修時間 週120分）
- <事後学修>講義で教えられた内容についてインターネットや書籍を通じて、さらに理解を深めてください。（学修時間 週120分）

【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末課題70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。
期末課題等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業内容に応じて参考資料（図書・DVD等）を適宜指定します。

コーチング論

森 理宇子

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

『コーチングの基本』（日本実業出版社 2009年）

【注意事項】

グループワークやディスカッションを重視する授業であるため、積極的な参加が必要です。

【授業のテーマ】

環境変化の激しい現代社会においては、前例や既存の方法だけにとられず、自ら主体的に考え、行動できる自律した人材が求められています。こうした人材の育成は、従来の画一的な育成手法や管理手法では困難です。最近では、個人の主体性を引き出す育成手法としてコーチングが注目されています。コーチングは、企業やマネジメントの領域だけでなく、スポーツの領域でも話題になっています。本講義では、これまでのわが国の人材育成のあり方を振り返ることからスタートし、コーチングの概念、他手法との違いを概説し、具体的なコーチング・スキルを詳しく解説し、グループワークを通じて理解を深めます。

授業中に具体的事例に基づくロールプレイングやケース・スタディを行います。これらを通じて、コーチング理論の習得だけでなく、基礎的なコーチング・スキルを身につけることができます。

【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①人材育成の多様な方法と特徴について理解する。
- ②コーチングの基本的な概念や機能、原則を理解する。
- ③コーチングの基礎的なスキルを理解し、実践できる。
- ④コーチとしての倫理や求められる能力を理解する。
- ⑤コーチングが活用される領域とそれぞれの特徴を理解する。

以上を通じて、学生が修得すべき「協働力」のうち互いを尊重し信頼を醸成する力を身につけ、人間関係の構築能力を高めます。

【授業の内容】

- 第1週 人材開発の体系、方法および課題
- 第2週 コーチングの定義および背景理論
- 第3週 コーチングのスキル、マインド、プロセス
- 第4週 コーチングの基本スキル①（傾聴）
- 第5週 コーチングの基本スキル②（質問）
- 第6週 コーチングの基本スキル③（承認）
- 第7週 コーチングのモデル①（GROW、行動コーチング）
- 第8週 コーチングのモデル②（解決焦点化コーチング）
- 第9週 コーチのコア・コンピタンス
- 第10週 コーチングのケース・スタディ
- 第11週 コーチング実践の振り返り
- 第12週 セルフコーチング
- 第13週 ビジネス現場におけるコーチング
- 第14週 メンタリングとコーチング
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定されたレポート・発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容・配布プリント・レポート課題等を復習すること。次回の授業内容を予習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験70%、リアクション・ペーパー・課題レポート30%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出後2週間以内に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

- ジョセフ・オコナー、アンドレア・ラゲス著（杉井要一郎訳）『コーチングのすべて』（英治出版 2012年）
- スティーブン・パーマー、アリソン・ワイブラウ編著（堀正監修・監訳）『コーチング心理学ハンドブック』（金子書房 2011年）
- コーチ・エイ著 鈴木義幸監修 『この1冊ですべてわかる コーチングの基本』（日本実業出版社 2009年）

コミュニケーションと心理

—対人関係とコミュニケーション—

大塚 みさ

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

- ・TBL (Team-Based Learningチーム基盤型学習法) を取り入れた授業を行います。チーム (グループ) 活動への積極的な参加を期待します。事前・事後学修課題への取り組みを前提にしていますので、きちんと準備してきてください。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。

【授業のテーマ】

初対面の相手と会話するとき、あなたはどのようなことに注意しますか。その相手と親しくなるのにはどのような段階があるでしょうか。SNSによるやりとりは対面型のコミュニケーションとどのような相違があるでしょうか。また、ほめられたのに複雑な気持ちになったり、意図が正しく伝わらずにもやもやしたり、いらいらしたりするのはなぜなのでしょう。

この授業では、人と人とのコミュニケーションにおけることばの計り知れない役割を探ります。日頃は「ことば」に重点を置いて学ぶ機会の多いみなさんですが、「こころ」に関する研究成果についても積極的に学び、さらに視野を広げていきましょう。

授業にはリアルタイムアンケート・システムresponを活用して、活発な意見交換の場を多数設けます。他の学生の意見から大いに刺激を受けて、さらに自分の考えを深めてほしいと願っています。

【授業における到達目標】

- ・日本人のコミュニケーションスタイルの特徴を学び、それを異文化の視点から観察することによって「国際的視野」を養います。
- ・周囲のコミュニケーション事例の考察を通して、他者とのよりよい関係を築く姿勢を培う「美の探究」ができるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション・チーム編成・チーム作り
- 第2週 会話の成立と推論
- 第3週 誤解を招く広告
- 第4週 相手への気配り1 ポライトネス理論と「顔」の概念
- 第5週 相手への気配り2 敬語とポライトネス理論
- 第5週 相手への気配り2 感謝・謝罪・ねぎらい
- 第6週 初対面会話での注意点
- 第7週 親しさのコミュニケーションとその原則
- 第8週 自分への気配り1 自己開示と自己呈示
- 第9週 自分への気配り2 SNSと自己開示・自己呈示
- 第10週 自分への気配り3 自己卑下の特徴
- 第11週 自分への気配り4 ほめとその応答
- 第12週 言語的な攻撃—その機能と反応
- 第13週 間接的な攻撃—皮肉
- 第14週 誤解と透明性錯覚
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定された部分を読むこと。その他教員の指示した課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】テキストの再読、プリントおよび授業で実施したrespon課題の振り返りによって学びを深めること。さらに授業内容を発展させる課題 (manaba、responで出題) に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

岡本真一郎：言語の社会心理学[中公新書、2013、¥950(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験…40%、確認テスト…40%、事後学修課題・授業への積極的参加…20%

- ・「確認テスト」の出題範囲はその前回授業時に出された事後学修、事前学修課題です。
- ・確認テストは授業内で、期末試験は、授業最終回または後日フィードバックを行います。respon課題は翌週授業時に、manaba課題は後日個別にフィードバックを行います。

【参考書】

岡本真一郎『ことばの社会心理学 第4版』

(ナカニシヤ出版 2010年) 3,348円

その他、授業内で單元ごとに紹介します。

【注意事項】

コミュニケーション英語 e

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The aim of this course is for students to improve their English skills, especially speaking and listening. Students will also develop their discussion abilities and become more confident English speakers.

【授業における到達目標】

Each theme will present students with the opportunity to reflect on, discuss, and share their views with others. Students will learn to support their opinions and develop their critical thinking skills. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

【授業の内容】

Week 1 - Introduction
 Week 2 - Cosmetic surgery
 Week 3 - Expressing opinions
 Week 4 - Household rules
 Week 5 - Analyzing problems
 Week 6 - Fashion
 Week 7 - Expressing preferences
 Week 8 - Preparing a presentation
 Week 9 - Presentations
 Week 10 - Parasite singles
 Week 11 - Giving advice
 Week 12 - Foreigners in Japan
 Week 13 - Japanese culture
 Week 14 - In-class proof
 Week 15 - Feedback

【事前・事後学修】

Read the assigned story and listen to it before class on the self-study CD. (4 hours per week on average)

【テキスト・教材】

Richard R Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka: Impact Issues 3 [Pearson Longman, 2011, ¥3,316 (税抜)、※図書館に配架]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quizzes 40%
 Presentations 40%
 Participation 20%
 Feedbacks will be provided in every class as needed.

【参考書】

Students must have an English-Japanese dictionary.

【注意事項】

Students need a B5 notebook.

コミュニケーション英語 f

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

This course will develop students' language proficiency particularly in speaking and listening. Students will also learn the skills required to lead and fully participate in group discussions.

【授業における到達目標】

Students will discuss social issues relevant to their own lives. They will have many opportunities to discuss with their partner, in a group, and with the teacher. Students will have some input into class content and will be encouraged to take responsibility for their own learning. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

【授業の内容】

Week 1 - Course introduction
 Week 2 - Workplace relationships
 Week 3 - Preparing an article for discussion
 Week 4 - Career choices
 Week 5 - Preparing for a job interview
 Week 6 - Presentations
 Week 7 - Women in society
 Week 8 - Societal roles
 Week 9 - Dating
 Week 10 - Family relationships
 Week 11 - Presentations (preparation)
 Week 12 - Presentations (activities)
 Week 13 - Tourism in Japan
 Week 14 - In-class proof
 Week 15 - Feedback

【事前・事後学修】

Read a short article related to the theme and study new vocabulary. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

Materials will be supplied.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Presentations 40%
 Quizzes 40%
 Participation 20%
 Feedback will be provided in class as needed.

【参考書】

Students must have an English-Japanese dictionary.

【注意事項】

Students need a B5 notebook and a clear plastic folder.

コミュニケーション英語 g

Advanced English for Communication

パーティウム, ディヴィッド

3年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

【授業のテーマ】

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

【授業における到達目標】

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

【授業の内容】

1st week Family
2nd week Food
3rd week Time
4th week House
5th week Music
6th week Transportation
7th week Sports
8th week Numbers
9th week Best Friends
10th week TV
11th week Work
12th week Vacation
13th week School
14th week Movies
15th week Money

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

David Martin: Topic Talk, 2nd ed. [EFL Press, 2000、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their classes will fail.

コミュニケーション英語h

Advanced English for Communication

パーティウム, ディヴィッド

3年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

【授業のテーマ】

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

【授業における到達目標】

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

【授業の内容】

1st week Restaurants
 2nd week Animals
 3rd week Shopping
 4th week Health
 5th week Fashion
 6th week Travel
 7th week Books, Magazines and Newspapers
 8th week Sickness
 9th week Holidays
 10th week Fears
 11th week Dating
 12th week Marriage
 13th week Beliefs
 14th week Crime
 15th week Opinions

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

David Martin: Topic Talk, 2nd ed. [EFL Press, 2000、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their classes will fail.

コミュニケーション概論

高木 裕子

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

」20%、③期末課題レポート40%。①と②については終了後もしくは次週にフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

授業で学んだことはできるだけ実践、応用をしてみてください。

【授業のテーマ】

コミュニケーションは人間の営みには欠かせません。加速化する情報社会とグローバル化によって、必要性を感じない日はないでしょう。では、なぜ今、コミュニケーションが問われるのでしょうか。また、人はなぜ、コミュニケーションという行為を行うのでしょうか。そこに実体はあるのでしょうか。

人がその肉体に備わった諸器官と機能を最大に使って、人間同士がやり取りを行うのがコミュニケーションです。そして、そこに生きているのが私たち、人間です。人はコミュニケーションという手段や技能を使って、何かを行い、ある目標を達成し、夢や希望すらも手に入れようとします。無意識のうちに、人が人に伝えようとするものは、コミュニケーションという手段のうち、言語化される言葉や仕草、動作の中にそっと含められたり、隠されたりします。

本授業では、この日常的なもの、でも、よくわからないコミュニケーションというものを易しく学びながら、日常で疑問に思っているコミュニケーションでの問題を解決していきます。また、人が求める効果的なコミュニケーションのあり方について考えていきます。

【授業における到達目標】

人が行うコミュニケーション機能や目的、これに付随した社会現象や事象、効果的なあり方について体系的に学びながら、そこで必要な知識や行動力の基礎となるコミュニケーション能力を身に付けさせます。日常的に感じている「コミュニケーション」での問題を解決するためのヒントも、効果的なコミュニケーション技術や態度と共に、研鑽的に学んでいってください。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

あなたのコミュニケーション力は？

第2週 コミュニケーションとは何か？

第3週 コミュニケーションでは何が問題になるのか、何が関係するのか

第4週 人間のコミュニケーションと人間間のコミュニケーション

第5週 人間関係とコミュニケーション

第6週 まとめクイズと「やってみましょう！」&フィードバック

第7週 人間の諸器官と機能、そして、コミュニケーション

第8週 非言語コミュニケーション

第9週 脳と発達、そして、言語コミュニケーション

第10週 言語化の意味と能力

第11週 伝達と表象

第12週 機器の介在と言語化伝達の難しさ

第13週 脳内コミュニケーション

第14週 身近なコミュニケーション技術を付けてみよう！

第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活に潜むコミュニケーションでの問題や現象が分析的に考えられるようにするためにレポートを課します。授業内容や専門的知識は、実際場面や体験に置き換えることで、その原因や関わりも考えられるでしょう。単なる感想や印象での内容にならないように、深い理解と洞察力が持てるようにします（週3時間）。

【事後学修】小課題等として、授業内容のまとめや振り返りレポートを課します（週1時間）。

【テキスト・教材】

テキスト『Active Listening』『Communication 大学生に求められるコミュニケーション力』（高木版）と、授業用ハンドアウト、及び、資料は、こちらで準備します。授業で紹介した本は必ず目を通しておき、指定の本は手元におくようにしてください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

①小課題・小テスト40%、②ロールプレイ等での「やってみよう！

コミュニケーション特論

高木 裕子

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

コミュニケーションは、人にとって、いつ、いかなる時でも必要不可欠で、人間である限り、このコミュニケーションを取らずして、人間とは言えないとまで言われます。また、今日では、その人となりの基本(規範)行動も、このコミュニケーションのあり方によっており、それを操作することが、ビジネスにも繋がると考えられてもいます。

今期は、この「コミュニケーション」を、まずは次の4点から考えてみます。(1)「コミュニケーション」とは何かを、実体(概念)から総合的に捉え直してみる。(2)多様に定義され、規定概念化されている「コミュニケーション」を、専門化・細分化されている、各分野や各領域での扱いから考えてみる。また、そこでは何が問題なのかを整理してみる。(3)現代社会が抱える諸問題を解決し、それに対処する能力として、どうして「コミュニケーション」が求められるのか。その能力はどう規定でき、どう活用できるのかを、事例をもって考える。(4)社会生活において、他者とのコミュニケーションは欠かせないが、多くの学問領域にわたるコミュニケーションは、実践や実体を対象化し、言語に置き換えてこそ初めて実感できるものでもある。では、それはそのような事象で、どう認識できるのか。

以上を踏まえ、この「コミュニケーション」を総括的に「コミュニケーション学」として捉え直す中で、それぞれが研究テーマとし、また、研究課題とするものに即し、研究して行きます。

【授業における到達目標】

日常生活の中で頻繁に耳にし、多種多様に使われる「コミュニケーション」を人はあまり意識して考えたことはありません。本授業では、各専門分野や学問領域によっても定義が様々な「コミュニケーション」を総体的かつ総括的に「コミュニケーション学」として捉え直す中で、専門的に学んでいきます。ここでの学びを通じ、来る時代に向け、世界で起こる諸問題に対する解決方法や社会技術論として、また、企業内組織や地域社会で活用できる応用論として、この「コミュニケーション」が使えるように学んでいきます。

【授業の内容】

- 第1週 本能としてのコミュニケーション力と人間のコミュニケーション
- 第2週 社会構造の複雑化と社会生活における他人コミュニケーションの必要性
- 第3週 人間のコミュニケーションと言語機能
- 第4週 人間のコミュニケーションと社会文化機能
- 第5週 人間のコミュニケーションとストラテジー戦略
- 第6週 コミュニケーション(学)と他者と取るコミュニケーション
- 第7週 人間のコミュニケーションと他者と取るコミュニケーション
- 第8週 伝達能力と仲間意識、コミュニケーション操作としてのマスコミとロコミ
- 第9週 コミュニケーション能力とは何か、技術としてのコミュニケーション力とは何か
- 第10週 コミュニケーションモデルとコミュニケーションスキル
- 第11週 コミュニケーションに係わる諸理論と周辺学際領域
- 第12週 コミュニケーション能力育成論と能力の定義
- 第13週 現代社会が抱える諸問題の解決や対処能力としてのコミュニケーション能力
- 第14週 コミュニケーション能力は付くのか、付けるのか
- 第15週 コミュニケーション能力は育成できるのか

【事前・事後学修】

【事前学修】コミュニケーションに係わる英文や邦文での文献は如何に関わらず事前に読んでおくこと。「英語が苦手」という者も英語で書かれた原文の読解は必読である。尚、今日、コミュニケーションに係わる問題や現象は数多く存在するが、それらに意識を向け、テーマ化するため、事前調査や事例分析は行う。(週2時間)

【事後学修】発表後のフィードバックを踏まえ、問題点や課題点を整理し、再度レポートして提出すること。(週2時間)

【テキスト・教材】

石井敏・久米昭元・遠山淳編著：異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイムを求めて[有斐閣、2001、※絶版のため配布資料として教員が準備]

末田清子・福田浩子：コミュニケーション学 その展望と視点増補版[松柏社、2011、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前調査・事例分析の提出30%、発表とディスカッション20%、中間課題レポート20%・期末課題レポート30%。フィードバックは授業内で毎回行う。

【参考書】

適宜授業で掲げる。

コミュニティ概論

須賀 由紀子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

現代は、生活の質を問う成熟型・環境親和型の暮らしが求められる時代です。その中で、少子高齢化という現実、日々の暮らしの営みを支える地域コミュニティの充実の課題を伴います。また、高度情報化は、思いがけないネットワークの可能性を開く一方、自分自身の確かな拠り所となるコミュニティを持つことの必要ももたらします。人と人、人と自然が意味ある関係性を結び合うコミュニティを、現代社会の特性の中で、どのように考え、どうデザインしていくか。その考え方の基礎を持つことは、これからの時代の暮らしに不可欠です。

この授業では、こうした問題意識を背景に、現代社会におけるコミュニティのあり方についての基本的な視点を学びます。人間存在や日本の文化風土の伝統といった本質からの見方を踏まえつつ、現代社会の特徴、今日の代表的なまちづくりの考え方や事例、企業の新しい取り組みなど、現代的潮流の中にそれを捉えます。

全体を通じて、人間とコミュニティの本質に根ざしながら、現代の社会課題に応じたコミュニティを構構できるようなことがこの授業の目標です。できるだけ、皆さんの身近な生活感覚の中で捉えられるようにすすめていきます。

【授業における到達目標】

- ・人間にとって、なぜコミュニティが大切なのかを説明できるようになる
- ・現代のまちづくり、地域づくりの考え方が説明できるようになる
- ・これから望まれるコミュニティのあり方をイメージすることができるようになる

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 「社会」を必要とする人間本性
3. 現代社会とコミュニティ
4. 日本型共同体の伝統と「懐かしい未来」
5. 「生活者」の視点からみたコミュニティ
6. スマートシティとコミュニティ
7. スローシティとコミュニティ
8. コミュニティデザインの時代
9. 地域資源を活かしたまちづくり
10. アートを活かしたまちづくり
11. テーマ・コミュニティ
12. 地域活性化と企業
13. コミュニティ・ビジネスについて
14. これからのコミュニティと社会構想
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示する課題に取り組みます。（学修時間 2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業内課題）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

広井良典『コミュニティを問い直す』（筑摩書房）、山崎亮『コミュニティデザインの時代』（中央公論新社）

コミュニティ経済演習

「個人」「地域」「世界」の視点から経済を考える

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：行動力

【授業のテーマ】

この授業ではケーススタディを通じて、地域コミュニティを支える「経済」が抱える課題への解決策について、「個人」「地域」「世界」の3つの視点から考え、自分の言葉で説明できるようになることを目的とします。

授業はグループワークとプレゼンテーション演習を繰り返し行い、情報の収集・分析、企画立案、プレゼンテーションなど、実社会で求められる能力の基礎を習得することを目指します。

【授業における到達目標】

- ①「個人」「地域」「世界」の3つの視点から、地域コミュニティの経済について自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
 - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「協働力」「行動力」を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性が働きやすい職場①（事例研究）
3. 女性が働きやすい職場②（関連情報の分析）
4. 女性が働きやすい職場③（企画の検討）
5. 女性が働きやすい職場④（プレゼンテーション）
6. これまでの演習の振り返り（情報分析、発表の技法）
7. 地域の活性化①（事例研究）
8. 地域の活性化②（関連情報の分析）
9. 地域の活性化③（企画の検討）
10. 地域の活性化④（プレゼンテーション）
11. グローバル化と地域経済①（事例研究）
12. グローバル化と地域経済②（関連情報の分析）
13. グローバル化と地域経済③（企画の検討）
14. グローバル化と地域経済④（プレゼンテーション）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※授業に必要な範囲で、フィールドスタディ等の課題を課すことがあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは、各テーマのプレゼンテーションの次の回に行います。

【参考書】

それぞれのケーススタディごとに、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

コミュニティ心理学

菅原 育子

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

私たちの暮らしは、家庭、学校、職場、居住地域など、様々な社会集団の中で営まれています。それらの社会集団の中で生じる様々な課題は、個人が解決すべき問題にみえて、実際には集団や社会の仕組みや決まりごとを理解し、それらに働きかけることが必要とされる場合が多く存在します。

コミュニティ心理学は、私たち一人ひとりがよりよく生きられる社会の実現を目指して、個人だけでなく、その人が所属する集団やコミュニティに関与し、当事者とともに課題を解決することを目指す実践的な取り組みです。この授業では、コミュニティ心理学の基本的な考え方を学ぶとともに、実際の学校、職場、地域社会などにおける課題解決の実践例を取り上げ、調べたり文献や資料を読み、受講者同士で議論します。実践例の検討をとおして、課題の分析の仕方や、解決のための様々な手法を学びます。

【授業における到達目標】

授業では、様々な立場や考えの人・機関と協力し、自分の役割を發揮しながらも課題解決をめざす協働の考えと実践例を学びます。授業内でチームを組んで、実施に課題解決策を作成し発表します。これらの学びと実践をとおして、自ら身の周りの課題を発見、分析し、仮説を持って課題解決に取り組む手法を身につけることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 コミュニティ心理学とは何か
- 第3週 コミュニティ心理学の基礎的な理論
- 第4週 予防・介入・コンサルテーション
- 第5週 事例を学ぶ（1）大学コミュニティの課題を解決する
- 第6週 ソーシャル・サポート、ソーシャル・ネットワーク
- 第7週 協働による援助
- 第8週 エンパワメント
- 第9週 コミュニティ感覚、コミュニティのウェルビーイング
- 第10週 個人のウェルビーイングと生活の質
- 第11週 事例を学ぶ（2）コミュニティ感覚・個人のウェルビーイングを高める
- 第12週 実践例を学ぶ（1）子育てをめぐる例
- 第13週 実践例を学ぶ（2）高齢者をめぐる例
- 第14週 実践例を学ぶ（3）働き方や職場をめぐる例
- 第15週 実践例を学ぶ（4）地域社会をめぐる例

【事前・事後学修】

毎回の授業前にテキストの該当するテーマについて熟読してください。（学修時間週2時間）

授業中に課題（小レポート）を出します。授業内容を復習するとともに、課題に取り組み提出日までにレポートを提出してください。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

植村勝彦・他（編著）『よくわかるコミュニティ心理学（第3版）』（ミネルヴァ書房、2017年）2,700円

上記テキスト以外に、プリントを適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加、課題の提出）60%、最終レポート40%により、総合的に評価します。授業中の課題、および最終レポートのフィードバックは、各提出締切り後の授業内で行います。

【参考書】

高島克子（著）『コミュニティ・アプローチ』（東京大学出版会、2011年）

【注意事項】

授業の中では受講者でグループを作り、グループ作業や討議、発表等を行います。これらの作業や発表への積極的な参加を望みます。

코리아語 1 a

朴 校熙

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

韓国語を初めて学ぶ人を対象に、文字と発音、あいさつ言葉と簡単な文型を学びます。

【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、韓国語についての概要
- 第2週 基本母音 1
- 第3週 基本子音 1
- 第4週 平音・激音・濃音
- 第5週 複合母音
- 第6週 終声子音 1（基本子音パッチム）
- 第7週 終声子音 2（二重パッチム）
- 第8週 辞書の調べ方、ハングル入力について
- 第9週 日本語のハングル表記
- 第10週 発音変化 1（有声音化、連音化、流音化、h弱化）
- 第11週 発音変化 2（濃音化、激音化、鼻音化）
- 第12週 韓国語の文章の読み方
- 第13週 ～は～です。／～は～ですか。
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜 共著：トライ韓国語 1 [白帝社、2011、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

募集人数は40名です。

코리아語 1 b

朴 校熙

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

코리아語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。

【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションおよび코리아語aの文法事項の復習
- 第2週 発音変化の総復習と韓国語文章の読みの練習
- 第3週 指示代名詞、疑問詞
- 第4週 指定詞の否定形
- 第5週 漢数字、年月日とお金の言い方
- 第6週 丁寧形（格式体）
- 第7週 基本動詞を用いた格式体文章の練習
- 第8週 固有数字、時間
- 第9週 基本形容詞を用いた格式体文章の練習
- 第10週 基本名詞を用いて「～に行きます。～で～をします。」文型の練習
- 第11週 動詞・形容詞・存在詞・指定詞の否定（格式体）
- 第12週 丁寧形（格式体）
- 第13週 用言語幹の活用形
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜 共著：トライ韓国語 1 [白帝社、2011、¥2,400(税抜)、ISBN：978-4-86398-041-9]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

코리아語1aを履修しておくことが望まれます。募集人数は40名です。

코리아語 2 a

朴 校熙

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

코리아語1a・bで既習した文法知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、코리아語a・bに比べて会話の練習と韓国文化の理解に重点を置きます。

【授業における到達目標】

日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行えます。

韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、1,000語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになります。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及び코리아語1a・bの文法事項の復習
- 第2週 名詞文 ～は～です。
- 第3週 指示詞、疑問詞、接続詞
- 第4週 助詞（列挙）、疑問詞、助詞「の」の省略
- 第5週 疑問詞、家族
- 第6週 存在詞
- 第7週 漢数字、助数詞
- 第8週 動詞の丁寧形
- 第9週 変則と動詞の否定
- 第10週 固有数詞、時刻、位置
- 第11週 動詞の過去形
- 第12週 動詞の過去形否定
- 第13週 変則と形容詞の否定
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

入佐信宏・金孝珍：これで話せる韓国語STEP 1 [白帝社、2015、¥2,300(税抜)、ISBN：978-4-86398-181-2C3087]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

코리아語1a・1bを履修しておくことが望まれます。
募集人数は40名です。

코리아語 2 a

高 恩淑

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、코리아語1a・bで学んだ基本文法を確かめながら、初級後半レベルから中級レベルまでの重要文法・文型を身に付け、読む、書く、聞く・話す能力を高めていく。

【授業における到達目標】

日常生活に活かせる基本会話能力を身につけることを目標とする。CEFR水準のA2レベルまでの上達を目指す。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及び코리아語の発音ルールの復習
- 第2週 코리아語の基本文法・文型の復習
- 第3週 理由を表す表現（～から／～ので）
- 第4週 逆接表現（～けど／～のに）
- 第5週 推測、意志、誘いなどを表す文末表現 I
- 第6週 推測、意志、誘いなどを表す文末表現 II
- 第7週 総合練習 I — 用言の活用について
- 第8週 先行動作（～して／～してから）
- 第9週 仮定条件（～したら／～すれば）
- 第10週 動作進行を表す形式（～ている）
- 第11週 完了を表す表現（～ている／～である）
- 第12週 可能・不可能の表現
- 第13週 敬語表現 I
- 第14週 敬語表現 II
- 第15週 総合練習 II（総まとめ）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

【事前・事後学修】

・코리아語1a・bを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

・新しい単語や表現などを調べておくこと
・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。
・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

【テキスト・教材】

新大久保学院：新装版 できる韓国語 初級 I [アスク、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題など）、定期試験 50%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

【注意事項】

- ・語学は繰り返しが大切なので、極力授業を休まないこと。
- ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。
- ・募集人数は40名です。

코리아語 2 b

朴 校熙

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

코리아2aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。そして韓国の文化への理解をもさらに深めていきます。

【授業における到達目標】

日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行えます。

韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、2,300語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになります。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及び코리아語文化aの文法事項の復習
- 第2週 形容詞の過去形、名詞文の否定
- 第3週 助詞（手段、道具）、引用、依頼、助詞の連続
- 第4週 上手、得意、不可能、苦手、禁止
- 第5週 意志、予定、丁寧形
- 第6週 意向を尋ねる
- 第7週 希望、願望、意志、約束
- 第8週 注文
- 第9週 確認や同意を求める、感嘆、予測
- 第10週 丁寧形（格式体の現在と過去）
- 第11週 可能、不可能
- 第12週 経験、予測
- 第13週 提案、感嘆
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

入佐信宏・金孝珍：これで話せる韓国語STEP 1 [白帝社、2015、¥2,300(税抜)、ISBN：978-4-86398-181-2C3087]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示します

【注意事項】

코리아語1a・1b、코리아語2aを履修しておくことが望まれます。募集人数は40名です。

코리아語 2 b

高 恩淑

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、코리아語2aで学んだ重要文法・文型を確かめながら、初中級文型の活用の練習、関連会話の練習を繰り返し、コミュニケーション能力を総合的に高める。

【授業における到達目標】

日常生活に活かせる基本会話能力を身につけることを目標とする。

「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA2レベルまで高めていく。卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養っていく。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及び코리아語2aの文法項目の復習
- 第2週 코리아語2aの重要文型の復習
- 第3週 用言の不規則活用（1）
- 第4週 用言の不規則活用（2）
- 第5週 意志を表す表現
- 第6週 断定を表す表現
- 第7週 総合練習Ⅰ－用言の活用について
- 第8週 勧誘を表す表現
- 第9週 推量を表す表現
- 第10週 相手の許可・許容を求める表現
- 第11週 総合練習Ⅱ－会話中心の総復習（聴解問題を解く）
- 第12週 動作進行と状態の持続を表す表現
- 第13週 動作の試み、動作完了を表す表現
- 第14週 初中級レベルにおける文末表現の総まとめ
- 第15週 総合練習Ⅲ－これまでの文法項目を使った会話練習

（学習した単語・フレーズを中心に）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

【事前・事後学修】

・코리아語2aを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

・新しい単語や表現などを調べておくこと
・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。
・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

【テキスト・教材】

新大久保学院：新装版 できる韓国語 初級 I [アスク、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題、など）、定期試験 50%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

【注意事項】

- ・語学は繰り返しが大切なので、極力授業を休まないこと。
- ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。
- ・募集人数は40名です。

コリア語 a

朴 校熙

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

韓国語を初めて学ぶ人を対象に、文字と発音、あいさつ言葉と簡単な文型を学びます。

【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。学生が修得すべき「国際的視野」を中心に、相互理解と協力を築こうとする態度を修得し、「研鑽力」を高めます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、韓国語についての概要
- 第2週 基本母音 1
- 第3週 基本子音 1
- 第4週 平音・激音・濃音
- 第5週 複合母音
- 第6週 終声子音 1（基本子音パッチム）
- 第7週 終声子音 2（二重パッチム）
- 第8週 辞書の調べ方、ハングル入力について
- 第9週 日本語のハングル表記
- 第10週 発音変化 1（有声音化、連音化、流音化、h弱化）
- 第11週 発音変化 2（濃音化、激音化、鼻音化）
- 第12週 韓国語の文章の読み方
- 第13週 ～は～です。／～は～ですか。
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

《事前学修》

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

《事後学修》

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜：トライ韓国語 1 [白帝社、2011、¥2,400(税抜)、ISBN：978-4-86398-041-9]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

募集人数は40名です。

コリア語 b

朴 校熙

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

コリア語aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。

【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。学生が修得すべき「国際的視野」を中心に、相互理解と協力を築こうとする態度を修得し、「研鑽力」を高めます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションおよびコリア語aの文法事項の復習
- 第2週 発音変化の総復習と韓国語文章の読みの練習
- 第3週 指示代名詞、疑問詞
- 第4週 指定詞の否定形
- 第5週 漢数字、年月日とお金の言い方
- 第6週 丁寧形（格式体）
- 第7週 基本動詞を用いた格式体文章の練習
- 第8週 固有数字、時間
- 第9週 基本形容詞を用いた格式体文章の練習
- 第10週 基本名詞を用いて「～に行きます。～で～をします。」文型の練習
- 第11週 動詞・形容詞・存在詞・指定詞の否定（格式体）
- 第12週 丁寧形（格式体）
- 第13週 用言語幹の活用形
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

《事前学修》

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

《事後学修》

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜：トライ韓国語 1 [白帝社、2011、¥2,400(税抜)、ISBN：978-4-86398-041-9]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

コリア語aを履修しておくことが望まれます。募集人数は40名です。

コリア語で学ぶコリア語 a

朴 校熙

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

韓国語を初めて学ぶ人を対象に、コリア語を教授言語として文字や簡単な会話を学びます。

【授業における到達目標】

ハングルの読み書きと日常会話に必要な簡単な表現をマスターすることができます。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、韓国語についての概要
- 第2週 基本母音 1
- 第3週 基本子音 1
- 第4週 平音・激音・濃音
- 第5週 複合母音
- 第6週 終声子音 1 (基本子音パッチム)
- 第7週 終声子音 2 (二重パッチム)
- 第8週 辞書の調べ方、ハングル入力について
- 第9週 日本語のハングル表記
- 第10週 発音変化 1 (有声音化、連音化、流音化、h弱化)
- 第11週 発音変化 2 (濃音化、激音化、鼻音化)
- 第12週 自己紹介
- 第13週 日常生活
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。(学修時間 週2時間)

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業中の発言、発表、課題) (20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

募集人数は40名です。

コリア語で学ぶコリア語 a

高 恩淑

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、直接法によって正確な発音を学び、韓国語の文字や音に慣れることを目指す(基本的にコリア語で指導する)。また、一般会話で最も頻繁に使われる基本文型を繰り返し練習することにより、コミュニケーションの基本である会話の基礎を固めていく。

【授業における到達目標】

コリア語を全く知らない初心者を対象とし、文字や基本文法に慣れることを目標とする。CEFR水準のA1レベルまでの上達を目指す。卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション及びハングルの構造
- 第2回 基本母音と基本子音
- 第3回 子音の激音と濃音
- 第4回 複合母音
- 第5回 パッチム
- 第6回 発音の変化
- 第7回 総合練習 I (発音変化の総復習)
- 第8回 自己紹介と分かち書き
- 第9回 体言の肯定形
- 第10回 体言の疑問形
- 第11回 体言の否定形
- 第12回 用言の肯定形
- 第13回 用言の疑問形
- 第14回 体言と用言の普通形と丁寧形
- 第15回 総合練習 II— 会話中心総合練習

(学習した単語・フレーズを中心に)

(以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある)

【事前・事後学修】

【事前学修】(学修時間 週1時間)

- ・新しい単語や表現などを調べておくこと
- ・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】(学修時間 週1時間)

- ・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。
- ・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

【テキスト・教材】

新大久保学院：新装版 できる韓国語 初級 I [アスク、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%(授業態度、質疑応答、小テスト、課題など)、定期試験 50%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

【注意事項】

- ・何より、授業への参加と授業態度を重視する。
- ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。
- ・募集人数は40名です。

ロシア語で学ぶロシア語 b

朴 校熙

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

ロシア語で学ぶロシア語aで既習した言語知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。

【授業における到達目標】

ロシア語による指示内容のある程度理解でき、買い物、日常生活、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言語を修得できます。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得します。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーションおよびロシア語で学ぶロシア語aの文法事項の復習

第2週 発音変化の総復習と韓国語文章の読みの練習

第3週 指示代名詞、疑問詞

第4週 指定詞の否定形

第5週 漢数字、年月日とお金の言い方

第6週 丁寧形（格式体）

第7週 基本動詞を用いた格式体文章の練習

第8週 固有数字、時間

第9週 基本形容詞を用いた格式体文章の練習

第10週 基本名詞を用いて「～に行きます。～で～をします。」

文型の練習

第11週 動詞・形容詞・存在詞・指定詞の否定（格式体）

第12週 丁寧形（非格式体）

第13週 用言語幹の活用形

第14週 総括

第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

ロシア語で学ぶロシア語 a を履修しておくことが望まれます。

募集人数は40名です。

ロシア語で学ぶロシア語 b

高 恩淑

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、前期と後期の授業を通し、ロシア語の文字と発音から始め、基本文法・文型を身に付け、ロシア語の全般的な能力（読み・書き・聞き・話す）を養う。特に、会話能力の向上を目指す（基本的にロシア語で指導する）。

【授業における到達目標】

ロシア語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、様々な場面における会話練習を通じ、コミュニケーション能力を総合的に高めることを目標とする。「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA1レベルまで高めていく。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

【授業の内容】

第1回 オリエンテーション及びロシア語aの文法事項の復習

第2回 発音変化の総復習と文章を読む練習

第3回 体言と用言の否定形

第4回 漢数詞（年月日とお金の言い方）

第5回 固有数詞（時間とお年の言い方）

第6回 助数詞

第7回 総合練習Ⅰ— 漢数詞と固有数詞の使い分け

第8回 体言のヨ体

第9回 用言のヨ体Ⅰ

第10回 用言のヨ体Ⅱ

第11回 総合練習Ⅰ— 体言と用言の文末活用について

第12回 体言の過去形

第13回 用言の過去形

第14回 体言と用言の過去否定形

第15回 総合練習Ⅱ— これまでの重要表現の総復習

（日常生活に役立つフレーズを中心に）
（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

【事前・事後学修】

・ロシア語1aを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

・新しい単語や表現などを調べておくこと

・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。

・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

【テキスト・教材】

新大久保学院：新装版 できる韓国語 初級Ⅰ [アスク、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題、など）、定期試験 50%で評価する。5回以上の欠席は、定期試験の結果が良くてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

【注意事項】

・何より、授業への参加と授業態度を重視する。

・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。

・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。

コンシェルジュ論

—コンシェルジュから学ぶホテルの仕事とホスピタリティー

池田 里香子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

おもてなしの代名詞となっている“コンシェルジュ”という言葉の原点である国際的な仕事の舞台、究極のサービス業と言われる職業の代表＝ホテルにて活躍する“コンシェルジュ”に焦点を当てホテルエとして必要な基礎知識、仕事について学びながら、ホテル業界のみならず、接客業・サービス業全般に欠かすことの出来ないホスピタリティについて講義する。

ホテルでの実例や映像も利用し現場の業務を詳しく説明していく。

その他、おもてなしに欠かせない自分自身を美しく輝かせる為の身だしなみ講座やマナー演習を行う。

【授業における到達目標】

コンシェルジュという職業を通し、人間関係の基礎となるマナーとコミュニケーション能力を学び身に付け実践できる様にする。海外からのお客さまへホスピタリティを提供する為の国際的視野を養い、自身の心と外見を磨き向上させる態度を身に付ける。お客さまからのリクエストに対し、「Noと言わない」為に必要な真摯な対応、諦めずに解決の糸口を探しだす研鑽力、行動力、他者との惜しみない協働力を修得する。

【この授業を履修して身に付く態度・能力】

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業の内容】

- 第1週 ホテルとは/コンシェルジュとは
- 第2週 ホテルの星による格付け/コンシェルジュの歴史と発展
- 第3週 客室のカテゴリー/コンシェルジュの規律、定義
- 第4週 ホテルアメニティとVIPゲストとは/コンシェルジュの哲学
- 第5週 コンシェルジュの外見・資質
- 第6週 コンシェルジュの知識・常識
- 第7週 ホテルの組織/コンシェルジュの組織とデスク
- 第8週 外部特別講師による「ホテルエに必要な身だしなみ講座」
- 第9週 コンシェルジュの業務・役割
- 第10週 ホテルの各部門の仕事/同僚、他部署、マネジメントとの関係、ホテル外の人脈
- 第11週 コンシェルジュとお客さまとの関係
- 第12週 コンシェルジュ演習（アクティブラーニング）
- 第13週 マナー演習、プロトコール（アクティブラーニング）
- 第14週 コンシェルジュの利点、一流のホスピタリティ
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の授業内容を、テキストの該当箇所ですり習しておくこと。提出と発表の課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間程度）

【事後学修】毎回配布する資料・プリントを読み復習しておくこと。（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

池田里香子著『お客さまが心を開く「おもてなしの鍵」』

（明日香出版社、2014年）1,620円

プリント『LE HALL～読み継がれるコンシェルジュの愛読書～』

（オータパブリケーションズ、2007年～2008年）

HOTERES連載よりを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：定期試験60%と平常点（授業態度、演習内での

表現力・積極性、提出課題）40%で総合的に判断する。

提出課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

池田里香子著『スイートルームに泊まる人のたった1つの習慣』

（あさ出版、2012年）1,512円

コンピュータとプログラミング演習

小山 裕司

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

コンピュータのソフトウェア（プログラム）の動作を表現するプログラミングを学びます。プログラミングからソフトウェアの動作及び表現を理解することで、コンピュータ等の各種情報機器の動きを学びます。

【授業における到達目標】

この科目では以下の事項を修得することを到達目標にします。

- ・プログラミング（プログラムの読み書き）
- ・プログラミング環境の操作
- ・プログラムの動作の理解
- ・IT関係の基礎知識

学生が修得すべき「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り学び続ける力と、「行動力」のうち問題を解決する力を修得します。

【授業の内容】

ほとんどの回でPCを使った演習があります。

- 第1回：講義の概要
- 第2回：プログラミング言語
- 第3回：プログラムの作成・実行
- 第4回：開発環境
- 第5回：データの型
- 第6回：変数
- 第7回：四則演算
- 第8回：文字列演算
- 第9回：比較演算
- 第10回：条件分岐
- 第11回：繰り返し
- 第12回：関数、再帰処理
- 第13回：自由課題
- 第14回：発表
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

（事前）各回の授業の内容を授業前に確認してください。（週1時間程度）

（事後）各回の授業の内容は次回までに復習してください。また、授業で取り扱った内容に関する課題を出しますので、次回までに組み込んでください。（週3時間程度）

【テキスト・教材】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40点、レポート及び小テスト60点を基本として総合的に評価します。レポート・小テストは当日あるいは次回授業で、試験結果は当日あるいは授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

【注意事項】

演習室のパソコン台数の制約から、受講人数は40名を限度とします。上限以上の受講希望者があった場合には、次の順序で履修者を決定します。

1. 教職課程の資格取得希望者
2. 上記を除く受講希望者の中から抽選により決定します。

コンピュータグラフィックス

CGソフトの体験

金井 宏水

1・2年 後期 1単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

社会生活をしていく上で、コンピュータとの関わりは欠かせない。特に社会で仕事をしていく中で必要性は言うまでもないが、ベーシックなエクセルやPPTに加え、AI、PSDなどのCG系の操作ができることはインセンティブとなり得る。この授業は、クリエイティブな想像力を掘り起こし、CGを活用したビジュアルライズ・テクニックを習得する。

【授業における到達目標】

この授業では、CGの基本と可能性を知り、AIとPSDを体験することでCGを身近に感じること、さらに興味を惹かれ専門領域への可能性をも考えるきっかけとなることを目標にする。ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

【授業の内容】

- 第1週：CGの可能性、さまざまなCGソフト
(PPTで動くカード、三次元体験)
- 第2週：フォトショップの基本操作-1
(1) 写真を補正する
(2) フィルタなどを体験
- 第3週：フォトショップの基本操作-2
(1) スキャンイラストへの色刺し
(2) テキスト機能で文字を打つ(変形や効果)
- 第4週：フォトショップの応用操作
(1) 写真を合成する(切り抜き、合成)
(2) マスク・さまざまな効果
- 第5週：フォトショップで自由課題制作
- 第6週：課題の完成と発表、評価
- 第7週：イラストレーターの基本操作-1
(1) 曲線や図形を描く・着色
(2) さまざまな変形加工など
- 第8週：イラストレーターの基本操作-2
(1) CAD機能で正確な作図
(2) 包装紙をデザインする
- 第9週：イラストレーターの応用操作-1
トレースでパス描画の練習
- 第10週：イラストレーターの応用操作-2
(1) 文字の編集と加工
(2) マーク&ロゴタイプを創る
- 第11週：複合課題「パッケージを創る」
(1) 制作説明と必要な操作手法の練習
(2) 文字関係を創る
- 第12週：(3) イメージビジュアルを創る
(4) レイアウトして完成
- 第13週：作品発表と評価
最終課題の説明・各種保存形式と配置手法
- 第14週：パワーポイントでプレゼン制作
- 第15週：作品完成・発表と評価

【事前・事後学修】

事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと。週 約90分
事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておく。学内や自宅のPCを使ってソフトの操作を練習しておく。週 約60分
課題制作が提出期限に間に合わない時は、時間外を活用して期限に間に合わせる。

【テキスト・教材】

テキストは無し。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ペーパーテストは行わない。

提出作品の評価・・・・・・・・・・70点

平常点(授業態度・取組み姿勢)・・・・30点

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点(提出後1週間以内)

【参考書】

これからはじめるPhotoshopの本

【注意事項】

受講人数制限30名(制限人数を超えた場合、抽選)

特に基本操作の週は休まないこと。

コンピュータ会計

—会計の知識と実務—

吉永 和弘

1・2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

別途指示します。

【注意事項】

授業内容の順序は、理解状況に応じて随時変更します。
 やむを得ず欠席したときは、テキスト該当ページの復習や質問により、次の週までに必ずフォローしてください。
 受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

【授業のテーマ】

社会にはさまざまな業種・業態の企業が存在しますが、どのような企業でも行う必要があるのが会計業務です。そして、現代の企業会計はコンピュータを活用して行われています。

一方で、専門知識を必要とする会計知識とコンピュータのスキルを合わせ持つ人材は希少であり、企業からの即戦力のニーズが極めて高いものとなっています。

本講義では、基礎的な会計知識を習得すると共に、コンピュータを活用した会計システムの全体像を理解した上で、より実務に近い形式での会計実務の習得を目指します。

【授業における到達目標】

日商簿記3級レベルの基礎的な簿記の技能修得

コンピュータを活用した会計システムの全体像の理解

上記目標を達成するための自己学習を通じた研鑽力および行動力の修得

【授業の内容】

第1週：基本概念

- 会計の諸概念
- 会計システムのフレームワーク

第2週：現金・預金

- 現預金の会計処理
- 当座預金出納帳

第3週：商品売買

- 仕入帳、売上帳、商品有高帳

第4週：売掛金と買掛金

- 売掛金と売掛金元帳
- 買掛金と買掛金元帳

第5週：その他債権債務

第6週：手形

- 受取手形記入帳と支払手形記入帳

第7週：貸倒損失と貸倒引当金

- 貸倒れの発生と見積り

第8週：売買目的有価証券

- 有価証券の取得・売却・評価

第9週：固定資産

- 固定資産の取得と売却
- 減価償却の計算

第10週：費用・収益

第11週：純資産（資本）と税金

第12週：決算

第13週：損益計算書

第14週：貸借対照表

第15週：財務諸表の作成：総復習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストを事前に熟読し、簿記処理の前提となる商取引のイメージを把握しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

演習問題を繰り返し解くことにより、仕訳形式、使用する勘定科目を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 10.0[TAC出版、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準は試験80%を基礎に毎回の課題提出20%を加味します。

試験結果は授業最終回で、毎回の課題は授業内でフィードバックを行います。

【参考書】

サブカルチャー論

楠見 清

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会における文化の位相をとらえるにあたり、伝統的な文化・芸術とは異なる若者文化や消費文化動向に目を向け、その発生過程や役割を考察します。サブカルチャーは、文学、音楽、美術、演劇など長い歴史の中で成熟されたハイカルチャー（上位文化）やメインカルチャー（主流文化）に対し、当初は子ども向けの娯楽として生まれたマンガ、アニメ、ゲームなどの下位文化や、政治的な抵抗や精神的な反抗を表すロック・ミュージックやニュー・シネマなどのカウンターカルチャー（対抗文化）を含みます。私たちが当たり前に親しんできた娯楽や趣味が、じつは20世紀の消費社会や大衆メディアの発達の中で形成された文化の一要素であることを知ることは、文化史の視野を広げ、文化全般を多面的にとらえる学問、カルチュラル・スタディーズの入門にもなるでしょう。

【授業における到達目標】

個々の文化における作品（コンテンツ）を知り、その分析からそれらをつなぐ文脈（コンテキスト）を見出し、文化全体の構造（コンストラクション）を理解します。

作品そのものを楽しむことから考えることへの変化は、作品をただ消費するのではなく、批評の対象としてとらえることにつながります。

文化について知り、その役割を考えることは、個人の幸福と社会の公共性の双方を実現するための一歩といえるでしょう。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション：サブカルチャーとは何か
- 2 前史：階級社会とホビーカルチャー
- 3 1940年代：プロパガンダとマスカルチャー
- 4 1950年代：大量消費社会とポップカルチャー
- 5 1960年代：ヴェトナム戦争とカウンターカルチャー
- 6 1970年代：エコロジーとコミュニティー文化
- 7 1980年代：テクノロジーとメディア文化
- 8 1990年代：世紀末とサブカルブーム
- 9 2000年代：インターネットと共有文化
- 10 サブカルチャーと現代1：ストリートとアウトドア
- 11 サブカルチャーと現代2：マガジンとZINE
- 12 サブカルチャーと現代3：広告とキャラクター
- 13 サブカルチャーと現代4：音楽とファッション
- 14 サブカルチャーと現代5：アノニマスとパブリック
- 15 まとめ：21世紀文化のゆくえ

【事前・事後学修】

授業の中でさまざまな書物、映像作品、展覧会などをその都度紹介していきます。授業の理解を深めるためにも各自で授業以外の時間（週4時間以上）を使って積極的に参照・鑑賞してください。

【テキスト・教材】

必要な文書は授業でプリントとして配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加や課題など）40%、期末レポート60%で評価します。レポートの採点は授業最終回でフィードバックする。

【参考書】

楠見清『ロックの美術館』（シンコーミュージック、2014年）、楠見清+南信長『もにゅキャラ巡礼』（扶桑社、2017年）、そのほか授業の中で適宜紹介します。

サブカルチャー論

文化の多面性を理解する

大倉 恭輔

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

1980年代から「サブカルチャー」ということばが一般化します。日本では「サブカル」と省略され、アニメやアイドルなどに代表される「オタク文化」と同一視されるようになります。さらに、それは音楽やファッションなどの他分野にも広がります。

けれど、それらを並べてみても、どこが・なぜ「Sub/サブ＝下位」なのかはわかりません。この授業では、イメージのみで語られがちな「サブカルチャー」について、具体的な事例にもとづきながら考えていきます。そうして、わたしたちが生活している社会と文化を理解する手がかりとしていきます。

【授業における到達目標】

文化研究の諸理論を踏まえながら、一見「くだらない」とされるものも、人々の営みの所産であり価値あるものだとすることを理解できるようにします。

そうして、さまざまな事例を知り国際的な視野を身につけるとともに、グループワークなどをおして研鑽力を身につけます。

【授業の内容】

- 01 はじめに：文化とは何か
- 02 ストリートと社会：居場所を見つけること
- 03 モッズコートとライダーズジャケット：対立・抗争すること
- 04 ミニスカートとスインギング・ロンドン：先端をいくこと
- 05 ピースマークと花のサンフランシスコ：異議を申し立てること
- 06 朝日ジャーナルと少年マガジン：青年であること
- 07 フリルとちゃんちゃんこ：少女であること
- 08 オタクとマニア：収集・所有すること
- 09 コミケとコスプレ：集い表現すること
- 10 「ムー」とオカルト：科学を疑うこと
- 11 ポピュリズムと陰謀論：単純化すること
- 12 東京の夜7時と渋谷の5時：オンシャレであること
- 13 竹の子とガングロ：他に類をみないこと
- 14 国家とアニメ：Cool な Japan であること
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。
基本的に、manaba 上から事前に資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート70%・平常点/受講態度・ノート作成など 30%
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・ごくごく一般的な受講上のマナーを守ること。

ジェンダー論

山根 純佳

1年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 法とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 グローバリゼーションとジェンダー
- 第14週 第三世界フェミニズムの主張
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円
 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

ジェンダー論

山根 純佳

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 法とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 グローバリゼーションとジェンダー
- 第14週 第三世界フェミニズムの主張
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

ジェンダー論

山根 純佳

1～3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 法とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 グローバリゼーションとジェンダー
- 第14週 第三世界フェミニズムの主張
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

ジェンダー論

山根 純佳

1～3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 法とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 グローバリゼーションとジェンダー
- 第14週 第三世界フェミニズムの主張
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円
 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

ジェンダー論入門

笹野 悦子

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

「ジェンダー」は、社会のなかで見られる男女差が生物学に根差す自然なものではなく、関係の中で意味づけられるものだという見方をします。

本授業はフェミニズムによって見出されたジェンダー概念について歴史的な理論の展開を含めて整理します。フェミニズム運動は、女性の抑圧、生きづらさを可視化し、異議申し立てをしてきました。そしてその思想・運動の展開とおして、女性を苦しめてきた社会秩序は同時に男性にも抑圧的に作用してきたこと、さらには性的マイノリティを排除してきたことを明らかにしてきました。

授業では最終的にジェンダーを現代社会の課題として考えます。ジェンダーという性の意味が生まれついた身体・生物学的性に本質的に備わったものではなく歴史社会的構成であるという理解に立脚し、性による序列をいかにして乗り越えていくのかを考えます。受講者は積極的に読書をし、自分の言葉で考察し表現することが求められます。

【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーは自然なものではなく、社会関係の中で構成された意味付けであることを理解し、自分の言葉で説明できる。
- 2) フェミニズム運動の展開を理解し、自分の言葉で説明できる。
- 3) ジェンダーは女性だけの問題ではないことを理解し、自分の言葉で説明できる。
- 4) 身近な社会関係の中のジェンダー問題について課題を立てて考えられるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 性差とはなにか ガイダンス
 第2週 第1波フェミニズム運動と女性の権利
 第3週 第2波フェミニズム① 私生活での女性の抑圧の発見
 第4週 ー② 女性の抑圧と経済学
 第5週 ー③ 女性の抑圧と家父長制
 第6週 ー④ 母性愛
 第7週 ー⑤ 暴力の問題
 第8週 ー⑥ 二項対立図式「女性」対「男性」への疑問
 第9週 第2波フェミニズム以降① 性をめぐる多様な区分
 第10週 ー② セクシュアリティの可視化
 第11週 ー③ フェミニズムの影響とバックラッシュ
 第12週 ー④ 「男性性」の構築と「男性学」の登場
 第13週 ジェンダーカテゴリーの変更：海外の事例から考える
 第14週 ジェンダーカテゴリーの変更：現代日本の課題
 第15週 理解の確認

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に関して自分がどんなことを問題と感じているのかを明確にして授業に臨む。

事後学修：授業で紹介した文献を読み、映像作品を視聴する。ニュース等に関心を持ち、ジェンダーに関する関心を深める。事前・事後学修合わせて週4時間。

【テキスト・教材】

授業ではプリント資料を使用する。（配布資料ファイルはmanabaにアップする）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 6割、小テスト・宿題 4割（小テスト・宿題は随時実施する。）。小テスト・宿題のフィードバックについては、翌週の授業時にコメントし、問題を共有しながら考察する。

【参考書】

授業内で紹介する。

ジェンダー論入門

フェミニズム／クィア・スタディーズの挑戦

福永 玄弥

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

「性」は、大学の授業であらためて学ぶ必要もない、「自然」や「本能」の領域に属する現象のように思えるかもしれませんが。しかし「性」をめぐる現象の考察に取り組んできたフェミニズムやクィア・スタディーズと呼ばれる学術研究は、これまでの世界の見え方や「常識的」な物の考え方を一変させてしまうほどの力強さを内包し、現実社会を変えてきました。本授業では、恋愛やセックス、家族、ケアワーク、ポルノ、セックスワーク、(LGBT)、「慰安婦」問題など、性に関する多岐にわたるテーマを扱います。その際に歴史を参照すること、つまりこれらの「問題」に取り組んできた社会運動や学術研究の歴史をふり返ることにより、これらのテーマに関する知識や考え方の習得を目指します。

授業の前半（2回から7回）を「理論編」、後半（8回から14回）を「運動編」として、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる「知」がどのような地平を切り開いてきたか、あるいは社会運動がどのような問題に取り組み成果を挙げてきた／これなかったかを考えます。

【授業における到達目標】

ジェンダー・セクシュアリティをめぐる多岐にわたる問題群について知識を習得すること。その上で自分の問題を言語化し、それを考えるための視座の獲得を目指します。また、社会運動の歴史を学ぶことで、現在の日本社会を相対的に考える力を身につけます。これらの目標は、次の本学DPと関連しています。

- ・【国際的視野】：多角的な視点をもって世界に臨む態度
- ・【研鑽力】：学修を通して自己成長する力
- ・【行動力】：課題解決のために主体的に行動する力

【授業の内容】

- 第1週 フェミニズム／クィア・スタディーズとは何か
 第2週 「恋愛」の誕生、近代家族の成立と終焉
 第3週 ケア労働と、福祉多元社会へ
 第4週 まなざしの政治：フェミニズムとポルノグラフィ
 第5週 「売春」から「セックスワーク」へ
 第6週 カミングアウト／クローゼット
 第7週 越境する／しない身体
 第8週 ウーマンリブの挑戦（1970s-）
 第9週 「男女共同参画社会」の成果と誤算（1990s-）
 第10週 レズビアン／ゲイ・ムーブメント（1990s-）
 第11週 グローバリゼーションと（LGBT）（2000s-）
 第12週 「慰安婦」問題（概論）
 第13週 「慰安婦」問題：何が問われてきたのか（1990s-）
 第14週 「慰安婦」問題：何が問われているのか（2000s-）
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：特定のテーマや現象や用語についての下調べを指示することがあります。その場合、紹介する参考文献などを参照して準備すること（学修時間週2時間程度）。

事後学修：授業後に理解をはかるためのリアクションペーパーに答えてもらいます。また、中間・期末レポートでは授業の内容を踏まえた課題を指示するため、復習しておくこと（学修時間週2時間程度）。

【テキスト・教材】

必要なプリントは授業中に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間レポート40%、期末レポート40%、平常点20%（リアクションペーパー）。希望者には中間・期末レポートに対するコメントをフィードバックします。

【参考書】

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、

2013年)

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）

竹村和子『フェミニズム』（岩波書店、2000年）

竹村和子（編）『“ポスト”フェミニズム』（作品社、2003年）

上野千鶴子（編）『ラディカルに語れば…』（平凡社、2001年）

その他授業中に適宜提示します。

【注意事項】

リアクションペーパーでは授業の内容に関する質問や感想だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティに関する事柄であれば「私的（プライベート）な」質問や疑問も歓迎します。寄せられたコメント（の一部）に対してはその次の授業の冒頭でお応えします。

ステップアップ英語

デヴェラ, ローナ・V・L

2年 前期 1単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力、行動力

Class participation (20%)

In-class activities and tasks (30%)

Midterm activity (25%)

Final presentation (25%)

There will be peer and teacher evaluation during presentations.

【授業のテーマ】

The course is for students who participated in the four-week program in Australia and similar short term programs for the maintenance and further development of the English skills they acquired during their stay. The focus is on boosting listening and speaking skills and in order to sustain the progress students have made, the class offers a range of activities and tasks that will help them refresh and practice their English. They will also learn to: identify and choose topics appropriate for daily communication; be able to exchange opinions and ideas; be able to discuss issues/problems and consider possible solutions; and be able to relate linguistic and cultural concepts they acquired to their present and future language plans. Students who were not participants of the Melbourne program or have not had any study-abroad experience but would like to join the class, may sign up for the course but keep in mind that the level and content of the class might be more advanced.

【授業における到達目標】

By critically examining their international experience through this course, students develop an awareness of the meaning their study abroad has given them. They will learn to analyze the linguistic and cultural knowledge they acquired and share their ideas through discussion, reporting, and writing. Students are expected to gain more confidence in their language skills, to cultivate a capacity for further language learning as well as to foster their capacity to become autonomous language learners.

【授業の内容】

Week 1 : Orientation and introduction to the course
 Week 2 : Talking about the homestay family
 Week 3 : Chores and routines
 Week 4 : Introducing yourself
 Week 5 : Introducing your school
 Week 6 : Student life
 Week 7 : Neighbourhood
 Week 8 : Midterm activity
 Week 9 : Leisure and recreation
 Week 10: Going out
 Week 11: Health
 Week 12: Traveling
 Week 13: Social media
 Week 14: Individual consultation and preparation for the final presentation
 Week 15: Final presentations and wrap-up

【事前・事後学修】

事前学修 : Students should come to class prepared and complete all writing activities, presentations, and assignments on time. (Approximately 1-2 hours a week)
 事後学修 : Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class materials to be provided by the teacher.
 Have a notebook for taking notes and prepare a file folder for keeping all printouts and assignments.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【注意事項】**

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学習】

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%、平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

【参考書】

山田茂・福永哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田茂・後藤勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田茂 他『運動生理学』（倍風館）

スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学習】

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%、平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

【参考書】

山田茂・福永哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田茂・後藤勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田茂 他『運動生理学』（倍風館）

スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学習】

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%、平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

【参考書】

山田茂・福永哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田茂・後藤勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田茂 他『運動生理学』（倍風館）

スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価
(無酸素性能力と有酸素性能力の測定)
- 第2週 体力測定の測定と評価
(最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値)
- 第3週 体力測定の測定と評価 (体脂肪量の測定)
- 第4週 体力測定の測定と評価 (新体カテスト)
- 第5週 体力測定の測定と評価
(健康づくりのための運動指針2006)
- 第6週 体力測定の測定と評価 (体力テストの評価)
- 第7週 健康づくりと運動プログラム
(身体活動・運動量・体力を確保する必要性)
- 第8週 健康づくりと運動プログラム
(トレーニングの原則)
- 第9週 健康づくりと運動プログラム
(運動プログラム作成上のポイントと基礎)
- 第10週 健康づくりと運動プログラム
(ウォーミングアップとクーリングダウン)
- 第11週 健康づくりと運動プログラム
(有酸素性運動とその効果)
- 第12週 健康づくりと運動プログラム
(レジスタンス運動について)
- 第13週 運動指導の心理学的基礎
(運動実践に関わる社会・心理・環境的要因)
- 第14週 運動における行動変容
(理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学習してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」(株式会社 南江堂) 4,900円
購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。
また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト 80%、授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する。20%レポートは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価
（無酸素性能力と有酸素性能力の測定）
- 第2週 体力測定の測定と評価
（最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値）
- 第3週 体力測定の測定と評価（体脂肪量の測定）
- 第4週 体力測定の測定と評価（新体カテスト）
- 第5週 体力測定の測定と評価
（健康づくりのための運動指針2006）
- 第6週 体力測定の測定と評価（体力テストの評価）
- 第7週 健康づくりと運動プログラム
（身体活動・運動量・体力を確保する必要性）
- 第8週 健康づくりと運動プログラム
（トレーニングの原則）
- 第9週 健康づくりと運動プログラム
（運動プログラム作成上のポイントと基礎）
- 第10週 健康づくりと運動プログラム
（ウォーミングアップとクーリングダウン）
- 第11週 健康づくりと運動プログラム
（有酸素性運動とその効果）
- 第12週 健康づくりと運動プログラム
（レジスタンス運動について）
- 第13週 運動指導の心理学的基礎
（運動実践に関わる社会・心理・環境的要因）
- 第14週 運動における行動変容
（理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学習してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円
購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。
また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト 80%、授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する。20%レポートは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価
（無酸素性能力と有酸素性能力の測定）
- 第2週 体力測定の測定と評価
（最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値）
- 第3週 体力測定の測定と評価（体脂肪量の測定）
- 第4週 体力測定の測定と評価（新体カテスト）
- 第5週 体力測定の測定と評価
（健康づくりのための運動指針2006）
- 第6週 体力測定の測定と評価（体力テストの評価）
- 第7週 健康づくりと運動プログラム
（身体活動・運動量・体力を確保する必要性）
- 第8週 健康づくりと運動プログラム
（トレーニングの原則）
- 第9週 健康づくりと運動プログラム
（運動プログラム作成上のポイントと基礎）
- 第10週 健康づくりと運動プログラム
（ウォーミングアップとクーリングダウン）
- 第11週 健康づくりと運動プログラム
（有酸素性運動とその効果）
- 第12週 健康づくりと運動プログラム
（レジスタンス運動について）
- 第13週 運動指導の心理学的基礎
（運動実践に関わる社会・心理・環境的要因）
- 第14週 運動における行動変容
（理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学習してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円
購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。
また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト 80%、授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する。20%レポートは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保・島崎 あかね

3年 前期 1単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特徴
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害(概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当(気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法(心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考書等、文献を通して授業内容について予習する(週1.5時間)

【事後学修】授業内容を復習し、用語等を理解する(週1.5時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%(参加態度)・レポート20%・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。

救急蘇生法の回は日程が前後する可能性があります。

スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保・島崎 あかね

3年 前期 1単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特徴
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害 (概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当 (気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法 (心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考書等、文献を通して授業内容について予習する
(週1.5時間)

【事後学修】授業内容を復習し、用語等を理解する (週1.5時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60% (参加態度) ・レポート20% ・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。

救急蘇生法の回は日程が前後する可能性があります。

スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保・島崎 あかね

3年 前期 1単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特徴
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害 (概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当 (気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法 (心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考書等、文献を通して授業内容について予習する
(週1.5時間)

【事後学修】授業内容を復習し、用語等を理解する (週1.5時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60% (参加態度) ・レポート20% ・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。

救急蘇生法の回は日程が前後する可能性があります。

スポーツ栄養学 a

奈良 典子

4年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本講義では、これまでに学んだ基礎栄養学や解剖生理学、運動生理学等での基礎と理論をベースとしつつ、各種スポーツの実践者に対して栄養教育・指導を行う上で必要なスポーツ栄養学の知識と実際を学修する。

【授業における到達目標】

スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム等について説明できる。

スポーツ実践者における身体づくりや貧血予防などスポーツと食事を関連付けて、栄養素レベルでの理解の上に、適切な料理や食品の選択を結びつけて解説できるようにする。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、健康スポーツと競技的スポーツ
- 第2回 スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム
- 第3回 トレーニングとエネルギー消費量
- 第4回 アスリートの身体組成と貯蔵エネルギー
身体組成の測定方法
- 第5回 スポーツにおける体重のコントロール・摂食障害
- 第6回 エネルギー源となる栄養素と働き
- 第7回 瞬発系・パワー系・持久系競技種目の体づくりと栄養
- 第8回 骨の代謝・骨と運動・骨と栄養
- 第9回 貧血予防と栄養（原因・種類、鉄栄養状態評価、食事）
- 第10回 コンディション維持とビタミン・ミネラル
- 第11回 運動時の水分補給と体温調節
- 第12回 サプリメントとエルゴジェニックエイド
- 第13回 試合前後の栄養・食事
- 第14回 スポーツにおける栄養教育
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回の授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

樋口満：新版コンディショニングのスポーツ栄養学[市村出版、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内
小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニックエイド(大修館書店 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
(東京大学出版会 定価2800円+税)

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』
(健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017)

スポーツ栄養学 a

奈良 典子

4年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本講義では、これまでに学んだ基礎栄養学や解剖生理学、運動生理学等での基礎と理論をベースとしつつ、各種スポーツの実践者に対して栄養教育・指導を行う上で必要なスポーツ栄養学の知識と実際を学修する。

【授業における到達目標】

スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム等について説明できる。

スポーツ実践者における身体づくりや貧血予防などスポーツと食事を関連付けて、栄養素レベルでの理解の上に、適切な料理や食品の選択を結びつけて解説できるようにする。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、健康スポーツと競技的スポーツ
- 第2回 スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム
- 第3回 トレーニングとエネルギー消費量
- 第4回 アスリートの身体組成と貯蔵エネルギー
身体組成の測定方法
- 第5回 スポーツにおける体重のコントロール・摂食障害
- 第6回 エネルギー源となる栄養素と働き
- 第7回 瞬発系・パワー系・持久系競技種目の体づくりと栄養
- 第8回 骨の代謝・骨と運動・骨と栄養
- 第9回 貧血予防と栄養（原因・種類、鉄栄養状態評価、食事）
- 第10回 コンディション維持とビタミン・ミネラル
- 第11回 運動時の水分補給と体温調節
- 第12回 サプリメントとエルゴジェニックエイド
- 第13回 試合前後の栄養・食事
- 第14回 スポーツにおける栄養教育
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回の授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

樋口満：新版コンディショニングのスポーツ栄養学[市村出版、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内
小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニックエイド(大修館書店 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
(東京大学出版会 定価2800円+税)

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』
(健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017)

スポーツ栄養学 a

奈良 典子

4年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

本講義では、これまでに学んだ基礎栄養学や解剖生理学、運動生理学等での基礎と理論をベースとしつつ、各種スポーツの実践者に対して栄養教育・指導を行う上で必要なスポーツ栄養学の知識と実際を学修する。

【授業における到達目標】

スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム等について説明できる。

スポーツ実践者における身体づくりや貧血予防などスポーツと食事を関連付けて、栄養素レベルでの理解の上に、適切な料理や食品の選択を結びつけて解説できるようにする。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、健康スポーツと競技的スポーツ
- 第2回 スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給システム
- 第3回 トレーニングとエネルギー消費量
- 第4回 アスリートの身体組成と貯蔵エネルギー
身体組成の測定方法
- 第5回 スポーツにおける体重のコントロール・摂食障害
- 第6回 エネルギー源となる栄養素と働き
- 第7回 瞬発系・パワー系・持久系競技種目の体づくりと栄養
- 第8回 骨の代謝・骨と運動・骨と栄養
- 第9回 貧血予防と栄養（原因・種類、鉄栄養状態評価、食事）
- 第10回 コンディション維持とビタミン・ミネラル
- 第11回 運動時の水分補給と体温調節
- 第12回 サプリメントとエルゴジェニックエイド
- 第13回 試合前後の栄養・食事
- 第14回 スポーツにおける栄養教育
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回の授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

樋口満：新版コンディショニングのスポーツ栄養学[市村出版、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内
小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニックエイド(大修館書店 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
(東京大学出版会 定価2800円+税)

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』
(健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017)

スポーツ栄養学 b

奈良 典子

4年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

スポーツ栄養学 b では、スポーツ栄養学 a にて習得した基礎知識を活用し、各種スポーツ現場のアスリート（スポーツ実践者）や関係者の抱える食事面での悩み・疑問点を運動と関連づけて学習する。また、スポーツ現場における実際の栄養教育・指導法を学ぶ。

【授業における到達目標】

アスリートの食事面での悩みや疑問を運動（スポーツ）と関連づけて捉え直し、栄養素レベルの理解の上に適切な食品の選択までを理解する。また、アスリートの栄養指導例から参考となる要素を抽出し、解説・議論をすることにより、運動時の身体活動量や代謝の変化に応じた栄養摂取について、集団でも個別においても考案し、提案できる実践スキルを身につける。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、食事調査の実施
- 第2回 食事調査結果に基づく コメントの書き方
- 第3回 アスリートにおける疲労（夏バテ）予防・対策
- 第4回 トレーニング期におけるパワー・スタミナ強化につなげる栄養と献立調整
- 第5回 アスリートにおける高所トレーニング時の栄養・食事提供
- 第6回 試合に向けた減量・増量（階級制競技種目ほか）
- 第7回 体調管理（上気道感染症感染リスク対策）のための栄養
- 第8回 女性スポーツにおける三主徴
- 第9回 世代別アスリートにおける栄養教育の進め方
- 第10回 個人アスリートへの食事調整・調理
- 第11回 競技別栄養サポートの実際（ゲストスピーカー予定）
- 第12回 障害をもつアスリート・ベジタリアンアスリートと栄養
- 第13回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第14回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習

（学修時間：週2時間）

事後学修：復習をする。次回授業内にて小テスト実施

（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

考えて食べる!実践・食事トレーニング (TJ Special File (4)) [ブックハウスHD、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内

小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニクエイド (大修館書店 定価2600円+税)

新版コンディショニングのスポーツ栄養学

(市村出版 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる

(東京大学出版会 定価2800円+税)

スポーツ栄養学b

奈良 典子

4年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

スポーツ栄養学bでは、スポーツ栄養学aにて習得した基礎知識を活用し、各種スポーツ現場のアスリート（スポーツ実践者）や関係者の抱える食事面での悩み・疑問点を運動と関連づけて学習する。また、スポーツ現場における実際の栄養教育・指導法を学ぶ。

【授業における到達目標】

アスリートの食事面での悩みや疑問を運動（スポーツ）と関連づけて捉え直し、栄養素レベルの理解の上に適切な食品の選択までを理解する。また、アスリートの栄養指導例から参考となる要素を抽出し、解説・議論をすることにより、運動時の身体活動量や代謝の変化に応じた栄養摂取について、集団でも個別においても考案し、提案できる実践スキルを身につける。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、食事調査の実施
- 第2回 食事調査結果に基づく コメントの書き方
- 第3回 アスリートにおける疲労（夏バテ）予防・対策
- 第4回 トレーニング期におけるパワー・スタミナ強化につなげる栄養と献立調整
- 第5回 アスリートにおける高所トレーニング時の栄養・食事提供
- 第6回 試合に向けた減量・増量（階級制競技種目ほか）
- 第7回 体調管理（上気道感染症感染リスク対策）のための栄養
- 第8回 女性スポーツにおける三主徴
- 第9回 世代別アスリートにおける栄養教育の進め方
- 第10回 個人アスリートへの食事調整・調理
- 第11回 競技別栄養サポートの実際（ゲストスピーカー予定）
- 第12回 障害をもつアスリート・ベジタリアンアスリートと栄養
- 第13回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第14回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

考えて食べる!実践・食事トレーニング
(TJ Special File (4)) ブックハウスHD 定価1500円+税)
※購入については初回講義にて説明する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』
筆記試験 60%
平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内小テスト(20%))

『フィードバック』
小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニックエイド (大修館書店 定価2600円+税)

新版コンディショニングのスポーツ栄養学
(市村出版 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
(東京大学出版会 定価2800円+税)

スポーツ栄養学b

奈良 典子

4年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

スポーツ栄養学bでは、スポーツ栄養学aにて習得した基礎知識を活用し、各種スポーツ現場のアスリート（スポーツ実践者）や関係者の抱える食事面での悩み・疑問点を運動と関連づけて学習する。また、スポーツ現場における実際の栄養教育・指導法を学ぶ。

【授業における到達目標】

アスリートの食事面での悩みや疑問を運動（スポーツ）と関連づけて捉え直し、栄養素レベルの理解の上に適切な食品の選択までを理解する。また、アスリートの栄養指導例から参考となる要素を抽出し、解説・議論をすることにより、運動時の身体活動量や代謝の変化に応じた栄養摂取について、集団でも個別においても考案し、提案できる実践スキルを身につける。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、食事調査の実施
- 第2回 食事調査結果に基づく コメントの書き方
- 第3回 アスリートにおける疲労（夏バテ）予防・対策
- 第4回 トレーニング期におけるパワー・スタミナ強化につなげる
栄養と献立調整
- 第5回 アスリートにおける高所トレーニング時の栄養・食事提供
- 第6回 試合に向けた減量・増量（階級制競技種目ほか）
- 第7回 体調管理（上気道感染症感染リスク対策）のための栄養
- 第8回 女性スポーツにおける三主徴
- 第9回 世代別アスリートにおける栄養教育の進め方
- 第10回 個人アスリートへの食事調整・調理
- 第11回 競技別栄養サポートの実際（ゲストスピーカー予定）
- 第12回 障害をもつアスリート・ベジタリアンアスリートと栄養
- 第13回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第14回 テーマ別模擬セミナー（学生実施）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

考えて食べる!実践・食事トレーニング
(TJ Special File (4)) ブックハウスHD 定価1500円+税)
※購入については初回講義にて説明する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内
小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

エルゴジェニクエイド (大修館書店 定価2600円+税)

新版コンディショニングのスポーツ栄養学
(市村出版 定価2600円+税)

スポーツ栄養学 科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
(東京大学出版会 定価2800円+税)

スポーツ応用科学実習

早田 朋代

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

本授業では、生涯健康に過ごすための身体づくりをテーマに運動の特性や効果について学び、運動を実施することによる健康・体力の向上を体験的に学ぶとともに、各種の測定技術の習得と測定結果の分析といった運動処方基礎を学ぶ。

具体的には体力測定を行い、測定方法や測定結果の分析を行う。また姿勢の測定やトレーニングについても方法を学び、自分にあったトレーニングメニュー作りを行い、実践する。

【授業における到達目標】

体力測定を通して自分自信の体力・運動能力をきちんと把握し、今後健康な身体で生活していくための計画を立て、行動する。また、健康を維持していくための運動にはどのようなものが必要なのかを知り、トレーニングについての理論を学び、自分自身にあったトレーニング計画を立案し、実行することが出来るようになる。また、様々な種類の運動実践方法を体験する。

【授業の内容】

<授業の内容>

1. オリエンテーション・ガイダンス
2. 体力測定
3. 姿勢測定
4. 体力測定、姿勢測定のフィードバック、生活調査、目標作り
5. からだほぐし、ストレッチ
6. トレーニングの原理・原則
7. トレーニング①
8. トレーニング②
9. トレーニング計画の立案
10. 有酸素運動①ウォーキング
11. 有酸素運動②エアロビクスエクササイズ
12. ニューススポーツ①
13. ニューススポーツ②
14. 体力測定、身体評価
15. まとめ

【事前・事後学修】

各自で目標設定した後、その目標を達成できるよう普段から健康を意識して週1時間程度活動を行う。また体力測定データの分析とまとめが必要となる。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・出席・意欲・積極性）50%、レポート課題30%、課題達成度20%で総合的に評価します。
レポートのフィードバックは授業時間内に行います。

【注意事項】

授業内容は順序や種目が異なる場合があります。また種目によっては学外に出ることがあります。

動きやすい服装（運動着）。運動靴（外履きと体育館履き）を必ず用意し、着用して下さい。服装および運動靴の貸し出しは一切しません。第1週目の授業時に履修カードの作成や第2週目以降の内容に関する諸連絡を行うので必ず出席すること。

*募集人数は36名です。

スポーツ基礎科学実習 a

教育実習に向けた課外活動スキルの向上

佐藤 健

2年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

出来る限り、競技能力の向上を目指します。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。

【授業における到達目標】

スポーツ技能は、将来職場や地域のスポーツ交流が行えるスキルです。授業によって体験した技能を役立て自己成長できるように「研鑽力（○）」を習得します。自分や周囲のスキルを正しく把握し、安全に授業が行えるように「協働力（○）」をもって授業に臨んでください。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教材、出席管理カードの配布）
- 第2週 授業前の体力測定
- 第3週 技能実習I（シャトル、ラケットに慣れる）
- 第4週 技能実習II（基本ストローク）
- 第5週 技能実習II（ネットプレイ、ド、クリーヤー）
- 第6週 技能実習III（簡易ラリー）
- 第7週 技能実習III（中級ラリー）
- 第8週 技能実習IV（基本ストローク・フライト応用練習）
- 第9週 中間テスト（実技サーブ等）
- 第10週 審判法とゲームI（審判の方法とシングルスゲーム）
- 第11週 審判法とゲームII（ダブルスゲーム）
- 第12週 技能実習V（各フライトコンビネーション応用練習）
- 第13週 大会実習（トーナメント・リーグ戦ダブルス）
- 第14週 授業後の体力測定
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

【事前・事後学修】

事前学修として、十分な睡眠と食事をとり集中力が持続する状態で臨めるようにすること。事後学修として、30時間程度自宅等でストレッチなどをして身体の状態について前向きに取り組むこと。

【テキスト・教材】

シューズ、靴下、ウェア、汗拭きタオル、給水ボトル、帽子または髪をまとめるゴム等は各自が必ず用意すること。ラケットは貸し出し用はあるが、持参が望ましい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のスキルテスト45%（3点×15）、授業期間中の中間レポート15%、体力テストによる向上点10%、期末レポート30%とする。
随時、試技やデータ等のフィードバックを行う。

【参考書】

関一誠／〔ほか〕著

『バドミントン教室』（大修館）ISBN：4469162949、1,512円

【注意事項】

授業の最初と最後に体力測定を行い、体力が維持しているか確認を行う。授業中に不安全行動（ケガが事故の原因）は慎むこと。準備体操、教員の指示等を守ること。なお、就職活動の場合には、証明するものを提出すること。恒例の体力測定は、2週目に行う。

*募集人数は36名です。

スポーツ基礎科学実習 b

教育実習に向けた課外活動スキルの向上

佐藤 健

2年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。

【授業における到達目標】

スポーツ技能は、将来職場や地域のスポーツ交流が行えるスキルです。授業によって体験した技能を役立て自己成長できるように「研鑽力（○）」を習得します。自分や周囲のスキルを正しく把握し、安全に授業が行えるように「協働力（○）」をもって授業に臨んでください。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教材、出席管理カードの配布）
- 第2週 授業前の体力測定
- 第3週 技能実習I（シャトル、ラケットに慣れる）
- 第4週 技能実習II（基本ストローク）
- 第5週 技能実習II（ネットプレイ、ド、クリーヤー）
- 第6週 技能実習III（簡易ラリー）
- 第7週 技能実習III（中級ラリー）
- 第8週 技能実習IV（基本ストローク・フライト応用練習）
- 第9週 中間テスト（実技サブ等）
- 第10週 審判法とゲームI（審判の方法とシングルスゲーム）
- 第11週 審判法とゲームII（ダブルスゲーム）
- 第12週 技能実習V（各フライトコンビネーション応用練習）
- 第13週 大会実習（トーナメント・リーグ戦ダブルス）
- 第14週 授業後の体力測定
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

【事前・事後学修】

事前学修として、十分な睡眠と食事をとり集中力が持続する状態で臨めるようにすること。事後学修として、30時間程度自宅等でストレッチなどをして身体の状態について前向きに取り組むこと。

【テキスト・教材】

シューズ、靴下、ウェア、汗拭きタオル、給水ボトル、帽子または髪をまとめるゴム等は各自が必ず用意すること。ラケットは貸し出し用はあるが、持参が望ましい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のスキルテスト45%（3点×15）、授業時の体力測定レポート15%、体力向上点10%、期末レポート30%とする。随時、試技やデータ等のフィードバックを行う。

【参考書】

関一誠／〔ほか〕著

『バドミントン教室』（大修館） ISBN: 4469162949、1,512円

【注意事項】

授業の最初と最後に体力測定を行い、体力が維持しているか確認を行う。授業中に不安全行動（ケガが事故の原因）は慎むこと。準備体操、教員の指示等を守る。なお、就職活動の場合には、証明するものを提出すること。恒例の体力測定は、2週目に行う。

*募集人数は36名です。

スポーツ文化論

スポーツ文化を多様かつ分析的に観る視点を手に入れよう

南 英樹

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

スポーツは素晴らしい？ 実況中継で叫ばれる「感動」って、うそ臭くない？ 体育とスポーツって同じものなんじゃないの？ 体育会系って、脳まで筋肉ってこと？ こんな素朴な疑問からスタートして、スポーツ文化について考え、掘り下げてみましょう。

近代スポーツ文化は、19世紀のイギリスにおいて「発展」と「合理性」という価値観を土台として成立しました。そうした近代の価値観を内面化したスポーツは、世界中に普及し、日本にも輸入されました。

それは今や、テレビ放映だけにとどまらず、多様なメディアと絡み合うなかで、地域経済システムの発展や、世界にその国の統治力を見せつける権力装置としても機能するようになってきました。そしてなにより、Jリーグやプロ野球、大相撲等を通して私たちの暮らしのなかに溶け込んでいます。

しかし、私たちはスポーツ文化についてその背後にある美的構造や歴史的な成り立ち、地域特性を知っているでしょうか。

この講義では、スポーツという文化現象を、哲学的、政治的、経済的、歴史・社会史的視点から広範に考察し、スポーツ文化について「考える」ことで、スポーツをなんとなく「良いもの」として受け入れてしまう態度を一旦停止します。その上で、スポーツのあるべき姿はどのようなものかを模索し、その文化的発展に寄与しうる批判能力を養うことを目標として授業を行います。

【授業における到達目標】

スポーツという文化の独自の価値を知り、日本のスポーツ界の現状を学ぶことで、これからのスポーツのあり方を模索し、私たちひとりひとりが東京オリンピックを通じて社会にどのようなメッセージを伝えていくべきなのか創造的に取り組む態度を養います。

また、自然科学、社会科学、人文科学、それぞれの視点から総合的にスポーツを分析する洞察力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 スポーツと文化 文化という対象：科学と条件制御
- 第2週 体育とスポーツ 人間の諸相と身体運動の諸相
- 第3週 近代スポーツ発展の土壌（1）古代ギリシャの理想と身体
- 第4週 近代スポーツ発展の土壌（2）古代ローマとキリスト教的身体
- 第5週 近代スポーツ発展の土壌（3）ルネッサンスと身体の再発見
- 第6週 近代スポーツ発展の土壌（4）近代国家の形成とアマチュアリズム
- 第7週 近代スポーツの普及
イギリス・アメリカ・日本の発展過程と特性
- 第8週 近代スポーツの普及
オリンピックの展開：資本主義国家と社会主義国家
- 第9週 種目にみるスポーツ思想
理念・制度・実践の諸相
- 第10週 スポーツメディアの舞台裏（1）
アメリカの事例：映画「ザ・エージェント」に学ぶ
- 第11週 スポーツメディアの舞台裏（2）
日本の事例：中田英寿のプロモーションモデルに学ぶ
- 第12週 映像に学ぶ（1）
映画「コーチカーター」：スポーツ映像と時間的機能
- 第13週 映像に学ぶ（2）
映画「コーチカーター」：スポーツ映像と再生産機能
- 第14週 スポーツメディアリテラシー
美術から学ぶ：観る能力の獲得と文化的発展
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修を週に2時間程度行い、スポーツの社会的影響に関する新聞・雑誌記事を集め、スポーツの、私物としての性格と公共物としての性格について調べてみましょう。

事後学修を週に2時間程度行い、スポーツの歴史・価値・形式・構

造など、学んだ内容をもとに、事前学修で調べた記事を批判的に分析してみましょう。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50点、レポート30点、平常点（疑問ペーパー・議論への積極的参加）20点。疑問ペーパーへの回答によってフィードバックを行います。

【参考書】

『スポーツ解体新書』玉木正之著 NHK出版

『よくわかるスポーツ文化論』井上俊・菊幸一編著
ミネルヴァ書房

『人間とスポーツの歴史』渡部憲一 高菟出版

『近代スポーツ文化とはなにか』西山哲郎 世界思想社

『スポーツ文化の変容』杉本厚夫 世界思想社

ゼミナール**担当教員全員**

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【注意事項】

4年生の論文発表会に参加し、自身の研究テーマ、研究の進め方について計画する事

【授業のテーマ】

各担当教員の研究室において、専攻領域の学問についてより深く学び、翌年度の卒業論文研究に取り組むことのできる基本的な研究能力を身につけることを達成目標とする。なお、具体的な内容は各担当教員による。

【授業における到達目標】

- ・卒業論文の作成に向けて、基本的な調査方法を習得したり、文献調査を進めたりする。
- ・研究テーマに関する学習を自主的に進めたり、意欲的に発表を行ったりする。
- ・グループワークにおいては、自己の役割を理解し、仲間と協力して課題を遂行する。

【授業の内容】

(前期)

- 第1回 前期ガイダンス
- 第2回 卒業研究の基礎① 文献資料の種類
- 第3回 卒業研究の基礎② 図書館の利用法
- 第4回 卒業研究の基礎③ 文献の探索
- 第5回 卒業研究の方法① 文献調査
- 第6回 卒業研究の方法② リサーチ
- 第7回 卒業研究の方法③ 観察・実験など
- 第8回 研究テーマの設定① 文献資料から検討する
- 第9回 研究テーマの設定② ディスカッション
- 第10回 研究テーマの設定③ プレゼンテーション
- 第11回 文献研究① 先行研究の活用
- 第12回 文献研究② 図表の読み方
- 第13回 文献研究③ データの解釈
- 第14回 研究倫理について
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 後期ガイダンス
- 第2回 卒業論文の構成① 論文とは何か
- 第3回 卒業論文の構成② 問題の設定
- 第4回 卒業論文の構成③ 目的の設定
- 第5回 卒業論文の発表① プレゼンテーションの方法
- 第6回 卒業論文の発表② プレゼンテーションの準備
- 第7回 卒業論文の発表③ プレゼンテーションの実際
- 第8回 卒業論文の再構成① テーマの再考
- 第9回 卒業論文の再構成② 問題設定の再考
- 第10回 卒業論文の再構成③ 目的の再考
- 第11回 研究計画① 方法論について
- 第12回 研究計画② 実施計画
- 第13回 研究計画③ 計画の確認
- 第14回 卒業論文(4年)に向けて
- 第15回 卒業論文発表会への参加

【事前・事後学修】**【事前学修】**

研究テーマについての予習・文献調査等(学修時間:週2時間)

【事後学修】

研究テーマについての復習・再構成等(学修時間:週2時間)

【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%(研究テーマ・課題への取り組み、授業内の発表、質疑への参加など)、期末課題等50%。ゼミナールの取り組みについては担当教員から適宜、フィードバックを行う。

【参考書】

各担当教員の指示に従うこと。

ゼミナール**担当教員全員**

3年 通年 4単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「現代生活」の課題を捉える3つの柱：環境・メディア・自立社会の各領域でこれまで習得した知識や技能をふまえ、自分の最も興味ある分野で卒業研究をすすめるための方法や問題意識の醸成をはかります。また、それぞれの課題の探求を通して、協働・協調・リーダーシップの力を高めます。現代の暮らしと社会を構想する力と、現実的な課題解決に向けての実践力の基礎的土台をしっかりと固め、翌年度の卒業研究に取り組むことのできる力をつけることを目標とします。

【授業における到達目標】

各領域の視点から様々な社会的課題に取り組むと共に、自ら問題設定を行い、その内容を点検吟味し、卒業研究に向けた調査や展開を行います。こうした作業を通じて、高い「研鑽力」「行動力」「協働力」を養います。

【授業の内容】

各専門領域の特性に応じた問題意識の深め方、専門的知識・技術、文献・調査研究の方法、プレゼンテーション技能などに関連する内容となります。具体的な内容、進め方は、それぞれの担当教員にゆだねられます。

【事前・事後学修】

各担当教員において指示しますが、基本的に事前学修に2時間、事後学修に2時間の復習、準備が要求されます。

【テキスト・教材】

各担当教員において指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に臨む態度、発表内容、成果物などを総合的に判定します。

【参考書】

各担当教員において指示します。

【注意事項】

3領域を総合しつつ現代を捉えていくところに、本学科の学びの特徴があります。興味に応じて、所属したゼミナール以外の教員にも指導をおおぐなど、この学科ならではの学修をすすめるとういでしょう。

ソーシャル・デザイン・プロジェクトA

松下 慶太

1年 前期 2単位

◎：協働力

○ プロジェクト形式で進めるために30名程度の履修制限を行います。履修希望者が多い場合は選考を行う場合があります。詳細については初回のガイダンスで説明するので必ず出席すること。

【授業のテーマ】

デザインは絵や造形などの制作だけを指すものではありません。近年、デザインの対象はモノだけではなく、政策、活動、サービスなど含めたコトにも広がっています。さらに、それらが地域のコミュニティやビジネス全体のなかでが持続性を持つひとつのシステムとしてデザインされていることも重要になってきています。

そのため「デザイン思考」「意味のイノベーション」などを含んだデザインの態度・手法は商品開発、企画、地域活性化など企業・ビジネス、地域・コミュニティの双方の領域において関わる人が身につけておくべき重要な意識・スキルと言えるでしょう。

本演習ではこうしたソーシャル・デザインについて、その手法を学び、実際に地域・企業と連携して、実践に向けての企画・提案を行います。

【授業における到達目標】

- ビジネス・地域におけるソーシャル・デザインのあり方、位置づけについて理解する。
- ソーシャル・デザインの手法・スキルを習得する。
- プロジェクトにおけるリーダーシップのあり方を理解し、実践する。
- 「協働力」を身につける

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. リーダーシップとチームビルディング
3. ソーシャル・デザインとは
4. デザイン思考と意味のイノベーション
5. 事例：注文を間違える料理店（ゲスト予定）
6. 事例：マイパブリックとグラウンドレベル（ゲスト予定）
7. フィールドワークと現状分析
8. フィールドワークと課題抽出
9. プランの仮説構築
10. 中間報告（ゲスト予定）
11. フィードバックとプランの立て直し
12. 最終発表への準備
13. 最終発表（ゲスト予定）
14. プロジェクトの振り返り
15. チームの振り返り

※ほぼすべての週で企業の方など学外者をゲストに招き、インプット、学習見学、ディスカッション、フィードバックを予定している。

【事前・事後学修】

- 各授業回で提示された個人・グループ課題について次回授業までに行い、オンラインシステムで提出すること（週2時間相当）。
- 各授業回においてグループで設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行うこと（週2時間相当）。

【テキスト・教材】

オンラインで配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- プロジェクトへの参加度(50%)
 - 最終報告(50%)
- ※報告内容について、授業前後、研究室、オンラインなどでフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、指示する。

【注意事項】

- 地域・企業と連携していく中で授業時間外・グループでの準備・活動・学習が求められることが多いので積極的かつ主体的に学ぶことを目指す学生の履修を望みます。

ソーシャルメディア特論

松下 慶太

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

ソーシャルメディアの発展・普及によって個人の生き方、社会などがどのように変容しているのか、またそれと同時に個人、社会がどのようにソーシャルメディアの開発、利用に影響を与えているのか、具体的な事例と理論的な枠組みを往復しつつ、ソーシャルメディアを社会構成主義的な視点で捉えることを目指す。

【授業における到達目標】

現代社会におけるソーシャルメディアのあり方とソーシャルメディアがもたらす各領域の変容について社会構成主義の立場から分析することができるようになる。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. ソーシャルメディア社会の誕生
3. 技術と社会の相互作用
4. ソーシャルメディアと法制度
5. ネットニュース
6. ソーシャルメディア時代の広告
7. インターネット選挙
8. キャンペーンと動員
9. 都市の変容
10. 都市と地方をつなぐ
11. 権利と侵害
12. フィルターバブル
13. 発信者の責任
14. 分人制度
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各週の内容は教科書の章に対応しているので、該当箇所をまとめてくること。（週2時間）

事後学修：各週の学習内容と社会の事例を関連させて思考を発展させるためのミニレポートを書くこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

藤代裕之：ソーシャルメディア論[青弓社、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・ 事前課題：30%
- ・ ミニレポート：30%
- ・ 最終レポート：40%

事前課題について授業中に、またミニレポートは次回授業に、最終レポートについては個別にメールでフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介する。

【注意事項】

特になし。

ダイバーシティ特論

山根 純佳

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。本授業では、最新の研究成果をもとに、企業経営におけるダイバーシティの現状と政策的課題について学びます。特にジェンダー・ダイバーシティに焦点をあて、参加者の報告を交えながら考察します。

【授業における到達目標】

ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（包摂）を実現するための企業改革・法の課題について理解し、オルタナティブな議論を構築することができる。

【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 女性雇用の現状
- 第3週 家庭の性別分業の実態
- 第4週 女性の就業継続の課題 出産・育児期
- 第5週 ポスト育児期の就業キャリア
- 第6週 女性の再就職と非正規労働
- 第7週 女性管理職とポジティブ・アクション
- 第8週 長時間労働をめぐる課題
- 第9週 障害者雇用とダイバーシティ
- 第10週 障害者差別解消法
- 第11週 障害者差別解消法の効果
- 第12週 LGBTの生活と社会的包摂
- 第13週 LGBTの雇用とパートナーシップをめぐる法
- 第14週 欧米のダイバーシティ・マネジメント
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

指定した文献や資料を読み、内容を十分に理解しておくこと。日常的に授業テーマに関連する情報を集め、自分なりの分析を加えておくこと（事前学修 週2時間、事後学修 週4時間）。

【テキスト・教材】

川島聡・飯野由里子・西倉実季・星加良司：合理的配慮：対話を開く、対話が拓く[有斐閣、2016、¥2,700(税抜)]
労働政策研究・研修機構編：ワーク・ライフ・バランスの焦点—女性の労働参加と男性の働き方[労働政策研究・研修機構、2012、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での報告、討議への貢献（50%）、レポート（50%）。毎回、前回の授業の確認事項についてフィードバックをする。

ダイバーシティ論

山根 純佳

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的内容と課題について考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 障害の社会モデル（ワークショップ）
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

ダイバーシティ論

山根 純佳

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的内容と課題について考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 障害の社会モデル（ワークショップ）
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

ダイバーシティ論

山根 純佳

2～3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的内容と課題について考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 障害の社会モデル（ワークショップ）
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

ダイバーシティ論

山根 純佳

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的内容と課題について考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 障害の社会モデル（ワークショップ）
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

ツアープランニング

海外旅行実務の基礎知識

古谷 昌重

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

旅行業界への就職を目指し、添乗業務を希望する学生や、海外旅行に関心がある学生に対して、海外旅行での様々な場面における対応に必要な基礎知識の修得を目的とします。

旅行者の動向と海外旅行の実態を捉え、海外パッケージツアーの仕組みと流通、そして、ツアープランニングに必要な観光マーケティングの基礎と情報収集方法を学びます。ヨーロッパツアーのモデルコースを例に、渡航準備から出発、現地での滞在、帰国までの一連の流れを理解し、海外旅行に必要な基礎知識と添乗員としての基本動作を学び、ツアープランの作成へと結び付けてゆきます。各自、行き先やテーマを決め、各回の授業で得た知識を基に、計画的に組み立てながら完成を目指し発表をおこないます。

【授業における到達目標】

- ・海外ツアーの仕組みが理解でき説明できるようになる。
- ・インターネット等を利用して旅程作成に必要な情報を収集することができるようになる。
- ・目標（ツアープランの完成とプレゼンテーション）を立てて計画的に作業を進めることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（旅行者の動向と海外旅行の実態）
- 第2週 旅行の種類とパッケージツアー
- 第3週 観光マーケティングの基礎
- 第4週 ツアーをプランする
- 第5週 海外旅行の基礎知識とプランニング（情報収集）
- 第6週 海外旅行の基礎知識とプランニング（交通機関）
- 第7週 海外旅行の基礎知識とプランニング（宿泊）
- 第8週 海外旅行の基礎知識とプランニング（観光）
- 第9週 海外旅行の基礎知識とプランニング（食事）
- 第10週 プレゼンテーションの準備（プランを整える）
- 第11週 プレゼンテーション① 1グループ
- 第12週 プレゼンテーション② 2グループ
- 第13週 プレゼンテーション③ 3グループ
- 第14週 ツアーの歴史とこれからのツアー
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

事前学修：旅番組、雑誌やガイドブック等で旅への興味と関心を深め、旅行パンフレットや広告等に掲載されている旅行商品を見て、どのようなツアーがプランされているかを調べてください。

事後学修：旅行パンフレットやガイドブック、各種情報サイトなどを参考にしながら、計画的に自分自身のツアープランを組み立てていってください。（事前・事後学修合わせて週1時間以上）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

（高校または中学で使用した地図帳の活用を勧めます。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題40%、小レポート20%、平常点（コメントペーパーへの回答や授業への積極参加）40%で総合評価します。

小レポートは次回授業で、演習課題は最終回でフィードバック。

【参考書】

授業で配るプリントで適宜紹介します。

【注意事項】

第一回目の授業で授業の進め方と成績評価に関する説明を行いますので必ず出席してください。

パワーポイントを使ってツアープランを作成し発表してもらいます。データ保存用として各自USBメモリを用意してください。演習やレポート提出、資料の配布などmanabaを活用して進めてゆきます。前期の「観光地理」とあわせて受講することを勧めます。

受講人数制限35名。（制限人数を超えた場合は抽選）

テーブルマネジメント演習

数野 千恵子

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

食卓を構成する要素（テーブルウェア）についての知識を深め、実物の食器や食具に触れながら基本のテーブルセッティングの方法を習得する。また、食卓の色彩、照明、盛りつけ、マナーなど、食事を楽しむためのテーブル作りについて考える。

【授業における到達目標】

和洋中のテーブルセッティング方法やテーブルウェアの知識、および食事のマナーを修得する。学生が修得すべき「美の探究」のうち、よりおいしい食卓を構成することに価値を見出し、感受性を高めようとする態度を修得する。また、実際のテーブルウェアに触れることを通して「研鑽力」の学ぶ楽しみを知る。

【授業の内容】

- 第1回：『洋風のテーブルセッティングとマナー』
テーブルセッティングに用いられるテーブルウェアの紹介および正餐のセッティングを行う。
- 第2回：『ティーテーブルのセッティングとお茶の知識』
イギリス式のティーテーブルのセッティングを行い、紅茶について理解を深める。
- 第3回：『和風のテーブルセッティングとマナー』
日本料理の料理様式による配膳方法とマナーを学ぶ。
和食器の種類と特徴を実際の食器で確かめる。
- 第4回：『中国風のテーブルと香辛料の基礎知識』
中国料理の配膳と食器の特徴を学ぶ。
香辛料の知識については外部講師の講義と実習
講師 エスピー食品（株）スパイス&ハーブマスター
- 第5回：『弁当を盛り付けてみよう』
料理の盛り付け方の基本を学び、実際の弁当を使って、おいしく見える盛り付けを考える。
- 第6回：『立食のテーブルセッティングおよびマナー』
サービス時の注意点および立食時のマナーを体験する。
- 第7回：『食事計画とコーディネート』：コンセプトに沿った食事計画をプランニングし、その中で使用するランチョンマットを作成する。
- 第8回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業に必要な専門用語や基礎的な知識等を、理解してきてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業の内容をもとにした課題を出しますので 次回までにレポートを作成し提出してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

授業資料はプリントを使用します。

教材として、弁当1食分、色鉛筆などが必要となります。必要に応じて各自で用意して下さい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートおよび提出課題 70%、平常点（授業への積極参加・授業態度）30%により評価します。

レポートは返却時にフィードバックを行います。

【参考書】

テーブルコーディネートの特典書の他に、食関係やインテリア関係などの各種雑誌が参考になります。

【注意事項】

- ・実習室の関係で各クラス30名（両クラスで約60名）までの人数制限を行います。希望者多数の場合は抽選となります。
- ・弁当1食分、色鉛筆などは各自で用意してください。
持参する授業はそのつど指示します。
- ・授業は調理室で行いますので調理専用の白衣および上履きを着用してください。

テキスタイル管理学

塩原 みゆき

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

衣・住生活の中の繊維製品の手入れや管理にあたる領域の理論と実際を扱います。特に衣服の機能を保持するために行われる洗濯は、衣服に付着した汚れを除去して衛生的で快適な衣服環境を得るためにも重要です。洗濯について、洗剤の働きや汚れの付着、脱着などを界面化学的側面からと、洗濯の方法や条件など実際の側面から講述します。建築材料、プロダクト材料としてのテキスタイルの手入れや管理についても取扱い、最近の洗剤、洗濯事情、洗濯と環境問題についても言及します。

【授業における到達目標】

アパレル、プロダクト、建築領域で用いられるテキスタイルに付着する汚れの種類と性質、付着、吸脱着機構を理解する。界面活性剤についての基礎知識を修得する。テキスタイル管理分野の研鑽力を磨くための基礎知識を修得する。

【授業の内容】

1. 繊維製品の汚れ
2. 汚れの付着機構
3. 水と洗剤
4. 洗濯条件
5. 商業洗濯
6. 洗濯による損傷・劣化とその予防法
7. 洗浄試験の評価
8. 洗浄メカニズム (1) 水系
9. 洗浄メカニズム (2) 非水系
10. しみ抜き
11. 漂白と増白
12. 仕上げと保管
13. 洗濯と環境問題
14. 最近の洗剤、洗濯事情
15. まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業の前にテキストの当該箇所を読んでおき、授業後に内容が理解できたことを確認をして下さい。事前、事後学修ともに2時間程度/週費やして下さい。

【テキスト・教材】

増子富美他：被服管理学[朝倉書店、2012、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、レポート30%、受講態度10%

授業の中で解説します。

【参考書】

必要に応じて、紹介します。

【注意事項】

高校化学 I 化学結合、溶液、コロイド、油脂などについて復習しておくとう理解しやすいと思います。

テキスタイル管理実験

牛腸 ヒロミ

3年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

テキスタイル管理学、染色加工学で学んだ知識を確実にするための実験です。前半は、界面活性剤の働きを実験により確認し、JISにのっとった洗浄力試験をして、その評価方法を理解します。後半は、染色加工学実験で、染料の定量、染色方法と染色堅ろう度試験を理解し、評価できるようにします。最後は染色実習で、作品のデザインをし、絞り染めの技術を使って、作品を制作します。

【授業における到達目標】

テキスタイル管理学、染色加工学の基礎知識を確かなものにする。

グループで1つの実験を取り扱うため、協働力が養え、一定時間内に実験結果を出さなければならないので行動力が養えます。さらにレポート提出のために、観察や結果の考察、知識の確認などが必要となるため研鑽力が鍛えられます。

【授業の内容】

前半

1. ガイダンス (全般の内容概説、諸注意など)
2. 界面活性剤、洗剤水溶液の表面張力の測定
3. 界面活性剤、洗剤水溶液の浸透力と可溶性測定
4. 洗浄力試験の実施と評価
5. 柔軟仕上げ加工、防縮・防しわ加工とその効果の評価
6. はっ水加工、増白とその効果の評価
7. 結果の整理とまとめ

後半

1. 染料水溶液の吸収スペクトルと比色定量
2. 直接染料による染色 (1)
3. 直接染料による染色 (2)
4. 酸性染料、分散染料、カチオン染料による染色
5. 反応染料による染色、染色堅牢度試験の説明と準備
6. 染色堅牢度試験とその評価
7. 建て染め染料を用いた工芸染色 (作品製作)
8. 結果の整理とまとめ

【事前・事後学修】

テキスタイル管理学、染色加工学の復習をし、毎回の実験の前にテキストの当該箇所を読んでおいて下さい。

実験後には当該レポートを必ず提出して下さい。

事前学修1時間、事後学修は最低でも2時間程度/週を費やして下さい。

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、受講態度50%

レポートをチェックして返還し、合格レベルに達するまで書き直しさせます。

【参考書】

増子富美他共著『被服管理学』(朝倉書店 2012年) 2,500円

越川寿一著『染色加工学』(酒井書店・育英堂) 2,415円

中島利誠編著『新稿被服材料学』(光生館 2010年) 2,400円

化学同人編集部編『実験データを正しく扱うために』(化学同人 2010年) 1,500円など

【注意事項】

出席して実際に体験することが基本となります。従って、欠席、遅刻をしないように努めて下さい。

実験内容についての理解はレポートで評価しますので、出席とレポート提出はどちらも重要となります。

テキスタイル管理学と染色加工学を履修していることが望ましいと考えます。履修していない人は自学自習すること。

テキスタイル材料学

加藤木 秀章

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「テキスタイル材料」とは、繊維、糸、布などの被服材料全般を意味する。この授業では糸と布に焦点をあて、それらの製造プロセスを理解した上で、糸と布の種類や構造、各種性質について学修する。これらをベースに、衣服やインテリア製品についての理解を一層深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・人間の営みに必要な衣環境分野の基礎知識である、被服材料（糸、織物、編物、不織布、レース、皮革）についての知識を修得する。
- ・快適で質の高い生活環境を作り出すために、被服材料にはどのような性能が求められるかについて理解する。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を習得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入 原料から製品までの流れ、本講義を学ぶ意義など
 第2週 糸の分類
 第3週 各種の糸の製造プロセスの概要
 第4週 糸の構造と性質、太さの表示法
 第5週 テクスチャード加工糸の種類と特性
 第6週 織物の種類と製造方法
 第7週 織物の組織（基本組織、変化組織、特別組織など）と表示
 第8週 添毛（パイル）組織（たてパイル・よこパイル組織）
 第9週 編物の種類と製造方法
 第10週 編物の組織（基本組織、変化組織）と表示
 第11週 不織布の種類と製造方法・性質
 第12週 レース、皮革、その他副資材について
 第13週 被服材料である布に求められる性質①（力学的特性）
 第14週 被服材料である布に求められる特性②（保健衛生的特性）
 第15週 まとめ
 授業においては、小テストを実施する。

【事前・事後学修】

事前・事後学修は講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】受講済み講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解できていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

城島栄一郎他著『基礎からの被服材料学』（文教出版 1997年）2、700円

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

小テスト、期末試験については返却時に解説を行う。

【参考書】

島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』（建帛社）

テキスタイル材料実験

加藤木 秀章

3年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

テキスタイル材料（繊維・糸・布）の構造と性質について、実験方法の原理と評価方法を理解し、それらが繊維製品の性能にどのように寄与するのかを学修する。

【授業における到達目標】

- ・快適な衣環境を作り出すため、衣服材料にはさまざまな性能が求められるが、実験を通じてそれらをより専門的に学修する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち目標に向かって計画を実行し、成果を正しく評価する能力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 実験項目の概要説明、実験上の注意事項、レポートの書き方と心構え、試料作製準備
 ≪繊維と糸に関する実験（第2～4週：ローテーション）≫
 第2週 繊維の太さと引張り特性
 第3週 糸の構造と番手
 第4週 糸の引張り特性
 第5週 データ整理とまとめ
 ≪布の構造と変形・強さ（第6～9週：ローテーション）≫
 第6週 布の構造
 厚さ、質量、糸密度（網目密度）、組織と表示
 第7週 布の変形（1）
 破壊強さ：引張り強さ、引裂強さ
 第8週 布の変形（2）
 小変形と回復性：引張り・せん断特性、圧縮回復特性
 第9週 布の破裂強さ、摩擦強さ
 第10週 データ整理とまとめ
 ≪布の形態と外観、快適性（第11～14週：ローテーション）≫
 第11週 布の剛軟性、ドレープ性
 第12週 布の防しわ性、ピリング性
 第13週 布の接触温冷感、保温性
 第14週 布の通気性、透湿性、吸水性など
 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布テキストを参考に、次回に実験予定の項目を予め調べておく。この実験は「テキスタイル材料学」がベースになっているので、関連部分の復習も必要である。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験結果をよく吟味し、考察して、レポートを作成する。参考書等も各自で調べる。（学修時間 週2時間以上）

【テキスト・教材】

実験で使用するテキストは、各自に配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 70%（内容の正確さ・適切さ、考察を重視する）

平常点 30%（実験への取り組み姿勢）

実験項目ごとにレポートを課す。提出されたレポートは、次回授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

城島栄一郎他著『基礎からの被服材料学』（文教出版）

島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』（建帛社）

日本衣料管理協会編『繊維製品試験（第3版）』（日本衣料管理協会）

【注意事項】

実験においては、各自、白衣を用意して着用すること。

データベース基礎

竹内 光悦

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

コンビニレジのデータや twitter のデータ、スポーツデータや人の行動データなど、様々な分野でデータの規模や形式が変わってきている。このような高度情報化が進む情報化社会では、これらの大規模なデータを適切に処理するスキルが必要とされており、今後さらにこれらを扱える人材が期待されている。そこで本講義ではこれらのデータを扱える人材育成を視野に、はじめてデータベースを触る入門部分から基礎的なレベルまでを段階的に紹介し、基礎的なデータベースおよびプログラムスキルなどのビジネススキルの取得を目指す。また講義全体として Microsoft Access や Excel の VBA を用いて行うことで、MOS 等のこれらの情報系の資格取得支援も考慮した授業展開を行う。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 高度情報社会に求められるデータサイエンススキル
2. Excel と Access でのデータベースやプログラム
3. データベースの作成と管理
4. データベースのテーブルの作成
5. データベースのフィールドとレコード
6. データのリレーションシップとキーの管理
7. クエリの用いたデータ処理
8. クエリの集計フィールドやグループ化の活用
9. フォームによるデータ処理
10. レポートを作成し結果の文書化
11. Excel VBA を用いたプログラム入門
12. Excel VBA を用いた基礎的なプログラム開発
13. Excel VBA を用いたプログラム開発演習
14. データベースとプログラムを用いた総合演習
15. データベースのまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。また外部資格取得者に対しては、加点を考慮する。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

FOM 出版『Microsoft Office Specialist Access 2016 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）』（富士通エフ・オー・エム株式会社、2017）3,024 円。

【注意事項】

本講義では実践的にデータベースの演習を行うため、PC 教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。

デザインワークショップ

高田 典夫

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

企画、構想、計画、設計、製作という「ものづくり」という行為を実践することにより、空間を構成している要素を理解し、構法を実践的に考えることをテーマとします。建築空間を実現する上での様々な構法について、代表的な構法である木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造を取り上げ、それぞれの構造材料の特性と空間架構の可能性についても講述します。

【授業における到達目標】

空間を読み解く、その構成を理解することを通して、「美の探究」を修得する。
デザインした空間を図面化することにより「行動力」を修得する。
図面を読み解くことにより、「協働力」を修得する。
力の伝わり方を可視化することにより「研鑽力」を修得する。
木造の構造を可視化することによりその構成を理解することを通して「国際的視野」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 空間を構成する要素と構法
第2週 材料と構造方式
第3週 木構造の特徴
第4週 伝統的軸組構法
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
第5週 枠組壁構法
第6週 集成材による構法
第7週 鉄筋コンクリート構造の特徴
第8週 鉄筋コンクリート構造ラーメン構造
第9週 鉄筋コンクリート構造壁式構造
第10週 鉄骨構造の特徴
第11週 鋼材の種類と接合
第12週 鉄骨構造の軸組
第13週 その他の構法
第14週 軸組による空間表現
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。事前に「建築・インテリア構法」のテキストを読み返し、空間の成り立ちを理解しておくこと。(学修時間 2時間/週)
授業で学修したことは、繰り返し行うことで理解を深めることができます。何度も手を動かすことで、表現のツールとして身につけましょう。(事後学修 2時間/週)

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。随時、資料を配付します。
用具、材料については、授業時間内に適宜、指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度 (20%) と演習課題の成績 (80%) による。
提出された演習課題にコメントをつけて返却することによりフィードバックする。

【参考書】

『構造用教材』日本建築学会編 (日本建築学会)

【注意事項】

「建築・インテリア構法」を履修していること。
「設計製図基礎」「生活空間設計製図1」を履修していること。

デザイン基礎演習 a

スケッチによる表現法を学びます

塚原 肇

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

デザインは自分で考えた形やイメージを具体的に表現することから始まります。この授業では、デザインの基礎となるベーシックな表現技術と図法を修得することを目的としています。

【授業における到達目標】

・デザインにおけるスケッチは芸術家が描くデッサンや素描とは大きく違います。スケッチにはいくつかのルールがあり、それらを修得することにより誰でもある程度の表現ができるようになります。
・ディプロマ・ポリシー (DP) においては、学生が修得すべき「能力」のうち、学習成果を実感して、自信を創出することができる【研鑽力】を修得します。

【授業の内容】

- 平面構成
01. ガイダンス
02. 線、四角形、円と楕円を描く
03. 椅子を描く
○立体構成
04. 立方体、円柱を描く
05. 陰影を描く
○平面と立体
06. 第三角法を理解する
07. 図面から立体を描く
08. 立体から図面を制作する
○透視図 (パースペクティブ)
09. 一点透視図を描く
10. 二点透視図を描く
11. 三点透視図を描く
○テクスチャを表現する
12. テキスタイル、木を描く
13. 金属、プラスチック、ガラスを描く
○プレゼンテーション技法
13. 椅子を描く (全体構成)
14. 椅子を描く (グラデーション、テクスチャー)
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語や技法を理解しておいてください。(学修時間 週最低2時間以上)
【事後学修】 前週の宿題に対するコメントを理解し宿題の修正を行ってください。また、授業で学んだ技法を使った宿題を完成させましょう。(学修時間 週最低2時間以上)

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。
演習の教材として鉛筆、カッターナイフ、消しゴム、定規、スケッチブックは各自用意してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎週提出する宿題 (50%)、最初と最後に描いた椅子のスケッチの伸びしろ (20%)、授業態度 (30%)
課題に関しては、授業中にその都度評価を行い、良い点および改善点を伝える。伸びしろに関しては、最終日にスケッチブックを提出してもらい内容をチェックし、コメントを書いて返却する。

【注意事項】

デザインにおけるスケッチと図面はアイデアを視覚化する最も重要な技法です。これらの技法は頭で覚えるのではなく身体で覚えるものです。したがって事前・事後学修は欠かせません。限られた授業時間内では技法の原理しか学習できませんので、身体の訓練、特に鉛筆の使い方等は宿題を通して自分で訓練してください。

デザイン基礎演習 b

高田 典夫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

デザインに正解はありません。そのために、自分が考え、デザインしたものを何らかの方法で表現しなければ、自分自身で確認することも出来ませんし、まして他人に伝えることは出来ません。この授業では、自分自身のコミュニケーションツールを手に入れるための基礎として、自分の手を動かしてものを造り上げる楽しさ、および出来上がった時の喜びを体験します。

【授業における到達目標】

- ・課題の意図を理解し、美しく仕上げることを通して「美の探究」を修得する。
- ・時間内につくり上げるにより「行動力」を修得する。
- ・学んだ手法を応用することにより「研鑽力」を修得する。

【授業の内容】

「折り紙建築」を教材として、ハガキ大の紙から立体をつくり出す。

1. カッターナイフなどの用具の使い方を習得する

- 1) 1枚の紙に切り込みをいれて立体をつくる
2. 90度開きタイプ その1：喜顔・怒顔
3. その2：白い舞台
4. その3：ブロック
5. その4：ウェディングパレス
- 2) 平面を組み合わせて立体をつくる
6. 180度開きタイプ その1：丸輪
7. その2：六人掛け
8. その3：ツリー
9. その4：くちなし
10. その5：つつじ
11. その6：球
12. 360度開きタイプ その1：正八面体
13. その2：でんぐり
- 3) 自分のオリジナルの「折り紙建築」をつくる
14. 企画・構想・デザイン

授業で制作した「折り紙建築」のいくつかのパターンを基本として、その構成・形態を検討し、独自の作品を制作する。

15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。（学修時間 2時間/週）

【事後学修】提出した作品にコメントをつけて返却しますので、それをよく読み、理解して次の課題に取り組むことを勧めます。

自分が制作した作品をじっくりと見直して、平面から立体になる仕組みを理解しましょう。（学修時間 2時間/週）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。随時、資料を配付します。

演習の教材として、鉛筆、定規、カッターナイフなど別途に提示する演習用具を各自必要とします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20％）と、演習課題の成績（80％）による。

毎回提出された課題に対するコメントによりフィードバックを行う。

デザイン基礎演習 c

上條 里江

1年 後期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

服飾に関するデザイン画・スタイリング画の描き方、ディテール・素材表現等を学び、服飾デザインを創作する。

【授業における到達目標】

イメージする服飾デザインをスタイリング画・ハンガーイラストとして適切に描くことができる。

服飾素材の表情や形状を絵で表現することができる。

テーマ・コンセプトを確立し、それをベースに服飾デザインを創作し、ポートフォリオ等にまとめることができる。

【授業の内容】

第1週 創作ガイダンス

（テーマ・コンセプトの立案とマップ作成について）

第2週 身体バランス ボトムアイテムをハンガーイラストで描く（シルエットとディテール）

第3週 身体バランス トップアイテムをハンガーイラストで描く

第4週 全身アイテムをハンガーイラストで描く

第5週 スタイリング画 ポーズ1（身体に着用させる）

第6週 スタイリング画 ポーズ2（身体に着用させる）

第7週 着色

第8週 テーマ・コンセプト相談

第9週 自由制作 アイデア出し・イメージスケッチ

第10週 自由制作 デザイン創作

第11週 自由制作 デザインブラッシュアップ

第12週 自由制作 スタイリング画清書

第13週 自由制作 着色

第14週 自由制作 レイアウト・仕上げ

第15週 プレゼンテーション・まとめ

【事前・事後学修】

ファッション誌等からのアイデアのピックアップやリサーチ（市場や学内）によるデザインスケッチを行うこと。（事前：週2時間）

自分のラインを追究するためにデザイン画のトレースを行う。

（事後：週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

A4用紙 ドローイングペン

着色材料（色鉛筆・マーカー・水性ペン・クレヨンなど）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ハンガーイラスト・スタイリング画チェック40%

プレゼンテーションとその作品60%

各授業にて、フィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

遅刻、欠席の無いように受講すること。

デザイン史

近代の工芸デザイン

森谷 美保

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

近代日本、西洋のデザイン史を、工芸デザインを中心に講義する。イギリスでのアーツ・アンド・クラフツ運動に端を発したヨーロッパの工芸デザインと、明治時代の幕開けとともに万国博覧会を契機に世界へと広がった日本の工芸、美術について解説。日本のデザイン史では、明治政府による殖産興業として発展した工芸の歴史、図案とデザインの関係、西洋に与えた影響などを検証する。また、ヨーロッパに広まったジャポニスム、その後のアール・ヌーヴォー、アール・デコなどの展開とともに、それらが日本に受容された状況を解説し、近代デザイン史を概観する。

近代日本と西洋のデザインの関係について理解し、把握することを目標とする。

【授業における到達目標】

日本美術と西洋美術が交錯した時代がテーマとなるため、相互間の影響と問題が修得できる。日本美術史、西洋美術史といった各分野での美術史の研究だけでなく、近代史という広い視野で美術を捉えて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を身につけ、個人の研究や課題に活かすことができる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要について
- 第2週 19世紀のデザイン①：
ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
- 第3週 19世紀のデザイン②：
万国博覧会と日本の工芸
- 第4週 19世紀のデザイン③：ジャポニスムの誕生
- 第5週 日本のデザイン①：明治工芸とデザインの誕生
- 第6週 日本のデザイン②：デザインの展開①香蘭社
- 第7週 日本のデザイン③：デザインの展開②オールドノリタケ
- 第8週 19世紀のデザイン④：アール・ヌーヴォーの席卷
- 第9週 20世紀のデザイン①：
日本でのアール・ヌーヴォーの受容
- 第10週 日本のデザイン④：個人作家のデザイン：板谷波山
- 第11週 日本のデザイン⑤：個人作家のデザイン：富本憲吉

- 第12週 20世紀のデザイン②：アールデコの展開
- 第13週 20世紀のデザイン③：バウハウスの影響
- 第14週 20世紀のデザイン④：戦後日本の工芸デザイン：柳宗理
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業内容の参考文献、資料を提示するので、入手して事前学修すること（学修時間 週3時間程度）

事後学修：配布プリント内の専門用語を個別に調べ、理解する（学修時間：週2時間程度）

【テキスト・教材】

授業開始時にプリントを配布。授業最後に次回授業分を含め、参考文献、資料を提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート2回（50%×2）。レポート提出後の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

『世界デザイン史』美術出版社 2012年

『近代日本デザイン史』美学出版 2006年

【注意事項】

授業に関連の深いテーマの美術館・展覧会の見学を行う場合がある。その場合の費用は全額自己負担である。

デザイン史

デザイン史を学び、将来を予測する

塚原 肇

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

産業革命以後、ヨーロッパ各地で展開されたデザイン運動はそれぞれ独自の様式を作り上げました。その様式は製品のみならず建築、インテリアやファッションにまで影響を与えています。本授業では様式を中心にその時代背景と作品をビジュアルに紹介しながら解説をおこないます。

【授業における到達目標】

- ・この授業を通して、デザイン（様式）の発生から進化を修得することができます。そしてそれらを理解することにより、モノの本質や成り立ちを知ることができるようになります。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得します。

【授業の内容】

- 現代デザインの流れ
 01. デザイン史概要
- 19世紀末のデザイン
 02. アーツ・アンド・クラフツ運動
 03. アール・ヌーヴォー
 04. ドイツ工作連盟
- 20世紀前半のデザイン
 05. バウハウス
 06. アール・デコ
 07. 構成主義
 08. インターナショナルスタイル
- 近代デザインの巨匠達
 09. アンтониオ・ガウディとデザイン
 10. フランク・ロイド・ライトとデザイン
 11. ル・コルビュジエとデザイン
 12. ミース・ファン・デル・ローエとデザイン
 13. ワルター・グロピウスとデザイン
 15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】最初の授業でデザイン史年表を配布しますので、毎回の授業前に該当箇所を予習し専門用語等を調べておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】配布された年表に沿って授業の内容が理解できているか確認しましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中小テスト（70%）、授業態度（30%）

授業の中間と最終に小テストと授業に関する感想文を提出してもらおう。内容をチェックし、コメントを記して返却する。

【注意事項】

現代は第四時産業革命の時代と言われています。蒸気エネルギーの発明により始まった第一次産業革命、大量生産が可能になった第二次産業革命、IT化が進んだ第三次産業革命、そしてIoT（モノのインターネット）が進む現代の第四時産業革命、これらの時代を契機に世界の産業形態は大きく変化しました。新しい生活様式を次々と生み出していったのです。これからはもっとIoTが進み、我々の生活様式は大きく変化します。デザイン史を学んだ上で今後どのような世界になるかの想像を膨らませてデザインの一助にしてください。

デザイン史

近代の工芸デザイン

森谷 美保

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

近代日本、西洋のデザイン史を、工芸デザインを中心に講義する。イギリスでのアーツ・アンド・クラフツ運動に端を発したヨーロッパの工芸デザインと、明治時代の幕開けとともに万国博覧会を契機に世界へと広がった日本の工芸、美術について解説。日本のデザイン史では、明治政府による殖産興業として発展した工芸の歴史、図案とデザインの関係、西洋に与えた影響などを検証する。また、ヨーロッパに広まったジャポニスム、その後のアール・ヌーヴォー、アール・デコなどの展開とともに、それらが日本に受容された状況を解説し、近代デザイン史を概観する。

近代日本と西洋のデザインの関係について理解し、把握することを目標とする。

【授業における到達目標】

日本美術と西洋美術が交錯した時代がテーマとなるため、相互間の影響と問題が修得できる。日本美術史、西洋美術史といった各分野での美術史の研究だけでなく、近代史という広い視野で美術を捉えて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を身につけ、個人の研究や課題に活かすことができる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要について
 第2週 19世紀のデザイン①：
 ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
 第3週 19世紀のデザイン②：
 万国博覧会と日本の工芸
 第4週 19世紀のデザイン③：ジャポニスムの誕生
 第5週 日本のデザイン①：明治工芸とデザインの誕生
 第6週 日本のデザイン②：デザインの展開①香蘭社
 第7週 日本のデザイン③：デザインの展開②オールドノリタケ
 第8週 19世紀のデザイン④：アール・ヌーヴォーの席卷
 第9週 20世紀のデザイン①：
 日本でのアール・ヌーヴォーの受容
 第10週 日本のデザイン④：個人作家のデザイン：板谷波山
 第11週 日本のデザイン⑤：個人作家のデザイン：富本憲吉

 第12週 20世紀のデザイン②：アールデコの展開
 第13週 20世紀のデザイン③：バウハウスの影響
 第14週 20世紀のデザイン④：戦後日本の工芸デザイン：柳宗理
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業内容の参考文献、資料を提示するので、入手して事前学修すること（学修時間 週3時間程度）

事後学修：配布プリント内の専門用語を個別に調べ、理解する（学修時間：週2時間程度）

【テキスト・教材】

授業開始時にプリントを配布。授業最後に次回授業分を含め、参考文献、資料を提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート2回（50%×2）。レポート提出後の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

『世界デザイン史』美術出版社 2012年

『近代日本デザイン史』美学出版 2006年

【注意事項】

授業に関連の深いテーマの美術館・展覧会の見学を行う場合がある。その場合の費用は全額自己負担である。

デザイン実習 a

総合デザイン

下山 肇

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

日常生活の中から「埋もれている」あるモノを一つ選び、そのモノの良さを伝えるディスプレイを制作する。他の類似物と比較して「信頼」と「安心感」を生み、さらに「高品質」であるというイメージを作る形や色、素材などの配置構成について考察する。

【授業における到達目標】

デザインの最終目標は「生活を楽しく、潤いに満ちたもの」にすることである。この事をふまえたうえで、複合的な要素をまとめ、暮らしをより良くするイメージを伝達するデザインについて修得する事を目標とする。

学生が修得すべき「美の探求」のうち主に、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ディスプレイデザインについて1・小課題制作
- 第2週 ディスプレイデザインについて2・小課題発表・提出
- 第3週 街のディスプレイ1ー取材成果の考察
- 第4週 街のディスプレイ2ー取材結果のまとめ(画像処理)
- 第5週 街のディスプレイ3ー取材結果のまとめ(フォーマット)
- 第6週 街のディスプレイ4ー取材結果のまとめ(要素の分析、抽出)
- 第7週 街のディスプレイ5ーまとめ発表・質疑応答
- 第8週 ディスプレイ1ー対象物の設定とその分析
- 第9週 ディスプレイ2ーアイデアスケッチ、キャッチコピーの制作
- 第10週 ディスプレイ3ーラフモデル制作、空間構成の検討
- 第11週 ディスプレイ4ー背景ヴィジュアルイメージの制作
- 第12週 ディスプレイ5ー空間構成1
- 第13週 ディスプレイ6ー空間構成2(仕上)
- 第14週 ディスプレイ7ーまとめ制作・提出
- 第15週 ディスプレイ8ー発表・質疑応答

【事前・事後学修】

【事前学修】考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと(学修時間 週2時間程度)

【事後学修】授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること(学修時間 週2時間程度)

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品(創造的な感受と表現の工夫)・発表(発表・鑑賞の能力)85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う。

【参考書】

ヴィクション:ワークショップ編

『クリエイティブ・エキシビション&ディスプレイデザイン』グラフィック社

京都造形芸術大学編『デザインの瞬間ー

創造の決定的瞬間と先駆者たち』角川書店 など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収(特別に必要な道具・材料類は各自用意すること)

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン実習 b

空間デザイン

下山 肇

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

日常生活の観察から「機能」とは無縁でありながら、存在していることで暮らしが豊かになるモノたちを取材し、「遊び」について考察しながら、遊具の要素を抽出する。さらに簡単なワークショップから偶発的に生まれた紙立体に、スケールを与えることで価値を見だし、想像力を開いて、ある「モノ」や「空間」として見立てた「遊具」を計画する。また、両課題とも制作の意図やプロセスをまとめて発表する。

【授業における到達目標】

デザインと社会の関わりについて理解を深め、具体的な作品制作を通して考察する。また立体、空間デザインに必要な「スケール」感覚を身につけ、「取材・観察」「分析・抽出」「再構成」というプロセスを経た、表現技法を修得することを目標とする。

学生が修得すべき「美の探求」のうち主に、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 遊具についてー「遊ぶ」とはなにかディスカッション
- 第2週 フォリーについて1ー日常の取材
- 第3週 フォリーについて2ー観察結果の考察(構成要素の分析・抽出)
- 第4週 フォリーについて3ー取材のまとめ(発表・質疑応答)
- 第5週 紙立体に対する見立て1ー紙立体の制作
- 第6週 紙立体に対する見立て2ースケールの制作
- 第7週 紙立体に対する見立て3ーシーンの検討
- 第8週 遊具のデザイン1ー作品化1 イメージスケッチ・水張り
- 第9週 遊具のデザイン2ー作品化2 スケールなど
- 第10週 遊具のデザイン3ー作品化3 ベースなど
- 第11週 遊具のデザイン4ー作品化4 しつらえなど
- 第12週 遊具のデザイン5ー作品化5 背景など
- 第13週 遊具のデザイン6ー発表資料制作1(画像処理など)
- 第14週 遊具のデザイン7ー発表資料制作2(レイアウトなど)
- 第15週 遊具のデザイン8ー発表・質疑応答

【事前・事後学修】

【事前学修】考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと(学修時間 週2時間程度)

【事後学修】授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること(学修時間 週2時間程度)

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品(創造的な感受と表現の工夫)・発表(発表・鑑賞の能力)85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

【参考書】

ドナルド・A・ノーマン著『エモーショナルデザイン』新曜社

亀井正弘著『空間造形論体系』鳳山社 など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収(特別に必要な道具・材料類は各自用意すること)

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン実習 c

平面デザイン

下山 肇

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

コンピュータを用いた平面デザイン「DTP（デスクトップパブリッシング）」について理解し、実際の印刷業者に入稿することでもできるグラフィックデザイン（ポスターなど）を制作する。実際の顧客を想定しその希望を達成するという、本来のデザイン行為をシミュレートする。

【授業における到達目標】

デザインは個人と物、個人と環境など間を取りもつ潤滑的な存在であり、コミュニケーションの手段としての役割をはたす。その為には人に人の目を捉え、伝えたいことを的確に表現するのかということが重要である。このような視覚伝達デザインについて理解を深め、メッセージを形にまとめていく手段について学ぶことを目標とする。

学生が修得すべき「行動力」のうち主に、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 平面デザインについて・DTPについて
- 第2週 テーマの研究・取材結果の考察
- 第3週 取材結果のまとめ1ーコンピュータソフトでの画像処理
- 第4週 取材結果のまとめ2ーコンピュータソフトでの情報編集
- 第5週 取材結果のまとめ3ー出力ー観察・分析（画像解像度など）
- 第6週 平面デザイン1ー構成要素の抽出（色・形）
- 第7週 平面デザイン2ー構成要素の抽出（素材・構成）
- 第8週 平面デザイン3ーアイデアスケッチ
- 第9週 平面デザイン4ーコピー作成・文字
- 第10週 平面デザイン5ー構成・レイアウト
- 第11週 平面デザイン6ー下描き・配色
- 第12週 平面デザイン7ー彩色
- 第13週 平面デザイン8ー彩色（仕上げ）
- 第14週 発表・質疑応答・鑑賞
- 第15週 総評・提出

【事前・事後学修】

【事前学修】 考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

【事後学修】 授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

【参考書】

ブルーノ・ムナリー著『デザインとヴィジュアル・コミュニケーション』 みすず書房

ティモシー・サマラ著『グラフィックデザイナーのためのレイアウトデザインの法則』 毎日コミュニケーションズ など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン実習 d

企画デザイン

下山 肇

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会のさまざまな多様性の中で、デザインの目的は「モノ」を生み出す行為から、経験や感動、継続する運動をつくる「コト」に移行してきている。

本実習ではそんな「コト」のデザインの一例として、地域コミュニティの活性化や高齢社会、また幼児教育に対しての有効な手段の一つとされている「創造力開発系アートワークショップ」について研究し、オリジナルプログラムを開発・実践する。

【授業における到達目標】

素材・行為・道具・環境という4つのキーワードをきっかけにしてプログラム開発へアプローチする。頭で考えた観念的なプログラムではなく、より具体的に新鮮なものとするため、開発・実践・検証を繰り返して、各自それぞれの体験を生かしたオリジナリティのある企画を作り上げることを目標とする。

学生が修得すべき「協働力」のうち主に、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 創造力開発系アートワークショップについて
- 第2週 「素材」についての研究・取材
- 第3週 「行為」についての研究・取材
- 第4週 「道具」についての研究・取材
- 第5週 「環境」についての研究・取材
- 第6週 プログラムの開発1ー制作手順の検討
- 第7週 プログラムの開発2ー進行手順の検討
- 第8週 プログラムの開発3ー成果物の検討
- 第9週 プログラムの開発4ー成果物設置の検討
- 第10週 プログラムの開発5ータイムスケジュールの製作
- 第11週 中間実践・検証
- 第12週 プログラムの改良1ー手順の再検討
- 第13週 プログラムの改良2ー成果物の再検討
- 第14週 プログラムの実践・質疑応答
- 第15週 総評・提出

【事前・事後学修】

【事前学修】 考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

【事後学修】 授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

【参考書】

ブルーノ・ムナリー著『ファンタジア』 みすず書房

松田行正著『眼の冒険 デザインの道具箱』 紀伊國屋書店

中西紹一編『ワークショップ 偶然をデザインする技術』 宣伝会議

林容子・湖山泰成共著『進化するアートコミュニケーション』 レイ

ライン など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン入門 a

色・形・構成

下山 肇

1年～ 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

デザイン概論としてデザイン思考の魅力と役割、現代社会との関わりや歴史について理解する。また色と形、それらの構成についていくつかの簡単な練習課題を制作し、さらに初歩的なデザイン行為として、テーマに基づいた色彩構成によるイラストレーションを制作する。

【授業における到達目標】

一般的なデザインの概念について理解するとともに、現代社会におけるデザインの役割について理解し、その実践のために必要な基礎的な表現手段を身につけることを目標とする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち主に、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 デザイン思考の魅力と役割
- 第2週 現代社会とデザイン
- 第3週 デザインの歴史
- 第4週 色について1—色の三要素、色相環など
- 第5週 色について2—色立体、明度についてなど
- 第6週 色について3—彩度、色の対比についてなど
- 第7週 色について4—配色効果と色の見え方について
- 第8週 色について5—混色について（コンピュータソフトを使用して）
- 第9週 イラストレーション1—原画の分析、構成美の要素について
- 第10週 イラストレーション2—下書き
- 第11週 イラストレーション3—着彩（大きな部分）
- 第12週 イラストレーション4—着彩（細かな部分）
- 第13週 イラストレーション5—着彩及びレタリング
- 第14週 イラストレーション6—仕上・提出
- 第15週 イラストレーション7—発表・鑑賞

【事前・事後学修】

【事前学修】 考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

【事後学修】 授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

【参考書】

原研哉著『デザインのデザイン』岩波書店

日本グラフィックデザイナー協会教育委員会編

『Visual design (1) Basic Design』六曜社 など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン入門 b

素材・立体

下山 肇

1年～ 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

ものは色、形とともに「素材感・質感」が重要な要素として位置づけられる。「紙」を題材にまず「モダンテクニック」のいくつかを実践する。さらに、素材感・質感についての様々な実験を行い、素材の持つ可能性を引き出す。実験によって得られた価値の中からいくつかを選び、または組み合わせでランプシェードとし、暮らしに豊かさをもたらす小さな「あかり」を制作する。また、制作の意図やプロセスをボードにまとめて発表する。

【授業における到達目標】

デザイン入門 a で習得したことをふまえ、具体的なデザインを展開する際に必要な「素材」「方法」「目的」の関係性について理解する。また実践をとおして視覚や触覚など「身体感覚」から発する表現技法と立体表現の基礎について修得することを目標とする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち主に、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、モダンテクニックについて
- 第2週 モダンテクニックの実践1—ドリッピングなど
- 第3週 モダンテクニックの実践2—スパッタリングなど
- 第4週 モダンテクニックの実践3—スクラッチなど
- 第5週 モダンテクニックの実践4—まとめ制作・提出
- 第6週 紙に対するファクツラ1—ファクツラについて
- 第7週 紙に対するファクツラ2—感覚と素材／化学的組成
- 第8週 紙に対するファクツラ3—感覚と素材／物理的特性
- 第9週 紙に対するファクツラ4—まとめ制作
- 第10週 ファクツラによるあかり1—目的と環境の関わり・要素の融合
- 第11週 ファクツラによるあかり2—形体化1（照明部分）
- 第12週 ファクツラによるあかり3—形体化2（シェード部分）
- 第13週 ファクツラによるあかり4—立体把握と第三角法
- 第14週 ファクツラによるあかり5—まとめ制作・提出
- 第15週 ファクツラによるあかり6—発表・質疑応答

【事前・事後学修】

【事前学修】 考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

【事後学修】 授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%

作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

【参考書】

L. モホリ＝ナギ著『ザ ニューヴィジョン』ダヴィッド社

真鍋一男著『造形の基本と実習』美術出版社 など

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）

美術館見学など校外実習を行う事もある。

デザイン論

モノ・コトの意味を探る

高橋 綾

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

人々の生活に必要な「モノ」を生み出すデザイナー。「モノ」が作られるとき、デザイナーは美を意識しながら機能やデザインを考えます。「モノ」がもたらす意味には消費者が使っていくうちに機能やデザインに新たな価値や感情、思い出などを生み出す「コト」も含まれてきます。この授業のテーマは「モノ・コトの意味を探る」です。デザインの中にある「モノ」と「コト」の意味を学生自身から導き出し探るのが目的です。ワークショップ、企画会議、プレゼンテーションなどの体験も取り入れながらデザインの理解を深めていきます。

【授業における到達目標】

デザインはモノの美しさ、色や形だけの計画ではありません。モノ自体に意味があり、出来事や文化的・精神的なコトのデザインも含まれています。その「デザイン」を経験することで、多角的な視点を意識しながら実践に活かします。さらに企画デザインを考えるグループワークを取り入れることで、広い視野と洞察力、目標設定し計画を実行できる能力を身につけることができます。デザインを身近な環境から学び、理解、実践することがこの授業の目標です。

【授業の内容】

- 第1週 教員紹介／授業概要説明
／宿題課題提示「あなたにとってのデザイン」
- 第2週 個人発表「あなたにとってのデザイン」
モノの意味とは？
- 第3週 私たちの大切なものとは？（ディスカッション）
- 第4週 グループ発表（私たちの大切なものベストテン）
- 第5週 コトのデザインとは？モノからコトのデザインへ
（事例紹介／課題提示／説明／発想法）
- 第6週 コトのデザインを考える（グループディスカッション）
- 第7週 企画会議（企画書の作り方の説明／ディスカッション）
- 第8週 企画書作成（企画書制作／提出）
- 第9週 グループ発表（コトのデザイン）
- 第10週 コトとモノのデザインを考える（課題提示／説明）
- 第11週 提案内容チェック（個人による検討）
- 第12週 提案内容まとめ（発表資料制作）
- 第13週 個人プレゼンテーション（番号前半より1名ずつ行う）
- 第14週 個人プレゼンテーション（番号後半より1名ずつ行う）
- 第15週 まとめ／レポート提出

【事前・事後学修】

履修前に以下の課題を提示します。

課題「あなたにとって『デザイン』とはなんですか」

「その考えを第2回目の授業で口頭のみで発表してください」

また、授業の終了時にその日の授業のポイントと翌週の授業のポイントを提示するので、事後学修（週2時間）および翌週の授業前までに事前学修（週2時間）をしておいてください。

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%、レポート試験50%、発表（発表・企画の能力）35%。

※フィードバックについてレポート試験は授業最終日、発表は、発表後のコメントで行う。

【参考書】

- ・モノの意味事典（株式会社博報堂）
- ・日本創造学会（webページ）
- ・企画書の書き方Navi（webページ）

【注意事項】

グループワークが多いため、遅刻・欠席は厳禁。

デザイン論

モノ・コトの意味を探る

高橋 綾

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

人々の生活に必要な「モノ」を生み出すデザイナー。「モノ」が作られるとき、デザイナーは美を意識しながら機能やデザインを考えます。「モノ」がもたらす意味には消費者が使っていくうちに機能やデザインに新たな価値や感情、思い出などを生み出す「コト」も含まれてきます。この授業のテーマは「モノ・コトの意味を探る」です。デザインの中にある「モノ」と「コト」の意味を学生自身から導き出し探るのが目的です。ワークショップ、企画会議、プレゼンテーションなどの体験も取り入れながらデザインの理解を深めていきます。

【授業における到達目標】

デザインはモノの美しさ、色や形だけの計画ではありません。モノ自体に意味があり、出来事や文化的・精神的なコトのデザインも含まれています。その「デザイン」を経験することで、多角的な視点を意識しながら実践に活かします。さらに企画デザインを考えるグループワークを取り入れることで、広い視野と洞察力、目標設定し計画を実行できる能力を身につけることができます。デザインを身近な環境から学び、理解、実践することがこの授業の目標です。

【授業の内容】

- 第1週 教員紹介／授業概要説明
／宿題課題提示「あなたにとってのデザイン」
- 第2週 個人発表「あなたにとってのデザイン」
モノの意味とは？
- 第3週 私たちの大切なものは？（ディスカッション）
- 第4週 グループ発表（私たちの大切なものベストテン）
- 第5週 コトのデザインとは？モノからコトのデザインへ
（事例紹介／課題提示／説明／発想法）
- 第6週 コトのデザインを考える（グループディスカッション）
- 第7週 企画会議（企画書の作り方の説明／ディスカッション）
- 第8週 企画書作成（企画書制作／提出）
- 第9週 グループ発表（コトのデザイン）
- 第10週 コトとモノのデザインを考える（課題提示／説明）
- 第11週 提案内容チェック（個人による検討）
- 第12週 提案内容まとめ（発表資料制作）
- 第13週 個人プレゼンテーション（番号前半より1名ずつ行う）
- 第14週 個人プレゼンテーション（番号後半より1名ずつ行う）
- 第15週 まとめ／レポート提出

【事前・事後学修】

履修前に以下の課題を提示します。

課題「あなたにとって『デザイン』とはなんですか」

「その考えを第2回目の授業で口頭のみで発表してください」

また、授業の終了時にその日の授業のポイントと翌週の授業のポイントを提示するので、事後学修（週2時間）および翌週の授業前までに事前学修（週2時間）をしておいてください。

【テキスト・教材】

適宜配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

関心・意欲・態度15%、レポート試験50%、発表（発表・企画の能力）35%。

※フィードバックについてレポート試験は授業最終日、発表は、発表後のコメントで行う。

【参考書】

- ・モノの意味事典（株式会社博報堂）
- ・日本創造学会（webページ）
- ・企画書の書き方Navi（webページ）

【注意事項】

グループワークが多いため、遅刻・欠席は厳禁。

デジタルデザイン

CADを体験しよう

金井 宏水

1・2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

モノづくり系や建築系、店舗関係でも図面を見る機会が多い。この授業では「CAD利用技術者基礎試験」に一部対応し、製図に関する基礎知識の習得から、CADを利用した製図の実習（2次元&3次元）までを経験する。非常に簡単な操作で三次元CADが体験できるソフト「sketch-up」を楽しく学ぶことができる。sketch-upの創作課題では空間創造を体験し、右脳を活性化することにもつながる。

このスキルを得ることで、製造業で事務の仕事に就くうえで役立つだけでなく、将来CAD関連の職種（CADオペレーター等）を目指すことも可能となる。

【授業における到達目標】

この授業は、図面に慣れ親しみ、図面を見れば内容をある程度理解できるようになることを目標とする。また、大きさを数値化する「寸法単位」を理解し、寸法による美的バランス、空間認識力を高める。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

【授業の内容】

第1週：授業概要・検定の説明

CADシステムとソフトウェアの基礎知識

第2週：図学とパターン

(1) 平面図学と立体図学

(2) パターン（連続模様）

(3) 2次元CADの体験（JW-CADの基本操作）

第3週：デジタルパターン（CADでパターンをつくる）

第4週：様々な作図法・形をつかもう

(1) 平行投影図法の解説

(2) 透視投影図法の解説

(3) 三角法で形をつかむ練習

第5週：三角法で簡単な作図を試みる

第6週：JW-CADで図面の作図練習

(1) 線分・線の種類・描画方法を覚える

第7週：(2) 簡単な図面<1>を描いてみる

第8週：(3) 寸法の入力方、図面<1>に寸法を入れて完成

第9週：自分で図面を描く・図面<2>

(斜視図を見ながら自分でCAD図面に起こす)

第10週：3次元CADの体験 SketchUpの基本操作・家を描く

第11週：SketchUpでインテリアを描く

第12週：自由課題：SketchUpで住まいを創作する

(1) 家のプランを構想する

第13週：(2) プランをJW-CADで作図（寸法を決める）

第14週：(3) SketchUpで三次元化

第15週：(4) 完成と作品の発表

【事前・事後学修】

事前学修：前の授業で説明したテーマにつき、次の時間までにテーマ内容を考え、構想を練っておくこと。（学修時間 週2時間）

課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外でも進めておくこと。（学修時間 週1時間）

新しいソフトウェアを体験するので、学内や自宅のPCを活用して

操作の練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各CADソフトの操作マニュアルデータを提供する。

必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業の中での提出物と平常点で評価する。

提出作品の評価・・・・・・・・・・・・・・70点

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・・・・30点

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

【参考書】

『CAD利用技術者試験「基礎試験」』 日刊工業新聞社 2011年
やさしく学ぶGoogle Sketch Up

【注意事項】

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

デジタルメディア

—デジタル化でできることとできないこと—

大倉 恭輔

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

「デジタル」ということは「日本語化」していますが、「デジタル」を正確にわかりやすく説明できる人はほとんどいません。そこで、まずは「デジタル」について理解するとともに、それがメディアと結びついたときに、どのようなことが生じるのかについて学びます。

【授業における到達目標】

「デジタル」「デジタル・メディア」について、ことに音楽と映像/映画制作を例にとりながら学んでいきます。その上で、グループワークなどをしながら、デジタル化やデジタル機器がわたしたちの生活にもたらす影響について理解し、さらに、情報のあり方や表現の変化について深く正確な理解を身につけることをめざします。

そして、そうした学びをとおして、広い視野と深い洞察力を身につけてもらいたいと思います。

【授業の内容】

- 01 はじめに：デジタルであるということ
- 02 メディアの歩み
- 03 耳の驚き a 音楽とデジタルオーディオ
- 04 耳の驚き b 音と音楽
- 05 耳の驚き c 音作りに携わる人々
- 06 目の驚き a 映像と映画
- 07 目の驚き b 映像とカメラ
- 08 目の驚き c 映像作りに携わる人々
- 09 こんなところにもデジタルが a デジタルアート
- 10 こんなところにもデジタルが b ゲームとメディア
- 11 調べてみよう a 何がデジタル化されているのか
- 12 調べてみよう b 誰がデジタル化しているのか
- 13 調べてみよう c どのようにデジタル化されているのか
- 14 調べてみよう d アナログでは悪いのか
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配布の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

デジタル出版演習

情報化社会における表現手法と伝達手段について学ぶ

鷹野 凌

1・2年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

年間8万点以上の書籍が出版されていてもなお、自分の書いた本が出版社から発行され書店で販売されるような著者になるのは困難です。

ところがインターネットの普及によって、誰でも自分の作品を発信できる時代になりました。まさに「一億総クリエイター時代」です。

デジタル出版なら、「表現したい」という意欲と、表現するノウハウさえあれば、日本国内はもちろん、世界の反対側にいる人に自分の作品を読んでもらうことも可能です。

ただし、作品を読んでもらうためには、作品の存在について認知してもらう必要があります。誰でも発信できるということは、玉石混交の作品の中に埋もれてしまうことでもあるからです。

本演習では、まずデジタル出版の定義や実例、著作権などについて理解した上で、実際に自分の手で「本（電子書籍）」を制作し、発信、宣伝といったデジタル出版のプロセスを学習します。

【授業における到達目標】

自分一人で本（電子書籍）の制作・販売ができるようになること。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信を創出できるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 デジタル出版の定義と実例
- 第2週 ファイルの基礎知識
- 第3週 実習：青空文庫をデジタルの本にしてみよう
- 第4週 実習：青空文庫のファイルを編集してみよう
- 第5週 実習：青空文庫の本に表紙を付けてみよう
- 第6週 実習：デジタル写真集を作ってみよう（編集）
- 第7週 実習：デジタル写真集を作ってみよう（表紙）
- 第8週 実習：デジタル写真集を作ってみよう（変換）
- 第9週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（構成）
- 第10週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（原稿）
- 第11週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（校正）
- 第12週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（構成）
- 第13週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（表紙）
- 第14週 実習：デジタル雑誌を作ってみよう（変換と確認）
- 第15週 作品のプロモーション/まとめ

【事前・事後学修】

- 事前：実習内容について予習しておく（週30分）
- 事後：配付資料による復習（週30分）

【テキスト・教材】

授業時にスライド資料のデータを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（30%）、提出課題（70%）
課題提出とフィードバックには「manaba」を使用します。

【参考書】

鷹野凌『クリエイターが知っておくべき権利や法律を教わってきました。著作権のことをきちんと知りたい人のための本』インプレス
福井健策『18歳の著作権入門』（筑摩書房）

【注意事項】

コンピュータ演習室の席数により、受講人数は40名を上限とします（超えたら抽選）。

デジタル出版論

デジタル（電子）出版の現状と今後の「本」について学ぶ

鷹野 凌

1・2年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

グーテンベルクの活版印刷術発明から5世紀以上経過し、いままさにデジタル化とネットワーク化による「情報革命」が進行中です。活版印刷以前からの長い伝統をもつ紙の本と、デジタルの本はどう違うのでしょうか？ パーソナルコンピュータやインターネットの歴史を学びつつ、その延長上にあるデジタルの本を長い書物の歴史の中に位置づけることによって、本とはいかなるメディアであるかを理解しましょう。

【授業における到達目標】

デジタル出版の歴史と現状を知り、本の未来について自分なりの考えを持てるようになります。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 本とコンピュータの出会い
- 第3週 デジタル出版の草創期
- 第4週 デジタル出版ビジネスの現在と課題
- 第5週 メディアの歴史とインターネット
- 第6週 マイクロソフトとアップル
- 第7週 グーグルと検索技術
- 第8週 アマゾンとネット書店
- 第9週 ソーシャルメディア
- 第10週 ナレッジコミュニティ
- 第11週 アーカイブ（重要記録の保存・活用）
- 第12週 デジタル出版と著作権
- 第13週 電子図書館と青空文庫
- 第14週 デジタル出版による読者と著者の関係
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：参考書の講読（週2時間）

事後：レポート課題（週2時間）※毎授業出します

【テキスト・教材】

スライド資料のデータを配布するほか、適宜、教材を指定します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（100%）：提出とフィードバックには「manaba」を使用します。毎回数名、提出レポートのプレゼンテーションを行ってもらい、他の受講生から意見を述べてもらいます。

【参考書】

- Paul Allen 『ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト』講談社
- Walter Isaacson 『スティーブ・ジョブズ』講談社
- Steven Levy 『グーグル ネット覇者の真実』CCCメディアハウス
- Brad Stone 『ジェフ・ベゾス 果てなき野望』日経BP社
- David Kirkpatrick 『フェイスブック 若き天才の野望』日経BP社
- 小林啓倫 『今こそ読みたいマクルーハン』マイナビ新書
- 内沼晋太郎 『本の逆襲』朝日出版社
- 猪谷千香 『つながる図書館』ちくま新書
- 福井健策 『18歳の著作権入門』筑摩書房

【注意事項】

欠席時の講義で出されたレポートは、遅れても自主学習の上必ず提出してください。他の参考書：Chris Anderson『フリー〈無料〉からお金を生みだす新戦略』NHK出版、Scott Galloway『the four GAFA 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、鷹野凌『クリエイターが知っておくべき権利や法律を教わってきました。著作権のことをきちんと知りたい人のための本』インプレスなど。

ドイツ語 1 a

ブラック, ヨーガン

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction / German sounds and the alphabet
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Greetings and goodbyes, introducing oneself and others
4. Talking on the phone
5. Answering questions about yourself
6. Talking about your family, numbers
7. Talking about where you live
8. Describing other people
9. Talking about food
10. Shopping for food, prices
11. Shopping for food, prices (continued)
12. Talking about likes and dislikes
13. Talking about likes and dislikes (continued)
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 1 Neu[Hueber, 2016、¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Participation - 30%
Classwork - 30 %
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring A B5 Notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course. Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

ドイツ語 1 b

ブラック, ヨーガン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Describing houses and apartments
4. Describing houses and apartments (continued)
5. Telling the time
6. Talking about daily activities
7. Talking about daily activities (continued)
8. Talking about the weather
9. Talking about seasons
10. Talking about hobbies and free time
11. Talking about hobbies and free time (continued) Talking about hobbies and free time (continued)
12. Talking about learning
13. Talking learning (continued)
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 1 Neu[Hueber, 2016、¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Participation - 30%
Classwork - 30 %
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring a B5 notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course. Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

ドイツ語 2 a

田中 亜美

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活の基本となる衣・食・住や健康や環境問題といった身近な「暮らし」をテーマに、今の私たちがドイツ人の暮らしぶりから学べることは何かという問題を、ドイツ語と日本語のテキストとともに学びます。

授業では、ドイツの日常生活や社会についての日本語による「解説」と、ドイツ語の「本文」から成る教材を使用します。ドイツ語の「本文」の前半は、ドイツ語による説明文、後半は会話文となっており、実際にコミュニケーションの場で用いる生きたドイツ語を学ぶことができます。日本語・英語などと比較しながら、文法の解説も行います。

授業では初めにヨーロッパの政治・経済で中心的な位置をしめるドイツについての基本的知識を身に着けたあと、自然・気候の特徴について、日本や他の外国と比較しながら学びます。次にそうした自然・気候から生まれるドイツの衣・食・住について、ドイツ人ならではのこだわりを学習します。

最後に経済大国・産業大国の一員として勤勉に働く一方で、日常をていねいに暮らすこと、余暇活動を大切にすドイツ人のライフスタイルについて考察します。

外国語を学ぶことは、新しいものの見方、より深い考え方を獲得する良いチャンスです。ドイツ語をきっかけに、私たちの「暮らし」を新たな視点で見つめなおしていきましょう。

【授業における到達目標】

(1) CEFR A2 (日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える) のドイツ語を身につける

(2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。

(3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語の発音の復習
- 第2週 ドイツ語の発音とつづりの関係の復習
- 第3週 ヨーロッパの中のドイツーEUとは何か
- 第4週 ヨーロッパの中のドイツードイツ語圏の国々
- 第5週 ドイツの自然
- 第6週 ドイツの気候
- 第7週 ドイツの食生活ーワインとビール
- 第8週 ドイツの食生活ーパンとソーセージ
- 第9週 ドイツの食生活ー注目を集める「和食」
- 第10週 ドイツの住生活ー快適な室内
- 第11週 ドイツの住生活ー中世の建築
- 第12週 ドイツの住生活ー近代・現代の建築
- 第13週 ドイツの労働
- 第14週 ドイツの休暇
- 第15週 これまでのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テストや発表等の課題にとりくむこと (学修時間 週2時間) 【事後学修】確認小テストや発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験30%、授業中の発言、理解度、発音練習、確認小テストなどへの積極的な取り組みなどを総合した平常点70%

確認小テストは、採点・添削をして返却し、コメントをつけてフィードバックする。

【注意事項】

募集人数は40名です。

ドイツ語 2 a

ブラック, ヨーガン

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The aim of this course is to introduce students to intermediate German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Talking about work
4. Talking about work
5. Understanding advertisements
6. Staying at a hotel
7. Asking for explanations and requesting help
8. Asking for and following directions
9. Asking for and following directions
10. Understanding information brochures
11. Talking about health
12. Going to the doctor
13. Making appointments
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review the materials for each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 2 Neu[Hueber, 2016, ¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%

Classwork -30 %

Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course,

Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

ドイツ語 2 b

ブラック, ヨーガン

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course to introduce students to intermediate-level German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their low-intermediate German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Questions and phrases used in the classroom
3. Asking and following directions
4. Asking and following directions
5. Using and understanding public transportation
6. Using and understanding public transportation
7. Describing objects
8. Describing objects
9. Lost and found
10. Lost and found
11. Invitations
12. Invitations
13. Presentations
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should prepare about two hours each week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 2 Neu[Hueber、2016、¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%

Classwork -30 %

Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

Students should also bring a B-5 notebook to be used for this class only.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one course.

募集人数は40名です。

ドイツ語 2 b

田中 亜美

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活の基本となる「暮らし」をテーマに、今の私たちがドイツ人の暮らしぶりから学べることは何かという問題を、ドイツ語と日本語のテキストから学びます。

授業では、ドイツの日常生活や文化・社会についての日本語による「解説」とドイツ語による「本文」から成る教材を使用します。ドイツ語の「本文」の前半は、平易なドイツ語による説明文、後半は会話文となっており、実際にコミュニケーションの場で用いる生きたドイツ語を学ぶことができます。

授業では初めに、ドイツ人が日頃から親しんでおり、私たちがコミュニケーションをとるときに共通する話題でもあるクラシック音楽について取り上げます。次に環境先進国として知られるドイツの環境問題についての取り組みについて学びます。ゴミの分別、リサイクルをはじめ、子どもの頃からはじまる環境教育についても学びます。また、日本と同じ少子高齢化の問題を抱えるドイツの教育事情についても、考えます。最後に、自然との調和を大切にしたいドイツの年中行事について紹介します。

外国語を学ぶことは、新しいものの見方、より深い考え方を知るよいチャンスです。ドイツ語をきっかえに私たちの「暮らし」を新たな視点で見つめなおしていきましょう。

【授業における到達目標】

(1) CEFR A2 (日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える) 程度のドイツ語力を身につける。

(2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。

(3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語の発音の復習
- 第2週 ドイツ語の発音とつづりの関係の復習
- 第3週 ドイツ・オーストリアの音楽—「3 B」の作曲家たち
- 第4週 ドイツ・オーストリアの音楽—器楽曲の歴史
- 第5週 ドイツ・オーストリアの音楽—歌曲の歴史
- 第6週 ドイツの環境問題—ゴミ削減・リサイクル
- 第7週 ドイツの環境問題—子どもへの環境教育
- 第8週 ドイツの環境問題—再生可能エネルギー
- 第9週 ドイツの教育—ドイツの教育制度
- 第10週 ドイツの教育—ドイツの大学
- 第11週 ドイツの教育—ドイツの外国語教育
- 第12週 少子高齢化とドイツ
- 第13週 ドイツの歳時記—一年間の行事
- 第14週 ドイツのクリスマス
- 第15週 これまでの復習

【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テストや発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】確認小テストや発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験30%、授業中の発言、理解度、発音練習、確認小テストなどへの積極的な取り組み、リアクションペーパーの内容などを総合した平常点70%。

確認小テストは、採点・添削した上で返却し、コメントをつけてフィードバックする。

【注意事項】

募集人数は40名です。

ドイツ語で学ぶドイツ語 a

ドイツを旅行してみよう

田中 亜美

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

皆さんが将来、ドイツ語圏の国を訪れたり、ドイツ語圏出身の人々と意思疎通を図るときに必要な基本的な表現を、ドイツ語で学ぶ授業です。実際にコミュニケーションの現場で使える、CEFR “A1” レベルのドイツ語を学ぶことを目標とします。

授業でははじめに、基本的なあいさつを学んだあと、ドイツ語特有の発音と響きに、実際に声を出しながら、親しんでもらいます。簡単な自己紹介の方法を学んだあとは、観光案内所やショッピング、レストランでの会話、道を尋ねる表現など、実際に旅行の現場で必要となるシーン別に、よく使われる表現を順を追って、繰り返し学んでいきます。、多くのドイツ語を聞き、実際に声に出して発音して、CEFR “A1” レベルのドイツ語を学んでいきましょう。

【授業における到達目標】

(1) CEFR “A1” (ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる) レベルのドイツ語力を身につける。

(2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。

(3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 授業の説明・簡単な挨拶①
- 第2週 簡単な挨拶②
- 第3週 ドイツ語の発音① アルファベット／母音／子音
- 第4週 ドイツ語の発音② 1～20までの数字
- 第5週 簡単な自己紹介
- 第6週 観光案内所で使う表現① (「すみませんが」)
- 第7週 観光案内所で使う表現② (「〇〇はどこですか」)
- 第8週 ショッピングで使う表現① (「〇〇はすてきですね」)
- 第9週 ショッピングで使う表現② (「〇〇を買います」)
- 第10週 レストランで使う表現① (「〇〇を注文します」)
- 第11週 レストランで使う表現② (「会計をお願いします」)
- 第12週 20～100までの数字 通貨について
- 第13週 道をたずねる表現
- 第14週 道を教える表現
- 第15週 これまでのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テスト・発表等の課題に取り組むこと (学修時間 週2時間)

【事後学修】確認小テスト・発表等の復習をすること。次回の授業範囲を予習すること (学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリント使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発音練習や会話のペア練習や確認小テストへの意欲的な参加態度など日常の授業への貢献度…70%

期末試験…30%

確認小テストは採点・添削をして返却し、コメントと共にフィードバックする。

【注意事項】

授業では、教師はできるだけ多くのドイツ語を話します。理解を助けるために、英語も使用します。ただし、教師が話したドイツ語と英語の日本語の意味は、ジェスチャーなどで分かりやすく示したり、プリントに記すようにします。受講生の皆さんは、ドイツ語でのあいさつや会話練習を除き、授業では日本語を使い、教師への質問も日本語で行ってかまいません。

募集人数は40名です。

ドイツ語で学ぶドイツ語 a

ブラック、ヨーガン

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The aim of this course is to introduce students to intermediate German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Talking about work
4. Talking about work
5. Understanding advertisements
6. Staying at a hotel
7. Asking for explanations and requesting help
8. Asking for and following directions
9. Asking for and following directions
10. Understanding information brochures
11. Talking about health
12. Going to the doctor
13. Making appointments
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review the materials for each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 2 Neu[Hueber, 2016, ¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%

Classwork -30%

Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course,

Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

ドイツ語で学ぶドイツ語 b

ドイツ人と仲良くなろう

田中 亜美

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

記します。受講生の皆さんは会話練習などを除き、授業では日本語を使い、教師への質問も日本語で行ってかまいません。募集人数は40名です。

【授業のテーマ】

皆さんが将来、ドイツ語圏の国を訪れたり、ドイツ語圏出身の人々と意思疎通を図るときに必要となるCEFR A1（ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる）程度のドイツ語を学ぶ授業です。実際にコミュニケーションの現場で使える生きたドイツ語を学ぶことを目標とします。

授業でははじめに、基本的なあいさつを学んだあと、ドイツ語特有の発音と響きに、実際に声を出しながら、親しんでもらいます。簡単な自己紹介を学んだあとは、同じように相手のことを尋ねる表現を学びます。趣味の話や好きな食べ物の話など、お互いの心の距離が近づくようなトピックスを中心に、簡単な会話表現を学びます。また、イベントなどに誘う表現や日本の良さを簡単に紹介する表現なども学びます。

ドイツ人と日本人の間で交わされる会話の映像なども見ながら、多くのドイツ語を聞き、実際に声に出して発音し、お互いの関係を良好にしあえるコミュニケーションを目指していきましょう。

【授業における到達目標】

- (1) CEFR A1（ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる）程度のドイツ語力を身につける。
- (2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。
- (3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し、社会を動かそうとする態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 授業の説明 簡単なあいさつ①
- 第2週 簡単なあいさつ②（「ありがとう」と「どうぞ」）
- 第3週 ドイツ語の発音①母音／子音
- 第4週 ドイツ語の発音②発音とつづりの関係
- 第5週 自分のことを話す（名前／出身／居住地／職業）
- 第6週 相手のことを尋ねる（名前／出身／居住地／職業）
- 第7週 趣味のことを話す・尋ねる
- 第8週 好きな食べ物と飲み物を話す・尋ねる
- 第9週 好きな音楽やスポーツを話す・尋ねる
- 第10週 相手の予定を尋ねる
- 第11週 イベントと一緒にでかける
- 第12週 ドイツのよいところを聞く
- 第13週 日本のよいところを話す
- 第14週 メールや手紙の基本的なあいさつ
- 第15週 これまでのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テスト・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】確認小テスト・発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発音練習や会話のペア練習への意欲的な参加態度、確認小テストの結果など日常の授業への貢献度…70%

期末試験…30%

確認小テストは添削・採点して、コメントと共にフィードバックする。

【注意事項】

授業では、教師はできるだけ多くドイツ語を話します。英語も使用します。ただし、教師が話したドイツ語（英語）の日本語の意味は、ジェスチャーなどを通してわかりやすく示し、プリントなどに

ドイツ語で学ぶドイツ語 b

ブラック, ヨーガン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course to introduce students to intermediate-level German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their low-intermediate German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Questions and phrases used in the classroom
3. Asking and following directions
4. Asking and following directions
5. Using and understanding public transportation
6. Using and understanding public transportation
7. Describing objects
8. Describing objects
9. Lost and found
10. Lost and found
11. Invitations
12. Invitations
13. Presentations
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should about two hours each week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

Schritte International 2 Neu[Hueber、2016、¥3,140(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%
Classwork -30 %
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

Students should also bring a B-5 notebook to be used for this class only.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one course.

募集人数は40名です。

ドイツ文学 a

感性と知性を深めよう

田中 亜美

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

ドイツ文学とは、ドイツ語で書かれた文学全般のことを指します。グリム童話やゲーテの詩をはじめとして、ドイツ文学は世界中で広く愛好されています。明治時代以降、日本の文学者たちに与えた影響も、とても大きなものがあります。授業ではまず、聖書などに次いで世界中でもっとも多く読まれている昔話の「グリム童話」を取り上げます。グリム童話は、もっぱら子どもの読みものとして、広く世界で受け入れられてきた文学ですが、その中の残酷な部分や理不尽な内容が問題にされることもあります。授業では、改編・改訂されていない、オリジナルの文章の翻訳を実際に読むことで、昔話の文体的な特徴や構造的な共通性、子どもの心の成長にどのような意義があるのかという問題について、みなさんと一緒に考えます。次にドイツ文学でもっとも有名な作家・詩人のひとりであるゲーテを取り上げ、ゲーテの詩と音楽の関わりについて学びます。歌曲として有名な「野ばら」や「魔王」を取り上げ、その成立の背景や鑑賞のポイント、ゲーテの作品が日本や世界の文学者たちに与えた影響についても、考えていきます。外国の文学を学ぶことは、新しいものの見方や考え方に触れる大きなチャンスです。一緒にドイツ文学の魅力を味わい、探索していきましょう。

【授業における到達目標】

- (1) 人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養う。
- (2) 国際関係を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。
- (3) 現状を正しく把握し、課題を発見するとともに、課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語圏の文学とは何か？
- 第2週 グリム兄弟の生涯と作品
- 第3週 初版グリム童話を読む・考える（「蛙の王様」）
- 第4週 初版グリム童話を読む・考える（「赤ずきん」）
- 第5週 初版グリム童話を読む・考える（少女の試練と自立）
- 第6週 初版グリム童話を読む・考える
（「ヘンゼルとグレーテル」）
- 第7週 初版グリム童話を読む・考える
（子どもの試練と自立）
- 第8週 初版グリム童話を読む・考える（「白雪姫」）
- 第9週 初版グリム童話を読む・考える（女性の試練と自立）
- 第10週 ゲーテの生涯と作品
- 第11週 ゲーテの「野ばら」（詩のリズムと韻）
- 第12週 ゲーテの「野ばら」（詩の内容と解釈）
- 第13週 ゲーテの「魔王」（詩のリズムと韻）
- 第14週 ゲーテの「魔王」（詩の内容と解釈）
- 第15週 ドイツ・リートの魅力—詩と音楽の融合

【事前・事後学修】

【事前学修】授業であらかじめ指示された専門用語などを理解しましょう。（学修時間 週2時間）
【事後学修】授業で配られたプリントや授業中に発表されたリアクションペーパーのコメントなどをもとに、授業内容を復習しましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

内容理解および記述形式の定期試験…40%
授業中の理解度、リアクションペーパーなどを総合した平常点…60%

リアクションペーパーに書かれた多様な視点の文章を授業の中で匿名で発表してコメントすることで、訴求力のある文章の書き方などをフィードバックする。

ドイツ文学b

感性と知性を深めるために

田中 亜美

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

ドイツ文学とはドイツ語で書かれた文学全般のことを指します。明治時代以降、日本の文学者たちにも大きな影響を与えました。

授業では、20世紀のドイツ文学として、21世紀の今も若い世代を中心に大きな人気がある、フランツ・カフカとミヒャエル・エンデの小説や物語を紹介し、現代社会のかかえている〈存在〉や〈時間〉の在り方という、私たちにも身近なテーマが、これらの作品ではどのように表現されているのか、どのようにしたら、よりよく生きていくことができるのか、みなさんと一緒に考えます。

また、近代から現代のドイツ語の詩人の中でも良く知られているリルケの生涯と作品を紹介し、リルケは翻訳を通じて、日本の蕪村や芭蕉の俳句作品にも親しんでおり、自らの詩作に大いに影響を受けていたことが明らかになっています。リルケの詩を考えることは、ドイツ文学と日本文学の魅力を繋ぐ手がかりを見つけるためにも、よいきっかけとなることでしょう。

外国の文学を学ぶことは、新しいものの考え方に触れる大きなチャンスです。ドイツ文学の魅力を探索していきましょう。

【授業における到達目標】

- (1) 人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養う。
- (2) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。
- (3) 現状を正しく把握し、課題を発見するとともに、課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 フランツ・カフカの生涯と作品
- 第2週 カフカの作品を読む①（『変身』第一章）
- 第3週 カフカの作品を読む②（『変身』第二章）
- 第4週 カフカの作品を読む③（『変身』第三章）
- 第5週 『変身』と現代社会①
- 第6週 『変身』と現代社会②
- 第7週 ミヒャエル・エンデの生涯と作品
- 第8週 『モモ』を読む①
- 第9週 『モモ』と読む②
- 第10週 『モモ』と現代社会
- 第11週 リルケの生涯と作品
- 第12週 リルケの詩（詩「秋」と「秋の日」）
- 第13週 リルケの薔薇の詩とく俳句
- 第14週 リルケの詩の特徴
- 第15週 これまでのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業であらかじめ指示された専門用語などを理解しましょう。（学修時間 週2時間）
 【事後学修】 授業で配られたプリントや授業中に発表されたリアクションペーパーのコメントなどをもとに、授業内容を復習しましょう（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

内容理解および記述式形式の定期試験…40%
 授業中の理解度、リアクションペーパーなどを総合した平常点…60%
 リアクションペーパーに書かれた多様な視点の文章を授業の中で匿名で発表してコメントすることで、訴求力のある文章の書き方などをフィードバックする。

【参考書】

- フランツ・カフカ／山下肇・山下万里訳『変身』（岩波文庫）
- ミヒャエル・エンデ／大島かおり訳『モモ』（岩波少年文庫）

ノンバーバルコミュニケーション論

見ただ目で伝える・伝わる・伝え合う

西脇 智子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

竹内一郎は社会を強く支配し続けているノンバーバル・コミュニケーションの入門書『人は見た目が9割』を日本人のために著述し、興味深い糸口を示してくれました。

コミュニケーション学の視点では、どのような要素に着目して、言語か非言語かの特徴を分析しているのでしょうか。そこで、この授業では、コミュニケーション学での分析を踏まえてノンバーバルコミュニケーション論を展開し、さらに絵で表す言葉の世界（ピクトグラム）にも注目して学びます。

【授業における到達目標】

- ・現状を正しく把握し、課題を発見できる「行動力」を身につけます。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を身につけます。

【授業の内容】

1. 非言語コミュニケーションの機能
2. 非言語音声メッセージ
3. 外見的特徴
4. 身体接触
5. 身体動作
6. 周辺の言語
7. 空間
8. 時間
9. 色彩
10. 嗅覚
11. 沈黙
12. ピクトグラム①（記号・図記号）
13. ピクトグラム②（絵文字）
14. グループワーク：絵文字で伝える
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教材は資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート40%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）60%。
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

竹内一郎『人は見た目が9割』（新潮社 2005年）680円、末田清子・福田浩子『コミュニケーション学』（松柏社 2014年）2000円、村越愛策『絵で表す言葉の世界』（交通新聞社 2014年）1800円

ハワイ英語研修

1年 集中 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この研修の目的は、ハワイ州ホノルル市のインターカルチュラルコミュニケーションズカレッジにおける英語研修、ホームステイを通して、海外の言語と文化を体験し、学生の自立と英語力向上、視野の拡大を図ることにあります。

【授業における到達目標】

この科目の研修参加を通じて「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養います。また「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力や、「目標を設定して、計画を立案・実行できる」行動力の習得を目指します。

【授業の内容】

- 期間：2020年2月中旬から約3週間
- 英語レッスン：現地の英語学校のクラスで受講
- アクティビティ：ホノルル市内見学
- ホームステイ（2食込み）

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

【テキスト・教材】

必要な資料はESLクラス内で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の資料に基づき選択科目として2単位が認定されます(100%)

- ①現地での調査課題達成度40%
- ②現地英語レッスン参加度40%
- ③現地での生活マナー20%

英語レッスンの教師から英語習得についてフィードバックがあります。

【注意事項】

- ①1年生は専門教育科目「アメリカ文化事情」、「研修プレップ英語」の履修および単位取得見込みが条件となります。
- ②リスクマネジメントのために共通教育科目「海外研修」を履修することを強く勧めます。
- ③英会話練習のため「Workshop A～F」の履修を強く勧めます。
- ④事前指導参加態度が悪いと参加が認められなくなります。
- ⑤本研修は、前期GPAの成績によって応募できないこともあるので、履修要項を確認してください。

バイオテクノロジー概論

分子生物学とバイオテクノロジー

阿尻 貞三

2年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

お酒、パン、味噌に代表されるように、ヒトは古くから細菌・カビ(酵母を含む)など微生物を使って色々な物を作って利用してきました。さらに近年の生物関連技術は目覚ましく進歩してきております。遺伝子の改変を行い、希望する物質を微生物や真核生物細胞に作らせ、希望する性質をもった微生物、植物、動物をつくれるようになってきました。遺伝子組み換えの作物という食の「安全」、「安心」から拒否反応をしまいがちです。しかし私たちの周りには多くの遺伝子組み換え作物がすでに外国等から輸入されております。正しい知識と理解力と科学的思考力をもって対応してください。

【授業における到達目標】

現在のバイオテクノロジーの用語を理解し、現在のバイオテクノロジーのあり方を他の方々に説明・伝えられることを目標とします。教科書等に記載していることをただ単に覚えるのではなく、自分で理解し、自分の言葉で説明できるようにしてください。遺伝子の働きを一元的な見方ではなく、多面的に、多方面から理解しなくてはなりません。講義で習得したことをふまえて、新しい技術を理解する能力を養ってください。新しい技術がめざす方向の本質を理解し、その評価を正しく行える能力を身につけてください。

【授業の内容】

- 第1週 生物とはなにか。
- 第2週 生命の設計図、遺伝子。
- 第3週 生命を構成する化学物質、核酸とタンパク。
- 第4週 染色体と遺伝子の本体
- 第5週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その1 イントロンとエクソン
- 第6週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その2 プロモーターとオペレーター
- 第7週 細胞の分化とES細胞とクローン家畜、iPS細胞
- 第8週 遺伝子組換えとPCR反応、
- 第9週 ゲノム編集技術、RNA干渉
- 第10週 遺伝子組み換え作物 GM Crops
- 第11週 バイオ燃料とバイオプラスチック
- 第12週 遺伝子治療
- 第13週 医療とバイオテクノロジー
- 第14週 環境浄化でのバイオテクノロジー
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

1年前期で学習した生化学などを復習しておいてください。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

「やさしいバイオテクノロジー カラー版」 芦田著 ソフトバンク クリエイティブ 2011年に絶版となりましたので、アマゾンの中古本、もしくは電子書籍を Amazon - 「kindle本」 書籍名検索、またはGoogleplayの書籍名検索で購入できます、720～800円。そのほか適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各講義で小テストあるいはレポートを行い、小テストおよびレポートは採点の上すべて返却し、テスト内容およびレポート課題は授業中に解説を行います。自己学習・復習に使って自己研鑽に努めてください。小テストおよびレポートの合計で成績を判定します。

【注意事項】

多色の鉛筆もしくはボールペン、マーカーを持参してください。

バイオテクノロジー概論

分子生物学とバイオテクノロジー

阿尻 貞三

1年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

お酒、パン、味噌に代表されるように、ヒトは古くから細菌・カビ(酵母を含む)など微生物を使って色々な物を作って利用してきました。さらに近年の生物関連技術は目覚ましく進歩してきております。遺伝子の改変を行い、希望する物質を微生物や真核生物細胞に作らせ、希望する性質をもった微生物、植物、動物をつくれるようになってきました。遺伝子組み換えの作物という食の「安全」、「安心」から拒否反応をしまいがちです。しかし、私たちの周りには多くの遺伝子組み換え作物がすでに外国等から輸入されております。正しい知識と理解力と科学的思考力をもって対応してください。

【授業における到達目標】

現在のバイオテクノロジーの用語を理解し、現在のバイオテクノロジーのあり方を他の方々に説明・伝えられることを目標とします。教科書等に記載していることをただ単に覚えるのではなく、自分で理解し自分の言葉で説明できるようにしてください。遺伝子の働きを一元的な見方ではなく、多面的に、多方面から理解しなくてはなりません。講義で習得したことをふまえてあたらしい技術を理解する能力を養ってください。新しい技術がめざす方向の本質を理解しその評価を正しく行える能力を身につけてください。

【授業の内容】

- 第1週 生物とはなにか。
- 第2週 生命の設計図、遺伝子。
- 第3週 生命を構成する化学物質、核酸とタンパク。
- 第4週 染色体と遺伝子の本体
- 第5週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その1 イントロンとエクソン
- 第6週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その2 プロモーターとオペレーター
- 第7週 細胞の分化とES細胞とクローン家畜、iPS細胞
- 第8週 遺伝子組換えとPCR反応、
- 第9週 ゲノム編集技術、RNA干渉
- 第10週 遺伝子組み換え作物 GM Crops
- 第11週 バイオ燃料とバイオプラスチック
- 第12週 遺伝子治療
- 第13週 医療とバイオテクノロジー
- 第14週 環境浄化でのバイオテクノロジー
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

1年前期で学習した生化学などを復習しておいてください。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

「やさしいバイオテクノロジー カラー版」芦田著 ソフトバンククリエイティブ 2011年に絶版となりましたのでアマゾンの中古本、もしくは電子書籍を Amazon-「kindle本」書籍名検索、又は Googleplayの書籍名検索で購入できます、720~800円。そのほか適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各講義で小テストあるいはレポートをおこない、小テストおよびレポートは採点の上すべて返却し、テスト内容およびレポート課題は授業中に解説を行います。自己学習・復習に使用して自己研鑽に努めてください。小テストおよびレポートの合計で成績を判定します。

【注意事項】

多色の鉛筆もしくはボールペン、マーカーを持参してください。

パターン設計論

松岡 久美子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

平面素材から立体的な衣服を製作するためには、製作技法と合わせて立体的な衣服を平面作図に置き換えたパターンが必要である。パターン設計論では衣服製作の基本パターンである原型を衣服パターンに展開させる基本原理について学習する。

さらに、各種衣服のパターン設計、応用デザインのパターン設計へと発展させ、デザインされた衣服とその展開図（設計図）であるパターンとの関係について学習する。設計したパターンは平面作図法と立体裁断を併用した方法により仮組立てし、その設計の有効性を確認、評価する。

【授業における到達目標】

上半身、下半身を被覆するパターン設計の基本的な考え方を理解し、デザインに応じたパターンを設計できるようになる。これにより、学修効果を実感することが出来、自信につながる。さらに知識を得たい、縫製技術も学びたいなどの自己成長力、行動力をつけることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容の説明、「パターンの定義」
- 第2週 人体を包む基本立体の設定
- 第3週 下半身基礎パターンの基本原理（スカート原型）
- 第4週 上半身基礎パターンの基本原理（上半身原型）
- 第5週 ダーツの基本原則（ダーツの移動・消去・分散）
- 第6週 演習ーダーツを他の構成技法に変える効果の確認
- 第7週 スカートパターンの基本展開
- 第8週 スカートパターンの応用展開
- 第9週 上半身原型の基本展開
- 第10週 上半身原型をブラウス、ワンピースパターンへ展開
- 第11週 ワンピース応用デザインへの展開
- 第12週 ワンピース応用デザインへの展開
- 第13週 演習ーデザインした衣服のパターン設計と試作
- 第14週 13週の続きと設計効果の確認
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修として毎回次回のワークシートを配布する。次回のワークシートを読んでおくこと。（学修時間 週2時間）
事後学修は、今回の授業を元に次回展開することを認知させているため、理解できなかった点、個人的に質問する項目を把握しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各課題ごとに担当者作成のプリント、資料を配布、まとめて「パターン設計論」というファイルを作成する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題と全授業を通じて作成したファイル提出で評価します。最終課題として課した課題の評価60%、授業中に課題として出した14項目の課題の評価30%、ファイルの完成度10%で評価します。第6週に第5週までのファイルをチェック、理解不足項目を補填します。第13週に小テストを行い次週返却、チェック項目を修正加筆させます。最終課題は同一課題ではなく、個々の学生と向き合います。

【参考書】

- 『衣服製作の科学』（建帛社）
- 『アパレル設計・製作論』（日本衣料管理士協会）

【注意事項】

毎回、新しい内容を学習するのではなく、次回は前回はさらに応用、積み重ねていくという形で進めるので、継続性にウェイトを置いて欲しい。

パブリック・プログラム研究

藤田 百合

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

幅広い層の利用者を対象とする美術館。そこで行われているプログラムに焦点をあて、その教育的意義や役割を理解するとともに、その基盤となる理論と実践に関する方法論について概観します。プログラムを通して得られる学びとは何か、そのプログラムはどのような目的のもと企画・実施され、さらには利用者にとどのような作用を与えるのか、美術館の教育的役割について幅広く考察します。

【授業における到達目標】

美術館のプログラムを企画、実施するための基礎的な能力や必要となる視点を養うことができる。

学生が修得すべき「行動力」と「協働力」の互いに協力して物事を進めることができる力、「美の探究」の物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度、「研鑽力」の学ぶ楽しさを知り、学問を続ける力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、利用者の美術館体験
- 第2週 美術館で行われるプログラムの特性と教育的意義
- 第3週 美術館訪問のきっかけ作り
- 第4週 美術館と利用者の関わり
- 第5週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（利用者の視点）
- 第6週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（美術館の視点）
- 第7週 ミュージアム・キットを通して考える
遊びの中から育まれる能動的な学び（展示室内）
- 第8週 ミュージアム・キットを通して考える
遊びの中から育まれる能動的な学び（展示室外）
- 第9週 ハンズ・オン展示から考える体験を通じた学び
- 第10週 モノ・ヒト・コトを考える
香雪記念資料館に求められる鑑賞教材とは
- 第11週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：ヒト
- 第12週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：コト
- 第13週 ひろがる・ふかまる鑑賞方法の多様性
- 第14週 課題発表・講評1
- 第15週 課題発表・講評2、まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：受講者自身にとっての体験を通じた学びを得る機会にもなるため、授業外でも積極的に博物館・美術館に足を運ぶこと。美術館の教育プログラムの情報を積極的に集めること。各回ごとに伝えるキーワードを理解しておくこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：キードの事後学修および、積極的に博物館・美術館に足を運び、展示のみならず、プログラムへの参加を推奨する。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組みの積極性40%、課題の評価60%で評価します。

課題に対するフィードバックは、第14週と第15週の講評時に行う。

【注意事項】

香雪記念資料館の取り組みについては、展覧会の時期によって変更することがある。

パブリック・プログラム研究

藤田 百合

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

幅広い層の利用者を対象とする美術館。そこで行われているプログラムに焦点をあて、その教育的意義や役割を理解するとともに、その基盤となる理論と実践に関する方法論について概観します。プログラムを通して得られる学びとは何か、そのプログラムはどのような目的のもと企画・実施され、さらには利用者にとどのような作用を与えるのか、美術館の教育的役割について幅広く考察します。

【授業における到達目標】

美術館のプログラムを企画、実施するための基礎的な能力や必要となる視点を養うことができる。

学生が修得すべき「行動力」と「協働力」の互いに協力して物事を進めることができる力、「美の探究」の物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度、「研鑽力」の学ぶ楽しさを知り、学問を続ける力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、利用者の美術館体験
- 第2週 美術館で行われるプログラムの特性と教育的意義
- 第3週 美術館訪問のきっかけ作り
- 第4週 美術館と利用者の関わり
- 第5週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（利用者の視点）
- 第6週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（美術館の視点）
- 第7週 ミュージアム・キットを通して考える
遊びの中から育まれる能動的な学び（展示室内）
- 第8週 ミュージアム・キットを通して考える
遊びの中から育まれる能動的な学び（展示室外）
- 第9週 ハンズ・オン展示から考える体験を通じた学び
- 第10週 モノ・ヒト・コトを考える
香雪記念資料館に求められる鑑賞教材とは
- 第11週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：ヒト
- 第12週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：コト
- 第13週 ひろがる・ふかまる鑑賞方法の多様性
- 第14週 課題発表・講評1
- 第15週 課題発表・講評2、まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：受講者自身にとっての体験を通じた学びを得る機会にもなるため、授業外でも積極的に博物館・美術館に足を運ぶこと。美術館の教育プログラムの情報を積極的に集めること。各回ごとに伝えるキーワードを理解しておくこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：キードの事後学修および、積極的に博物館・美術館に足を運び、展示のみならず、プログラムへの参加を推奨する。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組みの積極性40%、課題の評価60%で評価します。

課題に対するフィードバックは、第14週と第15週の講評時に行う。

【注意事項】

香雪記念資料館の取り組みについては、展覧会の時期によって変更することがある。

ビジネス・スキル a

コンテキスト：「商品価値」を読み解く

合原 勝之

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

ビジネス・スキルとは何でしょうか？社会で職を得て働いていくためには、様々な能力が求められます。本講義では、「価値創造」という観点から、ビジネス・スキルについて考えます。

「ビジネス」は商業活動ですから、モノやサービス（商品）を開発して販売することが基本です。また「スキル」は技能ですから、ビジネス・スキルとは商品の開発と販売に役立つ技能ということになります。現代社会はとても早いスピードで変化します。仕事では、常に新しい生活価値の創造が求められます。ここでは、課題演習を通して、商品開発の技法について学びます。その際にポイントとなるのは、小集団（グループ）による学習です。グループ・ディスカッションがなければ、創造的な仕事は成立しません。企業の仕事は一人で進められるものではありませんから、このグループワークへの適応も大切なビジネス・スキルです。もう一つのポイントは、「文化環境」の理解です。新しい商品と文化の相互作用によって、商品が受容（あるいは拒絶）され、新しい生活価値へと発展するからです。生活文化の領域では女性の役割がとても大きく、「女性的な知性」が価値創造の大きな力となります。この講義で養って頂きたいのは、まず「商品を見る目」です。モノやサービスはあるカタチをもち、そして変化します。また商品の置かれた場所や時間によって、その意味や価値も変わります。そこには、何らかの「理由」があるはずで、このような認識の上で、新たな商品の提案（生活価値の創造）を目指します。

【授業における到達目標】

商品の企画に伴う一連の作業を学習し具体的な価値提案ができるようになる事を到達目標とし「協働力」「行動力」向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 商品と文化的コンテキスト
- 第3週 事例研究1：概要説明（商品のカタチ）
- 第4週 事例研究1：調査
- 第5週 事例研究1：グループ討議
- 第6週 事例研究1：プレゼンテーションと評価
- 第7週 事例研究2：概要説明（販売の場所と時間）
- 第8週 事例研究2：調査
- 第9週 事例研究2：グループ討議
- 第10週 事例研究2：プレゼンテーションと評価
- 第11週 商品提案：概要説明（生活価値の創造）
- 第12週 商品提案：コンセプト立案
- 第13週 商品提案：制作
- 第14週 商品提案：プレゼンテーションと評価
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

【事前学修】私たちの生活は、たくさんのモノやサービスに囲まれています。これらの商品はどのような需要や着想から生まれたのか、日常から想像力をもって接するようにして下さい（週2時間）。【事後学修】また各回で解説した「デザインの方法」について、そのプロセスを図解して理解を深めてください（週2時間）。

【テキスト・教材】

必要な資料は、授業毎に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（ディスカッションへの積極的な参加）40%、テーマ毎のプレゼンテーション40%、期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

【注意事項】

受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

ビジネス・スキル b

仮説計画：「仮説」を立ててみよう

合原 勝之

3年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

現代社会はとても複雑で不確実といわれます。このような環境で未来を予測することは簡単ではありません。新たな商品（製品とサービス）を考える際にも同様な困難があります。商品は生活価値を表現したものです。本授業では、商品を通して新たな暮らしの価値について考えます。

多くの人々に受容された商品には、多くの要因があります。その成功要因は複雑に絡み合っていますから、簡単に特定することはできません。しかし要因を調査して分析することで、ある程度予想することはできます。これは商品の成功要因の「仮説」として述べることができます。仮説の妥当性は、その後の検証作業が必要になりますが、まず仮説を立てることが大切です。仮説は、商品の改善にも役立ちます。つまり、どうすればより良くなるかという仮説です。さまざまな仮説は、物事を進める上でとても役立ちます。ここでは実習を通して、「仮説」の立て方について学習します。また、私たち生活者の立場から商品を企画することもできます。企業が提供する商品は、「ブランド」を通して受容されています。ここではブランドイメージが大きな役割を果たしています。しかし生活者の立場から商品を企画する際には、イメージではなく実体としての商品価値から考えることができます。自分の暮らしに役立ち、自分らしい商品とはどのようなものか、という仮説です。これは「生活デザイン」をいう観点からの仮説です。現代社会では、このような生活者の視点からの発想がとても大切です。

【授業における到達目標】

「仮説」を立てるという方法から課題を発見し、新たな価値提案を行うスキルを身につけることを到達目標として「協働力」と「行動力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 課題1「現代的な商品」1：商品の選択
- 第3週 課題1「現代的な商品」2：成功の要因分析と仮説
- 第4週 課題1「現代的な商品」3：プレゼンテーション作成
- 第5週 課題1「現代的な商品」4：プレゼンテーション実施
- 第6週 課題2「商品の違和感」1：違和感の調査
- 第7週 課題2「商品の違和感」2：違和感の要因分析と仮説
- 第8週 課題2「商品の違和感」3：商品改善の仮説
- 第9週 課題2「商品の違和感」4：プレゼンテーション作成
- 第10週 課題2「商品の違和感」5：プレゼンテーション実施
- 第11週 課題3「生活デザインの視点」1：生活者の視点
- 第12週 課題3「生活デザインの視点」2：生活者からの商品仮説
- 第13週 課題3「生活デザインの視点」3：プレゼンテーション作成
- 第14週 課題3「生活デザインの視点」4：プレゼンテーション実施
- 第15週 まとめと期末レポート

【事前・事後学修】

【事前学修】私たちの生活は、たくさんのモノやサービスに囲まれています。これらの商品はどのような需要や着想から生まれたのか、日常から想像力をもって接するようにして下さい（週2時間）。【事後学修】各回で解説した「仮説の立て方」について、そのプロセスを図解して理解を深めてください（週2時間）。

【テキスト・教材】

必要な資料は、授業毎に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（ディスカッションへの積極的な参加）40%、テーマ毎のプレゼンテーション40%、期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

【注意事項】

ビジネス・マナー

良好な人間関係を築くために

栗原 栄美

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

みなさんが、大学卒業後に歩いていくビジネス社会では、一人で仕事をするのではなく、同じ目的に向かって組織で仕事をしていきます。年齢や立場、性別、性格、価値観の違う人たちと良好な人間関係を築き、組織人として考え、行動しなければなりません。この講座では、ビジネス社会だけではなく、大学生活を充実させるためにも必要となる知識やスキルを学びます。

【授業における到達目標】

- ① 大学生活と就活及びビジネス社会との関係を知る
 - ② 自分を知ることで人間関係の構築に役立てる
 - ③ 多様な価値観を知り、互いに交流しあう
 - ④ コミュニケーションについて理解し、強化する
- 以上により、ビジネス社会で必要となる「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（大学生活と就活の関係）
 - 第2週 社会で求められる力①（現代の日本企業に必要な力）
 - 第3週 社会で求められる力②（企業が求める能力No.1）
 - 第4週 グループワーク①（自分を知る）
 - 第5週 グループワーク②（価値観）
 - 第6週 グループワーク③（思い込み）
 - 第7週 グループワーク④（コミュニケーションの基本／分かち合う・応える）
 - 第8週 グループワーク⑤（コミュニケーションの実際／話す・聞く）
 - 第9週 グループワーク⑥（人が人を理解する）
 - 第10週 グループワーク⑦（葛藤とのつきあい方）
 - 第11週 グループワーク⑧（自己開示とフィードバック）
 - 第12週 グループワーク⑨（説得する／コンセンサス）
 - 第13週 グループワーク⑩（影響を与える）
 - 第14週 グループワーク⑪（チームワークを考える）
 - 第15週 グループワーク⑫（総まとめ／同じ目標に向かって）
- ※授業の進捗如何で若干内容が変わることがあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業内容を踏まえ、事前に関連するテーマをインターネットや書籍等で調べてください。＜学修時間 週2時間＞

【事後学修】授業内容を復習し、内容の整理・理解に努めてください。そのうえで、自分にとって何が必要か、そのために強化すべきことは何かを考え、行動に移してください。＜学修時間 週2時間＞

【テキスト・教材】

授業開始時にレジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー）50%、レポート50%の割合を基準として総合的に評価します。リアクションペーパー等についてのフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜指示します。

【注意事項】

この講座では、社会で必要な力を身につけていけるように、グループワークも取り入れながら、わかりやすく進めていきます。大学時代はこれからの卒業後の長い人生を支える基礎づくりの期間です。これからの時代は他人から指示を待つだけではなく、自らが課題を発見し、その改善策を実行していく力が求められます。

「充実した学生生活を送りたい」「この時期に何をしていくことが大切なのか知りたい」「就職活動に余裕を持って取り組みたい」「これから必要な力を知っておきたい」と考えている方は、この授業に参加して、多くのことを習得しましょう！

ビジネスコミュニケーション

— 社会人に必要なビジネススキルを身につける —

板倉 文彦

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

この講義では、社会人として周りから信頼されるためのビジネススキルを身につけることを目標とします。具体的には、まずビジネスで必要とされるコミュニケーションスキルについて学びます。そして、より説得力を増すための情報収集からプレゼンテーションまでを学びます。

この講義に加えて「ビジネスマネジメント」を履修することにより、ビジネス能力検定2級の全範囲を学ぶことができます。

【授業における到達目標】

社会人として必要なビジネスマナーを学ぶことで、倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身に付けることができます。

また、社会生活での自信を創出する研鑽力や、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

【授業の内容】

- 第1週 キャリアと仕事へのアプローチ
- 第2週 会社活動の基本
- 第3週 仕事の原点はお客さま
- 第4週 話し方と聞き方のポイント
- 第5週 接客と営業の進め方
- 第6週 クレーム対応
- 第7週 会議とプレゼンテーション
- 第8週 チームワークと人のネットワーク
- 第9週 統計・データの読み方
- 第10週 統計・データのまとめ方
- 第11週 情報収集とメディアの活用
- 第12週 経済産業用語、演習 1
- 第13週 経済産業用語、演習 2
- 第14週 プレゼンテーション演習
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する（週2時間程度）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く（週2時間程度）

【テキスト・教材】

日本能率協会マネジメントセンター：2019年度版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト[¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験60%、平常点40%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

必要に応じてその都度指示をします。

ビジネストーク入門

— 社会人に必要なコミュニケーション能力を磨く —

鹿島 千穂

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

ビジネスシーンで必要とされるトークとは「言葉を使って物事を伝えること」にとどまりません。表情、声色、ジェスチャー、服装などの非言語表現や、相手の話を十分に理解した上で反応する「傾聴力」、場にふさわしい日本語表現等、極めて高度なコミュニケーション能力が要求されます。

この授業では、職業人・社会人として求められるトークの基礎をビジネスシーン別に学びます。理論と実践の双方からのアプローチで、実社会で通用するコミュニケーション能力の修得を目指しましょう。

【授業における到達目標】

- ・実践とフィードバックを繰り返すことで、成長を実感しながら、公の場で話すことへの自信を創出する「研鑽力」が養われます。
- ・ビジネスで必要とされるコミュニケーション能力とはどのようなものを理解し、現状の課題に自ら気づき、あるべき姿へと切磋琢磨していく「行動力」を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションー仕事で必要とされるトークとは
- 第2週 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
- 第3週 あいさつと名刺交換
- 第4週 自己紹介
- 第5週 敬語の基本ー身につけたい敬語と間違えやすい敬語
- 第6週 報告・連絡・相談の仕方
- 第7週 電話応対の仕方と心構え
- 第8週 電話応対の実践
- 第9週 ケーススタディーーふさわしくない言葉と表現
- 第10週 伝え方と聞き方①聞き手中心の話し方
- 第11週 伝え方と聞き方②アクティブ・リスニングとは
- 第12週 アサーティブ・コミュニケーションのすすめ
- 第13週 パブリック・スピーキングに挑戦①テーマ発表と準備
- 第14週 パブリック・スピーキングに挑戦②実践
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：翌週の授業内容を踏まえた課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修：授業中に配布するワークシートをもとに、各自でノートをもとめる（要提出）。翌週の授業冒頭で行うレビュクイズに答えられるように、授業内容の復習をする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

スピーキングテスト50%、提出物20%、平常点（ペアワークやディスカッションでの発言、授業への取り組み等）30%

スピーキングテストは実施直後に口頭でフィードバックを行い、提出物にはコメントを記入して翌週返却します。

【参考書】

荒木晶子、藤木美奈子著『自分を活かすコミュニケーション力』（実教出版 2011年）

東照二著『なぜ、あの人の話に耳を傾けてしまうのか「公的言語」トレーニング』（光文社新書 2014年）

【注意事項】

スピーキングテストの際は、録音・録画機器で記録することを勧めます。教員からのフィードバックとともに持ち帰り、振り返りに役立ててください。

ビジネスプランニング

社会人基礎力の向上に向けて

野津 喬

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

社会で仕事をしていく上では、様々な能力が要求されます。この講義ではディスカッションや口頭発表などを中心に、社会人として求められる能力の基礎を身につけるとともに、企業などからビジネスについてのお話を伺い、ビジネスや社会に関する問題意識を深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ①ビジネスや社会に関する課題について、自分なりの問題意識を持つようになる。
 - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 情報の収集・分析①（社会的課題）
3. 情報の収集・分析②（事業関係）
4. ゲスト講義①事前検討
5. ゲスト講義①（金融関係）
6. ゲスト講義①振り返り、ゲスト講義②事前検討
7. ゲスト講義②（事業関係）
8. ゲスト講義②振り返り、ゲスト講義③事前検討
9. ゲスト講義③（地域関係）
10. ゲスト講義③振り返り、ゲスト講義全体の振り返り
11. 企画のプランニング
12. プラン検討
13. 企画発表①
14. 企画発表②、企画検討の振り返り
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※ゲストのご都合により予定を変更する可能性があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク等通常の授業への貢献（80%）、企画提案（検討作業及び発表）（20%）により評価を行います。フィードバックは、企画発表の次の回に行います。

【参考書】

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

ビジネスマナー応用

佐藤 圭子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

1年次に学んだ「ビジネスマナー入門」を基に秘書検定準1級レベルを目安により詳しく学び、演習を通して実践力を身につけることを目標とします。秘書検定準1級では、筆記試験に加えて面接試験が課せられます。この内容を学ぶことで就職活動の面接試験対策にもつながります。

【授業における到達目標】

ビジネスシーンで役立つ詳細な知識を身につけることができる。
正しい言葉選び、所作を学び、自信をもって人前で話ができるようになる。
学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 第一印象の整え方
- 第2週 美しい所作
- 第3週 感じの良い話し方・聞き方
- 第4週 訪問・接待のマナー
- 第5週 接遇演習
- 第6週 電話応対演習
- 第7週 苦情処理の仕方
- 第8週 慶事の決まりごと
- 第9週 弔事の決まりごと
- 第10週 パーティーの準備・運営
- 第11週 会議の設営・議事録
- 第12週 社交文書の書き方
- 第13週 面接演習①（報告課題）
- 第14週 面接演習②（状況対応）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- <事前学修>毎回配布するプリント・演習課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)
- <事後学修>プリント・演習課題の復習をすること。領域終了ごとに検定過去問題を解くこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

秘書検定準1級 クイックマスター 改訂新版[早稲田教育出版社、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%・平常点（授業への積極参加・演習課題実績）30%
提出課題・演習課題は、全て採点して評価を返却します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

正しい言葉遣いや所作は、短期間で身につくものではありません。授業内だけでなく、日常生活においても意識して取り組んでください。また、検定対策として、積極的に過去問題を解いてください。

ビジネスマナー入門

—自信を持って社会に一歩踏み出すために—

佐藤 圭子

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

社会人に求められることは「良識がある」ということです。ビジネスシーンでの個人の良識を欠く行動は、所属先全体のイメージダウンにつながります。良識のベースとなるビジネスに必要なマナーを、「知っている」段階から抜け出して「実践できる」ようになることを目標とし、秘書検定3級全員合格を目指して具体的に学びます。

【授業における到達目標】

ビジネスシーンで通用する基本の知識を修得することができる。
学生が修得すべき「研鑽力」のうち、検定取得を通じて学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

【授業の内容】

1. マナーの重要性
2. 正しい敬語の使い方
3. わかりやすい説明と報告の仕方
4. 電話応対の基本要領
5. 電話応対の実践
6. 接客話法
7. 接遇の要領と流れ
8. 接遇の実践演習（1）アポイントのある来客応対と応接業務
9. 接遇の実践演習（2）アポイントのない来客応対
10. 冠婚葬祭のマナー
11. パーティーと食事のマナー
12. 文書を受発信のマナー
13. 会議の決まりごと
14. 資料の作成実習
15. 検定対策問題練習

【事前・事後学修】

- <事前学修>配布するプリント・演習課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)
- <事後学修>プリント・演習課題の復習をすること。領域ごとにまとめの問題を解くこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

秘書検定2級 クイックマスター 改定新版[早稲田教育出版社、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、平常点（演習・実習への取り組み方）で評価します。
配分基準：定期試験70%、平常点30%。
提出課題や実習については、全て採点し、結果を返却します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

授業内では、演習を取り入れて実践力を身につけていきます。その基本となる「言葉遣い」は、日々の積み重ねが不可欠です。日常の自分の言葉選びを見直し、授業に臨んでください。

ビジネスマネジメント

—ビジネス能力検定2級合格を目指しましょう—

板倉 文彦

2年 前期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この講義では、社会人としてスキルアップしていくための理論や方法を修得することを目標とします。そのためには、仕事の進め方のみならず、企業やそれを取り巻く経済状況にまで目を配る必要があります。

社会に出て企業等に入ることは、ゴールではなくスタートと言え絶えずスキルアップが要求されます。この講義で学んだことはその時役立つものとなります。

学習の成果として、ビジネス能力検定2級の合格を目指すとともに、スムーズに社会人生活をスタートさせる準備をしましょう。

【授業における到達目標】

ビジネスマナーを向上させることで、社会において倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身に付けることができます。

また、職場での自信を創出する研鑽力や、他人と協働する力も身に付けることが可能です。

【授業の内容】

- 第1週 仕事の進め方
- 第2週 マネジメントの基本
- 第3週 ビジネス文書の基本
- 第4週 会社数字の読み方
- 第5週 ビジネスに関する法律知識
- 第6週 社会制度
- 第7週 ビジネスと経済知識
- 第8週 社会で活躍するために必要な知識
- 第9週 統計・データ演習
- 第10週 文書作成演習
- 第11週 新聞読解演習
- 第12週 ビジネス能力検定2級 模擬試験
- 第13週 ビジネス能力検定2級 模擬試験の講評
- 第14週 経済産業用語
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する（週2時間程度）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く（週2時間程度）

【テキスト・教材】

ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト[日本能率協会マネジメントセンター]

ビジネス能力検定ジョブパス2級公式試験問題集[日本能率協会マネジメントセンター]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験60%、平常点40%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

ビジネスリテラシー

—社会人としての基礎スキルを身につける—

鹿島 千穂

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業の目標は、社会人として必要とされる基本スキルを身につけることです。時代の流れとともにビジネスを取り巻く状況が変化し、働き方が見直されても、社会人として求められる基本的な能力に変わりはありません。授業では、会社の仕組みやビジネスのルール、社会人としてのマナーを理解した上で、それらをどのように蓄積していけばよいのかを学びます。

みなさんが身につけたスキルは、信頼される社会人となるための土台となることはもとより、就職活動やインターンシップ等、社会へ出る準備段階から必ず役に立つでしょう。

また、新聞記事を読んでレポートを書く課題を通して、時事問題への関心を高め、思考する力を鍛えます。学修の成果としてビジネス能力検定3級の合格を目指しましょう。

【授業における到達目標】

- ・ビジネスマナーを学び自らの振る舞いに生かすことで、倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身につけ、「美の探究」ができるようになります。

- ・社会人として必要とされるスキルを基礎から学び、検定合格により学修の成果を実感することで自信が創出され、「研鑽力」が培われます。

- ・社会人力とはどのようなものかを理解し、現状の課題に自ら気づき、あるべき姿へと切磋琢磨していく「行動力」が養われます。

【授業の内容】

- 第1週 キャリアと仕事へのアプローチ
- 第2週 仕事の基本となる8つの意識
- 第3週 コミュニケーションとビジネスマナーの基本
- 第4週 指示の受け方と報告・連絡・相談
- 第5週 話し方と聞き方のポイント
- 第6週 来客応対と訪問の基本マナー
- 第7週 会社関係の付き合い
- 第8週 仕事への取り組み方
- 第9週 ビジネス文書の基本
- 第10週 電話応対
- 第11週 統計データの読み方・まとめ方
- 第12週 情報収集とメディアの活用
- 第13週 会社を取り巻く環境と経済の基本
- 第14週 ビジネス用語の基本
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学習：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

日本能率協会マネジメントセンター：『2019年度版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集[¥1,300(税抜)]

日本能率協会マネジメントセンター：2019年度版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト[¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点（授業への参加度、提出課題）40%

課題へはコメントを記入して返却し、試験結果は授業最終回でフィードバックします。

ビジネス関連法特論

数野 昌三

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本研究科は、将来、中間管理者となり得る要素の提供を目的としている。すなわち、業務遂行上問題が発生した場合、どの条文に基づき、どのような内容が法的問題となるかを発見し、分析する。そして、上司および関連専門部門に相談することにより、法的トラブル拡大の未然予防を可能にすることを照準とする。

【授業における到達目標】

ビジネスにおける様々な問題につき、ビジネス関連諸法規の視点からそれらを捉え、解決への糸口に繋げる行動力を培うことができるようにすることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 受講するにあたって
- 第2週 物的担保・人的担保
- 第3週 預金取引と無権限者への払い出し
- 第4週 相殺等による回収
- 第5週 株式会社の機関構造
- 第6週 役員の義務・責任と株主代表訴訟
- 第7週 企業の社会的責任（CSR）、コンプライアンス、内部統制
- 第8週 株主の地位、株式と株券の意義
- 第9週 手形と小切手の仕組みと機能
- 第10週 労働契約・就業規則
- 第11週 労働協約
- 第12週 雇用上の性差別
- 第13週 思想・信条差別
- 第14週 公益通報者に対する差別
- 第15週 提出課題の検討、全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表・レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】発表内容および添削されたレポートに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】とくに指定しない。

【教材】六法を各自必ず持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、期末の提出課題60%、平常点（授業への積極参加・発表内容）40%で行い、各発表終了後あるいは第15週、受講生からの意見を参考にフィードバックする。

【参考書】

内田貴『民法Ⅰ～Ⅲ』（東京大学出版会）、近江孝治『民法Ⅰ～Ⅳ』（成文堂）、神田秀樹『会社法』（弘文堂）、森本滋編『手形法小切手法講義』（成文堂）、両角道代・森戸英幸・梶川敦子・水町勇一郎『LEAGAL QUEST 労働法』（有斐閣）

ビジネス特論 a (環境ビジネス)

eco検定に準じた温暖化防止や環境保全

菅野 元行

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

ビジネス特論 b (地域ビジネス)

地域ビジネスの理論と実際

倉持 一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

生活、業務に関わらず現代の社会では電気や燃料といったエネルギーが不可欠です。それらのエネルギーを無制限に製造、使用すると環境問題を引き起こすため、様々な規則が定められています。しかしながら、それらの規則は国によって異なるため、国際的な取り組みが必要とされています。また、いかなる経営体においても環境基準の遵守が求められるのみならず、環境そのものが国内、国際間問わずビジネスとなっています。本講義では、環境社会形成のための社会科学の基礎について学習します。

【授業における到達目標】

- ①温暖化防止や環境保全のための様々な対策を理解する。
 - ②企業活動や市民生活の面から環境対策を考える。
- 以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 エコビジネスとは、環境配慮社会
- 3 気候変動に対する国際的取り組み
- 4 温暖化抑制に対する国際的取り組み
- 5 エネルギーに対する国際的取り組み
- 6 生物多様性に対する国際的取り組み
- 7 自然環境保全に対する国際的取り組み
- 8 循環型社会に対する国内の取り組み
- 9 廃棄物処理に対する国際的取り組み
- 10 低炭素社会に関する講演聴講
- 11 エネルギー、自動車に対する環境対策
- 12 化学物質に対する環境対策
- 13 環境社会に対する企業の責任、環境マネジメント
- 14 環境保全と金融の役割
- 15 グリーン購入、環境ラベル

※環境領域に関心があることが必要です。3年次の「エコビジネス演習」の履修を意図している場合は、この科目の修得が必要です。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】課題A(各授業日の内容を文章にする)を設定しますので、復習に役立ててください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A(上記参照)で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B(環境・エネルギーに関する新聞記事調査)、課題C(環境・エネルギーに関する展示の感想文)を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

【参考書】

藤倉 良『これ1冊で合格! eco検定集中テキスト&問題集』(ナツメ社 2012年) 1,500円+税(図書館の指定図書にあります)
その他のeco検定テキストも参考になります。

【注意事項】

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。
※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室から退席を求めます。
※事前に断りの無い途中退室や、自己責任により授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

【授業のテーマ】

科学技術の発展や経済的な豊かさの恩恵を受け、便利な生活を送ることの出来る現代社会ですが、その一方で、環境問題や高齢化社会などといった新たな社会課題が私達の生活の身近な場で生じています。これら社会課題の解決と持続可能なより良い社会づくりは私達にとって重要テーマです。このため現在、国や地方自治体による公共政策に任せるだけではなく、コミュニティの力を活用しビジネスの仕組みを取り入れた地域ビジネス(CB)という取り組みが試みられています。本授業は、このCBに焦点を合わせ、私達の生活に密着した地域の社会課題をいかにしてビジネスの考え方や手法で解決していくのかなどを、様々なケースを分析しながら考えていきます。

【授業における到達目標】

本授業は、CBに関する理解や必要性認識を理論考察から深めるだけでなく、複数の実際のケースを分析します。CBの実際のプロセスに沿った学修を通じ、皆さんの各種能力の涵養や社会での実践性の向上を図ります。具体的には、「計画」ユニットでは洞察力や分析力の鍛錬を、「実践」ユニットでは多様な価値観の受容や他者尊重・協働能力の修得を、そして「評価・継続」ユニットでは自己研鑽と飽くなき探究心を獲得することで、新しい学問領域であるコミュニティ・ビジネスの先駆者として、他者にコミュニティビジネスの概要や重要性や説明できることが目標です。

【授業の内容】

1. イントロ(授業の目的・進め方・評価方法説明など)
2. CBの理解①: CBの役割と必要性
3. CBの理解②: コミュニティとソーシャル・キャピタル
4. CBの理解③: コミュニティ・デザイン(デザイン思考)
5. CBの計画①: 現代の社会課題(SDGsなど)
6. CBの計画②: ビジネス視点の導入(市場分析の方法など)
7. CBの計画③: ソーシャル・イノベーションという仕掛け
8. CBの実践①: 高齢化対策(事例: 株式会社いもどり)
9. CBの実践②: 地域産業振興(事例: 岡山県倉敷市)
10. CBの実践③: 環境保護(事例: 小水力発電)
11. CBの実践④: 子育て支援(事例: 株式会社フローレンス)
12. CBの評価・継続①: 信頼とコミュニケーションの作用
13. CBの評価・継続②: 消費者行動、投資、SNSの活用
14. CBの未来: クラウドファンディング
15. これまでの授業の振り返り・まとめと質疑応答

【事前・事後学修】

【事前学修・1.5時間】前回授業で学んだ用語(概念)・理論・ケースを書いたノートを再度読み、自分なりの意見・主張が出来るようにしてきてください。

【事後学修・2.5時間】各授業の最後に指示した課題に合わせ、授業で学んだことや頭に浮かんだ疑問などを反映させたリアクションペーパーを作成し、次回授業時に提出してください。

【テキスト・教材】

・必要に応じて授業中に配布するか、別途指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題(リアクションペーパー)40%、授業中の意見発表など20%、期末テスト40%。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業の冒頭「振り返り」などで行います。

【参考書】

風見正三・山口浩平著『コミュニティビジネス入門—地域市民の社会的事業』(学芸出版社 2009年) 2,484円。

【注意事項】

履修学生の人数に応じ、グループに分かれて一つの社会課題に対する解決の方策を話し合う機会を設ける予定です。

ビジネス特論 c (起業論)

身近なビジネスを知る

山崎 泰明

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

- ・3つの側面（ベンチャービジネス、ファミリービジネス、ネットビジネス）からビジネスの構成や特徴などを見ていくことにより、起業や創業を身近なものとして捉え、自立した生き方を考える際の一つの選択肢とすることを体系的に学習し、修得する。

【授業における到達目標】

- ・起業や創業に関することを学ぶことで、企業の本来の役割や機能を知ることができます。
- ・これらのことを知ることで、企業やビジネスの本質的なものを見抜く洞察力を身に付けることを目指します。

【授業の内容】

- 第 1 回 インTRODクシヨン、授業の構成などの説明
- 第 2 回 ベンチャービジネス①：ベンチャー企業の特徴
- 第 3 回 ベンチャービジネス②：スタートアップ期について
- 第 4 回 ベンチャービジネス③：アントレプレナーについて
- 第 5 回 ベンチャービジネス④：DVD学習その1
- 第 6 回 ベンチャービジネス⑤：DVD学習その2
- 第 7 回 ファミリービジネス①：ファミリービジネスの実態
- 第 8 回 ファミリービジネス②：ファミリービジネス研究
- 第 9 回 ファミリービジネス③：イノベーション論
- 第10回 ネットビジネス①：ネットビジネスとは？
- 第11回 ネットビジネス②：プラットフォームを知る
- 第12回 ネットビジネス③：リアルビジネスとの対比
- 第13回 ネットビジネス④：インダストリー4.0の世界
- 第14回 ビジネスプランの作成
- 第15回 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・次回の授業の資料に目を通し、わからない専門用語などを事前に調べておくこと。（毎回2時間程度）

【事後学修】

- ・毎回の授業の終了時に理解力の確認を行ないます。それを元に再度、各自で復習を行なうこと。（毎回2時間程度）

【テキスト・教材】

- ・毎回、事前にサイトにアップします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・理解度テスト30%
- ・ビジネスプランの作成40%
- ・授業関与度（授業態度、課題の提出）30%
- ・フィードバックは、毎回の授業の開始時に行ないます。

【参考書】

- ・ファミリービジネスのイノベーション

【注意事項】

- ・ベンチャービジネスやファミリービジネス、ネットビジネスは実は皆さんの身近に存在しています。これらについての機能や本質を学ぶことにより、企業を見る目が養われます。
- ・また、これらのビジネスにおけるイノベーション戦略を学ぶことにより、新たなビジネスを知ることができます。

ビジネス文書入門

—ビジネスで通用する文書作り—

佐藤 圭子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

ビジネスで用いられる、さまざまな文書の種類や構成の仕方の基本を学びます。12月に実施されるビジネス文書検定3級合格を目標に、正しい表記法・表現法・文書の決まりごとを学び、基本的なビジネス文書を自分で書ける力を身につけていきます。

【授業における到達目標】

文書の基本を学び、社内文書全般と簡単な社外文書を自力で作成できるようになる。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、検定取得を通じて学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

【授業の内容】

1. ビジネス文書の役割と種類
2. ビジネス文書で用いられる用語
3. 正確な文章を書く ①よじれのない文章
4. 正確な文章を書く ②類義語の使い分け
5. 分かりやすい文章を書く ①標題のつけ方、箇条書きの仕方
6. 分かりやすい文章を書く ②文章の要約、図表の作成
7. 礼儀正しい文章を書く 敬称の選び方、敬語
8. 社内文書の構成と書き方 ①通知文
9. 社内文書の構成と書き方 ②報告書、届出書
10. 社外文書の構成と書き方 取引文書の作成
11. 社交儀礼書の構成と書き方 社交文書の作成
12. 文書の受発信の決まりごと
13. 正しい郵送方法と用紙の選び方
14. 印刷物の校正の仕方
15. まとめ・総括

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回配布するプリントに取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

<事後学修> 漢字学習・プリントを復習すること。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

ビジネス文書検定実問題集 3級[早稲田教育出版社、改訂新版、¥1,200(税抜)]

ビジネス文書検定受験ガイド 3級[早稲田教育出版社、改訂新版、¥1,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点(小テスト・授業態度等)で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%

提出課題や小テストは、全て採点して返却します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

ビジネス文書検定は出題領域が広く、日本語を正しく書く力が強く求められます。この授業にあわせて前期科目の「日本語表現法a」や後期科目の「自己表現法」での積極的な学習が資格取得のためには欠かせません。また、できるだけ活字に触れ、PCを使わずに自分で字を書くことを心がけてください。過去の問題を数多く解くことも合格の手段として有効です。

フードコーディネーター論

数野 千恵子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フードコーディネーターとは、食に関する様々な場面において満足できる状況を演出することであり、その範囲は食事の場、食品等の販売、食に関する情報の発信や店舗経営など多岐にわたる。

これら広範の各場面において必要とされる基礎的な知識を学ぶ。さらに、食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を磨く諸事項についても習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

ヒトの心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養と感性を修得する。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信や、広い視野を身につける。また、食事や食卓の文化を通して日本の文化、外国の文化を知り、世界に臨む態度を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 フードコーディネーターの基本理念
- 第2週 食事の文化：日本の食事の歴史 特別な日の食事
- 第3週 食事の文化：外国の食事 食のタブー
- 第4週 食卓のコーディネーター：日本料理
- 第5週 食卓のコーディネーター：西洋料理
- 第6週 食卓のコーディネーター：中国料理
- 第7週 食卓のサービスとマナー：日本料理
- 第8週 食卓のサービスとマナー：西洋料理 中国料理
- 第9週 メニュープランニング：メニュー開発の要件
- 第10週 メニュープランニング：料理様式別メニュー
- 第11週 食空間のコーディネーター：レイアウト・インテリア
- 第12週 食空間のコーディネーター：キッチンコーディネーター
- 第13週 フードサービスマネジメント：
レストランの起業、投資・収支計画の作成
- 第14週 食企画の実践コーディネーター：
食企画の流れ、食企画に必要な基本スキル
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキストの該当箇所を読んで、専門用語や理解できない部分をチェックし、調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回、授業時に小テストを行いますので、教科書、ノートを整理し、復習をして次回授業時に備えてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

三訂フードコーディネーター論[建帛社、2012、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、小テスト20%で評価します。

小テストの結果は返却時の授業時に学生にフィードバックします。

【参考書】

授業の中で必要に応じて専門分野の冊子などを紹介します。

【注意事項】

毎回、授業の最初に小テストを行います。

授業を欠席した場合は、課題を課しますので、必ず期限までに提出してください。

フードシステム各論

松岡 康浩

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

フードシステム総論を踏まえ、様々な視点から食に関する個々の領域について論じます。近年、食糧生産の基本である農水産業（1次産業）のみならず、加工（2次産業）、流通（3次産業）を包括した6次産業という考え方が提唱されています。この考え方を産物ごとに見ていくとともに、地域振興、グローバル問題などとの関連の中で議論していきます。

【授業における到達目標】

フードスペシャリスト資格試験「消費と流通」の一部の範囲が含まれており、その内容を理解します。フードシステムを巡る種々の課題について、考える力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 フードシステム概論
- 第2週 1次産業から6次産業へ
- 第3週 農産物（1）コメ、穀物
- 第4週 農産物（2）野菜
- 第5週 畜産物（1）酪農
- 第6週 畜産物（2）畜肉
- 第7週 水産物
- 第8週 加工食品
- 第9週 地域振興とフードシステム
- 第10週 農畜産物のマーケティング
- 第11週 農業の品質管理
- 第12週 グローバル化におけるフードシステム
- 第13週 食をとりまく政治的問題
- 第14週 震災とフードシステム
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学習：当該回の講義内容に関する社会の動きを新聞などで事前調べ、自分なりにまとめておく。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところがあれば調べ、整理しておく。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会：三訂 食品の消費と流通[建帛社、2016、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 授業態度及びまとめテスト30%

まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

【参考書】

フードシステム学叢書4『フードチェーンと地域再生』

（農林統計出版 2014年）3800円＋税

日本フードシステム協会編『東日本大震災とフードシステム』

（農林統計出版 2012年）1500円＋税

フードシステム総論

松岡 康浩

1年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

食品の生産・加工・流通・消費に至る過程およびその関連分野は、フードシステムと呼ばれます。その実態を理解し課題を把握し解決策を考えることは、食品産業を論ずる上で重要です。

本講義では、わが国におけるフードシステムの現状を学ぶとともに、将来の国内食産業及び消費者のあり方を考察します。

【授業における到達目標】

フードスペシャリスト資格試験の「流通と消費」について理解を深めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 日本の食生活の現状と課題
- 第2週 食生活の変化の要因
- 第3週 食材生産と需給の現状
- 第4週 食品工業
- 第5週 食品流通における卸売業
- 第6週 食品流通における小売業
- 第7週 外食
- 第8週 中食
- 第9週 フードマーケティング
- 第10週 フードチェーンにおける環境問題
- 第11週 食の安全・安心問題
- 第12週 食をとりまく政治的問題
- 第13週 食をとりまく国際問題
- 第14週 健全な食生活実現のための課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、重要事項などについて確認をする。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会：三訂 食品の消費と流通[建帛社、2016、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 授業態度及びまとめテスト30%

まとめテストは採点の上、次回返却し答えあわせを行います。

フードスペシャリスト論

松岡 康浩・杉山 靖正

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

フードスペシャリストは、食に関する専門職として公益社団法人「日本フードスペシャリスト協会」が認定する資格です。この授業では、フードスペシャリストの業務内容や専門性を理解するとともに、受験資格を得るために必要な履修教科の内容を概説します。また、模擬試験などにより認定試験の概要を把握します。

食品産業に就業するためには、食に関する幅広い知識・技能が求められます。講義を通じて、食品産業における業務の内容について理解を深めます。

【授業における到達目標】

日本や世界の食の歴史や文化の多様性を学ぶことで多様な価値観を身につけ国際的視野を広げます。また、現代社会における食に関する諸問題と課題を正しく評価し、自らの力で問題解決につなげることが出来る能力(研鑽力)を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 フードスペシャリスト資格制度
- 第2回 フードスペシャリストの役割と責務
- 第3回 人類と食物（1）人類と食環境の歴史
- 第4回 人類と食物（2）食品加工・保存技術史
- 第5回 世界の食、世界の食事情
- 第6回 日本の食物史と食の地域差
- 第7回 戦後の食生活の変化と現代の消費生活
- 第8回 現代社会の食環境と課題
- 第9回 食品産業の役割（1）フードシステムと食品産業
- 第10回 食品産業の役割（2）食品流通業、外食産業
- 第11回 食品の品質規格と表示（1）食品の規格と法体系
- 第12回 食品の品質規格と表示（2）JAS法、食品衛生法
- 第13回 食品の品質規格と表示（3）健康増進法、食品表示法
- 第14回 食情報と消費者保護
- 第15回 模擬試験

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、テキストの該当箇所を予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】まとめテストの解答を復習すること。成績評価試験は練習問題を基本に出題します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会：四訂フードスペシャリスト論（第4版）[建帛社、2017、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、まとめテストの成績10%、講義への取り組み態度10%で評価します。まとめテストの解答はmanabaに掲載することでフィードバックします。

【参考書】

『食品表示-食品表示法に基づく制度とその実際-』（建帛社）

【注意事項】

フードスペシャリスト資格試験は使用テキストから出題されるので内容をしっかりと理解しておくこと。また、毎回行う練習問題はフードスペシャリスト資格試験の過去問を中心に出题します。

日頃から食に関する報道等に注目し、食を取り巻く諸問題について関心を持ち自ら調べる習慣を身につけるようにしてください。

フードビジネス研究

松岡 康浩

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

食品産業を構成する企業を理解するために、食品製造、流通、販売など様々な立場の食品企業から、フードビジネスの実際を学びます。食関連企業の方を外部講演者として招き、企業の考え方、実務を講義いただきます。その上でビジネスを行う上での課題、戦略などについてグループワークを行います。

【授業における到達目標】

疑問点や課題について議論する中で、社会で活躍するための気づきを得ることが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン（講義の進め方）
- 第2週 企業講演1（外食産業 チェーンレストラン）
- 第3週 外食業界についてのグループディスカッション
- 第4週 企業講演2（外食産業 チェーンレストラン）
- 第5週 事例研究（経営者）
- 第6週 企業講演3（食品製造業 冷凍食品会社）
- 第7週 冷凍食品業界についてのグループディスカッション
- 第8週 企業講演4（食品製造業 乳業会社）
- 第9週 乳業界についてのグループディスカッション
- 第10週 事例研究（食品企業のM&A）
- 第11週 企業講演5（流通業 卸）
- 第12週 流通業界についてのグループディスカッション
- 第13週 企業講演6
- 第14週 振り返り（GW；食品企業経営に必要なものとは）
- 第15週 レポート発表

外部講演者は調整中です。

講演者の都合により予定変更の可能性があります。

【事前・事後学修】

事前学修：講演予定の業界、企業について調べ、質問を予め準備する。（学修時間 2時間）

事後学修：授業時に質疑応答、懇談を行うので、改めて調べた内容を含め、レポートにまとめる。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の個別レポート40%、班ごとの発表の内容（その業界の課題、考察、気づき等）50% 授業への積極的取り組み姿勢10%
個別レポートは次週のグループワーク後に評価し、発表については都度講評します。

【注意事項】

問題解決型アクティブラーニングです。活発なディスカッションを行うため、定員を40名程度とします。履修希望者が多い場合は抽選となります。積極的に議論する意欲のある学生の履修を望みます。

フードマーケティング論

松岡 康浩

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

食品企業が商品を開発、販売する際に重要となるマーケティングについて学びます。どのお客さまに、どのような商品を、どのように販売するかなど、マーケティング活動の実際を、企業担当者を招いて講演いただきます。企業活動の基本であるマーケティングの理論、手法について理解し、実践的な知識を身につけます。

【授業における到達目標】

マーケティングの基本を理解し、自分なりのアイデアを出せるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 企業講演1 市場調査会社
- 第3週 マーケティングの基本
- 第4週 マーケティング・リサーチ1 考え方
- 第5週 マーケティング・リサーチ2 手法
- 第6週 企業講演2 食品メーカー
- 第7週 マーケティングの骨子（1）
セグメンテーションとターゲティング
- 第8週 マーケティングの骨子（2）
マーケティングミックス
- 第9週 適性把握
- 第10週 商品コンセプト
- 第11週 市場対応戦略 ブランドとマーケティング
- 第12週 企業講演3 流通企業
- 第13週 顧客価値と顧客満足
- 第14週 広告
- 第15週 総括

外部講演者は調整中です。

講演者の都合により、日程を変更する場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：外部講演者が所属する業界、企業について事前に調べ、どのようなマーケティングを行う会社かを理解しておく。（学修時間 2時間）

事後学修：レポート作成およびまとめテストを再確認する。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験40% 課題レポートおよびまとめテスト60%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

【参考書】

浅田和美著「商品開発マーケティング」（日本能率協会）

ファイナルプロジェクト

担当教員全員

4年 集通 4単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

各自が所属した研究室において、4年間の学びの集大成としての卒業研究を行います。自ら主体的に課題を見つけ、その課題解決に向けての方法を探求し、資料を集め、粘り強く論考し、卒業論文または卒業制作にまとめます。これまで学修した知識や技術を総合化していくこのファイナルプロジェクトで、「生活の豊かさ」をもたらす持続可能な社会を展望し、企画力、構想力、実践力、論理的な思考力を高め、卒業後の社会人力、生活者としての自らの視点を支える基盤を完成させます。具体的な内容や進め方については、各担当教員によります。

【授業における到達目標】

学生が身につけるべき力のうち、学修を通して自己成長する「研鑽力」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」、これらすべての力を総合的に磨くことを目標とします。そして、知を求め、心の美を育む「美の探求」の態度を養います。

【授業の内容】

研究室構成員の問題意識に応じて、各担当教員が指導を行う。

以下のような内容が含まれる。

- ・テーマの設定
- ・卒業研究の実施方法の選択（卒業論文または卒業制作）
- ・先行文献や先行事例の調査・分析
- ・卒業研究の目的、方法の設計
- ・卒業研究の遂行（文献分析、調査、実験、制作等）
- ・結果の考察
- ・中間発表
- ・修正点の再考
- ・要旨の作成
- ・卒業研究の提出
- ・卒業研究発表会

【事前・事後学修】

【事前学修】

担当教員の指導を受けるにあたって必要な事前準備を行う（学修時間：週2時間以上）

【事後学修】

担当教員の指導に従い、卒業研究を主体的にすすめる（学修時間：週2時間以上）

【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究活動への取り組み、中間発表、卒業研究発表会での発表、要旨および卒業論文等提出物の内容を総合的に判断する。

【参考書】

各担当教員の指示に従うこと

ファッショングラフィック演習

河本 和郎

2年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

コンピュータを活用したデザインや描画、画像編集の手法を習得する。ビットマップ系グラフィックソフト（Adobe社製Photoshop）とベクトル系グラフィックソフト（Adobe社製Illustrator）を使用し、それぞれの画像処理の手法やこれら2系統の画像の融合、編集方法を学ぶ。その上で、デジカメで撮影した画像や自分で描いたイラストを編集し、目的に合致した印刷物やデジタルコンテンツの制作ができる技術と知識を身につける。

【授業における到達目標】

ネット社会で情報発信の必須コンテンツであるデジタル画像が扱えるようになる。

漠然としたイメージを具体的にビジュアルな成果物にまとめる力を修得する。

【授業の内容】

第1回：①授業の進め方と作品の紹介

②Photoshop、Illustratorの概要説明

第2回：③Illustratorの基本操作：パスの構造とその基本操作の説明

④パスを使った基本オブジェクトの作成

第3回：⑤Photoshopの基本操作：画像解像度とカラーモード、選択範囲と画像編集

⑥Photoshopの基本操作：画像の切抜きとマスク画像の作成

第4回：⑦Photoshopの基本操作：デジカメ画像の取込と編集

⑧Photoshopの基本操作：レイヤーの概念とレイヤーを使った画像の合成と編集

第5回：⑨Illustratorでビットマップ画像と文字・文章の扱い

⑩各種ツールを使ったオブジェクト作成方法とレイヤー操作

第6回：⑪ビジュアルブックの制作：ブックの構成とストーリー

⑫ビジュアルブックの制作：画像・文章の編集およびレイアウト

第7回：⑬ビジュアルブックの制作：印刷原稿の作成方法

⑭ビジュアルブックの制作：印刷原稿の作成と入稿

第8回：⑮ビジュアルブックの発表と講評

【事前・事後学修】

【事前学修】

関心のあるファッションやビジュアル表現の画像資料を収集する。日常の面白い風景、事物をデジカメ（スマホ）で撮影したり、撮りためたデジカメ画像を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

各回の演習内容をUSBメモリーにPDF形式で保存し確認、復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

専用テキストと必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、ビジュアルブックの技術、アイデア、ストーリーを75%事前準備を含め授業に対する積極的な態度を25%として評価する。フィードバックは、成果物の技術的な巧拙の指摘と表現方法については様々な手法を紹介をする。

【注意事項】

本講座は、後期隔週木曜日4限、5限下記日程にて開講する。

第1回：09月26日（①、②） 第2回：10月10日（③、④）

第3回：10月24日（⑤、⑥） 第4回：11月07日（⑦、⑧）

第5回：11月21日（⑨、⑩） 第6回：12月05日（⑪、⑫）

第7回：12月19日（⑬、⑭） 第8回：01月16日（⑮）

*カッコ内の番号は、授業内容の番号

*データ保存用にUSBメモリー（8GB以上）を準備する。

ファッションデザイン論

ヒトを包む、立体と平面の関係

河本 和郎

1年 前期 2単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本のアパレル産業は、「つくる時代」から「うる時代」を経て、「つながる時代」に入っています。ファッションデザインは、見た目の変化ではなく、ユーザーがくらしを楽しむ価値の表現に変わってきています。本講座では、ファッションデザインを、ヒトの体を包む立体として、そしてそれを平面に展開するデザインワークとして解説していきます。授業では、1/2ボディに薄くてほつれない不織布を使って、切ったり貼ったりドール服をつくるような感覚で、デザインを立体的に考察していきます。また、制作した立体をパソコンに取り込み、色や柄、付属（レース・リボン・ボタン等）の大きさや位置を検討しながら各自のポートフォリオ（作品集）を作成します。

【授業における到達目標】

日本のアパレル産業の変遷とファッションデザイナーの役割の移り変わりが理解できる。

デザインを立体的にとらえ、それを展開された平面としてイメージできるようにする。

【授業の内容】

第1回 オリエンテーションと日本のアパレル産業の変遷

①授業の内容、進め方を説明する。

②日本のアパレル産業を、「つくる・うる・つながる」の3つの時代に区分し、それぞれの特徴とアパレル産業の現状を解説する。

第2回 服を立体で捉える

③最新CADと3Dシミュレーションソフトを紹介し、つながるデザインワークの可能性を解説する。

④ヒトの形を包む・ヒトの形を展開する。（自分のデザイン原型を作成）

第3回 立体で衣服を考える

⑤原型をもとに切り替え、分割でデザインを変更してみる。（デザインと型紙）

⑥原型をもとに服の形を変えてみる。（デザインとフォルム）

第4回 立体でデザインを考える（1）

⑦自分で考案したデザインを立体に組み上げる。

⑧ボタン、付属、装飾を検討する。

第5回 立体でデザインを考える（2）

⑨前回の立体を平面（型紙）に展開する。

⑩型紙をもとに立体でデザインバリエーションを組んでみる。

組み上げたデザイン（立体）をデジカメ（スマホ）で撮影し、サーバーに保存する。

第6回 デザインシミュレーション

⑪デザインワークで定番のAdobe社のグラフィックソフト「Illustrator」の操作説明をする。

⑫サーバーに保存した画像を、素材と色・柄を想定してIllustratorで加工処理する。

第7回 デザインバリエーション

⑬色、柄を変えてデザインのバリエーションを組む。

⑭作成したデザインバリエーションでポートフォリオを作成する。

第8回 プレゼンテーション

⑮デザインポートフォリオの発表と総括としてファッションの楽しみ方をみんなで討論する。

【事前・事後学修】

【事前学修】

自分の持っている服（特にワンピース）を、構造的に再確認しておく。ネット、雑誌、ショップ等をチェックし、作りたいデザイン（色、柄含む）の情報を収集しておく。（学修時間週2時間）

【事後学修】

制作した型紙と服装造形の教科書等に掲載されている型紙と比較して、型紙についての認識を深める。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて印刷物を配布します。
また、参照するURL等を提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に臨む姿勢（事前・事後学修含む）：30%

立体作品：30%

ポートフォリオ：40%

フィードバック：ファッションデザインを、立体として把握し、平面（型紙）をイメージできるようにします。ポートフォリオの発表を通していろいろな考えがあることを理解します。

【注意事項】

本講座は、前期隔週土曜日8回、3限、4限下記日程にて開講する。

1回目：4月13日（①、②） 2回目：4月27日（③、④）

3回目：5月18日（⑤、⑥） 4回目：5月25日（⑦、⑧）

5回目：6月08日（⑨、⑩） 6回目：6月22日（⑪、⑫）

7回目：7月06日（⑬、⑭） 8回目：7月20日（⑮）

*第3回目は、実践女子学園フェスティバルのため5月11日ではなく、18日に開講する。

*カッコ内の数字は授業内容の番号。

ファッションビジネスの世界

大川 知子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

ファッション産業は、時代や生活者の変化に伴い、常に変化し続けるという特質がある。本講座は、ファッションビジネスを学ぶ為の入門編として、アパレル製品を主軸に置きながら、前半はビジネスの構造や形成過程を学び、その複雑な産業構造を理解する。後半は、グローバルな展開が見られる現代ビジネスの潮流を理解する。

【授業における到達目標】

1. ファッション産業の構造を理解し、ビジネスに関する基本的知識を体得する。
2. 大きな変革期にあり、多様化するファッションビジネスの現状を「国際的視野」に立脚して習得する。
3. 習得した知識を、実際場で応用することが出来る「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションーファッションを「ビジネス」として捉えるということ
- 第2週 ファッション産業の概観とその形成過程
- 第3週 テキスタイル産業の歴史とその特色
- 第4週 アパレル産業の歴史と特色① 戦前・戦後
- 第5週 アパレル産業の歴史と特色② 高度成長期からバブル経済崩壊まで
- 第6週 SPA企業の勃興
- 第7週 グローバルなファストファッション
- 第8週 小売業態① 百貨店・量販店（GMS）・専門店
- 第9週 小売業態② ショッピングセンター（SC）・ファッションビル
- 第10週 ラグジュアリー・ブランドの形成
- 第11週 ラグジュアリー・ブランドの企業事例
- 第12週 インターネットが及ぼすファッションへの影響①小売
- 第13週 インターネットが及ぼすファッションへの影響②生産
- 第14週 事例研究 ※外部講師（実務者）を予定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回異なるテーマを扱う為、一回ずつの内容に対して予習復習（共に2時間程度）をしておくこと。事前に課題を提示する場合もある（学修時間 4時間程度）。

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、提出課題30%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

【参考書】

1. 織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）
2. 『被服学辞典』（朝倉書店、2016年）18,000円（税別）
3. 『ファッションビジネスの世界』（（一社）日本衣料管理協会、2011年）1,000円（税込）※書店では販売されていない為、希望者は教員に申し出ること。

【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

ファッションビジネス演習

大川 知子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

講座の前半は、ファッションビジネスを遂行するために必要な商品知識をアイテム毎に学び、後半は、それらをビジネスに繋げていくための計数について学ぶ。本講座は、1年次（後期）の『ファッションビジネスの世界』、2年次（前期）の『ファッションビジネス論』をベースに授業を進める。

【授業における到達目標】

1. アイテム研究を通してのファッションビジネスにとって最も重要な商品知識と、計数の基本を体得する。
2. 各アイテムを代表する世界の逸品について、それらの製品が誕生した歴史的背景を理解し、国際的視野を広げる。
3. 学んだ知識をベースに、自らの眼で商品価値を見極められる「美を探究する力」を醸成する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション／現代のファッションビジネスに求められていること
- 第2週 商品知識① ニットを知る
- 第3週 商品知識② ニットを語る
- 第4週 商品知識③ シャツを知る
- 第5週 商品知識④ シャツを語る
- 第6週 商品知識⑤ パンツを知る
- 第7週 商品知識⑥ パンツを語る
- 第8週 商品知識⑦ ジャケットを知る
- 第9週 商品知識⑧ ジャケットを語る
- 第10週 計数の基本① 予算管理／売上管理
- 第11週 計数の基本② 在庫管理／仕入れ
- 第12週 発注演習① 発注とは
- 第13週 発注演習② 課題のプレゼンテーション
- 第14週 （校外学習）服飾関連施設の訪問（予定）
- 第15週 校外学習の振り返り／ディスカッションと全体のまとめ

【事前・事後学修】

各自のワードローブも教材のひとつである為、各アイテムを学ぶ際に持参すること。指示を受けた課題は事前に行うこと（学修時間 2時間程度）。また、学んだ後は、店頭で実際の製品に触れ、復習としての検証を行なうこと（学修時間 2時間）。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト 20%、課題の取り組み、教室内での発言 80%で評価する。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行なう。

【参考書】

1. 『ファッション辞典』（文化出版局、1999年）4,000円（税別）
2. 『被服学辞典』（朝倉書店、2016年）18,000円（税別）

【注意事項】

2年次（前期）の『ファッションビジネス論』を受講していることが望ましい。演習のため、授業内における学生の主体的な参画を期待する。欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

ファッションビジネス論

大川 知子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

1年次の『ファッションビジネスの世界』で学んだ基礎知識（素材／アパレル／流通）を踏まえた上で、複雑、かつ日々変化する現代のファッションビジネスの潮流を理解する。また本講座は商品装飾展示技能検定（国家資格）3級の取得を目指し、VMD（ヴィジュアル・マーチャンダイジング／商品政策の視覚化）の基礎を体得する。

【授業における到達目標】

1. 業界紙（織研新聞、WWD JAPANなど）やファッションサイトに書かれてある内容を正しく理解できるようになる。
2. 実際に店頭を見た時に、商品構成や展開分類を活用して分析できるようになる。
3. 現代のファッションに関する課題を、様々な角度から検討出来るようになる「研鑽力」を身に付ける。
4. 商品装飾展示技能検定3級の取得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：ファッションビジネスの今日的課題
- 第2週 店頭の重要性① 商品分類
- 第3週 店頭の重要性② 商品構成
- 第4週 店頭の重要性③ 定数定量
- 第5週 店頭の重要性④ 展開分類
- 第6週 課題一店頭リサーチ① 商品構成／定数定量
- 第7週 店頭の重要性⑤ VMDの基本(1)概論
- 第8週 店頭の重要性⑥ VMDの基本(2)技術
- 第9週 店頭の重要性⑦ VMDの基本(3)応用
- 第10週 課題一店頭リサーチ② VMD
- 第11週 ECの現状
- 第12週 ECの運営
- 第13週 事例研究① VMDの実際 ※外部講師を予定
- 第14週 事例研究② 店頭から見えて来ること ※外部講師を予定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

1. 織研新聞やWWD JAPAN等の業界紙を読むこと（図書館やファッションビジネス研究室で購読中）。（学修時間 1時間）
2. 講義で取り上げた店舗などを実際に見学すると、より深く現場で行われている応用を理解することが出来る。（学修時間 3時間）
3. manabaを活用しての、商品装飾技能検定受験対策の小テストの実施（学修時間 1時間）。

【テキスト・教材】

- 日本ビジュアルマーチャンダイジング協会：VMD用語辞典[エポック出版、2016、¥2,500(税抜)]
- 日本ビジュアルマーチャンダイジング協会：商品装飾展示技能検定ガイドブック[織研新聞社、2014、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、課題への取り組み等50%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行なう。

【参考書】

1. 織研新聞、WWD JAPAN等の各紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）。
2. 尾原蓉子『Fashion Business 創造する未来』（織研新聞社、2016年）2,000円（税別）

【注意事項】

1. 翌春実施される予定の商品装飾展示技能検定対策の講習を受講の場合、別途費用が必要となる（日本VMD協会のホームページを参照）。
2. 欠席が事前に分かっている場合には、その辞典で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

ファッション企画論

川上 梅

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

ファッション商品に関する基礎知識やファッション企画に必要な情報収集・分析、商品化企画の基本を学ぶことを目標とする。企画書作成などの演習も交えながらファッション企画開発力、企画構成力を養う。発展的な課題として、企画の基礎にある心理学的な視点からの調査・解析方法にも触れる。

【授業における到達目標】

ファッション商品の企画を演習形式で学習し、アパレル現場で働くための自信を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 消費者行動とファッション生活
- 第2週 ファッション生活の生活面Ⅰライフスタイル
- 第3週 ファッション生活の生活面Ⅱ季節による変化
- 第4週 ファッション生活の感性面Ⅰタイプ
- 第5週 ファッション生活の感性面Ⅱ年齢
- 第6週 ファッション生活の感性面Ⅲ流行
- 第7週 マーケティングと商品企画
- 第8週 基本とスケジュール
- 第9週 ターゲット企画・情報企画
- 第10週 商品コンセプト企画
- 第11週 コーディネート企画
- 第12週 アイテム企画
- 第13週 プロモーション企画
- 第14週 プレゼンテーション
- 第15週 まとめ（消費者行動の実状）

【事前・事後学修】

[事前学修] 小テスト・発表等の課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

[事後学修] 小テスト・発表等を復習すること。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

『ファッション・マーケティング[ファッション教育社、2012、¥1,600(税抜)、※2014年12月22日初版第1刷発行]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(40%)、レポート・発表等(60%)で総合的に評価。

小テストは次回授業でフィードバックを行う。最後にプレゼンテーションを行い、学生同士の意見交換によりフィードバックする。

ファッション文化史

石上 美紀

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

「ファッション（服飾）とは何か」「人はなぜ衣服を着るのか」この問いに対する答えは決して一つではありません。たとえば暑さ寒さから身を守る「身体の保護」という最も原始的で物理的な機能や、おしゃれをしたいという気持ちに繋がる心理的な「美的欲求」など、ファッションをさまざまな観点から考察することで、それが持つ多種多様な意味を見いだすことができます。

このような視点を持ちながら、古代ギリシャから現代にいたるまでのヨーロッパの服飾の歴史を概観します。特に講義においては、過去の服飾造形がどのように現代ファッションの形成に影響を与えているかという視点に留意します。

また各々の時代について、服飾、あるいはその流行現象を意味するファッションを、当時の時代背景、社会情勢、芸術の潮流などとの関連性と共に考察することによって、ファッション文化が担う豊かな表現性と多義性を理解します。さらに美術工芸の「作品」としての服飾、あるいは絵画や文学の中で「描かれた」服飾に注目しながら、服飾を芸術としてとらえる視点を養います。

【授業における到達目標】

- ・ファッションが持つ多面性を理解し、ヨーロッパ服飾史に見られる時代ごとに異なる特色を把握することができる。そのうえで服飾における美の探究の歴史を習得できるようになる。
- ・日本人にとっては異国の文化である西洋衣服の歴史をたどることで異文化理解の一助とし、国際的視野を広げることができるようになる。
- ・文学や絵画に描かれた服飾に注目する習慣を身に着けることによって、衣服が身近な身体表現の手段であるのみならず、一つの文化として服飾を捉える視座を養い、自己の研鑽力を高めることができる。

【授業の内容】

- 第1章 古代ギリシャ、ローマの服飾造形
- 第2章 中世の服飾造形
- 第3章 ルネサンスの服飾造形
- 第4章 17世紀バロックの服飾造形
- 第5章 18世紀ロココの服飾造形
- 第6章 19世紀前半の服飾造形
- 第7章 19世紀後半の服飾造形
- 第8章 ジャポニスムとファッション
- 第9章 20世紀前半の女性像とシャネル
- 第10章 アートとファッションの交流
- 第11章 ブランド・ビジネスとファッション
- 第12章 異国文化の受容 民族服とファッション
- 第13章 日本的美意識と日本人デザイナー
- 第14章 現代ファッションと歴史服
- 第15章 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：教科書『カラー版 世界服飾史』で、今回の授業に該当に該当する部分を予習する。特に図版を見ながら時代のファッションの造形的特徴を自分の言葉で説明する試みをする。（学修時間：週2時間）

事後学修：該当の時代やテーマに関する服飾が描かれている絵画作品や文学作品、あるいはその時代が舞台となっている映画などを自ら探してみる。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

井見子、執筆・深井晃子、徳井淑子、古賀令子、周防珠実、石上美紀、新居理絵、石関亮：増補新装 カラー版 世界服飾史[美術出版社、2010、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%（コメントペーパー、受講態度）、コメン

トペーパーの内容は次回授業で紹介し、以降の授業の考察のきっかけとします。

【参考書】

徳井淑子著『図説 ヨーロッパ服飾史』（河出書房新社、2010年）、深井晃子監修『ファッション 18世紀から現代まで』（タッセン、2002年）

【注意事項】

できるだけ多くの視覚的資料を提示します。授業には必ず出席し、図版や映像を見ることが重要です。毎回ノートをとることも必要です。各自ノートを準備してください。ノートはコメントペーパーの記入や試験準備に活用してください。

ファッション文化論

新實 五穂

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちの生活に最も身近な服飾の流行という現象を通して、社会や文化を理解することを目指す。なぜ新しい流行は次々と生まれるのか、現代の服装の中に歴史上の服装がどのように息づいているのかを探り、服飾が持つ社会的・文化的意味を学ぶ。

【授業における到達目標】

服飾流行の変遷を学び、そのデザイン性を社会的・文化的背景から考察することにより、自身のことばで流行が生じる背景を説明できるようになる。さらに現代社会における服飾流行の特徴をデザイン面から分析し、批評できる姿勢を修得する。

【授業の内容】

- 1 服飾流行の発生と成立要因
- 2 古代の服飾
- 3 中世の服飾
- 4 16世紀の服飾
- 5 17世紀の服飾
- 6 18世紀の服飾
- 7 18世紀末から19世紀初頭の服飾
- 8 19世紀前期の服飾
- 9 19世紀後期の服飾
- 10 19世紀末から20世紀初頭の服飾
- 11 1910年代から1920年代までの服飾
- 12 1930年代から第2次世界大戦までの服飾
- 13 第2次世界大戦後から1960年代までの服飾
- 14 1970年代から1990年代までの服飾
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：参考書で次回授業の該当範囲を予習する。とくに図像資料を見ながら歴史上いかに多様なファッションがあったのかを観察する。（学修時間 週2時間）

事後学修：参考書で授業の復習を行うとともに、次回授業の該当範囲を予習する。また歴史上の服飾が現代ファッションにどのように息づいているかを、新聞や雑誌を通して考えてみる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（授業への積極参加・授業時のコメントペーパーの内容）30%。

コメントペーパーの内容を次回授業でフィードバックする。

【参考書】

深井晃子監修『カラー版世界服飾史 増補新装版』（美術出版社 2010年）

徳井淑子著『図説ヨーロッパ服飾史』（河出書房新社 2010年）

フィールドリサーチ a (環境・エネルギー)

環境・エネルギー領域の基礎的なアクティブ・ラーニング

菅野 元行

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

環境科学概論や現代社会を読み解くd(科学技術と社会)に関連して、「環境・エネルギー分野」の演習の基礎として、環境・エネルギー分野のプロジェクト学習や、学外展示見学による課題研究を通して学習します。プロジェクト学習は2年次のプロジェクト演習の先取りの形です。また、関連した施設(科学技術館など)や展示(エコプロダクツ展など)の予備調査、実地調査を通して習得したことをグループ討論形式で問題点を整理します。演習科目のため、環境・エネルギー分野に関心のあることが必要です。エコプロ2019で研究発表または実地調査を行います。

【授業における到達目標】

- ①環境・エネルギー分野のプロジェクト学習を通して、自ら積極的に学び取る姿勢を身につける。
- ②実社会の環境・エネルギー分野の展示見学を通して、社会における環境・エネルギー分野の重要性を理解する。以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 論文検索方法
- 3 効果的なプレゼン資料の作成方法
- 4 プロジェクト学習の基礎
- 5 プロジェクト学習の調査(1回目)
- 6 プロジェクト学習の評価検討(1回目)
- 7 プロジェクト学習のグループ討論(1回目)
- 8 プロジェクト学習の調査(2回目)
- 9 プロジェクト学習の評価検討(2回目)
- 10 プロジェクト学習のグループ討論(2回目)
- 11 展示・施設の事前調査
- 12 エコプロ2019で研究発表・実地調査
- 13 展示・施設の調査結果の作成
- 14 プロジェクト学習の最終発表・討論
- 15 振り返り・まとめ

プロジェクト学習の一例として、エコキャンパスマップの作成、自然エネルギーキャンパスの策定、環境・エネルギー分野を広めるための活動、などが挙げられるが、履修生の希望に沿った内容とします。

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】グループ討論後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の討論時までに精度を上げてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業中のアクティビティ)80%、各自の取り組み内容20%。フィードバックはグループ発表の次の回に行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

※演習科目のため、環境・エネルギー分野に関心のあることや、積極的に学び取る意欲が必要です。

※演習要素の濃い科目のため、自己責任による欠席、遅刻、早退は成績に大きく影響します。

※この科目で検討した内容は、2年次のプロジェクト基礎演習a(菅野)で引き続き深めていくことが可能です。

フィールドリサーチ b (自然環境)

君塚 芳輝

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

フィールドリサーチは3つの科目に分かれています。この科目では自然科学の中でも特に生きものの視点から話題を提供していきます。私たちが学ぶ大学の日野キャンパスや通学の途中に見える風景の中にも、環境問題を考えるヒントは沢山隠れています。この科目では日常の風景を題材に、環境への配慮や調査で読み取る方法について分かりやすく考えていきます。数式や化学式を用いなくても環境について考え、配慮することができます。いくつかの現場体験を含めて、周囲を見て環境のことを考えられる視点を育てるのが目標です。

【授業における到達目標】

環境の把握に必要な調査を切り口として、問題点を分析するための多様な視点と発想を身に付けて戴くことを目標としています。簡単な水辺での調査方法についても解説します。紹介する外部のフィールドワークにもできるだけ参加するようにお願いします。15回の授業が終える頃には複数の視野や立場になって考えることができる力(研鑽力)が得られるようになることを到達目標にしています。

【授業の内容】

1. 概要と目指す事柄の説明 見て考える素養を養ってください
2. 日野キャンパスの環境を見る-1 本学には豊かな環境配慮が
3. 日野キャンパスの環境を見る-2 キャンパス内を歩いて考える
4. 生物多様性を考える-1 生きものが多いたが多様性ではない
5. 生物多様性を考える-2 実は環境省が示す原則にも誤りが!
6. 生物多様性を考える-3 データの分析で分かる多様性の理解
7. 雨水の地下浸透-1 雨の日も学内が歩きやすいのはなぜ?
8. 雨水の地下浸透-2 表面に水が貯まらないと滑らずに安全
8. 雨水の地下浸透-3 雨水浸透柵で屋根雨水を地下に浸透させる
9. 雨水の地下浸透-4 雨水の浸透と貯溜は両方取り組むのが理想
10. 魚類の調査を知る-1 魚の採集には多様な漁具と漁法がある
11. 魚類の調査を知る-2 採集データを解析して考えられること
12. 魚類の調査を知る-3 市民が行なう調査でもデータを残そう
13. 水辺での安全管理の基礎-1 事故の事例を知って危険を防ぐ
14. 水辺での安全管理の基礎-2 水辺での安全管理を会得しよう
15. 講義のまとめと振り返り 映像で振り返って感想を伺います

【事前・事後学修】

毎回の授業前には、配布されたテキストを事前に読んでおいてください。内容で不明な点や分かりにくい所は積極的にご質問をお願いします。翌週にアンケート結果のまとめで回答と解説をしますので、復習の助けにしてください。ご紹介する参考文献は印刷しますので図書館で読んでください。図書館や自宅ではプリントやアンケート結果のまとめを読み返して理解できるように、予習と復習をそれぞれ2時間以上の学修をするよう努めてください。

【テキスト・教材】

特定の教科書は使わず配布するプリントと映像で講義を進めます。配布したプリントはその章が終るまでは毎回お持ち願います。毎週のスライドと一部動画も使い理解の助けとします(科目の特色)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれの章を終わった時に800-1200字程度のレポートを書いて戴いて評価(90%)するほか、毎週書くフィードバックシートも点数化(10%)します。レポートは返却し解説を行いません。定期試験は行ないません。私に関わる水辺の活動に、できるだけ積極的に参加してください。ささやかですが加点をします。

【参考書】

参考文献は章ごとにプリントに記入し、一部は回覧します。図書館で読んで参考にしてください。

【注意事項】

他の受験生に迷惑となる講義中の私語は慎んでください。ご質問や希望などがあれば口答でも、毎回授業中に書いて戴く感想シート

フィールドリサーチc (メディア)

高橋 徹

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

本授業ではフィールド調査を通してメディアの特性を理解することを目的としています。近年ではメディアを利用した個人の発信が容易になり、様々な情報や考えに触れる機会も増えてきました。ソーシャルメディアに至っては人との関わり方にも変化を持たしています。

こういった中で、情報の受信・発信を適切に行うメディア・リテラシの重要性が高まっています。ただし、この授業ではメディア・リテラシの説明は行いますが、最終的により具体的なメディア・リテラシが何なのかというのは自分で考えてもらいます。これはメディアの比較や企業や個人での利用方法の調査を通して結論を出してもらいます。これを考えることを通して、今後もメディアのありようが変化したときに自分なりの考えを持てるようになることを目指します。

【授業における到達目標】

- ①メディアの特性を理解し、それに合わせたメディア・リテラシを身につけます。
- ②「協働力」をグループでの議論を通して身につけます。
- ③「研鑽力」をフィールド調査から自説を作ることを通して身につけます。

【授業の内容】

〈メディアの基礎理解〉

1. オリエンテーション
2. メディア・リテラシ
3. メディアのメッセージ

〈情報の検証〉

4. メディアの比較調査 (導入)
5. メディアの比較調査 (調査実施)
6. メディアの比較調査 (まとめ)

〈仮説検証〉

7. メディアの利用方法調査 (導入)
8. メディアの利用方法調査 (仮説生成)
9. メディアの利用方法調査 (仮説検証)
10. メディアの利用方法調査 (まとめ)

〈メディア・リテラシの提案〉

11. メディア・リテラシの提案 (調査をもとに検討)
12. メディア・リテラシの提案 (構成)
13. メディア・リテラシの提案 (発表1)
14. メディア・リテラシの提案 (発表2)
15. まとめ

【事前・事後学修】

グループワークが主たる作業になるので以下を行ってください。

〈事前学修〉 毎回次回の予告を行うので、それに合わせて個人で簡単な調査を行って授業に臨んでください。(週2時間)

〈事後学修〉 グループ作業は授業内だけで終えるのは難しいので、グループ内で相談しつつ作業を完了してください。具体的にどこまで完了すればよいかは毎回の授業で説明します。(週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じて参考となる資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれのグループワークで作成するレポート・発表で評価を行います。正解は必ずしもないので、論理性を重視して評価します。フィードバックは発表の都度行っていきます。

(レポート (3回) : 80%, 発表 : 20%)

【参考書】

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

フィールドワーク 2

塩川 宏郷・水野 いずみ・作田 由衣子・井上 宏子

2年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

生活心理専攻では、①「『心理学の視点から生活の課題を分析し、解決する』とは、どういうことか」②「また、その意義はなにか」を理解するため、2年間にわたり、4種類のフィールド（病院や障害者就労支援施設など。年度によって異なる可能性がある）に出かける。フィールドの見学は、4クラス（各クラス10名程度）に分かれて行う。そして、フィールドでの実際の様子に基づき、学問的な知識や理論について批判的思考を行えるようになるための基盤を形成する。

【授業における到達目標】

2年次では、①「なぜ生活のなかに課題が生じているのか、自分なりの仮説を示すことができる」また、②「どうしてそのような仮説が成り立つといえるのか、他者に納得してもらえるように根拠を示しながら、述べられる」ようになることが目標である。

そして、1年次に身につけた「行動力」・「協働力」の基礎に基づき、3年次の学習に向け「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 フィールドA事前指導①外部講師による講話①
- 第3週 フィールドB事前指導①
- 第4週 フィールドC事前指導①
- 第5週 フィールドD事前指導①
- 第6週 各フィールド見学がイグレス① ※クラス別
- 第7週 各フィールド課題（準備） ※クラス別
- 第8・9週 各フィールド見学①（教員引率）※クラス別
- 第10週 各フィールド事後指導①・課題（討論） ※クラス別
- 第11週 各フィールド事後指導②・課題（発表準備） ※クラス別
- 第12週 各フィールド事後指導③・課題（発表作業） ※クラス別
- 第13週 フィールドA・C事後指導①（全体）含 学生発表
- 第14週 フィールドB・D事後指導①（全体）含 学生発表
- 第15週 外部講師による講話②・前期のまとめ
- 第16週 後期ガイダンス（報告書・課題について）
- 第17週 報告書について①（概要・過去の報告資料収集について）
- 第18週 報告書の進捗状況発表① ※クラス別
- 第19週 報告書について②（先行研究のレビューの仕方）
- 第20週 各フィールド見学がイグレス② ※クラス別
- 第21週 各フィールド課題（準備） ※クラス別
- 第22・23週 各フィールド見学②（教員引率）※クラス別
- 第24週 各フィールド事後指導④・報告書作成作業 ※クラス別
- 第25週 各フィールド事後指導⑤・報告書作成（討論） ※クラス別
- 第26週 各フィールド事後指導⑥・報告書執筆 ※クラス別
- 第27週 各フィールド事後指導⑦・報告書（進捗状況発表②）※クラス別
- 第28週 各フィールド事後指導⑧・報告書執筆（完成に向けて）※クラス別
- 第29週 各フィールド事後指導⑨・報告書（進捗状況発表③）
- 第30週 報告書の提出、年間のまとめ、3年次に向けて

【事前・事後学修】

【事前学修】各フィールドを見学する前に、フィールドについて事前に必ず調べ、見学に出かけるフィールドの概要を理解する（学修時間週2時間）

【事後学修】フィールドで経験した内容が、大学で勉強する様々な理論や専攻での研究とどう関連するか、自分なりに考える（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

佐藤郁哉：フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる
[新曜社、2002、¥3,045(税抜)、ISBN：978-4-7664-2320-4]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（フィールドでの取り組み、事前事後の学修および発表、質疑応答、課題提出など）100%。取り組んでいた点や、つまづきがらだつ

た点についてフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で指示する。

【注意事項】

2年次も、2種類のフィールドに出かけることになる。原則として教員が引率し、各フィールドについて、4週分×90分を経験するが、先方の都合などにより、実習などを行う場合は、12時間以上（＝4週分×3時間）を経験し、その時間数を先方に記録して頂く必要がある。なお、フィールドへの交通費など、諸費用は自己負担となる。校外に出かけるので、安全面など、十分に注意すること。外部講師の日程やフィールドに出かける日程などについては、変更が生じる場合がある。

フランス語 1 a

藤井 陽子

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語の基本的な表現や文法を学びます。

フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現の意味や用法を理解するとともに、フランス文化への理解を深めます。

【授業における到達目標】

フランス語の日常会話を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。

フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakShION アルファベ
- 第2週 アルファベの復習 授業進行に使う表現
- 第3週 第1課① あいさつ
- 第4週 第1課② 主語人称代名詞
- 第5週 第1課③ 自己紹介
- 第6週 第2課① ～があります
- 第7週 第2課② 名詞と定冠詞
- 第8週 第3課① ～を持っている
- 第9週 第3課② avoirの活用 疑問文・否定文
- 第10週 第4課① どんな言葉？
- 第11週 第4課② er動詞の活用 疑問形容詞
- 第12週 第5課① 買い物
- 第13週 第5課② 部分冠詞と中性代名詞
- 第14週 第6課 どこに？
- 第15週 前期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週1時間)：教科書本文の予習。小テスト・プリント等の課題。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

大久保政憲：きみと話したい！フランス語[朝日出版社、2015、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・課題20%

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』(白水社 2002年) 1800円+税

【注意事項】

フランスを「聞く」「話す」授業を行います。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください(予習・復習用)。「フランス語1b」と続けて履修することをお勧めします。

言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。

※募集人数は40名です。

フランス語 1 a

フランス語を話そう

武田 志保子

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

テキストはどの課もその課で学ぶ表現が入った簡単な会話から始まってその表現を理解し活用するために言い換え練習へと続いていきます。そして次のページにはポイントなる文法事項が説明され最後にactiviteのページがあり、その課で学んだことを理解し応用できるように構成されています。相手とロールプレイすることで声にだしすぐに使えるフランス語の習得をめざします。テキストにはDVDの映像もあるので大いに活用し日本との違いや今まで知っていたフランスとは違うフランスを発見していきます。

【授業における到達目標】

フランス語を通して自分を表現することで相手を理解しコミュニケーション能力を高めることができますようになります。また各課にはフランスの文化・社会など様々な情報が載っています。異文化に触れ異なる世界への興味や探求心も育むことができますようになります。この授業ではCEFRのA1レベルである自分についてや自分が住んでいる場所や所有物について述べるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 アルファベと綴り字の読み方 簡単なあいさつ
- 第2週 国籍職業名前を言う
- 第3週 動詞etre 名詞の性と数
- 第4週 住んでいる所話せる言語を言うer動詞habiter parler
- 第5週 否定文 ne～pas 定冠詞le la les 数1～10
- 第6週 自己紹介する
- 第7週 家族年齢を言う 動詞avoir
- 第8週 好みを言うaimer 数11～20
- 第9週 食べるmanger 飲むboire と部分冠詞 du de la
- 第10週 乗る取るprendre il y a 表現 ～に～がある・いる
- 第11週 疑問詞いつquand いくつcombien 復習動詞を中心に
- 第12週 人・物を描写する 形容詞 petit,e 小さいgrand,e大きい
- 第13週 誰qui どんなcomment 家族を紹介する
- 第14週 行くaller来るvenirと定冠詞の縮約 au・aux・du・des
- 第15週 総復習

【事前・事後学修】

事前学習：CDを何度も聞いて各課の始めにある会話文が読めるようにしてください。始めは音だけを真似て繰り返すだけで良いですが課が進むにつれて綴り字としてのフランス語が読めるように練習してください。毎日10分。

事後学習：表現のページの文章を何度も声に出して読み暗記するようにしてください。クラスでロールプレイとして使っていきます。毎日15分。

【テキスト・教材】

田辺・中野：優しいサリュ[駿河台出版社、2019、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業への参加度や提出物の有無小テスト等20%。声が小さい、忘れました、わかりませんという態度は減点の対象となります。提出物や小テストは正しく添削して返却し授業で復習をかねて説明します。定期試験については最終授業でフィードバックし間違いの多かった答えはもう一度説明した上で練習問題をしていきます。

【注意事項】

*募集人数は40名です。

フランス語 1 b

藤井 陽子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「フランス語 1a」で学んだ基本をもとに、さらなるフランス語の習得を目指します。

フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現を習得するとともに、フランス文化への理解を深めます。

【授業における到達目標】

フランス語のさまざまな表現を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。

フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 前期の復習
- 第2週 第7課① 何時に？
- 第3週 第7課② 非人称構文
- 第4週 第7課③ 時刻表現のまとめ
- 第5週 第8課① ～をするつもり
- 第6週 第8課② 近接未来 近接過去
- 第7週 第9課① 比べる
- 第8週 第9課② 比較級 指示代名詞
- 第9週 第10課① ～を知っている
- 第10週 第10課② 目的語人称代名詞 疑問代名詞
- 第11週 第10課③ フランス映画について
- 第12週 第11課① 起きる 寝る 散歩する
- 第13週 第11課② 代名動詞 命令形
- 第14週 文法のまとめ
- 第15週 後期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週1時間)：教科書本文の予習。小テストやプリント等の課題。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

大久保政憲：きみと話したい！フランス語[朝日出版社、2015、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・課題20%

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』（白水社 2002年）1800円＋税

【注意事項】

フランス語を「聞く」「話す」授業を行います。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください(予習・復習用)。「フランス語1a」または「フランス語で学ぶフランス語a」を履修済み、もしくは同等程度のフランス語力を有することが望ましいです。

言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。

※募集人数は40名です。

フランス語 1 b

フランス語を話そう

武田 志保子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語1aから引き続いていきます。テキストはどの課もその課で学ぶ表現が入った簡単な会話文から始まってその表現を理解し活用するために言い換え練習へと続いていきます。そして次のページにポイントとなる文法事項が説明され最後にactiveのページがあり、その課で学んだことを理解し応用できるように構成されています。相手とロールプレイすることで声に出してフランス語の定着を図り日常の場面で役立ち、使えるフランス語の習得をめざします。テキストにはDVDの映像もあるので大いに活用し日本との違いや今まで知っていたフランスとは違うフランスを発見していきます。

【授業における到達目標】

フランス語は世界第二の国際語であり会話力をつけることで多くの出会いをすることができます。語学学習は異文化に触れる良い機会であり自分の世界を広げて知識を深めバランスのとれた国際感覚を身につけることができます。この授業ではCEFRのA2レベルに対応していきます。

【授業の内容】

- 第1週 復習 プリント使用
- 第2週 非人称時間 il est 疑問詞いつquand
- 第3週 尋ねる何をque どのようなquel ir型規則動詞 finir
- 第4週 時間を使って一日を言う
- 第5週 近い未来aller＋不定詞 近い過去 venir de ＋不定詞
- 第6週 理由を尋ねるpourquoiなぜvouloirほしいpouvoirできる
- 第7週 予定を言う
- 第8週 日常の行動を言う 非人称天候 il fait
- 第9週 代名動詞 se lever起きる se coucher寝る
- 第10週 自分の一日を言う
- 第11週 場所・道順を言う 非人称il fautねばならない
- 第12週 命令の表現 複合過去1 avoir＋過去分詞
- 第13週 様々な否定の表現ne～jamais ne～plus 中性代名詞 en
- 第14週 複合過去2 etre＋過去分詞 中性代名詞 y
- 第15週 総復習

【事前・事後学修】

事前学修：フランス語の綴り字の読み方に注意してCDを何度も聞き各課にある会話文が読めるように練習してください。毎日15分。

事後学修：表現のページの文章を何度も声に出して読み、暗記するようしてください。クラスでロールプレイとして使っていきます。毎日15分。

【テキスト・教材】

田辺・中野：優しいサリュ[駿河台出版社、2019、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業への参加度や提出物の有無小テスト等20%。声が小さい、忘れました、わかりませんという態度は減点の対象となります。定期試験については最終授業でフィードバックし間違えの多かった答えはもう一度説明した上で練習問題をしていきます。

【注意事項】

*募集人数は40名です。

フランス語 2 a

フランスの今

武田 志保子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

テキストはどの課も写真だけではなく統計や図表によってより深くフランスの現在を知るように工夫されたページから始まって dialogue、文法、練習問題へと続き、最後に聞き取りのページでその課で学んだ事項や表現を理解し定着できるように構成されています。学習する皆さんがフランスという国や文化に興味を抱いて無理なく初・中級レベルのフランス語を読み書き話し聞くといい総合的な力をつけることをめざします。

【授業における到達目標】

その国の文化や社会を知ってこそ語学学習は生きてきます。各課にある最新のフランスの姿に触れ興味を抱いて理解を深め他国の人々とより良いコミュニケーションを図ることができます。言葉を通じて人とはもちろん色々な出会いをすることができ自分の世界を広げることができるようになります。この授業ではCEFRのA2レベルの能力を身につけることができます。

【授業の内容】

第1週	自己紹介する	名前国籍職業年齢好きなこと
第2週	フランス料理	何がおすすですか
第3週	補語人代名詞	私を私に Tu m' aimes?
第4週	助言する表現	聞き取り練習
第5週	郵便手紙	手紙の書き方
第6週	代名動詞 se coucher	寝る 単純未来形 謝る表現
第7週	未来の予定を述べる	聞き取り練習
第8週	ホテル	部屋の種類設備の有無
第9週	関係代名詞 qui que dont ou	
第10週	現在分詞 sortant とジェロンディフ en sortant	
第11週	依頼の表現	聞き取り練習
第12週	ヴァカンス	どこに行くどこに泊まる
第13週	代名動詞の複合過去	半過去～っていた ～だった
第14週	大過去	残念に思う表現
第15週	総復習	

【事前・事後学修】

事前学修：各課の dialogue をまず声に出して読みそれから大まかな意味を調べておくことは必要です。またでてきた動詞を直説法現在形に活用してください。一週間に30分。

事後学修：答え合わせのすんだ練習問題を何度も声に出して読み文章を暗記するようにしてください。毎日15分。

【テキスト・教材】

藤田裕二：新訂版えすかるご2[朝日出版社、2016、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業への参加度や提出物の有無小テスト等々20%。声が小さい、忘れました、わかりませんという態度は減点の対象となります。

提出物や小テストは正しく添削して返却し授業で復習をかねて説明します。定期試験については最終授業でフィードバックし間違えの多かった答えはもう一度説明した上で練習問題をします。

【参考書】

仏和辞書は必要です。一冊は手元においてください。

山田・宮原他著『デイコ仏和辞典』(白水社2003年) 3800円+税
西村・曾我他著『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社)

2014年 3200円+税

【注意事項】

募集人数は40名です。

フランス語 2 a

藤井 陽子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

すでに学んだフランス語の基本的な表現をもとに、さらなるフランス語の習得を目指します。

簡単な読み物、料理のレシピなどを通して総合的な語学能力を身につけましょう。

【授業における到達目標】

さまざまな文法事項を整理し、より複雑なフランス語の文を理解できるようにしましょう。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とします。

フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

第1週	イントロダクション	フランス文化の紹介
第2週	複合過去(1)	文法の確認
第3週	複合過去(2)	練習問題
第4週	読み物1	エマニュエル・マクロン
第5週	読み物2	フランスの政治
第6週	レシピを読もう1	キッシュ・ロレーヌ
第7週	単純未来(1)	文法の確認
第8週	単純未来(2)	練習問題
第9週	読み物3	ジャガイモ
第10週	読み物4	パルマンティエ
第11週	レシピを読もう2	アッシ・パルマンティエ
第12週	半過去(1)	文法の確認
第13週	半過去(2)	練習問題
第14週	文法のまとめ	
第15週	全体のまとめ	

【事前・事後学修】

必ずノートを1冊用意すること

事前学修(週1時間)：指定部分の予習。課題の準備。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

プリントを配布。

「フランス語1」または「フランス語で学ぶフランス語」で使用した教科書を持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、小テスト20%、授業への積極参加、提出課題、予習・復習の有無20%

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新リュミエール フランス文法参考書』
(駿河台出版社 2000年) 2100円

【注意事項】

基本文法とともに、現代フランスのさまざまな側面を紹介します。フランスの政治形態や料理などに代表される豊かな文化と一緒に学びましょう。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。

※募集人数は40名です。

フランス語 2 a

岡本 尚子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語1で習得したことを確認しながら、一つ上のレベルのフランス語を習得することを目指します。フランスの世界遺産や食文化を取り上げた教科書を使用し、映像と共にフランス文化に親しみながら、総合的なフランス語力を高めます。

【授業における到達目標】

- ・CEFR A2レベルのフランス語の修得。
- ・フランス語を通して文化の多様性を理解し、多角的な視点を養う。

【授業の内容】

原則として以下の予定で進めますが、変更する場合があります。

第1週 オリエンテーション 第0課 綴り字の読み方などの復習
 第2週 第1課 動詞etre 国籍を表す形容詞
 第3週 第2課 形容詞の性数一致と位置
 第4週 第3課 -er動詞 定冠詞 疑問文
 第5週 第4課 avoir 否定文
 第6週 第5課 allerと近接未来 faire partir
 第7週 第6課 所有形容詞 Dialogue
 第8週 第6課 疑問形容詞 練習問題 Lecture
 第9週 第7課 人称代名詞の強勢形 Il y a～ Dialogue
 第10週 第7課 je voudrais～ 指示代名詞 練習問題 Lecture
 第11週 復習：仏検5級レベルの確認
 第12週 第8課 補語人称代名詞 Dialogue
 第13週 第8課 定冠詞の縮約形 国の名前 練習問題 Lecture
 第14週 第8課までの総復習
 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 ノートを一冊用意して、前もって教科書のDialogueとLectureの部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。(学修時間 0.5時間)

【事後学修】 必ず復習を行い、次の授業までに理解しておくこと(質問は随時受け付けます)。教科書の練習問題を繰り返しやると、DialogueとLectureは、音読及び書き取りができるようになるのが望ましいです。三回程度、小テストを実施予定。(学修時間 週1.5時間)

【テキスト・教材】

藤田裕二：パリ-ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1 [朝日出版社、2016、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業においてフィードバックを行います。

【参考書】

森本英夫・三野博司著

『新リュミエール フランス語文法参考書』(駿河台出版社)
2100円+税

【注意事項】

- ・後期のフランス語2bと続けて履修することをお勧めします。
- ・教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。
- ・Dialogueや練習問題を利用して、グループで実際に会話の練習を行います。しっかり声を出して積極的に参加して下さい。
- ・募集人数は40名です。

フランス語 2 b

フランス語を通して世界を知ろう

武田 志保子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語2aから引き続いてテキストを進めていきます。学習する皆さんがフランスという国や文化に興味を抱いて無理なく中級レベルのフランス語を読み書き話し聞くといい総合的な力をつけ、実際の場面で使えるフランス語の習得をめざします。各課には世界的に問題となっているテーマがあるのでそれぞれが意見を出し合い自分のまわりの世界についても意識し、知識を深めていきます。

【授業における到達目標】

その国の文化や社会を知ってこそ語学学習は生きてきます。各課にある最新のフランスの姿に触れ興味を抱いて理解を深め他国の人々とより良いコミュニケーションを持つことができるようになります。この授業ではCEFRのA2レベルの能力を身につけることができ世界第二の国際語であるフランス語を学ぶことで国際的視野を身につけ、活躍の場を広げることができるようになります。

【授業の内容】

第1週 失業問題
 第2週 受動態 etre+過去分詞+par
 第3週 中性代名詞 en y le 抗議する表現
 第4週 聞き取り練習
 第5週 環境問題
 第6週 条件法現在・過去 もし～なら 語調緩和
 第7週 賛成反対を言う表現
 第8週 聞き取り練習 復習プリント使用
 第9週 礼儀作法
 第10週 接続法現在 願望命令疑惑を述べる
 第11週 承諾する・断る表現
 第12週 聞き取り練習
 第13週 教育制度
 第14週 強調構文 C'est～qui C'est～que 時の表現
 第15週 総復習 プリント使用

【事前・事後学修】

事前学修：各課にあるdialogueをCDをよく聞いて繰り返し音読してください。それから大まかで良いので何が書いてあるか、日本語にしておくことは必要です。週に30分。

事後学修：dialogueの文章を声に出して読んだり書いたりすることで暗記するようにしてください。役に立つ表現や言い回しが使われているので流暢な会話や作文等次へのステップの応用となります。一課一課積み上げることが大切です。毎日20分。

【テキスト・教材】

藤田裕二：新訂版えすかるご2[朝日出版社、2016、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業への参加度や提出物の有無小テスト等20%。声が小さい、忘れました、わかりませんという態度は減点の対象となります。提出物や小テストは正しく添削して返却し授業で復習をかねて説明します。定期試験については最終授業でフィードバックし間違えの多かった答えはもう一度説明した上で練習問題をします。

【参考書】

仏和辞書は必要です。一冊は手元においてください。

山田・宮原他著『デイコ仏和辞典』(白水社2003年) 3800円+税
 西村・曾我著『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社2014年)
3200円+税

【注意事項】

募集人数は40名です。

フランス語 2 b

藤井 陽子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

すでに学んだ基本をもとに、さらなるフランス語習得を目指します。文法だけではなく、読み物を通してある程度の文章を理解し、総合的な語学力を身につけましょう。

【授業における到達目標】

条件法などを学び、より複雑な文章を理解できるようになります。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とします。

フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン フランス文化の紹介
- 第2週 条件法(1) 文法の確認
- 第3週 条件法(2) 練習問題
- 第4週 読み物1 バゲット
- 第5週 読み物2 フランスの食文化
- 第6週 接続法(1) 文法の確認
- 第7週 接続法(2) 練習問題
- 第8週 読み物3 パレンタインデー
- 第9週 読み物4 フランスの祝日
- 第10週 レシピを読もう フォンダン・ショコラ
- 第11週 『星の王子さま』を読む① 作者と作品
- 第12週 『星の王子さま』を読む② 第1章
- 第13週 『星の王子さま』を読む③ 第2章
- 第14週 文法のまとめ
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

必ずノートを一冊用意すること

事前学修(週1時間)：指定部分の予習。課題の準備。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

プリントを配布。

「フランス語1」または「フランス語で学ぶフランス語」で使用した教科書を持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、小テスト20%、授業への積極参加、提出課題、予習・復習の有無20%

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

森本英夫・三野博司著 『新リュミエール フランス文法参考書』
(駿河台出版社 2000年) 2100円

【注意事項】

基本文法とともに、現代フランスのさまざまな側面を紹介します。料理や文学などに代表される豊かな文化を一緒に学びましょう。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。

※募集人数は40名です。

フランス語 2 b

岡本 尚子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語2aで習得したことを元に、更に上のレベルのフランス語の習得を目指します。前期でも使用した教科書を続けて使用し、フランスの世界遺産や食文化など、フランス文化を映像と共に親しみながら総合的なフランス語力を高めます。

【授業における到達目標】

- ・CEFR A2レベルのフランス語の修得。
- ・フランス語を通して文化の多様性を理解し、多角的な視点を養う。

【授業の内容】

原則として以下の予定で進めますが、変更する場合があります。

- 第1週 第9課 代名動詞 Dialogue
- 第2週 第9課 中性代名詞y 練習問題 Lecture
- 第3週 第10課 非人称構文 命令形 Dialogue
- 第4週 第10課 感嘆文 練習問題 Lecture
- 第5週 第11課 部分冠詞 Dialogue
- 第6週 第11課 中性代名詞en 練習問題 Lecture
- 第7週 第12課 比較級 Dialogue
- 第8週 第12課 単純未来 練習問題 Lecture
- 第9週 第13課 複合過去 Dialogue
- 第10週 第13課 半過去 練習問題 Lecture
- 第11週 第14課 条件法現在 Dialogue
- 第12週 第14課 接続法現在 練習問題
- 第13週 第14課 条件法と接続法の確認 Lecture
- 第14週 第9課～第14課の総復習 仏検4級レベルの確認
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】ノートを一冊用意して、前もって教科書のDialogueとLectureの部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。(学修時間 0.5時間)

【事後学修】必ず復習を行い、次の授業までに理解しておくこと(質問は随時受け付けます)。教科書の練習問題を繰り返しやると、DialogueとLectureは、音読及び書き取りができるようにすることが望ましいです。三回程度小テストを実施予定です。(学修時間 週1.5時間)

【テキスト・教材】

藤田裕二：パリ-ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1 [朝日出版社、2016、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業の際にフィードバックを行います。

【参考書】

森本英夫・三野博司著 『新リュミエール フランス文法参考書』
(駿河台出版社) 2100円+税

【注意事項】

・同じ教科書を使用するので、前期のフランス語2aと続けて履修することをお勧めします。前期分を履修していない学生は、事前に相談して下さい。

・教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。

・Dialogueや練習問題を利用して、グループで実際に会話の練習を行います。しっかり声を出して積極的に参加して下さい。

・募集人数は40名です。

フランス語 a

岡本 尚子

1・2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

フランス語の最も初歩的な表現や文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付けます。

フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていきます。

【授業における到達目標】

フランス語の簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通じてフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

原則として以下の予定で進めますが、状況によって変更する場合があります。

- 第1週 オリエンテーション Lecon0 アルファベ 挨拶
- 第2週 Lecon0 数字0～10、曜日、名詞の性と数
- 第3週 Lecon1 Voici,Voilà, C'est, 不定冠詞と定冠詞
- 第4週 Lecon1 主語人称代名詞、-er動詞、数字11～20、疑問文(1)
- 第5週 Lecon2 形容詞(1)、動詞etre、所有・指示形容詞
- 第6週 Lecon2 数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
- 第7週 Lecon3 動詞avoir, il y a
- 第8週 Lecon3 疑問文(2)、形容詞(2)
- 第9週 Lecon0～3の重要事項の確認
- 第10週 Lecon4 場所・方向の表現、否定文、動詞aller
- 第11週 Lecon4 命令文、モノの位置
- 第12週 Lecon5 動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 第13週 Lecon5 動詞faire、天候表現と季節
- 第14週 Lecon3～5の重要事項の確認
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 ノートを一冊用意して教科書の会話の部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。(学修時間 0.5時間)

【事後学修】 必ず復習を行い、次の授業までに内容を理解しておくこと。特に、教科書の練習問題を繰り返しやりましょう。また、会話の部分の音読の練習を必ず行ってください。(学修時間 週1.5時間)

【テキスト・教材】

瀬戸秀一、瀬戸和子：『街かどのフランス語』三訂版[朝日出版社、2016、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業においてフィードバックを行います。(三回程度小テストを実施予定)

【参考書】

森本英夫、三野博司 著『新・リュミエール フランス文法参考書』(駿河台出版社) 2100円＋税

【注意事項】

- ・遅くとも第2週目までには教科書を購入して下さい。
- ・教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。
- ・Dialogueや練習問題を利用して、グループで実際に会話の練習を行います。しっかり声を出して積極的に参加して下さい。
- ・募集人数は40名です。

フランス語 b

岡本 尚子

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

フランス語aからの継続授業です。フランス語aの内容を踏まえ、より内容豊かな口語表現と文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付けます。

フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていきます。

【授業における到達目標】

簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通してフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合があります。

- 第1週 オリエンテーション 前期の復習
- 第2週 Lecon6 疑問詞のある疑問文、時刻表現
- 第3週 Lecon6 月名、レストランで予約をする
- 第4週 Lecon7 比較級、色の形容詞
- 第5週 Lecon7 洋服を買う、目的語人称代名詞
- 第6週 Lecon8 代名動詞、最上級
- 第7週 Lecon8 非人称構文、地下鉄に乗る
- 第8週 Lecon6～8の重要事項の確認
- 第9週 Lecon9 複合過去(1)
- 第10週 Lecon9 -ir動詞、レストランで注文する
- 第11週 Lecon10 複合過去(2)
- 第12週 Lecon10 近い未来
- 第13週 Lecon10 近い過去
- 第14週 Lecon9～10の重要事項の確認
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 ノートを一冊用意して教科書の会話の部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。(学修時間 0.5時間)

【事後学修】 必ず復習を行い、次の授業までに内容を理解しておくこと。特に、教科書の練習問題を繰り返しやりましょう。また、会話の部分の音読の練習も必ず行ってください。(学修時間 週1.5時間)

【テキスト・教材】

瀬戸秀一、瀬戸和子：『街かどのフランス語』三訂版[朝日出版社、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業においてフィードバックを行います。(三回程度小テストを実施予定)

【参考書】

森本英夫、三野博司 著『新・リュミエール フランス文法参考書』(駿河台出版社) 2100円＋税

【注意事項】

- ・教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。
- ・Dialogueや練習問題を利用して、グループで実際に会話の練習を行います。しっかり声を出して積極的に参加して下さい。
- ・募集人数は40名です。

フランス語で学ぶフランス語 a

藤井 陽子

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

フランス語の基本的な表現や文法を学びます。
フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現の意味や用法を理解するとともに、フランス文化への理解を深めます。

【授業における到達目標】

フランス語の日常会話を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。
フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

第1週 インTRODakShION アルファベ
第2週 アルファベの復習 授業進行に使う表現
第3週 第1課① あいさつ、自己紹介
第4週 第1課② 主語人称代名詞と文法の確認
第5週 第1課③ 自己紹介 発音の基礎
第6週 第2課① ～があります
第7週 第2課② 名詞と定冠詞
第8週 第3課① ～を持っている
第9週 第3課② avoirの活用 疑問文・否定文
第10週 第4課① どんな言葉？
第11週 第4課② er動詞の活用 疑問形容詞
第12週 第5課① 買い物
第13週 第5課② 部分冠詞と中性代名詞
第14週 第6課 どこに？
第15週 前期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週1時間)：教科書本文の予習。小テスト・プリント等の課題。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

大久保政憲：きみと話したい！フランス語[朝日出版社、2015、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・課題20%
小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』（白水社 2002年）1800円＋税

【注意事項】

フランスを「聞く」「話す」授業を行います。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください(予習・復習用)。「フランス語で学ぶフランス語b」と続けて履修することをお勧めします。
言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。
※募集人数は40名です。

フランス語で学ぶフランス語 b

藤井 陽子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「フランス語で学ぶフランス語a」で学んだ基本をもとに、さらなるフランス語の習得を目指します。
フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現を習得するとともに、フランス文化への理解を深めます。

【授業における到達目標】

フランス語のより複雑な会話を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。
フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

【授業の内容】

第1週 前期の復習
第2週 第7課① 何時に？
第3週 第7課② 非人称構文
第4週 第7課③ 時間表現のまとめ
第5週 第8課① ～をするつもり
第6週 第8課② 近接未来 近接過去
第7週 第9課① 比べる
第8週 第9課② 比較級 指示代名詞
第9週 第10課① ～を知っている
第10週 第10課② 目的語人称代名詞 疑問代名詞
第11週 第10課③ フランス映画について
第12週 第11課① 起きる 寝る 散歩する
第13週 第11課② 代名動詞 命令形
第14週 文法のまとめ
第15週 後期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週1時間)：教科書本文の予習。小テストやプリント等の課題。

事後学修(週1時間)：練習問題・小テストの復習。指定課題。

【テキスト・教材】

大久保政憲：きみと話したい！フランス語[朝日出版社、2015、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・課題20%
小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』（白水社 2002年）1800円＋税

【注意事項】

フランス語を「聞く」「話す」授業を行います。グループでの練習・課題には積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください(予習・復習用)。「フランス語で学ぶフランス語a」を履修済み、もしくは同等程度のフランス語力を有することが望ましいです。
言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。
※募集人数は40名です。

フランス文学 b

藤井 陽子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

フランス文学を文学史に沿って学びます。

個々の作品に触れ、フランス文学の特色を理解しましょう。

【授業における到達目標】

小説が文学の中心となった19世紀以降のフランス文学作品を通して、近代以降の文学や背景を学びます。文学作品を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を、「美の探求」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけることを目標とします。また、学生に求められる「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 19世紀文学概略
- 第2週 19世紀① ロマン主義 スタンダール、バルザック
- 第3週 19世紀② 写実主義 ネルヴァル、フロベール
- 第4週 19世紀③ 自然主義 ゴッテ、モーパッサン
- 第5週 19世紀④ ロマン派の詩人 ラマルティエ、ユゴー
- 第6週 19世紀⑤ 高踏派詩人 ボードレー、ランボー
- 第7週 19世紀⑥ 象徴派 マラルメ、ヴェルレーヌ
- 第8週 19世紀⑦ 戯曲 ミュッセ、ロスタン
- 第9週 19世紀⑧ 映画『シラノ・ド・ベルジュラック』前半
- 第10週 19世紀⑨ 映画『シラノ・ド・ベルジュラック』後半
19世紀文学のまとめ
- 第11週 20世紀① プルースト、ジッド
- 第12週 20世紀② セリヌ、サルトル
- 第13週 20世紀③ カミュ、ロブ＝グリエ
- 第14週 20世紀④ デュラス、バルト
- 第15週 近代文学のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修(週1時間)：テキストの内容を予習し、作品について資料を調べ、邦訳資料を参照しておく。

事後学修(週3時間)：授業内容を整理してレポートにまとめること。

【テキスト・教材】

柏木隆雄他：『レクチュールの冒険—新編フランス文学選』朝日出版社、2005、¥1,800(税抜)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 授業内容に関するレポート30% 授業への参加態度10%

試験結果は授業最終回にフィードバックを行います。

【参考書】

柏木隆雄他編『エクリチュールの冒険—新編フランス文学史—』(大阪大学出版会 2003年) 2000円+税
渡辺一夫・鈴木力衛 『増補 フランス文学案内』(岩波文庫 1990年)

【注意事項】

人間の理想の姿ではなく、あるがままの人間の姿を描くといわれるフランス文学の一端に触れ、フランス文化に対する知識や理解を深めましょう。また、文学作品の背景にあるフランスの歴史、社会について学びます。授業で扱う以外のフランス文学作品の読書もお勧めします。

レポートは提出期限を厳守し、必ず提出してください。

ブライダルプランニング演習

阿部 マリ子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

ウェディングプランナーという仕事は、結婚する新郎新婦やご両親、ご家族、ご親族、ご友人、職場関係の方等、新郎新婦に関わる全ての方々の「幸せの瞬間」に携わる事の出来る素敵な仕事です。

この授業では、ブライダルの基礎知識はもちろん、ウェディングプランナーの仕事の流れを理解し、実践までを習得し、ウェディングのトレンドにも触れて頂きます。

結婚を控えた【ブレ花嫁】から、絶大な人気のある【アートディレクター・ワキリエ氏】を特別講師に招いた特別授業や、近隣エリアのブライダル施設見学の校外授業も実施します。

*課題では、各グループごとに結婚式を作成し実施する「模擬挙式」を行います。

*本授業はアクティブラーニングの手法を用いて行いますので受け身ではなく、主体的に参加して頂く必要があります。

ディスカッションや発表など、毎授業実施します。

【授業における到達目標】

ウェディングにまつわる様々な知識を得た上で、模擬挙式進行表を作成する事により、日本のウェディング文化への理解と共に、個々の感受性、研鑽力、行動力を高める。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 世界のウェディング・日本のウェディング
- 第3週 ウェディングプランナーの仕事とは
- 第4週 挙式の種類（キリスト教式）
- 第5週 挙式の種類（人前式）
- 第6週 挙式の種類（神前式・仏前式）
- 第7週 日本の伝統的な結婚式の源流を学ぶ（特別授業）
- 第8週 様々なウェディング施設
- 第9週 挙式進行表作成について
- 第10週 挙式に関わる様々なアイテム
- 第11週 プランニング1（課題説明と作成方法）
- 第12週 プランニング2（課題作成準備）
- 第13週 模擬挙式プレゼンテーション
- 第14週 模擬挙式プレゼンテーション（予備日）
- 第15週 校外実習（近隣ブライダル施設見学）

【事前・事後学修】

【事前学修】ウェディングに関する雑誌やサイトを見て興味を持った内容について情報収集を行うこと。レポート・発表などの課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

【事後学修】提出レポートなどを復習すること。専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

資料は授業内で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内小テスト30%・コメントペーパー20%・授業内態度20%・プレゼンテーション30%

小テスト・コメントペーパーは次回授業時、プレゼンテーションは最終授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

プレセミナー

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)佐々木 真理・(CB)島 高行・(CC)深瀬 有希子・(CD)猪熊

作巳・(CE)大関 啓子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

「実践入門セミナー」及び「英文入門セミナー」で学んだことを踏まえて、論理的な文章の読み方と書き方を引き続き学び、4年次の「卒論セミナー」及び「卒業論文」への準備を行います。

【授業における到達目標】

専門分野への知識を深めるとともに、専門性を備えた論理的な文章が書けるようになることを目標とし、全学ディプロマ・ポリシーのうち、多様な価値観についての「国際的視野」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」、さらに学生同士が互いに協力しながら学習を進めていく「協働力」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakShION 授業の目的と目標
- 第2週 論理的文章の読み方と書き方 文献講読1 資料の読み方
- 第3週 論理的文章の読み方と書き方 文献講読2 資料の分析
- 第4週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方1 テーマとは何か
- 第5週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方2 テーマの種類
- 第6週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方3 テーマの選択
- 第7週 論理的文章の読み方と書き方 文献調査
- 第8週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方1 アウトラインとは何か
- 第9週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方2 アウトラインの組み立て
- 第10週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方3 アウトラインから論文へ
- 第11週 論理的文章の読み方と書き方 書式1 引用の仕方
- 第12週 論理的文章の読み方と書き方 書式2 注のつけ方
- 第13週 論理的文章の読み方と書き方 書式3 文献表
- 第14週 論理的文章の読み方と書き方 まとめ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修として、次週の課題について予習をしておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修として、その週の内容について復習をし、提出課題の作成を進めておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加及び課題）60%、期末レポート40%。

課題は次回以降の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

授業時に担当教員より指示される。

【注意事項】

「卒論セミナー」と「卒業論文」につながるように、積極的に授業に臨むこと。

プレゼンテーション演習

奈良 一寛

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

プレゼンテーションは、自らの企画や提案、仕事や研究の成果等を他者に伝える上で必須かつ重要な手段の一つであり、大学生活だけでなく、その後の社会生活においても重要性が大きいものと考えられる。本授業では、プレゼンテーションを効果的に実践できるように、自らの考えや主張を正確に効率良く伝えるための基本的な考え方、方法や技術などを実践的に学んでいく。

【授業における到達目標】

様々な場面で、自分の考えを、自信をもって発表できるようになることを目標とする。また、プレゼンテーションで利用される資料の作成方法や操作方法についても出来るようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 ガイダンス 演習の進め方と事前準備について
- 第 2 週 プレゼンテーションの基本について
- 第 3 週 自己紹介スピーチの準備
- 第 4 週 自己紹介スピーチ（質疑応答を含む）
- 第 5 週 グループワークの進め方について
- 第 6 週 グループワークの実践
- 第 7 週 グループワークの応用
- 第 8 週 グループディスカッションの基礎
- 第 9 週 グループディスカッションの実践と応用
- 第 10 週 レジュメの作成方法の基礎
- 第 11 週 レジュメの作成と応用
- 第 12 週 発表資料の作成の基礎
- 第 13 週 発表資料の作成と応用
- 第 14 週 最終発表会（質疑応答を含む）
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表、資料作成などの課題に取り組んでおくこと。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義および演習内容の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（演習中の積極的な発言および積極的な参加）30%、提出課題20%、最終発表会（資料および発表姿勢）50%
課題は次回授業で解説を行う。

プレゼンテーション入門

－伝える力を高めよう－

鹿島 千穂

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力、○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

プレゼンテーションとは何でしょうか。身近なところでは自己紹介、研究報告、商品説明などがありますし、テレビ番組でよく目にするボードを使ったニュース解説などもプレゼンテーションの一種です。このように、プレゼンテーションは日常生活のさまざまな場面で用いられるコミュニケーション手法であり、決して特別なものではありません。

この授業では、まずプレゼンテーションの基本的な概念を理解し、「話の内容」と「表現の仕方」の二つの分野における理論を学びます。そして、個別およびグループによる実践を通して、学んだ理論を体得していきます。プレゼンテーション能力は、みなさんの今後の学生生活、就職活動、その先にある社会人生活等、人生のあらゆるシーンで役に立つでしょう。

【授業における到達目標】

- ・実践とフィードバックの繰り返しで成長を実感し、公の場で論理的に話すことへの自信を創出する「研鑽力」が養われます。
- ・課題を達成するための計画を立て、それを自律的に実行に移す「行動力」が培われます。
- ・グループワークでは、他者の意見を尊重しながら自分の意見を述べ、ともに物事に取り組む「協働力」が身につきます。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーションープレゼンテーションとは何か
- 第2回 自己PRというプレゼンテーション①自己分析
- 第3回 自己PRというプレゼンテーション②実践
- 第4回 デリバリースキルー非言語コミュニケーションの重要性
- 第5回 プレゼンテーションの構造
- 第6回 シナリオスキル①計画書の作成、聴衆分析、資料集め
- 第7回 シナリオスキル②オープニングとクロージングの工夫
- 第8回 レジュメとパワーポイントの作成方法
- 第9回 個人プレゼンテーション①準備
- 第10回 個人プレゼンテーション②発表
- 第11回 発表を聞く姿勢ー良き聴衆として必要なもの
- 第12回 グループ・プレゼンテーション①テーマ発表
- 第13回 グループ・プレゼンテーション②資料整理と計画書作成
- 第14回 グループ・プレゼンテーション③発表
- 第15回 授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学習：プレゼンテーションに必要な課題や資料集めをする。
(学修時間 週2時間)

事後学修：発表後は録音・録画したものを確認しながら、気づいた点をレポートにまとめる。
(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼンテーション60%、提出物20%、平常点（授業への参加度、発言等）20%

プレゼンテーションは実施直後に口頭でフィードバックを行い、提出したレポートにはコメントを記入して翌週返却します。

【参考書】

福田健『プレゼンの上手な話し方』（ダイヤモンド社 2008年）

【注意事項】

プレゼンテーションを行う際は、録音・録画機器で記録することを勧めます。教員からのフィードバックとともに持ち帰り、振り返りに役立ててください。

プログラミング演習 1

簡単なプログラミングをスクラッチとPythonで行う

藤井 章博

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

プログラミングは情報の専門家のための技術ではなく、幅広い応用分野を支える基盤技術として幅広く学修されるべきものとなっている。そこで、プログラミングに不可欠な考え方である繰り返し処理などテーマとして扱う。

【授業における到達目標】

本講義では、子供向けに開発されたプログラミング環境であるスクラッチを利用してプログラミングに対する具体的イメージを涵養したのち、Python言語の文法を習得することを目的とする。

【授業の内容】

1. スクラッチ導入
2. 繰り返しを理解する
3. 乱数の扱い
4. イベントの処理
5. これまでのまとめ
6. 課題（スクラッチ）
7. Pythonの導入
8. ユーザインタフェース
9. データベース基礎
10. ソフトウェア開発
11. 音の表現
12. 文字の表現
13. 色の表現
14. デジタル画像
15. 総合演習

【事前・事後学修】

プログラミング言語の文法の見直し（週2時間）

プログラム演習課題の復習（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は、MANABAシステムを通じて提供する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（説明への理解度）40%、課題演習（プログラムの理解）60%
毎回実施するプログラミング課題の修得をチェックし、個別にフィードバックを行う。

【参考書】

「Python チュートリアル」オライリー・ジャパン 1,800円

「みんなのPython」SoftBank Creative, 2800円

【注意事項】

プログラミング演習 2 の履修予定者は、本講義を履修し、単位を取得すること。

プログラミング演習 2

プログラミングの基礎を習得し、Web技術についても展望する

藤井 章博

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

コンピュータは、文字、音声、画像、映像といった様々な情報を扱う。今日の最先端のコンピュータインターフェースはそれぞれのデジタル処理を駆使して実装されている。その一端に触れるとともに自らの開発を通してその理解を深める。

【授業における到達目標】

Python言語習得を通じて、アプリケーションの基礎を開発する力を身につける。

【授業の内容】

1. Web技術とスクレイピング 1（HTML）、インタラクション
2. Web技術とスクレイピング 2（CSS）、入力技術
3. Web技術とスクレイピング 3（動的なWeb）、コミュニケーション
4. 文書処理（文字の扱い）、仮想現実と拡張現実
5. 文書処理（自然言語処理）、新しいユーザインタフェース
6. 文書処理（検索システムの評価）、ITがもたらす新しい環境
7. 中間演習 TF-IDF
8. デジタルメディアの成り立ち「今日の人工知能」
9. デジタルメディアの成り立ち「音のデジタル処理」
10. デジタルメディアの成り立ち「画像のデジタル処理」
11. デジタルメディアの成り立ち「イベント処理」
12. 総合演習 ウィンドウ処理ライブラリの活用
13. 総合演習 乱数を利用したプログラム
14. 総合演習 シューティングゲーム作成 1
15. 総合演習 シューティングゲーム作成 2

【事前・事後学修】

プログラミング言語の文法の見直し（週2時間）

プログラム演習課題の復習（週2時間）

【テキスト・教材】

授業実施に併せて、電子媒体で提示する。

必要に応じて、30分程度の視聴覚教材を併用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（メディアに関する説明の理解度）40%、演習課題の提出60%。進捗状況に関する評価とそのフィードバックを行う。

【参考書】

「Python チュートリアル」オライリーなど

【注意事項】

本講義の履修者は、は、「プログラミング演習 1」を履修し、単位取得し、Python言語の基本文法を習得していることが望ましい。

プロジェクト演習 b

エネルギー・環境領域の実践的アクティブ・ラーニング

菅野 元行

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

環境学、エネルギー学の知見を基に、広い意味の持続可能・循環型低炭素社会をめざしたプロジェクト提案方法を学習する。効果的なプレゼンテーション手法についても学修します。

履修生の希望により、簡単な環境・エネルギー領域の実験研究も可能です。エコプロ2019で研究成果の発表を行います。

※ゼミナール（菅野）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

【授業における到達目標】

①エネルギー・環境領域のプロジェクト策定作業（調査、立案、評価、討論、発表、質疑応答）を確立することを目標とする。

②エネルギー・環境領域の課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。

以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 プロジェクト（PJ）策定の流れ
- 3 環境・エネルギー分野のPJの事例研究
- 4 環境・エネルギー分野のPJの設定、調査手法
- 5 環境・エネルギー分野のPJの調査（1回目）
- 6 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（1回目）
- 7 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（1回目）
- 8 環境・エネルギー分野のPJの調査（2回目）
- 9 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（2回目）
- 10 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（2回目）
- 11 環境・エネルギー分野のPJの調査（3回目）
- 12 エコプロ2019にて研究成果の発表
- 13 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（3回目）
- 14 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（3回目）
- 15 振り返り・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時までに精度を上げてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

※演習科目のため、自己責任による欠席、遅刻、早退は成績に大きく影響します。

※ゼミナール（菅野）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

プロジェクト演習 b

地域、食、環境について考える

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

政策及び経済の視点から、地域、食、環境等の社会的課題について、受講生自らが考えるべき問題を設定し、設定した問題に対して受講生の互学互修により、様々なアプローチで検討を深めていくことを目的とします。

※プロジェクト演習 a の履修を前提として授業を進めます。

※ゼミナール（野津）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

【授業における到達目標】

①政策及び経済の視点から、地域、食、環境等の社会的課題について、自ら問題設定を行う能力を身につける。

②設定した課題について、自分の言葉で論理的に説明できるようになる。

③情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。

これにより、特に学生が習得すべき「行動力」を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. テーマ検討
3. 先行文献の探し方
4. 先行文献報告①（地域・基礎）
5. 先行文献報告②（食・基礎）
6. 先行文献報告③（環境・基礎）
7. 発表①（問題設定）
8. 発表①の振り返り
9. 先行文献報告①（地域・発展）
10. 先行文献報告②（食・発展）
11. 先行文献報告③（環境・発展）
12. フィールドワーク
13. 問題解決アプローチの検討
14. 発表②（問題解決へのアプローチ）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※フィールドワーク等の回は、調査対象先の状況等によって前後する可能性があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは各発表の次の回に行います。

【参考書】

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

プロジェクト演習 b

行実 洋一

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

これからの時代において、女性の積極的な社会関与は必須であり、今以上の活躍が期待されています。しかしその一方で、様々な克服すべき課題が数多くあるのも事実です。

そこで本授業ではプロジェクト演習aの発展系として、実社会の関係者（国や自治体、企業など）から、解決が求められている「課題」を提示してもらい、それに対する解決策を受講生である学生自身が考え、議論した上で、提案を行っていきます。

今年度は、メディア関連の企業と提携したプロジェクトを進行する予定です。

※本授業はゼミナール（行実）と連動して進められます。

【授業における到達目標】

メディアの視点から様々な社会的課題に取り組むと共に、自ら問題設定を行い、その課題を点検し、プロジェクトの展開を行います。こうした作業を通じて、高い「研鑽力」「行動力」及びグループワークによる「協働力」の向上を図ります。

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業の進め方や目標等のイントロダクション）
2. 課題の背景・状況説明
3. 課題関係者からの課題提示
4. 課題の分析、方向性検討
5. フィールドワーク
6. 解決策の骨子検討①～前半チーム
7. 解決策の骨子検討②～後半チーム
8. 模擬プレゼンテーション
9. 課題関係者へのプレゼンテーション
10. 中間考察（これまでの振り返り・反省）
11. 解決策の最終提案づくり①～前半チーム
12. 解決策の最終提案づくり②～後半チーム
13. 模擬プレゼンテーション（最終提案）
14. 課題関係者へのプレゼンテーション
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることが求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

【テキスト・教材】

適宜プリント等を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（50%）、プレゼンテーション（50%）により評価を行います。

グループワークやプレゼンテーション内容に関するフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜指示します。

【注意事項】

ゼミナール（行実）と連動して進められるため、履修希望者は必ず事前に担当教員と相談すること。

プロジェクト基礎演習 a

環境・エネルギー領域の応用的アクティブ・ラーニング

菅野 元行

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

環境学、エネルギー学の知見を基に、広い意味の持続可能・循環型低炭素社会をめざしたプロジェクト提案方法を学習します。事例研究の後、グループまたは個人ごとにプロジェクトを策定します。さらに、討論形式で問題点を整理し、持続可能・循環型低炭素社会の構築に向けたプロジェクトの作成技法を実践的に学びます。環境・エネルギー領域の内容であれば自由ですが、エコキャンパス紹介、環境・エネルギーを広める活動、再生可能エネルギー、自然エネルギーキャンパス、エネルギーカフェなど、幅広く持続可能・循環型低炭素社会の構築に向けたプロジェクトの策定に対応します。

履修生の希望により、簡単な環境・エネルギー領域の実験研究や、環境・エネルギー領域の企業の研究者（主に女性）との共同研究も可能です。

研究成果はエコプロ2019で発表を行います。

【授業における到達目標】

- ①社会や生活と、環境やエネルギーの関わりを実践的に理解し、環境や資源に配慮したプロジェクトに主体的に取り組み、効果的な討論手法を習得する姿勢を身につける。
- ②環境、エネルギーの課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 プロジェクト（PJ）策定の流れ
- 3 環境・エネルギー分野のPJの事例研究
- 4 環境・エネルギー分野のPJの設定、調査手法
- 5 環境・エネルギー分野のPJの調査（1回目）
- 6 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（1回目）
- 7 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（1回目）
- 8 環境・エネルギー分野のPJの調査（2回目）
- 9 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（2回目）
- 10 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（2回目）
- 11 環境・エネルギー分野のPJの調査（3回目）
- 12 エコプロ2019で研究成果の発表
- 13 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（3回目）
- 14 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（3回目）
- 15 振り返り・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておくください。（2時間）

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時まで精度を上げてください。（2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

※現代社会を読み解くd、フィールドリサーチa（環境・エネルギー）、ビジネス特論a（環境ビジネス）、環境の化学と工学の4科目の内2科目以上履修していることが望ましい。

※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。

※演習要素の濃い科目のため、自己責任による欠席、遅刻、早退は

成績に大きく影響します。

※この科目で検討したプロジェクトは、3年次のゼミナール（菅野）で引き続き深めていくことが可能です。

プロジェクト基礎演習 b

須賀 由紀子

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

少子高齢・人口減少社会への対応、地域ブランドづくりなどの観点から、現代の地域社会の課題解決にこたえるプロジェクト企画を考え、実際に実現可能なものにしていく方法を学びます。この授業では、キャンパスのある日野市をフィールドに、地域づくりに取り組む実社会の方にご協力いただき、課題の提示から企画案づくり、発表までの一連のプロセスを行います。与えられた課題から、自分なりの問題設定をし、解決に向けていくプロジェクト企画を、仲間と協働しながらすすめ、現代のコミュニティづくりの在り方を体得します。

【授業における到達目標】

- ・地域社会が直面する課題を身近に具体的に考えることができるようになる。
- ・プロジェクト企画の基礎的な方法を修得する。
- ・相手に伝わるように、自分の考えを自分の言葉で説明できるようになる。
- ・同じテーマを仲間とともに考え、異なるものから新しいものを作り出す面白さがわかるようになる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のすすめ方など）
2. 授業課題の提示 ～地域をどうつなぐか～
3. 課題に基づく活動準備
4. 課題の背景をリサーチする
5. 課題背景のリサーチ結果の共有
6. 課題解決の方法の先行事例
7. 課題解決の方法をリサーチする
8. 課題解決方法のリサーチ結果の共有
9. チームビルディング
9. プロジェクト企画の検討① ～ねらいの設定
10. プロジェクト企画の検討② ～アイデア出し
11. プロジェクト企画の検討③ ～実現可能性の検討
12. プロジェクト企画の発表準備
13. プロジェクト企画の発表
14. プロジェクト企画の講評
15. 振り返り

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のグループワーク（30%）、発表や提出物（40%）、最終プレゼンテーション（30%）により評価を行います。フィードバックは、授業内で適宜行います。

プロジェクト基礎演習 c

地域活性化に関する課題解決提案演習

野津 喬

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

農山漁村をはじめとする地域を元気にするためにはどうしたら良いかというテーマが大きな注目を浴びています。この授業では、実際にこのテーマに取り組む実社会の関係者から「課題」を提示していただき、それに対する解決策を受講生の皆さんが考え、議論した上で、担当者の方に対して提案できるようになることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ①地域活性化に関する課題への解決策について、実社会の関係者に自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
 - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「協働力」「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 課題関係者からの背景説明
3. ゲスト講義振り返り、フィールドワーク①の事前検討
4. フィールドワーク①（課題の背景理解）
5. フィールドワーク①の情報共有
6. フィールドワーク②の事前検討
7. フィールドワーク②（解決策の素材探索）
8. フィールドワーク②の情報共有
9. 中間報告検討
10. 授業内模擬プレゼンテーション（中間報告）
11. 課題関係者へのプレゼンテーション（中間報告）
12. 中間報告振り返り、最終報告検討
13. 授業内模擬プレゼンテーション（最終報告）
14. 課題関係者へのプレゼンテーション（最終報告）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※課題関係者のご都合によって、ゲスト講義、フィールドワーク、中間発表、最終報告等の回は前後する可能性があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】 次の授業の参考資料に事前に目を通してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは中間報告及び最終報告のプレゼンテーションの次の回に行います。

【参考書】

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

プロジェクト基礎演習 d

高橋 徹

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本授業では情報メディアの作製をPDCAに沿って行っていくことを通して、情報メディアの実践的な活用の理解とプロジェクト推進能力を身につけることを目的としています。

情報メディアは様々な表現方法を可能とし、単純に言葉で伝える以上に多くの情報量を相手に伝えることができます。そのため、多くの企業はこれを宣伝・普及の方法として利用しています。しかし、方法は多様にあってもそれを効果的に活用しなければ相手には伝わりません。ゆえに、伝えるターゲットを分析し、そして自らが作成したコンテンツを見直す必要があります。

一方で、PDCAはプロジェクトを計画し（Plan）、実行し（Do）、そしてそれを評価し（Check）、その結果に基づき改善（Act）という流れで行い、さらにこれを何度も繰り返していくというものです。受講者にはこのPDCAに則り、情報メディアの作製をするだけでなく評価を行い、より効果的に相手に伝えられるように改善まで結び付けてもらいます。

最終的にPDCAの流れをどのように行ったかをまとめてもらい、実際に企業でPDCAを行っている方たちに評価してもらいます。

【授業における到達目標】

- ①情報メディアの特性を理解し、対象に合わせた表現方法を選ぶことができるようになります。
- ②PDCAの流れと効果を理解し、PDCAに沿ったプロジェクトを遂行できるようになる。PDCAを利用して課題解決を行うことで「行動力」「研鑽力」や、グループメンバーと協力してプロジェクトを進めることで「協働力」が身につきます。

【授業の内容】

1. PDCAとアンケート調査の説明
2. アンケート調査の実例
3. 事前アンケートの作成
4. 事前アンケートの実施・分析
5. 企画書の作成
6. コンテンツの制作
7. 評価用アンケートの制作
8. コンテンツの公開・評価用アンケートの実施（1回目）
9. 評価結果の分析と改善案の検討
10. 改善案に基づく新企画書の作成
11. コンテンツ・評価用アンケートの改良
12. コンテンツの公開・評価アンケートの実施（2回目）
13. 評価結果と改善案の検討およびまとめ
14. 総合発表会
15. まとめ

【事前・事後学修】

〈事前学修（週2時間）〉

今回の授業内のグループ作業を効果的に行うために、個人で考えをまとめてきてください。

〈事後学修（週2時間）〉

授業内のグループ作業ですべては終わらないので、グループ内で相談しつつ作業を完了させてください。

【テキスト・教材】

必要に応じて参考となる資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（40%）、企画書・コンテンツ・改善案に基づく新企画書・総合発表（60%）で評価します。特にコンテンツ自体の中身よりも、それをアンケートで適切に評価し、改善に結びつけられたかに重きをおいて評価します。

【参考書】

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

プロダクトアミニティ演習

生体信号から“ものづくり”を科学する

不破 輝彦

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

本授業の目的は、“ものづくり”や“快適性”を人間情報学の面から科学的視点で考えることです。そのための手法として生体信号の測定と解析に重点を置き、パソコンを用いた演習を併用しながら、生体信号の意味、解析方法、解析結果の解釈方法を身に付けます。

【授業における到達目標】

本授業の目標は、“ものづくり”や“快適性”を人間情報学の視点から考え、それらを評価できるようになることです。生体信号から感性や快適性、負担度などに関連した人間の情報を引き出すことができるようになります。生体信号処理を理解し、自分で行うことができるようになるための基礎的理論も身に付けます。

【授業の内容】

- 第1週 本授業のガイダンス（授業のテーマ、目標）
 第2週 ものづくりの科学、技能科学 講義
 第3週 生体信号（筋電図）講義、測定演習
 第4週 生体信号（心拍数、R-R間隔）講義、測定演習
 第5週 生体信号（脳血流量変化）講義、測定演習
 第6週 生体信号の測定法（標本化、量子化、A/D変換） 講義
 第7週 生体信号の測定法（標本化定理）講義、演習
 第8週 生体信号の測定法（周波数特性、フィルタ）講義
 第9週 生体信号の測定法（フィルタを作る。使う）演習
 第10週 生体信号の解析法（筋電図波形の処理）講義、演習
 第11週 生体信号の解析法（心拍数の処理）講義、演習
 第12週 生体信号の解析法（心拍変動による自律神経評価法）講義、演習
 第13週 感性や快適性、緊張度などの測定実験（企画、実験計画立案）演習
 第14週 感性や快適性、緊張度などの測定実験（実験実施）演習
 第15週 感性や快適性、緊張度などの測定実験（プレゼンテーション）演習

【事前・事後学修】

事前学修：今回の授業内容に関する用語やテーマについて、事前に自分で調査し、自分なりの考えを整理しておいてください。（学修時間 週1時間）

事後学修：講義に対しては内容を整理し、演習に対しては得られた結果の整理、レポート作成、結果の評価を行ってください。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じてプリント等を配布します。

また、演習に必要なプログラムや電子データを配布します。生体信号測定では、小型のウェアラブル機器を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題・提出レポートの成績（70%）、平常点（授業態度）（30%）として評価します。

演習課題実施後の解説や、評価済みの提出レポート返却によりフィードバックを行います。

【参考書】

生理人類学認定委員会編『生理人類学入門』（国際文献印刷社）
 PTU技能科学研究会編『技能科学入門—ものづくりの技能を科学する』（日科技連）

【注意事項】

演習ではパソコンを用いるので、1年次の共通教育科目「情報リテラシー基礎a」を習得していることが前提です。

プロダクトデザイン演習

デザインプロセスを体験します

塚原 肇

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

前半は球体（ボール）を題材にしてパッケージデザインとグラフィックスデザインの制作を行います。後半は身近な生活道具を題材にプロダクトデザインを行い、これらを通して「デザインする」という行為のプロセスと方法論を修得します。

【授業における到達目標】

- ・前半は球体のパッケージデザインを通して、文字のレイアウト、レタリングやカラー計画を修得します。
- ・後半の演習では「行き先標示板」と「立体カレンダー」の制作を通して動きのあるデザインの表現法を修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を総合的に修得します。

【授業の内容】

- パッケージデザインを行う
 01. 黒と白でパッケージデザインを考える
 02. 黒と白でパッケージデザインを行う
 03. カラーでパッケージデザインを考える
 04. カラーでパッケージデザインを行う
 05. 自由な形でパッケージデザインを考える
 06. 自由な形でパッケージデザインを行う
- グラフィックスデザインを行う
 07. クリスマスカードをデザインする
 08. 年賀状をデザインする
- 生活道具をデザインする
 09. 行き先標示板のデザインを考える
 10. 行き先標示板の図面を作製する
 11. 行き先標示板を作製する
 12. 立体カレンダーのデザインを考える
 13. 立体カレンダーの図面を作製する
 14. 立体カレンダーを作製する
 15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフとマット、定規、スチレンボード、スケッチブックなど、別途に提示する用具類を各自用意してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

授業において、課題の提出時に即時評価を行い、良い点および改善等のコメントを直接本人に伝える。

【注意事項】

デザインにおける発想は短時間ではできません。発想の秘訣は日常生活において常に問題意識を持ち、モノや現象を観察することです。その中で、疑問に思ったことや興味を引く事項があればメモに残しておく習慣を付けるといいでしょう。

教室の定員制限のため60名とします。希望者が多い場合は上級生を優先で抽選とします。

プロダクトデザイン論

プロダクトデザインの世界を学びます

塚原 肇

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

プロダクトデザインとは、人間生活に求められるモノを、使用者と使用環境の視点から構想し、産業という手段を通して具現化する活動です。本授業ではこれらの活動を、歴史、産業、科学、技術、方法論など通して包括的に解説します。

【授業における到達目標】

- ・この授業を通して、身近な住環境である「衣」、「モノ」、「住」がどのように進化し発展したかを理解することができるようになり、それらを構成する材料や加工法なども修得できます。
- また、一連のデザインプロセス、発想法や造形理論を学ぶことにより専門課程に進学した時の基礎を身につけることができます。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得します。

【授業の内容】

1. プロダクトデザインの背景
2. 社会とプロダクトデザイン
3. プロダクトデザインとビジネス
4. デザインプロセス
5. ユーザ調査のための手法
6. コンセプト作成のための手法
7. 視覚化のための手法-1（フォルム、製図、スケッチとレンダリング、コンピュータ表現）
8. 視覚化のための手法-2（プロダクトグラフィックスとタイポグラフィ、パッケージデザイン、プロトタイプ、カラー）
10. デザイン評価と科学的研究
11. マーケティングとデザイン
12. 技術とデザイン-1（構造・機構とデザイン、有機材料、無機材料、プラスチック材料、プラスチックの成形と加工）
13. 技術とデザイン-2（金属材料、金属の成形と加工、テクスチャとデザイン、表面処理と加飾、3Dプリンタ）
14. まとめ
15. PD検定2級模擬試験

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度通読して理解できているかどうかを自分なりに判断してください。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問しましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

JIDA：プロダクトデザインの基礎[ワークスコーポレーション、2014、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に行うPD検定2級模擬試験の点数（70%）、授業態度（30%）
最終日にPD検定2級模擬試験を行い、答え合わせおよび全問の解説を行う。

【参考書】

JIDA編さん『プロダクトデザイン』発行・販売ワークスコーポレーション3,200円+税（通称赤本）2009年7月17日初版第1刷発行

【注意事項】

昨今は「デザイン思考」という言葉がよく使われています。「デザイン思考」とは問題を解決する手法としてデザインプロセスで使われている手法のことです。この手法を利用すると論理的に、割と簡単に問題を解決できるようになります。したがって、本授業を通して「デザイン思考」を習得すれば、将来デザイン以外の職業を希望する学生にも大いに役に立つことができます。

ヘルスプロモーション実践実習 a

「導具」を使ったサンドイッチウォーク体操をつくろう！

河田 美保

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理できるようにすることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ①基本の動きを習得することができる。
- ②目標を設定し、計画を立案・実行できる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

日常生活、労働、スポーツ、余暇などの身体活動は、人、物、場と関わりながら行われる。そこで、いろいろな「導具」を使った体操や、仲間と楽しく行えるスポーツを実習し、実用性に富んだ動作を身につける。また、目的別に運動プログラムを作成し、個人またはグループで実践実習する。

- 第1週 ガイダンス、履修カード作成
- 第2週 体力測定、形態計測、サンドイッチウォーク体操とは
- 第3週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第4週 「導具」について、お手玉・さげ手玉の体操
- 第5週 ボールの体操、レク・バレーボール（基本）
- 第6週 回転盤の体操、レク・バレーボール（ゲーム）
- 第7週 ロープの体操、インディアカ（基本）
- 第8週 踏み竹の体操、インディアカ（ゲーム）
- 第9週 スティックの体操、パドミントン（基本）
- 第10週 ムーブメントふるしきの体操、パドミントン（ゲーム）
- 第11週 サンドイッチウォーク体操Ⅰ（作成）
- 第12週 サンドイッチウォーク体操Ⅱ（作成・練習）
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、体操練習
- 第15週 サンドイッチウォーク体操発表会、講評、総括

【事前・事後学修】

- ①物と関わる「指・手・腕」の動きを考察する。
 - ②自分のからだと向き合い、知ることをこころがける。
 - ③授業で行うスポーツ種目のルールを調べ、ゲームを行えるようにする。
- ①～③合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、取り組み姿勢）50%、課題達成度（運動プログラム、発表）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
 - ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
 - ③睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。
- ※受講人数制限36名

ヘルスプロモーション実践実習 b

生涯「動けるからだ」づくり

河田 美保

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら、生涯にわたり自分で健康管理できる実用性に富んだ内容を身につけるとともに、その運動効果について他者と共有できる程度のヘルスリテラシーを身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ①基本の動きを習得することができる。
- ②目標を設定し、計画を立案・実行できる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

大学時代は健康管理の自立が促される時期である。健康への知識を深め、健康運動の実施方法を身につけ、仲間や家族、社会にも目を向けながら健康管理できるようにすることを目指す。

- 第1週 ガイダンス、履修カード作成
- 第2週 体力測定、形態計測
- 第3週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第4週 骨格と骨格筋、ストレッチボールを使った体操
- 第5週 BMIと標準体重、基本運動Ⅰ（はずむ、歩く）
- 第6週 運動強度、基本運動Ⅱ（振る、跳ぶ、走る）
- 第7週 目標心拍数、コンディショニング・エクササイズ
- 第8週 身体活動と運動、ソフトジムを使った体操
- 第9週 ストレスマネジメントとしての運動Ⅰ、有酸素性運動
- 第10週 ストレスマネジメントとしての運動Ⅱ、ピラテス、ヨガ、セルフケア・マッサージ
- 第11週 運動プログラム作成
- 第12週 運動プログラム実践実習
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、発表準備
- 第15週 運動プログラム発表、講評、総括

【事前・事後学修】

- ①自分のからだと向き合い、知ることをこころがける。
 - ②健康情報を精査し、ヘルスリテラシーを身につける努力をする。
 - ③授業で行った動きを復習する。
- ①～③合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、取り組み姿勢）50%、課題達成度（発表、運動プログラム作成時の様子）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
 - ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
 - ③睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。
- ※受講人数制限36名

ホスピタリティ論

ホスピタリティ・マネジメント

児玉 桜代里

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

企業がどのようにして顧客の満足を得ているのか、どのような仕組みでサービスしたら良い業績が残せるのか、ホスピタリティを単なる「もてなし」ではなく経営戦略として論じていく。

今や、接客業の現場の多くはアルバイトやパートなどの非正規雇用者とその役割を果たしている。現在アルバイト先でマンパワーとなっている学生もいることであろう。しかし、大学新卒者は接客現場の仕事でキャリアが終わるのではなく、ゆくゆくはマネジメント側に立つ人財として期待される。

サービス経済の発展に伴って、今の時代にあった顧客との関係の在り方を考え、体現するために、サービスやホスピタリティの分野における知識を用いて論理的に物事を理解できるようになることが目的である。

本科目では、知識を暗記するだけではなく、自ら考え、相応しい行動を取り、最適な解を見つける能力の習得を目指す。

【授業における到達目標】

1. 従来のサービスと新概念ホスピタリティの違いを説明できる
2. ホスピタリティ経営の事例企業の特徴や戦略を説明できる
3. 学んだことを日常生活やアルバイトでの課題発見に活かすことができる

ディプロマ・ポリシーとの関連について

【行動力】現状を正しく理解し課題を発見できる

【協働力】自己や他者の役割を理解し互いに協力して物事を進めることができる

【授業の内容】

- 第1週：レポート選抜とオリエンテーション
(概要、進め方、受講ルール、導入講義)
- 第2週：サービス業について (便益、特性、品質管理)
- 第3週：CS (顧客満足) とは? 客離れの原因、接客の五原則
- 第4週：加熱するCS競争の問題点
- 第5週：従来のサービスから新概念ホスピタリティへ
- 第6週：CS (顧客満足) とES (従業員満足) の関係
- 第7週：ホスピタリティ・マネジメントのフレームワーク
- 第8週：ホスピタリティ経営の事例研究①
- 第9週：ホスピタリティ経営の事例研究②
- 第10週：サービス接客事例研究
- 第11週：企業におけるクレームの現状
- 第12週：コミュニケーション (アクティブリスニング)
- 第13週：コミュニケーション (アサーション)
- 第14週：ホスピタリティの定義
- 第15週：全体のまとめ (論述テスト)

【事前・事後学修】

事前学修：レポート、発表の課題に取り組むこと (週2時間)

事後学修：小テスト、ワークシートを復習すること (週2時間)

【テキスト・教材】

教材はパワーポイントを使用し資料やワークシートを適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・毎回のリフレクションシート提出および授業態度、数回課すワークシートの宿題 (50%)
- フィードバック方法：グループ共有もしくは全体共有を行う
- ・期末テスト (50%)
- テスト提出後に、観点とキーワードを中心に解答を示す

【参考書】

課題図書

1. 服部勝人『ホスピタリティマネジメント』(丸善、2008年)
2. 古閑博美『ホスピタリティ概論』(学文社、2003年)

3. 吉原敬典『ホスピタリティリーダーシップ』(白桃書房、2005年)

4. 山本哲士『ホスピタリティ原論 哲学と経済の新設計』(文化科学高等研究院出版局、2008年)

【注意事項】

《本科目は、履修者を第1回授業時にレポートで選抜する》

理由：討議を多く行うため、履修者を最大50名までとする。

方法：第1回授業時に課題図書に関するレポートを書く。参考書の欄に記している課題図書を1冊読んでおくこと。

発表：第1回授業終了後に履修可能学生を学籍番号で発表する。

※レポートを提出しない者、受講ルール(スマートフォンの無断使用、無関係な作業等)が守れない者は履修不可とする。第1回授業に出席しない者は履修できないので注意すること。

ホスピタリティ論

ホスピタリティの理論研究

武内 一良

1年 後期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この講義では、サービスとホスピタリティという用語の違いを学習し、その上でサービス業界におけるホスピタリティ行為とはどういうものであるのか、その本質を追究していきます。

【授業における到達目標】

この科目は、以下の3点を中心に学んでいきます。

- 1) サービスの持つ特性を学ぶ。
- 2) ホスピタリティが生み出された歴史的経緯を知る。
- 3) サービスとホスピタリティの違いを理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、他者の意図を理解して相互に豊かな人間関係を構築する協働力に該当し、副次的に国際的視野に基づく研鑽力を養うものです。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概観、評価方法、授業スケジュール
- 第2週 利他的行為の源泉とその歴史的推移
- 第3週 サービスとホスピタリティ
- 第4週 外部講師：ホスピタリティ業界における事例
- 第5週 ホスピタリティ研究における具体的なテーマの発表
- 第6週 日常生活圏の店舗における対人サービス1（導入）
- 第7週 日常生活圏の店舗における対人サービス2（応用）
- 第8週 日常生活圏の対人サービスに対するクラス討論
- 第9週 非日常生活圏の店舗における対人サービス1（導入）
- 第10週 非日常生活圏の店舗における対人サービス2（応用）
- 第11週 非日常生活圏の対人サービスに対するクラス討論
- 第12週 公的機関における対人サービス1（導入）
- 第13週 公的機関における対人サービス2（応用）
- 第14週 公的機関の対人サービスに対するクラス討論
- 第15週 ホスピタリティ研究の最終報告

【事前・事後学修】

【事前学修】 通学路に存在するさまざまな店舗でのサービスについて観察する習慣をつけます。毎回授業前に2時間予習をする習慣をつけてください。

【事後学修】 毎回授業終了後に2時間時間を取り、ホスピタリティに関する議論の趣旨を確認しながら次回の討議に備えてください。

【テキスト・教材】

必要に応じて配付する印刷物を教材とします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

3回にわたるクラス討論（各10%）と小論文（70%）を基に評価します。クラスの討論では、その都度参考となる考えをフィードバックしていきます。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席するようにしてください。

ホテル実務

ホテルの実務とホスピタリティ

加藤 雅一

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

国際的な仕事の舞台といわれるホテルで活躍する『ホテルエ』を目指す学生を対象に、宿泊部門、料飲部門、宴会部門等の基礎と実務について学習しながら、ホテルエに欠かせないホスピタリティ、テーブルマナー、プロトコールの理解を深めていく。

【授業における到達目標】

ホテルエの基礎知識を国際的視野に立って修得する。テーブルマナーを理解する。日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする姿勢と、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする姿勢と行動力を修得する。また、学修成果を実感して、自信を創出することができる能力、現状を正しく把握し、課題が発見できる能力、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる自己研鑽力を修得することを達成目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ホテルの基礎
- 第3週 ホテルの経営形態と運営組織
- 第4週 ホテルサービスの基本
- 第5週 第4週までの復習と小テスト
- 第6週 宿泊部門の基本
- 第7週 宿泊部門の実務
- 第8週 料飲部門の基本と実務
- 第9週 宴会部門の基本とプロトコール
- 第10週 第9週までの復習と小テスト
- 第11週 調理部門の基本
- 第12週 マーケティング部門の実務
- 第13週 管理部門の基本と実務
- 第14週 第13週までの復習と小テスト
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 小テスト等の課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト50%、平常点（授業態度、課題提出、授業への積極参加等）50%で評価します。小テストは、次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適時表示します。

【注意事項】

各回の授業内容を、事前に配布するプリントの該当箇所ですべて予習してください。

ポップミュージック英語

レビー, ロバート・C

1年 前期 1単位

◎: 美の探究 ○: 国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

This course will introduce students to a variety of popular music in English. The focus will be on listening to real music for native speakers. Because the music is for native speakers, students will learn pronunciation, vocabulary, grammar and slang as well as artist backgrounds and practice singing in the context of the class. There will also be a research and presentation portion where students will introduce their favorite English singing artist (popular or not) to the class.

【授業における到達目標】

Students will sing in English in every class. They will be expected to learn music terms and lyrics from songs we study in class. By the end of the term students will know a variety of songs in English, understand international viewpoints, and the pursuit of beauty through music. Students will be actively participating in each class.

【授業の内容】

This is a preliminary list of artists and themes and may be subject to change depending on student levels and popularity of artists.

1. Genres. Pop Music history.
2. 50s-60s artists: Elvis Presely, Aretha Franklin, The Beatles
3. Quiz 1; 70s artists part 1: Abba, Carpenters, Chicago, Stevie Wonder
4. The 70s part 2.
5. Quiz 2; 80s-90s artists part 1: Michael Jackson, David Bowie, Elton John, Queen, Prince, Whitney Houston, Madonna.
6. The 80s-90s part 2.
7. The 80s-90s part 3.
8. Quiz 3; 2000 to present artists: Adele, Amy Whinehouse, Beyonce, Lady Gaga, Taylor Swift.
9. 2000s part 2.
10. 2000s part 3.
11. Quiz 4. Artist review.
12. Choosing projects and the top song of the year
13. Final Project preparation
14. Final Project Presentations
15. Sing-a-long

【事前・事後学修】

Look up each of these artists on You Tube and watch a video. This will be good preparation. Decide on an artist to present to the class. This includes biography, lyrics and music.

【テキスト・教材】

Readings will be provided by the instructor.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

50% Class participation (attendance, singing, pronunciation etc.)
25% Quizzes
25% Project

This is an English class, not a singing class. Grades will be determined on memorization, pronunciation and knowledge. Students will be given direct feedback after each quiz and the final project.

【参考書】

1. Notebook
2. Pens/pencils
3. Dictionary (Smartphone is OK but to be kept in a bag until needed)
5. Clear file (For important handouts)

【注意事項】

Even though this class covers popular songs and music industry knowledge, students will still be graded strictly on their work in class. Preparation and participation are important.

マーケティング

マーケティング

大倉 恭輔

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

マーケティングは、企業や会社が利益を上げるための活動だと思われています。けれど、今日、マーケティングは非営利組織の運営にもかかわる、多様かつ広範囲な活動になっています。

この授業では基本的な考え方を学びながら、マーケティングがどのようなものであるのかを、グループワークをとおして体感していきます。

【授業における到達目標】

自分たちの社会や生活において、マーケティングがどのような影響を与えているのかを、受講生どうして調べまとめる過程で理解することをめざします。

そうして、互いに協力して作業を進めながら、日本と諸外国との共通点や相違点を理解・把握し、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

【授業の内容】

- 01 はじめに
- 02 マーケティングの基本的な考え方
- 03 ターゲット市場の設定
- 04 マーケティング・ミックス
- 05 4つのP … Product / 製品
- 06 4つのP … Price / 価格
- 07 4つのP … Promotion / プロモーション a 広告
- 08 4つのP … Promotion / プロモーション b 販売促進・PR
- 09 4つのP … Place / 流通チャネル
- 10 ブランド a ブランド構築
- 11 ブランド b ブランド組織
- 12 マーケティング・リサーチ
- 13 サービス・マーケティング
- 14 ソーシャル・マーケティング
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。(週2時間以上)
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。(週2時間以上)

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート70%・平常点30%(受講態度・ノート作成)

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・この授業は演習科目であり、自ら体を動かし調べ、他の受講生とともに学ぶことが主眼です。
- それができない場合、成績評価は低くなることを理解すること。
- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

マーケティング演習

松岡 康浩

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

食品の開発に必要なフードマーケティングを実習します。チームを組み、提示されたテーマについて食品開発に取り組みます。消費者調査を実施し、立案した企画に基づき実際に試作を行い、結果を評価します。食品企業の開発担当者にアドバイザーとして参加いただき、講評、助言を受けます。

【授業における到達目標】

お互いに議論し合う中で、商品開発のポイントを学ぶことが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTROダクション、事業者講演
- 第2週 消費者調査分析
- 第3週 商品企画（コンセプト立案）
- 第4週 企画プレゼン・ディスカッション 事業者評価
- 第5週 試作1
- 第6週 パッケージ、販売戦略
- 第7週 試作2
- 第8週 最終プレゼン 事業者講評まとめ

事業者の都合により予定が変更されることがあります。

【事前・事後学修】

事前学修：当該日に行われる作業に対する情報収集・準備（学修時間 毎回1時間）

事後学修：実施事項のまとめレポート（学修時間 毎回1時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

企画プレゼン40%、最終プレゼン60%

班ごとにプレゼンし講評します。

【注意事項】

- ・アドバイザーには、当学OGである中村農場専務の中村由紀子様を予定しています。
- ・前期の「フードマーケティング論」を履修した学生が対象です。実習を伴うため、30名程度に定員を制限します。履修希望者が多い場合は抽選とします。自らアイデアを出し、チームでディスカッションを行う積極的な学生の履修を望みます。

マーケティング論

大川 知子

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

マーケティングとは、年々厳しさを増す市場環境の中で、企業が市場で支持される製品（サービス）の開発によって、他社に抜きん出た競争優位を確立する為に必要な活動を意味する。本講座では、マーケティングの基本的な考え方を体得することをベースに、多様化する現代の生活者の動向も踏まえ、事例なども交えながら学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 「社会の公器」としての企業の仕組みの一端を知る。
2. マーケティングの基本的知識を体得する。
3. 現代社会の潮流を踏まえ、学んだ知識を実際の社会活動で応用することができるようになる。
4. 社会を形成する様々な企業活動を理解し、将来のその一員となった場合の自身の貢献を考え、実際に行動に移すことの出来る「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション／マーケティングとは何か
 第2週 マーケティングの基本① 企業活動におけるマーケティングの意義
 第3週 マーケティングの基本② 顧客視点の重要性
 第4週 マーケティングの基本③ 市場分析の手法
 第5週 マーケティングの基本④ 製品開発と流通チャネル
 第6週 マーケティングの基本⑤ マーケティングミックス
 第7週 戦略の基本① 戦略のフレームワーク
 第8週 戦略の基本② 企業の成長をどう考えるか
 第9週 ブランディングの考え方① ブランドとは何か
 第10週 ブランディングの考え方② ブランド・エクイティ
 第11週 ブランディングの考え方③ 顧客との関係性
 第12週 ブランディングの考え方④ インターナル・ブランディング
 第13週 事例研究
 第14週 CSV／企業と社会の共有価値の創造
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、次回の授業内容の概要を告知するので、予習を行い、また終了後が復習を心掛けること（学修時間各2時間）。また、事前に課題を提示する場合もある（学修時間 各3時間程度）。

【テキスト・教材】

必要に応じてコピー等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、提出課題20%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的には提出の翌週以降に返却と解説を行う。

【参考書】

1. フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・コンセプト』（東洋経済新報社、2003年）2,200円（税別）
2. 三谷宏治『経営戦略全史』（ディスカパー・トゥエンティワン、2013年）2,800円（税別）

【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

マーケティング論

井上 綾野

2年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

企業にとって、市場との関係性はマーケティングの基礎となりうる。本講義は、市場をベースにしたマーケティングの基本概念を理解し、多角的な視点で企業・消費者・社会との関係性を捉えることを目指す。

【授業における到達目標】

1. マーケティングの定義の変遷を理解する
2. マーケティング現象を理解し、企業の事例を用いて説明できる
3. 企業・消費者・社会との関係性を説明できる

【授業の内容】

- 第 1 回 イントロダクション：マーケティングとは何か
 第 2 回 市場の選択①事業機会の選択・事業領域・標的市場の選択
 第 3 回 市場の分析① 市場データ分析
 第 4 回 市場の分析② 消費者行動分析
 第 5 回 市場の分析③ 競争分析
 第 6 回 市場の分析④ 流通分析
 第 7 回 中間試験
 第 8 回 市場への対応① 製品対応
 第 9 回 市場への対応② 価格対応
 第 10 回 市場への対応③ コミュニケーション対応
 第 11 回 市場への対応④ 流通対応
 第 12 回 市場との対話① サービス・マーケティング
 第 13 回 市場との対話② ソーシャル・マーケティング
 第 14 回 市場との対話③ 企業・市場・社会との関わり
 第 15 回 講義のまとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること（学修時間：1.5時間）
- ・事後学修
授業で学んだ理論やモデルを、授業で用いられなかった事例に当てはめて理解すること。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

沼上幹：わかりやすいマーケティング戦略 新版[有斐閣アルマ、2008]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法]

中間試験：25%，期末試験：50%，平常点（授業内課題等）：25%で評価する。

[成績評価の基準]

1. マーケティングの定義の変遷を理解する：20%
2. マーケティング現象を理解し、企業の事例を用いて説明できる：60%
3. 企業・消費者・社会との関係性を説明できる：20%

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は回目の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略 第5版』
 （有斐閣アルマ、2016）

マーケティング論

井上 綾野

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

企業にとって、市場との関係性はマーケティングの基礎となりうる。本講義は、市場をベースにしたマーケティングの基本概念を理解し、多角的な視点で企業・消費者・社会との関係性を捉えることを目指す。

【授業における到達目標】

1. マーケティングの定義の変遷を理解する
2. マーケティング現象を理解し、企業の事例を用いて説明できる
3. 企業・消費者・社会との関係性を説明できる

【授業の内容】

- 第 1 回 イントロダクション：マーケティングとは何か
 第 2 回 市場の選択①事業機会の選択・事業領域・標的市場の選択
 第 3 回 市場の分析① 市場データ分析
 第 4 回 市場の分析② 消費者行動分析
 第 5 回 市場の分析③ 競争分析
 第 6 回 市場の分析④ 流通分析
 第 7 回 中間試験
 第 8 回 市場への対応① 製品対応
 第 9 回 市場への対応② 価格対応
 第 10 回 市場への対応③ コミュニケーション対応
 第 11 回 市場への対応④ 流通対応
 第 12 回 市場との対話① サービス・マーケティング
 第 13 回 市場との対話② ソーシャル・マーケティング
 第 14 回 市場との対話③ 企業・市場・社会との関わり
 第 15 回 講義のまとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること（学修時間：1.5時間）
- ・事後学修
授業で学んだ理論やモデルを、授業で用いられなかった事例に当てはめて理解すること。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

沼上幹：わかりやすいマーケティング戦略 新版[有斐閣アルマ、2008]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法]

中間試験：25%，期末試験：50%，平常点（授業内課題等）：25%で評価する。

[成績評価の基準]

1. マーケティングの定義の変遷を理解する：20%
2. マーケティング現象を理解し、企業の事例を用いて説明できる：60%
3. 企業・消費者・社会との関係性を説明できる：20%

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は回目の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略 第5版』
 （有斐閣アルマ、2016）

マスメディア論

番組制作過程研究～でもやっぱりテレビは面白い～

松井 英光

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

インターネットの普及など、メディアや娯楽媒体の多様化の影響もあり、いわゆる「テレビ離れ」の現象が拡大しています。特に若年層を中心に「見るものがない」といった、テレビ番組に対する不満足度も上昇しており、実際に「視聴率」も低下傾向にあります。

テレビの現状は、社会的影響力や営業的数値の側面を考慮しますと、まだ基幹メディアに位置していると推察されますが、この状況が10年、20年先にどうなっているかについては不透明です。昨今は番組の画一化も見られ、「放送文化の多様性」を遵守した創造性豊かな番組群の放送ができなくなれば、近い将来にテレビは「多様なメディアの選択肢の一つ」に脱落する可能性もあるでしょう。

この授業では、まずテレビの歴史を検証し、更に現状のドラマ・バラエティー・報道など各ジャンルの番組制作過程を、VTRや現場の「作り手」の話を交えて現場目線から考察していきます。

【授業における到達目標】

まず、ネット社会の浸透によりグローバル化が進む中のメディア状況を理解した上で「やっぱりテレビは面白い」ことを実感（又は否定）して下さい。最終的に、「番組企画書」を提出して頂きますが、国際的視野からも研究的な態度で問題に対処して「若年層のテレビ離れ」を脱却する未来像を提示することを目標とします。

【授業の内容】

- 1、ガイダンス
 - 2、テレビの「送り手」と「作り手」の分離、
「プロデューサー」と「ディレクター」の違い
 - 3、TVジャーナリズム・ニュース報道機能（外部講師招聘予定）
 - 4、テレビの歴史①「制作独立型モデル」（1953～1981）
 - 5、テレビの歴史②「初期編成主導型モデル」（1982～1993）
 - 6、テレビの歴史③「編成主導型モデル」（1994～現在）
 - 7、歌番組の番組制作過程研究
 - 8、ドキュメンタリー番組の番組制作過程研究
 - 9、ドラマの番組制作過程研究（外部講師招聘予定）
 - 10、災害報道の番組制作過程研究（外部講師招聘予定）
 - 11、BSの番組制作過程研究
 - 12、CS・ネット配信の番組制作過程研究（外部講師招聘予定）
 - 13、番組制作過程におけるテレビの技術（外部講師招聘予定）
 - 14、番組企画書の書き方
 - 15、まとめ
- 毎回、番組のVTRを観て質疑応答もしていきます。
6～13は、制作現場で働く現役のテレビ番組DやPなどを、ゲスト講師に招く予定であり、状況に応じて順番が入れ替わります。

【事前・事後学修】

次回の授業範囲となる内容を前の授業でお知らせしますので、予習をしておくと同時に、自分なりの「テレビ番組論」が発表できるレベルに復習しておいてください。（学修時間 週4時間程度）

【テキスト・教材】

・授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・レポートの代わりとなる番組企画書提出（50%）
 - ・コメントペーパー（30%）・授業への積極参加（20%）
- マナバを使い、コメントペーパーの内容をフィードバックします。

【参考書】

・ビデオリサーチ編『視聴率50の物語』（小学館、2013）他

【注意事項】

私自身も、以前はテレビ番組のプロデューサーやディレクターを担当しておりましたが、現在はテレビ研究者としても、テレビの未来像を、やや不安に思っております。ただ、「まだまだテレビは面白い」のも事実であり、現役の「作り手」たちをゲスト講師に、若い皆さんと今後のテレビメディアについて一緒に考えていけたらと思っておりますので、積極的なご参加をお待ちしております。

マルチメディアデザイン演習

山崎 和彦

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本演習は、マルチメディアに関わる情報装置の基礎、情報の取り扱い、平面や立体のデザイン技術、討論およびプレゼンテーションで構成される。決められた時間内で完結させることが重要である。情報やモノを生み、他者に伝えることの難しさと楽しさを実感しつつ、マルチメディアデザインについて習得する。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、デザインに関わる多様な捉え方や価値観について知り、世界に臨む態度を身につける。また、知を求め、美を探求する態度を身につける。さらに、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 マルチメディアとは
- 第2週 マルチメディアの現状、デジタルデバインド
- 第3週 情報および装置の保全について
- 第4週 デジタルとアナログを比較するための実習
- 第5週 マルチメディア情報（平面）の表現の実習
- 第6週 マルチメディア情報（立体）の表現の実習
- 第7週 マルチメディア情報（文字情報）の表現の実習
- 第8週 マルチメディア情報（音）の表現の実習
- 第9週 マルチメディア情報（動画）の表現の実習
- 第10週 制作した静止画像のプレゼンテーション
- 第11週 各種WEBコンテンツの利用について
- 第12週 録音および加工技術に関する実習
- 第13週 撮影および加工技術に関する実習
- 第14週 制作した動画のプレゼンテーション
- 第15週 総括各種WEBコンテンツ

【事前・事後学修】

事前学修については、電子メールその他により次回テーマについて提示するので、あらかじめよく思索し、アイデアを練った上で授業に臨むこと。事後学修については、当日の作品についての所感をレポート用紙1枚にまとめ、所定のアドレスへ向け送信すること。

事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てて臨む必要がある。

【テキスト・教材】

材料や資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

当日の作品あるいはレポート40%、平常点（授業態度）40%、事後学修におけるレポート20%とする。学生へのフィードバックについては、当日の学生の作品を撮影した場合、それを各人にメールで配信する。撮影しなかった場合、次回の講義の冒頭において、講評を行う。また、マナバに不満や改善すべき事項等が記してあれば、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

【参考書】

参考書を適宜紹介する。

【注意事項】

演習内容によっては適切な衣類の着用が望ましい。これについては事前に連絡する。

メディア・コミュニケーション論

松下 慶太

2年 前期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

モバイルメディア、ソーシャルメディアの発展・普及によって私たちのコミュニケーションのあり方は常に変容しています。またそれに伴って、メディア産業はもちろん、マーケティングや広告・広報、商品企画、地域活性化など社会・ビジネス領域においてもメディア・コミュニケーションを理解することの重要性は高まっています。

本講義ではメディア・コミュニケーションに関わるメディア論、社会学、コミュニケーション論などの理論・枠組みと社会・ビジネスなどにおける具体的なトピックとを往復しつつ、メディア・コミュニケーションがどのように社会から捉えられているのか、また研究する上でどのように捉えることが可能なかを考えていきます。

【授業における到達目標】

- ソーシャルメディアが普及している現代社会においてどのようなことが課題になっているのか？を把握する。
- ソーシャルメディアが普及した現代社会がどのように進んでいくのかについて自分なりの意見を持つ。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. メディア論の基礎 (M. マクルーハンなど)
3. マスメディアとパーソナルメディア
4. モバイルメディアの展開
5. ビジュアルコミュニケーションとソーシャルメディア
6. 「タグる」のメカニズム (ゲストセッション予定)
7. シミュラークル
8. 「踊る」のメカニズム (ゲストセッション予定)
9. 身体と承認欲求
10. 「映え」・「盛る」のメカニズム (ゲストセッション予定)
11. セカンド・オフライン
12. 「旅」とソーシャルメディア (ゲストセッション予定)
13. モビリティとメディアイベント
14. ソーシャルメディアのゆくえ
15. まとめ

【事前・事後学修】

- オンラインで配信する小テストやアンケートなどに回答すること。(週2時間)
- 新聞、テレビ、ネットなどでニュースや出来事をチェックし、理論や枠組みと往復しながら考察すること。(週2時間)

【テキスト・教材】

オンラインで配信する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- manabaでの小テスト：40%
 - レポート：60%
- ※小テストについて授業冒頭で全体に対しフィードバックを行う。
レポートについて実施後、manaba上でフィードバックを行う。

【参考書】

- 松下慶太 (2012) 『デジタルネイティブとソーシャルメディア』教育評論社
- 天野彬 (2017) 『シェアしたがる心理～SNSの情報環境を読み解く7つの視点』宣伝会議

メディア・コミュニケーション論

松下 慶太

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

モバイルメディア、ソーシャルメディアの発展・普及によって私たちのコミュニケーションのあり方は常に変容しています。またそれに伴って、メディア産業はもちろん、マーケティングや広告・広報、商品企画、地域活性化など社会・ビジネス領域においてもメディア・コミュニケーションを理解することの重要性は高まっています。

本講義ではメディア・コミュニケーションに関わるメディア論、社会学、コミュニケーション論などの理論・枠組みと社会・ビジネスなどにおける具体的なトピックとを往復しつつ、メディア・コミュニケーションがどのように社会から捉えられているのか、また研究する上でどのように捉えることが可能なかを考えていきます。

【授業における到達目標】

- ソーシャルメディアが普及している現代社会においてどのようなことが課題になっているのか？を把握する。
- ソーシャルメディアが普及した現代社会がどのように進んでいくのかについて自分なりの意見を持つ。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. メディア論の基礎 (M. マクルーハンなど)
3. マスメディアとパーソナルメディア
4. モバイルメディアの展開
5. ビジュアルコミュニケーションとソーシャルメディア
6. 「タグる」のメカニズム (ゲストセッション予定)
7. シミュラークル
8. 「踊る」のメカニズム (ゲストセッション予定)
9. 身体と承認欲求
10. 「映え」・「盛る」のメカニズム (ゲストセッション予定)
11. セカンド・オフライン
12. 「旅」とソーシャルメディア (ゲストセッション予定)
13. モビリティとメディアイベント
14. ソーシャルメディアのゆくえ
15. まとめ

【事前・事後学修】

- オンラインで配信する小テストやアンケートなどに回答すること。(週2時間)
- 新聞、テレビ、ネットなどでニュースや出来事をチェックし、理論や枠組みと往復しながら考察すること。(週2時間)

【テキスト・教材】

オンラインで配信する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- manabaでの小テスト：40%
 - レポート：60%
- ※小テストについて授業冒頭で全体に対しフィードバックを行う。
レポートについて実施後、manaba上でフィードバックを行う。

【参考書】

- 松下慶太 (2012) 『デジタルネイティブとソーシャルメディア』教育評論社
- 天野彬 (2017) 『シェアしたがる心理～SNSの情報環境を読み解く7つの視点』宣伝会議

メディア・ワークショップ

松下 慶太

2年 後期 2単位

○：協働力

【授業のテーマ】

本演習では主にメディア・都市・若者をテーマとした創造的ワークショップをデザイン・実践する。

ワークショップとは「創ることで学ぶ」手法であり、地域の活性化やまちづくり、企業の商品開発・人材育成などの領域で盛んに行われている。またそれをデザインすることに加え、現場におけるファシリテーションも今後の地域・企業でのプロジェクトにおいて個人が身につけておくべき重要なスキルのひとつとして挙げられる。

本演習ではグループでワークショップを実際にデザイン・実践することで関連する知識・スキルの習得を目指す。

【授業における到達目標】

- ・ワークショップとはどのようなものかを理解する
- ・ワークショップを協働してデザインできる力を習得する

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. ワークショップと学習
3. ワークショップの企画
4. ワークショップの運営
5. ワークショップの評価
6. 課題の提示（ゲストを予定）
7. デザイン思考とは
8. フィールドワークの実践（ゲストを予定）
9. フィールドワークの結果共有・振り返り
10. ワークショップデザインのアイデアの洗練と具体化
11. プレ実践①前半チーム
12. プレ実践②後半チーム
13. 本実践①前半チーム（ゲストを予定）
14. 本実践②後半チーム（ゲストを予定）
15. リフレクション

※企業・地域連携によるPBLを行う。またすべての回において共同制作、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワークなど含むグループワークを行う。

【事前・事後学修】

フィールドワークやワークショップデザインについて何をどこまで、いつまで進めるか各チームでミーティングを効率よく行い、時間を短縮するようにマネジメントすることを事前学修とする。またその実行および授業で提示された課題への準備を事後学修とする。（事前・事後合わせて週4時間を目安とする）

【テキスト・教材】

適宜、指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) プロジェクトへのコミット：20%
- (2) 貢献度自己評価：20%
- (3) 貢献度他人評価：30%
- (4) 報告のクオリティ：30%

(2) (3) (4) について各授業の後半に、実施後は15週目にフィードバックを行う。

【参考書】

山内祐平・森玲奈・安斎勇樹『ワークショップデザイン論』慶應義塾大学出版会、2013

【注意事項】

ワークショップ形式で行うため履修希望者が30名を超過した場合は事前を選考を行い、履修許可者を決定する。

メディアアート論 b

ヴァーチャル（潜勢的）なもののか

犬塚 潤一郎

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

視覚における“本当らしさ”について、広範囲な領域から捉え直します。

絵画と写真におけるリアリティの捉え方の違いや、手品・錯視を例とした認知科学からみた視覚の問題、あるいは格闘技・演劇・話芸のような文化事象における本当らしさの生まれ方の分析、一方、音楽や文字、印刷技術など、図像以外におけるイメージの働きなどを取り上げます。

概念的には、声と存在、記号と世界、物語と絵本など、個別のテーマについて論考を進め、さらに、現代芸術から現代都市の構造についての考察へと領域を広げてゆき、脱近代といわれる私たちの時代の本質的なテーマについて、より一層近づいてゆこうと努めます。深く検討してゆきたいのは、私たちの“世界”のなかに潜んでいる意味を、顕わにしてゆこうとするもの＝想像力の働きです。

ビジュアルを楽しみながら、知の世界に潜り込む経験を味わいましょう。

【授業における到達目標】

視覚表現領域についての知識を身につけます。

メディアを生かした事業活動など、専門的にビジネスで活用するための基盤となる視野を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 視覚と世界の認識
- 第3週 映像とリアリティ、自己と世界
- 第4週 絵画の働き
- 第5週 絵画というメディア
- 第6週 写真の歴史
- 第7週 写真と認識
- 第8週 視覚認識と錯覚
- 第9週 錯視の原理と作品世界
- 第10週 声と文字、印刷技術
- 第11週 瞬間・今此処と永遠・普遍
- 第12週 複製技術
- 第13週 技術に内包された脱近代性
- 第14週 現代の視覚
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

美術史など芸術領域だけでなく、哲学・思想や社会学の専門用語が使われます。各講義において、キーとなる事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ、講義内容とのつながりの上で理解を深めるようにしてください。（学修時間 週2時間）

授業で解説されたことをもとに、社会的事例について、調べてまとめてください（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）30%、期末の小論文70%。
授業中は、ディスカッション形式を採用し、発表の機会もありますので、授業中に、フィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示します。

メディアコミュニケーション a

行実 洋一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

日々の生活に欠かせないテレビや新聞、映画やインターネットといった様々なメディアには、それぞれ固有の特質と課題があり、それを十分理解することは、私たちの生活を豊かなものとするために欠かせません。

そこで本授業では、そうした多種多様なメディアについて、具体的な事例を交えながら、より深い考察を行い、メディアを日々の生活に役立てていくための素養をはぐくみたいと考えています。

【授業における到達目標】

将来のメディア・コミュニケーションのプロフェッショナル（クリエイター、ジャーナリスト、作家、アナウンサー、及び企業の宣伝広報担当、プレス、コーディネーター、デザイナーなど）を目指す人や、あるいは賢明なる読者・視聴者・観客といった、実り豊かな生活者となるための基礎固めが行えるよう「研鑽力」の向上を図り、さらに「美の探究」的精神を育みます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 メディア生活を豊かなものとするために
- 第3週 映像メディアの現状と課題①～テレビ
- 第4週 映像メディアの現状と課題②～映画
- 第5週 映像メディアの現状と課題③～動画サイト
- 第6週 メディアデザインについて
- 第7週 活字メディアの現状と課題①～新聞
- 第8週 活字メディアの現状と課題②～出版
- 第9週 ネットメディアの現状と課題①～SNS
- 第10週 ネットメディアの現状と課題②～人権と規制
- 第11週 メディア生活と技術①～AR/VR
- 第12週 メディア生活と技術②～AI
- 第13週 メディアビジネスの今
- 第14週 今後のメディア生活の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることが求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末試験等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考資料（図書・DVD等）を授業の進行に応じ随時紹介します。

メディアプロデュース論

映像メディア論

行実 洋一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

テレビ、映画をはじめとする「映像メディア」には、独自の手法や構造が存在しますが、その根底にあるのは、「正しく」「分かりやすく」、そして時に「楽しく」「面白く」伝えるというコミュニケーションの基本です。

視聴者や観客の興味関心を喚起し、同時に正しく迅速に情報を伝えるために、これまでマスメディアの当事者は様々な努力を行ってきました。そこで本授業では、こうしたマスメディアの基本的な手法（脚本や構成、撮影やナレーションなど）を学びつつ、自分たちであれば、それをどう、正確に、あるいは面白く伝えるか、実践的に自分たちで「取材」、あるいは「映像を作り発信する」ことを行います。「取材」「編集」などのプロセスはチーム制で行い、実際の「発信」はインターネットなどの媒体を利用する予定です。

【授業における到達目標】

授業では様々な作品を通して、その演出技法のみならず、制作者の意図や文化的背景などにも踏み込んで学びます。

その作業を通じて、広く社会を見つめる「国際的視野」を広め、具体的製作を通して「研鑽力」の向上、さらに加えて「行動力」「協働力」の鍛錬を図ります。

【授業の内容】

- 1 導入：授業ガイダンスと全体説明
- 2 映像制作の基本①：伝えるとはどういうことか
- 3 映像制作の基本②：楽しませるとはどういうことか
- 4 映像制作のプロトコル①：企画・脚本・構成
- 5 映像制作のプロトコル②：ビジュアルデザイン
- 6 映像制作のプロトコル③：撮影
- 7 映像制作のプロトコル④：編集
- 8 映像制作のプロトコル⑤：音響効果
- 9 映像制作演習①：企画構成打ち
- 10 映像制作演習②：取材・撮影
- 11 映像制作演習③：編集作業
- 12 映像制作演習④：MA、ナレーション
- 13 初回試写
- 14 完成試写
- 15 まとめ：批評と総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくるのが求められます（毎週120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎週120分）。

【テキスト・教材】

プリント資料などは随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習形式という性格上、演習内容及び作品評価が70%、日々の授業の平常点（授業態度・参加意欲等）を30%として配分し、総合評価を行います。

演習課題、作品等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考書・資料（図書・DVD等）は授業中に適宜指示します。

【注意事項】

本授業は、「メディア生活経営論b」と同内容です。従って3年次以上は同時帯の「メディア生活経営論b」を履修して下さい。また既に「メディア生活経営論b」を履修済みの者は、本授業を履修できませんので、ご注意下さい。

メディア芸術論

国内外のメディア芸術表現にふれながら現代的教養を深める

小川 真人

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

この授業は、美学的視点に立って、メディア芸術を考察するものです。メディア芸術の理解や定義についてはさまざまな意見がありますが、この授業ではメディア芸術を、情報技術が高度化した現代社会に現れる表現営為（具体的には写真や映像、デジタルアート、アニメーション、ゲーム、マンガ等）と理解し、その表現が投げかける主題や問題提起、社会的反響等を、具体的作品やコンテンツ表現の分析にそくしつつ考えます。このような学びを通じて、情報社会と言われる現代世界を生きていくうえで身につけておきたい現代教養を深めることを、この講義の総合的到達目標に位置づけます。

【授業における到達目標】

最先端のメディア芸術表現にふれることによって美の探求を深めるとともに、国内外のメディア芸術の動向を把握することで幅広い国際的視野を身につけることができる。

【授業の内容】

- 第1週 導入～メディア芸術とは？
- 第2週 メディア芸術の今日的動向
- 第3週 芸術と技術
- 第4週 芸術作品の同一性と可変性
- 第5週 メディア芸術の台頭
- 第6週 メディア芸術の発展
- 第7週 CGとアート表現
- 第8週 性格表現論
- 第9週 複製芸術論
- 第10週 メディア芸術と反復
- 第11週 複数視点のメディア芸術論
- 第12週 メディア芸術と自然
- 第13週 メディア芸術と家族論
- 第14週 メディア芸術と地域性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事後学修を重視しつつ、前回授業で取り上げられた作品やコンテンツとその主題や社会的反響などについて、さらにすすんで自分なりに調べ、考察してみましょう。その事後学修が次回の事前学修につながるように授業内容が構成されています。コンテンツ等を視聴して、表現の特色や技法などについて具体的に確認するのに二時間。そのテーマや問題提起等について検討するのに二時間。

【テキスト・教材】

特に指定しません。毎回配布するプリントをもって本講義のテキストにかえます。目を通すべき文献や資料についてはその都度授業中に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内小レポートなど50%、学期末レポート50%。
小レポートや授業内アンケートなどについては、優れた回答例等を授業中に紹介して講評し、授業内容に盛り込むことがあります。

【参考書】

マクルーハン『メディア論』みすず書房
マノヴィッチ『ニューメディアの言語』みすず書房

【注意事項】

授業中に適宜指示します。

メディア芸術論

国内外のメディア芸術表現にふれながら現代的教養を深める

小川 真人

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

この授業は、美学的視点に立って、メディア芸術を考察するものです。メディア芸術の理解や定義についてはさまざまな意見がありますが、この授業ではメディア芸術を、情報技術が高度化した現代社会に現れる表現営為（具体的には写真や映像、デジタルアート、アニメーション、ゲーム、マンガ等）と理解し、その表現が投げかける主題や問題提起、社会的反響等を、具体的作品やコンテンツ表現の分析にそくしつつ考えます。このような学びを通じて、情報社会と言われる現代世界を生きていくうえで身につけておきたい現代教養を深めることを、この講義の総合的到達目標に位置づけます。

【授業における到達目標】

最先端のメディア芸術表現にふれることによって美の探求を深めるとともに、国内外のメディア芸術の動向を把握することで幅広い国際的視野を身につけることができる。

【授業の内容】

- 第1週 導入～メディア芸術とは？
- 第2週 メディア芸術の今日的動向
- 第3週 芸術と技術
- 第4週 芸術作品の同一性と可変性
- 第5週 メディア芸術の台頭
- 第6週 メディア芸術の発展
- 第7週 CGとアート表現
- 第8週 性格表現論
- 第9週 複製芸術論
- 第10週 メディア芸術と反復
- 第11週 複数視点のメディア芸術論
- 第12週 メディア芸術と自然
- 第13週 メディア芸術と家族論
- 第14週 メディア芸術と地域性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事後学修を重視しつつ、前回授業で取り上げられた作品やコンテンツとその主題や社会的反響などについて、さらにすすんで自分なりに調べ、考察してみましょう。その事後学修が次回の事前学修につながるように授業内容が構成されています。コンテンツ等を視聴して、表現の特色や技法などについて具体的に確認するのに二時間。そのテーマや問題提起等について検討するのに二時間。

【テキスト・教材】

特に指定しません。毎回配布するプリントをもって本講義のテキストにかえます。目を通すべき文献や資料についてはその都度授業中に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内小レポートなど50%、学期末レポート50%。
小レポートや授業内アンケートなどについては、優れた回答例等を授業中に紹介して講評し、授業内容に盛り込むことがあります。

【参考書】

- マクルーハン『メディア論』みすず書房
- マノヴィッチ『ニューメディアの言語』みすず書房

【注意事項】

授業中に適宜指示します。

メディア社会概論

行実 洋一

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

私たちの日常生活に欠かせないテレビや新聞、映画やインターネットといった様々なメディアには、それぞれ固有の特質と課題があり、独自のマネジメントの手法が存在します。しかし、そうしたものの理解は決して十分とはいえません。

そこで本授業では、そうした多種多様なメディアについて、具体的な事例を交えつつ概説を行い、基本的理解と見識を深めながら、メディアに関する総合的な素養をはぐくみたいと考えています。

【授業における到達目標】

将来のメディア・コミュニケーションのプロフェッショナル（クリエイター、ジャーナリスト、作家、アナウンサー、及び企業の宣伝広報担当、プレス、コーディネーターなど）を目指す人や、あるいは賢明なる読者・視聴者・観客といった実り豊かな生活者となるための基礎固めが行えるよう「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 メディア社会とは何か？
- 第3週 テレビメディアにおけるマネジメント
- 第4週 テレビメディアの現状と課題①～ビジネスモデル
- 第5週 テレビメディアの現状と課題②～視聴率主義
- 第6週 テレビメディアの現状と課題③～テレビ離れ
- 第7週 新聞・出版におけるメディア・マネジメント
- 第8週 新聞・出版における現状と課題
- 第9週 映画メディアにおけるマネジメント
- 第10週 映画メディアの現状と課題
- 第11週 ネットメディアにおけるマネジメント
- 第12週 ネットメディアの現状と課題①～‘祭り’や‘炎上’
- 第13週 ネットメディアの現状と課題②～個人情報と人権
- 第14週 今後のメディア社会の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることで求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末試験等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考資料（図書・DVD等）を授業の進行に応じ随時紹介します。

メディア社会論

メディアが形成する社会のオモテとウラを知る

駒谷 真美

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会は、情報が氾濫するメディア社会でもある。本授業では、メディア社会の様相について深層を読み解いていく。メディアによる社会現象の例を取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで解明する。本授業の目的は、情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー（MIL）の育成である。

【授業における到達目標】

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①active audienceとしてメディア社会への参画意識を高めることができる②メディアの利便性と危険性について認識できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力・美の探究]「洞察力と倫理観を身につけ、本質を見抜き新たな知を創造する力」を蓄積する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 稠密化・重層化・複合化する間メディア社会
(例) アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ
3. 消費を享受する社会 (1) クロスメディア
(例) 「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」?
4. 消費を享受する社会 (2) キャラクタービジネス
(例) 「初音ミク」「くまモン」が愛される理由
5. 消費を享受する社会 (3) 広告のチカラ (外部講師招聘予定)
(例) 「アド・ミュージアム東京」学芸員授業 (課題レポート①)
6. 疎外される社会 (1) 表現の自由
(例) 「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか?
7. 疎外される社会 (2) 報道被害
(例) 「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰?
8. 疎外される社会 (3) 情報操作
(例) 東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか?
9. 疎外される社会 (4) 情報格差
(例) 「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者
10. 疎外される社会 (5) メディアのチカラ (外部講師招聘予定)
(例) テレビ局 出前授業 (課題レポート②)
11. 現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ
(例) 「アナ雪」に見るプリンセス像の変容
12. メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症
(例) 「モンハン、一狩りいこうぜ!」で社会生活に戻れない
13. つながりを模索する社会 (1) メディアコミュニケーション
(例) SNSでつながる確かさと危うさ
14. つながりを模索する社会 (2) メディアコミュニケーション
(例) デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学修 (学修時間：週2時間) では、manabaのコンテンツ機能にある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修 (学修時間：週2時間) では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaのレポート機能で期限内に提出し保存する。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 6) 60%+活動点 (課題レポート①②) 40%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・前期の「メディア心理学」とセット履修が望ましい。

メディア社会論

メディアが形成する社会のオモテとウラを知る

駒谷 真美

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会は、情報が氾濫するメディア社会でもある。本授業では、メディア社会の様相について深層を読み解いていく。メディアによる社会現象の例を取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで解明する。本授業の目的は、情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー（MIL）の育成である。

【授業における到達目標】

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①active audienceとしてメディア社会への参画意識を高めることができる②メディアの利便性と危険性について認識できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力・美の探究]「洞察力と倫理観を身につけ、本質を見抜き新たな知を創造する力」を蓄積する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 稠密化・重層化・複合化する間メディア社会
(例) アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ
3. 消費を享受する社会 (1) クロスメディア
(例) 「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」?
4. 消費を享受する社会 (2) キャラクタービジネス
(例) 「初音ミク」「くまモン」が愛される理由
5. 消費を享受する社会 (3) 広告のチカラ (外部講師招聘予定)
(例) 「アド・ミュージアム東京」学芸員授業 (課題レポート①)
6. 疎外される社会 (1) 表現の自由
(例) 「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか?
7. 疎外される社会 (2) 報道被害
(例) 「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰?
8. 疎外される社会 (3) 情報操作
(例) 東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか?
9. 疎外される社会 (4) 情報格差
(例) 「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者
10. 疎外される社会 (5) メディアのチカラ (外部講師招聘予定)
(例) テレビ局 出前授業 (課題レポート②)
11. 現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ
(例) 「アナ雪」に見るプリンセス像の変容
12. メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症
(例) 「モンハン、一狩りいこうぜ!」で社会生活に戻れない
13. つながりを模索する社会 (1) メディアコミュニケーション
(例) SNSでつながる確かさと危うさ
14. つながりを模索する社会 (2) メディアコミュニケーション
(例) デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学修 (学修時間：週2時間) では、manabaのコンテンツ機能にある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修 (学修時間：週2時間) では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaのレポート機能で期日内に提出し保存する。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 6) 60%+活動点 (課題レポート①②) 40%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・前期の「メディア心理学」とセット履修が望ましい。

メディア心理学

子どもから大人まで、人とメディアの関わりを考える

駒谷 真美

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

人は、乳児期から老年期まで生涯において発達する存在である。同時に高度情報社会の中で、メディアの受け手・使い手・作り手・送り手としても発達していく。そこで本授業では、生涯発達心理学の観点から、世代別特徴を踏まえたメディア観を把握し、各時期の発達の特徴や課題と関連する情報行動について、系統的かつ包括的理解を深めていく。本授業では、メディア観や情報行動と密接するメディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

【授業における到達目標】

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①ライフサイクルに関わるメディア観と情報行動を認識可能になる②メディアの特性と役割について基本的な理解ができることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき「研鑽力・美の探究」「洞察力と倫理観を身につけ、広い視野で知を探究し創造する力」の基礎を固める。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaでの学修法の説明・事前アンケート
2. 入門 メディア略史とメディア心理学の考え方
3. 乳児期「VR（仮想現実）AR（拡張現実）世代」の情報感知行動
—赤ちゃんとママと「アンパンマン」アプリ
4. 幼児期（1）「タッチスクリーン世代」の情報探索行動
—ピカピカ泥団子を作るには？
5. 幼児期（2）「タッチスクリーン世代」の情報共有行動
—たかがごっこ遊び、されどごっこ遊び！
6. 児童期（1）「新ソーシャルメディア世代」の問題解決行動
—「謎は全て解けた！」かな？
7. 児童期（2）「新ソーシャルメディア世代」の情報獲得行動
—「これから何が起こってもこれが仲間の印だ！」
8. 子どもとメディアの関わり（外部講師招聘予定）課題レポート
9. 思春期「ソーシャルメディア世代」の協調的情報行動
—SNSマジ疲れるけどやめられない!!!
10. 青年期「新デジタルネイティブ」の協調的情報行動
—とりあえずみんなで「いいね」！
11. 成人期「デジタルネイティブ」の人生選択にみる情報ニーズ
—「逃げ恥」みくりと平匡さんのリアルは？
12. 中年期（1）「デジタル移民」の認知的不協和行動
—バブルのはかない夢いずこ・・・
13. 中年期（2）「お茶の間テレビ世代」の協調的情報行動
—「にんげんだもの」みんなで老ければ怖くない
14. 老年期「新聞ラジオ信仰世代」の情報格差払拭行動
—かわいい孫のためならばLINEやります！インスタします！
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、manabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 5）75%＋活動点（課題レポート）25%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・後期の「メディア社会論」とセット履修が望ましい。

メディア生活経営論 a

メディア的な発想と技術から構想へ

犬塚 潤一郎

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

今日、企業活動はもちろん、あらゆる社会活動においてメディア技術の活用が広がっています。このような社会で活躍するためには、メディアの技術に習熟することが必要ですが、もっと大切なことは、メディア的な発想・物事の捉え方・行動ができるようにしておくことです。

この講座では、情報技術や出版・放送にとどまらず、メディアを社会構造として捉えます（必然的に、人間とは何かという存在論にもつながります）。そのうえで、現実の社会をどのように捉え、どのように行動すればよいのかを考えてゆきます。

現代の先端企業の事例研究も行います。

【授業における到達目標】

メディア学と組織論の基礎概念を、事業構想に結び付ける方法を身につけます。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察に基づき本質を見抜く力を育成します。

「行動力」として、社会現象を正しく把握し、課題を発見できる力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 メディア的な発想
- 第3週 メディア社会
- 第4週 組織のメディア的構造
- 第5週 社会のメディア的構造
- 第6週 メディア技術
- 第7週 事業構造のメディア的実現
- 第8週 技術事例研究
- 第9週 事業事例研究
- 第10週 プレゼンテーション
- 第11週 事業評価
- 第12週 事業構想：課題
- 第13週 事業構想：企画
- 第14週 事業構想：計画書
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：専門的な概念もありますが、テキストを用意します。事前に読み理解して下さい。また、技術講習を伴います。段階的に学修しますので、不慣れでも構いませんが、自分で取り組み理解を進める姿勢が必要です。（学修時間 週2時間）

事後：研究企画作業をweb上で継続します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発表などアクティビティ60%、最終課題研究40%。

課題レポートについては、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示します。

メディア生活経営論 b

映像メディア論

行実 洋一

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

テレビ、映画をはじめとする「映像メディア」には、独自の手法や構造が存在しますが、その根底にあるのは、「正しく」「分かりやすく」、そして時に「楽しく」「面白く」伝えるというコミュニケーションの基本です。

視聴者や観客の興味関心を喚起し、同時に正しく迅速に情報を伝えるために、これまでマスメディアの当事者は様々な努力を行って来ました。そこで本授業では、こうしたマスメディアの基本的手法（脚本や構成、撮影やナレーションなど）を学びつつ、自分たちであれば、それをどう、正確に、あるいは面白く伝えるか、実践的に自分たちで「取材」、あるいは「映像を作り発信する」ことを行います。「取材」「編集」などのプロセスはチーム制で行い、実際の「発信」はインターネットなどの媒体を利用する予定です。

【授業における到達目標】

授業では様々な作品を通して、その演出技法のみならず、制作者の意図や文化的背景などにも踏み込んで学びます。

その作業を通じて、広く社会を見つめる「国際的視野」を広め、具体的製作を通して「研鑽力」の向上、さらに加えて「行動力」「協働力」の鍛錬を図ります。

【授業の内容】

- 1 導入：授業ガイダンスと全体説明
- 2 映像制作の基本①：伝えるとはどういうことか
- 3 映像制作の基本②：楽しませるとはどういうことか
- 4 映像制作のプロトコル①：企画・脚本・構成
- 5 映像制作のプロトコル②：ビジュアルデザイン
- 6 映像制作のプロトコル③：撮影
- 7 映像制作のプロトコル④：編集
- 8 映像制作のプロトコル⑤：音響効果
- 9 映像制作演習①：企画構成打ち
- 10 映像制作演習②：取材・撮影
- 11 映像制作演習③：編集作業
- 12 映像制作演習④：MA、ナレーション
- 13 初回試写
- 14 完成試写
- 15 まとめ：批評と総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることで求められます（毎週120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎週120分）。

【テキスト・教材】

プリント資料などは随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習形式という性格上、演習内容及び作品評価が70%、日々の授業の平常点（授業態度・参加意欲等）を30%として配分し、総合評価を行います。

演習課題、作品等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考書・資料（図書・DVD等）は授業中に適宜指示します。

メディア生活経営論演習 a

新しい事業と組織づくり

犬塚 潤一郎

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

これからの社会を考えるとゆく上で、社会起業家に代表されるような、従来とは異なる目標や社会機能を担う事業活動がとて大切になってゆくことでしょう。その際に、発達した情報技術を活用することは不可欠ですし、また、マルチチュードと呼ばれる分散化した社会（人のつながり）の現実をしっかりと捉えることも大切です。この社会をもっといいものに変えてゆきたい。それは誰にも共通する思いでしょう。それを具体的に遂行するために、メディア的な経営の技術と考え方を学んでみませんか。

企画の発想から事業計画まで、ビジネスプランニングについての知識も同時に学びながら、これからの社会を自分で切り開いてゆくことを目指して、事業と組織づくりを具体的に考えてゆきましょう。講座の進行に従って、現代の先端企業との共同研究も行います。

【授業における到達目標】

社会課題解決のための相互連携事業（CSV）の構想・計画力を身につけます。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察に基づき本質を見抜く力を育成します。

「行動力」として、社会現象を正しく把握し、課題を発見できる力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 社会の課題とメディア
- 第3週 事例研究1：メディア社会
- 第4週 現状分析
- 第5週 企画・発想
- 第6週 プレゼンテーション
- 第7週 事例研究2：メディア技術
- 第8週 関係分析
- 第9週 収支分析
- 第10週 プロモーション計画
- 第11週 事例研究3：事業計画
- 第12週 商品・サービス分析
- 第13週 メリット、コスト、リスク
- 第14週 計画・プレゼンテーション
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：専門的な概念もありますが、テキストを用意します。事前に読み理解して下さい。また、技術講習を伴います。段階的に学修しますので、不慣れでも構いませんが、自分で取り組み理解を進める姿勢が必要です。（学修時間 週2時間）

事後：事業研究作業及び事業企画について、web上で継続します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中のアクティビティ60%、最終課題研究40%。

発表内容については授業中にその都度、課題レポートについては次回授業に、フィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示します。

メディア生活経営論演習 b

映像メディア制作

行実 洋一

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、3年次の「メディア生活経営論b」をベースとして、さらにより深く、映像の演出手法、制作手法を学ぶものです。

実際に映像を作る際には、その対象と取り組む、制作者の意図や意識が深く試されます。対象との深いコミュニケーションがなければ、その映像は単なる「記録」でしかなく、見た人の心に深く語りかけるものにはなかなかありません。

従って、引き続きメディアの様々な手法（脚本や構成、撮影やナレーションなど）を学びつつ、より以上に実践的に自分たちで「取材」、あるいは「映像を作り発信する」ことを行います。「取材」「編集」などのプロセスはチーム制で行い、実際の「発信」はインターネットなどの媒体を利用する予定です。

【授業における到達目標】

より高度な技術の取得や取材、調査、及びより深い対象とのコミュニケーションなどを通じて、「研鑽力」「行動力」を、またチームとの共同作業を通じて「協働力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 1 導入：授業ガイダンスと全体説明
- 2 映像制作の応用①：演出の手法
- 3 映像制作の応用②：役者の演技
- 4 映像制作のプロトコル①：企画・脚本・構成
- 5 映像制作のプロトコル②：撮影・照明
- 6 映像制作のプロトコル③：編集
- 7 映像制作のプロトコル④：MA、ナレーション
- 8 映像制作のプロトコル⑤：映像加工
- 9 映像制作中間発表
- 10 映像制作演習①：再構成
- 11 映像制作演習②：再撮
- 12 映像制作演習③：再編集
- 13 初回試写
- 14 完成試写
- 15 まとめ：批評と総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることで求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務め、修正等の作業が求められます（毎回120分）。

【テキスト・教材】

プリント資料などは随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習形式という性格上、演習内容及び作品評価が70%、日々の授業の平常点（授業態度・参加意欲等）を30%として配分し、総合評価を行います。

演習課題、作品等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考書・資料（図書・DVD等）は授業中に適宜指示します。

【注意事項】

3年次の「メディア生活経営論b」の履修が前提となりますが、履修をしていない人も登録は可能です。ただしその場合は一層の努力が求められます。

メディア表現論

メディアの受け手・使い手から作り手・送り手になる！

駒谷 真美

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

ICTの急速な発展と普及に伴い、メディア表現も変容の途にある。本授業では、メディアの受け手・使い手・作り手・送り手の立場から、メディアから得られる情報を主体的に読み解き活用し、コミュニケーションを創造していく。学部学科の紹介映像作品を企画・取材・撮影・編集の段階に沿って制作し、実践的な経験を蓄積する。最終的には、オープンキャンパス等の公開を目指す。本授業では、21世紀のデジタル・メディア表現者として必要不可欠なメディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

【授業における到達目標】

MIL応用段階の目標は、[コミュニケーション] ①作品の制作過程を通して、MILの自己表現力を培い、ICTを駆使してメディアメッセージを発信できる②他者の異なる価値観を受け止め、協働から新しい価値観を創り、社会に情報発信できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[行動力]「目的設定・計画立案し実行できる力」と[協働力]「自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進め、豊かな人間関係を構築する力」を獲得する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaによる学修法の説明・事前アンケート
 2. メディア情報リテラシー—メディア制作に必要な情報モラル
 3. 企画立案—アイデア出し合いブレインストーミング
 4. 企画案の検討・完成—企画コンテ完成でアイデア見える化
 5. 企画発表会—プレゼン・討論・講評で企画方向性決定
 6. テレビ番組・CM制作者の出前授業—メディアのプロに学ぼう！
 7. 取材方法—ズバリ！聞くインタビューのテクニック・コツ
 8. 撮影方法—撮りたい「絵」を撮るためのテクニック・コツ
 9. 取材撮影活動—聞いてみた・撮ってみた！
 10. 編集方法—映像をよさげに見せるテクニック・コツ
 11. 編集活動—まとめたみた！
 12. 中間合評会—プレゼン・討論・講評で作品客観視
 13. 修正・改善—変えてみた！
 14. 作品完成・コンテスト応募準備—できた！できた！できた！
 15. 最終合評会（プレゼン・討論・講評）・事後アンケート
- *3～15回の間、外部講師（メディア製作者）を適宜招聘予定

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、manabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。グループで制作完成に向けて活動する。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 4）50%+活動点（企画・中間プレゼン・最終プレゼン・制作）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、制作プレゼンは該当回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・使用機材に限られるため、履修は上限25人を目安とする。超過した場合は初回に抽選する。各グループの進捗状況により、授業外での自主活動も想定される。
- ・「演習ⅢA・B」（駒谷担当）の履修生は、本授業も受講することが望ましい。

メディア文化論

情報メディア社会における文化形成

浅岡 隆裕

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

現代の社会事象や文化において、情報技術やメディアとの関わりはますます密接になっています。

本講では、メディア、文化、さらに重要タームとなる情報やコミュニケーションなどの基礎的な概念をまず理解します。その後に具体事例として情報技術の高度化やメディア・コミュニケーションの成熟化によって、いかなる社会、文化変容が生じてきたのか（さらに今後して行くのか）について概説していきます。

まさに今起こっている出来事自体が、本講の扱うべき“テキスト”であり、それらを読み解いていく面白さを体感してもらうことになります。

【授業における到達目標】

情報文化やメディアの歴史、仕組みや原理を体系的に理解し、「セミオ・リテラシー」と「メディア・リテラシー」を習熟できます。新聞、雑誌記事、映像素材なども活用しながら、ここ最近のトピックスについても言及・解説していきますので、現代的な身の回りのメディアとコミュニケーションの文化について理解・説明することができるようになります。

本講義を通して、「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる」ことが期待されます。

またこうした読解力のスキルの修得により国際的な視野の中での物事の理解促進につながることもなります。

【授業の内容】

- 第1週 科目オリエンテーション なぜ、どのように学ぶのか
- 第2週 「メディア」の基礎知識
- 第3週 「文化」の基礎知識
- 第4週 メディア文化の近代
- 第5週 メディア文化の現代
- 第6週 放送メディア文化の起源と展開
- 第7週 放送メディア文化の社会的な影響
- 第8週 今日におけるマスメディア文化
- 第9週 メディア文化の質的変容
- 第10週 モバイルメディアの登場
- 第11週 ネット時代のカルチャー
- 第12週 ネット普及以降のコミュニケーション文化
- 第13週 ネット時代のリテラシー
- 第14週 メディア文化の現代的特質
- 第15週 全体のまとめと今後の展望

【事前・事後学修】

授業の事前に2時間、事後に2時間それぞれ学修を行ってください。具体的には、授業で見聞きした概念、事例について、配布したレジュメや資料、板書ノートなどを参考にしつつ復習してください。他の社会事象について当てはまる事例がないかなど考えてみるとよいでしょう。授業内で関連する参考書を紹介しますので、こちらも講義内容を深めるといふ点では推奨します。

【テキスト・教材】

テキストは特に使用しません。毎回プリントを配布し、それに基づき講義を展開します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価の配分基準は、複数回の小レポート20%、期末定期試験評価点60%、平常点（授業での積極参加・提出課題）20%となっています。

小レポートは返却時に、提出された内容を踏まえ全体的なコメントをします。また期末レポートについては、回収後に解説と補足説明を口頭もしくは書面にて予定です。小レポートや試験についてのメールでの問合せに対しては適宜対応します。

【参考書】

浅岡隆裕 著『メディア表象の文化社会学—〈昭和〉イメージの生成と定着の研究』(ハーベスト社 2012)

浅岡隆裕 著『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』(KADOKAWA 2016)

吉見俊哉 著『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』(有斐閣 2012年)

この他、授業内で適宜、紹介していきます。

【注意事項】

私語は他の受講者に迷惑になるのでしないでください。

新聞や雑誌記事、テレビに接する際には、それぞれのメディアが現代社会をどのように捉えているのかといった視点で見てもらうことを勧めます。

メディア文化論

情報メディア社会における文化形成

浅岡 隆裕

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

浅岡隆裕 著『メディア表象の文化社会学—（昭和）イメージの生成と定着の研究』（ハーベスト社 2012）

浅岡隆裕 著『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』（KADOKAWA 2016）

吉見俊哉 著『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣 2012年）

この他、授業内で適宜、紹介していきます。

【授業のテーマ】

現代の社会事象や文化において、情報技術やメディアとの関わりはますます密接になっています。

本講では、メディア、文化、さらに重要タームとなる情報やコミュニケーションなどの基礎的な概念をまず理解します。その後具体的に事例として情報技術の高度化やメディア・コミュニケーションの成熟化によって、いかなる社会、文化変容が生じてきたのか（さらに今後して行くのか）について概説していきます。

まさに今起こっている出来事自体が、本講の扱うべき“テキスト”であり、それらを読み解いていく面白さを体感してもらうことになります。

【授業における到達目標】

情報文化やメディアの歴史、仕組みや原理を体系的に理解し、「セミオ・リテラシー」と「メディア・リテラシー」を習熟できます。新聞、雑誌記事、映像素材なども活用しながら、ここ最近のトピックスについても言及・解説していきますので、現代的な身の回りのメディアとコミュニケーションの文化について理解・説明することができるようになります。

本講義を通して、「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる」ことが期待されます。

またこうした読解力のスキルの修得により国際的な視野の中での物事の理解促進につながることもなります。

【授業の内容】

- 第1週 科目オリエンテーション なぜ、どのように学ぶのか
- 第2週 「メディア」の基礎知識
- 第3週 「文化」の基礎知識
- 第4週 メディア文化の近代
- 第5週 メディア文化の現代
- 第6週 放送メディア文化の起源と展開
- 第7週 放送メディア文化の社会的な影響
- 第8週 今日におけるマスメディア文化
- 第9週 メディア文化の質的変容
- 第10週 モバイルメディアの登場
- 第11週 ネット時代のカルチャー
- 第12週 ネット普及以降のコミュニケーション文化
- 第13週 ネット時代のリテラシー
- 第14週 メディア文化の現代的特質
- 第15週 全体のまとめと今後の展望

【事前・事後学修】

授業の事前に2時間、事後に2時間それぞれ学修を行ってください。具体的には、授業で見聞きした概念、事例について、配布したレジュメや資料、板書ノートなどを参考にしつつ復習してください。他の社会事象について当てはまる事例がないかなど考えてみるとよいでしょう。授業内で関連する参考書を紹介しますので、こちらも講義内容を深めるという点では推奨します。

【テキスト・教材】

テキストは特に使用しません。毎回プリントを配布し、それに基づき講義を展開します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価の配分基準は、複数回の小レポート20%、期末定期試験評価点60%、平常点（授業での積極参加・提出課題）20%となっています。

小レポートは返却時に、提出された内容を踏まえ全体的なコメントをします。また期末レポートについては、回収後に解説と補足説明を口頭もしくは書面にて予定です。小レポートや試験についてのメールでの問合せに対しては適宜対応します。

【参考書】**【注意事項】**

私語は他の受講者に迷惑になるのでしないでください。

新聞や雑誌記事、テレビに接する際には、それぞれのメディアが現代社会をどのように捉えているのかといった視点で見てもらうことを勧めます。

メディア論

メディア・リテラシーを考える。

平松 恵一郎

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

情報化社会と言われる現代において、わたしたちは日々たくさんの「情報」に接していますが、その多くはメディアを通じて得ています。本講義では、わたしたちの生活になくてはならないマス・メディアについて、それぞれのメディアの持つ特性や機能について学び、たくさんのメディアとどうつきあっていったら良いのかを考えていきます。

【授業における到達目標】

本講義ではさまざまなメディアの成り立ちや特性を学ぶことで、しっかりとメディア・リテラシーを身につけることを目標とします。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得することを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション メディアとは何か
- 第2週 コミュニケーションの歴史
- 第3週 マス・メディアの誕生
- 第4週 新聞の歴史と現在
- 第5週 出版の歴史と現在1（書籍）
- 第6週 出版の歴史と現在2（雑誌）
- 第7週 映像メディアの誕生（映画）
- 第8週 放送メディアの誕生1（ラジオ）
- 第9週 放送メディアの誕生2（テレビ）
- 第10週 コミュニケーションとしての広告
- 第11週 メディアとしてのインターネット
- 第12週 モバイル時代のコミュニケーション
- 第13週 ソーシャル・メディアとマス・メディア
- 第14週 メディア・リテラシーを考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

各授業の最後に次回講義の概要を話すので、参考資料にあたるなどして事前学修をしてください。（学修時間 週2時間）

授業後は、授業で作ったノートをもとに、復習をして理解を深めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。授業時はスライドを使用しながら講義をしますので、重要と思う点をメモして、自分なりのノートを作ってください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、平常点（リアクションペーパー等 30%）

毎回提出するリアクションペーパーは、次回授業でフィードバックを行います。また、試験に関しては、授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

岩崎達也『実践メディア・コンテンツ論入門』（慶應義塾大学出版会・2013年）

池上彰『池上彰のメディア・リテラシー入門』（オクムラ書店・2008年）

森達也『たったひとつの「真実」なんてない』（筑摩書房・2014年）

イーライ・パリサー『フィルターバブル インターネットが隠していること』（早川書房・2016年）

その他、参考文献は適宜紹介します。

【注意事項】

授業内容は進捗によって、前後する場合があります。

メディア論

上野 敦史

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

情報通信技術の進歩や発展にともなって、私たちの生活やコミュニケーションの在り方が変化しています。本講義ではさまざまなメディアが私たちの生活や社会をいかに変えたのかを、歴史的に振り返るとともに、将来のメディアのあるべき姿や活用の仕方を考えていきます。メディアに関する様々な理論を紹介しながら、回によっては、グループワークや、ワークショップ形式で授業を進め、参加者相互の意見の交流を通して、自らの気づきを進めます。

【授業における到達目標】

「情報」や「メディア」という視点から社会を把握し、分析ができるようになること。社会の課題について、様々な情報を読み解き、自らの考えを表現し、解決に向けて行動できる能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 メディアの現在
- 第3週 「メディア」とは何か？
- 第4週 メディアをめぐる基本概念
- 第5週 「記号・ことば・情報」とメディア
- 第6週 メディアの歴史（1）音声・文字
- 第7週 メディアの歴史（2）印刷技術と情報文化
- 第8週 メディアの歴史（3）新聞・出版
- 第9週 メディアの歴史（4）電気メディアの誕生
- 第10週 メディアの歴史（5）映画と広告
- 第11週 メディアの歴史（6）テレビの世紀
- 第12週 メディアの歴史（7）コンピューターの誕生と発展
- 第13週 メディアの歴史（8）デジタルメディアとインターネット
- 第14週 21世紀のメディアを考える
- 第15週 まとめ

上記の講義以外に、適宜テーマに沿ったワークショップを行う。

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：講義中に、次回までに目を通すべき資料やコンテンツ、考えてくる課題を示すので、それについて考えてくること（初回は、メディアについて、自分の考えをまとめておく）

事後学修（週2時間）・講義内容やワークショップでの気づきを、きちんとノートにまとめて振り返っておくこと

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%、期末レポート40%により評価します。なお、平常点には、毎回の小レポートのほか、ワークショップの提出物も含まれます。また期末レポートには、授業内の小テストを含みます。

毎回の小レポートなどの提出物の評価は

<1. 授業内容の理解度 2. 授業内容をふまえた自分の意見の構築 3. 論旨の明確さと説得力 4. 表現力>の4要素から総合的に評価します。レポート類やワークショップなどの提出物については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【参考書】

水越伸『21世紀メディア論』（放送大学教育振興会 2014年）、吉見俊也『メディア文化論 メディアを学ぶための15話』（有斐閣アルマ 2012年）。

【注意事項】

・ワークショップなどではスマホ等の端末を使用する場合があります（未所持の方も配慮しますので初回に申し出てください）。

・ワークショップ等は、授業冒頭に行くことが多いので遅刻厳禁とします。

メディア論

メディア表現を読みとく

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、メディアからの情報とまったく無縁の生活をすることはできません。世界情勢についての話題から、新しい洋服を買うためのヒントまで、暮らしのあらゆる部分に情報があふれています。

そうしたメディアや情報の力のありようについて、テレビや雑誌の広告を見ながら理解していきます。

【授業における到達目標】

マスメディアのしくみと意味を理解するとともに、特に「広告」とそこにおける「女性像」を題材として、わたしたちがどのような社会に生きているのかを理解できるようになることをめざします。

そうして、多様な価値観の存在に気づき、それらとメディアとの関連についての理解をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思っています。

【授業の内容】

- 01 コミュニケーションの基本的な考え方
- 02 コミュニケーションの種類と機能
- 03 情報化とは何か：社会の情報化と情報の社会化
- 04 メディア産業とわたしたちの生活
- 05 マーケティングと広告
- 06 テレビ広告をみる 01：戦後の日本と日本人の生活の変化
- 07 テレビ広告をみる 02：メッセージをいかに表現するか
- 08 テレビ広告をみる 03：広告は面白いのか
- 09 広告とメディア・リテラシー 01：表現と技法
- 10 広告とメディア・リテラシー 02：表現と文化
- 11 広告とメディア・リテラシー 03：表現と社会的背景
- 12 広告表現の中の女性像 01：身ぶりとしぐさを見る
- 13 広告表現の中の女性像 02：表現の技法を知る
- 14 広告表現の中の女性像 03：社会的文脈を知る
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

メディア論 b

ポピュラー音楽の社会史

大倉 恭輔

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

「マスコミ/マスメディア」から流される情報は、わたしたちの心や人生をかたちづくる上でも、少なからぬ力をもっています。

この授業では、メディア文化・ポピュラー文化の基本的な部分を学んだ上で、ロック誕生の過程および日本近代における流行歌の成立過程について、当時の音源を聴きながら学びます。

【授業における到達目標】

「メディアの商品としての音楽」に着目しながら、近代以降/マスメディアの発達以降に生じた、人と音楽の関わりの大きな変化について理解することをめざします。

そうして、多様性を受容し多角的視点から物事にのぞみ、さらに広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと考えています。

【授業の内容】

- 01 文化とは何か：大衆文化からポピュラー文化へ
- 02 メディア文化とメディア産業
- 03 音楽の機能と商品としての音楽の誕生
- 04 ポピュラー音楽の社会史 a：アメリカという国家
- 05 ポピュラー音楽の社会史 b：複製技術の誕生と影響
- 06 ポピュラー音楽の社会史 c：若者文化と対抗文化
- 07 ポピュラー音楽の社会史 d：多様性が生み出すもの
- 08 ポピュラー音楽の社会史 e：ポピュラーなものとは何か
- 09 近代日本と人々の生活：江戸から明治へ
- 10 日本のポピュラー音楽史 a：明治から大正へ
- 11 日本のポピュラー音楽史 b：戦時下の日々
- 12 日本のポピュラー音楽史 c：戦後社会
- 13 日本のポピュラー音楽史 d：豊かな社会
- 14 今日のメディア状況と音楽：受け手と技術の変化
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から事前に資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・ごくごく一般的な受講上のマナーを守ること。

メディア論 b

上野 敦史

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちの「日常生活」や社会の在り方は、どのように構成されているのでしょうか？

本講義では、これを「メディア」を手掛かりに実践的に考えていきます。講師の長年にわたるテレビ局での番組制作での経験を踏まえて、メディアの様々な問題をリアルにとらえて論を展開するとともに代表的なメディアに関する理論を紹介していきます。

グループワークや、対話によるワークショップ形式を取り入れて授業を進め、参加者相互の意見の交流を通して、気づきを深めます。

【授業における到達目標】

「メディア」という視点から社会を把握し、分析ができるようになること。社会の課題について、様々な情報を読み解き、自らの考えを表現し、解決に向けて実践的に行動できるようになること。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：はじめのワークショップ
- 第2週 テレビ「ニュース」を“伝える”（テレビ論1）
- 第3週 メディアの文明史（ハロルド・イニス）
- 第4週 「ドラマ」をめぐる“物語”（テレビ論2）
- 第5週 記号とメディア（F・ド・ソシュール）
- 第6週 聴覚障がい者とテレビ（テレビ論3）
- 第7週 声の文化 v s 文字の文化（W・J・オング）
- 第8週 “演出”と“ヤラセ”の境界線を考える（テレビ論4）
- 第9週 「メディアはメッセージ」（M・マクルーハン）
- 第10週 エンコーディング/デコーディング（S・ホール）
- 第11週 表現系ワークショップ（1）企画づくり
- 第12週 表現系ワークショップ（2）制作準備
- 第13週 表現系ワークショップ（3）制作
- 第14週 表現系ワークショップ（4）合評会
- 第15週 まとめワークショップ

講義以外に、テーマに沿ったワークショップ等を適宜、行います。受講人数等によっては、後半の表現系ワークショップの内容および回数を変更する場合があります。

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）：講義で、目を通すべき資料やコンテンツ、考えてくる課題等を示すので、それについて考えてくること。
- 事後学修（週2時間）：事後は、講義内容や特にワークショップでの気づきを、きちんとしたノートにまとめてふり返っておくこと。

【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%、期末レポート類40%により評価します。なお、平常点には、小レポートのほか、ワークショップの提出物も含まれます。また期末レポートには、授業内の小テストを含まれます。

提出物の評価は<1. 授業内容の理解度 2. 授業内容をふまえた自分の意見の構築 3. 論旨の明確さと説得力 4. 表現力>の4要素から総合的に評価します。提出物については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【参考書】

水越伸『21世紀メディア論』（放送大学教育振興会 2014年）、吉見俊也『メディア文化論 メディアを学ぶための15話』（有斐閣アルマ 2012年）。

【注意事項】

- ・ワークショップなどではスマホ等の端末を使用する場合があります（未所持の方も配慮しますので初回に申し出てください）。
- ・ワークショップ等は、授業冒頭に行くことが多いので遅刻厳禁とします。後半の表現系ワークに関しては、休まずに受講すること。

ユニバーサルデザイン

—バリアフリー社会の創造—

西脇 智子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

だれかの不便さをみんなの使いやすさに変える社会を目指したわが国のアイディアは世界をリードしています。この授業では、バリアフリー化を推進してきた「モノ・ひと・サービス」の事例に照らして、これまで他者に対してどのような工夫や配慮をしてきたのかを学んでいきます。福祉社会の創造にむけて、バリアフリー化を啓発する諸活動の意義を探っていきましょう。

【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「研鑽力」を修得し、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになることをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

【授業の内容】

1. 福祉社会とはなにか
2. だれかの不便さとはなにか
3. 共用品推進機構の試み
4. 共用品と配慮点を学ぶ
5. 視覚障害の不便さを知る
6. 聴覚障害の不便さを知る
7. 肢体不自由の不便さを知る
8. 高齢者の不便さを知る
9. 色覚障害の不便さを知る
10. 日本点字図書館の活動を学ぶ
11. グループワーク：音カタログとはなにか
12. グループワーク：てんやく絵本とはなにか
13. 点字を読む
14. 点字を書く
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。
(学修時間 週2時間)
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

教材は資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート40%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）60%。
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

光野有次『みんなでつくるバリアフリー』（岩波書店 2005年）820円、本間一夫『指と耳で読む』（岩波書店 1980年）700円、松森果林『音のない世界と音のある世界をつなぐ』（岩波書店 2014年）860円、田中徹二『不可能を可能に』（岩波書店 2015年）780円

ユニバーサルデザイン論

ユニバーサルデザインの概念を学び、障がい者体験を行います

塚原 肇

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

ユニバーサルデザインとは、あらゆる年齢、体格、国民性の違い、習慣の違う人々が利用可能なような、製品・建物・空間をデザインしようとする試みです。この授業では身近な生活道具を例にとりユニバーサルデザインの実例と設計法を学びます。

【授業における到達目標】

- ・この授業を通して、ユニバーサルデザインの発生から必要性、またバリアフリーとの違いを修得する事ができます。
- ・障がい者疑似体験により、いかにユニバーサルデザイン化が必要であるかを実感することができます。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、互いを尊重し信頼を熟成して、豊かな人間関係を構築することができる【研鑽力】を修得します。

【授業の内容】

- ユニバーサルデザインとは
 01. ユニバーサルデザインの歴史
 02. ユニバーサルデザインの7原則
 03. ユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン
 04. なぜ今ユニバーサルデザインか
 05. いろいろな障がいと健康
 06. ユニバーサルデザインの評価法
- ユニバーサルデザインを体験する
 07. 高齢者体験をする
 08. 車椅子を体験する
 09. 妊婦体験をする
 10. 盲人体験をする
 11. レポート作成
- ユニバーサルデザインの実例
 12. 生活道具とユニバーサルデザイン
 13. 建築とユニバーサルデザイン
 14. 公共空間とユニバーサルデザイン
 15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度見直しして理解できているかどうかを自分なりに判断してください。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問するようにしましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

体験学習のレポート（70%）、授業態度（30%）

体験学習のレポートを全員に提出してもらい、内容に関してのチェックを行う。また、最終日に全体を通しての簡単なテストと感想文を提出してもらい質問等があればmanaba等で回答する。

【注意事項】

授業の中間に障がい者疑似体験を行います。この体験レポートの提出は必須事項ですので必ず履修しましょう。

ライター入門

フィクションとノンフィクションの境界

能地 克宜

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では日本でノンフィクションというジャンルが成立する以前に書かれたものから現代に至るまでの様々な文章を、フィクションとノンフィクションという切り口で捉え、同じテーマに沿って書かれたフィクションとノンフィクションの文章を読むことを通して、それらの相異点や共通点を考えていきます。また、受講のみなさんがライターを志す際に、それらの特徴を自分が書く文章にどう活かしていけるかについて、実際に書いて合評しあう演習形式を取り入れながら確認していきます。この授業で得たものを自身の文章力の糧とするだけでなく、フィクションとノンフィクションの境界線の引き直しについても検討していきましょう。

【授業における到達目標】

- ・ノンフィクションの文章に対する基礎的知識を習得し、ノンフィクションに対して知的探求心を持つことができる。
- ・演習で相互に批評し合い、他者に理解される文章を創り出すことができる。
- ・フィクションとノンフィクションの相異点・共通点を見つけ、それぞれの文章の本質を見極めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 フィクションとノンフィクションの境界
- 第2週 ノンフィクションの歴史
- 第3週 街①観光案内の文章(1)
- 第4週 街②観光案内の文章(2)
- 第5週 街③ルポルタージュ作品(1)
- 第6週 街④ルポルタージュ作品(2)
- 第7週 街⑤小説の中の街(1)
- 第8週 街⑥小説の中の街(2)
- 第9週 演習①テーマ「街案内を書く」
- 第10週 出来事①公害をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第11週 出来事②戦争をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第12週 出来事③女性をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第13週 出来事④労働をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第14週 出来事⑤震災をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第15週 演習②テーマ「歴史・事件・人物・社会・現代を書く」

【事前・事後学修】

事前学修：第1週はシラバスを熟読し、関心を持ったテーマについて調べておくこと。また、第2週以降は、次回扱う文章（配付プリント等）を熟読の上、それぞれのテーマに即した情報を収集しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った文章を再読の上、それぞれのテーマにもとづくフィクションとノンフィクションの特徴をまとめておくこと。また演習時は議論をふまえ、自身の書いた文章を再度書き直しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業で扱う文章はプリントを使用する予定ですが、授業開始時に指示する場合があります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終レポート60%、演習時のレポート及び発表・議論への積極的な参加30%、平常点（コメントペーパー）10%

【参考書】

武田徹 『日本ノンフィクション史 ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』 中公新書 2017年 950円

その他の文献は、必要に応じて授業時に指示します。

【注意事項】

文章を書くためには多くの文章に接する必要があります。この授業で得たテーマや切り口をきっかけとして、各自の興味・関心に沿った文章を見つけていきましょう。また、受講に際してはマナーを守って積極的な姿勢で参加することを心がけてください。

ライフ・プランニング

環境・社会の現状からみたこれからの人間と文化

犬塚 潤一郎

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

皆さんの親の世代が生まれた1970年前後、世界の人口は30億人台でした。現在は70億人台です。10万年といわれる人類史、あるいは数千年の文明史からみても、この増加はきわめて急なもので、人類社会はこれまで経験してこなかった、新たな状況に突入しています。資源・エネルギーの限界・枯渇をはじめ、人間活動が地球のスケールを越えてしまうという事態です。

今日の地球環境危機は、企業活動のゴールや私たちの日々の生活のありようについて、大きな変更を迫っています。それは、人類の文明について本質から考え直すことさえ必要としているようです。環境問題の全体像を認識した上で、どのような未来像、そして現実の選択があり得るのかを考えましょう。

この課題について深く捉えるためには、相互関係的な新しい学の様相と認識が必要です。本講では、風土学mesologieを紹介しながら新しい視点、新しい行動の原理を探ります。

社会にどう関わってゆくべきかを、各自の人生、これからの生活のスケールと合わせて考えてゆきましょう。

【授業における到達目標】

地球環境・資源問題と人間活動との関係について、科学的及び社会的に理解する。対策と文化の関係についての見識を築く。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき本質を見抜く力を育成します。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション：環境問題と人間社会

第2週 地球環境・文明危機と文化研究の現代性

第3週 環境の問題と課題

第4週 データと現象からの理解

第5週 社会の問題と課題

第6週 危機の構造的な理解

第7週 経済と市場の問題

第8週 人間の問題

第9週 近代性と共生の志向

第10週 文化の問題

第11週 風土学の理論

第12週 産業と技術

第13週 環境と倫理

第14週 新たなライフ（人間生活）の構想

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

科学と思想における新しい用語にも多く出会うことになります。各講義において、関連した事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ、講義内容とのつながりの上で理解を深めるようにしてください。

事前：次回向け、指示された基礎概念・用語について調べておいてください。（学修時間 週2時間）

事後：講義内容の理解のもと、応用的に展開する小論課題を提示します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど指示・配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小課題60%、期末の小論文40%。

課題レポートについては、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

適宜指示。

ライフステージと食育

白尾 美佳

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

すべてのライフステージにおいて食育は間断なく行われることが望まれます。そこで、各ライフステージにおける食育実践を通して、将来地域における食育を推進する力をつけることを目標とします。

【授業における到達目標】

各ライフステージに応じた食育を実践できる力をつけることを目標といたします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション, 食育の必要性と国や地域の取組
- 第2週 幼児期・学童期・思春期の食育
- 第3週 幼児期・学童期・思春期における教材開発
- 第4週 幼児期の食育実践
- 第5週 学童期・思春期の食育実践
- 第6週 食育だよりの作成
- 第7週 青年期、妊娠・授乳期の食育
- 第8週 青年期、妊娠・授乳期における教材開発
- 第9週 青年期の食育実践
- 第10週 妊娠・授乳期の食育実践
- 第11週 成人期、高齢期の食育
- 第12週 成人期、高齢期の教材開発
- 第13週 成人期、高齢期の食育実践
- 第14週 運動時、特殊環境で働く人の食育
- 第15週 地域における食育支援

【事前・事後学修】

【事前学修】各ライフステージごとの食育の必要性を勉強しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】各自の食育に対する評価をおこなうこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントなどを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物40%、食育実践発表40%、授業に対する意欲20%で評価します。

食育実践後にフィードバックを行います。

【参考書】

原田まつこ編著『応用栄養学実習』（講談社サイエンティフィック）2,600円

【注意事項】

- ・各ライフステージにおける食育実践では各自が食育実践発表を行い、相互評価を行います。
- ・授業時間以外での地域における食育支援を行うことがあります。
- ・外部講師による講義を行うことがあります。
- ・履修者数ならびに授業の進度によってシラバスの内容が前後することがあります。

ライフステージ栄養学 a

於保 祐子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

年齢や身体状況に応じた栄養摂取が必要であることを学ぶ。包括的な概念と共に、妊婦・授乳婦・乳幼児・学童について栄養摂取上の特性と問題点について学習する。特に胎児・乳幼児は発達速度が著しく、この時期の栄養状態が後の生活習慣病発症の要因になる。人の一生に影響を与えるこの時期の栄養について学んでほしい。

【授業における到達目標】

到達目標：

ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 女性の身体的特徴と栄養
- 第2週 妊娠に伴う身体の変化
- 第3週 妊婦に必要な栄養
- 第4週 胎児の発育と栄養
- 第5週 妊娠合併症と栄養
- 第6週 授乳婦の栄養
- 第7週 新生児の特徴と栄養
- 第8週 母乳栄養と人工栄養
- 第9週 乳児期の栄養
- 第10週 食物アレルギー
- 第11週 幼児期の栄養
- 第12週 学童期の栄養
- 第13週 思春期の栄養
- 第14週 小児のメタボリックシンドローム
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『応用栄養学』、栢下淳、上西一弘編（羊土社 2017年）2,800円（本体）。

他にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価】定期試験 70% 平常点（プリント提出・受講態度）30%

【フィードバック】課題プリントの解説や試験の講評によって行う

ライフステージ栄養学 a

於保 祐子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

年齢や身体状況に応じた栄養摂取が必要であることを学ぶ。包括的な概念と共に、妊婦・授乳婦・乳幼児・学童について栄養摂取上の特性と問題点について学習する。特に胎児・乳幼児は発達速度が著しく、この時期の栄養状態が後の生活習慣病発症の要因になる。人の一生に影響を与えるこの時期の栄養について学んでほしい。

【授業における到達目標】

ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴と栄養
- 第 2 週 妊娠に伴う身体の変化
- 第 3 週 胎児の発育と栄養
- 第 4 週 妊婦に必要な栄養
- 第 5 週 妊娠合併症と栄養
- 第 6 週 授乳婦に必要な栄養
- 第 7 週 新生児の特徴と栄養
- 第 8 週 乳児期の栄養
- 第 9 週 母乳栄養と人工栄養
- 第 10 週 食物アレルギー
- 第 11 週 幼児期の栄養
- 第 12 週 学童期の栄養
- 第 13 週 思春期の栄養
- 第 14 週 小児のメタボリックシンドローム
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『応用栄養学』、栢下淳、上西一弘編（羊土社 2014年）2,800円（本体）。

他にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 80%、平常点（プリント提出・受講態度）20%

毎回プリントを提出の事。次回返却時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

ライフステージ栄養学 b

於保 祐子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

成人から高齢者への生理的变化を理解し、それに適応した栄養のあり方を学ぶ。特にこの時期には生活習慣病が問題となるが、その発症には食生活習慣が大きく影響することを知り、管理の重要性を学ぶ。また、運動や特殊な環境、ストレス下での栄養についても学習する。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・運動や環境変化、ストレス時の身体機能の変化について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 成人期栄養の特性
- 第 2 週 肥満とやせ
- 第 3 週 成人期のエネルギー代謝
- 第 4 週 脂質代謝と動脈硬化
- 第 5 週 循環器の老化
- 第 6 週 脳の老化
- 第 7 週 細胞の老化とがん
- 第 8 週 メタボリック症候群と生活習慣病
- 第 9 週 更年期の栄養
- 第 10 週 加齢に伴う身体の変化
- 第 11 週 高齢期の栄養
- 第 12 週 特殊環境と栄養
- 第 13 週 運動と栄養
- 第 14 週 ストレスと栄養
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『応用栄養学』、栢下淳、上西一弘編（羊土社 2017年）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返却時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

ライフステージ栄養学 b

於保 祐子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

成人から高齢者への生理的变化を理解し、それに適応した栄養のあり方を学ぶ。特にこの時期には生活習慣病が問題となるが、その発症には食生活習慣が大きく影響することを知り、管理の重要性を学ぶ。また、運動や特殊な環境、ストレス下での栄養についても学習する。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・運動や環境変化、ストレス時の身体機能の変化について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 成人期栄養の特性
- 第 2 週 肥満とやせ
- 第 3 週 成人期のエネルギー代謝
- 第 4 週 脂質代謝と動脈硬化
- 第 5 週 循環器の老化
- 第 6 週 脳の老化
- 第 7 週 細胞の老化とがん
- 第 8 週 メタボリック症候群と生活習慣病
- 第 9 週 更年期の栄養
- 第 10 週 加齢に伴う身体の変化
- 第 11 週 高齢期の栄養
- 第 12 週 特殊環境と栄養
- 第 13 週 運動と栄養
- 第 14 週 ストレスと栄養
- 第 15 週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

五明紀春ほか著「応用栄養学」（朝倉書店 2016年改訂版）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返却時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

ライフステージ栄養学実習

白尾 美佳

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

ライフステージにおける身体的・行動的特性と栄養管理（栄養マネジメント）の知識を習得すると共に、身体状況や生理的变化に基づいた栄養状態の評価・栄養計画、各ライフステージにおける特徴的な疾病の予防と対策について理解を深めることを目標とします。

【授業における到達目標】

ライフステージにおける身体的特性と栄養管理の知識を習得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 栄養アセスメント
エネルギー消費量の推定
- 第2週 新生児期、乳児期の特性と栄養管理
- 第3週 幼児期の特性と栄養管理
- 第4週 学童期、思春期の特性と栄養管理
- 第5週 妊娠期、授乳期の特性と栄養管理
- 第6週 成人期の特性と栄養管理
- 第7週 高齢期の特性と栄養管理
- 第8週 運動時の特性と栄養管理

【事前・事後学修】

【事前学修】講義で学んだ各教科を身に付けておく。それぞれの授業前にはグループにて作業をしていただきます。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】各ライフステージにおける栄養について復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

原田まつこ 他：応用栄養学実習[講談社サイエンティフィック、2016、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート、ノートなどの提出物60%、授業に対する意欲40%で評価します。

各実習後にフィードバックを行います。

【参考書】

文部科学省：『日本食品標準成分表2018』（7訂）全官報 2017年発行 2158円

文部科学省：『日本食品標準成分表2018版』（7訂）追補2017編 2017年発行 全官報 1726円

木戸康博 他編：『応用栄養学実習』講談社サイエンティフィック 2013年発行 2808円

【注意事項】

- ・内容が前後することがあります。
- ・各回の授業内で次回の説明を行います。
- ・授業以外で課題を行う必要があります。
- ・教室を変更して授業をする場合があります。
- ・学外より招聘した講師により講義を聞く場合があります。
- ・実習はグループごとに協力して実施して下さい。

ライフステージ栄養学実習

高橋 加代子・奈良 典子

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

ライフステージ栄養学実習では、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について、実習を通して理解を深める。健康増進・疾病予防に寄与する栄養素や食事摂取基準の理論・活用を学び、実習を通して各ライフステージにおける食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理の技術を習得する。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し課題を発見すること、目標を設定して計画を立案できることを目標とする。

【授業の内容】

1. ライフステージ別栄養管理
 - 1) 各ライフステージの特徴
 - 2) 食事摂取基準の具体的活用
2. 妊娠期・授乳期
 - 1) 身体状況・栄養状態
 - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
3. 乳児期・幼児期
 - 1) 身体状況・栄養状態
 - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
 - 3) 調乳・離乳食
4. 学童期・思春期
 - 1) 身体状況・栄養状態
 - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
5. 成人期・更年期
 - 1) 身体状況・栄養状態
 - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
 - 3) 食事計画
6. 高齢期
 - 1) 身体状況・栄養状態
 - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
7. 総合実習（まとめ）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。事前に提示する項目を調べてレポートを作成すること。
(学修時間：週2時間)

【事後学修】指定した課題を提出すること。
実習レポートを作成すること。
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

日本人の食事摂取基準（2015年版）〔第一出版、2014、¥2,700(税抜)〕
栄養化学イラストレイテッド 応用栄養学〔羊土社、2014、¥2,800(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート・課題70%、実習態度30%
レポートや課題を確認し、実習内で解説を行う。

【参考書】

『食事摂取基準による栄養管理・給食管理』（建帛社）
『ライフステージ別栄養管理・実習〔第2版〕』（建帛社）
『これからの応用栄養学演習・実習―栄養ケアプランと食事計画・供食―』（朝倉書店）

リーダーシップ開発A

松下 慶太

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

す。履修希望者が多い場合は選考を行う場合があります。詳細は前期の履修ガイダンスおよびmanabaで説明するので良く確認してください。

【授業のテーマ】

リーダーシップはチームや組織で権限を持った一人が他の人に指示をして発揮するというイメージが強いかもしれませんが、近年では「シェアド・リーダーシップ」「権限なきリーダーシップ」と言われるように、メンバーそれぞれが発揮すべきものと言われるようになりました。またビジネスや地域活動もプロジェクトとして行われることが増えていますが、そこでは多様なメンバーがそれぞれの強みを活かしつつ、チームとして力を発揮することが成果につながると言われています。そういった意味で、リーダーシップはチームとして成果を挙げるために個人がどのように動くかという態度・スキルだと言えます。そのため、自分の強みを活かしたリーダーシップはこれまで以上にチーム全員が身につけておくべき態度・スキルのひとつと言えるでしょう。この演習では具体的なプロジェクトを企画・実践することを通して、履修者それぞれの強みを発見し、それを活かしたリーダーシップを開発・発揮することを目指します。

【授業における到達目標】

- リーダーシップと自分の強みについての理解を深める。
- リーダーシップを実践する。
- 「行動力」「協働力」を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
 2. チームビルディングとリーダーシップ目標の設定
 3. プレイフル・ラーニング
 4. ファシリテーションとワークショップ
 5. プロジェクトAの準備（設計）
 6. プロジェクトAの準備（プレ実践）
 7. プロジェクトAの実践
 8. プロジェクトAの振り返り
 9. チームでの相互フィードバック1
 10. プロジェクトBの準備（設計）
 11. プロジェクトBの準備（プレ実践）
 12. プロジェクトBの実践
 13. プロジェクトBの振り返り
 14. チームでの相互フィードバック2
 15. 未来に向けての行動指針の設定
- ※ほぼすべての週でグループワークによる活動が行われます。

【事前・事後学修】

- 各授業回で提示された個人・グループ課題について次回授業までに行い、オンラインシステムで提出すること（週2時間相当）。
- 各授業回においてグループで設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行うこと（週2時間相当）。

【テキスト・教材】

オンラインで配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- プロジェクトへの参加度(50%)
 - プロジェクト成果への評価(50%)
- ※グループ、個人のパフォーマンスについて授業前後、研究室、オンラインなどでフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、指示する。

【注意事項】

- 具体的なプロジェクトを企画・実践する中で授業時間外での準備・活動・学習が求められることが多いので積極的かつ主体的に学ぶことを目指す学生の履修を望みます。日程などの詳細は初回ガイダンスで説明します。
- プロジェクト形式で進めるために30名程度の履修制限を行います。

リーダーシップ特論

谷内 篤博

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

組織とは、目標達成のために意図的に作られたもので、目標達成には組織メンバーの目標に対するコミットメントを高め、協働意欲を効果的に引き出していくリーダーシップが必要不可欠である。

本講義では、こうしたリーダーシップの理論を体系的に学ぶとともに、自己のリーダーシップスタイル診断やリーダーシップの根源ともいべきパワー診断を通じて、組織における効果的なリーダーシップの発揮の仕方を学ぶことを目標としている。

また、単に講義形式による授業に終始することなく、リーダーシップに関するケーススタディやロールプレイングなどを導入した参加型・体験型の講義にしていきたいと考えている。

【授業における到達目標】

本講義を通してリーダーシップに関する専門的知識を修得するとともに、効果的なリーダーシップの発揮の仕方を体得することができる。さらに、ディプロマ・ポリシーである高度専門職業人としての問題解決能力や社会に貢献できるリーダーシップを修得することができる。

【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの倫理性とフォロアーの能動性
- 第3週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第4週 リーダーシップの諸理論②（4つの状況適合理論）
- 第5週 SL理論に基づくケーススタディ
- 第6週 リーダーシップの新潮流①（カリスマ的、変革型を中心に）
- 第7週 リーダーシップの新潮流②（管理者行動論、E型リーダーシップを中心に）
- 第8週 リーダーシップとパワー（パワーの自己診断を含む）
- 第9週 リーダーシップとマネジメントの異同
- 第10週 組織開発（OD）とリーダーシップ
- 第11週 組織文化とリーダーシップ
- 第12週 リーダーシップ代替物アプローチ
- 第13週 リーダーシップとコーチング
- 第14週 サーバントリーダーシップとフォロアーリーダーシップ
- 第15週 リーダーシップに関する今日的課題

【事前・事後学修】

事前学修：レジュメ作成の事前準備と予備的学修（学修時間 週2時間）

事後学修：学修内容の振り返りと次回の授業内容の予習（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、毎回レジュメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢（30%）、最終レポート（70%）で評価をする。なお、授業内で毎回実施する質疑に関しては、その都度、的確に答え、学習効果があがるようフィードバックをする。

【参考書】

- 金井壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社、2005年
- 坂田桐子・淵上克義編『社会心理学におけるリーダーシップ研究のパーспекティブ I』ナカニシヤ出版、2008年

【注意事項】

議論やディスカッションを重視する授業であるため、授業への積極的な参加が必要となる。

リーダーシップ論

森 理宇子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

変化の速い現代社会においては、所属組織やコミュニティの一員として、個人個人ができることを行い、属するコミュニティに変化を起こすことが求められています。そのためにはリーダーシップを発揮することが必要不可欠です。リーダーシップはあらゆる分野の組織で求められます。本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけます。リーダーシップはある特定の人だけが生まれつきもつものではなく、学び高めることができると考えます。授業を通じてリーダーシップを開発します。

【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップ実践に取り組むことができるようになる。

以上を通じて学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮する上で基礎となる知識や態度を向上させます。

【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第3週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第4週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第5週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ、共有型リーダーシップ）
- 第6週 多様なリーダーシップスタイル
- 第7週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第8週 リーダーシップ持論と実践
- 第9週 リーダーシップと信頼
- 第10週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第11週 リーダーシップと組織
- 第12週 リーダーシップ実践の振り返りと課題発見
- 第13週 変化への戦略とリーダーシップ
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定されたレポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容・配布プリント・レポート課題等を復習すること。次回の授業内容を予習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験70%、リアクション・ペーパー・課題レポート30%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出後2週間以内に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

金井壽宏著『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年
 スーザン・R・コミベズ、ナンス・ルーカス、ティモシー・R・マクマホン著（日向野幹也監訳）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版 2017年

【注意事項】

授業内でグループワークやグループディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が求められます。

リーダーシップ論

森 理宇子

3年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

変化の速い現代社会においては、所属組織やコミュニティの一員として、個人個人ができることを行い、属するコミュニティに変化を起こすことが求められています。そのためにはリーダーシップを発揮することが必要不可欠です。リーダーシップはあらゆる分野の組織で求められます。本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけます。リーダーシップはある特定の人が生まれつきもつものではなく、学び高めることができると考えます。授業を通じてリーダーシップを開発します。

【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップ実践に取り組むことができるようになる。

以上を通じて学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮する上で基礎となる知識や態度を向上させます。

【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第3週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第4週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第5週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ、共有型リーダーシップ）
- 第6週 多様なリーダーシップスタイル
- 第7週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第8週 リーダーシップ持論と実践
- 第9週 リーダーシップと信頼
- 第10週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第11週 リーダーシップと組織
- 第12週 リーダーシップ実践の振り返りと課題発見
- 第13週 変化への戦略とリーダーシップ
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定されたレポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容・配布プリント・レポート課題等を復習すること。次回の授業内容を予習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験70%、リアクション・ペーパー・課題レポート30%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出後2週間以内に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

金井壽宏著『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年
スーザン・R・コミベズ、ナンス・ルーカス、ティモシー・R・マクマホン著（日向野幹也監訳）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版 2017年

【注意事項】

授業内でグループワークやグループディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が求められます。

リーダーシップ論

森 理宇子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

変化の速い現代社会においては、所属組織やコミュニティの一員として、個人個人ができることを行い、属するコミュニティに変化を起こすことが求められています。そのためにはリーダーシップを発揮することが必要不可欠です。リーダーシップはあらゆる分野の組織で求められます。本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけます。リーダーシップはある特定の人が生まれつきもつものではなく、学び高めることができると考えます。授業を通じてリーダーシップを開発します。

【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップ実践に取り組むことができるようになる。

以上を通じて学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮する上で基礎となる知識や態度を向上させます。

【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第3週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第4週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第5週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ、共有型リーダーシップ）
- 第6週 多様なリーダーシップスタイル
- 第7週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第8週 リーダーシップ持論と実践
- 第9週 リーダーシップと信頼
- 第10週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第11週 リーダーシップと組織
- 第12週 リーダーシップ実践の振り返りと課題発見
- 第13週 変化への戦略とリーダーシップ
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定されたレポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容・配布プリント・レポート課題等を復習すること。次回の授業内容を予習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験70%、リアクション・ペーパー・課題レポート30%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出後2週間以内に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

金井壽宏著『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年
スーザン・R・コミベズ、ナンス・ルーカス、ティモシー・R・マクマホン著（日向野幹也監訳）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版 2017年

【注意事項】

授業内でグループワークやグループディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が求められます。

リーダーシップ論

森 理宇子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

変化の速い現代社会においては、所属組織やコミュニティの一員として、個人個人ができることを行い、属するコミュニティに変化を起こすことが求められています。そのためにはリーダーシップを発揮することが必要不可欠です。リーダーシップはあらゆる分野の組織で求められます。本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけます。リーダーシップはある特定の人が生まれつきもつものではなく、学び高めることができると考えます。授業を通じてリーダーシップを開発します。

【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップ実践に取り組むことができるようになる。

以上を通じて学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮する上で基礎となる知識や態度を向上させます。

【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第3週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第4週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第5週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ、共有型リーダーシップ）
- 第6週 多様なリーダーシップスタイル
- 第7週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第8週 リーダーシップ持論と実践
- 第9週 リーダーシップと信頼
- 第10週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第11週 リーダーシップと組織
- 第12週 リーダーシップ実践の振り返りと課題発見
- 第13週 変化への戦略とリーダーシップ
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定されたレポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容・配布プリント・レポート課題等を復習すること。次回の授業内容を予習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験70%、リアクション・ペーパー・課題レポート30%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出後2週間以内に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

金井壽宏著『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年
 スーザン・R・コミベズ、ナンス・ルーカス、ティモシー・R・マクマホン著（日向野幹也監訳）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版 2017年

【注意事項】

授業内でグループワークやグループディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が求められます。

リスクマネジメント

天災・犯罪・ストレスなどから自分自身を守る方法

増田 貴之

1・2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちが暮らす社会にはたくさんのリスク（潜在的な危険）があり、この授業は簡単に言うと「様々なリスクから自分自身を守り、健康で心穏やかな人生を送る方法」を学ぶものです。

なおこの授業ではリスクを以下の三つに分類し、それぞれに対する具体的な対策を勉強していきます。

<自分の外にあるリスク>

- ①天災（地震、洪水、火山噴火、竜巻、落雷など）
- ②人災（様々な犯罪、例えばストーカー、ハラスメント、盗聴・盗撮、ネット詐欺、窃盗など）

<自分の中にあるリスク>

- ③体と心の不調（ストレス、睡眠障害、各種依存症など）

【授業における到達目標】

この授業の目標はまず、「自分の身を自分で守るための、実践的な知識を身に付ける事」、そして「常に自分の頭で考える癖をつける事」です。そして身を守る知識と自分自身で考える習慣を身に付けた上で、これらに基づき、実際にリスクに直面した時に正しく対策を取れる「行動力」、今までなかった大規模災害や新たな犯罪手口について、継続的に学び対処する「研鑽力」を持つ事が大切です。また今後外国人観光客、労働者が一層増加しますから、「国際的視野」を持って上手に彼らと接する方法にも頭を使いましょう。

【授業の内容】

- 第1週 防犯・リスク管理「その1 基礎」
- 第2週 防犯・リスク管理「その2 日常生活」
- 第3週 防犯・リスク管理「その3 自宅周辺の危険を知ろう」
- 第4週 防犯・リスク管理「その4 ネット詐欺・悪質訪問販売への対応」（最新事例紹介とクーリングオフの手続き）
- 第5週 ストレス管理「ストレスレベルチェックと、タイプ別ストレス解消法」
- 第6週 防犯・リスク管理「その5 外出時その他」（歩行中交通機関利用中、海外渡航時など。盗聴・盗撮対策）
- 第7週 天災への備え「その1 日ごろからの地震対策」
- 第8週 天災への備え「その2 地震被災時に身を守る手段と情報の入手、洪水・火山噴火などその他の災害への備え」
- 第9週 ストーカー対策「その1 ストーカーのタイプと手口」
- 第10週 ストーカー対策「その2 ストーカー行為を止める方法、警察への通報手続き」
- 第11週 ハラスメント対策「その1 セクハラとその対策」
- 第12週 ハラスメント対策「その2 パワハラ及びその他のハラスメントとその対策」
- 第13週 睡眠障害対策「その1 自分の睡眠パターンを知ろう」
- 第14週 睡眠障害対策「その2 睡眠障害の原因と対策」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：配付資料を毎回よく読んでから出席して下さい。（学修時間 週2時間程度）
- ・事後学修：毎回学習したリスクについて、自分の生活に当てはめて必要な対策を取って下さい。（学修時間 週6時間程度）

【テキスト・教材】

毎回、翌週使用する印刷物等の資料を配付します。また授業後コメントシートを提出してもらいますが、翌週そのシートで寄せられたコメントや質問への回答をプリントにして配布し、皆さんへのフィードバックとしています。履修生が多く授業中に質疑応答の時間を長く取れないので、このプリントで他の人が授業内容のどんな点に注目したのか、どんな質問をしたのかなど、参考にして下さい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、授業後提出するコメントシートの内容）を70%、学期末のレポートを30%の比重とし、総合的に評価します。

【参考書】

ストレス対策、進路の考え方などについて、図書館に寄贈してある参考図書を授業の中で紹介します。

【注意事項】

地震対策の一環として、抜き打ちで机の下に素早く隠れる訓練をする場合があります。

自分自身が捻挫したり隣の人をケガさせる恐れがあるので、高いヒールなどでの受講は避けて下さい。

レストランマネジメント

ホテルレストランの接客技能

高松 克之

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

食事は洗礼された儀式であり生きる基軸です。文化・宗教や意見の異なる人にも対応する術を知ることで交流が深まりコミュニケーション能力が高まります。サービスとは人間性が顕著に現れるため日頃の生活習慣や考え方、環境・体調によって日々変化します。人間が一番評価される商品である自覚を学びます。そのための技術を習得して接客技術を知識として身に付けるのが目標です。

【授業における到達目標】

- 自己の特異性を知り、適切な環境（生活・仕事・能力）を発見する感性を養う
- 正解は1つではないことを理解して、現状に満足せず積極的なチャレンジを試みる能力
- 他喜力と絆を知り、コミュニケーション力を高める態度を養う以上を目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション 授業の内容と進め方
- 第2回 レストラン・接客の基本① 接客術 ラポール
- 第3回 レストラン・接客の基本② お客様の心理を理解する
- 第4回 レストラン実技① テーブルサービス説明
- 第5回 レストラン実技② テーブルサービス練習
- 第6回 レストラン実技③ 実技テスト 評価30%
- 第7回 レストラン実技④ お客様の対応技術
(外部講師招聘で積極的な質疑応答を求める)
- 第8回 レストランでの会食・緊張感を共有する
- 第9回 レストランで学んだことを再確認する。
- 第10回 苦情と不満とは 食中毒
- 第11回 デクバージョン ①オレンジ・キウイ盛り付け技術
- 第12回 デクバージョン ②シーザースサラダ
- 第13回 レストランウエディングを創る
- 第14回 創作レストランウエディングのグループ発表
- 第15回 ホテルの達人について

【事前・事後学修】

事前学修 週2H：次回の課題（宿題）を与えるので、個人またはグループで準備する。（例）グループでレストランブライダル企画を作成してパワーポイントでの発表。

事後学修 週2H：授業に配布したプリントを理解してテストに備える。実技は課題を復習しテストに備える。

【テキスト・教材】

授業に関してのプリントは毎回配布する。第8回目の授業はレストランで会食するので5,000円の経費及び第11回目、第12回目の実技には合わせて800円のマテリアルが必要。合計5,800円を事前に徴収する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実技試験30%、レポート内容40%、期末筆記試験30%

採点の基本は全出席とし、レポート提出は必然です。

授業に積極的に参加している学生には独断にて加点します。将来目標設定表（書き方は授業にて説明）を提出していただき授業理解度をフィードバックにて確認します。

【参考書】

- 絆が生まれる瞬間 高野豊
- 7つの習慣 スティービー・R・コヴィー
- 人を動かす D・カーネギー
- サービス業のためのホスピタリティ 清水均

【注意事項】

遅刻は交通機関の遅延のほかは原則受け付けません。実技の時は身だしなみを整えてください（長い髪は後ろにまとめる、靴はパンプス）。レストラン会食はリクルートスーツ着用。受講人数制限があります。

ワーク・ライフ・バランス論

女性の生涯のキャリアデザイン演習

山根 純佳

2年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

女性が働きつづけるために必要な実践的、理論的知識を身につけることを目的とします。企業における女性の地位、婚姻、育児休業制度や短時間勤務制度などの状況、両立のための社会的支援（保育サービスや介護サービス）、社会保障制度（年金）などをとおして、生涯にわたる女性のキャリア・プランについて考察します。

演習形式ですので、教員の講義と学生の報告の二本立てです。

【授業における到達目標】

- 1) 女性の雇用をめぐる社会的課題と解決策を主体的に考察し、自らのキャリア・プランを明確にすることができる。
- 2) 雇用問題や社会保障政策など関連する情報を収集し、解説するリテラシーを習得できる。
- 3) インタビュー調査の基本的な技能を獲得できる。
- 4) 以上の学びをとおして、学修成果を実感して、自信を創出する研鑽力を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 結婚をめぐる社会変化 未婚化と離婚
- 第3週 出産と女性のキャリア
- 第4週 育児と女性のキャリア
- 第5週 両立支援の企業の制度
- 第6週 両立のための社会サービス
- 第7週 育児と介護のダブルケア
- 第8週 シングルで生きる
- 第9週 ワーク・ライフ・バランスについて学ぼう
- 第10週 ライフキャリアを考えてみよう
- 第11週 キャリアの多様性を知ろう 社会人へのインタビュー
- 第12週 キャリアの多様性を知ろう 社会人へのインタビューから考える
- 第13週 社会人へのインタビュー 結果のまとめ
- 第14週 働きはじめてからのトラブルに備えて
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：データを用いたプレゼンテーションを1回、インタビュー調査をもとにしたプレゼンテーションを1回、ひとり計2回のプレゼンテーションをします。これらの準備、インタビューの実施等は事前学修としておこなっていただきます。その他新聞等のメディア情報をおとして、女性が働くことの課題について情報を収集しておくこと。（学修時間週2時間）

事後学修：合計8回の課題を出すので、締め切りまでに必ず提出すること。締め切り後の提出は減点にする（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

- ・プリントを用意する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼンテーションの内容10%、ディスカッションやグループワークへの貢献度10%、授業期間内の小レポート40%、期末レポート40%。

プレゼンテーションの内容、小レポートの内容に対しフィードバックをおこない、確認と復習をおこなう。

【注意事項】

- ・学生のプレゼンテーションを交えた演習のため受講者を30名に絞ります。人数を超過した場合は、初回に抽選を実施し、受講者を決定します。

異文化コミュニケーション論

久保田 佳枝

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、現代における諸現象を通して、「文化」というものに学際的（人類学・心理学・言語学・社会学・経営学など）にアプローチしていきます。各回の授業では、学術的な基礎理論を概観しながら、必要に応じて、映画やテレビなどの題材を通して理解を深めていく。他者の理解を目指す異文化コミュニケーションを学習することは、普段、何気なく感じている周囲と行動様式や考えなどの違いを認識することにも繋がります。

【授業における到達目標】

この授業は、多様なものの見方・考え方を養うことを目標としています。また、異文化コミュニケーションへの理解を深めることで、国際的視野をも養いながら、美の探求および研鑽力の育成も目指します。

【授業の内容】

01. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方等の説明）
02. 異文化コミュニケーションを学ぶということ
03. 文化・コミュニケーション
04. 自文化中心主義・文化相対主義
05. 自己とアイデンティティ
06. ステレオタイプ・偏見・差別
07. 価値観・思考パターン①全体講義
08. 価値観・思考パターン②グループワーク
09. 映像で見る異文化コミュニケーションの事例①
10. 映像で見る異文化コミュニケーションの事例②
11. 言語コミュニケーション
12. 非言語コミュニケーション
13. カルチャーショック・異文化適応
14. 異文化コミュニケーション能力
15. まとめ

※外部講師による講義を予定しています（日程未定）。

※クラスの状態によって、順番が変更される場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】指定教科書の該当箇所（授業範囲）を読んでおくこと。（学修時間は週2時間）

【事後学修】授業内容の理解を深めるために、専門用語を理解したり、授業内容をノートやレポートとしてまとめたりしておくこと。（学修時間は週2時間）

【テキスト・教材】

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人：はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて〔有斐閣、2013、¥2,000(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点40%（授業への積極的な参加と貢献度等含む）、中間レポート30%、期末課題30%として総合評価を行なう。
- ・リアクションシート等は次回授業でフィードバックを行なう。

【注意事項】

- ・15分以内の遅刻の場合には、前にある出席票に記入し、退出前に提出をしてください。
- ・遅刻は3回で1回の欠席、また授業開始15分を過ぎた遅刻は欠席扱いとなるため、注意してください。

異文化理解

阿佐美 敦子・時田 朋子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

グローバル化が加速的に進行する中、自・他の文化を理解することは必須のことです。自文化の中での自己のアイデンティティの確立また身近な存在としての在日外国人の理解、いかにして共存・共栄を目指す国際社会への貢献を行うかなどの議論が必要とされています。

これらの課題はこれからも社会を発展させていく核となり得るので、異文化理解に必要なアプローチや考え、自・他の文化理解、文化摩擦などを実体験を通じながら議論します。

尚、授業は2名の教員のコラボレーションにより行われます。前半は異文化コミュニケーションとは何かを、コミュニケーションの基本概念を学びながら考えていきます。後半は異文化理解・国際理解を深めるために避けては通れない人権、環境、教育、言語などについて、事例をもとに考えていきます。

【授業における到達目標】

多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、国際的視野を修得します。国内外の人々と交流を深めるためには英語等外国語のみならず、実際に英語を運用する際に必要となるカルチャラル・リテラシーの修得が必要です。すなわち文化的・社会的知識を身に付け、さらに自文化を知って、世界に発信しようとする態度の養成を行います。

【授業の内容】

- 第1週 異文化コミュニケーションとは何だろう
- 第2週 コミュニケーション・スタイルの違い
- 第3週 言語コミュニケーション
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 相手と自分の価値観を知ろう
- 第6週 世界の人々は何を信仰しているのか
- 第7週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第8週 文化が異なるとはどういうことか
- 第9週 世界の言語～ワールド・イングリッシュ World Englishes
- 第10週 日本の少数民族—アイヌ
- 第11週 人権—米国公民権法案成立までの道のりと余波
- 第12週 環境と異文化理解
- 第13週 教育—ユネスコ・学習権
- 第14週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、担当教員より示された翌週の授業内容について文献等を調べ、あらかじめ基礎的な背景となる事象を知った上で授業に臨むように努めてください。学修時間 週2時間

事後学修として、授業内容をより深く理解し、また周辺の知識を得ることができるよう、関連する情報等を集めて理解する努力をしてください。学修時間 週2時間

【テキスト・教材】

パワーポイントの提示、ハンドアウトの配布をします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 80%、平常点すなわち授業への積極的参加度・提出課題 20% を総合的に評価します。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【注意事項】

各週の授業内容は、よりスムーズな進行のため、変更および振り替えになることがあります。

異文化理解

阿佐美 敦子・時田 朋子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

グローバル化が加速的に進行する中、自・他の文化を理解することは必須のことです。自文化の中での自己のアイデンティティの確立また身近な存在としての在日外国人の理解、いかにして共存・共栄を目指す国際社会への貢献を行うかなどの議論が必要とされています。

これらの課題はこれからも社会を発展させていく核となり得るので、異文化理解に必要なアプローチや考え、自・他の文化理解、文化摩擦などを実体験を通じながら議論します。

尚、授業は2名の教員のコラボレーションにより行われます。前半は異文化コミュニケーションとは何かを、コミュニケーションの基本概念を学びながら考えていきます。後半は異文化理解・国際理解を深めるために避けては通れない人権、環境、教育、言語などについて、事例をもとに考えていきます。

【授業における到達目標】

多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、国際的視野を修得します。国内外の人々と交流を深めるためには英語等外国語のみならず、実際に英語を運用する際に必要となるカルチャラル・リテラシーの修得が必要です。すなわち文化的・社会的知識を身に付け、さらに自文化を知って、世界に発信しようとする態度の養成を行います。

【授業の内容】

- 第1週 異文化コミュニケーションとは何だろう
- 第2週 コミュニケーション・スタイルの違い
- 第3週 言語コミュニケーション
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 相手と自分の価値観を知ろう
- 第6週 世界の人々は何を信仰しているのか
- 第7週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第8週 文化が異なるとはどういうことか
- 第9週 世界の言語～ワールド・イングリッシュ World Englishes
- 第10週 日本の少数民族—アイヌ
- 第11週 人権—米国公民権法案成立までの道のりと余波
- 第12週 環境と異文化理解
- 第13週 教育—ユネスコ・学習権
- 第14週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、担当教員より示された翌週の授業内容について文献等を調べ、あらかじめ基礎的な背景となる事象を知った上で授業に臨むように努めてください。学修時間 週2時間

事後学修として、授業内容をより深く理解し、また周辺の知識を得ることができるよう、関連する情報等を集めて理解する努力をしてください。学修時間 週2時間

【テキスト・教材】

パワーポイントの提示、ハンドアウトの配布をします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 80%、平常点すなわち授業への積極的参加度・提出課題 20% を総合的に評価します。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【注意事項】

各週の授業内容は、よりスムーズな進行のため、変更および振り替えになることがあります。

衣環境設計学演習 A

川上 梅

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

衣環境設計に関する最近の研究動向や新しい研究手法を知るために、国内外の文献を収集し輪読して討議する。次いで各種データの分析手法や三次元データの平面展開などを具体的データに基づいて演習し、研究手法について理解を深める。

【授業における到達目標】

国際的視野から産業としての衣服設計の現状を理解し課題を発見すると共に、データの分析手法を学ぶことを、本授業の到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 国内文献収集
- 第2週 国内文献購読
- 第3週 国内文献ディスカッション
- 第4週 海外文献収集
- 第5週 海外文献購読
- 第6週 海外文献ディスカッション
- 第7週 一次元身体計測データの採取
- 第8週 身体計測の誤差
- 第9週 身体計測データの解析
- 第10週 身体計測データの特徴
- 第11週 立体裁断法による原型採取
- 第12週 身体形態と原型、ゆとり量
- 第13週 身体形態と原型、動作適合性
- 第14週 原型とパターン
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修] 次回授業のレポート・発表等の準備に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

[事後学修] 前回授業の内容を確認しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

開講時に教材となる資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(50%)、発表等(50%)で総合的に評価。フィードバックはレポート返却時、またはその都度評価を伝える。

【参考書】

適宜、参考書を紹介します。

衣環境設計学特論 A

川上 梅

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

着衣基体としての人体形態を成長・老化、人種差、男女差、個人差の観点から理解し、さらに運動機能・衛生機能を考慮した快適な衣環境設計について理解する。すなわち、人体形態データの既製衣料サイズ設定から衣服パターン設計までを講述する。

【授業における到達目標】

衣服設計の基本となる人体に関する基本的な知識を得ると共に、体型とパターンとの関係を理解することを、本授業の到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 衣服設計を目的とした人体形態把握の歴史
- 第2週 人体形態把握法
- 第3週 一次元データ解析
- 第4週 人体形態の変異
- 第5週 既製衣料サイズ
- 第6週 二次元的データ解析
- 第7週 三次元データ解析方法の紹介
- 第8週 子どもの人体形態と衣服
- 第9週 成人の人体形態と衣服
- 第10週 高齢者の人体形態と衣服
- 第11週 人種による人体形態の違い
- 第12週 人体形態と上衣原型
- 第13週 人体形態と下衣原型
- 第14週 原型と運動機能性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修] レポート・発表等の準備に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

[事後学修] レポート・発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

開講時に教材となる資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(50%)、発表等(50%)で総合的に評価。フィードバックはレポート返却時、またはその都度評価を伝える。

【参考書】

適宜、参考書を紹介します。

衣服製作実習 a

松岡 久美子

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

【授業のテーマ】

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

【授業における到達目標】

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学習内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

【テキスト・教材】

担当で作成のテキストを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

【参考書】

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

【注意事項】

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。

衣服製作実習 a

松岡 久美子

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

【授業のテーマ】

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

【授業における到達目標】

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学習内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

【テキスト・教材】

担当で作成のテキストを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

【参考書】

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

【注意事項】

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。

衣服製作実習 a

松岡 久美子

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

【授業のテーマ】

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

【授業における到達目標】

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学習内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

【テキスト・教材】

担当で作成のテキストを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

【参考書】

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

【注意事項】

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。

衣服製作実習 b

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野○】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に上達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力○】【研鑽力】を高めめます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探究○】の態度を養います。

【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

衣服製作実習 b

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野○】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に上達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力○】【研鑽力】を高めめます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探究○】の態度を養います。

【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衤付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衤製作①（本衤しるし付け・本衤付け・三つ衤芯入れ・衤先の始末・衤本ぐけ）
8. 衤製作②（掛け衤しるし付け・掛け衤付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

衣服製作実習 b

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野○】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に上達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力○】【研鑽力】を高めめます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探究○】の態度を養います。

【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細目木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

衣服製作実習 b

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ること【国際的視野○】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に上達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力○】【研鑽力】を高めめます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探究○】の態度を養います。

【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

衣服製作実習 b

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野○】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に上達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力○】【研鑽力】を高めめます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探究○】の態度を養います。

【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

衣服製作実習 c

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探求

【授業のテーマ】

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

【授業における到達目標】

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

【授業の内容】

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

【事前・事後学修】

【事前学修】 前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

【注意事項】

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

衣服製作実習 c

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探求

【授業のテーマ】

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

【授業における到達目標】

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

【授業の内容】

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

【事前・事後学修】

【事前学修】前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

【注意事項】

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

衣服製作実習 c

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探求

【授業のテーマ】

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

【授業における到達目標】

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

【授業の内容】

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

【事前・事後学修】

【事前学修】 前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

【注意事項】

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

衣服製作実習 c

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探求

【授業のテーマ】

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

【授業における到達目標】

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

【授業の内容】

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

【事前・事後学修】

【事前学修】 前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

【注意事項】

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

衣文化論

大川 知子
1年～ 前期 2単位
◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「衣＝ファッション」について、フランスや日本を中心に、その歴史を踏まえて、それぞれの時代に表出してきたファッションの社会的・文化的背景について学ぶ。各時代を追いながら、世界各国のファッションの形成過程の特徴や、現代ファッションを捉える上での様々な視点についても学ぶ。

【授業における到達目標】

1. フランスを中心とする、各時代のファッションの社会との関連性を理解し、国際的視野を持つことができるようになる。
2. ファッション史上、重要なデザイナー達の活動を通して、歴史に残る製品について学び、ファッションに対する研鑽力を高める。
3. 各時代の様々な事象を通して、知を求め、心の美を育む態度、そして、美を探究する力を付ける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション—文化として捉えるファッション
- 第2週 オートクチュールの勃興
- 第3週 女性解放の象徴としてのファッション
- 第4週 戦時下のファッション
- 第5週 日本における洋装化
- 第6週 第二次世界大戦後のファッション
- 第7週 米国ファッションの概観
- 第8週 英国ファッションの形成
- 第9週 若年化するファッション①米国
- 第10週 若年化するファッション②英国・フランス
- 第11週 デニムのファッション化
- 第12週 日本における欧米ファッションの需要
- 第13週 日本のファッションの可能性①1970年代から1990年代
- 第14週 日本のファッションの可能性②2000年代
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

歴史の連続性の中で、前後の講義内容が関連を持つため、一回ずつの内容について予習復習をしておくこと（学修時間 週1時間）。事前に課題を提示する場合もある（学修時間 週3時間）。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、提出課題20%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に翌週以降に返却と解説を行う。

【参考書】

1. 深井晃子監修『カラー版 西洋服飾史』（美術出版社、2010年）2,500円（税別）
2. キャリー・ブラックマン『ウィメンズウエア』（Pバイン・ブックス、2012年）3,800円（税別）
3. ディディエ・グランバック『モードの物語』（文化出版局、2013年）8,000円（税別）
4. 渡辺明日香『TOKYOファッションクロニクル』（青幻舎、2016年）2,800円（税別）

【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

衣文化論

ファッションと歴史・芸術・社会・文化

青木 淳子
1年～ 後期 2単位
◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「装い」を文化的に捉え、歴史をベースに身体、精神、政治等との関係性を解く。

現代ファッションには、いたるところに過去の服飾文化の影響をみることができる。この授業ではまず日本と西洋の歴史における服飾文化を学び、さらにそれらが時空を超えて現代の私達の装いとどのように関わっているのかを、政治、芸術、ジェンダー、メディア等を視点に考えていく。

【授業における到達目標】

- (1) 古代から近代に至る、日本と西洋における服飾文化の基本的な事柄を理解する。
- (2) 雑誌などのメディアにおけるファッション情報の背景にある情報操作を意識し、理解する。
- (3) 社会現象としてのファッションを客観視し、学術的に捉える。
- (4) 過去の服飾文化を背景とした特徴ある現代ファッションの現象について着目し、自分で設定したテーマについて十分な情報収集を行い、理論的に解説し、自分の考えを述べるができる。

【授業の内容】

- 第1週 現代に生きるファッションの歴史：ヴィヴィアン・ウエストウッド
- 第2週 平安時代・束帯と襲色目：色と香り
- 第3週 武家服飾と古典芸能：武者の鎧とパワースーツ
- 第4週 ヨーロッパの絶対王政：権威と装飾
- 第5週 江戸時代の町人文化：だてといき
- 第6週 近代ヨーロッパ：ダンディーとロマンティックスタイル
- 第7週 アメリカ19世紀：商業主義と既製服
- 第8週 明治・欧風文化の流入：女学生・乙女の服装、アクセサリ
- 第9週 明治・政治における服制：皇族の装い・ナショナリズムとジェンダー
- 第10週 20世紀ヨーロッパ：アール・デコ
- 第11週 大正ロマン：洋風のキモノ
- 第12週 昭和のモダンイズム：都市空間とモダンガール
- 第13週 ファッションの今と未来
- 第14週 ファッションとメディア。レポート提出。
- 第15週 授業の振り返り

【事前・事後学修】

毎週のテーマに関するファッションの事象を、様々なメディア（映画、雑誌、新聞、ネット記事等）を通して、調査しておく。授業後は、関連ある事例を資料として収集（出典明記）し、自分なりに考えをまとめておく。

事前事後、それぞれ週2時間ほどを時間をかけること。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメを使用する。教科書は使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点：50点（毎回のコメントシート記入と中間で実施するミニレポート）

期末レポート：50点：14週目に提出（15週目に講評）

【参考書】

- 青木淳子2014年『パリの皇族モダンイズム』KADOKAWA
- 青木淳子2017年『近代皇族妃のファッション』中央公論新社

【注意事項】

ファッションは身近な現象であるだけに、学術的に捉えることが難しい。日常生活の中で話題になったファッションを、どのように見れば、学術的になるのか？アンテナを張り、自分自身で考える習慣を身につけることが望ましい。

衣料学

快適な衣生活を目指して

牟田 緑

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

教員免許取得をめざす学生を対象に授業を行う。

衣生活に必要な科学的基礎知識を、被服材料学、被服衛生学、被服整理学等の各分野から学ぶ。被服材料の性質や衣服の機能をよく理解し、適材適所に応じた衣服の選択、被服の取扱いや保管を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した繊維製品の消費を考える。

【授業における到達目標】

科学的知識に基づいた繊維製品の選択、使用に関する判断力を持ち、適切な維持管理・保管のできる能力を身につけること。また、生産・消費のグローバル化の中にある衣料品を通し、日本の伝統的なものづくりや、多様な文化を背景にしたものづくりの相互理解にも考慮出来るようにする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識
主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（セルロース繊維）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維（タンパク質繊維）
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維、中間まとめ
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 繊維と染料の関係、染色方法と染色物の堅ろう性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習しておくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしておくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱うなどし、授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を確実なものにする。（週2時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間試験30% / 定期試験70%

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

衣料学

快適な衣生活を目指して

牟田 緑

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

教員免許取得をめざす学生を対象に授業を行う。

衣生活に必要な科学的基礎知識を、被服材料学、被服衛生学、被服整理学等の各分野から学ぶ。被服材料の性質や衣服の機能をよく理解し、適材適所に応じた衣服の選択、被服の取扱いや保管を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した繊維製品の消費を考える。

【授業における到達目標】

科学的知識に基づいた繊維製品の選択、使用に関する判断力を持ち、適切な維持管理・保管のできる能力を身につけること。また、生産・消費のグローバル化の中にある衣料品を通し、日本の伝統的なものづくりや、多様な文化を背景にしたものづくりの相互理解にも考慮出来るようにする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識
主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（セルロース繊維）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維（タンパク質繊維）
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維、中間まとめ
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 繊維と染料の関係、染色方法と染色物の堅ろう性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習しておくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしておくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱うなどし、授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を確実なものにする。（週2時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間試験30% / 定期試験70%

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

衣料学

快適な衣生活を目指して

牟田 緑

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

教員免許取得をめざす学生を対象に授業を行う。

衣生活に必要な科学的基礎知識を、被服材料学、被服衛生学、被服整理学等の各分野から学ぶ。被服材料の性質や衣服の機能をよく理解し、適材適所に応じた衣服の選択、被服の取扱いや保管を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した繊維製品の消費を考える。

【授業における到達目標】

科学的知識に基づいた繊維製品の選択、使用に関する判断力を持ち、適切な維持管理・保管のできる能力を身につけること。また、生産・消費のグローバル化の中にある衣料品を通し、日本の伝統的なものづくりや、多様な文化を背景にしたものづくりの相互理解にも考慮出来るようにする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識
主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（セルロース繊維）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維（タンパク質繊維）
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維、中間まとめ
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 繊維と染料の関係、染色方法と染色物の堅ろう性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習してこくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしてこくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱うなどし、授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を確実なものにする。（週2時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間試験30% / 定期試験70%

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

衣料学

快適な衣生活を目指して

牟田 緑

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

教員免許取得をめざす学生を対象に授業を行う。

衣生活に必要な科学的基礎知識を、被服材料学、被服衛生学、被服整理学等の各分野から学ぶ。被服材料の性質や衣服の機能をよく理解し、適材適所に応じた衣服の選択、被服の取扱いや保管を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した繊維製品の消費を考える。

【授業における到達目標】

科学的知識に基づいた繊維製品の選択、使用に関する判断力を持ち、適切な維持管理・保管のできる能力を身につけること。また、生産・消費のグローバル化の中にある衣料品を通し、日本の伝統的なものづくりや、多様な文化を背景にしたものづくりの相互理解にも考慮出来るようにする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識
主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（セルロース繊維）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維（タンパク質繊維）
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維、中間まとめ
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 繊維と染料の関係、染色方法と染色物の堅ろう性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習してこくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしてこくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱うなどし、授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を確実なものにする。（週2時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間試験30% / 定期試験70%

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

衣料学

快適な衣生活を目指して

牟田 緑

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

教員免許取得をめざす学生を対象に授業を行う。

衣生活に必要な科学的基礎知識を、被服材料学、被服衛生学、被服整理学等の各分野から学ぶ。被服材料の性質や衣服の機能をよく理解し、適材適所に応じた衣服の選択、被服の取扱いや保管を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した繊維製品の消費を考える。

【授業における到達目標】

科学的知識に基づいた繊維製品の選択、使用に関する判断力を持ち、適切な維持管理・保管のできる能力を身につけること。また、生産・消費のグローバル化の中にある衣料品を通し、日本の伝統的なものづくりや、多様な文化を背景にしたものづくりの相互理解にも考慮出来るようにする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識
主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（セルロース繊維）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維（タンパク質繊維）
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維、中間まとめ
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 繊維と染料の関係、染色方法と染色物の堅ろう性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習しておくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしておくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱うなどし、授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を確実なものにする。（週2時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間試験30% / 定期試験70%

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

衣料学演習

牟田 緑

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

【授業のテーマ】

教員免許の取得を目指し、家庭科を指導する上で必要な衣服学の科学的分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質や機能、糸や織物の性質、染色や洗濯などのテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。

【授業における到達目標】

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活について理解する。衣生活での学びから、問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの実験により得た知識を実際の教育現場で活用し、授業の理解に資する実践力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 着衣の表示の確認
- 第2週 繊維の染色による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第3週 繊維の顕微鏡による鑑別実験（繊維の形態的特徴）
- 第4週 繊維の燃焼性による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第5週 衣服の着心地に関わる実験（5～7週）
 - I. 布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
 - ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II. 観特性、審美性、着心地、取り扱い易さ
- 第7週 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第8週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第9週 被服内気候の観点からの保温性
- 第10週 被服の取扱い上の理解を深める実験（10～11週）
 - I. 洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
 - II. 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III. 漂白、増白、しみ抜き
 - 市販品を事例に漂白剤の使用
- 第12週 染色物について理解を深める実験（12～15週）
 - I. 繊維と染料の関係
- 第13週 II. 染色物の堅牢性
 - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III. 染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—捺染または防染作品の制作

【事前・事後学修】

【事前学修】実験テキストを読み、実験の目的、手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、その意義をよく把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

【テキスト・教材】

山口庸子、生野晴美：衣生活論—持続可能な消費に向けて—〔㈱アイ・ケイコーポレーション、2014、¥2,200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%

実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境を目指して』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用し、運動靴などの動きやすく滑りにくい安全な靴を履くこと。

衣料学演習

牟田 緑

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

【授業のテーマ】

教員免許の取得を目指し、家庭科を指導する上で必要な衣服学の科学的分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質や機能、糸や織物の性質、染色や洗濯などのテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。

【授業における到達目標】

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活について理解する。衣生活での学びから、問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの実験により得た知識を実際の教育現場で活用し、授業の理解に資する実践力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 着衣の表示の確認
- 第2週 繊維の染色による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第3週 繊維の顕微鏡による鑑別実験（繊維の形態的特徴）
- 第4週 繊維の燃焼性による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第5週 衣服の着心地に関わる実験（5～7週）
 - I. 布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II. 観特性、審美性、着心地、取り扱い易さ
- 第7週 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第8週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第9週 被服内気候の観点からの保温性
- 第10週 被服の取扱い上の理解を深める実験（10～11週）
 - I. 洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
 - II. 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III. 漂白、増白、しみ抜き
市販品を事例に漂白剤の使用
- 第12週 染色物について理解を深める実験（12～15週）
 - I. 繊維と染料の関係
- 第13週 II. 染色物の堅牢性
染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III. 染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—捺染または防染作品の制作

【事前・事後学修】

【事前学修】実験テキストを読み、実験の目的、手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、その意義をよく把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

【テキスト・教材】

実験テキスト：配布する。テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%
実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境を目指して』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用し、運動靴などの動きやすく滑りにくい安全な靴を履くこと。

衣料学演習

牟田 緑

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

【授業のテーマ】

教員免許の取得を目指し、家庭科を指導する上で必要な衣服学の科学的分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質や機能、糸や織物の性質、染色や洗濯などのテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。

【授業における到達目標】

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活について理解する。衣生活での学びから、問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの実験により得た知識を実際の教育現場で活用し、授業の理解に資する実践力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 着衣の表示の確認
- 第2週 繊維の染色による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第3週 繊維の顕微鏡による鑑別実験（繊維の形態的特徴）
- 第4週 繊維の燃焼性による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第5週 衣服の着心地に関わる実験（5～7週）
 - I. 布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
 - ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II. 観特性、審美性、着心地、取り扱い易さ
- 第7週 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第8週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第9週 被服内気候の観点からの保温性
- 第10週 被服の取扱い上の理解を深める実験（10～11週）
 - I. 洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
 - II. 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III. 漂白、増白、しみ抜き
 - 市販品を事例に漂白剤の使用
- 第12週 染色物について理解を深める実験（12～15週）
 - I. 繊維と染料の関係
- 第13週 II. 染色物の堅牢性
 - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III. 染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—捺染または防染作品の制作

【事前・事後学修】

【事前学修】実験テキストを読み、実験の目的、手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、その意義をよく把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

【テキスト・教材】

実験テキスト：配布する。テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境を目指して』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用し、運動靴などの動きやすく滑りにくい安全な靴を履くこと。

衣料学演習

牟田 緑

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

【授業のテーマ】

教員免許の取得を目指し、家庭科を指導する上で必要な衣服学の科学的分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質や機能、糸や織物の性質、染色や洗濯などのテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。

【授業における到達目標】

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活について理解する。衣生活での学びから、問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの実験により得た知識を実際の教育現場で活用し、授業の理解に資する実践力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 着衣の表示の確認
- 第2週 繊維の染色による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第3週 繊維の顕微鏡による鑑別実験（繊維の形態的特徴）
- 第4週 繊維の燃焼性による鑑別実験（繊維の化学的性質）
- 第5週 衣服の着心地に関わる実験（5～7週）
 - I. 布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
 - ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II. 観特性、審美性、着心地、取り扱い易さ
- 第7週 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第8週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第9週 被服内気候の観点からの保温性
- 第10週 被服の取扱い上の理解を深める実験（10～11週）
 - I. 洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
 - II. 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III. 漂白、増白、しみ抜き
 - 市販品を事例に漂白剤の使用
- 第12週 染色物について理解を深める実験（12～15週）
 - I. 繊維と染料の関係
- 第13週 II. 染色物の堅牢性
 - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III. 染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—捺染または防染作品の制作

【事前・事後学修】

【事前学修】実験テキストを読み、実験の目的、手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、その意義をよく把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

【テキスト・教材】

実験テキスト：配布する。テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境を目指して』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用し、運動靴などの動きやすく滑りにくい安全な靴を履くこと。

衣料学演習

牟田 緑

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

【授業のテーマ】

教員免許の取得を目指し、家庭科を指導する上で必要な衣服学の科学的分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質や機能、糸や織物の性質、染色や洗濯などのテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。

【授業における到達目標】

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活について理解する。衣生活での学びから、問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの実験により得た知識を実際の教育現場で活用し、授業の理解に資する実践力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 着衣の表示の確認
 第2週 繊維の染色による鑑別実験（繊維の化学的性質）
 第3週 繊維の顕微鏡による鑑別実験（繊維の形態的特徴）
 第4週 繊維の燃焼性による鑑別実験（繊維の化学的性質）
 第5週 衣服の着心地に関わる実験（5～7週）
 I. 布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
 第6週 II. 観特性、審美性、着心地、取り扱い易さ
 第7週 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
 第8週 糸の構造、織物・編み物の構造
 第9週 被服内気候の観点からの保温性
 第10週 被服の取扱い上の理解を深める実験（10～11週）
 I. 洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
 II. 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
 第11週 III. 漂白、増白、しみ抜き
 市販品を事例に漂白剤の使用
 第12週 染色物について理解を深める実験（12～15週）
 I. 繊維と染料の関係
 第13週 II. 染色物の堅牢性
 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
 第14週 III. 染色堅牢度の評価
 第15週 工芸染色—捺染または防染作品の制作

【事前・事後学修】

【事前学修】実験テキストを読み、実験の目的、手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、その意義をよく把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

【テキスト・教材】

実験テキスト：配布する。テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

【参考書】

①中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新稿 被服材料学』（光生館 2010）②谷田貝麻美子他共著『衣生活の科学 健康的な衣の環境を目指して』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

【注意事項】

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用し、運動靴などの動きやすく滑りにくい安全な靴を履くこと。

衣料管理実習

加藤木 秀章・大川 知子

3年 集後 1単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

1級衣料管理士の資格取得の一課程として、企業や公的検査機関での実習を通して、実際の衣料管理士の仕事の一端を理解する。

【授業における到達目標】

- 品質管理の仕事に触れ、具体的にどのような実務であるかを理解する。
- 実習を通して、これまで学んだ専門知識がどのように生かされるのか、現場で応用する「行動力」、実務での「協働力」を培う。

【授業の内容】

アパレル関連企業の品質管理室や、繊維製品の検査機関等で一週間程度の実習を行う。実習は3年次の夏期、または翌年の春期休暇期間を利用して実施する。実習終了後は、その成果をレポートにまとめ、全ての学生の実習が終了した後、報告会を実施する。

【事前・事後学修】

本実習では、これまで学んだ繊維製品に関する知識、各種の実験等を通して得た知見がベースとなる為、事前にこれまでの配布資料やノート等できちんと復習しておくこと。また、各実習先では、一社会人としての立ち振舞いや、ビジネスマナーを遵守すること。終了後は実習レポートをまとめ、報告会の準備を行う。レポート作成には、実習後2日間の猶予を与える。報告会の準備としてのパワーポイントの作成、並びにプレゼンテーションの練習は、延べ5日間程度を予定している。

【テキスト・教材】

過去の繊維関連の各授業で用いられたテキスト、及び配布資料等全般。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習先での取り組み姿勢、及びレポートの提出と報告会での報告内容が評価対象である。作成したレポートはフィードバックを行った上で、実習先に送付する。報告会には、教職員の他、実習先の関係者の方々が臨席し、コメントを行う。

【参考書】

なし

【注意事項】

一般企業や公的機関の方々に協力頂く為、事前のオリエンテーションには必ず出席し、内容をきちんと理解した上で臨むこと。

医学概論

精神医学の基礎、精神疾患と治療

塩川 宏郷

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

心理学を学ぶ上では精神医学的な知識が重要である。本科目においては、精神医学を中心に、医学と心理学の関係について講義する。統合失調症やうつ病、心身症や子どもの発達障害を含め、医学の今日的な話題について討論する。

【授業における到達目標】

心理学を学ぶにあたり必要な医学的知識、精神医学の基礎を身につけること、および代表的な精神疾患について基本的な事項を理解すること、ならびにこれらをもとに医学的な問題について調べる行動力、研鑽力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 脳と神経と心
- 第3週 精神症状 1
- 第4週 精神症状 2
- 第5週 操作的診断基準
- 第6週 精神薬理学
- 第7週 統合失調症
- 第8週 うつ病
- 第9週 不安・強迫
- 第10週 認知症
- 第11週 自閉症スペクトラム
- 第12週 注意欠如・多動症、その他の発達障害
- 第13週 知的障害
- 第14週 心身症
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：配布資料に基づき疑問点を整理する(学修時間週2時間)

事後学修：授業ノートを整理し課題に取り組む(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

特に定めない。毎回資料をmanabaを通じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点(レポート、授業中の討論など)30%

【参考書】

沼初枝『心理のための精神医学概論』ナカニシヤ出版(2014)

マイケル・ラター他『新版ラター児童青年精神医学』(2018)

育児学

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

【授業における到達目標】

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

レポートのテーマごとに相談して決める。

【注意事項】

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

育児学

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者、養育者のあるべき態度、知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項などを理解する。

【授業における到達目標】

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在、大きな問題となっている発達障害、児童虐待、育児不安、等の現状とその背景を知り、少しだけ自信を持って育児ができる。

【授業の内容】

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子関係
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気：感染症
- 第9週 子どもの病気：アレルギー
- 第10週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第11週 こどもの事故とその対応
- 第12週 実習（異物除去と心肺蘇生）
- 第13週 児童虐待
- 第14週 発達障害
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）

平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40%）

ショートレポート：授業終了時に、講義内容についての疑問、意見などを提出し、その後の講義中にコメント、返答する。

レポート：事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポートの文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。以上を点数化し、大学の評価に従いA+、A、B、C、D（不合格）とする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

子どもの身体と心の発達発育過程を正しく理解し、経験と科学により裏打ちされた育児知識・技術を学び、将来の実際の育児に活かしてほしい。

育児学

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

【授業における到達目標】

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

レポートのテーマごとに相談して決める。

【注意事項】

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

育児学

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者、養育者のあるべき態度、知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項などを理解する。

【授業における到達目標】

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在、大きな問題となっている発達障害、児童虐待、育児不安、等の現状とその背景を知り、少しだけ自信を持って育児ができる。

【授業の内容】

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子関係
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気：感染症
- 第9週 子どもの病気：アレルギー
- 第10週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第11週 こどもの事故とその対応
- 第12週 実習（異物除去と心肺蘇生）
- 第13週 児童虐待
- 第14週 発達障害
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）

平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40%）

ショートレポート：授業終了時に、講義内容についての疑問、意見などを提出し、その後の講義中にコメント、返答する。

レポート：事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポートの文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。以上を点数化し、大学の評価に従いA+、A、B、C、D（不合格）とする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

子どもの身体と心の発達発育過程を正しく理解し、経験と科学により裏打ちされた育児知識・技術を学び、将来の実際の育児に活かしてほしい。

育児学

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

【授業における到達目標】

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

レポートのテーマごとに相談して決める。

【注意事項】

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

育児学

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者、養育者のあるべき態度、知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項などを理解する。

【授業における到達目標】

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在、大きな問題となっている発達障害、児童虐待、育児不安、等の現状とその背景を知り、少しだけ自信を持って育児ができる。

【授業の内容】

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子関係
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気：感染症
- 第9週 子どもの病気：アレルギー
- 第10週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第11週 こどもの事故とその対応
- 第12週 実習（異物除去と心肺蘇生）
- 第13週 児童虐待
- 第14週 発達障害
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）

平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40%）

ショートレポート：授業終了時に、講義内容についての疑問、意見などを提出し、その後の講義中にコメント、返答する。

レポート：事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポートの文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。以上を点数化し、大学の評価に従いA+、A、B、C、D（不合格）とする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

子どもの身体と心の発達発育過程を正しく理解し、経験と科学により裏打ちされた育児知識・技術を学び、将来の実際の育児に活かしてほしい。

育児学

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

【授業における到達目標】

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

レポートのテーマごとに相談して決める。

【注意事項】

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

育児学

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者、養育者のあるべき態度、知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項などを理解する。

【授業における到達目標】

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在、大きな問題となっている発達障害、児童虐待、育児不安、等の現状とその背景を知り、少しだけ自信を持って育児ができる。

【授業の内容】

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子関係
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気：感染症
- 第9週 子どもの病気：アレルギー
- 第10週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第11週 こどもの事故とその対応
- 第12週 実習（異物除去と心肺蘇生）
- 第13週 児童虐待
- 第14週 発達障害
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）

平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40%）

ショートレポート：授業終了時に、講義内容についての疑問、意見などを提出し、その後の講義中にコメント、返答する。

レポート：事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポートの文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。以上を点数化し、大学の評価に従いA+、A、B、C、D（不合格）とする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

子どもの身体と心の発達発育過程を正しく理解し、経験と科学により裏打ちされた育児知識・技術を学び、将来の実際の育児に活かしてほしい。

育児学

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

【授業における到達目標】

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

レポートのテーマごとに相談して決める。

【注意事項】

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

育児学

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者、養育者のあるべき態度、知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項などを理解する。

【授業における到達目標】

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在、大きな問題となっている発達障害、児童虐待、育児不安、等の現状とその背景を知り、少しだけ自信を持って育児ができる。

【授業の内容】

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子関係
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気：感染症
- 第9週 子どもの病気：アレルギー
- 第10週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第11週 こどもの事故とその対応
- 第12週 実習（異物除去と心肺蘇生）
- 第13週 児童虐待
- 第14週 発達障害
- 第15週 まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）

平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40%）

ショートレポート：授業終了時に、講義内容についての疑問、意見などを提出し、その後の講義中にコメント、返答する。

レポート：事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポートの文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。以上を点数化し、大学の評価に従いA+、A、B、C、D（不合格）とする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

子どもの身体と心の発達発育過程を正しく理解し、経験と科学により裏打ちされた育児知識・技術を学び、将来の実際の育児に活かしてほしい。

印刷製本知識

居郷 英司

1年 前期 2単位

○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

出版物は紙に印刷され、製本されることで、はじめて世の中に流通することができます。印刷や製本の仕組みを知ることなしに、出版の仕事を理解することはできません。

書店に行けば、様々な雑誌や書籍がならんでいます。その一点一点を作製するための技術がどのようなものを学んでいきます。

印刷の技術は多種多様化していますが、この授業ではその対象を出版物の印刷に限定して行っていきます。

【授業における到達目標】

書籍や雑誌などの製作過程を学ぶことにより、製作者の意図を推測・理解し、そこに込められた価値を見出すことによって、各自の感受性を深めていきます。また、実習作業を通じて、互いに協力して物事を進める協働力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 印刷文字の歴史と「文字スケール」
- 第2週 「文字スケール」の使い方 (1) 文字サイズ
- 第3週 「文字スケール」の使い方 (2) 行送り／行間
- 第4週 「文字スケール」の使い方 (3) 字割
- 第5週 印刷の原理と版式
- 第6週 カラー印刷と特色
- 第7週 紙のサイズと特徴
- 第8週 紙の折り方と面付／紙の種類と用途
- 第9週 製本・函の種類と工程および表面加工
- 第10週 手作り製本実習 (1) 洋本
- 第11週 手作り製本実習 (2) 和本
- 第12週 印刷と製本を中心とする書籍の分析
- 第13週 用紙・印刷・製本注文書の作成
- 第14週 授業のまとめ
- 第15週 授業の補足

【事前・事後学修】

【事前学修】学修内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に出された課題を完成させておいてください。さらに、学修した内容が実際にどのようなになっているか、小売り書店やコンビニ・図書館で確認して、より理解を深めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

編集必携 第2版[日本エディタースクール出版部、2002、¥1,980(税抜)]

本の知識[日本エディタースクール出版部、2009、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題を含む平常点50%、期末試験50%で評価します。課題は次回の授業で、また期末試験は第15週の授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

夏期休業中の9月中旬に、東京都文京区にある印刷博物館の見学学習会を行う予定です。参加は自由ですが、印刷に関する知識を深めるためにも多くの人の参加を希望します。

宇宙の科学

天文学を通じて知る科学の進歩

山岡 均

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究

【授業のテーマ】

物理学と聞くと、日常生活や自分の成り立ちとは無関係なものと思いがちです。しかし、それは早計です。物理学は、私たちが住んでいる世界を理解するために必須なものなのです。

天文学は最古の学問と呼ばれ、また私たちの住む世界を取扱い、宇宙観を醸成する学問です。天文学の知見から、物理学も誕生し育っていきました。この授業では、天文学のさまざまなトピックスに触れ、天文学がどのように進歩してきたか、私たちはどのような世界に住んでいるかを概観します。

【授業における到達目標】

宇宙や天体で起きていることを知り、物理的に理解する。
学んだ内容を基に、自分の世界観・宇宙観を構築する。
天文学に関して、自分の考えを文章などを通じて表現する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：天文学が扱う範囲とスケール
- 第2週 暦と時間：天文学の始まり
- 第3週 日食と月食：暦の応用
- 第4週 星座と天球座標：星空の表し方
- 第5週 太陽系の惑星とその定義：冥王星の取り扱い
- 第6週 太陽系小天体：小惑星、彗星、衛星
- 第7週 天体の衝突：隕石とスペースガード
- 第8週 天体の距離を測る（1）惑星の軌道
- 第9週 天体の距離を測る（2）遠い天体の距離測定
- 第10週 太陽とそのエネルギー源：歴史的考察を含めて
- 第11週 恒星の一生と超新星：われら星の子
- 第12週 さまざまな天体：星雲・星団・銀河
- 第13週 宇宙論：私たちの宇宙の理解
- 第14週 系外惑星と生命
- 第15週 天体の発見

各時間の最後に、毎回小レポートを実施します。次週の冒頭に返却、解説します。

【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）
事後学修：小レポート等を復習すること（学修時間 週2時間）
レポート課題については授業内で指示します。

初回授業の事前課題として、「最近の報道などで接した、天文学に関係する記事について、タイトルと簡単な内容を紹介できるようにしてくる」ことを要望します。

【テキスト・教材】

教科書は特に設けず、プレゼンテーションおよび配布資料によって授業を進めます。定規・コンパス・分度器が必要になる週があります（前もって指示します）。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・レポート課題：40%
学期末に実施するテスト：50%
平常点（授業中の発言）：10%

各時間の最後に、毎回小レポートを実施します。次週の冒頭に返却、解説します。期末テストについても授業最終週で解説します。

【参考書】

山岡均著『改訂版 大宇宙101の謎』（河出書房新社 2015年）は網羅的です。

【注意事項】

毎週の内容はかなり独立していますが、それまでの週に扱った内容は既知のものとして授業を進めますので、やむを得ない場合以外の欠席はしないでください。

宇宙の科学

森 弘之

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究

【授業のテーマ】

宇宙を含めて、私たちの住む世界にはいろいろな物理法則が背景にあります。同じ物理法則に支配されているため、宇宙と身の回りのできごとには、じつは共通点がたくさんあります。宇宙の奥深い真理を探究するとともに、身の回りのこととの共通点にも触れ、宇宙を身近に感じられるような講義にします。

講義では、天文学の歴史といった研究の発展を紹介するとともに、宇宙や地球の成り立ち、星の一生、ブラックホールなどを解説します。また、その基礎となる法則として、ニュートンが発見した万有引力、アインシュタインが発見した相対性理論、さらには20世紀初頭に完成した量子力学なども紹介します。

数式を用いることなく、宇宙に関係する興味深い現象や、それが身の回りのできごととどのように関係しているのかなどを取り上げ、宇宙や宇宙と関係する法則を教養知識として学習します。

【授業における到達目標】

宇宙を題材にしつつ、不思議なことを不思議と気づくことの大切さ、当たり前のことを本当に当たり前なのかと疑うことの大切さを学びます。さらに一歩進んで、不思議なこと、当たり前とっていたことが実は当たり前じゃなかったなど、世の中のいろいろな現象についてどのように理解すればよいのか、その背景には何があるのか、物理学的視点で考える術を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 宇宙の概観
- 第2週 天文学の発展
- 第3週 星は引き合うー万有引力の話ー
- 第4週 アインシュタインと相対性理論
- 第5週 宇宙はいかにして今の姿になったか
- 第6週 星の一生
- 第7週 ブラックホールとは何か
- 第8週 太陽系の成り立ち
- 第9週 地球の成り立ち
- 第10週 究極の粒子ー素粒子の話ー
- 第11週 宇宙の元素ーニホニウム誕生ー
- 第12週 粒子と波ー量子の不思議ー
- 第13週 究極のドロドロ物質とサラサラ物質
- 第14週 現代の宇宙探索ー地球外生命はいる？ー
- 第15週 ニセ科学にだまされないー客観的視点の重要性ー

【事前・事後学修】

各回のテーマに沿って、週4時間程度を費やし、書籍やインターネットで情報をあらかじめ収集して予習したり、授業後に習った内容を復習したり、レポート課題に取り組んだりすることが大切です。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業で出すレポート課題（50%）と平常点（授業への積極参加）（50%）で成績を評価します。各テーマに関する質問について自分の考えをレポートにまとめ、それをもとに授業を展開していきますが、このプロセスへの関与の程度から平常点を評価します。レポートの評価や平常点については、授業中にその都度フィードバックしていきます。

【参考書】

特に指定しませんが、必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

つまらない質問でも突飛な疑問でも、何でもぶつけてください。授業中の質問、授業後の質問、メールでの質問（メールアドレスは初回の授業でお伝えします）のいずれも歓迎します。

映像制作演習 b

映像世界を生きるための技術

犬塚 潤一郎

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

TVからネット動画へ、紙のアルバムからフォトサイトへ、そしてカメラからスマートフォンに。私たちの日常生活における映像の“あり方”と道具は大きく変化しています。より身近なものとなるとともに、個々の映像はその重要性や意味を急速に失いつつもあります。ネットに満ち溢れる映像は、ただただ消費されるだけのものになりつつあるようです。

メディアと社会について本質から考えるためには、ただ見ているだけの映像の消費者としてではなく、作品の制作者ともなれる十分な技術を身につけていることが必要です。世界に身を任せるのではなく、世界を作り上げている技術に近づくことです。

映像の表現者としての映像制作技法を学びましょう。

日常の記録から報道や芸術活動まで、映像技術の領域は幅広くありますが、機材の取り扱いから撮影技法、編集、作品作りなど、基本技術を段階的に身につけてゆきます。

【授業における到達目標】

写真の撮影技術について、専門的なレベルに近づくよう学ぶ。

映像の編集技術について、専門的なレベルのものを身につける。

【授業の内容】

実際に機材を使いながら、実習形式で進めます。まとまりごとに課題作品提出を行います。

第1週 オリエンテーション

第2週 様々な撮影機材

第3週 機材の特徴を生かした撮影

第4週 映像デジタル編集

第5週 作品評価

第6週 映像の高度な編集技術

第7週 編集技術実習（色彩と明度、ダイナミックレンジ）

第8週 編集技術実習（トランスフォームとマージ）

第9週 作品比較

第10週 画面の構成

第11週 時間の構成

第12週 意味の構成

第13週 作品制作

第14週 プレゼンテーション

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

2-3人のチームでスケジュール調整しながら制作を進めてください。事前・事後学修：撮影・編集作業など週4時間以上が必要です。

【テキスト・教材】

基本的な教材は、ネットを通じて配布。参考資料はそのつど指示。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中のアクティビティ40%、制作した作品60%。

作成した作品の評価・指導として、授業中にフィードバックします。

映像文化論

写真の発明からインターネットメディアまで

木水 千里

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現在私たちの身の回りにあふれ、当たり前になっている映像を「写真」、「映画」、「現代社会の映像」の3つの観点から考察します。「写真」、「映画」のセクションでは発明から出発し、その様々な発展形式を追います。実際の映像だけでなく、ヴァルター・ベンヤミン、アンドレ・バザン、クリスチャン・メッツ、ロラン・バルト、ロザリンド・クラウス、アンドレ・マルローらによる美術理論を取り入れながら、人間の手によるデッサンや絵画しか存在しなかった時代と比較し、写真、映画が望まれた理由、それらがもたらした知覚の変化について考えます。「現代社会の映像」のセクションでは現在に普及する映像を取り上げ、私たちがどのように向き合うべきかについても考察します。

【授業における到達目標】

現在私たちの身の回りにあふれ、当たり前になっている映像を「写真」、「映画」、「現代社会の映像」の3つの観点から考察します。「写真」、「映画」のセクションでは発明から出発し、その様々な発展形式を追います。実際の映像だけでなく、ベンヤミン、バザン、メッツ、バルト、クラウス、マルローらによる美術理論を取り入れながら、人間の手によるデッサンや絵画しか存在しなかった時代と比較し、写真、映画が望まれた理由、それらがもたらした知覚の変化について考えます。「現代社会の映像」のセクションでは現在に普及する映像を取り上げ、私たちがどのように向き合うべきかについても考察します。

【授業の内容】

- ①イントロダクション：映像の起源
- ②芸術写真 機械目の眼か現実の記号か
- ③モード写真
- ④ドキュメンタリー写真
- ⑤現代アートと写真
- ⑥映画の誕生
- ⑦フランス映画
- ⑧ハリウッド映画
- ⑨日本映画 海外からの評価
- ⑩芸術としてのアニメーション
- ⑪フランスのマンガ バンド・デシネ
- ⑫CM・広告
- ⑬映像人類学という新しいジャンル
- ⑭メディア時代の映像文化
- ⑮まとめ

【事前・事後学修】

事前：次のテーマとなる映像を図書館やインターネットを通して調べておく。（週2時間）

事後：配布資料、授業ノートを見直し、授業で扱った作品や理論を確認する。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業中にハンドアウトを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業時間内のコメントペーパー)30%、レポート70%。
コメントペーパーにかんして、授業内で適宜フィードバックを行う。

【参考書】

授業時間内に指示します。

【注意事項】

連絡等はマナバを通じて行います。

栄養と健康

辛島 順子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

栄養と健康では、地域・社会における健康・栄養問題の背景を理解し、栄養・食環境と人々の健康との関連を学ぶことを目標とする。疾病の一次予防を目的に、食物摂取を通じた健康の維持・増進や豊かで安全な食生活を提案できる能力を培う。

【授業における到達目標】

現代の健康・栄養問題を正しく把握する力を身に付け、課題を発見することができる力を養う。また、学修を通して、自己成長する力である「研鑽力」を身に付けることで自信を創出する。

【授業の内容】

1. 健康と栄養
2. からだの仕組み
3. 食事と栄養
4. 栄養状態の判定
5. 食事摂取基準
6. 健康づくりのための政策・指針
7. 食育
8. 健康とダイエット
9. ライフステージと栄養1（妊娠期・授乳期・乳児期）
10. ライフステージと栄養2（幼児期・学童期）
11. ライフステージと栄養3（成人期・高齢期）
12. 生活習慣病1（病態）
13. 生活習慣病2（食事）
14. 免疫と栄養
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。

（学修時間：週2時間）

【事後学修】授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。

指定した課題を提出すること。

（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

三訂 栄養と健康[建帛社、2015、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

『日本人の食事摂取基準2015年版』（第一出版）

栄養マネジメント実習

森川 希

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

健康の保持・増進や疾病の一次予防、疾患の治癒のためには、各対象者のライフステージの特性をふまえた上で、身体状況や栄養状態に応じた適切な栄養マネジメントを行う必要がある。

本実習では、人の身体組成やエネルギー代謝量の測定を通して、栄養状態や身体活動をエネルギー出納の側面から見ることのできる感性を養う。同時に、食事調査による栄養アセスメントおよび食事摂取基準に基づく栄養改善計画を立案することにより、総合的な栄養マネジメントを遂行するための実践力を身に付けることを目標とする。

【授業における到達目標】

管理栄養士として、健常者及び傷病者を対象とする様々な現場において、マネジメントサイクルに基づく栄養管理・指導を行うための基本的知識・技能を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 栄養マネジメントの概要
栄養アセスメント①（身体計測）
- 第2週 栄養アセスメント②（臨床検査）
間接法による安静時代謝量の測定
生活時間調査による総エネルギー消費量の推定
- 第3週 栄養アセスメント③（臨床診査、食事調査）
質問紙調査の活用と解釈
- 第4週 栄養アセスメント結果にもとづく栄養マネジメント計画の作成
食事摂取基準の活用
- 第5週 栄養マネジメント計画の評価
- 第6週 運動・スポーツと栄養
活動時代謝量の測定
- 第7週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「食事摂取基準論」「栄養マネジメント論」等の関連科目の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、実習回によって事前に食事記録、身体活動量調査（活動量計使用）を課すことがある。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習中にとりあげた専門用語等について、理解しておくこと。（学修時間 週30分）

【テキスト・教材】

食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで[南山堂、2016、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回、ワークシートを提出する。成績は筆記試験60%、提出課題および授業態度40%で評価する。

提出課題については、次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

『食事摂取基準による栄養管理・給食管理-PDCAサイクルの実践-』（建帛社）本体2,700円

【注意事項】

ほぼ毎回、電卓を使用する。身体計測、活動時代謝測定の実施日には適切な服装が求められるので、常に掲示を確認すること。

栄養マネジメント論

高橋 加代子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養マネジメント論では、栄養状態や心機能に応じた栄養ケアマネジメントの基本的な考え方や食事摂取基準の策定の科学的根拠や指標の定義を理解する。

対象や状況別に食事摂取基準を具体的に活用するための基礎を習得し、栄養管理プロセスを理解する。

【授業における到達目標】

栄養管理について基本的な考え方や栄養管理プロセスを理解し、広い視野と深い洞察力を身につけ本質を見抜けるようになることを目標とする。

【授業の内容】

1. 栄養ケアマネジメントの概念、過程
2. 栄養スクリーニング
3. 栄養アセスメント（身体計測、臨床診査）
4. 栄養アセスメント（食事調査）
5. 栄養ケア計画
6. モニタリング・評価
7. 食事摂取基準の策定方針
8. 策定の基礎理論①（エネルギー、栄養素の指標）
9. 策定の基礎理論②（エネルギー産生栄養素バランス）
10. 食事摂取基準の活用とPDCAサイクル
11. 活用の基礎理論①（個人の食事改善）
12. 活用の基礎理論②（集団の食事改善）
13. エネルギー・栄養素別食事摂取基準
14. 人の成長・発達と加齢
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所をよく読むこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：授業内で実施した小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

日本人の食事摂取基準（2015年版）[第一出版、¥2,700(税抜)、※2年次または3年次に使用した教科書]

栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学[羊土社、2014、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%により評価する。課題・小テストを確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

『食事摂取基準第2版 理論と活用』（医歯薬出版）本体2,100円

栄養疫学実習

森川 希

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

食生活と疾病との因果関係を科学的に解明し、根拠に基づく公衆栄養活動に繋げるには、疫学の知識が不可欠である。

本実習では、各種栄養政策や、食事療法等の根拠となる研究論文を理解する上で必要な疫学の基礎的知識とともに、自ら統計解析を行うための基礎能力を身に付けることを目的とする。そのために、公衆衛生学ならびに公衆栄養学で学習した疫学指標の計算、データ解析の手法等について、表計算ソフト（Excel）、統計ソフト（IBM SPSS Statistics）による演習を行う。

【授業における到達目標】

管理栄養士として、療養や健康の維持・増進のための栄養管理・指導を行うにあたり、その内容の科学的根拠について理解し、実践できる能力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 疫学の基本事項
記述疫学の指標の計算
- 第2週 栄養疫学の基本事項
総エネルギー摂取量による栄養素摂取量の補正
- 第3週 スクリーニング検査の指標
- 第4週 統計解析の概要(平均値の差の検定、頻度の検定)
- 第5週 統計解析の実際①
(コホート研究について、変数の尺度とコーディング)
- 第6週 統計解析の実際②(比例ハザードモデル)
- 第7週 文献の読み方
- 第8週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「公衆衛生学」「公衆栄養学」等の関連科目の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、Excelの基本操作はスムーズに行える状態にしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】配布資料を熟読し、講義内容を復習しておくこと。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

古野純典・吉池信男・林宏一：健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学（改訂第6版）[南山堂、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、実習態度・提出課題（50%）により評価する。
提出課題については、授業最終回で講評、フィードバックを行う。

【参考書】

- 坪野吉孝、久道茂共著：『栄養疫学』（南江堂、2001）
- 日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第3版）』（南江堂、2018）
- 中村好一：『基礎から学ぶ楽しい疫学』第2版（医学書院、2006）

【注意事項】

- 学内PC利用のためのIDとパスワードを確認しておくこと。
- 各自の課題データを保存するためのUSBメモリを用意すること。

栄養学

於保 祐子

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症 －水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症 －脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養 －食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養 －生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

【注意事項】

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

栄養学

於保 祐子

2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症 ー水溶性ビタミンー
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症 ー脂溶性ビタミンー
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養 ー食物アレルギーー
- 第 14 週 病気と栄養 ー生活習慣病ー
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

【注意事項】

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

栄養学

於保 祐子

2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症－水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症－脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養－食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養－生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

【注意事項】

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

栄養学

於保 祐子

1年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症－水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症－脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養－食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養－生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

【参考書】

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

【注意事項】

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

栄養学演習

国際栄養への理解を深める

長谷川 めぐみ

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

人の健康・栄養状態と生活の質（QOL）の向上に関わる保健医療領域の栄養専門職として、グローバル化をふまえて諸外国における栄養改善活動を視野に入れ、対象者、関連専門職、地域社会との連携を図るためのスキル（コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）の向上を目指す。

【授業における到達目標】

1. 栄養にかかわる主な国際機関の概要を説明できる
2. 諸外国における栄養の変遷と動向を説明できる
3. 諸外国の栄養専門職の養成制度と社会における役割と活動について概説できる
4. 開発途上国と先進国における栄養問題や課題と対策について概説できる
5. 諸外国の学校給食の現状および国連世界食糧計画（WFP）による学校給食プログラムについて概説できる

【授業の内容】

- 第1週 The Scop of Health Behavior and Health Education
- 第2週 Theory in Health Behavior and Health Education
- 第3週 Research in Health Behavior and Health Education
- 第4週 Practice in Health Behavior and Health Education
- 第5週 Overview of Behavior Change Models and Approaches
- 第6週 Models of Individual Health Behavior
- 第7週 The Health Belief Model
- 第8週 The Transtheoretical Model and Stages of Change
- 第9週 Social Networks and Social Support
- 第10週 The Basics of Communication and Counseling Skills for Nutrition
- 第11週 Overview of Nutrition Counseling
- 第12週 History of Nutrition Counseling
- 第13週 Theoretical Approaches for lifestyle Awareness and Management
- 第14週 Understanding an Effective Counseling Relationship
- 第15週 Developing a Nutrition Care Plan

【事前・事後学修】

【事前学修】

演習内容にかかわるキーワードの予習（学修時間：週2時間）

【事後学修】

演習内容を総括し、毎回レポート提出（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト：Health Behavior and Health Education ほか資料配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

質疑応答50%、演習ワークシート50%を総合的に評価する。
フィードバックは適宜行う。

【参考書】

Nutrition Counseling Skill
Human Nutrition
Nutrition Epicemiology
Nutrition for Developing Countries 他

【注意事項】

急速に進むグローバル化をふまえて、栄養専門職不在の国や地域で栄養改善活動に携わることができるスキルを身につけ、向上する努力を惜しまないこと。

栄養学実験

松島 照彦

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

テーマ：細胞培養法と培養細胞を用いた実験

栄養学は物質と生体の相互作用を学ぶ学問であり、その研究には個体、組織、細胞を用いた系に関する基礎的な実験技術を習得する必要がある。無菌操作に基づく細胞培養法を学び、数種の培養細胞を用いた実験を行い、その技術を習得する。

【授業における到達目標】

細胞培養と測定の方法を身につけるとともに、コントロール、時間、濃度の置き方、測定の原理、統計的処理を学び、実験とは異なるかを理解できるようになる。ディプロマポリシーの「高度な知識と研究遂行能力」を身につけることに資する。

【授業の内容】

- 1) 無菌操作、滅菌法
- 2) 培地の調製
- 3) 液替え法
- 4) 凍結株細胞（3T3-L1、Caco2）の播種
- 5) 維持と継代
- 6) 前駆脂肪細胞の分化
- 7) 泡沫化脂肪細胞の増殖
- 8) マクロファージの培養
- 9) コレステロールの取り込み
- 10) 細胞の刺激と機能の変化
- 11) 脂肪蓄積量の測定
- 12) E L I S A法
- 13) mR N Aの調整
- 14) リアルタイムPCR法
- 15) データの整理と解釈

【事前・事後学修】

事前学修：手順書を熟読し、用意すべき機材物品を確認し、全体及び当日の計画を立てておくこと。週3時間を要する。

事後学修：当日のまとめを記載し、データをまとめること。
週1時間を要する。

【テキスト・教材】

なし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手技の修練度、実験の解釈など、総合的に評価する（100%）。随時、フィードバックを行う。

【参考書】

なし。

【注意事項】

特になし。

栄養学特別演習A

松島 照彦

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

英語の原著論文を詳読し、内容を理解するとともに、①問題の把握と背景の書き方、②背景と手法に呼応した目的の立て方、③適切な方法の選び方と書き方、④結果の表現の方法、⑤これまでの理論と課題、仮説および先行研究に照らし合わせた考察の仕方を学ぶ。優れた論文を読むことを通じ、研究課題の着眼、発掘、研究計画の構築法、理論の展開法を学び、また、上手な学術英語の使い方、論文の書き方を修得する。

【授業における到達目標】

学術論文の善し悪しを判別し、論文上の問題点を発見して解決する能力を身につける。論理的な学術論文の書き方を理解し、身につける。

【授業の内容】

- 第1週 英文論文の読み方
- 第2週 虚血性心疾患の病理学についての英文原著論文の詳読
- 第3週 脂質の生化学についての英文原著論文の詳読
- 第4週 脂肪の消化と吸収についての英文原著論文の詳読
- 第5週 脂肪の合成についての英文原著論文の詳読
- 第6週 脂肪の栄養学についての英文原著論文の詳読
- 第7週 コレステロール代謝についての英文原著論文の詳読
- 第8週 メタボリック症候群についての英文原著論文の詳読
- 第9週 リポタンパク代謝についての英文原著論文の詳読
- 第10週 脂肪酸についての英文原著論文の詳読
- 第11週 アディポサイトカインについての英文原著論文の詳読
- 第12週 ポリフェノールについての英文原著論文の詳読
- 第13週 動脈硬化の疫学についての英文原著論文の詳読
- 第14週 英文論文の背景の書き方
- 第15週 英文論文の考察の書き方

【事前・事後学修】

事前学修として論文を読んでくること。学修時間として週当たり4時間を要する。

事後学修：復習をすること。

【テキスト・教材】

原則として院生自らが取り組みたい論文を予め見つけて用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の内容の理解と把握（50%）。論文に対する批判的評価の技術（50%）。フィードバックはその場において随時行う。

【参考書】

なし

【注意事項】

なし

栄養学特別演習B

於保 祐子

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

サブテーマに基づいて各自が選んだ英文原著論文について、以下のような発表形式での討論を行って、論文の理解を深める。1) 受講生全員は、選定された論文を精読する。2) 論文選定者は、論文著者の立場で研究の背景、方法、結果、考察について発表する。3) 他の受講生は、査読者の立場で発表内容について質問する。4) 発表者は、著者の立場から質問に答える。5) 討論のまとめを作成する。このようにして、いくつかの論文について評価を加えながら読むことで、論文の一般的な構成について理解を深め、論文を纏める力を養う。

【授業における到達目標】

他者の書いた論文を評価しながら読むことができる。論文の長所・短所を正しく指摘できる。討論の要点を理解して纏められる。

【授業の内容】

- 第1週 論文構成の理解
- 第2週 論文の読み方
- 第3週 論文の選定1（サブテーマ：子どもと栄養）
- 第3週 論文の精読
- 第4週 論文についての討論
- 第5週 討論要旨の作成
- 第6週 論文の選定2（サブテーマ：健康と栄養）
- 第7週 論文の精読
- 第8週 論文についての討論
- 第9週 討論要旨の作成
- 第10週 論文の選定3（サブテーマ：女性と栄養）
- 第11週 論文の精読
- 第12週 論文についての討論
- 第13週 討論要旨の作成
- 第14週 論文の纏め方
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

<事前学修> 論文選定のために、サブテーマに関連する論文をなるべく数多く読む。 2時間

<事後学修> 授業内容を自分の言葉で纏めて、得られた知識・考え方を確認する。 2時間

【テキスト・教材】

論文および関連する資料を、配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の読解力（30%）、発表・討論の能力（40%）、文章を纏める力（30%）について、論文の選定や討論の際の平常点と、提出された要旨に基づいて行う。フィードバックは、要旨へのコメントと、総合討論で行う。

栄養学特別演習C

ライフサイエンス分野における研究活動と研究生活

中村 彰男

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

研究者は自分で研究計画を立案し、その研究計画に従い実験を繰り返して、得られたデータを学会発表し、論文にまとめていく。はじめにライフサイエンス分野に関するいくつかの代表的な論文を精読しながら、各自でそれらの論文のピアレビューを行って貰う。そして、どのようにデータをまとめて学会発表、論文投稿、そして受理されるまでのプロセスを学ぶ。研究にはどうしてもお金がかかる。どのようにして研究を遂行する為の外部資金を調達したら良いかに関しても講義を行う。また、研究を行う上での研究者倫理や生命倫理についても解説する。

【授業における到達目標】

研究者として、研究の進め方、学会発表、論文発表、外部資金の獲得などのシステムが理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第 1 週 ライフサイエンスの論文の読み方
- 第 2 週 細胞生物学の論文を読む
- 第 3 週 実験方法について
- 第 4 週 実験結果と議論と論文の査読
- 第 5 週 生化学の論文を読む
- 第 6 週 実験方法について
- 第 7 週 実験結果と議論と論文の査読
- 第 8 週 分子生物の論文を読む
- 第 9 週 実験方法について
- 第 10 週 実験結果と議論と論文の査読
- 第 11 週 国際学会の参加登録と抄録の投稿から発表
- 第 12 週 学術論文のまとめ方から電子投稿まで
- 第 13 週 投稿論文のリバイスから受理まで
- 第 14 週 生命倫理、研究者倫理と利益相反
- 第 15 週 特許申請および外部資金の獲得方法

【事前・事後学修】

<事前学習> 配布された論文を講義前までにしっかり読む。 週2時間

<事後学習> 講義で得られた内容をまとめて整理する。 週2時間

【テキスト・教材】

論文および講義で使用する関連資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】

受講態度と学習意欲（質問や発表および課題提出）50%、レポート50%で評価します。

【フィードバック】

講義の終わりに与える課題などの提出物に対して、コメントを通じてフィードバックします。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【注意事項】

特になし。

栄養学特別演習D

白尾 美佳

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

現在、子どもから高齢者が抱えている食物栄養学に関連する解決すべき課題は多い。わが国においては、「健康日本21（第2次）」はじめ、多くの施策があるものの、健康寿命の延伸を目指すためには、さらなる取組や研究、科学的根拠の積み重ねが必要であると思われる。この授業では、今後、食物栄養学的な研究を遂行し、科学的根拠を積み上げていくために必要な資質と能力を養成することを目指す。

【授業における到達目標】

食物栄養学的な研究を推進してゆくための資質を身に付けることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 食物栄養に関する現状と課題について
- 第2週 地域における食に関する課題について
- 第3週 食物栄養に関する研究と課題解決について
- 第4週 日本、地域における食育について
- 第5週 先行研究調査方法
- 第6週 先行研究調査実践
- 第7週 研究の倫理的配慮
- 第8週 研究調査計画
- 第9週 調査方法
- 第10週 データの集計
- 第11週 データの解析
- 第12週 論文作成について
- 第13週 投稿規定について
- 第14週 査読について
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

それぞれのテーマに沿って準備学習をおこなっておく。
(学修時間：週2時間)

【事後学修】

各回の授業内容について自らテーマをもって復習を行う。
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

日本栄養改善学会：初めての栄養学研究論文[第一出版、2012、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に対する取り組み姿勢60%、課題及び提出物40%
それぞれの授業内において質疑応答においてフィードバックを行う。

【参考書】

Karen Glanz 他編『健康行動と健康教育』（医学書院）2006年発行 4,536円

【注意事項】

- ・授業の内容が変更する場合があります。
- ・エクセル、ワード、パワーポイントなどの基本的なコンピュータソフトを理解しておく必要があります。
- ・図書館やPCラウンジなどで授業を行う場合があります。
- ・地域などに見学に行く場合があります。

栄養学特論A

松島 照彦

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

テーマ：栄養学に関する英文原著の詳読と科学的思考法
栄養素と細胞のinteraction、代謝調節機構について、論述の様式、検証法の組み立て、考察の展開法を学ぶとともに、英文の読解力を養う。栄養学について最新の知見を理解し、今後の課題を認識し、解析法を習得することを目的とする。

【授業における到達目標】

英文の学術論文をあらかじめ訳し、意味を把握できるようになる。論理展開を把握できるようになる。この授業を通じて、自分が論文を書く時の参考にできるようになる。ディプロマポリシーの「高度な知識と研究遂行能力」を身につけることに資する。

【授業の内容】

- 1) ポリフェノールと動脈硬化（背景と目的）
- 2) ポリフェノールと動脈硬化（手法と結果の解釈）
- 3) ポリフェノールと動脈硬化（背景と目的）
- 4) レプチン・アディポネクチンと肥満（背景と目的）
- 5) レプチン・アディポネクチンと肥満（手法と結果の解釈）
- 6) レプチン・アディポネクチンと肥満（考察と論理展開）
- 7) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（背景と目的）
- 8) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（手法と結果の解釈）
- 9) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（考察と論理展開）
- 10) コレステロール代謝とLDL受容体（背景と目的）
- 11) コレステロール代謝とLDL受容体（手法と結果の解釈）
- 12) コレステロール代謝とLDL受容体（考察と論理展開）
- 13) 院生が興味を持つテーマの英文原著（背景と目的）
- 14) 院生が興味を持つテーマの英文原著（手法と結果の解釈）
- 15) 院生が興味を持つテーマの英文原著（考察と論理展開）

【事前・事後学修】

事前学修：日本語に訳して、説明できるようになっておくこと。約4時間を要する。事後学修は不要。

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学術用語や言い回しを適切に訳せているか。学術的な論理展開を説明できるかどうか。100%。都度、解説によりフィードバックを行う。

【参考書】

なし。

【注意事項】

特になし。

栄養学特論B

於保 祐子

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

人体と栄養素との関係、特に個別の遺伝学的背景に即した栄養摂取について、分子レベルの現象として理解を深める。各自が課題を設定し、英文も含めて論文を輪読することで、課題を解決する過程を学ぶ。理解した事を短文にまとめて提出する。

【授業における到達目標】

論文を読んで、研究分野の課題を理解し、自分の言葉で説明できる。各自の課題を自主的に決定できる。課題解決手法について、文献情報を集める力を身につける。知識を簡潔な文章として表現する。

【授業の内容】

- 第 1 週 人体の成り立ちとゲノム（課題の設定）
- 第 2 週 人体の成り立ちとゲノム（方法論の理解）
- 第 3 週 人体の成り立ちとゲノム（研究結果の理解）
- 第 4 週 人体の成り立ちとゲノム（考察とまとめ）
- 第 5 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（課題の設定）
- 第 6 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（方法論の理解）
- 第 7 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（研究結果の理解）
- 第 8 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（考察とまとめ）
- 第 9 週 個別栄養学（課題の設定）
- 第 10 週 個別栄養学（方法論の理解）
- 第 11 週 個別栄養学（研究結果の理解）
- 第 12 週 個別栄養学（考察とまとめ）
- 第 13 週 発展課題（方法論の理解）
- 第 14 週 発展課題（研究結果の理解）
- 第 15 週 発展課題（考察とまとめ）

【事前・事後学修】

＜事前学修＞ 毎回授業までに、配布した論文の該当部分を熟読し、理解した点を自分の言葉で説明できるようにしておく。また疑問点を整理しておく。2時間

＜事後学修＞ 授業を通して得た知見・考え方を確認して、自分のものとする。2時間

【テキスト・教材】

論文および関連する資料を、配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の読解力（40%）、課題設定力（30%）、討論の能力（30%）について、輪読時の平常点と、提出されたレポートに基づいて行う。フィードバックは、授業の最後と、レポートへのコメントで行う。

栄養学特論C

受容体の構造と生体内情報伝達機構

中村 彰男

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本講義は「生化学」および「細胞生物学」で学んだ基礎知識をもとにして、生体制御機構を分子の目で捉え理解することを目的としている。シグナル分子と受容体を介したケミカルシグナルの生体内情報伝達機構を分子レベルで解説する。さらに、それらを理解した上で「分子標的薬」「ゲノム情報に基づく個別化医療」について紹介する。

【授業における到達目標】

- ①生体内情報伝達機構の概要を説明できるようになる。
- ②受容体の種類と構造について説明できるようになる。
- ③生体内情報伝達機構とがんや糖尿病との関係を説明できるようになる。

【授業の内容】

◎ 生体内情報伝達機構とは

- 第1週 生体内情報伝達機構の概要
- 第2週 イオンチャネル共役型受容体
- 第3週 Gタンパク質共役型受容体
- 第4週 酵素共役型受容体
- 第5週 核内受容体

◎ シグナル伝達とセカンドメッセンジャー

- 第6週 カルシウムによる情報伝達とその標的
- 第7週 環状ヌクレオチドによる情報伝達とその標的
- 第8週 脂質代謝による情報伝達とその標的
- 第9週 エンドサイトーシスとエキソサイトーシス
- 第10週 マイクロRNAによる新しい遺伝子制御機構

◎ 分子標的薬と新しい情報伝達システム機構

- 第11週 糖尿病の治療薬とその分子機構
- 第12週 がんの治療薬とその分子機構
- 第13週 新しい情報シグナルとしてのエクソソーム
- 第14週 シグナル伝達の研究手法-1-
- 第15週 シグナル伝達の研究手法-2-

【事前・事後学修】

【事前学修】 予め資料、文献（英文）を配布します。事前に学修してください（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 授業内容に関連する課題を課します。レポートを提出してください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

教科書は、特に指定しません。

講義資料を毎回配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】

受講態度と学習意欲（質問や発表および課題提出）50%、レポート50%で評価します。

【フィードバック】

基本的な事項を学習した後に、それらが有機的に繋がるように課題などの提出物に対してのコメントを通じてフィードバックします。

【参考書】

特に指定しません。

【注意事項】

特になし。

栄養教育各論 a

辛島 順子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養教育各論aでは栄養教育総論を踏まえて、栄養教育の目的に応じた理論や技法を活用する意義について理解を深め、対象となる個人あるいは集団に適切な支援ができる能力を培う。また、不適切な食行動の変容や、生活の質（QOL）の向上を図る具体的支援に必要な行動変容の概念と技法を学修する。多様化している個人や集団の食生活上の課題に取り組むために、行動科学の基礎知識・理論を導入し、健康・栄養状態や食行動を総合的に評価・判定する能力を養う。

【授業における到達目標】

対象者の行動変容を支援するために、広い視野と深い洞察力を身に付け、理論に基づく適切な教育や支援を行う基礎を修得する。

【授業の内容】

- 1 栄養教育の目的・目標
- 2 栄養教育と生活習慣
- 3 栄養教育と行動科学
- 4 課題に応じた理論の選択
- 5 行動科学の理論とモデル（個人）
- 6 行動科学の理論とモデル（集団）
- 7 行動科学の理論とモデル（情報の活用）
- 8 栄養カウンセリング
- 9 カウンセリングの基礎的技法
- 10 認知行動療法
- 11 行動変容技法の基礎
- 12 行動変容技法の活用
- 13 組織づくり・地域づくりへの展開
- 14 食環境づくりとの関連
- 15 総合学習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み、提出すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】

各回に指定する受講後課題について、所定書式のレポートにまとめて提出すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

サクセス管理栄養士講座 栄養教育論[第一出版、最新版、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

- 「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論」（南江堂）
 「栄養教育論理論と実践」（医歯薬出版）
 「ライフスタイル療法I 第4版生活習慣改善のための行動療法」（南江堂）
 「行動科学改訂第2版健康づくりのための理論と応用」（南江堂）

栄養教育各論 b

辛島 順子

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養教育各論bでは栄養教育各論aを踏まえて、対象となる個人や集団の健康状態・食物摂取や、食行動に影響を及ぼす要因に関する情報の収集・解析方法、並びに栄養教育マネジメントの概要を修得する。具体的には、対象者の栄養教育プログラムの作成・実施・検証・改善という一連の過程を、どのようにして立案するのが効果的であるのか判断できることが重要となる。対象となる個人や集団のライフステージ・ライフスタイルの特性やライフイベントを考慮し、栄養教育の充実を図るための応用力を培う。

【授業における到達目標】

現状を正しく把握し、目標設定に基づく計画の立案と計画の実行における支援や適切な評価を通じた課題解決に関連する知識や技術を修得する。

【授業の内容】

- 1 栄養教育マネジメント
- 2 栄養教育の目標設定
- 3 栄養教育の立案
- 4 栄養教育のプログラムの実施
- 5 栄養教育の評価
- 6 栄養教育マネジメントで用いる理論・モデル
- 7 発達段階と場に応じた栄養教育（1）妊娠期・授乳期
- 8 発達段階と場に応じた栄養教育（2）乳児期
- 9 発達段階と場に応じた栄養教育（3）幼児期
- 10 発達段階と場に応じた栄養教育（4）学童期
- 11 発達段階と場に応じた栄養教育（5）思春期
- 12 発達段階と場に応じた栄養教育（6）成人期
- 13 発達段階と場に応じた栄養教育（7）高齢期
- 14 傷病者・障がい者の栄養教育
- 15 総合学習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】

各回に指定する受講後課題について、所定書式のレポートにまとめて提出すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

サクセス管理栄養士講座 栄養教育論[第一出版、最新版、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

- 「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論」（南江堂）
 「栄養教育論理論と実践」（医歯薬出版）
 「ライフスタイル療法I 第4版生活習慣改善のための行動療法」（南江堂）
 「行動科学改訂第2版健康づくりのための理論と応用」（南江堂）

栄養教育実習

白尾 美佳

4年 集前 2単位

【授業のテーマ】

栄養教諭は栄養士としての知識を持った上で、児童生徒に対する食に関する指導を積極的に実施して行く必要がある。また教諭としての指導力や実行力、使命感を持つと共に、家庭や地域との連携を行う上での社会性やコミュニケーション能力も重要である。そこで、栄養教育実習に臨むにあたっての栄養教諭としての資質の向上に努めることを目標とする。

【授業における到達目標】

学校の授業ならびに給食の時間に食に関する指導を行うことができることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 栄養教育実習の概要
- 第2回 学習指導案作成（学級活動、各教科における指導案）
- 第3回 食に関する指導に係る児童生徒の実態調査
- 第4回 模擬授業（学級活動時の指導）
- 第5回 学級活動時の指導の相互評価
- 第6回 模擬授業（各教科における指導）
- 第7回 教科における指導の相互評価
- 第8回 教育実習先の学校研究（学校教育目標等）
- 第9回 実習校についてのオリエンテーション
- 第10回 小中学校における食育指導支援
- 第11回 地域における食育指導支援
- 第12回 栄養教育実習報告
- 第13回 栄養教育実習研究授業
- 第14回 栄養教育実習の相互評価
- 第15回 栄養教育実習のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：一般常識、専門科目の勉強、学習指導案、教材を作成しておくこと（学修時間 週2時間）

事後学修：学習指導案の見直し、実習にむけて準備をすること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 小学校教科書：わたしたちの家庭科[開隆堂、2017、¥274(税抜)]
- 中学校教科書：技術・家庭（家庭分野）[開隆堂、2017、¥274(税抜)]
- 文部科学省：小学校学習指導要領[東京書籍、¥217(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栄養教育実習50%、模擬授業・指導案・報告書・提出物30%、小中学校ならびに地域における食育指導に取り組む姿勢20%によって評価する。実習・模擬授業についてのフィードバックはその都度おこなう。

【参考書】

小中学校各教科教科書

【注意事項】

- ・「児童・生徒栄養教育論（1）」、「児童生徒栄養教育（2）」の単位を修得していない場合は原則として本科目を履修できません。
- ・学外講師を招いた授業を実施する場合があります。
- ・小中学校における食育指導支援は授業時間外並びに休みの期間に学外で実施することがあります。
- ・模擬授業、栄養教育実習時の教材費は原則実費です。
- ・本授業は集中講義形式で行います。

栄養教育総論

辛島 順子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

栄養教育総論は、専門職である管理栄養士に対する理解を深め、その多岐にわたる使命・役割や社会的責務、関連職種との関わりを学修する。専門科目を学修する前段階として管理栄養士の歴史や、社会に要望される管理栄養士の活動分野の理解を通して、栄養専門職の使命感を育む。また、人の生命に関わる職業である管理栄養士としての自覚を高め、対象者との信頼関係の確立に必要な職業倫理の習得とともに、個人や集団の健康状態や特性を踏まえた栄養教育を行うための基礎を修得する。

【授業における到達目標】

管理栄養士に必要な知識や技術に関連する分野について学ぶ楽しみを知り、管理栄養士として生涯学び、自己成長する態度や力を身につける。

【授業の内容】

- 1 食物・食生活・健康の関係
- 2 法令上の管理栄養士の役割と業務
- 3 栄養教育の場 (1) 医療・福祉
- 4 栄養教育の場 (2) 学校・行政
- 5 栄養教育の場 (3) 企業
- 6 栄養学の歴史
- 7 地球レベルの栄養の課題と取り組み
- 8 現代医学が目指す方向
- 9 生活習慣病と国民医療費の課題
- 10 現代の疾病予防・治療
- 11 食事療法
- 12 生命の尊厳と倫理
- 13 管理栄養士の職業倫理
- 14 関連職種との連携
- 15 総合学習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み、所定書式のレポートにまとめて提出すること。

(学修時間：週2時間)

【事後学修】

各回に指定する受講後課題について所定書式のレポートにまとめて提出すること。(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

導入教育 - 信頼される専門職となるために - [医歯薬出版(株)、2016、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点(受講態度・課題)50%

提出された課題を確認し、返却してフィードバックする。

【参考書】

「日本人の食事摂取基準2015年版」

(第一出版：定価2,700円+税)

栄養教育論実習 a

辛島 順子

3年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

栄養教育論実習aは、栄養教育各論aの講義で学修した、個人または集団の健康・栄養課題の改善計画に、適切な理論や技法を効果的に活用できることを目指す。

【授業における到達目標】

栄養教育の実施における課題発見・目標設定のための現状把握やアセスメントを行う力を身につける。また、計画の立案や評価を通して課題解決能力を養う。

【授業の内容】

配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行して協働(グループ)学習し、毎回報告会を実施する。討論運営、書記、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの役割交替により、主体的に考える力や表現力を高める。

1. 栄養教育実施者の資質
 - 1) プログラムの運営、学習形態の種類と討議法
 - 2) 二次データの解析
2. 栄養教育マネジメント
 - 1) 栄養教育の目標設定(PDCAサイクルの活用)の意義
 - 2) 栄養教育計画
 - ・学習者の選定・設定：二次データの解析結果の活用
 - ・全体計画、教育プログラム(カリキュラム)、学習指導案作成
3. 集団を対象とした栄養教育 (1)
 - 1) 教材利用の目的・意義、種類と特徴
 - 2) 教育方法の選択
4. 集団を対象とした栄養教育 (2)
 - 1) 教材の選定
 - 2) 食事バランスガイド
5. 集団を対象とした栄養教育 (3)
 - 1) 教材の作成と展開
 - 2) 栄養教育の評価
6. 行動変容の手法と栄養教育への応用
 - 1) 栄養カウンセリング
 - 2) ロールプレイ
7. 症例・事例に基づく栄養教育
 - 1) 対象者の主体的な意思決定と行動変容の支援
 - 2) 対象者に寄り添う全人的な理解
8. 総合実習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み、提出すること。(学修時間：週2時間)

【事後学修】

各回に指定する受講後課題について、所定書式のレポートにまとめて提出すること。(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論」

(南江堂 2016年：3,200円+税)

配布プリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(実習内の個人・グループワークシート、事前事後学修課題レポート)50%、実習態度(参加意欲、グループ学習における役割への取り組み姿勢、プレゼンテーション)50%

グループ学習の成果であるプレゼンテーションを評価し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図るための留意事項についてフィードバックを行う。

【注意事項】

事前に提示する予習課題の内容をもとに、各回の実習で必要な文献や資料は各自が準備して持参すること。

栄養教育論実習 b

辛島 順子

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

栄養教育論実習bは、栄養教育各論bの講義で学修した、発達段階と場に応じた健康・栄養課題の改善計画をライフイベント、ライフスタイルに適した理論・技法・教材を用いて展開できることを目指す。

【授業における到達目標】

自己や他者の役割を理解し、他職種との連携を図り、互いに協力して物事を進める能力の習得を目指す。

【授業の内容】

配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行して協働（グループ）学習し、毎回報告会を実施する。栄養教育計画の立案、学習指導案の作成、教材の作成・選定を行うにあたり、討論運営、書記、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの役割交替により、主体的に考える力や表現力を高める。

1. 発達段階と場に応じた栄養教育 (1) 妊娠・授乳期
 - 1) 妊娠・授乳期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 胎児および妊婦の健康に影響を及ぼす食生活習慣と栄養教育の方法
2. 発達段階と場に応じた栄養教育 (2) 乳幼児期
 - 1) 乳幼児期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 食事と発育の関連に基づいた栄養教育
3. 発達段階と場に応じた栄養教育 (3) 学童期
 - 1) 学童期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 食生活に対する自己管理能力の教育
4. 発達段階と場に応じた栄養教育 (4) 思春期
 - 1) 思春期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 成人期へ向けて主体的に取り組む健康づくり
5. 発達段階と場に応じた栄養教育 (5) 成人期
 - 1) 成人期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 体成分分析結果を用いた課題の抽出と行動変容の支援
6. 発達段階と場に応じた栄養教育 (6) 高齢期
 - 1) 高齢期に特徴的な栄養介入と教育の展開
 - 2) 個人の多様性の理解と適切な支援
7. 個人や集団の健康状態や特性を踏まえた栄養教育
 - 1) 緊急時に必要な栄養介入と教育の展開
 - 2) 安全で質の高い栄養・食事管理を目指した教育の実践
8. 総合実習

【事前・事後学修】

【事前学修】

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み、提出すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】

各回に指定する受講後課題について、所定書式のレポートにまとめて提出すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

（南江堂 2016年：3,200円＋税）

配布プリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（実習内の個人・グループワークシート、事前事後学修課題レポート）50%、実習態度（参加意欲、グループ学習における役割への取り組み姿勢、プレゼンテーション）50%

グループ学習の成果であるプレゼンテーションを評価し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図るための留意事項についてフィードバックを行う。

【注意事項】

事前に提示する予習課題の内容をもとに、各回の実習に必要な文献や資料は各自が準備して持参すること。

栄養指導実習 a

長谷川 めぐみ

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

「栄養指導論a, b」講義で学修した栄養指導の基本的な意義や目的に基づいて、栄養士が栄養指導対象者および栄養指導対象集団に正しい知識を供与し、的確な栄養指導を実施する力を身につける。

栄養指導対象者が自ら実行できるよう導くことができるよう実地に基づいた実習を展開する。

【授業における到達目標】

健康の保持・増進を目的とした栄養指導を充実して行うために対象者自身の健康について正しく認識することが必要である。本実習では栄養指導を行う栄養士の適格な知識と対象者の実態を把握する力をつけることを目的とする。

【授業の内容】

1. 栄養指導実施者の資質①
パネルディスカッション、スピーチ
2. 栄養指導実施者の資質②
討議法（6-6式討議法 ディベート フォーラム）
3. 栄養指導実施者の資質③
カウンセリング実習
4. 集団を対象とした栄養指導（ライフステージ別）
5. 集団を対象とした栄養指導（ライフスタイル別）
6. 災害時の栄養教育
7. 災害時の栄養教育
8. 総合学習

【事前・事後学修】

事前学修：毎回、該当箇所の事前学修を2時間実施すること。

事後学修：毎回実習の学修内容レポート作成し提出する。

事後学修は3時間必要である。

【テキスト・教材】

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

（第一出版：本体2200円＋税、2017年）

他に、毎回資料および所定形式のレポートを配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（個人、グループ・ワークシート）70%

実習態度（参加意欲、口頭発表など）30%

毎回作成、提出する、レポートおよび栄養指導媒体は評価し、返還する。レポート作成および栄養指導媒体作成の評価に応じて個別指導しフィードバックする。

【参考書】

「栄養教育・指導実習ワークブック」

（株式会社みらい：本体2300円＋税、2017年）

栄養指導実習 b

長谷川 めぐみ

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

「栄養指導論a, b」講義で学修した栄養指導の基本的な意義や目的に基づいて、栄養士が栄養指導対象者および栄養指導対象集団に正しい知識を供与し、的確な栄養指導を実施する力を身につける。

栄養指導対象者が自ら実行できるよう導くことができるよう実地に基づいた実習を展開する。

【授業における到達目標】

1. 栄養指導における学習者の現状を正しく理解し栄養指導における課題を発見できる力をつける
2. 栄養指導の学習者について栄養指導目標を設定し、栄養指導計画を立案・実行できる
3. 栄養指導のプロセスや成果を正しく評価し栄養指導における問題解決につなげることができる

【授業の内容】

課題発見と対応の方法は配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行してグループ学習し毎回報告会を実施します。

1. 栄養指導ワールドカフェ
 - ①ワールドカフェの栄養指導への活用
 - ②ワールドカフェ実習
2. 内臓脂肪減少のための身体活動量と栄養指導
 - ①運動で消費するエネルギー量
 - ②腹回測定実習
3. ステージに応じた目標達成と栄養指導
 - ①前熟考ステージの人を対象とした栄養指導
 - ②塾考ステージの人を対象とした栄養指導
 - ③準備ステージの人を対象とした栄養指導
 - ④実行ステージの人を対象とした栄養指導
 - ⑤維持ステージの人を対象とした栄養指導
4. 運動の実践と栄養指導（1）ライフステージ別栄養指導
5. 運動の実践と栄養指導（2）アスリートへの栄養指導
6. 災害時における栄養指導（1）避難所での健康・食生活
7. 災害時における栄養指導（2）避難所での栄養指導
8. 総合学習

【事前・事後学修】

事前学修：毎回、該当箇所の事前学修を2時間実施すること。

事後学修：毎回実習の学修内容レポート作成し提出する。

そのための事後学修は3時間必要である。

【テキスト・教材】

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

（第一出版：本体2200円＋税、2017年）

他に、毎回資料および書式指定提出物を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（個人、グループ・ワークシート）70%

実習態度（参加意欲、口頭発表など）30%

毎回作成、提出する、レポートおよび栄養指導媒体は評価し、返還する。レポート作成および栄養指導媒体の評価に応じて個別指導しフィードバックする。

【参考書】

「栄養教育・指導実習ワークブック」

（株式会社みらい：本体2300円＋税、2017年）

栄養指導論 a

奈良 典子

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

栄養指導論aでは、対象者に栄養教育をする意義ならびに、その目的に応じた理論と技法について学修する。

【授業における到達目標】

栄養指導に必要な栄養教育・行動科学・カウンセリング等の基礎知識・理論を修得し、栄養指導および教育現場において活用できる能力を培う。

【授業の内容】

第1回 ガイダンス

日本における栄養教育の歴史、栄養教育の概念 I
(目的・目標・定義)

第2回 栄養教育の概念 II (栄養教育と健康教育)

第3回 栄養教育の概念 III (対象と機会)

第4回 栄養教育のための理論的基礎 I (栄養教育と行動科学)

第5回 栄養教育のための理論的基礎 II

(行動科学の理論とモデル I)

第6回 栄養教育のための理論的基礎 III

(行動科学の理論とモデル II)

第7回 行動変容技法と概念

第8回 カウンセリングの基本 (理論・姿勢・基本的技法)

第9回 栄養カウンセリングの応用(事例)

第10回 栄養教育のための連携 (組織づくりの展開・発展)

第11回 食環境づくりとの関連

(食物へのアクセス・情報へのアクセス)

第12回 食環境づくりの関連(ゲストスピーカー予定)

第13回 栄養教育の国際的動向 I (先進国と開発途上国)

第14回 栄養教育の国際的動向 II (先進国と開発途上国)

第15回 総合学習

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間 週2時間)

事後学修：復習をする。次回の授業内にて小テスト実施
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

サクセス管理栄養士講座 栄養教育論[第一出版、最新版、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内レポート・小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

新版ヘルス 栄養教育・栄養指導論

(医歯薬出版 定価2800円+税)

栄養科学シリーズNEXT

栄養教育論 (講談社:最新版 定価2800円+税)

栄養指導論 b

奈良 典子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

栄養指導論bでは、ライフステージ・ライフスタイルごとの適切な栄養状態と食行動の実現に向けて、管理栄養士・栄養士が介入する上で必要な栄養教育マネジメント技法とライフステージ・ライフスタイルの特性を学修する。

【授業における到達目標】

栄養指導に必要な栄養教育・行動科学・カウンセリング等の基礎知識・理論を修得し、ライフステージ・ライフスタイルごとの実践的な栄養指導ができる能力を培う。

【授業の内容】

第1回 栄養教育マネジメント

第2回 栄養スクリーニングと栄養アセスメント・栄養診断

第3回 栄養介入 - 計画と実施 (Plan)

第4回 栄養教育プログラムの実施 (Do)

第5回 栄養教育の評価 (Check)

第6回 栄養教育の見直し・改善 (Act)

第7回 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開

I 妊婦・授乳期の栄養教育

第8回 II 乳幼児期の栄養教育

第9回 III 学童期・思春期の栄養教育

第10回 IV 成人期の栄養教育

第11回 V 高齢期の栄養教育

第12回 VI アスリートを含むスポーツ従事者への栄養教育

第13回 VII 大型店舗・地域社会における栄養教育

(ゲストスピーカー予定)

第14回 VIII 傷害者および障害者の栄養教育

第15回 総合学習

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて予習
(学修時間：週2時間)

事後学修：復習をする。次回の授業内にて小テスト実施
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

サクセス管理栄養士講座 栄養教育論[第一出版、最新版、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40% (授業への積極参加(20%)・授業内レポート・小テスト(20%))

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

新版ヘルス 栄養教育・栄養指導論

(医歯薬出版 定価2800円+税)

栄養科学シリーズNEXT

栄養教育論 (講談社:最新版 定価2800円+税)

栄養生化学実験

中村 彰男

1年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

ガイダンスで紹介します。

【注意事項】

必ず実験用の白衣と上履きを着用すること。実験を安全に行うために初回のガイダンスで詳細を説明します。

【授業のテーマ】

生化学aおよび基礎栄養学で学習した栄養素の生化学的性質について、食品からのタンパク質・核酸・糖質を単離・精製する実験を通して括学することで、観察力や正確さを養いながら、思考力や判断力を高める。また、最終回に行うプレゼンテーションでは、栄養情報リテラシーを実践するために、決められたテーマについて情報収集を行い、パワーポイントを用いた発表を行ってまいります。

【授業における到達目標】

1. タンパク質の構造や性質について説明できるようになる。
2. 肝臓に含まれるグリコーゲンの性質を説明できるようになる。
3. 核酸の単離や遺伝子の解析手法を説明できるようになる。
4. カフェインの性質や生体機能を説明できるようになる。

栄養生化学実験を通じて、観察力を養いながら、思考力や判断力を高め【行動力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

第1回 ガイダンス

- ① 安全に実験を行うための注意事項
- ② 実験の進め方とレポートに関する注意事項
- ③ 蛋白質の性質とSDS電気泳動の原理

第2回 筋肉からのミオグロビンの精製

- ① 蛋白質の抽出・硫酸分画
- ② 疎水性クロマトグラフィー・ゲル濾過法

第3回 蛋白質の定量と分離

- ① Bradford法による蛋白質の定量
- ② SDS-PAGEによる蛋白質の分離

第4回 ゲノムの抽出と遺伝子の増幅

- ① 野菜からのゲノムの抽出
- ② 口腔粘膜からのゲノムの抽出
- ③ アルコール代謝関連酵素の遺伝子のPCR法による増幅

第5回 ゲノム多型とアルコール代謝体質のDNA検査

- ① PCR産物の精製
- ② アガロース核酸電気泳動
- ③ 遺伝子多型解析

第6回 にんじんジュースからのβカロテンの抽出

- ① ニンジンジュースからのβカロテンの単離と定量
- ② 薄層クロマトグラフィーを用いたβカロテンの分析

第7回 紅茶からのカフェインの単離と分析

- ① 紅茶からのカフェインの単離
- ② 薄層クロマトグラフィーを用いたカフェインの分析

第8回 肝臓グリコーゲンの分離と定量

- ① 肝臓からのグリコーゲンの抽出
- ② グリコーゲンの加水分解と糖の定量

第9回 実習内容に関するプレゼンテーション演習

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に次回の実験に関するプリントを配布します。実験に使用する器具や試薬に関して十分に予習をして、実験ノートにまとめること。実験プロトコルに関しては実験の流れについてイメージトレーニングを行ってください。（学修時間 2時間/週）。

【事後学修】毎回の実験に関して、決められた期日までにレポートを作成し提出してください（学修時間 2時間/週）

【テキスト・教材】

毎回、実験に関するプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度40%、レポート60%で評価します。毎回の実験の中で、実験テーマに関しての原理などについての解説を行います。

【参考書】

栄養生理学

奈良 典子

3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

食べ物の消化吸収機構とその代謝について、学習する。また、関連する運動生理学や環境的側面、スポーツ栄養について学修する。

【授業における到達目標】

食べ物の消化吸収機構・代謝機構・運動生理、環境栄養、スポーツ栄養について修得する。各分野の知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。さらに、習得した知識を栄養指導等で役立てる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、栄養学の歴史
- 第2回 ヒトの生育・成長と栄養
- 第3回 食べ物の消化・吸収Ⅰ（三大栄養素）
- 第4回 三大栄養素の代謝
- 第5回 食べ物の消化・吸収Ⅱ（ビタミン・ミネラル）
- 第6回 ビタミンの代謝
- 第7回 ミネラルの代謝
- 第8回 運動時エネルギー産生機構
- 第9回 運動の生理学Ⅰ 呼吸と運動
- 第10回 運動の生理学Ⅱ 運動と栄養
- 第11回 サークァリアリズムと栄養
- 第12回 高温環境の生理と栄養
- 第13回 低温環境の生理と栄養
- 第14回 ストレスと栄養
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える。参考教材にて必ず予習すること。（学修時間：週2時間）

事後学修：配布プリントを復習する。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

- 予定
- 栄養科学シリーズNEXT
- 栄養生化学 人体の構造と機能（講談社 定価2600円＋税）
- ※初回授業にて、購入テキストおよび購入方法について説明する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40%（授業への積極参加(20%)・授業内小テストもしくはレポート(20%)

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

- 管理栄養士講座
- 改訂 環境・スポーツ栄養学（建帛社 定価2500円＋税）

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）

栄養生理学

奈良 典子

1年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

食べ物の消化吸収機構とその代謝について、学習する。また、関連する運動生理学や環境的側面、スポーツ栄養について学習する。

【授業における到達目標】

食べ物の消化吸収機構・代謝機構・運動生理、環境栄養、スポーツ栄養について修得する。各分野の知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。さらに、習得した知識を栄養指導等で役立てる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、栄養学の歴史
- 第2回 ヒトの生育・成長と栄養
- 第3回 食べ物の消化・吸収Ⅰ（三大栄養素）
- 第4回 三大栄養素の代謝
- 第5回 食べ物の消化・吸収Ⅱ（ビタミン・ミネラル）
- 第6回 ビタミンの代謝
- 第7回 ミネラルの代謝
- 第8回 運動時エネルギー産生機構
- 第9回 運動の生理学Ⅰ 呼吸と運動
- 第10回 運動の生理学Ⅱ 運動と栄養
- 第11回 サークァリアンリズムと栄養
- 第12回 高温環境の生理と栄養
- 第13回 低温環境の生理と栄養
- 第14回 ストレスと栄養
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次の授業範囲を伝える

参考教材にて必ず予習すること（学修時間：週2時間）

事後学修：配布プリントを復習すること（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】**予定**

栄養科学シリーズNEXT

栄養生化学 人体の構造と機能（講談社 定価2600円＋税）

※初回授業にて、購入テキストおよび購入方法について説明する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40%（授業への積極参加(20%)・授業内小テストもしくはレポート(20%)）

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

管理栄養士講座

改訂 環境・スポーツ栄養学（建帛社 定価2500円＋税）

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』

（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）

栄養生理学

奈良 典子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

食べ物の消化吸収機構とその代謝について、学習する。また、関連する運動生理学や環境的側面、スポーツ栄養について学習する。

【授業における到達目標】

食べ物の消化吸収機構・代謝機構・運動生理、環境栄養、スポーツ栄養について修得する。各分野の知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。さらに、習得した知識を栄養指導等で役立てる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、栄養学の歴史
- 第2回 ヒトの生育・成長と栄養
- 第3回 食べ物の消化・吸収Ⅰ（三大栄養素）
- 第4回 三大栄養素の代謝
- 第5回 食べ物の消化・吸収Ⅱ（ビタミン・ミネラル）
- 第6回 ビタミンの代謝
- 第7回 ミネラルの代謝
- 第8回 運動時エネルギー産生機構
- 第9回 運動の生理学Ⅰ 呼吸と運動
- 第10回 運動の生理学Ⅱ 運動と栄養
- 第11回 サークァリアンリズムと栄養
- 第12回 高温環境の生理と栄養
- 第13回 低温環境の生理と栄養
- 第14回 ストレスと栄養
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を伝える

参考教材にて必ず予習すること(学修時間：週2時間)

事後学修：配布プリントを復習する(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

- 予定
- 栄養科学シリーズNEXT
- 栄養生化学 人体の構造と機能（講談社 定価2600円＋税）
- ※初回授業にて、購入テキストおよび購入方法について説明する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

『評価方法・基準』

筆記試験 60%

平常点 40%（授業への積極参加(20%)・授業内小テストもしくはレポート(20%)）

『フィードバック』

小テストもしくはレポートの解説は翌週の授業にて実施

【参考書】

- 管理栄養士講座
- 改訂 環境・スポーツ栄養学（建帛社 定価2500円＋税）

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）

英語で学ぶ日本文化

歌舞伎を中心に日本文化とヨーロッパ文化の越境性を考える

ホリー ペトル

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

等授業において、学生の皆さんとともに、日本とヨーロッパの文化、とりわけ日本の歌舞伎などといった古典芸能がヨーロッパにいかなる影響を与え、いかのように受容されてきたかについて、また、逆輸入の形で20世紀の日本において、その舞台を変貌させたかを考える予定です。それぞれの国家の境界線や文化を超え、芸術家の自由活動を通して、いわゆる越境的な舞台芸術はどのように形成されたか、またその傍ら、舞台芸術の国際交流などについても考える予定です。

【授業における到達目標】

- ・歌舞伎を中心に、必要な文献収集の方法が身につく
- ・「他国に行けば自国を知る」の意味を考える
- ・日本の歌舞伎、日本文化などを理解して外国人などに説明できるようにする

【授業の内容】

- 第1週 ヨーロッパ・ジャポニズムの誕生（中欧を中心に）
- 第2週 川上音二郎、貞奴、ヨーロッパを制覇
- 第3週 マダム・ハナコの時代
- 第4週 歌舞伎について（脱亜入欧の視点から）
- 第5週 歌舞伎、海を渡る（二代目左團次の「征露」）
- 第6週 ドイツの余興としての「カブキ」
- 第7週 能について
- 第8週 「日本かぶれ」の西洋人
- 第9週 オペラに出没するジャポニズム
- 第10週 外交官、歌舞伎のために、舞踊詩を書きおろす！（ポール・クローデルの『女と影』について）
- 第11週 渡欧する四谷怪談とお岩様
- 第12週 ヨーロッパ人と日本の演劇
- 第13週 夏に向けてイザヤかぶかん！
- 第14週 漫画は歌舞伎になる？！
- 第15週 総まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：課題作品について考える（2時間）
- 事後学修：課題作品、授業内容について再度考える（1時間）

【テキスト・教材】

- ・ブルーレイなどで、歌舞伎の舞台を鑑賞する
- ・授業開始時に指示する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度、レポートで総合評価します。

【参考書】

- 古井戸秀夫著『歌舞伎入門』
- 神山彰（編）『演劇のジャポニズム』
- レズリー・ダウン著『マダム貞奴』など

【注意事項】

ディスカッションをしますので、こぞってご参加ください。

英語で読む日本文学

人間らしく生きることの意味

島崎 嗣生

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

日本の近代文学の名作を英語と日本語で読解・鑑賞して若い人たち・青年の生き方・生き様を学ぶ・日本語の英語の表現方法の比較と検討を行う。

【授業における到達目標】

- ・日本の近代文学を英語と日本語とで鑑賞し、比較分析を行うことにより、多角的な視点を養う（国際的視野）
- ・文学作品を鑑賞する力を育成して、多様な人間の生き様を理解して、豊かな人間性を育む（美の探究）

【授業の内容】

- 第1週 自己紹介・相互紹介
- 第2週 芥川龍之介「杜子春」読解①
- 第3週 芥川龍之介「杜子春」読解②
- 第4週 芥川龍之介「杜子春」読解③
- 第5週 芥川龍之介「杜子春」読解④
- 第6週 夏目漱石「それから」読解①
- 第7週 夏目漱石「それから」読解②
- 第8週 夏目漱石「それから」読解③
- 第9週 夏目漱石「それから」読解④
- 第10週 夏目漱石「それから」読解⑤
- 第11週 川端康成「伊豆の踊子」読解①
- 第12週 川端康成「伊豆の踊子」読解②
- 第13週 川端康成「伊豆の踊子」読解③
- 第14週 川端康成「伊豆の踊子」読解④
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

- 事前学修：指定されたテキストの文学作品を読んでおく。（週2時間）
- 事後学修：授業の後、感想論文を書く。（週2時間）

【テキスト・教材】

- 夏目漱石：それから[岩波文庫、2017、¥600(税抜)]
- 島崎嗣生：英語で日本文学を読む[小池企画印刷、2019、¥472(税抜)]
- 川端康成：伊豆の踊子[新潮文庫、2017、¥360(税抜)]
- 芥川龍之介：蜘蛛の糸・杜子春[新潮文庫、2017、¥320(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 筆記試験（80%）、感想論文（20%）。
- ワークシートのフィードバックは次回の授業で行います。
- プレゼンテスト・筆記試験のフィードバックは最終授業で行います。

【参考書】

特になし。

【注意事項】

- 英文教材はすべてプリントなので、各自クリアファイルを用意してきちんと保存してください。
- また、各自で授業ノートを用意してください。

英語コミュニケーションⅠ

阿佐美敦子・時田朋子・柳瀬実佳・内田里美・富倉敦子・グディ
エレズ・シオティーノ・マルチェフ・ミラー・ライト

1年 後期 2単位

©：国際的視野

【授業のテーマ】

大学生として必要な英語の基礎的な能力ー「話す」「聞く」「読む」「書く」を身につけることをテーマとしています。

【授業における到達目標】

1. 社会の基本的な情報を英語で理解し、それについて英語で簡単に説明したり自分の意見を英語で述べたりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につける。

以下は各技能あるいは知識の到達目標です。

Vocabulary - 基礎的な単語力を伸ばし、日常の場で適切に使えるようになる。

Grammar - 英語文法知識を整理し、正確に使えるようになる。

Reading - 社会で起きている話題を英語で読んで理解できるようになる。

Writing - 英語で書く基本を学び、目的に応じて簡単な文が書けるようになる。

Listening and Speaking - 日常的な話題について正しく聞き、簡潔に適切に話せるようになる。

Critical thinking - 上の活動を通し様々なテーマについて批判的な目、批評力を身につけ、英語で述べることができるようになる。

なお、これらの能力はインテグレートッド・イングリッシュの継続としてCEFR指標のA2あるいはB1レベルを到達目標としています。

【授業の内容】

総合的な英語運用能力を養うため、日本人教員によるR&W（リーディング、ライティング）、英語ネイティブ教員によるL&S（リスニング、スピーキング）の学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル_2])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Business / Reading 1: Family unity builds success

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Information Technology / Reading 1: Memo to restaurant servers

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Environmental Studies / Reading 1: Think before you toss

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Public Health / Reading 1: FLU FAQ

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 TOEIC Test実施 (Date will be announced)

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル_1])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Psychology / Listening 1: Body and mind

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Philosophy / Listening 1: Dishonesty in schools

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Behavioral Science / Listening 1: Attitudes about change

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Psychology / Listening 1: The science of fear

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 TOEIC Test実施 (Date will be announced)

【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用するので、両クラスのテキストとも、学修するUnitの予習を必ずし、わからない単語は調べてくること。予習は最低週2時間程度かかります。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。manabaに課題が出ることもあるので、定期的にmanabaをチェックして下さい。最低週2時間程度の事後学修時間が必要です。

【テキスト・教材】

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level_2]. Oxford University Press [Oxford University, 2016, ¥3,300(税抜)]

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level_1] [Oxford University, 2016, ¥3,300(税抜)、※Reading & Writing (R&W) Class用]

TOEIC (R) テスト公式問題集ー新形式問題対応編[国際ビジネスコミュニケーション協会、2016、¥2,800(税抜)、※Listening & Speaking (L&S) Class用]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% 注：期末試験の一部ですので受験しないと単位資格を失います。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪くと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

英語コミュニケーションⅡA

阿佐美敦子・時田朋子・小林裕子・柳瀬実佳・内田里美・冨倉敦子・シオティエノ・マルチェフ・ミラー・ライト

2年 前期 2単位

©：国際的視野

【授業のテーマ】

人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語の修得を目指します。

【授業における到達目標】

1. 社会の様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で述べたり議論したりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、自ら英語でコミュニケーションできるようになる。
3. TOEICテストで高得点を目指し、自分の英語力を示すことができるようになる。

以下は英語能力の指標となる技能の獲得目標です。

Vocabulary－単語の知識を増やし、適切に使えるようにする。

Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようにする。

Reading－社会で起こっている様々な話題について英語で多角的に読み、考えることができるような力をつける。

Writing－英語で書く基本的な規則を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書ける力をつける。

Listening and Speaking－適切なリスニング力、スピーキング能力を伸ばす。

Critical thinking－様々な活動を通してテーマについて英語で批判的意見を述べるようにする。

具体的な到達目標としてCEFR基準のB1～B2レベルの英語能力獲得を目指します。

【授業の内容】

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディング、ライティング、ネイティブ教員によるリスニング、スピーキングの学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル_3])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 1 Sociology/Reading 1: Small talk: A big deal

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Nutritional Science/Reading 1: Knowing your taste

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Information Technology/Reading 2: Living outside the box

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Marketing/Reading 1: Food advertising tricks you should know about

第12週 Unit 4 Application

第13週 TOEIC Preparation (4)

第14週 Review

第15週 In-class examination

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル_2])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 1 Architecture/Listening 1: Modern architecture

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Psychology/Listening 1: The colors of nature

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Behavioral Science/Listening 1: Be polite

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Marketing/Listening 1: Game studies

第12週 Unit 4 Application

第13週 TOEIC Preparation (4)

第14週 Review

第15週 In-class examination

【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用しますので、両クラスのテキストとも学修するUnitの予習を必ずし、わからない単語は調べてくること。予習は最低週2時間程度かかります。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。またmanabaに課題が出ることもあるので、定期的にmanabaをチェックしましょう。最低週2時間程度の事後学修時間が必要です。

【テキスト・教材】

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level_3]. [Oxford University Press、2016、¥3,300(税抜)]

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level_2] [Oxford University Press、2016、¥3,300(税抜)、※Reading & Writing (R&W) Class用]

TOEIC (R) テスト公式問題集－新形式問題対応編[国際ビジネスコミュニケーション協会、2016、¥2,800(税抜)、※Listening & Speaking (L&S) Class用]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(30%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(30%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

注意：最終評価はR&Wクラス(50%)、L&Sクラス(50%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

英語コミュニケーションⅡB

阿佐美敦子・時田朋子・小林裕子・柳瀬実佳・内田里美・冨倉敦子・グディエレス・シオティノ・マルチェフ・ミラー・ライト
2年 後期 2単位
◎：国際的視野

【授業のテーマ】

人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語の修得を目指します。

【授業における到達目標】

1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で述べたり議論したりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、自ら英語でコミュニケーションできるようになる。
3. TOEICテストで高得点を目指し、自分の英語力を示すことができるようになる。

以下に詳細を示します。

Vocabulary－単語力を伸ばし、適切に使えるようにする。

Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようにする。

Reading－社会で起こっている様々な話題について英語で多角的に考えることができるような力をつける。

Writing－英語で書くルールや基本を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書ける力をつける。

Listening and Speaking－聞く力をつけ、効果的に英語で話せるようになる。

Critical thinking－様々な活動を通して、各Unit のテーマについて批判的な目、批評力を身につけ、自分の意見を英語で述べることができるようにする。

具体的な到達目標としてCEFR基準のB1～B2レベルの英語能力獲得を目指します。

【授業の内容】

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディング、ライティング、ネイティブ教員によるリスニング、スピーキングの学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル_3])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Psychology/Reading 2: The climb of my life

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Philosophy/Reading 2: The biology of altruism

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Economics/Reading 1: How a Ugandan girl got an education

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Behavioral Studies/ Reading 2: Practice makes...Pain?

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class examination

第15週 TOEIC Test受験 (Date will be announced)

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル_2])

第1週 Guidance

第2週 Unit 5 Sociology/ Listening 1: Separated at birth

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Business/Listening 1: Howtoons

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Environmental Studies/Listening: 1

Sustainable Dave

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Public Health/Listening 1: Water for life

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 TOEIC Test受験 (Date will be announced)

【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用するので、両クラスとも必ず学習するUnitの予習をし、わからない単語は調べてくること。予習にはおよそ週2時間かかります。

事後学修：復習の宿題は必ず提出のこと。復習にはおよそ週2時間かかります。

【テキスト・教材】

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level_3]. [Oxford University Press、2016、¥3,300(税抜)、※R&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。]

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level_2]. [Oxford University Press、2016、¥3,300(税抜)、※Reading & Writing (R&W) Class用]

TOEIC (R) テスト公式問題集－新形式問題対応編[国際ビジネスコミュニケーション協会、2016、¥3,300(税抜)、※Listening & Speaking (L&S) Class用]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% 注：期末試験の一部ですので受験しないと単位取得資格を失います。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

英語音声学

英語教員を目指す人のための音声学

杉本 淳子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は、英語教員を目指す学生にとって必須である音声学の基礎の理解と、発音・聞き取りの指導法を学ぶことを目的としています。授業では、母音・子音・リズム・イントネーションの内、日本語母語話者にとって特に難しく重要な項目を取り上げます。英語と日本語の比較をもとに、受講者が英語教員として、生徒の発音・聞き取りを指導する上でどのような点に注意すべきかを考え、効果的なエクササイズを作成する練習をおこないます。同時に、受講者が自分自身の発音・聞き取りの問題点を認識し、改善するための練習方法も学びます。

【授業における到達目標】

- (1) 音声学の基礎的な用語の説明ができる。
- (2) 英語音声の特徴を説明できる。
- (3) 日本語と英語の音声の違いを説明できる。
- (4) 発音の問題点を改善するために必要な練習を理解している。
- (5) 英語の多様性を理解し、積極的にコミュニケーションをとる姿勢を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 辞書と発音記号、音素
- 第2週 英語の母音体系、短母音と長母音
- 第3週 二重母音と弱母音
- 第4週 英語の子音体系
- 第5週 子音(1) (摩擦音と破擦音)
- 第6週 子音(2) (接近音と鼻音)
- 第7週 発音とつづり字
- 第8週 音節構造と子音連続
- 第9週 語強勢
- 第10週 リンキングと音変化
- 第11週 リズム、内容語と機能語
- 第12週 イントネーション(1) (区切り方、核)
- 第13週 イントネーション(2) (音調)
- 第14週 英語の多様性と発音モデル
- 第15週 発音指導と評価法

【事前・事後学修】

- ・授業では扱えない項目について、教科書を読み練習問題にとりくむこと (事前事後学修 週1-2時間程度)
- ・自分自身の発音・聞き取り能力向上のため、普段から積極的に練習すること (事後学修 週1-2時間程度)
- ・学期中に実施する小テストや学期末の試験に向けて、毎回の授業内容をよく復習すること (事後学修 週1-2時間程度)

【テキスト・教材】

竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子：改訂新版 初級英語音声学[大修館、2013、¥2,400(税抜)、※あると便利だが必ずしも買う必要はない]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点 (授業内の練習や話し合いへの積極的参加) 20%
- 小テスト 20%
- 期末テスト 60%
- テストのフィードバックは次回授業内でおこないます。

【参考書】

英語音声学研究会著. 2003. 『大人の英語発音講座』 (NHK出版)

英語音声学A

萩野 敏

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

英語の音声面の解説を行う講義です。言語音が発音器官でどのように作り出されるかという点に注目する「調音音声学」分野の基礎的な内容を紹介します。日本語における類似音との比較を行いながら、英語の各母音・子音の調音方法や音声面での特徴を詳しく解説します。

【授業における到達目標】

英語各音の調音方法を学びその特徴を理解することによって、音声記号を含む英語音声学の基礎的な知識を身につけることを目標としています。また、知を探究し、心の美を育む態度を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

【授業の内容】

- 第1週 英語音声学の基礎知識
- 第2週 調音器官・音声の分類
- 第3週 子音の分類法・閉鎖（破裂）音1（両唇音）
- 第4週 閉鎖（破裂）音2（その他の音）
- 第5週 摩擦音1（唇歯音・舌歯音）
- 第6週 摩擦音2（その他の音）
- 第7週 破擦音・側音
- 第8週 鼻音・半母音
- 第9週 子音のまとめ
- 第10週 母音の分類法・前舌母音1（高母音）
- 第11週 前舌母音2（その他の音）
- 第12週 後舌母音
- 第13週 中舌母音・二重母音
- 第14週 母音のまとめ
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、テキストの該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ずテキストや各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、資料をmanabaで配布する予定です。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中に複数回の小テストを課します。

成績は、小テスト（90%）、平常点（授業態度と参加状況）（10%）による総合評価です。

各小テスト後にフィードバックを行う予定です。

英語音声学B

萩野 敏

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

英語の音声面の解説を行う講義です。母音・子音の各個音を取り上げる「英語音声学A」とは異なり、音の連続、強勢、音調などに関する英語の音声面での特徴を詳しく解説します。

【授業における到達目標】

英語音声のプロソディーを学びその特徴を理解することによって、単音を超えたレベルでの英語音声に関する音声学の基礎的な知識を身につけることを目標としています。また、知を探究し、心の美を育む態度を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

【授業の内容】

- 第1週 英語の音声
- 第2週 音声の分類
- 第3週 音節と拍
- 第4週 音節の構造
- 第5週 聞こえ度と音節主音
- 第6週 音声の分類と音節のまとめ
- 第7週 子音連続
- 第8週 連結
- 第9週 同化と脱落
- 第10週 音連続のまとめ
- 第11週 強勢とアクセント
- 第12週 語・句・文の強勢
- 第13週 強形・弱形と音調
- 第14週 強勢と音調のまとめ
- 第15週 音声と文字 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、資料をmanabaで配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中に複数回の小テストを課します。

成績は、小テスト（90%）、平常点（授業態度と参加状況）（10%）による総合評価です。

各小テスト後にフィードバックを行う予定です。

英語科教育法（１）

大澤 美穂子

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

本講座の目的は、学習指導要領とは何かを理解し、それを踏まえて、英語で授業を行うための基礎的な能力育成にあります。英語科では、「言語や文化の理解」に加えて、様々な場面における「コミュニケーションを図る態度の育成」が今強く求められています。本講座は、こうした能力の育成を将来担う英語科教員養成の導入講座として位置付けられており、学習指導要領の内容や英語教育学に関する基本的知識を理解することはもちろんのこと、英語科教員として必要な基本的なスキルのトレーニングを授業中に行います。

【授業における到達目標】

- ・英語科教育に関する知識を身につけることができる。
- ・英語科指導法に関する基本的な技能を身につけることができる。
- ・英語運用能力を高めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 国際語としての英語とは何か
 - 第2週 英語教育と英語教育学
 - 第3週 学習指導要領
 - 第4週 学習者
 - 第5週 英語教員
 - 第6週 小学校における外国語活動・外国語科
 - 第7週 英語教授法
 - 第8週 第二言語習得と英語教育
 - 第9週 コミュニケーション能力の育成
 - 第10週 話す・聞く・読む・書く指導の実際
 - 第11週 ティーム・ティーチング
 - 第12週 英語による授業の実際 中学校における指導
 - 第13週 英語による授業の実際 高等学校における指導
 - 第14週 マイクロ・ティーチング A班
 - 第15週 マイクロ・ティーチング B班
- *マイクロ・ティーチングは履修者を2つのグループに分けて行います。

【事前・事後学修】

- 事前学修（2時間）
- 毎回指定したテキストの内容を英語で発表できる準備をすること
- 事後学修（2時間）
- 授業で扱った内容について、メモした内容をノートにきちんと英語でまとめること

【テキスト・教材】

- ・望月昭彦編著他『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店 2018年）2,300円
- ・自分が中学や高等学校時代に使用した教科書
- *その他必要なものについては、授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 授業中の発表・発言：50%、毎回の課題：20%、マイクロ・ティーチング：30%
- *課題およびマイクロ・ティーチングに対してのフィードバックは各授業中に行います。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

授業は基本的に全て英語で行います。
英語による積極的な発言が求められます。
受講にあたり最低英検2級に合格していることが望ましい。

英語科教育法（２）

津田 ひろみ

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

中等英語教育に関する基礎知識を土台とし、教育関連の重要項目について討論により考察を深める。さらに中学校の教科書に基いて指導案を作成して模擬授業を行い、理論と実践を結びつける。

【授業における到達目標】

学修を通して理想の英語教師像をめざして自己成長する「研鑽力」を養い、仲間との意見交換を通して相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 第2週 英語教育の目的（電子黒板使用）
 - 第3週 指導目標
 - 第4週 指導方法
 - 第5週 評価とテスト
 - 第6週 外国語教授法
 - 第7週 自律的学習
 - 第8週 学習者要因
 - 第9週 英語教師論
 - 第10週 小学校の英語教育
 - 第11週 異文化教育
 - 第12週 指導案の検討（電子黒板使用）
 - 第13週 ゲストスピーカーによる講義
 - 第14週 模擬授業（導入部）と振り返り
 - 第15週 模擬授業（展開部）と振り返り
- *毎授業の初めに新聞記事について意見を出し合って考える

【事前・事後学修】

- ・事前学修（3時間程度）
- 次回の授業範囲を予習し、課題について考えを書く
- 教育関連の新聞記事について要旨とコメントを英語で書く
- ・事後学修（1時間）
- 授業について振り返り

【テキスト・教材】

- ・村野井仁他著『統合的英語科教育法』（成美堂、2012）2,600円
- ・自分が使った中学校の英語教科書

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 模擬授業(20%)、最終課題(20%)、指導案(20%)、発表(20%)、毎回の課題(10%)、新聞ノート(10%)として総合的に評価する。
- 全出席を前提とし、発表、模擬授業のいずれかを欠席した場合は、評価対象外（不可）とする。
- 毎回の省察については、次回の授業内に行う。

【参考書】

- 『高等学校学習指導要領 外国語編・英語編』（開隆堂）
- 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
- 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館）
- 『英語学習は早いほど良いのか』バトラー後藤裕子著（岩波新書 2015）
- 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』村野井仁著（大修館書店 2006）

【注意事項】

受講までに英語検定試験2級以上、または同等以上の英語の資格を取得しておくことが望ましい。
授業では積極的に発言し、批判的思考を深めてほしい。
外部講師による講義の日程は変更の可能性はある。

英語科教育法（3）

津田 ひろみ

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

中等英語教育に関する基礎知識を確認し、高等学校の教科書に基づいて指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な力を身につける。互いにコメントしながら考察を深め、教育実習に備える。

【授業における到達目標】

理想の教師像をめざして計画を立案・実行に向け努力することにより問題解決に向けて主体的に行動する「行動力」が身に着く。さらに、相互を活かし自らの役割を果たす「協働力」を身に着ける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクダクシヨン
 - 第2週 リスニングとリーディングの指導
 - 第3週 文法指導
 - 第4週 スピーキングの指導
 - 第5週 ライティングの指導
 - 第6週 TBLT（タスクを利用した指導）
 - 第7週 協働学習
 - 第8週 発音練習
 - 第9週 語彙指導
 - 第10週 語用論の指導、ゲストスピーカーの講義（予定）
 - 第11週 評価について
 - 第12週 個人差要因について
 - 第13週 指導案の検討（電子黒板使用）
 - 第14週 模擬授業（導入部）と振り返り
 - 第15週 模擬授業（展開部）と振り返り
- *毎時、授業の初めに「5分間アクティビティ」を順番に発表する

【事前・事後学修】

- ・事前学修（2時間程度）
- 次回の授業範囲を予習し、章末の課題について考えをまとめる。
- ・事後学修（2時間程度）
- 授業の振り返りと、教育関連の新聞記事のコメントを英語で書く。

【テキスト・教材】

- ・鈴木渉著『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』（大修館書店 2017）1,800円
- ・自分が使った高等学校の英語教科書

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業20%、指導案20%、最終課題20%、発表20%、5分間アクティビティの発表10%、毎回の課題・発言10%として総合的に評価する。全出席を前提とし発表・模擬授業を欠席した場合は、評価対象外（不可）とする。毎回の省察は次回の授業内に行う。

【参考書】

- 『高等学校学習指導要領 外国語編・英語編』（開隆堂）
- 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
- 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館）
- 『英語教育の危機』鳥飼弘美子著（ちくま新書 2018）

【注意事項】

英語科教育法(1)(2)の単位を取得しておくことが望ましい。授業では積極的に発言し、批判的思考を深めてほしい。中学校公開授業研究会に参加予定（参加は任意）。外部講師による講義の日程は変更の可能性がある。

英語科教育法（4）

大澤 美穂子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

本講座の目的は、教育実習に向けて、実践的な知識と技能を身につけるとともに、英語で授業を行うための基礎的な能力育成にあります。英語科では、「言語や文化の理解」に加えて、様々な場面における「コミュニケーションを図る態度の育成」が今強く求められています。本講座では、特に、教案の作成方法、模範音読、英語による問答の仕方、および副教材の作成方法など、実践的なトレーニングを授業中に行います。

【授業における到達目標】

この授業では、CLILの手法を取り入れ、英語科教員として必要な知識や技能の獲得だけでなく、英語運用能力を高めることで、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CLIL=内容言語統合型学習法

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 教案作成とその実際 模範音読トレーニング
- 第3週 中学1年生を対象とした英語による授業展開法
- 第4週 マイクロ・ティーチング（第3週の内容）
- 第5週 中学2年生を対象とした英語による授業展開法
- 第6週 マイクロ・ティーチング（第5週の内容）
- 第7週 中学3年生を対象とした英語による授業展開法
- 第8週 マイクロ・ティーチング（第7週の内容）
- 第9週 高校1年生を対象とした英語による授業展開法
- 第10週 マイクロ・ティーチング（第9週の内容）
- 第11週 高校2年生を対象とした英語による授業展開法
- 第12週 マイクロ・ティーチング（第11週の内容）
- 第13週 高校3年生を対象とした英語による授業展開法
- 第14週 マイクロ・ティーチング（第13週の内容）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（2時間）
- 毎回指定された単元について教案を作成し、本文の模範音読の練習を行うこと
- 事後学修（2時間）
- 授業で扱った内容について、メモした内容をノートにきちんと英語でまとめること

【テキスト・教材】

- ・自分が中学や高等学校時代に使用した教科書
- *その他必要なものについては、授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発表・発言：20%、毎回の課題：20%、マイクロ・ティーチング：60%
*課題およびマイクロ・ティーチングに対するフィードバックは、各回の授業中に口頭で行います。

【参考書】

授業中に指示します。

【注意事項】

授業は基本的に英語で行います。本講座受講にあたり、英検準1級に合格していることが望ましい。

英語学A

—英語のなんでやねん！—

藤原 正道

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

英語について「なんでえ？」と思ったことはありませんか？「暗記しろ！ 気合いだあ！」と言われて、済ましてしまった英語への素朴な疑問をもう一度呼び覚まし、英語への新たな興味を目覚めさせるとよい。日本語と比較しながら英語の仕組みを明らかにします。

【授業における到達目標】

日本語と比較しながら、英語という言葉について理解すること、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に望み、真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度をはぐくむことを達成目標とします。

具体的には、言語学についての多角的な知識、見識を身につけ、論理的に思考し、それを他者に説明できるようになることが目標です。

【授業の内容】

1. はじめに1 「英語学」ってなに？
2. はじめに2 もう一度見直そう！ 日本語と英語
3. 英語史1 どうしていろいろな過去形があるの？
4. 英語史2 YOUは複数でも単数でも同じ形なの？
5. 英語史3 どうして綴りと音がずれてるの？
6. 英語史4 いろいろな国の英語
7. 音声学1 異音・連結・脱落
8. 音声学2 同化・異化
9. 音声学3 余剰子音
10. 音声学4 アクセント、イントネーションと意味
11. 形態論1 「アンガールズ」が変なわけ
12. 形態論2 単語は平等じゃない1 派生
13. 形態論3 単語は平等じゃない2 複合
14. 形態論4 「Walkman」の複数形は？
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：参考書を読んで、次回の授業内容をつかんでおく。

週1時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習を充分行う。

週3時間以上

【テキスト・教材】

こちらで用意した資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の小テスト90%＋授業への参加度など10%です。毎回論述式の小テストがあります。覚悟しなければや。
- ・毎回の授業でリフレクションシートによってフィードバックを行う予定です。

【参考書】

授業時使用の資料に明記します。

【注意事項】

短大で学んだ技術や知識を応用するには、論理的・科学的思考を身につけることが大切です。この授業で、今まで当たり前だと思ってきたことに疑問を持つ力と、論理的思考力を身につけましょう。私語などの授業の妨害があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があんねんで。

英語学B

—英語のそんなあほな！—

藤原 正道

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

英語について「なんでえ？」と思ったことはありませんか？「気合いで暗記しろ！」と言われて、済ましてしまった英語への素朴な疑問をもう一度呼び覚まし、英語への新たな興味を目覚めさせるとよい。日本語と比較しながら、英語の仕組みを明らかにしまっせ。

【授業における到達目標】

日本語と比較しながら、英語について理解すること、多様性を受容し、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度をはぐくむことが到達目標です。

具体的には、言語学についての多角的な知識、見識を身につけ、論理的に思考し、それを他者に説明できるようになることが目標なんや。

【授業の内容】

1. はじめに 「英語学」ってなに？
2. 統語論1 語順が違えば意味が変わる？
3. 統語論2 英語の中の「まとまり」
4. 統語論3 5文型はもういらない！ 英語の構造は1つ？
5. 意味論1 意味にも決まりがあります。
6. 意味論2 形が違えば意味も違う
7. 意味論3 もう半分？ まだ半分？
8. 意味論4 人間は「植物」？
9. 意味論5 on the wallって「壁の上」じゃないの？
10. 語用論1 会話はキャッチボール
11. 語用論2 英語の丁寧さ
12. 語用論3 英語の謙遜表現
13. 語用論4 英語の失礼さ
14. 語用論5 女と男の英語
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：参考書を読んで、次回の内容をつかんでおく。

週1時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容を十分に理解する。

週3時間以上

【テキスト・教材】

こちらで用意した印刷資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の小テスト90%＋授業への参加度など10%です。毎回論述式の小テストがあります。覚悟するがよい。
- ・毎回の授業でリフレクションシートによって、フィードバックを行う予定です。

【参考書】

授業時使用の資料に明記します。

【注意事項】

短大で学んだ技術や知識を応用するには、論理的・科学的思考を身につけることが大切です。この授業で、今まで当たり前だと思ってきたことに疑問を持つ力と、論理的思考力を身につけましょう！私語などの授業妨害があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響がないわけないわな。

英語学演習 a

—英語学・言語学の真髄を英文で読破する—

村上 まどか

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この演習では、一般言語学の各分野の基礎を、平易な英語で読みながら押さえていくことを目的とします。単なる英文解釈にとどまらず、現代の言語学を自分のものにしていくことが目標です。

【授業における到達目標】

正確に英語を読むという研鑽を積むことによって、英語力が見につくことはもちろんですが、テストは和訳をまったく出題しません。言語に対する感受性を深め、人間に対する洞察力を養うという、内容のほうを重視しているからです。

【授業の内容】

テキストはさまざまなトピックを扱っています。授業において学生は準備してきた成果を発表し、それに教員が解説を加えていくという方式をとります。

第1週	イントロダクションおよび動画
第2週	言語とは何か
第3週	意味特性
第4週	あいまいさ・多義性
第5週	比喩と詩
第6週	意味変化
第7週	文体論
第8週	話し言葉と書き言葉
第9週	言語行為と語用論
第10週	方言の諸相
第11週	言語と性差別
第12週	新語形成
第13週	子どもの言語習得
第14週	動物の言語能力
第15週	総括

【事前・事後学修】

今回は自分は当たらないと思っても、毎回予習は不可欠。事前学修2時間としては、英和辞典を引いてテキストをまんべんなく予習すること。事後学修2時間としては、ノートを見直して出てきた専門的な概念を覚え、各パラグラフをまとめること。

【テキスト・教材】

Victoria Fronkin and Robert Rodman著、成田一・編注
Language as Human Essence (三修社) 約1,500円
 動画『ことばの不思議』(アメリカ制作、1995年NHK教育テレビ放映)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

単元ごとにポイント確認のための小テストを行ない、翌週にフィードバックします。これを平常点として50%。それに期末試験50%で評価します。小テストも期末試験も、電子媒体以外、なんでも持ち込み参照可。

【参考書】

大津由紀雄著『探検！ことばの世界』(ひつじ書房) 約1,600円
 町田健著『町田健のたのしい言語学』(ソフトバンククリエイティブ) 約2,000円
 ほか、授業中に適宜指示します。

【注意事項】

3年生で英語学志向の学生は、卒業論文のテーマ探しを念頭におきながら、この演習に参加するとよいでしょう。

英語学演習 b

具体例に基づいた英文法の議論

猪熊 作巳

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

どのような分野であれ、物事について論じる際には、具体的な証拠を整理し、それを論理的に積み上げていく作業が必要です。この授業では、比較的身近な英文法の諸現象(名詞の単数・複数、*all*や*every*などの解釈、*the*の解釈など)を取り扱った、短い論文を複数読む作業を通じて、(1) 論文体の英語を読み解く作業、(2) 英語の文法現象を整理する作業、(3) 論理を理解する作業、(4) 読んだ内容を他者にわかりやすく発表する作業、(5) 建設的な議論を交わす作業、を積み重ねます。

【授業における到達目標】

上記5つのポイントにのっとり、4年次の卒論執筆に向けて自立的な学習・研究姿勢を身につける。

【授業の内容】

第1回	イントロ
第2回	文法とは何か
第3回	文法の3部門
第4回	演習課題
【名詞の諸相】	
第5回	名詞の意味素性
第6回	名詞の形態
第7回	演習課題：Perlmutter 1973
第8回	中間まとめ1

【名詞句の諸相】

第9回	名詞句内部の主要素：限定詞・数詞・数量詞
第10回	その他の要素：部分格・度量句・修飾語
第11回	演習課題：Maratsos 1971
第12回	中間まとめ2

【Case Studies】

第13回	数量詞の扱い：Baltin 1980、Jackendoff 1981
第14回	名詞の数と定性：Bickerton 1971、Yasui 1973
第15回	総括

【事前・事後学修】

【事前学修】翌回に扱う論文の精読(週2時間)。
 【事後学修】扱った論文の批判的考察(週2時間)。

【テキスト・教材】

コピー配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

コメントシート：20%
 発表：20%
 議論参加：10%
 期末レポート：50%
 フィードバックは授業内、およびmanaba上で行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

専門的な前提知識は必要としません。4年次に英語学で卒論を書く希望のある学生はもちろんのこと、英文法に興味のある学生、論理的思考力を磨きたい学生など、積極的に参加してくれる学生を歓迎します。

英語学演習 c

社会とコミュニケーションに着目
ウンサーシュッツ, ジャンカーラ
3年～ 前期 2単位
◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この演習では、社会言語学的研究を行なうために必要な基礎的知識を身に付け、簡単な調査ができる能力の取得を目的とする。とくに他者とのやり取りで、互いの関係や立場、より大きなコンテキスト(context、背景・状況)でことば遣いが異なる諸現象に着目し、英語と日本語を比較していく。原則としてグループで作業し、各自で指定のテキストを分担し、担当のパーツをまとめて、グループ内で内容を説明し合っていく。また、担当ではなかったものについては、質問等を用意して議論する形で進む。テキストとして、日本人学生を対象とした英語によるコミュニケーション研究を用いるため、英文の読解スキルも磨いていく。また、生のデータに触れるべく、適宜に論文の内容に基づいたミニ実験・調査をする。なお、授業の進み具合により、指定の教科書を用いて社会言語学の基本について学習した後は、受講生の関心に沿って適切な文献と一緒に選んでいく。具体例：言語とステレオタイプ(役割語等)、若者の方言、異文化コミュニケーション等。

【授業における到達目標】

社会言語学とコミュニケーション学の基本的な概念を理解し、説明できるようになる。それを通して、社会言語学・コミュニケーション学、語用論の勉強の基礎的な知識を身に付ける。また、英文を日本語でまとめて説明できるようになる。

【授業の内容】

各回予め担当箇所を決めておき、担当者は、担当箇所をまとめるハンドアウトを作成して、その内容をグループに説明します。その後、解説をして、学習点と関連する課題に取り組みます。

- 第1週 インTRODダクシヨン
- 第2週 Chapter 1 コミュニケーション研究の概説1
- 第3週 Chapter 1 コミュニケーション研究の概説2
- 第4週 Chapter 2 カテゴリー・プロトタイプ・グループ1
- 第5週 Chapter 2 カテゴリー・プロトタイプ・グループ2
- 第6週 Chapter 3 オーディエンス・デザインとアコモデーション1
- 第7週 Chapter 3 オーディエンス・デザインとアコモデーション2
- 第8週 Chapter 4 文化とミスコミュニケーション1
- 第9週 Chapter 4 文化とミスコミュニケーション2
- 第10週 Chapter 5 文化によるコミュニケーション差1
- 第11週 Chapter 5 文化によるコミュニケーション差2
- 第12週 Chapter 5 文化によるコミュニケーション差3
- 第13週 Chapter 6 文化に依拠するコミュニケーションスタイル1
- 第14週 Chapter 6 文化に依拠するコミュニケーションスタイル2
- 第15週 Chapter 6 文化に依拠するコミュニケーションスタイル3

【事前・事後学修】

事前学修：担当者は担当箇所の要旨をまとめて、ハンドアウトを作成すること。担当ではない場合も、教科書を読んで、分からない語句は下調べをすること。(学修時間 週3時間)

事後学修：授業中の板書や解説を参考にして授業内容の復習をして理解に努めること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

Heffernan, Kevin: Introduction to Communication for Japanese Students[くろしお出版、2013、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極的な参加および態度 30%、提出物 35%、期末レポート 35%。

- 1) リアクションペーパーを参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答える。
- 2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

【参考書】

英和辞典(電子辞書可)を持参して下さい。

英語学演習 d

英語の記述文法を究める
村上 まどか
3年～ 後期 2単位
◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

母語話者による英語の記述文法を精読し、法助動詞、関係代名詞といった、日本語には存在しない品詞に焦点をあてて探求します。目からうろこが落ちるような説明に、感動しながら読み進めていきましょう。

【授業における到達目標】

もし自分が人に英語を教える場合にも説明できるように、英文学科の学生として磐石の文法力を身に着けることが目標です。理想的には、誰もが練習問題に満点がとれるようになること!

【授業の内容】

学生が準備してきた成果を発表してもらい、それに教員が解説を加えながら授業をすすめます。

- 第1回 INTRODUCTION: 前書き
- 第2回 法助動詞: 基本的な意味の二分法
- 第3回 法助動詞: *can* と *may*
- 第4回 法助動詞: *must*, *will*, *should*
- 第5回 法助動詞: 否定の作用域
- 第6回 間接目的語: 二重目的語を取る動詞
- 第7回 間接目的語: 人、移動、そして受益
- 第8回 不定詞と動名詞: *that*節のみ取る動詞
- 第9回 不定詞と動名詞: *to*不定詞のみ取る動詞
- 第10回 不定詞と動名詞: 動名詞のみ取る動詞
- 第11回 不定詞と動名詞: *to*不定詞・動名詞両方を取る動詞
- 第12回 関係代名詞: 格
- 第13回 関係代名詞: *who*, *which*, *that*
- 第14回 関係副詞: *where*, *when*, *why*
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

自分の当たらない箇所も含めて、次回に読む箇所を入念に予習してこよう。出てきた練習問題は、別紙に回答して授業時に提出する。(週に2時間)

事後は、読んだ箇所を復習し、返却された練習問題を見直して、同じ問題なら満点が取れるほど納得するまで考察すること。(週に2時間)

【テキスト・教材】

以下のテキストをプリントで配ります。
Yule, George (1998) *Explaining English Grammar*, Oxford University Press.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物は翌日に返却して解説する。朱書きをよく読むこと。出席率を満たした上での(遅刻3回は欠席1回にカウント)、提出物40%、学期末筆記試験60%で評価する。試験は基本的な内容にするので、一切の持込を禁止する。

【参考書】

生成文法もカバーしている同じ著者の本:
Yule, George (2016) *The Study of Language*, 6th edition, Cambridge University Press.
その本の日本語訳:
ユール、ジョージ著、今井邦彦・中島平三訳『現代言語学20章』大修館書店。

【注意事項】

試験に持ち込み不可とするのは、当該教員の試験としてはきわめてめずらしいので、注意すること。

英語学演習 e

英語統語論演習

野村 美由紀

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

現行の生成文法理論である極小主義プログラムについての入門書を用いて、具体的な言語事実の分析から一般的な法則が導き出される過程を英語の実例を中心に学んでいきます

【授業における到達目標】

1. 言語学の低位区分としての英語学と統語論、伝統文法と科学文法、共時的研究と通時的研究を理解する
2. 生成文法の理論とその目標と方法論を理解する
3. 英語のデータの詳細な分析を行う
4. 要旨をまとめて、人前で発表する練習をする

【授業の内容】

予め担当箇所を決めて、発表者は、担当箇所を要約して、ハンドアウトを作成し、発表します。その後で、質疑応答、補足説明をしていきます。原書の英語の練習問題も扱います

- 第1週 第1章「文法」(1)
 第2週 第1章「文法」(2)
 第3週 第2章「語」(1)
 第4週 第2章「語」(2)
 第5週 第3章「構造」(1)
 第6週 第3章「構造」(2)
 第7週 第4章「空構成素」(1)
 第8週 第4章「空構成素」(2)
 第9週 第5章「主要部移動」(1)
 第10週 第5章「主要部移動」(2)
 第11週 第6章「Wh移動」(1)
 第12週 第6章「Wh移動」(2)
 第13週 第7章「A移動」(1)
 第14週 第7章「A移動」(2)
 第15週 前期の授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当箇所の要旨をまとめてハンドアウトを作成する。教科書をよく読んで、分からない語句は下調べをして、疑問点を明らかにする(週3時間) 事後学修：授業中の板書や解説を参考にして復習をする。練習問題を自分で解いてみる(週1時間)

【テキスト・教材】

アンドリュー・ラドフォード：「新版」入門ミニマリスト統語論[研究社、2006、¥3,800(税抜)、※洋書のため価格は変動あり]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(発表、ハンドアウト、コメント用紙、課題、授業への積極的な参加および態度)50%、前期末試験50%
 コメント用紙や授業内での質問は、当該の授業内または次回の授業で、口頭または文書により返答します。発表内容へのコメントは、当日の授業内に行います。

【参考書】

原口庄輔・中村捷・金子義明(2016年)『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』(研究社)
 シルビア・ルラギ、クラウディア・パロディ著、外池滋生監訳(2016)『統語論キータム辞典』(開拓社)
 Andrew Radford(2016年) *Analysing English Sentences*, Cambridge University Press

英語学演習 f

英語の構文交代と動詞の意味関係

野村 美由紀

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、能動文、受動文、場所句交替、与格交替などの英語の構文交代と動詞の意味関係を題材にして、英語を研究する際の問題発見と、その解決方法を基礎から学んでいきます。

【授業における到達目標】

1. 英語の動詞と文の要素、2種類の自動詞について学ぶ。
2. 能動文、受動文、場所句交替、与格交替などの英語の構文交代について理解を深める。
3. 英語を研究する際の問題発見と、その解決方法を学ぶ。
4. 要旨をまとめる練習と、発表を行う練習をする。

【授業の内容】

予め担当箇所を決めて、発表者は、担当箇所を要約して、ハンドアウトを作成し、発表し、その後で、質疑応答、補足説明、全体での議論という形で進めていきます。章末の練習問題も扱って、内容の理解を確認していききたいと思います。

- 第1回 イントロダクション
 第2回 第1章「動詞と文の要素」(1)
 第3回 第1章「動詞と文の要素」(2)
 第4回 第2章「2種類の自動詞」(1)
 第5回 第2章「2種類の自動詞」(2)
 第6回 第3章「能動文と受動文の交替」(1)
 第7回 第3章「能動文と受動文の交替」(2)
 第8回 第4章「場所句交替」(1)
 第9回 第4章「場所句交替」(2)
 第10回 第5章「与格交替」(1)
 第11回 第5章「与格交替」(2)
 第12回 第5章「与格交替」(3)
 第13回 第6章「自動詞・他動詞の交替」(1)
 第14回 第6章「自動詞・他動詞の交替」(2)
 第15回 後期の授業のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当箇所の要旨をまとめてハンドアウトを作成する。教科書をよく読んで、分からない語句は下調べをして、疑問点を明らかにする。(週3時間)

事後学修：授業中の板書や解説を参考にして復習をする。練習問題を自分で解いてみる。(週1時間)

【テキスト・教材】

中島平三：ファンダメンタル英語学演習[ひつじ書房、2011、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(発表、ハンドアウト、コメント用紙、課題、授業への積極的な参加および態度)50%、後期末試験50%
 コメント用紙や授業内での質問は、当該の授業内または次回の授業で、口頭または文書により返答します。発表内容へのコメントは、当日の授業内に行います。

【参考書】

安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』(開拓社)
 中島平三(2001)『最新英語構文辞典』(大修館書店)
 Quirk et al. (1885) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman
 その他は、必要に応じて、適宜紹介します

英語学概論 a

英語の歴史と仕組み

猪熊 作巳

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語学・言語学の様々な領域を概観していく。前期英語学概論aでは特に、人間の言語の中で英語とはどのような言語に位置づけられるのかについて、時代による変化、地域による変化の両観点から理解する。その後、英語そのもののしくみを音、単語、文と段階を追って、英語という言語の仕組み（広い意味での『文法』）を理解していく。

【授業における到達目標】

語学としてではなく、言語学の対象として英語をとらえる視点を身につける。言語学の基礎概念を、具体的データと関連づけながら理解する。

【授業の内容】

第1週 イン트로ダクション
 第2週 第1章：言語の起源
 第3週 第2章：言語の研究手法
 第4週 第3章：英語の発音とスペリング
 第5週 第4章：英語の語彙の多様性
 第6週 第5章：標準英語の成立
 第7週 第6章：英語の方言と多様性
 第8週 第7章：英語の史的変化と国際共通語までの道のり
 第9週 第8章：発音のしくみ [音声学]
 第10週 第9章：音の組合せとアクセント [音韻論]
 第11週 第10章：形態素と語形成 [形態論]
 第12週 第11章：文と統語構造 [統語論 1]
 第13週 第12章：文の内部構造 [統語論 2]
 第14週 補足： 生成文法の考え方
 第15週 総括

【事前・事後学修】

授業1回につきテキスト1章をすすめる。該当箇所は読んできているものとして、講義内では補足的、応用的内容を中心に扱うので、教科書をよく読み、章末の「課題」について自分なりに考えてくること【週1.5時間】。

授業時に浮かんだ疑問や興味を持った点についてはメモを取り、自分なりに文献を探したり言語現象を探したりしながら、自発的な学習を進めること【週2.5時間】。

【テキスト・教材】

長谷川瑞徳編著『はじめての英語学〔改訂版〕』（研究社、2014年）定価2,500円

*後期「英語学概論b」と共通

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

コメントシート：30%

小課題：20%

期末試験：50%

フィードバックは翌回以降の授業内、あるいはmanaba上で適宜おこなう。

【参考書】

田中春美他『入門ことばの科学』（大修館）

中島平三『ファンダメンタル英語学』（ひつじ書房）

その他は授業中に紹介。

【注意事項】

授業や教科書の内容を単純に丸暗記する作業は辛いだけです。それぞれの内容について、日本語や英語、第二外国語から自分なりに身近な例を見つけ、それを吟味する、という作業を楽しんで下さい。

英語学概論 b

英語に関する言語学を探究する

村上 まどか

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語の意味論・語用論にトピックを広げ、文脈や談話、コミュニケーションについて考察を深めます。社会言語学・英語教育についても基礎を学びます。

【授業における到達目標】

英語学・言語学のエッセンスを学ぶことによって、知的好奇心を満たします。中でも意味論・語用論の探究は、言外の意味を探ることになり、深い洞察力を身につけることができます。

【授業の内容】

第1週 第13章 意味論
 第2週 第14章 意味関係
 第3週 第15章 比喩表現
 第4週 第16章 モダリティ（主観的表現）
 第5週 第17章 意味と文脈
 第6週 第18章 文の結束性
 第7週 第19章 文の情報構造
 第8週 第20章 語用論
 第9週 第22章 英語と文化
 第10週 第23章 社会言語学
 第11週 第24章 4大英語国家
 第12週 第25章 英語教育史
 第13週 第25章 各種教授法
 第14週 補充プリント
 第15週 総括

【事前・事後学修】

授業1回につき前期と同じテキスト1章をすすめるので、次回の単元をよく読んで、章末の「課題」について考えてくること（週に約2時間）。

授業内ノートは余白を十分に取って記入し、授業後に不明な箇所を調べて書き加え、事後学修とすること（週に約2時間）。

【テキスト・教材】

長谷川瑞徳・編著『はじめての英語学』改訂版（研究社、2014年）定価2500円。

前期と同じテキストの後半を用いるが、第21章は割愛し、試験にも含まない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席率を満たした上での、100点満点の筆記試験（自筆ノートのみ持込み可）による。番号入力は入力時間も記録が付くので、遅刻もそれによって厳格につけ、29分59秒までの遅刻3回を欠席1回にカウントし、30分より遅ければ欠席とする。

成績評価は試験が100%である。

前回までの講義内容は、授業内で適宜フィードバックされる。

【参考書】

安藤貞雄・澤田治美『英語学入門』（開拓社）

東照二『社会言語学入門』（研究社）

その他も授業中に紹介する。

【注意事項】

1. manabaの9桁番号送信システムにより出席をとる。授業の最後に若干名を指名して質問に答えさせ、この時に返事をしなかった者は番号送信をしていても欠席とする。これは、早退をしてはいけないという意味である。

2. 4回までの欠席は単位修得と成績に無害にするので、出欠に関する不正行為は絶対にせず、正直にやること。

3. 配布プリントは、manaba にアップする。

英語学研究A

英文法論を究める

村上 まどか

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

言語学的な英語力をつけたい大学院生のために、英語の記述文法を精読しながら、文構造に対する考察を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

本格的な学問に真摯な学究精神で臨むことによって、全人的な成長を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 A rapid overview
- 第3週 Verbs
- 第4週 Tense, Aspect, and mood
- 第5週 Clause structure
- 第6週 Complements and adjuncts
- 第7週 Nouns and noun phrases
- 第8週 Adjectives
- 第9週 Adverbs
- 第10週 Prepositions and preposition phrases
- 第11週 Negation and related phenomena
- 第12週 Clause type -- asking, exclaiming, and directing
- 第13週 Subordination and content clauses
- 第14週 Relative clauses
- 第15週 Summing up

【事前・事後学修】

約3時間かけて予習を入念に行ない、課題に取り組んでくること。
事後は約1時間かけて課題のフィードバックを検討し、復習すること。

【テキスト・教材】

Huddleston and Pullum: A Student's Introduction to
[Cambridge University Press, 2005, ¥4,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内発表(5割)と、テキストに載っている Exercises に関する提出課題(5割)を総合的に評価する。Exercises は、2週目から提出してもらい、それに朱を入れて評価をつけたものを次の週からフィードバックする。単なる返却ではなく、見直してディスカッションも行なう。

【参考書】

「親本」Huddleston and Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.
他は授業内で指示する。

英語学研究C

理論言語学の射程を知る

猪熊 作巳

英文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

生成文法理論がその射程にとらえ始めた、言語の生物学的・進化的基盤について、近年のレビュー論文を読み、人間科学の可能性について考察する。

【授業における到達目標】

比較的短いレビュー論文を数多く、しかし精緻に読む能力を身につける。それにより、科学的知見の積み重ねへの理解と、その発展の可能性について自立的に考察を広げる姿勢を身につける。

【授業の内容】

基本的な問題点の整理ののち、レビュー論文を数編取り上げる。1本の文献について、講読に2回、議論や補足に1回の授業をあて、学期を通じて4本程度の論文を読む。

- 第1回 導入：授業の進め方と問題整理
- 第2回 Hauser, Chomsky&Fitch 2002：講読(前半)
- 第3回 Hauser, Chomsky&Fitch 2002：講読(後半)
- 第4回 HCF：議論
- 第5回 Chomsky 2008；講読(前半)
- 第6回 Chomsky 2008：講読(後半)
- 第7回 Chomsky 2008：議論
- 第8回 Bolhuis et al 2014：講読(前半)
- 第9回 Bolhuis et al 2014：講読(後半)
- 第10回 Bolhuis et al 2014：議論
- 第11回 Everaert et al 2015：講読(前半)
- 第12回 Everaert et al 2015：講読(後半)
- 第13回 Everaert et al 2015：議論
- 第14回 総合議論
- 第15回 総括

参加者の関心や目的に応じて、取り上げる文献は変更する可能性がある。

【事前・事後学修】

【事前】文献を精密に読み、不明点や問題点などを洗い出しておく(週5時間)。

【事後】文献の論点を整理し、他の研究との比較を行なう(週3時間)。

【テキスト・教材】

全てコピーを使用。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

文献講読：30%
議論：30%
期末レポート：40%
フィードバックは授業内外を問わず随時行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

レビュー論文を足がかりに、専門的な研究論文を英語で読み、その分析を客観的に評価し、自身の研究に取り込んでいけるよう、自発的・積極的な態度が必要です。

英語学研究演習A

専門性を深める

村上 まどか

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

前期に引き続き、英語の記述文法を精読しながら、英文法論に対する考察を深めることを目的とする。中盤には言語習得論の古典である Berko (1958) を読み、それが半世紀を経てどのように論評されているかを検討する。

さらには履修生の希望を尊重しながら担当教員が助言することによって決定した英語学の文献を読む。したがって、後半の授業内容は、以下のように記さざるを得ないことを了承されたい。

【授業における到達目標】

本格的な英語学研究を主体的に行なうことによって、知の集大成を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 Grade and comparison
- 第2週 Non-finite clauses and clauses without verbs
- 第3週 Coordination and more
- 第4週 Information packaging in the clause
- 第5週 Morphology -- words and lexemes
- 第6週 Berko Gleason (1958) Wug Test に関する文献を読む
- 第7週 引き続き Wug Test を読みディスカッション
- 第8週 Wug Test を論評した文献 Klafehn (2013) を読む
- 第9週 引き続き Klafehn (2013) を読みディスカッション
- 第10週 選択した1本目の文献を読む
- 第11週 引き続きその文献を読みディスカッション
- 第12週 選択した2本目の文献を読む
- 第13週 引き続きその文献を読みディスカッション
- 第14週 レポートに向けての指導
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

約3時間かけて予習を入念に行ない、納得した点・疑問点を整理しながら自分の意見を持ってくること。読み終えた論文については、1本につき10時間以上かけて「書評」（まとめと意見）を作成すること。

【テキスト・教材】

- Huddleston and Pullum (2005) *A Student's Introduction to English Grammar*, Cambridge University Press, 約4000円。
- Berko Gleason, Jean (1958) "The Child's Learning of English Morphology," *Word* 14, 150-177.
- Klafehn, Terry (2013) "Myth of the Wug Test -- Japanese speakers can't pass it and English-speaking children can't pass it either," *Proceedings of the 37th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 170-184.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・提出課題）50%、レポート50%。
前半のテキストの Exercises については、次の週に朱を入れて返却するだけでなく、見直しとディスカッションを行なう。また、発表のハンドアウトについても、助言に基づいて改良してもらおう。

【参考書】

授業内で指示する。

英語学研究演習C

現代言語論を読む

猪熊 作巳

英文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

人間の言語能力の起源・進化という問題は、生成文法がその成立期から意識しつつも、現実的な研究課題にのせることは困難だと考えられてきた。この状況が、21世紀に入って変わりつつある。生物学や認知科学、進化学といった隣接学問領域との交流が増えたことを受け、言語の生物学的側面についての自然科学的アプローチが形成されつつある。

【授業における到達目標】

この授業では、Chomsky自身の論考を読み込む作業を通じて、この「超学際領域」としての理論言語学の思考法と、その現在の到達点についての理解と客観的な評価を手に入れることを目指す。

【授業の内容】

学期初めに、Chomskyに関する導入的文献を読んだうえで、Chomsky自身の最近の文献を講読していく。学期後半は参加者の関心に合わせてさらに発展的な文献を読む。

- 第1回 導入
- 第2回 Smith 2005 : Chomsky's science of language 講読 1
- 第3回 Smith 2005 : Chomsky's science of language 講読 2
- 第4回 Smith 2005 : Chomsky's science of language 補足と議論
- 第5回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 前半イントロ
- 第6回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 進化論の進展
- 第7回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 補足と議論 1
- 第8回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : SMT
- 第9回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 補足と議論 2
- 第10回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 後半まとめ
- 第11回 Berwick&Chomsky2015 : Why Now? : 全体まとめ・論点整理
- 第12回 Chomsky 2016 : Section 1
- 第13回 Chomsky 2016 : Section 2
- 第14回 Chomsky 2016 : Section 3
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

【事前】翌回にかバーする範囲の本文の精読（週5時間）。

【事後】扱った範囲に関わる補足情報・参考文献の参照（週5時間）。

【テキスト・教材】

プリント配布の上、使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

文献講読：40%
議論：40%
期末レポート：20%
フィードバックは授業全般を通じて行う

【参考書】

チョムスキー (2015) 『我々はどうのような生き物なのかーソフィア・レクチャーズ』岩波。
その他、適宜紹介。

【注意事項】

参加者全員で頭を抱えながら、高度に知的な文献を読み進める授業です。表層的な和訳ではなく、本文に書かれていないことまで調べ、考える作業が要求されます。

英語教育学講義

第二言語習得に関する知識を得る

砂田 緑

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、第二言語習得に関する様々なトピックについて、「何が信じられているか」「研究では何が証明されているか」「実際の学習や指導において何が重要か」という視点を持って、英文を読んだりディスカッションをしたりします。

英語教育学に関する用語を学び、英文で専門的な文章を読み解く力も育てます。

【授業における到達目標】

第二言語習得研究において何が議論され、証明されているのかを英語で読むことができるようにします。また、読み取った内容を実際の学習や指導にどのようにつなげていったらよいのかを考える力を育てます。

【授業の内容】

- 第1回 インTRODakション・Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
 第2回 Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
 第3回 Bilingualism (In the Real World, What the Research Says)
 第4回 Bilingualism (What the Research Says, What We Can Do)
 第5回 Input, output, and interaction (In the Real World, What the Research Says)
 第6回 Input, output, and interaction (What the Research Says, What We Can Do)
 第7回 Attention and noticing (In the Real World, What the Research Says)
 第8回 Attention and noticing (What the Research Says, What We Can Do)
 第9回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (In the Real World, What the Research Says)
 第10回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (What the Research Says, What We Can Do)
 第11回 Correction and recasts (In the Real World, What the Research Says)
 第12回 Correction and recasts (What the Research Says, What We Can Do)
 第13回 Individual differences (In the Real World, What the Research Says)
 第14回 Individual differences (What the Research Says, What We Can Do)
 第15回 まとめ・総括

【事前・事後学修】

テキストの指定のページを読んで理解しておいてください。ワークシートを配布し、理解の度合いを確認します。(週2時間)

トピックに関連した書籍を読み、理解を深めるようにしてください。(週2時間)

【テキスト・教材】

Steven Brown (著), Jenifer Larsonhall (著): Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching [Michigan, 2012, ¥2,889 (税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題70%(ワークシートを配布し、内容の理解度、ディスカッションの内容などを確認します)

試験30%(全体を通して学んだことのもつめを行います)

各トピックごとにクラス全体でフィードバックを行います。

英語圏の演劇

シェイクスピアの世界

伊澤 高志

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語圏の演劇を代表するものとして、ウィリアム・シェイクスピアの作品について講義します。まず、シェイクスピアの時代の演劇や劇場の様子などの概説を行い、それを踏まえて具体的な作品として喜劇『から騒ぎ』と悲劇『オセロー』を取り上げます。それぞれ幕ごとに舞台上演の様子を映像で確認しながら、台詞や場面の分析を行い、その特質、歴史性、そして現代性を探っていきます。また、文学研究の主要なテーマのうち、ジェンダー、セクシュアリティ、人種、そしてアダプテーションについても考えてみたいと思います。

【授業における到達目標】

シェイクスピアの作品についての理解を深めること、さらにそこから演劇全般へと関心を広げてゆくことを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「知を求め、心の美を育む態度」および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION
 第2週 シェイクスピアの生涯と作品
 第3週 シェイクスピア時代の演劇と劇場
 第4週 『から騒ぎ』第1幕
 第5週 『から騒ぎ』第2幕
 第6週 『から騒ぎ』第3幕
 第7週 『から騒ぎ』第4幕
 第8週 『から騒ぎ』第5幕
 第9週 中間まとめ
 第10週 『オセロー』第1幕
 第11週 『オセロー』第2幕
 第12週 『オセロー』第3幕
 第13週 『オセロー』第4幕
 第14週 『オセロー』第5幕
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業範囲を予習し、作品の内容について自分なりに理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

【参考書】

- 河合祥一郎『シェイクスピア 人生劇場の達人』(中公新書)
 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』(岩波新書)
 小林章夫, 河合祥一郎編『シェイクスピア・ハンドブック』
 ウィリアム・シェイクスピア『から騒ぎ』(ちくま文庫)
 ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』(ちくま文庫)
 高橋康也編『新装版 シェイクスピア・ハンドブック』
 日本シェイクスピア協会編『新編 シェイクスピア案内』

英語圏の詩

詩のレトリックを学ぶ

島 高行

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ジョン・ダンとシェイクスピアの作品を中心に、英語圏の詩を学ぶ。特にメタファー、メトニミー等のレトリックが、それぞれの作品においてどのような役割を果たしているかに注目し、作品分析を行う。

また歌詞など身近な表現も紹介し、詩に親しみ、レトリックが身近に感じられるような講義を行う。

【授業における到達目標】

詩の発想と表現の多様さを学ぶことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。

また言葉によって表現された細やかな感情を詩を通して学ぶことで、美に対する意識を高めることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 喩えについて
- 第3週 メタファーと詩
- 第4週 メトニミーと詩
- 第5週 奇想と詩
- 第6週 逆説と詩
- 第7週 誇張法と詩
- 第8週 矛盾撞着語法と詩
- 第9週 象徴と詩
- 第10週 詩の形式 ソネット形式の歴史
- 第11週 詩の形式 ソネット形式の発展
- 第12週 詩の形式 韻律
- 第13週 詩の形式 劇的独白
- 第14週 劇詩
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で取り上げるテーマについて、事前に基礎的知識を学んでおくこと。週2時間。

事後学修：授業で紹介した詩を何度も音読すること、また同じ詩人のほかの作品も読んでみる。週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80点、平常点（リアクションペーパー）20点。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業冒頭で答える。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

詩のレトリックを学ぶことで、ものの見方が変わるような授業を目指しますので、積極的に学ぶ姿勢を求めます。

授業時の私語は厳禁。

遅刻の場合は、すぐに申し出ること。申告のあった時間を記録する。

英語史 a

—英語の起源から、古英語を経て中英語まで—

片見 彰夫

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語の辿った歴史を内面史・外面史の両観点から概観し、印欧語族に属する英語への通時的理解を深める。英語史aでは、古英語（450-1100年頃）について焦点を当てる。実際の中古英語の文献を読むことも含めて、英語史前半（c. 450-c. 1500年）について理解を深める。英語学習の際に、goodの比較級がなぜbetterか、toothの複数形はどうしてteethなのかということが頭をよぎったことがあるだろう。さらに、独仏語と似た単語が英語に存在する理由について探ったことはないだろうか。本授業では英語史の知識を得ることによって、様々な文化的要因が言葉に影響を及ぼしていることを見出し、英語学習が一層実り多いものになることを目指していく。

【授業における到達目標】

英語の時代区分について理解するとともに、中古英語の音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を修得する。さらに、中古英語の言語知識をもとに重要作品の一部を読解できるようにする。また、英語の歴史的知識を修得することで、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。アクティブラーニングの一環として行うプレゼンテーションを通して、英語の歴史的变化について自らの言葉でまとめ、説明ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス。英語史の概観
- 第2週 英語の成立と発達の背景
- 第3週 古英語の語彙
- 第4週 古英語の名詞、人称代名詞
- 第5週 古英語の動詞
- 第6週 古英語の形容詞・副詞
- 第7週 古英語の冠詞
- 第8週 古英語詩の特徴、Beowulfのあらすじ
- 第9週 Beowulfの読解
- 第10週 中英語の外面史
- 第11週 中英語の語彙
- 第12週 中英語の名詞・動詞
- 第13週 中英語の形容詞・副詞
- 第14週 Geoffrey Chaucerの言語と文体
- 第15週 Tales of King Arthurの読解、全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが必須となる。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学修で備えていくことが必須となる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

片見彰夫・川端朋広・山本史歩子編『英語教師のための英語史』（開拓社、2018年）3,000円＋税。その他ハンドアウトを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）堀田隆一 著『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』（研究社 2016年）David Crystal著 *The Cambridge Encyclopedia of the English Language* (Cambridge University Press 2003年)

【注意事項】

履修を前提としないが、後期「英語史b」と併せて受講することでより理解が深まる。

英語史 b

—初期近代英語から現代英語まで。世界における様々な英語—

片見 彰夫

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業では、初期近代英語から始まり、後期近代、現代に至る英語の変遷と特徴を知ること目標とする。通時的言語区分のうち、Shakespeareや『欽定訳聖書』で知られる初期近代英語（1500-1700年頃）、規範文法、ピクトリア朝の小説といった後期近代英語（1700-1900）、現代英語とグローバル化（1900年以降）について焦点を当てる。実際の初期・後期近代英語の文献を読むことも含めて、英語史全体の流れについて理解を深める。同時に、それらの英語と現代英語を比較により、英語の通時変化について理解を深める。

【授業における到達目標】

英語の時代区分について理解するとともに、近代英語から現代英語へ至る音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を修得する。さらに、近代英語の言語知識をもとに重要作品の一部を読解できるようにする。また、印刷術の普及や大母音推移により、現代英語へ連なる形式を定着させていく近代英語の歴史を知ること、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。通時的見地から、英語を理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス。中英語から近代英語への移り変わり
- 第2週 初期英語期の発音と綴り字
- 第3週 初期近代英語の人称代名詞と関係代名詞
- 第4週 初期近代英語の動詞とその周辺
- 第5週 初期近代英語の形容詞と副詞、等
- 第6週 Shakespeareの作品と詩形
- 第7週 Shakespeareの文法
- 第8章 『ロメオとジュリエット』読解
- 第9章 『欽定訳聖書』読解（マタイによる福音書抜粋）
- 第10週 後期近代英語の特徴（関係代名詞、助動詞DO）
- 第11週 後期近代英語の特徴（多重否定と進行形）
- 第12週 Victorian Novels (Conan Doyleの作品抜粋読解)
- 第12週 Victorian Novels (Wilkie Collinsの作品抜粋読解)
- 第13週 現代英語の語法・文法の変化
- 第14週 世界の英語
- 第15週 現代の英語・全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが求められる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学修で備えること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

片見彰夫・川端朋広・山本史歩子編『英語教師のための英語史』（開拓社、2018年）3,000円＋税。その他にハンドアウトを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）堀田隆一 著『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』（研究社 2016年）David Crystal著 *The Cambridge Encyclopedia of the English Language* (Cambridge University Press 2003年)

【注意事項】

前期「英語史a」と併せて受講することでより理解が深まります。

英文入門セミナー

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)稲垣 伸一・(CB)志渡岡 理恵・(CC)土屋 結城・(CD)村上

まどか・(CE)諏訪 友亮

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

英文学科の専門科目への導入を目的とします。英文学科のカリキュラムの内容と4年生までの流れを理解し、英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、履修者各自がこの学科で何を学びたいのか、4年間の学びの目標を立てることを目指します。合わせて専門科目の授業において必要となる、異文化理解力、論理的思考力、情報収集・分析力、情報発信力の向上を目標とします。

【授業における到達目標】

英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を育みます。また、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる協働力と、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション 授業の進め方と成績評価について
- 第2週 英文学科の3分野—合同講義 イギリス文学・文化
- 第3週 英文学科の3分野—演習1 イギリス文学・文化
- 第4週 英文学科の3分野—演習2 イギリス文学・文化
- 第5週 英文学科の3分野—合同講義 英語学
- 第6週 英文学科の3分野—演習1 英語学
- 第7週 英文学科の3分野—演習2 英語学
- 第8週 英文学科の3分野—合同講義 アメリカ文学・文化
- 第9週 英文学科の3分野—演習1 アメリカ文学・文化
- 第10週 英文学科の3分野—演習2 アメリカ文学・文化、プレゼンテーション準備
- 第11週 プレゼンテーション1
- 第12週 プレゼンテーション2
- 第13週 プレゼンテーション3
- 第14週 プレゼンテーション4、まとめ
- 第15週 ITPテスト

※「プレゼンテーション1～4」はクラスの中でグループを作り、各週ごとに別々のグループがプレゼンテーションを行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】演習回の授業では、前もってマテリアルを十分に読んでおくことを前提に、学生個人個人の考えを発表してもらいます。プレゼンテーションの準備では、授業時間外に学生間で自発的に相談や準備をしてもらうことが必須です。能動的な自己学習を心がけましょう。（学修時間、週2時間）

【事後学修】演習の内容やプレゼンの内容に基づいて、中間・期末課題が課されます。授業後は関連文献を探すなど、課題作成に向けて準備しましょう。（学修時間、週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントや資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加、プレゼンテーション、コメント用紙）50点、課題50点。フィードバックは課題返却時およびプレゼンテーション終了時に行う。

【注意事項】

演習形式が中心となりますので、積極的に授業に参加して下さい。2年時以降の、ひいては卒論で取り組む研究領域の選択の出発点であることを常に意識して授業に臨んで下さい。

英米言語文化論A

萩野 敏

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

言語と文化は密接に関わりあっています。ある特定の言語を理解するためには、その背景にある文化の知識が不可欠です。また言語を媒介にして成立しているさまざまな文化形態があります。この講義では、英語ということばの世界の言語文化を「ことばと意味」の関係を手がかりにして、いくつかの観点から紹介します。

【授業における到達目標】

ことばの意味とは何か、ということから考え始め、日本語とは大きく異なる英語という言語のことばと文化に関する知識の一端を身につけ、ことばと関わる面での異文化理解を深めることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度や国際的視野を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

【授業の内容】

1. 言語文化論とは
2. ことばと文化（1）：記号と指示物
3. ことばと文化（2）：呼称のずれ
4. ことばと文化（3）：言語相対論
5. 日英語彙構造の比較（1）：対応関係の型
6. 日英語彙構造の比較（2）：1対多の対応
7. 日英語彙構造の比較（3）：多対多の対応
8. 日本語になった英語（1）：外来語と借用語
9. 日本語になった英語（2）：意味のずれ
10. ふり返りと評価のための確認（1）
11. 英語の比喩表現（1）：比喩の分類
12. 英語の比喩表現（2）：空間のメトニミー
13. 英語の比喩表現（3）：時間のメトニミー
14. ふり返りと評価のための確認（2）
15. 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。

資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中の小テスト（2回）とレポートを課す予定です。

成績は、小テスト（60%）、レポート（30%）、平常点（授業態度と参加状況）（10%）による総合評価です。

各小テスト後、レポート提出時、および最終授業時にフィードバックを行う予定です。

英米言語文化論B

萩野 敏

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

言語と文化は密接に関わりあっています。ある特定の言語を理解するためには、その背景にある文化の知識が不可欠です。また言語を媒介にして成立しているさまざまな文化形態があります。この講義では、英語ということばの世界の言語文化を、「色や数を表す英語」と「英語のことば遊び」に関する話題を中心にいくつかの観点から紹介します。

【授業における到達目標】

前半では色や数字といった人の生活に大きく関わる部分での英語の表現方法を学ぶこと、後半では英語のことば遊びの世界の様々な事例を学ぶことによって、日本語とは大きく異なる英語という言語のことばと文化に関する知識の一端を身につけ、ことばと関わる面での異文化理解を深めることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度や国際的視野を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

【授業の内容】

1. 言語文化論とは
2. 色彩語（1）：基本色彩語
3. 色彩語（2）：色のイメージ
4. 生活文化の英語（1）：数字
5. 生活文化の英語（2）：数と量
6. 言語と非言語
7. ふり返りと評価のための確認（1）
8. ことば遊び入門
9. 英語のことば遊び（1）：ことば遊びのレトリック
10. 英語のことば遊び（2）：riddleほか
11. 英語のことば遊び（3）：anagramほか
12. 英語のことば遊び（4）：knock, knockほか
13. ふり返りと評価のための確認（2）
14. 英語帝国主義
15. 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。

資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中の小テスト（2回）とレポートを課す予定です。

成績は、小テスト（60%）、レポート（30%）、授業への参加状況などの平常点（10%）による総合評価です。

各小テスト後、レポート提出時、および最終授業時にフィードバックを行う予定です。

演習 I**学科専任教員**

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

前期の「実践入門セミナー」での学びを基盤にして、大学での学びの方法（スキル）の向上を目指します。演習では、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）という学習過程を通して、行動力と協働力の他、思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨きます。

【授業における到達目標】

「課題発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）」という一連の行動の習慣化と、それを通じて磨かれる思考力・分析力・プレゼンテーション力の向上を目標とする。併せて、個人でも協働でも物事を勧められる能力を養成する。

【授業の内容】

教員によって順序および内容は異なる場合があります。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レポート作成の基本ルールの学習
- 第3回 レポートテーマの決定
- 第4回 レポートのアウトライン作成
- 第5回 専門的な資料・データの収集
- 第6回 資料・データの分析
- 第7回 レポートテーマの展開方法の検討
- 第8回 理論的な思考の学習
- 第9回 レポート文章の推敲
- 第10回 説得力のあるハンドアウト資料の作成
- 第11回 プレゼンテーションの準備
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 ディベートの方法の学習
- 第14回 ディベート
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：開講に際して、各担当教員から説明があります。

事後学修：開講に際して、各担当教員から説明があります。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

開講に際して、各担当教員から説明があります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表・質問、課題提出などの平常点と（50%）、レポートおよびそのプレゼンテーション（50%）によって総合的に評価します。フィードバックの仕方は各担当教員によりますが、基本は教場やmanabaで行います。

【参考書】

テーマに関連する参考文献を適宜紹介します。

【注意事項】

演習（ゼミ）は学生自らが主体的に参加し、他の学生とも協働することによって、行動力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力を身につける場です。積極的に行動し、自分の意見や疑問を発信してください。

演習 II A**学科専任教員**

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習 I にひきつづき、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成という学習過程を通して、行動力・思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨きます。

【授業における到達目標】

1年生の演習で学んだ「読み、書き、聞き、話す」の基礎的な能力をさらに伸ばし、3年生からの専門的な学習に円滑に移行できるレベルに到達することを目標とします。

大学生生活とその後の社会生活で必要となるスキルや学び続ける研鑽力を身につけることを目的とします。さらに、与えられた課題だけでなく自ら課題を発見し、解決のために資料・データを収集して分析する行動力を育成し、グループワークを通して協働することの重要性も学びます。

【授業の内容】

教員によって、順序及び内容が異なる場合があります。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週から第14週までは、原則的に学生の発表、質疑応答、討論という形で、学生が主体となって授業が進みますが、その間に以下のような内容の授業を実施します。
 - 2 テーマの選定
 - 3 文献資料の種類
 - 4 文献資料の収集
 - 5 文献資料の要約とまとめ
 - 6 データの収集と分析
 - 7 図表の読み方と作成
 - 8 レポートの作成
 - 9 発表用ハンドアウト資料の作成
 - 10 プレゼンテーションの方法
 - 11 発表の聞き方と質疑応答の方法
 - 12 ディスカッションとディベート
 - 13 教養科目と専門科目
 - 14 レポートと論文
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：レポート、発表、議論等の準備や、指示された課題に取り組むこと。学修時間 週2時間程度。

事後学修：専門用語の確認や、授業で扱った内容の見直しなどの復習をすること。学修時間 週2時間程度。

【テキスト・教材】

1年次に配布された「アカデミックスキルハンドブック」を適時参照してください。具体的には、必要に応じて担当教員が指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（演習中の発言・積極的な参加）50%、発表やレポート50%。

演習に対する取り組み方（態度）、発表やレポートなどの課題に対して、適時担当教員からコメントやフィードバックが行われます。

【参考書】

必要に応じて、担当教員から紹介されます。

【注意事項】

大学・学部・学科からの連絡事項を授業内でお知らせします。欠席する場合は担当教員に事前にメール等で知らせてください。人間社会学科、現代社会学科ごとに、自動的にクラス編成を行います。

演習ⅡB**学科専任教員**

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅡAに続いて、3年生からの専門的な学修とその後の社会生活で必要となる学びのスキルを身につけることを目的とします。

【授業における到達目標】

これまでの演習で学んだ「読み、書き、聞き、話す」の基礎的な能力を、担当教員を演習ⅡAと変えてさらに磨き、より高度な学びのスキルを身につけることを目標とします。生涯にわたり学び続ける研鑽力や与えられた課題だけでなく自ら課題を発見し、解決のために資料・データを収集して分析する行動力や主体性、グループワークを通して協働する力の育成を目指します。

【授業の内容】

教員によって、順序及び内容が異なる場合があります。

第1週 ガイダンス

第2週から第14週までは、原則的に学生の発表、質疑応答、討論という形で、学生が主体となって授業が進みますが、その間に以下のような内容の授業を実施します。

- 2 テーマの選定
- 3 文献資料の種類
- 4 文献資料の収集
- 5 文献資料の要約とまとめ
- 6 データの収集と分析
- 7 図表の読み方と作成
- 8 レポートの作成
- 9 発表用ハンドアウト資料の作成
- 10 プレゼンテーションの方法
- 11 発表の聞き方と質疑応答の方法
- 12 ディスカッションとディベート
- 13 教養科目と専門科目
- 14 レポートと論文

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：レポート、発表、議論等の準備や、指示された課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：専門用語の確認や、授業で扱った内容の見直しなどの復習をすること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

1年次に配布された「アカデミックスキルハンドブック」を適時参照してください。具体的には、必要に応じて担当教員が指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（演習中の発言・積極的な参加）50%、発表やレポート50%。

演習に対する取り組み方（態度）、発表やレポートなどの課題に対して、適時担当教員からコメントやフィードバックが行われます。

【参考書】

必要に応じて、担当教員から紹介されます。

【注意事項】

大学・学部・学科からの連絡事項を授業内でお知らせします。欠席する場合は担当教員に事前にメール等で知らせてください。人間社会学科、現代社会学科ごとに、自動的にクラス編成を行います。

演習ⅢA・ⅢB**篠崎 香織**

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習では、戦略と組織の観点から理論と実践を学習することを通して、自らのめりこめるテーマを設定し、仮説の設定、検証のプロセスを経て問題解決の糸口を見出すことを目指します。その際、文献レビュー、業界分析、企業への調査、ディスカッション等を積極的に行います。グループワークから協働する意義を体感するとともに、個人でも問題解決に取り組める能力の養成を図ります。

【授業における到達目標】

基本的な経営学の理論枠組みを理解し活用した卒業論文の基本構想の設計を目標とします。その際、自ら目標管理を行い、計画を立てる・実行できる能力の養成も図ります。

【授業の内容】**【前期】**

- 第1週 ガイダンス（進め方とルール）
- 第2週 輪読（経営とは？）
- 第3週 輪読（組織の存続に向けて）
- 第4週 輪読（競争戦略）
- 第5週 輪読（全社戦略）
- 第6週 輪読（機能戦略）
- 第5週 戦略に関するまとめ
- 第6週 輪読（組織とは？）
- 第7週 輪読（様々な組織）
- 第8週 輪読（組織力）
- 第9週 組織に関するまとめ
- 第10週 輪読（経営管理とは？）
- 第11週 輪読（マネジメントの階層）
- 第12週 輪読（分化と統合）
- 第13週 個人研究に関する発表（A班：5人）
- 第14週 個人研究に関する発表（B班：5人）
- 第15週 個人研究に関する発表（C班：4人）

【後期】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 個人研究に関する情報収集とテーマ設定
- 第3週～第4週 個人研究に関する問題意識の発表
- 第5週 先行研究のレビューと問題意識の整理
- 第6週 仮説の探索と研究方法の検討
- 第7週 中間報告
- 第8週 調査の実施
- 第9週～第13週 学外コンペ準備から提出資料作成まで
- 第14週 調査のまとめ
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】前期は輪読ですので、該当箇所を予め読み、内容を理解しておきましょう。後期は主に個人のテーマで研究を進めていくことになるので、論文を探し、読む、仮説を立てる等、どんどん進めて演習に参加してください。

【事後学修】前期は経営学の基本概念を理解し使えるように輪読の復習をしっかり行ってください。後期は、次の演習までに何をすべきかを自らやるべきことを設定し、準備をしましょう。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

事前に提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績はゼミへの取り組み（口頭発表40%、ゼミレポート40%、ゼミ運営およびゼミへの積極的参加等20%）で決定します。

フィードバックは、教場にコメントやディスカッションを通して随時行い、場合によってmanabaを使うこともあります。

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【注意事項】

前後期を通じてグループで調査をします（問題意識の設定→質問票の作成→調査→分析→報告書作成）。調査のテーマに困らないよう日頃から色々なことに関心をもって生活し、自ら進んで行動しましょう。

演習ⅢA・ⅢB

高木 裕子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

授業は2つのテーマから進めます。①「コミュニケーション」を中心に、それに係わる事象や問題、課題について考えます。最先端の諸理論やその周辺にある学術的な研究経過を踏まえながら、そこで起きている問題や課題、また、それら現象や事象の背景にあるものが何であるかを探ります。②「コミュニケーション」という現象やその本質を、多角的かつ多方面から考えることを通じて、例えば、人間の心や社会のあり方、人間の価値観や文化の違いといったものに考えに関心を向けていきます。併せて、言語を通じた人間のコミュニケーションのあり方を、心理作用や社会現象と絡めながら考えていきます。前期ⅢAでは、上記を踏まえ、研究論文テーマを絞り、将来に向けた自身の方向性も考えます。研究論文テーマの探し方だけでなく、論文の書き方も学びます。また、ディスカッションや発表（自分の意見を述べる）という力を養いながら、その学びを通して、研究ののびやかさや深みを目指します。後期ⅢBでは、いざ突進です。各自の論文テーマに沿って、論文を書き始めてください。

【授業における到達目標】

学術論文やデータを多用した先行資料等が正しく読み取れ、かつ、批判的に論文内容が読み解けるまで、そのための読解力を付けさせます。また、卒業研究に先立ち、問題意識がどのように出され、それをどのように問題設定か研究課題としていくのか、その方法を身に付けさせます。

【授業の内容】

前期ⅢA 頭の中を整理してみよう

1. 頭の中を整理してみよう（研究論文テーマのレジュメ作成）
2. 興味や関心のあることを発表してみよう（質疑応答）
3. なぜそれに興味や関心があるのか述べてみよう（意見交換）
4. その背景にあるものを文献で調べてみよう 言語と言語に係わる事象について考えよう
- 5と6. 理論研究と調査①②
- 7と8. 理論研究と（実験を含む）調査 言語と人間社会の中のコミュニケーションのあり方について考えてみよう
- 9～11. 言語現象と理論研究
12. 社会現象と理論研究 頭の中をまとめてみよう
13. 研究テーマ探し 14. 自分探し
15. 後期に向けた方向性の見定め

後期ⅢB 考えたこと、やったことを述べてみよう

- 1～4. 個々の研究テーマと学問体系の中での各種理論や考え方との関係性を考えてみよう
- 5と6. 学問と個々の研究テーマとの整合性
7. 事実の検証方法① 8. 事実の検証方法②
9. 仮説と検証① 10. 仮説と検証② さあ、書いてみよう
11. 論文の書き方 12. 論文のまとめ方行動キャリアプラン
13. 女性として生きること 14. 女性として考えること
15. 時間と空間の使い方

【事前・事後学修】

【事前学修】課題図書や指定論文は必ず読み、内容をよく理解しておくこと。課題図書等は各章毎に担当者を決め、その要約か内容がレジュメと共に発表できるようにしておく。それをもって、全体でディスカッション、フィードバックできるようにします（週2時間）。

【事後学修】その都度、まとめを行い、再構成した上で、レポートとして提出。修正が必要になった場合は、次回までにそれを提出（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト等は適宜紹介するが、基本的には上記【事前学修】【事後学修】に係わるもの以外はこちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表やディスカッション20%、調査を含む各種活動報告30%、課題レポート20%、最終レポート30%。フィードバックは毎回、行う。

【参考書】

適宜授業の中で紹介します。

【注意事項】

授業内で伝えられるものには限りがあります。ですから、授業内外の資源をフルに使い、また、学外の人たちとも助け合いながら行ってください。授業と大学内外のヒトやモノを有機的に結び、使い、学ぶが基本です。深く考え、行動力が付くのがゼミです。調査研究や実習、実践は多くします。頭はしっかり、フットワークは軽く、精神面ではゆったりとです。

演習ⅢA・ⅢB

粟津 俊二

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

4年次の卒業論文作成の準備として、各自の興味にそった心理学的問題の発見、心理学的知識の習得、科学的（データ重視）な思考の訓練を行います。

【授業における到達目標】

議論の前提となる基礎的な知識を修得し、あわせて自らの興味にそって専門的な知識や態度を伸ばしていくことを目的とします。これを通して、新たな知を創造しようとする態度や、生涯にわたり学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

【授業の内容】**ⅢA**

今後の議論の土台となるゼミ生共通の知識を作ることを目的とする。詳細なテーマは、各学生の興味と相談して決めるが、およその内容は以下の通りである。

1. ガイダンス
2. 文献資料の探し方
3. 担当文献の決定
4. 学術論文の読み方
5. 複数の情報の整理
6. 研究テーマの設定
7. 仮説の設定
8. 発表の方法
9. 質疑の方法
10. 討議の仕方
11. 論証の仕方
12. 文献紹介
13. 調査・実験の方法
14. 分析の方法
15. まとめ

ⅢB

各自の興味を深め、卒業論文のテーマを固めてゆくと同時に、心理学的知識の拡充を目的とする。各自の興味にそって、各自最低2回の発表を行って貰い、その内容についての発表、議論を行う。各自のテーマによって内容は異なるが、およその授業内容は以下の通りである。

1. ガイダンス
2. 問題の設定
3. 辞書レベルの調査
4. 先行研究探索
5. よむべき文献の選択
6. 仮説の生成
7. 先行研究の紹介
8. 先行研究の批判
9. 先行研究の整理
10. 問題の絞り込み
11. 仮説の絞り込み
12. 心的モデルの考案
13. 実験、調査方法の考案
14. 予備実験、予備調査
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指定した文献の読解や、発表の準備等をして下さい（学修時間 週2時間程度）。

事後学修：授業内で話した内容、聞いた内容をノートにまとめ、ネット上のグループウェアに上げて下さい。また、授業中に出た専門用語等を調べ、よく確認して下さい（学修時間 週2時間程度）。

【テキスト・教材】

指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ゼミでの発表（30%）、参加態度・他の学生への貢献度（40%）、レポート（30%）を評価します。なお、発表あるいは質問・コメントをもって、出席とします。

授業への参加態度や発表については、その都度コメントし、フィードバックを行います。レポートについては、後日のグループウェア、メール、次学期の授業等でフィードバックを行います。

【参考書】

適時、紹介します。

演習ⅢA・ⅢB

都市と地域の社会学

原田 謙

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

ゼミのテーマは、都心の再開発、ニュータウンの再生、バリアフリー/ユニバーサルデザイン、創造都市、中心市街地の衰退と再生、歴史的町並みの観光などの「まちづくり」を考えることである。ゼミは、都市と地域の社会学に関する「基本文献の輪読」と「個別テーマ報告」を並行して行う。

【授業における到達目標】

到達目標は、具体的なフィールド（地域）におけるまちづくりの個別テーマを設定し、自分で調べる技術（写真、地図分析、聞き取り調査、統計データの分析など）を修得するとともに、各種データにもとづく問題点の整理、自分なりの問題提起を報告できるようにすることである。ゼミを通じて自己成長する「研鑽力」を培い、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」、PBLを通じてメンバーが互いに協力して調査を進める「協働力」を育む。

【授業の内容】

前期 渋谷区都市整備部とのPBL&個別テーマ研究

1. 大都市におけるダイバーシティ&インクルージョン
2. 『渋谷駅周辺地区バリアフリー基本構想』を読み解く
3. 年齢・障害をこえた回遊性の高いまちづくりFW
4. 年齢・障害をこえた回遊性の高いまちづくりWS
5. 商業空間/施設のバリアフリー化：現状分析
6. 商業空間/施設のバリアフリー化：インタビュー調査
7. 商業空間/施設のバリアフリー化：グループワーク
8. 商業空間/施設のバリアフリー化：プレゼン/フィードバック
9. 個別テーマの設定：問題関心の深め方
10. 文献の輪読・報告（1）
11. 文献の輪読・報告（2）
12. 文献の輪読・報告（3）

10～12は、指定文献を用いて全国のまちづくりの事例を知り、その歴史と鍵となる諸概念を学習する。

13. 個別フィールド報告（1）
14. 個別フィールド報告（2）
15. 個別フィールド報告（3）

13～15は、各自とりあげるフィールド（自治体等）の現状分析を行い、夏休みの事例研究計画を報告する。

後期 個別テーマ研究&都内グループワーク

1. イントロダクション
2. ディベート
3. 事例研究報告（1）
4. 事例研究報告（2）
5. 事例研究報告（3）
- 3～5は夏休みに実施した事例研究の結果を報告する。
6. グループワーク（1）
7. グループワーク（2）
8. グループワーク（3）
9. グループワーク（4）

6～9は、「都市と地域の社会学」に関する理論と実証研究をふまえたうえで、都内のフィールドにおけるグループワークの結果を報告する。

10. 個別テーマ報告（1）
11. 個別テーマ報告（2）
12. 個別テーマ報告（3）
13. 個別テーマ報告（4）
14. 個別テーマ報告（5）

10～14は、ゼミ論文の執筆を見据えて、先行研究のビュー、現状分析の再検討、比較事例の検討、具体的な政策提言などを報告する。

15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した専門用語や事例などを復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

演習で用いる文献等は適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表・討論などの平常点（50％）に、レポート評価（50％）を加えて総合評価する。レポート評価のフィードバックは、manabaなどで行う。

【参考書】

松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）

中筋直哉・五十嵐泰正『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

渋谷区『渋谷駅周辺地区バリアフリー基本構想』（渋谷区都市整備部、2018年）

【注意事項】

「地域社会学」を履修すること。

演習ⅢA・ⅢB

子どもと家族の社会学Ⅰ

広井 多鶴子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この演習テーマは「子どもと家族の社会学」である。子ども・若者・家族・子育て・学校・教育を主な対象としている。

演習ⅢAの目標は、卒業論文を作成するための方法を習得することである。具体的には、テーマの見つけ方、先行研究と資料収集の方法、論文の構成、文章の書き方、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。

演習ⅢBでは、卒業論文の作成に向けて、各自準備を進める。それぞれがテーマを選び、そのテーマに関する先行研究を読み、資料を収集、分析し、その成果をまとめて発表する。

【授業における到達目標】

データや資料を収集・分析し、自分なりの課題やテーマを見出すことができるようにする。それによって、知を探求する態度を身につける。

【授業の内容】

演習ⅢA

第1週	オリエンテーション	第2週	テーマを考える
第3週	先行研究の収集方法	第4週	先行研究を読む
第5週	資料の収集方法	第6週	資料を収集する
第7週	資料を分析する	第8週	文章表現を学ぶ
第9週	構成の案を作る	第10週	構成をまとめる
第11週	プレゼンテーション①		
第12週	プレゼンテーション②		
第13週	プレゼンテーション③		
第14週	プレゼンテーション④		
第15週	レポート提出		

*プレゼンテーション①～④は各担当者がそれぞれ発表

演習ⅢB

第1週	研究の目的	第2週	研究のテーマ
第3週	先行研究を収集する	第4週	先行研究を読む
第5週	研究方法を学ぶ：調査研究		
第6週	研究方法を学ぶ：文献研究		
第7週	データを収集する		
第8週	データを収集する	第9週	構成案を作る
第10週	構成をまとめる	第11週	卒論の構想①
第12週	卒論の構想②	第13週	卒論の構想③
第14週	卒論の構想④	第15週	卒論の構想⑤

*卒論の構想①～⑤は、各担当者がそれぞれ自分の構想を発表

【事前・事後学修】

【事前学修】授業で指定のする文献や資料を読む。週2時間

【事後学修】自分の研究テーマについて、先行研究や資料を収集し、分析する。週2時間

【テキスト・教材】

小笠原喜康：大学生のためのレポート・論文術[講談社現代新書、2003、¥714(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、発表、課題提出など、授業への取り組み50%
フィードバックはそのつど行う。

【注意事項】

8月末に3年ゼミで合宿を行なう。

9月半ばに3年、4年合同で卒論構想発表会を行なう。

「家族社会学」「人間形成論」「教育社会学」のいずれかの授業を履修すること。

演習ⅢA・ⅢB

コミュニケーション・デザイン

松下 慶太

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

ソーシャルメディアの登場によるコミュニケーション、社会の変容について研究する。同時に地域や企業と連携し、その可能性を探るプロジェクトやワークショップを企画・実施する。

【授業における到達目標】

- ・コミュニケーション・デザインについてメディア論、学習論、デザインなど諸理論との関連から考察することができる。
- ・地域や企業と連携したコミュニケーション・デザインを企画・実践することができる。
- ・プロジェクトを進める中で「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。

【授業の内容】

演習ⅢA（前期）

1. ガイダンス
2. リサーチの手法について
3. 社会との連携プロジェクトの重要性
4. 連携プロジェクト・企画の説明
5. 連携プロジェクト・企画案の作成
6. 連携プロジェクトの実践
7. プロジェクト企画報告（チームA）
8. プロジェクト企画報告（チームB）
9. プロジェクト企画報告（チームC）
10. 研究報告（チームA）
11. 研究報告（チームB）
12. 研究報告（チームC）
13. 最終報告（チームA）
14. 最終報告（チームB）
15. 最終報告（チームC）

演習ⅢB

1. ガイダンス
2. 進捗報告（チームA）
3. 進捗報告（チームB）
4. 進捗報告（チームC）
5. 学外協力者Aとのディスカッション
6. 学外協力者Bとのディスカッション
7. 中間報告（チームA）
8. 中間報告（チームB）
9. 中間報告（チームC）
10. 研究報告（チームA）
11. 研究報告（チームB）
12. 研究報告（チームC）
13. 最終報告（チームA）
14. 最終報告（チームB）
15. 最終報告（チームC）

【事前・事後学修】

・事前学修：進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行う。（週2時間）

・事後学修：各授業回においてグループで次回までの進捗を設定する（週2時間）

【テキスト・教材】

取り上げるテーマによって適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) リサーチ・プレゼンテーション・ディスカッションへの参加（50%）
- (2) プロジェクト企画・制作への貢献（50%）

(1) について毎週授業冒頭にフィードバックを行う。

(2) について実施後にそれぞれの観点についてフィードバックを行う。

演習ⅢA・ⅢB

谷内 篤博

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

企業は人なりという言葉をよく耳にしますが、その意味するところは企業の存在意義やその良し悪しはそこで働く人々の能力やモチベーションで決まるということを指しています。まさに、企業格差は人材格差で決まるといわれる所以である。

本講義では、こうした企業にとって重要な資源である人材に対する育成のあり方を最新の理論や先進的事例などを踏まえて、わかりやすくかつ具体的に解説をします。

なお、教育訓練技法に関する講義の部分では、企業などで使用されている教育メソッドを実際に使った体験学習を試みたいと考えています。

【授業における到達目標】

本講義を通して学生の皆さんは企業における人材育成の実際について理解を深めるとともに、企業の人材に対する考え方や理念といったものまで理解できるようになります。こうして修得した知識は4年生の就職活動において実際に企業選択を行う際に、人材を重要な経営資源として扱う企業であるかどうかを見極めることに大きく役に立ちます。これは本学の本質や真理を探究する態度の修得につながります。

また、ゼミでの研究活動は、全員での共同論文（ゼミ論）の執筆が中心となるため、協働力および行動力が身につくと同時に、質の高い論文完成に向け、自己研鑽力が修得できる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（企業内教育の動向）
- 第2週 教育訓練/能力開発の歴史の変遷
- 第3週 能力開発の体系
- 第4週 職場内訓練とコーチング
- 第5週 集合教育の特徴と内容
- 第6週 管理職の能力開発
- 第7週 営業職の能力開発
- 第8週 自己啓発の内容と展開の仕方
- 第9週 組織開発とリーダーシップ
- 第10週 長期的/系統的な人材育成とキャリア形成
- 第11週 教育担当者の役割
- 第12週 教育訓練技法
- 第13週 教育効果の測定と分析
- 第14週 企業内教育の課題と今後の展望
- 第15週 プロフェッショナル/次世代リーダーの育成
- 第16週 ゼミ論に向けた先行研究のサーベイ
- 第17週 ゼミ論にむけた論文サーベイ
- 第18週 討論会のテーマ選択
- 第19週 討論会のテーマ決定
- 第20週 ゼミ論のスケルトン作成（その1）
- 第21週 ゼミ論のスケルトン作成（その2）
- 第22週 ゼミ論のスケルトン完成
- 第23週 ゼミ論の分担決め
- 第24週 ゼミ論の執筆（1）
- 第25週 ゼミ論の執筆（2）
- 第26週 ゼミ論の執筆（3）
- 第27週 ゼミ論の中間報告
- 第28週 ゼミ論の最終報告
- 第29週 ゼミ論発表用のパワポの作成
- 第30週 ゼミ論のパワポによる発表

【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマに関する情報や知識をサーベイする（週2時間）

事後学修：講義の振り返りとノートによるまとめ（知の体系化作業）

) 週2時間

【テキスト・教材】

谷内篤博：個性を人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]
 谷内篤博：働く意味とキャリア形成[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、試験80%とレポート20%で評価します。
 レポートのフィードバックは、優れたレポート作成者を発表するとともに、学生全体にレポートの全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）をわかりやすく解説をします。

【参考書】

中原淳『職場内学習論』東京大学出版会、2010年

【注意事項】

本講義は質的連続性が強いいため、休まずに授業に出席することを強く望みます。

演習ⅢA・ⅢB

発達と健康の心理学

竹内 美香

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

4年次の卒業論文作成の準備として、各学生の興味にそった心理学的問題の発見と知識習得を目指す。
 グループワークを通して、発達心理学的な調査設問を考え、データ収集・解析する過程を学ぶ。並行して、特に科学論文として統計処理と数値の見方を含む心理学関連文献の読み方とまとめ方を含め、心理学研究の訓練を開始する。

【授業における到達目標】

1. 客観性と再現可能性を重視する現代科学としての心理学の視点で対人社会・発達の事象を考えられるようになる。
2. 社会調査の手法を人間の発達・対人社会心理学的課題の解決のために正しく活用できる。
3. 計画・実行・評価のマネジメント・サイクルを回しながら、仲間と協働するスキルを習得する。
4. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる力身につける。

【授業の内容】

演習ⅢA

- 第1週 ガイダンスとアイスブレイク
- 第2週 学術論文の読解について説明
- 第3週 グループづくり
- 第4週 文献の探索
- 第5週 作業の進め方相談
- 第6週 論文選びと読解
- 第7週 レジュメ作成開始
- 第8週 レジュメ校正
- 第9週 発表リハーサル
- 第10週 研究論文読解の成果報告開始
- 第11週 成果報告と振り返り
- 第12週 次の計画立案
- 第13週 夏季課題の計画
- 第14週 後期の研究計画
- 第15週 まとめ と 後期の課題の確認

演習ⅢB

- 第1週 後期ガイダンス
- 第2週 PCでデータ分析 説明
- 第3週 PCでデータ分析 演習
- 第4週 後期の研究計画「私が調べたいこと」とは
- 第5週 卒業研究の準備作業 開始
- 第6週 研究テーマを考える 先行論文を探索する
- 第7週 先行論文の収集とデータ採集の具体的方法を考える
- 第8週 既存の心理検査・尺度項目と関連情報を収集する
- 第9週 自分のテーマに添う独自の質問項目の「柱」を考える
- 第10週 質問項目の「柱」から、下位項目を考える
- 第11週 調査票を編集してみる
- 第12週 仮説を考える
- 第13週 「序論」を書いてみる
- 第14週 データ入力シートを構成し、解析をイメージしてみる
- 第15週 まとめ と 「卒業論文計画書」を書いてみる

【事前・事後学修】

【事前学修】ゼミ内発表準備の取り組みに時間をかける。レジュメ等の電子・紙媒体提出物をエビデンスとする。教員と密に相談する。

【事後学修】事前学修で準備したレポートやレジュメの修正版を作成し、教員、ゼミメンバーが共有できるように整える。電子・紙媒体での提出を課す。确实・十分に取組まなければならない。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間以上を要

する課題の取り組みを求める予定。

【テキスト・教材】

既存の学術論文をテキストとして活用する。PCの活用を前提としている。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習の課題、作業への取り組み 50%、各節で提出すべき成果物 50%

【フィードバックについて】個別に提出される課題について、個別指導を行い、フィードバックをする。

【参考書】

J-Stageで検索、ダウンロードすることができるすべての学術論文

【注意事項】

迅速な連絡・返答と仲間に対する思いやりの心を心掛けて欲しい。教員、仲間との交流を重視する。

演習ⅢA・ⅢB

異文化コミュニケーションゼミ

阿佐美 敦子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

異文化との接触が避けられない今日、価値観を異にする人々の思想・行動を理解しようと努める態度が求められています。貴女という人間の土台である自文化を知り、多文化を知り、想像力を存分に働かせ、他者の心情に共感できる柔軟性を育みます。国際交流が今にも増して盛んになることが必須の将来、多文化社会にあって円滑なコミュニケーションをはかれる人材の育成を目指します。

より優れたチームプレーヤーに成長できるよう、仲間とコミュニケーションをはかる中で、共に研鑽し、共に行動し、協働力を高めていきます。

【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、さらに自文化を知り、世界に発信しようとする態度を養います。

地域を問わず、できる限り多彩な国々・地域の人々と直に交流し、コミュニケーション能力を育てます。

【授業の内容】

演習は「各自が主役の国際交流」です。ゼミ生全員が未来の民間大使を目指し、アンテナを世界に向けて張り巡らせ、他者理解と自己表現の訓練を重ねるため、ⅢA・Bを通して、以下のように進めます。

①自文化の理解 普段、当たり前にあっている日本という国に属する自称について、他者に説明するに足る知識と能力を養う。

②多文化の理解 「1年で世界一周」を目標に、各国のそれぞれの文化的特徴から分類し、そこに暮らす人々について多面的な知識を得る。各回の担当者は十分な準備の上で当該国・地域に関する発表を行うと共に、発表後の討議においても進行にふさわしい役を務める。

③異文化交流体験 複数の文化圏より来日されたゲストとの文化紹介・意見交換の場を体験する他、海外の大学との現地交流によって、異文化接触の経験を積むと同時に事故表現力を養う。また日本文化紹介に際し、茶道、華道、書道、舞踊等の伝統文化や現代文化の披露などを行う。

第1週	ガイダンス	第2週	フィールドワーク
第3週	フィールドワーク	第4週	ゲスト交流
第5週	グループ・プレゼン①	第6週	グループ・プレゼン②
第7週	グループ・プレゼン③	第8週	ゲスト交流
第9週	ゲスト交流	第10週	グループ・プレゼン④
第11週	グループ・プレゼン⑤	第12週	グループ・プレゼン⑥
第13週	ゲスト交流	第14週	対外プレゼン準備
第15週	まとめ		

【事前・事後学修】

事前学修として、担当教員より示された翌週の授業内容について、自ら関連する文献等を調べ、受講に際して必要となる基礎的、背景的事象の知識を得ておくように努めてください。事前学修 週2時間

事後学修として、授業内容に関する理解を深めるため、自信で周辺の情報を集め、新たな角度から日本を含む世界各地の文化を知る努力、体験する努力をしてください。事後学修 週2時間

【テキスト・教材】

適宜、プリント等を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習内での受講態度・活動状況(40%)、口頭発表(40%)、レポート(20%)を評価します。プレゼンについては発表後に、課題については翌週の授業時、フィードバックを行います。

【参考書】

研究テーマに沿って個別に示しますが、春休み中には先行研究に多く触れ、各自の研究テーマの理論的根拠について明確にしておきましょう。

【注意事項】

コミュニケーション・ツールとして必須の英語力向上の努力をお願いします。

演習ⅢA・ⅢB

観光まちづくり

角本 伸晃

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅢABともに、前半では、観光まちづくりや地域活性化について理解するために、テキストを輪読するが、担当者はパワーポイントで発表し、他の学生との質疑・意見に対応する。並行して、いくつかのグループに分かれて学外の観光コンテストや企業との産学連携に取り組む。

後半では、Excelを用いて経済データを加工するために必要な経済情報処理能力の修得を目標とする。並行して、観光まちづくり・地域活性化や興味のあるテーマについてゼミ論文を作成する。このゼミ論の作成は卒業論文のリハーサルとする。

【授業における到達目標】

観光まちづくりや地域活性化の基礎知識とプレゼンテーション能力を修得する。このことを通して、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる研鑽力・行動力・協働力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

各回の前半

1. イントロダクション
2. ～8. 観光まちづくりに関するテキストの輪読・学外の観光コンテストの準備
9. ～14. 地域活性化に関するテキストの輪読・産学連携の取組
15. まとめ

各回の後半

1. イントロダクション
2. ～5. OFFICEの基礎 (1～4)
6. ～14. 経済情報処理 (5～13)
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト・紹介された参考文献を事前に読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中の内容や自分の意見をコメントシートにまとめて次回の授業で提出すること(学修時間 週2時間)。

なお、演習ⅢBではゼミ論の準備・作成を各人で早めに進めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

未定(開講時に履修者と協議して決定する)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅢA：演習中の発言・積極的な参加(50%)、発表(50%)

演習ⅢB：演習中の発言・積極的な参加(50%)、ゼミ論(50%)

各期とも最終回授業で演習への取り組みについて講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

適宜紹介する。

演習ⅢA・ⅢB

メディアにおける！？をとことん追究する

駒谷 真美

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

メディアは、我々の生活に様々な刺激！や疑問？を与えている。本演習では、学生自身のメディアに対する！？を2年間かけメディア研究の卒論として追究していく。3年次は、学生が興味関心を持ったテーマに積極的にアプローチし、各プロセスで書き溜めたポートフォリオを蓄積し、卒論の土台を構築する。本演習では、メディア研究の卒論活動を通してメディア情報リテラシー（MIL）を育成するのが目的である。

【授業における到達目標】

MIL基礎かつ応用段階の目標は、①批判的思考で情報を識別できる②ICTを活用し自分のビジョンを保持できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき「研鑽力・行動力・協働力」「視野と洞察力を体得し、目標設定・計画立案と実行するために、自己成長と相互関係を構築する力」を総合的に体得する。

【授業の内容】

[前期] 卒論のプロセス	[後期] 卒論のアプローチ
1. 卒論スケジュール作成	1. テーマ決定・序論初稿提出
2. テーマ模索	2. 方法検討
3. テーマ選択ポイント	3. 方法決定・方法執筆指導
4. 文献の検索リスト作成	4. 研究計画書 (1)執筆指導
5. 文献収集	5. 研究計画書 (2)個別指導含有
6. 文献整理	6. 研究計画書 (3)個別指導含有
7. 分析方法	7. 調査準備 個別指導含有
8. 調査方法	8. 調査準備 個別指導含有
9. 調査計画	9. 調査実施 個別指導含有
10. 論文枠組	10. 結果分析 個別指導含有
11. 引用文献リスト指導	11. 本論（結果）執筆指導
12. 序論（背景）執筆指導	12. 本論（考察）執筆指導
13. 第1章（文献研究）指導	13. 本論執筆開始・中間発表準備
14. テーマ検討会 (1)	14. 中間発表会 (1)
15. テーマ検討会 (2)	15. 中間発表会 (2)

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、指定テキストや文献資料・manabaの授業資料を熟読する。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートとポートフォリオにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。プレゼンの準備をする。

【テキスト・教材】

- ・白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方 第2版』（ミネルヴァ書房 2013年）2700円
- ・その他、授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15週のリフレクションシート）50%+活動点（プレゼン・ポートフォリオ）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼン・ポートフォリオは該当回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・各自の卒論進捗状況により、演習外での自主活動も想定される。
- ・「情報社会論」「メディア表現論」「情報ネットワーク」とセット履修が望ましい。

演習ⅢA・ⅢB

高橋 意智郎

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習では、国際企業の戦略について理論と現象の両側面から議論していく。演習の参加者は、企業戦略の理論を学習すると同時に、現実にライバル企業と競争する国際企業のケースを検討する。さらに、いくつかのワーキング・グループを作り、ワーキング・グループごとに関心のある業界と企業を分析する。演習の参加者には、自分の頭を使ってギリギリまで考え抜く姿勢を身につけてもらいたい。

【授業における到達目標】

国際企業について考えるための洞察力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】**演習ⅢA**

1. ガイダンス：演習ⅢAについて
- 2～5. 理論研究とディスカッション
※第2～5回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。
- 6～8. 企業研究とディスカッション
※第6～8回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。
9. 企業との提携によるアクティブラーニングあるいは、ゲスト講師による講演（予定）
- 10～11. 卒業論文指導とディスカッション
※第10～11回は、卒業論文の方法論のレクチャーを行い個別に指導する。
- 12～13. 他大学との合同ゼミの準備
※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導します。
14. 他大学との合同ゼミ
15. 総括

演習ⅢB

1. ガイダンス：演習ⅢBについて
- 2～5. 企業研究とディスカッション
※第2～5回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。
6. 企業との提携によるアクティブラーニングあるいはゲスト講師による講演（予定）
- 7～11. 卒業論文指導とディスカッション
※第7～11回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。
- 12～13. 他大学との合同ゼミの準備
※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導します。
14. 他大学との合同ゼミ
15. 総括

夏休みに国内の合宿を予定している。

夏休みと春休みに海外の合宿を予定している。

【事前・事後学修】

事前学修：次回の演習に関連する課題を出すので事前に作成しておくこと。（週2時間）

事後学修：演習内容を振り返ること（週2時間）

【テキスト・教材】

青島矢一、加藤俊彦：競争戦略論[東洋経済新報社、2012、¥2,600(税抜)]

中川功一、林正、多田和美、大木清弘：はじめての国際経営[有斐閣、2015、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、ゼミへの取り組み100%（発表やディスカッションの内容、ゼミの運営、授業への積極的参加）で決定する。課題のフィードバックは、課題について解説を行う。

演習ⅢA・ⅢB

ジェンダーと労働の社会学

山根 純佳

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文献講読と研究報告、フィールドワークの3本立てですすめていきます。

前期は、ジェンダーや労働をテーマにした専門書の2冊の講読をとおして、仮説の提示の仕方、データの扱い方、先行研究に対する批判的検討、持論の展開の仕方など研究の形式を学びます。最終3回は各自の研究テーマについて報告をおこない、夏季合宿では研究テーマに関連する文献3冊の報告と研究課題と方法論について報告します。

後期は、各自の関心にしたがった文献の検討と自らの研究課題をまとめた研究テーマ報告をおこないます。並行して自らの研究内容の要約を1600字程度でまとめ報告、検討し、卒業研究の土台づくりを進めます。

【授業における到達目標】

- 1) 主に労働や福祉とジェンダーに関する近年の研究の動向や社会の流れを把握したうえで、自らの研究課題を設定し、卒業論文完成に向けた論文執筆技術を獲得する。
- 2) 学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる「研鑽力」を獲得する。
- 3) 目標を設定して、計画を立案・実行できる「行動力」を獲得する。
- 4) 互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する「協働力」を獲得する。

【授業の内容】

前期

- 第1週 ガイダンスと今期の計画
- 第2週 ゼミでの学びと論文の書き方
- 第3週 文献Ⅰの講読①（問いの発見）
- 第4週 文献Ⅰの講読②（質的データから読み解く）
- 第5週 文献Ⅰの講読③（研究の意義を理解する）
- 第6週 文献Ⅰの講読④（論証の妥当性を検討する）
- 第7週 文献Ⅱの講読①（問いの発見）
- 第8週 文献Ⅱの講読②（先行研究の位置づけ）
- 第9週 文献Ⅱの講読③（統計的データの読み方）
- 第10週 文献Ⅱの講読④（統計的データから考える）
- 第11週 文献Ⅱの講読⑤（論証の妥当性を検討する）
- 第12週 研究テーマの設定
- 第13週 研究テーマの報告
- 第14週 研究内容の要約の検討
- 第15週 フィールドワーク（ゼミ合宿）

後期

- 第1週 ガイダンスと今期の計画
- 第2週 卒業論文の書き方
- 第3週 研究報告：先行研究レビュー（問いの発見）
- 第4週 研究報告：先行研究レビュー（データから読み解く）
- 第5週 研究報告：先行研究レビュー（研究の意義を理解する）
- 第6週 研究報告：先行研究レビュー（論証の妥当性を検討する）
- 第7週 研究報告：研究テーマの設定
- 第8週 研究報告：研究方法の選び方
- 第9週 研究報告：資料の使い方（質的データ）
- 第10週 研究報告：資料の使い方（統計的データから考える）
- 第11週 研究報告：分析の作法
- 第12週 研究報告：論証の妥当性について
- 第13週 研究報告：論文執筆のプロセス
- 第14週 研究報告：論文の形式
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：報告者はA4 2枚にまとめたレジュメを作成し、演習の前日に提出すること。文献は発表者以外も読んでくることを原則とする。順番で司会も担当する。報告者、司会者以外も必ず議論に参加すること（学修時間 週2時間）

事後学修：前期はゼミレポート、後期は研究報告レポートの提出に向け執筆を進める（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

間陽子・岡本尚文：裸足で逃げる：沖縄の夜の街の少女たち[太田出版、2017、¥1,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

フィールドワークへの参加と報告20%、報告の内容30%、討論への貢献20%、期末レポートの内容30%。

報告や討論の内容を踏まえて、各回でフィードバックをおこなう。それぞれの研究報告については随時フィードバックをおこなう。

演習ⅢA・ⅢB

小澤 康裕

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

前期は、会計学に関する理論を学習したうえで、企業の経営活動における会計学的重要性と役割を理解し、分析、一般化する力を養成する。

後期は、テキストや論文の輪読を通じて、自らが興味をもったテーマを選んで研究課題を設定する。レジュメ作成、発表、質疑応答を通じて、他のゼミ生からの意見、批判と教員による指導を受けながら卒業論文のテーマを明確にしていく。

【授業における到達目標】

知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決における主体的な行動力（行動力）、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）を育成する。

【授業の内容】

演習ⅢA

- 第1週 会計と会計理論
- 第2週 企業会計原則
- 第3週 貸借対照表
- 第4週 損益計算書
- 第5週 キャッシュ・フロー計算書
- 第6週 有価証券
- 第7週 棚卸資産
- 第8週 固定資産
- 第9週 負債
- 第10週 純資産
- 第11週 利益の計算方法
- 第12週 連結会計
- 第13週 企業結合
- 第14週 税効果会計
- 第15週 リース会計

演習ⅢB

- 第1週 論文の作成方法についての確認
- 第2週 テキストの輪読1
- 第3週 テキストの輪読2
- 第4週 テキストの輪読3
- 第5週 論文Aの輪読1
- 第6週 論文Aの輪読2
- 第7週 論文Aの輪読3
- 第8週 論文Bの輪読1
- 第9週 論文Bの輪読2
- 第10週 論文Bの輪読3
- 第11週 関心あるテーマの検索1
- 第12週 関心あるテーマの検索2
- 第13週 先行研究の発表1
- 第14週 先行研究の発表2
- 第15週 まとめ

以上は予定であり、ゼミ生と協議しながら各回の授業内容を確定していくつもりです。

【事前・事後学修】

事前学修：レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間週3時間）

事後学修：発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

授業の第1回目で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート作成（40%）、口頭発表（40%）、ゼミ運営（20%）

課題や発表に対して、毎回コメントやフィードバックをします。

【参考書】

参考書や問題集については適時紹介します。

【注意事項】

- 簿記論・会計学総論の基礎知識を前提にして授業を進めるため、上記の2科目を履修していることが望ましい。
- 履修者の意欲的な姿勢が必須である。

演習ⅢA・ⅢB

時田 朋子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

グローバル化が進み、世界中で多言語化が進んでいます。それに伴い、少数派を中心にさまざまな言語の問題が生じ、各社会の言語状況が変わりつつあります。本授業では、多言語社会の現状や課題について、具体的な事例を挙げながら考えていきます。前期は、文献を中心に、公的資料や統計データ、インタビューデータなどを用いて多言語社会について学びます。後期は、様々な論文を読みながら、論文の進め方について学びます。それと並行して、各自が設定した研究課題に基づきミニリサーチを行い、ゼミ論を執筆します。

【授業における到達目標】

本授業では、以下の3点を達成することを目標とします。

1. 多言語社会の現状・課題を理解します。
2. 多言語社会という側面から、日本と世界の国々の相違を理解します。
3. 自ら課題を設定してリサーチを行い、論文執筆の方法を修得します。

【授業の内容】

演習ⅢA

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 多言語社会とはなにか
- 第3週 多言語政策
- 第4週 多言語サービス
- 第5週 言語マイノリティ
- 第6週 移民の言語教育1：母語
- 第7週 移民の言語教育2：社会の言語
- 第8週 移民の言語使用
- 第9週 エスニック・メディア
- 第10週 エスニック・コミュニティ
- 第11週 多言語景観
- 第12週 外国語教育
- 第13週 外国語産業
- 第14週 言語福祉
- 第15週 総括

演習ⅢB

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 テーマ設定
- 第3週 先行研究
- 第4週 研究方法・データ収集方法
- 第5週 アンケート調査
- 第6週 面接法
- 第7週 テキスト分析
- 第8週 観察法
- 第9週 会話分析
- 第10週 談話分析
- 第11週 データ収集の準備
- 第12週 プレゼンテーションの方法
- 第13週 プレゼンテーションの準備
- 第14週 プレゼンテーション
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業の予定項目を予習して、内容を理解して下さい。担当者はレジュメを作成し、担当者以外にもディスカッションに参加できるようにして下さい。（週2時間）

事後学修：授業の内容に沿った課題に取り組んで下さい。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度。予習復習状況など）40%、プレゼンテーション20%、レポート40%。

プレゼンテーションのフィードバックは授業中のディスカッションを通して、レポートのフィードバックは個別に口頭で行います。

【参考書】

適宜、授業中に指示します。

演習ⅢA・ⅢB

神山 静香

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

前期の演習では、商法や会社法を中心にビジネス（商取引・契約）や企業組織に関わる基礎的な法知識を修得し、グローバル化が進展する現代のビジネス社会で求められる法的な思考力や判断力を養うことを目的とする。後期の演習では、前期の演習で修得した知識を基礎として、各自、興味に基づいて、ビジネス（商取引・契約）や企業組織、国際取引、交渉、紛争解決等に関わるテーマを選択し、プレゼンテーションを行い、ゼミ論文を作成する。「問い」を立て、分析手法を検討し、理論的に「問い」を検証して自らの答えを導き出すといった一連のプロセスを経験することで、卒業論文を執筆する上で必要なアカデミック・スキルを身に付けることを目的とする。

【授業における到達目標】

ビジネスに関わる法ルールの基礎的理解を得るとともに、ディスカッション等を通して自ら考える力を養う。法律の専門的知識に基づいた法的な判断力、多様な価値観をもつ人々の利害調整を図るための論理的思考力、考えを的確に伝えるためのコミュニケーション力等を修得する。ディプロマポリシーとの関連では、国際感覚を身に付けて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜く力（研鑽力）、現状を正しく把握し、課題を発見する力（行動力）、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する力（協働力）を修得する。

【授業の内容】

演習ⅢA

第1週	ガイダンスと今後の計画
第2週	基礎理論：企業取引と契約
第3週	基礎理論：商取引のルール
第4週	基礎理論：会社制度、会社設立、ベンチャービジネス
第5週	基礎理論：機関一代表取締役、取締役、株主総会等
第6週	基礎理論：上場会社の経営者の監視・監督制度
第7週	基礎理論：会社の役員等の義務、役員報酬等
第8週	基礎理論：役員等の民事責任と株主代表訴訟
第9週	基礎理論：会社のファイナンス（資金調達）
第10週	基礎理論：M&A（合併・買収）と組織再編等
第11週	基礎理論：国際商取引・交渉
第12週	基礎理論：国際商事紛争
第13週	国際ビジネスに関わるトピックス①－CSR
第14週	国際ビジネスに関わるトピックス②－新興国ビジネス
第15週	総括：研究テーマに関する発表

演習ⅢB

第1週	ガイダンス
第2週	テーマ選択：個人発表①・ディスカッション
第3週	テーマ選択：個人発表②・ディスカッション
第4週	テーマ選択：個人発表③・ディスカッション
第5週	テーマ選択：個人発表④・ディスカッション
第6週	テーマ選択：個人発表⑤・ディスカッション
第7週	テーマ選択：個人発表⑥・ディスカッション
第8週	テーマ選択：個人発表⑦・ディスカッション
第9週	テーマ選択：個人発表⑧・ディスカッション
第10週	個人発表① 卒業論文構想
第11週	個人発表② 卒業論文構想
第12週	個人発表③ 卒業論文構想
第13週	個人発表④ 卒業論文構想
第14週	卒業論文研究計画書作成・個人発表
第15週	総括

【事前・事後学修】

事前学修：リサーチ、資料・文献収集を行い、発表者はレジュメ、パワーポイント等のプレゼンテーション資料を作成し、ディスカッションのテーマを設定する。レジュメは、演習前日までにメールで教員まで送信する。発表者以外の者は、ディスカッションの準備を行う（学修時間 週2時間）。

事後学修：資料等を復習し、発表テーマに関わる法理論や概念を十分に理解した上で、次回の授業までに発展・応用的なディスカッションのテーマを検討する（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に適宜、紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅢAは、口頭発表（50%）、ゼミ運営、ゼミへの貢献、積極的参加（50%）で評価する。演習ⅢBは、ゼミへの貢献、積極的参加（20%）、口頭発表（30%）、ゼミ論文（50%）で評価する。課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業時に適宜、紹介する。

【注意事項】

履修者の希望があれば、ゼミ合宿（夏期休暇期間）及び学外での活動（授業内容に関連する施設の見学等）を実施する。

演習ⅢA・ⅢB

マーケティングと消費者行動

井上 綾野

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習の目的は、マーケティング研究における基本的な理論と研究方法を学ぶことである。テーマ設定、仮説の設定、検証の手法を学ぶことで卒業論文執筆の土台作りを目指す。

【授業における到達目標】

演習ⅢA：基本的な理論の理解を深め、各個人が持つ学問的興味・関心との接点を探ること

演習ⅢB：計量分析の基礎を学ぶこと、各個人が関心を持つ文献を熟読し卒業論文のテーマ設定を行うこと

【授業の内容】

演習ⅢA

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 文献の輪読 マーケティング発想の重要性
- 第 3回 文献の輪読 マーケティング概念の変遷
- 第 4回 文献の輪読 マーケティング・マネジメントの枠組み
- 第 5回 文献の輪読 現代のマーケティング環境
- 第 6回 文献の輪読 消費者行動論
- 第 7回 事例研究①
- 第 8回 文献の輪読 4Pと戦略
- 第 9回 文献の輪読 ダイレクト・マーケティング
- 第10回 文献の輪読 デジタル・マーケティング
- 第11回 文献の輪読 サービス・マーケティング
- 第12回 文献の輪読 グローバル・マーケティング
- 第13回 文献の輪読 企業・社会とマーケティング
- 第14回 事例研究②
- 第15回 総括

演習ⅢB

- 第 1回 インTRODクシヨン：
- 第 2回 計量分析の基礎①データの収集
- 第 3回 計量分析の基礎② 基本統計量
- 第 4回 計量分析の基礎③ 相関分析
- 第 5回 計量分析の基礎④ 多変量解析
- 第 6回 論文の書き方① 論文の構造
- 第 7回 論文の書き方② 先行研究と仮説の導出
- 第 8回 論文の書き方③ 定性分析と定量分析
- 第 9回 論文の書き方④ 研究結果と考察
- 第10回 個人報告① 関連する先行研究の発表
- 第11回 個人報告② 関連する先行研究の発表
- 第12回 個人報告③ 関連する先行研究の発表
- 第13回 個人報告④ 関連する先行研究の発表
- 第14回 個人報告⑤ 関連する先行研究の発表
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

・事前学修

演習ⅢA・ⅢB共通：事前に配布した文献を精読し、レジュメを作成すること（学修時間：3時間）

演習ⅢBの個人報告においては、発表者は文献を精読、レジュメを作成すること（学修時間：3時間）

担当外の学生は配布された文献を精読し質問を考えてくること

・事後学修

演習ⅢA：輪読の復習をし、ノートにまとめてくること（学修時間：2時間）

演習ⅢB：各会の復習をするとともに、各個人がテーマに関連する文献を探して熟読すること（学修時間：3時間）

【テキスト・教材】

必要な資料は事前に指示する。また、事例研究は受講者の関心に依りて決定する予定である。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習における口頭発表(40%)、レポート(40%)、ゼミへの積極的な参加姿勢(20%)で評価する。

【参考書】

ダン・レメニイ『社会科学系大学院生のための研究の進め方—修士・博士論文を書く前に』(同文館出版, 2002年)
田村正紀『リサーチ・デザイン—経営知識創造の基本技術』(白桃書房, 2006年)

演習ⅢA・ⅢB

文化人類学

高橋 美和

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

4年次での卒業論文作成の準備として、文化人類学的な調査の方法、論文の読み方、先行研究の検討、などを含めた、異文化理解を目指した文化人類学的な文化研究の訓練を行う。

【授業における到達目標】

演習ⅢA：文化人類学の方法論的特色であるフィールドワークの理解を深め、また論文形式の文章を精読し、批判的に検討できるようになる。演習ⅢB：文化人類学的な「問い」を発見し、履修生同士の切磋琢磨を通して、卒業論文の構想を立てていく。これらを通して、目標を設定して計画を立案できる「行動力」、仲間と協力して学ぶ「協働力」、そして学修を通して自己成長する「研鑽力」を養成する。

【授業の内容】

演習ⅢA

第1週 導入：ゼミの方針の説明

第2週 文化とは

第3週 文化の研究法

第4週～第7週 質的調査法 講読

第8週 論文とは何か①：形式と必要な情報

第9週 論文とは何か②：論述を読み解く方法

第10週 論文とは何か③：論文の概要作成

第11週～第14週 各自の関心に合わせた論文の概要発表

第15週 まとめのゼミ

※校外実習(都内の外国人コミュニティや宗教施設などの見学・インタビュー)を2度程度実施する予定である。

※希望者多数の場合、夏季休暇中に海外研修もしくは国内合宿を実施する。

演習ⅢB

毎週、教科書輪読(文献講読)と個人発表を並行して行う。

第1週 導入：ゼミの方針の説明と予定の確認

第2週～第3週 関心あるテーマと「問い」の予備的発表

第4週～第8週 先行研究を批判的に検討した個人発表

第9週～第11週 フィールドワーク計画発表

第12週～第15週 卒論序章予備稿発表

第15週 まとめのゼミ

【事前・事後学修】

事前：発表担当者はレジュメを作成して授業時に配布。対象文献は全員が読んでくる(学修時間 週2時間)。

事後：自分の関心にそった文献や資料を入手し読み進む(学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

前期：授業で支持する。

輪読する論文については受講者の関心に合わせて選定する。

後期：授業で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加・貢献度および発表50%・学期末レポート50%

フィードバックは授業各回で行う。

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』(有斐閣, 2016年) 2,052円

その他は授業で紹介する。

【注意事項】

「アジア文化論」「地域社会学」が未履修の場合、同時履修が望ましい。

演習ⅢA・ⅢB

数野 昌三

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

社会環境の変化に伴い、法律の多くが改正され、コンプライアンスの面からも法律知識が求められている。そのため、本演習においては、ビジネスに関する基本的な法律知識を修得する。それに加え法律論文の基本的な記述方法を修得し、テーマを抽出する。

【授業における到達目標】

3年ゼミ生全員の協力により、ビジネスにおける基本的な法律知識に関するテキストを輪読する。このことにより、ビジネスにおける法的諸問題を発見し、なおかつ当該諸問題解決への方向性を探ることができるようになるのであり、研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

演習ⅢA (前期)	演習ⅢB (後期)
第1週 ガイダンス	第1週 ガイダンス
第2週 ビジネスと法律との関係	第2週 債権管理・時効制度
第3週 取引主体①－自然人－	第3週 担保制度一般
第4週 取引主体②－法人－	第4週 法定担保物権
第5週 契約一般	第5週 約定担保物権
第6週 売買契約の成立	第6週 非典型担保
第7週 売買契約の成立後	第7週 企業活動における
第8週 消費貸借契約	法規制
第9週 賃貸借契約	第8週 雇用(労働契約)
第10週 クレジットカード契約	第9週 家族法
第11週 決済手段①－手形－	第10週 卒論に関する
第12週 決済手段②－小切手－	問題点の抽出
第13週 契約関係以外の債権発生	第11週 卒論に関する
①－不法行為－	判例の検討
第14週 契約関係以外の債権発生	第12週 卒論に関する
②－事務管理・不当利得－	学説の検討
第15週 総括	第13週 卒論に関する
	質疑応答
	第14週 卒業論文研究計画書の作成
	第15週 総括

* 夏期休暇期間中、2泊3日の合宿および裁判傍聴・最高裁判所見学、10月には法の日(法務省主催)の催しに参加する。

【事前・事後学修】

【事前学修】各週におけるテキストの該当部分を熟読し、専門用語を調べてくること(学修時間 週2時間)。

【事後学修】各週におけるテキストの該当部分を的確に理解すること(学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

東京商工会議所：ビジネス実務法務検定試験[中央経済社、2019、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

演習ⅢA・演習ⅢB

レポート50%、平常点50%(討議への参加度・ゼミへの貢献度)

【フィードバック】

本演習の各15週に、ゼミ生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【注意事項】

積極的学び、意欲的にコミュニケーションを図りたい学生が望ましい。そして、勉学は当然のこととして、その他の活動においても協力しあい、人生におけるより佳き人間関係をつくるよう心がけること。

演習ⅢA・ⅢB

行動計量学ゼミ

竹内 光悦

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

消費者購買行動や世論調査など、さまざまな視点で計量的に人々の行動を測り、分析することは、現状把握や結果の要因分析などで有効である。特に多種多様な調査力・分析力を持つことは、汎用性が高く、常に新しくなる社会を様々な視点で検証することが可能である。本演習ではこのことを踏まえ、グループでの問題解決を試み、学内外での調査・分析・発表を行い、行動計量学を主とした実践的知識と技能の修得を目的とする。

【授業における到達目標】

多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、またチームによる問題解決を通じた【協働力】、他者の意見を取り入れ自身の成長を考えるを【研鑽力】を修得する。

【授業の内容】

前期ゼミ 01	授業ガイダンスと今期計画
ゼミ 02	第一企画の企画会議と計画
ゼミ 03	第一企画の情報収集と基礎分析
ゼミ 04	第一企画の計量的分析
ゼミ 05	第一企画の考察と最終調整
ゼミ 06	第一企画の発表会
ゼミ 07	行動計量学の学び方と研究の仕方
ゼミ 08	第二企画の企画会議と計画
ゼミ 09	第二企画の情報収集と基礎分析
ゼミ 10	第二企画の計量的分析
ゼミ 11	第二企画の考察と最終調整
ゼミ 12	第二企画の発表会
ゼミ 13	行動計量学研究テーマの発表
ゼミ 14	行動計量学における研究(基礎)
ゼミ 15	行動計量学における研究(応用)
後期ゼミ 01	今期の計画と第三企画の紹介
ゼミ 02	第三企画の企画会議と計画
ゼミ 03	第三企画の情報収集・文献検索
ゼミ 04	第三企画の基礎分析
ゼミ 05	第三企画の計量的分析の検討
ゼミ 06	第三企画の中間報告
ゼミ 07	第三企画の再検証
ゼミ 08	第三企画の計量的分析の展開
ゼミ 09	第三企画の考察と最終調整
ゼミ 10	第三企画の発表会
ゼミ 11	卒業研究の進め方
ゼミ 12	卒業研究計画の検討
ゼミ 13	卒業研究構想発表、今期のまとめ
ゼミ 14	卒業研究計画書の再検討
ゼミ 15	卒論発表会

【事前・事後学修】

事前学修：授業時の企画研究の計画に従い作業を進め、授業時の打ち合わせ準備をする(学修時間 週2時間)／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキスト等については適宜紹介し、特に指定はしない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習時間内の標準点(30%)、演習時間外の課題(30%)、演習最終課題(40%)で評価。毎回の授業時にそれまでの企画研究の進捗状況の報告を受け、フィードバックを随時行う。

【参考書】

テキスト等については適宜紹介する。

【注意事項】

学外のデータコンペティション等に参加することあり。

演習ⅢA・ⅢB

松浦 常夫

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

4年次の卒論の準備として、演習ⅢAでは衣食住、買物、旅行、レジャー、趣味、交友、コミュニケーション、習慣など日常生活に関わりのあるテーマを各自が選び、先行研究の成果をまとめます。演習ⅢBでは、夏休みの課題（観察研究）の発表、テーマ決め、ミニ卒論の作成をおこないます。この演習を通じて、人・出来事に対する心理学的な見方や考え方、心理学の研究手法、論文の構成や書き方、図表の読み方や書き方、統計的なデータ処理、プレゼンスキルを身につけます。

【授業における到達目標】

4年後期の卒論作成に向けて、心理学的研究の方法論や論文の書き方を理解し、テーマの設定をすることが目標です。

ポリシーとの関わりでは、問題解決の「態度」、現代社会の心理学的な諸問題について興味関心をもつ「能力のうちの研鑽力」を特に修得します。

【授業の内容】

演習ⅢA

各自が興味を持った解説本や論文を読んで、それを要約して発表します。他のゼミ生はそれに対して質問や意見を出します。教員はゼミ生の発表についてコメントし、発表者とのゼミ生に質問します。1回に3～4名が発表します。

ゼミ生は、以上の活動を通して、論文要約の方法、研究の方法、図表の読み方、研究結果のまとめ方、について学習します。また、各自で観察研究をおこない、そのまとめを夏休みの宿題とします。具体的には、次のとおりです。

①導入、②文献紹介、③テーマ選択、④発表準備、⑤発表の聞き方、⑥質問の仕方、⑦ディスカッション方法、⑧～⑫学生発表、⑬夏休みの課題説明、⑭夏休みの課題テーマ発表、⑮まとめ

演習ⅢB

夏休み明けには観察研究の発表を行います。それ以後の進行は前期と同様に学生の発表です。また、卒論のテーマを決め、演習ⅢBではミニ卒論の作成に取り組みます。そのため発表は卒論のテーマに関連したものとなります。

就職に向けたSPI等の指導も希望に応じておこないます。

具体的には、次のとおりです。

①夏休みの課題発表1、②夏休みの課題発表2、③夏休みの課題発表3、④課題発表の講評、⑤～⑩学生発表（各回3、4人）、⑪ミニ卒論作成説明、⑫卒論の予備調査、⑬まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表者は前日までにレジュメやレポートを作成し、教員までメールで提出してください。（学修時間 週2時間）

その他、心理学的な見方や考え方をきたえるために、自分や他人の行動を観察しその原因を考えたり、様々なジャンルの読書をしたり、映画やテレビや各種芝居を見ることを勧めます。総計学の勉強は論文を読みこなすのに必要です。

事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布しますが、学生の発表資料が主になります。

前日までに先生までメール等で送付してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ゼミでの参加態度を70%、レポートやミニ卒論を30%で評価します。提出課題の評価は発表の都度、おこないます。

【注意事項】

ゼミでの発表や卒論完成のためには特に2年前期の「行動科学」、「心理学実験実習1」、2年後期の「応用心理学」、「調査・実験データ処理法」、3年前期の「心理学研究法」、3年後期の「心理学統計法」などの履修が役に立ちます。

演習ⅣA・ⅣB

篠崎 香織

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習は、3年次の演習ⅢA・B（マネジメントに関する研究）を受けて、「卒業論文」を提出することによって完結します。3年次の演習ⅢA・Bと同様、経営管理の観点から理論と実践を学習することを通して、自らのめりこめるテーマを設定し、仮説の設定、検証のプロセスを経て問題解決の糸口を見出すことを目指します。最後に口頭発表を行い、自らが取り組んだテーマについて他者に伝えるというプレゼンテーションのスキルの養成にも取り組みます。

【授業における到達目標】

4年間の学びの集大成といえる卒業論文の執筆と、他者に伝わるプレゼンテーションの実践を目標とします。就職活動と並行して卒業論文を執筆していくことになるので、自ら目標管理を行い、計画を立案・実行できる能力の養成も図ります。

【授業の内容】

【前期】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週～第3週 卒業論文素案の発表（グループ1、2）
- 第4週 卒業論文素案の完成
- 第5週 先行研究探し
- 第6週 先行研究レビュー
- 第7週 先行研究のまとめ
- 第8週 仮説の提示
- 第9週 仮説に基づく調査方法の検討
- 第10週 調査方法の検討
- 第11週 調査計画の素案作成
- 第12週 調査計画の完成
- 第13週 卒業論文現状報告（第一グループ7人）
- 第14週 卒業論文現状報告（第二グループ7人）
- 第15週 総括

【後期】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週～第3週 卒業論文進捗報告（グループ1、2）
- 第4週 課題の検討とディスカッション
- 第5週 卒業論文指導（全体の構成の確認）
- 第6週 卒業論文指導（データの使い方）
- 第7週 卒業論文指導（考察の書き方）
- 第8週 卒業論文指導（参考文献の書き方）
- 第9週 卒業論文指導（論文の最終確認）
- 第10週 卒業論文指導（プレゼンテーション準備）
- 第11週 卒業論文指導（プレゼンテーションの流れの確認）
- 第12週 卒業論文指導（プレゼンテーション完成）
- 第13週 卒業論文発表会（第一グループ7人）
- 第14週 卒業論文発表会（第二グループ7人）
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】自分の研究テーマに合わせて、論文を読む、仮説を立てる、方法を検討する等、進めてきてください。演習内ではその確認を行い次の演習までに先に進めるように自分で計画的に動きましよう。

【事後学修】演習時に確認したことをもとに、次の演習までに何をすべきかを自ら設定し、準備しましょう。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、口頭発表（20%）、卒業論文（60%）、ゼミ運営（20%）で決定します。

フィードバックは、基本的に教場にてコメントやディスカッショ

ンの形式で行い、場合によってmanabaを使うこともあります。

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【注意事項】

遅刻や欠席の際は事前に連絡するなど、社会に出ていく者として適切な行動を心がけてください。

演習ⅣA・ⅣB

コミュニケーション・デザイン

松下 慶太

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習Ⅲを踏まえて、コミュニケーション・デザインの発想に基づいた研究を進め論文を完成させる。

【授業における到達目標】

- ・コミュニケーション・デザインの観点から研究を遂行することができる。
- ・研究活動を推進していく中で「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。

【授業の内容】

演習ⅣA（前期）

1. ガイダンス
2. 研究テーマのアイデア出し
3. 研究テーマの推敲
4. 研究テーマの決定
5. 使用する理論のアイデア出し
6. 使用する理論の推敲
7. 使用する理論の先行研究リストアップ
8. 使用する理論の先行研究の整理
9. 使用する理論の課題・問題点
10. 使用する理論の現代的意義の検討
11. 調査する事例のアイデア出し
12. 調査する事例の整理
13. 調査する事例の方法検討
14. 調査する事例の事前調査の準備
15. 調査する事例の事前調査

演習ⅣB（後期）

1. ガイダンス
2. 調査した事例のデータ整理
3. 調査した事例の報告
4. 調査した事例の検討
5. 調査した事例と理論との整合性検討
6. 論文のオリジナリティの検討
7. 執筆にあたっての注意1（日本語表現）
8. 執筆にあたっての注意2（論理構造）
9. 執筆にあたっての注意3（引用）
10. 執筆にあたっての注意4（先行研究のまとめ）
11. 執筆にあたっての注意5（調査方法の書き方）
12. 執筆にあたっての注意6（事前のデータ表現）
13. 執筆にあたっての注意7（用語についての検討）
14. プレゼンテーションの準備
15. 最終報告

【事前・事後学修】

- ・事前学修：各授業回において各個人と教員との協議のもと設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行うこと（週2時間）。
- ・事後学修：授業でのフィードバックを元に研究・調査を修正していく。（週2時間）

【テキスト・教材】

各自のテーマに応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・ディスカッションへの参加（20%）
- ・報告（80%）

※フィードバックは授業中だけでなく、授業外、またオンラインでも行う。

演習ⅣA・ⅣB

粟津 俊二

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

心理学的な卒業論文の制作に向けて、各自が先行研究の調査、予備実験・調査、本実験・調査、データ処理、考察を行う。

【授業における到達目標】

議論の前提となる基礎的な知識を修得し、あわせて自らの興味にそって専門的な知識や態度を伸ばしていくことを目的とします。これを通して、新たな知を創造しようとする態度や、生涯にわたり学習を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

【授業の内容】

学生の発表、質疑応答、討論など学生主体の演習を展開します。各自の研究テーマや前年度までの進み具合により異なりますが、論文完成までの授業内容は、おおよそ下記の通りです。

ⅣA

各自が卒業論文で扱う問題および仮説の確定と、実験・調査の準備を目的とします。各自少なくとも2回の発表を行う中で、おおよそ以下のような内容を扱います。

1. 先行研究の体系化
2. 心理学的意義の検討
3. 社会的意義の検討
4. 個人的意義の検討
5. 目的の設定
6. 仮説の設定
7. 予備調査・実験の準備
8. 予備調査・実験の実施
9. 予備的分析と方法の修正
10. 目的の再設定
11. 仮説の再設定
12. 実験・調査方法の確定
13. 実験刺激、調査紙の準備
14. 分析方法の検討
15. まとめ

ⅣB

本実験・調査の実施、データ整理、考察を中心とし、各自がこれまでに調べた成果を1本の論文に仕上げることを目的とします。各自少なくとも2回の発表を行う中で、以下のように授業を進行します。

1. スケジュール設定
2. 協力者の勧誘
3. 本調査、本実験の準備
4. 本実験、調査の実施
5. データの単純集計
6. 仮説の確認
7. 仮説の検定
8. 結果の整理
9. 結果のビジュアル化
10. 結果の考察
11. 先行研究との比較、位置づけ
12. 結論の作成
13. 論文の作成
14. プレゼンテーション
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指定した文献の読解や、発表の準備等をして下さい（学修時間 週2時間程度）。

事後学修：授業中に出た専門用語等を調べ、よく確認して下さい。また、授業内で話した内容、聞いた内容をまとめ、文章にして下さい。（学修時間 週2時間程度）。

【テキスト・教材】

指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ゼミでの発表（30%）、参加態度・他の学生への貢献度（40%）、レポート（30%）を評価します。なお、発表あるいは質問・コメントをもって、出席とします。

授業への参加態度や発表については、その都度コメントしフィードバックを行います。レポートについては、後日のグループウェア、メール、次学期の授業等でフィードバックを行います。

【参考書】

授業内で適時紹介する。

【注意事項】

卒論のテーマ、方法、調査・実験の計画、データの分析方法、考察の内容、文章やグラフの表現など、考えるべきこと、決めるべきことが山のようにあります。授業時間中ではとても足りませんので、「考えてからゼミに来る」ようにして下さい。

演習ⅣA・ⅣB

高木 裕子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

近年、状況論的認知研究や「学習科学」に関わる研究も盛んになり、人間の思考メカニズム解明だけでなく、「学習共同体」や「実践コミュニティ」への関心と共に、人は周囲の人や環境との関わりの中でどのように変化、発達し、また、変容していくのかといった研究も進みつつあります。それらへの関心と解明には、従来の実験計画的な手法での量的調査やその結果を統計的処理によって分析するという方法も有効ではありますが、文化人類学的手法や質的な調査をもってなされることも多くなっています。また、フィールド調査をはじめインタビューによって得られたデータを様々な社会学的手法や考察によって明示的にしてみたり、「ライフ」という視点や「キャリア形成」という観点から改めて分析、考察していく方法も、ヒューマン研究としては盛んです。

本演習では、「演習Ⅲ」A・Bまでで学んだことや皆さんがテーマとして取り上げた研究方面での「リサーチ・クエスション」を基に、では、それらはどのように解明（または解決）できるのかを、実験計画や調査方法をはじめ研究方法としてまず学んでいきます。その上で、実際にデータを使った研究が、一人もしくはチームでできるようになるまでを行います。併せて、卒業論文を書き上げる中で、より高度な専門的文章が書けるようになるだけでなく、論理思考を精巧にしていきます。言語処理メカニズムや言語心理学、脳科学にも注目しつつ、実践的なコミュニケーション能力も付けていきます。

【授業における到達目標】

これまで身に付けた基礎力の統合と、各種基礎能力の再構築を目指し、また、社会人として必要な総合的な応用能力を確実に身に付けさせるため、ここでは卒業研究としての論文制作とそのための執筆を通じ、「問題発見、課題設定、社会と自身を結び付ける概念構築、効果的な文章の書き方・表現方法、論理的思考、批判的能力」等々の育成と、併せて、よき社会人女性として活躍するために、ゼミ活動という単位での「実践コミュニティ」を作り上げ、そこでの「協働学習」の実践や各種活動を通じて、実現していきます。

【授業の内容】

前期ⅣA

専門書を読んでみよう！ 学術文章をまねしてみよう！

- 1と2. 専門書、学術論文を読んでみる—問題点や課題の発見—
- 3～5. 専門書、学術論文を読み込む—ディスカッション—
「これって論文研究のテーマになるのかな？」

- 6～12. 各自の論文研究テーマについての検討
「卒業論文を書き始めてみよう！」

- 13と14. 実際に卒業論文を書き始める

15. 後期に向けた卒業論文執筆の計画

後期ⅣB

卒業論文と心理

- 1～3. 文章を書くことと心理

卒業論文と文章処理メカニズム

- 4と5. 卒業論文と文章処理メカニズム

卒業論文を完成する

- 6と7. 卒業論文を完成する—全体性—

- 8～14. 卒業論文を完成する—一完成度—

15. 演習全体の振り返りと総括

【事前・事後学修】

【事前学修】卒業研究に関連した先行研究や必要な資料は、各自で探し、事前に熟読し、要約を作成の上、配布できるように準備する。授業でのディスカッションや批判的な各種質問にも耐えられる

よう、内容把握と理解に努めること（週3時間）。

【事後学修】各種質問、コメント、フィードバック内容を確認、よく理解した上で修正、推敲する（週1時間）。

【テキスト・教材】

各自の卒業研究の内容は異なるため、それぞれに係わるものは適宜授業で紹介しますが、必要な資料や最新の学術論文等は、こちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表とディスカッション30%、卒業論文70%。推敲中、毎回フィードバックはします。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【注意事項】

教師が教室で指導できる範囲や時間には限界があります。レベルや目的が異なる場合には、個別対応や個別指導も行いますが、皆さんの自律的かつ主体的な学習が基本です。また、「協調（的）学習」や「協働（型）学習」を促進します。皆さんの潜在能力をいかに引き出せるか、どこまで伸ばせるのが勝負だと思っています。しっかり振り落とされないように付けてきてください。

演習ⅣA・ⅣB

原田 謙

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この演習では、テーマ設定から、文献・資料の収集・整理方法、そして執筆上の注意点まで「卒業論文」を完成させるために必要な指導をおこなう。

【授業における到達目標】

この演習は、ゼミ生同士の意見交換を中心に、調査結果報告や中間報告を実施しながら、より良い論文を完成させることを目指す。論文の作成を通じて、自己成長する「研鑽力」を培い、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」や、目標を設定して計画を立案・実行する「行動力」を養う。

【授業の内容】

前期

1. ガイダンス
2. 卒業論文研究計画書の作成
3. テーマ設定：良いテーマと悪いテーマ
4. 過去の卒業論文のレビュー
5. 先行研究・資料の収集／整理方法
6. 研究方法の検討、研究倫理
7. 論文構成（目次）の検討
8. 先行研究レビュー（1）
9. 先行研究レビュー（2）
10. 先行研究レビュー（3）
11. 先行研究レビュー（4）

8～11は、小グループに分かれて、研究テーマに関連する学術論文の知見を整理し、批判的検討をおこなう。

12. 調査結果報告（1）
13. 調査結果報告（2）
14. 調査結果報告（3）
15. 調査結果報告（4）

12～15は、実施した社会調査（インタビュー調査、参与観察、資料分析など）を報告する。

後期

1. 卒論の書き進め方
2. 論文形式の確認
3. 中間報告（1）
4. 中間報告（2）
5. 中間報告（3）
6. 中間報告（4）

3～6は、各自が卒論の中心となる章の内容について報告し、質疑応答をおこなう。

7. 卒論本体の確認（1）
8. 卒論本体の確認（2）
9. 卒論本体の確認（3）
10. 概要書の作成

7～10は、卒論の「結論」の内容を確認し、概要書を完成させる。

11. 発表資料（スライドなど）の作成
12. 卒論発表（1）
13. 卒論発表（2）
14. 卒論発表（3）
15. 卒論発表（4）

12～15は、各自の研究内容を発表し、お互いの知見を共有したうえで、総括討論をおこなう。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、報告原稿を作成し予行演習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、論文の加筆修正を行うこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、個別に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習への積極的な関与・発言（30%）、調査結果・中間報告の内容（50%）、ほかのゼミ生の卒論作成に対する貢献度（20%）にもとづいて評価する。評価のフィードバックは、授業内に（もしくはmanabaで）行う。

演習ⅣA・ⅣB

子どもと家族の社会学Ⅱ

広井 多鶴子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

各自、自分の研究テーマに関する資料収集と分析を行い、卒業論文を執筆する。

【授業における到達目標】

自分の研究テーマに関して、データや資料を収集・分析し、得られた知見を体系的に文章としてまとめることができる。それによって、研鑽力、行動力、協働力を養う。

【授業の内容】

演習ⅣA

第1週	研究計画の作成	第2週	研究計画の提出
第3週	卒論の進行状況	第4週	序章の書き方
第5週	論文の構成を学ぶ	第6週	論文の構成を考える
第7週	論証の仕方	第8週	論理の展開
第9週	資料の分析	第10週	結論の書き方
第11週	中間発表①	第12週	中間発表②
第13週	中間発表③	第14週	中間発表④
第15週	中間発表⑤		

*中間発表①～⑤は、担当者（2～3人）が自分の進捗状況を発表し、それについて参加者全員でディスカッションする。

*9月中旬に3年生と合同で卒論中間発表会を行う。

演習ⅣB

第1週	進行状況の発表	第2週	序章を書く
第3週	資料を分析する	第4週	論理展開の方法
第5週	結論を書く	第6週	パワポの作成
第7週	中間発表	第8週	個別指導①
第9週	個別指導②	第10週	個別指導③
第11週	個別指導④	第12週	個別指導⑤
第13週	個別指導⑥		
第14週	卒論発表会のリハーサル①パワポの作成		
第15週	卒論発表会のリハーサル②発表		

*個別指導①～⑥はそれぞれの進行状況に即して個別に指導する。

【事前・事後学修】

【事前学修】卒論に関する文献や資料を収集・分析する。週2時間

【事後学修】ゼミで得られた知見をもとに論文を執筆する。週2時間

【テキスト・教材】

各自のレポートは、発表予定の前日までにメールでゼミ生に送信。ゼミ生はそれを読み、プリントアウトして持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅣAについては、レポート50%、課題の提出など授業への取り組み50%。演習ⅣBについては、卒業論文の完成度80%と発表20%で評価する。

フィードバックはそのつど行う。

【参考書】

授業中に提示する。

【注意事項】

9月半ばに3年、4年合同で卒論中間発表会を行なう。

演習ⅣA・ⅣB

谷内 篤博

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習は、3年次における演習ⅢA・ⅢBを通じて学んできた人的資源管理（HRM）の基礎的・専門的知識を駆使して、卒業論文の制作・完成を目指しています。

学生一人ひとりの興味あることをテーマに設定し、丹念な先行研究の精査、専門書、論文の読破を通じて、論文の完成を目指します。いわば、大学4年間の集大成ともいべきものがこの演習です。

【授業における到達目標】

本ゼミを通してディプロマ・ポリシーの修得すべき態度のうち、多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度やグローバルな視点から多面的に考察をする態度を修得するとともに、修得すべき能力のうち、高い水準の卒論作成に向け、課題解決のために主体的に行動する力が身につきます。

また、質の高い卒論作成に向け、自己研鑽するとともに、卒論の中間報告における質疑や議論などを通じて協働力がゼミ生の中に芽生えてくるものと思われる。

【授業の内容】

第1週	卒論のテーマの確認（1）
第2週	卒論のテーマの確認（2）
第3週	卒論のテーマの確認（3）
第4週	卒論のテーマの確認（4）
第5週	テーマに対する評価とフィードバック（1）
第6週	テーマに対する評価とフィードバック（2）
第7週	卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（1）
第8週	卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（2）
第9週	卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（3）
第10週	卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（4）
第11週	卒論の中間発表（1）
第12週	卒論の中間発表（2）
第13週	卒論の中間発表（3）
第14週	卒論の中間発表（4）
第15週	卒論中間発表に対する評価とフィードバック
第16週	卒論作成の個別指導（1）
第17週	卒論作成の個別指導（2）
第18週	卒論作成の個別指導（3）
第19週	卒論作成の個別指導（4）
第20週	卒論作成の個別指導（5）
第21週	卒論作成の個別指導（6）
第22週	卒論作成の個別指導（7）
第23週	卒論の発表（1）
第24週	卒論の発表（2）
第25週	卒論の発表（3）
第26週	卒論の発表（4）
第27週	卒論の発表（5）
第28週	卒論の発表（6）
第29週	卒論の発表（7）
第30週	卒論に対する総括コメント

【事前・事後学修】

事前学修：先行研究・文献のサーベイとその要約（学修時間 週2時間）

事後学修：フィードバックを受けたことに対する振り返りと次回の報告に向けた準備（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教材は使用しません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、卒論の出来栄80%と卒論制作過程における先行研究等のレビュー報告20%で実施します。先行研究等のレビューについて

ては提出の際に細かくフィードバックをする。卒論の出来映えについては、ゼミ全体の卒論報告会で個別にフィードバックを与える。

【参考書】

特に、必要はありません。

【注意事項】

丹念な先行研究・論文等の精査が求められます。

演習ⅣA・ⅣB

山根 純佳

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業研究の基礎となる、データの収集分析、文献資料の収集、論文の構成などを指導します。演習ⅣAでは、各テーマごとに全員が発表し、それぞれの論点と進捗状況を確認していきます。

演習ⅣBでは、個別の研究報告とディスカッションを中心におこないます。報告とディスカッションをとおして、プレゼンテーションの技能と自らの考えを他者に伝える技能の習得も目指します。

【授業における到達目標】

- 1) 自らの研究に主体的に取り組み、情報収集、データの整理、論文の執筆の技法を獲得する。
- 2) 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる「研鑽力」を獲得する。
- 3) 目標を設定して、計画を立案・実行できる「行動力」を獲得する。
- 4) 自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を獲得する。

【授業の内容】

前期

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 論文の構成、資料、データの扱い方
- 第3週 論文構成とスケジュールの報告グループ①
- 第4週 論文構成とスケジュールの報告グループ②
- 第5週 論文構成とスケジュールの報告グループ③
- 第6週 先行研究の収集と分析 グループ①
- 第7週 先行研究の収集と分析 グループ②
- 第8週 先行研究の収集と分析 グループ③
- 第9週 データ、資料の収集と分析 グループ①
- 第10週 データ、資料の収集と分析 グループ②
- 第11週 データ、資料の収集と分析 グループ③
- 第12週 論文構成の検討 グループ①
- 第13週 論文構成の検討 グループ②
- 第14週 論文構成の検討 グループ③
- 第15週 中間報告会

後期

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 論文の構成、資料、データの扱い方
- 第3週 先行研究分析 グループ①
- 第4週 先行研究分析 グループ②
- 第5週 先行研究分析 グループ③
- 第6週 データ、資料の分析 グループ①
- 第7週 データ、資料の分析 グループ②
- 第8週 データ、資料の分析 グループ③
- 第9週 論文構成の確認と検討 グループ①
- 第10週 論文構成の確認と検討 グループ②
- 第11週 論文構成の確認と検討 グループ③
- 第12週 研究報告の準備
- 第13週 研究報告の形式
- 第14週 研究報告の内容の検討
- 第15週 研究報告会

【事前・事後学修】

事前学修：各自の研究のために必要なデータの収集、文献の収集、先行研究の検討をおこなう。（学修時間 週8時間）

事後学修：演習での指導をもとに研究の方向性を随時確認し、内容の精査をおこなう。（学修時間 週8時間）

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

報告の内容（60%）とディスカッションへの貢献度（40%）

報告の内容を踏まえて授業内でフィードバックをおこなう。また各人の研究の内容については、随時フィードバックをおこなう。

演習ⅣA・ⅣB

異文化コミュニケーションゼミ

阿佐美 敦子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

各自が卒業論文を作成することを目標とし、前期では各自の研究計画に基づき、先行研究をまとめて卒業論文の前半の作成し、個別指導をベースに報告・発表・情報交換を、後期では自身が計画した調査方法に基づいて、データ収集および分析をおこなって論文を完成させます。自らが選んだテーマについて時間をかけて研鑽し、行動力を持って調査に出掛け、仲間と協働して議論する中で、より優れた論文を完成させます。

【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、さらに自文化を知り、世界に発信しようとする態度を養います。

卒業論文作成に向け、その工程を計画し、調査等を段階を踏んで実行する行動力を修得します。

【授業の内容】**演習ⅣA**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 卒論計画書の作成
- 第3週 卒論計画書報告会
- 第4週 個人報告および討議①
- 第5週 個人報告および討議②
- 第6週 個人報告および討議③
- 第7週 個人報告および討議④
- 第8週 個人報告および討議⑤
- 第9週 個人報告および討議⑥
- 第10週 個人報告および討議⑦
- 第11週 個人報告および討議⑧
- 第12週 個人報告および討議⑨
- 第13週 個人報告および討議⑩
- 第14週 卒論中間発表会
- 第15週 まとめ

演習ⅣB

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 卒論途中経過報告①
- 第3週 卒論途中経過報告②
- 第4週 卒論途中経過報告③
- 第5週 卒論途中経過報告④
- 第6週 卒論途中経過報告⑤
- 第7週 卒論途中経過報告⑥
- 第8週 卒論途中経過報告⑦
- 第9週 卒論途中経過報告⑧
- 第10週 卒論途中経過報告⑨
- 第11週 卒論途中経過報告⑩
- 第12週 卒論途中経過報告⑪
- 第13週 卒論提出
- 第14週 卒論発表会の準備
- 第15週 卒論発表会の準備

【事前・事後学修】

事前学修として、隔週の報告がより明確なものにできるよう、理論をサポートする先行研究、調査結果・分析を十分におこなってください。事前学修 週4時間

事後学修として、ゼミ学生から受けた質問、提案、意見について検討し、より充実した研究とできるよう、さらに補強材料を模索してください。事後学修 週2時間

【テキスト・教材】

個別に示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習内での活動状況（30%）、卒業論文の完成度および発表の成績（70%）を評価します。毎回の授業時、フィードバックを行います。

【参考書】

研究テーマに沿って個別に示しますが、春休み中には先行研究に多く触れ、各自の研究テーマの理論的根拠について明確にしておきましょう。

【注意事項】

校外実習を実施する場合があります。また、コミュニケーション・ツールとして必須の英語力向上の努力をお願いします。

演習ⅣA・ⅣB

卒業研究の準備と作成

角本 伸晃

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅣAでは、経済分野の中から疑問に思ったことや解明したいことなどを学生自身に自由に卒論のテーマとして設定してもらう。そのテーマに沿って卒業論文研究計画書およびアウトラインシートを作成し、それに従って卒業論文の基本的構成、参考資料や文献、統計データ（アンケート調査含）の収集・加工方法などについて、指導する。

演習ⅣBでは、前期に引き続いて卒業論文の完成に向けて指導する。指導内容は学生の進捗状況に合わせて、参考文献やデータの検索・収集、データの加工方法、必要な経済理論まで、幅広く行う。

【授業における到達目標】

卒業論文の作成を通して、現代社会における広い視野と研鑽力・行動力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

演習ⅣA

1. イントロダクション
2. 参考文献の検索・入手先の指導
3. ～7. 卒業論文のテーマ・構成・内容に関する指導（1～5）
8. 卒業論文の概要の発表会
9. ～14. データ加工・内容の指導（1～6）
15. 卒業論文の中間発表会

演習ⅣB

1. 夏期休暇中の進捗状況の報告
2. ～7. 卒業論文の作成指導（1～6）
8. ～9. 卒業論文の経過報告会（口頭1～2）
10. ～13. 卒業論文の作成指導（7～10）
14. ～15. 卒業論文の発表会（パワーポイント1～2）

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、少しずつでも必ず卒業論文を前に書き進めていくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業中に指導されたことを卒業論文に反映させること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特になし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅣA：卒業論文計画書およびアウトラインシート（30%）、中間発表会での内容（70%）

演習ⅣB：卒業論文の内容（80%）、卒業論文の発表会（20%）
卒業論文の発表会で講評を行いフィードバックする。

【参考書】

履修者の卒業論文のテーマに合わせて適宜、参考文献を紹介する。

【注意事項】

演習ⅣAの修了段階で卒業論文の構想全体の50%以上を完成させていることが望ましい。

演習ⅣA・ⅣB

高橋 意智郎

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅢA Bでは、実際に企業が繰り広げる競争を理論的に見るというトレーニングを積んできた。本演習では、演習ⅢA Bで培った知識とノウハウに基づいて、卒業論文を作成する作業に取りかかる。演習の参加者にとって、数ヶ月にわたる長い時間をかけて1つの作品を書くのは初めての経験だろう。卒業論文の作成は、非常に厳しく辛い経験になると思うが、それを糧として社会へ旅立ってもらいたい。

【授業における到達目標】

国際企業について考えるための洞察力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

演習ⅣA

1. ガイダンス：演習ⅣAについて
- 2～12. 卒業論文指導とディスカッション
※第2～12回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。
13. ビジネス・ゲーム
14. ゲストスピーカーによる講演（予定）
15. 総括

演習ⅣB

1. ガイダンス：演習ⅣBについて
- 2～10. 卒業論文指導とディスカッション
※第2～10回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。
11. ゲストスピーカーによる講演（予定）
- 12～13. 他大学との合同ゼミの準備
※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導する。
14. 他大学との合同ゼミ
15. 総括

夏休みに国内の合宿を予定している。

夏休みと春休みに海外の合宿を予定している。

【事前・事後学修】

事前学修：次回の演習に関連する課題を出すので事前に作成しておくこと。（週2時間）

事後学修：演習内容を振り返ること（週2時間）

【テキスト・教材】

特になし

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、前期：論文作成への取り組み（100%）、後期：卒業論文（100%）で決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

演習ⅣA・ⅣB

卒業研究に取り組む

竹内 美香

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文のために各自の問題意識を掘り下げ、課題に取り組む。設定したテーマに沿った仮説から、調査研究を行う。リサーチ・リテラシーがひと通りができる水準の達成を目指す演習科目である。

【授業における到達目標】

1. 客観性と再現可能性を重視する現代科学としての心理学の視点で対人社会・発達の事象を考えられるようになる。
2. 社会調査の手法を人間の発達・対人社会心理学的課題の解決のために正しく活用できる。
3. 計画・実行・評価のマネジメント・サイクルを回しながら、仲間と協働するスキルを習得する。
4. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる力身につける。

【授業の内容】

演習ⅣA

- 第1週 卒業論文完成までのスケジュールを確認し計画を立案する
- 第2週 テーマを決定する
- 第3週 卒業研究計画を確定する
- 第4週 質問項目を収集する
- 第5週 独自項目を抽出し構成する
- 第6週 変数間の関連を考えて仮説を立てる
- 第7週 先行研究論文を読み込み、「序論」を書き始める
- 第8週 調査準備を行う。印刷と以降の行動計画を立てる
- 第9週 調査を実施する。同時に、データ入力シートを作成する
- 第10週 収集帳票を整理する
- 第11週 データ入力作業を進める
- 第12週 解析計画を立てて、解析方法を確認・学習する
- 第13週 中間作業報告会を行う
- 第14週 後期に向けて、学生相互に情報交換とアドバイスを行う
- 第15週 データ解析計画と相談、具体的な行動計画を考える

演習ⅣB

- 第1週 後期ガイダンス— 今後の作業計画の確認、
- 第2週 以下、随時データ解析の内容を記載しておく
- 第3週 回答率分布を調べる
- 第4週 基本統計量を算出する
- 第5週 条件文の書き方を考えて回答者を分類する
- 第6週 群間の比較を試す
- 第7週 変数間の関連を調べる
- 第8週 変数の構造を調べ、イメージを考察する
- 第9週 さらに合成変数をつくる
- 第10週 重回帰分析を試して因果関係を考えてみる
- 第11週 表とグラフの書き方を工夫する
- 第12週 結果を文章化し、考察を掘り下げる
- 第13週 論文として総合的にまとめる
- 第14週 他の人にわかりやすく説明するための準備をする
- 第15週 卒業論文発表会の予行演習を行う

【事前・事後学修】

【事前学修】PC技術に習熟する。既存の学術論文を収集しレジュメを作成する。

【事後学修】常にすべての取り組みを卒業論文の執筆につなぐ。最終的に論文の完成と発表プレゼンテーションの作成につなげる。

【事前・事後学修時間】卒業論文は大学の学びの集大成である。週4時間以上の取り組みは前提となる。

【テキスト・教材】

多種の学会誌から、適切な先行研究論文を探し、「お手本」として活用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

IV A 調査作業の主体的取り組み評価60%、先行研究の学習成果報告を40%の配点で評価する。

IV B 卒業論文 60%、卒業論文発表 40%

フィードバックは対面、直接コミュニケーションで個別的に逐次行う。

【参考書】

すべての既存、学術論文を活用。

【注意事項】

主体的な取り組みを期待する。教員と学生間の迅速で密な連絡と通信、ゼミメンバー間の思いやり行動を重視する。

演習IV A・IV B

小澤 康裕

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習Ⅲに引き続き、会計に関連するトピックス（新聞記事・雑誌・書籍等）について理解し、自らの興味関心に基づいて卒業論文を完成させる。

【授業における到達目標】

本演習では、会計学の深い知識を得たうえで、企業、社会で行われている経営活動にかかわる諸問題について調査し、研究し、課題を解決する力を身につけてもらうことを狙いとする。

知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）を育成する。

【授業の内容】

演習IV A

- 第1週 ガイダンス 卒業論文の完成までの日程確認
- 第2週 卒業論文案の発表①
- 第3週 卒業論文案の発表②
- 第4週 卒業論文案の発表③
- 第5週 スケルトンの完成
- 第6週 スケルトン報告①
- 第7週 スケルトン報告②
- 第8週 卒業論文執筆状況についての報告①
- 第9週 卒業論文執筆状況についての報告②
- 第10週 卒業論文執筆状況についての報告③
- 第11週 卒業論文の中間発表①
- 第12週 卒業論文の中間発表②
- 第13週 卒業論文の中間発表③
- 第14週 卒業論文の中間発表④
- 第15週 まとめ

演習IV B

- 第1週 スケジュールの確認
- 第2週 論文形式の確認
- 第3週 卒業論文の指導（全体の構成）
- 第4週 卒業論文の指導（問題意識とむすびの書き方）
- 第5週 卒業論文の指導（本論の書き方）
- 第6週 卒業論文の指導（参考文献と注のつけかた）
- 第7週 卒業論文の指導（論文の進捗を確認）
- 第8週 卒業論文の指導（論文の最終確認）
- 第9週 卒業論文の個人発表①
- 第10週 卒業論文の個人発表②
- 第11週 卒業論文の個人発表③
- 第12週 卒業論文の個人発表④
- 第13週 卒論発表資料の作成方法
- 第14週 卒論発表資料の最終確認
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各自の研究領域に関する先行研究の調査、精読および研究方法の学習（学修時間週3時間）

事後学修：授業内での履修者相互での議論をもとに作成したノートを振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと（学修時間週3時間）

【テキスト・教材】

各自の研究領域に関する先行研究を自らリストアップし、自身の研究スケジュールにあわせて、精読することが求められます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

卒論・レポート（40%）、口頭発表（40%）、ゼミ運営（20%）

卒論・レポート課題や発表に対して、適宜コメントやフィードバック

クを行います。

【参考書】

参考書や問題集については適宜紹介します。

【注意事項】

- 履修者の意欲的な姿勢を期待します。
- 報告担当者の欠席は、合理的理由がない場合、これを認めません。

演習ⅣA・ⅣB

時田 朋子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

3年次の演習ⅢA/Bを踏まえて研究を進め、大学における学びの集大成である卒業論文を完成させます。自らテーマを設定し、文献や資料をまとめ、収集したデータを分析して、結論を導き出します。

【授業における到達目標】

本授業では、ディプロマ・ポリシーにある以下の3能力を身につけることを目標とします。

1. 学修を通して自己成長する力（研鑽力）
2. 課題解決のために主体的に行動する力（行動力）
3. 相互を生かして自らの役割を果たす力（協働力）

【授業の内容】

演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 研究計画書の作成
- 第3週 研究計画書の発表
- 第4週 研究テーマの設定
- 第5週 アウトライン作成の準備
- 第6週 アウトライン作成
- 第7週 研究の目的
- 第8週 先行研究の準備
- 第9週 先行研究の収集
- 第10週 先行研究の分析
- 第11週 先行研究のまとめ
- 第12週 データ収集の方法
- 第13週 データ収集の開始
- 第14週 中間発表
- 第15週 総括

演習ⅣB

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 収集データの確認
- 第3週 データ分析の進め方
- 第4週 データ分析
- 第5週 追調査の確認
- 第6週 考察・結果
- 第7週 卒業論文執筆1
- 第8週 卒業論文執筆2
- 第9週 卒業論文執筆3
- 第10週 卒業論文の形式
- 第11週 卒業論文の校正
- 第12週 卒業論文の完成
- 第13週 卒論発表会の資料準備
- 第14週 卒論発表会の発表練習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：研究計画に従い、卒業論文の完成に向けて進めて下さい。（週2時間）

事後学修：フィードバックに基づき、卒業論文の加筆修正を行って下さい。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅣA：平常点（授業中の議論への参加度やゼミへの貢献）30%、発表30%、卒業論文への取り組み40%

演習ⅣB：平常点（授業態度や卒業論文への取り組み）20%、発表20%、卒業論文60%。

発表のフィードバックは授業中のディスカッションを通して、卒業論文のフィードバックは個別に添削および口頭で随時行います。

演習ⅣA・ⅣB

社会心理学

織田 弥生

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅢA・Bで行った研究を基礎として、卒業論文作成にむけて各自のテーマについて研究を行います。具体的には①先行研究を調べる、②調査・実験の計画、③仮説をたてる、④調査・実験（データをとる）、⑤解析、⑥考察、⑦卒論執筆、⑧プレゼンテーション、に取り組めます。

【授業における到達目標】

先行研究の検索から、調査・実験の計画と実施、データの解析、卒論執筆、プレゼンテーションまでを個人でやり遂げることが目標です。その過程で、①学ぶ楽しみを知り、広い視野と広い洞察力、本質を見抜く力を身に着けます。②各自が興味のある研究テーマについて、課題を発見する、研究計画を立案・実行する、問題があれば解決する能力を身に着けます。③ゼミの中ではお互いの研究を尊重した上で、適切な意見交換を行い、お互いを高めていきたいと思えます。

【授業の内容】**演習ⅣA****①ガイダンス（第1週）****②3年生で行った研究結果の発表・討論（第2～6週）**

各自の研究結果をプレゼンテーションし、全員で討論する。

③研究計画を発表する（第7～11週）

卒論のための調査や実験の計画を発表・討論する。

④調査・実験を実施する（第12～15週）

計画に従って実験や調査を実施する。

授業時間外に実施する場合もある。

夏季休暇期間

データの統計的解析について勉強する。

演習ⅣB**①ガイダンス（第1週）****②データを解析する（第2～6週）**

取得したデータを統計的に解析する。

③卒業論文を執筆する（第7週～13週）

結果をまとめ、卒業論文を執筆する。

④プレゼンテーションの作成（14週～15週）

卒業論文の内容をパワーポイントのプレゼンテーションにまとめる。

【事前・事後学修】

事前学修：発表や調査の準備を行う（週2時間）

事後学修：指示された課題を行う（週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題への取り組み40%、卒業論文40%、卒論発表20%。

発表や提出物については、その都度フィードバックします。

【注意事項】

自分の研究だけではなく、他の人の研究にも興味を持ち、積極的に討論に参加してください。ゼミの時間だけでは研究は進みません。教員からの指示を待たず、早目早目に、自主的に進めるように努力してください。最低限の礼儀として、欠席の場合は必ず事前連絡を入れてください。

演習ⅣA・ⅣB

神山 静香

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習Ⅲまでの研究成果を基礎として、研究テーマをさらに理論的に掘り下げ、論文としての形式を備えた「卒業論文」として完成させることを目的とする。

【授業における到達目標】

ビジネス（商取引、契約）や企業組織、国際取引・交渉、紛争解決等、企業を取り巻く法律やルールについての知識を修得する。また、卒業論文の執筆を通して、「問い」を立て、分析手法を検討し、理論的に「問い」を検証して答えを導き出すといった一連のプロセスを経験することで、学術論文を執筆する上で必要なスキルを身に付ける。ディプロマポリシーとの関連では、国際感覚を身に付けて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】**演習ⅣA**

第1週 ガイダンス：演習の進め方

第2週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認①

第3週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認②

第4週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認③

第5週 先行研究の収集・分析と論文構成の確定①

第6週 先行研究の収集・分析と論文構成の確定②

第7週 序論の執筆指導①

第8週 序論の執筆指導②

第9週 序論の執筆指導③

第10週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討①

第11週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討②

第12週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討③

第13週 中間発表①

第14週 中間発表②

第15週 総括

演習ⅣB

第1週 ガイダンス：卒業論文スケジュール確認、進捗状況の報告

第2週 卒業論文作成指導①

第3週 卒業論文作成指導②

第4週 卒業論文作成指導③

第5週 卒業論文作成指導④

第6週 卒業論文作成指導⑤

第7週 中間発表

第8週 卒業論文作成指導⑥

第9週 卒業論文作成指導⑦

第10週 卒業論文作成指導⑧

第11週 卒業論文発表会準備①

第12週 卒業論文発表会準備②

第13週 卒業論文発表会準備③

第14週 卒業論文発表会

第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：報告者は、卒業論文の構成等をまとめたレジюмеを作成し、報告の準備をすること。演習前日までにメールで教員まで送信する。報告者以外の者は、報告者のレジюмеを読み、ディスカッションのための準備を行う（学修時間 週2時間）。

事後学修：ゼミ内で出た意見について各自復習、検討すること。報告者はゼミ内で出た意見を卒業論文に反映し、次回の演習時に教員に改善点などを報告すること。（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

演習時に適宜、紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅣAは、卒業論文への取り組み（50%）、ゼミにおける議論への積極的参加（50%）で評価する。演習ⅣBは、卒業論文の内容（80%）、卒業論文発表会（20%）で評価する。課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業時に適宜、紹介する。

【注意事項】

履修者の希望があれば、ゼミ合宿（夏期休暇期間）及び学外での活動（授業内容に関連する施設の見学等）を実施する。

演習ⅣA・ⅣB

マーケティングと消費者行動

井上 綾野

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

演習ⅣA・ⅣBでは、卒業論文の作成を中心に指導を行う。マーケティングや消費者行動に関するテーマを設定し、先行研究を読み込み仮説に基づく調査を実施することで、結論を導き、ひとつの論文としてまとめていく。これら一連のプロセスに取り組むことで、客観的な結果の積み重ねや記述の手法を学んでいく。

【授業における到達目標】

演習ⅣAおよび演習ⅣB：卒業論文の執筆と研究内容のプレゼンテーションを行うことを目的とする。これらの過程を通じて、卒業論文のみならず物事を計画・立案・実行する力を養うことを目標とする。

【授業の内容】

演習ⅣA

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 卒業論文 論文の構造を学ぶ
- 第 3回 卒業論文 執筆計画を立てる
- 第 4回 卒業論文 テーマの設定
- 第 5回 卒業論文 テーマに関する先行研究の収集①
- 第 6回 卒業論文 テーマに関する先行研究の収集②
- 第 7回 卒業論文 仮説の導出
- 第 8回 卒業論文 進捗状況発表①
- 第 9回 卒業論文 調査手法の確認
- 第 10回 卒業論文 調査設計
- 第 11回 卒業論文 実査
- 第 12回 卒業論文 調査結果報告
- 第 13回 卒業論文 調査結果のまとめ
- 第 14回 卒業論文 進捗状況発表②
- 第 15回 総括

演習ⅣB

- 第 1回 インTRODクシヨン：卒業論文進捗状況の確認
- 第 2回 先行研究のまとめに関する添削指導
- 第 3回 仮説の設定と導出に関する添削指導
- 第 4回 調査手法に関する添削指導
- 第 5回 調査結果のまとめ方に関する添削指導
- 第 6回 本論最終添削指導
- 第 7回 本論最終提出
- 第 8回 発表資料と研究発表に関する指導①
- 第 9回 発表資料と研究発表に関する指導②
- 第 10回 卒業論文発表①
- 第 11回 卒業論文発表②
- 第 12回 卒業論文発表③
- 第 13回 卒業論文発表会指導
- 第 14回 卒業論文発表会
- 第 15回 総括

【事前・事後学修】

・事前学修

演習ⅣA・ⅣB共通：卒業論文のテーマに基づき収集した資料を熟読し、まとめること（学修時間：3時間）

・事後学修

演習ⅣA・ⅣB：各自出された課題に基づき、論文を書き進めること（学修時間：3時間）

【テキスト・教材】

必要な資料は各受講生に個別に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法・基準]

演習ⅣA：卒業論文への取り組み（50%）課題およびゼミへの貢献度（50%）で評価する。

演習IVB：卒業論文の完成度（70％）ゼミへの貢献度（30％）で評価する。

[フィードバックについて]

各課題について個別にフィードバックを行う。

【参考書】

ダン・レメニイ『社会科学系大学院生のための研究の進め方−修士・博士論文を書く前に』（同文館出版、2002年）
田村正紀『リサーチ・デザイン−経営知識創造の基本技術』（白桃書房、2006年）

演習IV A・IV B

数野 昌三

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文の作成を指導する。卒業論文を作成することは、単に自分で考えたことを記述する作文とは異なり、担当教員の協力を得ながら、自らテーマを設定し、資料を収集・熟読・論文構成・記述という段階をたどり、物事に対する客観的な見方を培うということに意義があり、4年間の集大成である。

【授業における到達目標】

卒業論文を完成させることは、法的視点から一層物事を捉えることができるようになる。そのようになるためには、指導教員および周囲のゼミ生からの情報や意見・感想に耳を傾け、一步一步進めていくことが重要である。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

演習IV A（前期）	演習IV B（後期）
第1週 ガイダンス	第1週 ガイダンス
第2週 卒論計画書の作成	第2週 テーマに関する 複数問題点の抽出
第3週 卒論計画書の報告会	第3週 テーマに関する 問題点の絞り込み
第4週 基本書による 複数テーマの設定	第4週 論文構成の必要性
第5週 基本書による テーマの絞り込み	第5週 論文構成（目次の作成）
第6週 卒論に関する 文献の必要性	第6週 問題点に関する諸判例の 検討（事実関係）
第7週 卒論に関する 文献の取り扱い方	第7週 問題点に関する諸判例の 検討（判旨）
第8週 卒論に関する 文献収集	第8週 問題点に関する諸学説の 検討（主張・根拠）
第9週 判例の確認	第9週 問題点に関する諸学説 への批判
第10週 学説の確認	第10週 問題点に関する諸学説 への批判に対する対応
第11週 テーマに関する 視点の設定	第11週 問題点に関する判例 および学説のまとめ
第12週 卒論中間発表会用 レジュメの作成方法	第12週 問題点に関する 私権の発表
第13週 卒論中間発表会用 レジュメの作成	第13週 卒論発表会に向けて
第14週 卒論中間発表会	第14週 卒論発表会
第15週 総括	第15週 総括

*夏期休暇期間中、合宿を実施する。

【事前・事後学修】

【事前学修】各自が設定したテーマに関して検索・収集した資料を熟読し、まとめてくること（学修時間 週4時間）。

【事後学修】各自がまとめた内容につき添削がなされるので、その添削に基づき補正し、次回へと継続させていくこと（学修時間 週4時間）。

【テキスト・教材】

個別に指導する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

・演習IV Aに関しては、卒業論文作成への取り組み50%、平常点（討議への参加度・ゼミへの貢献度）50%

・演習IV Bに関しては、卒業論文完成度60%、平常点（討議への参加度・ゼミへの貢献度）40%、

【フィードバック】本演習の各第15週、ゼミ生からの意見を参考にフィードバックを行う。

演習ⅣA・ⅣB

メディアにおける！？をとことん追究する

駒谷 真美

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

メディアは、我々の生活に様々な刺激！や疑問？を与えている。本演習では、学生自身のメディアに対する！？を2年間かけメディア研究の卒論として追究していく。4年次は、追加調査を検討する、本論（結果・考察）を改善する、結論をまとめるプロセスを経て、ポートフォリオを精緻化し、卒論を完成する。本演習では、メディア研究の卒論活動を通してメディア情報リテラシー（MIL）を育成するのが目的である。

【授業における到達目標】

MIL応用段階の目標は、[コミュニケーション] ①卒論活動を通して、MILの自己表現力を培い、ICTを駆使してメディアメッセージを発信できる②他者の異なる価値観を受け止め、協働から新しい価値観を創り、社会に情報発信できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力]「広い視野と洞察力を身につけ本質を見抜ける力」と[行動力]「プロセスや成果の適切な評価から問題解決できる力」を主体的に高める。

【授業の内容】

4年次の演習は、個々の進路計画を考慮し柔軟に対応する。

[前期] 卒論の改善

1. 卒論スケジュール確認
2. 本論（結果）添削指導（1）
3. 本論（結果）添削指導（2）
4. 本論（結果）添削指導（3）
5. 本論（結果）添削指導（4）
6. 本論（結果）添削指導（5）
7. 本論（考察）添削指導（1）
8. 本論（考察）添削指導（2）
9. 本論（考察）添削指導（3）
10. 本論（考察）添削指導（4）
11. 本論（考察）添削指導（5）
12. 本編初稿提出・報告会準備
13. 進捗状況報告会（1）
14. 進捗状況報告会（2）
15. 進捗状況報告会（3）

[後期] 卒論の完成

1. 卒論スケジュール最終確認
2. 序論再稿提出
3. 本編再稿提出
4. 結論執筆指導
5. 結論添削指導（1）
6. 結論添削指導（2）
7. 引用文献添削指導
8. 概要執筆指導
9. 概要添削指導
10. フォーマット最終確認
11. 卒論発表指導
12. 卒論発表会準備
13. 卒論発表会準備
14. 卒論発表会（1）
15. 卒論発表会（2）

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間：週2～4時間）では、指定テキストや文献資料・manabaの授業資料を熟読する。
- ・事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートとポートフォリオにまとめ、manabaのレポート機能で期限内に提出し保存する。プレゼンの準備をする。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15週のリフレクションシート）30%+活動点（プレゼン・ポートフォリオ・卒論）70%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼン・ポートフォリオは該当回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・各自の卒論進捗状況により、授業外での自主活動も想定される。

演習ⅣA・ⅣB

行動計量学ゼミ

竹内 光悦

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本演習では、3年次に学んだ内容を踏まえて、より掘り下げたレベルで各学生独自のテーマによる卒論研究を進める。なお本ゼミにおける対象のテーマは、広義での人の行動・意識を計量的に分析するテーマであれば特に限定しない。行動・意識調査など、またこれらのテーマにおける測定法や解析手法の研究開発でもよい。

【授業における到達目標】

多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、チームで活動する力【協働力】、活動の振り返りによる自己管理能力【研鑽力】を修得する。

【授業の内容】

前期ゼミ 01 授業ガイダンスと現状報告および今期計画

ゼミ 02 卒研計画の立案

ゼミ 03 卒研計画の仕上げ

ゼミ 04 卒研の企画検討

ゼミ 05 卒研の先行研究：情報収集

ゼミ 06 卒研の先行研究：文献検索

ゼミ 07 卒研の先行研究：研究結果のまとめ

ゼミ 08 卒研のデータ収集：調査計画の検討

ゼミ 09 卒研のデータ収集：調査実査方法

ゼミ 10 卒研のデータ収集：データの処理

ゼミ 11 卒研のデータ収集：データの分析

ゼミ 12 卒研の中間発表に向けて

ゼミ 13 卒研中間発表、今期のまとめ

ゼミ 14 卒研再検討

ゼミ 15 卒研構想発表会

後期ゼミ 01 現状確認と卒研の最終検討

ゼミ 02 卒研の分析・考察—分析計画、基礎分析の確認

ゼミ 03 卒研の分析・考察—計量的分析の検討

ゼミ 04 卒研の分析・考察—分析結果の考察の検討

ゼミ 05 卒論草稿の仕上げ

ゼミ 06 卒論仕上げ—卒論の校正作業

ゼミ 07 卒論仕上げ—卒研の追加調査の調整

ゼミ 08 卒論仕上げ—卒研の追加分析の調整

ゼミ 09 卒論仕上げ—概要書の作成

ゼミ 10 卒論仕上げ—全体の最終調整

ゼミ 11 卒論の最終仕上げ、提出準備

ゼミ 12 卒研の振り返り、次回への提言

ゼミ 13 卒論発表会の全体練習

ゼミ 14 卒論発表会の個人練習

ゼミ 15 卒論発表会

【事前・事後学修】

事前学修：卒業計画に従い、卒業研究を進める（学修時間 週2時間）／事後学修：授業次に調整した卒業研究の計画を見直し対応（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト等については適宜紹介し、特に指定はしない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習内での活動状況（20%）および卒業研究（40%）、卒業論文（30%）、卒業発表（10%）で評価。manabaを通じて、卒論の進捗状況や質問等にフィードバックする。

【参考書】

特に指定はしないが、適宜授業内外、manabaを使って紹介する。

【注意事項】

学生主体の演習であるため、欠席や遅刻に関しては事前に連絡を入れること。SPSS や R などの統計ソフトの紹介も行う。

演習ⅣA・ⅣB

アジアの文化人類学

高橋 美和

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本を含むアジア地域から履修者が自ら選択した地域・コミュニティ・集団・カテゴリーを対象とし、その文化を内側から理解することを試みる。文化人類学的手法、特に質的調査法を用いた調査を実施し、ゼミでの発表と討論を経ながら考察を進め、最終的には卒業論文という形にまとめる。

【授業における到達目標】

演習ⅢA・ⅢBで培った文化人類学的手法に関する知識をふまえ、自らの関心にそった調査計画の策定・実施が主体的にできるようになることを目標とする。各自の異文化を対象とした調査研究およびゼミでの発表や討論参加という一連の活動と学修を通し、国際的視野、協働力、そして学修を通して自己成長する研鑽力を養う。

【授業の内容】

演習ⅣA：

各自が卒業論文で扱う「問い」と、それを明らかにするための方法の確定、具体的な調査に入る準備を行う。

授業では、フィールドワークに関するテキストの輪読を毎回行い、並行して以下を実施する。

- 第1週 研究計画書の作成にむけた準備作業
- 第2週 研究計画書の作成
- 第3週 研究計画書の相互検討
- 第4週 現地調査（予備調査および本調査）の計画作成
- 第5週 現地調査（予備調査および本調査）の計画の相互検討
- 第6～8週 予備調査の実施と発表
- 第9～11週 調査以外の情報収集の進捗状況発表
- 第12～15週 先行研究（特に学術論文）の発表

演習ⅣB：

第3週までに本調査を実施する。

データの整理、考察を行い、論文にまとめていく。

授業では、以下の進捗状況を複数回発表し、全員で討論する。

- 第1～2週 調査から得られる結果の予想と、論文の中での位置づけに関する発表
- 第3～5週 章立てを含む論文の構成の検討
- 第6～8週 本調査の実施状況、データ分析の進捗状況の発表
- 第9～10週 引用・脚注・参考文献リストなどの形式確認作業
- 第11～12週 結語執筆後の序章のリライト、要旨の執筆
- 第13週 卒業論文提出前の最終確認作業
- 第14～15週 卒業論文発表のための資料作成とプレゼンテーションの練習

※必要に応じて、校外でのフィールドワーク実習および国内合宿を実施する。

【事前・事後学修】

事前：発表担当回にはレジュメを作成する。（週4時間）

事後：ゼミ発表でのフィードバックを必ずまとめておくこと。（週4時間）

【テキスト・教材】

共通のテキストは用いない。適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調査の実施・ゼミでの発表内容・討論での論理性、積極性、貢献度の総合評価（100%）。質問やコメントで出席とみなす。発表や討論についてはその都度フィードバックする。

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2052円授業で紹介する。

また、受講生個々人の関心・必要に応じて文献の紹介を随時行う。

【注意事項】

報告発表担当者の欠席は原則として認めない。日頃の計画性、スケジュール管理などが求められる。

演習ⅣA・ⅣB

松浦 常夫

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒論の作成が目標です。それに向けて文献を調べ、実験・観察・質問紙・面接等の方法で調査や研究を行い、結果をまとめます。

演習ⅣAではミニ卒論をもとに、夏休みまでには本実験や本観察の計画をたてたり、質問紙を作成したりします。演習ⅣBでは、遅くとも10月には調査・実験を終え、11月には卒論の作成に本格的に取りかかり、卒論を完成させます。

【授業における到達目標】

後期に卒論が完成することを目標とし、先行研究の要約、心理学研究法に従ったデータ収集をおこない、それを論文という形で表現できるようにすることが目標です。

知の探求といった「態度」や心理学的な問題に対する興味・関心を持ったり、議論を通して論文に仕上げることで「研鑽力」、「行動力」、および「協働力」が修得されます。

【授業の内容】

演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス、
- 第2週 ミニ卒論発表1（3人、論文の書き方）
- 第3週 ミニ卒論発表2（3人、論文の構成）
- 第4週 ミニ卒論発表3（3人、問題と先行研究）
- 第5週 ミニ卒論発表4（3人、目的と仮説）
- 第6週 結果のまとめ方、
- 第7週 図表の読み方、
- 第8週 単純集計、
- 第9週 クロス集計、
- 第10週 検定理論、
- 第11週 学生発表1（3人、図表の書き方）
- 第12週 学生発表2（3人、検定の種類）
- 第13週 学生発表3（3人、先行研究のまとめ方）
- 第14週 学生発表4（3人、文献の書き方）、
- 第15週 まとめ

演習ⅣB

- 第1週 学生発表1（進捗状況）
- 第2週 学生発表2（卒論作成までの道のり説明）
- 第3週 学生発表3（発表内容のチェック）
- 第4週 学生発表4（予備調査・実験）
- 第5週 本調査・実験
- 第6週 データ解析1（エクセルでの統計使用方法）
- 第7週 データ解析2（平均値の差の検定）
- 第8週 データ解析3（カイ二乗検定）
- 第9週 論文作成指導1（問題、目的、仮説）
- 第10週 論文作成指導2（結果、考察、文献）
- 第11週 論文作成指導3（図表）
- 第12週 論文作成指導4（統計分析）
- 第13週 論文作成指導5（概要書作成）
- 第14週 発表指導、
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表者は前日までにレジュメやレポートを作成し、教員まで提出してください。その他の人はシラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布しますが、基本的には学生の発表資料がテキストとなります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ゼミでの参加態度を50%、発表や卒論の内容を50%で評価します。

発表の都度、その内容の評価をおこないます。

【注意事項】

演習ⅣAの期間中は就職活動と重なりますが、ゼミの日にはゼミ出席を最優先してください。

演習ⅣBの11月から卒論提出までは基本的にアルバイトをしないでください。

応用メディア技術

機械学習と人工生命のプログラミング

原島 大輔

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

現代社会は高度に情報化されていますが、情報技術（IT）を理解するためにはプログラミングの理解が欠かせません。本授業では、プログラミング言語「Python」を使い、ごく簡単な機械学習や人工生命のプログラミングを実習することで、プログラミングへの理解を深めていきます。そうすることで、ITへの理解にもとづいてITを活用するための基礎力を涵養することがテーマとなります。

【授業における到達目標】

プログラミング言語「Python」で書かれたサンプルコードを実行したり一部を自分で書き換えてみたりする実習を通じて、初歩的なプログラミング能力を修得することが到達目標です。

それによって、ITへの理解を深めるとともに、ITを活用する創造力を養成します。

また、制作と発表を通じて、ITを活用した課題発見・計画の立案をとまなう行動力を養成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 プログラミング環境の構築
- 第3週 プログラミングの基礎
- 第4週 サンプルコードの使用方法
- 第5週 パターンの生成：セルラー・オートマトン（制作）
- 第6週 パターンの生成：セルラー・オートマトン（発表）
- 第7週 生物の群れのシミュレーション：ボイドモデル（制作）
- 第8週 生物の群れのシミュレーション：ボイドモデル（発表）
- 第9週 掃除ロボットのシミュレーション
：サブサンクション・アーキテクチャ（制作）
- 第10週 掃除ロボットのシミュレーション
：サブサンクション・アーキテクチャ（発表）
- 第11週 進化のシミュレーション
：ニューラルネットワーク（制作）
- 第12週 進化のシミュレーション：遺伝的アルゴリズム（制作）
- 第13週 進化のシミュレーション：相互作用（制作）
- 第14週 進化のシミュレーション（発表）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：授業は制作実習を中心に進めるので、事前学修としてテキスト・教材を予習しておいてください。

事後学修（週2時間）：授業では毎回、課題を出すので、事後学修として翌週までに課題を提出してください。

【テキスト・教材】

岡瑞起、池上高志、ドミニク・チェン、青木竜太、丸山典宏（2018年）『作って動かすALife』オライリー・ジャパン 2,808円（税込）

他にも必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

制作課題（70%）と平常点（30%）により評価します。フィードバックとして、毎回提出された課題について講評します。

【参考書】

授業中に随時指示します。

応用経済学

身近に存在している問題を経済学の視点から考える

野呂 純一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

「経済学」というと「お金に関する難しい話」と敬遠されることや、漠然と「社会でつぶしが利きそうな学問」などと考えられることがしばしばありますが、ここでは、私たちの身の回りに存在している様々な問題が経済学という学問の中で扱われていることを知ると同時に、「経済学とその他の学問分野との関わり」について学ぶことを通して、今一度、「経済学とはどのような学問なのか」ということについて考えていきます。

また、リアクションペーパーに書いていただいた質問や意見を次の授業の最初に解説することにより、受講者の関心に合わせて授業を進めていきますので、学生の皆さんそれぞれが、この社会で生活を営んで行く中で便利なツールとなり得る「経済学的なものの考え方」を身につけて下さい。

【授業における到達目標】

この授業を通して、次の二点を目標とします。

1. 授業中の発言、ディスカッション、リアクションペーパーなどを利用して自分の考えを積極的に述べることで主体的に学ぶこと
2. 私達の身の回りで起こっている出来事を経済学的視点から正しく把握し、課題を発見できる能力などをはじめとする研鑽力を身に付けること

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経済学の基本概念について復習する
- 第3週 応用経済学とはどのような学問なのか？
- 第4週 「交換」について深く考える
- 第5週 経済学の中で扱う「ゲーム」とは？
- 第6週 「労働」について経済学の視点で考える
- 第7週 「人間の心理や感情」について経済学の視点で考える
- 第8週 前半のまとめと復習
- 第9週 「環境問題」を経済学の視点で考える
- 第10週 「教育」について経済学の視点で考える
- 第11週 「開発途上国と貧困」について経済学の視点で考える
- 第12週 「無料」について経済学の視点で考える
- 第13週 「データ」を経済学的視点で捉える
- 第14週 応用経済学の中で扱われる他のトピックについて知る
- 第15週 全体のまとめと復習

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容に関連するキーワード等について調べ、授業に臨んで下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業中に紹介した参考文献や配布資料をよく読んで理解するようにして下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に指定せず、配布資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト（40%）、小テスト（20%）及び平常点（40%）で評価する予定です。平常点とは、授業への積極的な参加姿勢、授業後に提出して頂くリアクションペーパーの内容などです。

授業中に行う練習問題については、授業中、もしくは、次の授業の最初にフィードバックを行い、試験結果については最終回の授業でフィードバックを行います。

【参考書】

扱うトピックが多岐にわたるため、参考書については授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

質問等は授業終了後、またはリアクションペーパー、メールにてお願いします。

受講生には開講時に質問用のメールアドレスをお知らせします。

応用心理学

安全の心理学

松浦 常夫

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

交通安全での考え方をベースに、労働安全、製品安全、食品安全など日常生活の中で生じる安全の心理学について学びます。安全は人間の欲求の中でも飲食と睡眠に次ぐ基本的なものですが、危険な目に合っただけで初めてその大切さに気づきがちです。この授業から現代社会を生き抜くための実践的な知識を身につけましょう。

【授業における到達目標】

現代社会の危険を把握、理解し、それに対処する実践的な知識を身につけることを目標とします。

知を求める「態度」および危険発見とその解決に向けた「行動力」を修得します。

また、安全と美とは関係がないように見えますが、美を調和と考えれば、安全を追求することは制度や行動の美につながります。

【授業の内容】

- 第1週 安全・安心とリスク
- 第2週 リスクの認知
- 第3週 危険の発見（ハザード知覚）
- 第4週 危険の見積りと対処：リスク知覚とリスクテイキング
- 第5週 リスクアセスメント
- 第6週 交通安全：歩行者の安全
- 第7週 労働安全：働く人の安全
- 第8週 労働衛生：働く人の健康
- 第9週 食品安全
- 第10週 製品安全
- 第11週 事故原因としてのヒューマンエラー
- 第12週 事故原因としての違反
- 第13週 エラーや事故の要因としての技能と体調
- 第14週 事故時のコミュニケーションエラー
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。

授業後に提出する感想に、皆に紹介したほうが良い質問があれば、次回に紹介・解説します。

【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

応用心理学特論

交通心理学

松浦 常夫

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

応用心理学の1つの分野である交通心理学の中でも主要なテーマである運転者と歩行者の交通安全を講義する。

【授業における到達目標】

この授業を通して、安全な運転や歩行を心理学的に理解すると共に、自ら交通事故を起こさないことを目標とする。また全学で目標とする態度と能力に関しては、態度の中の「知を求める態度」、能力の中の「本質を見抜く力」と「現状を正しく把握する力」を育成することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 交通心理学とは
- 第2週 運転の動機
- 第3週 運転行動の心理学的モデル
- 第4週 注意とハザード
- 第5週 リスク知覚とリスク・テイキング
- 第6週 歩行行動
- 第7週 視力と視野
- 第8週 交通違反
- 第9週 交通事故
- 第10週 事故の人的原因
- 第11週 歩行者の安全
- 第12週 事故運転者の心理特性
- 第13週 体調・病気と事故
- 第14週 社会・文化と運転
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週1時間）
毎回、宿題を課す。（学習時間 週1時間）
- 事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布する。あるいは原書購読をする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%
- 宿題については、提出時にそれを評価し、フィードバックする。

【参考書】

- 松浦常夫（2014）統計データが語る交通事故防止のヒント 東京法令出版
- 松浦常夫（編著）（2017）交通心理学 北大路書房

応用調理

田島 加寿央・館野 雄二・大岩 透

2年 前期 2単位 3時限連続

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、基礎調理で学んだ知識および技術をもとに、西洋料理・日本料理、中国料理を実習します。社会で活躍する料理専門家を講師に招き、本物の美味しさを体験し調理技術の向上を目指します。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」と「協働力」を育成し、専門技術として修得すべき「学術的な力」となる技能を修得することを目標とします。

【授業の内容】

○西洋料理

1. コーンクリームスープ（カブチーノスタイル）、ブレンオムレツとバターライス、
トマトのサラダ・セルクル仕立て、パンナコッタとフランボワーズのシャーベット
2. 海の幸・野の幸のサラダ・菜園仕立て、パスタ・ポロネーズ、
クリームリキュレとマンゴーのシャーベット
3. ポテトとホウロウの冷製スープ・ウイソワーズ、ミックスサンドウィッチ（ロースハム・ブレースチーズ）、
春キャベツ・オニオン・オーストラウトのサラダ、イチゴのムースとイチゴのシャーベット
4. 日本産・イタリア産の生ハム2種に野菜と茸のピクルス、
タスマニア産サモンのボイル・ウイネグレット・ロウアンサル、クレープ・シュレットとウァニアアイス
5. ホタージュ・サンジエルマン、鶏もも肉とひき肉の重ね焼きポテトのガレット添え、
クスクスのサラダ・ターブレ、チョコレートの小菓子とパマンガールのシャーベット
6. グルマンのひとさら、ロースビーフ・レフォルワーズ、グラタントフィワーズ、
フルーツのタルトとパッションのシャーベット

○日本料理

7. 干し柿と蒟蒻と胡瓜のクリーム白和え、鯛の月ヶ瀬煮、あさりご飯、
赤だし
8. イタゴの煎り煮、金目鯛の当座煮、小松菜の菜飯、けんちん汁
9. もずく酢、海老と野菜の変わり揚げ、鮭の漬けご飯、沢煮椀
10. 鶏ささみと三つ葉の梅肉和え、豚バラ肉の角煮、生姜ご飯、
焼きなすのみそ汁

○中国料理

11. 上湯、色々野菜の土鍋仕込み、オイスターソース炒飯、酢豚、
マンゴーと火焔の香港スイーツ
12. 香港風焼きそば、海老と豆腐の合わせ蒸し、
エビのチリソース煮、ライイ紅茶ゼリー
13. 蟹肉とレタスの炒飯、黒醋のすぶた、海老春巻、フルーツのせ杏仁豆腐
14. 海鮮のフワフワたまごご飯、鮮魚の開きXOじやんの煮込み、
自家製魚スープ、胡麻揚げダango
15. 瑤柱蝦粒荷葉飯、熟成黒にんにくとサロインの炒め、五目湯葉巻、
色々フルーツとアロエのメロンスイーツ

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲載された資料をよく読んで、実習内容を把握しておいてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

資料はmanabaに掲載します。各自印刷し授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート：70%、平常点（授業への積極参加）：30% レポートは次回の授業で、その他は授業時にフィードバックします。

【参考書】

『NEW調理と理論』山崎清子他（同文書院）2,600円

【注意事項】

衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、手指の清潔に心がけてください。実習中は刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動し、担当者の指示に従い、安全に留意してください。各自日頃からの自己管理を怠らず、万全な体調で授業に臨んでください。
なお、献立内容は食材調達等の関係で変更になる場合があります。

沖縄インターンシップ

リゾートホテルで就業体験♪

1・2年 集中 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

沖縄のリゾートホテルで就業体験を行います。

【授業における到達目標】

沖縄のホテルでの就業体験を通じて、広い視野と深い洞察力を身につけ、自信を創出する力を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見する力や、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力も身につけます。

【授業の内容】

I. 期間および時間数

学科が指定した受入先で5日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定します。原則冬休み期間に予定していますが、実習の都合上、出発日や終了日が授業期間(補修日も含む)に当たることがありますが、その授業の欠席は公欠扱いになりません。

II. 実習内容

ホテルの歴史や仕事内容全体を把握する。

ホテル内見学を通じて施設全体の理解と把握をする。

配属されたそれぞれの部署での就業体験。

総計35時間の就業体験を通して、アルバイトとは異なる「働く」ことの意味を理解する。

【事前・事後学修】

事前学修：受入機関および地域周辺の情報収集及び研究を行うこと。2時間以上。各日ごとの実習内容を意識し、実習当日の目標設定を行うこと。また、実習日ごとに振り返りと反省を行うこと。各日1時間以上。

事後学修：日誌をまとめ、インターンシップ報告書の作成を行うこと。3時間以上。

【テキスト・教材】

プリントなどを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習内容および提出されたインターンシップ報告書をもとに単位を認定します。

【参考書】

沖縄および実習先地域の歴史に関する資料を調べておくことを勧めます。

【注意事項】

実習内容を的確にまとめ、インターンシップ報告書を作成し、受入機関で必ず捺印やサインなどを記入いただくこと。

単位認定を希望する場合は、所定の期間に英語コミュニケーション学科研究室に申請すること。

音楽

越山 沙千子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【参考書】

授業時に適宜紹介、指示する。貼付用にスパイラル綴じのスクラップブック（A4サイズ）を用意してください。

【注意事項】

初回授業時に教科書を持参すること。授業には遅刻せず、積極的に参加してください。ピアノを弾くことがあるため、爪を短く切っておくこと。

【授業のテーマ】

音・音楽を介した表現とは何かを考え、子どもの音楽的表現を育てるために必要な知識を理論的・実践的に身につける。

授業では、講義と演習を往復しながら子どもの音楽的表現を発達に即して理解し、その上でどのように育てるべきかを学ぶ。また、学生自身が実際に音を聴いたり、音を出したりする活動を通して、保育・教育現場で必要となる基礎的な音楽理論を学習し、簡単な編曲の方法を習得する。

【授業における到達目標】

- ①子どもの音楽的表現について理解する。
- ②子どもの表現を支えるために、体験を通して学生自身の音や音楽に対する感性を豊かにする。
- ③基礎的な音楽理論を理解する。
- ④簡単な編曲をし、自ら演奏できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：音楽的表現とは何かについて考える
- 第2週 子ども（乳幼児期～児童期）の発達と表現（幼稚園教育要領における領域「表現」および小学校学習指導要領「音楽」の考え方を理解し、幼小連携について考える）
- 第3週 身体と表現（声で遊ぼう、子どもと共に歌う曲について考える）／五線と鍵盤
- 第4週 身体と表現（わらべうた、ボディパーカッションなど）／拍とリズム
- 第5週 身体と表現（わらべうた、ボディパーカッションなど）／リズムと拍子
- 第6週 環境と表現（身の回りの音とかかわろう）
- 第7週 環境と表現（モノの音で遊ぶ、手づくり楽器を考える）／音階：構造と階名・音名
- 第8週 環境と表現（モノの音で遊ぶ、手づくり楽器を考える）／調：調号、調の判断
- 第9週 音で遊ぶ、楽器で遊ぶ／調：移調と転調
- 第10週 アンサンブルを楽しむ／主要三和音
- 第11週 アンサンブルを楽しむ／コードネーム、いろいろな伴奏
- 第12週 唱歌・童謡をアレンジしよう
- 第13週 唱歌・童謡をアレンジしよう
- 第14週 ピアノの役割について考える／楽典小テスト
- 第15週 成果発表会、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の各回授業内容に該当する部分を読んでおく。日頃から身の回りの音や音楽に関心をもつこと。弾き歌いの課題は、各自練習をしておくこと。伴奏は担当生だが、担当に当たっていない曲も伴奏の練習をすること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容をノートにまとめ、授業から得た自己の音楽教育観についてまとめる。また、授業内課題には丁寧に取り組むこと。（学修時間 週2時間30分）

【テキスト・教材】

今川恭子：幼稚園・保育士・小学校教諭養成課程用 おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論[教育芸術社、2008、¥1,800(税抜)]

小西行郎ほか：乳幼児の音楽表現——赤ちゃんから始まる音環境の創造(保育士・幼稚園教諭養成課程)[中央法規、2016、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（25%）、小テスト（25%）、実技（20%）、平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況）（30%）により評価する。提出物についてはコメントを入れてフィードバックを行う。実技発表では事前・事後指導を行う。ピアノの実技に関しては、練習がうまくいかないなどの問題がある場合は教員へ相談をすること。

音楽の世界

音楽の表現可能性を追究する

瀬尾 文子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

「あらゆる芸術は常に音楽の状態を憧れる」(W. ペイター)
伝えたいことがうまく言葉にならないもどかしさは、誰もが体験したことがあるでしょう。上記のフレーズは、音楽においてははいみじくも、伝えようとする内容とそれを形にしたものが本質的に同一であることを、ある種の感動をもって言い表した文章です。たしかに、音楽の表現力は計り知れません。とりわけ形のない曖昧なものや、筆舌に尽くしがたい微妙なニュアンスの伝達において。この授業では、西洋クラシック音楽の表現可能性を追究します。とりあげるのは、人間感情や場の雰囲気、夢や宇宙といった極めて捉えどころのないものを表現しようとする作品です。そこで用いられた音楽的語法を、楽典上のみならず、時代思潮、社会的背景も踏まえて読み解き、その効果を吟味していきます。

【授業における到達目標】

西洋クラシック音楽の鑑賞において必要な基本知識を身に付ける。
感性的な事柄について人と語り合うための語彙を増やす。

【授業の内容】

- 第1週 導入
- 第2週 愛
- 第3週 哀しみ
- 第4週 メランコリー
- 第5週 祈り
- 第6週 荘厳
- 第7週 エキゾチック
- 第8週 ミステリアス
- 第9週 ホラー
- 第10週 うつろい
- 第11週 ユーモア
- 第12週 夢
- 第13週 キャラクター
- 第14週 宇宙
- 第15週 イデオロギー

【事前・事後学修】

事前学修：授業中に告知する次週の授業のキーワード（人物名や思想など）について自習する。週2時間。

事後学修：配布プリントにある自習用の音楽作品を鑑賞する。週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、学期末レポート50%
重要な疑問点、鋭い洞察の書かれたリアクションペーパーは、次週の授業冒頭で読み上げ、コメントをお返しします。

【参考書】

初回授業で案内します。

【注意事項】

音楽史や楽典の専門的な知識はなくてもついてこられるよう、丁寧な説明をこころがけます。質問があれば、遠慮なくして下さい。音楽鑑賞中の私語は厳禁です。聞き慣れない音楽に対しても、心をオープンにして耳を傾けて下さい。

化学の世界 b

杉山 靖正

2年～ 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

高校で化学を十分に履修しなかった場合や理解が不十分だと思う学生が高校の「化学基礎」を履修または再履修することを目指した授業です。「化学基礎」の内容から専門科目の履修に有用と思われる事項を選び、身近な現象や物質とも関連づけながら学びます。化学計算問題も取りあげます。

【授業における到達目標】

高校の「化学基礎」で取りあげる事項について、大学入試センター試験に対応できるレベルの知識を修得することを目指します。そこには、化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できることと、溶液の濃度計算ができることも含まれます。

学生が修得すべき「美の探求態度」のうち、自然現象への感受性を深めようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 化学概論
- 第2週 物質の状態（固体、液体、気体）と分子間力
- 第3週 原子構造と電子エネルギー
- 第4週 化学結合その1 イオンとイオン結合
- 第5週 化学結合その2 ①金属結合、②共有結合
- 第6週 水の特異な性質と水素結合
- 第7週 ①原子量、分子量、物質質量（モル）
②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）
- 第8週 化学反応式と化学反応の量的関係
- 第9週 化学反応と反応熱
- 第10週 コロイド
- 第11週 酸と塩基、水素イオン濃度、pH
- 第12週 中和反応、塩の液性、緩衝液
- 第13週 酸化と還元
- 第14週 金属のイオン化傾向、電池
- 第15週 身近な化学

【事前・事後学修】

講義内容に関して予習をすること。（学修時間 週2時間）

講義内容をよく復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストおよびレポートは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

大学初年次向けの科目です。

仮名書法 1

「いろは」から『和漢朗詠集』の世界へ

伊藤 文生

2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

仮名文字についての基礎知識を「いろは」から確認するとともに、仮名書法の基本について古典に即して実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

本学の学生が修得すべき「美の探究」の一つとして、仮名書法独自の美を感得し、さらに主体的に表現できるようになる。

書写・書道の指導者となることを自覚して学修し、児童・生徒に対して仮名書法について自信をもって指導できるようになる。

【授業の内容】

日常的に用いるひらがな・カタカナについて、特にその書き方を中心に基礎となる知識および技法を改めて確認する。さらに、仮名書法の代表的な古典作品である「粘葉本和漢朗詠集」を主要教材とし、「近衛本和漢朗詠集」「伊予切」など関連資料とともに少しずつ読みかつ臨書することによって、伝統的な書法を実践的に学ぶ。毛筆はもとより、硬筆による書き方についても学ぶ。

- 第1週 道具と学修方法および授業計画について説明する
- 第2週 和漢朗詠集 (93・94) を読み、臨書する
- 第3週 和漢朗詠集 (100・101) を読み、臨書する
- 第4週 和漢朗詠集 (135・136) を読み、臨書する
- 第5週 和漢朗詠集 (165・166) を読み、臨書する
- 第6週 和漢朗詠集 (197・198) を読み、臨書する
- 第7週 和漢朗詠集 (219・220) を読み、臨書する
- 第8週 和漢朗詠集 (280・281) を読み、臨書する
- 第9週 和漢朗詠集 (283・284) を読み、臨書する
- 第10週 和漢朗詠集 (299・300) を読み、臨書する
- 第11週 和漢朗詠集 (305・306) を読み、臨書する
- 第12週 和漢朗詠集 (451・452) を読み、臨書する
- 第13週 和漢朗詠集 (453・478) を読み、臨書する
- 第14週 和漢朗詠集 (553・563) を読み、臨書する
- 第15週 総復習および確認

【事前・事後学修】

【事前学修】配付する資料をよく読み、疑問点を把握するほか、自主的に自分の学修課題を探す。(学修時間 毎週1時間程度)

【事後学修】資料の疑問点を中心に復習して確認し、自主的に反復練習して技量の向上に努める。(学修時間 毎週1時間程度)

【テキスト・教材】

資料プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出作品50%および小テスト50%によって評価します。提出作品・小テストともに次回授業時に返却、フィードバックします。

【参考書】

『簡明書道用語辞典』（天来書院 2017年）2,160円、『書の総合事典』（柏書房 2010年）31,320円など図書館にある参考書を積極的に活用してください。その他については授業時に紹介します。

【注意事項】

受講希望者多数のときは抽選になる場合があることをご承知おきください。道具（普通に使える大筆・小筆ほか）および用紙や墨は各自ご用意ください。下敷きと硯は教室にあります。第1週の授業のときに確認します。なお、普通の筆記具（鉛筆、シャープペンシル、筆ペンなど、日常的に使うもの）もご用意ください。

仮名書法 2

古筆から学ぶ『万葉集』および『古今集』

伊藤 文生

2年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

仮名古筆についての比較的高度な知識を身につけるとともに、仮名書法の真髄について学ぶ。

【授業における到達目標】

本学の学生が修得すべき「美の探究」の一つとして、仮名書法独自の美を感得し、さらに主体的に表現できるようになる。

書写・書道の指導者となることを自覚して学修し、児童・生徒に対して仮名書法について自信をもって指導できるようになる。

【授業の内容】

仮名書法の代表的な古典作品として「元暦校本万葉集」と「高野切古今集」「元永本古今集」とを主要教材とし、「深窓秘抄」などとも比較対照して少しずつ読みかつ臨書することによって、伝統的な書法を実践的に学ぶ。毛筆はもとより、硬筆による書き方についても学ぶ。

- 第1週 資料についての概説および授業計画について確認する
- 第2週 元暦校本万葉集 (10) を読み、臨書する
- 第3週 元暦校本万葉集 (11) を読み、臨書する
- 第4週 元暦校本万葉集 (20・21) を読み、臨書する
- 第5週 元暦校本万葉集 (24・28) を読み、臨書する
- 第6週 高野切および元永本古今集 (1・2) を読み、臨書する
- 第7週 高野切および元永本古今集 (6・7) を読み、臨書する
- 第8週 高野切および元永本古今集 (8) を読み、臨書する
- 第9週 高野切および元永本古今集 (9・10) を読み、臨書する
- 第10週 高野切および元永本古今集 (406) を読み、臨書する
- 第11週 高野切および元永本古今集 (940・941) を読み、臨書する
- 第12週 高野切および元永本古今集 (949・950) を読み、臨書する
- 第13週 高野切および元永本古今集 (997・998) を読み、臨書する
- 第14週 高野切および元永本古今集 (1007・1008) を読み、臨書する
- 第15週 総復習および確認

【事前・事後学修】

【事前学修】配付する資料をよく読み、疑問点を把握するほか、自主的に自分の学修課題を探す。(学修時間 毎週1時間程度)

【事後学修】資料の疑問点を中心に復習して確認し、自主的に反復練習して技量の向上に努める。(学修時間 毎週1時間程度)

【テキスト・教材】

授業時に資料プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出作品50%および小テスト50%によって評価します。提出作品・小テストともに次回授業時に返却、フィードバックします。

【参考書】

『簡明書道用語辞典』（天来書院 2017年）2,160円、『書の総合事典』（柏書房 2010年）31,320円など図書館にある参考書を積極的に活用してください。その他については授業時に紹介します。

【注意事項】

道具（普通に使える大筆・小筆ほか）および用紙や墨は各自ご用意ください。下敷きと硯は教室にあります。ガイドランスのときに確認します。なお、硬筆（普通の筆記具）もご用意ください。

家族と生涯発達各論 a (乳幼児・児童期)

生涯発達と家族の役割

長崎 勤

2年 後期 2単位

◎：美の探究、行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

多くの人々は家族という枠組を基盤にし、また家族との関係の中で、生涯発達を過ごしてゆく。この授業では、生涯発達を家族と生活の視点から考えていくこととする。

まず、家族と生活の中での発達をみてゆく。そして、障害のある子どもの家庭や生活の中でのコミュニケーションや社会性の支援の方法について、事例を通して学ぶ。またインクルーシブな保育や特別支援教育と発達支援について学び、虐待や社会的養護の実態と、その支援についても学ぶ。

これらを通して、生涯発達における生活と家族の役割について考えていきたい。

【授業における到達目標】

生涯発達における家族の役割が理解できる。

コミュニケーション発達支援の基本が理解できる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を把握し、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

1. はじめに
2. 家族と生活の中での発達：0歳
3. 家族と生活の中での発達：1-2歳
4. 家族と生活の中での発達：3-4歳
5. 家族と生活の中での支援：コミュニケーション
6. 家族と生活の中での支援：社会性
7. インクルーシブ保育と家族支援
8. 特別支援教育と発達支援（1）通常学級での特別支援教育
9. 特別支援教育と発達支援（2）通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校での教育
10. 子育て支援と虐待の予防、虐待を受けた子どもの発達支援
11. 社会的養護：児童養護施設と里親制度を中心に
12. 事例検討1：ダウン症児の乳児期から就労への生涯発達と支援
13. 事例検討2：自閉症児の幼児期から大学生への生涯発達と支援
14. 事例検討3：聴覚・視覚障害児の生涯発達と支援
15. ふりかえり

発達障害の家族支援をテーマに、外部講師を予定。

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

その都度提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、平常点（授業への取り組み、授業内提出物、発言）40%、レポート20%。レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

【参考書】

柴崎政之、長崎 勤、本郷一夫編著 2004 障害児保育。同文書院。

長崎 勤、藤野博編著 2011 学童期の支援—特別支援教育をふまえて— 臨床発達心理学・理論と実践④ ミネルヴァ書房。

【注意事項】

家族心理学も併せて受講のこと。

家族と生涯発達各論 b (青年・成人期)

奥田 訓子

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

青年期、成人期は自身の心の揺れ動きと向き合い、アイデンティティを確立していく大切な時期である。本授業では人生の大半を占める青年、成人期の発達の特徴を捉えつつ、発達理論をもとに課題を整理する。また、この時期に遭遇する進学、職業選択、結婚などさまざまな重大な選択に迫られるライフイベントを通して引き起こる葛藤体験の意味を理解し、自立に向けて模索する過程について洞察を深める。

【授業における到達目標】

青年・成人期のライフサイクルを通し、発達の危機を理解し、それを乗り越えていく過程を説明することができる。また、質的発達に着目し、葛藤と直面しながらもその中で生きる意味や目標を見出し、その人らしく生き生きとした人生を送るための支援方法を検討できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回目 授業オリエンテーション：青年期から成人期のライフサイクル
- 第2回目 青年期の発達①：アイデンティティの確立
- 第3回目 青年期の発達②：選択と自立（進路、職業）
- 第4回目 青年期の発達③：親からの自立
- 第5回目 青年期の発達④：青年期の精神病理
- 第6回目 大人になりたくない青年とモラトリアムの延長※
- 第7回目 成人期前期の発達①：社会的自立、
- 第8回目 成人期前期の発達②：職業の選択とキャリア※
- 第9回目 成人期前期の発達③：配偶者選択と結婚
- 第10回目 成人期前期の発達④：子育てと親育ち
- 第11回目 女性の社会進出における課題※
- 第12回目 成人期後期の発達①：定年と社会参加、子の自立
- 第13回目 成人期後期の発達②：成人期の心身の問題※
- 第14回目 成人期後期の発達②：家族の介護 介護離職の実情※
- 第15回目 成人期後期の発達③：人生の統合に向けて※

【事前・事後学修】

事前学修：次回テーマについての重要語句等を提示するので、自分なりに調べてくる（学修時間 週2時間）。

事後学修：授業の事前学修で取り組んだことについての考察をリアクションペーパーにまとめる。シラバス内※印の内容について、グループワークにて調べ学習、発表を行う（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

レジュメを配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回でリアクションペーパーや課題の整理のための小テストに取り組み、それに対する解説、フィードバックを行う（各回課題）。シラバス内※印のうちグループごとにテーマを1つ選び、テーマに沿って調べてきた内容を発表する（1グループ1テーマ/全6テーマ）。各回課題（30%）、グループワーク課題（30%）まとめのレポート（30%）、授業参加度（10%）で評価する。

【参考書】

森和代（監修） 石川利江 松田与理子（編）（2017）「ライフコースの健康心理学」 晃洋書房（2,200円税別）

藤森旭人（2016）「小説・漫画・映画・音楽から学ぶ 児童・青年期のこころの理解：精神力動的な視点から」 ミネルヴァ書房（2,600円税別）

上里一郎（監修） 岡本祐子（編）（2005）「成人期の危機と心理 臨床—壮年期に灯る危険信号とその援助（シリーズこころとからだの処方箋）」 ゆまに書房（3,500円税別）

家族と生涯発達各論 c (高齢期)

細江 容子

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

今日の少子高齢社会において、高齢者を取り巻く家族、社会は急激に変化している。本講では、高齢者を取り巻く社会、家族の変化を理解すると同時に、人間の加齢に伴う身体的・心理的機能の変化とその維持、さらに、人生の終末期に向けた心身の変化がどの様に進むのかを理解し考察する。また、様々な事例検討などによるグループディスカッションや、加齢と関わる映像鑑賞により、老化のプロセスにおける心身の変化や高齢者と家族・社会の関わりについて理解する。さらに、人間の誕生から死にいたる発達と変化、その特性について社会老年学的視点から理解すると同時に高齢者と関わるための知識や技術を学ぶ。また、本講では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして社会老年学的視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・人間の老いという現象を理解するため個人・家族・社会レベルなどいくつかのレベルを想定しつつ、社会老年学的アプローチと理論により考察できる。
- ・現実の制度・政策的課題について理論的に理解し思考することができるようにする。
- ・人間の生涯発達を総合的にとらえ、その生活課題について理解・考察し、人々と協働して生活の向上を図る能力の養成する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 老化、加齢とは何か
- 第3週 人口の高齢化と家族・社会
- 第4週 老化と心身の機能的変化
- 第5週 老化と健康
- 第6週 老化と心理
- 第7週 生涯発達理論と老年的超越
- 第8週 老年社会学の老化に関する理論
- 第9週 社会の変化と高齢者像の変化 (外部講師の講義等)
- 第10週 高齢者の社会関係と社会参加
- 第11週 高齢者を取り巻く社会的環境の時代的変遷
- 第12週 高齢社会の課題と政策的対応 (外部講師の講義等)
- 第13週 格差社会と高齢者
- 第14週 高齢者介護と、終末期
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)と期末試験(50%)の総合的判断による。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験(50%)に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

その都度、紹介する。

【注意事項】

外部講師による講義は日程を変更することがある。

家族と生涯発達総論

細江 容子

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講では、社会の変容が人の一生と個人・家族のライフステージにどのような変化や問題を引き起こすのかを概観する。その中で、課題解決のために、どのような個人・家族の共同・共働や福祉の問題が生じ変化してきたかについて分析的に捉え、社会の変容と個人・家族のライフステージの法則性について明らかにする。

さらに今日、どのようにその課題を捉え、どのようにそれらに対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。また、本講では、急速に変化し多様な様相を示すライフステージの歴史的変遷、国内外における差異を多面的に分析することで、問題解決に取り組む態度と受講生のエンパワーメント(empowerment)、福祉(well-being)実現のための能力を養う。

本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして家族と生涯発達の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・人の一生と個人・家族のライフステージにおける課題解決のために、どのような個人・家族の共同・共働や福祉の問題が生じ変化してきたかについて理解する。
- ・社会の変容と個人・家族ライフステージの法則性について理解する。
- ・受講生一人一人の問題意識を基に課題解決の方法を考える。
- ・それらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回：授業の概要、進め方について
- 第2回：社会の変化とライフステージを捉える視点
- 第3回：社会の変化と個人・家族
- 第4回：ライフステージとは
- 第5回：日本におけるライフステージの時代的変遷
- 第6回：個人・家族のライフステージと生活課題
(キャリア形成との関係から 外部講師による講義等)
- 第7回：新婚期のライフステージと生活課題
- 第8回：育児期のライフステージと生活課題
- 第9回：教育期のライフステージと生活課題
- 第10回：子どもの独立期ライフステージと生活課題
- 第11回：老後期のライフステージと生活課題
- 第12回：フランスの女性のライフステージと生活課題と解決策
- 第13回：他の国々の女性のライフステージと生活課題
- 第14回：地域社会と個人・家族のつながりからみる課題解決策
- 第15回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業時に資料として配布する。家族と生涯発達総論に関する資料・文献等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)と期末試験(50%)の総合的判断による。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)に関してはそのつど全体における講評を行うなど、期末試験(50%)に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

家族関係論

細江 容子

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、
(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等（50％）と期末試験（50％）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50％）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50％）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント (empowerment) と福祉 (well-being) 実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題 (外部講師等)
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等 (50%) と期末試験 (50%) の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等 (50%) に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験 (50%) に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント (empowerment) と福祉 (well-being) 実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題 (外部講師等)
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等 (50%) と期末試験 (50%) の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等 (50%) に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験 (50%) に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント (empowerment) と福祉 (well-being) 実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題 (外部講師等)
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等 (50%) と期末試験 (50%) の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等 (50%) に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験 (50%) に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント (empowerment) と福祉 (well-being) 実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題 (外部講師等)
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等 (50%) と期末試験 (50%) の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等 (50%) に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験 (50%) に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族関係論

細江 容子

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用するなどして、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント (empowerment) と福祉 (well-being) 実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（海外の講師を含む）を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題 (外部講師等)
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2018、(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等 (50%) と期末試験 (50%) の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等 (50%) に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験 (50%) に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

家族社会学

細江 容子

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

た』(有斐閣選書)その他、参考図書については適宜紹介する。

【注意事項】

受講者の人数や関心に合わせて、若干の変更・修正の可能性もある。教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業の中で説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

【授業のテーマ】

家族に関するニュースや記事はその多くが、子どもの虐待、介護疲れからの殺人など悲しい事件や、少子化や未婚化、離婚の増加等、家族と日本社会の将来を危惧するものが多い。また、前世紀末から今世紀初頭にかけて、世界を席卷した新自由主義を背景とした「市場化」「競争化」は、われわれの社会に各種の格差をもたらしているといえ、新自由主義が家族に与えた影響も大きいといえる。本講では、家族社会学の基礎(概念・視点・方法・研究の動向等)を理解すると共に、これらを踏まえ、家族に関わる諸現象について社会学的観点から分析・考察する。また、本講では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして家族社会学の視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・家族社会学の基礎(概念・視点・方法・研究の動向等)を理解できる。
- ・家族に関わる諸現象について社会学的観点から分析・考察することができる。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 家族とは何か

(1)集団としての家族とからネットワークしての家族へ

第3週 家族とは何か

(2)家族の持つ個人的機能と社会的機能

第4週 女は昔から主婦だったのか

第5週 家事と主婦はどの様に誕生したのか

第6週 子どもの誕生と母の誕生

第7週 子どもの数の変化と家族

第8週 サザエさんの懐かしさとは

第9週 近代家族の誕生とは

第10週 近代家族とフェミニズム(外部講師の講義等)

第11週 ニューファミリーの神話

第12週 三歳神話は本当か(外部講師の講義等)

第13週 個人を単位とする社会へ

第14週 経済のグローバル化と家族

第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

適宜文献リストプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートあるいは試験(50%)、平常点(必要に応じて義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシートの提出、授業態度)(50%)。レポートや試験、フィードバックシートに関してはそのつど全体における講評を行うなどと同時に、個々への対応も行うなどしている。

【参考書】

上野千鶴子編『主婦論争を読む』I、II(勁草書房)

山田昌弘著『少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ』(岩波新書)

千田有紀著『日本型近代家族』(勁草書房)

松田茂樹著『少子化論』(勁草書房)

落合恵美子著『21世紀家族へ家族の戦後体制の見かた・超えか

家族社会学

広井 多鶴子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

家族はいつの時代もどんな社会にも存在する「社会の基礎単位」として考えられてきたが、この授業では、そのような家族観がいつどのように成立したのかについて考える。

また、家族の歴史や変化について見ていく中で、今日の家族の抱えるさまざまな課題や問題について考察する。

【授業における到達目標】

家族に関する歴史や現在のさまざまな課題について理解し、データを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につけるとともに、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 結婚という制度と変化
- 第3週 未婚化・晩婚化の進行
- 第4週 恋愛結婚の誕生—白雪姫
- 第5週 出産の変化
- 第6週 少子化ときょうだい数
- 第7週 少子化は女性の問題か
- 第8週 誰が子育てをしてきたか—祖母から母へ
- 第9週 専業主婦の誕生
- 第10週 専業主婦について考える
- 第11週 核家族はどう捉えられてきたか
- 第12週 核家族化は進展したか
- 第13週 核家族化は問題か
- 第14週 近代家族の成立
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 参考文献を読む。週2時間

【事後学修】 宿題を行う。週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（宿題の提出など）30%

宿題は次の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う

【参考書】

広井多鶴子、小玉亮子『現代の親子問題—なぜ親と子が「問題」なのか』（日本図書センター、2010年）

落合恵美子著『21世紀家族へ』（有斐閣選書、2004年）1,700

円

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）640円

家族社会学

広井 多鶴子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

家族はいつの時代もどんな社会にも存在する「社会の基礎単位」として考えられてきたが、この授業では、そのような家族観がいつどのように成立したのかについて考える。

また、家族の歴史や変化について見ていく中で、今日の家族の抱えるさまざまな課題や問題について考察する。

【授業における到達目標】

家族に関する歴史や現在のさまざまな課題について理解し、データを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につけるとともに、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 結婚という制度と変化
- 第3週 未婚化・晩婚化の進行
- 第4週 恋愛結婚の誕生—白雪姫
- 第5週 出産の変化
- 第6週 少子化ときょうだい数
- 第7週 少子化は女性の問題か
- 第8週 誰が子育てをしてきたか—祖母から母へ
- 第9週 専業主婦の誕生
- 第10週 専業主婦について考える
- 第11週 核家族はどう捉えられてきたか
- 第12週 核家族化は進展したか
- 第13週 核家族化は問題か
- 第14週 近代家族の成立
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考文献を読む。週2時間

【事後学修】宿題を行う。週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（宿題の提出など）30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う

【参考書】

広井多鶴子、小玉亮子『現代の親子問題—なぜ親と子が「問題」なのか』（日本図書センター、2010年）

落合恵美子著『21世紀家族へ』（有斐閣選書、2004年）1,700円

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）640円

家族社会学

広井 多鶴子

2～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

家族はいつの時代もどんな社会にも存在する「社会の基礎単位」として考えられてきたが、この授業では、そのような家族観がいつどのように成立したのかについて考える。

また、家族の歴史や変化について見ていく中で、今日の家族の抱えるさまざまな課題や問題について考察する。

【授業における到達目標】

家族に関する歴史や現在のさまざまな課題について理解し、データを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につけるとともに、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 結婚という制度と変化
- 第3週 未婚化・晩婚化の進行
- 第4週 恋愛結婚の誕生—白雪姫
- 第5週 出産の変化
- 第6週 少子化ときょうだい数
- 第7週 少子化は女性の問題か
- 第8週 誰が子育てをしてきたか—祖母から母へ
- 第9週 専業主婦の誕生
- 第10週 専業主婦について考える
- 第11週 核家族はどう捉えられてきたか
- 第12週 核家族化は進展したか
- 第13週 核家族化は問題か
- 第14週 近代家族の成立
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考文献を読む。週2時間

【事後学修】宿題を行う。週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（宿題の提出など）30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う

【参考書】

広井多鶴子、小玉亮子『現代の親子問題—なぜ親と子が「問題」なのか』（日本図書センター、2010年）

落合恵美子著『21世紀家族へ』（有斐閣選書、2004年）1,700円

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）640円

家族心理学

コミュニケーション・システムとしての家族

長崎 勲

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

家族の成立を生物学的、歴史的、社会的に考えることから始め、家族を相互に影響しあいながら変化しゆくコミュニケーション・システムとしてとらえ、家族も発達するという観点について考える。そして、生涯発達の観点から、男女の出会いから、結婚、子育て、児童期や青年期の子どもがいる生活、また成人期や高齢期の家族の心理の関係について考えてゆく。後半では、子どもと家族のコミュニケーションの発達を通して、家族の成立の過程をみてゆく。子育て支援や虐待や発達障害などの、臨床的問題についてその対処方法も含めて考えてゆく。自分の家族や身近な知り合いの家族の分析やエピソードを持ちよるディスカッションによる演習形式も取り入れるので、積極的な参加が望まれる。

【授業における到達目標】

- ・「家族とは何か」を考え、家族の諸問題について理解することができる。
- ・家族におけるコミュニケーション発達のプロセスが理解できる。
- ・発達支援における家族の役割が理解できる。
- ・家族の心理についての広い視野と深い洞察力を身につけ、家族の心理についての本質と問題を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 家族とは何だろうか？
3. 家族の起源と進化：家族システム論の観点から
4. 家族の誕生：恋愛と配偶者選択から結婚へ
5. 夫婦のコミュニケーションと心理
6. 子どもと家族のコミュニケーション0歳
7. 子どもと家族のコミュニケーション1歳-2歳
8. 子どもと家族のコミュニケーション3歳-5歳
9. 児童期の子どもの生活と家族の心理
10. 青年期・成人期の生活と家族の心理
11. 高齢期の家族の心理
12. 家族の危機：災害、離婚、DV、虐待
13. 発達障害と家族
14. 家族と地域支援
15. ふりかえり

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

その都度提示

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、平常点(授業への取り組み、授業内提出物、発表)40%、レポート20%

レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

【参考書】

家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点 柏木 恵子

【注意事項】

「家族と生涯発達各論a」をあわせて受講することが望ましい。

家族心理学演習

カウンセリング入門

稲森 絵美子

4年 前期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

カウンセリングとは、「聴く」ことを基本とした対人援助の方法です。悩み苦しんでいる人を援助するだけでなく、その人の自己理解と成長を促し、その人らしい生き方を模索することをカウンセリングでは目指します。本授業では、カウンセリングの基本的スキルを、実技(ロールプレイ)を通して習得していきます。また、家庭や社会の様々な場面を想定しながら、そのスキルを応用していきます。心理カウンセラーを目指す人だけでなく、日常生活における様々な場面での対人関係をよくしていきたい人にも、役に立つ内容です。積極的な授業参加を期待します。

【授業における到達目標】

自己や他者の役割を理解し互いに物事を勧める力、状況に応じたリーダーシップを発揮する力【協働力】を、カウンセリングの実技(ロールプレイ)を通して修得する。授業を通して自己・他者理解を深める中で、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度【美の探究】を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 カウンセリングとは「聴く」こと
- 第2週 技法1(受容、繰り返し、明確化)
- 第3週 技法2(伝え返し、質問)
- 第4週 技法3(ミラーリング、I message、リフレーミング)
- 第5週 ロールプレイ
- 第6週 描画を使ったカウンセリング
- 第7週 コラージュを使ったカウンセリング
- 第8週 ニーズの把握及び支援計画
- 第9週 地域支援1(学校現場でのカウンセリング)
- 第10週 地域支援2(職場でのカウンセリング)
- 第11週 地域支援3(結婚に関するカウンセリング)
- 第12週 地域支援4(子育て支援)
- 第13週 地域支援5(家族カウンセリング)
- 第14週 カウンセリングにおけるチームアプローチ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前にテキストを読みポイントをまとめた上で、実技(ロールプレイ)に備えること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】ロールプレイを通して気づいたこと、改善できることをノートにまとめ、次週に備えること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

河合隼雄：カウンセリング入門[創元社、1998、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極的参加)30%、実技(ロールプレイ)スキル評価30%、レポート40%。実技スキル評価は各回の授業で、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

本授業では、実技(ロールプレイ)に積極的に取り組む意志があることが、履修条件となります。

家族心理学特論

周産期の心理臨床

稲森 絵美子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業においては、妊娠、出産、子育て、夫婦のコミュニケーション、家族・地域のサポートなど、周産期の心理学の様々な課題について学びを深めていきます。

講師は、周産期領域を専門とする臨床心理士です。実際の病院臨床での素材を基に学びを進めていきますが、学生のみなさんには自分自身に係わるトピックとして思索を深めてもらいたいと思っています。

女性としてのこれからの人生をより豊かなものとしていくためにも、共に学んでいきましょう。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき【研鑽力】として、周産期の心理臨床の概要について広い視野を身につけ、本質を見抜く力の修得を目指す。

また、クラス内でのプレゼンテーション、ディスカッションを通して、互いを尊重し、機に応じてリーダーシップを発揮する【協働力】を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 周産期の心理学
- 第3週 周産期・新生児医療と心理学
- 第4週 周産期・新生児医療におけるこころのケア
- 第5週 周産期心理士事始め
- 第6週 医療技術の進歩の陰で
- 第7週 NICUでのこころのケア
- 第8週 心理社会的な困難を抱える家族
- 第9週 障がいとの出会い
- 第10週 出生前診断めぐって
- 第11週 亡くなっていく赤ちゃんと家族
- 第12週 伝えることと支えること
- 第13週 心理士の役割とチームアプローチ
- 第14週 周産期におけるニーズの把握及び支援計画
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：課題図書を事前に読むこと。また、自分の発表担当週には、内容の要点をレジュメにまとめ、クラス内でディスカッションしたいポイントをまとめること。（学修時間 週2時間）

事後学修：クラス内でのディスカッションを振り返り、次週の授業までに自分の考えをノートにまとめること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

橋本洋子：NICUとこころのケア[メディカ出版、2011、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内発表30%、リアクションペーパー20%、レポート50%。リアクションペーパーは次回授業、レポートについては最終回でフィードバックを行う。

家族法

数野 昌三

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

日常生活上、最も身近に存在する法に家族法があり、民法上規定されている。この家族法は、親族法および相続法に大別することができ、これらにつき、近年における最高裁判所等による裁判例を踏まえ検討する。

【授業における到達目標】

家族に関して法的視点からとらえ、諸外国の制度も視野に入れ、家族間の法的紛争を未然に予防することが可能になると思われる。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスー家族法とはどのような法律かー
- 第2週 旧家族法と現行家族法との特徴の差異
- 第3週 婚姻①ー内縁・婚約ー
- 第4週 婚姻②ー成立・効果ー
- 第5週 ディベート（婚姻の効果に関する1内容をテーマとする）
- 第6週 離婚
- 第7週 実子・養子
- 第8週 扶養
- 第9週 法定相続①ー相続制度の趣旨・法定相続の形態ー
- 第10週 法定相続②ー法定相続人と廃除・相続欠格ー
- 第11週 法定相続③ー法定相続分ー
- 第12週 遺言
- 第13週 遺贈
- 第14週 遺留分
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で予習し、それに加え、小テストに備え準備学修しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で復習し、それに加え、返却された小テストに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】特に指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】必ず六法を持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とし、ディベートにおいて高評価の場合10%加点する。

【フィードバック】

総括において、受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

- ・ 池田真朗『民法への招待』【第5版】（税務経理協会 2018年）2,400円＋税
- ・ 我妻榮・良永和隆・遠藤浩補訂『民法』【第10版】（勁草書房 2012年）2,300円＋税

家族法

数野 昌三

3年～ 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

日常生活上、最も身近に存在する法に家族法があり、民法上規定されている。この家族法は、親族法および相続法に大別することができ、これらにつき、近年における最高裁判所等による裁判例を踏まえ検討する。

【授業における到達目標】

家族に関して法的視点からとらえ、諸外国の制度も視野に入れ、家族間の法的紛争を未然に予防することが可能になると思われる。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスー家族法とはどのような法律かー
- 第2週 旧家族法と現行家族法との特徴の差異
- 第3週 婚姻①ー内縁・婚約ー
- 第4週 婚姻②ー成立・効果ー
- 第5週 ディベート（婚姻の効果に関する1内容をテーマとする）
- 第6週 離婚
- 第7週 実子・養子
- 第8週 扶養
- 第9週 法定相続①ー相続制度の趣旨・法定相続の形態ー
- 第10週 法定相続②ー法定相続人と廃除・相続欠格ー
- 第11週 法定相続③ー法定相続分ー
- 第12週 遺言
- 第13週 遺贈
- 第14週 遺留分
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で予習し、それに加え、小テストに備え準備学修しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で復習し、それに加え、返却された小テストに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】特に指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】必ず六法を持参すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とし、ディベートにおいて高評価の場合10%加点する。

【フィードバック】

総括において、受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

- ・ 池田真朗『民法への招待』【第5版】（税務経理協会 2018年）2,400円＋税
- ・ 我妻榮・良永和隆・遠藤浩補訂『民法』【第10版】（勁草書房 2012年）2,300円＋税

家族臨床心理学 1

稲森 絵美子

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

私たちは、家族の中に生まれ、家族の中で育ち、そこで最初の人間関係を経験します。家族は私たちにとって大切な支えになるのと同時に、そこで生じる問題は、私たちに大きな影響を与えます。その家族について、臨床心理学的な視点から、理解を深めていきましょう。

本授業では、家族を対象化して見るだけではなく、家族の中で生きる私たちを、全人格的存在として理解することを目指します。その学習を通して、臨床心理学のエッセンスに触れていきます。

【授業における到達目標】

家族の中で育つ人間の心の成長について、臨床心理学における広い視野を身につけること。また、授業の中で提示される、家族の中で生じる心理学的課題について、自らの考えをまとめ、発表する力を習得すること。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 臨床心理学とは？
- 第3週 家族心理学の課題と方法
- 第4週 周産期の心理臨床と家族
- 第5週 乳幼児期の心理臨床と家族
- 第6週 児童期の心理臨床と家族
- 第7週 青年期の心理臨床と家族
- 第8週 おとなとして生きること
- 第9週 老年期を生きる
- 第10週 恋愛と結婚の心理
- 第11週 夫婦関係の心理
- 第12週 親になるーその心理的プロセス
- 第13週 兄弟関係の心理
- 第14週 家族の心理構造
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

教員が指示した課題について、次の授業までに自分の意見をまとめてくること。（学修時間週2時間）

配布プリントの未記入部分に授業で学んだ事を記入し、完成させること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

授業では、教員が作成したレジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業中の発言、感想・質問文の提出）50%。
学生から提出された質問文については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

伊藤良子『臨床心理学ー全体的存在としての人間を理解する』ミネルヴァ書房
岡堂哲雄『家族心理学入門 改訂版』培風館

【注意事項】

授業の中で、各テーマに沿ったいくつかの臨床事例を紹介し、その事例について、互いの考えを話し合うグループワークを行います。学生の皆さんの積極的参加を希望します。

家族臨床心理学 2

稲森 絵美子

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

家族臨床心理学2では、家族臨床心理学1の内容を基礎にして、より実践的な臨床心理学的アプローチについて学びます。

文献や臨床のケースなどの資料、また授業の中で行うグループワークを通して、家族の中で生きる私たち人について、各自が考え、理解を深めていくことを目指します。

【授業における到達目標】

家族の中で育つ人間の心の成長について、臨床心理学における広い視野を身につけること。また、授業の中で提示される、家族の中で生じる心理学的課題について、自らの考えをまとめ、ディスカッションする力を習得すること。

【授業の内容】

- 第1週 人間のこころを理解するとは？
- 第2週 心理臨床のアセスメント
- 第3週 家族臨床のアセスメント
- 第4週 家族への心理臨床的アプローチ1「心理療法とは」
- 第5週 家族への心理臨床的アプローチ2「家族へのアプローチ」
- 第6週 ケーススタディー1「親子臨床のケース」
- 第7週 症状をもつとは、どういうこと？
- 第8週 障害をもつとは、どういうこと？
- 第9週 ケーススタディー2「障害をもつ子どものケース」
- 第10週 幼稚園や保育所に臨床心理士がいることの意味
- 第11週 ケーススタディー3「周産期のケース」
- 第12週 こどもの虐待と育児支援
- 第13週 生きることと死ぬことの心理学1「子どものいのち」
- 第14週 生きることと死ぬことの心理学2「終末期医療」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

教員が指示した課題について、次の授業までに自分の意見をまとめてくること。（学修時間週2時間）

プリントの未記入部分に、授業で学んだ内容を記入し完成させること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

授業では、教員作成のレジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業中の発言、感想・質問文の提出）50%。
学生からの質問文については次回の授業で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

伊藤良子『臨床心理学ー全体的存在としての人間を理解する』ミネルヴァ書房
岡堂哲雄『家族心理学入門 改訂版』培風館

【注意事項】

授業の中では、いくつかの臨床事例を紹介します。その事例について、実際のアセスメントを行ったり、ディスカッションをすることで、臨床的理解を深めていきます。学生の皆さんの積極的参加を希望します。

家庭

大竹 美登利

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

家庭生活における家庭の機能の役割、家庭経営、衣・食・住生活の暮らし方についての基礎理論を概説した上で、小学校家庭科の授業実践に必要な知識・技術を学修する。

【授業における到達目標】

家庭科教育の基礎学問である衣・食・住・家庭経営・福祉・保育などの知識を修得し、その専門知識を授業実践で活かして家庭科の指導力を養う。

【授業の内容】

1. 家庭生活のとは何か、家庭生活の構造と社会との関わり
2. 家庭の仕事と家庭管理及び地域社会との関わり
3. 家族の現状（出産、育児、乳幼児の心身の発達）
4. 現代の食生活の課題（高齢者・幼児の特徴を含む）
5. 日常食の基礎（健康と栄養、食品の成分と献立）
6. 調理の基礎と保存・管理・安全（高齢者・障害者に配慮した調理法）
7. 衣服の着装（ユニバーサルデザインの被服）
8. 衣服の手入れ（被服の衛生と素材・品質・取り扱い表示）
9. 布を使った製作学習（用具、手縫い、ミシン縫い）
10. 住居の機能と役割、生活行動と生活空間
11. 住まいと環境（快適・安全な住まいと環境に配慮した住まい方、高齢者・障害者と住宅）
12. 住まいの管理（整理整頓、掃除）
13. 子ども・家族を取り巻く経済状況と計画的なお金の使い方
14. 現代の消費者問題と消費者教育の重要性
15. 生活と環境 総括

【事前・事後学修】

（事前学修）テキストを読み、事前に質問事項を準備する（学修時間週1時間）。

（事後学修）巻末のワークシートに書かれている課題に取り組み、提出する（学修時間週3時間）

【テキスト・教材】

倉持清美・大竹美登利：初等家庭科の研究[萌文書林、2018、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業でのミニテスト（30%）、巻末ワークシート（40%）、まとめレポート（30%）により総合的に判断し評価する。ミニテスト及び巻末のワークシートのフィードバックは、提出の次の週に行う。

【参考書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』

【注意事項】

本科目は、小学校教員免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、実験実習など多彩な形態で実施するため、積極的・主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

家庭科教育法（１）

大野 由喜子

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

小・中・高等学校の学習指導要領における「家庭」について理解を深め、教育内容の系統性・持続性を踏まえた指導法を学修し、指導技術を修得する。

【授業における到達目標】

中学校「技術・家庭（家庭分野）」及び高等学校「家庭」の教育内容と指導法について理解し、多角的な視点を取り入れた授業設計を行い、授業実践ができる。

【授業の内容】

- 第1週 学習指導要領と家庭科の歴史の変遷
- 第2週 小・中・高等学校の家庭科の指導と評価
- 第3週 指導計画・評価計画の作成
- 第4週 学習指導案の作成
- 第5週 家族・家庭生活の指導
- 第6週 食生活の指導
- 第7週 衣生活の指導
- 第8週 住生活の指導
- 第9週 消費生活の指導
- 第10週 触れ合い体験学習の指導
- 第11週 「生活の課題と実践」の指導
- 第12週 模擬授業の実施（A班、B班）
- 第13週 模擬授業の実施（C班、D班）
- 第14週 模擬授業の実施（E班、F班）
- 第15週 定期試験、まとめ「家庭科教師に求められる資質・能力」

【事前・事後学修】

事前学修：授業で提示する小テスト、レポート、調査、発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：教科書ならびに資料、プリント等を復習し、専門用語等を理解すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書『技術・家庭 家庭分野』（開隆堂出版 2015年）646円
授業で配布する資料、プリント等

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、提出物（学習指導案、レポート、ワークシート、小テスト等）50%とし、総合的に評価する。

提出物等は、次回の授業でフィードバックする。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」
(教育図書)

【注意事項】

テキストは、速やかに購入し、毎回、持参する。授業内容は、一部順序等が入替わることがある。

授業では、積極的・協働的な態度で臨み、30分以上の遅刻は、欠席とする。

家庭科教育法（２）

大竹 美登利

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

中学・高等学校家庭科の衣食住、家族・保育、家庭経済の各分野について、具体的な指導が展開できる教材作成ができる力を養う。授業実践力をつけるために、実際の授業を観察し、それを元にして学習指導案を作成できる能力を養う。さらに教材解釈や教材研究をふまえて教材づくりができる力を育成する。

【授業における到達目標】

家庭科の目標である自立し共に生きる生活を創造するために、様々な生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営む力を育成する。そのことによって、多様な価値観を受け入れ、真理を探究する態度を身につけ、学生が習得すべき行動力、問題解決力、協働力を育む。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
(講義の目標・内容・方法、家庭科のカリキュラム)
- 2 家庭科教育への誘い 家庭科で何をどう学ぶか
- 3 授業のシナリオを描く(1)授業を観察し授業の流れを確認しよう
- 4 授業のシナリオを描く(2)指導案を書いてみよう
- 5 授業のシナリオを描く(3)年間授業計画を作ってみよう
- 6 教材を作る(1)わかりやすく伝える教材づくり
- 7 教材を作る(2)教材の違いで学びが違うことを体験してみよう
- 8 教材を作る(3)科学的視点を育む教材を考える
- 9 学びあいを保証する授業作り(1)多様な価値を交流する授業
- 10 学びあいを保証する授業作り(2)複数の領域をつなげた授業
- 11 学びあいを保証する授業作り(3)交流を通して視点を広げる
- 12 子どもたちの実態を踏まえた授業作り(1)ユニバーサルな授業
- 13 子どもたちの実態を踏まえた授業作り(2)貧困を乗り越える授業
- 14 学習を評価する
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

(事前学修) テキストや配布プリント・資料を参考に、予習・復習を行う(学修時間週2時間)。(事後学修) 学んだポイントを生かし、教材や指導案作成を作ってみる(学修時間週2時間)。

【テキスト・教材】

田中智志先生・橋本美保先生監修 (2015年)『新教職課程シリーズ・教科教育編家庭科教育法』一藝社 2200円。

このほか、資料・プリントを配付する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

まとめテスト(30%) 発表内容的確性(30%) レポート・提出物(30%) 授業への積極的参加状況(10%)により評価を行う。フィードバックは提出されたレポートの返却ならびに発表時へのコメントを通して行う。

【参考書】

検定済教科書 中学校技術・家庭 家庭分野(開隆堂出版)

検定済教科書 高等学校 家庭基礎 (開隆堂)

検定済教科書 高等学校 家庭総合 (開隆堂)

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、

高等学校学習指導要領解説家庭編

【注意事項】

本科目は、中学・高等学校「家庭」の免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

家庭科教育法（3）

大竹 美登利

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

中学校の技術・家庭科の「家庭分野」具体的な指導が展開できるようにになる。

模擬授業を通して、一人一人に授業を創り上げる力を確実に身につける。特に、教師と子どもの共同でつく学びを意識し、授業づくりのポイントを把握する。

【授業における到達目標】

自立し共に生きる生活の創造をめざし、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から、よりよい生活を営むために工夫する力を育成する家庭科教育の方策を学ぶことによって、多様な価値観を受け入れ、真理を探究する態度を身につけ、学生が習得すべき行動力、問題解決力、協働力を育む。

【授業の内容】

1. オリエンテーション

（講義の目標・内容・方法、模擬授業の班構成について）

2技術・家庭科「家庭分野」の内容と構造

3家族・保育の指導計画と実践Ⅰ（家庭と地域、家族のこれから）

4家族・保育の指導計画と実践Ⅱ（幼児の生活と遊び）

5家族・保育の指導計画と実践Ⅲ（幼児とのふれあい）

6食生活分野の指導計画と実践Ⅰ（健康と食生活）

7食生活分野の指導計画と実践Ⅱ（食品の選択と保存）

8食生活分野の指導計画と実践Ⅲ（食文化と持続可能性）

9住生活分野の指導計画と実践Ⅰ（住まいのはたらき）

10住生活分野の指導計画と実践Ⅱ（健康・安全な住居と地域）

11衣生活分野の指導計画と実践Ⅰ（日常着の活用）

12衣生活分野の指導計画と実践Ⅱ（日常着の手入れ）

13消費・環境分野の指導計画と実践Ⅰ（商品の選択と購入）

14消費・環境分野の指導計画と実践Ⅱ（より良い消費生活と環境）

15実践の評価及び改善 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）テキストや配布プリント・資料を参考に、事前に指導案。ワークシートなどを作成し模擬授業を準備する（学修時間週2時間）。（事後学修）模擬授業を行って改善が指摘されたところをふまえて、より良い指導案及び教材。ワークシートを作成する（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

検定済教科書中学校技術・家庭家庭分野[開隆堂出版、2017、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

まとめテスト（30%）発表内容的確性（30%）レポート・提出物（30%）授業への積極的参加状況（10%）により評価を行う、フィードバックはレポート提出の次の回ならびに発表時に行う。

【参考書】

田中智志先生・橋本美保先生監修「新教職課程シリーズ・教科教育編家庭科教育法」一藝社。

検定済教科書 高等学校 家庭基礎（開隆堂）

検定済教科書 高等学校 家庭総合（開隆堂）

高等学校学習指導要領解説家庭編

【注意事項】

本科目は、中学・高等学校「家庭」の免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的・主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

家庭科教育法（4）

大野 由喜子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

家庭科における実習、観察・実験、調査・研究等の指導法について学修し、高度で専門的な指導技術を修得する。

【授業における到達目標】

中学校及び高等学校「家庭」の衣食住、保育等における実践的・体験的な学習の指導法について知識と技術を身に付け、問題解決的な学習を取り入れた授業実践ができる。

【授業の内容】

第1週 高等学校「家庭」の学習指導と評価

第2週 共通教科「家庭」の指導計画・評価計画の作成と学習指導案

第3週 ホームプロジェクトの指導

第4週 学校家庭クラブ活動の指導

第5週 基礎基本を取り入れた被服実習の指導

第6週 技術の定着を図る被服実習の指導

第7週 実習作品の仕上げと評価

第8週 被服実験の指導

第9週 調理実習の指導

第10週 調理実験の指導

第11週 高齢者と福祉の指導

第12週 乳幼児と保育の指導

第13週 擬似体験等体験活動の指導

第14週 問題解決的な学習方法を取り入れた模擬授業の実施

第15週 学ぶ意欲を高め、生きる力を育てる模擬授業の実施

【事前・事後学修】

事前学修：中・高等学校の教科書ならびに配布する資料、プリントは、予習を行い授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：実技指導の学修では、基礎基本となる技術の修得に励むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

平成29年度改定 家庭総合－自立・共生・創造－[東京書籍、2017、¥720(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究発表50%、提出物（実習作品、学習指導案、レポート、ワークシート、模擬授業等）50%とし、総合的に評価する。

提出物は、次の授業でフィードバックする。

【参考書】

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（開隆堂出版）そのほか、副読本等は、授業時に適宜紹介する。

【注意事項】

本講座は、中・高等学校「家庭」の教員免許取得にかかわり、将来、教職に就くことを想定したもので、教科書は必ず購入する。授業内容は進捗状況等により、一部変更する場合もある。課題や提出物は、期限を厳守する。30分以上の遅刻は、欠席とする。

家庭教育論

水野 いずみ

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点である。一方、地域とのつながりの希薄化や、親が身近な人から子育てを学んだり助け合ったりする機会の減少など、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している。すべての親が安心して子育てや家庭教育を行えるようにするには、どのようなことが必要なのかについて、心理学的な視点から、検討する。

【授業における到達目標】

家族集団における子どもの発達に関する問題と心理的な影響について理解する。

そして、1年次の学びとの関連を理解することで、特に「研鑽力」・「行動力」を身につける。

【授業の内容】

第1回：ガイダンス

第2回：家庭教育の歴史①：戦前

第3回：家庭教育の歴史②：戦後

第4回：子どもの発達と家庭教育①：人間の特徴に気づく

第5回：子どもの発達と家庭教育②：人間の特徴について考える

第6回：子どもの発達と家庭教育③：「早期教育」について考える

第7回：家族と子どもの発達①：夫婦関係

第8回：家族と子どもの発達②：親子関係

第9回：女性の生き方①：自立について考える

第10回：女性の生き方②：歴史的な視点をもつ

第11回：生涯発達と家庭教育①：生命の誕生

第12回：生涯発達と家庭教育②：死について考える

第13回：社会の変化と家庭教育①：法律・制度

第14回：社会の変化と家庭教育②：今後の課題

第15回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、授業の内容について自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業で習った内容は、身の回りの生活にどのようにあてはまるでしょうか。自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

住田正樹：家庭教育論[放送大学教育振興会、2012]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度（50%）、レポート（50%）で評価する。

取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

家庭経営 a (食生活)

白尾 美佳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

現代の家庭生活のスタイルは、生活環境の変化とともに多岐にわたっているが、より良い生活を実現するためには、多方面から家庭経営を分析することが必要である。そこで、本授業においては、家庭をとりまく食環境、食の安全とリスク管理、家族のライフステージにおける食と栄養、健康等を学ぶことにより、家庭における食生活の特徴や意義を理解し、家庭経営における課題を解決するための食生活上の必要な能力ならびに主体的、実践的な態度を育てる。

【授業における到達目標】

自らの学びやグループワーク、発表等を通して、研鑽力、課題を発見し解決する課題解決能力（行動力）、協働力とともに国際的視野も修得する。

【授業の内容】

- 第1週 現代生活における食生活領域の課題
- 第2週 食と環境（食料自給率と地産地消）
- 第3週 食品の特質と選択
- 第4週 食に関する消費生活とリスク管理
- 第5週 食中毒と食品添加物
- 第6週 食生活と調理
- 第7週 日本と世界の食文化とマナー
- 第8週 子どもの食と栄養
- 第9週 成人、高齢者の食と栄養
- 第10週 地域における食に関する課題
- 第11週 食に関するリーフレット作成
- 第12週 食に関するポスター作製
- 第13週 食に関する課題解決のための発表
- 第14週 食に関する課題解決のための相互評価
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表、提出物に関する課題に取り組む
（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の復習、提出物の課題に取り組む
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、提出物40%、平常点（授業に取り組む姿勢）20%

試験、提出物等の課題についてのフィードバックはその都度行う。

【参考書】

中学校、高等学校家庭科の教科書
食に関連する図書

【注意事項】

- ・授業によって発表の準備とプレゼンテーションを行います。
- ・授業の進度、受講者数によってシラバスの内容が前後あるいは変更することがあります。
- ・授業内でパソコンを使用する場合があります。

家庭経営 b (衣環境)

吉村 眞由美

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

衣生活は人間特有の営みであり、社会生活上欠かすことができません。本授業では、国内外における伝統的文化から、衣服や化粧が他人に与える心理的影響、状況に応じた衣服の選び方、現代ファッションの源流に至るまで、人の衣環境を幅広く学び、知識を身につけます。

【授業における到達目標】

①世界における衣服の機能、特性、着用状況を知ることで【国際的視野○】を身につけます。②アパレル製品やファッションの動向を学ぶことで【美の探究◎】の態度を養います。③衣生活全般の内容を毎回『4つの学びノート（4学ノート）』で学習することで【行動力◎】【研鑽力◎】を高めます。

【授業の内容】

1. 衣環境とは・ヒトはなぜ装うのか
2. 気候風土と装い
3. 衣服のかたちの変遷
4. 装いと健康
5. 足元の健康と安全を守る靴教育(足測定・靴サイズ確認・正しい履き方実技含む)
6. 装いによる気候調節
7. 動きやすさと衣服
8. 衣服の素材と加工
9. 衣服の品質と管理
10. ヒトの成長とからだつき
11. アパレル産業と既製品
12. 装いのコミュニケーション
13. ユニバーサルデザインと装い
14. 装いと生活環境
15. 望ましい衣環境を考える（総括）

【事前・事後学修】

【事前学修】次の章を読み、専門用語、興味を持った用語等を4学ノートの事前学習欄に書き出して授業に臨みます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】4学ノートの裏面に、授業時間内に書ききれなかった情報を厳選して記入します。授業直後に復習する習慣をつけることが、記憶の定着を促し学習効果を高めますので、意欲的に取り組んでください。見やすく丁寧に記入する習慣をつけることが、万全の備えとなります。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

岡田宣子編著『ビジュアル衣生活』（建帛社 2010年）2,300円＋税
授業内で使用する『4つの学びノート』は、この授業独自の学習ノートであり、事前に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

4つの学びノート（4学ノート）の提出状況と記述内容（50%）、試験結果（50%）。4学ノートは必ず事前学修をし、必要事項を記入した上で授業に持参してください。毎回、授業内で4つの視点に分けながら学習内容を記入し、授業終了時に必ず提出します。フィードバック・評価をしたのち返却します。試験のフィードバックは最終回授業で行います。

【注意事項】

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。30分未満の遅刻・欠席は2回で1回の欠席に換算しますので、注意して臨んでください。なお、やむを得ない事由がある際には、必ず申し出てください。

家庭経営 c (育児・介護)

あなたらしく子を育て、親を介護する

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

共稼ぎ化が常態化する今日、あなたはどのように働き、家事を分担しながら、子どもを育て、そして親・祖父母を介護していくのか。日常生活を取り巻く人口構造、経済社会システムなどについて基礎知識を確認した上で、雇用労働者として働きながら、制度の問題点を指摘・改善し、地域資源を活用して育児・介護するというスタンスに立って学ぶ。講義前半は育児、後半は介護である。適宜、最新のDVDを活用しながら現実を知り、問題点を抽出し、解決案を提案していく。本講義の履修を通して自分らしい生活をどう創るかを考えるきっかけとなることを期待している。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。具体的には、(1)少子化と高齢化について定義、実態、制度を説明することができるようになる。(2)少子化と高齢化に関する現行制度の問題点を指摘し、改善案を提示することができるようになる。(3)少子化と高齢化が同時進行する中で、自分が仕事と関わりながらどのようにケアするのか、選択肢として複数パターン考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認：人口、少子高齢化、社会経済
- 第2回 少子化：定義＝TFR、実態、高齢化のプロセス
- 第3回 赤ちゃんの運動発達：DVD視聴
- 第4回 子どもと非認知能力：マシュマロテストを通して考える
- 第5回 子どもと貧困：実態+DVD視聴「子ども食堂」
- 第6回 幼稚園&保育所&事業所内保育所：保育料、1日の流れ
- 第7回 コレクティブハウジング：DVD視聴「かんかん森-2」
- 第8回 外部講師の招聘：子どもの実態＝保育者として勤務して
- 第9回 仕事とケアの両立：DVD「女たちの20年戦争」
- 第10回 高齢化：定義＝高齢化率、実態、高齢化のプロセス
- 第11回 学ぶ高齢者：人生100年&世代間交流、サイバーシニアDVD
- 第12回 高齢者とお金：年金保険、制度を理解する
- 第13回 高齢者と介護：介護福祉士和田さんDVD視聴(認知症介護)
- 第14回 高齢者と介護：介護保険、制度を理解する
- 第15回 理解度の確認、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布資料などを、しっかり読み込むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことを復習する。次回の授業内容を予習し、専門用語などを理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（20%）、試験（小テスト20%、期末試験50%）と平常点（授業への積極参加10%）から判断する。なお、レポートは提出の都度、試験は小テストはその場で、期末試験は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

家庭経営学

これからの生活を見通す

高橋 桂子

3年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

社会の最小集団である家族からなる家庭は、民間企業同様に経営に関する知識やセンスが求められます。その学問が家庭経営学family resource managementです。家族がもっている知識、エネルギー、時間、友人、能力など資源resourceを使い、家族構成員の価値化に沿った形で、よりよい家庭生活を運営していきましょう。本講義では家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域について講義を通して、実態・理論など知識を広く浅く「しっかりと」学びます。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のものである。(1)家庭経済学領域では、給与明細を読み解くことができ、所得税の計算ができるようになる。(2)家族関係学領域では、結婚・離婚・養子縁組や公的書類との関係、女性労働などについて理解できるようになる。(3)消費生活領域では、契約・クーリングオフ、ネット社会のトラブル対処方法など正しく理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：計算過程を理解する
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算する
- 第6回 間接金融：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 直接金融：株式、債券、投資信託
- 第8回 契約・クーリングオフ・契約自由の原則
- 第9回 ネット社会とIPA、消費統計
- 第10回 家族、結婚・離婚、養子縁組、国際結婚
- 第11回 家事分担に関する理論を学ぶ
- 第12回 住民票、戸籍
- 第13回 事業所内保育所
- 第14回 女性と労働裁判（住友セメント事件など）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識確認試験（レポート・試験70%）、平常点（授業への積極参加30%）から判断する。試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求める場合があります。

家庭経営論

大竹 美登利

1年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「家庭生活」とは何か、家庭経済を中心に、生活単位の世帯、家族とその営みについて学ぶ。

現代の家庭生活の特徴としての労働環境の変化、商品経済の発展と貧困世帯の増加、労働と生活の調和、アンペイドワークなどの問題を概観し、新しい生活を創造する方向を明らかにする。

【授業における到達目標】

資本主義社会における生産と消費の関わり、労働と生活の調和や家事労働の性差を理解し、生活経営の中心課題である家計構造の実態と貧困問題、それを補完する社会保障など、現代人の抱える生活問題とその解決の道すじを、さらに現代生活に横たわる様々な生活課題を生活者として主体的に解決していく道すじを探る。それによって、学生が習得すべき多様な価値観の受容や真理を探究する態度を身につけ、行動力、問題解決力、協働力を育む。

【授業の内容】

1. オリエンテーション、生活とは何か
2. 現代生活の基盤である生産と消費のしくみ
3. 現代の家族、世帯の特徴
4. 多様化するライフコース
5. 雇用労働環境の変化
6. 家計収支の構造と実態
7. 日本の貧困問題
8. 社会保障と生活経済
9. 電子マネーの発達と複雑化する家計管理
10. 消費者信用と多重債務問題
11. 多様化する資産形成の課題
12. 生活時間からみるペイドワークとアンペイドワーク
13. 家事・介護。育児の社会化
14. 生活設計とキャリア形成
15. 持続可能な社会に向けた生活様式の創造

【事前・事後学修】

（事前学修）テキストを読み、事前に質問事項を準備する（学修時間週1時間）。

（事後学修）各回で学んだ学習内容と関連する新聞記事を集め、ミニレポートを提出する（学修時間週3時間）。

【テキスト・教材】

齊藤悦子、伊藤純：ジェンダーで学ぶ生活経済論[ミネルヴァ書房、2019、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回前次の学習に関するミニレポートを提出し、授業終了後に最終レポートを提出する。評価はミニレポート（50%）最終レポート（40%）授業への積極的参加状況（10%）により行う。ミニレポートのフィードバックを提出の次の週に行う。

【参考書】

（社）日本家政学会生活経営学部会編（2010年）『くらしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店、2800円

御船美智子著（1996年）『家庭生活の経済』日本放送出版協会、2470円

宮崎礼子、伊藤セツ編（1989年）『家庭管理論 [新版]』有斐閣 950円

【注意事項】

本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的主体的に授業に臨むことが大切である。

家庭経営論 1

家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域を学ぶ

高橋 桂子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

社会の最小集団である「家族」からなる「家庭」は、民間企業同様に経営に関する知識やセンスが求められます。その学問が家庭経営学family resource managementです。家族がもっている知識、エネルギー、時間、友人、能力など資源resourceを使い、家族構成員の価値化に沿った形で、よりよい家庭生活を運営していきましょう。本講義では家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域について講義を通して実態・理論などの基礎知識をしっかりと学びます。

【授業における到達目標】

- (1) 家庭経済学領域では、給与明細を読み解くことができ、所得税の計算ができるようになる。
- (2) 家族関係学領域では、結婚・離婚・養子縁組や公的書類との関係、女性労働などについて理解できるようになる。
- (3) 消費生活領域では、契約・クーリングオフ、契約自由の原則など正しく理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：計算過程を理解する
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算する
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 DVD視聴「消費生活センター」
- 第8回 契約・クーリングオフ・契約自由の原則
- 第9回 ネット社会とIPA、消費統計
- 第10回 DVD視聴「The deep end of the Ocean」
- 第11回 家族、結婚・離婚、養子縁組
- 第12回 住民票、戸籍
- 第13回 事業所内保育所
- 第14回 女性と労働裁判（住友セメント事件など）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識確認試験（試験70%）、平常点（授業への積極参加30%）から判断する。

定期試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求める場合があります。

家庭経営論 1

家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域を学ぶ

高橋 桂子

1～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

社会の最小集団である「家族」からなる「家庭」は、民間企業同様に経営に関する知識やセンスが求められます。その学問が家庭経営学family resource managementです。家族がもっている知識、エネルギー、時間、友人、能力など資源resourceを使い、家族構成員の価値化に沿った形で、よりよい家庭生活を運営していきましょう。本講義では家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域について講義を通して実態・理論などの基礎知識をしっかりと学びます。

【授業における到達目標】

- (1) 家庭経済学領域では、給与明細を読み解くことができ、所得税の計算ができるようになる。
- (2) 家族関係学領域では、結婚・離婚・養子縁組や公的書類との関係、女性労働などについて理解できるようになる。
- (3) 消費生活領域では、契約・クーリングオフ、契約自由の原則など正しく理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：計算過程を理解する
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算する
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 DVD視聴「消費生活センター」
- 第8回 契約・クーリングオフ・契約自由の原則
- 第9回 ネット社会とIPA、消費統計
- 第10回 DVD視聴「The deep end of the Ocean」
- 第11回 家族、結婚・離婚、養子縁組
- 第12回 住民票、戸籍
- 第13回 事業所内保育所
- 第14回 女性と労働裁判（住友セメント事件など）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識確認試験（試験70%）、平常点（授業への積極参加30%）から判断する。

定期試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求める場合があります。

家庭経営論 1

家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域を学ぶ

高橋 桂子

1～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

社会の最小集団である「家族」からなる「家庭」は、民間企業同様に経営に関する知識やセンスが求められます。その学問が家庭経営学family resource managementです。家族がもっている知識、エネルギー、時間、友人、能力など資源resourceを使い、家族構成員の価値化に沿った形で、よりよい家庭生活を運営していきましょう。本講義では家族経済学、家族関係学と消費生活の3領域について講義を通して実態・理論などの基礎知識をしっかりと学びます。

【授業における到達目標】

- (1) 家庭経済学領域では、給与明細を読み解くことができ、所得税の計算ができるようになる。
- (2) 家族関係学領域では、結婚・離婚・養子縁組や公的書類との関係、女性労働などについて理解できるようになる。
- (3) 消費生活領域では、契約・クーリングオフ、契約自由の原則など正しく理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：計算過程を理解する
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算する
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 DVD視聴「消費生活センター」
- 第8回 契約・クーリングオフ・契約自由の原則
- 第9回 ネット社会とIPA、消費統計
- 第10回 DVD視聴「The deep end of the Ocean」
- 第11回 家族、結婚・離婚、養子縁組
- 第12回 住民票、戸籍
- 第13回 事業所内保育所
- 第14回 女性と労働裁判（住友セメント事件など）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識確認試験（試験70%）、平常点（授業への積極参加30%）から判断する。

定期試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

家庭経営論 2

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は私として、妻・母親・主婦として、娘として、そして総合職または一般職雇用労働者として自分らしい質の高い生活を実現・維持・経営していくのか。講義・DVD視聴・KJ法やレポート提出など、様々な角度から講義を展開する。履修生同士の意見交換やディスカッションを通して、私の生き方らしいきものに出会えることを目指す。また、本講義では国内外の今日的課題を扱った映像を通して考え深堀する「映像（レポート）課題」を課す。履修を通して、社会への扉が少しずつ開かれることを目指す。

【授業における到達目標】

(1) 働くことを「私ごと」、「自分の身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。(2) 意見交換やディスカッションを通して「私らしい生き方」らしきものに出会えることを心がけて講義に臨むことができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 女性はどのように働いているか
- 第3回 女性労働：国際比較
- 第4回 「男女雇用機会均等法」(1986)について学ぶ
- 第5回 出産・子育て：制度を学ぶ
- 第6回 DVD「かんかん森」+KJ法
- 第7回 家事分担：実態（国際比較）と理論
- 第8回 DVD「斎藤家」+KJ法
- 第9回 職場風土、無意識の偏見
- 第10回 DVD「南場智子」意見交換
- 第11回 転勤（国内、海外）
- 第12回 DVD「妻たちの単身赴任」感想文
- 第13回 介護：介護保険を学ぶ
- 第14回 DVD「介護福祉士」
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（レポート・期末試験70%）と平常点（授業への積極参加、ディスカッションへの参加など30%）から判断する。レポートに関してはmanabaを通して、期末試験結果は最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

家庭経営論 2

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は私として、妻・母親・主婦として、娘として、そして総合職または一般職雇用労働者として自分らしい質の高い生活を実現・維持・経営していくのか。講義・DVD視聴・KJ法やレポート提出など、様々な角度から講義を展開する。履修生同士の意見交換やディスカッションを通して、私の生き方らしいきものに出会えることを目指す。また、本講義では国内外の今日的課題を扱った映像を通して考え深堀する「映像（レポート）課題」を課す。履修を通して、社会への扉が少しずつ開かれることを目指す。

【授業における到達目標】

(1) 働くことを「私ごと」、「自分の身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。(2) 意見交換やディスカッションを通して「私らしい生き方」らしきものに出会えることを心がけて講義に臨むことができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 女性はどのように働いているか
- 第3回 女性労働：国際比較
- 第4回 「男女雇用機会均等法」(1986)について学ぶ
- 第5回 出産・子育て：制度を学ぶ
- 第6回 DVD「かんかん森」+KJ法
- 第7回 家事分担：実態（国際比較）と理論
- 第8回 DVD「斎藤家」+KJ法
- 第9回 職場風土、無意識の偏見
- 第10回 DVD「南場智子」意見交換
- 第11回 転勤（国内、海外）
- 第12回 DVD「妻たちの単身赴任」感想文
- 第13回 介護：介護保険を学ぶ
- 第14回 DVD「介護福祉士」
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（レポート・期末試験70%）と平常点（授業への積極参加、ディスカッションへの参加など30%）から判断する。レポートに関してはmanabaを通して、期末試験結果は最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

家庭経営論 2

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は私として、妻・母親・主婦として、娘として、そして総合職または一般職雇用労働者として自分らしい質の高い生活を実現・維持・経営していくのか。講義・DVD視聴・KJ法やレポート提出など、様々な角度から講義を展開する。履修生同士の意見交換やディスカッションを通して、私の生き方らしいきものに出会えることを目指す。また、本講義では国内外の今日的課題を扱った映像を通して考え深堀する「映像（レポート）課題」を課す。履修を通して、社会への扉が少しずつ開かれることを目指す。

【授業における到達目標】

(1) 働くことを「私ごと」、「自分の身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。(2) 意見交換やディスカッションを通して「私らしい生き方」らしきものに出会えることを心がけて講義に臨むことができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 女性はどのように働いているか
- 第3回 女性労働：国際比較
- 第4回 「男女雇用機会均等法」(1986)について学ぶ
- 第5回 出産・子育て：制度を学ぶ
- 第6回 DVD「かんかん森」+KJ法
- 第7回 家事分担：実態（国際比較）と理論
- 第8回 DVD「斎藤家」+KJ法
- 第9回 職場風土、無意識の偏見
- 第10回 DVD「南場智子」意見交換
- 第11回 転勤（国内、海外）
- 第12回 DVD「妻たちの単身赴任」感想文
- 第13回 介護：介護保険を学ぶ
- 第14回 DVD「介護福祉士」
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（レポート・期末試験70%）と平常点（授業への積極参加、ディスカッションへの参加など30%）から判断する。レポートに関してはmanabaを通して、期末試験結果は最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

家庭工学

加藤木 秀章

2・3年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学の意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 家庭機械に使われている材料
- 第3週 家庭機械の基礎 2 家庭機械に利用されている機構とその動作原理
- 第4週 家庭機械の基礎 3 ねじ、ばね等の部品や種類、規格
- 第5週 家庭機械（縫製機器、ミシン等）の歴史や種類
- 第6週 家庭機械（縫製機器、ミシン）の機構や縫製原理
- 第7週 家庭電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数、交流の実効値）、電力量
- 第8週 家庭電気の基礎 2 発電方式と電源構成、送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、洗濯機、空調機器などの原理、環境問題、省エネルギー
- 第14週 情報処理 1 コンピュータの原理、通信機器（テレビ、電話等）の概要や種類
- 第15週 情報処理 2 ソフトウェアの概要や種類

【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

家庭工学

加藤木 秀章

3年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学の意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 家庭機械に使われている材料
- 第3週 家庭機械の基礎 2 家庭機械に利用されている機構とその動作原理
- 第4週 家庭機械の基礎 3 ねじ、ばね等の部品や種類、規格
- 第5週 家庭機械（縫製機器、ミシン等）の歴史や種類
- 第6週 家庭機械（縫製機器、ミシン）の機構や縫製原理
- 第7週 家庭電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数、交流の実効値）、電力量
- 第8週 家庭電気の基礎 2 発電方式と電源構成、送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、洗濯機、空調機器などの原理、環境問題、省エネルギー
- 第14週 情報処理 1 コンピュータの原理、通信機器（テレビ、電話等）の概要や種類
- 第15週 情報処理 2 ソフトウェアの概要や種類

【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学の意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 家庭機械に使われている材料
- 第3週 家庭機械の基礎 2 家庭機械に利用されている機構とその動作原理
- 第4週 家庭機械の基礎 3 ねじ、ばね等の部品や種類、規格
- 第5週 家庭機械（縫製機器、ミシン等）の歴史や種類
- 第6週 家庭機械（縫製機器、ミシン）の機構や縫製原理
- 第7週 家庭電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数、交流の実効値）、電力量
- 第8週 家庭電気の基礎 2 発電方式と電源構成、送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、洗濯機、空調機器などの原理、環境問題、省エネルギー
- 第14週 情報処理 1 コンピュータの原理、通信機器（テレビ、電話等）の概要や種類
- 第15週 情報処理 2 ソフトウェアの概要や種類

【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学の意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 家庭機械に使われている材料
- 第3週 家庭機械の基礎 2 家庭機械に利用されている機構とその動作原理
- 第4週 家庭機械の基礎 3 ねじ、ばね等の部品や種類、規格
- 第5週 家庭機械（縫製機器、ミシン等）の歴史や種類
- 第6週 家庭機械（縫製機器、ミシン）の機構や縫製原理
- 第7週 家庭電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数、交流の実効値）、電力量
- 第8週 家庭電気の基礎 2 発電方式と電源構成、送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、洗濯機、空調機器などの原理、環境問題、省エネルギー
- 第14週 情報処理 1 コンピュータの原理、通信機器（テレビ、電話等）の概要や種類
- 第15週 情報処理 2 ソフトウェアの概要や種類

【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確かなものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学の意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 家庭機械に使われている材料
- 第3週 家庭機械の基礎 2 家庭機械に利用されている機構とその動作原理
- 第4週 家庭機械の基礎 3 ねじ、ばね等の部品や種類、規格
- 第5週 家庭機械（縫製機器、ミシン等）の歴史や種類
- 第6週 家庭機械（縫製機器、ミシン）の機構や縫製原理
- 第7週 家庭電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数、交流の実効値）、電力量
- 第8週 家庭電気の基礎 2 発電方式と電源構成、送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、洗濯機、空調機器などの原理、環境問題、省エネルギー
- 第14週 情報処理 1 コンピュータの原理、通信機器（テレビ、電話等）の概要や種類
- 第15週 情報処理 2 ソフトウェアの概要や種類

【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

家庭支援論

大澤 朋子

4年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

保育所や幼稚園では従来から子ども達の保護者に対して様々な支援が行われてきたが、近年の法改正に伴い、保育所、幼稚園、認定子ども園では子育て家庭に対する支援の充実がますます求められている。本科目では保育に従事する保育者がその役割を担うことができるよう、家庭支援に関する領域を学ぶ。

【授業における到達目標】

保育現場および保育者の特性を活かした子ども家庭支援の必要性や目的・役割を理解する。子ども家庭支援の実践にあたっての基礎的な知識を習得し、家庭支援を行なう保育者に求められる基本姿勢や職業倫理を身につけることを目標とする。

学生が修得すべき「行動力」のうち、①現状を正しく把握し、課題を発見する力、および「協働力」のうち、①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

- (1) 家庭支援とはなにか
- (2) 家庭と家族
- (3) 保育者による家庭支援の基本
- (4) 子育て家庭をとりまく社会環境
- (5) ワークライフバランスと父親の子育て
- (6) 子育て家庭支援施策の展開
- (7) 子育て家庭支援のための社会資源と多機関連携
- (8) 多様な子育て支援サービス
- (9) 保育所等の家庭への支援
- (10) 地域の子育て家庭への支援
- (11) これからの家庭支援
- (12) 特別な配慮が必要な子どもの家庭への支援
- (13) 要保護児童とその家庭に対する支援
- (14) 様々な課題を持つ家庭への支援
- (15) まとめ・発表

【事前・事後学修】

事前：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間週2時間）

事後：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

高辻千恵・山縣文治：新ブリマーズ／保育／福祉 家庭支援論[ミネルヴァ書房、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加・発表・リアクションペーパー）40%、レポート60%

最終回にレポート・発表のフィードバックを行う。

家庭生活と政治経済

日常生活・家庭生活と密接に結びつく政治・経済の世界

猪瀬 武則

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

日常生活と政治経済を繋ぐトピックスを学術的知見から腑分けすることを目的とします。できる限り「あなたなら、どの政策や考え方を選択するか」という意思決定場面を入れ、新聞記事やビデオ映像、シミュレーションやアクティビティなどを基に、議論を重ねます。

【授業における到達目標】

態度目標 「国際的視野」：国内外の人々が保持する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。「美の探究」：物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする事ができる。

能力目標 (1)身近で足下の生活から空間的・時間的に離れた事象についての知識を深めることができる。(2)主体的に課題を発見して、手順を踏んで問題解決に迫ることができる。(3)討議や熟議を通して、自己や他者の主張や背後にある価値観を理解し、議論を深めることができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス 幸せの質を考える「厚生・効用・公正・公平」
- 第2回 憲法と国政・・・「リベラルが嫌いだからといってリベリズムを嫌いにならないでください」が提起したもの
- 第3回 裁判員制度と基本的人権・冤罪事件を起こさないために
- 第4回 地方自治の課題・・・子どもの貧困と限界集落
- 第5回 選挙制度と政党政治・・・18歳選挙権をめぐる
- 第6回 未成年、成年・・・結婚した未成年の犯罪
- 第7回 需要・供給曲線・・・小麦売買ゲームから
- 第8回 物価・・・ビッグマック指数・購買力平価
- 第9回 財政と金融・・・経済の長期的低迷を打破するための政策
- 第10回 社会保障と社会保険・・・ペーシック・インカムか負の所得税か
- 第11回 国際経済・・・グローバリゼーションの論争
- 第12回 雇用と労働問題、若者の雇用環境・・・過労死問題から考える
- 第13回 地域の活性化・・・ふるさと納税・ふるさと創生
- 第14回 社会福祉と医療制度・・・情報の非対称性ゲーム
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：事前の講義資料ないし指定資料を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：学んだことについて図書やネット検索を通して復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%。平常点30%は授業への参加、シャトルカード記述（質問・疑問・感想・意見）から判断する。シャトルカード記述には、毎回、返信・コメントし、試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

適宜、紹介する。

【注意事項】

資料や映像などを基に、受講者同士の議論を重ねたうえで、当該の学術分野からの成果を確認する。そのため、「参加」が重要である。シャトルカード記述や議論参加・寄与を望む。

科学技術と人間

齋藤 宏文

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

科学技術は普段の生活の向上と人類全体の福祉に貢献する一方、時にその目的とは相反するかような大きな社会的問題を引き起こすことがある。この授業では、科学と技術、人間社会との関わりの有り様を歴史的に外観した後、現代社会と密接に結びついた科学技術の問題をテーマ毎に取り上げる。ひいては未来社会における科学技術と人間とのより良い関係性を探究する。

【授業における到達目標】

- ・科学と社会の相互関係の歴史を辿り、今日に至るまでの人間社会の発展の足跡を学ぶ。
- ・現代社会に大きな影響をもたらしている科学技術について要点を理解する。
- ・特に我々の日常生活に密接に関係する科学技術の問題に対しては、主体的に自分の意見を述べられるようになる。
- ・ボーダーレスな科学技術の問題を通して、国際的な教養と課題解決のための視野を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：科学とは何か、技術とは何か
- 第2週 科学の社会史 ①：古代から中世まで
- 第3週 科学の社会史 ②：近代から現在まで
- 第4週 科学技術に限界はあるか？
- 第5週 科学技術と大学、産業
- 第6週 科学者と戦争：オープンハイマーとサハロフ
- 第7週 優生学と社会
- 第8週 国家事業としての科学技術：米ソの宇宙開発競争
- 第9週 科学研究と女性
- 第10週 人工知能（AI）と変わりゆく社会
- 第11週 地球温暖化問題とエネルギー政策
- 第12週 遺伝子工学
- 第13週 科学と政治権力、イデオロギー：リュセンコ事件
- 第14週 科学技術と人類の未来：ロシアコスミズムの思想
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 予定されたトピックについて自分の大体の意見をまとめてくること。（週2時間）

【事後学修】 授業終了時にその週のテーマに関する図書を幾つか案内するので、それらを参考に発展的な学習に取り組むこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

毎回の授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、平常点（リアクションペーパーによって理解度と主体的な授業態度を確認する）40%

manabaによりフィードバックを行う。

【参考書】

各回の授業で案内する。

【注意事項】

世界史や理数系科目の予備知識をもたない学生の受講も歓迎する。

科学史

科学は私たちの生活をどのように変えてきたか

松本 俊吉

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

現代の私たちの生活は科学技術によって支えられています。科学技術は、人類の長い歴史の中で、その時代、その時代の要請に応えつつ、現在私たちが目にするようなものへと発展してきました。この授業の前半では、主として物質科学と生命科学の歴史を振り返りながら、西欧を起源とする科学の発展が、いかにして現代日本に生きる私たちのものの考え方や自然観にまで影響を与えるようになったのかを学びます。授業の後半では、物質科学から生命科学へと浸透してきた近代科学の分析的・機械論的アプローチが、いまや私たち人間を対象とするバイオテクノロジーとして確立され、医療や生殖技術の分野で私たち自身の遺伝子が操作されるまでになっている現状を学び、それに付随する倫理的な問題についても考えます。

現代では、たとえ文系の学生であっても「科学技術リテラシー」は不可欠です。なぜなら、いまやそれは他人事、専門家事と済ましてはおれないほどに、私たちの生活に深く浸透してきているからです。この授業を通して、科学を身近に感じると同時に、科学について学び続けることの大切さに気づいてもらえればと思います。

【授業における到達目標】

- ・西欧を起源とする科学の発展が現代日本に生きる私たちのものの考え方にまで影響を与えているという事実を学び、時代と国境を越えた科学の営みに対する理解を深めることができる（国際的視野）
- ・「神秘的」ともいえる自然や生命の原理、それを人間が工学的に操作しうる可能性に対する驚きの感覚をいただき、人と自然とのあるべき関係について自らの見識を磨くことができる（美の探究）

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：科学史で何を学ぶか
- 第2週 ギリシア自然学と科学の曙Ⅰ（物活論と唯物論）
- 第3週 ギリシア自然学と科学の曙Ⅱ（目的論的自然観の構築）
- 第4週 キリスト教思想と近代科学
- 第5週 科学革命Ⅰ（地動説から惑星運動の法則まで）
- 第6週 科学革命Ⅱ（機械論的自然観の完成）
- 第7週 第1回小テスト＋最終レポート作成法の説明
- 第8週 ラマルク／ダーウィンの進化論
- 第9週 ダーウィンの進化論とメンデルの遺伝学
- 第10週 DNA二重らせん構造の発見と分子生物学の展開
- 第11週 バイオテクノロジーと遺伝子操作
- 第12週 第2回小テスト＋遺伝子操作の倫理Ⅰ（クローン技術）
- 第13週 遺伝子操作の倫理Ⅱ（遺伝子検査）＋ディスカッション
- 第14週 遺伝子操作の倫理Ⅲ（ゲノム編集）＋ディスカッション
- 第15週 レポート発表会＋最終レポート提出

【事前・事後学修】

事前学修：インターネット等を用い、シラバスに記載されている今回の講義内容について整理をした上で、授業に臨む（週1時間）

事後学修：授業で配付した資料や講師が説明した内容の復習（週1時間）／最終レポート作成に向けたテーマの決定、文献の収集と読解、原稿執筆作業を授業に並行して進めていく（週2時間）

【テキスト・教材】

授業は主としてパワーポイントと配布資料を使って進めていきます。特定のテキストを購入する必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・小テスト（学期中に2回）30%、最終レポート（最終回提出）50%、平常点（通常授業時およびディスカッションへの積極参加度）20%、レポート発表（志願者のみ）プレミアム得点20%加算
- ・小テストについては、次回授業で解答・解説を行います。
- ・最終レポートは、自分でテーマを設定し、最低3冊の文献を参照し、2000字以上のレポートを作成していただきます。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

介護支援基礎論

柏崎 秀子

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

中学校の教員免許取得に必須の介護等体験を次年度に行うための事前学習を行う。介護等体験は、特別支援学校と社会福祉施設で行い、個人の尊厳と社会連帯の理念を学び、多様な人々と交流する。介護のハウツウでなく、多様な人々と関わる経験と、いかにコミュニケーションしたらよいか身をもって考える機会である。

充実した介護等体験ができるよう、体験先に関する基本や体験先で出会う障害者や高齢者等との関わり方のポイントについて学び、また、学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得する。

【授業における到達目標】

- ・特別支援学校と社会福祉施設に関する基本を修得する。
- ・多様な価値観の人々との相互理解と協力を築く態度が身につく。
- ・障害がある人や高齢者などと関わるポイントが身につく。
- ・学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得する。

【授業の内容】

- 第1週 介護等体験の基本理念と手続き
- 第2週 特別支援教育1－制度と理念の理解
- 第3週 特別支援教育2－特別支援学校の理解
- 第4週 特別支援教育3－視覚障害と知的障害の理解
- 第5週 特別支援教育4－聴覚障害と肢体不自由児の理解
- 第6週 特別支援教育5－発達障害の理解
- 第7週 特別支援教育6－現場からの話（外部講師）とまとめ
- 第8週 社会福祉施設1－種類と目的
- 第9週 社会福祉施設2－高齢者施設の理解
- 第10週 社会福祉施設3－高齢者の特徴と介護の基本
- 第11週 社会福祉施設4－高齢者疑似体験から学ぶ
- 第12週 社会福祉施設5－障害者施設の理解
- 第13週 社会福祉施設6－児童養護施設の理解
- 第14週 先輩の体験報告から学ぶ
- 第15週 まとめ－コミュニケーションの多様性

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書等の指示された箇所を予め読んで、ワークシートに解答を記入しておく。（学修時間：2時間）

【事後学修】「まとめ問題」に取り組んで内容を復習する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編（ジアース教育新社 2014年）1200円＋税
『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編（全国社会福祉協議会）600円＋税 および プリント資料（一般書店では入手しにくいので、学内の教科書販売で確実に入手するように。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50％、課題40％（授業中のまとめ課題も含む）、平常点（授業への積極参加・学習態度）10％。まとめ課題は翌週の授業で返却する。試験解答は実施後に示す。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

次年度に介護等体験を行うにはこの単位の取得が条件となる。学外に出向く活動の準備学習のため、体験先で失礼のないよう、十分に受け入れられる社会的な態度も修得すること。社会人として通用するレベルを求め、厳しく対応する。毎回の授業態度が大切である。もし、社会的態度に著しい問題がある場合は、資質不足として単位は取得できない。

そのため、原則、授業は全て出席すること。もし体調不良等やむを得ず欠席する場合は、必ず教職課程研究室宛に事前に連絡を入れる。さらに後日、欠席回の学習を自習し、課題を提出すること。

介護等体験

柏崎 秀子

3年 集通 1単位

【授業のテーマ】

特別支援学校および社会福祉施設において7日間にわたる介護等体験を実施し、中学校教員を目指す者として、個人の尊厳と社会連帯の理念、および、多様な人々とのコミュニケーションのあり方について、体験を通して、その基本事項を習得できるようになる。

【授業における到達目標】

- ・多様な価値観を持つ人々との交流を通じて、人権への意識が高まる。
- ・多様な人々とのように関わったらよいか、コミュニケーションしたらよいかについて、体験を通して気づくことができる。
- ・相互理解と協力を築く態度、自己成長する研鑽力、課題解決のための行動力、相互理解に基づいて自らの役割を果たす協働力を修得する。

【授業の内容】

- 1 体験直前の体験目的・留意点の確認学習
- 2 特別支援学校での体験1：障害児の学校生活の理解
- 3 特別支援学校での体験2：障害児とのコミュニケーション
- 4 社会福祉施設での体験1：利用者の生活・活動の理解
- 5 社会福祉施設での体験2：利用者の生活・活動の補助
- 6 社会福祉施設での体験3：利用者の生活・活動について考える
- 7 社会福祉施設での体験4：利用者とのコミュニケーション
- 8 社会福祉施設での体験5 及び 振り返り

【事前・事後学修】

【事前学修】介護支援基礎論で学修した内容について、使用教科書や配布資料をもとに復習し、体験先への認識を深める。

また、体験先からの事前連絡に基づき具体的に体験活動への心構えを持ち、必要な持ち物や注意事項などを確認しておく。（学修時間：2時間）

【事後学修】毎回、日誌を書き、活動を振り返る。各体験終了後に振り返りに記入し、全体が終了後には体験全体の振り返りに記入する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

介護等体験日誌
介護支援基礎論で配布した資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

体験日誌、自己評価票、体験全体の振り返りレポート、体験証明書に基づいて合否判定を行う。

体験全体の振り返りレポート（日誌）は後日、返却する。

【参考書】

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編（ジアース教育新社）
『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編（全国社会福祉協議会）

【注意事項】

- ・体験日誌に体験での気づきを詳しく記述すること。
- ・体験先への諸連絡や期日の厳守を確実にし、社会人としての良識ある行動をとること。
- ・体験事前学習への出席と、体験証明書・体験日誌・自己評価票・体験全体の振り返り、のすべての提出が揃うことで、初めて評価の対象になるため、いずれも欠けてはならない。

会計学総論

小澤 康裕

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

企業は自らの経済活動を簿記によって記録し、その結果を財務諸表（貸借対照表、損益計算書など）にまとめて企業外部の利害関係者に報告する。今日の会計は、法的規制を受けながら、社会的制度として実務化されている。また、企業のグローバルな展開に対応して、国際会計基準も整備されてきた。この授業では、簿記からはじまり、財務会計、原価計算、管理会計、経営分析、会計監査、そして税務会計までの基礎知識について学んでいく。

【授業における到達目標】

この授業を通じて、会計学の基礎知識、会計の理論を含めて修得することを目的とする。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）、「行動力」、「協働力」

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 会計とは何か、会計の歴史
- 第3週 会計情報の役割、会計制度
- 第4週 会計の基本原則
- 第5週 貸借対照表（区分）
- 第6週 貸借対照表（流動資産）
- 第7週 貸借対照表（固定資産）
- 第8週 貸借対照表（負債）
- 第9週 貸借対照表（純資産）
- 第10週 損益計算書（期間損益計算）
- 第11週 損益計算書（区分）
- 第12週 財務諸表を活用する
- 第13週 税金
- 第14週 質疑応答
- 第15週 まとめ

ただし、受講者と相談の上、各回の内容を変更することがある。

【事前・事後学修】

事前学修：小テスト（Quiz）・レポート等の課題に取り組むこと。
（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト(Quiz)等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

授業開始時に指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックを行う予定である。

【参考書】

伊藤邦雄 著『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）（2018年）

成川正晃 編著『ビジネスセンスが身につく会計学』（中央経済社）（2018年）

他は授業中に適宜、紹介する。

【注意事項】

簿記の基礎知識を習得していることが望ましい。簿記の知識のない者は、同時並行で簿記を学習することを前提とする。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、本講義の受講を勧める。

会計簿記

安田 英喜

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

今日の社会においては、企業の提供する物品およびサービスによってわれわれの日々の生活が成り立っています。

この講義ではその企業の活動の内容を判断するために、企業の経営活動について記録および計算をどのように行うか、そのメカニズムを理解し、最終的な報告書の作成までの基本的な流れについて学習します。

【授業における到達目標】

国際基準に基づく報告書を作成し、報告書に表れる企業活動への理解を深め、企業のありかたについての倫理観を持って行動する態度を養う。

企業活動に対する的確かつ広い視野を持つことにより、問題解決能力、リーダーシップの発揮につながる能力を身につける。

日本商工会議所主催の初級簿記レベルを習得する。

【授業の内容】

- 第1週 簿記の目的および損益計算書
- 第2週 貸借対照表
- 第3週 損益計算書と貸借対照表の関係
- 第4週 取引と勘定
- 第5週 仕訳と勘定口座への転記
- 第6週 仕訳帳と総勘定元帳
- 第7週 試算表の作成
- 第8週 訂正仕訳と決算手続の意義
- 第9週 帳簿の締切と精算表
- 第10週 商品売買の記帳方法
- 第11週 現金勘定および現金過不足勘定の記帳方法
- 第12週 当座預金勘定の記帳方法
- 第13週 債権債務勘定の記帳方法
- 第14週 伝票制度、その他
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

小テスト等の課題に取り組む事前学習（学修時間 週1時間）

課題の復讐に取り組む事後学習（学修時間 週1時間）

課題については、毎回の授業にて指示いたします。

【テキスト・教材】

授業の開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点（授業態度、課題の理解度）40%で総合的に判断します。

試験に対するフィードバックとして、実務における事例、初級簿記検定の内容を確認する。

【注意事項】

計算機を使用する場合がありますが、授業中に指示します。

会社法

神山 静香

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

学生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画で示したテーマや順序が変更されることがあります。

【授業のテーマ】

近年、日本企業が競争力を強化するためM&A（合併・買収）を戦略的に活用しており、外国企業とのM&Aも急増しています。グローバル化が進む現代のビジネス環境で、企業が熾烈な競争に打ち勝ち利益を生み出すためには、技術力や専門性ととともにビジネス（商取引）や会社の組織・経営に関わる法律やルールを知り、これらの知識を使いこなしてビジネスを発展させる力が求められます。

出資者・株主や従業員、経営者、取引先といった会社関係者の利害を調整して会社が円滑にビジネスを行うためには、会社を組織的側面から規律する法ルールが必要であり、この役割を担うのが会社法です。本講義では、株式会社に関する規律を中心に、会社法の考え方や基本原理、具体的な法ルールについて学び、現代のビジネス社会において身につけておくべき会社法の基本的な知識と法的な思考力を修得することを目的とします。

【授業における到達目標】

1. 会社法の基礎的な知識を修得すること、2. 会社法の条文を解釈して具体的事案に適用し結論を導くことができるようになること、3. 会社の組織や経営に関わる問題に対して、法律的な考え方や法律に基づいた判断ができるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：企業とは何か、企業と法律のかかわり
- 第2週 会社法総論：会社法の役割と基本原理
- 第3週 会社制度の特徴：法人制度、組織形態の選択と会社の設立
- 第4週 株式会社：株式と株主
- 第5週 株式会社の機関（1）株主総会
- 第6週 株式会社の機関（2）取締役・取締役会・代表取締役
- 第7週 株式会社の機関（3）監査役・監査役会・会計監査人
- 第8週 株式会社の機関（4）機関設計とコーポレート・ガバナンス
- 第9週 役員等の義務と責任（1）会社に対する責任
- 第10週 役員等の義務と責任（2）第三者に対する責任
- 第11週 株式会社の資金調達（1）総論、募集株式の発行等
- 第12週 株式会社の資金調達（2）新株予約権、社債
- 第13週 M&Aと組織再編等（1）手法と意義
- 第14週 M&Aと組織再編等（2）株主・会社債権者保護
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前】テキストや資料の該当箇所を一読しておくこと。授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集し、自分の考えをまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後】六法で条文を確認し、テキストやレジュメを復習すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト・教材については授業開始後に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末試験（60%）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業開始前に適宜指示します。

【注意事項】

解剖生理学 a

人体の構造

櫻木 晃彦

1年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人体の仕組み（形態と構造）を理解し、人体を構成する器官や器官系が生命・健康の維持とどのように関わっているかを理解する。

【授業における到達目標】

人体の構造と形態を学ぶことによって学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる「研鑽力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 生物としてのヒト
- 第2週 細胞学・組織学の基礎
- 第3週 方向用語・運動用語
- 第4週 器官系
- 第5週 頭頸部
- 第6週 脳
- 第7週 体幹
- 第8週 上肢・下肢
- 第9週 胸腔・腹腔
- 第10週 循環器系
- 第11週 呼吸器系
- 第12週 消化器系
- 第13週 泌尿生殖器系・内分泌系
- 第14週 体表解剖学
- 第15週 総復習

【事前・事後学修】

事前学修（2時間）

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修（2時間）

毎回の授業後に、テキストで該当箇所を復習しておくこと。

【テキスト・教材】

櫻木晃彦：生体で学ぶ解剖学[てらぺいあ、2005、¥3,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80%）、授業態度（20%）。授業中に実施するアクティブラーニング（受講生が小問に答えることによって授業が進行する）によって理解の度合いをフィードバックする。

【参考書】

櫻木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本 驚異の人体システムを探る』（新星出版社 2002年）¥1,400 + 税

櫻木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』

（ボーンデジタル 2002年）¥3,800 + 税

山内昭雄監訳『目でわかる解剖学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル 2003年）¥3,800 + 税

【注意事項】

教科書や参考図書を活用して人体の仕組みを十分に理解すること。

解剖生理学 a

人体の構造

櫻木 晃彦

1年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人体の仕組み（形態と構造）を理解し、人体を構成する器官や器官系が生命・健康の維持とどのように関わっているかを理解する。

【授業における到達目標】

人体の構造と形態を学ぶことによって学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる「研鑽力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 生物としてのヒト
- 第2週 細胞学・組織学の基礎
- 第3週 方向用語・運動用語
- 第4週 器官系
- 第5週 頭頸部
- 第6週 脳
- 第7週 体幹
- 第8週 上肢・下肢
- 第9週 胸腔・腹腔
- 第10週 循環器系
- 第11週 呼吸器系
- 第12週 消化器系
- 第13週 泌尿生殖器系・内分泌系
- 第14週 体表解剖学
- 第15週 総復習

【事前・事後学修】

事前学修（2時間）

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修（2時間）

毎回の授業後に、テキストで該当箇所を復習しておくこと。

【テキスト・教材】

櫻木晃彦：生体で学ぶ解剖学[てらぺいあ、2005、¥3,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80%）、授業態度（20%）。授業中に実施するアクティブラーニング（受講生が小問に答えることによって授業が進行する）によって理解の度合いをフィードバックする。

【参考書】

櫻木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本 驚異の人体システムを探る』（新星出版社 2002年）¥1,400 + 税

櫻木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』

（ボーンデジタル 2002年）¥3,800 + 税

山内昭雄監訳『目でわかる解剖学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル 2003年）¥3,800 + 税

【注意事項】

教科書や参考図書を活用して人体の仕組みを十分に理解すること。

解剖生理学b

横藤田 純子

1年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

生体の構造と機能を理解することは栄養学を学ぶ上での基礎となり、栄養士にとっては必須の事でもある。

解剖生理学bでは、健康科学を学ぶ上で求められる栄養専門科目の基礎となる知識を、生体の構造と機能を学ぶことで習得することを目指す。

【授業における到達目標】

ヒトの健康の維持や疾病予防などに栄養面から関わる栄養士は人体の構造と機能を生理学と結びつけて理解することが求められる。

【到達目標】

- ・人体の恒常性を維持する機構を自らの言葉で説明できる。
- ・生体の構造と機能について細胞・組織レベルで説明できる。
- ・習得した知識を栄養士の活動に活用できる。

【授業の内容】

- 第1週 人体の細胞と組織（細胞の基本構造と機能）
- 第2週 消化器（上部消化管・下部消化管の構造と機能）
- 第3週 消化腺（肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能）
- 第4週 循環器（心臓の構造と機能・刺激伝導系）
- 第5週 循環器（体循環・肺循環）
- 第6週 血液（血液細胞の機能・血液凝固システム・体温）
- 第7週 呼吸器（肺の構造と機能）
- 第8週 内分泌（内分泌器官の構造と機能）
- 第9週 内分泌（ホルモンの分泌と作用）
- 第10週 泌尿器（腎臓の構造と機能）
- 第11週 泌尿器（腎の排泄機・体液性免疫）
- 第12週 生殖器（男性生殖器の構造と機能）
- 第13週 生殖器（女性生殖器の構造と機能）
- 第14週 感覚器（皮膚感覚・味覚器・視覚器の構造と機能）
- 第15週 感覚器（聴覚器・平衡感覚器の構造と機能）

【事前・事後学修】**【事前学修】**

今回の講義内容をテキストで必ず予習する。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】

毎回の講義後に講義内容を振り返りテキストを参考に疑問点等を解決しておく。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

福島 光夫：Visual 栄養学テキスト「解剖生理学 人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ」[中山書店、2016、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【評価方法・基準】**

授業内小テスト 30%
終講テスト 70%

【フィードバック】

授業内小テストは採点后返却し解説します。

【注意事項】

テキスト、配布資料などを参考に、単なる暗記ではなく講義内容を自らの言葉で説明できるように基礎知識の習得に努めてください。

解剖生理学 b

於保 祐子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

人体の器官について、それを構成する組織がヒトの生理機能にどのような関わっているかを学修する。更に、それらの器官が相互に影響しあって人体の恒常性を維持しているしくみについて理解する。

【授業における到達目標】

- ・人体を細胞、組織、臓器・器官、器官系および個体のレベルで理解し、説明できる。
- ・人における恒常性の維持機構を神経性調節、内分泌性調節、免疫防御機構から説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 消化器の働き（消化と吸収）
- 第2週 肝臓の働きと代謝
- 第3週 肺での呼吸とガス交換
- 第4週 心臓と血液循環
- 第5週 腎・尿路系と体液の調節
- 第6週 皮膚・感覚器
- 第7週 脳・神経系と神経情報伝達
- 第8週 筋肉のしくみ・骨の働き
- 第9週 内分泌器官の働き
- 第10週 生殖器系の成り立ちと働き
- 第11週 造血器と赤血球
- 第12週 血管と血液凝固
- 第13週 免疫系（自然免疫、獲得免疫、アレルギー）
- 第14週 恒常性の維持
- 第15週 ストレスと生体応答

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理』（医学映像教育センター）2013年、2,800円（税別）

他にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 80%、平常点（プリント提出・受講態度）20%

毎回プリントを提出の事。次回返還時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

解剖生理学実験

ヒトの身体としくみ

阿尻 貞三

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：行動力、協働力

【参考書】

実験開始前にプリントで配布します。

【注意事項】

実験のオリエンテーションを第1回実験におこないます。

日程は掲示でお知らせします。

色鉛筆・消しゴム・鉛筆削りを用意してください。

実験用白衣を着用してください。

レポートは原則として「自筆・ペン書き」とします。なお、一部のレポートではパソコンおよびネットワークによるファイル提出が求められます。パソコン操作、ネットワーク操作等について習熟しておいてください。

【授業のテーマ】

人体の構造を生理機能と関連させて学びます。対象を「よく観察する」ことに主眼をおきます。

栄養士として必要な消化・栄養吸収に関するヒトの細胞・組織構造と機能について理解し、消化吸収についての構造・機能を「他の人に説明できる」ことを目標とします。

【授業における到達目標】

ヒトの消化・吸収に必要な多様な臓器の構造と機能を多方面から多角的に理解し、食育が必要な多様な方々に説明できるように努めてください。我々の身体は変わらなくても、身体の機能の知識は日々新しくなっています。柔軟な理解力を常に持ち続けてください。ヒト身体の機能の探求をつねにおこなうように努めてください。実験および提出された課題を解決するために主体的に実行するとともに、グループで協調しておこなうすべを身につけてください。

またヒト消化・吸収のためには他の臓器も深く関連しあっていることを多角的に理解するようにしてください。

【授業の内容】

人体を構成している細胞とはどのようなものか、組織とはどのように成り立っているかを光学顕微鏡を使って観察し、各臓器、組織・細胞の相互関係をミクロレベルから理解します。

特に消化器系に重点をおいて観察しましょう。

また、食物とヒトの臓器および各臓器間の構造的・機能的相互関係を理解しましょう。

第1回 光学顕微鏡の操作法と観察法、細胞の観察と細胞の理解。観察結果の表示法、実験ノートについて
組織の観察【皮膚】

第2回 組織の観察【筋組織、支持組織、神経組織】

第3回 如何に生物のからだができるのか、ニワトリ胚を使用し
ての観察と顕微鏡標本作製 消化器系の細胞と組織観察
その1【舌、歯牙、歯芽発生】

第4回 消化器系の細胞と組織観察

その2【胃、空腸、結腸】

第5回 消化器系の細胞と組織観察

その3【肝臓、膵臓、唾液腺】

第6回 泌尿生殖器系の細胞と組織観察

【腎臓、卵巣、精巣】

第7回 人体標本資料の観察（学外見学）

【系統解剖標本、病理解剖標本など】

第8回 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】実験実施学期前に課題を課しますので、期限内に提出して下さい。

第1回実験時に配布するプリントでの【前レポート】として課された課題を毎実験前に期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

【事後学修】 実験後には【後レポート】として課された課題を期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

【テキスト・教材】

実験開始前のオリエンテーション時に全回のプリントを配布します。また実施学期まえに提示された課題を期限内に提出してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験態度および実験結果のスケッチ、作成標本、前レポート・後レポートの内容、書き方、最終提出物のまとめ方・整理方法、受講態度などをすべてを総合評価します。レポート6割、受講態度4割で判定します。

レポート、スケッチなどはすべて返却し、フィードバックします。また、自己学習・復習に使って自己研鑽に努めてください。

解剖生理学実験

ヒトの身体としくみ

阿尻 貞三

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：行動力、協働力

実験のオリエンテーションを第1回実験時におこないます。

日程は掲示でお知らせします。

色鉛筆・消しゴム・鉛筆削りを用意してください。

実験用白衣を着用してください。

レポートは原則として「自筆・ペン書き」とします。なお、一部のレポートではパソコンおよびネットワークによるファイル提出が求められます。パソコン操作、ネットワーク操作等について習熟しておいてください。

【授業のテーマ】

人体の構造を生理機能と関連させて学びます。対象を「丁寧に観察する」ことに主眼をおきます。

【授業における到達目標】

ヒトの消化・吸収に必要な多様な臓器の構造と機能を多方面から多角的に理解し、食育が必要な多様な方々に説明できるように努めてください。我々の身体は変わらなくても、身体の機能の知識は日々新しくなっています。柔軟な理解力を常に持ち続けてください。ヒト身体の機能の探求をつねにおこなうように努めてください。実験および提出された課題を解決するために主体的に実行するとともに、グループで協調しておこなうすべを身につけてください。またヒト消化・吸収のためには他の臓器も深く関連しあっていることを多角的に理解するようにしてください。

【授業の内容】

人体を構成している細胞とはどのようなものか、組織とはどのように成り立っているかを光学顕微鏡を使って観察し、各臓器、組織・細胞の相互関係をマイクロレベルから理解します。特に消化器系に重点をおいて観察しましょう。また、食物とヒトの臓器および各臓器間の構造的・機能的相互関係を理解しましょう。

第1回 光学顕微鏡の操作法と観察法、細胞の観察と細胞の理解。観察結果の表示法、実験ノートについて

組織の観察【皮膚】

第2回 組織の観察【筋組織、支持組織、神経組織】

第3回 如何に生物のからだができるのか、ニワトリ胚を使用するの観察と顕微鏡標本作製 消化器系の細胞と組織観察

その1【舌、歯牙、歯芽発生】

第4回 消化器系の細胞と組織観察

その2【胃、空腸、結腸】

第5回 消化器系の細胞と組織観察

その3【肝臓、膵臓、唾液腺】

第6回 泌尿生殖器系の細胞と組織観察

【腎臓、卵巣、精巣】

第7回 人体標本資料の観察（学外見学）

【系統解剖標本、病理解剖標本など】

第8回 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】実験実施学期前に課題を課しますので、期限内に提出して下さい。第1回実験時に配布するプリントでの【前レポート】として課された課題を毎実験前に期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

【事後学修】実験後には【後レポート】として課された課題を期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

【テキスト・教材】

実験開始前のオリエンテーション時に全回のプリントを配布します。また実施学期まえに提示された課題を期限内に提出してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験態度および実験結果のスケッチ、作成標本、前レポート・後レポートの内容、書き方、最終提出物のまとめ方・整理方法、受講態度などをすべてを総合評価します。レポート6割、受講態度4割で判定します。

レポート、スケッチなどはすべて返却しますので、自己学習・復習に使って自己研鑽に努めてください。

【参考書】

実験開始前にプリントで配布します。

【注意事項】

海外研修

海外旅行とリスクマネジメント

内藤 芳宏

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この講義は、語学研修や個人旅行で海外渡航する学生に対して、「国際的視野」に立って海外で楽しい時を過ごし無事帰国できるように支援するためのものです。特に日本に生まれ育った学生は、世界の国々が日本と同じように安全で、世界の人々が日本人と同じような価値観を共有していると勘違いしてしまうため、無防備な状態に陥ってしまう可能性があります。

そこで海外で発生する事件や犯罪に巻き込まれないようにするため、実際に日本人が海外で様々な事件や犯罪に遭遇した事例や講義担当者自身の経験を紹介し、そのような危険な目に遭わないように事前に回避する方法を学んでいきます。

【授業における到達目標】

この科目は、以下の3点を中心に進めていきます。

- 1 リスクマネジメントについて理解する。
- 2 知識が危険回避に有効な手段であることを理解する。
- 3 日本とは異なる外国の実情について理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、外国人の様々な考え方を学ぶ。「国際的視野」を土台に、海外の事情や自分が置かれている実情を正しく理解し、どう対応すればいいか考える「研鑽力」と「行動力」を磨く科目です。

【授業の内容】

- 第1週 導入1：授業の目的、評価方法、海外留学・研修の概略
- 第2週 導入2：海外渡航要因とリスクマネジメント
- 第3週 導入3：異文化摩擦と異文化理解
- 第4週 危険回避1：日常生活圏と日本文化の紹介の準備
- 第5週 危険回避2：海外渡航と訪問国に関する情報収集
- 第6週 危険回避3：自宅から空港までの移動
- 第7週 危険回避4：日本の国際空港での出国手続き
- 第8週 危険回避5：機内での心構え
- 第9週 危険回避6：現地国際空港での入国手続き
- 第10週 危険回避7：現地国際空港からホテルまでの移動
- 第11週 危険回避8：列車・船舶・航空機での移動
- 第12週 危険回避9：寮生活とホームステイ
- 第13週 危険回避10：国際語と現地語によるサバイバル対策
- 第14週 これまでの授業内容の確認および小論文の提出
- 第15週 緊急事態に対応するための準備、授業のフィードバック

上記順番は変わることがあります。

【事前・事後学修】

授業の前後にそれぞれ2時間程度の時間を割り、海外で発生している事故や事件について新聞やインターネット等を通じて学修するようにしてください。

【テキスト・教材】

毎回教材となる印刷物を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リスクマネジメントと外国文化に関する小論文（100%）を基に評価します。授業の最終日に授業のフィードバックを行います。

【参考書】

外務省の海外安全ホームページを常時見るように心がけてください（<http://www.anzen.mofa.go.jp/>）。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュール、成績評価、小論文について説明するので必ず出席してください。なお、海外研修プログラムに参加する学生は、この科目の履修を推薦します。

海外語学研修a

— アメリカ ワシントン大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。

※受講定員20名（最少催行人数15名）

【授業のテーマ】

この研修は、「生活・文化・習慣の異なる国の人とのコミュニケーション」「コミュニケーションの手段としての言語」に焦点を当てた実用英会話を中心に学びます。授業は各国からの学生と共に受けるSTEPクラスが中心となります。STEPクラスの一環として様々なフィールドトリップ等も組まれており、授業の他に行われる英会話練習とともに、ワシントン大学の学生と交流するよい機会となっています。滞在はホームステイのため、英語を習得するには最良の環境です。

※STEP=Short Term English Programs

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
- II. 滞在场所：ホームステイ
- III. 研修内容
 - <月～金曜>
 - 午前：STEPクラス
 - 午後：STEPフィールドトリップ各種アクティビティ（週2日）または自由研修
 - <土・日曜>
 - 終日フリータイム
 - ※フィールドトリップ（土曜）
 - シアトルプレミアムアウトレット見学、マウントレーニア国立公園日帰り旅行等

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕ワシントン大学は歴史と伝統を誇る名門の総合大学です。到着後すぐにホストファミリーと対面し、ホームステイに入ります。昼食は大学のカフェテリアでとります。高密度の授業（STEPクラス）のほかに、様々なフィールドトリップ（市内観光、スポーツアクティビティ、博物館見学など）や、会話練習も予定されています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

必要に応じて配布する。STEPプログラムオリジナル教材、Cambridge Touchstone、インストラクターによるプリント配付

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会

海外語学研修a

—カナダ フレーザーバレー大学—

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

大

生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。

※受講定員30名（最少催行人数15名）

【授業のテーマ】

この研修は、実践生のための特別夏期集中プログラムで、午前は英語クラス、午後は課外クラスで学びます。滞在はホームステイです。午前の英語クラスでは、ホームステイ先で使える表現から、ネイティブスピーカーならではの言い回しなどを楽しく教授します。また、課外クラスでは、カナダの文化や生活習慣などを楽しく学びます。現地学生との交流を通じ、英語でのコミュニケーションを伸ばす機会を設けています。

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、カナダの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：ホームステイ

III. 研修内容

<月～金曜>

午前：平日の午前中は実践生のための特別英語プログラム（リーディング、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング、ライティング、文法）を受講します。

午後：課外クラス（カナダの生活・文化・歴史・自然・ボランティア活動・ディスカッション等）、自主学習

土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕フレーザーバレー大学はバンクーバーから車で1時間ほどのところにある閑静なキャンパスを有する公立大学で、本学の留学協定校でもあります。ホームステイは、原則1～2人で1家庭です。ホスピタリティーあふれるファミリーがみなさんを家族の一員として受け入れてくれます。放課後にはボーリング、ハイキングなどのアクティビティーがあり、オプションツアーでは、ビクトリア市内見学等を予定しています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

ESL：オリジナル教材（プリント）／Cambridge Touchstone

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短

海外語学研修a
 —カナダ フレーザーバレー大学—

1・2年 夏期集中 2単位
 ◎：国際的視野 ○：行動力

大
 生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。
 ※受講定員30名（最少催行人数15名）

【授業のテーマ】

この研修は、実践生のための特別夏期集中プログラムで、午前は英語クラス、午後は課外クラスで学びます。滞在はホームステイです。午前の英語クラスでは、ホームステイ先で使える表現から、ネイティブスピーカーならではの言い回しなどを楽しく教授します。また、課外クラスでは、カナダの文化や生活習慣などを楽しく学びます。現地学生との交流を通じ、英語でのコミュニケーションを伸ばす機会を設けています。

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、カナダの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
- II. 滞在所：ホームステイ
- III. 研修内容
 <月～金曜>
 午前：平日の午前中は実践生のための特別英語プログラム（リーディング、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング、ライティング、文法）を受講します。
 午後：課外クラス（カナダの生活・文化・歴史・自然・ボランティア活動・ディスカッション等）、自主学習
 土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕 フレーザーバレー大学はバンクーバーから車で1時間ほどのところにある閑静なキャンパスを有する公立大学で、本学の留学協定校でもあります。ホームステイは、原則1～2人で1家庭です。ホスピタリティーあふれるファミリーがみなさんを家族の一員として受け入れてくれます。放課後にはボーリング、ハイキングなどのアクティビティーがあり、オプションツアーでは、ビクトリア市内見学等を予定しています。

【事前・事後学修】

- <事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。
- <事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。
- *なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

ESL：オリジナル教材（プリント）／Cambridge Touchstone

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短

海外語学研修a

— アメリカ ワシントン大学 —

1・2年 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。

※受講定員20名（最少催行人数15名）

【授業のテーマ】

この研修は、「生活・文化・習慣の異なる国の人とのコミュニケーション」「コミュニケーションの手段としての言語」に焦点を当てた実用英会話を中心に学びます。授業は各国からの学生と共に受けるSTEPクラスが中心となります。STEPクラスの一環として様々なフィールドトリップ等も組まれており、授業の他に行われる英会話練習とともに、ワシントン大学の学生と交流するよい機会となっています。滞在はホームステイのため、英語を習得するには最良の環境です。

※STEP=Short Term English Programs

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
- II. 滞在所：ホームステイ
- III. 研修内容
 - <月～金曜>
 - 午前：STEPクラス
 - 午後：STEPフィールドトリップ各種アクティビティ（週2日）または自由研修
 - <土・日曜>
 - 終日フリータイム
 - ※フィールドトリップ（土曜）
 - シアトルプレミアムアウトレット見学、マウントレーニア国立公園日帰り旅行等

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕ワシントン大学は歴史と伝統を誇る名門の総合大学です。到着後すぐにホストファミリーと対面し、ホームステイに入ります。昼食は大学のカフェテリアでとります。高密度の授業（STEPクラス）のほかに、様々なフィールドトリップ（市内観光、スポーツアクティビティ、博物館見学など）や、会話練習も予定されています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

必要に応じて配布する。STEPプログラムオリジナル教材、Cambridge Touchstone、インストラクターによるプリント配付

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会

海外語学研修b

— イギリス サセックス大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、サセックス大学が外国人向けに実施する夏期集中英語プログラムです。研修初日にクラス分けテストを行います。午前中は小グループに分かれて、英語コミュニケーションを中心にリスニング、英文法、英作文、語彙などを含めた英語表現能力を高める授業が行われ、午後は選択科目（英文学、ビジネス英語、発音、ドラマなど）から興味のある授業を自由に選んで受けることができます。様々な国からの学生が集まるクラスの中で英語で積極的に自分の意見を述べ、コミュニケーションを取る方法を学びます。

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、イギリスの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
 - II. 滞在所：キャンパス内の学生寮
 - III. 研修内容
 - 月～金曜午前：英語コアプログラム（総合英語）
 - 月・火・木曜午後：選択科目（英国生活・文化講座）
 - 水・金曜午後：ローカルビジット（フリータイム）
 - 土・日曜終日フリータイム
- 注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕 ロンドンからバスで2時間、ブライトンはイギリスの最も南にある保養地で、これらの一面に広大なサセックス大学のキャンパスがあります。毎週水・金曜日の午後は、ローカルビジットとしての近郊見学、土曜日は大学主催のオプションルツアー（別料金）があります。

【事前・事後学修】

- ＜事前学修＞ 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。
 - ＜事後学修＞ 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。
- *なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生の英語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

- 【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。
- ※受講定員20名（最少催行人数1名）

海外語学研修b

— イギリス サセックス大学 —

1・2年 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、サセックス大学が外国人向けに実施する夏期集中英語プログラムです。研修初日にクラス分けテストを行います。午前中は小グループに分かれて、英語コミュニケーションを中心にリスニング、英文法、英作文、語彙などを含めた英語表現能力を高める授業が行われ、午後は選択科目（英文学、ビジネス英語、発音、ドラマなど）から興味のある授業を自由に選んで受けることができます。様々な国からの学生が集まるクラスの中で英語で積極的に自分の意見を述べ、コミュニケーションを取る方法を学びます。

【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、イギリスの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
 - II. 滞在场所：キャンパス内の学生寮
 - III. 研修内容
 - 月～金曜午前：英語コアプログラム（総合英語）
 - 月・火・木曜午後：選択科目（英国生活・文化講座）
 - 水・金曜午後：ローカルビジット（フリータイム）
 - 土・日曜終日フリータイム
- 注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕 ロンドンからバスで2時間、ブライトンはイギリスの最も南にある保養地で、これらの一面に広大なサセックス大学のキャンパスがあります。毎週水・金曜日の午後は、ローカルビジットとしての近郊見学、土曜日は大学主催のオプションルツアー（別料金）があります。

【事前・事後学修】

- ＜事前学修＞ 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。
 - ＜事後学修＞ 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。
- *なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生の英語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

- 【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。
- ※受講定員20名（最少催行人数1名）

海外語学研修c
 — ドイツ フライブルク大学 —
 1年～ 集中 2単位
 ◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、ドイツ語運用能力向上とドイツの歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、フライブルク大学主催の集中講座です。授業は、一クラス20名弱の小人数で行われ、午後には視聴覚教材を利用して復習をすることができます。

授業以外には、ドイツの名所旧跡の見学、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

【授業における到達目標】

この研修は、ドイツ語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、ドイツの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：60時間以上
- II. 滞在场所：キャンパス外の学生寮（予定）
- III. 研修内容
 - 午前：ドイツ語クラス（月～金曜）
 - 午後：演習またはセミナー（希望者）、フリータイム
- IV. アクティビティ：ハイデルベルク観光等

注) 日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

[研修の特長] フライブルク大学はドイツで5番目に古い大学であり、特にサマーコースは100年以上の実績があります。“黒い森”の中心部に位置するフライブルクはドイツの中でも非常に美しく、歴史豊かな街です。一方で、近代的な都市機能を備え、先進的な環境保護政策を進める“緑の街”とも知られています。研修では、午前のドイツ語クラスと午後の演習及びセミナーを通してドイツ語のレベル向上を目指します。また、フライブルク市内外でのアクティビティをとおり、ドイツの文化やライフスタイルをより深く理解することができます。

【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

※なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生のドイツ語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員10名（最少催行人数1名）

海外語学研修c
 — 中国 北京大学 —
 1年～ 夏期集中 2単位
 ◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講座です。研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれます。授業以外には、中国文化講座や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

【授業における到達目標】

この研修は、中国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
- II. 滞在场所：キャンパス内の留学生寮
- III. 研修内容
 - 午前：中国語クラス（月～金曜）
 - 午後：中国文化講座、市内見学、フリータイム
- IV. アクティビティ：万里の長城等見学、家庭訪問、京劇・雑技鑑賞、3泊4日内モンゴルツアー（オプションル）

注) 日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

[研修の特長] 北京大学は中国でも長い歴史と伝統を誇る名門大学です。北京市西北部の文教地区に位置し、伝統的な建築様式と近代的な建物が調和しながら混在しています。キャンパス内に「未名湖」と呼ばれる湖があり、学生たちの憩いの場となっています。大学周辺には「頤和園」や「円明園」があり、「北京大学東門駅」から地下鉄を利用して市内に出ることができます。

【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

※なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生の中国語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

海外語学研修c

— 中国 北京大学 —

1・2年 夏期集中 2単位
◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講座です。研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれます。授業以外には、中国文化講座や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

【授業における到達目標】

この研修は、中国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
- II. 滞在场所：キャンパス内の留学生寮
- III. 研修内容
午前：中国語クラス（月～金曜）
午後：中国文化講座、市内見学、フリータイム
- IV. アクティビティ：万里の長城等見学、家庭訪問、京劇・雑技鑑賞、3泊4日内モンゴルツアー（オプションル）

注) 日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕北京大学は中国でも長い歴史と伝統を誇る名門大学です。北京市西北部の文教地区に位置し、伝統的な建築様式と近代的な建物が調和しながら混在しています。キャンパス内に「未名湖」と呼ばれる湖があり、学生たちの憩いの場となっています。大学周辺には「頤和園」や「円明園」があり、「北京大学東門駅」から地下鉄を利用して市内に出ることができます。

【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

＊なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生の中国語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

海外語学研修c

— ドイツ フライブルク大学 —

1・2年 集中 2単位
◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、ドイツ語運用能力向上とドイツの歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、フライブルク大学主催の集中講座です。授業は、一クラス20名弱の少人数で行われ、午後には視聴覚教材を利用して復習をすることができます。

授業以外には、ドイツの名所旧跡の見学、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

【授業における到達目標】

この研修は、ドイツ語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、ドイツの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：60時間以上
- II. 滞在场所：キャンパス外の学生寮（予定）
- III. 研修内容
午前：ドイツ語クラス（月～金曜）
午後：演習またはセミナー（希望者）、フリータイム
- IV. アクティビティ：ハイデルベルク観光等

注) 日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕フライブルク大学はドイツで5番目に古い大学であり、特にサマーコースは100年以上の実績があります。“黒い森”の中心部に位置するフライブルクはドイツの中でも非常に美しく、歴史豊かな街です。一方で、近代的な都市機能を備え、先進的な環境保護政策を進める“緑の街”とも知られています。

研修では、午前のドイツ語クラスと午後の演習及びセミナーを通してドイツ語のレベル向上を目指します。また、フライブルク市内外でのアクティビティをおし、ドイツの文化やライフスタイルをより深く理解することができます。

【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

＊なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生のドイツ語レベルに応じ、テキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員10名（最少催行人数1名）

海外語学研修d

— 韓国 檀国大学校 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムです。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・K-POP、ダンス、テコンドー等）を体験します。

【授業における到達目標】

この研修は、韓国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞り場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

<月～金曜>

午前（9：00～13：00）韓国語クラス

午後（14：00～17：00）韓国文化体験クラス

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

【研修の特長】檀国大学校は、韓国の首都ソウル市に1947年に創立された私立総合大学で、竹田（チュクチョン）キャンパスと天安（チョナン）キャンパスがあり、教養学部、法学部、工学部など、20学部、10大学院を有しています。語学研修はチュクチョンキャンパスで行なわれ、同キャンパス構内の学生寮に滞在します。学生寮は2人部屋で、トイレ・シャワールームも備えられ、寮にはカフェテリア、コインランドリー、コンビニ、フィットネスルームなどが併設されており、セキュリティレベルも万全です。キャンパスには、食堂、書店、コンビニ、ATMなど日常生活に必要な施設もととのっています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

『アンニョハセヨ韓国語』シリーズ

その他、オリジナルテキスト

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員15～20名（最少催行人数1名）

海外語学研修d

— フランス 西部カトリック大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、フランス語の習得とフランス文化の理解を深めることを目的とした西部カトリック大学主催の夏期フランス語・文化集中プログラムです。入門～上級までレベル分けされており、読解、作文、文法などの総合的なフランス語の授業を学ぶことができます。平日は、フランス語を集中的に学び、様々な内容のフランス文化を体験する課外活動も不定期に用意されています。

【授業における到達目標】

この研修は、フランス語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、フランス語の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞り場所：キャンパス外の学生寮

III. 研修内容

<月～金曜>

9：00～16：30 フランス語クラス

（文法、リスニング、モニター（大学院生）との交流）

IV. アクティビティ：フランス料理体験、ロワール地方古城めぐり等

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

【研修の特長】CIDEFは1947年にアンジェ・西部カトリック大学に設立された語学センターです。校長をはじめとする学校のスタッフにより、きめこまやかにサポートされていて、集中的にフランス語を学びたい方におすすめの学校です。また、アンジェ・西部カトリック大学のホスピタリティあふれる大学院生が、モニターとしてみなさんと生活をともにしますので、フランス人学生との交流もできます。他の語学学校にはない大きな特徴の一つです。研修後にパリへ一泊観光が予定されています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生のフランス語のレベルに応じて、CIDEFのテキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短

大生ともに参加することができます。
※受講定員なし（最少催行人数1名）

海外語学研修d

— フランス 西部カトリック大学 —

1・2年 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

【授業のテーマ】

この研修は、フランス語の習得とフランス文化の理解を深めることを目的とした西部カトリック大学主催の夏期フランス語・文化集中プログラムです。入門～上級までレベル分けされており、読解、作文、文法などの総合的なフランス語の授業を学ぶことができます。平日は、フランス語を集中的に学び、様々な内容のフランス文化を体験する課外活動も不定期に用意されています。

【授業における到達目標】

この研修は、フランス語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、フランス語の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
 - II. 滞在所：キャンパス外の学生寮
 - III. 研修内容
 - <月～金曜>
 - 9：00-16：30 フランス語クラス
 （文法、リスニング、モニター（大学院生）との交流）
 - IV. アクティビティ：フランス料理体験、ロワール地方古城めぐり等
- 注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕CIDEFは1947年にアンジェ・西部カトリック大学に設立された語学センターです。校長をはじめとする学校のスタッフにより、きめこまやかにサポートされていて、集中的にフランス語を学びたい方におすすめの学校です。また、アンジェ・西部カトリック大学のホスピタリティあふれる大学院生が、モニターとしてみなさんと生活をともにしますので、フランス人学生との交流もできます。他の語学学校にはない大きな特徴の一つです。研修後にパリへ一泊観光が予定されています。

【事前・事後学修】

- <事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。
- <事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。
- *なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

受講生のフランス語のレベルに応じて、CIDEFのテキストが選定されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短

海外語学研修d

— 韓国 檀国大学校 —

1・2年 夏期集中 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムです。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・K-POP、ダンス、テコンドー等）を体験します。

【授業における到達目標】

この研修は、韓国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級

【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

<月～金曜>

午前（9：00～13：00）韓国語クラス

午後（14：00～17：00）韓国文化体験クラス

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

【研修の特長】檀国大学校は、韓国の首都ソウル市に1947年に創立された私立総合大学で、竹田（チュクチョン）キャンパスと天安（チョナン）キャンパスがあり、教養学部、法学部、工学部など、20学部、10大学院を有しています。語学研修はチュクチョンキャンパスで行なわれ、同キャンパス構内の学生寮に滞在します。学生寮は2人部屋で、トイレ・シャワールームも備えられ、寮にはカフェテリア、コインランドリー、コンビニ、フィットネスルームなどが併設されており、セキュリティレベルも万全です。キャンパスには、食堂、書店、コンビニ、ATMなど日常生活に必要な施設もととのっています。

【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。

<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

【テキスト・教材】

『アンニョハセヨ韓国語』シリーズ

その他、オリジナルテキスト

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを修了した者に修了証が授与され、本学内の所定の手続きを完了した者に2単位が認定されます。

【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員15～20名（最少催行人数1名）

絵画実習 a

当間 裕子

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

絵画入門で学び身につけた表現技術をさらに鍛錬し、さまざまな素材を使って表現の幅を広げられるようになる。モデルデッサンを中心に描写力を向上させ、骨格や肉付きをよく観察して、動勢や量感を捉えた表現ができるようになる。人体デッサンを通して、より深い観察力や表現力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

静物や人物などの対象をよく観察し、様々な材料や用具の扱い方を理解し、絵画や立体の制作に活かすことができる。特に、色鉛筆やアクリル絵具を用いて、立体感や遠近感を表現することができるようになる。

【授業の内容】

第1週 授業ガイダンス

色鉛筆デッサン1 単体のモチーフを描く

〈色鉛筆デッサン2〉

第2週 卓上に静物モチーフを組み、制作

第3週 先週の続き、仕上げて提出

〈アクリル絵具による「立体感」の表現〉

第4週 光と陰と色調

第5週 モデリング・グレージング

第6週 着彩紙へのクロッキー

〈モデルを描く〉

第7週 人体デッサン1 ノード 固定ポーズ

第8週 人体デッサン2 ノードモデルのクロッキー

〈巻段ボールを使った立体制作〉

第9週 人体デッサン1, 2に関連した作品を作る

第10週 先週の続き、仕上げて提出

〈「人体」をテーマにしたアクリル画の制作〉

第11週 人体デッサン1, 2から発想を広げ、エスキースを作る

第12週 メディウムの使い方を学び、下地を作る

先週の構想を基に下描き

第13週 先週の続き アクリル絵具による着彩

第14週 先週に引き続き、着彩

第15週 仕上げて提出 鑑賞

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：多くの美術作品を鑑賞し、自分の手足、友人や家族のクロッキーをする。

事後学修（週2時間）：授業で学んだ技法の特徴や材料の特性を理解し、今後の制作について見通しを持ち、次週の計画を立てる。

【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム。その他は適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の取り扱い）50%、作品提出50%

制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

『人体のデッサン技法』ジャック・ハム著（嶋田出版）

『アクリル 用具と基礎知識』レイ・スミス著（美術出版社）

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

積み上げてきた各自の力を十分に発揮できるよう集中して取り組んでほしい。授業の順序は「人体デッサン1, 2」の事情などにより変更する場合がある。正確な予定は、第1週目の授業で発表する。また、写生など校外実習をおこなうこともある。その場合の交通費は自費となる。材料費・モデル代は別途徴収する。

絵画実習 b

風景写生・木版画制作

当間 裕子

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

絵画入門で身につけた表現技術をさらに鍛錬し、さまざまな素材を使って新しい課題に挑戦する。本授業は、対象をよく観察し、写生を通して感じたことや考えたことから制作の主題を生み出し、特に水彩絵具と紙の組み合わせによる表現の特性を生かして表現する過程を学ぶ実習である。前半は、入門で使用した透明水彩絵具を用いて、後半は人物クロッキーを基にした木版画の制作を通して、主に水彩絵具と紙による表現の幅を広げることを目標とする。

【授業における到達目標】

・風景や人物などの写生を通して、対象をよく観察し、各自が絵画空間に表現したい内容を得ることができる。

・水彩絵具による重色の効果を活用して表現することができる。

・凸版画の技法を理解し、多色摺り木版画について制作の見通しを立て表現することができる。

【授業の内容】

第1週 授業ガイダンス

【水彩画の制作1】

水彩画の基本的な技法について・学内で写生

第2週 先週の写生を基に鉛筆で構想、水彩紙に下描き

第3週 先週に続き、透明水彩絵具で着彩 仕上げて提出

【水彩画の制作2 風景を描く】

第4週 学外実習 風景写生

第5週 先週の写生を基にB2判の水彩紙に着彩

第6週 先週に続き着彩、加筆して仕上げ 提出

【人物クロッキー】

第7週 着衣のモデルを描く

【多版多色摺り木版画の制作】

第8週 多版多色摺り木版画の表現について（主版法と分解法の制作手順を知り、表し方を決める）

第9週 【人物クロッキー】の作品を基に、多色摺りということを踏まえて構想を練り、版下を作る

第10週 版下を版木に転写、見当を彫る

第11週 版木を彫る

第12週 先週の続き（全ての版面を彫り進める）

第13週 試し摺り

第14週 修正彫り

第15週 奉書紙に本摺り 提出して鑑賞

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：なるべく多くの絵画や木版画の作品を鑑賞する。7週目までは、絵画入門で体験した「鉛筆デッサン」や「水彩絵具の使い方」を振り返り、理解しておく。9週目は、木版画の制作手順を学び、制作のための資料を持参すること。

事後学修（週2時間）：身近にあるものを沢山デッサンする。授業時に提示する資料や制作体験を振り返り、各自の表現内容に即した手順について計画を立てる。

【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム・水彩パレット
その他は適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の取り扱い）50%、作品提出 50%

制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。プロジェクターや書画カメラなどの機材を使用し、制作過程を提示することもある。

『木版画ノート』視覚デザイン研究所編

『DVD彫と摺-浮世絵の技法-』アダチ伝統木版画技術保存財団監修

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。
 入門で養った実力を十分に発揮し、作品の制作には集中力を持って
 努力と工夫をしてほしい。
 授業の順序は、学外での風景写生や人物クロッキーの事情により変
 更する場合がある。正確な予定は、第1週の授業の際に発表する。
 写生のためにかかる交通費は学生の自己負担である。
 材料費・モデル代は別途徴収する。

絵画実習 c

日本画の制作

長澤 耕平

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

「日本画」は明治期に創られた絵画の概念で、近代以降の日本画が表現する内容は様々である。しかし使用する画材や技法・画題からは千数百年の文化交流の歴史や日本の伝統的な美意識を感じる取ることができる重要な絵画表現のひとつである。水墨による模写、岩絵具などを用いた作品制作を行い、独特の素材や技法を学びながら「日本画」という絵画表現について考える。

【授業における到達目標】

日本画制作の基本的な工程や用具の取り扱いなどを理解し、作品の構想を深めて描くことができる。

【授業の内容】

- 第 1 週 ガイダンス日本画とは何か・日本画材について
制作1 鳥獣戯画の模写(上げ写し)
- 第 2 週 制作2 鳥獣戯画模写続き
- 第 3 週 制作3 墨絵の模写(臨写)
- 第 4 週 鳥獣戯画模写作品の裏打ち 作品提出
作品制作「百合の花を描く」1 スケッチ
- 第 6 週 作品制作「百合の花を描く」2
スケッチをもとに下図を作る本紙にトレース
- 第 7 週 作品制作「百合の花を描く」3
墨による線描き・膠の使い方下塗り
- 第 8 週 作品制作「百合の花を描く」4 彩色
- 第 9 週 作品制作「百合の花を描く」5
彩色完成・次課題の準備を平行して行う
- 第10週 作品制作「静物を描く」1 スケッチ・下図・トレース
- 第11週 作品制作「静物を描く」2 墨による線描き・下塗り
- 第12週 作品制作「静物を描く」3 水干絵具による彩色
- 第13週 作品制作「静物を描く」4 岩絵具による彩色
- 第14週 作品制作「静物を描く」5 彩色完成
- 第15週 まとめ 作品提出・鑑賞

【事前・事後学修】

【事前学修】 なるべく多くの日本画作品を鑑賞する。第7週目に膠の準備方法を提示するので、第8週目以降は各自で膠の準備を行う。(学修時間週2時間)

【事後学修】 身近にあるものを沢山デッサンする。授業時に提示する資料や制作体験を振り返り、日本画材の特徴や使い方を良く理解すること。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム。その他は適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・課題の取り組み方・用具の取り扱い) 50 %

作品提出50 %

制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

『日本画画材と技法の秘伝集』小川幸治著(日貿出版社)

『日本画用語事典』(東京美術)

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

特別に専門的な技法であることから、授業の細部までよく認識して受講してほしい。

画材、用具類は共に熟練した職人が制作した価値のあるものである。よって大切に取り扱いしてほしい。

材料費は別途徴収する。

絵画実習 d

油画 ・ 凹版画実習

高橋 恒道

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

絵画とは目に見えるもの、または視覚化することが困難と思われる体験や人間の内面から発生する事柄などを紙やキャンバスなどの支持体に絵具などの実材料で色や形に置き換えて視覚化した芸術表現である。これらの生み出される表現は、たとえ眼の前の事柄を正確に写し取った表現であっても、作者の主観「思い」が必ず投影された表現となる。この実習では作者が表現したい「思い」を油画、凹版画（銅板などを用いたドライポイント技法等）の実技体験を行うことで主体的に考え、作品化させることを目標とする。

【授業における到達目標】

中学校美術科の授業を指導するために必要な油画、プレス機を用いた版画の実材料の知識、取り扱い方、表現技法を修得することを目指す。

【授業の内容】

この実習では主に油性実材料を取り扱い実習をおこなう。実習1では油絵具とその他実材料による絵画制作、実習2ではプレス機を用いてドライポイント技法等の直接技法を中心とした版画制作をおこなう。

- 第1週 実習1 キャンバス作り（小パネル、アクリル絵具）
- 第2週 上層作り 明色描き（アクリル絵具）作品完成
- 第3週 油画 単色表現（小パネル、油絵具）
- 第4週 油画 単色表現 作品完成
- 第5週 油画 静物 用具の基本的な扱い方（F8号）
- 第6週 油画 静物 完成へ向けて制作
- 第7週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）
- 第8週 実習2 版画 プレス機の基本的な扱い方
- 第9週 直接技法 モノプリント、ドライポイントの説明
- 第10週 直接技法 コラグラフ、メゾチントの説明
- 第11週 製版法（直接技法と間接技法）の相違を理解する
- 第12週 描画製版と試し刷りの関係性を理解する
- 第13週 試し刷り、描画製版を繰り返しおこない本刷りへ
- 第14週 本刷り 限定番号、署名について
- 第15週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）

【事前・事後学修】

【事前学修】作品の発想・構想のために必要な図版等の資料収集をおこなうこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習での問題点を発見し、自己評価を十分におこなうこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

絵画実習に必要な道具・材料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50% 作品提出50% 平常点は授業への関心度・意欲度の観点から実習への取り組みを平常授業時に判断する。作品提出は授業内の課題作品、構想時の下絵、メモなど、作品を完成させるために記録的に用いたものも含めて評価の対象とする。また、自己・相互評価の記入式評価カードも作品提出物に含む。実習の結果は鑑賞会で作品講評をおこなうことでフィードバックする。

【参考書】

授業時間内に参考作品などの提示、プリントを配布する。

【注意事項】

実習では使用方法を誤るとたいへん危険な道具や溶剤を使用するので授業中はこれらの使用方法、注意点に留意し、各自実習に臨むこと。また、作業工程がたくさんあるので実習中は集中して実習することを望む。実習室内は絵具などで服が汚れるので汚れてもよい服装で実習に臨むこと。尚、実習に関わる材料費は別途徴収する。

絵画実習 e

アクリル絵具・孔版画実習

高橋 恒道

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

自己の思いを主題の決定から表現方法、工夫をアクリル絵具、孔版画（シルクスクリーン）の実技体験を行うことで主体的に考え、作品化させることを目標とする。

【授業における到達目標】

中学校美術科授業を指導するために必要なアクリル絵具、孔版画（シルクスクリーン）の基礎的な知識、材料の特性や取り扱い方法などが修得できるようになる。

【授業の内容】

この実習では一部油性材料を用いるが、主に水性の絵具、インクを用いた実習をおこなう。実習1ではアクリル絵具を用いた絵画制作、実習2では孔版画（シルクスクリーン）の実習制作をおこなう。

- 第1週 実習1 アクリル絵具実習、概要説明、混色と重色
- 第2週 寒冷紗の支持体作り メデュームの用途と使用方法
- 第3週 寒冷紗の支持体に制作
- 第4週 透明樹脂板などに制作 支持体準備
- 第5週 絵具の透明性と不透明性についての説明と制作
- 第6週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）
- 第7週 実習2 孔版画（シルクスクリーン）実習、概要説明
- 第8週 描画法（ブロック法）の説明と製版
- 第9週 描画法（ブロックアウト法）の説明と製版
- 第10週 描画法 製版と制作 インクについての説明
- 第11週 感光法の説明 発想・構想 原稿作り
- 第12週 感光法による製版
- 第13週 重ね刷りの説明と描画法・感光法による刷り（1）
- 第14週 描画法・感光法による刷り（2）
- 第15週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）

【事前・事後学修】

【事前学修】作品の発想・構想のために必要な図版等の資料収集をおこなうこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習での問題点を発見し、自己評価を十分におこなうこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

絵画実習に必要な道具・材料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50% 作品提出50% 平常点は授業への関心度・意欲度の観点から実習への取り組みを平常授業時に判断する。作品提出は授業内の課題作品、構想時の下絵、メモなど、作品を完成させるために記録的に用いたものも含めて評価の対象とする。実習の結果は鑑賞会で作品講評を行うことでフィードバックする。

【参考書】

授業時間内に参考作品などの提示、プリントを配布する。

【注意事項】

実習では使用方法を誤るとたいへん危険な道具や溶剤を使用するので授業中はこれらの使用方法、注意点に留意し、各自実習に臨むこと。また、作業工程がたくさんあるので実習中は集中して実習することを望む。実習室内は絵具などで服が汚れるので汚れてもよい服装で実習に臨むこと。尚、実習に関わる材料費は別途徴収する。

絵画入門 a

デッサン基礎・着彩

高橋 恒道

1年～ 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

美術の教育現場において必要な基本的表現方法を理解する。素描を中心とした実習を通して、ものを観察する力を養い、表現する力を身につける。形のとらえ方や立体感の表し方について学び、鉛筆や筆の使い方を工夫して、自分に合った表現方法を見つけて制作することを目標とする。

【授業における到達目標】

描く対象物（モチーフ）の形や明暗をしっかりと観察して描くことができるようになる。対象の見方や身体の使い方、道具の扱い方がわかるようになり、自分に合った表現方法を見つめることができる。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス 絵画とは何か・絵画材料の説明
 第2週 明暗とグラデーション 鉛筆によるグラデーションの作成
 第3週 光と影・矩形 ティッシュペーパーの箱を描く
 第4週 円と楕円 楕円の描き方
 第5週 素描 紙コップを描く
 第6週 遠近法 透視図法の理論と実践
 第7週 素描 幾何形体1
 第8週 素描 幾何形体2 仕上げて提出
 第9週 素描 自然物や静物1
 第10週 素描 自然物や静物2 仕上げて提出
 第11週 着彩 単色で静物を描く 透明水彩絵具の使い方1
 第12週 着彩 12色相環の制作 透明水彩絵具の使い方2
 第13週 着彩 透明水彩絵具の使い方3 重ね塗りと筆使い
 第14週 着彩 静物1 鉛筆で描き、透明水彩絵具で着彩
 第15週 着彩 静物2 仕上げて提出 鑑賞

【事前・事後学修】

【事前学修】なるべく多くの美術作品を鑑賞する。（学修時間 週1時間）

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンする。実習で行ったことを振り返り自己評価を行う。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題への取り組み方・用具の扱い）50%

作品提出50%

制作過程は毎回の授業で、提出作品は次課題時と最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

プロジェクターや書画カメラなどの機材を使用し制作過程を提示することもある。

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

美術館などに行く機会を多く設け、可能な限り多くの作品を鑑賞することを望む。

材料費は別途徴収する。

絵画入門 b

デッサンの基礎・絵画表現への応用

高橋 恒道

1年～ 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

基礎的な技術を基に、さらに表現技術を向上させながらさまざまな素材を使って描写力を身につける。描写の課題制作を通して身につけた観察力や再現力などを応用し、複合素材を用いた制作を通して、絵画作品の空間表現について理解や見方を広げることを目標とする。

【授業における到達目標】

ものを見る力や表現技法への理解を深め、立体感や空間を描き出すことができるようになる。また、主体的に作品の主題を考え、見直しを持って制作を進めることができるようになる。

【授業の内容】

第1週 鉛筆素描 石膏像頭部 塊を描く 1 明暗をとらえる
 第2週 鉛筆素描 石膏像頭部 塊を描く 2 完成
 第3週 木炭素描 石膏像 1 用具の扱い方 構図
 第4週 木炭素描 石膏像 2 明暗をとらえる
 第5週 木炭素描 石膏像 3 完成へ向けて描く
 第6週 素描 友人の顔を描く
 第7週 人物クロッキー コンテで動きをとらえる
 第8週 素描 有色地に白と黒のコンテで描く
 第9週 遠近法 透視図法とその他の遠近法
 第10週 着彩 静物と室内空間1 鉛筆描き
 第11週 着彩 静物と室内空間2 着色
 第12週 着彩・コラージュ 平面的空間表現1 主題の決定
 第13週 着彩・コラージュ 平面的空間表現2 素材作り
 第14週 着彩・コラージュ 平面的空間表現3 制作
 第15週 着彩・コラージュ 平面的空間表現4 制作 鑑賞

【事前・事後学修】

【事前学修】なるべく多くの美術作品を鑑賞する。制作のための資料収集については事前課題を提示するので提出日までに準備すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンする。実習で行ったことを振り返り自己評価を行う。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

適宜配布する。「絵画入門a」で使用した鉛筆5本・練りゴム・水彩パレット・ぞうきんを使用する課題は前週に告知する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の扱い方）50%、作品提出 50%

制作過程は毎回の授業で、提出作品は次課題時と最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

プロジェクターや書画カメラなどの機材を使用し細作過程を提示することもある。

【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

実習の成果は必ず作品に反映されるものであるため、各課題内容、目的を理解し実習に臨むこと。

材料費は別途徴収する。

学校教育概論

学校図書館が児童生徒の社会化に果たす役割

田中 統治

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

この講義では、学校図書館を含む学校教育が児童生徒の社会化（人間形成）において果たす役割について、学校の巨視的、中間的、ならびに微視的な次元から検討して、とくに学校文化とカリキュラムの側面から、その教育的意義や経営に関する全般的事項に関する理解を図る。

学校図書館の理念は国民教育の普及に伴って時代・社会の要請を受けて変化してきたが、とりわけ第二次大戦後の日本では教育の機会均等という理念に基づく標準化された良質の教育的文化を提供することが重視されてきた。だが1970年代後半から「豊かな社会」の到来によって学校教育を取り巻く社会環境も変化してきており、このマクロな外部社会の変動が学校内部での教育活動にも影響を及ぼしている。

児童生徒の社会化においては良質な教育文化の均等化というよりも多様化のモメントが働き、読書文化を含む知的文化の衰退の兆候が表れている。学校で生じているこのような文化傾向を商業文化と学校文化のせめぎ合いとして捉えると、学校図書館やそれを中心とした諸活動を活性化することのもつ意義は大きい。そこで「空気の教育」と呼ばれる学校文化や潜在的カリキュラム等の理論的な視点を深く理解しながら、児童生徒の学習経験をより一層豊かなものにするために必要な学校での相互協力とネットワークの方向性を考えることにする。

【授業における到達目標】

①学校教育の特徴についてそれ以外の教育との対比において述べることができること。②組織・集団・文化の視点から学校での人間形成（社会化）を説明することができること。③学校のカリキュラムと学校図書館の果たす役割をキーワードを使って述べられること。

【授業の内容】

- 第1週 学校教育概論の概要と進め方
- 第2週 学校教育と学校図書館の役割を考える視点
- 第3週 学校の社会的機能
- 第4週 組織としての学校
- 第5週 学校教育の過程
- 第6週 学校文化とカリキュラム
- 第7週 隠れたカリキュラム
- 第8週 異校種間の接続と教育文化の差異
- 第9週 カリキュラム・マネジメントと学校図書館
- 第10週 教科指導と学校図書館の役割
- 第11週 総合的な学習の時間と学校図書館の役割
- 第12週 特別活動と学校図書館の役割
- 第13週 特別支援教育等と学校図書館の役割
- 第14週 生涯学習に果たす学校図書館の役割
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週1時間）：各授業で指示される課題について調べる。

事後学修（週3時間）：授業で説明のあったキーワードや用語について調べてノートに整理する。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（コメントカードの提出状況、受講態度）とレポート点40%で総合評価します。カードの内容を紹介し、これをもとに質疑と討論を行います。

【参考書】

田中統治・庄司一子・浜田博文『学校教育論』（放送大学教育振興会 2008年）、ジョン・デューイ 市村尚久訳『経験と教育』（講談社学術文庫、2004年）

学校経営と学校図書館

学校の心臓部としての学校図書館

安藤 友張

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

現代の学校教育における学校図書館の位置づけを概説する。教育行政と学校図書館の関わりを歴史的な背景や国の教育政策から考える。同時に、学校経営における学校図書館の位置づけや司書教諭の役割を説明する。学校図書館法の重要条文、司書教諭の任務、司書教諭と学校司書の相違点が説明できることを本科目の主な到達目標とする。

【授業における到達目標】

- ・学校図書館の経営計画の学習を通して、PDSサイクルの重要性を理解する。同時に、受講生各自が学習目標を設定して、計画を立案
- ・実行できる行動力を獲得する。
- ・新しい知（知識）を獲得し、創造するための学校図書館の主要な機能を理解する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学校図書館の教育的意義
- 第3回 教育行政と学校図書館① 教育行政とは何か
- 第4回 教育行政と学校図書館② 学校図書館法の解説
- 第5回 教育行政と学校図書館③ その他の関連法規の解説
- 第6回 日本における学校図書館の現状と課題
- 第7回 日本における学校図書館の歴史① 学校図書館法制定まで
- 第8回 日本における学校図書館の歴史② 1953年以降の歴史
- 第9回 学校図書館の経営
- 第10回 図書館の相互協力とネットワーク
- 第11回 司書教諭の任務と役割（外部講師を予定）
- 第12回 学校図書館における諸活動
- 第13回 学校図書館の施設・設備
- 第14回 学校図書館メディアの選択と管理・提供
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】学校図書館法をはじめ、教育法規に関する学習を行うので、教育基本法などの法律の条文をみておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業時間で詳しく説明した学校図書館法の重要条文を必ず復習すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

使用しない。教材プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館』（樹村房 2015年）

【注意事項】

履修初年次に履修すること。

学校健康教育論

小出 彰宏

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

学校における保健教育及び保健管理を通じて、健康に関する考え方を学び、生涯に渡って自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる手法について学習する。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 学校保健概論
- 第2週 心の健康（コミュニケーションスキルについて）
- 第3週 喫煙の害
- 第4週 飲酒の害
- 第5週 薬物乱用の害
- 第6週 生活習慣病
- 第7週 セルフケア
- 第8週 医薬品
- 第9週 感染症
- 第10週 薬害
- 第11週 食中毒
- 第12週 食物アレルギー
- 第13週 学校給食の衛生管理
- 第14週 学校環境衛生
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 適宜配布する資料プリントを次回授業までに読み、専門用語等を理解しておくこと。発表・レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 資料プリント等を復習し、不明な点があれば次回授業で質問すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料プリントを適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、レポート等課題提出25%、平常点（授業への積極的参加）25%。レポートについては次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

『新訂版 学校保健実務必携』（第一法規）

学校図書館サービス論

学校図書館における図書館サービスを考える

小川 三和子

2年 前期 2単位

提出物は、後日提出すること。次回の準備も確認しておくこと。

【授業のテーマ】

「学校司書のモデルカリキュラム」に準じる科目。

学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。

本授業では、学校図書館の目的と機能を生かし、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応する情報サービスの理論を学び、事例を通して考察する。環境整備、読書活動、授業支援等のための演習も行い、実践力も養う。

【授業における到達目標】

- ①学校図書館における学校図書館サービスを理解する。
- ②学校図書館運営の方法を学び、学校図書館業務を理解する。
- ③児童生徒の読書や授業への支援の方法を学ぶ。

【授業の内容】

- 第1回 学校教育と学校図書館
- 第2回 学校図書館サービスの考え方と構造
(課題…学校図書館の特性を考える)
- 第3回 学校図書館の環境整備 1 概論
- 第4回 学校図書館の環境整備 2 ポップ作成 (実習)
- 第5回 学校図書館の運営、学校図書館利用のガイダンス
- 第6回 資料・情報の提供、児童生徒への読書支援 1 ブックトーク等
- 第7回 児童生徒への読書支援 2 読み聞かせ (演習)
- 第8回 児童生徒への読書支援 3 ビブリオバトル (演習)
- 第9回 各教科等の学習への支援
- 第10回 探究的な学習への支援
- 第11回 教職員への支援
- 第12回 広報・渉外活動 (課題…学校図書館便り作成)
- 第13回 公共図書館と学校図書館の連携・ネットワーク
- 第14回 まとめと振り返り
- 第15回 特別なニーズに応じた支援

【事前・事後学修】

【事前学修】読書に親しみ、児童書の選書など、授業に必要な準備をしておく。また、図書館法、学校図書館法、学校図書館ガイドラインを読んでおくこと。インターネットで読める。(週2時間)

【事後学修】課題が出たときは、課題に取り組む。プリントを整理し、教科書等で復習する。第14回で使用する。(週2時間)

【テキスト・教材】

小川三和子：学校図書館サービス論[青弓社、2018、¥1,800(税抜)、※あると便利だが必ずしも買う必要はない。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・課題やコメントペーパー等、毎時の提出物 40% 次回授業時にフィードバックを行う。
- ・授業への取り組みと準備 20%
- ・まとめのレポート 40% 第15回にフィードバックを行う。

【参考書】

- 中学校・高等学校での探究的な学習の参考
- ・片岡則夫『なんでも「学べる学校図書館」をつくる』少年写真新聞社、2013.
 - ・片岡則夫『なんでも「学べる学校図書館」をつくる2』少年写真新聞社、2017.
 - ・桑田てるみ『思考を深める探究学習』全国学校図書館協議会、2016.

【注意事項】

- ・児童書に親しむとともに、大学生としても読書に親しむこと。
- ・児童書等を持参することがあるので、忘れないこと。詳細は、第1回授業で説明する。
- ・欠席をした場合は、出席者に授業内容を聞き、教科書を読んで、

学校図書館メディアの構成

多様なメディアへのアクセスポイントを考える

安藤 友張

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

学校図書館は、多種多様なメディアを収集し、組織化し、利用者に提供する。学校図書館におけるテクニカルサービス、すなわち選書から図書の種類・目録作成などの専門的業務の意義と内容について解説する。学校図書館におけるメディアの構成、すなわちメディアの収集や組織化の学習を通して、司書教諭に求められる実務能力の育成を図る。

【授業における到達目標】

- ・多種多様なメディアの特性を理解することができる。
- ・メディアセンターとしての学校図書館における資料組織化の方法を学び、実務能力を修得する。
- ・図書分類の学習を通して、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 学校図書館メディアの種類とその特性 ① 印刷資料
 第3回 学校図書館メディアの種類とその特性 ② 視聴覚資料
 第4回 学校図書館メディアの種類とその特性 ③ 電子資料
 第5回 学校図書館メディアの構築（コレクションの構築）
 第6回 メディアの流通と収集
 第7回 学校図書館メディアの選択
 第8回 学校図書館メディアの組織化 ① 分類の意義と機能
 第9回 学校図書館メディアの組織化 ② 日本十進分類法の仕組み
 第10回 学校図書館メディアの組織化 ③ 日本十進分類法による図書分類の実際
 第11回 学校図書館メディアの組織化 ④ 目録の意義と機能
 第12回 学校図書館メディアの組織化 ⑤ 日本目録規則の解説
 第13回 学校図書館メディアの組織化 ⑥ OPAC（コンピュータ目録）
 第14回 学校図書館メディアの組織化 ⑦ 件名標目表
 第15回 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

図書館における蔵書の背ラベルの番号（請求記号）に注目しながら、図書館を利用していただくこと。図書館の館種は学校図書館でなくともよい（学修時間 週2時間）。

【事後学修】

授業中に配布したプリントを使って、図書館情報学の専門用語を復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

小田光宏編『学校図書館メディアの構成』樹村房、2016年

【注意事項】

日本十進分類法など、図書館情報学の専門的内容（知識）を数多く学ぶので、事後学修を必ず行うこと。

学習指導と学校図書館

アクティブ・ラーニングを促進する学校図書館

安藤 友張

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

近年、日本の学校教育では、探究学習をはじめ、アクティブ・ラーニングの重要性が認識されている。アクティブ・ラーニング、すなわち「主体的かつ対話的な深い学び」が次期学習指導要領に明記された。本科目では、アクティブ・ラーニングを促進するための学校図書館の果たすべき役割を考える。同時に、司書教諭による学校図書館を活用した授業実践の事例を検討する。

【授業における到達目標】

- ・児童生徒の学習活動における学校図書館メディア活用能力の意義を理解する。
- ・児童生徒の学習活動を支援する学校図書館の情報サービス（レファレンスサービス）の理論と実践について理解する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 教育課程と学校図書館
 第3回 総合学習と学校図書館
 第4回 児童生徒の発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
 第5回 学校図書館メディア活用能力の育成
 第6回 学習過程における学校図書館メディアの活用事例（1）小学校の実践事例
 第7回 学習過程における学校図書館メディアの活用事例（2）中学校・高等学校の実践事例
 第8回 情報サービス（レファレンスサービス）の理論
 第9回 情報サービス（レファレンスサービス）の実際
 第10回 参考図書（レファレンスブック）
 第11回 学校図書館の利用指導
 第12回 教員に対する支援：教材研究に対する支援
 第13回 学校図書館を活用した授業の指導案の作成
 第14回 学校図書館を活用した授業の指導案の検討
 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】アクティブ・ラーニングの概念について、図書館所蔵の関連文献を用いて各自調べておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業中に配付した各種のプリントを読み返し、復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

- ・使用しない。プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験70%、授業時間中に作成する小レポート（学習指導案の作成など）30%で総合的に評価する。学生による授業アンケートを実施後、成績評価を含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

- ・稲井達也著『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン：「主体的・対話的で深い学び」の実現』（学事出版、2017年）
- ・溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（東信堂、2014年）

【注意事項】

図書館所蔵の参考図書（レファレンスブック）には、百科事典以外に、どのような種類の図書があるのか。本科目の履修期間に、必ず図書館で調べてみることを。

学習心理学

粟津 俊二

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

ヒトは様々な物事を学んで成長する。我々ができること、知っていることの多くは学習を通して身に付けたものである。この授業では、「行動が変わる」という行動の学習と、ヒトの特徴でもある言葉の獲得を中心に、なぜ、どのように学習していくのか、どうすれば学びやすいかという問題を扱う。

【授業における到達目標】

「何かを身につけるときには、どうすればよいか」について、自分なりの考えを持ってもらうことが目的である。これにより、多様な人間を受容する態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへの貢献を目指す。

【授業の内容】

1. ガイダンス-学習心理学とは何か
2. 動機による行動変化過程
3. 内発的動機づけ
4. 経験による学習1-分類
5. 経験による学習2-レスポナント学習
6. 経験による学習3-オペラント学習
7. 経験による学習4-行動の増減
8. 経験による学習5-応用
9. 他者からの学習1-分類
10. 他者からの学習2-仕組み
11. 言語の習得1-言葉とは何か
12. 言語の習得2-語い学習
13. 言語の習得3-使い方の学習
14. 言語の習得4-言語と身体
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲について参考図書等で予習し、専門用語を知っておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について参考図書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。（学修時間 週2時間程度。）

【テキスト・教材】

指定しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（100%）

試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行う。

【参考書】

- ・無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『心理学』（有斐閣、2004年）
- ・山内光哉・春木豊（編著）『グラフィック学習心理学：行動と認知』（サイエンス社）
- ・J. E. メイザー（著）磯博行・坂上貴之・河井伸幸（訳）『メイザーの学習と行動』（二瓶社）

学習心理学

粟津 俊二

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

ヒトは様々な物事を学んで成長する。我々ができること、知っていることの多くは学習を通して身に付けたものである。この授業では、「行動が変わる」という行動の学習と、ヒトの特徴でもある言葉の獲得を中心に、なぜ、どのように学習していくのか、どうすれば学びやすいかという問題を扱う。

【授業における到達目標】

「何かを身につけるときには、どうすればよいか」について、自分なりの考えを持ってもらうことが目的である。これにより、多様な人間を受容する態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへの貢献を目指す。

【授業の内容】

1. ガイダンス-学習心理学とは何か
2. 動機による行動変化過程
3. 内発的動機づけ
4. 経験による学習1-分類
5. 経験による学習2-レスポナント学習
6. 経験による学習3-オペラント学習
7. 経験による学習4-行動の増減
8. 経験による学習5-応用
9. 他者からの学習1-分類
10. 他者からの学習2-仕組み
11. 言語の習得1-言葉とは何か
12. 言語の習得2-語い学習
13. 言語の習得3-使い方の学習
14. 言語の習得4-言語と身体
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲について参考図書等で予習し、専門用語を知っておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について参考図書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。（学修時間 週2時間程度。）

【テキスト・教材】

指定しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（100%）

試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行う。

【参考書】

- ・無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『心理学』（有斐閣、2004年）
- ・山内光哉・春木豊（編著）『グラフィック学習心理学：行動と認知』（サイエンス社）
- ・J. E. メイザー（著）磯博行・坂上貴之・河井伸幸（訳）『メイザーの学習と行動』（二瓶社）

感情・人格心理学

荒木 剛

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「十人十色」という言葉が端的に示すように、人間の感情や行動における個人差は実に多様である。心理学における感情とパーソナリティの研究は、個人差を生み出すメカニズムを理解するべく様々なアプローチを試みてきた。本講義では、その歴史を紹介したうえで最新の研究成果について解説し、ひとりひとりの人間が“個性的”であることの理由と意義を探っていく。

【授業における到達目標】

心理学における感情およびパーソナリティの研究の歴史と最新の研究動向を学ぶことを通して、心理学の視点から人間の感情と行動の個人差を理解できるようになる。

【授業の内容】

第1回：イントロダクション
 <第1部>感情・パーソナリティの基盤
 第2回：感情とパーソナリティの理論
 第3回：Big Fiveと特性の脳内基盤
 第4回：感情の生物学的基盤および行動遺伝学によるパーソナリティの理解
 <第2部>感情・パーソナリティの社会的機能
 第5回：パーソナリティの測定、心理検査
 第6回：社会的感情とパーソナリティ
 第7回：健康関連行動とストレス対処の個人差
 第8回：動機づけと自己決定理論
 <第3部>感情・パーソナリティの発達
 第9回：気質と養育環境
 第10回：自己概念、自尊感情、自己確認過程
 第11回：発達精神病理学とレジリエンス
 第12回：進化心理学による感情とパーソナリティの理解
 <第4部>感情・パーソナリティの応用
 第13回：人材の採用、適性検査、EQ
 第14回：人材の管理と開発、ストレスチェック
 第15回：まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修（週2時間）】**

心理学の初歩的知識を有していることを前提に講義を進める。
 心理学の入門書などを通して、事前に学習しておくこと。

【事後学修（週2時間）】

既存の知識や自らの体験と、授業で得た知識を関連付けて理解するように努めること。

【テキスト・教材】

授業にて、適宜資料プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【成績評価基準】**

講義内容を踏まえて人間行動の個人差を理解するための枠組みを獲得することができたか、その程度についてレポート等を通して評価し、フィードバックを行う。

【成績評価の方法】

レポート（70%）
 平常点（コメントシートの記入内容により評価する：30%）

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【注意事項】

適時メモを取りながら講義内容を理解するように努めること。
 講義に対する感想、疑問、意見などがあれば、授業中に配布するコメントシートに書いて提出すること。

感性与生活情報システム

情報システムを用いた感性の評価方法について

佐藤 健

2年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

感性kanseiは、感覚sensation、感情feeling、イメージimageあるいは印象impressionという心の働きとその背後にある生理的過程を指す用語として使われている。言葉にすることもなかなか難しい漠然とした心の働きであるため、それを情報システムを用いて感性をどのように測定評価するかが重要なテーマになる。たとえば日常生活の行動が情報システムの支援の上で成り立っている。したがって、情報システムを用いた感性の測定方法を講義し、実際にデータを収集して感性工学的スキルを習得することを目標とする。人間の情報処理機能の概論から情報システムを利用してデータ処理や官能評価を理解することを目標としている。

【授業における到達目標】

高度な情報システムで稼動するパッケージソフトを使って解析スキルを習得し、広い視野と深い洞察力を用いて自らの「研鑽力（○）」を高めることを目標とします。また、脳機能の知識を得て日常生活における「美の探求（○）」ができるようになる基本的な素養を習得することを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 生活を支える情報システム
- 第2週 情報システムによる感性測定法
- 第3週 生活情報システムの例（ビックデータ）
- 第4週 情報システムを用いたIoTとCPSについて
- 第5週 尺度による感性情報の評価
- 第6週 情報システムを用いたクラウドサービスについて
- 第7週 情報システムを用いた感性の生理測定法（中枢神経系）
- 第8週 情報システムを用いた感性の生理測定法（自律神経系）
- 第9週 情報システムを用いたリハビリテーション
- 第10週 情報システムを用いた感情や心拍変動
- 第11週 情報システムによるディープデータ
- 第12週 センサーデバイスと情報システム
- 第13週 情報ネットワークシステムの見学
- 第14週 スマートシティの未来
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

【事前・事後学修】

事前学修として、授業時に毎回小テストに相当する用語の理解を問う課題に回答する。事後学修として、授業後に毎回の授業内容を理解しているか確認する課題を学習システムのマナバに提出する。なお、期末レポート等と合わせて、約60時間相当の学修時間が必要です。事前事後学修の一つとして、日程が合えば学外での展示会を紹介する。

【テキスト・教材】

適宜、教場で示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席時の小テスト：30%、授業中に課すレポート：30%、期末テスト（レポート作成）：40%

レポートやデータの処理方法などは、随時授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

教場で指示する

【注意事項】

学外（自宅等）でもインターネットの利用ができる環境を持つことが望ましい。

感染と防御

佐々木 溪円

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちは免疫系の働きによって、病原体を異物として認識し排除することで、生命を維持しています。この授業では、代表的な病原体の特徴と免疫系の仕組みを学びます。また、医療機関や福祉施設等で必要となる、感染制御対策の知識を習得します。

【授業における到達目標】

- 1) 代表的な病原体や感染症の特徴を説明できる。
- 2) 感染源と宿主との関連性を概説できる。
- 3) 免疫系の仕組みを概説できる。
- 4) 医療機関等で必要となる感染制御対策を説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 ヒトと感染症、感染のしくみ
- 第2回 免疫・生体防御機構
- 第3回 免疫異常
- 第4回 感染症の予防と感染制御対策
- 第5回 細菌の生活現象と病原性
- 第6回 細菌感染症の検査と診断
- 第7回 細菌感染症の治療
- 第8回 主な病原細菌と疾患1（グラム陽性球菌など）
- 第9回 主な病原細菌と疾患2（抗酸菌、らせん菌など）
- 第10回 ウイルスの形態、構造、病原性
- 第11回 主な病原ウイルスと疾患1（DNAウイルス）
- 第12回 主な病原ウイルスと疾患2（RNAウイルス）
- 第13回 真菌感染症
- 第14回 寄生虫感染症1（寄生虫とは、線虫類）
- 第15回 寄生虫感染症2（吸虫類、条虫類、原虫類）

【事前・事後学修】

○事前学修：各授業の最後に、次回までに予習する範囲を示しますので、必ず予習をしてください。予習範囲について、プレテストやグループ学習を行います。生物学に苦手意識がある人は、微生物学等で学んだ内容も適宜確認しましょう。（学修時間 週2時間）

○事後学修：復習をしても理解できなかった箇所は後回しにしないで、参考書で調べたり担当教員のオフィスアワーを活用して、次回の授業までに解決できるように努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

藤本秀士：わかる！身につく！病原体・感染・免疫[南山堂、2017、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：筆記試験70% + プレテストとグループ学習30%

※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

中込治・神谷茂 編『標準微生物学』（医学書院）

松島綱治・山田幸宏 訳『基礎免疫学』（エルゼビア・ジャパン）

漢字書法 1

—abcクラス・基礎から学ぶ漢字書法（楷書）—

亀田 絵里香

2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

長い歴史の中で書は、人文的要素及び社会的要素によってその様式美を構築してきました。本講座では「楷書」の筆使いや筆運び、結体や結構という文字の構築方法を学び、基礎技法の修得を目標とします。実技では初唐の三大家の古典臨書を通じて書的美を味わいます。書を学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって書を愛好する心情を育て、書を続ける【研鑽力】を修得することを期待します。

【授業における到達目標】

楷書の基礎的理解と基礎技法の習得をはかる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 書道用語・用具の説明
- 第3週 ①楷書とは ②学習指導要領
- 第4週 9つの基本点画
- 第5週 実技実習 二字句
- 第6週 実技実習 三字句
- 第7週 実技実習《孔子廟堂碑》①概説 成立
- 第8週 実技実習《孔子廟堂碑》②概説 虞世南と内容
- 第9週 実技実習《九成宮醴泉銘》①概説 成立
- 第10週 実技実習《九成宮醴泉銘》②概説 欧陽詢
- 第11週 実技実習《九成宮醴泉銘》③概説 内容
- 第12週 実技実習《雁塔聖教序》①概説 成立
- 第13週 実技実習《雁塔聖教序》②概説 チョ遂良と内容
- 第14週 実技実習 硬筆
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し、練習をしてこること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。学習シートに取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】毎時きちんと筆と硯を洗うこと。時間をかけて丁寧に墨がなくなるまでしっかり洗うこと。講義終了時に配布する学習シートに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会編『書の古典と理論』（光村図書出版、2013年）2,160円

随時、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（用具の手入れ、書く姿勢、用具の持ち方、書技力、小テスト）、提出物50%（作品、学習シート）。

提出作品のフィードバックは都度行う。

【参考書】

実習内容に応じて指示をする。

【注意事項】

「漢字書法2」（後期）と合わせて履修することが望ましい。

実技と鑑賞の双方の能力を養い、感性を豊かにするように心掛けましょう。

漢字書法 1

—defクラス・基礎から学ぶ漢字書法—

小川 博章

2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

漢字書法の基礎を学ぶ。楷書における用筆・結構などの基礎技法を習得するとともに書作品の鑑賞眼を涵養する。

【授業における到達目標】

○古典臨書によって行草筆法（結構法、線質特徴、章法）を修得し、行草書創作品を制作できるようになる。

○東洋独特の芸術である書法を身につけることで、学生が修得すべき「国際的視野」の日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する。

また、学生が修得すべき「研鑽力」の学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

- 第1週 用具・用材の基礎解説
- 第2週 楷書概論、基本点画、永字八法
- 第3週 蘇慈墓誌の臨書①（結構法）
- 第4週 蘇慈墓誌の臨書②（線質特徴）
- 第5週 蘇慈墓誌の臨書③（章法）
- 第6週 九成宮醴泉銘の臨書①（結構法）
- 第7週 九成宮醴泉銘の臨書②（線質特徴）
- 第8週 九成宮醴泉銘の臨書③（章法）
- 第9週 雁唐聖教序の臨書①（結構法）
- 第10週 雁唐聖教序の臨書②（線質特徴）
- 第11週 雁唐聖教序の臨書③（章法）
- 第12週 楷書の創作①（結構法）
- 第13週 楷書の創作②（線質特徴）
- 第14週 楷書の創作③（章法）
- 第15週 楷書作品の鑑賞と評価

【事前・事後学修】

事前学修：指定された文字の筆順と字形特徴を確認する。（学修時間 2時間）

事後学修：自己作品の問題点をレスポンスシートに記入し提出する。関連する技法については次の授業で説明を加える。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会編：書の古典と理論[光村図書出版、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題と授業態度で総合評価します。評価基準は、結構法・用筆法などの基本的書法技術の習得を採点します。（評価配分は提出課題60%、授業態度40%）

提出課題の評価については、次回授業中の各学生添削指導時にフィードバックします。

【参考書】

『書道全集』（平凡社）

『書跡名品送叢刊』（二玄社）

【注意事項】

博物館・美術館の常設展や企画展を参観し、鑑賞眼を養ってください。

漢字書法 2

—abcクラス・基礎から学ぶ漢字書法（行書）—

亀田 絵里香

2年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

長い歴史の中で書は、人的要素及び社会的要素によってその様式美を構築してきました。本講座では「行書」の筆使いや筆運び、くずし方などの行書特有の規則の理解と表現を中心に基礎技法の修得を目標とします。実技では王羲之・チョ遂良・顔真卿の古典臨書を通じて、行書の美しさを味わいます。古典といわれる歴代の書の名品を鑑賞し、深い洞察力を育み、書を生涯にわたって続ける【研鑽力】を修得することを期待します。

【授業における到達目標】

行書の基礎的理解と基礎技法の修得をはかる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 書道用語・用具の説明
①行書とは ②学習指導要領
- 第3週 実技実習 基本用筆
- 第4週 実技実習 二字句
- 第5週 実技実習 五字句（仮名交じり）
- 第6週 実技実習《蘭亭序》①概説 成立
- 第7週 実技実習《蘭亭序》②概説 王羲之
- 第8週 実技実習《蘭亭序》③概説 内容
- 第9週 実技実習《集王聖教序》①概説 成立
- 第10週 実技実習《集王聖教序》②概説 内容
- 第11週 実技実習《枯樹賦》①概説 成立
- 第12週 実技実習《枯樹賦》②概説 チョ遂良と内容
- 第13週 実技実習《祭姪文稿》概説
- 第14週 実技実習 硬筆
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し、練習してくる。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。学習シートに取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】毎時きちんと筆と硯を洗うこと。時間をかけて丁寧に墨がなくなるまでしっかり洗うこと。講義終了時に配布する学習シートに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会編『書の古典と理論』（光村図書出版、2013年）2,160円

随時、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 50%（用具の手入れ、書く姿勢、用具の持ち方、書技力、小テスト）、提出物 50%（作品、学習シート）。

提出作品のフィードバックは都度行う。

【参考書】

実習内容に応じて指示をする。

【注意事項】

「漢字書法1」（前期）と合わせて履修することが望ましい。実技と鑑賞の双方の能力を養い、感性を豊かにするように心掛けましょう。

漢字書法 2

—defクラス・王羲之の魅力発見—

小川 博章

2年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

漢字書法の基礎を学ぶ。行草書における用筆・結構などの基礎技法を習得するとともに書作品の鑑賞眼を涵養する。

【授業における到達目標】

○古典臨書によって行草書筆法（結構法、線質特徴、章法）を修得し、行草書創作品を制作できるようになる。

○東洋独特の芸術である書法を身につけることで、学生が修得すべき「国際的視野」の日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する。

また、学生が修得すべき「研鑽力」の学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

- 第1週 行書概論、行書の基本筆法
- 第2週 王羲之、蘭亭序について
- 第3週 蘭亭序全臨①（基本点画の学習）
- 第4週 蘭亭序全臨②（点と線の学習）
- 第5週 蘭亭序全臨③（横画の学習）
- 第6週 蘭亭序全臨④（縦画の学習）
- 第7週 蘭亭序全臨⑤（左右はらいの学習）
- 第8週 蘭亭序全臨⑥（転折の学習）
- 第9週 蘭亭序全臨⑦（はねの学習）
- 第10週 蘭亭序全臨⑧（章法の学習）
- 第11週 蘭亭序全臨⑨（落款の学習）
- 第12週 蘭亭序全臨⑩（誤字、脱字の処理方法）
- 第13週 製本、装幀
- 第14週 相互評価
- 第15週 行書作品の鑑賞

【事前・事後学修】

事前学修：指定された文字の筆順と字形特徴を確認する。（学修時間 2時間）

事後学修：自己作品の問題点をレスポンスシートに記入し提出する。関連する技法については次の授業で説明を加える。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会編：書の古典と理論[光村図書出版、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題と授業態度で総合評価します。評価基準は、結構法・用筆法などの基本的書法技術の習得を採点します。（評価配分は提出課題60%、授業態度40%）

提出課題の評価については、次回授業中の各学生添削指導時にフィードバックします。

【参考書】

『書道全集』（平凡社）

『中国書跡名品叢刊』（二玄社）

【注意事項】

博物館・美術館の常設展や企画展を参観し、鑑賞眼を養ってください。

漢文学 a

『十八史略』（じゅうはっしりやく）から学ぶ基礎漢文

前野 清太郎

2年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は漢文読解のための基礎力を文献講読から身につけることを目的とします。授業教材には『十八史略』（7巻本）を用います。本書は古代から南宋の滅亡までの中国歴史史書を一冊にまとめた教科書として14世紀に執筆され民間に流通したテキストです。日本へは室町時代に伝来し、江戸後期から明治20年代にかけて初学者向けの歴史・漢文教科書として広く用いられました。平易な文体のテキストから漢文の基本文法をしっかりと体得できれば幸いです。

【授業における到達目標】

この授業を通じた学習の到達目標は次の2点です。

1. 漢文の文法構造を理解して白文から意味がとれるようになる。
2. 歴史的な用語の意味を自ら調べる能力を身につける。

【授業の内容】

- 第01講 ガイダンス——漢文基礎の復習
 第02講 秦始皇帝 1「秦始皇帝、名は政・・・」
 第03講 秦始皇帝 2「始皇以為へらく咸陽・・・」
 第04講 漢の高祖・劉邦 1「姓は劉氏、名は邦・・・」
 第05講 漢の高祖・劉邦 2「初め淮陰の韓信・・・」
 第06講 漢の高祖・劉邦 3「六国の王を立てよと・・・」
 第07講 漢の高祖・劉邦 4「故の斉王田横、其の・・・」
 第08講 漢の高祖・劉邦 5「匈奴、辺に寇す・・・」
 第09講 恵帝と文帝「名は盈、母は呂太后・・・」
 第10講 景帝から武帝へ「帝の太子たる時・・・」
 第11講 漢の武帝 2「方士の李少君、上に見へ・・・」
 第12講 漢の武帝 3「霍光を以て大司馬と・・・」
 第13講 昭帝と宣帝「蘇武、匈奴より還る・・・」
 第14講 漢の宣帝 2「延寿、吏と為り古の教化を・・・」
 第15講 まとめ——中国史の原型

【事前・事後学修】

（事前学修）初回講義で教材テキストを配布します。第二回の講義では、講師が解説を交えながらテキストの読解を行います。第三回目以降の講義では、講義前に不明な語句について調べ、訳文を作成してきてください。（学修時間 週2時間）

（事後学修）授業中にわからなかった書き下し・訳文および重要語句をリストアップし復習を行ってください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

初回の授業ガイダンスで指示します。原則として各回の授業で次回授業に使用する原文プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の講義での発言・質問（30%）、試験（70%）で評価します。試験は実施後に翌週授業中で解説・フィードバックを行います。

【参考書】

加藤徹『白文攻略 漢文法ひとり学び』（白水社、2013年）本体2,400円＋税

漢文学 b

『十八史略』（じゅうはっしりやく）から学ぶ基礎漢文

前野 清太郎

2年 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は漢文読解のための基礎力を文献講読から身につけることを目的とします。授業教材には『十八史略』（7巻本）を用います。本書は古代から南宋の滅亡までの中国歴史史書を一冊にまとめた教科書として14世紀に執筆され民間に流通したテキストです。日本へは室町時代に伝来し、江戸後期から明治20年代にかけて初学者向けの歴史・漢文教科書として広く用いられました。平易な文体のテキストから漢文の基本文法をしっかりと体得できれば幸いです。

【授業における到達目標】

この授業を通じた学習の到達目標は次の2点です。

1. 漢文の文法構造を理解して白文から意味がとれるようになる。
2. 歴史的な用語の意味を自ら調べる能力を身につける。

【授業の内容】

- 第01講 ガイダンス——前期の学習事項の復習
 第02講 唐の高祖「姓は李氏、名は淵・・・」
 第03講 高祖と太宗「唐興りて七年、僭偽皆亡ぶ・・・」
 第04講 唐の太宗・李世民 2「天下を分かちて・・・」
 第05講 唐の太宗・李世民 3「吐蕃、文成公主を・・・」
 第06講 則天武后「則天武氏は故の・・・」
 第07講 唐の玄宗 1「帝、位に復す・・・」
 第08講 唐の玄宗 2「禄山、楊貴妃の児と為るを・・・」
 第09講 宋の太祖・趙匡胤 1「周祖、子無し・・・」
 第10講 宋の太祖・趙匡胤 2「宰相、范質ら罷むるを・・・」
 第11講 宋の太祖・趙匡胤 3「曹彬に命じて江南を・・・」
 第12講 宋の太宗 1「初め名は匡胤、太祖の・・・」
 第13講 宋の太宗 2「女真遂に契丹に臣たり・・・」
 第14講 宋の真宗「嘗て夢に一大殿に至り・・・」
 第15講 まとめ——中国史の形成

【事前・事後学修】

（事前学修）初回講義で教材テキストを配布します。第二回の講義では、講師が解説を交えながらテキストの読解を行います。第三回目以降の講義では、講義前に不明な語句について調べ、訳文を作成してきてください。（学修時間 週2時間）

（事後学修）授業中にわからなかった書き下し・訳文および重要語句をリストアップし復習を行ってください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

初回の授業ガイダンスで指示します。原則として各回の授業で次回授業に使用する原文プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の講義での発言・質問（30%）、試験（70%）で評価します。試験は実施後に翌週授業中で解説・フィードバックを行います。

【参考書】

加藤徹『白文攻略 漢文法ひとり学び』（白水社、2013年）本体2,400円＋税

漢文学基礎演習1

－「六朝志怪小説」－

宮下 聖俊

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本の文化・文学は、中国の文化・文学から多大な影響を受けてきた。たとえば日本語で文章を書くことひとつをとっても、本来は中国語を記述するために作り出された漢字を用いなければ表記しきれない。このように、どこまでいっても完全には拭い去れない中国の文化・文学が、日本には影響している。その日本で生活している以上、漢字・漢文学を正しく理解する力を養うことはプラスには作用しても、マイナスにはならないであろう。

この授業は、中国文学（漢文学）を自分で読解できる力を養うことを目標とする。主に、漢文の訓読法を学ぶ。また「志怪（怪をする）」小説を教材とすることで、種々の物語のひとつの源流ともいべき中国の説話に関する知識を深めることも目標とする。

【授業における到達目標】

漢文の基本構造を理解して、辞書の適切な活用方法を身につけ、未知の漢文にそれらを用い自ら取り組んでいくことで「論理的思考能力」「問題解決能力」を高める。

【授業の内容】

「六朝志怪小説」を読む。

第1回 前期ガイダンス

第2回 漢文訓読の基礎（1）漢字の音

第3回 漢文訓読の基礎（2）漢字の訓

第4回 漢文訓読の基礎（3）漢文の型

第5回 漢文訓読の基礎（4）否定の型

第6回 漢文訓読の基礎（5）訓点

第7回 「六朝志怪小説」の演習 導入

第8回 「六朝志怪小説」中の一話の演習① 冒頭部分

第9回 「六朝志怪小説」中の一話の演習② 中盤部分

第10回 「六朝志怪小説」中の一話の演習③ 終盤部分

第11回 「六朝志怪小説」中の一話の演習④ 冒頭部分

第12回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑤ 中盤部分

第13回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑥ 終盤部分

第14回 「六朝志怪小説」の演習 問題点の整理

第15回 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】原文を読む授業が始まったら、当該箇所の予習（それぞれの漢字の意味を辞書で調べる・自分なりの訓読と現代語訳をする）をしてくること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を踏まえて、予習の段階で不明だったところを復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

・近藤春雄編『中国志怪・伝奇選』（武蔵野書院、1976年）

本体価格：700円＋税

・漢和辞典（何でも良い・電子辞書でも可）

ただし次の辞典を推奨する。

『全訳漢辞海』（三省堂）2,840円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験を実施する。

試験＝70点満点、平常点（予習状況）＝30点満点

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

各自図書館などで探すこと。参考書を探すことも勉強の一つ。

【注意事項】

受講者は全員毎回必ず予習をして出席すること。予習をしていないと判断される場合は欠席扱いとすることがある。また漢和辞典は毎回必携のこと。

漢文学基礎演習2

－「六朝志怪小説」－

宮下 聖俊

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、中国文学（漢文学）を自分で読解できる力を養うことを目標とする。主に、漢文の訓読法を学ぶ。また「志怪（怪をする）」小説を教材とすることで、種々の物語のひとつの源流ともいべき中国の説話に関する知識を深めることも目標とする。

【授業における到達目標】

漢文の基本構造を理解して、辞書の適切な活用方法を身につけ、未知の漢文にそれらを用い自ら取り組んでいくことで「論理的思考能力」「問題解決能力」を高める。

【授業の内容】

「六朝志怪小説」を読む。

第1回 後期ガイダンス

第2回 漢文訓読の基礎（1）復習

第3回 漢文訓読の基礎（2）発展的復習

第4回 「六朝志怪小説」の演習 導入

第5回 「六朝志怪小説」中の一話の演習① 冒頭部分

第6回 「六朝志怪小説」中の一話の演習② 中盤部分

第7回 「六朝志怪小説」中の一話の演習③ 終盤部分

第8回 「六朝志怪小説」中の一話の演習④ 冒頭部分

第9回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑤ 中盤部分

第10回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑥ 終盤部分

第11回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑦ 冒頭部分

第12回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑧ 中盤部分

第13回 「六朝志怪小説」中の一話の演習⑨ 終盤部分

第14回 「六朝志怪小説」の演習 問題点の整理

第15回 総括

（新しい受講者がいない場合、第2回から演習に入る）

【事前・事後学修】

【事前学修】原文を読む授業が始まったら、当該箇所の予習（それぞれの漢字の意味を辞書で調べる・自分なりの訓読と現代語訳をする）をしてくること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を踏まえて、予習の段階で不明だったところを復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

・近藤春雄編『中国志怪・伝奇選』（武蔵野書院、1976年）

本体価格：700円＋税

・漢和辞典（何でも良い・電子辞書でも可）

ただし次の辞典を推奨する。

『全訳漢辞海』（三省堂）2,840円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験を実施する。

試験＝70点満点、平常点（予習状況）＝30点満点

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

各自図書館などで探すこと。参考書を探すことも勉強の一つ。

【注意事項】

受講者は全員毎回必ず予習をして出席すること。予習をしていないと判断される場合は欠席扱いとすることがある。また漢和辞典は毎回必携のこと。

漢文学基礎講読 a

—『三国志』講読—

田中 靖彦

1年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、日本でも親しまれている『三国志』を教材として、漢文の訓読と読解を基礎から学ぶとともに、中国の歴史と文化に関する知識を深めることを目標とします。

【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文の読解・訓読の基礎を習得し、漢文を訓読・解釈できる。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】授業への積極的参加により、自己や他者の役割について理解を深める。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 三国時代と『三国志』（講義）
 第3週 第1課「黄巾の乱」（蜀書二・先主伝）
 第4週 第2課「董卓の専横」（魏書六・董卓伝）
 第5週 第3課「曹操の挙兵」（魏書一・武帝紀）
 第6週 第4課「孫堅の活躍」（呉書一・孫破虜伝）
 第7週 第5課「劉備と関張」（蜀書六・関羽伝・張飛伝）
 第8週 第6課「袁紹の覇権」（魏書六・袁紹伝）
 第9週 第7課「官渡の戦い」（魏書一・武帝紀）
 第10週 第8課「江東を託す」（呉書一・孫討逆伝）
 第11週 第9課「三顧の礼」（蜀書五・諸葛亮伝）
 第12週 第10課「長阪の忠臣」（蜀書六・趙雲伝）
 第13週 第11課「赤壁の戦い」（呉書九・周瑜伝）
 第14週 第11課「赤壁の戦い」「時劉備為曹公所破」から
 第15週 まとめ
 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦：漢文講読テキスト 三国志[白帝社、2008、¥1,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み20%、試験80%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

漢文や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

漢文学基礎講読 b

—『三国志』講読—

田中 靖彦

1年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、日本でも親しまれている『三国志』を教材として、漢文の訓読と読解を基礎から学ぶとともに、中国の歴史と文化に関する知識を深めることを目標とします。

【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文の読解・訓読の基礎を習得し、漢文を訓読・解釈できる。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】授業への積極的参加により、自己や他者の役割について理解を深める。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 中国における『三国志』（講義）
 第3週 第12課「劉備の入蜀」（蜀書七・ホウ統伝）
 第4週 第13課「漢魏革命」（魏書二・文帝紀）
 第5週 第13課「漢魏革命」「漢帝以衆望在魏……」から
 第6週 第14課「遺孤を託す」（蜀書五・諸葛亮伝）
 第7週 第15課「出師の表」（蜀書五・諸葛亮伝）
 第8週 第15課「出師の表」「臣本布衣……」から
 第9週 第16課「泣いて馬謖を斬る」（蜀書五・諸葛亮伝）
 第10週 第17課「秋風五丈原」（蜀書五・諸葛亮伝）
 第11週 第17課「秋風五丈原」「亮遺命葬……」から
 第12週 第18課「正始の政変」（魏書九・曹真伝附・曹爽伝）
 第13週 第19課「蜀漢の滅亡」（魏書二十八・鄧艾伝）
 第14週 第20課「三国の統一」（呉書三・孫皓伝）
 第15週 まとめ
 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦：漢文講読テキスト 三国志[白帝社、2008、¥1,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み20%、試験80%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

前期の「漢文学基礎講読 a」を履修済みであることが望ましいですが、必須ではありません。ただし未履修の場合は、予習と復習にいつそう重点を置いて学修を進めてください。漢文や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

漢文学研究A

中国の歴史と歴史観

田中 靖彦

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

中国の歴史と歴史観についての講義です。中国の歴史の概説を学ぶのと並行して、中国における歴史書の筆法や、正統論の概念について検討します。

【授業における到達目標】

中国の歴史と歴史観についての理解を深めることを目指します。学生のみなさまは、史学の知識を深めることを通して、ご自身を取り組んでみたい研究テーマを模索し、その分野の研究状況を自分なりに理解・整理することを目指してください。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 中国の歴史観
- 第3週 先秦史概説1（春秋時代）
- 第4週 春秋三伝
- 第5週 先秦史概説2（戦国時代）
- 第6週 秦漢史概説1（始皇帝とその周辺）
- 第7週 秦漢史概説2（劉邦の天下統一～武帝）
- 第8週 秦漢史概説3（光武中興）
- 第9週 『史記』と『漢書』
- 第10週 秦漢史概説4（後漢・三国）
- 第11週 『三国志』
- 第12週 五胡十六国
- 第13週 南北朝史概説
- 第14週 六朝期の史学
- 第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】プリントの内容に目を通し、講義内容のおおまかな理解をしておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】予習で不明だった点を明らかにし、講義内容に関する理解を深め、しっかりと身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（質疑応答への参加など）30%、学期末レポート70%で評価します。

レポートの採点結果は各自にフィードバックを行います。

【参考書】

指定参考書はありません。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

授業への積極的な参加をお願いします。

漢文学研究B

中国の歴史と歴史観

田中 靖彦

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

中国の歴史と歴史観についての講義です。中国の歴史の概説を学ぶのと並行して、中国における歴史書の筆法や、正統論の概念について検討します。後期は、前期の続きの時代から講義を始めます。

【授業における到達目標】

中国の歴史と歴史観についての理解を深めることを目指します。学生のみなさまは、史学の知識を深めることを通して、ご自身を取り組んでみたい研究テーマを模索し、その分野の研究状況を自分なりに理解・整理することを目指してください。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 隋唐史概説1（唐の建国まで）
- 第3週 隋唐史概説2（唐の滅亡まで）
- 第4週 唐朝の史書編纂事業
- 第5週 五代宋初
- 第6週 北宋史1
- 第7週 北宋史2
- 第8週 正統論の勃興
- 第9週 欧陽脩の史観
- 第10週 『資治通鑑』
- 第11週 北宋の滅亡と南宋
- 第12週 朱子学
- 第13週 南宋の滅亡
- 第14週 『十八史略』
- 第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】プリントの内容に目を通し、講義内容のおおまかな理解をしておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】予習で不明だった点を明らかにし、講義内容に関する理解を深め、しっかりと身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（質疑応答への参加など）30%、学期末レポート70%で評価します。

レポートの採点結果は各自にフィードバックを行います。

【参考書】

指定参考書はありません。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

授業への積極的な参加をお願いします。

環境と産業技術 a

エネルギー問題から見た産業技術

内山 政弘

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

環境に関する社会意識の向上により産業活動はゼロ・エミッション（有害物質を排出しない）であることが要求されるようになった。また、国連総会において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された（SDGs, 2015/9/25）。SDGsには「17の目標と169のターゲット」が記載されているが、目標達成のためには科学技術の適切な適応が必須である。このような環境技術を丁寧に解説する。

【授業における到達目標】

持続可能な環境技術を現行の技術と対比的に理解することにより、現在の企業活動が環境にどのような負荷を与えているかを判断する能力を涵養する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（SDGs）
- 第2週 エネルギーとは
- 第4週 熱とは
- 第5週 火力発電
- 第6週 原子力発電
- 第7週 エネルギー輸送(送電)
- 第8週 水力発電
- 第9週 風力発電
- 第10週 洋上風力発電
- 第11週 太陽光発電
- 第12週 地熱発電
- 第13週 燃料電池
- 第14週 エネルギーキャリア(水素、アンモニア)
- 第15週 温暖化適応

【事前・事後学修】

事前学修として、次回の講義のキーワードを提示しますので事前に調べておいて下さい（週1時間）
 毎授業終了前に10分程度の小テストを行ないます。テスト中に気付いた不明な点などについて事後学修を行ない、自己解決できない場合は次回の授業で質問を行なってください。（週3時間）。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業毎の小テストを基本として判断する。授業内容の要約70%、提示されたテーマについての文章30%で判断する。さらに履修生の希望に応じて提出された感想文やレポートなどにより加点する。必要であれば補習を行う。提出された内容要約をもとに次回の講義でフィードバックを行なう。

環境と産業技術 a

君塚 芳輝

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

本学の教壇に立って13年目になります。私は魚類学・河川環境論・魚道などを研究テーマとしていますが、講義題名には余りとらわれず分かりやすく話題提供をしていきたいと思えます。大学の療広場はなぜ雨の日でも歩き易いのか、光害とは何かなど、身近な環境の話題から本質を考えていきます。私自身が苦手な難しい数式や化学式などを必要とせず、易しい内容で展開します。“知識でなく柔軟な考え方を広める”ことがこの科目の最大の目標ですので、専門外の学生さんもどうか気楽に受講してください。強制ではありませんが、土休日に行なう野外の観察会を紹介しますので、興味がある方は積極的に参加して下さるよう希望します。この科目は特に1,2年生の受講をお奨めします。【今回が最終講義です】

【授業における到達目標】

一つの視点からでは解決できない環境問題を、複数の視点から考えて、理解できるようになることを目指しています。数学や物理学のように単一の回答を見出すことができない環境の問題を理解するための研鑽力と、広い視野と深い洞察力を身につけられるようになることを目標としています。

【授業の内容】

1. 生活の中の生物への配慮—1 エコロードの考え方とは？
2. 生活の中の生物への配慮—2 動物を道路に入れない工夫
3. 生活の中の生物への配慮—3 小動物専用の橋を架ける
4. 生活の中の生物への配慮—4 動物にも迷惑な光害を防ぐ
5. 魚道を作って魚を助ける—1 魚道（ぎょどう）って一体なに？
6. 魚道を作って魚を助ける—2 川に段差が設けられる理由
7. 魚道を作って魚を助ける—3 地域の魚と河川の特性に合わせる
8. 魚道を作って魚を助ける—4 魚の溯上調査で決まる魚道の評価
9. 魚道を作って魚を助ける—5 必須要素である人間の安全対策
10. 身近なリサイクル・リユース—1 リサイクルの思想とは
11. 身近なリサイクル・リユース—2 リサイクル品の数々を見る
12. 身近なリサイクル・リユース—3 紙を中心に実例で見る
13. 水辺での安全管理—1 水難事故で命を落とさないために
14. 水辺での安全管理—2 水辺での安全な観察法を学ぶ
15. 前期のまとめと振り返り

【事前・事後学修】

毎回の授業前には、事前に配付されているテキストを読んで、不明な点や分かりにくい内容は積極的に質問してください。授業中に書いて戴くヒアリングシートにも疑問点や意見を書いてください。翌週に配布するヒアリング結果のまとめで復習と解説をしますので、理解の一助にしてください。図書館や自宅では少なくとも4時間以上のプリントとまとめの予習復習を必要とします。

【テキスト・教材】

配付するプリントを使用します。特定の教科書は使いません。映像を毎回使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマを決めたレポート2-3回程度で成績を評価します（90%）。レポートは講義の要約ではなく感想・意見・提言などを1000字程度でまとめてください。全員に返却し、解説を行ないます。希望者には細かく添削します。試験は行ないません。毎回の講義中に実施するヒアリングシートも皆さんの理解度を知る指標として評価します（10%）。できるだけ土休日の観察会などに参加してください。出席や新聞記事などの資料提供にはささやかですが加点します。

【参考書】

それぞれの単元で文献を紹介あるいは回覧しますので、図書館などで読んで戴くことをお勧めします。参考文献の一覧も印刷して配布します。

【注意事項】

それぞれの章が終わるまでは、前週までに配付したプリントを必ずお持ちください。休まれた方は翌週早めに取りに来てくださるよう。他の方の迷惑になる講義中の私語は慎んでください。

環境の化学と工学

原子力発電と放射性廃棄物、プラスチックのリサイクル

菅野 元行

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

産業、文化の発達に伴い、環境問題は変遷しつつも、絶えることがありません。その原因について考察し、防止する技術について学びます。本講義では、原子力発電（原発）と放射性廃棄物、社会や生活に関わる環境問題、生活廃棄物のリサイクルの仕組みについて学習します。

【授業における到達目標】

- ①原子力発電と放射性廃棄物、プラスチックなど廃棄物のリサイクルの仕組みを理解する。
- ②環境問題に目を向ける習慣を身に着けるため、自主的に環境問題を調査し検討する姿勢を身につける。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
 - 2 原発の歴史、国内外の原発の状況
 - 3 元素の同位体、放射性元素
 - 4 原子力発電：核分裂反応
 - 5 原子力発電：発電の仕組み
 - 6 原子力発電における事故
 - 7 原発：放射性廃棄物、核燃料サイクル
 - 8 放射線と放射能
 - 9 核融合反応
 - 10 環境問題に関わる講演聴講
 - 11 有機化学の基本、プラスチックの製造
 - 12 プラスチックの種類と用途
 - 13 プラスチック廃棄物のリサイクル
 - 14 ライフサイクルアセスメント
 - 15 製紙、再生紙の製造方法
- ※化学の知識を必要としますが、不明な点は何なりと質問してください。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を文章にする）を設定しますので、復習に役立ててください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。
団体から無償提供された資料も配布しながら授業を進めます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

【参考書】

『わかる×わかった！ 環境化学』（オーム社 2011年）2,500円＋税
その他、各授業回の内容に関するホームページ等

【注意事項】

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、自己責任により授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

環境マーケティング論 a

産業社会の構造と次世代のモデル

犬塚 潤一郎

2・3年 前期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

従来、マーケティングは、企業活動のうちの、商品の広告・宣伝、販売促進活動に限った意味で考えられてきました。しかし今日では企業（およびNPO）の事業活動のうちで、顧客志向で行われることすべて（企画、製造、提供、コミュニケーション、支援等）を意味する幅広い概念として考えられるようになってきました。

そのため、マーケティングは、経営のための技術や手法であるとともに、社会の中で企業が果たすべき役割や存在意義を追求することという意味も備えています。企業の社会的責任CSRという考え方も普及してきました。

今日の社会の最大の課題の一つは環境問題です。従来企業活動は環境破壊活動でもありました。しかし、事業活動の目的が、社会の問題解決にこそあるとすれば、新しい企業活動の領域がそこに広がっているともいえます。

まず、マーケティングの基本理論を事例を参照しながら学びます。その上で、従来企業活動のマイナス面を根本から見直し、新しい社会に貢献する事業体づくりを研究してみましょう。そこには、社会の不正問題、地域の課題、家族関係、労働の意義など、現代社会の矛盾の様々な側面が現れてきます。

新しい社会を見つめる目、これからの企業が必要とする視野づくりに取り組みましょう。

具体的な企業の事例研究も行います。

【授業における到達目標】

マーケティングに関する基礎理論の理解と事業への応用について学び、身につけます。

「行動力」として、プロセス・成果の分析・評価能力、問題解決力を育成します。

「協働力」として、役割の編成・協調、リーダーシップを経験し育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 新しいマーケティング論
- 第2週 ブランド論 ブランドの価値と手法
- 第3週 産業と環境 有限性の世界観
- 第4週 コストと利益 ビジネスの基本構造
- 第5週 CSR 多面的な利益
- 第6週 調達CSR チェーンの認識
- 第7週 ソーシャル・マーケティング 公共の利益
- 第8週 ソーシャル・プロモーション 公共の事業開発
- 第9週 環境科学 自然科学の現状
- 第10週 環境工学 先端技術の現状
- 第11週 環境組織 専門組織の現状
- 第12週 エコ市民 新しい市民像
- 第13週 エコ社会 新しい社会像
- 第14週 エコ企業 新しい企業像
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

知識は積み重ねだけでなく、関連したことへの広がりにおいて自己の内に形成されてゆきます。

（事前学修）各講義において関連した事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ講義内容とのつながりの上で理解を深めるようにしてください。（学修時間 週2時間）

（事後学修）理論の応用課題を提示します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発表等のアクティビティ30%、期末の小論文30%、研究発

課題レポートについては次回授業に、研究発表については授業中に、フィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示。

【注意事項】

(美学美術史学科 対象)

環境マーケティング論 b

持続可能な社会の実現に向けた企業の取組みを学ぶ

倉持 一

2・3年 前期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

マーケティングとは、宣伝広告などに代表されるような、売上を向上させるための企業の工夫という意味だけではありません。本科目では、マーケティングを企業と社会とのコミュニケーションの一部として位置づけます。国連SDGs（持続可能な開発目標）が発効し、日本を含む世界中の政府、企業、NGO・NPOなどがこの目標をいかに達成するか努力している現在、従来のように「企業は利益追求をしていれば良い」という考え方が通用しなくなっています。こうした社会環境が大きく変化している今、企業は社会に対してどのようなアプローチで接し、コミュニケーションを図り、そして、価値を提供していけばよいのでしょうか。この問題は、簡単なようで実は極めて難しいことが、次第に明らかになっています。

本科目は、こうした最新の学術的（経営学）変化、実学的（企業経営）変化を踏まえ、事例分析を中心にアクティブ・ラーニング形式で進行することで、現代社会の変化をすばやく捉え、その変化に柔軟に対応できる思考力を培うことを目的とします。

【授業における到達目標】

持続可能な社会の実現に関する諸々の知識・理論や企業活動の実際をまずは知り、その成果と苦悩、課題までしっかりと理解していきます。本科目を通じ、最終的には、自分の言葉で、持続可能な社会を実現するための方策や乗り越えるべき課題を説明できるようになることが目標です。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（授業構成、進行、評価方法など）
- 第2回 環境問題の変遷と社会課題の現状
- 第3回 マーケティングの基礎理論
- 第4回 新たなマーケティングの登場
- 第5回 環境経営の実際①（フェアトレードなど）
- 第6回 環境経営の実際②（環境配慮製品など）
- 第7回 環境経営の実際③（省エネ、廃棄物削減など）
- 第8回 環境経営の実際④（まとめのディスカッション）
- 第9回 企業活動の変化①（CSRから戦略的CSRへ）
- 第10回 企業活動の変化②（社会課題解決型ビジネス）
- 第11回 グループワーク①（環境問題分析とビジネス）
- 第12回 グループワーク②（パートナーシップ戦略）
- 第13回 グループワーク③（ソリューション戦略）
- 第14回 グループワーク④（プレゼンテーション）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（各回2時間）：指定された記事などを読み、自己の意見をまとめてくる。前回授業最後に指示された課題に取り組む。

事後学修（各回2時間）：授業内容を復習し、社会で起きている事象を自分の言葉でまとめてくる。

【テキスト・教材】

特に指定せず、授業時間内で参考となる文献を紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点100%（提出した課題30%、グループワークへの貢献とプレゼンテーション内容70%）とします。

課題については、授業内で発表をしてもらうことでディスカッションの起点を形成してもらうとともに、授業内にフィードバックを行います。

【参考書】

フィリップ・コトラー、ナンシー・リー（2007）『社会的責任のマーケティング 「事業の成功」と「CSR」を両立する』（東洋経済新報社）ISBN:4492555749

【注意事項】

日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、

環境マーケティング論演習 a

プロジェクト研究・プレゼンテーション

犬塚 潤一郎

2・3年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

環境マーケティング論 a に引き続き、より具体的な課題状況の分析（環境、社会、事業活動）と事業活動（NPO、企業）の事例研究を行います。

企業の環境課題についての内容を深めるだけでなく、事例研究の方、研究内容のまとめ方、研究発表の方法など、実際に社会で役に立つ技術を実践的に学びます。

研究課題として取り上げるのは現実の企業活動です。企業、製品・サービスについて具体的な事例を取り上げて、事業分析を行い、事業課題を探り出します。その上で、独自の提案に結びつけるように研究を進め、成果を発表します。

研究することや発表することに慣れていなくてもかまいません。この機会に積極的に課題に取り組んで、実践力を身につけましょう。

【授業における到達目標】

社会課題の発見、事業化分析、計画、プレゼンテーションという、新規事業開発の流れを経験し、事業研究開発力の基礎を身につけます。

「行動力」として、プロセス・成果の分析・評価能力、問題解決力を育成します。

「協働力」として、役割の編成・協調、リーダーシップを学びます。

【授業の内容】

トピックごとに、概要説明の講義の後、調査研究、発表と評価の順に進めます。

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 事例研究手法
- 第3週 事例研究1：環境対応行動
- 第4週 現状分析
- 第5週 企画・発想
- 第6週 プレゼンテーション
- 第7週 事例研究2：社会対応行動
- 第8週 関係分析
- 第9週 収支分析
- 第10週 プロモーション計画
- 第11週 事例研究3：事業計画
- 第12週 商品・サービス分析
- 第13週 メリット、コスト、リスク
- 第14週 計画・プレゼンテーション
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：効率的な演習のためには、特に事例研究について、インターネットでの公開情報を中心に、事前に目を通しておくことが必要です。調査方法や情報編纂の仕方については順次解説しますので、各講義において指示された企業情報や研究資料などについて、次の講義までに調べておいてください。（学修時間 週2時間）

事後：課題発表に向けた誌研究作業をwebを通じて継続します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表等のアクティビティ60%、最終課題研究40%。

発表については授業中に、課題研究については、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜指示。

環境マーケティング論演習 b

持続可能な社会を実現するビジネスモデルを学ぶ

倉持 一

2・3年 後期 2単位

○：協働力

【授業のテーマ】

国連SDGs（持続可能な開発目標）の発効に代表されるように、貧困や飢餓、そして気候変動など、現代社会には未だ多くの解決すべき社会課題が残されています。これまで、こうした社会課題を解決する主人公は政府だと考えられていました。しかし我々は、政府の打ち出す政策だけですべての問題が解決されるわけではないことに気づき始めました。

こうした社会情勢の環境変化において、市民社会から企業に寄せられる期待は大きくなっています。とは言うものの、企業はあくまで営利追求を目的とした組織であるため、必ずしも期待に十分に答えることはできていない状況にあります。

しかしながら、一部の先進的な企業は、高い倫理性と社会感受性に基づき、社会課題の解決策としてのビジネスモデルの開発と実践に成功しています。こうした企業に学ぶべき点は多くあります。

本科目は、ワークショップ（演習）形式で、こうした最新のビジネス環境に適した社会課題解決型のビジネスモデルの実際を学び、そして、自ら企画立案することで、現代社会により適した人材の育成を図ります。

【授業における到達目標】

国連SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられた17の目標に対する解決策を、ビジネスの観点から分析し、自らの視点で新たなビジネスモデルを企画立案できるようになることが最終目標です。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（授業の目的や構成の説明、課題図書
の指示、班分け）
- 第2回 理論①（経営環境の変化を学ぶ①）
- 第3回 理論②（経営環境の変化を学ぶ②）
- 第4回 理論①（グループワーク：課題図書の分析）
- 第5回 理論②（グループワーク：課題図書の分析まとめ）
- 第6回 理論③（グループワーク：プレゼンテーション・質疑応答）
- 第7回 理論④（グループワーク：プレゼンテーション・質疑応答）
- 第8回 ビジネス分析の理論①（『企業を外から診る』分析とは何か
①）
- 第9回 ビジネス分析の理論②（『企業を外から診る』分析とは何か
②）
- 第10回 ビジネス分析の実践①（グループワーク：社会課題のシス
テム分析）
- 第11回 ビジネス分析の実践②（グループワーク：ビジネスプラン
の立案）
- 第12回 ビジネス分析の実践③（グループワーク：ビジネスプラン
の立案）
- 第13回 ビジネス分析の実践
（グループワーク：プレゼンテーション第1班・質疑応答）
- 第14回 ビジネス分析の実践
（グループワーク：プレゼンテーション第2班・質疑応答）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（各回2時間）：前回授業時に指示された授業予定に則し、社会課題や経営学理論を課題図書を中心に学んでくる。

事後学習（各回2時間）：授業時に指示された課題に取り組む。グループワークに取り組む。

【テキスト・教材】

初回授業で課題図書を4冊を提示しますので、各グループで話し合
って、その中からグループごとに1冊ずつ選択することになります。
す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点100%（課題レポート30%、グループワークへの貢献やプレゼ
ンテーションの内容70%）

毎回の授業の冒頭で、前回授業に関する質疑応答やプレゼンテーシ
ョンに関するフィードバックを行います。

【参考書】

関正雄（2018）『SDGs経営の時代に求められるCSRとは何か』第一
法規、ISBN:4474061713

【注意事項】

本科目はワークショップ（演習）形式で進行します。その趣旨や目
的を十分に理解した上で履修してください。グループワークが中心
になりますので、積極的な参加が必須です。成績評価の欄も確認し
てください。

環境マネジメント論

君塚 芳輝

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちが周りの環境に配慮するのは、享受している快適性や恩恵（生態系サービス）を維持するため、倫理観から、などの理由があります。これら環境や生態系に配慮する活動は、企業や学校として社会貢献活動の実践をアピールする効果もあることを認識してください。この科目では自然を保護する、河川環境を理解する、田んぼで自然環境を再生するなどの題材から、我々が自然環境に配慮する意義と効果について考えを深めていくことを目指しています。

【授業における到達目標】

自然環境を守る意義は道德観や倫理観の発露ばかりでなく、自然を保全や再生をさせることで実は経済や産業を発展させる「環境経営」の考え方を理解し会得することを目指してください。

15回の授業を受けた後では一つの事象に対して複数の立場から考え分析する力（研鑽力）が会得できるようになることが到達目標です。

【授業の内容】

1. 講義内容や受講の説明と15回の講義の概要
2. 雨水の貯溜と再利用-1 雨水を容器に貯めて利用する意義
3. 雨水の貯溜と再利用-2 家庭や学校で小型タンクに溜める
4. 雨水の貯溜と再利用-3 大型施設でトイレ洗浄や散水に利用
5. 雨水の貯溜と再利用-4 雨水の地下浸透と再利用の融合施設
6. 水田と水路の自然を理解する-1 水路の人工化が進んでいます
7. 水田と水路の自然を理解する-2 浅い水路には豊かな自然が
8. 水田と水路の自然を理解する-3 深い水路は米をつくる工場だ
9. 水田と水路の自然を理解する-4 水路と水田を利用する稀少魚
10. 水田と水路の自然を理解する-5 生物付加価値米は農家を救う
11. 水田と水路の自然を理解する-6 水路と水田を魚道で繋ぐ
12. 水田と水路の自然を理解する-7 教育水田で農地を守る意識を
13. 水田と水路の自然を理解する-8 農業用水路を学びの場にする
14. 水田と水路の自然を理解する-9 両極端な集団営農と生き物米
15. 講義のまとめと振り返り 環境を見る眼は育ちましたか？

【事前・事後学修】

毎回の授業前には、配布されたテキストを必ず事前に読んでおいてください。内容で不明な点や分かりにくい所は積極的に質問をお願いします。アンケートのまとめを作成して翌週にプリントにまとめて配布しますので、事後学修の助けとしてください。講義後は図書館や自宅で予習と復習それぞれ2時間以上の学修を行ってください。

【テキスト・教材】

特定の教科書は使わず、配布するプリントと映像で講義を進めます。配布したプリントはその章が終るまでは毎回お持ち願います。講義では毎回スライドと一部動画も使って理解の助けとします。映像の使用はこの科目の特色一つです。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれの章を終わった時に800-1200字程度のレポートを書いて戴いて評価（90%）するほか、毎週書いて出されるリスボンシートも点数化（10%）します。レポートは返却し解説を行いません。定期試験は行ないません。

強制ではありませんが、私に関わる水辺での活動に一度は参加してください。ささやかですが加点をします。

【参考書】

参考文献は章ごとにプリントに記入し、一部は回覧します。図書館で読んでください。

【注意事項】

（国文学科 対象）

環境科学概論

菅野 元行

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

当たり前のように存在している地球、大気、太陽光など成り立ちや仕組みを学習します。また、地球温暖化の機構、紫外線とオゾンとフロンガスと光化学スモッグの関係についても解説します。さらに、地域自立やメディア技術領域に関係する環境科学や、オーロラなどの事例も取り上げて、理科が得意でなくても理解できるような環境科学の基礎を学びます。

【授業における到達目標】

①社会や生活と環境の関わりを科学的に理解し、環境や資源に配慮した生活に主体的に取り組めるようになる。

②当学科の環境領域で学ぶエネルギー、環境社会、地域自立エネルギーの基本を理解して、それぞれの関係性を修得する。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 持続可能な社会とは
- 3 環境化学の基本、大気の成分
- 4 地球の生い立ち1：磁場の形成
- 5 地球の生い立ち2：大気の形成
- 6 大気圏の種類と役割
- 7 オーロラの発生と可視光線
- 8 電磁波の種類、周波数とエネルギー
- 9 温室効果ガスの特徴と種類
- 10 地球温暖化の防止に関わる国際的取り組み
- 11 環境保全の生活スタイルに関する講演聴講
- 12 オゾン層、紫外線、フロンガスの密接な関係
- 13 オゾン層の保護対策
- 14 光化学スモッグと紫外線の関係
- 15 酸性雨、エネルギー、循環型社会

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を400字以上の文章にする）を設定しますので、復習に役立ててください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

団体から無償提供された資料も配布しながら授業を進めます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

【参考書】

参考となる書籍やwebサイトは授業中に紹介します。

【注意事項】

※毎回の授業時には、授業のポイントの記載（「成績評価の方法」参照）とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、自己責任により授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

環境経済学

経済の視点から環境問題について考える

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

環境思想 a

風土学の基礎

犬塚 潤一郎

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

これまで私たちが当たり前のもので享受してきた自然資源は、私たち自身の経済活動の影響によって有限の資源としての性格を強めつつあります。この授業では経済が環境に与える影響、環境と調和した経済のあり方を考えることを目的とします。講義形式を主体としますが基本的に数式は使うことなく、グループディスカッションや交渉演習を通じた体感的な理解を目指します。

【授業における到達目標】

- ①環境と経済の関係について基本的な知識を身につける。
 - ②環境と経済の関係について自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
 - ③環境問題をテーマとしたディスカッション及び交渉に関する基礎的能力を身に付ける。
- これにより、学生が取得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力と「行動力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 環境と「経済」①（近くて遠いゴミ問題）
3. 環境と「経済」②（リデュース・リユース）
4. 環境と「経済」③（リサイクル・シェア）
5. 環境と「経済」④（産業振興と環境）
6. 環境と「経済」⑤（身近な迷惑問題）
7. 環境と「政策」①（環境アセスメント）
8. 環境と「政策」②（環境の経済価値評価）
9. 環境と「政策」③（環境政策の手段）
10. 環境と「交渉」①（交渉体験、交渉の基礎）
11. 環境と「交渉」②（交渉の理論）
12. 環境と「交渉」③（交渉術）
13. 環境と「交渉」④（環境問題の模擬交渉）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（40%）、交渉演習（25%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（35%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店 1996）2,700円、日引聡・有村俊秀（著）『入門 環境経済学』（中央公論新社 2002）842円、田村次郎・一色正彦・隅田浩司（著）『ビジュアル解説 交渉学入門』（2010 日本経済新聞出版社）1,728円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

【授業のテーマ】

今日、地球環境問題や格差の拡大、紛争・テロの勃発など、日常生活にまで届くような危機的状況が生まれています。文明の持続可能性とともに人間社会の基本的なあり方が問われています。これからの社会や産業、生活のあり方を考えてゆくためには、人間と社会の本質について深く考えてゆく姿勢が必要です。

伝統的な哲学・思想の研究を経て、新しい、相互関係的な学問の枠組みも生まれています。本講では、風土学mesologieを学びながら、新しい社会づくりを目指した、新しい視点、新しい行動の原理を探ります。

現代哲学を学ぶこととなりますのでテキストには難解なところもありますが、学び始めとして、基礎的な言葉＝概念になじむことを目標にします。ひとつひとつの概念について丁寧に学んでゆくことが、自分自身で考えるための本当の力を築くために役に立つものと思います。対話を通じて考えを深めてゆきましょう。

【授業における到達目標】

環境と社会の問題を論じるための、基礎となる専門分野の概念・用語について理解し、自分の論の展開において運用できる力を身につけます。

これから社会を考えるための基盤となる、日本文化の底流にある世界観と思想の領域についての知識を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：地球環境と文明の危機
- 第2週 “風土”という考え：和辻哲郎
- 第3週 空間と人間：精神的組織化
- 第4週 空間と人間：技術的組織化
- 第5週 空間と人間：社会的組織化
- 第6週 日本について：季節
- 第7週 日本について：山河
- 第8週 日本について：植物
- 第9週 自然と風景：通態制
- 第10週 住まうこと：都市
- 第11週 近代性と理性
- 第12週 風土性
- 第13週 環境と倫理
- 第14週 風景と調和
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：なれない言葉、新しい用語にも多く出会うことになるでしょう。各講義において、関連した事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ、講義内容とのつながりの上で理解を深めるようにしてください。（週2時間）

事後：講義内容に基づいて展開する小論課題を提示します。（週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中のアクティビティ30%、小課題30%、期末の小論文40%。授業中は、ディスカッション形式で行い、発表の機会もありますので、授業中に、フィードバックを行います。

【参考書】

オグユスタン・ベルクの以下の書籍：
『空間の日本文化』、『風土の日本』（ちくま学芸文庫）
『地球と存在の哲学』（ちくま新書）

環境思想演習

西洋と東洋の思想

犬塚 潤一郎

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

自然環境と人間との関係を考えてゆくためには、現代社会の技術や制度を基礎づけている西洋の思想の基礎を理解するとともに、それを乗り越える新しい世界観・人間観の構築が必要です。

西洋に学びながら日本の思想の核心を発見した日本の思想家たち、また西洋思想の乗り越えを東洋・日本の思想に求めた西洋の思想家たち。彼らの営みを参照しながら、自己の思想形成を図ります。現代哲学のテキストは、一人で向かおうとすると最初の文からつまずいて、なかなか先へ読み進められないこともあります。教師と一緒に、言葉の意味を読み解きながら少しずつ先へ進めるその過程で、自分の内側に新しい世界が開かれてゆくその感動を、ぜひ経験していただきたいものと思います。

【授業における到達目標】

比較思想の基礎概念を理解し、現代社会の根本課題を概念的に把握する。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき本質を見抜く力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：風土学の視点と東洋・西洋
- 第2週 近代日本の思想家たち
- 第3週 日本の発見
- 第4週 仏教論理の再発見
- 第5週 縁起
- 第6週 相待性
- 第7週 現代社会と技術
- 第8週 技術連関としての社会
- 第9週 技術化と自明性
- 第10週 創発と偶発
- 第11週 数学の身体性
- 第12週 ファンタジーと世界の回復
- 第13週 アクチュアルとヴァーチャル
- 第14週 物語と通時性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

テキストを支えている幅広い思想の歴史を感じる機会になることと思います。

事前：各講義において、関連した事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ、講義内容とのつながりの上で理解を深めるようにしてください。（学修時間 週2時間）

事後：キー概念に基づいて社会現象を読み解く（構造的に把握する）小論課題を提示します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後課題60%、期末の小論文40%。

課題レポートについては、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

- 今道友信『エコエティカ-生圏倫理学入門』（講談社学術文庫）
- G・レイコフ『数学の認知科学』（丸善）
- J・R・R・トールキン『妖精物語について』（評論社）
- ピエール・レヴィ『ヴァーチャルとは何か』（昭和堂）

環境心理学

-人と環境の関わり-

小林 美紀

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

環境心理学は、人間と環境の心理面・行動面での関わりを扱う学問である。50年程度の短い歴史しか持たないが、実際の環境整備に役立てようという問題意識から、建築計画・環境工学の分野を中心に建築の分野でも研究が盛んに行われている。

この授業では、これまでに蓄積されてきた知見について講述すると共に、課題を通じて実際に知識を使いこなすスキルを身につける。

【授業における到達目標】

・環境心理学の諸分野で蓄積されてきた知見について理解し、環境デザインに適用できるようになる

→これまでの知を活かし、新たな知を創造していく力を身に付ける
学修を通して自己成長する力を身に付ける

課題解決のために主体的に行動する力を身に付ける

【授業の内容】

- 第1講 環境心理学とは
- 第2講 ほのめかす環境
- 第3講 環境知覚
- 第4講 人間関係の環境
- 第5講 認知される環境
- 第6講 環境の評価構造
- 第7講 環境心理的デザイン 課題
- 第8講 環境心理的デザイン 発表
- 第9講 環境の安全性
- 第10講 環境の使いやすさ
- 第11講 環境ストレス
- 第12講 環境美学
- 第13講 少数派の環境
- 第14講 デザインプロセスと環境
- 第15講 環境心理学の今後

【事前・事後学修】

事前に、テキストを読んでおくこと。

授業後は、授業内容と対応した配布プリントをもとに復習をすること。また、いくつか授業内容と関連した課題が課されるので、期限までに提出すること。

(学修時間 週4時間)

【テキスト・教材】

榎 究著『環境心理学 -環境デザインへのパースペクティブ-』(春風社), 2010年(2286円+税)をテキストとして使用し、授業と関連するプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題(授業時間中の小テストも含む)と、平常点(積極的な授業参加)により総合評価を行う。

(課題:85%、授業態度:15%)

課題については、相互評価を実施する。

【参考書】

大野隆造、小林美紀『安全で心地よい環境をつくる 人間都市学』(井上書院), 2011年(2700円+税)

日本建築学会編『建築空間のヒューマナイズ』(彰国社), 2001年(2400円+税)

日本建築学会編『人間環境学』(朝倉書店), 1998年(3900円+税)

R. ギフォード著(羽生和紀・榎究・村松陸雄 監訳)『環境心理学(上・下)』(北大路書房), 2005年(4800円+税), 2007年(5600円+税)

【注意事項】

日常の中に、環境心理的事象がたくさん埋もれている。授業で学んだことをヒントに、日常を探索して欲しい。また、その経験を活かし、積極的に課題に取り組んで欲しい。

環境人間工学実験A

山崎 和彦

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

環境生理学、環境科学、人類学、人間工学、工業デザイン等の領域における各種の研究テーマに関し、先ず基礎的な実験手法を習得する。次に応用的研究を行い、その成果について発表する。

【授業における到達目標】

学修を通じて、課題の発見、目標の設定、計画の立案、問題解決、実行、そして優れたプレゼンテーション能力を身につける。真理を探究することにより、新たな知を創造しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 概要説明
- 第2週 人体計測の基礎的実験
- 第3週 人体計測の応用的実験
- 第4週 身体動作の基礎的実験
- 第5週 身体動作の応用的実験
- 第6週 運動生理学の基礎的実験
- 第7週 運動生理学の応用的実験
- 第8週 温熱生理学の基礎的実験
- 第9週 温熱生理学の応用的実験
- 第10週 生体電気の基礎的実験
- 第11週 生体電気の応用的実験
- 第12週 感覚に関する基礎的実験
- 第13週 感覚に関する応用的実験
- 第14週 自由課題による実験
- 第15週 成果の発表、総括

【事前・事後学修】

今回の実験内容に関連する文献を提示するので、事前に学習して臨む必要がある。また実験後には、レポートを作成し、次回の実験の開始前迄に提出すること。なおレポート作成に際し、引用文献を充実させることが重要である。事前および事後の学修のための時間については、週あたり、各々2時間以上とする。

【テキスト・教材】

適宜、資料を提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、実験に取り組む姿勢40%、成果の発表20%とする。学生へのフィードバックについては、授業の後または日常の空き時間において、レポート内容や成果の発表内容に関し、優れるところや不足するところ等について、学生個人ごとに講評する。また、全てを終えた後、半期全体を振り返り、総評を述べる。

【参考書】

適宜、文献等を示す。

【注意事項】

実験に適した服装を心がけること。

環境人間工学実験B

ジャーナルレベルの実験手技の習得

佐藤 健

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

人間工学実験は、近年の少子高齢化が加速していく中、重要な役割を果たす学問領域である。この人間工学実験では、障害者や高齢者のQuality Of Life (生活の質: QOL) の向上を実現するために、自立、そしてバリアフリーを工学的に支援する方法・手段を研究する。

【授業における到達目標】

個々の研究テーマの研究背景、実験内容をきちんと理解し、短期目標を各々自ら設定し、それを期限内に達成できること。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方について
- 第2週 授業における個々の研究テーマを設定
- 第3週 授業における個々の研究テーマを実施計画
- 第4週 授業における個々の研究テーマの先行研究調査
- 第5週 授業における個々の研究テーマの研究課題を検索
- 第6週 授業における個々の研究テーマの短期目標
- 第7週 実験の準備状況
- 第8週 プレテスト状況
- 第9週 実験実施
- 第10週 実験の成果について
- 第11週 実験データのノイズ処理
- 第12週 実験データの高度な処理
- 第13週 実験データの統計処理
- 第14週 実験データの検定方法
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

文献を読んだり、実験機材の準備におよそ30時間程度必要。

【テキスト・教材】

教場で指示する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

文献調査：30%、実験計画と実施：50%、結果発表：20%
適宜、内容に関してフィードバックを行う。

【参考書】

教場で指示する

【注意事項】

特になし

環境人間工学実験C

3Dプリンターを使いこなす

塚原 肇

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

前期で学んだプロダクトデザインの背景、技術をもとに、実際の生活用具のデザインおよび制作を行う。

【授業における到達目標】

3DCADでデザインを行い、3Dプリンターで試作を行うノウハウを身につける。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：スケッチアップを理解する
- 第3週：スケッチアップで部屋のインテリアを描く
- 第4週：スケッチアップでテッシュボックスを描く
- 第5週：3DCADを理解する
- 第6週：3DCADでマグカップを描く
- 第7週：3Dプリンタを理解する
- 第8週：3Dプリンタでマグカップを作製する
- 第9週：文房具をデザインする
- 第10週：3DCADで文房具を入力する
- 第11週：3Dプリンタで文房具を作製する
- 第12週：アクセサリをデザインする
- 第13週：3DCADでアクセサリを入力する
- 第14週：3Dプリンタでアクセサリを制作する
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておく。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておく。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業の取り組み（20%）、受講レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）で評価する

実際に3Dプリンターで作製したモノを使用して、使い勝手、デザイン等の評価レポートを作成しプレゼンテーションを行い、内容についてディスカッションを行う。

【参考書】

テキスト：PRODUCT DESIGN [プロダクトデザイン] 商品開発に関わるすべての人へ 発行・販売：ワークスコーポレーション 定価：本体3200円+税 ISBN978-86267-063-2C3055

【注意事項】

これからの生産現場では3Dプリンターが主役になります。是非、使いこなせるようになってください。

環境人間工学特論A

山崎 和彦

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

環境生理学、環境科学、人類学、人間工学、工業デザイン等の領域における各種の書籍あるいは論文を取り上げ、講読および討議を行う。

【授業における到達目標】

本科目の履修を通じて、広い視野、洞察力、多様な価値観、および国際感覚を身につける。さらに、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたる知を探究し、学問を続ける態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 概要説明
- 第2週 寒冷の人体影響に関する和文の講読
- 第3週 高温の人体影響に関する和文の講読
- 第4週 環境科学系の和文の講読
- 第5週 人類学に関する和文の講読
- 第6週 人間工学に関する和文の講読
- 第7週 工業デザインに関する和文の講読
- 第8週 寒冷の人体影響に関する英文の講読
- 第9週 高温の人体影響に関する英文の講読
- 第10週 環境科学系の英文の講読
- 第11週 人類学に関する英文の講読
- 第12週 人間工学に関する英文の講読
- 第13週 工業デザインに関する英文の講読
- 第14週 自由選択による英文の講読
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

指定した書籍や論文等を事前に読解しておく。また、講義の後、学習内容および討議内容について復習し、レポート用紙1～2枚にまとめ、次の講義開始前迄に提出すること。事前および事後の学修については、週当たり、各々少なくとも2時間以上を充てて臨む必要がある。

【テキスト・教材】

書籍や文献等を適宜使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の発表40%、討議への参加状況40%、レポート20%とする。学生へのフィードバックについては、毎回の授業後および日常の空き時間において、レポートについての講評、学生の優れるところ、考察の不足するところ等について、学生各人に対し講評する。また、全ての授業を終えた後、総評を行う。

【参考書】

書籍や文献等を適宜提示する。

環境人間工学特論B

ジャーナルに出ている図を描けるように

佐藤 健

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

近年、生体信号を用いて、福祉機器の制御や評価を行う試みが進められている。そのために必要な生体信号とその処理の方法について学修する。理論や計算だけでなく、信号処理ソフトによる演習も行う。

【授業における到達目標】

生体信号の種類とその特徴について理解できる。

生体信号を利用する際に必要なその処理や制御の方法を理解できる。

MATLAB、VEEなどのソフトウェアを用いてそれらの処理を実現できる。

【授業の内容】

- 第1週 授業内容の全体について
- 第2週 生体信号の種類とその特徴について
- 第3週 生体信号に特徴的な増幅の方法について
- 第4週 生体信号のMATLABへの入力と移動平均処理について
- 第5週 生体信号のMATLABによるフーリエ変換処理について
- 第6週 生体信号のMATLABによる逆フーリエ変換処理について
- 第7週 生体信号のデジタル信号処理について
- 第8週 生体信号のフーリエ変換について
- 第9週 生体信号のZ変換処理について
- 第10週 生体信号のデジタルフィルタについて
- 第11週 デジタルフィルタ処理（ローパスフィルタ）
- 第12週 デジタルフィルタ処理（バンドパスフィルタ）
- 第13週 生体信号のデジタルフーリエ変換
- 第14週 Wavelet変換
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

生体信号の種類を調べておくことにおよそ30時間程度必要
AD変換の基本データの処理におよそ30時間程度必要

【テキスト・教材】

教場で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題30%×3回以上により、100%とする。

課題は、発表し解説を行う。

【参考書】

教場で指示する。

【注意事項】

特になし。

環境人間工学特論C

プロダクトデザインの手法を理解する

塚原 肇

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

プロダクトデザインの手法・理念は、今や多くの企業が経営戦略として活用しています。それは工業の領域にとどまらず、アパレル、建築、農業の領域にまで及んでいます。本講義では、モノ作りからマーケティングまで、幅広くプロダクトデザインの世界を解説する。

【授業における到達目標】

プロダクトデザインの手法・プロセスを理解して、様々な分野で応用できる技術を身につける。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：プロダクトデザインの背景
- 第3週：社会とプロダクトデザイン
- 第4週：企業とプロダクトデザイン
- 第5週：デザインマネジメント
- 第6週：デザインプロセス
- 第7週：ユーザ評価のための手法
- 第8週：コンセプトのための手法
- 第9週：視覚化のための手法
- 第10週：デザイン評価のための手法
- 第11週：科学とデザイン
- 第12週：マーケティングとデザイン
- 第13週：技術とデザイン
- 第14週：シックスシグマ
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておく。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度通読して理解できているかどうかを自分なりに判断する。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問する。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業の取り組み（20%）、受講レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）で評価する
終了時にプロダクトデザインの取組についてのプレゼンテーションを行い、コメントを与える。

【参考書】

テキスト：PRODUCT DESIGN [プロダクトデザイン] 商品開発に関わるすべての人へ 発行・販売：ワークスコポレーション 定価：本体3200円+税 ISBN978-86267-063-2C3055

【注意事項】

プロダクトデザインの手法とプロセスは多くの分野の問題解決に応用が聞きます。いずれの分野に進むにしてもしっかり身につけることを推奨します。

環境文化学演習A

大川 知子

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

前期の講義を踏まえ、1960年代以降から現代に至るまでのファッションの変遷を、他の領域も交えながら多角的に分析する。現在、市場においては、各領域が融合すると同時に、多様な広がりを見せており、その動向についても、フィールドワーク等を実施しながら議論する。

【授業における到達目標】

1. 実際に現場に足を運び、実感の伴う中から様々な課題を抽出し、多角的に分析する力を養う。
2. 現代生活者のライフスタイルの潮流を理解し、それを様々な分野に応用出来る力を醸成する。

【授業の内容】

- 第1週 ファッションの民主化とは何か ※課題の提示
- 第2週 ビートジェネレーション／米国のカウンターカルチャー
- 第3週 スウィングロンドン／英国のストリートカルチャー
- 第4週 日本にもたらされた影響
- 第5週 フィールドワーク1／第2～4週の検証
- 第6週 フィールドワークの成果報告
- 第7週 課題の中間報告
- 第8週 グローバルな視点から見る日本のファッションの独自性
- 第9週 世界は何に注目するのか／日本のデザインとサービス
- 第10週 フィールドワーク2／第8～9週の検証
- 第11週 フィールドワークの成果報告
- 第12週 ライフスタイルビジネスの創出—融合する領域
- 第13週 フィールドワーク2／第12週の検証
- 第14週 フィールドワークの成果報告
- 第15週 課題の最終報告

【事前・事後学修】

フィールドワーク終了毎のレポート提出（学修時間 2時間）。最終課題に向けての準備（学修時間計 30時間程度）。

【テキスト・教材】

織研新聞、WWD JAPAN、日経MJ他、関連資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

フィールドワークの成果報告 50%、課題の発表 50%。全ての報告は、授業内にフィードバックを行なう。

環境文化学特論A

大川 知子

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

ファッションを、生活を創造するための一領域と捉え、史実やその文化的背景を探りながら、「衣」のみならず、ファッションに関連したライフスタイル全般について、19世紀半ばから現代に至る変遷を文化的な視点から検証する。

【授業における到達目標】

1. ファッションが、それぞれの時代によって、どのように変化してきたのかを理解する。
2. 歴史を踏まえた上で、変化の激しい現代社会の課題を整理し、分析する力を養う。
3. 課題を通して、自身の歴史観を構築し、社会で応用出来る力を醸成する。

【授業の内容】

- 第1週 時代の表象としてのファッション ※課題の提示
- 第2週 『有閑階級の理論』—新興富裕層の勃興
- 第3週 『ディスタクシオン』—文化資本とは何か
- 第4週 ファッション産業の構造特性
- 第5週 産業パラダイムの転換—工業化社会への進展
- 第6週 課題の中間報告
- 第7週 情報化社会におけるファッション—メディアと情報の受容
- 第8週 『モードの体系』—ファッションの記号化
- 第9週 顕示的消費の意味
- 第10週 『模倣の法則』—情報の伝播
- 第11週 ライフスタイル産業の成立—衣食住の融合
- 第12週 ライフスタイル産業の現状(1)衣を端緒にする事例研究
- 第13週 ライフスタイル産業の現状(2)食を端緒にする事例研究
- 第14週 ライフスタイル産業の現状(3)住を端緒にする事例研究
- 第15週 最終課題の発表

【事前・事後学修】

1. 前週に配布される関連資料を読み、要約をした上で、授業に臨むこと（学修時間 2時間）。
2. 初回に提示した課題を継続的に行い、報告を行なう（学修時間計 30時間程度）。

【テキスト・教材】

ディディエ・グランバック：モードの物語[文化出版局、2013、¥8,000(税抜)]
ピエール・ブルデュー：ディスタクシオンI、II[藤原書店、1990、¥5,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題発表 80%、授業参画 20%。全ての課題は報告時にフィードバックを行なう。

【参考書】

1. ブリュノ・デュ・ロゼル『20世紀モード史』平凡社（1995年）5,800円
 2. 浜野安宏『ファッション化社会』ビジネス社（1970年）古書 ※研究室で所蔵
 3. 遠藤武・石山彰『図説 日本洋装百年史』文化服装学院（1962年）古書 ※研究室で所蔵
- その他、織研新聞、WWD JAPANなどの業界紙 ※図書館、及び研究室で購読中。

看護学

～尊いいのちを守るために～

小川 敬子

2・3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

- ①ヘルスプロモーションと看護 ②女性の健康 ③青年期を生きる
- ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥身近な症状の見方と家庭看護 ⑦応急処置/救急法 ⑧高齢者と介護の8項目を具体的なテーマとする。

授業における到達目標 (Diploma policy)

学生が修得すべき「国際的視野」においては、多様な価値観を受容し、多角的な視点を以って相互理解を築こうとする態度を培う。また「行動力」として、課題解決のために主体的に行動する力を養うことを到達目標とする。

【授業における到達目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができる。
2. 救急法並びに家庭看護や介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
～いのちを守る～
『ヘルスプロモーションと看護』
- 第2週 女性と健康
・女性の身体
・女性特有の病気とその予防
・リプロダクティブヘルス/ライツとは
- 第3週 妊娠と出産、育児
・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える
・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み
- 第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防
・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防
- 第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について
・アルコールパッチテストの実施
・ドメスティックバイオレンスについても考える
- 第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康
・ストレスと上手に付き合うために
・健康づくりを意識した『休養法』
- 第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション
- 第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは
・身体の仕組みと働き
・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方
- 第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム
～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～
- 第10週 身近な症状、病気と対処法
- 第11週 緊急時の対応：応急処置/救急法
～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～
・DVD、資料による纏め30分
- 第12週 生活習慣病とその予防
- 第13週 高齢者と健康(第1回)
・高齢者におこりやすい症状や疾病
- 第14週 高齢者と健康(第2回)
・介護を支える知識と技術
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。
また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。メンタルヘルスのコマでは、香り、音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習を実施する。テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。いのちの誕生の実際についてDVD鑑賞をとおして理解し、考えを深める。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護の知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。演習の欠席は極力避けること。

看護学

～尊いいのちを守るために～

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

- ①ヘルスプロモーションと看護 ②女性の健康 ③青年期を生きる
④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥身近な
症状の見方と家庭看護 ⑦応急処置/救急法 ⑧高齢者と介護の8項
目を具体的テーマとする。

授業における到達目標 (Diploma policy)

学生が修得すべき「国際的視野」においては、多様な価値観を受容し、多角的な視点を以って相互理解を築こうとする態度を培う。また「行動力」として、課題解決のために主体的に行動する力を養うことを到達目標とする。

【授業における到達目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができる。
2. 救急法並びに家庭看護や介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

- ・女性の身体
- ・女性特有の病気とその予防
- ・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児

- ・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える
- ・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

- ・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

- ・アルコールパッチテストの実施
- ・ドメスティックバイオレンスについても考える

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

- ・ストレスと上手に付き合うために
- ・健康づくりを意識した『休養法』

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

- ・身体の仕組みと働き
- ・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置/救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

- ・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

- ・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

- ・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。
また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。メンタルヘルスのコマでは、香り、音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習を実施する。テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。いのちの誕生の実際についてDVD鑑賞をとおして理解し、考えを深める。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護の知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。演習の欠席は極力避けること。

看護学

～尊いいのちを守るために～

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

- ①ヘルスプロモーションと看護 ②女性の健康 ③青年期を生きる
④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥身近な
症状の見方と家庭看護 ⑦応急処置/救急法 ⑧高齢者と介護の8項
目を具体的テーマとする。

授業における到達目標 (Diploma policy)

学生が修得すべき「国際的視野」においては、多様な価値観を受容し、多角的な視点を以って相互理解を築こうとする態度を培う。また「行動力」として、課題解決のために主体的に行動する力を養うことを到達目標とする。

【授業における到達目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができる。
2. 救急法並びに家庭看護や介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

- ・女性の身体
- ・女性特有の病気とその予防
- ・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児

- ・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える
- ・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

- ・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

- ・アルコールパッチテストの実施
- ・ドメスティックバイオレンスについても考える

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

- ・ストレスと上手に付き合うために
- ・健康づくりを意識した『休養法』

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

- ・身体の仕組みと働き
- ・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置/救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

- ・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

- ・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

- ・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。
また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。メンタルヘルスのコマでは、香り、音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習を実施する。テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。いのちの誕生の実際についてDVD鑑賞をとおして理解し、考えを深める。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護の知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。演習の欠席は極力避けること。

看護学

～尊いいのちを守るために～

小川 敬子

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

- ①ヘルスプロモーションと看護 ②女性の健康 ③青年期を生きる
- ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥身近な症状の見方と家庭看護 ⑦応急処置/救急法 ⑧高齢者と介護の8項目を具体的なテーマとする。

授業における到達目標 (Diploma policy)

学生が修得すべき「国際的視野」においては、多様な価値観を受容し、多角的な視点を以って相互理解を築こうとする態度を培う。また「行動力」として、課題解決のために主体的に行動する力を養うことを到達目標とする。

【授業における到達目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができる。
2. 救急法並びに家庭看護や介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
～いのちを守る～
『ヘルスプロモーションと看護』
- 第2週 女性と健康
・女性の身体
・女性特有の病気とその予防
・リプロダクティブヘルス/ライツとは
- 第3週 妊娠と出産、育児
・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える
・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み
- 第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防
・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防
- 第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について
・アルコールパッチテストの実施
・ドメスティックバイオレンスについても考える
- 第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康
・ストレスと上手に付き合うために
・健康づくりを意識した『休養法』
- 第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション
- 第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは
・身体の仕組みと働き
・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方
- 第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム
～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～
- 第10週 身近な症状、病気と対処法
- 第11週 緊急時の対応：応急処置/救急法
～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～
・DVD、資料による纏め30分
- 第12週 生活習慣病とその予防
- 第13週 高齢者と健康(第1回)
・高齢者におこりやすい症状や疾病
- 第14週 高齢者と健康(第2回)
・介護を支える知識と技術
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。
また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。メンタルヘルスのコマでは、香り、音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習を実施する。テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。いのちの誕生の実際についてDVD鑑賞をとおして理解し、考えを深める。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護の知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。演習の欠席は極力避けること。

看護学

～尊いいのちを守るために～

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

①ヘルスプロモーションと看護 ②女性の健康 ③青年期を生きる
④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥身近な
症状の見方と家庭看護 ⑦応急処置/救急法 ⑧高齢者と介護の8項
目を具体的テーマとする。

授業における到達目標 (Diploma policy)

学生が修得すべき「国際的視野」においては、多様な価値観を受容し、多角的な視点を以って相互理解を築こうとする態度を培う。また「行動力」として、課題解決のために主体的に行動する力を養うことを到達目標とする。

【授業における到達目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができる。
2. 救急法並びに家庭看護や介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

- ・女性の身体
- ・女性特有の病気とその予防
- ・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児

- ・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える
- ・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

- ・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

- ・アルコールパッチテストの実施
- ・ドメスティックバイオレンスについても考える

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

- ・ストレスと上手に付き合うために
- ・健康づくりを意識した『休養法』

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

- ・身体の仕組みと働き
- ・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置/救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

- ・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

- ・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

- ・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。
また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。メンタルヘルスのコマでは、香り、音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習を実施する。テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。いのちの誕生の実際についてDVD鑑賞をとおして理解し、考えを深める。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護の知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。演習の欠席は極力避けること。

観光英語

武内 一良

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は、全国語学ビジネス観光教育協会が主催する観光英語検定3級の合格を目指すことを目的とします。そのため、観光英語検定3級（受験料3700円）を申し込むことが履修の条件です。受験料は授業中に徴収します。

【授業における到達目標】

この科目は、以下の点を中心に進めていきます。

- 1 観光英語検定3級合格を目指す。
- 2 海外旅行に必要な最低限の語彙力と表現力を身につける。
- 3 観光業の基礎的な業務を理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、検定試験合格を目指す行動力を中心に、国際語として英語を用いながら国際的視野と研鑽力を身につけていきます。

【授業の内容】

- 第1週 授業紹介、評価方法、観光英語検定の概略
- 第2週 過去問題A（筆記）60分
- 第3週 過去問題B（リスニング）30分
- 第4週 設問1「語彙力」（英→日）対策
- 第5週 設問2「語彙力」（日→英）対策
- 第6週 設問5「日本の観光地理」対策
- 第7週 設問5「世界の観光地理」対策
- 第8週 設問2「場面会話」の対策
- 第9週 設問3「単語の並べ替え」対策
- 第10週 設問4「広告読解」対策1（前半）
- 第11週 設問4「広告読解」対策2（後半）
- 第12週 日本文化紹介1
- 第13週 日本文化紹介2
- 第14週 過去問題C（筆記）60分
- 第15週 総合問題

上記順番は変わることがあります。

【事前・事後学修】

〔事前学修〕観光英語検定試験3級は、授業での指示に従って準備をすれば合格に手が届く検定試験です。最低でも授業の前に1時間は予習してください。

〔事後学修〕授業終了後は速やかに1時間以上の復習を欠かさず行う習慣をつけてください。

【テキスト・教材】

受講生は全員ウェブ学習システムを教材として使います。5月の連休明けから10月に実施される検定試験の受験直前まで、学内や自宅で学習できるシステムで、費用は一人当たり3000円です。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最期の週に行なう総合問題（50%）とその前の週に行なう過去問題C（50%）の結果を基に評価します。問題に対する解答は毎回授業でフィードバックしていきます。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので必ず出席してください。

観光概論

観光現象の理論研究

武内 一良

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

本講座では、観光現象について学んでいきます。観光現象とは、観光者の存在によって引き起こされるさまざまな社会現象を意味します。その流れで、宿泊業界、旅行業界、航空業界に関する知識も身につけていきます。

【授業における到達目標】

- 1) 観光学という学問の全体像を理解します。
- 2) 観光業界の専門用語を学習します。
- 3) 学問に対する研鑽力を磨き、多文化社会に対応できる国際的視野を養います。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要、評価方法、学問と哲学
- 第2週 物々交換と貨幣経済、産業革命と余暇活動
- 第3週 外貨獲得、経済効果、観光衛星勘定、見えざる輸出
- 第4週 観光現象の基本要素、観光形態
- 第5週 観光者1：人類の移動、観光者の定義と分類
- 第6週 観光者2：観光者の行動特性、社会的弱者
- 第7週 観光対象1：観光対象の分類、観光資源と観光対象
- 第8週 観光対象2：真正性、文化の商品化、文化変容
- 第9週 観光情報1：観光情報の意義、博物館の展示情報
- 第10週 観光情報2：国際語、製造物責任、自文化中心主義
- 第11週 外部講師による授業（観光業界にかかわる業界）
- 第12週 観光ビジネス1：サービスとホスピタリティ
- 第13週 観光ビジネス2：航空連合、GDS、イールドマネジメント
- 第14週 観光ビジネス3：最大積載量、持続可能な観光開発
- 第15週 到達目標の確認

【事前・事後学修】

〔事前学修〕この授業には初めて聞く用語や概念が多く登場するので、前回までの授業内容をしっかり理解するために最低でも毎回授業前に2時間はしっかり復習しておく必要があります。

〔事後学修〕授業終了後は授業での説明を思い起こしながら2時間程度は復習に充てる必要があります。

【テキスト・教材】

毎回教材となる印刷物を配付します。期末試験の問題は、この印刷物からのみ出題されます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、期末試験の結果（100%）を基に行います。授業のフィードバックは、毎回翌週の授業の冒頭に行います。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

観光事業論

角本 伸晃

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

近年、日本経済の低迷と人口減少に伴う諸問題を解決する方策の1つとして、観光振興が注目されている。特に、観光立国推進基本法の制定（2007年施行）以後、訪日外国人観光客の誘致に国を挙げて取り組まれている。2020年の東京オリンピック開催を控え、観光は経済成長の牽引役を担うことを期待されている。この講義では、観光の主要産業（交通、宿泊、飲食、物販、娯楽・レジャー）に焦点を当てて観光事業について理解し、さらに観光の経済効果と観光資源の保護についても理解することを目的とする。また、レポート課題を出すので、それを数人のグループごとにパワーポイントで作成し、授業の最終回でグループごとに発表してらう。

【授業における到達目標】

観光の主要産業（交通、宿泊、飲食、物販、娯楽・レジャー）に焦点を当てて観光事業などについて理解し、このことを通して、日本の文化を世界に発信しようとする国際的視野を修得することを目指す。

【授業の内容】

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 観光経済学の基礎概念
3. 日本の観光の現状
4. 観光産業の概要
5. 交通産業（鉄道）
6. 交通産業（航空）
7. 宿泊産業（ホテル、旅館）
8. 観光施設（テーマパーク）
9. 観光土産と価格戦略
10. 観光開発と投資
11. 観光所得と乗数効果
12. 観光まちづくりと観光資源の保護
13. 世界遺産登録と観光需要
14. レポート課題の発表会
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは未定。開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

高橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』（中央経済社 2016年）2,592円

【注意事項】

グラフを自分で書くことで理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

観光地理

日本と世界を旅する講座

内藤 芳宏

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

旅や地理は知らない土地の知らない人たちや自然に対する好奇心で成り立っています。地理学的な視点から国内・海外の観光に関する知識の修得を目的とします。

また「旅行業務取扱管理者試験」の「地理分野」に対応すべく、国内の観光地を中心に、基本的な知識習得と関連事項等の理解するための内容を取り扱います。また海外の観光地について地理学的視点からの知識及び思考の修得を目指します。

【授業における到達目標】

〈態度〉学生が修得すべき「国際的視野」のうち、国内外の観光地を自然地理・人文地理の両側面から観光地情報を正確に知識を得ようとする不断の努力を行なうこと。知らない土地の知らない人たちや自然に対して感受性を深めること。

〈能力〉学生が修得すべき「研鑽力」のうち、観光地理を学ぼうとする真摯な姿勢を修得すること。地理的空間を正しく把握し、観光地の課題を発見すること。

【授業の内容】

- 第1週 地理を学ぶ視点・日本の諸地域を概観する
- 第2週 日本の交通網（新幹線、空港、高速道路）
- 第3週 日本の観光地を学ぶ1（北海道・東北地方）
- 第4週 日本の観光地を学ぶ2（関東地方）
- 第5週 日本の観光地を学ぶ3（中部地方）
- 第6週 日本の観光地を学ぶ4（近畿地方）
- 第7週 日本の観光地を学ぶ5（中国・四国地方）
- 第8週 日本の観光地を学ぶ6（九州・沖縄地方）
- 第9週 日本の世界文化遺産・世界自然遺産
- 第10週 国家試験問題から地理分野のポイントを考える
- 第11週 狭くなった地球（時空を越えて・時差を理解する）
- 第12週 アジアを訪ねる
- 第13週 ヨーロッパを訪ねる
- 第14週 アメリカ合衆国を訪ねる
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

開講までに日本の都道府県・各県庁所在地・新幹線の路線、世界遺産など地理的基礎事項について確認しておくこと。授業の前後に学習範囲の略図を描き、上記事項に加えて貴方の既存の地理情報を書き込みを行う。そのためには2時間以上/週の予習が必要である。授業で取り扱った地域はその都度正確に定着させること。

【テキスト・教材】

「旅行実務シリーズ4 国内観光資源 2019」2,360円
またその都度、配布プリント等を指示します。なお高校で使っていた「地図帳」を必ず用意してください。所持していない場合は同等の地図帳を各自で求めてください。地図帳は地理を学ぶ必須アイテムです。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験と平常点（小テストと毎時間ごとのコメントペーパー）で総合的に判断します。小テストは次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックする。配分基準；定期試験50%、平常点50%

【参考書】

地理教育研究会編「知るほど面白くなる日本地理」日本実業出版社
JTB総合研究所「観光概論」JHRS

【注意事項】

観光地理にかかわる内容は、地域や取り上げる事象によって興味のあり方や関心度が変化するので、日ごろから国内外を問わず見聞を広め、研究するよう意識してください。曖昧な理解は社会において意味を成さないことを肝に銘じてください。

企画・編集論

大野 彰

1・2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

- ・出版物制作のスタートラインとなる「企画」の意義、役割を理解し、あわせて立案した企画を具体的な形にするための「編集」工程のあらましを学修します。
- ・過去の出版物の事例や、アイデアの作り方、様々な発想法などの学修を通して魅力的な本づくりの基礎を学びます。

【授業における到達目標】

- ・必要な要素を備えた、簡単な出版企画書が作れる【行動力】
- ・いろいろなスキルをまとめあげる編集作業の基礎を学修することで協働力を高める【協働力】

【授業の内容】

- 第1回 はじめに～本づくりに関する企画と編集の役割
- 第2回 企画とは？ 考える前に抑えておくこと
- 第3回 出版物の基礎知識／ハード&ソフト、業界、市場の構造
- 第4回 企画書をよんでみる
記載項目とその意味を知る
- 第5回 企画の元＝アイデアをつくる (1)
原理と方法／「アイデアの作りかた」を読む
- 第6回 企画の元＝アイデアをつくる (2)
発想法のいろいろ-1
- 第7回 企画の元＝アイデアをつくる (3)
発想法のいろいろ-2
- 第8回 編集工程の概要 (1) 全体の流れ、企画の立案
- 第9回 編集工程の概要 (2) 原稿依頼、取材・原稿作成
- 第10回 編集工程の概要 (3) 原稿整理、ラフ作り
- 第11回 編集工程の概要 (4) デザイン、校正、DTP
- 第12回 出版企画の事例紹介
- 第13回 変化する出版と編集者の仕事 ※レポート課題の発表
- 第14回 まとめ
- 第15回 講義時間内で課題レポートを作成

【事前・事後学修】

- 【事前学修】・教科書、事前配布資料に目を通し、疑問点を整理しておく。(週2時間)
- 【事後学修】・学修内容のポイントを整理しノート等にまとめておく。(週2時間)

【テキスト・教材】

広報・雑誌づくりのらくらく編集術(三訂版)[日本エディタースクール出版部、2016、¥2,400(税抜)]
標準 編集必携(第2版)[日本エディタースクール出版部、2002、¥1,980(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・第15回講義の時間内で課題レポートを作成していただきます。課題は2週間前までに発表します。
- ・評価の配分は、平常点(授業態度、感想文提出)40%、レポート60%とします。フィードバックは「manaba」を使用する予定です。

【参考書】

『アイデアのつくり方』阪急コミュニケーションズ 864円
『今日から即使えるビジネス発想術50』朝日出版社 815円

【注意事項】

- ・理解度の進捗にあわせて講義内容、回数を変更することがあります。
- ・講義中の携帯電話・スマホの私的利用(撮影、録音を含む)は不可とします。

企業と情報

—経営情報論を学ぶ—

板倉 文彦

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

この講義では、企業の中で情報がどのように活用されているかを理解することを目標とします。

企業では、情報を活用するために数多くの情報システムが存在しており、ネットワークを介して他の企業や消費者とつながっています。この講義では、これらの仕組みを理解することに合わせ、企業がどのようなかたちで、どのように動いているのかも理解することができます。

この講義に登場した仕組みのいくつかは、皆さんが社会に出た後に実際に会うこととなります。その時に戸惑わないための知識を身につけましょう。

【授業における到達目標】

- 企業における情報活用状況を学ぶことで、社会人として知を探求し学び続ける「研鑽力」や、チームで業務を遂行する上で必要とされる「協働力」を修得することができます。
- また、情報社会において現状を正しく把握し、課題を発見できる「行動力」もあわせて修得できます。

【授業の内容】

- 第1週 会社の仕組み1－業務形態、組織形態、ビジネス領域
- 第2週 会社の仕組み2－部門概要、部門ごとの業務
- 第3週 会社の仕組み3－競争要因と企業戦略
- 第4週 情報とは何か－情報の定義、企業にとっての情報
- 第5週 現場のシステム－社員が日々使用する各種システム
- 第6週 企業システム1－部門単位のシステム
- 第7週 企業システム2－事業単位のシステム
- 第8週 企業システム3－業種別システム
- 第9週 企業システム4－基幹システム(ERP)
- 第10週 企業間システム(BtoB)－系列内・外とのシステム
- 第11週 顧客向けシステム(BtoC)－直接販売サイト、クレーム対応
- 第12週 社会的システム－通信(インターネット、電話など)からスマート社会まで
- 第13週 I Tベンチャー企業
- 第14週 情報化が企業に与えた影響
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく(週2時間程度)
- 事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する(週2時間程度)

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験成績および平常点で総合的に評価します。
- 配分基準：定期試験70%、平常点30%(授業態度、提出課題)
- 試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

企業研究 a

経営学基礎①

山崎 泰明

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

- ・経営学の基礎知識を体系的に修得します。
- ・現代のような不確実性の高まったビジネス環境の中で活躍する人材は、戦略やヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源の活用をしっかりと身に付けておくことが求められます。
- ・この授業では、ビジネスパーソンとして必須のマネジメントに関する基本的な知識や理論を体系的に学習し、修得します。
- ・授業を通して、特定非営利活動法人経営能力開発センターが実施する『経営学検定』初級資格程度を身に付けることを目指します。

【授業における到達目標】

- ・企業を見る際の基本的な知識を身に付け、本質的なメカニズムを見抜く洞察力を修得します。

【授業の内容】

- 第 1回 インTRODクシヨン：経営学について
- 第 2回 企業システム①：企業と経営、会社の概念と諸形態
- 第 3回 企業システム②：経営と支配
- 第 4回 企業システム③：ガバナンス
- 第 5回 企業システム④：DVD学習（株主総会）
- 第 6回 企業システム⑤：日本型経営システム
- 第 7回 経営戦略①：1960年代の経営戦略（多角化）
- 第 8回 経営戦略②：1970年代の経営戦略（事業の管理）
- 第 9回 経営戦略③：1980年代の経営戦略（競争戦略）
- 第10回 経営戦略④：1990年代の経営戦略（資源ベース）
- 第11回 事業戦略①：事業戦略の理論
- 第12回 事業戦略②：事業戦略のケーススタディ
- 第13回 生産戦略とマーケティング戦略：DVD学習
- 第14回 ケーススタディの読解
- 第15回 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・次回の授業で使用する資料に目を通し、わからない専門用語などを調べておくこと。（毎回2時間程度）

【事後学修】

- ・毎回の授業の終了時に行なう確認テストについて、再度、復習を行なうこと。（毎回2時間程度）

【テキスト・教材】

- ・毎回、サイトに資料をアップします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・毎回の理解度テスト30%
- ・ケーススタディの読解40%
- ・授業関与度（授業態度・課題の提出）30%
- ・フィードバックは毎回の授業の冒頭に行ないます。

【参考書】

- ・経営学検定試験公式テキスト1
- ・ファミリービジネスのイノベーション

【注意事項】

- ・スポーツやゲームをする際、ルールを知っておくことが重要です。同様に企業を見る際やビジネスを行なう際にも根本的なルールを知っておくとスムーズに進めることができます。
- ・そのルールに関わるケーススタディを学び、その中から汎用性を見つけて、企業経営の体系を学びます。

企業研究 b

経営学基礎②

山崎 泰明

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

- ・企業経営の課題を解決するための分析力とマネジメント能力の修得をします。
- ・現代のような不確実性の高まった環境の中でビジネスを行なうには企業経営に関する専門知識や経営課題を解決するための分析力を身に付けることが求められます。
- ・この授業では、必要とされる経営学の知識を実務と照らし合わせ（ケーススタディ）、体系的に学習し、修得します。
- ・この授業を通して、特定非営利活動法人経営能力開発センターが実施する『経営学検定』初級資格程度を身に付けることを目指します。

【授業における到達目標】

- ・社会人となった際に、ビジネスの世界で活躍するために必要な専門知識や企業のメカニズムについて修得します。

【授業の内容】

- 第 1回 インTRODクシヨン：この授業の目的と経営学の役割
- 第 2回 経営組織①：伝統的組織論と近代組織論
- 第 3回 経営組織②：経営組織の基本形態
- 第 4回 経営組織③：企業組織の諸形態その1
- 第 5回 経営組織④：企業組織の諸形態その2
- 第 6回 経営組織⑤：DVD学習
- 第 7回 経営管理①：経営管理の基礎理論
- 第 8回 経営管理②：マネジメント
- 第 9回 経営管理③：経営計画とコントロール
- 第10回 経営課題①：M&Aと買収防衛策
- 第11回 経営課題②：グローバリゼーション
- 第12回 経営課題③：情報化戦略
- 第13回 経営課題④：CSRと環境経営
- 第14回 ケーススタディ読解
- 第15回 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・次回の授業での資料に目を通し、わからない専門用語などについて調べておくこと。（毎回2時間程度）

【事後学修】

- ・毎回、授業の終了時に行なう理解度テストを振り返り、復習をすること。（毎回2時間程度）

【テキスト・教材】

- ・資料をサイトにアップします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・毎回の授業終了時に行なう理解度テスト30%
- ・ケーススタディ読解力40%
- ・授業関与度（授業態度、課題提出）30%
- ・フィードバックは毎回授業の開始時に行ないます。

【参考書】

- ・経営学検定試験公式テキスト1
- ・ファミリービジネスのイノベーション

【注意事項】

- ・スポーツやゲームをする際、ルールを知っておくことが重要です。同様に、企業を見たり、ビジネスを行なう際にも根本的なルールを知っておくとスムーズに進めることができます。
- ・経営学の学習方法の特徴は、①フレームワークを理解する、②ケーススタディで実務を知る、③経営者の生の声を聴く、の3点です。これらからのアプローチをし、その上で理論を学びます。

企業戦略論

柳田 志学

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、各業界において企業は激しい競争を繰り広げている。企業戦略論は、自社が顧客やライバル企業と向き合うなかでどのようにして自社の利益や企業価値を向上させていくかについての論理を考える学問である。本講義では、企業戦略論の視点から様々な業界における日本企業や外国企業の企業行動を理解できることを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考える。

【授業における到達目標】

企業戦略を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. ガイダンス：企業戦略論について
2. 全社戦略のフレームワーク
3. プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント
4. ポジショニング・アプローチ
5. 戦略グループと移動障壁
6. 資源アプローチ
7. 事業の多角化
8. VRIOフレームワーク
9. ゲーム理論のアプローチ
10. 企業の国際化
11. コーペティション
12. ブルーオーシャン戦略
13. 国際戦略のフレームワーク
14. 企業戦略のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

本講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題について解説する。

【参考書】

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』（東洋経済新報社 2003年）

谷口和弘著『戦略の実学』（NTT出版 2006年）

【注意事項】

授業テーマと関係するゲスト講師を招聘して、話をしてもらうことも検討している。

基礎スポーツ実習 a

バレーボール

村本 和世

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

生涯にわたり健康であり続けるためには、運動・栄養・睡眠は欠かせないものである。ここではその一つの運動としてのバレーボールを取り上げ、その特性を知り理解を深め、コミュニケーション力及びチームワーク（チーム力）を高めてゲーム（試合）を楽しむ。

加えて生涯における自己のからだへの健康意識を高めることを目的とする。

【授業における到達目標】

- 1、バレーボールを通じて仲間意識を深めコミュニケーション能力を高める。
- 2、自己の体力を高め心身の健康の充実を図る。
- 3、バレーボールの技術を学びその技能を高める。

【授業の内容】

バレーボールの基本技術から技能を学び、さらにルールを学習し合わせてその学習において、安全性を重視のうえ、育成を図る。

さらに、生涯スポーツとして手軽に誰でも楽しめるバレーボールを仲間と工夫しコミュニケーション能力を高め、体力強化にも力を入れたい。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 体力測定
- 3 バレーボールの特性及び授業展開について グループ分け
- 4 ボールの操作方法の理解オーバーハンドパスの基本
アンダーハンドパスの基本
- 5 オーバーハンドの応用（簡易ゲーム 2対2・3対3）
- 6 アンダーハンドの応用（簡易ゲーム 2対2・3対3）
- 7 スパイク・サーブ
- 8 連係技術の理解 ルール、審判法を含む
- 9 連係技術を用いて技能を高める（簡易ゲーム 4対4・5対5）
- 10 連係プレーの応用（5対5・6対6）
- 11 リーグ戦①
- 12 リーグ戦②
- 13 リーグ戦③
- 14 体力測定
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修

チーム編成の後、事前にグループで討議とコミュニケーション及び作戦を立てる。 週1時間

事後学修

授業内容の振り返り、成果の記入及び各グループの発表専門用語やルールを理解。 週1時間

【テキスト・教材】

授業開始時に指示をする。また必要に応じて資料配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（積極的な授業参加・課題提出）50%
毎回の個人振り返り記述内容（30%）及びグループ成果を発表・コミュニケーション力（20%）を加味する。
個人の振り返り及びグループ発表時にはその都度アドバイスを行うことでフィードバックする。

【参考書】

必要に応じて紹介する

【注意事項】

安全重視のため、スポーツウエアと体育館シューズは必須。
貴金属は、外して参加のこと。
第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。
※募集人数は36名です。

基礎スポーツ実習 a

バドミントンとフライングディスク

山形 高司

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

この授業は、生涯スポーツとして親しまれているバドミントンとニュースポーツのフライングディスクを用いたアルティメット種目を取り入れます。それぞれの種目に潜む「コツ」を理解することによって基本的な技術の向上を目指します。

【授業における到達目標】

1. バドミントンとフライングディスクの基本的な技術を実践できるようになる。
2. 各スポーツのルールや審判法を理解し、試合運営ができるようになる。
3. 互いに協力することで得られるスポーツの楽しさを理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 バドミントン 用具への慣れ、基本技術
- 第4週 バドミントン 基本ストロークⅠ、簡易ゲーム
- 第5週 バドミントン 基本ストロークⅡ、簡易ゲーム
- 第6週 バドミントン シングルス・ゲーム（ルール、審判法）
- 第7週 バドミントン シングルス・ゲーム
- 第8週 バドミントン ダブルス・ゲーム（ルール、審判法）
- 第9週 バドミントン ダブルス・ゲーム
- 第10週 フライングディスク 基本スロー
- 第11週 フライングディスク アルティメット（ルール）
- 第12週 フライングディスク アルティメット（簡易ゲーム）
- 第13週 フライングディスク アルティメット（ゲーム）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

資料や動画サイトなどを活用して種目の理解を深める。（学修時間 週1時間）

【事後学修】

授業で実施した内容の復習や基礎体力づくりのためにストレッチ、持久的運動、筋力トレーニングなどを実施する。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

適宜授業内でプリント資料などを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、平常点（積極性・協調性）50%、レポート20%、課題達成度20%、技能点10%とします。レポートは、授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【注意事項】

毎回運動着・運動用シューズ、筆記用具を持参してください。アクセサリ（指輪やピアスなど）は外し、長い髪は結ぶなどして受講してください。万全な体調で授業に出席してください。
第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週目以降の授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。
※募集人数は24名です。

基礎スポーツ実習 a

(渋谷キャンパス) ニュースポーツ

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習します。ソフトバレーボール・フライングディスク（アルティメット）といったニュースポーツを取り上げ、仲間とともに運動することの楽しさを通してコミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身に付けることを目標とします。

【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自己や他者の役割を理解し、互いに協力しあうコミュニケーション力や「協働力」の修得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ソフトバレーボール① 基本技術の習得
- 第4週 ソフトバレーボール② ルールの理解とゲームへの展開
- 第5週 ソフトバレーボール③ ゲームの実践と審判法
- 第6週 バドミントン① 基本技術の習得とルールの確認
- 第7週 バドミントン② シングルス戦
- 第8週 バドミントン③ ダブルス戦
- 第9週 バドミントン④ 団体戦の実施
- 第10週 フライングディスク① 基本技術（スロー&キャッチ）
- 第11週 フライングディスク② 基本技術（チームプレイ）
- 第12週 フライングディスク③ アルティメットへの展開
- 第13週 フライングディスク④ ゲームの実践
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活において運動実施に必要な身体づくりを行います。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で学んだ知識を日常生活に取り入れられるよう、積極的な運動実践を心掛け健康的な生活習慣の獲得を目指します。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、実技理解度20%で総合的に評価します。

各種目の技術習熟度について、次回授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（屋内外用）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。

※募集人数は24名です。

基礎スポーツ実習 a

フェンシング

市ヶ谷 廣輝

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

この授業の魅力は、頭脳的な駆け引き、スピーディーな試合運び、華麗なテクニックなど競技の面白さだけではなく、幅広い年齢層の目的に合わせた生涯スポーツの1つとして楽しまれているところです。

ここでは、フェンシングの3種目の中でもルールが簡単で分かりやすい「エペ」種目を実施します。

【授業における到達目標】

フェンシング競技の基礎技術を学ぶとともに、ルールやマナーを守ることや相手を尊重するといったスポーツを行う上で重要な「スポーツマンシップ」を養い、今後の人生において必要な能力を身につけます。また、短期間で試合が出来るよう指導しますので、フェンシング競技自体の魅力も触れられるレベルを目指します。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：体力測定
- 第3週：導入（レクリエーション、ルール・用具の説明）
- 第4週：基礎技術の習得①（構え、フットワーク、剣の持ち方）
- 第5週：基礎技術の習得②（ポジション、剣の操作）
- 第6週：基礎技術の習得③（基礎技術の復習）
- 第7週：実践練習①（攻撃）
- 第8週：実践練習②（防御）
- 第9週：実践練習③（阻止攻撃）
- 第10週：試合方法と審判法
- 第11週：試合（個人戦：リーグ方式）
- 第12週：試合（個人戦：トーナメント方式）
- 第13週：試合（団体戦）
- 第14週：体力測定
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

「事前学修」けがの防止やフェンシング特有な動きができるように、身体づくりや柔軟運動をしておくこと。（週2時間）

「事後学修」授業の中で学んだフェンシング用語や基礎動作を忘れないように復習しておくこと。（週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への興味・関心・意欲・態度）50%

課題達成度30%

レポート20%

各授業での技術達成度は次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

特になし。

【注意事項】

受講人数は24名以内とする。

運動靴（室内用）、トレーニングウェア、タオルを持参する。

アクセサリ類は身に着けない。

第1週目の授業にて履修カードの作成や諸連絡を行うので必ず出席すること。

基礎スポーツ実習 a

バドミントン・バレーボール

市ヶ谷 廣輝

1年～ 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

現代社会において健康は重要なテーマであり、生涯にわたり健康で充実した生活を送るためには、自分にとって健康とは何かを考え、それに向けて行動していくことが必要です。運動・スポーツは、健康を維持・増進させるために重要な要素のひとつでありながら、生涯学習といった側面からも重要な要素になっています。本授業では社会人になってからでも手軽に楽しめる種目であるバドミントンとバレーボールを取り上げます。これらのスポーツを通して、自身の健康に意識を向け生涯にわたって運動・スポーツに携わる姿勢を育みます。

【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践から、自身の健康維持や体を動かすことの楽しさなどを運動することの重要性を理解し、日頃からスポーツになれ親しむ姿勢を養成します。また、仲間と協力し互いに尊敬し合うことで相互理解を深め、日常生活においても実践できるコミュニケーションスキルの向上を目指します。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：体力測定
- 第3週：バドミントン①基本練習①
- 第4週：バドミントン②基本練習②
- 第5週：バドミントン③シングルス戦①
- 第6週：バドミントン④シングルス戦②
- 第7週：バドミントン⑤ダブルス戦①
- 第8週：バドミントン⑥ダブルス戦②
- 第9週：バレーボール①基本練習①
- 第10週：バレーボール②基本練習②
- 第11週：バレーボール③（簡易ゲーム）
- 第12週：バレーボール④（簡易ゲーム）
- 第13週：バレーボール⑤（試合）
- 第14週：体力測定
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

「事前学修」けがの防止やスムーズな動きができるように、身体づくりや柔軟運動をしておくこと。（週1時間）

「事後学修」授業の中で学んだ基礎動作を忘れないように復習しておくこと。（週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への興味・関心・意欲・態度）50%

課題達成度30%

レポート20%

各授業での技術達成度は次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

特になし。

【注意事項】

受講人数は36名以内とする。

運動靴（屋内用）、トレーニングウェア、タオルを持参する。

アクセサリ類は身に着けない。

第1週目の授業にて履修カードの作成や諸連絡を行うので必ず出席すること。

基礎スポーツ実習 b

ソフトボール・ゴルフ・テニス

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習します。屋外種目としてソフトボールやゴルフおよびテニス、屋内種目の卓球といった種目を通して、コミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身につけることを目標とします。

【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自分の身体の現状を正しく把握し、健康の維持・増進に必要な身体活動を日常生活の中に積極的に取り入れる「行動力」の修得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ソフトボール① 基本技術(投・捕・打)
- 第4週 ソフトボール② チーム練習(守備とルールの理解)
- 第5週 ソフトボール③ 試合形式による総合練習
- 第6週 ソフトボール④ 試合の実践
- 第7週 ゴルフ① 基本技術(クラブの握り方と打ち方)
- 第8週 ゴルフ② パターゴルフの実践
- 第9週 ゴルフ③ ミニコースのラウンド実践
- 第10週 ゴルフ④ ミニコースのラウンド実践
- 第11週 テニス① 基本ストロークの習得とルールの理解
- 第12週 テニス② ゲームの実践(シングルス戦)
- 第13週 テニス③ ゲームの実践(ダブルス戦①)
- 第14週 テニス④ ゲームの実践(ダブルス戦②)
- 第15週 まとめ 体力測定とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活において運動実施に必要な身体づくりを行いましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で学んだ知識を日常生活に取り入れられるよう、積極的な運動実践を心掛け健康的な生活習慣の獲得を目指しましょう。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、実技理解度20%で総合的に評価します。

各種目での技術習得について、次回授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

- ・天候によって種目の順序を変更する場合があります。
 - ・雨天時は卓球を中心に室内で実技を実施します。
 - ・運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（屋内・屋外用）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。
 - ・水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。
 - ・第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。
- ※募集人数は36名です。

基礎スポーツ実習 b

ソフトボール・サッカー

市ヶ谷 廣輝

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

運動・スポーツは、健康を維持・増進させるために重要な要素の1つでありながら、生涯学習といった側面からも重要な要素になっている。本授業では2020年の東京五輪種目でもあるソフトボールとサッカーを取り上げます。これらのスポーツを通して、自身の健康に意識を向けることだけでなく、生涯にわたって運動・スポーツに携わる姿勢を育みます。そして、今後の人生で必要とされる強調性やコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。

【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践から、自身の健康維持や体を動かすことの楽しさなど、運動をすることの重要性を理解し、日頃からスポーツに慣れ親しむ姿勢を養成する。

また、仲間と協力しお互いを尊重し合いながら活動することで総合理解を深め、日常生活においても実践できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。

【授業の内容】

第1週：ガイダンス

第2週：体力測定

第3週：導入（レクリエーション、ルール・用具の説明）

第4週：ソフトボール基礎練習①

（キャッチボール、バント、トスパッティング等）

第5週：ソフトボール基礎練習②

（ノック・フリーパッティング等）

第6週：ソフトボール基礎練習③

（基礎技術の復習及びチーム分等）

第7週：ソフトボール実践練習①（簡易ゲーム）

第8週：ソフトボール実践練習②（試合）

第9週：ソフトボール実践練習③（試合）

第10週：サッカー①（ルール説明・基本練習）

第11週：サッカー②（基本練習 パスやドリブル）

第12週：サッカー③（簡易ゲーム）

第13週：サッカー④（試合）

第14週：体力測定

第15週：まとめ

【事前・事後学修】

「事前学修」けがの防止やスムーズな動きができるように、身体づくりや柔軟運動をしておくこと。（週2時間）

「事後学修」授業の中で学んだ基礎動作を忘れないように復習しておくこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への興味・関心・意欲・態度）50%

課題達成度30%

レポート20%

各授業での技術達成度は次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

特になし。

【注意事項】

受講人数は36名以内とする。

運動靴（屋外用）、トレーニングウェア、タオルを持参する。

アクセサリ類は身に着けない。

第1週目の授業にて履修カードの作成や諸連絡を行うので必ず出席すること。

基礎スポーツ実習 c

早田 朋代

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本授業では、生涯健康に過ごすための身体づくりをテーマに運動の特性や効果について学び、身体を動かすことの必要性を理解するとともに運動習慣の定着性を目指す。

具体的にはストレッチ、エアロビックダンス、ダンス、リズム体操の実践を通じて、基本的動作を体得し、その習得と習熟に努めるとともに、生涯を健康に過ごすための有用な知識と実践方法を学ぶ。

【授業における到達目標】

体力測定を通して自分自身の体力・運動能力を把握し、今後健康な身体で生活をしていくための計画を立て実行する。また、音楽に合わせて身体を動かすことの楽しみを知り、体力向上、リズム感の向上を測る。また音に合わせて表現する方法を学び、仲間と協力をして1つの作品を作り上げ、自己や他者の役割を理解し、互いに協力することにより、協働力を高める。

【授業の内容】

1. オリエンテーション・ガイダンス

2. 体力測定、健康生活調査、目標作り

3. からだほぐし、ストレッチ

4. リズム体操①

5. リズム体操②

6. エアロビクスエクササイズ①

7. エアロビクスエクササイズ②

8. 身近な音楽を使ってヒップホップダンス①

9. 身近な音楽を使ってヒップホップダンス②

10. グループワーク①

11. グループワーク②

12. グループワーク③

13. 発表

14. 体力測定②

15. まとめ

【事前・事後学修】

各自で目標設定した後、その目標を達成できるよう週1時間程度、普段から健康を意識して生活を行うこと。また日頃からどんな音が身近にあるのか、どんな特徴があるのかを観察する。体力測定データについては分析とまとめを行う。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・出席状況・意欲・積極性）50%、レポート課題30%、グループワーク20%で総合的に評価します。

レポートは途中で1回、最終回で1回。

レポートのフィードバックは授業時間内に行います。

【参考書】

特に必要ありません。

【注意事項】

授業内容は順序や種目が異なる場合があります。

動きやすい服装（運動着）。運動靴（外履きと体育館履き）を必ず用意し、着用して下さい。服装および運動靴の貸し出しは一切しません。第1週目の授業時に履修カードの作成や第2週目以降の内容に関する諸連絡を行うので必ず出席すること。

*募集人数は36名です。

基礎スポーツ実習 c

コンテンポラリーダンス

河田 美保

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

いろいろなダンスの実践と即興表現を通して、からだを動かす楽しさを感じ、美しい姿勢や人間の多様な動きについて考え、基本動作の体得・習熟に努めるとともに、非言語コミュニケーション能力を高め、生涯を健康に過ごすための有用な知識と実践方法を学ぶことを目標にする。

【授業における到達目標】

- ①自分のからだに気づき、こころとからだの調整ができ、仲間との交流ができる。
- ②互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる。
- ③学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

【授業の内容】

授業前半は、基本エクササイズによるウォーミングアップを行うので、自分のからだと対話しながら、その日の体調や微妙なからだの変化を感じとる。授業後半は即興表現を中心に実習する。学期の後半には、即興表現で生まれた多様な動きを組み合わせ、作品づくりをする。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定、形態計測
- 第3週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第4週 アイスブレイク・ムーブメント（こころほぐし）
- 第5週 即興で動こうⅠ（からだの崩し）
- 第6週 即興で動こうⅡ（人間関係の崩し）
- 第7週 即興で動こうⅢ（リズムの崩し）
- 第8週 即興で動こうⅣ（空間の崩し）
- 第9週 作品づくり①（テーマ、構成、創作活動）
- 第10週 作品づくり②（創作活動、練習）
- 第11週 作品づくり③（練習、プレゼンテーションの方法）
- 第12週 体力測定、形態計測
- 第13週 姿勢評価システムによる姿勢測定、発表準備
- 第14週 作品発表会（VTR撮影）
- 第15週 総括（VTR鑑賞、講評、レポート課題）

【事前・事後学修】

- ①自分のからだ向き合う時間を毎日つくる。
 - ②授業で行った動きを復習する。
 - ③いろいろな舞踊作品を可能な限りLIVEで鑑賞する。
- ①②③合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、取り組み姿勢）50%、課題達成度（発表作品、創作活動の様子）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事等）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

【注意事項】

- ①第1週のガイダンスでは、履修カードの作成や受講上の重要事項の説明を行うので、必ず出席すること。
- ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。素足になれるようストッキングやタイツ等は着用しないこと。
- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。
- ④睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。

※受講人数制限36名

基礎スポーツ実習 d

なぎなた

高橋 聖子

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

実践女子大学に於けるなぎなたの歴史と全日本なぎなた連盟の歴史的背景を考慮し、なぎなたの特性を理解し、正確な基本技を修得する。

【授業における到達目標】

最終授業にて審査を受けることができ、合格者は全日本なぎなた連盟の「級位」を取得することができる。

日本の伝統文化「武道」を通して礼儀作法を学び、心・技・体を鍛えることができる。

- ①態度…日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度を習得できる。
- ②能力…自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・オリエンテーション
（授業内容の解説と進め方・履修カード作成）
- 第2週 体力測定
- 第3週 なぎなたの歴史について・実践女子大学におけるなぎなたの歴史について
礼儀作法—自然体・正座・座礼・立ち方・立礼
構え方—中段の構え
- 第4週 構え方—中段の構え・八相の構え・脇構え
体さばき—送り足・開き足・継ぎ足・歩み足・踏みかえ足
- 第5週 打ち方
①振り上げ打ち—正面・スネ・コテ
- 第6週 受け方—正面受け・左右面受け・左右スネ受け・胴受け
②八相からの打ち—左右面・左右スネ
打ち返し
- 第7週 1本目・2本目
- 第8週 連続技—二段技（面→スネ、振り上げスネ→側面、側面→スネ、スネ→側面）
- 第9週 ①振り返し技—面、スネ
②払い技—面払い、胴払い
- 第10週 3本目
抜き技—面抜き、スネ抜き
- 第11週 4本目・5本目
- 第12週 1本目～5本目の練習
- 第13週 総合練習①
- 第14週 総合練習②
- 第15週 まとめ（級位審査：打ち返し、1本目～5本目の形）

〈授業方法〉

ハンドブックによる内容説明。

1対多数による体さばき、技の実習。

二人一組（相対）となり基本打突、受け方、「しかけ応じ」の形の反復練習により技の修得をする。

【事前・事後学修】

【事前学修】

「なぎなたハンドブック」を読み専門用語等を理解しておく。

（週1時間）

【事後学修】

毎時間後「なぎなたハンドブック」を読み、復習する。

（週1時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題達成度30%（なぎなたの特性を理解したか、正確な技を修得したかを級位審査と合わせて評価する）

平常点50%（授業への積極参加・態度）
共通レポート15%・課題活動5%
級位審査後、評価と課題を各自にフィードバックする。

【参考書】

「なぎなた教室」全日本なぎなた連盟編 大修館書店

【注意事項】

- ・文部科学省の方針により、現在中学校・高等学校では「武道」が必修科目となっています。
 - ・「なぎなた」は実践女子大学ならではの種目です。
 - ・武道という性質上、幾つかの制約があります。（授業は裸足等）
 - ・体調を整え、袴・胴着・名札を準備すること。
 - ・級位を申請する場合には、別途費用がかかります。（2000円）
 - ・第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。
- ※募集定員は30名です。

基礎メディア技術

原島 大輔

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

今日では画像を作成・編集するテクノロジーが身近に利用できるようになっています。本授業では、画像作成・画像編集のアプリケーションを利用して、フライヤーやポスターや雑誌紙面を実際に作成することで、クリエイティブなITスキルの基礎を習得することがテーマとなります。

【授業における到達目標】

- ・ Adobe IllustratorとPhotoshopを利用した制作実習を通じて、クリエイティブ系ツールやクラウドサービスを活用した基礎技術の習得や情報デザイン力を涵養します。
- ・ 制作と発表を通じて、ITを活用した課題発見・計画の立案をともなう行動力を養成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 IllustratorとPhotoshopの基礎的な説明
- 第3週 Illustratorでの制作（フライヤーの作成）
：基本的なツール
- 第4週 Illustratorでの制作（フライヤーの作成）：描画ツール
- 第5週 Illustratorでの制作（フライヤーの作成）：文字ツール
- 第6週 Illustratorでの制作（フライヤーの作成）：レイヤー
- 第7週 Photoshopでの制作（ポスターの作成）：色補正
- 第8週 Photoshopでの制作（ポスターの作成）：範囲選択
- 第9週 Photoshopでの制作（ポスターの作成）：マスク
- 第10週 Photoshopでの制作（ポスターの作成）：合成
- 第11週 IllustratorとPhotoshopの統合（雑誌紙面の作成）
：ファイルの読み込み
- 第12週 IllustratorとPhotoshopの統合（雑誌紙面の作成）
：紙面のレイアウト
- 第13週 IllustratorとPhotoshopの統合（雑誌紙面の作成）
：ファイルの書き出し
- 第14週 IllustratorとPhotoshopの統合（雑誌紙面の作成）
：発表1
- 第15週 IllustratorとPhotoshopの統合（雑誌紙面の作成）
：発表2

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：授業は制作実習を中心に進めるので、事前学修として各授業回に指示する準備を済ませておいてください。
事後学修（週2時間）：授業では毎回、課題を出すので、事後学修として翌週までに課題を提出してください。

【テキスト・教材】

授業中に随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

制作課題（70%）と平常点（30%）により評価します。フィードバックとして、毎回提出された課題について講評します。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【注意事項】

情報機器の習熟に不安のある方は共通教育科目の「情報リテラシー」を履修後に受講することを推奨します。

基礎栄養学

栄養の仕組みを分子の目で捉える

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

◎その他、必要に応じて適宜紹介します。

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

【授業のテーマ】

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、生命を維持し、成長や修復を促進し、健康を保つために大切な生命システムです。基礎栄養学では生化学や生理学と関連づけながら、栄養素がどのように消化・吸収・代謝され、他の物質との相互作用により、健康の維持や増進、疾病の一次予防や治療に関わっているかをテーマに基礎的な知識を習得します。本講義は栄養士として幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

【授業における到達目標】

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 健康の維持・増進と疾病の一次予防・治療における栄養の役割を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

【授業の内容】

- 第1週 基礎栄養学総論（栄養の定義、栄養と健康・疾病）
- 第2週 食欲と食物の摂取（摂食調節とメカニズム、時間栄養学）
- 第3週 消化・吸収と体内動態と排泄（消化過程の概要）
- 第4週 炭水化物の栄養1（エネルギーとしての糖質と血糖調節）
- 第5週 炭水化物の栄養2（糖質の体内代謝と食物繊維の働き）
- 第6週 脂質の栄養1（脂質の分類と体内動態）
- 第7週 脂質の栄養2（脂質の代謝と生理活性物質の産生）
- 第8週 タンパク質の栄養1（タンパク質の合成と分解）
- 第9週 タンパク質の栄養2（タンパク質・アミノ酸の体内代謝）
- 第10週 ビタミンの栄養1（ビタミンの分類と歴史）
- 第11週 ビタミンの栄養2（ビタミンの構造と機能）
- 第12週 ミネラルの栄養（ミネラルの分類と生体機能の調節）
- 第13週 水・電解質の栄養学的意義（体液と電解質の調節機構）
- 第14週 エネルギー代謝（エネルギー代謝とその測定方法）
- 第15週 ゲノム情報から見た分子栄養学のすすめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

【テキスト・教材】

「栄養科学イラストレイテッド：基礎栄養学」 改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016年、2,800円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70点、平常点（毎回講義毎の小テスト・授業への積極参加）30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説を行います。

【参考書】

◎基礎栄養学ノート第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）
羊土社

◎基礎栄養学(改訂第5版)（健康・栄養科学シリーズ）南江堂

基礎栄養学

栄養の仕組みを分子の目で捉える

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

◎基礎栄養学(改訂第5版) (健康・栄養科学シリーズ) 南江堂

その他、必要に応じて適宜紹介します。

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

【授業のテーマ】

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、ヒトの健康を維持するための重要な生命維持管理システムです。基礎栄養学では「生化学」、「栄養生理学」、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」と関連づけながら、栄養素がどの様に消化・吸収・代謝され、分子レベルで相互作用することにより、健康の維持や増進、疾病の一次予防や治癒に関わっているかを系統的に学びます。管理栄養士専攻において、基礎栄養学は応用栄養学や臨床栄養学の根幹となる重要な専門科目です。そのため、この授業は管理栄養士モデルコアカリキュラムに沿って行います。

【授業における到達目標】

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 健康の維持・増進と疾病の一次予防・治癒における栄養の役割を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

【授業の内容】

- 第1週 基礎栄養学総論 (栄養の定義、栄養と健康・疾病)
- 第2週 食欲と食物の摂取 (摂食調節とメカニズム、時間栄養学)
- 第3週 消化・吸収と体内動態と排泄 (消化過程の概要)
- 第4週 炭水化物の栄養1 (エネルギーとしての糖質と血糖調節)
- 第5週 炭水化物の栄養2 (糖質の体内代謝と食物繊維の働き)
- 第6週 脂質の栄養1 (脂質の分類と体内動態)
- 第7週 脂質の栄養2 (脂質の代謝と生理活性物質の産生)
- 第8週 タンパク質の栄養1 (タンパク質の合成と分解)
- 第9週 タンパク質の栄養2 (タンパク質・アミノ酸の体内代謝)
- 第10週 ビタミンの栄養1 (ビタミンの分類と歴史)
- 第11週 ビタミンの栄養2 (ビタミンの構造と機能)
- 第12週 ミネラルの栄養 (ミネラルの分類と生体機能の調節)
- 第13週 水・電解質の栄養学的意義 (体液と電解質の調節機構)
- 第14週 エネルギー代謝 (エネルギー代謝とその測定方法)
- 第15週 ゲノム情報から見た分子栄養学のすすめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。(学修時間 2 時間/週)

【事後学修】 授業終了時に国家試験の過去問をもとにした小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。(学修時間 2 時間/週)

【テキスト・教材】

「栄養科学イラストレイテッド; 基礎栄養学」 改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016年、2,800円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70点、平常点(毎回講義毎の小テスト・リアクションペーパー・授業への積極参加)30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説を行います。

【参考書】

◎基礎栄養学ノート 第3版 (栄養科学イラストレイテッド[演習版]) 羊土社

基礎栄養学

栄養の仕組みを分子の目で捉える

中村 彰男

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

その他、必要に応じて適宜紹介します。

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

【授業のテーマ】

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、成長や修復を促進し、健康を保つための大切な生命維持システムです。基礎栄養学では有機化学、生化学、生理学や微生物学と関連づけながら、栄養素がどのように消化・吸収・代謝され、他の物質との相互作用により、健康の維持や健康増進に関わっているかを学びます。本講義は、様々な食分野にて活用できる幅広い基礎的な知識の習得を目標としますが、単に知識の詰め込みにならないように、双方向の講義を実践します。

【授業における到達目標】

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 栄養素を初めとする様々な食品に含まれる化合物がヒトの健康に及ぼす影響を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1週 基礎栄養学総論（栄養の定義、なぜ栄養学を学ぶか）
- 第2週 食欲と食物の摂取（摂食調節とメカニズム、時間栄養学）
- 第3週 消化・吸収と体内動態と排泄（消化過程の概要）
- 第4週 糖質の栄養1（エネルギーとしての糖質と血糖調節）
- 第5週 糖質の栄養2（糖質の体内代謝とエネルギー産生）
- 第6週 脂質の栄養1（脂質の分類と体内動態）
- 第7週 脂質の栄養2（脂質の代謝と生理活性物質の産生）
- 第8週 タンパク質の栄養1（タンパク質の合成と分解）
- 第9週 タンパク質の栄養2（タンパク質・アミノ酸の体内代謝）
- 第10週 ビタミンの栄養（ビタミンの分類と生理学的機能）
- 第11週 ミネラルの栄養（ミネラルの分類と生体機能の調節）
- 第12週 水・電解質の栄養学的意義（水と体液の4つの役割）
- 第13週 第六の栄養素としての食物繊維と腸内細菌叢
- 第14週 栄養と遺伝子（テーラーメイド栄養学）
- 第15週 胎児期の栄養とエピジェネティクス

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に国家試験の過去問をもとにした小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

【テキスト・教材】

「栄養科学イラストレイテッド：基礎栄養学」改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016年、2,800円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70点、平常点(毎回講義毎の小テスト・授業への積極参加)30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説を行います。

【参考書】

◎基礎栄養学ノート 第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]） 羊土社

◎基礎栄養学(改訂第5版)（健康・栄養科学シリーズ）南江堂

基礎栄養学実習

中村 彰男・松島 照彦

2年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

基礎栄養学で学んだ知識を基礎として、試験管レベルの実験、栄養素の消化実験、栄養素の分析・定量実験を行います。さらに、栄養情報リテラシーとして、栄養に関する情報を収集し、プレゼンテーションを行うことで、栄養素の機能や消化・吸収・利用に関する理解を深めます。

【授業における到達目標】**【到達目標】**

1. でんぷん、たんぱく質、脂質の消化の概要を説明できるようになる。
2. ビタミンや核酸について説明できるようになる。

【卒業要件・学位授与の方針との関連】

1. 実験を通して物事の真理を探究することで、新たな知を創造します。
2. 実験結果を正しく把握・解析し、問題点を発見する力を育みます。

【授業の内容】

- 第1回 でんぷんの消化実験
- 第2回 脂肪の消化実験
- 第3回 野菜ジュースのカロテンの定量実験
- 第4回 たんぱく質の消化実験
- 第5回 糖、アミノ酸・タンパク質の定量実験
- 第6回 食品たんぱく質の分析
- 第7回 食品に含まれる核酸の分析
- 第8回 実習内容に関するプレゼンテーション演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 事前にプリントを配布します。関連する栄養素の機能・消化・代謝などを教科書で復習しておいてください。第7回（演習）では、班ごとにテーマを提示します。事前に情報収集しプレゼンテーションの準備をしてください（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 第8回の授業では、管理栄養士国家試験過去問を利用した確認テストを行います。予め解答を作成し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度40%、試験60%で評価します。毎回の授業では、実験・実習の終了後にまとめ（フィードバック）を行います。

【参考書】

『基礎栄養学』（光生館）

『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅠ（第2版）』（第一出版）

【注意事項】

実験用の白衣と上履きを着用すること。

基礎演習

—美学美術史学科における学びの基礎を固める—

衆 和沙・小倉 絵里子・金原 さやか・中村 友代

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

美学美術史学科で展開する専門分野の学習に向けて、「見る」「読む」「調べる」「書く」という、基本的スキルを身につける。

【授業における到達目標】

1. 学修を通して自己成長する。
2. 課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

【授業の内容】

授業は4名の担当教員により4クラス編成で行う。授業は原則としてクラス単位で実施するが、博物館・美術館（東京国立近代美術館ほか）の見学授業等を全体授業として行う。

1. イントロダクション：専門科目の学びの特徴と授業の位置付け・目標（全体授業）
2. 美術史研究の基本用語（1）日本美術・日本近代美術
3. 美術史研究の基本用語（2）中国美術・仏教美術
4. 美術史研究の基本用語（3）西洋美術・西洋近代美術
5. 資料収集の基礎（1）文献資料の収集と活用
6. 図書館ガイダンス（1）：図書館を利用した情報検索の基礎を学び、課題に取り組む
7. 図書館ガイダンス（2）：フォローアップとフィードバック
8. 資料収集の基礎（2）作品データの収集と活用
9. 美術館見学授業ガイダンス
作品ディスクリプションの基礎（基本編）（全体授業）
10. 見学授業（1）東京国立近代美術館（全体授業）
11. 見学授業（2）東京国立近代美術館 工芸館（全体授業）
12. 作品ディスクリプションの基礎（応用編）
レポート論文の基礎：論文の基本的な構成（序論・本論・結論）と参考文献や注の役割を理解する
13. 見学授業フォローアップ（1）見学での直接調査により得た知見をまとめ、発表・意見交換を行う（前半）
14. 見学授業フォローアップ（2）見学での直接調査により得た知見をまとめ、発表・意見交換を行う（後半）
見学作品に関する調査より得た知見を 序論・本論・結論、注、文献一覧を備えたレポートにまとめる
15. まとめ 課題へのフィードバック

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時に配布する資料・プリントを次回授業までに読み、内容を把握しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で指示されるレポート・発表等の課題に取り組む。授業時に配布する資料・プリントを復習する。授業内でとりあげる参考文献・参考資料に目を通す。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。参考文献・参考資料等については、授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加）20%および課題80%の割合で、総合的に評価する。授業最終日にフィードバックを行なう。

【注意事項】

必修授業ではないが、2年生は全員受講すること。授業の順序は、展覧会の会期や図書館ガイダンス等の都合により変更する場合がある。展覧会見学にかかる交通費等は、すべて学生の自己負担である。

基礎演習

－ 演習形式の授業に慣れよう －

大倉 恭輔・久保田 佳枝・萩野 敏・三田 薫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力、○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「演習＝ゼミナル」は、学生の積極的な学びがポイントとなる授業科目です。「自分で調べ・考え・まとめる」とともに、「他のゼミ生との議論」をとおして学びを深めることが求められます。

そうして、「実践入門セミナー」で学んだことを踏まえながら、2年次の「卒業演習」への準備をしていきます。

【授業における到達目標】

ひとつのテーマについて、計画を立て討議を重ねながら問題解決につなげます。このとき、互いの信頼・尊重のもと協力しあい、作業を進められることをめざします。

その上で、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

【授業の内容】

- 01 イントロダクション
- 02 テーマを見つける
- 03 問題を見つける
- 04 情報を集める a 教科書・参考書からさがす
- 05 情報を集める b 図書館・ネットでさがす
- 06 情報をまとめる a 分類・要点・構成
- 07 情報をまとめる b 図表をつくる
- 08 情報を発信する a 文書と書式
- 09 情報を発信する b 段落と文章
- 10 情報を発信する c ハンドアウトとリポート
- 11 情報を発信する d プレゼンテーションの構成と方法
- 12 情報を発信する e プレゼンテーションでの話し方・態度
- 13 情報を発信する f 討議の方法（聞く・メモする・質問する）
- 14 情報を発信する g 反省点を見つける・修正する
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。授業開講週をあらわすものではありません

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、内容や順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
発表資料の作成などの準備に取り組むこと。（週2時間以上）
- ・事後学修
授業内容の復習や他の人の発表内容の疑問点などについて調べる
こと。（週2時間以上）

【テキスト・教材】

授業開始時に提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業内での発表・成果物など 70% + 授業へ積極的参加度 30%
- ・最終授業日あるいは manaba 上でフィードバックをおこない
ます。

【参考書】

授業時に提示します。

【注意事項】

- ・授業運営や進行は、担当教員によって異なる場合があります。
- ・授業の妨げになる行為や勉強意欲に欠ける行為があった場合、教室からの退出や成績評価の大幅減点の対象となります。
- e. g. 私語・居眠り・授業資料不携帯・携帯電話使用 など

基礎演習 1 (言語表現とコミュニケーション)

田中 正浩・長崎 勤・塩川 宏郷

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

本授業では、言語力（話す力、聞く力、書く力、読む力）を中心に、生活文化学科生活心理専攻・幼児保育専攻の学生として、今後の学修を展開していくうえで必要不可欠な基本的な言語知識並びに言語技能を確認しつつ、修得していくことをテーマとしている。

【授業における到達目標】

言語力（話す力、聞く力、書く力、読む力）を高め、概略次のような力が身に付くことをめざす。①論理的な文章を正確に読解できる。②自分の意見、考えを文章作法に則って論理的に表現できる。

【授業の内容】

- 第1回 本授業で何を学ぶのか
- 第2回 自己紹介文を書く
- 第3回 自己紹介を口頭で行う
- 第4回 文章を書く－手紙文－
- 第5回 文章を書く－メール文－
- 第6回 論理的文章を読む－クリティカルシンキング－
- 第7回 論理的文章を読む－新聞コラムを読む－
- 第8回 論理的文章を読む－評論を読む－
- 第9回 文章作法について
- 第10回 論理的文章を書く－小論文－
- 第11回 論理的文章を書く、発表する－小論文－
- 第12回 レポートの書き方
- 第13回 プレゼンテーションの仕方
- 第14回 プレゼンテーションの実践
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、課題、発表、レポート等に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。資料プリントの次回授業範囲を読み、自分なりに理解しておく。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業にて、適宜、資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、レポート(50%)、平常点〔授業への取り組み、発表、提出課題〕(30%)により総合的に評価する。小テストについては、次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて、適宜、紹介する。

基礎演習 2 (科学的思考法とコミュニケーション)

渡辺 敏

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

基礎演習2では、論理的思考力を中心に、思考、判断、表現する力を身につけることを目的とします。3年生から始まるゼミでの自分の研究を支える基礎的な学ぶ力を習得することを目指します。データを集めて、それを図や表にあらわすこと、また、それを分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることを目標とします。グループワークやレポートの講評などを通して互いに批判しながら学びを高める授業を行います。授業と並行して論文や自分の読んだ本についてレポートを書く課題も行います。

【授業における到達目標】

教育や保育における日本の現状を統計から学び、その有用性を理解します。グループで協働して研究テーマを決め、アンケートをとり集計し、そこでの知見を考える活動を通して、自らの考えを磨き高めます。その際、テーマに関わる先行研究を読んで、その内容をまとめる方法を学びます。研究結果をプレゼンするときには聞く側の立場に立って、表やグラフ表現を考え、よりわかりやすい内容提示を協働して考える力を身に付けます。15回の授業を通して研究の基礎となる文章やグラフ表現についての理解を深めます。

【授業の内容】

- 第1週 表やグラフを読む
- 第2週 表やグラフを作る
- 第3週 表やグラフを用いた文章の作り方
- 第4週 先行研究を読む
- 第5週 先行研究をまとめる
- 第6週 量的研究の進め方
- 第7週 アンケートを用いた個人研究
- 第8週 アンケートの集計と分析
- 第9週 個人研究の振り返り
- 第10週 アンケートを用いたグループ研究
- 第11週 アンケートの集計と分析
- 第12週 グループ研究の結果と考察の検討
- 第13週 グループ研究の発表用パワーポイントの作成
- 第14週 グループ研究の発表の練習と話し合い
- 第15週 グループ研究の振り返り

【事前・事後学修】**【事前学修】**

自分の書いたレポートを何度も読んで推敲する

(学修時間 週1時間)

【事後学修】

添削されたレポートを再度読み直し、より読みやすい文章に書きなおす(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出レポート50%、グループワーク40%、授業態度10%。提出されたレポートはコメントを入れてフィードバックします。また、レポートはお互いに読み合い、それぞれの文章表現から学びを深めます。

【参考書】

授業で紹介します。

【注意事項】

自分の書いたレポートは何度も読み直し、だれにでも読みやすい文章に直してください。

主に幼児保育専攻の学生を対象とします。

基礎演習2（科学的思考法とコミュニケーション）

作田 由衣子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

基礎演習2では、論理的思考力を中心に、思考、表現、判断する力を身につけることを目的とします。3年生から始まるゼミでの自分の研究を支える基礎的な学ぶ力を習得することを目指します。データを集めて、それを図や表にあらわすこと、また、それを分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることを目標とします。グループワークやレポートの講評などを通して互いに批判しながら学びを高める授業を行います。授業と並行して自分の読んだ本についてレポートを書く課題も行います。

【授業における到達目標】

データを集めて図や表にあらわすこと、分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることができる。現状を正しく把握し、課題を発見できる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 文献研究について
- 第3週 文献研究のレポートの書き方
- 第4週 棒グラフ、折れ線グラフの読み方
- 第5週 割合を用いたグラフの読み方
- 第6週 アンケートの集計とグラフの書き方
- 第7週 グラフを用いたレポートの書き方
- 第8週 量的な研究について
- 第9週 アンケート調査の方法とまとめ方
- 第10週 グループでの研究テーマの設定とアンケートの作成
- 第11週 グループでのアンケートの集計と分担
- 第12週 グループでのグラフ作成と結果の考察
- 第13週 グループでの発表用パワーポイントの作成
- 第14週 グループでの発表の練習と話し合い
- 第15週 グループでの研究の発表

【事前・事後学修】

【事前学修】関連する参考書などを読んでおく（学修時間 週2時間）

【事後学修】添削されたレポートを再度読み直し、より読みやすい文章に書きなおす（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出レポート50%、グループワーク40%、授業態度10%

小レポートや毎回の質問についてはそのつど授業内でフィードバックを行う。最後のグループごとの発表については授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業で紹介します。

【注意事項】

自分の書いたレポートは何度も読み直し、誰にでも読みやすい文章に直してください。

主に生活心理専攻の学生を対象とします。

基礎化学

山崎 壮

1年 前期 2単位

©：研鑽力

(3)日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』（東京化学同人 2011年）2,400円＋税

(4)高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

【注意事項】

第2回授業から、responを使って出席確認と自己評価票の提出を行うので、manaba courseの説明を参考にしてスマホにresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生には出席票（印刷物）を用意します。

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

【授業のテーマ】

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するために、基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方、および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

【授業における到達目標】

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

【授業の内容】

(1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質質量（モル）

②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

(2) 有機化合物の化学構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

(3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、適宜用紙に記載して宿題に添付して提出すること。（学修時間 週2時間）

宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。

採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

【参考書】

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円＋税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円＋税 [「生化学a」と「生化学b」の教科書]

基礎化学

山崎 壮

1年 前期 2単位

©：研鑽力

(3)日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』（東京化学同人 2011年）2,400円＋税

(4)高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

【注意事項】

第2回授業から、responを使って出席確認と自己評価票の提出を行うので、manaba courseの説明を参考にしてスマホにresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生には出席票（印刷物）を用意します。

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

【授業のテーマ】

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するために、基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方、および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

【授業における到達目標】

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

【授業の内容】

(1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質量（モル）

②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

(2) 有機化合物の化学構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

(3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、適宜用紙に記載して宿題に添付して提出すること。（学修時間 週2時間）

宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。

採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

【参考書】

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円＋税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円＋税 [「生化学a」と「生化学b」の教科書]

基礎化学

山崎 壮

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

(3)日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』（東京化学同人 2011年）2,400円＋税

(4)高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

【注意事項】

第2回授業から、responを使って出席確認と自己評価票の提出を行うので、manaba courseの説明を参考にしてスマホにresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生には出席票（印刷物）を用意します。

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

【授業のテーマ】

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するために、基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方、および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

【授業における到達目標】

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

【授業の内容】

(1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質質量（モル）

②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

(2) 有機化合物の化学構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

(3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、適宜用紙に記載して宿題に添付して提出すること。（学修時間 週2時間）

宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。

採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

【参考書】

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円＋税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円＋税 [「生化学a」と「生化学b」の教科書]

基礎造形演習

モノづくり基礎を演習します

塚原 肇

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業ではデザインに一番重要な発想力と表現力についての基礎的な演習を行います。前半はケント紙を使用し、モノをデフォルメして立体的に表現する練習、またケント紙の性質を理解してある程度の強度を持った立体の構成、後半はスチレンボードを使い、図面で指示された製品のモックアップを作成します。

【授業における到達目標】

- ・前半は1cm角の木材を材料に、対象物をデフォルメ（簡略化）する能力とそれを立体に構成するスキルを修得します。これらはデザインを行う上での発想法と表現力の訓練になります。【美の探求】
- ・中盤の演習では紙の特質を理解してある程度の強度を持った形態を構成します。
- ・後半の演習では制作図面から具体的な「モノ」をモデリングするスキルを修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、課題解決のために主体的に行動する力【研鑽力】を総合的に修得します。

【授業の内容】

01. ガイダンス、授業のルール、進め方の説明
02. 課題01 1cm角の木材で動物を構成する(デザインを考える)
03. 課題01 1cm角の木材で動物を構成する(構成する)
04. 課題02 紙で動物を作成する(デザインを考える)
05. 課題02 紙で動物を作成する(試作する)
06. 課題02 紙で動物を作成する(作成する)
07. 課題03 立体でリズム、動きを構成する(デザインを考える)
08. 課題03 立体でリズム、動きを構成する(試作する)
09. 課題03 立体でリズム、動きを構成する(構成する)
10. 課題04 紙で橋を作成する(構造を考える)
11. 課題04 紙で橋を作成する(試作する)
12. 課題04 紙で橋を作成する(作成する)
13. 課題05 スチレンボードで書架を作成する(図面を理解する)
14. 課題05 スチレンボードで書架を作成する(パーツを作成する)
15. 課題05 スチレンボードで書架を作成する(組み立てる)

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に準備しておいてください。(学修時間 週最低2時間以上)

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で制作して次の課題の構想を準備しておいてください。(学修時間 週最低2時間以上)

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフ、スチレンボード、カッティングマット、接着剤、定規は各自用意してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

授業において、課題の提出時に即時評価を行い、良い点および改善等のコメントを直接本人に伝える。

【注意事項】

ファッション分野、住環境デザイン分野、プロダクト・インテリア分野に共通の基礎演習です。いずれの分野に進むにしても必要不可欠な基礎知識ですので、しっかりと修得することを願います。教室の定員制限のため60名とします。希望者が多い場合は上級生を優先で抽選とします。

基礎造形論

デザインの視覚化

金井 宏水

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

我々の身の回りの製品（プロダクト）はいろいろな形態と材料から成り立っている。本授業では、プロダクトや環境のデザインをする上で最も基本となるフォルムの発想法と、第三者にイメージを伝達するためのいろいろな視覚化手法について学修する。

【授業における到達目標】

3年次以降のデザイン制作課題においては、フォルムの発想能力やそれを視覚化する能力が必ず必要となる。それらにはそれぞれ手法があるので、まずは手法を知ることと体験してみることから始める。この授業では、発想法と視覚化手法について学修し、基礎的な知識とスキルを身につけることを目標とする。ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探求」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・基礎造形論の概要
- 第2週 フォルムと発想法・造形練習
- 第3週 視覚化の種類と手法・スピードシェイプを造形する
- 第4週 造形を視覚化するスケッチ
- 第5週 立体による造形-1（三面から切削）
- 第6週 立体による造形-2（形を整えて完成）
- 第7週 製図の基礎知識・形をつかむ
- 第8週 製図道具の使い方・線の引き方
- 第9週 基本的な図面作図練習
- 第10週 寸法の入れ方・製図の実践
- 第11週 図面を完成させる
- 第12週 図面から展開図を起こす
- 第13週 ペーパーモデルの制作練習
- 第14週 展開図から立体に（ペーパーモデル）
- 第15週 モデルの完成・評価

【事前・事後学修】

事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと。（テーマごとに約180分）

事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておくこと。（毎週約120分）

課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外に進めておき、期限に間に合わせることを。

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配付。実習に使う鉛筆、カッターナイフとマット、三角定規、製図道具、スチレンボード、スケッチブックなど、別途に指示する用具類を各自用意すること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習課題の提出物・・・70%

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・30%

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

【参考書】

『プロダクトデザインの基礎』

【注意事項】

定員は40名までとする。希望者が多い時は、上級生を優先した抽選を行う。

基礎調理

教野 千恵子

1年 後期 2単位 3時限連続

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

調理に用いられる食材の基礎知識および調理機器・器具等の扱い方を習得し、調理技術の基礎をマスターすることを目的とする。
さらに、実験により調理過程における諸現象を観察することにより、理論と技術の関連性を把握し、合理的な調理方法を学修する。

【授業における到達目標】

日常よく用いられる食材の扱い方や調理法および調理機器・器具の使い方を修得する。学修を通して自己成長する力「研鑽力」やグループの中で自己の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力「協働力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ①実習の心得と衛生的・安全に調理を行うための注意点、
②調理器具の扱いや調味料の基礎知識 ③炊飯
- 第2週 日本料理1：炊き込みご飯（塩味）、煮物など
- 第3週 日本料理2：煮干し出汁のとり方、和食の配膳、
炊き込みご飯（醤油味）、和え物など
- 第4週 卵の調理特性に関する実験
熱凝固に関する卵の希釈率や副材料の影響
- 第5週 西洋料理1：魚料理、ハーブの種類と使い方
カスタードプディング、パスタの扱い方
- 第6週 西洋料理2：ブイヨンのとり方、サラダとドレッシング、
ホワイトソース、ゼラチンの扱い方
- 第7週 砂糖の調理特性に関する実験および官能評価
砂糖の種々の性質を知り、菓子類への影響を検討する
- 第8週 中国料理1：中華スープのとり方、中後調味料の使い方、
寒天の扱い方、でん粉の使い方
- 第9週 日本料理3：すし飯、薄くず汁、魚のさばき方
- 第10週 日本料理4：天ぷら、油の扱い方、上新粉の扱い方
- 第11週 西洋料理3：クリスマス料理 肉料理、焼き菓子、紅茶
- 第12週 行事食：おせち料理（祝い肴、口取り、雑煮）
- 第13週 小麦粉の調理特性に関する実験
パンを調製し、小麦粉の生物的膨化を観察する。
- 第14週 香辛料を使った料理：スパイスとハーブの使い方
- 第15週 各自が課題に対応した献立1品を考え作成する。

【事前・事後学修】

【事前学修】実習の献立および資料を予習し、手順等を理解してから授業に臨んでください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習レポートを作成して次回の授業時に提出してください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

- ・資料プリント：1週間前にmanabaに掲載します。毎回各自で印刷し授業に持参してください。
- ・『日本食品成分表 2019年版（7訂）』（医歯薬出版株式会社 2019年）1,300円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実技試験40%、レポート及び提出課題30%、筆記試験20%、授業への参加態度10%により総合的に評価します。実技試験は実施時に、レポートおよび提出課題は次回の授業でフィードバックします。

【参考書】

『調理学』『食品学』『調理学実習』などの教科書全般が、課題を行うのに参考になります。

【注意事項】

授業では調理専用の白衣、帽子およびコックシューズを着用し、手指の清潔に心がけ、つめは短く切り、指輪などのアクセサリ類は身につけないで下さい。貴重品は自己管理を徹底してください。実習中は火気や刃物を取り扱いますので十分に注意して行動して下さい。なお、日頃から体調管理を怠らず、万全な体調で実習に望んでください。

基礎調理 1

佐藤 幸子

1年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：行動力

【授業のテーマ】

本講座は、調理の基本的な知識および技術を習得し、食材の美味しさを活かす調理法を学び、調理の実践力を養います。

実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の工程を全て完結することを目指します。また、管理栄養士として、調理システムについて理解し、調理操作の実践力を養い、衛生管理を実践的に学びます。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術としての習得すべき「学術的な力」（調理の基本）となる技能を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
計量、包丁の扱い方、炊飯、出汁の取り方
- 第2回 日本料理Ⅰ
『白飯、お吸い物、魚の塩焼き、青菜のお浸し』
吸い物の構成、焼き物の温度管理、一尾魚の扱い方、二番出汁の活用法、一汁三菜の配膳
- 第3回 日本料理Ⅱ
『桜飯、鰯の南蛮漬け、茶碗蒸し』
炊き込みご飯の調味%、魚のおろし方、蒸し物料理
揚げ物の温度管理、蒸し器の扱い方、
- 第4回 中国料理
『清湯、粽子、猪肉餃子、涼拌、カピ豆腐』
上湯の取り方、餅米調理、乾物の扱い方、寒天の扱い方
- 第5回 西洋料理
『Consomme、Hamburg steak、Gelee aux mandarin』
ブイヨンの取り方、ひき肉料理、ゼラチンの扱い方
- 第6回 西洋料理
『Poulet roti、Coquille、Decolation cake』
オープン料理、紅茶の入れ方
- 第7回 行事食（お正月料理）
『お雑煮、筑前煮、栗金団、伊達巻、金柑の甘煮、膾』
日本の伝統的な年中行事・通過儀礼
- 第8回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）包丁の技術検定

【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間 週1時間）

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

実習内容について考察し、レポートにまとめ、manabaに提出すること。

【テキスト・教材】

- ・『最新日本食品成分表医歯薬出版編』（医歯薬出版(株)2016年）1300円（税別）
- ・授業資料（レシピ等）はmanabaにて掲載（各自印刷）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切り（毎検定後に評価）
- ・レポート30%：授業のまとめ（次回授業後にフィードバックする）
- ・確認テスト20%：調味%等の筆記テスト
- ・平常点評価20%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『New 調理と理論』山崎清子（同文書院 2015年）2,600円（税別）

【注意事項】

授業は調理専用の白衣、帽子および上履きを着用し、爪は短く手指の清潔と安全に十分配慮する。貴重品は自己管理する。なお、実習内容は、材料の仕入れ状況により変更する場合がある。

基礎調理 1

佐藤 幸子

2年 前期 1単位 3時限連続

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、家庭における食事づくりに必要な調理技術の向上を目指し、食材の美味しさを追求した調理の実践力を養います。実生活で応用し健康的な食生活を実現できる実践力を養います。

実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の行程を全て完結することを目指します。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術として習得すべき「学術的な力」（調理の基本）となる技能を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス 計量、包丁の扱い方、炊飯、出汁の取り方
- 第2回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）、包丁の技術検定
- 第3回 日本料理Ⅰ 一汁一菜
『おにぎり、お吸い物、即席漬け、』
- 第4回 日本料理Ⅱ 出汁の取り方（煮干し）、卵料理、八方出汁
『ゆで卵、青菜のお浸し、お味噌汁』
- 第5回 日本料理Ⅲ 炊き込みご飯 焼き物（卵の調理）
『青豆ごはん、だし巻き卵』
- 第6回 日本料理Ⅳ 酢の物 合わせ味噌（赤出汁の味噌汁）
『胡瓜の酢の物、なめこの味噌汁』
- 第7回 中国料理Ⅰ 出汁 蒸し物
『清湯、木屋炒飯、鮮肉焼売』
- 第8回 中国料理Ⅱ 塩蔵品の扱い方、寒天の扱い方
『涼拌、カピ豆腐』
- 第9回：中国料理Ⅲ 揚げ物
『春捲、春餅』
- 第10回：西洋料理Ⅰ 出汁 ひき肉料理
『Consomme、Hamburg steak』
- 第11回：西洋料理Ⅱ ゼラチンの扱いかた
『Salade de chou hache Gelee aux mandarin』
- 第12回：西洋料理Ⅲ パンの調理
『Pickles、Sandwich』
- 第13回：魚のおろし方、揚げ物の温度管理、和物の調味料
『南蛮漬け、胡瓜の胡麻酢和え』
- 第14回 おもてなし料理
『ちらし寿司、潮汁、水羊羹』
- 第15回 まとめ 調理器具類の扱い方

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習内容について考察しレポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

新ビジュアル食品成分表 新訂第二版〔榊大修館出版、2016、¥1,000(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・レポート30%：授業復習・課題研究（manabanに提出）
（次回授業時にフィードバックする）
- ・確認テスト20%：筆記テスト
- ・平常点評価20%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『NEW調理と理論』山崎清子等（同文書院2015年）2,600円（税別）

【注意事項】

衛生管理のため、指定された身支度を整え清潔に心がける。実習中は、指示に従い、安全に留意する。自己管理を怠らず、万全な体調で臨む。材料の仕入れ状況により内容を変更する場合がある。

基礎調理 2

中川 裕子

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

【授業のテーマ】

調理は、食材の特性およびその利用などが融合して形成された食文化に基づいていることを理解し、実際の基礎知識と食生活全般に役立つ総合的な判断力・実践力を身につけ、応用自在な調理を展開できるようになることを目的とする。本実習は、基礎調理1で修得した基本的な知識および調理技術をもとに、それらの向上を目指して食材のおいしさを追求した調理の実践力を養う。また、管理栄養士として、大量調理に応用できる調理システムについて理解し、合理的かつ能率的調理操作の実践力を養う。さらに、食品の安全性を重視した食材の扱い方を学び、衛生管理を実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

基礎調理学実習で修得した基本的内容の復習と総まとめを行い、なるべく多くの実習例を修得し応用自在に調理ができることを目標とする。食に携わるものとして、学生が習得すべき「研鑽力」のうちの広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 1 日本料理Ⅰ
魚の手開き、豆腐の水切り、寒天の調理法、もち米の調理性、乾燥豆のゆで方
- 2 日本料理Ⅱ
すし飯の作り方、乾物の戻し方、卵の調理性、デンプンの糊化を利用した調理、調味料パーセントの計算
- 3 日本料理Ⅲ
会席料理の献立、乾麺の扱い方、天麩羅の仕方、上新粉および白玉粉の調理性
- 4 中国料理Ⅰ
点心について、中国料理の和え物、麺打ち、中国料理の特殊食材、中国茶の種類
- 5 中国料理Ⅱ
献立形式について、中華鍋の扱い方、膨張剤（BP）を使ったお菓子、切裁方法、揚げ物（油通し、2度揚げ）
- 6 西洋料理Ⅰ
食事様式とマナー、圧力鍋の使い方、ルー、ゼラチンを用いる菓子、香辛料の扱い方、紅茶について
- 7 西洋料理Ⅱ
オープン料理、小麦粉の膨化調理、生野菜の扱い方、コーヒーの淹れ方
- 8 まとめ（筆記試験、実技試験）

【事前・事後学修】

事前学修：manabaから授業時に使用する資料およびレシピを各自印刷し、授業内容の予習をしておくこと。（学修時間1時間）

事後学修：レポートに実習内容とポイント、課題を記入して実習1週間後に提出すること。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

『最新日本食品成分表』（医歯薬出版株式会社）最新版
授業資料はmanabaに掲示する。（各自印刷）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験20%、実技試験30%、提出レポート50%、
レポートを提出し、正しい技術と認識が身についているかチェックを受け評価する。

【参考書】

『New 調理と理論』山崎清子（同文書院）2,600円（2005）

【注意事項】

授業は調理室を使用するので調理専用の白衣、帽子および上履きを着用して入室。爪は短く、マニキュアはしない、指輪は外す、清潔と安全に十分配慮すること。貴重品は自己管理を徹底すること。

基礎調理 2

佐藤 幸子

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本講座は、基礎調理 1 で学んだ基本的な知識および技術をさらに定着させることを目指し、食材の美味しさを追求した調理の実践力を養います。内容は、献立形式とし、より創造性豊かな調理的感性を養い、日本の伝統的な料理に対する意識向上を図ります。実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の行程を全て完結することを目指します。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を習得します。

【授業の内容】

- 第1回 西洋料理Ⅰ 酢油ソースの応用、パイクラフトの作り方
『Caesar salad、Pumpkin pie』
- 第2回 日本料理Ⅰ 和菓子 酢飯
『巻き寿司、いなり寿司、沢煮椀、利久饅頭』
- 第2回 中国料理Ⅰ もち米の調理
『蛋花湯、粽子、棒棒鶏、辣拌黄瓜、水果西米露』
- 第3回 中国料理Ⅱ 小麦粉の調理（強力粉）
『搾菜湯、猪肉餃子、豆鼓蒸紅魚、韭黄炒肉』
- 第4回 西洋料理Ⅱ ポタージュのつくり方、カラメルソース
『Escalope de porc cordon blue、Potage creme de carottes、Pudding au caramel』
- 第5回 日本料理Ⅱ 魚の三枚おろし（復習）
『味噌煮、魚の素揚げ』
- 第6回 おもてなし料理（クリスマス料理）
『Poulet roti、Coquille、Pillaf de crevettes、Decolation cake、Cranberry punch』
- 第7回 おもてなし料理（お正月料理）
お雑煮、筑前煮、柿臈、栗金団、金柑の甘煮、伊達巻
- 第8回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）、包丁の技術検定

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料およびレシピを印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

新ビジュアル食品成分表 新訂第二版[㈱大修館出版、2016、¥1,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・レポート30%：授業復習・課題研究（manabaに提出）
（次回授業時フィードバックする）
- ・確認テスト20%：筆記テスト
- ・平常点評価20%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

【注意事項】

衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、手指の清潔に心がけ、すべてのアクセサリ類は身につけないでください。実習中は、担当者の指示に従い、安全に留意する。なお、各自、自己管理を怠らず万全な体調で授業に臨む。材料の仕入れ状況により内容を変更する場合がある。

機器分析実験

杉山 靖正

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

食品に含まれている各種成分の分析機器による測定法、分析結果の解析による定性・定量手法を実習します。それぞれの機器の分析原理を理解し、実際に扱って分析結果を解析することを通じて食品成分の機器分析手法や機能性成分等への理解を深めます。

【授業における到達目標】

分析データを解析し結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
食品成分の機器分析について
- 第2週 食品成分分析のための前処理法
溶媒抽出および固相抽出
- 第3週 高速液体クロマトグラフィーの基礎
各種分析方法と保持時間
- 第4週 高速液体クロマトグラフィーの応用（1）
食品成分の定性分析
- 第5週 高速液体クロマトグラフィーの応用（2）
食品成分の定量分析
- 第6週 質量分析装置（校外実習）
食品成分の定性・定量分析
- 第7週 核磁気共鳴装置（校外実習）
食品成分の化学構造解析
- 第8週 比色分析
食品の機能性評価

【事前・事後学修】

【事前学修】予習のための小レポートに取り組むこと。
（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習で得たデータをまとめレポートとして提出する。
（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験レポート80%、実験への取り組み態度20%
採点したレポートを返却することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

【注意事項】

使用機器の数量などの都合で、履修希望者が多い場合は抽選になる場合があります。

第6週および第7週には、分析機器メーカーの研究施設（東京または神奈川）を使用して校外実習を行う予定です。校外実習の実施日時は、履修学生の他の科目の履修状況を考慮して決定します。

機能材料学

牟田 緑

3年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

衣服用繊維のみならず生活に用いられる繊維製品全般において高性能化・高機能化が進んでいるのが現況である。衣服素材からインテリア素材、産業資材までの幅広い分野で用いられる機能材料（繊維）を取り扱うにあたり、基礎知識を持つ必要がある。これらの機能材料の分子構造、微細構造、形態的特徴、力学的性質を理解し、その性質や用途展開について学習する。

【授業における到達目標】

主として、衣料用に開発される機能性繊維材料の広範な種類と性質を理解し、それらの基礎知識と適切に使用・管理する力を養い、衣料管理士としての活躍に資する力を養うことを目標とする。生活・産業用に使用されている高機能材料の理解も深める。

【授業の内容】

- 第1週 新合繊の出現と進展
- 第2週 外観特性 風合い 高発色 高ドレープ
- 第3週 快適素材 水分特性 接触冷感
- 第4週 快適素材 温感特性 発熱繊維
- 第5週 快適素材 ストレッチ性 軽量化繊維
- 第6週 快適素材 紫外性遮蔽性 透湿防水性
- 第7週 快適素材 抗菌防臭素材 消臭素材 中間まとめ
- 第8週 安全素材 難燃性 耐熱性
- 第9週 安全素材 高視認性 蓄光素材 帯電防止
- 第10週 美容素材 化粧品関連品、機能性人工毛髪
- 第11週 イージーケア素材 形態安定製、防汚素材
- 第12週 インテリア素材 光・熱・衛生の機能
- 第13週 スーパー繊維 炭素繊維 高強度繊維
- 第14週 環境配慮繊維 リサイクル 植物由来繊維
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〈事前学修〉衣服などの繊維製品を購入する際、商品説明をよくみて、製品の繊維組成や機能性、取扱注意事項などに注意を払うことを習慣化しましょう。（学修時間 週2時間）

〈事後学修〉講義で得た内容については参考書やインターネットなどにより理解を深め、授業内では網羅しきれない関連する性質の繊維についても修得しましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20点、試験及び課題60点、平常点（授業への積極的参加、授業態度など）20点。小テストについては、次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

- ・佐藤銀平著「化学の働きシリーズ4 衣料と繊維がわかる（日刊工業新聞社 2013）
- ・山崎義一・佐藤哲也「せんの科学 天然せんとスーパーせんの驚くべき機能と活用法」（ソフトバンククリエイティブ2011）
- ・平井東幸編著「図解繊維がわかる本」（日本実業出版社 2004）
- ・中島利誠・金子恵似子・清水裕子・牛腸ヒロミ・牟田緑「新稿被服材料学」（光生館 2010）

【注意事項】

欠席、遅刻はしないように注意してください。

「繊維高分子材料学」や「テキスタイル材料学」などの繊維系科目を履修していることが望ましいです。

給食マネジメント実習

山岸 博美

2年 通年 2単位 3時限連続 隔週

○：協働力

【授業のテーマ】

給食マネジメント実習では、給食経営管理論を踏まえ、安全・安心な対象者に喜ばれる給食を提供する技術や知識を習得する。

数名ずつのグループを構成し、グループごとによる給食を運営する。管理栄養士、栄養士、調理師の役割を実習することで、3つの役割の視点で給食マネジメントを理解する。さらに、実際の給食施設を想定した実習により3年生以降の臨地実習の理解を深める。

【授業における到達目標】

自主的に取り組み責任を果たすことで、リーダーシップおよびコミュニケーション能力を高める。さらに、相互を生かして自らの役割を果たす力「協働力」を身につける。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション（実習の進め方）
- 2 給与栄養目標量の設定
- 3 献立計画
- 4 予定献立の試作
- 5 生産（調理作業）計画、発注計画
- 6 栄養教育媒体作成、喫食調査票の設計
- 7 調理作業開始時の準備、点検
- 8 検収・保管
- 9 調理作業工程管理、配食管理
- 10 検食・保存食
- 11 食堂の準備と配膳管理
- 12 清掃・点検
- 13 実習全体評価（栄養出納表、金銭出納簿、栄養管理報告書）
- 14 改善点の検討
- 15 食品構成表の作成、食品構成からの献立作成

【事前・事後学修】**【事前学修】**

課題を事業時に提出できるようにする。（学修時間2時間/週）

【事後学修】

実習で行った記録を整理しまとめておく。（学修時間2時間/週）

【テキスト・教材】

- 1 プリントを使用する。
- 2 所定の実習着、靴を用意すること（7,000円～10,000円）
- 3 「調理のためのベーシックデータ（第5版）」（女子栄養大学出版 2018年：1944円税込）
- 4 「日本食品成分表本表編（七訂）医歯薬出版 2017年：1300円+税）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%
平常点（授業への積極的参加・提出課題）50%
課題は返却時フィードバックを行う。

【参考書】

「大量調理施設衛生管理のポイント」（中央法規：2592円税込）

【注意事項】

調理実習開始日に細菌検査が陰性でなければ、調理実習室での実習はできない。

給食経営管理 a

山岸 博美

1年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

給食経営や関連の資源（食品流通、食品開発の現状、給食にかかる組織や経費）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。

同時に、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

【授業における到達目標】

1. 管理栄養士に必要な給食経営管理の知識・技術を理解する。
2. マーケティングや新しい食事サービスなどについて最新の知識を習得する。

【授業の内容】

- 1 給食の概念
- 2 給食システム
- 3 給食施設の特徴と関連法規
- 4 給食経営と献立
- 5 給食管理の概要
- 6 給食とマーケティング
- 7 給食経営と組織
- 8 栄養・食事のアセスメント（1）
- 9 栄養・食事のアセスメント（2）
- 10 食事の計画（1）
- 11 食事の計画（2）
- 12 食事計画の実践・評価・改善（1）
- 13 食事計画の実践・評価・改善（2）
- 14 食事計画の実践・評価・改善（3）
- 15 総合演習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回講義のテキストの該当箇所を学修し、講義内に実施する小試験やプレゼンテーションの準備をする。（学修時間：2時間）

【事後学修】

毎回の講義で学んだ要点をまとめ、レポートを作成し、講義終了時に提出する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

「サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論」
（第一出版 2017年：2400円+税）
その他、配布資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験50%
受講態度50%（講義内課題、小試験、レポート）
課題は次講義において返却し、フィードバックする。

【参考書】

- 1 「日本人の食事摂取基準（2015年版）」
（第一出版：本体2700円+税、2018）
- 2 「日本人の食事摂取基準（2015年版）の実践・運用
特定給食施設における栄養・食事－演習付－」
（第一出版：2000円+税）

給食経営管理 b

山岸 博美

2年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

給食経営や関連の資源（食品流通、食品開発の現状、給食にかかわる組織や経費）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。

同時にマーケティングの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

【授業における到達目標】

1. 管理栄養士に必要な給食経営管理の知識・技術を習得する。
2. マーケティングや新しい食事サービスなどについての知識を習得する。

【授業の内容】

- 1 給食経営における品質管理（1）品質と標準化
- 2 給食経営における品質管理（2）原価
- 3 給食経営における品質管理（3）食材
- 4 給食経営における品質管理（4）生産と提供
- 5 給食の安全・衛生（1）概要
- 6 給食の安全・衛生（2）事故・災害対策
- 7 給食の施設・設備（1）生産（調理）施設・設計設備
- 8 給食の施設・設備（2）食事環境の設計と設備
- 9 給食の人事管理
- 10 施設別栄養管理（1）概要
- 11 施設別栄養管理（2）医療施設
- 12 施設別栄養管理（3）高齢者・介護福祉施設
- 13 施設別栄養管理（4）児童福祉施設・障がい者福祉施設・学校
- 14 施設別栄養管理（5）事業所
- 15 総合学習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し講義内に実施する小試験及びプレゼンテーションの準備を行う。（学修時間：2時間）

【事後学修】

毎回講義で出す課題レポートを作成し、講義終了時に提出する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

「サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論」（第一出版 2017年：2400円＋税）
そのほか配布資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験50%

受講態度50%（講義内課題、小試験、レポート）

毎回提出された課題や小試験を確認、返却しフィードバックする。

【参考書】

- 1 「日本人の食事摂取基準(2015年版)」
（第一出版：2700円＋税）
- 2 「日本人の食事摂取基準（2015年版）の実践・運用一演習付一」
（第一出版：2000円＋税）

給食計画演習

加藤 ティ

3年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

質のよい給食を提供するためには理論の知識とともに実務能力が必要である。給食管理では大量かつ複雑な情報を取扱い、効率の良い食事計画技術が求められる。この科目ではコンピュータ給食ソフトを活用して給食実務を演習する。また、栄養情報を伝えるための媒体作成、喫食者の意見を食事に反映させるためのアンケート集計、給食管理のための「料理カード」作成など幅広く演習する。

【授業における到達目標】

大量調理機器の使用を理解する。
コンピュータ給食ソフトを使用した給食実務ができる。
科学的根拠に基づく栄養媒体を作成することができる。
食事アンケート集計および公表資料が作成できる。
食費計算、栄養報告書作成など給食事務を理解する。
研鑽力、行動力、協働力を養う。

【授業の内容】

第1週 栄養計画と献立案の作成
第2週 給食ソフトの使い方、帳票類作成
第3週 栄養指導媒体（1）検討
第4週 栄養指導媒体（2）作成
第5週 喫食者アンケート
第6週 HACCPに基づく料理カードの作成
第7週 給食管理（栄養量評価、食費計算）
第8週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】エクセル、ワード、パワーポイントなど一般的なコンピュータ操作に慣れておくこと（1時間）。

【事後学修】授業で学んだ内容を情報ラウンジの給食ソフトを使って復習する（1時間）。

【テキスト・教材】

日本食品標準成分表[※最新版を購入すること]
富岡和夫：給食の運営 給食計画・実務論[医歯薬出版株式会社、¥2,800(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]
赤羽正之：給食施設のための献立作成マニュアル[医歯薬出版株式会社、¥2,500(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・提出課題）100%
フィードバック：提出物は評価し返却。

【参考書】

鈴木久乃、殿塚婦美子編著 改訂『施設別給食献立集』（建帛社）2700円+税

【注意事項】

給食計画論・実務論など関連科目で学んだ知識を活用する。献立作成においては、コンピュータソフトやインターネット、図書類の献立引用は認めない（参考にすることは可）。必要に応じて献立作成に必要な参考図書を持参する。
コンピュータを使う演習では USBなどの記録媒体の持参が望ましい。

給食計画論

加藤 ティ

1年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

給食の目的はさまざまな対象者に適応した栄養量のおいしい食事を安全に提供することにあります。給食で提供する食事は施設の実状に合わせて設備、衛生、調理者の作業量、経済性、教育効果など多くの条件を考慮する必要があります。また給食は家庭の食事とは異なり「組織」を動かして作成しています。この講義では、給食を計画するための基礎知識や栄養士の役割について学びます。

【授業における到達目標】

特定給食施設と栄養士の役割を理解する。
給食の栄養量を算出することができる。
目標栄養量を満たす食品構成が作成できる。
HACCPに基づく食品衛生を理解する。
大量調理施設衛生管理マニュアルを理解する。
大量調理に適した料理・献立を理解する。
研鑽力を養う。

【授業の内容】

第1週 給食について理解する
第2週 特定給食施設と栄養士の役割
第3週 献立作成①（給与栄養量の決め方）
第4週 献立作成②（食品構成）
第5週 献立作成③（食品の常用量、料理の組み合わせ）
第6週 献立作成④（調味パーセント）
第7週 大量調理
第8週 衛生管理 大量調理衛生管理マニュアル（1）
第9週 衛生管理 大量調理衛生管理マニュアル（2）
第10週 調理施設
第11週 食品の流通と保管
第12週 給食関連法規（1）健康増進法、入院時食事療養制度など
第13週 給食関連法規（2）食品衛生に関する法規など
第14週 まとめ（1）給食管理
第15週 まとめ（2）栄養士の役割

【事前・事後学修】

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する（週2時間）。

【テキスト・教材】

富岡和夫：給食の運営 給食計画・実務論[医歯薬出版株式会社、¥2,800(税抜)]
日本食品標準成分表[※最新版を購入すること]
調理のためのベーシックデータ[女子栄養大学出版部、¥1,800(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%
フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、課題はコメントをつけて返却。

【参考書】

殿塚婦美子編集 改訂新版『大量調理—品質管理と調理の実際—』（学建書院）2700円+税

【注意事項】

給食は科学的根拠に基づいて計画的に作ることを理解しましょう。数値合わせ、インターネットや各種資料を引用した献立は作成しない。
電卓持参が望ましい（スマートフォン、携帯電話の電卓機能使用は認めない）。

給食実務学内実習

加藤 ティ

3年 通年 2単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

栄養士として集団給食を提供するために必要な知識や技術を習得する。特定給食施設の給食実務を理解し、質のよい食事を提供するための作業のしかたやグループワークを実習する。

【授業における到達目標】

栄養基準に合わせた食品構成を作成し、食品を計画的に使用して目標栄養量を満たす献立、給食を作成する。

班員が協力して給食業務を遂行できる。

コンピュータ給食ソフトを使用した栄養実務ができる。

給食に必要な帳票類を使う。

大量調理施設衛生管理マニュアルに従った作業ができる。

給食利用者に喜ばれ、効果の高い食事を提供する。

研鑽力、行動力、協働力を養う。

【授業の内容】

第1週 栄養管理、献立作成

第2週 試作

第3週 販売献立の調理演習、給食事務

第4週 給食実習①（1班調理、2班給食計画、補佐）

第5週 給食実習②（2班調理、1班給食計画、補佐）

第6週 給食実習③（1班調理、2班給食計画、補佐）

第7週 給食実習④（2班調理、1班給食計画、補佐）

第8週 給食実習⑤（1班調理、2班給食計画、補佐）

第9週 試作、帳票作成、給食事務

第10週 給食実習⑥（2班調理、1班給食計画、補佐）

第11週 給食実習⑦（1班調理、2班給食計画、補佐）

第12週 給食実習⑧（2班調理、1班給食計画、補佐）

第13週 給食実習⑨（1班調理、2班給食計画、補佐）

第14週 給食実習⑩（2班調理、1班給食計画、補佐）

第15週 実習のまとめ（給食の評価、報告書、グループ発表）

【事前・事後学修】

【事前学修】給食運営に関連する科目の復習、調理に慣れる。

【事後学修】帳票類は実施に合わせて赤字修正し、給食ソフトの実施修正を行う。実習を振り返り自己評価する。喫食者アンケートを参考に次回の目標を決める。

※各回の内容、理解度により事前・事後学修に要する時間は個々により異なる。授業に支障がないように各自取り組むこと。

【テキスト・教材】

日本食品標準成分表[※最新版を購入すること]

富岡和夫：給食の運営 給食計画・実務論[医歯薬出版株式会社、¥2,800(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]

量調理施設衛生管理のポイントHACCPの考えに基づく衛生管理手法[中央法規、¥2,400(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（実習への積極参加・提出課題）100%

フィードバック：提出物はコメントを記入し返却。

【参考書】

『新 喜ばれた給食献立シリーズ（1～5）』第一出版 1300円+税

殿塚婦美子編集 改訂新版『大量調理—品質管理と調理の実際—』（学建書院）2700円+税

【注意事項】

実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた、体調不良、化膿創、細菌検査未提出の場合は実習ができない。体調管理、頭髪、化粧などの身だしなみに注意。決まり、提出期限は厳守する。USBなど記録媒体の持参が望ましい。学事等により授業の順番を変える場合があります。

【購入するもの】ユニフォーム（1着8000円程度）、布エプロン（1枚1500円程度）。試食費350円/食。

給食実務校外実習

長谷川 めぐみ

3年 通年 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【参考書】

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）本体2,700円

【注意事項】

1. 実習期間は後期（9月～12月）の予定（実習先により異なる）
2. 実習費（実習諸経費）は事前に（4月中）バピルスメイトを通して支払うこと（19,000円/1人あたり）
3. 実習先により健康診断書等の提出があります

【授業のテーマ】

給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。

授業の目標

給食運営や関連の資源を統合的に判断し、栄養面、安全面、経済全般のマネジメントを行う能力を養うこととし、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考えかたや方法を習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

- ①給食実務校外実習において自己や他人の役割を理解し互いに協力してすすめることができる
- ②給食実務校外実習において互いを尊重し信頼を醸成して豊かな人間関係を構築することができる
- ③給食実務校外実習において、状況に応じたリーダーシップを発揮することができる

【授業の内容】

第1回 給食実務校外実習ガイダンス

第2回 給食実務校外実習希望予備調査

第3回 実習施設別ガイダンス〈1〉病院

第4回 実習施設別ガイダンス〈2〉高齢者福祉施設

第5回 実習施設別ガイダンス〈3〉保育所

第6回 実習施設別ガイダンス〈4〉事業所

第7回 実習施設別ガイダンス〈5〉小学校

第8回 給食実務校外実習希望調査

第9回 実習先決定と班編成

第10回～第14回（全5回）：事前学修

(1) 対象者の把握・アセスメント (2) 課題学修 (3) 課題学修

(4) 実習ノートについて (5) 実習報告会と報告書について

第15回 給食実務校外実習結団式

(提出書類, 服装, 持ち物確認, 宣誓書提出)

第16回～第24回（全9回）：事後学修

(1) 挨拶状・礼状作成 (2) 実習報告書の作成（個人）

(3) 実習報告書の作成 (4) 実習報告書の作成（個人・班）

(5) 実習報告会準備（役割分担）

(6) 実習報告会準備（パワーポイント作成）

(7) 実習報告会準備（パワーポイント作成）

(8) 実習報告会準備（発表練習） (9) 実習報告会準備

第26回, 第27回

総合学修：給食実務校外実習報告会総練習

第28回, 29回

給食実務校外実習報告会

第30回 総合学修：実習施設別の講評とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：

実習先への理解を深め疑問をまとめて実習課題を決定し準備しておくための時間は20時間必要である

事後学修

実習後は内容をまとめ報告会の準備を行いプレゼンテーションスキルを身につける。プレゼンテーションのための資料作成に毎回5時間は必要である

【テキスト・教材】

テキスト購入はありません。講義時に資料配布を行います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習態度50%, レポート（実習ノート）40%, 作成報告書10%

毎回提出するレポートを評価し返却する。

レポートの完成度が低い学生は個別指導する。

給食実務論

加藤 チイ

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

事業所、病院、学校、福祉施設などの給食を安全においしく提供するためには給食実務に関する幅広い知識が必要です。給食計画論で学んだ内容を発展させて、質の高い給食業務を円滑に行うための実践的な知識を修得します。

【授業における到達目標】

事業所、病院、福祉施設、学校など各給食施設の特徴を理解する。
給食業務のリーダーとして栄養士が携わる労務管理について知る。
給食に関連する費用について理解する。
厨房設備、機器、什器などについて理解する。
PDCAサイクルに基づく食事の品質向上について理解する。
給食に関する帳票類について理解する。
研鑽力、行動力を養う。

【授業の内容】

第1週 特定給食施設について
第2週 事業所給食
第3週 入院時食事療養（病院給食）
第4週 高齢者施設給食
第5週 保育所・学校給食
第6週 円滑な業務を行うための職場のしくみ
第7週 給食の費用について（給食事務）
第8週 食器、調理器具、作業スペース
第9週 衛生管理
第10週 給食と栄養教育、情報提供（1）検討
第11週 給食と栄養教育、情報提供（2）作成・発表
第12週 献立の評価、喫食者アンケート（1）集計
第13週 献立の評価、喫食者アンケート（2）発表
第14週 給食実務のまとめ
第15週 災害時・緊急時の食事対応

【事前・事後学修】

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する（週2時間）。

【テキスト・教材】

富岡和夫：給食の運営 給食計画・実務論[医歯薬出版株式会社、¥2,800(税抜)、※最新版を購入すること]

西岡葉子ほか：特定給食施設 給食管理事例集[学建書院、¥3,200(税抜)、※最新版を購入すること]

大量調理施設衛生管理のポイント[中央法規出版株式会社、¥2,400(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%

フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、課題はコメントをつけて返却。

【参考書】

ヘルスケアレ스토랑（月刊誌）株式会社 日本医療企画 1100円＋税

【注意事項】

給食の運営には科学的なもの見かたが必要です。食品の価格、食品流通、食品衛生など社会の動きにも目を向けましょう。
電卓持参が望ましい。

共生支援論

江藤 双恵

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

ボランティアの心性を持ちながらもがけに活動していくためには、「公共性」を理解し、目標を持って取り組んでいくことが重要です。また、一市民や社会人として、環境問題や地域の課題を解決していくには、善意ある個人の働きを超え、それを組織力として高めしていくことも大切です。近年、ボランティアな意思を持って出発した組織も成熟、大規模化した結果、ボランティアな心性を失い、維持が難しくなっているところもあります。従来、そのような組織には、行政の「公」や企業の「私」ではない役割や活動が期待されていたのですが、今日では、それに固守せず、敢えて中間に立とうとする組織や新たな価値観を持って活動するものも出てきています。これまで共生支援での理想系は、多元的社会の実在を認識し、共生（社会）の実現を目指し、生態学からみた共生支援を行おうとするものでした。しかし、インターネット普及により、また、世界的な人の動きやグローバル経済の大波の中で、自然災害すら国独自で解決できなくなっている今、共生社会での新たな姿が模索され始めています。本授業では、地域社会や世界規模での共生（社会）の実現を目指した、「共」としての諸理論や実際、共生支援としてのプロセス・コンサルテーション、実際論としてのソーシャルワークなどは基本学習事項として、今期は複数名の外部講師を招く中で、これからの共生支援について考えてみたいと思います。

【授業における到達目標】

物事が捉えられるとは、社会や世界で起こっている事象や現象、問題や課題に関心を持ち、それらを多元的、多角的、多方面から捉え直せることです。このような認識力があってこそ国際的視野から物事も捉えられ、倫理的に人に寄り添うこともできます。本授業ではそのような資質や能力を身に付けることを目標に、ここでのあり方がどのように共生支援で活かされているのかを学んでいきます。

【授業の内容】

- 第1週 国家の論理、企業の論理1（国家）
- 第2週 国家の論理、企業の論理2（企業）
- 第3週 多元的社会への認識と「公」と「私」
- 第4週 公共性と多様な中間集団としてのNPO、NGOの誕生
- 第5週 生態学とQOL（クオリティオブライフ）
- 第6週 多文化・多言語社会と価値観、行動様式
- 第7週 異文化コミュニケーション
- 第8週 市民型の成熟した状況とは何か
- 第9週 「共」領域の充実と「もう一つの社会」の誕生
- 第10週 国際化とグローバリゼーション—人の流れ、情報の流れ—
- 第11週 「共」に資する人材1（事業型）
- 第12週 「共」に資する人材2（助成型）
- 第13週 公益事業と社会企業家、そして
- 第14週 社会問題や社会課題を解決するNPOと何か
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指定図書や配布資料は事前に目を通し、内容理解に努めるだけでなく、「公」と「私」、公共性や公益という用語の意味確認、概念理解に努力すること。（週1時間）【事後学修】ある課題や問題点について、①見解を求めたり、②グループでディスカッションをし、結論を導き出したり、③フィールド調査をしたり、④NPO組織への聞き取り調査をしたりして、レポート化します。（週3時間）

【テキスト・教材】

今年度はテキストを指定せず、事前課題の新書は授業中に数冊掲げます。新聞記事他については、こちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題発表・ディスカッション20%、課外レポート20%、フィールド調査・聞き取り調査等30%、期末課題30%。フィードバックは、各課題等提出後に毎

回行うと共に、ポイントや課題点を指摘します。

【参考書】

手島実郎『国家の論理と企業の論理時代認識と未来構想を求めて』（中公新書 1998）／エドガー・H・シャイン、金井嘉宏・金井真弓訳『人を助けるとはどういうことか 本当の「協力関係」をつくる7つの原則』（英治出版 2009）

【注意事項】

ボランティア活動と寄付や慈善活動はどこが違うのでしょうか。皆さんがしている諸活動はどう社会に貢献できるのでしょうか。これらの点を国家や企業という面からも考えていきます。大学時代の集大成として、これから市民として社会に出る前に身に付けておいてほしいものです。

共生社会とジェンダー

—多様で豊かな人間性と社会—

飯野 智子

1・2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

1. ジェンダー論を学ぶ上で不可欠な基本用語や概念を理解する。そもそも人間の性別を決定しているものは何なのか、社会的に作られる性や性別役割分業とは何なのか、多様な性とはどのようなことなのかを考える。フェミニズムとともに、男性学についても学ぶ。
2. 暴力に対する男女の生育環境や意識の違いから、現代社会におけるジェンダー構造を学ぶ。例えば、性の商品化においてなぜ女性は売る側で男性は買う側となっているのか。そのようなジェンダー構造が男女の意識と行動にどのような影響を与えているのか考察する。
3. DVやストーカー、性犯罪の被害者とならないためにどうすればいいのか、自分にできること、社会で問題とすべきことについて考える。
4. 美やファッションについての市場規模が、男性向けと女性向けではなぜこれほど違うのか、男女の身体やセクシュアリティ表現の相違について学ぶ。

【授業における到達目標】

人々の多様な生き方を認め、共に生きる社会を構築するための問題意識を持つという「協働力」を身に付ける。偏見を持たない姿勢と自己決定の態度を身につける。関係性、恋愛と結婚、家族、性の商品化、美容やファッションといった問題を通して現在のジェンダー構造の問題点を見つけ、法律や制度に関心を持ち、男女、多様な性にとってより良い社会を目指すための改善点を探ったり、自分自身でできることを考えられるようになる「行動力」や「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

1. ガイダンス—ジェンダー論を学ぶ意味
2. 性別の多様性①基本用語と概念
3. 性別の多様性②性的マイノリティと状況の変化
4. 近代化とフェミニズム
5. 男性学の展開①男性学とは何か
6. 男性学の展開②現代社会における「男らしさ」の問題
7. ドメスティック・バイオレンス①ジェンダーと暴力
8. ドメスティック・バイオレンス②加害者プログラム
9. ストーカー犯罪
10. 身体の二重規範①美とジェンダー
11. 身体の二重規範②男性の変化
12. セクシュアリティの商品化
13. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
14. 代理出産をめぐる議論
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修週2時間：重要用語、法律、必要なデータ等を調べる。
- ・事後学修週2時間：授業で扱った問題についてさらに自分で調べたり、人の意見を聞くなどして、より深く考え、それらのことをまとめる。

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%。学修内容に関する感想・意見の提出10%（次回授業でフィードバックする）。

【注意事項】

ジェンダーという視点から現代社会のさまざまな問題を考えてほしい。

教育課程編成の実際

子どもの育ちを支える教育課程・保育課程

井上 宏子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

幼児教育におけるカリキュラムの構造と編成について学ぶ。
教育課程、保育課程、指導計画の基本について理解し、乳幼児期の生活が充実し、一人一人の心身の発達が保証されるためには、教育課程、保育課程はどうあるべきか、また、それに基づく指導計画はどうあるべきなのかということについて考えを深める。

【授業における到達目標】

- 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」に示された保育における計画の意義、教育課程、保育課程、指導計画の基本と特徴について理解し、教育実習において指導計画を立案、評価できる知識を修得する。
- 学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・保育における計画の必要性和意義
- 第2週 幼児期の発達の特徴と学び
- 第3週 幼稚園の教育課程の特徴・保育所の保育課程の特徴
- 第4週 教育課程・保育課程の編成
- 第5週 幼児の活動と指導計画
- 第6週 0歳児から2歳児の指導計画
- 第7週 3歳児から5歳児の指導計画
- 第8週 幼稚園・保育所実習における指導案（日案）
- 第9週 幼稚園・保育所実習における指導案（環境の構成）
- 第10週 幼稚園・保育所実習における指導案（保育者の援助）
- 第11週 教育課程・保育課程・指導計画の評価と改善
- 第12週 幼稚園・保育所実習での活動案作成の実際（ゲストティーチャー）
- 第13週 幼稚園・保育所実習での活動案作成の実際
- 第14週 幼稚園・保育所と小学校の連携（ゲストティーチャー）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト及び資料において、指示した箇所を次回の授業までに必ず目を通して授業に臨むこと。小テスト、レポート、発表などの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容に関連した参考図書などに目を通し、専門用語などは理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストについては検討中
資料は必要に応じて配布の予定

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業態度・提出物の内容）、小テスト40%、小テスト及び提出物については、次回授業で解説しフィードバックを行う。

【参考書】

幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

教育課程論

対象学科は【注意事項】を参照

清田 夏代

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

この授業は、学校教育における教育内容の目的や編成について学ぶことを目的とするものである。授業は、①時代背景と国家目的と教育課程編成との関係、②教育課程編成の原理、③2008年度学習指導要領の構成と内容及び次期学習指導要領のキーワードと要点、スケジュール、④教育活動の構造と「特別活動」の意義と実践といったポイントに基づいて行われる。

【授業における到達目標】

- ・教育課程に関する基礎的な教職教養を身に付ける。
- ・学校における近代日本におけるカリキュラムの内容、性質を、社会的な文脈において理解する。

【授業の内容】

1. 「教職課程」の基本確認と導入
2. 国家目的と教育課程編成
3. 近代社会の教育課程
4. 系統主義と総合主義
5. 教育課程としての徳育
6. 経済成長と教育課程
7. 「ゆとり教育」
8. 臨時教育審議会と教育理念の転換
9. 学力論争
10. 「学力」と「評価」
11. 新学習指導要領の要点
12. カリキュラム・マネジメント
13. 特別活動の理念・意義・定義
14. 特別活動の指導方法
15. 特別活動の実際

【事前・事後学修】

(事前) 週1時間程度

- ・配布物を熟読すること

(事後) 週3時間程度

- ・授業後に内容について復習すること
- ・教育内容改革の流れについての総合的理解のため、以下に示す参考図書を購入し、熟読すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）20%、試験80%によって、総合的に行う。

【参考書】

『教育改革の幻想』（刈谷剛彦著、ちくま新書、品切れであるため金額は示さない）、『教育再生の迷走』（刈谷剛彦、筑摩書房、1,728円）、『学力と階層』（刈谷剛彦、朝日文庫、799円）、小玉重夫『学力幻想』（筑摩書房、821円）等

【注意事項】

毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

(国文学科、英文学科、生活環境学科、生活文化学科、人間社会学部各学科 対象)

教育課程論

(美学美術史学科、食生活科学科、現代生活学科 対象)

菅沢 茂

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

本授業では、学校教育の目標・内容・方法などについて一定の筋道でまとめた全体計画、すなわち教育課程（カリキュラム）について学ぶ。具体的には、教育関係法規や国の教育政策と関連させながら、教育課程の意義や編成の方法など包括的な内容について、対立する教育観や実際の場面を想定し実践的な能力を身に付けることを目的とする。

(概要) 教育の目的は「人格の完成」をめざすことにあり、その目的を達成するための基本的な教育計画が教育課程（カリキュラム）であり、学校において行われるすべての教育内容・方法を包括的に表したものとイえる。本授業では、教育課程編成にかかわるさまざまな考え方を、いずれが是非かという対比的な視点をもって考察する。このような教育課程研究の学習を通して、学校で日々実践されている教育活動の具体的な内容・方法や課題について理解していく。

特色のある教育課程の編成例を探り、さらに教科及び教科外活動の実際の内容について吟味し、これからの望ましい教育課程編成の在り方について展望したい。

【授業における到達目標】

次のことが授業の終わりに実現することをねらいとする。

- ①教育課程の意義について説明できる。
- ②教育課程編成の基本的な方法について、教育関係法規や国の教育政策と関連させ説明できる。
- ③一定の教育目標に基づき、教科及び教科外活動の大まかな教育計画を作成できる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（事前アンケート、授業の進め方、教育課程の動向）
- 第2週 教育課程とは何か／教育とは何か（可能か限界か）
- 第3週 教育の目的（絶対か相対か）
- 第4週 教育の方法（技術か思想か）
- 第5週 教育の思想（保守か自由か）
- 第6週 学力とは何か（本質か進歩か）
- 第7週 教育課程の構造（米、独における教材の精選構造化）
- 第8週 単元構成と学習法・授業の目的（系統か問題解決か）
- 第9週 わが国の教育課程の変遷（明治から昭和にかけて）
- 第10週 わが国の学校教育の現状と課題
- 第11週 国・公・私立学校の教育課程の特徴
- 第12週 教育課程編成の実際及び特色のある学校の編成例
- 第13週 特別活動の意義と役割
- 第14週 特別活動の歴史
- 第15週 特別活動の指導計画／まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

【事後学修】

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

毎回、ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点（発表と討論）5%。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

【参考書】

『高等学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、最新版）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、最新版）

井上弘『講座現代公教育の論争点<1>教育内容・方法の争点』

（教育開発研究所、1980/5）

【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かすよう努めてほしい。

教育課程論（栄養）

清田 夏代

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

- ・主に学習指導要領の変遷を理解すること
- ・学校教育における教育課程の意義と機能、編制の基本原則と方法を理解すること
- ・直近の教育内容改革の骨子とカリキュラム・マネジメントの重要性と方法に関する理解を深めること

【授業における到達目標】

- ・教育課程に関する基礎的な教職教養を身に付けること
- ・学校におけるカリキュラムの内容、編制方法を、社会的な文脈のなかで理解すること

【授業の内容】

1. 「教育課程論」の基本確認と導入
2. 戦後教育改革における教育内容編制の方針
3. 道徳教育の課題
4. 経済改革と教育課程
5. 教育をめぐる状況の変化と教育内容改革の課題
6. 教育内容と教師像の転換
7. 学力問題と学習指導要領改訂
8. 評価とカリキュラムマネジメント

【事前・事後学修】

- （事前）週1時間程度
- ・配布物を熟読すること
- （事後）週3時間程度
- ・授業後に内容について復習すること
- ・教育内容改革の流れについての総合的理解のため、以下に示す参考図書を購入し、熟読すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）20%、試験80%によって、総合的に行う。

【参考書】

『教育改革の幻想』（刈谷剛彦著、ちくま新書、品切れであるため金額は示さない）、『教育再生の迷走』（刈谷剛彦、筑摩書房、1,728円）、『学力と階層』（刈谷剛彦、朝日文庫、799円）、小玉重夫『学力幻想』（筑摩書房、821円）等

【注意事項】

毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

教育学

八木 浩雄

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

「教育」という営みがどのようなものであるかを確認すると共に、「教育」を支える考え方や制度・環境等を歴史も含めて学んでいく。また、情報メディアの関係した事件が社会問題化していることから、情報メディアと教育の話題を、最近の教育上の問題の一例として取り上げ、受講生と共に考えていきたいと思う。

【授業における到達目標】

- ・「教育」という営みについて理解できる。
- ・教育者の立場から「学び」の在り方を考えることができる。
- ・教育に関わる歴史的な内容や人物の把握ができる。
- ・「教育的」視点から社会を考えることができる。

【この授業を通して身に付く態度・能力】

<態度>○：国際的視野、<能力>○：研鑽力

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 「教育」・「教育学」とは
3. 教育の歴史① 「歴史から学ぶ」意義
4. 教育の歴史② 「教育」に関する歴史
5. 教育の歴史③ 「教育」に関わった人物
6. 教育の方法① 「教育」に対する考え方
7. 教育の方法② 「学習」と教育
8. 教育と情報メディア① 教育の中での情報メディアとは
9. 教育と情報メディア② 「情報メディアを扱う」とは？
10. 教育と情報メディア③ 情報メディア上の問題
11. 教育課程
12. 教育制度と教育法規
13. 「教師」という存在
14. 「教育」に関わる問題
15. まとめとこれまでの補足

※内容によっては、講義内容の理解の必要上、前後する場合があります。（特に6.以降の内容と3.-5.の教育の歴史の内容を、受講生の様子を確認しつつ調整する予定。）

【事前・事後学修】

事前学修：1回目以降、次回のテキスト該当ページを予告するので、事前に目を通して欲しい。また、必要に応じて質問内容を整理する。（約2時間程度）事後学修：講義中、テキストの補足内容並びに必要に応じてスライド提示により講義を進める為、事後学修はノートでまとめたこととテキストの照らし合わせ、スライド内容の確認が中心となる。（約2時間程度）今日的な情報メディア機器の活用は学修活動の工夫と考えるので、有効に生かしてほしい。

【テキスト・教材】

田中正浩：教育の質を高める 教育原理[大学図書出版、2017、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に課題（授業内評価）を出すと共に状況に応じて試験（受講状況により試験か最終課題）を行い、それらの総合で評価を出す。授業内評価：試験（最終課題）＝30％：70％の割合で評価する。学生へのフィードバック：課題レポートは、内容の理解を問う設問を考えており、その回答に応じて授業での解説を行い、学生の理解への反映を図る。

【参考書】

必要に応じて配布プリントもしくは講義内で紹介を行う。

【注意事項】

単に受講する（話を聞く）よりも、自らの「意見を持つ」姿勢で受講して欲しい。出欠については厳しく対応するので、受講の際のスケジュール把握などが各自でできる姿勢であることを望む。教育における情報メディアの活用も含む為、各学生に自身のスマートフォンを使用してもらう場合がある。

教育学

今井 康晴

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本授業の目標は、「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。授業では、教育原理、教育の意義、現代の教育問題など広範囲に渡って概説する。教育学では、教育の起源、発達と教育、幼児教育などを主要なテーマとする。また海外の教育の事例やエピソードなどをふまえ、国際的な視点を習熟し、「いじめ問題」など現代の教育問題について講義する。教職に就きたい学生、教職に就くか検討している学生、今まで自分が受けてきた教育を振り返りたい学生など、何らかの形で教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。

【授業における到達目標】

教育学への知見を汎用し、社会、家庭、学校といった日常生活へと昇華できるようにする。教育学的見地に基づく論理的思考力、表現力、問題解決能力など、社会で活用するための基本的能力を汎用する。教育学の到達目標として、「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度を身に付けることを目標とします。また「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。グループワークなど各種アクティブラーニングを行うことで「協働力」として自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（教育学とは何か？）
- 第2回 教育の意義
- 第3回 教育の意義—環境と遺伝
- 第4回 教育の機能—発達の援助
- 第5回 幼児教育と保育
- 第6回 幼稚園と保育所とこども園
- 第7回 日本の近代と教育
- 第8回 戦前・戦中と戦後教育
- 第9回 高度経済成長と教育
- 第10回 ゆとりと教育
- 第11回 脱ゆとりと教育
- 第12回 教育と学力問題
- 第13回 特別支援教育
- 第14回 家庭教育と支援
- 第15回 まとめ（教育から見る社会問題）

【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

【テキスト・教材】

開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加態度）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

【参考書】

適宜、紹介、指示する。

【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。

教育学b

今井 康晴

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業の目標は、「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。主な授業内容は、教育方法、家庭教育、学力、子育て支援、「モンスターペアレント」など現代の教育問題などを取り上げ、教育活動の役割、機能について、その内実を示して概説する。教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。

【授業における到達目標】

教育学への知見を汎用し、社会、家庭、学校といった日常生活へと昇華できるようにする。教育学的見地に基づく論理的思考力、表現力、問題解決能力など、社会で活用するための基本的能力を汎用する。到達目標として、「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度を身に付けることを目標とします。また「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。グループワークなど各種アクティブラーニングを行うことで「協働力」として自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（教育学とは何か）
- 第2回 教育の意義
- 第3回 教育と教育課程
- 第4回 教育と教育方法
- 第5回 教育と授業形態
- 第6回 教育と教材
- 第7回 「学び」とは何か
- 第8回 教育と子育て支援
- 第9回 家庭教育の在り方
- 第10回 学校教育と家庭の問題
- 第11回 現代の教育問題①—小1プロブレム
- 第12回 現代の教育問題②—モンスターペアレント
- 第13回 教育相談
- 第14回 地域に根差した教育の在り方
- 第15回 まとめ（教育からみた社会問題）

【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

【テキスト・教材】

開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加態度及び授業内フィードバックシートの活用）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

【参考書】

適宜、紹介、指示する。

【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。

教育学演習

「育～保・療・守・愛～と教と学校」、今日的課題を探究する

南雲 成二

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

子どもや親や地域にとって「学校」とは一体何なのだろうか。当たり前のように認識されている「学校」と現代社会、「学校」と子ども・親、その関係を見つめ課題を明確にする。特に現代の学校問題について、一般的な教育言説にとらわれることなく、不登校やいじめの問題、学習指導力・児童生徒支援力不足教員の問題、モンスターペアレントという言葉に象徴される親（保護者）の変容やPTA諸活動に関係する問題、少子化に伴う早期教育や家庭経済格差が産み出す教育問題、放課後子育て支援の実状と課題、教師の疲弊と学校教育力低下の問題、学力調査と真の学力保障の問題等をとりあげる。これらの事例や問題に対する教育研究者や実践者、マスコミ等の見解を取り上げながら検討協議し、現状理解を深める。

同時に、子どもそのものの理解や、子どもを権利主体として尊重する教育の在り方、不登校やいじめの背景にある社会問題、教師教育の課題についても理解を深める。

【授業における到達目標】

今日の学校問題への歴史的側面からのアプローチを加えながら、その本質を捉え、分析できる力を身につけ、学校問題解決への処方をも自分なりに提案できるようになる。また、教員採用試験等で問われる教職に関する内容、教科指導に関する内容、授業デザインと評価改善に関する内容、児童理解や保護者対応に関する内容について、適切な判断と実践的な行動ができる教師力の基礎を修得する。併せて、学生が修得すべき「行動力・研鑽力」との関連において、①現状を正しく把握し、問題を発見できる力と③広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス～現代の学校問題、時事問題化する学校～
- 第2週 学校への期待の声、学校への不信の声、「学校」について考える。①体験的「学校」観（感・看）の交流から
- 第3週 「学校」について考える。②脱学校論の経緯や「不登校」や「フリースクール」から考察を深める。
- 第4週 「学校」について考える。③告発的な問いかけ～学校の学力とは、戦後教育改革とは、教師・教諭・教員・先生とは教育課程とは、教科化された「道徳」とは等～
- 第5週 「居場所」を探す子どもたち（保護者・地域の課題とは）
- 第6週 放課後子育て支援の現状や子ども食堂から見えてくる風景
- 第7週 「体罰」による不登校、「学習不適応」による不登校・、
- 第8週 「いじめ」から見えること、「いじめ」という病理現象を探りつつ、「いじめ」への取り組みを考える
- 第9週 教師と親の学校問題～モンスターペアレント考察含む～
- 第10週 PTAとは、その過去・現在・未来。PTAがかかえる問題と課題の整理～相互互助・協働子育ての課題を探る～
- 第11週 指導力不足の教員、教師教育現職教育の現状と課題①
- 第12週 支援力不足の学校、教師教育現職教育の現状と課題②
- 第13週 閉ざされた学校、開かれた学校～授業創造と児童理解～
- 第14週 学校問題を問い直す～教育条件の変容～
- 第15週 学校教育の再考（いままでの学校、これからの学校）

【事前・事後学修】

事前学修…レポート・発表等の課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修…発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- ・資料プリントを適宜、配付する。
- ・2016.12.21『中央教育審議会最終答申第197号』と補助資料論点整理（文部科学省HP）

・2017.3告示『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』必要に応じて各教科解説編、総則解説編（文科省刊2018）

・2019.2 小六教育技術3月号増刊「指導要録～記入のポイントと文例～」（小学館 2019.2 1620円＋税）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点〔演習への積極参加及び発表や意見交流〕（40%）、レポート（60%）などにより総合的に評価する。

実施した小テストやミニレポートは次回授業、課題レポートや試験は最終授業で解説し、フィードバックを行なう。

【参考書】

- ・昭和22年以降から現在までに刊行された主な教育学講座や教育学全集、教育学研修講座（例：岩波書店・岩波講座、小学館、第一法規、学習研究社 等）
- ・H28.12.21発表「中央教育審議会最終答申（第197号）」を中心に、その後出された中央教育審議会答申や教育課程審議会答申並びに「小・中・高 学習指導要領とその解説編資料」「幼稚園教育要領と解説資料」「保育指針と解説資料」等

【注意事項】

双方向的な授業として、問いを発信しながら進めていくので、積極的に発言し、参加してほしい。

教育学概論

田中 正浩

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

教育という文化的事象は、教育を規定する時代、社会、文化の要請に応えなければならないが、一方で、それらを批判し、改善するような教育固有の論理を備える必要がある。この教育の論理の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとって欠かせない。

本授業では、このような問題意識に基づき、可能な限り事例をもとに、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について考察し、理解を深めることをめざす。

【授業における到達目標】

本授業では、学校病理現象をはじめとする今日的課題を客観的に捉え、読み解けるような「教育を見る目」を養うことをめざし、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について学修するとともに、これまでの教育や学校の営みについて理解を深める。

【授業の内容】

- 第1週 教育の基本的概念
- 第2週 教育の意義と目的
- 第3週 教育と家庭・社会
- 第4週 学校と子ども
- 第5週 教師と子ども
- 第6週 子ども観の形成と諸相
- 第7週 近代西欧における教育の思想と歴史
- 第8週 現代西欧における教育の思想と歴史
- 第9週 我国における教育の思想と歴史
- 第10週 近代教育制度—成立と展開—
- 第11週 教育内容と教育課程
- 第12週 教育内容と教育方法
- 第13週 教師のアイデンティティと力量形成
- 第14週 生涯学習社会と教育
- 第15週 現代社会の教育課題

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

平野智美監修、中山幸夫、田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』（八千代出版 2017年）定価本体2,200円＋税

この他に適宜、資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（20%）、定期試験（60% ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込みは不可）、平常点〔授業への取組・提出課題〕（20%）により総合的に評価する。

実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

教育原理

(国文学科 対象)

新藤 久典

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

○「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備え心身ともに健康な国民の育成」を期して行われている「教育」の原理と実際について理解を深める。

○予測不能な激しく変化する現代社会における教育の在り方を解明するため、教育の歴史、教育改革の歴史を見据えながら、実際の教育課題に即してその原理を探る。

【授業における到達目標】

①教育の意義、人間形成の理念及び教育の歴史や思想について理解し、説明することができる。

②教師に求められる資質・能力について、具体的に理解し実践への意欲を高める。

③「主体的・対話的で深い学び」を通して、学生が修得すべき「行動力」のうち課題発見力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し協力して解決を図る人間関係形成力、問題解決力を高める。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション「教育」に関してのフリー・ディスカッション

第2週 教育の理論－教育の機能と概念

第3週 今日の教育が直面する諸問題

第4週 教育課程の意義と構造

第5週 教育課程の開発と改善

第6週 授業の方法と原理

第7週 授業の過程

第8週 指導の技術

第9週 学習の評価

第10週 生徒指導の内容と方法①－生徒指導の意義と内容

第11週 生徒指導の内容と方法②－生徒指導の組織と計画

第12週 学級経営

第13週 学校制度と教育行政

第14週 これからの社会と教師

第15週 まとめ－現代の教育改革と教師に求められる資質・能力

【事前・事後学修】

《事前学修》

・毎回のリアクション・ペーパー、発表や討議等の課題に取り組む。前時に配付する資料等を読み、自分の考えを整理すること。(学修時間 週2時間)

《事後学修》

・発表や討議等の結果、リアクション・ペーパー等を復習する。授業で示された参考資料等を読み、自分の考えをまとめること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

・毎回配付する資料等

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○学期末試験40%、レポート25%、リアクション・ペーパー25%、授業中の発表等10%

○レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、解説を行う。

【参考書】

○中学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東山書房 251円 2018/3/30)

○高等学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省)

【注意事項】

○毎時間配付する資料、ワークシート等を活用し、予習・復習を行い、自分の考えを根拠をもって説明できるように努力すること。

○教員採用試験における「教職教養」試験における「教育原理」に関する問題を分析し、教師に求められる資質・能力を理解すること。

教育原理

(対象学科は【注意事項】を参照)

菅沢 茂

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

教育が非常に限られた人々へのみ許されていた時代から、次第に多くの子どもたちを対象とし、近代にすべての子どもたちを対象とする公教育を成立させるに至る過程と、それぞれの時代における顕著な教育思想や教育実践を学ぶ。それにより、教育が人類社会にとって普遍的共通的な価値を持つ社会的事実であり続けてきたことと教職の重要性を理解する。教育の歴史と主だった思想を学ぶ中で、教育の基本概念をつかむ。社会的歴史的な文脈のなかで教育の思想と実践がどのように変遷し、発展してきたかを理解することによって、現代の教育上の課題を自ら発見する力を身に付ける。

【授業における到達目標】

①教育すなわち人間形成の理念及び教育に関する歴史や思想について、大まかな説明ができる。

②今どのような教育の在り方を重視すべきか、現代の教育課題について自分の意見を持てる。

③教師の役割と活動について、具体的に理解し説明できる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

授業計画

第1回：「教育原理」の基本確認と導入

第2回：教育の原点

第3回：教育をすべての子どもたちに

第4回：子ども観の変遷

第5回：大衆教育の発展

第6回：公教育の父

第7回：政教分離の葛藤

第8回：国家と教育

第9回：子どもの発見－思想と実践－

第10回：カントと教育学

第11回：道徳教育の近代化

第12回：児童中心主義の普及

第13回：産業社会と教育方法の現代化

第14回：教育の可能性とは？

第15回：総括

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の小テスト、レポート、発表や討議等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表や討議の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

『教育原理 十訂版』(教師養成研究会、学芸図書、2009年、1,512円) その他、毎回ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点(発表と討議)5%。小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

【参考書】

『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、最新版)

『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、最新版)

『教育の原理－歴史・哲学・心理からのアプローチ』(光川康雄、中川吉晴、井上智義著 樹木村房)

【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ、ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知

見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。(英文学科、美学美術史学科、生活環境学科、生活文化学科、人間社会学部各学科 対象)

教育原理

(食生活科学科、現代生活学科 対象)

清田 夏代

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

- ・教育原理においては、教育の思想と歴史を中心とした講義を行う。社会的な文脈のなかで社会行為としての教育と、教育をめぐる思想がどのように発展してきたのかを見ていく。
- ・教育を社会的な文脈のなかで理解し、最終的には親、社会、子どもの権利関係という視点から教育学固有の問題を理解する。

【授業における到達目標】

基礎的な教職教養としての教育思想や実践について理解すること、教育思想史を概括することにより、現代の教育上の課題を自ら発見する力を身に付ける。

また、この授業においては主に西洋社会で発展してきた教育思想を扱うため、「国際的視野として」多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、さらに生涯にわたり知を探究する「研鑽力」、授業内におけるグループワークを通じて「協働力」を身に付けることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 1 「教育原理」の基本確認と導入
- 2 前近代の教育課程
- 3 民衆教育の契機
- 4 教育思想と子ども観
- 5 大衆教育
- 6 共和国と教育
- 7 スカーフ事件とその歴史的背景
- 8 国家と教育
- 9 児童中心主義の系譜
- 10 教育学とカント
- 11 発達心理学と道徳教育
- 12 児童中心主義の実践
- 13 産業社会と教育方法
- 14 教育の可能性とは？
- 15 総括

【事前・事後学修】

- (事前) 週1時間程度
- ・配布物を熟読すること
- (事後) 週3時間程度)
- ・授業後に内容について復習すること
 - ・教育思想や実践について図書などを参照し、学修すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点(授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む)20%、試験80%によって、総合的に行う。

【参考書】

授業内で指示、紹介する。

【注意事項】

毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

教育原理（栄養）

菅沢 茂

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

教育が非常に限られた人々にのみ許されていた時代から、次第に多くの子どもたちを対象とし、近代にすべての子どもたちを対象とする公教育を成立させるに至る過程と、それぞれの時代における顕著な教育思想や教育実践を学ぶ。それにより、教育が人類社会にとって普遍的共通的な価値を持つ社会的事実であり続けてきたことと教職の重要性を理解する。教育の歴史と主だった思想を学ぶ中で、教育の基本概念をつかむ。社会的歴史的な文脈のなかで教育の思想と実践がどのように変遷し、発展してきたかを理解することによって、現代の教育上の課題を自ら発見する力を身に付ける。

【授業における到達目標】

次の3つを到達目標とする。

- ① 教育すなわち人間形成の理念及び教育に関する歴史や思想について、大まかな説明ができる。
- ② 今どのような教育の在り方を重視すべきか、現代の教育課題について自分の意見を持てる。
- ③ 教師の役割と活動について、具体的に理解し説明できる。

【授業の内容】

- 第1回：「教育原理」の基本確認と教育の原点
- 第2回：教育をすべての子どもたちに／子ども観の変遷
- 第3回：大衆教育の発展／公教育の父
- 第4回：政教分離の葛藤／国家と教育
- 第5回：子どもの発見—思想と実践—
- 第6回：カントと教育学
- 第7回：児童中心主義の普及
- 第8回：産業社会と教育方法の現代化／まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『教育原理 十訂版』（教師養成研究会、学芸図書、2009年、1,512円）

その他、毎回ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点（発表と討論）5%。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

【参考書】

- 『高等学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、最新版）
- 『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、最新版）
- 『教育の原理—歴史・哲学・心理からのアプローチ』（光川康雄、中川吉晴、井上智義著 樹木村房）

【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。

教育工学特論

高木 裕子

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

「教育工学 (educational technology)」は、人文社会系と理工学、それに人間に関する学問が融合した学際的な分野です。純粋な工学 (engineering) と違い、心理学やコミュニケーション学等の人間に関する学問を礎に、これに人文社会系と理工系が加わったり、工学的発想の下、教育学的諸理論と方法論の応用が実際論と結びついたりしたものと言えます。国が産業基盤経済から情報基盤経済へと転換した今日では、教育工学には「改革する力」と「教育的役割」が期待されています。

本講義では、この教育工学を、基礎的に学びながら、今年度は「デザインする」という考え方から、例えば21世紀で求められる各種スキルはどう捉えられ、どう設計できるのか、また、それらはどう身に付けられるのか等々を考えていきます。さらには、これを「より良い問題解決の方法」や「より良く目標を達成する方法」として捉え直す中で、「協調的問題解決」「人を中心に考えた、人を支援する方法」としてのインストラクショナルデザイン (instructional design) として考えていきます。教育工学では、成果を広く社会に還元、適応できるものにするのが重要なため、本講義では、成果の適切な記述方法や可視化のさせ方等を学ぶ一方、応用では、「こうなるはず」と「こうなった」の間のズレを、いかに実践を通した理解と解釈で埋めていかれるかを考えていきます。このために事例研究も多く行います。

【授業における到達目標】

事例研究を通じた問題解決、目標達成の方法としての「協調的問題解決」と「インストラクショナルデザイン」を、「デザインする」という作業を行っていく中で、成果を広く適応、可能にするための一般化、また、成果の記述方法や可視化方策について学ぶ。

【授業の内容】

- 第1週 教育工学とは何か。必読書の紹介とオリエンテーション
- 第2週 教育工学の歴史の変遷と網羅する分野や対象 (1)
- 第3週 教育工学が今日、対象とする分野と内容 (2)
ーに貢献し、何に役立ち、どう応用されているのかー
- 第4週 21世紀における教育工学とは何か (3)
- 第5週 日本と世界で行われている教育工学の実践と実際 (1)
事例研究
- 第6週 日本と世界で行われている教育工学の実践と実際 (2)
事例研究
- 第7週 東南アジアで必要とされる教育工学の分野と教育改革
(1) 事例研究
- 第8週 東南アジアで必要とされる教育工学の実際と授業、研究
(2) 事例研究
- 第9週 「東南アジア経済共同体」「21世紀スキル」等と
知識創造、人材育成
- 第10週 教育工学の人間へのアプローチ、人間からの働きかけ
- 第11週 企業と組織で応用可能な教育工学的手法
- 第12週 インストラクショナルデザイン (1)
- 第13週 インストラクショナルデザイン (2)
- 第14週 課題と問題点、ずれの記述化・可視化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】第1週目の「読むべき本」は必読し、内容は理解しておく。それを基に、第5週目以降の講義では、ディスカッションやディベートを繰り返し、レポートを課す。また、英文での著書も多いため、事前に読んでおくこと。事例研究では、内容説明以上の教育工学的視点での分析や考察が求められる。(週2時間)

【事後学修】毎回の授業後のディスカッションでの結果やフィードバックを受け、再度修正したものを、論点と共に提出すること。(週2時間)

【テキスト・教材】

第1週目に、本講義全体を通じて「読むべき本」のリストや教科書に類するものは紹介する。また、その都度、講義で必要な文献等は、前週に示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ディスカッションとディベート10%、課題レポート30%、事例研究30%、最終課題レポート30%。フィードバックは毎回、授業の中で行う。

【参考書】

Gary J. Anglin Ed. "Instructional Technology" Libraries Unlimited, INC. 1995 これ以外、必要なものは講義中に示す。

【注意事項】

「インストラクショナルデザイン (英: instructional design、あるいはインストラクショナルシステムデザイン) は、教育の場などにおいて、学習者の自由度を保ったままで高い学習効果が生じることを意図して、具体的な計画を立てることである」。本講義に臨むに際して、このような用語の意味や簡単な内容は、各自で事前に調べておくこと。

教育史 b

今井 康晴

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業のテーマは、教育の歴史について知見を深め、各時代背景との関連性を理解することで、市民としての教養の涵養を目的とする。授業では、我が国の教育を歴史的に概説する。江戸、明治、大正、戦前・戦後に焦点をあて、我が国の教育の成り立ち、また影響を与えた教育者について講義する。教育、歴史について興味関心のある学生の履修を推奨する。

【授業における到達目標】

教育史を学び、教育の歴史から我が国の歴史を理解することができる。教育史を学修することで教育文化の多様性を理解し汎用する。

「研鑽力」

広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

「美の探究」

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（教育史とはなにか？）
- 第2回 日本の教育の歴史①—古代
- 第3回 日本の教育の歴史②—中世から近世
- 第4回 戦国時代の教育
- 第5回 江戸時代の教育
- 第6回 明治時代の教育①—私塾を中心に
- 第7回 明治時代の教育②—教育制度を中心に
- 第8回 幼児教育の歴史
- 第9回 保育の歴史
- 第10回 大正期の教育①—民主主義と教育
- 第11回 大正期の教育②—女子教育を中心に
- 第12回 デューイの教育
- 第13回 戦前・戦中の教育
- 第14回 モンテッソーリの教育
- 第15回 まとめ（歴史からみる教育の課題）

【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

【テキスト・教材】

開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加および授業内のフィードバックシートの活用）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

【参考書】

適宜、紹介、指示する。

【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。

教育思想史

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

本授業では、将来、教育や保育の実践の場に立とうとする受講者、あるいは教育・保育に興味・関心をもつ受講者が、近・現代の教育（思想）家の教育・保育思想について学習することで、子ども中心の教育や保育、関わる家庭や学校それぞれの歴史的経緯の理解を深め、自身の教育・保育観の吟味・検討を行う機会としたい。

【授業における到達目標】

本授業は、近代教育思想のルソー、ペスタロッチ、フレーベル、そして、新教育思想のエレン・ケイ、デュイ、モンテッソーリといった教育（思想）家について、それぞれの子ども観とそれを基盤として構築された教育思想・教育理論を学習し、子ども尊重の思想に焦点を絞り、理解を深めることをめざす。

【授業の内容】

- 第1回 「新教育運動」と児童中心主義
- 第2回 「新教育」の教育（思想）家
- 第3回 子どもの存在と権利の歴史
- 第4回 J・Jルソーの子ども観と教育思想
- 第5回 J・Hペスタロッチの子ども観と教育思想
- 第6回 F・Wフレーベルの子ども観と教育思想
- 第7回 エレン・ケイの子ども観と子どもの権利
- 第8回 エレン・ケイの家庭・学校教育論
- 第9回 J・デュイの子ども観と教育本質論
- 第10回 J・ディーイの教育内容とカリキュラム論
- 第11回 M・モンテッソーリの子ども観
- 第12回 M・モンテッソーリの教育意味論と目的論
- 第13回 M・モンテッソーリの教育方法原理
- 第14回 初等学校教育の歴史—小学校を中心に—
- 第15回 初等学校教育の歴史—幼稚園を中心に—

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、レポート、発表等の課題に取り組む。
(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

乙訓 稔：西洋現代 幼児教育思想史[東信堂、2009、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、試験(60%) ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込みは不可)、平常点[授業への取組・提出課題](20%)により総合的に評価する。小テストについては次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて、適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので、積極的に発言し、参加してほしい。

教育実習（小学校）

学び手も教え手も共に納得のいく学習創造をめざして

渡辺 敏

3年 集通 4単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

大学において得た教育理論や教育方法を、小学校教育現場において授業観察、授業参加、授業実施と評価・改善（反省）を通して、実証的、実践的あるいは実験的に研究し、教育理論や教育方法を応用できる実践的指導力の基礎を体得する。併せて、教師の仕事、その役割と使命についてよく考え、7歳から12歳までの「子どもの発達と学習、人間的成長」を注意深く見つけ支援する基礎を養う。

- 1 教科の単元や題材の内容が児童の発達段階や学習実態に即して如何に計画・構成されているか、実習校の教育課程を理解する。
- 2 子ども一人ひとりの学習実態を基盤に、教科の目標や内容に応じて学習指導案を作成し、学習指導・支援の方法を理解する。
- 3 地域や学校、児童の実態に応じて、特色ある学校経営や学年・学級経営について理解を深め、教師としてその推進に参画する。
- 4 児童の発達や心理、生活世界への理解を深めると共に、教師の仕事、教師の役割について理解をふかめる。併せて、教員としての勤務内容や服務規程、教育公務員としての立場を理解する。

【授業における到達目標】

教育実習を通して小学校教師の仕事についての理解を深めることをねらいとします。また、実習中に研究授業を行い、実習校の教員、大学教員と協議し学び、自らの授業力の向上に取り組むことをねらいとします。

【授業の内容】

第1週（観察参加実習、指導講話、学習指導計画の作成）観察参加実習を行う場合は、教科等の学習指導、児童の行動、教育環境や教師の服務等の観点に従って、個々の課題を設定し、それを基に記録を残す。

第2週～第3週（指導講話、学習指導の実際及びその指導）

学校の教育課程や指導計画に従って教科等の学習指導の計画、を行い、それを基に学習指導を実施、授業実践を重ねる。学習指導の実践後指導教諭の指導のもと、発問や板書、教具や教材、学習者のプリントを基に学習指導の実際を丁寧に振り返る。そして、学習指導（授業）改善の課題を明確にする。

第4週（研究授業、全日経営の実施）

「全日経営」や「研究授業とその反省会」を通して、4週間の小学校実習のまとめをする。授業改善の課題を踏まえて学習指導の準備を行い、それに従って学習指導を実践し、実践的指導力を身に付ける。

【事前・事後学修】

【事前学修】教育方法・技術、カリキュラム論、児童教育法、教科教育法、特別活動等の内容を振り返る。小学校学習指導要領と各解説編、「評価基準参考資料」を基に該当学年の学習内容をおさえ、授業準備する。(学修時間 毎日2時間～)

【事後学修】参観授業・実施授業も共に「観点」を明確に「授業評価・改善のレポート」を作成する。(学修時間 毎日2時間～)

【テキスト・教材】

幼小コース卒業生による教育実習経験から産み出されてきた『教育実習ノート』及び『小学校教育実習の手引き』を活用して、各自の教育実習に取り組む。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

☆教育実習校の評価…40% ☆教育実習校の特色や重点研究内容の理解。実習学年の教科指導力、児童理解・支援力、特に全日経営の内容と研究授業の取り組みとその評価・改善…30% ☆教育実習（事前・事中・事後）の記録・ポートフォリオの充実…30% 以上3観点を総合的に評価する。全日経営、研究授業、実習記録について教員からフィードバックを行います。

教育実習 A・B

(国文学科、美学美術史学科 対象)

菅沢 茂

4年 前期 A-5単位・B-3単位

【授業のテーマ】

教育実習 A・Bとも、1単位分に相当する事前・事後の指導を授業で受ける必要がある。実習前は、実習に際しての留意点や心構えなどを学ぶ。また、実習校での挨拶や自己紹介の練習などをおこなう。そして、実習後にはその体験や感想をPPTにまとめて発表して相互に意見交換し、教職への動機付けを図る。さらに、充実した実習をおこなうにはどうしたらよいか、実習トラブルを避けるにはどうすべきか、などについて考察する。

【授業における到達目標】

- 1 実習前に、実習に際しての留意点や心構えなどを把握できる。
- 2 実習校での挨拶や自己紹介、模擬授業が自信をもって行えるようになる。
- 3 実習後にその体験や感想を相互に交換し、教職への動機付けを図ることができる。

【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス（事前アンケート、授業の進め方、最近の教育実習の動向）
 第2回：教育実習前に提出する書類の作成のしかた/模擬授業①
 第3回：教育実習の目的と意義/模擬授業②
 第4回：教育実習の準備と心得/模擬授業③
 第5回：中学校教育実習の概要（PPT教材を含む）/模擬授業④
 第6回：高等学校教育実習の概要（PPT教材を含む）/模擬授業⑤
 第7回：教師の服務規程と実習中の留意事項
 第8回：観察と参加のポイント（実習日誌の記入を含む）
 第9回：先輩の実地授業から学ぶ（PPT教材を含む）
 第10回：教育実習中のトラブルとその対応策
 第11回：教育実習の体験報告Ⅰ（実地授業と研究授業など）
 第12回：育実習の体験報告Ⅱ（生徒とのかかわりなど）
 第13回：教育実習の体験報告Ⅲ（指導教員とのかかわりなど）
 第14回：教育実習の評価について
 第15回：教育実習の反省と課題

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回、ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教育実習の授業の1単位と、学校現場での実習の4～2単位は、A・Bともセットになっているので、いずれか一方のみでは単位認定はできない。

成績評価は、実習校における評価（含実習日誌）50%、レポート30%、平常点（受講態度・課題発表）20%とする。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

【参考書】

教育実習完璧ガイド(小学館、2015/3/2)

『高等学校学習指導要領解説 各教科編』（文部科学省、最新版）

『中学校学習指導要領解説 各教科編』（文部科学省、最新版）

【注意事項】

教育実習に対する学校現場や教育委員会からの意見、中央教育審議会や文部科学省からの指摘に応えるため、全力で臨む姿勢を保つことが大事である。したがって、実習中のトラブルを避ける意味からも出欠は厳しくとる。教育実習中はもとより、授業においても実習に不可欠の事項を取り上げるため、欠席や遅刻は厳禁としたい。

教育実習 A・B

(英文学科 対象)

清田 夏代

4年 前期 A-5単位・B-3単位

【授業のテーマ】

教育実習に臨み、教師としての心構え及び教科教育、学級経営、生徒指導上のスキル、実習生としての謙虚さ、誠実さ、熱心さ、そして、社会人としての自覚を身につけ、さらに教育実習の体験を通じて、それらを深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

・教師として必要な資質、役割、授業力、生徒指導力を総合的に身に付けること

【授業の内容】

- 1 「教育実習」及び事前指導の基本確認と導入
- 2 教育実習前に提出する書類について
- 3 教育実習の記録について
- 4 教育実習の目的・意義・準備・心得
- 5 教師の服務規程と学校組織
- 6 生徒指導の要点
- 7 授業参観・授業観察のポイント
- 8 学習指導案作成の要点と授業の実際（模擬授業を含む）
- 9 教育実習生と学級経営
- 10 教育実習中のトラブルと対応策
- 11 教育実習の体験報告Ⅰ・生徒との関わり方
- 12 教育実習の体験報告Ⅱ・授業外の活動
- 13 教育実習の体験報告Ⅲ・研究授業の成果
- 14 教育実習の反省と今後の課題
- 15 総括

【事前・事後学修】

教育実習の一般的な流れや注意事項について紹介する書籍等を熟読し、理解するとともに、実習校についてなるべく事前に情報を集め、可能な限り実態を把握すること。また、実習後は体験を振り返ること。（週4時間程度）

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習校での評価及び実習記録簿の内容50%、レポート30%、授業態度20%を、総合的に評価する。

【参考書】

『教育実習完璧ガイド』小学館

【注意事項】

・欠席・遅刻は厳禁。なお、5月中旬～6月にかけて、教育実習による欠席者が多数となる場合があるため、状況によって内容あるいは授業の順番を調整する必要がある可能性がある。

・また、毎回授業終了時にリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。なお、教育実習記録簿の評価は実習校の指導が完了したものを必ず提出すること。また、実習時の出勤簿は教務課に提出すること。これらの提出が認められない場合は、教育実習の単位を認めない。

教育実習 A・B

(生活科学部 対象)

清田 夏代・大野 由喜子

4年 前期 A-5単位・B-3単位

【授業のテーマ】

教育実習に臨み、教師としての心構え及び教科教育、学級経営、生徒指導上のスキル、実習生としての謙虚さ、誠実さ、熱心さ、そして、社会人としての自覚を身につけ、さらに教育実習の体験を通じて、それらを深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

・教師として必要な資質、役割、授業力、生徒指導力を総合的に身に付けること

【授業の内容】

1. 「教育実習」及び事前指導の基本確認と導入
2. 教育実習前に提出する書類について
3. 教育実習の記録について
4. 教育実習の目的・意義・準備・心得
5. 教師の服務規程と学校組織
6. 生徒指導の要点
7. 授業参観・授業観察のポイント
8. 学習指導案作成の要点と授業の実際（模擬授業を含む）
9. 教育実習生と学級経営
10. 教育実習中のトラブルと対応策
11. 教育実習の体験報告I・生徒との関わり方
12. 教育実習の体験報告II・授業外の活動
13. 教育実習の体験報告III・研究授業の成果
14. 教育実習の反省と今後の課題
15. 総括

【事前・事後学修】

教育実習の一般的な流れや注意事項について紹介する書籍等を熟読し、理解するとともに、実習校についてなるべく事前に情報を集め、可能な限り実態を把握すること。また、実習後は体験を振り返ること。（週4時間程度）

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習校での評価及び実習記録簿の内容50%、レポート30%、授業態度20%を、総合的に評価する。

【参考書】

『教育実習完璧ガイド』（小学館）

【注意事項】

- ・欠席・遅刻は厳禁。なお、5月中旬～6月にかけて、教育実習による欠席者が多数となる場合があるため、状況によって内容あるいは授業の順番を調整する必要がある可能性がある。
- ・また、毎回授業終了時にリアクション・ペーパーを提出する。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。なお、教育実習記録簿の評価は実習校の指導が完了したものを必ず提出すること。また、実習時の出勤簿は教務課に提出すること。これらの提出が認められない場合は、教育実習の単位を認めない。

教育実習 A・B

(人間社会学部 対象)

山田 佳子

4年 前期 A-5単位・B-3単位

【授業のテーマ】

教育実習に臨み、教師としての心構え及び教科指導、学級経営、生徒指導等での指導の在り方や方法について学ぶ。また、実習を受ける者としての態度、取り組み方などの基本を確認し、教育実習が円滑に行われるようにする。さらに教育実習後には、体験や感想をまとめ、意見交換をし、教職への動機づけを図る。

【授業における到達目標】

- 1 実習前に、実習に際しての留意点や心構えなどを把握できる。
- 2 実習校での挨拶や自己紹介、模擬授業が自信をもって行えるようになる。
- 3 実習後にその体験や感想を相互に交換し、教職への動機づけをすることができる。
学生が修得すべき「行動力」の中の課題を発見する力と問題解決力、「協働力」の中の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | 教育実習及び事前指導の基本確認と導入 |
| 第2週 | 教育実習前に提出する書類について |
| 第3週 | 教育実習の目的・意義 |
| 第4週 | 教育実習に向けての事前準備と心得 |
| 第5週 | 中学校、高等学校教育実習の概要 |
| 第6週 | 教師の服務規程と実習中の留意事項 |
| 第7週 | 生徒指導の要点 |
| 第8週 | 授業参観・授業観察のポイント |
| 第9週 | 学習指導案作成の要点と授業の実際 |
| 第9週 | 教育実習生と学級経営 |
| 第10週 | 教育実習中のトラブルとその対応策 |
| 第11週 | 教育実習の体験報告I・生徒との関わり |
| 第12週 | 教育実習の体験報告II・授業外の活動 |
| 第13週 | 教育実習の体験報告III・研究授業の成果 |
| 第14週 | 教育実習の評価について |
| 第15週 | 教育実習の反省と今後の課題 |

【事前・事後学修】**【事前学修】**

レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】

発表や討論の結果等を復習すること。次の時間の課題を予習し、用語等を理解しておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

毎回、ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習校での評価及び実習記録の内容50%、レポート30%、授業態度20%を総合的に評価する。
提出物については、次回の授業で講評し返却する。

【参考書】

宮崎猛、小泉博明編著「教育実習完璧ガイド」（小学館）
山崎英則編著「教育実習完全ガイド」（ミネルヴァ書房）

【注意事項】

本授業は、学外での教育実習と一体の科目であるので、欠席、遅刻は厳禁とする。尚、教育実習による欠席者が多数となる場合は、状況により内容あるいは授業の順番を調整する可能性がある。

教育実習 a (幼稚園)

井口 眞美

4年 集通 4単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

幼稚園教諭免許状の取得希望者は、教育実習 a を履修し幼稚園での実習を行う。

ここでは、大学での学びや保育実習での経験を基に、幼稚園教育についてさらに実際的な理解を深め、保育者としての総合的な実践力を養う。自ら指導計画案を立案して実施する責任実習等の経験を通して、幼児理解を深めると同時に、実践的技能・指導力の向上を図り、保育者としての資質を高めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- 学修を通して自己成長する力を育む。
- ・これまでの大学の学びを生かして保育を実践することで、幼児理解を深める。
- ・保育を行い、学ぶ楽しみを知り、幼稚園教諭としての実践的な技能・指導力を向上させる。
- ・保育現場での学修成果を実感して、幼稚園教諭としての自信と意欲を抱く。

【授業の内容】

- ・事前指導 …「教育実習指導」の授業において行う。
- ・実習
 - 実習時期：6月（予定）
 - 実習期間：4週間
 - 実習園：公立、私立幼稚園 他
- ・事後指導 …「教育実習指導」の授業と個人面接指導にて行う。
 - 実習のまとめおよび反省
 - 実習報告会
 - 実習の評価および今後の課題の明確化（個人面接指導）

【事前・事後学修】

【事前学修】（毎日1時間）

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける。予め、「教育実習（幼稚園）aの手引き」（『教育実習 a 日誌』）をよく読んでおく。
- ・保育に先がけ、ピアノ練習、保育教材の準備を行う。

【事後学修】（毎日2時間）

- ・日誌により、保育の振り返りを行う。

【テキスト・教材】

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針[チャイルド社、2017、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面接等に基づいた評価50%
 実習園からの評価をふまえ、担当教員による個人面談を行い、学びのフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介・指示する。

【注意事項】

- ・必修科目の単位を修得しておくこと。
- この科目に関して、WEBでの履修登録を忘れないこと。
- ・学外実習（幼稚園）が中心となる授業であるため、原則として遅刻・欠席は認めない。

教育実習 b (幼稚園)

井口 眞美

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

幼稚園教諭免許状の取得希望者（幼小コース）は、教育実習 b を履修し幼稚園での2週間の実習を行う。

ここでは幼稚園の実態を的確に把握し、幼稚園教育についての実際を学ぶと同時に、子どもと実際のふれあいを通して幼児理解を深める。また、これまで大学で学んできた知識や技能を基礎としながら、保育の場においてこれらを総合的に実践する応用能力を養う。保育の理論と実践の有機的なつながりを理解し自己課題を明確にして次の学びにつなげることが大切である。

【授業における到達目標】

- 学修を通して自己成長する力を育む
- ・これまでの大学での学びを活かし、保育を実践することで幼児理解を深め、行動力を身につける。
- ・小学校教育との違いを踏まえつつ保育を行い、学ぶ楽しみを知り実践的な知識・技能を高める。
- ・実習現場における学修成果を実感し、研鑽力、協働力を身につけ、教師としての自信を創出する。

【授業の内容】

- ・事前指導 …「幼児教育法」の授業において行う。
- ・実習
 - 実習時期：2月（予定）
 - 実習期間：2週間
 - 実習園：公立、私立幼稚園 他
- ・事後指導 …個人面接指導にて行う。
 - 実習のまとめおよび反省
 - 実習報告会（4年次4月）
 - 実習の評価および今後の課題の明確化（個人面接指導）

【事前・事後学修】

【事前学修】（毎日1時間）

- ・実習園によるオリエンテーションを必ず受ける。予め「教育実習（幼稚園）の手引き」（『教育実習 b 日誌』）をよく読んでおくこと。
- ・保育に先がけ、ピアノ練習、保育教材の準備を行う。

【事後学修】（毎日2時間）

- ・日誌により、保育の振り返りを行う。

【テキスト・教材】

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針[チャイルド社、2017、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面接等に基づいた評価50%
 実習園からの評価をふまえ、担当教員による個人面談を行い、学びのフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介・指示する。

【注意事項】

- ・必修科目の単位を修得しておくこと。
- ・学外実習（幼稚園）が中心となる授業であるため、原則として遅刻・欠席は認めない。

教育実習指導（小学校）

子どもたちと共に成長し、信頼される教師を求めて

南雲 成二・渡辺 敏

3年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

公立小学校で実施される3年次「教育実習」を充実させる為、事前指導・事中支援・事後指導の三層構造で講義内容を構成。事前指導では実習に関する諸準備や教育実習の意義・目的を確認する。学習指導力の向上と充実の為に「指導案作成と模擬授業・授業研究演習」を丁寧に試みる。事中支援は2週間目と4週間目の訪問指導を重点的に行う。事後指導では、教育実習期間中に実践した学習指導案と授業記録を基に、児童にとって「わかる・できる・つかえる」学力伸長実現の為に学習指導のあり方について考察する。併せて、児童理解、小学校教育の課題把握を深め、教員採用試験に結ぶ教師力の育成を図る。教科学習指導力の充実と相補的に教職教養の基盤としての「教育原理・教育心理・教育法規・教育史・教育時事問題」についても教育実習との関連で要所を学び、実践的理解を深める。

【授業における到達目標】

①教育実習ノートを活用し、実践記録の取り方や授業評価・改善の観点、その方法を身につけることができるようになる。13教科の学習指導案や全日経営案の書き方を修得する。児童理解を基盤としたノート指導、ワークシートや板書や発問内容の構成と学習指導・支援ができるようになる。②教育実習を通して「日本の教育や世界の初等教育」について考える力を身につける。実習での学びを生かし、自分の課題を見つけ、実際の指導を考え、互いに学び合うことで相互研鑽力とチーム協働力を身につける。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：教育実習の意義と目的及び概要
- 第2回 一日の勤務と4週間の流れ（習得内容のおさえ）
- 第3回 観察・参加・実習の仕方と実習日誌の書き方、記録方法
- 第4回 実習学年での実施授業と研究授業及び研究会について
- 第5回 全日経営案の書き方・留意点のおさえ、経営案試作
- 第6回 児童理解について（配慮を有する児童への支援と指導）
- 第7回 学級担任の心構え（防犯防災人権教育、エバー・サレグ・ザイン）
- 第8回 教育公務員の服務規程等、主要教育法規に関する再学習
- 第9回 教材研究の仕方と学習指導案の書き方＜復習応用発展＞
- ※1年「教育方法技術」学習単元構成の原理と方法を基に作成
- ※5月～6月が実習期間となる学生の為に集中講義や入れ替え有り
- 第10回 実践模擬授業準備①（発問・板書・ワークシートとノート指導等）
- 第11回 実践模擬授業準備②（学習内容と学習形態と学習過程）
- 第12回「模擬授業①教科編」（授業研究の為に記録の取り方）
- ＜国語科又は総合的な学習の時間〔読書単元〕を通して＞
- 第13回「模擬授業②領域編」（学級経営や児童理解との関係）
- ＜特別活動を中心に＞
- 第14回 教育実習研究授業参観と実習体験報告
- 第15回 前期「教育実習指導」のまとめ
- 第16回 後期オリエンテーション。
- 第17回 実践模擬授業準備③（実習経験を活かした指導案作成）
- 第18回「模擬授業③」（子どもの学びと授業評価・改善）
- 第19回「担当学年 学級経営案」を考察する
- 第20回「担当学年 教科・領域経営案」を考察する
- 第21回「保護者・地域・関連機関」との協働連携を考察する
- 第22回「模擬授業④」（教育実習での課題から①）例：小学校
- 第23回「模擬授業⑤」（教育実習での課題から②）外国語活動
- 第24回「模擬授業⑥」（教育実習での課題から③）（英語）の
- 第25回「模擬授業⑦」（教育実習での課題から④）学習室づくり
- 第26回「模擬授業⑧」（教育実習での課題から⑤）
- 第27回 日野市の発達支援の在り方の理解
- 第28回 日野市の発達支援施設「エール」の見学
- 第29回 特別に支援が必要な児童の学習指導
- 第30回 まとめ（ゼミナールでの探究課題や「卒論」との関係）

【事前・事後学修】

【事前学修】各教科自作学習指導案、公開授業研等で収集した指導案綴りを活用できるようにする。レポート・小論文・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習中の子ども・教職員・保護者域に具体的に関わる力、実習終了後の整理整頓と実践課題把握力・追求力の形成に取り組むこと。レポート・発表・実習ノートを中心としたポートフォリオ評価の充実を図ること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

「手作り教育実習の手引き」等、必要に応じて配布、提示。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（教育実習と授業への積極的な参加）50%、模擬授業、課題レポートや小論文、児童理解力や教科指導力向上のための質疑・協議への参加内容と態度50%で、総合的に評価します。課題レポートや小論文はコメントを入れてフィードバックします。

【参考書】

- ☆『小学校学習指導要領・各解説編』2008年度版と2017年度告示版（2019年度は、新学習指導要領移行措置2年目のため）
- ☆『評価基準の作成評価方法等の工夫・改善のための参考資料』（平成23年11刊の現行版。※2019年度以降、改訂版発刊の予定）
- ☆H27.8 文部科学省教育課程企画室編『論点整理』
- ☆H28.12.21「中央教育審議会最終答申（第197号）」P1～P243と補充資料群（1）別紙（2）別添資料（3）補足資料
- ☆『月刊初等教育資料』（文部科学省）

【注意事項】

「4週間の小学校教育実習」を通して「教師・教員・教諭・先生」としての自分の適性・可能性をしっかりと吟味すること。なにより子どもたち一人ひとりの「学び」「生活世界」をしっかりと見つめ、支援人と指導人としての自分自身を見つめること。

教育実習指導（幼稚園）

井口 眞美

4年 集通 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【参考書】

『実習日誌の書き方』相馬和子、中田カヨ子：編 萌文書林 2010年（1680円）

【注意事項】

実習に向けての手続きなども含まれる授業であるため、授業への取り組み方や授業態度を重視して成績評価を行う。

【授業のテーマ】

この授業は、教育実習を行うにあたっての事前・事後指導を中心に進め、教育実習（幼保コース4年6月）の準備や振り返りを行う。具体的には、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義・心得、教材研究、幼児に指導を行う際に必要不可欠な指導案（部分実習）の作成等について学んだり、実習での学びをまとめたりする。

【授業における到達目標】

- ・実習にあたり、事前・実習中・事後の諸手続きを滞りなく行い、主体的に実習に臨む姿勢を培う。
- ・教育実習の意義・心得を理解し、現状を的確に把握する視点をもって実習に取り組む。
- ・ボランティアの参加、指導案の作成、教材研究等、事前準備を周到に行い、意欲的に実習に臨み、行動力、協働力を培う。
- ・実習をふり返り、自己の成長や自己課題を明らかにし、問題解決につなげることで研鑽力を高める。

【授業の内容】

事前指導

- 第1回 オリエンテーション（事務的手続き：実習幼稚園の選択・決定方法、個人票の作成等）
- 第2回 実習報告会（先輩や実習を経験した学生からの報告）
- 第3回 実習の確認事項（実習の意義と心得：教育実習生として遵守すべき義務等）
- 第4回 保育実習のふり返り
- 第5回 日誌の書き方
- 第6回 指導案の作成
- 第7回 幼稚園教育要領の理解
- 第8回 実習に向けて（オリエンテーション内容の確認）
- 第9回 教材研究
- 第10回 実習壮行式

事後指導

- 第11回 教育実習を振り返って①（実習園へのお礼状作成の指導、保育教材の振り返り）
- 第12回 教育実習を振り返って②（子どもへの関わり方等、更に修得が必要な課題の理解）
- 第13回 実習報告会準備①（資料作成）
- 第14回 実習報告会準備②（打ち合わせ）
- 第15回 実習報告会

個別事後面談

実習のふり返りと今後の課題の明確化、教職に就くにあたっての指導助言

【事前・事後学修】

【事前学修】（週1時間）

- ・配布された資料は、次回の授業までに読んでおくこと。
- ・実習に向け、教材研究等を行っておくこと。

【事後学修】（週1時間）

- ・授業内容をふまえ、各自で指導案を作成する等、実習の準備及び振り返りを行うこと。

【テキスト・教材】

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針[チャイルド社、2017、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度（授業への取り組み方等）30%、授業内課題（指導案等）40%、ふり返り課題、実習報告会30%
フィードバックの方法としては、実習の事前に個別面談を行い準備状況の確認をする。また指導案の添削をして返却をする。

教育社会学

広井 多鶴子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、高等教育を主なテーマとする。具体的には、大学進学率の推移や高等教育をめぐる社会的格差、ジェンダー格差、能力主義と学力、ゆとり教育などについて取り上げる。

授業ではこれらの問題に関する文献を読み、学生がそれについて調べたことや分かったこと、考えたことを発表する。

【授業における到達目標】

大学進学や大学教育に関して、さまざまな文献やデータを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育改革と教育の戦後史
- 第3週 1960年代の若者たち①就職
- 第4週 1960年代の若者たち②進学
- 第5週 大学進学率の変化
- 第6週 日本の大学進学率は低い—国際比較
- 第7週 レポート発表①大学進学率の変化
- 第8週 大学進学と社会的格差
- 第9週 レポート発表②大学進学と社会的格差
- 第10週 大学教育とジェンダー
- 第11週 レポート発表③大学教育とジェンダー格差
- 第12週 学力と能力主義
- 第13週 レポート発表④能力主義と学力・ゆとり教育
- 第14週 女子大学のあり方を考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 参考文献を読む。週2時間

【事後学修】 宿題を行う。発表の準備をする。週2時間

【テキスト・教材】

荻谷剛彦：教育と平等 - 大衆教育社会はいかに生成したか[中公新書、2009、¥840(税抜)]

荻谷剛彦：大衆教育社会のゆくえ—学歴主義と平等神話の戦後史 [中公新書、1995、¥700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は授業の取組み状況（30%）とレポート発表およびレポート（70%）で評価する。

宿題は次回授業、レポート発表についてはそのつどフィードバックを行う。

【注意事項】

この授業は発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れる。

教育社会学

広井 多鶴子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、高等教育を主なテーマとする。具体的には、大学進学率の推移や高等教育をめぐる社会的格差、ジェンダー格差、能力主義と学力、ゆとり教育などについて取り上げる。

授業ではこれらの問題に関する文献を読み、学生がそれについて調べたことや分かったこと、考えたことを発表する。

【授業における到達目標】

大学進学や大学教育に関して、さまざまな文献やデータを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育改革と教育の戦後史
- 第3週 1960年代の若者たち①就職
- 第4週 1960年代の若者たち②進学
- 第5週 大学進学率の変化
- 第6週 日本の大学進学率は低いか—国際比較
- 第7週 レポート発表①大学進学率の変化
- 第8週 大学進学と社会的格差
- 第9週 レポート発表②大学進学と社会的格差
- 第10週 大学教育とジェンダー
- 第11週 レポート発表③大学教育とジェンダー格差
- 第12週 学力と能力主義
- 第13週 レポート発表④能力主義と学力・ゆとり教育
- 第14週 女子大学のあり方を考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 参考文献を読む。週2時間

【事後学修】 宿題を行う。発表の準備をする。週2時間

【テキスト・教材】

荻谷剛彦：教育と平等 - 大衆教育社会はいかに生成したか[中公新書、2009、¥840(税抜)]

荻谷剛彦：大衆教育社会のゆくえ—学歴主義と平等神話の戦後史 [中公新書、1995、¥700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は授業の取組み状況（30%）とレポート発表およびレポート（70%）で評価する。

宿題は次回授業、レポート発表についてはそのつどフィードバックを行う。

【注意事項】

この授業は発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れる。

教育社会学特論

広井 多鶴子

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

核家族化、少子化、少年非行、不登校、児童虐待など、子ども・若者・家族・学校をめぐる諸問題について、歴史社会的に分析する。

【授業における到達目標】

子ども・若者・家族、学校に関する様々なデータを分析する中で、新たな知を創造し、問題の解決に貢献しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 核家族化はどのように捉えられてきたか
- 第3週 核家族化はどれほど進展したか
- 第4週 少子化ときょうだい数の変化
- 第5週 少子化の原因論
- 第6週 登校拒否はいつ登場したか
- 第7週 登校拒否の社会問題化
- 第8週 登校拒否から不登校へ
- 第9週 少年非行はどう捉えられているか
- 第10週 少年非行は「増加」「凶悪化」しているか
- 第11週 少年非行の原因論
- 第12週 児童虐待問題はいつ登場したか
- 第13週 児童虐待は「増加」「深刻化」したか
- 第14週 児童虐待の原因論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業で発表するレジュメやレポートを作成する。週3時間

【事後学修】テキストや参考文献を読む。週1時間

【テキスト・教材】

広井多鶴子・小玉亮子：現代の親子問題[日本図書センター、2010、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での発表（50%）、レポート提出（50%）

フィードバックは次回の授業で行う。

【参考書】

- 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波新書、2014年）929円
- 山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』（光文社新書、2014年）886円
- 内田良『「児童虐待」へのまなざし』（世界思想社、2009年）2160円
- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）799円

教育心理学

活動の中での学び

長崎 勤

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

教育現場における指導や援助に役立つ視点を習得させることを目的とする。教育心理学の理論や研究を紹介しながら、特に子どもの行動や認識を理解する上で重要となる物の見方、考え方を養っていく

【授業における到達目標】

- ・学習や発達の心理学的基礎が理解できる。
- ・教育における指導や支援のための視点を持つことができる。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 子どもが育つ環境
- 第3週 発達と教育
- 第4週 学習と教育
- 第5週 学習と理論①：条件付け
- 第6週 学習と理論②：認知説
- 第7週 学習と記憶
- 第8週 動機付け
- 第9週 学力と知能
- 第10週 社会性の発達
- 第11週 障害の理解①特別支援教育
- 第12週 障害の理解②発達障害
- 第13週 発達・教育に関する心理測定
- 第14週 発達・教育に関する評価
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

柏崎秀子：教職ベーシック 発達・学習の心理学[北樹出版、2010、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極参加・提出課題)30%、期末試験70%
レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

教育心理学

織田 弥生

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業では「発達」「教授・学習」「人格・社会・適応」「評価・測定」等の観点から、総合的に教育心理学を学びます。

【授業における到達目標】

目標は①教育現場において生じる問題やその背景について説明できる、②教育現場における心理社会的課題や必要な支援方法について説明できることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス・歴史
- 第2回 発達①幼児期
- 第3回 発達②老年期まで
- 第4回 学習①学習の基礎
- 第5回 学習②記憶
- 第6回 学習指導
- 第7回 集団
- 第8回 教育評価
- 第9回 知能
- 第10回 性格①性格の基礎
- 第11回 性格②性格の研究
- 第12回 適応
- 第13回 障害
- 第14回 関連資料の紹介
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

【参考書】

●教育心理学関係

- 米澤・足立・倉盛編著『教育心理学』（北大路書房、1998年）
- 多鹿著『教育心理学「生きる力」を身につけるために』（サイエンス社、2001年）
- 山崎編著『教育心理学ルックアラウンド』（ブレーン出版、2004年）

●一般心理学関係

- 北尾ら共著『グラフィック心理学』（サイエンス社、1998年）
- 中島ら編『新・心理学の基礎知識』（有斐閣ブックス、2005年）

【注意事項】

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。

教育制度

(国文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

青木 研作

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

教育制度は教育に関する政策、法制、行政等により成立している。本授業では、教育制度の理論や歴史的経緯を紹介するとともに、教育改革の文脈で注目を集める現代の教育制度上の新たな展開や課題について、主に学校教育制度を中心に具体的な事例をとりあげる。

教育制度に関する基本的知識、さらには将来教育者として実践に必要な知識・技能を習得することを授業の目的とする。

【授業における到達目標】

- ・現在の教育制度が形成されてきた経緯を理解することができる。
- ・教育制度に関する政策・法・行政の意義と構造を理解することができる。
- ・近年の教育改革動向について理解することができる。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：教育制度とは何か
 第2週 公教育の登場と教育制度の史的展開
 第3週 教育制度に関する法の意義と構造
 第4週 日本国憲法と教育基本法：教育基本法の改正を中心に
 第5週 教育権・学習権：判例を紹介しながら
 第6週 学校教育制度①：学校の設置・管理
 第7週 学校教育制度②：学校の組織編制
 第8週 学校教育制度③：学校経営
 第9週 学校教育制度④：教育課程・学習指導要領・教科書制度
 第10週 国の教育行政制度：文部科学省の機能
 第11週 地方の教育行政制度①：教育委員会の機能
 第12週 地方の教育行政制度②：教育委員会制度の抱える課題
 (各自レポートを作成し、それに基づきグループワークを行う)
 第13週 教育制度改革の動向①：新自由主義的教育政策とは何か
 第14週 教育制度改革の動向②：学校教職員をめぐる課題
 第15週 まとめ：確認テストを含む

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業で配布したプリント等を活用し復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

若井彌一：2020年度版 必携教職六法[協同出版、2019、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

確認テスト70%、レポート20%、授業への参加度10%。レポートについては全体的なフィードバックコメントを行い、確認テストについては実施後解説を行う。

教育制度

(英文学科、食生活科学科、現代生活学科 対象)

永井 聖二

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

近代公教育制度は、産業社会の要請と近代的子ども観の展開を背景として発展してきたが、近年では学校制度への不信や疑問も提起され、学校のあり方をめぐって、社会と個人の緊張関係が顕在化している。

この授業では、公教育制度の展開と背景、その近年の揺らぎについて理解し、教育制度の現状を把握したうえで、我が国の教育の今後について考察を加える。

【授業における到達目標】

- ・わが国の教育制度の現状と特徴、その揺らぎについて理解する。
- ・自らの教育実践の可能性と課題を踏まえて、主体的に職能的成長が可能になる基礎を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 公教育制度の展開
 第2週 近代的子ども観と教育
 第3週 人間形成の日米比較
 第4週 世界の学校
 第5週 学校教育の日本の特質
 第6週 現代日本の教育法制
 第7週 教育行政の理念と仕組み
 第8週 教育制度の揺らぎ
 第9週 家族と学校、その現状と今後
 第10週 地域社会と学校、その現状と今後
 第11週 学校の組織と文化
 第12週 学校安全への対応
 第13週 生涯学習の理念と現状
 第14週 日本社会の変容と教育
 第15週 教育制度の再構築と教育政策の動向

【事前・事後学修】

事前学修として、次回の授業範囲を予習し、専門用語について理解しておくこと。学修時間週2時間

事後学修として、発表や小テストについて復習すること。学修時間週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%授業中の発表30%、授業への積極的参加の程度20%。

テストは、授業でフィードバックをおこない、後日返却する。

【参考書】

岡崎友典、永井聖二 教育学入門 放送教育振興会

教育制度

(生活環境学科、生活文化学科 対象)

清田 夏代

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

- ・公教育制度の成立のプロセス、理念、課題について扱う。
- ・先進諸国においては高い就学率が実現されてきたが、そのような状況の中でも依然として周辺化されている子どもたちの教育の在り方が、教育制度上の課題として残されていることを、いくつかの具体的な教育政策に即して理解する。

(教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に該当する科目である。教育法規で規定される詳細かつ個々具体的な教育制度の内容については、選択科目「教職研究c」で扱う。)

【授業における到達目標】

- ・学校教育の成立のプロセスや理念について理解すること
- ・現代社会の教育制度が抱える課題について多面的にとらえる視点を養うこと
- ・公教育制度がはらむ様々な矛盾を、社会的な課題や国家目的という文脈のなかで具体的に理解すること

【授業の内容】

1. 「教育制度」の基本確認と導入
2. 近代社会の教育制度
3. 国家による公教育運営の含意
4. 教育制度の型：複線型と単線型
5. 新自由主義の教育制度改革
6. 社会的包摂政策と学校教育
7. 「唯一最良の制度」
8. 平等な教育制度を求めて
9. 学校教育と家庭の理論
10. 学校教育と「リッチフライト」
11. 教育格差
12. 多元化社会の学校教育—新たな課題—
13. 近年の教育制度上の課題—学校安全—
14. 教育制度と教師
15. 概括

【事前・事後学修】

(事前) 週1時間程度

- ・配布物を熟読すること

(事後) 週3時間程度

- ・授業後に内容について復習すること
- ・教育思想や実践について図書などを参照し、学修すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点(授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む)20%、試験80%によって、総合的に行う。

【参考書】

授業内で指示、紹介する。

【注意事項】

毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

教育制度（栄養）

清田 夏代

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

- ・従来の学校給食法に加え、新たに「食育基本法」が制定され、教育職としての「栄養教諭」職が作られた背景、同職の存在意義や役割に触れながら、日本の教育制度の枠組みに関する内容を扱う。
- ・基礎的かつ一般的な教職教養としての教育制度と教育制度改革の動向、また、栄養教諭として特に理解しておく必要のある内容の両方を含む。

【授業における到達目標】

- ・日本の教育制度の基本構造を理解すること
- ・最新の教育制度改革の動向を理解すること
- ・学校教育制度において栄養教諭に何が期待されているのか、を理解すること
- ・栄養教諭の存在意義と役割を、現代社会の課題に即して理解すること

【授業の内容】

1. 「教育制度」の基本確認
2. 日本の学校教育制度
3. 教員養成制度
4. 学校給食制度と課題
5. 「開かれた学校」とは—地域社会との連携を考える—
6. 現代社会における公教育の課題
7. 多元化社会の学校教育—新たな課題—
8. 特別支援教育

【事前・事後学修】

- （事前）週1時間程度
- ・配布物を熟読すること
- （事後）週3時間程度
- ・授業後に内容について復習すること
 - ・日本の学校教育制度に関連する 図書を熟読すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）20%、試験80%によって、総合的に行う。

【参考書】

授業内で指示、紹介する。

【注意事項】

毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

教育制度論

田中 正浩

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

本授業では、現代の教育制度及び教育行政に関する基本的事項を理解、習得するとともに、これらに関連する課題への理解もめざす。加えて、学校と地域との連携、安全教育に対する基礎的知識の理解、習得も図っていく。

【授業における到達目標】

我国の教育制度及び教育行政に関連する歴史的・社会的出来事を概観しながら、現代の公教育制度の意義・原理・構造について理解を深め、その法的及び制度的な仕組みに関する基礎的知識を身に付け、現代の課題を読み解いていく。さらに、取り組み事例をもとに、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解を深める。

【授業の内容】

- 第1週 教育制度を学ぶ意味－子どもの権利－
- 第2週 公教育の原理と理念
- 第3週 公教育制度に係わる教育関係法規
- 第4週 教育内容に関する制度
－学習指導要領・幼稚園教育要領等－
- 第5週 日本国憲法と教育基本法
- 第6週 義務教育制度－誰の何に対する義務か－
- 第7週 教育の機会均等
- 第8週 教育行政の理念と構造
- 第9週 学校教育制度－原理・構造・課題－
- 第10週 社会教育制度－原理・構造・課題－
- 第11週 保育の制度
- 第12週 地域における学校教育活動の意義と方法
- 第13週 地域に開かれた学校づくり
- 第14週 学校安全（危機管理・事故対応）の意義
- 第15週 安全管理と安全教育

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。
(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

文部科学省：幼稚園教育要領解説[東洋館出版社、2017、¥240(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、試験(60% ※テキスト、資料プリント、ノートを持ち込みは不可)、平常点[授業への取組・提出課題](20%)により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

教育相談

(国文学科 対象)

櫻井 成美

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

近年学校場面で不登校、いじめ、対人関係の問題等、子どもたちの心の問題や悩みが多くみられる。本授業では、子どもが学校で出会う心の問題と支援の方法について理解を深めることを目的とする。また、近年心を病む教師が増加していることから、教育相談の課題の一つとして教師のメンタルヘルスの問題についても取りあげる。

【授業における到達目標】

- ①子どもの発達や学校場面で生じる諸問題の特徴について知識を修得する。
- ②支援を要する子どもを的確に理解し、具体的支援の方法（カウンセリングの理論や技法の学習も含む）について修得する。
- ③学校内外の関係者と連携・協力をしながら、教師として子どもたちに適切な支援を行うことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションと授業の概要
- 第2週 教育相談の意義
- 第3週 教育相談に関わる基礎的な理論：生徒の心理発達の特徴と課題
- 第4週 教育相談の方法A：不適応をかかえた子どもの理解①心理教育的アセスメント
- 第5週 教育相談の方法A：不適応をかかえた子どもの理解②アセスメントの方法
- 第6週 教育相談の方法B：不適応をかかえた子どもへの支援①カウンセリングの基礎理論
- 第7週 教育相談の方法B：不適応をかかえた子どもへの支援②教師のカウンセリング・マインド
- 第8週 教育相談の展開A：教育相談の進め方①児童虐待
- 第9週 教育相談の展開A：教育相談の進め方②不登校
- 第10週 教育相談の展開A：教育相談の進め方③いじめ
- 第11週 教育相談の展開B：連携①保護者との連携と支援
- 第12週 教育相談の展開B：連携②校内体制と学内連携
- 第13週 教育相談の展開B：連携③学外の関係機関との連携
- 第14週 教育相談の課題と今後の方向①教師のメンタルヘルス
- 第15週 教育相談の課題と今後の方向②緊急支援 / まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：課題レポート等に取り組むこと（学修時間：週2時間）
事後学修：講義内容や配布プリント、授業中紹介する参考文献などをとに、各自復習をして理解を深めること。配布資料等をもとに次の授業範囲を予習すること（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない。毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度・授業内課題（リアクション・ペーパー、小レポート、ディスカッション等）（50%）、期末レポート（50%）により評価を行う。

リアクション・ペーパー等は次回授業、期末レポートは授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

講義中心の授業であるが、理解を深めるために課題やグループ・ディスカッション、発表等の機会を多く取り入れるため、積極的に取り組むこと。

教育相談

(英文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

實川 由美子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

学校では、元気な子供だけでなく、不登校の子、いじめにかかわる子、発達障害の特性を持つ子、うつなどの精神疾患の子、抑うつ状態や自分を傷つける子、〇〇にはまる子、家庭の問題を抱える子、性的な違和を感じている子、自分を語ることでできない子など様々な子供が生活している。子供を取り巻く問題も、年々複雑で深刻になっており、問題解決はますます困難さを増している。さらに、2013年9月施行の「いじめ防止対策推進法」により、学校内外で起きる児童などのいじめ問題の解決やいじめの再発防止を推進することが求められている。また、2016年4月施行の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、障害のある人に対する合理的配慮を可能な限り提供することが求められている。そして、それらも含め、今後はますます、教師にとり、それらの問題を抱えた子供やその保護者への対応が不可欠となると考えられる。それらを担う教師にとり、子供の抱える問題の理解や解決方法、分かりやすいコミュニケーションスキルの習得は急務で必須となってくる。

そのような問題解決の方法の一つに、教育の機能を持ちながら、子供の人格の発達を援助する「教育相談」があり、とても有効な方法である。ここでは、その「教育相談」の理論と方法について学ぶ。そして、子供の発達をふまえたうえで、具体的な相談スキルを身につけることと、子供の問題の事例検討を通して、子供の問題への理解を深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

授業の到達目標は3点ある。一つ目は、多様で複雑な子供に関わる問題の解決のため、多様な価値観と多面的な視点を身につけることができるようになる。二つ目は、子供の現状を理解し、課題についての深い洞察力を育むことができるようになる。三つ目は、ワークや事例検討を通して、問題解決の方法の習得と、コミュニケーションなど相談スキルアップを図ることである。

【授業の内容】

- 第1週 教育相談とは・子供の発達（乳幼児期から青年期まで）
- 第2週 カウンセリングの基礎
- 第3週 教室で使えるカウンセリング技法（認知行動療法など）
- 第4週 教室で使えるカウンセリング技法（ピアサポートなど）
- 第5週 事例検討①（虐待、家庭の問題への理解と対応）
- 第6週 事例検討②（発達障害への理解と対応）
- 第7週 事例検討③（精神疾患などへの理解と対応）
- 第8週 事例検討④（いじめへの理解と対応）
- 第9週 事例検討⑤（不登校への理解と対応 その1）
- 第10週 事例検討⑤（不登校への理解と対応 その2）
- 第11週 事例検討⑥（保護者への理解と対応）
- 第12週 事例検討⑦（心のケアへの理解と対応）
- 第13週 学校内外のリソース活用・予防的アプローチ
- 第14週 教育相談の活用のまとめ・期末授業内レポート
- 第15週 教育相談のまとめ・教師のメンタルヘルス・ストレスマネジメント

【事前・事後学修】

事前学修については、授業のテーマを知らせるので、2時間程度自主的に参考書などを読み、専門知識の予習をすること。また、事後学修については、2時間程度、自宅学修用の課題に取り組むこと。教育相談では、人生の価値観などを問われることが多いため、課題のテーマは専門的なこと以外の広範囲から選択している。各自、参考文献や参考資料を探し、課題に取り組み、次の授業前に提出すること。課題について15分程度の話し合いや発表、講評を行い、必ずコメント等つけて後日返却する。

【テキスト・教材】

テキストは特に指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○期末レポート40%（子供の問題が重複している事例の検討を、14週目に授業内レポートする。15週目に模範解答を示し、コメントを付けて返却する）

○課題提出40%（課題提出後、授業内でグループワークしたり各自のレポートを発表する。また毎回添削して返却する）

○授業態度20%（テーマに沿った事例検討をグループワークしたり、各自の考えなどを発表したり、積極的な参加態度）

【参考書】

○丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』（ミネルヴァ書房 2002年）

○村瀬嘉代子・三浦香苗・近藤邦夫・西村克彦編『教員養成のためのテキストシリーズ5 青年期の課題と支援』（新曜社2000年）

○杉山登志郎著『発達障害のいま』（講談社 2011年）

○十一元三著『子供と大人のメンタルヘルスがわかる本』（講談社 2014年）

○小口尚子・福岡鮎美著『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』（小学館1995年）

教育相談

（生活環境学科、生活文化学科 対象）

道又 紀子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応する相談活動である。これまで教育相談は特定の専門知識を持った専門家が行うといったイメージを持たれやすかったが、本来全教員が参加する教育活動である。ここでは、発達・相談についての基礎をふまえた上で、具体的な相談のスキルを身につけること、事例への理解を深めることを目標とする。学校教育相談は、治療的な側面だけではなく、予防的・開発的側面を持っていることが特徴となっている。本講義では、これらの相談を機能させるための、具体的な方法を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を受容し、人の話を傾聴する技術を身につけることができる
- ②発達の課題や心理的問題を、多角的に理解する洞察力や深い感受性を養う
- ③生徒が自己成長する力を育て、主体的に問題解決をおこなえる心理的支援を身につける

【授業の内容】

1. 教育相談の3つの機能
2. 心の発達の基礎と問題①乳幼児期～児童期
3. 心の発達と基礎と問題②思春期～青年期
4. ライフサイクルと人の発達
5. 家族・教師の役割と発達
6. カウンセリングの基礎
7. カウンセリングの諸技法
8. 開発的な教育相談活動①構成的エンカウンター
9. 開発的な教育相談活動②リフレーミング
10. 開発的な教育相談活動③交流分析
11. 事例検討① 不登校・うつ病
12. 事例検討② 拒食障害
13. 事例検討③ 発達障害・性同一性障害
14. 学内外の資源の活用と協働
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

【事前・事後学修】

＜事前学修＞授業は基本的に生徒指導提要の第5章を中心に行われる。事前に指定した項目に目を通して相談に関するおおよその知識をつかんでから授業に臨む必要がある（必要時間2時間）

＜事後学修＞配布プリントを見直し、授業で行ったワークを振り返り、知識を自分の技術として生かせるようにする（必要時間2時間）

【テキスト・教材】

「生徒指導提要」文部科学省（298円）第五章、及びプリント・ビデオ教材を使用。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%
レポート40%（授業最終日に返却） 小課題20%（翌週授業日に返却）

【参考書】

中野明徳編・モジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チーム著『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版社 2009年）

平木典子『新版カウンセリングの話』（朝日選書 2004年）

村瀬嘉代子他『教員養成のためのテキストシリーズ4 児童期の課題と支援』（新曜社 2000年）

生徒指導提要 文部科学省

教育相談

(食生活科学科、現代生活学科 対象)

柏崎 秀子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応し、教育の機能を持ちながら、児童・生徒の人格の発達を援助する相談活動である。この授業では、子供の発達を踏まえて、教師が行う教育相談の理論と方法について学ぶ。具体的な相談のスキルを身につけ、事例への理解を深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・生徒の不応答・問題行動やその支援の在り方に関する基礎理論を修得する。
- ・生徒の人格の発達を援助する方法に関する基礎理論を修得する。
- ・教育相談的な態度やコミュニケーションで、生徒に関わることができるようになる。

【授業の内容】

1. 教育相談とは
2. 各発達段階の心の発達
3. 発達とアセスメント
4. カウンセリングの基礎理論
5. カウンセリングマインドの重要性
6. カウンセリングの基礎的技法
7. 事例検討① 不登校の理解と対応
8. 事例検討② いじめの理解と対応
9. 事例検討③ 虐待の理解と対応
10. 事例検討④ 発達障害の理解と対応
11. 教室で使えるカウンセリング技法
12. 開発的な教育相談活動
13. 教育相談体制と連携①学内における連携
14. 教育相談体制と連携②関係機関との連携
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

【事前・事後学修】

- <事前学修> 予め指定した箇所・事項を予習し、概要をつかむ。
(所要時間2時間)
- <事後学修> 授業で行った内容や活動を振り返り、小課題に取り組む。(所要時間2時間)

【テキスト・教材】

特に指定しない。プリント教材を使用。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60%、平常点(授業で行う活動・発表、授業中のコメントシート)40%。 レポートは後日、コメントして返却する。

【参考書】

- 『生徒指導提要』(文部科学省、2010年)
『実践につながる教育相談』(黒田祐二、北樹出版、2014年)

【注意事項】

2年次の「発達学習理論」で学んだ思春期の特徴や学習理論を踏まえて学ぶため、よく復習しておくこと。

理解を深めるために課題や討論等の機会を多く取り入れるため、積極的に取り組むこと。

問題行動に関する発表を行うため、各自、担当箇所を調べて内容をまとめ、自分が教師として授業を行うように発表できるよう、準備すること。

教育相談

道又 紀子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応する相談活動である。これまで教育相談は特定の専門知識をもった専門家が行うといったイメージを持たれやすかったが、本来全教員が参加する教育活動である。ここでは、発達・相談についての基礎をふまえた上で、具体的な相談のスキルを身につけること、事例への理解を深めることを目標とする。学校教育相談は、治療的な側面だけではなく、予防的・開発的側面を持っていることが特徴となっている。本講義では、これらの相談を機能させるための、具体的な方法を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を受容し、人の話を傾聴する技術を身につけることが出来る
- ②発達の課題や心理的問題を、多角的に理解する洞察力や深い感受性を養う
- ③生徒が自己成長する力を育て、主体的に問題解決をおこなえる心理的支援を身につける

【授業の内容】

1. 教育相談の3つの機能
2. 心の発達の基礎と問題①乳幼児期～児童期
3. 心の発達と基礎と問題②思春期～青年期
4. ライフサイクルと人の発達
5. 家族・教師の役割と発達
6. カウンセリングの基礎
7. カウンセリングの諸技法
8. 開発的な教育相談活動①構成的エンカウンター
9. 開発的な教育相談活動②リフレーミング
10. 開発的な教育相談活動③交流分析
11. 事例検討① 不登校・うつ病
12. 事例検討② 拒食障害
13. 事例検討③ 発達障害・性同一性障害
14. 学内外の資源の活用と協働
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

【事前・事後学修】

＜事前学修＞授業は基本的に生徒指導提要の第5章を中心に行われる。事前に指定した項目に目を通して相談に関するおおよその知識をつかんでから授業に臨む必要がある（必要時間2時間）
 ＜事後学修＞配布プリントを見直し、授業で行ったワークを振り返り、知識を自分の技術として生かせるようにする（必要時間2時間）

【テキスト・教材】

「生徒指導提要」文部科学省（298円）第五章、及びプリント・ビデオ教材を使用。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%
 レポート40%（授業最終日に返却） 小課題20%（翌週授業日に返却）

【参考書】

中野明德編・モジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チーム著『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版社 2009年）
 平木典子『新版カウンセリングの話』（朝日選書 2004年）
 村瀬嘉代子他『教員養成のためのテキストシリーズ4 児童期の課題と支援』（新曜社 2000年）
 生徒指導提要 文部科学省

教育方法・技術論

授業の方法を学ぶ（文学部、人間社会学部 対象）

官脇 郁

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

授業とは、実際に生徒を前にして授業を行うことのみで完結するわけではない。事前に綿密な授業計画を立て、次にそれを実施し、さらに終了後には振り返って改善点を探るというPlan-Do-Seeのサイクルから成り立つ。本講義では、このような授業の一連の流れとその技法を講義とグループワークにより学び、模擬授業を通して実際に経験する。

さらに近年、教育の世界においても情報化の流れが急速に進んでいることから、教育における情報通信技術の活用についても学び、簡単な実習を行う。

【授業における到達目標】

- ・Plan-Do-Seeのサイクルを説明できる。
- ・模擬授業を通してPlan-Do-Seeのサイクルを実践できる。
- ・常に教育方法を改善し続ける姿勢を身に付ける。
- ・教育の情報化の3つの柱を説明できる。
- ・授業や校務に情報通信技術を活用できる。

【授業の内容】

1. イントロダクション

授業の方法

2. 授業目標の設定
3. 教材と教育メディア
4. 授業の技法とアクティブラーニング
5. 教育的コミュニケーション、学習指導案
6. 教育評価
7. 初歩的な統計学
8. 学習指導法：授業にアクティブな要素を取り入れる
9. 模擬授業の準備
10. 模擬授業の実施1：授業の実践
11. 模擬授業の実施2：授業を振り返る

教育の情報化

12. 情報活用能力（情報モラルを含む）の育成
13. 授業に情報通信技術を活用する
14. 校務の情報化
15. まとめ

【事前・事後学修】

授業の予習・復習のため、毎回課題を出す。この課題は模擬授業の準備作業を兼ねている。次回の授業までに必ずやってくること。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験55%、課題と実習40%、平常点（授業への積極的参加度）5%で評価する。ただし、模擬授業の実施、および模擬授業関連の課題を全て提出することを単位取得の必要条件とする。課題については添削の上、次回授業時に返却する。

【参考書】

- 長野正著『授業の方法と技術—教師としての成長』（玉川大学出版部 2001年）
鈴木克明著『教材設計マニュアル—独学を支援するために』（北大路書房 2002年）
柏崎秀子編著『発達・学習の心理学 [第3版]』（北樹出版 2019年）

【注意事項】

半期の授業を通して少しずつ模擬授業の準備を進めていく。このため、安易に遅刻・欠席すると準備作業が滞るので十分気を付けること。

教育方法・技術論

授業の方法を学ぶ（食生活科学科、生活文化学科 対象）

柄本 健太郎

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

この科目では、指導案作成と模擬授業の実施を通じて「理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できること」を目標とします。受講により、教員としての資質能力のうち、授業設計力、学習指導力、授業評価力、ICT活用力が向上します。

生徒側からは見えにくいですが、授業をするには、「授業前の分析・設計・開発」「実際の授業」「授業後の評価・改善」という一連の流れが必要になります。これらを行うには、型となる理論と、実践経験が欠かせません。そこで、この授業では、指導案作成と模擬授業を通じて、授業に必要な理論と実践経験を得意にいきます。

なお、本科目の内容は、特定の教科に限定されない一般的な方法です。また、教育の情報化の推進という社会的背景から、教育での情報機器の活用についても学び、簡単な実習を行います。

【授業における到達目標】

この科目では、指導案作成と模擬授業の実施を通じて、理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できるようになります。DPとの関連としては、学生が修得すべき「行動力」として、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につながれるようになります。

【授業の内容】

第1週 イントロダクション

授業の方法

- 第2週 授業目標の設定 1 目標の設定
- 第3週 授業目標の設定 2 目標の修正
- 第4週 教材研究と課題分析
- 第5週 学習指導の方法
- 第6週 教育評価
- 第7週 授業の技法
- 第8週 授業の改善
- 第9週 模擬授業の実施 1 グループA
- 第10週 模擬授業の実施 2 グループB

※ 以上の模擬授業は、各回で半数ずつ実施します

第11週 授業の振り返り

教育の情報化

- 第12週 概論
- 第13週 授業におけるICTの活用
- 第14週 校務の情報化、成績管理
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】前回配布の資料を読み復習すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業に関連する情報をWeb、関連文献などで得ること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加）と課題・実習・コメントシートで合わせて50%、試験で50%として評価します。ただし、模擬授業の実施、およびその準備のための課題提出を単位取得の必要条件とします。コメントシートへの記述は次の授業回に個別でフィードバックします。試験は最終回に行うためフィードバックはありません。

【参考書】

- 稲垣忠・鈴木克明（2015）『授業設計マニュアルVer. 2：教師のためのインストラクショナルデザイン』．北大路書房．¥2,376
柏崎秀子（2010）『発達・学習の心理学』．北樹出版．¥2,052

【注意事項】

・半期を通して少しずつ模擬授業の準備を進めていきます。遅刻・欠席すると準備作業が滞ってしまいますのでご注意ください。

教育方法・技術論

(生活環境学科、現代生活学科 対象)

三尾 忠男

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

専門職である教師には、教育技術や方法を常に見つめ直し、同僚などとの研鑽に取り組む姿勢が求められる。その際、感覚や経験だけに依存せず、教師や授業を対象とする工学的なアプローチに基づく研究方法が必要である。この授業では、基本的な教育技術である“板書”に加えて、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、初任や中堅教師の教育方法にかかわる課題など、教師が学校現場で成長していくために必要となる内容を取り扱う。

また、この授業を授業や教育の方法を研究する場と考え、各種の教授メディアや技術の利用を受講者に体験してもらう。それらを授業研究の対象として捉え、受講者各自が教授法や授業の評価観点を養うこともねらいとする

【授業における到達目標】

- ・代表的な教育方法・技術の理論について説明できる。ICTを活用した教育技術の理論と長所、短所について説明できる。
- ・最適な教育方法を追求する意義を理解し、態度を身につける。
- ・授業のPDCAサイクルの各段階における理論が説明できる。

学生が身に付けるべき態度「美の探究」において、教育技術の理論と新しい方法を開発する態度、国内外の新しい教育方法について関心をもつ態度「国際的視野」を修得する。また、授業のPDCAサイクルを効果的に実施し続ける能力「研鑽力」の基礎を身に付け、状況に対応する授業を追求する「行動力」、同僚とともに授業改善に取り組む「協働力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1回：教育方法と教育工学
- 第2回：教授学習過程のモデル化
- 第3回：教育実習生にみる授業改善（導入、発問・指名・KR）
- 第4回：教育実習生にみる授業改善（板書、教材利用、机間指導）
- 第5回：授業技術（板書、カード等の比較）
- 第6回：授業技術（電子黒板、ICT活用など）
- 第7回：目標分析、プログラム学習
- 第8回：授業設計演習
- 第9回：学習評価（診断的、形成的、総括的）、S-P表の活用
- 第10回：授業研究の意義と方法（授業記録）
- 第11回：授業研究の意義と方法（授業分析）
- 第12回：教員研修、学習組織と学級経営
- 第13回：初任・中堅教員の教育方法にかかわる課題
- 第14回：学習技能、学習論と教育方法
- 第15回：授業評価の考察、総括

【事前・事後学修】

配付資料で予告した次回の専門用語と扱うトピックの実際例について各自、予習する（学修時間2時間）。

また、演習、グループワークの内容またはトピックの補足資料の復習する（学修時間2時間）。

【テキスト・教材】

文部科学省：学習指導要領

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習の状況（50%）を毎回の授業振り返りコメントと個人・グループ作業の充実度で評価する。課題（25%）は小レポート（2件）と演習課題（1件）でそれぞれの次回授業でフィードバックする。最後は、定期試験（25%）を実施し、最終回にフィードバックする。

【参考書】

本田恵子『脳科学を活かした授業をつくる』（CSL学習評価研究所 2006年）

【注意事項】

相当量のプリント資料を配付します。各自で整理し、毎回、持参してください。

教育方法・技術論（栄養）

柏崎 秀子

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

日々の教育活動は授業という形で行われるが、その授業とは、建築のように、計画を綿密に立てて設計するものである。どのように授業を設計すればよいか、どのような教育の方法を行えばよいか、その基本を学習する。

すなわち、教育実践に必要な教育方法と技術について、原理と基礎知識を習得することをめざす。授業設計の手順や教材の作成や使い方、教育的コミュニケーションのあり方などについて、順を追って体験的に学んでいく。また、教育メディアや情報機器を活用した授業の基礎についても学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・授業設計の仕方の基本を修得する。
- ・授業設計の基本に基づいて、自分でおおまかに授業を組み立てられるようになる。
- ・模擬授業の準備と実施を通して、授業設計と授業実施のポイントを体験的に把握することができる。
- ・教材を作成・活用できる行動力・研鑽力を修得する。

【授業の内容】

1. 授業の設計の仕組み
2. 目標の明確化と教材分析
3. 教材の活用と教育メディア
4. 教育的コミュニケーションとスキル
5. 学習指導法の諸形態
6. 作成した教材を用いた模擬授業の実施
7. 教育の情報化の原理
8. 情報機器を活かした教育および教育評価

【事前・事後学修】

【事前学修】授業で扱った授業設計の段階に応じて、指示された授業設計案を作成してくる。（学修時間：1時間）

【事後学修】学んだ内容について配布資料などを読み返して復習する。（学修時間：1時間）

【テキスト・教材】

プリント資料を使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、小課題・レポート40%、
試験は実施後にフィードバックし、レポートは返却する。

【参考書】

『授業設計マニュアル』稲垣忠・鈴木克明（北大路書房 2011年）

『授業の方法と技術』長野 正（玉川大学出版部 2001年）、

『小学校学習指導要領、中学校学習指導要領』（文部科学省、平成29年3月告示）

その他、授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

授業設計の考え方を体験的に学ぶため、積極的に取り組むように。自ら教材を作成し、教材の使い方を中心として模擬授業を実施する予定であるので、よく準備すること。

教職研究 a

教育時事

中村 一哉

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

教育や学校を取り巻く諸問題、教師や児童・生徒に関する今日的な課題等について、資料に基づいて問題点を把握するとともに、各問題に関する背景の調査や情報収集、解決に向けた発表や協議等を通して、問題解決に向けた方策を多様な視点から考察し、教職を目指すにあたっての幅広い視野と識見を身に付ける。

【授業における到達目標】

- ・教育時事に関する情報を収集し、整理・活用することができるようになる。
- ・今日的な教育課題を多様な視点から把握し焦点化して、よりよい問題解決に向けて考えをまとめることができるようになる。
- ・自分の考えを、根拠に基づいて他者に説得力をもって伝達することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教育を取り巻く課題と教師）
- 第2週 教育の「これまで」と「これから」
- 第3週 AIの進展がもたらす生活・教育環境の変化
- 第4週 SNSの活用と課題（ゲーム依存等）
- 第5週 子どもの発達と学校の課題（中1ギャップ等）
- 第6週 青少年の自立とキャリア教育
- 第7週 子どもの貧困と格差問題
- 第8週 少子・高齢化社会と教育
- 第9週 増加する虐待への対応
- 第10週 人権に関わる課題
- 第11週 学校の危機管理（安全・安心）
- 第12週 働き方改革と教員の職務
- 第13週 教育問題の課題解決に向けた取組（課題整理）
- 第14週 教育問題の課題解決に向けた取組（発表）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の学修課題について、あらかじめ文献、資料等で調べ整理しておく。（学修時間：週2時間）

【事後学修】学修した内容を整理し、文書にまとめる。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

課題に応じて、毎回、資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポートや授業内の記述などの提出物50%、平常点（授業に臨む態度等や討論・発表等の状況）50%により総合的に評価する。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。

【参考書】

- 中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月
（ぎょうせい 130円）
- 中学校学習指導要領解説 総則編 平成29年7月
（東山書房 251円）

【注意事項】

日頃から教育に関する時事問題等に関する新聞報道やニュース等に関心をもって情報を収集しておくことを心がけること。

具体的な問題解決を図るためにも、実際の学校や教育の現場との関わりや接点をもつようにすることが大切である。

教職研究 a

教育時事

中村 一哉

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

教育や学校を取り巻く諸問題、教師や児童・生徒に関する今日的な課題等について、資料に基づいて問題点を把握するとともに、各問題に関する背景の調査や情報収集、解決に向けた発表や協議等を通して、問題解決に向けた方策を多様な視点から考察し、教職を目指すにあたっての幅広い視野と識見を身に付ける。

【授業における到達目標】

- ・教育時事に関する情報を収集し、整理・活用することができるようになる。
- ・今日的な教育課題を多様な視点から把握し焦点化して、よりよい問題解決に向けて考えをまとめることができるようになる。
- ・自分の考えを、根拠に基づいて他者に説得力をもって伝達することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教育を取り巻く課題と教師）
- 第2週 教育の「これまで」と「これから」
- 第3週 AIの進展がもたらす生活・教育環境の変化
- 第4週 SNSの活用と課題（ゲーム依存等）
- 第5週 子どもの発達と学校の課題（中1ギャップ等）
- 第6週 青少年の自立とキャリア教育
- 第7週 子どもの貧困と格差問題
- 第8週 少子・高齢化社会と教育
- 第9週 増加する虐待への対応
- 第10週 人権に関わる課題
- 第11週 学校の危機管理（安全・安心）
- 第12週 働き方改革と教員の職務
- 第13週 教育問題の課題解決に向けた取組（課題整理）
- 第14週 教育問題の課題解決に向けた取組（発表）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の学修課題について、あらかじめ文献、資料等で調べ整理しておく。（学修時間：週2時間）

【事後学修】学修した内容を整理し、文書にまとめる。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

課題に応じて、毎回、資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポートや授業内の記述などの提出物50%、平常点（授業に臨む態度等や討論・発表等の状況）50%により総合的に評価する。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。

【参考書】

中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月
（ぎょうせい 130円）

中学校学習指導要領解説 総則編 平成29年7月
（東山書房 251円）

【注意事項】

日頃から教育に関する時事問題等に関する新聞報道やニュース等に関心をもって情報を収集しておくことを心がけること。

具体的な問題解決を図るためにも、実際の学校や教育の現場との関わりや接点をもつようにすることが大切である。

教職研究 b

自己表現力の育成

山田 佳子

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが異なりますが、その世界で認められてもらうには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めてもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝えることができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師像」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導3（保護者への対応）

【事前・事後学修】

【事前学修】教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学修への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

【参考書】

授業内で紹介をする。

【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

教職研究 b

自己表現力の育成

山田 佳子

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが異なりますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝えることができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師像」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導3（保護者への対応）

【事前・事後学修】

【事前学修】教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学修への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

【参考書】

授業内で紹介をする。

【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

教職研究 c

教育法規

清田 夏代

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

わが国の教育行財政組織を、それに関する諸規定を知ることを通じて理解し、公教育制度の全体的な構造に対する理解を深める。また、現行制度の背景にある理念を解明し、実際の学校教育現場におけるその制度運用の実際と課題を明らかにする。加えて、2006年以降の重要な法改正や、今後の教育制度改革の動向について認識を高める。

授業内においては、毎回『教育六法』を用いて演習問題を行った後、その解答や授業テーマに関連する内容について解説を行う。

【授業における到達目標】

- ・日本の教育制度について、その詳細な規定を各法規に基づいて理解すること
- ・法規の改正を伴う最新の教育制度動向について説明できること

【授業の内容】

1. 「教職研究 c—教育法規—」の基本確認と導入
2. 憲法と教育
3. 教育基本法と2006年改正
4. 教育と公共性
5. 法的身分としての「学校」
6. 「就学義務」
7. 教育内容行政
8. 懲戒と出席停止
9. 教職員の法的身分
10. 教育行政の組織
11. 新たな地方教育行政
12. 教職教養としての教育法規
13. 学校安全と学校事故
14. 近年の学校ガバナンス改革の流れ
15. 新しい公立学校の試み

【事前・事後学修】

(事前) 週2時間

- ・授業で行った演習問題を復習すること

(事後) 週2時間

- ・授業内容を復習し、次の授業に備えること
- ・教育六法の使い方を練習すること

【テキスト・教材】

- ・『教育六法2019年版』※授業及びテストに使用する
- ・演習問題・レジュメ・資料は授業内に配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、演習問題への取り組み、発言など、授業への参加度などを含む）50%、最終課題（テスト）50%によって、総合的に行う。

【注意事項】

- ・授業では、演習問題を行いながら『教育六法』の使い方を学ぶため、『教育六法』は必携である。
- ・毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。テストについては、採点し、返却する。

教職研究 c

教育法規

清田 夏代

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

わが国の教育行財政組織を、それに関する諸規定を知ることを通じて理解し、公教育制度の全体的な構造に対する理解を深める。また、現行制度の背景にある理念を解明し、実際の学校教育現場におけるその制度運用の実際と課題を明らかにする。加えて、2006年以降の重要な法改正や、今後の教育制度改革の動向について認識を高める。

授業内においては、毎回『教育六法』を用いて演習問題を行った後、その解答や授業テーマに関連する内容について解説を行う。

【授業における到達目標】

- ・日本の教育制度について、その詳細な規定を各法規に基づいて理解すること
- ・法規の改正を伴う最新の教育制度動向について説明できること

【授業の内容】

1. 「教職研究 c—教育法規—」の基本確認と導入
2. 憲法と教育
3. 教育基本法と2006年改正
4. 教育と公共性
5. 法的身分としての「学校」
6. 「就学義務」
7. 教育内容行政
8. 懲戒と出席停止
9. 教職員の法的身分
10. 教育行政の組織
11. 新たな地方教育行政
12. 教職教養としての教育法規
13. 学校安全と学校事故
14. 近年の学校ガバナンス改革の流れ
15. 新しい公立学校の試み

【事前・事後学修】

(事前) 週2時間

- ・授業で行った演習問題を復習すること

(事後) 週2時間

- ・授業内容を復習し、次の授業に備えること
- ・教育六法の使い方を練習すること

【テキスト・教材】

- ・『教育六法2019年版』※授業及びテストに使用する
- ・演習問題・レジュメ・資料は授業内に配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、演習問題への取り組み、発言など、授業への参加度などを含む）50%、最終課題（テスト）50%によって、総合的に行う。

【注意事項】

- ・授業では、演習問題を行いながら『教育六法』の使い方を学ぶため、『教育六法』は必携である。
- ・毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。テストについては、採点し、返却する。

教職研究 d

発達障害を中心とした特別支援教育の探究

柏崎 秀子

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

教職を強く志望する学生に向けたアドバンスト科目（選択科目）のひとつである。

今日の学校教育現場では、通常学級でも特別な教育的ニーズを有する生徒が多く存在する。それらの生徒そしてニーズに対応するには、発達障害に関する詳しい理解が必要である。

ここでは、発達障害を中心に、特別支援教育の諸課題について理解を深め、よりよい支援ができる基礎力を修得することを目指す。

【授業における到達目標】

- ・発達障害を中心に特別支援教育の概要を修得する。
- ・発達障害への具体的な支援の仕方を修得する。
- ・多様な障害への対応の学修を通して、課題を発見する力や問題解決力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 特別支援教育とは
- 第2週 特別支援学校と各障害
- 第3週 発達障害の概要
- 第4週 自閉症スペクトラムの理解
- 第5週 ADHDの理解
- 第6週 学習障害の理解
- 第7週 支援の検討1 -読みの困難-
- 第8週 支援の検討2 -書きの困難-
- 第9週 支援の検討3 -社会性の困難-
- 第10週 支援の検討4 -ソーシャルスキル-
- 第11週 支援の検討5 -聞く・話すの困難-
- 第12週 支援の検討6 -数認識の困難-
- 第13週 支援の検討7 -学校生活の困難-
- 第14週 合理的配慮の在り方
- 第15週 支援体制と連携

【事前・事後学修】

【事前学修】指定された資料を読み、自分の担当箇所のレジュメ等を作成する。（学修時間：2時間）

【事後学修】授業で活用した資料類を読み直して復習し、自分の考えを持つ。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

『図解 よくわかる発達障害の子どもたち』榎原 洋一（ナツメ社 2013年）1500円＋税、および、プリント資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 60%、平常点（文献発表・学習態度）40%

レポートは後日コメントして返却する。

【参考書】

『発達と障害を考える本 ふしぎだね！？自閉症のおともだち』

のシリーズ1～4巻、内山登紀夫監修、ミネルヴァ書房

『図解 よくわかるADHD』のシリーズ、ナツメ社

『教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編』

月森久江、図書文化

『軽度発達障害の教育』上野一彦・花熊 暁、日本文化科学社

【注意事項】

発達障害の基本的内容は2年次科目「発達・学習理論」と「介護支援基礎論」で扱う。この授業では、基本的内容は学習済みの者がいっそう深く学ぶことを想定している。

講義だけでなく、文献のまとめを担当して発表したり、支援の仕方を具体的に考え合ったりするので、積極的に取り組むように。

教職研究 d

発達障害を中心とした特別支援教育の探究

柏崎 秀子

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

教職を強く志望する学生に向けたアドバンスト科目（選択科目）のひとつである。

今日の学校教育現場では、通常学級でも特別な教育的ニーズを有する生徒が多く存在する。それらの生徒そしてニーズに対応するには、発達障害に関する詳しい理解が必要である。

ここでは、発達障害を中心に、特別支援教育の諸課題について理解を深め、よりよい支援ができる基礎力を修得することを目指す。

【授業における到達目標】

- ・発達障害を中心に特別支援教育の概要を修得する。
- ・発達障害への具体的な支援の仕方を修得する。
- ・多様な障害への対応の学修を通して、課題を発見する力や問題解決力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 特別支援教育とは
- 第2週 特別支援学校と各障害
- 第3週 発達障害の概要
- 第4週 自閉症スペクトラムの理解
- 第5週 ADHDの理解
- 第6週 学習障害の理解
- 第7週 支援の検討1 -読みの困難-
- 第8週 支援の検討2 -書きの困難-
- 第9週 支援の検討3 -社会性の困難-
- 第10週 支援の検討4 -ソーシャルスキル-
- 第11週 支援の検討5 -聞く・話すの困難-
- 第12週 支援の検討6 -数認識の困難-
- 第13週 支援の検討7 -学校生活の困難-
- 第14週 合理的配慮の在り方
- 第15週 支援体制と連携

【事前・事後学修】

【事前学修】指定された資料を読み、自分の担当箇所のレジュメ等を作成する。（学修時間：2時間）

【事後学修】授業で活用した資料類を読み直して復習し、自分の考えを持つ。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

『図解 よくわかる発達障害の子どもたち』榎原 洋一（ナツメ社 2013年）1500円＋税、および、プリント資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 60%、平常点（文献発表・学習態度）40%

レポートは後日コメントして返却する。

【参考書】

『発達と障害を考える本 ふしぎだね！？自閉症のおともだち』のシリーズ1～4巻、内山登紀夫監修、ミネルヴァ書房

『図解 よくわかるADHD』のシリーズ、ナツメ社

『教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編』月森久江、図書文化

『軽度発達障害の教育』上野一彦・花熊 暁、日本文化科学社

【注意事項】

発達障害の基本的内容は2年次科目「発達・学習理論」と「介護支援基礎論」で扱う。この授業では、基本的内容は学習済みの者がいっそう深く学ぶことを想定している。

講義だけでなく、文献のまとめを担当して発表したり、支援の仕方を具体的に考え合ったりするので、積極的に取り組むように。

教職研究 e

自己表現力の育成

山田 佳子

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが異なりますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝える事ができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のありかたを考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導（保護者への対応）

【事前・事後学修】

【事前学修】 教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取組む。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

教職研究 e

自己表現力の育成

山田 佳子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが違いますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝える事ができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のありかたを考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導（保護者への対応）

【事前・事後学修】

【事前学修】 教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

教職実践演習（栄養）

清田 夏代・白尾 美佳

4年 後期 2単位

【授業のテーマ】

・教員免許状を取得する学生が教員に必要な条件について学び、理解してきたかを確認し、学校教育現場で教員として直面しうる様々な問題について対応力を身につける。

・現代の学校教育の課題、児童生徒の特質、また広く一般的な社会問題と教育との関係について理解し、教員としての使命感を一層高めることを目的とする。

・現代の学校教育における食育の重要性と栄養教諭としての役割を理解し、教育現場で必要な知識とスキルを高める。

【授業における到達目標】

本科目においては、授業全体の到達目標として、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度及び物事の真理を探究することによって新たな知を創造しようとする態度などの「美の探究」を教師として涵養すること、さらに、学修を通して自己成長する「研鑽力」、課題解決のための「行動力」や「協働力」、「国際的視野」など、栄養教諭としての資質を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 1 「教職実践演習」の基本確認と導入
- 2 現代社会における教師の役割について
- 3 教職履修の意義
- 4 生徒理解1：問題行動の背景
- 5 生徒理解2：問題行動の実態
- 6 保護者との関わりについて
- 7 情報化社会における教育課題
- 8 食に関する全体指導計画、教科内における指導計画について
- 9 食に関する指導の教材開発
- 10 食に関する指導の模擬授業（実習を取り入れた授業）1
- 11 食に関する指導の相互評価（実習を取り入れた授業）1
- 12 食に関する指導の模擬授業（実習を取り入れた授業）2
- 13 食に関する指導の相互評価（実習を取り入れた授業）2
- 14 学校における食育支援
- 15 地域における食育支援（食農教育支援）

【事前・事後学修】

- 1 配布物を熟読すること
- 2 授業後に内容について復習すること
- 3 複数担当者による授業であるため、具体的な事前事後学修課題については授業内で各担当者によって指示される。

【事前学習】2時間【事後学習】2時間

【テキスト・教材】

授業内に配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度）40%、提出物（課題レポートを含む）60%によって、総合的に行う。

また、授業についての意見や感想、疑問点などについてはリアクション・ペーパーなどに記述し、内容については次回授業あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し、返却する。

【参考書】

小・中学校学習指導要領、小中学校教科書

【注意事項】

- 1 学校ならびに地域における食育支援では、授業時間以外に実施することがあります。
- 2 学外の専門家に話を聞く場合があります。
- 3 4年間の履修カルテを提出してもらいます。

教職実践演習（中・高）

（国文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象）

菅沢 茂

4年 後期 2単位

【授業のテーマ】

本授業は、教職課程の「総まとめの科目」として、個々の学生がこれまでの学修を振り返り、これまで習得してきた能力が学校という実際の教員として必要なレベルにまで到達しているか、教職への適格性を備えているかなどについて、発表、質疑応答、討論、小テストなどにより確認し、補充・深化することを目的とする。

前期に教育実習で持ち帰った教育現場における様々な課題や問題事例について分析し、毎回の授業でテーマを決め、班活動によりその解決策について協議し、PPTによる教材化を行い、全体の場で発表し討論をおこなう。

【授業における到達目標】

- 1 授業を通して、教師になる上で自分に何が不足しているか、課題や問題点を把握できるようになる。
 - 2 自分に不足している課題や問題点を、クラス全体やグループとの協働活動を通して補充・深化することができる。
 - 3 学校現場の様々な課題を知り、具体的な解決策を身に付けることができる。
- 学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と問題解決力、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

1. 事前アンケート 授業の進め方と諸注意 テーマ性を持つグループ編成 次時の課題説明 履修カルテを作成・使用する意義・教員として求められる資質能力
2. 魅力ある教師になるために、どのようにして不断の自己変革をおこなうか
3. 生徒と教師自らの表現力・伝達力をどのようにして磨くか
4. 生徒の安全と人間関係づくりのため、教師の責任をどのように果たすか
5. 言語活動の充実など、最近の教育課題について（東京都教育委員会主任指導主事による講義）
6. 学校組織と校務分掌を振り返り、組織の一員としての自己を見つめる
7. 保護者や地域との連携に努め、開かれた学校づくりに貢献する
8. よりよい生徒理解と学級経営を目指して、何をおこなえばよいか
9. 事例を通して、いじめ・不登校について理解を深める
10. 保護者の信頼を獲得するためには、どのように対応すればよいか
11. 学習指導案づくりと模擬授業を通して、授業力を伸ばす
12. 教科の学習と生徒の体験活動を連携させるにはどうすればよいか
13. 自己実現を目指し社会貢献できる教師になるにはどうすればよいか
14. グループごとにテーマを設定し、課題解決のための教材をPPTで作成する
15. PPTによるグループごとの発表会とまとめ/各自A4判2ページの演習報告を提出する

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 各自の教職課程の「履修カルテ」
- 各自の教育実習記録簿
- 毎回、ワークシートや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートや小テスト80%、平常点（発表と討論）20%。
小テストやレポートは次回の授業でフィードバックする。

【参考書】

これまでの授業で使用した諸テキスト。

【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。

教職の総まとめとして、教師の適格性を判断するため、各回のテーマについて十分な自己分析が必要である。

教職実践演習（中・高）

（英文学科、生活科学部各学科 対象）

清田 夏代

4年 後期 2単位

【授業のテーマ】

教員免許状を取得する学生が教員として必要な条件について学び、理解してきたかを確認し、学校教育現場で教員として直面する様々な問題について対応力を身につけること、また、現代の学校教育の課題、児童生徒の特質、また広く一般的な社会問題と教育との関係について理解し、教員としての使命感を一層高めることを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・教師として必要な資質、役割、授業力、生徒指導力を総合的に身に付けること
- ・学校現場で生じている問題について理解し、問題解決力を身に付けること

【授業の内容】

1. 「教職実践演習」の基本確認と導入
2. 教育現場の現状と教師の責務
3. 教師としての自己分析
4. 教科指導力における自己の課題
5. 教科指導力を高める方法研究
6. 生徒理解1：問題行動の背景
7. 生徒理解2：問題行動の実態
8. 教育実習の振り返り／学校コンプライアンス
9. 保護者との関わりについて1：基本
10. 保護者との関わりについて2：発展
11. 高度情報社会における教育課題
12. 社会の多様化と学校
13. 学校と教育をめぐる近年の動向
14. 多様な教育ニーズと学校
15. 総括

（※外部講師による授業を含む）

【事前・事後学修】

（事前）週1時間程度

- ・配布物を熟読すること

（事後）週3時間程度

- ・授業後に内容について復習すること
- ・授業内容の理解を深めるため、関連する図書を探し、熟読すること

【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。

【参考書】

授業内で指示、紹介する。

【注意事項】

- ・教員免許取得のための仕上げの授業であるため、授業に臨む態度、課題への取り組みが厳しく問われる。
- ・毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

教職実践演習（幼・小）

学び手と共に成長し続けることのできる教師を目指して

南雲 成二・田中 正浩

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

「小学校教諭・幼稚園教諭としての最終準備、実践力の点検と整備・拡充」が授業のテーマである。「教職の意義と価値」「学年・学級経営力の伸長」「保育力と守育力・学習指導支援力の向上」「幼児・児童理解、保護者理解の深化」「組織協働力・チーム力の向上」の5つの柱を大切に授業を進める。講義・グループ協議、模擬授業研究・授業評価改善研究、卒業論文制作を核とした個人研究など、様々なアプローチを組合せながら、主体的・積極的に授業に参加し、教育実践力（＝教師力・担任力）のさらなる拡充を図る。

【授業における到達目標】

教育に従事する専門職人としての「職能成長の基礎」を修得する。
①教諭としての使命感や責任感、教育愛（保育・療育・守育）についての認識と自覚を深めることができるようになる。②自分自身の教育実践課題を明確にすることができるようになる。③子ども理解保護者理解を深めながら、その基礎となる担任としてのコミュニケーション力を高めることができるようになる。年間を見通した学級・学年経営の基本を身につけることができるようになる。
あわせて保育・教育・療育実践現場で特に大切になるチーム力、①互いに協力して物事を進める力、②互いを尊重し信頼を醸成していくの修得を深めることができる。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション。本科目の目的、概要を理解する。
- 第2回 履修カルテや実習ノート、教育学学習記録、採用試験対策資料等、歩みを振り返り、教育実践への展望を持つ。
- 第3回 子どもの心理、能力・発達・学習についての理解を深める三問（時間・空間・人間）から再度教育環境を考える。
- 第4回 学級学年経営の考察①幼稚園の1年間・子どもの1日と教師
- 第5回 学級学年経営の考察②小学校の1年間・子どもの1日と教師
- 第6回 小学校・幼稚園の教育実習体験を基に、子どもの生活指導学習指導の実践課題を整理し、職能成長の課題を掴む。
- 第7回 これからの幼保小連携の課題と実践方法を考察する。教師の仕事を見つめ、専門職として可能性を考え合う。
- 第8回 インクルーシブ教育、特にユニバーサルデザインを活かした教育と教育実践を考える。（特別支援教育や個別支援教育との関連考察も深めながら）
- 第9回 学習づくり学級づくり、人間関係づくり（子どもと教師と保護者&地域）を基にした「学級経営案」作成を行う。
- 第10回 学級経営案作りを通して担任力（学級学年学校）を高める
- 第11回 「学級だより」「あゆみ」「学習指導要録」の模擬制作を通して、教師の学習文化推進力を考察する。
- 第12回 教育実習授業指導案を反省材料に、子どもも教師も共に納得のいく授業・学習づくり「指導案検討」を行う。
- 第13回 最終模擬授業実施と授業研究①（PDSIサイクル教科編）
- 第14回 最終模擬授業実施と授業研究②（PDSIサイクル領域編）
- 第15回 実習校や授業研究参観校のレポートをもちより、学校学習文化～子ども・教師・保護者・地域社会～に関する協議を行い、「教職実践演習」のまとめを行う。最終レポート課題「教育実践への抱負、学習創造への願い」

【事前・事後学修】

【事前学修】授業テーマ毎に小レポートや学修記録をまとめ、授業に参画する。特に「H28.12.21発表 中教審最終答申（第197号）」を丁寧に読み、それを基に教育実践課題レポートを積み上げる。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題レポートや講義資料を見直し復習を徹底し、明日に役立つ「MY教育実践研究ノート」にファイルする。次回の授業範囲を予習し、実践力UPに備える。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各自の「教育実習ノート」、「教科教育関係教材・学習記録」、教

職採用試験対策資料等、その他必要に応じて教員から配布される教材。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加及び発表・交流学习への参加態度の充実）50%、課題レポートや模擬授業への取り組みと「MY教育実践研究ノート」の蓄積等50%、で総合的に評価する。実施した小テストやミニレポート（MY教育実践研究ノートの章・節ごとの後書き等）は次回授業、課題レポートや試験結果等は最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

幼児保育専攻幼小コースとして、1年生から4年生までに活用してきた全てのテキストと講義・学習資料。及び自分自身の愛読書や卒論制作関連文献等。

特に南雲担当科目関連①国語科教育法②教育方法・技術③特別活動の指導法④児童指導法⑤教育実習指導と小学校教育実習資料・幼稚園教育実習資料⑥カリキュラム論a⑦教育学演習（教員採用試験対策関連含）。併せて田中先生担当科目関連、①教育学概論②教育制度論③教育思想史④教職論。

教職入門

(国文学科、英文学科、生活科学部各学科 対象)

小林 茂子

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

教職の社会的意義、教職の歴史、教員に求められる役割や資質、職務の内容と教員研修の意義、教員養成と採用の現状などについて学習する。また、グループで協力して共通の課題に取り組むことで、教職に必要な「協働性」を養う。これらの学習を通して、教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への意欲を高めることを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・教職の意義について学び、教職に関する知識・理解を修得する。
- ・相互に協力をして課題に取り組み、教職に必要な「協働性」の育成をめざす。

【授業の内容】

- 第1回：オリエンテーション「教職入門」で何を学ぶか
 第2回：教職の意義と教員の社会的役割
 第3回：教員の仕事Ⅰ（学習指導）
 第4回：教員の仕事Ⅱ（生徒指導、教育相談）
 第5回：教員の仕事Ⅲ（学級経営、進路相談）
 第6回：今日教員に求められる資質・能力
 第7回：教員養成制度と教員研修
 第8回：教職の専門性と教員の職務上・身分上の義務
 第9回：学校組織とチームとしての学校の役割
 第10回：グループ研究Ⅰ
 （教職に関するテーマの内容について調べる）
 第11回：グループ研究Ⅱ
 （調べた内容についてまとめ、問題点について考える）
 第12回：グループ研究Ⅲ
 （テーマの発表方法を考え、準備する）
 第13回：各グループの発表と検討
 第14回：教職のなかのジェンダー
 第15回：まとめ－教員採用選考とこれからの学び
 （レポート課題の提出）

【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題、作業ワークシートの作成、テーマについての資料収集などに取り組むこと。（学修時間 週2時間）
 事後学修：授業内容の復習、次回の授業範囲の予習をすること。発表内容等の確認をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・中間レポート・グループレポート（40%）、授業中のコメントシート（20%）、最終レポート（40%）を総合して評価する。
- ・グループワークで作成したプログラムを全体で発表し、相互評価をし、またグループ活動に対する自己評価をして振り返る。コメントシートを授業の振り返りに使う。

【参考書】

- ・山崎準二・矢野博之（編著）『新・教職入門』学文社、2014年
- ・秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門〔改訂版〕』有斐閣アルマ、2015年

教職入門

(対象学科は【注意事項】を参照)

羽入田 眞一

1年・2年～ 前期・後期 2単位

【授業のテーマ】

教職の社会的意義、教職の歴史、教員に求められる役割や資質、職務の内容と教員研修の意義、教員養成と採用の現状などについて学習する。また、グループで協力して共通の課題に取り組むことで、教職に必要な「協働性」を養う。これらの学習を通して、教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への意欲を高めることを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・教職の意義について学び、教職に関する知識・理解を修得する。
- ・相互に協力をして課題に取り組み、教職に必要な「協働性」の育成をめざす。
- ・学校現場で、生徒たちに主体的に行動することを指導する立場の学修者は、大学の授業を通して問題解決のために主体的に行動する力をつけることが要求される。

【授業の内容】

- 第1回：オリエンテーション「教職入門」で何を学ぶか
 第2回：教職の意義と教員の社会的役割
 第3回：教員の仕事Ⅰ（学習指導）
 第4回：教員の仕事Ⅱ（生徒指導、教育相談）
 第5回：教員の仕事Ⅲ（学級経営、進路相談）
 第6回：今日教員に求められる資質・能力
 第7回：教員養成制度と教員研修
 第8回：教職の専門性と教員の職務上・身分上の義務
 第9回：学校組織とチームとしての学校の役割
 第10回：グループ研究Ⅰ
 （教職に関するテーマの内容について調べる）
 第11回：グループ研究Ⅱ
 （調べた内容についてまとめ、問題点について考える）
 第12回：グループ研究Ⅲ
 （テーマの発表方法を考え、準備する）
 第13回：各グループの発表と検討
 第14回：教職のなかのジェンダー
 第15回：まとめ－教員採用選考とこれからの学び
 （レポート課題の提出）

【事前・事後学修】

事前学修では、授業内に紹介する書籍や資料等を読み、次週の授業範囲を予習してください。事後学修では授業中に配布するプリントや資料等を復習してください。適宜、課題（コメントシートに記載）を出します。事前と事後を合わせて週4時間の学修です。

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間レポート・グループレポート（40%）、授業中のコメントシート（20%）、最終レポート（40%）を総合して評価します。レポートやコメントシートの内容については、次回の授業において共有化を図るなどフィードバックを行います。

【参考書】

- ・山崎準二・矢野博之（編著）『新・教職入門』学文社、2014年
- ・秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門〔改訂版〕』有斐閣アルマ、2015年

【注意事項】

(美学美術史学科、生活科学部各学科、人間社会学部各学科 対象)

教職入門

教師の仕事とは何か

永井 聖二

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

教職の社会的意義、教職の歴史、教員に求められる役割や資質、職務の内容と教員研修の意義、教員養成と採用の現状などについて学習する。また、グループで協力して共通の課題に取り組むことで、教職に必要な「協働性」を養う。これらの学習を通して、教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への意欲を高めることを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・教職の意義について学び、教職に関する知識・理解を修得する。
- ・相互に協力をして課題に取り組み、教職に必要な「協働性」の育成をめざす。

【授業の内容】

- 第1回：オリエンテーションー「教職入門」で何を学ぶか
- 第2回：教職の意義と教員の社会的役割
- 第3回：教員の仕事Ⅰ（学習指導）
- 第4回：教員の仕事Ⅱ（生徒指導、教育相談）
- 第5回：教員の仕事Ⅲ（学級経営、進路相談）
- 第6回：今日教員に求められる資質・能力
- 第7回：教員養成制度と教員研修
- 第8回：教職の専門性と教員の職務上・身分上の義務
- 第9回：学校組織とチームとしての学校の役割
- 第10回：グループ研究Ⅰ
（教職に関するテーマの内容について調べる）
- 第11回：グループ研究Ⅱ
（調べた内容についてまとめ、問題点について考える）
- 第12回：グループ研究Ⅲ
（テーマの発表方法を考え、準備する）
- 第13回：各グループの発表と検討
- 第14回：教職のなかのジェンダー
- 第15回：まとめー教員採用選考とこれからの学び
（レポート課題の提出）

【事前・事後学修】

- 事前学修：配布した資料を読むこと。（学修時間週2時間）
- 事後学修：授業内容について復習すること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間レポート・グループレポート（40%）、授業中のコメントシート（20%）、最終レポート（40%）を総合して評価する。コメントシート、レポートは、添削または疑問に答える形で返却する。

【参考書】

- ・山崎準二・矢野博之（編著）『新・教職入門』学文社、2014年
- ・秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門〔改訂版〕』有斐閣アルマ、2015年
- ・永井聖二・古賀正義『教師という仕事<ワーク>』学文社、2000年

教職論

田中 正浩

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

本授業では、教員の仕事と役割、教職の歴史・意義、教員に係る各種規則について、さらに、教職の専門性、教職の社会的性質、今日の教育課題と教師などについて学習し、理解する。

【授業における到達目標】

本授業では、教師の役割、責務、使命、専門性などについて、将来教壇に立つ自身の姿を描きながら、これまでに学修したことや事例を基に考察し、自分の言葉で説明できるようになることをめざす。

【授業の内容】

- 第1回 教員の仕事と役割
- 第2回 公教育における教員の存在意義
- 第3回 教職の歴史
- 第4回 教職の意義
- 第5回 教職観と理想の教師像
- 第6回 教員養成の歴史
- 第7回 教員の任用と服務
- 第8回 教員に係る規則
- 第9回 教職の専門性
- 第10回 教師の資質能力向上と評価
- 第11回 教師の資質能力向上と研修体制
- 第12回 今日の教育課題と教師
- 第13回 教職の社会的性質
- 第14回 チーム学校運営－学校内外の専門家との連携－
- 第15回 チーム学校としての諸課題の対応

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、レポート、発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

文部科学省：幼稚園教育要領解説[フレーベル館、2018、¥240(税抜)]

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説[フレーベル館、2018、¥350(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(30%)、試験(60%) ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込みは不可)、平常点〔授業への取り組み・提出課題〕(10%)により総合的に評価する。小テストについては次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて、適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的には発言し、参加してほしい。

近現代のジャーナリズム

—近現代のジャーナリズム—

松岡 資明

1・2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

魚住昭著「官僚とメディア」（角川書店）
 逢坂巖著「日本政治とメディア」（中央公論新社）
 瀬畑源著「公文書をつかう」（青弓社）
 川上量生著「鈴木さんにも分かるネットの未来」（岩波書店）
 松岡資明著「公文書問題と日本の病理」（平凡社）
 津田大介著「情報戦争を生き抜く」（朝日新聞出版）

【注意事項】

新聞も教材にする。今起きているニュースなどを取り上げ、その意味合いなどについても講義するため、できるだけ毎日、新聞を読んで授業に出席する。

授業開始時間に遅れないこと。

【授業のテーマ】

ジャーナリズムには、民主主義の根幹を支える役割がある。支配する側と支配される側を分けるのは、情報の量と質である。圧倒的に多くの情報を持つ権力に対して、国民は非力であり得られる情報の量も限られている。その溝を埋めるのがジャーナリズムではないだろうか。特に、20世紀後半以降、世の中に流通する情報量が飛躍的に増えている。パソコン、スマートフォンなど多様な情報機器の登場によって一見、国民の側も多く情報が得られているかのように思えるが、彼我の情報格差はむしろ拡大しているのではなかろうか。自分たちが生きる世の中がどうなっているかを知るために、さまざまな出来事取材し伝えるジャーナリズムの意義、実態、さらにアーカイブズ（記録資料）をはじめ関連する分野について実際の取材経験をもとにした講義を行い、その将来像についてともに考えていきたい。

【授業における到達目標】

政治・経済などの分野を含めてニュースに注意を払い、遠く世界の片隅で起きている問題でも「自分とは関係ない」と思うことがないような人間をめざす。最近では新聞、テレビよりむしろインターネットで知る事実も多いが、ニュースをそのまま鵜呑みにするのではなく、多面的かつ批判的な視点でニュースに接することができるようにしたい。とりわけ近年は、フェイクニュース（偽ニュース）が社会に大きな影響を与えているだけに、そうした心構えが重要である。その結果として、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力をつけるためのステップとなることを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 マスコミ論
- 第2週 ニュースとは何か
- 第3週 新聞記事ができるまで
- 第4週 取材の現場
- 第5週 調査報道
- 第6週 新聞記事の読み方
- 第7週 ニュースを評価してみる
- 第8週 報道被害
- 第9週 ジャーナリズムの倫理
- 第10週 戦争とジャーナリズム
- 第11週 ソーシャルメディアとオールドメディア
- 第12週 アーカイブズとジャーナリズム1（概論）
- 第13週 アーカイブズとジャーナリズム2（事例）
- 第14週 ニュースを評価してみる
- 第15週 情報の保全と公開

【事前・事後学修】

毎回配布する資料を読み込み、復習すると同時に、次回の授業課題を提示するのでそれに関する予習を行うこと。事前・事後学修は1週間に4時間。新聞、テレビ、ネットなどを通じて世の中で今何が起きているかを知り、その意味を考えることも学修の範囲である。時機に応じて小論文などを課す。

【テキスト・教材】

毎回、プリント、新聞記事のコピーなどを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートあるいは試験50%

平常点（毎回義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシート、授業態度）50%。翌週の授業時にフィードバックを反映。

【参考書】

佐藤卓己著「メディア社会」（岩波書店）
 原寿雄著「ジャーナリズムの思想」（岩波書店）
 梓澤和幸著「報道被害」（岩波書店）
 菅谷明子著「メディア・リテラシー」（岩波書店）

近現代の文学を読む

—ジャンルの観点から—

福井 拓也

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

お気に入りの小説が映画化されたとき、同じ内容であるのに小説ほどは楽しめなかった。あるいはお気に入りの映画の原作小説を読んでみたところ期待外れだった。——そうした体験をされたことはありませんか？ そこにはジャンルの問題が顔を覗かせています。

本授業では、異なるジャンルの交流や対立が際立つ文学作品をピックアップして、近代文学史をたどっていきます。ある作品がどのようにして作られたか、またどのようにして読まれたか、ジャンルに注意することで考察していきましょう。

【授業における到達目標】

文学作品に触れる際、ただ内容を読み解くだけでなく、形式的な側面に注目して味読する力を身につけることができるようになります（美の探究）。それは文学のみならず、今後、ひろく社会的事象を読み解いていく支えとなるものです（研鑽力）。

また海外の作品との比較を交えつつ、日本文学の展開をたどることで、日本の文学や文化を世界に発信する力を修得することができます（国際的視野）。

【授業の内容】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 二葉亭四迷「浮雲」と落語
- 第3回 泉鏡花「化鳥」と絵本
- 第4回 泉鏡花「注文帳」と怪談
- 第5回 泉鏡花「注文帳」と舞台
- 第6回 正岡子規の写生と絵画
- 第7回 夏目漱石「吾輩は猫である」と写生文
- 第8回 志賀直哉「クローディアスの日記」と「ハムレット」
- 第9回 芥川龍之介「藪の中」と推理小説
- 第10回 久保田万太郎句集『道芝』と心境小説
- 第11回 日野草城の俳句と小説
- 第12回 堀辰雄「姨捨」と「更級日記」
- 第13回 立原道造の詩と「新古今和歌集」
- 第14回 久保田万太郎「三の酉」と歌物語
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）事前に配布された文学作品・資料をよく読み、授業に備える。（週2時間）

（事後学修）授業の内容をよく整理し、また参考文献を読み、次回以降に役立てる。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 60%

平常点 40%（授業中の課題・グループワークへの取り組み）

・フィードバックはリアクションペーパーへのコメントをもって行います。

【参考書】

授業のなかで適宜紹介します。

近現代文学基礎演習 1

夏目漱石「三四郎」を読む

土屋 聡

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

夏目漱石は明治四〇年に文筆家としての道を本格的に歩み始めます。その翌年の九月から一二月にかけて、漱石は東京帝国大学に進学するために九州から上京する学生の姿を小説に描きます。この演習ではその小川三四郎を軸として描かれた小説「三四郎」が朝日新聞紙上に連載された折の区切りに従って読み進めます。

近代という様々な制度が急速に形作られた明治に生きる青年が遭遇した東京と人々を巡って構成されてゆくこの作品を丁寧に追うことで、小説作品の構造を読み解く基本的な力を養うことを目指します。基礎演習を通して作品を様々な角度から精読し、それを踏まえた考えをまとめ、論じる力を身につけることはまた、やがては卒業論文につながる研究の基礎的な力ともなります。本基礎演習は1と2を通じて一つの作品を扱いますので、連続しての履修となります。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、これはまた、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき能力のうち、作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・作品の内容を把握し、構造的に分析することができる。
- ・作品の書かれた時代背景を理解することができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、レジュメや質疑に的確に表現することができる。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 第一章を読む(1)

この(1)～(3)までは、「三四郎」の第一章にあたる部分を参考書にある日本近代文学大系26『夏目漱石集 3』を用いて土屋が読解します。

第3週 第一章を読む(2)

第4週 第一章を読む(3)

第5週 担当者による発表(1)

第6週 担当者による発表(2)

第7週 担当者による発表(3)

第8週 担当者による発表(4)

第9週 担当者による発表(5)

第10週 担当者による発表(6)

第11週 担当者による発表(7)

第12週 担当者による発表(8)

第13週 担当者による発表(9)

第14週 担当者による発表(10)

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修(学修時間 週二時間)

演習範囲を再読し、自分なりの疑問点を考えます。発表者はわかりにくい語句や表現の意味を列記し、読解上のポイントがある、と思われる箇所の考察をおこなったレジュメの準備をしてください。

事後学修(学修時間 週二時間)

配布されたレジュメを用いつつ、作品を再読しておきましょう。また、自らの分担箇所との関連を考えてみましょう。

【テキスト・教材】

- ・テキストは指定しませんが、各自夏目漱石『三四郎』を文庫などで入手し通読してください。
- ・教材として、岩波書店版『漱石全集』第五巻(一九九四年第一刷/二〇〇二年第二刷/二〇一七年定本)を用います。担当する範囲

が決まったら、発表者は早めに図書館にて担当箇所をコピーし、レジュメを作成してください。その際、本文の「注解」に目を通すことも忘れないようにしましょう。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表 60%

平常点(質疑等やペーパー) 40%

発表と質疑の内容についてはその授業中に、ペーパーの内容には必要に従って次週にフィードバックを行います。

【参考書】

日本近代文学大系 26『夏目漱石集 3』(一九七二(昭和四七)年 角川書店)

その他については授業中に適宜指示します。

【注意事項】

演習科目は演習の発表担当者と参加者として意見を交換し、それぞれの読解による解釈の違いや視点を広げることに重要な意味があります。発表者の考えを総合的に読み取り、質問の際は的確に自らの意見を述べることでその力は養われます。ともに欠席をせず、積極的な取り組みを行うことを通じて実りの多い学びの場にしましょう。

また、不必要な私語は厳禁とします。

近現代文学基礎演習 1

近代作家の手紙を読む

河野 龍也

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

大正期浪漫主義の巨匠・佐藤春夫を中心とする近代日本の文壇人の交流について、実践女子大学が所蔵・保管する多数の書簡を読み解きながら考察します。

紀州新宮に生れた佐藤春夫は、10代の頃から『スバル』『三田文学』の少年歌人・詩人として活躍し始めます。数年間の雌伏のうち、大正7（1918）年に小説家として再デビュー。面倒見のよさで知られた春夫のもとには多数の文学青年が出入りし、それぞれに成長しました。

佐藤春夫をめぐる書簡群は、日本の近代文壇の縮図といえるような多様さを持っています。いまだ広く知られてはいない貴重な現物資料のコピーを読み解きながら、文壇で育まれた師弟の信頼、友情、そして恋について新しい発見をして行きましょう。

【授業における到達目標】

- ・実際の書簡資料に触れることで、芸術をめぐる作家たちの対話の息吹を感じることができる（美の探究）。
- ・書簡解読のための実際的な知識と技術を身につけることができる。また、書簡体に親しみ、自分がメールや手紙を書く際にも正しい言葉の運用ができるようになる（行動力）。
- ・他の学生と意見交換しながら、正確な解読と解釈ができるようになる（協働力）。

【授業の内容】

- | | | |
|------|-------|--------|
| 第1週 | ガイダンス | 佐藤春夫概説 |
| 第2週 | 書簡の読解 | 師弟の交流① |
| 第3週 | 書簡の読解 | 師弟の交流② |
| 第4週 | 書簡の読解 | 師弟の交流③ |
| 第5週 | 書簡の読解 | 師弟の交流④ |
| 第6週 | 書簡の読解 | 師弟の交流⑤ |
| 第7週 | 書簡の読解 | 作家として① |
| 第8週 | 書簡の読解 | 作家として② |
| 第9週 | 書簡の読解 | 作家として③ |
| 第10週 | 書簡の読解 | 作家として④ |
| 第11週 | 書簡の読解 | 親友交歓① |
| 第12週 | 書簡の読解 | 親友交歓② |
| 第13週 | 書簡の読解 | 親友交歓③ |
| 第14週 | 書簡の読解 | 親友交歓④ |
| 第15週 | 書簡の読解 | 親友交歓⑤ |

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：人物関係・歴史背景の調査。

事後学修（週2時間）：書簡の解読法（くずし字）の再確認。

【テキスト・教材】

プリントを配布し、作業後に回収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

作業への取り組み方50%、受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：回収した作業シートから、誤りやすい部分について補足説明します。

【参考書】

『定本佐藤春夫全集』（1998～2001臨川書店）。河野龍也編『佐藤春夫読本』（2015勉誠出版）。

【注意事項】

年代順に毎回異なる書簡を読み、様々な筆者の筆跡に親しみます。作業実習の形式のため、進度により内容に変更が生じる場合があります。引き続き後期（近代文学基礎演習2）を受講する場合でも、もちろん内容は繰り返してではなく、新しい素材に挑戦していきます。

近現代文学基礎演習 1

見ること、語ること

奴田原 論

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

江戸川乱歩は言わずと知れた探偵小説界の巨星です。現在に於けるミステリー小説の隆盛も、乱歩の存在を抜きに語ることは出来ないでしょう。この探偵小説、或いは推理小説・ミステリー小説は社会派などということばを冠す場合もありますが、エンターテインメントに分類されます。乱歩もその文脈で捉えられ、そしてその作品は、エンターテインメントということばに恥じぬ、読んで面白いものです。しかし、実はその面白さを十二分に味わう為には、文学作品と対峙する際の基本事項を押さえておく必要があります。逆に言えば、探偵小説を紐解くことで、その基本を身につけることが出来るのです。その目論見を持ちつつ、乱歩の短篇を精読して行きま

【授業における到達目標】

確かな考察を元に、しっかりと構成された発表を行うこと。同時に、自分の考え・論理が適切に反映された発表資料を作成出来ること。その前提となる、「真理の探究による新たな知の創造」を求め、「広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く」能力を身に付ける。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス—授業の進め方
- 2 本格探偵小説・変格探偵小説
- 3 「二銭銅貨」
- 4 「二癡人」
- 5 「D坂の殺人事件」
- 6 「心理試験」
- 7 「赤い部屋」
- 8 「屋根裏の散歩者」
- 9 「人間椅子」
- 10 「鏡地獄」
- 11 「芋虫」
- 12 「押し絵と旅する男」
- 13 「双生児」
- 14 「一枚の切符」
- 15 まとめ—江戸川乱歩とは何か

【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品を精読した上で、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。（学修時間 週二時間）

【事後学修】発表者や他の出席者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察すること。（学修時間 週二時間）

【テキスト・教材】

一回目の授業にて指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、質問・意見といった授業への参加態度50%で評価します。発表そのもの、また発表者に対する質問・意見に対して、担当者がその場でコメントする形でフィードバックします。

【参考書】

一回目の授業にて指示します。

【注意事項】

積極的な質問・意見は、自らの発表担当時に大きく役立ちます。演習に於いては質問・意見の無いときは欠席と同様、といった程度に考えておいて欲しいものです。

近現代文学基礎演習 2

夏目漱石「三四郎」を読む

土屋 聡

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

近現代文学基礎演習 1 に引き続き、この授業では夏目漱石の「三四郎」を読解し、作品の世界を考察してゆきます。また、最終章の一三は作品全体のまとめにつながるため、土屋が担当する予定です。作品の担当箇所は近現代文学基礎演習 1 の段階で決定されますので、近現代文学基礎演習 2 からの履修ではなく、近現代文学基礎演習 1 から継続しての履修となります。

また、1 と同じく授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など記述の内容は限定しませんが、限られた時間で文章を書くことを繰り返すことで、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき能力のうち、作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・作品の内容を把握し、構造的に分析することができる。
- ・作品の書かれた時代背景を理解することができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、レジュメや質疑に的確に表現することができる。

【授業の内容】

- 第1週 担当者による発表（1）
- 第2週 担当者による発表（2）
- 第3週 担当者による発表（3）
- 第4週 担当者による発表（4）
- 第5週 担当者による発表（5）
- 第6週 担当者による発表（6）
- 第7週 担当者による発表（7）
- 第8週 担当者による発表（8）
- 第9週 担当者による発表（9）
- 第10週 担当者による発表（10）
- 第11週 担当者による発表（11）
- 第12週 担当者による発表（12）
- 第13週 担当者による発表（13）
- 第14週 一三章を読む
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週二時間）

演習範囲を再読し、自分なりの疑問点を考えます。発表者はわかりにくい語句や表現の意味を列記し、読解上のポイントがある、と思われる箇所の考察をおこなったレジュメの準備をしてください。

事後学修（学修時間 週二時間）

配布されたレジュメを用いつつ、作品を再読しておきましょう。また、自らの分担箇所との関連を考えてみましょう。

【テキスト・教材】

- ・テキストは指定しませんが、各自夏目漱石『三四郎』を文庫などで入手し通読してください。
- ・教材として、岩波書店版『漱石全集』第五巻（一九九四年第一刷／二〇〇二年第二刷／二〇一七年定本）を用います。担当する範囲が決まったら、発表者は早めに図書館にて担当箇所をコピーし、レジュメを作成してください。その際、本文の「注解」に目を通すことも忘れないようにしましょう。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表 60%

平常点（質疑等やペーパー） 40%

発表と質疑の内容についてはその授業中に、ペーパーの内容には必要に従って次週にフィードバックを行います。

【参考書】

日本近代文学大系 26『夏目漱石集 3』（一九七二（昭和四七）年 角川書店）

その他については授業中に適宜指示します。

【注意事項】

演習科目は演習の発表担当者と参加者として意見を交換し、それぞれの読解による解釈の違いや視点を広げることに重要な意味があります。発表者の考えを総合的に読み取り、質問の際は的確に自らの意見を述べることでその力は養われます。ともに欠席をせず、積極的な取り組みを行うことを通じて実りの多い学びの場にしましょう。

また、 unnecessary 私語は厳禁とします。

近現代文学基礎演習 2

近代作家の手紙を読む

河野 龍也

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

大正期浪漫主義の巨匠・佐藤春夫を中心とする近代日本の文壇人の交流について、実践女子大学が所蔵・保管する多数の書簡を読み解きながら考察します。

紀州新宮に生れた佐藤春夫は、10代の頃から『スバル』『三田文学』の少年歌人・詩人として活躍し始めます。数年間の雌伏のうち、大正7（1918）年に小説家として再デビュー。面倒見のよさで知られた春夫のもとには多数の文学青年が出入りし、それぞれに成長しました。

佐藤春夫をめぐる書簡群は、日本の近代文壇の縮図といえるような多様さを持っています。いまだ広く知られてはいない貴重な現物資料のコピーを読み解きながら、文壇で育まれた師弟の信頼、友情、そして恋について新しい発見をして行きましょう。

【授業における到達目標】

- ・実際の書簡資料に触れることで、芸術をめぐる作家たちの対話の息吹を感じることができる（美の探究）。
- ・書簡解読のための実際的な知識と技術を身につけることができる。また、書簡体に親しみ、自分がメールや手紙を書く際にも正しい言葉の運用ができるようになる（行動力）。
- ・他の学生と意見交換しながら、正確な解読と解釈ができるようになる（協働力）。

【授業の内容】

第1週	ガイダンス	佐藤春夫概説
第2週	書簡の読解	家族との手紙①
第3週	書簡の読解	家族との手紙②
第4週	書簡の読解	家族との手紙③
第5週	書簡の読解	家族との手紙④
第6週	書簡の読解	家族との手紙⑤
第7週	書簡の読解	旅先からの手紙①
第8週	書簡の読解	旅先からの手紙②
第9週	書簡の読解	旅先からの手紙③
第10週	書簡の読解	旅先からの手紙④
第11週	書簡の読解	依頼の手紙①
第12週	書簡の読解	依頼の手紙②
第13週	書簡の読解	依頼の手紙③
第14週	書簡の読解	依頼の手紙④
第15週	書簡の読解	依頼の手紙⑤

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：人物関係・歴史背景の調査。

事後学修（週2時間）：書簡の解読法（くずし字）の再確認。

【テキスト・教材】

プリントを配布し、作業後に回収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

作業への取り組み方50%、受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：回収した作業シートから、誤りやすい部分について補足説明します。

【参考書】

『定本佐藤春夫全集』（1998～2001臨川書店）。河野龍也編『佐藤春夫読本』（2015勉誠出版）。

【注意事項】

年代順に毎回異なる書簡を読み、様々な筆者の筆跡に親しみます。作業実習の形式のため、進度により内容に変更が生じる場合があります。前期と異なる書簡を扱いますので、前期から引き続いての受講生にも、後期からの受講生にも対応しています。

近現代文学基礎演習 2

書くこと、語ること

奴田原 論

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

遠藤周作はキリスト教作家、カトリック作家と言われます。もちろんそれは遠藤自身が受洗し、キリスト教の信仰を持っていたからでもあります。遠藤周作の場合その実生活と作品との間には切っても切れない関係があると言えるでしょう。彼の作品そのものの中でキリスト教と文学、信仰と文学の問題が問われています。故に、遠藤作品に於いてキリスト教理解は必須のものとも言えますが、もちろん作品はそれだけで理解出来るものでもありません。書くということ、語るということとは何か、少し大きすぎるテーマではありますが、「海と毒薬」を通して、この、文学に於ける根本問題に迫り、文学することの意味を考え、文学することの方法を身に付けてもらいます。

【授業における到達目標】

確かな考察を元に、しっかりと構成された発表を行うこと。同時に、自分の考え・論理が適切に反映された発表資料を作成出来ること。その前提となる、「真理の探究による新たな知の創造」を求め、「広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く」能力を身に付ける。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス—信仰と文学
- 2 九大生体解剖事件
- 3 上総英郎「方法的実験—『青い小さな葡萄』より『海と毒薬』」を読む
- 4 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 〇」
- 5 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅰ」
- 6 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅱ」
- 7 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅲ」
- 8 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅳ」
- 9 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅴ」
- 10 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅰ看護婦」
- 11 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅱ医学生」
- 12 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅲ午後三時」
- 13 「海と毒薬」—「第三章 夜のあけるまで Ⅰ」
- 14 「海と毒薬」—「第三章 夜のあけるまで Ⅱ」
- 15 まとめ—罪・罰、そして悪

【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品を精読した上で、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。（学修時間 週二時間）

【事後学修】発表者や他の出席者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察すること。（学修時間 週二時間）

【テキスト・教材】

一回目の授業にて指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、質問・意見といった授業への参加態度50%で評価します。発表そのもの、また発表者に対する質問・意見に対して、担当者がその場でコメントする形でフィードバックします。

【参考書】

上総英郎『遠藤周作論』（春秋社）・東野利夫『汚名「九大生体解剖事件」の真相』（文春文庫）・熊野以素『九州大学生体解剖事件—70年目の真実』（岩波書店）

【注意事項】

積極的な質問・意見は、自らの発表担当時に大きく役立ちます。演習に於いては質問・意見の無いときは欠席と同様、といった程度に考えておいて欲しいものです。

近現代文学史 a

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喩の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えていきます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んでいきます。二週で一作品を扱いながら、「文学理論の基礎概念」を習得した上で、「歴史のコンテクスト」の学習へと分け入り、従来の文学史の問題点もあわせて視野に入れていきます。文学史を学びつつ、小説分析の基礎も学んでしまおうというのがこの授業の目標です。

【授業における到達目標】

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 近代文学研究史概観
 第2週 芥川龍之介「羅生門」（語りとは？）
 第3週 志賀直哉「小僧の神様」①（作者とは？）
 第4週 志賀直哉「小僧の神様」②（読解）
 第5週 国木田独歩「鎌倉夫人」①（視点とは？）
 第6週 国木田独歩「鎌倉夫人」②（読解）
 第7週 横光利一「蠅」①（描写と説明）
 第8週 横光利一「蠅」②（読解）
 第9週 太宰治「千代女」①（「女」が語る）
 第10週 太宰治「千代女」②（読解）
 第11週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」①（騙る語り手）
 第12週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」②（読解）
 第13週 森鷗外「舞姫」①（同時代評の調査）
 第14週 森鷗外「舞姫」②（読解）
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）：課題作品の読解。
 事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

【テキスト・教材】

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編：大学生のための文学トレーニング 近代編[三省堂、2012、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

【参考書】

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

【注意事項】

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。前期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の事情なく別の用紙での提出は認めません。

近現代文学史 a

文学と〈書く〉女性の歴史

井原 あや

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では近現代の文学史を学びますが、なかでも女性作家に注目して授業を展開していきます。

これまでも皆さんは〈文学史〉というものに触れたことがあると思います。そうした文学の歴史をあらためて眺めた際に、女性作家を何人挙げるができるのでしょうか。おそらく、それほど多くの女性作家の名前を挙げるのが出来ないのではないかと思います。授業ではそうした女性作家に光を当て、小説を実際に分析・読解しつつ、彼女たちが文壇にどのように向き合おうとしたのか、また時代や社会（規範）にいかに対峙したのか、ジェンダーの視点を通して考えていきます。

【授業における到達目標】

- ・〈文学史〉を自ら捉えなおすことで、既存の物事の成り立ちや本質を見抜くことができるようになる。
- ・ジェンダーの視点を身につけることで、文学作品を批評的に分析できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
 第2週 〈文学史〉とは何か
 第3週 〈文学史〉を振り返る
 第4週 永代（岡田）美知代—作家紹介
 第5週 永代（岡田）美知代「ある女の手紙」（先行研究）
 第6週 永代（岡田）美知代「ある女の手紙」（読解）
 第7週 永代（岡田）美知代「里子」との比較
 第8週 田村俊子—作家紹介
 第9週 田村俊子「蛇」（先行研究）
 第10週 田村俊子「蛇」（読解）
 第11週 林芙美子—作家紹介
 第12週 林芙美子「放浪記」（同時代評・先行研究）
 第13週 林芙美子「放浪記」（読解）
 第14週 林芙美子「放浪記」と流通する〈芙美子〉
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句、および時代背景を調べておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

キャロリン・ハイルブラン著、大社淑子訳『女の書く自伝』（みすず書房、1992年）

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』ひつじ書房、2014年）

飯田祐子『彼女たちの文学 語りにくさと読まれること』（名古屋大学出版会、2016年）

上記以外にも、授業中に紹介します。

近現代文学史 a

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喩の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えていきます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んでいきます。二週で一作品を扱いながら、「文学理論の基礎概念」を習得した上で、「歴史のコンテクスト」の学習へと分け入り、従来の文学史の問題点もあわせて視野に入れていきます。文学史を学びつつ、小説分析の基礎も学んでしまおうというのがこの授業の目標です。

【授業における到達目標】

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 芥川龍之介「羅生門」（語りとは？）
- 第3週 志賀直哉「小僧の神様」①（作者とは？）
- 第4週 志賀直哉「小僧の神様」②（読解）
- 第5週 国木田独歩「鎌倉夫人」①（視点とは？）
- 第6週 国木田独歩「鎌倉夫人」②（読解）
- 第7週 横光利一「蠅」①（描写と説明）
- 第8週 横光利一「蠅」②（読解）
- 第9週 太宰治「千代女」①（「女」が語る）
- 第10週 太宰治「千代女」②（読解）
- 第11週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」①（騙る語り手）
- 第12週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」②（読解）
- 第13週 森鷗外「舞姫」①（同時代評の調査）
- 第14週 森鷗外「舞姫」②（読解）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題作品の読解。

事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

【テキスト・教材】

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良：大学生のための文学トレーニング 近代編[三省堂、2012、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

【参考書】

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

【注意事項】

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。前期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の事情なく別の用紙での提出は認めません。

近現代文学史 a

文学と〈書く〉女性の歴史

井原 あや

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では近現代の文学史を学びますが、なかでも女性作家に注目して授業を展開していきます。

これまでも皆さんは〈文学史〉というものに触れたことがあると思います。そうした文学の歴史をあらためて眺めた際に、女性作家を何人挙げるができるのでしょうか。おそらく、それほど多くの女性作家の名前を挙げるのが出来ないのではないかと思います。授業ではそうした女性作家に光を当て、小説を実際に分析・読解しつつ、彼女たちが文壇にどのように向き合おうとしたのか、また時代や社会（規範）にいかに対峙したのか、ジェンダーの視点を通して考えていきます。

【授業における到達目標】

- ・〈文学史〉を自ら捉えなおすことで、既存の物事の成り立ちや本質を見抜くことができるようになる。
- ・ジェンダーの視点を身につけることで、文学作品を批評的に分析できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 〈文学史〉とは何か
- 第3週 〈文学史〉を振り返る
- 第4週 永代（岡田）美知代—作家紹介
- 第5週 永代（岡田）美知代「ある女の手紙」（先行研究）
- 第6週 永代（岡田）美知代「ある女の手紙」（読解）
- 第7週 永代（岡田）美知代「里子」との比較
- 第8週 田村俊子—作家紹介
- 第9週 田村俊子「蛇」（先行研究）
- 第10週 田村俊子「蛇」（読解）
- 第11週 林芙美子—作家紹介
- 第12週 林芙美子「放浪記」（同時代評・先行研究）
- 第13週 林芙美子「放浪記」（読解）
- 第14週 林芙美子「放浪記」と流通する〈芙美子〉
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句、および時代背景を調べておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

キャロリン・ハイルブラン著、大社淑子訳『女の書く自伝』（みすず書房、1992年）

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』ひつじ書房、2014年）

飯田祐子『彼女たちの文学 語りにくさと読まれること』（名古屋大学出版会、2016年）

上記以外にも、授業中に紹介します。

近現代文学史 b

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喩の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。原則二週で一作品を扱いながら、「歴史のコンテキスト」の学習を経た上で、「活字の外へ」と研究対象を広げて行く予定です。単に作家名と作品名を暗記するだけの文学史ではなく、筆記用具や用紙、活字や出版形態まで含めた幅広い「本の歴史」を楽しみましょう。

【授業における到達目標】

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 田山花袋「少女病」①（都市論の基礎）
- 第3週 田山花袋「少女病」②（読解）
- 第4週 林芙美子「放浪記」①（記憶と記述）
- 第5週 林芙美子「放浪記」②（読解）
- 第6週 坂口安吾「真珠」①（同時代言説の調査）
- 第7週 坂口安吾「真珠」②（読解）
- 第8週 石川淳「焼跡のイエス」①（〈いま〉を語ること）
- 第9週 石川淳「焼跡のイエス」②（読解）
- 第10週 夏目漱石「坊っちゃん」（近代の書誌学）
- 第11週 樋口一葉「たけくらべ」①（自筆原稿を読む）
- 第12週 樋口一葉「たけくらべ」②（自筆原稿を読む）
- 第13週 芥川龍之介「舞踏会」（典拠研究）
- 第14週 井伏鱒二「山椒魚」（異本の研究）
- 第15週 谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（挿絵とテキスト）

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題作品の読解。

事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

【テキスト・教材】

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編：大学生のための文学トレーニング 近代編[三省堂、2012、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

【参考書】

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

【注意事項】

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。後期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の理由なく別の用紙での提出は認めません。

近現代文学史 b

文学と敗戦の風景

井原 あや

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では近現代の文学史を学びますが、なかでも〈戦後〉という時間に注目してみたいと思います。

作家は、〈戦後〉にいかに向き合おうとしたのか、あるいは〈戦後〉をどのように描こうとしたのでしょうか。当時の社会や時代背景、言説を学んだ上で、具体的にいくつかの小説を分析読解しつつ、戦争の傷跡を描いた文学作品の歴史に目を凝らしてみましよう。

【授業における到達目標】

- ・文学作品を読解することで感受性を深め、新たな知を創造できるようになる。
- ・文学作品が生まれた社会背景、時代を理解し、そこに生じた課題を発見を見つめることができる。
- ・互いに意見を出し合い、文学作品を批評的に分析できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 〈文学史〉とは何か
- 第3週 1945年～1950年という時間と文学の関係
- 第4週 闇市と〈浮浪児〉
- 第5週 石川淳「焼跡のイエス」（作家紹介・先行研究）
- 第6週 石川淳「焼跡のイエス」〈闇市〉を描く
- 第7週 太宰治「美男子と煙草」「焼跡のイエス」との比較
- 第8週 肉体文学の流行
- 第9週 田村泰次郎「肉体の門」（作家紹介・先行研究）
- 第10週 田村泰次郎「肉体の門」〈娼婦〉を描く
- 第11週 田村泰次郎「肉体の門」と流通する物語
- 第12週 〈復員〉をめぐる言説
- 第13週 横溝正史と金田一シリーズ
- 第14週 横溝正史「獄門島」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句、および時代背景を調べておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

（資料によっては、授業開始時に指示する場合があります。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

坪井秀人・藤木秀朗『イメージとしての戦後』（青弓社、2010年）
神奈川大学人文学研究所『〈良女〉と〈悪女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

※上記以外にも授業中に紹介します。

近現代文学史 b

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喩の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。原則二週で一作品を扱いながら、「歴史のコンテキスト」の学習を経た上で、「活字の外へ」と研究対象を広げて行く予定です。単に作家名と作品名を暗記するだけの文学史ではなく、筆記用具や用紙、活字や出版形態まで含めた幅広い「本の歴史」を楽しみましょう。

【授業における到達目標】

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 田山花袋「少女病」①（都市論の基礎）
- 第3週 田山花袋「少女病」②（読解）
- 第4週 林芙美子「放浪記」①（記憶と記述）
- 第5週 林芙美子「放浪記」②（読解）
- 第6週 坂口安吾「真珠」①（同時代言説の調査）
- 第7週 坂口安吾「真珠」②（読解）
- 第8週 石川淳「焼跡のイエス」①（〈いま〉を語ること）
- 第9週 石川淳「焼跡のイエス」②（読解）
- 第10週 夏目漱石「坊っちゃん」（近代の書誌学）
- 第11週 樋口一葉「たけくらべ」①（自筆原稿を読む）
- 第12週 樋口一葉「たけくらべ」②（自筆原稿を読む）
- 第13週 芥川龍之介「舞踏会」（典拠研究）
- 第14週 井伏鱒二「山椒魚」（異本の研究）
- 第15週 谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（挿絵とテキスト）

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題作品の読解。

事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

【テキスト・教材】

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良：大学生のための文学トレーニング 近代編[三省堂、2012、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

【参考書】

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

【注意事項】

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。後期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の理由なく別の用紙での提出は認めません。

近現代文学史 b

文学と敗戦の風景

井原 あや

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では近現代の文学史を学びますが、なかでも〈戦後〉という時間に注目してみたいと思います。

作家は、〈戦後〉にいかに向き合おうとしたのか、あるいは〈戦後〉をどのように描こうとしたのでしょうか。当時の社会や時代背景、言説を学んだ上で、具体的にいくつかの小説を分析読解しつつ、戦争の傷跡を描いた文学作品の歴史に目を凝らしてみよう。

【授業における到達目標】

- ・文学作品を読解することで感受性を深め、新たな知を創造できるようになる。
- ・文学作品が生まれた社会背景、時代を理解し、そこに生じた課題を発見を見つかることができる。
- ・互いに意見を出し合い、文学作品を批評的に分析できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 〈文学史〉とは何か
- 第3週 1945年～1950年という時間と文学の関係
- 第4週 闇市と〈浮浪児〉
- 第5週 石川淳「焼跡のイエス」（作家紹介・先行研究）
- 第6週 石川淳「焼跡のイエス」〈闇市〉を描く
- 第7週 太宰治「美男子と煙草」「焼跡のイエス」との比較
- 第8週 肉体文学の流行
- 第9週 田村泰次郎「肉体の門」（作家紹介・先行研究）
- 第10週 田村泰次郎「肉体の門」〈娼婦〉を描く
- 第11週 田村泰次郎「肉体の門」と流通する物語
- 第12週 〈復員〉をめぐる言説
- 第13週 横溝正史と金田一シリーズ
- 第14週 横溝正史「獄門島」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句、および時代背景を調べておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

（資料によっては、授業開始時に指示する場合があります。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

坪井秀人・藤木秀朗『イメージとしての戦後』（青弓社、2010年）
神奈川大学人文学研究所『〈良女〉と〈悪女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

※上記以外にも授業中に紹介します。

近現代文学特殊演習A

近代作家の中国・台湾紀行

河野 龍也

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

明治末から大正期の日本では、文学者の中で中国旅行が一つのブームになります。夏目漱石・谷崎潤一郎・佐藤春夫・芥川龍之介といった当時の文壇の花形作家が競うように中国に渡り、その土産として多くの旅行記や小説が生み出されました。当時の中国は、欧米列強の圧迫や日清戦争の敗北により清王朝が衰退、辛亥革命（1912年・明治45年）によって中華民国が成立した後も地方軍閥が分立し、有史以来の混乱状況を呈していましたが、こうした中国の一体何が彼らを魅惑したのでしょうか。また、彼らの目に、中国の「近代化」はどのように映っていたのでしょうか。

明治維新以降、欧米による植民地化の危機を回避した日本が、逆に列強と肩をならべてアジア支配に乗り出すという歴史的転回の中で生まれた文学作品を読みながら、日本における「近代」と「文学」の特質をより広い枠組みの中で捉え直してみましよう。

【授業における到達目標】

- ・文学作品の分析に必要な文献調査ができるようになる。
- ・歴史的観点から「日本」「近代」「文学」の各事象について考察を深めることができる。
- ・異文化に対する近代日本人のまなざしのあり方について多様な角度から検討できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 留学生と辛亥革命
- 第3回 夏目漱石と近代
- 第4回 夏目漱石「満韓とところどころ」
- 第5回 谷崎潤一郎の中国趣味①（交流・影響関係）
- 第6回 谷崎潤一郎の中国趣味②（旅行記）
- 第7回 谷崎潤一郎の中国趣味③（小説「鶴唳」他）
- 第8回 芥川龍之介『支那遊記』①南部紀行
- 第9回 芥川龍之介『支那遊記』②北部紀行
- 第10回 芥川龍之介「湖南の扇」
- 第11回 佐藤春夫の中国趣味と台湾旅行
- 第12回 佐藤春夫『南方紀行』①総論
- 第13回 佐藤春夫『南方紀行』②廈門租界
- 第14回 佐藤春夫『南方紀行』③内陸都市
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修：2.5時間）予告した作品を各自で読み、理解を深めておいてください。作品について、受講者の感想や意見、討論を求められる場合があります。

（事後学修：1.5時間）授業中に出た受講生の意見を参考に考察を深め、必要な補足調査を行ってください。

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業内で回収するコメントカードの内容を含む）とレポート40%で総合評価します。

授業では、コメントカードの内容を紹介し、質問に答え、議論すべき点を見出して行きます（フィードバック）。

【参考書】

村松定孝・紅野敏郎・吉田熙生編『近代日本文学における中国像』（有斐閣選書）、西原大輔『谷崎潤一郎とオリエンタリズム—大正日本の中国幻想』（中公叢書）、関口安義『特派員芥川龍之介—中国でなにを視たのか』（毎日新聞社）など。

近現代文学特殊演習B

近代作家の中国・台湾紀行

河野 龍也

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

後期の授業では、1895年から1945年までの半世紀間、日本の植民地であった台湾を舞台とする紀行文を扱います。主として、植民地社会に対する批評性の高さから近年注目を集めている佐藤春夫を取り上げます。また、春夫の紀行文が台湾文壇に与えた影響や、台湾における日本語文学の動向についても概観します。

明治維新以降、欧米による植民地化の危機を回避した日本が、逆に列強と肩をならべてアジア支配に乗り出すという歴史的転回の中で生まれた文学作品を読みながら、日本における「近代」と「文学」の特質をより広い枠組みの中で捉え直してみましよう。

【授業における到達目標】

- ・文学作品の分析に必要な文献調査ができるようになる。
- ・歴史的観点から「日本」「近代」「文学」の各事象について考察を深めることができる。
- ・異文化に対する近代日本人のまなざしのあり方について多様な角度から検討できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 春夫の台湾旅行概要
- 第2回 植民地台湾の状況
- 第3回 小説「女誠扇綺譚」と台南の街
- 第4回 「女誠扇綺譚」にみる植民地社会
- 第5回 先住民族へのまなざし①紀行文「霧社」
- 第6回 先住民族へのまなざし②小説「魔鳥」
- 第7回 先住民族研究者・森丑之助との交流
- 第8回 小説「旅びと」—さすらう〈内地人〉
- 第9回 小説「日章旗の下に」—〈外地〉という空間
- 第10回 紀行文「植民地の旅」①植民地に暮らす人々
- 第11回 紀行文「植民地の旅」②台湾における権利運動
- 第12回 植民地の都市空間
- 第13回 台湾における日本語文学の展開
- 第14回 西川満のオリエンタリズム
- 第15回 台湾人作家の作品

【事前・事後学修】

（事前学修：2.5時間）予告した作品を各自で読み、理解を深めておいてください。作品について、受講者の感想や意見、討論を求められる場合があります。

（事後学修：1.5時間）授業中に出た受講生の意見を参考に考察を深め、必要な補足調査を行ってください。

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業内で回収するコメントカードの内容を含む）とレポート40%で総合評価します。

授業では、コメントカードの内容を紹介し、質問に答え、議論すべき点を見出して行きます（フィードバック）。

【参考書】

西原大輔『谷崎潤一郎とオリエンタリズム』（2003中公叢書）、藤井省三『台湾文学この百年』（1998東方選書）、芦谷信和ほか編『作家のアジア体験』（1992世界思想社）。

近世文学基礎演習 1

—頼光四天王の草双紙をよむ—

松原 哲子

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

草双紙とは江戸時代中期から後期にかけて江戸で刊行された赤本、黒本青本、黄表紙、合巻と呼ばれた絵入小説の一群を指す。これらは、紙面全体にまず絵が描かれ、その隙間に文章や登場人物マンガに近い。この授業では、草双紙の注釈作業を通し、辞書の引き方を覚え、注釈の基礎を身につける。ふさわしい手順で資料を紹介する方法や、参考資料を示す際の留意点を学ぶ。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、調査対象を正しく理解するための方法を見つけ、ふさわしい手順を踏んでいく力を身に付ける。

【授業の内容】

渡辺綱・坂田金時・卜部季武・碓氷定光という、いわゆる「頼光四天王」が登場する初期草双紙を取り上げ、読んでいく。頼光四天王を題材とする作品群に注釈を施し、先行芸文との関係を探っていくことによって、初期の草双紙の姿を概観してみたい。

- 第1週 ガイダンス・草双紙とは何か1
- 第2週 草双紙とはなにか2・作品紹介・担当箇所分担
- 第3週 注釈作業手順および発表資料作成の説明
次回発表者との打ち合わせ（以下同）
- 第4週 『きんときおさなだち』『狸の土産』
- 第5週 『友切丸』第一巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第6週 『友切丸』第一巻（2）注釈・現代語訳
- 第7週 『友切丸』第二巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第8週 『友切丸』第二巻（2）注釈・現代語訳
- 第9週 『友切丸』第三巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第10週 『友切丸』第三巻（2）注釈・現代語訳
- 第11週 『友切丸』第四巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第12週 『友切丸』第四巻（2）注釈・現代語訳
- 第13週 『友切丸』第五巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第14週 『友切丸』第五巻（2）注釈・先行研究の整理
- 第15週 まとめ・補足レポート作成・提出

【事前・事後学修】

【事前】事前に配布したテキストは当日までに全員目を通し、発表者への質問を用意する。発表者は全員分の配付資料を用意すること。発表担当者以外の者も、自分が担当する作品との関係等について発言・発問する準備をする（学修時間 週2時間）。【事後】発表に基づいたレポートを準備する（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

基本的に大学図書館で閲覧できる作品をテキストとする。その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点60% 平常点40%

発表点には担当時の発表内容の他に、補足レポート等の加点を含める。平常点にはテキストの予習状況、発表に対する質問・発問、発表者へのサポートなど、授業への貢献度を含める。遅刻・欠席は減点の対象とする。発表に対する評価は毎時、追加レポートについては提出の次の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。発表準備に際しては、本学所蔵の資料やインターネットの利用など、学内で準備できる範囲に絞ってよい。

【注意事項】

履修者の人数によっては対象作品が変更・増減される場合がある。担当者は、発表準備に際して不安がある場合は、必ず事前に相談に来ること。選択した作品の分量や履修者数によって、一作品を分割して担当する。上に示した以外にも頼光四天王ものの草双紙は多く存在する。特に担当したい作品が他にある場合は初回の授業でその旨を伝えること。

近世文学基礎演習 2

—黄表紙をよむ—

松原 哲子

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

注釈の基礎を身につける。先行研究を整理し、評価する。また、発表のテーマを設定し、与えられた時間内で、まとまりのある内容を作り上げる練習をし、学期末レポートの完成へとつなげる。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見し、論じる力を修得する。自分で担当作品・場面を選択し、ひと通りの解釈をした上で、発表資料を作成する。口頭発表時には調査・研究上のポイントをいくつか挙げるかたちで発表する。学期末レポートには具体的なテーマを設定し、作品を評価する内容を含める。

【授業の内容】

数多い黄表紙の中には、草双紙の歴史的展開を作中に表現するものがある。この授業では、いわば「草双紙史」を題材とする作品を読んでいくことで、当時の読者や作者が草双紙というものをどのように捉えていたのか、それぞれの作品の中から探っていく。

- 第1週 担当作品の選定・次回発表者との打ち合わせ（以下同）
- 第2週 『三升増鱗祖』書誌・先行研究の整理
- 第3週 『三升増鱗祖』上巻（1）翻字・語注
- 第4週 『三升増鱗祖』上巻（2）趣向の整理・現代語訳
- 第5週 『三升増鱗祖』中巻（1）翻字・語注
- 第6週 『三升増鱗祖』中巻（2）趣向の整理・現代語訳
- 第7週 『三升増鱗祖』下巻（1）翻字・語注
- 第8週 『三升増鱗祖』下巻（2）趣向の整理・現代語訳
- 第9週 『草双紙年代記』書誌・先行研究の精読・整理
- 第10週 『草双紙年代記』上巻（1）翻字・語注・現代語訳
- 第11週 『草双紙年代記』上巻（2）趣向の整理・先行研究の評価・新たな研究テーマの検討
- 第12週 『草双紙年代記』下巻（1）翻字・語注・現代語訳
- 第13週 『草双紙年代記』下巻（2）趣向の整理・先行研究の評価・新たな研究テーマの検討
- 第14週 『草双紙年代記』先行研究の整理・評価
- 第15週 レポートテーマの選定および提出

【事前・事後学修】

【事前】テキストは事前に目を通し、質問を用意しておくこと。自分の担当作品と関連のある事項が出た際には質問または助言ができるよう、下調べしておくこと。発表者は全員分の配付資料を用意すること（学修時間 週2時間）。【事後】発表に基づいたレポートテーマを設定し、準備しておく（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

基本的には大学図書館に所蔵される複製・影印等に所収される作品を教材とする。その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点40% 平常点20% レポート点40%

発表点には、担当時の発表内容の他、補足レポートを含める。平常点には、テキストの予習状況、毎時間の発表に対する質問・発言、発表者へのサポートなど、授業への貢献度を含める。遅刻・欠席は減点の対象となる。レポートについては、学期末に提出を求め、テーマは口頭発表時に見出した独自のテーマ、または授業時に提案されたテーマ案の中から選択するものとする。発表に対しては毎時、レポートについては最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介する。発表準備に際しては、本学所蔵の資料やインターネットの利用など、学内で準備できる範囲に絞ってよい。

【注意事項】

人数等によって、対象作品を変更することがある。候補外の作品を扱いたい場合は申し出ること。発表に不安がある場合は事前に相談すること。全作品に丁寧目を通すことでレポート作成が円滑に行えると思われる。毎時間好奇心を持って授業に参加してほしい。

近世文学研究A

『修紫田舎源氏』発句の研究

佐藤 悟

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

『修紫田舎源氏』に出てくる発句の注釈を行う。『源氏物語』の和歌の翻案にとどまらず、『源氏物語』の古注釈、考証等との関連を探究する。またそれにより、『修紫田舎源氏』本文に古注釈等が影響を与えることが予想される。それらの問題を丹念な注釈を通じて検討していく。

【授業における到達目標】

俳諧史に対する理解、合巻史に対する理解、源氏物語に対する理解が求められる。これらを通じて、19世紀の江戸時代の美とは何かを理解しようとする態度を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 『修紫田舎源氏』とは
- 第2週 柳亭種彦概説
- 第3週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅰ
- 第4週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅱ
- 第5週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅲ
- 第6週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅳ
- 第7週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅴ
- 第8週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅵ
- 第9週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅶ
- 第10週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅷ
- 第11週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅷ
- 第12週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅸ
- 第13週 『修紫田舎源氏』発句研究ⅩⅠ
- 第14週 『修紫田舎源氏』発句研究ⅩⅡ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

鈴木重三校注『修紫田舎源氏』（新日本古典文学大系、岩波書店）をあらかじめ読破しておくこと。大学院の学生には言うも愚かであるが、規定通り各二時間以上を当てること。

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（草双紙に関する問題提起など授業への積極参加）80パーセント、レポート20パーセント。フィードバックは授業中におこなう。

【参考書】

授業中適宜指示する。

【注意事項】

配布されるコピーは原本によるものなので、テキストが読めることが最低条件となる。レベルは学部の古典基礎講読のテキストがよめていればよい。
参加人数によっては校外参観、小旅行を行うこともある。

近世文学研究B

草双紙史

佐藤 悟

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

前期に引き続き『修紫田舎源氏』の発句に対する注釈を加える。

【授業における到達目標】

『修紫田舎源氏』の理解を通じて、文学の可能性について考察する能力を獲得する。

【授業の内容】

- 第1週 『修紫田舎源氏』発句研究1
- 第2週 『修紫田舎源氏』発句研究2
- 第3週 『修紫田舎源氏』発句研究3
- 第4週 『修紫田舎源氏』発句研究4
- 第5週 『修紫田舎源氏』発句研究5
- 第6週 『修紫田舎源氏』発句研究6
- 第7週 『修紫田舎源氏』発句研究7
- 第8週 『修紫田舎源氏』発句研究8
- 第9週 『修紫田舎源氏』発句研究9
- 第10週 『修紫田舎源氏』発句研究10
- 第11週 『修紫田舎源氏』発句研究11
- 第12週 『修紫田舎源氏』発句研究12
- 第13週 『修紫田舎源氏』発句研究13
- 第14週 『修紫田舎源氏』発句研究14
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

木村八重子『草双紙の世界』を読了しておくこと。大学院の学生には言うも愚かであるが、事前・事後学修には各二時間以上あてること。

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（草双紙に対する問題提起力）80パーセント。レポート20パーセント。フィードバックは授業中におこなう。

【参考書】

授業中適宜指示する。

【注意事項】

テキストは崩し字で書かれているので、読めることが最低条件である。参加人数によっては校外実習、小旅行を行う。

近世文学史 a

江戸文学の展開をみる

松原 哲子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

近世期の文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみても、その内容の多くは既存の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、近世期以来現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 近世文学概説 代表作品とその特徴①散文 江戸前期
- 第3週 近世文学概説 代表作品とその特徴②散文 江戸後期
- 第4週 近世文学概説 代表作品とその特徴③韻文
- 第5週 御伽草子に取材した文芸① はちかづき 1
- 第6週 御伽草子に取材した文芸② はちかづき 2
- 第7週 御伽草子に取材した文芸③ 文正草子 1
- 第8週 御伽草子に取材した文芸④ 文章草子 2
- 第9週 仮名草子から浮世草子へ
- 第10週 浮世草子の享受 上方から江戸へ
- 第11週 軍記物語の享受 中世から江戸へ
- 第12週 文学の享受と出版文化① 写本と板本
- 第13週 文学の享受と出版文化② 古活字と整板
- 第14週 文学の享受と出版文化③ 書型とジャンル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前】高等学校の教材で、古典のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【参考書】

適宜、紹介する。試験受験に際して直接必要な文献については、コピーを配布する。

【注意事項】

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

近世文学史 a

江戸文学の展開をみる

松原 哲子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

近世期の文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみても、その内容の多くは既存の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、近世期以来現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 近世文学概説 代表作品とその特徴①散文 江戸前期
- 第3週 近世文学概説 代表作品とその特徴②散文 江戸後期
- 第4週 近世文学概説 代表作品とその特徴③韻文
- 第5週 御伽草子に取材した文芸① はちかづき 1
- 第6週 御伽草子に取材した文芸② はちかづき 2
- 第7週 御伽草子に取材した文芸③ 文正草子 1
- 第8週 御伽草子に取材した文芸④ 文章草子 2
- 第9週 仮名草子から浮世草子へ
- 第10週 浮世草子の享受 上方から江戸へ
- 第11週 軍記物語の享受 中世から江戸へ
- 第12週 文学の享受と出版文化① 写本と板本
- 第13週 文学の享受と出版文化② 古活字と整板
- 第14週 文学の享受と出版文化③ 書型とジャンル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前】高等学校の教材で、古典のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【参考書】

適宜、紹介する。試験受験に際して直接必要な文献については、コピーを配布する。

【注意事項】

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

近世文学史 b

草双紙史からみる江戸文学

松原 哲子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

草双紙を中心に取り上げる。幾つかの作品を取り上げ、草双紙がどのような先行文芸の影響を受け、いつ刊行され、誰に読まれたのかを明らかにすることを通して、江戸期における文学の展開を探っていく。

また、草双紙についての文学史的展開の定義がどのような経緯で成されたものであるかを示し、その意味するところについて明らかにしていく。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 古典文学の享受と近世出版文化① 近世前期
- 第3週 古典文学の享受と近世出版文化② 近世後期
- 第4週 草双紙① 赤本
- 第5週 草双紙② 黒本青本
- 第6週 草双紙③ 黄表紙・合巻
- 第7週 草双紙の定義① 『金々先生栄花夢』の位置
- 第8週 草双紙の定義② 草双紙史を語る草双紙1 『辞闘戦新根』
- 第9週 草双紙の定義③ 草双紙史を語る草双紙2 『御存商売物』
- 第10週 草双紙の定義④ 草双紙史を語る草双紙3 『草双紙年代記』ほか
- 第11週 『菊寿草』にみる草双紙史
- 第12週 『菊寿草』検証① 赤本
- 第13週 『菊寿草』検証② 草双紙の装丁
- 第14週 『菊寿草』検証③ 言語遊戯
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前】高等学校の教材で、古典文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【参考書】

適宜、紹介する。試験受験に直接関係する文献については、適宜プリントを配布する。

【注意事項】

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

近世文学史 b

草双紙史からみる江戸文学

松原 哲子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

草双紙を中心に取り上げる。幾つかの作品を取り上げ、草双紙がどのような先行文芸の影響を受け、いつ刊行され、誰に読まれたのかを明らかにすることを通して、江戸期における文学の展開を探っていく。

また、草双紙についての文学史的展開の定義がどのような経緯で成されたものであるかを示し、その意味するところについて明らかにしていく。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 古典文学の享受と近世出版文化① 近世前期
- 第3週 古典文学の享受と近世出版文化② 近世後期
- 第4週 草双紙① 赤本
- 第5週 草双紙② 黒本青本
- 第6週 草双紙③ 黄表紙・合巻
- 第7週 草双紙の定義① 『金々先生栄花夢』の位置
- 第8週 草双紙の定義② 草双紙史を語る草双紙1 『辞闘戦新根』
- 第9週 草双紙の定義③ 草双紙史を語る草双紙2 『御存商売物』
- 第10週 草双紙の定義④ 草双紙史を語る草双紙3 『草双紙年代記』ほか
- 第11週 『菊寿草』にみる草双紙史
- 第12週 『菊寿草』検証① 赤本
- 第13週 『菊寿草』検証② 草双紙の装丁
- 第14週 『菊寿草』検証③ 言語遊戯
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前】高等学校の教材で、古典文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【参考書】

適宜、紹介する。試験受験に直接関係する文献については、適宜プリントを配布する。

【注意事項】

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

近世文学特殊演習 A

近世文学周辺論 I

佐藤 悟

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

吉原の名主の記録である『竹島記録』を前期に引き続き読む。これにより近世文学研究の基礎の一つである吉原に関する知見を深める。

【授業における到達目標】

『竹島記録』について正しい理解ができること。
『竹島記録』を利用した研究論文が提出できること。

【授業の内容】

- 第1週 発表担当者の決定
- 第2週 発表担当者による教員に対する質問
- 第3週 『竹島記録』巻二の発表 (学生1)
- 第4週 『竹島記録』巻二の発表 (学生2)
- 第5週 『竹島記録』巻二の発表 (学生3)
- 第6週 『竹島記録』巻二の発表 (学生4)
- 第7週 『竹島記録』巻二の発表 (学生5)
- 第8週 『竹島記録』巻二の発表 (学生6)
- 第9週 『竹島記録』巻二の発表 (学生7)
- 第10週 『竹島記録』巻二の発表 (学生8)
- 第11週 『竹島記録』巻二の発表 (学生9)
- 第12週 『竹島記録』巻二の発表 (学生10)
- 第13週 『竹島記録』巻二の発表 (学生11)
- 第14週 『竹島記録』巻二の発表 (学生12)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

図書館で『竹島記録』を複写しておくこと。
大学院の授業に出席する者に対し、言うも愚かであるが、事前・事後の学修に各二時間以上を当てること。

【テキスト・教材】

竹島記録[狩野文庫マイクロフィルム]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

翻字の正確さと注釈のレベルにより評価する。評価は翻字100パーセント。
フィードバックは翻刻の添削という形で行う。

【参考書】

花咲一男『江戸吉原図絵』正・続

日比谷孟俊『江戸吉原の経営学』

【注意事項】

写本が読めることが授業参加の最低条件である。

近世文学特殊演習 B

近世文学周辺論 II

佐藤 悟

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

吉原の名主の記録である『竹島記録』を前期に引き続き読む。これにより近世文学研究の基礎の一つである吉原に関する知見を深める。

【授業における到達目標】

自ら『竹島記録』の中からテーマを見つけ、学会発表できるレベルまで自らを高めることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 発表担当者の決定
- 第2週 発表担当者による教員に対する質問
- 第3週 『竹島記録』巻二の発表 (学生1)
- 第4週 『竹島記録』巻二の発表 (学生2)
- 第5週 『竹島記録』巻二の発表 (学生3)
- 第6週 『竹島記録』巻二の発表 (学生4)
- 第7週 『竹島記録』巻二の発表 (学生5)
- 第8週 『竹島記録』巻二の発表 (学生6)
- 第9週 『竹島記録』巻二の発表 (学生7)
- 第10週 『竹島記録』巻二の発表 (学生8)
- 第11週 『竹島記録』巻二の発表 (学生9)
- 第12週 『竹島記録』巻二の発表 (学生10)
- 第13週 『竹島記録』巻二の発表 (学生11)
- 第14週 『竹島記録』巻二の発表 (学生12)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

図書館で『竹島記録』を複写しておくこと。事前・事後学修には、大学院の学生に対して言うも愚かであるが、各二時間以上をあてること。

【テキスト・教材】

竹島記録[狩野文庫マイクロフィルム]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

翻字の正確さと注釈のレベルにより評価する。評価は翻字100パーセント。
フィードバックは翻刻の添削という形で行う。

【参考書】

花咲一男『江戸吉原図絵』正・続

日比谷孟俊『江戸吉原の経営学』

【注意事項】

写本が読めることが授業参加の最低条件である。

近代アメリカ文学・文化演習 a

19世紀アメリカ社会についての研究と発表—奴隷制／女性／禁酒

稲垣 伸一

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀アメリカ文化における任意のテーマについて調べ、個人あるいはグループでプレゼンテーションを行ないます。テーマは以下の3つの中から選択します。

- ・ 奴隷制と南北戦争
- ・ セネカ・フォールズ女性大会と第一次フェミニズム運動
- ・ 禁酒運動の中の女性

テーマの選定、資料検索・読解、提示資料・発表原稿の作成、そして発表の順に研究を進めていきます。

【授業における到達目標】

- ・ 19世紀アメリカにおける特定のテーマについて理解を深める。
- ・ 資料検索の方法を学びながら多くの文献にあたり、プレゼンテーションの有効な方法を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション
- 第2週 選択肢となるテーマについての説明—どのようなアプローチが可能か
- 第3週 テーマ決定、資料検索の方法
- 第4週 提示資料の作成方法
- 第5週 発表準備（資料検索・読解）
- 第6週 発表準備（原稿作成）
- 第7週 発表準備（提示資料作成）
- 第8週 中間発表（名簿前半の学生が発表）
- 第9週 中間発表（名簿後半の学生が発表）
- 第10週 中間発表を踏まえて加筆・修正
- 第11週 最終発表の仕上げ
- 第12週 最終発表（名簿最初の3分の1の学生が発表）
- 第13週 最終発表（名簿次の3分の1の学生が発表）
- 第14週 最終発表（残りの学生が発表）
- 第15週 まとめ、レポート提出

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：中間発表、最終発表に向けて、資料を検索し、資料の熟読を行い発表の準備を行う。

事後学修（週2時間）：授業で説明された資料検索や配付資料の作成法を復習して、実際に自分で資料の検索や配付資料あるいはパワーポイント資料の作成を行う。

【テキスト・教材】

授業で配布するプリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 中間発表30%
- 最終発表40%
- レポート30%

中間発表終了後、発表についてのコメントを教員から発表者に伝えフィードバックを行い、最終発表につなげます。

【参考書】

授業中に指示します。

【注意事項】

中間発表と最終発表の2回の発表が成績評価の70%を占めます。自発的に任意のテーマに取り組み、19世紀アメリカ社会について知識を深めたい学生や、効果的なプレゼンテーションの方法を身につけたい学生の受講を歓迎します。

近代アメリカ文学・文化演習 b

S. クレイン『マギー』のなかのアイランド系移民

稲垣 伸一

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

スティーン・クレインは19世紀末にアメリカで活躍した自然主義作家です。彼の代表作の一つである*Maggie: a Girl of the Streets*の主要登場人物は、ニューヨークのスラム街に住むアイランド系アメリカ人です。この授業では、この小説から読み取ることができる19世紀末アイランド系アメリカ人について考察していきます。

【授業における到達目標】

- ・ 移民の問題を中心に19世紀末アメリカ社会について理解を深める。
- ・ 小説の原書を読み、語学的に正確に小説を読む。この小説ではアイランド訛りの英語が多く含まれているため、その特殊な形の英語にも慣れていくことを目指します。

【授業の内容】

あらかじめ決めておいた担当の学生が、担当する章の内容を発表します。その後、教員が指示した部分の英語原文を読みます。

- 第1週 INTRODUCTION—自然主義作家スティーン・クレインについて
- 第2週 第1章前半
- 第3週 第1章後半
- 第4週 第2章前半
- 第5週 第2章後半
- 第6週 第3, 4章
- 第7週 第5, 6章
- 第8週 第7, 8章
- 第9週 第9, 10章
- 第10週 第11, 12章
- 第11週 第13, 14章
- 第12週 第15, 16章
- 第13週 第17, 18章
- 第14週 第19章
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週3時間）：担当者は次の授業で読む章の内容を要約する。その他の学生は授業で読む範囲の英文を予習。

事後学修（週1時間）：授業で進んだ範囲の復習。考察すべきポイントの確認。

【テキスト・教材】

Stephen Crane: *Maggie: a Girl of the Streets: and Other Tales of New York* [Penguin Classics, 2000, ¥1,246(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点（授業への参加度、コメントペーパー） 40%
- レポート 60%

提出されたコメントペーパーの内容に次の回の授業で言及して、作品に対する理解や考察を深めます。

【参考書】

授業中に指示。

【注意事項】

半期の授業で1つの作品を読むため、継続的に授業の内容を理解することが要求されます。授業中は英文を読むため、中英和程度の大きさの辞書（できれば電子辞書ではなく本の形のもの）を持参してください。

文学作品と社会との関連について研究したい学生の参加を歓迎します。

近代アメリカ文学・文化演習 c

ポー・ホーソーン・メルヴィルを読む

田ノ口 正悟

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

・忘れ物（作品プリント、英語辞典はかならず毎回持参）、課題提出の遅れ、授業内の私語や居眠りなどは適宜減点します。

・遅刻は3回で欠席1回とみなす。出席が授業回数の2/3に満たない者は評定外とします。

【授業のテーマ】

本授業では19世紀中葉にアメリカにおいて書かれた短編作品を取り上げます。アメリカ文学史において批評再検討の進む古典作家の作品を読みながら、性差や人種、格差や宗教、あるいは社会と個人などといった現代社会にも通底する価値観や問題について考えます。

【授業における到達目標】

各作品につき4回程度の授業をかけて読みますが、各作家や時代背景に留意しつつ丁寧な英文読解を心がけるようにしましょう。また、授業内発表および期末レポートを通じて、他の文献を適切に参照しながら、自身の考えや解釈を明らかにするアカデミック・スキルの習得も目指します。

【授業の内容】

第1週 インTRODクシヨン。発表担当者決め。

第2週 アメリカ古典文学入門

第3週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (1; p. 689-692)

第4週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (2; p. 692-695)

第5週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (3; p. 695-699)

第6週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (4; p. 699-701)

第7週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (1; p. 605-609)

第8週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (2; p. 609-611)

第9週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (3; p. 611-614)

第10週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (1; p. 1093-1097)

第11週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (2; p. 1097-1103)

第12週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (3; p. 1103-1108)

第13週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (4; p. 1108-1113)

第14週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (5; p. 1113-1118)

第15週 総括：期末レポート提出

【事前・事後学修】

事前学修：各回で扱う範囲の本文を熟読しておくこと。知らない単語や固有名詞について調べる。その上で、分からなかった疑問点を授業に持ちよる。

事後学修：ポイントとなる場面や文章について復習すること。授業内発表に対するコメントを書くこと。

学修時間：週4時間

【テキスト・教材】

- ・授業時に指示する。
- ・その他、参考書については適宜紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の3点を総合して成績を算出します。

- ・平常点（授業への積極参加、授業内課題）：45%
- ・授業内発表：25%
- ・期末レポート：30%

フィードバックは翌週に行います。

【注意事項】

本授業を受講するにあたって、以下の点は留意しておくこと。

- ・初回授業には必ず出席してください。発表担当を決めます。

近代アメリカ文学・文化演習 e

描かれる「女性」

田ノ口 正悟

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

- ・初回授業には必ず出席してください。発表担当を決めます。
- ・忘れ物（作品プリント、英語辞典はかならず毎回持参）、課題提出の遅れ、授業内の私語や居眠りなどは適宜減点します。
- ・遅刻は3回で欠席1回とみなす。出席が授業回数数の2/3に満たない者は評定外とします。

【授業のテーマ】

本授業では19世紀中葉のアメリカで書かれた短編作品を読みながら、男性作家が描く女性像について考えます。文学史において批評・再検討の進む男性作家たちが描いた「女性」が、性差のみならず、人種や格差あるいは宗教や科学といったアメリカ社会の諸問題を明らかにしていたことを確認していきます。

【授業における到達目標】

各作品につき4回程度の授業をかけて読みますが、作家や時代の背景に留意しつつ丁寧な英文読解を心がけるようにしましょう。また、授業内発表および期末レポートを通じて、他の文献を適切に参照しながら、自身の考えや解釈を明らかにするアカデミック・スキルの習得も目指します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン。発表担当者決め。
- 第2週 アメリカ古典作家と女性
- 第3週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (1; p. 689-692)
- 第4週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (2; p. 692-695)
- 第5週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (3; p. 695-699)
- 第6週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (4; p. 699-701)
- 第7週 Nathaniel Hawthorne, “The Birth Mark” を読む (1; p. 645-649)
- 第8週 Nathaniel Hawthorne, “The Birth Mark” を読む (2; p. 649-653)
- 第9週 Nathaniel Hawthorne, “The Birth Mark” を読む (3; p. 653-656)
- 第10週 Herman Melville, “The Paradise of Bachelors and the Tartarus of Maids” を読む (1; p. 316-320)
- 第11週 Herman Melville, “The Paradise of Bachelors and the Tartarus of Maids” を読む (2; p. 320-323)
- 第12週 Herman Melville, “The Paradise of Bachelors and the Tartarus of Maids” を読む (3; p. 323-328)
- 第13週 Herman Melville, “The Paradise of Bachelors and the Tartarus of Maids” を読む (4; p. 328-331)
- 第14週 Herman Melville, “The Paradise of Bachelors and the Tartarus of Maids” を読む (5; p. 332-335)
- 第15週 総括：期末レポート提出

【事前・事後学修】

事前学修：各回で扱う範囲の本文を熟読しておくこと。知らない単語や固有名詞について調べる。その上で、分からなかった疑問点を授業に持ちよる。

事後学修：ポイントとなる場面や文章について復習すること。授業内発表に対するコメントを書くこと。

学修時間：週4時間

【テキスト・教材】

- ・授業時に指示する。
- ・その他、参考書については適宜紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の3点を総合して成績を算出します。フィードバックは翌週に行います。

- ・平常点（授業への積極的な参加、授業内課題）：45%
- ・授業内発表2回（5分程度×1；10-15分×1）：25%
- ・期末レポート（3000字程度）：30%

【注意事項】

本授業を受講するにあたって、以下の点は留意しておくこと。

近代アメリカ文学・文化演習 f

The Country of the Pointed Firsを読む

齋木 郁乃

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀アメリカの女性作家、Sarah Orne Jewettの*The Country of the Pointed Firs*を読み、作品の歴史的、文化的背景について考えます。この作品の前半部分を精読しながら、文学の批評的な読解法とプレゼンテーションの仕方、またレポートの書き方についても学びます。

【授業における到達目標】

英語で文学作品を読み理解できるようになること。文学を批評的な視点から考察できるようになること。正しい日本語で自分の意見を発表できるようになること。学生が修得すべき「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 I. The Return
- 第3週 II. Mrs. Todd
- 第4週 III. The Schoolhouse
- 第5週 IV. At the Schoolhouse Window
- 第6週 プレゼンテーション (1)
- 第7週 V. Captain Littlepage
- 第8週 VI. The Waiting Place
- 第9週 VII. The Outer Island
- 第10週 VIII. Green Island
- 第11週 IX. William
- 第12週 X. Where Pennyroyal Grew
- 第13週 XI. The Old Singers
- 第14週 プレゼンテーション (2)
レポートの書き方、参考文献の使い方
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】その週の決められた箇所まできちんと辞書をひきながら読み、事前に指定された箇所は日本語に直せるように準備し、解釈のポイントをメモしてきてください。(学修時間週2時間)

【事後学修】その日の授業で議論したことを教員のコメントを利用しながら、自分なりの解釈をまとめてください。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

Jewett, Sarah Orne: *The Country of the Pointed Firs and Other Stories* [W. W. Norton, 1981、※洋書のため価格は変動あり]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業中の発言)+プレゼンテーション(50%)、期末レポート(50%) プレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に、期末レポートに対するフィードバックはメールにて行います。

【参考書】

適宜授業中に指示します。

【注意事項】

一定レベルの英語読解力が必要な授業です。毎週数ページ分の英語を家で読んでくる勤勉さと、毎回授業に出席し、発言することが求められます。

近代イギリス文学・文化演習 a

—『ジェイン・エア』から探る女性の生き方—

土屋 結城

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀の女性作家シャーロット・ブロンテの作品 *Jane Eyre* (1847)を読む。作品の読解とあわせて、ガヴァネスという職業について、および当時の女性の生き方とはどのようなものだったかを読み取る。

【授業における到達目標】

文学作品の鑑賞のしかたを身につけるとともに、19世紀のイギリス社会ならびに当時の女性の生き方についての理解を深めることを目標とする。

【授業の内容】

第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。授業のテキストはリトルド版を用いるが、必要に応じて原文のコピーを配布する。各担当者は、担当箇所のあらすじをまとめるだけでなく、重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。

- 第1週 イントロダクション、シャーロット・ブロンテの生涯について
- 第2週 ゲイツヘッドにて 1 (リーズ家にて)
- 第3週 ゲイツヘッドにて 2 (旅立ち)
- 第4週 ローウッドにて
- 第5週 ソーンフィールド・ホールにて 1 (ロチェスターとの出会い)
- 第6週 ソーンフィールド・ホールにて 2 (グレイス・プールの謎)
- 第7週 ソーンフィールド・ホールにて 3 (再びゲイツヘッドへ)
- 第8週 ソーンフィールド・ホールにて 4 (結婚の準備)
- 第9週 ソーンフィールド・ホールにて 5 (暴露)
- 第10週 ムーア・ハウスにて 1 (出会い)
- 第11週 ムーア・ハウスにて 2 (セント・ジョンからの誘い)
- 第12週 ムーア・ハウスにて 3 (ロチェスターの呼び声)
- 第13週 ファーンディーンにて
- 第14週 映画鑑賞およびディスカッション
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

授業前に、テキストで該当箇所を読み、課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業の内容を復習すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Charlotte Bronte, *Jane Eyre* (Oxford Bookworms Library, Stage 6) 840円

その他、必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業に取り組む態度、発表)50%、試験50%で評価する。なお、フィードバックは翌回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

近代イギリス文学・文化演習 b

James Joyce, Dublinersと20世紀前半の 아일랜드 社会

諏訪 友亮

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Dublinersは、後にUlyssesで文学史に大きな功績を残したJames Joyceによる初期短編集です。当時のアイルランドが置かれていた社会状況を参照することで、何気ない気にも留めない描写が様々な意味を持つことに気づくでしょう。

クラスの人数に応じていくつかのグループに分け、各短編の担当箇所を決めます。各グループは本文に加え、注釈や参考書を見ながら、文章の理解に取り組みましょう。

【授業における到達目標】

1. 短編小説の書かれ方について簡単な理解が得られる。
2. アイルランドの当時の文脈を踏まえて小説を読み解くことができる。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス (授業の進め方、評価方法について、グループ分け、リサーチの方法と参考文献、など)

第2週 The Sisters

第3週 An Encounter

第4週 Araby

第5週 Eveline

第6週 Clay

第7週 A Painful Case

第8週 Ivy Day in the Committee Room ① p. 115-123

第9週 Ivy Day in the Committee Room ② p. 124-133

第10週 A Mother

第11週 The Dead ① p. 175-187

第12週 The Dead ② p. 188-200

第13週 The Dead ③ p. 201-213

第14週 The Dead ④ p. 214-226

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストと注釈を読んでくる (学修時間 週3時間)

事後学修：論点を整理しレポート執筆に向けてリサーチをする (学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

Joyce, James : Dubliners [Penguin Classics、2000、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクションペーパー 20%、予習・グループワーク 20%、期末ペーパー 60%。

期末ペーパーには簡単なコメントを付しmanaba経由で返却します。

【参考書】

Don Gifford, Joyce Annotated. Rev. ed., U of California P, 1982.

なお期末ペーパーの様式については以下を参照のこと。

The Modern Language Association 『MLAハンドブック 第8版』長尾和夫 他訳、秀和システム、2017年。

【注意事項】

毎回辞書を持参しましょう。

期末ペーパーに盗用の形跡が見られた場合には、単位を認定しませんので注意してください。

近代イギリス文学・文化演習 c

小説から都市を読む

島 高行

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Arthur Conan Doyle *The Adventures of Sherlock Holmes*を読む。シャーロック・ホームズの人気を決定付けた短編連作に収められた作品を通して、階級問題、植民地問題など1890年代の英国が抱えていた様々な課題の所在を明らかにする。特に大英帝国の首都ロンドンを描いた都市小説としてこれらの作品を読み、なぜ当時の人々が熱狂したのか、その理由を探ってみる。

【授業における到達目標】

英語の読解力を高めること。
テキストの重層性を理解し、問題を自ら発見できるような読み方を身につけること。
都市についての知見を深める。

【授業の内容】

第1週 イントロダクション

第2週 19世紀末という時代

第3週 ロンドンという空間

第4週 テキストpp. 5-29

第5週 テキストpp. 30-48

第6週 テキストpp. 49-74

第7週 テキストpp. 75-101

第8週 テキストpp. 102-122

第9週 テキストpp. 123-148

第10週 テキストpp. 149-170

第11週 テキストpp. 171-197

第12週 テキストpp. 198-220

第13週 テキストpp. 221-243

第14週 テキストpp. 244-269

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業での予定範囲をよく読み、問題点を見つけておく。(週1時間)

事後学修：授業内容を復習、確認し、指示された参考文献等に当たり、考えを深めること。(週3時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート2本70% (中間レポート20%、最終レポート50%)、平常点 (発表等) 30%で評価する。授業内のレスポンス・シートについては、次回の授業の冒頭で紹介、対応する。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

遅刻の場合は、直ちに申し出ること。その時間を記録するが、出席としては扱わない。

近代イギリス文学・文化演習 d

『フランケンシュタイン』を通して見るイギリス社会

土屋 結城

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀の作家メアリー・シェリー (Mary Shelley) の『Frankenstein』(1818)を読む。作品の読解とあわせて、当時のイギリス社会への理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

英語で書かれた作品を読むことにより、英語のリーディング能力を高めるとともに、19世紀のイギリス社会への理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち多様性を受容する「国際的視野」と、学修を通して自己成長する「研鑽力」を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。各担当者は担当箇所をあらすじをまとめるだけでなく、重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。必要に応じて関連文献を読む。

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 ウォルトンの手紙1 (序章)
- 第3週 ウォルトンの手紙2 (出会い)
- 第4週 ヴィクターの回想1 (ヴィクターとエリザベス)
- 第5週 ヴィクターの回想2 (自然科学への興味)
- 第6週 ヴィクターの回想3 (創造)
- 第7週 ヴィクターの回想4 (ウィリアムの悲劇)
- 第8週 ヴィクターの回想5 (拒絶)
- 第9週 怪物の告白1 (生い立ち)
- 第10週 怪物の告白2 (感情の芽生え)
- 第11週 ヴィクターの回想6 (怪物の要求)
- 第12週 ヴィクターの回想7 (イングランドにて)
- 第13週 ヴィクターの回想8 (婚礼)
- 第14週 ウォルトンの手紙3 (最期)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

テキストで該当箇所を読み、課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業の内容の復習をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用するほか、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業に取り組む態度、発表、授業内課題)50%、レポート50%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

近代イギリス文学・文化演習 e

19世紀までの詩を読む

諏訪 友亮

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

英語で詩をあまり読んだことがない人を対象に、英語の平易な注釈などを参照しながら19世紀までの名作を読んでいます。詩を時代や地域などのコンテクストに置き、歴史や社会も踏まえうえて、詩人独自のスタイルについて意識を向けていきます。

クラスをグループ分けし、各グループは以下の役割を交替で担います。

1. 詩の形式、作者、作品の時代背景を調べてくるグループ
2. 詩の翻訳をするグループ
3. 詩の批評を調べてくるグループ

各グループは授業に向けて準備し、質問に答えられるようにしておきましょう。

【授業における到達目標】

1. 詩の音や形式について簡単な理解が得られる。
2. 詩を詩人の置かれた時代や地域性を通して論じることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス (授業の進め方、評価方法について、グループ分け、リサーチの方法と参考文献、など)
- 第2週 William Shakespeare, "Sonnet XVIII" ("Shall I compare thee to a summer's day?")
- 第3週 John Donne, "Holy Sonnet X"
- 第4週 Andrew Marvell, "To His Coy Mistress"
- 第5週 William Blake, "The Tyger," "London"
- 第6週 Robert Burns, "A Red, Red Rose"
- 第7週 William Wordsworth, "I Wandered Lonely as a Cloud"
- 第8週 Percy Bysshe Shelley, "Ozymandias"
- 第9週 John Keats, "Bright Star"
- 第10週 Robert Browning, "My Last Duchess"
- 第11週 Matthew Arnold, "Dover Beach"
- 第12週 Lewis Carroll, "Jabberwocky"
- 第13週 Thomas Hardy, "The Darkling Thrush"
- 第14週 William Butler Yeats, "The Second Coming"
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各グループの役割に応じて準備する(学修時間 週3時間)

事後学修：期末レポートに向けてリサーチをしておく(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

Smith, Philip: 100 Best-Loved Poems, Dover Publications[1995、¥1,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクションペーパー 20%、予習・グループワーク 20%、期末ペーパー 60%。

期末ペーパーには簡単なコメントを付しmanaba経由で返却します。

【参考書】

適宜授業内で配布・紹介します。

なお期末ペーパーの様式については以下を参照のこと。
The Modern Language Association『MLAハンドブック 第8版』長尾和夫 他訳、秀和システム、2017年。

【注意事項】

毎回辞書を持参しましょう。

期末ペーパーに盗用の形跡が見られた場合には、単位を認定しないので注意してください。

近代イギリス文学・文化演習 f

カントリー・ハウスと小説

島 高行

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Arthur Conan Doyle *The Memoirs of Sherlock Holmes*を読み、英国の歴史においてカントリー・ハウスが有する意義を考える。都市と田舎の対立という視点から英国の文化史を概観したうえで、ドイルの小説を丁寧に分析してみる。

【授業における到達目標】

英語の読解力を高めること。
 テキストの重層性を理解し、問題を自ら発見できるような読み方を身につけること。
 都市と田舎の対立軸で、英国社会のあり方を理解することができるようになる。

【授業の内容】

第1週 インTRODクシヨン
 第2週 都市の田舎の文化史
 第3週 テキストpp. 11-54.
 第4週 テキストpp. 55-94.
 第5週 テキストpp. 95-128.
 第6週 テキストpp. 139-165.
 第7週 テキストpp. 166-202.
 第8週 テキストpp. 203-214.
 第9週 テキストpp. 215-236.
 第10週 テキストpp. 237-275.
 第11週 テキストpp. 276-308.
 第12週 テキストpp. 309-342.
 第13週 テキストpp. 343-376.
 第14週 テキストpp. 377-443
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業での予定範囲をよく読み、問題点を見つけておく。

(週1時間)

事後学修：授業内容を復習、確認し、指示された参考文献等にあたり、考えを深めること。(週3時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70% (中間レポート20%、最終レポート50%)、平常点 (発表等) 30%で評価する。授業内のレスポンス・シートについては、次回の授業の冒頭で紹介、対応する。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

遅刻の場合は、直ちに申し出ること。その時間を記録するが、出席としては扱わない。

近代現代文学演習 d 1

有島武郎の文学世界（短編小説）

ブルナ、ルカーシュ

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

21歳のときに一度自殺を決意し、思い返した有島武郎は、結局1923（大正12）年に、『婦人公論』の記者波多野秋子とともに心中し、45年の生涯を閉じることになりました。文壇登場前の自殺未遂と彼の執筆活動に終止符を打った心中事件、ここからも容易に読み取ることができるが、有島武郎は一生、生活上の問題と思想上に問題で悩み苦しんでいました。この授業では、「実質的な処女作」とされる初期の短編「かんかん虫」から晩年の「骨」まで、僅か13年にしかおよばぬ活動期間において生み出された小説を読み、有島が抱えた葛藤や煩悶がこれらの作品のなかにどのように反映されているのかについて考えていきます。

【授業における到達目標】

これまで学習してきた文学史、文学研究の方法論に関する知識を活用しながら、文学作品の諸問題について多角的に考える力が身につく（美の探究）。

作品分析、資料調査、口頭発表を行うことによって調査力とプレゼンテーション能力を鍛え、ディスカッションにおける他人の指摘をもとに自己の考えを更に発展させる自己研鑽力を養う（行動力、協働力）。

【授業の内容】

- ① ガイダンス 発表について
- ② 有島武郎と大正文学
- ③ かんかん虫（1910） I
- ④ お末の死（1914） I
- ⑤ クララの出家（1917） I
- ⑥ カインの末裔（1917） I
- ⑦ 生れ出づる悩み（1918） I
- ⑧ 骨（1923） I
- ⑨ かんかん虫（1910） II
- ⑩ お末の死（1914） II
- ⑪ クララの出家（1917） II
- ⑫ カインの末裔（1917） II
- ⑬ 生れ出づる悩み（1918） II
- ⑭ 骨（1923） II
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 作品の読解、発表の準備。（週2時間）

事後学修 授業内容の再考。（週2時間）

【テキスト・教材】

『有島武郎全集』から各自コピーをとってください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表60% 授業参加40%

フィードバック：コメントペーパー、発表内容については毎回口頭でコメントします。

近代現代文学演習 d 1

近現代の文学作品と「私」

大島 丈志

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

近代現代文学演習では、日本の近代文学史を念頭に置きながら、実際に個々の作品を読んでいく。作品を読むにあたっては、主に、作品論・作家論の方法を使う。具体的には、授業の前半で近代の文学史を学んだうえで、近代日本の代表的な短編を読み、読解し、そこに描かれる「私」のあり方を考える。

この活動を通して文学史的知識を再認識するとともに、時代や作家との関連のなかで作品を読み深めることのできる力を養う。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、近代現代文学の基礎知識を学ぶことで、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を獲得できる。

学生が修得すべき「美の探求」のうち、作家の思想・作品の読解を探究することで新たな知を創造しようとする態度を養うことが出来る。

学生が修得すべき「行動力」のうち、作品の精緻な読みを行い、自らの読みを導き出すことで問題解決する力を獲得できる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 演習発表の方法について
- 第3週 講義 演習 田山花袋「少女病」
- 第4週 講義 演習 夏目漱石「夢十夜」
- 第5週 講義 演習 森鷗外「高瀬舟」
- 第6週 講義 演習 谷崎潤一郎「刺青」
- 第7週 講義 演習 武者小路実篤「お目出たき人」
- 第8週 講義 演習 志賀直哉「范の犯罪」
- 第9週 講義 演習 芥川龍之介「蜘蛛の糸」
- 第10週 講義 演習 横光利一「頭ならびに腹」
- 第11週 講義 演習 小林多喜二「人を殺す犬」
- 第12週 講義 演習 太宰治「桜桃」
- 第13週 講義 演習 武田泰淳「もの喰う女」
- 第14週 レポートについて
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 受講に際し、授業中に扱われる作品を読み込んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修 発表で不十分であった点を調査し、フォローのレジュメを作成しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文学史研究会編：近代の短編[笠間書院、1982、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表40%、レポート40%、平常点（授業への積極参加・質疑応答）20%、それらを総合して評価する。口頭発表は、次回授業、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

演習であるため、発表者はもとより、参加者は他の参加者と貴重な意見の交換を行うことが出来る。議論に積極的に参加し、発言することが、自らの言語能力を高め、広げることにつながるの言うまでもない。参加者の意欲的な取り組みを期待する。

近代現代文学演習 d 2

有島武郎の文学世界（長編小説『或る女』）

ブルナ、ルカーシュ

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

21歳のときに一度自殺を決意し、思い返した有島武郎は、結局1923（大正12）年に、『婦人公論』の記者波多野秋子とともに心中し、45年の生涯を閉じることになりました。文壇登場前の自殺未遂と彼の執筆活動に終止符を打った心中事件、ここからも容易に読み取ることができるが、有島武郎は一生、生活上の問題と思想上に問題で悩み苦しんでいました。前期の授業では、短編小説を中心に、短い作家人生を通じて有島武郎の文学がどのように変わっていったのかについて学びますが、後期の授業では、有島武郎の唯一の長編小説『或る女』を読み、そのなかにはどのような近代人の姿が描かれているのかについて考えていきます。

【授業における到達目標】

これまで学習してきた文学史、文学研究の方法論に関する知識を活用しながら、文学作品の諸問題について多角的に考える力を得る（美の探究）。

作品分析、資料調査、口頭発表を行うことによって調査力とプレゼンテーション能力を鍛え、ディスカッションにおける他人の指摘をもとに自己の考えを更に発展させる自己研鑽力を養う（行動力、協働力）。

【授業の内容】

- ① ガイダンス 発表について
- ② 有島武郎の文学世界
- ③ 或る女Ⅰ 前編（1-3）
- ④ 或る女Ⅱ 前編（4-7）
- ⑤ 或る女Ⅲ 前編（8-12）
- ⑥ 或る女Ⅳ 前編（13-17）
- ⑦ 或る女Ⅴ 前編（18-21）
- ⑧ 或る女Ⅵ 後編（22-26）
- ⑨ 或る女Ⅶ 後編（27-31）
- ⑩ 或る女Ⅷ 後編（32-36）
- ⑪ 或る女Ⅸ 後編（37-42）
- ⑫ 或る女Ⅹ 後編（43-49）
- ⑬ 或る女のグリンプス Ⅰ
- ⑭ 或る女のグリンプス Ⅱ
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 作品の読解、発表の準備。（週2時間）

事後学修 授業内容の再考。（週2時間）

【テキスト・教材】

有島武郎：或る女[新潮文庫、2013、¥961(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表60% 授業参加40%

フィードバック：コメントペーパー、発表内容については毎回口頭でコメントします。

近代現代文学演習 d 2

近代現代文学の作品と「私」

大島 丈志

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

大近代現代文学演習では、日本の近代現代文学史を基礎としながら、個々の作品を読解していく。

作品の読みを通じて、そこに描かれる様々な時代の様々な「私」のあり様についても考える。

後期の演習の前半では、谷川俊太郎・茨木のり子・石垣りんら現代詩人の詩歌を扱う。

さらに授業の後半では、村上春樹、川上弘美、小川洋子といった現代作家の作品も扱っていく。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、近代現代文学を読解することで、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を獲得できる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、自らの問題点を発見し、作品の調査・解釈を行い、その結果をプレゼンテーションすることで問題解決する力を獲得できる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 現代詩についてⅠ
- 第2週 現代詩についてⅡ 谷川俊太郎
- 第3週 現代詩についてⅢ 茨木のり子
- 第4週 現代詩についてⅣ 石垣りん
- 第5週 演習 樋口一葉「十三夜」
- 第6週 演習 樋口一葉「十三夜」
- 第7週 演習 芥川龍之介「おぎん」
- 第8週 演習 徳田秋声「風呂桶」
- 第9週 演習 井伏鱒二「鯉」
- 第10週 演習 武田泰淳「橋を築く」
- 第11週 演習 林芙美子「晩菊」
- 第12週 講義 演習 村上春樹「七番目の男」
- 第13週 講義 演習 小川洋子「美少女コンテスト」
- 第14週 講義 演習 川上弘美「神様」「神様2011」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 演習の対象となる作品を読み込んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修 演習で扱った作品のフォローをしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表40%、レポート40%、平常点（授業への積極参加・質疑応答）20%、それらを総合して評価する。口頭発表は、次回授業、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

演習の授業であるため、発表者はもとより、参加者は他の参加者と貴重な意見の交換を行うことが出来る。議論に積極的に参加し、発言することが、自らの言語能力を高め、広げることにつながるの言うまでもない。参加者の意欲的な取り組みを期待する。

近代現代文学演習 e 1

小説分析の方法

棚田 輝嘉

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文学作品は、作者の人生観や人間観、その他様々な「生きる」に関する思想を描いています。私たちはそれらを読むことを通して、自らの人生の指針としているとも言えます。

しかし、人間や世界が複雑化している現代においては、そうした文学だけを文学作品とは呼べなくなっています。そこで、現代の文学作品を読むことで、現代文学の可能性、そして、現代作家たちは何を読者に伝えようとしているのか、という観点から、文学作品を分析してみたいと思います。

具体的には、2017年に発表された作品を中心に、作品の意図や面白さとはなにか、といったことについて検討しようと思います。

【授業における到達目標】

小説を深く読解することができる。

DPの3分野について、特に、「感受性を深め」、「課題を発見」し、「互いに協力して物事を進め」「問題解決につなげる」能力の獲得を、最低限の目標としています。

【授業の内容】

第1週 演習の手順と方法

第2週 小説とはなにか1：語り

第3週 小説とはなにか2：構造

第4週 演習1：タイトルの意味 伊坂幸太郎「無事これ貴人」

第5週 演習2：主人公の気持ち 井上荒野「サルビアの花」

第6週 演習3：タイトルの役割 森絵都「青空」

第7週 演習4：人間とは 今村夏子「父と私と桜尾通り商店街」

第8週 演習5：何を言いたいのか 中島京子「町内会の草野球チーム」

第9週 演習6：何が面白いのか 三崎亜記「流出」

第10週 演習7：捨てたのは正解？ 新津きよみ「お守り」

第11週 演習8：何が問題なのか 近藤史恵「幸せのお手本」

第12週 アンサー編（演習1～3）

第13週 アンサー編（演習4～6）

第14週 アンサー編（演習7・8・全体）

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】演習者は、必ず相談に来ること。

他の学生は、予め配布されたレジュメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学修】改めてレジュメを読み直し、アンサー編に備えて、質問を用意しておくこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

*『短編小説ベストコレクション 現代小説2017』徳間文庫 800円＋税

*上記に加えて、2作品については、こちらでテキストを用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）65%

演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート35%
提出された課題、レジュメ等について、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

演習者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

【注意事項】

演習発表者だけでなく、受講生全員に、演習対象となる作品に関する課題を出すので、欠席しないこと。

近代現代文学演習 e 2

謎解き短編小説

棚田 輝嘉

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

小説、特に短篇小説には、象徴的な冒頭と、思いもよらない・効果的な結末が求められます。特に、結末は、見事であればあるほど、優れた作品として、高い評価を得ることが出来ます。

本演習では、この結末を隠し、どのような結末が書かれているのかを、推理・創作することを演習内容とします。

そのためには、伏線・謎かけ・読者の期待への対応・意外性などが、読解のキーワードとして重要になってきます。これらについて学び、その上で、短編小説を読み解きます。

具体的な方法としては、各作品毎に演習者（演習グループ）を割り振り、自分たちの案を出して貰うと共に、全受講生にも毎回解答を提出してもらい、演習者の解答を聞きながら、どの解答が最もよいかということについて、検討したいと思います。

なお、演習の性質上、シラバスには作品名を示しません。

【授業における到達目標】

小説を深く読解する力、想像力/創造力を身に着ける。

DPの3分野について、特に、「感受性を深め」、「課題を発見」し、「互いに協力して物事を進め」「問題解決につなげる」能力の獲得を目標とした前期を踏まえて、さらに「新たな知を創造」し、「プロセスや成果を正しく評価」し、「豊かな人間関係を構築する」ことを、目標とします。

【授業の内容】

第1週 演習の手順と方法

第2週 なぜ小説を読むのか

第3週 短編小説の手法

第4週 演習1：伏線壺

第5週 演習2：伏線式

第6週 演習3：伏線参

第7週 演習4：伏線四

第8週 演習5：逆転壺

第9週 演習6：逆転式

第10週 演習7：みごと

第11週 演習8：おのぞみの

第12週 アンサー編（演習1～3）

第13週 アンサー編（演習4～6）

第14週 アンサー編（演習7～8）

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】演習者は、必ず相談に来ること。

他の学生はあらかじめ配布されたレジュメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学修】改めてレジュメを読み直し、アンサー編に備えて、質問を用意しておくこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

こちらで用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）65%

演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート35%
提出された課題、レジュメについて、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

演習者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

【注意事項】

演習発表者だけでなく、受講生全員に、演習対象となる作品に関する課題を出すので、欠席しないこと。

近代現代文学演習 f 1

雑誌と直筆原稿で読む大正の文学

河野 龍也

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文学史上の大正時代は、雑誌を中心に短編小説が花開いた時代です。出版市場の拡大を受けて職業作家が登場し、多彩な才能を競いました。日本近代文学の特色とされてきた「私小説」が育ったのもこの時代です。

当時、総合雑誌として最も権威があったのが『中央公論』です。実践女子大学では、『中央公論』編集者の滝田樗陰が保管していた作家の直筆原稿データベースにアクセスすることができます。この授業では、里見弴・菊池寛・佐藤春夫・小川未明・葛西善蔵という幅広い大正文学の花形作者の作品を取り上げます。原稿と活字化された雑誌面とを比較することで、作家の創作の苦心の痕をリアルに感じることができるでしょう。原稿用紙に向き合いながら、作品を育てていくプロセスに迫りたいと思います。

【授業における到達目標】

- ・言語芸術である小説を形式面から分析する能力が身につく（美の探究）。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく（行動力）。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく（協働力）。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 調査の方法について
- 第3週 里見弴「善心悪心」（1916）①
- 第4週 菊池寛「神の如く弱し」（1920）①
- 第5週 佐藤春夫「一夜の宿」（1923）①
- 第6週 小川未明「死滅する村」（1923）①
- 第7週 葛西善蔵「父の葬式」（1923）①
- 第8週 問題点の整理 I
- 第9週 問題点の整理 II
- 第10週 里見弴「善心悪心」（1916）②
- 第11週 菊池寛「神の如く弱し」（1920）②
- 第12週 佐藤春夫「一夜の宿」（1923）②
- 第13週 小川未明「死滅する村」（1923）②
- 第14週 葛西善蔵「父の葬式」（1923）②
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：作品の読解、先行研究の調査と発表準備。

事後学修（週2時間）：疑問についての再考察。発表の補足準備。

【テキスト・教材】

作品は本学図書館のデータベース「Japan Knowledge」に収録されている『滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集 [日本近代文学館]』から各自印刷して使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：作品ごとに、回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

【参考書】

日本近代文学館編『小説は書き直される—創作のバックヤード—』（2018秀明大学出版会）。他は授業中に指示する。

【注意事項】

テキストがなければ授業が成り立ちませんので、必ず各自データベースにアクセスして取得してください。テキストを取得したことを授業中に確認します（評価に考慮します）。受講人数により、扱う作品数を変更する可能性があります。

近代現代文学演習 f 2

雑誌と直筆原稿で読む大正の文学

河野 龍也

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文学史上の大正時代は、雑誌を中心に短編小説が花開いた時代です。出版市場の拡大を受けて職業作家が登場し、多彩な才能を競いました。日本近代文学の特色とされてきた「私小説」が育ったのもこの時代です。

当時、総合雑誌として最も権威があったのが『中央公論』です。実践女子大学では、『中央公論』編集者の滝田樗陰が保管していた作家の直筆原稿データベースにアクセスすることができます。この授業では、菊池寛・里見弴・室生犀星・葛西善蔵・小川未明・佐藤春夫という幅広い大正文学の花形作者の作品を取り上げます。原稿と活字化された雑誌面とを比較することで、作家の創作の苦心の痕をリアルに感じることができるでしょう。原稿用紙に向き合いながら、作品を育てていくプロセスに迫りたいと思います。

【授業における到達目標】

- ・言語芸術である小説を形式面から分析する能力が身につく（美の探究）。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく（行動力）。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく（協働力）。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 大正文学概説
- 第3週 菊池寛「流行児」（1921）①
- 第4週 里見弴「雪の夜話」（1920）①
- 第5週 室生犀星「香爐を盗む」（1920）①
- 第6週 葛西善蔵「血を吐く」（1925）①
- 第7週 小川未明「死者の満足」（1924）①
- 第8週 佐藤春夫「佗しすぎる」（1923）①
- 第9週 菊池寛「流行児」（1921）②
- 第10週 里見弴「雪の夜話」（1920）②
- 第11週 室生犀星「香爐を盗む」（1920）②
- 第12週 葛西善蔵「血を吐く」（1925）②
- 第13週 小川未明「死者の満足」（1924）②
- 第14週 佐藤春夫「佗しすぎる」（1923）②
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：作品の読解、先行研究の調査と発表準備。

事後学修（週2時間）：疑問についての再考察。発表の補足準備。

【テキスト・教材】

作品は本学図書館のデータベース「Japan Knowledge」に収録されている『滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集 [日本近代文学館]』から各自印刷して使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：作品ごとに、回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

【参考書】

日本近代文学館編『小説は書き直される—創作のバックヤード—』（2018秀明大学出版会）。他は授業中に指示する。

【注意事項】

テキストがなければ授業が成り立ちませんので、必ず各自データベースにアクセスして取得してください。テキストを取得したことを授業中に確認します（評価に考慮します）。受講人数により、扱う作品数を変更する可能性があります。

近代現代文学研究 e

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳作品を取り上げ、翻訳の背景や同時代の評価を確認し、原作と訳文を比較しながら翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

【授業における到達目標】

翻訳文学および翻訳研究に関する知識を習得し、今までとは異なる観点から日本文学について考える能力が身につく（美の探究）。

異なる言語で書かれた二つのテキストを比較分析し、起点言語と目的言語のテキストの違いを見極め、その意味について考察を行う能力が身につく（研鑽力、国際的視野）。

【授業の内容】

- ① オリエンテーション — 翻訳とは何か、翻訳研究とは何か
- ② オリエンテーション — 翻訳の歴史
- ③ 明治期の詩の翻訳 — 作家・作品紹介
- ④ 明治期の詩の翻訳 — 作品分析
- ⑤ ディケンズの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑥ ディケンズの翻訳 — 作品分析
- ⑦ モーパッサンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑧ モーパッサンの翻訳 — 作品分析
- ⑨ ツルゲーネフの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑩ ツルゲーネフの翻訳 — 作品分析
- ⑪ アンデルセンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑫ アンデルセンの翻訳 — 作品分析
- ⑬ ゴラの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑭ ゴラの翻訳 — 作品分析
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

【事後学修】

授業内容を再考、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、平常点（コメントペーパー、授業態度）50%

レポートのフィードバックは授業の最終回で行います。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

5回以上欠席すると失格となります。

近代現代文学研究 e

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳作品を取り上げ、翻訳の背景や同時代の評価を確認し、原作と訳文を比較しながら翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

【授業における到達目標】

翻訳文学および翻訳研究に関する知識を習得し、今までとは異なる観点から日本文学について考える能力が身につく（美の探究）。

異なる言語で書かれた二つのテキストを比較分析し、起点言語と目的言語のテキストの違いを見極め、その意味について考察を行う能力が身につく（研鑽力、国際的視野）。

【授業の内容】

- ① オリエンテーション — 翻訳とは何か、翻訳研究とは何か
- ② オリエンテーション — 翻訳の歴史
- ③ 明治期の詩の翻訳 — 作家・作品紹介
- ④ 明治期の詩の翻訳 — 作品分析
- ⑤ ディケンズの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑥ ディケンズの翻訳 — 作品分析
- ⑦ モーパッサンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑧ モーパッサンの翻訳 — 作品分析
- ⑨ ツルゲーネフの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑩ ツルゲーネフの翻訳 — 作品分析
- ⑪ アンデルセンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑫ アンデルセンの翻訳 — 作品分析
- ⑬ ゴラの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑭ ゴラの翻訳 — 作品分析
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

【事後学修】

授業内容を再考、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、平常点（コメントペーパー、授業態度）50%

レポートのフィードバックは授業の最終回で行います。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

5回以上欠席すると失格となります。

近代現代文学研究 f

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳作品を取り上げ、翻訳の背景や同時代の評価を確認し、原作と訳文を比較しながら翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

【授業における到達目標】

翻訳文学および翻訳研究に関する知識を習得し、今までとは異なる観点から日本文学について考える能力が身につく（美の探究）。

異なる言語で書かれた二つのテキストを比較分析し、起点言語と目的言語のテキストの違いを見極め、その意味について考察を行う能力が身につく（研鑽力、国際的視野）。

【授業の内容】

- ① オリエンテーション 翻訳とは何か
- ② 海外における日本文化
- ③ 海外における日本文学
- ④ 日本の詩歌の翻訳・受容 I
- ⑤ 日本の詩歌の翻訳・受容 II
- ⑥ 日本の詩歌の翻訳・受容 III
- ⑦ 徳富蘆花の翻訳・受容 I
- ⑧ 徳富蘆花の翻訳・受容 II
- ⑨ 徳富蘆花の翻訳・受容 III
- ⑩ 二葉亭四迷の翻訳・受容 I
- ⑪ 二葉亭四迷の翻訳・受容 II
- ⑫ 二葉亭四迷の翻訳・受容 III
- ⑬ 小林多喜二の翻訳・受容 I
- ⑭ 小林多喜二の翻訳・受容 II
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

【事後学修】

授業内容を再考、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、平常点（コメント票、授業態度）50%

レポートのフィードバックは授業の最終回で行います。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

五回以上欠席すると失格となります。

近代現代文学研究 f

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳作品を取り上げ、翻訳の背景や同時代の評価を確認し、原作と訳文を比較しながら翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

【授業における到達目標】

翻訳文学および翻訳研究に関する知識を習得し、今までとは異なる観点から日本文学について考える能力が身につく（美の探究）。

異なる言語で書かれた二つのテキストを比較分析し、起点言語と目的言語のテキストの違いを見極め、その意味について考察を行う能力が身につく（研鑽力、国際的視野）。

【授業の内容】

- ① オリエンテーション 翻訳とは何か
- ② 海外における日本文化
- ③ 海外における日本文学
- ④ 日本の詩歌の翻訳・受容 I
- ⑤ 日本の詩歌の翻訳・受容 II
- ⑥ 日本の詩歌の翻訳・受容 III
- ⑦ 徳富蘆花の翻訳・受容 I
- ⑧ 徳富蘆花の翻訳・受容 II
- ⑨ 徳富蘆花の翻訳・受容 III
- ⑩ 二葉亭四迷の翻訳・受容 I
- ⑪ 二葉亭四迷の翻訳・受容 II
- ⑫ 二葉亭四迷の翻訳・受容 III
- ⑬ 小林多喜二の翻訳・受容 I
- ⑭ 小林多喜二の翻訳・受容 II
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

【事後学修】

授業内容を再考、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業で配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、平常点（コメント票、授業態度）50%

レポートのフィードバックは授業の最終回で行います。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

五回以上欠席すると失格となります。

近代現代文学研究 g

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

前期の授業では、明治から大正にかけて旺盛な活動を見せた作家・田村俊子に注目します。田村俊子は、女性との濃密な関係や、男性への反発や愛など現在にも通じる小説や評論、随筆を書きました。彼女と時代との関わりについて考えた上で、短篇小说を中心に検討していきます。受講者同士のディスカッションやグループワークなども取り入れながら、女性が〈書く〉ことの意味を皆さんで考えてみましょう。

【授業における到達目標】

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批判的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・明治から大正の文学作品を読解することで、感受性を深め、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料（時代背景を理解する）
- 第3週 田村俊子について（代表作紹介）
- 第4週 「生血」1（作品紹介）
- 第5週 「生血」2（先行研究）
- 第6週 「生血」3（読解・分析）
- 第7週 「生血」4（『青鞥』との関わり）
- 第8週 「女作者」1（作品紹介）
- 第9週 「女作者」2（同時代評・先行研究）
- 第10週 「女作者」3（分析・読解）
- 第11週 「悪寒」1（作品紹介）
- 第12週 「悪寒」2（分析・読解）
- 第13週 「悪寒」3（長沼智恵子との関係）
- 第14週 「微弱な権力」を読む
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回授業範囲のテキストの語句を調べておいて下さい。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】

小テストや期末テストに向けて、プリントやノートを見直し、授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%
（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』（ひつじ書房、2014年）
飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）

近代現代文学研究 g

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

前期の授業では、明治から大正にかけて旺盛な活動を見せた作家・田村俊子に注目します。田村俊子は、女性との濃密な関係や、男性への反発や愛など現在にも通じる小説や評論、随筆を書きました。彼女と時代との関わりについて考えた上で、短篇小说を中心に検討していきます。受講者同士のディスカッションやグループワークなども取り入れながら、女性が〈書く〉ことの意味を皆さんで考えてみましょう。

【授業における到達目標】

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批判的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・明治から大正の文学作品を読解することで、感受性を深め、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料（時代背景を理解する）
- 第3週 田村俊子について（代表作紹介）
- 第4週 「生血」1（作品紹介）
- 第5週 「生血」2（先行研究）
- 第6週 「生血」3（読解・分析）
- 第7週 「生血」4（『青鞥』との関わり）
- 第8週 「女作者」1（作品紹介）
- 第9週 「女作者」2（同時代評・先行研究）
- 第10週 「女作者」3（分析・読解）
- 第11週 「悪寒」1（作品紹介）
- 第12週 「悪寒」2（分析・読解）
- 第13週 「悪寒」3（長沼智恵子との関係）
- 第14週 「微弱な権力」を読む
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回授業範囲のテキストの語句を調べておいて下さい。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】

小テストや期末テストに向けて、プリントやノートを見直し、授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%
（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』（ひつじ書房、2014年）

飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）

近代現代文学研究 h

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

後期の授業では、太宰治の短篇・中篇小説を検討します。その際、歴史的背景を踏まえつつ映像資料等も用いて、文学とジェンダーの関わりを多角的に学びます。時折ディスカッションやグループワークも取り入れながら、皆さんと文学作品が描き出す〈イメージ〉の意味を考えてみたいと思います。

【授業における到達目標】

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批評的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・1945年前後の文学作品が描かれた背景を理解し、それがどのように受容されたのかを理解することで、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料
- 第3週 太宰治について（代表作紹介）
- 第4週 「ヴィヨンの妻」1（作品紹介）
- 第5週 「ヴィヨンの妻」2（同時代評・先行研究）
- 第6週 「ヴィヨンの妻」3（分析・読解）
- 第7週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」1（歴史的背景）
- 第8週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」2（分析）
- 第9週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」3（意見交換）
- 第10週 〈男同士の絆〉と文学
- 第11週 太宰治「走れメロス」1（作品紹介）
- 第12週 太宰治「走れメロス」2（同時代評・先行研究）
- 第13週 太宰治「走れメロス」3（分析・読解）
- 第14週 〈文学〉という制度とジェンダー
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回授業範囲のテキストを読み、用語を調べておいて下さい。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】

小テストや試験に備えてプリント・ノートを見直して下さい。
また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

太宰治：ヴィヨンの妻[新潮文庫、2009、¥400(税抜)、※絶版のため、古書店で手に入れるか、実践女子大学図書館でコピーをとってください。]

太宰治：走れメロス[新潮文庫、2005、¥400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシートの記入、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

飯田祐子『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』（名古屋大学出版会、1998年）

笠間千浪編『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

マイク・モラスキー著、鈴木直子訳『新版 占領の記憶 記憶の占領——戦後沖縄・日本とアメリカ』（岩波書店（岩波現代文庫）、2018年）

近代現代文学研究 h

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

後期の授業では、太宰治の短篇・中篇小説を検討します。その際、歴史的背景を踏まえつつ映像資料等も用いて、文学とジェンダーの関わりを多角的に学びます。時折ディスカッションやグループワークも取り入れながら、皆さんと文学作品が描き出す〈イメージ〉の意味を考えてみたいと思います。

【授業における到達目標】

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批評的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・1945年前後の文学作品が描かれた背景を理解し、それがどのように受容されたのかを理解することで、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料
- 第3週 太宰治について（代表作紹介）
- 第4週 「ヴィヨンの妻」1（作品紹介）
- 第5週 「ヴィヨンの妻」2（同時代評・先行研究）
- 第6週 「ヴィヨンの妻」3（分析・読解）
- 第7週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」1（歴史的背景）
- 第8週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」2（分析）
- 第9週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」3（意見交換）
- 第10週 〈男同士の絆〉と文学
- 第11週 太宰治「走れメロス」1（作品紹介）
- 第12週 太宰治「走れメロス」2（同時代評・先行研究）
- 第13週 太宰治「走れメロス」3（分析・読解）
- 第14週 〈文学〉という制度とジェンダー
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回授業範囲のテキストを読み、用語を調べておいて下さい。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】

小テストや試験に備えてプリント・ノートを見直して下さい。
また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

太宰治：『ヴィヨンの妻』新潮文庫、2009、¥400(税抜)

太宰治：走れメロス[新潮文庫、2005、¥432(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシートの記入、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

【参考書】

飯田祐子『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』（名古屋大学出版会、1998年）

笠間千浪編『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

マイク・モラスキー著、鈴木直子訳『新版 占領の記憶 記憶の占領——戦後沖縄・日本とアメリカ』（岩波書店（岩波現代文庫）、2018年）

近代読者論

中野 綾子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちがいま何気なく行っている〈読書〉という行為には、歴史的な変化がたくさんありました。では、いったい〈読者〉とは、どのような存在なのでしょう。この授業では、歴史的な存在としての〈読者〉のことを「近代読者」とし考察を深めていきます。具体的には、明治期から昭和にかけて、近代読者が成立し、そこからどのような変遷を辿ってきたのか、具体的な事例を通して考えていきます。当たり前だと思っていることを疑い、さまざまな〈読者〉の姿について考えてみましょう。

【授業における到達目標】

- ・読書文化について、空間的・歴史的に考察をおこなう態度を身につける。（国際的視野）
- ・必要な文献資料を探しだし、幅広い視点から、出版文化について考察することができるようになる。（研鑽力）

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：授業の進め方の説明
- 第2週 〈読者〉について考える
- 第3週 どの場所で読むか
- 第4週 男性の雑誌① 読者層
- 第5週 男性の雑誌② 記事内容
- 第6週 女性の雑誌① 読者層
- 第7週 女性の雑誌② 記事内容
- 第8週 児童の雑誌① 読者層
- 第9週 児童の雑誌② 記事内容
- 第10週 戦時下の雑誌① 読者層
- 第11週 戦時下の雑誌② 記事内容(1)
- 第12週 戦時下の雑誌③ 記事内容(2)
- 第13週 読者の諸相① メディアとしての教科書
- 第14週 読者の諸相② メディアとしての教科書
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容の復習をおこなうこと。指定文献を読み、感想や疑問点を明らかにしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内周の復習をおこなうこと。学んだことや疑問に思った点をまとめること。レポートのための準備をすすめること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50% 平常点（コメントシート）50%で総合評価を出します。コメントシートは毎回授業の最後に関き、書いた内容は授業冒頭にて紹介します。

【参考書】

前田愛『近代読者の成立』（岩波現代文庫）

そのほか、授業中に紹介します。

【注意事項】

授業内では、個人やグループで考えてもらい、発言やコメント記入をすることになります。積極的な授業への参加を求めます。

近代文学基礎講読 a

—cdクラス 樋口一葉の日記と小説—

河野 龍也

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

貧困と病苦のなか、20代半ばで亡くなる樋口一葉は、最晩年の一年間に「にぎりえ」「たけくらべ」をはじめとする近代文学の傑作を数多く残します。身に着けた和歌の教養があだとなり、はじめは王朝物語の模倣作しか書けなかった一葉が、いったん創作を離れ、再び筆を執ったときには、明治の家庭生活を題材とした現代小説に驚くべき才能を示したのです。この成長のかけには一体何があったのでしょうか。

それを知る鍵として、10代半ばから一葉が書き継いできた日記の存在が知られています。この授業では、一葉の作品を読み解くとともに、彼女の優れた日記も読み進めていきます。小説の師・半井桃水への淡い恋心や、それが同僚の噂の種にされてしまった苦痛、そしてみじめな境遇の女性に対する思いやりや文学への熱意など、日記に現れた一人の女性の生き方は、同年代の皆さんにも共感が持てるものでしょう。一葉の言葉を丹念に追いながら、近代という時代に女性がどう向き合ったのかを考えていきます。

【授業における到達目標】

- ・明治期の文語文のリズムに親しみ、理解できるようになる（美の探究）。
- ・歴史研究の基本文献を使って時代考証ができるようになる（行動力）。
- ・学生どうしの議論を通じて、明治の社会に生きる女性の生活について考察を深めることができる（協働力）。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・樋口一葉の生涯について
- 第2週 映像鑑賞（「にぎりえ」）
- 第3週 樋口一葉「にぎりえ」解説①
- 第4週 樋口一葉「にぎりえ」解説②
- 第5週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行①
- 第6週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行②
- 第7週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行③
- 第8週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流①
- 第9週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流②
- 第10週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流③
- 第11週 「一葉日記」読解—吉原裏の雑貨店
- 第12週 樋口一葉「たけくらべ」解説①
- 第13週 樋口一葉「たけくらべ」解説②
- 第14週 樋口一葉「たけくらべ」解説③
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：原文（または現代語訳）の読解

事後学修（週2時間）：古語表現の調査・再確認

【テキスト・教材】

毎回プリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（コメントカードの提出・受講態度）とレポート40%で総合評価します。カードの内容を紹介し、討論や考察のきっかけとします。

【参考書】

樋口一葉『にぎりえ』現代語訳（河出文庫 2004年）、同『たけくらべ』現代語訳（同）、菅聡子編『樋口一葉小説集』（ちくま文庫 2005年）、関礼子編『樋口一葉日記・書簡集』（同）、佐伯順子編『一葉語録』（岩波現代文庫 2004年）。

近代文学基礎講読 a

—efクラス基礎的な訓練として近代の短編小説や随筆を読みま—

土屋 聡

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文学作品はことばで構成されています。たとえば「学校」と聞いて理解することは共通であっても、具体的に何をイメージするかは聞き手それぞれに異なります。それは聞き手自身の学校での体験や記憶の世界に支えられているためです。同様に、作品の中に表現されていることばも、一見明瞭なようで、実はその作品世界とその時代の文化とに複雑に支えられています。

この授業では、単なる概念に単純化されること無く構成された作品の世界をひろく読み取るための方法と力とを、みなさんそれぞれが身につけることを目的とします。それはまた、自分と異なる視点や感覚を持つ他者を発見することであり、ひいてはみなさん自身の世界観や個性を発見し、視野を広げてゆくことにもつながってゆくことと思います。

作品を精読し、そこで読み取りうる解釈をいくつか示しつつ授業は進行します。みなさんの事前の読みや理解と何が同じで何が異なるのか、その分岐点はどこなのか。それらに注意し、メモを行うようにしましょう。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、これはまた、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

【授業における到達目標】

- 学生が修得するべき能力のうち、特に作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。
- ・日本の近現代にあらわれたさまざまな文体をあげ、理解することができる。
- ・いわゆる旧漢字旧仮名遣いに慣れ、読みこなすことができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、的確に表現することができる。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 樋口一葉 「大つごもり」（1） 文語の小説
- 第3週 樋口一葉 「大つごもり」（2） 心理の描写
- 第4週 樋口一葉 「大つごもり」（3） 疎外されるもの
- 第5週 樋口一葉 「大つごもり」（4） 結末
- 第6週 近代詩歌と小説の成り立ちを大まかに知る （1）
- 第7週 近代詩歌と小説の成り立ちを大まかに知る （2）
- 第8週 泉鏡花 「外科室」（1） 冒頭を読み解く
- 第9週 泉鏡花 「外科室」（2） 二人の死
- 第10週 泉鏡花 「外科室」（3） かしこきところへの配慮
- 第11週 谷崎潤一郎 「秘密」（1） 外部へのあこがれ
- 第12週 谷崎潤一郎 「秘密」（2） 雑踏のなか
- 第13週 谷崎潤一郎 「秘密」（3） かけひき
- 第14週 谷崎潤一郎 「秘密」（4） 秘密とは
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週二時間）

作品の授業範囲で扱う箇所必ず目を通してください。その際、意味の判らない語句を調べ、読み取った内容を簡単にメモしましょう。

事後学修（学修時間 週二時間）

もう一度読み進めた箇所を精読しなおします。授業中にとったメモを元に、作品の筋道と読みのポイントをノートにまとめてください。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート（70%）、ペーパー（30%）で評価します。
ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィードバックを行います。

【参考書】

特にありません。

【注意事項】

配布されたプリントに従って、授業開始前までに作品を必ず読んでください。
また、授業中の私語は厳禁とします。

近代文学基礎講読 a

—abクラス 戦前・戦時中の宮本百合子—

ブルナ、ルカーシュ

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

大正期の文学を考える時、1916（大正5）年は極めて重要な意味を持つ一年となります。文豪夏目漱石が病没したのはこの年の暮れであり、森鷗外の『渋江抽斎』や永井荷風の『腕くらべ』、大正時代が生み出した〈労働文学〉の代表作とされる宮嶋資夫の『坑夫』などが発表されたのもこの年です。17歳の中条（宮本）百合子が「貧しき人々の群れ」という小説を発表し、江湖の喝采を博したのも矢張り1916年のことです。

裕福な家庭（父は建築家中條精一郎）に生まれ育った百合子は、幼児のころから西洋の文化や芸術に触れる機会に恵まれ、豊かな感性を養う教育を受けました。しかし、それと同時に、百合子は鋭い観察眼を持ち合わせる人であり、激しく変わる日本社会を見つめながら、弱者を擁護し、強者の横暴を糾弾する作品を書き続けました。自伝的な長編小説『伸子』（1924年）は百合子の代表作とされていますが、この授業では、初期の作品と開戦を前後に書かれた作品に注目します。同じ作家の作品を読みながら、モチーフや文体、表現などの構成要素およびその変化、または作品の執筆過程や同時代の評価について学びます。このような作業を通じて、文学研究の基礎的な知識を得るのみならず、文学作品というものはつねに複数の側面を有し、眺める角度を変えると作品の読み方も変わるということを学び取ることができるでしょう。

【授業における到達目標】

文学史や文学研究に関する基礎的な知識を習得する（美の探究）。
文学作品を丹念に読み解き、自分なりの解釈を導き出す能力が身につく（行動力）。

【授業の内容】

- ① ガイダンス
- ② 近代の女性文学
- ③ 宮本百合子とは誰ぞ（作家の紹介）
- ④ 柵宜様宮田（1917） I
- ⑤ 柵宜様宮田（1917） II
- ⑥ 柵宜様宮田（1917） III
- ⑦ 映画鑑賞
- ⑧ 心の河（1924） I
- ⑨ 心の河（1924） II
- ⑩ 杉垣（1939） I
- ⑪ 杉垣（1939） II
- ⑫ 三月の第四日曜（1940） I
- ⑬ 三月の第四日曜（1940） II
- ⑭ 三月の第四日曜（1940） III
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】作品を事前に読み、問題点について考えること。（週2時間）
【事後学修】授業内容を咀嚼し、問題点を整理する。不明な点があれば、質問を用意する。（週2時間）

【テキスト・教材】

渋谷キャンパスの図書館にある『宮本百合子全集』から該当作品のコピーをとるか、青空文庫より作品のテキストをダウンロードしてください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業参加、コメントペーパー）と小論文40%を評価基準とします。コメントペーパーの内容は翌週の授業で紹介します。レポートのフィードバックは最終回の授業で行います。

【参考書】

『宮本百合子全集』（新日本出版社）、『宮本百合子の時空』（翰林書房）。

【注意事項】

授業を5回以上欠席したら自動的に失格となります。

近代文学基礎講読 b

—efクラス基礎的訓練として小説や随筆、詩歌作品を読みます—

土屋 聡

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

初回は前期で学んだ内容を踏まえて簡単にガイダンスを行ったうえで、引き続き作品を読みすすめます。

また、可能であれば講読で取り上げた作品について書かれた研究論文もとりあげ、作品の精読から研究につなげるプロセスを理解します。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いています。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき能力のうち、特に作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・日本の近現代にあらわれたさまざまな文体をあげ、理解することができる。
- ・いわゆる旧漢字旧仮名遣いに慣れ、読みこなすことができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、的確に表現することができる。

【授業の内容】

- 第1週 吉井勇 「夏のおもひで」 (1) 近代の短歌の世界
- 第2週 吉井勇 「夏のおもひで」 (2) 恋の行方
- 第3週 志賀直哉 「范の犯罪」 (1) 事件の発生
- 第4週 志賀直哉 「范の犯罪」 (2) 夫婦という他人
- 第5週 志賀直哉 「范の犯罪」 (3) 犯罪という制度
- 第6週 志賀直哉 「范の犯罪」 (4) 投げかけられた問い
- 第8週 芥川龍之介 「藪の中」 (1) 事の発端
- 第9週 芥川龍之介 「藪の中」 (2) 秘すべきこと
- 第10週 芥川龍之介 「藪の中」 (3) 語るということ
- 第11週 映像資料等を利用し作品への理解を深める
- 第12週 横光利一 「蠅」 (1) 視点の変化
- 第13週 横光利一 「蠅」 (2) 新感覚とは
- 第14週 出版社のPR誌を読む 再考の大切さ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 (学修時間 週二時間)

作品の授業範囲で扱う箇所必ず目を通してください。その際、意味の判らない語句を調べ、読み取った内容を簡単にメモしましょう。

事後学修 (学修時間 週二時間)

もう一度読み進めた箇所を精読しなおします。授業中にとったメモを元に、作品の筋道と読みのポイントをノートにまとめてください。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート (70%)、ペーパー (30%) で評価します。

ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィードバックを行います。

【参考書】

特にありません。

【注意事項】

配布されたプリントに従って、授業開始前までに作品を必ず読んでください。

また、授業中の私語は厳禁とします。

近代文学基礎講読 b

—cdクラス 現代文学への道筋—

奴田原 諭

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

21世紀を迎えた現代に於いても日々、新たな文学作品は生み出されています。こういった、我々の人生と同時進行的に迎えられる作品は〈現代文学〉とも呼ばれます。この〈現代文学〉、それは突然生み出されたものではありません。過去の文学作品をどこかしら引きずりつつ、逆にまったく断絶した形で成立しているものもあるでしょう。戦前から始まり現代へと、そこには何かしらの明確な道筋を見出すことが出来るのかどうか、それを具体的な作品を取り上げつつ検証してみたいと思います。

【授業における到達目標】

現代に至るまでの過程としての文学史を理解し、現代に於ける文学を取り巻く問題に関して積極的に考える力を身に付けることで「学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける」力を得る。その過程で「物事の真理を探究することによって、新たな知を想像しようとする態度」を身に付ける。

【授業の内容】

- 1 〈文学する〉ということ
- 2 戦前の文学
- 3 戦中・戦後の文学
- 4 津島修治と太宰治
- 5 太宰治「人間失格」(1948)
- 6 実存主義と安部公房
- 7 安部公房「砂の女」(1962)
- 8 キリスト教と遠藤周作
- 9 遠藤周作「沈黙」(1966)
- 10 並行世界という表現
- 11 村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」(1985)
- 12 森見登美彦「四畳半神話大系」(2005)
- 13 " 「新釈 走れメロス」(2007)
- 14 宮部みゆき「とり残されて」(1992)
- 15 まとめ—現代文学の行方

【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品について調べ、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。(学修時間 週二時間) 【事後学修】担当者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察する。(学修時間 週二時間)

【テキスト・教材】

担当者作成のプリントを授業時に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末提出の小論文70%、意見表明という形での参加態度30%で評価します。後者の意見表明は毎回提出してもらったコメントカード(またはコンピュータを介したフォーム)によって実現しますが、翌週にはいくつかのコメントをピックアップし、皆で共有できるように、担当者による見解を述べます。

【参考書】

特になし

【注意事項】

研究とは自分の中だけで完結してしまうものではありません。深く考えると同時に、いかにして伝えるかということを考えて下さい。また、講義にて扱われる作品はもちろんのこと、映画・ドラマ・テレビ番組・漫画作品、あらゆる事に積極的な興味を持って下さい。

近代文学基礎講読 b

—abクラス 林芙美子『放浪記』と1920年代の都市文化—

ブルナ、ルカーシュ

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

前期の授業で取り上げた女性作家宮本百合子と異なり、林芙美子は決して経済的に恵まれた家庭に生まれ育ったものではなく、学校教育もほとんど受けていません。それにも関わらず、文壇デビューを果たした昭和初期から戦後に至るまで、芙美子は旺盛な執筆活動をつづけ、大勢の読者に親しまれる小説を数多く残しました。行商を稼業とした母と義父とともに北九州の各地を転々と歩き歩いて育った芙美子は1922年に単独で上京しましたが、東京でも同じところに長く止まらず、次々と職を変えながら移動しつづけました。激しく脈打つ関東大震災後の東京と息を合わせて忙しい放浪生活を送った芙美子は、日々の出来事や感想を日記に書きとめることにしていました。この記録をもとにして書かれたのは、芙美子の出世作となる『放浪記』でした。後期の授業では、『放浪記』（改造社版）を読みながら、感性豊かな女性が渦巻く大都会の文化と生活をどのように受け止めたのか、また、その刺激をどのような言葉を使って書き表したのかについて学びます。

【授業における到達目標】

文学史や文学研究に関する基礎的な知識を得る（美の探究）。
文学作品を丹念に読み解き、自分なりの解釈を導き出す能力が身につく（行動力）。

【授業の内容】

- ① ガイダンス
- ② 林芙美子とは誰ぞ
- ③ 近代の放浪文学
- ④ 林芙美子「放浪記」読解 I
- ⑤ 林芙美子「放浪記」読解 II
- ⑥ 林芙美子「放浪記」読解 III
- ⑦ 林芙美子「放浪記」読解 IV
- ⑧ 林芙美子「放浪記」読解 V
- ⑨ 映画鑑賞
- ⑩ 林芙美子「放浪記」読解 VI
- ⑪ 林芙美子「放浪記」読解 VII
- ⑫ 林芙美子「放浪記」読解 VIII
- ⑬ 林芙美子「放浪記」読解 IX
- ⑭ 林芙美子「放浪記」読解 X
- ⑮ まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

作品を事前に読み、問題点について考えること。（週2時間）

【事後学修】

授業内容を咀嚼し、問題点を整理する。不明な点があれば、質問を用意する。（週2時間）

【テキスト・教材】

林芙美子：放浪記（名著復刻全集）[日本近代文学館刊、1969]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業参加、コメントペーパー）と小論文40%を評価基準とします。コメントペーパーの内容は授業で紹介します。レポートのフィードバックは最終回の授業で行います。

【参考書】

『林芙美子全集』（文泉堂出版）。

【注意事項】

授業を5回以上欠席したら自動的に失格となります。

近代文学研究A

近代文学、草稿をよむ

棚田 輝嘉

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

樋口一葉の日記（自筆）を翻刻するという作業を通して、その背後にある心の動き・身体の記録、さらに、日記成立の過程について検討する。

【授業における到達目標】

文学作品の生成過程について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

【授業の内容】

- 第1週 本研究の進め方と手順
- 第2週 草稿とはなにか
- 第3週 生成論の基礎
- 第4週 「若葉かげ」翻刻 表紙～二オ
- 第5週 「若葉かげ」翻刻 二ウ～五オ
- 第6週 「若葉かげ」翻刻 五ウ～七ウ
- 第7週 「若葉かげ」翻刻 八オ～十ウ
- 第8週 「若葉かげ」 十一オ以降の日記記述をながめてみる
- 第9週 「若葉かげ」全体の構造について確認する
- 第10週 「若葉かげ」十一オ以降の重要部分を翻刻する
- 第11週 「わか艸」翻刻 表紙～二オ
- 第12週 「わか艸」翻刻 二ウ～五オ
- 第13週 「若葉かげ」翻刻 五ウ～七ウ
- 第14週 「若葉かげ」全体の構造について確認する
- 第15週 翻刻に関わる諸問題のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

【テキスト・教材】

こちらで用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

積極的に参加すること。

近代文学研究B

近代文学、草稿を読む

棚田 輝嘉

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

樋口一葉の日記（自筆）を翻刻するという作業を通して、その背後にある心の動き・身体の記録、さらに、日記成立の過程について検討する。

【授業における到達目標】

文学作品の生成過程について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と手順
- 第2週 「蓬生日記一」まず全体を眺める
- 第3週 「蓬生日記一」翻刻 見返～二オ
- 第4週 「蓬生日記一」翻刻 二ウ～四オ
- 第5週 「蓬生日記一」翻刻 四ウ～六オ
- 第6週 「蓬生日記一」翻刻 六ウ～八オ
- 第7週 「蓬生日記一」黒点の意味
- 第8週 「につ記一」全体の構造
- 第9週 「につ記一」翻刻 一オ～三オ
- 第10週 「につ記一」翻刻 三ウ～五オ
- 第11週 「につ記一」翻刻 五ウ～七オ
- 第12週 「につ記一」七ウ以降をざっと眺める
- 第13週 「につ記一」「」の意味
- 第14週 「雪の日」を読む
- 第15週 人の体を読むということ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

【テキスト・教材】

こちらで用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

積極的に参加すること。

金融論

鈴木 深

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

我々の生活において重要な役割を担っている金融について、主に銀行や証券会社などが社会においてどのような働きをしているのか確認することにより、金融の仕組みを理解していくとともに、金融に関わる基礎的な内容を身につけることを目標としています。

【授業における到達目標】

金融に関する基礎的な事項を学習することにより、今後の社会・経済の動きについて自発的に知識・情報を得て学ぶ力【研鑽力】の修得を目指します。そしてそれらを踏まえて、自らの将来設計に基づく金融資産の形成に必要とされる、諸問題を解決するために主体的に行動する力【行動力】を養います。

【授業の内容】

- 第1週 金融とは
- 第2週 金融リテラシーと社会とのかかわり
(外部講師による将来の資産形成に関する講義)
- 第3週 金融業務
- 第4週 金融機関(銀行・証券)
- 第5週 金融市場と金利
- 第6週 デリバティブと証券化
- 第7週 企業金融と消費者金融
- 第8週 資金循環・決済システム
- 第9週 金融政策
- 第10週 プルーデンス政策
- 第11週 金融制度の改革
- 第12週 外国為替
- 第13週 国際金融
- 第14週 証券投資の基礎(株式模擬売買を体験)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修として、テキストの該当箇所を講義前に通読し、疑問点あるいは理解が難しい点などを確認してください。(学修時間 週2時間)

事後学修として、受講後に当初の疑問点あるいは理解が難しい点などが解消されたかを確認しながら、再度テキストの該当箇所を通読して理解を深めてください。また、毎回講義中に小テストを行います。正解できない場合は、出題内容が理解できるまで、テキストを復習してください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

島村高嘉／中島真志：金融読本(第30版)[東洋経済新報社、2017、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験(50%)、提出課題(30%)、平常点(授業への積極的参加・小テスト)(20%)に基づいて評価します。

小テストについては、毎回次の授業でフィードバックを行います。

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

経営学概論

篠崎 香織

1年 前期・後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

経営学の対象である企業について、その仕組みと活動について理解することを通して経営学の基礎を学習していきます。並行して、企業が生き残りをかけて選択するオプションや(例えば、M&A等)やよりよく生きるための働きかたについての企業の取り組みも取り上げていきます。

【授業における到達目標】

経営学の基礎概念の習得と会社についての仕組みの理解を目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営学とは?(企業・会社の概念、企業を取り巻く環境、存続・成長をかけて)
- 第3週 企業の諸形態①(経済形態を中心に)
- 第4週 企業の諸形態②(法律形態を中心に)
- 第5週 企業の諸形態③(株式会社について)
- 第6週 コーポレートガバナンス①(概念と発展プロセスについて)
- 第7週 コーポレートガバナンス②(仕組みについて)
- 第8週 老舗企業の観察・分析
- 第9週 ビジネスモデルについて考えよう①(基本的フレームワークの学習)
- 第10週 ビジネスモデルについて考えよう②(任意の企業を対象にした分析)
- 第11週 経営理論①(テイラーの科学的管理法を中心に)
- 第12週 経営理論②(フォードの大量生産を中心に)
- 第13週 経営理論③(メイヨアのホーソン実験を中心に)
- 第14週 「働く」について考える(ワークライフバランスに向けた取り組み)
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてみてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

特にありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、授業中に提示する課題(20%)と期末試験(80%)で決定します。

課題のフィードバックは基本的に教場で行い、場合によってはmanabaも使うことがあります。課題や試験問題に対する解説を行います。

【参考書】

井原久光『テキスト経営学 第3版』(ミネルヴァ書房、2008年)3456円(税込)

佐々木 圭吾『みんなの経営学 使える実戦教養講座』(日経ビジネス人文庫、2016年)972円(税込)

経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト1』(中央経済社、2018年)2808円(税込)

【注意事項】

教場にて提示する課題に積極的に取り組んでください。

経営学概論

篠崎 香織

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

経営学の対象である企業について、その仕組みと活動について理解することを通して経営学の基礎を学習していきます。並行して、企業が生き残りをかけて選択するオプションや（例えば、M&A等）やよりよく生きるための働きかたについての企業の取り組みも取り上げていきます。

【授業における到達目標】

経営学の基礎概念の習得と会社についての仕組みの理解を目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営学とは？（企業・会社の概念、企業を取り巻く環境、存続・成長をかけて）
- 第3週 企業の諸形態①（経済形態を中心に）
- 第4週 企業の諸形態②（法律形態を中心に）
- 第5週 企業の諸形態③（株式会社について）
- 第6週 コーポレートガバナンス①（概念と発展プロセスについて）
- 第7週 コーポレートガバナンス②（仕組みについて）
- 第8週 老舗企業の観察・分析
- 第9週 ビジネスモデルについて考えよう①（基本的フレームワークの学習）
- 第10週 ビジネスモデルについて考えよう②（任意の企業を対象にした分析）
- 第11週 経営理論①（テイラーの科学的管理法を中心に）
- 第12週 経営理論②（フォードの大量生産を中心に）
- 第13週 経営理論③（メイヨーのホーソン実験を中心に）
- 第14週 「働く」について考える（ワークライフバランスに向けた取り組み）
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてみてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次回の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

特にありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、授業中に提示する課題（20%）と期末試験（80%）で決定します。

課題のフィードバックは基本的に教場で行い、場合によってmanabaも使うことがあります。課題や試験問題に対する解説を行います。

【参考書】

- 井原久光『テキスト経営学 第3版』（ミネルヴァ書房、2008年）3456円（税込）
- 佐々木 圭吾『みんなの経営学 使える実戦教養講座』（日経ビジネス人文庫、2016年）972円（税込）
- 経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト1』（中央経済社、2018年）2808円（税込）

【注意事項】

教場にて提示する課題に積極的に取り組んでください。

経営管理論

篠崎 香織

3年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

経営管理の行われる場と対象は組織そのものであり、経営管理の理論と実践には組織論の知識が不可欠となります。そこで、本講義では、経営管理を組織論との関連から捉え学習することを通して、「組織の有している資源を状況のニーズに適応させながら、いかにして組織の目標を達成するか」について考えていきます。

【授業における到達目標】

様々な理論を修得し、経営管理の現象を理論的に捉える力を養うことを目標とします。アルバイト、ゼミ、サークル等の活動を通じた現状の正しい把握、課題の発見、および解決につながる方法を提示ができる力を修養していきます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営管理について
- 第3週 大規模組織のマネジメントと官僚制
- 第4週 職能別組織と事業部制組織
- 第5週 組織のかたちが変わるとき
- 第6週 組織と戦略の関係
- 第7週 戦略の策定（SWOT分析）
- 第8週 資源配分について①（PLCと経験効果）
- 第9週 資源配分について②（PPM）
- 第10週 科学的管理法からホーソン工場実験にみる動機づけ
- 第11週 欲求階層説とERGモデル
- 第12週 X理論・Y理論
- 第13週 トップとミドルのリーダーシップ
- 第14週 コンフリクトのマネジメント
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次回の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

特に指定はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%と授業への積極的関与（発言、グループワークでの活動、課題の提出）40%で評価します。

教場にて課題のフィードバックを行い、試験終了後は問題の解説を行います。場合によってmanabaを使うことがあります。

【参考書】

- 野中郁次郎『経営管理』（日本経済新聞社、1980年）929円（税込）
- 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』（日本経済新聞出版社、2011年）3672円（税込）
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』（有斐閣アルマ、2010年）2268円（税込）

【注意事項】

- ・active科目であることから、グループワークを実施することがあります。馴染みのない履修学生と協働することになります。積極的に行動し、他者の考えを聞く機会にしてください。
- ・「経営組織論」、「企業戦略論」など経営系統の科目を履修していることが望ましいです。
- ・ゲストスピーカーに来ていただく場合があります。
- ・履修登録者が多い場合は抽選になります。

経営戦略特論

篠崎 香織

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

企業がとる戦略の中でも競争戦略について、基本構造、企業間関係を決定する要因、競争戦略を分析する際の枠組みを学習する。また、企業の戦略策定と実行を取り上げた多様なケースをもとに、各ケースにおいて鍵となった要因が何かを明らかにする。

【授業における到達目標】

経営戦略に関する基礎的な概念や理論の学習および、ケースを用いた業界分析を行うことを通して、経営の現場の問題に対して、どのような概念や理論で説明できるか、あるいは分析できるか等の応用力を養成することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 競争戦略の基本ロジック（1）～必要性と代替性
- 第3回 競争戦略の基本ロジック（2）～バリュー・チェーン
- 第4回 パワー関係の決定要因（1）～様々な参入障壁
- 第5回 パワー関係の決定要因（2）～製品差別化、スイッチング・コスト等
- 第6回 競争戦略の分析枠組み（1）～ファイブ・フォース・モデル
- 第7回 競争戦略の分析枠組み（2）～バリュー・ネット
- 第8回 競争戦略の分析枠組み（3）～リソース・ベースト・ビュー
- 第9回 競争戦略の分析枠組みのまとめ ～6プレイヤーズ・モデル
- 第10回 業界構造分析（1）～参入障壁に注目したケース
- 第11回 業界構造分析（2）～差別化に注目したケース
- 第12回 業界構造分析（3）～ネットワーク外部性に注目したケース
- 第13回 業界構造分析（4）～協調関係に注目したケース
- 第14回 業界構造分析（5）～補完財に注目したケース
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業中に指定した文献や資料を読み、その内容を理解しておくこと。また、内容に対する自分の考えを用意しておくこと（レジュメの準備）。

事後学修：授業の内容について理解できているか復習しておくとともに、関連の文献を探して読んでおくこと。

※事前学修時間はおよそ週2時間程度、事後学修時間はおよそ週4～5時間程度

【テキスト・教材】

加藤俊彦：競争戦略[日本経済新聞社、2014、¥860(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への貢献度（発言など積極的な参加）50%と課題50%で評価する。

フィードバックは、授業内にコメントやディスカッション等の形式で行う。授業内にできない場合は、主にメールやmanabaを介して行う。

【参考書】

ジェイB・バーニー（2002）著作第2版の翻訳書（岡田正大訳『企業戦略論 上・中・下』ダイヤモンド社、2003）各2400円+税

一橋ビジネスレビュー編集部編（2003）『ビジネス・ケースブック No.1からNo.3』東洋経済 各2000円+税

【注意事項】

学部の経営学関連（経営学概論か経営学入門、経営組織論、経営戦略論、経営管理論、企業論等）の科目を履修済み、もしくは相応の知識を持っていること。

英文テキストを使用する場合がある。

経営組織論

篠崎 香織

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

自らが所属する組織や身の回りの組織について、その仕組みや原理を考え把握するとともに、組織論における基本的な理論を学ぶことを通して組織をみる（分析する）眼を養います。

【授業における到達目標】

様々な人が集まって構成される組織が機能し、維持されるための要件を理解することを目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 身の回りの組織
- 第3回 組織のちから
- 第4回 組織の目的、参加者の満足
- 第5回 組織の共通点
- 第6回 組織の中のコミュニケーション
- 第7回 組織が大きくなる時
- 第8回 公式組織がうまれる時
- 第9回 企業のケース：新製品は階層を超えたコミュニケーションから生まれる！
- 第10回 分業と専門化
- 第11回 人はなぜ働くのか？
- 第12回 人はなぜ命令に従うのか？
- 第13回 組織における意思決定
- 第14回 いい仕事をするために
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてきてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

【テキスト・教材】

特にありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

基本は試験100%（発言、課題への取り組みなど積極的な授業参加はプラスに評価していきます）

フィードバックは、基本的に教場でを行い、場合によってmanabaも使うことがあります。試験問題の解説を行います。

【参考書】

- 高橋伸夫『コア・テキスト経営学入門』（新世社、2007年）2484円（税込）
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』（有斐閣アルマ、2010年）2268円（税込）
- 高橋伸夫『組織力』（ちくま新書、2010年）799円（税込）
- ジェームズ・G・マーチとハーバート・A・サイモンの著作第2版の翻訳書（高橋伸夫訳『オーガニゼーションズ』ダイヤモンド社、2014年）3456円（税込）

【注意事項】

「経営管理論」や「企業戦略論」など経営系の科目を系統的に履修する意思のある者の履修が望ましいです。

経営分析論

石井 宏宗

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

経営分析の目的は、財務諸表を資料として企業経営の状況を把握することである。財務諸表のうちで主要なものは貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書である。この授業では、これらの財務資料を活用して企業の経営を分析する。

【授業における到達目標】

この授業を通じて、受講生に財務諸表を用いて企業の経営状況を分析する力を身につけてもらうこと。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）の育成

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 財務諸表の理解①貸借対照表・損益計算書
- 第3週 財務諸表の理解② キャッシュ・フロー計算書
- 第4週 財務諸表の理解③ 株主資本等変動計算書
- 第5週 収益性の分析① 資本利益率
- 第6週 収益性の分析② 売上高利益率
- 第7週 収益性の分析③ 資本回転率
- 第8週 安全性の分析① ストック指標
- 第9週 安全性の分析② キャッシュ・フロー分析
- 第10週 安全性の分析③ その他の指標
- 第11週 生産性の分析 / 成長性の分析
- 第12週 事業分析 / 注記分析
- 第13週 グループ・プレゼンテーション①
- 第14週 グループ・プレゼンテーション②
- 第15週 グループ・プレゼンテーション③

【事前・事後学修】

事前学修：プレゼンテーション・レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間週3時間）

事後学修：次の課題発表の準備。（学修時間週3時間）

【テキスト・教材】

授業の第1回目で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、授業への取り組み（授業中のプレゼンテーション・ディスカッション・課題等）60%で評価する。

課題に対して、毎回コメントやフィードバックする。

【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

【注意事項】

- 簿記論（Ⅰ、Ⅱ）、会計学総論、原価計算論を履修済みであること。
- この授業は演習形式（参加型の授業方法）を採用するため、1クラス30名を上限とする。30名を超える場合は抽選することもある。

経済学 b

ミクロ経済学

畑農 鋭矢

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

家計や企業などの個別主体がどのように経済的な意思決定を行うのかについて、ならびに経済的取引を行う場である市場の役割と限界について講義する。

【授業における到達目標】

家計や企業といった経済主体の行動メカニズムを理解するために、ミクロ経済学の基礎理論を習得することを目標とする。具体的な到達目標は、現実社会を経済学的な視点で考えられるようになることである。

【授業の内容】

- 第1回 経済学とは？
- 第2回 ミクロ経済学とは？
- 第3回 インセンティブ
- 第4回 取引の利益（比較優位）
- 第5回 需要と供給
- 第6回 政府介入
- 第7回 需要・供給曲線と弾力性
- 第8回 需要・供給分析の応用
- 第9回 余剰分析
- 第10回 意思決定
- 第11回 意思決定と需要・供給曲線
- 第12回 消費者行動
- 第13回 生産者行動
- 第14回 市場の役割
- 第15回 市場の失敗

【事前・事後学修】

【事前】HPにアップするスライドを入手し、内容を確認すること。指定の資料を読むこと。毎週2時間。

【事後】授業内で紹介した動画や資料を閲覧し、授業内容を復習すること。毎週2時間。

【テキスト・教材】

HP上のスライド

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験60%
- 授業内確認テスト20%
- リアクションペーパー20%

確認テストについては授業内で解説を行う。

リアクションペーパー等については、回答の集計結果を授業の題材とする場合がある。

【参考書】

- J・E・スティグリッツ／C.E.ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』（東洋経済新報社 2012年）
- N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学（第2版）』（東洋経済新報社 2014年）
- 伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版）』（日本評論社 2015年）
- 神戸伸輔ほか『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣 2006年）
- ポール・クルーグマン／ロビン・ウェルス『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』（東洋経済新報社 2017年）

経済学概論

高橋 意智郎

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、我々の経済社会は、1国の企業、政府、家計（あるいは個人）が相互に経済的に関係し合うのみならず、国と国どうしも経済的に関係し合うことで形成されている。本講義では経済学の基礎について学び、日本及び世界経済、企業行動及び消費者行動、さらには個人の日常生活の問題に至るまで経済学の理論や考え方を用いて理解できることを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考える。

【授業における到達目標】

2年次以降の経済関連科目を学習する上での基礎力を身につけることができる。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. 経済学とはどのような学問か
2. 経済学の基本概念
3. 経済システム
4. 高校数学の復習：指数を伴う関数
5. 高校数学の復習：微分
6. 消費者の行動と需要
7. 需要曲線とその変化
8. 生産者の行動と供給
9. 価格決定のメカニズム
10. これまでの復習
11. 不完全競争市場
12. 日本経済と経済指標
13. 国際経済と国際企業
14. 経済トピック
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。

授業時に資料・プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（70%）、課題（15%）、平常点（授業への積極的参加）（15%）を総合して決定する。課題のフィードバックとして、課題の問題と授業回の対応について説明する。

【参考書】

毎回の講義のときに資料・プリントを配布するが、以下の文献を参考書として指定する。

江良亮・森脇祥太編著『きっちり学ぶ経済学入門』（日本評論社、2011年）。

嶋村紘輝・横山将義著『図解雑学・ミクロ経済学』（ナツメ社、2003年）。

経済学概論

角本 伸晃

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

日本を初めとして今日ほとんどの国は、市場経済を採用している。この市場を通じてわれわれ一人一人は、消費者として企業や政府、さらに外国と結びついており、相互に経済的に影響を及ぼし合っている。そのため、一国全体の経済的なメカニズム（マクロ経済学）の基礎を学び、次いで個々の消費者や企業の行動メカニズム（ミクロ経済学）の基礎を学ぶ。講義に際しては、具体的な事例を用いてみなさんの理解の助けとなるよう配慮する。また、理解を深めってもらうためのプリント課題を2回ほど提出してもらう。

【授業における到達目標】

経済学の基礎を学ぶことによって、現代社会における経済問題を論理的に理解する研鑽力を身につけ、広い視野と深い洞察力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

1. 経済学とはどのような学問か
2. 国民経済計算（新SNA）の仕方
3. 国民所得の諸概念
4. 均衡国民所得の決定
5. 割引現在価値と投資収益率
6. 貨幣の需要と供給
7. 貨幣市場と日銀の役割
8. 需要曲線と消費者行動
9. 価格変化と消費者の反応
10. 費用曲線
11. 供給曲線
12. 市場均衡と効率性
13. 不完全競争市場（独占）
14. 不完全競争市場（寡占、独占的競争）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業範囲を予習し、経済用語などを調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で出てきたグラフをもう一度自分でノートに書き、練習問題も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してほしい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、プリント課題（20%）によって総合的に評価する。プリント課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

中谷巖『入門マクロ経済学（最新版）』（日本評論社 2007年）3,024円

吉田良生/角本伸晃・他『ミクロ経済学入門〔新版〕』（成文堂 2014年）1,836円

【注意事項】

グラフを自分で書くことで経済学の理解はかなり進むので、レジュメのグラフは自分でもノートに大きく書き写してほしい。

経済発展論

角本 伸晃

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、開発途上国から著しい経済発展を遂げている国が多数出現しているが、その背後にはなおも貧困、不平等、都市と農村の地域格差、教育格差などの問題が存在する。また、経済発展できないままの国も多く存在する。本講義では、それらの問題について最新のデータを用いて実態を把握し、それらの問題が存続する要因は何か、逆に阻害要因を乗り越えて開発途上国が経済発展するメカニズムは何かを理解する。また、外部講師の方に来ていただいて、政府開発援助について講義をしてもらう予定である。

【授業における到達目標】

開発途上国の経済発展問題を理解し、その対策について考える国際的視野を修得し、国際社会における相互の理解と協力を築こうとする研鑽力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 開発途上国の貧困問題
3. 不平等の計測（ジニ係数等）
4. 開発途上国の不平等問題
5. 開発途上国の産業構造問題（二重構造問題）
6. 開発途上国の国内労働移動（都市への流入問題）
7. 日本と開発途上国との関係
8. 開発途上国の経済成長の歴史
9. 経済成長のメカニズム
10. 人的資本（教育格差問題）
11. 国際貿易
12. 海外直接投資
13. 政府開発援助
14. 日本のODA（外部講師招聘の予定）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してほしい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

戸堂康之『開発経済学入門』（新世社 2015年）2,916円
ジェトロ・アジア経済研究所他編『テキストブック開発経済学 第3版』（有斐閣 2015年）2,484円

【注意事項】

グラフを自分で書くことで理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

経済法

金津 謙

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

経済法とは本来、国家が国民の活動を直接コントロールする法律群（法分野）を総称したものである。しかし、今日一般に「経済法」という用語は「独占禁止法」を示すため、本講においても独占禁止法を扱う。

独占禁止法は、企業が市場の独占を企てたり、企業間で相談して商品の価格をつり上げる（カルテル）行為を禁止することにより、公正な企業間競争の機会を確保し、究極的には消費者（国民）の利益を守ることを目的とした法律である。

授業では、受講者の理解を深めるため適宜資料を配付し、新聞・テレビ等で報道される身近な事例も授業に取り入れる予定である。

【授業における到達目標】

独占禁止法を含む経済法分野は、企業における「コンプライアンス」意識の高まりから重要視されている法分野であり、関連する様々な事件が報道されている。さまざまな企業活動における問題点を法的側面から考察する能力の修得を目的とする。

すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

【授業の内容】

1. 独占禁止法の消費者保護機能
2. 独占禁止法の制定背景
3. 市場独占の弊害／私的独占①
4. 市場独占の実例／私的独占②
5. 合併規制の意義／私的独占③
6. カルテル・談合の弊害／不当な取引制限①
7. カルテルの種類／不当な取引制限②
8. カルテルに対する法的対処／不当な取引制限③
9. 入札談合・官製談合の問題点／不当な取引制限④
10. 談合に対する法的対処／不当な取引制限⑤
11. 抱き合わせ販売／紛らわしい広告／不公正な取引方法①
12. 地域差別対価／不公正な取引方法②
13. 書籍・新聞・CDの定価販売／不公正な取引方法③
14. 規制緩和と独占禁止法
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

厚谷襄児：独占禁止法入門（第7版）[日経文庫、2012、¥1,050(税抜)、※教科書については改定の予定があるので開講時に改めて指示します。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回においてフィードバックする予定である。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

授業開講時指示する。

芸術の世界

音楽と美術が交わる場所

松村 洋一郎

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

音楽が時間の流れのなかで展開する時間芸術のひとつであり、聴覚に訴える芸術であるのに対して、美術は空間の広がりの中に秩序づけられ、視覚に訴える芸術である。このふたつの芸術に関わる者は、性質が異なるにもかかわらず（あるいは性質が異なるがゆえに）、お互いの芸術を志向することが少なくなかった。

この授業では、主に西洋音楽と西洋美術の交わりを捉えていく。まず、画家単位でそれぞれの作品と音楽との関わりを取り上げ、その後に、音楽と美術が共通して扱ったテーマについて見ていくことにしたい。

【授業における到達目標】

音楽と美術の鑑賞を通して美を探究する態度を身につけ、自らが感じ、考えた内容を、文章によって他者に伝えられるようになること。

【授業の内容】

- 第1週 導入
- 第2週 西洋音楽史と西洋美術史概説
- 第3週 ヒエロニムス・ボス
- 第4週 ヤン・フェルメール
- 第5週 ジャン・アントワーン・ヴァトー
- 第6週 カスパル・ダーフィット・フリードリヒ
- 第7週 ゲオルク・フリードリヒ・ケルスティン
- 第8週 ウジェーヌ・ドラクロワ
- 第9週 モーリッツ・フォン・シュヴァイント
- 第10週 アウトローたち
- 第11週 運命の女（ファム・ファタル）
- 第12週 肖像画
- 第13週 印象派とジャポニスム
- 第14週 世紀末から20世紀へ
- 第15週 まとめと補足

【事前・事後学修】

- ・事前学修：配付プリントを読み、用語の基本的な理解をする。西洋史の基本的な知識についても、確認しておくことが望ましい。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：ワークシートの復習をすること。授業で取り上げた作品の鑑賞や、紹介した参考文献の読書を通して学習内容の理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特に用いない。授業内でプリントを配付。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート80%、平常点（コメント提出）20%。
コメントは次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

大学生としての自覚と責任を持った行動を求める（たとえば、出席回数は自身で把握しておく、私語など授業の妨げになる行為は慎むなど）。単位取得のみを目的にするのではない、授業内容に興味・関心のある学生諸君の履修を期待する。また、初回の授業では、授業の全体的な事項に関する説明も行うので、極力出席すること。

芸術概論 a

音楽の基礎概念を把握する

松村 洋一郎

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

音楽に関する基本的な用語や概念を、歴史的背景や事例に即して説明する。音楽に関する概念といっても非常に多岐にわたるが、ここでは、楽器と楽譜にまつわる内容を中心とする。西洋のいわゆるクラシック音楽を中心的な対象とするが、適宜、ほかのジャンルの音楽も題材として取りあげたい。

【授業における到達目標】

音楽の鑑賞を通して美を探究し、感受性を高めようとする態度を身につける。また、音楽に関する基本的な概念や用語を学ぶことで、自らが感じたことを知識を踏まえたうえで表現し、他者に伝えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 導入
- 第2週 楽器とは
- 第3週 管楽器・打楽器
- 第4週 弦楽器
- 第5週 鍵盤楽器（オルガンなど）
- 第6週 鍵盤楽器（ピアノなど）
- 第7週 さまざまな合奏形態
- 第8週 声と声楽
- 第9週 さまざまな記譜法
- 第10週 西洋音楽の記譜法の歴史
- 第11週 楽譜と演奏習慣
- 第12週 楽譜の編集
- 第13週 音の性質（音の物理）
- 第14週 音の性質（音律）
- 第15週 まとめと補足

【事前・事後学修】

- ・事前学修：配付プリントを読み、用語の基本的な理解をする。西洋史の基本的な知識についても、確認しておくことが望ましい。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：ワークシートの復習をすること。授業で取り上げた作品の鑑賞や、紹介した参考文献の読書を通して学習内容の理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特に用いない。授業内でプリントを配付。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点20%（コメント用紙の提出）、期末試験80%。コメントの一部を授業内で紹介し、考察の参考、手がかりとする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

大学生としての自覚と責任を持った行動を求める（たとえば、出席回数は自身で把握しておく、私語など授業の妨げになる行為は慎むなど）。単位取得のみを目的にするのではない、授業内容に興味・関心のある学生諸君の履修を期待する。また、初回の授業では、授業の全体的な事項に関する説明も行うので、極力出席すること。

芸術概論 b

—美術鑑賞への招待—

鈴木 祐子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

のと、実際に見るのとでは、作品の印象は全く違います。ネットや写真で満足せず、積極的に実物を見に行くよう心がけてください。

【授業のテーマ】

私たち人間は、太古の昔から多くの美術作品を生み出してきました。世界中にさまざまな美術品が残り、現在なお新しい美術が次々に生み出されつつあります。今まで美術に触れる機会のあまりなかった皆さんに、その楽しさを知ってほしい—この授業はそのための入門コースです。作品の保存、復元なども含め、社会との関わりについても触れながら、いろいろな作品を見ていきたいと思えます。

【授業における到達目標】

具体的な美術作品を見、レポートとしてその作品の美しさの在り処を言葉で表すことによって、美とは何かを探求する。また、様々な地域・時代の多様な美とそれらを生んだ社会的背景などを知ることによって、それらを生み育て守ってきた人々の多様性をも理解して、世界を見る豊かな視野を身に付ける。さらにそれらを通じて、自らを磨き育てる力を養う。

【授業の内容】

1. ガイダンス

2～14. 美術作品鑑賞ガイド

1回ずつ、ある作者またはある作品を取り上げて、具体的な作品をビデオやスライドで見ながら一緒に鑑賞します。

2. 日本の美術 1 彫刻

3. 日本の美術 2 絵画① 絵巻物

4. 日本の美術 3 絵画② 水墨画

5. 日本の美術 4 絵画③ 浮世絵

6. 日本の美術 5 絵画④ 戦中

7. 日本の美術 6 絵画⑤ 戦後

8. 日本の美術 7 工芸① 陶磁器

9. 日本の美術 8 工芸② 染織

10. 日本の美術 9 建築

11. ヨーロッパの美術 1 ルネッサンス絵画

12. ヨーロッパの美術 2 印象派以降

13. アメリカの美術

14. 欧米以外の地域の美術

出来るだけ、その時々催される展覧会への案内を兼ねたいと思えますので、各週の内容は変更の場合があります。

15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：日々の生活の中で、今までは漠然と見過ごしてきた街の野外彫刻、レストランのインテリア、建物の形など、いろいろな造形表現に目をとめて、それを見て感じたことを言葉にしてみてください。(週2時間) 事後学修：授業で知り興味を持った造形表現に積極的に触れてください。展覧会などに実際に見に行くのが何よりですが、その作品や作家などについて本などで調べてみるのも良いと思います。(週2時間)

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要な資料は配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業では、その授業で紹介されたものについての感想、配布する世界地図と年表への記入を求めます。

また、美術展・美術館などの作品鑑賞レポートを2通以上、一つの作品について詳しく調べて書く研究レポートを1通提出することを求めます。提出されたレポートは最終週までにフィードバックします。提出物(80%)、授業態度(20%)を基に評価します。

【参考書】

図書館や書店、ミュージアム・ショップなどで、自分が興味を持った芸術家の作品集や著作などを自由に選んで、見たり読んだりしてください。テレビの美術番組もぜひ見てください。

【注意事項】

何よりも「本物」をたくさん見てください。スライドや本で見る

芸術学演習A

修士論文にそなえて

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、修士論文の内容を深めることを到達目標とする。

【授業における到達目標】

修士論文作成のための参考文献の整理、スケジュールの管理ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 芸術学のアプローチについて（1）フォーマリズム
- 第5週 芸術学のアプローチについて（2）様式論
- 第6週 美学のアプローチについて（1）現象学派の美学
- 第7週 美学のアプローチについて（2）分析美学
- 第8週 学外見学実授業（1）森美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）新国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

*なお、学外見学実授業の日時・場所は授業中に指示する。

【事前・事後学修】

修士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（50%）、レポート（50%）

フィードバックは、manabaで随時行う。

【参考書】

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

【注意事項】

修士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。

芸術学演習B

修士論文をめざして

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、修士論文の内容を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

修士論文作成のための文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 表象文化論のアプローチについて（1）記号論
- 第5週 表象文化論のアプローチについて（2）心理学
- 第6週 美術史方法論のアプローチについて（1）イコノロジー
- 第7週 美術史方法論のアプローチについて（2）ジェンダー論
- 第8週 学外見学実授業（1）国立西洋美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

修士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（50%）、レポート（50%）

フィードバックはmanabaにて随時行う。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

修士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。
学外見学実授業の日時・場所は授業中に指示する。

芸術学研究指導特殊演習A

博士論文作成を目指して

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、博士論文の内容を深めることを到達目標とする。

【授業における到達目標】

博士論文作成のために必要な参考文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 芸術学のアプローチについて（1）フォーマリズム
- 第5週 芸術学のアプローチについて（2）様式論
- 第6週 美学のアプローチについて（1）現象学派の美学
- 第7週 美学のアプローチについて（2）分析美学
- 第8週 学外見学実授業（1）森美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）新国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

博士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（50%）、レポート（50%）
フィードバックはmanabaにて随時行う。

【参考書】

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

【注意事項】

博士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。
学外見学授業の日時・場所は授業中に指示する。

芸術学研究指導特殊演習B

博士論文作成を目指して

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、博士論文の内容を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

博士論文作成のための参考文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 表象文化論のアプローチについて（1）記号論
- 第5週 表象文化論のアプローチについて（2）心理学
- 第6週 美術史方法論のアプローチについて（1）イコノロジー
- 第7週 美術史方法論のアプローチについて（2）ジェンダー論
- 第8週 学外見学実授業（1）国立西洋美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

博士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（50%）、レポート（50%）
フィードバックはmanabaにて随時行う。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

博士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。
学外見学授業の日時・場所は授業中に指示する。

芸術学特殊研究A

ル・コルビュジエ研究① 第二次世界大戦まで

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

近代建築の祖ル・コルビュジエの生涯を軸として、19世紀末から現代に至るまでの、建築、都市計画、造形芸術の変遷を把握し、モダニズムとは何かという問題を考察する。特論Aでは、アールヌーヴォーの時代から、第二次世界大戦までの時期を扱う。

【授業における到達目標】

20世紀に成立した近代主義建築の理想は、人々の生活を豊かにするユートピア的なものであり、それが国際様式へと発展していったことを理解する。またそれらが様々な芸術運動と連動していたことを理解する。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション モダニズムとは何か
- 第2回 フィールドワーク① 国立西洋美術館 「ル・コルビュジエ 絵画から建築へ ピュリスムの時代」 展覧会
- 第3回 LCの修行時代①アールヌーヴォー都市 ラ・ショー・ド・フォン
- 第4回 LCの修行時代②東方の旅
- 第5回 LCの修行時代③オーギュスト・ペレとペーター・ベーレンス
- 第6回 1918『キュビズム以降』とピュリスム グループワークと発表①
- 第7回 エスプリ・ヌーヴォー誌と『建築へ』1923
- 第8回 エスプリ・ヌーヴォー誌と『今日の装飾芸術』1925
- 第9回 近代建築の五原則とサヴォワ邸
- 第10回 CIAMとアテネ憲章
- 第11回 1930年代のLC① スイス学生会館と救世軍
- 第12回 1930年代のLC② セントロソユーズとソ連
- 第13回 LCとシュルレアリスム グループワークと発表②
- 第14回 フィールドワーク② 原美術館、東京都庭園美術館
- 第15回 『伽藍が白かったとき』1937とまとめ

【事前・事後学修】

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、グループワークと発表を課すので、そのための準備学修、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学修に努めるように。（週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、グループワークと発表2回 30%×2=60%
グループワークと発表、さらにフィールドワークでは、積極的な発言を求め、対話のなかでフィードバックを行う。また、responやmanabaを活用してフィードバックを随時行う。

【参考書】

Le Corbusier (Charles Edouard Jeanneret) : catalogue raisonne de l'oeuvre peint / Naima Jornod, Jean Pierre Jornod
Oeuvre complete / Le Corbusier et Pierre Jeanneret ; W. Boesiger, O. Stonorov (Ed.)
その他 ル・コルビュジエの著作の翻訳書

【注意事項】

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。

芸術学特殊研究B

ル・コルビュジエ研究② 第二次世界大戦後

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

近代建築の祖ル・コルビュジエの生涯を軸として、19世紀末から現代に至るまでの、建築、都市計画、造形芸術の変遷を把握し、モダニズムとは何かという問題を考察する。特論Bでは、第二次世界大戦以降現代にいたる時期を扱い、近代主義に対する疑義が生じ、そこから生じた様々な建築の潮流を概観する。

【授業における到達目標】

第二次世界大戦後に近代主義建築の理想への疑義が生じたことを理解する。そして、それを乗り越えることを目指したさまざまな試みが行われたことを理解する。そして、そういった流れのなかから、現在の都市、建築、造形芸術の状況に対する分析を行い、批判的な視点を持つようになる。

【授業の内容】

- 第1回 第二次世界大戦後の復興とLC
- 第2回 戦後のLC① ユニテ・ダヴィタシオン
- 第3回 戦後のLC② ロンシャン教会
- 第4回 戦後のLC③ ラ・トゥーレットの修道院と現代音楽
- 第5回 フィールドワーク①東京文化会館、アテネフランセ、東京日仏学院
- 第6回 戦後のLC④ チャンディガールの都市計画
- 第7回 国立西洋美術館と日本人弟子たち 前川、坂倉、吉阪
- 第8回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流① TeamX
- 第9回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流② メタポリズム
- 第10回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流③ アーキグラム
- 第11回 フィールドワーク② メタポリズム建築調査
- 第12回 LCと現代アート ピエール・ユイグとアニシュ・カプリア
- 第13回 建築理論家とLC（グループワークと発表）① マンフレッド・タフラー
- 第14回 建築理論家とLC（グループワークと発表）② コーリン・ロウ
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、グループワークと発表を課すので、そのための準備学修、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学修に努めるように。（週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、グループワークと発表2回 30%×2=60%
グループワークと発表、さらにフィールドワークでは、積極的な発言を求め、対話のなかでフィードバックを行う。また、responやmanabaを活用してフィードバックを随時行う。

【参考書】

Le Corbusier (Charles Edouard Jeanneret) : catalogue raisonne de l'oeuvre peint / Naima Jornod, Jean Pierre Jornod
Oeuvre complete / Le Corbusier et Pierre Jeanneret ; W. Boesiger, O. Stonorov (Ed.)
その他 ル・コルビュジエの著作の翻訳書

【注意事項】

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。

芸術学特論A

ル・コルビュジェ研究① 第二次世界大戦まで

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

近代建築の祖ル・コルビュジェの生涯を軸として、19世紀末から現代に至るまでの、建築、都市計画、造形芸術の変遷を把握し、モダニズムとは何かという問題を考察する。特論Aでは、アールヌーヴォーの時代から、第二次世界大戦までの時期を扱う。

【授業における到達目標】

20世紀に成立した近代主義建築の理想は、人々の生活を豊かにするユートピア的なものであり、それが国際様式へと発展していったことを理解する。またそれらが様々な芸術運動と連動していたことを理解する。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション モダニズムとは何か
- 第2回 フィールドワーク① 国立西洋美術館 「ル・コルビュジェ 絵画から建築へ ピュリスムの時代」 展覧会
- 第3回 LCの修行時代①アールヌーヴォー都市 ラ・ショー・ド・フォン
- 第4回 LCの修行時代②東方の旅
- 第5回 LCの修行時代③オーギュスト・ペレとペーター・ベーレンス
- 第6回 1918『キュビズム以降』とピュリスム グループワークと発表①
- 第7回 エスプリ・ヌーヴォー誌と『建築へ』1923
- 第8回 エスプリ・ヌーヴォー誌と『今日の装飾芸術』1925
- 第9回 近代建築の五原則とサヴォワ邸
- 第10回 CIAMとアテネ憲章
- 第11回 1930年代のLC① スイス学生会館と救世軍
- 第12回 1930年代のLC② セントロソユーズとソ連
- 第13回 LCとシュルレアリスム グループワークと発表②
- 第14回 フィールドワーク② 原美術館、東京都庭園美術館
- 第15回 『伽藍が白かったとき』1937とまとめ

【事前・事後学修】

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、グループワークと発表を課すので、そのための準備学習、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学修に努めるように。（週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、グループワークと発表2回 30%×2=60%
グループワークと発表、さらにフィールドワークでは、積極的な発言を求め、対話のなかでフィードバックを行う。また、responやmanabaを活用してフィードバックを随時行う。

【参考書】

Le Corbusier (Charles Edouard Jeanneret) : catalogue raisonne de l'oeuvre peint / Naima Jornod, Jean Pierre Jornod
Oeuvre complete / Le Corbusier et Pierre Jeanneret ; W. Boesiger, O. Stonorov (Ed.)
その他 ル・コルビュジェの著作の翻訳書

【注意事項】

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。

芸術学特論B

ル・コルビュジェ研究② 第二次世界大戦後

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

近代建築の祖ル・コルビュジェの生涯を軸として、19世紀末から現代に至るまでの、建築、都市計画、造形芸術の変遷を把握し、モダニズムとは何かという問題を考察する。特論Bでは、第二次世界大戦以降現代にいたる時期を扱い、近代主義に対する疑義が生じ、そこから生じた様々な建築の潮流を概観する。

【授業における到達目標】

第二次世界大戦後に近代主義建築の理想への疑義が生じたことを理解する。そして、それを乗り越えることを目指したさまざまな試みが行われたことを理解する。そして、そういった流れのなかから、現在の都市、建築、造形芸術の状況に対する分析を行い、批判的な視点を持つようになる。

【授業の内容】

- 第1回 第二次世界大戦後の復興とLC
- 第2回 戦後のLC① ユニテ・ダヴィタシオン
- 第3回 戦後のLC② ロンシャン教会
- 第4回 戦後のLC③ ラ・トゥーレットの修道院と現代音楽
- 第5回 フィールドワーク①東京文化会館、アテネフランセ、東京日仏学院
- 第6回 戦後のLC④ チャンディガールの都市計画
- 第7回 国立西洋美術館と日本人弟子たち 前川、坂倉、吉阪
- 第8回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流① TeamX
- 第9回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流② メタボリズム
- 第10回 CIAMの崩壊と新しい建築潮流③ アーキグラム
- 第11回 フィールドワーク② メタボリズム建築調査
- 第12回 LCと現代アート ピエール・ユイグとアニシュ・カプーア
- 第13回 建築理論家とLC（グループワークと発表）① マンフレッド・タフラー
- 第14回 建築理論家とLC（グループワークと発表）② コーリン・ロウ
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、グループワークと発表を課すので、そのための準備学習、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学修に努めるように。（週2時間）

【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、グループワークと発表2回 30%×2=60%
グループワークと発表、さらにフィールドワークでは、積極的な発言を求め、対話のなかでフィードバックを行う。また、responやmanabaを活用してフィードバックを随時行う。

【参考書】

Le Corbusier (Charles Edouard Jeanneret) : catalogue raisonne de l'oeuvre peint / Naima Jornod, Jean Pierre Jornod
Oeuvre complete / Le Corbusier et Pierre Jeanneret ; W. Boesiger, O. Stonorov (Ed.)
その他 ル・コルビュジェの著作の翻訳書

【注意事項】

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。

芸能文化史

日本・アジアの舞台芸術に親しむ

串田 紀代美

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

日本の伝統芸術や伝統音楽の種類や基本構成を理解した上で、アジア諸地域の民族舞踊や民族音楽と比較しながら舞台芸術としての特徴を考察します。特に舞踊家が芸術的技術を身につける過程を知るため、伝承組織としての教育制度について着目します。さらに、民俗舞踊および民族舞踊の舞台公演による国際文化交流についても紹介します。伝統的な舞踊や音楽の舞台芸術を鑑賞する際の着眼点とともに、現代社会における諸芸能の展開やメディアとの関連性についても検討しながら、舞台芸術作品の魅力を追求めます。

【授業における到達目標】

- ・舞台芸術としての舞踊・音楽を鑑賞する際の視点を持ち、美的感性を磨くことができるようになる。
- ・民族舞踊・民族音楽の基本構成や文化的差異を理解し、説明ができるようになる。
- ・近代以降の舞踊・音楽教育制度の確立や国際文化交流の変遷を理解した上で、各ジャンルの舞台芸術作品の魅力が言語化できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：近代における舞踊研究の誕生
 第2週 日本の伝統舞踊の動作と特徴：「舞」と「躍り」
 第3週 日本の舞踊芸術（1）さまざまな仮面芸能、イェイツと「鷹の井戸」
 第4週 日本の舞踊芸術（2）人形浄瑠璃と歌舞伎：現代における歌舞伎公演
 第5週 日本の舞踊芸術（3）日本舞踊の東西比較：上方舞と
 第6週 日本の舞踊芸術（4）近代の洋舞：バレエ・モダン・バレエ・レビュー
 第7週 舞踊と音楽（1）日本の舞踊と和楽器
 第8週 舞踊と音楽（2）アジアの舞踊と音楽の特徴
 第9週 アジアの舞踊芸術（1）カンボジアの古典舞踊とアンコール遺跡、タイ古典舞踊と仮面劇
 第10週 アジアの舞踊芸術（2）タイの4地方（北部、東北部、中央部、南部）と民族舞踊の特徴、タイ王立舞踊学校と地方12校、チュラロンコン大学舞踊学科
 第11週 アジアの舞踊芸術（3）インドネシアの舞踊（ジャワ）、マンクヌガラン宮殿とインドネシア国立大学ソロ校
 第12週 アジアの舞踊芸術（4）インドネシアの舞踊（バリ）
 第13週 ASEAN諸国の舞踊公演と文化外交
 第14週 舞台芸術による国際交流の取り組み
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業で扱う資料は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に必ず復習し、授業で配った資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。課題は余裕を持って準備し、提出前に必ず点検してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ピア・レスポンスやグループでの話し合い等）50%、提出物（クイズ、課題提出）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、グループでの話し合いやピア活動を中心に協働的に進めます。

芸能文化史

日本・アジアの舞台芸術に親しむ

串田 紀代美

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

い、グループでの話し合いやピア活動を中心に協働的に進めます。

【授業のテーマ】

日本の伝統芸術や伝統音楽の種類や基本構成を理解した上で、アジア諸地域の民族舞踊や民族音楽と比較しながら舞台芸術としての特徴を考察します。特に舞踊家が芸術的技術を身につける過程を知るため、伝承組織としての教育制度について着目します。さらに、民俗舞踊および民族舞踊の舞台公演による国際文化交流についても紹介します。伝統的な舞踊や音楽の舞台芸術を鑑賞する際の着眼点とともに、現代社会における諸芸能の展開やメディアとの関連性についても検討しながら、舞台芸術作品の魅力を追求します。

【授業における到達目標】

- ・舞台芸術としての舞踊・音楽を鑑賞する際の視点を持ち、美的感性を磨くことができるようになる。
- ・民族舞踊・民族音楽の基本構成や文化的差異を理解し、説明ができるようになる。
- ・近代以降の舞踊・音楽教育制度の確立や国際文化交流の変遷を理解した上で、各ジャンルの舞台芸術作品の魅力が言語化できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション：近代における舞踊研究の誕生
 第2週 日本の伝統舞踊の動作と特徴：「舞」と「躍り」
 第3週 日本の舞踊芸術（1）さまざまな仮面芸能、イェイツと「鷹の井戸」
 第4週 日本の舞踊芸術（2）人形浄瑠璃と歌舞伎：現代における歌舞伎公演
 第5週 日本の舞踊芸術（3）日本舞踊の東西比較：上方舞と
 第6週 日本の舞踊芸術（4）近代の洋舞：バレエ・モダンバレエ・レビュー
 第7週 舞踊と音楽（1）日本の舞踊と和楽器
 第8週 舞踊と音楽（2）アジアの舞踊と音楽の特徴
 第9週 アジアの舞踊芸術（1）カンボジアの古典舞踊とアンコール遺跡、タイ古典舞踊と仮面劇
 第10週 アジアの舞踊芸術（2）タイの4地方（北部、東北部、中央部、南部）と民族舞踊の特徴、タイ王立舞踊学校と地方12校、チュラロンコン大学舞踊学科
 第11週 アジアの舞踊芸術（3）インドネシアの舞踊（ジャワ）、マンクヌガラン宮殿とインドネシア国立大学ソロ校
 第12週 アジアの舞踊芸術（4）インドネシアの舞踊（バリ）
 第13週 ASEAN諸国の舞踊公演と文化外交
 第14週 舞台芸術による国際交流の取り組み
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業で扱う資料は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後に必ず復習し、授業で配った資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。課題は余裕を持って準備し、提出前に必ず点検してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ピア・レスポンスやグループでの話し合い等）50%、提出物（クイズ、課題提出）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従

健康づくり運動実習 a

我妻 玲

2年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ゲームやスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナー等を習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第10週 アルティメットの基礎（フリスビーの投げ方）
- 第11週 アルティメットの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第12週 サッカーの基礎（パス・ドリブル）・ミニゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。常日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団
『ニュースポーツ100』評言社

【注意事項】

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

健康づくり運動実習 a

我妻 玲

2年 前期 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ゲームやスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナー等を習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第10週 アルティメットの基礎（フリスビーの投げ方）
- 第11週 アルティメットの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第12週 サッカーの基礎（パス・ドリブル）・ミニゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。常日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団
『ニュースポーツ100』評言社

【注意事項】

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

健康づくり運動実習 b

Physical Fitnessのすすめ

佐藤 健

2年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人生80年といわれる昨今、健康で豊かな生活を送るためには運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得し健康の保持増進に努めること、体力値を高めることが重要である。そのためにはまず現時点での自分の身体を「知る」こと、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための方策を学ぶ必要がある。

本授業では、まず自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートする。次にこれまでのスポーツ医科学の成果を学び、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後の目標設定を行い、トレーニングを実践することを目的とする。

【授業における到達目標】

自分の「身体」と「こころ」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得し、「研鑽力(○)」を養うことを到達目標とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業の概要と評価方法の説明）
2. 形態計測
3. 体型判定
4. 運動能力測定
5. 身体活動量測定
6. トレーニングプログラムの作成
7. トレーニング施設を活用する
8. 大学周辺の環境を活用する
9. 自重を用いたトレーニング
10. 発達段階に応じたトレーニング
11. スポーツ種目に応じたトレーニング
12. 身体活動量を考える
13. トレーニングプログラムの見直し
14. 形態計測、体型判定
15. レポート作成（トレーニング記録の提出、自己評価）

【事前・事後学修】

事前に解剖学、生理学等の用語を理解するための学修時間を確保すること。事後では、骨格筋名や姿勢について専門用語の理解のための学修があわせて30時間程度必要である。

【テキスト・教材】

必要があれば、教場で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席時の小テスト1×15回 15%
 授業ごとの成果レポート×15回 30%
 トレーニングの実演テスト ×1回 15%
 期末レポート 40%
 データ等は随時フィードバックを行う

【参考書】

教場で指示する

【注意事項】

自分の体の変化を積極的に知る姿勢をもって受講することを望むこと

健康づくり運動実習 b

Physical Fitnessのすすめ

佐藤 健

2年 前期 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

人生100年といわれる昨今、健康で豊かな生活を送るためには運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得し健康の保持増進に努めること、体力値を高めることが重要である。そのためにはまず現時点での自分の身体を「知る」こと、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための方策を学ぶ。まず自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートする。次にこれまでのスポーツ医科学の成果を学び、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後の目標設定を行い、トレーニングを実践することを目的とする。

【授業における到達目標】

本授業では、自分の「身体」と「こころ」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得し、継続する「行動力」を養うことを到達目標とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業の概要と評価方法の説明）
2. 形態計測
3. 体型判定
4. 運動能力測定
5. 身体活動量測定
6. トレーニングプログラムの作成
7. トレーニング施設を活用する
8. 大学周辺の環境を活用する
9. 自重を用いたトレーニング
10. 発達段階に応じたトレーニング
11. スポーツ種目に応じたトレーニング
12. 身体活動量を考える
13. トレーニングプログラムの見直し
14. 形態計測、体型判定
15. レポート作成（トレーニング記録の提出、自己評価）

【事前・事後学修】

事前に解剖学、生理学等の基本的な人体動作にかかわる用語は調べ学修を行い、授業後に再度、骨格筋名などをあわせて20時間程度学修しておくこと。

【テキスト・教材】

必要があれば、教場で配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席時の小テスト1×15回 15%
 授業ごとの成果レポート×15回 30%
 トレーニングの実演テスト ×1回 15%
 期末レポート 40%
 データ等は随時フィードバックを行う

【参考書】

教場で提示する

【注意事項】

自分の体の変化を積極的に知る姿勢をもって受講することを望む

健康づくり運動実習 c

エアロビックダンス

河田 美保

2年 前期 1単位

○：協働力

【授業のテーマ】

健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ① 手本となる美しい動きを身につけることができる
- ② 動きの観察、修正、動機づけができる
- ③ 自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる

【授業の内容】

エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返す。

- 第1週 ガイダンス、エアロビックダンスのビデオ視聴
 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
 第3週 コンディショニング・エクササイズ
 第4週 レクリエーション・ダンス
 第5週 ウォーミングアップの行い方
 第6週 クーリングダウンの行い方
 第7週 エアロビックダンスの特性
 実習：基本的なステップの習得
 第8週 エアロビックダンスの効果
 実習：アライメントの確認
 第9週 エアロビックダンスの運動強度
 実習：運動強度の調節方法
 第10週 エアロビックダンスの運動プログラム
 実習：動きの質と音楽について
 第11週 エアロビックダンスの指導方法Ⅰ
 実習：実践指導（説明、リード、キューイングなど）
 第12週 エアロビックダンスの指導方法Ⅱ
 実習：実践指導（観察、修正、動機づけなど）
 第13週 エアロビックダンスの指導上の留意点
 実習：実践指導（安全への配慮、雰囲気づくりなど）
 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定
 第15週 エアロビックダンス実践指導評価、総括

【事前・事後学修】

- ① 自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）
 - ② 授業で行った動きを復習する
 - ③ 有酸素性運動について学修を深める
- ①～③合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度（実践指導テストで評価）30%、レポート20%で評価する。実践指導テストはコメントで、レポートは総括でフィードバックする。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成テキスト』健康・体力づくり事業財団

【注意事項】

- ① ガイダンスをよく聴いて受講する
- ② 受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしない
- ③ 実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用する
- ④ 十分な睡眠をとり、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、授業に参加する
- ⑤ やむを得ず欠席、遅刻、早退、見学する場合にはなるべく事前に書面にて届出る

健康づくり運動実習 c

エアロビックダンス

河田 美保

2年 後期 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ① 手本となる美しい動きを身につけることができる
- ② 動きの観察、修正、動機づけができる
- ③ 自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる

【授業の内容】

エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返す。

- 第1週 ガイダンス、エアロビックダンスのビデオ視聴
- 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第3週 コンディショニング・エクササイズ
- 第4週 レクリエーション・ダンス
- 第5週 ウォーミングアップの行い方
- 第6週 クーリングダウンの行い方
- 第7週 エアロビックダンスの特性
実習：基本的なステップの習得
- 第8週 エアロビックダンスの効果
実習：アライメントの確認
- 第9週 エアロビックダンスの運動強度
実習：運動強度の調節方法
- 第10週 エアロビックダンスの運動プログラム
実習：動きの質と音楽について
- 第11週 エアロビックダンスの指導方法Ⅰ
実習：実践指導（説明、リード、キューイングなど）
- 第12週 エアロビックダンスの指導方法Ⅱ
実習：実践指導（観察、修正、動機づけなど）
- 第13週 エアロビックダンスの指導上の留意点
実習：実践指導（安全への配慮、雰囲気づくりなど）
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第15週 エアロビックダンス実践指導評価、総括

【事前・事後学修】

- ① 自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）
 - ② 授業で行った動きを復習する
 - ③ 有酸素性運動について学修を深める
- ①～③合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度（実践指導テストで評価）30%、レポート20%で評価する。実践指導テストはコメントで、レポートは総括でフィードバックする。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成テキスト』健康・体力づくり事業財団

【注意事項】

- ① ガイダンスをよく聴いて受講する
- ② 受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしない
- ③ 実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用する
- ④ 十分な睡眠をとり、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、授業に参加する
- ⑤ やむを得ず欠席、遅刻、早退、見学する場合にはなるべく事前に書面にて届出る

健康づくり運動実習 d

健康づくり運動と水泳・水中運動

我妻 玲・高橋 雄介

3年 集前 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

【授業における到達目標】

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

【事前・事後学修】

【事前学修】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団（4900円 税込）

【注意事項】

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

健康づくり運動実習 d

健康づくり運動と水泳・水中運動

我妻 玲・高橋 雄介

3年 前期集中 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

【授業における到達目標】

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

【事前・事後学修】

【事前学修】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団（4900円 税込）

【注意事項】

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

健康づくり運動実習 d

健康づくり運動と水泳・水中運動

我妻 玲・高橋 雄介

3年 集前 1単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

【授業における到達目標】

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

【事前・事後学修】

【事前学修】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団
（4900円 税込）

【注意事項】

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

健康運動実習 a

ヨーガ 実践と理論を学ぶ

南 英樹

1年～ 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

ヨーガ初心者のためのクラスです。4千年にわたるヨーガに関する基礎的な歴史・哲学と、生理学・解剖学的な知識を獲得します。心の三原色をコントロールするための腹式呼吸を実践し、12の基礎的なポーズを連動させながら、身体各部の緊張と弛緩を繰り返し、意識的に身体感覚を見つめます。それによって、完全にリラックスしたポジティブな心の状態へと導き、学力向上のための集中力の強化を目指します。

【授業における到達目標】

ヨーガの本質を学び、からだの構造を知り、各体位法を実践することによって、自分の体調を管理し、美しく生きることを掘り下げる自主的な態度を養います。瞑想を通じてマインドフルネスの技術を獲得し、環境に左右されずに信念をもって選択し行動する態度を養います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、オリエンテーション
- 第2週 体力測定
- 第3週 ビギナーズ・シークエンス1
目・首のエクササイズ、腹式呼吸、片足、両足挙げ、肩立ち、魚のポーズ
- 第4週 ビギナーズ・シークエンス2
シークエンス1 + 鋤のポーズ、前屈、斜面のポーズ
- 第5週 ビギナーズ・シークエンス3
シークエンス2 + ヨガの完全呼吸法、太陽礼拝、コブラ、半バタ、三角のポーズ
- 第6週 ビギナーズ・シークエンス4
シークエンス3 + 片鼻交互呼吸法、弓のポーズ、背骨ねじりのポーズ
- 第7週 ポーズの修正とバリエーション
効用の学習、意識を向けるポイントの確認
- 第8週 ビギナーズ・シークエンス5
シークエンス4 + 孔雀のポーズ、カラスのポーズ
- 第9週 ビギナーズ・シークエンス6
シークエンス5 + ポーズの修正とバリエーション
- 第10週 ビギナーズ・シークエンス7
メディテーション・シークエンス①
- 第11週 ビギナーズ・シークエンス8
メディテーション・シークエンス②
- 第12週 アウトドア・シークエンス1
屋外に出よう
- 第13週 アウトドア・シークエンス2
自然を感じよう
- 第14週 体力測定
- 第15週 総括・まとめ

【事前・事後学修】

事前学修として、週に1時間程度、動画サイト（Youtubeなど）にアップされている基礎的動作についての動画を視聴し、解剖学的な映像に触れることで体内の筋活動のイメージを膨らませておきましょう。

事後学修として、週に1時間程度、ヨーガの動作が生理学的、解剖学的にどのような意味や効果があるのか整理し、体調を記録してみましょう。

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度を核として（40%）、学習意欲・仲間と協力する学習態度（30%）、知識の理解度（20%）、技術・スキルの習熟度（10%）を総合的に評価します。レポート、疑問カードへの回答によっ

てフィードバックを行います。

【参考書】

- 『ヨーガ 本質と実践』シヴァーナンド・ヨーガ・センター編
- 『図解ヨガアナトミー：筋骨格編』レイ・ロング医学博士著
- 『図解ヨガアナトミー：アーサナ編』レイ・ロング医学博士著
- 『図解ヨガアナトミー：実践編』レイ・ロング医学博士著
- 『体感して学ぶヨガの解剖学』中村尚人著

【注意事項】

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

健康運動実習 a

フィットネスとニュースポーツ

山形 高司

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

この授業は、運動の実践を通して「出来た」「変わった」の実感を目指します。生涯にわたる心身の健康づくりの基礎を身につけるため、個人で出来る様々な運動方法の理論と実践を取り入れます。さらに、目的に合わせた運動を継続して実践することによって、運動の効果を体験できるよう展開します。また、仲間と協力しながら行う運動としてニュースポーツも扱います。

【授業における到達目標】

1. 目的に応じた運動方法を理解し、他者に伝えることができるようになる。
2. 運動の効果を実感することによって、運動の得意・不得意に関わらず、運動に対する自信を持つことができるようになる。
3. チームスポーツを通して、互いを尊重しながら身体を動かすことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 コミュニケーションゲーム
- 第4週 ストレッチ
- 第5週 ヨガ
- 第6週 筋力トレーニング
- 第7週 ピラティス
- 第8週 有酸素運動
- 第9週 ダンスエクササイズ① 基本動作の理解
- 第10週 ダンスエクササイズ② 持続運動
- 第11週 ニュースポーツ①
シッティングパレーボール（種目の理解・練習・ゲーム）
- 第12週 ニュースポーツ②
シッティングパレーボール（ゲーム）
- 第13週 ニュースポーツ③
シッティングパレーボール（アレンジゲーム）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

授業の前半部分では、毎回ウォーミングアップを兼ねた体力づくり運動を実施します。また、個人の目標に合わせた個別トレーニングの時間を約10分間設け、継続したトレーニングによる効果の体感を目指します。

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業テーマに関する資料や動画サイトなどを活用して理解を深める。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で紹介した運動方法の復習や実践を行い、運動の理解を深める。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

適宜授業内でプリント資料などを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、平常点（積極性・協調性）50%、レポート30%、課題達成度20%とします。レポートは、授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【注意事項】

毎回運動着・運動用シューズ、筆記用具を持参してください。安全のため、アクセサリ（指輪やピアスなど）は外して受講してください。万全な体調で授業に出席してください。教室内の授業実施となるため、狭い空間の中で実施できる内容を取り入れて展開します。第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週目以降の授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。

※募集人数は20名です。

健康運動実習 a

鈴木 清美

1年～ 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

日常生活における運動習慣は、将来の健康維持に重要な意味を持つ。

本授業では、心身ともに健康的な学生生活の基礎を築くために、また生涯にわたって健康的な生活を送るために、誰もが手軽に行えるウォーキングや自重負荷でのトレーニングを中心に授業を展開する。体力に自信のない人も、身体を動かすことの心地よさを体感して欲しい。そして、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

【授業における到達目標】

- *体力と健康の関わり、生活習慣（特に運動）と健康の関わりについて理解する。
- *手軽にできる運動の方法を覚え、日常生活の中で実践できる。
- *運動・スポーツを通して他者とのコミュニケーション能力を高める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ウォーキング①
- 第4週 ノルディックウォーキング①
- 第5週 ノルディックウォーキング②
- 第6週 ノルディックウォーキング③
- 第7週 リズム体操とストレッチ
- 第8週 リズム体操とトレーニング①
- 第9週 リズム体操とトレーニング②
- 第10週 卓球①
- 第11週 卓球②
- 第12週 卓球③
- 第13週 卓球④
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週1時間）
日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に興味をもつ。
- ・事後学修（学修時間 週1時間）
生活習慣（運動中心に）の振り返りを行う。
身体を動かすことに興味・関心を持ち、実践する。

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度・積極性）50%、レポート30%、課題達成度（体力テスト含む）20%で総合的に評価する。

レポート課題に対するフィードバックは最終授業で行う。

【参考書】

授業時に随時紹介する。

【注意事項】

- *授業内容の順序や種目が変更になることがある。
- *種目によって、学外に出ることがある。
- *運動に適した服装（ジャージ）、靴（外履き・室内履き用）を準備し参加すること。時計、アクセサリ類は外し、長い髪は結わき身だしなみを整え参加すること。
- *第1回目の授業は今後の授業について説明するので出席すること。
- *募集人数は36名

健康運動実習 a

フィットネス

河田 美保

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

人生をよりよく過ごすためには、こころとからだの健康が大切である。この授業では、いろいろな健康運動を通して、自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活における積極的な身体活動の必要性を理解するとともに、仲間と安全に楽しく活動するための方法を身につけ、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ①基本的な動きを身につけることができる。
- ②学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探索し、学問をつづけることができる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

体力測定等の結果から自己の身体、健康、体力の現状を把握し、各自目標を設定してから実習に入る。生きる上で大切な基本の動きや音楽に合わせて行ういろいろな体操・ダンスなど、個人で行う運動をペアやグループで実習し、あらゆるスポーツや運動の基礎となる動きを習得する。

- 第1週 ガイダンス、履修カード作成
- 第2週 体力測定、形態計測
- 第3週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第4週 基本の動き
- 第5週 ストレッチ
- 第6週 コンディショニング・エクササイズ
- 第7週 ファンクショナル・ジムナスティック
- 第8週 バランス・コア・トレーニング
- 第9週 エアロビックダンス
- 第10週 レクリエーション・ダンス
- 第11週 オリジナル・エクササイズⅠ（作成、練習）
- 第12週 オリジナル・エクササイズⅡ（発表準備）
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、発表準備
- 第15週 オリジナル・エクササイズ作品発表会、総括

【事前・事後学修】

- ①日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）。
- ②授業で行う体操、ストレッチ等を参考に「マイ・エクササイズ」を作成し、一日おきに行う。
- ①②合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度（発表）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので必ず出席すること。
 - ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
 - ③睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。
- ※受講人数制限36名

健康運動実習 b

ニュースポーツ

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習します。ミニテニス・ユニホック・ソフトバレーボール・フライングディスクといったニュースポーツを取り上げ、仲間とともに運動することの楽しさを通してコミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身に付けることを目標とします。

【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自己や他者の役割を理解し、互いに協力しあうコミュニケーション力や「協働力」の修得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ミニテニス① 基本技術の習得
- 第4週 ミニテニス② ルールの理解とゲームへの展開
- 第5週 ミニテニス③ ゲームの実践
- 第6週 ユニホック① 基本技術の習得
- 第7週 ユニホック② ルールの理解とゲームへの展開
- 第8週 ユニホック③ ゲームの実践
- 第9週 ソフトバレー① 基本技術の習得
- 第10週 ソフトバレー② ルールの理解とゲームへの展開
- 第11週 ソフトバレー③ ゲームの実践
- 第12週 フライングディスク① 基本技術の習得
- 第13週 フライングディスク② 競技の紹介とルールの理解
- 第14週 フライングディスク③ アルティメットの実践
- 第15週 体力測定とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活において運動実施に必要な身体づくりを行いましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で学んだ知識を日常生活に取り入れられるよう、積極的な運動実践を心掛け健康的な生活習慣の獲得を目指しましょう。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、実技理解度20%で総合的に評価します。

各種目の技術習熟度について、次回授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（屋内外用）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。

※募集人数は36名です。

健康運動実習 b

お手玉を使ったリズム体操

河田 美保

1年～ 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

人生をよりよく過ごすためには、こころとからだの健康が大切である。この授業では、いろいろな健康運動を通して、自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活における積極的な身体活動の必要性を理解するとともに、仲間と安全に楽しく活動するための方法を身につけ、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ①基本的な動きを身につけることができる。
- ②学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探索し、学問をつづけることができる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

体力測定等の結果から自己の身体、健康、体力の現状を把握し、各自目標を設定してから実習に入る。生きる上で大切な基本の動き、音楽に合わせて行ういろいろなエクササイズやお手玉を使用した体操など、個人で行う運動をペアやグループで実習し、あらゆるスポーツや運動の基礎となる動きを習得する。

- 第1週 ガイダンス、履修カード作成
- 第2週 体力測定、形態計測
- 第3週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第4週 基本の動き（はずむ、歩く、振る、跳ぶ、走る）
- 第5週 ストレッチ、コンディショニング・エクササイズ
- 第6週 お手玉を使った体操Ⅰ（ウォームアップ）
- 第7週 お手玉を使った体操Ⅱ（つまむ、つかむ）
- 第8週 お手玉を使った体操Ⅲ（渡す、受ける）
- 第9週 お手玉を使った体操Ⅳ（投げる）
- 第10週 お手玉を使った体操Ⅴ（回す、振る）
- 第11週 お手玉を使った体操Ⅵ（一連の動き）
- 第12週 お手玉を使った体操作品づくり
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、発表準備
- 第15週 お手玉を使った体操作品発表会、総括

【事前・事後学修】

- ①日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）。
- ②授業で行う体操、ストレッチ等を参考に「マイ・エクササイズ」を作成し、一日おきに行う。
- ①②合わせて週3時間程度

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度（発表）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは履修カードの作成、受講上の重要事項を説明するので必ず出席すること。
 - ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
 - ③睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。
- ※受講人数制限36名

健康運動実習 b

鈴木 清美

1年～ 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

日常生活における運動習慣は、将来の健康維持に重要な意味を持つ。

本授業では、心身ともに健康的な学生生活の基礎を築くために、また生涯にわたって健康的な生活を送るために、年齢を問わず楽しめる生涯スポーツとしての卓球、手軽に行える自重負荷でのトレーニングを中心に授業を展開する。体力に自信のない人も、卓球の経験のない人も身体を動かすことの心地よさを体感して欲しい。そして、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

【授業における到達目標】

- *体力と健康の関わり、生活習慣（特に運動）と健康の関わりについて理解する。
- *手軽にできる運動の方法を覚え、日常生活の中で実践できる。
- *運動・スポーツを通して他者とのコミュニケーション能力を高める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 身体慣らし、ストレッチ
- 第4週 卓球 技術練習（フォアハンドロング）とシングルス
- 第5週 卓球 技術練習（バックハンドショート）とシングルス
- 第6週 卓球 技術練習（サーブ）とシングルス
- 第7週 卓球 技術練習（フォア&バック）とダブルスの動き
- 第8週 卓球 技術練習（ツッツキ）とダブルス
- 第9週 卓球 技術練習（スマッシュ）とダブルス
- 第10週 卓球 ダブルス
- 第11週 リズム体操とトレーニング①
- 第12週 リズム体操とトレーニング②
- 第13週 リズム体操とトレーニング③
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週1時間）
日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に興味をもつ。
- ・事後学修（学修時間 週1時間）
生活習慣（特に運動）の振り返りを行う。
身体を動かすことに興味・関心を持ち、実践する。

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度・積極性）50%、レポート30%、課題達成度（体力テスト含む）20%で総合的に評価する。
レポート課題に対するフィードバックは最終授業で行う。

【参考書】

授業時に随時紹介する。

【注意事項】

- *授業内容の順序や種目が変更になることがある。
- *種目によって学外に出ることがある。
- *運動に適した服装（ジャージ）、靴（外履き・室内履き用）を準備し参加すること。時計、アクセサリ類は外し、長い髪を結わき身だしなみを整え参加すること。
- *第1回目の授業は、今後の授業について説明するので出席すること。
- *募集人数は36名

健康科学概論

健康と医療

塩川 宏郷

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会において健康に対する関心は非常に高まっている。健康と医療は不可分の領域であるが、疾病の対立概念としての健康のとらえ方だけでは十分ではない。健康・疾病に関する知識のみならず、問題を心理社会的な側面からもとらえる視点が重要である。本科目においては、健康とは何か、健康維持のために必要なこと、健康を守るしくみについて講述し、医療の心理学的な側面についても紹介する。

【授業における到達目標】

学生の習得すべき行動力のうち、健康を科学的にとらえること、疾病・障害のとらえかた、健康維持のしくみと健康を守る保健医療システム、ならびに医療にまつわる心理的な側面について理解し科学的にとらえる力を身につける。また研鑽力として健康に関する問題を自ら情報収集し、問題意識をもって解決にあたる力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、健康とは
- 第2週 環境と健康
- 第3週 遺伝と健康
- 第4週 加齢と健康
- 第5週 ストレスと健康
- 第6週 生活習慣病
- 第7週 悪性腫瘍、ターミナルケア
- 第8週 感染症
- 第9週 障害とは、ICF
- 第10週 健康を守るしくみ・保健医療システム
- 第11週 医療機関と医療関連職種
- 第12週 医療ソーシャルワークと心理
- 第13週 在宅医療・連携
- 第14週 心の健康
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：

manabaで配布される資料を読み授業に臨むこと
(学修時間 週2時間)

事後学修：

アクティブラーニング課題や授業メモを整理すること
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特に指定しない。manabaで資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%

レポート、アクティブラーニングなどの評価は授業の中で行う。試験の採点基準や講評はmanabaを通じて行う。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【注意事項】

身の回りの健康に関する情報、病気や医療に関する新聞記事やインターネット情報を積極的に参照し、批判的に吟味する姿勢を持つこと。

健康科学論 a (女性の体と心)

塩川 宏郷

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会は、男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化・個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自らの体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会とのかかわりの中で自分自身の健康を考えることが大切である。本授業では、女性のライフステージにおけるさまざまな健康問題を取り上げ、産科・婦人科学の概要およびリプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講義する。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき行動力のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化や変調について理解し、自ら対処できる知識を身につける。研鑽力として日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 思春期
- 第6週 成熟期
- 第7週 更年期
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育て支援・産後うつ
- 第11週 子ども虐待・夫婦間暴力
- 第12週 摂食障害
- 第13週 性と健康、性的マイノリティ
- 第14週 女性に多い病気
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：配布資料を熟読して授業に臨む(学修時間週2時間)

事後学修：授業ノートを整理し課題に取り組む(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

特に定めない。manabaを通じて毎回資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30点

課題のフィードバックは授業中もしくはmanabaを通じて行う。

【参考書】

「ウーマンズヘルス」久米美代子、飯島治之の編著(医歯薬出版)

【注意事項】

自分の体と心に関心を持つこと。

健康科学論 a (女性の体と心)

塩川 宏郷

2～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会は、男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化・個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自らの体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会とのかかわりの中で自分自身の健康を考えることが大切である。本授業では、女性のライフステージにおけるさまざまな健康問題を取り上げ、産科・婦人科学の概要およびリプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講義する。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき行動力のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化や変調について理解し、自ら対処できる知識を身につける。研鑽力として日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 思春期
- 第6週 成熟期
- 第7週 更年期
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育て支援・産後うつ
- 第11週 子ども虐待・夫婦間暴力
- 第12週 摂食障害
- 第13週 性と健康、性的マイノリティ
- 第14週 女性に多い病気
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：配布資料を熟読して授業に臨む（学修時間週2時間）

事後学修：授業ノートを整理し課題に取り組む（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

特に定めない。manabaを通じて毎回資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30点

課題のフィードバックは授業中もしくはmanabaを通じて行う。

【参考書】

「ウーマンズヘルス」久米美代子、飯島治之編著（医歯薬出版）

【注意事項】

自分の体と心に関心を持つこと。

健康科学論 a (女性の体と心)

塩川 宏郷

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会は、男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化・個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自らの体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会とのかかわりの中で自分自身の健康を考えることが大切である。本授業では、女性のライフステージにおけるさまざまな健康問題を取り上げ、産科・婦人科学の概要およびリプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講義する。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき行動力のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化や変調について理解し、自ら対処できる知識を身につける。研鑽力として日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 思春期
- 第6週 成熟期
- 第7週 更年期
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育て支援・産後うつ
- 第11週 子ども虐待・夫婦間暴力
- 第12週 摂食障害
- 第13週 性と健康、性的マイノリティ
- 第14週 女性に多い病気
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：配布資料を熟読して授業に臨む（学修時間週2時間）

事後学修：授業ノートを整理し課題に取り組む（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

特に定めない。manabaを通じて毎回資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30点

課題のフィードバックは授業中もしくはmanabaを通じて行う。

【参考書】

「ウーマンズヘルス」久米美代子、飯島治之編著（医歯薬出版）

【注意事項】

自分の体と心に関心を持つこと。

健康科学論 b (疫学から見る健康)

佐野 堯

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

疫学についての基本を網羅します。

専門的な知識についても少し解説します。

【授業における到達目標】

到達目標：疫学についての基本がわかる。用語が理解できる。

・国際的視野・美の探究：特に日米における統計や有名な疫学研究を学ぶことにより、貧困格差、人種格差、年齢層、疾患の違いなど、それぞれの国の実態、抱えている問題を考察し、対処法を発見できる。

・研鑽力・行動力・協働力：疫学・統計情報を活用した学習を通じて、自分自身、もしくは他人との協同で、新聞記事やニュース記事で得られる病気や健康についての情報の吟味を批判的にすることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週：疫学 Introduction
- 第2週：感染症
- 第3週：疾病調査
- 第4週：死亡率などの指標
- 第5週：スクリーニング試験
- 第6週：病気の自然歴
- 第7週：ランダム化試験
- 第8週：コホート研究
- 第9週：ケースコントロール研究など
- 第10週：リスク評価
- 第11週：相関と因果関係
- 第12週：遺伝要因と環境要因
- 第13週：保健サービスの評価
- 第14週：疫学と公共政策
- 第15週：まとめ (授業内)

【事前・事後学修】

【事前学修】講義の最初に行う小テストの出題範囲に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義で強調した重要事項、小テスト等を復習すること。

次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

Leon Gordis 「Epidemiology」第5版

(講義で内容を説明するので、買う必要はない)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法・基準：平常点(講義への取り組み)30%、小テスト(講義の時に話した基本内容を元に用語記述もしくは選択)30%、試験(各講義の小テストから1問ずつ出す)40%

フィードバック：小テストの全体での正答率に関して、特に低かった問題について再度解説を行う。

【参考書】

参考書：中村好一「楽しい疫学」第3版

健康科学論 c (現代医療の課題)

先端医療・精神医療の抱える問題、司法精神医学

塩川 宏郷

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代の医学・医療は日進月歩の発展を遂げており、マスコミやインターネットにおいても医学・医療に関連する記事が日々氾濫している。情報の質を見極め、生活の中にもどのように取り入れるか、あるいは情報の真偽を判断するためのリテラシーを習得することが重要である。本科目においては、現代医療、特に先端医療や精神医療の抱える課題についてテーマ・トピックスをしぼり講義・討論する。

【授業における到達目標】

現代の医療、医学の最新情報に関するさまざまなテーマを取り扱う。特に司法精神医学領域の知見を共有し資料を読み解き批判的に吟味する姿勢を習得する。

学生の習得すべき行動として、理論的・科学的に考える研鑽力、自ら情報収集し役割分担・意思決定できる行動力、協働して問題解決にあたる協働力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクション、医学論文の読み方
- 第2週 不登校
- 第3週 大規模災害とトラウマティックストレス
- 第4週 摂食障害
- 第5週 発達障害の治療
- 第6週 発達障害の薬物療法
- 第7週 子ども虐待、老人虐待、夫婦間暴力
- 第8週 犯罪心理学概説
- 第9週 少年の非行
- 第10週 発達障害と非行
- 第11週 精神疾患と犯罪
- 第12週 犯罪白書を読む
- 第13週 医学研究の最先端
- 第14週 分子標的治療、再生医療、医療否定
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：トピックスについての情報収集、配布資料の熟読(学修時間週2時間)

事後学修：授業ノートの整理、レポート等(学修時間2時間)

【テキスト・教材】

特に定めない。毎回manabaで資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、授業の討論参加、レポート等50%

討論、レポートの公表は最終回に行う。試験のフィードバックはmanabaを通じて行う。

【参考書】

法務省法務総合研究所(2018年)『犯罪白書』

原田隆之(2015年)『入門犯罪心理学』ちくま新書、820円

【注意事項】

適宜ケースカンファレンス形式で授業を行う。個人情報保護、守秘義務を順守すること。

健康管理論

佐々木 溪円

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

日本の主要な健康課題の一つである生活習慣病は、胎児期の栄養環境や小児期からの食生活に影響されることが多いことが、近年の研究によって示されてきました。この授業では、胎児期から成人期までライフステージを通じた健康管理体制や健康課題について考えるとともに、喫緊の課題となっている健康格差対策について考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 健康の概念と健康管理システムについて説明できる。
- 2) 各ライフステージの健康に関する課題について、自分の意見を説明できる。
- 3) 健康格差対策の必要性と実践について概説できる。

【授業の内容】

- 第1回 健康の定義
- 第2回 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション
- 第3回 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ
- 第4回 健康日本21（第二次）と健やか親子21（第2次）
- 第5回 妊娠期の健康管理
- 第6回 乳幼児の健康管理
- 第7回 学童期の健康管理
- 第8回 成人期の健康管理
- 第9回 メンタルヘルスと健康管理
- 第10回 身体活動と健康管理
- 第11回 健康格差対策の必要性
- 第12回 健康格差対策とユニバーサルアプローチ
- 第13回 健康格差対策と目標設定
- 第14回 健康格差対策と組織連携
- 第15回 健康格差対策と行動変容

【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習テーマを示します。授業ではグループ課題を提示しますので、必ず予習をして、グループ学習に参加できるように準備してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の内容を、関連書籍等で復習してください。期末試験前に練習問題を提示しますので、取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配付資料を作成して配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：筆記試験70%＋グループ学習30%
 プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

- ・東あかね 他編『健康管理概論』（講談社 2017年）
- ・国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）
- ・公衆衛生がみえる2018/2019（メディックメディア）

健康体力科学演習

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

健康的な生活を維持するために、身体活動は必要であると考えますが、「運動・スポーツ」が苦手であったり経験が少なく習慣化されていない人もいるのが現状です。

本授業では、特に運動やスポーツに苦手意識がある方を対象に、体の構造や運動・スポーツによる身体への影響を理解するとともに、生涯にわたって健康を維持するために必要な身体活動の習慣化を目指します。競技スポーツだけでなく、日常生活の中で手軽にできる軽スポーツやレクリエーションを体験的に学ぶことで、運動やスポーツに対する苦手意識を払拭しながら、健康的な生活を手に入れましょう。

【授業における到達目標】

運動・スポーツの実施と健康の関係について体験的に学ぶことを通して、身体活動の重要性を理解するとともに、日常生活に応用できる「行動力」「実践力」を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 身体組成と運動の関係(講義)
- 第4週 ウォーキング①歩数と運動量の関係
- 第5週 ウォーキング②エクササイズウォーキング
- 第6週 ウォーキング③ノルディックウォーキング
- 第7週 リズム体操とストレッチング①ローインパクト
- 第8週 リズム体操とストレッチング②ハイインパクト
- 第9週 レクリエーションスポーツ①ミニバレーボール(基本練習)
- 第10週 レクリエーションスポーツ②ミニバレーボール(試合)
- 第11週 レクリエーションスポーツ③ラダーゲッター(基本練習)
- 第12週 レクリエーションスポーツ④ラダーゲッター(試合)
- 第13週 運動による健康への影響とその必要性(講義)
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修(学修時間 週1時間)
これまでの運動・スポーツ実施経験を踏まえるとともに、新聞等に掲載されている運動と健康の関係について関心を持ちましょう。
- ・事後学修(学修時間 週1時間)
授業の内容を振り返り、日常生活において身体活動を実践しましょう。

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極性および日常生活への応用)60%、レポート30%、毎回の授業時の記録10%で総合的に評価します。

身体活動と健康の関係について、日々の記録をつけ次回授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

実技を行う際は、運動実施に適した服装(運動着)・運動靴(屋内外用)を必ず着用し、長い髪は結ぶなどの身支度を整えてください。水分補給のためのペットボトルや水筒、タオルなどを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席してください。

*募集人数は36名です。

建築・インテリアCAD

神野 郁也

2年 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、図面のトレース、ファニチャーのモデリングおよびプランニングを通して、2D-CADによる図面作成能力の育成と、3D-CADの基本的なオペレーティング技術の習得を目的とする。

【授業における到達目標】

CAD技術によるデザイン能力の向上とともに、学生が修得すべき「行動力」のうち、デザイン課題の問題点発見と検討力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週CADを用いた設計手法の特徴
- 第2週2次元CADの基本操作1（図面設定とレイヤー）
- 第3週2次元CADの基本操作2（図形の作成と編集）
- 第4週バルセロナ・パビリオン平面図トレース1（床・水面・柱）
- 第5週バルセロナ・パビリオン平面図トレース2（壁・ガラス・屋根）
- 第6週バルセロナ・パビリオン立面図作成（4面）
- 第7週3次元CADの基本操作1（モデリング）
- 第8週3次元CADの基本操作2（編集・アングル）
- 第9週家具から考えるインテリア・プランニング
- 第10週家具のモデリング1（椅子1）
- 第11週家具のモデリング2（椅子2）
- 第12週家具のモデリング3（その他）
- 第13週バルセロナ・パビリオンへの配置検討1（プランニング）
- 第14週バルセロナ・パビリオンへの配置検討2（カメラアングル）
- 第15週総括

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、配布資料の該当箇所を予習しておくこと。（学修時間30分）

授業内に目標とするワークが完了しなかった場合には、必ず授業後に作業を行い、完了させること。（学修時間30分）

【テキスト・教材】

教材は適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

2D課題20%、レイアウト課題20%、3D課題40%、平常点（授業態度）20% 提出課題評価については、授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

『MIES VAN DER ROHE BARCELONA PAVILION』（G.G社）

建築・インテリア構法

高田 典夫

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

構法とは、建物の実体部分の「仕組み」全体を表わす概念で、単にできあがった状態の仕組みだけでなく造る過程も含んだものです。この授業では建物全体を構成する基本的な構造方式を学んだ上で、造る過程を踏まえた建物の部分の仕組みを学びます。

【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する。
- ・学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を創造しようとする力を修得する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. はじめに：構法とは
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
2. 建物の成り立ち—木質構造
3. 建物の成り立ち—鉄骨構造
4. 建物の成り立ち—鉄筋コンクリート構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造
5. 建物の成り立ち—その他の構造
6. 各部構法—屋根
7. 各部構法—床
8. 各部構法—壁
9. 各部構法—天井
10. 各部構法—階段・手摺
11. 各部構法—建具
12. 各部構法—設備部品
13. 工業化住宅
14. 外構
15. まとめ
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストに目を通しまとめておく（学修時間2時間）

【事後学修】授業での内容をテキストなどで再確認し、必要に応じて専門用語など調べたことをレポートにまとめる（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

日本建築学会：構造用教材[丸善出版、2014、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・レポート提出）20%

授業において内容の理解度を確認する為レポートを提出してもらう。レポートは採点し返却することでフィードバックする。

定期試験80%

授業内容把握確認のため、試験を行う。

【参考書】

『図解住居学3 住まいの構法・材料』（彰国社）

その他適宜授業の中で紹介します。

建築デザイン論

高田 典夫

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

毎日の生活の中で目にし、体験しているいろいろな建築物は、どのようなことを考えてデザインされているのだろうか。いくつかの建築を具体的な例として取り上げ、建築家・構造エンジニア・照明デザイナーなど建築でデザインに関わっているデザイナーの目から見た建築の意味、デザインのポイントを概説することにより、建築デザインとは何かを考えます。

【授業における到達目標】

- ・建築デザインに関わるいろいろな分野の専門家の視点を理解し、多様な価値観が存在することを知ることを通して「国際的視野」を修得する。
- ・建築デザインを多様な側面から学ぶことにより「美の探求」を習得する。
- ・毎回行われる質疑応答を通して「研鑽力」を習得する。
- ・外部講師を通して学ぶことにより「協働力」を習得する。

【授業の内容】

1. 授業の概要ー建築を見る楽しさ
2. 建築空間を知る 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
3. 鉄とガラスの建築
4. コンクリートの建築
5. 木の建築
6. 建築とまちづくり 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
7. 建築と地域性 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
8. 建築と環境 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
9. 建築家の考える建築デザイン
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
10. 構造エンジニアの考える建築デザイン
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
11. 照明デザイナーの考える建築デザイン
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
12. 大工の考える建築デザイン
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
13. 写真家の考える建築デザイン
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
14. 女性と建築 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
15. まとめー建築デザインとは

【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。できるだけ多くの文献・資料に接するとともに、数多くの実際の空間を体験することで、建築に親しむこと。（学修時間 2時間/週）

【事後学修】毎回提出するレポートに対するコメントをきちんと読むことで、建築デザインに対する理解を深める。（学修時間 2時間/週）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しない。授業においては、建築のスライド・DVDなどの視覚的な教材を使用しながら解説する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と提出物（レポート等）（80%）による。毎回提出されるレポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

建築は実際に空間を体験することによって、より深い理解が得られます。授業で取り上げる建築空間のうちいくつかは比較的容易に実際に体験できます。それらだけでなく、いくつもの空間を体験し、それらの空間について考える機会を持つことを勧めます。

建築概論

ー建築を捉える新たな視点をつくるー

榎 究

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

歴史的・地理的に世界の建築を眺めながら、建築を捉える視点を紹介する。これまで知らなかった視点を自分のものとするところにより、自分自身で建築を考える視点を醸成するきっかけとする。

【授業における到達目標】

- ・授業で解説した建築を捉える視点について理解し、建築を多様な視点で捉えることができる。
 - ・建築を体験する面白さを見出し、新しい視点を発見できる。
 - ・授業で出てきた用語を理解し、人に説明できる。
- 日本・世界の建築文化の多様性を理解し、多角的なものを見方を身に付けることにより、国際的視野と研鑽力および美を探究する力を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1講 インTRODククション
＜建物を見る＞
- 第2講 いろいろな建物を見る その1
- 第3講 いろいろな建物を見る その2
＜建物の内と外を語る＞
- 第4講 彫刻としての建築
- 第5講 空間を満たす光
- 第6講 ファサード
＜人の動きと建築＞
- 第7講 視線と視点 その1
- 第8講 視線と視点 その2
＜建築の歴史＞
- 第9講 教会建築の変遷 その1
- 第10講 教会建築の変遷 その2
＜建築を規定する要因＞
- 第11講 構造美 その1
- 第12講 構造美 その2
- 第13講 建築の工業化
- 第14講 環境と建築
- 第15講 総括

【事前・事後学修】

manabaを利用し、授業に出てくる用語の調べ学修を行う。また、授業後にmanabaの掲示板機能を用いた意見交換、調べ学修を実施する他、授業内容確認のための小テストを実施する。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

授業の構成に合わせて作成したテキストを購入してもらう。建築スライドなどの視覚教材を呈示しながら解説する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

＜成績評価の方法＞
授業中試験、manaba小テスト、その他課題について得点化して加重加算した総合点に基づいて判断する。
（試験：70%、小テスト：10%、課題：20%）
基準については、授業冒頭で紹介する。
＜フィードバック＞
小テストについては、授業中に解説を行う。
レポートについては、学生相互に閲覧し、意見を述べ合う。

【参考書】

本多友常ら著『建築概論 建築・環境のデザインを学ぶ』（学芸出版社）
その他、授業中に関連図書を紹介する。

【注意事項】

授業中に紹介した建物を見学したり、本やWebなどを用いて積極的に調べることが望まれる。また、建築関連の展覧会や講演会の情報も提供するので、参加し、見聞を広めて欲しい。

建築構造

橋 弘志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活の器である建築物は、建築構造によって安全にその空間が支えられています。建築構造の基本は力学であり、力の釣り合いと力の流れを理解することが、建築構造の第一歩となります。建築の単純な骨組みである梁・ラーメン・トラスなどの構造を理解し、応力の仕組みを学ぶことによって、建築構造の基本を学んでいきます。

【授業における到達目標】

建築の構造および構成部材とその役割を理解する。
構造力学の基本となる考え方を理解し、構造計算の基礎的な知識・技術が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 力のベクトル
- 第2週 力の合成と分解
- 第3週 力の釣り合い
- 第4週 力の釣り合い
- 第5週 モーメントの釣り合い
- 第6週 梁の支持方法と反力
- 第7週 さまざまな荷重と反力
- 第8週 部材の応力1（軸力、せん断力）
- 第9週 部材の応力2（曲げモーメント）
- 第10週 応力図1（集中荷重）
- 第11週 応力図2（等分布荷重等）
- 第12週 応力度と許容応力度
- 第13週 部材の断面形状と応力度
- 第14週 トラス構造
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

次のテキストを読んで理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

次回までの宿題を指示する。次の授業の冒頭に確認テストを行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

高木任之：図解 一番やさしい構造力学[日本実業出版社、2010、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業冒頭の確認テスト、授業後のフィードバックシート）50%、定期試験50%によって評価します。

【参考書】

小野里憲一・西村彰敏『力のつり合いを理解する構造力学』（彰国社）

原口秀昭・サノマリナ『マンガでわかる構造力学』（彰国社）

【注意事項】

確認テストで及第点に達しなかった場合、授業後に再度確認テストを実施する。

建築施工

岡村 珠穂

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

建築施工の概念をはじめ、施工に必要なハードとソフトの習得を目指します。建築資材と工法の変革および選択に柔軟な対応ができるように基本を学びます。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 概念・監理・管理と施工計画
 - 第2週 仮設工事
 - 第3週 測量・土工事・地業工事
 - 第4週 現場見学実習①（日野キャンパス周辺にて実施）
注：日程調整の為、多少授業の入れ替えあります。
 - 第5週 木質系工事
 - 第6週 鉄骨系工事
 - 第7週 鉄筋コンクリート系工事—鉄筋工事
 - 第8週 鉄筋コンクリート系工事—型枠工事
 - 第9週 鉄筋コンクリート系工事—現場打ち工事
 - 第10週 現場見学実習②（日野キャンパス周辺にて実施）
注：日程調整の為、多少授業の入れ替えあります。
 - 第11週 工事種別内装・外装工事（防水・屋根・板金）
 - 第12週 工事種別内装・外装工事（左官・塗装・ガラス）
 - 第13週 設備工事・外構・その他の工事
 - 第14週 防災・維持管理
 - 第15週 全体のまとめ・レポート提出
- ※中間で2回の小テストを行います。テスト範囲は授業内で伝えます。

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストに目を通しまとめておく（修学時間2時間）

【事後学修】授業の内容をテキスト等で確認し、専門用語など調べたことをミニレポート（フィードバックシート）にまとめる。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

『【図解】建築の構造と構法』（井上書院2015改訂版）税別3200円、補足資料としてプリント配布・現場見学・スライド等

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト45点、現場見学5点、課題レポート25点、平常点（授業意欲、ミニレポート提出）25点、合計100点満点にて評価します。
全2回の小テストを行い、内容理解の確認を行う。施工現場を見学し、実際の工程を体験で学ぶ。毎回の授業においての理解度を確認する為ミニレポートを提出してもらう。ミニレポートは採点し返却することでフィードバックする。
課題レポートは総合的理解確認の為、最終授業に提出。

【参考書】

『建築施工教科書 第五版』（彰国社）

『おさまり詳細図集1 木造編』（理工学社）

『仕上げ別建築のディテール』（彰国社）

『わかりやすい建築現場用語辞典』（エクスナレッジムック）

その他授業内で紹介します。

【注意事項】

沢山の専門用語が出てきます。授業の進度も早いので、専門用語は調べて学修に臨むようにしてください。

建築法規

橋 弘志

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

私たちの周りの建築は、さまざまな法規に従って建てられています。法規の中には、地震に壊れず、火事に燃えにくく、避難しやすいように、通風・採光・遮音性能が良いように、さらに都市環境に配慮するための、幅広く総合的な知識と技術が含まれています。建築法規の知識は、資格試験対応だけでなく、建物の設計からインテリア改修、住宅を購入する場合にも必要かつ有用なものです。ここでは、建築基準法を中心とした基礎的な法規の知識を、なるべく分かりやすい形で学んでいきます。

【授業における到達目標】

建築基準法の考え方（集団規定、単体規定）について理解する。
日本の建築物が建築基準法によってどのように規定されているのか理解する。

【授業の内容】

- 第1週 建築関連法規の概要
- 第2週 敷地と建築物
- 第3週 建ぺい率
- 第4週 容積率
- 第5週 高さの制限～道路斜線
- 第6週 高さの制限～隣地斜線・北側斜線
- 第7週 用途地域
- 第8週 環境の確保～採光
- 第9週 環境の確保～一般構造
- 第10週 耐火建築物・準耐火建築物
- 第11週 耐火建築物の義務
- 第12週 内装制限
- 第13週 防火区画
- 第14週 避難経路
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：教材で指示した箇所、配布する資料をよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：学修内容を次の授業までに復習してしっかりと理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

今村仁美・田中美都：図説 やさしい建築法規[学芸出版社、2007、¥3,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の小課題3割、定期試験7割により評価します。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

建築資料研究者・日建学院編『建築基準法関係法令集2018年度版』
建築資料研究社、または「建築士試験会場持込みが可能」と表示されている他の法令集。
日本建築学会編『建築法規用教材2018』丸善

検定英語A

映画と音楽で生きた英語に触れ実力を磨きスコアアップにつなげる

柳瀬 実佳

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

TOEICでは、会話など、生きた英語が切りとられています。そのため、映画や音楽などの生きた英語に触れて、実力を磨きつつ、TOEICのスコアアップにつなげることを支援します。生きた英語を理解するには、自分の視点や感覚だけにとらわれず、英語の感覚や視点、文化などに触れて視野を広げ、想像力を磨くことが大切です。生きた英語が聞こえれば、その英語の速度で英語を読めます。授業では、TOEIC傾向対策の他にも、まずは映画を字幕なしで観てみます。そこから英語を楽しく読むことにつなげていきます。反射能力を鍛える高校時代の受験勉強とは異なる授業です。洋画や英語を楽しみつつ、英語の実力を的確に磨いてスコアアップを目指しましょう。将来高得点を目指す人や、洋画などの生きた英語を理解したい人対象ですが、洋画やTOEICが全くわからず英語に自信のない人でも、「わかったらいいな」という希望があれば、全く問題有りません。初級・中級・上級のそれぞれの現状に沿ったアドバイスをします。

【授業における到達目標】

1. TOEICの傾向を知る。2. 音楽や洋画を字幕なしで楽しむ。3. 集中力と想像力を磨く。4. 全体像と要点をキャッチする。5. 英語と米語の違いに触れる。6. なぜ英語が聞きとれないか問題解決をする。7. 英語の音とリズム、流れと語順に慣れる。8. 品詞と文型など、最重要文法を最低限学ぶ。9. 効果的で有意義な英単語学習法に触れる。10. 日本語と英米語との視点や感覚の違いに触れる。11. TOEICの会話や説明文を理解するときのポイントを知る。

【授業の内容】

この授業は、英語に全く自信がないけれど、少しでも英語がわかったらいいな、と希望する初心者から、将来、例えばTOEICで900点代などの高得点の取得を目指す中級・上級の人までを対象にしています。具体的には、洋画を楽しみながら、忍耐力と想像力、集中力を磨いて、英語の基礎を学んで、ゆったりと的確に実力を磨く支援をします。

英語の基礎知識とは、初歩の知識ではなく、初心者から上級者まで、全ての人が英語を理解するのに必要な知識のことです。この英語の基礎知識を知り応用するため、リスニングを主にしていきます。心身で、無理なく確実に学んでいきましょう。

(次の各回の文末のPはTOEICのPartを表します)

1. TOEICとその傾向。音楽と洋画を字幕なしで楽しむ。
2. 洋画・音楽(P1~7)
3. 字幕なしで「スパイダーマン1 (アメリカ英語)」、音楽。
4. 集中力と想像力を磨く。「スパイダーマン1」(P1, 2)、音楽。
5. 全体像と要点をキャッチ。「スパイダーマン1」(P3)、音楽。
6. TOEICの会話を聞くための要点は？「スパイダーマン1」(P2)
7. 日本語と英語の視点や感覚の違い「スパイダーマン1」(P2)
8. 洋画のセリフの詳細を聞きとるには？「スパイダーマン1」(P3)
英語のリズムと流れ、語順に慣れる。/詳細を聞くための発音練習「スパイダーマン1」(P4) 音楽
9. 応用力も磨ける英単語学習支援(基礎編)。品詞の紹介。(P5)
10. 英語の文型と、最重要文法を最低限学びTOEICを解く。(P5, 6)
11. アメリカ英語/文化と、イギリス英語/文化の違いについて。/映画や動画など、自分で楽しめる、生きた英語に触れるための課題の紹介。ほか。
12. 洋画を字幕なしでみて知識を応用「ハリーポッターとアズカバンの囚人 (イギリス英語)」
13. 「ハリーポッターとアズカバンの囚人」(P1~4, P7)
14. 学習を進めるためのデータとしてのテスト。
15. 課題提出。「ハリーポッターとアズカバンの囚人」。結び。

【事前・事後学修】

1. 授業外でも、洋画や音楽など自分の楽しめる英語に触れます。
2. 自分のペースで教科書のTOEIC問題を授業外に解いて、わからないところは授業中にお尋ねください。
3. 授業中に、洋画を字幕なしでも楽しめることを目指します。
4. 普段から日本語の感覚や視点にとらわれず、視野を広げます。
5. 英語も自分の現状のまま見て、自分のデータをとります。事前・事後学修時間の目安は、一度につき15分~3時間前後です。その効果的な方法と併せて、1~5の詳細を授業中にお伝えします。

【テキスト・教材】

Educational Testing Service著「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編(音声CD2枚付)」(一般財団法人国際ビジネス婚府にケーション協会) ¥2800E(+税) ISBN978-4-906033-48-5 C0082
この教科書のTest1を活用するほか、映画や音楽その他のプリントを多数配布します。(なお、教科書は解説・和訳付きです)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

英語の理解や学習を進めるには、自分の現状を自覚することから始まります。授業中にこまめにデータをとっていき、フィードバックをしていきます。参考にしてください。

成績は、平常点(授業中の学習、小テスト、提出物など)60%、期末試験30%、課題10%の合計です。

【参考書】

(授業では一部のみ紹介します。購入が必要かどうかは、各自で自由に選んでください。)

1. Oxford Dictionaryなどの英英辞典や英和辞典
2. 柳瀬実佳著「Input-Output 楽しく学べる英会話」(南雲堂出版) ¥2200(+税) ISBN978-4-523-17602-2 C0082

【注意事項】

受験勉強とは異なる英語学習を体験したい人で、洋画などの生きた英語や、TOEICの英語を理解したい人におすすめです。

英語を心身で学んでいく、体験型の授業ですので、毎回の授業を、一期一会の気持ちで大切にしてください。

後期の検定英語Bと併せて受講すると、一層学習が深まり、学習効果も感じやすいので、おすすめです。

40名定員です。人数が超過する場合には、抽選を行います。

検定英語B

映画と童話などの生きた英語で実力を磨きスコアアップにつなげる

柳瀬 実佳

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

本講座からの受講も可能ですが、前期の検定英語Aに引き続き、映画などの生きた英語に触れて、実力を磨きつつ、TOEICのスコアアップにつなげる支援をします。生きた英語を理解するには、自分の視点や感覚だけにとらわれず、英語の感覚や視点、文化などに触れて視野を広げ、想像力を磨くことが大切です。映画などの生きた英語が聞ければ、その速度で英語を読めます。また、英文法を知ること、英語圏の文化を知ることでもあり、英単語を味わうことは、人間や万物の事実に触れることでもあります。文法や単語を丸暗記せず、楽しく理解していきましょう。授業では、TOEICや洋画の他に、童話のシンプルで奥深い生きた英語を読んで、想像力を効果的に磨きます。将来高得点を目指す人や、洋画などの生きた英語を理解したい人対象ですが、洋画やTOEICが全くわからず英語に自信のない人でも、「わかったらいいな」という希望があれば、全く問題ありません。初級・中級・上級のそれぞれの現状に沿ったアドバイスをします。

【授業における到達目標】

1. TOEICの傾向を知る。2. 洋画を字幕なしで楽しむ。3. 想像力と集中力を磨く。4. 全体像と要点をキャッチする。5. 英語の音とリズム、流れと語順に慣れる。6. なぜ生きた英語が読みとれないか問題解決をする。7. TOEICや生きた英語の理解に必要な英文法を学ぶ。8. 単語や文法を、自分の中に有るものを活かして理解する。9. 日本語と英語・米語との視点や感覚の違いに気づく。10. 童話など文学を楽しみつつ、行間を読む。11. TOEICの説明文を読むときのポイントを知る。

【授業の内容】

この授業は、英語に全く自信がないけれど、少しでも英語がわかったらいいな、と希望する初心者から、将来、例えばTOEICで900点代などの高得点の取得を目指す中級・上級の人までを対象にしています。具体的には、反射神経を磨く受験勉強ではなく、洋画や童話を楽しみながら、忍耐力と想像力、集中力を磨いて、英語の基礎を学んで、ゆったりと確実に実力を磨く支援をします。英語の基礎知識とは、初歩の知識ではなく、初心者から上級者まで、全ての人が英語を理解するのに必要な知識のことです。この基礎知識を、洋画や童話などを活用して、心身で、無理なく確実に学んでいくことを紹介します。

(次の各回の文末のPはTOEICのPartを表します)

1. TOEICとその傾向。洋画を字幕なしで楽しむ。洋画、音楽(P1~7)
2. 字幕なしで映画「スパイダーマン2 (アメリカ英語)」、音楽。
3. 集中力と想像力を磨き、全体像と要点をキャッチする。「スパイダーマン2」(P1, 2)
4. TOEICや生きた英会話の要点をキャッチするには? 「スパイダーマン2」(P2)
5. 日本語と英語の視点や感覚の違いは? 「スパイダーマン2」(P2)
6. 洋画のセリフの詳細を聞きとるには? /英語のリズムと流れ、語順に慣れる。(P3, 4)
7. 効果的で有意義な英単語学習支援(応用編)(P5)
8. TOEICや生きた英語を理解するのに必要な英文法、その1 (P5)
9. TOEICや生きた英語を理解するのに必要な英文法、その2 (P5)
10. 童話を読んで行間を感じ、想像力を大きく伸ばす。#1(P6, 7)
11. 童話を読んで行間を感じ、想像力を大きく伸ばす。#2(P6, 7)
12. 映画や動画など、自分で楽しめる、生きた英語に触れるための課題の紹介。ほか。
13. 洋画で1~10の知識を応用。「スパイダーマン3」(P4, P7)
14. 学習を進めるデータとしてのテスト。「スパイダーマン3」
15. 課題提出。「スパイダーマン3」(アメリカ英語)。結び。

【事前・事後学修】

1. 授業外でも、洋画や本など、自分の楽しめる英語に触れます。
2. 自分のペースで教科書のTOEIC問題を授業外に解いて、わからないところは授業中にお尋ねください。
3. TOEICや洋画、童話で、相手の伝えたいことを理解しましょう。
4. 普段から日本語の感覚や視点にとらわれず、視野を広げます。
5. 英語も自分の現状のまま見て、自分のデータをとります。事前・事後学修時間の目安は、一度につき15分~3時間前後です。その効果的な方法と併せて、1~5の詳細を授業中にお伝えします。

【テキスト・教材】

Educational Testing Service著「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編(音声CD2枚付)」(一般財団法人国際ビジネス婚府にケーション協会) ¥2800(+税) ISBN978-4-906033-48-5 C0082
この教科書のTest2を活用するほか、映画や童話その他のプリントを多数配布します。(なお、教科書は解説・和訳付きです)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

英語の理解や学習を進めるには、自分の現状を自覚することから始まります。授業中にこまめにデータをとっていき、フィードバックをしていきます。参考にしてください。

成績は、平常点(授業中の学習、小テスト、提出物など)60%、期末試験30%、課題10%の合計です。

【参考書】

(授業では一部のみ紹介します。洋書のため、全て英語で書かれています。購入が必要かどうかは、各自で自由に選んでください。)

1. Oxford Dictionaryなどの英英辞典や、英和辞典
2. 赤井田拓弥, Jeffrey M. Bruce著
「WINNING FORMULA FOR THE TOEIC L&R TEST Revised edition」
(ナショナルジオグラフィックラーニング/センゲージラーニング株式会社出版) ¥2300(+税) ISBN978-4-86312-338-0 C3082

【注意事項】

受験勉強とは異なる英語学習を体験したい人で、洋画や童話などの生きた英語や、TOEICの英語を理解したい人におすすめです。

英語を心身で学んでいく、体験型の授業ですので、毎回の授業を、一期一会の気持ちで大切にしてください。前期の検定英語Aと併せて受講すると、学習に無理がかからずに、英語の理解が深まり、学習効果も感じやすいので、おすすめです。

40名定員です。人数が超過する場合には、抽選を行います。

献立学

加藤 チイ

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

栄養士になるためには対象者に適した献立作成の能力が必要です。給食の献立はおいしさだけでなく、栄養素、季節感、安全性、作業量、予算、食文化など多くの条件を満たす必要があります。給食利用者の健康に役立ち、楽しみとなる食事の献立作成について学びます。

【授業における到達目標】

献立の基本的なパターンと料理の組み合わせを理解する。
 食品の常用量、調味料の使い方を理解する。
 「給食」の観点からさまざまな料理を組み合わせることができる。
 行事や季節、地域の特色など「食文化」を意識した献立を作ることができる。
 ライフステージ別の献立の特徴を理解する。
 美の探究、研鑽力を養う。

【授業の内容】

第1週 献立の基礎知識
 第2週 食事様式と料理の組み合わせ
 第3週 献立と栄養量
 第4週 献立と食品の常用量・調味パーセント
 第5週 献立と季節
 第6週 基本食の献立作成
 第7週 行事食献立（1）基本献立作成
 第8週 行事食献立（2）応用献立作成
 第9週 対象者別献立（1）幼児・学童
 第10週 対象者別献立（2）高齢者
 第11週 対象者別献立（3）傷病者
 第12週 テーマ別献立（1）立案
 第13週 テーマ別献立（2）作成
 第14週 まとめ
 第15週 テーマ別献立（3）発表

【事前・事後学修】

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する。
 すでに学んだ調理実習、調理学など関連科目について、献立、材料使用量などを確認する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する。
 授業で行った献立作成、栄養価計算を復習して理解する（週2時間）。

【テキスト・教材】

赤羽正之ほか：給食施設のための献立作成マニュアル[医歯薬出版株式会社、¥2,500(税抜)、※最新版を購入すること]
 日本食品標準成分表[※最新版を購入すること]
 調理のためのベーシックデータ[女子栄養大学出版部、¥1,800(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%
 フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、課題はコメントを記入し返却。

【参考書】

富岡和夫編著『給食の運営 給食計画・実務論』（医歯薬出版株式会社）2800円+税

【注意事項】

栄養価計算を行います、電卓と食品成分表を持参してください。関連科目で使用した教科書を使う場合があります。連絡事項に注意してください。

研究方法特殊研究

美術史学の実践的な研究方法に関する、より高度で専門的な検討

大学院担当専任教員全員

美術史学専攻 通年・集通 2単位

【授業のテーマ】

博士論文作成に向けて、各自が取り組んでいる研究についてパワーポイントならびに配付資料を用いて美術史学専攻の全専任教員、大学院生に対し口頭発表をおこなう。発表に対し、教員より質問やコメントを受ける。また受講生たちは発表に対する質疑応答をおこなう。発表は学内に公開される。

【授業における到達目標】

発表者は自らの研究状況を確認するとともに、新たな問題点を見出し、研究内容をさらに深化発展させ、より充実した博士論文作成へ進む。また発表や質疑応答を通じて研究者としての態度を身につける。

【授業の内容】

これは、通常の授業とは異なり、集中講義形式となる。

- 1、博論提出予定者は、4月より指導教員と適宜アポイントをとって面談を重ね、発表の構想を練り、各自の研究成果をまとめ、わかりやすく発表するために、パワーポイントや配付資料の準備をする。（授業時間の①～⑧に相当する）
- 2、予備発表で、研究方法や研究内容の吟味を行う。（⑨・⑩）
- 3、美術史学専攻の全専任教員及び全院生の前で、本発表を行う。（⑪～⑬）発表時間は25分、質疑応答を含めて、各自の持ち時間は40分である。その他全体的な講評も行う。第1回目は7月上中旬を、第2回目は1月中旬を予定しているが、詳しい日程については追って公表する。
- 4、指導教員と反省会を行い、問題点を再吟味する。（⑭⑮）

【事前・事後学修】

事前：パワーポイント、配付資料の準備や点検など（週平均2時間）

事後：教員からの指導を踏まえて、各自のテーマを再考し、考察を深める。（週平均2時間）

【テキスト・教材】

適宜指導する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（パワーポイントしと配付資料の内容も含めて）70%、質疑応答や討論での発言など30%。指導教員から個別にフィードバックする。

【参考書】

無し。

【注意事項】

担当教員の教員の指示に従い、遅滞無く準備し、積極的に発言すること。

研究方法特論

大学院担当専任教員全員

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本講義は現代の社会科学に分類される学問領域の中で社会学、心理学、経済学、経営学、教育学、コミュニケーション学などの視点から、現代社会の科学的認識方法およびその元の社会的な知識体系を学ぶ。現代社会ほど経験したことのない複雑でグローバルな問題もリージョナルな問題にもなる時代をどのように理解すればよいのであろうか。人間を理解する、社会（企業や組織）を理解する、世界を理解するには社会科学的方法論を学ぶことによって可能となる。各専門領域の高度な専門知識（理論体系：総合）と調査・研究方法の習得を目指す。

【授業における到達目標】

本講義を通じて、研究の進め方の類型化や研究テーマの設定の仕方、さらには仮説の設定の仕方について大枠を理解することができおようになる。また、合わせて、質問紙の設計やデザインなどについても把握できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 社会科学方法論（全般）
- 第2週 専門領域における研究方法論（総合）1
- 第3週 専門領域における研究方法論（総合）2
- 第4週 専門領域における研究方法論（総合）3
- 第5週 専門領域における研究方法論（総合）4
- 第6週 専門領域における研究方法論（総合）5
- 第7週 専門領域における研究方法論（総合）6
- 第8週 専門領域における分析の方法1
- 第9週 専門領域における分析の方法2
- 第10週 専門領域における分析の方法3
- 第11週 専門領域における実証（調査・実験）分析1
- 第12週 専門領域における実証（調査・実験）分析2
- 第13週 専門領域における実証（調査・実験）分析3
- 第14週 専門領域における実証（調査・実験）分析4
- 第15週 レポートの検討とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：選択した各専門分野での研究方法を学習しておくこと
事後学修：各専門分野について学習した内容の復習と整理をしておくこと
事前・事後学修で週4時間以上を要する。

【テキスト・教材】

専門領域の方法論関連の図書

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、授業中の発言30%を総合して評価する。
フィードバックはテーマ毎に適宜行う。

【参考書】

専門領域の方法論関連の図書

研修ブレップ英語

デヴェラ, ローナ・V・L

1年 後期 1単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力、行動力

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

【授業のテーマ】

This course is an English preparation course intended for students who will be participating in study-abroad programs, particularly the short-term four-week program in Melbourne, Australia. As they explore different topics related to their overseas stay, they will also be able to acquire linguistic and cultural knowledge needed for their overseas stay. They will be given the opportunity to practice and hone their communicative English skills for both academic and practical settings. Students not participating in the program but wish to brush up their English skills are welcome to join the class.

【授業における到達目標】

This course is intended to help students develop an international mindset and strengthen their research and analyzing skills. They will be trained to think about topics useful for study abroad and engage in minor research about Australia (or the country where they wish to study abroad), and to equip them to be able to adequately to discuss and share these through discussion, written reports, and presentations. They will also learn to apply these ideas for participation in a variety of situations for daily life in an international setting.

【授業の内容】

- Week 1: Orientation and introduction to the course
- Week 2: Making a self-introduction
- Week 3: Introducing your school
- Week 4: Homestay
- Week 5: Introduction to the host country (Australia)
- Week 6: Relationship between Japan and Australia
- Week 7: Education
- Week 8: Communications and media
- Week 9: Getting sick and medical services/ Portfolio check
- Week 10: Food
- Week 11: Religion and holiday celebrations
- Week 12: Etiquette, manners, and taboos
- Week 13: Recreation and sports
- Week 14: Travel and local culture
- Week 15: Portfolio check and wrap-up

【事前・事後学修】

事前学修 : Students should come to class prepared and complete all role-plays, in-class activities, presentations, and other assigned work on time. (Approximately 1-2 hours a week)

事後学修 : Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class materials and handouts will be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes and prepare a file folder to be used as portfolio for keeping handouts and assignments.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Class participation and attendance (20%)
- Discussion and other in-class activities (40%)
- Written reports (30%)
- Portfolio (10%)

【注意事項】

原稿指定入門

居郷 英司

1年 前期 2単位

○：協働力

【授業のテーマ】

「原稿指定」は、著者によって執筆された原稿を、組版・校正・印刷・製本という過程を経て、書籍に仕上げるための作業指示をする、いわば「書籍の設計図」をつくることです。印刷所・製本所では、すべての作業を書籍製作者の指定によって進めますので、間違いのない、疑問のない、明確な指示をする必要があります。

この授業では、まず書籍とは何か、印刷文字や組版の基礎を学んだあと、縦組の本文の指定技術を学んでいきます。「印刷文字スケール」の使い方については「印刷製本知識」の授業で、詳しく解説します。併せて選択されると、より理解が深まります。

なお、本文以外の前付・後付の原稿指定は、2年次後期の「書籍製作」で学びます。

【授業における到達目標】

一冊の書籍の本文原稿に組版の指定をすることを通じて、新しい書籍を作り出す楽しみを知り、学修の成果を実感し、互いに協力して作業を進める協働力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 書籍と雑誌の違い／書籍のできるまで
- 第2週 書籍の各部名称と内容順序
- 第3週 原稿の種類と造本設計の考え方
- 第4週 印刷文字の基礎知識 (1) 和字
- 第5週 印刷文字の基礎知識 (2) 欧字・約物
- 第6週 組方原則の基礎知識
- 第7週 本文を中心とする書籍の分析
- 第8週 基本版面の考え方と作成
- 第9週 原稿指定票の作成／見出しの考え方
- 第10週 見出しの作成と字割の考え方
- 第11週 見出しの指定／中扉の考え方と指定
- 第12週 引用文・箇条書き・注の考え方と指定
- 第13週 写真の考え方と指定
- 第14週 図版の考え方と指定
- 第15週 実習課題の最終点検と授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】学修内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に仕上がらなかった指定作業を、きちんと完成しておくようにしてください。また学修した内容が、実際に刊行されている書籍ではどのようになっているか、小売り書店やコンビニ・図書館で確認しながら学修を進めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

編集必携 第2版[日本エディタースクール出版部、2002、¥1,980(税抜)]

本の知識[日本エディタースクール出版部、2009、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義中の小テストを含む平常点50%、総合実習課題50%で評価します。小テストは次回の授業でフィードバックします。

原稿編集

居郷 英司

1年 後期 2単位

○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

著者が執筆した原稿が、そのまま書籍になるわけではありません。原稿は組版される前に、必ず編集者がさまざまな視点から点検をし、より完全な内容にしていきます。これらの点検・整理・修正を「原稿編集」と言います。この作業がきちんと行われることにより、校正作業が軽減され、結果的にミスのない書籍をつくることができます。

この授業では、出版社の「原稿編集」の作業で行う項目ごとに、その考え方とポイントを学んでいきます。

【授業における到達目標】

原稿の内容を出版物として世に出すための確認と修正作業を通して、文章を客観的に読む能力を身につけることを目標に、広い視野と本質を見抜く洞察力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 原稿編集とは何か
- 第2週 手書き原稿の予備作業
- 第3週 手書き文字の知識
- 第4週 印字原稿の知識
- 第5週 印字原稿の予備作業
- 第6週 事実確認の重要性
- 第7週 法規／著作権／差別表現
- 第8週 約物／数字と単位
- 第9週 漢字の知識 (1) 戦後の漢字政策と常用漢字
- 第10週 漢字の知識 (2) 人名用漢字・拡張新字体・書き換え漢字
- 第11週 用語／かな遣い
- 第12週 送りがな／ルビ
- 第13週 欧字／外来語
- 第14週 引用文と文献表記
- 第15週 授業の補足とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】学修内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中の課題を完成させておくようにしてください。さらに、学習した内容が実際に刊行された書籍ではどのようになっているか、図書館などで実際の出版物で確認しながら、学修を進めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

原稿編集ルールブック 第2版[日本エディタースクール出版部、2012、¥500(税抜)]

校正必携 第8版[日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]

日本語表記ルールブック[日本エディタースクール出版部、2012、¥500(税抜)]

編集必携 第2版[日本エディタースクール出版部、2002、¥1,980(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義中の課題を含む平常点50%、最終総合実習課題50%で評価します。課題は次回の授業でフィードバックします。

【参考書】

「校正」の授業でテキストとして使用している『新編校正技術』全4巻(日本エディタースクール出版部、2012年、5500円+税)も随時参照して学習するようにしてください。

原書講読 b

心理学英語論文の購読の基礎

長崎 勤

3年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

英語で書かれた心理学に関わる文献を読解する基礎的な力を養うことを第一の目標とする。それと同時に、本講義では、英語圏の心理学に関わる考え方や理論等に触れることを通じて、そこに展開されている学問的方法や知識を学び議論し、生活心理に関わる問題への理解力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・心理学の研究論文を英語で読み、理解することができる。
- ・心理学に対する広い視野と、国際的な学術動向について深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 欧米を中心とした心理学研究の現状に関する概論
- 第3回 欧米を中心としたコミュニケーション発達研究の現状に関する概論
- 第4回 英語の基礎的な読解① 語彙
- 第5回 英語の基礎的な読解② 構文
- 第6回 心理学の入門文献① 知覚・感覚
- 第7回 心理学の入門文献② 発達・教育
- 第8回 心理学の入門文献③ 認知・言語
- 第9回 心理学の入門文献④ 臨床・障害
- 第10回 心理学の論文講読① 発達
- 第11回 心理学の論文講読② 認知
- 第12回 心理学の論文講読③ 障害
- 第13回 心理学の論文講読④ 臨床
- 第14回 英語でのプレゼンテーション技術
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修 発表等の課題に取り組むこと 学修時間週1時間
- 事後学修 次回の授業範囲を予習すること 学修時間週1時間

【テキスト・教材】

文献、資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内に行う講読と議論、学期末試験（レポート）により、総合的に評価する。

授業内の発表 50%

学期末試験（レポート） 50%

レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

【参考書】

その都度、紹介する。

現代の思想

現代哲学は近代哲学の人間中心主義を乗り越えられるか。

岡部 英男

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代哲学を、近代の主観性の哲学・意識の哲学の破綻の結果生じたものという観点から、歴史的展開によりつつ考察する。デカルトに始まる近代哲学が、人間自身をすべての出発点とし、確実性という基準を使ってそれ以外のすべて（自然、他者、身体など）を自分のものとして支配、所有する運動だと言えるとすれば、現代の哲学はそれを批判し乗り越えようとする試みだと言えるだろう。だが、両者は人間自身という出発点を共有し、いわば同じ地平に立っているため、現代哲学の近代哲学に対する批判は単純に成功しているとは言えない。つまり、人間は人間中心主義を脱することができるのか。こうしたことを考察したい。

【授業における到達目標】

- 1 物事の真理を探究すること（近代の人間中心的な哲学を理解すること）によって、新たな知（それから脱するための様々な試み）を創造しようとする態度を身につけることができるようになる（行動力）。
- 2 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（人間中心主義の長所と短所）を見抜くことができるようになる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1週 近代以前の哲学（哲学の始まり～古代ギリシアの哲学）
- 第2週 近代以前の哲学（プラトンのイデア論）
- 第3週 近代主観性の哲学1（デカルトの方法的懐疑、コギト）
- 第4週 近代主観性の哲学1（デカルトの心身二元論、相互作用）
- 第5週 近代主観性の哲学2（カントの批判哲学）
- 第6週 近代主観性の哲学3（ヘーゲル、意識の成長）
- 第7週 近代主観性の哲学3（ヘーゲル、理性）
- 第8週 実存哲学（キルケゴールの実存哲学）
- 第9週 実存哲学（実存の三段階）
- 第10週 ニーチェ（芸術による世界の救済、力への意志、解釈）
- 第11週 ニーチェ（ニヒリズム、超人、永遠回帰）
- 第12週 ハイデガー
- 第13週 フッサールの現象学
- 第14週 ポスト・モダンの思想（フーコー）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指定した参考書の該当箇所を予め読んでおくこと。あるいは、テレビ・新聞・インターネットなどで見聞きした問題の原因を考え、それを習慣として行うこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

【テキスト・教材】

教科書はとくに用いません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10%。授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。

【参考書】

小坂国継・本郷均（編）『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房 2012年）3,500円。

現代の思想

21世紀の哲学への道

竹中 真也

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

21世紀はそれほど見通しのよい時代ではない。国際的な政治状況の不安定さ、宗教における対立、経済の予測困難さ、AI技術の急激な発展、気候の大幅な変動——いずれもが複雑に絡み合っており、わたしたちの日常生活に覆いかぶさっている。こうした現代社会において、少しなりとも見通しをよくするためには、こうした状況をもたらした起源、哲学的な思想をみとくことは決して無駄ではないだろう。本講義では、19世紀から21世紀にかけての哲学的な立場を概観し、現代社会について考えるひとつの視座を提供したい。こうすることによって、これからの未来を生きる手掛かりを探り出したい。

【授業における到達目標】

- ①現代に通じる哲学の基本的立場を理解して説明できる。
 - ②学習内容に対する自分なりの批判点や観点をもつ。
- 全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

- 第一回 ガイダンス 目標など
- 第二回 19世紀という時代背景
- 第三回 ヘーゲルにおける「弁証法」の特徴
- 第四回 キルケゴールの実存主義
- 第五回 現象学という学問について
- 第五回 ハイデガーにおける「世界内存在」
- 第六回 プラグマティズムという方法論
- 第七回 デューイの人間観
- 第八回 ソシュールの言語理論
- 第九回 構造主義の登場——その方法論
- 第十回 さまざまな構造主義の哲学者
- 第十一回 環境についての問題とさまざまな立場
- 第十二回 21世紀の哲学——思弁的実在論
- 第十三回 ティモシー・モートンの『自然なきエコロジー』
- 第十四回 全体の振り返り
- 第十五回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べる。（学修時間週2時間）

【事後学修】

前回の授業のプリントを読み直して不明点をなくしておくこと。分からない言葉は国語辞典や哲学辞典を読み調べておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70パーセント、授業のコメントシート30パーセントで評価する。コメントシートを紹介して考察や検討のきっかけとする。

【参考書】

必要に応じて、こちらから指定する。

【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

現代の哲学b

言語の哲学

岡部 英男

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

教科書はとくに用いませんが、ほぼ毎回プリントを配布する予定

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。

【授業のテーマ】

現代の言語と心の哲学。現代哲学の主要な特徴は言語が最大のテーマになったことである。言語とは何か（事物、観念など）の代わりであり、言語以前の思考を伝達するための補助手段にすぎないというのが伝統的な言語観であったのに対して、現代的な言語観では、言語があるからこそ人間は世界を合理的に理解できるのであり、言語は単なるモノの代用品ではなく、貨幣によく似た交換のためのツール・システムであると理解されている。伝統的言語観はどのように現代の革命的言語観に変わったのか、そしてその結果、言語に相関する心はどのように捉えられるようになったのか、こうしたことを考察し、言語の社会性について理解を深めたい。

【授業における到達目標】

- 1 物事の真理を探究すること（言語以前の思考という考え方から、思考は言語によるという考え方への変遷の理解）によって、新たな知を創造しようとする態度を身につけることができるようになる（行動力）。
- 2 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（言語は貨幣と同様に、他者との交換のための道具であること）の理解を見抜くことができるようになる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 1 伝統的言語観としての言語代用説
 - 第1週 ソクラテス1（名前の正しさ、言語慣習説とそれへの批判）
 - 第2週 ソクラテス2（言語自然本性説とそれへの批判、アイデアを模倣する言語）
 - 第3週 聖書のアダムと言語とバベルの塔の物語
 - 第4週 アリストテレスの言語慣習説（事物と心と言葉の関係、名前と指示対象との関係を安定させるものとしての慣習）
- 2 近代哲学における言語理解
 - 第5週 ロック1（観念の記号としての言語、事物と観念と言葉の関係）
 - 第6週 ロック2（言語の不完全性としての恣意性・私秘性、救済策）
 - 第7週 コンディヤック1（言語と認識の起源、自然的記号と人工的記号）
 - 第8週 コンディヤック2（原初的な自然語・身振り言語からの類推によって生じる人工語・言語の優劣）
 - 第9週 フンボルト1（言語の二側面・精神能力・音声、民族の言語）
 - 第10週 フンボルト2（言語の役割、言語と思考の関係、言語の四類型、言語の優劣）
- 3 現代の言語哲学
 - 第11週 ソシュールの構造言語学1（言語構造、ラングとパロール、共時的と通時的）
 - 第12週 ソシュールの構造言語学2（意味と価値、交換、言語代用説の破壊、言語観の革命）
 - 第13週 ウィトゲンシュタイン1（ピクチャー・セオリー）
 - 第14週 ウィトゲンシュタイン2（言語ゲーム、幻想と治療）
 - 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テレビ・新聞・インターネットなどで見聞きした新しい言葉や新しい用法に注意して、書き留めておくこと（学修時間週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回配布するプリントを読み返し、ノートを整理して、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間週3時間）。

【テキスト・教材】

現代アメリカ文学・文化演習 a

Toni Morrisonの小説_Beloved_を精読する

深瀬 有希子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

本授業では、1993年にノーベル文学賞を受賞したアフリカ系アメリカ人作家Toni Morrisonの代表作_Beloved_ (1987)を精読する。neo slave narrative ないしは、post-modern slave narrative と評される本作品に描かれる、アフリカン・アメリカンの経験やアイデンティティの(再)構築をあり方を考察する。

【授業における到達目標】

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。
美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。
行動力：課題解決のために主体的に行動する力を高める。

【授業の内容】

- 1 インTRODクシヨン： トニ・モリスン作品の概観、slave narrative の伝統
- 2 Ch. 1-2: 奴隷制度と地下鉄道
- 3 Ch. 3-4: 奴隷制度とリタラシー
- 4 Ch. 5-6: 口承の伝統 1
- 5 Ch. 7-8: 口承の伝統 2
- 6 Ch. 9-10: 宗教について 1
- 7 Ch. 11-12: 宗教について 2
- 8 まとめ 1
- 9 Ch. 13-14: 奴隷制度、ジェンダー、セクシュアリティ 1
- 10 Ch. 15-16: 奴隷制度、ジェンダー、セクシュアリティ 2
- 11 Ch. 17-18: 奴隷制度、ジェンダー、セクシュアリティ 3
- 12 Ch. 19: トラウマと「リメモリー」
- 13 先行研究の紹介 post-modern slave narrative 1
- 14 先行研究の紹介 post-modern slave narrative 2
- 15 まとめ 2

【事前・事後学修】

事前学修： 発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外も重要と思われる論点への意見を用意しておくこと。学修時間 週2時間。
事後学修： 発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、物語の流れを把握しておくこと。学修時間 週2時間。

【テキスト・教材】

Toni Morrison: *Beloved*[Vintage、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、試験計2回 50%で評価する。フィードバックはmanabaまたはレポート返却時に行う。

【参考書】

Charles T. Davis and Henry Louis Gates, Jr. eds. *The Slave's Narrative*, Oxford UP, 1985.
ベル・フックス『アメリカ黒人女性とフェミニズム』明石書店、2010年。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。また毎回、辞書を持ってくること。

現代アメリカ文学・文化演習 d

女性作家にみる女性像の変遷

佐々木 真理

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀から20世紀におけるアメリカ女性作家の代表的な著作を読み、その中で女性像がどのように描かれてきたのか、どのような思想や言説、そして社会状況が関わっているのかについて学びます。同時に、アメリカの女性の歴史について、主な活動家の活動や運動を通して学んでいきます。

【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性を取り巻くさまざまな要素について、女性作家の作品を通して理解を深めることで、女性に関する諸問題の知識を培うことを目指します。また、女性問題に関する資料を収集し、分析し、さらには自分なりの問題点を見つける訓練を行います。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

20世紀から21世紀に発表された女性作家の短編を読みます。あわせて、女性の活動家や思想家について、経歴と思想を調査します。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 20世紀女性運動の背景
- 第3週 20世紀女性運動の流れ
- 第4週 20世紀女性運動の思想
- 第5週 20世紀後半の女性活動家の背景
- 第6週 20世紀後半の女性活動家の流れ
- 第7週 20世紀後半の女性活動家の思想
- 第8週 21世紀の女性活動家の背景
- 第9週 21世紀の女性活動家の流れ
- 第10週 21世紀の女性活動家の思想
- 第11週 21世紀の女性活動家の活動
- 第12週 今後の女性活動家の思想
- 第13週 今後の女性活動家の展開
- 第14週 今後の女性活動家の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。
課題については次回授業にてフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

現代アメリカ文学・文化演習 e

女性たちの演説と女性運動

佐々木 真理

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性たちが数々の優れた演説を残してきました。この演習では、そういった演説にふれることで、アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷を学び、21世紀の新たな可能性を探ります。

【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷について、英文を通して理解を深めることで、女性に関する諸問題の知識を培い、英文読解力を向上させることを目指します。また、優れた演説の構造を理解することで、自らの意見を英語で発表する能力を培うことも目指します。それにより、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を養います。また、演説と思想の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

19世紀から21世紀にかけての女性たちの演説を読みます。毎回担当者を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

- 第1週 インTRODクシヨ
- 第2週 19世紀女性運動の背景
- 第3週 19世紀女性運動の流れ
- 第4週 19世紀女性運動の思想
- 第5週 20世紀の女性活動家の背景
- 第6週 20世紀の女性活動家の流れ
- 第7週 20世紀の女性活動家の思想
- 第8週 21世紀の女性活動家の背景
- 第9週 21世紀の女性活動家の流れ
- 第10週 21世紀の女性活動家の思想
- 第11週 21世紀の女性活動家の活動
- 第12週 今後の女性活動家の思想
- 第13週 今後の女性活動家の展開
- 第14週 今後の女性活動家の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。

課題については次回授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

現代アメリカ文学・文化演習 f

ハワード・ジンのアメリカ現代史を読む

深瀬 有希子

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

公民権運動家・歴史家として著名なHoward Zinnによるアメリカ現代史(第一次世界大戦から今日まで)を精読する。明快でかつ洞察に富み論理展開を理解するための英語力の習得を目指す。のみならず、ジンが提示する内容をもとに、文学・文化事象を分析する方法や、英語で書かれた二次文献を探し読むなどして、自身の卒業論文の議論を深めていくための手法も学ぶことを目的とする。

【授業における到達目標】

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。

行動力：問題解決のために主体的に行動する力を高める。

【授業の内容】

- 1 INTRODUCTION—本授業の進め方、評価方法についての説明、発表担当者の決定
- 2 Class Struggle
- 3 World War I
- 4 Great Depression
- 5 World War II and the Cold War
- 6 Black Revolt and Civil Rights
- 7 英語二次文献の探し方・読み方・引用方法 ①
- 8 まとめ ①
- 9 Vietnam
- 10 Women's Liberation, Indian Uprising
- 11 Watergate
- 12 The End of the 20th Century
- 13 The War on Terrorism
- 14 英語二次文献の探し方・読み方・引用方法 ②
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外も重要と思われる箇所についての意見を用意しておくこと。学修時間週2時間。

事後学修：発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、議論の流れを把握しておくこと。また、関連する文学・文化作品に触れておくこと。学修時間週2時間。

【テキスト・教材】

Zinn, Howard: A Young People's History of the United States [Seven Stories Press, 2007, ¥2,400(税抜)、ISBN:978-962-01-9932-5]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、試験50%(計2回)で評価する。フィードバックは、manaba または翌回以降の授業で行う。

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。4年次後期に設定されているという本科目の性質上、卒業論文で扱う時代・テーマ・作家・作品等について、ある程度、定まっていることが受講者には期待される。そうした準備が整っているのであれば、アメリカ文学・文化以外の専門分野で卒業論文を書く予定の学生も、ぜひ積極的に受講されたい。

現代イギリス文学・文化演習 a

アリ・スミスの『ホテルワールド (Hotel World)』を読む

西野 方子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

現代のスコットランドを代表する作家の一人であるアリ・スミス (Ali Smith) の『ホテルワールド (*Hotel World*)』(2001)を読む。この作品は、とあるホテルを舞台とした複数の主人公の物語を描く小説である。この授業では、それぞれの章の語り手の「声」の違いに注目しながら、物語の内容とその語り方の双方から作品を分析していく。

【授業における到達目標】

文学作品を「何が書かれているか」に加えて「それがどういうふうに表示されているか」に注目しながら読むことで、研鑽力を高める。また、調査や発表、ディスカッションなどを通して自分の考えを確立する中で、積極的に美を探求する態度や行動力を身につける。

【授業の内容】

各回に発表者を割り当て、該当範囲について発表をしてもらい、クラス全体でディスカッションを行う。発表者は担当する範囲について、あらかじめ注目した箇所をまとめたハンドアウトを用意し発表を行う。それ以外の受講者は、疑問点や注目した点を事前に準備した上でディスカッションに参加する。ディスカッション後に、自分が重要だと感じたポイントや疑問点をまとめたコメント・ペーパーを提出する。

第1週 インTRODクシヨン (作品・作家紹介、文化背景など)

第2週 Chapter 1: past (pp. 3-16)

第3週 Chapter 1: past (pp. 17-31)

第4週 Chapter 2: present historic (pp. 35-48)

第5週 Chapter 2: present historic (pp. 49-62)

第6週 Chapter 2: present historic (pp. 63-78)

第7週 Chapter 3: future conditional (pp. 81-101)

第8週 Chapter 3: future conditional (pp. 101-122)

第9週 Chapter 4: perfect (pp. 125-144)

第10週 Chapter 4: perfect (pp. 144-164)

第11週 Chapter 4: perfect (pp. 164-181)

第12週 Chapter 5: future in the past (pp. 185-202)

第13週 Chapter 5: future in the past (pp. 203-221)

第14週 Chapter 6: present

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業範囲に指定されているページを事前に読んでくる。発表担当者はハンドアウトを用意し、それ以外の受講生は疑問点や注目した点をピックアップする。(学修時間：週2時間)

事後学修：ディスカッションの内容を復習し、レポートのためのアイデアを練る。(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

Ali Smith: *Hotel World* [Penguin UK, 2002, ¥1,500 (税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：平常点(発表、ディスカッションへの参加、コメント・ペーパー)50%、レポート50%

フィードバック：授業の最後に提出されたペーパーにコメントし、次の授業で返却する。

【参考書】

Ali Smith, *Hotel World* (Penguin UK, 2002)

アリ・スミス『ホテルワールド』(訳：丸洋子、DHC、2003年)

生駒夏美「不安(定)な命を生きる：アリ・スミスが描く時間・亡霊・セクシュアリティ」(河内恵子編『現代イギリス小説の「今」

：記憶と歴史』(彩流社、2018年)

現代イギリス文学・文化演習 b

ポストモダンのおとぎ話

新井 紀代

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

現実と幻想が入り混じった独特のシュールな世界を描き続けるKate Atkinson。この授業では、2002年に出版されたNot the End of the Worldを訳読する。この短編集は他のAtkinson作品と同様、ポストモダンのおとぎ話と称されるにふさわしく、死者の国からのよみがえりや人間と神々や獣との交わりといった神話ではおなじみのモチーフが巧みに再構成されている。物語の面白さを味わうと同時に、土台となっている神話や聖書に関する理解も深めていきたい。

【授業における到達目標】

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

【授業の内容】

第1週 作者と作品についての説明

第2週 Charlene and Trudi Go Shopping

第3週 Tunnell of Fish

第4週 Transparent Fiction

第5週 Dissonance

第6週 Sheer Waste of Love

第7週 Unseen Translation

第8週 Evil Doppelgangers

第9週 The Cat Lover

第10週 The Bodies Vest

第11週 Temporal Anomaly

第12週 Wedding

第13週 Favors

第14週 Pleasureland

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をしておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修：小テストを復習し、物語の内容が理解できているかを確認すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%

小テストは次回授業、試験は授業最終回でフィードバックを行う。

現代イギリス文学・文化演習 c

戦争文学を読む

新井 紀代

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

現代の作家が過去の戦争を扱った小説は数え切れないほど存在する。自分が体験しなかった大惨事を合えて語ろうとする作者の意図とは。また、どの程度まで「真実」に迫ることができるのか。この授業では第一次世界大戦を題材にしたSusan HillのStrange Meetingを精読しながら、そうした疑問について考えていく。

【授業における到達目標】

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

【授業の内容】

第1週 作者と作品についての説明
 第2週 pp. 7-10
 第3週 pp. 11-15
 第4週 pp. 15-20
 第5週 pp. 21-24
 第6週 pp. 25-32
 第7週 pp. 33-38
 第8週 pp. 38-41
 第9週 pp. 41-46
 第10週 pp. 46-50
 第11週 pp. 50-55
 第12週 pp. 56-61
 第13週 pp. 62-66
 第14週 pp. 67-72
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をすること。（学修時間 週2時間）
 事後学修：小テストを復習し、物語の内容が理解できているか確認すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%
 小テストは次回授業、試験は授業最終回でフィードバックを行う。

現代イギリス文学・文化演習 d

ミス・マーブルと英国

志渡岡 理恵

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

世界的なミステリー作家アガサ・クリスティの『書斎の死体』をとりあげる。舞台となる英国セント・メアリ・ミード村のありよう、ミス・マーブルの人物像と共同体の中での立場、女性同士の関係などを分析し、20世紀英国における田舎と女性のありかたについて考察する。

【授業における到達目標】

20世紀英国社会のありようと、その中における女性のライフスタイルの変化について理解を深めることを目指す。これらを通じて「美の探究」を行い、「研鑽力、行動力」を養う。

【授業の内容】

第1回：イントロダクション
 第2回：セント・メアリ・ミード村（前半）
 第3回：セント・メアリ・ミード村（後半）
 第4回：英国の田舎
 第5回：ミス・マーブル（前半）
 第6回：ミス・マーブル（後半）
 第7回：19世紀後半から20世紀前半の女性像（前半）
 第8回：19世紀後半から20世紀前半の女性像（後半）
 第9回：ガールガイド（前半）
 第10回：ガールガイド（後半）
 第11回：女性同士の関係（前半）
 第12回：女性同士の関係（後半）
 第13回：女探偵（前半）
 第14回：女探偵（後半）
 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回の該当箇所を精読し、自分の意見をまとめてくること。（学修時間 週2時間）
 事後学修：授業で学んだことを復習し、不足していた部分についてリサーチを行い、作品理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Agatha Christie: The Body in the Library [HarperCollins, 2016]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（発表30%、リアクションペーパー30%）、期末レポート40%。各回のリアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業時に行う。

【参考書】

キャスリーン・グレゴリー・クライン『女探偵大研究』（晶文社、1994年）

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

現代イギリス文学・文化演習 e

女性のキャリア形成

志渡岡 理恵

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

世界を旅したい—そんな夢を抱いた石工の娘ローズに母親が勧めたのは、女主人のお供として旅する機会の多いレイディーズ・メイドの仕事。イギリス初の女性下院議員のメイドとして35年間働いたロジーナ・ハリソンのユーモアあふれる回想録『おだまり、ローズ』（1975）をとりあげ、女性のキャリア形成の問題について考える。

【授業における到達目標】

女性が社会の中でキャリアを形成すること、自分の生(life)を語ることの意義と困難について理解を深めることを目指す。これらを通じて「美の探究」を行い、「研鑽力、行動力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Childhood（前半）
- 第3回：Childhood（後半）
- 第4回：I Go into Service（前半）
- 第5回：I Go into Service（後半）
- 第6回：Meeting the Astors
- 第7回：My Lady and My Duties
- 第8回：Coming to Terms with My Job
- 第9回：Entertaining in the Grand Manner
- 第10回：The Astor Family
- 第11回：A Family in Wartime
- 第12回：Achieving My Ambition
- 第13回：Religion and Politics
- 第14回：Last Years
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回を読む箇所を精読し、自分の意見をまとめてくること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で学んだことを復習し、不足していた部分についてリサーチを行い、作品理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Rosina Harrison: My Life in Service to Lady Astor [Penguin, 2011]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（発表30%、リアクションペーパー20%）、期末レポート50%。各回のリアクションペーパーへのフィードバックは次回授業時に行う。

【参考書】

- ・ルーシー・レスブリッジ『使用人が見た二十世紀イギリス』（原書房2014年）
- ・シャーン・エヴァンズ『図説メイドと執事の文化史——英国家事使用人たちの日常』（原書房2012年）
- ・新井潤美『執事とメイドの裏表——イギリス文化における使用人のイメージ』（白水社2011年）

【注意事項】

自分なりの目的意識を持って授業に臨むこと。

現代企業論

柳田 志学

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、国際化した日本企業は、国内市場だけでなく海外市場の様々な課題にも直面している。現代企業論では、将来、実業界で仕事をする皆さんが理解していた方が望ましいビジネスの基礎知識を学習する。トピックとしては、日本の国際企業の貢献、企業の戦略、株式会社の仕組みを扱う。3年生以上のビジネス系科目を学習するための基礎力を養いたい。

【授業における到達目標】

企業について考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. マーケティング・ミックス
3. ターゲット市場の選定
4. 製品のライフサイクル
5. 市場地位別の戦略
6. グローバリゼーションと日本企業
7. 日本企業と言語
8. 日本企業の投資受入国への貢献
9. 株式会社の仕組み
10. 会社設立：講義
11. 会社設立：グループワーク：作業
12. 会社設立：グループワーク：発表
13. ビジネスゲーム
14. 現代企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

この講義では、個人（または少人数のグループ）で特定の課題に対して報告してもらい。成績は、期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

【参考書】

沼上幹著『わかりやすいマーケティング戦略』（有斐閣アルマ、2008年）

吉原英樹・岡部曜子・澤木聖子著『英語で経営する時代』（有斐閣選書、2001年）

【注意事項】

授業テーマと関係するゲスト講師を招聘して、話をしてもらいことも検討している。

現代教育論

現代教育を多角的に考える

佐々木 織恵

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

今日の日本に暮らす大多数の人にとって学校に通うこと、学校で学ぶことは「ごく当たり前を経験すること」であると言えます。教育が行われる場所としてまず「学校」を思い浮かべる人が大半でしょう。しかし、学校が身近である故、ほとんど誰もが学校教育を経験しているが故に、人は学校教育を語る時、無意識のうちに「自らの経験のみに即した語り」をしてしまいがちなものです。一方、それが「当たり前」であるがゆえに、自らの経験した学校生活がどのような特徴を持ち、なぜそうした学校制度が確立されているのかをしっかりと考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。

この授業では、日本の学校教育制度の全体像を掴むとともに、国際的な議論や諸外国の学校教育制度との比較により、日本の学校教育を相対化して多角的に考えられるようになることを目指します。そして、現代学校教育を見ることを通じ、現代社会そのものに対する多角的な視点を養うことを目指します。

【授業における到達目標】

到達目標は、現代の学校教育を考えることを通じて、現代社会に対する多角的なものの見方を持てるようになること。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、特に「多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度」の養成と、「課題解決のために主体的に行動する力」の育成、そして何より「学修を通して自己成長する力」を重視します。

【授業の内容】

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 教育課程と今日のカリキュラム改革
- 第3回 「学力」の問題とアクティブ・ラーニング
- 第4回 「教師の仕事」と教師の専門職共同体
- 第5回 教員評価・学校評価
- 第6回 スクールリーダーシップ論
- 第7回 教育行政のしくみと教育振興基本計画
- 第8回 道徳教育・シティズンシップ教育
- 第9回 「子どもの貧困」と現代学校教育の病理
- 第10回 学校教育に求められる多様性
- 第11回 途上国の学校教育と国際協力
- 第12回 持続可能な社会の実現のための教育
- 第13回 幼児教育と義務教育の違いと接続
- 第14回 日本の学校教育の特徴
- 第15回 授業のまとめ

【事前・事後学修】

授業では毎回、時事問題を扱います。事前学修では日々の新聞・ニュース等を通じ、各自で週1時間程度、時事問題の収集に取り組んでください。（もちろん日本以外の国の新聞・雑誌等の記事も歓迎します。）また、授業各回ごとにその回の内容に関連した参考文献を紹介しますので、事後学修としてそのうちの1冊を読むようにしてください（週3時間程度かかると思います）。

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。各回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業各回の最後にコメントシートの記入をお願いします（コメントシートには簡単な応答コメントを付して翌週の授業で返却します）。成績評価は学期末試験50%、授業各回のコメントシート50%で行います。

【参考書】

授業各回のレジュメに、内容に即した文献リストを添付します。

【注意事項】

この授業では安易に「唯一の回答に走る」ことは想定していません。価値観やものの見方・考え方の多様性を尊重する姿勢を大切に、授業に臨んでいただきたいと思います。

現代教育論

現代教育を多角的に考える

佐々木 織恵

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

今日の日本に暮らす大多数の人にとって学校に通うこと、学校で学ぶことは「ごく当たり前経験すること」であると言えます。教育が行われる場所として「学校」を思い浮かべる人が大半でしょう。しかし、学校が身近である故、ほとんど誰もが学校教育を経験しているが故に、人は学校教育を語るとき、無意識のうちに「自らの経験のみに即した語り」をしてしまいがちなものです。一方、それが「当たり前」であるがゆえに、自らの経験した学校生活がどのような特徴を持ち、なぜそうした学校制度が確立されているのかをしっかりと考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。

この授業では、日本の学校教育制度の全体像を掴むとともに、国際的な議論や諸外国の学校教育制度との比較により、日本の学校教育を相対化して多角的に考えられるようになることを目指します。そして、現代学校教育を見ることを通じ、現代社会そのものに対する多角的な視点を養うことを目指します。

【授業における到達目標】

到達目標は、現代の学校教育を考えることを通じて、現代社会に対する多角的なものの見方を持てるようになること。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、特に「多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度」の養成と、「課題解決のために主体的に行動する力」の育成、そして何より「学修を通して自己成長する力」を重視します。

【授業の内容】

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 教育課程と今日のカリキュラム改革
- 第3回 「学力」の問題とアクティブ・ラーニング
- 第4回 「教師の仕事」と教師の専門職共同体
- 第5回 教員評価・学校評価
- 第6回 スクールリーダーシップ論
- 第7回 教育行政のしくみと教育振興基本計画
- 第8回 道徳教育・シティズンシップ教育
- 第9回 「子どもの貧困」と現代学校教育の病理
- 第10回 学校教育に求められる多様性
- 第11回 途上国の学校教育と国際協力
- 第12回 持続可能な社会の実現のための教育
- 第13回 幼児教育と義務教育の違いと接続
- 第14回 日本の学校教育の特徴
- 第15回 授業のまとめ

【事前・事後学修】

授業では毎回、時事問題を扱います。事前学修では日々の新聞・ニュース等を通じ、各自で週1時間程度、時事問題の収集に取り組んでください。（もちろん日本以外の国の新聞・雑誌等の記事も歓迎します。）また、授業各回ごとにその回の内容に関連した参考文献を紹介しますので、事後学修としてそのうちの1冊を読むようにしてください（週3時間程度かかると思います）。

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。各回、レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業各回の最後にコメントシートの記入をお願いします（コメントシートには簡単な応答コメントを付して翌週の授業で返却します）。成績評価は学期末試験50%、授業各回のコメントシート50%で行います。

【参考書】

授業各回のレジュメに、内容に即した文献リストを添付します。

【注意事項】

この授業では安易に「唯一の回答に走る」ことは想定していません。価値観やものの見方・考え方の多様性を尊重する姿勢を大切に、授業に臨んでいただきたいと思います。

現代経営学特論

篠崎 香織

人間社会専攻 前期 2単位

院

人間社会専攻
(修士)

【授業のテーマ】

経営の分野において読み継がれてきた論文を読みといていくことを通して、その中で取り上げられている経営学のキー概念および理論の学習および理解の深耕を図る。

【授業における到達目標】

様々な経営学の概念や理論の習得を通して、履修者が持っている問題意識と関連する方向性を明確にし、修士論文のための研究につなげていくことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業の進め方と分担）
- 第2週 「イノベーションのジレンマ」への挑戦
- 第3週 ブルー・オーシャン戦略
- 第4週 自己探求の時代
- 第5週 マネジャーの仕事
- 第6週 バランス・スコアカード導入のインパクト
- 第7週 イノベーションの罫
- 第8週 企業変革の落とし穴
- 第9週 マーケティングの近視眼
- 第10週 戦略の本質
- 第11週 コア・コンピタンス経営
- 第12週 無形資産に関する論文
- 第13週 合併と買収に関する論文
- 第14週 社会科学における方法論に関する論文
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業中に指定した文献や資料を読み、その内容を理解しておくこと。また内容に対する自分の考えを用意しておくこと（A4サイズ用の紙1枚程度のメモを準備）。

発表者は、担当箇所の内容をまとめ、発表できるようにしておくこと。

事後学修：各回の参考文献を1冊以上読み概要をまとめること。

学修時間は、週4時間以上。

【テキスト・教材】

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部：ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文[ダイヤモンド社、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への貢献度（担当分の発表および発言）50%と課題50%で評価する。

フィードバックは、授業内にコメントやディスカッション等の形式で行う。授業内にできない場合は、主にメールやmanabaを介して行う。

【参考書】

講義の中で指示する。

【注意事項】

学部で経営学を履修済み、もしくは同等の知識があること。

現代社会を読み解く a (政治と経済)

環境を通してみる現代社会の課題

岡田 美香

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

環境学は、現実の問題と向き合い、その問題構造を解きほぐすことから始まりました。本講義では、環境問題の歴史を振り返ることにより、環境をめぐってどのような問題が生じたのか、先達は問題構造をどのように説明してきたのか、環境政策をめぐって何が論点になってきたかを学びます。

【授業における到達目標】

到達目標は、①自分たちの生産・消費がどのように環境とつながっているのか、②社会や経済の構造変化が環境にどのような影響を与えたのか、③政府はどのような対応をしてきたのか、等について、文章や口頭で説明し、自分の意見が述べられるようになることです。これにより、「国際的視野」を広め、「研鑽力」、「行動力」の向上を図ります。

【授業の内容】

1. オリエンテーション (授業のねらい)
2. 水俣病
3. 大気汚染
4. 公共事業に伴う環境問題
5. 自然保護とアメニティ保全
6. 国際化する環境問題
7. 持続可能な発展
8. 小テスト及び解説／質疑応答
9. 森林・林業 (1) 日本の歩み
10. 森林・林業 (2) 国際貿易
11. 森林・林業 (3) 世界の資源状況
12. 森林・林業 (4) 水源林
13. コモンズ
14. まとめ
15. グループワーク

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることが求められます (学修時間 週2時間)。

【事後学修】①その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に努めること、②参考資料に目を通すことが求められます (学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

配布資料。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、小テスト30%、平常点20%

平常点は、授業におけるリアクション・ペーパーやグループワークが対象となります。小テストやリアクション・ペーパー等のフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

授業の進行に応じ適宜紹介します。

【注意事項】

各回の講義内容は、時間の関係で若干前後する場合があります。できるだけ受講者の興味関心や世の中の動きに合わせた講義にしたいため、多少の内容の変更の可能性があります。授業中の私語は他の受講者にとって迷惑となります。授業の妨げになると判断した場合、席替えや退席を命じます。

現代社会を読み解く b (生活と産業)

「仕事」を通して見る、私たちの現在と未来の暮らし

野津 喬

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

皆さんは近い将来、「仕事」について様々な関わり方をすることになります。「仕事」に就職しようとする「わたし」。就職をした後は「職場」という一つの社会で生きていく「わたし」など。この授業では、①個人としての「わたし」がどのように「仕事」に関わるか、②「仕事」がわたしたちの生活に対してどのような影響を与えるかという2つの視点から、生活と産業の関係について学ぶことを目的とします。

【授業における到達目標】

- ①自分の将来の「仕事」を考える上で必要となる基本的な知識と判断基準を身につける
 - ②「仕事」がわたしたちの生活 (個人の暮らし、地域、国、地球環境) に及ぼす影響を理解できるようになる
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに (講義の進め方及び目標、イントロダクション)
2. わたしと「仕事」① (産業構造の変化、雇用形態の多様化)
3. わたしと「仕事」② (仕事をする組織)
4. わたしと「仕事」③ (会社は誰のものか)
5. グループワーク (将来の仕事について考える)
6. わたしと「仕事」④ (雇用と新規採用)
7. わたしと「仕事」⑤ (仕事の転機 (転職、失業、退職))
8. 「仕事」と社会① (男女共同参画、ワークライフバランス)
9. グループワーク (仕事と家庭について考える)
10. 「仕事」と社会② (企業の倫理と社会的責任)
11. 「仕事」と社会③ (多国籍企業、巨大企業)
12. 「仕事」と社会④ (企業と地域・地球環境)
13. グループワーク (地域社会について考える)
14. まとめ (これまでの授業の総括)
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 (50%)、グループワーク (10%)、各回の講義の定着度を確認する小テスト (40%) により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

上林千恵子 (編著) 『よくわかる産業社会学』 (ミネルヴァ書房 2012) 2,808円、梅澤正 (著) 『企業と社会—社会学からのアプローチ—』 (ミネルヴァ書房 2000) 3,780円、三戸浩・池内秀己・勝部伸夫 (著) 『企業論 (第三版)』 (有斐閣 2011) 2,160円 (※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。)

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為 (私語など) を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映 (減点) し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

現代社会を読み解く c (文化と市場)

須賀 由紀子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、ライフスタイルそのものを文化と捉えていきます。目に見える衣・食・住・遊・学的生活シーンを創りだすのは、人々のニーズや規範意識や価値観ですから、文化を考えると、目に見えるものや現象を通して、目に見えない価値を捉えていくことです。そして、市場（マーケット）は、単に便利なものやサービスを提供するのではなく、それらを通して、人々の暮らしの価値創造に関わる役割を果たしているのです。

では成熟社会と言われる現代は、どのような生活価値が求められている時代なのでしょう。時代によって変わる価値、変わらない価値があるのでしょうか。そのことをスポーツとライフスタイルを事例に捉え、現代のライフスタイルと市場の関わりを考えていきたいと思います。

スポーツは、健康や社交的な楽しみ、また自己実現のためなど、どんな人にとっても身近なものであり、現代はいろいろなレベルで「豊かな生涯スポーツ」が目指されている時代です。スポーツを取り巻く現代の様々な現象を読み解き、社会を見る目を培います。全体を通じて、文化を捉える視点、文化と市場の関わりについての基礎的理解をはかることを授業のねらいとします。

【授業における到達目標】

- ・現代のライフスタイルの動向がわかるようになる。
- ・ライフスタイルとマーケットの関係がわかるようになる。
- ・様々なモノやサービスの背後にある意味をとらえる姿勢を持つ。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい）
2. スポーツを通してみる人間と文化
3. 民間フィットネスクラブのサービス比較
4. 現代のライフスタイルニーズのとらえ方
5. 子育て支援ビジネスの新潮流
6. 現代の産業構造の捉え方
7. 市民マラソン・ブーム
8. 市民マラソンの経済・社会的効果
9. スポーツとファッション
10. 企業のブランド戦略
11. スポーツとメディア
12. スポーツと地域活性化
13. オリンピック・レガシーの課題
14. 市場とライフスタイル創造
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業のコメントペーパーや授業時小課題など）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

現代社会を読み解く d (科学技術と社会)

既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴

菅野 元行

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

現代の科学技術と社会に影響力が高いことの一つにエネルギー問題があります。先進国では豊かな経済発展とともに、多量の温室効果ガスと放射性廃棄物を排出してきました。特に我が国ではエネルギー資源の95%を輸入に依存しているため、国費の流出とともに、大手企業によるエネルギー供給の歴史が長くなりました。地域活性化と再生可能エネルギーは密接に関係し、各種メディアは電気なしには稼働しません。本講義では既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴について詳しく学習します。

【授業における到達目標】

- ①既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴を理解する。
- ②社会や生活に不可欠である電気、熱、燃料の発生方法や用途を理解する。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
 2. エネルギー利用方法の変遷
 3. 国内外のエネルギー需要
 4. エネルギー資源の確認可採埋蔵量、可採年数
 5. 国内外の電力需要
 6. 地球温暖化と温室効果ガス排出量
 7. 太陽光以外の発電の仕組み、各種水力発電
 8. 再生可能エネルギー1：風力発電
 9. 再生可能エネルギー2：地熱発電、地中熱利用
 10. エネルギー資源1：石油製品の種類、各種火力発電の技術
 11. エネルギー資源2：製鉄とエネルギー、天然ガス資源
 12. 再生可能エネルギー3：バイオマスの種類とエネルギー利用
 13. エネルギーに関わる企業の講演聴講
 14. 再生可能エネルギー4：バイオ燃料
 15. 再生可能エネルギー5：太陽光利用
- ※エネルギー・環境領域に関心があることが必要です。2・3年次「地域エネルギー論」の履修を意図する場合は、この科目の修得が必要で

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を文章にする）を通して復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能。詳細はオリエンテーションで説明。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行う。

【参考書】

細川博昭『知っておきたい自然エネルギーの基礎知識』（ソフトバンククリエイティブ 2012年）952円＋税
一般社団法人Think the Earth『グリーンパワーブックス―再生可能エネルギー入門』（ダイヤモンド社 2013年）1,000円＋税
『新・有機資源化学 エネルギー・環境問題に対処する』三共出版（すべて指定図書にしておりますので図書館で閲覧可能です。）

【注意事項】

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。

授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、自己責任により授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

現代生活学

文化研究の視点と社会・産業の課題

犬塚 潤一郎

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

人間の生活を支えている自然環境と産業社会、どちらも限界を迎えています。これからの社会のあり方をどのように考え、どのように行動してゆくべきでしょうか。

自立可能な社会を築くために、環境科学・技術の知見とメディアの発想・技術を活用してゆく。そのための総合的な学びの取り組みが現代生活学です。

文系・理系などにとらわれずに、物事の全体像を捉える視点と知識・方法を身につけてゆきましょう。そのためには、文化という対象・領域を研究するための基本的な概念や方法に慣れ親しんでおくことが必要です。

文化は多様で、個別の領域ごとに、異なる見方、異なる方法があり、それぞれに対応して個別の学問（科目）が生まれてきました。しかし今日、文化（人間の活動）を総体として把握することが必要となっています。

本講では、比較文化学の考え方や理論的方法の基礎を紹介しながら、新たな現代生活学を切り拓いてゆくことに取り組みます。

学ぶことによって自分自身の認識の変化を掴み取ってもらいたいものと思います。

【授業における到達目標】

自然科学の知見、社会を構造的にとらえる思考、経営の技術、価値・文化の理解、それらを総合する視点を身につけます。

「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき本質を見抜く力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：現代生活学のねらいと方法
- 第2週 文明と人間、環境と社会
- 第3週 文化という捉え方
- 第4週 文化研究の方法：「昔話」の研究
- 第5週 古代の自然観と科学
- 第6週 基本モデル：コスモスと理性
- 第7週 科学モデル：天体観測と世界観
- 第8週 文化研究の方法：「ものがたり」の研究
- 第9週 近代的社会モデル：工業化社会
- 第10週 現代への転換：2つの科学革命
- 第11週 今日的認識：科学革命の所産
- 第12週 文化研究の方法：「竜と自然」の研究
- 第13週 科学・技術・経済と人間・社会
- 第14週 現代生活学の方法
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

知識は積み重ねだけでなく、関連したことへの広がりにおいて自己の内に形成されてゆきます。各講義において、関連した事項や概念・用語、参考となる資料などを紹介しますので、次の講義までに調べ、講義内容とのつながりの上で理解を深めてください。

事前：次回に取り扱う領域について、指示された基礎概念・用語について調べておいてください。（学修時間 週2時間）

事後：講義内容に基づいて、内容を展開する小論課題を提示します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小課題60%、期末の小論文40%。

課題レポートについては、次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示。

現代日本経済論

角本 伸晃

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

現代日本経済について、国・地方政府の仕組み、GDPの大きさと景気変動、日本銀行と金融制度、地価や不動産の現状、日本人の過去から将来、などの題材を通して理解する。最新データを用いて解説するが、その所在も提示する。どこにどのようなデータが存在するかを知っておくことは情報社会において社会人になってから力強いスキルとなるだろう。また、外部講師の方に来ていただいて、日本の税金について講義をしてもらう予定である。

【授業における到達目標】

現代日本経済の様々な資料にあたる行動力と、それを理解する研鑽力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 中央政府の組織と役割
3. 日本の税金（外部講師招聘の予定）
4. 地方の行政と財政
5. 地方公共団体と平成の大合併
6. 国民所得と景気変動
7. 物価水準の測り方
8. 通貨需要と通貨供給
9. 日本銀行と金融政策
10. 現代日本の金融リテラシー
11. 日本の地価
12. 日本の不動産制度
13. 現代日本の都市問題
14. 日本の人口（少子高齢化の進展）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、webサイトを自分で閲覧して最新のデータについて調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で紹介されたwebサイトや経済データ以外についても調べて理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために活用してほしい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

伊藤元重『ゼミナール現代日本経済入門』（日本経済新聞出版社 2011年）3,456円

【注意事項】

配布プリントには経済データがたくさん並んでいるので、難しい印象を持つかもしれないが、日本経済の状況を理解することがこの授業の目的である。数学の授業ではないので、安心してほしい。

現代日本経済論

角本 伸晃

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

現代日本経済について、国・地方政府の仕組み、GDPの大きさと景気変動、日本銀行と金融制度、地価や不動産の現状、日本人の過去から将来、などの題材を通して理解する。最新データを用いて解説するが、その所在も提示する。どこにどのようなデータが存在するかを知っておくことは情報社会において社会人になってから力強いスキルとなるだろう。また、外部講師の方に来ていただいて、日本の税金について講義をしてもらう予定である。

【授業における到達目標】

現代日本経済の様々な資料にあたる行動力と、それを理解する研鑽力を修得することを目標とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 中央政府の組織と役割
3. 日本の税金（外部講師招聘の予定）
4. 地方の行政と財政
5. 地方公共団体と平成の大合併
6. 国民所得と景気変動
7. 物価水準の測り方
8. 通貨需要と通貨供給
9. 日本銀行と金融政策
10. 現代日本の金融リテラシー
11. 日本の地価
12. 日本の不動産制度
13. 現代日本の都市問題
14. 日本の人口（少子高齢化の進展）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、webサイトを自分で閲覧して最新のデータについて調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で紹介されたwebサイトや経済データ以外についても調べて理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために活用してほしい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

伊藤元重『ゼミナール現代日本経済入門』（日本経済新聞出版社 2011年）3,456円

【注意事項】

配布プリントには経済データがたくさん並んでいるので、難しい印象を持つかもしれないが、日本経済の状況を理解することがこの授業の目的である。数学の授業ではないので、安心してほしい。

現代美術論

現代美術を理解するために

前山 裕司

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

1960年頃から21世紀初めまでに起こった現代美術の動向について、ヨーロッパ・アメリカに加えて日本の状況にも触れながら、概観する。単なる歴史的理解でなく、当時の芸術家が何を考え、このような芸術表現に至ったかを考察する。

【授業における到達目標】

現代美術の展覧会の鑑賞に際して戸惑わない歴史的な見取り図を身につける。

【この授業を履修して身に付く態度・能力】◎:美の探究○:国際的視野

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要と現代美術の前史
- 第2週 プリティッシュ・ポップとヌーヴォー・レアリズム
- 第3週 ポップ・アートとカリフォルニア・ポップ
- 第4週 ミニマル・アート
- 第5週 光と動き
- 第6週 コンセプチュアル・アート
- 第7週 身体による表現
- 第8週 アルテ・ポーヴェラ、アンチ・フォーム
- 第9週 日本の70年代
- 第10週 ネオ・エクスプレッショニズム
- 第11週 80年代の動向
- 第12週 ソ連体制下の芸術とその後
- 第13週 90年代の動向
- 第14週 現代美術を見る
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポートなどの課題に取り組むこと。関連する展示を授業中に指示するので、見学してレポートを提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントなどを復習すること。授業で触れた作品や作家について、図書館やインターネットなどで調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業時にプリントや資料を配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、その他レポート30%、平常点（授業への積極参加）20% レポートは次回授業で、期末レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

『西洋美術館』（小学館）

【注意事項】

展覧会見学を実施する予定。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

現代美術論

現代美術を理解するために

前山 裕司

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

1960年頃から21世紀初めまでに起こった現代美術の動向について、ヨーロッパ・アメリカに加えて日本の状況にも触れながら、概観する。単なる歴史的理解でなく、当時の芸術家が何を考え、このような芸術表現に至ったかを考察する。

【授業における到達目標】

現代美術の展覧会の鑑賞に際して戸惑わない歴史的な見取り図を身につける。

【この授業を履修して身に付く態度・能力】◎:美の探究○:国際的視野

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要と現代美術の前史
- 第2週 プリティッシュ・ポップとヌーヴォー・レアリズム
- 第3週 ポップ・アートとカリフォルニア・ポップ
- 第4週 ミニマル・アート
- 第5週 光と動き
- 第6週 コンセプチュアル・アート
- 第7週 身体による表現
- 第8週 アルテ・ポーヴェラ、アンチ・フォーム
- 第9週 日本の70年代
- 第10週 ネオ・エクスプレッションISM
- 第11週 80年代の動向
- 第12週 ソ連体制下の芸術とその後
- 第13週 90年代の動向
- 第14週 現代美術を見る
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポートなどの課題に取り組むこと。関連する展示を授業中に指示するので、見学してレポートを提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントなどを復習すること。授業で触れた作品や作家について、図書館やインターネットなどで調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業時にプリントや資料を配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、その他レポート30%、平常点（授業への積極参加）20% レポートは次回授業で、期末レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

『西洋美術館』（小学館）

【注意事項】

展覧会見学を実施する予定。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

現代倫理学 b

「私」から「自然」へ

尾形 弘紀

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この講義では「私」「死生観」「性」「社会」「宗教」「自然」の6つのキーワードをもとに、現代倫理学が視野に入れる多くの問題群を順序立てて考えてみたい。その際、宮本常一の名著『忘れられた日本人』をテキストとして適宜参照して一昔前の日本人と今の日本人との比較を行い、現代の人間にとってはあまりに自明な我々の「思考のくせ」を、なるべく客観的に捉えてみるつもりである。

【授業における到達目標】

上記の6つのキーワードを足がかりとして、倫理学上のさまざまな問題を取り上げることにより、自己の「知性の体幹」を鍛える作業をしてみたい。それにより、現代を生きるための思考上の武器をなるべく多く獲得することを到達目標とする。

それらの目標を見すえて学修を進めることは、全学ディプロマポリシーに掲げられた、「優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度」や、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を養うことに結びつくはずである。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション：倫理学は何を問題にするか
- 第2週 「私」について①：現代人にとり「私」とは
- 第3週 「私」について②：自分探しの功罪
- 第4週 「死生観」について①：現代人にとり「生」や「死」とは
- 第5週 「死生観」について②：生命尊重主義の功罪
- 第6週 「性」について①：現代人にとり「性」とは
- 第7週 「性」について②：性嫌悪の風潮の功罪
- 第8週 「社会」について①：現代人にとり「社会」とは
- 第9週 「社会」について②：自由謳歌の功罪
- 第10週 「宗教」について①：現代人にとり「宗教」とは
- 第11週 「宗教」について②：オウム以後の宗教嫌悪の功罪
- 第12週 「自然」について①：現代人にとり「自然」とは
- 第13週 「自然」について②：自然保護思想の功罪
- 第14週 「私」から「自然」へ：現代をよりよく生きるために
- 第15週 まとめ

(なお、各キーワードにつき少なくとも1週ずつ、ディスカッション等のアクティブラーニングを導入する予定)

【事前・事後学修】

〔事前学修〕日本人の心の問題を問うため、日頃の自身の常識を疑う心構えが必要である。また、講義前には、扱うテーマに関連するテキストの章（授業内で指示する）を通読するなどして、問題意識を高めてから、講義に臨んでほしい。（学修時間：週2時間）

〔事後学修〕講義後早いうちにノートや配布プリントを読み直し、知識の定着を図ってほしい。さらに、関心を持ったテーマについては、雑誌やインターネット等で調べるようにすると、次週の講義の理解が格段に進むはずである。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫、1984年、864円）を用いる。授業内で随時参照するので、毎週持参する必要がある。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 60%：平常点（出席回数、ディスカッションへの参加等の授業態度、リアクション・ペーパーの内容などを考慮する）
 - 40%：試験（試験はプリントとノートの持ち込みを許可する。出題内容については講義内で数週前に予告する）
- なお、試験結果は授業最終週にフィードバックを行う予定。

【参考書】

講義内で随時指示する。

【注意事項】

毎週配布されるプリントは、後の週に再度読み返す可能性があるため、念のためすべて持参するようにしてほしい。

言語コミュニケーション教育論

高木 裕子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

【注意事項】

新しい分野だけに、授業で学んだことを、ご自身で再構成、まとめる必要があります。また、目を海外の教育現場やフィールドに向けて、将来、この分野で何ができるか、ここで学んだことをどう活かせるのかということを考えておくことは重要です。

【授業のテーマ】

人間の心の仕組みや人の行動様式、近年の教育問題やグローバル下での世界的な教育動向にも目を向けながら、単なる教室内での言語の教え方ではない、言語・非言語面からの多彩なコミュニケーション方法とアプローチの仕方を身に付けていきます。また、これに関連した諸理論や周辺の専門知識も同時に身に付けていきます。今日ある言語に直接係わる職業（日本語教師）や言語を通じた仕事のヒューマン・サービス業はもとより、チームのような形態でのコミュニケーションとは何か、そこでの理論やモデルにはどのようなものがあるのかを、個人の判断や場の状況以上のしっかりしたものにしていきます。背景には様々なモデルや心理的・社会的な理論も存在します。本授業で身に付けた態度や能力は、皆さんがご自身の力として使っていられるだけでなく、ここでのテーマである「言語と教育」「言語と社会」の関係を考える上でも重要な概念になります。まずはどんなレベルでもコミュニケーションが取れるような技術や方法論を身に付けましょう。その上で、教育や社会との係わりの中での人への支援や新たな仕事としての可能性を探ってください。

【授業における到達目標】

国際的な視野に立ち、どんな所でもどんな人ともコミュニケーションが取れるような方法論や技術論を身に付けさせます。また、実際に言語を教えるとか、地域社会において支援ができる行動力を身に付けさせます。

【授業の内容】

1. 人間の心と社会の仕組みからみる言語・非言語とは何か
2. 人間関係とコミュニケーションーどちらが先かー
3. コミュニケーション学とは何だったのか
4. 今、なぜ言語・非言語（教育・社会）支援が必要なのか
5. これまで受けてきた教育とは何だったのか、支援とは何か
6. 支援の現場と実際ー世界と日本の違いー
7. 職業として教えること、人を支援すること
8. 個人へのアプローチ、チームと組織、21世紀スキル
9. 動機づけ理論
10. どう認識し、教えるのかー子どもと成人の違いー
11. 何について、教えるのか、何を支援するのか
12. 何を、どう教えるのか
（言語教育法・言語指導法・アプローチ）
13. 実践と実際（言語を教える、言語でつながるなど）
14. 実践と実際（青年海外協力隊やソーシャルワークなど）
15. さあ、教えてみよう！

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業では発表したり、ディスカッションしたりすることを基本としますので、その（課題）内容については各自、事前に調べ、理解を深めてください。また、この分野やフィールドで活躍等されている方々を招いた場合は、その分野・領域は広く調べ、授業中に必ず質問できるようにしてください（週2時間）。

【事後学修】 毎回授業を踏まえ、問題や課題点、及び、何ができるのかについての小レポートを提出。最後に、模擬実践を課すことがあります。（週2時間）

【テキスト・教材】

ハインドアウトはじめ、関係資料や教材はこちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

複数課題レポート50%、期末試験30%、模擬実践20%。フィードバックは毎回、授業内で行います。また、各課題等の後には全体に向けて総評も含め、ポイント・留意点等をフィードバックします。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

言語コミュニケーション教育論

高木 裕子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

【注意事項】

新しい分野だけに、授業で学んだことを、ご自身で再構成、まとめる必要があります。また、目を海外の教育現場やフィールドに向けて、将来、この分野で何ができるか、ここで学んだことをどう活かせるのかということを考えておくことは重要です。

【授業のテーマ】

人間の心の仕組みや人の行動様式、近年の教育問題やグローバル下での世界的な教育動向にも目を向けながら、単なる教室内での言語の教え方ではない、言語・非言語面からの多彩なコミュニケーション方法とアプローチの仕方を身に付けていきます。また、これに関連した諸理論や周辺の専門知識も同時に身に付けていきます。今日ある言語に直接係わる職業（日本語教師）や言語を通じた仕事のヒューマン・サービス業はもとより、チームのような形態でのコミュニケーションとは何か、そこでの理論やモデルにはどのようなものがあるのかを、個人の判断や場の状況以上のしっかりしたものにしていきます。背景には様々なモデルや心理的・社会的な理論も存在します。本授業で身に付けた態度や能力は、皆さんがご自身の力として使っていけるだけでなく、ここでのテーマである「言語と教育」「言語と社会」の関係を考える上でも重要な概念になります。まずはどんなレベルでもコミュニケーションが取れるような技術や方法論を身に付けましょう。その上で、教育や社会との係わりの中での人への支援や新たな仕事としての可能性を探ってください。

【授業における到達目標】

国際的な視野に立ち、どんな所でもどんな人ともコミュニケーションが取れるような方法論や技術論を身に付けさせます。また、実際に言語を教えるとか、地域社会において支援ができる行動力を身に付けさせます。

【授業の内容】

1. 人間の心と社会の仕組みからみる言語・非言語とは何か
2. 人間関係とコミュニケーションーどちらが先かー
3. コミュニケーション学とは何だったのか
4. 今、なぜ言語・非言語（教育・社会）支援が必要なのか
5. これまで受けてきた教育とは何だったのか、支援とは何か
6. 支援の現場と実際ー世界と日本の違いー
7. 職業として教えること、人を支援すること
8. 個人へのアプローチ、チームと組織、21世紀スキル
9. 動機づけ理論
10. どう認識し、教えるのかー子どもと成人の違いー
11. 何について、教えるのか、何を支援するのか
12. 何を、どう教えるのか
(言語教育法・言語指導法・アプローチ)
13. 実践と実際（言語を教える、言語でつながるなど）
14. 実践と実際（青年海外協力隊やソーシャルワークなど）
15. さあ、教えてみよう！

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業では発表したり、ディスカッションしたりすることを基本としますので、その（課題）内容については各自、事前に調べ、理解を深めてください。また、この分野やフィールドで活躍等されている方々を招いた場合は、その分野・領域は広く調べ、授業中に必ず質問できるようにしてください（週2時間）。

【事後学修】 毎回授業を踏まえ、問題や課題点、及び、何ができるのかについての小レポートを提出。最後に、模擬実践を課すことがあります。（週2時間）

【テキスト・教材】

ハインドアウトはじめ、関係資料や教材はこちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

複数課題レポート50%、期末試験30%、模擬実践20%。フィードバックは毎回、授業内で行います。また、各課題等の後には全体に向けて総評も含め、ポイント・留意点等をフィードバックします。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

言語学入門

ことばの不思議にふれる

猪熊 作巳

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

我々はみな、ことばを使います。たいていの人は、少なくとも母語に関しては、使用にあたって特別な意識や苦勞などを感じることもなく、完璧に使いこなします。その意味において、我々はみな、ことばのエキスパートです。それでは、学問としてことばを研究していることばのエキスパートたち、つまり言語学者は、どのようなことを研究しているのでしょうか。本講義では、ことばに関する身近な、しかし興味深い事実を少しずつ紹介しながら、言語学とはどのような学問なのかについて、論じていきます。

【授業における到達目標】

ことばとは何か、ひいてはことばを使う人間とは何か、について考えるために必要となる、言語学の基本的な考え方を身につける。人間にとってもっとも身近な自然現象の一つであることばに対する関心を高め、自発的な知的探究心を高める。

【授業の内容】

- 第1回 イン트로・授業の進め方説明など
- 第2回 世界のことば事情
- 第3回 ことばと音声
- 第4回 ことばと単語
- 第5回 ことばと文法
- 第6回 ことばと意味
- 第7回 ことばの変化
- 第8回 ことばと社会
- 第9回 ことばと文化
- 第10回 ことばと進化
- 第11回 ことばと子供
- 第12回 ことばと脳
- 第13回 ことばと文脈
- 第14回 ことばと認知
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】翌回の内容に関連する言語現象について、身近な例を探す（1.5時間）

【事後学修】授業で扱った内容を振り返り、必要に応じて参考書にあたり、該当する言語現象を探す（2.5時間）

【テキスト・教材】

購入の必要はなし。必要に応じて適宜プリント配布。
また、参考資料などはmanabaを通じて配布する予定。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回のコメントシート：30%

小課題：20%

期末課題：50%

それぞれについて、授業内、もしくはmanaba上でフィードバックをおこなう。

【参考書】

- ・大津由紀雄（2004）『探検！ことばの世界』ひつじ書房。
 - ・大津由紀雄編『ことばの宇宙への旅立ち 10代からの言語学』シリーズ。ひつじ書房。
 - ・加藤重広（2007）『ことばの科学 学びのエクササイズ』ひつじ書房。
 - ・田中春美他（1994）『入門ことばの科学』大修館。
- その他、各論的な入門については適宜授業内で紹介。

【注意事項】

大きさに言ってしまうと、ことば抜きには人間は何もできません。言語学そのものに興味がある人はもちろん、人間とは何か、文化とは何か、社会とは何か、など、「ものを考えたい人」であれば誰でも歓迎します。

言語心理学

ことばの不思議

長崎 勤

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

私たちは、ことばという不思議な手段をもちいてコミュニケーションをしている。ことばは豊かな人間関係や社会を創る一方、ディス・コミュニケーションを生じさせたり、人を傷つけたりもする。こういった、ことばの不思議を、赤ちゃんのことばの誕生のメカニズムを通して見てゆくことで、「ことばの設計図」に迫りたい。そして、ことばの習得に困難を示す子どもや人々が、どのような点でつまづいているのか、またその支援について考え、その実践事例を学びます。

「ことばとは?」という問題意識を持った人の参加を望みます。

【授業における到達目標】

- ・意味論、統語論、音韻論、語用論の言語の諸側面を理解することができる。
- ・ことばの発達メカニズムを理解し、説明することができる。
- ・ことばの発達支援の基本を理解することができる。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を把握し、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. ことばの発達1 前言語的コミュニケーションからことばへ
3. ことばの発達2 ことばの獲得における養育者の役割
4. ことばの発達3 生活の知識の獲得とことば
5. 語の意味の獲得 ー意味論ー
6. 文法の発達 ー統語論ー
7. 会話・ナラティブの発達 ー語用論ー
8. 声で伝える・声を聴く ー音韻論ー
8. ことばの獲得と社会、文化
9. ことばの生物学的基盤
10. 第2言語習得と教育
11. 言語障害のアセスメントと支援
12. 言語障害の支援の実際1 知的障害
13. 言語障害の支援の実際2 自閉症
14. 言語障害の支援の実際3 構音障害
15. まとめ

*言語聴覚士の卒業生による講師の講話を聞く予定である。

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

その都度、提示。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、平常点(授業への取り組み、授業内提出物、発表)40%、
レポート20%

レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

【参考書】

坂野 登・天野 清2006言語心理学 新読書社

古典文学を読む

『小倉百人一首』

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

競技や遊戯の一として広く知られ、最近では『ちはやふる』でいっそう愛好者を得た「百人一首」を取り上げます。

この授業では『小倉百人一首』の撰者や成立に関わる謎解きを導入として、和歌との対話を深めます。その為にも、和歌の探求や作者の人となりと生涯の探索が柱となりますが、受講生も主体的に取り組まなければなりません。能動的な姿勢を通して本当の対話が適えられるでしょう。具体的な方法は次の通りです。

①研究発表（グループ、必須）

- i 和歌篇（詞章の異同・詠作動機など）
- ii 歴史篇（家柄や経歴・業績など）
- iii 伝承篇（人柄・エピソードなど）

②愛唱歌鑑賞（個人、必須）

自分が好きな和歌を一首取り上げて、作者・歌の心・技法や特徴などについて語ります。

*尚、随時かるた大会を行います。

【授業における到達目標】

「百人一首」の学修を通して和歌世界の一斑を知り、日本の伝統美のありようや感受性を学びます（美の探究）。また日本人の美意識や文化を理解することで、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。能動的に受講し発表することによって、学ぶ楽しさと意欲を身に付けることができます（研鑽力）。

【授業の内容】

1. 授業の概要・進め方
2. 『小倉百人一首』の撰者と作者の違い
3. 『小倉百人一首』の成立の謎
4. 『小倉百人一首』発表の為の資料作成の仕方
5. かるた大会（入門篇）
6. 研究発表①－2グループ
7. 研究発表②－2グループ
8. 研究発表③－2グループ
9. 研究発表④－2グループ
10. 『小倉百人一首』の研究史・鑑賞
11. 愛唱歌鑑賞①－10人程度
12. 愛唱歌鑑賞②－10人程度
13. 愛唱歌鑑賞③－10人程度
14. 愛唱歌鑑賞④－10人程度
15. かるた大会（習熟篇）・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 当日取り上げる範囲の和歌について、配布資料や参考図書を十分読み込んでみます。（週2時間）

【事後学修】 当日学んだ和歌について復習し、発表の為の資料作成に役立てられるよう準備します。（週2時間）

【テキスト・教材】

適宜資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究発表と愛唱歌鑑賞が60%。提出物評価が40%。研究発表と愛唱歌鑑賞についてはその時間帯にフィードバックし、提出物に関しては次の授業でフィードバックします。

【参考書】

- 『解説百人一首』 橋本武 ちくま学芸文庫
- 『百人一首一夕話』 上下 尾崎雅嘉著 古川久校訂 岩波文庫
- 『百人一首一夕話』 上下 尾崎雅嘉著（影印本）臨川書店

【注意事項】

「百人一首」をよく知る人も知らない人も、興味があればどうぞ。それを行動で示してもらいます。きついですよ。

古典文学基礎講読 a

—efクラス くずし字を読む

林 悠子

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

古典文学研究は、自分以外の研究者の手によって読みやすく整えられた活字テキストが間違っている可能性を疑うところから、もしくは、まだ活字になっていないテキストを読み解くところから始まります。そのため「くずし字」の読解能力は古典文学研究に必須の技術と言えます。

授業では毎回、「くずし字」で書かれた作品を解説します。

【授業における到達目標】

この授業では、「くずし字」のうち、特にひらがなを読解する力の修得を目標とします。また、「くずし字」の読解練習で、和歌・物語・随筆・日記など様々なジャンルのテキストに触れることを通じ、古典文学の基礎的な事柄を学びます。古典文学研究の基礎的な方法を修得することで、全学DP〔鑽学力〕のうち、生涯学習を続ける力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス—なぜ「くずし字」を習得する必要があるの？
／「字母」とは何か
- 2 「くずし字」入門①—読める字から読んでみよう！
- 3 「くずし字」入門②—『字典かな』を活用しよう！
- 4 和歌を読む①—短い詞書に挑戦！
- 5 和歌を読む②—長い詞書にも挑戦！
- 6 和歌を読む③—さらに長い詞書
- 7 物語を読む①
- 8 物語を読む②
- 9 物語を読む③
- 10 物語を読む④
- 11 随筆を読む
- 12 日記を読む
- 13 読みやすい「テキスト」を作る（解説）
- 14 読みやすい「テキスト」を作る（実践）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

「くずし字」をマスターする方法はただ一つ、「たくさん読む」しかありません。

今回の授業までの課題を出しますので、丁寧に取り組んでください（学修時間 週2時間）。

また、ほぼ毎回小テストを行いますので毎回の復習も必須です（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

笠間影印叢刊行会編『字典かな—写本をよむ楽しみ』（新装版 笠間書院 2003年 税込842円）を用意してください。

7回目以降は、古語辞書を使いますので、持参してください。

その他、読解練習のための資料は、受講者のレベルに応じてプリントを作り、毎回配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（くずし字の読解に熱心に取り組んだか、課題の提出）20%、不定期に行う小テスト（事前予告あり）30%、期末試験50%で評価します。

小テストは次回授業でフィードバックを行います。期末試験は解答例をmanabaに掲載します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

欠席をしないことが前提の授業です。

古写本などの貴重書を直接見ることがとても大切です。実践女子大学図書館は、多数の貴重書を所蔵しています。学内で展示される機会を逃さず、見に行くようにしてください。

古典文学基礎講読 a

—abクラス くずし字を読む—

伊藤 好美

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

皆さんは中学・高校で古文の文章を読んだことがあると思います。中高の教科書に使用されている文字は普段から見慣れた活字ですが、実際の古典文学作品は「くずし字」といわれる書体で書かれています。

この授業では、くずし字の中でも特に「変体仮名」と呼ばれるひらがなの読解能力を習得していきます。同時に、古典文学を読解・研究するために必要となる基礎的な知識についても学習します。

基礎的な知識が身につくと古典文学への理解が深まります。そして、変体仮名が読めるようになると、生まれた当時の姿のままの古典文学作品を読むことも可能になります。

この授業を通じて、皆さんには古典文学作品を読むことを楽しみのひとつにしてもらいたいと考えています。

【授業における到達目標】

- ・くずし字（特に変体仮名）を読解する能力を身につける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、感受性を深める。
- ・積極的に課題に取り組む力を養う。
- ・協力して課題に取り組み、互いの能力を伸ばし合う姿勢を身につける。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身につける。
- ・学修成果を実感して、自信を創出する。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方の説明
- 第2週 古典文学史の基礎知識
- 第3週 書誌学の基礎知識① 一書籍の形状・内容に関する用語
- 第4週 書誌学の基礎知識② 一本文系統に関する用語
- 第5週 変体仮名読解練習① 一変体仮名の成り立ちと字母を知る
- 第6週 変体仮名読解練習② 一身近な変体仮名に親しむ
- 第7週 変体仮名読解練習③ 一変体仮名の翻字を学ぶ
- 第8週 変体仮名読解練習④ 一変体仮名の翻字（入門）
- 第9週 変体仮名読解練習⑤ 一変体仮名の翻字（初級）
- 第10週 変体仮名読解練習⑥ 一変体仮名の翻字（中級）
- 第11週 変体仮名読解練習⑦ 一変体仮名の翻字（上級）
- 第12週 変体仮名読解練習⑧ 一変体仮名の翻字（応用）
- 第13週 変体仮名読解練習⑨ 一変体仮名の翻字（長文を読む）
- 第14週 変体仮名読解練習⑩ 一変体仮名の翻字（難字を読む）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

学修の進度に応じて、変体仮名読解練習のための課題を出します。しっかり翻字してから授業に臨んでください。（事前学修 週2時間）

不定期に小テストを実施します。毎回の授業内容をよく復習しておきましょう。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

笠間影印叢刊行会／編：字典かな 新装版〔笠間書院、2003、¥780（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（小テスト、授業態度等）40%、期末テスト60%で評価します。

小テストは次回授業、期末テストは授業最終回でフィードバックします。

【注意事項】

変体仮名の読解力は、読んだ量に比例します。積極的な態度で授業に臨んでください。

古典文学基礎講読 a

—cdクラス 変体仮名を読む—

越後 敬子

1年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

高校時代までの「国語」あるいは「古文」の授業では、みなさんは活字のテキスト（教科書）を与えられてきました。しかし、国文学科の学生として、特に古典文学を学ぶ際には、活字本だけでは不十分です。

この授業では古典文学作品を読解・研究するために必要な基礎知識を身につけます。作品が生み出された当時の写本・版本に記された文字（変体仮名）を読めるようになることが目標です。

【授業における到達目標】

この授業を受けることによって、現在のひらがなとは異なる変体仮名を覚え、古典文学作品を書かれた当時の文字で読むことができるようになります。

変体仮名という文字の価値を見出し、それによって課題にアプローチする力を修得することができます。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概説
 第2週 古典文学を学ぶための基礎知識①写本
 第3週 古典文学を学ぶための基礎知識②版本
 第4週 変体仮名の解読①「あ」～「さ」行
 第5週 変体仮名の解読②「た」～「は」行
 第6週 変体仮名の解読③「ま」～「わ」行
 第7週 変体仮名の解読④『古今和歌集』
 第8週 変体仮名の解読⑤『伊勢物語』
 第9週 変体仮名の解読⑥『枕草子』
 第10週 変体仮名の解読⑦『和泉式部日記』
 第11週 変体仮名の解読⑧『百人一首』
 第12週 変体仮名の解読⑨『伊曾保物語』
 第13週 変体仮名の解読⑩『詞花和歌集』
 第14週 変体仮名の解読⑪『竹取物語』
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の授業の終わりに次回分の資料を配付しますので、必ず翻字をして授業に臨んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で読み誤った箇所について復習してきてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

笠間影印叢刊行会／編『字典かな 新装版』（笠間書院 2003年）780円（税別）

ほかに資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、平常点（授業への取り組み・小テスト）40%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

児玉幸多『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

【注意事項】

変体仮名に慣れるためには、たくさん読むしかありません。上記事前学修を怠ると、授業についてこられなくなります。

古典文学基礎講読 b

—efクラス 『源氏物語』空蟬巻をくずし字で読む—

林 悠子

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

前期に習得した「くずし字」を読解する技術を使って宮内庁書陵部本『源氏物語』空蟬巻を読んでいきます。授業はテキストを一人数行ずつ担当し、演習形式で行います。各自テキストを翻刻し、校訂本文を立て、注釈書や辞書を調べた成果を発表します。発表を受けて、全体で討議を行います。

【授業における到達目標】

古典文学を研究する際に、踏むべき基本的な手順（翻刻・校訂作業、注釈書の調べ方、辞書の引き方等）を、「実践」を通じて身につけることを目標とします。演習発表と全体での討論を通じて、全学DPの〔行動力〕のうち課題解決能力の強化と〔研鑽力〕の自信の創出を目指します。

【授業の内容】

- 『源氏物語』空蟬巻について／発表の分担を割り当て
 - 演習発表のための基礎知識①
「校訂」ってどんな作業？／発表資料の作り方など
 - 演習発表のための基礎知識②教員による例示
 - 受講者による発表と討論①グループA（約5人）
 - 受講者による発表と討論②グループB（約5人）
 - 受講者による発表と討論③グループC（約5人）
 - 受講者による発表と討論④グループD（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑤グループE（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑥グループF（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑦グループG（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑧グループH（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑨グループI（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑩グループJ（約5人）
 - 受講者による発表と討論⑪グループK（約5人）
- （※受講者による発表と討論①～⑪は、テキストをひとり数行ずつ担当し、全員が発表を行います。初回授業時に発表の分担の割り当てを行います。）
- まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業に合わせて、テキストの翻字（2～3ページ）を事前に行ってきてください（課題として提出してもらるか小テストでの確認を行います・学修時間 週3時間）。討論に参加するためにも、とても重要な作業です。授業後に、間違えた箇所を中心に復習をしてください（学修時間 週1時間）。

【テキスト・教材】

藤岡忠美校注：青表紙本源氏物語 空蟬[新典社、1968、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（討論への参加・課題の提出・小テスト）30%、演習発表30%、期末試験40%で評価します。課題は次週以降に返却します。演習発表と質疑での発言についてはその場で講評を述べます。期末試験は、解答例と全体に対する講評をmanabaに掲載します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

欠席をしないことが前提の授業です。特に発表箇所の割り当てを行う初回授業には必ず出席するようにしてください。30分以上の遅刻は原則欠席扱いになります。

演習発表のための準備をしっかり行うことはもちろん、他の受講者の発表もよく聞いて、積極的に討論に参加してください。

古典文学基礎講読 b

—abクラス くずし字で書かれた作品を読む—

伊藤 好美

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

古典文学を読解・研究するための基礎的な知識・技術を身につけることを目指します。

前期に習得した変体仮名読解の技術を活かし、『万葉集』全歌の注釈書である、北村季吟の『万葉拾穂抄』を読み進めます。その中で主として、①注釈書や辞書の調べ方、②口頭発表の仕方、③討論の仕方、の三つの事柄を習得していきます。

【授業における到達目標】

- ・くずし字で書かれた作品を用いて、研究を進める能力を身につける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、感受性を深める。
- ・現状を正しく把握し、課題を発見できる力を身につける。
- ・目標を設定して、計画を立案・実行できる力を身につける。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を身につける。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身につける。
- ・学修成果を実感して、自信を創出する。

【授業の内容】

- 第1週 『万葉拾穂抄』概説
- 第2週 注釈書・辞書の調べ方の説明
- 第3週 資料の作り方の説明
- 第4週 口頭発表・討論の仕方の説明
- 第5週 口頭発表と討論① 一正確な翻字
- 第6週 口頭発表と討論② 一語積（問題の抽出）
- 第7週 口頭発表と討論③ 一語積（問題の整理）
- 第8週 口頭発表と討論④ 一語積（問題の解決方法）
- 第9週 口頭発表と討論⑤ 一作品全体の解釈（研究史）
- 第10週 口頭発表と討論⑥ 一作品全体の解釈（考察）
- 第11週 口頭発表と討論⑦ 一口語訳等のまとめ
- 第12週 口頭発表と討論⑧ 一活発な討論
- 第13週 口頭発表と討論⑨ 一結論
- 第14週 レポートの書き方の説明
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

発表の対象となる作品に関する資料を予め配布します。よく読んで理解してから口頭発表・討論に臨みましょう。（事前学修 週2時間）

期末レポートの作成に向けて、各自、発表を担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めてください。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

笠間影印叢刊行会／編：字典かな 新装版[笠間書院、2003、¥780(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、平常点（討論への参加、授業態度）20%、期末レポート50%で評価します。

口頭発表と討論への参加は当日の授業内、期末レポートは授業最終回でフィードバックします。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聴き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理構成力が向上します。積極的な態度で討論に参加してください。

古典文学基礎講読 b

—cdクラス 変体仮名で『おくのほそ道』を読む—

越後 敬子

1年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

古典文学作品を読解・研究するために必要な調査方法を身につけることを目標とします。

前期に学んだ変体仮名の読解能力をもとに、『おくのほそ道』の諸本を比較しながら読み、今私たちが手にしている本文がどのように完成していったのかを考察します。

【授業における到達目標】

この授業を受けることによって、現在の私たちが読んでいる古典文学作品が、各時代の人々によって書き継がれながら、どのように完成していったのかを学修することができます。

変体仮名という文字の価値を見出し、それをもとに課題にアプローチする力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 『おくのほそ道』諸本概説
- 第2週 教員による例示①自筆本1～3行
- 第3週 教員による例示②自筆本4～6行
- 第4週 受講者による発表①自筆本7～36行
- 第5週 受講者による発表②自筆本37～66行
- 第6週 受講者による発表③自筆本67～96行
- 第7週 受講者による発表④自筆本97～126行
- 第8週 受講者による発表⑤自筆本127～156行
- 第9週 受講者による発表⑥自筆本157～186行
- 第10週 受講者による発表⑦自筆本187～216行
- 第11週 受講者による発表⑧自筆本217～246行
- 第12週 受講者による発表⑨自筆本247～276行
- 第13週 受講者による発表⑩自筆本277～306行
- 第14週 受講者による発表⑪自筆本307～336行
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回授業範囲分の翻字をしてきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表者のレジュメと各自のノートを見比べ、読み誤りを訂正しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『新版おくのほそ道』（角川ソフィア文庫 2011年）740円

ほかに資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、平常点（授業への取り組み・小テスト）40%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

児玉幸多『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

【注意事項】

『おくのほそ道』本文を数行ずつに分けて、受講者が変体仮名を解読し発表します。上記事前学修を怠ると授業についてこられなくなります。

公衆栄養学 a

長谷川 めぐみ

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

公衆栄養学を学ぶ目標は、科学的アプローチと多面的なアプローチを駆使して健康の保持・増進をめざして公衆のQOLを高めることである。そのために公衆と個人の両面から計画を立て、その計画にふさわしい公衆栄養活動を行う力を養うことである。

公衆栄養活動の具体的な展開は「食と健康の環境づくり」である。これを理解するために環境のシステムモデルを学び、食生活との関係を考察することが重要である。

また、公衆栄養活動は、ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス、地域づくりなどの方法によって進められ、併せて生態系の保全、疾病予防、高齢社会などの栄養問題を取り上げることが重要である。

公衆栄養学a では公衆栄養学の概念、我が国における公衆栄養活動と栄養問題および栄養政策について学ぶ

【授業における到達目標】

わが国のみならず諸外国の健康・栄養問題を取りあげ国際的視野を身につける。また、海外における公衆栄養領域のフィールドワークや栄養調査の実態を紹介し国際感覚を身につけて世界に踏み出して活躍できる栄養士、管理栄養士となるよう目指す。

【授業の内容】

- 第1週 公衆栄養の概念
- 第2週 公衆栄養活動
- 第3週 社会環境と健康・栄養問題
- 第4週 健康状態と食事の変化
- 第5週 食生活の変化（食生態、食環境）
- 第7週 諸外国の健康・栄養問題の現状
- 第8週 わが国の公衆栄養政策（1）概要
- 第9週 わが国の公衆栄養政策（2）公衆栄養関連法規
- 第10週 わが国の公衆栄養政策（3）管理栄養士、栄養士養成制度
- 第11週 わが国の公衆栄養政策（4）国民健康・栄養調査
- 第12週 わが国の公衆栄養政策（5）実施に関する指針、ツール
- 第13週 わが国の公衆栄養政策（6）健康増進基本方針と地域計画
- 第14週 わが国の公衆栄養政策（7）食育推進基本計画
- 第15週 総合学習

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする（学修時間：2時間）

【事後学修】

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学[南江堂、2017、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 50%

受講態度 50%（講義内課題、小テスト、レポート）

毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』

（第一出版：本体2,100円＋税、2017年）

公衆栄養学 a

森川 希

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

公衆栄養学は、個人または集団の健康の維持・増進および疾病の一次予防を進めることを目的に、人々の食生活に関わる諸問題を組織的活動によって解決しようとする分野である。

公衆栄養学aでは、わが国における公衆栄養活動の歴史と、現在の超高齢社会における栄養問題について知るとともに、それらに対する取り組みの現状を理解することを目標とする。

【授業における到達目標】

主に行政の現場において、健康増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な基本的知識を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 公衆栄養学の概念
- 第2週 公衆栄養活動
- 第3週 健康・栄養問題の現状と課題①
(健康状態の変化)
- 第4週 健康・栄養問題の現状と課題②
(食事の変化)
- 第5週 健康・栄養問題の現状と課題③
(食環境の変化)
- 第6週 わが国の公衆栄養活動と組織
- 第7週 管理栄養士・栄養士養成制度
- 第8週 国民健康・栄養調査
- 第9週 実施に関する指針・ツール①
(食生活指針、身体活動基準)
- 第10週 実施に関する指針・ツール②
(食事バランスガイド、食育ガイドほか)
- 第11週 わが国の健康増進基本方針と地方計画
- 第12週 諸外国における健康・栄養問題の現状
- 第13週 諸外国における栄養政策
- 第14週 関連法規
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次の授業に必要な予習キーワードを提示するので、教科書の該当範囲を読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】教科書各章末の練習問題及び管理栄養士国家試験過去問題の該当範囲等を活用して授業の復習をし、単元終了毎に実施する小テストに備えること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第6版) [南江堂、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点10%で評価する。

平常点は、授業態度及び小テストの得点を含む。小テストは授業冒頭を実施し、その場で解説、自己採点を行い結果を報告する。

【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』

(第一出版) 本体2,300円

『食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで』

(南山堂) 本体2,800円

公衆栄養学b

長谷川 めぐみ

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

公衆栄養学を学ぶ目標は科学的アプローチと多面的なアプローチを駆使して健康の保持・増進をめざして公衆のQOLを高めることである。そのために公衆と個人の両面から計画を立て、その計画にふさわしい公衆栄養活動を行う力を養うことである。

公衆栄養活動の具体的な展開は「食と健康の環境づくり」で、これを理解するために環境のシステムモデルを学び食生活との関係を考察することが重要である。

また公衆栄養活動はヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス、地域づくりなどの方法によって進められ、併せて生態系の保全、疾病予防、高齢社会などの栄養問題を取り上げることを理解することも重要である。公衆栄養学bでは栄養疫学の概要と公衆栄養マネジメントについて学ぶ。

【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を持つ国内外の公衆栄養の状況を学び理解と協力を築く態度を身につける
- ②国際感覚を身につけて世界の公衆栄養に踏み出す栄養士となることをめざす
- ③日本の公衆栄養システムについて学び世界に発信する態度を身につける

【授業の内容】

- 第1週 栄養疫学の概要
- 第2週 栄養疫学のための食事調査法
- 第3週 食事摂取量の測定方法
- 第4週 食事摂取量の評価方法
- 第5週 公衆栄養マネジメント概論
- 第6週 公衆栄養マネジメントのためのモデル
- 第7週 公衆栄養アセスメント
- 第8週 公衆栄養プログラムの計画と実施
- 第9週 公衆栄養プログラムの展開
- 第10週 地域集団の特特別プログラムの展開 (1)
- 第11週 地域集団の特特別プログラムの展開 (2)
- 第12週 地域集団の特特別プログラムの展開 (3) ライフステージ別
- 第13週 地域集団の特特別プログラムの展開 (4) 先進国
- 第14週 地域集団の特特別プログラムの展開 (5) 開発途上国
- 第15週 総合学習

【事前・事後学修】

【事前学修】

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする（学修時間：2時間）

【事後学修】

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学[南江堂、2017、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 50%

受講態度 50%（講義内課題、小試験、レポート）

毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』

（第一出版：本体2,100円＋税、2017年）

公衆栄養学 b

森川 希

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

効果的な公衆栄養活動を展開するためには、栄養・食生活と疾病との因果関係を理解し、科学的根拠に基づく情報を活用しながら、適切なプログラムを計画、実施、評価する総合的なマネジメント能力が求められる。本科目では、公衆栄養活動の根拠となる疫学調査や公衆栄養マネジメントの手法を中心に学習する。

【授業における到達目標】

主に行政の現場において、健康増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な基本的知識を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス
- 第2週 公衆栄養アセスメント
- 第3週 公衆栄養プログラムの計画
- 第4週 公衆栄養プログラムの実施
- 第5週 公衆栄養プログラムの評価
- 第6週 地域特性に対応した公衆栄養プログラムの展開
- 第7週 食環境づくりのためのプログラムの展開
- 第8週 地域集団の特性別プログラムの展開①
(母子・学童)
- 第9週 地域集団の特性別プログラムの展開②
(成人・高齢者・生活習慣病ハイリスク者)
- 第10週 栄養疫学の概要
- 第11週 栄養疫学のための食事調査法
- 第12週 食事摂取量の測定方法
- 第13週 食事摂取量の評価方法①
(食事調査と食事摂取基準)
- 第14週 食事摂取量の評価方法②
(総エネルギー調整栄養素摂取量)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次の授業に必要な予習キーワードを提示するので、教科書の該当範囲を読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】教科書各章末の練習問題及び管理栄養士国家試験過去問題の該当範囲等を活用して授業の復習をし、単元終了毎に実施する小テストに備えること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第6版)[南江堂、2018、¥3,000(税抜)、※最新版を購入すること]
食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで[南山堂、2016、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点10%で評価する。

平常点は、授業態度及び小テストの得点を含む。小テストは授業冒頭実施し、その場で解説、自己採点を行い結果を報告する。

【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』
(第一出版) 本体2,100円
『日本人の食事摂取基準(2015年版)』(第一出版) 本体2,700円

公衆栄養学実習 a

森川 希

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

公衆栄養学a・bに引き続き、本実習では地域の健康・栄養上の課題に応じた公衆栄養プログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な事項について理解を深めることを目的とする。特に、集団の健康状態および食事・栄養素摂取状況に関する情報を収集・分析し、活用するための基本的技術を習得するための実習を行う。

【授業における到達目標】

管理栄養士として、主に行政の現場において、健康の維持・増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な知識・技能・態度を修得する。

【授業の内容】

テキストおよび配布資料に基づき説明を受けた後、各回のテーマに関する情報の収集・分析、媒体作成等の作業を個別もしくはグループで進める。

- 第1週 公衆栄養アセスメント①
(既存資料を活用した地域の実態把握)
都道府県・市町村の基本情報の検索、グラフ作成
- 第2週 公衆栄養アセスメント②(社会調査法)
生活習慣、食行動等に関する質問紙調査の設計
- 第3週 公衆栄養アセスメント③(食事調査法)
24時間思い出し法、24時間尿中食塩排泄量の測定
- 第4週 公衆栄養アセスメント④(運営・政策アセスメント)
国、都道府県、市町村における健康増進施策
および関連事業の調査
- 第5週 調査結果のまとめと報告書作成
- 第6週 公衆栄養プログラムの計画と実施
(事業計画の立案、媒体作成)
- 第7週 グループワークと発表
- 第8週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「公衆栄養学」の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、パソコンを用いた情報収集・作表・作図の作業が多いので、「情報リテラシー基礎」で学習したレベルの操作は問題なくできるようにしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】各回の最後にワークシートを提出するほか、最終的に調査資料を含めた全ての成果物をファイルし提出してもらう。実習時間内に補完しきれなかった情報については、最終日までに各自で整理しておく必要がある。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第6版)[南江堂、2018、¥3,000(税抜)]
食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで[南山堂、2016、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題70%、平常点(実習態度、プレゼンテーション)30%で評価する。

提出課題については、授業期間内にフィードバックを行う。

公衆栄養学実習 b

佐々木 溪円

3年 通年 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この実習では、保健所、保健センターで実施される地域の公衆栄養活動に参加することで、行政栄養士による地域住民の健康保持・増進の実務や、多職種・他機関との連携について学びます。

【授業における到達目標】

- 1) 地域保健における管理栄養士の業務を説明できる。
- 2) 地域の健康課題と対応策について、自分の意見を説明できる。
- 3) 多職種連携による公衆衛生施策における管理栄養士の専門性を説明できる。

【授業の内容】

管理栄養士にとって必要な実務を身につけるため、数人のグループで1週間（45時間）保健所実習を行います。

1. 実習事前指導（大学で行う）
 - ・実習オリエンテーション：実習の概要を学ぶ、注意事項、実習ノートの準備、実習終了後の報告方法について。
 - ・講義：地域保健制度や施設について、自治体や保健所の資料活用方法について。
 - ・課題研究の方法：文献検索、データ分析・表現方法について。
2. 臨地実習（保健所等で行う）
 - ・講義：地域保健業務の実際に関する保健所長、行政栄養士による講義と実習のオリエンテーション。
 - ・実習：行政栄養士の業務に陪席し、業務の実際について学ぶ。
 - ・実習成果報告：実習で学んだ内容を総括した報告会を実習施設で実施する。
 - ・グループ毎の課題研究
3. 事後指導（大学で保健所実習の報告を行う）
 - ・公衆衛生学研究室等で報告する。
 - ・大学校外実習報告会で報告する。

【事前・事後学修】

○事前学修：事前配布資料を学修してください。実習施設が管轄する地域の健康課題・施策を把握し、実習施設から提示される課題についてまとめておいてください。（学修時間 週1時間）

○事後学修：実習ノートの記載と公衆衛生学研究室での報告をまとめてください。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

東京都福祉保健局および保健所からテキストが配布されます。

実習施設のウェブサイトに関連の資料が掲載されています。

事前指導時はプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習施設の評価（50%）、実習ノートの記載内容・公衆衛生学研究室での報告の評価・事前・事後指導時の授業態度（50%）、等により評価し、評価結果を提示します。

【参考書】

- 1) 柳川洋・尾島俊之 編著『社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版』（医歯薬出版株式会社 2018年）
- 2) 『国民衛生の動向2018/2019』（厚生労働統計協会）
- 3) 日本栄養士会 編『管理栄養士・栄養士必携 データ・資料集』（第一出版）

【注意事項】

社会人としての常識を踏まえ、実践女子大学の学生に相応しい態度で積極的に臨んでください。

公衆衛生学 a

佐々木 溪円

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。この授業では、まず、健康を左右する環境要因や生活習慣について考え、これらの関連性の評価方法などについて学びます。

【授業における到達目標】

- 1) 公衆衛生の概念について説明できる。
- 2) 健康、疾病に関する主要な統計を概説できる。
- 3) 疫学手法とその留意点について説明できる。
- 4) 各分野で行われている公衆衛生活動について説明できる。

【授業の内容】

- 第1週 社会と健康（公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理）
- 第2週 環境と健康（環境衛生）
- 第3週 健康、疾病にかかわる保健統計1（人口動態統計など）
- 第4週 健康、疾病にかかわる保健統計2（国際疾病分類など）
- 第5週 疫学1（疫学指標）
- 第6週 疫学2（疫学の方法）
- 第7週 生活習慣の現状と対策1（食生活）
- 第8週 生活習慣の現状と対策2（飲酒、喫煙）
- 第9週 主要疾患の疫学と予防対策1（生活習慣病）
- 第10週 主要疾患の疫学と予防対策2（感染症）
- 第11週 精神保健
- 第12週 医療制度
- 第13週 福祉制度
- 第14週 地域保健と母子保健
- 第15週 学校保健と産業保健

【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、プレテストやグループ学習を行いますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の内容を、教科書や関連書籍等で復習してください。期末試験前に練習問題を提示しますので、取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版[医歯薬出版株式会社、2019、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価配分：筆記試験70%+プレテストとグループ学習30%
 ※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

- 国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）
 公衆衛生がみえる2018/2019（メディックメディア）

【注意事項】

社会活動に積極的に参加して、授業で学んだ内容が、自分や周囲の人達の生活にどのように関わっているかを考える機会をもつようにしましょう。

公衆衛生学 a

佐々木 溪円

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。まず、この授業では、健康を左右する環境要因や生活習慣について考え、これらの関連性の評価方法などについて学びます。

【授業における到達目標】

- 1) 公衆衛生の概念について説明できる。
- 2) 健康、疾病に関する主要な統計を概説できる。
- 3) 疫学手法とその留意点について説明できる。
- 4) 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 衛生と公衆衛生（公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理）
- 第2回 環境と健康1（生態系と環境保全、環境汚染と健康影響）
- 第3回 環境と健康2（環境衛生）
- 第4回 健康、疾病にかかわる統計1（人口動態統計など）
- 第5回 健康、疾病にかかわる統計2（国際疾病分類など）
- 第6回 疫学1（疫学指標、バイアスと交絡の制御）
- 第7回 疫学2（疫学の方法、スクリーニング）
- 第8回 疫学3（因果関係、倫理、リスク・アナリシス）
- 第9回 情報とコミュニケーション
（エビデンスに基づいた医療と保健、ヘルスリテラシー）
- 第10回 生活習慣の現状と対策1（食生活、身体活動、休養など）
- 第11回 生活習慣の現状と対策2（喫煙）
- 第12回 生活習慣の現状と対策3（飲酒）
※アルコールと健康に関する学外専門職の講義です。
- 第13回 主要疾患の疫学と予防対策1（悪性新生物、循環器疾患）
- 第14回 主要疾患の疫学と予防対策2（代謝疾患、骨・関節疾患）
- 第15回 主要疾患の疫学と予防対策3（口腔保健、アレルギー疾患）

【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、個人で回答するプレテストやグループ学習を行いますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の内容を、教科書や関連書籍等で復習してください。期末試験前に練習問題を提示しますので、取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版[医歯薬出版㈱、2019、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：筆記試験70%+プレテストとグループ学習30%
※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）
公衆衛生がみえる2018/2019（メディックメディア）

【注意事項】

公衆衛生学は、社会情勢と密接な関連性があります。報道を通じて社会動向を把握するだけでなく、特に重要と考えた議論については複数の報道機関の内容を比較して、自分の意見をもつようにしましょう。

公衆衛生学 a

佐々木 溪円

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。この授業は、健康を左右する要因や課題について考え、実践されている公衆衛生活動について学びます。

【授業における到達目標】

- 1) 公衆衛生の概念について説明できる。
- 2) 健康に関する主要な統計の現状と課題について概説できる。
- 3) 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。
- 4) すべての人が健康的に活躍できる社会形成について、自分の意見を説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 疾病予防と健康管理
- 第2回 環境汚染と健康影響
- 第3回 健康、疾病にかかわる統計
- 第4回 疫学1（疫学指標、バイアスと交絡の制御）
- 第5回 疫学2（疫学の方法、因果関係）
- 第6回 健康情報とコミュニケーション
- 第7回 生活習慣の現状と対策
- 第8回 悪性新生物の疫学と予防対策
- 第9回 公衆衛生学から考える食物アレルギー対策
- 第10回 感染症対策
- 第11回 子ども虐待予防対策
- 第12回 社会保障と障害者福祉
- 第13回 母子保健と健やか親子21（第2次）
- 第14回 成人保健
- 第15回 産業保健

【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、プレテストやグループ学習を行いますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の内容を、教科書や関連書籍等で復習してください。期末試験前に練習問題を提示しますので、取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版[医歯薬出版株式会社、2019、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：筆記試験70%+プレテストとグループ学習30%
※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）
公衆衛生がみえる2018/2019（メディックメディア）

【注意事項】

公衆衛生学は、社会情勢と密接な関連性があります。報道を通じて社会動向を把握するだけでなく、自分の意見をもつようにしましょう。また、社会活動に積極的に参加して、授業で学んだ内容が、自分や周囲の人達の生活にどのように関わっているかを考える機会をもつようにしましょう。

公衆衛生学b

佐々木 溪円

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。この授業は、各分野で実際にどのような課題があるかを考え、実践されている公衆衛生活動について学びます。

【授業における到達目標】

- 1) 保健、医療、福祉制度の概要について説明できる。
- 2) 保健、医療、福祉制度の課題について概説できる。
- 3) 各分野で行われている公衆衛生活動について説明できる。
- 4) すべての人が健康的に活躍できる社会形成について、自分の意見を説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 感染症対策1（感染症と疫学）
- 第2回 感染症対策2（予防接種）
- 第3回 精神保健対策1（精神保健、自殺対策）
- 第4回 精神保健対策2（虐待・暴力対策）
- 第5回 保健・医療・福祉のしくみ（社会保障の概念）
- 第6回 医療制度（日本の医療保健制度、医療法と医療計画）
- 第7回 福祉制度1（社会福祉、福祉関連法規）
- 第8回 福祉制度2（障害者福祉）
※障がいがある女性のキャリア形成に取り組んでいる
学外講師からの講演と質疑応答です。
- 第9回 地域保健（地域保健法、健康危機管理）
- 第10回 母子保健（母子保健事業と健やか親子21（第2次））
- 第11回 成人保健（生活習慣病の予防、特定保健指導）
- 第12回 高齢者保健（高齢者保健と介護保険）
- 第13回 産業保健（労働と健康、労働安全衛生対策）
- 第14回 学校保健（学校保健安全法、学校保健安全対策）
- 第15回 国際保健（地球規模の健康問題）

【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、プレテストやグループ学習を行いますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の内容を、教科書や関連書籍等で復習してください。期末試験前に練習問題を提示しますので、取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版[医歯薬出版㈱、2019、¥2,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価配分：筆記試験70%+プレテストとグループ学習30%
- ※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

【参考書】

- 国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）
- 公衆衛生がみえる2018/2019（メディックメディア）

【注意事項】

社会活動に積極的に参加して、授業で学んだ内容が、自分や周囲の人達の生活にどのように関わっているかを考える機会をもつようにしましょう。

公衆衛生学特論

佐々木 溪円

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。ここでは、健康を左右する要因について科学的根拠に基づいて理解を深めます。さらに、食物栄養学を専攻する科学者や行政に求められる対策を考えます。

【授業における到達目標】

- 1) 公的統計や調査結果から分かる健康課題と対策を概説できる。
- 2) 科学論文を批判的に吟味し、自分の意見を概説できる。
- 3) 食物栄養学を専門とする科学者として、すべての人が自分らしく生きることができる社会づくりに貢献できる。

【授業の内容】

- 第1回 公衆衛生学概論（現代の健康と公衆衛生学）
- 第2回 環境衛生（近年の科学論文から）
- 第3回 保健統計1（人口動態統計と地域の健康課題）
- 第4回 保健統計2（患者調査等から考える疾病構造）
- 第5回 健康とヘルスリテラシー1（概論、分析手法）
- 第6回 健康とヘルスリテラシー2（近年の科学論文）
- 第7回 生活習慣の現状と対策1（食生活、身体活動、休養など）
- 第8回 生活習慣の現状と対策2（喫煙）
- 第9回 感染症対策（感染症と疫学）
- 第10回 福祉制度（障害者福祉など）
- 第11回 精神保健対策（精神保健、虐待予防対策）
- 第12回 母子保健（健やか親子21（第2次））
- 第13回 産業保健（労働と健康）
- 第14回 健康格差1（現状と関連要因）
- 第15回 健康格差2（ソーシャル・キャピタルとの関連）

【事前・事後学修】

- ・関連する報道などについて、日常的に把握してください。
- ・英文の科学論文を取り扱うので、事前学修として関連論文を読み説明できるようにしてください。約4時間を要します。事後学修はフィードバックを参照。

【テキスト・教材】

適宜配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価方法：各講義に関する準備状況やレポート等100%
フィードバック：各回のテーマについて、都度、解説により行います。事後学修として、自分と他者の意見の相違点について考えてください。

【参考書】

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

【注意事項】

履修者の希望や進路に応じて、学外施設等の見学なども組み込みますので、積極的に希望を申し出て下さい。

工業デザイン概論

山崎 和彦

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

先ず工業デザインの世界について概説する。次に、本学科においてデザインに取り組む際に有用となる事項について論じる。最後に、人間要素を重視したデザインの評価方法について論じる。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、工業製品のデザインについて探究する態度を身につける。また国際感覚、広い視野、洞察力等を身につけ、生涯にわたり工業デザインについて探求する態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 工業デザインとは
- 第2週 デザインに関する法令、基準、資格
- 第3週 人類と道具の歴史
- 第4週 デザインのための材料学
- 第5週 デザインのための加工技術
- 第6週 電気に関するデザイン
- 第7週 電子に関するデザイン
- 第8週 音のデザイン
- 第9週 照明のデザイン
- 第10週 水回りのデザイン
- 第11週 安全および高齢者のためのデザイン
- 第12週 人体構造とデザイン
- 第13週 デザインの評価その1（感覚系）
- 第14週 デザインの評価その2（生理系）
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てること。

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後1週間以内を目処に、学科掲示板に、正答率の低かった設問についての正解例、成績の分布、授業における所感を掲示する。またマナバに学生が不満や改善事項等を記していたら、同じくマナバ上で回答し、次回に活かす。

【参考書】

適宜示す。

工芸史概論 a

中国陶磁史

山田 正樹

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

【授業における到達目標】

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

【授業の内容】

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

【事前・事後学修】

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごとの小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

【参考書】

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

【注意事項】

本講義では、上記のとおり授業に関連する作品を所蔵する美術館・博物館や展覧会の見学を行う予定である（費用は全額自己負担）。受講者には、こうした校外見学実習のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

工芸史概論 a

中国陶磁史

山田 正樹

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

【授業における到達目標】

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

【授業の内容】

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

【事前・事後学修】

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごとの小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

【参考書】

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

【注意事項】

本講義では、上記のとおり授業に関連する作品を所蔵する美術館・博物館や展覧会の見学を行う予定である（費用は全額自己負担）。受講者には、こうした校外見学実習のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

工芸史概論 a

中国陶磁史

山田 正樹

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

【授業における到達目標】

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

【授業の内容】

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

【事前・事後学修】

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごとの小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

【参考書】

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

【注意事項】

本講義では、上記のとおり授業に関連する作品を所蔵する美術館・博物館や展覧会の見学を行う予定である（費用は全額自己負担）。受講者には、こうした校外見学実習のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

工芸史概論 b

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

【授業における到達目標】

美の探究、研鑽力について修得する。

【授業の内容】

- 第1週 陶磁器とは
- 第2週 有田 (1) 初期伊万里
- 第3週 有田 (2) 初期色絵
- 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式
- 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1
- 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2
- 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)
- 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)
- 第9週 京焼 (1) 仁清
- 第10週 京焼 (2) 乾山焼
- 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1
- 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2
- 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1
- 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義の最後に課す宿題を提出すること。
 期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。
 宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。
 レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

【参考書】

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

【注意事項】

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。
 授業を別の日の見学にふりかえる場合があります。費用は各自負担になります。

工芸史概論 b

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

【授業における到達目標】

美の探究、研鑽力について修得する。

【授業の内容】

- 第1週 陶磁器とは
- 第2週 有田 (1) 初期伊万里
- 第3週 有田 (2) 初期色絵
- 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式
- 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1
- 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2
- 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)
- 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)
- 第9週 京焼 (1) 仁清
- 第10週 京焼 (2) 乾山焼
- 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1
- 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2
- 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1
- 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義の最後に課す宿題を提出すること。
 期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。
 宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。
 レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

【参考書】

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

【注意事項】

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。
 授業を別の日の見学にふりかえる場合があります。費用は各自負担になります。

工芸史概論 b

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

【授業における到達目標】

美の探究、研鑽力について修得する。

【授業の内容】

- 第1週 陶磁器とは
- 第2週 有田 (1) 初期伊万里
- 第3週 有田 (2) 初期色絵
- 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式
- 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1
- 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2
- 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)
- 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)
- 第9週 京焼 (1) 仁清
- 第10週 京焼 (2) 乾山焼
- 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1
- 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2
- 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1
- 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義の最後に課す宿題を提出すること。
 期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。
 宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。
 レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

【参考書】

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

【注意事項】

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。
 授業を別の日の見学にふりかえる場合があります。費用は各自負担になります。

工芸実習 a

陶芸「世界に一つの器を作る」

中田 太陽

2年～ 集前 2単位

【授業のテーマ】

私たちの日々の暮らしからインスピレーションを得たものを、器という形に表現する。

【授業における到達目標】

「こんな器があったら素敵だな」というイメージを心の中で想像し、それを実際に表現する。そしてその器を生活に活かすことの喜びを感じてもらう。

【授業の内容】

- 1 回目 ● ガイダンス ● 玉作り・ひも作りによる器の制作
● ふだん使いのお茶碗・マグカップ・ティーカップ・
カフェオレボウルなどから希望のものを選んで作る
- 2 回目 ● 1回目に制作したカップの削りをする ● 取手を作る
- 3 回目 ● 取手をカップにつける ● タタラ作りで菓子皿などを作る
● 化粧掛けをする
- 4 回目 ● 菊練りの練習 ● 電動ロクロを体験する ● 小物を制作する
箸置き、カトラリーレスト、希望があればアクセサリーの
パーツ、ブローチなどの小物から選んで作る
● 皿の化粧掛けをする
- 5 回目 ● 電動ロクロで作った作品を削る ● 小物作品の仕上げ
● 化粧掛けをした作品の修正 ● 素焼きの窯詰めと焼成
- 6 回目 ● 素焼きの窯出し ● 下絵を付ける ● 釉掛けをする
- 7 回目 ● 釉掛けの続き ● 修正の作業 ● 本焼きの窯詰めと焼成
- 8 回目 ● 小テスト ● 作品の窯だしと講評 ● 掃除

【事前・事後学修】

イメージをふくらませることから始めましょう。ふだんの生活の中で、「こんな器があったら便利だな」「こんなカップがあったら楽しいな」という気づきを大切に、心に浮かんだものを色鉛筆などで想像画のスケッチをしておきましょう。また、講義終了後も新たにイメージが湧くものをスケッチしましょう。実際の制作の後に、どう構想が変わるか描いてみましょう。（時間：事前事後それぞれ2時間、計4時間程度）

【テキスト・教材】

作業工程を書いたプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（制作に取り組む姿勢） 50%

小テスト30%

課題作品20%

小テストの問題は、授業の中で実際に行った制作過程から出題します。テストの後に、すぐに解答して答えを説明します。

【参考書】

制作のヒントになるように、見本になるような器や、陶芸作品が掲載された図録から参考になるような器の写真をお見せします。

【注意事項】

本授業は日野校地で行われます。夏休みを利用しての限られた日程の中で、順を追って器を制作をします。一回一回が欠かせない大切な作業工程になります。すべての日程に参加することを心がけてください。

工芸実習 b

銀板を使ったリングの制作・蠟型によるアクセサリー制作など

相武 常雄

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

2種類のシルバーリング（蠟型鑄造及び彫金技法による）を制作し、彫金・鍛金・鑄金技法の初歩を習得し、もの作りのおもしろさを体験する。また、制作の体験とともに、現代社会におけるさまざまな金属の使われ方や活用法についてのレクチャーによって、素材としての金属の種類とその特性についての理解を深める。他の工芸素材にも挑戦する。

【授業における到達目標】

「美の探求」より、日本の文化・美術を理解し、金属造形を通じて感受性を深める力を修得する。

【授業の内容】

1. 金属概論
2. 道具の説明
3. 蠟型のデザイン及び制作①（デザイン）
4. 蠟型のデザイン及び制作②（線による制作）
5. 蠟型のデザイン及び制作③（デザイン）
6. 蠟型のデザイン及び制作④（切削による制作）
7. 銀板によるシルバーリング制作①（デザイン）
8. 銀板によるシルバーリング制作②（透かし）
9. 銀板によるシルバーリング制作③（糸鋸による透かし）
10. 銀板によるシルバーリング制作④（やすりによる直し）
11. 手織りによるテーブルウェア制作①（デザイン）
12. 手織りによるテーブルウェア制作②（制作）
13. 手織りによるテーブルウェア制作③（組み立て）
14. 展覧会見学（工芸関係）
15. 講評

【事前・事後学修】

【事前学修】各自、家にて、アイデアスケッチを5枚ほど描いてくること。既製のアクセサリーをよく観察してくる（週2時間）

【事後学修】作品の制作意図を文章化する（週2時間）

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配る。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

作品70% 平常点（授業態度・制作への取り組み方）20% 展覧会を見ての感想文10%

制作した作品に関しては、授業の最後の講評によってフィードバックする。感想文は、返却時にフィードバックする。

【参考書】

金属造形等の書籍。（授業時に指示する）

【注意事項】

制作しやすい服装で参加するように。

材料費は別途徴収する。

広告・PR論

井上 綾野

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

近年、ソーシャルメディアの発展にともなって、広告・PRは企業からのマスメディアを通じた一方的なコミュニケーション活動ではなく、双方向のコミュニケーションが重視されるようになった。本講義では、従来の広告・PRの役割、広告計画とその効果測定、ソーシャルメディアを通じたマーケティング・コミュニケーションの広がり、広告と社会との関係性について学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 企業発信の広告、PRの役割とその計画について理解する
2. ソーシャルメディアを含むマーケティング・コミュニケーションの広がりについて理解する
3. 広告と社会との関係性を理解する

【授業の内容】

- 第 1回 インTRODakション：広告の定義、広告の種類
- 第 2回 マーケティング・コミュニケーションの概要
- 第 3回 マーケティング・コミュニケーションの統合（IMC）
- 第 4回 広告計画の流れと調査
- 第 5回 広告戦略の立案
- 第 6回 広告効果の測定
- 第 7回 中間試験
- 第 8回 企業とインターネット広告
- 第 9回 ソーシャルメディアと広告① 企業とソーシャルメディア
- 第10回 ソーシャルメディアと広告② 消費者とソーシャルメディア
- 第11回 広告と社会① 広告と規制
- 第12回 広告と社会② グローバル広告
- 第13回 広告と社会③ ソーシャル・マーケティングと広告
- 第14回 広告と社会④ 事例研究
- 第15回 講義のまとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること。（学修時間：1.5時間）
- ・事後学修
授業で学んだ理論やモデルを、授業で用いられなかった事例に当てはめて理解すること。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

岸 志津江・田中 洋・嶋村 和恵：現代広告論（第3版）[有斐閣アルマ、2017]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法]

中間試験：25%，期末試験：50%，平常点（事例研究）：25%で評価する。

[成績評価の基準]

1. 企業発信の広告、PRの役割とその計画について理解する：50%
2. ソーシャルメディアを含むマーケティング・コミュニケーションの広がりについて理解する：25%
3. 広告と社会との関係性を理解する：25%で評価する

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は次の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

- 石崎徹編著『わかりやすい マーケティング・コミュニケーションと広告 第2版』（八千代出版、2019）
- 日経広告研究所編『広告コミュニケーションの総合講座2018』（日経広告研究所、2017）

広告とメディア

行実 洋一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

本授業は、私たちの消費生活に欠かせない広告について、その影響や成り立ち、ビジネスモデルに加え、さらにそこに見られる様々な文化的コンテクストについての理解を深めようとするものです。

現在、広告もまた、インターネットの普及などによって大きな変化を余儀なくされていますが、依然として消費者に対する影響は圧倒的です。

そこで、実際のテレビや新聞、インターネット上の広告、あるいは様々な屋外広告や交通広告など、具体的事例を取り扱いつつ、ビジネスや文化的な視点を交えて幅広く解説を行っていきます。

【授業における到達目標】

受講者の視野を深め、私たちのこれからのメディア生活における見識や理解力を高めることを目指します。

また今後のビジネスに必要とされる、あるいは生活をより豊かにするような知的素養を培っていきたいと考えています。

こうした作業を通じて、「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 マスメディアと広告
- 第3週 広告の種類と手法
- 第4週 テレビCMについて
- 第5週 新聞・雑誌広告について
- 第6週 屋外広告・交通広告について
- 第7週 インターネット広告について
- 第8週 広告とビジネスモデル
- 第9週 キャッチコピーとスローガン
- 第10週 映像広告の事例分析①～昭和50年代、60年代
- 第11週 映像広告の事例分析②～平成以降
- 第12週 世界の広告
- 第13週 広告会社の現状
- 第14週 これからの広告の課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

<事前学修>授業で対象とするCMや広告を指示するので可能な限り事前に見ておいて下さい。(学修時間120分)

<事後学修>講義で教えられた内容についてインターネットや書籍を通じて、さらに理解を深めてください。(学修時間120分)

【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末課題70%、平常点(授業への積極参加、及び発表)30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末課題等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

【参考書】

参考資料(図書・DVD等)を授業の進行に応じ随時紹介します。

校外給食実習

山岸 博美・富重 慶子

3年 通年 1単位

○：行動力

【授業のテーマ】

実習では、実践活動の場での課題発見、解決を通して栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、給食業務の遂行に必要な食事計画や調理技術・提供（サービス）に関する給食の経営について学ぶ。

【授業における到達目標】

管理栄養士として具備すべき知識及び技術全般を習得することを目標とし、課題を発見し問題解決につなげることができるようになる。

【授業の内容】

各給食施設における給食管理の実際を円滑に習得するため、実習前に学内で施設ごとの綿密な打ち合わせ・指導を受ける。また、実習終了後に学内での報告会を行い、実習施設以外の状況について理解を深める。

I. 実習施設（以下の施設にて、45時間の実習を行う）

・学校 ・事業所 ・福祉施設

II. 実習内容

- 1 校内事前ガイダンス
- 2 実習の実施目標・計画案作成
- 3 実習施設での集中講義
- 4 給食システムの見学
- 5 対象者の把握・アセスメント
- 6 献立作成
- 7 食数管理
- 8 食材料管理
- 9 調理・配膳
- 10 嗜好調査
- 11 栄養教育資料作成
- 12 実習報告書作成
- 13 実習報告会プレゼンテーション
- 14 実習報告会
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】学外施設での実習に向けて給食経営管理について復習し、実習目標、実習課題作成を行うこと。（学修時間30分/週）

【事後学修】実習終了後は、実習内容を振り返り、実習記録を整理にまとめる。実習報告会に向けての資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。（学修時間30分/週）

【テキスト・教材】

臨地実習ノート、プリント、資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、作成報告書10%、実習先評価50%により評価する。

レポート返却時にコメントとともにフィードバックする。

【参考書】

「日本食品成分表（七訂）本表編（医歯薬出版：1300円＋税）

「大量調理施設衛生管理のポイント」（中央法規：2400円＋税）

【注意事項】

- 1) 校外実習を行うにあたっては、基礎調理1・2、食品学a・b、給食経営管理a・bを履修していることを原則とする。これらの単位を修得していない場合は、実習を行えないことがある。
- 2) 実習開始日に細菌検査証を提出していなければ実習できない。実習は体調を整え、清潔な指定の着衣で行う。
- 3) 実習期間中に本人の不注意による事故や欠席等により、実習時間が規定に満たない場合は原則として再履修となる。

校正技術 I - a

—縦組校正の基礎—

境田 稔信

1年 前期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

校正の基本である「原稿引き合わせ」（原稿と校正刷りをくれば合わせ、校正刷りの誤りを正す）ができるようになるための実習訓練を行います。

まず、校正記号の使い方、校正作業の流れを覚えます。そして、ひとつおりの縦組校正ができるようになることを目標として、実習課題を繰り返し行います。

【授業における到達目標】

縦組の「原稿引き合わせ」の訓練から、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

1. 校正記号の使い方（『校正必携』249・256頁）
2. 実習課題1 字体についての解説（同72頁）
3. 実習課題2 いわゆる拡張新字体（同126頁）
4. 実習課題3 同音の漢字による書きかえ（同142頁）
5. 実習課題4 現代仮名遣い（同180・206頁）
6. 実習課題5 送り仮名の付け方（同193・207頁）
7. 実習課題6 縦組の数詞表記（同216頁）
8. 実習課題7 行頭・行末のきまり（同221頁）
9. 実習課題8 句読点・括弧類・記号類のアキ（同223頁）
10. 実習課題9 見出し・柱・ノンブルの組方（同227頁）
11. 実習課題10 注と引用文の組方（同228頁）
12. 実習課題11 欧字・欧文・数字・数式の組方（同229頁）
13. 実習課題12 調整の方法（同230頁）
14. 実習課題13 ルビの組方および調整（同232頁）
15. 実習課題14 外来語の表記（同283頁）

【事前・事後学修】

*事前 『校正必携』の該当頁を読み、要点をノートにまとめてください。（週30分）

*事後 実習課題で見落としした誤植や適切に直せなかった箇所をノートにまとめてください。（週30分）

【テキスト・教材】

校正練習帳1 タテ組編[日本エディタースクール出版部、2008、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。

配分基準：期末試験100%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

【注意事項】

実習課題は、実際の仕事を想定しています。次に作業する人（赤字にしたがって訂正する人）のことを考えて、ていねいで確実な作業ができるように、集中して取り組みましょう。

課題には、毎回少しずつ新しい要素が出現し、順を追って上のレベルへと進んでいきます。欠席しないように心がけ、欠席したときの課題は必ず自宅でやってください。

校正技術 I - b

—横組校正の基礎—

境田 稔信

1年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

書物は縦組ばかりではなく、横組の本もたくさんあります。一般に横組の本では、縦組にはない要素が多く含まれるため、横組の校正には縦組とは異なる知識と技術が必要となります。

ここでは、横組校正の知識と技術を学びます。中級程度の横組校正の課題を通し、基礎から中級に向けた技術の習得を目指します。

横組で気をつけるべきポイントを身につけ、校正技能検定中級の横組課題がひとつおりのできるようにします。

【授業における到達目標】

横組の「原稿引き合わせ」から、学修の成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

1. 横組の種類と特性、横組の要素（第17章）
2. 横組の校正記号（第17章）
3. 横組の組方原則と調整（第18章）
4. 実習課題1 横組の数字の表記（第17章）
5. 実習課題2 欧字の立体・イタリック体・ボールド体
6. 実習課題3 コーテーションマーク（シングル、ダブル）
7. 実習課題4 行頭の括弧類の組方
8. 実習課題5 疑問符と感嘆符の組方
9. 実習課題6 %の組方、斜線（スラッシュ）の組方
10. 実習課題7 見出しの組方
11. 実習課題8 図表の置き方
12. 実習課題9 柱の組方—両柱、片柱、省略する場合
13. 実習課題10 単位記号の組方
14. 実習課題11 欧文の組方
15. 実習課題12 まとめ

【事前・事後学修】

*事前 テキスト『校正技術4』の該当箇所を読み、要点をノートにまとめてください。（週30分）

*事後 実習課題で見落とししたり適切に直せなかったりした箇所はノートにまとめてください。（週30分）

【テキスト・教材】

校正必携 第8版[日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]

校正練習帳2 ヨコ組編[日本エディタースクール出版部、2011、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素とします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

【注意事項】

横組校正は、縦組に比べて注意しなければならないことが多く、最初はむずかしく感じるかもしれません。実習課題は順を追って進んでいきます。欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で必ず実習課題をやってください。

校正技術Ⅰ－c

—縦組赤字確認と素読み—

境田 稔信

1年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

前期で学習した理論と技術の基礎をふまえ、縦組校正のより高度な実習を行います。

現在の主流であるテキストデータで入稿された場合の校正は、原稿照合が要りません。原稿指定と原稿整理の赤字の確認をして、その後は読むだけです。

もともと原稿どおりの初校なので、赤字修正のミスや原稿自体のミスを探すことになります。頼りになるのは辞書しかありません。

【授業における到達目標】

「赤字確認」と「素読み校正」から、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

1. 実習課題1 素読みの練習
2. 実習課題2 赤字確認のやり方
3. 実習課題3 素読み校正の要点
4. 実習課題4 同音・同訓の変換ミス
5. 実習課題5 用字用語の不統一
6. 実習課題6 禁則処理
7. 実習課題7 約物・記号の種類
8. 実習課題8 行頭の括弧類
9. 実習課題9 ルビの種類
10. 実習課題10 仮名遣い
11. 実習課題11 送り仮名
12. 実習課題12 ひらがなの脱字・衍字
13. 実習課題13 外来語
14. 実習課題14 数字・ローマ字
15. 実習課題15 まとめ

【事前・事後学修】

*事前 繰り返し小テストを行います。予告に従って予習してください。(週30分)

*事後 見落とししたり適切に直せなかったりした箇所は、ノートにまとめてください。(週30分)

【テキスト・教材】

校正技術2 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,100(税抜)]
校正技術3 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,300(税抜)]
校正必携 第8版 [日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素とします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

【参考書】

西谷裕子著『勘違いことばの辞典』(東京堂出版 2006年) 1,800円+税

【注意事項】

とにかく国語辞典を引いてください。最初は時間がかかっても、経験が蓄積されていけば、徐々に勘所が分かってくるはずです。欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で課題を必ずやってください。

校正技術Ⅱ

—校正技能検定合格を目指して—

境田 稔信

2年 前期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

縦組原稿照合と横組原稿照合の実習課題、そして縦組の素読み校正の実習課題と、実技を繰り返していきます。

「校正技術」の授業の総まとめとしてステップ・アップを図り、校正技能検定中級の実技問題合格を目指します。

【授業における到達目標】

校正のレベルアップを図り、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

1. 縦組原稿照合1 組版指定
2. 横組原稿照合1 組版指定
3. 素読みの校正1 組版指定
4. 縦組原稿照合2 組方原則
5. 横組原稿照合2 組方原則
6. 素読みの校正2 組方原則
7. 縦組原稿照合3 ルビの付け方
8. 横組原稿照合3 ルビの付け方
9. 素読みの校正3 ルビの付け方
10. 縦組原稿照合4 表記の確認
11. 横組原稿照合4 表記の確認
12. 素読みの校正4 表記の確認
13. 縦組原稿照合5 誤植の種類
14. 横組原稿照合5 誤植の種類
15. 素読みの校正5 誤植の種類

【事前・事後学修】

*事前 1年次にやった実習課題も振り返り、自分がどんなミスをしたのか、把握してください。(30分)

*事後 見落とししたり適切に直せなかったりした箇所はノートにまとめ、同じミスを繰り返さないようにしてください。(30分)

【テキスト・教材】

校正技術2 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,100(税抜)]
校正技術3 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,300(税抜)]
校正技術4 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,600(税抜)]
校正必携 第8版 [日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。

配分基準：期末テスト100%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

【参考書】

大西寿男著『校正のこころ』(創元社 2009年) 2,000円+税

【注意事項】

ふだんから新聞・雑誌・書籍をよく読み、疑問点や不明箇所はすぐに調べたり、質問をしたりして知識を蓄えてください。

校正理論Ⅰ

—校正者に必要な知識1—

境田 稔信

1年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

校正の基本は原稿と校正刷りを見比べて校正刷りの誤りを正すことです。作業自体は単純ですが、なかなか完璧にできるものではありません。注意力や集中力を保って、地道な努力を重ねることが求められます。そのためには、用具をそろえ、知識を蓄え、さらに体調を万全にする必要があります。

【授業における到達目標】

校正の意義と内容を把握し、言葉や漢字・記号の意味・形・組方を正確に理解することにより、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

【授業の内容】

1. 校正とは何か（第1章）、校正記号の使い方（第3章）
2. 校正の順序と方法（第3章）
3. 縦組の組方原則（第10章）
4. ルビの組方（第10章）
5. 肩付きルビ（第10章）
6. 中付きルビ（第10章）
7. 用字用語1 漢字（第12章）
8. 用字用語2 仮名遣い（第12章）
9. 用字用語3 送り仮名（第12章）
10. 用字用語4 外来語とローマ字（第12章）
11. 用字用語5 数字と単位（第12章）
12. 学科問題1 編集・校正の知識
13. 学科問題2 漢字の読み書き
14. 学科問題3 誤字訂正
15. まとめ（組方原則・ルビ・用字用語）

【事前・事後学修】

- *事前 テキスト（『校正技術1・2・3』）の該当箇所を読み、要点をノートにまとめてください。（週2時間）
- *事後 授業でやった問題は次回にテストを行いますので、必ず復習してください。（週2時間）

【テキスト・教材】

- 校正技術1 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,500(税抜)]
校正技術2 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,100(税抜)]
校正技術3 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,300(税抜)]
校正技術4 [日本エディタースクール出版部、2012、¥1,600(税抜)]
校正必携 第8版 [日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]
校正練習帳1 タテ組編 [日本エディタースクール出版部、2008、¥500(税抜)]
校正練習帳2 ヨコ組編 [日本エディタースクール出版部、2011、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最後に行う期末試験で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素にします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

テストや提出課題は、すべて採点して返却します。

【参考書】

- 『校正記号の使い方 第2版』500円＋税
『文字の組方ルールブック タテ組編』500円＋税
(以上の発行は日本エディタースクール出版部)

【注意事項】

これから学ぶ校正のすべての基礎となるものです。この授業の学習が不十分だと、「校正技術Ⅰ－a・b・c」「校正技術Ⅱ」の学習に支障がおこります。欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で必ず課題をやってください。

校正理論Ⅱ

—校正者に必要な知識2—

境田 稔信

2年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

「校正理論Ⅰ」「校正技術Ⅰ－a・b・c」でやった縦組と横組の組方原則やルビの組み方を復習します。

さらに、漢字検定の問題を使って読み書き練習を行い、漢字の知識を増やしていきます。

校正技能検定中級で過去に出題された学科問題を使い、編集・校正や日本語の知識を深め、中級試験の学科問題合格を目指します。

【授業における到達目標】

校正に必要な知識を蓄えることにより、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

【授業の内容】

1. 基本用語、組方原則
2. 肩付きルビ、中付きルビ
3. 漢字講座1 漢字の基礎
4. 漢字講座2 部首
5. 漢字講座3 音読み・訓読み
6. 漢字講座4 書き取り
7. 漢字講座5 類義語・対義語・四字熟語
8. 漢字講座6 誤字訂正、同音・同訓
9. 漢字講座7 熟語構成、送り仮名
10. 漢字講座8 模擬テスト
11. 学科問題1 計算方法
12. 学科問題2 専門用語
13. 学科問題3 漢字の種類
14. 学科問題4 用字用語
15. まとめ（組方原則、ルビ、漢字講座）

【事前・事後学修】

- *事前 授業で行った問題は次回にテストを行いますので、復習をしてください。（週2時間）
- *事後 できなかった問題は、ミスを繰り返さないようにノートにまとめてください。（週2時間）

【テキスト・教材】

校正必携 第8版 [日本エディタースクール出版部、2011、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最後の授業で期末試験を行います。また、授業中の小テストも加点要素にします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

【参考書】

北原保雄監修『日本語使い方考え辞典』（岩波書店 2003年）
3,000円＋税

【注意事項】

1年次の学習を補い、基礎知識を完璧にします。できなかった問題は、次に同じような問題が出たときに必ずできるようにしてください。

航空実務

—航空・航空業界を知ることで「働く」を考える—

沈 香順

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】**自分自身をプロジェクト！**

LCCの台頭、新規事業や路線展開、空港での新たなサービスなど、航空業界を取り巻く環境は日々変わります。世界・経済情勢の変化が直結している業界でありインフラとしても社会的な責任も担っています。そして東京オリンピック・パラリンピックの開催控え航空会社はさらなる飛躍、展開をしようとしています。航空会社の取り組みや役割を学ぶことは航空業界、航空関連業界に就職を希望する学生に役立つ知識となります。

講義では「覚える」ことよりも自分で自分の将来を「考える」ことを重要視していきます。どんな自分になるために何をすべきかという【自分プロジェクト】を実施していきます。就職活動に直接的に活かせるレポート作りやポイントをアドバイスしていきます。

「働き方は生き方」です。女性が「ライフイベントに対応し続けるスキル」とはどういうことなのか、今がそれを考える時と捉え、自分を振り返り、就職活動に向けた準備・対策も行います。

【授業における到達目標】

主体的に考え行動する力

卒業後の進路に向け課題を発見する力をつけ、解決のための方法を考え、具体的な行動に移していくことを目指します。

美の探求

自立した女性を目指し、内面の豊かさを高めていきます。

【授業の内容】

- 第1週 航空業界概論
- 第2週 航空業界の今
- 第3週 航空の歴史と航空機の変遷
- 第4週 規制緩和とオープンスカイ
- 第5週 航空業界の国際ルール
- 第6週 LCCの台頭とFSCの役割
- 第7週 航空会社の業務に必要な知識（全般）
- 第8週 航空会社の業務に必要な知識（空港編）
- 第9週 実務—グランドスタッフ
- 第10週 実務—航空業界・各職務について①
- 第11週 実務—航空業界・各職務について②
- 第12週 観光業界との関り
- 第13週 航空業界就職のためのガイダンス
- 第14週 【校外学習】空港見学
(2020年1月11日羽田空港を予定)
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

航空業界に関する報道に関心を持つよう願います。適宜授業内で時事問題に関するグループディスカッションを行います。（学修時間、週1時間）

【事後学修】

授業内容の復習、専門用語などの理解を自主的に行うことを勧めます。（学修時間、週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じプリント・教材等を用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度40%、レポート30%、授業内での小レポート30%

小レポートは個別返却時に、レポートについては最終授業内でフィードバックを行います。

【注意事項】

航空業界への就職希望にはこだわらず、「就職」を真剣に考える学生を対象とした講義です。前向きに取り組む熱意と向上心を望みます。2020年1月11日土曜日に校外実習・見学を予定していることを考慮して受講して下さい。

行政法

金津 謙

3年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

国や地方公共団体のおこなう行政行為は、ゴミの問題や年金問題など私たちの日常生活に関するものはもちろん、原発の設置や再稼働、防衛や外交問題など国家全体の利益に関するものまで様々な問題に及んでいる。これら行政活動を行う法的根拠をまとめた法律が行政法である。

企業に勤務すると、頻繁に行政サイドと折衝を行う機会があることと思う。そのような場合、行政のルールを熟知していることが様々な交渉を円滑に進める前提となるのである。

【授業における到達目標】

行政法は行政に関わる法律を総称したものであり、「わかりにくい」分野と敬遠されがちであるが、極力具体的事例を用いて基本的概念や制度を解説し、企業に勤めた場合の行政との折衝手順を習得し、また公務員試験への一助となることを目的とする。

すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

【授業の内容】

1. 行政法とは何か
2. 行政主体とは
3. 行政機関とは
4. 法律による行政のコントロール
5. 手続きによる行政のコントロール
6. 行政処分
7. 行政指導
8. 強制制度
9. 行政不服申立 ①不服申立とは
10. 行政不服申立 ②裁定・決定
11. 行政事件訴訟 ①意義・沿革・訴訟類型
12. 行政事件訴訟 ②提起・審理過程・判決
13. 国家賠償法1条
14. 国家賠償法2条
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

石川敏：はじめての行政法 第4版[有斐閣アル、2018、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト(30%)、中間テスト(30%)、期末テスト(40%)による総合評価。これらの合計点を100点満点とし、60点以上を合格とする。試験の結果は授業最終回にフィードバックする予定である。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

開講時に指示する。

行動科学

松浦 常夫

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

行動科学は心理学、社会学、文化人類学等の社会科学と生物科学と統計学を基礎として、人間の行動を理解する学問です。ここでは主として心理学の観点から人間の行動の原因と仕組みについて考えていきます。

【授業における到達目標】

人の行動が生じる、きっかけ、プロセス、理由、その影響がどんなものか理解できるようになることを目標とします。

修得すべき「行動力という能力」のうち、課題発見と計画と行動を実践する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 行動科学と心理学
- 2 動機づけの欲求論的アプローチ
- 3 内発的動機づけ
- 4 動機づけの認知論的アプローチ(目標)
- 5 動機づけの認知論的アプローチ(期待)
- 6 動機づけの情動論的アプローチ(感情)
- 7 感情の行動への影響
- 8 行動の決定因としての性格
- 9 行動の決定因としての態度
- 10 学習心理学(環境と行動)
- 11 学習による行動の習得と維持(条件づけ)
- 12 社会的学習(観察学習と模倣学習)
- 13 ルール志向行動
- 14 望ましくない行動を減らすための方法
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 シラバスを見て予習する。(学修時間 週2時間)

事後学修 配布されたプリントを復習する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。

授業後の感想文の中に、共通して役立ちそうな質問があれば、それを次回に紹介、解説します。

【参考書】

奈須正裕 『やる気はどこから来るのか』(北大路書房 2002年) 1,260円

【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

香の文化

小畑 洋子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

香道は、室町時代の東山文化と共に成立した日本の伝統文化である。香りによって文学の世界を表現するもので、それには一定の作法があり、それに従い香木をたいて、その匂いを観賞するものである。

授業では、香の歴史や文学とのかかわり、香道で使用する香木の解説や、関連する日本の伝統文化について講義をし、演習として、お香をたき、香道を体験することにより、日本の伝統文化の一端を学ぶ。

【授業における到達目標】

日本の伝統文化である香道について理解するとともに、香席の心得を修得する。

香道の歴史や香道を通じた国際交流について学ぶことにより、国際的視野をもって美を探究する力を修得する。また、実際に香席を体験し、香席を自分たちで行ってみることによって、研鑽力、行動力及び協働力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 香道概説
- 第2週 香の歴史
- 第3週 香木について
- 第4週 文学と香道
- 第5週 源氏物語の香
- 第6週 香道具の説明、組香「三ちゅう小鳥香」
- 第7週 組香での作法、組香「菊合香」
- 第8週 組香での作法、組香「源氏香」
- 第9週 香道具の扱い方、組香「三夕香」
- 第10週 組香を楽しむ(1)、組香「桜香」
- 第11週 組香を楽しむ(2)、組香「星合香」
- 第12週 組香を楽しむ(3)、組香「時雨香」
- 第13週 組香を楽しむ(4)、組香「常磐香」
- 第14週 香席体験「鶴亀香」
- 第15週 「貝合わせ香」と貝合わせ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料を読んで予習する(週2時間程度)

事後学修：授業の内容を理解して当日の講義内容を復習する(週2時間程度)

【テキスト・教材】

テキストは、毎回プリントを配布する。

教材費1,500円(香木等消耗品代)。

詳細は、開講時に説明する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回レポート(香の感想等)、期末レポートの提出を求め、授業態度により総合的に評価する。

配点基準：レポート50%、平常点(授業態度)50%

毎回のレポートについては次回の授業において、期末レポートについては授業最終回においてフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講人数制限30名(制限人数を超えた場合、抽選)。

演習では、白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とすること。香りの強いもの(香水等)は身につけないこと。直前に香辛料の強いものの飲食を避けること。

高分子化学特論

山崎 壮

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

生化学系学術論文を読むために必要な基本的タンパク質実験手法の基礎的知識を学ぶ。また、この分野では遺伝子発現解析や遺伝子工学的手法が多用されていることを踏まえ、分子生物学の基礎的知識も学ぶ。さらに、月刊雑誌『実験医学』の記事を毎週ひとつずつ読み、生化学分野のトピックスに触れる。

【授業における到達目標】

自分が行っている研究またはその周辺領域の生化学系学術論文を読むために必要な、生化学系実験の基礎レベルの知識を修得することをめざす。

【授業の内容】

- (1) 履修者の研究手r間の紹介
 - 第1回 自分の研究テーマに密接な学術論文1～3報を紹介する
- (2) タンパク質実験手法の基礎
 - 第2回 タンパク質の抽出法
 - 第3回 タンパク質の精製法、タンパク質の電気泳動
 - 第4回 抗体の基礎、抗体の作製法
 - 第5回 ウェスタンブロットティング
 - 第6回 抗体カラム、免疫沈降法
 - 第7回 ELISA
 - 第8回 タンパク質のアミノ酸配列解析法
 - 第9回 WEBデータベースの利用
- (3) 遺伝子の発現調節の基礎
 - 第10回 ゲノム編集の基礎
 - 第11回 原核細胞の転写レベルの遺伝子発現調節
 - 第12回 真核細胞の転写レベルの遺伝子発現調節
 - 第13回 エピジェネティックな遺伝子発現調節
 - 第14回 エピジェネティックな遺伝子発現調節が関連する研究トピックス
- (4) 学術論文紹介
 - 第15回 履修者による生化学原著論文紹介

【事前・事後学修】

- (1) 授業内容を復習して、疑問点や理解できなかった点を確認し、次回の授業時に質問できるようにする。(学修時間：週2時間)
 - (2) 第1回、第15回：論文紹介ができるように準備する。(学修時間：週2時間)
 - (3) 毎回の宿題：雑誌『実験医学(羊土社)』から履修者が記事の一つ選んで読み、次回の授業の冒頭に、約10分間で記事のポイントを解説する。(学修時間：週2～3時間)
- なお、履修者の研究領域によって雑誌を変えることがある。

【テキスト・教材】

講義資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(学習意欲、質疑応答)50%、宿題・原著論文紹介での発表50%

履修者の授業中の論文紹介には、その場で講評する。

【参考書】

- (1) 第2回～第7回の参考書

岡田 雅人、宮崎 香 編、タンパク質実験ノート 改訂第4版 上巻および下巻(羊土社、2011年)、各4,000円+税 など
- (2) 第11回～第14回の参考書

井出利憲著、よくわかる分子生物学 第2版(秀和システム、2015年)2,500円+税

【注意事項】

生化学系の実験系研究を行う大学院生を対象とした授業内容を予定している。

国語

ことば（日本語）の教育と子どもの言語発達・学習

南雲 成二

1年 後期 2単位

◎：国際的視野、研鑽力 ○：行動力

（岩波新書上：840円＋税、下：860円＋税）

- ・岡本夏木著『子どもとことば』（岩波新書 720円＋税）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示版）』（東洋館出版201円＋税、付録：幼稚園教育要領、中学校学習指導要領）

・必要に応じて小学校『国語教科書』等のプリントやワークシート
新聞コラム等を用いることもある。

【授業のテーマ】

（目的）0歳から12歳までの子どもたちの言語生活に寄り添いながら言語学習を導き、言語力の発達支援を推進する保育士、幼稚園教諭、小学校教諭にふさわしい国語力（＝日本語力）を養うことを目的に、言語と表現・理解に関する諸課題を考察する。

（目標）言語活動に必要な国語力を分析する能力を養い、自らの国語力を内省し、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭にふさわしい国語力を総合的に養うことをめざし、言語と表現、言語と理解に関わる課題を考察する。

1. 国語（＝日本語）に関する基礎的事項について知識を整理する。
2. 言語活動に必要な国語力を分析する。
（話し言葉＝音声言語、書き言葉＝文字言語の両面から）
3. 言語活動に関する興味・関心を深める。
（oracy、literacyの両面から）
4. 課題に意欲的に取り組み、主体的な言語学習を深める。
5. 課題に関わる「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の言語活動をより確かに、より豊かに展開することができる。

【授業における到達目標】

授業のテーマと「到達目標」は深く関連する。①国語（日本語）教育に関する基本的内容について知ることができるようになる。②言語活動の充実に必要となる国語力（＝言語能力・言語行動力・語彙力等）を理解し、その内容を子どもの学び・発達段階や経験に即してとらえることができるようになる。③言語活動や言語学習への興味・関心、意欲の喚起やその為の支援・指導の要点を掴むことができるようになる。④自分自身の言語能力の実態把握を進め、課題点に取り組むことができるようになる。また、言語生活の改善や言語教育・言語文化の探究を通して、日本の文化をより深く知り、世界に発信、交流していこうとする意欲や態度を伸長する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション「ことば・コトバ・言葉」「言語・日本語・国語」「ことばとこころとわたし」
- 第2回 「言語生活・言語文化・言語体験・言語の学習と発達」
（グループワーク含む）
- 第3回 『日本語上・下』（I）世界の中の日本語
- 第4回 （II）発音から見た日本語 ①発音の単位、母音・子音
- 第5回 （II）発音から見た日本語 ②拍の種類、旋律とリズム
- 第6回 私の好きな「歌・詩」を窓口に、言語生活文化・言語教育について考える。オノマトペの可能性を探る
- 第7回 （III）語彙から見た日本語①数と体系、語彙の構成、形態
- 第8回 （III）語彙から見た日本語②語彙の5ジャンル
- 第9回 （III）語彙から見た日本語③単語の成立、愛用語句
- 第10回 （IV）表記法から見た日本語
- 第11回 （V）文法から見た日本語（一）日本語の文法とその単位
- 第12回 （VI）文法から見た日本語（二）センテンスとその種類
- 第13回 （VII）日本人の言語表現と『日本語の教室』第二部
「日本語と日本の文明、その過去と将来」
- 第14回 保育所・幼稚園・小学校と「ことばの教育」について
- 第15回 学習のまとめ（グループワーク&小テスト含む）

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容の各回ごとに、小テスト、要約・要点整理、レポート・発表等の課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストや発表、レポートやワークシート等の内容を復習すること。次回の授業範囲（テキストと対応）を予習し、子どもと言語発達、日本語（国語）学修と子どもの言語生活について理解を深め、自分なりの見解をまとめておく。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- ・金田一春彦著『日本語 新版（上下）』

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）40%、課題レポートや小テスト等60%、により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートや試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

【注意事項】

レポート提出は必ず厳守してください。お互いに真摯に課題と取り組んだ学習記録が、「手作り学習材・教材」としてグループワーク等に活用されます。

国語科教育法（1）

渡邊 重人

2年 後期 2単位

教育法（4）で扱う。新学習指導要領解説は、書籍版刊行までは文部科学省のホームページを参照すること。

【授業のテーマ】

生徒が明確な目的意識を持ち、自ら考え、学ぶための支援となる教育法を身に付けることを目的とする。そのために、1 国語科教育の目標・内容・方法を学ぶ、2 学習指導要領に基づく、授業づくりの方法を学ぶ、3 国語科における主体的・対話的で深い学びを促す基盤となる技術について事例研究をし、その技術の修得を目指す。

【授業における到達目標】

- 1 授業設計の基盤となる教材研究ができるようになる。
- 2 学習指導要領に基づく学習指導案を作成し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 教師の自覚—《学ぶ》ことと《教える》こと—
- 第2週 学習指導用語と教材研究の方法についての確認
- 第3週 学習指導要領の内容把握とその活用についての確認
- 第4週 学習指導案作成についてⅠ（『少年の日の思い出』）
- 第5週 学習指導案作成についてⅡ（単元設定について）
- 第6週 学習指導案作成についてⅢ（単元の目標・評価規準）
- 第7週 学習指導案作成についてⅣ（指導および評価の計画）
- 第8週 学習指導案作成についてⅤ（本時の展開）
- 第9週 情報の扱い方の学習指導についての実践と研究
（情報機器の利用法を含む）
- 第10週 説明的な文章の学習指導についての実践と研究
（情報機器の利用法を含む）
- 第11週 古典の学習指導についての実践と研究（古文）
- 第12週 古典の学習指導についての実践と研究（漢文）
- 第13週 ビデオ活用による授業分析Ⅰ（『羅生門』）
- 第14週 ビデオ活用による授業分析Ⅱ（群読『河童と蛙』）
（情報機器の利用法を含む）
- 第15週 ビデオ活用による授業分析Ⅲ（ディベート）
（情報機器の利用法を含む）

【事前・事後学修】

【事前学修】学習指導要領の通読、常用漢字の筆順の確認をし、小テストに備えること。教材研究をすること。全国の教育研究所・センター等から該当教材の実践例を収集し、熟読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】事例研究を基に授業構想をまとめること。教材の音読練習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編
文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編〔東洋館出版社、2018、¥289（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習指導案50%、平常点50%（提出物10%・小テスト20%・授業に対する積極性20%）として総合的に評価する。提出物（学習指導案の一部）については第9週に回収し、添削後、第12週に返却する。小テスト（常用漢字の筆順と学習指導要領の内容）は第12週に実施し、次回返却する。学習指導案は添削し、評価後、返却する。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年）』（東洋館出版社 2017年）265円、『高等学校学習指導要領解説 国語編（平成22年）』（教育出版 2010年）305円
文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～中学校版』（教育出版 2012年）605円
文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～高等学校版』（教育出版 2014年）1620円

【注意事項】

小テスト（学習指導要領と筆順）は第12～14週に実施予定。学習指導案の教材は『走れメロス』を予定。作文指導については国語科

国語科教育法（2）

新藤 久典

3年 前期 2単位

学校国語」（国立教育政策研究所 教育出版1026円。2012/7）

【注意事項】

○本講義は、教師を目指し、翌年に教育実習を行う学生のための授業である。授業規律については自ら律すること、協働学習への積極的に参加することを強く求める。

【授業のテーマ】

○国語科教育の現状と課題を理解し、国語科教師に求められる実践的指導力を身に付け、高めることを目標とする。そのため、中央教育審議会答申、学習指導要領等の理解の深化、教材研究力・授業展開力等の獲得を目指す。

○自ら課題を見つけ、解決する方策を考え、他者と協働してよりよく解決を図る学習過程を体験することにより、教師に求められる実践的指導力を身に付け、高めることを目指す。

○発表や討議等を通して、学校教育における国語科の果たす意義・役割を理解し、直面する課題を解決するための具体的方策を協働して考える。

【授業における到達目標】

①中央教育審議会答申等を研究し、国語教育の課題を分析し、その解決のための具体的な方策を協働して考えられるようになる。

②そのため、教材研究の方法を学び、適切な授業を構想できるようにする。

③「主体的・対話的で深い学び」を通して、学生が修得すべき「行動力」のうち課題発見力、「協働力」のうち人間関係形成力、問題解決力を高める。

【授業の内容】

第1週 ガイダンスー国語科教育の現状についてのフリー・ディスカッション

第2週 国語科教育の課題①ー現行学習指導要領の成果と課題

第3週 国語科教育の課題②ー新・中学校学習指導要領の理解

第4週 国語科養育の課題③ー新・高等学校学習指導要領の理解

第5週 指導と評価の一体化①ー理論の理解

第6週 指導と評価の一体化②ー実践の課題の理解

第7週 教材研究・学習指導案の作成①ー単元の指導計画、言語活動

第8週 教材研究・学習指導案の作成②ー評価規準と評価方法

第9週 教材研究・学習指導案の作成③ー発問計画と板書計画

第10週 指導案作成の実際①ー文学的な文章

第11週 指導案作成の実際②ー説明的な文章

第12週 指導案作成の実際③ー古典

第13週 授業の展開①ー発問の工夫

第14週 授業の展開②ー板書の工夫、ワークシートの工夫

第15週 まとめーこれからの国語科教師に求められる資質・能力

【事前・事後学修】

《事前学修》

○中央教育審議会答申（2016/12/21）及び新学習指導要領を読み込むこと。教科書教材を分析すること。（学修時間 週2時間）

○国立教育政策研究所「教育情報共有ポータルサイト」から全国の優れた実践例を収集し、研究すること。（学修時間 週1時間）

《事後学修》

○授業で配付された資料等を参考にし、学習指導案を作成すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説「国語編」〔東洋館出版、2018、¥289(税抜)〕

文部科学省：高等学校学習指導要領解説「国語編」

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○課題レポート30%、学習指導案30%、リアクション・ペーパー20%、発表と討議参加20%

○課題レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、解説を行う。

【参考書】

○評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料「中学校国語」（国立教育政策研究所 教育出版372円。2011/11）

○評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料「高等

国語科教育法（3）

新藤 久典

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

○新しい学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラムマネジメント」など新たな課題が提示され、解く国語科教育に課される課題は大きく、正対して受け止めることが求められている。そうした時代の要請を肌で感じ、実践的指導力を高めるため、討議や模擬授業等を通して、国語科教師に求められる資質・能力の向上を図る。

○発表や討議等を通して、学校教育における国語科の意義、果たす役割を理解し、直面する課題を解決するための具体的方策を協働して練り上げる。

【授業における到達目標】

○新しい学習指導要領が求める授業改善の内容を深く理解し、模擬授業等を通して、授業展開力を高める。

○指導と評価の一体化を、模擬授業等を通して実践し、その在り方を理解し、指導計画・評価計画が適切に立案できる力を身に付ける。

○主体的・対話的で深い学びを通して、学生が修得すべき「行動力」うち、課題発見力、「協働力」のうち人間関係形成力、問題解決力を獲得する。

【授業の内容】

第1週 ガイダンスー国語科教育に課された課題の解決策についてフリー・ディスカッション

第2週 国語科教育の課題①ー現行の学習指導要領「国語」の生活課題

第3週 国語科教育の課題②ー中央教育審議会答申が示す国語科の課題

第4週 国語科教育の課題③ー新しい学習指導要領が求める国語科教育の改善

第5週 授業展開力の育成①ー中学校「話すこと・聞くこと」の授業

第6週 授業展開力の育成②ー中学校「書くこと」の授業

第7週 授業展開力の育成③ー中学校「読むこと」の授業

第8週 授業展開力の育成④ー高等学校「話すこと・聞くこと」の授業

第9週 授業展開力の育成⑤ー高等学校「書くこと」の授業

第10週 授業展開力の育成⑥ー高等学校「読むこと（文学的な文章）」の授業

第11週 授業展開力の育成⑦ー高等学校「読むこと（説明的な文章）」の授業

第12週 授業展開力の育成⑧ー高等学校「古典（日本）」の授業

第13週 授業展開力の育成⑨ー高等学校「古典（漢詩・漢文）」の授業

第14週 授業展開力の育成⑩ー指導計画・評価計画の作成

第15週 まとめー教育実習に備えて

【事前・事後学修】

《事前学修》

○中央教育審議会答申（2016/12/21）及び新学習指導要領を読み込むこと。教科書教材を研究すること。（学修時間 週2時間）

○全国の先進的研究の成果を収集し、研究すること。（学修時間 週1時間）

《事後学修》

○教材研究と学習指導案、教材・教具の作成（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説「国語編」〔東洋館出版、2018、¥289(税抜)〕

文部科学省：高等学校学習指導要領解説「国語編」

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○課題レポート30%、学習指導案と模擬授業実施30%、リアクシ

ョン・ペーパー20%、発表討議参加20%

○課題レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、解説を行う。

【参考書】

○評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料「中学校国語」（国立教育政策研究所。教育出版372円。2011/11）

○評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料「高等学校国語」（国立教育政策研究所。教育出版1026円。2012/7）

【注意事項】

本講義は、教師を目指し、翌年に教育実習を行う学生のための授業である。授業規律を守り、討議、協働学習等に積極的に参加することを強く求める。

国語科教育法（4）

渡邊 重人

3年 後期 2単位

【注意事項】

小テスト（学習指導要領と筆順）については第12～14週に実施予定。授業用台本の教材は授業時に指示する。新学習指導要領解説は、書籍版刊行までは文部科学省のホームページを参照。

【授業のテーマ】

本講義は、国語科教育の目標・内容・方法を学び、学習指導要領に基づく、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すための授業づくりができるようになることを目指す。また、国語科の教師を志す者としての意識を高めることも目的とする。そのために、事例研究と実践を繰り返し行う。なお、教育時事についても適宜扱う。

【授業における到達目標】

- 1 授業設計と学習指導案に基づく授業ができるようになる。
- 2 生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 授業用台本作成についての確認
- 第2週 授業分析Ⅰ（授業参観のポイント）
- 第3週 授業分析Ⅱ（机間指導と補助的発問の分析）
- 第4週 授業分析Ⅲ（授業構想の分析）
- 第5週 クリティカル・シンキングを用いた授業の組み立て方
- 第6週 コンセンサス・ゲームの実践
（情報機器の利用法を含む）
- 第7週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅰ
（パラグラフ・ライティングの基本を学ぶ）
（情報機器の利用法を含む）
- 第8週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅱ
（アクティブラーニングで作文を書く）
- 第9週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅲ
（アクティブラーニングで小論文を書く）
- 第10週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅳ
（小論文カンファレンスを実施する）
- 第11週 情報の扱い方についての実践と研究
- 第12週 ジグソー法についての研究
- 第13週 ジグソー法の実践（文学的な文章）
- 第14週 詩歌の学習指導についての事例研究
（情報機器の利用法を含む）
- 第15週 古典の学習指導について研究（古文・漢文）

【事前・事後学修】

【事前学修】学習指導要領の通読、常用漢字の筆順の確認をし、小テストに備えること。教材研究をすること。全国の教育研究所・センター等から該当教材の実践例を収集し、熟読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】事例研究を基に授業構想をまとめること。教材の音読練習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編
文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編〔東洋館出版社、2018、¥289（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業用台本50%、平常点50%（提出物10%・小テスト20%・授業に対する積極性20%）として総合的に評価する。小テスト（常用漢字の筆順と学習指導要領の内容）は第12週に実施し、次回返却する。授業用台本は添削し、評価後、返却する。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年）』（東洋館出版社 2017年）265円 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版 2010年）305円
文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～中学校版』（教育出版 2012年）605円
文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～高等学校版』（教育出版 2014年）1620円

国語学演習 c 1

－話し言葉資料としての『会話篇』の読み方－

湯浅 茂雄

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

アーネスト・サトウ (Sir Ernest Mason Satow) の『会話篇 (KUAIWA HEN)』(明治6年刊)を取り上げる。本資料は幕末・明治初期の話し言葉資料として第一級の価値を持つ。本資料を受講者各自の興味から読み解くことで、国語学分野の卒業論文作成に向けて、問題意識を豊かにするとともに、先行研究に目を配りながら、テーマの焦点を絞り、関連文献を含めて用例を収集し、分析し考察を加え、結論を導く過程を学ぶ。さらに、口頭発表の資料作成、発表・質疑応答の要領、レポート・論文作成の基本的な技術を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

日本語の歴史に関する演習を通して、問題点を正しく把握し(行動力)、互いに協力して物事を進める能力(協働力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入(演習の進め方)
- 第2週 話し言葉資料としての『会話篇』・EXERCISE 1を例として翻字の方針と着眼点(受講者担当部分の振り分けを含む)
- 第3週 アーネスト・サトウとその業績
- 第4週 西洋人の国語研究(W.G.アストン、B.H.チェンバレンを中心に)
- 第5週 近代語研究の資料
- 第6週 近代語研究の現状と問題点
- 第7週 発表と質疑応答(EXERCISE 2・3・4)
- 第8週 発表と質疑応答(EXERCISE 5・6・7)
- 第9週 発表と質疑応答(EXERCISE 8・9・10)
- 第10週 発表と質疑応答(EXERCISE 11・12・13)
- 第11週 発表と質疑応答(EXERCISE 14・15・16)
- 第12週 発表と質疑応答(EXERCISE 17・18・19)
- 第13週 発表と質疑応答(EXERCISE 20・21・22)
- 第14週 発表と質疑応答(EXERCISE 23・24・25)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、発表30%、授業への取り組み(授業態度・質疑応答・提出物)30%、最終レポート40%で評価する。最終週の「まとめ」において、今期の各自の提出課題と演習発表を総括し、評価基準とその手続きをフィードバックする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

第1回目の授業に出席しない場合、受講を認めない。

国語学演習 c 2

－話し言葉資料としての『会話篇』の研究－

湯浅 茂雄

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

アーネスト・サトウ (Sir Ernest Mason Satow) の『会話篇 (KUAIWA HEN)』(明治6年刊)を取り上げる。本資料は幕末・明治初期の話し言葉資料として第一級の価値を持つ。本資料を受講者各自の興味から読み解くことで、国語学分野の卒業論文作成に向けて、問題意識を豊かにするとともに、先行研究に目を配りながら、テーマの焦点を絞り、関連文献を含めて用例を収集し、分析し考察を加え、結論を導く過程を学ぶ。さらに、口頭発表の資料作成、発表・質疑応答の要領、レポート・論文作成の基本的な技術を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

日本語の歴史に関する演習を通して、問題点を正しく把握し(行動力)、互いに協力して物事を進める能力(協働力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入(演習の進め方)・話し言葉資料としての『会話篇』・近代語研究の資料と研究の現状
- 第2週 発表と質疑応答(EXERCISE 1・2)
- 第3週 発表と質疑応答(EXERCISE 3・4)
- 第4週 発表と質疑応答(EXERCISE 5・6)
- 第5週 発表と質疑応答(EXERCISE 7・8)
- 第6週 発表と質疑応答(EXERCISE 9・10)
- 第7週 発表と質疑応答(EXERCISE 11・12)
- 第8週 発表と質疑応答(EXERCISE 13・14)
- 第9週 発表と質疑応答(EXERCISE 15・16)
- 第10週 発表と質疑応答(EXERCISE 17・18)
- 第11週 発表と質疑応答(EXERCISE 19・20)
- 第12週 発表と質疑応答(EXERCISE 21・22)
- 第13週 発表と質疑応答(EXERCISE 23・24)
- 第14週 発表と質疑応答(EXERCISE 25)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、発表30%、授業への取り組み(授業態度・質疑応答・提出物)30%、最終レポート40%で評価する。最終週の「まとめ」において、今期の各自の演習発表を総括し、評価基準とその手続きをフィードバックする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

第1回目の授業に出席しない場合、受講を認めない。

国語学演習 d 1

「3年次の壁」を乗り越えるためのスキルを身に付ける

福嶋 健伸

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【注意事項】

【重要】前期（国語学演習d1）・後期（国語学演習d2）ともに、授業の内容を論文化する可能性がある。また、それらの結果をまとめて出版する可能性もある。よって、本授業の履修者は、「提出物に関する一切の権利（著作権等を含む）が教員（福嶋）に帰属すること」を了解したものと考え、書類に署名をしてもらうことになる。この点を踏まえた上で、履修登録を行ってほしい。

提出物の比重が大きいため、出席には気をつけること。なお、授業内容等は、必要に応じて変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する。

【授業のテーマ】

3年次では、大学での研究（演習や論文執筆等）が本格化すると同時に、就職活動が始まる。両者をうまく両立させるために、本授業では、次の5つのスキルと知識を身に付ける。

- 1：卒業論文執筆と就職活動を、うまく両立できるスケジュールを組めるようになる。
- 2：卒業論文のテーマを探す方法が分かり、先行研究を探して、入手できるようになる。
- 3：卒業論文の体裁を理解する。
- 4：先行研究を読む際に注意すべき点があり、先行研究では分からないことは何か検討できるようになる。
- 5：卒業論文で行う調査をデザインできるようになる。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」と「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「目標を設定して、計画を立案・実行できる能力」と「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる能力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 本授業の目標を確認する＋上手な意見交換の方法を学ぶ
- 第2週 実際の卒業論文を読んでイメージをつかむ
- 第3週 有意義な計画の立て方入門：逆算して計画を立てる
- 第4週 卒業論文執筆と就職活動をうまく両立できるスケジュールを考える
- 第5週 堅実で安全な卒業論文執筆計画を立てる
- 第6週 卒業論文のテーマの探し方を学ぶ：多読の実践
- 第7週 先行研究の探し方を学ぶ：検索する際のありがちなミスとは？
- 第8週 先行研究の探し方を実践する：「お得な」検索方法と図書館の利用 ※図書館とのコラボ授業になります。
- 第9週 リサーチリテラシーを学ぶ：信用できるデータと、信用できないデータの見分け方
- 第10週 卒業論文の体裁を学ぶ：どこに何が書いてあるか
- 第11週 先行研究を読解する
- 第12週 先行研究の内容をまとめる
- 第13週 先行研究では分からないことを明らかにするための調査を考える：ブレインストーミング
- 第14週 現実的な調査をデザインする：非現実的な調査とは？
- 第15週 アンケートの取り方を学ぶ＋まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、自分で課題を完成させる（あるいは、実践してみる）こと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

福嶋健伸他著『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』（三省堂、2009年）1900円＋税、適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、提出物60％・平常点（授業態度・積極的参加）40％で判断する。

提出課題は授業中にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心に行う。

【参考書】

授業において指示をする。

国語学演習 d 2

実践女子大学版『○○○○』を作成する

福嶋 健伸

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

目的：古文文法と国語学的な資料に親しみ、資料への理解を深めることで、古典語の体系と近代語の体系の違いを理解する。

概要：古典文学作品を教材として、履修者全員で、当該作品の実践女子大学版を作成する。どの作品になるか、どのような内容にするか等の詳細は、履修者の人数や興味等によって決定する。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

【授業の内容】

学生の発表、質疑応答、討論など学生主体の演習を展開する。なお、各学生の発表内容や発表方法等（グループ発表か否か等）は、受講者数を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 本授業の目標の確認と授業の説明
- 第2週 資料の読解1 文法
- 第3週 資料の読解2 語彙
- 第4週 資料の読解3 文脈判断
- 第5週 資料の読解4 注意すべき表現1
- 第6週 資料の読解5 注意すべき表現2
- 第7週 学生の発表1（担当1の発表）
- 第8週 学生の発表2（担当2の発表）
- 第9週 学生の発表3（担当3の発表）
- 第10週 学生の発表4（担当4の発表）
- 第11週 学生の発表5（担当5の発表）
- 第12週 学生の発表6（担当6の発表）
- 第13週 学生の発表7（担当7の発表）
- 第14週 学生の発表8（担当8の発表）
- 第15週 質疑応答とまとめ

※第7週～第14週は、学生の発表である。

【事前・事後学修】

【事前学修】担当箇所に関して、指示された作業を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で指摘されたことを復習し、必要に応じて、再度、提出物を作成すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、発表の内容・体裁を60%で評価し、平常点（授業への積極的参加・提出課題）を40%として評価する。発表や提出課題は、授業中にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

授業中に指示をする。

【注意事項】

【重要】前期（国語学演習d1）・後期（国語学演習d2）ともに、授業の内容を論文化する可能性がある。また、それらの結果をまとめて出版する可能性もある。よって、本授業の履修者は、「提出物に関する一切の権利（著作権等を含む）が教員（福嶋）に帰属すること」を了解したものと考え、書類に署名をしてもらうことになる。この点を踏まえた上で、履修登録を行ってほしい。

授業では、Photoshop elementsを使用する可能性がある。

なお、受講生の興味にあわせて、内容を変更する場合がある。

国語学概論 a

—a～d②クラス 日本語の性質を探究する—

三好 伸芳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、国語学（日本語学）において扱われる基礎的な概念を参照しながら、日本語がどのような特徴を持つ言語で、どのような研究方法があるのかといった点について学ぶ。前期は、言語の普遍的な性質と世界における日本語の位置づけについて説明したうえで、音声学、音韻論、文字論といった諸分野を取り上げる。

【授業における到達目標】

日本語および言語一般に対する基礎的な知識を身につける。また、学修した概念によって実際の言語事実を適切に整理できるようにすることを目指す。なお、この授業では、ディプロマ・ポリシーに示された以下の〈態度〉と〈能力〉を養うことができる。

〈態度〉：人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度。（美の探究）

〈能力〉：広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力。（研鑽力）

【授業の内容】

- 第1週 言語学と国語学：言語（日本語）を研究するということ
- 第2週 言語と恣意性：「イヌ」と「ピカチュウ」はどう異なるか？
- 第3週 世界の中の日本語：日本語の普遍性と特殊性
- 第4週 日本語の起源：日本語はいつから日本語なのか？
- 第5週 音声から見た日本語：「天然岩盤浴」の「ん」
- 第6週 拍と音節：「おじいさん」はいくつの音からできているか？
- 第7週 ライマンの法則：「はなことば」と「はなざかり」
- 第8週 アクセント：「赤とんぼ」の歌を例に
- 第9週 音韻変化：「はは」はかつて「ばば」だった
- 第10週 万葉仮名と上代特殊仮名遣い：「きひみけへめこそものよろ」
- 第11週 現代日本語の表記：「ばら／バラ／薔薇」は何が違うのか？
- 第12週 漢字と仮名：なぜ昔の法律はカタカナで書かれているのか？
- 第13週 語種の使い分けと位相：「台所／厨房／キッチン」に違いはあるか？
- 第14週 使用語彙と理解語彙：「南無三」と言うか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学習】次回の授業までに、出された課題に取り組んだり、テキストの指定箇所を読んだりしておく。（学修時間 週2時間）

【事後学習】授業内で扱った内容や紹介した書籍について、自ら調べたり読んだりしておく。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

開講時数の2/3以上の出席を必須とし、規定回数以上欠席した学生の単位は認定しない。期末試験の結果を70%、提出物の内容を30%として最終的な成績を決定する。なお、授業への参加態度によって、最終評価に5点以内の加点または減点を加えることがある。提出物は随時、期末試験は最終週にフィードバックを行う。

【参考書】

授業の際に適宜紹介する。

【注意事項】

履修にあたって注意すべき点については、第1回の授業で説明する。

国語学概論 a

—efクラス 日本語とはどのような言語か—

湯浅 茂雄

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業は国語（日本語）とはどのような言語であるかを知り、国語を言語として研究するとはどういうことか、何が問題となり、どのような研究分野があるのかを学ぶことを目的とする。

前期は、音声・音韻、文字・表記、方言・共通語を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

日本語の姿を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入 授業の進め方・日本語の研究（国語学）とは
- 第2週 音声・音韻（1）音声と音韻、音声記号
- 第3週 音声・音韻（2）現代日本語の音節、共通語の音声の特徴
- 第4週 音声・音韻（3）現代日本語のアクセント
- 第5週 音声・音韻（4）音韻の変遷
- 第6週 文字・表記（1）文字の種類、現代日本語の表記体系
- 第7週 文字・表記（2）漢字
- 第8週 文字・表記（3）仮名
- 第9週 文字・表記（4）仮名遣いと国語国字問題
- 第10週 方言・共通語（1）方言、共通語とは
- 第11週 方言・共通語（2）方言・共通語を研究する学問
- 第12週 方言・共通語（3）日本語地域図
- 第13週 方言・共通語（4）方言区画
- 第14週 方言・共通語（5）諸方言の特徴
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントで授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分2以上の出席を前提として、期末筆記試験60%、授業への取り組み（授業への参加態度・提出物）40%で評価する。最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【注意事項】

第1回の授業で説明する。

国語学概論 a

—a～d①クラス 言葉を研究するとは、どういうことか—

福嶋 健伸

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

目的：国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な基礎知識を修得することである。

概要：言葉とは何か、日本語はどのような言語か、国語学（日本語学）とはどのような学問で、どのような研究分野があるのか等を具体的な例をもとに学んでいく（音声言語を含む）。最初は、言語全般に見られる特徴について講義し、その後、日本語に見られる特徴について講義する。これらの基礎を押さえた上で、国語学の各分野の基礎知識を講義していく。詳しくは、「授業の内容」を参照のこと。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な基礎知識を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 言語の起源：ワンワン説、ヤッコラサ説とは何か？
- 第2週 言語の平等性と臨界期：狼少女（？）アマラとカマラ、ミッシングリンクの謎
- 第3週 人間言語の特徴1：あなたはサンタクロースを信じますか？
- 第4週 人間言語の特徴2：ベルベット猿の言葉と人間言語の違い
- 第5週 人間言語の特徴3：オウムの「オハヨウゴザイマス」は人間の挨拶とどう違う？
- 第6週 日本語の特徴1：日本語は特殊な言語なのか、平凡な言語なのか？
- 第7週 日本語の特徴2：日本語を話している人の人数は、世界の言語の中で何番目？
- 第8週 日本語の特徴3：国語学のロマン—日本語の起源を求めて—
- 第9週 国語学と日本語学：第1回国語学会の会場は東京大学でした。第1回日本語学会の会場はどこでしょうか？皆さんのよく知っている大学です。
- 第10週 語彙と表記：「十日（とうか）前、田中（たなか）さんに、稲妻（いなずま）が落ちた」は正しいか？
- 第11週 語彙と役割語：「わしは、博士じゃ」と本当に知っている博士はいるのか？
- 第12週 語彙と古辞書：スクープ！1000年前にも人魚がいた！いや、しかし……
- 第13週 言語生活とその周辺：「お兄さん」と呼びかけるのは大丈夫。「弟」と呼びかけるのは？
- 第14週 拍（モーラ）：サザンオールスターズの歌を聞き取ることができるか？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語学に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワード等について調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト60%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックの内容は、疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国語学概論 b

—a～d②クラス 日本語の性質を探求する—

三好 伸芳

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、国語学（日本語学）において扱われる基礎的な概念を参照しながら、日本語がどのような特徴を持つ言語で、どのような研究方法があるのかといった点について学ぶ。後期は、現代日本語の文法的特徴を概観し、言語を見る目を洗練させうえて、意味論などの言語理論、方言研究、日本語史といった諸分野を取り上げる。

【授業における到達目標】

日本語および言語一般に対する分析的な感覚を身につける。また、日本語がどのような特徴を持っているのか理解し、自分自身で説明できるようになることを目指す。なお、この授業では、ディプロマ・ポリシーに示された以下の〈態度〉と〈能力〉を養うことができる。

〈態度〉：人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度。（美の探究）

〈能力〉：広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力。（研鑽力）

【授業の内容】

- 第1週 文法の捉え方：〈規範文法〉と〈記述文法〉
- 第2週 ヴォイス：「殴られる」は迷惑じゃないが、「逃げられる」は迷惑？
- 第3週 アスペクト・テンス：「曲がった道」はいつ曲がったのか？
- 第4週 ムード：「誰か来た ようだ／そうだ」、判断の根拠は何か？
- 第5週 意味論：「彼 は／が この会社の社長だ」の違い
- 第6週 統語論：生成文法の言語観
- 第7週 語用論：「月が綺麗ですね」で愛は伝わるか？
- 第8週 方言研究と比較言語学：「ウチナーグチ」は方言なのか、外国語なのか
- 第9週 日本語の東西対立：お餅の形と言葉の形
- 第10週 方言圏論：「かたつむり」をなんと呼ぶか？
- 第11週 古代の日本語：係り結びの謎
- 第12週 中世の日本語：可能動詞の成立、そして「ら抜き言葉」へ
- 第13週 近世の日本語：「あぶない」と「あぶねえ」、江戸っ子らしいのは？
- 第14週 近代の日本語：言葉から見た文明開化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学習】 次回の授業までに、出された課題に取り組んだり、テキストの指定箇所を読んだりしておく。（学修時間 週2時間）

【事後学習】 授業内で扱った内容や紹介した書籍について、自ら調べたり読んだりしておく。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

開講時数の2/3以上の出席を必須とし、規定回数以上欠席した学生の単位は認定しない。期末試験の結果を70%、提出物の内容を30%として最終的な成績を決定する。なお、授業への参加態度によって、最終評価に5点以内の加点または減点を加えることがある。提出物は随時、期末試験は最終週にフィードバックを行う。

【参考書】

授業の際に適宜紹介する。

【注意事項】

履修にあたって注意すべき点については、第1回の授業で説明する。

国語学概論 b

—efクラス 日本語とはどのような言語か—

湯浅 茂雄

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業は国語（日本語）とはどのような言語であるかを知り、国語を言語として研究するとはどういうことか、何が問題となり、どのような研究分野があるのかを学ぶことを目的とする。

後期は語彙、文法・敬語、文章・文体を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

日本語の姿を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入 授業の進め方・日本語の研究（国語学）とは
- 第2週 語彙（1）語彙とは・使用語彙と理解語彙・基本語彙と基礎語彙
- 第3週 語彙（2）語構成
- 第4週 語彙（3）和語・漢語（字音語）・外来語・混種語
- 第5週 語彙（4）語彙の位相
- 第6週 語彙（5）明治期における語彙の更新
- 第7週 文章・文体（1）文章と文章論
- 第8週 文章・文体（2）文体の種類
- 第9週 文章・文体（3）文体の変遷
- 第10週 文法（1）文法とは（文法と文法論）
- 第11週 文法（2）単語の種類（品詞論）
- 第12週 文法（3）文の種類
- 第13週 文法（4）ヴォイス・アスペクト・テンス
- 第14週 文法（5）山田文法・橋本文法
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントで授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分2以上の出席を前提として、期末筆記試験60%、授業への取り組み（授業への参加態度・提出物）40%で評価する。最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【注意事項】

第1回の授業で説明する。

国語学概論 b

—a～d①クラス 言葉を研究してみよう—

福嶋 健伸

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

目的：国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な知識（知識の応用も含む）を修得することである。

概要：国語学（日本語学）とはどのような学問で、どのような研究分野があるのか等を具体的な例をもとに詳しく学んでいく（音声言語を含む）。詳しくは、「授業の内容」を参照のこと。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な知識（知識の応用も含む）を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 導入：国語学の基礎知識の復習
- 第2週 国語史：「象は鼻が長い」の主語は？
- 第3週 談話：「失礼ですが、お名前は？」「わたくしの名前が田中三郎だということは、偽りではありません」
- 第4週 表現：お客さんがとまどう「ナマステ」のメニュー、「モンキー5959」って誰だよ？
- 第5週 ラングとパロール：天才言語学者ソシュールの成果とは？
- 第6週 意味論：「あがる」と「のぼる」の違いを考えてみよう
- 第7週 統語論1：無色の緑の考えが猛烈に眠る！ 知られざる知の巨人、チョムスキーとその弟子達の挑戦！
- 第8週 統語論2：一日署長ならぬ、「一日（プチ）チョムスキアン」になりましょう
- 第9週 語用論：漫才はなぜ面白いのか？
- 第10週 音声学と音韻論1：「破裂音」はありますが、「爆発音」はありません
- 第11週 音声学と音韻論2：言語学者 vs. 怪人21面相！
- 第12週 音声学と音韻論3：「ガンダム」「ザク」「ドム」「グフ」「ゲルググ」と「カンタム（倒れそう）」「サク（リンゴ？）」「トム（ペンパル？）」「クフ（エジプトの人？）」「ケルクク（カエルの名前？）」
- 第13週 本格的な研究に向けて：万葉仮名遠勉強之麻須 加久古之底！
- 第14週 最新の研究成果を教室に！：「夜ごはん」といいますか？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語学に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト60%・平常点（積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックの内容は、疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国語学基礎演習 1

正徹本『徒然草』講読

柴田 雅生

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

国語学の基本的な方法論を学ぶために、第一級の言語資料を丹念によみすすめ、そこからうかがえるさまざまな言語事象（特に音韻・文字表記）について考察する。具体的には、資料にあらわれる言葉の捉え方、調査内容に応じた方法論、参考文献の利用方法などを実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・文献資料に基づいて中世期の日本語の具体的な姿を適切に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を得る態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用い、演習形式の授業を通じて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようにする。これにより、学生が修得すべき「行動力、協働力」を体得する。

【授業の内容】

兼好法師が著した『徒然草』を、現存最古の写本である正徹本にもとづいて読む。現行の『徒然草』注釈書はほとんどが烏丸本にもとづいているが、正徹本は決してその価値が劣るものではない。むしろ『徒然草』の言葉遣いについて考える際の貴重なテキストと言える。演習では、正徹本と烏丸本を逐一对比させ、文字表記と発音、語彙・意味、文法・文体等に留意しながら、正徹本の言語的特徴を明らかにし、ひいては当時の日本語の特徴について理解を深める。

- 第1週 演習の進め方
- 第2週 資料についての解説
- 第3週 担当者の決定、発表の注意点
- 第4週 参考文献の利用法
- 第5週 発表と質疑応答1（変体仮名）
- 第6週 発表と質疑応答2（仮名遣い）
- 第7週 発表と質疑応答3（文字と発音）
- 第8週 発表と質疑応答4（音韻変化）
- 第9週 発表と質疑応答5（使用漢字とそのよみ）
- 第10週 発表と質疑応答6（単語と語義）
- 第11週 発表と質疑応答7（語彙の位相）
- 第12週 発表と質疑応答8（文法・文体）
- 第13週 発表と質疑応答9（本文解釈）
- 第14週 発表と質疑応答10（正徹本と烏丸本の比較）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。とりわけ、発表担当者は、担当回に合わせて着実に準備しておくこと。（学修時間 週3時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、自身の発表に活かすべく必要事項を書き留めるなどしておくこと。発表担当者は、発表後はすみやかに発表内容へ訂正・補充等を施しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

西尾実・安良岡康作校注：新訂徒然草〔岩波文庫、1985、¥1,145（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表および発表資料（50%）、質疑応答等の授業への参加状況（20%）、最終レポート（30%）の総合評価。最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『正徹自筆本 徒然草 上・下』（笠間書院）
- ・『徒然草 烏丸本 上・下』（勉誠社文庫）
- ・『新日本古典文学大系 第39巻 方丈記 徒然草』（岩波書店）
- ・土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』（岩波書店）

他については授業中に紹介する。

【注意事項】

受講生には一言一句をないがしろにしない姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

国語学基礎演習 1

—文法研究史を学ぶ—

遠藤 佳那子

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

過去の人々が日本語とどのように向き合い、考え、記述し、言葉を扱う際に用いる道具立て（文法の枠組み、術語、辞書など）が、どのように整えられてきたのかを学ぶ。今期は現代の学校文法を出発点とし、時代をさかのぼって、文法に関わる事柄がどのように成立してきたのかをたどる。できるかぎり資料の原典を参照し、受講者による本文の講読と教員からの解説によって授業を進めてゆく。

【授業における到達目標】

国語学史を学ぶことにより、関連資料の調査方法や扱い方を習得し、問題点を把握する力を養う（行動力）。また他の受講生の発言・発表に対して積極的に関わり、協力して問題を整理し考察することを学ぶ（協働力）とともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を養う（美の探究）ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス—学校文法おさらい
- 第2回 『中等文法』と橋本文法
- 第3回 大槻文彦「語法指南」—『言海』との関係
- 第4回 大槻文彦「語法指南」—折衷文典の様相
- 第5回 義門（1）—『山口栞』の
- 第6回 義門（2）—春庭の受容
- 第7回 本居春庭『詞八衢』（1）
- 第8回 本居春庭『詞八衢』（2）
- 第9回 鈴木胤の語分類と活用研究
- 第10回 本居宣長（1）—係り結びの研究
- 第11回 本居宣長（2）—活用研究
- 第12回 富士谷成章（1）—語の分類
- 第13回 富士谷成章（2）—助辞の分析
- 第14回 五十音図と活用
- 第15回 まとめ—歌学と国語研究

【事前・事後学修】

〔事前学修〕シラバスを参考に、テキストの該当箇所と事前配布プリントを読み、疑問点と前回からの関連事項を整理しておくこと。発表担当者は担当の回に合わせて発表資料を準備すること。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕講義・発表の内容について復習する。発表担当者は、必要に応じて補足資料を作成すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

馬淵和夫・出雲朝子（2007）『国語学史』笠間書院（新装版、1、800円）

この他に、毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席回数が授業回数の3分の2以上であることを前提とする。授業への取り組み（各自の調べ物、授業内での質疑応答など）40%、発表および発表資料30%、最終レポート30%で評価する。最終週のまとめにおいて、これまでの授業内容や、レポートの評価基準等につき細かく解説し、フィードバックを行なう。

【参考書】

古田東朔・築島裕（1972）『国語学史』東京大学出版会

足立巻一（1974）『やちまた（上・下）』河出書房新社（中公文庫プレミアム（2015）再刊）

その他、毎回の授業時に紹介する。

【注意事項】

具体的な授業の進め方は初回授業時に説明する。回によって、人物や資料について簡単な調べ物と口頭発表を課す。

国語学基礎演習 2

正徹本『徒然草』の表現

柴田 雅生

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

・土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』（岩波書店）

他については授業中に紹介する。

【注意事項】

受講生には一言一句をないがしろにしない姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

【授業のテーマ】

国語学の基本的な方法論を学ぶために、第一級の言語資料を丹念によみすすめ、そこからうかがえるさまざまな言語事象（特に語彙・語法）について考察する。その上で、資料にあらわれる言葉をどのように捉えて行くのか、調査内容に応じた方法論とはどのようなものか、および参考文献の利用のしかたなどを実践的に学ぶこととする。

【授業における到達目標】

- ・文献資料に基づいて中世期の日本語の具体的な姿を適切に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を得る態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用い、演習形式の授業を通じて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようにする。これにより、学生が修得すべき「行動力、協働力」を体得する。

【授業の内容】

兼好法師が著した『徒然草』を、現存最古の写本である正徹本にもとづいて読む。現行の『徒然草』注釈書はほとんどが烏丸本にもとづいているが、正徹本は決してその価値が劣るものではない。むしろ『徒然草』の言葉遣いについて考える際の貴重なテキストと言える。演習では、正徹本と烏丸本を逐一对比させ、文字表記と発音、語彙・意味、文法・文体等に留意しながら、正徹本の言語的特徴を明らかにし、ひいては当時の日本語の特徴について理解を深める。

- 第1週 演習の進め方
- 第2週 資料についての解説
- 第3週 担当者の決定、発表の注意点
- 第4週 参考文献の利用法
- 第5週 発表と質疑応答1（仮名遣い）
- 第6週 発表と質疑応答2（漢字と仮名）
- 第7週 発表と質疑応答3（語彙）
- 第8週 発表と質疑応答4（和語と漢語）
- 第9週 発表と質疑応答5（語義）
- 第10週 発表と質疑応答6（語の位相）
- 第11週 発表と質疑応答7（文語と口語）
- 第12週 発表と質疑応答8（活用）
- 第13週 発表と質疑応答9（助詞・助動詞）
- 第14週 発表と質疑応答10（文体）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。とりわけ、発表担当者は、担当回に合わせて着実に準備しておくこと。（学修時間 週3時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、自身の発表に活かすべく必要事項を書き留めるなどしておくこと。発表担当者は、発表後はすみやかに発表内容へ訂正・補充等を施しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

西尾実・安良岡康作校注：新訂徒然草[岩波文庫、1985、¥1,145(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表および発表資料（50%）、質疑応答等の授業への参加状況（20%）、最終レポート（30%）の総合評価。最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『正徹自筆本 徒然草 上・下』（笠間書院）
- ・『徒然草 烏丸本 上・下』（勉誠社文庫）
- ・『新日本古典文学大系 第39巻 方丈記 徒然草』（岩波書店）

国語学基礎演習 2

一辞書史を学ぶ一

遠藤 佳子

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

過去の人々が日本語とどのように向き合い、考え、記述し、言葉を用いる際に用いる道具立て（文法の枠組み、術語、辞書など）が、どのように整えられてきたのかを学ぶ。今期は、語意研究および辞書編纂の歴史をたどる。日本人によるものだけでなく、外国人による辞書編纂の営為にも触れ、各辞書の国語資料としての価値を学ぶ。できるかぎり実際に辞書を引き比べ、それぞれの辞書の特徴や性質を知り、辞書史と辞書の活用について基礎的な知識を得ることを目指し、受講者による本文の講読と教員からの解説によって授業を進めてゆく。

【授業における到達目標】

国語学史を学ぶことにより、関連資料の調査方法や扱い方を習得し、問題点を把握する力を養う（行動力）。また他の受講生の発言・発表に対して積極的にに関わり、協力して問題を整理し考察することを学ぶ（協働力）とともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を養う（美の探求）ことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢和辞書と国語辞書
- 第3回 中世の辞書
- 第4回 節用集の展開
- 第5回 『日葡辞書』（1）
- 第6回 『日葡辞書』（2）
- 第7回 近世の辞書（1）—『和訓栞』
- 第8回 近世の辞書（2）—『雅言集覧』・『俚言集覧』
- 第9回 方言研究と方言辞書
- 第10回 西欧人による日本語研究（1）—外交官
- 第11回 西欧人による日本語研究（2）—宣教師
- 第12回 ヘボン『和英語林集成』
- 第13回 大槻文彦『言海』について
- 第14回 明治期の日本語と大槻文彦
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕シラバスを参考に、テキストの該当箇所と事前配布プリントを読み、疑問点と前回からの関連事項を整理しておくこと。発表担当者は担当の回に合わせて発表資料を準備すること。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕講義・発表の内容について復習する。発表担当者は、必要に応じて補足資料を作成すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

馬淵和夫・出雲朝子（2007）『国語学史』笠間書院（新装版、1、800円）

この他に、毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席回数が授業回数の3分の2以上であることを前提とする。授業への取り組み（各自の調べ物、授業内での質疑応答など）40%、発表および発表資料30%、最終レポート30%で評価する。最終週のまとめにおいて、これまでの授業内容や、レポートの評価基準等につき細かく解説し、フィードバックを行なう。

【参考書】

古田東朔・築島裕（1972）『国語学史』東京大学出版会
西崎亨編（1995）『日本古辞書を学ぶ人のために』世界思想社
その他、毎回の授業時に紹介する。

【注意事項】

具体的な授業の進め方は初回授業時に説明する。回によって、人物や資料について簡単な調べ物と口頭発表を課す。

国語学研究 e

都道府県別・方言研究（1）

吉田 雅子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

都道府県単位で、各地方言の実態を調査し学ぶ。授業は演習形式をとる。具体的には、都道府県単位で1人が1県の担当となり、近代～現代にかけての当該地域の方言状況について、文献調査と音声調査を行い、調査結果を資料にまとめて発表報告する。その内容について全員で検討・考察し、リアクションペーパーにまとめる。具体的にどのような調査を行うかは、第1回目と第2回目の授業時に説明する。発表者は調査方法を習得し、レジュメのまとめ方、口頭発表と質疑応答のしかたをトレーニングする。発表担当でない者は討議者・コメントイーターとしての意見提出の作法や質疑応答のしかたをトレーニングする。期末には、演習での発表と検討を経て発展させたテーマでレポートを作成する。

【授業における到達目標】

1. 先行研究を用いての、方言の調査方法を修得する。
2. 各地方言の実態を知り、日本語方言について具体的に説明できるようになる。
3. 自分で設定した研究課題を調査分析し、その結果をレポートとしてまとめ形にする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、調査方法の説明
- 第2週 模擬発表・山梨県
- 第3週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（1）
- 第4週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（2）
- 第5週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（3）
- 第6週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（4）
- 第7週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（5）
- 第8週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（6）
- 第9週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（7）
- 第10週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（8）
- 第11週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（9）
- 第12週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（10）
- 第13週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（11）
- 第14週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（12）
- 第15週 総括講義

【事前・事後学修】

事前学修

- ・発表担当者：発表準備
- ・発表担当者以外：該当都道府県の指定参考文献を読み予習

事後学修

- ・授業内容の復習
 - ・関連文献の講読
- （以上で、学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

指定教科書はなし。大学図書館の蔵書を教材として使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価方法基準：発表50%、平常点（授業での質疑応答状況、授業内小レポート）20%、期末レポート30%
- フィードバック
 - ・発表：毎回の授業時
 - ・授業での質疑応答状況：毎回の授業時
 - ・授業内小レポート：実施の次回授業時
 - ・期末レポート：第15週授業時

【参考書】

①佐藤喜代治編（1977）『国語学研究事典』（明治書院）

- ②飛田良文ほか編（2007）『日本語学研究事典』（明治書院）
 ③小学館辞典編集部編（2004）『標準語引き日本方言辞典』（小学館）
 ④小学館辞典編集部編（2004）『日本語便利辞典』（小学館）
 ⑤平山輝男ほか編（1992）『現代日本語方言大辞典1』
 ⑥（雑誌）月刊言語32巻1号(通号378号)2003年1月号 特集【小事典】ふるさとのことば（大修館書店）

国語学研究 f

都道府県別・方言研究（2）

吉田 雅子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

都道府県単位で、各地方言の実態を調査し学ぶ。

授業は演習形式をとる。具体的には、都道府県単位で1人が1県の担当となり、近代～現代にかけての当該地域の方言状況について、文献調査と音声調査を行い、調査結果を資料にまとめて発表報告する。その内容について全員で検討・考察し、リアクションペーパーにまとめる。具体的にどのような調査を行うかは、第1回目と第2回目の授業時に説明する。

発表者は調査方法を習得し、レジメのまとめ方、口頭発表と質疑応答のしかたをトレーニングする。発表担当でない者は討議者・コメントイーターとしての意見提出の作法や質疑応答のしかたをトレーニングする。

期末には、演習での発表と検討を経て発展させたテーマでレポートを作成する。

この授業は、前期開講の国語学研究 e と連動するものであり、国語学研究 e で扱っていない都道府県を対象に調査研究を行う。国語学研究 e 受講者は方言学について引き続き詳しい内容を学ぶことになる。なお国語学研究 e の履修は必須ではなく、非受講者も理解できるように授業を進める。

【授業における到達目標】

1. 先行研究を用いての、方言の調査方法を修得する。
2. 各地方言の実態を知り、日本語方言について具体的に説明できるようになる。
3. 自分で設定した研究課題を調査分析し、その結果をレポートとしてまとめ形にする。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス、調査方法の説明

第2週 模擬発表・山梨県

第3週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（1）

第4週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（2）

第5週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（3）

第6週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（4）

第7週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（5）

第8週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（6）

第9週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（7）

第10週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（8）

第11週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（9）

第12週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（10）

第13週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（11）

第14週 ゼミ・担当都道府県方言の発表報告と検討（12）

第15週 総括講義

【事前・事後学修】

事前学修

- ・発表担当者：発表準備
- ・発表担当者以外：該当都道府県の指定参考文献を読み予習

事後学修

- ・授業内容の復習
 - ・関連文献の講読
- （以上で、学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

指定教科書はなし。大学図書館の蔵書を教材として使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○評価方法基準：発表50%、平常点（授業での質疑応答状況、授業内小レポート）20%、期末レポート30%

○フィードバック

- ・発表：毎回の授業時
- ・授業での質疑応答状況：毎回の授業時
- ・授業内小レポート：実施の次回授業時

【参考書】

- ①佐藤喜代治編（1977）『国語学研究事典』（明治書院）
- ②飛田良文ほか編（2007）『日本語学研究事典』（明治書院）
- ③小学館辞典編集部編（2004）『標準語引き日本方言辞典』（小学館）
- ④小学館辞典編集部編（2004）『日本語便利辞典』（小学館）
- ⑤平山輝男ほか編（1992）『現代日本語方言大辞典1』
- ⑥（雑誌）月刊言語32巻1号(通号378号)2003年1月号 特集【小事典】ふるさとのことば（大修館書店）

国語学研究 g

キリシタン資料の日本語表記

柴田 雅生

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

室町時代末から江戸時代初期に残された外国資料における日本語の表記を考察する。具体的には、室町時代末に来日し布教活動を行ったイエズス会宣教師たちが残した資料（キリシタン資料）を読解しながら、古代から近代に移り変わる時期の日本語表記の実態を探る。それらは、日本語を母語としない者の視点を与えてくれ、過去の日本語文字表記を複眼的に見ることを可能にする。この授業では、キリシタン資料の漢字使用の実態を明らかにし、その特徴を具体的に記述することを主眼とする。それを踏まえて、キリシタンたちがどのように漢字を学んでいったのか、漢字をどのように使いこなしているかなどについて考察する。

【授業における到達目標】

- ・文献資料を適切に扱って中世～近世初期の日本語のすがたを的確に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を発見する態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用いて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

中心とするキリシタン資料には『太平記抜書』（1612年頃、長崎刊）を用いる。南北朝内乱期を四十巻にわたって描く歴史物語『太平記』を抄出したこの資料は、和漢混淆文を駆使した文体で、キリシタンたちがもっとも高雅であるという評価を与えたものである。この資料の国字（漢字・仮名）で書かれた本文表記について、他のキリシタン資料との関わりにも留意しつつ、その特徴と背景に検討を加える。

具体的には、以下のテーマについて講義しながら、各自が調査研究を行うかたち（作業レポート）で進めていく。

- 第1週 外国資料・キリシタン資料とは
- 第2週 キリシタンたちの歴史
- 第3週 キリシタンたちの日本観
- 第4週 キリシタンたちの日本語学習1（音韻）
- 第5週 キリシタンたちの日本語学習2（語彙）
- 第6週 キリシタンたちの日本語学習3（語法）
- 第7週 キリシタンたちの日本語学習4（文字）
- 第8週 キリシタン版の特徴1（活字）
- 第9週 キリシタン版の特徴2（字体）
- 第10週 『太平記抜書』の表記の特徴1（仮名と仮名遣い）
- 第11週 『太平記抜書』の表記の特徴2（漢字）
- 第12週 『太平記抜書』の表記の特徴3（記号）
- 第13週 『太平記抜書』の表記の特徴4（仮名文字遣い）
- 第14週 『太平記抜書』の表記の特徴5（漢字と仮名）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。また、履修者全員に異なる資料を割り当て、その調査を作業レポートとして課すので、指示に従って作成しておくこと。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、作業レポートに訂正・不足等があれば欠かさず記載しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題レポート（40%）、作業レポートと受講態度（60%）の総合評価。作業レポートについては提出の都度、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『太平記抜書 一～六』（八木書店）
- ・高祖敏明校註『キリシタン版太平記抜書 一～三』（教文館）
- ・小島幸枝編『耶蘇会版落葉集総索引』（笠間書院）
- ・中田祝夫・北恭昭『倭玉篇慶長十五年版 研究と索引』（勉誠社）
- ・今西浩子編『易林本節用集漢字語彙索引』（和泉書院）
ほかは授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

受講生には、無自覚になりがちな現代の日本語表記を見つめ直す姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

国語学研究 h

キリシタン資料の表記の対照研究

柴田 雅生

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

室町時代末から江戸時代初期に残された外国資料と、同じ時代の国内資料における日本語の表記を、相互に比較対照してその特徴を考察する。具体的には、室町時代末に来日し布教活動を行ったイエズス会宣教師たちが残した資料（キリシタン資料）を版本の『太平記』や仮名草子などと照らし合わせながら、古代から近代に移り変わる時期の日本語表記の実態を探る。それを踏まえて、キリシタンたちがどのように漢字を学んでいったのか、漢字をどのように使いこなしているかなどについて考察する。

【授業における到達目標】

- ・文献資料を適切に扱って中世～近世初期の日本語のすがたを的確に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探究」のうち、新たな知を発見する態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用いて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

中心とするキリシタン資料には『太平記抜書』（1612年頃、長崎刊）を用いる。南北朝内乱期を四十巻にわたって描く歴史物語『太平記』を抄出したこの資料は、和漢混淆文を駆使した文体で、キリシタンたちがもっとも高雅であるという評価を与えたものである。この資料の国字（漢字・仮名）で書かれた本文表記について、国内資料（『太平記』版本、仮名草子等）と対比させながら、その文字表記の特徴と背景に検討を加える。

具体的には、以下のテーマについて講義しながら、各自が調査研究を行うかたち（作業レポート）で進めていく。

- 第1週 文字表記を捉える視点
- 第2週 キリシタン資料概説
- 第3週 キリシタンたちの日本語文字観
- 第4週 キリシタン資料と国内資料の表記1（漢字と仮名）
- 第5週 キリシタン資料と国内資料の表記2（字体）
- 第6週 キリシタン資料と国内資料の表記3（仮名）
- 第7週 キリシタン資料と国内資料の表記4（仮名遣い）
- 第8週 キリシタン資料と国内資料の表記5（仮名文字遣い）
- 第9週 キリシタン資料と国内資料の表記6（表記符号）
- 第10週 キリシタン資料と国内資料の表記7（漢字）
- 第11週 キリシタン資料と国内資料の表記8（当て字）
- 第12週 キリシタン資料と国内資料の表記9（振り仮名）
- 第13週 キリシタン資料と国内資料の表記10（漢字とそのよみ）
- 第14週 キリシタン資料と国内資料の表記11（再び仮名と漢字）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。また、履修者全員に異なる資料を割り当て、その調査を作業レポートとして課すので、指示に従って作成しておくこと。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、作業レポートに訂正・不足等があれば欠かさず記載しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題レポート（40%）、作業レポートと受講態度（60%）の総合評価。作業レポートについては提出の都度、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『太平記抜書 一～六』（八木書店）

- ・高祖敏明校註『キリシタン版太平記抜書 一～三』（教文館）
 - ・小島幸枝編『耶蘇会版落葉集総索引』（笠間書院）
 - ・日本古典文学大系34～36『太平記 一～三』（岩波書店）
 - ・中田祝夫・北恭昭『倭玉篇慶長十五年版 研究と索引』（勉誠社）
 - ・今西浩子編『易林本節用集漢字語彙索引』（和泉書院）
- ほかは授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

受講生には、無自覚になりがちな現代の日本語表記を見つめ直す姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

国語史 a

テーマ別に日本語の歴史を学ぶ

福嶋 健伸

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」と書くのだろうか。「通る（とおる）」は、なぜ「とる」ではなく「とおる」と表記するのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。この授業を通して、上記のような疑問をみんなで考えていきたい。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 国語史の必要性：「ぜんぜんおいしい！」は言葉の乱れか？
- 第2週 いろは歌：いろは歌に暗号が隠されている？
- 第3週 あめつちの歌：あれ、「え」が二つあるような……、これは……
- 第4週 五十音図：なぜ、「あいうえお」の順なのか？
- 第5週 濁点について：濁点のはじまりは、どんな形だったのか？
- 第6週 濁音と清音：濁音ではじまる言葉を考えてみましょう。何かルールがありませんか？
- 第7週 連濁：「ふでばこ」とはいいますが、「ばこ」とはいいませんね。
- 第8週 ハ行子音の変遷：昔のなぞなぞに挑戦！「母には二回あうけれど、父には一回もあわない。これ何だ？」
- 第9週 ハ行転呼音：「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」なのか？
- 第10週 表記：日本語の未来を占う—新言文一致文の出現—
- 第11週 熟字訓：「冷笑ひ」「（ふり落さん、と）焦慮にぞ」は何と読む？
- 第12週 仮名遣い1：爆笑問題で仮名遣いを学ぶ—「通り」は「とおり」か「とうり」か—
- 第13週 仮名遣い2：四つ仮名—「地面」は「ぢめん」か「じめん」か—
- 第14週 ローマ字：「ローマ字ひろめ会」とは？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

半沢幹一ほか：ケーススタディ 日本語の歴史[おうふう、2002、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心に行う。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国語史 a

テーマ別に日本語の歴史を学ぶ

福嶋 健伸

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」と書くのだろうか。「通る（とおる）」は、なぜ「とる」ではなく「とおる」と表記するのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。この授業を通して、上記のような疑問をみんなで考えていきたい。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 国語史の必要性：「ぜんぜんおいしい！」は言葉の乱れか？
- 第2週 いろは歌：いろは歌に暗号が隠されている？
- 第3週 あめつちの歌：あれ、「え」が二つあるような……、これは……
- 第4週 五十音図：なぜ、「あいうえお」の順なのか？
- 第5週 濁点について：濁点のはじまりは、どんな形だったのか？
- 第6週 濁音と清音：濁音ではじまる言葉を考えてみましょう。何かルールがありませんか？
- 第7週 連濁：「ふでばこ」とはいいますが、「ばこ」とはいいませんね。
- 第8週 ハ行子音の変遷：昔のなぞなぞに挑戦！「母には二回あうけれど、父には一回もあわない。これ何だ？」
- 第9週 ハ行転呼音：「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」なのか？
- 第10週 表記：日本語の未来を占う—新言文—致文の出現—
- 第11週 熟字訓：「冷笑ひ」「（ふり落さん、と）焦慮にぞ」は何と読む？
- 第12週 仮名遣い1：爆笑問題で仮名遣いを学ぶ—「通り」は「とおり」か「とうり」か—
- 第13週 仮名遣い2：四つ仮名—「地面」は「ぢめん」か「じめん」か—
- 第14週 ローマ字：「ローマ字ひろめ会」とは？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

半沢幹一ほか：ケーススタディ 日本語の歴史[おうふう、2002、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点(授業態度・積極的参加・提出課題)40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心に行う。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方(くずし字の基礎等)も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国語史 b

意外と知らない日本語の歴史

福嶋 健伸

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「置く」の過去形は「置いた」だが、どうして「置きた」ではないのだろうか。「観音」は、普通、「かんのん」と読むが、なぜ「かんおん」ではなく「かんのん」なのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちについて考え、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 導入：国語史の基礎知識の復習
- 第2週 活用1：昔の日本人は余情がお好き？—終止形と連体形の合流—
- 第3週 活用2：二段活用の一段化はなぜ起こったのか？
- 第4週 活用と音便：「置く」の過去形は「置いた」で、どうして「置きた」ではない？
- 第5週 形態の変化1：「四月一日」の「一日」は、どうして「ついち」および「つむ」のか？
- 第6週 形態の変化2：「つねる」の語源は？
- 第7週 形態の変化3：「山茶花」はどうして「さざんか」とよむのか？
- 第8週 連声と入声音1：‘Bat’ ‘Bet’ は、英語ではなく日本語なの？
- 第9週 連声と入声音2：「コンニク」ってどういう意味？
- 第10週 訓点と角筆：今から1200年前に、とても話がはやくてノートを取りにくい先生がいたとします。皆さんなら、どうしますか？
- 第11週 反切：「東 徳紅切」で、よめない漢字がよめるようになるのです
- 第12週 上代特殊仮名遣い：キヒミケヘメコソトノモヨロ
- 第13週 紀貫之と藤原定家：平仮名の定着と紀貫之の憂鬱
- 第14週 定家仮名遣いと契沖仮名遣い：どうして仮名遣いが必要になったのか？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

半沢幹一ほか編『ケーススタディ 日本語の歴史』（おうふう、2002年）。1800円＋税 なお、適宜、補助プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国語史 b

意外と知らない日本語の歴史

福嶋 健伸

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「置く」の過去形は「置いた」だが、どうして「置きた」ではないのだろうか。「観音」は、普通、「かんのん」と読むが、なぜ「かんおん」ではなく「かんのん」なのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちについて考え、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 導入：国語史の基礎知識の復習
- 第2週 活用1：昔の日本人は余情がお好き？—終止形と連体形の合流—
- 第3週 活用2：二段活用の一段化はなぜ起こったのか？
- 第4週 活用と音便：「置く」の過去形は「置いた」で、どうして「置きた」ではない？
- 第5週 形態の変化1：「四月一日」の「一日」は、どうして「ついち」および「つむ」のか？
- 第6週 形態の変化2：「つねる」の語源は？
- 第7週 形態の変化3：「山茶花」はどうして「さざんか」とよむのか？
- 第8週 連声と入声音1：‘Bat’ ‘Bet’ は、英語ではなく日本語なの？
- 第9週 連声と入声音2：「コンニク」ってどういう意味？
- 第10週 訓点と角筆：今から1200年前に、とても話がはやくてノートを取りにくい先生がいたとします。皆さんなら、どうしますか？
- 第11週 反切：「東 徳紅切」で、よめない漢字がよめるようになるのです
- 第12週 上代特殊仮名遣い：キヒミケヘメコソトノモヨロ
- 第13週 紀貫之と藤原定家：平仮名の定着と紀貫之の憂鬱
- 第14週 定家仮名遣いと契沖仮名遣い：どうして仮名遣いが必要になったのか？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

半沢幹一ほか：ケーススタディ 日本語の歴史[おうふう、2002、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

授業において指示をする。

【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

国際関係概論

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、経済に関するテーマを中心に、国際社会に関わる法やルールについて基本的な知識を修得します。

【授業における到達目標】

国際的な経済活動に関するテーマを中心に、国際公法や国際私法などの国際社会に関わる法やルールについて基本的な知識を修得します。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション：講義の目的と概要
- 第2週 国際社会と法： 国際関係法とは
- 第3週 国際法の主体 (1) 国家
- 第4週 国際法の主体 (2) 個人
- 第5週 国際法の主体 (3) 国際組織・NGO・多国籍企業
- 第6週 経済活動と国際法 (1) 総論
- 第7週 経済活動と国際法 (2) 法の枠組み
- 第8週 経済活動と国際法 (3)
国家安全保障と外資規制・貿易規制
- 第9週 人権と国際法 (1) 総論
- 第10週 人権と国際法 (2) 多国籍企業の国際法上の責任
- 第11週 人権と国際法 (3) 途上国ビジネスと海外腐敗行為防止法
- 第12週 人権と国際法 (4) 紛争鉱物規制など
- 第13週 人権と国際法 (5) 多国籍製薬企業と医薬品アクセス
- 第14週 環境と国際法
- 第15週 講義の総括

【事前・事後学修】

【事前】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのか理解するようにしてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキスト、教材については授業開始後、指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点(40%)と期末試験(60%)に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業開始後に適宜、指示します。

【注意事項】

学生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画で示したテーマや順序が変更されることがあります。

国際関係論

—あなたの隣にある国際関係—

大島 幸治

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

国際関係論では、国際社会の中の日本、われわれを取り巻く情勢と課題を考える基礎知識を学びます。日米関係を機軸にししながら、流動化、緊迫度を加える東アジア情勢をめぐって議論を進め、ロシアやEU情勢、中東情勢も視野に入れていきます。議論の中で金融経済やグローバリズム、国際政治、資源争奪や軍事問題、サイバー戦争に関する基礎知識について学びます。適宜、最新のニュースも取り上げながら、身近な問題として一緒に考え、議論します。

【授業における到達目標】

授業では、経済学の基礎知識、グローバリズムの諸問題、国際政治や地政学的な視点などについても言及するので、国際関係を考えていく必須の概念や専門用語についての基礎知識を修得し、世界に踏み出していくための国際感覚を身につけることを目指します。学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得します。これによって協働力を身につけます。

【授業の内容】

1. われわれがおかれた現状とは？
2. グローバリズムの終焉
3. 経済学で考える基礎
4. ウォール街の強欲金融資本主義
5. 日本企業を搾取する米国の訴訟ビジネス
6. 中国の軍事的脅威
7. バブル崩壊に向かう中国経済
8. アフリカの資源を食い荒らす中国
9. 韓国経済と外交
10. 北朝鮮の核による瀬戸際外交
11. 現代の主戦場サイバー空間
12. ロシア経済と軍事的野心
13. EUの危機の本質
14. 中東情勢と日本
15. まとめ・総括

【事前・事後学修】

事前にシラバス記載の項目について新聞・雑誌など関連記事などを関心を持って情報収集すること（学修時間 週2時間）。

授業後は毎回配付する資料・プリントを読み、専門用語などを理解しておくこと。講義中に紹介した文献について目を通すなどして理解を深め、必要があれば質問すべきことをまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（実施小テスト・授業中の参加度）40%、レポート60%
小テストやリアクション・ペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

講義中に関連参考文献を紹介します。

【注意事項】

レポートについては、講義の中で書き方に関する注意事項を述べます。

国際企業論

柳田 志学

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、多くの企業が国境を越えて複数の国で事業活動を展開している。これら国際企業は様々なビジネスの中心で活躍し、進出先の国の経済・政治・社会に大きな影響を及ぼしている。本講義は、このような国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について理解を深めることを目的とする。実際に活躍している国際企業の事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

【授業における到達目標】

国際企業を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. ガイダンス：国際企業論について
2. 国際企業のデータ分析
3. 海外参入形態
4. 海外投資の意思決定プロセス
5. グローバル戦略
6. マルチナショナル戦略
7. トランスナショナル戦略
8. 国際戦略提携
9. 国際経営組織
10. 海外子会社のマネジメント
11. BOPビジネス
12. 異文化マネジメント：講義
13. 異文化マネジメント：グループワーク
14. 国際企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

この講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50％）、講義中に行う課題（30％）、平常点（授業への積極的参加）（20％）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

【注意事項】

授業テーマと関係するゲスト講師を招聘して、話をしてもらうことも検討している。

国際企業論

柳田 志学

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

今日、多くの企業が国境を越えて複数の国で事業活動を展開している。これら国際企業は様々なビジネスの中心で活躍し、進出先の国の経済・政治・社会に大きな影響を及ぼしている。本講義は、このような国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について理解を深めることを目的とする。実際に活躍している国際企業の事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

【授業における到達目標】

国際企業を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. ガイダンス：国際企業論について
2. 国際企業のデータ分析
3. 海外参入形態
4. 海外投資の意思決定プロセス
5. グローバル戦略
6. マルチナショナル戦略
7. トランスナショナル戦略
8. 国際戦略提携
9. 国際経営組織
10. 海外子会社のマネジメント
11. BOPビジネス
12. 異文化マネジメント：講義
13. 異文化マネジメント：グループワーク
14. 国際企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

この講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

【注意事項】

授業テーマと関係するゲスト講師を招聘して、話をしてもらうことも検討している。

国際企業論特論

高橋 意智郎

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について、学界の最先端の研究成果を学習し、現代の国際企業の事例を分析する。

国際企業で事業活動を推進する経営者・管理者が必要な洞察力を高め、ビジネス社会に貢献できる女性リーダーの育成を図る。

【授業における到達目標】

国際企業について修士課程の学生レベルの基礎力が身につく。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス：国際企業論について
- 第2回 国際企業のデータ分析
- 第3回 海外参入形態
- 第4回 グローバル戦略
- 第5回 マルチナショナル戦略
- 第6回 トランスナショナル戦略
- 第7回 国際戦略提携
- 第8回 国際経営組織
- 第9回 海外子会社のマネジメント
- 第10回 国際技術移転
- 第11回 国際研究開発
- 第12回 国際人的資源管理
- 第13回 日本企業の中国ビジネス
- 第14回 日本企業の海外ビジネス（ゲスト講師の招聘も検討）
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

事前学修：最近の国際企業の動向について書籍、新聞、雑誌などを通じて事前に学修しておくこと（週2時間）

事後学修：授業内容を振り返ること（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は、講義で必要なものを提供する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題（50%）、プレゼンテーションとディスカッション（30%）、平常点（20%）の内容で評価する。

課題へのフィードバックについては、課題の解説を行う。

【参考書】

以下は参考文献である。さらに開講時及び適宜、参考文献を紹介する。

・江夏健一・長谷川信次・長谷川礼『国際ビジネス理論』（中央経済社 2008年）

【注意事項】

・学生のレベルにもよるが、上記の「授業の内容」に関連した学術論文や英文ジャーナルの輪読も検討している。

・授業テーマに関連したゲスト講師の招聘も検討している。

国際協力論

小高 泰

3年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

本授業は、「持続可能なグローバル地球社会の構築」を目指すために、現在私たちを取り巻く地球規模の諸問題を認識することから始め、その内容を知り、そして、そこからいかなる解決方法が見いだせるのか、糸口を共に考えたり共有することを目的としています。このことは国際協力に関する基本的知識の習得と問題意識の醸成にもつながります。そのために私達の生活にも直接影響をおよぼすグローバリゼーション、貧困、性の差別、戦争(子供兵士など)、外国人労働者(労働移民)等の問題を具体的に取り上げ、顕在する地球規模の諸問題を理解し、解決に繋がる思考力、創造力を養います。

【授業における到達目標】

現在、世界で発生している地球規模の問題の現状を認識し、そこに息づく人々の政治、経済、社会環境の概観を通じて、自己の問題として向き合う問題意識、社会的視野を醸成します。そこから問題解決に至る方法を見出す創造力、共同して考える意識を構築します。

【授業の内容】

- 第1週 国際協力とは
- 第2週 国際社会の形成「西欧と非西欧」
- 第3週 グローバル・ガバナンスとは
- 第4週 民族浄化問題を考える（ユーゴを事例に）
- 第5週 貧困と女性問題を考える（バングラデシュを事例に）
- 第6週 民族問題とガバナンス（ロヒンギャ問題を事例に）
- 第7週 民族紛争と扇動を考える（ウガンダを事例に）
- 第8週 子ども兵士問題を考える（ウガンダ、シエラレオネを事例に）
- 第9週 日本の国際協力①戦後日本の国際協力政策とその変化
- 第10週 日本の国際協力②技能実習制度と特定技能
- 第11週 人権問題 アジアの人権問題
- 第12週 環境破壊問題（ベトナムを事例に）
- 第13週 アジアの経済発展①植民地支配
- 第14週 アジアの経済発展②独立後の諸困難
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：その都度変動する国際問題のトピックを提示しますので、事前に資料に目を通して授業に参加して下さい。（週2時間）
事後学修：また授業後は学んだ内容に関して抱いた疑問点、関連事項で気が付いた点などをノートにまとめ次回の授業で質問をする習慣を整えて下さい。（週2時間）

【テキスト・教材】

随時プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) 授業態度：50%
- (2) 試験及び課題提出：50%

提出された課題は次回授業でフィードバックします。

私語をする人、携帯電話に熱中する人には向かない授業だと思えます。諸事情で欠席する場合は申し出て下さい。

【参考書】

上村雄彦『グローバル協力論入門：地球政治経済論からの接近』（法律文化社、2014年）2,808円

【注意事項】

テキスト未購入者、臆面もなく私語を延々と続ける者、携帯電話を使用する者は授業の秩序に影響するので受講をしないことを勧めます。

国際経済の基礎

大木 博巳

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

トランプ大統領のアメリカ第一主義、米中の貿易戦争、WTO（世界貿易機関）ドーハラウンドの漂流、中国の一带一路構想、英国のEU離脱、TPP11、日本・EUのEPA（経済連携協定）等のメガFTA、これらは、これまでの国際経済の秩序を根底から揺るがしている出来事である。本授業では、こうした国際経済の動きを理解するうえで重要と思われるテーマを取り上げて、データに基づき、その背景と今後について考える。

【授業における到達目標】

国際的視野の涵養と問題解決能力を磨く。

【授業の内容】

1. グローバリゼーションについて；国境を廃して豊かになる…
2. 貿易、直接投資が牽引する世界経済の発展とWTOの役割と限界
3. メガFTAとは何か；地域経済統合について
4. 多国籍企業の活動；グローバルサプライチェーンの構築
5. サービスの貿易；デジタル貿易、サービス企業の投資、ヒトの移動
6. BOP(Base of Pyramid) ビジネスについて；貧困削減と企業
7. 国際競争力について；国家、産業、企業の競争力
8. トランプ大統領のアメリカ第一主義；米経済と通商政策
9. EUの経済統合の危機；英国のEU離脱（ブレグジット）、欧州難民危機
10. 中国の経済とインドの経済
11. ASEAN市場の新フロンティア、メコン地域開発
12. 中国の一带一路構想
13. アジア市場統合の動き；APEC、RCEP、TPP11等
14. 日本の対外経済戦略の変遷と日本企業のグローバル化
15. まとめ、世界経済における様々なグローバル課題

【事前・事後学修】

【事前】指定した論文等を事前に目を通しておくこと。（学習時間 週2時間）

【事後】小テストの課題に取り組むこと。紹介した文献を熟読すること。（学習時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（1回程度）40%、小課題の提出（各授業毎に実施）50%、平常点（授業への積極的参加）10%。課題については授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

ジェトロ世界貿易投資報告各年版
 世界投資報告（UNCTAD：国連貿易開発会議）
 世界開発報告（2009）「変わりつつある世界経済地理」
 大木博巳（2011）「欧米企業のBOPビジネス」ジェトロ
 大木博巳、滝井光夫編（2018）『米国通商政策リスクと対米貿易・投資』文真堂
 トラン・ヴァン・トゥ、大木博巳（2018）『ASEANの新輸出大国ベトナム』文真堂

国際経済の基礎

南部 和香

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

私たちを取りまく経済活動は、様々な国や地域とのやりとりの中で成り立っています。国際的なやりとりの中で日本はどのような状況におかれているのでしょうか。また、様々な資源を輸入する企業、製品を輸出する企業はどのような課題に直面しているのでしょうか。TPPやフェアトレード、環境問題など、いくつかのトピックスを扱いながら、国際経済について考えてみたいと思います。

この講義の前半では、簡単なグラフを使って経済や貿易のしくみを説明します。また、交換のメリットを考えるために、経済実験（グループワーク）をしてみたいと思います。そして、後半は現代の国際経済が直面している様々な状況を説明し、課題や解決策について考えます。講義を通して、国際経済の基礎知識や考え方を身につけることが目標です。

【授業における到達目標】

- ・基礎的な経済や貿易のしくみを理解する
- ・貿易を行う企業が直面する課題を理解する
- ・国際社会の課題を理解し、考察する

【授業の内容】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 需要と供給、市場均衡 |
| 第3週 | 市場の安定性 |
| 第4週 | 輸出と輸入のしくみ |
| 第5週 | グループワーク（1）経済実験の準備 |
| 第6週 | グループワーク（2）モノ作りのコストと交換のメリット |
| 第7週 | 貿易政策とその効果 |
| 第8週 | ブロック経済 |
| 第9週 | TPP |
| 第10週 | 為替レートと円高・円安 |
| 第11週 | 多国籍企業 |
| 第12週 | 責任ある調達 |
| 第13週 | フェアトレード |
| 第14週 | 国際的な環境問題 |
| 第15週 | まとめ |

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：講義で提示するキーワードを調べる

事後学修（週2時間）：配布資料を見直し、理解を深める

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（50%）とリアクションペーパー（50%）で総合評価します。

考察のきっかけになりそうなリアクションペーパーを紹介します。

【参考書】

講義開始時にお伝えします。

【注意事項】

特にありません。

国際経済論

高橋 意智郎

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ヒト、モノ、カネ、サービスの国際移動が活発な今日、日本経済を始め各国経済は、ますます相互に依存し合っている。国際経済論は、各国経済が相互に依存し合うことに伴う様々な問題を分析して、適切な政策を提言していく学問である。本講義では、国際経済に関する、いくつかのテーマについて基本的な内容を理解し、現実を見るための視野を形成することを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

【授業における到達目標】

国際経済を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

【授業の内容】

1. ガイダンス：国際経済論について
2. 経済のグローバル化と日本—国境を超えるヒト・モノ・カネ・企業—
3. 外国為替取引と為替レート—為替レートの決定要因と為替レート変動の影響—
4. 外国為替取引と為替レート—変動為替レートと固定為替レート、ドル本位制、ユーロの導入—
5. 経常収支と国際貿易
6. 国際貿易と海外直接投資の理論
7. 国際貿易と貿易政策—国際貿易の恩恵、国際貿易の影響—
8. 国際貿易と貿易政策—保護貿易の不利益、補助金による産業保護—
9. 海外直接投資と企業のグローバル化—海外直接投資の方法、海外子会社の種類—
10. 海外直接投資と企業のグローバル化—多国籍企業の事業活動、移転価格—
11. 経済的地域連携と多国籍企業
12. TPPと企業の動き
13. EUと企業の動き
14. 国際経済のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

参考文献として以下の文献を挙げておく。

井堀利宏著『図解雑学・マクロ経済学』（ナツメ社）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

本講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

【注意事項】

授業テーマと関係するゲスト講師を招聘して、話をしてもらうことも検討している。

国際交流論

—他者を知り、己を知る—

齋藤 英之

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

グローバル化の進展に伴い、「国際交流」とは異文化の人々による日常的な接触を主に意味するようになりました。異文化接触の増大は、協調や調和、新文化創造などプラス効果を生み出す一方で、摩擦や軋轢、対立といったマイナス現象も引き起こします。

現在、264万人の外国籍の人たちが日本に在留し、130万人が働き（コンビニで5万人以上）、昨年は2640万人が来日しました。日本人にとっても「外国人が隣にいる」風景が日常となる中、世界各地では偏狭で排他的なナショナリズムの風潮が強まっています。

こうした風潮に染まることなしに、国際交流のプラス面を拡大してマイナス面を縮小していくことが大切です。そのために異文化の他者を知り、振り返って己自身を知り、互いを尊重・理解し合いながら、接触に伴う様々な問題に真摯に対処しけるよう本授業で国際交流の基礎を学びましょう。

【授業における到達目標】

無意識に絶対的なものとみなしている自分や自文化が相対的なものと認識し、人間や文化を客観視できる力を養い、グローバル時代にふさわしい「国際的視野」を獲得し、さらに様々な異文化を原因として生じる問題に異文化の人とともに適切に対処するための「行動力」と「協働力」を養成することを目標とします。

【授業の内容】

1. 国際交流とは
2. 異文化摩擦の要因
3. 異文化接触としての国際交流 ①文化とは
4. 異文化接触としての国際交流 ②異文化比較・物質的側面
5. 異文化接触としての国際交流 ③異文化比較・精神的側面
6. 国際交流の過程 ①パターンとプロセス
7. 国際交流の過程 ②現実と問題点
8. 日本で暮らす外国人
9. 海外で暮らす日本人
10. 日本の異文化交流史 ①古代
11. 日本の異文化交流史 ②中世
12. 日本の異文化交流史 ③近現代
13. 多文化社会としての日本 ①古くからの他者
14. 多文化社会としての日本 ②新たな他者
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：次回の授業項目について、新聞やテレビ、参考図書を用いて自分なりに考えておきましょう（学修時間 週2時間）。
- ・事後学修：授業で学んだ事項を意識して新聞を読み、国際交流に関わる内容のテレビ番組（「クール・ジャパン」「YOUは何しに日本へ？」など）を視聴しましょう（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

教科書はありません。適宜、プリントを配付し、視聴覚教材を用います。地図帳を持参してもらってもあります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（提出物・小テスト・リアクションペーパー）50%と定期試験（実筆ノートと配付資料の持込可）50%により評価します。採点后、manaba で「試験講評と今後の学修」を公表します。

【参考書】

- 石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書 2013年）2100円。
 原沢伊都夫『異文化理解入門』（研究社 2013年）2367円。
 青木保『異文化理解』（岩波新書 2001年）799円。

【注意事項】

「講義を聞く」のではなく「授業に参加」して下さい。「作業」もしてもらいます。授業を睡眠・談笑・内職の時間と心得るものは履修を遠慮して下さい。

国際政治の基礎

小高 泰

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

本授業は国際政治に関する基本的知識の習得と問題意識の醸成を目的とします。グローバリゼーションの進展と複雑に推移する国際情勢にあつて、国家間関係のみならず国家以外の主体同士が絡み合った諸事象が常に発生して日本の政治や経済に大きな影響を及ぼしています。ここでは昨今の国際情勢を具体的に取り上げつつ、その中で国際政治に対する関心を高め、問題意識を抱いて行動し思考する力、国際的視野を養います。

【授業における到達目標】

現在、国際社会で発生する諸問題を自身の抱える課題と結び付け向き合い、かつ、思考できるような基礎的知識を習得します。そこから事象の表層的な事柄だけにとらわれることなく、そこに潜む歴史的背景や様々な諸要因を関連させながら深層部分を理解できるような思考力、洞察力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 国際政治とは
- 第2週 国際社会の展開：国際秩序、平和構想、権力政治等
- 第3週 国際政治の主体①国際システムを構成する国民国家の成立と変遷を概観
- 第4週 国際政治の主体②対外政策の形成とそのアプローチ、外交と等
- 第5週 協力と対立：外交と宣伝、銃砲収集、軍備管理等
- 第6週 国際法：国際法の成り立ちとその変化等
- 第7週 国際関係と異文化理解：ナショナリズムと異文化理解等
- 第8週 国際組織について：国連と平和維持機能等
- 第9週 戦後の国際社会①米ソ対立と冷戦構造
- 第10週 戦後の国際社会②アジア各国の主張とベトナム戦争
- 第11週 欧米列強による植民地支配(東南アジア①)
- 第12週 欧米列強による植民地支配(東南アジア②)
- 第13週 安全保障問題：国家の役割と集団安全保障等
- 第14週 政治経済体制の変化：経済の進化と政治との関わり
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：事前に提示した諸テーマに関して読んでおいたり調べたりした状態で授業に臨むこと(週2時間)

事後学修：授業終了後に配布した提出用プリントにその時の授業の感想や意見をまとめ次回の授業時に提出する。(週2時間)

【テキスト・教材】

中西寛：国際政治とは何か-地球社会における人間と秩序[中公新書、2003、¥929(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

(1) 授業態度とテキストの購入：50%

(2) 試験や提出物の結果：50%

臆面もなく私語を繰り返す人、携帯電話使用者、テキストを購入する意思がない人は受講しないことを勧めます。

なお、適宜授業内容に対する個々の考えをまとめ意見を述べ提出してもらいます。その際に所見を入れて返却し、書かれた内容や書き方等気づいた点は次の授業で取り上げたいと思います。

【参考書】

衛藤藩吉「国際関係論」(東京大学出版会、1989年)

【注意事項】

テキスト未購入者、臆面もなく私語を延々と続ける者、携帯電話を使用する者は授業の秩序に影響するので受講をしないことを勧めます。

国際政治論

小高 泰

2年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

国際社会では日々、様々な事象、問題が発生しています。それらが私達の生活にいかなる関係を持ち影響を与えるのか、授業を通じて共に問題意識を抱き考えてゆきましょう。特に日本との繋がりが深まる東南アジア世界と諸大国との関係に注目しながら授業は展開されます。

【授業における到達目標】

国際理解を深める一つの方法は歴史を知ることです。昨今、東南アジア地域は日本の企業進出が目覚ましく、諸分野の交流が益々深まっています。しかし、元々この地域は多くの民族、宗教、言語、そして国家が交錯し、かつては東西交易の中継地でもありました。それが諸大国による植民地支配によって混乱し、分裂から独立運動、そして国家建設を歩んでゆきます。本授業ではこれらのプロセスを考察しつつ、幅広い価値観を認め合い理解する国際性を醸成します。

【授業の内容】

- 第1週 東南アジア世界とは
- 第2週 近代以前の伝統国家
- 第3週 植民地化による変容① 植民地主義とは
- 第4週 植民地化による変容② ミャンマー、インドネシア等の場合
- 第5週 植民地ナショナリズム① 共産主義とは
- 第6週 植民地ナショナリズム② ベトナム、フィリピン等の場合
- 第7週 東南アジアにとっての「大東亜戦争」
- 第8週 インドネシア、ビルマのナショナリズム運動
- 第9週 冷戦の東南アジアへの拡大（インドシナ）
- 第10週 脱植民地化と東南アジア
- 第11週 ベトナム戦争と東南アジア① ベトナム戦争の背景と国際関係
- 第12週 ベトナム戦争と東南アジア② 東南アジア諸国の対応
- 第13週 独裁体制の成立と展開
- 第14週 南シナ海問題を巡る東南アジア
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：その都度変動する国際問題のトピックを提示しますので、事前に資料に目を通して授業に参加して下さい。（週2時間）

事後学修：授業後は学んだ内容に関して抱いた疑問点、関連事項で気が付いた点などをノートにまとめ次回の授業で質問をする習慣を整えて下さい。（週2時間）

【テキスト・教材】

中野亜里：入門東南アジア現代政治史（改訂版）[福村出版、2016、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) 授業態度：50%
- (2) 試験及び課題提出：50%

提出された課題は次回授業でフィードバックします。

テキスト購入意思のないもの、ためらうことなく私語に熱中する者、携帯電話をいじり授業に参加しないものは受講を進めません。ただし、都合で欠席せざるを得ない場合は遠慮なく申し出て下さい。

【参考書】

中野亜里「入門東南アジア現代政治史」（めこん 2016年）

【注意事項】

テキスト購入意思のないもの、ためらうことなく私語に熱中する者、携帯電話をいじり授業に参加しないものは受講を進めません。ただし、都合で欠席せざるを得ない場合は遠慮なく申し出て下さい。

国際理解とキャリア形成

日本を知り、世界を学び、国際感覚あふれる人材を目指して

深澤 晶久

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

IT社会の急速な発展や深刻化する人口減少・高齢化社会への突入で社会・経済のみならず私たちの日常生活においても今後益々国際的なつながりが求められてきます。

こうしたなか国際感覚溢れる人材を目指し、よき日本人としてまずは改めて日本のことをよく知り、そして世界主要諸国の歴史や直近の動静を学びます。

またリアルに国際感覚を感じるために外部スピーカーを招聘し、自らの国際ビジネス体験などを語ってもらいます。

本講座は過去5年に亘り、「2020東京オリンピック・パラリンピック」を題材に取り上げ、実践力アップのためのアクティブラーニング型の授業を行っています。本年についてもより発信力のある内容にて実施します。

(項目)

- 日本の近現代史とめまぐるしく変化する世界の情勢を学ぶ。
- グローバル業務経験者を招き、自らの国際経験を語ってもらう。
- 今後のグローバル社会でどう自分を活かしていくかを考える。
- オリンピック・パラリンピック連携講座として実施する。

【授業における到達目標】

(国際的視野・研鑽力・協働力)

- ◆世界の主要諸国の戦後の動きや直近の保護主義化の動きなどタイムリーな情報を取り入れ、激動の国際情勢の課題や注目を学ぶ。
- ◆国際経験溢れるあらゆる立場のゲストスピーカーからの生々しい講話を聞き幅広い知識を身につける。
- ◆「2020東京オリンピック・パラリンピック」を課題に国際社会の中で日本を意識したワークをチームで行い、実践力養成を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(講義説明・プログラム・自己紹介)
- 第2週 日本の変化を知る(政治・経済)
- 第3週 日本の変化を知る(企業の動き・国際進出)
- 第4週 アメリカの現状と今後(内政・外交・経済)
- 第5週 EUの成り立ちと苦悩と今後
- 第6週 外部講師(欧米のビジネスから学ぶ)
- 第7週 中国の現状と今後(大国としての責任と課題)
- 第8週 外部講師(中国ビジネスに学ぶ)
- 第9週 激動のアジアを知る(アジアビジネス・NPO活動など)
- 第10週 課題研究「2020東京オリンピック・パラリンピックでどうつながる世界と日本(自分たちは何ができるか?)」
- 第11週 グループワーク①(コンセプトワークなど)
- 第12週 グループワーク②(プレゼン準備など)
- 第13週 プレゼンテーション
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 週4時間程度新聞報道や参考図書などで国内外の動きを事前事後学修してください。
- 授業内で適宜国内外の動きについて意見交換をします。
- また、2020年東京オリンピック・パラリンピックについてのメディアの動きに注目し、情報収集を心掛けてください。

【テキスト・教材】

適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点(取組姿勢・感想文・小レポートなど) 70点
- レポート 30点

国内外の動きについての共有課題を題材に意見交換を行い、各人の理解度や問題意識を把握します。

グループワーク・ディスカッションを通じ、考え方の多様化などについて気づきを共有する。

【注意事項】

- 少人数制(20名程度)です。
- 応募者のなかから選考します。
- 【選考方法】4月1日(月)から教務課窓口でエントリーシートを配布します。履修希望者は、あらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出し、選考を受けてください。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に登録される形で発表します。
- ※選考の結果、合格した者は『Web履修』に自動登録されます。同一時限に他の科目を履修しないようにすること。

国文学概論 a

—cdクラス 小説を読む—

棚田 輝嘉

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

文学表現は「散文」と「韻文」に分けることができます。それぞれの表現の「質」や「目的」は同じではありません。

本講義では、「散文」、とくに「小説」というジャンルに注目して、表現の特質や意味について考えていきたいと思います。

【授業における到達目標】

「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる」こと、および、「物事の心理を探求することによって、新たな知を創造しようとする態度」を涵養することを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 文学とはなにか。散文・韻文その他
- 第2週 語りは騙り：ドーデ「最後の授業」
- 第3週 小説とはなにか：芥川龍之介「蜜柑」
- 第4週 作者という存在：太宰治という作家
- 第5週 小説のしかけ：太宰治「桜桃」1
- 第6週 小説の背後：太宰治「桜桃」2
- 第7週 小説の周辺：山崎富栄「日記」「遺書」など
- 第8週 村上春樹を読む1：「蚩」
- 第9週 村上春樹を読む2：「ノルウェイの森」
- 第10週 村上春樹を読む3：ビートルズその他
- 第11週 再び小説の構造：三島由紀夫「潮騒」2
- 第12週 時代というコード：三島由紀夫「潮騒」2
- 第13週 小説は始まり、そして、終る
- 第14週 再び、小説とはなにか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。あらかじめ配布された資料を、必ず読んでから出席すること。

【事後学修】週2時間。授業で出された課題を、翌週までに仕上げ、提出すること。

【テキスト・教材】

こちらで用意する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み） 50%

課題提出 50%

提出された課題について、次の時間にコメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する

【注意事項】

ほぼ毎回課題を出すので、欠席すると苦しくなりますよ

国文学概論 a

—abクラス「国文学」入門—

林 悠子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

皆さんが新しく始める「国文学」という学問は、高校までの教科としての「国語」とは目的も方法も異なる学問です。国文学研究において他の人を納得させる結論を導くためには、定められたプロセスに従う必要があります。国文学研究とは、いわばさまざまなルールの中でフェアプレーが求められる知的な〈ゲーム〉なのです。

この授業では、皆さんが「国文学研究」という〈ゲーム〉の公平でたくましいプレイヤーになれるよう、研究の基礎的なルールと考え方を学びます。

【授業における到達目標】

「国文学研究」のための入門的な知識とルールの修得を通じて、全学DPの「研鑽力」のうち、生涯にわたって学問を続ける力を身につけます。

【授業の内容】

- 1 「国語」から「国文学」へ
- 2 「話型」＝「お話のパターン」を理解しよう
- 3 「パターン」で読む国文学作品
 - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」①『万葉集』
- 4 「パターン」で読む国文学作品
 - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」②『大和物語』
- 5 「パターン」で読む国文学作品
 - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」③謡曲〈求塚〉前編（詞章を読む）
- 6 「パターン」で読む国文学作品
 - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」④謡曲〈求塚〉後編（DVD鑑賞）
- 7 本を使いこなそう① 凡例を理解する
- 8 本を使いこなそう② 引用のルール
- 9 本を使いこなそう③ 索引を引いてみよう
- 10 書誌学入門① ささまざまな本の形
- 11 書誌学入門② 和綴じの練習
- 12 書誌学入門③ 本から読み取れる情報
- 13 現代語訳を読むだけでは何故ダメなの？
- 14 個別のテキストとしての『源氏物語』と『あさきゆめみし』
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

次回授業のために、指定された課題に取り組んでください。

（学修時間 週2時間）

不定期に小テストを行うので、毎回の授業後の復習をしてください。また、学期末の最終課題のためにも復習と準備が必要です。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストの点数30%、授業参加（課題の提出、リアクションペーパーの記入状況、討議の際の発言）10%、最終課題（授業内小レポート）60%で評価します。小テストは次回授業で、小レポートについてはmanaba上でフィードバックを行います。

【注意事項】

欠席をしないことが前提の授業です。30分以上の遅刻は原則欠席扱いとします。

国文学概論 a

—efクラス 国文学を学ぶために—

佐藤 悟

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

国文学は高等学校の国語とは違うので、とまどうことも多いかと思
います。そこで国文学の基礎について概説を行い、国文学とは何か
を考えていくことにします。最初に国文学の時代区分、ジャンル、
近代文学と古典文学との違いなどを考えていきます。

近代文学と近世文学の違いが、近代文学は人間の内面を描き、近世
文学は勧善懲悪を旨とするといった明治以来の誤った概念を皆さん
はお持ちだと思います。一例として『おくの細道』を読みながら、
古典文学と近代文学の違いを見ていきます。

大学の基本は考える力をつけることです。「なぜ」このような表現
がなされたのか、「なぜ」このような虚構が描かれたのかといった
文学にかかわる諸問題を対話を通して検証していきます。

授業中にはいろいろな質問をします。質問に対する答え、またそれ
に対する質問を重ねていくことによって思考する力をつけます。

【授業における到達目標】

国文学とは何かという理解を深める。

国文学研究に必要な研究力（技術、考え方）を身に付ける。

他の学問領域と国文学がどのように関わるかを理解する。

知を求め、心の美を育む態度と学修を通じて自己成長する力を得る
ことを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 国文学の時代区分
- 第2週 各時代概説Ⅰ（文学史と政治・社会史）
- 第3週 各時代概説Ⅱ（古典文学とは何か）
- 第4週 各時代概説Ⅲ（近代文学とは何か）
- 第5週 国文学のジャンルⅠ（小説Ⅰ）
- 第6週 国文学のジャンルⅡ（小説Ⅱ）
- 第7週 国文学のジャンルⅢ（説話）
- 第8週 国文学のジャンルⅣ（和歌）
- 第9週 国文学のジャンルⅤ（その他）
- 第10週 国文学におけるテキストについて
- 第11週 古典文学の価値とは何か。
- 第12週 近代文学の多様性について
- 第13週 国文学を取り巻く諸問題Ⅰ
- 第14週 国文学を取り巻く諸問題Ⅱ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修として、文学史についての概説書を特に指定はしないが目
を通しておくこと。また事前学修には最低週2時間程度振り当てる
こと。

事後学修としてはノート工夫し、授業中の問題提起を咀嚼し、内
容を再構成して、次回における質問を考えること。授業中に指示さ
れた参考書は図書館で見しておくこと。時間としては最低週2時間程
度振り当てること。

【テキスト・教材】

萩原恭男編：芭蕉おくのほそ道[岩波文庫、1957、¥819(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の質疑応答等の平常点が50パーセント、試験が50パーセン
ト。試験問題は記述式でおこなう。テキスト、自筆ノートの持ち込
みを可とする。問題はあらかじめ提示するので、それについての解
答をあらかじめ用意しておくこと。それに対する質問の時間を設定
する。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

五回以上欠席すると自動的に失格する。

パワーポイントを使用するので、ノートの取り方に注意すること。

国文学概論 b

—cdクラス 韻文を読む—

棚田 輝嘉

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

文学のジャンルのうち、「韻文」について考える。具体的には俳
句・短歌・詩を取り上げ、さらにその周辺の韻文表現として、都々
逸、言葉遊び、五行歌なども対象として、韻文が持つ表現の意味と
可能性について、検討したい。

【授業における到達目標】

「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けること
ができる」こと、および、「物事の心理を探求することによって、
新たな知を創造しようとする態度」を涵養することを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに：韻文とはなにか
- 第2週 音読するということ：いるかないか
- 第3週 心と言葉：哀歌他
- 第4週 散文詩は詩？：姪が生きていた日
- 第5週 歌詞という詩1：雨のように
- 第6週 歌詞という詩2：きづいてよ
- 第7週 改行の意味と三行歌：石川啄木、他様々な現代詩
- 第8週 一編の詩ができるまで：中原中也「坊や」
- 第9週 都々逸
- 第10週 五行歌
- 第11週 短歌の世界1：俵万智、他
- 第12週 短歌の世界2：与謝野晶子、他
- 第13週 現代詩を読む1：鮎川信夫
- 第14週 現代詩を読む2：中桐雅夫・吉野弘他
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。あらかじめ配布された資料を必ず読んでお
くこと。

【事後学修】週2時間。出された課題を、翌週の授業時に提出でき
るように、きちんと仕上げておくこと。

【テキスト・教材】

こちらで用意する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み） 50%

課題提出 50%

提出された課題等について、次の時間にコメント等のフィードバ
ックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する

【注意事項】

ほぼ毎回課題を出すので、欠席すると苦しくなりますよ

国文学概論 b

—abクラス ステップアップ国文学—

横井 孝

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

「国文学」とは何か？

ここではその「基本」をめぐる学びます。「基本」というと退屈な繰り返し、訓練というイメージがありますし、なにやら軽視されるようなところもありますが、スポーツでも芸能でも何でも、技術を要するものはすべて「基本」の上にか成り立っていません。皆さんにとっても、その重要な基本に取り組んで頂きます。

後期に入って、皆さんたちは、さらにもう一段上の専門の領域に近づきました。エンターテインメント（楽しみ・遊び・娯楽）としての「コクブンガク」から、研究の対象としての「国文学」へ。

ここでは、国文学科で4年間学ぶために、どのような専門領域に進んでも必要不可欠のアイテムやツールを手に入れる方法を調べてゆきましょう。

【授業における到達目標】

国語学（日本語学）を除く、国文学の基本的事柄、テクニカルチーム、取り組む方法など、ありとあらゆる国文学の基礎的事項に対する知識を獲得してゆきます。それは、2年生以降の、さらなる専門性への武器になるはずで、この授業を通して、文学の美の探究の方法をみつめ研鑽する力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 長篇作品の読み方
- 第2週 「小説」と「物語」のちがいを
- 第3週 小説の構造を冒頭から読み取る
- 第4週 物語の構造を冒頭から読み取る
- 第5週 「話型」をきわめる
- 第6週 「話型」、たとえば『竹取物語』
- 第7週 「本」のちがいはどんなことか？
- 第8週 洋装本のかたち
- 第9週 いわゆる「和本」のかたち
- 第10週 文字・書体・フォント
- 第11週 漢字・ひらがな・書体の役割
- 第12週 読み手の立場と書き手の立場
- 第13週 先入観にまどわされるな
- 第14週 研究の対象としての「国文学」
- 第15週 国文学インフォメーション

【事前・事後学修】

下の「成績評価の方法・基準」にあるように、ほぼ毎回「小テスト」をおこないます。前回に講義したところが理解できているかどうかを確認するためです。そのテストの対策としても、事後の学修は週2.5時間は必要です。また、事前にも文献を紹介します。その所在を確認し、目を通して理解を深める週1.5時間程度必要です。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意します。それに基づいて講義を展開しますので、固定的な教材は使いません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最小限10回の「小テスト」をおこない、その累積点を100点に換算して評価します。

「小テスト」はその都度、答え合わせをし、事後学修の資とします。

【参考書】

講義中にさまざまな文献を引用してすすめます。その際に指摘、指示してゆきます。

【注意事項】

「小テスト」はリアクション・ペーパーでもあります。積極的に活用して、疑問点などを解決する材料にしましょう。

国文学概論 b

—efクラス 国文学研究の基礎知識Ⅱ—

佐藤 悟

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

前期にひきつづき、国文学研究の基礎知識を学びます。特に国文学とは何かを古典のテキストがどのようなものであるかということ、『おくのほそ道』を読みながら考えます。また後期は雅と俗について検討を加えます。これにより、従来の伝統的な文学との違い、古典の価値とは何かを考えていきます。

【授業における到達目標】

国文学の概念をきちんと理解すること。

授業はディスカッションを重視しますので、自分の考えていることをきちんと説明できる能力を身に付けること。

知を求め心の美を育む態度と自己研鑽力を身に付けることを到達目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 『おくのほそ道』Ⅰ（凡例の理解）
- 第2週 『おくのほそ道』Ⅱ（雅と俗）
- 第3週 『おくのほそ道』Ⅲ（俳諧とは何か）
- 第4週 『おくのほそ道』Ⅳ（紀行文とは何か）
- 第5週 『おくのほそ道』Ⅴ（講読及び研究方法の提示）
- 第6週 『おくのほそ道』Ⅵ（講読及び研究方法の提示）
- 第7週 『おくのほそ道』Ⅶ（講読及び研究方法の提示）
- 第8週 『おくのほそ道』Ⅷ（講読及び研究方法の提示）
- 第9週 『おくのほそ道』Ⅸ（講読及び研究方法の提示）
- 第10週 『おくのほそ道』Ⅹ（講読及び研究方法の提示）
- 第11週 『おくのほそ道』Ⅺ（講読及び研究方法の提示）
- 第12週 『おくのほそ道』Ⅻ（講読及び研究方法の提示）
- 第13週 芭蕉の生涯Ⅰ
- 第14週 芭蕉の生涯Ⅱ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

古典文学基礎講読で最低ひらがなの崩し字が読めるようになっていくことが要求される。『おくのほそ道』の翌週部分を前週には2時間以上予習しておくこと。また授業後は2時間程度ノートをきちんと点検すること。

【テキスト・教材】

前期と共通。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）50%。試験50%。試験の実施方法は前期と同じである。フィードバックはコピーした答案を配布し、質問を受ける。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

欠席が5回になると自動的に失格となる。

材料力学

安全安心な住まいを目指して

丸川 玲子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

建物で快適に過ごすためには、建物の構造（骨組み）が安全でなくてはなりません。この安全性確保するために構造設計が必要になります。構造設計では、建物の重さ・地震・風・雪などがどのように建物に「力」としてかかるかを知り、建物の構造を構成する「材料」がどのように安全であるかを「力学」という方法で、読み解きます。これが「材料力学」です。

「材料力学」の理解は、2級建築士の試験科目「建築構造」を学ぶ基本にもなります。構造設計に関わる身近な話題も紹介し、材料力学の初歩を、わかりやすく解説します。

安全でかつ美しい建築構造は、身近に多数あります。講義では美しい建築構造物を材料力学の実例として紹介し、豊かな生活の糧にもなるようにしたいと思います。

【授業における到達目標】

『論理的な思考』の術として、材料力学の基礎知識を身につけて頂きます。関連した建築構造物の事例紹介により、『身近にある美しいもの』に目を向け、豊かな生活の糧となることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 材料力学とは
- 第2週 力の三要素とモーメント
- 第3週 力の合成と分解
- 第4週 力の釣り合い
- 第5週 構造物の支点と反力
- 第6週 荷重と反力
- 第7週 構造物の安定と不安定
- 第8週 曲げモーメント、せん断力、軸力
- 第9週 単純梁と片持ち梁の応力
- 第10週 応力度と変形
- 第11週 フックの法則とヤング係数
- 第12週 許容応力度、断面係数、断面2次モーメント
- 第13週 不静定構造物
- 第14週 材料力学の実践
- 第15週 復習とまとめ

関連した、建築構造設計の事例紹介を行うことがあります。

各週の講義内容は、状況により変更する場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修 テキストで、次回授業の範囲を確認しておきましょう。

事後学修 講義中の課題理解度を確認し、復習をしましょう。

身近にある建築物を観察し、建築物の美しさに触れ、建物の構造を考える機会を増やし、週4時間程度の学修をしましょう。

【テキスト・教材】

テキストは配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 50%、平常点 50%（講義中の課題取り組み状況の評価）

課題は理解を深めるため、解説を行ないフィードバックとします。

【参考書】

「建築構造力学入門」藤本盛久・和田章 監修 1999年/実教出版

「構造デザインマップ 東京」久保純子他 2014年/総合資格

【注意事項】

各回講義終了時に、復習のための課題を行い、その提出により出席を確認します。わからないことは、遠慮なく質問して下さい。

財政論

大澤 美和

3年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

国民経済は、民間部門（家計・企業）と公共部門（政府）から構成されています。政府の経済活動、すなわち政府の収入、管理、支出に関する活動が財政です。政府は民間部門で供給不可能な財・サービス、及び民間部門で供給可能であるが、その質・量が不十分な財・サービスを供給しています。その財源として租税や公債発行による収入が必要となります。

こうしたことを踏まえ、本講義では、財政に関する理論、制度、実際などをできるだけ分かり易く解説します。具体的には、財政の役割、公共サービス、財政収入、経費、財政制度、財政が民間部門に与える効果、などについての講義です。

【授業における到達目標】

財政学を学ぶことにより、財政や経済に関する理解が深まり、これらについての確かな意見を持ち、客観的な判断力を身につけることを狙いとします。講義において修得した知識を通し、現実経済に積極的に関心を持つことで、自ら考え、対処する行動力を養います。

【授業の内容】

- 第1回 財政とは
- 第2回 財政の三機能
- 第3回 パレート最適と市場の失敗
- 第4回 独占・外部性と政府の介入
- 第5回 公共財の最適供給
- 第6回 日本の予算制度
- 第7回 日本財政の実状
- 第8回 租税原則・転嫁・超過負担
- 第9回 個人所得税
- 第10回 法人所得税
- 第11回 消費課税
- 第12回 公債論
- 第13回 日本の社会保障制度
- 第14回 フィスカル・ポリシー
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

現実の経済や財政の動きに注意を向ける。

事前学修（週2時間）：次回の講義内容について予習する。

事後学修（週2時間）：これまでの講義内容を復習する。

【テキスト・教材】

随時、指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験：60%、平常点（授業への取り組み）：40%で評価する。

課題（理解度の確認）を提出し、その後、課題に対するフィードバックを行い、知識の定着を促す。

産業経済論

山本 匡毅

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

産業は皆さんの身近にある農業、製造業、サービス業などの総称です。産業を理解することは生活を豊かにするだけでなく、就職活動の業界研究にも使うことができます。

本講義では産業経済論のうち、産業立地論と産業構造論を扱います。授業の前半では産業がどこにでき、どのように変化していくのかを把握します。後半では都市や地域の産業がどのようなイノベーションを起こすのかについて解説します。

【授業における到達目標】

産業がどのような構成になっているのか理解する。産業が変化する仕組みを把握できる。このことを通じて、現代社会における行動力と深い洞察力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

1. イントロダクション：講義概要と進め方
2. 産業の捉え方：産業はどのようなものか？
3. 産業立地：工場はどこにできるのか？
4. 産業集積：産業が集まることのメリット
5. 産業クラスター：産業の競争力
6. 産業とイノベーション：産業がどのように変化するのか
7. 半導体産業：九州の展開
8. 航空宇宙産業：世界との競争
9. 医療機器産業：福島県の戦略
10. 医薬品産業：激化する競争
11. 都市の産業イノベーション（1）：東京の不動産業
12. 都市の産業イノベーション（2）：神戸の医療産業
13. 都市の産業イノベーション（3）：福岡のクリエイティブ産業
14. 産業政策の方向性：グローバル競争に向けて
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で板書されたことをノートにまとめ、不明点を図書館で調べ、復習すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

【テキスト】

山崎朗編著『地域産業のイノベーションシステム』（学芸出版社、2019年）2,700円

【プリント】

毎回の授業で、プリントも配付します。ただし教科書があることが前提となります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（50%）、レポート課題（20%）、平常点（リアクションペーパー30%）によって総合的に評価します。レポート課題については提出締め切り後の授業で、リアクションペーパーの質問は次の授業で、期末試験については最終回授業で解説を行ってフィードバックします。

【参考書】

鈴木洋太郎『国際産業立地論への招待』（新評論、2018年）2,592円

山崎朗編著『地域創生のデザイン』（中央経済社、2015年）2,592円

【注意事項】

- (1) 大幅な遅刻は減点とします。私語厳禁です。
- (2) 出席しないで単位修得することは困難です。
- (3) 毎日、産業経済に関する新聞記事を読みましょう。

産業心理学

松浦 常夫

3年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

卒業して会社等にはいると、様々な新しい出来事を職業人として皆さんは体験します。また、仕事を離れると皆さんは消費者として他の人々が生産した商品やサービスを楽しむ立場となります。この講義では働く者としての個人の行動を中心に、消費者としての行動も交えて、心理学的な観点から産業社会での行動を考えていきます。

【授業における到達目標】

会社などに就職してから退職するまでの仕事に関わる心理学的な諸問題を知り、それをある程度理解できるようになることが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関わりでは、「態度」の社会に対する広い視野の獲得、のぞましい価値観の探求ができるようになることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 就職と採用1 キャリアデザインと職業選択
- 第2回 就職と採用2 能力・パーソナリティと職業：職業適性
- 第3回 就職と採用3 企業の採用戦略
- 第4回 働く人の心と行動1 働く意欲
- 第5回 働く人の心と行動2 職務満足
- 第6回 働く人の心と行動3 キャリア発達と組織コミットメント
- 第7回 働く人の心と行動4 職場の人間関係：対人関係の社会心理学
- 第8回 働く人の心と行動5 職場のストレスと対処
- 第9回 働く人の心と行動6 職場の環境とプライバシー
- 第10回 企業と消費者1 広告戦略
- 第11回 企業と消費者2 広告表示
- 第12回 企業と消費者3 商品イメージ（ブランド）
- 第13回 企業と消費者4 消費者心理学（消費行動における心理過程）
- 第14回 企業と消費者5 消費者心理学2（商品・サービスの購入行動）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）
- 事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。
- 授業後の感想文の中に、他の学生にも紹介した方が
良い質問等があれば、次回に紹介・解説します。

【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合には、欠席扱いとすることがあります。

産業心理学

松浦 常夫

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

卒業して会社等にはいると、様々な新しい出来事を職業人として皆さんは体験します。また、仕事を離れると皆さんは消費者として他の人々が生産した商品やサービスを楽しむ立場となります。この講義では働く者としての個人の行動を中心に、消費者としての行動も交えて、心理学的な観点から産業社会での行動を考えていきます。

【授業における到達目標】

会社などに就職してから退職するまでの仕事に関わる心理学的な諸問題を知り、それをある程度理解できるようになることが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関わりでは、「態度」の社会に対する広い視野の獲得、のぞましい価値観の探求ができるようになることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 就職と採用1 キャリアデザインと職業選択
- 第2回 就職と採用2 能力・パーソナリティと職業：職業適性
- 第3回 就職と採用3 企業の採用戦略
- 第4回 働く人の心と行動1 働く意欲
- 第5回 働く人の心と行動2 職務満足
- 第6回 働く人の心と行動3 キャリア発達と組織コミットメント
- 第7回 働く人の心と行動4 職場の人間関係：対人関係の社会心理学
- 第8回 働く人の心と行動5 職場のストレスと対処
- 第9回 働く人の心と行動6 職場の環境とプライバシー
- 第10回 企業と消費者1 広告戦略
- 第11回 企業と消費者2 広告表示
- 第12回 企業と消費者3 商品イメージ（ブランド）
- 第13回 企業と消費者4 消費者心理学（消費行動における心理過程）
- 第14回 企業と消費者5 消費者心理学2（商品・サービスの購入行動）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）
- 事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。
- 授業後の感想文の中に、他の学生にも紹介した方が
良い質問等があれば、次回に紹介・解説します。

【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合には、欠席扱いとすることがあります。

産業組織論

身近に存在する企業の行動について理解を深める

野呂 純一

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

これまで学んできたマイクロ経済学についての基本的な理論と考え方について確認しながら、その応用として産業組織論に関する基礎的な理論や概念について学びます。

また、各種試験対策としてマイクロ経済学や産業組織論に関する練習問題も取り入れていくと同時に、リアクションペーパーに書いていただいた質問や意見を次回の授業の最初に解説することにより受講者の関心に合わせて授業を行ないます。

この授業を通して、皆さんの身近に存在する企業がどのように行動しているのかを学んで下さい。

【授業における到達目標】

この授業を通して、次の2点を目標とします。

1. 授業中の発言、ディスカッション、リアクションペーパーなどを利用して自分の考えを積極的に述べることで主体的に学ぶこと
2. 私達の身の回りに存在する企業や産業について経済学的視点から正しく把握し、課題を発見できる力を身に付けること

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 産業組織論とはどのような学問なのか？
- 第3週 産業組織論を学ぶための基礎知識について復習する
- 第4週 消費者はどのように行動しているのか？
- 第5週 企業はどのように行動しているのか？
- 第6週 市場と効率性について考える
- 第7週 企業が利潤を最大にするには？
- 第8週 前半のまとめと復習
- 第9週 産業組織論とゲーム理論の関係について知る
- 第10週 独占市場とはどのような市場なのか？
- 第11週 独占における基礎理論について学ぶ
- 第12週 寡占市場とはどのような市場なのか？
- 第13週 寡占における基礎理論について学ぶ
- 第14週 産業組織論の中で扱われる他のトピックについて知る
- 第15週 全体のまとめと復習

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容に関連するキーワード等について調べ、授業に臨んで下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業中に行った練習問題をもう一度解くと同時に授業中に紹介した参考文献や配布資料をよく読んで理解するようにして下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に指定せず、配布資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト（40%）、小テスト（20%）及び平常点（40%）で評価する予定です。平常点とは、授業への積極的な参加姿勢、授業後に提出して頂くリアクションペーパーの内容などです。

授業中に行う練習問題については、授業中、もしくは、次回の授業の最初にフィードバックを行い、試験結果については最終回の授業でフィードバックを行います。

【参考書】

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』（有斐閣アルマ）その他の参考書については授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

質問等は授業終了後、またはリアクションペーパー、メールにてお願いします。

受講生には開講時に質問用のメールアドレスをお知らせします。

算数

幼児・小学生が学ぶ算数の教材研究

渡辺 敏

1・2年 前期・後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

幼児の生活にある数や図形の経験と、その経験が小学校の算数にどのようにつながるかを学びます。その上で小学校算数科の各学年の指導内容を数学的活動を通して学び理解を深めます。

【授業における到達目標】

15回の授業を通じて数学的活動に取り組みます。敷き詰めを用いた模様作りでは対称性に着目した作品作りを行い、図形の美しさについて考えます。学習ではグループワークを取り入れ、協働して学び互いに意見を交流することで、自らの考えを磨き伸ばし高めめます。

【授業の内容】

- 第1週 幼児の体験する数と図形
- 第2週 1年生の算数的活動 数の理解 トランプの活動を通して
- 第3週 2年生の算数的活動 大きな数 アイス棒を数える
- 第4週 2年生の算数的活動 かけ算のきまり発見
- 第5週 3年生の算数的活動 ナンバーゲーム
- 第6週 3年生の算数的活動 平面図形のつくり方
- 第7週 4年生の算数的活動 折り紙を使った対称の図形
- 第8週 4年生の算数的活動 展開図の種類
- 第9週 4年生の算数的活動 展開図でアート
- 第10週 5年生の算数的活動 割合の考え方
- 第11週 5年生の算数的活動 割合でジュース作り
- 第12週 5年生の算数的活動 敷き詰め模様
- 第13週 6年生の算数的活動 立体図形の作り方
- 第14週 6年生の算数的活動 立体推理クイズ
- 第15週 6年生の算数的活動 一筆書き

【事前・事後学修】

【事前学修】前時の学習内容から児童の数や図形の理解について考えること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】自分が理解したことをノートを見て復習する事。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業後のレポート30%、課題作品50%、グループワーク20%等により評価する。レポートについてはコメントを入れてフィードバックします。課題作品については互いに見合い、その良さを評価し合います。

【参考書】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 日本文教出版 224円+税

【注意事項】

講義ではノートを使うので用意しておくこと。

子どもと英語 a**津田 ひろみ**

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

就学前児童の英語教育の基礎を学ぶ。児童の認知発達レベルを理解し、児童に相応しいアクティビティや教授法を考える。授業は基本的にグループワークやディスカッションを中心に進め、最終的にグループで模擬授業を実践し、互いにコメントして理解を深める。

【授業における到達目標】

児童英語指導法の基礎を学ぶことを通じて、国際的視野を身につけ国際化社会に生きる価値を見出し、知への探究心を深める。また、模擬授業などの実践を通じて、自ら課題を発見し解決する実践力と他者と協力して目標達成をめざす協働の力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション/自己紹介しよう
- 第2週 子どものための英語指導について考えよう
- 第3週 歌やチャンツを楽しもう/Mother Gooseの紹介
- 第4週 アルファベットに親しもう
- 第5週 フォニックスにチャレンジ
- 第6週 絵本を使った指導
- 第7週 異文化理解の指導
- 第8週 模擬授業の準備(担当決め)
- 第9週 模擬授業の準備(授業の流れ)
- 第10週 模擬授業の準備(発表の準備)
- 第11週 ゲストスピーカーによる講義
- 第12週 グループによる模擬授業(音声指導中心)
- 第13週 グループによる模擬授業(文字指導中心)
- 第14週 グループによる模擬授業(異文化理解指導中心)
- 第15週 復習とまとめ、教室英語の確認テスト

*授業の始めに教室英語の練習とMother Gooseの発表を行う

【事前・事後学修】

- ・事前学修(2時間程度)
 今回の内容について予習し、自分のアイディアを書く
- ・事後学修(2時間程度)
 前時の授業内容で学んだことを振り返り用紙に書く
 授業に必要な英語を復習・練習する

【テキスト・教材】

第1回目の授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業(20%)、最終課題(20%)、指導案(10%)、発表(20%)、毎回の課題(20%)、英語小テスト(10%)
 毎回の省察は次回の授業内に行う。

【参考書】

- 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』(文部科学省 2018)
- 『英語学習は早いほど良いのか』バトラー後藤裕子著(岩波新書 2015)
- 『小学校テーマで学ぶ英語活Book 1』町田淳子・瀧口優著(三友社出版 2010)

【注意事項】

外部講師による講義の日程は変更の可能性あり。後期の「子どもと英語 b」とは内容が異なるため、双方を受講することが望ましい。授業では積極的に発言し、内容理解を深めてほしい。

子どもと英語 b

Teaching English for Young Learners

津田 ひろみ

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

小学校中学年から高学年の児童の認知発達段階の特徴を理解し、各発達段階に適した指導に必要な基本的知識や技術を習得する。協働学習を採り入れた授業ではグループディスカッションを通して効果的な指導の方法を工夫し指導案を作成する。学修を通して小学生のための英語の授業を創造する能力を身に付けることに力を入れる。

【授業における到達目標】

児童英語指導法の基礎を学ぶことを通じて、国際的視野を身につけ国際化社会に生きる価値を見出し、知への探究心を深める。また、模擬授業などの実践を通じて、自ら課題を発見し解決する実践力と他者と協力しながら目標達成をめざす協働の力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨソ
- 第2週 児童英語指導の目的と目標（外国語活動と外国語科）
- 第3週 歌やチャンツを使ったインプット
- 第4週 語彙／絵本
- 第5週 音声と文字のつながり／フォニックス
- 第6週 異文化理解教育／CLIL
- 第7週 教科書研究（Let's try）
- 第8週 教科書研究（We can）
- 第9週 教科書に基づくミニ模擬授業
- 第10週 ゲストスピーカーによる講義
- 第11週 模擬授業準備（班分け、授業の流れ）
- 第12週 模擬授業準備（発表準備）
- 第13週 模擬授業（音声指導中心）
- 第14週 模擬授業（語彙指導中心）
- 第15週 模擬授業（異文化理解指導中心）

* 毎授業の始まりに5分間アクティビティを順番に発表する

【事前・事後学修】

- ・事前学修（2時間程度）
 今回の授業の予習をしてワークシートに書き込む
 自分の指導アイデアを書き込む
- ・事後学修（2時間程度）
 前時の授業で学んだことをワークシートに書き足す
 classroom Englishを練習する

【テキスト・教材】

小川隆夫他：小学校英語はじめる教科書[松香フォニックス、2017、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業(20%)、最終課題(20%)、指導案(10%)、発表(20%)、毎回の課題(20%)、5分間アクティビティ(10%)
 毎回の省察については、今回の授業内に行う。

【参考書】

- 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（2018、文部科学省）
- 『子どもの英語にどう向き合うか』鳥飼玖美子（2018、NHK出版）
- 『新編 小学校英語教育法入門』樋口忠彦他（2017、研究社）

【注意事項】

前期の「子どもと英語a」とは内容が異なるため、双方を受講することが望ましい。
 授業では積極的に発言し内容理解を深めてほしい。
 外部講師による講義の日程は変更の可能性がある。

子どもの食と栄養

川田 容子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

子どもにとって、食べることは 成長期の体を育てるとともに、心を育てる重要な意味を持つ。前期は栄養の基礎を学ぶと共に、子どもの食事の在り方や食生活の問題点について調査発表を通して考察し、乳児期の食について学ぶ。後期は、幼児期～思春期の食、食育の基本について子どもの成長発達をふまえ、演習や実習を交えながら学ぶ。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得することができる。

- ・子どもの発育、発達と食生活の関連について修得する。
- ・授乳期の栄養、乳児期の栄養、離乳食、幼児の発育、食育を修得し、適切な支援が出来るようになる。
- ・疾病や食物アレルギーなどの疾患に対する対応を取得し、適切な対応ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 子どもの健康と食生活の意義① 子どもの食の意味
- 第2回 子どもの健康と食生活の意義②
 健康・食生活の現状と課題 [ディスカッション発表]
- 第3回 子どもの健康と食生活の意義③ 体の成長発達とその評価
- 第4回 子どもの健康と食生活の意義④ 食べる機能の発達
- 第5回 乳児の心身の発育と栄養
- 第6回 [実習] 調乳法を実習する
- 第7回 離乳食の役割・離乳食の進め方
- 第8回 [実習] 離乳食の実際
- 第9回 [実習] 離乳食の実際
- 第10回 栄養に関する基本的知識① 3大栄養素
- 第11回 栄養に関する基本的知識② ビタミン・ミネラル
- 第12回 栄養に関する基本的知識③ 小児の食事摂取基準
- 第13回 胎児・妊娠期の生理と栄養
- 第14回 生涯発達と食生活
- 第15回 まとめ（単元テスト）
- 第16回 幼児期の心身の発達と食生活① 心身の発達
- 第17回 幼児期の心身の発達と食生活② 食の育ち
- 第18回 幼児期の心身の発達と食生活③ 食の課題と対応
- 第19回 幼児期の栄養① 栄養の特徴
- 第20回 幼児期の栄養② 食事計画 [グループワーク]
- 第21回 学童期の心身の発達と食生活
- 第22回 食育の基本① 幼児期における食育とは
- 第23回 食育の基本② 食育計画とその評価
- 第24回 食育の基本③ 食育指導案の作成 [グループワーク]
- 第25回 食育の基本④ 子どもへの食育の実際 [演習]
- 第26回 児童福祉施設における食事と栄養
- 第27回 障がいのある子どもへの対応
- 第28回 食物アレルギーの基本
- 第29回 食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第30回 まとめ（単元テスト）

【事前・事後学修】**【事前学修】**

レポート・発表等の課題に取り組むこと。
 (学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業・課題・実習の振り返りを行うこと。
 今回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。
 (学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

第2版 子どもの食と栄養演習書[医歯薬出版、2018、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 60%

平常点（授業への積極参加・提出課題）40%

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

保育所保育指針・幼稚園教育要領

授乳離乳の支援ガイド・食育計画作成ガイド

【注意事項】

保育士必須科目

子どもの保健 1 a

草川 功

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

保育の対象の理解に関する科目として以下を目標とする。

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の達について理解する。
3. 子どもの疾病とその予防法、適切な対応について理解する。

【授業における到達目標】

保育対象である子どもの成長、身体疾患を知り、保育者として適切に子どもに対応できる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション、子どもの保健の授業概要
2. 生物としてのヒトの成り立ち
3. こどもの発育
4. 生理機能の発達
5. 子どもの発達（運動機能）
6. 子どもの発達（精神機能）
7. 子どもを取り巻く生活環境と健康
8. 遺伝と健康
9. 子どもによく見られる症状
10. 知っておくべき対処法
11. 子どもの病気-1（乳幼児によく見られる疾患）
12. 子どもの病気-2（乳幼児の感染性疾患）
13. 子どもの病気-3（アレルギー疾患）
14. 子どもの病気の予防
15. まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

【テキスト・教材】

レジメを配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポート文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況と、課題毎のポイントの記載状況などで評価する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックする。

【参考書】

授業の間に適宜紹介

【注意事項】

新聞やニュースなどに注目し、世の中の出来事、特に子どもに関する事に対して、自ら興味・関心を深めること

子どもの保健1 b

草川 功

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

保育の対象の理解に関する科目として以下を目標とする。

- 1, 子どもの発達障害、心の問題、児童虐待について理解する。
- 2, 保育における環境及び衛生管理、並びに。安全・危機管理について理解する。
- 3, 子育て支援の必要性を学び、子育て中の親に対する包括的な支援を理解する。

【授業における到達目標】

保育対象である子どもの精神心理的問題の特性を理解し、保育者として子どもとともに保護者の相談支援ができる。

【授業の内容】

- 1、オリエンテーション
- 2、子どもの生活環境と精神保健
- 3、社会環境と精神保健
- 4、子どもの心の健康
- 5、発達障害
- 6、発達障害の対応
- 7、児童虐待
- 8、保育環境整備
- 9、保育現場の衛生管理
- 10、集団生活における危機管理
- 11、子どもの事故予防と対応
- 12、実習（異物除去・心肺蘇生）
- 13、小児保健、母子保健
- 14、子育て支援
- 15、まとめとレポート

【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

レジメを配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60％）平常点（授業態度、課題、小テスト、ショートレポート）（40％）

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。レポート文字数、字のバランス、丁寧さ等の記載状況、課題ごとのポイントの記載状況などで評価する。

【参考書】

授業の間に適宜紹介する。

【注意事項】

新聞やニュースなどの子どもに関する話題に注目し、自ら、子どもに関する興味・関心を幅広く持ち、そして、深めること。

子どもの保健2

保育と保健医療

塩川 宏郷

3年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

保育の実践において、子どもに起こりうる疾患や事故の特徴を理解することが重要である。本科目では、育児や保育の現場で発生するさまざまな保健医療に関する事柄について基本的な知識を講義し、実際の事例に即して自らがどのように考え行動・実践するかを学ぶ。

【授業における到達目標】

子どもの疾病やその予防、適切な対応について理解する。救急時や事故、安全管理について理解する。子供の心や行動に対するアプローチのしかた、保護者との連携について自らプランをたて実践することができる。

学生の習得すべき行動として、事例に基づいて情報を収集し自ら考える研鑽力、保育の実践において子どもや保護者に積極的に対応できる行動力、グループで課題に取り組む協働力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、子どもの保健の概要
- 第2週 子どもの発育・発達
- 第3週 自閉症
- 第4週 注意欠如多動症、その他の発達障害
- 第5週 子どものほめ方、叱り方、ことばかけ
- 第6週 環境調整、TEACCHプログラム
- 第7週 応用行動分析
- 第8週 障害のある子どもの保護者とのコミュニケーション
- 第9週 ペアレントプログラム、母子保健行政、感染症
- 第10週 慢性疾患、アレルギー
- 第11週 急性疾患、アナフィラキシー
- 第12週 子ども虐待
- 第13週 事故
- 第14週 途上国の子どもの心
- 第15週 まとめと総合討論

【事前・事後学修】

事前学修：子どもの保健1で学習した内容を授業テーマに沿って復讐する。学修時間週1時間

事後学修：授業で得られた考え方・知見について自分の考えとの違いを振り返り授業ノートを整理する。学修時間週1時間

【テキスト・教材】

特に定めない。必要に応じ授業の中で紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、授業中の討論参加など50%

討論のまとめは最終回に行う。試験のフィードバックはmanabaを通じて行う。

【参考書】

小林美由紀「子供の保健演習ノート 子育てパートナーが知っておきたいこと」診断と治療社

【注意事項】

演習形式を授業に取り入れるので、積極的に参加すること。

子ども理解とカウンセリング

塚原 拓馬

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

子どもと保護者を理解するために必要な知識と方法を学び、問題を抱える子どもの心理的側面の理解と対応方法や保護者への心理的支援の在り方について学ぶ。また、実際のカウンセリングについて、ロールプレイ等の技法を用いて実践的に習得していく。

【授業における到達目標】

発達的問題を抱える子どもの保護者への対応（親支援）や、カウンセリングにおける対象理解（子ども理解）の方法や知見を学修することを目標とします。そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、対象児（者）の問題を正しく把握し、心理的課題の解決に繋げることができる力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 子ども理解とカウンセリングについて
- 第2回 教育相談の理解①「ラポール形成」
- 第3回 教育相談の理解②「心理査定」
- 第4回 教育相談の理解③「心理面接」
- 第5回 子ども理解①「学習障害」
- 第6回 子ども理解②「注意欠陥多動性障害」
- 第7回 子ども理解③「広汎性発達障害」
- 第8回 子ども理解④「愛着障害」
- 第9回 子ども理解⑤「行動障害」
- 第10回 子ども理解⑥「その他の障害」特別講座
- 第11回 教育相談と技法①「行動療法」
- 第12回 教育相談と技法②「来談者中心療法」
- 第13回 教育相談と技法③「認知療法」
- 第14回 統合型心理療法：特別講座
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

各回について的小レポート作成およびレジメの作成に取り組むこと
(学修時間週2時間)

【事後学修】

各回について的小レポート復習およびレジメの復習に取り組むこと
(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

詳細は初回授業時に指示する。

- ・氏家寛他 1995「幼児保育とカウンセリングマインド」 ミネルヴァ書房 ¥2600+税
- ・大竹直子 2014「やさしく学べる保育カウンセリング」金子書房 ¥1800+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%

平常点（発表、ロールプレイでの習得度）50%

レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表、ロールプレイについては、各回において、テーマの解説を交えて、その都度フィードバックしていく。

【参考書】

- ・橋本 徹 2005（編著）子どもの理解とカウンセラー子育て支援に向けてー 株式会社みらい ¥2000+税

【注意事項】

発表やロールプレイなどの体験学習も取り入れていくため、積極的に授業に参加し、発言することが求められる。また、外部講師による特別講座も取り入れていく。

思想史研究 a

—ギリシア神話と芸術—

中村 友代

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

芸術作品の鑑賞や理解にとって、その作品の宗教的背景についての知識は欠かせません。この授業では、芸術作品に多くの題材を提供した神話や宗教思想のうち、とりわけギリシア神話について基本的な知識を獲得することを目指します。

教材には文献だけでなく、芸術作品や考古資料なども参照し、ギリシア神話が成立してから人々にどのように親しまれ、表現されてきたのかについても考えます。

【授業における到達目標】

1. 芸術作品の背景にある神話や宗教思想を知り、作品をより深く広い視点から捉えることが出来るようになること
2. 多様性を受容し多角的な視点をもって世界に臨もうとする国際的な視野を身に着けること
3. そして物事の真理を探究して知を求める態度を身につけること

【授業の内容】

1. イントロダクション
2. 神々の誕生
3. オリュンポスの十二神
4. パンドラ 女性は災いをもたらすのか？
5. アルゴナウタイ 金毛の羊をめぐる冒険
6. ペルセウスの怪物退治
7. ヘラクレスの十二功業
8. オイディプスの悲劇
9. ミノス王の神話
10. テセウスの成長と功業
11. トロイア戦争1 『イリアス』まで
12. トロイア戦争2 『イリアス』以後から帰還まで
13. オデュッセウスの放浪
14. 変身物語
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内で配布する資料や教科書を読んで内容を把握し、分からない点についてあらかじめ調べておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業ノートに目を通して講義内容を復習するとともに、理解が不十分な点や疑問に感じた点について調べる。授業内で指示する課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

高津春繁：アポロドーロス ギリシア神話[岩波文庫、1978、¥720(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点(授業態度、リアクション・ペーパー、小課題)40%。フィードバックは授業内で適宜行ないます。

【参考書】

松平千秋訳『ホメロス イリアス(上)(下)』(岩波文庫)

上記のほか、授業内で適宜示します。

【注意事項】

授業に関連の深いテーマの展覧会の見学を課す場合があります。その場合の費用は全額自己負担となります。

思想史研究 b

—聖書と西洋美術史—

久保寺 紀江

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

本講義の目的は、聖書を通じ、西洋美術史や西欧文化をより深く理解することです。西洋美術の作品は、一見その意味がわかりにくいことも多くあります。そんなとき、それらの作品は、聖書や神話を基盤とした物語であることも多いものです。聖書がわかると西欧の美術がわかる、そんな体験をしていただくのが、この講義です。聖書の中から知っておきたい重要人物や美術に多く取り上げられてきたエピソードを、絵画や彫刻を通じて学びましょう。

聖書により身近に接すれば、絵画や彫刻のメッセージがはつきり聞こえるようになります。聖書を知ることで西洋美術史は豊かで楽しい学問であると実感していただけることでしょう。

【授業における到達目標】

聖書に登場する主要人物やよく知られたエピソードなどについての知識を得ることができる。

聖書に関する絵画や彫刻を目にしたとき、その意味や内容がわかるようになる。

キリスト教の正典である聖書を学ぶことにより、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通じ、相互の深い理解につなげる能力を身につけられる。

【授業の内容】

1. はじめに(聖書の歴史と成り立ち)
2. 旧約聖書(天地創造、アダムとエヴァ、ノアの方舟)
3. 旧約聖書(アブラハム、ヤコブ)
4. 旧約聖書(モーセ、出エジプト)
5. 旧約聖書(ダヴィデ)
6. 旧約聖書(外典に登場する聖人など)
7. 聖母の物語1(アンナとヨアキム)
8. 聖母の物語2(聖母の生涯)
9. 聖母の図像学
10. 新約聖書(イエスの誕生と幼少時代)
11. 新約聖書(イエスの洗礼、奇跡の数々)
12. 新約聖書(イエスの受難)
13. 新約聖書(イエスの磔刑、復活)
14. 十二使徒と聖人たち
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】今回の授業内容に関連する聖書の箇所を読んでおいてください。また、疑問点について、出来る範囲で調べてみましょう。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義で紹介した作品について、再度聖書等の該当箇所を読み直してください。テキストと美術表現を比較考察してみてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業で資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、授業内での確認テストや参加状況(Manaba Responのコメント機能を利用)50%

課題提出後に授業内でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)授業でも適宜紹介します。

【注意事項】

授業で関連のあるテーマの展覧会等の見学を行う場合があります。その際は、観覧料等が必要となります。

詩歌の世界

近代詩から現代詩へ

宮木 孝子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

詩の日本における歴史を知って、今、親しんでいる詩をあらためて味わってもらいたい。明治という新時代に生まれた詩が、明治・大正・昭和の時代の詩人たちによって、現代まで継承された詩語としての日本語の魅力を作品を通して、考察する。

【授業における到達目標】

近代詩の授業を通して、日本語の響き、意味の豊かさを知り、「国際的視野」「美の探求」といった態度志向を養うことを目的とする。受講生各自の日常語の「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

1. 授業の進め方・音読・調子・リズムについて
2. 新体詩の時代
3. 浪漫主義・自我の詩 恋愛という思想 北村透谷
4. 島崎藤村の作品
5. 与謝野晶子の作品
6. 象徴詩『海潮音』の詩と反響
7. 北原白秋と三木露風
8. 詩歌と近代美術
9. 高村光太郎・口語詩の時代
10. 高村光太郎・萩原朔太郎
11. 萩原朔太郎『氷島』口語と文語
12. 宮沢賢治と草野心平
13. 昭和詩 1
14. 昭和詩 2
15. まとめ：グループディスカッション

【事前・事後学修】

事前：指定された作品を音読する。基本的な語句を辞典で調べる。

できれば、質問を用意する。 週2時間

事後：授業中に得た知識を入れて、復習する。 週2時間

【テキスト・教材】

山田有策：日本の詩歌[学術出版社、1999、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験レポート(80%)と、毎回提出するコメントシート(20%)の総合点。

フィードバックは、コメントシートを読み、適宜行います。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【注意事項】

私語禁止。音読は、詩を理解する大切な要素であることを意識して下さい。

児童・生徒栄養教育論（１）

白尾 美佳

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

児童生徒の食生活の乱れが深刻化していることから、学校における食に関する指導を充実させる必要がある。そこで、児童生徒が望ましい食習慣を身につけられるような専門性と資質を有した栄養教諭の育成を目指す。

【授業における到達目標】

栄養教諭としての資質を修得し、学校給食の時間における食に関する指導ができることを到達目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、履修カルテについて
- 第2週 栄養教諭の資質について（KJ法）
- 第3週 栄養教諭の職務内容について
- 第4週 児童生徒の食に関する実態、食育基本法、食育推進基本計画について
- 第5週 栄養教諭の指導内容について
- 第6週 学校給食法と食育
- 第7週 食に関する指導体制
- 第8週 学校給食時の食育指導について
- 第9週 教材の種類と作成
- 第10週 教材の作成演習
- 第11週 学校給食時の食育指導
- 第12週 学校給食時の食育指導の相互評価
- 第13週 学校、家庭、地域が連携した食育の推進
- 第14週 食品の生産過程に関する実践演習
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 一般常識を身につけておくこと
学校給食時の指導のための学習指導案の作成
教材の準備
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 自己評価、相互評価の結果をまとめる
模擬授業以外の学習指導案を作成する
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

藤沢良知 他：よくわかる栄養教諭 第二版[同文書院、2016、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業等40%、提出物20%、授業内試験20%、食育に対する姿勢20%による評価を行う。模擬授業に関するフィードバックは評価表を返却します。

【参考書】

小学校教科書『わたしたちの家庭科』（開隆堂）2017年発行 274円
中学校教科書『技術・家庭（家庭分野）』（開隆堂）2017年発行 646円

【注意事項】

- ・本教科が履修できない場合は教育実習を行うことができません。
- ・食育指導ならび「学校・家庭・地域が連携した食育の推進」には授業時間外並びに休み期間に学外にて実施することがあります。
- ・授業には外部講師を招く場合があります。
- ・授業内容が前後することがあります。
- ・学校における食育指導時の給食費などについては実費を支払う必要性があります。
- ・教材作成費は原則実費です。

児童・生徒栄養教育論（２）

白尾 美佳

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

栄養教諭が実施する食育指導についての理論や方法を講義や演習を通して学ぶ。特に、栄養教諭が行う食に関する全体指導、教科・特別活動等における教育指導、校内並びに家庭・地域と連携した指導が円滑に行えるような方法を身につける。

【授業における到達目標】

栄養教諭としての資質の向上を目指すとともに、学校における食に関する指導を実施することができる能力を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 食育指導の目的と意義
- 第2週 子どもにおける食育の必要性
- 第3週 模擬授業について
- 第4週 学習指導案について
- 第5週 児童生徒の実態調査について
- 第6週 教材について
- 第7週 教材研究
- 第8週 板書計画
- 第9週 ICTを活用した授業の展開
- 第10週 特別活動における模擬授業および相互評価
- 第11週 総合的な学習の時間における模擬授業および相互評価
- 第12週 各教科における模擬授業および相互評価
- 第13週 地域と連携した食育支援
- 第14週 学校と連携した食育支援
- 第15週 食品の生産過程における実践演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 学習指導案の作成、教材の準備（学修時間 週2時間）

【事後学修】 模擬授業等の自己評価、相互評価の結果を集計してまとめる。指導案の訂正と模擬授業の見直しを行う。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領[東京書籍、¥217(税抜)]
文部科学省：中学校学習指導要領[東京書籍、¥220(税抜)]
わたしたちの家庭科[開隆堂、2017、¥274(税抜)]
技術・家庭（家庭分野）[開隆堂、2017、¥646(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教材・指導案などの提出物30%、模擬授業40%、授業内試験30%
各模擬授業時に口頭ならびに評価表を返却することでフィードバックを行う。

【参考書】

・藤沢良知 他編『よくわかる栄養教諭 第二版』（同文書院）
2016年発行 2,268円

【注意事項】

- ・食品の生産過程における実践演習や食育指導支援は授業時間以外や休み期間中に学外にて実施することがあります。
- ・授業内で外部講師を招く場合があります。
- ・食育指導時に実費（給食費等）を徴収することがあります。
- ・授業内容が前後することがあります。

児童サービス論

児童資料と児童に対する図書館サービス

須賀 千絵

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

子どもにとっての読書の重要性を示したうえで、さまざまな児童資料の種類と特性、図書館の児童サービスの意義とその方法について論じる。本講義では、図書館で長年子どもに手渡されてきた基本的な児童資料を実際に手に取って読むことを通し、資料の特質と評価の観点について学ぶと共に、受講生全員が読み聞かせを行う時間を設定し、実践的な力の習得をめざす。

【授業における到達目標】

①図書館で扱われている児童資料の種類とそれぞれの特質について理解する。②児童資料を評価し、図書館が所蔵すべき資料を選んで、その判断の根拠を説明できる。③子どもの読書をめぐる現在の社会状況をふまえたうえで、公共図書館における児童サービスの位置づけを理解し、説明することができる。④公共図書館で実践されている児童サービスの方法や技術について学び、実践することができる。⑤地域社会での子どもの成長に資するために、図書館が外部機関と連携する重要性について理解し、説明することができる。

【授業の内容】

- 第1回 講義の目的と内容の解説、子どもの発達・生活と読書
- 第2回 児童資料の種類と特性
- 第3回 昔話、その他の伝承文学
- 第4回 絵本(1) 赤ちゃん絵本とやさしいストーリーのある絵本
- 第5回 絵本(2) 物語の世界を楽しむ絵本
- 第6回 児童文学
- 第7回 ノンフィクション、図書以外の資料（紙芝居、web等）
- 第8回 レファレンス資料
- 第9回 児童サービスの歴史
- 第10回 読み聞かせとストーリーテリング
- 第11回 読み聞かせ（実習）
- 第12回 カウンターでの日常業務とフロアワーク
- 第13回 ブックトーク、子どものためのプログラム（科学あそび）（実習）
- 第14回 乳幼児サービス、ヤングアダルトサービス
- 第15回 地域の関連機関との連携、子どもの読書に関わる政策

【事前・事後学修】

事前学修（週1時間）：事前配布資料やテキストの指定箇所を読む。（学修時間 週1時間）事後学修（週3時間）：①配布資料に基づき、講義の内容を復習する。そのうえで課題レポートに向け、個々の関心に応じた関連資料を読む。②授業で紹介した本を中心になるべく多くの本を読む。③読み聞かせの実践のための本を選び、事前に声に出して練習をする。④図書館の児童室を訪問し、児童室の環境整備、日常的なサービスの様子を観察する。

【テキスト・教材】

堀川照代：児童サービス論（JLA図書館情報学シリーズ第3期）〔本図書館協会、2014、¥1,900(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート（2回）30%、読み聞かせの発表と小レポート（1回）計30%、授業への貢献度（発言、受講態度）40%を総合的に評価する。レポートは評価を行い返却する。

【参考書】

- 東京子ども図書館編『絵本の庭へ 児童図書館基本蔵書目録1』（東京子ども図書館 2012年）3,600円
- 東京子ども図書館編『物語の森へ 児童図書館基本蔵書目録2』（東京子ども図書館 2017年）3,600円
- キラキラ読書クラブ編『キラキラ子どもブックガイド』（玉川大学出版部 2012年）1,600円
- 東京・学校図書館スタンプラリー実行委員会編著『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』（ペリかん社 2017年）1,500円

児童家庭福祉論

大澤 朋子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

児童家庭福祉は、すべての子どもが、安全な環境で安心して生きていける社会を作るためにある。子どもはひとりで生きているのではなく、家族や社会に護られて生きている。しかしただ保護の対象であるだけでなく、権利の主体でもある。しかしながら、現実には子どもの権利を侵害し、安心安全な生活を阻害する様々な問題が生じている。児童家庭福祉論では、子どもと家族をとりまく多様な問題を取り上げながら、児童家庭福祉が必要な背景、制度、資源などについて学ぶ。

【授業における到達目標】

子どもと家族をとりまく現状、児童家庭福祉の歴史の変遷を理解する。児童家庭福祉の動向、現行制度、社会資源等に関する基礎的な知識を修得し、今後の展望について理解する。子どもの人権思想とその擁護のしくみを理解する。すべての子どもの福祉と、特別なニーズをもつ子ども・家族のニーズ、その支援について理解する。

【授業の内容】

- (1) オリエンテーション・児童家庭福祉の理念と概念
- (2) 家庭をとりまく状況
- (3) 児童家庭福祉の歴史
- (4) 児童虐待と社会的養護
- (5) 児童福祉施設の役割と機能
- (6) 保育問題と保育サービス
- (7) 子育て支援
- (8) 児童家庭福祉の法制度と行政のしくみ
- (9) 児童家庭福祉の財政と実施機関
- (10) 児童家庭福祉の専門職（外部講師）
- (11) 健全育成サービス
- (12) 母子保健サービス
- (13) 特別な支援を必要とする子ども（1）障害児福祉サービス
- (14) 特別な支援を必要とする子ども（2）非行少年への対応
- (15) 課題フィードバック・まとめ

【事前・事後学修】

事前：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間週2時間）

事後：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

福田公教・山縣文治：新ブリマーズ／保育／福祉 児童科低福祉（第5版）[ミネルヴァ書房、2017、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加）20%、中間レポート20% 試験60%
最終回で試験のフィードバックを行う。

児童教育法

子どもを見つめ、学ぶことと教えること、発達と支援を考える

南雲 成二・渡辺 敏・津田 ひろみ

2年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

（概要）保育者・教育者としての基礎を培い、3年次に行われる小学校教育実習と幼稚園教育実習の基盤となる教師力（児童理解力・児童支援力）を育成することが本講座の目的である。

（目標）保育・療育・教育の三観点から児童を見つめ、教師としての支援・指導の基礎力を養うことが目標である。能力・発達・学習を中心に一人ひとりの児童の実態と成長課題を把握すること。保幼小中連携の実践課題も理解しながら、初等教育において6歳児から13歳児までの学びと成長をどのように守り、支援し、伸ばさせていくのかを追求する。具体的な学習内容の系統や、学習心理に関する基礎的理解を深めながら、児童の発達・成長支援に関わる基礎的な事柄（児童教育法）を学びとることができる。

【授業における到達目標】

授業の中では、実際の教育現場の観察やボランティア活動を通して、児童理解の方法を学びます。また、協働して学んだことをディスカッションすることで、自身の児童の見方を磨き、高めることをねらいとします。30回の学習を通して、自分の目指す教師像を再構築し、児童理解の方法の基礎を確かなものとしたうえで教育実習に生かせるようにします。また、外国語教育についての理解と実践を学ぶことでコミュニケーション力を身に付けます。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス。シラバスに基づき学習の見直しを持つ
- 第2回 小学校と児童（学びの主体としての子ども）と教師
- 第3回 母校HP訪問：特色ある教育活動と児童の学習の実際
- 第4回 児童観・子ども観の変遷～日本教育史の窓から～
- 第5回 児童観・子ども観の変遷～世界教育史の窓から～
- 第6回 教育法規（教育小六法）と子ども・学校・社会・地域
- 第7回 小学1年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第8回 小学2年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第9回 小学3年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第10回 小学4年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第11回 小学5年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第12回 小学6年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第13回 「総合的な学習」や「体験学習」と児童の学びの実際
- 第14回 学級担任力・学年学校担任力と児童指導・支援力
- 第15回 前期授業（学習）のまとめと、今後の課題レポート
- 第16回 後期ガイダンス（幼保小連関・小中高連関含む）
- 第17回 低学年の児童理解のための観察
- 第18回 低学年の指導（教師の指導に着目して）
- 第19回 高学年の児童理解のための観察
- 第20回 高学年の指導（教師の指導に着目して）
- 第21回 児童の認知発達に見合った英語指導方法
- 第22回 絵本の紹介とローマ字と文字指導について
- 第23回 マザー・グース、歌・チャンツの紹介
- 第24回 「教科書による異文化理解教育について」グループ研究
- 第25回 「異文化理解」をめざした模擬授業
- 第26回 児童理解のための観察
（指導の難しい低学年児童に着目して）
- 第27回 児童理解のための観察
（指導の難しい高学年児童に着目して）
- 第28回 特別に支援が必要な児童の実態についての話し合い
- 第29回 特別に支援が必要な児童の指導
- 第30回 介護等体験に向けての指導

【事前・事後学修】

【事前学修】小1～小6各学年の学びを教育課程と教育方法との相互関連で探究する。地域社会との関連を押さえながら、「幼保小関連・小中関連」を視野に考察を深める。レポート・小論文・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間週 2時間）

【事後学修】発表・レポート・資料等を復習すること。次回の授業範囲（テーマ）を予習し、教育実践・児童理解支援の見通しを持つようにする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

全国特別支援学校長会：介護等体験ガイドブック・フィリア[ジアース教育新社、2016、¥1,200(税抜)]
文部科学省：幼稚園教育要領解説[フレーベル館、2018、¥240(税抜)]
小学校学習指導要領（平成29年告示）外国語活動・外国語編[開隆堂出版、2018、¥128(税抜)]
市川須美子他：教育小六法[学陽書房、2017、¥2,700(税抜)]
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：評価基準の作成、評価方法等の改善のための参考資料[教育出版、2011、¥297(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加、課題への取り組み）60%、小学校授業参観や学校教育活動への取組、事前・事後レポート40%で総合的に評価。事前・事後レポートには教員からコメントを伝えフィードバックします。

【参考書】

☆子ども観・児童観を学習する上で欠かせない文献を適宜紹介。（例：東洋、大村はま、波多野完治、河合隼雄、岡本夏木 等）
☆文部科学省「初等中等教育局教育課程企画室」の情報を中心にHPに掲載される主な関連記事をテキストとして活用。
☆「初等教育南雲実践35年の歩み」の中から、児童と学級・学年経営、児童と教科指導・教科外指導、児童理解と児童支援等必要に応じて参考資料化。

【注意事項】

☆出身小学校HPと文科省HPを月一回視聴し、要所を理解すること。特に「学校便り」「学年便り」「保健室便り」「給食便り」「PTA便り」等を継続的に見聞きし、母校の状況をよく知ることを通して、現在進行形の小学校教育・児童の実態を理解し探究する。

児童図書館サービス論 a

児童資料の種類と特性

須賀 千絵

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

公共図書館での児童サービスでは、絵本、物語、知識の本など、多様な資料が用いられる。本講義では、図書館で長年子どもに手渡されてきた基本的な児童資料を、実際に手に取って読むことを通して、さまざまな資料の特質と評価の観点について学ぶ。

【授業における到達目標】

①図書館で扱われている児童資料の種類とそれぞれの特徴について理解する。②児童資料を評価し、図書館が所蔵すべき資料を選び、その判断の根拠について説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（講義の概要と学習方法）、子どもを取り巻く社会の動き、子どものメディア利用
 第2回 子どもの発達・生活と読書
 第3回 児童資料の種類
 第4回 昔話、その他の伝承文学
 第5回 絵本(1) 赤ちゃん絵本、やさしいストーリーのある絵本
 第6回 絵本(2) 物語の世界を楽しむ絵本
 第7回 絵本(3) 絵本の読み比べ
 第8回 児童文学(1) 幼年～中学年向き読みもの
 第9回 児童文学(2) 高学年～中学生向き読みもの
 第10回 児童文学からヤングアダルト文学へ、[グループ内で絵本の読み比べの結果を発表]
 第11回 ノンフィクション
 第12回 レファレンス資料、[子供向け百科事典を使用したグループワーク]
 第13回 ブックリストと展示
 第14回 図書以外の資料（紙芝居、web等）
 第15回 まとめ、[ブックリスト・コンクール]

【事前・事後学修】

事前学修（週1時間）：テキストの指定箇所を読み、内容を把握したうえで、授業に出席する。
 事後学修（週3時間）：① 授業時に紹介した本を中心に、なるべく多くの子どもの本を手にとって読む。② 複数の公共図書館の児童室を訪問し、置かれている本、展示、提供されているブックリストなどを観察する。③ ①と②を通して、絵本の読み比べやブックリスト作成の課題でとりあげる本を選ぶ。

【テキスト・教材】

堀川照代：児童サービス論[日本図書館協会、2014、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート（2回）計35%、子ども向けブックリストの作成25%、授業への貢献度（発言・リアクションペーパーの内容、受講態度）40%を総合的に評価する。レポート、ブックリスト、リアクションペーパーの内容は、授業の中で共有し、教員からコメントを加えるなどのフィードバックを行う。

【参考書】

- 東京子ども図書館編『絵本の庭へ 児童図書館基本蔵書目録1』（東京子ども図書館 2012年）3,600円
 東京子ども図書館編『物語の森へ 児童図書館基本蔵書目録2』（東京子ども図書館 2017年）3,600円
 キラキラ読書クラブ編『キラキラ子どもブックガイド』（玉川大学出版部 2012年）1,600円
 東京・学校図書館スタンブラリー実行委員会編著『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』（ぺりかん社 2017年）1,500円

児童図書館サービス論 b

図書館における児童サービスの活動と運営

須賀 千絵

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

子どもにとっての読書の重要性を示したうえで、子どもに本や情報を提供する公共図書館の児童サービスの意義について論じる。そのうえで、子どもと本を結び付けるために図書館で実践されているさまざまな方法、子どもの読書を推進するための政策、外部機関との連携のあり方などについて学ぶ。また講義と並行して、全員が読み聞かせとストーリーテリングを行う時間を設定し、子どもに本を手渡す実践的な力の習得をめざす。

【授業における到達目標】

①子どもの読書をめぐる現在の社会状況をふまえたうえで、公共図書館における児童サービスの位置づけについて理解し、説明することができる。②子どもと本を結び付ける方法や技術について学び、実践することができる。③地域社会での子どもの成長に資するために、図書館が外部機関と連携する重要性について理解し、説明することができる。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（講義の概要と学習方法）児童サービスの意義
 第2回 児童サービスの歴史
 第3回 資料提供サービス、情報サービス
 第4回 フロアワーク、読み聞かせ
 第5回 ブックトーク
 第6回 読み聞かせの実習
 第7回 ストーリーテリング、子どもと本をつなぐ工夫
 ＊元公共図書館員によるストーリーテリングの実演と講義
 第8回 子どものためのプログラム（科学あそびの実習）
 第9回 児童のための施設と設備、ストーリーテリングの発表(1)
 第10回 乳幼児サービス、ストーリーテリングの発表(2)
 第11回 ヤングアダルトサービス、ストーリーテリングの発表(3)
 第12回 特別支援の必要な子どもたちへのサービス、ストーリーテリングの発表(4)
 第13回 学校・学校図書館への支援と連携・協力、ストーリーテリングの発表(5)
 第14回 子どもの読書活動の推進と公共図書館
 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：①テキストの指定箇所を読み、内容を把握したうえで、授業に出席する。②読み聞かせやストーリーテリングの実習で取り上げる本やおはなしを選び、事前に声に出して練習をする。
 事後学修（週2時間）：①講義の内容を復習し、関連文献を読む。②図書館の児童室を訪問し、児童室の設備、日常的なサービスの様子を観察する。

【テキスト・教材】

堀川照代編著『児童サービス論』（日本図書館協会 2014年）（JLA図書館情報学シリーズ第3期）1,900円
 このほかに授業の内容に沿って資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート（2回）各20%、ストーリーテリング発表(1回)と小レポート(4～5回)計 40%、授業への貢献度20%を総合的に評価する。レポートは評価を行い返却する。講義のリアクションペーパーの内容は次回の講義で共有し、疑問点については回答する。

【参考書】

- 脇明子・小幡章子著『自分を育てる読書のために』（岩波書店 2011年）品切、東京子ども図書館編『お話のリスト』新装版（東京子ども図書館 2014年）1,200円

【注意事項】

ストーリーテリングの発表のスケジュールは、履修者数に応じて調整する。

児童文学入門

「昔ばなし」から「児童文学」へ

中川 理恵子

1年～ 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

「昔ばなし」「おとぎばなし」「童話」をキーワードに、日本児童文学の始まりを概観します。

初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」の特徴を学び、子どもの物語受容について考察します。次に、日本で初めて子どもに向けて物語が創作された時に注目し、子どもと文学の関係について考察します。

現代の児童文学を考察するために必要な知識や考え方を得ることが目的です。

【授業における到達目標】

口承文芸である昔ばなしの基礎知識を修得する。

日本児童文学黎明期についての基礎知識を修得する。

これらを修得することにより、児童文学を学ぶ楽しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。

児童文学作品や、児童文学に関する資料を読むことを通じ、人文・社会・自然の中に価値を見いだし、感受性を深める機会となる。

【授業の内容】

- 第1週 児童文学とは何か
- 第2週 子どもと昔ばなし
- 第3週 昔ばなしの特徴
- 第4週 「白雪姫」をめぐる
- 第5週 昔ばなし絵本について
- 第6週 子ども読者の誕生
- 第7週 学校制度と子ども読み物
- 第8週 巖谷小波について
- 第9週 「こがねまる」について
- 第10週 おとぎばなしの特徴
- 第11週 明治期の児童雑誌について
- 第12週 小川未明の登場
- 第13週 作家の子ども観と児童文学
- 第14週 まとめと確認
- 第15週 確認事項解説

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を読み進めること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義の復習を兼ねてノートの整理をする。ノートは試験時に確認する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

桑原三郎・千葉俊二編：日本児童文学名作集（上）[岩波文庫、1994、¥693(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（80%）授業参加状況（試験解答状況、試験時にノートで確認）と提出課題（20%）

15回目の授業で試験解答解説を行う。

【参考書】

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集（下）』（岩波文庫）740円＋税
小澤俊夫著『昔ばなし大学ハンドブック』（npo読書サポート）1600円＋税

【注意事項】

昔ばなしについては、映像資料を使用します。

講義内に作品講読の時間をとり、感想等を提出してもらおうことがあります。

児童文学論b

「童話」から「児童文学」へ

中川 理恵子

2年～ 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

現代の子ども達にも読み継がれている大正期以降の児童文学を、歴史をたどりながら講読します。特に、それぞれの作品において、子どもがどのように描かれているのか、それはなぜか、という点に注目し時代や作家の特徴を捉えていきます。

児童文学の課題や可能性を考察するために必要な知識や考え方を学びます。

【授業における到達目標】

日本児童文学（大正期から昭和初期）についての基礎知識を修得することにより、児童文学を学ぶ楽しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。児童文学作品、または児童文学に関する資料を講読することで、人文・社会・自然の中に価値を見いだし、感受性を深める態度を得る機会となる。

【授業の内容】

- 第1週 児童文学とはなにか
- 第2週 「お伽噺」から「童話」へ
- 第3週 雑誌「赤い鳥」の発刊～鈴木三重吉の仕事
- 第4週 芥川龍之介の児童文学
- 第5週 芥川龍之介について
- 第6週 有島武郎の児童文学
- 第7週 有島武郎について
- 第8週 雑誌「赤い鳥」まとめ
- 第9週 千葉県三の児童文学
- 第10週 千葉県三について 大衆児童文学の流れ
- 第11週 昭和前期の〈児童文学〉（1）坪田譲治の作品
- 第12週 昭和前期の〈児童文学〉（1）坪田譲治について
- 第13週 「童話」から「児童文学」へ
- 第14週 まとめと確認
- 第15週 確認事項解説

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を読み進めること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義の復習を兼ねてノートの整理をする。ノートは試験時に確認する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

桑原三郎・千葉俊二編：日本児童文学名作集（下）[岩波文庫、1994、¥735(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 80% 授業参加状況（試験解答状況、試験時にノートにより確認）と提出課題 20%

15回目の授業で試験の解答を解説する。

【参考書】

桑原三郎・千葉俊二編 『日本児童文学名作集（上）』 岩波文庫 693円

【注意事項】

講義内に作品講読の時間をとり、感想を提出してもらおうことがあります。

時事英語演習

国際的な教養と知識

宮上 久仁子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、グローバル化社会で議論されている問題を幅広く取り上げていきます。たとえば一般の新聞を開くと、さまざまな問題が扱われているように、時事問題とは、実は遠い世界の出来事ではなく、日常生活に関わりのある事柄です。この授業が、世界は多様な価値観から成り立っているとの認識を得て、国際的で多角的な視野を持つ、ひとつの機会となれば幸いです。

【授業における到達目標】

実際の英字新聞やニュース記事を読むために、必要な関連語彙を習得します。単語の定着度を自ら確認するためにも、その度合いをはかる単語の小テストを毎授業時に行います。また、記事に取り上げられている内容そのものへの関心を深めるために、背景知識も学習し、国際情勢理解に必要とされる知識を獲得します。将来的にも異文化や国際問題を積極的に理解しようとする姿勢を持ち、それと同時に日本の文化や日本ならではの精神性を振り返って、「国際的であること」を自分の言葉で語れるようにしたいと思います。

【授業の内容】

- 第1週 導入：時事英語の構成と学習における重要項目について
- 第2週 社会問題1：少子高齢化
- 第3週 社会問題2：女性の社会進出
- 第4週 社会問題3：夫婦別姓
- 第5週 国際協力1：国連の仕組みと役割
- 第6週 国際協力2：貧困問題と国際支援
- 第7週 国際協力3：食糧不足とその対策
- 第8週 環境問題1：再生可能エネルギー
- 第9週 環境問題2：生物多様性と環境保護
- 第10週 環境問題3：エコツーリズム
- 第11週 科学技術1：遺伝子組み換え作物
- 第12週 科学技術2：ロボット工学と人工知能
- 第13週 教育文化1：世界遺産とユネスコ
- 第14週 教育文化2：識字率と世界の教育事情
- 第15週 まとめ：諸問題の関連性とグローバル化社会について

【事前・事後学修】

事前学修について：個々の問題を理解するための関連資料と、資料読み取りを補助する設問を付記したプリントを事前に配布しますので、設問解答作成を行ってください。（学修時間：週1時間）

事後学修について：授業で説明された背景知識や重要理解項目をおさえて、再び英文本文をよく読み、内容と単語を結び付けて理解を定着させてください（学修時間：週2時間）

国際情勢理解に必要な単語や熟語等の語彙を習得してください。（学修時間：週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、テキスト購入の必要はありません。教材については、初回授業時に説明します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価について：毎回の授業時に行われる単語習得定着の小テストが80%、事前の資料作成・授業時の発表や参加態度が20%として評価します。

フィードバックについて：定着度をはかる単語小テストについては次回授業時に行います。資料設問作成については、当日の授業で行います。発表については、その都度行います。

時事英語演習

英語で世界のニュースを知る

砂田 緑

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、世界のニュースを英語で聞いたり読んだりすることで、英語の運用能力を向上させるとともに、世界のニュースに関心を持つ姿勢を養います。

テキストを読むだけでなく、自ら英語のニュースを探し、読んだり観たりし、それを人と共有していくことで、深い理解を促します。

【授業における到達目標】

英語でニュースを読んだり聴いたりすることで、リスニング力やリーディング力の向上、関連する語彙の習得を目的とします。さらに、ニュースに関心を持ち、自ら英語でニュースを読んだりする機会を増やしていき、国際情勢に興味を持ち、国際的な視野を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション・Topic 1・課題①
- 第2回 Topic 2・課題①
- 第3回 Topic 3・課題②
- 第4回 Topic 4・課題②
- 第5回 Topic 5・課題③
- 第6回 Topic 6・課題③
- 第7回 Topic 1～6のまとめ・発表準備
- 第8回 グループ発表
- 第9回 Topic 7・課題④
- 第10回 Topic 8・課題④
- 第11回 Topic 9・課題⑤
- 第12回 Topic 10・課題⑤
- 第13回 Topic 11・課題⑥
- 第14回 Topic 12・課題⑥
- 第15回 グループ発表

【事前・事後学修】

授業の前にテキストの予習をしてください。（週1時間）

復習として、本文の復習をしてください。（週1時間）

各自で英語のニュースを探し、内容をまとめるという課題を出します。英語でニュースを読む習慣を身につけましょう。（週2時間）

【テキスト・教材】

村尾純子：世界を読むメディア英語入門 2019[金星堂、2018、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題40%(英語でニュースを読み、その内容をまとめます)

小テスト10%(テキストの内容を復習します)

発表・グループワーク50%

提出課題と発表については翌週にフィードバックを行います。

自己表現法

—自己を深く知り、魅力的なPRを目指す—

佐藤 辰雄・大塚 みさ・西脇 智子・高瀬 真理子

1年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

魅力あふれる自己アピールのためには、まずは自分自身を深く知る必要があります。「実践入門セミナー」で習得した課題発見力と問題解決スキルをさらに磨き、多角的な自己分析を行いましょう。そして「日本語表現法a」で培った日本語を用いて、分析結果を魅力的で洗練された文章に仕上げていきましょう。毎回の授業の中で取り組みを重ねることによってさらなるレベルアップを図ります。

【授業における到達目標】

- ・自己を深く見つめ、自己を表現するためのことばを磨き上げることで「美の探究」を行います。
- ・自己を客観的・多角的に深く分析することを通して「研鑽力」を培います。
- ・自己分析の結果から課題を見出し、新たな目標に向けて取り組む「行動力」を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 自己分析 1 自分を深く知るための自己分析の方法を学ぶ
 第2週 自己分析 2 自己分析の視点を変えてみる
 第3週 自己分析 3 他者の目から見た自分に気づく
 第4週 自己分析 4 現段階での自己分析結果を整理する
 第5週 問題解決演習 1 各自の進捗を確認する
 第6週 自己アピール 1 自己分析をもとにした発表演習に挑戦する
 第7週 自己アピール 2 グループワークで分析結果を点検する
 第8週 自己アピール 3 分析結果を魅力的なアピール文に仕上げる
 第9週 自己アピール 4 履歴書・ES・志望理由書を書いてみる
 第10週 問題解決演習 2 成果を報告し合う
 第11週 さまざまな表現手段(1) アカデミックな場での自己表現
 第12週 さまざまな表現手段(2) ビジネスの場での自己表現
 第13週 さまざまな表現手段(3) 手紙と季節の挨拶状
 第14週 自己アピール発表演習の自己・相互評価と達成度確認
 第15週 まとめ

※学外講師による講義を行うクラスもあります（日程未定）。

【事前・事後学修】

【事前学修】国語辞書を用いて語句の意味をきちんと理解しながら小テストの準備を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】小テストの復習を徹底的に行うこと。自己分析結果を改めて文章化し、練り上げておくこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表・提出物・ワーク等70%、授業態度・小テスト等30%
 発表・小テストは次回授業、提出物は授業最終回または後日個別にフィードバックを行います。

【注意事項】

- ・授業内容や扱う順序は、担当教員によって多少異なることがあります。
- ・豊かな語彙力や表現力を身につけるためには、さまざまなジャンルの良い文章に接することが大切です。日頃から新聞や文学作品を読んだり、努めて辞書を引いたりする習慣をつけましょう。

自立生活論 a (健康)

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。そこで、人生の各ステージにおけるスポーツの意義とその楽しみ方を知り、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかにつけていくかを最終課題として考えます。

【授業における到達目標】

- ・超高齢社会のライフスタイルの課題がわかるようになる。
- ・超高齢社会の受け皿となる社会をどのように構想すべきかが説明できるようになる。
- ・健康に配慮したライフプランニングを考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実際』（大修館書店）

自立生活論 a (健康)

須賀 由紀子

2～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。そこで、人生の各ステージにおけるスポーツの意義とその楽しみ方を知り、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかにつけていくかを最終課題として考えます。

【授業における到達目標】

- ・超高齢社会のライフスタイルの課題がわかるようになる。
- ・超高齢社会の受け皿となる社会をどのように構想すべきかが説明できるようになる。
- ・健康に配慮したライフプランニングを考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実際』（大修館書店）

自立生活論 a (健康)

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。そこで、人生の各ステージにおけるスポーツの意義とその楽しみ方を知り、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかにつけていくかを最終課題として考えます。

【授業における到達目標】

- ・超高齢社会のライフスタイルの課題がわかるようになる。
- ・超高齢社会の受け皿となる社会をどのように構想すべきかが説明できるようになる。
- ・健康に配慮したライフプランニングを考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実際』（大修館書店）

自立生活論 b (消費者)

株式会社「わたし」を経営するための基礎知識

野津 喬

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

消費者としての私たちの生活は、企業活動との共通点が多くあります。生計を立てるための労働は企業の営利事業に相当しますし、就職活動は労働者としての「私」を売り込むための営業活動にも例えられます。

この授業では株式会社「わたし」と経済の関係について考えるとともに、株式会社「わたし」を上手に経営していくための視点について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

①個人の生活の観点から、暮らしと経済の関わりについて考える上で、必要となる基本的な知識を身につける。

②個人の生活の観点から、望ましい生活を実現するための課題と方向性について自分なりの考えを持てるようになる。

これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 事業部門①（若年層の雇用の現状）
3. 事業部門②（社会人基礎力）
4. 事業部門③（仕事上のストレス）
5. グループワーク①（仕事について考える）
6. 資料調達部門①（インターネットと消費）
7. 資料調達部門②（悪質商法）
8. 資料調達部門③（消費と金融）
9. グループワーク②（消費について考える）
10. 総務部門①（複雑化する家計管理）
11. 総務部門②（やっぱり気になる隣の家計）
12. 企画部門（ウチかソトか 一家事など）
13. グループワーク③（家計管理について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

伊藤セツ・川島美保（編著）『三訂 消費生活経済学』（光生館 2008）2,160円、上林千恵子（編著）『よくわかる産業社会学』（ミネルヴァ書房 2012）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

自立生活論 c (安全と保障)

安全・安心な人生を送るためのリスクマネジメント

久保 行幸

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

マズローによれば、人は自立した生活を送り自己実現に向かって成長していくためには、「安全の欲求」が初期の段階で満たされなければならない。しかし、現代社会では「安全の欲求」を充足するための阻害要因（リスク）が増大化しており、低減化することは不可欠である。本授業では、前半では安全を阻害するリスクを理解し、リスクマネジメントの知識や実践に資する考え方を提供し、後半では「社会と暮らし」の中のリスクへの対策を提供する。

【授業における到達目標】

グローバルで普遍的なリスクについて【国際的な視野】を養える。倫理観を高め、知を探索する姿勢で【美の探究】を修得できる。リスクの本質を探索する楽しみを知り、実務能力を高めて【研鑽力】を身につける。現状を正しく把握し、課題の抽出から解決手段への道筋を理解・実行する【行動力】を修得できる。グループワークを通して互いに協力して課題に取り組み【協働力】を修得できる。

【授業の内容】

第1部：安全・安心な生活を送るためのリスクの理解と対応

- 1週目：オリエンテーション、安全とリスクの関係
- 2週目：安全・安心の阻害要因（リスク）の概念を学ぶ
- 3週目：現状とリスク認知 ～現状からリスクを知る～
- 4週目：リスク低減のためのリスク管理～リスクマネジメント～
- 5週目：安全・安心な生活を送るための対策～リスクへの対応～
- 6週目：不確実性下での意思決定 ～直観的意思決定の思考～
- 7週目：安全・リスク情報の伝達～リスクコミュニケーション～

第2部：社会と暮らしの中の安全・安心

- 8週目：生活を脅かす犯罪 ～犯罪の現状とリスク対策～
- 9週目：防災リスク ～自然災害/火災の現状とリスク対策～
- 10週目：犯罪に巻き込まれないために景色読解力を学ぶ
- 11週目：女性にとっての安全・安心 ～女性特有の犯罪～
- 12週目：景色読解力の課題の発表 ～グループワークの発表～
- 13週目：社会人を取り巻くリスク ～会社におけるリスク～
- 14週目：リスクを対象としたビジネス ～リスク低減ビジネス～
- 15週目：振り返り ～本講義の整理と理解度確認～

【事前・事後学修】

【事前学修】初回に「将来の目標」（レポートテーマ）を聞くので考えてくること。課題レポートに取り組むこと。12週目は発表なので、発表資料を事前にまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【平常点（50点）】積極的な発言による講義への貢献態度や、12週目の発表における班への貢献度にて評価します。

【課題レポート（25点）】7週終了後にレポートを提出してもらいます。以降にフィードバックします。

【理解度確認（25点）】最終週に理解度の確認を中心とした試験の実施と解説を行います。

【参考書】

- ①奈良由美子著「生活リスクマネジメント（改訂版）」（一般社団法人放送大学教育振興会 2017年）3,100円
- ②西澤真理子著「リスクコミュニケーション」（株式会社エネルギーフォーラム 2015年）900円
- ③小宮信夫著「なぜ『あの場所』は犯罪を引き寄せるのか」（株式会社青春出版社 2015年）880円

【注意事項】

授業では積極的に発言してください。

疾患・老化と栄養・食品

松島 照彦

2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

疾患や老化はどのようにして起きるのであろうか。これには物理化学的また生物学的、栄養学的な多くの要因が絡んでいるが、ひとつに私たち人間が酸素を用いてエネルギーを産生していることにより発生する「酸化ストレス」が大きな要因になっている。すなわち、病気や寿命は生命維持と交換に避けがたいものと考えられる。しかし、疾患や老化には、食事が大きく関わり、適切な栄養や「抗酸化作用」がある食品により、それらを抑制することも可能かもしれない。

一方、メディアなどで「脂肪をとる」「若返りが期待できる」などといわれている食品があるが本当であろうか。学術的な証拠があり、科学的に仕組み(機序)が分かっているのであろうか。

この授業ではこれらの観点から、①糖尿病、②肥満、③老化、④ホルモン、⑤動脈硬化、⑥血圧、⑦お酒、をテーマとして、基本的な学修の後に、各自、文献調査を行い、本当に効きそうな食材を用いて「レシピ」を考案して発表をする。アクティブラーニングを通じて、自ら学び、真偽を見極める能力を養い、創造力や構想力を培っていくことを目標としている。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、ライフステージの様々な場面で遭遇する身体状況やその異常について把握し、それぞれの時期での適切な栄養の取り方、提供の仕方を理解することができるようになる。

物事の真理を探究し新たな知を創造しようとする態度を涵養することに役立つ。学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を伸ばすことに資する。目標を設定して問題を解決する力の涵養に資する。

【授業の内容】

第1週 栄養と疾患

第2週 糖尿病と栄養①糖の代謝と栄養

第3週 糖尿病と栄養②糖尿病

事前事後学修：糖尿病に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第4週 肥満と栄養

第5週 メタボリックシンドロームと栄養

事前事後学修：肥満に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第6週 老化と栄養

事前事後学修：老化に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第7週 ホルモンと栄養

第8週 女性と栄養

事前事後学修：女性ホルモンに関連するといわれる食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第9週 脂質異常症と栄養

第10週 コレステロールと動脈硬化

事前事後学修：動脈硬化に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第11週 高血圧と栄養

事前事後学修：血圧に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。

第12週 ビタミンの働きと過不足①水溶性ビタミン

第13週 ビタミンの働きと過不足②脂溶性ビタミン

第14週 アルコールと痛風

事前事後学修：酒（アルコール飲料）の種類と効用について調査する。

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。メディアでどんな食品があげられているか見ておくこと。週当たり1時間を要する。

・事後学修：單元ごとに課題を与える。与えられた健康上の課題について、食事の点からどのように解決できるかを、文献にあたって調査し、考察、考案する。枚数は設定しないが1課題当たり6時間、週3時間程度の取り組みが期待され、その内容を評価する。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、レポート30%、授業への積極的な参加10%。

レポートは返却時に優秀な取り組みを紹介し、解説を行う。

【参考書】

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養学 第2版』（武田英二ら編、講談社サイエンティフィック）2730円

新臨床栄養学（岡田正ら著、医学書院）9975円

日本人の食事摂取基準2010年度版（第一出版）2940円

スタンダード人間栄養学：応用栄養学（朝倉書店）2800円

実践キャリアプランニング

社会でたくましく生きぬくために

深澤 晶久・植野 誠之・栗原 栄美・鈴木 美伸

2年 前期・後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

講義内提出の小レポートは翌週代表例をピックアップし、フィードバックする。

【授業のテーマ】

人生100年時代と言われる超高齢化社会にあって、どのように人生設計しキャリアを築き、生活していくかが問われる時代となってきました。特に女性の生き方の選択肢は様々であり、単純に方向性を指し示せるものでもありません。

本講座ではこれまでの社会を形成してきた性別役割分担制の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、女性にとっての仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていきたいと思えます。

大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの女性にとっての大きなライフイベントにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければなりません。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていきたいと思えます。

さらには働く場でいま求められている「新社会人基礎力」を学び、そのための疑似ビジネス体験のワークを行います。

(項目)

- 「建学の精神」を通し、女性の生き方を学びます。
- 「働くこととは」を学びます。
- 社会人基礎力の理解と養成、コミュニケーション力アップ。
- ①アクション②シンキング③チームワーク

【授業における到達目標】

- 社会・企業の変化を知り、雇用情勢や雇用条件などの理解を深め社会人として生き抜いていくたくましさを身につける。
- 世の中の女性の生き方について過去・現在・未来の姿を考え、自らの生き方を想像し、キャリア形成を考える。
- 仕事をする場面で、若者が社会・企業から求められる資質・能力要件を学び、自らの弱点を克服すべく、グループワークでのディスカッションやプレゼンテーションを体験し実践力をつける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(講義概要説明)
- 第2週 社会を知る・自分を知る①(社会環境の変化・働くこととは)
- 第3週 社会を知る・自分を知る②(働く者と企業との関係)
- 第4週 社会を知る・自分を知る③(女性が働くということ)
- 第5週 DVD鑑賞(何のために働くのかを学ぶ)
- 第6週 社会人基礎力①(若者を待ち受ける社会・企業の現状)
- 第7週 社会人基礎力②(若者に求められる基礎力とは)
- 第8週 実践先輩から学ぶ(OG講演)
- 第9週 課題提示「企画提案(疑似ビジネス体験)」
- 第10週 グループワーク「企画立案実践」とプレゼンを学ぶ
- 第11週 グループワーク「企画立案実践」
- 第12週 企画案プレゼンテーション実践&審査 前半
- 第13週 企画案プレゼンテーション実践&審査 後半
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：(週2時間) 翌週への研究課題の提示とその準備
グループワーク時はグループ内の役割分担に基づき、情報収集やパワーポイント・原稿作成などを準備する。
- 事後学修：(週2時間) 授業を通して議論・指摘された課題について、自分なりに論点整理を行う。

【テキスト・教材】

必要に応じ適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点(取り組み姿勢・小レポート) 70点
- レポート提出 30点

【参考書】

深澤晶久『仕事に大切な7つの基礎力』(かんき出版)

【注意事項】

- 状況により授業内容・順番が変更する場合があります
- DVDなども活用し、ビジュアルな授業とします。
- キャリア教育は社会勉強の場でもあります。ルール・マナーを守り自立した社会人としての言動を求めています。

実践キャリアプランニング

－社会人への第一歩を踏み出す－

板倉 文彦・大島 雅浩

1年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

生涯にわたりどのような仕事で生計を立てていくのか、どのような道筋で目標の職業にたどり着くのかというキャリアデザインは、学生時代に考えるべき重要なテーマの一つです。生きていくために収入を得なければならないことを考えれば、キャリアデザインは皆さんの人生設計（ライフプラン）に大きくかかわる課題です。

本講義では、初めにこれまでの「自分」を振り返り、自分自身を理解します。そのうえで、卒業後の長い人生を段階に分け、どのようなライフプランを描いていきたいかを自分自身で考え、実現に向けて学生時代にすべきことから、長期的に取り組むべきことまでを明確にしていきます。本講義を通じ、自分の将来を見つめ、それに向かっていくために必要とされるスキルを修得します。

【授業における到達目標】

卒業後のキャリアデザインを考え、生涯にわたるライフプランに取り組む力を身につけることで、自分の置かれている現状を認識し、目標に向かうための行動力と、目標を達成するための研鑽力を磨いていきます。同時に、自分自身の考えを持ったうえで、社会を構成する人々、あるいは企業の上司や同僚と協働する力も養っていきます。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要
- 第2週 振り返り：これまでの自分を見つめ、振り返る
- 第3週 自分の将来について考える(1)：個人研究
- 第4週 自分の将来について考える(2)：グループワーク
- 第5週 社会で求められる汎用的能力測定プログラムの紹介
- 第6週 社会の実情と実体験 [外部講師を予定]
- 第7週 企業と仕事(1)：企業についての基礎知識
- 第8週 企業と仕事(2)：企業に対する評価
- 第9週 社会の構成員：社会人について考える
- 第10週 企業が求める人材：グループワーク
- 第11週 キャリアデザインの理論
- 第12週 ライフプランとキャリアデザイン(1)：考え方
- 第13週 ライフプランとキャリアデザイン(2)：必要なスキル
- 第14週 学生時代にすべきこと：グループワーク
- 第15週 ライフプランマップの作成、まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修] 授業後に課題として指示された事項について、自分自身の考えをまとめておく(週2時間)

[事後学修] 講義で解説された内容について、自身の想定するキャリアやライフプランに照らし合わせて考える(週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み40%、レポート40%、提出課題20%を総合的に判断して評価します。課題は授業内でフィードバックして、各自の再確認を促します。

実践プロジェクト

「チームワークとリーダーシップを身に付ける」

模 究

2年～ 前期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

いつも厳しい口調で指示を出すバイト先の社員さんを変えたい、サークルの後輩がやるべき仕事を真面目にやってくれなくて困っている、ゼミ生のモチベーションが低くてゼミ長である自分がいつも一人だけ責任を背負ってしまっている。こんな状況に陥ったことはありませんか？ 実は、このような状況を打破する力のことを「リーダーシップ」と呼びます。リーダーシップと聞くと、生まれながらに持ち合わせる才能のことで、社長や総理大臣など選ばれた人だけが身に付けるべきものだと感じませんか？ しかし、環境がめまぐるしく変化する今日では、チームに所属する全員がリーダーシップを発揮すべきという考え方が一般的になりつつあります。この授業では、その「新しいリーダーシップ」への理解を深めることで、日常生活で抱える悩みを自分で解決できるようになること、そして、友人や後輩、家族が抱えている悩みの解決を手伝えるようになることを目指します。また、本授業には企業で働く社会人がゲストとして参加します。履修者は企業から提供されたテーマ（例：新商品：サービスの企画など）に沿ったアイデアを4・5人の少人数チームを組んで考案します。このアイデアを作成する過程で大学を卒業した後の社会人生活におけるリーダーシップの取り方を学習します。

【授業における到達目標】

- パーソナリティ・ベース・リーダーシップの基礎的な理論を理解し、自分の性格や価値観に沿った形でリーダーシップを発揮する方法について、口頭と文書で持論が語れること
- リーダーシップ最小三要素（①目標設定と共有（成果目標を掲げ、共有すること - Setting the Goal）、②率先垂範（成果達成のために、自ら動くこと - Setting the Example）、③同僚支援（成果達成のために、他者を巻き込み支援すること - Enabling others）を理解し、授業中のグループワークや日常生活で活用した事例を口頭と文書で説明できること

【授業の内容】

- 【ステージ1】 ___リーダーシップの理解とキックオフ
- 第1回 イントロダクション & リーダーシップ体験
- 【ステージ2】 ___最初のサイクルを回す
- 第2回 クラスビルディング
- 第3回 キックオフ - クライアント企業の発表
- 第4回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成①
- 第5回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成②
- 第6回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成③
- 【ステージ3】 ___2回目のサイクルを回す
- 第7回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成④
- 第8回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成⑤
- 第9回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成⑥
- 第10回 リーダーシップ・スキルの強化とビジネスプラン作成⑦
- 第11回 中間プレゼンテーション
- 第12回 最終プレゼンテーション準備
- 第13回 最終プレゼンテーション
- 【ステージ4】 ___授業を振り返り、これからを考える
- 第14回 チームと個人のリーダーシップ振り返り
- 第15回 リーダーシップ宣言とキャリアプランニング

【事前・事後学修】

グループでの準備活動や学習を実施する。
(学修時間：週4時間)

【テキスト・教材】

なし。授業で適宜、専門知識を解説する。授業後にスライド資料を共有する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：出席・課題提出率（40%）、授業でのリーダーシ

ップ行動・課題内容の質（30%）、チームへの貢献度（20%）、クラスへの貢献度（10%）

成績評価の基準：上記4つの観点について、絶対評価を実施する。
フィードバック：授業中及びmanabaを用いて、意見を相互に述べ合う。

【参考書】

「高校生からのリーダーシップ入門」日向野幹也 2018年 筑摩書房
「シェアド・リーダーシップ」石川淳 2017年 中央経済社
「採用基準」伊賀泰代 2012年 ダイアモンド社
※ 上記は参考文献であり、購入は必須ではない

【注意事項】

授業に積極的に参加しリーダーシップを学習するためにクラスへ貢献しようとする姿勢を履修者には求めたい。
また、授業時間外のグループでの準備活動や学習の機会も含め、積極的かつ主体的に学んで欲しい。
なお、本授業はリーダーシップ教育の専門家である（株）イノベスト上村氏と共同で運営していく。*募集人数は30名です。

実践プロジェクト

松下 慶太

2年～ 前期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

社会・企業と連携したプロジェクトを進めていく中で、情報科目で学んだ文書作成・データ分析・プレゼンテーションやメディアの取り扱いなどのスキルをより高度に、実践的なものとして身に付けることを目指します。

またグループワークやプロジェクトにおいて重要視されているリーダーシップやファシリテーション、リフレクションなどの技法・スキルについても学びます。

【授業における到達目標】

- ①企業からの課題に対し、グループで問題を抽出・分析した上で、課題解決への方策を効果的にプレゼンテーションできるようになる。
- ②グループワークの意味・個人の強みを理解した上で、グループワークにおいて「権限なきリーダーシップ」を発揮できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 グループワークの意味
- 第3週 グループワークにおける「個人」
- 第4週 「権限なきリーダーシップ」について
- 第5週 企業からの課題の提示
- 第6週 データの発見・整理・分析
- 第7週 プレゼンテーションの準備
- 第8週 中間報告
- 第9週 中間報告の振り返り
- 第10週 フィールドワーク①聞き取り調査
- 第11週 フィールドワーク②現地調査
- 第12週 データの整理・分析の精緻化
- 第13週 プレゼンテーション準備
- 第14週 最終報告
- 第15週 振り返り

※ほぼすべての週で企業の方など学外者をゲストに招き、インプット、学習見学、ディスカッション、フィードバックを予定している。

【事前・事後学修】

- ・各授業回で提示された個人・グループ課題について次回授業までに行い、オンラインシステムで提出すること（2時間相当）。
- ・各授業回においてグループで設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行うこと（2時間相当）。

【テキスト・教材】

教材をオンラインで配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・プロジェクトへの参加度（50%）
- ・最終報告（50%）

また報告内容について、授業前後、研究室などでフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、指示する。

【注意事項】

- ・社会・企業と連携していく中で授業時間外・グループでの準備・活動・学習が求められることが多いので積極的かつ主体的に学ぶことを目指す学生の履修を望みます。
- ・プロジェクト形式で進めるために20名程度の履修制限を行います。履修希望者が多い場合は選考を行う場合があります。詳細については初回のガイダンスで説明するので必ず出席すること。

実践教養講座 b

「日本の美を語る」

榎 究・池田 三枝子・武笠 朗

1年 集後 2単位

【授業のテーマ】

日本の芸術から、古典文学、仏像、建築という3つの分野を取り上げ、それらが成立した文化的背景や特色、魅力等について学び、語れるようになることを目標とする。3名の講師が講義するほか、縁のある土地に出向き、その芸術・文化に触れる旅に参加することで、経験による深い理解を目指す。

【授業における到達目標】

- ・奈良時代から平安時代の文学の特色およびそれを成立させた文化的背景について語れるようになる
- ・日本に於ける仏像の時代ごとの特色と歴史の変遷について語れるようになる
- ・日本の建築・庭園・都市の特色を西欧の建築との対比で位置づけると共に、歴史の変遷について語れるようになる
- ・それぞれの芸術に魅力を見出し、自身の言葉で語れるようになる

以上の目標を達成することにより、国際的視野と研鑽力および美を探究する力を身に付ける

【授業の内容】

<第1日>

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本古代の都をめぐる思想
- 第3回 日本古代の都をめぐる文学
- 第4回 飛鳥・奈良時代の仏像
- 第5回 平安・鎌倉時代の仏像

<第2日>

- 第6回 日本建築の特徴
- 第7回 日本の空間的特徴
- 第8回 研修旅行に向けて

<研修旅行>

第9回～第15回については、奈良・京都への研修旅行により代替する

【事前・事後学修】

訪問する場所の調べ学習、配付資料の読み込み・復習、訪問した場所などのレポート作成等、トータルで60時間前後の事前・事後学修が見込まれる。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する他、manabaからダウンロードできる資料を用意する。参考となるWebサイトの情報なども提供する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前学修と事後学修の結果、および講義中のワークの結果を基に成績を算出する。

事前学修（30%）、事後学修（30%）、講義中のワーク（40%）

講義中の学習成果の発表時にフィードバックする。

【参考書】

授業中に、適宜紹介する。

【注意事項】

本講座は、冬休み期間中の集中授業となる。12/23（月）・24（火）は渋谷キャンパスで講義、12/25～27は、奈良・京都方面への研修旅行（講師引率）となる。

研修旅行の費用は自己負担となる。具体的な金額については、説明用チラシおよび説明会にて提示する。授業内容、研修旅行の催行条件等について確認して欲しいので、説明会に参加して欲しい。

事前学修、事後学修にはmanabaを活用する。

*募集人数は40名です。

実践教養講座 c

「考えて書く。書いて考える。」

槇 究

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

人に伝わる文章を書くためには、文章の構成や技法を学ぶだけでなく、自分の考えをしっかりと掘り下げ、根本にある自分の思いを見極めることが重要である。深く考える作業と、それを表現する作業を通じ、自分の思いを伝える文章を書けるようになることを目指す。

【授業における到達目標】

山田ズーニーは、機能する文章を書く視点を7つ挙げている。

1. 意見：一番言いたいことは何か？
2. 望む結果：誰が、どうなることを目指すのか？
3. 論点：あなたの問題意識はどこに向かっているのか？
4. 読み手：読み手はどんな人か？
5. 自分の立場：相手から見たとき、自分はどんな立場にいるか？
6. 論拠：相手が納得する根拠があるか？
7. 根本思想：あなたの根本にある想いは何か？

書くことで考えられるように、考えることで書けるようになる。そのことにより、美を探求する、研鑽力、行動力を身に付ける。

【授業の内容】

【ステージ0】 ___集めて、整理して、並べればいい

- | | |
|-----|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 素材を揃えて、整理する その1 |
| 第3週 | 素材を揃えて、整理する その2 |
| 第4週 | 気づきを得る |

【ステージA】 ___相手とつながる

- | | |
|-----|-----------------|
| 第5週 | 「おわび」をする |
| 第6週 | 「ありがとう」の気持ちを伝える |
| 第7週 | へこんでいる人を「励ます」 |

【ステージB】 ___自分とつながる

- | | |
|------|----------------------|
| 第8週 | 自分を知るためのワーク |
| 第9週 | みんなの前で自己紹介する |
| 第10週 | 自分を社会にデビューさせる企画書をつくる |
| 第11週 | 自分の「悩み」をはっきりさせる |

【ステージC】 ___他者・外・社会とつながる

- | | |
|------|----------|
| 第12週 | 志望理由書を書く |
| 第13週 | レポートを書く |
| 第14週 | 小論文を書く |
| 第15週 | みんなの前で話す |

【事前・事後学修】

授業中に学ぶための準備として、また学んだことを定着・発展させるために、シートに書き込む作業を事前に行ってもらったり、授業中に書き込んだシートを基に、文章を書いてもらうワークが課される。(学修時間：週4時間)

【テキスト・教材】

山田ズーニー著「考えるシート」講談社+α文庫(670円)
その他、考えるためのシートを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

<成績評価の方法>考えるためのシートへの書き込み(30%)、作成した文章(40%)、授業中のプレゼンテーション(20%)、相互コメントの内容(10%)によって判定する。

<フィードバック>授業中及びmanabaを用いて、文章に対する意見を相互に述べ合う。

【参考書】

- 上阪 徹「10倍速く書ける 超スピード文章術」(ダイヤモンド社2017) 1,500円+税
古賀 史健「20歳の自分に受けさせたい文章講義」(星海社新書2012) 804円+税

【注意事項】

自分と対話し、他人の視点を想像し、書くことで整理し、気づき、存在意味ある文章を作成する。じっくり向き合うことを求めている。
*募集人数は40名です。

実践教養講座 d

なりきって質問力を磨く

松本 美奈

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

一言でまとめると、「脱・自己中」。読売新聞を教材に、社会に目を凝らし、自分以外の誰かの立場で問題を見つけ、解決策を考える力を養う授業です。この力には、「社会性」「想像力」「創造力」「臨機応変」が含まれています。どれほど人工知能(AI)が進歩しても、つけることのできない力だとされています。

せっかく大学生になったのだから、スマホと目の間の30cmの視野を、地球規模にまで広げ、想像力と創造力の翼を大きくはばかせてみませんか。読み、書き、議論し、発表もできる知的基礎体力を培いましょう。

【授業における到達目標】

- ・新聞を読み、視野を広げ、自分以外の誰かの立場で考えることができる(国際的視野、研鑽力)。
- ・自分以外の誰かの誰かに「なりきって」問題を見つけ、解決策を講じ、実践することができる(協働力、行動力)。

【授業の内容】

講師は、この春まで教育問題を専門とする読売新聞記者でした。変化が加速する社会で、社会の一員として多様な人とともに生きる力を養います。

教材として使うため、読売新聞の朝夕刊購読を義務付けます。授業にも毎回持ってきてください。初回のオリエンテーションでも使います。著作権法上、コピーは不可です。

- 1 オリエンテーション 発想を広げてみよう
- 2 なりきるとは
- 3 なぜ誰かの立場で考えるのか。
- 4 グループワークは難しい
- 5 なりきるために分解する
- 6 なりきるために分類する
- 7 質問は難しい
- 8 開いた質問・閉じた質問
- 9 質問にタイトルをつける
- 10 なりきって売り込む
- 11 コンセプトマップと社説
- 12 書く力と社説
- 13 ポートフォリオとレポート提出
- 14 なりきって売り込む(最終発表)
- 15 ポートフォリオのピアレビュー

【事前・事後学修】

- ①新聞を毎日読み、コンセプトマップを広げる…毎日1時間は必要です。
 - ②社説を書き写す……1時間は必要です。
- *読売新聞の論調に同調することを求めています。

【テキスト・教材】

読売新聞の朝夕刊を購読。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ポートフォリオとレポート50%、毎回の課題30%、グループワークへの参加20%。課題にはコメントを付して返却します。

【注意事項】

自分を変えたい、成長したいと思っている学生を歓迎します。知らない人と話すのが苦手、文章を書くのがイヤ、こんな悩みを抱えているのなら成長のチャンスです。事前事後学修に時間がかかりますが、努力は必ず報われます。少人数クラス、グループワーク中心の授業です。*1回目授業には必ず出席してください。*欠席、遅刻は事前に連絡してください。

*募集人数は30名です。

実践教養講座 d

現代社会を読み解く

橋 弘志

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

将来社会に出て自立・自営していくためには、社会の状況を理解し、その状況に対して流されずに判断できる意見をもつことが大事です。この授業では、社会の中で起きている、話題となっているさまざまなトピックを取り上げ、現代の社会で何が起きているのか、その意味や背景について考えていきます。自分でそのような出来事について調べ、討論を通して、そこから自分なりの視点を見出していくことを目指します。

【授業における到達目標】

- ・授業で取り上げたトピックの内容について理解できるようになる。
- ・それぞれのトピックの背景にある現代の社会的状況について探求するようになる。
- ・議論を通してさまざまな考え方に触れるとともに、自分なりの視点を確立できるようになる。

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業のすすめ方）
2. 憲法と法律
3. 自衛隊と米軍基地
4. エネルギー問題と原子力発電所
5. TPP（経済の自由化）
6. 公共サービスの民営化
7. 景気対策と消費税
8. オリンピックと万博
9. 働き方改革と労働問題
10. 教育の変化（小学校から大学まで）
11. 男女の平等と差別
12. マスメディア（新聞・テレビ）の役割
13. 外交と領土問題
14. 全体討論（私たちの向かいたい社会とは）
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えをもって授業に臨む（週2時間）

事後学修：授業内容について振り返り、自分の考えをまとめる（週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（30%）、各回の小課題（30%）、期末レポート（40%）で評価。

課題・レポートは授業の中でフィードバックします。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【注意事項】

募集人数は140名です。

実践教養講座 e

映画で読み解く文学と社会

広井 多鶴子・稲垣 伸一・佐々木 真理・河野 龍也・椎原

伸博

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

映画は一つの作品であり、そこには映画を作る側の意図や思想が組み込まれているが、同時に作られた時代や社会も色濃く反映している。この授業では、専門分野の異なる5人の教員がそれぞれ関心のある映画を取り上げ、それを題材にして映画に描かれた文学作品や時代、社会を読み解いていく。

【授業における到達目標】

様々な映画作品を鑑賞することを通じて、作品を味わい、分析し、評価する力を身につけるとともに、時代や社会を捉える力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 映画で読み解く家族① 「誰も知らない」
- 第2週 映画で読み解く家族② 「そして父になる」
- 第3週 映画で読み解く家族③ 「万引き家族」
- 第4週 映画から読む日本の近代① 樋口一葉「十三夜」（今井正「にぎりえ」）
- 第5週 映画から読む日本の近代② 原典「十三夜」に見る「女の出世」
- 第6週 映画から読む日本の近代③ 映画と小説の境界：何が表現できないか？
- 第7週 パリ映画という視点① 1920年代：「時の他何物もなし」「メニルモンタン」「ゾーン」
- 第8週 パリ映画という視点② 1950年代：「パリの空の下セーヌは流れる」「赤い風船」
- 第9週 パリ映画という視点③ 1960年代以降：ヌーヴェルバーグのパリトリュフォーとゴダールのパリ
- 第10週 映画の中の19世紀アメリカ① 「スカーレット・レター」：女性解放運動
- 第11週 映画の中の19世紀アメリカ② 「ポストニアン」：スピリチュアリズムと女性
- 第12週 映画の中の19世紀アメリカ③ 「グレイテスト・ショーマン」：消費社会と視覚文化
- 第13週 映画の中のアメリカ ①1930年代のアメリカと「若草物語」
- 第14週 映画の中のアメリカ ②第2次世界大戦後のハリウッド映画と「若草物語」
- 第15週 映画の中のアメリカ ③1990年代の新たな「若草物語」

【事前・事後学修】

事前学修：授業で次の作品に関する課題を出す。それについて図書館等で調べる。（週2時間）

事後学修：授業を通して分かったことと考えたことや疑問をレポートにまとめ、manabaに提出する。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いない。授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

担当教員ごとにレポートによって成績評価を行う。

レポート70%、授業への取り組み状況30%

manabaに提出したレポートで出された疑問について授業中に答える。

【参考書】

授業で紹介する。

実践入門セミナー

所属学科専任教員

1年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業です。積極的に授業に参加し、自分の学習目標、将来計画等を視野に入れながら授業に取り組んでください。

【授業における到達目標】

実践女子大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えることを目的としています。特に、生涯にわたり知を探求して学び続ける自己研鑽力、現状を正しく把握して課題を発見する行動力、他者と互いに役割を理解して協力できる協働力の育成を目指します。

【授業の内容】

各クラスは所属学科の専任教員が担当し、少人数のセミナー方式で、以下の項目を学んでいきます。

1. 大学とはどのようなところか？
2. 履修指導—4年間で何をどのように学ぶのか
3. 自校教育—「実践」を知ろう
4. 大学生としての常識
5. 図書館ガイダンス—資料検索の方法など
6. 文章の読み方・書き方—レポート作成法など
7. 自己表現の方法—プレゼンテーションの技術を学ぼう
8. キャリア形成の準備—未来に向かって、今やっておくべきこととは？

※授業15回の各内容は、学科ごとに提示されます。具体的な内容と授業の進め方は、担当教員から説明されます。（以下五十音順）

<国文学科>池田 三枝子・佐藤 悟・田中 靖彦・棚田 輝嘉・湯浅 茂・横井 孝

<英文学科>稲垣 伸一・志渡岡 理恵・諏訪 友亮・土屋 結城・村上 まどか

<美学美術史学科>串田 紀代美・下山 肇・仲町 啓子・武笠 朗

<食生活科学科 管理栄養士専攻>辛島 順子・佐々木 溪円・高橋 加代子・松島 照彦

<食生活科学科 食物科学専攻>秋田 修・佐藤 幸子・中川 裕子・松岡 康浩

<食生活科学科 健康栄養専攻>白尾 美佳・奈良 典子

<生活環境学科>大川 知子・川上 梅・高田 典夫・塚原 肇

<生活文化学科>井口 眞美・越山 沙千子・南雲 成二・水野 いずみ

<現代生活学科>菅野 元行・野津 喬・行実 洋一

<人間社会学部>井上 綾野・織田 弥生・数野 昌三・神山 静香・駒谷 真美・篠崎 香織・竹内 光悦・竹内 美香・時田 朋子・広井 多鶴子

【事前・事後学修】

「授業の内容」の項目ごとに、次週の準備内容が担当教員より指示されます。指示に従い、必要な準備を行ったうえで授業に出席してください。授業のあとは、その週の内容をよく整理して復習しておきましょう。

（学修時間：週4時間程度）

【テキスト・教材】

必要に応じて授業時に担当教員より指示されます。プリント等を用いることもあります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度50%。課題の評価50%。

授業への取り組み方（態度）や取り組んだ課題について、担当教員から適時コメントやフィードバックが行われます。

実践入門セミナー

専任教員

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

短大での2年間の学びに必要な不可欠な知識や技能の修得を目指します。「勉強のしかた」の実践的な基礎を理解し、その上に「学問的な態度」も身につけます。同時に、社会に出てから役立つ「モノゴトの見方・考え方・処理のしかた」を身につけることを目指します。ちょっとしたコツを知ることで、勉強の効果が大きく上がります。そして、短大での2年間を有意義なものにしてください。

【授業における到達目標】

短大で勉強していく上で必要な学びの基礎を身につけ、情報の収集、整理、発信が適切にできるようにします。さらに、学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、アクティブラーニングにより「行動力」や「協働力」を養っていきます。

【授業の内容】

1. 学びの場を知る1…「学び方を学ぶ」とは
2. 学びの場を知る2…大学（短大・四大）とはなにか：学びの意味と方法・マナーと対人関係
3. 学びの場を知る3…学びの道具を知る：ノートのとおり方・本の構成要素の理解
4. 学びの場を知る4…学園創始者に学ぶ
5. 情報の収集1…学びの出発点としての図書館：図書館でできること・やるべきこと
6. 情報の収集2…資料・文献の探索方法を知る
7. 情報の収集3…資料・文献のリストを作る
8. 情報の整理1…ラインと書き込み：内容の骨組みとポイントを理解する
9. 情報の整理2…分類とはなにか：モノサシによって変わる見え方
10. 情報の整理3…構想をかたちづくる：データから見えてくるもの
11. 情報の発信1…書式とレジュメ：わかってもらうための表現とテクニック
12. 情報の発信2…レポートの構成：わかりやすさと筋道
13. 情報の発信3…レポートの作成：文章と図表
14. 情報の発信4…プレゼンテーション：目と耳に訴える
15. 情報の発信5…ディスカッション：全員で考えることから生まれるもの

*上記は授業内容リストです。授業開講週ではありません。

*番号順に講義しますが、授業の進捗状況により順番を入れ替えることがあります。また、内容は担当教員により多少異なり、教員によっては渋谷周辺の校外実習を実施する場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修：各授業で出された課題学習に取り組むこと。（学修時間：週2時間）
- ・事後学修：各授業のテーマを復習して理解を深めること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

授業時に資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度50%・課題の評価50%。課題は授業内でフィードバックして、各自の再確認を促します。

【注意事項】

学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業です。履修者の積極的な参加が求められます。具体的な授業の進め方は、担当教員が説明します。

常に「短期大学部標準受講マナー」を遵守すること。

社会

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：国際的視野、研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

本授業では、小学校社会科の理念と目的、意義と役割について理解し、社会科の学習指導において求められる基礎的な知識、技能、実践力の修得をめざす。また、社会科成立の歴史的背景を理解するとともに、学習指導要領における社会科の目標と特質、教育課程における社会科の位置付けについて理解を深める。

【授業における到達目標】

本授業では、小学校社会科を学修することの意味や意義を自身の言葉で説明できるようになるとともに、他の教科目との関連をはじめ、社会科の今日的課題について考察、分析できる力を修得することを最終的な目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 社会科の理念と目的
- 第2回 社会科の意義と役割
- 第3回 社会科の歴史－社会科教育の変遷－
- 第4回 社会科の構造と基本的性格
- 第5回 公民的資質の基礎を養う社会科
- 第6回 社会科の目標と内容（3学年）
- 第7回 社会科の目標と内容（4学年）
- 第8回 社会科の目標と内容（5学年）
- 第9回 社会科の目標と内容（6学年）
- 第10回 小学校社会科と生活科、総合的な学習の時間との関連
- 第11回 小学校社会科と道徳教育、中学校地理的分野との関連
- 第12回 社会科と問題解決学習
- 第13回 社会科教育の諸問題－他教科との関連から－
- 第14回 日本の社会科教育の特質
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、レポート、発表等の課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説－社会編－』（日本文教出版 2017）153円

この他、適宜、資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（20%）、試験（60% ※テキスト、資料プリント、ノートを持ち込みは不可）、平常点〔授業の取組・提出課題〕（20%）により総合的に評価する。小テストについては次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

授業にて、適宜、紹介する。

【注意事項】

教職に就く、あるいは教職への関心が高いことを前提に授業を進めていくので、意欲をもって取り組んで欲しい。

社会と統計

竹内 光悦

1年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

社会において現状を測る、知る、行動するためには、様々なデータに基づく意思決定が求められる。実社会においてもこれらのデータを適切に処理する、分析する、表現するスキルは重要視され、ほとんどの部署で、その基礎的な知識を必要とされており、それらの習得は自分を助ける道具といえる。本講義では、企業、団体活動はもちろんのこと、大学4年間における調査・実験系の講義・演習や卒業研究に必要なデータ処理、分析に必要な基礎的なデータ分析を紹介する。特に実社会における実データを活用し、そのデータの適切な処理、分析、表現方法を学ぶ。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 講義ガイダンスと統計科学の導入
2. 社会科学データ（調査データや実験データなど）の利用法と測定尺度
3. 統計グラフを用いたデータ表現
4. 表を用いたデータの整理1（度数分布表）
5. 表を用いたデータの整理2（クロス集計）
6. 代表値を使ったデータ比較
7. 散布度を使ったデータ比較
8. 順位に基づく指標を用いたデータ表現
9. 代表値と散布度を用いたデータ表現
10. 2変量データのグラフ表現、変量間の関係（相関と因果）を探る
11. 量的・質的データのまとめ方
12. 統計的推定、統計的仮説検定の紹介及び利用
13. 多変量解析の紹介及び利用
14. 統計解析ソフトウェアの紹介
15. データ分析の実践—社会におけるデータの活用—
※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

G.W. ボーンシュテット・D. ノーキ（監訳：海野道郎・中村隆）
『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』（ハーベスト社
1992年、2,400 円）

【注意事項】

本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

社会と福祉

勝部 雅史

1年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

栄養士が人間の日常生活の土台を支える職務を遂行していくためには、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を優先して学ぶ必要がある。そこで3つの柱（A社会保障の概念、B福祉ニーズ、C福祉・公衆衛生）に照らして社会福祉の基礎的知識、理論、歴史、保健・医療・福祉の位置づけと相互の関係について概説する。

社会福祉の歴史や実践の基本概念の理解を通じて、現代社会と社会福祉の関連、「生活者」という視点から多様な分野の福祉政策について考察することを目的とする。

【授業における到達目標】

1. 社会福祉・社会保障・公衆衛生の基礎知識を習得する。
2. 社会福祉における「再分配」や「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会福祉と関連諸施策
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 障害観の変遷
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 障害者福祉と生活援助
- 第10週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第11週 高齢者福祉と生活援助
- 第12週 社会福祉援助とスティグマ
- 第13週 社会的排除への対応①
- 第14週 社会的排除への対応②
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配布する資料を教材に用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【方法・基準】

定期試験90%、課題レポート10%。

【フィードバック】

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。
授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

【参考書】

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』（みらい 2012年）2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』（有斐閣 2014年）2,376円

【注意事項】

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「経済学」「社会学」

社会の基礎数学

社会における情報システムの理解

中山 厚徳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

現代社会は、多くの情報があふれ、多くの情報の中から必要なデータを選択して自ら判断するという機会が増えています。日常生活から企業活動においていたるところで、客観的なデータにもとづいた分析を実行できる能力が重要となっています。そのためには社会における情報システムを理解することが重要になります。そこで、本講義では、組織体（または社会、個人）の活動に必要な情報の収集、蓄積、処理、伝達・利用にかかわる仕組みである情報システムについて解説し、その仕組みについての理解を目標とします。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」において広い視野と深い洞察力を身につけ本質を見抜く力を修得を目指します。また「行動力」において現状を正しく把握し課題を発見する力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第01週 ガイダンス、社会情報のシステム化による問題解決
- 第02週 社会情報の数値化
- 第03週 社会事象を確率的に検証—順列や組合せ—
- 第04週 社会事象を確率的に検証—確率の基礎—
- 第05週 文字を使った社会情報の表現—数式化—
- 第06週 文字を使った社会情報の表現—視覚化—
- 第07週 数値の規則性の表現—数列の考え方—
- 第08週 数値の規則性の表現—数列の応用—
- 第09週 数値の規則性の表現—いろいろな数列—
- 第10週 数学記号の利用したモデル表現—シグマ記号—
- 第11週 数学記号の利用したモデル表現—指数の考え方—
- 第12週 数学記号の利用したモデル表現—指数の応用—
- 第13週 数学記号の利用したモデル表現—対数—
- 第14週 数学記号の利用したモデル表現—ベクトル—
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。事前に配布する資料・プリントなどで授業範囲を予習し、講義の目的を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に指定しません。適宜、プリント等を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（40%）及び学期末試験（60%）で評価します。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックします。

【参考書】

河添健著『数理と社会 増補第2版：身近な数学でリフレッシュ』（数学書房 2016年）1,995円。

小林敬子・松原望著『数学の基本やりなおしテキスト』（ベレ出版 2007年）1,575円。

【注意事項】

高校時に数学 I しか履修していない人でも履修することは可能です。

社会ネットワーク論

大橋 香奈

3年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

この授業では、まず、社会集団や社会組織と対比させながら、「社会ネットワークとは何か」を明らかにする。

次に、都市化や情報化等の影響によって人々を取り巻く社会ネットワークが変化することを通じて、いかに家族や地域、学校や職場が変容し、社会の構造転換が生じるのかについて考察する。

さらに、人々が、様々な人々と関わり問題関心を共有しながら、「ソーシャル・キャピタル」（社会関係資本）を活用し、新たに社会ネットワークを作り上げていく「ネットワーキング」によって社会が変わる可能性と課題について学習する。

【授業における到達目標】

以上の授業内容を学習することによって、「社会ネットワーク」の概念について、社会学の観点から、具体的な事例に結びつけて理解できるようになる。

また、社会ネットワークの概念を用いて、都市化や情報化から生じる諸社会現象を論理的かつ具体的に説明できるようになる。

そして、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を的確に把握し、課題を発見できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 授業概要と授業予定の説明
- 第2週 社会集団と社会組織
- 第3週 社会組織としての社会ネットワーク
- 第4週 情報社会とは何か
- 第5週 情報社会とモバイルメディア
- 第6週 モバイルメディアと都市生活（1）グループワーク作業
- 第7週 モバイルメディアと都市生活（2）グループワーク発表
- 第8週 モバイルメディアによる社会ネットワークと生活の変容
- 第9週 情報社会と社会ネットワークをめぐる問題とその解決に向けて
- 第10週 ソーシャル・キャピタルとは何か
- 第11週 ソーシャル・キャピタルとネットワーキング
- 第12週 デジタル・メディアを活用したネットワーキング
- 第13週 デジタル・ネットワーキングの展開
- 第14週 デジタル・ネットワーキングによる社会改革の可能性、レポート提出
- 第15週 レポート内容の個人発表と講評

【事前・事後学修】

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストの内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語や概念を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

（1）毎回、授業内容に関する小テストを課す。それをもって、出欠の確認および授業の理解度を評価する。

（2）毎回の小テスト、グループワークの作業と発表への取り組み、学期末に課するレポートの内容と発表により、総合的に成績評価する。（小テスト20%、グループワーク20%、レポート60%）

（3）小テストの結果、理解が十分でないと思われる点は、次の授業内に補足説明を行う。グループワークとレポートは、発表の際に講評を行う。

【参考書】

辻泉、南田勝也、土橋臣吾編『メディア社会論』（有斐閣2018年）1,800円

土橋臣吾、南田勝也、辻泉編『デジタルメディアの社会学（第3版）』（北樹出版2017年）2,100円

千川 剛史（著）『デジタル・ネットワーキングの展開』（晃洋書房2014年）2,700円

【注意事項】

授業中に配布する資料を中心に進めるが、テキスト・参考文献を使って事前・事後学修を行うこと。

社会科・公民科教育法（１）

大高 皇
2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

- ①我が国の社会系教科の成立、学習指導要領の変遷、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。
- ②社会科における教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成等の学習、すぐれた授業実践の分析等を通して、社会科の授業づくりに必要な知識・技能を習得する。

【授業における到達目標】

社会系教科の目的、意義、課題を説明することができる。また、教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析を行うことができる。また、社会科教育の観点から、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度と知を求め、心の美を育む態度を身につけ、社会科の教育者として学修を通して自己成長する力、課題解決のために主体的に行動する力、相互を活かして自らの役割を果たす力を身につける。

【授業の内容】

- 1) オリエンテーション：「よい授業」を考える
- 2) 社会科の成立と初期社会科の実践
- 3) 学習指導要領の変遷と教科書検定制度
- 4) 社会科カリキュラムの構成原理
- 5) 社会科の授業構成
- 6) 社会科の授業分析
- 7) 社会科の授業研究
- 8) 指導計画と学習指導案
- 9) 地域調査に基づく授業づくり①（実践紹介）
- 10) 地域調査に基づく授業づくり②（模擬授業）
- 11) 人物学習と文化史学習の授業づくり①（実践紹介）
- 12) 人物学習と文化史学習の授業づくり②（模擬授業）
- 13) シティズンシップ教育の授業づくり①（実践紹介）
- 14) シティズンシップ教育の授業づくり②（模擬授業）
- 15) 総括

【事前・事後学修】

《事前学修》授業づくりに際し、学習指導案を各自事前に作成してこること。また模擬授業に際し、学習指導案・板書計画・教材等を各自事前に作成してこること。様式等は授業内で指示する。指示に沿った様式で作成すること。（学修時間2時間）
《事後学修》講義後に課題を課す。課題の詳細は授業内で指示する。また模擬授業終了後に生徒役の学生が記入した観察評価票、及び、模擬授業の様態を撮影したDVDを渡すので、それらを活用し振り返りを行うこと。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信：新社会科教育の世界—歴史・理論・実践[梓出版社、2011、¥2,205(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度10%、提出物10%、模擬授業20%、学習指導案20%、試験40%の割合で評価する。試験終了後に、解答を発表するとともに口頭で解説を加えフィードバックを行う。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』
その他、授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

本講義は、教職課程の授業であるため、またグループワークが主体となるため、授業態度については厳しく判定する。

社会科・公民科教育法（２）

細谷 美明
3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

社会科及び公民科の教師として必要な基本的な知識や能力の育成を重視し、学習指導要領を中心教材として学習法等の理論や学習指導案の作成方法など実践事例を交えた講義と演習を行う。

【授業における到達目標】

我が国の社会科・公民科教育の概要を学習指導要領の変遷及び現行の学習指導要領を通じて理解するとともに、社会科・公民科教育における学習法や評価法の理論、教材開発・研究の方法、指導計画及び評価計画、学習指導案の作成方法、学習評価の方法等について、事例や演習等を通し修得する。

【授業の内容】

- 第1回 社会科の成立と学習指導要領にみる学習内容の変遷※事前学修として同解説をまとめる（1時間）
- 第2回 諸外国における社会科教育（地理、歴史、公民等）の特色
- 第3回 社会科及び公民科の目標と学習内容、その構造の特色
- 第4回 平成29年版学習指導要領の改訂の趣旨と内容構成（中学校・地理的分野）※事前学修として同解説をまとめる（1時間）
- 第5回 平成29年版学習指導要領の改訂の趣旨と内容構成（中学校・歴史的分野）
- 第6回 平成29年版学習指導要領の改訂の趣旨と内容構成（中学校・公民的分野）
- 第7回 社会科における学習法①（地理的分野における地図指導とフィールド・ワークの指導法※演習）
- 第8回 社会科における学習法②（歴史的分野における各資料の活用法と問題解決学習※演習）
- 第9回 社会科における学習法③（公民的分野における合意形成に関する指導法※演習）
- 第10回 社会科における評価理論と評価法（学習目標に応じた評価方法の選定と実践※演習）
- 第11回 学習指導における導入及び資料提示の工夫（演習）
- 第12回 学習指導における発問及び板書の工夫（演習）
- 第13回 学習指導における話し合い活動及びワークシートの工夫（演習）
- 第14回 社会科における教材開発と教材研究の方法（演習）
- 第15回 学習指導案の構成と作成方法（指導計画、評価計画、展開例及び評価の仕方※演習）

【事前・事後学修】

＜事前学修＞中学校学習指導要領解説（社会）及び中学校社会科の教科書を使って学習指導要領にみる学習内容の変遷及び平成29年版学習指導要領の改訂の趣旨をまとめる。【2時間】
＜事後学修＞第7回～第15回での演習後のフィードバックをまとめ毎時間提出する。【2時間】

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説 社会編[東洋館出版社、2017、¥189(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価基準
課題レポート、提出対象の演習用紙等を総合的に評価する。
- 評価方法
課題レポート50%、演習用紙50%
- フィードバック
学生の開示請求に対し回答する。

【参考書】

○中学校社会科（地理、歴史、公民）の教科書
○毎回の講義で資料を配布するので、それらをファイルするバインダー等を用意しておくこと。

【注意事項】

本講義は、教員を目指す学生を対象としたものである。そのため、授業態度及び授業の参加に関する姿勢について教員に必要とされる

社会科・公民科教育法（3）

大高 皇

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

「社会科・公民科教育法（1）」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科における教材研究の方法や多様な学習指導の工夫について学ぶとともに、年間指導計画および学習指導案の作成、模擬授業などの実習を通して社会科授業の実践的授業力を養う。

【授業における到達目標】

多様な教材研究の方法や、多様な学習指導の工夫を活用して社会科授業の実践的授業力を身につける。また、社会科教育の観点から、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度と知を求め、心の美を育む態度を身につけ、社会科の教育者として学修を通して自己成長する力、課題解決のために主体的に行動する力、相互を活かして自らの役割を果たす力を身につける。

【授業の内容】

- 1) オリエンテーション
- 2) 地理的分野の教材研究の方法と実際（校外で地域調査を行う）
- 3) 歴史的分野の教材研究の方法と実際
- 4) 公民的分野の教材研究の方法と実際
- 5) 地理的分野の学習指導
- 6) 歴史的分野の学習指導
- 7) 公民的分野の学習指導
- 8) 学習指導案づくりと検討
- 9) 地理的分野の模擬授業
- 10) 地理的分野の模擬授業の検討
- 11) 歴史的分野の模擬授業
- 12) 歴史的分野の模擬授業の検討
- 13) 公民的分野の模擬授業
- 14) 公民的分野の模擬授業の検討
- 15) 総括

【事前・事後学修】

《事前学修》授業づくりに際し、学習指導案を各自事前に作成してこること。また模擬授業に際し、学習指導案・板書計画・教材等を各自事前に作成してこること。様式等は授業内で指示する。指示に沿った様式で作成すること。（学修時間2時間）

《事後学修》講義後に課題を課す。課題の詳細は授業内で指示する。また模擬授業終了後に生徒役の学生が記入した観察評価票、及び、模擬授業の様子を撮影したDVDを渡すので、それらを活用し振り返りを行うこと。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信：新社会科教育の世界—歴史・理論・実践[梓出版社、2011、¥2,205(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度10%、提出物10%、模擬授業20%、学習指導案20%、試験40%の割合で評価する。試験終了後に、解答を発表するとともに口頭で解説を加えフィードバックを行う。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

その他、授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

本講義は、教職課程の授業であるため、またグループワークが主体となるため、授業態度については厳しく判定する。なお、地域調査は調整により前後の週に変更になる場合がある。

社会科・公民科教育法（４）

細谷 美明

3年 後期 2単位

とから、授業態度や立ち振る舞い等については中学生や高校生の手本となるよう十分留意すること。

【授業のテーマ】

我が国の社会科教育の概略を学習指導要領の変遷を通して理解するとともに、中学校社会科を中心とした教材開発・研究の方法、指導計画・学習指導案の作成の仕方、指導法や学習評価の方法等について、事例や模擬授業を通して修得する。

【授業における到達目標】

○社会科・公民科教育の目標を理解することにより、我が国の文化と伝統を尊重する態度を身に付け世界に発信しようとする態度を育てる。【国際的視野】

○社会科・公民科の授業における教材研究の方法、授業実践力、学習指導案の作成方法、学習評価の方法等を修得することにより、広い視野と深い洞察力を身に付け本質を見抜く力を育てるとともに、目標を設定し計画を立案・実行できる行動力を身に付ける。【研鑽力】【行動力】

【授業の内容】

第1週 社会科の成立と学習指導要領にみる学習内容等の変遷※事前学修①

第2週 平成29年学習指導要領の概要と中学校社会科の特色※事前学修②

第3週 担当教員による示範授業及び協議

第4週 教科書を使つての授業実践（模擬授業①：学生前半）

第5週 教科書を使つての授業実践（模擬授業②：学生後半）

第6週 教材開発と教材研究の理論と実践－歴史学習を通して－

第7週 学習評価の理論と実践

第8週 学習指導案の作成①（教材開発と指導観の設定）

第9週 学習指導案の作成②（指導計画・評価計画の作成）

第10週 学習指導案の作成③（展開例と評価規準・方法の作成）

第11週 グループワークによる学習指導案づくり ※事前学修③

第12週 学習指導案による模擬授業及び研究協議①（学生前半）
※事後学修

第13週 学習指導案による模擬授業及び研究協議②（学生後半）
※事後学修

第14週 生徒の「生きる力」を育む指導法の理論と実践①
－絵画資料を活用した課題解決学習等－

第15週 生徒の「生きる力」を育む指導法の理論と実践②
－シミュレーション・ゲームやディベート等－

【事前・事後学修】

◆（事前学修：2時間）テキスト及び参考書を使って学習指導要領にみる学習内容等の変遷及び平成29年学習指導要領の概要と中学校社会科の特色をまとめ、自身が行う模擬授業の学習指導案を作成しておく。

◆（事後学修※2時間）毎時間、講義の振り返りを行い指定された用紙に記入・提出し、模擬授業後、自己の省察を記述してレポートとして提出すること。

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説 社会編[2017、¥189(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

◆評価基準

課題レポート、学習指導案と模擬授業、提出対象の演習用紙等を総合的に評価する。

◆評価方法

課題レポート30% 学習指導案と模擬授業50% 演習用紙20%

◆フィードバック

レポート、演習用紙、学習指導案と模擬授業については、授業後、講評をしコメントカードを渡す。

【参考書】

中学校社会科（地理、歴史、公民）の教科書

【注意事項】

本講義は、教員になることを前提とした学生対象の講義であるこ

社会科学データ分析

竹内 光悦

3年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

ビジネス社会では調査や実験により得られたデータを用いた分析、検証が重要視される。特にこれらは実社会や学術研究など、より高度な分析を必要とする際には、多変量データなどのより情報をもつデータの分析が必要とされる。

本講義では、これらの社会科学データを用いた分析を基礎から応用までの一連の体系を紹介する。なお、卒業研究を踏まえて、データの基礎処理から高度な処理（多変量解析）等まで、実際にPC（Excel や SPSS、R など）を利用した実践的なスキルの習得を目指す。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. ガイダンス、社会科学データの紹介
2. 多変量データの測定、多変量データの入力・処理の基本
3. 多変量データの集計処理とデータベースの利用
4. 計量的多変量データ分析の基礎
5. 統計グラフを用いた多変量データの図示化
6. 統計ソフト活用、計量的多変量データ分析のテーマ検討
7. 未来を予測—重回帰分析—
8. 対象の分類—クラスター分析—
9. 潜在的な要因を探す—因子分析—
10. カテゴリカルデータの分析—数量化理論—
11. 様々な多変量解析法
12. PCを利用した多変量解析の紹介
13. 実社会における多変量解析の実例
14. 分析結果の文書化と発表
15. 社会科学データ分析のまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

青木繁伸『Rによる統計解析』（オーム社 2009年）4,104 円

【注意事項】

本講義では実践的にデータ分析の演習を行うため、PC教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。

社会学b

コミュニケーションの社会学：「12人の怒れる男」の議論分析

氏川 雅典

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

社会の多様性が高まりつつある現代においては、複数の人々の間で対立も多くなります。その結果、対話を通じ集合的問題解決を図る機会が様々な場面で増えてきています。

本コースでは「議論」という問題解決のためのコミュニケーション様式を取り上げ、これを分析するための言葉と方法の習得を目指します。具体的には映画「12人の怒れる男」（1957年）の社会的な議論分析を行います。

【授業における到達目標】

議論分析を通じて、以下の態度および力の修得を目指します。

「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 現代社会と議論
- 第3週 社会学における議論研究
- 第4週 議論の理論：議論とは何か？
- 第5週 議論のプロセス：「12人の怒れる男」
- 第6週 議論における様々なバイアス：情報と評価
- 第7週 議論のレイアウト：S. トゥールミンの議論モデル
- 第8週 批判：分けて他の可能性を探究する
- 第9週 レトリック：意味の層の移動手段
- 第10週 多様性と統一のジレンマ：アイデアと役割分化
- 第11週 議論のデザイン：ルール、決定法、規範
- 第12週 「12人の怒れる男」再訪
- 第13週 可能性の境界線引き（※レポート課題発表）
- 第14週 議論の社会学に向けて
- 第15週 全体のまとめ

※人数や理解度に応じて内容が変更になる場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容復習のための小課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

※課題提出が締切を過ぎた場合は減点となります。

【テキスト・教材】

- ・教科書については特に定めなし。教材については適宜指示します。授業資料がある場合は、事前にManabaにアップロードするので、各自授業までに入手しておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業毎の小課題提出40%、学期末レポート60%で成績評価を行う。小課題を提出しない場合は欠席とします。
- ・30分を過ぎた遅刻は欠席とし、連続2回の遅刻で1回の欠席とします。列車遅延による遅刻は認めません。
- ・場合に応じて、学期末レポートが試験になることもあります。その場合、試験は持ち込み不可です。
- ・課題は次回授業、レポートは最終回でフィードバックする。

【参考書】

- ・サンスティーンほか、2015＝2016、『賢い組織は「みんな」で決める——リーダーのための行動科学入門』NTT出版。

【注意事項】

- ・他の学生の聴講の妨げとなる迷惑行為（私語など）を行った学生は退出の上、当日は欠席扱いとします。
- ・人数に応じ教室変更や座席指定を行うことがあります。
- ・欠席理由を証明する公的文書がない場合は、成績評価の際に配慮を行いません。各自、体調管理には気を付けてください。

社会学概論

原田 謙

1年 前期・後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

この授業は、家族生活、地域社会、職業生活といった日常生活のトピックを取り上げながら、社会的なものを見方を学ぶ科目である。具体的には、さまざまな社会学理論や実証データにもとづいて、家族の構造と機能、ライフコースとライフスタイル、都市化と地域社会の変容、就業形態の多様化、生産・労働のグローバリゼーションなどについて学ぶ。

【授業における到達目標】

到達目標は、さまざまなデータから現代社会の諸特性を理解し、研究方法としての社会調査の重要性をふまえながら、社会的な発想を身につけることである。課題解決に向けた「行動力」を高めるために、現状を正しく把握する知識を修得する。

【授業の内容】

1. 社会学とはどのような学問か
2. 社会的なものを見方：自殺にみる社会
3. 高度経済成長の光と影
4. ライフスタイルとライフコース
5. 医療技術の進展と現代生活
6. 家族の特質ととらえ方
7. 少子化と家族の多様化
8. 地域社会の歴史的変容
9. 地域集団の現状と課題
10. 産業・職業構造の変化と就業形態の多様化
11. 生産・労働のグローバリゼーション
12. 社会問題の諸相1：格差・階層化問題
13. 社会問題の諸相2：貧困と社会的排除
14. 研究方法としての社会調査
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習したキーワード、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中のコメントペーパーの提出（30%）、試験（70%）にもとづいて評価する。コメントに対するリプライは次回授業時に適宜行う。試験結果のフィードバックはmanabaで行う。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』（有斐閣、2007年）

宇都宮京子編『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房、2006年）

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波書店、2009年）

社会学入門

社会学的発想法の展開を学ぶ

氏川 雅典

1年～ 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

多様な人びとが共に暮らす現代社会においては、ときに各種の社会問題を、他者たちとの対話を通じて協働的に解決してゆくことが求められます。その際のポイントは、他者たちの声を聴き、共に学ぶことを通じて自分自身を反省的に捉えることができるかどうか、にあります。社会学は、その成立当初から、社会について考えるための「言葉」を生み出してきました。本コースでは、古典から現代に至る社会学の流れを学ぶことを通じて、社会学の基本的な発想法の習得を目指します。

【授業における到達目標】

社会学の基本的発想（複眼的思考、情報の視覚化スキルなど）を身につけることで、以下の態度および力の修得を目指します。

「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 デュルケムの『自殺論』
- 第3週 意図せざる結果
- 第4週 予言の自己成就：嘘からでた真
- 第5週 ラベリング論：スクールカーストから考える
- 第6週 アートワールド：主観的判断の社会的基礎
- 第7週 感情労働論：管理される心
- 第8週 組織不正はなぜ無くならない？
- 第9週 社会問題の構築：メディア分析
- 第10週 ジェンダー：分類の社会的帰結
- 第11週 LGBTと社会運動：スポーツを事例に
- 第12週 グローバリゼーション：ファッションから考える
- 第13週 エスニシティ：日本人とは何者か？
- 第14週 外国人児童の教育問題：ダブルリミテッドと不就学
- 第15週 全体のまとめ

※人数や理解度に応じて内容が変更になる場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容復習のための小課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

※課題提出が締切を過ぎた場合は減点となります。

【テキスト・教材】

・教科書については特に定めなし。教材については適宜指示します。授業資料がある場合は、事前にManabaにアップロードするので、各自授業までに入手しておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業毎の小課題提出40%、学期末試験60%で成績評価を行う。
- ・小課題を提出しない場合は欠席とします。
- ・30分を過ぎた遅刻は欠席とし、連続2回の遅刻で1回の欠席とします。列車遅延による遅刻は認めません。
- ・試験は持ち込み不可。
- ・課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックする。

【参考書】

塩原良和・竹ノ下弘久編、2010、『社会学入門』弘文堂。

【注意事項】

- ・他の学生の聴講の妨げとなる迷惑行為（私語など）を行った学生は退出の上、当日は欠席扱いとします。
- ・人数に応じて教室変更や座席指定を行います。
- ・欠席理由を証明する公的文書がない場合は、成績評価の際に配慮を行いません。各自、体調管理には気を付けて下さい。

社会言語学

高木 裕子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

言語調査や言語を通じた各種調査法、質的調査や質的研究法を身に付けます。言語を通じた意味概念での認識論や現象学についても学びます。「目からうろこ」。言語研究とはこんなもので、社会ではこんな時に使うのかと思うはずですが、言語抜きで、どんな調査も研究もできません。将来、きっと役に立つはずですが。

【授業のテーマ】

言語が実際の使用場面でどのように使われ、また、それは人の言語生活や行為・行動、考え方とどう関わっているのか、さらには様々な社会問題や言語現象とどう関連しているのかを、広く「社会」との結びつきから、また、その視点から読み解いていこうとするのがこの分野です。授業では、「言語とは何か」という基本概念から、人間のコミュニケーションの実態やその背景にある諸理論、言語が地域や社会状況によって、どのように変化しているのか、また、いつ、どこで、誰と、どのように話すかで、言語運用は変わること、さらには、聞き手の態度によっても変わってしまうこと等、人が言語を使う時に係わる様々な問題や側面を、単なる文法解釈以上の、でもニュアンスだけではなく、場や人間関係といった、社会・心理的要因から明らかにしていきます。授業では、講義だけでなく、これら人の言語に係わる諸問題や現象について調べたり、インタビューを通じた質的調査をしたりして、実際に理解していきます。そこで必要になる言語をクリティカル（批判的）に解き解くことで、実際に言語調査ができるようにします。

【授業における到達目標】

言語をクリティカル（批判的）に読み解くことを通じて、会話分析や談話分析ができるようになるだけでなく、インタビュー調査やライフヒストリー等の質的調査法も学びます。また、簡単な映像分析やCM分析もできるようにします。洞察力・本質を見抜く力・背後にある文脈から物事の事象や現象が分析的に捉えられる力をもって、この分野での幅広い知識と視野を身に付けてください。

【授業の内容】

1. 社会言語学とは何か
2. 社会言語学（的）能力とコミュニケーション能力、そして、伝達能力
3. 言語学の世界と言葉を見る目
4. クリティカル言語認識
5. ポリティカリー・コレクトと調査倫理
6. 言語調査と調査方法、そして、言語資料収集と言語記録保存
7. 言葉のマクロ的研究（1） 言語問題と言語政策
8. 言葉のマクロ的研究（2） 国家と言語計画
9. 言葉のマクロ的研究（3） 言葉とパワー
10. 言葉のマクロ的研究（4） 言語行動と社会的メッセージ
11. 言葉のミクロ的研究（1） 人と言葉
12. 言葉のミクロ的研究（2） 言葉の使い分けと言語意識
13. 言葉のミクロ的研究（3） 言語接触・言語変化
14. 言葉のミクロ的研究（4） 言語現象と言語習得
15. 言葉のミクロ的研究（5） 総括と言語の未来

【事前・事後学修】

【事前学修】各学習課題については、理解度をみるため、短いレポートを課します。テキスト内容は事前に読み、理解に努力してください（週1時間）。

【事後学修】複数の調査を行うため、そこでのレポート等は期日までに提出するだけでなく、何を学習し、どんな力が付いたのかを振り返ってください（週3時間）。

【テキスト・教材】

飯野金一・奥村由香子・杉田洋・森吉直子：新世代の言語学[くろしお出版、2003、¥1,800(税抜)、※R&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート30%、中間レポート30%、期末レポート40%。各課題等提出後に、毎回フィードバックを行い、総合的に内容について再説明、補足等を行います。

【参考書】

社会言語学講義

社会と言語の交差点に着目する

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、具体例を提示しながら社会が言語に及ぼす影響、また言語が社会におよぼす影響について考察します。同じ国に住んでいるのに、なぜか地域によって話し方が違う…、同じ内容の話でも、話者が女性なのか男性なのかによってことばづかいが異なる…、同じ相手なのに、場が変わっては話し方が違って来る…、といったように、様々な社会的な要因（地域やジェンダー、コンテキスト等）が言語の使い方を大きく左右させます。その仕組みに対する理解が深まるよう、最初は具体例を取り上げつつことばづかいに影響をおよぼす諸社会的な要因について勉強します。次に、コンテキストによる差を理解するために、ポライトネスやスピーチ・アコモデーションといった現象を取り上げ、社会的要因の具体的な効果を検討していきます。本講義を通し、社会言語学的な観点からことばを考察する姿勢を身につけ、その分析に必要なスキルを取得します。

【授業における到達目標】

社会言語学の基礎的研究に対する理解を活用し、社会言語学な観点から分析を行うことができる。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、データの採取・分析する能力が身につく。

【授業の内容】

- 【第1回】社会言語学のはじまり
- 【第2回】社会言語学の諸要因：地域
- 【第3回】社会言語学の諸要因：階層
- 【第4回】社会言語学の諸要因：民族
- 【第5回】社会言語学の諸要因：性差
- 【第6回】社会言語学の諸要因：年齢
- 【第7回】コンテキストと言語：言語選択
- 【第8回】コンテキストと言語：レジスターとスタイル
- 【第9回】コンテキストと言語：ポライトネス
- 【第10回】コンテキストと言語：異文化コミュニケーション
- 【第11回】コンテキストと言語：会話の仕組みとスタイル
- 【第12回】文化と言語：言語人類学
- 【第13回】文化と言語：認知言語学
- 【第14回】メディアと言語
- 【第15回】社会言語学の今後

【事前・事後学修】

- 1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと（週2時間）
- 2) 各回指定された課題に取り組むこと（週2時間）

【テキスト・教材】

岩田祐子・重光由加・村田泰美：概説 社会言語学[ひつじ書房、2013、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講票・授業への積極的な参加）：40%

課題：60%

- 1) 受講票を参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答える。
- 2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

課題等について質問・相談があった場合、giancarlaunerschut@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、~~メ~~切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

社会思想史 b

社会がなぜ哲学の問題となるのか

小須田 健

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

社会学と区別される社会思想としての哲学の歴史は古代ギリシアまでさかのぼる。アリストテレス以来の哲学者たちが社会についてなにを考えてきたのかを辿りなおしてみたい。

【授業における到達目標】

社会思想すなわち哲学的に社会を考察することが、現代社会を生きるうえでどのような意味をもちうるのかを各自でつかみとってもらえるようになる。

【授業の内容】

- 第一回 社会思想史の意義
- 第二回 プラトン
- 第三回 アリストテレス
- 第四回 ヘレニズム時代
- 第五回 キリスト教の出現
- 第六回 キリスト教とローマ帝国
- 第七回 アウグスティヌス
- 第八回 中世における大学
- 第九回 トマス＝アクィナス
- 第十回 デカルト
- 第十一回 ホッブズとロック
- 第十二回 啓蒙思想とルソー
- 第十三回 ドイツ観念論
- 第十四回 マルクス
- 第十五回 フランクフルト学派

【事前・事後学修】

授業中に紹介する著作は各自で探して読む習慣をつけていただきたい。事前学修に週2時間、事後学修に週2時間くらいはかけてじっくり読書してもらいたい。

【テキスト・教材】

とくにテキストは指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテストで評価する（100%）。結果は授業最終回でフィードバックをおこなう。

【参考書】

哲学初学者むけの参考書として、アンドレ・コント＝スポンヴィル『哲学』（白水社）を挙げておく。

【注意事項】

継続的な履修を望む。

社会思想入門

西欧近代における人間観の変遷

大塚 諒

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会を生きるわれわれが、自分たちの社会のあり方を考え、理解しようとするとき、考察対象となる社会も、考察主体であるわれわれも、ルネサンス以降の西欧諸思想を基盤にしている。

この授業では、そうした思索の歴史のうち、とりわけ社会を構成する人間のあり方に関わるものに焦点を当て、西欧近代において展開された人間観をできるだけ平易に解説する。もろもろの思想のうちであえて人間観に焦点を当てる理由は、人間が常に社会を形成し生きてきた以上、人間のあり方を考えることは社会のあり方を考えることにつながるからである。

【授業における到達目標】

社会思想の歴史を学ぶことで、社会における人間のあり方を問い直し、社会と人間をめぐる多様な問題に主体的に取り組み考察する姿勢を身に着けることを目標とする。

全学ディプロマポリシーとの関連においては、多様な価値観を受け入れることで多様性を受容する態度や、物事の真理を探究して新たな知を求める態度、さらには広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力を養うことがこの科目の目標となる。

【授業の内容】

1. 導入、マキアヴェッリの社会思想①
2. マキアヴェッリの社会思想②
3. ロックとホッブズの社会思想①
4. ロックとホッブズの社会思想②
5. ルソーの社会思想①
6. ルソーの社会思想②
7. スミスの社会思想①
8. スミスの社会思想②
9. マルクスの社会思想①
10. マルクスの社会思想②
11. J・S・ミルの社会思想
12. 19世紀の社会思想：ヴェーバー、ダーウィン、スペンサー、フロイト
13. ローレンズの社会思想
14. 今期の振り返り、質疑
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：教科書の指定された箇所を読み、本文の内容や章末の問題について考えてくる。（週2時間）

事後学修：授業で配られた資料やノート、教科書を見返し、必要に応じて参考文献等で調べる。（週2時間）

【テキスト・教材】

坂本達哉：社会思想の歴史 マキアヴェッリからローレンズまで[名古屋大学出版会、2014、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：平常点（リアクションペーパー）60%、期末試験40%
リアクションペーパーに書かれた質問や考察・感想等は、次回授業の冒頭で取り上げ、内容を受講者全体で共有したうえで、各自の思考の材料とする。

【参考書】

山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』、東京大学出版会、1992年
平井俊彦編『社会思想史を学ぶ人のために』、世界思想社、1994年

社会思想入門

人間社会を形成する思想の源泉

竹中 真也

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会の変化は、じつにめまぐるしいものがある。しかし人間の社会を根本となるのは、ほかならぬ人間の思想と行動である。本講義では、現代社会を築くうえで礎となった思想の変遷、さまざまな思想的な立場について紹介する。こうして、わたしたちの社会がどこからきてどこへとむかうのかについての手がかりを得てみたい。

【授業における到達目標】

- ①時代ごとの人間観、社会観を理解して説明できるようにする。
- ②思想の変遷を踏まえて現代社会について考察する。

全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

- 第一回 ガイダンス 目標などの設定
- 第二回 ルネサンス期の思想と歴史状況
- 第三回 ピコ・デラ・ミランドラの人間観
- 第四回 宗教改革や近代科学による社会の変化
- 第五回 ホッブズの人間観と社会契約論
- 第六回 ロックからリベラリズムやリパタリアニズムへ
- 第七回 ルソーの自由と一般意志
- 第八回 ヒュームにおける感情と社会
- 第九回 アダム・スミスと資本主義社会
- 第十回 カントと「市民社会」
- 第十一回 ヘーゲルの理性と「市民社会」
- 第十二回 社会主義とマルクスの登場
- 第十三回 マルクスの基本的な立場
- 第十四回 全体の振り返り
- 第十五回 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修]

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べる。(学修時間週2時間)

[事後学修]

前回の授業のプリントを読み直して不明点をなくしておくこと。
分からない言葉は国語辞典や哲学辞典を読み調べておくこと。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

こちらでレジュメを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70パーセント、授業のコメントシート30パーセントで評価する。コメントシートを紹介して考察や検討のきっかけとする。

【参考書】

必要に応じてこちらから指定する。

【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

社会心理学

織田 弥生

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

社会心理学は、社会の中における人間の行動や態度を、調査や実験等の科学的な手法で研究する学問です。日常生活で出会うような場面、感じるような疑問を扱うことも多く、非常に興味深い学問です。しかし社会心理学から見た日常現象は、今まで思っていた常識とは異なるかもしれません。本講義では社会心理学の基礎知識を広く学びます。

【授業における到達目標】

目標は①対人関係や、集団における人の意識・行動についての心の過程を説明できるようになる、②人の態度や行動についてさまざまな理論を用いて説明できるようになる、③家族、集団、文化が個人に及ぼす影響について説明できるようになることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 対人認知
- 第3回 社会的認知
- 第4回 態度
- 第5回 感情
- 第6回 自己認知
- 第7回 自己評価
- 第8回 対人行動
- 第9回 人間関係①成立と崩壊
- 第10回 人間関係②様々な関係
- 第11回 集団と個人
- 第12回 健康とストレス
- 第13回 家族
- 第14回 文化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

【参考書】

池上・遠藤共著『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）
湯川・吉田編『スタンダード社会心理学』（サイエンス社、2012年）

【注意事項】

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。

社会心理学

—わたしと誰かと世の中と—

大倉 恭輔

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の心を研究する心理学という学問があり、社会のことを研究する社会学というものがあるとき、「社会+心理」学とはどんな立場にあるのでしょうか。

この授業では、ビデオ教材を用いながら学び、社会心理学の主要な研究テーマや考え方などについて、自分の問題として実感しながら理解していきます。

【授業における到達目標】

「わたし」という存在が社会的なものであることを理解することで、「世の中=社会」を生き抜いていくための視点や手がかりを身につけることをめざします。

そうして、多様性を受容し多角的な視点から社会や他者を理解してもらおうとともに、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思っています。

【授業の内容】

01. はじめに：心理学と社会学
02. 「わたし」の部分品
03. 「わたし」を知る
04. 「わたし」に自信を持つ
05. 社会的認知：あの人のことを推しはかる
06. 対人関係の成立と崩壊：友達になったわけ・やめたわけ
07. 援助行動：助けられたり助けたり
08. 攻撃と怒り：傷つけたり傷つけられたり
09. 説得と依頼：あの人に頼み込む
10. 集団と人間：そんなつもりじゃなかったのに
11. 組織と人間行動：歯車のひとつとして
12. 集合行動：何気ないひと言から
13. 文化と心理学：医者よりまじない師？
14. ネットという社会
15. まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がこなされる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をとおり、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

基本的に、manaba を利用して資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

社会心理学

織田 弥生

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

社会心理学は、社会の中における人間の行動や態度を、調査や実験等の科学的な手法で研究する学問です。日常生活で出会うような場面、感じるような疑問を扱うことも多く、非常に興味深い学問です。しかし社会心理学から見た日常現象は、今まで思っていた常識とは異なるかもしれません。本講義では社会心理学の基礎知識を広く学びます。

【授業における到達目標】

目標は①対人関係や、集団における人の意識・行動についての心の過程を説明できるようになる、②人の態度や行動についてさまざまな理論を用いて説明できるようになる、③家族、集団、文化が個人に及ぼす影響について説明できるようになることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しさ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 対人認知
- 第3回 社会的認知
- 第4回 態度
- 第5回 感情
- 第6回 自己認知
- 第7回 自己評価
- 第8回 対人行動
- 第9回 人間関係①成立と崩壊
- 第10回 人間関係②様々な関係
- 第11回 集団と個人
- 第12回 健康とストレス
- 第13回 家族
- 第14回 文化
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

【参考書】

池上・遠藤共著『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）
湯川・吉田編『スタンダード社会心理学』（サイエンス社、2012年）

【注意事項】

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。

社会心理学 1

水野 いずみ

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、家族・地域などの社会と個人の心理との関連性について理解するとともに、個人と社会の各レベルに注目するのみでは解決できない生活課題への対応に関する分析枠組みを身につける。

【授業における到達目標】

社会心理学の基本的な内容を理解し、家庭生活に関わる課題を体系的に把握する。

そして、「研鑽力」・「行動力」・「協働力」の育成に必要な知識や考え方を身につける。

【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス・受講上の注意
- 第2回：社会心理学の視点
- 第3回：社会的認知
- 第4回：自己
- 第5回：態度と態度変化
- 第6回：社会的影響
- 第7回：個人の心理過程・対人的な過程
- 第8回：魅力と対人関係
- 第9回：援助と攻撃
- 第10回：集団・集合に関する過程
- 第11回：集団と個人
- 第12回：マスコミュニケーション
- 第13回：社会の中の個人
- 第14回：ミクロな視点とマクロな視点
- 第15回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、身のまわりの生活と関連させながら、授業の内容について自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業で習った内容は、身の回りの生活にどのようにあてはまるでしょうか。自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、定期試験（50%）で評価する。

取り組んでいた点やつまずきがちな点についてフィードバックを行う。

【参考書】

- 安藤清志・大坊郁夫・池田謙一（1995）『社会心理学』現代心理学入門4 岩波書店
- 村田光二・山田一成（2000）『社会心理学研究の技法』シリーズ・心理学の技法（福村出版）

社会心理学 2

水野 いずみ

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、社会心理学1で学んだ基本的な内容をふまえて、家族・地域などの社会と個人の心理との関連性について理解するとともに、個人と社会の各レベルに注目するのみでは解決できない生活課題への対応に関する分析枠組みについて、さらに深める。

【授業における到達目標】

社会心理学のより詳しい内容を理解し、家庭生活に関わる課題に応用できるよう、体系的に把握していく。

「社会心理学1」の学修をふまえて、「研鑽力」・「行動力」を身につけ、協働することに関する理解を深める。

【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス・受講上の注意
- 第2回：社会心理学の視点：詳しい内容・応用
- 第3回：社会的認知：詳しい内容・応用
- 第4回：自己：詳しい内容・応用
- 第5回：態度と態度変化：詳しい内容・応用
- 第6回：社会的影響：詳しい内容・応用
- 第7回：個人の心理過程・対人的な過程：詳しい内容・応用
- 第8回：魅力と対人関係：詳しい内容・応用
- 第9回：援助と攻撃：詳しい内容・応用
- 第10回：集団・集合に関する過程：詳しい内容・応用
- 第11回：集団と個人：詳しい内容・応用
- 第12回：マスコミュニケーション：詳しい内容・応用
- 第13回：社会の中の個人：詳しい内容・応用
- 第14回：ミクロな視点とマクロな視点：詳しい内容・応用
- 第15回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、授業の内容について、身のまわりの生活と関連させながら、自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業で習った内容は、身の回りの生活にどのようにあてはまるでしょうか。自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、定期試験（50%）で評価する。

取り組んでいた点やつまずきがちな点についてフィードバックを行う。

【参考書】

- 安藤清志・大坊郁夫・池田謙一（1995）『社会心理学』現代心理学入門4 岩波書店
- 村田光二・山田一成（2000）『社会心理学研究の技法』シリーズ・心理学の技法（福村出版）

社会心理学調査実習

伊藤 言

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

私たちは他者を必要とし、他者から大きな影響を受けます。他者とともにある「心」を調べる学問である社会心理学には、実験・調査・観察・インタビュー等のさまざまな「調べる」ための技法がありますが、本講義ではその中でも「調査」の手法を学びます。自分たちの興味のあるテーマを選び、問題意識・仮説を設定し、調査票の作成・実施・集計・分析、および成果の報告会を行います。また、ウェブ調査、テキストマイニング、経験サンプリング法、Pythonを利用したSNSデータの自動収集などの最先端の調査技法の習得も、受講生の可能な範囲で目指します。

【授業における到達目標】

身の周りを含めた「社会」で起こっていること・行われていることを把握するためのツールとして、社会調査を使えるようになるための知識・技術・自信をつけ、水準の高いITスキルを習得する（研鑽力）。また、自らの感情をコントロールして他者と協力しながら一つの目的（調査）に向けて作業する能力を身につける（協働力）。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス・古典的な調査手法から先端的な調査手法まで
- 第2回 「調査」とは何か・サンプリング
- 第3回 調査におけるデータ分析の基礎
- 第4回 HADを用いたデータ分析技術の習得（1）記述統計
- 第5回 HADを用いたデータ分析技術の習得（2）推測統計
- 第6回 先端調査技術の習得
- 第7回 ウェブ調査の方法論と調査技術の習得（Googleフォームを用いた演習）
- 第8回 仮説構築（1）疑問から仮説へ
- 第9回 仮説構築（2）先行研究を踏まえた仮説の改良・妥当性と信頼性
- 第10回 調査票設計（1）仮説を質問項目に置き換える・予備調査
- 第11回 調査票設計（2）調査票の完成
- 第12回 コーディングと仮説検証型の分析
- 第13回 調査報告書の作成に向けて
- 第14回 成果報告会（1）
- 第15回 成果報告会（2）、まとめ

【事前・事後学修】

- ◆事前学修：指示された文献に目を通しておくこと。（学修時間＝週2時間）
- ◆事後学修：配布資料等をもとに、授業で扱った調査の手続きや分析の方法について復習し、指示された課題を完成させること。（学修時間＝週2時間）
- ◆フィードバックはメーリングリストを通じて行う。

【テキスト・教材】

配付資料を主に用いる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆平常点40%：毎回の実習に積極的に取り組んでいるかどうか、課題の提出状況と完成度。
- ◆学期末のレポート（成果報告書）40%：実習によって得られたデータを用いた調査研究の報告書を全員に1本提出してもらう。フィードバックは授業用メーリングリストを通じて行う。
- ◆グループ内での業務担当度20%：各人のグループ内での貢献度を、グループの合計が100になる形で学期末に申告してもらい、それを成績評価に用いる。

【参考書】

- 『質問紙調査と心理測定尺度』（サイエンス社）
- 『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房）
- 『社会調査のための計量テキスト分析』（ナカニシヤ出版）

【注意事項】

グループ単位での活動が多いので遅刻せず出席することを求める。

社会心理学特論

メディアが伝える「現実」を見抜く

駒谷 真美

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

情報社会において、メディアは様々な思惑でメッセージを伝えている。本授業では「世界で最も影響力のある社会批評家」と言われるチョムスキーの理論を援用し、米国の最新Web教材MIND OVER MEDIAを元にプロパガンダの分析法を学修することで、情報社会が抱える課題について思索していく。本授業の目的は、クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシー（Media and Information Literacy, MIL）の育成である。

【授業における到達目標】

MIL基礎段階の目標は、[批判的思考] ①情報を批判的に読み解き評価できる②情報の信憑性を識別できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[行動力]「現状を正しく把握し、課題発見できる力」を会得する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 情報社会の光と影 (1) チョムスキーとメディア
—民主主義社会ってよくない？
3. 情報社会の光と影 (2) チョムスキーとメディア
—「合意をデッチあげる」とは？
4. メディア・コントロール (1) チョムスキーのメディア批判
—プロパガンダ・モデルで明らかになるメディアの姿
5. メディア・コントロール (2) チョムスキーの政治批判
—政治とメディアの腐れ縁・・・
6. プロパガンダ分析 (1) 定義—いつでもどこでもプロパガンダ！
7. プロパガンダ分析 (2) 手法—プロパガンダのパワー!!!
8. プロパガンダ分析 (3) 文脈—このプロパガンダ、役に立つ？
9. プロパガンダ分析 (4) バイラルメッセージ—ロコミってアリ？
10. プロパガンダ分析 (5) SNSコンテンツ—これって宣伝？
11. プロパガンダ分析 (6) モラル—ホントは何を伝えたい？
12. プロパガンダ発表 (1) プレゼン・ディスカッション・講評
13. プロパガンダ発表 (2) プレゼン・ディスカッション・講評
14. プロパガンダ発表 (3) プレゼン・ディスカッション・講評
15. 総括「情報社会の光と影」フィードバック・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、指定テキストとmanabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。授業後半のプレゼンの準備をする。

【テキスト・教材】

ノーム・チョムスキー：メディア・コントロール—正義なき民主主義と国際社会[集英社新書、2003、¥734(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15週のリフレクションシートNo. 1～No. 5）70%+活動点（プレゼン）30%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼンテーションは該当回にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・海外の情報（学術誌・本・記事）を参照するので、英検2級程度の英語力が望まれる。

社会政策論

福祉を巡る政策立案・執行過程を理解する

新名 正弥

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

今日の我が国を取り巻く社会環境は、少子高齢化の進行と人口減少、巨大震災への対応、グローバル化による多民族共生など著しく変化し、対応すべき課題も、福祉、就労、医療、年金等の所得保障に加え、介護、養護・教育、住宅、国際支援、環境、震災など、領域横断的となってきた。その一方で、緊縮財政に対応した制度の持続可能性も論点となっている。そのため、社会サービス供給主体も公共部門の他、市場やNPO/NGOといった民間部門の役割もその重要性を増している。さらに、多様化する社会ニーズを政策に反映させるために、政策過程に政府、自治体、国際機関、NGO、企業、各種利益団体や当事者団体など多様なアクターが関わり合意形成は複雑性を増している。このような中で現代の社会政策を構想するには、人間の生活を包摂する福祉に関わる複合的課題を、国際的視野を以て地域で解決するための視点が必要不可欠であると言える。そこで本講義では、学生諸子の社会政策リテラシー向上を目的として、視聴覚資料や国際比較などの方法を用いることによって政策対応の多様性を例示する。

【授業における到達目標】

1. 社会政策の政策・執行過程の理解を通じて、政策リテラシーを獲得し、広い視野と洞察力を身につけることができる。
2. 各国の社会政策の理解を通じて、社会の多様性を理解できる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 福祉とは何か
- 第2週 必要（ニーズ）について
- 第3週 社会的ニードと社会政策
- 第4週 必要判定の基準・主体
- 第5週 資源と供給
- 第6週 資源の再分配
- 第7週 サービス供給と組織（官僚制と専門主義）
- 第8週 社会政策の体系
- 第9週 社会サービス供給（福祉の社会的分業）
- 第10週 社会変動と国家
- 第11週 福祉国家
- 第12週 ジェンダーと社会政策
- 第13週 ケアと社会政策
- 第14週 グローバル化と社会政策
- 第15週 社会政策と倫理

【事前・事後学修】

- 【事前学修】テキストの該当箇所の重要語句グロスリーの作成
(学修時間 週2時間)
- 【事後学修】メディア資料に対する小レポートを作成する
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

武川正吾 (2011) 「福祉社会-包摂の社会政策（新版）」、有斐閣アルマ（価格2,484円）
その他、講義レジュメ及び資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、試験80%として評価する。
小レポートを用いて質問を収集し、質問に対する回答を学生にフィードバックする。

【参考書】

ジョナサン ウルフ (2016) 「『正しい政策』がないならどうすべきか 政策のための哲学」、勁草書房
ポール スピッカー (2001) 「社会政策講義-福祉のテーマとアプローチ」、有斐閣

社会責任論

企業の社会的責任を巡る議論と実際

倉持 一

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

これまで企業は、より良い製品やサービスを我々に提供することでその責任を果たしてきました。しかし近年、私達の社会が企業に寄せる期待は、これまでの考え方以上に大きくなり、企業が経営推進条配慮すべき責任の範疇も拡大しています。では、企業はこの期待にいかに応え、社会的な責任を果たすべきなのか。CSR（企業の社会的責任）とは、新しい経営課題であると同時に、私達生活者が持続可能な社会を作り上げるためにどうすれば良いのかの問いかけでもあります。ややもすると、「CSRは良いこと」という単純な議論に陥りがちです。しかし、CSRが企業活動である以上、ビジネス的な強みも必要です。この授業は、経営学のエッセンスを豊富に取り入れ、CSRを様々な視点から捉えることで、その本質をより深く探究していきます。

【授業における到達目標】

CSRに関する理解や必要性認識を深めるだけでなく、複数の実際のケースを分析することで、CSRの「計画」「実践」「評価・継続」の3プロセスに関する能力（社会感受性、多様な価値観の共有、立案能力など）の涵養や社会における実践性の向上を図ることを目標とします。また、CSRに対する自己の考え方を確立することで、CSRに否定的な意見・主張に対し、自分なりに反論できるようになることも目標の一つです。

【授業の内容】

1. イントロ（授業の目的・進め方・評価方法説明など）
2. CSRの理解①：法的アプローチ（企業とは何かを問う）
3. CSRの理解②：経済学的アプローチ（CSR否定論の検討）
4. CSRの理解③：経営学的アプローチ（ビジネス的思考）
5. CSRの計画①：社会課題探知（ステークホルダー対話など）
6. CSRの計画②：戦略分析（マーケティング、5フォース分析）
7. CSRの計画③：コーポレート・ガバナンス（事例：7&i）
8. CSRの実践①：ソーシャルサポート（事例：マクドナルド）
9. CSRの実践②：コラボレーション（事例：Product RED）
10. CSRの実践③：戦略的CSR（事例：住友化学）
11. CSRの評価/継続①：社会的責任投資（SRI）
12. CSRの評価/継続②：コミュニティ活用（事例：ユニリーバ）
13. CSRの評価/継続③：サプライチェーン管理（事例：サラヤ）
14. CSRの課題：CSR先進企業の抱える悩みとは何か？
15. これまでの授業の振り返り・まとめと質疑応答

【事前・事後学修】

【事前学修・1.5時間】前回の授業で学んだ用語（概念）・理論・ケースを記したノートを再度読んでください。毎回の授業の冒頭で行う「振り返り」の部分を事前に把握することが可能となり、理解促進に繋がります。

【事後学修・2.5時間】各授業の最後に指示したテーマ（課題）に合わせ、授業で学んだことや新たに知ったこと、頭に浮かんだ疑問などを反映させた上で論点や自分の考える改善計画などを記入し、リアクションペーパーとして提出してください。

【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に配布、または、指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題（リアクションペーパー）40%、授業中の意見発表など20%、期末テスト40%。

毎回の授業の冒頭で、前回授業に関する質疑応答やリアクションペーパーに関するフィードバックを行い、履修者の理解促進に努めます。

【参考書】

森撰+オルタナ編集部『未来に選ばれる会社』（学芸出版社 2015年）1,944円。

社会調査概論

竹内 光悦

1年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

社会調査はあらゆる社会現象の解明に利用され、公開されている公的統計、調査票を利用した調査票調査から、インターネットを利用したウェブ調査等、調査法の形態も様々である。これらはそれぞれ利点と欠点があり、これらを把握しながら目的に合わせ利用することが重要である。

社会問題をテーマに、社会情報を集めるプロセス「調べる」「分析する」「まとめる」を体系的に学ぶことが大切である。

本講義では、社会調査を行なう際に実際に展開することになる一連の体系（調査の企画・設計、標本設計、調査票作成、調査実施、データ作成、集計・分析、調査結果の検討・報告書作成等）を踏まえ、卒業研究を踏まえた社会調査の基礎を紹介する。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査力・観察力の修得を目指す。自ら問題設定し、そのことに関連する情報を収集するなど、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 授業ガイダンスと社会調査の概要、社会情報の活用
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の歴史と現在、統計的調査と事例研究の方法
4. 社会調査のいろいろな方法—量的調査と質的調査
5. 調査対象抽出の考え方
6. 調査倫理と社会調査を実施する際の注意点
7. 国勢調査と官庁統計及び公開データの活用
8. 学術調査の目的と実際
9. 世論調査の目的と実際
10. マーケティング・リサーチの目的と実際
11. フィールドワークとインタビュー調査
12. 調査票調査の目的と実際
13. 社会調査での統計的分析法
14. PCを用いた資料の整理と報告
15. 社会調査のまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

谷岡一郎『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』（文藝春秋 2000年 842 円）

【注意事項】

本講義では社会調査系の講義の基礎になるため、卒論等で調査を行う人は十分な修得を目指して欲しい。本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

社会調査概論

竹内 光悦

1年～ 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

社会調査はあらゆる社会現象の解明に利用され、公開されている公的統計、調査票を利用した調査票調査から、インターネットを利用したウェブ調査等、調査法の形態も様々である。これらはそれぞれ利点と欠点があり、これらを把握しながら目的に合わせ利用することが重要である。

社会問題をテーマに、社会情報を集めるプロセス「調べる」「分析する」「まとめる」を体系的に学ぶことが大切である。

本講義では、社会調査を行なう際に実際に展開することになる一連の体系（調査の企画・設計、標本設計、調査票作成、調査実施、データ作成、集計・分析、調査結果の検討・報告書作成等）を踏まえ、卒業研究を踏まえた社会調査の基礎を紹介する。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査力・観察力の修得を目指す。自ら問題設定し、そのことに関連する情報を収集するなど、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 授業ガイダンスと社会調査の概要、社会情報の活用
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の歴史と現在、統計的調査と事例研究の方法
4. 社会調査のいろいろな方法—量的調査と質的調査
5. 調査対象抽出の考え方
6. 調査倫理と社会調査を実施する際の注意点
7. 国勢調査と官庁統計及び公開データの活用
8. 学術調査の目的と実際
9. 世論調査の目的と実際
10. マーケティング・リサーチの目的と実際
11. フィールドワークとインタビュー調査
12. 調査票調査の目的と実際
13. 社会調査での統計的分析法
14. PCを用いた資料の整理と報告
15. 社会調査のまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

谷岡一郎『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』（文藝春秋 2000年 842 円）

【注意事項】

本講義では社会調査系の講義の基礎になるため、卒論等で調査を行う人は十分な修得を目指して欲しい。本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

社会調査研究特論

竹内 光悦

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

社会を測るためには自ら調べたり、他の人が作成した資料から深く探ることが重要である。本講義では、社会を測る方法である社会調査の理論や実践を学ぶ。特に量的データに限らず、質的データの分析法（インタビュー調査や内容分析等）の習得も目指す。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、社会調査研究の導入
- 第2週 社会における質的データ分析の紹介
- 第3週 質的調査の基本と注意事項
- 第4週 聞き取り調査と事例
- 第5週 参与観察、非参与観察と事例
- 第6週 ドキュメント分析と事例
- 第7週 フィールドワークの仕方
- 第8週 フィールドワークの実践報告
- 第9週 インタビュー調査と事例
- 第10週 ライフヒストリー分析と事例
- 第11週 会話分析と事例
- 第12週 内容分析と事例
- 第13週 言語データ分析、テキストマイニングの活用
- 第14週 社会における質的データ分析の事例研究—参与観察の活用
- 第15週 社会調査、質的調査のまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba にて資料を配布。必要に応じて文献を紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の演習点（15%）、中間レポート評価（15%）、中間発表評価（20%）、最終レポート試験評価（50%）を踏まえ総合的に評価する。各授業の最初に前回の演習の結果、中間レポートにおいては manaba を通じて、レポートの所見をフィードバックする。

【参考書】

篠原清夫他（2010）社会調査の基礎、弘文堂 2,700 円／金井雅之他（2012）社会調査の応用—量的調査編、弘文堂、2,592 円／谷富夫・芦田徹郎（2009）よくわかる質的社会調査技法編、ミネルヴァ書房 2,700 円／谷富夫・山本努（2010）よくわかる質的社会調査プロセス編、ミネルヴァ書房 2,700 円。

その他、講義内で適宜、指示する。

【注意事項】

調査系の基礎知識に不安がある人は学部の調査系の授業等にも参加し、知識を深めてください。SPSS や R などの統計ソフトも紹介。

社会調査実習Ⅰ

竹内 光悦

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。そのため本講義では、フィールドワークを行うことで調査設計からデータ収集までを体系的に体験・理解してもらう。グループ単位の演習が基本となる。それぞれが問題意識を立ち上げ、仮説や調査課題を作り、それを解明するに適切な調査手法・調査対象を選定し、実査の方法・心構えなど、一連の検証プロセスをいかに展開していくのかを指導する。調査地点の実態把握やどのような切り口やテーマを持って調査を行うのかといった予備情報の収集・読み込み過程を前半に手厚く配置し、それぞれの問題設定に応じて定量的、定性的調査いずれも体験できるように配慮する形で進行する

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、データ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、チームで活動する力【協働力】、活動の振り返りによる自己管理能力【研鑽力】を修得する。

【授業の内容】

全体の進行スケジュールは以下の通り。

1. オリエンテーション、フィールドワークの仕方
2. 当該フィールドに関する既存データの収集
3. 当該フィールドに関する既存データの分析
4. 当該フィールドに関する一次データの収集法
5. 当該フィールドに関するデータから得られる知見の整理
6. 解明すべき問題の整理
7. 仮説あるいは調査課題作り
8. 調査手法や対象者選定などの調査設計
9. 質問項目の作成
10. 質問項目の作成とディスカッション
11. 質問項目の再検討
12. 調査票・インタビューフローの作成
13. 調査票・インタビューフローの検討・修正
14. 対象者の選び方の検討、サンプリング方法
15. 実査の進め方、心構え、対象者とのラポール形成の重要性、調査計画の発表

1回の構成は、前半で基本的な知識を教員側がレクチャーし、後半ではグループ単位で課題をこなしていく中で実践的なトレーニングを積む。

【事前・事後学修】

事前学修：授業時の企画研究計画に従い作業進め、授業時の打合せの準備をする（学修時間 週2時間）／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は特に指定しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

個人評価（演習・小レポート・授業中の加点、など60%）およびグループ評価（調査結果発表・調査報告書、など40%）で評価。毎回のグループワークの議事録にフィードバックを行う。

【参考書】

テキスト等については適宜紹介する。

【注意事項】

本講義では実習を行うため、遅刻、欠席は注意すること。特にグループワークで調査を行うため、グループ内でのコミュニケーション、協調性を重視する。社会調査実習Ⅱでも同じグループで演習を行うため、続けて社会調査実習Ⅱを受講することを前提とする。また総合的な能力育成を目指すため、他の調査系、分析系、情報系の科目を受講（予定を含む）しておくこと。

社会調査実習Ⅱ

竹内 光悦

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。この講義では、前期に続き、フィールドワークで収集したデータの加工・処理から実際の報告書作成までの過程を主体的に行えるような能力を身に付けることをめざす。定量的・定性的なデータそれぞれの処理について、グループワークを通してデータを加工・分析していくプロセスを体験する。クロス集計・独立性の検定のほか、クラスター分析、因子分析など基礎的な多変量解析までを行う。また最終的なアウトプット（報告会での発表資料、報告書執筆）の仕方の指導も行う。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、またチームによる問題解決を通じた【協働力】、他者の意見を取り入れ自身の成長を考えるを【研鑽力】を修得する。

【授業の内容】

全体のスケジュールは以下の通り。

1. 量的データの加工：調査票の保管方法やデータの入力、データの前処理等の確認
2. 量的データの加工：データのクリーニング、エディティング、コーディング、欠損値処理
3. 量的データの集計と知見の取り出し方
4. クロス集計による全体傾向の把握
5. 仮説の検定、多変量解析
6. 知見のまとめ方とプレゼンテーションの仕方
7. 質的データの整理の仕方
8. 質的データの知見の導き出し方
9. 定量、定性データの知見の検討
10. プレゼンテーション資料作り
11. グループごとのプレゼンテーション
12. 報告書の作成オリエンテーションと全体構成の検討
13. フィールド調査全体での知見の確認
14. 報告書における章ごとの知見の確認
15. 報告書全体内容のディスカッション

社会調査実習Ⅰに引き続き、1回の構成は、前半で基本的な知識を教員側がレクチャーし、後半ではグループ単位で課題をこなしていく中で実践的なトレーニングを積む。

【事前・事後学修】

事前学修：授業時の企画研究の計画に従い作業進め、授業時の打ち合わせの準備をする（学修時間 週2時間）／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は特に指定しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

個人評価（演習・小レポート・授業中の加点、など60%）およびグループ評価（調査結果発表・調査報告書、など40%）で評価。毎回のグループワークの議事録にフィードバックを行う

【参考書】

特に指定しない。

【注意事項】

本講義では実習を行うため、遅刻、欠席は注意すること。特にグループワークで調査を行うため、グループ内でのコミュニケーション、協調性を重視する。演習の内容のため、社会調査実習Ⅰを同年に受講していることを前提とする。

社会調査方法論

原田 謙

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

この授業は、社会調査によってデータを収集し、分析段階にまで整理していく具体的な方法を学ぶ科目である。自治体の意識調査から、内閣支持率・選挙予測調査、テレビ視聴率調査まで、さまざまな調査結果が日々報告されている。ところが、質問の仕方が不適切な調査、対象者に偏りがみられる調査などが少なくない。社会調査は、その方法がでたらめだと、まったく意味のないものになってしまう。

【授業における到達目標】

この授業では、ゼミや卒論で自ら調査を実践できる力を身につけることを目標とする。社会調査の方法論を通じて、「研鑽力」の養成に資する本質を見抜く力、「行動力」に必要な現状を正しく把握する能力を高める。

【授業の内容】

1. ガイダンス：社会調査の流れ
2. 社会調査を設計する：記述と説明、独立変数と従属変数、仮説
3. 調査対象者を選ぶ1：全数調査と標本調査、サンプリングの歴史
4. 調査対象者を選ぶ2：無作為抽出、テレビ視聴率にみる標本誤差の意味
5. 調査対象者を選ぶ3：サンプリングの種類と方法、サンプルサイズの決め方
6. 調査票をつくる1：質問文作成の手順、ワーディングの注意点、選択肢の作り方
7. 調査票をつくる2：意識・態度を測定する尺度、全体の構成とレイアウト
8. 習熟度確認テスト
9. 質的調査を実践する1：聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析
10. 質的調査を実践する2：聞き取り調査の作法、生活史を記録する
11. 調査票調査を実施する：調査票の配布・回収を考える
12. 調査データを整理する：エディティング、コーディング、データクリーニング
13. 調査結果をまとめる：データ分析の基礎、報告書作成の要領
14. 生活史レポートの輪読
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査方法、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布もしくは必要資料をmanabaにアップロードする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での課題の提出（60%）、確認テスト（40%）にもとづいて評価する。課題およびテスト結果のフィードバックは授業最終回もしくはmanabaで行う。

【参考書】

- 森岡清志編『ガイドブック社会調査（第2版）』（日本評論社、2007年）
 社会調査協会編『社会調査事典』（丸善出版、2014年）
 原田謙『社会的ネットワークと幸福感——計量社会学でみる人間関係』（勁草書房、2017年）

社会的養護

高橋 誠一郎

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

子どもは、家庭で愛情に包まれて育てられるのが望ましいが、いつの時代も家庭の事情により家族と生活できない子どもたちがいる。この授業では、家庭以外による社会の責任としての養育、すなわち「社会的養育」について学ぶ。特に児童養護施設をはじめとする児童福祉施設について、歴史や制度、課題、また児童を取り巻く福祉ニーズなどについて理解を深めることを期待する。現在、制度が大きく変わりゆく中で、児童福祉施設の中でも生活施設における基本と養育の実際、最新の制度を知り、施設における保育士の役割や支援について学びを深める。

【授業における到達目標】

社会的養護の授業で扱う社会問題等に理解を深め、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。

貧困や虐待など子どもを取り巻く問題に向き合うことで、「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。

【授業の内容】

以下のテーマについて、教科書を中心にスライドやビデオ教材、プリント資料などからテーマについて理解を深める。また児童養護施設と保育所の見学も行い、実際の施設の取り組みを学ぶ。

- 第1週 授業概要、自己紹介
- 第2週 保育における社会的養護
- 第3週 児童家庭福祉と社会的養護の関係性
- 第4週 児童の権利擁護と社会的養護
- 第5週 社会的養護の制度と法体系
- 第6週 社会的養護の仕組みと実施体制
- 第7週 家庭養護と施設養護、中間まとめ
- 第8週 施設見学（予定）
- 第9週 社会的養護の専門職
- 第10週 施設養護の実際
- 第11週 施設養護とソーシャルワーク
- 第12週 生活単位の小規模化とケア体制
- 第13週 社会的養護の担い手のケアの必要性
- 第14週 社会的養護の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の範囲のテキストを読み、専門用語等を調べておく。レポート・発表等の課題の準備。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回フィードバックシートにまとめ翌週に提出。発表・小テスト等の復習。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

新保育士養成講座編集委員会：新保育士養成講座 第5巻 社会的養護 改訂版[全国社会福祉協議会出版部、2018、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の提出物30%、中間のレポート20%、授業中レポート50%

毎回の提出物と中間のレポートについては、次回授業時に、授業中レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- 『子どもの福祉とこころ』（新曜社）
- 『この子を受けとめて、育むために 育てる・育ちあういとなみ』（全国児童養護施設協議会）

社会的養護内容

高橋 誠一郎

3年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「社会的養護内容」は、2年次前期の「社会的養護」を受けて、居住型の児童福祉施設でどのような支援が行われているか、施設で働く保育士に求められることを講義と演習によって、さらに理解を深める。授業を通して、支援を要する児童への、子ども観や家族観、養育観を養う。さらに、社会的養護の現場をより理解し、権利擁護に基づいた養育への学びを深め、事例等を通して課題について考察する力を養うことを期待する。また、児童福祉法の改正を受け、大きく変化している社会的養護の制度についても、理解を深める。

【授業における到達目標】

社会的養護内容の授業で扱う、要保護児童やその家庭の状況に理解を深め、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を身につける。社会的養護施設に従事する保育士に求められるチームワーク修得のために、毎回の授業の中で行う、具体的事例に基づいたグループディスカッションを通して、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

【授業の内容】

以下のテーマについて、教科書を中心にスライドを使ってすすめる。グループワークなどの教材の使用や事例検討や演習も行い理解を深める。

- 第1週 授業概要、権利擁護
- 第2週 保育士等の倫理及び責務
- 第3週 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
- 第4週 児童養護の制度
- 第5週 日常生活支援と施設の暮らし
- 第6週 心の傷を癒し、心を育むための援助（保育士の業務）
- 第7週 心の傷を癒し、心を育むための援助（虐待された子どもへの支援、虐待への対応）、中間まとめ
- 第8週 親子関係の調整（子どもと家族への支援）
- 第9週 親子関係の調整（虐待した家族への支援）
- 第10週 ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用1
- 第11週 ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用2
- 第12週 記録について
- 第13週 行事等の計画について
- 第14週 今後の課題と展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の範囲のテキストを読み専門用語等を調べる。レポート・発表等の課題の準備をする。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回フィードバックシートにまとめ翌週に提出、発表・小テスト等の復習（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

中山正雄、浦田雅夫：よりそい支える社会的養護Ⅱ[教育情報出版、2019、¥1,810(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の提出物20%、中間レポート20%、発表10%、授業中レポート50%

毎回の提出物と中間のレポートについては、次回授業時に、授業中レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- 『子どもの福祉とこころ』（新曜社）
- 『この子を受けとめて、育むために 育てる・育ちあういとなみ』（全国児童養護施設協議会）

社会統計特論

竹内 光悦

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

社会においては、統計情報の収集、分析、そこから得られる情報の活用が重要である。本講義では、統計情報や社会調査で得られたデータを社会統計学の基礎を交えながら、紹介する。特に代表的な多変量解析を中心に、計量的データ分析の基礎・応用力の習得を目指す。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスおよび統計ソフトウェアの導入
 - 第2週 社会における多変量量的データ分析の紹介
 - 第3週 データ分析の基本、多変量記述統計
 - 第4週 重回帰分析と変数選択
 - 第5週 ロジスティック回帰と判別分析
 - 第6週 分散分析と共分散分析
 - 第7週 クラスタ分析
 - 第8週 公的統計データの分析実践報告
 - 第9週 主成分分析
 - 第10週 因子分析
 - 第11週 多次元尺度構成法
 - 第12週 パス解析と共分散構造分析
 - 第13週 社会における多次元量的データ分析の事例研究Ⅰ—調査データの活用
 - 第14週 社会における多次元量的データ分析の事例研究Ⅱ—二次データ分析
 - 第15週 社会統計のまとめ
- ※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba にて資料を配布。必要に応じて文献を紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の演習点（15%）、中間レポート評価（15%）、中間発表評価（20%）、最終レポート試験評価（50%）を踏まえ総合的に評価する。各授業の最初に前回の演習の結果、中間レポートにおいては manaba を通じて、レポートの所見をフィードバックする。

【参考書】

講義内で適宜、指示する。

【注意事項】

調査系の基礎知識に不安がある人は学部の調査系の授業等にも参加し、知識を深めてください。SPSS や R などの統計ソフトも紹介。

社会福祉

大澤 朋子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

現代社会に生きる私たちは生活上の様々な問題を抱えるが、その解決の仕組みのひとつに社会福祉がある。本科目では社会福祉学を初めて学ぶ学生に対して、現代社会の具体的な課題を取り上げながら、〈誰が〉〈何を〉〈どのように〉問題だと認識し、それを〈どうやって〉解決しようとしているのかに着目しながら、社会福祉を理解する。今日的な社会福祉の課題を理解し、解決策を考えていくとともに、社会福祉についての基本的な知識を習得する。

【授業における到達目標】

保育士として身につけるべき社会福祉の基礎的な知識・ソーシャルワークの視点を修得する。社会福祉の歴史の変遷と現代社会における社会福祉の意義、現行制度の体系や実施体制、相談援助について理解する。基本的人権の思想と利用者保護のしくみを理解する。社会福祉の動向と課題について理解する。

【授業の内容】

- (1) オリエンテーション・社会福祉ってなんだろう？
- (2) 現代の生活と社会福祉
- (3) 社会福祉の歴史
- (4) 少子高齢化と高齢者福祉
- (5) 少子高齢社会の若者・子ども家庭支援
- (6) 障害者福祉
- (7) 加齢と障害の理解と地域共生社会
- (8) 貧困とホームレス問題
- (9) 社会福祉の手段—社会保障と公的扶助を中心に
- (10) 社会福祉のしくみ—社会福祉の法律・行政・財政
- (11) 社会福祉サービス利用のしくみと社会福祉の機関・施設
- (12) 相談援助
- (13) 地域福祉と社会福祉の担い手
- (14) 授業内試験
- (15) 試験のフィードバック・まとめ

※学生の興味関心や他科目の進捗と関連して、この予定を前後・変更する可能性もあります。

【事前・事後学修】

事前学修：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間週2時間）

事後学修：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

保育士養成新カリキュラム開始年度のため現在選定中。後期開始前までに掲示等で知らせる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加）20%、中間レポート20%、試験60%
最終回で試験のフィードバックを行う。

社会福祉概論

現代社会の福祉のあり方を考える

勝部 雅史

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

21世紀の社会福祉は、特別な人々のための従来のソーシャル・ウェルフェア（Welfare）から、より幅広くすべての市民のためのソーシャル・ウェルビーイング（well-being）へと、その対象と方法を革新させている。そこで本講義では、現代社会の福祉の諸問題を理解するとともに、多様な福祉ニーズを必要とする人々の生活と福祉を探り、人間理解を深め、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を学ぶことを到達目標としている。

社会福祉制度や実践の基本概念および、日本と諸外国の社会福祉の歴史を理解することを通じて、「生活者」としての視点から福祉のあり方について理解することを目的とする。

【授業における到達目標】

1. 現代社会における社会福祉・社会保障の概要を理解する。
2. 子ども、高齢者、障害者など福祉の対象者に関する「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会保障体系における社会福祉
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 社会福祉の対象把握
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 障害者福祉と生活援助
- 第10週 児童家庭福祉と福祉ニーズ
- 第11週 児童家庭福祉と生活援助
- 第12週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第13週 社会福祉の思想と哲学①
- 第14週 社会福祉の思想と哲学②
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配布する資料を教材に用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【方法・基準】**

定期試験90%、課題レポート10%。

【フィードバック】

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。

授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

【参考書】

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』（みらい 2012年）2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』（有斐閣 2014年）2,376円

【注意事項】

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「公衆衛生学」「経済学」「社会学」

社会福祉概論

現代社会の福祉のあり方を考える

勝部 雅史

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

21世紀の社会福祉は、特別な人々のための従来のソーシャル・ウェルフェア (Welfare) から、より幅広くすべての市民のためのソーシャル・ウェルビーイング (well-being) へと、その対象と方法を革新させている。そこで本講義では、現代社会の福祉の諸問題を理解するとともに、多様な福祉ニーズを必要とする人々の生活と福祉を探り、人間理解を深め、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を学ぶことを到達目標としている。

社会福祉制度や実践の基本概念および、日本と諸外国の社会福祉の歴史を理解することを通じて、「生活者」としての視点から福祉あり方について理解することを目的とする。

【授業における到達目標】

1. 現代社会における社会福祉・社会保障の概要を理解する。
2. 社会福祉における「再分配」や「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会保障体系における社会福祉
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 障害観の変遷
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 社会福祉援助とスティグマ
- 第10週 児童家庭福祉と福祉ニーズ
- 第11週 児童家庭福祉と生活援助
- 第12週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第13週 社会福祉の思想と哲学①
- 第14週 社会福祉の思想と哲学②
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

配布する資料を教材に用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【方法・基準】**

定期試験90%、課題レポート10%。

【フィードバック】

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。

授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

【参考書】

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』(みらい 2012年) 2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』(有斐閣 2014年) 2,376円

【注意事項】

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「公衆衛生学」「経済学」「社会学」

社会文化事業論

高木 裕子

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

企業のホームページには、環境問題に取り組みますとか、世界的課題の解決に寄与しますとか、営利目的を超えた次元での発想や概念での社会貢献を行い、社会的責任を負い、企業メッセージを発信するものが目立ちます。従来、企業にあった文化事業財団は、一定の組織や機関を設け、市民のための文化意識の向上に努め、文化財保護や保存にも力を入れてきました。また、その姿を示すことがスタンスやステータスでもありました。ところが、ある時から、「文化」に対する扱いは変わり、「文化性」をイメージとして活用、街づくりへと誘導する手法や、コスプレも文化の一つと、企業が率先して文化を発信する側になる等、近年、わからないものも出てきています。世界が今「文化色」を強める一方、国家成長戦略や経済発展政策下で「文化戦略」を進め、本格的な文化のビジネス化や事業化に乗り出している時、私たちの「文化」に対する認識は揺らいでいるのではないのでしょうか。本授業では、文化とは何か、何が文化だったのかに立ち戻りながら、歴史的な「文化」の扱われ方や時代により「文化」の見方がどう変わっていったのかを整理します。また、国が採ってきた文化政策や各省庁が行う文化推進活動が企業の「文化事業」とどう異なるのか、グローバルな社会的課題や営利目的にある企業が「文化」とどう対峙しているのか、国家と企業、地方自治体が「文化」を巡り、何を行おうとしているのかを政策論として知る中で、これから日本がどのように「文化」に向き合い、ビジネス化・事業化できるのかを考えます。

【授業における到達目標】

国際的な視野に立ち、「文化」はどう解釈、紐解くことができるのか、どう認識していけばそこに辿り着けるのかを考えながら、「文化」に係わる事業の立案と企画化（「文化資源」の発掘やソフトパワー化）を行います。文献調査だけでなく、フィールド調査も実際に行うことで、行動力やクリエイティブ力も身に付けていきます。

【授業の内容】

- 第1週 なぜ社会的貢献が必要なのか。社会的責任とは何か。
- 第2週 なぜ今、「文化」なのか。
- 第3週 「文化」とは何か。「文化政策」とは何か。
- 第4週 企業の社会的貢献と社会的責、そして「文化」。
- 第5週 企業の地域（社会）貢献と個人の社会的責任に「文化」をどう役立てるのか？
- 第6週 文化とコンテンツ、コンテキスト
- 第7週 グローバル下社会での問題と課題に取り組む企業や民間団体、そして、個人
- 第8週 ケーススタディ① アジアの文化政策と世界戦略
- 第9週 ケーススタディ② 文化広報と世界の文化戦略
- 第10週 日本（国内問題）と海外（世界問題）、ローカル・グローバル、リージョン、そして、グローバル
- 第11週 日本の文化戦略と世界の文化戦略①
「文化」コンテンツで、世界的にビジネスするとは？
- 第12週 日本の文化戦略と世界の文化戦略②
「文化」コンテンツで、世界的にビジネスするとは？
- 第13週 今、どのような人材が求められているのか
- 第14週 世界貢献と●●の問題、解決課題、そして、敢えて「文化」を扱う今
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】前週、課題があります。課題は必ず調べ、それを受け、授業中に発表、ディスカッション、質疑応答をします。課題内容を理解し、回答できるようにし、授業で内容を深めます（週1時間）。【事後学修】フィールドへ出て、調査しながら課題を発見したり、資源を発掘したり、活動にも参加します。その度、結果はレポートとして提出。ゲストスピーカーの講義内容もレポート提出し

てください（週3時間）。

【テキスト・教材】

今年度は資料、プリント他、こちらで準備します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題と発表・ディカッション20%、フィールド調査と企画等50%、ゲストスピーカー内容20%、活動・参加レポート10%。フィードバックは各課題等の後、毎回行うと共に、そこでの視点のあり方やポイント等を示す。

【参考書】

授業の中で適宜、指定します。

【注意事項】

できるだけ身近な話題やわかりやすい事例をもって、講義は進めていきますが、指定された本や関係する内容については、事前に、広く、深く調べ、内容把握や理解に努めてください。

社会保障論

— 社会保障は民主主義の学校 —

福田 幸夫

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちの気がつかないところで、社会保障制度は機能している。病気になって受診する場合、皆さんは保険証を持って病院に行く。医療保険制度は、いちばん身近な社会保障制度である。また、選挙時には例外なく、社会保障の充実が公約に取り上げられる。他昨今話題の年金制度、雇用保険、労災保険や介護保険等の社会保険制度は、私たちの日常生活維持にも深く関わっている。講義ではこれらが国の社会保障制度を取り上げるとともに、生命保険、損害保険等の民間保険分野との関連性も含め、民主主義社会の根幹をなす制度の一つである社会保障制度を概観していくこととする。

【授業における到達目標】

共通教育の教養教育科目の中の社会と歴史に関する科目として、社会保障制度の理解を通じて多様性を受容した国際的視野を持ち、倫理観を持って人格を陶冶しようとする態度を醸成する。幅広い教養の土台として、民主主義社会や福祉国家の基盤となる社会保障制度を学ぶことにより、広い視野と洞察力を身につけ、自己や他者の屋くらの理解の上に協調し、豊かな人間関係を構築できるよう努めための柔軟な思考力・理解力を身につけることを目標とする。具体的には、社会保障制度の理念と歴史的発展を理解し、わが国の現行の社会保障制度について説明することができ、社会人に要求される豊かな教養、専門的知識、優れた実践能力を養う。

【授業の内容】

- | | | |
|---------------------|---------|--------|
| 1. 社会保障論の講義の進め方について | p. 1～ | 導入 |
| 2. 社会保障とは何か | p. 9～ | 課題整理 |
| 3. 社会保障の理論と歴史的発展 | p. 15～ | 課題整理 |
| 4. 社会保険制度と公的扶助制度 | p. 31～ | 現状制度理解 |
| 5. 生活保護制度と各種手当制度 | p. 40～ | 課題整理 |
| 6. 年金保険制度の概要 | p. 47～ | 現状制度理解 |
| 7. 年金保険制度の給付内容 | p. 66～ | 課題整理 |
| 8. 医療保険制度の概要 | p. 81～ | 現状制度理解 |
| 9. 医療保険制度の給付内容 | p. 104～ | 課題整理 |
| 10. 雇用保険制度の概要 | p. 133～ | 現状制度理解 |
| 11. 労働者災害補償制度の概要 | p. 143～ | 現状制度理解 |
| 12. 介護保険制度の概要 | p. 158～ | 現状制度理解 |
| 13. 民間保険の概要 | p. 179～ | 課題整理 |
| 14. 生命保険と損害保険 | p. 185～ | 現状制度理解 |
| 15. まとめ | p. 215～ | 総括 |

【事前・事後学修】

事前学修 講義の前に、シラバスの該当項目に関するテキストの内容をよく読んでおくこと。学修時間：週2時間

事後学修 講義で取り上げた内容に関し、板書した内容を記したノートと、テキストの該当箇所の内容をよく読んでおくこと。学修時間：週2時間

【テキスト・教材】

阿部裕二：社会福祉士シリーズ12. 社会保障第5版[弘文堂、2018、¥2,625(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の項目について、総合的に評価を行う。

随時実施の小テスト30点 試験・レポート40点

授業への取り組み姿勢～ノート整理、積極的な質問等30点

各回の授業ごとに、前回の内容の重要点を再確認し、リアクションペーパー等の活用により学生の理解度を考察しフィードバックしながら授業を進める。

【参考書】

『社会保障の手引平成31年改訂版』（中央法規出版、2019年）

定価2,800円＋税

【注意事項】

社会保障制度に興味のある学生の受講を希望します。

住環境・設備学

—光・音・熱・空気デザインのデザイン—

川西 縫衣子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、建築環境工学・建築設備と呼ばれる分野の知識をベースに、建築環境を調整・整備していく方法について学んでいきます。

【授業における到達目標】

・光環境、音環境、熱環境、空気環境の各分野における用語を理解し、整備の方針を立案し、その具体的な方策（設備）のあり方を提案できるようになります。

→生活環境の現状を把握し、その課題を洞察する力と、実際に課題を解決していく方法について提案できる行動力を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1講 光環境 1（視感度、測光量など）
- 第2講 光環境 2（均一な照明の計画）
- 第3講 光環境 3（不均一な照明の計画、照明設備）
- 第4講 光環境 4（色彩計画）
- 第5講 光環境 5（昼光照明、照明計画）
- 第6講 音環境 1（音の響きのデザイン）
- 第7講 音環境 2（音の性質）
- 第8講 音環境 3（騒音対策、音の意味）
- 第9講 熱環境 1（温熱感と空気調和）
- 第10講 熱環境 2（断熱と伝熱）
- 第11講 熱環境 3（湿気と結露）
- 第12講 熱環境 4（パッシブな手法）
- 第13講 熱環境 5（気候と日照・日射）
- 第14講 空気環境（換気と通風）
- 第15講 総括

【事前・事後学修】

次回授業範囲について、テキストを事前に読んできて下さい。
授業後に、テキスト巻末の演習問題（小テスト）を解きます。自宅学習では復習をかねてmanabaに解答を記入しましょう。
（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

授業で使用するテキストを購入してもらいます。その他、「演習問題」プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中試験、指示した課題の提出状況に基づいて成績を付けます。
（試験：80%、課題：20%）
manaba小テストについては、授業中に解説を行います。

【参考書】

倉淵隆著『初学者の建築講座』（市ヶ谷出版社）
岩田利枝ら著『生活環境学』（井上書院）
田中毅弘著『ポイントで学ぶ建築環境・設備学読本』（技術書院）

【注意事項】

いくつか数式や複雑な読み方をする図が出てくる分野があります。詳細に解説する予定ですが、各自も積極的に演習問題に取り組んで下さい。
なお、グループで知識を確認する課題を取り入れるので、相互に教え合い、学び合ってください。

住環境デザイン論

高田 典夫

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

住空間の中での生活行為に着目し、計画学的な視点で住空間を考え、住み続けるための住環境を形成するためにはどうしたらよいかを考えていきます。

【授業における到達目標】

住環境の学習を通して、過去と現在の建築家の考えを探求し、社会の移り変わりを各自の視点で感じ取ってみましょう。また日本の住環境も多様化してきています。この授業では住環境の基礎を習得し、多様化している社会を読み解いていくための、知識や感覚を身につけます。「研鑽力<DPより>」のうち、広い視野と深い洞察力を持ち、住環境デザインを通して、社会の本質を見抜く力を習得します。

【授業の内容】

1. 住環境とは
2. ヒトの住むところ
3. 敷地を読む
4. 住宅を内部から考える一間取り
5. 家のまわりを考える
6. 建築家の考える住環境 1
—吉村順三、アントニン・レイモンド、
フランク・ロイド・ライト
7. 建築家の考える住環境 2
—前川国男、吉阪隆正、ル・コルビュジェ
8. 建築家の考える住環境 3
—清家清、池辺陽、芦原義信
9. 建築家の考える住環境 4
—土浦亀城、増沢洵、菊竹清訓、東孝光
10. 都市に住むということ
未定 *外部講師の講義、質疑応答がある
11. 集まって住む
未定 *外部講師の講義、質疑応答がある
12. 集合住宅に関わる問題、未来像
未定 *外部講師の講義、質疑応答がある
13. 25年経過した集合住宅団地を検証する
14. 映画に見る住環境
15. まとめ/校外実習
—実際に住んでいる住宅を見学して、
住環境デザインについて考える

【事前・事後学修】

授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。
身のまわりの住環境を好奇心を持って見直して、気になることを探し出してみましょう。レポート課題と合わせて、授業の後に、授業内でとりあげたポイントをもとにして、改めて身のまわりの住環境を見るとともに、参考図書、授業中に提示した図書などを読むことで理解を深めましょう。
週4時間の事前事後学修が必要です。

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と、提出物（レポート・課題等）（80%）による。数回のレポート・課題を実施し、講義内でレポート提出内容を踏まえたフィードバックをします。

【参考書】

中山繁信『美しい風景の中の住まい学』（オーム社、2013年）
鈴木敏彦・松下希和・中山繁信『住宅・インテリアの教科書』（エクスナレッジ、2014年）
その他、適宜授業中に紹介する。

住環境設計学演習 A

槇 究

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

利用者ニーズの把握など、環境形成や環境調査に関わる調査手法や発想法を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・人間-環境系の調査手法について、そのメリット・デメリット、適用時の注意事項について理解する。
- ・学んだ調査手法を実際に使用することで、独自の調査を実施できるようになる。
- ・調査データの解析方法について理解し、解析を実行できるようになる。

上述の目標を達成することにより、自身が企画・運営した調査に基づいて論理的考察を加えた論文を執筆できるようになる。

【授業の内容】

<調査のデザインを学ぶ>

- 第1回 インタビュー調査(1) 解説
- 第2回 インタビュー調査(2) サンプルケースによる演習
- 第3回 インタビュー調査(3) 応用
- 第4回 インタビュー調査(4) 解析
- 第5回 アンケート調査(1) 解説
- 第6回 アンケート調査(2) サンプルケースによる演習
- 第7回 アンケート調査(3) 応用
- 第8回 アンケート調査(4) 解析
- 第9回 多変量解析手法

<マルチメソッドによる調査を実施する>

- 第10回 調査計画
- 第11回 調査準備と実施
- 第12回 調査結果の解析(1)
- 第13回 調査結果の解析(2)
- 第14回 調査結果のまとめ
- 第15回 発表

【事前・事後学修】

テキストを事前に読んでおくこと。

演習として取り入れる調査を実施すること。

得られたデータの解析を実施し、レポートを執筆すること。

(学修時間：4時間)

【テキスト・教材】

日本建築学会：住まいと街をつくるための調査のデザイン[オーム社、2011、¥3,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法__レポート：40%、授業への取り組み：30%、課題発表：30%

成績評価の基準__レポート・課題のフレームワークの適切さ、内容の論理性、授業中の発言・積極的な参加など

フィードバック__レポート、課題へのコメント

【参考書】

適宜、参考文献を紹介する。

【注意事項】

調査は授業外で実施するものが多くなる。

必ず、解析に必要なデータ量を確保すること。

住環境設計学演習 B

橋 弘志

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

近年の建築計画や都市計画、あるいは環境心理学に関わる文献を輪読し、生活空間の計画・デザイン・実践に関わる現代的なテーマ・理論について理解する。それらの内容を理解した上で、具体的な建築・都市デザインを題材として評価・考察を行う。

【授業における到達目標】

以下の能力を修得する。「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力。「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力。

【授業の内容】

- 第1回 都市の理論～都市のイメージ
- 第2回 都市の理論～経路探索
- 第3回 まちの理論～コミュニティ論
- 第4回 まちの理論～近隣住区論
- 第5回 集合の理論～路地・長屋
- 第6回 集合の理論～共有領域論
- 第7回 行動の理論～アフオーダンス
- 第8回 行動の理論～人の居方
- 第9回 行動の理論～個人的領域形成
- 第10回 住民参加によるデザイン
- 第11回 公共施設の公共性
- 第12回 福祉の住まいづくり・まちづくり
- 第13回 リノベーション・コンバージョン
- 第14回 まちの居場所
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回に配布される資料を熟読するほか、関連する資料を収集し、レポートを作成する(2.5時間)

事後学修：授業の内容を復習して身につけておく(1.5時間)。

【テキスト・教材】

開講時および授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の課題発表60%、授業への取り組み40%として評価する。

各回の課題は授業の中で討論を通じてフィードバックされる。

住環境設計学演習C

高田 典夫

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

住環境の計画は、具体的な条件—敷地、まちなみ、家族構成など—によりそれぞれ異なる。特定の実在する具体的な環境条件を踏まえて、空間構成、環境との関わり方、素材の選択などを考慮し、自分の考える「住み続けるための住環境」をデザインすることで、知見を深めるとともに、自らの考えていることを人に伝えるプレゼンテーション術を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・住環境に関わる諸条件を理解することを通して「国際的視野」を修得する。
- ・自分の考えたことを具体化し、可視化することを通して「研鑽力」を修得する。
- ・プレゼンテーションを行うことにより「行動力」「協働力」を修得する。
- ・課題に取組み、事例研究を通して「美の探求」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 住み続けるための住環境1：個人住宅／課題説明
第2週 個人住宅／敷地の解説
第3週 個人住宅／家族構成をプランニング
第4週 個人住宅／構造・構法計画
第5週 個人住宅／図面による空間表現研究
第6週 個人住宅／模型による空間表現研究
第7週 個人住宅／プレゼンテーション・講評
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
第8週 住み続けるための住環境2：集合住宅／課題説明
第9週 集合住宅／敷地の解説
第10週 集合住宅／住民構成とプランニング
第11週 集合住宅／集合のシステム
第12週 集合住宅／構造・構法計画
第13週 集合住宅／図面による空間表現研究
第14週 集合住宅／模型による空間表現研究
第15週 集合住宅／プレゼンテーション・講評
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある

【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。課題を解くための資料を収集し、自分なりの「資料集成」を作成しておくこと。それとともに、課題に沿った事例を検索し、事例研究をできるだけ数多く行い、そのうちのいくつかについては空間体験をしておくことが望ましい。(学修時間 2時間/週)

【事後学修】エスキス時の討論やプレゼンテーションによる講評をもとに、自分のデザインを見直すことで、デザインの理解が深まります。(学修時間 2時間/週)

【テキスト・教材】

テキストは、特には指定しない。
開講時および講義中に適宜、資料を提示し、配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内での発表(20%)、プレゼンテーション(図面・模型など、60%)、平常点(出席態度、レポートの提出状況など、20%)
各課題の講評時にフィードバックを行う。

【参考書】

参考文献は適宜紹介する。

【注意事項】

「住環境設計学特論C」を受講済みであること。
研究室に適宜掲示する「オープンハウスのお知らせ」を参照して、実際の住環境をできるだけたくさん体験し、その空間について分析し、考察して、授業内で討議できるようにしておくこと。

住環境設計学特論A

槇 究

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

環境心理学的なデザインについて事例を用いて講述すると共に、デザイン手法や発想法についても触れる。

さらに、文献購読とディスカッションを通じて、環境心理学的なものを見方を涵養する。

【授業における到達目標】

- ・環境心理学的な視点から空間・建築・地域の環境を考察し、人間—環境系の枠組みとして把握できるようになる。
- ・さらに、その枠組みを利用した環境デザインを構想できるようになる。

【授業の内容】

- 建築空間のヒューマナイズ
第1回 事例検討(1) 耳を傾けてみよう
第2回 事例検討(2) 使う人の声を聞こう
第3回 事例検討(3) 心を読む
第4回 事例検討(4) 快適性の先にあるもの
第5回 ディスカッション
パタン・ランゲージと景観形成手法
第6回 パタン・ランゲージについて(1) 概論
第7回 パタン・ランゲージについて(2) 演習
第8回 景観形成手法について
第9回 発想法
文献購読：環境心理学関連の文献を中心に文献を数点選択し、購読する
第10回 文献購読およびディスカッション(1)
第11回 文献購読およびディスカッション(2)
第12回 文献購読およびディスカッション(3)
第13回 文献購読およびディスカッション(4)
第14回 文献購読およびディスカッション(5)
第15回 総括

【事前・事後学修】

テキストを事前に読み、内容をまとめておくこと。
授業中にディスカッションしたことについて、復習すること。
(学修時間 週4時間)

【テキスト・教材】

クリストファー・アレグザンダー：パタン・ランゲージ[鹿島出版会、1984、¥9,800(税抜)]
日本建築学会：『建築空間のヒューマナイズ[彰国社、2001、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法__レポート40%、授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加)30%、課題発表30%
成績評価の基準__レポート・課題のフレームワークの適切さ、含有される情報の豊富さ、内容の論理性等
フィードバック__レポート、課題へのコメント

【参考書】

適宜、関連する参考文献を紹介する。

【注意事項】

日常的に、身の回りの構築環境(Built environment)を観察し、人間—環境間の関連について考察する習慣を身に付けて欲しい。

住環境設計学特論B

橋 弘志

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

環境行動研究とは、人間生活の質の向上を目指し、環境と人間行動との統合的関連性を理解しようとする学問分野である。「建築理論の創造」をテキストとして、環境行動研究のアプローチからインテリア・建築・都市などの環境デザインについて議論する。

【授業における到達目標】

以下の能力を修得する。「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力。「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力。

【授業の内容】

- 第1回 環境と人間の行動についての基本的な概念
- 第2回 環境の性質
- 第3回 人間行動の基本的プロセス
- 第4回 認知と情動
- 第5回 構築環境と人間の行動
- 第6回 活動パターンと構築環境
- 第7回 行動セッティング
- 第8回 人体計測学と人間工学
- 第9回 認知マップと空間行動
- 第10回 プライバシー
- 第11回 テリトリー意識
- 第12回 プロクセミクス
- 第13回 社会的交流と構築環境
- 第14回 社会組織と構築環境
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回、テキスト（ジョン・ラング著「建築理論の創造」鹿島出版会）の指定箇所を読み、レポートを作成する（2.5時間）。

事後学修：授業の内容を復習して身につけておく（1.5時間）。

【テキスト・教材】

授業内で資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の課題発表60%、授業への取り組み40%として評価する。

各回の課題は授業の中で討論を通じてフィードバックされる。

【参考書】

ジョン・ラング著『建築理論の創造』鹿島出版会（1992年）ほか

住環境設計学特論C

高田 典夫

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

古今東西の著名な住宅作品を文献などを通じて、その空間構成、環境との関わり方、素材の選び方、デザインの手法などについて学ぶとともに、空間を構成する要素について分析し、人が生活し、住み続けられる環境について知見を深める。

【授業における到達目標】

- ・住環境に関わる諸条件を理解することを通して「国際的視野」を修得する。
- ・自分の考えたことを具体化し、可視化することを通して「研鑽力」を修得する。
- ・プレゼンテーションを行うことにより「行動力」「協働力」を修得する。
- ・課題に取組み、事例研究を通して「美の探求」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 住環境を取り巻く現状
- 第2週 空間とデザイン
- 第3週 住むことと建てること
- 第4週 中心と囲い
- 第5週 囲いと共同体
- 第6週 空間と光
- 第7週 光と闇
- 第8週 開くことと閉じること
- 第9週 地形と記憶
- 第10週 住むことと表すこと
- 第11週 支えることと囲うこと
- 第12週 闘争と一致
- 第13週 還元と狂気
- 第14週 創作と時代性
- 第15週 まとめ：住み続けられる住環境

【事前・事後学修】

指定された文献を事前に読んで、まとめてくること。（週2時間）
それとともに、事後にあらためて読んで復習をし、レポートを作成すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは開講時に指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講レポート（50%）、授業内での発表（30%）、平常点（出席態度、レポートの提出状況など、20%）

レポートおよび授業内での発表については、講評を行うとともに必要であれば討議を行う。

【参考書】

参考文献は適宜紹介する。

【注意事項】

研究室に適宜掲示する「オープンハウスのお知らせ」を参照して、実際の住環境をできるだけたくさん体験し、その空間について分析し、考察して、授業内で討議できるようにしておくこと。

住居デザイン論

橋 弘志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活は一人一人異なる多様なものであり、その生活の容れ物である住居もまた多様なものとなります。ここでは、住居のさまざまな空間や形態、デザインの機能や意味を通して、住居についてより深く理解することを目指します。安全性・快適性・利便性を備えるとともに、現代的な住まい方に対応した住居を計画する上で不可欠な知識と視点を学習していきます。

【授業における到達目標】

住宅やインテリアのさまざまな寸法や形態の考え方を理解する。
住宅やインテリアのデザインが、ヒトの行動や心理とどのように関連して行われているのか、理解する。
住宅のプランニングの考え方を理解し、評価するための視点を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 住居と生活
- 第2週 住居と寸法
- 第3週 人の寸法
- 第4週 行動と寸法
- 第5週 知覚と寸法
- 第6週 人同士の距離と向き
- 第7週 パーソナルスペース
- 第8週 住居で展開される行動場面
- 第9週 住居とプライバシー
- 第10週 住居内部のテリトリー
- 第11週 住居外部のテリトリー
- 第12週 室内のプランニング
- 第13週 立地とプランニング
- 第14週 住居のデザイン
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、定期試験60%、平常点（各回の小課題、コメント提出）40%とします。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

『インテリアデザイン教科書』（彰国社） 『住環境の計画2 住居を計画する』（彰国社）ほか、授業の中で追って紹介します。

住居学

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

【授業における到達目標】

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ 台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。（週2時間）事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。（週2時間）

【テキスト・教材】

講師配布の資料によります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%。定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

住居学

橋 弘志

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

「住まい」は、私たちのもっとも身近な環境であり、私たちの生活行動や意識にさまざまな影響を与えています。それと同時に、「住まい」は、私たちの社会や文化、歴史や気候風土、材料や技術などと深く関わっています。住居学では、多角的な視点から住まいの持つ意味や役割について学んでいきます。また私たちの住まいに対する体験をもとに、住まいに関わる基礎的な知識を学習します。

【授業における到達目標】

日本の住宅の変遷を追うことにより、住まいの構成原理とその変化について理解できるようになる。

住まいを取り巻く自然・社会・文化・技術が、住まいの形や間取りに与える影響について理解できるようになる。

多角的な視点から現代の住まいの課題について理解し、その解決について検討する。

【授業の内容】

1. 住まいの意味
2. 住まいの果たす役割
3. 住まいの原型
4. 住まいと気候・風土
5. 住まいの多様な機能と空間
6. 接客本位と家族本位
7. 地域とすまい
8. 集まって住む住まい
9. 私室と公室
10. 住まいの供給
11. 住まいとこども
12. 住まいと高齢者
13. 住まいの間取り
14. 住まいの表現（製図）
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと
（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、定期試験60%、平常点（各回の小課題、コメント提出）40%とします。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

『住まい考今学』（彰国社）、『建築計画』（市ヶ谷出版社）ほか、授業の中で追って紹介します。

住居学

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

【授業における到達目標】

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ 台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。（週2時間）事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。（週2時間）

【テキスト・教材】

講師配布の資料によります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%。定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

住居学

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

【授業における到達目標】

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ 台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。(週2時間) 事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。(週2時間)

【テキスト・教材】

講師配布の資料によります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%。定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

住居学

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

【授業における到達目標】

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ 台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。（週2時間）事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。（週2時間）

【テキスト・教材】

講師配布の資料によります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%。定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

出版概論 a

「出版」とは何か、表現のさまざまな形態を知る

大友 麻子

1年 前期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

書籍との出会いは時に、その人の人生を一変させます。紙離れが進むといわれる昨今、出版をめぐる環境は劇的に変化をしていますが、しかし、出版の現場での営みの基本は変わりません。ゼロから一つの本や雑誌、あるいはさまざまな紙媒体が作り上げられ世の中に送り出されていくまでの流れを読み解きながら、表現の豊かさを体感しましょう。

【授業における到達目標】

出版メディアの概要を学びます。出版メディアに、「企画制作・流通」という両方の側面からアプローチします。総論的に出版メディアの全体像を学ぶことで、そのコンテンツを作る現場への理解を深めます。また、国内外の現在進行形のニュースを素材に、各自が企画を立てるという作業を通して国際的な視野を養い、現在進行形の問題に対し自らの好奇心を深めて調べるという行動力、さらに伝えるために思考を言語化するという、出版メディアに携わる人材に不可欠のスキルを向上させていきます。

【授業の内容】

- 第1週 出版メディアの歴史を知る
 - 第2週 取次と書店とネット（書籍流通の現状）について
 - 第3週 表現をする、という仕事について（自己表現と読者）
 - 第4週 雑誌業界の今（時代の変遷、潮流）
 - 第5週 書籍における編集者・著者・ライターの関係（取材や校正などの役割）
 - 第6週 コンテンツを作れるスキルの強み（ウェブや社内報など仕事の多様性）
 - 第7週 サブカルチャーの現場での出版メディア（映画・アキバ文化など）
 - 第8週 中小出版社の可能性（少部数でも特色ある出版へ）
 - 第9週 出版社と読み手の交流の場（書店やブックフェスなど）
 - 第10週 本が作られて書店に並ぶまで（企画・執筆・デザイン・印刷・流通）
 - 第11週 企画の立て方（社会状況や想定読者）
 - 第12週 自分が一番興味を持っているテーマで企画を考えてみる
 - 第13週 ビブリオバトル（おすすめの1冊をプレゼン）
 - 第14週 本を宣伝すること（広告の切り抜きを持ち寄る）
 - 第15週 発表：自分で作りたい特集記事の企画書
- ※出版業界の企業人による特別授業を複数回予定しています。

【事前・事後学修】

事前学修：次の授業内容について事前に調べておく（毎回、次までに用意すべきもの、調べておくべき内容を伝えます）。週120分程度。
事後学修：学んだ内容について自分の言葉で概要をまとめる。理解が不十分なところがないか確認する。週120分程度。

【テキスト・教材】

- ・特にありません。
- ・毎回、授業のレジュメを配布、関連資料も随時提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（4割）と授業態度（3割）と提出物（3割）で評価します。事後学修でまとめたものを次の授業の冒頭で回収し、必要に応じて疑問点などをシェアします。

出版概論 b

出版メディアの企画編集の実践

大友 麻子

1年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

実際に自分たちで頭を使い、手を動かしながら、編集の実務に挑戦します。本作りの基本のノウハウを学び、自分のアンテナを張り巡らせて文章を書き、企画を立てて書籍のイメージを作り上げてみましょう。実際の編集作業を通じて、自分自身のインプットの重要性に気づくことでしょう。

【授業における到達目標】

実際に発行されているさまざまな媒体を調べ、そのコンテンツを台割として分解して考えることで、作り手の意図を理解します。アクチュアルな問題を扱う書籍媒体について学ぶことで国際的視野を養います。さらに、グループに分かれて新しい企画を考え、台割り作成やコンテンツ案など具体的な編集作業に取り組みます。現実の書籍作りもさまざまな人たちの協働作業です。コンセンサスを得ながらも作っていくプロセスを学ぶことで編集者に求められる協働能力、バランス感覚や行動力を身につけていきます。あるいは、取材依頼書作成やポップ作りなどを通して、コンテンツ作成現場に求められるスキルを習得します。

【授業の内容】

- 第1週 本の成り立ち（折、台割とは何か。上製本からブックレットまで）
 - 第2週 興味のあるテーマ（時事ネタ）を選んで自分で短いコラム記事にまとめてみる
 - 第3週 海外メディアと国内メディア、取材の現場について
 - 第4週 既存の書籍を選んで、台割りに分解してみる
 - 第5週 新しい書籍の企画を考える（グループ）
 - 第6週 書籍の企画を台割りに落とし込む（グループ）
 - 第7週 各グループの企画と台割り発表（グループ）
 - 第8週 発表でのFBを反映させて台割りを確定（グループ）
 - 第9週 各自で分担を決めてラフレイアウトを作成する
 - 第10週 取材相手を想定して取材依頼書を作成する
 - 第11週 取材の方法論（事前準備／聞きたい内容／録音／メモ）
 - 第12週 マスコミの仕事・表現する仕事の意義
 - 第13週 企画した書籍の書店営業ツールを考える（営業FAX）
 - 第14週 書籍広告を考える（新聞広告、サイズ、内容）
 - 第15週 書籍の帯を作って本のプレゼンとともに発表
- ※表現に関わる業界人による特別授業を複数回予定しています。

【事前・事後学修】

事前学修：次の授業内容について事前に調べておく（毎回、次までに用意すべきもの、調べておくべき内容を伝えます）。週120分程度。
事後学修：学んだ内容について自分の言葉で概要をまとめる。理解が不十分なところがないか確認する。週120分程度。

【テキスト・教材】

- ・特にありません。
- ・毎回、授業のレジュメを配布、関連資料も随時提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（4割）と授業態度（3割）と提出物（3割）で評価します。事後学修でまとめたものを次の授業の冒頭で回収し、必要に応じて疑問点などをシェアします。

出版文化史

近代日本の出版文化

中野 綾子

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

この授業では、現代まで続いている日本の出版文化の歴史的な展開について学んでいきます。明治期から現在まで、近代日本の出版文化を取り巻く諸問題を取り上げ、理解を深めていくこととなります。授業では、具体的な出版社関連会社や編集人、出版物など、近代日本における出版文化を彩るさまざまな物や出来事について、実物をなるべく手に取りながら思考を深めていって貰いたいと思います。歴史的な問題について学び、深く考えていくことは、現代の出版文化における様々な問題について考えるヒントとなるはずです。

【授業における到達目標】

・出版文化について、空間的・歴史的に考察をおこなう態度を身につける。（国際的視野）

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション：授業の進め方の説明
- 第2週 出版文化を考えるために
- 第3週 明治の出版文化① 和装本から洋装本へ
- 第4週 明治の出版文化② 雑誌の発生
- 第5週 大正の出版文化① 流通網の拡大
- 第6週 大正の出版文化② 思想と出版
- 第7週 大正の出版文化③ 雑誌の多様化
- 第8週 昭和の出版文化① 文庫本と円本
- 第9週 昭和の出版文化② 戦時下の出版
- 第10週 昭和の出版文化③ 外地の日本語書物
- 第11週 昭和の出版文化④ 紙の供給
- 第12週 出版文化の諸相① 図書館
- 第13週 出版文化の諸相② 検閲
- 第14週 出版文化の諸相③ 製本
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容の復習をおこなうこと。指定文献を読み、感想や疑問点を明らかにしておくこと。（学習時間 週2時間）

【事後学修】授業内週の復習をおこなうこと。学んだことや疑問に思った点をまとめること。レポートのための準備をすすめること。（学習時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50% 平常点（コメントシート）50%で総合評価を出します。コメントシートは毎回授業の最後には書き、書いた内容は授業冒頭にて紹介します。

【参考書】

岡野他家夫『日本出版文化史』（春歩堂、1962）

そのほか、授業中に紹介します。

【注意事項】

授業内では、個人やグループで考えてもらい、発言やコメント記入をすることになります。積極的な授業への参加を求めます。

出版文化論 a

テーマから見た印刷出版の歴史

寺本 美奈子

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

「出版文化」をこれを支える印刷技術とともにその歴史を紐解いてみると、書籍、雑誌に限らず、版画や地図、広告、新聞など様々な印刷・出版物が世に生み出され、私たちは、これらの印刷・出版物から、言語や社会、文化、風俗、科学、芸術など幅広い情報や知識を得る恩恵を受けてきました。それは、「伝えたい」「知りたい」といった欲求と、印刷とが結びつくことで可能となったものです。

この授業では、印刷・出版の歴史を学ぶとともに、これまで我々が培ってきた文字や画像による表現技術や手法、そしてこれらが社会、文化の発展に果たしてきた役割や意義について考察します。

【授業における到達目標】

印刷技術と出版活動の結びつきを歴史的視点から理解し、印刷物により広がった知識や思想、洋の東西の交流の例を知ることを通じて、広い視野と深い洞察力を身につけ、柔軟で豊かな思考と本質を見抜く力を育みます。

【授業の内容】

1. 日本の印刷・出版の歴史
2. 西洋、中国の印刷・出版の歴史
3. 印刷が支えた江戸時代の出版文化① 古活字版の世界
4. 印刷が支えた江戸時代の出版文化② 出版ジャンルのひろがり
5. 明治・大正の雑誌メディア
6. 西洋における書物の誕生
7. 百科事典・博物誌の世界① 東アジア
8. 百科事典・博物誌の世界② 西洋
9. 異文化交流と印刷・出版
10. 書籍見本市
11. 庶民文化と版画の世界
12. 近代日本の広告出版
13. 報道と印刷・出版
14. 近代教育を支えた教科書
15. まとめ

【事前・事後学修】

毎回配布するプリントを次回までに3時間程度復習しておいてください。

授業内で告知する、次回のキーワードを1時間程度予習しておいてください。

【テキスト・教材】

レジュメを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）（30%）

期末レポート（70%）

レポートの結果、特に全般的に理解が不十分な部分についてのまとめをフィードバックします。

出版文化論 b

文字と製本：ブックデザインと本の歴史

寺本 美奈子

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

本を所有する理由の一つに「デザインに惹かれた」ということがあります。このことは、電子書籍が普及しつつある現在、紙の本を所有する理由としてこれまで以上に重要なキーワードになるでしょう。

他分野のデザインと同様に本のデザインもまた、その形にいたるまでの様々な理由が存在しますが、コンピューターと編集ソフトで作業が進められる現代では、なかなかそれが見えないのが実情です。

この授業では、まず、本はどのようにして現在のようなたたずまいを持つようになったのか、タイポグラフィ、印刷、製本の歴史をたどります。そして最終的に現代のブックデザインを考察します。

【授業における到達目標】

人間の英知である本が、洋の東西で古からの人々によっていかに形作られてきたかということを知ることを通じ、学ぶ楽しさを知ることを目指します。

【授業の内容】

1. 現在日本の本を取り巻く状況
2. 本の構造とデザイン要素
3. 本に記す（西洋のカリグラフィからタイポグラフィ）
4. 文字の印刷と西洋のタイポグラフィ
5. 文字の印刷と日本のタイポグラフィ
6. 図版印刷と表現
7. 製本の歴史①（日本／ヨーロッパ）
8. 製本の歴史②（ヨーロッパ近代）
9. 欧米のブックデザイン①
10. 欧米のブックデザイン② 第二次世界大戦以降
11. 日本のブックデザイン①
12. 日本のブックデザイン② 第二次世界大戦以降
13. ヨーロッパのブックデザインコンクール
14. 日本のブックデザインコンクール
15. まとめ

【事前・事後学修】

毎回配布するプリントを次回授業までに3時間程度復習してください。

授業内で告知する、次回のキーワードを1時間程度予習しておいてください。

【テキスト・教材】

毎回プリント等の資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントシートの提出）（40%）

期末レポート（60%）最終授業で総括を行います。

コメントシートに書かれた内容は、必要があれば随時授業中にフィードバックします。

初等教科教育法（音楽）

越山 沙千子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

小学校音楽科のあり方について考えながら、学習指導要領に示された教科の目標、内容、教材研究、学習評価の考え方について理解する。そして、具体的な授業を想定した授業設計にもとづき学習指導案を作成して模擬授業をし、受講者間で相互評価をすることで授業改善の視点を身につける。

【授業における到達目標】

小学校音楽科教育に必要な基礎的知識・技能を身につけるとともに、子どもの実態に即して授業を構想し実践する方法を身につける。

【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション、音楽科教育の今日的課題
- 第2週：小学校学習指導要領音楽編の理解
- 第3週：声を聴く・知る・うたう①（子どもの発声と声、わらべうたの楽しみ）
- 第4週：声を聴く・知る・うたう②（歌唱共通教材や合唱曲を中心に）
- 第5週：実践を通じた音楽づくりの指導法の検討（子どもの思いや意図を読み取る視点を学ぶ）
- 第6週：子どもの発達に合わせた器楽活動の楽しみと指導法
- 第7週：十分な教材研究にもとづいた鑑賞の指導と日本音楽の取り扱い
- 第8週：情報機器を活用した授業の実践と検討
- 第9週：学習指導案の作成①（学習指導要領に対応した書き方）
- 第10週：学習指導案の作成②（指導計画と評価）
- 第11週：模擬授業と討議（相互評価）① 歌唱
- 第12週：模擬授業と討議（相互評価）② 器楽
- 第13週：模擬授業と討議（相互評価）③ 音楽づくり
- 第14週：模擬授業と討議（相互評価）④ 鑑賞
- 第15週：模擬授業を振り返る、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容に該当する教科書の部分を読んでおくこと。歌唱指導の模擬授業を分担して行うので、指導内容や歌唱・伴奏の練習をしておくこと。指導案の作成や模擬授業の準備を十分に行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容をノートにまとめ、児童が主体的に取り組むことのできる指導法を考えること。また、指導案の修正や模擬授業後の振り返りを丁寧に行うこと。（学修時間 週2時間30分）

【テキスト・教材】

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 音楽編[東洋館出版社、2018、¥141(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（30%）、授業への取り組み（20%）、指導案作成と模擬授業の取り組み（30%）、模擬授業の討議への参加やコメント力（20%）小レポートや指導案、模擬授業に対する指導をフィードバックとする。

【参考書】

小学校音楽科教科書・指導書（教育芸術社、教育出版）

初等教科教育法（家庭）

大竹 美登利

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

- ・家庭科の教科の特質をふまえて知識・技能を習得し、工夫して実践する意欲・能力を身につける。
- ・家庭科の教育方法及び指導技術を学び、学びを支える学習環境や教師のあり方について考える。
- ・授業実践能力を習得する。

【授業における到達目標】

小学校教科「家庭」の意義、目標、指導内容について学ぶとともに、これからの家庭科教育のあり方も視野に入れて追究する。また、教師になることの自覚を持ってその教科指導の方法、指導技術の基礎を学び、授業を効果的に展開できる能力を身につける。

【授業の内容】

1. 授業ガイダンス 小学校家庭科教育の理念及び意義
2. 家庭科教育の歴史的変遷
3. 家庭生活の社会的変化及び子どもの現状と小学校家庭科の役割
4. 学習指導要領にみる家庭科の目標・内容構成・取扱い及び他領域との関連性
5. 学習指導案の作成および年間指導計画について
6. 評価方法及び授業の工夫
7. 教材研究①家族と家庭生活
8. 教材研究②食生活
9. 教材研究③衣生活・住生活
10. 教材研究④消費と環境
11. 模擬授業①家族と家庭生活（主体的対話的で深く学ぶ授業）
12. 模擬授業②食生活（実験・実習を用いた授業）
13. 模擬授業③衣生活と住生活（五感で学ぶ授業）
14. 模擬授業④消費と環境（問題解決型の学習を取り入れた授業）
15. 模擬授業の評価と改善及びまとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）テキストや配布プリント・資料を参考に、事前に指導案、ワークシートなどを作成し模擬授業を準備する（学修時間週2時間）。（事後学修）模擬授業を行って改善が指摘されたところをふまえて、より良い指導案及び教材、ワークシートを作成する（学修時間週2時間）。ミニテストのフィードバックは提出の次の週に返却して行う。

【テキスト・教材】

大竹美登利：小学校家庭科教育法[建帛社、2018、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内でのミニテスト（50%）、発表（20%）、レポート（30%）により総合的に判断し評価する。ミニテストのフィードバックは提出の次の週に返却して行い、発表はその場でコメントする。レポートは採点した後に返却する。

【参考書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』
- ・小学校家庭科検定済み教科書『わたしたちの家庭科』開隆堂
- その他授業中に随時指示する。

【注意事項】

本科目は、小学校教員免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的・主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

初等教科教育法（算数）

小学校の算数の教材研究と、その指導法

渡辺 敏

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

小学校学習指導要領に示されている小学校算数科の各学年の指導内容を数学的活動を通して理解する。算数の授業参観を行い、児童が主体的に取り組む授業の進め方を理解する。学習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を行い、実践力を高める。

【授業における到達目標】

日本の算数教育を国際的視野から概観し、その良さを理解します。また、学習した教材を、自分で指導案にし、模擬授業を行い、その振り返りを協働で行うことで、授業力を磨き、高めることを目標とします。また、授業後は協働で授業について話し合い、より良い指導法について考える力を身に付けます。

【授業の内容】

- | | | |
|------|-------------|-------------------|
| 第1週 | 1年生の教材開発 | 数の合成、たし算とひき算 |
| 第2週 | 2年生の教材開発 | かけ算の意味理解 |
| 第3週 | 3年生の教材開発 | わり算の意味理解（等分除と包含除） |
| 第4週 | 4年生の教材開発 | 数の拡張と筆算 |
| 第5週 | 5年生の教材開発 | ×小数、÷小数の計算と数直線の利用 |
| 第6週 | 6年生の教材開発 | 分数のかけ算、わり算の意味理解 |
| 第7週 | 6年生の教材開発 | 比例 |
| 第8週 | 算数の授業観察 | 低学年を中心に |
| 第9週 | 算数の授業観察 | 高学年を中心に |
| 第10週 | 指導案の書き方 | |
| 第11週 | 指導案検討 | |
| 第12週 | 模擬授業とその話し合い | 数と計算 |
| 第13週 | 模擬授業とその話し合い | 図形 |
| 第14週 | 模擬授業とその話し合い | 量と測定 |
| 第15週 | 模擬授業とその話し合い | 数量関係 |

【事前・事後学修】

【事前学修】各学年の指導内容について小学校学習指導要領解説（算数編）をよく読んでくること。また、小学校学習指導要領解説に関するテストを行うので予習すること。（事前学修 週2時間）

【事後学修】各学年の指導について児童が主体的に取り組む指導法を考えること。テストを直し、指導内容の理解を深めること。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領解説 算数編[日本文教出版、2018、¥224(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

指導案作成30%、課題レポート30%、グループワーク20%、テスト20%等により評価する。レポートにはコメントを入れてフィードバックします。

【参考書】

坪田耕三著『算数的思考法』（岩波新書 2014年）720円 坪田耕三著『算数授業のつくり方』（東洋館出版社 2010年）1500円

【注意事項】

講義には自分のノートを用意しておくこと。

初等教科教育法（社会）

笹川 啓一

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

小学校社会の目標、内容、方法、評価の関連を意識しつつ、公民的資質の基礎を養う教育法の習得を目指します。そのために、年間指導計画、単元指導計画、研究授業を想定した本時案を作成します。また、本授業では、前期に学んだ小学校社会科の理念や特色を踏まえて、児童が興味や意欲を持って取り組める社会科教育法の習得を目指します。

具体的には受講生が自ら作成した学習指導案を基にした模擬授業を行い、その活動を通じて受講生が小学校社会科に対する関心や理解等を一層深め、上記のような授業実践能力を身につけることを目標とします。

【授業における到達目標】

本科目はディプロマポリシーの「課題解決のために主体的に行動する力」の習得と関連します。具体的には以下の項目です。

1. 小学校学習指導要領に則って社会科の目標を設定し、それを踏まえた年間指導計画、単元指導計画、本時案の3つの教育計画を作成できるようになる。そして、それらを理解したうえで、児童や地域の実態に即した授業を行うことができるよう力を身につける。
2. 模擬授業で得た反省や課題を踏まえて、よりよい授業を行うために必要な問題解決能力（問題を解決する力と新たな問題を発見する力）を身につける。

【授業の内容】

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1週 | 社会科の特徴と基本的課題 |
| 第2週 | 小学校学習指導要領（社会科）の目標と内容 |
| 第3週 | 指導計画の作成（1）指導計画の種類と書き方 |
| 第4週 | 指導計画の作成（2）年間指導計画の作成 |
| 第5週 | 指導計画の作成（3）単元指導計画の作成と評価の方法 |
| 第6週 | 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業方法 |
| 第7週 | 指導計画の作成（4）児童の実態に即した本時案の作成 |
| 第8週 | 模擬授業の準備 指導計画の提出と模擬授業の準備 |
| 第9週 | 模擬授業（1）模擬授業の準備、担当1の模擬授業 |
| 第10週 | 模擬授業（2）担当2、担当3の模擬授業 |
| 第11週 | 模擬授業（3）担当4、担当5の模擬授業 |
| 第12週 | 模擬授業（4）担当6、担当7の模擬授業 |
| 第13週 | 模擬授業（5）担当8、担当9の模擬授業 |
| 第14週 | 模擬授業の振り返り、授業改善の方法 |
| 第15週 | まとめ、復習 |

【事前・事後学修】

【事前学修】課題作成や模擬授業等の準備（学修時間 週2時間）

【事後学修】小学校学習指導要領解説（社会編）や指導書等の精読（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編[日本文教出版、2018、¥142(税抜)]

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編[日本文教出版、2018、¥155(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート80%、指導計画の提出20%とします。

レポートは、指示した設問に適切に回答しているか、自分の所見について筋道を立てて論じているかを基準とします。レポートは採点后にコメントをつけて返却します。

指導計画については、模擬授業をよりよい内容にするために、添削したうえで返却します。小学校学習指導要領に準拠しているかどうか、一回の授業内容として適切かなどを見ます。

【参考書】

適宜、紹介、指示をします。

初等教科教育法（図画工作）

小林 貴史

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的能力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的な能力を養い、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 教育の今日的課題と美術教育の意味
- 第2週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅰ（戦前）
- 第3週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅱ（戦後）
- 第4週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅲ（現代）
- 第5週 子どもの成長・発達と造形活動
- 第6週 学習指導要領と指導の実践
- 第7週 図画工作科の内容と方法・造形遊び
- 第8週 図画工作科の内容と方法・絵に表す
- 第9週 図画工作科の内容と方法・立体に表す
- 第10週 図画工作科の内容と方法・工作に表す
- 第11週 図画工作科の内容と方法・鑑賞
- 第12週 指導計画と学習指導案
- 第13週 授業における具体的な手立てと評価
- 第14週 学習指導案の作成
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：レポート、発表などの課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修：A4サイズのクリアファイルを用意し、授業で配付した資料や課題をまとめ、理解を深めること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方[開隆堂出版、2017、¥2,300(税抜)]

文部科学省：小学校学習指導要領解説 図画工作編[日本文教出版、2018、¥100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、課題への取り組み及び内容（50%）を総合的に評価する。

提出された課題やレポートは、その内容を授業の中でも取り上げ、全体における学びの共有化を図る。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【注意事項】

授業への出席を大切にすること。

各自、必要な用具・材料を準備すること。（授業の中で適宜連絡します。）

初等教科教育法（生活）

生活科の授業研究

渡辺 敏

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

小学校、生活科設置の背景を理解する。そのうえで実際に自分が生活科の内容を体験し、そこでの子どもの学びとその指導方法を考え、理解する。生活科の各学年の内容の系列を理解したうえで、指導案を作成し模擬授業を行う。模擬授業とその話し合いを通して教師になるための実践力を高める。

【授業における到達目標】

小学校生活科の歴史的な変遷を諸外国の教育事情と比較し考え、その良さについて理解します。幼児教育との接続を考え、スタートカリキュラムの在り方について理解を深めます。また、実際の授業見学や教材開発、指導案作成、模擬授業を通して自らの授業力を高め、協同的な話し合いを通して、子どもの学びについて考えること、また、授業力を高めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 幼児教育と生活科の繋がり
- 第2週 生活科と総合的な学習の時間との関連
- 第3週 生活科の内容
- 第4週 生活科、学校探検の方法と実際
- 第5週 生活科、学校探検のまとめと発表
- 第6週 生活科、町探検の方法と実際
- 第7週 生活科、町探検のまとめと発表
- 第8週 生活科の指導案の作成
- 第9週 生活科の指導案の検討
- 第10週 生活科の模擬授業 スタートカリキュラムに関わること
- 第11週 生活科の模擬授業 主に自分と人や社会に関わること
- 第12週 生活科の模擬授業 主に自分と自然に関わること
- 第13週 生活科の模擬授業 主に自分自身に関わること
- 第14週 生活科の模擬授業 主に生活特有の学びに関すること
- 第15週 生活科、まとめのレポート作成と話し合い

【事前・事後学修】

【事前学修】生活科の指導内容とそのねらいを小学校学習指導要領解説（生活）を読んでよく理解しておくこと。テストに向けて予習をすること。自分が行いたい生活科の授業案を考えること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テストの復習をすること。模擬授業の振り返りをし、より良い授業について考えること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領解説 生活編[東洋館出版、2018、¥134(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

生活科探検のまとめ30%、生活科まとめのレポート30%、グループワーク20%、テスト20%等により評価する。生活科探検のまとめ、生活科まとめのレポートにはコメントを入れてフィードバックします。

【参考書】

講義の中で紹介する。

【注意事項】

町探検をする時には、新撰組の歴史や日野の地理的役割について理解する事。

模擬授業では子どもたちが主体的に取り組む学習を考えて指導案を作成すること。

初等教科教育法（体育）

島崎 あかね

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

現代社会における小学校体育の意義を理解し、小学校学習指導要領「体育」の内容を的確に踏まえた授業設計の視点を学びます。各領域の内容を演習により体験しながら、「ねらい」と「ねらい」を効果的に習得していくための教材の選び方、指導方法、評価の視点、授業設計のあり方を学習し、児童が運動の本質的な楽しさに触れ、運動に対して肯定的な姿勢を形成することに資する授業の構成力と指導力の育成をテーマとします。

【授業における到達目標】

- ・実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより、授業計画・観察方法・学習評価の視点を総合的に学び、体育科における指導方法の修得を目指します。
- ・学習指導要領の内容に基づき、子どもの実情に応じた目標を設定した授業計画を立案し、模擬授業等での実践を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 小学校体育の概要と体育科の領域内容
- 第2週 明治以降の体育の変遷と学習指導要領の変遷
- 第3週 運動における「楽しさ」と生涯スポーツ
- 第4週 「体づくり運動」のねらいと授業設計（演習）
- 第5週 「器械運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第6週 「陸上運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第7週 「ボール運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第8週 「表現運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第9週 「水泳系」のねらいと授業設計
- 第10週 保健領域の指導について
- 第11週 授業計画の実際＜学習指導案の作成＞
- 第12週 授業計画の実際＜学習指導案の作成と学習評価の視点＞
- 第13週 体育授業の観察方法、模擬授業と授業観察の実践①
- 第14週 模擬授業と授業観察の実践②
- 第15週 模擬授業と授業観察の振り返り

【事前・事後学修】

【事前学修】今までに自分が経験した運動について振り返っておくとともに、自分自身が身体を動かすことについて関心を持っておきましょう。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業を振り返り、指導計画の立案など翌週に繋げよう体験的な学びを深めましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編〔東洋館出版社、2018、¥162（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内容の確認レポート30%、学習指導案作成および模擬授業実施60%、授業姿勢（授業への積極性、運動する服装、準備物等含む）10%で総合的に評価します。

演習授業で修得した内容を模擬授業に反映させるとともに、指導案の作成および模擬授業の実施内容は解説や振り返りによるフィードバックを行います。

【参考書】

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】』（2011年 305円+税）教育出版
- ・文部科学省 学校体育実技指導資料 第4集（2014年 1480円+税）株式会社アイフィス
- ・文部科学省 学校体育実技指導資料 第7集（2013年 1300円+税）第8集（2010年 1800円+税）第9集（2015年 1700円+税）第10集（2015年 1800円+税）東洋館出版社

【注意事項】

演習授業は、運動着・運動用シューズを必ず着用してください。

初等教科教育法（理科）

小島 敏光

3年 後期 2単位

◎：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

小学校理科の目標、内容、指導方法、評価等について改めて学び、具体的な授業実践事例をもとに理科教育法の理解を深める。その上で、子供の自然認識に基づく授業のあり方、教材づくり、予備観察・実験、指導案作成、模擬授業実践、授業検討会等を行い、理科授業を構成する実践力を修得する。

【授業における到達目標】

- ・小学校理科の指導法についての理解を深めるとともに、理科授業を構成する実践力（教材研究、予備観察・実験、指導案づくり、授業構成・展開等）を修得する。
- ・学生は、学修成果を実感して自信を創出できる力、目標を設定して計画を立案・実行できる力を特に意識して修得する。

【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション／学力調査の結果と理科の学力
- 第2週：小学校理科が目指す授業
- 第3週：教師が身につけるべき理科の授業力
- 第4週：小学校理科の授業1（実習生の映像から学ぶ）
- 第5週：小学校理科の授業2（指導教諭の映像から学ぶ）
- 第6週：理科授業における問題解決（指導過程）
- 第7週：理科の授業づくり1（指導案の構成内容・指導案の作成）
- 第8週：理科の授業づくり2（教材研究・予備実験・教材作成）
- 第9週：理科の授業づくり3（教材研究・予備実験・教材作成）
- 第10週：模擬授業と検討会1
- 第11週：模擬授業と検討会2
- 第12週：模擬授業と検討会3
- 第13週：模擬授業と検討会4
- 第14週：理科授業における評価および授業改善
- 第15週：まとめ・よりよい教育をもとめて

【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業のまとめ、考察等のレポート課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編〔東洋館出版社、2018、¥111（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）20%、授業後のレポート40%、提出課題40%により、総合的に判断します。

授業後のレポート及び提出課題は、次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

教職に就くことを前提にして授業を進めていきます。理科の指導力を身につけるべく、意欲をもって積極的に講義に臨んでほしい。

書学概論

～実用書道～

亀田 絵里香

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

パソコンやスマートフォンの普及に伴い、文字は書く行為から打つ行為へと変化を遂げる中、一方では「美しい手書き文字」が再評価されています。

講義を中心に演習を通じて、ひらがなや漢字の文字美の基礎基本について学びます。

氏名や住所・履歴書などの実用書から、祝儀・不祝儀などの儀礼の書まで、日本語社会に生きるために必要な書を学びます。文字美や書式のマナーまで学術的に検証し体得する事を目的とします。

【授業における到達目標】

国際的視野が不可欠な現代にあって、日本の文化・精神を知り、世界に発信するためには日本語の文字文化に精通することが必要です。手書き文字は機械では表現しえない美しさを持ちます。美しい文字は一朝一夕でその書技を習得できません。文字美の基礎基本を徹底して学び、日本語社会を豊かに生きるためのスキルを身に付けます。皆さんに修得してほしい【研鑽力】のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる人間になってほしいと思います。人一倍の努力を期待します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 線の練習・ひらがなの練習①
- 第3週 ひらがなの練習②
- 第4週 漢字の基本点画
- 第5週 〈漢字〉字形の整え方①点画の組み立て方
- 第6週 〈漢字〉字形の整え方②部分の組み立て方
- 第7週 〈漢字〉字形の整え方③全体の整え方
- 第8週 名前の練習（楷書と行書）
- 第9週 住所の練習
- 第10週 葉書と封筒の書き方
- 第11週 履歴書の書き方
- 第12週 履歴書の練習
- 第13週 祝儀袋 他
- 第14週 縦書きと横書きの文章の練習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し練習をしてくること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。確認テストなどの対策に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義終了時に配布する復習プリントに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

宮澤正明編『新・字形と筆順 改訂版』（2017年、光村図書出版）
1,800円
筆記用具 サインペン（110円、初回授業で紹介します。）
ソフト下敷き

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

確認テスト20%、平常点40%（提出課題、書く姿勢、筆記用具の持ち方、書技力）、試験40%。

テストや作品のフィードバックは都度行う。

【注意事項】

穏やかな気持ちで文字を「書く」行為は、集中力を高め精神的にも満たされます。文字を丁寧に書こう、美しく書こうという気持ちを大切にしてください。

書学概論

～実用書道～

亀田 絵里香

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

パソコンやスマートフォンの普及に伴い、文字は書く行為から打つ行為へと変化を遂げる中、一方では「美しい手書き文字」が再評価されています。

講義を中心に演習を通じて、ひらがなや漢字の文字美の基礎基本について学びます。

氏名や住所・履歴書などの実用書から、祝儀・不祝儀などの儀礼の書まで、日本語社会に生きるために必要な書を学びます。文字美や書式のマナーまで学術的に検証し体得する事を目的とします。

【授業における到達目標】

国際的視野が不可欠な現代にあって、日本の文化・精神を知り、世界に発信するためには日本語の文字文化に精通することが必要です。手書き文字は機械では表現しえない美しさを持ちます。美しい文字は一朝一夕でその書技を習得できません。文字美の基礎基本を徹底して学び、日本語社会を豊かに生きるためのスキルを身に付けます。皆さんに修得してほしい【研鑽力】のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる人間になってほしいと思います。人一倍の努力を期待します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 線の練習・ひらがなの練習①
- 第3週 ひらがなの練習②
- 第4週 漢字の基本点画
- 第5週 〈漢字〉字形の整え方①点画の組み立て方
- 第6週 〈漢字〉字形の整え方②部分の組み立て方
- 第7週 〈漢字〉字形の整え方③全体の整え方
- 第8週 名前の練習（楷書と行書）
- 第9週 住所の練習
- 第10週 葉書と封筒の書き方
- 第11週 履歴書の書き方
- 第12週 履歴書の練習
- 第13週 祝儀袋 他
- 第14週 縦書きと横書きの文章の練習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し練習をしてくること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。確認テストなどの対策に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義終了時に配布する復習プリントに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

宮澤正明編『新・字形と筆順 改訂版』（2017年、光村図書出版）
1,800円
筆記用具 サインペン（110円、初回授業で紹介します。）
ソフト下敷き

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

確認テスト20%、平常点40%（提出課題、書く姿勢、筆記用具の持ち方、書技力）、試験40%。

テストや作品のフィードバックは都度行う。

【注意事項】

穏やかな気持ちで文字を「書く」行為は、集中力を高め精神的にも満たされます。文字を丁寧に書こう、美しく書こうという気持ちを大切にしてください。

書芸を極める a

—楷書・隸書・篆書の書法研究—

松尾 光晴

2年～ 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

前期は、楷書・隸書・篆書を研究していく。構造的な強い書体に焦点をあて、それぞれの書体の特徴の理論と実技向上の実践を深めていく。また現在行われている展覧会の鑑賞の仕方にも触れ、心を豊かにすべく研究していく。

【授業における到達目標】

基礎的な楷書・隸書・篆書の特徴を理解し、書風を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

第1週：ガイダンス。展覧会の会場で陳列発表されている作品は、古典古筆の土台があってこそ成立するものであることを踏まえ、芸術の書表現にたどり着くための方法論を研究していく

第2週：用具用材、執筆法、腕法の解説

第3週：「九成宮醴泉銘」テキスト20、21頁の書法研究

第4週：「孔子廟堂碑」テキスト18、19頁の書法研究

第5週：「雁塔聖教序」テキスト22、23頁の書法研究

第6週：「顔氏家廟碑」テキスト26、27頁の書法研究

第7週：「牛ケツ造像記」テキスト28、29頁の書法研究

第8週：「曹全碑」テキスト29頁の書法研究

第9週：「乙瑛碑」テキスト28頁の書法研究

第10週：「居延漢簡」テキスト30、31頁の書法研究

第11週：「泰山刻石」テキスト7頁の書法研究

第12週：「石鼓文」テキスト8～10頁の書法研究

第13週：唐の四大家の書き分けを題材「永代」で制作

第14週：隸書・篆書で題材「平和」を制作

第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：各古典の時代背景や技法解説書等を読んで事前にテキストの予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

書 I 6 教図書 I 306 [教育図書株式会社、2017、¥490 (税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

書芸を極める a

—楷書・隸書・篆書の書法研究—

松尾 光晴

2年～ 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

前期は、楷書・隸書・篆書を研究していく。構造的な強い書体に焦点をあて、それぞれの書体の特徴の理論と実技向上の実践を深めていく。また現在行われている展覧会の鑑賞の仕方にも触れ、心を豊かにすべく研究していく。

【授業における到達目標】

基礎的な楷書・隸書・篆書の特徴を理解し、書風を身に付ける。
 <態度>
 日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。
 物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。
 <能力>
 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。
 プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

第1週：ガイダンス。展覧会の会場で陳列発表されている作品は、古典古筆の土台があってこそ成立するものであることを踏まえ、芸術の書表現にたどり着くための方法論を研究していく
 第2週：用具用材、執筆法、腕法の解説
 第3週：「九成宮醴泉銘」テキスト20、21頁の書法研究
 第4週：「孔子廟堂碑」テキスト18、19頁の書法研究
 第5週：「雁塔聖教序」テキスト22、23頁の書法研究
 第6週：「顔氏家廟碑」テキスト26、27頁の書法研究
 第7週：「牛ケツ造像記」テキスト28、29頁の書法研究
 第8週：「曹全碑」テキスト29頁の書法研究
 第9週：「乙瑛碑」テキスト28頁の書法研究
 第10週：「居延漢簡」テキスト30、31頁の書法研究
 第11週：「泰山刻石」テキスト7頁の書法研究
 第12週：「石鼓文」テキスト8～10頁の書法研究
 第13週：唐の四大家の書き分けを題材「永代」で制作
 第14週：隸書・篆書で題材「平和」を制作
 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：各古典の時代背景や技法解説書等を読んで事前にテキストの予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）
 事後学修：授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

新編書道Ⅱ17教出書Ⅱ307[教育図書株式会社、¥380(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%
 提出作品は原則として次回の授業時に返却。

書芸を極める b

—行書・草書の書法研究—

松尾 光晴

2年～ 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

後期は、行書草書を研究していく。本来の行書や草書は構造性というよりは情緒的である。一見アンバランスに見えるが実はバランスを保っている。そんな書体の理論と実技向上の実践を試みる。また、展覧会の鑑賞の仕方にも触れ、心を豊かにすべく研究していく。

【授業における到達目標】

基本的な行書・草書の特徴を理解し、書風を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

第1週：ガイダンス。展覧会の会場で陳列発表されている作品は、古典古筆の土台があってこそ成立するものであることを踏まえ、芸術としての書表現にたどり着くための方法論を研究していく

第2週：「蘭亭序」テキスト41頁の書法研究

第3週：「蘭亭序」の「天朗気清」を双鉤填墨。昔の学び方、真実を伝える難しさと実技向上を目的として

第4週：「蘭亭序」テキスト40～45頁の書法研究

第5週：「蘭亭序」テキスト40～45頁の書法研究

第6週：「風信帖」テキスト51頁の書法研究

第7週：「風信帖」テキスト46頁の書法研究

第8週：「蜀素帖」テキスト46頁の書法研究

第9週：「十七帖」テキスト38頁の書法研究

第10週：「書譜」テキスト37頁の書法研究

第11週：「書譜」テキスト36頁の書法研究

第12週：「蘭亭序」に立脚した題材「平成」を作品制作

第13週：「書譜」に立脚した題材「新元号（未定）」を作品制作

第14週：各自の好きな行書・草書の古典に立脚した題材「永遠之實女」を作品制作

第15週：総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各古典の時代背景と技法解説書等を読んで事前にテキストの予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

新編書道Ⅱ17教出書Ⅱ307[教育出版株式会社、2018、¥410(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

書芸を極めるb

—行書・草書の書法研究—

松尾 光晴

2年～ 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

後期は、行書草書を研究していく。本来の行書や草書は構造性というよりは情緒的である。一見アンバランスにみえるが実はバランスを保っている。そんな書体の理論と実技向上の実践を試みる。また、展覧会の鑑賞の仕方にも触れ、心を豊かにすべく研究していく。

【授業における到達目標】

基本的な行書・草書の特徴を理解し、書風を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

第1週：ガイダンス。展覧会の会場で陳列発表されている作品は、古典古筆の土台があってこそ成立するものであることを踏まえ、芸術としての書表現にたどり着くための方法論を研究していく

第2週：「蘭亭序」テキスト41頁の書法研究

第3週：「蘭亭序」の「天朗気清」を双鉤填墨。昔の学び方、真実を伝える難しさと実技向上を目的として

第4週：「蘭亭序」テキスト40～45頁の書法研究

第5週：「蘭亭序」テキスト40～45頁の書法研究

第6週：「風信帖」テキスト51頁の書法研究

第7週：「風信帖」テキスト46頁の書法研究

第8週：「蜀素帖」テキスト46頁の書法研究

第9週：「十七帖」テキスト38頁の書法研究

第10週：「書譜」テキスト37頁の書法研究

第11週：「書譜」テキスト36頁の書法研究

第12週：「蘭亭序」に立脚した題材「平成」を作品制作

第13週：「書譜」に立脚した題材「新元号（未定）」を作品制作

第14週：各自の好きな行書・草書の古典に立脚した題材「永遠之實女」を作品制作

第15週：総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各古典の時代背景と技法解説書等を読んで事前にテキストの予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

新編書道Ⅱ17教出書Ⅱ307[教育図書株式会社、¥380(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

書籍製作

居郷 英司

2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

1年次前期の「原稿指定入門」では「本文」の指定を学びましたが、この授業の前半では引き続き「表組」「前付」「後付」の指定を学びます。

後半では、学生各自が自分の出版してみたい書籍を企画立案し、実際に仕上げていくために必要なことを学んでいきます。原稿という情報を書籍という物体にするためには、原稿の内容・程度、読者対象、判型、ページ数、本文デザイン、装幀などを考える必要があります。この講義では、こうしたさまざまな要素をトータルに考えていきます。

【授業における到達目標】

今までの授業で学修した知識と技術をもとに、自ら出版する企画を立て、その書籍を具体的な形に仕上げていく能力を身につけることを目標とします。一つの目標を設定し、計画を立案し、主体的に実行する行動力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 「原稿指定入門」の復習
- 第2週 割付用紙と原稿指定票の作成
- 第3週 「表組」の考え方と指定
- 第4週 前付 (1) 「はしがき」の考え方と指定
- 第5週 前付 (2) 「目次」の考え方
- 第6週 前付 (3) 「目次」の指定
- 第7週 後付 (1) 「索引」の作成法と考え方
- 第8週 後付 (2) 「索引」の指定
- 第9週 書籍の企画の考え方と企画書の作成
- 第10週 企画の提案とディスカッション
- 第11週 企画書の修正と再提案
- 第12週 装幀 (1) 装幀材料の知識と考え方
- 第13週 装幀 (2) ジャケットと帯のラフデザイン作成
- 第14週 装幀 (3) ジャケットと帯のデザイン完成
- 第15週 提出課題の仕上げと講評

【事前・事後学修】

【事前学修】前半では、1年前期の学修内容を確認して、授業に臨むようにしてください。後半では、各自で出版したい企画に似た書籍がどのような形態で刊行されているか、小売り書店や図書館などで確認しながら授業に臨むようにしてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業中に出された課題を、遅れないでするようにしてください。分からなかったところは次の授業で確認するようにしてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『編集必携 第2版』（日本エディタースクール出版部、2002年）
1980円＋税

使用用具：「印刷文字スケール」、赤・青ペン

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）20%、実習課題80%で評価します。実習課題は授業最終日に講評します。

書道

—日本の伝統文化に触れながら美しい文字を習得する—

和田 朱美

1・2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

それぞれの用具の特性を生かした文字表現を行う。手書き文字の温かさを知り、日本人として日本固有の文字を美しく表現する。

【授業における到達目標】

美しい文字とは何かを理解し、基礎から学ぶことにより、毛筆、硬筆それぞれの特性を生かし表現する。

書表現により日本の文化・精神を知り、日本の伝統美を世界に発信する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業方針、用具の解説）
- 第2週 硬筆1 名前と住所を書いてみる
- 第3週 硬筆2 楷書の基本
- 第4週 硬筆3 行書の基本
- 第5週 硬筆4 かなの基本 単体、連綿
- 第6週 硬筆5 文章を書く 縦書き、横書き
- 第7週 硬筆6 エントリーシート、履歴書を書く
- 第8週 硬筆7 はがき、封筒の表面を書く
- 第9週 毛筆1 筆の持ち方、線の引き方、かなを書く
- 第10週 毛筆2 楷書と行書の違いを知る
- 第11週 毛筆3 漢字かな交じり語句および文章を書く
- 第12週 毛筆4 表書き（のし袋）を書く
- 第13週 毛筆5 中国、日本の書道史より書体の変遷を学ぶ
- 第14週 毛筆6 生活の中の書の調査・発表
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

事前に課題を渡すので、予習をすること。（学修時間週2時間）

【事後学習】

添削を受けたところをきちんと復習すること。次回授業までに確実に書けるようにしておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
- ・硬筆：水性ボールペンまたはデスクペン・万年筆
- ・毛筆：書道用具一式（筆は小筆のみとする）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題清書70%、平常点（授業への取り組み姿勢）30%の総合評価。

課題清書はその場で添削し、注意点を説明する。

【参考書】

岡本政弘編『毛筆基本字典』（二玄社 2004年）

【注意事項】

- ・用具はきちんと揃えること。
- ・毛筆は、筆の持ち方、線の引き方から指導するので、初心者でも取り組むことができる。ただし基礎を身につけるには、授業中の集中鍛錬が必要となる。家庭学習も進んで取り組むこと。
- ・欠席の場合、後日課題を提出のこと。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

書道 a

—文字の仕組みを知って、美しい文字を身につける—

和田 朱美

2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

手書きで文字を書くことが少なくなった昨今、自らの手で人柄の伝わる文字表現をすることで人格形成の一端とする。

【授業における到達目標】

日常の文字を美しく丁寧に書き、実用性を重んじた文字の習得を目指す。日本語表記（特にかな文字）の世界的価値を知り、それを温もりのある手書き文字として表現し、書之美しさを探究する態度を身につける。

文字に対する知識を得、硬筆検定にも積極的に取り組む。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の取り組み方、用具の説明）
- 第2週 ひらがな・カタカナの基本 書写テキスト1 p.3-9
- 第3週 ひらがな・カタカナ（行書にも合うひらがな、ひらがなの字母を知る） 書写テキスト2 p.1-5
- 第4週 楷書の基本1 書写テキスト1 p.10-15
- 第5週 楷書の基本2 書写テキスト1 p.16-21
- 第6週 行書の基本1 書写テキスト2 p.6-13
- 第7週 行書の基本2 書写テキスト2 p.14-21
- 第8週 行書の基本3（部首を中心に） 書写テキスト2 p.26-35
- 第9週 文章を書く（横書き） プリント
- 第10週 文章を書く（縦書き） プリント
- 第11週 ハガキを書く（暑中見舞い状を作成する）プリント

第12週 手紙を書く（封筒・便箋に書く） プリント

第13週 表書き（のし袋）を書く プリント

第14週 身上書・履歴書・エントリーシート等を書く プリント

第15週 硬筆検定に向けて（実際の問題にあたる）

【事前・事後学修】

単元終了時、小テストを課す。

【事前学修】次週課題をテキストにより予習をすること。（学修時間2時間）

【事後学修】添削を受けたものについては、何度も繰り返し練習し次回の授業で確実に書けるようする。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

筆記用具：水性ボールペンまたはデスクペン・万年筆（なるべく細目）、必要に応じて筆ペン

用紙：九宮格用紙

テキスト：

『硬筆書写テキスト1』（日本ペン習字研究会 2002年）

『硬筆書写テキスト2』（日本ペン習字研究会 2001年）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：課題清書60%、平常点（授業への取り組み姿勢）20%、小テスト20%

課題清書については添削し返却する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【注意事項】

書くことだけでなく、表書き・手紙等に使われる一般常識も合わせて教示するので、しっかり習得すること。用筆の基礎と字形のポイントを説明するので、きちんと覚えて家庭でも復習を欠かさないこと。授業で習得した表現力を、普段でも発揮できるように進んで練習に励むこと。欠席した場合も、課題は後日必ず提出のこと。受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

書道科教育法（１）

松尾 光晴

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

書道科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された書道科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付け、高等学校の教壇に立てる実践力を修得する。

【授業における到達目標】

免許状取得に向けて教育実習を次年度に控えた学生に、情報機器及び教材の活用法を含めて、高等学校芸術科書道における現場の指導法を修得させることを目的とする。

主に高校1年生を対象とした模擬授業ができる基礎力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス。書道が社会の中でどのように愛好されているか、また、書道を学ぶことによって生涯を豊かにできるということについて。高校書道の授業の現場状況について
- 第2週：用具用材、執筆法、腕法の解説
- 第3週：板書の書き方、授業展開の方法
- 第4週：全体指導と個別指導の違い
- 第5週：年間授業計画及び学習指導案の作成方法
- 第6週：唐代楷書のバランスの理解と実践。偏旁の横構造、冠脚の縦構造の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第7週：逆ハの字の結構、偏旁の開きの限界値の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第8週：点と線の効果と分間空白・間架結構の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第9週：明朝体の活字の母体であり生活に密着した書風と、蚕頭燕尾や特徴的なハネの顔法の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第10週：北魏楷書のバランスの理解と実践。唐楷との結構の共通点と相違点、点や転折にみられる特徴的な技法の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第11週：画数の多少による半紙タテ二文字と四文字のまとめ方では理屈に変化が起きる場合があること、及び行間の仕組みが加わることの解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第12週：字の中の白と字の外の白の空間処理における楷書と行書の相違点の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第13週：仮名と変体仮名の単体、古筆原寸臨書の方法論、仮名の歴史の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第14週：漢字仮名交じりの書の解説と、動画で書家のパフォーマンスを鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第15週：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各古典の時代背景や技法等の解説書を読み、予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容や小テスト等を復習すること。専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編[¥290(税抜)]
 書I6教図書I306[教育図書株式会社、¥453(税抜)]
 新編書道II17教出書II307[教育図書株式会社、¥380(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

第14週に課題レポート試験を提出（70%）第15週に返却。
 小テストは第6週と第12週に行う（30%）第7週と第13週に返却。

【参考書】

授業中に適宜資料を配布する。

書道科教育法（２）

松尾 光晴

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

書道科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された書道科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付け、卒業後すぐに高等学校芸術科書道の教壇に立てる実践力を修得する。

【授業における到達目標】

免許状取得に向け、教育実習を次年度に控えた学生に、情報機器及び教材の活用法を含め、高等学校芸術科書道における現場の実践的な指導法を修得させることを目的とする。主に高校1年生を対象とした模擬授業による実践的な指導法の修得と学習指導案の作成法について修得する。

【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス。書道が社会の中でどのように愛好されているか、また、書道を学ぶことによって生涯を豊かにできるという点について。学習指導要領に即して書道科指導上の留意点について。学習指導案の書き方について。情報機器の利用法について。
- 第2週：模擬授業（高校で実際に行っている授業展開の解説）。取扱う古典の解説と鑑賞（情報機器の利用法含む）。
- 第3週：「九成宮醴泉銘」を題材とする模擬授業 グループA（情報機器の利用法含む）
- 第4週：「孔子廟堂碑」を題材とする模擬授業 グループB（情報機器の利用法含む）
- 第5週：「雁塔聖教序」を題材とする模擬授業 グループC（情報機器の利用法含む）
- 第6週：「顔氏家廟碑」を題材とする模擬授業 グループD（情報機器の利用法含む）
- 第7週：「牛ケツ造像記」を題材とする模擬授業 グループE（情報機器の利用法含む）
- 第8週：「蘭亭序」の「天朗気清」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第9週：「蘭亭序」の「恵風和暢」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第10週：「風信帖」の「風信雲書」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第11週：「風信帖」の「自天翔臨」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第12週：「高野切第一種」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第13週：「寸松庵色紙」を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第14週：漢字仮名交じりの書を題材とする模擬授業（個人）（情報機器の利用法含む）
- 第15週：総括

【事前・事後学修】

事前学修：発表・レポート・小テスト等の課題に取り組むこと。発表者は学習指導案制作し、受講人数分用意しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：発表した模擬授業、小テスト等を復習すること。専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編[¥290(税抜)]
 書I6教図書I306[教育図書株式会社、¥453(税抜)]
 新編書道II17教出書II307[教育図書株式会社、¥380(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

第14週に課題レポートを提出（70%）第15週に返却。

第6週と第12週に小テストを行う（30％）第7週と第13週に返却。

【参考書】

授業中に適宜資料を配布する。

書道史

—書道文化の魅力を探る—

小川 博章

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代より唐代までの書道史を概観します。各時代の社会や文化と書道との関係を考察し、書道の特徴を明らかにします。また、近年さかんに報告される考古学的発掘資料についても目を配りながら書道文化を考えます。

【授業における到達目標】

- 古典書道資料を各時代の社会や文化と関連させ理解できるようになる。
- 書道の考古学的報告書を読み解くことができるようになる。
- 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、学問を続けることができる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進行方法・学習方法について説明
- 第2週 古代の文字 P128の解説
- 第3週 殷周：甲骨文、金文について P8、9の解説
- 第4週 春秋戦国：各国の文字風格について P10、11の解説
- 第5週 秦：文字の統一と通行書体について P12、13の解説
- 第6週 漢：石碑と簡牘について P14～22の解説
- 第7週 三国：書体の成立について P23の解説
- 第8週 晋：王羲之の書法について P24、P37～41の解説
- 第9週 北朝：造像記と墓誌銘について P25～30の解説
- 第10週 南朝：王法の伝統について P130、131の解説
- 第11週 隋：楷書の完成について P132の解説
- 第12週 唐①：初唐三大大家について P31～36の解説
- 第13週 唐②：書譜について P49の解説
- 第14週 日中書道交流史について P128～139の解説
- 第15週 文房四宝について P98の解説

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業前に、テキストおよび配布プリントの該当箇所を通読し、疑問点や不明箇所を確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業にて指示した書家、作品の資料を整理し提出する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会編：書の古典と理論[光村図書出版株式会社、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験、提出課題・授業態度によって評価します。（評価配分は試験60%、提出課題・授業態度40%）

レスポンスシートの疑問点を次週授業の冒頭で回答することで、学生へのフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『書道全集』（平凡社）
- ・『書跡名品叢刊』（二玄社）
- ・『中国書論大系』（二玄社）
- ・『書の歴史』（二玄社）

【注意事項】

知識としての書道史だけでなく、「書とは何か」「書と文化の関係は」と常に疑問を持って取り組むことが大切です。また、博物館・企画展・展覧会を参観し、目と感性を鍛えることも心がけてください。

書道史

—書道文化の魅力を探る—

小川 博章

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代より唐代までの書道史を概観します。各時代の社会や文化と書道との関係を考察し、書道の特徴を明らかにします。また、近年さかんに報告される考古学的発掘資料についても目を配りながら書道文化を考えます。

【授業における到達目標】

- 古典書道資料を各時代の社会や文化と関連させ理解できるようになる。
- 書道の考古学的報告書を読み解くことができるようになる。
- 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、学問を続けることができる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進行方法・学習方法について説明
- 第2週 古代の文字 P128の解説
- 第3週 殷周：甲骨文、金文について P8、9の解説
- 第4週 春秋戦国：各国の文字風格について P10、11の解説
- 第5週 秦：文字の統一と通行書体について P12、13の解説
- 第6週 漢：石碑と簡牘について P14～22の解説
- 第7週 三国：書体の成立について P23の解説
- 第8週 晋：王羲之の書法について P24、P37～41の解説
- 第9週 北朝：造像記と墓誌銘について P25～30の解説
- 第10週 南朝：王法の伝統について P130、131の解説
- 第11週 隋：楷書の完成について P132の解説
- 第12週 唐①：初唐三大大家について P31～36の解説
- 第13週 唐②：書譜について P49の解説
- 第14週 日中書道交流史について P128～139の解説
- 第15週 文房四宝について P98の解説

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業前に、テキストおよび配布プリントの該当箇所を通読し、疑問点や不明箇所を確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業にて指示した書家、作品の資料を整理し提出する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

全国大学書道学会：書の古典と理論[光村図書出版株式会社、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験、提出課題・授業態度によって評価します。（評価配分は試験60%、提出課題・授業態度40%）

レスポンスシートの疑問点を次週授業の冒頭で回答することで、学生へのフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『書道全集』（平凡社）
- ・『書跡名品叢刊』（二玄社）
- ・『中国書論大系』（二玄社）
- ・『書の歴史』（二玄社）

【注意事項】

知識としての書道史だけでなく、「書とは何か」「書と文化の関係は」と常に疑問を持って取り組むことが大切です。また、博物館・企画展・展覧会を参観し、目と感性を鍛えることも心がけてください。

女性とスポーツ

女性とスポーツ 一生涯にわたる運動一

有賀 暁子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

科学技術の進歩による便利な日常生活は、知らず知らずのうちに運動不足を引き起こしています。現代社会のなかで運動することはより生き生きとした生活を送り、健康を保持増進するための手段として大きな役割が期待されます。

本授業では年齢に応じた運動のあり方や女性とスポーツのかかわりについて理解を深め、生涯にわたって運動・スポーツに親しむための方法を修得します。

毎時間、テーマに基づいた課題に取り組み意見交換、口頭発表を実施します。また教室内でできる手軽な体操・ストレッチ等を経験し、運動に親しむ習慣を身につけましょう。

【授業における到達目標】

生涯にわたって適度に運動しながら、心身を健康に保つ大切さを知識と実技により修得し、「研鑽力」を身につける。

体の仕組みを学び、美しい体づくり、姿勢づくりができるよう実践的に身につける。また自分の考えを発表する機会を多く経験し、相手に自分の意見を伝える力、相手の意見を聞く力をつける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、自己紹介
- 第2週 健康の捉え方
- 第3週 食事と健康
- 第4週 運動と健康（柔軟性のチェックとストレッチ）
- 第5週 体力の構成要素（姿勢チェックと骨盤矯正）
- 第6週 休養と健康（脳のメカニズム）
- 第7週 正しいラジオ体操（理論と実技）
- 第8週 年齢に応じた運動・心と体の発育（乳・幼児期）
- 第9週 年齢に応じた運動・心と体の成長（児童期）
- 第10週 年齢に応じた運動・心と体の変化（青年期）
- 第11週 年齢に応じた運動・心と体の楽しみ方（壮年期・老年期）
- 第12週 スポーツとのかかわり方 その1（オリンピック・パラリンピックについて）
- 第13週 スポーツとのかかわり方 その2（スポーツと経済）
- 第14週 スポーツとのかかわり方 その3（スポーツライフ設計）
- 第15週 課題レポート発表 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕

「健康」「運動」「スポーツ」等に関する情報を調べ、口頭発表の準備をしてください。（学修時間週2時間）

〔事後学修〕

授業内容を復習し、ノート整理を心がけてください。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題提出20%、口頭発表20%、レポート10%で評価します。

提出された課題は、次回授業時にフィードバックします。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【注意事項】

運動・スポーツ・健康に関心をもち、授業に対して積極的に取り組める学生の履修を歓迎します。

本授業は座学に加えて運動も実施します。体育着は不要ですが、体を動かしやすい服装を心がけてください。

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

女性とライフサイクル

循環するいのち

西脇 智子

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ライフサイクル（人生周期）とは、受精→体内の発育→出生後の発育→成長→成熟→老衰→死という生命の循環過程に基づく概念です。個人が自分自身の限りある生涯をたどるという意味と、その個人が次の世代につながり、次々と後の世代に引き継がれていく意味とをあらわしています。

この授業では、女性の視点からその人生を周期に分けて、循環するいのちを人間の発達段階に照らして学びます。また、人間として成熟した女性が直面する子育てや働き方等の話題にも注目します。

【授業における到達目標】

- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する「研鑽力」を身につけることをめざします。
- ・現状を正しく把握し、ライフサイクルの課題を発見できる「行動力」を実践できるようになることをめざします。

【授業の内容】

- 第1週 生涯人間発達論の基本的視点
- 第2週 乳児期
- 第3週 幼児前期
- 第4週 幼児後期
- 第5週 学童期
- 第6週 思春期
- 第7週 青年期
- 第8週 成人前期
- 第9週 成人中期
- 第10週 成熟期
- 第11週 成人後期
- 第12週 グループワーク：少子化と子育て
- 第13週 グループワーク：働く女性と健康
- 第14週 グループワーク：循環するいのち
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）

・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配付するプリント資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：グループワーク40%、平常点（授業中の発言、ドリルの提出）60%です。ドリルは次回授業にフィードバックを行います。

【参考書】

早川浩・杉下知子『ライフステージと健康』（中外医学社 2000年）2400円、山崎喜比古・朝倉隆司編『生き方としての健康科学』（有信堂 1999年）2800円、服部祥子『生涯人間発達論』（医学書院 2000年）1800円

女性と英語圏文学 a

イギリス女性作家の伝統

志渡岡 理恵

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

イギリス及び旧植民地の女性作家の多彩な（文筆）活動に関する知識を定着させ、女性が「書く」（＝自己表現する）意味と困難を理解し、女性と文化・社会との関係について考察を深めることを目指す。

【授業における到達目標】

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について考察する。これらを通じて「美の探究」を行い、「研鑽力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3回：J. オースティン—映像化され続ける作品
- 第4回：A. ラドクリフとM. シェリー—ゴシック小説の系譜
- 第5回：E. ギャスケル—社会へのまなざし
- 第6回：B. ボター—童話と自然保護運動
- 第7回：O. シュライナー—南アフリカを描く
- 第8回：I. バード—日本への旅
- 第9回：F. バーネット—児童文学におけるインド表象
- 第10回：A. ブラジル—スクールガール小説
- 第11回：V. ウルファー—モダニズム、フェミニズム
- 第12回：K. マンスフィールド—少女の目線
- 第13回：M. パウエルとR. ハリソン—20世紀メイドの回想録
- 第14回：A. クリステイ—推理小説と旅行文化
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回でとりあげる女性作家について図書やインターネットで調べてくること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業でとりあげた作品を読んで、考察を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。各回のリアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業時に行う。

【参考書】

ヴァージニア・ウルフ（著）『女性にとっての職業——エッセイ集』（みすず書房1994年）

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

女性と英語圏文学 a

イギリス女性作家の伝統

志渡岡 理恵

2・3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

イギリス及び旧植民地の女性作家の多彩な（文筆）活動に関する知識を定着させ、女性が「書く」（＝自己表現する）意味と困難を理解し、女性と文化・社会との関係について考察を深めることを目指す。

【授業における到達目標】

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について考察する。これらを通じて「美の探究」を行い、「研鑽力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3回：J. オースティン—映像化され続ける作品
- 第4回：A. ラドクリフとM. シェリー—ゴシック小説の系譜
- 第5回：E. ギャスケル—社会へのまなざし
- 第6回：B. ボター—童話と自然保護運動
- 第7回：O. シュライナー—南アフリカを描く
- 第8回：I. バード—日本への旅
- 第9回：F. バーネット—児童文学におけるインド表象
- 第10回：A. ブラジル—スクールガール小説
- 第11回：V. ウルファー—モダニズム、フェミニズム
- 第12回：K. マンスフィールド—少女の目線
- 第13回：M. パウエルとR. ハリソン—20世紀メイドの回想録
- 第14回：A. クリステイ—推理小説と旅行文化
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

- 事前学修：各回でとりあげる女性作家について図書やインターネットで調べてくること。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：授業でとりあげた作品を読んで、考察を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。各回のリアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業時に行う。

【参考書】

ヴァージニア・ウルフ（著）『女性にとっての職業——エッセイ集』（みすず書房1994年）

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

女性と英語圏文学 a

イギリス女性作家の伝統

志渡岡 理恵

2・3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

イギリス及び旧植民地の女性作家の多彩な（文筆）活動に関する知識を定着させ、女性が「書く」（＝自己表現する）意味と困難を理解し、女性と文化・社会との関係について考察を深めることを目指す。

【授業における到達目標】

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について考察する。これらを通じて「美の探究」を行い、「研鑽力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3回：J. オースティン—映像化され続ける作品
- 第4回：A. ラドクリフとM. シェリー—ゴシック小説の系譜
- 第5回：E. ギヤスケル—社会へのまなざし
- 第6回：B. ボター—童話と自然保護運動
- 第7回：O. シュライナー—南アフリカを描く
- 第8回：I. バード—日本への旅
- 第9回：F. バーネット—児童文学におけるインド表象
- 第10回：A. ブラジル—スクールガール小説
- 第11回：V. ウルファー—モダニズム、フェミニズム
- 第12回：K. マンスフィールド—少女の目線
- 第13回：M. パウエルとR. ハリソン—20世紀メイドの回想録
- 第14回：A. クリステイ—推理小説と旅行文化
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回でとりあげる女性作家について図書やインターネットで調べてくること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業でとりあげた作品を読んで、考察を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。各回のリアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業時に行う。

【参考書】

ヴァージニア・ウルフ（著）『女性にとっての職業——エッセイ集』（みすず書房1994年）

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

女性と英語圏文学 b

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

【授業における到達目標】

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ビューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第8週 新しい女性—Edith Wharton
- 第9週 西部と女性—Willa Cather
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で扱うテーマと作家について調べる。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業で配布したプリントを復習する。期末試験の課題図書を読む。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

女性と英語圏文学 b

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2・3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

【授業における到達目標】

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨN
- 第2週 ビューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第8週 新しい女性—Edith Wharton
- 第9週 西部と女性—Willa Cather
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で扱うテーマと作家について調べる。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業で配布したプリントを復習する。期末試験の課題図書を読む。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

女性と英語圏文学 b

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2・3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

【授業における到達目標】

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ビューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第8週 新しい女性—Edith Wharton
- 第9週 西部と女性—Willa Cather
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で扱うテーマと作家について調べる。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業で配布したプリントを復習する。期末試験の課題図書を読む。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

女性と教育

本学の歩みと女子大学のミッション

(前期) 清田 夏代・久保 貴子 (後期) 広井 多鶴子・久保

貴子

1年～ 前期・後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

女性はこれまで何のために何をどのように学んできたのか。あるいはどのような教育を受けてきたのか。この授業では近代以前から現代に至るまで、日本の女性がいかに学んできたのか、また、本学をはじめとした女子大学がどのような役割を果たしてきたのかについて考察する。

明治以降、「近代女子教育」が発足し、1899年には下田歌子によって本学の前身である実践女学校と女子工芸学校が開校した。この授業の前半では、こうした近代女子教育の歩みと本学誕生の歴史的意義について考える。後半では、戦後の男女共学化、女子大学と女子短大の発足、女性の高等教育進学率の推移、男女の進学格差などについて取り上げ、今後の女子大学のありかたについて考察する。

【授業における到達目標】

近代女子教育の歴史を把握し、本学発足の歴史的意義を理解する。戦後の女子大学の誕生と女性の進学率の推移について歴史的に把握し、女子大学のあり方や課題について諸外国と比較しながら自ら考えを深める。

【授業の内容】

- 第1週 「女文字」の誕生へ（古代～平安）
- 第2週 行動する女性の出現（鎌倉～戦国）
- 第3週 女性と学問（江戸）
- 第4週 近代女子教育の幕開け（明治）
- 第5週 下田歌子と女子教育（明治～大正）
- 第6週 下田歌子と女子教育（大正～戦前）
- 第7週 実践女子学園の歩み
- 第8週 戦後女子大学の発足と男女共学
- 第9週 女性の大学・短大進学率の上昇
- 第10週 1990年代以降の女子大学の変貌
- 第11週 日本の教育は男女平等か
- 第12週 ジェンダー格差の要因
- 第13週 世界の女子大学
- 第14週 これからの女子大学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で次の授業に関する課題を出す。それについて図書館等で調べる。（週2時間）

事後学修：授業を通して分かったことや考えたこと、疑問に思ったことを文章にまとめ（宿題）、manabaに提出する。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価はレポートによる（70%）。担当教員がそれぞれレポート課題を出す。授業への取り組み状況も評価対象とする（30%）。

宿題の中で出された疑問について授業中に答える。

【参考書】

- 小山静子編『男女別学の時代』柏書房、2015年、3600円
- 小山静子『戦後教育のジェンダー秩序』勁草書房、2009年、3240円
- 橋木俊詔『女性と学歴』勁草書房2011年、2500円
- ホーン川嶋瑤子『大学教育とジェンダー—ジェンダーはアメリカの大学をどう変えたか』東信堂、2004年、3600円
- その他、授業中に紹介する。

女性と言語文化

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

【授業における到達目標】

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakションと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

【テキスト・教材】

中村桃子：ジェンダーで学ぶ言語学[世界思想社、2010、¥2,200(税抜)、ISBN: 0-13-198576-0]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。
- ・随時コメントシートを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。
- ・中間確認テストは、点数のみを返却する。
- ・学期末レポートは、manaba においてフィードバックを行なうが、さらに詳しい論評はアポイントメントを得た上で研究室に取りに来ること。

【参考書】

- レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)
- スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)
- タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)
- 滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

【注意事項】

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

女性と言語文化

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2・3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

【授業における到達目標】

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨンと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

【テキスト・教材】

中村桃子：ジェンダーで学ぶ言語学[世界思想社、2010、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。
- ・随時コメントシートを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。
- ・中間確認テストは、点数のみを返却する。
- ・学期末レポートは、manaba においてフィードバックを行なうが、さらに詳しい論評はアポイントメントを得た上で研究室に取りに来ること。

【参考書】

- レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)
- スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)
- タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)
- 滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

【注意事項】

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

女性と言語文化

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2・3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

【授業における到達目標】

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨンと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

【テキスト・教材】

中村桃子：ジェンダーで学ぶ言語学[世界思想社、2010、¥2,200(税抜)、ISBN978-4-589-03882-1]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。
- ・随時コメントシートを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。
- ・中間確認テストは、点数のみを返却する。
- ・学期末レポートは、manaba においてフィードバックを行なうが、さらに詳しい論評はアポイントメントを得た上で研究室に取りに来ること。

【参考書】

- レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)
- スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)
- タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)
- 滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

【注意事項】

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

女性と国際社会

江藤 双恵

1年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

私たちはこれからの国際社会において、どのように生き、どのように振る舞い、どのように活躍することが可能なのか。また、女性の活動を制約したり促進したりする要因にはどのようなものがあるのか。さまざまな地域の具体的な事例を扱いながら、政治的、経済的、社会的、文化的、宗教的、歴史的な要因、さらに人、ひとりひとりのライフステージの中に織り込まれたジェンダーを紐解いていく。

【授業における到達目標】

国際機関や各国政府、NGOsによる「ジェンダー平等」を目指すための取り組みの経緯と内容について理解する。我が国における「ジェンダー平等」の達成状況と克服すべき課題について理解する。さまざまな地域におけるさまざまな立場の女性の活動について知り、私たちの身近な女性の活動事例と比較して相対化できるようになる。自分自身の生き方について、今日の国際社会の状況を鑑みて考えられるような見識を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 導入；「女性」は一枚岩？グローバリゼーションの中で日本の女性が直面する様々な課題を知る。
- 第2週 「ジェンダー平等」とは何か、なぜそれを推進しなければならないのか。フェミニズムなど、関連用語とともに、その理念について学ぶ。
- 第3週 国際機関における「ジェンダー平等」推進の歴史的経緯と内容について理解する。
- 第4週 ソーシャルワークにおけるジェンダー視点について。
- 第5週 開発援助におけるジェンダー視点導入の経緯と実践について。
- 第6週 「ジェンダー平等」と文化（その1）。ジェンダー平等のための取り組みをさまざまな地域の事例から検討する。
- 第7週 「ジェンダー平等」と文化（その2）。
- 第8週 「ジェンダー平等」と文化（その3）。前2回の授業で学んだ事例をもとに、「ジェンダー平等」施策を実施する上で留意されるべきことは何かを考える。
- 第9週 国際社会で活躍する女性（その1）（女性の政治的リーダーの事例。）
- 第10週 国際社会で活躍する女性（その2）（国際的な企業の女性社長やCEOなどの事例）
- 第11週 国際社会で活躍する女性（その3）（アート、音楽などで活躍する女性の事例）
- 第12週 国際社会で活躍する女性（その4）（発展途上国の農村女性グループの事例）
- 第13週 国際社会で活躍する女性（その5）。前4回で見てきた女性の活躍／活動をまとめる。さまざまな事例の中で女性を活躍させている条件、女性の活躍を制限している条件について考える。
- 第14週 日本女性の直面する課題について、授業中に扱ったさまざまな事例と比較して再検討し、解決策を考える。
- 第15週 これまでに学んだ事例や知識をもとに、自分の自信の国際社会における位置づけ、これからの活動方針、ライフスタイルなどについて考えてみる。

【事前・事後学修】

事前学修

女性、ジェンダー、男女平等参画などのテーマでどのようなことが話題にのぼっているか、新聞、テレビ、インターネットの情報をチェックしておく。30分程度でいいので、毎日の習慣にする（30分×7日間で週210分）。また、授業前には必ず前回の授業で配布された資料を読んで関連情報をチェックしておく（30分）

事後学修

授業中に紹介した事例について、さらに深く検討したり、参考文献

を読み込んだりする。自分自身の生き方の問題として考えてみる（30分）。

【テキスト・教材】

授業中に複数の文献を紹介し、また、適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題を40パーセント、最終試験を60パーセントとして評価します。授業中の課題について、随時コメントをすることでフィードバックを行います。

【参考書】

『ジェンダー論をつかむ』（千田有紀ら編）有斐閣

女性と職業

山谷 真名
2年～ 前期 2単位
○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

女性と職業の問題をさまざまな視点から概観する。その際に、現在の社会の動きに関心を持つことができるよう、法律の改正等「今」のトピックスをより多く取り上げる。また、キャリア・デザインの必要性についても学ぶ。

【授業における到達目標】

女性労働関係の法律や特徴およびキャリア・デザインに関連した言葉について理解し、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探索し、学問を続けることができるようになる。

女性労働の問題点やキャリア・デザインの必要性について現状を正しく把握し、課題を発見することができるようになる。

グループワークによって、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 働くことの意味、自己決定理論、キャリア・デザインの必要性
- 第2週 自己概念、キャリア自己効力感
- 第3週 ブランドハブスタンス理論
- 第4週 日本の女性労働の変遷、職業調べ
- 第5週 日本の仕事と育児の両立支援策
- 第6週 女性の労働力率と政策の国際比較（デンマーク）
- 第7週 女性の労働力率と政策の国際比較
(オランダ、フランス)
- 第8週 社会経済環境の変化と女性活躍推進法
- 第9週 男女雇用機会均等法
- 第10週 税・年金制度と女性の働き方
- 第11週 男女間賃金格差・昇進格差の要因
- 第12週 企業における女性活躍推進の取組み（発表）
- 第13週 ダイバーシティ推進施策
- 第14週 女性が活躍するために（グループワーク）
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 レポートの課題に取り組むこと。
(学修時間 週1時間)

【事後学修】 毎回、前回の講義の復習（宿題）をすること。
(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

宿題の提出30% レポート提出20% 試験50%
宿題・レポートは次回授業、試験は、試験後フィードバックを行う。

【参考書】

- J. D. クランボルツ, A. S. レヴィン『その幸運は偶然ではないんです！』（ダイヤモンド社 2005年）
- 阿部正浩・松繁寿和『キャリアのみかた 改訂版』（有斐閣 2014年）
- 岩田喜美枝・菅原千枝著『女性はもっと活躍できる！』（公益財団法人21世紀職業財団 2015年）
- 阿部正浩・菅万理・勇上和史『職業の経済学』（中央経済社 2017年）
- 石塚由紀夫『働く女性ほんとの格差』（日本経済新聞社 2018年）

女性と職業

蟹江 教子
2年～ 後期 2単位
○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

何故、女性の社会進出は進んだのでしょうか。女性を取り巻く環境は、どのように変化しているのでしょうか。出産・育児で仕事を辞める女性が多いのは、何故でしょうか。女性の社会進出が叫ばれているのに、管理職になる女性が少ないのは、何故でしょうか。ライフサイクルに応じて、働き方を変える女性が多いのは何故でしょうか。

これらの疑問について、明らかにするとともに、働く女性を支援する法律や制度、政策について、海外の事例も含めて学びます。

【授業における到達目標】

なぜ働くのか、働くことの意味について理解しましょう。女性を支援する法律や制度、政策について、現状を正確に理解し、社会に潜む問題点や矛盾を発見し、解決に向けての方策を考える力を身につけましょう。

【授業の内容】

- 第1回 女性の社会進出 ―アメリカとの比較―
- 第2回 日本の近代化と女性労働 ―女性雇用の歴史―
- 第3回 女性の就労意識の変化 ―なぜ、働くのか？―
- 第4回 学校教育から労働市場 ―学歴の持つ意味―
- 第5回 高学歴化と労働市場への影響 ―短大はなくなる？―
- 第6回 男女の雇用機会均等 ―総合職誕生の歴史―
- 第7回 男女間の格差 ―賃金格差の原因―
- 第8回 正規雇用と非正規雇用 ―非正規労働者が増えた理由―
- 第9回 女性の就業と社会政策 ―専業主婦はお得？―
- 第10回 結婚・出産と育児 ―セカンドシフトはなくなる？―
- 第11回 イクメンの誕生 ―本当に父親は育児をしたい？―
- 第12回 日本のワークライフバランス政策
- 第13回 海外のワークライフバランス政策
- 第14回 企業についての事例研究
- 第15回 全体のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ配布した資料に目を通してから、授業に臨みましょう。企業研究では、興味のある企業について、自分なりの視点を持って調べましょう。(週2.5時間程度)

事後学修：授業で取り上げた専門用語、キーワードは、説明できるようにしてください。(週1.5時間程度)

【テキスト・教材】

濱口桂一朗：働く女子の運命[文春新書、2015、¥780(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

コメントシート等の提出（20%）、課題レポート（60%）、課題の報告（20%）で評価します。

課題レポートは、最終回の授業でフィードバックします。

【参考書】

- 石井クンツ昌子監修、坂本有芳編著『キャリアデザインと子育て』（お茶の水学術事業会、2016年）、¥500+税。
- 筒井淳也『仕事と家庭』（中央公論社、2015年）、¥780+税。
- 阿部正浩・松繁寿和編『キャリアのみかた』（有斐閣、2014年）、¥1,900+税。
- 川口章『日本のジェンダーを考える』（有斐閣、2013年）、¥1,900+税。

女性と職業

—働くために学ぶ—

飯野 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

1. 女性と職業についての社会史を理解する。明治時代から、第二次世界大戦を経て、高度経済成長、今日へという歴史の中で、女性はどう働いてきたのか。求められた役割や就業環境、打開のための戦い等について学ぶ。
2. 今日の女性の就労をめぐる様々な問題について分析する。パートタイム労働や派遣労働など女性に多い就労形態の現状と問題点を学ぶ。さらに、今後女性の力を活かすにはどうすればいいのか考える。
3. 家族責任と職業の両立というテーマを、男女の問題として捉える。男性の育児休業など、男性の働き方の問題について学び、新しい働き方を考える。

【授業における到達目標】

明治以降今日までの女性の就労状況から、困難な状況にあっても社会進出への道を切り開いてきた先人達の生き方を学ぶ。女性が強く美しく歩んできた歴史を学ぶことで、自分自身も前進しようという姿勢を身に付ける（美の探求）。さらに今日の女性の就労に関する様々な課題を解決するための方向性を探る。女性も男性も、職業と家庭生活の両方を充実させ、より豊かに生きていくためにはどうすればいいのか、問題意識を持って考えられるようにする「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

1. ガイダンスー女性と労働を学ぶ意味
2. 明治期の労働状況ー工場労働
3. 大正～昭和期の労働状況ー職業婦人の誕生
4. 戦中の労働状況ー男性に代わって
5. 戦後～高度経済成長期の労働ー差別と変化
6. 現代の女性の労働環境
7. 男女雇用機会均等法
8. セクシュアル・ハラスメントの問題
9. 育児介護休業法
10. 男性の家事、育児
11. 非正規雇用の問題
12. ワーク・ライフ・バランスと新しい働き方
13. 女性の起業
14. 高齢社会と女性ー女性の力を社会に活かす
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：次回の授業で扱う重要用語、法律、必要なデータ、女性の労働をめぐる最近の動向などについて調べる。（週2時間）
- ・事後学修：独自に調べたデータや法律の概要、記事、自分の意見なども盛り込みノートを充実させる。（週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%、学習内容についての感想・意見の提出10%（このフィードバックは次回授業で行う）

【参考書】

授業開始時に指示する。

女性と心理

—心の入り口に立ってみる—

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

心理学に興味を持っている人はたくさんいます。けれど、心理学という学問について、きちんと理解している人は多くありません。この授業では、心理学がどのような特色を持った学問であるかを理解するとともに、「女性」であることの意味について考えていきます。

【授業における到達目標】

心のしくみを探る心理学という学問について、ビデオ教材を用いながら、基本的な理解にいたることをめざします。同時に、女性であるが故の「心の問題」を、社会的・文化的な背景から理解できるようにすることをめざします。

そして、そうした学びの中から優しさと強さについて考え、それらを自分のものにするとともに、広い視野と深い洞察力を身につけてもらいたいと思っています。

【授業の内容】

- 01 はじめに：人はなぜ「こころ」の問題を考えるのか
- 02 感覚と知覚：自分の感覚は正しいか
- 03 学習と理解：「わかる」とはどういうことか
- 04 動機づけと感情：「こころが動く」ことのメカニズム
- 05 発達：こころはいつまで育つのか
- 06 知能：頭がいいって、どういうこと
- 07 性格：そもそもあなたはどんな人
- 08 社会：社会にも「こころ」があるのか
- 09 臨床：「こころ」が風邪をひいたら
- 10 intermission：ジェンダー研究という視点
- 11 事例研究 01：あなたは「太りすぎ」か
- 12 事例研究 02：デートは割り勘であるべきか
- 13 事例研究 03：「母」になるということ
- 14 事例研究 04：なぜ「傷つけ・傷つけられる」のか
- 15 まとめ：心理学化する社会の危険性

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をとおり、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

基本的に、manaba を利用して事前に資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

女性と法

清水 弥生

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

法律は平等で公平なものと考えられてきました。しかし、近年のジェンダー法学は、そうした法に潜む様々なジェンダー不平等を明らかにしています。

そこで、この講義では、私たち女性の生活に法がどのようにかわり、どのように法で守られているのかを学び知識を習得します。民法や刑法、労働法や社会保障制度など、女性の視点から法制度について捉えなおすことによって、男女の不平等やジェンダー・バイアスを明らかにし、それらを克服する課題を把握します。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身に付け、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を築くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 はじめに（講義で学ぶ内容の説明）
- 第2回 家族と女性①婚姻制度と女性
- 第3回 家族と女性②事実婚と女性、離婚制度と女性
- 第4回 雇用と女性①差別とはなにか、雇用における差別
- 第5回 雇用と女性②女性の労働条件
- 第6回 雇用と女性③ワークライフバランスと女性
- 第7回 社会保障と女性①貧困の女性化と社会保障
- 第8回 社会保障と女性②公的扶助と女性
- 第9回 社会保障と女性③社会手当と女性
- 第10回 社会保障と女性④社会福祉と女性
- 第11回 社会保障と女性⑤女性の年金と税金
- 第12回 刑法と女性①刑法の基本
- 第13回 刑法と女性②女性に対する暴力
- 第14回 犯罪と女性
- 第15回 学び残したこと、および全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布レジュメと資料から専門用語等を予習すること（学修時間2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

配布レジュメと配布資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanabaを通じた小テスト30%。小テストは受験後フィードバックされる。期末試験50%。平常点（フィードバックシートの提出）20%。フィードバックシートの内容のうち、共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【参考書】

参考文献として「ジェンダー法学入門（第2版）」法律文化社

ISBN 03677-3 2500円（税抜き）

白書などを、必要がある場合に授業内でその都度適宜紹介します。

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席は減点対象となります。
- ②社会のさまざまな出来事、ニュースに敏感になってください。また、日本国内だけでなく、諸外国で起きている問題についても、日本と比較しながらの関心をもつようにしてください
- ③皆さんの理解度に応じて、講義内容の順序や範囲を変更する場合があります。

女性と労働

山根 純佳

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【注意事項】

レポートを執筆する際には、授業のなかで提示する参考文献リストのなかから3冊を選び、読んだうえでレポートの内容に用いること。

【授業のテーマ】

労働市場と家庭における女性の労働の社会的位置づけと課題を、歴史的過程を踏まえながら説明します。

男性を家庭の中心的な稼ぎ手とみなす男性稼ぎ手構造が形成された歴史的背景、また男性稼ぎ手を前提にした雇用関係や社会保障制度が、家庭と労働市場において女性の脆弱な地位をつくりだしているのか、国際的な比較データや各種統計調査を用いて考えます。また保育士や介護職など女性職の雇用問題、福祉サービスの市場化が孕む問題点についてもとりあげます。

【授業における到達目標】

- 1) 女性の労働にかかわる日本と労働政策、社会保障政策について基礎的な知識を獲得する。
- 2) 国際比較をとおして日本の現状と課題について、主体的に考える力を養成する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】**【第Ⅰ部 労働市場における女性】**

- 第1週 近代社会における公私の分離 自立と依存
- 第2週 「家族賃金」の成立過程
- 第3週 男性稼ぎ手構造と日本型福祉
- 第4週 「女たちは平等をめざす」鑑賞
- 第5週 男女雇用機会均等法～男女共同参画社会基本法

【第Ⅱ部 家事労働・ケア労働論】

- 第6週 福祉レジームと脱商品化
- 第7週 福祉レジと脱家族化
- 第8週 福祉国家とケア① 育児の社会化
- 第9週 福祉国家とケア② 介護の社会化
- 第10週 福祉国家とケア労働
- 第11週 グローバリゼーションとケア労働者の国際移動

【第Ⅲ部 現代の女性雇用の課題】

- 第12週 両立の困難 マミー・トラックと介護離職
- 第13週 女性管理職比率と賃金格差
- 第14週 非正規雇用と女性の貧困同
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。manabaで配布される報告書や統計資料を読んでくること（学修時間週2時間）

事後学修：授業で配布する参考文献リストをもとに、関連する文献の読書をすすめること。不定期に課す課題（8回）を締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業期間内の課題の内容40%、期末レポート60%。

フィードバックについては課題の内容を踏まえて、前回の講義の復習と確認をおこなう。

【参考書】

- エスピノーアンデルセン『アンデルセン福祉を語る：女性・子ども・高齢者』（NTT出版 2008年）1,944円
- 大沢真理『今こそ考えたい生活保障のしくみ』（岩波ブックレット 2010年）605円
- 春日キスヨ『変わる家族と介護』（講談社現代新書 2010年）778円
- 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋 2013年）864円

女性と労働

山根 純佳

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

【注意事項】

レポートを執筆する際には、授業のなかで提示する参考文献リストのなかから3冊を選び、読んだうえでレポートの内容に用いること。

【授業のテーマ】

労働市場と家庭における女性の労働の社会的位置づけと課題を、歴史的過程を踏まえながら説明します。

男性を家庭の中心的な稼ぎ手とみなす男性稼ぎ手構造が形成された歴史的背景、また男性稼ぎ手を前提にした雇用関係や社会保障制度が、家庭と労働市場において女性の脆弱な地位をつくりだしているのか、国際的な比較データや各種統計調査を用いて考えます。また保育士や介護職など女性職の雇用問題、福祉サービスの市場化が孕む問題点についてもとりあげます。

【授業における到達目標】

- 1) 女性の労働にかかわる日本と労働政策、社会保障政策について基礎的な知識を獲得する。
- 2) 国際比較をとおして日本の現状と課題について、主体的に考える力を養成する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

【授業の内容】**【第Ⅰ部 労働市場における女性】**

- 第1週 近代社会における公私の分離 自立と依存
- 第2週 「家族賃金」の成立過程
- 第3週 男性稼ぎ手構造と日本型福祉
- 第4週 「女たちは平等をめざす」鑑賞
- 第5週 男女雇用機会均等法～男女共同参画社会基本法

【第Ⅱ部 家事労働・ケア労働論】

- 第6週 福祉レジームと脱商品化
- 第7週 福祉レジと脱家族化
- 第8週 福祉国家とケア① 育児の社会化
- 第9週 福祉国家とケア② 介護の社会化
- 第10週 福祉国家とケア労働
- 第11週 グローバリゼーションとケア労働者の国際移動

【第Ⅲ部 現代の女性雇用の課題】

- 第12週 両立の困難 マミー・トラックと介護離職
- 第13週 女性管理職比率と賃金格差
- 第14週 非正規雇用と女性の貧困同
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。manabaで配布される報告書や統計資料を読んでくること（学修時間週2時間）

事後学修：授業で配布する参考文献リストをもとに、関連する文献の読書をすすめること。不定期に課す課題（8回）を締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業期間内の課題の内容40%、期末レポート60%。

フィードバックについては課題の内容を踏まえて、前回の講義の復習と確認をおこなう。

【参考書】

- エスピノーアンデルセン『アンデルセン福祉を語る：女性・子ども・高齢者』（NTT出版 2008年）1,944円
- 大沢真理『今こそ考えたい生活保障のしくみ』（岩波ブックレット 2010年）605円
- 春日キスヨ『変わる家族と介護』（講談社現代新書 2010年）778円
- 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋 2013年）864円

女性の健康

性と生殖に関する健康をジェンダー視点から考える

阿部 貴美子

1年 前期・後期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

女性には、その身体と心に対して、「やせてきれいに」や「女子力を高めよう」というように、あるべき像が押し付けられ、それらを実現するために「すべきこと」や「おすすめ」が、根拠や効果、意義があいまいなものも含めて、ネットやSNS、テレビ、雑誌などに大量に溢れています。性と生殖の健康（リプロダクティブ・ヘルス）に関しても同じように、様々な「すべきこと」や「した方がいいこと」を目にし、また検索することも出来ます。人から言われたことやネットの情報をもとに実際に行動している、興味がある、あるいは友人や周囲の人たちと同じことをした方がいいかもしれないと思っている人もいるかもしれません。

この授業では、女性のリプロダクティブ・ヘルスを中心に、女性の健康について押し付けられてくる身の回りの情報や言説を手がかりに、ジェンダー視点からの理論と広い知識を習得することを目指します。また、途上国の女性たちのリプロダクティブ・ヘルスにも目を向け、知識を習得し、考えます。そして、現在と将来にわたり、周囲にあふれる女性の健康に関する「すべきこと」や「した方がいいと言われること」を、自分自身で考えて見直していける態度を身に付けます。

【授業における到達目標】

授業を通じて、1) 女性の性と生殖の健康（リプロダクティブ・ヘルス）を中心に、女性の健康に関する知識を習得します。2) それらに関するジェンダー視点に基づく理論と分析を理解します。3) 1)で習得した知識と2)で習得したジェンダー視点に基づく理論や分析を活用して、現在と将来にわたり、健康で自分自身が心地よい状態を実現するための知識を選択的に獲得し、行動する能力を身につけます。また、自分の性と生殖の健康と心の健康を大切にできる人間関係を築き、同時に他者の身体と心の健康にも思いを寄せて、共に行動する協働力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 参考図書の説明 健康な状態とは（定義、統計、政策がめざす健康）
- 第2週 医療と女性（「病気にされてきた」女性の心と身体 医者と女性）
- 第3週 リプロダクティブ・ヘルス1（概念、女性の身体）
- 第4週 リプロダクティブ・ヘルス2（妊娠の仕組みと避妊法、性感染症、パートナーとの関係）
- 第5週 リプロダクティブ・ライツ1（概念、望まない妊娠）
- 第6週 リプロダクティブ・ライツ2（女性の健康に関する法律と議論 日本と海外）
- 第7週 LGBTQ（概念、カミング・アウト、アウティング）
- 第8週 女性に対する暴力（DV、デート・レイプ、MeToo運動）
- 第9週 市場とメディアの中で女性の健康（出会い系、JKビジネス、「おススメ」、ダイエット）
- 第10週 「妊活」と生殖医療（不妊、卵子提供と代理母、出生前検診）
- 第11週 アジアと途上国の女性の健康1（ジェンダー規範、医療へのアクセス）
- 第12週 アジアと途上国の女性の女性の健康2（人口政策、戦争や紛争における性暴力）
- 第13週 女性の心の健康と身体
- 第14週 男性の健康
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修週3時間：指示された文献を授業前に必ず読み、自分の考え（意見とその理由、質問など）をまとめておくこと。さらに場合によっては、宿題として調べる事やまとめる事が指示されることがあります。

事後学修週1時間：授業で習得した知識を使って、文献を読むこと。場合によっては、宿題としてそれらをまとめる、感想を書く、授業関連の追加情報を調べることが指示されることがあります。

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。毎回資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60点、レポート30点、授業への主体的な参加状況（ディスカッションやグループワークなどへの参加、コメントカード提出）10点。フィードバックは、試験は最終授業で、レポートについては採点后授業内で、授業内での活動とコメントカードについては実施の次の回でそれぞれ行います。

【参考書】

- 大越愛子・倉橋耕平編、2014、『ジェンダーとセクシュアリティ—現代社会に育つまなざし』昭和堂。
- 北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”、2008、『ムーブ叢書 ジェンダー白書6—女性と健康』明石書店。
- 国広陽子編、2012、『メディアとジェンダー』勁草書房。
- 荻野美穂、2014、『女のからだ—フェミニズム以後』岩波新書1476、岩波書店。
- 柘植あづみ、2010、『妊娠を考える—くからだ>をめぐるポリティクス』NTT出版。
- 山根純佳、2004、『産む産まないは女性の権利か—フェミニズムとリベラリズム』勁草書房。

【注意事項】

指示された文献を授業前に必ず読み、自分の考えをまとめておくこと。分からない点があった場合は、そのままにせず、授業で質問すること。グループワークの際には、人は様々な意見を持ち、自分の意見もそのひとつなので、発言し、議論しましょう。

女性の食と健康

年の若い乙女は花のようではなくてはいけません(下田歌子より)

関 登実子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

これから社会に出る女子学生として、今自らを振り返り、知識を得、健康を推進してゆくためにどのような行動をとればよいかを学び実践します。

【授業における到達目標】

健康に関する情報の調べ方を学習し、情報の背景を考えて効率よくまとめて伝えることができるか。広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力を身につけます。

グループ発表を通じ、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるプレゼンテーションの力の向上をはかります。健康とあいさつの関連を理解する力をえます。

【授業の内容】

- 第1週 健康でいるための自己評価
- 第2週 生活習慣と疾病
- 第3週 食生活の評価と献立作成
- 第4週 生活リズムと運動
- 第5週 アレルギーと食事 情報検索 1
- 第6週 健康美のためのストレッチとは
特別講師 初風緑氏の美しい姿勢 立居振る舞いや歩行に関する講義 質疑応答を予定
- 第7週 女性特有の病気 情報検索 2
- 第8週 健康食品・サプリメント 情報検索 3
- 第9週 更年期とは 情報検索 4
- 第10週 女性ホルモンと健康 情報検索 5
- 第11週 肌の健康 情報検索 6
- 第12週 演習（1）課題発表と評価（グループ）
- 第13週 演習（2）課題発表と評価（個人）
- 第14週 演習（3）課題発表と評価（個人）
- 第15週 小テストおよび総括

【事前・事後学修】

- ・事前学修：課題の専門用語を理解しておく。レポート作成・発表の準備。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：専門用語の復習確認。発表の復習と評価。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

松村圭子：女性ホルモンがつくる、キレイの秘密[永倉書店、2012、¥626(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30%、授業への積極的参加・課題提出20%、提出課題30%、課題発表20%。小テストはテスト終了後、毎回の課題提出は次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

NPO法人女性の健康とメノポーズ協会「女性の健康と働き方マニュアル ワーク・ライフ・バランスとヘルスケア」SCICUS 2012年 2700円

高杉友子「子宮を温める健康法」WAVE出版 2012年 1512円

下田歌子 現代語訳「女子の修養」－明治の女性学－ NPO法人いわむら一斎塾 700円

【注意事項】

一生涯の健康と美貌の維持を考えて、今行動できる意欲を持って講義に参加できる方。

「女性の資質は、純一で自愛に富み、その清らかな徳性とゆたかな情操をもって社会の弊を正し、広く世人に至福をもたらすことにある」の意味するところを考えておくこと。

女性の歴史

岩田 三代

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

女性の歴史を学ぶことを通じて、自身の生き方を考える。
 かつて女性たちは、どう生きていたのか。第2次世界大戦後の新憲法や民法改正は、女性の生き方をどう変えたのか。江戸から明治期、戦後の、女性の生き方を振り返ることで過去の女性の前に立ちはだかった壁、それを女性がどう乗り越えたのかを学ぶ。具体的な個人の生き方にもフォーカス。
 男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法が成立した過程や背景を学び、現状や課題を考える。女性と労働、女性と教育、女性と家庭などのテーマに沿って歴史をたどることで、今に至る道筋が見えてくる。まだ残された課題もある。それを知ることは、現代に生きる私たちがどう生きるべきかの、ヒントを与えてくれるはずだ。
 日本にとどまらず、世界の女性の置かれた状況や国際的な女性の活動、歴史を知ることで。広い視野も培う。

【授業における到達目標】

女性の歴史を振り返ることで、自分自身の生き方を考える。
 歴史と現状を知り、女性を取り巻く状況や社会の問題について考察を深め、意見を持つ。国際的な視野を養う。

【授業の内容】

- 第1週 女性の歴史概観 日本と欧米を中心に
- 第2週 人物で見る女性史 ① 古代から明治一昭和一現代
- 第3週 人物で見る女性史 ② 日本を中心に具体的な人を紹介
- 第4週 女性と労働① 戦前から戦後の女性労働の状況
- 第5週 女性と労働② 男女雇用機会均等法の誕生と背景
- 第6週 女性と労働③ 少子化と女性活躍推進法
- 第7週 男女共同参画社会基本法の目指すもの
- 第8週 女性と家庭 上 「男尊女卑」から男女平等へ
- 第9週 女性と家庭 下 戦後の民法改正の歴史と選択的夫婦別姓
- 第10週 女性と教育 上 「女に教育は無用」？ 女性教育の歴史
- 第11週 女性と教育 下 家庭科男女共修、リケジョはなぜ少ない
- 第12週 女性への暴力 配偶者暴力防止法（DV防止法）の成立
- 第13週 男性学の台頭 真の男女平等実現へ男性たちの動き
- 第14週 世界の女性たち 先進国の現状と途上国の問題
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前に関連する本や新聞記事を読む。（各回1時間）
 授業で興味を持った事柄について調べ、知識を深める。（各回3時間）

【テキスト・教材】

テキストは使わず、授業ごとに簡単なレジュメを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（コメントペーパー、授業態度、ショートレポートの提出など）
 レポート50%（事前にテーマを発表。最終講義時に提出）
 授業に対するコメントや質問を、必要に応じ次回の授業の冒頭で紹介し、質問に答える形でフィードバック。ショートレポートは傾向や内容を授業の中で紹介。一部は学生による発表でフィードバック。最終レポートは受け取り時にコメント、後日成績評価。

【参考書】

「時代を生きた女性たち」（総合女性史研究会、朝日新聞出版）
 「男女共同参画の時代」（鹿嶋敬著、岩波文庫）
 「働く女子の運命」（濱口桂一郎著、文春新書）
 「男性学・女性学」改訂版（伊藤公雄ほか著、有斐閣アルマ）
 内閣府「男女共同参画白書」など。授業のなかでも紹介

【注意事項】

最終レポート未提出者は単位履修を認めません。

女性学

—日本女性史 近代から現代へ—

飯野 智子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

近代化や戦争中を遠い歴史の話と思っているかもしれませんが、この授業では、生き活きとした現実のものとして女性が歩んできた道をとらえます。国防婦人会や廃娼運動など、あまり馴染みのない新しいことも学びます。

1. 日本の近代化過程で女性はどうに位置づけられどのような役割を果たしたか、良妻賢母思想や母性主義から理解する。
2. 女性たちが自らの問題をどう捉え解決しようとしていたのかを「婦人運動」の歴史から理解する。
3. 戦争中の女性統制と「銃後の守り」を問い直す。
4. 良妻賢母—軍国の母と表裏であった公娼—従軍慰安婦の問題について学ぶ。
5. 戦後から今日に至る女性の権利や地位の変遷について学ぶ。

【授業における到達目標】

女性史という観点から近代を捉え直す。今まで学習してきた歴史とは違った学び方により、歴史のみならず物事を多面的に捉えられるようにする。また、女性として人として、優しく強く堂々と生きようとした先人達の生き方や思想を、今日を生きる自分たち自身に引きつけて考えられるようにする。そのような学修を通して、美しい生き方「美の探求」を深く考えられるようになる。

また、公娼制の歴史や人口政策の問題点について学ぶことで、人権が侵害されてきた人々への共感の視点や、人権に対する高い意識を持つ「研鑽力」を身に付ける。

【授業の内容】

1. ガイダンス—女性学を学ぶ意味と概要
2. 近代家族と国家
3. 良妻賢母教育
4. 母性主義
5. 戦前の婦人運動
6. 戦争と女性①婦人運動の挫折
7. 戦争と女性②国防婦人会
8. 日本における公娼制の歴史
9. 廃娼運動の展開
10. 従軍慰安婦という問題
11. 近代の人口政策の変遷
12. 戦後民主化と女性
13. 高度経済成長とウーマンリブ
14. 現代の女性を取り巻く状況
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修週2時間：重要用語、人物、近現代史について調べる。
- ・事後学修週2時間：授業で扱った問題について、独自に調べた歴史知識や背景、人物さらには自分の意見なども盛り込み充実したノートを作る。

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%。学習内容に対する感想、意見の提出10%（次回の授業でフィードバックする）。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

女性学の視点から歴史を見直すと、必ず新たな発見があるはずである。今日の課題に取り組むためにも、意欲的に、歴史から多くのことを学んでほしい。

女性社会論 a

文化論の視点からのライフスタイル構想

須賀 由紀子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

20世紀産業社会は、便利で豊かな暮らしをもたらしましたが、伝統の中に培われてきた地域や家族の暮らしの姿を変え、地球環境への負荷も大きいものとなりました。そこで失ったものの大きさに人々は気づき始め、「生命」「愛」「家族」「地域」「絆」などをキーワードとして、地球環境に配慮した社会や暮らしが模索されています。

本講義では、このような流れにある現代社会を、「女性性」を特徴とする「女性社会」と捉えて、これからのライフスタイルを考えます。「女性社会」の中心価値とは何か、そこから構想される暮らしのかたちとは何か、そうした暮らしの実現に向けて、われわれは現代の社会環境や自然環境とどのように対峙すべきか、こうした問題意識から、われわれの文化を見つめ直し、新たな時代の女性と暮らし、社会のあり方を検討します。

ライフスタイルを形作るのは、一人ひとりの生活者としての営みです。全体を通して、これからの社会を「女性性」という概念のもとに展望しながら、現代の中心的な価値観をとらえ、それをもとにしたライフスタイルのデザインを、自分の生き方と重ねながら描くことができるようになることを目標とします。

【授業における到達目標】

- ・これからの時代に大切にすべき生活価値観について、説明することができるようになる。
- ・女性として、これから望まれる生き方、その受け皿となる社会の在り方を構想し、主体的に判断することができるようになる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい、構成、すすめ方）
2. 成長の時代から成熟の時代へ
3. エコロジーの時代の価値観
4. 男女共同参画社会の推進
5. 女性性の概念の検討
6. 日本文化にみる女性力の伝統
7. 水と女性の生活文化史から
8. 男性的創造と女性的創造
9. 「生活」という場の復権
10. 「いのち」を育むということ
11. 隣人愛と地域社会
12. 共生時代のワークライフバランス
13. レジャーと生きがい・家族
14. 女性社会のライフスタイル展望
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業への積極参加・提出課題等）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

天野正子『現代「生活者」論』（有志舎）柳田国男『妹の力』エーリッヒ・フロム『愛と性と母権性』（新評論）

女性社会論 a

文化論の視点からのライフスタイル構想

須賀 由紀子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

20世紀産業社会は、便利で豊かな暮らしをもたらしましたが、伝統の中に培われてきた地域や家族の暮らしの姿を変え、地球環境への負荷も大きいものとなりました。そこで失ったものの大きさに人々は気づき始め、「生命」「愛」「家族」「地域」「絆」などをキーワードとして、地球環境に配慮した社会や暮らしが模索されています。

本講義では、このような流れにある現代社会を、「女性性」を特徴とする「女性社会」と捉えて、これからのライフスタイルを考えます。「女性社会」の中心価値とは何か、そこから構想される暮らしのかたちとは何か、そうした暮らしの実現に向けて、われわれは現代の社会環境や自然環境とどのように対峙すべきか、こうした問題意識から、われわれの文化を見つめ直し、新たな時代の女性と暮らし、社会のあり方を検討します。

ライフスタイルを形作るのは、一人ひとりの生活者としての営みです。全体を通して、これからの社会を「女性性」という概念のもとに展望しながら、現代の中心的な価値観をとらえ、それをもとにしたライフスタイルのデザインを、自分の生き方と重ねながら描くことができるようになることを目標とします。

【授業における到達目標】

- ・これからの時代に大切にすべき生活価値観について、説明することができるようになる。
- ・女性として、これから望まれる生き方、その受け皿となる社会の在り方を構想し、主体的に判断することができるようになる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい、構成、すすめ方）
2. 成長の時代から成熟の時代へ
3. エコロジーの時代の価値観
4. 男女共同参画社会の推進
5. 女性性の概念の検討
6. 日本文化にみる女性力の伝統
7. 水と女性の生活文化史から
8. 男性的創造と女性的創造
9. 「生活」という場の復権
10. 「いのち」を育むということ
11. 隣人愛と地域社会
12. 共生時代のワークライフバランス
13. レジャーと生きがい・家族
14. 女性社会のライフスタイル展望
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業への積極参加・提出課題等）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

天野正子『現代「生活者」論』（有志舎）柳田国男『妹の力』エーリッヒ・フロム『愛と性と母権性』（新評論）

女性社会論 a

文化論の視点からのライフスタイル構想

須賀 由紀子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

20世紀産業社会は、便利で豊かな暮らしをもたらしましたが、伝統の中に培われてきた地域や家族の暮らしの姿を変え、地球環境への負荷も大きいものとなりました。そこで失ったものの大きさに人々は気づき始め、「生命」「愛」「家族」「地域」「絆」などをキーワードとして、地球環境に配慮した社会や暮らしが模索されています。

本講義では、このような流れにある現代社会を、「女性性」を特徴とする「女性社会」と捉えて、これからのライフスタイルを考えます。「女性社会」の中心価値とは何か、そこから構想される暮らしのかたちとは何か、そうした暮らしの実現に向けて、われわれは現代の社会環境や自然環境とどのように対峙すべきか、こうした問題意識から、われわれの文化を見つめ直し、新たな時代の女性と暮らし、社会のあり方を検討します。

ライフスタイルを形作るのは、一人ひとりの生活者としての営みです。全体を通して、これからの社会を「女性性」という概念のもとに展望しながら、現代の中心的な価値観をとらえ、それをもとにしたライフスタイルのデザインを、自分の生き方と重ねながら描くことができるようになることを目標とします。

【授業における到達目標】

- ・これからの時代に大切にすべき生活価値観について、説明することができるようになる。
- ・女性として、これから望まれる生き方、その受け皿となる社会の在り方を構想し、主体的に判断することができるようになる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい、構成、すすめ方）
2. 成長の時代から成熟の時代へ
3. エコロジーの時代の価値観
4. 男女共同参画社会の推進
5. 女性性の概念の検討
6. 日本文化にみる女性力の伝統
7. 水と女性の生活文化史から
8. 男性的創造と女性的創造
9. 「生活」という場の復権
10. 「いのち」を育むということ
11. 隣人愛と地域社会
12. 共生時代のワークライフバランス
13. レジャーと生きがい・家族
14. 女性社会のライフスタイル展望
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業への積極参加・提出課題等）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

天野正子『現代「生活者」論』（有志舎）柳田国男『妹の力』エーリッヒ・フロム『愛と性と母権性』（新評論）

女性社会論 b

「仕事」「家庭」「環境」から考える、女性と社会の関係

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

女性が仕事をする上では結婚、出産などのライフイベント、また家族や社会との関わりを考慮する必要があります。

この授業では「仕事」「家庭」「環境」をキーワードとして、女性と社会との関わりがこれまでどのように変化してきたかを理解するとともに、今後の女性と社会のあり方について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ① 女性と社会の関係の変遷について基礎的な知識を身につける。
 - ② 今後の女性と社会のあり方について、自分なりの視点で考えることができるようになる。
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性と「仕事」①（企業と女性）
3. 女性と「仕事」②（女性の起業）
4. 女性と「仕事」③（女性と結婚）
5. グループワーク①（女性と仕事について考える）
6. 女性と「家庭」①（女性と出産）
7. 女性と「家庭」②（女性と育児）
8. 女性と「家庭」③（女性と介護）
9. グループワーク②（女性と結婚について考える）
10. 女性と「環境」①（食の外部化）
11. 女性と「環境」②（女性と地域・農林漁業）
12. 女性と「環境」③（女性の社会進出とエネルギー）
13. グループワーク③（女性と育児について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】 次の授業の参考資料に事前に目を通しておいください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

内閣府男女共同参画局（編）『男女共同参画白書（平成30年度版）』（勝美印刷 2018）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

女性社会論 b

「仕事」「家庭」「環境」から考える、女性と社会の関係

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

女性が仕事をする上では結婚、出産などのライフイベント、また家族や社会との関わりを考慮する必要があります。

この授業では「仕事」「家庭」「環境」をキーワードとして、女性と社会との関わりがこれまでどのように変化してきたかを理解するとともに、今後の女性と社会のあり方について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ① 女性と社会の関係の変遷について基礎的な知識を身につける。
 - ② 今後の女性と社会のあり方について、自分なりの視点で考えることができるようになる。
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性と「仕事」①（企業と女性）
3. 女性と「仕事」②（女性の起業）
4. 女性と「仕事」③（女性と結婚）
5. グループワーク①（女性と仕事について考える）
6. 女性と「家庭」①（女性と出産）
7. 女性と「家庭」②（女性と育児）
8. 女性と「家庭」③（女性と介護）
9. グループワーク②（女性と結婚について考える）
10. 女性と「環境」①（食の外部化）
11. 女性と「環境」②（女性と地域・農林漁業）
12. 女性と「環境」③（女性の社会進出とエネルギー）
13. グループワーク③（女性と育児について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】 次の授業の参考資料に事前に目を通しておいください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

内閣府男女共同参画局（編）『男女共同参画白書（平成30年度版）』（勝美印刷 2018）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

女性社会論 b

「仕事」「家庭」「環境」から考える、女性と社会の関係

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

女性が仕事をする上では結婚、出産などのライフイベント、また家族や社会との関わりを考慮する必要があります。

この授業では「仕事」「家庭」「環境」をキーワードとして、女性と社会との関わりがこれまでどのように変化してきたかを理解するとともに、今後の女性と社会のあり方について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ① 女性と社会の関係の変遷について基礎的な知識を身につける。
 - ② 今後の女性と社会のあり方について、自分なりの視点で考えることができるようになる。
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性と「仕事」①（企業と女性）
3. 女性と「仕事」②（女性の起業）
4. 女性と「仕事」③（女性と結婚）
5. グループワーク①（女性と仕事について考える）
6. 女性と「家庭」①（女性と出産）
7. 女性と「家庭」②（女性と育児）
8. 女性と「家庭」③（女性と介護）
9. グループワーク②（女性と結婚について考える）
10. 女性と「環境」①（食の外部化）
11. 女性と「環境」②（女性と地域・農林漁業）
12. 女性と「環境」③（女性の社会進出とエネルギー）
13. グループワーク③（女性と育児について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

内閣府男女共同参画局（編）『男女共同参画白書（平成30年度版）』（勝美印刷 2018）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

女性心理学

健康・医療の視点で女性の生き方を考える

竹内 美香

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【注意事項】

人の生涯における健康の確保について、担当者と受講者が意識を共有して考察することを切望する。現代社会における健康・医療支援のあり方を常に点検し、「教科書的ではない」生きた取り組みを心がけて欲しい。毎回のワークシートにおけるコメントなどは教員・学生間の情報交換の媒体である。しっかり書いてほしい。

【授業のテーマ】

生涯にわたり発達・変化し続ける女性の自己実現、女性が生きて、愛し、働き続けるために必要な健康・医療面での知識とスキルについて学ぶ。社会の中で働く人の一員として、健康・医療面での現状や課題を知る機会とする。そのことにより、受講生自身が女性として、自分自身のライフプランに主体的に向き合い、具体的な見通しに目を向けるキャリア発達と健康心理学的なこころの作業とその価値について、理解を深める。

【授業における到達目標】

1. 生物学的な「女性」と社会的な「女性」を捉えなおす。
2. 社会的場面でのストレスと心身の疾患の仕組みを概説できる。
3. 心理社会的課題と保健活動の仕組みについて、女性の立場から説明できる。
4. 災害時の社会における緊急対応・支援について、女性の立場から考えられる。
5. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる価値を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 科目の目標の説明 ジェンダーの生涯発達における課題
- 第2週 「わたし」という同一性、健康な自己とは
- 第3週 人の同一性の形成とその背景
- 第4週 人の発達の課題とストレス
- 第5週 ジェンダーの同一性と適応感の獲得
- 第6週 対人関係・社会的関係性の拡大とストレス
- 第7週 ストレスと心身の疾病
- 第8週 ストレス対処と様々な心理療法
- 第9週 レジリエンス研究とワークプレイスへの適用
- 第10週 マインドフルネスとストレス・コーピング
- 第11週 健康と医療1 産後の危機と支援
- 第12週 健康と医療2 老親の介護と家族の役割
- 第13週 健康と医療3 自らの老いと社会的支援資源
- 第14週 災害と医療・心理的支援 社会的弱者の視点
- 第15週 健康危機、心理的介入支援の中で

【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、「ジェンダー」「家族」「健康」「医療」に関わる記事や経験的事実を、自分の言葉で説明できるようにしておく。

【事後学修】時宜に応じて小レポート課題を課す。最終レポートと同様に提出を求めることがある。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような課題の取り組みを求める予定。

【テキスト・教材】

適宜、資料やワークシートを準備して配布する。その他、映像資料を用意する。

時宜に応じて、医師などの外部講師を招き特別講義形式で実施する回がある。特別講義の回も、学生が聴講する形式となる。特別講義の予定は講師との日程すり合わせによる。受講者にはあらかじめ予告する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終レポート 50%、授業ワークシートの記述も含めて平常の課題への取り組み評価 50%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについて解説する。最終レポート等の後のフィードバックは、manabaの授業評価コメントの場を活用する。

【参考書】

伊東暁子、竹内美香、鈴木晶夫 著『食べる・育てる心理学 食育の基礎と臨床』川島書店

女性文学

— 円地文子の文学 —

高瀬 真理子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

円地文子は、日本初の言語学者である上田万年の娘として良家に生まれ育ち、双方の祖母の影響を受け、プロレタリア文学の洗礼を受け、理性的な結婚をしました。然るに、父とは違う夫との関係や女性特有の病などに悩まされながら、女性の生理や情念の叫びを芸術化していきました。また一方で、女性の経済的自立を見据える目も持っていました。彼女の作品世界を丹念に読み解きながら、女性なるものを理解すると同時に、男女・夫婦や家族・社会・老いといった円地文学の抱えるテーマを探っていきます。

【授業における到達目標】

作品を読み解くところから研鑽力を磨き、男女・夫婦の関係や家族・社会・老いというようなさまざまな作品のテーマを考察することにより、社会人力の一助とするとともに、人生における自己成長力にも結びつくものとなります。また、作家の作品構成の意図を探ることによって、芸術性や美の探究の問題も理解できるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 円地文子の生い立ちと生涯
- 第2週 「ひもじい月日」(1) 一夫の正体—
- 第3週 「ひもじい月日」(2) 一結婚への恐怖—
- 第4週 「ひもじい月日」(3) 一守る者を守る—
- 第5週 「ひもじい月日」(4) 一さくの人生—
- 第6週 「妖」(1) 一娘が巣立った後の夫婦関係—
- 第7週 「妖」(2) 一夫婦の歴史—
- 第8週 「妖」(3) 一坂と中二階—
- 第9週 「二世の縁 拾遺」(1) 一布川先生と秋成と定助—
- 第10週 「二世の縁 拾遺」(2) 一古典解釈の意味—
- 第11週 「女面」(1) 一嫁と姑の不思議な愛情—
- 第12週 「女面」(2) 一秘密の花園—
- 第13週 「女面」(3) 一女性の自我について—
- 第14週 「女面」(4) 一秘められた憎しみと愛の記憶—
- 第15週 円地文学についてのまとめ

これらのどこかで講師を招き特別授業を行う可能性がある。

【事前・事後学修】

事前学修：作品をしっかり読んで講義に参加します。疑問点や分からない語句については、辞書を引いて調べておきます。

(学修時間 週2時間)

事後学修：講義で理解した内容についてノートにまとめ、作品を読み直します。自分で作品分析する課題を設けます。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキストは講談社文芸文庫版と全集本を底本とし、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験扱いのレポートで評価します。配分基準：定期試験70%、平常点30%（課題、リアクションペーパーを含む）内容的に理解できなかったものについては、質問を受ける形で対応します。レスポンスを使用することもあります。作品ごとに課題を通知。提出された課題に対し、添削やコメントでフィードバックし、最後に定期試験で仕上げる形をとります。

【参考書】

- 小林富久子『円地文子』新典社
- 亀井秀雄・小笠原美子『円地文子の世界』創林社
- 野口裕子『円地文子の軌跡』和泉選書
- 古屋照子『円地文子 妖の文学』沖積舎

【注意事項】

短期大学部受講ルール厳守。

商業空間デザイン

食に関する場のしつらえ

平井 充

4年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現在の日本では、様々な国や文化の異なる食を体験することができます。さらに、日本における伝統的な食文化も独自の展開を遂げ、様々な食空間を生み出しています。外食産業における食空間のしつらえは、その業種や業態に相応しいしつらえによって支えられていると言っていいでしょう。業種や業態における差異を理解し、快適な食空間づくりを学びます。

本講はフードコーディネーター養成講座の1つであり、「フードスペシャリスト」の業務にも関係の深い分野です。

【授業における到達目標】

衣食住の食の部分であり、生活におけるコミュニケーションや楽しみの質を得られるときを演出するのが食空間です。この授業では、外食産業における業種と業態の基本的な知識を学び、食空間のしつらえにおける判断基準を身に着けます。また、自身で食空間のコーディネートするための表現技法を習得し、広い視野において考えられる洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 食空間デザイン
外食に求める消費者の意識、労働と余暇と外食の関係、外食産業の概要、食空間デザインのコンセプト。
- 第3週 食の業種と業態
業種、業態の概要と動向、立地調査と法的問題。
- 第4週 食業態とそれを取り巻く環境
地球環境、オーガニック、調理方法の技術革新。
- 第5週 店舗設計
設計の基本事項、業種別設計の基本事項。
- 第6週 食空間、アプローチ、客席、厨房
- 第7週 食空間、照明計画、色彩計画
照明方式、照明効果、おいしさと色彩。
- 第8週 食空間、厨房計画
レストランの機能と流れ、厨房の形式、調理機器。
- 第9週 食空間、厨房機器
機器の仕組み、給水排水設備、厨房の衛生管理。
- 第10週 食空間、家具デザイン
客席の形式と家具、全体計画と家具デザイン
- 第11週 店舗の設計Ⅰ 業種別設計事例、製図。
- 第12週 店舗の設計Ⅱ 業種別設計事例
- 第13週 店舗の設計と施工
仕様書、設計図書、見積書、契約書、施工と管理
- 第14週 最近の設計事例
食の店舗の特徴と今後の問題点。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は、参考書と配布テキストを読む。(週2時間)
事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。また製図で行う演習をブラッシュアップして理解を深める。(週2時間)

【テキスト・教材】

講師配布の資料によります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%
定期試験は記述式にて理解の確認を行います。
最終週に試験のフィードバックを実施します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

商法概論

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【注意事項】

学生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画で示したテーマや順序が変更されることがあります。

【授業のテーマ】

グローバル化が急速に進む現代のビジネス環境で、企業が熾烈な競争に打ち勝ち利益を生み出すためには、ビジネス（商取引）や企業に関わる法律やルールを知り、これらの知識を使いこなしてビジネスを発展させる力が求められます。また、消費者として企業と取引をする時にも、企業の取引や会社に関わる法律やルールを知っておく必要があるでしょう。

商取引や会社の組織・経営についての規律を定めているのは商法と称される法分野です。商法と称される法分野には、商法、会社法、手形法、小切手法、保険法といった法律が含まれますが、本講義では、ビジネス（商取引）を規律する「商法」とビジネスの担い手である会社を組織的側面から規律する「会社法」を中心に解説していきます。私法の一般法である民法との違いを意識しながら、商法・会社法の特徴や考え方、基本原理を理解し、具体的な法ルールについて学ぶことで、現代のビジネス社会において身につけておくべき商法・会社法の基本的な知識と法的な思考力を修得することを目的とします。

【授業における到達目標】

1. 商法（商法総則・商行為法）と会社法の基礎的な知識を修得すること、2. 商法と称される法分野に含まれる法律や商法・会社法と関わりを有する金融商品取引法の概要を理解すること、3. 商法や会社法の条文を解釈して具体的事案に適用し結論を導くことができるようになること、4. ビジネス（商取引）や会社の組織・経営に関わる問題に対して、法的な考え方や法律に基づいた判断ができるようになることを目標とします。ディプロマ・ポリシーとの関連については、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 商法総論：商法の意義、特色、適用範囲
- 第2週 商取引と法、契約
- 第3週 会社の設立と登記
- 第4週 商号
- 第5週 企業活動の補助者
- 第6週 商取引法の特徴
- 第7週 会社とは
- 第8週 会社の機関（1）取締役、取締役会、監査役
- 第9週 会社の機関（2）株主総会
- 第10週 会社の役員等の義務と責任
- 第11週 会社の資金調達：株式、社債
- 第12週 会社の情報開示
- 第13週 会社のM&A（合併・買収）・組織再編等
- 第14週 上場株式会社をめぐる法ルール
- 第15週 講義の総括

【事前・事後学修】

【事前】テキストや資料の該当箇所を一読しておくこと。授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集し、自分の考えをまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後】六法で法律の条文を確認しながら、テキストやレジュメを復習すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト・教材については授業開始後に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末試験（60%）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業開始後に適宜指示します。

小説と戯曲の世界

——明治末から大正へ——

福井 拓也

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

小説に比べると幾分とつきにくい、それが戯曲という文学ジャンルに対する印象かと思われまふ。はたしてそれはなぜなのでしょう。本当に戯曲は読みづらいものなのでしょうか。

本授業では明治末から大正期にかけての戯曲の名作をとりあげ、徹底的に読み解いていきます。そして戯曲表現の展開を、同時代の演劇思潮、そして小説と対照しつつ確認することで、戯曲の形式上の特質、小説との差異を検討していきましょう。願わくばそこに単なる演劇の台本以上の魅力が見出されんことを。

【授業における到達目標】

文学作品に触れる際、ただ内容を読み解くだけでなく、その形式との必然的な関係から味読する力を身につけることができます（美の探求）。それは文学のみならず、ひろく社会的事象を読み解いていく支えとなるものです（研鑽力）。

また海外の作品との比較を交えつつ、日本文学の展開をたどることで、日本の文学や文化を世界に発信する力を修得することができます（国際的視野）。

【授業の内容】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治末の戯曲表現①——イブセンと社会劇
- 第3回 明治末の戯曲表現②——メーテルリンクと気分劇
- 第4回 明治末の戯曲表現③——木下杢太郎「和泉屋染物店」
- 第5回 明治末の戯曲表現④——久保田万太郎「暮れがた」
- 第6回 明治末の戯曲表現⑤——萱野二十「道成寺」
- 第7回 小説と戯曲①——真山青果「家鴨飼」
- 第8回 小説と戯曲②——菊地寛「藤十郎の恋」
- 第9回 大正期の戯曲表現①——泉鏡花「夜叉ヶ池」
- 第10回 大正期の戯曲表現②——武者小路実篤「わしも知らない」
- 第11回 大正期の戯曲表現③——山本有三「坂崎出羽守」
- 第12回 大正期の戯曲表現④——岸田国士「古い玩具」
- 第13回 大正期の戯曲表現⑤——真山青果「玄朴と長英」
- 第14回 小説と戯曲③——久保田万太郎「大寺学校」
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）事前に配布された文学作品・資料をよく読み、授業に備える。（週2時間）

（事後学修）授業の内容をよく整理し、また参考文献を読み、次回以降に役立てる。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 60%

平常点 40%（授業中に課題を提示します）

・フィードバックはリアクションペーパーへのコメントをもつて行います。

【参考書】

授業のなかで適宜紹介します。

少子高齢化社会

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

【授業における到達目標】

- ・少子高齢化社会の現状と課題を説明することができるようになる。
- ・少子高齢化社会の受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになる。
- ・多世代交流をはかる方法について、具体的に考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

少子高齢化社会

須賀 由紀子

2～3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

【授業における到達目標】

- ・少子高齢化社会の現状と課題を説明することができるようになる。
- ・少子高齢化社会の受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになる。
- ・多世代交流をはかる方法について、具体的に考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

少子高齢化社会

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

【授業における到達目標】

- ・少子高齢化社会の現状と課題を説明することができるようになる。
- ・少子高齢化社会の受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになる。
- ・多世代交流をはかる方法について、具体的に考えることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

少子高齢化社会と生活

少子高齢化社会の動向と女性のライフコースの関係を探る

中野 裕美子

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

現代日本の状況を説明するのに、「少子化」や「高齢化」という言葉が頻繁に使用されています。少子高齢化社会に関する現状を把握し、それらに関する日常的に報じられているニュースが現在の自分の状態とこれからの自分の将来とどうかかわっているのかを探ります。

また我が国の現状をグローバルな視点から、統計を使いながら考えてみます。具体的には、あらためて意味を説明しようとする、経済学や社会学の専門用語も必要になってきます。それらの専門用語を授業でたくさん紹介して、解説することから始めます。

そしてそれらの用語を使って、社会の問題が自分の今後のライフコースと深く関わっていることを理解し、授業で学んだ知識をベースにして、自分の考えを整理し、説得力をもった意見を発表できることを目指します。また英語による講義も毎回ではないのですが予定しています。

【授業における到達目標】

この授業では、履修者は

1) 社会の問題になっている事柄について基本的な知識を身に付けるための【研鑽力】を高めること、2) 現代社会がもつ問題点を考える上で各国の状況を学び、【国際的視野】を身に付けることができるようになること、(3) 自分自身が安心して生活するための行動力や、他者を理解することができる【協働力】を形作ること为目标にしています。

【授業の内容】

授業内容は以下の通りです。

- 第1週 ガイダンス・受講上の注意点
 - 第2週 人口統計データの見方
 - 第3週 日本の少子化の実態とその原因をめぐる議論
 - 第4週 世界各国の合計特殊出生率と労働参加率の関係
 - 第5週 女性のライフコースと職業
 - 第6週 5週目までのまとめ
 - 第7週 GDPと女性の労働
 - 第8週 家事の国際比較
 - 第9週 夫の職業と女性の労働
 - 第10週 企業の転勤制度
 - 第11週 IT化の進展とワーク・ライフ・バランス
 - 第12週 高齢者介護と女性の労働
 - 第13週 日本の少子化と外国人労働者
 - 第14週 少子高齢化社会における女性の就業継続と家族の戦略：実例（英語による講義）
 - 第15週 7週目からのまとめ
- 進捗状況によって変更する場合があります。

【事前・事後学修】

事前学修：新聞やテレビのニュースに注意を向けること。毎回授業の終わりに次週の内容を予習するためのプリントを配布します。授業の前に2時間の予習、授業の後に2時間の復習をしてください。事後学修：毎回配布するプリントを読み直し、あいまいな点は調べてください。調べ方は授業で説明します。

【テキスト・教材】

プリントを毎回配布します。それに加えて資料として新聞の記事を使います。またインターネットを使って安心して使えるデータにアクセスする方法を学びます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（45%）、期末テスト（45%）、リアクション・ペーパーの内容（10%）小テストの後の授業で1名ずつにコメントをしながらテストを返却します。期末テストに関しては試験終了後に個別にコメントします。

【参考書】

総務省統計局「世界の統計2018」
 神原文子ほか「よくわかる現代家族」ミネルヴァ書房 2015
 「OECD幸福度白書」明石書店 2016
 「社会保障と社会福祉」医学書院 2018
 日本経済新聞の記事

【注意事項】

予習をしてくるのが前提で講義をしますので授業の終わりに配布するプリントの問題の回答を考えてきてください。

消費科学

大川 知子

4年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

4年間の学びの集大成として、企業が製品やサービスを生活者に提供する際に、最低限必要な品質に関する知識を体得する。また、国内外の生産拠点から、多くのプロセスを経て生み出された製品を、安心・安全に届ける為に考慮すべきポイントについて、多角的に学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 繊維製品の品質について、現実に照らし、多角的に検討できるようにする。
2. 製品購入者である生活者を中心に捉え、安心・安全とは何か、を実感を持って考えられるようになる。
3. 上記二点を踏まえ、他事例にも応用出来る力と、問題解決の為に主体的に行動する「研鑽力」を養うことができる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション／消費科学の歴史と変遷
 第2週 品質とは何か1 生活者に関わる歴史上の出来事
 第3週 品質とは何か2 素材／最終製品／店頭における品質
 第4週 品質とは何か3 品質の評価
 第5週 繊維製品を巡る今日の課題1 価格と製品価値
 第6週 (校外学習) アパレル生産／品質管理の実態
 ※都内の縫製工場見学 (予定)
 第7週 工場見学の振り返り／ディスカッション
 第8週 繊維製品を巡る今日の課題2 地球環境とファッション
 第9週 繊維製品のこれからを考える1 事例研究／メーカーの取り組み ※外部講師 (実務者) を予定
 第10週 繊維製品のこれからを考える2 事例研究／フェアトレード
 を考える ※外部講師 (実務者) を予定
 第11週 事例についての振り返り／ディスカッション
 第12週 製品管理と物流
 第13週 品質管理の仕事の実際
 ※外部講師 (実務者) を予定
 第14週 これからの繊維製品の展開
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修がある場合、各自準備をして授業に臨むこと (学修時間 3時間)。一回ずつの内容に対して、復習をすること (学修時間 1時間)。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各種課題80%、授業への取り組み・教室内での発言20%で評価を行う。また、課題は原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

【参考書】

1. 織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙 (図書館とファッションビジネス研究室で購読中)
2. 『被服学辞典』 (朝倉書店、2016年) 18,000円 (税別)
3. 『ファッション辞典』 (文化出版局、1999年) 4,000円 (税別)

【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

消費者安全論

消費者が消費生活をより安全に営むために

米山 眞梨子

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちは誰もが消費者である。そして私たちは、事業者が供給するモノやサービスを選択し、購入し、使用し、あるいは廃棄することで消費生活を営んでいる。そこには危なさも潜んでいて、安全に生活するためには、いわゆる生活の知恵が役に立つだけでなく、消費者が自ら学習して知識を得ることも求められている。

この授業では、事例をもとにして自身の暮らしの安全を考えることからはじめ、消費生活の安全を確保するための社会の仕組みを知りそれをいかし、さらには自立した消費者として、よりよい社会の構築に参画することの意義を理解して行動できることを目指す。

特に、消費生活アドバイザー資格の取得、家庭科の教員免許の取得を検討している者、あるいは公務員志望者にとって役立つ内容である。

【授業における到達目標】

以下の能力の基礎を身に付けることを目標とする。①消費生活に関する知識について学び、そのうえで何が本質であるかを見抜くことができる批判的な思考力。②自らが見つけた課題の解決策等を考え、その解決に向けて行動する力。③自らが解決すべきと考えた課題を他者にも的確に伝達し、連携協働できる力。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、『くらしの豆知識』と消費生活相談の現場
- 第2週 映像教材視聴「もしあなたがトラブルにあったら」ほか
- 第3週 消費者問題とは何か/消費者の権利と責任
- 第4週 知っておきたい消費者のための法律1（契約取引の基本）
- 第5週 知っておきたい消費者のための法律2（契約取引個別法）
- 第6週 知っておきたい消費者のための法律3（表示・安全他）
- 第7週 知っておきたい消費者を守る行政の仕組み（国・地方）
- 第8週 消費者を守る法律・制度（行政処分・注意喚起）
- 第9週 消費者安全調査委員会の活動
- 第10週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表1
- 第11週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表2
- 第12週 消費者教育1（法律・制度解説等）
- 第13週 消費者教育2（取組紹介）
- 第14週 消費者教育3（実践・行動のレポート）
- 第15週 消費者市民社会を考える、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 第2週以降、次回（あるいはそれ以降）の講義概要を提示するので、それに従い事前学修を行うこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を復習すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『くらしの豆知識2020』（国民生活センター） 500円程度

注 2019年版は476円（税別）、2020年版は2019年8月頃発行予定
その他については、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、確認テスト）30% 平常点（提出課題と発表）30% 定期試験レポート40%

小テストは原則次回授業、提出課題と発表は授業内で適宜講評。第14週に提出したレポートは第15週に評価をフィードバックする。

【参考書】

正田彬著『消費者の権利 新版』（岩波書店 2010年）720円（税別）

その他、講義中に示す。

消費者安全論

消費者が消費生活をより安全に営むために

米山 眞梨子

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちは誰もが消費者である。そして私たちは、事業者が供給するモノやサービスを選択し、購入し、使用し、あるいは廃棄することで消費生活を営んでいる。そこには危なさも潜んでいて、安全に生活するためには、いわゆる生活の知恵が役に立つだけでなく、消費者が自ら学習して知識を得ることも求められている。

この授業では、事例をもとにして自身の暮らしの安全を考えることからはじめ、消費生活の安全を確保するための社会の仕組みを知りそれをいかし、さらには自立した消費者として、よりよい社会の構築に参画することの意義を理解して行動できることを目指す。

特に、消費生活アドバイザー資格の取得、家庭科の教員免許の取得を検討している者、あるいは公務員志望者にとって役立つ内容である。

【授業における到達目標】

以下の能力の基礎を身に付けることを目標とする。①消費生活に関する知識について学び、そのうえで何が本質であるかを見抜くことができる批判的な思考力。②自らが見つけた課題の解決策等を考え、その解決に向けて行動する力。③自らが解決すべきと考えた課題を他者にも的確に伝達し、連携協働できる力。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、『くらしの豆知識』と消費生活相談の現場
- 第2週 映像教材視聴「もしあなたがトラブルにあったら」ほか
- 第3週 消費者問題とは何か/消費者の権利と責任
- 第4週 知っておきたい消費者のための法律1（契約取引の基本）
- 第5週 知っておきたい消費者のための法律2（契約取引個別法）
- 第6週 知っておきたい消費者のための法律3（表示・安全他）
- 第7週 知っておきたい消費者を守る行政の仕組み（国・地方）
- 第8週 消費者を守る法律・制度（行政処分・注意喚起）
- 第9週 消費者安全調査委員会の活動
- 第10週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表1
- 第11週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表2
- 第12週 消費者教育1（法律・制度解説等）
- 第13週 消費者教育2（取組紹介）
- 第14週 消費者教育3（実践・行動のレポート）
- 第15週 消費者市民社会を考える、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 第2週以降、次回（あるいはそれ以降）の講義概要を提示するので、それに従い事前学修を行うこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を復習すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『くらしの豆知識2020』（国民生活センター） 500円程度

注 2019年版は476円（税別）、2020年版は2019年8月頃発行予定
その他については、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、確認テスト）30% 平常点（提出課題と発表）30% 定期試験レポート40%

小テストは原則次回授業、提出課題と発表は授業内で適宜講評。第14週に提出したレポートは第15週に評価をフィードバックする。

【参考書】

正田彬著『消費者の権利 新版』（岩波書店 2010年）720円（税別）

その他、講義中に示す。

消費者安全論

消費者が消費生活をより安全に営むために

米山 眞梨子

3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

私たちは誰もが消費者である。そして私たちは、事業者が供給するモノやサービスを選択し、購入し、使用し、あるいは廃棄することで消費生活を営んでいる。そこには危なさも潜んでいて、安全に生活するためには、いわゆる生活の知恵が役に立つだけでなく、消費者が自ら学習して知識を得ることも求められている。

この授業では、事例をもとにして自身の暮らしの安全を考えることからはじめ、消費生活の安全を確保するための社会の仕組みを知りそれをいかし、さらには自立した消費者として、よりよい社会の構築に参画することの意義を理解して行動できることを目指す。

特に、消費生活アドバイザー資格の取得、家庭科の教員免許の取得を検討している者、あるいは公務員志望者にとって役立つ内容である。

【授業における到達目標】

以下の能力の基礎を身に付けることを目標とする。①消費生活に関する知識について学び、そのうえで何が本質であるかを見抜くことができる批判的な思考力。②自らが見つけた課題の解決策等を考え、その解決に向けて行動する力。③自らが解決すべきと考えた課題を他者にも的確に伝達し、連携協働できる力。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、『くらしの豆知識』と消費生活相談の現場
- 第2週 映像教材視聴「もしあなたがトラブルにあったら」ほか
- 第3週 消費者問題とは何か/消費者の権利と責任
- 第4週 知っておきたい消費者のための法律1（契約取引の基本）
- 第5週 知っておきたい消費者のための法律2（契約取引個別法）
- 第6週 知っておきたい消費者のための法律3（表示・安全他）
- 第7週 知っておきたい消費者を守る行政の仕組み（国・地方）
- 第8週 消費者を守る法律・制度（行政処分・注意喚起）
- 第9週 消費者安全調査委員会の活動
- 第10週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表1
- 第11週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表2
- 第12週 消費者教育1（法律・制度解説等）
- 第13週 消費者教育2（取組紹介）
- 第14週 消費者教育3（実践・行動のレポート）
- 第15週 消費者市民社会を考える、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 第2週以降、次回（あるいはそれ以降）の講義概要を提示するので、それに従い事前学修を行うこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を復習すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『くらしの豆知識2020』（国民生活センター） 500円程度

注 2019年版は476円（税別）、2020年版は2019年8月頃発行予定
その他については、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、確認テスト）30% 平常点（提出課題と発表）30% 定期試験レポート40%

小テストは原則次回授業、提出課題と発表は授業内で適宜講評。第14週に提出したレポートは第15週に評価をフィードバックする。

【参考書】

正田彬著『消費者の権利 新版』（岩波書店 2010年）720円（税別）

その他、講義中に示す。

消費者安全論演習

ネット社会を生き抜くために

高橋 桂子

4年 前期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

十分に警戒していたにも関わらず、被害者になるかもしれない時代を生きる私たちは、実際にどのようなトラブルがあるのか知ることが重要である。そこで本講義では、「くらしの豆知識」（国民生活センター）を用いて、最新の消費者トラブルについて学ぶ。講義と履修者のプレゼンテーションから構成されている。中高の家庭科教員免許、消費生活アドバイザーの資格取得を目指している方や公務員志望者にとって有益な講義の1つである。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、消費者トラブル、消費者行政など最新の消費者関連テーマについて、統計・数字を用いた、要点を得た報告ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、テーマの割振り
- 第2回 ネット社会の落とし穴：テーマに関する深掘り
- 第3回 ネット社会の落とし穴：PPT作成
- 第4回 ネット社会の落とし穴：プレゼン
- 第5回 くらしを守る制度いろいろ：テーマに関する深掘り
- 第6回 くらしを守る制度いろいろ：PPT作成
- 第7回 くらしを守る制度いろいろ：プレゼン
- 第8回 DVD視聴
- 第9回 やさしく解説～マネー情報：テーマに関する深掘り
- 第10回 やさしく解説～マネー情報：PPT作成
- 第11回 やさしく解説～マネー情報：プレゼン
- 第12回 長寿時代のリスク管理：テーマに関する深掘り
- 第13回 長寿時代のリスク管理：PPT作成
- 第14回 長寿時代のリスク管理：プレゼン
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

「くらしの豆知識」（国民生活センター） 2019年版（A5判）
2018年8月発売、定価514円（本体476円＋税8%）
資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼン・レポート（70%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど30%）から判断する。なお、レポート提出はmanaba、提出されたレポートには講評を行い返却する。

【参考書】

適宜、指示します

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

消費者心理学

井上 綾野

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業は、消費者がどのようにモノを買い消費しているのかに関して、購買意思決定プロセスを中心に理解を深めることを目的とする。実際には、これらの意思決定プロセスや相互作用の過程において、ひとりの消費者でもある受講者が、何を考えどのように行動しているのかを辿り、理論との接点を見出していく。

【授業における到達目標】

1. 消費者購買意思決定プロセスを理解する
2. 学修したモデルを自らの行動に照らし合わせて説明する
3. 企業・消費者・社会とのかかわりについて理解する

【授業の内容】

- 第 1 回 インTRODクシヨン：消費者と消費行動
 第 2 回 消費者ニーズ
 第 3 回 購買行動と消費行動
 第 4 回 消費者購買意思決定プロセス
 第 5 回 態度
 第 6 回 知覚
 第 7 回 記憶と知識
 第 8 回 中間試験
 第 9 回 感情
 第 10 回 解釈学的アプローチ
 第 11 回 消費経験論と快楽消費
 第 12 回 マクロ視点からの消費①GDPから見た消費
 第 13 回 マクロ視点からの消費②流行・準拠集団
 第 14 回 消費者・企業・社会の関わり
 第 15 回 講義の総括

【事前・事後学修】

・事前学修

テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること。特に分野特有の専門用語をしっかりと理解することを求める。
 (学修時間：1.5時間)

・事後学修

授業で学んだ理論やモデルを、授業で使用していない事例に当てはめて理解すること。(学修時間：2時間)

【テキスト・教材】

田中洋：消費者行動論 ベーシック+プラス[中央経済社、2015]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法]

中間試験：25%，期末試験：50%，平常点（授業内課題等）：25%で評価する。

[成績評価の基準]

1. 消費者購買意思決定プロセスを理解する：50%
2. 学修したモデルを自らの行動に照らし合わせて説明する：30%
3. 企業・消費者・社会とのかかわりについて理解する：20%で評価する

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は次回の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

田中洋『消費者行動論体系』（中央経済社、2008）

清水聡『新しい消費者行動』（千倉書房、1999）

【注意事項】

マーケティング論（2年前期）とともに履修することが望ましい。

消費者保護論

金津 謙

2年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

日々繰り返している買い物に、「契約」の成立を意識することは少ないが、消費者に莫大な不利益を生じさせるような契約を「そのかす」業者も多く存在している。「しまった！」と気づいて初めて契約の危険性を思い知るのでは遅いのである。

近年、社会経験の乏しい学生をターゲットとした、マルチ商法、ネズミ講、アルバイト商法など、また、判断能力の低下した高齢者を対象とした利殖商法、悪質リフォームなどが社会問題化していることは周知の通りで、早急な対策が必要である。

【授業における到達目標】

受講者が将来、消費者被害に遭わないようにすることは無論のこと、問題が発生した場合の解決方法、家族、友人などが被害者とならないよう、アドバイスが出来る程度の知識修得を目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

【授業の内容】

1. 消費者保護論とはなにか
2. 消費者教育の重要性
3. クーリングオフ制度／特定商取引法①
4. 訪問販売、キャッチセールス／特定商取引法②
5. マルチ商法／特定商取引法③
6. 英会話教室・エステの中途解約／特定商取引法④
7. アルバイト商法／特定商取引法⑤
8. 消費者契約法
9. 牛肉・衣類などの二重価格、原産地の不当表示／景表法等
10. 製造物（商品）による消費者被害／製造物責任法
11. 製造物（食品）による消費者被害／製造物責任法
12. 消費者金融の問題点／利息制限法等
13. 債務整理の方法／破産法等
14. 金融商品の販売と消費者被害／金融商品販売法等
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長尾治助：レクチャー消費者法〔第5版〕[法律文化社、2011、¥2,700(税抜)、※本教科書は頻りに改訂されるので、開講時に改めて指示します。なお、広大な内容を15回の授業回数に圧縮するので受講の際には教科書が必須です。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回でフィードバックを行う予定である。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

本講においては消費者被害を社会問題ととらえ、厳格な法令解釈は行わない。また、必要な条文については適宜プリントを配布するため指示するとき以外は六法の持参は不要である。

消費者保護論

金津 謙

2年～ 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

日々繰り返している買い物に、「契約」の成立を意識することは少ないが、消費者に莫大な不利益を生じさせるような契約を「そそのかず」業者も多く存在している。「しまった！」と気づいて初めて契約の危険性を思い知るのでは遅いのである。

近年、社会経験の乏しい学生をターゲットとした、マルチ商法、ネズミ講、アルバイト商法など、また、判断能力の低下した高齢者を対象とした利殖商法、悪質リフォームなどが社会問題化していることは周知の通りで、早急な対策が必要である。

【授業における到達目標】

受講者が将来、消費者被害に遭わないようにすることは無論のこと、問題が発生した場合の解決方法、家族、友人などが被害者とならないよう、アドバイスが出来る程度の知識修得を目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

【授業の内容】

1. 消費者保護論とはなにか
2. 消費者教育の重要性
3. クーリングオフ制度／特定商取引法①
4. 訪問販売、キャッチセールス／特定商取引法②
5. マルチ商法／特定商取引法③
6. 英会話教室・エステの中途解約／特定商取引法④
7. アルバイト商法／特定商取引法⑤
8. 消費者契約法
9. 牛肉・衣類などの二重価格、原産地の不当表示／景表法等
10. 製造物（商品）による消費者被害／製造物責任法
11. 製造物（食品）による消費者被害／製造物責任法
12. 消費者金融の問題点／利息制限法等
13. 債務整理の方法／破産法等
14. 金融商品の販売と消費者被害／金融商品販売法等
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

長尾治助編著『レクチャー消費者法〔第5版〕』（法律文化社 2011年）2,700円 ※教科書については改定の予定があるので開講時に改めて指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回でフィードバックを行う予定である。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

本講においては消費者被害を社会問題ととらえ、厳格な法令解釈は行わない。また、必要な条文については適宜プリントを配布するため指示するとき以外は六法の持参は不要である。

消費生活学

杉本 公枝

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会における消費者問題及び安全・安心な消費生活を営むために必要な法律や制度、企業の社会的責任等について学習する。また、消費者トラブルに巻き込まれないよう主体的に判断する能力、消費者市民社会の実現に向け、必要な知識と実践する能力を育む。

【授業における到達目標】

- (1) 消費者問題の現状を理解し、合理的に分析し、適切な手続きに沿った問題解決、提言が行える能力を身につける。
- (2) 消費者市民社会の実現に向け、消費者行動による社会貢献のあり方を自覚し、責任をもって行動する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 消費生活学について
- 第2週 消費者問題の歴史
- 第3週 消費者政策
- 第4週 広告・表示の適正化
- 第5週 消費者安全の確保 - 消費者安全法 -
- 第6週 消費者安全の確保 - 製造物責任法 -
- 第7週 繊維製品に関わる法律
- 第8週 繊維製品の相談事例
- 第9週 消費者契約の適正化
- 第10週 消費者を取り巻く社会情勢
- 第11週 消費生活相談の現状
- 第12週 若者の消費者トラブル
- 第13週 消費者教育
- 第14週 企業における消費者対応
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新聞やネット報道から消費者トラブルに関する記事を探し出しておいてください。(学修時間週2時間)

【事後学修】配布資料の授業済み部分を復習し、指定された重要事項が身についているか自己点検してください。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

講義時に適宜指示あるいは資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(40%)、レポート(30%)、授業態度(30%)の割合で評価します。試験結果は授業でフィードバックを行います。レポートは返却時にプレゼンテーションと講評を行い、学修成果が確認できるようにします。

【参考書】

- ・日本衣料管理協会編『衣料管理士養成のための消費生活論』
- ・日本衣料管理協会編『繊維製品の基礎知識シリーズ』(新訂3版)
- ・独立行政法人国民生活センター編『くらしの豆知識』(最新年度版)

【注意事項】

繊維製品品質管理士の資格及び消費生活相談員の資格をめざす人は履修を勧めます。

障害児保育

板倉 達哉

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【参考書】

障害児保育 新版(新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る) 編著者：渡部信一・本郷一夫・無藤隆 出版社：北大路書房

【授業のテーマ】

障害に関する基本的知識や歴史の変遷を学び、理解を深める。障害児に対する支援は様々な職種との連携が重要であることを鑑み、個人々の発言やグループ討論を重視する。これらのことから、子どもに対する理解をより深め、実践的な知識・技能を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

1. 障害児保育に関する基本的理念や歴史の変遷について理解し、説明できる。2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境の構成等について説明できる。3. 障害のある子どもも実態把握、個別の支援に関する計画の立案、実践について理解し、説明できる。4. 障害のある子どもを取り巻く多領域支援・専門機関との連携について理解し、説明できる。

【授業の内容】**【前期】**

1. 授業概要
2. 「障害」とは何か？(障害の定義と概念について)
3. 障害児保育の歴史の変遷
4. 障害と発達(発達の観点の意味と捉え方)
5. 障害の理解と支援①(肢体不自由について)
6. 障害の理解と支援②(視覚障害について)
7. 障害の理解と支援③(聴覚障害について)
8. 障害の理解と支援④(知的障害について)
9. 障害の理解と支援⑤(重度重複障害について)
10. 障害の理解と支援⑥(ASDについて)
11. 障害の理解と支援⑦(AD/HDについて)
12. 障害の理解と支援⑧(LDについて)
13. 実際の事例を通して支援方法を学ぶ(VTR視聴)
14. 実際の事例を通して支援方法を学ぶ(ケース検討)
15. 前期まとめ

【後期】

1. 障害児保育の形態
2. 障害児保育の現状と課題①(療育現場の実際)
3. 障害児保育の現状と課題②(保育現場の実際)
4. インクルーシブ保育について①(合理的配慮について)
5. インクルーシブ保育について②(個の発達を支える)
6. インクルーシブ保育について③(子ども同士の関わり)
7. インクルーシブ保育について④(職員間の連携)
8. 個別支援計画について①(個別支援計画とは)
9. 個別支援計画について②(子どもの実態把握)
10. 個別支援計画について③(計画の作成)
11. 個別支援計画について④(評価)
12. 保護者や家族に対する理解と支援
13. 小学校や地域等との連携
14. 多領域支援・専門機関との連携
15. 後期まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎授業後に次回授業のテーマと概要を発表する。そのテーマに関する文献や論文、参考書を読み用語理解等しておく(週1時間)。

【事後学修】 事後学修レポート等の課題への取り組みと提出(週1時間)。

【テキスト・教材】

プリントやビデオ等を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(発言やグループ討論への参加)(20%)、レポート等提出物(次回授業時フィードバック：30%)、定期試験(授業最終週にフィードバック：50%)。

上代中古文学演習 d 1

—万葉集の「秀歌」を発見する—

池田 三枝子

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

万葉集は、奈良時代に成立した、わが国最古の歌集です。それだけに古来さまざまな視点から研究が進められる一方で、鑑賞の対象として多くの人に愛されてきました。

この授業では、前期万葉の作品の中から、自分なりの視点をもって「秀歌」を発見し、その歌について調査・分析することにより、上代文学に親しみ、上代文学についての理解を深めて行きます。

【授業における到達目標】

以下の4つの態度・能力を修得します

- ・古代和歌に美を見出し、感受性を深めようとする態度
- ・古代和歌に対する深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力
- ・課題の発見から問題解決に至る行動力
- ・グループで協力して研究を進めることができる協働力

【授業の内容】

—ガイダンス—

第1週 ガイダンス

—万葉集の「秀歌」を発見するための基礎知識—

第2週 万葉集概説

第3週 前期万葉の「秀歌」を発見する

—研究方法を学ぶ—

第4週 調査・分析の方法を学ぶ

第5週 発表・討論の方法を学ぶ

—グループワーク—

第6週 グループワーク (1) —自分なりの視点を持つ

第7週 グループワーク (2) —問題の所在を明らかにする

—発表と討論—

第8週 発表と討論 (1) —問題意識を明確にする

第9週 発表と討論 (2) —先行研究を広く探す

第10週 発表と討論 (3) —用例を分析する

第11週 発表と討論 (4) —用例に基づいて考察する

第12週 発表と討論 (5) —考察から結論を導く

第13週 発表と討論 (6) —問題意識と結論を照応させる

—レポート作成に向けて—

第14週 レポートの書き方を学ぶ

—まとめ—

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修 (週2時間)

発表の後に討論を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言わなければなりません。発表者はもちろん、発表者以外の人、複数の注釈書等を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

・事後学修 (週2時間)

期末レポートの作成に向けて、各自、担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めて下さい。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に紹介します。

上代中古文学演習 d 2

—万葉集の「秀歌」を研究する—

池田 三枝子

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

万葉集は、奈良時代に成立した、わが国最古の歌集です。それだけに古来さまざまな視点から研究が進められる一方で、鑑賞の対象として多くの人に愛されて来ました。

この授業では、後期万葉の作品の中から、自分なりの視点をもって「秀歌」を発見し、その歌について調査・分析することにより、上代文学に親しみ、上代文学についての理解を深めて行きます。

【授業における到達目標】

以下の4つの態度・能力を修得します。

- ・古代の信仰・思想を知り、世界に発信しようとする態度
- ・古代和歌の美を知り、感受性を深めようとする態度
- ・課題の発見から問題解決に至る行動力
- ・グループで物事を進めることができる協働力

【授業の内容】

—ガイダンス—

第1週 ガイダンス

—「秀歌」研究へのアプローチ—

第2週 後期万葉の「秀歌」とは

第3週 「秀歌」の条件

—グループワーク—

第4週 グループワーク (1) —自分の意見を問う

第5週 グループワーク (2) —自分の論理を構築する

—発表と討論—

第6週 発表と討論 (1) —研究史的に把握する

第7週 発表と討論 (2) —先行研究を検証する

第8週 発表と討論 (3) —先行研究を批判する

第9週 発表と討論 (4) —用例を分析する

第10週 発表と討論 (5) —用例に基づいて考察する

第11週 発表と討論 (6) —考察から結論を導く

第12週 発表と討論 (7) —問題意識と結論を照応させる

第13週 発表と討論 (8) —反論を想定して論理を構築する

—レポート作成に向けて—

第14週 レポートの書き方

—まとめ—

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修 (週2時間)

発表の後に討論を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言わなければなりません。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる作品について、複数の注釈書を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

・事後学修 (週2時間)

期末レポートの作成に向けて、各自、担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めて下さい。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に紹介します。

上代中古文学演習 e 1

『源氏物語』作者の青春期・結婚期を読む

横井 孝

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【注意事項】

レジュメを作成する際に必須の基本文献は、図書館に指定図書が用意されています。それらを使うと同時に、関連資料・文献等を図書館で集めて下さい。

【授業のテーマ】

紫式部には『源氏物語』『紫式部日記』だけでなく、生涯の間に詠んだ歌を集めた家集『紫式部集』があります。青春期から結婚、夫との死別を経て、やがて宮仕え生活を送るようになる、一生涯のようすがこの作品のなかに詞書と和歌によって綴られています。

実践女子大学は『紫式部集』の貴重な写本（テキスト）を所蔵しており、紫式部関係のことを研究する学者たちはすべてこのテキストに依拠しています。さいわいなことに、私たちは身近にある貴重な文化財を直接参照することのできる場にいます。このテキストを通して、紫式部の青春期を読み取り、のちに『源氏物語』が生成する基盤を探ってゆきます。

【授業における到達目標】

授業の第1回目に参考文献一覧を提供します。第一段階として、それに掲載されているさまざまな文献を、自ら読み解き、操作を加えて演習発表資料（レジュメ）を作成します。第二段階として、自分の作成したレジュメを用いて、自在に口頭発表できるように訓練します。プレゼンテーション能力を少しでも高めるようにしてゆきます。

この演習では、自己の担当部分の探究とともに、他の演習者と協働して一つの作品の理解を深める能力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 『紫式部集』とは？
- 第2週 紫式部の青春期
- 第3週 紫式部の結婚、その後
- 第4週 演習マニュアルを読む
- 第5週 紫式部集・1～14番歌
- 第6週 紫式部集・15～16番歌の演習
- 第7週 紫式部集・17～18番歌の演習
- 第8週 紫式部集・19～20番歌の演習
- 第9週 紫式部集・21～21番歌の演習
- 第10週 紫式部集・22～23番歌の演習
- 第11週 紫式部集・24～25番歌の演習
- 第12週 紫式部集・26～27番歌の演習
- 第13週 紫式部集・28～29番歌の演習
- 第14週 紫式部集・30～31番歌の演習
- 第15週 紫式部の青春期・まとめ

【事前・事後学修】

演習の当番になった人は、配付資料（レジュメ）を受講者分用意します。資料の作成のためには、はじめに「演習マニュアル」を配布し、それに基づいて作成することになります。事前には週3時間を超える学修が必要となるでしょう。

また、当番以外の方は、前回までの資料を持参し、前回までの内容とのつながりをチェックし、当番の人とともに当該和歌の内容を検討してゆきます。これには週1時間程度を要すると思います。

【テキスト・教材】

テキストは実践女子大学本『紫式部集』を活字にした資料を配付します。特別に固定的な教材は使用しません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

個々の演習、またはその配付資料、さらに実際の演習を経て、清書版レジュメを改めて作成する。それらの累積点を100点満点に換算して評価します。また、演習当番でない場合の授業参加の態度（質問など）を評価し、それを含めることにします。

他の演習者の発表とそのリアクションによって事後学修を深める。

【参考書】

演習当初に「演習マニュアル」とともに「紫式部集研究文献一覧」を配布し、これを参考にします。

上代中古文学演習 e 1

『源氏物語』 簾木三帖を読む

山口 一樹

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、日本の代表的な古典文学であり、後代のさまざまな文学作品にも多大な影響を与えた、平安時代の長篇物語『源氏物語』を読んでいきます。具体的には、雨夜の品定めや光源氏と空蟬の恋を語る簾木巻・空蟬巻を扱います。履修者各自の関心による注釈作業を基に物語を読み解き、作中で繰り返されてゆく結婚拒否の物語や、物語と『伊勢集』の関係などについて、理解することを目指します。

【授業における到達目標】

物語の本文をきちんと読み解く能力、発表や質疑応答の基本的な技術を身につけることを目指します。学生が修得すべき「美の探究」の、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」の、現状を正しく把握し、課題を発見できる力、「協働力」の、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（担当範囲の決定・授業の流れの説明）
- 第2週 源氏物語の構成、簾木・空蟬巻の基礎知識
- 第3週 発表方法の説明①（校異とは）
- 第4週 発表方法の説明②（語釈作業について）
- 第5週 発表方法の説明③（『源氏物語』中の用例の調査方法）
- 第6週 発表と質疑応答①光源氏の本性と癖・五月雨の夜の宿直
- 第7週 発表と質疑応答②女性の三階級と品定め
- 第8週 発表と質疑応答③左馬頭の体験談
- 第9週 発表と質疑応答④頭中将の体験談
- 第10週 発表と質疑応答⑤光源氏、紀伊守邸へ方違え
- 第11週 発表と質疑応答⑥光源氏、空蟬と契る
- 第12週 発表と質疑応答⑦光源氏、再び紀伊守邸を訪れる
- 第13週 発表と質疑応答⑧光源氏、空蟬と軒端萩を垣間見
- 第14週 発表と質疑応答⑨空蟬、光源氏から逃れる。
- 第15週 発表と質疑応答⑩光源氏と空蟬、和歌の贈答

【事前・事後学修】

事前に、現代語訳でも構いませんので、若紫巻を読んで大まかなあらすじを頭に入れておいてください。また、授業前には、発表者以外の人も次回範囲に目を通して予習してきて下さい。場合によっては、授業後に発表者に追加の調査をさせることもあります。

〔事前学修〕 発表の準備、次回の範囲の予習（週2時間）

〔事後学修〕 発表の復習、発表の追加の調査など（週2時間）

【テキスト・教材】

玉上琢弥訳注：源氏物語 第一巻[角川ソフィア文庫、1964、¥800（税抜）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容60%、平常点（質疑応答など授業への取り組み姿勢）40%。発表内容に関しては講師からのコメントという形でフィードバックを行います。

【参考書】

授業冒頭で詳しく紹介します。

【注意事項】

演習という授業の性格上、発表するだけでなく、質疑応答にも積極的に参加してください。発表は一人一回程度を予定しています。状況に応じて、一回の授業で複数の人数が発表することもあります。

上代中古文学演習 e 2

『源氏物語』 作者の後半生を読む

横井 孝

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『源氏物語』の作者・紫式部は、青春期・みじかい結婚生活を経て、宮仕え生活を送ります。宮仕え以前から『源氏物語』は書き始められたようですが、その完成は宮仕え後なのです。

『源氏物語』に最終的な磨きをかけ、完成させた宮仕え生活とはどのようなものだったのか。紫式部の家集『紫式部集』を通して、その文学活動の秘密を解き明かしたいと思います。

具体的には、『紫式部集』の後半部分を読んでゆくこととなります。

【授業における到達目標】

『紫式部集』演習の過程で、さまざまな文献に当たって、読み込み、分析する必要があります。また、そこで集められた文献を駆使して演習発表資料（レジュメ）にまとめなければなりません。さらに、それを口頭で発表します。こうした、分析能力、資料作成能力、プレゼンテーション能力を涵養します。これは、自己の担当部分の研究能力を高めるとともに、他の演習者と協働して同一の作品の理解のための研鑽能力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 私家集と『紫式部集』
- 第2週 紫式部の前半生
- 第3週 紫式部の宮仕え時代
- 第4週 紫式部の晩年
- 第5週 『紫式部集』と『源氏物語』
- 第6週 演習マニュアルを読む
- 第7週 紫式部集・87～88番歌の演習
- 第8週 紫式部集・89～90番歌の演習
- 第9週 紫式部集・91～92番歌の演習
- 第10週 紫式部集・93～94番歌の演習
- 第11週 紫式部集・95～96番歌の演習
- 第12週 紫式部集・97～98番歌の演習
- 第13週 紫式部集・99～100番歌の演習
- 第14週 紫式部集・101～102番歌の演習
- 第15週 『源氏物語』以後の紫式部

【事前・事後学修】

演習の当番の人は、「演習マニュアル」に従ってレジュメ（配付資料）を作成し、それをもとに演習する。口頭発表の形式なので、予行演習は必須です。事前に週3時間程度の学修が必要でしょう。

当番以外の人は、前回までの内容とのつながりをチェックし、質問の準備をする必要があります。これには週1時間程度の事後学修が必要となります。

【テキスト・教材】

授業冒頭に「演習マニュアル」などともに資料を配付する。固定的な教材はもちいません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習の内容、配付資料の内容、さらに演習終了後にレジュメの清書版を提出。それらの累積点を100点満点に換算して評価します。

演習当番でない場合も、授業の参加態度（質問など）を評価し、それを含めることにします。他の演習者の発表とそのリアクションによって事後学修を深めるようにします。

【参考書】

授業冒頭に、テキストとなる資料、「演習マニュアル」とともに「紫式部集研究文献一覧」を配布し、そこに指示する。また演習中の最新情報については、その都度インフォメーションを行う。

【注意事項】

レジュメ作成に際して必須の文献は図書館に指定図書として設置されています。それを使うと同時に、関連資料等を図書館で集めて下さい。口頭発表をより高度なものにするために、リハーサルは必要です。

上代中古文学演習 e 2

『源氏物語』 簞木三帖を読む

山口 一樹

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、日本の代表的な古典文学であり、後代のさまざまな文学作品にも多大な影響を与えた、平安時代の長篇物語『源氏物語』を読んでいきます。具体的には、光源氏と夕顔の恋を語る夕顔巻を扱います。

履修者各自の関心による注釈作業を基に物語を読み解き、夕顔物語と既存の話型との関係や作中におけるもののけの機能について、理解することを目指します。

【授業における到達目標】

物語の本文をきちんと読み解く能力、発表や質疑応答の基本的な技術を身につけることを目指します。学生が修得すべき「美の探究」の、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」の、現状を正しく把握し、課題を発見できる力、「協働力」の、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・発表範囲の決定
- 第2週 夕顔巻の予備知識
- 第3週 発表方法の説明①（他作品の用例の調査方法）
- 第4週 発表方法の説明②（和歌の調査方法）
- 第5週 発表と質疑応答①光源氏、五条大路を訪れる
- 第6週 発表と質疑応答②光源氏、返歌を贈る
- 第7週 発表と質疑応答③光源氏、六条わたりの女を訪れる
- 第8週 発表と質疑応答④惟光、夕顔について報告
- 第9週 発表と質疑応答⑤光源氏、夕顔の家に宿る
- 第10週 発表と質疑応答⑥光源氏、夕顔を廃院に伴う
- 第11週 発表と質疑応答⑦夕顔、もののけにより急死
- 第12週 発表と質疑応答⑧光源氏、東山へ赴く
- 第13週 発表と質疑応答⑨右近、光源氏に夕顔の素性を語る
- 第14週 発表と質疑応答⑩光源氏、四十九日の供養を行う
- 第15週 発表と質疑応答 補足とまとめ

【事前・事後学修】

事前に、現代語訳でも構いませんので、若紫巻を読んで大まかなあらすじを頭に入れておいてください。また、授業前には、発表者以外の人も次回範囲に目を通して予習してきて下さい。場合によっては、授業後に発表者に追加の調査をさせることもあります。

〔事前学修〕 発表の準備、次回の範囲の予習（週2時間）

〔事後学修〕 発表の復習、発表の追加の調査など（週2時間）

【テキスト・教材】

玉上琢弥訳注：源氏物語 第一巻[角川ソフィア文庫、1964、¥800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容60%、平常点（質疑応答など授業への取り組み姿勢）40%。発表内容に関しては講師からのコメントという形でフィードバックを行います。

【参考書】

授業冒頭で詳しく紹介します。

【注意事項】

演習という授業の性格上、発表するだけでなく、質疑応答にも積極的に参加してください。発表は一人一回程度を予定しています。状況に応じて、一回の授業で複数の人数が発表することもあります。

上代中古文学演習 f 1

『新古今和歌集』 精読—平安・中世の和歌

山本 啓介

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

第八番目の勅撰和歌集『新古今和歌集』の前半部分（巻一～巻一〇）の精読を演習形式で行います。鎌倉時代初期に政治の実権を失いつつあった貴族達が、過去のものとなりつつある王朝文化への憧憬を抱きつつ詠み、撰んだ歌の数々は古典和歌の一つの到達点とされています。その精読を通じて、王朝文化を相対的に理解することも目的の一つです。

【授業における到達目標】

- ◎勅撰和歌集における部立・配列について理解する。
 - ◎「歌ことば」に対する理解を深める。
 - ◎和歌を精読するための調査方法を修得する。
 - ◎和歌に詠まれた美的世界とその背景への理解を深め、他者に伝える力をつける。
 - ◎日本の文化と伝統についての理解を深め、世界にも発信しうる力をつける。
- 和歌の精読のために自ら疑問を発見する力と調査研究を行う力を養成し、発表と相互の議論を通じてともに考える力を養うことも目標の一つです。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 和歌史の概説
- 第2週 『新古今和歌集』の概説
- 第3週 発表方法の解説（調査方法・資料作成方法等）
- 第4週 受講生の調査報告と研究発表（春歌上）
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表（春歌下）
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表（夏歌）
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表（秋歌上）
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表（秋歌下）
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表（冬歌）
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表（賀歌）
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表（哀傷歌）
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表（離別歌）
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表（羈旅歌）
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表担当者は対象となる和歌について調査し、発表の準備を終えておきます。その他の学生は発表対象の和歌について、複数の注釈書を比較して読み、疑問点を整理し、質問ができるようにしておいてください（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で学んだ和歌や歌人について、各自で復習を行い、さらに理解を深めてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

久保田淳：新古今和歌集 上[角川ソフィア文庫、2007、¥1,080(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表(作成資料・発表の内容)50%、質疑応答（議論への参加度・内容）30%、レポート20%で評価します。発表と質疑について授業内でフィードバックします。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

演習の発表方法や対象については授業内で相談の上、変更する可能性があります。

上代中古文学演習 f 2

『新古今和歌集』精読—平安・中世の和歌

山本 啓介

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

第八番目の勅撰和歌集『新古今和歌集』の後半部分（巻一一～二〇）の精読を演習形式で行います。鎌倉時代初期に政治的実権を失いつつあった貴族達が、過去のものとなりつつある王朝文化への憧憬を抱きつつ詠み、撰んだ歌の数々は古典和歌の一つの到達点とされています。その精読を通じて、王朝文化を相対的に理解することも目的の一つです。

【授業における到達目標】

- ◎勅撰和歌集における部立・配列についての理解を深める。
 - ◎「歌ことば」に対する理解をさらに深める。
 - ◎和歌を精読するためのさらに高度な調査方法を修得する。
 - ◎和歌に詠まれた美的世界とその背景への理解をさらに深め、他者に伝える力をつける。
 - ◎日本の文化と伝統についての理解をさらに深め、世界にも発信しうる力をつける。
- 和歌の精読のために自ら疑問を発見する力と調査研究を行う力を養成し、発表と相互の議論を通じてともに考える力を養うことも目標の一つです。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 『新古今和歌集』の概説
- 第2週 『新古今和歌集』研究の概説
- 第3週 発表方法の解説（調査方法・資料作成方法等）
- 第4週 受講生の調査報告と研究発表（恋歌一）
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表（恋歌二）
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表（恋歌三）
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表（恋歌四）
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表（恋歌五）
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表（雑歌上）
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表（雑歌中）
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表（雑歌下）
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表（神祇歌）
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表（釈教歌）
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表担当者は対象となる和歌について調査し、発表の準備を終えておきます。その他の学生は発表対象の和歌について、複数の注釈書と比較して読み、疑問点を整理し、質問ができるようにしておいてください（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で学んだ和歌や歌人について、各自で復習を行い、さらに理解を深めてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

久保田淳：新古今和歌集 下[角川ソフィア文庫、2007、¥1,080(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表(作成資料・発表の内容)50%、質疑応答(議論への参加度・内容)30%、レポート20%で評価します。発表と質疑について授業内でフィードバックします。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

演習の発表方法や対象については授業内で相談の上、変更する可能性があります。

上代中古文学研究 e

古事記神話を読む

森 陽香

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

上・中・下の三巻構成をもつ『古事記』のうち、上巻部分（神話）を読みます。神話の研究には、『古事記』『日本書紀』『風土記』といった諸文献の記述を比較する方法などもあり、古代的な発想の多様性や各文献の特徴を掴むためにはそうした方法が不可欠ですが、この授業では『古事記』のみを扱うこととします。しかしそのかわりに、『古事記』神話をはじめから終わりまでほとんど省くことなく通読しますから、『古事記』神話が全体としてどのような構成を持っているのか、詳細に把握することができるはずです。また、「古代の人々は生命の始まりをどのように想像したか?」「神話に選ばれた土地にはどのような意味があるのか?」といった具体的な問いに対し、具体的に答えを見つけてゆく方法を示します。で、古代生活の中から神話的な想像力が生じてくるありようを見つめ、『古事記』という一つの作品の背後にある古代の人々の心の豊かさを実感してほしいと思います。必要に応じて民俗学的な視点を考察に取り入れ、関連する映像資料を参照することもあります。

【授業における到達目標】

- ・『古事記』神話全体の内容を把握するという基礎知識を、確実に身につける（研鑽力の基礎）。
- ・特定の言葉や表現について、文学的・民俗学的に考察する方法を学び（研鑽力）、古代の人々の心の豊かさにもふれる（美の探究）。

【授業の内容】

- 1週 『古事記』概説
- 2週 世界の始まり
- 3週 イザナキ・イザナミの結婚
- 4週 イザナミの死と黄泉国
- 5週 アマテラスとスサノヲ
- 6週 天の石屋
- 7週 ヤマトノヲロチ退治
- 8週 イナバのシロウサギ
- 9週 根の国訪問
- 10週 八千矛歌謡
- 11週 葦原中国平定
- 12週 天孫降臨
- 13週 コノハナサクヤヒメ
- 14週 ウミサチとヤマサチ
- 15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントに目を通し、おおよその内容を理解するようつとめてください。（週1時間程度か）

事後学修：毎回コメントカードを渡します。各回の講義内容を理解することができたかどうか復習し、次回授業時に、前回理解した内容を書き記したコメントカードを提出してください。（週2～3時間程度か）

【テキスト・教材】

全員が同じ教材を使用し、また書き込むことができる余白のある資料が望ましいと考えますので、毎回プリントを配布します。プリントの枚数が多量になりますが、ご理解ください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

2週目から15週目まで、全14回提出するコメントカード（事後学修の項参照）の内容で評価します（100%）。毎回の講義内容を着実に理解したかどうか、評価基準となりますので、感想文ではありません。よりよい記述ができるよう、必要に応じてその都度アドバイスなどを行います。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

授業内で指示します。

上代中古文学研究 f

万葉集を読む

森 陽香

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

『万葉集』の歌を読みます。

かつて折口信夫（おりくちしのぶ）という研究者が、国文学研究の用語として、「万葉びと」という言葉を定着させました。折口は次のように言います。「飛鳥の都以後奈良朝以前の、感情生活の記録が、万葉集である。万葉びとと呼ぶのは、此間に、此国土の上に現れて、様々な生活を遂げた人の総べてをさす。ただに万葉集の作者として、名を二十巻のどこかに止めて居る人に限るのではない。」この講義では、『万葉集』をとおして、ここに言う「万葉びと」たちの暮らしと、そこに貼り付いて成長したさまざまな心のありようを見つめます。

具体的には、歌人を定めたり、歌の時期を限定したりして『万葉集』を読み解く方法ではなく、特定のテーマを決めて関連する歌々を拾い上げます。そして、そこから読み取ることのできる情報を論理的に組み立ててゆく過程を示しますので、「論じる」「研究する」という方法の一端を学んでほしいと思います。

必要に応じて関連する映像資料も参照し、また、現代の私達日本人の生活とのかかわりについても注意を払います。

【授業における到達目標】

- ・万葉歌をとおして、さまざまな情報を組み立て立論してゆく論理的思考ができるようになる。（研鑽力）
- ・学問的知識を身につけた上で、万葉歌を適切に鑑賞する能力を養う。（美の探究）

【授業の内容】

- 1週 『万葉集』概説
- 2週 歌の歴史
- 3週 万葉びとの信仰 1 いろいろな信仰対象について
- 4週 万葉びとの信仰 2 万葉集に詠まれた神について
- 5週 「常世」について（祝日・文化の日を前に）
- 7週 死について 1 死ということ
- 8週 死について 2 死後の行方
- 9週 稲作について 1
- 10週 稲作について 2（祝日・勤労感謝の日を前に）
- 11週 万葉びとの正月 1 宴・打球
- 12週 万葉びとの正月 2 儀礼
- 13週 「あそび」ということ
- 14週 まとめ 1 古代の女性の生活
- 15週 まとめ 2 総括

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントに目を通し、歌の内容などについておおよそ理解しておいてください。（週1時間程度か）

事後学修：2～3週を一区切りとし、いくつかのテーマを設けて講義を行うので、それぞれのテーマについて論じ終わるごとに、講義内容を復習し内容をまとめるレポートを課します。3～5回程度、レポートを提出することになります。（1回のレポート作成に4～5時間程度を要するか）

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、特定の教科書は定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「事後学修」の項に記したレポートによって評価（100%）。レポートの提出は随時受け付けますので、必要と判断した際、より良いレポートの書き方や注意点について授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

上代中古文学研究 g

『源氏物語』第一部講読

山口 一樹

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

本授業では、平安朝文学の傑作と目される『源氏物語』を、第一部の物語に焦点をあてて講読します。

『源氏物語』第一部では、光源氏が様々な女君との交渉を経ながら、栄華への階段を上り詰めてゆくさまが語られています。准拠・引用・長篇化など、多様な観点からの読解が可能であり、『源氏物語』の豊かな研究史について理解するうえでも、有効な箇所であると考えられます。

本授業では、主要な作中人物を軸として、原文を読み解き、物語の世界を鑑賞します。前期は、桐壺更衣・空蝉・夕顔・藤壺・紫の上と関連する物語を取り上げます。

【授業における到達目標】

研究史上の課題を理解したうえで、各作中人物の物語の特徴について、説明できるようになることを主な到達目標とします。

「美の探求」のうち、人文の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたる知を探究する能力を養うことを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・『源氏物語』の構成
- 第2週 桐壺帝と桐壺更衣①桐壺帝の寵愛
- 第3週 桐壺帝と桐壺更衣②桐壺更衣の死
- 第4週 空蝉①中の品の女
- 第5週 空蝉②光源氏を拒否
- 第6週 夕顔①五条大路の出会い
- 第7週 夕顔②もののけ出現
- 第8週 夕顔③女君の素性
- 第9週 藤壺①光源氏の思慕
- 第10週 藤壺②密通と懐妊
- 第11週 藤壺③密通以後
- 第12週 紫の上①北山垣間見
- 第13週 紫の上②二条院連れ去り
- 第14週 紫の上③二条院での日々
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

〔事前学修〕入門書・現代語訳等により、次回授業の物語のあらすじを把握する（週2時間程度）

〔事後学修〕授業内容を踏まえて物語の本文を読みなおす。授業内で紹介した参考文献により、理解を深める（週2時間程度）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験70%。平常点（コメントペーパー・小課題等）30%。コメントペーパーに関しては、次回授業内にてフィードバックを行います。

【参考書】

授業内にて適宜紹介します。

【注意事項】

これまでに作品を読んだことのない人でも理解できるよう努めますが、ある程度物語の内容を知ったうえで、授業に臨むことを期待します。

上代中古文学研究 h

『源氏物語』第一部講読

山口 一樹

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

本授業では、平安朝文学の傑作と目される『源氏物語』を、第一部の物語に焦点をあてて講読します。

第一部の物語では、光源氏が様々な女君との交渉を経ながら、栄華への階段を上り詰めてゆくさまが語られています。准拠・引用・長篇化など、多様な観点からの読解が可能であり、『源氏物語』の豊かな研究史について理解するうえで、有効な箇所であると考えられます。

本授業では、主要な作中人物を軸として、原文を読み解き、物語の世界を鑑賞します。後期は、六条御息所・朧月夜・明石の君・前斎宮女御・玉鬘と関連する物語を取り上げます。

【授業における到達目標】

研究史上の課題を理解したうえで、各作中人物の物語の特徴について、説明できるようになることを主な到達目標とします。

「美の探求」のうち、人文の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を養うことを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 六条御息所①車争い
- 第3週 六条御息所②生霊化
- 第4週 六条御息所③野宮の別れ
- 第5週 朧月夜①弘徽殿での邂逅
- 第6週 朧月夜②尚侍就任と密通
- 第7週 明石の君①光源氏の須磨流離
- 第8週 明石の君②明石での出会い
- 第9週 明石の君③明石姫君誕生
- 第10週 前斎宮女御①冷泉後宮入内
- 第11週 前斎宮女御②養女への懸想
- 第12週 玉鬘①求婚譚と光源氏の懸想
- 第13週 玉鬘②鬚黒結婚
- 第14週 光源氏の栄華
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

〔事前学修〕入門書・現代語訳等により、次回授業の物語のあらすじを把握する（週2時間程度）

〔事後学修〕授業内容を踏まえて物語の本文を読みなおす。授業内で紹介した参考文献により、理解を深める（週2時間程度）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験70%。平常点（コメントペーパー・小課題等）30%。コメントペーパーに関しては、次回授業内にてフィードバックを行います。

【参考書】

授業内にて適宜紹介します。

【注意事項】

これまでに作品を読んだことのない人でも理解できるよう努めますが、ある程度物語の内容を知ったうえで、授業に臨むことを期待します。

上代文学基礎演習 1

—神話に親しみ—

多田 元

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『古事記』は現存最古の文芸作品です。日本文化の淵源を考える上で重要な文献であるとされます。上代文学に親しみ、「神話」を通して古代人の想像力を理解することで文芸とは何かということを考えてゆきます。

【授業における到達目標】

到達目標 文芸の分析を通して日本文化・精神の特質を説明できるようになる。

D P との関連 学修を通して自己成長する力・研鑽力のうち、学ぶ楽しみを知り、分析する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 『古事記』概説 —神話について—
- 3 研究史の調査と整理 —基本文献と先行研究—
- 4 用例調査と分析 —用例調査による先行研究の検討—
- 5 発表の仕方 —基礎調査と個人課題—
- 6 質疑応答の進め方 —論理力を高める討論—
- 7 発表と質疑応答（1）
基礎発表・イナバの白兔神話（前半）
- 8 発表と質疑応答（2）
基礎発表・イナバの白兔神話（後半）
- 9 調整用指導時間 問題点整理について
- 10 発表と質疑応答（3）
基礎発表・オホアナムジの死と復活神話
- 11 発表と質疑応答（4）
課題発表・イナバの白兔神話（前半）
- 12 発表と質疑応答（5）
課題発表・イナバの白兔神話（後半）
- 13 発表と質疑応答（6）
課題発表・オホアナムジの死と復活神話
- 14 レポートの書き方
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕演習発表のための基礎文献整理・用例検討、資料作製等の事前準備（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕発表後の問題点整理、レポートのための追加調査が必須です（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

中村啓信 訳注：古事記[角川ソフィア文庫、2009、¥1,124(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。

発表・討論毎に毎時間フィードバックをします。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聞き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理力がアップします。討論には積極的な態度で臨んでください。

上代文学基礎演習 2

—歌謡と物語の交渉—

多田 元

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『古事記』は現存最古の文芸作品です。日本文化の淵源を考える上で重要な文献であるとされます。上代文学に親しみ、歌謡と物語を通して古代人の想像力を理解することで文芸とは何かということを考えてゆきます。

【授業における到達目標】

到達目標 文芸の分析を通して日本文化・精神の特質を説明できるようになる。

D Pとの関連 学修を通して自己成長する力・研鑽力のうち、学ぶ楽しみを知り、分析する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 『古事記』概説 —古代歌謡について—
- 3 研究史の調査と整理 —基本文献と先行研究—
- 4 用例調査と分析 —用例調査による先行研究の検討—
- 5 発表の仕方 —基礎調査と個人課題—
- 6 質疑応答の進め方 —論理力を高める討論—
- 7 発表と質疑応答（1）
基礎発表・ヤマトタケル物語の歌（火中の恋）
- 8 発表と質疑応答（2）
基礎発表・ヤマトタケル物語の（思国歌）
- 9 調整用指導時間 問題点整理について
- 10 発表と質疑応答（3）
基礎発表・ヤマトタケル物語の歌（葬儀の歌）
- 11 発表と質疑応答（4）
課題発表・ヤマトタケル物語の歌（火中の恋）
- 12 発表と質疑応答（5）
課題発表・ヤマトタケル物語の歌（思国歌）
- 13 発表と質疑応答（6）
課題発表・ヤマトタケル物語の歌（葬儀の歌）
- 14 レポートの書き方
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

「事前学修」演習発表のための基礎文献整理・用例検討、資料作製等の事前準備（学修時間 週2時間）

「事後学修」発表後の問題点整理、レポートのための追加調査が必須です（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

中村啓信 訳注：古事記[角川ソフィア文庫、2009、¥1,124(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。

発表・討論毎に毎時間フィードバックをします。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聞き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理力がアップします。討論には積極的な態度で臨んでください。

上代文学研究A

—万葉集を読む—

池田 三枝子

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

万葉集の歌を読み進めることにより、上代文学についての調査・研究方法の基礎を習得し、古代和歌の発想についての理解を深めます。

【授業における到達目標】

受講者各自が研究テーマを設定し、習得した調査・研究方法により課題を解決して結論を出すことができるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の2つを修得します。

- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

【授業の内容】

第1週	ガイダンス	
第2週	万葉集概説	— 四期分類について —
第3週	研究テーマの決定	
第4週	本文校訂①	— 諸本概説 —
第5週	本文校訂②	— 『校本万葉集』の使い方—
第6週	先行研究の調査と整理①	— 注釈書・辞書 —
第7週	先行研究の調査と整理②	— 研究書・研究論文 —
第8週	用例の調査と分析①	— 万葉集の用例 —
第9週	用例の調査と分析②	— 上代文献 —
第10週	口頭発表と質疑応答①	— 本文の異同を理解する —
第11週	口頭発表と質疑応答②	— 問題提起の仕方 —
第12週	口頭発表と質疑応答③	— 研究史の把握 —
第13週	口頭発表と質疑応答④	— 用例の博搜 —
第14週	口頭発表と質疑応答⑤	— 考察から結論へ —
第15週	まとめ	

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

上代文学は他分野と比較して先行研究が多いところに特徴があります。自分が設定した研究テーマに関して、事前に調査し、研究史を把握するようにしましょう。

発表に際しては、発表者以外の人も、注釈書を読む等の下調べをして臨んで、自説を展開できるようにして下さい。

- ・事後学修（週2時間）

発表を踏まえ、新たな課題にしっかり取り組んで下さい。

【テキスト・教材】

坂本信幸ほか：万葉事始[和泉書院、1995、¥700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に指示します。

上代文学研究B

—万葉集を読む—

池田 三枝子

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

万葉集の歌を読み進めることにより、上代文学についての調査・研究方法を習得し、周辺の文化事象をも視野に入れ、古代和歌とそれを取り巻く環境について理解を深めます。

【授業における到達目標】

受講者各自が研究テーマを設定し、習得した調査・研究方法により課題を解決して、学術論文を作成できるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の2つを修得します。

- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

【授業の内容】

第1週	ガイダンス	
第2週	研究テーマの設定	
第3週	学術論文の書き方①	— 章立て —
第4週	学術論文の書き方②	— 書式・用語 —
第5週	学術論文の書き方③	— 引用・注記 —
第6週	口頭発表と質疑応答①	— 章立て —
第7週	口頭発表と質疑応答②	— 問題提起 —
第8週	口頭発表と質疑応答③	— 研究史の整理 —
第9週	口頭発表と質疑応答④	— 用例の調査・分析 —
第10週	口頭発表と質疑応答⑤	— 考察 —
第11週	口頭発表と質疑応答⑥	— 小結 —
第12週	口頭発表と質疑応答⑦	— 想定される反論への対応 —
第13週	口頭発表と質疑応答⑧	— 結論 —
第14週	口頭発表と質疑応答⑨	— 注記 —
第15週	まとめ	

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者以外の人も発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

発表を踏まえ、学術論文作成に向けて、新たな課題に取り組みましょう。

【テキスト・教材】

坂本信幸ほか：万葉事始[和泉書院、1995、¥700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に指示します。

【注意事項】

万葉集に関する学術論文の作成を目的とする授業なので、上代文学に関する基礎知識を習得していることが条件となります。

上代文学史 a

上代散文作品を読む

森 陽香

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

主な上代文学作品としては、『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』などがありますが、この授業では、そのうち散文作品（『古事記』『日本書紀』『風土記』など）を取り上げます。

全15回の授業の内容は、およそ前半と後半とに分かれます。

前半は、まず文学作品成立に至るまでの、日本人の文字習得の過程を大まかに学んだ上で、上代散文作品を見渡してそれぞれの特徴を掴み、各作品に対する「出会い」の場を提供します。この作品の文体は難解に感じる・この作品は一つ一つの記事が短くて理解しやすい・この作品の内容は興味深い、など、単純な印象で構いませんので、上代散文作品に対する自分なりの感覚を養ってほしいと思います。

後半は、特定の内容（世界の始まりを語る神話伝承を予定します）に対象を絞って、各作品の中から関連する記述を拾い上げ、互いの特徴や関係性について考察を深め、「文学史」とはどういうものであるかを考えます。

【授業における到達目標】

- ・特定の作品に偏ることなく上代散文作品の全体像を見渡し、各作品の特徴やおおまかな内容を把握して、文学史を組み立てていく上での基礎的知識を習得する。（研鑽力）
- ・様々な作品を見比べることで、古代的な発想の多様さとその魅力を見つけ出す。（美の探究）

【授業の内容】

- 1週 上代散文作品の概要・文学とはなにか
- 2週 文字習得の歴史
- 3週 古事記を読む
- 4週 日本書紀を読む
- 5週 風土記を読む1 播磨・出雲
- 6週 風土記を読む2 常陸・豊後・肥前
- 7週 風土記を読む3 逸文
- 8週 日本霊異記を読む
- 9週 世界の始まりの神話1 古事記冒頭部分
- 10週 世界の始まりの神話2 古事記冒頭部分の続き
- 11週 世界の始まりの神話3 日本書紀冒頭部分
- 12週 世界の始まりの神話4 日本書紀冒頭部分の続き
- 13週 世界の始まりの神話5 諸国風土記
- 14週 世界の始まりの神話6 9週～13週全体の考察
- 15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントに目を通し、記事内容などについておおよそ理解しておいてください。（週1～2時間程度か）

事後学修：講義内容の理解度を確かめるために、全15回の講義中3回～5回ほどレポートを課す予定ですので、その作成に取り組んでください。（1回のレポート作成に4～5時間程度を要するか）

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、特定の教科書は定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「事後学修」の項に記したレポートによって評価（100%）します。レポートの提出は、学期末ではなく随時受け付けますので、必要と判断した際、より良いレポートの書き方や注意点について、授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

上代文学史 a

上代散文作品を読む

森 陽香

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

主な上代文学作品としては、『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』などがありますが、この授業では、そのうち散文作品（『古事記』『日本書紀』『風土記』など）を取り上げます。

全15回の授業の内容は、およそ前半と後半とに分かれます。

前半は、まず文学作品成立に至るまでの、日本人の文字習得の過程を大まかに学んだ上で、上代散文作品を見渡してそれぞれの特徴を掴み、各作品に対する「出会い」の場を提供します。この作品の文体は難解に感じる・この作品は一つ一つの記事が短くて理解しやすい・この作品の内容は興味深い、など、単純な印象で構いませんので、上代散文作品に対する自分なりの感覚を養ってほしいと思います。

後半は、特定の内容（世界の始まりを語る神話伝承を予定します）に対象を絞って、各作品の中から関連する記述を拾い上げ、互いの特徴や関係性について考察を深め、「文学史」とはどういうものであるかを考えます。

【授業における到達目標】

- ・特定の作品に偏ることなく上代散文作品の全体像を見渡し、各作品の特徴やおおまかな内容を把握して、文学史を組み立てていく上での基礎的知識を習得する。（研鑽力）
- ・様々な作品を見比べることで、古代的な発想の多様さとその魅力を見つけ出す。（美の探究）

【授業の内容】

- 1週 上代散文作品の概要・文学とはなにか
- 2週 文字習得の歴史
- 3週 古事記を読む
- 4週 日本書紀を読む
- 5週 風土記を読む1 播磨・出雲
- 6週 風土記を読む2 常陸・豊後・肥前
- 7週 風土記を読む3 逸文
- 8週 日本霊異記を読む
- 9週 世界の始まりの神話1 古事記冒頭部分
- 10週 世界の始まりの神話2 古事記冒頭部分の続き
- 11週 世界の始まりの神話3 日本書紀冒頭部分
- 12週 世界の始まりの神話4 日本書紀冒頭部分の続き
- 13週 世界の始まりの神話5 諸国風土記
- 14週 世界の始まりの神話6 9週～13週全体の考察
- 15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントに目を通し、記事内容などについておおよそ理解しておいてください。（週1～2時間程度か）

事後学修：講義内容の理解度を確かめるために、全15回の講義中3回～5回ほどレポートを課す予定ですので、その作成に取り組んでください。（1回のレポート作成に4～5時間程度を要するか）

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、特定の教科書は定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「事後学修」の項に記したレポートによって評価（100%）します。レポートの提出は、学期末ではなく随時受け付けますので、必要と判断した際、より良いレポートの書き方や注意点について、授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

上代文学史 b

—古代の歌の「読み方」を学ぶ—

池田 三枝子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。この授業では、わが国最古の歌集である万葉集の歌に見られる様々な要素を知り、古代の歌の「読み方」を学ぶことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目標としています。

【授業における到達目標】

以下の3つの態度・能力を修得します。

- ・日本の信仰や文学を知り、世界に発信しようとする国際的視野
- ・古代の日本文学に価値を見出し、感受性を深めようとする態度
- ・古代の歌を学ぶ楽しみを知り、探究する研鑽力

【授業の内容】

—ガイダンス—

第1週 ガイダンス

—古代の歌を「読む」ための基礎知識—

第2週 上代文学史概説

第3週 万葉集の成立と概要

第4週 万葉集の表記

—呪術的要素の強い歌—

第5週 雄略天皇御製歌

第6週 国見・歌垣・若菜摘み

第7週 古代の英雄の〈色ごのみ〉

—歴史性を持つ歌—

第8週 大津皇子関係歌群

第9週 大津皇子の謀反事件

第10週 懐風藻の詩伝

—文芸性の高い歌—

第11週 後期万葉の〈風流〉

第12週 大伴旅人と山上憶良

第13週 大伴家持の絶唱

—地方性の強い歌—

第14週 東歌・防人歌

—まとめ—

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

授業で扱う作品のテキスト（プリント）を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品及び参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

内容のまとめりに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容をよく復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

上代文学史 b

—古代の歌の「読み方」を学ぶ—

池田 三枝子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。この授業では、わが国最古の歌集である万葉集の歌に見られる様々な要素を知り、古代の歌の「読み方」を学ぶことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目標としています。

【授業における到達目標】

以下の3つの態度・能力を修得します。

- ・日本の信仰や文学を知り、世界に発信しようとする国際的視野
- ・古代の日本文学に価値を見出し、感受性を深めようとする態度
- ・古代の歌を学ぶ楽しみを知り、探究する研鑽力

【授業の内容】

—ガイダンス—

第1週 ガイダンス

—古代の歌を「読む」ための基礎知識—

第2週 上代文学史概説

第3週 万葉集の成立と概要

第4週 万葉集の表記

—呪術的要素の強い歌—

第5週 雄略天皇御製歌

第6週 国見・歌垣・若菜摘み

第7週 古代の英雄の〈色ごのみ〉

—歴史性を持つ歌—

第8週 大津皇子関係歌群

第9週 大津皇子の謀反事件

第10週 懐風藻の詩伝

—文芸性の高い歌—

第11週 後期万葉の〈風流〉

第12週 大伴旅人と山上憶良

第13週 大伴家持の絶唱

—地方性の強い歌—

第14週 東歌・防人歌

—まとめ—

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

授業で扱う作品のテキスト（プリント）を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品及び参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

内容のまとめごとに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容をよく復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

上代文学特殊演習A

— 『文選』を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

上代文学における比較文学的研究の基礎を習得するため、万葉集に多大なる影響を与えた中国・六朝の詞華集『文選』の中から作品を選んで読解します。

【授業における到達目標】

中国文学の読解力を身につけることにより、比較文学・比較文化的な考察ができるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 万葉集と漢文学① — 律令官人の教養 —
- 第3週 万葉集と漢文学② — 万葉歌人への影響 —
- 第4週 『文選』概説
- 第5週 『文選』読解① — 李善注を読む —
- 第6週 『文選』読解② — データベースに拠る出典調査 —
- 第7週 『文選』読解③ — 文献に拠る出典調査 —
- 第8週 『文選』読解④ — 訓読・口語訳の作成 —
- 第9週 口頭発表と質疑応答① — 問題意識のあり方 —
- 第10週 口頭発表と質疑応答② — 出典調査 —
- 第11週 口頭発表と質疑応答③ — 出典からの考察 —
- 第12週 口頭発表と質疑応答④ — 問題解決 —
- 第13週 口頭発表と質疑応答⑤ — まとめ —
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

口頭発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをして授業に臨んで下さい。

- ・事後学修（週2時間）

発表後は、討論を踏まえ、次の発表及びレポート作成までに問題点を解決するべく、用例を博搜して新たな論理を構築して下さい。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に指示します。

上代文学特殊演習B

— 後期万葉の作品を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

上代文学における比較文学的研究に習熟するため、『文選』をはじめとする漢籍から多大なる影響を受けている後期万葉の作品を選んで読解します。

【授業における到達目標】

比較文学・比較文学的考察を踏まえて、上代文学に関する学術論文を作成できるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 後期万葉概説
- 第3週 後期万葉の国際性
- 第4週 研究テーマの設定
- 第5週 学術論文の書き方—底本の選択—
- 第6週 学術論文の書き方—原文・訓点・訓読・訳の使い分け—
- 第7週 口頭発表と質疑応答(1) — 問題意識を明確化する —
- 第8週 口頭発表と質疑応答(2) — 研究史を把握する —
- 第9週 口頭発表と質疑応答(3) — 研究史を批判する —
- 第10週 口頭発表と質疑応答(4) — 用例を博搜する —
- 第11週 口頭発表と質疑応答(5) — 用例を分析する —
- 第12週 口頭発表と質疑応答(6) — 用例に基づき考察する —
- 第13週 口頭発表と質疑応答(7) — 考察から結論を導き出す —
- 第14週 口頭発表と質疑応答(8) — まとめ —
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

口頭発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをして授業に臨んで下さい。

- ・事後学修（週2時間）

討論を踏まえ、研究史の把握と用例の博搜につとめ、次の発表及びレポート作成までに、新たな論理を構築して下さい。

【テキスト・教材】

坂本信幸ほか：万葉事始[和泉書院、1995、¥700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に指示します。

情報とマスコミュニケーション

—メディア産業を理解する—

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

わたしたちの社会は、「複製されたたくさんの情報」を「不特定多数の人々」が利用することで成り立っています。

そこで、そうした情報を作り出し・流通させるメディア産業について学び、そこから私たちの生活がどのように成立しているのかを知り、さらには現代社会全体への理解につなげようと思います。

【授業における到達目標】

この授業では、主要なメディア産業を採りあげ、デジタルメディアの発達が各種のメディア産業に与えた影響について理解し、同時に、メディア産業の変化がわたしたちの暮らしに与える影響についても理解できるようになることをめざします。

そして、そうした学びによって、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思います。

【授業の内容】

- 01 はじめに： 変革期の中のメディア産業
- 02 放送業界 a テレビを中心に
- 03 放送業界 b ラジオを中心に
- 04 新聞業界 a 紙媒体を中心に
- 05 新聞業界 b 配信を中心に
- 06 出版業界 a 書籍を中心に
- 07 出版業界 b マンガを中心に
- 08 映像コンテンツ業界 a 映画を中心に
- 09 映像コンテンツ業界 b 動画を中心に
- 10 音楽業界 a パッケージを中心に
- 11 音楽業界 b 配信を中心に
- 12 インターネット業界・通信業界
- 13 エンターテインメント業界
- 14 技術革新の果てにあるもの
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配布の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

情報と社会

—情報社会の仕組みを知る—

板倉 文彦

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

現代の情報社会は、インターネットやメールをはじめとした各種の情報基盤の上に成り立っています。このような社会で我々が生活していくためには、情報リテラシーを持つことが重要となります。また、そこでやり取りされる「情報」は情報社会の中で重要な要素ですが、形ある「もの」ではないためその性質は理解しがたいものとなっています。

この講義では、情報を「もの」として認知した上で、現代社会とどのように関わっているのかを学習することにより、皆さんが生活している情報社会全体の仕組みを理解することができます。

【授業における到達目標】

情報社会についての理解が深まることで、今後も発展が見込まれる情報社会の進展に即して、生涯にわたり知を探求して学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、日々生活していくうえでも既存情報を活用して物事の真理を見極め新たな知を創造していくという、ディプロマ・ポリシーにある「美の探究」の態度と、ネットを通して世界とつながる「国際的視野」を身に付けることもできます。

【授業の内容】

1. 人間と情報とのかかわり
2. 情報ネットワーク
3. 情報ツール
4. ユビキタス社会の進展
5. 情報経済の現状
6. 企業活動と情報システム
7. 社会基盤としての情報システム
8. 情報社会におけるコミュニケーション
9. 情報セキュリティ
10. 情報社会における危機管理
11. 情報による社会変化
12. 情報社会の生き方
13. 情報社会の進展
14. 情報の応用事例
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

川合慧監修、駒谷昇一編著『IT Text（一般教育シリーズ）情報と社会』（オーム社）

情報と職業

菅原 淳史

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

現代社会においてコンピュータやインターネットを活用することは、あらゆる職種において今や不可欠となっています。今までは全く異なるビジネスモデルが次々と生まれてきており、社会の情報化は急激なスピードで進化してきました。コンピュータやインターネットなどの情報通信技術の発達が社会や既存のビジネスをどう変えてきたか、どのような新しいビジネスが可能となってきたかを学ぶことは、今後の情報社会で生きるために必要不可欠なことです。

また、本授業は普通教科「情報」および専門教科「情報」を担当できる高等学校教諭一種免許状（情報）取得のための「教科に関する科目」として設置されています。そのため、教科「情報」の教員として行うことになる、職業指導に必要な情報通信産業の最新の情報の把握方法についても講義・課題・発表を通して身につけていくこととします。

【授業における到達目標】

上記テーマに鑑み本授業では、現代社会、特に生活やビジネスにおける情報通信技術の関わりを光と影の両面から正しく理解するとともに、正しく活用できるようになることを目標とします。

修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得します。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報社会と情報システム
- 第3回 情報化による生活環境の変化
- 第4回 情報化によるビジネス環境の変化
- 第5回 企業における情報活用（情報活用の実例）
- 第6回 企業における情報活用（情報活用の問題点）
- 第7回 インターネットビジネス1（一般的な事例の紹介）
- 第8回 インターネットビジネス2（トピックス事例の紹介）
- 第9回 情報社会における犯罪と法制度
- 第10回 情報社会におけるリスクマネジメント
- 第11回 働く環境と労働観の変化
- 第12回 多様な働き方（SOHOとe-learning）
- 第13回 明日の情報社会1（高齢社会と情報化）
- 第14回 明日の情報社会2（教育の情報化）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】コンピュータや情報通信に関する日々のニュースや新聞に目を通し、世の中の動向を把握しておきましょう。簡潔にまとめたものを報告してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】e-learningシステムを活用して様々な課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小課題：30%、課題レポート：40%、発表レポート：30%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

【参考書】

- 情報と職業（改訂2版） 駒谷昇一他 オーム社
ISBN9784274216756
- 教科書 情報と職業 木暮仁 日科技連出版社 ISBN9784817192523
- 情報と職業：情報産業で働くための必要知識 山崎信雄 丸善プラットフォーム ISBN4944024924
- 情報と職業 近藤勲 丸善 ISBN4621070916

【注意事項】

講義テーマは多岐に渡ります。興味を持てる持てないは様々だと思いますが、興味を持てるテーマであれば特に、授業中に示される関連情報も含めて、より幅広く、また深く学習していきましょう。

情報アムニティ論

尾崎 博和

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

ヒト（人間）がつくりだす便利で美しいものは全てが善なのか。アメニティの追及はヒトとは何かを考えること。社会生活における情報・情報技術が果たす役割や影響も含め、我々がさまざまな環境へどのように適応しているのかを理解し、より快適で安全な生活をデザイン・創造する術を考究していきます。

【授業における到達目標】

物事を多角的に捉え真理を探究する態度を養います。自ら学び考える能力を修得し生きる術の糧とします。

【授業の内容】

- 第1週 情報システムとアメニティ
- 第2週 ヒト（人間）と情報技術
- 第3週 環境
- 第4週 環境への適応1（暑熱・寒冷）
- 第5週 環境への適応2（圧力・加速度）
- 第6週 環境への適応3（光・音・振動）
- 第7週 ストレスと人間
- 第8週 機能服と機能美
- 第9週 異常環境でのサバイバル
- 第10週 生活環境でのサバイバル
- 第11週 情報行動
- 第12週 情報活用の人間工学
- 第13週 望ましい情報社会
- 第14週 未来生活をデザインする
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲示する資料及び参考図書等を精読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題・小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、平常点（小課題/小テスト25%・授業に対する積極性25%）50%として総合的に評価します。

小課題・小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

- 菊池安行他著『生理人類学入門』（南江堂）
- 大塚柳太郎他著『人類生態学』（東京大学出版会）
- 日本生理人類学会居住環境評価研究部会編著『生理人類学からみた環境の科学』（彰国社）
- 浦昭二他編『情報システム学へのいざない[人間活動と情報技術の調和を求めて]改訂版』（培風館）

情報コミュニケーション

—最新のICTをキャッチアップしよう—

鈴木 裕信

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

ICT（情報通信技術）は日々進化しています。PCやタブレットだけではなくスマートフォンを操り、SNSを頻繁にアクセスする時代になりました。無線高速ネットワークも整備され、歩きながら世界中に動画を生中継をすることさえも可能になっています。通信インフラやハードウェアの進化に伴いコミュニケーションの種類も質もそして文化も変化します。情報コミュニケーションは、そのサービスの種類や性質、ハードウェアの種類や性質と切り離すことは出来ません。この授業は技術的な知識や技術を習得するだけではなく、グループディスカッションを通してお互いに意見を交わしていくことで一人一人が情報コミュニケーションについて考えます。

【授業における到達目標】

現在のICTに対して全体像を把握すること。ネットワーク文化について理解を深めること。コンテンツマネージメントシステムを使い情報発信をすることで研鑽力を高める。ストリーミング放送の企画と実施を通して行動力を示す。グループ討論と発表を通して協働力を高める。

【授業の内容】

- 第1週 ARPANETから現代のインターネットまでの歴史と変遷
- 第2週 CompuServeからTwitterまでのコミュニケーション変化
- 第3週 ブログ（CMS技術）と情報発信の実習
- 第4週 情報発信をテーマとしてグループディスカッション
- 第5週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答
- 第6週 ポケベルからAndroidまでハンドヘルドデバイスの変化
- 第7週 IBM PCからiPadまでパーソナルコンピュータの変化
- 第8週 ストリーミング動画配信の実習
- 第9週 パーソナル環境におけるICTをテーマとしてグループディスカッション
- 第10週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答
- 第11週 USENETからアメール・ピグまでユーザの実存性
- 第12週 パソコン通信から2ちゃんねるまでの匿名性
- 第13週 ビデオカンファレンス（サーバー・クラウド技術）の実習
- 第14週 ネットワーク上での実存性・匿名性をテーマとしてグループディスカッション
- 第15週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答

【事前・事後学修】

Google Documentで公開されている教材を利用して予習を行う（週2時間）。受講者に用意されている授業用ブログに授業のまとめや反省点を書くなどの復習を行う（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。授業で使用するテキスト・教材は実践女子学園のGMAILにログイン後アクセスできます。Google DocumentのURLはmanabaを参照してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発表、発言）50%、レポート50%
グループ発表での論評、ストリーミング番組の論評など随時授業のフィードバックを行います。

【参考書】

村井純 著 「角川インターネット講座（1）インターネットの基礎情報革命を支えるインフラストラクチャー」（KADOKAWA/角川学芸出版）

【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

情報サービス演習 a

レファレンスブックを用いた情報探索

川瀬 康子

3年 前期 1単位

【授業のテーマ】

レファレンスサービスについての基本的な意義と手法を学ぶ。また、レファレンスサービスに必要なツールの特徴を理解し、実際にツールを使った演習を行う。

【授業における到達目標】

レファレンスブックを使った探索方法を習得し、情報や文献探索の技能を身につけることを目標とする。また、各レファレンス質問を担当し、回答することで、レファレンス質問の実際を理解するとともに、プレゼンテーション能力を高める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス レファレンスサービスとは
- 第2週 情報探索の技法
- 第3週 レファレンスブックの情報源
- 第4週 探索方法とツール紹介（言語・事物・概念）
- 第5週 発表と解説
- 第6週 探索方法とツール紹介（人物・企業・団体）
- 第7週 発表と解説
- 第8週 探索方法とツール紹介（地理・歴史）
- 第9週 発表と解説
- 第10週 探索方法とツール紹介（図書）
- 第11週 発表と解説
- 第12週 探索方法とツール紹介（新聞・雑誌）
- 第13週 発表と解説
- 第14週 レファレンスインタビューの技法と実際 インタビューの実施
- 第15週 レファレンスインタビューの技法と実際 発表と解説

【事前・事後学修】

授業で学んだテーマごとに質問を割り当て、結果を記録票にまとめる。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

中山愛理：情報サービス演習〔ミネルヴァ書房、2017、¥2,800(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題 80%、発表20%
課題については次回の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

長澤雅男・石黒祐子『レファレンスブックス 三訂版』（日本図書館協会 2016年）

【注意事項】

この演習では図書館での作業や、授業時間外での作業を要する。

情報サービス演習 a

林 哲也

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

1年次で学んだ理論を踏まえ、情報や文献を調査する場合の実践的で基本的な知識と技術の修得を目指す。調べごとをする力を自身で体得し、利用者を直接支援する際の留意点を解説する。

【授業における到達目標】

情報に関する知識と理解を深め、情報スキルに通暁する。特に、図書館におけるレファレンス業務の実務的な能力や技能を例題を実習することによって修得する。学生が修得すべき「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる能力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 情報サービスの概念、機能
- 第2週 レファレンスブック・データベースの情報源
- 第3週 言語・文字の情報源
- 第4週 事物・事象の情報源
- 第5週 歴史・日時の情報源
- 第6週 地理・地名の情報源
- 第7週 人物・人名の情報源
- 第8週 図書・叢書の情報源
- 第9週 新聞・雑誌の情報源
- 第10週 新聞情報の探し方
- 第11週 情報リテラシー
- 第12週 オンライン資料
- 第13週 参考文献の書き方
- 第14週 発表と評価の補足
- 第15週 全体の総括

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の全問をこなすので、自分の提出ぶん以外も回答を用意すること。キャンパス外の図書館等も積極的に利用すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】他者の回答および授業で解説された内容を理解・確認し作業手順を点検すること。（学修時間 週0.5時間）

【テキスト・教材】

長澤雅男 石黒祐子：レファレンスブックス：選びかた・使[日本図書館協会、2017、¥1,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験は実施せず、毎週のレポート（manabaで提出し、同じ内容を紙に印刷したもの併せて提出）によって成績を評価する。レポートは全件を添削し、留意すべき事項を授業中に解説する。

成績評価の配分基準：レポート 100%

【参考書】

埜納タオ著『夜明けの図書館』（Jour comics）（双葉社 2011-2017年）

中山愛理編著『情報サービス演習：地域社会と人びとを支援する公共サービスの実践』（講座・図書館情報学；8）（ミネルヴァ書房 2017年）本体価格2,800円

【注意事項】

教科書は、必ずしも個人で購入しなくとも差し支えない。課題を毎週提出していただく。根拠となる出典を必ず明記すること。書誌事項は正確に。誤字脱字に注意。

情報サービス演習 b

情報検索演習

石原 眞理

3年 後期 1単位

【授業のテーマ】

情報活用や情報検索、データベースに関する基礎的な知識を身に付けた上で、CD-ROM「CD-ROMで学ぶ情報検索の演習」を使用して演習を行う。教材用のCD-ROMだけでなく、「CiNii Articles」「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」「裁判所 | 裁判例情報」「特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)」など、レファレンス・サービスを行う上で有用なデータベースを紹介し、検索の実習を行う。

【授業における到達目標】

- ・情報検索に必要な基礎的知識を身に付け、コンピュータを使用して情報検索ができるようになる。検索実習を行うことにより、様々なデータベースへのアクセス方法や活用方法を習得する。
- ・レファレンス・サービスに必要な、情報検索に関する知識・技術を身に付ける。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、求める情報源に的確にアクセスし、その中から必要な情報を取捨選択できる洞察力を習得する。

【授業の内容】

- 第1週 情報活用と情報リテラシー
- 第2週 情報検索とは何か／一次情報と二次情報
- 第3週 データベースとは
- 第4週 サーチエンジンを用いた検索
- 第5週 検索語とキーワード／件名標目表、シソーラス
- 第6週 自由語と統制語
- 第7週 再現率と精度／逐次検索と索引検索
- 第8週 検索の手順
- 第9週 検索式の作成
- 第10週 電子ジャーナル
- 第11週 人物略歴情報
- 第12週 雑誌記事情報
- 第13週 図書内容情報
- 第14週 新聞記事原報
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前：演習課題予定の情報検索システム等を調べる。
- ・事後：返却された演習課題の間違いや不明解な点を復習する。
- ・学修時間：事前・事後学修合わせて毎週 1 時間。

【テキスト・教材】

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）」のCD-ROM「CD-ROMで学ぶ情報検索の演習」で演習を行う。このシステムは演習室に搭載済み。
- ・講義・解説、演習課題は、毎回プリントで配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は演習課題（50%）とレポート（50%）で総合的に評価する。演習課題は次回の授業で（採点后返却）、解説と質問への回答によってフィードバックする。レポートは最終回の授業で作成し、提出する。

【参考書】

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）
- ・大谷康晴編著『情報検索演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ 6 日本図書館協会 2011）
- ・中島玲子他著『スキルアップ！ 情報検索—基本と実践』（日外アソシエーツ 2017）

【注意事項】

演習課題は授業時課すので、止むを得ず欠席した場合、配付したプリントと解答例を参考に必ず演習すること。

情報サービス演習 b

情報検索演習

石原 眞理

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

情報活用や情報検索、データベースに関する基礎的な知識を身に付けた上で、CD-ROM「CD-ROMで学ぶ情報検索の演習」を使用して演習を行う。教材用のCD-ROMだけでなく、「CiNii Articles」「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」「裁判所 | 裁判例情報」「特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)」など、レファレンス・サービスを行う上で有用なデータベースを紹介し、検索の実習を行う。

【授業における到達目標】

- ・情報検索に必要な基礎的知識を身に付け、コンピュータを使用して情報検索ができるようになる。検索実習を行うことにより、様々なデータベースへのアクセス方法や活用方法を習得する。
- ・レファレンス・サービスに必要な、情報検索に関する知識・技術を身に付ける。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、求める情報源に的確にアクセスし、その中から必要な情報を取捨選択できる洞察力を習得する。

【授業の内容】

- 第1週 情報活用と情報リテラシー
- 第2週 情報検索とは何か／一次情報と二次情報
- 第3週 データベースとは
- 第4週 サーチエンジンを用いた検索
- 第5週 検索語とキーワード／件名標目表、シソーラス
- 第6週 自由語と統制語
- 第7週 再現率と精度／逐次検索と索引検索
- 第8週 検索の手順
- 第9週 検索式の作成
- 第10週 電子ジャーナル
- 第11週 人物略歴情報
- 第12週 雑誌記事情報
- 第13週 図書内容情報
- 第14週 新聞記事原報
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前：演習課題予定の情報検索システム等を調べる。
- ・事後：返却された演習課題の間違いや不明解な点を復習する。
- ・学修時間：事前・事後学修合わせて毎週 1 時間。

【テキスト・教材】

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）」のCD-ROM「CD-ROMで学ぶ情報検索の演習」で演習を行う。このシステムは演習室に搭載済み。
- ・講義・解説、演習課題は、毎回プリントで配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は演習課題（50%）とレポート（50%）で総合的に評価する。演習課題は次回の授業で（採点后返却）、解説と質問への回答によってフィードバックする。レポートは最終回の授業で作成し、提出する。

【参考書】

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）
- ・大谷康晴編著『情報検索演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ 6 日本図書館協会 2011）
- ・中島玲子他著『スキルアップ！ 情報検索—基本と実践』（日外アソシエーツ 2017）

【注意事項】

演習課題は授業時課すので、止むを得ず欠席した場合、配付したプリントと解答例を参考に必ず演習すること。

情報サービス論

レファレンスサービスの理論を中心に

安藤 友張

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

図書館における情報サービスの中で、中心となるのがレファレンスサービスである。レファレンスサービスは、図書館員の専門性が要求される高度な利用者サービスである。本科目では、レファレンスサービスの理論を中心に解説する。演習科目「情報サービス演習a」「情報サービス演習b」の講義科目が本科目である。

【授業における到達目標】

- ・レファレンスサービスのプロセスを理解できる。
- ・レファレンスサービスの学習を通して、図書館における各種の課題解決型サービスの意義を理解できる。
- ・情報サービスの理論と実践を理解し、問題解決能力を獲得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：情報社会と図書館
- 第2回 図書館による情報サービスの意義と実際
- 第3回 レファレンスサービスの歴史① アメリカ
- 第4回 レファレンスサービスの歴史② 日本
- 第5回 情報探索行動とレファレンスプロセス
- 第6回 レファレンスインタビュー
- 第7回 レファレンスサービスの運営と組織
- 第8回 デジタルレファレンスサービス
- 第9回 情報検索とは何か
- 第10回 発信型情報サービス
- 第11回 利用者教育① 原理と方法
- 第12回 利用者教育② パスファインダー
- 第13回 各種情報源の解説と評価
- 第14回 各種情報源の特徴と利用法
- 第15回 各種情報源の組織化

【事前・事後学修】

【事前学修】利用者の立場から、図書館におけるレファレンスサービスを一度体験しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】受講生各自の日常生活における情報探索行動（例 就職活動）を記録し、本科目で学習した内容と照らしながら、検証すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

山崎久道：情報サービス論[樹村房、2012、¥2,000(税抜)、※R&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末に実施する筆記試験80%、課題（小レポート）20%で総合的に評価する。学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

小田光宏編著『情報サービス論』（日本図書館協会 2012年）

【注意事項】

本科目を履修した後、あるいは同一年度に演習科目「情報サービス演習a」「情報サービス演習b」を履修することが望ましい。

情報サービス論

—健康医療情報入門—

西脇 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は、履修者が健康で文化的な生活を構築するために必要な「健康医療情報」を収集し、健康や医療の情報を読み解き、活用できるようになることを目指しています。

現代社会は、疫学やEBMの考え方、NBMの考え方、患者会の役割など、メディアやインターネットをはじめとするさまざまな健康や医療の情報に満ちています。そこで授業は、健康情報の話題から始め、「患者のための医療情報収集ガイド」や「健康情報棚プロジェクト」等の話題も紹介します。健康医療情報を適切に理解し、また利用できるように読み解き、意思決定をするとき、問題を解決するとき、コミュニケーションをとるときに役立てられるよう情報サービスの所在を探求します。

【授業における到達目標】

- ・「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになることをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

【授業の内容】

- 第1週 健康医療情報とはなにか
- 第2週 健康と不健康
- 第3週 健康と運動
- 第4週 患者図書館
- 第5週 インフォームド・コンセント
- 第6週 セカンドオピニオン
- 第7週 疫学とEBM
- 第8週 患者のための医療情報収集ガイド
- 第9週 患者会の役割
- 第10週 ナラティブ（患者の語り）
- 第11週 NBMという考え方
- 第12週 プレゼンテーション：闘病記文庫
- 第13週 プレゼンテーション：健康情報棚プロジェクト
- 第14週 情報サービスとQOL
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：配布資料を次回授業までに読んで予習します。

（学修時間 週2時間）

事後学修：授業時に取り扱われた内容を復習します。また、内容に関連した諸情報を収集・整理します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配布するプリント資料を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼンテーション40%、平常点（授業中の発言、ドリル）60%。

ドリルは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

北澤京子著『患者のための医療情報収集ガイド』（筑摩書房 2009年）720円

情報セキュリティ社会

情報社会でプライバシーを守り安全に生活する

藤井 章博

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

技術革新の著しい分野であるため、最新の動向を、継続的に学習できるリテラシーを身につけることをテーマとする。情報化社会における光と影について考える。まず、一般利用者の立場から、サイバー犯罪とは何かを学ぶ。情報セキュリティの基盤技術としての暗号と認証について学ぶ。さらに、社会人として倫理的な考察が必要となったときの考え方を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・情報セキュリティのシステムの・運用的な課題を理解する。
- ・情報リテラシー教育における情報倫理の課題を理解する。
- ・社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につける。

【授業の内容】

1. 情報化社会の成り立ち
2. 情報セキュリティとはなにか
3. サイバー犯罪の事例（利用者）
4. サイバー犯罪の事例（子ども）
5. サイバー犯罪の事例（企業）
6. 暗号技術と認証技術
7. セキュリティポリシーと法律
8. 倫理学について
9. 情報倫理の考え方
10. セキュリティと法律
11. プライバシー（概念）
12. プライバシー（教育現場の事例）
13. 職業倫理（フォードピント事件）
14. 職業倫理（スペースシャトル事件）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】：テキストの次の週の内容を予習してください。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】：授業内容の復習として、取り扱われた内容について、新聞記事や週刊誌の記事等を確認し復習してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

視聴覚教材を併用する。

山田恒夫「情報のセキュリティと倫理」NHK出版、2700円

2014年出版、ISBN978-4-595-31498-8

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（説明への理解度）40%

試験を実施する予定。（60%）

討論を通じて内容の理解の確認とフィードバックを実施する。

試験は、自筆ノート持ち込み可とする予定。

【注意事項】

テキスト教材は購入を推奨します。

情報ネットワーク

高度情報社会でネットとつながる意味を考える

駒谷 真美

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

スマートフォンからインターネットへ、ネットワークに接続された世界の中で、我々は生きている。ネットワークについて、技術は日進月歩だが、その一方で、根本的かつ普遍的な知識の理解が求められている。そこで本授業では、インターネットの仕組み・情報セキュリティ・情報倫理についての基礎を学修し、知識の定着に基づいたソーシャルメディアコミュニケーション（SMC）のスキルを促進する。本授業は、ネットワークの基礎知識とSMC技能を体得する、メディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

【授業における到達目標】

MIL基礎段階の目標は、① [情報利活用] 適切かつ能動的に情報を検索・収集・選択・分析・表現・伝達・発信できる ② [情報モラル] 情報発信で配慮・遵守すべき点と自己責任の重要性を理解できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき [行動力] 「現状の正確な把握と課題発見できる力」を研鑽する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaによる学修法の説明・事前アンケート
2. ネットワーク (1) インターネットの技術について講義・討論
ネットワーク (2) ネットサービスについて講義・討論
3. ネットワーク (3) マルチメディアとデータについて講義・討論
ネットワーク (4) コンピュータシステムについて講義・討論
4. 情報セキュリティ (1) ウィルスについて講義・討論
情報セキュリティ (2) ネット詐欺について講義・討論
5. 情報セキュリティ (3) 情報漏洩と暗号化について講義・討論
情報セキュリティ (4) パスワード管理について講義・討論
6. 情報セキュリティ (5) ゲームで学ぶワークショップ
7. 情報モラル (1) 情報社会の権利と法律について講義・討論
情報モラル (2) 著作権の基礎について講義・討論
情報モラル (3) 著作権のリスクについて講義・討論
8. 情報モラル (4) SNSの落とし穴について講義・討論
9. 情報モラル (5) SMCのマナーについて講義・討論
10. 情報モラル(6) SMCの最新事例と問題点 討論
11. 情報ネットワークの最前線 (1) 検討会
12. 情報ネットワークの最前線 (2) プレゼン・討論・講評
13. 情報ネットワークの最前線 (3) プレゼン・討論・講評
14. 情報ネットワークの最前線 (4) プレゼン・討論・講評
15. 総括 フィードバック・事後アンケート

*2～6回の間、外部講師（情報セキュリティ専門）招聘予定

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、指定テキストやmanabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。

【テキスト・教材】

キーワードで学ぶ 最新情報トピックス 2018[日経BPマーケティング社・クラウド版]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 5）50%+活動点（ディスカッション・プレゼン・パワポ）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・履修は上限25人を目安とする。超過した場合は初回に抽選する。グループ活動の進捗状況により授業外での自主活動も想定される。

情報メディアの活用

情報リテラシーの涵養

安藤 友張

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

学校教育において、多種多様な情報メディア（例 電子黒板）を活用した授業が増えている。本科目では、印刷メディアのみならず、電子メディアの特性もふまえながら、授業における情報メディアの活用の在り方を考える。司書教諭に求められる情報検索の専門的知識なども学習する。現在、学校教育への導入が予定されている「デジタル教科書」の長所・短所も考える。

【授業における到達目標】

・インターネット時代に求められる情報リテラシーやメディアリテラシーを修得し、物事の本質を見抜く能力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報メディアの発達史
- 第3回 情報メディアの種類とその特性 ①印刷メディア
- 第4回 情報メディアの種類とその特性 ②電子書籍・ウェブ・SNS
- 第5回 情報メディアの種類とその特性 ③教育用ソフトウェア
- 第6回 情報メディアを活用した授業の在り方 ① 反転授業の意義と問題点
- 第7回 情報メディアを活用した授業の在り方 ② グループワーク（課題提示）
- 第8回 情報メディアを活用した授業の在り方 ③ グループワーク（討議など）
- 第9回 情報メディアを活用した授業の在り方 ④ グループワーク（振り返り）
- 第10回 情報検索の理論と実際 ① 論理演算子など
- 第11回 情報検索の理論と実際 ② OPAC・サーチエンジン
- 第12回 インターネットによる情報発信
- 第13回 学校図書館メディアと著作権 ① 著作権法の解説
- 第14回 学校図書館メディアと著作権 ② 学校現場において直面する著作権問題
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

サーチエンジンを使いながら、その長所と短所を考えておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】

授業中に配布したプリントを使って、図書館情報学の専門用語を復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

山本順一編『情報メディアの活用 三訂版』放送大学教育振興会、2016年

【注意事項】

コンピュータを使った演習とグループワークを実施する予定なので、主体的に授業に参加すること。

情報リテラシー 1 a

—基本的な知識とスキルを身につける—

青木 聖子・浅原 房夫・飯泉 恵美子・久保 ちづる

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、社会生活をする上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。

本学に用意されている情報機器とソフトウェアの操作を習得し、インターネットを活用する基本的な知識を身につけてもらいます。

【授業における到達目標】

文書作成の基本となるワープロソフト「Word」を習得し、同ソフトの検定に合格できるレベルを目指します。

そうした能力を身につける過程で、課題解決のために主体的に行動する力も身につけてもらおうと思います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 コンピュータの基本操作（インターネット、情報倫理）
- 第3週 基本的な文書作成を理解する（基本編）
- 第4週 基本的な文書作成を理解する（応用編）
- 第5週 表の作成操作（基本編）
- 第6週 表の作成操作（応用編）
- 第7週 表を活用した文書作成（基本編）
- 第8週 表を活用した文書作成（応用編）
- 第9週 図の挿入と画像処理
- 第10週 図および画像を活用した文書作成（基本編）
- 第11週 図および画像を活用した文書作成（応用編）
- 第12週 総合課題① ポスター作成
- 第13週 総合課題② 学級新聞作成
- 第14週 総合課題③ チラシ作成
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：前回の講義内容をきちんと復習しておくこと。
- ・事後学修：復習を兼ねた宿題を確実に提出すること。
- ・事前・事後学修ともに、それぞれ週1時間以上をあてること。

【テキスト・教材】

- ・開講時に指示します。
- ・指定の USB メモリ
- ・サブテキストとして、「実践女子大学・実践女子大学短期大学部 情報システム利用ガイド」（電子版・pdf ファイル）を参照・利用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：定期試験の成績50%・平常点（提出課題等）50%
- ・授業内の課題に対して、適宜、フィードバックします。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

- ・授業内容は基本的に同一だが、クラス（担当者）によって、進行度などが異なる場合があります。
- また、授業内容の順序の変更が行われる場合があります。
- 詳細については、各クラスの授業開始時に説明します。
- ・履修者全員の検定合格を目標としますが、受験は任意です。
- ・レベルに応じたクラス分けを行います。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。

情報リテラシー 1 b

—Excelを自分のものにする—

青木 聖子・浅原 房夫・久保 ちづる

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

「情報リテラシー 1a」での学びを踏まえ、コンピュータ利用技能をさらに充実させるための科目です。ワープロソフトの「Word」とならんで、学びの場でも社会人となっても必要な表計算ソフト「Excel」を活用できるようになることを目指します。

「情報リテラシー 1a」と同じく、学生の習熟度に合わせて2つのクラスを設置しています。基本的に授業内容は変わりませんが、到達目標のレベルを変えています。

【授業における到達目標】

表計算ソフト「Excel」検定に合格できるレベルを目指します。

そうした能力を身につける過程で、課題解決のために主体的に行動する力も身につけてもらいます。

【授業の内容】

- 第1週 「情報リテラシー 1 a」の復習、情報化社会に対応したインターネット活用
- 第2週 ワークシートに関する基本操作の導入
- 第3週 作業環境
- 第4週 セルの書式設定、データ編集
- 第5週 数式の理解
- 第6週 関数の理解
- 第7週 グラフの作成と変更
- 第8週 オブジェクトの作成・書式
- 第9週 データベース機能
- 第10週 入出力
- 第11週 プレゼンテーション等、他ソフトへのデータ活用
- 第12週 総合課題① 海外旅行統計
- 第13週 総合課題② 売上集計
- 第14週 総合課題③ 売上状況分析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：前回の講義内容をきちんと復習しておくこと。
- ・事後学修：復習を兼ねた宿題を確実に提出すること。
- ・事前・事後学修とも、それぞれ週1時間以上をあてること。

【テキスト・教材】

- ・開講時に指示します。
- ・指定の USB メモリ（「情報リテラシー 1a」で購入したもの）
- ・サブテキストとして、「実践女子大学・実践女子大学短期大学部 情報システム利用ガイド」（電子版・pdf ファイル）を参照・利用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：定期試験の成績50%・平常点（提出課題等）50%
- ・授業内の課題に対して、適宜、フィードバックします。

【参考書】

授業内で指示します。

【注意事項】

- ・授業内容は基本的に同一だが、クラス（担当者）によって、進行度などが異なる場合があります。また、授業内容の順序の変更が行われる場合があります。
- 詳細については、各クラスの授業開始時に説明します。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ・履修者全員の検定合格を目標とするが、受験は任意です。
- ・教員によって担当クラス（基礎・応用）が異なるので、時間割表内の表記を確認した上で受講登録をすること。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。

情報リテラシー応用

—情報活用試験2級合格を目指す—

板倉 文彦

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この講義では、「情報リテラシー入門」で学んだ内容について、さらに深めていくことを目標とします。具体的には、情報をより高度に活用するための、パソコン・ネットワーク・情報システム等の知識を広く学びます。

現代企業では、どの職場にもコンピュータシステムが導入され、社員はパソコンを活用して業務を進める機会が多くなっています。また、そこではより高度な情報活用を可能とするIT知識を持つことが重要視されてきています。

この講義で得た知識は、社会に出た後にコンピュータを活用する上での基礎的能力となります。

学習の成果として情報検定（J検）「情報活用試験2級」の合格を目指しましょう。

【授業における到達目標】

情報社会は今後ますます進展していきます。この授業で情報スキルの基礎を身につけることで、今後の情報社会の進展に自ら対応するために学ぶ「研鑽力」と「行動力」、情報ツールを活用して協働する「協働力」を身につけることが可能となります。

【授業の内容】

- 第1週 データと情報
- 第2週 問題解決処理手順
- 第3週 コンピュータの種類と動作原理
- 第4週 パソコン関連機器とインタフェース
- 第5週 インターネットの基礎
- 第6週 アプリケーションの利用と活用
- 第7週 経営戦略とシステム戦略—企業活動
- 第8週 企業法務
- 第9週 経営マネジメント
- 第10週 システム戦略
- 第11週 システム開発／プロジェクトマネジメント
- 第12週 サービスマネジメント
- 第13週 情報活用試験2級 模擬試験（過去問題等）第1回
- 第14週 情報活用試験2級 模擬試験（過去問題等）第2回
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回の授業内容を、テキストの該当箇所ですり習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業で指示した部分の練習問題を解く（週2時間程度）

【テキスト・教材】

改訂2版 J検情報活用1級・2級完全対策公式テキスト[日本能率協会マネジメントセンター、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

必要に応じてその都度指示をします。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

情報リテラシー応用 a

ポストカードの制作を通して学ぶ「情報の編集技術」

光武 智子

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

参考になる資料の紹介は随時行います。

【注意事項】

課題制作のためには積極的な姿勢が必要です。

授業時間だけでなく、日常的に制作テーマに関心をもって過ごすよう心がけて下さい。

※募集人数は40名です。

【授業のテーマ】

本講義では、「デジタル画像の編集技術」をテーマに学習します。実習には、世界標準の画像加工ソフトのAdobe社のPhotoshopを使用します。このソフトによる「画像編集」スキルの習得は、「資料やレポート作成」、「趣味や学習」、「企業の広報部門や雑誌編集などメディアの仕事」に役立ちます。

制作課題1では、身近な「ポストカード」を制作します。印刷用原稿の制作には、同じAdobe社のIllustratorを使用します。制作課題2では「ブックカバー」を制作します。こちらは、A4サイズの文庫本用のオリジナルブックカバーをデザインし、質感のある用紙に印刷することでアナログのもつ温かみも実感することができます。なお、ここで扱う視覚情報の編集には、カラーユニバーサルデザインの知識として「誰にでも読みやすい背景と文字の色の組み合わせ」について学びます。これは、例えば企業の広報担当には必須のスキルです。また、ファイルの名前の付け方、フォルダを活用したデータの整理や管理も重要です。これらのディレクトリ（フォルダ）管理の基本もデザイン制作と共に学びます。

【授業における到達目標】

1. Illustratorのベクター画像、Photoshopのラスター画像の2種類のデジタル画像の特徴と違いを理解し、アイデアを作品にするまでの一連のデザインプロセスを理解します。
2. 視覚情報の編集に際し、誰にでも読みやすい背景と文字の色の組み合わせ等カラーユニバーサルデザインの知識も身に付けます。
3. デザイン制作と共に、データ形式、ファイル名の付け方、これらのディレクトリ（フォルダ）管理の基本も学びます。

以上の学びを通して「美の探求」と「行動力」を養います。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 Photoshopのしくみ
- 第3週 正確な選択範囲
- 第4週 画像の合成 その1 合成する2つの画像を選ぶ
- 第5週 画像の合成 その2 画像サイズの調整—Pixel数を揃える
- 第6週 画像の選択と合成
- 第7週 色調を変える
- 第8週 「ポストカードの制作」 1：Illustratorに画像を配置する
- 第9週 「ポストカードの制作」 2：印刷用原稿に保存する
- 第10週 カラーユニバーサルデザインについて
- 第11週 「ポストカードの制作」 3：印刷と裁断
- 第12週 デジタル画像の基礎：写真の処理と合成
- 第13週 「ブックカバーの制作」 1：アイデアと写真・図形の処理
- 第14週 「ブックカバーの制作」 2：編集レイアウト
- 第15週 「ブックカバーの制作」 3：印刷（完成とレポート）

【事前・事後学修】

事前学修：「ポストカード」課題では写真を使います。

画像合成用のデータとして、インターネットで著作権フリーの画像を検索し、画素数を確認する等、必要な情報収集に慣れておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：前の週で学んだデジタル画像の加工操作を復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料が必要な場合は、授業毎に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（課題制作への積極的な姿勢）40%、各課題の提出物40%、提出レポート20%を配分基準として成績評価します。

フィードバックについては、授業内で事例を提示しながら適宜行います。

【参考書】

情報リテラシー応用 a

PhotoshopとIllustratorによる画像制作

盛川 浩志

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

画像の加工処理用ソフトウェアであるPhotoshopとIllustratorを用い、コンピュータにおける画像作成の技術や理論を学修します。アプリケーションの操作方法を習得するだけでなく、コンピュータでの画像データの扱いや、その特性についても学修していきます。

PhotoshopやIllustratorは、コンピュータグラフィックスを扱うソフトウェアとして事実上の標準となっているため、これらのソフトウェアの使用法の体得は自身のキャリアデザインにも寄与します。

また、実習形式で課題を行うことで、効果的なレイアウトデザインのスキルを身につけることも目指します。具体的なテーマとして雑誌記事を模したレイアウトの作成など身近な題材を設定し、画像素材の収集と加工、レイアウトなどを行います。世の中に出回っている出版物や映像コンテンツを観察し、参考にすることで、情報デザインの重要性についての視点を養えることを期待します。

さらに、ユニバーサルデザインや認知心理学の話題にも触れ、単なるアプリケーションソフトの使用法の学修ではなく、これからの社会に役立つ知識として体得することを目指します。

【授業における到達目標】

情報を伝達するメディアに対して、制作者としての視点を得ることにより、情報デザインに対する洞察力や、自身で制作する行動力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 コンピュータにおける画像の編集
- 第2週 Photoshopの基本操作1（ピクセルとカラー）
- 第3週 Photoshopの基本操作2（選択範囲とレイヤー）
- 第4週 Photoshopの基本操作3（レイヤーによる調整）
- 第5週 Photoshopの基本操作4（マスクとテキスト）
- 第6週 デザイン実習
- 第7週 課題発表1
- 第8週 情報デザインの理論と実践
- 第9週 Illustratorの基本操作1（テキストの要素）
- 第10週 Illustratorの基本操作2（オブジェクトの配置と整列）
- 第11週 Illustratorの基本操作3（レイアウトの実践）
- 第12週 レイアウト実習1（素材の収集）
- 第13週 レイアウト実習2（素材の解析と編集）
- 第14週 レイアウト実習3（理論の実践）
- 第15週 課題発表2と総括

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間相当）： 素材の収集、発表課題の作成

事後学修（週2時間相当）： 関連資料の調査

【テキスト・教材】

適宜、学習支援システムを用いて、資料や実習素材を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

制作課題の発表（2回） 80%

レポート 20%

授業内で課題を発表し、ディスカッションも含めたフィードバックを行います。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

実習が基本となるため、欠席すると内容についていけなくなる恐れがあります。また、特定のソフトウェアを使用するため、自宅での自習は困難な可能性もあります。毎回の出席を意識してください。

※募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 b

実践的Office系ソフト操作技術の理解と実践

菅原 淳史

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

ワープロ、表計算、プレゼンテーションといった、いわゆるOffice系ソフトの操作スキルは、大学での学修、研究活動において、もはや当たり前のものとなっており、社会においても当然のスキルとして求められるものとなっています。本学でも1年時に情報リテラシーの必修科目において学修する内容として設定されていますが、その操作方法の要素としての知識は会得しているものの、なかなか実用上の使える技術にまでは至っていない人が多いのではないのでしょうか。

そこで本講では、マイクロソフト社のOffice系ソフト（Word、Excel、PowerPoint）を使用した実践的課題を実施することで、実用技術として向上させていくこととします。その一環としてMOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）資格試験の練習問題も取り上げます。

【授業における到達目標】

マイクロソフトOffice（Word、Excel、PowerPoint）について、操作方法の要素知識から実用上の使える技術へと向上させることを目的とします。さらに、MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）資格取得を目指すきっかけともなってもらいたいと思います。学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決につなげる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 基本事項の確認1（Word編）
- 第3週 基本事項の確認2（Excel編）
- 第4週 基本事項の確認3（PowerPoint編）
- 第5週 実践的課題1（Word編：基本編集と作表）
- 第6週 実践的課題2（Word編：基本編集とオブジェクト類）
- 第7週 実践的課題3（Excel編：セル参照式と関数）
- 第8週 実践的課題4（Excel編：集計グラフ化）
- 第9週 実践的課題5（Excel編：総合課題）
- 第10週 実践的課題6（PowerPoint編：基本編集とアニメーション）
- 第11週 実践的課題7（PowerPoint編：プレゼン実施）
- 第12週 MOS練習問題1（Word編）
- 第13週 MOS練習問題2（Excel編）
- 第14週 MOS練習問題3（PowerPoint編）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回のテーマに対応する資料に目を通し、練習試行等に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題、小テスト、練習課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて指示、あるいはプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教場における小課題：30%、最終まとめ課題：50%、授業態度（質問へのコメントおよび実習取組み姿勢）：20%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

【参考書】

授業において紹介します。

【注意事項】

情報リテラシー基礎1の修得を基本として、学内システムの利用が出来ることが前提です。特に共有フォルダは実習で使用しますので、その使い方を理解しておいてください。また、基本事項は確認程度ですので、情報リテラシー基礎1で使用した教科書の内容は全て理解した上で臨んでください。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 b

Word/Excel/PowerPoint技術の習得

河野 康成

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、Microsoft Officeの技術を習得し、MOSの試験等を念頭に置いています。しかしながら、資格以上に、それらの技術をいかに大学や社会で活用できるかの方が重要です。たとえば、Wordの場合、大学では分野（心理学、社会学等）や内容によって書式が異なり、社会でも公官庁や民間などで仕様が異なります。また、Excelについては、結果をしっかりと作成したとしても、その前段階である分析自体が間違っていると問題となります。さらに、PowerPointは、アウトプットの見栄えが良くてもプレゼンテーション能力が伴わなければ相手に伝わりません。最終的には、技術とともに実践できる能力の養成を目標としています。

【授業における到達目標】

【行動力】

ソフトウェアを想定される場（大学や社会）で活用できる。

【国際的視野・研鑽力】

国際関連も含めたデータを読みとることができる。

【技能・操作・表現】

Word、Excel、PowerPointの基礎的操作ができる。

効果的なプレゼンテーションができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（MOSと大学・実社会）
- 第2週 Word（文書の作成と管理）
- 第3週 Word（文字、段落、セクションの書式設定・表やリストの作成）
- 第4週 Word（参考資料の作成と管理・グラフィック要素の挿入と書式設定）
- 第5週 Word到達度確認テスト
- 第6週 Excel（ワークシートやブックの作成と管理）
- 第7週 Excel（セルやセル範囲のデータの管理・テーブルの作成）
- 第8週 Excel（数式や関数を使用した演算の実行・グラフやオブジェクトの作成）
- 第9週 Excel到達度確認テスト
- 第10週 PowerPoint（プレゼンテーションの作成と管理・テキスト、図形、画像の挿入と書式設定）
- 第11週 PowerPoint（表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入・画面切り替えやアニメーションの適用・複数のプレゼンテーションの管理）
- 第12週 PowerPoint到達度確認テスト
- 第13週 プレゼンテーション（発表）
- 第14週 プレゼンテーション（未発表者の発表、評価）
- 第15週 まとめおよび事後アンケート

本授業のシラバスでは、以下のサイトを参照しています。

試験概要 | MOS公式サイト

<https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/>

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：前の週に実習項目を伝達しますので、それについて予習してきてください。

事後学修（週2時間）：当日の内容について、特に容易に操作ができなかった箇所を復習してください。

【テキスト・教材】

PowerPoint講義資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・成績評価の方法・基準

到達度確認テスト：50%

プレゼンテーション：10%

平常点：40% 授業内/授業外小課題等

上記を総合的に見て判断します。

・フィードバック

manabaを活用しますが、休憩時間および時間外（メール）で、調べ（分析）してもわからなかったことに対して質問を受けます。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【注意事項】

授業内容は、進行状況や受講生の希望により変更する場合があります。*募集人員は、40名です。

情報リテラシー応用 b

笠原 邦子

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

Officeスイート（Word、Excel、PowerPoint）を統合的に使い、効率の良い文書作成技能を身につけると共に、企業で必要とされるデータ処理スキルやプロジェクトの進捗状況報告などに必要なプレゼンテーションスキルを修得することを目標とする。

MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）の準備にもなります。

【授業における到達目標】

Officeスイートのいろいろな機能を理解することにより、適切なツールを選び、活用することができるようになる。

グローバルスタンダードのOfficeスイートを統合的に使い、社会に必要なドキュメントを効率的に作成する技能が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 Excel 1（基本操作の確認）
- 第3週 Excel 2（関数 1 論理関数、検索/行列関数）
- 第4週 Excel 3（関数 2 文字列操作関数、日付関数）
- 第5週 Excel 4（外部データの取り込みとデータ管理機能）
- 第6週 Excel 5（データの集計、分析、予測）
- 第7週 Word 1（基本操作の確認）
- 第8週 Word 2（オブジェクトの操作）
- 第9週 Word 3（ビジネス文書）
- 第10週 Word 4（長文作成機能）
- 第11週 総合問題
- 第12週 PowerPoint 1（基本操作の確認）
- 第13週 PowerPoint 2（プレゼンテーションの作成）
- 第14週 PowerPoint 3（プレゼンテーションスキル）
- 第15週 プレゼンテーションと相互評価

【事前・事後学修】

情報リテラシー基礎 1 で学習したOfficeスイートの基本操作を確認しておくこと。毎回授業内容を復習し、次回以降の授業に備えてください。また、課題やレポートの作成に積極的にOfficeスイートを使用してください。（学修時間 週 4 時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題：70%、プレゼンテーション：30%で評価します。プレゼンテーション後にフィードバックを行います。

【注意事項】

情報リテラシー基礎 1 を履修していることを前提に授業を行います。

演習の授業なので遅刻・欠席することがないように心がけてください。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 b

土屋 陽介

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

PCおよび文書作成ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint等）を使って、ビジネス文書、レポート、論文、掲示物、プレゼンテーション資料等のビジネスの現場で実際に必要となる各種文書を作成できるように演習を行います。MOS資格の取得も視野に入れ、文書作成ソフトウェアを使いこなし、効率的・効果的に業務文書を作成する技術を修得します。

【授業における到達目標】

- ・Word、Excel等を使ったビジネス文書やレポートなどの文書作成技術の修得
 - 綺麗な文書を作成できるようになる
 - 読みやすい文書を作成できるようになる
- ・PowerPointによる図解技術の修得
 - 文章だけでなく、図によって相手に伝えることができるようになる
 - 効率良く相手に情報を伝えることができるようになる

【授業の内容】

- 第1週：PCの基本操作、タイピングの確認
- 第2週：（Word）Wordの基本操作のおさらい
- 第3週：（Word）デザイン、スタイルの適用、各種レイアウト設定
- 第4週：（Word）ビジネス文書の作成（表の活用、差し込み文書）
- 第5週：（Word）レポートの作成（目次、脚注、図表番号、引用文献）
- 第6週：（Word）共同編集（コメント、変更履歴）
- 第7週：（Excel）Excelの基本操作のおさらい
- 第8週：（Excel）データベース機能（ソート、フィルター）
- 第9週：（Excel）エラー表示とその対応方法
- 第10週：（Excel）ピボットテーブルを用いたクロス集計
- 第11週：（Excel）マクロの記録と実行
- 第12週：（PowerPoint）各種図形の基本
- 第13週：（PowerPoint）図を使った表現方法
- 第14週：（PowerPoint）図解の練習
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

この授業では演習の積み重ねで文書作成技術を修得していきます。自分一人の力でも各種文書が作成できるようになるために、毎回の授業内容を最低でも週4時間分は復習してください。それが復習でもあり、次回の授業内容の予習でもあります。

【テキスト・教材】

特になし。
適宜、資料や参考URLを提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題（50%）
テスト（50%）
フィードバックとして、最終試験後に全ての文書ファイルの完成例をmanaba上に提示します。必ず確認するようにしてください。

【参考書】

情報リテラシー 入門編 Windows 10・Office 2016対応、FOM出版
Microsoft Word 2016 & Excel 2016 & PowerPoint 2016 改訂版（よくわかる）、FOM出版
Word 2016 & Excel 2016 スキルアップ問題集 操作マスター編（よくわかる）、FOM出版

【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

データベースの理解と実践

菅原 淳史

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

Face book、Twitter等のSNSをはじめとしてインターネット上には様々な便利なサービスが展開されており、我々の生活において必要不可欠なものとなっています。こうしたサービスの背後では実は必ずと言っていいほどデータベースが稼働しており、これらのサービスを土台として支えている場合がほとんどです。また、インターネット上のサービスに限らず、我々の日々の生活や企業活動で利用されるシステムにおいてもデータベースが直接的間接的に稼働しているものは多く、データベース技術について学ぶことは重要です。

本授業では、座学によるデータベースの概要理解とデータベースの基本的な操作実習を通して学んでいきます。実習環境には、MS-Accessを用います。AccessはGUI環境でデータベースを扱える便利なソフトですが、実はその裏側でデータベースを操作するためのSQLが動いており、本講ではそのSQLを直接操作する形でのSQL言語実習を行います。GUI操作とSQL操作の結果を比較することも可能なので、理解の助けになると思われます。

【授業における到達目標】

データベースを自ら構築できるだけの基本的な技術を身に付けることを目的とします。さらに、各種情報技術関連資格の取得を目指すきっかけともなってほしいと思います。学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決につなげる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 データベースの基礎知識1（データベースとは?）
- 第3週 データベースの基礎知識2（データベースの仕組み）
- 第4週 データベースの基礎知識3（データベースの設計）
- 第5週 データベースの操作1（テーブルの設計と構築）
- 第6週 データベースの操作2（データ入出力と編集）
- 第7週 データベースの操作3（複数テーブルの利用）
- 第8週 データベースの操作4（検索と抽出）
- 第9週 データベースの操作5（計算・集計・分析）
- 第10週 データベースの構築1（基本構想と仕様検討）
- 第11週 データベースの構築2（テーブルと入出力系の作成）
- 第12週 データベースの構築3（ビューの作成）
- 第13週 データベースの構築4（動作確認と修正）
- 第14週 課題プレゼンと相互評価
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回のテーマに対応する資料に目を通し、練習試行等に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題、小テスト、練習課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて指示、あるいはプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教場における小課題：30%、課題レポート：50%、授業態度（質問へのコメントおよび実習取り組み姿勢）：20%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

【参考書】

授業において紹介します。

【注意事項】

情報リテラシー基礎1の修得を基本として、学内システムの利用が出来ることが前提です。特に共有フォルダは実習で使用しますので、その使い方を理解しておいてください。データベースについての予備知識は不要です。また、履修者数により異なりますが、データベース構築の課題はグループワークとして実施する予定です。グループ間のコミュニケーションを密にして積極的に作業に参加するようにしてください。*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

統計ソフト・データベースソフトの利用方法の学習

中山 厚徳

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

データが大規模化・多様化する時代に合わせ、データ分析・データベースソフトの利活用を目的とし、Excel、SPSSなどの統計ソフト・データベースソフトの利用方法を学びます。そして、データ分析の基礎知識の習得、データベースの構築やそのデータベースを活用して分析するスキルの習得を目指します。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」において広い視野と深い洞察力を身につけ本質を見抜く力を修得を目指します。また「行動力」において現状を正しく把握し課題を発見する力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週ガイダンスーデータ分析の必要性ー
- 第2週データの整理と集計（1）ーExcelの機能を用いたデータ集計方法ー
- 第3週データの整理と集計（2）ーピボットテーブルを用いたデータ集計方法ー
- 第4週データ分析の練習（1）ー質的変数の視覚化と要約（一変数）ー
- 第5週データ分析の練習（2）ー量的変数の視覚化と要約（一変数）ー
- 第6週データ分析の練習（3）ー分割表と構成比ー
- 第7週データ分析の練習（4）ー層別ー
- 第8週データ分析の練習（5）ー量的な二変数データの分析（散布図と相関係数）ー
- 第9週データ分析の練習（6）ー回帰分析ー
- 第10週データ分析の練習（7）ー時系列データの解析（1）（時系列グラフ、移動平均）ー
- 第11週データ分析の練習（8）ー時系列データの解析（2）（指数、増加（減少率）、成長率）ー
- 第12週データ分析の練習（9）ーABC分析とプロダクトポートフォリオ（PPM）ー
- 第13週データベースの活用（1）ーデータベース入門ー
- 第14週データベースの活用（2）ーデータベース応用ー
- 第15週まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。事前に配布する資料・プリントなどで授業範囲を予習し、講義の目的を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に指定しません。適宜、プリント等を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（40%）及び課題レポート（60%）で評価します。

後日、授業もしくはe-learningシステムにてフィードバックします。

【参考書】

適宜、講義時に指示します。

【注意事項】

高校時に数学 I しか履修していない人でも履修することは可能です。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

データベースとデータ分析の基礎

池田 徳正

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代では、コンピュータのほとんどの機能が、データベースによって実現されています。データベースを理解することは、コンピュータ・システムを理解するための鍵となるものです。

また、今日では、コンピュータシステムに蓄積された大量のデータ（いわゆるビッグデータ）を分析し、活用することが、企業経営や企画立案に必須の要件となりつつあります。

この演習では、講師が、データベースの設計、マーケティングデータや、医療情報の分析、人工知能技術を使ったシステムの開発を行ってきた経験を元に、1. データベースの役割を理解すること。2. データベースへのデータの追加、抽出、集計ができるようになること。3. データ分析の考え方を理解すること。4. データ分析の応用としての機械学習の考え方を理解すること、を目標として授業を行なっていきます。

社会人として最低限の知識とされるWordやExcelと異なり、データベースを直接使う機会がある人は多くないかもしれません。しかし、将来、企業や組織で、経営・企画・分析などに関わる仕事をする人は少なくないはずで、データベースやデータ分析の視点で、ものごとを見られるようになることは、「人工知能の時代」における、新しいビジネスの発想や分析の手段を手に入れることであり、さまざまな場面で活かせるのではないかと思います。

【授業における到達目標】

- ・データベースの役割を理解し、データベースへのデータの追加、抽出、集計ができるようになること。
- ・データ分析の考え方を理解すること。

【授業の内容】

1. コンピュータ・システムとデータベース
2. RDMSの考え方
3. RDMSのテーブル設計-1
4. RDMSのテーブル設計-2
5. RDMSのテーブルの結合と集計-1
6. RDMSのテーブルの結合と集計-2
7. データ分析 - 単純集計-1
8. データ分析 - 単純集計-2
9. データ分析 - 統計量とマイニング - 1
10. データ分析 - 統計量とマイニング - 2
11. データ分析 - 機械学習によるデータ予測 - 1
12. データ分析 - 機械学習によるデータ予測 - 2
13. データ分析・機械学習を用いたビジネス-1
14. データ分析・機械学習を用いたビジネス-2
15. まとめ

【事前・事後学修】

Excelの基本的な操作法を理解していることが望ましい。毎回の授業に2時間以上の予習、復習をすること。

【テキスト・教材】

授業内で指定する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の課題(70%)およびグループワーク(30%)。

LMSを用いて、原則授業内でフィードバックを行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

ExcelとSPSSによるデータ分析

河野 康成

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

コンピュータやソフトウェアの技術向上によって、新聞、雑誌に限らず至るところで、様々なデータを元にした図表が見受けられるようになりました。しかしながら、その全てが適切なものとは限りません。ここでは、ExcelとSPSSの基本的操作を学ぶと共に、身近なデータからの確かな図表を作成し、その結果をきちっと読み取る能力を養成します。数学や統計学が苦手な人でも、ソフトウェアの操作を身につけながら少しずつ学ぶことができると考えられます。後半のデータ分析では、実際にデータを取り扱い、そこから集計・図表の作成・考察および分析といった一連の過程を習得する予定です。

【授業における到達目標】

【行動力】

データを用いた分析力を身に付ける。

【国際的視野、研鑽力】

アジアや世界も含めたデータを読み取る力を身に付けるむ

【技能・操作】

Excel、SPSSの基礎的操作ができる。

【考察・まとめ】

与えられたデータをAPAスタイルによってレポートとしてまとめることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・事前アンケート・Excel技術確認テスト
- 第2週 研究の基礎（論文作成の流れ）、統計学の基礎（推定・検定等）、Excelの基礎（四則演算）
- 第3週 Excel：関数（平均・最大値・最小値・合計・分散・標準偏差等）
- 第4週 Excel：グラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ等）
- 第5週 Excel：グラフ（帯グラフ）、集計（ピボットテーブル）
- 第6週 Excel：データ（単数・複数回答）の集計、グラフ作成
- 第7週 Excelによるカイ2乗検定（期待度数の算出等）
- 第8週 SPSS：Excelデータの読み込み、操作の基礎（変数ビュー・データビューの使い方）
- 第9週 SPSS：集計（単純集計・クロス集計）、SPSSによるカイ2乗検定（結果の見方）
- 第10週 Excelによるt検定（対応のあるt検定/対応のないt検定）
- 第11週 SPSSによるt検定（結果の見方）
- 第12週 論文の要約、引用方法（日本心理学会/APAスタイル）、グラフ考察
- 第13週 レポート論文の書き方（問題設定、先行研究、分析、考察等）
- 第14週 分析の注意点（サンプルサイズ、結果の偏り、外れ値等）
- 第15週 印刷したレポート提出（数日前にmanabaでファイル提出）
・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学習（週1時間）：直前の授業で示す次回の内容について、不明な点を予習してください。

事後学習（週3時間）：授業内課題が未完成の場合は、復習を必ずしてして下さい。

【テキスト・教材】

PowerPoint講義資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・成績評価の方法・基準

レポート試験：60% A4用紙3枚～6枚程度

平常点：40% 授業内/授業外小課題等

上記を総合的に見て判断します。

・フィードバック

manabaを活用しますが、休憩時間および時間外（メール）で、調べ（分析し）てもわからなかったことに対して質問を受けます。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【注意事項】

授業内容は、進行状況や受講生の希望により変更する場合があります。データ取得のため、自分たちで調査を行う場合があります。欠席した場合は、授業内課題を翌週以降に提出してもらいます。

*募集人員は、40名です。

情報リテラシー応用 c

土屋 陽介

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

データベースは、大量の情報（データ）を蓄積・管理し、その中から目的のデータを簡単に検索・分析できるしくみです。現在の社会では、あらゆるところにデータベースが活用されており、私たちが意識しなくとも日常的にデータベースを利用しているはずで、身近なところでは、インターネットの検索システムや、ネットショップなどでの商品購入システムがあげられます。他にも大量のデータを扱う場面ではほぼデータベースが活用されています。この授業では、データベースの仕組みから、データベースの基本的な操作、さらにはデータベースを活用したシステムの構築までを学んでいきます。

【授業における到達目標】

- ・データベースの仕組みを理解できる
 - ・データベースの基本的な操作ができるようになる
 - ・リレーショナルデータベースが構築できるようになる
 - ・データベースを活用したシステムが構築できるようになる
- これらの知識・スキルを習得することにより、データベースに関する課題解決力（行動力）および、将来的に学び続けられる基礎力（研鑽力）が身につけられる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データベースの基礎、仕組み
- 第3週 データベースの作成・データの入力
- 第4週 クエリでデータを検索（基本的な検索）
- 第5週 クエリでデータを検索（複数条件の検索）
- 第6週 クエリでデータを検索（関数を利用した検索）
- 第7週 リレーショナルデータベース（作成）
- 第8週 リレーショナルデータベース（データ入力）
- 第9週 リレーショナルデータベース（検索）
- 第10週 フォームの作成
- 第11週 レポートの作成
- 第12週 データベースの設計
- 第13週 データベース構築演習（1）
- 第14週 データベース構築演習（2）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

自分一人の力でもデータベースが構築できるようになるために、毎回の授業内容を最低でも週3時間分は復習してください。また次回の講義資料を事前に提示しますので、最低でも1時間は予習の時間とし次回講義資料をよく読んでおいてください。

【テキスト・教材】

特になし。必要資料は授業中に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題・演習成果 60%

最終試験 40%

フィードバックとして、最終試験後に全てのデータベースの作成例をmanaba上に提示します。必ず確認するようにしてください。

【参考書】

立山秀利 著、「今日から使える Accessデータベース 2013/2010/2007対応」、ソシム（2014）

立山秀利 著、「Accessのデータベースのツボとコツがゼッタイにわかる本—2013/2010対応 最初からそう教えてくれればいいのに!」、秀和システム（2014）

小野哲 著、「データベースがわかる本（なるほどナットク!）」、オーム社（2004）

【注意事項】

この授業ではMicrosoftのAccessというデータベース管理ソフトを使用します。*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 d

統合環境を利用したプログラム演習

佐藤 健

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

代表的なオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用い、プログラミングの考え方、プログラミングの方法および実行にかかわるコンピュータの使用法を、講義と演習により修得し、コンピュータシステムについての理解を深める。

【授業における到達目標】

Java言語を用いて基本的なプログラムが自分で作成できるようになることを目的とする（行動力）。条件分岐や繰り返しなどのプログラミング言語としての国際的に基本とされる構造を理解する（国際的視野・研鑽力）。クラス、オブジェクトを作成し、利用できる。

【授業の内容】

1. プログラミング言語としてのJava(統合開発環境の利用法)
2. Javaの基本(変数とデータ型)
3. 条件分岐(if文, switch文)
4. 繰り返し処理(for文, while文)
5. 繰り返し処理(ネスト, break)
6. 配列(配列の宣言と利用)
7. 配列(多次元配列)
8. 中間テストと問題の解説
9. クラスの基本
10. クラスの機能
11. クラスの利用(クラスライブラリ)
12. クラスの利用(コレクションフレームワーク)
13. 例外とファイル入出力
14. グラフィック機能
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：マナバによる用語などの小テスト対応におよそ30時間

事後学修：マナバにプログラミングの成果提出におよそ30時間

【テキスト・教材】

教場で指示する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

マナバによる小テスト15%, マナバによる成果提出30%, 中間テスト25%, まとめ30%

各授業回にて、小テストや課題の解説などフィードバックを適宜行う。

【参考書】

教場で指示する

【注意事項】

授業時間内で完結しない可能性があります。学外（自宅）で同じような統合環境を導入できることが望ましい。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 d

コンピュータプログラムに触れ、利用してみよう

藤井 章博

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

コンピュータを制御するためのプログラミング言語には、目的に応じて多種多様なものが存在する。複数のプログラミング言語の学びを通じて、コンピュータの動作の理解を深めるとともに、実際のプログラミングを通じて機器を制御するために積極的に働きかける力を養う。

【授業における到達目標】

繰り返し処理、関数、オブジェクト指向の考え方を複数のプログラミング言語の演習を通じて理解する。演習で扱うプログラミング言語は、Scratch、C、Java、JavaScript、Python、HTMLであり、基礎情報処理技術者資格取得に向けての導入を行う。また、クライアントサーバ型ソフトウェアの実際の動作を各種プログラミング言語、に実際に触れて理解する。また、初歩的なデータ処理をプログラムを利用して行う方法を学ぶ。

【授業の内容】

前半でリテラシーについての座学、後半でプログラミング演習を行う。

1. プログラミングとアルゴリズム
2. 情報の表現、条件分岐
3. コンピュータの構造、繰り返し処理
4. インターネット、簡単なゲーム作り
5. Webシステム、関数とは何か
6. 情報倫理、データの型
7. 情報社会のリスク、データの操作
8. 情報セキュリティ関連技術、データ処理
9. 関連する法律、ファイルの扱い方
10. アルゴリズムの例（ソーティング）
11. アプリケーションを作る（インターフェース）
12. アプリケーションを作る（シューティングゲーム）
13. 総合演習：データベース、データ収集（ウェブからの情報収集）
14. 総合演習：分析と加工（文書データの分析、画像の処理）

15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：プログラミング言語の文法の見直し（週2時間）

事後学修：プログラム演習課題の復習（週2時間）

【テキスト・教材】

毎回30分程度の視聴覚教材を用意する。

授業実施に併せて、電子媒体manabaで提示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常の理解度を確認するために、定常的に課題を課す。50% 学期末に全体の理解度を評価する課題を課す。50%

学期末試験は実施しない。

定常的課題の理解度をフィードバックして授業に反映する。

【参考書】

鈴木一史「アルゴリズムとプログラミング」、NHK出版

加藤浩、大西仁「情報学へのとびら」、NHK出版

【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 e

描いてわかる 描いてはなす

富田 誠

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

情報通信技術の発展により、情報の流通量が指数関数的に増え続けている。調査会社 IDC によると国際的なデジタルデータ量は2010年から10年間で40倍に増加すると見込んでいるという。一方で、近年のIT中毒やスマホ疲れという社会問題が示すように、情報の摂取量の限界とも言える状況を迎えている。私たちは情報を適切に理解し、知恵に変換する情報リテラシーをどのように身につければ良いのだろうか。

本授業では視覚化を中心に置いて情報リテラシーを学ぶ。本授業における視覚化とは、ある対象を理解し、それを他者に伝達可能な知として変換する手段として捉えている。授業では、描くことが得意ではない人でも、順を追って学べるよう「単語」や「状態」、「物語」「数量」「会話」など、単純な情報から徐々に複雑性を帯びた情報を描いていく。

また、授業の後半では、視覚表現したものをを用いて他者と対話し、創造する手法を学ぶ。1970年代のアメリカにおいて、住民参加のまちづくりの分野で生まれたビジュアルファシリテーションなどの手法も援用しながら、専門性や文化が異なる人が、文字言語だけでなく、視覚的表現を用いて対話し、共創する手法を学ぶ。

本授業では、描くことで世の中を理解すること、社会に関わりを持つこと、そして他者と共に創造することを目指したい。

【授業における到達目標】

目に見えないものを視覚的に表現できるようになる。

(視覚的な言語を身につける)

視覚的な表現を用いた対話を実践できるようになる。

(視覚的な対話力を養う)

【授業の内容】

1. ガイダンス

・視覚化の歴史・目に見えないものを見えるようにするには

2. 単語を描く：単語を絵文字で伝えるPictogram

iPhone編

3. 単語を描く：単語を絵文字で伝えるPictogram

ピクトグラム編

4. 状態を描く：対象の状態や関係性描くDiagram

5. 物語を描く：物語を視覚的に伝達するVisual Storytelling

・わらしべ長者編

6. 文章を図解する：複雑な条件や規則を可視化する

・契約書編

7. 数量を描く：数量を視覚化するInfographic

・数字編

8. 数量を描く：数量を視覚化するInfographic

・データ編

9. 発話を描く：発話を視覚的に記録するVisual Recording

プレゼン編

10. 発話を描く：発話を視覚的に記録するVisual Recording

談話編

11. 発話を描く：発話を視覚的に記録するVisual Recording

発展編

12. 立体を描く：立体的な構造や空間を描くIsometric Drawing

13. 描いて対話する：視覚的に対話するVisual Facilitation

対話篇

14. 描いて対話する2：視覚的に対話するVisual Facilitation

発展編

15. 発表とリフレクション

最終発表および授業で学んだことを振り返る

【事前・事後学修】

本授業は、各回のテーマに則った基礎課題を、授業時間内でワークショップ形式で試して制作する。

授業後はこれらの発展課題が出されるため、それらを事前学修として制作し直してメールで課題を提出する。必要とする時間は2時間程度。

提出されたものは授業時間内で共有し、適切な表現方法を学ぶ。

事後学修としてそれらの改善をしてもらいたい。必要とする時間は2時間程度。

【テキスト・教材】

プロッキー〈極細+細字丸芯〉黒 品名：PM-120T 会社：三菱鉛筆株式会社 120円

(授業の回に応じて、ハサミ、太鉛筆、消しゴムなどを必要とするが授業で案内する)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点：40% (事業時間内の小実習の参加と成果物の提出)

制作点：40% (授業時間外の制作課題の提出)

論考点：20% (提示されるレポート課題の提出)

フィードバック：授業内においてはグループ内での相互評価や成果物へのコメントを行う。

レポート課題においては、翌週の授業の開始時にコメントする。

【参考書】

三中 信宏 (2012) 系統樹曼荼羅—チェーン・ツリー・ネットワーク, エヌティティ出版

三中 信宏 (2017) 思考の体系学: 分類と系統から見たダイアグラム論, 春秋社

永原 康史 (2016) インフォグラフィックスの潮流: 情報と図解の近代史, 誠文堂新光社

【注意事項】

本授業は視覚表現の手法を学んだり、視覚的な対話の手法を学ぶため多数の能動的学習 (アクティブラーニング) を実施します。

具体的には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを含みます。また、課題として制作した成果物は、教室内で共有することを目的として、スクリーンに投影することがあります。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 e

描いて見つける、描いて生み出す

三澤 直加

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

世界で地域で社会に貢献していくためには、多様な思考や言語をもった人と交流する必要がある。このような社会に必要な情報リテラシーとはどのようなものだろうか。

本授業では、情報の「視覚化」を中心に、知識創造のための情報リテラシーを学ぶ。本授業における「視覚化」とは、情報の特性を把握し他者に伝達可能な知として変換することである。特に手で描き出す視覚化手法によって、見えないものを発見し、最適な関係を模索し、ビジョンを描くまでの思考プロセスを扱う。

前半では、文化や言語の影響を受けにくいビジュアル言語を習得し、後半では、グラフィックレコーディングや、ビジュアルファシリテーションと呼ばれる、ビジュアル言語を活用した手法を用い、戦略的に知的創造を行う方法を習得する。

【授業における到達目標】

目に見えないものを、視覚的に表現できるようになる。視覚的な表現を用いたコミュニケーションを実践できるようになる。

【授業の内容】

1. 知識創造における視覚化の役割
2. 身体性と視覚化
3. ビジュアル言語 (1) 線と色と文字表現
4. ビジュアル言語 (2) ピクトグラム
5. ビジュアル言語 (3) 人と感情
6. 例えて描く：メタファによる意味の解釈
7. 構造を描く：文脈の咀嚼と発見
8. 主観で描く：経験フィルターによる意味の解釈
9. 描きながら聞く：文脈の相互理解
10. 対話を描く：文脈の共有と発見
11. 議論を描く：創造に向けた追求
12. ストーリーを描く：ナラティブ表現の活用
- 13: エコシステムを描く：実践の最適解を探る
14. 戦略的に描き考える：議論をデザインする
15. 総括：学びのふりかえりと収穫

【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を予習し専門用語等を理解しておくこと。(週1時間程度)

事後学修：授業時間内で扱った内容の発展課題、もしくは、省察レポートを授業の内容に応じて課す。課題、レポートはメールで提出すること。(週3時間程度)

【テキスト・教材】

- 学生が用意する物
- ぺんてるサインペン5色セット(色は不問) 価格：500円程度
- 授業テキスト
- 教科書は利用しない。必要に応じてプリントを配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点40% (授業時間内の演習の参加と成果物の提出)

事後課題60% (授業時間外の課題の提出)

提出されたものは、授業時間内にリフレクションを行う。

【参考書】

- ウィリーマイン・ブランド (2018) VISUAL THINKING 組織を活性化させるビジュアルシンキング実践ガイド, ビー・エヌ・エヌ新社
- 紺野登 野中郁次郎 (2018) 構想力の方法論, 日経BP社
- 原田泰 (2012) 手描きで考え、伝える 図解表現使いこなしブック, 日本能率協会マネジメントセンター

【注意事項】

多数のワークショップ、ディベートやグループワーク、プレゼンテーションを行います。また、学びの理解を深めるため、個々の成果物をスクリーン等で投影することがあります。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー基礎 1

情報化社会における基礎力修得

担当教員全員

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本学での学習活動(レポート・資料等の作成)をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。

【授業における到達目標】

本学における情報環境を理解し、学内・学外を問わずコンピュータ、インターネットを活用し、レポート作成においてWord、Excel、PowerPointなどのソフトを活用するために必要な基本スキルを身につけることを目標にします。

それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となります。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、大学における情報環境の活用
- 第2週 Word の活用1 (基本、画像の挿入、印刷など)
- 第3週 Word の活用2 (書式の応用、オブジェクトなど)
- 第4週 Word の活用3 (表の作成、編集)
- 第5週 Excel の活用1 (表の基本)
- 第6週 Excel の活用2 (計算式、関数)
- 第7週 Excel の活用3 (グラフ)
- 第8週 Excel の活用4 (データベース)
- 第9週 総合課題作成1 (Word と Excel を使ったレポート基礎・準備)
- 第10週 総合課題作成2 (Word と Excel を使ったレポート作成)
- 第11週 Power Point の活用1 (スライドの作成、アニメーション)
- 第12週 Power Point の活用2 (プレゼンテーションの基礎)
- 第13週 総合課題作成3 (簡易プレゼンテーションと評価：グループ1)
- 第14週 総合課題作成4 (簡易プレゼンテーションと評価：グループ2)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】それぞれの項目に関する基本的な操作などテキストを参考に学修しておくこと。(週1時間)

【事後学修】授業内で提示された課題を各自、行うこと。(週1時間)

【テキスト・教材】

定平誠『例題35+演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版』(2016年、技術評論社) 1980円+税

『情報センター利用の手引』(実践女子大学情報センター) PDF

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題の成績(50%)と入学前教育における情報リテラシーに関する小テスト・参加態度・授業中での課題(50%)で総合的に判断する。フィードバックは授業前後およびmanabaにて適宜行う。

【注意事項】

担当教員によって授業内容の順序を変更することがあります。情報倫理に関する指導も必要に応じて適宜行います。

情報リテラシー基礎2

担当教員全員

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。本講義は、情報リテラシー基礎1で学んだ内容をスキルアップを目指します。

【授業における到達目標】

本講義は、情報リテラシー基礎1で学んだ内容をより深く、高度に行えるように実践的な課題をこなすことでその理解とスキルをブラッシュアップすることを目標とします。

それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となります。

【授業の内容】

- | | |
|------|--|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | インターネットによる情報検索（各種データベースの活用） |
| 第3週 | Excelの応用1（データの整形、ピボットテーブルを使った集計、前期の復習） |
| 第4週 | Excelの応用2（関数を用いたデータの整理・分析） |
| 第5週 | Excelの応用3（グラフによるデータの表現） |
| 第6週 | Excelの応用4（データベースによるデータの整理） |
| 第7週 | Excelの応用5（Excelを活用したデータ分析） |
| 第8週 | Wordの応用1（詳細な書式設定） |
| 第9週 | Wordの応用2（文書のフォーム整形） |
| 第10週 | Wordの応用3（参考資料、校正機能による文章作成） |
| 第11週 | Wordの応用4（差し込み印刷による定型書類の作成） |
| 第12週 | Office365の活用（ファイル共有によるグループワークの活用） |
| 第13週 | プレゼンテーション1（研究プレゼンテーションと評価：グループ1） |
| 第14週 | プレゼンテーション2（研究プレゼンテーションと評価：グループ2） |
| 第15週 | プレゼンテーション3（研究プレゼンテーションと評価：グループ3） |

【事前・事後学修】

【事前学修】それぞれの項目に関する基本的な操作などテキストを参考に学修しておくこと。（週1時間）

【事後学修】授業内で提示された課題を各自、行うこと。（週1時間）

【テキスト・教材】

定平誠：例題35＋演習問題65でしっかり Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版[技術評論社、2016、¥1,980(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績（50％）と、参加態度・授業中での課題（50％）で総合的に判断する。フィードバックは授業前後およびmanabaにて適宜行う。

【注意事項】

担当教員によって授業内容の順序を変更することがあります。

※募集人数は40名です。

情報リテラシー実践a

商品やサービス開発のプロセスに学ぶ情報リテラシー

堀越 敏晴

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

情報という言葉が日常的に使われる現代、情報への理解と接し方は習得すべき必須のリテラシーと言えます。授業の前半は“情報”の性質を改めて理解し、有用で良質な情報を探索、選択する能力を養うことを目的とする。後半は、情報活用の現場である企業活動の中で、商品やサービスの開発プロセスにおいて情報収集の手段である各種リサーチの事例を学び、テーマの発見、企画立案、その実現に向けての情報探索までのプロセスを演習します。

【授業における到達目標】

- ・課題（問題）に気づく、テーマを発見する能力
- ・解決、実現のための情報ニーズを認識する能力
- ・情報を得るための方法、手段、プロセスを考える能力
- ・得られた情報を分析し新たな理解を得る能力
- ・新たな理解を情報として発信する、提案する能力

【授業の内容】

前半は情報の性質、商品開発プロセスなど講義。後半はエクセル、パワーポイントを使った演習。

1. 情報の種類と性質（ガイダンス）
2. 情報の種類と性質／情報の管理
3. 情報と権利／知的財産権
4. 商品やサービスの開発プロセスと事例
5. 商品やサービスの開発における情報ニーズの把握
6. 商品やサービスの開発におけるリサーチの目的と方法
7. 商品やサービスの企画／企画書の構成
8. リサーチ計画とその作成
9. 演習：リサーチ計画 アンケートの設計
10. 演習：集計と分析-1 アンケートの集計
11. 演習：集計と分析-2 グラフ作成と分析
12. リサーチ報告書の構成
13. 演習：リサーチ結果の報告作成
14. 演習：結果からの提案のまとめ
15. 演習：報告と提案（プレゼンテーション）

【事前・事後学修】

リサーチのテーマ提案、企画書作成、集計作業など提示された課題の事前、事後学修あり。毎週4時間程度

【テキスト・教材】

前半は毎回レジュメを配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 課題の提出（50％）
- 提出物の内容（30％）
- 受講態度（20％）課題の提出期限、出席状況

課題などの提出期限を守ることが重要だと考えています。

提出課題の内容についてはmanaba上で個別にコメントを行います。

【参考書】

とくになし

【注意事項】

ワード、エクセルの初歩程度は学習済みのこと。

配布されたレジュメは毎回持参のこと。

*募集人数は40名です。

情報リテラシー実践 a

エクセルを用いたデータ解析の実習

金子 徹治

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

化学実験・生物実験・質問紙調査など、どの研究においても得られたデータの統計処理はととても大切です。比較したいグループ間に有意差があるかどうかは「検定」という手法で判定します。また、病気の診断や治療効果の評価を行う際には、各種検査データを含む様々な要因を解析する必要があり、「多変量解析」という手法が使われます。

本科目では、エクセルによる基本的なデータの取り扱い方から始めて、統計ソフト「エクセル統計」を用いた様々なデータ分析手法を修得します。教材にはできるだけ身近な事例を使って、理解しやすい授業を工夫しています。

【授業における到達目標】

卒論のデータ処理、社会に出てから遭遇する様々な場面で役立つデータの取り扱い方や分析手法の習得を目指します。基本的な分析手法を一通り体験することは、国内外の学術研究の論文・学会報告を読み解く力、国際的視野・知的探究心に繋がります。また、データ分析を実践すること、相談・協力して各回の課題を達成することで、研鑽力・行動力・協働力を育成します。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 エクセルの使い方(1) -セル参照, 関数, IF文-
- 第3回 エクセルの使い方(2) -ピボットテーブル集計-
- 第4回 基本統計量の計算 (データ尺度、分布の理解)
- 第5回 平均の差の検定 (t検定)
- 第6回 その他の検定手法 (カイ二乗検定, 傾向検定)
- 第7回 相関と回帰分析
- 第8回 結果の図形表示 (エクセルの図形処理)
- 第9回 多変量解析 (ロジスティック回帰分析)
- 第11回 多変量解析 (生存分析)
- 第12回 多変量解析 (因子分析)
- 第13回 多変量解析 (主成分分析, クラスタ分析)
- 第14回 まとめ (その他の市販の統計ソフト)
- 第15回 課題の実施

【事前・事後学修】

■事前学修：前回の「データの一覧表」を一通り見て、どんなことが分かりそうか精一杯想像して書き留めておきましょう。(週2時間程度) 今後の新しい分析手法の習得がスムーズになります。

■事後学修：授業で使った分析手法をいつでも使用できるように繰り返し復習しましょう。(週2時間程度) 授業で使ったデータと異なるデータでも分析できるようになることが大切です。疑問に思ったことは次回の授業で確認しましょう。

【テキスト・教材】

manabaコースのレポート機能を用いて、PDFやエクセルファイル等を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題の達成度：70%

平常点：30% (技能習得の積極性, 反復練習の実施状況)

課題の達成度に応じて復習する内容を次回以降の授業に加えす。

【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー実践 a

-情報スキルの社会的応用-

粟津 俊二・竹内 光悦・松下 慶太

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

情報リテラシー基礎、情報リテラシー応用などで涵養した文書作成 (Wordなど)、データ処理 (Excelなど)、プレゼンテーション (Power Pointなど) について操作スキルあるいは大学での調査・研究に加え、社会・企業などでも活用できるような実践的なものとして習得することが目標となる。またそれを客観的に示すためのMOSなど資格試験も積極的に活用する。

【授業における到達目標】

- ・これまで学んできた情報リテラシーのスキルを基礎に、学習計画をデザインし、実施に移すことができる【研鑽力】【行動力】
- ・国際的に利用されているソフトウェアを学修対象とすることで、グローバルスタンダードの情報スキルを身に着けることができる【国際的視野】

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. ビジネスにおける文書作成基礎
3. ビジネスにおける文書作成応用
4. ビジネスにおけるデータ処理基礎
5. ビジネスにおけるデータ処理応用
6. ビジネスにおけるプレゼンテーション基礎
7. ビジネスにおけるプレゼンテーション応用
8. 中間習熟度確認文書作成
9. 中間習熟度確認データ処理
10. 中間習熟度確認プレゼンテーション
11. 中間習熟度確認フィードバック
12. 最終習熟度確認文書作成
13. 最終習熟度確認データ処理
14. 最終習熟度確認プレゼンテーション
15. 最終習熟度フィードバック

【事前・事後学修】

【事前学修】参考テキストで授業の該当箇所の予習と課題、前週に立てた学習計画の進行確認 (週2時間)

【事後学修】参考テキストで授業該当箇所の復習と次週までの学習計画 (週2時間)

【テキスト・教材】

ガイダンスで指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) 提出課題 (50%)
- (2) 最終習熟度確認 (50%)

(1) について、1ヶ月に1度を目安にmanaba上でフィードバックを行う。

【注意事項】

manabaをはじめとしてオンラインにおける教材なども活用することで、授業時間・教室などを柔軟に編成した反転授業形式を積極的に進める。

また学修計画を立てる、実施する、見直すというPDCAサイクルを自分で回すことを意識した学修を期待する。

※募集人数は 80 名です。

情報リテラシー実践 b

プレゼンテーション技術の習得

金井 宏水

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

これからはじめるPhotoshopの本

【注意事項】

4種類のアプリケーションを勉強するが、休むと次の授業以降に影響するので、なるべく休まないこと。特に基本操作の週は重要。

※募集人数は40名です。

【授業のテーマ】

研究内容や作品を多くの人にわかり易く説明するためのプレゼンテーション能力は、デザインの分野では特に重要です。文字は最小限にして、視覚化された情報、画像や動画などのイメージを主体とした効果的なプレゼンテーションを行うには、画像処理や2D、3D・CAD、動画なども含めたアプリケーションの活用が有効になります。この授業は、パワーポイント、フォトショップ、イラストレーター、スケッチアップ等のアプリケーションを体験し、プレゼンテーション能力を高めます。

【授業における到達目標】

この授業では、パワーポイント、フォトショップ、イラストレーター、スケッチアップ等のアプリケーションを基礎から教え、美しく、効果的なプレゼンテーションを創ることができるようになることを目標とします。ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・プレゼンテーションとは
動くカードを創ってみる
- 第2週：フォトショップの基本操作
 - (1) 写真の各種補正
 - (2) フィルタなどを体験
 - (3) スキャンイラストへの色刺し
- 第3週：フォトショップの応用操作
 - (1) 写真を合成する（切り抜き・合成）
 - (2) マスク・さまざまな効果
- 第4週：フォトショップで創作課題
- 第5週：課題の完成と発表、評価
- 第6週：イラストレーターの基本操作-1
 - (1) 曲線や図形を描く・着色
 - (2) さまざまな変形加工など
- 第7週：イラストレーターの応用操作
 - (1) CAD機能で正確な作図
 - (2) 包装紙をデザインする
- 第8週：イラストレータで創作課題
- 第9週：課題の完成と評価
- 第10週：3次元CADの体験 SketchUpの基本操作・家を描く
- 第11週：SketchUpでインテリアを描く
- 第12週：自由課題：SketchUpで住まいを創作する
- 第13週：課題の完成と評価・最終課題（パワーポイント）の説明
- 第14週：パワーポイントでまとめプレゼン制作
- 第15週：発表・評価

【事前・事後学修】

事前学修：毎回のように創作課題が出されるので、次の時間までにテーマ内容を理解し、構想を練っておくこと。（週約2時間）
事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておく。
学内や自宅のPCを使ってソフトの操作練習、および課題制作が提出期限に間に合わない場合は、時間外を活用して期限に間に合わせる。（週最低2時間）

【テキスト・教材】

テキストは無し。教材は必要に応じて配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題評価・発表効果 60%
平常点（取り組み姿勢・スキルアップ度）40%
フィードバックは発表時の口頭評価と作品評価点

【参考書】

やさしく学ぶGoogle Sketch Up

情報リテラシー実践 b

パワーポイント実践

塚田 美香子

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

パワーポイントは、プレゼンテーションだけでなく、画像を活用する様々な場面においても、手軽に使える便利なソフトである。この授業では、その特性を生かし、まず、画像処理と調整の基本を学んだ上で、画像をパワーポイント上で活用する課題に取り組む。

具体的には、美術館や博物館でこれまでに開催された展覧会の展示作品を紹介するスライドショーの作成や、展覧会ポスターとチラシ等の制作を行う予定である。それを通じて、画像の扱いや調整方法、一貫性のとれたよい資料を作るためのレイアウトのルールを身に付けて、画像をパワーポイント上で用いて、実際の様々な場面で活用することを学んでいく。

さらに応用として各自が作成した展覧会紹介スライドショーを自動再生する操作方法と、マルチメディアを活用する機能としてスライドにオーディオを挿入する仕方を説明する予定である。

【授業における到達目標】

芸術を通して新たな価値を見出し、感受性を深め、知を創造し、パワーポイントの操作技能を高める。

【授業の内容】

- 第1週 パワーポイントに関する基礎知識とオリエンテーション
- 第2週 画像処理の基本1 画像利用と著作権、画像解像度
- 第3週 画像処理の基本2 画像作成、加工
- 第4週 展示品紹介スライドショーの作成1 企画と概要、スライドのカスタマイズ
- 第5週 展示品紹介スライドショーの作成2 画像と解説の構成
- 第6週 展示品紹介スライドショーの作成3 効果、発表手順
- 第7週 展示品紹介スライドショーの合評会
- 第8週 展覧会ポスターの作成1 企画と概要
- 第9週 展覧会ポスターの作成2 内容と構成、調整、印刷
- 第10週 展覧会ポスターの合評会
- 第11週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成1 企画と概要
- 第12週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成2 構成と書体デザイン
- 第13週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成3 レイアウトと配色、印刷
- 第14週 展覧会紹介チラシ・配布物の合評会
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前に課題の展覧会図録を読む。前回の授業の内容や課題を自宅や情報ラウンジのパソコンで週2時間程度復習すること。課題提出迄に週2時間程度かけて制作をおこなうこと。

【テキスト・教材】

授業中に適宜指示する。課題の展覧会図録は図書館の「指定図書コーナー」にある。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

完成品の評価 70% 小テスト 20% 授業や作業への積極的取り組み等の平常点 10% 課題等は授業の最終回で講評する。

【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー入門

—情報リテラシーの基礎を身につける—

板倉 文彦

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

この講義では、情報社会とされている現代に必要とされる「情報リテラシー」の基礎を学びます。情報リテラシーを高めるためには、コンピュータやソフトウェアを自由自在に使いこなせるだけでなく、それらが社会のなかでどのように活用されているか、利用していくうえではどのようなモラルが必要かといったスキルも合わせて必要となります。

講義では情報、コンピュータの基礎から社会での活用状況まで幅広く学びます。学習の成果として情報検定（J検）「情報活用試験3級」の合格を目指しましょう。

【授業における到達目標】

情報社会は今後ますます進展していきます。この授業で情報スキルの基礎を身につけることで、今後の情報社会の進展に自ら対応するために学ぶ「研鑽力」と、情報ツールを活用して協働する「協働力」を身につけることが可能となります。

そして国際的な情報コミュニケーションツールとして、インターネットをはじめとした情報ツールを理解することもでき、その結果「国際的視野」に立って行動することが可能となります。

【授業の内容】

- 第1週 情報リテラシーとは—情報リテラシーの重要性
- 第2週 パソコン操作の基礎
- 第3週 パソコン操作の応用
- 第4週 情報社会とコンピュータ
- 第5週 情報モラル
- 第6週 インターネットの基礎
- 第7週 インターネットの利用
- 第8週 情報機器の基本
- 第9週 アプリケーションソフトの活用
- 第10週 情報表現
- 第11週 問題解決の方法
- 第12週 パソコンの基礎
- 第13週 オペレーティングシステム
- 第14週 補助記憶装置の種類
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：各回の授業内容を、テキストの該当箇所ですり習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業で指示した部分の練習問題を解く（週2時間程度）

【テキスト・教材】

改定2版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト[日本能率協会マネジメントセンター、¥1,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

情報科教育法（1）

教職につくための必要な学習

佐藤 健

2年 集後 2単位

【授業のテーマ】

高等学校情報科の教員を育成するため、文部科学省が提示する学習指導要領の内容が理解できるよう、情報社会、情報化政策、学校教育の現状を踏まえて講義を行う。まず、戦後日本教育史を踏まえ、日本の情報化政策について解説する。次に、教科「情報」が設立されるまでの経緯を解説し、情報教育の構成と教科「情報」を構成する科目の相違点を詳説する。その後、各科目で取り扱う学習内容について、高等学校の教科書をもとに必要となる基礎的な知識や技能を解説する。本講義の到達目標は、(1) 高等学校「情報」の設立の背景となった情報化政策に関する知識を習得する、(2) 教科「情報」を構成する科目の目標並びに相違点を理解する、(3) 高等学校情報科の教員として、教科「情報」で教えるべき内容についての理解を深め、重要な授業テーマについての概要を説明することができる、の3点である。

【授業における到達目標】

情報教育の必要性を理解し、関連領域の研鑽力を高め、情報科の教育問題を「協働力（○）」をもって設定し、授業計画立案実行ができる行動力を持つことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（情報科設立の背景）
- 第2回 情報科の成立（情報科設立の経緯を解説）
- 第3回 教育の情報化政策（文科省WEBサイトの解説）
- 第4回 情報科の学習指導要領概観
- 第5回 学習環境とネットワーク（学習環境のデザイン）
- 第6回 情報活用の実践力の指導法
- 第7回 情報の科学的な理解の指導法1（情報の表現と画像表現）
- 第8回 情報の科学的な理解の指導法2（シミュレーション）
- 第9回 情報の科学的な理解の指導法3（アルゴリズム）
- 第10回 情報の科学的な理解の指導法4（データベース）
- 第11回 情報社会に参画する態度の指導法1（情報倫理教育）
- 第12回 情報社会に参画する態度の指導法2（著作権）
- 第13回 情報社会に参画する態度の指導法3（コミュニケーション）
- 第14回 情報社会に参画する態度の指導法4（情報システムと社会）
- 第15回まとめ（自由課題発表）

【事前・事後学修】

授業時に指示された内容に関して復習をしておくこと。
事前に授業内容を確認し、必要な教材等を入手しておく。
授業後は、学修内容の理解を確認するため、口頭試問を行う。また自由課題として、授業案制作と授業練習において授業時間以外におよそ60時間程度の学修時間が必要となる。

【テキスト・教材】

文部科学省：高等学校学習指導要領解説[開隆堂出版、¥210(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート課題40%、平常点評価30%（講義において積極的に発言）、その他30%（期間内に中間課題） レポートや教材制作方法などは、随時フィードバックを行う

【参考書】

『高等学校学習指導要領解説 情報編』（文部科学省）

【注意事項】

自宅でもインターネットの利用環境を持つこと。

情報科教育法（2）

模擬授業のトレーニング

佐藤 健

3年 集前 2単位

【授業のテーマ】

本講義では、情報科の授業実践に必要な知識や技能について、実践的に指導を行う。まず、インストラクショナルデザインの手法を用いた単元内容の構造化法を解説し、学生自身による授業設計を指導する。その後、情報科の学習評価、年間指導計画、単元ごとの授業展開、教材等を考慮した学習指導案の作成方法を解説する。それを踏まえ、1授業時間分の学習指導案作成を指導する。最後に、模擬授業を実施し、授業支援システムを使った授業省察会を通じて授業実践における留意点をまとめる。本講義の到達目標は、(1) 授業実践に関する基礎的な知識を習得する、(2) 授業を設計することができる、(3) 学習指導案を作成することができる、(4) 習得した知識と技能を使って模擬授業を実施することができる、の4点である。

【授業における到達目標】

学習指導要領を正しく把握し、授業内容と課題を適切に計画立案と実行ができる「行動力（○）」を養うことを目標とします。また、教育実習前のスキルとして、限られた時間内に問題解決を行う「研鑽力（○）」のスキル向上を目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 本講義の目的と概要を説明する。
- 第2回 授業の設計1 授業と教育実習の相違点
- 第3回 授業の設計2 構造化の手法
- 第4回 学習目標の構造化、目標構造マップの作成
- 第5回 学習内容構造マップの作成方法について
- 第6回 学習内容構造時系列マップ
- 第7回 学習指導案の書き方
- 第8回 授業実践への展開
- 第9回 模擬授業について
- 第10回 模擬授業と授業省察会1（マルチメディア）
- 第11回 模擬授業と授業省察会2（プログラミング）
- 第12回 模擬授業と授業省察会3（情報モラル）
- 第13回 模擬授業と授業省察会4（情報通信ネットワーク）
- 第14回 授業設計と授業技術に関する討議
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事後学修として、学習内容を確認し、授業案作りの素案を常に検討する時間をもつこと。授業以外の学修時間としておよそ60時間必要です。

【テキスト・教材】

【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領解説」を文部科学省のサイトからダウンロードして利用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各授業週ごとの課題：4点×15：60%
授業案の提出と模擬授業の実施：40%
レポートや教材制作方法などは、随時フィードバックを行う

【注意事項】

教育実習を想定した模擬授業（プレゼンテーション）を行うため、就職活動等の場合は、事前に連絡をすること。

情報学への招待

—情報化社会における情報の意味を考える—

板倉 文彦

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この講義では、多くの人々が活用している情報やそれを取り巻く仕組みについて、基礎から学ぶことを目標とします。

具体的には、情報の意味を知ることからはじまり、情報が与える社会的影響、情報倫理の問題にいたるまで、情報学の基礎を幅広く学びます。情報はビジネスや学問領域のみでなく、生活に密着したものです。情報学を学ぶことで、情報社会で生活していくための基礎スキルをしっかりと身につけましょう。

【授業における到達目標】

情報学の基礎を学ぶことで、既存情報を活用して物事の真理を見極め新たな知を創造していくという、ディプロマ・ポリシーにある「美の探究」の態度を身に付けることができます。

また、情報社会を生きるにあたり生涯にわたり、知を探求して学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

【授業の内容】

1. 「情報」とは何か
2. 情報の歴史
3. 情報管理と統制
4. 社会の情報化
5. ユビキタス社会
6. 情報とメディア
7. 情報と企業
8. ニューエコノミー
9. 情報の保存と活用
10. 知的所有権とプライバシー
11. 情報倫理
12. 情報危機管理
13. 情報学の展開
14. 情報学の現状と今後の動向
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

情報環境論

惟村 直公

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

コンピュータやコンピュータネットワーク環境が発達した現代では、それらを積極的に活用することが社会生活を営む上で重要である。そのためには、コンピュータやその周辺機器、ソフトウェア、ネットワーク等の情報環境に関わる知識が必要になる。本講義では、基礎からハードウェア、ソフトウェアについて解説するとともに、ネットワーク社会で大切な情報倫理についてもふれる

【授業における到達目標】

コンピュータをはじめとした情報処理デバイスの基本構成、基本ソフトウェア・ネットワーク等について学び、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、新たなる知を想像しようとする態度を身につける。

また、情報倫理を学び、自己や他者の役割を理解し、豊かな人間関係を構築することができる協働力を高める。また、コミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力、生涯にわたり知を探求して学問を続けることができる研鑽力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 情報と情報環境
- 第2週 情報伝達の歴史
- 第3週 コンピュータの歴史
- 第4週 コンピュータの内部構造 (CPU、メモリ等)
- 第5週 周辺機器 (入力装置、出力装置、補助記憶装置等)
- 第6週 情報の単位と演算
- 第7週 オペレーティングシステム (OS)
- 第8週 アプリケーションソフトウェア
- 第9週 プログラム言語
- 第10週 コンピュータ通信
- 第11週 インターネット基礎
- 第12週 データベースの構造基礎
- 第13週 データベースの利用基礎
- 第14週 情報システム基礎
- 第15週 情報倫理

【事前・事後学修】

事前学修：配布するプリントを次回授業までに読んでおいて下さい。(学修時間 週2時間)

事後学修：理解度を確認するために、小テスト実施と授業のポイントのまとめを書いてもらいます。講義ノートをまとめておいて下さい。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

数回小テストを実施します。また、授業の理解度を確認するために、授業内容のトピックを書かせます。小テスト40%・授業内容のトピックを20%、試験を40%として総合評価します。小テストは次回授業、試験結果は最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

文系のための情報処理入門 朝倉書店 金子正光著 1997

【注意事項】

数回実施する小テストと授業中に実施するトピックを重視します。定期試験だけを受験しても評価しません。したがって、出席や積極的な授業参加が評価に影響します。

情報検索入門

的確な情報を得るために

木村 美実子

1年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

ここでは的確な情報を得るために必要な情報検索の基本を学びます。求める情報に応じて、利用すると便利なウェブサイトやデータベースも紹介します。

毎回、講義と検索実習を行います。丁寧に説明しますので、検索の基本を確実に身に付けてください。

【授業における到達目標】

信頼性の高い的確な情報検索の基本を修得します。必要に応じて適切なウェブサイトやデータベースが選択できるようにします。

それによって、生涯を通じて自ら知識を吸収し自己成長できるようになることを目指します。

また、日常の検索もレベルアップすることで、課題解決につなげることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：情報検索とは
- 第2週 検索エンジンの活用
- 第3週 情報源とデータベース、検索の準備
- 第4週 実践女子大学・短期大学部図書館OPACの活用
- 第5週 検索質問の分析、情報源の選択
- 第6週 ジャパンナレッジLibの活用
- 第7週 国立国会図書館Webサービスの活用
- 第8週 検索語の決定、検索式の作成
- 第9週 雑誌記事の検索
- 第10週 情報のプロセス、検索結果の評価
- 第11週 学術雑誌記事の検索
- 第12週 検索の網羅性と精度を高める技術
- 第13週 複数の情報源を組み合わせる検索
- 第14週 個別テーマでの検索
- 第15週 まとめ・総評

【事前・事後学修】

- 事前学修（週1時間）課題の検索を行うこと。
- 事後学修（週3時間）実習プリント・小テストを復習すること。
実際に繰り返し検索を試みる。

【テキスト・教材】

- プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験の成績と平常点（授業態度、コメント用紙、課題）で総合的に評価します。課題と小テストについては、次の講義で改善点のフィードバックを行います。
- 配分基準：定期試験50%、平常点50%。

【参考書】

- 原田智子 編著・小河邦雄・清水美都子・丹一信・藤井昭子 著『プロの検索テクニック：検索技術者検定2級 公式推奨参考書』（樹村房 2018年）
- 藤田節子『図書館活用術 新訂第3版 ―情報リテラシーを身につけるために』（日外アソシエーツ 2011年）
- その他、講義のなかで紹介いたします。

【注意事項】

- 遅刻せず、休まずに出席してください。
- 理解度を確認するために冒頭で小テストを行うことがあります。
- 講義・実習の終わりに、毎回その日の要点と感想などを記入して提出してもらいます。この提出物（コメント用紙）は評価の対象とします。
- 講義の資料と課題はmanabaに掲示します。欠席した日の資料はmanabaから入手して必ず自習して、コメント用紙を提出してください。

情報資源組織演習 a

日本目録規則に基づく情報資源の整理方法を学ぶ

村上 郷子

2年 後期 1単位

【授業のテーマ】

情報資源組織論aで学んだ図書館情報資源の組織化に関する理論や知識をさらに深めるとともに、図書や継続資料を初めとした多様な情報資源の書誌記述法に関するスキルを習得する。具体的には、『日本目録規則』（1987年改訂3版）のしくみと運用方法を学び、国立情報学研究所NACSIS-CAT（教育用）を活用しながら、書誌データ作成のための基本操作を学ぶ。

【授業における到達目標】

『日本目録規則』（1987年改訂3版）のしくみや目録規則に基づく書誌データの実践を理解できる。また、NACSIS-CAT（教育用）の活用により、書誌データの作成や所蔵登録などの基本操作ができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 情報資源組織演習を学ぶ意義
- 第2週 目録規則の標準化とコンピュータ目録（復習）
- 第3週 集中化・共同化による書誌データ（MARC・NACSIS-CAT）
- 第4週 記述目録法に関する総則
- 第5週 図書の記述（タイトルと責任表示）
- 第6週 図書の記述（版、資料の特性、出版・頒布等）
- 第7週 図書の記述（形態、シリーズ、他）
- 第8週 図書の記述（注記、標準番号）
- 第9週 継続資料の記述
- 第10週 各種資料の記述
- 第11週 標目・典拠・排列
- 第12週 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
- 第13週 総合演習問題（1）
- 第14週 総合演習問題（2）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業のレジメはその前週までに用意する。

事前学修 授業の予習として、テキストの該当ユニットを必ず読み、授業用レジメ配布の穴埋めを完成しておくこと。（学修時間 週1時間程度）

事後学修 授業内容を整理し、次の授業で行われる確認の小クイズに備える。また、授業で出された演習課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間程度）

【テキスト・教材】

1. 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美共著『情報資源組織演習』新訂版、JLA 図書館情報学シリーズⅢ 10（日本図書館協会 2016年）
2. 『日本目録規則』（1987年改訂3版、日本図書館協会、2006年）
3. 別途、毎回の授業レジメを用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の小テスト（50%）、学期末試験（50%）によって総合的に評価する。小テストのフィードバックは小テスト回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

【注意事項】

毎時間小テストを行うため、欠席が多いとそれだけ**得点が減る**ので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

情報資源組織法 1

— 目録法と分類法の基礎知識 —

松尾 昇治

1年 通年 2単位

【授業のテーマ】

図書館資料は、書誌情報を標準的な規則によって記述し、主題により分類して、組織化することによって、利用者が資料へアクセスすることを容易にする。今日では書誌データをMARC（機械可読式目録）として外部から入手することが可能となっているため、多くの図書館がMARCを利用して、資料の組織化を行っている。司書は、資料組織の意義や目的について理解していて、実際に資料の組織化ができなければならない。従って、この授業は講義および演習から成り立っている。

【授業における到達目標】

図書館資料の組織法を学ぶことによって、書誌情報を「日本目録規則」に則って記述すること、資料を主題によって分類することができるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

前期	後期
1. 図書館の機能と資料組織	1. 分類法とは
2. 資料組織業務の種類	2. 日本十進分類法の構成
3. 各種メディアと資料組織	3. 分類表の解説
4. 資料アクセスと資料組織	4. 補助表 形式区分
5. 書誌コントロール	5. 補助表 地理区分
6. 目録法の基礎	6. 補助表 言語区分等
7. 日本目録規則 総則	7. 関連索引
8. 日本目録規則 タイトルと責任表示	8. 分類記号の付与
9. 日本目録規則 版・出版等	9. 分類規程
10. 日本目録規則 形態・シリーズ	10. 図書記号等の付与
11. 日本目録規則 注記等	11. 件名法の基礎
12. 目録記入演習（1）	12. 分類法演習（1）
13. 目録記入演習（2）	13. 分類法演習（2）
14. 目録記入演習（3）	14. 分類法演習（3）
15. まとめ	15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週1時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週1時間程度）

【テキスト・教材】

和中幹雄等：『情報資源組織演習 新訂版』（J L A図書館情報学テキストシリーズⅢ 10[日本図書館協会、2016、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987年版改訂3版（日本図書館協会 2006年）

『日本十進分類法』新訂10版（日本図書館協会 2014年）

【注意事項】

目録規則および分類法を使って、資料の組織化ができるようになるためには一定の経験が必要であるが、利用者の視点を忘れずに組織化を行ってほしい。

情報資源組織法 1 a

—分類法の基礎知識—

松尾 昇治

3年 前期 1単位

【授業のテーマ】

図書館資料は、書誌情報を標準的な規則によって記述し、主題により分類して、組織化することによって、利用者が資料へアクセスすることを容易にする。今日では書誌データをMARC（機械可読式目録）として外部から入手することが可能となっているため、多くの図書館がMARCを利用して、資料の組織化を行っている。司書は、資料組織の意義や目的について理解していて、実際に資料の組織化ができなければならない。この授業は、日本十進分類法の構成や使い方を講義と演習によって学ぶ。

【授業における到達目標】

図書館の資料を組織化するために必要な分類法を学び、実際に『日本十進分類法』（新訂10版）を使い分類の演習を行うことによって、各種の資料に分類記号を付与することができるようになる。

【授業の内容】

1. 分類法とは
2. 日本十進分類法の構成
3. 分類表の解説
4. 補助表 形式区分
5. 補助表 地理区分
6. 補助表 言語区分等
7. 関連索引
8. 分類記号の付与
9. 分類規程
10. 図書記号等の付与
11. 件名法の基礎
12. 分類法演習（1）
13. 分類法演習（2）
14. 分類法演習（3）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを示すので下調べしておくこと。（週1時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週1時間程度）

【テキスト・教材】

和中幹雄等：『情報資源組織演習 新訂版』（J L A図書館情報学テキストシリーズⅢ 10[日本図書館協会、2016、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

『日本十進分類法』新訂10版（日本図書館協会 2014年）

【注意事項】

目録規則および分類法を使って、資料の組織化ができるようになるためには一定の経験が必要であるが、利用者の視点を忘れずに組織化の実際を習得してほしい。

情報資源組織法 1 b

—目録法の基礎知識—

松尾 昇治

3年 後期 1単位

【授業のテーマ】

図書館資料は、書誌情報を標準的な規則によって記述し、主題により分類して、組織化することによって、利用者が資料へアクセスすることを容易にする。今日では書誌データをMARC（機械可読式目録）として外部から入手することが可能となっているため、多くの図書館がMARCを利用して、資料の組織化を行っている。司書は、資料組織の意義や目的について理解していて、実際に資料の組織化ができなければならない。この授業は、日本目録規則による書誌の事項の記述方法を講義と演習によって学ぶ。

【授業における到達目標】

図書館資料を組織化するために必要な目録法を学び、実際に『日本目録規則』（1987年改訂3版）を使い演習を行うことによって、各種の資料の書誌の事項を記述することができるようになる。

【授業の内容】

1. 図書館の機能と資料組織
2. 資料組織業務の種類
3. 各種メディアと資料組織
4. 資料アクセスと資料組織
5. 書誌コントロールとNACSIS-CAT
6. 目録法の基礎
7. 日本目録規則 総則
8. 日本目録規則 タイトルと責任表示
9. 日本目録規則 版・出版等
10. 日本目録規則 形態・シリーズ
11. 日本目録規則 注記等
12. 目録記入演習（1）
13. 目録記入演習（2）
14. 目録記入演習（3）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを示すので下調べしておくこと。（週1時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週1時間程度）

【テキスト・教材】

和中幹雄等：『情報資源組織演習 新訂版』（J L A図書館情報学テキストシリーズⅢ 10[日本図書館協会、2016、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987年版改訂3版（日本図書館協会 2006年）

【注意事項】

目録規則および分類法を使って、資料の組織化ができるようになるためには一定の経験が必要であるが、利用者の視点を忘れずに組織化の実際を習得してほしい。

情報資源組織法 2

林 哲也

2年 通年 2単位

【授業のテーマ】

1年次で修得した目録法、分類法を踏まえ、和書および洋書の目録の作り方を具体例に即して演習形式で学ぶ。

【授業における到達目標】

図書館における目録作成業務の実務的な能力を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

【授業の内容】

前期	後期
第1週 記録管理・文書整理	第1週 洋書の目録
第2週 日本目録規則	第2週 和書の目録
第3週 基本件名標目表	第3週 ファイリング
第4週 日本十進分類法	第4週 書誌、文献リスト
第5週 タイトルと責任表示	第5週 英米目録規則 AACR2
第6週 版と刷の違い	第6週 語学マニュアル
第7週 出版者・頒布者	第7週 版と出版事項
第8週 ジャーナリズム	第8週 本の修理と保存
第9週 シリーズエリア	第9週 外国の図書館の目録
第10週 注記エリア	第10週 暦の基礎知識
第11週 標準番号と入手条件	第11週 著者名典拠
第12週 逐次刊行物	第12週 分類法
第13週 非図書資料	第13週 世界の人名とその周辺
第14週 読書推進活動	第14週 古典
第15週 まとめ	第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各週に指示する課題に取り組む（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で解説した内容を良く理解すること。各自の日常生活で出会った本についても目録の記述方法を考えてみること。（学修時間 週0.5時間）

【テキスト・教材】

和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美：『情報資源組織演習』新訂版（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ；10）〔日本図書館協会、2016、¥1,900(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験は実施せず、毎週のレポート（manabaで提出し、同じ内容を紙に印刷したものも併せて提出）によって成績を評価する。レポートは全件を添削し、留意すべき事項を授業中に解説する。成績評価の配分基準：レポート 100%

【参考書】

竹之内禎 [ほか] 編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』（講座・図書館情報学；11）（ミネルヴァ書房 2016年）本体価格3,500円

和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ；10）（日本図書館協会 2014年）本体価格1,900円

なお、教科書・参考書は、個人で購入しなくとも差し支えない。

『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』

『日本著者記号表』などの教材図書は人数分、大学側で用意する。

【注意事項】

読書日記を作成すること。毎日ではなく跳び跳びでも可。なまの形での提出を求めることはしない。目的は、レポートの素材実例を日常的に蒐集すること。

情報資源組織法 2 a

異言語（洋書等）情報資源洋の分類法と演習

今村 成夫

3年 前期 1単位

【授業のテーマ】

授業のテーマ：洋書の分類演習

この授業では、「情報資源組織法 1 a」で得た知識と技能をさらに高めるとともに、演習を通じて異言語で記述された情報資源の分類法についての理解向上をめざす。

【授業における到達目標】

- 主題分析と分類作業の実際について理解する。
- 「日本十進分類法（新訂第10版）」（NDC）のしくみと運用法を理解する。
- 「日本十進分類法 新訂第10版」（NDC）を運用して、一定のレベルまで資料、とりわけ洋書の分類ができるようになる。
- 主題分析と統制語彙適用の実際を理解する。
- 学生が修得すべき『行動力』のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる。プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力を、『研鑽力』のうち、学修成果を実感・自信創出ができる力を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス～授業の概要、授業計画、受講上の注意、達成度試験、課題提示
2. 図書館とは？／図書館における情報資源組織（資料組織）の意義／分類とは？／資料分類の歴史／分類法の種類と特徴／分類法の標準化（復習）
3. 日本十進分類法（NDC）のしくみと分類の手順（復習）
4. 分類の手順（つづき）／日本十進分類法を用いた和書の分類演習（復習）
5. 日本十進分類法を用いた和書の分類演習と解説（復習）
6. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習1-5
7. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説1-5と演習6-10
8. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習11-15
9. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習16-20と解説6-10
10. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説11-15
11. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説16-20
12. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習（応用編）
13. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説／デューイ十進分類法（DDC）および国際十進分類法（UDC）について
14. 図書記号について／分類と主題目録法について
15. 演習の講評とまとめ

【事前・事後学修】

1回目：シラバスをよく読む。情報資源組織法2aのノートを読む。
 ／2回目：配布プリント上の課題を終える。／3～4回目配布プリントをよく読む。予備テストの返却物の採点結果をチェックする。
 ／5～6回目：NDCの解説部分によく目を通す。／7～11回目：洋書の実例をみる。授業中に終わらなかった演習は、終わらせて提出。／12回目～15回目：配付プリントに目を通す。提示の課題プリントはすべて完成させて提出すること。毎回予習復習各二時間の予習・復習を求める。

【テキスト・教材】

日本十進分類法 新訂第10版[日本図書館協会、2014]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、成果物の評価点）および定期試験の点数を総合して評価をおこなう。授業に出席しただけでは、平常点は評価できない。平常点は成果物についての評価が基本となる。欠席や早退、授業に参加しないなどの場合には減点をおこなう。

平常点：定期試験点数＝40％＋60％

提出物中の各課題それぞれについて、個別に議論する形式で問題点を提起した上で、それらへの正しい処理方法について考察する。

【参考書】

『資料分類法及び演習』第二版. 今まど子ほか共著. 樹村房, 1999 (¥1,900)

このほか必要に応じて授業時に紹介する。

【注意事項】

・この授業には多数の演習が含まれている。遅刻・欠席を重ねるなどした場合、授業の内容が理解できなくなったり、成果が十分でない可能性もある。欠席しないよう努力すること。また、評価に際して、公欠を除き欠席や遅刻などの考慮はできない。

「情報資源組織法 1 a」を履修した者だけが受講できる。遅刻や早退、欠席は減点の対象となる。授業中に他の作業をおこなった場合には、減点の対象となる。出席日数が不足している者および授業に参加しない者の単位認定はしない。その他評価の方法や受講上の留意点は初回授業時に詳しく説明するので、必ず聴くこと。

情報資源組織法 2 b

異言語の情報資源（洋書）の書誌記述の演習

今村 成夫

3年 後期 1単位

【授業のテーマ】

授業のテーマ：洋書や非図書資料の目録作成演習

この授業では、「資料資源組織法1b」で得た知識と技能をさらに高めるとともに、演習を通じて異言語で記述された資料（洋書）や非図書資料の目録法についての理解をめざす。

【授業における到達目標】

- 「日本目録規則1987年版改訂3版」のしくみと運用法を理解する。
- 『日本目録規則1987年版改訂3版』を用いて書誌データ作成ができるようになる。
- 集中化・共同化による書誌データ作成の実際を理解する。
- ネットワーク上の情報資源のメタデータ作成の実際について理解する。学生が修得すべき『行動力』のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる。プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力を、『研鑽力』のうち、学修成果を実感・自信創出ができる力を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス～授業の概要、授業計画、受講上の注意、達成度試験、課題提示
2. 図書館とは？/図書館における資料組織の意義/目録とは？/目録の歴史/目録の種類と特徴/目録規則の標準化（復習）
3. 日本目録規則1987年版改訂3版（NCR）のしくみと記述の手順（復習）
4. 日本目録規則を用いた和書の記述演習（復習）
5. 日本目録規則を用いた和書の記述演習1-5と解説1-5
6. 日本目録規則を用いた和書の記述演習6-10と解説6-10
7. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習1-5
8. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習6-10と解説1-5
9. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習11-15
10. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習16-20と解説6-10
11. 日本目録規則を用いた洋書の記述解説11-15
12. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習1-10と日本目録規則を用いた洋書の記述解説16-20
13. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習11-20
14. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習解説11-20/Copy catalogingについて/主題目録法について/目録編成法について
15. まとめ

【事前・事後学修】

1回目：シラバスをよく読む。/2回目：図書館の意義や資料組織の目的を復習する。/3～4回目：配布プリントのワークを終える。/5回目：テキストおよびNCRの解説部分によく目を通す。/6～11回目：演習課題は、各自で終わらせて次回提出。図書館で洋書の実例をみる。/12回目：AACR II Rに関するプリントおよび、テキストの該当箇所目を通す。/13～15回目：演習課題は、完成させて提出。毎回予習復習各二時間の予習・復習を求める。

【テキスト・教材】

日本目録規則1987年版改訂3版[日本図書館協会、2006、※このND Cは、授業時に貸与される予定である。]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、成果物の評価点）および定期試験の点数を総合して評価をおこなう。出席しただけでは、平常点の評価はできない。成果物への評価が基本となる。平常点：定期試験点数＝40%＋60%。遅刻、欠席、早退等をした場合や授業に参加しない場合には、減点をおこなう。提出物中の各課題それぞれについて、個別に添削し、議論する形式で問題点を提起した上で、それらへの正しい処理方法について考察する。

【参考書】

『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会 1999年）
『英米目録規則第二版改訂版』（日本図書館協会 絶版）
必要に応じて授業時に紹介する。

【注意事項】

・この授業には多数の演習が含まれている。遅刻や欠席を重ねるなどした場合、授業の内容が理解できなくなったり、成果が十分でない可能性もある。欠席や遅刻をしないよう努力すること。公欠以外の理由による欠席や遅刻は考慮できない。「情報資源組織法1b」を履修した者だけが受講できる。遅刻や早退は減点の対象となる。出席日数が不足している者および授業に参加しない者の単位認定はしない。なお、初回授業時に、評価の方法や受講上の留意点について、詳しく説明するので、必ず聴くこと。

情報資源組織論 a

図書館情報資源へのアクセスのための手立て

田嶋 知宏

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

現在の図書館は、多種多様な情報資源を扱っている。それらの情報資源は、利用者がアクセスできるように準備されていなければならない。その手立てが、図書館情報資源の組織化である。この授業では、図書館で扱われる情報資源の組織化に関わる理論と方法論を学ぶ。日本では、情報資源組織化のための新たな目録規則が策定されている。新たな目録規則と従来の目録規則との相違にも言及する。

【授業における到達目標】

- ・図書館で行われている情報資源組織化の役割と意義を説明できる。
- ・書誌コントロールや典拠コントロールについて、何も見ずに説明できる。
- ・目録法の理論について、何も見ずに説明できる。
- ・日本目録規則の内容を覚え、何も見ずに説明できる。
- ・情報資源組織化の新たな方法について理解し、その特徴を何も見ずに説明できる。
- ・日本目録規則1987年版と日本目録規則2018年版の相違を理解し、何も見ずに説明できる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
図書館情報資源の組織化の意義：目録の機能
- 第2週 図書館情報資源の情報とは：書誌情報を考える
- 第3週 書誌コントロール、典拠コントロールと書誌ユーティリティ
- 第4週 目録法について（何を書くのか、どう書くのか）
：記述・ISBD
- 第5週 記述のための規則：目録規則を学ぶ
『日本目録規則（NCR）』：総説及び、書誌階層と書誌単位
- 第6週 記述総則
- 第7週 図書（書誌情報の把握）
- 第8週 図書（書誌情報の記述方法）
- 第9週 継続資料（書誌情報の把握と記述方法）
- 第10週 録音資料・映像資料（書誌情報の把握と記述方法）
- 第11週 アクセス・ポイントの構築：標目
- 第12週 洋資料（英語資料）の目録（書誌情報の把握と記述方法）
- 第13週 情報資源組織化の新たな方法
：概念モデル
：IFLA Library Reference Model (IFLA LRM)
：典拠データの機能要件
(Functional Requirements for Authority Data; FRAD)
：国際目録原則 (ICP)
- 第14週 RDA及び『日本目録規則2018年版』：1987年版との比較から
- 第15週 図書館情報資源の組織化に関する理解の確認とまとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：事前に配布された資料を読み、内容を理解するとともに、わからない点を明確にしておくこと。（週2時間）
- 事後学修：授業内容をノートなどに整理し、わからなかった点を調べておくこと。（週2時間）
：小レポートの作成（5時間）

【テキスト・教材】

- 『日本目録規則：1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006年）
*図書館学課程研究室で準備する。
その他、必要に応じてプリントも配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末に実施する筆記試験（70%）、授業内課題・小レポート（15%）、授業への積極的な参加態度〔リアクションカードへの記入状況で判断する〕（15%）で評価する。

学期末試験については、試験前の授業で、ポイントの解説を行

う。小レポートは評価を行い、返却する。リアクションカードは、確認のうえ各回返却する。

【参考書】

- 渡邊隆弘「新しい『日本目録規則』のすがた：何が新しくなるのか」『現代の図書館』55巻4号、2017年12月
- 「新しい『日本目録規則』（NCR2018年版）の特徴」『国立国会図書館月報』691号、2018年11月、p.23-25.
- 上田修一、蟹瀬智弘著『RDA入門：目録規則の新たな展開』（日本図書館協会、2014年）
- 『日本目録規則2018年版』（日本図書館協会、2018年）PDF版は次のURLから入手可能。<https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018/tabid/787/Default.aspx>

【注意事項】

グループワーク（グループ討議）を2週目に実施する予定です。積極的に参加してほしい。

前週にアナウンスをして、図書を持参してもらうことがあります。実物で確認しながら授業を受けることで理解が深まりますので、忘れずに持参してください。

情報社会システム特論

松下 慶太

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

インターネット、ソーシャルメディア、人工知能、ロボットなどテクノロジーと人間、社会の相互作用について、具体的な事例と理論的な枠組みを往復しつつ、社会学的・歴史学的な視点から理解を深める。具体的には、ワークスタイル、ワークプレイスなど「働くこと」の変容を重点的に取り上げる。

【授業における到達目標】

情報社会における各領域の変容や課題を技術の進展から分析できるようにする。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 社会と技術の歴史
3. 機械とスキル
4. 技術発展の方向性
5. デジタル化による社会変容
6. 人工知能とデジタル・ネットワーク
7. セカンド・マシン・エイジ
8. GDPの限界
9. 情報化社会における「格差」
10. 人材・スキルの偏在
11. 情報化によるワークスタイルの変化
12. 情報化によるワークプレイスの変化
13. フィールドワーク (1) ワークスタイル
14. フィールドワーク (2) ワークプレイス
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：10週までは教科書の章が対応しているので内容を読み解き、まとめてくること。11-14週はフィールドワーク先の情報収集が求められる。（週2時間）

事後学修：各週の内容をミニレポートとしてまとめること。（週2時間）

【テキスト・教材】

エリック・ブリニョルフソン、アンドリュー・マカフィー：ザ・セカンド・マシン・エイジ[日経BP社、2015、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・事前学習報告：30%
- ・ミニレポート：30%
- ・最終レポート：40%

事前課題について授業中に、またミニレポートは次回授業に、最終レポートについては個別にメールでフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介する。

【注意事項】

特になし。

情報社会論

高度情報社会で女性が生き抜くには、メディアは敵か味方か？

駒谷 真美

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

情報社会において、情報強者と弱者の関係性は表裏一体である。例えば、SNSで#MeTooが拡散され、今までサイレントマジョリティであったセクハラ被害者が立ち上がり、世界中に運動が波及している。本授業では「メディアと女性」に焦点化し、情報社会が抱える課題を追究し、クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシーを育成していく。

【授業における到達目標】

メディア情報リテラシーの基礎 [批判的思考] ①情報を批判的に読み解き評価する。②情報の信憑性を識別する。
①②の達成により、本学の学生が修得すべき [行動力] 「現状を正しく把握し、課題発見できる力」を修得する。

【授業の内容】

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. ヒロシマのヒバクシャ (1)
—「この世界の片隅に」本当にあるものは？
3. ヒロシマのヒバクシャ (2)
—メディアによる偏見、終わらない戦後
4. ヒロシマのヒバクシャ (3) グループディスカッション
5. パキスタンのイスラム少女 (1)
—「一本のペンが世界を変える」には？
6. パキスタンのイスラム少女 (2) —女性と教育とメディア
7. パキスタンのイスラム少女 (3) グループディスカッション
8. ハリウwoodsの女性たち (1)
—「#MeToo」メディアは敵か味方か？
9. ハリウwoodsの女性たち (2)
—メディアが助長するセクハラのお温床
10. 戦火の女性たち (1) —それでも人として生き抜く
11. 戦火の女性たち (2)
—戦争の武器の性暴力、その撲滅にメディアができること
12. Society 5.0東京に生きる私たち (1) プレゼンと講評
13. Society 5.0東京に生きる私たち (2) プレゼンと講評
14. Society 5.0東京に生きる私たち (3) プレゼンと講評
15. 総括 プレゼンの全体フィードバック・事後アンケート

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間：週2時間）では、該当回のmanabaのコンテンツ機能にある授業資料を熟読予習し授業に臨む。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、次のディスカッションに備え復習する。授業後半のプレゼンテーションの準備をする。

【テキスト・教材】

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（第1～15週のリフレクションシートNo. 1～No. 5）50%+活動点（ディスカッション・プレゼンテーション）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼンテーションは最終回に総合的にフィードバック。

【参考書】

授業で適宜紹介。

【注意事項】

- ・本授業では、主体的に問題意識を持って学修してもらいたい。
- ・本講義は、人間の生死や性に関わるテーマについて、真剣に丁寧に向き合っていく。よって、この重要性がわかる学生のみ受講されたい。受講者は真摯な態度で臨んでほしい。
- ・履修は上限25人を目安とし、超過した場合は初回に抽選する。
- ・「演習ⅢA・B」（駒谷担当）の履修生は、本授業も受講することが望ましい。

情報通信ネットワーク概論

小山 裕司

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

これまでどのように情報を記録し、伝達してきたか、さらにこれからの情報伝達はどのように発展していくか等、情報伝達及びコミュニケーションを学びます。特に、情報通信ネットワークが発達している現在、情報通信技術及びコミュニケーションの活用を学びます。また、ウィルス等のインシデントに関しても学びます。授業では、インターネット等の情報通信ネットワークの仕組み及び構成を取り扱い、ソーシャルメディア等の情報通信ネットワークの活用が生活環境に及ぼしている影響にも触れます。

【授業における到達目標】

この科目では以下の事項を修得することを到達目標にします。

- ・インターネットの仕組み
- ・情報通信・情報技術の歴史
- ・IT関係の基礎知識

学生が修得すべき「研鑽力」のうち継続的に学ぶ力と、「国際的視野」のうち自ら情報を発信する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1回：情報伝達の歴史
- 第2回：情報伝達の種類と特性
- 第3回：情報通信ネットワークの歴史
- 第4回：インターネット（TCP/IP）の特徴
- 第5回：インターネットの仕組み
- 第6回：ネットワークインターフェイス
- 第7回：ネットワークアプリケーション
- 第8回：電子メールの仕組み
- 第9回：Webの仕組み
- 第10回：各種のコミュニケーション
- 第11回：各種の検索
- 第12回：ソーシャルメディアの特徴
- 第13回：ソーシャルメディアの活用
- 第14回：ウィルス等のインシデント
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

（事前）各回の授業の内容を授業前に確認してください。（週1時間程度）

（事後）各回の授業の内容は次回までに復習してください。また、授業で取り扱った内容に関する課題を出しますので、次回までに取り組んでください。（週3時間程度）

【テキスト・教材】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40点、レポート及び小テスト60点を基本として総合的に評価します。レポート・小テストは当日あるいは次回授業で、試験結果は当日あるいは授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

情報文化論 a

—メディアの産みだすもの—

大倉 恭輔

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

今日の社会では、血縁や地縁にもとづく伝統的な文化に代わり、情報文化やメディア文化が大きな影響力を持つようになりました。この授業では、まず文化と情報のかかわりあい方について理解した上で、メディア論の視点から、映画とアニメの社会・文化的な意味について考えていきます。

【授業における到達目標】

映画やアニメーションの歴史を映像を見ながらたどり、そうした新しいメディアがどのような文化を生み出したのかについて理解できることをめざします。

そこから、多様な価値の存在に気づきながら感受性を深め、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思います。

【授業の内容】

- 01 はじめに：文化とは何か
- 02 情報の文化と視覚の文化
- 03 映画の歴史 a リュミエールに始まる
- 04 映画の歴史 b 娯楽としての映像
- 05 映画の歴史 c 芸術としての映像
- 06 映画の歴史 d ハリウッドとあこがれのかたち
- 07 映画の歴史 e 貧しさを描く
- 08 映画の歴史 f 超大作とB級映画
- 09 映画の歴史 g 権威を疑う
- 10 アニメの歴史 a コマ撮りの世界
- 11 アニメの歴史 b ディズニーだけがアニメではない
- 12 アニメの歴史 c ディズニーのすごさとは何か
- 13 アニメの歴史 d 絵を動かすだけがアニメではない
- 14 アニメの歴史 e コンピュータの発達とアニメ
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がこなされる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

【テキスト・教材】

- ・テキストは使用しません。
- ・基本的に、manaba を利用して資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・他の授業以上に、映像をみて感じ考えることが重要な授業です。視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

色彩学

ーデザインに役立つ色彩の知識を身に付けるー

槇 究

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

授業形態であるため、授業時間外の作業時間も相応に必要となる。また、教科書の順番に講述するというスタイルではないので、授業中テストを受ける時には、授業で学んだ知識を再構成する必要がある。そのことに留意して、受講して欲しい。

【授業のテーマ】

この授業では、色彩学の分野からカラーデザインに役立つものを選出して講述する。その知識を身に付けると共に、調査や演習を通じて身の回りの色彩環境について考えていく。

【授業における到達目標】

- ・デザインやコーディネートに役立つ色彩学の基本的な知識を身に付ける
- ・デザインに役立つ色彩情報を収集する時の注意点、カラーシミュレーション手法、色彩情報の伝達方法について理解する
- ・ファッション、プロダクト、インテリア、街並みそれぞれの分野におけるカラーデザインに役立つ知識を身に付け、整理して説明できるようにする

以上のことから、美を生み出すこと、多様な視点からのデザインにアプローチすること、課題解決のために主体的に行動することができる力を身に付ける

【授業の内容】

<色の効果を把握する>

- 第1講 色名
- 第2講 色を表現する体系 演習
- 第3講 色を表現する体系
- 第4講 色の効果
- 第5講 配色
- 第6講 色以外の要因の影響
- 第7講 カラーユニバーサルデザイン

<色を作って確かめる>

- 第8講 色を測る、色を記録する
- 第9講 カラーシミュレーションとカラーマネジメント

<生活環境におけるカラーデザイン>

- 第10講 ファッション色彩
- 第11講 プロダクトの色彩
- 第12講 インテリアの色彩 演習
- 第13講 インテリアの色彩
- 第14講 街並みの色彩
- 第15講 総括

【事前・事後学修】

身の回りの色彩環境の調査レポート等の演習的要素を盛り込むので、それを授業時間に実施するための準備が必要となる。また、確認問題についてmanabaで回答し、自身の理解状況を把握する。(学修時間 週4時間)

【テキスト・教材】

テキストについては、いくつかの形態での配布が可能であるので、初回授業中に指示する。また、授業と連動したプリント、確認問題を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：授業中テストの成績、課題提出の状況をもとに判断する。

(授業中テスト：70%、課題：30%)

評価基準については、授業冒頭で説明する。

フィードバック：各回の小テストで正答率が低かった設問について、次回授業開始時に解説する。

【参考書】

- 千々岩英彰著『色彩学概説』（東京大学出版会）
- 『カラーコーディネーション』（中央経済社）
- 『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』（日本色研事業）
- 『建築の色彩設計法』（日本建築学会）

【注意事項】

実際の色彩環境をリサーチしながら色彩学の知識を獲得するという

色彩設計演習 a

ーカラーデザインのプロセスを経験するー

槓 究

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

建築室内及び建築外観を対象とした色彩設計を行う。

【授業における到達目標】

- ・生活環境のカラーコーディネーションを論理的に行い、説明できるようになる。
 - ・Adobe Photoshop, Illustrator, InDesignの基本的な使い方を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。
- 美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、建築のカラーデザインをする力を身に付ける。

【授業の内容】

<インテリアの色彩設計>

室内模型を作成し、インテリアの配色を行う。囲まれた空間に対する配色手法、質感を考慮する必要性を学ぶ。

- 第1週 全体説明、模型切り出し
 第2週 模型切り出し、コンセプト立案、色紙の選択
 第3週 コンセプトボード作成
 第4週 模型組み立て、色紙貼り付け
 第5週 色紙貼り付け、家具製作
 第6週 発表、コメント

<建築空間構成要素のカラーデザイン>

建築室内を構成するアイテムのカラーデザインに関する演習を行う。併せて、画像処理ソフトの使用方法を学ぶ。

- 第7週 課題紹介、色変換手法の解説
 第8週 色変換領域設定と変換作業

<エクステリアの色彩設計>

外部空間（街並み）の色彩設計を、画像処理ソフトによるカラーシミュレーションを利用しながら実施する。調査・資料作成・プレゼンテーションを行い、説得のプロセスを経験する。

- 第9週 いい建物・街並みの探索
 第10週 カラーパレット作成
 第11週 カラーデザインの探索
 第12週 カラーシミュレーション
 第13週 色彩設計案のパネル作成
 第14週 発表
 第15週 発表

【事前・事後学修】

設計対象の色彩調査を実施する。課題作成に使用する画像を撮影する。授業中に実施された発表についてレポートを作成し、提出する。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。授業内容を説明したスライドをmanabaにアップする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出された課題をもとに判定する。

（課題：100%（プレゼンテーションを含む））
 相互評価を実施し、他者へのプレゼンテーションについての意見をフィードバックすると共に、自身のプレゼンテーションについて考察する。

【参考書】

槓 究著『カラーデザインのための色彩学』（オーム社）
 仲田玲子著『ゼロからのステップアップ Adobe Photoshop for Macintosh』（ラトルズ）
 日本建築学会編『建築の色彩設計法』（日本建築学会）

【注意事項】

コンピューターを用いた演習課題があるので、情報系の授業をしっかり受講しておくこと。

色彩設計演習 b

ーカラーデザインのプロセスを経験するー

槓 究

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

身近な生活環境から対象を選定し、色彩設計を行う。

【授業における到達目標】

- ・生活環境のカラーコーディネーションを論理的に行い、説明できるようになる。
 - ・Adobe Photoshop, Illustrator, InDesignの基本的な使い方を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。
- そのことにより、美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、身近な対象物をカラーデザインする力を身に付ける。

【授業の内容】

<カラーデザインの改善>

テキスタイル、ポスター、ブックカバー、プロダクト、衣服、インテリアなどを題材に、色を変更することでデザインを改善する演習を実施する。併せて、画像処理ソフトの使用方法を学ぶ。

- 第1週 全体説明／色変換練習
 第2週 色変換練習
 第3週 カラーパレット・平面構成
 第4週 雑誌広告
 第5週 デザインへの適用
 第6週 プロダクトのカラーバリエーション 事例1
 第7週 プロダクトのカラーバリエーション 事例2

<対象物を定めての色彩設計>

生活空間、生活用品、衣服から色彩設計の対象を選択し、画像処理ソフトを用いたカラーシミュレーションを利用しながら色彩設計を実施する。現況についての色彩調査・資料作成・プレゼンテーションを行い、説得のプロセスを経験する。

- 第8週 課題設定、写真撮影法
 第9週 Webを使った色彩調査、現実の色彩調査
 第10週 現状調査、問題点の整理
 第11週 色彩調査結果の発表・コンセプト立案
 第12週 カラーデザインの探索
 第13週 プレゼンボード作成
 第14週 発表 その1
 第15週 発表 その2

【事前・事後学修】

色彩設計対象の色彩調査を実施する。また、課題作成に使用する画像を撮影する。
 授業中に実施された発表についてレポートを提出してもらう。
 （学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

プリント配布の他、授業内容を説明したスライドをmanabaにアップする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法___提出された課題をもとに判定する。

（課題：100%（プレゼンテーションを含む））
 基準については、授業中に紹介する。
 フィードバック___相互評価を実施し、他者へのプレゼンテーションについての意見をフィードバックすると共に、自身のプレゼンテーションについて考察する。

【参考書】

槓 究著『カラーデザインのための色彩学』（オーム社）
 日本建築学会編『建築の色彩設計法』（日本建築学会）
 小倉ひろみ著『成功するプロダクトのためのカラーリング講座』（美術出版社）

【注意事項】

コンピューターを用いた演習課題があるので、情報系の授業をしっかり受講しておくこと。

食のリスク管理

山崎 壮

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

食品の有効性や危険性に関する情報として、科学的に正しい情報も不適切な情報も大量に社会に送り出されています。食の安全をなんとなく風評を基に判断しがちな人々も多いです。そこで、食品のリスクと安全性に関する基本的知識を理解することにより、社会にあふれる食に関する情報を科学的根拠から判断して自分なりの意見をもつ態度を養うことをめざします。それにより、栄養士または食に関わる者として食の安全・安心を説明できるようになることをめざします。

【授業における到達目標】

社会にあふれる「にせ科学」にまとわされない、科学的根拠に基づいて考える態度、および「賢い消費者」になろうとする態度を修得することをめざします。

【授業の内容】

(1) 食品成分の機能性と適正利用を考える

第1週 「健康食品」を理解する1:

「健康食品」の機能性と栄養生化学—糖質ダイエットを例にして考える

第2週 「健康食品」を理解する2:

食品成分の機能を科学的根拠に基づき考える—雑誌記事や新聞折り込み広告および参考書1、4を資料にして考える

第3週 「健康食品」を理解する3:自分たちはどう考えるか

履修者同士で意見発表と質疑応答

(2) 食のリスクを考える

第4週 序論 食の安全とは何か?

第5週 食品と放射性物質(教科書の第1章)

第6週 生物から体を守る(教科書の第2章)

第7週 化学物質から体を守る(教科書の第3章)

第8週 思い込みの怖さを知る(教科書の第4章)

第9週 リスクの考え方を知る(教科書の第5章)

第10週 家庭調理における食品のリスクマネジメント

(参考書2の第6章、参考書3の第3章)

(3) 調査結果の発表と質疑応答

第11週～第15週

毎回の授業では、以下の活動を行います。

1) 発表担当履修者による話題提供

各自が食品または食品成分の機能性、リスク、適正利用に関するテーマを自ら選び、学習・調査をします。調査内容をパワーポイントまたは配付資料を使って発表します。各回の授業で2人程度が発表します。授業期間中でひとり2回の発表をします。

2) 話題提供に対する質疑応答

発表役以外の履修者が順番に質疑応答の司会・進行役を務めます。

質問に対する回答が不十分であった場合には、宿題にして調査し、次回の授業で報告します。

3) 発表テーマと質疑応答内容に対して教員が解説と講評をします。

【事前・事後学修】

(1)～(2): 講義形式の授業

①授業で取りあげる章の予習(学修時間 週1時間)

②宿題: 講義で取り上げたテーマに関連した調査レポート(宿題)の作成(学修時間 週3時間)

(3): アクティブラーニング形式の授業

①話題提供の準備(テーマの選定、調査、発表資料の作成など)

②質問に対する回答の調査(学修時間 ①と②合計で週4時間)

発表資料のや宿題の提出: manaba courseを使用します。

【テキスト・教材】

松永和紀著『お母さんのための「食の安全」教室』(女子栄養大

学出版部、2012年) 1,500円+税

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義時期の宿題(50%)、アクティブラーニング時期の話題提供と質疑応答への積極的参加(50%)

提出された宿題は履修者全員に配布します。提出された宿題および話題提供の発表内容に対しては、授業中に講評します。

【参考書】

1. 佐々木敏著『佐々木敏の栄養データはこう読む!』(女子栄養大学出版部、2015年) 2,500円+税

2. 佐々木敏著『佐々木敏のデータ栄養学のすすめ』(女子栄養大学出版部、2015年) 2,500円+税

3. 食品の安全を守る賢人会議編『食品を科学する～意外と知らない食品の安全～』(大成出版社、2018年) 2,600円+税

4. 松永和紀著『効かない健康食品 危ない自然・天然』(光文社、2017年) 860円+税

【注意事項】

履修者数によって、授業の進め方を変更することがあります。

食育と調理

白尾 美佳

4年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

子どもから高齢者まであらゆるライフステージにおいて間断ない食育を推進し、食に関する自己管理能力を醸成するためには調理を通じた食育が有効的な場合が多い。そこで、本授業では調理時における食育実践能力の向上を目指す。

【授業における到達目標】

食育実践ができる能力を身に着けることを目標とする。

【授業の内容】

1. オリエンテーションと食育実践に関する準備
2. 幼児を対象とした食育と調理
3. 児童生徒を対象とした食育と調理
4. 妊産婦や成人男性を対象とした食育と調理
5. 高齢者を対象とした食育と調理
6. 運動時における食育と調理
7. 地場産農作物を利用した食育と調理
8. 地域と連携した食育

【事前・事後学修】

事前学修：それぞれの対象者の特性を把握し、教材等を作成する。

(学修時間 週1時間)

事後学修：食育を実施した評価と復習を行う。

(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

食育実践に対する意欲30%、提出物40%、食育実践能力30%

食育実践後の相互評価時にフィードバック行います。

【参考書】

坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』（医歯薬出版）

山崎文雄著『子どもの食教育』（第一出版）

田中信監修『食に関する指導の実践1～4』（小学館）

【注意事項】

- ・授業は2コマ続きで行います。
- ・日程については掲示を確認してください。
- ・履修者自らが調理を通じた食育実践を行います。
- ・地域における食育を実施する場合、通常の授業日以外の日程になることがあります。

食事計画演習

山岸 博美

1年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食事計画は、対象者の栄養アセスメントに基づいて目標栄養量を設定し、食品の選択・料理の組み合わせや作業工程を考慮した食事提供を計画することである。

食事計画を体験することにより、作業の手順と計画立案に必要な知識と技術を習得する。

【授業における到達目標】

1. 食事計画の手順について理解する。
2. 管理栄養士の役割、活動分野、関連職種とのかかわりを学ぶことで、栄養専門職としての管理栄養士に関する理解を深める。
3. 食事計画に必要な各教科との関連について理解する。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 管理栄養士の職域、役割、業務
- 3 対象者の栄養状態の評価（1）（食生活調査の実践）
- 4 対象者の栄養状態の評価（2）（食品のコーディングほか）
- 5 対象者の栄養状態の評価（3）（栄養素計算ほか）
- 6 対象者の栄養状態の評価（4）（身体計測ほか）
- 7 対象者の栄養状態の評価（5）（評価と食事摂取基準の関連）
- 8 献立作成（1）（食品群別加重平均成分表の作成）
- 9 献立作成（2）（食品構成表の作成）
- 10 献立作成（3）（食事様式、食品や調理方法の組み合わせ）
- 11 献立作成（4）（2日分の献立作成）
- 12 献立作成（5）（栄養素計算等による評価）
- 13 献立作成（6）（調理方法、調理上の注意、作り方の記載）
- 14 発表と評価
- 15 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回テーマについて各自で調べ、レポートにまとめる。

（学修時間1時間/週）

【事後学修】

授業の課題を完成させる。（学修時間2時間/週）

完成させた課題を用いて授業を行う。

【テキスト・教材】

文部科学省：日本食品標準成分表2015年版（七訂）[¥1,850(税抜)]
調理のためのベーシックデータ（第5版）[女性栄養大学出版、¥1,800(税抜)]

日本人の食事摂取基準（2015年版）[第一出版、¥2,700(税抜)]

食べ物と健康 食事設計と栄養・調理[南江堂、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート80%（提出期日厳守、課題の完成度）

課題は次回授業で使用し、最終回でフィードバックを行う。

授業態度20%（グループワークや発問など取り組み状況）

【参考書】

- 1 「日本食品標準成分表2015年版（七訂）追補2017年（文部科学省科学次術・学術審議会資源調査分科会：1700円＋税）

【注意事項】

この授業は、食事計画に必要な知識や技術を学ぶだけでなく、演習を通して管理栄養士の業務を捉えていきます。多くの体験から考える力を身につけてください。

食事摂取基準論

長谷川 めぐみ

1年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

個人あるいは集団の栄養計画を立案するにあたっては、対象者の栄養アセスメントを行ない、必要と考えられるエネルギー量ならびに栄養素量を設定する。その際、基準として用いられるのが食事摂取基準である。本科目では、エネルギーや各栄養素の必要量がいかんにして策定されたのか、その指標の意義を理解し、科学的根拠に基づく栄養学（evidence-based nutrition：EBN）を実践するための基礎を習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

わが国の食事摂取基準のみならず、諸外国における食事摂取基準も学び国際的視野を持つ栄養士、管理栄養士をめざす。

【授業の内容】

- 第1週 食事摂取基準の概要
- 第2週 策定方針
- 第3週 策定の基本的事項
- 第4週 策定の留意事項
- 第5週 活用に関する基本的事項
食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点
- 第6週 目的に応じた活用上の留意点①（個人の食事改善）
- 第7週 目的に応じた活用上の留意点②（集団の食事改善）
- 第8週 指標の科学的根拠①（エネルギー）
- 第9週 指標の科学的根拠②（推定平均必要量、推奨量）
- 第10週 指標の科学的根拠③（目安量）
- 第11週 指標の科学的根拠④（耐容上限量）
- 第12週 指標の科学的根拠⑤（目標量）
- 第13週 対象特特別の留意事項
- 第14週 諸外国の食事摂取基準
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：講義前に1時間、テキストおよび事前配布資料の該当箇所を読み2時間の事前学修をもって講義内容を把握しておく
事後学修：講義内容に関する試験を毎回の講義で実施する。この準備のために講義後2時間以上の学修を行うこと。

【テキスト・教材】

『日本人の食事摂取基準 [2015年版] 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書[第一出版、2014、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、講義毎に実施する試験30%で評価する
講義毎の試験結果はA, B, C, Dの4ランクで学生に公表する。評価がA, B, CおよびDだった者に対してそれぞれのレベルに応じて個別指導を実施する。

【参考書】

- 『食事摂取基準 - 理論と活用 - 』
(医歯薬出版) 本体2,000円
- 『食事摂取基準入門 そのことを読む』
(同文書院) 本体1,500円

食事摂取基準論

長谷川 めぐみ

1年 後期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

個人あるいは集団の栄養計画を立案するにあたっては、対象者の栄養アセスメントを行ない、必要と考えられるエネルギー量ならびに栄養素量を設定する。その際、基準として用いられるのが食事摂取基準である。本科目では、エネルギーや各栄養素の必要量がいかんにして策定されたのか、その指標の意義を理解し、科学的根拠に基づく栄養学（evidence-based nutrition：EBN）を実践するための基礎を習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

わが国の食事摂取基準のみならず、諸外国における食事摂取基準も学び国際的視野を持つ栄養士、管理栄養士をめざす。

【授業の内容】

- 第1週 食事摂取基準の概要
- 第2週 策定方針
- 第3週 策定の基本的事項
- 第4週 策定の留意事項
- 第5週 活用に関する基本的事項
食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点
- 第6週 目的に応じた活用上の留意点①（個人の食事改善）
- 第7週 目的に応じた活用上の留意点②（集団の食事改善）
- 第8週 指標の科学的根拠①（エネルギー）
- 第9週 指標の科学的根拠②（推定平均必要量、推奨量）
- 第10週 指標の科学的根拠③（目安量）
- 第11週 指標の科学的根拠④（耐容上限量）
- 第12週 指標の科学的根拠⑤（目標量）
- 第13週 対象特特別の留意事項
- 第14週 諸外国の食事摂取基準
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：講義前に1時間、テキストおよび事前配布資料の該当箇所を読み2時間の事前学修をもって講義内容を把握しておく。

事後学修：講義内容に関する試験を毎回の講義で実施する。この準備のために講義後2時間以上の学修を行うこと。

【テキスト・教材】

日本人の食事摂取基準〔2015年版〕 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書〔第一出版、2014、¥2,700(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、講義毎に実施する試験30%で評価する

講義毎の試験結果はA, B, C, Dの4ランクで学生に公表する。評価がA, B, CおよびDだった者はそれぞれの段階に応じて個別指導を実施する。

【参考書】

『食事摂取基準 - 理論と活用 - 』

(医歯薬出版) 本体2,000円

『食事摂取基準入門 そのことを読む』

(同文書院) 本体1,500円

食商品学

松岡 康浩

1年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、協働力

【授業のテーマ】

食品産業における、商品としての食商品について理解します。外食、中食、内食を問わず、現代日本の食品産業における食商品の開発、生産、流通、販売、消費の実際を把握し、あるべき姿を考えることは、将来食品産業に携わる者にとって重要です。事例研究を織り交ぜながら、食商品とは何かを論じます。

【授業における到達目標】

フードシステムにおける食商品の知識を得、あり方について考える力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 概論：商品としての食品
- 第2週 事例研究① 外食産業における商品戦略
- 第3週 食商品の分類
- 第4週 食商品の形態
- 第5週 食商品の流通販売
- 第6週 食品の消費の類型
- 第7週 食商品と戦略①マーケティング戦略
- 第8週 食商品と戦略②マーケティングミックス
- 第9週 事例研究② 飲料業界における商品戦略
- 第10週 課題
- 第11週 食品の安全と安心
- 第12週 製品のマネージメント
- 第13週 食品と環境問題
- 第14週 事例研究③ 健康食品業界における商品戦略
- 第15週 総括と考察

【事前・事後学修】

事前学修：平常より食品メーカー、小売業、外食産業の動向、新製品についてのニュースに関心を持ち、新聞、ウェブニュースなどをウォッチしておくことを心がける。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの結果を再確認し、解らないところを調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、講義内レポート、まとめテストなどの平常点40%
まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

【参考書】

梅沢昌太郎、長尾精一 共著『食商品学』
（日本食糧新聞社 2004年）1200円＋税

食生活論

佐藤 幸子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

科学技術の進歩や発展により、私たちの食生活は豊かな食に恵まれるようになった。しかし、飛躍的な発展と裏腹に、食生活の基盤は、見失われていく傾向にある。本講座では、氾濫する情報と便利な社会において、人として望ましい食生活を営むことについて探求し、消費者として実生活において生きる力を養うための基礎知識を学びます。各自の食生活の現状を把握し、ライフステージの食生活について考え、健康的な食生活を営むための基礎知識および伝承すべき食文化について、学びます。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「国際的視野」「研鑽力」を育成し、専門的な基礎知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

【授業の内容】

- 第1週 食生活を営むための基礎知識
- 第2週 食事摂取基準
- 第3週 健康づくり
- 第4週 食物中の栄養に関する基礎知識：エネルギー成分
- 第5週 食物中の栄養に関する基礎知識：体の構成成分
- 第6週 食物中の栄養に関する基礎知識：生理機能を調整する成分
- 第7週 食生活の変遷：日本型食生活
- 第8週 食生活の変遷：欧米型食生活
- 第9週 食生活の現状
- 第10週 食生活の改善
- 第11週 食事と生活習慣病
- 第12週 ライフステージと食生活：妊娠期・授乳期
- 第13週 ライフステージと食生活：乳児期・幼児期
- 第14週 ライフステージと食生活：学童期・思春期
- 第15週 ライフステージと食生活：成人期・高齢期

【事前・事後学修】

【事前学修】：manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食生活に関する情報を予習する。
（学修時間 週2時間）

【事後学修】：授業における課題をまとめる。（授業後に提出）
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

第2版 食生活 健康に暮らすために[八千代出版、2015年、¥2,100(税抜)、※講義開始時には手元にある版を持参する。（最新刊は学期中に発行予定。）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に実施し理解度を確認（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『日本の食文化 和食の継承と教育 新版』江原絢子・石川尚子編
（アイ・ケイコーポレーション 2016年）2500円（税別）

【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

食品衛生学 a

白尾 美佳

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

飲食物、容器包装などによって引き起こされる健康上の危害を未然に防止するための基礎知識を習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

食品の安全・安心に関する知識を身に着けるとともに、食中毒等を起こさないように注意を払うことができる能力向上を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 食品衛生学とは何かを知る
- 第2週 食品衛生に係る最近の問題
- 第3週 食品衛生関係法規, 食品と微生物
- 第4週 食品成分の化学的変質
- 第5週 食中毒概論
- 第6週 食中毒の発生状況について統計データを調査
- 第7週 食中毒の発生状況について図表の作成
- 第8週 食中毒の発生状況についてのまとめ
- 第9週 細菌性食中毒
- 第10週 ウイルス性食中毒
- 第11週 自然毒食中毒、化学性食中毒
- 第12週 食品による感染症、動物由来感染症
- 第13週 寄生虫
- 第14週 食品中の汚染物質
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：新聞などで食の安全に係る記事などをみておくこと
「学修時間 週2時間」

事後学修：授業で勉強した内容についての課題を行うこと
「学修時間 週2時間」

【テキスト・教材】

菅家祐輔・白尾美佳：食べ物と健康—食品衛生学[光生館、2017、¥2,700(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（60%）、提出物（20%）、授業態度（20%）により評価します。

提出物や小テストに関するフィードバックはその都度行います。

試験に関するフィードバックは試験後に行います。

ルーブリックを用いた到達度を調査いたします。

【参考書】

日本薬学会、衛生試験法注解・2015、金原出版

【注意事項】

- ・常に新聞などを読んで食品衛生に関わるニュースを意識しておくこと。
- ・授業によってはDVDをみて理解を深めることがあります。
- ・統計データの調査、図表作成時にはパソコン演習室にて授業を行う予定にしています。
- ・授業の理解度により内容が前後、予定を変更することがあります。
- ・ルーブリックを用いた自己評価などを行います。

食品衛生学 a

井部 明広

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食品に関する微生物の基礎を学習した後、細菌性食中毒を中心とする食品衛生上の諸問題を理解する。

【授業における到達目標】

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

食品の微生物汚染による食中毒や寄生虫汚染等について、また、それらの予防対策について講述する。

第1週 食品衛生とは（食品衛生法と行政組織）

第2週 食品衛生史

第3週 食品と微生物

第4週 食品の変質と防止

第5週 食中毒の概要

第6週 細菌性食中毒の発生要因

第7週 細菌別食中毒の概要-感染型食中毒について

第8週 細菌別食中毒の概要-毒素型食中毒について

第9週 ウイルス性食中毒

第10週 食品と感染症

第11週 寄生虫症

第12週 衛生動物

第13週 食品衛生対策

第14週 総合衛生管理製造過程（HACCP）

第15週 リスクアナリシス

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、ノートに専門用語類についてまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業テーマについて理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子：新食品衛生学要説[医歯薬出版(株)、2018、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80%）、授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

【参考書】

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

【注意事項】

管理栄養士として就職した時、また、食品衛生監視員任用資格および食品衛生管理者資格を取得するために重要な教科であるので、授業が理解できるよう十分予習、復習すること。

食品衛生学 a

井部 明広

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食物に関する微生物を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

【授業における到達目標】

将来食の専門家として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

食品の微生物汚染による食中毒や寄生虫汚染等について、また、それらの予防対策について講述する。

第1週 食品衛生とは（食品衛生法と行政組織）

第2週 食品衛生史

第3週 食品と微生物

第4週 食品の変質と防止

第5週 食中毒の概要

第6週 細菌性食中毒の発生要因

第7週 細菌別食中毒の概要-感染型食中毒について

第8週 細菌別食中毒の概要-毒素型食中毒について

第9週 ウイルス性食中毒

第10週 食品と感染症

第11週 寄生虫症

第12週 衛生動物

第13週 食品衛生対策

第14週 総合衛生管理製造過程（HACCP）

第15週 リスクアナリシス

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、専門用語類をノートにまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業テーマについて理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：新食品衛生学要説[医歯薬出版株式会社、2019、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

【参考書】

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

【注意事項】

食品関連のメーカー、流通、販売会社等に就職した時に非常に重要な事項となるので、授業が理解できるよう十分予習、復習をして欲しい。なお、食品衛生学は食品衛生学aおよびbで完結する。

食品衛生学b

白尾 美佳

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

食品の生産から加工・調理ならびに飲食に至る過程における衛生上の留意点について学び、食の安全・安心に関する理解を深める。

【授業における到達目標】

自ら食品衛生上の課題を認識し、解決できる方法を提案できることを目標にします。

【授業の内容】

- 第1週 食品中の汚染物質
- 第2週 食品添加物概論
- 第3週 食品添加物の表示について
- 第4週 食品添加物の安全性評価
- 第5週 食品添加物の種類1
- 第6週 食品添加物の種類2
- 第7週 食品衛生管理
- 第8週 食品衛生に関する復習
- 第9週 食品衛生に関する発表準備
- 第10週 法規、食品衛生と微生物、食品の変質に関する発表
- 第11週 食中毒関連についての発表
- 第12週 食品添加物、食品衛生対策に関する発表
- 第13週 感染症、寄生虫症、食品中の汚染物質についての発表
- 第14週 食品添加物、食品衛生対策に関する発表
- 第15週 食品工場または食品衛生関連施設見学

【事前・事後学修】

事前学修：食品衛生学aで学んだことを復習するとともに、発表用の準備を行う。「学修時間 週2時間」

事後学修：授業にかかわる内容について理解を深める。また、発表した内容についてレポートを書く。「学修時間 週2時間」

【テキスト・教材】

菅家祐輔・白尾美佳：食べ物と健康—食品衛生学[光生館、2017、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（40%）、プレゼンテーション（30%）、授業に対する姿勢（30%）により評価する。

フィードバックは授業時の練習問題や課題ごとに行います。

【参考書】

日本薬学会『衛生試験法・注解』金原出版(2015年発行) 37,800円

【注意事項】

- ・各自が食品表示および食品衛生に関する事項を調べて発表します。
- ・食品工場あるいは食品衛生にかかわる施設等の見学を行う場合があります。時間は予備日や授業日以外に訪問する場合があります。
- ・パソコン演習室を使用する場合があります。演習室の利用状況によっては、授業の内容が入れ替わることがあります。

食品衛生学 b

井部 明広

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食品成分、食品添加物および汚染化学物質等を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

【授業における到達目標】

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

自然毒、化学性食中毒、食品中の汚染物質や残留農薬、食品添加物などについて講述する。

- 第1週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-有毒魚）
- 第2週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-貝毒）
- 第3週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-キノコ）
- 第4週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-その他）
- 第5週 化学物質による食中毒（ヒスタミン）
- 第6週 化学物質による食中毒（その他の物質）
- 第7週 食品添加物（概論）
- 第8週 食品添加物（各論）
- 第9週 農薬等とそれらの残留基準
- 第10週 有害物質による食品の汚染（カビ毒）
- 第11週 有害物質による食品の汚染（化学物質）
- 第12週 有害物質による食品の汚染（発がん性物質）
- 第13週 遺伝子組換え食品およびアレルギー食品の安全性と表示
- 第14週 農産・畜産・水産食品の衛生
- 第15週 機器分析と精度

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、ノートに専門用語類をまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業のテーマを良く理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子：新食品衛生学要説[医歯薬出版(株)、2019、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

【参考書】

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

【注意事項】

食品衛生学は a、b で完結するので、管理栄養士国家試験を受ける者は受講すること。また、食品衛生監視員任用資格及び食品衛生管理者資格取得に必要である。

食品衛生学b

井部 明広

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食物に関する化学物質を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

【授業における到達目標】

将来食の専門家として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

自然毒、化学性食中毒、食品中の汚染物質や残留農薬、食品添加物などについて講述する。

- 第1週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-有毒魚）
- 第2週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-貝毒）
- 第3週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-キノコ）
- 第4週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-その他）
- 第5週 化学物質による食中毒（ヒスタミン）
- 第6週 化学物質による食中毒（その他の物質）
- 第7週 食品添加物（概論）
- 第8週 食品添加物（各論）
- 第9週 農薬等とそれらの残留基準
- 第10週 有害物質による食品の汚染（カビ毒）
- 第11週 有害物質による食品の汚染（化学物質）
- 第12週 有害物質による食品の汚染（発がん性物質）
- 第13週 遺伝子組換え食品およびアレルギー食品の安全性と表示
- 第14週 農産・畜産・水産食品の衛生
- 第15週 機器分析と精度

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、専門用語をノートにまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業のテーマを良く理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之：新食品衛生学要説[医歯薬出版株式会社、2019、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

【参考書】

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

【注意事項】

食品衛生学は食品衛生学aおよびbで完結する。

食品衛生学実験

井部 明広

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生検査の意味を知ること、食品衛生学をより深く理解する。

【授業における到達目標】

将来栄養士として、また、社会人として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等の機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について、各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌について、グラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考えて、結果、考察及び関連調査した事項についてまとめ、レポートを作成し提出すること。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

西島基弘・宮澤文雄：新しい食品衛生実験新版第2版[三共出版、2018、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

一戸正勝、西島基弘、石田裕編著『図解 食品衛生学実験 第3版』（講談社サイエンティフィック 2013年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

食品衛生学実験

井部 明広

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生検査の意味を知ること、食品衛生学をより深く理解する。

【授業における到達目標】

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等の機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について、各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌について、グラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考え、結果、考察及び関連した事項について調査し、まとめてレポートを作成、提出すること。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

西島基弘・宮澤文雄：新しい食品衛生実験 新版第2版[三共出版、2018、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

一戸正勝、西島基弘、石田裕編著『図解 食品衛生学実験 第3版』（講談社サイエンティフィック 2013年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

食品衛生学実験

井部 明広

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生学をより深く理解する。

【授業における到達目標】

食の専門家として社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等を用いた機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌についてグラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考えて、結果、考察及び関連調査した事項についてまとめ、レポートを作成し提出すること。（学修時間 週4時間）

【テキスト・教材】

一戸正勝、西島基弘、石田裕：図解 食品衛生学実験 第3版[講談社サイエンティフィック、2013、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

西島基弘・宮澤文雄編著『新しい食品衛生実験』（三共出版 2018年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

食品衛生学特別演習

井部 明広

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

食品衛生は我々の食生活を安全にそして安心して営む上で重要である。食品の安全はわが国の法律である食品衛生法により厳しく規制されていることで確保されている。食品衛生法は社会において食品の製造、販売、流通、サービス、消費に至る各場所、各場面で実践されてこそ意味を成す。食品衛生を学ぶものは知識のみならず、これを実践して社会に還元することが大切である。食品衛生学特別演習では、このことをよく理解し、そのために研究手法を学び科学的根拠のもとにデータを扱い、責任の持てる結果を出すことを知って、食の安全を正しく評価、判断できる人材となって社会に貢献することを目標とする。

【授業における到達目標】

食に関する高度な専門知識・技術と研究遂行能力を身につけて、将来、研究者として、教員として求められる能力および指導者としての役割を担う能力を修得する。

【授業の内容】

各テーマについて調査したことを討論形式で授業を進める。

- 第1週 食品衛生法規の目的と条項の理解
- 第2週 食品衛生に関する歴史的事件の考察
- 第3週 食品の安全を確保する食品衛生行政の仕組み
- 第4週 食品衛生検査の現状
- 第5週 食品添加物分析法・原理と手法
- 第6週 残留農薬分析法・原理と手法
- 第7週 有害化学物質分析法・原理と手法
- 第8週 食品成分規格、食品添加物使用基準、農薬の残留基準
- 第9週 機器分析の理論と実践—高速液体クロマトグラフィー
- 第10週 機器分析の理論と実践—ガスクロマトグラフ・質量分析計
- 第11週 リスクアナリシスの構造
- 第12週 毒性試験及びリスクの評価方法
- 第13週 微生物毒素の作用機序
- 第14週 細菌の同定法
- 第15週 将来のリスク予想と危害防止

【事前・事後学修】

【事前学修】各テーマごとに専門書籍、文献等で調査したことをまとめておくこと。（学修時間 週3時間）

【事後学修】討論したことについてまとめてレポートを作成する。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

適宜、資料プリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

質疑応答を通しての理解度と積極性50%、課題発表50%

毎回調査・研究した課題の解説をし、問題点等について討論することを通してフィードバックする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受け身の姿勢でなく、自ら積極的に調査、考えることを心掛けてほしい。

食品衛生学特論

井部 明広

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

食品の安全・安心に関わる事件や問題が次々に報道され、食品に対して漠然とした不安を持っている消費者は多い。食品の安全と安心については冷静に、科学的に判断しなければならない。現在起きている様々の問題点を通して食のプロフェッショナルとして、安全と安心を科学的に判断できる考え方を学ぶ。

【授業における到達目標】

将来、食に関する施設・機関において、指導者として活躍できる専門知識、研究遂行能力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 食品衛生を理解する上での数値の取り扱い—濃度と単位
- 第2週 食品の安全・安心の考え方—ハザードとリスク
- 第3週 安全の確保—食品衛生法
- 第4週 リスクアナリシス—ADIと各種の基準
- 第5週 食品の検査・機器分析—クロマトグラフィーの原理
- 第6週 食品の検査・機器分析—各種分析機器の原理
- 第7週 食品の検査方法—食品添加物、残留農薬
- 第8週 食品の検査方法—GLPと分析精度
- 第9週 食品添加物および残留農薬の安全性と必要性
- 第10週 食物アレルギー—表示と検査方法
- 第11週 遺伝子組換え食品およびBSEの安全性
- 第12週 化学性食中毒およびアレルギー様食中毒について
- 第13週 食品中の不揮発性アミン類の安全性
- 第14週 食品中の汚染化学物質等の基準
- 第15週 活性酸素と食生活

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に各テーマについて学部の教科書及び専門書を良く読んで理解しておくこと。また、必ず質問を用意すること。（学修時間 週3時間）

【事後学修】各授業では、調査テーマを与えるので、考えをまとめて、次の授業で発表、討論の準備をする。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

適宜、資料を配布および参考文献等を紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業内での質疑内容40%、授業への積極的参加・学習意欲40%、課題発表20%）

毎回授業で疑問点を明らかにして、質問に応え、理解できるよう指導することでフィードバックする。

【参考書】

適宜紹介する。

食品加工学 a

松岡 康浩

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

食品を保存するための工夫として世界各地で生み出された加工食品は、その地域の伝統食品となっています。さらに、様々な食材と新たな技術の組み合わせによって登場してきた現代の多様な加工食品は、我々の食生活になくてはならない存在です。

食品の保存法および種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学びます。

【授業における到達目標】

食品加工学 b と併せて学ぶことにより、食品ごとの加工法の原理と多様性を理解します。

【授業の内容】

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 食品の保存方法とその原理（1）
水分調節による保存技術
- 第3週 食品の保存方法とその原理（2）
pH調節による保存技術
- 第4週 食品の保存方法とその原理（3）
低温による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理（1）
加熱殺菌技術とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理（2）
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術（1）
穀類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術（2）
いも類、豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術（3）
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術（1）
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術（2）
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術（1）
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術（2）
乳の加工食品（乳飲料、発酵乳、バター）
- 第14週 畜産物の製造技術（3）
チーズの製造技術と卵の加工食品
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、単元中の重要語句（色刷り語句）について理解を深めておく。（学修時間 2時間）

事後学修：まとめテストを再確認し、解らないところがあれば調べ整理する。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

露木秀男、田島眞：食品加工学—加工から保蔵まで—[共立出版、2007、¥2,900(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験90% 授業毎のまとめテスト10%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

食品加工学 a

秋田 修

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

世界各地には様々な食料を保存するために考案されてきた伝統的な加工食品がある。また、近年様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様で新しい加工食品がある。これらの加工食品は我々の食生活において欠かせないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。食品加工学 b も含めた学修を通じて管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野における加工食品に関する知識と理解を深める。

【授業における到達目標】

日常生活で利用している様々な加工食品の製造原理を科学的な視点で学修し、理解度を毎回の演習問題により確認していくことで管理栄養士を目指して自己成長する力を養う(研鑽力、行動力の涵養)。

【授業の内容】

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 水分調節による保存技術
- 第3週 pH調節による保存技術
- 第4週 低温・冷凍による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理(1)
加熱殺菌法とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理(2)
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術(1)
穀類、いも類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術(2)
豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術(3)
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術(1)
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術(2)
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術(1)
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術(2)
乳類の加工食品とその製造技術
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義範囲に関する練習問題を事前配布するので、受講時までにその内容について学修し問題を解いておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 練習問題を採点后返却する。manabaに掲載した解答と解説により必ず復習をすること。成績評価試験は練習問題から出題する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

露木英男、田島眞：食品加工学-加工から保蔵まで-第2版[共立出版株式会社、2007、¥2,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、講義への取り組み態度と毎回の講義内容と関連する練習問題の成績20%により評価する。筆記試験問題の解答と解説をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【注意事項】

練習問題は主として国家試験の過去問題から出題する。毎回60%以上の正解率を目指して学修すること。

食品加工学 a

秋田 修

4年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

世界各地には様々な食料を保存するために考案されてきた伝統的な加工食品がある。また、近年は様々な食材と新たな技術との組合せによって多様な加工食品が開発されている。これらの加工食品は我々の食生活に欠かせないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを、食品加工学bとあわせて学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。

【授業における到達目標】

日常的に利用している加工食品についてその製造原理を科学的に理解する学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目標にする。

【授業の内容】

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 食品の保存法とその原理（1）
水分調節による保存技術
- 第3週 食品の保存法とその原理（2）
pH調節による保存技術
- 第4週 食品の保存法とその原理（3）
低温による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理（1）
加熱殺菌法とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理（2）
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術（1）
穀類、いも類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術（2）
豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術（3）
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術（1）
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術（2）
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術（1）
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術（2）
乳類の加工食品とその製造技術
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回で講義する内容に関する小課題を配布するので教科書等を参考に解答し、講義終了時に提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】前週提出した小課題を採点して返却する。小課題の解説をmanabaに掲載するので毎回復習すること。成績評価試験は小課題の内容から出題する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

露木英男、田島眞：食品加工学-加工から保蔵まで-第2版[共立出版株式会社、2007、¥2,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験90%、講義への取り組み態度と毎回の講義終了時に行う小テストの内容10%で評価する。試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【注意事項】

日頃から加工食品に関する記事や報道に関心を持ち、加工食品の表示に注意を払い、使用されている原材料や食品添加物などについての理解を深めること。

食品加工学b

松岡 康浩

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

食品を保存するための工夫として世界各地で生み出された加工食品は、その地域の伝統食品となっています。さらに、様々な食材と新たな技術との組み合わせによって登場してきた現代の多様な加工食品は、我々の食生活になくはならない存在です。

食品の保存方法および種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学びます。

【授業における到達目標】

食品加工aとあわせて学ぶことにより食品ごとの加工の原理と多様性を理解します。

【授業の内容】

- 第1週 畜産物の加工技術（4）
乳類の加工食品（粉乳）とその製造技術
- 第2週 調味料
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第3週 発酵食品
漬物、納豆
- 第4週 発酵調味料（1）
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料（2）
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料（1）
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料（2）
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品（1）
清涼飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品（2）
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物
- 第14週、食品の規格と表示
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当部分を事前に学修し、単元中の重要語句（色刷り）および製造工程について理解を深めておく。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ整理する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

露木秀男、田島眞：食品加工学－加工から保蔵まで－[共立出版、2007、¥2,900(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験90% 授業毎に行なうまとめテスト10%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

食品加工学b

秋田 修

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

世界各地には様々な食料を保存するために考案されてきた伝統的な加工食品がある。また、近年様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様で新しい加工食品がある。これらの加工食品は我々の食生活において欠かせないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。食品加工学aも含めた学修を通じて管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野における加工食品に関する知識と理解を深める。

【授業における到達目標】

日常生活で利用している様々な加工食品の製造原理を科学的な視点で学修し、理解度を毎回の演習問題により確認していくことで管理栄養士を目指して自己成長する力を養う(研鑽力、行動力の涵養)。

【授業の内容】

- 第1週 畜産物の加工技術(3)
乳類の加工食品(チーズ)とその製造技術
- 第2週 畜産物の加工技術(4)
卵の加工食品とその製造技術
- 第3週 調味料
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第4週 発酵調味料(1)
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料(2)
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料(1)
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料(2)
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品(1)
茶、その他の飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品(2)
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物、食品の規格と表示
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義範囲に関する練習問題を事前配布するので、受講時までにはその内容について学修し問題を解いておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 練習問題を採点后返却する。manabaに掲載した解答と解説により必ず復習をすること。成績評価試験は練習問題から出題する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

露木英男、田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』(共立出版株式会社 2007年) 3,132円

また、テキストとともに毎回配布する講義資料も用いて講義を行う。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、講義への取り組み態度と毎回の講義内容と関連する練習問題の成績20%により評価する。筆記試験の解答と解説をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【注意事項】

練習問題は主として国家試験の過去問題から出題する。毎回60%以上の正解率を目指して学修すること。

食品加工学b

秋田 修

4年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

世界各地には様々な食料を保存するために考案されてきた伝統的な加工食品がある。また、近年は様々な食材と新たな技術との組合せによって多様な加工食品が開発されている。これらの加工食品は我々の食生活に欠かせないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを、食品加工学aとあわせて学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。

【授業における到達目標】

日常的に利用している加工食品について科学的に理解する学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目標にする。

【授業の内容】

- 第1週 畜産品の加工技術（3）
乳類の加工食品（チーズ）とその製造技術
- 第2週 畜産品の加工技術（4）
卵の加工食品とその製造技術
- 第3週 調味料
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第4週 発酵調味料（1）
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料（2）
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料（1）
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料（2）
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品（1）
茶、その他の飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品（2）
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物、食品の規格と表示
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回で講義する内容に関する小課題を配布するので教科書等を参考に解答し、講義終了時に提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】前週提出した小課題を採点して返却する。小課題の解説をmanabaに掲載するので毎回復習すること。成績評価試験は小課題の内容から出題する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

露木英男、田島眞：食品加工学-加工から保蔵まで-第2版[共立出版株式会社、2007、¥2,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験90%、講義への取り組み態度と毎回の講義終了時に行う小テストの内容10%で評価する。試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【注意事項】

日頃から加工食品に関する記事や報道に関心を持ち、加工食品の表示に注意を払い、使用されている原材料や食品添加物などについての理解を深めること。

食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

4年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。
米麴の製造と米みその仕込み
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。
ところてんの製造
海藻由来のアガロースのゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造
小麦粉のグルテン形成、酵母の発酵について理解する。
- 第4週 みかんのびん詰めの製造
化学的加工である酸とアルカリによる剥皮を理解する。
バターの製造
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。
官能評価
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。
みその品質評価
熟成した米みその品質評価を行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめてレポートとして提出する。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

4年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。
米麴の製造と米みその仕込み
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。
ところてんの製造
海藻由来のアガロースのゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造
小麦粉のグルテン形成と酵母の発酵について理解する。
- 第4週 パイナップルのびん詰めの製造
シロップ漬けによる保存原理を理解する。
バターの製造
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。
官能評価
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。
みその品質評価
熟成した米みその品質評価を行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめレポートとして提出する。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。
米麴の製造と米みその仕込み
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。
ところてんの製造
海藻由来の多糖類のゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造
小麦粉のグルテン形成、酵母の発酵について理解する。
- 第4週 みかんのびん詰めの製造
化学的加工である酸とアルカリによる剥皮を理解する。
パターの製造
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。
官能評価
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。
みその品質評価
熟成した米みその品質評価を行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間 1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめレポートとして提出する。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

食品開発論

松岡 康浩

2・3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

将来、食品メーカーや食品小売などの食品産業または食品行政で活躍する際、容器包装された加工食品がどのように開発され、市場に出てくるかを知っておくことは重要です。企業における加工食品開発について実例を交えて学びます。また、食品開発を行うときに何を考えればよいか、小演習を通して、考察・議論していきます。

【授業における到達目標】

お客さまに提供する食商品とは何か、および食品開発における各ステージで何が大切かといったポイントを理解し、応用力を習得します。

【授業の内容】

- 第1週 食品開発の概要
- 第2週 事例紹介（1）一般食品開発
- 第3週 企画（1）商品企画とは
- 第4週 企画（2）消費者調査
- 第5週 企画（3）コンセプト立案
- 第6週 開発（1）中身設計
- 第7週 小演習 レポートディスカッション（1）
- 第8週 事例紹介（2）美容食品開発
- 第9週 開発（2）容器包装
- 第10週 量産化
- 第11週 広告宣伝（1）訴求情報
- 第12週 広告宣伝（2）プロモーション
- 第13週 小演習 レポートディスカッション（2）
- 第14週 事例紹介（3）調理食品
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：日常の新製品情報をウォッチしておく。レポート課題について調査する。（学修時間 週2週間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、不明な点を調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、小演習レポート20%、まとめテスト及び授業態度20%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

【参考書】

岩田直樹『食品開発の進め方』幸書房 2011年 2300円＋税

食品学 a

白尾 美佳

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

食品中の栄養成分、嗜好成分、機能性成分等の基礎的な知識を身につけるとともに、食品標準成分表について深く理解することを目標とします。

【授業における到達目標】

食品中の栄養素の基礎的知識を理解し、献立作成などに活用できる能力を身に着けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 食品学概論
- 第2週 食品の分類
- 第3週 食品標準成分表概要
- 第4週 エネルギー換算係数
- 第5週 水分、炭水化物
- 第6週 脂質
- 第7週 アミノ酸
- 第8週 タンパク質
- 第9週 脂溶性ビタミン
- 第10週 水溶性ビタミン（ビタミンB群）
- 第11週 水溶性ビタミン（ビタミンC）
- 第12週 ミネラル
- 第13週 食品の色素、香気成分
- 第14週 食品の呈味成分、物理的性質
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業で勉強する内容について事前に予習をする。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】勉強した内容についての課題を行う。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 医歯薬出版：日本食品成分表七訂アミノ酸、脂肪酸、炭水化物編〔医歯薬出版、2018、¥1,500(税抜)〕
- 医歯薬出版：日本食品成分表七訂本表編 2019〔医歯薬出版、2019、¥1,300(税抜)〕
- 種村安子他：イラスト食品学総論〔東京教学社、2018、¥2,100(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、レポート等の提出物30%、平常点（授業に対する意欲）20%で評価します。試験に関するフィードバックは最終授業で行います。

【参考書】

- 杉田浩一 他編『日本食品大辞典 第3版』（医歯薬出版）2013年 発行 7,200円

【注意事項】

- ・様々な食品を知ることが大切です。日頃から様々な食品を使って調理したり、活用方法を考えたりすることにより、栄養士としての基礎的能力を身に着けてください。
- ・教科書代は変動することがあります。

食品学 a

奈良 一寛

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

ヒトは食品を介して栄養素を摂取し、正常な生命機能を維持している。したがって、健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、食品の構成成分における特徴および性質について説明するとともに、それら成分の調理・加工中における変化および成分間の反応についても講義する。

【授業における到達目標】

食品成分について、特徴や性質を十分に理解し、それら成分の変化やそのメカニズムについても説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 人間と食品、食品の分類
- 第 2 週 食品標準成分表
- 第 3 週 食品中の主要成分（1）水
- 第 4 週 食品中の主要成分（2）たんぱく質
- 第 5 週 食品中の主要成分（3）脂質
- 第 6 週 食品中の主要成分（4）糖質
- 第 7 週 食品中の主要成分（5）無機質、
中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 食品中の主要成分（6）ビタミン
- 第 9 週 食品中の嗜好成分（1）色素成分
- 第 10 週 食品中の嗜好成分（2）香気成分、呈味成分
- 第 11 週 食品成分の化学変化 油脂、たんぱく質、糖質の変化
- 第 12 週 食品成分の化学変化 褐変、酵素による成分変化
- 第 13 週 食品の機能と表示、食品の物性、官能評価
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

太田英明：食べ物と健康 食品の科学[南山堂、2018、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および授業最終回で解説を行う。

【参考書】

『日本食品標準成分表2018七訂』（医歯薬出版株式会社）1,404円

『日本食品標準成分表七訂アミノ酸・脂肪酸・炭水化物編』（医歯薬出版株式会社）1,620円

食品学 a

奈良 一寛

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

ヒトは食品を介して栄養素を摂取し、正常な生命機能を維持している。したがって、健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、食品の構成成分における特徴および性質について説明するとともに、それら成分の調理・加工中における変化および成分間の反応についても講義する。

【授業における到達目標】

食品成分について、特徴や性質を十分に理解し、それら成分の変化やそのメカニズムについても説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 食品の分類
- 第 2 週 食品中の主要成分 (1) 水
- 第 3 週 食品中の主要成分 (2) 炭水化物
- 第 4 週 食品中の主要成分 (3) たんぱく質
- 第 5 週 食品中の主要成分 (4) 脂質
- 第 6 週 食品中の主要成分 (5) ビタミン
- 第 7 週 食品中の主要成分 (6) 無機質、
中間まとめ (確認テスト)
- 第 8 週 食品の酵素の分類と性質
- 第 9 週 食品中の嗜好成分 (1) 色素成分
- 第 10 週 食品中の嗜好成分 (2) 香気成分、呈味成分
- 第 11 週 食品成分の化学変化 炭水化物、たんぱく質、脂質の変化
- 第 12 週 食品成分の化学変化 成分間相互作用、褐変、酵素による成分変化
- 第 13 週 食品の機能と表示、食品成分表
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会：食品学 I [建帛社、2017、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および授業最終回で解説を行う。

食品学b

白尾 美佳

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

食品中の栄養成分や機能性成分等についての知識を習得することを目標とします。本授業では、それぞれの食品から栄養成分や機能性成分を考えていきます。

【授業における到達目標】

食品の分類、種類を理解するとともに、それぞれの食品の栄養成分、機能性成分について知識を身に付け、栄養士として献立作成に活用できる能力を向上させることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 食品の分類、食料自給率
- 第2週 米の種類と成分
- 第3週 小麦等穀類の種類と成分
- 第4週 イモ類の種類と成分及び発表
- 第5週 種実類の種類と成分及び発表
- 第6週 豆類の種類と成分及び発表
- 第7週 野菜の種類と成分及び発表
- 第8週 果実の種類と成分及び発表
- 第9週 キノコ、海藻の分類と成分及び発表
- 第10週 食肉類及び発表
- 第11週 卵類、乳類及び発表
- 第12週 魚介類及び発表
- 第13週 調味料、発酵食品、嗜好飲料及び発表
- 第14週 食品工場等見学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業で勉強する食品について調べておくこと。また、各自プレゼンテーション用の資料を作成する。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】食品の種類や利用方法、食品標準成分表にて各栄養素の含有量等について把握すること。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

医歯薬出版：日本食品成分表七訂アミノ酸、脂肪酸、炭水化物編[医歯薬出版、2018、¥1,500(税抜)]

医歯薬出版：日本食品成分表七訂本表編 2019[医歯薬出版、2019、¥1,300(税抜)]

喜多野宣子他：食べ物と健康Ⅱー知っておきたい食品素材と加工の基礎[化学同人、¥2,205(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート等の提出物40%、プレゼンテーション40%、授業に対する意欲20%で評価する。フィードバックはそれぞれの提出物後に行う。

【参考書】

菅原龍幸、井上四郎編集『新訂原色食品図鑑（学生版）』（建帛社2008年）3,045円

【注意事項】

- ・授業の中で、各自の課題を設定し、発表する機会を設けます。
- ・発表に対し、積極的に質問を行い授業に参加してください。
- ・授業の一環として食品関連工場等に見学に行く場合があります。なお、見学は、通常時間以外になることもあります。

食品学b

松岡 康浩

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

我々の食生活と健康に直接かかわる種々の食品について、素材としての特徴や栄養・健康機能に関与する成分を中心に、食品および食材としての特徴を総合的に理解します。食品の成分について科学的な視点から考える習慣を身に着けてください。生活習慣病や高齢化社会などをめぐる食の諸問題への理解と解決に役立つ基盤を築くためにも重要です。

【授業における到達目標】

管理栄養士資格国家試験「食べ物と健康」における食品学に関する知識と応用力を修得します。大項目「食品の機能」については、「食品機能論」で学びます。

【授業の内容】

- 第1週 食品成分表
- 第2週 農産食品（1）穀類、いも類
- 第3週 農産食品（2）種実類、豆類
- 第4週 農産食品（3）野菜類
- 第5週 農産食品（4）果実類、きのこ類
- 第6週 畜産食品（1）食肉類
- 第7週 畜産食品（2）乳類
- 第8週 畜産食品（3）卵類
- 第9週 水産食品（1）魚介類
- 第10週 水産食品（2）水産加工品
- 第11週 加工食品（1）油脂、甘味料、調味料
- 第12週 加工食品（2）香辛料 食品表示
- 第13週 加工食品（3）嗜好飲料
- 第14週 微生物加工食品
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、重要語句などを確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

瀬口正春、八田一：食品学各論（第3版）[化学同人、2016、¥2,500（税抜）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、授業まとめテスト20%

まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

食品学b

奈良 一寛

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

健康的な食生活を送るためには、適正な食品の選択や扱いが求められる。調理素材としての食品について、正しい知識を得ることが極めて重要である。本授業では、食品とその加工品の基本的性状や特性について説明し、さらに食品の保存法や加工法の原理についても講義する。

【授業における到達目標】

植物性食品、動物性食品など私たちの身の回りにある食品について、栄養学的特性などを十分に理解し、食品に対する意識を高め、特徴や調理・加工特性や機能性についても説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 食品と環境
- 第 2 週 農産食品（1）穀類
- 第 3 週 農産食品（2）いもおよびデンプン類
- 第 4 週 農産食品（3）豆類、種実類
- 第 5 週 農産食品（4）野菜類
- 第 6 週 農産食品（5）果実類
- 第 7 週 農産食品（6）きのこ類、中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 水産食品 魚介類、海藻類
- 第 9 週 畜産食品（1）食肉類
- 第 10 週 畜産食品（2）卵、乳類類
- 第 11 週 その他の食品（1）油脂類、調味加工食品類、香辛料
- 第 12 週 その他の食品（2）嗜好飲料類、菓子類類その他の食品
- 第 13 週 食品貯蔵、流通技術
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会：食品学Ⅱ[建帛社、2017、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。

食品学実験 a

白尾 美佳

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

食品中の栄養成分ならびに機能性成分等の分析法について理解し、質の高い栄養士としての知識の向上をめざします。

【授業における到達目標】

食品中の主要栄養成分の分析を行い、エネルギー量を求めることができる能力を身に付けます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
実験上に必要なデータベースと文献検索の仕方
器具、汎用機器ならびに化学薬品（試薬）の取り扱い方
- 第2週 水分の定量
食品の判別検査
- 第3週 灰分の定量
食品中の有機酸、pH、糖度の測定
HPLCを用いた食品成分の分析
- 第4週 粗脂肪の定量
食品の天然色素に関する実験
- 第5週 食品組織の観察
野菜、肝臓等からのDNAの抽出、定量
食品の褐変に関する実験
- 第6週 粗たんぱく質の定量
GCを用いた食品成分の分析
- 第7週 炭水化物、エネルギー量の算出
GC/MSを用いた食品中の香り成分の分析
抗酸化性に関する実験
- 第8週 食品の物性に関する実験
官能検査に関する実験

【事前・事後学修】

【事前学修】実験に関する栄養成分について調べておくこと
(学修時間 週1時間)

【事後学修】実験した内容について目的、方法、結果、考察、参考文献等にわけてノートに書いておく
(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に対する意欲、グループ等での協力体制）40%、ノートやレポートなどの提出物60%

フィードバックは、それぞれの実験授業の中で実験方法、結果に対するアドバイス、質問等に答えていきます。

【参考書】

日本食品化学工学会編『新・食品分析法』（光琳）

井上圭三他編『生化学辞典』（東京化学同人）

日本食品衛生協会「食品衛生検査指針2015（理化学編）」

【注意事項】

- ・実験が安全に行えるように十分に注意をしてください。
- ・実験の内容、日程が変更することがあります。
- ・授業時間が延長することもあります。
- ・実験内容によって授業以外にも測定等を行うことがあります。

食品学実験 a

奈良 一寛

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、化学実験を行ううえでの注意事項や実験で使用する試薬や器具の取り扱い方法から説明し、定性・定量実験などを通して、食品成分の化学的特性について広く理解できるように講義する。

【授業における到達目標】

実験や観察を通して、基礎的な実験操作が正確にできるようになるとともに、実験の目的や理論を理解し、実験方法や結果および考察がきちんとまとめられるようになる。また、実験に使用した食品における特性や成分の化学的特性についても理解を深め、食品に関する正しい知識を説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

実験に関する注意点、実験器具の基本操作

第2週 食品の成分分析（1）

①溶液の調製 ②糖度の測定 ③pHの測定

第3週 食品の成分分析（2）

①糖質の定性 ②アミノ酸・タンパク質の定性

第4週 食品の成分分析（3）

①糖質の定量

第5週 食品の成分分析（4）

①たんぱく質の分離 ②たんぱく質の定量

第6週 食品の成分分析（5）

①有機酸の定量

第7週 食品の成分分析（6）

①酵素の働き ②酵素活性の測定

第8週 食品の成分分析（7）

①飲料中のタンニン定量 ②タンニンの働き

【事前・事後学修】

【事前学修】実験内容を理解するために事前に教科書の該当部分をよく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験の課題レポートはきちんと作成し、期限も守って提出すること。レポート作成の際に、疑問点は教科書で復習すること。また関連事項も自主的にまとめること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験の課題レポート50%、実験への取り組み姿勢50%

課題およびレポートについては次回授業にて解説を行う。

【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

食品学実験 a

奈良 一寛

2年 前期 1単位 3時限連続

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、化学実験を行ううえでの注意事項や実験で使用する試薬や器具の取り扱い方法から説明し、定性・定量実験などを通して、食品成分の化学的特性について広く理解できるように講義する。

【授業における到達目標】

実験や観察を通して、基礎的な実験操作が正確にできるようになるとともに、実験の目的や理論を理解し、実験方法や結果および考察がきちんとまとめられるようになる。また、実験に使用した食品における特性や成分の化学的特性についても理解を深め、食品に関する正しい知識を説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 ガイダンス 実験に関する注意点、実験器具の基本操作
- 第 2 週 基礎実験 (1) 溶液の調製、糖度の測定
- 第 3 週 基礎実験 (2) 食品のpH、緩衝液のpH変化
- 第 4 週 基礎実験 (3) 比色分析
- 第 5 週 食品の成分分析 (1) 糖質の定性
- 第 6 週 食品の成分分析 (2) アミノ酸・たんぱく質の定性
- 第 7 週 食品の成分分析 (3) 糖質の定量
- 第 8 週 食品の成分分析 (4) たんぱく質の定量
- 第 9 週 食品の成分分析 (5) 有機酸の定量
- 第 10 週 食品の成分分析 (6) 酵素活性の測定
- 第 11 週 食品の成分分析 (7) 色素成分の抽出と確認
- 第 12 週 食品の成分分析 (8) 食品の褐変反応
- 第 13 週 食品の成分分析 (9) 飲料中のタンニンの定量
- 第 14 週 食品の成分分析 (10) 食品の機能性
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】実験内容を理解するために事前に教科書の該当部分をよく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】実験の課題レポートはきちんと作成し、期限も守って提出すること。レポート作成の際に、疑問点は教科書で復習すること。また、関連事項についても自主的にまとめること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験の課題レポート50%、実験への取り組み姿勢50%

課題、レポートは次回授業で解説を行う。

【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

食品学実験 b

杉山 靖正

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食品は様々な成分で構成されており、その成分量を正しく理解することは健やかな食生活を送る上で重要です。また、近年では健康維持に関わる食品中の機能性物質が注目され、様々な食材の機能性食品素材としての活用が広まりつつあります。そこで本授業では、日常的によく見られる食品を試料とし、各成分の分析方法と、含まれる機能性物質の取り扱い方について学修します。

【授業における到達目標】

実験により得られたデータを解析し、その結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・ガラス細工
食品サンプルのアルコール抽出
- 第2週 食品成分の分離（1）
固形食品試料について
- 第3週 食品成分の分離（2）
液状食品試料
- 第4週 食品成分の分離と同定
溶媒分画・薄層クロマトグラフィー
- 第5週 食品の成分分析
水分、灰分
- 第6週 食品の機能性分析（1）
抗菌活性の測定
- 第7週 食品の機能性分析（2）
抗酸化活性の測定

【事前・事後学修】

- 【事前学修】 予習のための小レポートに取り組むこと。
(学修時間 週2時間)
- 【事後学修】 実験レポート作成にあたり、実験原理等についてよく復習すること。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験ノート20%、レポート50%、実験への取り組み姿勢30%
採点した実験ノートおよびレポートを返却することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

食品学実験 b

杉山 靖正

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

食品は様々な成分で構成されており、その成分量を正しく理解することは健やかな食生活を送る上で重要です。また、近年では健康維持に関わる食品中の機能性物質が注目され、様々な食材の機能性食品素材としての活用が広まりつつあります。そこで本授業では、日常的によく見られる食品を試料とし、各成分の分析方法と、含まれる機能性物質の取り扱い方について学修します。

【授業における到達目標】

実験により得られたデータを解析し、その結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・ガラス細工
・食品サンプルのアルコール抽出
- 第2週 食品成分の分離（1）
固形食品試料について
- 第3週 食品成分の分離（2）
液状食品試料
- 第4週 食品成分の分離と同定
溶媒分画・薄層クロマトグラフィー
- 第5週 食品の成分分析
水分、灰分
- 第6週 食品の機能性分析（1）
抗菌活性の測定
- 第7週 食品の機能性分析（2）
抗酸化活性の測定

【事前・事後学修】

- 【事前学修】 予習のための小レポートに取り組むこと。
(学修時間 週2時間)
- 【事後学修】 実験レポート作成にあたり、実験原理等についてよく復習すること。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験ノート20%、レポート50%、実験への取り組み姿勢30%
採点した実験ノートおよびレポートを返却することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

食品学特別演習A

杉山 靖正

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

食品には多くの機能性物質が含まれているが、その研究には分析化学および有機化学的手法が必要である。そこで本講義では、食品に含まれる機能性物質の研究に必要な知識を修得し、関連論文を理解し、新たに研究を計画できる能力を養うことを目的とする。

【授業における到達目標】

食品の機能性研究について、本分野の背景をよく理解したうえで独自性のある研究を計画できること。

【授業の内容】

- 第1回 食品の機能性について
- 第2回 機能性物質の精製
- 第3回 機能性物質の構造決定
(1D-NMR: 1H-および13C-NMR)
- 第4回 機能性物質の構造決定
(2D-NMR: COSY・HMBC)
- 第5回 機能性物質の構造決定
(MS・IR・UV)
- 第6回 機能性物質の構造決定
(絶対構造について)
- 第7回 関連分野の研究者（外部講師）による講演
- 第8回 関連論文の解説
- 第9回 関連論文の発表・討論（背景）
- 第10回 関連論文の発表・討論（目的・方法）
- 第11回 関連論文の発表・討論（結果・考察）
- 第12回 研究施設の見学（学外実習）
(分析機器メーカー)
- 第13回 研究施設の見学（学外実習）
(食品成分分析機関)
- 第14回 研究計画発表
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回講義内容について、講義中に指定する項目を調べておくこと。また、講義内容に関連する論文講読も行うので指定された論文や各自で選択した論文をよく読みまてめておくこと（学修時間 週3時間）。

事後学修：講義内容に関する課題のレポート提出や論文講読の要約の提出を課す(学修時間 週3時間)。

【テキスト・教材】

講義時に講義内容に関する資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（発表姿勢、質疑応答、理解度）50%、課題レポート50%。論文発表については講義中、課題レポートについては返却時に改善項目等について指導する。

【参考書】

各講義内容を理解するための参考となる図書や論文をその都度紹介する。

食品学特別演習B

秋田 修

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

醸造発酵食品は多様な風味を有しており、食生活を豊かにするとともに、多くの機能性を有し健康を支える食品としても注目されている。醸造発酵食品製造に関わる微生物の特性を活かすためには、生化学的、分子生物学的、代謝工学的視点で微生物を理解する必要がある。食品学特別演習Bでは、醸造発酵食品製造に使用される乳酸菌、酵母、麹菌に関する科学論文の読解を行い、自然科学領域における研究手法、研究結果の解析と体系的な理論化について研鑽する。

【授業における到達目標】

実践的演習により、学会誌に投稿する科学論文の執筆、学位請求論文の執筆のために必要な資質を身に付けることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 乳酸菌の特性と代謝に関する論文の読解
- 第2回 乳酸菌発酵食品の機能性に関する論文の読解（1）
プロバイオティクス（整腸効果等）
- 第3回 乳酸菌発酵食品の機能性に関する論文の読解（2）
プロバイオティクス（アレルギー軽減効果等）
- 第4回 酵母の特性と代謝に関する論文の読解
- 第5回 酵母の代謝工学と育種に関する論文の読解（1）
香気生成に関する分子育種に関する研究
- 第6回 酵母の代謝工学と育種に関する論文読解（2）
味覚成分生成に関する分子育種に関する研究
- 第7回 酵母ゲノムと醸造用酵母の特性に関する論文の読解（1）
実験室酵母との比較解析
- 第8回 酵母ゲノムと醸造用酵母の特性に関する論文の読解（2）
清酒酵母の特性に関する解析結果
- 第9回 麹菌の代謝工学と育種に関する論文の読解（1）
酵素生産に関する分子生物学的解析
- 第10回 麹菌の代謝工学と育種に関する論文の読解（2）
2次代謝産物生産に関する分子生物学的解析
- 第11回 麹菌のゲノム解析による麹菌の特性に関する論文の読解
- 第12回 研究課題に関する文献調査結果の取りまとめ
- 第13回 文献調査結果と研究課題の関連性の考察
- 第14回 研究課題の展望に関する論考
- 第15回 総合討論

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業で使用する講読用の論文を講義時まで読み、内容を把握し発表資料として取りまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 講義で読解した論文の内容を整理・要約してレポートとして提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各回で用いる論文読解用の論文を指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文読解に対する取組50%、最終レポート50%で評価する。レポートを評価後に返却する。

【参考書】

開講時及び適宜参考文献等を紹介する。

【注意事項】

授業の内容は受講者の博士論文研究課題の内容によって適宜変更することがある。

食品学特別演習C

山崎 壮

食物栄養学専攻 前期 2単位

【テキスト・教材】

各週で用いる論理解読用の論文を授業時に指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論理解読に対する取り組み50%、最終レポート（第15回授業時に提出）50%で総合評価する。最終レポートは、第15回授業内で講評する。

【参考書】

開講時および適宜、参考文献等を紹介する。

【授業のテーマ】

食品の機能は、医薬品のような強い生理作用は期待できないが、長期間の食事習慣による健康維持・増強を期待できるので、機能性食品の開発や利用が積極的に進められている。その一方で、消費者側も製造者側も、機能性食品の特性と有効性および利用方法について科学的根拠に基づく理解が必要である。

食品学特別演習Cでは、国が有効性と安全性を確認して許可している特定保健用食品および機能性の作用メカニズムの解析が行われている食品（機能性表示食品など）を題材にして、機能性食品の作用機序、有効性、安全性に関する学術論文の解説を行い、機能性食品の研究手法と解析・実証方法および学術論文執筆の知識を学ぶ。

【授業における到達目標】

機能性食品の有効性・安全性に係わる研究を行う大学院生を授業対象とし、機能性食品の研究手法と解析・実証方法を理解できるようになり、この分野の学術論文を読みこなせることをめざす。さらには、機能性食品に関する科学的に正しい情報を消費者に提供できる専門家としての知識と技能を修得することをめざす。

【授業の内容】

(1) 主要な保健の用途の機能性食品の科学的根拠となっている学術論文の解説

- 第1週 血圧を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 (1) 有効成分：オリゴペプチド
 - 第2週 血圧を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 (2) オリゴペプチド以外の有効成分
 - 第3週 血圧を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文解説
 - 第4週 血中コレステロールを保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説
 - 第5週 血中コレステロールを保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文解説
 - 第6週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 (1) 有効成分：茶カテキン
 - 第7週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 (2) 有効成分：多価不飽和脂肪酸
 - 第8週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 (3) 有効成分：脂肪の吸収を阻害する成分
 - 第9週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文解説
 - 第10週 血糖値を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文解説 有効成分：糖の吸収を阻害する成分
 - 第11週 血糖値を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文解説
- (2) 履修者による機能性食品の科学的根拠のレビュー（最終レポートの作成）
- 第12週 機能性食品の有効性・安全性に関する文献調査結果の発表
 - 第13週 文献調査結果の考察および履修者の研究課題との関連性の考察
 - 第14週 研究課題の展開に関する論考
 - 第15週 最終レポートに関する総合討論

【事前・事後学修】

- (1) 授業期間前半：授業で読む論文を事前に読み、授業で質問や討論ができるように準備する。その際、栄養成分の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）に関する基本事項を事前に学習する。（学修時間：週4～5時間）
- (2) 授業期間後半：履修者自身が機能性食品の科学的根拠に関して調査を行い、レビューする。授業での議論を踏まえて、必要な追加調査を行う。（学修時間：週4～5時間）

食品学特論A

奈良 一寛

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本および世界の食料事情にも目を向けながら、農林水産物の特徴や有用性についても理解を深める。また、有効な利用法についても考えていく。さらに、原著論文の購読やそれについてのプレゼンテーションも行い、研究の組み立てや結果の伝え方についても学習する。

【授業における到達目標】

基礎および応用研究に加え、食品の高度利用のための専門知識を身につける。また正しい情報を社会に発信する能力も修得する。

【授業の内容】

- 第 1 週 世界の食料事情
- 第 2 週 日本の食料事情
- 第 3 週 農産食品とその利用
- 第 4 週 林産食品とその利用
- 第 5 週 水産食品とその利用
- 第 6 週 畜産食品とその利用
- 第 7 週 食品の加工技術と保蔵技術
- 第 8 週 食品成分の健康機能
- 第 9 週 関連論文の購読・発表・討論（農産食品）
- 第 10 週 関連論文の購読・発表・討論（林産食品）
- 第 11 週 関連論文の購読・発表・討論（水産食品）
- 第 12 週 関連論文の購読・発表・討論（畜産食品）
- 第 13 週 関連論文の購読・発表・討論（食品成分の健康機能）
- 第 14 週 論文紹介・発表・討論
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】資料や論文、関連する内容や専門用語は事前によく調べておく。論文購読および紹介では、発表資料などの準備をする（学修時間 週2時間）

【事後学修】資料や論文についての内容をよく復習し、課題レポートの作成に取り組む（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜資料は配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（発表姿勢、質疑応答、理解度）50%、課題レポート50%

提出課題レポートについては、次週までに返却し、疑問点や課題について解説を行う。

食品学特論B

杉山 靖正

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

発酵食品には多くの機能性物質が含まれており、古くから食品として利用されている。近年の分析技術の発展に伴い、発酵食品に含まれる新たな機能性物質が見いだされているが、今後もおおいに期待できる分野である。そこで本講義では、発酵食品に含まれる機能性物質の研究に必要な知識を修得し、関連論文を理解できる能力を養うことを目的とする。

【授業における到達目標】

修士として求められる食品学に関する高度な知識と研究遂行能力を身につけることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 回 発酵食品の機能性
- 第 2 回 発酵食品に含まれる機能性物質（大豆発酵食品）
- 第 3 回 発酵食品に含まれる機能性物質（酢・アルコール飲料）
- 第 4 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（構造式・命名法1）
- 第 5 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（命名法2・官能基1）
- 第 6 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（官能基2・共役ジエン・芳香環）
- 第 7 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（立体化学1）
- 第 8 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（立体化学2・化学反応）
- 第 9 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（機能性物質の精製）
- 第 10 回 発酵食品の機能性研究に必要な有機化学（機能性物質の構造決定）
- 第 11 回 関連論文の発表・討論（背景）
- 第 12 回 関連論文の発表・討論（目的・方法）
- 第 13 回 関連論文の発表・討論（結果・考察）
- 第 14 回 研究施設の見学（学外実習）
- 第 15 回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回講義内容について、講義中に指定する項目を調べておくこと。また、講義内容に関連する論文購読も行うので指定された論文や各自で選択した論文をよく読みまてめておくこと（学修時間 週2時間30分）。

事後学修：講義内容に関する課題のレポート提出や論文購読の要約の提出を課す（学修時間 週2時間30分）。

【テキスト・教材】

講義時に講義内容に関する資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（発表姿勢、質疑応答、理解度）50%、課題レポート50%。論文発表については講義中、課題レポートについては返却時に改善項目等について指導する。

【参考書】

各講義内容を理解するための参考となる図書や論文をその都度紹介する。

食品学特論C

白尾 美佳

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

食品は生命活動を維持するだけでなく、生体を調節する機能もある。食品に含有される機能性成分はヒトの健康の維持増進、病気の予防等に貢献する。本特論においては、食品の生産、食品成分、機能性成分について理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

本講義を通して食品がどのように生産され、どのような栄養成分や機能性成分をもっているか、またその生産方法、栄養成分分析方法などについて理解することを目標とする

【授業の内容】

- 第1週 食品の種類、分類について
- 第2週 食品を生産するための条件について
- 第3週 食品の生産過程について
- 第4週 食品の流通、販売について
- 第5週 食品成分の分析（栄養成分の分析）
- 第6週 食品成分の分析（HPLC, GC）
- 第7週 食品機能性成分分析について（抗酸化等）
- 第8週 食品の評価試験（物性試験について）
- 第9週 食品成分分析、機能性成分に関する文献調査
- 第10週 文献講読1 プレゼンテーション、ディスカッション
- 第11週 文献講読2（食品機能性成分）
- 第12週 文献講読2 プレゼンテーション、ディスカッション
- 第13週 食品分析機関の見学
- 第14週 食品関連企業の見学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各シラバスの内容について文献、書籍等で調べておくこと（2時間）

【事後学修】各シラバスごとの関連内容について授業後にまとめておくこと（2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリント
- ・必要に応じて書籍を紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：提出課題40%、平常点（授業への積極参加）60%
フィードバック：各授業後に質問の回答をとおしてフィードバックを行う。

【参考書】

篠原 和毅 他著『食品機能研究法』光琳 2000年発行 5,724円
日本食品分析センター編『栄養表示のための成分分析のポイント』
中央法規出版 2007年北郊 4,968円

【注意事項】

- ・授業の項目、授業の順番を変更する場合があります。
- ・学外に見学に行く場合があります。
- ・専門家の話を聞く場合があります。

食品鑑別論

杉山 靖正

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

食品を評価するには、食品の本質について考える必要があります。食品の品質基準は、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能性、商品性など多様です。これらの多様な食品の品質を鑑別するためには、化学的・物理的な分析評価法、官能評価法、さらには食品の品質表示制度など、様々な専門知識を身に付けなければなりません。また、食品に関する情報の真偽を見抜く技量も必要です。その上で個別食品についての鑑別方法を修得します。

【授業における到達目標】

食品の基礎知識について学修し、現代の食の問題や消費者としての規範を考えることで、現状を正しく把握し課題を解決する力や広い視野と洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 食品を取り巻く諸問題
- 第2週 食品の品質と官能評価の概要
- 第3週 官能評価法の基本と実施法
- 第4週 化学的評価法（1）食品成分と品質
- 第5週 化学的評価法（2）様々な化学的品質評価法
- 第6週 物理的評価法
- 第7週 食品の鮮度と劣化
- 第8週 個別食品の鑑別技術 穀類・豆類・野菜類
- 第9週 個別食品の鑑別技術 海藻類・魚介類
- 第10週 個別食品の鑑別技術 肉類・卵
- 第11週 個別食品の鑑別技術 乳と乳製品・油脂
- 第12週 個別食品の鑑別技術 酒類・醸造食品
- 第13週 個別食品の鑑別技術 清涼飲料・茶類・コーヒー・ココア
- 第14週 個別食品の鑑別技術 インスタント食品・冷凍食品・機能性食品
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

- 事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。
(学修時間 週2時間)
- 事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

(公社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』(建帛社 2014年) 2,376円
テキストに加えて、講義時に配布する資料プリントを用いて講義を行います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%
小テストおよびレポートは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

食品機能論

奈良 一寛

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

食品には様々な機能があり、それらは一次機能である栄養機能、二次機能である嗜好機能、三次機能である生体調節機能に分けられる。本授業では、食品中に含まれる健康の維持、増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について説明するとともに、その作用機構についても講義する。また機能性食品成分と関連が深い保健機能食品制度についても解説する。

【授業における到達目標】

食品に含まれる機能性成分の特徴についての基礎知識を十分に学び、その作用メカニズムについても理解するとともに、食品の表示について関心をもち、保健機能食品制度についても説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 食品の機能
- 第 2 週 ミネラルの吸収促進成分
- 第 3 週 血糖上昇抑制成分
- 第 4 週 抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分
- 第 5 週 腸内環境を整える成分
- 第 6 週 骨の健康・骨粗鬆症予防成分
- 第 7 週 歯の健康・う蝕予防成分、中間まとめ
- 第 8 週 抗疲労効果成分
- 第 9 週 活性酸素と抗酸化成分
- 第 10 週 高血圧と高圧作用成分
- 第 11 週 脳・神経系の機能に関する成分
- 第 12 週 免疫と免疫機能活性・調節成分
- 第 13 週 機能性食品の制度
- 第 14 週 総合演習
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。

食品機能論

松岡 康浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食品が持つ3つの機能のうち、3次機能は高次の生命活動を調節する機能として注目されています。管理栄養士には食品の機能性に関する正しい知識が求められます。健康の維持増進など、食品の生体調節機能について、その作用成分および作用機序、学術的根拠について、学術論文の読み方を含め学びます。

【授業における到達目標】

管理栄養士資格国家試験「食べ物と健康」の機能性食品に関する知識の習得および我が国の保健機能食品制度における食品機能の位置づけと情報を科学的に見る力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 食品の機能
- 第2週 食品の表示に関する制度
- 第3週 消化吸収促進機能
- 第4週 血糖値上昇抑制機能
- 第5週 腸内環境調節機能
- 第6週 脂質関連代謝機能
- 第7週 骨・歯その他の機能
- 第8週 科学的根拠について（演習）
- 第9週 抗酸化機能
- 第10週 血圧調節機能
- 第11週 神経系におよぼす機能
- 第12週 免疫系におよぼす機能
- 第13週 安全性と相互作用
- 第14週 機能性研究の紹介と課題 特許
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を通読し、不明な語彙があれば調べておく（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、分からないところは調べ理解を深める（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

森田英利 田辺創一：わかりやすい食品機能学（第2版）[三共出版、2014、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、まとめテストおよび演習30%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

【参考書】

清水俊雄 著 「食品機能の表示と科学」
（同文書院 2015） 3500円＋税

食品機能論

奈良 一寛

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

食品には様々な機能があり、それらは一次機能である栄養機能、二次機能である嗜好機能、三次機能である生体調節機能に分けられる。本授業では、食品中に含まれる健康の維持、増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について説明するとともに、その作用機構についても講義する。また機能性食品成分と関連が深い保健機能食品制度についても解説する。

【授業における到達目標】

食品に含まれる機能性成分の特徴についての基礎知識を十分に学び、その作用メカニズムについても理解するとともに、食品の表示について関心をもち、保健機能食品制度についても説明できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第 1 週 食品の機能
- 第 2 週 ミネラルの吸収促進成分
- 第 3 週 血糖上昇抑制成分
- 第 4 週 抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分
- 第 5 週 腸内環境を整える成分
- 第 6 週 骨の健康・骨粗鬆症予防成分
- 第 7 週 歯の健康・う蝕予防成分、中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 抗疲労効果成分
- 第 9 週 活性酸素と抗酸化成分
- 第 10 週 高血圧と高圧作用成分
- 第 11 週 脳・神経系の機能に関する成分
- 第 12 週 免疫と免疫機能活性・調節成分
- 第 13 週 機能性食品の制度
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。

食品物性論

中川 裕子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

食べ物のおいしさには、味・色・音・温度・テクスチャー（口ざわり）などの様々な化学的性質や物理的性質が影響している。各種食品の調理・加工における変化を食品物性の立場から解説する。

中でも日本の食文化はテクスチャー文化と言われるほど、テクスチャーに敏感である。この講義ではテクスチャーとは何か、テクスチャーをもたらす食品の状態やレオロジー、我々の口中の運動などを説明してテクスチャーについての理解を深め、最後に嚥下困難者食、介護食の解説を行う。

【授業における到達目標】

数式を用いなくても食品の物理特性が理解できることを修得する。理解・習得した知識をもとに、学んだ技能が発揮できる応用力を発揮できることを目標にする。フードスペシャリストの資格認定試験の内容に対応した応用力を修得する。学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- I. 調理プロセスにおける食品の化学的・物理的变化
 1. 炭水化物を多く含む食品、でん粉類、米
 2. 炭水化物を多く含む食品、小麦粉
 3. 炭水化物を多く含む食品、いも類、豆類
 4. タンパク質を多く含む食品、食肉類
 5. タンパク質を多く含む食品、魚介類
 6. タンパク質を多く含む食品、卵、乳・乳製品
 7. ビタミン・無機質を多く含む食品、野菜類・果実類
- II. 食品物性論
 8. 食品のおいしさと物理的特性
 9. 粘性と流動①(コロイド溶液、エマルジョン、ニュートン流体)
 10. 粘性と流動②(粘度計の原理、官能評価との関連性)
 11. ゼルとゲル
 12. 弾性および粘弾性体
 13. 大変形の力学的性質①(破断特性)
 14. 大変形の力学的性質②(官能評価との関連性)
 15. 介護食とテクスチャー

【事前・事後学修】

事前学修：講義内容をあらかじめmanabaに掲載するので確認し、予習すること。（学修時間週2時間）

事後学修：理解度を確認する課題を出すので期限までに提出すること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

講義時にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験・小テスト80%、授業態度20%で総合的に評価する。

小テストは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・中濱信子, 大越ひろ, 森高初恵 共著『おいしさのレオロジー』アイ・ケイコーポレーション
- ・森友彦, 川端晶子編『食品のテクスチャー評価の標準化』光琳
- ・磯直道, 水野治夫, 小川廣男 共著『食品のレオロジー』成山堂書店
- ・川端晶子著『食品物性学』建帛社
- ・(公社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の官能評価・鑑別演習』建帛社

【注意事項】

フードスペシャリスト資格認定試験の参考になるのでなるべく受講すること。

食品分析学

杉山 靖正

2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本食品標準成分表は、学校給食、病院給食等の給食管理、食事制限、治療食等の栄養指導に活用されることはもちろん、現代社会の健康志向を背景に一般家庭においても広く利用されるようになっていきました。そこで本授業では、日本食品標準成分表に記載されている各成分の分析法について、基礎知識から応用まで学修します。

【授業における到達目標】

各成分の分析法の原理を理解し、様々な食品に含まれる成分の分析が行えるようになることを目標としています。また、各分析法の特徴を理解することで、様々な分野への応用についても考察します。本授業では、専門知識の修得のみならず、広い視野と深い洞察力（研鑽力）を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 食品分析学概論
- 第2回 基礎 (1) 定性分析、定量分析、濃度
- 第3回 基礎 (2) 有効数字、誤差、統計処理
- 第4回 基礎 (3) 比色分析
- 第5回 基礎 (4) クロマトグラフィーの基礎
- 第6回 基礎 (5) クロマトグラフィーの活用（カラム・平板）
- 第7回 基礎 (6) 高速液体クロマトグラフィー
- 第8回 基礎 (7) ガスクロマトグラフィー
- 第9回 水分の分析法
- 第10回 アミノ酸、タンパク質の分析法
- 第11回 脂質の分析法
- 第12回 無機質の分析法
- 第13回 炭水化物、食物繊維の分析法
- 第14回 ビタミンの分析法
- 第15回 まとめと応用

（核磁気共鳴および質量分析等の機器分析について）

【事前・事後学修】

事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

食品分析学

杉山 靖正

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

日本食品標準成分表は、学校給食、病院給食等の給食管理、食事制限、治療食等の栄養指導に活用されることはもちろん、現代社会の健康志向を背景に一般家庭においても広く利用されるようになっていきました。そこで本授業では、日本食品標準成分表に記載されている各成分の分析法について、基礎知識から応用まで学修します。

【授業における到達目標】

各成分の分析法の原理を理解し、様々な食品に含まれる成分の分析が行えるようになることを目標としています。また、各分析法の特徴を理解することで、様々な分野への応用についても考察します。本授業では、専門知識の修得のみならず、広い視野と深い洞察力（研鑽力）を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 食品分析学概論
- 第2回 基礎 (1) 定性分析、定量分析、濃度
- 第3回 基礎 (2) 有効数字、誤差、統計処理
- 第4回 基礎 (3) 比色分析
- 第5回 基礎 (4) クロマトグラフィーの基礎
- 第6回 基礎 (5) クロマトグラフィーの活用（カラム・平板）
- 第7回 基礎 (6) 高速液体クロマトグラフィー
- 第8回 基礎 (7) ガスクロマトグラフィー
- 第9回 水分の分析法
- 第10回 アミノ酸、タンパク質の分析法
- 第11回 脂質の分析法
- 第12回 無機質の分析法
- 第13回 炭水化物、食物繊維の分析法
- 第14回 ビタミンの分析法
- 第15回 まとめと応用

（核磁気共鳴および質量分析等の機器分析について）

【事前・事後学修】

事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

食物学

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目である。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

第2版 食生活 健康に暮らすために[八千代出版、2015、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）
1000円（税別）

【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

食物学

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目である。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

第2版 食生活 健康に暮らすために[八千代出版、2015、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）
1000円（税別）

【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

食物学

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目である。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

第2版 食生活 健康に暮らすために[八千代出版、2015、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）
1000円（税別）

【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

食物学

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目である。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）
（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

第2版 食生活 健康に暮らすために[八千代出版、2015、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

【参考書】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）
1000円（税別）

【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

食文化と食育

荒尾 美代

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

ヒトが何をどう食べるのか？を選択するには、社会的要因・文化的要因・自然科学的要因など多くの要因がかかっています。授業では、「ヒトは何を食べてきたか？」「ヒトはどのようにして食べてきたのか？」について学び、「ヒトは今、何をどのように食べるのか？」について考えます。そして「次世代に何を伝えるべきか？」について考えます。

【授業における到達目標】

1. 食について多角的に捉え、異文化に対して理解を深めることができる。
2. 世界の食文化と日本の食文化の成り立ちを知り、自国を理解する助けにする。
3. 自分の考えを論理的に説明できる。

【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション 食文化とは
- 第2週：何を食べてきたか1（主食：米）
- 第3週：何を食べてきたか2（主食：パン）
- 第4週：何を食べてきたか3（主食：イモ）
- 第5週：何を食べてきたか4（副菜：肉）
- 第6週：何を食べてきたか5（副菜：乳製品）
- 第7週：どのようにして食べてきたか1（調味料：醤油）
- 第8週：どのようにして食べてきたか2（調味料：砂糖）
- 第9週：どのようにして食べてきたか3（嗜好品：茶）
- 第10週：どのようにして食べてきたか4（嗜好品：菓子）
- 第11週：今、どのように食べるのか1（安全）グループ討議
- 第12週：今、どのように食べるのか2（健康）グループ討議
- 第13週：今、どのように食べるのか3（美容）グループ討議
- 第14週：次世代に何を伝えるべきか グループ討議
- 第15週：まとめとフィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：グループ討議のテーマを個人で調べて考えておく。またレポートの準備（中間発表あり）を行う。（学修時間週2時間）
事後学修：授業で学んだ内容についてさらに調べて考察し、次回にコメントできるように準備を行う。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

DVDおよび参考資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート：80%、授業への取り組み：20%（コメント、グループ討議への参加状況 他）、最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示します。

【注意事項】

食について様々な角度から考えていく授業です。
日頃から外国の食や、社会問題に関心を持つことで、視野を広げることができます。

食文化論

日本の食文化の特色

荒尾 美代

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

2013年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、国内外で日本の食べ物・食文化に対する関心が高まっている。

和食の成り立ちは、日本文化の成り立ちと歩を同じくしている。その特色は、外来文化の受容と変容によって形成されてきたことである。

世界の食文化を自然環境、食物の生産・加工等の技術、調理法、食習慣、宗教、伝播などの視点から概説する。

日本の食文化については、社会背景、異文化接触の影響に触れながら概説する。

【授業における到達目標】

国際化社会の一員として、食を通じた異文化に理解を深め、異文化コミュニケーション力をつける。

また、日本の食文化の成り立ちと特徴を知り、自国を理解する助けにする。

そして、訪日外国人がさらに増え、異文化交流が必然的に増えることが予想されることから、日本の食文化を他者に伝えられるように、自分で「感じて」「考えて」「伝える」能力を高める。

【授業の内容】

第1週 授業構成の解説と食文化の見方

第2週 世界の食文化形成

第3週 日本の食文化形成の概略

第4週 異文化接触と受容

第5週 主食の文化

第6週 副食の文化

第7週 調味料・油脂・香辛料

第8週 菓子・茶・酒

第9週 日本料理の形成と発展

第10週 台所・食器・食卓の文化

第11週 日常・非常の食生活

第12週 外食文化の成立と変化

第13週 行事と地域の食文化

第14週 ユネスコ無形文化遺産と、日本に登録された「和食」

第15週 試験のフィードバック 食育とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週のテキスト該当部分を読み、わからない語句は調べておく。小レポートの準備をおこなう（週3時間）

事後学修：テキストを復習する。（週1時間）

【テキスト・教材】

大久保洋子 富岡典子 中澤弥子 島崎とみ子 橋爪伸子：日本の食文化「和食」の継承と食育[アイ・ケイコーポレーション、2018、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験：60点

平常点(感想文、小レポート)：40点

感想文や、小レポートは、問題提起として授業中に発表してもらうこともある。

試験のフィードバックは最終講義時に行う。

【注意事項】

毎日の食事、外食、冠婚葬祭の食など、自分自身の食の体験に注意を払うことが、「食文化」への理解を深めます。

心の健康

前川 真奈美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

大学生の時期は子どもから大人への移行期にあたり、青年期特有の発達の課題や大学生活特有の悩みや不安を抱えやすい時期といえます。生きていくうえでストレスそのものをなくすことは困難ですが、メンタルヘルスやストレスの仕組みについて学ぶことで、自らの心の健康の維持に役立てることは可能です。本講義では、臨床心理学の観点からメンタルヘルスやストレスについて理解を深め、皆さんのストレス対処のレパートリーを増やしていくことを目的とします。

【授業における到達目標】

青年期における発達の・心理的特徴と代表的なメンタルヘルス不調、ストレスに関する基礎的な知識を修得します。また、実際にいくつかのストレス・マネジメント技法を体験し、ストレスとの上手な付き合い方も身につけていきます。

本講義を通じて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力を習得します。加えて、「行動力」のうち、現状を正しく把握して自ら課題を見出す力や、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる力を養います。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス：大学生が抱える課題と不安

第2週 青年期の発達の特徴：アイデンティティ、心理的離乳

第3週 大学生のメンタルヘルス不調：不安、うつ、摂食障害

第4週 大学生のメンタルヘルス不調：発達障害

第5週 ストレスの理論：ストレスとは何か

第6週 ストレスとパーソナリティ：タイプA行動傾向など

第7週 技法体験：リラクゼーション法

第8週 技法体験：コーピング

第9週 技法体験：問題解決法

第10週 技法体験：行動変容法（理論編）

第11週 技法体験：行動変容法（実践編）

第12週 技法体験：認知的再体制化（理論編）

第13週 技法体験：認知的再体制化（実践編）

第14週 技法体験：アサーション・トレーニング

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「授業の内容」に書かれた用語について、自分なりにインターネット等で調べてみましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業後、その日のうちにコメントペーパーを提出しましょう。配布プリントをもとに復習しましょう。授業で扱ったストレス・マネジメント技法を実践し、小レポートを作成しましょう。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、スライドやプリントを用いて授業を進めます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、小レポートの提出（30%）、コメントペーパーの提出（20%）により評価します。

コメントペーパーでいただいた疑問や質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行います。

【注意事項】

本講義ではmanabaのrespon機能を利用します。

各テーマについて実感をもって理解を深められるよう、技法の体験やグループワークも実施します。積極的な取り組みを期待します。他の受講生の迷惑となる行為（私語、スライドを携帯電話等で撮影する、など）は固く禁じます。

心の健康

佐藤 恵美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

こころと身体がお互いに関連し合うことを心身相関といいます。現代社会はストレスや葛藤が多くあるにも関わらず、自分自身でこころの健康を保たなければなりません。本講義では、心身相関の考え方から、ホメオスタシス、脳、内分泌系などの身体的なメカニズムを理解し、こころや感情に及ぼす影響について学んでいきます。さらに、社会、文化、対人関係など環境的要因によって生じるこころの問題に対処するために、ストレス理論、葛藤、不安や怒りなど感情のコントロールなど心理学の基本的となるこころの理論を解説し、こころの健康を保つための基本的な考え方を習得する。さらに、現代社会で生じている心の問題を応用し、家庭や職場のメンタルヘルスなど実践へと結びつける力を養うための考え方と対処法を具体的に役立てられることを目指す。

【授業における到達目標】

心を健康に保つためには自分自身の身体だけでなく、家庭、学校、職場などの環境的要因が関わります。まず、自らの心の健康の維持に役立てることを目的として、身体や脳の働き、ストレス反応や認知的要因など心理学の理論を理解し、身体的・精神的疾患に及ぼす影響を習得する。次に、対人関係で生じる不安、怒り、葛藤などの原因を理解し、認知や行動の面から対処方法を習得する。最後に、現代社会における地域、学校、職場などで生じる心の問題に対処するために、現代社会における心の問題を応用し、家庭や職場のメンタルヘルスなど実践へと結びつける力を養うための対処法を具体的に役立てられるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：心の健康と社会への適応
- 第2週 現代社会とストレス、対人ストレスとストレス障害
- 第3週 ストレス対処とレジリエンス、メンタルヘルスとEAP
- 第4週 脳内神経システムとホメオスタシス、認知行動療法
- 第5週 原因帰属と抑うつ：原因帰属と思考の偏り
- 第6週 抑うつと気分障害
- 第7週 自己意識・自己注目と心の健康：摂食障害と食行動異常
- 第8週 対人不安とシャイネス
- 第9週 怒りの適応的側面とアンガーコントロール
- 第10週 心的・対人的葛藤とソーシャルスキル
- 第11週 自己開示と対人関係の発展
- 第12週 ソーシャルサポートとコミュニティ心理学
- 第13週 地域、社会における心の健康：インターネットとマスメディアの影響
- 第14週 援助要請行動、自殺、対人援助職のバーンアウトなど職場のメンタルヘルス
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

毎回、授業で指定された章を熟読し、授業で取り上げたテーマに関する新聞記事やニュースを読み、要点をまとめること（週2時間）。毎回授業で取り上げたテーマを200字程度でまとめ、次回の授業時に提出、内容についてフィードバックを行う（週2時間）。

【テキスト・教材】

森脇愛子編著、坂本真士：対人的かかわりからみた心の健康[北樹出版、2015、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト70%、出席状況と授業態度10%、授業レポート20%、提出された授業レポートをまとめ、授業前に学生の意見や質問に答え、議論する。

心理アセスメント法

佐藤 恵美

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

「こころ」は目に見えず、中に何が入っているか分からないブラックボックスである。この中には、その人間の行動の基礎となる知能、パーソナリティ、態度、適性、モチベーションなどさまざまな要素（個人差）が入っているが、ものさしを当てたり、重さを量ることはできない。このように見えない個人差を測定し、アセスメント（査定、評価）するには、心理測定の方法が必要である。個人差を査定・評価する心理アセスメントは、カウンセリングなどの臨床的場面だけでなく、発達検査、知能検査、職業適性、そして地域、家族におけるアセスメントなど社会の中で多岐に渡って使用されている。本講義では、心理アセスメントの基本的な考え方を理解し、臨床、教育、産業での場面で活用できる実践的なアセスメント方法の習得を通して、客観的な自己分析と自分への理解を深めること、そして他者に対する客観的な能力やパーソナリティの測定から人物理解に対する洞察を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

公認心理師に必要とされる心理アセスメントの基本的な考え方と実践的なアセスメント方法の習得から、客観的で多様な視点からの人物理解を行うことができることを目的とする。特に、倫理的観点からアセスメントの目的と原則に基づいてアセスメントの基本的考え方を学ぶ。その後、具体的な実践例として、発達検査、知能検査、職業適性の方法を実践し、理解する。これにより、客観的な自己分析と理解を深めること、社会の中でアセスメント目的に合わせた検査法の立案ができること、さらにアセスメント結果から客観的な他者理解に対する洞察を深めることができることを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：心理アセスメントとは
- 第2週 アセスメントの意義と役割とその歴史
- 第3週 心理アセスメントの目的と倫理規定
- 第4週 心理アセスメントの方法：観察法、面接法、検査法
- 第5週 信頼性と妥当性
- 第6週 心理アセスメントの観点と展開、テストバッテリー
- 第7週 アセスメントにおける記録と報告
- 第8週 知能の理解とその測定：知能検査
- 第9週 子どものアセスメント：発達検査と発達の診断
- 第10週 パーソナリティ検査とアセスメント①：パーソナリティの理解と質問紙法
- 第11週 パーソナリティ検査とアセスメント②：投影法、作業検査法
- 第12週 産業場面におけるアセスメントと職業適性
- 第13週 地域、家族におけるアセスメントと危機介入
- 第14週 アセスメントの継続的確認と社会的適応
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

毎回、授業で指定された章を熟読し、関連した著書を読み、要点をまとめること（週2時間）。

毎回授業で取り上げたテーマを200字程度でまとめ、使用した心理検査を用いて自己分析を行い、次回の授業時に提出、内容についてフィードバックを行う（週2時間）。

【テキスト・教材】

「臨床心理アセスメントの基礎」 沼初枝 2009 ナカニシヤ出版
2268円
適宜プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト70%、出席状況と授業態度10%、授業レポート20%、提出された授業レポートをまとめ、授業前に学生の意見や質問に答え、議論する。

心理学演習 1

伊藤 健彦

2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

心理学全般について文献を読み、基本的な論文の構成を学ぶ。さらに、心理学分野で使用されるデータ収集方法や分析方法についての具体的な知識を身に付けることで、学術論文を一通り読めるようになることを目標とする。

【授業における到達目標】

自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 論文の読み方①：論文の構成
- 第3週 論文の読み方②：研究で使われる手法
- 第4週 論文の読み方③：差を調べるための分析方法
- 第5週 論文の読み方④：関連性を調べるための分析方法
- 第6週 読んだ論文のまとめ方、資料の作り方
- 第7週 1班目発表
- 第8週 2班目発表
- 第9週 3班目発表
- 第10週 4班目発表
- 第11週 5班目発表
- 第12週 6班目発表
- 第13週 7班目発表
- 第14週 8班目発表
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された文献を熟読して授業に臨むこと。
発表する班は、分担を決め、担当する文献の内容をまとめる。（学修時間：週30分）
事後学修：発表で指摘された点を修正する。文献の中でわからなかった用語などを確認する。（学修時間：30分）

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極的参加・提出課題 100%
発表の回では、毎回発表後に授業内でフィードバックを行う。

心理学演習 2

論文の深い理解を目指す

雨宮 薫

2年 後期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

論文を理解しながら読むことを目標とする。
文献は心理学についての文献とし、発表班が論文を選定する。
論文の理解として、以下を挙げる。
背景の理解：現在までにわかっていること、まだわかっていないことは何か
実験方法の理解：どのような実験手法・解析手法がありうるのか。
なぜ、この論文ではこの実験手法を使ったのか、
解析方法の理解
結論の理解：結果から何が言えるのか
考察の理解：背景との関連、何が分かって何が未解決であるか。
また、プレゼンテーションをする能力を身に着ける。
背景の理解、実験方法の理解、解析方法の理解、結論の理解、考察の理解を目的とする。
発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

【授業における到達目標】

論文を理解することを通して、疑問が起こった際に、問題に対する洞察力、問題点の解決に対するプロセスを身に着けることを目標とします。また、発表を担当することにより、発表までにすべき課題設定と計画力を身に着け、グループワークを通して理解を相互で補充し高めあうすべを身に着けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、論文をまとめるときのポイント復習
- 第2週 論文の読み方①：研究背景の整理と目的の設定
- 第3週 論文の読み方②：手法の選定
- 第4週 論文の読み方③：データの整理
- 第5週 論文の読み方④：データの読み取りと考察
- 第6週 読んだ論文のまとめ方、資料の作り方
- 第7週 1班目発表
- 第8週 2班目発表
- 第9週 3班目発表
- 第10週 4班目発表
- 第11週 5班目発表
- 第12週 6班目発表
- 第13週 7班目発表
- 第14週 8班目発表
- 第15週 まとめ

最初は全員で論文を読み、何が論文の中で書いているかを討論しながら理解していく（1-5週）
プレゼンテーションの練習をしながら、発表をどうするかについて理解する（6週）
班ごとに論文を決定する。
人数、班の構成数により、発表の週は変更する。

【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された文献を熟読して授業に臨むこと
発表班が文献を決定し、前週までに、紹介する論文を事前に指定し、全員に発表する。発表担当以外の論文も各自読むこと（週30分～1時間。発表前はこれに該当しない）。
事後学修：発表で指摘された点を修正する。文献の中でわからなかった用語などを確認する。（学修時間：週30分）

【テキスト・教材】

各週の論文

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容（適切な論文の選択、論文の読み込み、発表、新たな問題点は何か、今回わかったこと、わからなかったこと、その解決に對

する自分なりの検討など) 質問内容も評価します。
フィードバックとして、論文の探し方、読み込みについてのアドバイス、現在のトピックの紹介、問題点や疑問についてのアドバイスを適宜行うとともに、最終週にまとめとして発表します。

【参考書】

山内 光哉著 「心理・教育のための統計法」 サイエンス社
森 敏昭・吉田 寿夫著 「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」 北大路書房

【注意事項】

「心理学演習1」を履修していること。
「脳と心」を履修していることが望ましい。

心理学概論

心理専門の基礎科目としての概論

竹内 美香

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

心理学Psycho・logyは「精神Psyche」を「論理的にlogos」探索することを目指している。概論では「心理学」の基本すなわち客観的に捉えにくい「心」という対象をどのように科学として扱うべきか知り、変動し続ける人と環境、社会の課題に、主体的に向き合うのに役立つ基本知識を探索する。

【授業における到達目標】

1. 客観性や再現可能性が実証的な心理学研究で重視される理由を理解する。
2. 人間が環境との関係性の中で、自己を調整し続ける予測と制御の「生体システム」であることがわかる。
3. 人の心の基本的な仕組みと働きについて概説できる。
4. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽し続ける力、人のシステムの美しさを知り、主体的に他者と協働して課題を解決する力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 現代科学と心理学の成り立ち
- 第2週 人の心の基本的な仕組み「感覚の機能」
- 第3週 感覚・知覚の心理学
- 第4週 行動の分類 生得性
- 第5週 オペラント型の学習と行動
- 第6週 レスポンデント型の学習と行動
- 第7週 人の記憶機能
- 第8週 認知心理学
- 第9週 動機づけと情動
- 第10週 対人社会心理学1 追従する心
- 第11週 対人社会心理学2 服従する心
- 第12週 対人社会心理学3 説得と好意
- 第13週 臨床発達健康心理学1 コミュニケーション
- 第14週 臨床発達健康心理学2 レジリエンスと健康
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業時に「1週間の間に見聞した人間行動に関わる事象」について記述することを求める。メディア情報に目を通してくる。

【事後学修】期日までに書いて提出する形式とする。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような取り組みを求める。

【テキスト・教材】

鈴木晶夫、竹内美香：心理学入門・快体心書 ～身体と心の基礎と臨床～[川島書店、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終レポート50%、平常点（提出物や授業ワークシート他でみる取り組み）50%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、前回提出されたシートの中からいくつかの質問や考察を取り上げて解説する。最終レポート後は、manabaの授業評価コメントの場を活用し、今後の学習の方向づけとなるコメントを出す。

【参考書】

伊東暁子、竹内美香、鈴木晶夫 著
『食べる・育てる心理学 食育の基礎と臨床』川島書店(2010年)

【注意事項】

毎回の授業でリアクションシートを提出する。授業を聴いて考えたこと、気がついたことを書く。よい取り組み内容のシートは次の回到教室で紹介し、受講者全員で共有する。

心理学概論

松浦 常夫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

心理学は人間の心や行動を科学的に解き明かそうとしてきましたが、未だにその全貌は明らかになっていません。

この科目では、心理学の基本的な内容について初歩から学び、人間の心の深さ、あいまいさ、複雑さを理解します。

心理学はこころと行動を研究する学問ですが、別の側面からいうと、外界の情報をどう取り入れ、それを脳がどう処理するか、その処理の肉体的な方法がこころや行動と言えます。それを基本にして、様々な種類の心理学を概説していきます。

【授業における到達目標】

人間の行動を心理学的に見る目を養い、その背景にある自分自身や他者の心理を少しでも理解できるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連については、知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 心理学の分野と考え方—心理学とはどのような学問か。
- 第2週 自己と他者—私たちは自分をどう認知しているでしょうか。また他者とどういう関係にあるのでしょうか。
- 第3週 対人行動—私たちは他者に出会うと、どういった心の働きから他者に対してどういった行動をとるのでしょうか。
- 第4週 性格（パーソナリティ）—私たちは自分や友人の性格を知りたがります。心理検査はその手段の1つです。
- 第5週 ストレスと適応—私たちにストレスはどんな影響を与え、それにどう私たちは適応していくのか。
- 第6週 正常と異常—私たちは社会に適応して生活していますが、不適応になったり、精神障害を発症することもあります。
- 第7週 発達と成長—私たちは一生涯にわたって変化し続けます。その各段階に共通する特徴について学びます。
- 第8週 遺伝と環境—私たちは遺伝と環境の両方の影響を受けています。この2つの力が発達にどう影響するのでしょうか。
- 第9週 刺激と感覚・知覚—私たちは外の世界からの刺激を受け、それを感じることによって様々な情報を得ています。
- 第10週 意識と注意—意識的に注意を払うことによって環境から情報を得ることの意味とメカニズムについて考えます。
- 第11週 記憶と忘却—私たちは学習したことを覚えている一方で、忘れることも多いのです。
- 第12週 知能と能力—知能検査を通じて知能の捉え方、考え方を学びます。
- 第13週 言語と思考—ある課題に出会うと、経験や知識に照らしてみたり、見方を変えたりして、解決を試みますが、これには言語が大きく関わっています。
- 第14週 学習—私たちが色々なことを理解したり、行動したりできるのは、多くの経験を重ねてきたからです。
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 シラバスを見て予習する（学修時間 週2時間）

事後学修 配布されたプリントを復習する（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（感想文、授業態度）40%

毎授業後の感想文の中に、全員に役立ちそうな質問があれば、それを次回に解説します。

【参考書】

できれば心理学の入門書や概論書を1冊買ってください。

【注意事項】

教室の広さ等に応じて座席指定にすることがあります。

心理学概論 1

伊藤 言

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みおよび働きを生き活きと学びます。心理学についての知識や理論をいわゆる「お勉強」として味気なく学ぶのではなく、1. 授業中のミニ実験やリアルタイム調査を通じて心理学的知識を自分自身の生の経験として体感し、2. 心理学の知識や理論が当てはまる日常生活での経験を繰り返し思い出してもらうことを通じて、心理学のレンズを通せば私たちの日常経験や生活を新鮮な形で捉え直せる驚きを伝える授業を目指します。その中で、心理学に関する基礎的な知識を体系的に身につけてください。

【授業における到達目標】

私たちが動物から進化した生物学的な存在であること、しかしどのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であること、また他者の存在や時代・文化などから避けがたい影響を受ける社会的な存在であることを理解し、自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自己や他者の「心」について根拠がある形で考えようとしたとき、つねに【生物-心理-社会】の3つの視点から考えられるようになり、自らの人生における課題を心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1回 心理学概説についてのオリエンテーション
- 第2回 心理学の歴史と方法論
- 第3回 生物学的な存在としての心
- 第4回 脳と心
- 第5回 意識・無意識・注意
- 第6回 心は育ちか？遺伝か？（行動遺伝学）
- 第7回 動物から連続する人間の心（進化心理学）
- 第8回 子どもから大人へと発達する人間の心（発達心理学）
- 第9回 一生涯発達し続ける人間の心（生涯発達心理学）
- 第10回 感覚・知覚に共通する原理（感覚・知覚心理学1）
- 第11回 なぜ・どのように見えるのか（感覚・知覚心理学2）
- 第12回 学習はどのように生じるか？1（行動分析学）
- 第13回 学習はどのように生じるか？2（認知と動機づけ）
- 第14回 記憶の仕組み（認知心理学1）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- ◆事前学修（学修時間週2時間）：教科書の熟読（全員）。教科書を発表可能な形でプレゼンテーション形式でまとめ準備すること（指定された発表者）
- ◆事後学修（学修時間週2時間）：公開された試験問題を解けるようにする（全員）。小テストのための教科書の復習（全員）。授業時間外に実験や調査への参加、および動画の視聴を求めることがある（全員）

【テキスト・教材】

マイヤーズ著・村上郁也監訳：カラー版マイヤーズ心理学[西村書店、2015、¥9,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆試験70%
 - ◆授業への取り組み30%
- （授業内での発表・授業内での発言・提出物や小テストによる予習復習の確認・実験や調査への参加・事前の動画視聴）

【注意事項】

毎回その講義の範囲内の試験問題を公開するので必ず復習してください。また指示に従って各回の授業に必要な事前準備・予習を行うよう注意してください。これらを行っているかぎり、単位を取得できるよう配慮します。慣れないうちは大変かもしれませんが、一緒に歩いていきましょう。

心理学概論 2

伊藤 言

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きを生き活きと学びます。心理学についての知識や理論をいわゆる「お勉強」として味気なく学ぶのではなく、1. 授業中のミニ実験やリアルタイム調査を通じて心理学的知識を自分自身の生の経験として体感し、2. 心理学の知識や理論が当てはまる日常生活での経験を繰り返し思い出してもらうことを通じて、心理学のレンズを通せば私たちの日常経験や生活を新鮮な形で捉え直せる驚きを伝える授業を目指します。その中で、心理学に関する基礎的な知識を体系的に身につけてください。

【授業における到達目標】

私たちが動物から進化した生物学的な存在であること、しかしどのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であること、また他者の存在や時代・文化などから避けがたい影響を受ける社会的な存在であることを理解し、自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自己や他者の「心」について根拠がある形で考えようとしたとき、つねに【生物-心理-社会】の3つの視点から考えられるようになり、自らの人生における課題を心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス・記憶の流動性（認知心理学2）
- 第2回 思考の仕組み
- 第3回 心と言語
- 第4回 知能
- 第5回 動機づけ1（動機づけの理論）
- 第6回 動機づけ2（食と性に関する動機づけ）
- 第7回 感情とはなにか（感情心理学）
- 第8回 幸せになるには？（ポジティブ心理学）
- 第9回 人によって異なる心（パーソナリティ心理学）
- 第10回 性格の正体は？（パーソナリティ心理学2）
- 第11回 他者に左右される心（社会心理学1）
- 第12回 集団に影響される心（社会心理学2）
- 第13回 メンタルヘルス（臨床心理学1）
- 第14回 精神疾患とセラピー（臨床心理学2）
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

- ◆事前学修（学修時間週2時間）：教科書の熟読（全員）。教科書を発表可能な形でプレゼンテーション形式でまとめ準備すること（指定された発表者）
- ◆事後学修（学修時間週2時間）：公開された試験問題を解けるようにする（全員）。小テストのための教科書の復習（全員）。授業時間外に実験や調査への参加、および動画の視聴を求めることがある（全員）

【テキスト・教材】

マイヤーズ著・村上郁也監訳：カラー版マイヤーズ心理学[西村書店、2015、¥9,500(税抜)、※詳細は授業時に指示する]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆試験70%
 - ◆授業への取り組み30%
- （授業内での発表・授業内での発言・提出物や小テストによる予習復習の確認・実験や調査への参加・事前の動画視聴）

【注意事項】

毎回その講義の範囲内の試験問題を公開するので必ず復習してください。また指示に従って各回の授業に必要な事前準備・予習を行うよう注意してください。これらを行っているかぎり、単位を取得できるよう配慮します。慣れないうちは大変かもしれませんが、一緒に歩いていきましょう。心理学概説1の履修を必須とします。

心理学研究法

松浦 常夫

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

心理学は社会科学の1つとして分類されていますが、他の社会科学の分野の学問とは、様々な点で異なっています。研究対象が人の心と行動である点のほかに、研究の方法の違いがあります。この講義では具体的な研究事例を用いながら、あるいは簡単な課題を研究方法を用いて解きながら心理学で用いられる研究方法について概説します。

いくつかの基礎的な心理学の授業を受けた人が、心理学というのはそういった学問であったのかという点を再確認できるような授業を目指します。

【授業における到達目標】

心理学、あるいはその背景にある科学に不可欠な研究方法を理解することを目標とします。

この授業では、人や社会の問題を正しく認識するための道具である研究方法を理解し、また実技をすることによって、ある知見の正しさや問題点を探求する態度や、「研鑽力」、「行動力」および「協働力」が養えるようになるはずです。

【授業の内容】

- 1 心理学と他の学問分野
- 2 心理学研究の流れと分野
- 3 観察法（実習）
- 4 観察法2（解説）
- 5 質問紙法（実習）
- 6 質問紙法2（解説）
- 7 テスト法（実習）
- 8 テスト法2（解説）
- 9 実験法（実習）
- 10 実験法2（解説）
- 11 面接法（実習と解説）
- 12 論文の構成（問題、目的、仮説、方法）と研究倫理
- 13 研究法や論文の目的からみた各種論文の構成・スタイル
- 14 卒業論文
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 配布されたプリントを復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、小課題20%、感想文・授業態度30%で評価します。

授業後の感想文の中に、皆さんに紹介した方がよい質問等があれば、次回に紹介・回答します。

【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

心理学研究法 1

作田 由衣子・中山 友則

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、心理学の研究法について概観するとともに、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を身につけ、また、基本的な統計資料の読み方やデータの分析に関して理解していく。さらに、心理学の主要な方法の1つである実験計画法について、実習を通して体験的に理解する。

【授業における到達目標】

広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

- 第1週 心理学研究法概説
因果関係を探る一実験室実験法
- 第2週 心を説明するモデルを探る一モデル論的アプローチ
- 第3週 独立変数・従属変数、操作的定義
信頼性と妥当性
- 第4週 剰余変数の統制と統制群、適切な推論、研究の倫理
行動から心を探る一観察法①
- 第5週 観察法②：様々な分野での応用例
- 第6週 観察法③：実習
- 第7週 心の特性を探る一心理尺度の構成法
心の深層を探る一心理検査法
- 第8週 心の脳基盤を探る一生理心理学的研究方法
動物から人の心を探る一比較心理学的方法
集団の意見や態度を探る一質問紙調査法
- 第9週 現場から心を探る一エスノメソロジーと
グラウンディッド・セオリー
社会を動かす心を探る一アクションリサーチ
- 第10週 実験計画法とは
実験計画法実習①：実験の準備①
- 第11週 実験計画法実習②：実験の準備②
実験計画法実習③：実験の実施①
- 第12週 実験計画法実習④：実験の実施②
実験計画法実習⑤：実験の解説
- 第13週 統計ソフトの基本操作、データの構成
データの入力、クリーニング
- 第14週 統計資料の整理①：単純集計
統計資料の整理②：度数分布、ヒストグラムの作成
- 第15週 主要な記述統計量①一代表値：平均値、中央値、最頻値
主要な記述統計量②一散布度：分散、標準偏差

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストを熟読して授業に挑むこと（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習をすること。授業時間内に提出できなかった課題があれば提出する（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫：心理学研究法～データ収集・分析から論文作成まで～[サイエンス社、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・小レポート40%、期末レポート60%
manabaおよび授業内でフィードバックを行う。

【注意事項】

授業の順序を入れ替えることがある。
演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。
後期の「心理学研究法2」も履修すること。

心理学研究法 2

作田 由衣子・中山 友則

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、心理学の研究法について概観するとともに、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を身につけ、また、基本的な統計資料の読み方やデータの分析に関して理解していく。

【授業における到達目標】

広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。また、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

【授業の内容】

- 第1週 記述統計量の復習
無作為抽出、事象の確率
- 第2週 標本から母集団を推測する①：母集団と標本、正規分布
標本から母集団を推測する②：標本数と誤差
- 第3週 標本から母集団を推測する③：
検定・推定、不偏性、不偏分散
統計的仮説検定①：標本と母集団・全数調査と標本調査
- 第4週 統計的仮説検定②：帰無仮説
統計的仮説検定③：有意水準
- 第5週 区間推定、信頼区間
クロス集計、平均値の比較
- 第6週 比率の差の検定
カイ2乗検定（独立性の検定）
- 第7週 t検定①：平均の差の検定
t検定②：対応のあるt検定
- 第8週 分散分析①：概要
分散分析②：一要因被験者間
- 第9週 分散分析③：二要因被験者内
分散分析④：二要因
- 第10週 分散分析⑤：多重比較、交互作用
主要な記述統計量③：共分散、相関係数
- 第11週 相関係数とその推定・検定
回帰分析
- 第12週 重回帰分析
尺度構成（信頼性など）
- 第13週 因子分析
分析結果のまとめ方、報告の仕方
- 第14週 統計資料の整理①：既存統計資料の収集と読み方
統計資料の整理②：グラフの読み方
- 第15週 因果関係と相関関係、疑似相関
心理学研究法と心理学の研究の今後の展開
（外部講師による講演を予定）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストを熟読して授業に挑むこと（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習をすること。授業時間内に提出できなかった課題があれば提出する（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計[ミネルヴァ書房、2004、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・小レポート40%、期末レポート60%
manabaおよび授業内でフィードバックを行う。

【注意事項】

授業の順序を入れ替えることがある。
外部講師による講演は変更の可能性はある。
演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。
前期の「心理学研究法1」も必ず履修すること。

心理学実験・実習 1

中山 友則・伊藤 健彦

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

心理学は科学であり、客観的な方法を用いてデータを得ることが必要となる。そのため、心理学では研究法を洗練してきた。実験・実習1では心理学における代表的・古典的な課題（主に、実験法、調査法による課題）を体験し、心理学が開発・洗練してきた方法を、自ら課題を体験することにより学ぶことを目的とする。また、実際に体験した課題における反応をデータとして収集、分析し、その客観的なデータを根拠に、なぜそうした結果が得られたのか、得られた結果から人間のこころに関して何が言えるのかを考えることを行っていく。それらを課題ごとにレポートとしてまとめることで、データの整理方法、統計処理、科学的な思考能力、情報発信時のルールやマナーについても学ぶことを目的とする。

【授業における到達目標】

心理学における研究手法に関する基本的な実験を体験することを通して、研究法の基礎を修得し、研究計画を立て、他者に対して研究を行う力、得られたデータを分析する力、データから考える力を身につける。実習では時には研究者、時には参加者の立場で行い心理学研究における両者の立場の違い、倫理性や留意点を理解する。同時に、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を得て今後に向けての研究する力を養う。さらに、実習で得られたデータを思考やディスカッションを通じて分析・考察し、レポートにまとめる力を身につける。そして広く情報を分析する力や、自身の考えを発信する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、レポートの書き方
- 第2回 ミュラー・リヤー錯視
- 第3回 触2点閾の測定
- 第4回 重量弁別閾、重さの感覚尺度
- 第5回 大きさの恒常性
- 第6回 仮現運動
- 第7回 一対比較法
- 第8回 レポートの書き方
- 第9回 ポリグラフ
- 第10回 脳波・事象関連電位
- 第11回 反射・反応時間
- 第12回 社会的態度尺度の構成
- 第13回 イメージの測定
- 第14回 行動観察
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 前回の授業で修得した内容を復習して授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容をふまえて、また、その回の実習内容に関連する文献を読み、レポートを作成し、提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著『心理学研究法—データ収集・分析から論文作成まで』（サイエンス社 2005年）2,376円
なお、各回の実習内容に関しては主にプリントを配布・使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート100%（毎回レポートを提出すること）。第8回を中心にレポートに関するフィードバックを行う。

【参考書】

齋藤美穂（編）『事例による認知科学の研究法入門：Rコマンドの活用法と論文の書き方』（東京大学出版会 2013年）3,024円

【注意事項】

演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。
授業の順序を入れ替えることがある。

心理学実験・実習 2

中山 友則・北村 康宏

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

心理学における研究手法（実験法・調査法・検査法）の基礎を修得する。そのため、心理学の基礎実験を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。また、統計処理、科学的な思考能力、情報発信時のルールやマナーについても学ぶことを目的とする。

【授業における到達目標】

心理学における研究手法（実験法・調査法・検査法）の基礎を修得する。そして、「心理学実験・実習1」の学修をふまえて、研究計画立案、研究実施の力、分析力および統計手法、データを元に考える力を身につける。さらに、自分の考えを他者に正しく伝える情報発信力も身につける。

【授業の内容】

- 第1回 初回ガイダンス、レポートの書き方
- 第2回 面接の基本技法：相談面接
- 第3回 短期記憶・系列効果
- 第4回 調査面接
- 第5回 事象見本法
- 第6回 囚人のジレンマゲーム
- 第7回 ストループ効果：認知的葛藤
- 第8回 印象形成
- 第9回 鏡映描写
- 第10回 レポートの書き方、心理器具の理解
- 第11回 社会的手抜き
- 第12回 性格検査作業検査法：内田クレペリン
- 第13回 性格検査質問紙法：TEG
- 第14回 性格検査投影法：PPスタディ
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 前回の授業を復習して授業に臨むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 授業内容をふまえてレポートを作成し、提出すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著『心理学研究法—データ収集・分析から論文作成まで～』（サイエンス社 2005年）2,376円（税込）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート100%（毎回レポートを提出すること）
取り組んでいた点やつまづきがちだった点について、第10回を中心にフィードバックを行う。

【参考書】

齋藤美穂（編）『事例による認知科学の研究法入門：Rコマンドの活用法と論文の書き方』（東京大学出版会 2013年）3,024円

【注意事項】

演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。
授業の順序を入れ替えることがある。

心理学実験実習 I

粟津 俊二・織田 弥生

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

心理学では、調査や実験、観察など様々な方法によってデータを集め、実証的に思考を進めます。この授業では、著名な実験や調査を追試し、心理学における実験や調査の流れを体験してもらいます。具体的には、実験・調査によってデータを収集し、収集したデータを統計的な知識も利用して処理し、その結果を解釈し、実証科学的な報告書を作成するという流れを経験して頂きます。

【授業における到達目標】

実際の体験を通して、心理的な事象を扱うための実験・調査を計画・実施し、実証的に報告できるようになることが目標です。あわせて、関連する心理学的な知識、情報機器の使用、統計に関する基礎的な知識の修得も目指します。

このような活動を通して、学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力、人に対する感受性の育成を目指します。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 レポートの書き方
- 3 記憶1 短期記憶容量
- 4 記憶2 系列位置効果
- 5 実験データの統計処理と解釈
- 6 性格
- 7 言語の影響
- 8 視覚
- 9 錯視
- 10 対人距離
- 11 対人魅力
- 12 知覚運動学習1 ベースライン測定
- 13 知覚運動学習2 学習効果
- 14 心理学論文の書き方
- 15 総括

【事前・事後学修】

半期3本の実験レポートの提出と、ほぼ毎回の提出課題を求めます。「レポートの書き方」の回をよく見直し、専門用語等も調べて書いて下さい。

(学修時間 週4時間程度)

【テキスト・教材】

指定しません。関連する文献を適時紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習課題への参加態度 (20%)、提出物や実験レポートの内容 (80%) をもとに評価します。

実習課題への取り組み方や参加態度は、その都度コメントします。実験レポートの基準は、「レポートの書き方」の回に説明します。提出物や実験レポートは担当教員が確認、添削を行った後に、返却します。基準に満たない実験レポートは再提出を求めます。

【参考書】

- ・B. フィンドレイ (1996) 「心理学実験 研究レポートの書き方」北大路書房
- ・木下是雄 「理科系の作文技術」(1981) 中公新書
- ・心理学実験指導研究会 (1985) 「実験とテスト 心理学 基礎編」 「解説編」 培風館
- ・無藤隆、森俊昭、遠藤由美、玉瀬耕治 (2018) 「心理学 新版」 有斐閣

【注意事項】

1クラス上限20名程度とし、これを超えた場合は抽選を行います。実習ですので、講義科目に比べるとかなりハードですが、終了時には多くのことが身に付いています。

心理学実験実習 II

粟津 俊二・織田 弥生

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

心理学では、調査や実験、観察など様々な方法によってデータを集め、実証的に思考を進めます。この授業では心理学実験実習 I をさらに発展させ、古典的、著名な実験や調査を元に、みなさんが実験や調査を企画、設計、実施し、プレゼンテーションとレポートによって報告してもらいます。

【授業における到達目標】

心理学実験実習 I で学習した内容をさらに発展させ、自ら実験・調査をデザインし、文献を調べ、結果を分析し、心的事象について考える能力を伸ばすことが目標です。あわせて、関連する心理学的な知識、情報機器の使用、統計に関する基礎的な知識の修得も目指します。このような活動を通して、学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力、人に対する感受性の育成を目指します。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. コミュニケーション 1 (デモ実験)
3. コミュニケーション 2 (実験準備)
4. コミュニケーション 3 (実験実施)
5. コミュニケーション 4 (発表)
6. 記憶 1 (デモ実験)
7. 記憶 2 (実験準備)
8. 記憶 3 (実験実施)
9. 記憶 4 (発表)
10. 自由課題 1 (テーマ決定)
11. 自由課題 2 (実験時準備)
12. 自由課題 3 (実験実施)
13. 自由課題 4 (発表)
14. レポートのフィードバック
15. 総括

【事前・事後学修】

実験の計画、準備、実施、データ分析、発表準備、レポート執筆を行って下さい。平均して4週間に1回の発表及びレポート提出を求めます。また、基準に満たないレポートは再提出が必要です。学習時間 週4時間程度

【テキスト・教材】

指定しません。関連する文献等を、適時紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み方 (30%)、発表内容 (10%)、レポートの内容 (60%) をもとに評価します。取り組み方や発表内容については、その都度コメントを与えます。レポートは、心理学実験実習 I で説明した基準にもとづいて評価とフィードバックを行います。

【参考書】

- ・B. フィンドレイ (1996) 「心理学実験 研究レポートの書き方」北大路書房
- ・木下是雄 「理科系の作文技術」(1981) 中公新書
- ・心理学実験指導研究会 (1985) 「実験とテスト 心理学 基礎編」 「解説編」 培風館
- ・無藤隆、森俊昭、遠藤由美、玉瀬耕治 (2018) 「心理学 新版」 有斐閣

【注意事項】

内容的に、心理学実験実習 I を履修済みであることが求められます。1クラス20名程度を上限として、これを超える場合は抽選を行います。

心理学統計法

粟津 俊二

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

心理学は人間の行動や思考、人格などを理解しようとする。しかし心理学を学んでいなくとも、私達は日頃から他者の人柄や行動について考え、理解しようとしている。学問としての心理学と日常的な人間判断との違いは、客観的なデータに基づき、知識があれば誰もが納得できるプロセスで、判断するかどうかにある。このための思考方法の一つが、統計学であり、心理学でも統計学的思考を多用する。この授業では、統計に関する基礎知識、数値として得られたデータを解釈する手法、特に、限られた人数からわかったことをそれ以外の人にも拡大してよいかどうか判断する手法（統計的検定）を扱う。

【授業における到達目標】

心理学で用いられる統計手法と、基礎的な統計知識を習得し、心理的な事象についてデータを用いて実証的に考えるられることを目的とする。これにより、人間の多様性を受容する態度や物事の心理を探究しようとする態度、また現状を正しく把握し、本質を見抜く能力の育成にも貢献することを目指す。

【授業の内容】

1. ガイダンス-母集団と標本
2. 統計の基礎-基本統計量
3. 標準化1-z値と偏差値
4. 標準化2-標準正規分布
5. 推測統計の基本1-母数の推定と標準誤差
6. 推測統計の基本2-区間推定と検定の導入
7. 検定の原理1-確率と二項検定
8. 検定の原理2-Z検定と両側・片側検定
9. t検定1-原理と使い分け
10. t検定2-対応の有無
11. 相関係数の検定
12. 独立性の検定
13. 分散分析1-原理と使い分け
14. 分散分析2-交互作用
15. 総括

【事前・事後学修】

- ・1年次の「社会と統計」、特に平均、分散、標準偏差、相関係数について復習しておくこと。
- ・次回の授業までに、テキストの該当範囲を一読しておくこと。
- ・新しい内容を、以前の授業内容に積み上げて進む。授業時間中に理解するか、次回授業までに復習して理解すること。
- ・復習用にmanaba上に課題を出す。期限までに行うこと。
(学修時間 週4時間程度)

【テキスト・教材】

山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計[ミネルヴァ書房、2044、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験 (90%)、提出物 (10%)

授業中の課題は授業中に、manabaの課題はmanabaで、解答と解説を行います。試験は終了後にmanaba等で解説を行います。

【参考書】

授業中に適時紹介する。

【注意事項】

心理学的な卒業論文を予定している学生は、履修することを勧める。

心理学入門

日常生活に役立つ心理学入門

岡田 斉

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

テーマは心理学入門です。心理学とはどういう学問なのか、そして心理学の知識を実際の生活にどう役立てていくのかを考えていきます。心理学の簡単な歴史から始まって、心理学の広がりについて説明します。その次に性格、知覚、記憶、動機付け、人間関係、恋愛、カウンセリング、夢見などのトピックスを取り上げ、科学的方法論に基づく心理学についての理解を深めてもらうだけでなく日常生活にも役立ててもらうことがテーマです。さらに、自己理解に役立ててもらうことを目指し、簡単な実験を行ったり、心理テストを実施し、皆さん自身に採点してもらい、具体的な研究方法も体験していただくこともあります。

授業の最後には皆さんの感想や質問をスマートフォン等でwebにより提出していただき、必要に応じて適宜フィードバックします。このシステムは授業中に皆さんの反応をリアルタイムで見るとともに使用し、受講生がどのような意見を持っているか、得点分布がどのようになっているか等を知っていただくためにも活用します。

【授業における到達目標】

- 1 心を科学的に研究する方法について理解すること。
- 2 知識として理解するだけでなく自己理解と他者理解にも応用できること。
- 3 全学DPでは自己や他者の役割を理解し互いに協力して物事を進める能力を伸ばすこと主として関連する。

【授業の内容】

- 第1週 心理学とは：心理学とは？デカルトと漫画「ぼのぼの」を通して
- 第2週 性格心理学：あなたの性格を知ろう
- 第3週 知覚の心理学：錯覚体験を通して知覚の仕組みについて考える
- 第4週 記憶の心理学 1：記憶の仕組みを実験を通して体験しよう
- 第5週 記憶の心理学 2：心理学を生かした上手な勉強法とは？
- 第6週 動機づけの心理学：ダイエットの心理を通して
- 第7週 対人魅力と恋愛の心理学：素敵な人になるための心理学
- 第8週 社会的スキルの心理学：人とうまく付き合うための心理学の知識を知ろう
- 第9週 問題解決の心理学：問題を解決するとは？簡単なクイズをしながら理解する
- 第10週 カウンセリングと心理療法 1：カウンセリングとはどういうことなのか、日常生活に即しながら考える
- 第11週 カウンセリングと心理療法 2：短期療法や認知行動療法などの心理療法を知る
- 第12週 イメージと意識の心理学：催眠や共感覚など意識とイメージに関する現象を説明する
- 第13週 夢見の心理学 1：夢とは何か、なぜ見るのか、記憶を整理しているのかといった話題に迫る
- 第14週 夢見の心理学 2：夢は見るだけのものなのか、色はつくのか、夢のコントロールはできるのか、予知夢とは、といった話題を解説する
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを読み自分なりの見解を考えておいてください。（学修時間 2時間）

事後学修：授業で行ったテストの結果などを見返して次の単元の事前学修に生かしてください。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

こちらで用意したプリントを用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末にレポート課題を出します。授業の最初に行う心理テストの

結果を提出してもらうことで出席を確認します。レポートの内容50%、平常点50%（授業態度・コメントペーパー）の割合で総合的に評価します。コメントペーパーに関しては全員分ではありませんが皆の役に立ちそうな疑問や意見を抽出しそれに対する私からのコメントを印刷して配布します。

期末のレポートに関してはmanabaによりフィードバックします。

【参考書】

授業中に指示します

【注意事項】

授業中の教室の静穏な環境を維持するため私語をした場合厳しく注意します。授業中に心理テストを行なうことがあります。これが苦手な人は避けていただいた方がよいです。

心理学入門

菅沼 崇

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

各種マスメディアの悪影響により心理学を誤解している人がとても多いです。心理学は決して読心術ではありませんし、またカウンセリングや心理検査ばかりが心理学ではありません。この授業では、心理学の各領域において得られている幅広い研究成果を分かりやすく解説し、心理学を学ぶことの意義やその活用方法についての理解を深めます。

【授業における到達目標】

- ・心理学の基礎的知識が幅広く身につく。
- ・人間相互の心の共通性と異質性が理解できるようになる。
- ・心を科学的に探求することの面白さ、奥深さ、美しさを知る。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の流れ）
- 第2週 知覚心理学（視覚特性）
- 第3週 認知心理学1（記憶）
- 第4週 認知心理学2（思考）
- 第5週 学習心理学1（古典的条件づけと道具的条件づけ）
- 第6週 学習心理学2（社会的学習）
- 第7週 発達心理学1（乳児の発達）
- 第8週 発達心理学2（幼児の発達）
- 第9週 社会心理学1（恋愛観の心理テスト）
- 第10週 社会心理学2（恋愛の心理）
- 第11週 人格心理学1（人格の構造）
- 第12週 人格心理学2（適応機制）
- 第13週 臨床心理学1（不応と精神疾患）
- 第14週 臨床心理学2（心理療法）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業テーマの内容について、自分なりに調べてまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後、ノートを振り返って復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（100点満点）の点数より、欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点を減じることとします。試験のフィードバックは授業最終回にて行います。

【注意事項】

私語が目立つ者には、評価上のペナルティを課します。

心理調査・検査法 1

検査法の基礎と実際

長崎 勤・水野 いずみ

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【参考書】

- ・心理検査法：「心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習）」
願興寺 礼子・吉住 隆弘（編集）（ナカニシヤ出版、2011）
- ・心理調査法：「よくわかる心理統計」山田剛史・村井潤一郎（編著）（ミネルヴァ書房、2004）

【注意事項】

心理調査・検査法2も受講することが望ましい。
外部講師による講話は、日程を変更することがある。

【授業のテーマ】

心理調査法の内容については、前期は、心理調査の設計と実施方法について学ぶ。

心理検査法の内容については、アセスメントは何のために行うのか?から考える。前期は、知能検査（田中ビネーとWISCIV検査）の理論と実施方法を、グループワークによって演習を行う。

【授業における到達目標】

- ・基本的な心理調査を設計し実施できる。
- ・心理検査の基本的な考え方、留意点を理解し、基本的な知能検査などの心理検査を実施できる。

【授業の内容】

第1週 前期オリエンテーション（心理調査法について） ガイダンス、心理調査法による人間理解：心理調査法の実施方法① 仮説構成

第2週 前期オリエンテーション（心理検査法について）

第3週 心理調査法の実施方法② 調査目的と調査方法 調査方法の決め方：心理調査法の実施方法③ 調査企画と設計 調査企画における心理調査の位置づけ

第4週 心理検査法：アセスメントは何のために行うのか?

第5週 心理調査法の実施方法④ 心理調査での仮説構成：調査票作成の基礎①質問文・調査票の作り方

第6週 心理検査法：知能検査1 田中ビネー検査（説明）

第7週 心理調査法：調査票作成の基礎②③ 量的資料収集のための調査票の作成

第8週 心理検査法：知能検査1 田中ビネー検査（演習）

第9週 心理調査法の実施方法① 調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）：心理調査法の実施方法② 全数調査と標本調査

第10週 心理検査法：知能検査2 WISCIV（説明）

第11週 心理調査法の実施方法③ サンプリングの諸方法：心理調査法の実施方法④ 無作為抽出、標本数と誤差

第12週 心理検査法：知能検査2 WISCIV（演習）

第13週 心理調査法：コーディングと入力①② 調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、コードブック作成）

第14週 心理検査法：前期まとめ

第15週 心理調査法：コーディングと入力③ 調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、コードブック作成）：外部講師による講話、前期まとめ

【事前・事後学修】

【心理検査法】・事前学修：毎回、事前に配付した資料を読んで、「コメント・カード」を書いてくること。「コメントカード」は、①新たに学んだこと、②疑問、質問、批判を含むこと（学修時間：週1時間）。・事後学修：各回の授業の終了後2日以内に、その授業についての「コメントカード」を提出のこと（学修時間：週1時間）。

【心理調査法】・事前学修：次回授業の準備（学修時間：週1時間）・事後学修：課題の実施（学修時間：週1時間）。

【テキスト・教材】

- ・心理検査法：その都度提示する。
- ・心理調査法：適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・心理検査法：平常点（授業への取り組み、発表）20%、レポート30%
- ・心理調査法：平常点（授業への取り組み、課題提出）50%
- ・取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

心理調査・検査法 2

調査・検査法の展開

長崎 勤・水野 いずみ

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

心理調査法の内容については、後期は、量的データ解析の方法について学ぶ。

心理検査法の内容については、後期は質問紙法を学ぶ。また行動観察によるアセスメント法も学ぶ。グループワークで検査の演習を行う。

最後に、臨床倫理、研究倫理について学ぶ。

【授業における到達目標】

量的データ解析を実施できる。

心理検査を実施できる。

研究倫理について理解する。

そして、「心理調査・検査法1」の学修をふまえて、「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。

【授業の内容】

第1週 後期オリエンテーション（心理検査法について）

第2週 後期オリエンテーション（心理調査法について）仮説検定の復習①②：クロス集計、カイ2乗検定、尺度構成、t検定、相関係数、回帰分析

第3週 心理検査法：質問紙法1 津守式乳幼児精神発達質問紙（説明）

第4週 心理調査法：重回帰分析①（解説）：重回帰分析②（分析）

第5週 心理検査法：質問紙法1 津守式乳幼児精神発達質問紙（演習）

第6週 心理調査法：重回帰分析③（分析・振り返り）：パス解析①（解説）

第7週 心理検査法：質問紙法2 Vineland-II適応行動尺度（説明）

第8週 心理調査法：パス解析②（分析）：分散分析（解説・分析）

第9週 心理検査法：質問紙法2 Vineland-II適応行動尺度（演習）

第10週 心理調査法：因子分析①（解説）：因子分析②（分析）

第11週 心理検査法：行動観察法（説明）

第12週 心理調査法：多変量解析の応用と実践①（レポートフィードバック）：多変量解析の応用と実践②（再分析）

第13週 心理検査法：行動観察法（演習）

第14週 心理調査法：多変量解析の応用と実践③ レジュメでのグループ報告：多変量解析の応用と実践④ まとめ、外部講師による講話

第15週 研究倫理：まとめ（心理検査法）

【事前・事後学修】

【心理検査法】・事前学修：毎回、事前に配付した資料を読んで、「コメント・カード」を書いてくること。「コメントカード」は、①新たに学んだこと、②疑問、質問、批判を含むこと（学修時間：週1時間）。・事後学修：各回の授業の終了後2日以内に、その授業についての「コメントカード」を提出のこと（学修時間：週1時間）。

【心理調査法】・事前学修：次回授業の準備（学修時間：週1時間）。・事後学修：課題の実施（学修時間：週1時間）。

【テキスト・教材】

- ・心理検査法：その都度提示する。
- ・心理調査法：適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・心理検査法：平常点（授業への取り組み、発表）20%、レポート30%
- ・心理調査法：平常点（授業への取り組み、課題提出）50%

- ・取り組んでいた点やつまずきがちだった点についてフィードバックを行う。

【参考書】

- ・心理検査法：心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習） 願興寺 礼子（編集）、吉住 隆弘（編集）ナカニシヤ出版（2011）
- ・心理調査法：山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房

【注意事項】

- ・心理調査・検査法1を受講しておくこと。
- ・外部講師による講話は、日程を変更することがある。

身体の科学

於保 祐子
1年 前期 2単位
○：美の探究

身体運動の科学 a

島崎 あかね
1年～ 前期 2単位
○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

私たちの体や心の活動は、どのように営まれているのでしょうか？
身体の構造と機能やその調節の仕方、更にはそれらが不調になった状態を学ぶ事で、私たち自身について理解を深めます。

【授業における到達目標】

- ①身体について、興味を持つ。
- ②生命の維持に働く仕組みを、理解する。
- ③生命を維持する仕組みが作り出す、普遍的機能美に気づく。
- ④生命維持機能の一つの例について、自分の言葉で説明できる。

【授業の内容】

- 第1週 恒常性の維持（セレンゲティ・ルール）
- 第2週 親から子に伝わる情報（それって遺伝？に答える）
- 第3週 私たちの体をつくる細胞（アメーバとは違うはず）
- 第4週 消化と代謝（私たちは食べた物でできている）
- 第5週 脳の働き（意識・無意識）
- 第6週 心臓の働き（このドキドキはなぜ？）
- 第7週 骨の働き（打たれ強くなるために）
- 第8週 筋肉の働き（パワーの源）
- 第9週 肝臓の働き（サイレント・マジョリティー）
- 第10週 腎臓の働き（マルチ・タレント）
- 第11週 赤血球と貧血（ちゃんと食べよう）
- 第12週 免疫とアレルギー（自己認識の問題）
- 第13週 ホルモンと恒常性の維持（各論としての諸行有常）
- 第14週 老化とがん、そして寿命（科学的諸行無常）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 【事前学修】授業内容について教科書等で予習を行う。
(学修時間 週2時間)
- 【事後学修】配布プリント等を用いて、授業内容を復習する。
(学修時間 週2時間)
各自の選択テーマについて、レポートをまとめる。

【テキスト・教材】

- ・『現代生命科学』
東京大学生命科学教科書編集委員会編 2015年（羊土社）
2,800円＋税
- ・プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%
レポートについてフィードバックを行う。

【参考書】

- ・電子出版物『人間の生命科学』
編著：公益財団法人日本化学協会編著 2018年
パスワードによる無料ダウンロード
(閲覧方法は第1週授業で説明する)

【注意事項】

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

【授業のテーマ】

利便性・省力化の進む現代社会の中で、「健康」について心身両面からの理解を深め、運動に対する生体の応答や適応システムといった自らの身体を具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学びます。さらに、身体活動や運動を生活の中に取り入れ、実践できる能力を培うことを目的として、本授業を通じて継続的な運動習慣の獲得に繋がれることを期待します。

【授業における到達目標】

基本的な身体の構造や運動にかかわる基礎的知識と、身体と運動の関係を理解することにより、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための「行動力」を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 体育およびスポーツの概念
- 第3週 健康と体力 ①健康とは
- 第4週 健康と体力 ②体力とは
- 第5週 運動とからだ ①運動による身体の変化について
- 第6週 運動とからだ ②骨格系・筋肉系
- 第7週 運動とからだ ③呼吸系・循環系
- 第8週 運動とからだ ④エネルギー代謝
- 第9週 健康維持・増進のための栄養 ①栄養素のいろいろ
- 第10週 健康維持・増進のための栄養 ②食生活の基礎知識
- 第11週 嗜好品について
- 第12週 暑熱環境
- 第13週 寒冷環境
- 第14週 心の健康と運動の関係
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週2時間）
参考図書や新聞などを通して、健康やスポーツに関する記事・話題に関心をもち、書き留めておくこと。
- ・事後学修（学修時間 週2時間）
授業内容の復習とともに、日常生活における身体活動を実践する。
課題が出たときは課題を行う。

【テキスト・教材】

授業の際にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験70%、毎回授業時のリアクションペーパーおよび課題20%、授業への参加態度・意欲10%で、総合的に評価します。
課題等へのフィードバックは、随時行います。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

身体運動の科学 a

健康運動の理論と実践

佐藤 健

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

身体運動の科学 aでは運動生理学・運動生化学・栄養学など基礎の学習をする。

【授業における到達目標】

身体運動の科学に必要な基礎知識について修得する。細分化した科学的知見を研鑽し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 特別な集団のための栄養：子供と若いスポーツマン
- 第2週 栄養と高齢アスリート
- 第3週 運動のための最適な栄養
- 第4週 エルゴジェニックエイド
- 第5週 サプリメントとスポーツ食品
- 第6週 体組成、体重コントロール、摂食障害
- 第7週 スポーツマンの体格評価
- 第8週 スポーツマンの栄養状態の測定：臨床と研究の見解
- 第9週 スポーツ選手の減量
- 第10週 スポーツにおける体重の調整
- 第11週 摂食障害
- 第12週 エネルギー効率に関する評価と証拠
- 第13週 熱ストレスでの体温調節と体液バランス
- 第14週 旅行するアスリートのための医療や栄養の問題
特別な環境のための栄養問題：高所と高温気候でトレーニングと試合
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 マナバの小テスト×15回（学修時間 週2時間）

【事後学修】 マナバのレポート×15回（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教場で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】 マナバによる出席時の小テスト15%、マナバによる事後学修成果提出30%、中間レポート25%、期末レポート30%

【フィードバック】 授業時に振り返ります。

【参考書】

特に無し。教場で指示する。

【注意事項】

特に無し。教場で指示する。

身体運動の科学 a

鈴木 清美

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本授業は、運動に対する生体の応答や適応システムについて正しく理解し、身体活動・運動を生活の中にとりいれ、実践できる能力を培うことを目的としている。本授業が、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

本授業は『身体を動かすことを身近に感じる』をコンセプトに、わかりやすい言葉と姿勢を心がける。

【授業における到達目標】

*自身の身体や生活における運動習慣に関心を持つ。

*身体活動・運動と身体との関わりについて正しく理解する。

*自身に合った運動プログラムを考え、実践できる。

以上を通じて、「行動力」の修得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 骨格筋の機能①：筋線維のタイプ -短距離型・長距離型-
- 第3週 骨格筋の機能②：筋力・筋パワーを高める方法
- 第4週 エネルギー代謝：生体に必要なエネルギーとは何か？
- 第5週 スポーツと栄養・サプリメント：サプリメントは必要か？
- 第6週 減量および体重調節：無理のない減量
- 第7週 呼吸循環機能：持久力は何によって決まるのか？
- 第8週 スポーツとスキル：動作の上手い・下手
- 第9週 骨代謝：強い骨をつくるために必要なこと
- 第10週 女性のからだ・スポーツ：運動における性差は？
- 第11週 運動のプログラム：さあ、運動しよう！
- 第12週 運動時の水分補給：水分補給は必要か？
- 第13週 私・私たちが考える運動プログラム：発表
(発表の実施は履修者数によって変更することがある)
- 第14週 スポーツを観て楽しもう：2020年東京オリンピックを考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

・事前学修（学修時間 週2時間）

参考図書などを参考に、次週授業内容について読んでおく。

日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に興味をもつ。

・事後学修（学修時間 週2時間）

授業内容の復習、課題が出たときは課題を行う。

身体を動かすことに興味をもち、実践する。

【テキスト・教材】

授業の際に、プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業回数の2/3以上の出席で定期試験を受けることができる。

成績は、定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・意欲（積極的な発言は加点、私語、携帯は減点）20%で総合的に評価する。フィードバックは随時行う。

【参考書】

村岡 功 編著 『新・スポーツ生理学』（市村出版 2015年）
3240円

その他、授業時に紹介する。

【注意事項】

*授業時に配布されるプリントを保存するためにファイルを準備すること（安価な物で良い）。

*授業時間中、携帯電話は鞆の中に入れておくこと（減点対象となる）。

身体運動の科学 b

島崎 あかね

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

日本は世界で1,2位を争う長寿国ではあるものの、現代社会の利便性や身体活動量の減少傾向は健康の維持・増進を妨げる要因の一つとなっています。そこで、本授業では身体活動と健康との関係について正しく理解し、各ライフステージにおける身体活動・運動の意味について考えることを目的とします。発育・発達と運動能力の関係や女性と運動の関係について理解を深め、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための実践力を培うとともに、家族や他者への働きかけといった行動力の獲得を目指します。

【授業における到達目標】

各ライフステージにおける運動とからだの関係について正しく理解し、それぞれが身体活動の充実を目標とした生活習慣の獲得に繋がられるような「行動力」と「実践力」を身に付けることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本人の健康と体力
- 第3週 生活習慣と健康の関係
- 第4週 身体活動と健康 ①運動不足の弊害
- 第5週 身体活動と健康 ②身体活動基準
- 第6週 発育・発達と運動 ①乳幼児期の運動
- 第7週 発育・発達と運動 ②児童期の運動・スポーツ
- 第8週 発育・発達と運動 ③思春期以降の運動・スポーツ
- 第9週 女性とスポーツ ①女性特有のからだの構造
- 第10週 女性とスポーツ ②女性に多い症状・病気
- 第11週 女性とスポーツ ③加齢と身体機能
- 第12週 身近な運動プログラム ①運動処方の手順
- 第13週 身近な運動プログラム ②ウォーキング
- 第14週 身近な運動プログラム ③筋力トレーニング
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修 (学修時間 週2時間)
自らの運動・スポーツの実施経験を振り返るとともに、参考図書やメディアに掲載されている健康・スポーツに関する記事を読んで書き留めておくこと。
- ・事後学修 (学修時間 週2時間)
授業内容を復習し、日常生活での身体活動を実践に繋げること。
課題が出た場合は、課題を行うこと。

【テキスト・教材】

授業の際にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験70%、毎回授業時のリアクションペーパーおよび課題20%、授業への参加態度・意欲10%で、総合的に評価します。
課題等へのフィードバックは、随時行います。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

身体運動の科学 b

健康運動の理論と実践

佐藤 健

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

身体運動の科学 b では運動学、生理学、解剖学など基礎の学習をする。

【授業における到達目標】

身体運動の科学に必要な基礎知識について修得する。細分化した科学的知見を研鑽し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 人体の構造
- 第3週 人体の機能
- 第4週 バイオメカニクスについて
- 第5週 バイオメカニクス (力学基礎)
- 第6週 バイオメカニクス (力学応用)
- 第7週 バイオメカニクスの応用 (生活環境)
- 第8週 バイオメカニクスの応用 (競技スポーツ：陸上)
- 第9週 バイオメカニクスの応用 (競技スポーツ：テニス)
- 第10週 バイオメカニクスの応用 (人間工学・自動車)
- 第11週 バイオメカニクスの応用 (リハビリテーション)
- 第12週 中間レポート評価
- 第13週 バイオメカニクスの観察法
- 第14週 バイオメカニクスの分析法
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 【事前学修】 マナバの小テスト×15回 (学修時間 週2時間)
- 【事後学修】 マナバのレポート×15回 (学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

教場で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 【評価方法】 出席時のマナバでの小テスト15%、授業後の成果物のマナバ提出30%、中間レポート25%、期末レポート30%
- 【フィードバック】 授業時の最初に振り返りのフィードバックを行います。

【参考書】

教場で指示する。

【注意事項】

特になし。

身体運動の科学b

鈴木 清美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本授業は、身体活動と健康との関係について正しく理解し、各ライフステージにおける身体活動・運動の意味について考えることを目的としている。本授業が、健康的な生活習慣の確立、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

本授業は『身体を動かすことを身近に感じる』をコンセプトに、わかりやすい言葉と姿勢を心がける。

【授業における到達目標】

- *自身の身体や生活習慣や運動習慣に関心を持つ
- *身体活動と健康との関わりについて正しく理解する
- *身体運動を中心とした健康的な生活習慣を実践することができる以上を通じて、「行動力」の修得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本人の健康・体力：日本人は健康といえるのか？
- 第3週 生活習慣と健康 生活習慣病の機序と予防
- 第4週 身体活動と健康①：座り過ぎ生活の弊害
- 第5週 身体活動と健康②：身体活動基準
- 第6週 体重調節と食事：肥満はどうして起こるのか？
- 第7週 生体リズムと身体活動：24時間闘ってはいけない理由
- 第8週 健康・スポーツとライフスキル：ストレス対処、ストレス対処トレーニング
- 第9週 女性のからだ 母子の健康：生まれてくる赤ちゃんの健康のために
- 第10週 子どもの身体と運動：子どもの健やかな育ちのために
- 第11週 脳の発達と子どもの身体：脳も育つ！脳を育てるために
- 第12週 加齢と身体機能：サルコペニアとは？
- 第13週 私・私たちが興味をもった新聞記事：発表
(発表の実施は、履修者数によって変更することもある)
- 第14週 運動の動機づけと継続：身体を動かしたくなる取り組み
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週2時間）
参考図書などを参考に、次週授業内容について読んでおく。
日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に関心をもつ。
- ・事後学修（学修時間 週2時間）
授業内容の復習、課題が出たときは課題を行う。
身体を動かすことに関心をもち、実践する。

【テキスト・教材】

授業の際に、プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業回数の2/3以上の出席で定期試験を受けることができる。
成績は、定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・意欲（積極的な発言は加点、私語、携帯は減点）20%で総合的に評価する。フィードバックは随時行う。

【参考書】

授業時に紹介する。

【注意事項】

- *授業時に配布されるプリントを保存するためにファイルを準備すること（安価な物で良い）。
- *授業時間中、携帯電話は鞆の中に入れておくこと（減点対象となる）。

身体文化論

身体の異文化接触とパフォーマンス研究

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

パフォーマンスとは、(1)舞台芸術の身体行為による演技・演奏、(2)日常生活における身体の動き、(3)宗教儀礼や儀式などの特定空間と型を持った動作の総称で、各文化に根差したものであると考えられています。授業では狭い領域にとらわれず、パフォーマンスを「身体表現」という広い概念で捉え、新たな文脈に位置付けます。美術、マンガ、アニメ、舞台芸術、文学、音楽、スポーツ、ファッションといった分野の身体行為を通して、パフォーマンス研究が多種多様なジャンルや領域と接触し、相互に結びつき、特定のメッセージ性を表す可能性があることを検証します。

【授業における到達目標】

- ・パフォーマンスという用語について知識を深める。
- ・各ジャンルとの相互性を理解することができるようになる。
- ・アートと身体との関連性に注目し、問題意識を持つアーティストについて意見が言えるようになる。
- ・身体の動きや身体感覚に関連する言語表現の幅を広げる。

【授業の内容】

- 第1週 身体文化とは何か、戦後のアートと国際的同時性
- 第2週 前衛芸術とパフォーマンス：ジョン・ケージ等
- 第3週 現代美術とパフォーマンス：オノ・ヨーコ、草間彌生、具体美術協会、ハイレッドセンター等
- 第4週 マンガ・アニメにおける身体性①（事例紹介）
- 第5週 マンガ・アニメにおける身体性②（事例分析）
- 第6週 ダンス、オペラ、ミュージカル
- 第7週 オリンピック開閉会式とセルフ・オリエンタリズム
- 第8週 国際的祝祭空間と日本の表象
- 第9週 近隣諸国の伝統音楽・伝統舞踊のパフォーマンス性
- 第10週 音楽祭と観光資源
- 第11週 文学・詩・歌詞における身体性（事例紹介）
- 第12週 ことば・リズム・音楽（ビデオ・クリップの検討）
- 第13週 ファッションとジェンダー（事例紹介）
- 第14週 ファッション・モデルと身体の政治性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業内容に関連する内容を自主的に調べてください。また次週の授業で扱う資料は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で配った資料はノートと合わせて必ず見直してください。グループワークでは各自の役割を明確にし、次週の課題に取り組んでください。課題は余裕を持って準備してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、グループ・ワークでの話し合い等）30%、提出物20%、期末レポート（授業内に出された課題に関連する内容）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

高橋雄一郎『身体かされる知；パフォーマンス研究』（せりか書房、2005年）

【注意事項】

履修者の興味により、シラバスの内容を若干変更する可能性があります。

身体文化論

身体の異文化接触とパフォーマンス研究

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

パフォーマンスとは、(1)舞台芸術の身体行為による演技・演奏、(2)日常生活における身体の動き、(3)宗教儀礼や儀式などの特定空間と型を持った動作の総称で、各文化に根差したものであると考えられています。授業では狭い領域にとらわれず、パフォーマンスを「身体表現」という広い概念で捉え、新たな文脈に位置付けます。美術、マンガ、アニメ、舞台芸術、文学、音楽、スポーツ、ファッションといった分野の身体行為を通して、パフォーマンス研究が多種多様なジャンルや領域と接触し、相互に結びつき、特定のメッセージ性を表す可能性があることを検証します。

【授業における到達目標】

- ・パフォーマンスという用語について知識を深める。
- ・各ジャンルとの相互性を理解することができるようになる。
- ・アートと身体との関連性に注目し、問題意識を持つアーティストについて意見が言えるようになる。
- ・身体の動きや身体感覚に関連する言語表現の幅を広げる。

【授業の内容】

- 第1週 身体文化とは何か、戦後のアートと国際的同時性
- 第2週 前衛芸術とパフォーマンス：ジョン・ケージ等
- 第3週 現代美術とパフォーマンス：オノ・ヨーコ、草間彌生、具体美術協会、ハイレッドセンター等
- 第4週 マンガ・アニメにおける身体性①（事例紹介）
- 第5週 マンガ・アニメにおける身体性②（事例分析）
- 第6週 ダンス、オペラ、ミュージカル
- 第7週 オリンピック開閉会式とセルフ・オリエンタリズム
- 第8週 国際的祝祭空間と日本の表象
- 第9週 近隣諸国の伝統音楽・伝統舞踊のパフォーマンス性
- 第10週 音楽祭と観光資源
- 第11週 文学・詩・歌詞における身体性（事例紹介）
- 第12週 ことば・リズム・音楽（ビデオ・クリップの検討）
- 第13週 ファッションとジェンダー（事例紹介）
- 第14週 ファッション・モデルと身体の政治性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業内容に関連する内容を自主的に調べてください。また次週の授業で扱う資料は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で配った資料はノートと合わせて必ず見直してください。グループワークでは各自の役割を明確にし、次週の課題に取り組んでください。課題は余裕を持って準備してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、グループ・ワークでの話し合い等）30%、提出物20%、期末レポート（授業内に出された課題に関連する内容）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

高橋雄一郎『身体かされる知；パフォーマンス研究』（せりか書房、2005年）

【注意事項】

履修者の興味により、シラバスの内容を若干変更する可能性があります。

人格心理学

基礎心理学としての感情・人格心理学

竹内 美香

3年 後期 2単位

©：研鑽力

いるのか?」自ら疑問とテーマをもって考え、配布される資料やプレゼンテーションを活用して欲しい。考えたこと、気づいたことを毎回リアクション・ペーパーに書いてもらっている。感じたことを「言葉」にすることは、自己分析の第一歩である。

【授業のテーマ】

人格とは「人間のあらゆる生活過程の中に生じて来る、あらゆる情動的・意志的反応可能性の総体」であり、「個人的概念というよりは社会心理学的概念」である。アイゼンクは人格を「遺伝と環境により決定される実際の行動パターンや、潜在的行動パターンの総体である」と定義した。人格に関わる研究には共通して「情動」「社会」「経験」「発達」などの言葉が含まれている。本科目では、「人格」と「感情」「行動」に関わる基本的理論を紹介しながら、できるだけ受講者自身が自分の「パーソナリティ」を知る機会も設けたいと考えている。

【授業における到達目標】

1. 現代科学としての心理学の視点で、人間の行動特徴をどのようにとらえるか説明できるようになる。
2. 自身の生育史を振り返り、視野の広い自己分析ができるようになる。
3. 感情に関する理論、感情が起こる仕組みについて説明できるようになる。
4. 感情と行動の影響関係について説明できるようになる。
5. 新たな知識を創造し、生涯、自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決できる力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 科目の目標と人格心理学の概要 研究史の紹介
- 第2週 パーソナリティ研究と理論1 類型論
- 第3週 パーソナリティ研究と理論2 類型論と精神科診断基準
- 第4週 パーソナリティ研究と理論3 特性論と主要因子
- 第5週 パーソナリティ研究と理論4 生得要因と生育過程
- 第6週 感情と行動1 多様な感情とその記述
- 第7週 感情と行動2 感情喚起の特性と認知
- 第8週 感情と行動3 動機づけ
- 第9週 感情と行動4 精神症状と感情の記述
- 第10週 人格と感情の発達1 愛着形成と幼少時経験
- 第11週 人格と感情の発達2 思春期・青年期の心身の健康
- 第12週 人格と感情の発達3 青年期の危機と多様な精神症状
- 第13週 人格と感情の発達4 比較文化的に形成過程を捉える
- 第14週 こころの健康1 感情コントロールとストレス耐性
- 第15週 こころの健康2 感情とレジリエンスに関わる特性

【事前・事後学修】

【事前学修】その週に出遭った「人の社会的行動」や臨床心理学的なトピックスを観察・考察してくる。毎回、記述を求める。

【事後学修】まとめとしての小レポート課題を課すことがある。最終レポートと並ぶ事後学修課題とする。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような取り組みを求める予定。

【テキスト・教材】

鈴木晶夫、竹内美香：心理学入門・快体心書 ～身体と心の基礎と臨床～[川島書店、2005、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終レポート 50%、平常点・授業内ワークシートと課題等の取り組み評価 50%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについて解説する時間を設ける。最終レポート後のフィードバックは、manabaの授業評価の場を活用する。

【参考書】

日本パーソナリティ心理学会 「パーソナリティ研究」に掲載の学術論文、日本感情心理学会「感情心理学研究」、日本発達心理学会「発達心理学研究」に掲載される論文など。

【注意事項】

「自分はどのように自分になったのか?」「自分はどこへ向かって

人格心理学特論

パーソナリティ研究法

竹内 美香

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

人の行動に一定の選択傾向とその一貫性を想定し、その形成と構造を探究しようとするのがパーソナリティすなわち人格研究である。この特論では、パーソナリティ形成の発達の過程を様々な先行研究を辿りながら概観し、人の行動選択と反応可能性の測定と記述、すなわち研究方法について具体的な事例を交えて学ぶ。科学としてのパーソナリティ研究のひとつの手続きを、受講生が自立して企画・立案・実行できるようになることを目指す。

【授業における到達目標】

1. 「人格心理学」研究の過去・現在・未来の流れを広く理解できる。
2. 人間社会学の研究者として「人格心理学」における豊富な知識情報を自分の力で、自発的に探索・総合し、正しく適用することができる。
3. ビジネスの現場で必要とされる応用心理学としての「人格」研究の正統なアプローチを自身の力で構成し、他者と協働するための仕組みづくりができるようになる。

【授業の内容】

パーソナリティは、心理学研究の中でも広範囲の事象を含む。昨今ではストレス対処や健康プロモーションに深く関わる要因としてのレジリエンスに注目が集まっている。講義でも、個人特性としてのレジリエンスについて、先行研究論文なども参照しながら説明し、受講者の理解を支援する。

- 第1週 パーソナリティ心理学の位置づけ
- 第2週 パーソナリティの代表的な記述法 類型論
- 第3週 パーソナリティの代表的な記述法 特性論
- 第4週 パーソナリティの代表的な記述法 精神分析と分析心理学
- 第5週 パーソナリティの代表的な記述法 ビッグファイブの構造
- 第6週 刺激追求欲求、損害回避性、報酬依存性の個体差
- 第7週 文化とパーソナリティ
- 第8週 内的作業モデル、幼少時の被養育経験、愛着、関係不安
- 第9週 対人関係と自己認知・自己評価
- 第10週 レジリエンスとストレス対処と健康感
- 第11週 主観的幸福感と健康統制感
- 第12週 パーソナリティを臨床的事例で考える
- 第13週 パーソナリティを教育現場で活かす
- 第14週 就業・職業能力・適性としてパーソナリティを考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

次週までの課題という形で、その都度指定する。
日頃から、人間の行動観察を怠らないで頂くと、講義で扱うトピックも現実のものとして、よく理解できると考える。
修了時には「専門性を持った研究者」となっていることを目指すため、本科目においても、事前・事後の学修時間は過当たりで8時間程度は要すると考える。

【テキスト・教材】

特に定めない。
科学技術振興機構の学術論文検索サイトでダウンロード可能な既刊論文を活用する場合がある。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常の授業への取り組みと課題40%、最終レポート60%
フィードバックは、個別的な指導を介して伝える。

【参考書】

心理学研究、パーソナリティ研究、発達心理学研究などの学会刊行の学術誌に掲載される論文全般を参照して欲しい。最新の有益な研究成果に触れることは大切である。

【注意事項】

必要があれば、海外の学術誌掲載の英文論文を参照する場合も想定している。

人間関係の心理学

菅沼 崇

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

我々は、家庭、学校、職場など様々な場面で色々な人と関わり合いながら生活を営む社会的存在です。そのため、人間関係のことで疑問に思ったり、気になることがあったり、悩んだりすることがあります。学生諸君にとっても、人間関係は大きな関心事でしょう。この授業では、対人心理学や集団心理学において得られている幅広い研究成果を分かりやすく解説し、人間関係を科学的に探求することの意義やその活用方法についての理解を深めます。

【授業における到達目標】

- ・対人心理学や集団心理学の基礎的知識が幅広く身につく
- ・偏見や差別の仕組みを理解することにより、人類の共存に資する視座を得ることができる。
- ・人間関係を科学的に探求することの面白さ、奥深さ、美しさを知る。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の流れ）
- 第2週 個人レベルのアイデンティティ 1（自己認知）
- 第3週 個人レベルのアイデンティティ 2（自己評価）
- 第4週 対人認知
- 第5週 対人認知を歪める要因 1（ステレオタイプ）
- 第6週 対人認知を歪める要因 2（期待）
- 第7週 対人魅力と人間関係 1（近接性、身体的魅力）
- 第8週 対人魅力と人間関係 2（個人の内的状況、性格）
- 第9週 対人魅力と人間関係 3（類似性、相補性）
- 第10週 集団レベルのアイデンティティ
- 第11週 内集団びいきと集団間差別
- 第12週 社会的ジレンマ
- 第13週 集団内の多数派影響と少数派影響
- 第14週 DVD鑑賞と分析（少数派影響について）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業テーマの内容について、自分なりに調べてまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後、ノートを振り返って復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（100点満点）の点数より、欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点を減じることとします。試験のフィードバックは授業最終回にて行います。

【注意事項】

私語が目立つ者には、評価上のペナルティを課します。

人間関係の心理学

余村 朋樹

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

私たちは、他者との関わりの中で生きています。たとえば、自分がいかなる人物であるかを認識する作業も、他者との関わりの中で行われます。「人間関係の心理学」では、人間の相互関係や、人間と組織の関係について、実際の社会における事象を取り上げながら解説し、理解を深めます。

【授業における到達目標】

単に心理学の知識を習得するだけでなく、心理学的な視点を理解することを目標とします。
人間関係についての理解を深めることにより、身近な人のみならず、自分と異なった背景や価値観を持つ人との関係を理解・構築する能力の獲得を目指します。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション（心理学とは何か、授業の進め方）
- 2 自己認知（自己概念の形成、自尊感情の維持）
- 3 印象形成（印象形成過程、歪み）
- 4 態度（態度の形成、変容）
- 5 動機（動機付けの内容と過程）
- 6 対人関係（魅力の要因、葛藤）
- 7 コミュニケーション（構造、機能、エラー）
- 8 説得（説得の方略）
- 9 援助・攻撃行動（行動の促進・抑制要因）
- 10 ケーススタディ（援助・攻撃行動）
- 11 集団（形成過程、規範、意思決定）
- 12 ケーススタディ（組織の不正）
- 13 ケーススタディ（組織事故、組織文化）
- 14 環境との関わり（葛藤）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回の講義終了時に、次回講義のテーマと内容概略を伝えますので、それに関わる身近な事例（自分の経験や、周囲・社会で起こった出来事など）を探しておいてください。（学修時間：週2時間）

事後学修：授業の内容を振り返り、主な内容を200程度でまとめてください。その際、事前学習で考えた身近な事例について、授業で学んだ心理学の知見を用いて、より深く考察してください。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、パワーポイントファイルをプロジェクトで投影して授業を行います。その他必要な資料は講義中に適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、平常点（授業への参加態度・授業中の課題提出状況）20%で評価する。

各授業における課題については、次回授業中にフィードバックを行う。

人間教育学概論

広井 多鶴子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業は、現代の教育問題がテーマである。子どもの成長や発達をめぐる今日の教育問題が、いつどのように登場したのか。その捉え方がどのように変化してきたのか。様々な統計やデータをもとに考えていく。具体的には、親子関係、不登校、少年非行、児童虐待、子どもの貧困問題を取り上げる。

【授業における到達目標】

現代の教育問題の歴史や変遷について理解し、様々なデータを分析することによって、物事の真理を追究し、新たな知を創造しようとする態度を身につけるとともに、広い視野と洞察力を見につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育①教育制度改革
- 第3週 戦後の教育②学力とゆとり教育
- 第4週 不登校①長期欠席問題の時代;1950年代まで
- 第5週 不登校② 登校拒否の時代;1960年代から80年代
- 第6週 不登校③不登校といじめ自殺問題;1990年代以降
- 第7週 少年非行①少年非行はどう捉えられてきたか
- 第8週 少年非行②少年非行は増加・深刻化しているか
- 第9週 少年非行③少年非行の原因論
- 第10週 児童虐待①児童虐待;児童虐待と育児不安
- 第11週 児童虐待②児童虐待は増加・深刻化しているか
- 第12週 児童虐待③児童虐待の原因論
- 第13週 子どもの貧困①貧困はなぜ忘れられたか
- 第14週 子どもの貧困②現代の子どもの貧困対策
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考文献と資料を読む。週2時間

【事後学修】宿題をする。週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70% 課題提出・授業態度など30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- 広井多鶴子・小玉亮子『現代の親子問題』（日本図書センター 2010年）2,800円
- 荻上チキ・浜井浩一『新・犯罪論―「犯罪減少社会」でこれからすべきこと』（現代人文社 2015年）1700円
- 内田良『児童虐待へのまなざし』（世界思想社 2009年）2000円
- 山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』（光文社新書 2014年）820円

人間教育学概論

広井 多鶴子

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この授業は、現代の教育問題がテーマである。子どもの成長や発達をめぐる今日の教育問題が、いつどのように登場したのか。その捉え方がどのように変化してきたのか。様々な統計やデータをもとに考えていく。具体的には、親子関係、不登校、少年非行、児童虐待、子どもの貧困問題を取り上げる。

【授業における到達目標】

現代の教育問題の歴史や変遷について理解し、様々なデータを分析することによって、物事の真理を追究し、新たな知を創造しようとする態度を身につけるとともに、広い視野と洞察力を見につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育①教育制度改革
- 第3週 戦後の教育②学力とゆとり教育
- 第4週 不登校①長期欠席問題の時代;1950年代まで
- 第5週 不登校② 登校拒否の時代;1960年代から80年代
- 第6週 不登校③不登校といじめ自殺問題;1990年代以降
- 第7週 少年非行①少年非行はどう捉えられてきたか
- 第8週 少年非行②少年非行は増加・深刻化しているか
- 第9週 少年非行③少年非行の原因論
- 第10週 児童虐待①児童虐待;児童虐待と育児不安
- 第11週 児童虐待②児童虐待は増加・深刻化しているか
- 第12週 児童虐待③児童虐待の原因論
- 第13週 子どもの貧困①貧困はなぜ忘れられたか
- 第14週 子どもの貧困②現代の子どもの貧困対策
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考文献と資料を読む。週2時間

【事後学修】宿題をする。週2時間

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70% 課題提出・授業態度など30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- 広井多鶴子・小玉亮子『現代の親子問題』（日本図書センター 2010年）2,800円
- 荻上チキ・浜井浩一『新・犯罪論―「犯罪減少社会」でこれからすべきこと』（現代人文社 2015年）1700円
- 内田良『児童虐待へのまなざし』（世界思想社 2009年）2000円
- 山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』（光文社新書 2014年）820円

人間形成論

現代社会における「望ましい人間像」と教育

丹治 恭子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

我々は「人間」として生まれ、育ち、日々「人間」らしく生きることが求められているが、一言に「人間」と言ってもそこで想定される姿（像）は時代や場所に依りて変化してきた。現代社会において共有される人間像も、グローバル化・個人化の進行に伴う多文化状況の拡がりの中で、一個の自立した存在としての「強い主体」像から、障害者や外国人、高齢者といったさまざまなマイノリティをも含みこんだ「弱い主体」へと転換が迫られている。本講義では、こうした認識のもと、現代社会における「人間」像の転換の概観を示すと共に、「形成」に向けた可能性と課題について社会的に考察する。

【授業における到達目標】

現代社会を生きる私たちが想定している「望ましい人間像」について点検することを通じて広い視野と深い洞察力を身につけると共に、自らの「望ましい人間像」について考えようとすることができる。

【授業の内容】

第1週 インTRODakション——「人間形成」を考える

I. 人間「形成」の可能性

第2週 人間「形成」に向けて——「教育」の試み

第3週 教育と学習

第4週 「教育」の不確実性

第5週 人間「形成」のためのテクノロジー①——方法を中心に

第6週 人間「形成」のためのテクノロジー②——前提とされる子ども観

II. 「人間」像の転換

第7週 目指される「人間」像——社会モデルと教育

第8週 「人間」像の転換①——自明視される「強さ」

第9週 「人間」像の転換②——「弱い主体」からの問い直し

第10週 「共生」概念の検討

III. 人間形成をめぐる課題

第11週 人間形成とディスアビリティ

第12週 人間形成とジェンダー

第13週 人間形成の担い手——「子育て」の事例から

第14週 人間形成の場——公と私

第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の講義内容に応じた論考を配布する。受講生は事前に目を通しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】講義内容および配布プリントを復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリント（レジュメや授業内容に応じた資料）を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験55%、平常点（コメントシート）45%。コメントシートに対するフィードバックは次回授業、試験結果に対するフィードバックは授業最終回で行う。

【参考書】

授業の進行にしたがってレジュメ内で紹介する。

【注意事項】

基本的には講義形式で展開するが、授業内容に応じ、少人数でのグループ討論を数回予定している。自らの視点・考え方を確認する機会として、積極的な参加を期待する。

人間形成論

現代社会における「望ましい人間像」と教育

丹治 恭子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

我々は「人間」として生まれ、育ち、日々「人間」らしく生きることが求められているが、一言に「人間」と言ってもそこで想定される姿（像）は時代や場所に依りて変化してきた。現代社会において共有される人間像も、グローバル化・個人化の進行に伴う多文化状況の拡がりの中で、一個の自立した存在としての「強い主体」像から、障害者や外国人、高齢者といったさまざまなマイノリティをも含みこんだ「弱い主体」へと転換が迫られている。本講義では、こうした認識のもと、現代社会における「人間」像の転換の概観を示すと共に、「形成」に向けた可能性と課題について社会学的に考察する。

【授業における到達目標】

現代社会を生きる私たちが想定している「望ましい人間像」について点検することを通じて広い視野と深い洞察力を身につけると共に、自らの「望ましい人間像」について考えようとすることができる。

【授業の内容】

第1週 インTRODクシヨン——「人間形成」を考える

Ⅰ. 人間「形成」の可能性

第2週 人間「形成」に向けて——「教育」の試み

第3週 教育と学習

第4週 「教育」の不確実性

第5週 人間「形成」のためのテクノロジー①——方法を中心に

第6週 人間「形成」のためのテクノロジー②——前提とされる子ども観

Ⅱ. 「人間」像の転換

第7週 目指される「人間」像——社会モデルと教育

第8週 「人間」像の転換①——自明視される「強さ」

第9週 「人間」像の転換②——「弱い主体」からの問い直し

第10週 「共生」概念の検討

Ⅲ. 人間形成をめぐる課題

第11週 人間形成とディスアビリティ

第12週 人間形成とジェンダー

第13週 人間形成の担い手——「子育て」の事例から

第14週 人間形成の場——公と私

第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の講義内容に応じた論考を配布する。受講生は事前に目を通しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】講義内容および配布プリントを復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリント（レジュメや授業内容に応じた資料）を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験55%、平常点（コメントシート）45%。コメントシートに対するフィードバックは次回授業、試験結果に対するフィードバックは授業最終回で行う。

【参考書】

授業の進行にしたがってレジュメ内で紹介する。

【注意事項】

基本的には講義形式で展開するが、授業内容に応じ、少人数でのグループ討論を数回予定している。自らの視点・考え方を確認する機会として、積極的な参加を期待する。

人間工学

建築人間工学と快適安全の科学

佐藤 健

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

建築・都市・インテリアを計画する視点から、生物学的なヒトと文化を背景とした人に適した環境構築の手法を理解する。人間中心のデザインとして、人間のスケール、什器、家具寸法、使いやすさ、わかりやすさ、安全な生活空間のあり方について学ぶ。建築を計画するのに必要な知識を得るため、建物や場所がどのように機能し、意味を持つのか、人間の行動や社会的側面から考察する。

【授業における到達目標】

建築と人間の関係を通して、人間行動に合わせた環境構築の手法を理解するために主体的に行動する「行動力（○）」を取得すること。また、多様性を理解し「国際的視野（◎）」を習得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回：建築人間工学とは？
- 第2回：人体寸法・動作寸法
- 第3回：ヒューマンスケール・モジュール
- 第4回：インテリア・人体寸法と空間における人間行動
- 第5回：インテリア・機能空間の計画
- 第6回：インテリア・家族のための空間計画
- 第7回：現代の住まい（日仏の生活行動比較）
- 第8回：現代の住まい（少子高齢化と都市居住生活）
- 第9回：現代の住まい（集合住宅とサステナビリティ都市生活）
- 第10回：現代のオフィス（変化する働き方に適したオフィス）
- 第11回：現代のオフィス（ICTを活用したワークスタイル）
- 第12回：ICTを利用した環境にやさしい街づくり
- 第13回：災害時における人間行動（避難所での生活空間）
- 第14回：住居・都市におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン
- 第15回：授業のまとめ および レポート講評

【事前・事後学修】

授業回ごとの小テストと用語問題等をe-ラーニング（マナバ）経由で回答したり、レポートを提出するため、あわせて約60時間相当の事前および事後学修が必要である。

【テキスト・教材】

授業中に適宜示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の小テスト45%（3点×15回分）、授業時の中間課題25%、期末課題30%とする。レポートやデータの処理方法などは、随時授業回ごとに省察しながらフィードバックを行う。

【参考書】

日本建築学会編：建築人間工学辞典、彰国社、3888円
Wolfgang F. E Preiser：Universal Design Handbook,
The McGraw-Hill Companies Inc. 20992円

【注意事項】

就職活動で欠席する場合は、事前に連絡をし、事後にキャリア・生活支援課の書式を提出すること。

人間工学実験

測定評価のスキル向上

佐藤 健

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：協働力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

人間工学関係の学習した知識および技術を日常生活へ適用させるためには、その対象となる事例に直接関わり、測定や分析を行いながら、単なる理論から様々な分野への応用力への発展が必要である。この授業では人間工学に関する実験として作業分析や身体負担、精神的負担の測定、身体の構造と機能に関する学習、さらに共通科目の福祉工学等で学習したバリアフリーやユニバーサルデザインに関する評価などを行い、実践力の養成を図ることを目標とします。ただし、受講生の興味とスキルによっては実験内容をアレンジします。

【授業における到達目標】

実験中は、「協働力」を高めるために、様々なデータ処理方法を受講生で取得することを目標とします。また、多様性を理解する上で、「国際的視野」に関するデータについて検討します。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ユニバーサルデザイン製品評価
- 第3回 オンデマンド（評価レポートの提出）
- 第4回 人体計測（マルチン式計測法）
- 第5回 人体計測（3次元スキャナー）
- 第6回 3次元データ分析
- 第7回 人体計測課題の発表
- 第8回 注視点分析
- 第9回 注視点分析方法
- 第10回 注視点分析課題の発表
- 第11回 筋電図と床反力計
- 第12回 静止立位の測定
- 第13回 歩行運動時の測定
- 第14回 バイオメカニカルデータの処理
- 第15回 まとめ（期末レポートの作成と提出）

【事前・事後学修】

毎回の実験につきレポートを課すためコンピュータの操作に慣れておくことが望ましい。事前学修として、15時間程度、機材の名称、人体部位の名称を復習しておくことが求められる。また、事後学修として、15時間程度、毎回の実験授業後の理解度を確認するレポートを提出してもらう。授業時間内に、終わらないデータ処理は、空き時間に研究室の設備を使っても構わない。事前・事後学修にあわせて約30時間相当が必要である。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の実験レポート（50%）、期末レポート（発表）50%とする。レポートやデータの処理方法などは、授業時最初に随時フィードバックを行う。

【参考書】

適宜示す。

【注意事項】

動きやすい服装、運動靴の準備をしておくこと。

人間社会学総論

山根 純佳・広井 多鶴子・竹内 美香・駒谷 真美

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

人間社会学総論は、経営学・教育学・文化人類学・メディア論・心理学・経済学・法律学・社会学を専門とする教員によるオムニバス形式の授業である。

この授業の第1の目的は、1年生のみなさんが、人間社会学部で学ぶ様々な学問の概要を把握し、大学での学びとはどのようなものかを大まかに理解することである。第2の目標は、現代社会におけるさまざまな問題・課題を総合的・学際的・多角的に捉え、それらに対し、自分なりの問題関心を持つことである。

【授業における到達目標】

この授業を通して、1年生のみなさんが、物事の真理を追究し、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）と、自らを成長させる研鑽力、および、を身につけることができるようにする。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：人間社会学部でいかに学ぶか
- 第2回 近代公教育制度の誕生と拡大
- 第3回 女子教育の誕生と普及
- 第4回 異文化理解は現代の必須教養
- 第5回 高度情報社会と情報セキュリティ
- 第6回 不寛容社会とソーシャルメディア
- 第7回 スマホ社会と青年期の情報意識行動
- 第8回 青年期の就業と自我同一性形成
- 第9回 現代の青年：危機と課題
- 第10回 「育つ・育てる」心理学：幼少期の被養育経験と心身の健康
- 第11回 「女性が働くってどんなこと」経済学の視点で考える
- 第12回 国際ビジネスと法
日本企業の課題を法的視点から考える
- 第13回 社会学の視点で社会を見る
- 第14回 近代家族をめぐる制度と規範
- 第15回 福祉国家と社会制度

【事前・事後学修】

【事前学修】前回の授業中に提示された宿題を行う。（週2時間）

【事後学修】毎回の授業の内容をふり返り、ポイントをノートにまとめる。（週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いない。プリントを配布する。
ビデオなど視聴覚教材を活用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

担当教員がそれぞれレポートまたは試験と平常点（宿題や感想文の提出状況など）によって評価する。

評価の基準は、担当教員によって異なるが、おおむね平常点30%、試験またはレポート70%。

宿題や小テストで出された質問などに関しては次回の授業、レポートと試験については、最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

必ずノートをとること。私語は禁止。

さまざまな社会問題を扱うので、新聞をよく読んで、社会の動きを把握しておくこと。

人材開発論

谷内 篤博

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

企業は人なりという言葉をよく耳にしますが、その意味するところは企業の存在意義やその良し悪しはそこで働く人々の能力やモチベーションで決まるということを指しています。まさに、企業格差は人材格差で決まるといわれる所以である。

本講義では、こうした企業にとって重要な資源である人材に対する育成のあり方を最新の理論や先進的事例などを踏まえて、わかりやすくかつ具体的に解説をします。

なお、教育訓練技法に関する講義の部分では、企業などで使用されている教育メソッドを実際に使った体験学習を試みたいと考えています。

【授業における到達目標】

本講義を通して学生の皆さんは企業における人材育成の実際について理解を深めるとともに、企業の人材に対する考え方や理念といったものまで理解できるようになります。こうして修得した知識は4年生の就職活動において実際に企業選択を行う際に、人材を重要な経営資源として扱う企業であるかどうかを見極めることに大きく役に立ちます。これは本学の本質や真理を探究する態度の修得につながります。

また、実際に研修技法を体験したり、人材育成の事例研究を通じて研鑽力や行動力を身につけられます。さらに、体験学習、議論を通じて協働力も修得できます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（企業内教育の動向）
- 第2週 教育訓練/能力開発の歴史の変遷
- 第3週 能力開発の体系
- 第4週 職場内訓練とコーチング
- 第5週 集合教育の特徴と内容
- 第6週 管理職の能力開発
- 第7週 営業職の能力開発
- 第8週 自己啓発の内容と展開の仕方
- 第9週 組織開発とリーダーシップ
- 第10週 長期的/系統的な人材育成とキャリア形成
- 第11週 教育担当者の役割
- 第12週 教育訓練技法
- 第13週 教育効果の測定と分析
- 第14週 企業内教育の課題と今後の展望
- 第15週 プロフェッショナル/次世代リーダーの育成

【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマに関する情報や知識をサーベイする（週2時間）

事後学修：講義の振り返りとノートによるまとめ（知の体系化作業）週2時間

【テキスト・教材】

谷内篤博：個性を人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]

谷内篤博：働く意味とキャリア形成[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、試験80%とレポート20%で評価します。

レポートのフィードバックは、優れたレポート作成者を発表するとともに、学生全体にレポートの全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）をわかりやすく解説をします。

【参考書】

中原淳『職場内学習論』（東京大学出版会、2010年）

【注意事項】

本講義は質的連続性が強いので、休まずに授業に出席することを強く望みます。

人体の構造と機能及び疾病

解剖学と病態生理学

塩川 宏郷

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

健康に対する意思の高まりを背景として、健康や疾病に関する情報が氾濫している今日においては、健康・疾病・障害について性格な知識を持つことが必要である。本科目においては、人体の構造および生命維持のしくみ、臓器別の代表的な疾患とその病態について公述し、健康科学概論、医学概論を履修する基礎知識とする。

【授業における到達目標】

人体構造、生理機能、および臓器別の代表的な疾患とその病態生理について知る。

心理学の基礎としての脳の構造、機能について知る。

疾病構造について理解し自ら未解決の問題を明らかにするための行動力、研鑽力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション・恒常性の維持
- 第2週 細胞とその障害
- 第3週 血液・免疫系・悪性腫瘍
- 第4週 呼吸器
- 第5週 循環器
- 第6週 消化管
- 第7週 肝臓・胆のう・すい臓
- 第8週 内分泌
- 第9週 生殖器、腎・泌尿器
- 第10週 筋・骨・皮膚
- 第11週 感覚器
- 第12週 脳・神経
- 第13週 精神疾患
- 第14週 子どもの精神と発達
- 第15週 総合討論

【事前・事後学修】

事前学修

配布資料を閲覧し授業に臨むこと（学修時間2時間）

事後学修

授業内容の復習、アクティブラーニング課題に取り組むこと
（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に定めない。

毎回manabaを通じて資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（授業態度、課題等）30%

課題のフィードバックや試験の講評等は適宜manabaを通じて行う。

【参考書】

カラー版図解人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

今日の治療指針（医学書院）

人体の構造と疾病

松島 照彦

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

生・老・病・死。正常の細胞、組織、臓器の活動はどの様に保たれ、調節されているのであろうか。それは、どの様なときに調節が崩れ、病気に発展していくのであろうか。その時、細胞や個体ではその様な変化として表れるのであろうか。この教科では、栄養の提供の基本となる疾患を学ぶと共に、病を持つ人の身になって考え、気持ちを理解する心を育成する。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、細胞や組織の様々な障害とそれらが身体症候に結び付き、疾患に至る仕組みを理解し、また、ビタミンやホルモンによる体の調節の仕組みを理解することができるようになる。心臓、消化器、肝臓といった主要な臓器の疾患と栄養の関係を説明できるようになる。

物事の真理を探究する態度、優しさと倫理観をはぐくむ態度、深い洞察力と本質を見抜く力を育てることができる。

【授業の内容】

- 第1週 生命とホメオスタシス
事後学修：タンパク質を列挙して分類し、タンパク質が生体内で営んでいる様々な働きをまとめる
- 第2週 細胞と組織の構造と傷害
事後学修：変性疾患の例として脂肪肝と動脈硬化についてまとめる
- 第3週 炎症、腫瘍
事後学修：様々な炎症性疾患を挙げてまとめる
- 第4週 循環障害、浮腫、黄疸
- 第5週 遺伝子とタンパク質と栄養代謝の概論
事後学修：遺伝子とタンパク質の関連についてまとめる
- 第6週 ホルモン（総論、甲状腺）
- 第7週 ホルモン（副腎）
事後学修：ホルモンの作用の仕組みについてホルモンの化学構造分類ごとにまとめる
- 第8週 ビタミンと身体の調節
事後学修：水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの作用の仕組みについてまとめる
- 第9週 諸臓器の概要と疾患
- 第10週 心臓と血圧
事後学修：血圧を維持する仕組みについてまとめる
- 第11週 消化吸収と消化管ホルモン
事後学修：消化管ホルモンの情報伝達物質としての働きについてまとめる
- 第12週 消化管の疾患
- 第13週 胆嚢と膵臓の疾患
事後学修：脂肪の消化の仕組みについてまとめる
- 第14週 肝臓と疾患
肝臓の機能と肝硬変の症状についてまとめる
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。
- ・事後学修：単元ごとに課題を与える。週当たり3時間を要する。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（授業中の積極的な発言を評価する。遅刻、提出物の遅れ、授業中の不活発な態度は減点する。欠席は大きく減点する。）人体の構造と機能の視点から考察した優秀なレポートは高く評価する。課題とレポートは返却時に優秀な取り組みを紹介

介し、解説を行う。

【参考書】

- 全国栄養士養成施設協会監修『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちII』（第一出版）
- 日野原重明『日野原重明 医学概論』（医学書院）1,600円
- 福井次矢ら著『臨床医学概論 第2版』（建帛社）3,360円
- 高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

【注意事項】

教科書は指定しないが、他の解剖、生理系の教科も含めて、「人体の構造と機能」に関する教科書は購入しておくことは、予習や復習、分からないところの理解や学習のまために必要である。

人的資源管理

新しい人材マネジメントのあり方を学ぶ

谷内 篤博

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

高度情報化が進んだ現代社会において、「ヒト」が生み出す知（knowledge）が競争優位の源泉となりつつあります。こうした知を生み出す「ヒト」のマネジメントのあり方が、企業経営の成否を左右するといっても決して過言ではありません。このような人材マネジメントの理論的基盤となっているのが人的資源管理（Human Resource Management：略称HRM）であります。

講義の前半では、人的資源管理の基本的フレーム、労働者に対する人間観の変遷、ベース理論などについて解説をし、後半部分では人材の採用、人材の評価、人材の育成、人事システムと給与システムなどについて最新の事例とトピックスを交えながら詳しく解説をしていきたいと考えています。また、最終の講義では、日本の雇用システムの特徴を欧米との比較を通して明らかにするとともに、今後の展望についても解説をしていきます。

【授業における到達目標】

本講義を通して企業の人材に対する考え方や人材育成のあり方、自分の給与がどのようにして決定されるかなど、企業の人材マネジメントの仕組みが理解できるとともに、自分が働くにあたってどのような企業を選べばいいのかといった判断ができるようになります。また、HRMの国際比較などから国際的視野も育成されます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの修得すべき行動力のうち、課題を発見し、解決につなげる力を修得することができます。さらに、企業の事例研究やそれをベースにした議論なども含みますので、行動力や自己研鑽力も身につけることができます。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（人的資源管理の学問的位置づけ）
- 第2週 人的資源管理の概要（定義／目的と体系／ベース理論）
- 第3週 経営戦略と人的資源管理
- 第4週 雇用管理（採用／配置・異動／昇格・昇進／退職）
- 第5週 日本の人事制度の特徴（職能資格制度の効用と限界）
- 第6週 複線型人事制度と専門職制度
- 第7週 人事評価と目標管理制度（MBO）
- 第8週 人材育成の体系と具体的方法
- 第9週 企業内教育の特徴と今後の方向性
- 第10週 賃金の性格と体系
- 第11週 基本給／賞与／退職金の設計と運用
- 第12週 モチベーション管理
- 第13週 多様な雇用形態による人材活用
- 第14週 企業のストレスマネジメントの実際
- 第15週 日本の雇用システムの特徴と今後の展望
（欧米との比較を通して）

【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に取り組むこと（隔週2時間）

事後学修：レポートの振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週2時間）

【テキスト・教材】

服部治・谷内篤博：人的資源管理要論[晃洋書房、2013、¥3,000(税抜)]

谷内篤博：個性を活かす人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、試験80%、レポート20%のウエイトで判定します。なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。

レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的な特徴（良かった点、工夫すべき点など）を学生にフィードバックします。

【参考書】

谷内篤博『日本的雇用システムの特徴と変容』（泉文堂 2008年）

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房 2007年）

【注意事項】

本講義は極めて連続性が強い授業となっておりますので、休まず出席することを強く望みます。

なお、本講義は就職活動を控えた学生がエントリーしている会社がよい会社であるかどうかを見極めるのに有益な授業であることを付言しておきます。

人的資源管理特論

新しい人材マネジメントのあり方を学ぶ

谷内 篤博

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

高度情報化が進んだ現代社会において、「ヒト」が生み出す知（knowledge）が競争優位の源泉となっている。こうした知を生み出す「ヒト」のマネジメントのあり方が、企業経営の成否を左右するといっても決して過言ではない。このような人材マネジメントの理論的基盤となっているのが人的資源管理論で、人材マネジメントやヒューマン・リソース・マネジメントと呼ばれている。講義の前半では、人的資源管理の基本的フレーム、労働者に対する人間観の変遷、ベースとなる理論などについて解説をし、後半部分では人材の採用、人材の評価、人材の育成、人事システムと給与システムなどについて最新の事例とトピックスを交えながら詳しく解説をしていく。また、最終の講義では、日本的雇用システムの特質を欧米との比較を通して明らかにするとともに、今後の展望についても解説をする。この講義を通して、「企業における望ましい人材マネジメントのあり方」を理論と実践の両面から学ぶことができる。

【授業における到達目標】

本講義を通して企業の人材に対する考え方や人材育成のあり方など人材マネジメントの本質や仕組みが理解できるとともに、ディプロマ・ポリシーであるビジネスの分野における学際的・専門的な知識や能力を修得することができる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（人的資源管理の学問的位置づけ）
- 第2週 人的資源管理の概要（定義／目的と体系／ベース理論）
- 第3週 経営戦略と人的資源管理
- 第4週 雇用管理（採用／配置・異動／昇格・昇進／退職）
- 第5週 日本の人事制度の特徴（職能資格制度の効用と限界）
- 第6週 複線型人事制度と専門職制度
- 第7週 人事評価と目標管理制度（MBO）
- 第8週 人材育成の体系と具体的方法
- 第9週 企業内教育の特徴と今後の方向性
- 第10週 賃金の性格と体系
- 第11週 基本給／賞与／退職金の設計と運用
- 第12週 モチベーション管理
- 第13週 労働の人間化（QWL）とワークシステム
- 第14週 企業のストレスマネジメントの実際
- 第15週 日本的雇用システムの特質と今後の展望

【事前・事後学修】

事前学修：レジュメ作成とそれに必要な周辺学習（学修時間 週2時間）事後学修：授業内容の振り返りと次週の学習内容の予習・準備（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- 谷内篤博著：日本的雇用システムの特質と変容[泉文堂、2008、¥3,000(税抜)]
- 谷内篤博著：個性を活かす人材マネジメント[勁草書房、2016、¥2,700(税抜)]
- 谷内篤博著：人的資源管理要論[晃洋書房、2015、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、授業への取り組み（30%）、最終レポート70%のウエイトで判定する。なお、授業内での毎回実施する質疑に関しては、その都度、的確に答え、学習効果を高めるようフィードバックをする。

【参考書】

- 上林憲雄・厨子直之・森田雅也著『経験から学ぶ人的資源管理』（有斐閣ブックス 2010年）
- 谷内篤博著『働く意味とキャリア形成』（勁草書房 2008年）

【注意事項】

本講義は極めて連続性が強い授業となっており、休まず出席することが求められる。

図画工作

井口 眞美

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

子ども主体の図画工作の授業の在り方を学ぶ。そのためにも、本授業を通して、受講者自身が作り出すことの喜びや表現すること、鑑賞することの喜びを感じる感性を育ててほしい。

本授業では、「表現」及び「鑑賞」の二つの活動によって構成される小学校図画工作科の学習における基礎知識を学ぶ。また、造形の面白さや楽しさを受講生自身が経験し、感性を働かせながら情操を養うとはどのようなことかについて学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・図画工作科学習指導要領における内容の構成（「表現」及び「鑑賞」）を理解する。
- ・図画工作科学習指導要領に示される内容と教材・素材について理解し、指導計画を立案することで、子ども主体の学習展開の在り方を学ぶ。
- ・受講生自らが感性を働かせながら、仲間と互いに協力して活動を進める中で、図画工作科の面白さ、楽しさを味わう。更に、指導する上で必要となる知識や技能を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 授業の目的・内容・授業の進め方
- 第2週 子どもの造形的表現の発達
- 第3週 造形的表現①（ものの見方、感じ方）
- 第4週 造形的表現②（平面）
- 第5週 学習指導要領について
- 第6週 図画工作科の指導の在り方
- 第7週 造形的表現①（立体：イメージ作成）
- 第8週 造形的表現②（立体：作成）
- 第9週 造形的表現③（立体：作成及び鑑賞）
- 第10週 「表現」と「鑑賞」
- 第11週 総合的表現の実践（作成①：グループでの話し合い）
- 第12週 総合的表現の実践（作成②：作成）
- 第13週 総合的表現の実践（準備）
- 第14週 総合的表現の実践（発表）
- 第15週 図画工作科指導と学習評価

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に小学校学習指導要領（図画工作）を読み、予習をしておくこと。また、美術館に行く、美術に関する書物を読む等、美術・図画工作に関心をもち、自主的に学修を進めること。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】鑑賞課題については、早めに実施しレポートを提出すること。作品や課題は、決められた期日までに必ず提出すること。

（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布するので、ファイリングし保管しておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度〔授業への取り組み方〕70%、提出物、レポート30%

発表や課題に際しては、教員からのコメントを返す等、学修のフィードバックを行う。

【参考書】

文部科学省『小学校学習指導要領 図画工作編』2017年

【注意事項】

- ・実習形式の内容も多いので、常に汚れてもよい服装で授業を受けること。
- ・作成の進捗状況により、授業の日程が変更になることがある。

図書・図書館史

歴史からみるメディア・図書館と社会

霜村 光寿

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会は多様性が重要なキーワードとなっており、専門性に加え幅広い知識も必要とされる。図書館員に求められるレファレンス能力にも知識の幅広さが不可欠である。本講義では、メディアと図書館の歴史を概観することで歴史的思考を身につけ、図書館の将来像を考える一助とする。特に、現在の図書館サービスの確立された近現代を中心に、視聴覚資料も提示しながら考察したい。

【授業における到達目標】

歴史学的な思考方法を修得し、多角的なものの見方ができるようになる。メディア史・図書館史への理解を深める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：歴史とは何か、図書館史を学ぶ意義
- 第2週 世界の古代文明と文字
- 第3週 古代ヨーロッパの図書と図書館
- 第4週 中世世界と日本古代の図書と図書館
- 第5週 近世世界と日本中世・近世の図書と図書館
- 第6週 近現代世界の図書館（1）：ヨーロッパ
- 第7週 近現代世界の図書館（2）：アメリカ合衆国
- 第8週 近代日本の図書館（1）：明治・大正期
- 第9週 近代日本の図書館（2）：昭和戦前期
- 第10週 現代日本の図書館：昭和戦後期
- 第11週 情報サービス・レファレンスサービスの歴史
- 第12週 ドキュメンテーション、アーカイブ、印刷・写真技術
- 第13週 計算機の歴史・コンピュータ技術の発展・ネットワーク
- 第14週 これからの図書館：展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修・時間：教科書の該当箇所を読んでおく。演習については、報告者は報告の準備を、報告者以外は報告されるテーマについての予習。週2時間（演習回前は加えて2時間）。

事後学修・時間：教科書各章末の演習問題に取り組み、授業内容への理解を深めておく。週2時間。

【テキスト・教材】

千錫烈：ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望10 図書・図書館史[学文社、2014、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：定期試験（60%）、授業内での報告（25%）、質問等の授業態度（15%）。講義の質問等は出席票の裏に書き、次の回の冒頭でフィードバックする。オフィスアワーは講義終了後30分間、3階講師室にて。試験のフォローは最終回に行う。

【参考書】

小黒浩司編・解題『図書館用品カタログ集成戦前編』（金沢文圃閣、2016年）

小田中直樹『歴史学ってなんだ？』（PHP研究所、2004年）

【注意事項】

講義形式だが、第6～10週は授業の前半を講義、後半を2～3名による報告とする予定。報告内容は、各自の専攻に近い時代のメディアや図書館に関する内容を選ぶ。報告者は担当の前の回の授業で予告をし、他の受講者は内容に合わせて予習をする。報告時は原則全員1回質問をしてもらう。現在の図書館やメディアなどの動向、ニュースにも関心を持つとなおよい。

私語など他の学生の迷惑となる行為は厳禁。なお、授業計画は一部変更となる場合がある。

図書・図書館史

図書館サービスの源流としての図書館史・メディア史

霜村 光寿

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

現在われわれが利用者として受けている、もしくはこれから図書館員として提供する図書館サービスは、自明のものではなく、先人たちの試行錯誤を経たものである。本講義では、図書をはじめとしたメディアと、図書館の歴史を探ることにより、図書館の歴史的発展への理解を深め、図書館の目指すべき姿を考察する。その上で、特に現在の図書館サービスが確立された近現代を中心に、視聴覚資料等も提示しながら考察できるようにしたい。

【授業における到達目標】

歴史学的な思考方法を習得し、多角的なものの見方ができるようになる。メディア史・図書館史への理解を深める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：歴史とは何か、図書館史を学ぶ意義
- 第2週 古代のメディアと図書館
- 第3週 図書館の発生
- 第4週 中世・近世の図書館：世界と日本
- 第5週 印刷の歴史：印刷術の発明・印刷の種類・大量印刷
- 第6週 公共図書館の成立
- 第7週 近代のマスメディア：雑誌・新聞・視聴覚メディア
- 第8週 近代の図書館（1）：アメリカ合衆国を中心に
- 第9週 近代の図書館（2）：戦前期日本の図書館
- 第10週 戦後改革：民主主義と図書館
- 第11週 戦後日本の公共図書館
- 第12週 メディアの多様化と新しいメディア
- 第13週 現代日本の図書館：政策・児童サービス・科学技術
- 第14週 これからの図書館：展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修・時間：教科書の該当箇所を読んでおく。演習は、報告者は報告の準備を、報告者以外は報告されるテーマについての予習。
週2時間（演習回前は加えて2時間）
事後学修・時間：ノート等を見返し、その回のメディアや図書館の特徴を時代背景と関連づけてまとめる。週2時間

【テキスト・教材】

小黒浩司：JLA図書館情報学テキストシリーズIII-11 図書・図書館史[日本図書館協会、2013、¥1,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：定期試験（60%）、授業内での報告（25%）、質問等の授業態度（15%）。講義の質問等は出席票の裏に書き、次の回の冒頭でフィードバックする。オフィスアワーは講義終了後30分間、3階講師室にて。試験のフォローは最終回に行う。

【参考書】

千錫烈編著『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望10 図書・図書館史』（学文社、2014年）
小田中直樹『歴史学ってなんだ？』（PHP研究所、2004年）

【注意事項】

講義形式だが、第8～11週は授業後半を講義、前半を2～3名による報告とする予定。報告内容は各自の専攻に近い時代のメディアや図書館に関する内容を選ぶ。報告者は担当する前の回の授業で予告をし、他の受講者は内容に合わせて予習をすること。報告時は原則全員1回質問をしてもらう。現在の図書館やメディアなどの動向、ニュースにも関心を持つこと。

私語など他の学生の迷惑となる行為は厳禁。なお、授業計画は一部変更となる場合がある。

図書館サービス概論

さまざまな図書館サービスとそのしくみを考える

安藤 友張

2年 前期 2単位

糸賀雅児・葉袋秀樹編『図書館制度・経営論』樹村房, 2013 (現代図書館情報学シリーズ2) 2,000円 (税別)
 塩見昇編『図書館サービス論 新訂版』教育史料出版会, 2011 (新編 図書館学教育資料集成3) 2,000円 (税別)
 前園主計編著『図書館サービス論 新訂』東京図書, 2009 (新現代図書館学講座4) 2,400円 (税別)

【授業のテーマ】

図書館は、蔵書を中心に、利用可能な情報源、職員、施設・設備、さらには図書館が持つ「雰囲気」までも資源にして、その役割に応じたさまざまなサービスを提供している。サービスには、貸出、館内閲覧、レファレンス、複写など、どの図書館でも提供しているものだけでなく、健康医療情報サービスや情報リテラシー教育プログラムなど、特定の種類(館種)の図書館がもっぱら提供しているものもある。本科目では、公共図書館のサービスに焦点を当てて、図書館サービスの種類、組み立て、具体例、意義について理解を深めることをテーマとする。

【授業における到達目標】

- ・図書館サービスにはどのようなものがあるのか、公共図書館に焦点を当てて、さまざまなサービスに関して、その概略について修得する。
- ・図書館サービスは、利用可能な資源を用いて、法規などの制約条件の下で、図書館の組織目標を達成するために利用者に提供されている。本科目では、図書館サービスの中核となる資料提供サービスを取り上げ、サービスの構造と役割について修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：図書館サービスとはどのようなものか
 第2回 図書館サービスの考え方と構造
 第3回 資料提供サービス①：来館から資料を手にするまで、館内利用に対するサービス
 第4回 資料提供サービス②：貸出の考え方と業務の手順
 第5回 資料提供サービス③：予約・リクエスト、読書案内
 第6回 情報サービス：レファレンスサービス、情報発信
 第7回 多様なサービスの展開：集会・文化活動、学校教育活動支援
 第8回 図書館サービスの変遷：席貸しから貸出へ、資料提供サービスの考え方、情報サービスの展開とサービスの再編
 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開①：年齢に応じたサービス(児童サービス、ヤングアダルトサービス、高齢者サービス)
 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開②：地域の維持や活性化に貢献するサービス(ビジネス支援サービス、健康医療情報サービス)
 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③：共生をめざしたサービス(障害者サービス、多文化サービス)
 第12回 図書館サービスの実際：市立図書館の事例から(外部講師として市立図書館職員を予定)
 第13回 図書館サービスの協力と連携、都道府県立図書館の役割
 第14回 図書館サービスと著作権
 第15回 まとめ：サービス計画、図書館職員の重要性

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの事前に指定した箇所や事前配布資料を読む。
 (学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業中に学修した各種の図書館サービスの実際について、各自で利用する図書館現場で確認する。また、試験・課題を復習する。
 (学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

小田光宏編著『図書館サービス論』日本図書館協会, 2010 (JLA図書館情報学テキストシリーズII-3) 1,800円 (税別)
 その他、必要な資料は適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20% (授業中に課題提示し、授業時間内に作成)、期末試験80%で評価を行う。毎回の授業終了時に提出を義務づけるコメントペーパーの記載内容は、直接的な成績評価の対象としない。ただし、コメントペーパーに書かれた受講生による疑問点(質問)については、可能な限り、次回の授業において回答する予定である。

【参考書】

図書館サービス概論

さまざまな図書館サービスとそのしくみを考える

齊藤 誠一

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館は、蔵書を中心に、利用可能な情報源、職員、施設・設備、さらには図書館が持つ「雰囲気」までも資源にして、その役割に応じたさまざまなサービスを提供している。サービスには、貸出、館内閲覧、レファレンス、複写など、どの図書館でも提供しているものだけでなく、健康医療情報サービスや情報リテラシー教育プログラムなど、特定の種類(館種)の図書館がもつばら提供しているものもある。本科目では、公共図書館のサービスに焦点を当てて、図書館サービスの種類、組み立て、具体例、意義について理解を深めることをテーマとする。

【授業における到達目標】

- ・公共図書館が行なっているさまざまなサービスの内容を理解する。
- ・公共図書館が住民のさまざまな問題を解決するための情報基盤施設であり、かつ民主主義を守るための大切な仕組みであることを理解する。
- ・運営方法の変化やICT化の進展などの状況変化を正確に理解し、利用者の自己実現を支援するためにさまざまなサービスを展開し得る司書としての知識・技術を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：図書館サービスの概要
- 第2回 図書館サービスの意義
- 第3回 図書館サービスとネットワーク
- 第4回 来館者へのサービス(1)情報提供サービス
- 第5回 来館者へのサービス(2)館内利用サービス
- 第6回 利用空間の整備
- 第7回 貸出サービスの構造と情報提供の展開
- 第8回 情報サービス(レファレンスサービス)の意義と対応、情報発信
- 第9回 利用対象に応じたサービス(1)児童・ヤングアダルト
- 第10回 利用対象に応じたサービス(2)高齢者・障害者・多文化
- 第11回 地域の課題解決支援サービスの展開
- 第12回 図書館サービスの実際：市立図書館の事例から(外部講師として市立図書館職員を予定)
- 第13回 多様な利用者サービス
- 第14回 利用者との交流
- 第15回 図書館サービス概論のまとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

テキストの事前に指定した箇所や事前配布資料を読む。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業中に学修した各種の図書館サービスの実際について、各自で利用する図書館現場で確認する。また、試験・課題を復習する。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

小田光宏編著『図書館サービス論』日本図書館協会, 2010 (JLA図書館情報学テキストシリーズII-3) 1,800円(税別)

その他、必要な資料は適宜配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に課すミニ・レポート(20%)、学期末に行う筆記試験(70%)、積極的な授業姿勢(10%)をカッコ内の比率で総合的に評価する。毎回のリアクションペーパーの内容は次回の講義で共有し、疑問点について回答する。

【参考書】

菅谷明子著『未来をつくる図書館』岩波書店, 2003(岩波新書)

梅澤幸平著『図書館からの贈り物』日外アソシエーツ, 2014(図書館サポートフォーラムシリーズ)

図書館サービス概論

松尾 昇治

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館は利用者の求める資料や情報を的確に提供することによって、利用者の知る権利や学習する権利を保障する機関である。司書の専門性のひとつに「利用者と資料を結びつけること」とあるように、資料や情報の提供は図書館の最も基本的な機能であるとの視点から図書館サービスの内容について学ぶ。

【授業における到達目標】

上記のことを踏まえ、利用者への各種サービスの意義や特色などを理解できるようにする。また、図書館サービスのために必要な利用者との信頼関係を醸成する「協働力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 図書館サービスの意義
2. 図書館サービスの種類
3. 図書館の資料提供サービス 資料提供の方法
4. 図書館の資料提供サービス 貸出し、返却など
5. 図書館の資料提供サービス リクエスト、相互貸借等
6. 図書館の情報提供サービス 情報システム、OPACなど
7. リクエストサービスの方法と課題
8. 来館者へのサービスとフロア構成
9. 利用対象に応じたサービス 利用者集団の認識
10. 利用対象に応じたサービス 児童、高齢者、障害者などへのサービス
11. 多様な利用者サービス
12. 図書館サービスの管理・評価
13. 図書館利用者との交流
14. 図書館サービスの協力ネットワーク
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績と平常点（授業態度、レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

授業のなかで、紹介する。

【注意事項】

『図書館概論』とともに図書館学の基礎科目です。しっかり学ぶことを心掛けましょう。

図書館概論

図書館の現状とそれを支える理念

須賀 千絵

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

本講義は図書館学課程の一連の科目を学ぶための導入科目にあたる。公共図書館を中心にさまざまな館種の図書館の現状について知ったうえで、図書館の歴史、図書館の活動を支える基本的理念、現代社会と図書館との関係について学ぶ。

【授業における到達目標】

①図書館の種類とその現状について理解し、説明できる。②図書館の歴史をふまえたうえで、図書館の活動を支える基本的理念を理解し、説明できる。③現代社会と図書館との関係についての基本的知識を習得し、図書館の意義と可能性を説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 本講義についてのオリエンテーション、図書館とはなにか
- 第2回 図書館の歴史的展開
- 第3回 公共図書館の制度と機能(1) 地域社会と図書館
- 第4回 公共図書館の制度と機能(2) 図書館法と管理・運営の諸問題
- 第5回 公共図書館の機能と現状(3) 海外の公共図書館、公共図書館の社会的意義
- 第6回 学校図書館の制度と機能
- 第7回 大学図書館の制度と機能
- 第8回 国立図書館の制度と機能
- 第9回 専門図書館・図書館類縁機関（文書館、博物館、美術館など）の制度と機能
- 第10回 図書館法規と行政、施策
- 第11回 図書館活動を支える理念
- 第12回 出版と図書館、著作権
- 第13回 現代社会と図書館
- 第14回 図書館の危機管理
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：普段利用している図書館だけでなく、さまざまな館種・地域の図書館に積極的に足を運び、そこで提供されている資料やサービスについて知る。テキストの事前に指定した箇所や配布資料を読む。

事後学修（週2時間）：授業で得た知識をノートに整理すると共に、関連する本やweb情報を調べ、自主的に発展的な学習を行う。

【テキスト・教材】

塩見昇編著『図書館概論』五訂版（日本図書館協会 2018年）1,900円

授業時に毎回資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(3回)25%、小テスト(1回)5%、授業への貢献度（発言とリアクションペーパーの内容、受講態度）20%、期末試験50%

レポートと小テストは評価を行い返却する。レポートは、図書館のフィールドワークを行う内容である。毎回のリアクションペーパーの内容は次回の講義で共有し、疑問点については回答する。

【参考書】

『図書館ハンドブック』第6版補訂2版（日本図書館協会 2016年）5,500円

猪谷千香『つながる図書館』（筑摩書房 2014年）780円

青柳英治編著『ささえあう図書館』（勉誠出版 2016年）1,800円

『市民の図書館』増補版（日本図書館協会 1976年）830円

図書館概論

松尾 昇治

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

今日、市民生活に不可欠な存在となった図書館はどのような理念で活動し発展してきたのだろうか。公共図書館を中心に、図書館の定義、図書館の種類と機能、図書館関連法規、図書館と地方自治体などを学ぶ中で、図書館の社会的役割を認識する。さらに、現代的課題についても概説する。

【授業における到達目標】

図書館の種類やその機能を学ぶことによって、これから図書館学を履修するための基礎的な知識を習得することを目標とし、図書館とは何かを理解できるようにする。また、図書館を使って知の探究ができるような「研鑽力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 図書館の定義
2. 生涯学習社会と図書館
3. 情報社会と図書館
4. 図書館職員
5. 図書館関連法規の基礎（1）図書館法
6. 図書館関連法規の基礎（2）憲法・教育基本法など
7. 図書館政策と行政
8. 図書館の理念
9. 地域社会と図書館
10. 公共図書館の制度と機能
11. 学校図書館の制度と機能
外部講師（未定）の講義、質疑を予定
12. 国立図書館の制度と機能
13. 図書館の歴史的展開
14. 図書館の現代的課題
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

塩見昇：図書館概論 4訂版[日本図書館協会、2015、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績と平常点（授業態度、小テスト、レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内にフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

『市民の図書館』増補版（日本図書館協会 1976年）

前川恒雄、石井敦著『新版図書館の発見』（日本放送出版協会、NHKブックス 2006年）

その他、授業の中で随時紹介する。

【注意事項】

図書館学の基礎をしっかりと学ぼうという自覚を持って、授業に臨んでほしい。

図書館基礎特論

地域資料

蛭田 廣一

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

地域資料は、地域に関する全ての資料及び地域で発生する全ての資料である。その地域で発生する情報については、その地域の公共図書館でしかできない仕事であり、その図書館が最終的な責任を持つという認識が一般的になっている。また、地域資料で扱う資料は図書館情報資源全般にわたり、その利用対象は子どもから研究者まで幅広い年代や多様な階層に及ぶ。このことから、地域資料は公共図書館サービスの総合ともいえる。

【授業における到達目標】

- ①地域資料の基礎的な定義や理論について学び、理解を深める。
- ②具体的な実践事例や先進事例等とおして、図書館の仕事の多様性と課題について探求し、必要な知識と技術を身につける。
- ③地域資料と地域との係わりについて考察し、市民協働や情報発信のあり方及び地域課題の解決に向けて何ができるか追求する。

【授業の内容】

- 第1回 地域資料概論
- 第2回 地域資料サービスの実践
- 第3回 地域資料の収集とマニュアル
- 第4回 地域資料の整理とデジタル化
- 第5回 小平市中央図書館の視察
- 第6回 行政の組織と行政資料
- 第7回 地図・新聞記事・写真
- 第8回 古文書・公文書・古記録
- 第9回 地域資料の多摩地区実態調査と全国調査
- 第10回 学校図書館システム
- 第11回 レファレンスとパスファインダー
- 第12回 市民協働と情報発信
- 第13回 資料保存「概説編」
- 第14回 資料保存「実践編」
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。

また、事前・事後学修のために参考資料を紹介し、毎回課題を出すので、確実に提出すること。課題については評価し、授業の初めに発表してもらい、コメントをする。

事前・事後学修に4時間必要と規定されている。

【テキスト・教材】

三多摩郷土資料研究会：地域資料入門[日本図書館協会、1999、¥1,900(税抜)、※授業中のみ貸出する予定]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法は、課題のレポートと定期試験及び課題の発表等の日常的な受講姿勢を対象とする。

評価基準は、講義40%、定期試験40%、受講姿勢20%とする。

課題の発表とコメントにより授業のフィードバックを行う。

【参考書】

- ①根本彰『情報基盤としての図書館』勁草書房、2002
- ②『地域資料に関する調査研究』国立国会図書館、2008
- ③平山恵三・蛭田廣一『現在を生きる地域資料』けやき出版、2010
- ④『これからのアーキビスト』勉誠出版、2014
- ⑤『小平学・まちづくり研究のフロンティア』論創社、2018

【注意事項】

第5回小平市中央図書館の視察は、受講生と日程調整の上で、土曜日に振り替えて実施する。この日に都合がつかない者は、各自身近な公共図書館を視察して報告すること。

図書館基礎特論

—地域社会と図書館活動—

松尾 昇治

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

公立図書館は地域社会のなかにあり、地域住民への情報提供の拠点として存在している。この授業では「地域」という概念を核にして地方自治についての認識を深めると共に、図書館の地域における活動の事例を学ぶことをテーマとする。特に、多摩地域を中心に図書館活動の具体例を紹介し解説する。

【授業における到達目標】

地域社会における公立図書館の役割、地域の資料・情報の重要性が理解できるようになる。また、地域について学ぶ楽しみを知り、地域を理解する「洞察力」を身につける。

【授業の内容】

1. 図書館法における地域（郷土）の位置
2. 地域と図書館との関係
3. 地域の歴史的発展と図書館（1）郷土史・地方史
4. 地域の歴史的発展と図書館（2）地域史
5. 図書館の類縁機関としての文書館
6. 地方分権型社会と図書館
7. 情報公開制度と図書館
8. 地域社会における図書館の役割
9. 地域の資料の収集・整理と保存
10. 地域社会への図書館サービス
11. 公立図書館における地域活動の実践例
12. ホームページによる情報の発信事例（1）多摩地域
13. ホームページによる情報の発信事例（2）23区ほか
14. 地方自治体と図書館活動
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

地域と図書館活動に関するレポートおよび平常点により総合的に判断する。

配分基準：レポート50%および平常点（授業への参加態度を重視する）50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』（日本図書館協会、図書館員選書14 1999年）

その他、授業の中で紹介する。

【注意事項】

図書館の地域活動は類縁機関である史料館や文書館などと関連があるので見学するとよい。

図書館施設論

図書館の建築を通してのサービス全体像の把握

田戸 義彦

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館計画の基礎となる図書館プログラムをベースに、図書館建築の現状課題・歴史・完成までの工程、さらには図書館各部の建築計画を通して、図書館計画を多角的な観点から見直し、図書館と図書館計画の本質的な理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

図書館建築計画のはたらき（機能）と、それにふさわしい場の関係を理解し、既存の図書館の主として開架室の配架などに対する適切な評価をできるようにすること。また図書館全体の機能的なつながりを説明できるようにする。図書館の機能を具体的なはたらきによって理解することで、他の図書館関連科目の学びの意義も再確認し、司書過程全体の意義を理解する。

また、学生が修得すべき『研鑽力』として、どのような図書館においても存在する働きと場の関係に関心を持ち、本質を見抜いて改善策を自ら立案できる能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 プロローグ・日本の図書館はいま
- 第2週 図書館建築の現状と課題
- 第3週 日本の図書館建築史
- 第4週 図書館建築ができるまで。工程とターニングポイント
- 第5週 図書館プログラム-1 概要・サービス目標
- 第6週 図書館プログラム-2 敷地と施設
- 第7週 図書館プログラム-3 資料と職員
- 第8週 図書館配置計画
- 第9週 図書館建築計画-1 開架室廻り
- 第10週 図書館建築計画-2 児童・青少年開架室廻り
- 第11週 図書館建築計画-3 地域行政資料・視聴覚資料廻り
- 第12週 図書館建築計画-4 事務室・書庫廻り
- 第13週 図書館建築計画-5 集会展示 その他事例研究
- 第14週 図書館建築計画-6 大学図書館計画
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回配布する資料を次回授業までに読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 学習した内容を公共図書館の利用を通して確認し、図書館の基本的な仕組みを再確認すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回資料を配布するので、特定のテキスト購入は不要。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、小テスト10%、課題提出10%。

小テストは次の授業で取り上げ、最終試験はその場で模範解答と考え方のシートを渡すことでフィードバックする。

【参考書】

授業の途中で各内容に対応した資料を紹介する。

【注意事項】

既刊の図書や資料でまとめられていない内容が多いので、授業に出席して、内容を理解することが基本となる。授業に出席しない限り合格はほとんど困難なので留意すること。

図書館施設論

畠山 秀保

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館の施設は、図書館サービスや活動を展開する場として、図書館を構成する視点からも重要な要件である。これまで学んできた内容を発展する立場から、地域計画、建築計画、図書館づくりの流れその他の構成要素について理解を深める。

また、「自分が必要とする図書館」を考える場ともする。

【授業における到達目標】

授業では見学、ディスカッションを通し、他者の考えを知る事で多様な価値観を受容し多角的な視点を養う。また、公共図書館施設を学修し、プロセスと結果を学び多様な施設を知ることで、学生が履修して身につく〈態度・能力〉は行動力、研鑽力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 プロローグ、建築の基本的要件
- 第2週 図書館建築の変遷
- 第3週 図書館建築ができるまでの流れと管理運営
- 第4週 公共図書館の基本計画
- 第5週 公共図書館の地域計画
- 第6週 公共図書館に関する法律、多彩な建築計画（複合、改修）
- 第7週 公共図書館の建築計画の流れ
- 第8週 家具とサイン計画
- 第9週 図書館施設見学（武蔵野プレイスを予定）
- 第10週 見学を題材にワークショップ
図書館計画-1（複合施設、一般開架室、地域資料など）
- 第11週 図書館施設見学（国際子ども図書館を予定）
- 第12週 見学を題材にワークショップ
図書館計画-2（施設種類と役割、児童開架室など）
- 第13週 図書館施設見学（日野市立図書館を予定）
- 第14週 見学を題材にワークショップ
図書館計画-3（図書館システム、開架室の変化など）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：身近な公共図書館を常にご利用しておくこと。

見学図書館の図書館概要を調べておくこと。

課題への取り組み等を含め学修時間は週2時間とする。

事後学修：授業で配付する資料を読み直しておくこと。

見学後はかならず考察をまとめておくこと。

学修時間は週2時間とする。

【テキスト・教材】

随時必要な資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題の提出と平常点により総合的に判断する。

配分基準：課題提出（期限、オリジナルな視点）65%

：平常点（授業態度、校外見学への意欲、積極性）35%

成績評価のフィードバックは、提出されたレポートの中から優れたものを紹介する。

【参考書】

授業の途中で内容に対応した資料を紹介する。

【注意事項】

・図書館施設見学は見学先との調整もあるため、**施設や日時（時間延長含め）に変更が生じる**場合があるので注意すること。（図書館システムも学ぶ日野市立図書館の見学は長時間となる。）

・講義では校外見学を数回予定、それをもとにワークショップを行い理解を深めていくため、**見学に際し前後の授業に影響**がある学生は注意すると。

図書館実習

実務体験を通しての図書館業務への理解

須賀 千絵

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

これまでに図書館学課程において学んだ知識をふまえ、図書館員の指導の下で実務を体験することを通して図書館業務への理解を深める。実習は夏休み期間に実施する。実習の事前準備として、校外の図書館を見学し、各地の図書館員の実践記録を読み込む。

【授業における到達目標】

図書館員の実践について知り、また図書館サービスの実務を体験することを通し、①図書館員としての心構えと組織における行動のあり方を体得する。②図書館業務のプロセスと実践の中でなされているさまざまな工夫について理解し、説明できる。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（図書館実習の目的と授業の進め方）
- 第2回 実習館の選び方と事前調査方法
- 第3回 実習館についての相談と事前調査の実施
- 第4回 実習館の決定と事前調査のまとめ
- 第5回 校外図書館見学の準備（見学館についての事前調査と質問項目の決定）
- 第6回 校外図書館見学
- 第7回 図書館の現場での利用者とのコミュニケーション
- 第8回 校外図書館の見学記録の作成
- 第9回 図書館業務の実際
- *外部講師（公共図書館員を予定）の講演
- 第10回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(1)紫波町図書館
- 第11回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(2)東松島市図書館
- 第12回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(3)田原市図書館
- 第13回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(4)東近江市八日市図書館
- 第14回 図書館実習館の事前調査の補足と最終まとめ、実習にあたっての注意
- 第15回 図書館実習と訪問指導をふまえての実習報告会

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：実習館、見学館、実践記録の輪読で取り上げる図書館について、情報を集め、整理する。図書館員の実践記録は事前に読み込み、話し合いに備える。

事後学修（週2時間）：①実習や見学の記録をまとめる。②授業で取り上げた以外の図書館員の実践記録を読み、さまざまな図書館の状況を知り、職業人としての図書館員のあり方を考える。

【テキスト・教材】

『地域活性化志向の公共図書館における経営に関する調査研究』（国立国会図書館 2014年）国立国会図書館のwebサイトより無料でダウンロード可能。

初回の授業では準備不要。ダウンロードの方法等は授業内で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

図書館見学レポート10%、図書館実践記録の発表と話し合いへの貢献度10%、図書館実習65%、図書館実習記録10%、実習報告5%
全員の実習終了後に実習報告会を実施し、受講生ひとりひとりの報告に対するフィードバックを行う。

【参考書】

日本図書館協会図書館調査事業委員会編『日本の図書館：統計と名簿2017』（日本図書館協会 2018年）
調査時に刊行されている最新版を参照すること。

【注意事項】

図書館員を将来の職業とすることを考えている学生であること。
なお履修者の関心に応じて、授業でとりあげる図書館員の実践記録を変更する可能性がある。

図書館情報サービス論

松尾 昇治

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

インターネットに代表されるように、現代社会は高度情報通信ネットワーク社会といわれ、情報に対する社会的要求が高まり、図書館における情報サービスもより高度な展開が求められるようになってきている。この授業では、図書館における情報サービスのあり方を学ぶ。

【授業における到達目標】

図書館で情報サービスをおこなうための基本的知識や技能が分かるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 情報サービス概説とは
2. 図書館の情報サービス
3. 情報サービスの歴史と現状
4. 情報サービスの実際
5. 情報検索の定義と種類
6. 情報検索システムの構成
7. 情報サービスの組織
8. 情報サービスと情報資源
9. 情報サービスの収集と運用
10. レファレンスプロセスの概念
11. レファレンスプロセスの具体化
12. 情報サービスにおける情報源
13. 各種情報サービスの特徴と利用法
14. レファレンスプロセスの実際
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績と平常点（レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験成績50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

斎藤文男・藤村せつ子著『実践型レファレンス・サービス入門 改訂版』（日本図書館協会JLA図書館実践シリーズ1 2014年）
その他、授業のなかで、紹介する。

【注意事項】

「情報サービス演習」 a 及び b の基礎にあたる科目であることを心得て履修すること。

図書館情報技術論

図書館の未来をひらく情報技術

長谷川 豊祐

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するため、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータやネットワークシステム、図書館サービスへの情報技術の活用等について解説し、理解を深めるための課題に取り組みます。

【授業における到達目標】

図書館業務に必要とされる基礎的な情報技術を理解し、情報技術が図書館の管理運営とサービスにどのように活用されているのか説明できることを目標とします。情報技術の更なる展開と、情報技術における課題を明らかにし、その対応を示せることを目指します。

【授業の内容】

- 第 1回 授業概要の説明、情報技術と図書館
- 第 2回 コンピュータとネットワークの基礎
- 第 3回 図書館における情報技術活用の現状(1)導入事例
- 第 4回 図書館における情報技術活用の現状(2)グループワーク
- 第 5回 インターネットによる情報発信
- 第 6回 電子資料とデジタル化
- 第 7回 情報検索とデータベース
- 第 8回 図書館業務システム(1)情報資源組織
- 第 9回 図書館業務システム(2)図書館サービス
- 第10回 図書館業務システム(3)グループワーク
- 第11回 コンピュータシステムの管理
- 第12回 最新の情報技術と図書館(1)最新技術の導入事例
- 第13回 最新の情報技術と図書館(2)今後の情報技術
- 第14回 質問回答の解説と意見交換
- 第15回 授業まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）：指示する次回の授業のポイントの下調べ
- 事後学修（週2時間）：毎回の授業内容の振り返りと重点整理

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点30%（コメントカード提出，受講態度，グループワークへの参加），レポート40%，小テスト30%で総合評価します。コメントの紹介・解説，レポート返却により，討論や考察のきっかけとし，また，授業内容の振り返りによって理解を深めます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【注意事項】

利用する図書館（公立図書館や大学図書館）の情報技術を観察してください。

図書館情報技術論

松尾 昇治

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

現代はさまざまな分野で情報機器を備え、それらを使用して情報の生産、流通（通信）、加工、検索、利用などが行われている社会となったため、「高度情報通信ネットワーク型社会」と言われている。図書館も同様であり、これからの司書は、情報技術に関する知識や活用能力を持つことが不可欠である。

【授業における到達目標】

図書館で使われているさまざまな情報機器についての基礎的な知識を身につけるとともに、図書館のコンピュータシステムについて知ることを目標とする。また、図書館を使って知を探索するための「研鑽力」に係わる情報技術を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 図書館と情報機器の沿革と現状
2. パソコンの機能と周辺機器
3. 図書館利用への情報機器の活用
4. カウンター業務
5. 複写とその周辺機器
6. 図書館のコンピュータシステム
7. データベースシステムと検索エンジン
8. 電子図書館とデジタルアーカイブ
9. 図書館業務への情報機器の活用
10. 発注システム
11. 目録編成システム
12. 図書館貸借システム
13. 図書館システムの管理・保守
14. 図書館システムの最新事情
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート提出と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：レポートの評価50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

授業のなかで、紹介する。

【注意事項】

情報科学分野の研究開発は日進月歩で行われており、つぎつぎと新システムや新機種が発表されるので、ニュース報道や雑誌記事などに注意し、関心を持つように心掛けること。

図書館情報資源概論

多種多様な情報資源を学ぶ

安藤 友張

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

今日、電子書籍の普及にみられるように、紙メディア（印刷メディア）のみならず、電子メディアも図書館が扱う情報資源となっている。図書館に来館しなくても、自宅から電子情報資源にアクセスする環境が整備されつつある。本科目では、様々な情報資源の特性について解説し、図書館で扱う場合の留意点などを講じる。さらに、図書館のコレクション構築に関して、必要とされる選書の基本的な考え方を解説する。

【授業における到達目標】

- ・選書の基本的な考え方を理解し、「価値論」と「要求論」の内容を説明することができる。
- ・印刷メディアと電子メディアの特性を理解できる。
- ・メディアの適切な長期保存方法について説明することができる。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 図書館情報資源とは何か① 有形出版物としての情報資源
- 第3回 図書館情報資源とは何か② 様々な諸定義
- 第4回 図書館情報資源の種類とその特質① 印刷資料
- 第5回 図書館情報資源の種類とその特質② 視聴覚資料
- 第6回 図書館情報資源の種類とその特質③ 電子出版物
- 第7回 図書館情報資源の収集とコレクションの構築①
図書館コレクションの概念
- 第8回 図書館情報資源の収集とコレクションの構築②
要求論と価値論
- 第9回 図書館情報資源の収集とコレクションの構築③
資料選択の基準と実際
- 第10回 図書館情報資源の収集とコレクションの構築④
資料選択の情報源
- 第11回 図書館情報資源の収集とコレクションの構築⑤
図書館コレクションの評価
- 第12回 情報資源の生産・流通① 出版とは何か
- 第13回 情報資源の生産・流通② 出版流通プロセス
- 第14回 図書館の自由（図書館の自由宣言）
- 第15回 まとめなど

【事前・事後学修】

【事前学修】 図書館（公立図書館又は大学図書館）を利用したさい、どのような情報資源（特に電子メディア）が利用できるのかを調べておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 授業中に配布したプリント（新聞記事など）を使用し、復習すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

平野英俊：図書館情報資源概論[樹村房、2012、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ペーパーテスト（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。小レポートは授業中に作成してもらうことを予定している。学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

山本昭編著『書物の文化史』丸善、2018年

【注意事項】

新聞などを読み、電子書籍などの様々な情報資源に関心を持つこと。

図書館情報資源概論 a

図書館におけるさまざまな情報資源の特性と出版・流通のしくみ

須賀 千絵

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館は、本、雑誌、CD・DVDなど、さまざまな形で情報を記録した資源を収集・保存し、利用者に提供している。また近年では、インターネットを介して提供され、モノとしての形を持たないネットワーク情報資源の役割が増大し、図書館においても重要な情報資源となっている。本講義では、これらの図書館情報資源の種類や特性、および出版・流通のしくみについて解説する。合わせて学術情報資源の生産と流通についても取り上げる。

【授業における到達目標】

①さまざまな図書館情報資源の種類と特性について理解し、説明できる。②日本における出版・流通のしくみとその課題について理解し、説明できる。③学術情報流通の生産と流通のシステムの現状について理解し、その将来展望を考えるうえで必要な基本的知識を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（講義の概要と学習方法）
- 第2回 図書館情報資源の歴史
- 第3回 資料各論(1) 図書（官公庁出版物と民間出版物、地域資料等）
- 第4回 資料各論(2) 非図書資料（地図、楽譜、マイクロ資料等）
- 第5回 資料各論(3) 非図書資料（視聴覚資料）
- 第6回 資料各論(4) 障害者サービスのための資料
- 第7回 資料各論(5) 逐次刊行物と更新資料
- 第8回 ネットワーク情報資源(1) ネットワーク情報資源の種類
- 第9回 ネットワーク情報資源(2) ネットワーク情報資源の組織化と提供
- 第10回 一次資料と二次資料（灰色文献を含む）
- 第11回 出版・流通の現状
- 第12回 出版・流通の課題と図書館、グループワーク
- 第13回 学術情報資源(1) 学術コミュニケーション
- 第14回 学術情報資源(2) 学術情報資源をめぐる課題とその対策
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの指示された箇所を読んで予習する。（学修時間 週1時間）

事後学修：①図書館等において授業で取り上げた情報資源を実際に利用し、その特性を確認する。②授業で配布された関連資料を読み、発展的な学習を行う。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

伊藤民雄：図書館情報資源概論[学文社、2012、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(1回)20%、期末試験50%、授業への貢献度30%。レポートは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は、次の講義で共有し、疑問点については回答する。

【参考書】

権山紘一編『図説本の歴史』（河出書房新社、2011年）1,800円

図書館情報資源概論 b

蔵書構築と資料選択

須賀 千絵

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

図書館は、ひとつひとつの資料の選択を通じて、蔵書（コレクション）を構築し、利用者に提供している。本講義では、蔵書構築の概念、および収集から不要資料の選択までの一連のプロセスについて解説し、実際に資料選択の演習を行う。

【授業における到達目標】

①蔵書構築に関わる基本的な概念とそのプロセスについて理解し、説明できる。②図書館における資料選択の方法について、基本的な知識を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション（講義の概要と学習方法）
- 第2回 蔵書構築の概念（蔵書の定義、所蔵とアクセス、蔵書に影響を与える要因）
- 第3回 蔵書構築のプロセス(1) 蔵書構築のプロセス
- 第4回 蔵書構築のプロセス(2) 蔵書構築と利用者ニーズの把握
- 第5回 蔵書構築のプロセス(3) 蔵書構築方針と資料選択
- 第6回 主題分野別の資料の特徴（健康・医療分野を例として）
1 資料の種類
- 第7回 主題分野別の資料の特徴（健康・医療分野を例として）
2 エビデンスとナラティブ
- 第8回 主題分野別の資料の特徴（健康・医療分野を例として）
3 web情報源
- 第9回 資料選択の演習
- 第10回 公共図書館の資料選択理論
- 第11回 蔵書構築のプロセス(5) 排架と管理
- 第12回 蔵書構築のプロセス(6) 不要資料の選択
- 第13回 蔵書構築のプロセス(7) 蔵書評価
- 第14回 日本の図書館コレクションの現状と課題
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：①テキストの指定箇所を読む。②図書館や書店に出かけ、置かれている本の種類、並べ方、サインの出し方などを注意して観察する。③資料選択の実習に備えて、図書館や書店の店頭などで、健康・医療分野にの本をなるべく多く手にとって、その中から「図書館の蔵書にふさわしい」と思うものを選ぶ。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で紹介、配布された関連資料を読み、発展的な学習を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

伊藤民雄：図書館情報資源概論[学文社、2012、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

資料選択レポート(1回)20%、学期中の課題(1回)10%、期末試験40%、授業への貢献度（発言・リアクションペーパーの内容、受講態度）30%。レポートは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は、次の講義で共有し、疑問点については回答する。

【参考書】

日本図書館情報学会研究委員会編『情報の評価とコレクション形成』（勉誠出版 2015年）1,800円

安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』（勁草書房 2006年）2,100円

図書館情報資源特論

松尾 昇治

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

図書館の専門的資料である人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野における知識の構造と資料との関係についての理解を深めるために、それぞれの分野における代表的な資料の特性、情報の生産・流通、書誌コントロール、資料・情報へのアクセスと利用などについて学び、書誌解題の演習を行う。

【授業における到達目標】

演習を行うことで、人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野の書誌解題がかけられるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 専門資料の定義
2. 専門資料の構造
3. 専門資料の構成と種類
4. 学術コミュニケーションの構造
5. 電子環境下における学術情報
6. 人文科学分野の資料と情報
7. 漢籍の知識（1）漢籍の概要
特別講師（未定）の講義・質疑を予定
8. 漢籍の知識（2）印刷の歴史
特別講師（未定）の講義・質疑を予定
9. 人文科学分野の書誌解題（演習）
10. 社会科学分野の資料と情報
11. 社会科学分野の書誌解題（演習）
12. 自然科学・技術分野の資料と情報
13. 自然科学・技術分野の書誌解題（演習）
14. 二次資料活用の実例（演習）
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題の提出と授業態度などの平常点で総合的に判断する。

配分基準：課題提出50%、平常点50%

演習の課題のフィードバックを行って、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

授業のなかで、紹介する。

【注意事項】

演習を行うので、与えられた課題を調べあげて提出すること。

図書館制度・経営論

図書館の運営はどのように行われているか

松尾 昇治

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

今日急激に変化する現代社会のなかで、公立図書館も厳しい環境のもとに置かれている。公立図書館は、図書館法にもとづき、地方自治法などの法制度の下に設置される機関である。したがって、公立図書館を経営あるいは運営するためには、図書館に関連する法体系や政策、行政組織の中の図書館の位置などを理解することが不可欠である。さらに、図書館のサービス計画やその評価なども図書館経営の方法として知っておくべきことである。

【授業における到達目標】

上記のことを踏まえ、図書館の司書として働くのに必要な図書館の制度・経営の基本的な知識が身につくようにする。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 図書館経営のあり方・意義
2. 地方行政と図書館
3. 図書館の組織と運営・経営形態
4. 図書館の職員（館長）
5. 図書館の職員（司書、事務職員など）
6. 図書館ボランティア
7. 図書館サービス等に関連する法制
8. 図書館法
9. 国の図書館政策
10. 地方自治体の図書館政策
11. 図書館の整備計画と施設
12. 図書館のサービス計画と評価
13. 地方自治体の予算・決算と図書館
14. 図書館経営の現状と今後の課題
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常の授業態度（50%）、期末試験（50%）の結果を総合的に評価する。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

大澤正雄著『公立図書館の経営』補訂版 図書館員選書・21（日本図書館協会 2005年）

手嶋孝典著『図書館制度・経営論』第2版 ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 5（学文社 2017年）

その他、授業のなかで紹介する。

【注意事項】

公立図書館および図書館と関わりのある国や地方自治体の動きについて、テレビ等のニュースや新聞・雑誌記事、図書館webサイトなどを日頃から関心を持って注視しておくこと。

図書館制度・経営論

公共図書館をめぐる法制度と経営のしくみ

須賀 千絵

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本における公共図書館制度と関連する国や自治体の政策について概観する。具体的には、法律と行政組織上の公共図書館の位置づけ、「ヒト、モノ、カネ」に代表される経営資源、関連法規と規則、計画と評価の方法、住民参加、経営形態の変化とその影響などについて解説する。日本の公共図書館に関わる内容を中心とするが、適宜、海外の事例も紹介する。

【授業における到達目標】

日本における公共図書館に関する法規や行政のしくみについて理解することを通し、福祉国家のもとで成立・発展してきた公共図書館制度の現代における意義を捉え直す。同時に、経営とは、営利・非営利を問わず、組織の維持と発展に欠かせない活動であり、公共図書館においても、適切な経営目標を定め、経営資源を有効に活用して、合理的な経営戦略を展開していく必要があることを理解する。

【授業の内容】

- 1回 オリエンテーション（貸本屋・公共図書館の違い、福祉国家と図書館）
- 2回 行政組織上の公共図書館の位置付け
- 3回 職員と組織（1）：職務内容と雇用形態に基づく職員の分類
- 4回 職員と組織（2）：組織構造
- 5回 施設と設備
- 6回 財務
- 7回 公共図書館をめぐるルール（1）：図書館での各種トラブルとルールの関係、著作権法（1）権利の種類
- 8回 公共図書館をめぐるルール（2）：著作権法（2）権利の制限
- 9回 公共図書館をめぐるルール（3）：解決の難しい問題
- 10回 グループワーク、マーケティングと経営計画
- 11回 経営評価（指標・基準・質的評価）
- 12回 経営への住民参加
- 13回 経営形態の変化
- 14回 まとめ
- 15回 公共図書館制度・経営に関する最近のトピックの解説

【事前・事後学修】

事前学修（週1時間）：図書館に関わる各種の法制度、また雇用や経営に関わる諸問題について、普段から関心を持ち、ニュースやその背景を調べる。

事後学修（週2時間）：1. 授業時に新聞記事等の参考資料を配布するので、授業の終了後に目を通しておく。

2. 講義内容を復習し、あいまいな点、わからない点がないか確認する。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。講義の中で、内容に関連する新聞記事、図書などの文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、レポートとグループワーク（20%）、授業への貢献度（発言やリアクションペーパーの内容など）（30%）、毎回のリアクションペーパーの内容は、次回の授業で共有し、疑問点については回答する。レポートについては、授業内で講評する。

【参考書】

日本図書館情報学会研究委員会編『公共図書館運営の新たな動向』（勉誠出版 2018年）1,800円

田村俊作・小川俊彦編著『公共図書館の論点整理』（勁草書房 2008年）2,400円

柳与志夫・田村俊作編『公共図書館の冒険』（みすず書房 2018年）3,500円

図書館制度・経営論

松尾 昇治

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

急激に変化する現代社会のなかで、公立図書館も厳しい環境のもとに置かれている。公立図書館は、図書館法にもとづき、地方自治法などの法制度の下に設置される機関である。したがって、公立図書館を経営あるいは運営するためには、図書館に関連する法体系や政策、行政組織の中の図書館の位置などを理解することが不可欠である。さらに、図書館のサービス計画やその評価なども図書館経営の方法として知っておくべきことである。

【授業における到達目標】

上記のことを踏まえ、図書館の司書として働くのに必要な図書館の制度・経営の基本的な知識が身につくようにする。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

【授業の内容】

1. 図書館経営のあり方・意義
2. 地方行政と図書館
3. 図書館の組織と運営形態
4. 図書館の職員（館長）
5. 図書館の職員（司書、事務職員など）
6. 図書館ボランティア
7. 図書館に関連する法律
8. 図書館法
9. 国の図書館政策
10. 地方自治体の図書館政策
11. 図書館の整備計画と施設
12. 図書館のサービス計画と評価
13. 地方自治体の予算・決算と図書館
14. 図書館経営の現状と今後の課題
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常の授業態度（50%）、期末試験（50%）の結果を総合的に評価する。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

【参考書】

大澤正雄著『公立図書館の経営』補訂版 図書館員選書・21（日本図書館協会 2005年）

その他、授業のなかで紹介する。

【注意事項】

公立図書館および図書館と関わりのある国や地方自治体の動きについて、テレビ等のニュースや新聞・雑誌記事、図書館webサイトなどを日頃から関心を持って注視しておくこと。

図書館総合演習

研究としての図書館情報学

安藤 友張

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

図書館学課程の総仕上げとして、ゼミ形式の授業を実施する。アカデミック・ライティングの手法を身につけ、レポート・論文を作成する。受講生の興味・関心に応じた研究課題を設定する。

【授業における到達目標】

・図書館をテーマとした学術論文の作成を通して、自己肯定感や自信を高める。

【授業の内容】

- 第1回 問題意識を抱く
- 第2回 研究テーマの設定
- 第3回 先行研究の調査（文献検索）
- 第4回 先行研究のレビューと課題設定
- 第5回 仮アウトラインの作成
- 第6回 調査方法についての検討
- 第7回 文献調査などの実施
- 第8回 中間報告
- 第9回 本文作成①（アカデミック・ライティングの基本的技法）
- 第10回 本文作成②（序論の書き方）
- 第11回 本文作成③（注・引用文献の書き方）
- 第12回 本文作成④（考察の書き方）
- 第13回 本文作成⑤（結論の書き方）
- 第14回 本文作成⑥（推敲）
- 第15回 最終発表・まとめ・提出

【事前・事後学修】

【事前学修】自分の研究テーマ（興味を抱いたテーマ）に関する文献を複数冊、事前に必ず熟読すること（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業中で紹介された図書館情報学の文献以外に、図書館などで文献検索（文献探索）し、関連資料を網羅的に収集すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを授業中に配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・口頭による中間発表（50%）、最終レポート（50%）で評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。また、受講者数が少人数の場合、個別にメール等でフィードバックを行う。

【参考書】

- 三田図書館・情報学会編『図書館・情報学研究入門』（勁草書房 2005年）
- 佐渡島紗織編著『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』（大修館書店 2015年）

【注意事項】

ゼミ形式で授業を実施するので、受講生の主体的な参加が求められる。教室外（授業外）の時間における入念な準備学習が不可欠である。

数学的思考

世の中の問題を「わかる」ための数学的思考を身に付ける

渡辺 敏

1年～ 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本授業のテーマは数学的思考である、「比較の方法」、「関数的な見方」「整理の仕方」、「図を用いた思考法」等の見方や考え方を数や図形の具体的な活動を通して身に付けます。この講義ではこのような見方考え方を「物差し」と呼び、自分の中に新たなものの見方、考え方としての「物差し」が身につくことをねらいます。そして、日常的に求められる意思決定や判断に対して直観や感性に頼ることなく、より論理的・客観的・総合的な判断を考えることができるようになることを目標とします。このような思考方法を身に付けることにより、自分の判断に自信が持て、積極的に社会の問題に関わろうとすることができるようになります。

【授業における到達目標】

様々な数学的な思考方法に取り組み、理解し、実際の生活の中の問題に生かすことができるようにすることをねらいとします。また、具体的な操作活動やグループワークを行い、その振り返りを協働で考えることを通して、自らの思考方法を磨くことをねらいとします。

【授業の内容】

- 第1週「わかる」ための数学的思考法
- 第2週「わかる」ために「抽象」を「具体」にする
- 第3週「わかる」ために関連を考える。(台形の求積公式から)
- 第4週「わかる」ための物差し作り「割合(プロポーシオン)」
- 第5週「わかる」ための物差し作り「割合(分数)」
- 第6週「わかる」ための物差し作り「割合(割引)」
- 第7週「わかる」ための物差し作り「関数(決まり発見)」
- 第8週「わかる」ための物差し作り「関数(決まり発展)」
- 第9週「わかる」ための物差し作り「統計(データの整理)」
- 第10週「わかる」ための物差し作り「統計(データから考える)」
- 第11週「わかる」ための物差し作り「場合の数(固定して考える)」
- 第12週「わかる」ための物差し作り「場合の数(立方体の展開図の種類)」
- 第13週「わかる」ための物差し作り「図を使って整理する」
- 第14週「わかる」ための物差し作り「図を使って考える」
- 第15週「わかる」ための物差しを使ってみよう

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の指導内容についての課題を予習すること。

(事前学修 週2時間)

【事後学修】各回の指導内容を復習し理解を深めること。

(事後学修 週2時間)

【テキスト・教材】

テキストと教材は授業の中で配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の課題30%、グループワーク30%、レポート40%等により評価する。レポートにはコメントを入れてフィードバックします。

【参考書】

- 丹羽宇一郎著『死ぬほど読書』(幻冬舎新書 2017年) 780円 佐藤オオキ『佐藤オオキのボツ本』(日経BP者 2016年) 1944円 松下佳代『<新しい能力>は教育を変えるか 学力・リテラシー・コンピテンシー』(ミネルバ書房 2010年) 4500円 茂木健一郎著『ひらめきの導火線』(PHP新書2008年) 680円 畑村洋太郎三著『畑村式「わかる」技術』(講談社現代新書 2005年) 700円 加藤昌治『考具』(阪急コミュニケーションズ 2003年) 1500円

【注意事項】

講義の内容を記録するノートを用意する事

数学的思考

「勘」から脱皮して「どう考えた?根拠は何?」に対応できる

高橋 桂子・畑農 鋭矢・角本 伸晃

1年～ 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

ビジネスに交渉や判断はつきものです。経営に直結する交渉や判断は、直感や感性といった主観に頼るのではなく、筋道を立てて物事を考えた客観的・説得的なものが求められます。これはスキルですから、ある程度、トレーニングによって習得することができます。具体的には、基礎的な計算力、図形問題の確認に始まり、パズル、地図や図表の読み取り、立体図形の作成・展開などを通して、数学的センスを養い、実際に活用する力をつけていきます。データや数字に対してアレルギーが少ない態度は、就活で大きなポイントになるはず。講義を通して仲間たちと一緒に数的センスを磨いていきましょう。なお、本講義は今年度新規開講科目です。皆さんの様子を見ながら講義内容・講義順序の変更もあります。

【授業における到達目標】

(1)数字を入れ込んだスマートな話が展開できる。(2)パズルや立体カードなどの作業を通して「お勉強」の世界から「真理の追究」という学問世界の疑似体験をすることができる。(3)二次元、三次元表から意味あるデータを読み解くことができる。(4)データや数字に対する苦手意識が低減する。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション(全体の説明)
- 第2回 計算力の確認、概算が出来る
- 第3回 図形問題の確認
- 第4回 パズルで論理的思考力を鍛える、ロジカルthinking
- 第5回 文章を地図にする、口頭で相手に伝える
- 第6回 図で説明する(深堀、比較、段取り、ピラミッド)
- 第7回 図で表現する、データを図表にする、図表を読み解く
- 第8回 立体カードを作ってみる
- 第9回 データ分析をマスターする入門篇(データの種類・入手・利用上の注意、データの見方・誤差、平均と代表値)
- 第10回 データ分析をマスターする応用篇(データのバラツキ・分布、散布図と相関関係、相関関係と因果関係、回帰分析とは?)
- 第11回 整数問題(公務員試験問題を題材に)
- 第12回 図形問題(公務員試験問題を題材に)
- 第13回 価格の持つマジック(行動経済学の紹介)
- 第14回 まとめ
- 第15回 解説と講評

※本講義は3人の講師で担当するオムニバス形式です(1回・11-15回:角本、2-8回:高橋、9-10回:畑農)。シラバス入稿時点では講義の曜限が確定していません。内容は上記のようですが、順番は変更になることもあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次回講義テーマに関して自習学修を行う(学修時間 週2時間)。【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する(学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識確認試験(試験70%)、平常点(授業への積極参加30%)から判断する。試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

世界の宗教

叢科 智恵

1年～ 前期・後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

宗教学的な視点から、「世界宗教」と言われているキリスト教、イスラム教、仏教を理解し、これらの宗教が現代社会においてどのように現れているかを考察する。

【授業における到達目標】

宗教学的な視点を身につけ、キリスト教、イスラム教、仏教といった「宗教」を背景にもつさまざまな文化現象・社会現象を理解し、考えるための基礎的な知識を習得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 宗教とは（1）
- 第3週 宗教とは（2）
- 第4週 キリスト教とは何か（1）
- 第5週 キリスト教とは何か（2）
- 第6週 キリスト教の伝播と多様性（1）
- 第7週 キリスト教の伝播と多様性（2）
- 第8週 イスラム教とは何か（1）
- 第9週 イスラム教とは何か（2）
- 第10週 現代におけるイスラム教（1）
- 第11週 現代におけるイスラム教（2）
- 第12週 仏教とは何か（1）
- 第13週 仏教とは何か（2）
- 第14週 仏教の伝播と多様性
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：次回の講義のより深い理解のために、前回講義の内容を配布資料、ノート等で復習する。

事後学修（週2時間）：講義で学んだことをもとに、テーマに関する文献を精読し、レポート執筆の準備を進める。

【テキスト・教材】

必要に応じて、授業内で資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法・基準：試験70%、レポート30%。

フィードバック：授業では毎回レスポンスシートを記入してもらい、次の授業の初めに前回のレスポンスシートへの応答という形でフィードバックを行う。

世界の美術 a

江戸時代美術にみる文化ネットワーク

池田 美美

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

江戸時代には交通・情報網が飛躍的に発達し、江戸・京都・大坂の三都を中心に、人・モノ・情報が活発に行き交いました。知識人たちの交流も盛んとなり、そこから新しい文化が次々と生み出されました。国内外の珍しい情報が手に入るようになったことは、画家たちの制作態度にも大きな影響を与えることになります。この授業では、こうした文化ネットワークの広がりを背景に、江戸時代に制作された美術作品を概観します。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深める力を修得します。また、鎖国下の日本において、江戸の画家たちがどのように西洋の情報を入手し、自身の作品に生かしていったかを見ていくことで、現代にもつながる国際的視野を養います。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 まずは狩野派から——探幽と画壇勢力地図
- 第3週 浮世絵界の寵児——喜多川歌麿
- 第4週 謎の絵師——写楽登場
- 第5週 江戸の文化プロデューサー——葛屋重三郎
- 第6週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第7週 京都へ行こう——広重と東海道五十三次
- 第8週 真を描く——北斎と富士信仰
- 第9週 幕末の奇想——歌川国芳
- 第10週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第11週 なにわの知の巨人——木村兼葭堂と伊藤若冲
- 第12週 かな書きの詩人——与謝蕪村
- 第13週 画家と旅——松平定信と谷文晁
- 第14週 異才の人——平賀源内と洋風画
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、基礎情報を確認しておいて下さい。授業の最後に配布するコメントカードについて、記載する内容を準備しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回配布するプリントで内容を復習し、授業内で提示する参考文献を次の授業までに読んでおいて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。参考文献は授業内で提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加・各授業内でのコメントカードの提出）30%の割合で評価します。コメントカードは次回授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

美術館での見学授業を2回実施します（土曜日または日曜日に行います）。実施時期については、展覧会の開催状況などにより、シラバスで示した週とは異なる場合があります。見学先および集合場所については授業中に説明します。展覧会の観覧料および往復の交通費は自己負担となります。

世界の美術 a

江戸時代美術にみる文化ネットワーク

池田 美美

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

江戸時代には交通・情報網が飛躍的に発達し、江戸・京都・大坂の三都を中心に、人・モノ・情報が活発に行き交いました。知識人たちの交流も盛んとなり、そこから新しい文化が次々と生み出されました。国内外の珍しい情報が手に入るようになったことは、画家たちの制作態度にも大きな影響を与えることになります。この授業では、こうした文化ネットワークの広がりを中心に、江戸時代に制作された美術作品を概観します。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深める力を修得します。また、鎖国下の日本において、江戸の画家たちがどのように西洋の情報を入手し、自身の作品に生かしていったかを見ていくことで、現代にもつながる国際的視野を養います。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 まずは狩野派から——探幽と画壇勢力地図
- 第3週 浮世絵界の寵児——喜多川歌麿
- 第4週 謎の絵師——写楽登場
- 第5週 江戸の文化プロデューサー——葛屋重三郎
- 第6週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第7週 京都へ行こう——広重と東海道五十三次
- 第8週 真を描く——北斎と富士信仰
- 第9週 幕末の奇想——歌川国芳
- 第10週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第11週 なにわの知の巨人——木村兼葭堂と伊藤若冲
- 第12週 かな書きの詩人——与謝蕪村
- 第13週 画家と旅——松平定信と谷文晁
- 第14週 異才の人——平賀源内と洋風画
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、基礎情報を確認しておいて下さい。授業の最後に配布するコメントカードについて、記載する内容を準備しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回配布するプリントで内容を復習し、授業内で提示する参考文献を次の授業までに読んでおいて下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。参考文献は授業内で提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加・各授業内でのコメントカードの提出）30%の割合で評価します。コメントカードは次回授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

美術館での見学授業を2回実施します（土曜日または日曜日に行います）。実施時期については、展覧会の開催状況などにより、シラバスで示した週とは異なる場合があります。見学先および集合場所については授業中に説明します。展覧会の観覧料および往復の交通費は自己負担となります。

世界の美術 b

建築芸術史

小倉 康之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この講義では、古代から現代にいたる西洋建築の歴史を通観し、建築芸術における「意味」と「かたち」の問題について考える。一般に、建築は抽象的な芸術とみなされ、意味内容の問題は見過ごされることが多い。しかし、神殿や教会堂、城郭、宮殿は、政治上あるいは宗教上の機能を持ち、象徴的な意味を担っていたと推察される。本講義では、まず、建築図像学の方法論に基づいて、建築の「失われた意味」を解説する。人類は四千年以上の長きにわたり、建築文化を築いてきた。エジプトのピラミッドや古代ギリシアの神殿、中世ヨーロッパの大聖堂など、それぞれの時代の記念碑とも言える建築は、アーチの形や装飾的細部によって、いつの時代のものかを判別することができる。ゴシック様式、ルネサンス様式、バロック様式といった表現形式の変遷をたどる「建築様式史」の方法論、これを第二の視点とする。以上、二つの方法論に基づいて西洋建築史の講義を行う。

【授業における到達目標】

1. 「建築様式史」および「建築図像学」の基礎的な知識と方法論を学び、西洋と日本の建築文化に対する洞察力を身につける。
2. 西洋および日本近代の建築に関する学術的興味を持ち、各自が調べ、考えた内容を文章化して他者に伝えることができる。

【授業の内容】

- 第1週 建築の見方1：建築の構造と工法
- 第2週 建築の見方2：建築図像学と様式史
- 第3週 西洋建築史1：古代オリエント、古代ギリシア
- 第4週 西洋建築史2：古代ローマ、ビザンティン
- 第5週 イスラーム建築の歴史
- 第6週 西洋建築史3：初期中世・ロマネスク建築
- 第7週 西洋建築史4：ゴシック建築
- 第8週 西洋建築史5：ルネサンス建築
- 第9週 西洋建築史6：バロック建築
- 第10週 西洋建築史7：ロココと新古典主義の建築
- 第11週 西洋建築史8：ゴシック復興・歴史主義と日本近代
- 第12週 西洋建築史9：アール・ヌーヴォーの建築
- 第13週 西洋建築史10：ウィーン分離派とバウハウス
- 第14週 西洋建築史11：表現主義とモダニズムの有機的建築
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：『西洋建築様式史』などを読み、建築名称や建築用語などの基礎知識を身につけておくこと。【学修時間：週1時間】

事後学修：毎回「課題プリント」を配布するので、次の授業までに記述式の問題2～3題を解いておくこと。【学修時間：週3時間】

【テキスト・教材】

教科書指定なし／プリント配付

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【課題】50% 【試験】50% 授業時に配付する課題を「課題の提出率×達成度」で評価し、50点満点で採点する。残り50点は論述式の試験による評価。持ち込み不可。課題等成績評価に関するフィードバックは授業時に口頭で行う。課題プリントには質問・意見等を記入する欄を設けるので積極的に活用すること。

【参考書】

日本建築学会編 『近代建築史図集』 彰国社、1976年
 熊倉洋介他著 『カラー版西洋建築様式史』 美術出版社、1995年
 ニコラウス・ペヴスナー 著、小林文次訳 『新版ヨーロッパ建築序説』 彰国社、1989年

【注意事項】

- 以下の建築の事前見学を推奨する。1. 旧岩崎邸 2. ニコライ堂
 3. 明治生命館 4. 自由学園明日館

世界の美術 b

建築芸術史

小倉 康之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この講義では、古代から現代にいたる西洋建築の歴史を通観し、建築芸術における「意味」と「かたち」の問題について考える。一般に、建築は抽象的な芸術とみなされ、意味内容の問題は見過ごされることが多い。しかし、神殿や教会堂、城郭、宮殿は、政治上あるいは宗教上の機能を持ち、象徴的な意味を担っていたと推察される。本講義では、まず、建築図像学の方法論に基づいて、建築の「失われた意味」を解説する。人類は四千年以上の長きにわたり、建築文化を築いてきた。エジプトのピラミッドや古代ギリシアの神殿、中世ヨーロッパの大聖堂など、それぞれの時代の記念碑とも言える建築は、アーチの形や装飾的細部によって、いつの時代のものかを判別することができる。ゴシック様式、ルネサンス様式、バロック様式といった表現形式の変遷をたどる「建築様式史」の方法論、これを第二の視点とする。以上、二つの方法論に基づいて西洋建築史の講義を行う。

【授業における到達目標】

1. 「建築様式史」および「建築図像学」の基礎的な知識と方法論を学び、西洋と日本の建築文化に対する洞察力を身につける。
2. 西洋および日本近代の建築に関する学術的興味を持ち、各自が調べ、考えた内容を文章化して他者に伝えることができる。

【授業の内容】

- 第1週 建築の見方1：建築の構造と工法
- 第2週 建築の見方2：建築図像学と様式史
- 第3週 西洋建築史1：古代オリエント、古代ギリシア
- 第4週 西洋建築史2：古代ローマ、ビザンティン
- 第5週 イスラーム建築の歴史
- 第6週 西洋建築史3：初期中世・ロマネスク建築
- 第7週 西洋建築史4：ゴシック建築
- 第8週 西洋建築史5：ルネサンス建築
- 第9週 西洋建築史6：バロック建築
- 第10週 西洋建築史7：ロココと新古典主義の建築
- 第11週 西洋建築史8：ゴシック復興・歴史主義と日本近代
- 第12週 西洋建築史9：アール・ヌーヴォーの建築
- 第13週 西洋建築史10：ウィーン分離派とバウハウス
- 第14週 西洋建築史11：表現主義とモダニズムの有機的建築
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：『西洋建築様式史』などを読み、建築名称や建築用語などの基礎知識を身につけておくこと。【学修時間：週1時間】
事後学修：毎回「課題プリント」を配布するので、次の授業までに記述式の問題2～3題を解いておくこと。【学修時間：週3時間】

【テキスト・教材】

教科書指定なし／プリント配付

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【課題】50% 【試験】50% 授業時に配付する課題を「課題の提出率×達成度」で評価し、50点満点で採点する。残り50点は論述式の試験による評価。持ち込み不可。課題等成績評価に関するフィードバックは授業時に口頭で行う。課題プリントには質問・意見等を記入する欄を設けるので積極的に活用すること。

【参考書】

日本建築学会編 『近代建築史図集』 彰国社、1976年
熊倉洋介他著 『カラー版西洋建築様式史』 美術出版社、1995年
ニコラウス・ペヴスナー 著、小林文次訳 『新版ヨーロッパ建築序説』 彰国社、1989年

【注意事項】

以下の建築の事前見学を推奨する。1. 旧岩崎邸 2. ニコライ堂
3. 明治生命館 4. 自由学園明日館

正しい文章を書く a

文章表現の基礎を身につける

瀧口 翠

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

あるテーマをめぐって意見や考察を記す機会は、在学中も社会に出てからも多いことでしょう。自分の意見を正確に伝える文章を書くために、具体的に留意すべきことや構成の仕方を学び、伝わる文章を書く方法を身につけることを目指します。

【授業における到達目標】

正しく伝わる文を書けるようになる。

論説文のスタイルを身に付ける。

学生が修得すべき「研鑽力」について、日常で接する言葉についても鋭い感覚で観察し、探究する習慣をつける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 作文
- 第3週 話し言葉と書き言葉
- 第4週 正しく書く（1）悪文訂正
- 第5週 正しく書く（2）悪文紹介
- 第6週 簡潔に書く（1）悪文訂正
- 第7週 簡潔に書く（2）作文
- 第8週 明確に書く（1）悪文訂正
- 第9週 明確に書く（2）作文
- 第10週 様々な文章
- 第11週 コラムの相互批評
- 第12週 テーマ型小論文
- 第13週 小論文の相互批評
- 第14週 論理的な文章
- 第15週 まとめ

※第4週から第9週は、提示する文例の問題点をグループで話し合った後、配布プリントにより各自練習します。

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評および添削によって進めます。

【事前・事後学修】

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください（学修時間 週2時間）。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の内容と授業への参加態度（70%）、最終レポート（30%）によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

- 石原千秋著『大学生のための論文執筆法』（ちくま新書）
- 小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

【注意事項】

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

正しい文章を書く b

正しく読み、書く

瀧口 翠

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

あるテーマをめぐって意見や考察を記す機会は、在学中も社会に出てからも多いことでしょう。文章から正しく他者の意見を読み取って、それに対する自分の考えを明確に述べるために留意すべきことを学び、論理的な文章を書く方法を身につけることを目指します。

【授業における到達目標】

論文の読み方を身につける。

他者の意見に対する自分の意見を論理的に述べられるようになる。学生が修得すべき「協働力」について、他者の考えを正しく把握し尊重しつつ、問題提起する力をつける。「美の探求」について、物事を探求することにより、新たな知を想像しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 論文・レポートの基本的な構成
- 第3週 テーマ型小論文を読む
- 第4週 テーマ型小論文を書く
- 第5週 課題文型小論文を読む
- 第6週 課題文型小論文を書く
- 第7週 要約
- 第8週 引用の方法
- 第9週 対立する意見を読む
- 第10週 対立する意見に見解を述べる
- 第11週 論文の相互評価
- 第12週 校正
- 第13週 読書案内
- 第14週 作文の相互評価
- 第15週 まとめ

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評及び添削によって進めます。

【事前・事後学修】

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください（学修時間 週2時間）。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の内容と授業への参加態度（70%）、最終レポート（30%）によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

- 石原千秋著『大学生のための論文執筆法』（ちくま新書）
- 小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

【注意事項】

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

生化学 a

生命を化学の目で捉える

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

生化学aでは栄養の意義と栄養素の代謝および生理学的意義を理解する上で重要な生体成分や食品成分について、生物学と化学の目を通して分子レベルで理解を深める事に目標を置く。本講義は幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

【授業における到達目標】

1. 細胞の基本構造を理解し、細胞小器官や生体膜の役割を通して情報伝達の基本を説明できるようになる。
2. 生体を構成する基本分子（タンパク質・糖質・脂質）の基本構造とその生体機能について説明できるようになる。
3. ゲノムの遺伝情報がどのような仕組みで伝わり、タンパク質に翻訳されるかを説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1週 細胞の構造1（細胞の基本構造と細胞小器官）
- 第2週 細胞の構造2（細胞骨格と細胞運動）
- 第3週 細胞の構造3（生体膜と情報伝達の基本）
- 第4週 糖質の構造と機能1（糖質の構造）
- 第5週 糖質の構造と機能2（糖質の分類）
- 第6週 脂質の構造と機能1（単純脂質と複合脂質）
- 第7週 脂質の構造と機能2（誘導脂質）
- 第8週 タンパク質の構造と機能1（アミノ酸の種類と性質）
- 第9週 タンパク質の構造と機能2（生理活性ペプチド）
- 第10週 タンパク質の構造と機能3（タンパク質の分類と性質）
- 第11週 酵素の特性と機能（酵素反応とその調節）
- 第12週 ビタミンとミネラル（酵素の活性化機構）
- 第13週 核酸の構造と機能（DNA・RNA・遺伝子）
- 第14週 遺伝子と遺伝情報の基本（複製・転写・翻訳）
- 第15週 新しい遺伝情報（エピジェネティクス）

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド：生化学（第3版）[羊土社、2017、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容の理解度を確認するための小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストは次の講義の初めに解説します。

【参考書】

- ◎『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）
- ◎『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

生化学 a

生命を化学の目で捉える

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

生化学aでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な生体成分や食品成分について、生物学と化学の目を通して分子レベルで理解を深める事に目標を置く。本講義は管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムに従い、身近な話題を交えて講義を進める。

【授業における到達目標】

1. 細胞の基本構造を理解し、細胞小器官や生体膜の役割を通して情報伝達の基本を説明できるようになる。
2. 生体を構成する基本分子（タンパク質・糖質・脂質）の基本構造とその生体機能について説明できるようになる。
3. ゲノムの遺伝情報がどのような仕組みで伝わり、タンパク質に翻訳されるかを説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創出し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1週 細胞の構造1（細胞の基本構造と細胞小器官）
- 第2週 細胞の構造2（細胞骨格と細胞運動）
- 第3週 細胞の構造3（生体膜と情報伝達の基本）
- 第4週 糖質の構造と機能1（糖質の構造）
- 第5週 糖質の構造と機能2（糖質の分類）
- 第6週 脂質の構造と機能1（単純脂質と複合脂質）
- 第7週 脂質の構造と機能2（誘導脂質）
- 第8週 タンパク質の構造と機能1（アミノ酸の種類と性質）
- 第9週 タンパク質の構造と機能2（生理活性ペプチド）
- 第10週 タンパク質の構造と機能3（タンパク質の分類と性質）
- 第11週 酵素の特性と機能（酵素反応とその調節）
- 第12週 ビタミンとミネラル（酵素の活性化機構）
- 第13週 核酸の構造と機能（DNA・RNA・遺伝子）
- 第14週 遺伝子と遺伝情報の基本（複製・転写・翻訳）
- 第15週 新しい遺伝情報（エピジェネティクス）

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に国家試験の過去問をもとにした小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『生化学（第3版）』[羊土社、2017、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容に関連した国家試験の過去問題をもとにした小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。各回の小テストは次の講義の初めに解説します。

【参考書】

- ◎サクセス管理栄養士講座『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち I（第3版）』（第一出版）2,000円（税別）
- ◎『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）
- ◎『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

生化学 a

山崎 壮

2年 前期 2単位

©：研鑽力

田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』(羊土社 2016年)、2,800円+税 [平成30年度「基礎栄養学」教科書]

【注意事項】

第2回授業から、responを使って出席確認と自己評価票の提出を行うので、manaba courseの説明を参考にしてスマホにresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生には出席票(印刷物)を用意します。

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時(出席者と同時タイミング)に提出すること。

【授業のテーマ】

この授業では次の2つの分野を取り上げ、生体で起こっている現象の概要を分子レベル、物質レベルで理解することをめざします。

- (1) 栄養生化学：栄養素・生体成分の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)およびその調節メカニズム
- (2) 遺伝情報とその発現調節：DNA分子の構造と機能および遺伝情報からタンパク質合成までの過程とその調節メカニズム

【授業における到達目標】

関連科目の学修において基礎生化学の情報が必要となったときに、教科書の中から関連情報を探し出して記載されている事項を確認・理解できるレベルの知識を修得することをめざします。

【授業の内容】

★かっこ内の章番号は、教科書の該当部分を示します。

- 第1週 酵素 (第5章)
- 第2週 代謝の概要 (第12章、第13章)
糖質の代謝1 吸収、解糖系 (第9章1~4)
- 第3週 糖質の代謝2 クエン酸回路と電子伝達系 (第9章5~6)
- 第4週 糖質の代謝3 グルコース以外の糖の代謝と機能、糖新生 (第9章7~11)
- 第5週 脂質の代謝1 脂質の吸収と体内動態 (第10章7)
- 第6週 脂質の代謝2 脂肪酸の分解と合成 (第10章1~2)
- 第7週 脂質の代謝3 脂肪、複合脂質、コレステロールの合成と代謝 (第10章6、8~10)
- 第8週 アミノ酸の代謝1 タンパク質の分解、アミノ酸の代謝 (第11章1~3)
- 第9週 アミノ酸の代謝2 アミノ酸から合成される生理活性物質 (第11章4~5)
- 第10週 核酸、ヌクレオチドの代謝 (第14章)
- 第11週 DNAとゲノム (第15章1、8、6)
DNAの複製と修復 (第15章1~2、5)
- 第12週 遺伝子発現：転写と翻訳 (第15章2~3)
- 第13週 遺伝子発現の調節 (第15章4、7)
- 第14週 生体内の情報伝達システム (第16章)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

この教科書の第1章~第4章、1年次の「基礎化学」の講義資料、「基礎栄養学」の教科書の関連部分を読んでおいてください。(学修時間 週1時間)

毎回、講義内容に関する宿題(問題形式)を出すので、次回授業時に提出すること。宿題の未提出と期限後提出は減点します。授業プリントだけでなく、教科書の該当部分を読んで知識を整理してください。宿題返却時には解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して、復習すること。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

- (1) 授業プリント：毎回、要点と注目すべき事項をまとめた講義プリントを配布して授業を進めます。詳しい内容と全体的知識は、各自が教科書を読んで理解してください。
- (2) 教科書：菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』(羊土社 2017年) 2,800円+税
なお、再履修者は、2年次履修時の教科書を使用してください。授業と試験で不利益を被ることはありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出(30%)、期末試験(70%)
毎回の授業では、自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

【参考書】

生化学b

生命を化学の目で捉える

中村 彰男

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

生化学bでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な臓器・器官機能の調節機構について、生化学aで学修した知識を基盤として三大栄養素の代謝と生体機能調節機構を分子レベルで学ぶ。本講義は幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

【授業における到達目標】

1. タンパク質、糖質、脂質の三大栄養素の代謝の概要が説明できるようになる。
2. 遺伝子発現とその制御について説明ができるようになる。
3. 生体の恒常性、免疫機構について分子レベルで説明ができるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1週 糖質の代謝1 (糖代謝の概要と解糖系)
- 第2週 糖質の代謝2 (クエン酸回路と電子伝達系)
- 第3週 糖質の代謝3 (糖の貯蔵と相互変換経路)
- 第4週 糖質の代謝4 (血糖値の調節と糖尿病)
- 第5週 脂質の代謝1 (脂肪酸の生合成と分解)
- 第6週 脂質の代謝2 (不飽和脂肪酸とリン脂質の代謝)
- 第7週 脂質の代謝3 (脂質の輸送と蓄積)
- 第8週 脂質の代謝4 (コレステロールと脂質代謝異常)
- 第9週 アミノ酸代謝1 (アミノ酸の分解経路)
- 第10週 アミノ酸代謝2 (アミノ酸から作られる生体分子)
- 第11週 アミノ酸代謝3 (アミノ酸の代謝異常)
- 第12週 生体エネルギーと中間代謝 (三大栄養素の相互経路)
- 第13週 核酸代謝と遺伝情報の仕組み (遺伝子発現とその制御)
- 第14週 細胞内情報伝達 (栄養シグナルとホメオスタシス)
- 第15週 生体防御機構 (免疫機構と疾患)

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。(学修時間 2 時間/週)

【事後学修】 授業終了時に小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。(学修時間 2 時間/週)

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド：生化学（第3版）[羊土社、2017、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容の理解度を確認するための小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストは次の講義の初めに解説します。

【参考書】

- ◎『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）
- ◎『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

生化学b

生命を化学の目で捉える

中村 彰男

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

生化学bでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な臓器・器官機能の調節機構について、生化学aで学修した知識を基盤として三大栄養素の代謝と生体機能調節機構を分子レベルで学ぶ。本講義は管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムに従い、身近な話題を交えて講義を進める。

【授業における到達目標】

1. タンパク質、糖質、脂質の三大栄養素の代謝の概要が説明できるようになる。
2. 遺伝子発現とその制御について説明ができるようになる。
3. ホメオスタシス、生体防御機構について分子レベルで説明ができるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創出し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1週 糖質の代謝1 (糖代謝の概要と解糖系)
- 第2週 糖質の代謝2 (クエン酸回路と電子伝達系)
- 第3週 糖質の代謝3 (糖の貯蔵と相互変換経路)
- 第4週 糖質の代謝4 (血糖値の調節と糖尿病)
- 第5週 脂質の代謝1 (脂肪酸の生合成と分解)
- 第6週 脂質の代謝2 (不飽和脂肪酸とリン脂質の代謝)
- 第7週 脂質の代謝3 (脂質の輸送と蓄積)
- 第8週 脂質の代謝4 (コレステロールと脂質代謝異常)
- 第9週 アミノ酸代謝1 (アミノ酸の分解経路)
- 第10週 アミノ酸代謝2 (アミノ酸から作られる生体分子)
- 第11週 アミノ酸代謝3 (アミノ酸の代謝異常)
- 第12週 生体エネルギーと中間代謝 (三大栄養素の相互経路)
- 第13週 核酸代謝と遺伝情報の仕組み (遺伝子発現とその制御)
- 第14週 細胞内情報伝達 (栄養シグナルとホメオスタシス)
- 第15週 生体防御機構 (免疫機構と疾患)

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、ノートに専門用語などを良く理解しておく。理解できなかった部分の質問を各自ノートにまとめておく。(学修時間 2 時間/週)

【事後学修】 授業終了時に国家試験の過去問をもとにした小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。その日の講義内容をノートにまとめるとともに教科書の章末問題を各自で解き復習を行う。(学修時間 2 時間/週)

【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『生化学(第3版)』[羊土社、2017、¥2,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー)30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容に関連した、国家試験の過去問をもとにした小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストは次の講義の初めに解説します。

【参考書】

- ◎サクセス管理栄養士講座『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちI(第3版)』(第一出版)2,000円(税別)
- ◎『栄養科学シリーズ 栄養生化学』(講談社サイエンティフィク)
- ◎『はじめての生化学 第2版』(化学同人)

【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、事前にアポを取って研究室に質問に来ることを推奨します。

生化学実験

中村 彰男

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

生化学aおよび基礎栄養学で学習した栄養素の生化学的性質について、食品からのタンパク質・核酸・糖質を単離・精製する実験を通して括学することで、観察力や正確さを養いながら、思考力や判断力を高める。また、最終回に行うプレゼンテーションでは、栄養情報リテラシーを実践するために、決められたテーマについて情報収集を行い、パワーポイントを用いた発表を行ってまいります。

【授業における到達目標】

1. タンパク質の構造や性質について説明できるようになる。
2. 核酸の単離や遺伝子の解析手法を説明できるようになる。
3. カフェインの性質や生体機能を説明できるようになる。
4. ビタミンの性質や生体機能を説明できるようになる。
5. グリコーゲンの生化学的な性質を説明できるようになる。

生化学実験を通じて、観察力を養いながら、思考力や判断力を高め【行動力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
 - ① 安全に実験を行うための注意事項
 - ② 実験の進め方とレポートに関する注意事項
 - ③ 蛋白質の性質とSDS電気泳動の原理
- 第2回 筋肉からのミオグロビンの精製
 - ① 蛋白質の抽出・硫酸分画
 - ② 疎水性クロマトグラフィー
 - ③ ゲル濾過クロマトグラフィー
- 第3回 蛋白質の定量と分離
 - ① Bradford法による蛋白質の定量
 - ② SDS-PAGEによる蛋白質の分離
 - ③ 蛋白質の染色と可視化
- 第4回 ゲノムの抽出と遺伝子の増幅
 - ① 野菜からのゲノムの抽出
 - ② 口腔粘膜からのゲノムの抽出
 - ③ アルコール代謝関連酵素の遺伝子のPCR法による増幅
- 第5回 ゲノム多型とアルコール代謝物質のDNA検査
 - ① PCR産物の精製
 - ② アガロース核酸電気泳動
 - ③ 遺伝子多型解析
- 第6回 にんじんジュースからのβカロテンの抽出
 - ① ジュースからのβカロテンの単離
 - ② 分光光度計を用いたβカロテンの定量
- 第7回 紅茶からのカフェインの単離と分析
 - ① 紅茶からのカフェインの単離
 - ② 昇華法による緑茶もしくは珈琲のカフェインの再結晶
 - ③ 薄層クロマトグラフィーを用いたカフェインの分析
- 第8回 肝臓グリコーゲンの分離と定量
 - ① 肝臓からのグリコーゲンの抽出
 - ② グリコーゲンの加水分解と糖の定量
- 第9回 実習内容に関するプレゼンテーション演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 事前に次回の実験に関するプリントを配布します。実験に使用する器具や試薬に関して十分に予習をして、実験ノートにまとめること。実験プロトコールに関しては実験の流れについてイメージトレーニングを行ってください。(学修時間 2 時間/週)

【事後学修】 毎回の実験に関して、決められた期日までにレポートを作成し提出してください(学修時間 2 時間/週)

【テキスト・教材】

毎回、実験に関するプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度40%、レポート60%で評価します。 毎回の実験の中で、実験テーマに関しての原理などについての解説を行います。

【参考書】

ガイダンスで紹介します。

【注意事項】

必ず実験用の白衣と上履きを着用すること。実験を安全に行うために初回のガイダンスで詳細を説明します。

生涯学習概論

近藤 牧子

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

私たちは、学校を卒業し大人になっても、社会のこと、自分自身のこと、職業技能などを、仲間と共に学び続ける機会を必要とします。

地域には学校以外に、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学等の公開講座など、さまざまな学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しています。

こうした活動が広がるきっかけになったのは、1960年代半ばに登場した生涯教育という理念でした。生涯教育は、すべての人が生涯にわたって学び、自分らしい人生を作ることができる、そのような社会と教育システムを目指して提唱されました。

この授業では、生涯学習の実際や提唱された背景、成人の学習理論、学習を支える法制度などについての基本を学びます。

なぜ学校以外の学習の場が必要なのか、人々はそこで何を学んでいるのか、授業を通して理解を深めてください。また、生涯学習施設という観点から見た図書館・司書の役割についても考えられるようになることを目指します。

これからのグローバル社会における、権利としての学習の意義などについても考えていきます。

【授業における到達目標】

社会教育、生涯学習・教育、成人教育の理解を深める。人が生涯にわたって学び続ける意義を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションー授業概要と評価方法
- 第2週 教育の種類ー学校教育、家庭教育、社会教育
- 第3週 教育の法令と生涯学習・教育の意義
- 第4週 ライフサイクルと生涯教育ーおとなの学びについて
- 第5週 参加型学習とワークショップ
- 第6週 女性の教育と生涯教育ージェンダーワークショップ
- 第7週 男女共同参画社会と生涯教育
- 第8週 学習権とはー世界の生涯教育の潮流から
- 第9週 学習権の保障と生涯教育ー夜間中学校と基礎教育
- 第10週 社会教育実践調査分析ーちらしからみる実践
- 第11週 生涯教育施設と社会教育施設
- 第12週 生涯学習支援に関わる人々ー司書の役割
- 第13週 図書館ボランティアの役割
- 第14週 市民活動と生涯教育
- 第15週 学習のまとめー生涯教育とは

【事前・事後学修】

事前学修（週1時間）：次の授業のための配布資料を読んでおくことや、情報収集などの予習をすること

事後学修（週3時間）：レビュー等の課題に取り組むこと

【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業への参加、提出物等）で判断する。

（配分基準：定期試験70%、平常点30%）

最終授業にて、試験問題の解説を行うことでフィードバックする。

【参考書】

- 田中雅文ほか『テキスト 生涯学習』（学文社、2015年）
- 香川正弘、鈴木真理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房、2016年）
- 湯本浩之、西あい編『グローバル時代の「開発」を考える』（明石書店、2017年）

【注意事項】

グループワークやディスカッションなどを授業の内容に即して行う。

生涯学習概論

—学習を重ねることの意味を探る—

岡田 純一

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

本講義では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解することを主なねらいとする。

この際、とくに下に掲げた講義概要における16項目に触れ、幅広い領域である生涯教育・生涯学習におけるさまざまな視点からの総合的な把握を図るとともに、教育学の視点から学芸員や司書として現場で役立つ知識や考え方を身に付けることを中心に捉えたい。

加えて、講義においてほぼ毎回行うことに、「自己をみつめなおす作業」がある。具体的に述べればB5用紙1枚の分量で20分程度の時間を使い、テーマに沿った内容で自らを捉えなおし、それを書き留めていくことを行う。これは、教育とくに、生涯教育・生涯学習の場ではきわめて重要な点のひとつとされる自主性や、自己主導的学習とも深い関連があるため、これを履修者自らが身に付けることを目的とし、実施するものである。

【授業における到達目標】

1. 生涯学習に関する基本的事象についての理解を深める。
2. 多様な考え方を通して、広い視野と深い洞察力を身につける。
3. 得られた知識から、さらにそれを掘り下げようとする態度を身につける。

【授業の内容】

指針

1. 生涯学習の起源と当時の情勢
2. 生涯学習の原理と必要性
3. 社会、文化の発展と生涯学習の関係
4. わが国の生涯学習の変遷
5. 発達段階・発達課題と生涯学習
6. 生涯学習態度形成
7. 生涯学習関連施設
8. 資格と生涯学習
9. メディアと生涯学習（広報、学習情報提供、学習相談）
10. ボランティアと生涯学習
11. 障害のある人と生涯学習
12. 学校と生涯学習の関係
13. 企業と生涯学習の関係
14. まちづくりと生涯学習
15. 評価と生涯学習
16. 今後の生涯学習の発展方向

内容

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、課題の提示、内容、すすめ方、評価方法）
- 第2回 自己をみつめなおす作業（以下「自己」と略）1、生涯学習の起源と当時の情勢（講義）1
- 第3回 自己2、生涯学習の起源と当時の情勢2
- 第4回 自己3、生涯学習の原理と必要性1
- 第5回 自己4、生涯学習の原理と必要性2
- 第6回 自己5、社会、文化の発展と生涯学習の関係
- 第7回 自己6、わが国の生涯学習の変遷
- 第8回 自己7、発達段階・発達課題と生涯学習、生涯学習態度形成
- 第9回 自己8、生涯学習関連施設、資格と生涯学習
- 第10回 自己9、メディアと生涯学習（広報、学習情報提供、学習相談）
- 第11回 自己10、ボランティアと生涯学習、障害のある人と生涯学習
- 第12回 自己11、学校と生涯学習の関係、企業と生涯学習の関係、まちづくりと生涯学習
- 第13回 自己12、評価と生涯学習
- 第14回 自己13、今後の生涯学習の発展方向1
- 第15回 今後の生涯学習の発展方向2

【事前・事後学修】

事前学修としては、テキストを読むこと。また、生涯学習に関する本を読み理解を深めること。事後学修としては、講義後わからない箇所を放置せず、徹底した復習を心がけること。加えて関連する本を読むこと。（事前学修1時間30分、事後学修2時間30分）

【テキスト・教材】

岡田純一：評価の探究 これからの生涯学習社会へ向けて[樹村房、2011、¥1,890(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

基本的に定期考査により評価する。但し、出席については厳しく扱う（学生は勉学が本業であり、講義を大切に受講することが必要と考える。また、講義に出席しなければ定期考査の問題を解くことが困難となる）。このため、1回欠席する毎に-10点とする。講義中の態度が著しく不良と判断する場合、減点することがある。この他レポート課題を設ける。レポートについては20点満点で評価し、これを定期考査の結果に算入する。総合点が60点を超えない場合は不可とする。授業時に実施した用紙は返却する。

【参考書】

テキスト以外の図書については講義内で指示する。

【注意事項】

授業計画については、履修者の学習深度により、順序等を変更することがある。

生涯学習概論

生涯にわたる学びについて考える

近藤 牧子

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

私たちは、学校を卒業し大人になっても、社会のこと、自分自身のこと、職業技能などを、仲間と共に学び続ける機会を必要とします。

地域には学校以外に、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学等の公開講座など、さまざまな学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しています。

こうした活動が広がるきっかけになったのは、1960年代半ばに登場した生涯教育という理念でした。生涯教育は、すべての人が生涯にわたって学び、自分らしい人生を作ることができる、そのような社会と教育システムを目指して提唱されました。

この授業では、生涯学習の実際や提唱された背景、成人の学習理論、学習を支える法制度などについての基本を学びます。

なぜ学校以外の学習の場が必要なのか、人々はそこで何を学んでいるのか、授業を通して理解を深めてください。また、生涯学習施設という観点から見た図書館・司書の役割についても考えられるようになることを目指します。

これからのグローバル社会における、権利としての学習の意義などについても考えていきます。

【授業における到達目標】

社会教育、生涯学習・教育、成人教育の理解を深める。人が生涯にわたって学び続ける意義を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションー授業概要と評価方法
- 第2週 教育の種類ー学校教育、家庭教育、社会教育
- 第3週 教育の法令と生涯学習・教育の意義
- 第4週 ライフサイクルと生涯教育ーおとなの学びについて
- 第5週 参加型学習とワークショップ
- 第6週 女性の教育と生涯教育ージェンダーワークショップ
- 第7週 男女共同参画社会と生涯教育
- 第8週 学習権とはー世界の生涯教育の潮流から
- 第9週 学習権の保障と生涯教育ー夜間中学校と基礎教育
- 第10週 社会教育実践調査分析ーちらしからみる実践
- 第11週 生涯教育施設と社会教育施設
- 第12週 生涯学習支援に関わる人々ー司書の役割
- 第13週 図書館ボランティアの役割
- 第14週 市民活動と生涯教育
- 第15週 学習のまとめー生涯教育とは

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週1時間）：次の授業のための配布資料を読んでおくことや、情報収集などの予習をすること

事後学修（学修時間 週3時間）：レビュー等の課題に取り組むこと

【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績と平常点（授業への参加、提出物等）で判断する。

（配分基準：定期試験70%、平常点30%）

最終授業にて、試験問題の解説を行うことでフィードバックする。

【参考書】

- 田中雅文ほか『テキスト 生涯学習』（学文社、2015年）
- 香川正弘、鈴木真理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房、2016年）
- 湯本浩之、西あい編『グローバル時代の「開発」を考える』（明石書店、2017年）

【注意事項】

グループワークやディスカッションなどを授業の内容に即して行う。

生涯心理学

心理の基礎科目_発達心理学

竹内 美香

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

人を「生涯にわたり発達し、変化し続ける存在」としてとらえ、それぞれの年齢・時期に出遭う課題を心身の特性や健康や社会文化的役割の視点で学ぶ。主体的に自身の人生を考える態度を養うことを科目の目標とする。

【授業における到達目標】

1. 人の生涯にわたる発達の移行について概説できる。
2. 自己と他者の中で獲得する認知機能、感情・社会性など「そだち」について概説できる。
3. 定型と非定型発達についての考え方を概説できる。
4. 高齢者の心理社会的課題と支援について概説できる。
5. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、他者と協働して課題解決する価値を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 科目の目標と生涯発達の概要
- 第2週 「胚」から誕生までの「赤ちゃん」
- 第3週 認知機能の発達及び感情・社会性の獲得過程
- 第4週 幼児期の特性と能力、「遊び」の世界
- 第5週 自己と他者の関係の在り方 愛着と心の健康
- 第6週 児童期・思春期の発達と仲間
- 第7週 現代社会の中の思春期、そして「環境と安全」
- 第8週 青年期の発達課題と危機
- 第9週 青年期の自我同一性獲得と心の健康
- 第10週 成人期の自立、仕事とキャリアと家族
- 第11週 社会性とコミュニケーションの力
- 第12週 老年期の特性、危機と自己の集大成
- 第13週 定型発達と非定型発達の概要
- 第14週 発達の過程で出遭う課題・障害・支援
- 第15週 まとめ わたしの「生涯発達」

【事前・事後学修】

【事前学修】「こども・青年・成人と仕事・高齢者に関する出来事や自身の経験」について観察し考察してくる。毎回のワークシートに記述する。自分の言葉で書けるようにしておく。

【事後学修】小レポート課題の提出を課すことがある。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような取り組みを求める。

【テキスト・教材】

適宜、資料やワークシートを準備して配布する。映像資料も用意する。授業の状況次第で、ゲスト講師を招聘する回を設けることがある。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終レポート50%、平常点すなわち提出物と授業内のワークシート等でみる取り組み 50%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについての解説する。最終レポート後は、manabaの授業評価コメントの場を活用する。

【参考書】

伊東・竹内・鈴木 編著「食べる・育てる心理学」川島書店(2010年)

【注意事項】

講義で取り扱う発達の事象は、受講者自身が過去現在問わず直面しているはずである。「自我関与」の意識で取り入れて欲しい。受講者と教員の双方向的な「やりとり」が授業コンテンツを方向づける。授業内のワークシートは大切な媒体である。しっかり書いて欲しい。

生涯発達心理学 a

塚原 拓馬

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

教育・保育の実践において必要な子どもの発達に関する代表的な基礎理論と発達を捉える視点及びその意義について学習する。ここでは、乳幼児から児童期における発達の各領域の特性や各発達段階の心理的特性について解説し、実践のための考え方について学習していく。また、教育・保育実践における発達に即した援助や教育と養護の一体性について理解を深め、対人相互性や環境の意味について理解を深めていく。

【授業における到達目標】

本講義では生涯発達心理学の視点から主に乳幼児、児童の心身の発達、学び（学習）の過程および各発達段階における心理的特性を学び、理解することを目標とする。また、生涯発達の視点から幼児期、児童期の心理的特性や発達の主領域（言語、認知、運動、社会性など）について理解し、学習指導の基礎となる基本的理論や教育・保育観や実践における発達の理解の意義について学習することを到達目標とする。そして、人間発達に対する広い視野と洞察力を身につける志向性を持つことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 生涯発達における心身の発達と発達の理解の意義
- 第2回 人間発達における心身の発達過程と環境
- 第3回 発達における内的、外的要因の相互作用
- 第4回 幼児、児童及び生徒の発達の各領域の理解（身体運動機能の発達）
- 第5回 幼児、児童及び生徒の発達の各領域の理解（情動の発達）
- 第6回 幼児、児童及び生徒の発達の各領域の理解（言語の発達）
- 第7回 幼児、児童及び生徒の理解（認知の発達）
- 第8回 幼児、児童及び生徒の理解（社会性の発達）
- 第9回 子どもの学び（学習）に関する代表的理論の理解
- 第10回 子どもの学び（学習）に関する過程と特性
- 第11回 発達特性と集団形成との関連
- 第12回 学習の動機づけと学習評価の在り方
- 第13回 発達に即した学びの援助の在り方
- 第14回 学びを支える教育保育の在り方
- 第15回 教育保育実践における発達理解の意義

【事前・事後学修】

【事前学修】 各回テーマの小レポートの作成に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】 各回テーマの小レポートの復習に取り組むこと（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

無藤隆・高橋恵子・田島信元：発達心理学入門Ⅱ 青年・成人・老人[東京大学出版会、1990、¥2,200(税抜)]
鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ：生涯発達心理学 認知・対人関係・自己から読み解く[有斐閣アルマ、2016、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80%）、レポート（20%）を総合的に評価する。
レポートについては、記述された内容（質問や感想）に対して授業内でフィードバックする予定である。

【参考書】

幼稚園教育要領（最新版） / 小学校学習指導要領（最新版） / 小学校学習指導要領解説（最新版） / 中央教育審議会答申（最新版） / 保育所保育指針（最新版） / 保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領（最新版）

【注意事項】

本講座と関連している「生涯発達心理学b」も必ず履修すること。

生涯発達心理学 b

塚原 拓馬

1年 後期 2単位

◎：研鑽力、協働力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

教育・保育の実践において必要な子どもの発達に関する代表的な基礎理論と発達を捉える視点及びその意義について学習する。ここでは、主に児童期から青年期における発達の各領域の特性と学びの過程及び人格の形成について解説し、実践のための考え方について学習していく。また、生涯発達（ライフコース）における各発達段階の発達課題と初期経験の重要性及びこころの健康などについても概説し、指導・援助の在り方について学習していく。

【授業における到達目標】

本授業では生涯発達心理学の視点から幼児・児童および青年（生徒）についての心身の発達、学び（学習）の過程及び各発達段階における心理的特性を理解することを目指す。また、生涯発達の視点から主に児童期から青年期、成人期、老年期に渡る一生涯の心理的特性や発達の各領域、人格の形成について理解し、教育指導および援助の基礎となる基本的理論や発達の理解の意義について学習することを到達目標とする。そして、人間発達に対する広い視野と洞察力を身につける志向性を持つことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1回 生涯発達心理学における心身の発達と発達の理解の意義
- 第2回 幼児期から児童期にかけての心理社会的発達の特性
- 第3回 児童期から青年期にかけての心理社会的発達の特性
- 第4回 人間発達における成育環境とその影響
- 第5回 子どものこころの健康に関わる問題
- 第6回 発達の各領域の理解：思考と言語
- 第7回 発達の各領域の理解：学習と動機づけ
- 第8回 発達の各領域の理解：社会性と自立
- 第9回 児童期、青年期の特性理解と学びの支援
- 第10回 青年期から成人期への発達の移行
- 第11回 成人期（前期）の心理社会的発達の特性
- 第12回 成人期（後期）の心理社会的発達と課題
- 第13回 生涯発達心理学における老年期の特性理解
- 第14回 生涯発達心理学における老年期の発達と適応
- 第15回 人間発達の理解と意義（まとめと振り返り）

【事前・事後学修】

【事前学修】 各回テーマの小レポートの作成に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】 各回テーマの小レポートの復習に取り組むこと（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

無藤隆・高橋恵子・田島信元：発達心理学入門Ⅱ 青年・成人・老人[東京大学出版会、1990、¥2,200(税抜)]
鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ：生涯発達心理学 認知・対人関係・自己から読み解く[有斐閣アルマ、2016、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80%）、レポート（20%）を総合的に評価する。
レポートについては、記述された内容（質問や感想）に対して授業内でフィードバックする予定である。

【参考書】

幼稚園教育要領（最新版） / 小学校学習指導要領（最新版） / 小学校学習指導要領解説（最新版） / 中央教育審議会答申（最新版） / 保育所保育指針（最新版） / 保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領（最新版）

【注意事項】

本講座と関連している「生涯発達心理学a」も必ず履修すること。

生涯発達心理学演習 a

塚原 拓馬

2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

幼児、児童教育における基礎理論としての心身の発達及び学習過程についての理解を深め、障がいのある幼児・児童についての理解及びその対応を習得することを目標とする。また、保育・教育における心理学と発達の各領域における障がいのある子どもについて、グループワークを通して理解を深める。その際、質的な分析の方法の一種である「参与観察」についても解説する。

【授業における到達目標】

幼児、児童教育における発達の問題の理解とその支援の在り方について学修することを目標とします。そして、そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、心理的支援の場面において役割を理解した協力（連携）関係により支援を行う力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

【授業の内容】

- 第1回：保育・教育における発達心理学
 第2回：子どもの発達と個人差
 第3回：子どもの発達における環境との関わり
 （参与観察に向けて①親子事例など）
 第4回：仲間関係の形成とつまずき
 第5回：教師（保育者）と子どもとの関係
 第6回：メタ認知の発達と自己統制能力
 第7回：家族・集団における遊びと社会性の発達
 第8回：学校・地域における生活と遊び
 第9回：基本的生活習慣の形成と発達支援
 第10回：障がいのある幼児・児童の理解と対応
 （参与観察に向けて②）
 第11回：学童期への発達支援（就学・学習支援）：参与観察①
 第12回：発達支援のネットワークシステム：参与観察②
 特別講義など
 第13回：地域や専門機関との連携と発達支援：参与観察③
 第14回：NPO・ボランティアとの連携と発達支援：参与観察④
 第15回：現代社会における養育者の心理（ニーズ）とその理解

【事前・事後学修】

【事前学修】各回テーマの発表レジメおよび小レポートの作成に取り組むこと（学修時間1時間）

【事後学修】各回テーマの発表レジメおよび小レポートの復習に取り組むこと（学修時間1時間）

【テキスト・教材】

無藤 隆・島崎真知代：保育の心理学Ⅰ[北大路書房、2011、¥1,700（税抜）]

無藤 隆・島崎真知代：保育の心理学Ⅱ[北大路書房、2011、¥1,700（税抜）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（40%）、発表レジメ・プレゼンテーション（40%）および発言点（20%）を総合的に評価する。レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表レジメ・プレゼンについては、各回ごとにテーマの解説を交えてフィードバックしていく。

【参考書】

・「DSM-IV-TR 精神疾患の診断と統計マニュアル」医学書院 2002 ¥3800+税

【注意事項】

本講座と関連する「生涯発達心理学演習b」も必ず履修すること。校外実習、外部講師を招いての事例検討なども行う。

生涯発達心理学演習 b

塚原 拓馬

2年 後期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

人間のさまざまな生涯について、生涯発達心理学に関する先行研究から考察し、心理的発達変化を理解する。また、生涯発達心理学とその周辺領域におけるテーマについて、ライフヒストリー分析・新聞事例分析などを行い、グループ・ワークを通して質的研究の方法と生涯発達心理学の知見に対する理解を深める。

【授業における到達目標】

生涯発達の視点から、児童期、青年期、成人期、老年期の発達の問題の理解と支援の在り方について学修することを達成目標とします。そして、そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、心理的支援の場面において役割を理解した協力（連携）関係により支援を行う力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

【授業の内容】

- 第1回：生涯発達心理学の視点による研究
 （ライフヒストリー分析・事例分析に向けて①）
 第2回：生涯発達心理学の研究手法
 （ライフヒストリー分析・事例分析に向けて②）
 第3回：児童期の研究知見を考察するA（学校生活のつまずき）
 第4回：児童期の研究知見を考察するB（家族臨床心理学）
 第5回：障がいのある子ども（児童期）の研究知見を考察する
 （ライフヒストリー分析・事例分析、観察実習など①）
 第6回：グループ・ディスカッション①（児童期）
 （ライフヒストリー分析・新聞事例分析を用いて②）
 第7回：青年期の研究知見を考察するC（自我同一性の確立）
 第8回：青年期の研究知見を考察するD（青年期の心理的疾患）
 第9回：障がいのある子ども（青年期）の研究知見を考察する
 （ライフヒストリー分析・事例分析など③）
 第10回：グループ・ディスカッション②（青年期）
 （ライフヒストリー分析・事例分析を用いて④）
 第11回：成人期の研究知見を考察するE（産業ストレスと適応）
 第12回：老年期の研究知見を考察するF（老年期の精神疾患）
 第13回：障がいのある成人・老年期の研究知見を考察する
 （ライフヒストリー分析・事例分析、特別講義⑤）
 第14回：グループ・ディスカッション③（成人期・老年期）
 （ライフヒストリー分析・事例分析を用いて⑥）
 第15回：特別講義：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回テーマの発表レジメおよび小レポートの作成に取り組むこと（学修時間1時間）

【事後学修】各回テーマの発表レジメおよび小レポートの復習に取り組むこと（学修時間1時間）

【テキスト・教材】

無藤 隆・島崎真知代：保育の心理学Ⅰ[北大路書房、2011、¥1,700（税抜）]

無藤 隆・島崎真知代：保育の心理学Ⅱ[北大路書房、2011、¥1,700（税抜）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（40%）、発表レジメ・プレゼンテーション（40%）および発言点（20%）を総合的に評価する。

レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表レジメ・プレゼンについては、各回ごとにテーマの解説を交えてフィードバックしていく。

【参考書】

・「DSM-IV-TR 精神疾患の診断と統計マニュアル」医学書院 ¥3800+税

【注意事項】

本講座と関連する「生涯発達心理学演習a」も必ず履修すること。

生活

生活の中での子どもの学び

渡辺 敏・松田 純子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

幼児の遊びの中での学びについて考え、理解する。また、幼児教育から小学校低学年の教育への連携について理解し、その中での生活科の役割について考える。自分、社会、自然に関する教材の取り扱い方を具体的な体験を通して考え、その指導法についての理解を深める。また、本講義では公園や動物園での校外学習を通して、実際の指導の在り方を考えるようにする。

【授業における到達目標】

日本の生活の中での学びを取り入れた保育を諸外国と比べ、比較することでその良さについて理解を深めます。また、実際の幼児との活動を見学や計画、その内容の検討を協働で行い、考えることで自身の保育に関する見方、考え方を磨きます。自分が幼児と共にどのように生活の中に学びを見出すかを考えることで、保育者としての学び方を身に付けます。

【授業の内容】

- 第1週 幼児の生活の中での学び
- 第2週 幼児の学校での自然観察とその指導
- 第3週 幼児の公園での遊び（公園の見学）
- 第4週 幼児の公園での遊び（指導の計画）
- 第5週 幼児の公園での遊び（指導の考察）
- 第6週 幼児の動物園の見学の方法
- 第7週 幼児の動物園の見学の実際
- 第8週 幼児の動物園の見学の指導計画の作成と検討
- 第9週 幼児の動物園の見学を生かした遊びの計画
- 第10週 実践動物園の準備 子どもが楽しめる遊びを考える
- 第11週 実践動物園の準備 遊びの材料を考える
- 第12週 実践動物園の準備 遊び方やルールについて考える
- 第13週 実践動物園の実際 幼児を招待して実際に遊ぶ
- 第14週 実践動物園の振り返り
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

幼児の生活の中での学びの姿を考えること（学修時間 週2時間）

【事後学修】

自分が指導者として幼児の学びを指導する時の内容についてよく考え、文章で表すこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

講義の中で紹介する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業後のレポート30%、課題レポート30%、グループワーク30%、動物園の見学を生かした遊びの取り組み10%等により評価する。授業後のレポート、課題レポートにはコメントを入れてフィードバックします。

【参考書】

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」（平成29年 東洋館出版）134円+税

【注意事項】

具体的な体験をすることが多いので動きやすい服装で参加すること

生活と法・社会制度

数野 昌三

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

社会生活という範疇では、最も身近な家族社会を中心とし、法的視点から近年における最高裁判所判決例などをも踏まえ検討していく。これに加え、社会制度、具体的には社会福祉および児童福祉に関する法制度についても言及する。

【授業における到達目標】

家族に関して法的視点からとらえることにより、家族間の法的紛争を未然に予防することができるようになり、研鑽力、協働力が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 社会制度としての法の役割
- 第2週 条文の見方・読み方
- 第3週 家族法とはどのような法律か
- 第4週 婚姻①－婚約・内縁－
- 第5週 婚姻②－成立・効果－
- 第6週 離婚
- 第7週 実子
- 第8週 養子
- 第9週 法定相続①－相続制度の趣旨・法定相続の形態－
- 第10週 法定相続②－法定相続人の廃除・相続欠格－
- 第11週 法定相続③－法定相続分－
- 第12週 法定相続④－特別受益者の相続分・寄与分－
- 第13週 遺言・遺贈・遺留分
- 第14週 社会福祉・児童福祉に関する法制度
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で予習し、それに加え、小テストに備え準備学修しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で復習し、それに加え、返却された小テストに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】とくに指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】必ず各自六法を持参すること。

池田真朗他編『法学六法'19』（信山社）本体1,000円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・ 期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業内容に関する質問等授業態度）10%
- ・ 総括において受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

- ・ 池田真朗『民法への招待』【第5版】（税務経理協会 2018年）2,400円＋税
- ・ 我妻榮・良永和隆・遠藤浩補訂『民法』【第10版】（劉草書房 2018年）2,300円＋税

生活の科学

大川 知子・白尾 美佳・橋 弘志・榎 究・水野 いずみ

1年 後期 2単位

◎：美の探究、研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、人間の生活にとって不可欠な衣食住について、生活科学部他学科の先生方から、ご専門領域について科学的な視点からご講義頂きます。そして、身近な生活のなかに原理や法則を見出す重要性を実感し、大学での勉強内容を身のまわりの事象と関連付けて考える姿勢を養います。そのため、まず、生活科学と各領域の概要について概観します。次に、学科専門科目における心理学領域・保育学領域の位置づけについて、概要を示します。これらをふまえ、まず、環境デザインの視座から、生活の科学的理解とはなにかを考え、生活の営みを主体的に構築することと大学での4年間の学びについて考えます。上記を踏まえ被服学領域・食物学領域・住居学領域について、「人間の生活と衣食住」「衣食住の基礎知識」「ライフステージと衣食住」「衣食住に関する生活の課題と今後の展望」等の4点からご講義頂きます。最後に自分の関心のある領域についてのレポートを書き、検討します。

【授業における到達目標】

この講義では「衣・食・住」の視点から広く生活文化について学ぶことで「国際的視野」と「美の探究」の態度を身に付けます。また、それぞれの講義ではグループワークやディスカッションを通して学生同士が共に学び合い「研鑽力」「協働力」を育てます。そして実際の生活の中で、どのように「衣・食・住」の学びを生かした活動ができるかを考えながら学ぶことで「行動力」を身に付けます。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「生活」を「科学」する～環境デザインの視座から
- 第3回 被服学領域1 衣服が果たす役割
- 第4回 被服学領域2 衣服はどのように作られるのか
(1) 商品企画
- 第5回 被服学領域3 衣服はどのように作られるのか
(2) 生産
- 第6回 被服学領域4 これからの衣服の在り方
- 第7回 食物学領域1 人間の生活と食
- 第8回 食物学領域2 食の基礎知識（食品の分類と種類、栄養）
- 第9回 食物学領域3 ライフステージと食
- 第10回 食物学領域4 食に関する課題と今後の展望
- 第11回 住居学領域1 住まいの役割
- 第12回 住居学領域2 住まいの形態
- 第13回 住居学領域3 住まいと生活
- 第14回 住居学領域4 住まいと文化
- 第15回 まとめ（レポート・検討）

【事前・事後学修】

あらかじめ各回の授業内容について、自分なりに考えてみましょう。（学修時間 週2時間）授業後も、各回の授業内容について、自分なりに振り返ってみましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講状況および授業での学習への取り組み（90%）、レポート（10%）で評価する。学習への取り組みについては授業者から講義の中でフィードバックを行う。

【参考書】

各教員の指示に従うこと。

【注意事項】

各回の講義で学んだ内容について、自分の身のまわりの生活、また他の授業と関連させて考えてみましょう。

生活デザイン演習

—デザイン演習—

金井 宏水

1・2年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

デザインは形や色のことと捉えられがちだが、実は形や色は最後の最後で、それまでに考えることがたくさんある。従来の製品をよく観察することから問題点を発見し、それを解決するというプロセスがデザインであり、そのプロセスを実践してみるのがこの授業のテーマである。

身近にあって何気なく使っている「モノ」をデザインという視点から観察し、より良いものにするために考え、新しいものを創造するというデザイナーの仕事の一部を体験する。

【授業における到達目標】

創作演習を通して観察力や表現力を高めると同時に、自分で考え、モノを創り出す行為を体験することによって創造力を養う。ひいては「道具」や「モノ」をデザインという視点から再認識することで、文化的意識レベルを向上させることを目標とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探求」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

【授業の内容】

- 第1週：生活の中にあるデザインについて（講義）、授業の説明
- 第2週：造形とフォルム、視覚化の手法（講義）、スケッチの練習
- 第3週：立体造形演習-1 スチレンボードの加工方法と練習
- 第4週：立体造形演習-2 スチレンボードで立方体と円柱を創る
- 第5週：立体造形演習-3 容器を創る（考えてスケッチを描く）
- 第6週：立体造形演習-4 スチレンボードで容器を創る
- 第7週：作品の完成と発表、評価、次のテーマ説明
- 第8週：デザイン演習-1 ポップアップカードの制作練習（動きを

体験）

- 第9週：デザイン演習-2 ポップアップカードを試作して検討する
- 第10週：デザイン演習-3 ポップアップカードを創作する
- 第11週：作品の完成と発表、評価、次のテーマ説明
- 第12週：創造性演習-1 すごろくを考えて概要をまとめる
- 第13週：創造性演習-2 すごろくを考えて試作する
- 第14週：創造性演習-3 すごろくを創作する
- 第15週：作品の完成と発表、評価

【事前・事後学修】

・事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと（テーマごとに約180分）。調べたり考えたりすることはなるべく時間外に行い、授業時間では実験や創作に集中できるようにする。

・事後学修：課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外で進め、期限に間に合わせる。復習のための宿題もある（週120分程度）。

【テキスト・教材】

テキストは無し

学生が用意する道具

（スケッチブック、鉛筆、カッター、はさみ、のり、スチレンボード、スチのり、色紙等）

教材費（500円前後）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ペーパーテストは行わない。

提出作品の評価・・・・・・・・・・75点

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・・25点

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

【注意事項】

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

生活デザイン入門

小野瀬 裕子

1年 後期 2単位 2時限連続

○：国際的視野・美の探求・研鑽力・行動力・協働力

【授業のテーマ】

現代の生活は、情報化、国際化、少子高齢化、男女共同参画社会へといった社会変化のなかで、IT化、文化間交流、世代間交流、ワーク・ライフ・バランスといった具体的対応を求められている。このような社会の変化が家庭に及ぼす影響や問題点を整理し、生活をデザインするために必要な人的・物的資源、法律の変遷や行政の施策の知識を習得する。

現代は個人の多様な生き方が尊重されてきているが、社会や地域で孤立せずに自己実現を図るためには主体的に生活環境を整え、地域社会の形成に参画していく必要がある。ライフステージごとの生活課題を具体的にに取り上げ、疑似家族グループにおける対話により、情報を多角的に判断しながら問題解決の方策を考え、ライフデザインに必要な態度や技能を習得する。

【授業における到達目標】

- ・家族と地域社会の現状と課題を諸科学から理解する。
- ・一生を生涯発達の視点でとらえ、ライフステージごとの特徴と課題を理解し、法律や社会施策等の知識を持ち、人的物的資源を調整して、生活を主体的にデザインすることができる。
- ・人間の生涯にわたる発達とその生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 諸科学からみた日本の家族の現状と課題
- 第3回 諸科学からみた日本の地域生活の現状と課題
- 第4回 共生社会におけるライフデザイン
- 第5回 生涯発達とライフステージの特徴
- 第6回 家庭と地域生活のロールプレイ
- 第7回 海外の家族と家族支援
- 第8回 親世代へのインタビュー発表
- 第9回 祖父母世代へのインタビュー発表
- 第10回 疑似家族の形成と家族のライフスタイル
- 第11回 生活デザイン・スライド作成（20-30歳代）
- 第12回 生活デザイン・スライド作成（40-50歳代）
- 第13回 生活デザイン・スライド作成（60歳代以上）
- 第14回 生活デザインのスライドのまとめ
- 第15回 生活デザインの発表と総括

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

講義内容に関するプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

異世代インタビューのレポート（30%）、生活デザインのスライド（70%）。

【参考書】

文部科学省検定済高等学校家庭科教科書『新家庭総合』、大修館書店、2016他、家庭科指導書。

男女共同参画統計研究所、『男女共同参画統計データブック』、ぎょうせい、2015。

モートン・ドイッチ、『新版 紛争管理論』、日本加除出版、2018。

生活デザイン論

視覚伝達を中心とした日常および社会環境のデザイン

寺本 美奈子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

私たちは情報の多くを視覚から得ています。その情報を整理し、視覚情報に変換し整えるのがデザインの役割です。現在まで、伝える内容や目的にかなった手法が先人たちにより検討され、あらたな視覚表現として定着してきました。そのために、情報の発信者は、人々の興味を引き、正しく伝え、記憶に残るビジュアルの制作につとめています。そして、流行やコミュニティの慣習を取り入れるなど様々な工夫をし、円滑なビジュアルコミュニケーションを成立させています。この授業では、こうした視覚伝達を目的としたデザイン表現を中心に、国内外の様々な事例を通して、視覚を通したデザインに対する理解を深めます。

【授業における到達目標】

事例を通じ、ビジュアルコミュニケーションの手法が理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 身の回りのビジュアルコミュニケーション
- 第2回 マーク（識別する）
- 第3回 ピクトグラム（絵で伝える）
- 第4回 ダイアグラム（図表の試み）
- 第5回 文字のデザイン（美しく読みやすく）
- 第6回 ポスター（目を引く工夫）
- 第7回 書籍（コンテンツを包む）
- 第8回 エディトリアルデザイン（情報を整理する）
- 第9回 小型印刷物のデザイン
- 第10回 パッケージデザイン（機能）
- 第11回 パッケージデザイン（広告としての包装）
- 第12回 映像の周辺
- 第13回 ユニバーサルデザイン
- 第14回 公共のデザイン
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間程度）：身の回りにある事例収集
事後学修（週2時間程度）：配布資料を中心とした授業内容の復習

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントシートの提出）（40%）
期末レポート（60%）。
コメントシートの内容は、必要に応じ、適宜授業内で触れていきます。

生活デザイン論

現代デザインとライフスタイル

合原 勝之

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

私たちの暮らしは、産業が生み出した多くの商品に支えられています。これらは、何らかの意図や価値をもちます。そしてデザインは、産業と人々の暮らしの間に存在します。産業のもつ技術ノウハウを、人々の暮らしに役立つ「カタチ」にして、人々に「伝える」ことが、デザインの役割です。デザインは、単なる装飾ではなく、「生活価値の創造」を目指した活動です。企業や商品のブランドイメージは、人々のライフスタイルに大きな影響を与えます。それは、提供される商品への信頼・共感であったり、ブランドへのあこがれの場合もあるでしょう。ブランドの働きを理解することは、現代企業の理解にもつながります。現代社会は、様々な問題を抱えています。この問題を解決するために新しいデザインの考え方が必要とされています。これらの新しい考え方は、現代に生きる生活者の意識向上に基づいています。本講義では、産業を通して提供される様々なモノやコトの意図や価値を、デザインという視点から分かりやすく解説します。これは、現代の企業活動や、新しい生活者像を理解する助けにもなるはずで

【授業における到達目標】

企業のWEBサイトや商品から、その企業の特徴や行動を読み取る力を身につけることを到達目標とし、「研鑽力」と「行動力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 デザインとライフスタイルの系譜
- 第3週 現代デザインと企業活動
- 第4週 ブランドとは何か1：ブランドの機能
- 第5週 ブランドとは何か2：ブランドの価値
- 第6週 ブランドとは何か3：ブランド経験
- 第7週 ブランドとは何か4：ブランディングの手法
- 第8週 生活者の視点とブランド戦略の視点
- 第9週 現代デザインと生活者の意義向上
- 第10週 新しいデザインの視点1：ユニバーサルデザイン
- 第11週 新しいデザインの視点2：経験デザイン
- 第12週 新しいデザインの視点3：サステナブルデザイン
- 第13週 新しいデザインの視点4：ネット社会
- 第14週 もう一つのデザインの視点：「ビジョナリー」
- 第15週 後半のまとめと期末レポート

【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から広くデザインやブランドに関心をもって、WEBサイトなどを通して、それらが伝えようとするメッセージを理解するようにして下さい（週2時間）。

【事後学修】授業内容は、広範囲に及びますから、各回の要点をまとめて下さい（週2時間）。

【テキスト・教材】

必要な資料は、授業毎に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な姿勢）40%、テーマ毎の小レポート40%、中間および期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

【注意事項】

授業では、毎回「小レポート」を提出してもらいます。受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

生活学原論

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

【授業における到達目標】

- ・地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。
- ・日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。
- ・家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前・下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後・日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ・エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

【事前・事後学修】

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。（学修時間 週2時間）

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に活かす。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行います。

【参考書】

講義にて紹介。

生活学原論

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

【授業における到達目標】

- ・地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。
- ・日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。
- ・家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前・下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後・日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ・エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

【事前・事後学修】

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。（学修時間 週2時間）

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に活かす。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行います。

【参考書】

講義にて紹介。

生活学原論

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

【授業における到達目標】

- ・地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。
- ・日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。
- ・家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前・下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後・日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ・エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

【事前・事後学修】

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。（学修時間 週2時間）

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に活かす。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行います。

【参考書】

講義にて紹介。

生活環境の科学

山崎 和彦

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

先ず生命の起源および人類の進化について論じる。次に、生活環境に関わるいろいろな要素を取り上げ、人類との関わり、近年の研究例、技術的課題等について論じる。

【授業における到達目標】

本科目の学修を通じて、広い視野と深い洞察力を身につける。また、多様性を受容し、多角的な視点から世界を眺める態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 生命の起源
- 第2週 人類の歴史
- 第3週 温熱環境
- 第4週 空気について
- 第5週 光環境
- 第6週 色環境
- 第7週 音環境
- 第8週 衣服
- 第9週 住まい
- 第10週 入浴
- 第11週 睡眠環境
- 第12週 環境汚染
- 第13週 都市
- 第14週 宇宙
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修については、週あたり、各々2時間以上を充てるようにする。

【テキスト・教材】

資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、共通科目用の掲示板において、エラーが多かった設問についての解説、成績の分布、講義を通じて感じたこと等を掲示する。またマナバに掲載された学生による改善すべき点、不満等に対しては、マナバ上で回答し、次回に活かす。

【参考書】

適宜示す。

生活環境の科学

君塚 芳輝

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

生きものや生態系の理解には複数の回答があることが当たり前と考えられています。渋谷キャンパスで学ぶ皆さんにも、自然や生きもののも様な視点や発想を理解してもらいたいと願って授業を進めます。

【授業における到達目標】

数学や化学では解答が一通りの場合が多いのですが、この科目では多様な視点で見ることができるようになる自己の研鑽力を身に付け、柔軟な発想で見極めることができるようになるのが目標です。

【授業の内容】

1. 雨水を利用する - 1 雨水を活用する意義
2. 雨水を利用する - 2 家庭や学校で容器に貯める
3. 雨水を利用する - 3 地下浸出水を川に流す
4. 自然保護の基本 - 1 鳥の巣箱はなぜいけないか
5. 自然保護の基本 - 2 ドングリ銀行はなぜ破綻した
6. 自然保護の基本 - 3 外来種と国内移殖種の被害
7. 自然保護の基本 - 4 在来種回復のための努力
8. 身の周りの自然を守る - 1 道路で動物を守る
9. 身の周りの自然を守る - 2 橋やトンネルで避ける
10. 身の周りの自然を守る - 3 道路に入れない対策
11. 身の周りの自然を守る - 4 光害を防ぐ努力
12. 身の周りの自然を守る - 5 影響を緩和するために
13. 看板は情報のエッセンス - 1 正しく理解させる
14. 看板は情報のエッセンス - 2 誤字脱字のユーモア
15. 振り返りとまとめ

【事前・事後学修】

事前と事後には各120分程度の予習と復習を自宅や図書館で必ず行なって講義内容の理解を深めてください。不明の点は口頭やヒアリングシートで質問してください。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。特定の書籍は使いません。プリントは必ず毎週お持ちください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

2 - 3回のレポート(90%)と毎回のヒアリングシート(10%)で評価します。レポートはできるだけ返却します。課外活動への参加や資料提供には些少ですが加点します。

【参考書】

章の末尾に参考文献欄を設けますので、図書館で参照してください。

【注意事項】

人の迷惑となる私語は厳しく注意します。質問や意見は手を挙げてお願いします。前の週に休んだ方は、始まる前にプリントを取りに来てください。

生活環境科学

牛腸 ヒロミ・塚崎 舞

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

総論として、身近な生活環境の中での視覚、聴覚、嗅覚、味覚、温度感覚の五感と環境について解説し、各論として衣住環境と大気環境、水環境について論じ、生活廃棄物に関する情報についても学びます。

生活環境の現状を認識し、ホットな情報を解説しつつ、快適な生活環境を保持するために必要なことを考えます。

【授業における到達目標】

衣環境、身の周りの環境、住環境、地域環境、地球環境と、身近な環境から地球規模の環境一特に空気、水を中心に上げ、歴史的変遷と現状を理解します。研鑽力、行動力を育みます。

【授業の内容】

1. 人間と環境
2. 環境中における
3. における分類と測定法
4. における機能
5. 悪臭防止法
6. 衣環境と快適性
7. 室内の空気環境
8. 室内環境の温熱評価
9. 地球温暖化とオゾン層の破壊
10. 酸性雨と黄砂
11. 水資源とその利用
12. 人の暮らしと水質汚濁
13. 安全で良質な水の確保
14. 生活廃棄物の処理方法
15. 廃棄物と生活環境

【事前・事後学修】

事前学修としては、毎日、1時間程度は新聞に目を通し、環境問題関係の記事を読んでレポートしておいて下さい。

事後学修としては、1時間程度を使って、授業で扱われたテーマに関して、自分の考えをまとめておいて下さい。

【テキスト・教材】

中島利誠編著『生活環境論』（光生館 2008年）2400円
環境省『環境白書』

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、レポート30%、受講態度10%

授業の中で講評します。

【参考書】

適宜紹介

【注意事項】

欠席した時に出された課題であっても提出しないと、レポートは0点として採点されます。

生活環境学セミナー

専任教員全員

3年 通年 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

セミナー（ゼミ・ゼミナール）とは、大学における少人数教育の形式の一つであり、討論や勉強会を通じて学生が相互に学び合う場である。その課程を経ることにより、2年次までに培ってきた基礎力に加え、より専門的な内容に踏み込んだ知識・スキルを身に付けることを目標とする。

【授業における到達目標】

ゼミ活動を通じて協働力を向上し、研鑽力を養成する。

【授業の内容】

授業の内容は各研究室によって異なるが、以下のような活動が含まれる。

- ・論文読解およびその内容発表
- ・各自が設定したテーマについての調査・分析・発表
- ・常磐祭展示の企画、プレゼンテーション、実施
- ・セミナーでの活動をまとめたポートフォリオの作成

その他、ゼミ合宿等の課外活動、展示会や見学会への参加によって、見聞や親睦を深めることもある。

【事前・事後学修】

各研究室において適宜指示する。各研究室活動の準備・成果発表などの活動に対して、事前および事後学修の時間としておよそ60時間必要である。

【テキスト・教材】

各研究室において適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に臨む態度、発表内容、成果物などを総合的に判定する。各研究室における提出物や成果物の省察は、各研究室からフィードバックされます。

【参考書】

各研究室において適宜指示する。

【注意事項】

2年次における「生活環境学演習」において研究室紹介がある。所属する研究室を決める参考として欲しい。所属以外の研究室における活動の興味のある場合には、授業以外の時間に当該教員と相談するとよい。

生活環境学演習

専任教員全員

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

各研究室の専門領域を把握することにより、生活環境学科の内容をより深く理解し、大学生生活の到達目標を見出すことを目的とする。少人数で行う演習であるため、学生同士はもちろんのこと、各教員、および助教・助手との面識を深める機会となることも目的としている。

【授業における到達目標】

少人数クラスでゼミ活動を予行的に体験することで、協働力を向上し、研鑽力を養成することを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
 第2週～第11週 各研究室における演習
- 1 アパレル管理研究室
 - 2 アパレル企画造形研究室
 - 3 材料科学研究室
 - 4 ファッションビジネス研究室
 - 5 環境デザイン研究室
 - 6 空間デザイン研究室
 - 7 建築デザイン研究室
 - 8 生理人類学研究室
 - 9 人間工学研究室
 - 10 プロダクトデザイン研究室
- 第12週 総合演習
 第13週 今後の専門性についての考察
 第14週 今後の専門性についての演習
 第15週 総括

【事前・事後学修】

前回の授業の復習をし、次回の授業については各自図書館やインターネットなどを利用して調べておくこと。各ゼミ回りを行って、興味のあることなど調べ学修をしたり、質問等においておよそ60時間程度の事前と事後の学修時間が必要です。

【テキスト・教材】

各教員が必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習への取り組みの態度（80%）と課題（20%）で総合的に評価します。細かい内容は、各ゼミで指導されます。ゼミ内での発表会などを積極的に行ってください。提出・成果物の講評やフィードバックは各研究室から行われます。

【参考書】

各教員が必要に応じて提示します。

【注意事項】

それぞれの研究室の特徴、教員の指導方法などをよく理解した上で、自分の方向性を見極め、残りの学生生活の主軸となる研究室を選択すること。

なお、すべての研究室の演習に参加することが重要であり、遅刻・欠席は厳禁である。

生活環境基礎 a

—理解をデザインする—

模 究

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

(1) 大学での学びの礎となる数学的な考え方について学ぶ
 SPI的な基礎的なものから始め、その後、生活環境学科で扱う数学に取り組む。

(2) 情報の収集と整理の仕方について学ぶ
 レポート作成や文章構成に役立つ情報の収集と整理の仕方を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・現在より論理的な判断を下せるようになること。その論理的判断の礎となるデータ収集と解析のあり方の基礎を身に付ける。
 - ・専門科目に含まれる数学に予め取り組み、その内容を理解する。
 - ・情報を収集して解析し、その結果を論理的な文章としてまとめる力を養い、大学での学びで活用できるようになる。
- これらのことにより、現状を正しく把握し行動する力、多角的な視点から分析する力を養い、継続的に探求する力を身に付ける。

【授業の内容】

<大学で使う数学>

- 第1講 数学的な考え方 その1
 第2講 数学的な考え方 その2
 第3講 割合 その1
 第4講 割合 その2
 第5講 割合 その3
 第6講 三角比
 第7講 指数と対数 その1
 第8講 指数と対数 その2
 第9講 これまでの復習
- <情報収集と整理>
- 第10講 情報収集
 第11講 発見のための整理法
 第12講 論理的な考え方
 第13講 レポートの書き方
 第14講 文章の書き方
 第15講 総括

【事前・事後学修】

<大学で使う数学>においては、manabaでの出題に回答することが事前学修となる。次回の授業で復習するが、個人でも復習することで知識の定着を図って欲しい。

<情報収集と整理>においては、各回内容が変わるため、授業中に指示する。図書館、インターネット等を利用した情報収集と、それらを図示したり文章化したりする課題が提出される。

(学修時間 週4時間)

【テキスト・教材】

授業中に使用するプリントを冊子として配布する。
 manabaを利用して、Excel等のファイルを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

<成績評価の方法> manabaでの小テスト提出 10%、授業中テスト 60%、提出物30%で評価する。

<成績評価の基準> 小テストは内容を伴った提出の回数、授業中テストはその得点、提出物は授業で解説するフォーマットを活かし設問の趣旨に対応した適切な内容であること等を基準とする。

<フィードバック> 各回の小テストで正答率が低かった設問について、次回授業開始時に解説する。

【参考書】

今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』（学芸出版社）

【注意事項】

- ・コンピューターを使用する。普段から、コンピューターを使用して、使用法に習熟しておくことが望まれる。
- ・Team Learning（数人でTeamを作り、教え合う）を実施する。

生活環境基礎 b

盛川 浩志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

生活環境学科において、一級建築士、一級衣料管理士の受験資格に関連する講義を理解するためには、数学・物理・化学などの基礎知識が不可欠となります。本講義では、高校時にこれらの理数系科目を履修していない学生にも理解できるように、数学・物理・化学の基礎となる必要事項を解説し、さらに演習課題を行うことによりその理解を深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

身近な問題を解決するために、数学を道具として用いるという考え方を身につけ、問題を深く洞察するための基礎となる力を習得することを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 方程式の基礎（関数とグラフ）
- 第2週 指数と対数
- 第3週 統計の基礎1（量的データの扱い）
- 第4週 統計の基礎2（質的データの扱い）
- 第5週 ベクトル
- 第6週 力のつりあい
- 第7週 物体の運動
- 第8週 中間試験
- 第9週 復習と理解度確認
- 第10週 物質の性質
- 第11週 熱と分子運動
- 第12週 微分
- 第13週 積分
- 第14週 身近な物理・化学現象
- 第15週 全体の総括

【事前・事後学修】

【事前学修（週2時間相当）】

高校までに習った数学・物理・化学に関して、毎回の講義を受ける前に当該箇所を予習しておくことで理解が深まります。

【事後学修（週2時間相当）】

講義資料として毎講義でプリントを配布しますので、講義の内容を復習してください。

【テキスト・教材】

講義毎に資料をプリントで配布します。また、学習支援システムにて電子版も配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、中間テスト、講義内演習等30%で評価します。演習や課題については、随時講義内で講評によるフィードバックを行い、今後の学習に対する理解の一助となるようにします。

【参考書】

物理や化学の基礎知識を理解するためには、現象を具体的なイメージとして捉えることが重要です。比較的読み易いもので、数式を多用せずに物理・化学現象を分かり易く丁寧に説明している書籍として以下のものを挙げます。

◆山本明利、左巻健男：新しい高校物理の教科書、講談社、2006.2、1,350円

◆左巻健男：新しい高校化学の教科書、講談社、2006.1、1,404円

【注意事項】

本講義の実践・応用編として、特に数学的なものの考え方や理論的思考、具体的なデータの処理方法などは他の演習科目で取り上げています。本科目と同時に、他の生活環境基礎を履修することが望ましいです。

生活環境基礎 c

牛腸 ヒロミ・塚崎 舞

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

自然科学系実験の基礎知識について学びます。さらに、測定データの処理とその意味するところを理解し、表計算ソフト”エクセル”を使って、図表にする方法を学びます。また、文献の検索方法、見方、利用の仕方などを学び、自然科学の実験レポートを書けるようになります。

【授業における到達目標】

自然科学の実験の道具や道具の取り扱い方、実験値の意味を理解し、実験値の正しい整理が出来るようになる。表計算ソフトエクセルを使って、図表が描けるようになる。

研鑽力を磨くためのツールとする。

【授業の内容】

1. 授業の概要
2. 実験に対する注意、器具や装置について
3. ガラス器具の取り扱い方
4. 試薬の取り扱い方
5. 機器、装置の取り扱い方
6. 単位と換算
7. 有効数字と丸め方
8. 誤差、精度、正確さとは
9. 測定値群を表現する
10. 測定値群を数式で表現する
11. データ間の関係
12. 表計算ソフトを使いこなす（図表を作成する）
13. 文献検索について
14. 実験レポートの書き方
15. レポートの評価

【事前・事後学修】

毎回の授業の前に配布したプリントまたはテキストの当該箇所を読んで疑問点を抽出しておいて下さい。

授業後は、疑問点の解消を確認して、出題された練習問題を解いておいて下さい。

事前・事後学修時間はともに2時間程度。

【テキスト・教材】

化学同人編集部：実験データを正しく扱うために[化学同人、2011、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題70%、受講態度30%

出題した練習問題、課題は授業の中で解説します。

【参考書】

適宜紹介

【注意事項】

練習をすれば必ず技術は向上します。できるだけ予習復習をして下さい。

生活機器設計演習

身近な生活道具を設計してみる

塚原 肇

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本授業では生活機器設計（デザイン）として、身近な生活道具を身近な材料を使って作成します。材料としては、紙、木材、銀粘度を使用し、実際に使える照明器具の制作にも挑戦します。

【授業における到達目標】

- ・この授業では5つの課題に対して、デザイン案、コンセプトの作成、材料の手配、スケジュール立案、制作と一連のデザインプロセスについて修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる【行動力】を修得します。

【授業の内容】

01. ガイダンス
02. 紙バンドでの基本を理解する（演習サポート本間一恵氏）
03. 紙バンド編み方を練習する（同上）
04. 紙バンドでバスケットを制作する（同上）
05. 七宝焼きの基本を理解する
06. 七宝焼きを制作する
07. 銀細工の基本を理解する
08. 銀で指輪を制作する
09. 木材の加工法を理解する
10. 木材でおもちゃのデザインをする
11. 木材でおもちゃを制作する
12. 照明器具の基本を理解する
13. 照明器具をデザインする
14. 照明器具を制作する
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておくようにしましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフとマット、定規、スケッチブックなど、別途に提示する演習用具は各自用意してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

課題の提出時に即時に評価を行い、コメントを付加して作品を返却する。

【注意事項】

研究室の定員、モノづくり工房Aの設備の制限で定員を20名とします。20名以上の場合は抽選とします。2回～4回目の紙バンド制作演習にはサポートとして本間一恵氏（バスケットリー作家）に協力してもらいます。

生活気候学

山崎 和彦

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

我々は宇宙、地球、風土、住居、衣服などが形成する様々な環境条件あるいは気候条件の下に暮らしている。本講義では先ず気候学の基礎となる天文学および各種の自然現象について論じる。次に住居にまつわる空調、温度、湿度、換気、風等に関する工学、人体影響、環境基準等について論じる。最後に都市気候ははじめ各種の環境問題を扱う。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、自然現象や文化における真理を探究する態度を身につける。また、広い視野と深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 天文学の基礎
- 第2週 気候学の基礎
- 第3週 温熱評価指数、気候の人体影響概論
- 第4週 国内国外の住居と気候
- 第5週 空調概論
- 第6週 暖房
- 第7週 冷房
- 第8週 換気
- 第9週 結露
- 第10週 風
- 第11週 日照と照明
- 第12週 衣服内気候
- 第13週 都市気候
- 第14週 気象災害、環境汚染、公害
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てる。

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生に対するフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、学科掲示板において、正答率が低かった設問についての解説、成績分布、講義を行った所感等について掲示する。また、マナバに記載された学生による不満や改善点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

【参考書】

適宜示す。

生活空間計画

橋 弘志

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちの生活に関わる住環境は、住居を中心として街や地域へと広がっており、そこでは住居以外のさまざまな施設が設計・計画の対象となります。住居や施設の計画においては、空間と行為との対応だけでなく、人の心理や地域・社会との関わりなど、多面的な知識が必要となります。ここでは、そのような複合的知識としての建築計画について、なるべく具体的な事例を題材としながら学習していきます。

【授業における到達目標】

さまざまな用途の建築物について、機能的に「計画」するための考え方を理解する。
表層的なデザインだけでなく、さまざまな建築物の役割や用途がどのように設定され、どのように設計に反映されているのか、多様な視点から理解する。

【授業の内容】

- 第1週 生活空間を計画する上での基礎知識
第2週 構造と空間
第3週 形態と機能
第4週 集合住宅の計画 (1) (集合の形態)
第5週 集合住宅の計画 (2) (配置と地域計画)
第6週 集合住宅の計画 (3) (コミュニティの計画)
第7週 集合住宅の計画 (4) (住み手と計画プロセス)
第8週 教育施設の計画 (1) (機能と空間)
第9週 教育施設の計画 (2) (子供の発達と空間)
第10週 教育施設の計画 (3) (教育プログラム)
第11週 教育施設の計画 (4) (地域との関係)
第12週 図書施設の計画 (1) (図書館建築の流れ)
第13週 図書施設の計画 (2) (機能と空間)
第14週 その他の施設
第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の小課題50%、定期試験50%により評価します。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

日本建築学会編『建築設計資料集成』（丸善）、各種建築・インテリア関連雑誌、その他授業の中で追って紹介します。

生活空間設計製図 1

高田 典夫

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

設計製図1では、空間を構成する要素を考慮しながら「生活する」ということの意味を考えるための設計課題を行う。住まいという生活に密接した空間について、各部の寸法、生活行為と空間規模、必要機能と空間構成などについて考えながら、具体的な計画・設計を行っていく。各自の空間イメージを建築作品として表現し、プレゼンテーションする。

【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「美の探求」のうち、物事の真理探究と新たな知の創造を修得する。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題発見力、計画立案実行力、問題解決力を修得する。

【授業の内容】

- 課題Ⅰ「木造の小住宅」の計画・設計
1. 小さな家での心地よい生活を考える・「小住宅」を調べる
 2. 敷地の特性を読む・図面の描き方
 3. 生活する空間のイメージをかたちにしていく・模型の作り方
 4. エスキス1（平面計画）
 5. エスキス2（断面計画・立面計画）
 6. エスキス3（模型製作・パース作成）
 7. 提出/プレゼンテーション
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
- 課題Ⅱ「地域とともに育つみんなのイエ」の計画
8. みんなのイエとは何かシェアハウスを考える
 9. 周辺環境と配置計画
 10. エスキス1（平面計画）
 11. エスキス2（断面計画・立面計画）
 12. 中間チェック（計画案のまとめ）
 13. エスキス3（模型製作・パース作成）
 14. 提出/プレゼンテーション
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
- まとめ
15. 総合講評
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある

【事前・事後学修】

事前学修：日常生活の中で身のまわりの空間のスケール・プロポーションに興味を持ち、自分で確認することにより、自分なりのスケール感、プロポーション感覚を身につけて、アイデアや調べた事をまとめ、自分の「資料集成」を作成しましょう。（20時間以上）
事後学修：授業中の指摘、中間チェック事項を検討して、課題作品に生かしていきましょう。（10時間以上）

【テキスト・教材】

適宜資料を配付します。製図・模型製作等に必要な用具については、追って指示をします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と提出期限までに提出された全ての課題作品（80%）による。課題作品は、プレゼン時の講評にてフィードバックを行う。

【参考書】

『建築設計資料集成』日本建築学会編（丸善）、各種建築・インテリア雑誌、その他適宜授業中に紹介する。

【注意事項】

「設計製図基礎」を履修していること。
授業のテーマをよく読み、理解して授業に臨むこと。
指定された中間チェックを受けなかったもの、中間チェックを含めて、課題の提出期限に遅れたものは採点の対象としない。
履修に当たり、A4サイズ程度のスケッチブックを準備して、自分の

アイデアを描きとめたり、参考になる写真や資料などを貼り込むなどして、自分の「資料集成」をつくとともに、ノートとしても利用することを勧めます。

生活空間設計製図2

橋 弘志

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

設計製図2では、より複雑なプログラミングを必要とする様々な設計課題を行う。実際の建築行為においては、敷地条件、周辺環境、地域社会、家族構成員や家族間の関係、コミュニティの形成、現代的なニーズへの対応など、さまざまに絡み合った課題を捉える視点とスキルが重要となる。建築行為の役割や意味を考えながら、そこに一つの解決案としての建築をデザインし、プレゼンテーションする。

【授業における到達目標】

課題を総合的に捉え、自分で問題を設定し、その具体的な解決策を提案するという、総合的な技術としての設計・デザインのスキルを身に付ける。

解決策を美しい図面と模型で表現する技術を身に付けるとともに、他者へ分かりやすくプレゼンテーションする技術を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 プレ課題（立体空間の設計・課題の出題）
- 第2週 プレ課題（立体空間の設計・プレゼンテーション）
- 第3週 美術館の設計（課題の出題）
- 第4週 美術館の設計（機能と空間構成の理解）
- 第5週 美術館の設計（敷地特性と配置計画）
- 第6週 美術館の設計（平面・断面計画）
- 第7週 美術館の設計（図面・模型の作成）
- 第8週 美術館の設計（プレゼンテーション）
- 第9週 保育園の設計（課題の出題）
- 第10週 保育園の設計（周辺環境の把握と配置計画）
- 第11週 保育園の設計（機能・動線計画）
- 第12週 保育園の設計（スケールと空間）
- 第13週 保育園の設計（図面・模型の作成）
- 第14週 保育園の設計（プレゼンテーション）
- 第15週 総合講評

【事前・事後学修】

事前学修：設計の対象施設について、さまざまな建築資料、文献、雑誌等を参考に、その計画やデザインについて学修する（学修時間 週2時間）。

事後学修：毎回、次の授業までに行うべき課題を指示する。課題に取り組んだ上で授業に臨むこと（学修時間 週4時間）。

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小課題・コンセプトボード等の提出：25点

エスキスチェック：15点

課題の評価（図面・模型・プレゼンテーション）：60点

提出された課題については、その都度フィードバックを行います。

【参考書】

日本建築学会『建築設計資料集成』（丸善）、各種建築・インテリア関連雑誌

【注意事項】

設計製図基礎、生活空間設計製図1を履修していること。提出物をすべて提出し、各課題のプレゼンテーションを行って、はじめて成績評価の対象となる。

生活空間設計製図3

デザインを介して、家族や地域、社会を考える実践

一色 ヒロタカ

4年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

建築を生み出す際の、プログラムづくりや空間のつくり方を演習課題をとおして習得します。より複雑で高度なプログラミングを必要とする生活空間を題材にして、実践的な設計の手法や表現方法を学びます。ここで習得した能力は、建築だけでなく様々なデザインの現場で必要とされる、基礎的な能力となります。卒業研究(論文・制作)だけでなく、社会での実践の場に繋がるデザインの生み出し方を学びます。

【授業における到達目標】

卒業研究につながるよう、自身で建築のプログラムを組み立てること。

独創的な企画や建築空間を提案できるようになること。これらは建築設計分野だけでなく、様々な分野でも応用可能な力となります。特に多様化が進む社会においては、自身の探求心や独自の視点の発見など、社会で活躍していくための基礎力が必要です。「行動力<DPより>」として、現状把握と問題発見を行い、計画の立案をし、プロセスや成果を評価して、問題を解決する能力を身につけます。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション、「第1課題」課題発表

第2週 エスキス1_コンセプト確認

第3週 エスキス2_方向性確認

第4週 エスキス3_最終確認

第5週 第1課題講評回、「第2課題」課題発表

第6週 エスキス1_コンセプト確認

第7週 エスキス2_スタディ確認

第8週 第2課題講評回、「第3課題」課題発表

第9週 エスキス1_コンセプト

第10週 エスキス2_方向性確認

第11週 中間発表

第12週 第エスキス3_スタディ確認

第13週 エスキス4_最終確認

第14週 第3課題講評会

第15週 総評

【事前・事後学修】

毎回、次の講義までに行うべき事後学修及び事前学修課題を指示します。実習課題ですので、各人の進捗状況に合わせて、個別に検討すべき課題を指示します。事前事後合わせて計週2時間の学修は必要です。

【テキスト・教材】

課題および関連資料のプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(30%授業態度)および、提出された全ての課題作品(70%)による評価とします。課題作品は3課題とし、それぞれ講評会形式にて発表し、各人にフィードバックを行います。

【参考書】

日本建築学会編『建築設計資料集成』(丸善)、各種建築・インテリア関連雑誌等を、適宜参照してください。

【注意事項】

「卒業研究」において卒業制作を行う学生は、この授業を履修すること。

生活経営論

小野瀬 裕子

2年 集後 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

現代の生活は、少子高齢化、情報化、国際化、地球環境問題といった環境変化のなかで、世代間交流、IT化、文化間交流、持続可能な社会へと具体的対応を求められている。社会統計や法の変遷などから、家庭や地域生活の変化と問題点を整理し、生活経営における課題を見出す。国民経済の循環における家庭経済の重要性を理解し、自分のライフスタイルに基づいて合理的な経済活動を行うための知識と技能を身に付ける。生活の諸問題の具体的事例について、家庭と地域の一員としてのロールプレイを行い、地域や行政のサポートシステムを調べることから、主体的に解決するための考察を行う。

【授業における到達目標】

- ・現代の家族や地域の生活の変化と生活課題を具体的に取り上げ、主体的に生活環境を整えるための家族関係、家庭経済の知識を得る。生活問題解決への方策を考え、家族・地域社会の一員として社会福祉援助について理解する。
- ・「研鑽力」の広い視野と洞察力から本質を見抜く力、「行動力」の問題解決へのプロセス理解力、「協働力」と状況に応じたリーダーシップ力を修得する。
- ・「国際的視野」の多様な価値観を持つ者との相互理解と協力する態度を修得する。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 人の一生と生涯発達・生活課題
3. 少子高齢社会における家族の現状と課題
4. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
5. 生活と人権
6. 家族法の変遷
7. 男女共同参画社会におけるワーク・ライフバランス
8. 家庭と地域生活のロールプレイ
9. 諸外国の家庭と地域生活
10. 生活経済ー人・時間・貨幣ー
11. 消費生活ー収入と支出ー
12. 消費者の権利と責任ー持続可能な社会の形成ー
13. 生活のセーフティネットー地域福祉ー
14. 社会のセーフティネットー社会保障ー
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：

1か月以上家計簿を記録する。家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。(学修時間 週2時間)

事後学修：

小レポート・グループワークの結果を考察し復習する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート50%、グループワーク50%。提出されたレポートは採点し、コメントとともにフィードバックする。

【参考書】

男女共同参画統計研究会、『男女共同参画統計データブック』、きょうせい、2015

金融広報中央委員会、『大学生のための人生とお金の知恵』、日銀情報サービス、2015

生活経済論

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

社会で生きていくにはお金が必要だが、お金のことを学ぶ機会はそれほど多くない。しかし、卒業後は預貯金をはじめ、結婚資金、住宅購入や子の教育資金の手当てなど金融機関と関わって複数の選択肢の中から自分が最善と判断するものを選ぶ場面に直面することの連続である。IT、フィンテック、キャッシュレス化、間接金融から株式、債券、投資信託といった直接金融へと時代が大きくシフトしている今日、自分の価値観に基づいて安定的な生活を維持するには、生活経済に関する確かな知識が欠かせない。本講義は、3冊の無料配布テキストを活用して人生とお金に関して詳しく学ぶ。新しく学ぶことも多いので、テキスト終了の都度、理解度確認をしながら進める。生活経済に関するリテラシーが高いとコンピテンシーが高いという研究がある。時代とともに生きる、高い生活経済リテラシーをもった女性を目指して学びを深めてもらいたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、(1)あなたの人生とお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の基礎知識
- 第2回 『ローンとクレジット』家計管理、ローン
- 第3回 『ローンとクレジット』クレジット、契約
- 第4回 『ローンとクレジット』金利、返済、多重債務
- 第5回 知識度確認1+DVD「弁護士・宇都宮健二氏」
- 第6回 『金融商品・サービス』普通預金、定期預金、外貨預金
- 第7回 『金融商品・サービス』預金保険制度
- 第8回 『金融商品・サービス』債券、投資信託
- 第9回 知識度確認2+DVD「はまかーん」
- 第10回 外部講師（東京証券取引所：予定）
- 第11回 『資産運用と証券投資』金融商品
- 第12回 『資産運用と証券投資』会社四季報の読み方
- 第13回 DVD「金融経済ナビ」
- 第14回 知識度確認3+奨学金について学ぶ
- 第15回 理解度の確認、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

全国銀行協会『これからの暮らしに役立つ ローン&クレジットのABC』、全国銀行協会『かんたんレシピでチェック！銀行の金融商品・サービス』、日本証券業協会『サクサクわかる！資産運用と証券投資』（すべて無料テキスト）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識度確認（20%×3回）、理解度の確認（期末テストや口頭試験30%）と平常点（授業への積極的参加など10%）から判断する。なお、知識度確認はその場で、期末テストなどの結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

橘木俊詔（1997）『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫（2011）『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

生活経済論

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1年～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

社会で生きていくにはお金が必要だが、お金のことを学ぶ機会はそれほど多くない。しかし、卒業後は預貯金をはじめ、結婚資金、住宅購入や子の教育資金の手当てなど金融機関と関わって複数の選択肢の中から自分が最善と判断するものを選ぶ場面に直面することの連続である。IT、フィンテック、キャッシュレス化、間接金融から株式、債券、投資信託といった直接金融へと時代が大きくシフトしている今日、自分の価値観に基づいて安定的な生活を維持するには、生活経済に関する確かな知識が欠かせない。本講義は、3冊の無料配布テキストを活用して人生とお金に関して詳しく学ぶ。新しく学ぶことも多いので、テキスト終了の都度、理解度確認をしながら進める。生活経済に関するリテラシーが高いとコンピテンシーが高いという研究がある。時代とともに生きる、高い生活経済リテラシーをもった女性を目指して学びを深めてもらいたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、(1)あなたの人生とお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の基礎知識
- 第2回 『ローンとクレジット』家計管理、ローン
- 第3回 『ローンとクレジット』クレジット、契約
- 第4回 『ローンとクレジット』金利、返済、多重債務
- 第5回 知識度確認1+DVD「弁護士・宇都宮健二氏」
- 第6回 『金融商品・サービス』普通預金、定期預金、外貨預金
- 第7回 『金融商品・サービス』預金保険制度
- 第8回 『金融商品・サービス』債券、投資信託
- 第9回 知識度確認2+DVD「はまかーん」
- 第10回 外部講師（東京証券取引所：予定）
- 第11回 『資産運用と証券投資』金融商品
- 第12回 『資産運用と証券投資』会社四季報の読み方
- 第13回 DVD「金融経済ナビ」
- 第14回 知識度確認3+奨学金について学ぶ
- 第15回 理解度の確認、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを復習すること。次の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

全国銀行協会『これからの暮らしに役立つ ローン&クレジットのABC』、全国銀行協会『かんたんレシピでチェック！銀行の金融商品・サービス』、日本証券業協会『サクサクわかる！資産運用と証券投資』（すべて無料テキスト）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識度確認（20%×3回）、理解度の確認（期末テストや口頭試験30%）と平常点（授業への積極的参加など10%）から判断する。なお、知識度確認はその場で、期末テストなどの結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

橘木俊詔（1997）『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫（2011）『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

生活経済論

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

社会で生きていくにはお金が必要だが、お金のことを学ぶ機会はそれほど多くない。しかし、卒業後は預貯金をはじめ、結婚資金、住宅購入や子の教育資金の手当てなど金融機関と関わって複数の選択肢の中から自分が最善と判断するものを選ぶ場面に直面することの連続である。IT、フィンテック、キャッシュレス化、間接金融から株式、債券、投資信託といった直接金融へと時代が大きくシフトしている今日、自分の価値観に基づいて安定的な生活を維持するには、生活経済に関する確かな知識が欠かせない。本講義は、3冊の無料配布テキストを活用して人生とお金に関して詳しく学ぶ。新しく学ぶことも多いので、テキスト終了の都度、理解度確認をしながら進める。生活経済に関するリテラシーが高いとコンピテンシーが高いという研究がある。時代とともに生きる、高い生活経済リテラシーをもった女性を目指して学びを深めてもらいたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、(1)あなたの人生とお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の基礎知識
- 第2回 『ローンとクレジット』家計管理、ローン
- 第3回 『ローンとクレジット』クレジット、契約
- 第4回 『ローンとクレジット』金利、返済、多重債務
- 第5回 知識度確認1+DVD「弁護士・宇都宮健二氏」
- 第6回 『金融商品・サービス』普通預金、定期預金、外貨預金
- 第7回 『金融商品・サービス』預金保険制度
- 第8回 『金融商品・サービス』債券、投資信託
- 第9回 知識度確認2+DVD「はまかーん」
- 第10回 外部講師（東京証券取引所：予定）
- 第11回 『資産運用と証券投資』金融商品
- 第12回 『資産運用と証券投資』会社四季報の読み方
- 第13回 DVD「金融経済ナビ」
- 第14回 知識度確認3+奨学金について学ぶ
- 第15回 理解度の確認、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

全国銀行協会『これからの暮らしに役立つ ローン&クレジットのABC』、全国銀行協会『かんたんレシピでチェック！銀行の金融商品・サービス』、日本証券業協会『サクサクわかる！資産運用と証券投資』（すべて無料テキスト）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

知識度確認（20%×3回）、理解度の確認（期末テストや口頭試験30%）と平常点（授業への積極的参加など10%）から判断する。なお、知識度確認はその場で、期末テストなどの結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

橘木俊詔（1997）『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫（2011）『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

生活経済論演習

企業訪問を通して自分を知る

高橋 桂子

2年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

女性活躍推進などに取り組んでいる企業、外資系、金融機関やマスコミなどを対象に、新聞記事やネットを通して企業研究を行い、関心の高い企業を3社（予定）訪問します。候補企業への依頼は教員が行います。皆さんは訪問先企業への質問を考え、訪問当日の開始終了挨拶、質疑応答に積極的に関わっていただきます。訪問後は学んだこと（A4で1枚）と礼状を3日以内にmanabaに添付してください。昨年度までに資生堂（企業所内保育所、女性活躍推進）、サントリー（女性活躍推進）、SMBC日興証券（金融）、セブン&アイ・ホールディングス（女性活躍推進）、羽田クロノゲート（ヤマト：ロジスティックス）、IKEA（短時間正社員・企業所内保育所）、ベネッセスタイルケア（高齢者介護施設）、ABCクッキング（魅力溢れるメニュー展開）、キッザニア（子どもと仕事）などを訪問しました。訪問時はスーツ着用（インナーは白以外）、交通費は自己負担です。テーマに沿った「纏まったプレゼン」を期待しています。

【授業における到達目標】

- (1) 自分の関心を明確にした企業サーベイを行うことができるようになる。
- (2) 訪問時に相手に自分の意図した質問内容を伝えることができるようになる。
- (3) 帰着後は即座に訪問レポートや礼状を作成することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、キャリア支援・外資・金融・マスコミなど
- 第2回 テーマ1：女性のキャリア支援：資料配布
- 第3回 テーマ1：選定
- 第4回 テーマ1：学生によるプレゼン→依頼先順決定
- 第5回 DVD視聴「女性と労働」
- 第6回 テーマ2：外資系企業：資料配布
- 第7回 テーマ2：選定
- 第8回 企業訪問1→学んだこと・礼状作成
- 第9回 テーマ2：学生によるプレゼン→依頼先順決定
- 第10回 テーマ3：金融機関（銀行、証券）：資料配布
- 第11回 企業訪問2→学んだこと・礼状作成
- 第12回 テーマ3：選定
- 第13回 テーマ3：学生によるプレゼン→依頼先順決定
- 第14回 企業訪問3→学んだこと・礼状作成
- 第15回 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポートや発表の課題に取り組む際には、何が自分たちグループ発表のポイント（売り）か、メンバーで確認すること（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことをベースに自主的に検索を行う（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼンと訪問後レポート・礼状（80%）、平常点（授業への積極参加 20%）から判断する。フィードバックはmanabaで行う。

【参考書】

適宜、紹介します。

【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。
 企業訪問は本講義の曜限によっては別に設定することもあります。
 PCを使用します。持っている方は持参ください。
 本講義は演習スタイルです。積極的・主体的に履修することを期待しています。

生活材料科学実験A

加藤木 秀章

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

糸と布の構造、力学的特性、温熱的特性を測定し、それらの相互関係を統計処理して解析する。また、これらの物性値をKESにより測定し、風合いなど着心地との関係を探求する。

【授業における到達目標】

糸と布の構造と物性値と人の感覚との対応関係を考えることができるようになること。

【授業の内容】

- 第1週 概要説明と試料作成
- 第2週 糸の構造
- 第3週 糸の太さと番手
- 第4週 糸の応力-歪曲線
- 第5週 布の構造①（厚さ、目付、組織）
- 第6週 布の構造②（糸密度、組織）
- 第7週 布の強伸度特性
- 第8週 KESによる布の小変形特性
- 第9週 布の回復性
- 第10週 布の形態と外観計測
- 第11週 布の温熱特性
- 第12週 データの整理と解析
- 第13週 布の構造と特性の統計的処理
- 第14週 重回帰分析による解析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】前期の「生活材料科学特論A」を履修しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験結果をよく吟味し、考察して、レポートを作成すること。（学修時間 週2時間以上）

【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点（授業態度）20%
 実験の提出レポート 80%
 提出されたレポートは、次回授業時にフィードバック（考察についてディスカッションなど）を行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

生活材料科学実験C

牛腸 ヒロミ

生活環境学専攻 後期 1単位

【授業のテーマ】

洗剤、汚れ、揮発性有機化合物、染料の物性測定や分析などに、機器を用いる方法を修得し、習熟する。
 FT-IR分析、紫外・可視吸光分析などの分光分析、ガスクロマトグラフィー（GC）や高速液体クロマトグラフィー（HPLC）などを用いた分離分析などを中心に行う。

【授業における到達目標】

1. 汎用機器が一人で使いこなせ、分析結果の考察ができる。
2. 原理を理解し、目的によって機器を使い分けることができる。研鑽力をあげる。

【授業の内容】

- I. 大気中における物質の分析
 1. におい識別装置、FT-IRの原理
 2. 試料の調製
 3. 測定と結果の整理
 4. 解析と考察
- II. タンパク質および油汚れの測定
 5. GC、HPLCの原理
 6. 試料の調製
 7. 測定と結果の整理
 8. 解析と考察
- III. 天然染料の染着量の測定
 9. 紫外・可視吸光分析法の原理
 10. 試料の調製
 11. 吸光度測定の結果と整理
 12. 染色物の測色と金属元素の定量
 13. 測定結果の整理
 14. 解析と考察
 15. 総括

【事前・事後学修】

プリントを事前に読んで準備をする。2時間。事後はデータを整理し、レポートを書く。4時間。

【テキスト・教材】

プリントを用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度40%、実験レポート60%。授業時間中に解説をする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

予習復習を必ず行う。

生活材料科学特論A

加藤木 秀章

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

繊維の集合体であるテキスタイル材料（布）は組成、構造によって特性が決まる。布の構造と力学的性質・温熱的性質の関係、および、これら物性値と着心地との関係を検討する。

【授業における到達目標】

布の物性値と糸・布の構造との関係を推測することができるようになること。

【授業の内容】

- 第1週 概要説明
- 第2週 糸の構造、太さと番手
- 第3週 糸の力学特性
- 第4週 布の構造①（厚さ、目付、組織）
- 第5週 布の構造②（糸密度、組織）
- 第6週 織物の力学特性
- 第7週 編物・不織布の力学特性
- 第8週 布の小変形特性
- 第9週 布の回復性
- 第10週 布の形態と外観
- 第11週 布の温熱特性
- 第12週 布の快適性
- 第13週 布の構造と特性の関係
- 第14週 多変量解析による解析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】学部の「テキスタイル材料学」の内容を復習しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業およびレポート課題の内容を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 60%

平常点（授業態度・提出課題）40%

提出されたレポートは、次回授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

生活材料科学特論C

牛腸 ヒロミ

生活環境学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

被服材料やインテリア・プロダクト材料などの染色・加工を理解する上で必要な素材の構造と物性、染色理論について学び、各素材の実際的な染色方法や染色加工のプロセスを理解する。さらに消費性能についても言及する。

事前にテキストを読んで要約し、授業内で質疑応答により議論を深め、必要なところは講義を行う。

原書を読む力、理解する力、それを説明する力、質疑に答える力などを付ける。

【授業における到達目標】

1. 生活材料として有用な性能を持つウールをはじめ各種獣毛繊維の構造と性質を理解する。
2. 獣毛の染色理論を理解する。
3. ウールの染色工程について、深く理解する。
4. 英語での標記を理解する。
5. 自己研鑽力を養う。

【授業の内容】

1. 導入
2. The Structure of Wool
3. The Chemical and Physical Basis for Wool Dyeing
4. The Role of Auxiliaries in the Dyeing of Wool and other Keratin Fibers
5. Ancillary Processes in Wool Dyeing
6. Bleaching and Whitening of Wool, Photostability of Whites
7. まとめ
8. Wool-dyeing Machinery
9. Dyeing Wool with Acid and Mordant Dyes
10. Dyeing Wool with Metal-complex Dyes
11. Dyeing Wool with Reactive Dyes
12. Dyeing Wool Blends
13. The Coloration of Human Hair
14. Wool Printing
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前にテキストを読んで、要約し、分からない言葉や必要な知識を調べておく。最低3時間。事後には事前学修で分からなかったことが理解できているかを確認する。2時間。

【テキスト・教材】

David M. Lewis and John A. Rippon: The Coloration of Wool and other Keratin Fibres[John Wiley and Sons, 2013]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の発表態度60%、受講レポート40%

プレゼンの内容と質疑応答、レポート内容を授業の中で評価する。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

授業準備をしっかりと行うこと。

生活材料学

仲西 正

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

生活材料学とは、住生活、衣生活などにかかわる材料を扱う学問です。この授業では、生活に関係する材料について、どのようなものからできているのか、どのような性質を持っているのかを学んでいきます。また、私たちが安全で快適な生活をおくるために使われる材料に、どのような性質や機能が必要とされるかも考えていきます。この授業を通して、身の回りにある様々な材料が私たちの生活において重要な役割をしていることを、皆さんに理解してほしいと思います。

【授業における到達目標】

生活材料の基本的な性質を知り、衣生活や住生活に関わる製品をデザインする時、使う時、そして地球環境を考える時に、材料の適切な選択や使用ができるようにする。

学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決の力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 序 授業の進め方と、授業全体の流れを説明する。
- 第2週 基礎1 材料とは何か、どのようなものからできているのかを説明する。
- 第3週 基礎2 材料の性質とは何か、力学的な性質と熱に関する性質をみる。
- 第4週 プラスチック1 身の回りに多く使われている高分子材料についてみる。
- 第5週 プラスチック2 高分子材料の構造と性質を説明する。
- 第6週 繊維1 衣住材料において重要な、綿、絹、羊毛など天然繊維を説明する。
- 第7週 繊維2 ポリエステルを中心にして合成繊維を説明する。
- 第8週 金属材料1 金属材料として最も重要な鉄について説明する。
- 第9週 金属材料2 アルミニウム、銅などの非鉄金属について説明する。
- 第10週 セラミック材料1 建築材料として重要なコンクリートを説明する。
- 第11週 セラミック材料2 ガラスを中心に無機材料を説明する。
- 第12週 木材 住居、家具などにおいて重要な材料である木材を考える。
- 第13週 紙 情報の記録や包装に欠くことのできない紙について考える。
- 第14週 地球環境と材料 材料を使うことが環境に与える影響を考える。また、環境負荷が小さい材料とは何かを考える。
- 第15週 まとめ ー生活と材料ー

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業前に、教科書の授業範囲を読み予習をして下さい。不明な点や疑問点は、ノートに記しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後に、授業中に新たに説明した専門用語の理解を中心に復習をして下さい。自分で理解や解決ができなかった部分は、ノートに記して次回の授業中に質問して下さい。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書を用います。牛腸ヒロミ監修、仲西 正編著『生活材料学の基礎 ーアパレルから建築までー』（光生館 2014年）1,900円（税別）。また、必要に応じてプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験100%で評価します。試験結果は授業最終回でフィードバックします。

生活産業史

「衣」「食」「住」「流通」から考える生活と産業との関係

野津 喬

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

生活に必要なものを自給自足でまかなっていた時代はるか昔となりました。私たちの生活は、自分たちの生活の一部を誰か（産業）に任せることで成立しています。

この授業では代表的な生活産業として「衣」「食」「住」「流通」の4つの分野に焦点を当てて、生活と産業の関係とその変化について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ①生活と産業に関する基礎的な知識と視点を身につける。
 - ②生活と産業の関係をより良くするために取り組むべき課題と方向性について考えることができるようになる。
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 「衣」産業①（衣産業の概要、糸産業）
3. 「衣」産業②（生地産業、アパレル産業）
4. グループワーク（「衣」について）
5. 「食」産業①（食産業の概要、食産業の海外展開）
6. 「食」産業②（高齢化と食産業）
7. グループワーク（「食」について）
8. 「住」産業①（住産業の現状、リフォーム産業）
9. 「住」産業②（住産業と高齢化、地球環境）
10. グループワーク（「住」について）
11. 「流通」産業①（流通産業の現状、流通産業と地域）
12. 「流通」産業②（流通産業とグローバル化）
13. グループワーク（「流通」について）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（40%）、グループワーク（25%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（35%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

生活産業創出論

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていくかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学の生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代の生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

【授業における到達目標】

- ・現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解き、説明することができる。
- ・自分が生活産業の担い手となったとき、どのような点に留意するとよいか分かるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要なプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内のアクティビティ60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

生活産業創出論

須賀 由紀子

2～3年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていくかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学的生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代の生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

【授業における到達目標】

- ・現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解き、説明することができる。
- ・自分が生活産業の担い手となったとき、どのような点に留意するとよいかがわかるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要なプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内のアクティビティ60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

生活産業創出論

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていかかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるいくためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学的生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代の生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

【授業における到達目標】

- ・現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解き、説明することができる。
- ・自分が生活産業の担い手となったとき、どのような点に留意するとよいかがわかるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要なプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内のアクティビティ60%、期末レポート40%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【授業のテーマ】

データの収集、整理と分析、レポートの作成、プレゼンテーションなどに必要なコンピュータおよびネットワークについて学ぶ。また、データの統計的処理および多変量解析の手法について演習を通して理解する。

【授業における到達目標】

情報機器を理解して取り扱い、各人がLANやインターネット環境を整備できる程度の能力を身につける。

調査や実験の結果を統計的にデータ処理ができる能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 コンピュータのハードウェア
- 第2週 コンピュータのソフトウェア
- 第3週 コンピュータネットワーク
- 第4週 ICT社会
- 第5週 種々の理論式とそのグラフ化 1次関数と2次関数
- 第6週 種々の理論式とそのグラフ化 三角関数
- 第7週 種々の理論式とそのグラフ化 指数関数と対数関数
- 第8週 基本統計処理 平均と分散
- 第9週 基本統計処理 種々の確率密度関数
- 第10週 基本統計処理 検定と推定
- 第11週 多変量解析 重回帰分析
- 第12週 多変量解析 主成分分析
- 第13週 多変量解析 因子分析
- 第14週 データの整理とまとめ方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】統計学について復習しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目も予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布資料および授業内容を復習すること。理解できていない部分がある場合には、次回の授業中に質問すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜授業で配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（中間・期末）50%、平常点 50%。平常点とは、授業への取り組み（授業中の発言・態度）25%、プレゼンテーションでの課題発表 25%のことである。

提出されたレポートは、最後の授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

生活心理フィールドワーク 1

塩川 宏郷・水野 いずみ・作田 由衣子・板倉 達哉

1年 後期 1単位

◎：研鑽力、協働力 ○：美の探求、行動力

【授業のテーマ】

生活心理専攻においては、心理学を学び、生活の中にその課題や論点を見つけ、調査・分析を行い、解決の道筋を探ることが求められる。生活心理フィールドワーク1ではそのための基礎的な体験として心理学の活躍するフィールド（病院・対人支援サービス企業・障害者支援施設など）を訪問する。フィールドの事前学習と現場での質疑などを通じ、心理学のフィールドの現状や課題を知る。フィールド訪問は、4クラス（一クラスあたり10名程度）に分かれて行う。事前の学習で問題点や疑問点を明確にし、訪問時の質疑応答を通じ、訪問後クラスごとに全員にむけてプレゼンテーションを行い討論する。

【授業における到達目標】

本講では下記を到達目標とする。

- ①生活の中にある心理学的課題を見出すことができる。
 - ②課題を記載することができる。
 - ③課題について表現し他人と情報を共有することができる。
- 身につけるべき目標として行動力・協働力を重視する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、フィールドA事前指導
- 第2週 フィールドB事前指導
- 第3週 フィールドC事前指導
- 第4週 フィールドD事前指導
- 第5週 フィールド別討論・事前指導
- 第6週 フィールド別訪問・見学（教員引率）
- 第7週 （フィールド別訪問・見学）
- 第8週 フィールド別事後指導（発表準備）
- 第9週 フィールド別事後指導（発表練習）
- 第10週 フィールドA報告会
- 第11週 フィールドB報告会
- 第12週 フィールドC報告会
- 第13週 フィールドD報告会
- 第14週 総合討論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：訪問・見学前にフィールドについて事前に必ず調べ、理解を深め疑問点を明確にしておくこと。担当フィールド以外についても調べ積極的に討論に参加すること。（学修時間週2時間）

事後学修：フィールドでの見学内容について振り返り、さらに疑問点や課題を明らかにすること、それらを記述し残すこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

特に定めない。資料をmanabaで適宜配布する。参考にすべき文献等を授業内で紹介・指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（事前学修の取り組み30%、授業内討論への参加・積極性30%、質疑応答・課題提出等40%）

総評をmanaba上でフィードバックする。

【参考書】

佐藤郁也（2002）「フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説を鍛える」新曜社、3,045円

【注意事項】

フィールド訪問は教員が引率するので教員の指示に従うこと。身だしなみについて学生（社会人）としての節度を持つこと。安全面について十分に注意すること。フィールドへの交通費など諸費用は自己負担。

生活心理演習

細江 容子・高橋 桂子

4年 通集 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

われわれの生活と関わる文化は、芸術や文学など人間が生み出した高度な内容を含むとともに、人間が社会の中で長年にわたって形成してきた慣習や振る舞いの体系をさすものである。この意味では衣・食・住などの日常生活全般に関わる習慣や道徳、宗教、芸術から政治、経済といった社会構造全般までその範疇は非常に広い。

生活文化学科の生活心理演習においては、日本の生活文化を理解すると同時にグローバル化の中、国際的に活躍できる女性として日本が育んだ文化の実際を実習により習得し、実践できることを目的とする。また、国際社会の中に生きていくことができる社会人として基本となるビジネスマナーとコミュニケーション手法、衣・食・住に関わる生活マナーを習得し実践できることを目的とする。さらに、変化の早い社会の中で仕事をして生き抜いていくための労働法や福祉制度、医療の実際（選ぶ医療へ）に関してよりよい実践的な学びや、折れない心と関わるレジリエンス手法、情報発信能力のためのウェブページ作成法を習得し、実際に情報が発信できる様にするを目的とする。

本講義では専門領域の外部講師を招いたり、必要に応じて施設等での実習を行うなどして学びを深める。

【授業における到達目標】

- ・ビジネスマナーとコミュニケーション手法、衣・食・住に関わる生活マナーを習得し実践できる。
- ・労働法や福祉制度、医療の実際（選ぶ医療へ）、折れない心と関わるレジリエンス手法に関して実践的な学びにより生活に活用できる能力を身につける。
- ・情報発信能力のためのウェブページ作成法を習得し、実際に情報を発信できる。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の文化の営みを総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 3 日本文化の実際a（外部講師等）
4. 5 日本文化の実際b（外部講師等）
6. 7 日本文化の実際c（外部講師等）
8. 9.10 各国の食事のマナーの実践
（マナーを知り実践しよう
学外実習予定、プレゼンテーション等）
- 11.12 ビジネスのための英語とグローバルコミュニケーション能力について（外部講師等）
13. 実習のためのマナー日常生活のマナー
- 14.15 交流会の実際と演習（生活心理をキーワードにして）
16. 自分の学びや資格を生かしたキャリアをデザインしよう
17. キャリアと関わる労働法の実際
18. キャリアと関わる福祉制度の実際
19. キャリアと関わる医療の実際
20. キャリアと関わるレジリエンス思考法（外部講師等）
21. プレゼンテーション能力を磨く
22. 学びや資格を基にキャリアデザインを発表しようI
23. 学びや資格を基にキャリアデザインを発表しようII
24. エクセルの実際
25. ウェブサイトの作成手法（講義と実際 外部講師等）
26. ウェブサイトの作成実習（内容の検討）
27. ウェブサイトの作成実習（作成の実際）
28. ウェブサイトの作成実習（全体の修正と立ち上げ等）
29. パーティを主催しよう
30. パーティの実践とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料を基に、レポート・発表、実技の取得等に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義、課題発表、実習等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教師の指示に従うこと。資料等を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習40%、提出課題30%、平常点（授業への積極的参加、授業内課題）30%。実習の評価、提出課題、平常点に関しては、そのつど全体における講評を行うなどと同時に個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

教員の指示に従うこと。

【注意事項】

外部講師等の関係で予定が異なることがある。

履修要項に示す様に、実習費等として別途徴収することがある。

生活心理概論

生活の中の課題を見つけ、理解する

作田 由衣子・塚原 拓馬

2年 後期 2単位

◎：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

生活心理専攻では、人の社会生活、家庭生活において、生活の質の充実を目指すために必要な、生活を取り巻く様々な問題の解決を心理学的に探索することをめざしている。そして、これらの諸問題について、社会調査の方法論を重要な基礎の一つとしながら、心理学的手法により理解し、いかに解決するかを探究していく。この授業では、生活心理とその基盤領域群（「生活と社会」領域・「家族と社会」領域・「心身の健康」領域）について概説するとともに、基礎的な方法論の一つである社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。

【授業における到達目標】

生活を取り巻く様々な問題について、心理学的視点から現状を正しく把握し、課題を発見できる。また、学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

【授業の内容】

- 第1週 生活心理とは何か
- 第2週 生活と社会
- 第3週 家族と社会
- 第4週 心身の健康
- 第5週 社会の中で生きる心理学①：知覚・認知など
- 第6週 社会の中で生きる心理学②：臨床・発達など
- 第7週 社会調査方法論
- 第8週 社会調査の目的と意義：国勢調査と公的統計
- 第9週 社会調査の歴史：学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなど
- 第10週 調査の倫理
- 第11週 調査ケース：調査の種類と実例
- 第12週 量的手法による調査法：調査票調査など
- 第13週 質的手法による調査法：フィールドワークなど
- 第14週 社会調査のプロセス：資料・データの収集から分析まで
- 第15週 生活の諸問題と心理学：まとめ（外部講師予定）

【事前・事後学修】

【事前学修】心理学や社会調査法の入門書を通読しておくこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

- ・無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳（編）2009 よくわかる心理学 ミネルヴァ書房 3,240円
- ・授業内で資料を配布する
- ・その他授業内で指示する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

40%（授業内レポート）、60%（期末課題）により評価する。manabaを利用してフィードバックを行う。

【注意事項】

外部講師による講義を1回予定している（変更の可能性あり）

生活心理研究計画法

生活心理研究計画の方法と実際

長崎 勲

4年 通年隔週 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

卒業後の進路として、進学を希望する学生を対象とした授業である。

授業を通して、進学に必要な準備を行っていく。

【授業における到達目標】

希望する大学院等の専門性に合わせて自ら計画的に学んだり、進学先の入試問題や修了後の進路など調査、希望指導教官との面談のポイントをとる方法について、また学生同士で協力して情報を収集することなどについて学習する。

【授業の内容】

1. 全体のオリエンテーション
2. 進路研究：ガイダンス
3. 進路研究：適性を考える
4. 進路研究：具体的な進路の決め方
5. 進路研究：スケジュールの立て方
6. 進路研究：進学後のスケジュール
7. 進路研究：進学先卒業後の進路
8. 進路研究：進学先卒業後の具体的な進路
9. 進路研究：進学後の研究予定
10. 進路研究：卒業論文との関連
11. 進路研究：まとめ
12. 進学に必要な知識：ガイダンス
13. 進学に必要な知識：スケジュールの立て方
14. 進学に必要な知識：具体的な概要
15. 進学に必要な知識：心理学のテキスト
16. 進学に必要な知識：心理学のテキストを読む
17. 進学に必要な知識：心理学のテキストを理解する
18. 進学に必要な知識：英語のテキストを読む
19. 進学に必要な知識：英語のテキストを理解する
20. 進学に必要な知識：まとめ
21. 研究計画書：ガイダンス
22. 研究計画書：スケジュールの立て方
23. 研究計画書：進学先をふまえた検討
24. 研究計画書：執筆：前半
25. 研究計画書：執筆：後半
26. 研究計画書：調整：前半
27. 研究計画書：調整：後半
28. 研究計画書：修正
29. 研究計画書：まとめ
30. 全体のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業準備（学修時間 週2時間）

事後学修：授業をふまえて課題内容を修正する（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必修心理学用語編集グループ：必修1000 心理学基本用語集[啓明出版、1993、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取り組み、事前事後の学修など）100%

取り組んでいる点やつまづきがちな点についてフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で指示する。

【注意事項】

自分で勉強したり、準備したりする機会が多くなりますが、がんばりましょう。
卒業論文については、所属研究室の先生のご指導に従ってください。

生活心理実習

塚原 拓馬

3年 集通 3単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

人々の生活の場面での、対人支援や社会活動のための基礎的な方法を観察・体験・考察し、生活における課題の解決のための基本的知識を習得する。また、3年間の生活心理に関する実践的学びとするとともに、卒業後の就職・進学の準備とする。

【授業における到達目標】

福祉、教育保育、心理等の対人支援の現場や民間企業において、課題の解決のための基礎的な方法について見学・体験をすることで理解する。社会に貢献できるように社会人基礎力を研鑽し、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活心理実習の意義と目的など
- 第3回 実習・インターンシップを知る①：社会の仕組（特別講座）
- 第4回 実習・インターンシップを知る②：社会の構造（特別講座）
- 第5回：実習・インターンシップの事例①：支援の現場（特別講座）
- 第6回：実習・インターンシップの事例①：企業の現場（特別講座）
- 第7回：実習・インターンシップの目標①：種別の理解（特別講座）
- 第8回：実習・インターンシップの目標①：活動の計画（特別講座）
- 第9回：実習・インターンシップの注意点①：倫理など
- 第10回：実習・インターンシップの注意点②：事前準備など
- 第11回：実習日誌の記録方法1：エピソード式
- 第12回：実習日誌の記録方法2：時系列式
- 第13回：事後指導1：学びのまとめと報告；福祉・心理
- 第14回：事後指導2：学びのまとめと報告；民間企業（特別講座）
- 第15回：事後指導3：学びのまとめと報告；総括（特別講座）

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト等は初回授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習の評価60%、平常点（授業への取り組み、提出物、発表）20%、実習日誌・レポート20%

レポート課題等は次回以降の授業または授業最終回でフィードバックを行う。詳細は初回授業時に指示する。

【参考書】

詳細は初回授業時に指示する。

【注意事項】

実習は原則として対人支援の現場で行うものであるため、事前指導の授業内容を習得していることが必須となる。詳細は授業内で説明するのできちんと把握すること。

生活心理実習

塚原 拓馬

4年 集通 3単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

人々の生活の場面での、心理支援のための基礎的な方法を観察・体験・考察し、生活における課題の解決のための基本的知識を習得する。また、4年間の生活心理に関する実践的学びとするとともに、卒業後の就職・進学準備とする。

【授業における到達目標】

福祉、教育保育、心理等の対人支援の現場において、課題の解決のための基礎的な方法について見学・体験をすることで理解する。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活心理実習の意義と目的など
- 第3回 福祉フィールド1：福祉の現在と課題
- 第4回 福祉フィールド2：社会福祉の現場（特別講座）
- 第5回 発達支援フィールド1：発達支援の現在と課題
- 第6回 発達支援フィールド2：発達支援の現場（特別講座）
- 第7回 保育教育フィールド1：保育教育の現在と課題
- 第8回 保育教育フィールド2：保育教育の現場（特別講座）
- 第9回 実習の注意点：倫理など
- 第10回 実習の注意点：準備など
- 第11回 実習日誌の記録方法1：エピソード式
- 第12回 実習日誌の記録方法2：時系列式
- 第13回 事後指導1：学びのまとめと報告；福祉
- 第14回 事後指導2：学びのまとめと報告；心理
- 第15回 事後指導3：学びのまとめと報告；教育

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト等は初回授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習の評価60%、平常点（授業への取り組み、提出物、発表）20%、実習日誌・レポート20%

レポート課題等は次回以降の授業または授業最終回でフィードバックを行う。詳細は初回授業時に指示する。

【参考書】

詳細は初回授業時に指示する。

【注意事項】

実習は原則として対人支援の現場で行うものであるため、事前指導の授業内容を習得していることが必須となる。詳細は授業内で説明するのできちんと把握すること。

生活文化概論

担当教員全員

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探求

【授業のテーマ】

生活文化とは社会の影響を受けて変容する「人の生活のありよう」です。そして「生活のありよう」に規定されるだけでなく、逆に「生活のありよう」を形作り、「人が生活している社会」の源ともなるのが「人の生涯にわたる発達」です。生活の主体者である「人」は、ヒトから人へ生涯発達をとげ、家族を形成し、世代を継承し、生活文化を形作るのです。

現在「生活のありよう」の大きな要素である家族は多様化し、人間関係、子どもの育ち、生活の安全など複雑化した社会のなかで様々な問題がみられます。このような課題について心理的側面からとらえ、分析し、主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な力を身につけるため「生活・家族・保育・教育・心理・健康」に関する知識と技術を4年間かけて総合的に習得します。以上をふまえ、この授業では生活文化学科各教員の専門領域についてオムニバス形式で概観し4年間の学びの基本を理解します。

【授業における到達目標】

- ・各回の講義を通じて、身近な生活に関心を持ち、多角的な視点で物事を見直すことができたか。
- ・各教員の講義から、広い視野と深い洞察力を身につけ、自分の学びたい分野、内容が見つけれられたか。
- ・学ぶ楽しさを知り、「人の生活のありよう」を学ぶ「生活文化学科」での様々な授業にも、一層関心をもって取り組めるようになったか。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス「生活文化とは」
初等教育学（算数）
- 第2回 生活経済学
- 第3回 教育学
- 第4回 保育学
- 第5回 幼児教育学
- 第6回 社会福祉学
- 第7回 国語教育学
- 第8回 音楽教育学
- 第9回 運動生理学
- 第10回 認知心理学
- 第11回 生涯発達心理学
- 第12回 小児科学
- 第13回 教育心理学
- 第14回 社会心理学
- 第15回 家庭関係学

【事前・事後学修】

【事前学修】（週2時間）各領域について的小レポート等に取り組むこと。

【事後学修】（週2時間）各領域について的小レポート等の復習に取り組むこと。

【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（予復習を含む）：期末課題＝8：2とする。学修内容の発表を行う等の方法で学修のフィードバックを行う。

【参考書】

各担当教員の指示に従うこと。

【注意事項】

教員の担当回は変更になることがある。4年間の基本となる内容であり、特に2年次ゼミ選択の際に重要となる。遅刻、欠席することのないよう注意すること。

生活文化史 1

細江 容子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義をとおして、文化人類学的視点での人や文化の捉え方を身につけると同時に、諸概念と用語の理解ができるようにする。また、世界の様々な地域で暮らす多様な人々の生活を知り、地球的視野と地域的視野でのものごとの見方や諸問題の関わりを理解する。そのことを通じて、自国の人々の生活や文化を客観的に考える能力を養うことを目標とする。

今日の世界を文化人類学がどのように見て、分析しているのか、どのような点に着目しなければならないのか、今日的問題を分析してゆくとしたらどのようなアプローチがあるのかにも言及する。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師（国外の講師を含む）を招くなどして、生活文化史的視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・人や文化の捉え方を身につけることができる。
- ・人や文化と関わる諸概念と用語の理解ができる。
- ・世界の様々な地域で暮らす多様な人々の生活を知り、地球的視野で理解できる。
- ・自国の人々の生活や文化を客観的に考える能力を養う。
- ・これらの知識や技術に基づき、多様な生活の営みを総合的にとらえその生活課題について、考察し、多様な人々と協働し生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 人類の社会性と文化
- 第3週 「人間」のあり方の多様性
- 第4週 文化的他者とはどのようにして構築されるか
- 第5週 「民族」という概念と現代性
- 第6週 世界を組み立てる超越者と世界
- 第7週 文化と身体との関係
- 第8週 ホモ・ルーデンス（「遊ぶヒト」）としての人間
- 第9週 「もの」からみえる人間世界
- 第10週 文化とコミュニケーション（外部講師による講義等）
- 第11週 環境と開発
- 第12週 「豊かな社会」とは
- 第13週 争いと平和 から考える人間
- 第14週 21世紀という時代とその生活文化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業時に資料として配布する。生活文化史1に関する資料・文献等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

適宜提示する。

【注意事項】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

生活文化史 2

細江 容子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

人間の生活とは、人間が環境と相互作用を営みながら生きていくありさまのことである。人間の生活を全体でとらえると、その特質は他の動物とは本質的に異なり文化を持つ、あるいは文化的なものであるといえる。生活文化史1では、文化人類学的視点で生活文化を読み解いたが、本講義ではそれらの視点に基づき人間のサブ集団に基づき生活文化を分析的に捉える視点を養うことを目的とする。

また、本講義では、専門的テーマで研究・実践等を重ねている外部講師を招き生活文化的視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・生活文化史1の視点から多様な生活文化を分析的に捉える能力を養う。
- ・分析的視点に基づき多様な人間のサブ集団の生活文化を分析的ににとらえる能力を養う。
- ・これらの知識や技術に基づき、多様な人々の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 多様な文化と家族
- 第3週 「子ども」の発見とその文化
- 第4週 子ども文化の変容
- 第5週 男女文化論
- 第6週 男女の差異性と文化
- 第7週 老年文化論
- 第8週 老いの捉え方の文化的差異
- 第9週 家庭文化論
- 第10週 文化と女性（外部講師による講義等）
- 第11週 文化と子ども（外部講師による講義等）
- 第12週 文化と高齢者（外部講師による講義等）
- 第13週 文化の多様性と生活
- 第14週 グループ報告
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート、テーマ等に関する討議等での意見発表プレゼンテーション等あるいは試験（50%）、平常点（毎回義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシート等の提出、授業態度（50%）。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション、フィードバックシートあるいは試験等に関してはそのつど全体における講評や個別の対応を行うなどしている。

【参考書】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。

【注意事項】

受講者の人数や関心に合わせて、若干の変更・修正の可能性もある。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

生活文化論 b

デザインと生活文化の多様性

合原 勝之

2年～ 前期・後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

世界には多様なデザインがあります。例えば、「食器」のかたちを見ても、世界各地によって様々です。また食器の使い方は、食事の「マナー」と強く結びついています。歴史的に長い時間を使って、「食事」がデザインされた結果、食器のかたちやマナーが生み出されたと考えることができます。これをデザイン的に表現すると、「食事のカタチ」のデザインとすることができます。これには、食器のかたちとマナー（人の振る舞い）の両方が含まれており、よりデザイン的な言い方となります。デザインの多様性には、それを生み出した地域の気候風土や歴史・文化、政治・宗教、伝統技術、天然資源など多くの要因が関係しています。そしてデザインは、小さな日用品から大きな都市、また、サービスなど目に見えないものまで広く対象とします。別の見方をすると、小さな日用品をよく観察することでも、それを生み出した地域の生活文化や価値観が見えてきます。本講義では、世界各地のデザインを多様な視点から読み解いていきます。これは、デザインを通して表現される多様な生活価値の理解へとつながります。また、現代社会は、「グローバル化」の時代を迎えています。デザインの視点からこの課題を考えることで、画一的ではない、新たな視界の広がりが見えてくるでしょう。

【授業における到達目標】

様々な商品デザインから、そのデザインが生み出されたコンテキストを読み解く力を身につけることを到達目標とし、「美の探究」と「研鑽力」の向上を図ります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 デザインの見方 その1（デザインと造形）
- 第3週 デザインの見方 その2（意図と表現）
- 第4週 スカンジナビアのデザイン その1（フィンランド、ノルウェー）
- 第5週 スカンジナビアのデザイン その2（デンマーク、スウェーデン）
- 第6週 ラテンのデザイン その1（イタリア）
- 第7週 ラテンのデザイン その2（フランス）
- 第8週 イギリスのデザイン
- 第9週 ドイツ語圏のデザイン（ドイツ、スイス）
- 第10週 オランダのデザイン
- 第11週 アメリカ合衆国のデザイン
- 第12週 日本のデザイン
- 第13週 グローバル化とデザイン その1（モダンデザインとグローバル化）
- 第14週 グローバル化とデザイン その2（新たな地域文化へ）
- 第15週 まとめと期末レポート

【事前・事後学修】

【事前学修】講義のはじめに解説する「デザインの見方」を参考に、店頭に多くある多様なデザイン製品について、よく観察して、そのデザイン背景について考えて下さい（週2時間）。

【事後学修】各回の講義で解説したデザインの背景について、その要点をまとめて下さい（週2時間）。

【テキスト・教材】

必要な資料は、授業毎に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な姿勢）40%、テーマ毎の小レポート40%、中間および期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

【注意事項】

受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

生徒・進路指導論

(国文学科 対象)

中沢 辰夫

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

ともすれば問題行動への対応のみに限定されがちな「生徒指導」「進路指導」ですが、その根拠となる生徒指導や進路指導の理論及び方法を学び、現代的な課題を考えることによって、教育現場での実践的指導力の「芽」を育てることがテーマです。

<授業で取り扱う内容>

- ・生徒指導の理論及び方法
- ・進路指導の理論及び方法

【授業における到達目標】

- ①生徒指導、進路指導の基本的な理論や実際の指導について理解する。
- ②最近の生徒指導の動向や課題を知り、課題解決のために実践に生かせるような考え方の芽を育む。

【授業の内容】

- 第1回 生徒指導の理念と歴史
- 第2回 児童生徒理解（生徒理解の意義と方法）
- 第3回 学校における生徒指導体制
- 第4回 懲戒と体罰などの問題とその周辺
- 第5回 進路指導の歴史と発展
- 第6回 開発的（積極的）生徒指導の推進と教育相談
- 第7回 学級（ホームルーム）担任の行う生徒指導
- 第8回 問題行動の理解と非行への対応
- 第9回 問題行動（いじめ・ネット・不登校問題）
- 第10回 問題行動（飲酒・喫煙・薬物乱用）
- 第11回 問題行動（自殺予防・暴力行為）
- 第12回 他機関連携
- 第13回 海外の生徒指導
- 第14回 生徒指導の動向と課題
- 第15回 講義の総まとめ

授業の進度によって順番や内容を一部変更する場合がある。

【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前の各回の予習は、各回の内容に関連する使用テキストの該当ページを通読して、疑問点などを書き出しネット検索などでヒントを見つける試みを行う。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕事後の学修は、配布されたプリント等を整理して、テキスト該当内容の演習課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：生徒指導提要[教育図書、2017、¥276(税抜)、※「学習指導要領解説」でも可]

梅澤秀監・木内隆生・嶋崎政男：生徒指導15講[大学図書出版、2014、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎時間のワークシートによる授業の参加度30%と、定期試験70%で総合評価する。

フィードバックについて、ワークシートにはコメントを記入し次の授業で、試験結果は授業最終回で行う。

【参考書】

授業内で参考図書や、視聴覚教材、各種メディアの情報などを紹介する。

【注意事項】

生徒指導・進路指導は、数学や国語などの学習指導とは異なり、領域ではなく機能としての教育活動です。これらの指導について深く理解した教師を目指してください。

生徒・進路指導論

(英文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

羽入田 眞一

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。生徒それぞれの人格のよりよい発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるにはどうしたら良いかを学びます。

進路指導は、将来生徒たちが直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくために、生徒一人ひとりの勤労観・職業観を育成することにあります。

国際化・多様化の進む日本社会において、生徒に生涯にわたるキャリア形成の力を身に付けさせるためには、学修者自身が多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度が求められています。

【授業における到達目標】

生徒指導、進路指導の学校現場での実際を学び、指導のための基礎的・基本的な知識及び技能を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 生徒指導とはなにか（生徒指導の意義や目的）
- 第3週 生徒指導の歴史
 - ・わが国や他国における生徒指導の歴史
- 第4週 個別の課題を抱える生徒への指導
 - ・喫煙・飲酒・薬物乱用、少年非行、いじめ等
- 第5週 学校における生徒指導体制
 - ・年間指導計画、校務分掌における生徒指導部の役割
- 第6週 新しい生徒指導課題と生徒指導の進め方
 - ・生徒理解の方法や具体的な生徒指導の進め方
- 第7週 生徒指導に関する法制度等
 - ・校則、懲戒と体罰、出席停止
- 第8週 学校と家庭・地域・関係機関との連携
 - ・学校と家庭・地域・関係機関との連携の具体例
- 第9週 進路指導とはなにか（進路指導の意義や目的）
- 第10週 進路指導の歴史
 - ・わが国や他国における進路指導の歴史
- 第11週 学校における進路指導体制
 - ・年間指導計画や校務分掌における進路指導部の役割
- 第12週 キャリア教育と進路指導
 - ・キャリア教育と進路指導との関係
- 第13週 キャリア教育の実際①
 - ・職場体験活動やインターンシップの在り方
- 第14週 キャリア教育の実際②
 - ・職場体験活動やインターンシップの事例研究と各自の発表（プレゼンテーション）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修では、授業内に紹介する書籍や資料等を読み、次週の授業範囲を予習してください。事後学修では授業中に配布するプリントや資料等を復習してください。適宜、課題を出します（コメントシートに記載）。事前と事後を合わせて週4時間の学修です。

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業への積極参加）評価30%、課題20%
課題については次の授業においてフィードバックを行います。

【参考書】

文部科学省『生徒指導提要』教育図書2014年298円

文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版2012年940円

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版2011年780円

生徒・進路指導論

(食生活科学科、現代生活学科 対象)

村木 晃

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

生徒指導という用語から、「問題行動への対応」が想起されることが多いのですが、本来の生徒指導は、児童生徒一人ひとりの人格の完成を目指して行われる教育活動なのです。本授業でも、「いじめ」や「不登校」などの諸課題を取り上げますが、「生徒理解」や「楽しくわかる授業」といった幅広い生徒指導の活動も扱っていきます。皆さんが教壇に立てば様々な生徒指導上の場面に遭遇するため、授業では実践的指導力が身につくことを目指して進めます。

【授業における到達目標】

- ①生徒指導・進路指導は、児童生徒にどんな働きかけを行うものであり、何を育成し、将来にどうつながるのか等、その本質的な意義・目的を見抜くことができるようになる。
- ②生徒指導・進路指導の理論を学び、学校現場の状況や課題を正確に見出すことができるようになる。
- ③生徒指導・進路指導の課題を、学生相互の協働的な活動を通じて検討し、その解決策の考察を深められるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生徒指導とは何か
- 第3週 生徒指導の歴史と教育政策
- 第4週 生徒指導と教育法規
- 第5週 生徒指導と学校安全
- 第6週 生徒指導と学級経営
- 第7週 生徒指導と校内体制
- 第8週 生徒指導と授業
- 第9週 教育相談と担任の役割
- 第10週 生徒指導上の諸課題Ⅰ（飲酒・喫煙・薬物）
- 第11週 生徒指導上の諸課題Ⅱ（暴力行為・不登校）
- 第12週 生徒指導上の諸課題Ⅲ（いじめ）
- 第13週 進路指導とキャリア教育の歴史
- 第14週 キャリア教育の実践
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修（毎週2時間）】**

- ・毎回紹介する参考文献・新聞記事等を読み、各自ノートにまとめながら質問事項をたてておく。

【事後学修（毎週2時間）】

- ・毎回配布するプリントにある「課題」に取り組み、知識の定着や考察を深める作業をしておく。

【テキスト・教材】

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書 2010年）290円

その他、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

確認テスト60%、課題A10%、課題B10%、グループ発表10%、質疑応答等への積極的な参加度10%。課題は返却時に、グループ発表は随時講評・解説を行う。確認テストの結果は授業最終回において出題趣旨や回答への考え方等の解説を行いフィードバックする。

【参考書】

河村茂雄『生徒指導・進路指導の理論と実際』図書文化社

和田真市『いじめの正体』共栄書房

村木 晃『「坊ちゃん」の通信簿』大修館書店

【注意事項】

この授業では、数多くの問いかけを行います。各自が積極的に意見表明し、それを全体で共有し課題解決に向けたより高いレベルの考察に至ることを目指します。また、グループ発表としてロールプレイングを実施します。役割演技を通じて実践的な指導につながる方法論を見出せるよう多数の参加を望みます。

生徒・進路指導論

生徒指導の理論と方法(生活環境学科、生活文化学科 対象)

道又 紀子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

生徒指導とは、生徒の個性の伸張をはかり、同時に社会性を育てることを目的とした教育活動である。本講義では、生徒指導にかかわる基礎知識を得るとともに、具体的な指導方法を身につけることを目的とする。近年、生徒をとりまく教育環境は必ずしも良好とは言えず、問題行動は、低年齢から生じる傾向にあり、深刻なケースも増加している。本講義では、これらの現状をふまえ、生徒指導の役割を確認し、様々な指導の在り方を学ぶことを目的とする。生徒がより良い自己実現に向かうために、どのような援助やキャリア支援が可能かを考えていく。

【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を知り、現在の生徒指導上の問題を正しく理解する深い洞察力を身につけ、目標をもって問題解決をおこなう力を養う
- ②倫理観を以って集団を形成し、互いを尊重し生かす集団作りを指導する
- ③キャリア支援については、国際感覚や状況に応じたリーダーシップ等を育てる

【授業の内容】

- 第1週 生徒指導とは何か
- 第2週 生徒指導の歴史
- 第3週 子どもの発達的特徴（1）誕生から学童期
- 第4週 子どもの発達的特徴（2）思春期から青年期
- 第5週 生徒指導の今日的な課題
- 第6週 学級集団のとらえ方と生かし方
- 第7週 集団づくりの実際
- 第8週 事例を基に考える（1）不登校（初期対応・長期対応）
- 第9週 事例を基に考える（2）いじめ問題
- 第10週 事例を基に考える（3）摂食障害（病理の理解・連携）
- 第11週 食事と睡眠に関する指導の工夫
- 第12週 保護者とのコミュニケーション
- 第13週 生徒指導についての各国の取り組み
- 第14週 進路指導
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

<事前学修> 授業は、生徒指導提要に添って進むため、事前に生徒指導提要の指定箇所を読んで授業に臨むことが必要となる（必要時間2時間）

<事後学修>

授業内で配布したプリントを熟読して自分の知識とする必要がある（必要時間2時間）

【テキスト・教材】

基本的には、「生徒指導提要」（298円）、「中学校学習指導要領本体」（238円）「高等学校学習指導要領本体」（588円）（文部科学省）「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所（1,857円）（ぎょうせい）を基礎資料とする。（授業内に必要な箇所を配布する）各授業の必要に応じて、資料プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断40% レポート40%（授業最終日に返却） 小課題20%（翌週授業日に返却）

【参考書】

- 「生徒指導提要」（文部科学省）
- 「学習指導要領」（文部科学省）
- 「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導研究センター（ぎょうせい）

生徒・進路指導論

末吉 雄二

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

生徒指導とは、一人一人の生徒の人格を尊重して個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目的として実施する教育活動です。学習指導とともに望ましい学級集団や人間関係づくりをねらいにして、全ての教職員が組織的に実践する重要な指導であることを学びます。また、生徒指導には、予防的生徒指導と対症療法的生徒指導があり、これを基に生徒達の健全育成のあり方を学びます。近年、激変する社会の状況が深刻な問題を生み出している現状を踏まえ、生徒指導の基礎知識や将来の生徒の生き方（進路）指導も合わせて、具体的指導方法を学びます。

【授業における到達目標】

生徒指導は、その生徒のよさや可能性、家庭や生育環境、育った地域の状況、友人関係等を把握する「生徒理解」を基本として指導していくことが、最も重要です。教育現場の具体的事例から学び、生徒の自己成長への働きかけのあり方等、指導方法の基礎を身に付け、実践できる資質・能力を培うこととします。

【授業の内容】

- 第1週 生徒指導の意義と課題
- 第2週 集団指導と個別指導の方法原理
- 第3週 教科における生徒指導
- 第4週 生徒の心理と生徒理解
- 第5週 生徒指導の組織と指導体制
- 第6週 教育相談の意義と体制及びその進め方
- 第7週 組織的対応と関係機関との連携
- 第8週 基本的な生活習慣の確立
- 第9週 問題行動の早期発見と効果的な指導
- 第10週 いじめ問題の理解と問題への対応
- 第11週 インターネット・携帯電話にかかわる課題
- 第12週 発達障害等生徒への理解と対応
- 第13週 進路指導（キャリア教育）の基礎理論と個別的課題
- 第14週 進路指導（キャリア教育）とキャリア・デザイン
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ◆事前学修：予習課題プリントを新聞や参考書を活用してまとめてきてください。それを次回授業の冒頭に使用して生徒指導の理解を深めるようにします。（学修時間2時間）
- ◆事後学修：授業で学んだ内容を教科書と照らし合わせて、前回は配布した予習課題プリントの内容も含めて、生徒指導の知識と理解に役立てます。（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

- 文部科学省：生徒指導提要[2010、¥298(税抜)]
- 文部科学省：中学校学習指導要領[2008、¥298(税抜)]
- 文部科学省：生徒指導提要[2009、¥298(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ①予習課題プリント（20%）
- ②授業中の課題実践（50%）
- ③課題レポート（第14回授業時に問題配布、15回授業時に提出）（30%）

【参考書】

- ①「新聞」（どの新聞でも良い。教育面・社会面を毎日読むことで、世の中の動きを知る）
- ②「月刊・生徒指導」（学事出版）820円
- ③末吉雄二著「アクション・リサーチによる若手教員の育成」（H27 学事出版）1,600円

生徒指導論（栄養）

生徒指導の理論と方法

道又 紀子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

生徒指導とは、児童生徒の個性の伸張を目指すとともに社会性を育てることを目的とした教育活動である。本講義では、生徒指導にかかわる基礎知識を得るとともに、具体的な指導方法を習得することを目的とする。近年、児童生徒をとりまく教育環境は必ずしも良好とは言えず、問題行動は低年齢から生じる傾向にあり、深刻なケースも増加している。本講義では、これらの現状をふまえ、生徒指導の役割を確認し、様々な指導の在り方を学ぶことを目的とする。

さらに生徒がより良い自己実現に向かうために、どのような援助が可能かを考えていく。

【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を知り、感受性を深め、現在の生徒指導上の問題を正しく理解する深い洞察力を身につける
- ②倫理観を以って集団を形成し、互いを尊重し生かしあえる集団作りを指導することができる
- ③個々の問題行動に対し、現状を把握し、目標を設定し、問題解決に向かう力を養うことができる

【授業の内容】

- 第1週 生徒指導とは何か
- 第2週 生徒指導の歴史
- 第3週 子どもの発達的特徴（1）誕生から学童期
- 第4週 子どもの発達的特徴（2）思春期から青年期
- 第5週 生徒指導の今日的課題
- 第6週 学級集団のとらえ方と生かし方
- 第7週 集団づくりの実際
- 第8週 事例を基に考える（1）不登校（初期対応・長期対応）
- 第9週 事例を基に考える（2）いじめ問題
- 第10週 事例を基に考える（3）摂食障害（病理の理解と連携）
- 第11週 食事と睡眠に関する指導の工夫
- 第12週 保護者とのコミュニケーション
- 第13週 生徒指導についての各国の取り組み
- 第14週 これからの生徒指導
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

＜事前学修＞事前に生徒指導提要の指定箇所を読んで、授業に臨むことが必要となる（必要時間2時間）

＜事後学修＞授業で配布したプリントを熟読し、自分の知識とする必要がある（必要時間2時間）

【テキスト・教材】

基本的には、「生徒指導提要」（298円）、「小学校学習指導要領本体」（238円）（文部科学省）「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所（ぎょうせい）（1857円）を基礎資料とする。（授業内に必要な箇所を配布する）各授業の必要に応じて、その他の資料プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%
レポート40%（後日返却）
小課題20%（後日返却）

【参考書】

「生徒指導提要」（文部科学省）
「学習指導要領」（文部科学省）
「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導研究センター（ぎょうせい）

生物科学

生命を営むメカニズム

阿尻 貞三

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が一般の方に次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの仕組みについて紹介します。基礎的な化学生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する内容の場合があります。

【授業における到達目標】

生体を構成している分子の基本的機能メカニズムを理解し、日々解明される科学技術の理解の習得に研鑽し、生体はいかに機能しているのかを、説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の機能およびそれぞれの分子が持つ「美」、分子の相互関係の美を説明していきます。実際は生体の各分子は複雑に絡み合って生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。この分子を知ったら終わりというもの、ではなく分子の相互関係がつつぎと発見されており、あたらしい知識の習得の研鑽につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な知識を養ってください。

【授業の内容】

- 第 1 週 生物を科学する。
- 第 2 週 細胞とは。
- 第 3 週 細胞内小器官、核と細胞質。
- 第 4 週 ミトコンドリアと葉緑体のもととはバクテリア。
- 第 5 週 原核生物には古細菌と真細菌がある。
- 第 6 週 真核生物の進化を共生で考えてみる。
- 第 7 週 身体を構成する物質。
- 第 8 週 食るとは。炭水化物の消化吸収。
- 第 9 週 食るとは。タンパク質の消化吸収。
- 第 10 週 消化管は免疫器官である。
- 第 11 週 動物の運動。モーター分子、アクチンーミオシン。
- 第 12 週 アクチンミオシンの制御。
- 第 13 週 モーター分子、チューブリンーダイニンとキネシン。
- 第 14 週 細胞内でのモーター分子は物質の輸送を行っている。
- 第 15 週 まとめ。

【事前・事後学修】

高校で学習した生物学あるいは化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、定期テストおよびレポート提出で70%、受講態度などで30%で総合評価します。

小テスト、定期テストは問題を解説して返却しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

【注意事項】

出席して聞いていても、理解できなければ何なりません。理解するための工夫を自分で考えてください。

生命と環境

水、大気、光と生命

阿尻 貞三

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

この地球上では生物は単独の種のみであるいは個体のみで生きていくことは不可能です。多くの生物種の集団の中で、互いに共存しあい、共生しあって初めて生きていくことができます。生命の基本的機能はすべての生物に共通と考え、生命の持つこの基本機能を分子レベルでさぐることにより、地球上の生命の尊さを理解できるものと考えます。そしてこれからこの地球で生きていくためにはすべての生物との共存の道を考えなければならないと思われまます。

この講義では生物がもつ基本機能としての、外界つまり環境の要因と交流の仕方を分子レベルで見つめてみます。環境要因として基本的な〔水〕、〔大気〕、〔光〕を取り上げます。

それぞれの環境要因と生物・生命の関係を説明できることを目標とします。

【授業における到達目標】

自分の住む環境と多様な生命形態、多様な生命様式とのつながりを多角的視点で理解し、そして次世代の方に説明できるようにしましょう。また、つねに新しい知識を増やしていくように努めてください。科学的知識は日々新しくなっています。それを理解して、自分自身を新しくリニューアルして行ってください。講義全体を通して得た知識で物事の本質を洞察してください。それにより現在の状況を理解し、問題解決の行動へとつながると思います。またヒトは一人では生きていけませんので、集団の中で他者からの智識を受け入れ、自己の智識を修正していくという柔軟な理解力を養ってください。

【授業の内容】

- 第1週 水と生命 水とは何か
- 第2週 水と生体物質 タンパク質、糖類と脂質、核酸および細胞
- 第3週 生命のゆりかごとしての水
- 第4週 細胞内共生による真核生物の細胞進化
- 第5週 大気と生命 酸素の由来
- 第6週 酸素と生命 活性酸素
- 第7週 酸素と生命 ミトコンドリア
- 第8週 酸素と生命 電子伝達系と化学浸透圧機構
- 第9週 光と生命
- 第10週 紫外線と生命 オゾンによる紫外線フィルター
- 第11週 紫外線と生命 ビタミンD
- 第12週 ひかり合成 その1 葉緑体
- 第13週 ひかり合成 その2 明反応
- 第14週 ひかり合成 その3 C3植物、C4植物
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

高校時での理科系教科書で生物系の当該箇所を復習しておいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習してください。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験と臨時の小テストおよびレポート提出で（85%）および受講態度（15%）で総合評価します。小テストなどは返却し、フィードバックとして解答を解説しますので、各自自己学習、復習に使用して自己研鑽を積んでください。

【注意事項】

出席して聞いても、理解できなければ何もなりません。

学習成果の確認のため、随時、小テストを行います。

生命と環境

水、大気、光と生命

阿尻 貞三

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この地球上では生物は単独の種のみであるいは個体のみで生きていくことは不可能です。多くの生物種の集団の中で、互いに共存しあい、共生しあって初めて生きていくことができます。生命の基本的機能はすべての生物に共通と考え、生命の持つこの基本機能を分子レベルでさぐることにより、地球上の生命の尊さを理解できるものと考えます。そしてこれからこの地球で生きていくためにはすべての生物との共存の道を考えなければならないと思われまます。

この講義では生物がもつ基本機能としての、外界つまり環境の要因と交流の仕方を分子レベルで見つめてみます。環境要因として基本的な〔水〕、〔大気〕、〔光〕を取り上げます。それぞれの環境要因と生物・生命の関係を説明できることを目標とします。随時、小テストを行います。

【授業における到達目標】

自分の住む環境と多様な生命形態、そして生命のあらゆる個所で美を見出し、多様な生命様式とのつながりを多角的視点で理解し、そして次世代の方に説明できるようにしましょう。また、つねに新しい知識を増やしていくように努めてください。科学的知識は日々新しくなっていきます。それを理解して、自分自身を新しくリニューアルして行ってください。講義全体を通して得た知識で物事の本質を洞察してください。それにより現在の状況を理解し、問題解決の行動へとつながると思います。またヒトは一人では生きていけませんので、集団の中で他者からの智識を受け入れ、自己の智識を修正していくという柔軟な理解力を養って研鑽に努めてください。

【授業の内容】

- 第1週 水と生命 水とは何か
- 第2週 水と生体物質 タンパク質、糖類と脂質、核酸および細胞
- 第3週 生命のゆりかごとしての水
- 第4週 細胞内共生による真核生物の細胞進化
- 第5週 大気と生命 酸素の由来
- 第6週 酸素と生命 活性酸素
- 第7週 酸素と生命 ミトコンドリア
- 第8週 酸素と生命 電子伝達系と化学浸透圧機構
- 第9週 光と生命
- 第10週 紫外線と生命 オゾンによる紫外線フィルター
- 第11週 紫外線と生命 ビタミンD
- 第12週 ひかり合成 その1 葉緑体
- 第13週 ひかり合成 その2 明反応とC3植物、C4植物
- 第14週 水についてのまとめ
- 第15週 大気と光についてのまとめ

【事前・事後学修】

高校時での理科系教科書で生物系の当該箇所を復習しておいてください。【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間) 【事後学修】発表・小テスト等を復習してください。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は小テストおよびレポート提出などで70%、および受講態度で30%で総合評価します。テスト等は解説して返却しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

【参考書】

講義開始時にプリントを配布します。

【注意事項】

出席して聞いても、理解できなければ何なりません。

生命と環境の倫理

生命倫理と環境倫理

岡部 英男

1年～ 前期・後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

小坂国継・本郷均（編）『概説 現代の哲学思想』（ミネルヴァ書房 2012年）3,500円。該当箇所についてはコピーして配布する予定。

【授業のテーマ】

こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本講義のねらいは、損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことです。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的です。中心テーマは他者をどのように見、扱うべきか、ということです。生命倫理では自己決定がまだできない生命の始まりの段階や終わりの段階では、社会は何を認め、何を認めるべきでないのか、環境倫理では人間以外の種・未来世代・第三世界の権利をどのように尊重すべきか、こうしたことについてを概説します。

【授業における到達目標】

- 1 自己中心的ではなく他者を尊重しいたわる態度、優しさと強さを兼ね備え、倫理観をもって人格を陶冶しようとする態度を身につける（協働力）。
- 2 体外受精・臓器移植・安楽死などの生命倫理の諸問題について広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1週 予定。倫理学（ethics）の語義・対象・課題。道徳との異同。
- 第2週 学問全体における倫理学の位置づけ。実践的学問としての倫理学。生命倫理学の誕生。
- 第3週 生命倫理（体外受精、代理母、精子バンク）
- 第4週 生命倫理（体外受精の問題点、余剰胚、臓器製造）
- 第5週 生命倫理（人工妊娠中絶、三期説）
- 第6週 生命倫理（出生前診断、着床前診断、遺伝子操作への賛成論と反対論）
- 第7週 生命倫理（優生思想）
- 第8週 生命倫理（脳死、臓器移植、臓器移植の問題点）
- 第9週 生命倫理（安楽死）
- 第10週 生命倫理（生命の尊厳と生命の質、パーソン論）
- 第11週 生命倫理（医療の倫理、パターンリズムからインフォームド・コンセントへ）
- 第12週 生命論理（医療と正義、医療資源の配分、四つの原則）
- 第13週 環境倫理（倫理学の対象の拡大、環境倫理の三つの主張、自然の生存権、自然保護の諸段階）
- 第14週 環境倫理（世代間倫理、未来に対する責任、人口問題と南北問題）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。関連する諸テーマについてテレビ・新聞・インターネットなどで報道されるものを積極的に見て、関心をもつこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、教科書の該当箇所を読み返し、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

【テキスト・教材】

小坂国継・岡部英男（編）：倫理学概説[ミネルヴァ書房、2005、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

【参考書】

生命の科学

平塚 理恵

1年～ 後期 2単位

○：美の探究

【授業のテーマ】

生命が誕生してから約38億年という年月が経ち、地球上には数千万種類にもおよぶ生物が生息している。様々な生物の遺伝情報が次々と解読され、遺伝子組換え生物、遺伝子診断、再生医療が身近な話題となっている現在、生命科学の知見は生命科学以外の多くの分野にも影響を与え、どの分野に進む人にもその知識は必要となってきた。本講では、地球上に住む生物の一員であるヒトについて、他の生物との共通性と多様性を意識しながら学ぶことで生命や自然への理解を深める。

【授業における到達目標】

1. 生物は細胞から成り立っており、そこでは生命活動に必要なエネルギーが作られていることを説明できる。
2. 生物は遺伝情報をもとに体をつくり、その遺伝情報は親から子と伝わっていくことを説明できる。
3. 生物は外界からの刺激に応答するとともに、体内環境を一定に保っていることを説明できる。

本講では学生が修得すべき「研鑽力」のうち、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる能力を、「美の探求」のうち、新たな知を創造しようとする態度を修得する。

【授業の内容】

- I. 細胞の構造と生命誕生
 1. はじめに（授業概要）
 2. 細胞の構造と働き-1
(核、小胞体、リボソーム、ミトコンドリア)
 3. 細胞の構造と働き-2
(ゴルジ体、リソソーム、細胞骨格、細胞膜)
- II. 生命体を構成する物質
 4. アミノ酸、タンパク質
 5. 糖質、脂質、核酸
- III. 遺伝子の構造と働き
 6. DNAの構造
 7. DNAの複製
 8. 転写
 9. 翻訳
- IV. 生命活動とエネルギー
 10. 呼吸と光合成
- V. 細胞の増殖
 11. 体細胞分裂
 12. 減数分裂
- VI. 生命体の反応と調節
 13. 遺伝のしくみ
 14. 生体防御機構
 15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修 レポート等の課題に取り組む。(週2時間)

事後学修 授業内で行った小テスト等を復習する。(週2時間)

【テキスト・教材】

南雲：やさしい基礎生物学[羊土社、2016、¥2,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点(授業態度、課題提出)30%とし評価する。

小テスト、課題については次回授業でフィードバックする。

【参考書】

鈴木孝仁監修『視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図説』三訂版(数研 2017年) 1130円+税
堂島大輔『マンガ生物学に強くなる』(講談社ブルーバックス2014年) 980円+税

生命の科学

私たちの起源：生きていることの相対化

正木 春彦

1年～ 前期 2単位

○：美の探究

【授業のテーマ】

すべての生物は共通な遺伝暗号と普遍的な原理で遺伝子発現を行う。それぞれの分子の仕組みは物理や化学で説明できる。しかし、地球上には膨大な種類の生物が生きている。環境が違えば生物が違い、同じ環境でも様々な生物が環境をさらに多様化している。このように生物には、原理的な普遍性という縦軸と、膨大な多様性という横軸の広がりがある。つまり生物の答は一つでなく多数の潜在的な正解をもっている。しかも、この世に出現したのは進化という一回限りの連続事象の結果であり、「歴史」に似た一種の偶然性ももっている。たくさんの選択可能なしくみを抱えた多様性を記述する必要性から、生物は暗記物、という誤解は生じる。また生物学は、ヒト自身が生物であるため人間の価値観に強く支配される自然科学でもあり、ヒトから視点をずらせば、世界がまったく違って見えてくる。そこに気づけば目からウロコの生命観、世界観が得られるかもしれない。そこを人生に生かして欲しい。

【授業における到達目標】

- ・生物における、普遍的な遺伝子発現のしくみを大略理解する。
- ・いろいろな意味での生物の多様性があることを認識する。
- ・とくに、ヒトの対極にありながらヒトに身近でもある微生物の世界を知る。
- ・応用として、食料問題や生活における命の意味について自分の考えをまとめる。

【授業の内容】

講義内容予定(実際の構成には多少変更がある可能性があります)

1. 非生物の世界と生物の世界
2. 細胞の仕組みと増殖
3. 細胞レベルの遺伝と個体レベルの遺伝
4. アミノ酸、タンパク質、酵素
5. 代謝と生体エネルギー
6. 遺伝子と遺伝子の発現
7. DNAの複製と有性生殖
8. 遺伝子変異：mutationとvariation
9. 生物の進化とヒト
10. 生物多様性とは何か、種とは何か?
11. 種の多様性と遺伝子の多様性
12. 微生物から見た世界
13. 遺伝子組換え食品
14. 世界と日本の食料
15. 現代ハチ公物語、ヒトと生物

【事前・事後学修】

事前学修：テキストや講義資料の指定された章を読んで背景を知り、予備知識を得る。(学修時間 週2時間)

事後学修：講義資料を利用して講義内容を自分のノートにまとめ、理解を整理する。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

公益財団法人 日本科学協会 編著「人間の生命科学 --現代社会に生きるための基礎知識--」(Web版)

毎回の講義資料は受講者には公開する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(講義途中で行う数度の小テスト)60%、定期試験40%の予定。小テストの一般的結果は次回授業に反映させる。

【参考書】

東京大学生命科学教科書編集委員会編「現代生命科学」その他、高校の生物教科書および各種の生物の図録・資料集は参考になる。

【注意事項】

自分の頭で考え、自分の言葉で表現することが重要。小テストも答以上に自分の言葉で説明できているかに注目する。自分のノートを取ることは理解のために必須です。

生理学

山崎 和彦

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

生理学は人体および生活に関するあらゆる学問の基礎となる。人体の生理機能について理解を深めることは、生活環境学科の学生にとって、モノの設計、デザインの評価、健康維持管理に取り組み、また卒業論文制作に際し、極めて有用となる筈である。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、人体の生理機能における真理を探究する態度を身につける。また、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 細胞、体組成
- 第2週 骨格、筋
- 第3週 神経
- 第4週 大脳
- 第5週 視覚、聴覚、嗅覚
- 第6週 平衡覚、味覚、深部感覚
- 第7週 皮膚、皮膚感覚
- 第8週 心臓と血管
- 第9週 血液とリンパ
- 第10週 呼吸
- 第11週 消化と吸収
- 第12週 エネルギー代謝
- 第13週 泌尿、内分泌
- 第14週 生殖、免疫
- 第15週 総括

(注：生理学に関する領域に「遺伝」「進化と適応」がある。これらに関する事項は膨大である為、3年次に開講される「生理人類学」において扱う。)

【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領(参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他)を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修については、週あたり、各々2時間以上を充てること。

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点(授業態度)30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、学科掲示板に、1週間以内を目処に、正答率の低かった設問についての正解例、成績分布、講義における所感等を掲示する。また、マナバに記された学生による希望や改善点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

【参考書】

適宜示す。

生理学特論A

身体の仕組みと薬物のはたらき

中村 彰男

食物栄養学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

この講義では、生体における薬物の作用を通じて、より深く生理学を理解することを目指す。さらに「分子生理学」「分子栄養学」「分子薬理学」「分子生物学」からなる学際的相互関係を重視することで、新しいフィールドの開拓や相互理解を深め、より高度な専門職的知識の習得を目指す。

【授業における到達目標】

横断的な学修を通じて、人体の構造と疾病の成り立ちと薬物の作用機序が説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第 1 週 消化管の役割
- 第 2 週 胃痛と消化性潰瘍治療薬
- 第 3 週 血液の役割
- 第 4 週 血液凝固と線溶現象
- 第 5 週 貧血とその治療薬
- 第 6 週 炎症と生体制御
- 第 7 週 非ステロイド性抗炎症薬とステロイド
- 第 8 週 痛みの生理学
- 第 9 週 麻薬と局所麻酔薬
- 第 10 週 生体調節と生活習慣病
- 第 11 週 糖尿病・痛風
- 第 12 週 高血圧・骨粗鬆症
- 第 13 週 脂質代謝異常・動脈硬化性疾患
- 第 14 週 呼吸器の構造と機能
- 第 15 週 気管支喘息とCOPD

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に講義に関する資料を配布します。学習しておいてください（学修時間 週2時間）。

【事後学修】講義内容に関連する課題を課します。情報収集を自分で行い、レポートを提出して貰います（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

配布プリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】**【評価方法】**

受講態度と学習意欲（質問や発表および課題提出）50%、レポート50%で評価します。

【フィードバック】

基本的な事項を学習した後に、それらが有機的に繋がるように課題などの提出物に対してのコメントを通じてフィードバックする。

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【注意事項】

特になし。

生理人類学

山崎 和彦

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

生理人類学は人類学から派生した比較的新しい学問であり、主に現代の都市に暮らす人類を対象とする。本講義では進化、遺伝、文化などを踏まえ、生理学的観点から人類の本質について考える。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、人類についての多様性を認識し、多角的な視点を通じて世界を眺める態度を身につける。また、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 人類学および生理人類学の歴史
- 第2週 進化と適応
- 第3週 人類の起源
- 第4週 感覚と感性
- 第5週 人の自律神経機能
- 第6週 人の内分泌系
- 第7週 脳と神経系
- 第8週 精神機能
- 第9週 人の発育
- 第10週 人の老化
- 第11週 自然環境と人
- 第12週 人工環境と人
- 第13週 遺伝学概論その1
- 第14週 遺伝学概論その2
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修には、週あたり、各々2時間以上を充てるようにする。

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、学科掲示板に、正答率が低かった設問の正解例、成績分布、授業における所感等を掲示する。マナバに記された学生による意見や不満点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

【参考書】

適宜示す。

生理人類学実験

山崎 和彦

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：国際的視野 ○：協働力

【授業のテーマ】

環境要素、人間の生理機能、そして両者の関係について実験を行う。これらを体験し、さらにレポート作成および研究発表を行うことは、本学科の学生が、環境－モノ－人間系のデザイン、あるいは卒業研究に取り組む上で極めて有用である。

【授業における到達目標】

本授業を通じて、人体の構造や仕組み、生理機能、感覚等について真理を探究することにより、新たな知を創造しようとする態度を身に付ける。また、実験する楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1回 気温、湿度、放射温、気流
- 第2回 騒音、粉塵、有害ガス
- 第3回 動作、歩行、姿勢
- 第4回 筋力、柔軟性、作業域
- 第5回 情報処理能力、反応時間
- 第6回 皮膚性状、皮下脂肪、体組成
- 第7回 発汗、皮膚感覚
- 第8回 生体負担、代謝量、疲労
- 第9回 中間研究発表会
- 第10回 生体電気
- 第11回 暗順応と明順応
- 第12回 被服圧、血流量
- 第13回 温冷感、寒冷血管反応
- 第14回 被服内気候
- 第15回 最終研究発表会

【事前・事後学修】

事前学修については、電子メールその他により次回テーマについて提示するので、あらかじめよく思索し、実験のためのアイデアを練って授業に臨むこと。事後学修については、当日の実験についてのレポートを作成すること。なお提出期限は、次回実験が開始される迄とする。事前および事後の学修時間は、毎週あたり、各々1時間以上を充てるようにする。

【テキスト・教材】

資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（実験中の態度）50%、レポート50%とする。学生が提出したレポートについては、所感および改善すべき事項等を個々に伝える。また、毎回の授業の冒頭において、受講者全体に向け、前回分の実験レポートについて総評する。

【参考書】

適宜示す。

【注意事項】

実験に適した服装を心掛けること。

西洋の美術 c

近世イタリア美術と美術を解釈する視点

黒田 加奈子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

イタリアを中心として、近世にあたるルネサンスからバロック期の美術作品について学びます。美術作品を見る多角的な視点を学び、個々の作品について掘り下げながら、その美術作品の歴史的・社会的・美術史的な意味を考えていきます。

【授業における到達目標】

当時の社会状況と美術作品の制作がどのように関連しているのか、また現代の私たちが美術作品を鑑賞する際に注意すべきことなどを考えながら、さまざまな作品を鑑賞し、その時代と美術の特徴を理解することと、美術作品を解釈するさまざまな視座を知ingことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン—時代区分、様式、方法論について
- 第2週 ルネサンスという時代—思想、社会
- 第3週 ルネサンスの萌芽—ジョットとその後継者
- 第4週 初期～盛期ルネサンス—遠近法の誕生・人文主義
- 第5週 盛期ルネサンス—異教的ルネサンス
- 第6週 北部イタリアのルネサンス—ヴェネト派を中心に
- 第7週 盛期ルネサンス—ローマ
- 第8週 ルネサンスとは何か—これまでのまとめと質疑
- 第9週 マニエリスムとは何か—思想、社会
- 第10週 マニエリスムの美術—絵画を中心に
- 第11週 マニエリスムの美術—その波及と多様性
- 第12週 バロックとは何か—思想、社会
- 第13週 バロック様式の美術—祝祭空間としての教会美術
- 第14週 バロック様式の美術—布教時代の美術
- 第15週 講義のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容を確認し、高等学校で履修した世界史の教科書等で、該当する時代と項目（中世ヨーロッパ世界、ルネサンスと宗教改革）を確認する。また、1年次に「西洋美術史入門」を履修済の場合は、該当時代を復習する（学修時間 週2時間）。

【事後学修】配布物、ノートの内容を整理する。下記参考書、授業内で指示する参考文献等を精読する（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

教科書はありません。参考文献は各回に適宜指示しますので参照してください。また、必要に応じてプリントを配布しますが、板書内容、話した事柄についてはノートを取って各自整理してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験およびコメント・ペーパーにより評価します。毎回授業終了時にコメント・ペーパーを提出していただきます。コメント・ペーパーには授業内でフィードバックを行います。

コメント・ペーパー45%、試験55%

【参考書】

- ・『世界美術大全集西洋編』第11～17巻、小学館、1992～1995年。
- ・ゴンブリッチ『美術の物語』ファイドン、2007年、186～411頁。
- ・若桑みどり『イメージを読む—美術史入門』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2005年。
- ・パノフスキー『イコノロジー研究』（ちくま学芸文庫）（上・下）筑摩書房、2002年。
- ・ピーターバーク『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、1992年（新装版 岩波書店、2002年）。
- ・『西洋美術の歴史』第4、6巻、中央公論新社、2016年。

【注意事項】

授業で参照したイメージのカラープリントは配布しません。必要に応じて、『世界美術大全集西洋編』（小学館）やインターネットのイメージ検索などで確認してください。

西洋の美術 d

ドイツ語圏の近代美術

長屋 光枝

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

ドイツ帝国が発足した19世紀、および、第一次世界大戦、ヴァイマル共和国の時代を経て第二次世界大戦終結へといたる20世紀前半までのドイツを中心に、ドイツ語圏で展開した美術を論じる。ドイツの美術家たちは、社会や政治の状況に敏感に反応し、制作を行った。授業では、そうした時代背景や作家たちが関心をもった領域を比較しつつ、美術に対するドイツに固有の造形意識をあぶりだしていく。とりわけ19世紀末から20世紀前半にかけて、ドイツと日本は深い関係にあった。その歴史や政治、文化政策等は我が国に大きな影響を与えており、今日の私たちの社会とも密接に関わっている。自らの立ち位置を検証するという視点に立ち、美術という枠を越えて関心や知識を広げingことを目標とする。

【授業における到達目標】

19世紀、および20世紀前半までのドイツ美術史の基礎を学び、社会の近代化と美術の歴史がどのように関連しあっていたのかを、ドイツというひとつの事例を通じて理解する。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION：授業の説明
- 第2週 ロマン主義
- 第3週 象徴主義
- 第4週 印象派
- 第5週 リアリズム
- 第6週 ドイツのユーゲントシュティール
- 第7週 オーストリアを中心とした世紀末美術
- 第8週 ドイツ表現主義
- 第9週 ブリュック
- 第10週 青騎士
- 第11週 抽象絵画の探求
- 第12週 ダダ
- 第13週 新即物主義
- 第14週 ドイツ工作連盟とバウハウス
- 第15週 戦争と美術

【事前・事後学修】

ドイツ近現代史について、講義が始まる前に5-6時間程度、図書館で事前学修しておくこと。毎回、授業のレジュメを配布し、参考書を紹介する。毎回の講義後は、こうした資料と授業の内容をもとに疑問や課題を見出し、図書館等で2時間程度の事後学修に努めること。

【テキスト・教材】

石田勇治：図説ドイツの歴史[河出書房新社]

阿部謹也：物語ドイツの歴史—ドイツ的とは何か[中公新書]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回、授業の最後にコメント・ペーパーの提出をもとめる。コメントの内容を続く講義に取り入れ、疑問点に回答するなどしてフィードバックする。また、学生自ら課題を見出し、自主学習へとつなげる努力も必要である。成績評価は、毎回の授業の取り組みで50点、レポートで50点として採点する。

【注意事項】

授業でノートを取ることに加えて、自発的に問題を導いて調べる習慣をつけること。

授業に関係する展覧会がある場合には、授業を展覧会見学に振り替えることがある。その場合の費用は自己負担とする。

西洋の文学

ミュージズたちの想像力

小林 真知子

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

西洋の文学作品をとおして、欧米の人間観、世界観、自然観、普遍的価値意識の表現を学ぶ。

西洋の文学ジャンルの原型となっている九人のミュージズたちの形態と歴史的展開としての諸作品を鑑賞する。

具体的な人間の直接経験の世界、忘れ去られ、消し去られてしまう〈生の世界〉の愛と悲しみと情熱と喜びを結晶化させている文学作品に照明をあてる。

文学作品の構造、人物像の表現、異なる視点の置き方、社会の持つ勢力と個人の夢想、歴史に深く根ざした人間のありよう、ものの見方の多様性、人間関係、内面に生起する感情、意識の流れ、心理描写、決断や行為に介入してくる非合理的なもの、過去と現在の捉えがたい瞬間、時代の深層にある集合無意識、理性と感性の言葉、メタファー、価値観の相剋、未来から投影されるもの、状況の異にはまった人間の姿、不条理、異化、カタルシス、パロディ、幻影、ユーモア、意味の転換など、文学の中で試みられてきた思考実験のプロセスを辿り、西洋の文学が見出してきた人間像、世界観を読み解いていく。

【授業における到達目標】

西洋の文学史の知識、文学表現の特質への理解、文学的教養の基礎を身につけ、特殊な経験に普遍性を見出し、気持ちを言葉に表すための技法を学ぶ。

文学の言葉は、必然的で独断的な言説に対して相対的で両義的なものである。世界は両義性のなかに姿をあらわし、絶対的な正解のかわりに、たがいに相矛盾する多くの相対的な解決法と忍耐強く取りくまなくてはならないことを学んでいく。人間的事象の本質の相対性を認識し、相関性を見出しながら、微妙に変化する心の動きを掬い、多角的で柔軟な思考能力と美的感性を磨き、想像力の世界を豊かなものにしていく。

【授業の内容】

- 1 叙事詩の世界：ホメーロス、ヴェルギリウス
- 2 悲劇：アリストテレス、ソフォクレス
- 3 喜劇：ダンテ、シェイクスピア『ロミオとジュリエット』
- 4 コラール・舞踏：『詩篇』、イエイツ
- 5 エレジー：ミルトン『リシダス』、リルケ『ドゥイノの悲歌』
- 6 物語：チョーサー『カンタベリー物語』
- 7 叙情詩の世界：ボードレー、マラルメ、ゲーテ、キーツ
- 8 歴史と文学：ツヴァイク、トルストイ『戦争と平和』
- 9 ギリシア神話と天文
- 10 セルバンテス『ドン・キホーテ』
- 11 自伝：アウグスティヌス、ルソー、バニヤン、フランクリン
- 12 ヘミングウェイ『老人と海』
- 13 サン＝テグデュペリ『星の王子さま』
- 14 トーマス・マン『魔の山』
- 15 トルキーン『指輪物語』、C・S・ルイス『ナルニア物語』

【事前・事後学修】

事前学修：文学作品を精読。（週1時間程度）

事後学修として講義の復習ノートを作成し、要点を整理し、文献表を参考に関連書籍を読み、研究課題に取り組む。（週3時間程度）

【テキスト・教材】

データ資料配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業理解の課題 40% 課題文の論評を通して問題意識を確認し
次回授業にフィードバックする。

期末レポート 60% （フィードバックは行わない）

【参考書】

小林真知子著『C・S・ルイス研究』彩流社

西洋近代美術史演習A

西洋近代美術史のテーマと考察の方法（基礎）

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

この演習では、学生各自の発表を通して、各々のテーマの方向を確認し、考察を深める。また発表内容についての討議を通して、理解を広げるとともに方法を明確にする。また、見学授業を通して、美術史の視野を広げることを重視する。

【授業における到達目標】

美術史の方法を確かなものにし、自らのテーマを明確にする。

【授業の内容】

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマの確認（博士前期課程2年）
- 第3週 各自のテーマの確認（博士前期課程1年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ（1）：文献
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ（2）：読解
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ（3）：考察
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ（4）：論理
- 第8週 見学授業（19世紀）
- 第9週 学生発表（博士前期課程2年）
- 第10週 テーマの明確化（博士前期課程2年）
- 第11週 方法の明確化（博士前期課程2年）
- 第12週 見学授業（20世紀）
- 第13週 学生発表（博士前期課程1年）
- 第14週 テーマと方法の明確化（博士前期課程1年）
- 第15週 まとめ（フィードバック）

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：発表は資料を含め、入念に準備を行う（週5時間）

事後：討議の中で提起された意見や助言を消化する（週5時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）

フィードバック：最終回の授業で行う

【参考書】

授業時に指示。

西洋近代美術史演習B

西洋近代美術史のテーマと考察の方法（展開）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

この演習では、学生各自の発表と討議を通して、各々のテーマと方法を明確にする。修士論文のテーマの確認（博士前期課程1年）と、修士論文のテーマの完成（博士前期課程2年）へ至るプロセスである。また、見学授業では、美術史の視野を広げるとともに、作品分析などを深める。

【授業における到達目標】

美術史の方法を確かなものにし、自らのテーマに関する考察を深める。

【授業の内容】

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマと方法の確認（博士前期課程2年）
- 第3週 各自のテーマと方法の確認（博士前期課程1年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ：文献（展開）
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開 19世紀）
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開 20世紀）
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ：考察（展開）
- 第8週 西洋近代美術史のアプローチ：論理（展開）
- 第9週 学生発表（博士前期課程2年）
- 第10週 テーマと方法（博士前期課程2年）
- 第11週 見学授業（20世紀）
- 第12週 学生発表（博士前期課程1年）
- 第13週 テーマと方法（博士前期課程1年）
- 第14週 修士論文のテーマと考察
- 第15週 まとめ（フィードバック）

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：発表については入念に準備する（週2時間）。

事後：討議の中で提起された意見や助言を消化（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）

フィードバック：最終週の授業で、発表内容を中心に討論。

【参考書】

授業時に指示。

西洋近代美術史演習 a

美術史の方法：「読む」「書く」

六人部 昭典

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

「演習 a」では、19～20世紀の西洋美術について理解を深め、学生一人一人が美術史のアプローチを確かなものにする。まず、美術史の基本が「作品」であることを確認したい。そして作品を見る眼、作品を分析的に把握する力を修得してゆく。特に美術史の方法のうち、「読む力」と「書く力」の基本を確かなものにする。

【授業における到達目標】

作品を分析的に把握する力を修得し、また日本語力と英語力の伸長を図る。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「研鑽力」と「行動力」に関わる。

【授業の内容】

- 第1週 「演習」の概略（授業の進め方、成績評価の確認）
- 第2週 「作品」を分析的に把握する力と「読む」ことの基本
- 第3週 「読む」（1-1）：日本語文献（19世紀）
- 第4週 「読む」（1-2）：日本語文献（20世紀）
- 第5週 「読む」（2-1）：英語文献（印象主義）
- 第6週 「読む」（2-2）：英語文献（象徴主義）
- 第7週 学外見学授業（19世紀）
- 第8週 「読む」（2-3）：英語文献（フォーヴとキュビズム）
- 第10週 「読む」（2-4）：英語文献
（抽象絵画とシュルレアリスム）
- 第11週 学外見学授業（20世紀）
- 第12週 「書く」（1-1）：ディスクリプション
- 第13週 「書く」（1-2）：各自のテーマの確認
- 第14週 卒論に向けて：ケース・スタディ
- 第15週 まとめ・フィードバック

【注記】

「読む」ことのうち、英語文献の講読では、画家の言葉を読む。重要な資料となる画家の言葉をどのように扱うのか、作品分析との関連を踏まえて読み進める（大学院進学も視野に入れて、構文を読むことを重視する）。英語テキストの予習復習、「書く」ことの課題等を提出することが基本となる。見学授業（学外、2回を予定）の内容・日時・場所は授業中に指示し、掲示する。

【事前・事後学修】

- 事前：配布する課題に取り組む（週2時間）。
- 事後：作品のアプローチについて理解する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は用いない。
「読む」で使うテキスト（日本語・英語）はコピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：授業への積極的な参加（発言等 30%）「読む」（30%）、提出物（課題・見学レポート 40%）
フィードバック：提出物等の評価に関するフィードバックは最終週に行い、「演習b」と卒論作成の導入を図る。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

演習は講義系の授業とは異なり、学生自身が主体的に関わるのが重要。また実際の作品を見ること（芸術経験）についても、見学授業で多くのことを吸収することが必要となる。また見学授業以外でも、首都圏で開催される西洋美術の展覧会など、積極的に美術館を訪れることが必要である。

西洋近代美術史演習 b

美術史の方法：「書く」「話す」

六人部 昭典

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

「演習 b」の授業では、美術史の方法について、「書く力」と「話す力」（口頭発表）を確かなものとする。各自の視点と方向性を明確にし、4年次の卒論執筆に繋げてゆく。発表は、共通テーマについて担当するグループ単位で行い、全員でひとつの展覧会を作る。テーマの候補としては、「女性」や、特講で学んだ「音楽」「水」などが挙げられる。

【授業における到達目標】

この演習授業では、「聴く」「話す」「書く」の基本的な能力を修得する。これらは卒論作成に不可欠であり、また社会人としての基礎となる。また、グループ発表を行うので、協同して動くことが必要。この到達目標は本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「研鑽力」「行動力」に関わる。

【授業の内容】

- 第1週 「演習」の概略（授業の進め方・評価の確認）
- 第2週 「視点」とは？
- 第3週 「書く／話す」（1）：学生発表（絵画の「近代」）
- 第4週 「書く／話す」（2）：学生発表（ロマン主義）
- 第5週 「書く／話す」（3）：学生発表（印象主義）
- 第6週 「書く／話す」（4）：学生発表（象徴主義）
- 第7週 「書く／話す」（5）：学生発表（世紀末美術）
- 第8週 学外見学授業（1）：19世紀
- 第9週 「書く／話す」（6）：学生発表（フォーヴ、表現主義）
- 第10週 「書く／話す」（7）：学生発表（抽象絵画など）
- 第11週 学外見学授業（2）：20世紀
- 第12週 卒論に向け：ケース・スタディ
- 第13週 「視点」と各自のテーマ
- 第14週 卒論に向けて
- 第15週 フィードバック

【注記】

見学授業（学外、2回予定）の日時・場所は授業中に指示する。

【事前・事後学修】

- 事前：口頭発表の原稿（2000字程度）を作成し、パワーポイントによるプレゼンテーション（画像資料等）と配布資料を準備する（週2時間）。
- 事後：発表と議論の内容を整理する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：授業への積極的な参加（発言・質問等、30%）、発表（30%）、提出物（40%）で行う。
フィードバック：最終週に行い、4年次の卒論作成につなげる。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

「演習 b」では学生一人一人の発表とディスカッションが重要であり、主体的に授業に関わるのが求められる。「書く／話す」に加えて、「聴く力」が大切。また実際に作品を見ること（芸術経験）についても、今まで以上に積極的に美術館を訪れることが必要。

西洋近代美術史研究指導特殊演習 A

西洋近代美術史のテーマと考察（基礎）

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

この演習では、学生各自の発表を通して、各々のテーマの方向を確認し、考察を深める。また討議を通して、方法を明確にする。

【授業における到達目標】

美術史の方法を確実にし、作品分析と先行研究やドキュメントの検討を通して、テーマを明確にする。

【授業の内容】

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマの確認（博士後期課程1年）
- 第3週 各自のテーマの確認（博士後期課程2年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ（1）：文献
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ（2）：読解
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ（3）：考察
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ（4）：論理
- 第8週 見学授業（19世紀）
- 第9週 学生発表（博士後期課程1年）
- 第10週 テーマの明確化（博士前期課程1年）
- 第11週 方法の明確化（博士前期課程1年）
- 第12週 見学授業（20世紀）
- 第13週 学生発表（博士後期課程2年）
- 第14週 テーマと方法の明確化（博士前期課程2年）
- 第15週 まとめ（フィードバック）

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：発表は資料を含め、入念に準備を行う（週2時間）

事後：授業で提起された意見や助言を消化（週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）

フィードバック：最終週の授業で行う

【参考書】

授業時に指示。

西洋近代美術史研究指導特殊演習 B

西洋近代美術史のテーマと方法（展開）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

この演習では、学生各自の発表と討議を通して、各々のテーマと方法を明確にする。博士論文のテーマの確立と執筆へ至るプロセスである。

【授業における到達目標】

作品の分析、先行研究とドキュメントの検討等を通して、テーマを明確にし、論考を組み立てる。

【授業の内容】

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマと方法の確認（博士後期課程1年）
- 第3週 各自のテーマと方法の確認（博士後期課程2年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ：文献（展開）
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開）
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ：考察（展開）
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ：論理（展開）
- 第8週 学生発表（博士後期課程1年）
- 第9週 テーマと方法（博士後期課程1年）
- 第10週 見学授業（20世紀）
- 第11週 学生発表（博士後期課程2年）
- 第12週 テーマと方法（博士後期課程2年）
- 第13週 修士論文のテーマと考察
- 第14週 まとめ

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

発表については入念に準備し、討議の中で提起された意見や助言を確認、消化すること（事前：2時間、事後：2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表：50%、平常点（授業への積極参加）：50%

フィードバックは第15週の「まとめ」に会わせて実施する。

【参考書】

授業時に指示。

西洋近代美術史特講 c

絵画と音楽

六人部 昭典

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

モダンアートの展開を考える上で、「音楽」は重要な視点を提供する。描かれたモチーフ（楽器や音楽家）、画家と音楽家の交友、言説における音楽用語の使用などを取り上げ、「音楽」を手掛かりにモダンアートを再考する。

【授業における到達目標】

「音楽」を手がかりに近代絵画史を把握し、作品を見る「眼」を深める。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「国際的視野」と「美の探究」に関わる。

【授業の内容】

- 第1週 序（視点の提示、授業の進め方と評価の確認）
ドラクロワ：切断された肖像画
- 第2週 マネ：沈黙する絵画
- 第3週 ルノワール：ピアノと家族
- 第4週 シニャック：色彩の自立性
- 第5週 ゴーガン：野生と音
- 第6週 ドニ：アラベスク
- 第7週 ルドン：オルフェウスの死
- 第8週 ホイッスラー：唯美主義と音楽
- 第9週 マティス：シーニュと音楽
- 第10週 デュフィ：音楽家へのオマージュ
- 第11週 ブラック：「楽器」という静物
- 第12週 シャガール：ユダヤ人と音楽
- 第13週 クブカ：抽象絵画と音楽
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

- 事前：『世界美術大全集』等を読み、画家や作品について把握する（週2時間）。
- 事後：配布資料や参考文献を読み、作品と音楽の関わりを把握する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- リアクション・ペーパー（20%）、筆記試験（80%）。
- リアクション・ペーパーは授業中に、筆記試験は最終回に解説。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業は画像を使って進めるので、作品に即して、また「眼」を通して理解し、「絵画と音楽」というテーマを把握することが求められる。そして実際に作品を見ることが大切。首都圏で開催される展覧会など、積極的に美術館を訪れることが必要。

西洋近代美術史特講 d

ゴーガンとファン・ゴッホ

六人部 昭典

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

ポスト印象派（印象派より後の時代）の美術動向について、ゴーガンとファン・ゴッホを中心に、象徴主義的な芸術傾向を考える。二人の絵画の展開を詳しく検討するとともに、彼らと関わりのあった画家たちについても考察する。

【授業における到達目標】

象徴主義の展開と時代背景を把握し、また作品を見る「眼」を深める。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、「国際的視野」と「美の探究」に関わる。

【授業の内容】

- 第1週 序（視点の提示、評価の確認）
ゴーガン（1）：対立の構造
- 第2週 ゴーガン（2）：プルターニュ時代
- 第3週 ゴーガン（3）：三重の自画像
- 第4週 ゴーガン（4）：タヒチ時代と野生
- 第5週 ナビ派：ゴーガンの影響と「預言」
- 第6週 モロー：遅れてきたロマン主義者
- 第7週 ルドン（1）：黒の中の神秘（石版画）
- 第8週 ルドン（2）：花瓶の中の生命（色彩画）
- 第9週 ファン・ゴッホ（1）：オランダとベルギー時代
- 第10週 ファン・ゴッホ（2）：パリ時代
- 第11週 ファン・ゴッホ（3）：アルル時代
- 第12週 ファン・ゴッホ（4）：サン・レミ時代
- 第13週 ファン・ゴッホ（5）：オーヴェール時代
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

- 事前：『世界美術大全集』等を読み、作品や画家、時代背景を知る（週2時間）。
- 事後：配布する資料を熟読するとともに、参考文献に目を通して、作品の要点を把握する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- リアクション・ペーパー（20%）、筆記試験（80%）。
- リアクション・ペーパーは授業中に、筆記試験は最終回に解説。

【参考書】

授業中に指示。

【注意事項】

首都圏で開催される展覧会など（授業内容に関連する展覧会については授業中に紹介）、美術館に積極的に出かけ、作品を見る目を養うとともに、モダンアートについての理解を深める。

西洋近代美術史特殊研究A

モダンアートと「時間」

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

西洋近代美術を「時間」を手がかりに読み解く。

【授業における到達目標】

視点の意義と西洋近代美術の展開についての理解を深める。

【授業の内容】

- 1) 序（視点の提示）
- 2) 絵画の時間
- 3) 作品提示(1)
- 4) 「思い出」と「想起」
- 5) 見学授業（19世紀）
- 6) 絵画の語法
- 7) 絵の具の現在
- 8) 筆触と時間
- 9) 現在の絵画／絵画の現在
- 10) モデルニテと時間
- 11) 季節と暦
- 12) 作品提示(2)
- 13) 円環の時間
- 14) 見学授業（20世紀）
- 15) まとめ（フィードバック）

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（週2時間）

事後：提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読する（週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：レポート（見学・学期末 70%）

授業への積極的な関与（発言等 30%）

フィードバック：最終週の授業で行う

西洋近代美術史特殊研究B

モダンアートと「時間」（20世紀美術へ）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

「時間」を手がかりに20世紀にいたる美術の展開を読み解く。

【授業における到達目標】

視点の意義と、西洋近代美術の展開、日本における近代美術形成についての理解を深める。

【授業の内容】

- 1) 序（視点の提示）
- 2) 学生発表（博士後期課程1年）
- 3) 学生発表（博士後期課程2年）
- 4) 発表を踏まえた討論
- 5) 感覚と時間
- 6) 筆触と身体
- 7) 見学授業（19世紀）
- 8) 絵画と音楽
- 9) 作品提示(2)
- 10) 美術における運動表現
- 11) 作品提示(2)
- 12) 見学授業（20世紀）
- 13) 事物の時間
- 14) 溶けた時計
- 15) まとめ・フィードバック

【事前・事後学修】

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（週2時間）。

事後：授業で提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（見学・学期末）：50%

授業への関与（発表を含む）：50%

フィードバックは第15週の「まとめ」の中で行なう。

西洋近代美術史特論A

モダンアートと「時間」（印象主義を中心に）

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

西洋近代美術について、「時間」の視点から考察する。芸術分野の中で、音楽や文学と異なり、美術はその形式に時間をもたないといわれる。とはいえ、たとえば絵画は、時間の中に展開される物語主題を扱うことが多い。画家たちは、時間を伴う運動や音の広がりを描き出そうとしてきた。廃墟のモチーフが持つ魅力は、時間を考慮しなければ明らかにはならないだろう。印象主義の形成を中心に、「時間」を手がかりにモダンアート史を再考察する。

【授業における到達目標】

「時間」という視点と、西洋近代美術史の関わりについての理解を深める。

【授業の内容】

- 1) 序（視点の提示など）
- 2) ジェリコー：絵画の時間
- 3) 作品提示(1)
- 4) コロー：「思い出」という時間
- 5) 見学授業(1)
- 6) マネ(1)：絵画の語法
- 7) マネ(2)：絵の具の現在
- 8) モネ(1)：筆触と時間
- 9) モネ(2)：現在の絵画／絵画の現在
- 10) モネ(3)：モデルニテと時間
- 11) モネ(4)：連作と時間（季節・暦）
- 12) 作品提示(2)
- 13) モネ(5)：《睡蓮》連作
- 14) 見学授業(2)
- 15) まとめ・フィードバック

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（週2時間）。
事後：提示した画像を踏まえて、配布資料を熟読する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：レポート（見学・学期末、70%）
授業への積極的な関与（30%）
フィードバック：最終回の授業で行う

【参考書】

授業中に指示。

西洋近代美術史特論B

モダンアートと「時間」（20世紀美術へ）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

「時間」という視点に基づいて、ポスト印象派から20世紀に至るモダンアートの展開を考察する。また、学生の発表および見学授業を通して、絵画と時間の関わりを考える。

【授業における到達目標】

西洋近代美術の展開および絵画における時間について、理解を深める。

【授業の内容】

- 1) 序（視点の提示など）
- 2) 学生発表（前期課程2年）
- 3) 学生発表（前期課程1年）
- 4) 学生発表（前期課程1年）
- 5) セザンヌ：感覚と時間
- 6) シニャック：筆触と身体
- 7) 見学授業(1)
- 8) デュフィ：音の広がり
- 9) 作品提示(1)
- 10) クプカ：運動と美術
- 11) 作品提示(2)
- 12) 見学授業(2)
- 13) シュヴィッターズ：事物の時間
- 14) ダリ：溶けた時計
- 15) まとめ・フィードバック

*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

【事前・事後学修】

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（週2時間）。
事後：提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読する（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：レポート（見学・学期末 50%）
授業への積極的な関与（発表を含む 50%）
フィードバック：最終回の授業で行う

西洋近代美術史入門 a

「作品」を見る

六人部 昭典

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

美術史を学ぶ基本は「作品」です。まず、「作品」を見ること、そして「作品」を制作した美術家や、その背後にある社会との関わりを探ることが大切です。この授業では、西洋の近代を中心に、近世から現代にいたる時代の重要な作例を取り上げ、「作品」を見ることを学びます。

【授業における到達目標】

西洋近代美術史の流れを把握し、作品を見る「眼」を養います。この到達目標は、本学ディプロマ・ポリシーのうち、特に「国際的視野」と「美の探究」に関わるものです。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに（「作品」を見る、評価の確認など）
ジオット：ルネサンスの予言
- 第2週 ミケランジェロ：《ピエタ》の変貌
- 第3週 カラヴァッジオ：バロック絵画の誕生と展開
- 第4週 ゴヤ：激動の中の画家
- 第5週 ミレー：描かれた「農民」とは？
- 第6週 マネとモネ：絵画の「近代」
- 第7週 スーラとセザンヌ：「構成」の探求
- 第8週 ゴッガンとファン・ゴッホ：肖像画の謎
- 第9週 マティスとピカソ：新たな絵画空間
- 第10週 モンドリアン：抽象絵画に何が描かれたか？
- 第11週 ダダとシュルレアリスム：「事物」との出会い
- 第12週 デュシャン：「レディメイド」という便器
- 第13週 ウォーホル：マリリン・モンローのいる場所
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

事前：授業で取り上げる画家について、小学館『世界美術大全集』などを読んで、作品や制作者、背景にある社会の動きを把握してください（週2時間）。

事後：事前学修で得た知識と講義内容を関連付け、作品についての理解を深めてください（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使いません。作品（画像）を見ることを大切にして、「眼」を通して理解することを心がけてください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：授業態度（リアクションペーパーなど 20%）
筆記試験（80%）

フィードバック：リアクションペーパーについては授業中に、筆記試験については最終回に解説します。

【参考書】

『世界美術全集』『西洋美術館』（小学館）、他は授業時に指示します。

【注意事項】

授業はスライドを使って進め、「作品」を見ることを学びます。「眼」を通して理解することを心がけてください。ただ、実際に作品を見ること（芸術経験）が大切です。授業に対する関心を深めるためにも、首都圏で開催される展覧会など、美術館に積極的に出かけてください（授業の中で展覧会のポイント紹介も取り入れる予定です）。見学授業（学外）を実施する場合があります。

西洋近代美術史入門 b

「作品」を読む

六人部 昭典

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

印象主義の形成を中心に、19世紀フランス絵画の展開を扱い、「作品」を読むことを学びます。美術史の基本は「作品」です。そして「作品」は制作する美術家だけではなく、受容する人々や背後にある社会や時代など、さまざまな関わりの中で生み出されます。この授業では、作品と社会・時代との関連を軸に、「作品」を読むこと、つまり美術史のアプローチを修得します。

【授業における到達目標】

印象主義の形成にいたる西洋近代絵画史の流れを把握し、また作品を見る「眼」を確かなものにします。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「国際的視野」と「美の探究」に関わるものです。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに（「作品」を読む、評価の確認など）
ダヴィッド：フランス革命と新古典主義
- 第2週 ジェリコー：歴史画と現実
- 第3週 アングルとドラクロワ：線と色彩
- 第4週 カンスタブルとコロー：近代風景画とは？
- 第5週 クールベ：レアリズムと無名の歴史
- 第6週 マネ：絵画の変革と言説
- 第7週 ピサロ：「第1回印象派展」の開催と社会
- 第8週 モネ（1）：印象主義とモデルニテ
- 第9週 モネ（2）：光と主題
- 第10週 モネ（3）：《睡蓮》連作の展開
- 第11週 ルノワール：ルノワールは好き／嫌い？
- 第12週 ドガ：踊り子（主題とフォルム）
- 第13週 モリゾとカサット：印象主義と「女性」
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

事前：授業で取り上げる画家について、小学館『世界美術大全集』（図書館で閲覧可能）などの参考文献を読み、関連する美術や社会の動きを把握してください（週2時間）。

事後：事前学修で得た知識と講義内容を関連付け、作品についての理解を深めてください（週2時間）。

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使いません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：リアクション・ペーパー（20%）
筆記試験（80%）。

フィードバック：リアクション・ペーパーは授業中に、筆記試験については最終回に解説します。

【参考書】

『世界大美術全集』『印象派美術館』（小学館）、他は授業時に指示します。

【注意事項】

作品を見ることを通して理解するよう、心がけてください。また実際に作品を見ること（芸術経験）が大切です。授業に対する理解を深め、美術史の基礎を身につけるためにも、首都圏で開催される西洋美術に関する展覧会など、美術館に積極的に出かけるようにしてください（授業の中で展覧会のポイント紹介も取り入れる予定です）。見学授業（学外）を実施する場合があります。

西洋古典研究

ラテン語の世界

堀尾 耕一

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代ローマ人の言葉であるラテン語は、ギリシア語とともに、近代ヨーロッパにおいて「古典語」としての位置づけを得てきました。ちょうどわれわれ日本人が古代中国の文字（すなわち漢字）をとくにそれと意識することなく用いているのと同様、英語をはじめとする西洋近代語の語彙および文法においては、彼らにとっての「古典語」、とりわけラテン語に由来する要素がじつに大きな役割を演じているのです。この授業では、英語と古典語との関係を概観したうえで、ラテン語の基礎的な文法を学習します。整然としたその文法体系は、むしろ数学の合理性にも通じるところがあるでしょう。英文法がどうも腑に落ちないというみなさんにも、一条の光となるかもしれません。

【授業における到達目標】

ラテン語文法の基礎を習得する。

【授業の内容】

下記教科書の章立てにそってラテン語文法の基礎を習得することが授業の基本となります。また、それに平行して、英語の語彙に関する資料を随時配布し、解説します。

- 第1週 ラテン語の歴史的役割
- 第2週 ラテン語文法の概観
- 第3週 動詞の活用
- 第4週 名詞の変化（1）
- 第5週 名詞の変化（2）
- 第6週 ラテン語から派生した英単語（1）
- 第7週 形容詞の変化
- 第8週 形容詞の用法
- 第9週 文法解析の作法
- 第10週 ラテン語と西洋近代諸語の関係
- 第11週 動詞の時制（1）
- 第12週 動詞の時制（2）
- 第13週 ラテン語から派生した英単語（2）
- 第14週 音楽作品におけるラテン語：ミサ曲ほか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

予備知識はいっさい前提としません。教科書に付された練習問題の予習を求めますが、毎回の授業時間に集中力をもって臨んでもらうことを第一とします。また、英語を読む際に多少とも語源への眼差しを持つことができれば、何よりの収穫となるでしょう。

事前学修：（2時間）練習問題の予習

事後学修：（2時間）練習問題の復習および英語語源の探求

【テキスト・教材】

中山恒夫：標準ラテン文法[白水社、1987、¥1,995(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の練習問題への取組みを評価し、平常点とします（50%）。その際、理解度に応じて個別にアドバイスを与えます。また定期試験を行います（50%）。

【参考書】

大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書 1997年）

小林標『ラテン語の世界』（中公新書 2006年）

【注意事項】

おそらくは誰にとってもなじみの薄い分野だと思われます。授業の進度はできるだけ受講生の理解力に合わせますので、まずはご安心を。好奇心旺盛な学生諸姉の参加を期待します。

西洋古典研究

ラテン語の世界

堀尾 耕一

3年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代ローマ人の言葉であるラテン語は、ギリシア語とともに、近代ヨーロッパにおいて「古典語」としての位置づけを得てきました。ちょうどわれわれ日本人が古代中国の文字（すなわち漢字）をとくにそれと意識することなく用いているのと同様、英語をはじめとする西洋近代語の語彙および文法においては、彼らにとっての「古典語」、とりわけラテン語に由来する要素がじつに大きな役割を演じているのです。この授業では、英語と古典語との関係を概観したうえで、ラテン語の基礎的な文法を学習します。整然としたその文法体系は、むしろ数学の合理性にも通じるところがあるでしょう。英文法がどうも腑に落ちないというみなさんにも、一条の光となるかもしれません。

【授業における到達目標】

ラテン語文法の基礎を習得する。

【授業の内容】

下記教科書の章立てにそってラテン語文法の基礎を習得することが授業の基本となります。また、それに平行して、英語の語彙に関する資料を随時配布し、解説します。

- 第1週 ラテン語の歴史的役割
- 第2週 ラテン語文法の概観
- 第3週 動詞の活用
- 第4週 名詞の変化（1）
- 第5週 名詞の変化（2）
- 第6週 ラテン語から派生した英単語（1）
- 第7週 形容詞の変化
- 第8週 形容詞の用法
- 第9週 文法解析の作法
- 第10週 ラテン語と西洋近代諸語の関係
- 第11週 動詞の時制（1）
- 第12週 動詞の時制（2）
- 第13週 ラテン語から派生した英単語（2）
- 第14週 音楽作品におけるラテン語：ミサ曲ほか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

予備知識はいっさい前提としません。教科書に付された練習問題の予習を求めますが、毎回の授業時間に集中力をもって臨んでもらうことを第一とします。また、英語を読む際に多少とも語源への眼差しを持つことができれば、何よりの収穫となるでしょう。

事前学修：（2時間）練習問題の予習

事後学修：（2時間）練習問題の復習および英語語源の探求

【テキスト・教材】

中山恒夫：標準ラテン文法[白水社、1987、¥1,995(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の練習問題への取組みを評価し、平常点とします（50%）。その際、理解度に応じて個別にアドバイスを与えます。また定期試験を行います（50%）。

【参考書】

大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書 1997年）

小林標『ラテン語の世界』（中公新書 2006年）

【注意事項】

おそらくは誰にとってもなじみの薄い分野だと思われます。授業の進度はできるだけ受講生の理解力に合わせますので、まずはご安心を。好奇心旺盛な学生諸姉の参加を期待します。

西洋古典入門

古代ギリシア・ローマの文学

堀尾 耕一

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代ギリシアおよびローマの文学は、近代ヨーロッパにおいて「古典」として広く親しまれてきました。その理由のひとつに、今日に生きるわれわれが共有する「市民社会」という考え方の原型を、そこに見いだすことができるという点が挙げられます。たとえば「民主主義」あるいは「裁判員」といった仕組みは、いずれも古代ギリシアをその起源としているに違いありません。二千年の時を経てもまったく色あせることのない作品群に、翻訳および映像資料をとおしてできるだけ多く触れてもらいます。参加者の率直な感想が、考察の出発点となるでしょう。

【授業における到達目標】

西洋古典文学の基本的な知識、および翻訳資料等との基本的な接し方を身に付けること。

【授業の内容】

翻訳資料をとおして古典そのものに触れることを目指します。また映画などの映像資料をできるかぎり利用して、その理解を深めていきます。

- 第1週 問題の概観および資料紹介
- 第2週 ホメロスとは何者か？
- 第3週 「イリアス」の世界
- 第4週 映画「トロイ」の観賞
- 第5週 ソフォクレス「オイディプス王」
- 第6週 劇場版「オイディプス王」の観賞
- 第7週 プラトン「ソクラテスの弁明」
- 第8週 民主政の功罪について
- 第9週 エウリピデス「メデシア」
- 第10週 劇場版「メデシア」の観賞
- 第11週 ギリシアからローマへ
- 第12週 シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
- 第13週 ウェルギリウスからダンテへ
- 第14週 古典の受容とその再生
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前の知識を前提とするものではありません。日ごろから文学全般に興味を持ち、気の向くままに書物を手に取ってみる習慣を身に付けること、それこそが何よりの予習であり、また復習であると信じます。

事前学修：（1時間）授業資料に目をとおしておく

事後学修：（3時間）授業の感想文、および期末レポート作成準備

【テキスト・教材】

こちらでプリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

数回ごとに、講義内容のまとめおよび感想を提出してもらい、これを平常点とします（40%）。また学期末にレポートを提出（60%）。その際、簡単な口頭発表をしてもらい、それに対して個別にコメントします。

【参考書】

- 高津春繁・斉藤忍隋『ギリシア・ローマ文学案内』（岩波文庫）
- ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』（岩波文庫）
- ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
- プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』（講談社学術文庫）
- シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』（岩波文庫）

西洋古典入門

古代ギリシア・ローマの文学

堀尾 耕一

3年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代ギリシアおよびローマの文学は、近代ヨーロッパにおいて「古典」として広く親しまれてきました。その理由のひとつに、今日に生きるわれわれが共有する「市民社会」という考え方の原型を、そこに見いだすことができるという点が挙げられます。たとえば「民主主義」あるいは「裁判員」といった仕組みは、いずれも古代ギリシアをその起源としているに違いありません。二千年の時を経てもまったく色あせることのない作品群に、翻訳および映像資料をとおしてできるだけ多く触れてもらいます。参加者の率直な感想が、考察の出発点となるでしょう。

【授業における到達目標】

西洋古典文学の基本的な知識、および翻訳資料等との基本的な接し方を身に付けること。

【授業の内容】

翻訳資料をとおして古典そのものに触れることを目指します。また映画などの映像資料をできるかぎり利用して、その理解を深めていきます。

- 第1週 問題の概観および資料紹介
- 第2週 ホメロスとは何者か？
- 第3週 「イリアス」の世界
- 第4週 映画「トロイ」の観賞
- 第5週 ソフォクレス「オイディプス王」
- 第6週 劇場版「オイディプス王」の観賞
- 第7週 プラトン「ソクラテスの弁明」
- 第8週 民主政の功罪について
- 第9週 エウリピデス「メデシア」
- 第10週 劇場版「メデシア」の観賞
- 第11週 ギリシアからローマへ
- 第12週 シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
- 第13週 ウェルギリウスからダンテへ
- 第14週 古典の受容とその再生
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前の知識を前提とするものではありません。日ごろから文学全般に興味を持ち、気の向くままに書物を手に取ってみる習慣を身に付けること、それこそが何よりの予習であり、また復習であると信じます。

事前学修：（1時間）授業資料に目をとおしておく

事後学修：（3時間）授業の感想文、および期末レポート作成準備

【テキスト・教材】

こちらでプリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

数回ごとに、講義内容のまとめおよび感想を提出してもらい、これを平常点とします（40%）。また学期末にレポートを提出（60%）。その際、簡単な口頭発表をしてもらい、それに対して個別にコメントします。

【参考書】

- 高津春繁・斉藤忍隋『ギリシア・ローマ文学案内』（岩波文庫）
- ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』（岩波文庫）
- ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
- プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』（講談社学術文庫）
- シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』（岩波文庫）

西洋史

秋山 千恵

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

現在の社会や文化は、過去の社会や文化、人間や自然の活動と切り離せるものではなく、過去の蓄積の上に成り立っています。この科目では欧米を中心とした西洋諸国の文化や社会について通史的に扱い、世界を歴史的な視点から捉えるための基礎的な知識と考え方を学びます。

【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ人々と共生し、相互理解を深めるために、国際社会で活躍する際に必要な歴史の知識を修得し、国際的視野を培い、行動する力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに 西洋史とは
- 第2週 前近代のヨーロッパ 1) 地中海世界とヨーロッパ世界の形成
- 第3週 前近代のヨーロッパ 2) 近世ヨーロッパ
- 第4週 近代のヨーロッパ 1) フランス革命と産業革命
- 第5週 近代のヨーロッパ 2) 国民国家の形成
- 第6週 近代のヨーロッパ 3) 帝国主義
- 第7週 近代のヨーロッパ 4) 列強の世界分割
- 第8週 第一次世界大戦 1) 第一次世界大戦前夜
- 第9週 第一次世界大戦 2) 総力戦
- 第10週 第一次世界大戦 3) ロシア革命
- 第11週 大戦間期の世界 1) ヴェルサイユ体制
- 第12週 大戦間期の世界 2) 世界恐慌
- 第13週 大戦間期の世界 3) ファシズム
- 第14週 第二次世界大戦
- 第15週 戦後世界秩序の形成と冷戦

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、高校世界史Bの該当箇所を熟読し、専門用語等を理解しておいてください。(週60分)
授業後はプリントをみながら内容を復習してください。(週180分)

【テキスト・教材】

特定のテキストは指定しません。必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・DVDを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%と小テスト20%で評価します。
小テストは関連する内容の授業時に、試験については最終授業日に質問等の時間を設け、フィードバックを行います。

【参考書】

参考書は随時指示します。

【注意事項】

授業中は携帯の電源を切り、鞆の中に入れてください。

西洋史 b

秋山 千恵

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

1930年代のヨーロッパから第二次世界大戦、大戦後の冷戦体制の構築、戦後の世界秩序形成の歴史を概観することによって、ヨーロッパ現代史についての基礎的な知識を修得することを目標とします。

【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ人々と共生し相互理解を深めるために、国際的視野を養い、国際社会で活躍する際に必要な基本的な知識および思考力と行動力を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 1930年代のヨーロッパ
 - 第2週 ファシズム
 - 第3週 非ファシズム諸国
 - 第4週 スペイン内戦
 - 第5週 ソ連とドイツ
 - 第6週 第二次世界大戦のはじまり
 - 第7週 第二次世界大戦下の東ヨーロッパ
 - 第8週 第二次世界大戦下の西ヨーロッパ
 - 第9週 ホロコースト
 - 第10週 ヤルタ会談
 - 第11週 戦後世界
 - 第12週 東西ドイツ
 - 第13週 冷戦体制
 - 第14週 第三世界
 - 第15週 現代のヨーロッパ
- 以上の内容を予定していますが、映像を多く使用することと時間的制約から一部変更する場合があります。

【事前・事後学修】

授業前に高校の世界史Bの教科書の該当箇所を読み、専門用語等を理解しておいてください。週60分
毎回の授業後にプリントをみながら復習してください。週180分

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布し、映像資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、小テスト20%で評価します。
小テストは次週以降関連する内容の授業時に、試験については最終授業日に質問の時間を設けて解説します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【注意事項】

授業中は携帯および電子機器の使用を禁止します。

西洋思想史 a

哲学の起源

竹中 真也

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義においては、まず西洋哲学の起源を紹介する。こうすることで、哲学の始まりを見届けつつ、その思考様式の特徴をつかむ。そののち、善について、真理について、神について取り上げる。これらの具体的なテーマは、哲学者によるさまざまな角度からの議論を提供してくれるだろう。こうして、多様な議論を踏まえながら、各自がみずからの思考を深めることによって、総合的判断力や批判力を高める。

【授業における到達目標】

- ① 哲学の基本的な用語や発想を使えるようにする。
- ② 自分なりの考えをもつ。
- ③ 総合的判断力や批判力を高める。

全学ディプロマポリシーとの関連においては「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

第一回 はじめに 授業方針や内容の提示

第二回 哲学という言葉の意味

第三回 哲学の源流 哲学的思考について

第四回 さまざまな哲学者の登場

第五回 エレア派における「ある」について

第六回 ソクラテスの転換

第七回 プラトンのイデア論について

第八回 善についての古代の立場

第九回 善についての近代的立場

第十回 真について

第十一回 真理を疑う立場——懐疑論

第十二回 神の存在証明（1）

第十三回 神の存在証明（2）

第十三回 ルネサンス期の宇宙観

第十四回 フィチーノの思想

第十五回 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べる。こうして予備知識をもつようにする。（学修時間週2時間）

〔事後学修〕

前回の授業のプリントを読み直して不明点をなくしておくこと。分からない言葉は国語辞典や哲学辞典を読み調べておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでレジュメを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% コメントカードの提出30%で評価する。コメントシートを紹介して考察や検討のきっかけとする。

【参考書】

必要に応じて指示するが、以下の本に目を通しておくとよい。ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』武蔵野美術大学出版。

【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

西洋思想史 a

大厩 諒

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この講義では、2500年以上にわたる西洋哲学の歴史において問われてきた問いがどのようなものであるかを概観する。哲学史とは、哲学的問題との対決の歴史であり、哲学史を学ぶということは、哲学的な問いの性格、問いへのアプローチの仕方、そこから導かれる解答を検討することである。その検討を通じて、各自が問いを深め、みずから考えていく（＝哲学していく）ための道具・見本を、できるだけ平易な形で提供していきたい。

【授業における到達目標】

思考の営みとしての哲学とは、各自が一から思考することである。仮に過去の哲学者が出した結論と同じものに至るとしても、その結論に至る道筋は、自力で辿りなおされなければならない。この講義における問いの歴史の学習を通じて、物事の真理を探究し、新たな知を求める態度や、多様な学説を比較し、広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く能力を養うことを目指す。

【授業の内容】

1. イントロダクション：哲学・思想史とは何か
2. ベーコン、ポパー：知識・科学はどのようにして進歩するのか
3. ヒューム①：因果関係とは何か
4. アリストテレス、デカルト①：因果関係と〈リアルなもの〉との関係はどのようなものか
5. ミル、大森荘蔵：他人にも心はあるか
6. 行為論：われわれは自分の行為に責任をもつことができるか
7. デカルト②、ロック①、パークリ①：絶対に疑うことのできないものはあるか
8. カント：経験なしに知っている事柄はあるか
9. プラトン、ロック②、パークリ②：普遍・抽象とは何か
10. ソシュール、ウイトゲンシュタイン、サール：名前の意味、言葉の伝達とは何か
11. 心の哲学：観念なしの人生は可能か
12. パース、ジェイムズ：真理とは何か
13. アンセルムス、トマス・アクィナス：神は存在するか
14. 今期の振り返り、質疑
15. 総括

【事前・事後学修】

事前学修：教科書の指定された箇所を読み、本文の内容や章末の問題について考えてくる。（週2時間）

事後学修：授業で配られた資料やノート、教科書を見返し、必要に応じて参考文献等で調べる。（週2時間）

【テキスト・教材】

ブレンダン・ウィルソン：自分で考えてみる哲学[東京大学出版会、2004、¥2,592(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：平常点（リアクションペーパー）60%、期末試験40%
リアクションペーパーに書かれた質問や考察、感想等は、次回授業の冒頭で取り上げ、受講者全体で共有し、各自の思考の材料とする。

【参考書】

野矢茂樹『哲学の謎』（講談社現代新書、1996年）
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』（岩波新書、2006年）
同『西洋哲学史—近代から現代へ』（岩波新書、2006年）
その他、適宜授業内で指示する。

【注意事項】

授業形態は講義形式を基本とするが、受講者の人数によっては授業内でディスカッション、グループワーク等をおこなう可能性もある。

西洋思想史 b

哲学的思考の特徴を捉える

竹中 真也

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

西洋哲学は、現在の社会の礎となる、心や理性や現実や言語などをこれまでに考察してきた。そしてわれわれ人間の世界への関与のしかたも、意識するにせよしないにせよ、それに応じて変化してきたとすることができるだろう。この講義では、現実、他者、言語などに関する、哲学者の議論を紹介する。しかしこれは、哲学者の言葉を暗記することを目的としているわけではない。現実、他者、言語などの自明のことだと思われていたものに、もう一度目を向けなおして、みずからの考えを深め、その結果、総合的判断力や批判力を高めるのが目的である。

【授業における到達目標】

- ① 哲学の基本的な用語や発想を使えるようにする。
- ② 自分なりの考えをもつ。
- ③ 総合的判断力や批判力を高める。

全学ディプロマポリシーとの関連においては「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

- 第一回 哲学の諸問題の紹介
- 第二回 プラトンのイデア論
- 第三回 アリストテレスにおける質料形相論
- 第四回 デカルトの思想——cogito ergo sum
- 第五回 ロックの経験論
- 第六回 ヒュームによる因果批判
- 第七回 カントによるコペルニクスの転換
- 第八回 ヘーゲルの弁証法
- 第九回 キルケゴールの実存主義
- 第十回 ニーチェによる肉体や生への眼差し
- 第十一回 サルトルの無神論的な実存主義
- 第十二回 ソシュールの記号学
- 第十三回 構造主義の登場
- 第十四回 ティモシー・モートンの環境哲学
- 第十五回 まとめ

【事前・事後学修】

[事前学修]

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べる。こうして予備知識をもつようにする。(学修時間週2時間)

[事後学修]

前回の授業のプリントを読み直して不明点をなくしておくこと。
分からない言葉は国語辞典や哲学辞典を読み調べておくこと。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

こちらでレジュメを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% コメントカードの提出30%で評価する。コメントシートを紹介して考察や検討のきっかけとする。

【参考書】

必要に応じて指示するが、以下の本に目を通しておくとよい。ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』武蔵野美術大学出版。

【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

西洋美術史演習A

美術史研究の方法論（基礎）

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

西洋美術史研究において必要な基礎的方法論と対象に適した調査方法を、実践的に学ぶ。受講生の研究テーマおよび研究計画に沿って、資料収集・調査、資料・史料の読解・分析の方法等を、段階的に修得する。

【授業における到達目標】

各自が設定したテーマに適した資料収集・調査を行えるようになる。収集した資料の読解・分析を通じて、研究史を批判的に検討する能力を身につける。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. 研究テーマを決定し、問題設定の視座を明確にする。
2. 各自のテーマと問題設定の視座に沿った研究計画を作成する。
3. 受講生の発表（1）研究計画：博士前期課程2年の学生は、7月に実施する修士論文中間発表に向けて、修士論文の具体的な章立てを示す。
4. 研究資料の収集（1）：作品目録（美術館・博物館等の所蔵品目録、個人コレクションの目録、その他）、作品来歴に関わる資料について
5. 研究資料の収集（2）：先行研究について
6. 研究方法・視座の検討（1）：先行研究の方法論・視座の分析
7. 研究方法・視座の検討（2）：先行研究を踏まえた問題視座の展開
8. 校外見学授業（1）：宗教画関連作品の見学
9. 受講生の発表（2）：修士論文の議論展開の骨格を示す。
10. 作品コーパス（研究テーマに関わる作品群）の検討①：作家別コーパス
11. 作品コーパスの検討②：作品の主題・図像内容別コーパス
12. 校外見学授業（2）：神話画関連作品の見学
13. 受講生の発表（3）：修士論文中間発表の準備
14. 受講生の発表（4）：修士論文中間発表の予行演習
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で取り上げた方法論を、各自の研究テーマに批判的に応用する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表30%、中間レポート20%、期末レポート20%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史演習B

美術史研究の方法論（応用）

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋美術史演習Aに続き、西洋美術史研究において必要な基礎的方法論と対象に適した調査方法を実践的に修得し、将来の研究者としての研究基盤・スタンスの確立をめざす。

【授業における到達目標】

各自が設定した研究テーマに即して収集した資料を、資料の形式や内容に適した方法で読解・分析し、批判的に検討する能力を高める。各自の研究テーマに隣接する分野の作品を収集し、発展的に比較考察する方法論を修得する。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. 演習Aの成果を踏まえて修士論文の問題視座や議論の骨格を再検討し、研究計画を調整する。
2. 文献資料の収集・活用（1）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の収集
3. 文献資料の収集・活用（2）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の読解・分析
4. 文献資料の収集・活用（3）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の批判的検討
5. 文献資料の収集・活用（4）作品・作家に関わる同時代の文献資料の収集
6. 文献資料の収集・活用（5）作品・作家に関わる同時代の文献資料の読解・分析
7. 文献資料の収集・活用（6）作品・作家に関わる同時代の文献資料の批判的検討
8. 校外見学授業（1）風景画関連作品の見学
9. 比較作品の収集・分析（1）作品主題について
10. 比較作品の収集・分析（2）図像プログラムについて
11. 比較作品の収集・分析（3）作品受容について
12. 受講生の研究発表（1）作品主題・図像について
13. 受講生の研究発表（2）作品受容について
14. 校外見学授業（2）静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で収集した資料の整理・解析を通じて、自身の研究視座を修正・拡充する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表30%、中間レポート20%、期末レポート20%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史演習 a

—卒業論文執筆に向けた基礎訓練（1）—

駒田 亜紀子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【注意事項】

本演習は、授業と事前・事後学修に加え、校外で実施する展覧会等の見学を軸に進める（見学にかかる一切の費用は自己負担。見学実施日程は変更する場合がある）。展覧会会期中に見学を行わなかった学生は、原則として失格となる。

【授業のテーマ】

主にバロック期までの西洋美術を対象に、4年次の卒論執筆に向けて、美術史の基本的方法を学ぶ。美術史的探求の全ての基礎である言葉によるディスクリプション（作品記述）を出発点とし、作品の美術史的な位置づけに必要な分析方法（様式、主題、図像、制作技法、作品受容など）を実践的に学ぶ。更に、実際の作家や作品について調べるための研究論文・資料の探し方・読み解き方を学ぶ。

【授業における到達目標】

作品に表現・造形化されていることを自分の目で見て把握し、それを作品に即して、客観的に、自分の言葉で説明できるようになる。ディスクリプションを通じ、対象作品において検討すべき美術史的課題を発見できるようになる。課題解決に結びつく調査方法を修得する。発表や見学授業の準備を協力して行う力を身につける。

【授業の内容】

1. イントロダクション
2. 作品ディスクリプション1：作品に何が表現されているかを、第三者に伝わる言葉によって記述する訓練。形象化されたモチーフや登場人物等をただ漫然と言葉に置き換えるのではなく、ディスクリプションを通じ、その作品を知らない第三者にその作品の特徴や見どころを理解してもらえるような作品記述を目指す。
3. 作品ディスクリプション2→小レポート①：課題作品のディスクリプション作成
4. 小レポート①フィードバック1：ディスクリプションの手順
5. 小レポート①フィードバック2：ディスクリプションの形式
6. 研究文献の講読：課題論文についての解説。→小レポート②
7. 小レポート②フィードバック
8. 展覧会见学→小レポート③（作品ディスクリプション）
9. 小レポート③フィードバック：作品記述の用語・着眼点
10. 図書館のデータベースを利用した資料検索実習
11. 参考文献一覧の作成方法
12. 夏休みの課題について：指定した作家に関する研究文献を探し、参考文献一覧を作成する→レポート④
13. 美術館見学（1）：見学作品・作家に関する予備調査
14. 美術館見学（2）：見学現場での作品ディスカッション
15. 総括フィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：配布プリント記載の次回授業の内容を把握し、他の西洋美術史分野の授業内容と関連付けて理解できるようにする。提出課題の作成に取り組む。（事前学修 週2時間）

事後学修：フィードバックと照らし合わせ、自身の提出課題の問題点を具体的に把握し、改良版を作成する。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを使用するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極的な参加・発表・発言、学期中に複数回課す小レポートを重視する。成績評価は、授業態度と授業における発言・発表（25%）、小レポート（50%）、期末レポート（25%）とする。コメントペーパーに対するフィードバックは授業内で行う。

【参考書】

指定図書・推薦図書を活用する。疑問が生じた場合には、『西洋美術用語辞典』（岩波書店、2005年）、『西洋絵画作品名辞典』（三省堂、1994年）等でまず調べる習慣を身につける。

西洋美術史演習 b

—卒業論文執筆に向けた基礎訓練（2）—

駒田 亜紀子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

主にバロック期までの西洋美術を対象に、4年次の卒論執筆に向けて、美術史の基本的な方法論を学ぶ。関心のあるテーマや作家・作品について問題設定し、作品ディスクリプション、様式・主題・図像の分析、作品間の比較検討等を行う。作品調査、研究文献・資料の探索・読解などを通じ、美術史学の基本的な方法論を実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

ディスクリプション（言葉による作品記述）能力を高める。ディスクリプションを通じ、対象作品において検討すべき美術史的課題を発見する能力、課題解決に向けた調査を行い、その成果を発表する能力を修得する。発表や見学の準備を協力して行う力を修得する。

【授業の内容】

1. 夏休みの課題フィードバック
2. 作品データの調査方法：画集や辞典等を活用した作品データの調査方法を学ぶ→小レポート①：指定された作家の生涯の略歴と主要作品について調べ、一覧表を作成する。
3. 小レポート①フィードバック
4. 美術作品の主題・図像分析：作品の主題・図像の同定や比較分析、任意の主題作品のデータ収集方法を学ぶ。
5. 美術作品におけるキリスト伝／ギリシャ神話主題の表現について→小レポート②：指定した主題の作品リストを作成し、異なる作品間で図像を比較する。
6. 小レポート②フィードバック
7. 展覧会见学→小レポート③
8. 小レポート③フィードバック
9. 卒論執筆に向けたテーマ設定・課題発見：卒論作成は、各自でテーマを決め、それについて問題を設定し、作品の観察・調査と考察を通じてその解決を目指すプロセスである。
10. 期末課題発表1：各自の設定テーマについてパワーポイントと配布用発表レジュメを作成し、発表→発表後の質疑応答やコメントを踏まえ、レポートを作成（グループA）
11. 期末課題発表2（グループB）
12. 期末課題発表3（グループC）
13. 期末課題発表4（グループD）
14. 美術館見学（1）：作品・作家に関する予備調査
15. 美術館見学（2）：見学現場での作品ディスカッション

【事前・事後学修】

事前学修：配布プリント記載の次回授業の内容を把握し、他の西洋美術史分野の授業内容と関連付けて理解できるようにする。提出課題の作成に取り組む。（事前学修 週2時間）

事後学修：フィードバックと照らし合わせ、自身の提出課題の問題点を具体的に把握し、改良版を作成する。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを使用するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（積極的な参加、発表・発言）（30%）、小レポート（30%）、期末レポート（40%）の比率で評価する。コメントペーパーに対するフィードバックを授業内で行う。

【参考書】

指定図書・推薦図書を活用する。疑問が生じたら、『西洋美術用語辞典』（岩波書店、2005年）、『西洋絵画作品名辞典』（三省堂、1994年）等でまず調べる習慣を身につける。

【注意事項】

本演習は、授業と事前・事後学修に加え、校外で実施する展覧会等の見学を軸に進める（見学にかかる一切の費用は自己負担。見学実施日程は変更する可能性がある）。展覧会会期中に見学を行わなかった学生は、原則として失格となる。

西洋美術史研究指導特殊演習A

より高度な知識と洞察力の獲得を目指して

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

研究対象・テーマに適した調査方法を具体的問題に即して指導し、論文作成につなげる。

【授業における到達目標】

研究対象・テーマに適した作品および資料の調査方法を修得する。
収集した資料や作品調書の整理・活用方法を修得する。

【授業の内容】

1. 研究計画の作成ならびに指導
2. 研究計画の各段階における調査方法の検討
3. 調査計画の作成ならびに指導
4. 作品調査の実施ならびに指導
5. 作品調査に関する報告
6. 作品調査に基づく論文の中間報告
7. 論文中間報告の問題点の検討と指導（1）作品調査
8. 資料調査の実施ならびに指導
9. 資料調査に関する報告
10. 調査資料の整理・活用に関する指導（1）読解
11. 調査資料の整理・活用に関する指導（2）批判的検討
12. 資料調査に基づく論文の中間報告
13. 論文中間報告の問題点の検討と指導（2）資料調査
14. 研究史に照らした論点の再精査
15. 今後の研究計画の作成指導

【事前・事後学修】

事前学修：作品および資料の調査方法・内容を検討する。（学修時間 週2時間）

事後学修：作品および資料の調査方法・内容を検証し、次回の調査計画のブラッシュアップにつなげる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特になし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（綿密な研究計画の作成と実行）60%、中間レポート20%、期末レポート20%。研究計画の作成および実行の各段階においてフィードバックを行い、計画の修正につなげる。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

調査資料・研究文献等の整理・活用を徹底する。

西洋美術史研究指導特殊演習B

より独創的な研究を目指して

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

これまでの調査・研究を踏まえ、研究対象・テーマに相応しい、より独創的な着眼点を探りつつ、論文作成につなげる。

【授業における到達目標】

研究対象・テーマに適した作品および資料の調査方法を工夫し、発展させる。収集した資料や作品調書の整理・活用方法を見直し、論文作成につなげる。

【授業の内容】

1. 研究計画書の作成ならびに指導
2. 研究計画の各段階における調査方法の精査
3. これまでの調査を踏まえての調査方法の再検討
4. 作品調査の実施ならびに指導：関連・比較作品
5. 作品調査に関する報告：関連・比較作品
6. 作品調査に基づく論文の中間報告：関連・比較作品
7. 論文中間報告の問題点の検討と指導（1）関連・比較作品
8. 資料調査の実施ならびに指導：同時代資料
9. 資料調査に関する報告：同時代資料
10. 調査資料の整理・活用に関する指導（1）同時代資料の読解
11. 調査資料の整理・活用に関する指導（2）同時代資料の批判的検討
12. 資料調査に基づく論文の中間報告発表：同時代資料
13. 論文中間報告の問題点の検討と指導（2）同時代資料
14. 議論の独創性と妥当性の再検討
15. 今後の研究計画の作成指導

【事前・事後学修】

事前学修：作品および資料の調査方法・内容を検討する。（学修時間 週2時間）

事後学修：作品および資料の調査方法・内容を検証し、次回の調査計画のブラッシュアップにつなげる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特になし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（綿密な研究計画の作成と実行）60%、中間レポート20%、期末レポート20%。研究計画の作成および実行の各段階においてフィードバックを行い、計画の修正につなげる。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

調査資料・研究文献等の整理・活用を徹底する。

西洋美術史特講 c

ドイツ・ルネサンス美術における版画表現

青山 愛香

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

この講義では、広くヨーロッパの美術の歴史を概観しながらドイツ語圏の美術の特質を浮き彫りにする。前期は「ドイツ・ルネサンス」の芸術を取り上げ、とりわけこの時代ドイツが得意とした版画表現に絞って、その独創性について考える。

【授業における到達目標】

15世紀末から16世紀にかけてドイツで展開したキリスト教美術と世俗の美術の図像と様式について理解し、イタリア・ルネサンスとは異なる特質を持つドイツ美術について知識を広げる。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション（視点の提示、評価の確認等）
- 第2週 ドイツ・ルネサンスと版画（概観）
- 第3週 アルブレヒト・デューラーの版画芸術（イタリアとの出会い）
- 第4週 アルブレヒト・デューラーの版画芸術（《黙示録》挿絵を中心に）
- 第5週 アルブレヒト・デューラーの版画芸術（六点の《受難伝連作》を中心に）
- 第6章 ルーカス・クラナハの版画芸術（キリスト教主題を中心に）
- 第7章 ルーカス・クラナハの版画芸術（世俗主題を中心に）
- 第8章 ハンス・バルドゥンク・グリーンンの版画芸術（《アダムとイヴ》の主題を中心に）
- 第9章 ドイツの版画芸術における裸体像の展開
- 第10章 宗教改革とメディア革命
- 第11章 ドイツ・ルネサンス期の肖像版画
- 第12章 プロパガンダとしての木版画
- 第13章 「プロテスタントの美術」の中での版画表現
- 第14章 まとめ
- 第15章 総括

【事前・事後学修】

事前学修：指示された文献を読み、理解すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：講義で取り扱った作品に関して図書館の資料等で確認し、関連する作品を調べる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で指示・配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価：リアクション・ペーパー（20%） 筆記試験（80%）

フィードバック：リアクション・ペーパーは授業時、試験は最終回の授業で行う。

【参考書】

参考文献は授業内で指示する。

【注意事項】

作品を通して自分で考えることが求められる。また実際に作品を見ることが重要である。首都圏で開催される展覧会に積極的に出かけて自分の目で作品を見て欲しい。

西洋美術史特講 d

ウィーン美術史美術館所蔵のハプスブルク家皇帝コレクション

青山 愛香

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

この講義では、広くヨーロッパの美術の歴史を概観しながらドイツ語圏の文化の特質を浮き彫りにする。後期はウィーン美術史美術館所蔵のハプスブルク家皇帝の絵画コレクションについて扱う。ハプスブルク家の歴代皇帝のコレクションが集められた同美術館は総数点7000以上に及ぶ名画を蔵している。とりわけ皇帝ルドルフ二世（1552-1612年）のドイツ絵画コレクションについて詳しく見てゆく。

【授業における到達目標】

ウィーン美術史美術館の歴代皇帝のコレクションを知ることで、幅広く、西洋美術ならびにドイツ語圏の歴史について知識を得る。

【授業の内容】

- 第1週 ハプスブルク家のコレクションの歴史（概観）
- 第2週 大公フェルディナント二世（1529-1595年）の収集品
- 第3週 大公の肖像画コレクション
- 第4週 アンブラス城の「オーストリア史の肖像画廊」
- 第5週 皇帝ルドルフ二世（1552-1612年）の収集品
- 第6週 ①ブリュエゲルの「季節画」連作
- 第7週 ②デューラーならびにドイツ絵画コレクション
- 第8週 ③デューラーの《ローゼンクランツ祭壇画》
- 第9週 ④コレッジョの《イオ》と《ガニユメデス》
- 第10週 皇帝のイタリア絵画コレクション
- 第11週 大公レオポルト・ヴィルヘルム（1614-1662年）の収集品
- 第12週 ①大公のルーベンス・コレクション
- 第13週 ②大公のイタリア絵画コレクション
- 第14週 まとめ ハプスブルク家の絵画コレクション
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：指示された文献を読み、理解すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：講義で取り扱った作品に関して図書館の資料等で確認し、関連する作品を調べる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で指示・配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価：リアクション・ペーパー（20%） 筆記試験（80%）

フィードバック：リアクション・ペーパーは授業時、試験は最終回の授業で行う。

【参考書】

参考文献は授業内で指示する。

【注意事項】

作品を通して自分で考えることが求められる。また実際に作品を見ることが重要である。首都圏で開催される展覧会に積極的に出かけて自分の目で作品を見て欲しい。

西洋美術史特殊研究A

美術史研究の方法論・視座

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

西洋美術における歴史画、とくに神話画および宗教画をめぐる問題について、分析・考察する方法論を学ぶ。研究文献の読解を通じて、対象作品に適した研究視座・方法論を修得する。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行う。

【授業における到達目標】

西洋美術における神話画と宗教画について、同時代の文化的背景との関わりの中で作品を考察する方法論・視座を涵養する。作品画像分析の多様な方法論・視座を批判的に検討し、自身の研究テーマに発展的に応用する能力を高める。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：授業のテーマについての説明および授業計画の確認
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 歴史画研究の視座および方法論について
4. 神話主題へのアプローチ
5. 宗教主題へのアプローチ
6. 神話画と同時代の文化的背景について：研究文献の読解
7. 宗教画と同時代の文化的背景について：研究文献の読解
8. 校外見学授業（1）神話画関連作品の見学
9. 歴史画画像分析の研究視座および方法論について
10. 歴史画の画像分析に関する研究文献の読解（1）神話画
11. 歴史画の画像分析に関する研究文献の読解（2）宗教画
12. 校外見学授業（2）宗教画関連作品の見学
13. 受講生の研究発表（1）神話画
14. 受講生の研究発表（2）宗教画
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、自身の研究テーマに照らして、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で読解した資料の解析を進め、自身の研究テーマに照らして、発展的に応用する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は受講生の研究領域に合わせて授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートに対してコメントを付し、フィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史特殊研究B

美術史研究の方法論・視座

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋美術における風景画・静物画・寓意画をめぐる問題について分析・考察する方法論を学ぶ。研究文献の読解を通じて、対象作品に適した研究視座・方法論を修得する。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行う。

【授業における到達目標】

西洋美術における風景画・静物画・寓意画について、作品受容との関わりの中で作品を考察する方法論・視座を涵養する。作品受容研究の多様な方法論・視座を批判的に検討し、自身の研究テーマに発展的に応用する能力を高める。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：授業のテーマについての説明および授業計画の確認
2. 風景画研究の視座および方法論について
3. 歴史画から風景画へ：研究文献の読解
4. 静物画研究の視座および方法論について
5. 歴史画から静物画へ：研究文献の読解
6. 寓意画研究の視座および方法論について
7. 静物画から寓意画へ：研究文献の読解
8. 校外見学授業（1）風景画関連作品の見学
9. 風景画・静物画・寓意画と作品受容の関わり：研究視座および方法論について
10. 作品受容に関する研究文献の読解：風景画
11. 作品受容に関する研究文献の読解：静物画・寓意画
12. 受講生の研究発表（1）風景画
13. 受講生の研究発表（2）静物画・寓意画
14. 校外見学授業（2）静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する資料を熟読し、自身の研究テーマに照らして、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で読解した資料の解析を進め、自身の研究テーマに照らして、発展的に応用する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は受講生の研究領域に合わせて授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートに対してコメントを付し、フィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史特論A

西洋美術におけるジャンル：歴史画・肖像画

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

西洋絵画には、歴史画・肖像画などの主題を区分する「ジャンル」があり、異なるジャンル間には序列があると考えられていた。中でも、キリスト教やギリシャ神話に関わる主題、あるいは歴史上の出来事などを扱う歴史画は、ジャンルの最高位に位置づけられ、西洋絵画の王道とも言うべき分野であった。王侯貴族等をモデルに当時の一流画家が制作することの多かった肖像画は歴史画に次ぐジャンルとされた。この授業では、西洋の歴史画および肖像画について、作品分析・考察の方法を学ぶ。同時に、テーマの探求に適した外国語文献の応用的読解方法を実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

西洋美術における歴史画および肖像画の特色と位置づけについて理解を深める。歴史画の中でもとくに宗教画（キリスト教関連）について、主題および図像表現の多様性と、地域・時代の文化的背景との関連について、考察を広げる。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行い、問題視座を深化させる。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：西洋美術のジャンルについて
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 歴史画の定義・特徴について
4. 歴史画 (1) 神話主題（古代～中世）
5. 歴史画 (2) 神話主題（中世～近世）
6. 受講生発表 (1) 神話画について
7. 校外見学授業 (1) 神話画関連作品の見学
8. 歴史画 (3) 宗教画・旧約聖書主題（中世～近世）
9. 歴史画 (4) 宗教画・新約聖書主題（中世）
10. 歴史画 (5) 宗教画・新約聖書主題（近世）
11. 受講生発表 (2) 宗教画について
12. 校外見学授業 (2) 宗教画関連作品の見学
13. 肖像画 (1) 古代～中世
14. 肖像画 (2) 近世
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った視座・方法論を各自の研究テーマにフィードバックさせる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史特論B

西洋美術におけるジャンル：風景画・静物画・寓意画

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋美術における風景画と静物画が独立したジャンルとして認識されるようになるのは、ルネサンス以降である。その中で、風景画は、歴史画の背景から次第に独立性を高めて成立したジャンルである。一方、静物画は、中世の宗教画の登場人物のアトリビュートに淵源を持ち、15世紀以降、それらが独立性を高める中で成立した。アトリビュートに遡るモチーフは個々に象徴的な意味を担い、それらが組み合わされることにより、寓意画へと発展した。この授業では、風景画・静物画・寓意画について、中世から近世への展開を軸に、作品分析・考察の方法を学ぶ。同時に、テーマの探求に適した外国語文献の発展的読解方法を実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

西洋美術における風景画・静物画・寓意画の発展過程とその特色について、理解を深める。これらのジャンルと歴史画とのかかわりについて、主題および図像表現の多様性と、地域・時代の文化的背景との関連を軸に、考察を広げる。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行い、問題視座を深化させる。

【授業の内容】

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：西洋美術のジャンルについて
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 西洋美術における風景画の展開について
4. 風景画 (1) 古代美術における風景表現
5. 風景画 (2) 中世キリスト教美術における風景画的表現の展開
6. 風景画 (3) 近世における歴史画と風景画
7. 受講生発表 (1) 風景画について
8. 校外見学授業 (1) 風景画関連作品の見学
9. 静物画 (1) 古代美術における静物表現
10. 静物画 (2) 歴史画におけるアトリビュートと静物画的表現
11. 静物画 (3) 静物画の成立
12. 寓意画：寓意画の展開
13. 受講生発表 (2) 静物画・寓意画について
14. 校外見学授業 (2) 静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った視座・方法論を各自の研究テーマにフィードバックさせる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

西洋美術史入門 a

—ヨーロッパ美術の展開：古代から中世へ—

駒田 亜紀子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

西洋美術史入門 a では、西洋美術史の主要な時代区分を理解した上で、古代ギリシャから中世までの美術の歴史的展開を、各時代の代表的な作品の解説を軸に、時代順に概観する。古代から中世までの2000年余に及ぶ美術の歴史を駆け足で概観するため、それらのすべてを汲み尽くすことは難しい。授業で取り上げた作品を通じて、これらの背後に横たわる豊かな広がりを知る端緒として欲しい。

【授業における到達目標】

講義で取り上げる美術作品を通じて、同じ時代・地域で制作された作品に共通する特徴を把握し、言葉で説明できるようにする。個々の美術作品の特徴や美意識そのものが、作品の制作された時代や地域の価値観と密接に結びつき変化していることを、理解する。制作された時代や地域が異なる美術作品の鑑賞の基本を学ぶ。

【授業の内容】

1. イントロダクション；西洋美術史の時代区分
2. 古代ギリシャ・アルカイック美術：人体表現の展開
3. 古代ギリシャ・クラシック美術：規範の探求
4. 古代ギリシャ・ヘレニズム美術：地中海世界の拡大
5. エトルリア美術：「古代ローマ」以前のイタリア半島
6. 古代ローマ美術：現実世界の造形
7. 古代美術のまとめ・課題フィードバック
8. 古代末期・初期キリスト教美術：古代地中海世界の「再現」美術から中世の「非再現」美術へ
9. ビザンティン美術：神の国の造形
10. 西欧初期中世の美術（1）：ヨーロッパの多様性（ケルト、アングロ・サクソン、西ゴート、モサラベ）
11. 西欧初期中世の美術（2）：カロリング朝、オットー朝
12. 古代末期～初期中世美術のまとめ・課題フィードバック
13. ロマネスク美術：信仰の造形
14. ロマネスクからゴシックへ
15. 総括フィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：配布プリントを読み次回授業の内容を予習する。指定図書・推薦図書・参考図書等に目を通し、次回授業で扱う作品の概要を把握する。課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で解説した作品の基礎データ（所蔵機関名など）を確認する。作品の制作された時代・文化的背景と作品を関連付けて理解し、作品の特徴を言葉で説明する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを使用するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（授業への積極的参加、課題提出）20%、授業時のコメント・ペーパー（小テストを含む）20%、定期試験60%の比率で評価する。コメント・ペーパーと課題に対するフィードバックは次回授業で、試験に対するフィードバックは授業最終回で行う。

【参考書】

『西洋美術館』（小学館 1999年）
E. H. ゴンブリッチ著『美術の物語』（ファイドン 2007年）
指定図書（OPAC参照）
推薦図書（OPAC参照）

【注意事項】

授業は、デジタル・スライドで提示する美術作品等の画像に解説を加えながら、進める。講義中に提示する画像のサムネイルのプリントアウトは配布しないので、注意する。西洋の歴史および地理に関する基礎知識（高校で履修した世界史および地理の知識）を確認しておく。普段から美術全般に関心を持ち、西洋美術関連の展覧会等を積極的に見学することが望まれる。

西洋美術史入門 b

—ヨーロッパ美術の展開：中世後期からバロックへ—

駒田 亜紀子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

西洋美術史入門 b では、中世後期以降の西洋美術の歴史的展開を、各時代の代表的な作品の解説を軸に、時代順に概観する。この授業では、中世後期以降の400年余に及ぶ西歐美術の歴史を駆け足で概観するため、それらのすべてを汲み尽くすことは難しい。授業で取り上げた作品を通じて、これらの背後に横たわる豊かな広がりを知る端緒として欲しい。

【授業における到達目標】

講義で取り上げる美術作品を通じて、同じ時代・地域で制作された作品に共通する特徴を把握し、言葉で説明できるようにする。個々の美術作品の特徴や美意識そのものが、作品の制作された時代や地域の価値観と密接に結びつき変化していることを、理解する。

【授業の内容】

1. イントロダクション：西洋美術史の時代区分
2. ゴシック美術：大聖堂の時代
3. アルプス以北の中世末期の美術：宮廷と貴族の美術
4. イタリアの中世末期の美術：都市国家の美術
5. イタリアの初期ルネサンス美術：マザッチョとフラ・アンジェリコ
6. イタリアの盛期ルネサンス美術1：ボッティチェッリとレオナルド
7. イタリアの盛期ルネサンス美術2：ラファエッロとミケランジェロ
8. イタリアの盛期ルネサンス美術3：ヴェネツィア派の絵画
9. アルプス以北のルネサンス美術1：初期ネーデルラント絵画
10. アルプス以北のルネサンス美術2：ドイツ・ルネサンス絵画
11. マニエリスム美術
12. イタリアのバロック美術
13. アルプス以北のバロック美術
14. 中世後期～バロック美術のまとめ・フィードバック
15. 総括フィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：配布プリントを読み次回授業の内容を予習する。指定図書・推薦図書・参考図書等に目を通し、次回授業で扱う作品の概要を把握する。課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で解説した作品の基礎データ（所蔵機関名など）を確認する。作品の制作された時代・文化的背景と作品を関連付けて理解し、作品の特徴を言葉で説明する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを使用するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（授業への積極的参加、課題提出）20%、授業時のコメント・ペーパー（小テストを含む）20%、定期試験60%の比率で評価する。コメント・ペーパーと課題に対するフィードバックは次回授業で、試験に対するフィードバックは授業最終回で行う。

【参考書】

『西洋美術館』（小学館 1999年）
E. H. ゴンブリッチ著『美術の物語』（ファイドン 2007年）
指定図書（OPAC参照）
推薦図書（OPAC参照）

【注意事項】

授業は、デジタル・スライドで提示する美術作品等の画像に解説を加えながら、進める。講義中に提示する画像のサムネイルのプリントアウトは配布しないので、注意する。西洋の歴史および地理に関する基礎知識（高校で履修した世界史および地理の知識）を確認しておく。普段から美術全般に関心を持ち、西洋美術関連の展覧会等を積極的に見学することが望まれる。

西洋料理実習

長澤 美明

4年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

西洋料理の技術と知識の習得

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を習得する。

【授業の内容】

- ①カナダ産オマール海老のサラダ シェリー酢風味
マグレ鴨胸肉のロースト ソース ポワヴェルベール
ポテトのガレット
フランス産チーズカマンベールチーズ・フルーツセック・パン
マンゴーフルーツのシャーベット
- ②ミックスサンドウィッチ（ロースハム・プロセスチーズ）
ポテトの冷製スープ ヴィシソワーズ
トマトとメスクランのサラダ 王冠仕立て
フランス産チーズ・サントモールサンドレ・フルーツセック
ヴァニラのアイスクリューム
- ③フルーツのタルト
スモークサーモンと各種野菜のサラダ
パスタ・アーリオ・オーリオ・ペペロンチーノ
チョコレートの小菓子
パッションのシャーベット
- ④プレーンオムレツとグリーンサラダ
ペンのボローニヤ風
スイス産チーズ・テートドモワンス・フルーツセック・パン
イチゴのムース・フレッシュフランボワーズ添え
フランボワーズのシャーベット
- ⑤フォアグラ・生ハム・野菜・キノコのマリネのサラダ仕立て
仔羊のロースト・マスタードソース
グラタンドフィノワーズ
フランス産チーズ・ロックフォール・フルーツセック・パン
プティガトー（クッキー）
ババマンガのシャーベット
- ⑥パーティー料理各種
ズワイガニのサラダ・海の幸のマリネ・カツサンド・
海老マカロニグラタン・ローストビーフ・お魚のハンバーグ
ショートケーキ・タルト・イチゴのアイスクリューム
- ⑦授業のまとめ1
- ⑧授業のまとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続

【事前・事後学修】

【事前学修】

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】

実習内容について考察し、レポートにまとめ提出する。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

- ・プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実技試験・筆記試験50%、授業態度20%、レシピ20%、レポート10%（レポートは必ず提出し、授業時にフィードバックする）

【注意事項】

- ・食材の仕入れ状況によりメニューを変更する可能性があります。
- ・1クラス 24名を定員とする。

設計製図基礎

橋 弘志

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

3次元の空間を2次元にあらわす製図の技術は、建築士やインテリアプランナーに代表される空間を扱う専門家や、プロダクトデザイナーなど3次元の物のデザインに携わる専門家にとって、基本的かつ必須のものです。製図とは、デザインする人、つくる人、利用する人、相互のコミュニケーションの手段であり、そのためには一定のルールを守って図面化することが求められます。ここでは、主に建築図面を題材としてその描き方や読み方を学び、製図の基礎的な技術を習得します。

【授業における到達目標】

平面図、断面図、立面図など、建築設計図面の描き方の基礎を身に付ける。

アイソメ図、パースなど、建築物の立体的な表現方法を身に付ける。

図面と建築空間や建築構造との対応関係について理解する。

【授業の内容】

- 第1週 建築製図の基本的考え方
- 第2週 製図用具の使い方
- 第3週 線の引き方と図面の規則
- 第4週 詳細図
- 第5週 建築記号
- 第6週 木造住宅平面図
- 第7週 RC造住宅平面図
- 第8週 断面図
- 第9週 アイソメ・アクソメ図
- 第10週 透視図の基礎
- 第11週 一点透視図
- 第12週 二点透視図
- 第13週 建築図面の表現
- 第14週 インテリアの設計
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：前回までの製図の描き方を理解した上で授業に臨むこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：毎回課題が出題されるので、次回の授業までに作図し、確実に提出すること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

教材は適宜プリントを配布します。

製図用具は各自購入して毎回持参してください。必要な用具はオリエンテーション時および授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、提出されたすべての課題（プレゼンテーション含む）70%によって評価します。（課題がすべて提出されてはじめて評価の対象となります。）

提出課題については、次回授業でフィードバックします。

【注意事項】

「生活空間設計製図1～3」を履修する上で、本授業の修得が必須となります。これらを履修しようとする人は、2年次に「設計製図基礎」を確実に修得してください。

専門演習 I

大学院担当専任教員全員

人間社会専攻 通年 4単位

進捗状況に応じて、個別にフィードバックする。

【参考書】

授業時に随時提示する

【授業のテーマ】

専門演習 I は専門性の高度化を目指した研究指導を行う。研究対象とする各専門分野の研究成果から研究上必要とされる先行研究の文献を選択し読み解釈し討議を行い、修士論文の作成に取り掛かるための研究方法（研究計画書の作成など）を習得させる。したがって研究の仕方や事例研究、専門分野によっては現地調査、実験などもあり、演習を通して思考力や分析力が身につくよう指導する。演習の進め方は以下のとおりである。

【授業における到達目標】

本演習を通じて研究テーマに関する文献サーベイを終え、研究動向や主要な研究の流れについて概要が把握できるようになる。それらを踏まえ、研究テーマに求められる研究方法や研究デザインを概要がつかめるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 研究課題と専門分野との整合性について確認する。文献研究の重要性や調査・実験などの意味の説明および専門分野としての学問を述べる。
- 第2週 先行研究の文献をリストアップし、どのような順序で読むか計画を立て、学習の順序及び演習の進め方（発表、レジュメ）を決定する。
- 第3週 最初に読む文献（1～数編）の発表と質疑を行い、内容に関する討議を行う。
- 第4週 さらに最初に取上げ発表した文献を、具体的にポイントを絞り、さらに討議する。
- 第5週 最初に発表した文献を整理し、意図したことは何か、明らかにしたかったことは何かを討議する。分析方法や論理性や証明性を検討する。
- 第6週 次の文献に入り、要約と論点などを整理したものを発表し討議を行い、前回の文献との関連性について言及する。
- 第7週 第5週、第6週で読んだ文献がこれから研究しようと思っている研究に使える情報なのかどうか検討する。
- 第8週 次に読む参考文献の選定や調査、実験が必要かどうかもう一度整理を行い、討議し、決定する。
- 第9週 決められた文献研究や調査などを行い、その結果を発表し、どのように評価すべきか討議し、指導する。
- 第10週 引き続きこれまでの文献研究や調査、実験などから分析の手法や調査の仕方などを整理し、発表させ、評価と指導する。
- 第11週 研究対象を絞りこむ方法を指導する。
- 第12週 具体的に研究目的、研究課題および準備作業（最終論文に仕上げるまでの過程）について指導する。（研究計画の立案）
- 第13週 研究計画（研究目的、研究課題、研究の順序、目次、期間、実験、巡検など）の発表と、その評価と問題点を検討し指導する。
- 第14週 研究計画書の加筆・訂正による発表に基づき、意見を述べ、討議し、一応まとめるよう指導する。
- 第15週 修士論文作成のためにまとめた研究計画書の最終評価を行い、研究をスタートするよう指導する。

【事前・事後学修】

事前学修：各専門分野で選択した論文、著書の要約、発表のための準備と研究課題（案）を用意しておくこと。

事後学修：修士論文作成のための研究計画書（案）の加筆・訂正を行うこと。

事前・事後学修で週4時間以上を要する。

【テキスト・教材】

授業時に随時指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表と「研究計画書」の提出により評価する。

専門演習Ⅱ

大学院担当専任教員全員

人間社会専攻 通年 4単位

【授業のテーマ】

専門演習Ⅱは専門演習Ⅰの学習成果をさらに高度な専門研究に発展させるための段階である。各研究計画書に基づき、順序に従って研究論文の進捗報告とそれについての質疑および助言と指導を行う。最終的に修士論文の作成・完成まで指導する。演習の進め方は以下のとおりである。

【授業における到達目標】

本演習を通じて、修士論文の的確な進捗状況を把握できるとともに、その完成に向け、文章の完成度を高めることができる。また、ディスカスを通じて疑問点や問題点の払拭ができるようになる。

【授業の内容】

第1週 研究計画書で書かれた論文構成にしたがってどのような順序で執筆するのか、また問題意識と研究課題から研究の意義や先行研究文献の取り上げ方や調査の有無などの確認と進めていく際の指導をする。

第2週 再度、研究上の問題点も含め執筆作業に取り掛かるよう指導する。

第3週 1回目の発表に対して問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。

第4週 加筆・訂正した1回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。

第5週 次章の進捗状況の発表とその助言と指導をする。

第6週 2回目の論文発表に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。

第7週 加筆訂正した2回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。

第8週 3回目の発表に対する論文の進捗報告とそれに対する助言・指導する。

第9週 3回目の論文発表に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。

第10週 加筆訂正した3回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。

第11週 4回目の発表論文に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。

第12週 4回目の発表論文の評価と可否および修士論文の取りまとめにかかるよう指導する。

第13週 最終発表論文の中間発表とその問題点の指摘および加筆、訂正の検討。

第14週 加筆・訂正した最終論文の発表と残された課題の方向付けをする。

第15週 修士論文とそのレジュメに基づく発表とその評価および学位（修士）申請書類の作成に向けて助言・指導する。

【事前・事後学修】

研究テーマに応じた専攻研究や論文サーベイを通じて、研究課題を用意する。

週4時間以上の学修を要する。

【テキスト・教材】

特になし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間報告及び修士論文スケールのできに応じて評価をする。

中間報告に対し、適宜、フィードバックする。

染色加工学

牟田 緑

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

色は形とともに衣服を含む繊維製品にとって重要な要素で、外観的性能に大きく関わっています。衣服に代表される繊維製品を染めるために使われる染料の種類と特性、なぜ繊維素材が染まるのかといった染色理論やどのように染めるのかといった染色加工技術を学び、衣服や他の繊維製品にとって、実用上重要な染色堅ろう度などについて理解を深めます。また被服の着心地や繊維製品の機能性に関わる加工について、その原理と方法を学びます。

【授業における到達目標】

テキスタイルの素材、それを染める染料、染色機構、染色加工技術についての理解を深め、染色加工についての基礎知識を修得します。研鑽力を磨きます。

【授業の内容】

1. 染色加工とは
2. 染料と染色の歴史
3. 浸染と捺染
4. 染着の原理
5. 光の吸収と色
6. 色の測定、確認とまとめ
7. 直接染料、酸性染料、カチオン染料
8. 媒染染料、建染染料
9. 分散染料、反応染料
10. 天然繊維の染色
11. 合成繊維の染色
12. 染色物の堅ろう度
13. 堅ろう度試験とその評価
14. 機能加工
15. まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業の前にテキストの当該箇所を読んでおき、授業後に内容が理解できたことを確認して下さい。

事前、事後学修はともに2時間程度/週は費やして下さい。

【テキスト・教材】

プリント

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、課題25%、受講態度15%

授業の中で講評します。

【参考書】

中島利誠編著『新稿 被服材料学』（光生館 2010年）

日本繊維技術士センター編『繊維の種類と加工が一番わかる』（技術評論社 2017年）

繊維応用技術研究会編『「染色」って何？ーやさしい染色の化学ー』（繊維社 2017年）

【注意事項】

授業前に当該箇所を読んでおいて、授業後に、理解できたことを確認して下さい。

繊維高分子材料学

加藤木 秀章

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

衣服やインテリア用品などは繊維と高分子からできており、これらの性能の多くは構成する高分子と繊維の種類と性質によって決まる。そのため、衣服やインテリア製品の企画・設計・製造や選択・使用では、繊維と高分子の構造と性質を知ることが重要である。

【授業における到達目標】

生活環境を物質の面から支えている繊維高分子材料を整理して理解できるように講義する。広い視野と深い洞察力を身につけ繊維高分子の種々の性質を理解する「研鑽力」を養う。選必2単位。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 高分子（高分子の種類と分類、低分子と高分子）
- 第3週 高分子の構造
内部構造（分子構造、凝集構造、配向、結晶と非晶）
- 第4週 高分子の性質
熱的性質（ガラス転移点、融解、分解、燃焼）
力学的性質（力と変形、応力-歪み曲線、ヤング率、強度、伸度、塑性と弾性）
- 第5週 繊維の種類と分類
- 第6週 繊維の構造
繊維の形態、太さ（デニール、テックス、番手）
- 第7週 繊維の性質
力学的性質（強度、伸度、型くずれ、しわ）
化学的性質（耐薬品性）
物理化学的性質（吸湿、染色）
その他の性質（静電気、光沢や光の反射吸収など）
- *（財）防災協会から講師を招いて防災について講演の予定
- 第8週 天然繊維1（植物繊維ー綿、麻類）
- 第9週 天然繊維2（動物繊維ー毛、絹、鉱物繊維）
- 第10週 化学繊維1
化学繊維の歴史と製造（重合、紡糸、延伸、熱処理）
- 第11週 化学繊維2
再生繊維（レーヨン、キュブラ、ポリノジック）
半合成繊維（セルロース系、蛋白質系）
- 第12週 化学繊維3
合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）
- 第13週 化学繊維4
合成繊維（ビニロン、ポリプロピレン、PE、スパンデックス、塩化ビニル、ビニリデン…）
- 第14週 新しい繊維
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前にテキストおよび事前にmanabaで配布する授業内容を予習しておく。授業の終わりに、15分程度の小テスト(3回)があるので、事前学修しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストの結果は採点し返却するので、できなかった箇所は十分に復習しておく。（事後学修 週2時間）

【テキスト・教材】

城島栄一郎他：基礎からの被服材料学[文教出版、1997、¥2,700(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・中間テスト20%、期末試験60%、平常点（授業への積極的な参加・提出課題）20%を総合して評価する。

テスト結果は採点して次週の授業中に返却する。正解や注意点を伝えることで学生にフィードバックする。

【参考書】

宮本武明他著『新繊維材料入門』（日刊工業新聞社）

中島利誠他著『新稿被服材料学』（光生館）

【注意事項】

最終試験の前に、採点して返却した小テストの中でできなかったところを繰り返し復習しておくこと。

繊維高分子材料実験

牟田 緑・加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

1年後期の繊維高分子材料学で学んだ内容を基礎とし、繊維と高分子の主要な性質を実験を通して理解する。前半は、単一の繊維から成る15種類の標準試験布を用い繊維の形態と理化学的な性質を調べ、後半は、配布する市販混用布を各人で鑑別し混用率測定の実験をおこなう。また、機器を利用した鑑別・分析法、高分子の合成と繊維の製造、吸湿度測定、粘弾性測定の実験を行う。

【授業における到達目標】

各種繊維の特徴を理解して、最終的に市販の衣料の繊維鑑別と混用率計測を独力でできるようになることを目標とする。学生が修得すべき「態度」のうち、実験に対し真理を探究しようとする態度で臨み、実験のプロセスや成果を正しく評価する力を養う。

【授業の内容】

- 1 実験上の注意事項、概要の説明、レポートの書き方
- 2 顕微鏡による繊維の形態観察
- 3 繊維の化学的性質の測定
耐薬品性、呈色反応
- 4 繊維高分子の密度の測定
浮沈法、密度勾配管法による測定
- 5 繊維高分子の熱的性質 燃焼性実験、融点測定
- 6 繊維特性のまとめ
- 7 未知試料鑑別 1
配布混用布につき、各自で繊維を鑑別し混用率を求める
- 8 未知試料鑑別 2
形態観察、溶解性実験、密度測定、燃焼性観察など
- 9 機器による分析 1
赤外吸収スペクトル、電子顕微鏡、示差走査型熱量計
- 10 機器による分析 2
赤外吸収スペクトル2、電子顕微鏡2、示差走査型熱量計2
- 11 未知試料鑑別 3 混用率測定
- 12 機器による分析と未知試料鑑別のまとめ
- 13 繊維の吸湿度の測定、繊維の粘弾性測定
- 14 繊維と高分子の製造
ナイロン66の界面重合、キュプラの製造、ビニロンの製造
- 15 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】1年次に学んだ繊維高分子材料学を復習しておくこと。毎回の授業前に、実験テキストで当該箇所を必ず予習し、的確な実験が遂行できるよう準備しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験後は翌週に提出するレポートをまとめることで、実験方法・実験結果の理解を深める。（学修時間 週6時間）

【テキスト・教材】

テキストを配布する。白衣を用意し動き易い靴を履くこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートと実験への取り組みから総合的に評価する（レポート80%、取り組み20%）。提出されたレポートは添削して返却し、コメントと共に学生にフィードバックする。

【参考書】

①『繊維製品試験（第3版）日本衣料管理協会編』（日本衣料管理協会発行1990）②中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新編被服材料学』（光生館 2010）

【注意事項】

半分程度はグループでおこなう実験である。止むを得ず欠席する場合は、事前に研究室へ連絡すること。

相談援助

大澤 朋子

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

保育所保育士は園児の保育はもちろんのこと、保護者への育児相談、入園待機児の保護者や地域の子育て家庭の相談援助を担うことを期待されており、育児不安の軽減や児童虐待の早期発見を担う専門職である。本科目では、相談援助の基本であるソーシャルワークの理論と技術を学び、後半では事例分析やロールプレイを通して、保護者面接の基礎を学ぶ。

【授業における到達目標】

保育者として相談援助にあたる際に必要とされる基本的な面接技法・倫理を身につける。他者を理解し、支援する力を身につける。子育て家庭をとりまく現状と地域の社会資源や専門職を理解し、支援ネットワークについて理解する。

【授業の内容】

- (1) オリエンテーション・非言語メッセージ①五感を開く
- (2) 非言語メッセージ②距離・配置・空間
- (3) 言語・非言語メッセージを味わう
- (4) 相談援助の理論と意義
- (5) 相談援助の機能
- (6) 相談援助とソーシャルワーク
- (7) 保育とソーシャルワーク
- (8) 相談援助の対象と過程
- (9) 計画・記録・評価
- (10) 関係機関との協働と多様な専門職との連携
- (11) 相談援助の社会資源の活用・調整・開発
- (12) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析
- (13) 虐待の予防と対応等の事例分析
- (14) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析
- (15) まとめ

【事前・事後学修】

事前：事例の背景理解のための調べ学習・レポート作成
(学修時間週2時間)

事後：授業で学んだ基本的な面接技法の練習、事例分析
(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

とくに指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業への積極的参加・リアクションペーパー・課題提出)

60%、レポート40%

最終回に課題レポートのフィードバックを行う。

総合演習

美術史学の実践的な研究方法の吟味

大学院担当専任教員全員

美術史学専攻 集前 2単位

【授業のテーマ】

博士前期課程2年目以上の院生は、修士論文作成に向けて各自が取り組んでいる研究内容について、パワーポイントを用い、配付資料を作成して美術史学専攻全専任教員、大学院生を前に口頭発表を行う。教員、学生から質問やコメントを受け、質疑応答の経験を積む。授業は学内に公開して行う。

【授業における到達目標】

発表者は自らの研究状況を確認するとともに、新たな問題点を見出し、研究内容をさらに深化発展させ、より充実した修士論文作成に向けて努める。

【授業の内容】

これは、通常の授業とは異なり、集中講義形式となる。

- 1、修了予定者は、4月より主副の両指導教員と適宜アポイントをとって面談を重ね、発表の構想を練る。各自の研究成果をまとめ、わかりやすく発表するために、パワーポイントや配付資料の準備をする。（授業時間の①～⑧に相当する）
- 2、主副の指導教員の立ち会いの下、予備発表を重ね、研究方法や研究内容を吟味する（⑨～⑪）
- 3、美術史学専攻の全専任教員及び全院生の前で、本発表を行う。（⑫・⑬・⑭）発表時間は20分、質疑応答を含めて、各自の持ち時間は30分である（予定）。その他全体的な講評も行う。7月後半を予定しているが、詳しい日程については追って公表する。
なお、この会は、美術史学専攻の全院生にとっても、学術研究情報の交換の場として、方法論の構築や共有に資するものとなる。
- 4、指導教員とともに反省会を行い、問題点を再吟味する。（⑮）

【事前・事後学修】

事前：発表内容、パワーポイントと配付資料の準備。（週平均2時間）

事後：教員の指導をふまえて、各自のテーマを再考し、深める。（週平均2時間）

【テキスト・教材】

適宜指導する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容（パワーポイントや配付資料の内容も含めて）70%、質疑応答や討論での発言30%。発表後に指導教員から個別にフィードバックする。

【参考書】

無し。

【注意事項】

担当の教員の指示に従い、遅滞無く準備し、積極的に発言すること。

総合演習 a

於保 祐子・中村 彰男

4年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人体の構造と機能および疾病の成り立ちに係る知識・理論を整理・統合し、当該分野の応用問題を解決できる能力を養うことを目標として演習を行ないます。

【授業における到達目標】

- ・栄養素の構造と機能、その代謝について理解し、説明できる。
- ・臓器・器官の構造と機能及び疾患について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：
学生が修得すべき「研鑽力」のうち
「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

第1週 アミノ酸・たんぱく質の構造・機能
第2週 糖質と脂質の構造・機能
第3週 アミノ酸・たんぱく質の代謝
第4週 糖質の代謝
第5週 脂質の代謝
第6週 生体エネルギーと代謝
第7週 肥満と代謝疾患
第8週 消化器系の構造、機能および疾患
第9週 循環器系の構造、機能および疾患
第10週 腎尿路系の構造、機能および疾患
第11週 神経系の構造、機能および疾患
第12週 内分泌疾患と生殖器系の構造、機能および疾患
第13週 呼吸器系、運動器系の構造、機能および疾患
第14週 血液・リンパ系の構造、機能および疾患
第15週 免疫アレルギー疾患と感染症とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】受講分野が多岐にわたります。テキストや過去の学習使用した当該分野の教科書、ノート、プリント、参考書などを整理し、受講する上で必要となる知識を整理・確認しておく必要があります（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業内容について、確認テストを行います。復習し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説[メディックメディア、¥4,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、平常点（小テスト等）20%で評価します。
小テストや試験の結果については、次回授業でフィードバックします。

総合演習 b

松島 照彦

4年 前期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

管理栄養士の職務を遂行する上で必要な知識を統合し応用の能力を身につける。これまでに学んだ専門科目について、縦割り、個別ではなく、体の仕組み、食物・食品の特性、疾病の概要と疾病における栄養の障害と栄養の必要性、栄養管理法から指導戦略の構築までを総合的な流れとして把握する。

症例などを題材にして、人体の構造と機能、生化学、基礎栄養学、食品学、衛生学、臨床栄養学、栄養教育学について横断的に演習を行う。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、社会に出て傷病者に臨んだ時、その病歴、症候、検査所見から病因と病態を正しく把握し、鑑別診断を行い、必要な情報を挙げ、栄養上の問題と、適切な栄養管理の方針を立てることができるようになる。

研鑽力の内、探求力、自信創出力、洞察力を多に養うことができる。行動力の内、課題発見、目標設定、計画立案、改題解決力を大いに培うことができる。現場で実際の症例に臨むにあたっての自信を大きく育てることができるであろう。

【授業の内容】

第1回～第3回. 栄養障害等の症例を題材にして、栄養評価法、栄養法の選択、栄養の立案、計画を演習する。

第4回～第7回. 糖尿病、代謝内分泌疾患、血液免疫系疾患などの症例を題材にして、生化学、基礎栄養学、臨床栄養学、栄養教育学などについて総合的に演習を行う。

第8～11回. 循環器、腎泌尿器、呼吸器疾患などの症例を題材にして、構造と機能、臨床栄養学等について総合的に演習を行う。

第12～14回. 上部消化管、下部消化管、肝胆膵疾患などの症例を題材にして、食品、衛生、構造と機能、基礎栄養学、臨床栄養学などについて総合的に演習を行う。

第1回 倦怠感と黄疸がみられた症例
第2回 動悸、息切れとむくみがみられた症例
第3回 みぞおちの痛みと黒色便がみられた症例
第4回 舌の痛みと食後のめまいがみられた症例
第5回 高血圧と脱力感がみられた症例
第6回 尿に糖が出て急に太った症例
第7回 酒飲みを治療中に意識障害に陥った症例
第8回 体重減少と右下腹部の痛みがみられた症例
第9回 痩せた高齢者を治療中に呼吸困難に陥った症例
第10回 糖尿病で足のしびれがみられた症例
第11回 腎臓が悪く倦怠感が強くなった症例
第12回 大量飲酒者で腹痛とやせがみられた症例
第13回 長期喫煙者で息苦しさが増してきた症例
第14回 単身赴任でコレステロールが高くなった症例
第15回 肝臓が悪く吐血した症例

【事前・事後学修】

・事前学修：3学年までに履修した全ての専門科目について復習し、整理し、まとめておくこと。あらかじめプリントを配布する。授業では指名して答えさせるので、予定した「症例」について、指定された予習（ワーク）をしておくこと。要する時間は週当たり4時間である。

・事後学修：復習をすること。

【テキスト・教材】

プリント（症例集）を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、その他40%：授業での積極的な発表、症例についての適切な分析、特別講義等連携する他の国家試験対策授業の履修・積極的な参加・到達度を評価し、校内模擬試験の成績も評価の対象とする。期末試験終了後に解説を行う。

【参考書】

- 『クエスチョンバンク管理栄養士』（メディックメディア）
『管理栄養士国家試験過去問解説集』（管理栄養士国試対策研究会編、中央法規）
『管理栄養士国家試験問題と解答』（日本栄養士会編、第一出版）

【注意事項】

特別講義、国試対策講座等連携する他の国家試験対策の授業、講座に参加、履修すること。

総合演習 c

於保 祐子・山岸 博美

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

この授業では、生化学・基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学で学んだ人間栄養学における栄養現象について、各ライフステージに分けて、身体の特徴、栄養特性、栄養管理、疾病について横断的に演習することで知識を深める。また、これらの知識を集団への食事の提供という具体的な形とするために給食経営についても学ぶ。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・給食管理について具体的に説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち

「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1週 | 妊娠期の生理的変化・特徴と栄養の特性および食事摂取基準 |
| 第2週 | 妊娠期の栄養管理と疾病 |
| 第3週 | 新生児・乳児期の生理的変化・特徴と栄養の特性および食事摂取基準 |
| 第4週 | 新生児・乳児期の栄養管理と疾病 |
| 第5週 | 学童期の生理的変化・特徴と栄養管理および食事摂取基準 |
| 第6週 | 思春期の生理的変化・特徴と栄養管理および食事摂取基準 |
| 第7週 | 成人期の栄養アセスメントと栄養管理 |
| 第8週 | 生活習慣病と食事療法および食事摂取基準 |
| 第9週 | 高齢期の生理的変化・特徴と栄養 |
| 第10週 | 高齢期の疾病と栄養管理および食事摂取基準 |
| 第11週 | 栄養関連疾患（欠乏症、過剰症）・運動による生理的変化と運動時の栄養管理 |
| 第12週 | ライフステージごとの給食の計画 |
| 第13週 | ライフステージごとの給食の運営 |
| 第14週 | ライフステージごとの給食の評価 |
| 第15週 | まとめ |

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回の授業前に課題に取り組むこと。（学修時間1時間/週）

【事後学修】

授業で行った課題の復習をすること。（学修時間1時間/週）

【テキスト・教材】

『日本人の食事摂取基準（2015年版）[第一出版、2014、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、授業態度10%で評価する。

フィードバックは試験の解説で行う。

総合演習 d

山岸 博美・森川 希

4年 前期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

管理栄養士として必要な知識及び技術のうち、特に疾病の一次予防を中心とした関連教科の重要な項目を系統的に修得することを目的とする。具体的には、個人または集団の食生活改善を介して健康づくりを推進するため、給食経営を含む栄養プログラムのマネジメントに必要な情報収集、現状分析、科学的根拠に基づく計画立案と評価のあり方を科目縦断的に演習する。

【授業における到達目標】

管理栄養士として、健康の維持・増進のための栄養管理・指導、あるいは給食の管理運営を行うのに必要な総合的知識を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
(健康の維持・増進および疾病の一次予防の重要性と、公衆衛生・公衆栄養・栄養教育・給食経営管理との関わり)
- 第2週 集団や地域における健康状態の判定 (保健統計の活用)
- 第3週 わが国や諸外国の健康・栄養問題の動向
- 第4週 わが国の健康・栄養状態の課題と健康増進関連施策
- 第5週 生活習慣病予防のための公衆栄養プログラム
(特定健康診査・特定保健指導)
- 第6週 健診データ・レセプトデータ分析からみる生活習慣病管理
- 第7週 疫学研究論文の読み方① (横断研究、地域相関研究)
- 第8週 疫学研究論文の読み方② (コホート研究、症例対照研究)
- 第9週 疫学研究論文の読み方③ (介入研究)
- 第10週 栄養疫学研究と食事摂取基準
- 第11週 集団を対象とした食事摂取基準の活用
- 第12週 対象者の特性を把握した給食マネジメント
- 第13週 健康管理と給食の意義
- 第14週 給食の運営とマネジメント
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回の授業前に課題に取り組むこと。(学修時間1時間/週)

【事後学修】

授業で行った課題の復習をすること。(学修時間30分/週)

【テキスト・教材】

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学[南江堂、2018、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、授業態度10%で評価する。

課題については、次回授業でフィードバックを行う。

卒業演習A

— 面白がる力を身につけよう—

大倉 恭輔

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業演習は、大学（短大・4大）での学びにおいて、とても重要な位置にある科目です。「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」という点で、もっとも意義深く身になる科目です。

さて、この授業は「英コミ」の科目ですが、受講生が「やってみたい・調べてみたい」というテーマを、あまり英語にこだわらず、コミュニケーションに力点を置いてやっていこうと思います。

音楽・映画・アニメ・ファッション・観光・ネット etc…

こんなことは「学校の勉強のテーマにはならない」などとは考えなくて OK です。

【授業における到達目標】

この授業では、各人が選んだテーマについて調べ・考え・議論をすることが中心となります。

そうして、多様性を受容し多角的な視点のもと、それぞれが選んだテーマに関する課題解決のために主体的に行動するとともに、他のゼミ生と一緒に考え活動できるようになることをめざします。

【授業の内容】

- 01 インTRODククション
- 02 やりたいことをさがす a：先輩や他大の例をみる
- 03 やりたいことをさがす b：ゼミ生とも相談してみる
- 04 やりたいことをさがす c：ほぼほぼ固めてみる
- 05 やりたいことについて調べる a：文献をさがす
- 06 やりたいことについて調べる b：文献を集める
- 07 やりたいことについて調べる c：文献をまとめる
- 08 他人の意見を聞く a：チェックを受ける
- 09 他人の意見を聞く b：意見交換をする
- 10 他人の意見を聞く c：お互いの着地点を見つける
- 11 プレゼンテーション a：プレゼン資料を作る
- 12 プレゼンテーション b：プレゼンしてみる
- 13 プレゼンテーション c：チェックを受ける
- 14 プレゼンテーションの反省
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料に目をとおり、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。（週2時間以上）
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。（週2時間以上）

【テキスト・教材】

授業時に提示します。

基本的に、manaba 上から資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：成果物50%・平常点50%（受講態度・ノート作成）

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・レベルよりも、やる気をまず重視します。
- ・「短期大学部標準授業マナー」を守ることは最低ラインです。（manaba上に掲示してあります）

卒業演習A

萩野 敏

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「卒業演習A」（前期）「卒業演習B」（後期）を通して、この演習では、さまざまなジャンルの洋楽の曲を材料として取り上げ、歌詞の英語や訳詞を検討して、より正確により深く取り上げた曲を理解していこうと考えています。学生のグループによる発表が中心になりますが、その際には教室で実際に曲を聴いたりビデオクリップを見たりして、歌を聞くだけでは理解できない部分も紹介してもらいます。さらには、それぞれの歌に込められたメッセージ、背景として理解すべき文化や時代、ものの考え方といった事柄も学んでいきます。「卒業演習A」ではテキストを使用し、学生はその中から題材を選びます。

【授業における到達目標】

英語圏の曲の歌詞やアーティスト等について詳しく調べ、教室での質疑応答をふまえた上でその成果をまとめあげ、資料を用意して分かりやすく発表する、という一連の活動を通して、国際的視野を高めるとともに、行動力や協働力を養うことを目標としています。

【授業の内容】

1. 演習の進め方の確認
2. 資料の収集、整理、発表の方法に関する指導
3. 参考図書に関する発表
4. 進行状況の第1回報告と全般的な個別指導
5. 進行状況の第2回報告と発表へ向けた個別指導
6. 第1発表者（グループ）による担当箇所の発表
7. 第2発表者（グループ）による担当箇所の発表
8. 第3発表者（グループ）による担当箇所の発表
9. 第4発表者（グループ）による担当箇所の発表
10. 第5発表者（グループ）による担当箇所の発表
11. 第6発表者（グループ）による担当箇所の発表
12. 第7発表者（グループ）による担当箇所の発表
13. 第8発表者（グループ）による担当箇所の発表
14. 第9発表者（グループ）による担当箇所の発表

※以上の学生発表は1人最低1回行います。担当箇所はテキストの中から学生が自ら選択しますので、その内容等は第1回授業以降に決まります。

15. 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表へ向けて十分に時間をかけた準備が必要です。

【事後学修】毎回の演習内容をまとめた個人ノートを作成してもらいます。

（事前・事後学修を合わせて週4時間以上）

【テキスト・教材】

津田敦子：The Best of Grammy Winners[金星堂、2000、¥1,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行いません。

成績は、担当した発表（作成資料・レポートなどを含む）の内容や方法（50%）のほか、質疑応答での発言内容や発言回数などの参加状況（20%）、個人ノートの内容（30%）により総合的に評価します。

各発表後には個別に、最終授業では全体としてのフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

卒業演習A

—英語にも敬語があるのでごさいましょうか?—

藤原 正道

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

英語と日本語の丁寧表現を身につけ、それぞれの文化的背景・習慣の違いなどを演習形式の授業を通して学びます。

【授業における到達目標】

短大の学修成果として、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に望む態度や知を求め、心の美を育む態度、学習を通して自己を成長させ、課題解決のために主体的に行動し、他人と協働する力を身につけます。

具体的には、各項目について理解し、知識を増やし、論理的な説明（プレゼンテーション）ができ、的確な質問もできるようになることを到達目標とします。

【授業の内容】

1. 日本語の敬語
2. 会話の原理・丁寧さの原理
3. 英語の丁寧表現
4. 依頼する
5. 許可を求める
6. 提案をする
7. 会議を進める
8. 断り方
9. 苦情の言い方
10. 謝り方
11. 悪い知らせ
12. 謙遜表現
13. 名前
14. 婉曲表現
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当部分を理解し、資料を作るなど発表の準備をすること。週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習と提出課題に取り組むこと。週2時間以上

【テキスト・教材】

参考書の中から何冊かを選んで、使用します。発表時にテキスト以外の別の参考文献から関連箇所を取り上げ、資料に加えることが求められまんねん。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の調査・発表内容・質問の内容50%＋課題30%＋普段の敬語の使用・挨拶など20%とします。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

東 照二『丁寧な英語・失礼な英語』（研究社）
David A. Thayne（他）『使ってはいけない英語』（河出書房）
井上史雄『敬語は怖くない』（講談社現代新書）
井出祥子（他）『日本人とアメリカ人の敬語行動』（南雲堂）
蒲谷 宏（他）『敬語表現』（大修館）
菊池康人『敬語』（角川書店）
久野揚小（他）『英語の御作法』（DHC）
日本語倶楽部『使ってはいけない日本語』（河出書房）
大杉邦三『英語の敬意表現』（大修館）

【注意事項】

演習形式の授業なので、各自が担当カ所の項目を調べ、資料を作って発表することが必要となります。さらに聞き手は、各自の意見や質問などを考えながら聞くことが必要でっせ。

授業への積極的参加が認められない場合は、成績に大いに影響があることを伝えておきまっせ。

卒業演習A

三田 薫

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

折り紙は日本が誇る文化として、今世界から注目されています。このゼミでは、折り紙の折り方と、英語による折り方の説明を習得し、折り紙を通じて日本文化発信や海外との交流をすることを目指します。

まずは自信を持って折れる折り紙のレパートリーを増やします。また折り紙を英語で説明する方法を何度か練習して覚えていきます。その上で、折り紙にまつわる歴史や、有名な出来事、海外で注目されている内容、折り紙を通じた国際交流の様子についてグループで調べて発表してもらいます。前期の最後には、近隣の学校（東京インターハイスクール）の学生を授業に招いて、皆さんが覚えた折り紙の折り方や、折り紙にまつわるエピソードを英語で紹介しましょう。

【授業における到達目標】

この科目では折り紙を通じて国際的視野、特に日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を養います。またグループ活動を通じて行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力、また協働力、特に自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を育成します。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 折り紙の基本
3. 折り紙の英語説明の基本
4. 折り紙の折り方サイトや動画紹介
5. グループAの発表
6. グループBの発表
7. グループCの発表
8. グループDの発表
9. グループEの発表
10. グループFの発表
11. グループGの発表
12. グループHの発表
13. 最終発表準備の模擬発表A～D
14. 最終発表準備の模擬発表E～H
15. 最終発表会（東京インターハイスクールとの交流）
（順序が変更になることがあります。）

【事前・事後学修】

事前学修：自分が決めたテーマについての調査や発表準備をしてください。

事後学修：教員や他のグループから受けた評価を基に発表内容や英文を修正してください。

（事前・事後合わせて週4時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、毎週の課題達成度30%、折り紙や発表の完成度40%

グループ発表の後、教員や他のグループからのフィードバックがあります。

卒業演習 A

卒業研究

武内 一良

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講座では、社会のさまざまな現象から自分の好きなテーマを選び、そのテーマについて独自に研究していきます。就職活動の面接で、「学生時代どんなことに力を入れましたか」という問いに応えられる自分を作っていきます。

【授業における到達目標】

この科目は以下の点を重視しながら進めていきます。

- 1) 研究を通じて社会と関わっていく行動力を養う。
- 2) クラス発表を通じて発信力と協調性を磨く。
- 3) 研究活動を通じて論理的な思考力を鍛える。

ディプロマポリシーとの関係では、国際的視野を高め、行動力と協働力を養う科目と位置づけられます。

【授業の内容】

- 第1週 授業スケジュール、評価方法、授業運営の説明
 第2週 作業1：テーマ選択のための準備1
 第3週 作業2：テーマ選択のための準備2
 第4週 作業3：テーマの選択
 第5週 クラス発表1：テーマの紹介
 第6週 講義1：研究の目的と方法1
 第7週 講義2：研究の目的と方法2
 第8週 作業4：研究のフレームワーク1
 第9週 作業5：研究のフレームワーク2
 第10週 クラス発表2：研究の概要
 第11週 作業6：テーマの分析1
 第12週 作業7：テーマの分析2
 第13週 作業8：テーマの分析3
 第14週 作業9：テーマの分析4
 第15週 クラス発表3：前期まとめ

【事前・事後学修】

授業の前後には、予習・復習のために最低でも2時間ずつの学修時間を設定してください。

【テキスト・教材】

社会のさまざまな事象が教材となります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

3回にわたるクラス発表（30%）と小論文の進捗状況（70%）によって評価します。なお、評価に対するフィードバックについては毎回の授業において行います。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

卒業演習 A

異文化コミュニケーション

久保田 佳枝

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

人は生活の中で、常にコミュニケーションをしています。この演習では、数々のグループワークを通じて、自分が他者とも違う唯一無二の存在であることを理解し、またその中で自分をどのように表現していくかを学びます。具体的には、人それぞれ文化（考え方や感じ方など）の違い、自分とは違う他者とうまくやっていくためのコミュニケーションの方法、そして自分のコミュニケーションスタイルを理解しながら、自己表現やプレゼンテーションの練習をしていきます。

【授業における到達目標】

- ・自分と他者との違いを理解し、その違いを受け入れることができるようになる。
- ・自分らしさを表現できるようになる。
- ・文化の違いを理解できるようになり、国際的視野を身につける。
- ・数々のアクティビティを通して、行動力と協働力を身につける。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方などの説明）
2. アイスブレイク①全体・ペアワーク
3. アイスブレイク②グループワーク
4. アイスブレイク③価値観
5. アイスブレイク④コミュニケーションスタイル診断
6. ものさしとは
7. 愛の三角理論
8. ラブスタイル理論
9. 外見的魅力
11. 経済的魅力
12. お化粧の重要性
13. 赤色の魅力
14. ひとめぼれ
15. まとめ

※クラスの状況に応じて、順番が変更される場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】担当範囲の教材をよく読み、資料作成および発表の準備をすること。（学修時間は週2時間）

【事後学修】授業で学んだことや気づいたことを記録し、理解を深めておくこと（学修時間は週2時間）

【テキスト・教材】

越智啓太：恋愛の科学[実務教育出版、2015、¥1,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。
- ・成績は、プレゼンテーション30%、発表資料20%、質問回数25%、授業態度と参加状況等25%として、総合評価を行う。
- ・リアクションシート等は次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

諏訪茂樹『コミュニケーション・トレーニング：人と組織を育てる（経団連出版、2012年）

高橋真知子『組織を動かすコミュニケーション力』（実務出版、2010年）

【注意事項】

履修者は積極的な授業参加が求められる。

卒業演習B

— 面白いことをもっと面白くしよう —

大倉 恭輔

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業演習は、大学（短大・4大）での学びにおいて、とても重要な位置にある科目です。「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」という点で、もっとも意義深く身になる科目です。

さて、この授業は「英コミ」の科目ですが、受講生が「やってみたい・調べてみたい」というテーマを、あまり英語にこだわらず、コミュニケーションに力点を置いてやっつけていこうと思います。

音楽・映画・アニメ・ファッション・観光・ネット etc…

こんなことは「学校の勉強のテーマにはならない」などとは考えなくて OK です。

【授業における到達目標】

この授業では、各人が選んだテーマについて調べ・考え・議論をすることが中心となります。

そうして、多様性を受容し多角的な視点のもと、それぞれが選んだテーマに関する課題解決のために主体的に行動するとともに、他のゼミ生と一緒に考え活動できるようになることをめざします。

【授業の内容】

- 01 インTRODクシヨシヨ
- 02 やりたいことをさがす 01：先輩や他大の例をみる
- 03 やりたいことをさがす 02：ゼミ生とも相談してみる
- 04 やりたいことをさがす 03：ほぼほぼ固めてみる
- 05 やりたいことについて調べる 01：文献をさがす
- 06 やりたいことについて調べる 02：文献を集める
- 07 やりたいことについて調べる 03：文献をまとめる
- 08 他人の意見を聞く 01：チェックを受ける
- 09 他人の意見を聞く 02：意見交換をする
- 10 他人の意見を聞く 03：お互いの着地点を見つける
- 11 プレゼンテシヨシヨ 01：プレゼン資料を作る
- 12 プレゼンテシヨシヨ 02：プレゼンしてみる
- 13 プレゼンテシヨシヨ 03：チェックを受ける
- 14 プレゼンテシヨシヨの反省
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

【事前・事後学修】

・事前学修

事前配付の資料に目をとおり、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。（週2時間以上）

・事後学修

授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。（週2時間以上）

【テキスト・教材】

授業時に提示します。

基本的に、manaba 上から資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：成果物80%・平常点20%（受講態度・ノート作成）

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・レベルよりも、やる気をまず重視します。
- ・「短期大学部標準授業マナー」を守ることは最低ラインです。（manaba上に掲示してあります）

卒業演習B

萩野 敏

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

「卒業演習A」（前期）「卒業演習B」（後期）を通して、この演習では、さまざまなジャンルの洋楽の曲を材料として取り上げ、歌詞の英語や訳詞を検討して、より正確により深く取り上げた曲を理解していこうと考えています。学生のグループによる発表が中心になりますが、その際には教室で実際に曲を聴いたりビデオクリップを見たりして、歌を聞くだけでは理解できない部分も紹介してもらいます。さらには、それぞれの歌に込められたメッセージ、背景として理解すべき文化や時代、ものの考え方といった事柄も学んでいきます。「卒業演習B」では、学生が発表の題材を自由に選びます。

【授業における到達目標】

英語圏の曲の歌詞やアーティスト等について詳しく調べ、教室での質疑応答をふまえた上でその成果をまとめあげ、資料を用意して分かりやすく発表する、という一連の活動を通して、国際的視野を高めるとともに、行動力や協働力を養うことを目標としています。

【授業の内容】

1. 演習の進め方の確認
2. 資料の収集、整理、発表の方法に関する指導
3. 進行状況の第1回報告と全般的な個別指導
4. 進行状況の第2回報告と発表へ向けた個別指導
5. 進行状況の第3回報告と発表へ向けた個別指導
6. 第1発表者（グループ）による発表
7. 第2発表者（グループ）による発表
8. 第3発表者（グループ）による発表
9. 第4発表者（グループ）による発表
10. 第5発表者（グループ）による発表
11. 第6発表者（グループ）による発表
12. 第7発表者（グループ）による発表
13. 第8発表者（グループ）による発表
14. 第9発表者（グループ）による発表

※以上の学生発表は1人最低1回行います。原則として学生が発表の題材を自由に選びますので、その内容等は題材選択後に決まります。

15. 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表へ向けて十分に時間をかけた準備が必要です。

【事後学修】毎回の演習内容をまとめた個人ノートを作成してもらいます。

（事前・事後学修を合わせて週4時間以上）

【テキスト・教材】

プリント資料を多数使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行いません。

成績は、担当した発表（作成資料・レポートなどを含む）の内容や方法（50%）のほか、質疑応答での発言内容や発言回数などの参加状況（20%）、個人ノートの内容（30%）により総合的に評価します。

各発表後には個別に、最終授業では全体としてのフィードバックを行います。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【注意事項】

卒業演習B

—どんなことが失礼なのでございましょう？—

藤原 正道

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

英語と日本語の丁寧表現を身につけ、それぞれの文化的背景・習慣の違いなど学び、丁寧さと失礼さについて考えねん。

【授業における到達目標】

多様性を受容し、多角的な視野を持って世界に望み、真理を探究し、学修の成果から自信を創出し、課題解決のために主体的に行動し、他者の役割も理解して協働できるようになること。

具体的には、各項目について理解し、知識を増やし、論理的な説明（プレゼンテーション）ができ、的確な質問もできるようになることを到達目標にします。

【授業の内容】

1. 英語の失礼さ
2. 丁寧なつもりが…
3. カタカナ語が失礼に？
4. よく知っている表現の落とし穴
5. 単語の誤用：I was bad
6. 単語の誤用：She is expecting
7. 和製英語？：OL, Yシャツ
8. 和製英語？：ベビーカー、パンク
9. 日本語感覚？：Keep quiet!
10. 日本語感覚？：I cut my hair
11. 女英語、男英語
12. 英語と米語
13. 性別、民族
14. 品の良さ
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当箇所を理解し、資料を作成するなど発表の準備を行うこと。週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習と提出課題に取り組むこと。週2時間以上

【テキスト・教材】

参考書の中から何冊かを選んで、使用します。担当箇所以外に他の参考文献から2冊以上選び、関連箇所を各1箇所ずつ発表資料に加えなはれ。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の調査・発表内容
- ・質問の内容50%＋課題30%＋普段の敬語の使用・挨拶など20%としまんねん。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

東 照二『丁寧な英語・失礼な英語』研究社
David A. Thayne (他)『使ってはいけない英語』(河出書房)
日本語倶楽部『使ってはいけない日本語』(河出書房)
井上史雄『敬語は怖くない』(講談社現代新書)
井出祥子(他)『日本人とアメリカ人の敬語行動』(南雲堂)
蒲谷 宏(他)『敬語表現』(大修館)
菊池康人『敬語』(角川書店)
久野揚小(他)『英語の御作法』(DHC)
大杉邦三『英語の敬意表現』(大修館)

【注意事項】

演習形式の授業なので、各自が担当カ所の項目を調べ、資料を作って発表することが必要となります。さらに聞き手は、各自の意見や質問などを考えながら聞くことが必要でございませぬ。

授業への積極的参加が認められない場合は、成績に大いなる影響が及ぼされることになるであろう！

卒業演習B

三田 薫

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

後期は、前期までに習得した折り紙の折り方と英語での説明法を活用して、さらにクオリティーの高い活動をしていきましょう。

折り紙の折り方の上級編に挑戦し、繰り返し追ってみることで習得していきます。また上級編の折り方を英語で説明する方法を、何度か練習して覚えていきます。その上で、海外の折り紙を通じた交流サイトにアクセスし、自分たちの折り方を紹介する動画をアップしたり、海外の人たちの作品や動画にコメントを送ったりしていきましょう。またその中で興味深い内容のものについて、グループでまとめ、上級編の折り紙の紹介とともに、発表していただきます。後期の最後には、近隣の学校（東京インターハイスクール）の学生を授業に招いて、皆さんが覚えた折り紙の折り方や、折り紙にまつわるエピソード、海外での折り紙にまつわる活動の様子を英語で紹介しましょう。

【授業における到達目標】

この科目では折り紙を通じて国際的視野、特に日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を養います。またグループ活動を通じて行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力、また協働力、特に自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を育成します。

【授業の内容】

1. 後期オリエンテーション
2. 折り紙の折り方上級編
3. 折り紙上級編の英語説明法
4. 折り紙の海外交流サイト紹介
5. グループAの発表
6. グループBの発表
7. グループCの発表
8. グループDの発表
9. グループEの発表
10. グループFの発表
11. グループGの発表
12. グループHの発表
13. 最終発表準備の模擬発表A～D
14. 最終発表準備の模擬発表E～H
15. 最終発表会（地域学生との交流）
(順序が変更になることがあります。)

【事前・事後学修】

事前学修：毎週出される課題を期日を守って提出してください。

事後学修：他のグループから受けた評価を基に作品や英文を修正してください。（事前・事後合わせて週4時間以上）

【テキスト・教材】

必要に応じて配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、プレゼンテーション50%

グループ発表の後、教師や他のグループからのフィードバックがあります。

卒業演習B

卒業研究

武内 一良

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

前期に設定したテーマを基に研究を進めていきます。社会に関わることの重要性を体感しながら、論理思考を鍛えていきます。

【授業における到達目標】

この科目は以下の点を重視しながら進めていきます。

- 1) 研究を通じて社会と関わっていく行動力を養う。
- 2) クラス発表を通じて発信力と協調性を磨く。
- 3) 研究活動を通じて論理的な思考力を鍛える。

ディプロマポリシーとの関係では、国際的視野を高め、行動力と協働力を養う科目と位置づけられます。

【授業の内容】

第1週 授業スケジュール、評価方法、授業運営の説明

第2週 作業1：調査の準備1

第3週 作業2：調査の準備2

第4週 作業3：調査の準備3

第5週 クラス発表1：調査方法と手続き

第6週 作業4：フィールドワーク1

第7週 作業5：フィールドワーク2

第8週 作業6：フィールドワーク3

第9週 作業7：フィールドワーク4

第10週 クラス発表2：調査結果

第11週 作業8：考察1

第12週 作業9：考察2

第13週 作業10：考察3

第14週 作業11：最終発表準備

第15週 クラス発表3：最終報告

【事前・事後学修】

授業の前後には、予習・復習のために最低でも2時間ずつの学修時間を設定してください。

【テキスト・教材】

社会のさまざまな事象が教材となります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

3回にわたるクラス発表（30%）と小論文の進捗状況（70%）によって評価します。なお、評価に対するフィードバックについては毎回の授業において行います。

【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

卒業演習B

異文化コミュニケーション

久保田 佳枝

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この演習では、対人・集団・異文化の側面からコミュニケーションについて学びます。主に男女間のコミュニケーションおよび恋愛に関する文献を輪読し、男女および恋愛についての科学的な知見の理解を深めていきます。毎回クラスの中でプレゼンテーションを受け持ちながら、他者に物事を伝えるプレゼン力も磨いていきます。

【授業における到達目標】

- ・文化の違いを理解できるようになり、国際的視野を身につける。
- ・クラス内でのプレゼンテーションや発言等を通して、行動力と協働力を身につける。
- ・男女間の文化（考え方や感じ方）の違いを理解し、男女間において効果的なコミュニケーションがとれるようになる。

【授業の内容】

01. 卒業演習Aの復習

02. ひとめぼれ

03. 愛のつり橋効果

04. 恋愛を促進させる現象

05. 成功する告白

06. 恋愛における自己呈示

07. 愛の結晶化効果

08. 恋は盲目

09. 愛の終結

10. 別れ

11. 別れの不安

12. デートバイオレンス

13. 危険な相手

14. ストーキング

15. まとめ

※クラスの状況などにより、順番が変更される場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業に向けて自分の担当部分（発表・質問等）を必ずこなすこと。（学修時間は週2時間）

【事後学修】 授業で学んだことや気づいたことを記録し、理解を深めておくこと。（学修時間は週2時間）

【テキスト・教材】

越智啓太：恋愛の科学[実務教育出版、2015、¥1,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。
- ・成績は、プレゼンテーション30%、発表資料20%、質問回数25%、授業態度と参加状況等25%として、総合評価を行う。
- ・リアクションシート等は次回授業でフィードバックを行う。

【注意事項】

履修者は積極的な発言・授業参加が求められる。

卒業研究**専任教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

各自が選択した研究室に所属し、各自が選択したテーマに沿って研究もしくは制作を進める。

その途上では、指導教員と打ち合わせるだけでなく、研究室の仲間と意見交換する機会が頻繁にある。また、他の研究室の教員を交えた中間発表会が数回開催される。卒業研究発表会では、各自の成果を発表し、質疑に答える。

【授業における到達目標】

大学生活において培われてきた学力、研鑽力・行動力・協働力を十分に発揮することを目標とする。

【授業の内容】

＜卒業研究のスケジュール＞

4月～12月：テーマを設定し、各自が研究・制作活動を進める

卒業研究中間発表会での発表・討議

1月：卒業研究発表会用紙の提出

2月：卒業研究発表会

論文もしくはそれに準ずるもの（ポートフォリオ等）を提出

＜過去の研究テーマ＞

◇アパレル・ファッション分野

婦人靴による騒音と靴底の素材の関係／高校制服に対する意識の男女生徒間差異／縫製工場の端切れを利用した子ども服の制作／最近の市販洗濯用洗剤と界面活性剤含有量の影響／国内プライベートブランド品と海外ブランド衣料品の品質比較／ハンドメイド市場～その実態と検証～／古着ビジネスの形成過程と現状

◇プロダクト・インテリア分野

人工知能が労働環境に与える影響／スカート着用時の衣服内気流／HRVとSPAで何が分かるか／女性のための避難用簡易テント～安心な避難生活を～／日野市立中央図書館のサイン計画～サイン計画による利便性向上～

◇住環境デザイン分野

光浄院客殿を解く／心情のノウド ～水×建築、見出され続ける人～／町に広がるモノサイクル／利用者からみるコミュニティ施設の在り方～ロビー空間に着目して～／人のいる街並み、人の背景としての街並み／住宅街の夜間照明環境ガイドライン

【事前・事後学修】

指導教員が指示する。

【テキスト・教材】

各研究室から指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究活動への取り組み、中間発表および卒業研究発表会での発表、卒業研究要旨・卒業論文等の提出物の内容を総合的に判断する。

【参考書】

各自のテーマに沿ったものを探索する必要がある。指導教員のアドバイスを参考にする。

【注意事項】

主体的に取り組むことが成果に繋がる。大学での学修の集大成に相応しい内容となるよう、研鑽に努めて欲しい。

卒業研究**学科専任教員**

4年 集通 4単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「卒業研究」では、テーマ設定から、文献・資料の収集・整理方法、そして論文を完成させるために必要な能力を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

各担当教員による指導を通じて、より良い論文を完成させることを目指す。論文の作成を通じて、自己成長する「研鑽力」を培う。

【授業の内容】

卒業研究の進め方は、各担当教員によって異なるが、おおむね以下のような内容が含まれる。

前期

1. イントロダクション
 2. 卒業研究のすすめ方
 3. 研究テーマの設定
 4. 先行研究・資料の収集
 5. 先行研究・資料の整理方法
 6. 研究方法の検討
 7. 論文構成（目次）の検討
 8. 先行研究レビュー（1）
 9. 先行研究レビュー（2）
 10. 先行研究レビュー（3）
 11. 先行研究レビュー（4）
- 8～11は、研究テーマに関連する先行研究（とくに学術論文）の知見を整理し、報告する。
12. 調査結果報告（1）
 13. 調査結果報告（2）
 14. 調査結果報告（3）
 15. 調査結果報告（4）
- 12～15は、実施した研究成果（調査、実験、文献資料の検討など）を報告する。

後期

1. 文章の基本作法
 2. 論文形式の確認
 3. 中間報告（1）
 4. 中間報告（2）
 5. 中間報告（3）
 6. 中間報告（4）
- 3～6は、卒論の中心となる章の内容について報告し、加筆・修正する点を確認する。
7. 概要書（要約）の作成方法
 8. 卒論本体の確認（1）
 9. 卒論本体の確認（2）
 10. 卒論本体の確認（3）
- 8～10は、卒論本体における「研究目的」「本論」「結論」の内容を確認し、概要書を完成させる。
11. 発表資料の作成方法
 12. 卒論発表（1）
 13. 卒論発表（2）
 14. 卒論発表（3）
 15. 卒論発表（4）
- 12～15は、最終報告会を実施し、質疑応答をおこなう。

【事前・事後学修】

【事前学修】担当教員の指導を受けるにあたって必要な事前準備をおこなう（週2時間以上）。

【事後学修】指導内容をふまえて、卒業研究を主体的に進める（週2時間以上）。

【テキスト・教材】

各担当教員が個別に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

卒業研究への取り組み姿勢（30%）、論文内容（50%）、発表（20%）にもとづいて総合的に評価する。評価のフィードバックは、個別に行う。

卒業研究 a

—クリエイティブ・ライティング

高瀬 真理子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

自分のオリジナリティーを見つめると共に、一般読者に読んでもらうという客観的視点も意識して下さい。受験生や仲間から、もっと読みたいと思われるようなものを心がけていきましょう。

剽窃やそれに類するものが見つかった場合には、採点対象から外します。短期大学部受講ルール厳守。

【授業のテーマ】

ゼミ生が自ら主体的に着眼点を発見し、それらについての企画・取材や調査・研究をしながら、それぞれに企画記事の作成、創造性豊かな創作、冊子を造り、合評会を行う形式で展開します。さまざまな雑誌作りにより、企画力や文章力をより実社会に役立つ形でトレーニングしたい人、小説をはじめ、童話や詩などを書いて創造力を高めたい人などを募ります。

企画力、構成力、調査力、創造力、読解力、分析力、人を引きつける表現力などは、実社会に出ても大いに役立つものです。そういう観点から、全体での合評を大切にしつつ、受講生一人一人の能力向上を目指します。昨年度に続き、ゼミ等活性化事業に応募します。

【授業における到達目標】

自ら企画や構想を練り、あるいは研究対象を定め、企画書や構想ノートとしてまとめることにより、問題点を自ら見つけてそれらについてまとめる研鑽力が身につく、それらを現実化するために行動力や協働力が刺激され、文章等で表現するところにより、日本語力が鍛えられ、合評においては、それに伴うコミュニケーション力と自己成長力の伸張をそれぞれで実感できるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
 - 第2週 記事・創作・作品分析について（いずれか選択決定）
 - 第3週 企画制作・構想・仮説やテーマ設定
 - 第4週 テーマ設定後の執筆準備
 - 第5週 アウトライン作成
 - 第6週 インタビュー、取材、資料収集等
 - 第7週 初期発表会
 - 第8週 記事・創作・分析作業
 - 第9週 冊子編集会議
 - 第10週 表紙・目次・奥付制作
 - 第11週 基本コンテンツ最終確認
 - 第12週 仮印刷・校正・印刷許可
 - 第13週 手直し作業
 - 第14週 本印刷・製本
 - 第15週 記事・作品・レポート完成・提出・相互交換
- 作業進行の合間に合宿や特別授業を予定しています。

【事前・事後学修】

事前学修：（記事・創作）見本となる文章や作品をより多く読むこと。ネタ帳やアフォリズム集、イラストも含めたメモ帳のようなものを作り、企画書や構想メモ等の提出時には、資料として添付すること。（作品分析）資料収集を綿密に行い、文献一覧を作成すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：合評会用の批評文は、事前に作成し、合評会終了後に提出。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

取材による記事作成系、創作による文芸誌作成系で大きく異なるので、希望に合わせて指示を出します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

着眼点、企画書（構想、アウトライン、台割帳、文献一覧等）、記事・作品・分析レポートの評価、合評会での発表の様子、質疑応答への対応、発表者への質問。すべて作成者のオリジナルなものを評価する。配分基準：提出物70%、合評時や制作態度等30%

合評会や講評等で一人一人にフィードバックをします。

【参考書】

制作や調査、創作しているものに合わせて紹介します。

【注意事項】

欠席や遅刻等は、他のゼミ生への迷惑になりますので、連絡を怠らないようにしてください。

卒業研究 a
 —企画力を身につける—
板倉 文彦
 2年 前期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

企画として新しい事柄を提案していくには、例えば「過去や現在の状況をしっかり調査したうえで、それを提案することにより将来的にどのような効果、影響が見込めるのか」といったような、多面的な視点での調査、研究が必要となります。

本科目では企画から調査・研究の手法を学んだ上で、グループワーク等を体験しながら、最終的に自ら企画立案を行います。

【授業における到達目標】

自身で企画を立案し、その成果を発表し人に伝えることで「研鑽力」にある自信を創出することができるようになるとともに、グループワークを経験することで「協働力」を修得することもできます。

【授業の内容】

1. ガイダンス—授業の進め方、スケジュールの説明
2. 企画について学ぶ1
3. 企画について学ぶ2
4. フィールドワーク（事例を探す）
5. 調査、研究の方法を学ぶ1
6. 調査、研究の方法を学ぶ2
7. グループワーク1（ガイダンス）
8. グループワーク2（企画を考える）
9. グループワーク3（調査）
10. グループワーク4（まとめ）
11. グループワーク5（発表準備）
12. グループワーク6（発表）
13. テーマ選定1（取り上げてみたい事柄の相談および指導）
14. テーマ選定2（テーマ決定）
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：講義で想定される内容の事前準備を行う（発表会の場合は事前にレジュメ等を準備し、発表の練習を行う：週2時間程度）

事後学修：講義の内容を自身の研究に反映させる作業を行う（週2時間程度）

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：成果物（レポート）70%、平常点（授業への積極参加、課題評価）30%

成果物（レポート）は授業最終回でフィードバックを行う。

卒業研究 a
 —ことばとコミュニケーション—
大塚 みさ
 2年 前期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

各自が「ことば（日本語）」または「コミュニケーション」に関するテーマを自由に選んで、卒業研究に取り組みます。テーマは身の回りから簡単に見つけることができるでしょう。例えば、通学電車の吊り広告、商品のパッケージ、ドラマや映画のシナリオ、JPOPの歌詞、会話の際の声のトーン、SNSでのもやもや感、トーク番組でのタレントの表情や手振り身振りなど、あらゆるものが研究対象となり得ます。

中間発表会は研究の進み具合や成果を報告しながら他のメンバーの意見を聞いたり、自分が抱いた疑問について相談を持ちかけたりする機会です。口頭での活発なディスカッションとコメントシートの交換により、幅広く意見が得られるようにしています。また、中間発表の時期に合わせて個別指導（面談）を行い、各自のペースで研究を進められるようサポートします。

最終授業時には、前期中の成果と夏休み以降の研究計画をまとめた報告レポートを提出します。

【授業における到達目標】

- ・研究テーマを多角的に考察する「研鑽力」を修得します。
- ・他のメンバーの研究内容にも理解を深め、互いに刺激を与え合う「協働力」を培います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 研究計画書作成①構想マップの作成
- 第3週 研究計画書作成②Q&Aの作成
- 第4週 研究計画書作成③文献の収集法
- 第5週 研究計画書作成④参考文献の読み方
- 第6週 テーマ報告会① & 研究計画書提出と点検
- 第7週 テーマ報告会② & 資料・データの収集法
- 第8週 テーマ報告会③ & データの活用法
- 第9週 テーマ報告会④ & データの加工法
- 第10週 中間発表会① & レポート作成の基本復習
- 第11週 中間発表会② & レポート作成の基本演習
- 第12週 中間発表会③ & レポートテーマの確認
- 第13週 中間発表会④ & アウトラインの作成
- 第14週 中間発表会⑤ & アウトラインの点検
- 第15週 研究計画書の見直しと点検・夏休みの研究計画

【事前・事後学修】

【事前学修】文献の読み込みとデータ収集を中心として、テーマに沿った研究を進めること。中間発表前には入念に準備を行った上で発表資料を作成すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表後は中間発表の振り返りを行うこと。また、レポート作成演習等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末提出物 70%、授業態度・中間発表・ワーク等 30%
 提出物・ワークは後日個別に、中間発表については発表当日フィードバックを行います。

【参考書】

各自の研究テーマごとに、適宜紹介します。

【注意事項】

- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・各自が決めた研究テーマに沿って、授業以外の時間を使って研究を進めるため、就職活動や進学準備で忙しい時期にも上手に時間管理を行い、コンスタントに研究を進めていきましょう。

卒業研究 a

古典文学・神話・昔話

佐藤 辰雄

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

初めに研究方法を知るための教材として『捜神記』や『方丈記』を読み進め分析しながら、問題の発見や追究方法、資料の利用法、構想の立て方などを学びます。このようにして研究方法を会得するとともに、自分が興味を持つ分野からテーマを選び、2年間の総仕上げとなるレポート作成の素地を築きます。これらをとおして、文学作品を読む楽しさや研究の面白さの一端を味わってもらえたら、誠に嬉しい。

尚、本卒業研究 a は以下の領域を範囲としますが、種々相談に応じます。

- 中世を主とする日本文学…日本霊異記、今昔物語集、宇治拾遺物語、平家物語、方丈記、徒然草、増鏡、義経記など
- “民族の記憶”神話・伝説…古事記、日本書紀、風土記
- 民話と昔話を科学する…舌切り雀、こぶとり爺、浦島太郎、一寸法師、桃太郎など

【授業における到達目標】

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学や文化の価値と美を知ることができます。

能動的に研究し発表することで成果を実感し、学ぶ楽しさと持続する意欲を身につけることができます(研鑽力)。

相互に意見を出し合い、共同作業を行う中で(協働力)も身につきます。

【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 研究とは何か?—学習や鑑賞・評論との違いはどこ?
3. 連纂の文学を分析する (1) 『捜神記』281話～285話
4. 連纂の文学を分析する (2) 『捜神記』286話～291話
5. 連纂の文学を分析する (3) 『捜神記』292話～296話
6. 『方丈記』の分析 (1) 長明が意図した全体構想
7. 『方丈記』の分析 (2) 文体と修辞(対句・語調等)
8. 『方丈記』の分析 (3) 異本(似て非なる『方丈記』像)
9. 五大災厄の発表 (1) 安元の大火
10. 五大災厄の発表 (2) 治承四年の辻風
11. 五大災厄の発表 (3) 臣下越権の都遷り
12. 五大災厄の発表 (4) 養和の飢饉
13. 五大災厄の発表 (5) 最悪の災害—地震
14. 研究状況報告 (1) 受講生の前半分
15. 研究状況報告 (2) 受講生の後半分

【事前・事後学修】

【事前学修】

- ①自分の発表—たっぷり時間を使って、内容が充実し聴者が理解し易いレジュメを作成しましょう。(週2時間)
- ②他人の発表—じっくりとレジュメを検討して、質問や意見を用意しましょう。(週1時間)

【事後学修】レジュメ作成法・発表の仕方の観点から、発表を振り返り、長所を生かし、改善点の対策を考えましょう。(週1時間)

【テキスト・教材】

授業内容のテーマに応じて適宜、資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

分析力と発表の出来が70%、研究発表および議論に対する姿勢等の平常点が30%。同一時間帯に適宜フィードバックを行います。

【参考書】

全員に関わるものとして『方丈記全注釈』(角川書店)。個別적으로는適宜、授業中あるいは個別相談の時に紹介します。

【注意事項】

夏休みに2泊3日の予定で京都旅行を考えています。普通の単なる観光旅行とは違う、今が旬の文学歴史旅行です。交通費・宿泊代だけなら3万円で行けるでしょう。

卒業研究 a

—メディア・情報・コミュニケーション—

鹿島 千穂

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

私たちはさまざまなメディアから溢れる情報に囲まれて生きています。メディアは私たちのものの見方や考え方、価値観、好みなどに少なからず影響を与えているにもかかわらず、私たちがメディアについて深く考える機会はあまりありません。普段、何気なく接しているメディアに目を向けることは、私たちが生きる社会を知ることへと繋がるでしょう。

研究の対象は、テレビやラジオの番組、新聞や雑誌の記事、広告、ウェブサイト、映画、絵本、音楽作品など多岐にわたります。ゼミでは各自で研究テーマを絞り込むと同時に、メディア・リテラシーやメディア史等のメディア研究の基礎知識も学びます。

研究テーマと研究方法を選択したら、具体的な研究計画を立て、資料収集と文献講読をしていきます。発表にあたっては各自でレジュメを作成し、入念に準備をしてください。ゼミ仲間の発表にはしっかりと耳を傾け、活発な議論を行うことを心掛けましょう。

【授業における到達目標】

- ・自らの興味関心を掘り下げ、知的な作業の楽しさを実感するとともに、成果物として完成させることで自信が創出され、「研鑽力」が培われます。
- ・互いの研究に関心を持ち、良好な関係を築きながらも刺激と与え合う「協働力」を養います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス—授業の進め方
- 第2週 研究対象としてのメディア
- 第3週 研究テーマの検討—メディア研究の実践例
- 第4週 研究方法の検討—さまざまな分析方法を知る
- 第5週 研究テーマ報告会①
- 第6週 研究テーマ報告会②
- 第7週 研究計画書の作成方法
- 第8週 参考文献の収集方法
- 第9週 研究計画書の作成
- 第10週 プレゼンテーションの方法とコメントの仕方
- 第11週 研究計画書の発表会①
- 第12週 研究計画書の発表会②
- 第13週 研究計画書の発表会③
- 第14週 アウトラインの作成
- 第15週 授業のまとめと夏休みの研究計画

【事前・事後学修】

事前学修：各自の研究テーマに沿って研究を進める。報告会や発表会ではレジュメを作成し、口頭発表の準備をすること。

(学修時間 週2時間)

事後学修：研究の進み具合がわかるように資料を整理し、ノートにまとめる。発表後は教員からのフィードバックやゼミ仲間からのコメントを参考に、振り返りを行うこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物(レポート)70%、平常点(授業への取り組み、発表の仕方と内容、他の学生の発表に対するコメント等)30%

報告会や発表会については実施当日にフィードバックを行い、提出物にはコメントを記入して翌週返却します。

【参考書】

それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介します。

卒業研究 a

本の世界

松尾 昇治

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本（書物）は、思想や創作を広く伝えるメディアとして長い歴史を持っています。また、表現形式や編集形式も多様で、世界には膨大な数の書物が存在しています。

この科目のテーマは「本の世界」です。皆さんはいままでの学修や生活を通して、本について関心を持っていることや疑問に思ったこと等の中から、自らの研究課題（テーマ）を決めて下さい。そして、テーマに関する文献を調べ、あるいは調査をして、内容を掘り下げて考え、研究レポートにまとめていきます。その過程で、ゼミの仲間と意見交換をしながら、研究を進めていきます。

【授業における到達目標】

自らの研究課題について、調査研究を行うことで、自覚的に学び続ける研鑽力を培うとともに、ゼミ活動での討議や発表を通して、自ら発信する力や仲間との協働力を身に付けていきます。

【授業の内容】

1. ガイダンスー授業の進め方
2. 「本」とは何かー討論から探る
3. 「本」とは何かー文献から探る
4. 論文構成の手法を学ぶ
5. 文献・情報の探索と収集
6. 文献・情報の整理と分析
7. 文献・情報の加工とプレゼンテーション
8. 研究課題を決める
9. 研究計画の作成（1）構想を組み立てる
10. 研究計画の作成（2）作成する
11. 研究計画の発表の準備
12. 研究計画の発表会（1）グループ①
13. 研究計画の発表会（2）グループ②
14. 研究計画の発表会（3）グループ③
15. まとめ（研究計画書の提出）

【事前・事後学修】

【事前学修】研究課題について、日頃から文献調査、文献の読み込みなどを行い、発表の前にはしっかりと準備をして望むこと。

（週2時間程度）

【事後学修】討論や発表で得た成果をノート等に記録し、今後の参考となるように整理しておくこと。（週2時間程度）

【テキスト・教材】

岩淵悦太郎編著『悪文：伝わる文章の作法』（KADOKAWA、角川ソフィア文庫、2016年）本体価格800円

ほかに、適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価基準：成果物の提出（70%）、授業への積極的参加（30%）

最終授業で成果物のフィードバックを行います。

【注意事項】

ゼミでの学修は、学生が主人公です。短期大学部受講ルールを守り、積極的に行動しましょう。

卒業研究 b

—企画力を身につける—

板倉 文彦

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

このゼミでは、皆さんが基礎教養として学んできた「日本文化、文学、ことば」や各コースで習得してきた知識に基づき、自分の考えやアイデアを加えることにより、最終的に「企画」という形にまとめ上げることを目標とします。

一例としては、

「映像技術の発展と有効的な活用法」

「子どもの読書離れについて」

といったものが掲げられます。

ここでの経験を通して、自分の考えやアイデアを具体的な形にしていく力を身につけてください。

【授業における到達目標】

実際に企画を立案し、その成果を発表し人に伝えることで「研鑽力」にある自信を創出することができるようになるとともに、グループワーク等を通してメンバーと協働して課題解決に向かう「協働力」を修得することができます。

【授業の内容】

1. ガイダンスー授業の進め方、スケジュールの説明
2. 参考書籍報告
3. 論文作成の手法を学ぶ1
4. 論文作成の手法を学ぶ2
5. 研究レポートの構成決定1（概要決定）
6. 研究レポートの構成決定2（詳細決定）
7. 中間発表会1
8. 中間発表会2
9. 中間発表会3
10. 研究レポートの仕上げ1（質疑応答）
11. 研究レポートの仕上げ2（発表・提出準備）
12. 研究レポート発表会1
13. 研究レポート発表会2
14. 研究レポート発表会3
15. まとめ

※12月初旬 学科講演会

【事前・事後学修】

事前学修：講義で想定される内容の事前準備を行う（発表会の場合は事前にレジュメ等を準備し、発表の練習を行う：週2時間程度）

事後学修：講義の内容を自身の研究に反映させる作業を行う（週2時間程度）

【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：成果物（レポート）70%、平常点（授業への積極参加、課題評価）30%

成果物（レポート）は授業最終回でフィードバックを行う。

卒業研究 b
 —ことばとコミュニケーション—
大塚 みさ
 2年 後期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

卒業研究 b
 古典文学・神話・昔話
佐藤 辰雄
 2年 後期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

各自が選んだテーマに沿って、卒業研究に取り組みます。
 初回授業時には夏休みの成果を報告し合い、各自の研究計画を見直します。その翌週から始まる中間発表と併せて、レポートの書き方の細かな点について、解説や復習、演習を行います。10月以降は草稿添削を実施します。全員で一斉にスタートを切れるよう、授業でのレポート作成演習と連動させながら進めていきます。
 中間発表やレポート添削の時期に合わせて個別指導（面談）を行い、各自のペースで研究を進められるようサポートしますので安心してください。
 メンバー同士が互いに励まし合い、刺激し合うことによって、それぞれの持つ力がいっそう伸長し、良い卒業研究レポートに仕上がることを期待しています。

【授業における到達目標】

- ・研究テーマを多角的に考察する「研鑽力」を修得します。
- ・他のメンバーの研究内容にも理解を深め、互いに刺激を与え合う「協働力」を培います。

【授業の内容】

- 第1週 夏休みの成果報告会と研究計画書の見直し
 - 第2週 中間発表会① & 文献リスト作成法の復習
 - 第3週 中間発表会② & 文献リストの提出と点検
 - 第4週 中間発表会③ & 先行研究のまとめ方
 - 第5週 中間発表会④ & 引用・参照方法の復習
 - 第6週 中間発表会⑤ & 引用・参照方法の演習
 - 第7週 中間発表会⑥ & 使用データの説明方法
 - 第8週 中間発表会⑦ & 卒業生のレポート集に学ぶ
 - 第9週 グラフや図表の作成方法、その説明方法の確認
 - 第10週 中間発表会⑧ & 考察・分析部分の書き方
 - 第11週 中間発表会⑨ & 添削例の紹介と注意
 - 第12週 中間発表会⑩ & 「はじめに」と「おわりに」の書き方
 - 第13週 中間発表会⑪ & 全体での最終確認
 - 第14週 口頭試問・発表会
 - 第15週 レポート集作成準備
- ※12月初旬に学科講演会を開催します。

【事前・事後学修】

【事前学修】 各自のテーマに沿って研究を進め、自分の中間発表に際しては、入念に準備を行った上で発表資料を作成すること。
 （学修時間 週2時間）
【事後学修】 発表後は中間発表の振り返りを行うこと。卒業研究レポートの作成を目指してデータ分析や本文執筆を進めること。
 （学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末提出物 70%、授業態度・中間発表およびディスカッションへの参加姿勢等 30%
 提出物は後日個別に、中間発表については発表当日フィードバックを行います。

【参考書】

各自の研究テーマごとに、適宜紹介します。

【注意事項】

- ・就職活動や進学準備で忙しい時期にも上手に時間管理を行い、コンスタントに研究を進めることが肝要です。
- ・10月以降は草稿の添削を数回ずつ行います。先送りにすると納得のいくレポートに仕上がることが難しくなるため、計画的に取り組んでいきましょう。

【授業のテーマ】

前期の卒業研究 b（佐藤）の学修を通して得た知見と研究方法を元に、自分が選んだテーマについてじっくり思考し、調べ、組み立て、発表し、議論し、再考しながら、2年間の勉学の総仕上げとなるレポート作成に結実させていきます。
 尚、本卒業研究 b は以下の領域を範囲としますが、種々相談に応じます。
 ○中世を主とする日本文学…日本霊異記、今昔物語集、宇治拾遺物語、平家物語、方丈記、徒然草、増鏡、義経記など
 ○“民族の記憶”神話・伝説…古事記、日本書紀、風土記
 ○民話と昔話を科学する…舌切り雀、こぶとり爺、浦島太郎、一寸法師、桃太郎など

【授業における到達目標】

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学や文化の価値と美を知ることができます。
 能動的に研究し発表することで成果を実感し、学ぶ楽しさと持続する意欲を身につけることができます（研鑽力）。
 相互に意見を出し合い、高い知見を目指して協議する過程を通して（協働力）が身につきます。

【授業の内容】

- 1. 資料の活用と項目の組立
 - 2. 文章の展開と引用の仕方
 - 3. 注の付け方とさまざまな注意事項
 - 4. 中間発表① (1) 3人程度
 - 5. 中間発表① (2) 3人程度
 - 6. 中間発表① (3) 3人程度
 - 7. 中間発表① (4) 3人程度
 - 8. 中間発表② (1) 2~3人
 - 9. 中間発表② (2) 2~3人
 - 10. 中間発表② (3) 2~3人
 - 11. 中間発表② (4) 2~3人
 - 12. 中間発表② (5) 2~3人
 - 13. 中間発表② (6) 2~3人
 - 14. 卒研レポート紹介 (1) 受講生の前半分
 - 15. 卒研レポート紹介 (2) 受講生の後半分
- *12月頃に学科講演会を開催します。

【事前・事後学修】

【事前学修】
 ①自分の発表一たつぷりと時間を使って、内容が充実し聴者が理解し易いレジメを作成しましょう。（週3時間）
 ②他人の発表一じっくりとレジメを検討して、質問や意見を用意しましょう。（週1時間）
【事後学修】
 ○レジメ作成法・発表の仕方の観点から、発表を振り返り、長所を生かし、改善点の対策を考えましょう。（週1時間）

【テキスト・教材】

授業内容のテーマに応じて適宜、資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成果としての卒業研究レポートの出来が70%、研究発表および議論に対する姿勢等の平常点が30%。発表毎に長所と改善点を指導します。

【参考書】

適宜、授業中あるいは個別相談の時に紹介します。

【注意事項】

一段と豊かになった自分を思い描く志向と熱意のある人を求めます。ゼミらしい活力を作り上げて充実した時間を卒研レポートとして結実させましょう。

卒業研究 b

—クリエイティブ・ライティング—

高瀬 真理子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

ゼミ生が自ら主体的に着眼点を発見し、それらについての企画・取材や調査・研究をしながら、それぞれに企画記事の作成、創造性豊かな創作から冊子を造り、合評会を行う形式で展開します。雑誌作りや創作系は、グループ活動もあります。さまざまな記事やコラムの作成により文章力をより実社会に役立つ形でトレーニングしたい人、小説をはじめ、童話や詩などを書いて創造力を高めたい人などを募ります。

企画力、構成力、調査力、創造力、読解力、分析力、人を引きつける表現力などは、実社会に出ても大いに役立つものです。そういう観点から、全体での合評を大切にしつつ、一人一人の能力向上を目指します。原則として「卒業研究a」の上に積み上げる科目となります。ゼミ等活性化事業にも応募します。

【授業における到達目標】

自ら企画や構想を練り、あるいは研究対象を定め、企画書や構想ノート、仮説や文献一覧としてまとめることにより、問題点を自ら見出してそれらについてまとめる研鑽力が身につく、それらを現実化するために行動力や協働力が 刺激され、文章等で表現することによる日本語力が鍛えられ、合評においては、それに伴うコミュニケーション力や自己成長力を実感できるようにめざしましょう。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・合評
- 第2週 「卒業研究a」を踏まえての発展課題
- 第3週 合評を踏まえた作業
- 第4週 本印刷・製本
- 第5週 相互交換・意見交換・講評
- 第6週 企画案・構想・仮説やテーマ設定
- 第7週 基本コンテンツ作成
- 第8週 アウトラインの確認
- 第9週 冊子編集会議
- 第10週 表紙・目次・奥付制作
- 第11週 成果物の中間発表
- 第12週 仮印刷・校正・印刷許可
- 第13週 本印刷・製本
- 第14週 相互交換・反省と成果の確認
- 第15週 合評・講評

このほか、特別授業や12月初旬頃学科講演会を催す予定です。その場合、多少の変更が生じます。

【事前・事後学修】

事前学修：（記事・創作）見本となる文章や作品をより多く読む習慣をつけること。ネタ帳やアフォリズム集、イラストも含めたメモ帳のようなものを作り、企画書や構想メモ等の提出時には、資料として添付すること。（作品分析）資料収集を綿密に行い、読解とともに、文献資料一覧を付けること。（週2時間）

事後学修：合評会用の批評文は、事前に作成し、合評会終了後に提出となります。時間配分は、それぞれの作業の進捗によって異なります。（週2時間）

【テキスト・教材】

取材による記事作成系、創作による文芸誌作成系読解・調査・考察による作品分析系で大きく異なるので、希望に合わせて指示を出します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

着眼点、企画書（構想、アウトライン、台割帳、文献一覧等）、記事、作品・考察レポート等の評価、合評会での発表の様子、質疑応答への対応、発表者への質問。すべて作成者のオリジナルなものを評価します。配分基準：提出物70%、合評時や制作態度等30%
合評会や講評においてそれぞれにフィードバックします。

【参考書】

制作しているものに合わせて紹介します。

【注意事項】

欠席や遅刻等は、他のゼミ生への迷惑になりますので、連絡を怠らないようにしてください。

自分のオリジナリティーを見つめると共に、一般読者に読んでもらうという客観的視点も意識して下さい。受験生や仲間から、もっと読みたいと思われるようなものを心がけていきましょう。

剽窃やそれに類するものが見つかった場合は、採点対象から除外します。短期大学部受講ルール厳守。

卒業研究 b
 メディア・情報・コミュニケーション
鹿島 千穂
 2年 後期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

卒業研究 b
 本の世界
松尾 昇治
 2年 後期 2単位
 ◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

前期で学修した内容に基づき、各自が選んだテーマについてさらに研究を深めます。まずは、夏休みに行った文献講読や資料収集の成果をまとめ、研究計画書の見直しを行います。そして、レポートの構成、資料の提示方法、文献引用の仕方等、研究レポートを完成させるための基本事項を学びながら各自で執筆を進めていきます。中間発表会の前には個別面談を行い、研究の進捗状況を確認します。発表会では積極的に意見交換をしてください。お互いの研究を支え合い、励まし合いながら、2年間の学修の集大成となるレポートの完成を目指しましょう。

【授業における到達目標】

- ・自らの興味関心を掘り下げ、知的な作業の楽しさを実感するとともに、成果物として完成させることで自信が創出され、「研鑽力」が身につきます。
- ・互いの研究に関心を持ち、良好な関係を築きながらも刺激を与え合う「協働力」が養われます。

【授業の内容】

- 第1週 夏休みの成果報告と研究計画書の見直し
- 第2週 アウトラインの確認
- 第3週 研究レポート作成の手法①先行研究のまとめ方
- 第4週 研究レポート作成の手法②資料・データの提示方法
- 第5週 研究レポート作成の手法③引用・参照の方法
- 第6週 研究レポート作成の手法④考察・分析の書き方
- 第7週 中間発表会①
- 第8週 中間発表会②
- 第9週 中間発表会③
- 第10週 研究レポート作成の手法⑤書式の確認と目次の書き方
- 第11週 研究レポート作成の手法⑥参考文献リストの書き方
- 第12週 レポートの仕上げと総点検
- 第13週 研究レポート発表会①
- 第14週 研究レポート発表会②
- 第15週 まとめ

*12月頃に学科講演会を開催する予定です。

【事前・事後学修】

事前学習：各自のテーマに沿って研究を進める。発表会ではレジюмеを作成し、口頭発表の準備を入念に行うこと。

(学修時間 週2時間)

事後学修：研究の進み具合がわかるようにノートをまとめる。発表後は教員のフィードバックやゼミ仲間からのコメントを参考に振り返りを行うこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末提出物70%、平常点(授業への取り組み、中間発表、他の学生の発表に対するコメント等)30%

中間発表については実施当日にフィードバックを行い、提出物にはコメントを記入して翌週返却します。

【参考書】

それぞれの研究テーマに沿って参考文献を紹介します。

【授業のテーマ】

本(書物)は、思想や創作を広く伝えるメディアとして長い歴史を持っています。また、表現形式や編集形式も多様で、世界には膨大な数の書物が存在しています。

この科目のテーマは「本の世界」です。皆さんはいままでの学修や生活を通して、本について関心を持っていることや疑問に思ったこと等の中から、自らの研究課題(テーマ)を決めて下さい。そして、テーマに関する文献を調べ、あるいは調査をして、内容を掘り下げて考え、研究レポートにまとめていきます。その過程で、ゼミの仲間と意見交換をしながら、研究を進めていきます。

【授業における到達目標】

自らの研究課題について、調査研究を行うことで、自覚的に学び続ける研鑽力を培うとともに、ゼミ活動での討議や発表を通して、自ら発信する力や仲間との協働力を身に付けていきます。

【授業の内容】

1. ガイダンスー授業の進め方
2. 論文作成の基本
3. 文献リストの作成方法
4. 研究課題の確認と修正
5. 基本文献の紹介と討論(1) グループ①
6. 基本文献の紹介と討論(2) グループ②
7. 基本文献の紹介と討論(3) グループ③
8. 研究課題のアウトライン作成
9. 研究課題の整理・分析
10. 研究課題の執筆指導
11. 研究レポート発表の準備
12. 研究レポートの発表会(1) グループ①
13. 研究レポートの発表会(2) グループ②
14. 研究レポートの発表会(3) グループ③
15. まとめ(成果報告と講評)

12月頃に学科講演会を開催する予定です。

【事前・事後学修】

【事前学修】研究課題について、日頃から文献調査、文献の読み込みなどを行い、発表の前にはしっかりと準備をして望むこと。

(週2時間程度)

【事後学修】討論や発表で得た成果をノート等に記録し、今後の参考となるように整理しておくこと。

(週2時間程度)

【テキスト・教材】

岩淵悦太郎編著『悪文：伝わる文章の作法』(KADOKAWA、角川ソフィア文庫、2016年) 本体価格800円

ほかに、適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価基準：成果物の提出(70%)、授業への積極的参加(30%)

最終授業で成果物のフィードバックを行います。

【注意事項】

ゼミでの学修は、学生が主人公です。短期大学部受講ルールを守り、積極的に行動しましょう。

卒業論文

池田三枝子・田中靖彦・河野龍也・佐藤悟・棚田輝嘉・福嶋健伸

・ブルナ、ルカーシュ・横井孝・湯浅茂雄

4年 集通 6単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析・評価・表現能力を養う。

【授業における到達目標】

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確に考察できる能力を身につける。

また、将来、社会人として活躍できる問題解決能力を身につける。

【授業の内容】

4月～8月：テーマを設定し、各自が研究を進める。

9月：ゼミ合宿等で中間発表を行う。

9月～12月：卒業論文の執筆。

12月：卒業論文の提出。

1月：口述試験。

【事前・事後学修】

ゼミの配属希望調査が3年次の5月ごろに行われるので、それまでに学科の先生たちとよく話し、希望ゼミを決めておくこと。

【テキスト・教材】

それぞれのゼミで指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

主に、卒業論文の内容と完成度によって評価を行う。

【参考書】

それぞれのゼミで指示する。

【注意事項】

4年間の集大成として積極的に取り組むこと。

卒業論文**担当教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

自らが選んだテーマを追求するべく、ブレインストーミングを行い、執筆計画を立て、文献調査を行い、「卒業論文」を完成させる。

【授業における到達目標】

卒業論文を通して計画を立案する能力、遂行する能力を高め、専門分野に対する知識を深め、全学ディプロマ・ポリシーで定めるところの研鑽力、国際的視野、行動力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

卒業論文は、「卒論セミナーa」「卒論セミナーb」において担当教員の指導を受けながら執筆する。

おおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	11月下旬ころ	所属ゼミの決定
4年次	4月	卒論テーマの決定
	5月～7月	教員の指導のもと、執筆計画を立て、調査、執筆を行う。
	7～9月	中間発表（進捗状況を担当教員に報告する）
	10～12月	教員の指導のもと、執筆を行う。
	12月中旬	卒業論文提出
	1月中旬	口頭試問

【事前・事後学修】

事前・事後学修として、「卒業論文」の指導が始まってからは、テーマ選定、ブレインストーミング、調査、執筆を行う。

授業の性格上、事前事後学修の時間を数値化することは難しいが、週平均6時間以上の取り組みは必須。担当教員の指示に従い、自身の卒論完成にとって必要となる課題を、自立的に、着実に、消化していくこと。

【テキスト・教材】

教員が開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の完成度、論文への取り組み等で総合的に評価する。

卒業論文

卒業論文を執筆する

担当教員全員

4年 集通 6単位

◎：国際的視野、美の探究、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

各担当教員のゼミにおいて、専攻領域の学問についてより深く学び、各専門領域の特性と研究手法について学修する。そして、卒業研究の計画・実施に取り組み、卒業論文の作成を達成目標とする。
なお、具体的な内容は各担当教員による。

【授業における到達目標】

卒業論文の作成を通して、物事の真理や美を探究し、新たな知を創造する態度を養う。
卒業論文の作成にあたり、目標を設定して適切な計画を立案し調査を行うなど、行動力を養う。
指導教員の指導のもと、研究倫理に則り自分の考えを論文にまとめることができる。
卒論の中間発表において、自らの研究課題を適切に発表することができる。また、質疑には的確に答え、自らの研究のプロセスや成果を評価し、問題解決につなげることができる。

【授業の内容】

各ゼミの研究領域は次の通り。

仲町ゼミ：古代～江戸時代までの日本美術史

児島ゼミ：日本の近現代美術史、東アジアの近現代美術史
美術館、展示、展覧会について

宮崎ゼミ：中国美術史

武笠ゼミ：仏教美術史

駒田ゼミ：西洋古代・中世・近世美術史

六人部ゼミ：西洋近現代美術史（19～20世紀美術）

椎原ゼミ：美学・芸術学、現代芸術論

下山ゼミ：デザイン

織田ゼミ：絵画・・・本年度閉講

授業の内容は各ゼミによって異なり、各回毎の内容の提示はできないが、おおよそ次のような年間スケジュールとなる。

前期

卒業研究の実施→面接を通じて研究内容・方法の設定→

中間発表→その反省＝内容方向性の確認（→夏休み中も研究を継続し、執筆にとりかかる）

後期

卒業論文の執筆→章立ての検討→中間発表→反省を踏まえて執筆を進める→提出→口答試問

【事前・事後学修】**【事前学修】**

卒業研究の実施を行うこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】

卒業論文の作成を行うこと。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

卒業論文の提出が必須である。論文の内容で100%評価する。

【参考書】

各担当教員の指示に従うこと。

卒業論文**担当教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

【授業における到達目標】

将来栄養士として、また社会人として活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

【授業の内容】

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。12月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
	後期	卒論テーマの決定
4年次	4月～10月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	10月	卒業論文のまとめ
	10月末ころ	論文要旨の提出
	11月	発表会の準備
	12月上旬	卒業論文発表会
	1月中旬	卒業論文提出締切

【事前・事後学修】

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行い研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

学修に要する時間は週当たり6時間である。

【テキスト・教材】

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

【参考書】

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要と思われるものを用いる。

学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。

卒業論文**担当教員全員**

4年 集通 6単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

【授業における到達目標】

将来管理栄養士として、また、社会人として活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」「協働力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

【授業の内容】

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。12月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
	後期	卒論テーマの決定
4年次	4月～10月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	10月	卒業論文のまとめ
	10月末ころ	論文要旨の提出
	11月	発表会の準備
	12月上旬	卒業論文発表会
	1月中旬	卒業論文提出締切

【事前・事後学修】

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行って研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

週当たりの学修時間は6時間である。

【テキスト・教材】

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

【参考書】

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要と思われるものを用いる。学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。

卒業論文**担当教員全員**

4年 集通 6単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

【授業における到達目標】

将来社会人として、活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」「研鑽力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

【授業の内容】

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。2月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
	後期	卒論テーマの決定
4年次	4月～12月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	12月	卒業論文のまとめ
	1月中旬	論文要旨の提出
	1月～2月上旬	発表会の準備
	2月上旬	卒業論文発表会
	2月末	卒業論文提出締切

【事前・事後学修】

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行い研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

学修に要する時間は週当たり6時間である。

【テキスト・教材】

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

【参考書】

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要と思われるものを用いる。

学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。

卒業論文**担当教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：美の探求、行動力

への参加など)、卒業論文50% 卒業論文への取り組みや内容、方法等については随時担当教員からフィードバックを行う。

【参考書】

各担当教員の指示に従うこと。

【注意事項】

中間発表会と卒業論文発表会でプレゼンを行うことが単位習得の前提である。

【授業のテーマ】

各担当教員の研究室において、専攻領域の学問についてより深く学び、各専門領域の特性と研究手法について学修する。そして、卒業研究の計画・実施に取り組み、卒業論文の作成と発表を達成目標とする。なお、具体的な内容は各担当教員による。

【授業における到達目標】

- 卒業論文の作成を通して、物事の真理を探求し、新たな知を創造する態度を養うことができたか。
- ・卒業論文の作成にあたり、目標を設定して、適切な計画を立案し調査を行うことができたか。
- ・指導教員の指導のもと、研究倫理に則り、自分の考えを論文にまとめることができたか。
- ・卒論中間報告会、卒論発表会において、自らの研究課題をわかりやすく発表することができたか。また、質疑には的確に答え、自らの研究のプロセスや成果を評価し、問題解決につなげることができたか。

【授業の内容】

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究の実施① 研究テーマの設定
- 第3回 卒業研究の実施② 研究テーマの修正
- 第4回 卒業研究の実施③ 研究計画の設定
- 第5回 卒業研究の実施④ 研究の目的の設定
- 第6回 卒業研究の実施⑤ 文献の選定
- 第7回 卒業研究の実施⑥ 文献の検討
- 第8回 卒業研究の実施⑦ 研究方法の設定
- 第9回 卒業研究の実施⑧ 倫理的配慮の検討
- 第10回 卒業研究の実施と再考① 実施の準備
- 第11回 卒業研究の実施と再考② 実施の確認
- 第12回 卒業研究の実施と再考③ 研究方法の修正
- 第13回 卒業研究の実施と再考④ 研究計画の修正
- 第14回 卒業研究の実施と再考⑤ 研究全体の修正
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の作成① 序論の論述
- 第3回 論文の作成② 目的の論述
- 第4回 論文の作成③ 各章の論述
- 第5回 論文の作成④ 各節の論述
- 第6回 論文の作成⑤ 脚注の記述
- 第7回 中間発表① プレゼンテーションの準備
- 第8回 中間発表② プレゼンテーションの実際
- 第9回 要旨の作成① 研究の背景と目的
- 第10回 要旨の作成② 要旨の推敲
- 第11回 卒業研究提出に向けての推敲
- 第12回 卒業論文提出に向けての校正
- 第13回 卒業論文発表会の準備
- 第14回 卒業論文発表会の実際
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

卒業研究の準備学習を行うこと。(学修時間：週2時間)

【事後学修】

卒業研究の調査及び論文作成を行うこと。(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50% (研究テーマ・課題への取り組み、授業内の発表、質疑

卒論セミナー a

担当教員全員

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

各担当教員の指導のもと、卒業論文執筆に必要なとなる研究の方法論や、各学生の研究テーマに基づいた先行研究の収集・考察を進めます。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を書く能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、卒業論文完成に向けた素地を固めることを目標とします。

【授業における到達目標】

卒業論文にむけて学問的視野を広げ、自律的に研究に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

【授業の内容】

イギリス文学・文化

- 大関ゼミ
中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学
- 島ゼミ
18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化
- 志渡岡ゼミ
18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化
- 土屋ゼミ
19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

- 稲垣ゼミ
19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化
- 佐々木ゼミ
19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評
- 難波ゼミ
17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化
- 深瀬ゼミ
現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

- 猪熊ゼミ
比較・対照言語学（特に統語論）、生物・進化言語学
- 村上ゼミ
英語の動詞に関すること全般
統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

【事前・事後学修】

【事前学修】テーマ選定、ブレインストーミング（週1時間）

【事後学修】教員のフィードバックを卒業論文に反映させ、執筆に当たる。（週1時間）

【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。

卒論セミナー b

担当教員全員

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「卒論セミナーa」の内容を踏まえ、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、教員との個別面談などを通して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、担当教員の指導のもと、卒業論文を執筆します。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を構成し書き上げる能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、その集大成として卒業論文を完成させることを目標とします。

【授業における到達目標】

卒業論文を完成させる作業を通じて、問題設定からその解決策の提案まで、論理的・効率的に物事に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

【授業の内容】

イギリス文学・文化

- 大関ゼミ
中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学
- 島ゼミ
18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化
- 志渡岡ゼミ
18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化
- 土屋ゼミ
19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

- 稲垣ゼミ
19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化
- 佐々木ゼミ
19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評
- 難波ゼミ
17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化
- 深瀬ゼミ
現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

- 猪熊ゼミ
比較・対照言語学（特に統語論）、生物・進化言語学
- 村上ゼミ
英語の動詞に関すること全般
統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

【事前・事後学修】

【事前学修】テーマ選定、ブレインストーミング（週1時間）

【事後学修】教員のフィードバックを卒業論文に反映させ、執筆に当たる。（週1時間）

【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。

卒論ゼミ a

4年間の集大成

担当教員全員

4年 前期 1単位

◎：国際的視野、美の探究、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。卒論の成否はテーマの選択、設定に大きく関わるため、適切なテーマを設定し、卒業論文執筆のための計画を立てる。その上で、作品の調査など具体的な作業について、様々な要素を段階的に指導する。

【授業における到達目標】

卒論のテーマを確定し、論文作成のプロセスをよく把握する。そのための調査研究や資料の収集、文献の検討について計画を立て、自らの課題と問題点を把握し、その解決の手がかりを見つける。それらに基づいて、論作成のための作業を開始し進める。

【授業の内容】

学生は各ゼミに分かれて指導を受ける。具体的な授業の内容や進め方はゼミによって異なる部分もあるが、いずれのゼミも、個別指導やグループ指導を中心に、それぞれの学生に合わせた論文指導を行う。ゼミ合宿や見学授業等を実施することもある。

ゼミ分けは、下記の研究領域にしたがって決められる。

- 仲 町ゼミ：古代～江戸時代までの日本美術史
- 児 島ゼミ：日本の近現代美術史、東アジアの近現代美術史
美術館、展示、展覧会について
- 宮 崎ゼミ：中国美術史
- 武 笠ゼミ：仏教美術史
- 駒 田ゼミ：西洋古代・中世・近世美術史
- 六人部ゼミ：西洋近現代美術史（19～20世紀美術）
- 椎 原ゼミ：美学・芸術学、現代芸術論
- 下 山ゼミ：デザイン
- 織 田ゼミ：絵画・・・本年度閉講

【事前・事後学修】

卒業論文の指導は、基本的に個別指導で行われるが、担当教員の指導を受ける際には、十分な準備を行い指導を受けること。また、指導に基づく事後学修を行い、卒業論文の執筆に取り組むこと。事前事後学修 各週3時間以上。

【テキスト・教材】

個別に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

設定したテーマに基づく調査研究の展開、資料や文献の検討、また各ゼミの指導教員に進行状態を定期的に報告したか、報告に対する教員からの助言や課題にどのように対応できたかについて、総合的に評価し成績を付ける。

【参考書】

個別に指示する。

【注意事項】

卒論ゼミ、卒業論文の両方に登録すること。
学科掲示をよく確認すること。

卒論ゼミ b

4年間の集大成

担当教員全員

4年 後期 1単位

◎：国際的視野、美の探究、研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。論文の構成や形式に関わること、作品の調査方法やまとめ方など、卒論の完成に向けた指導を行う。

最後まで全力で取り組み、よりよい卒論の完成をめざす。

【授業における到達目標】

自ら立てた卒業論文作成の計画に沿って、調査研究や資料の収集、文献の検討を進め、考察を深め、論文としてまとめる。
それによって、形式内容ともに整った卒業論文を完成させる。

【授業の内容】

個別指導やグループ指導を中心に、ゼミごとに、それぞれの学生やその進捗状況に合わせた論文指導を行う。

ゼミ合宿や見学授業等を実施することもある。

ゼミは以下の通り

- 仲 町ゼミ：古代～江戸時代までの日本美術史
- 児 島ゼミ：日本の近現代美術、東アジアの近現代美術史
美術館、展示、展覧会について
- 宮 崎ゼミ：中国美術史
- 武 笠ゼミ：仏教美術史
- 駒 田ゼミ：西洋古代・中世・近世美術史
- 六人部ゼミ：西洋近現代美術史（19～20世紀美術）
- 椎 原ゼミ：美学・芸術学、現代芸術論
- 下 山ゼミ：デザイン
- 織 田ゼミ：絵画・・・本年度閉講

【事前・事後学修】

卒業論文の指導は、基本的に個別指導で行われるが、担当教員の指導を受ける際には、十分な準備を行い指導を受けること。また、指導に基づく事後学修を行い、卒業論文の執筆に取り組むこと。

事前事後学修 各週3時間以上。

【テキスト・教材】

個別に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

設定したテーマに基づく調査研究の展開、資料や文献の検討、また各ゼミの指導教員に進行状態を定期的に報告したか、報告に対する教員からの助言や課題にどのように対応できたかについて、総合的に評価し成績を付ける。

卒論提出後に口頭試問を行い、そこで、卒論への取り組みや成果について、学生の自己分析を求め、また質問やコメントすることで、卒論作成についての総括とフィードバックを行う。

【参考書】

個別に指示する。

【注意事項】

学科で11月頃に行うガイダンスに必ず出席すること。無断欠席は不可。体調不良などの場合は必ず研究室に連絡すること。

その他、掲示をよく確認すること。

多読演習

レベルに合わせて無理なく、楽しく、できるだけ多く

諏訪 友亮

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業で行うことは主に3つです。

- ① 学習者のレベルに合わせて作られた教材Graded Readerを用い、自分の好きな読み物をすいすい読み進めてもらう。
- ② 毎回の授業で共有する読み物を配布し、多読と精読の両方を行う。
- ③ 毎回の授業で個別面談し、読み物の各章について感想を提出、各自のペースを確認する。

多読をするに当たり今期のルールは以下の2つです。

- ① なるべく辞書を使わない。
- ② つまらなかつたら次の本に移る。楽しさを優先する。

【授業における到達目標】

1. 英文を読む習慣を身につける。
2. 速く読みながらも、英文をある程度は理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス (授業の進め方、評価方法、Graded Readerについて、など)
- 第2週 数十分で読めるもの 文学・古典① 各自の多読、感想レビューの提出
- 第3週 数十分で読めるもの 文学・古典② 各自の多読、感想レビューの提出
- 第4週 数十分で読めるもの 文学・古典③ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第5週 数十分で読めるもの 文学・古典④ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第6週 数十分で読めるもの 文学・古典⑤ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第7週 数十分で読めるもの 文学・古典⑥ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第8週 数十分で読めるもの 文学・古典⑦ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第10週 数十分で読めるもの 文学・古典⑧ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第11週 数十分で読めるもの 文学・古典⑨ 各自の多読、感想レビューの提出
- 第12週 数十分で読めるもの ミステリー① 各自の多読、感想レビューの提出
- 第13週 数十分で読めるもの ミステリー② 各自の多読、感想レビューの提出
- 第14週 数十分で読めるもの 伝記 各自の多読、感想レビューの提出
- 第15週 数十分で読めるもの 評論 各自の多読、感想レビューの提出

【事前・事後学修】

事前学修：読み物の感想レビューを書いてくる。次の週に読むものを数冊選んでおく (学修時間 週1時間)

事後学修：楽しく好きな読み物を、ある程度のペースで読む (学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

授業中に読むものは印刷して配布します。

毎週借りて読んでもらうのは、学科室と図書館にある以下のシリーズです。

Penguin Readers

Macmillan Readers

Oxford Bookworms

Cambridge English Readers

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業でのリーディング 40%、毎回の感想レビュー 60%

受講者数により、複数回の面談の機会を設けます。そのなかで読むスピードの確認とフィードバックを行います。

【参考書】

Grabe, William. Reading in a Second Language: Moving from Theory to Practice, Cambridge UP, 2009.

Grabe, William, and Fredricka L. Stoller. Teaching and Researching Reading, 2nd ed. Routledge, 2013.

【注意事項】

無理せず、楽しく、気楽に読み進めていきましょう。

ただし、読書が好きでない人にはきつい授業かもしれません。少なくとも読書への興味が必要です。

多読演習

たくさん読んで英語の運用能力を高めよう

宮下 いづみ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

英語多読では、日本語で考えずに英語をたくさん読みながら、英語力をアップさせていきます。

どうすると英語のまま理解できるのか、ハウツーを学びます。

英語多読から学べることは、語彙だけではありません。

異文化、ナチュラルな会話、英語での考え方などいろいろな側面から知識を広げることができます。

分野別の本をどのように読んでいくのか、授業の前半で解説し、後半で実践的に読んでいきます。読めば読むほど力がつくので、授業外でも読んでいくことをおすすめします。

【授業における到達目標】

多読本から多様性を受容し、多角的な視野を培い、ノンフィクション、フィクションの本いづれも、さらなる知識を求めることを意識します。

多読記録を取りながら読む事で、研鑽力をつけ、目的を設定しながら、積極的に多読をしていきます。グループワークを通じ、リーダーシップに必要な力をつけていきます。

【授業の内容】

- 第1週 英語多読 その手法と効果
- 第2週 海外の小学校教科書の活用法
- 第3週 フィクション読解法
- 第4週 絵本の読み方
- 第5週 ノンフィクション読解法
- 第6週 世界の歌やマザーグース
- 第7週 英語多読本で会話力アップ法
- 第8週 英語での論理構成を見抜くタクティクス
- 第9週 多読本のレベルアップとタイミング
- 第10週 スキャニングとスキミング
- 第11週 多読本を活用したライティング
- 第12週 TOEICと多読
- 第13週 TOEFLと多読
- 第14週 読解語数と英語力の相関関係を考察
- 第15週 英語多読の進め方、目標設定について

【事前・事後学修】

事前学修（2時間）：「イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ」をシャドーイングしてきます。シャドーイング方法は授業で説明します。声に出して、イントネーションをマネし、発音のブラッシュアップをはかります。

事後学修（2時間以上）：図書館で借りる英語多読本を選書しますので、家庭学習でも読み、多読手帳に記録をして具体的なコメントを書いておきます。

（事前・事後合わせて週約4時間）

【テキスト・教材】

古川昭夫・宮下いづみ：イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ[小学館、2007、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 70 %（多読の態度、受講態度、授業内の活動への参加など）、発表・課題 20%、レポート 10%

英語多読の記録は毎回、発表・課題は該当授業にて、レポートは最終日にフィードバックを実施します。

【参考書】

古川昭夫・神田みなみ 編著、黛道子、宮下いづみ他著
『英語多読完全ブックガイド 改定第4版』
（コスモピア 2013年）

【注意事項】

英語多読手帳を授業で配布します。

多読演習

英語の文章をたくさん読んでみよう

佐々木 真理

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

さまざまな種類の英語の文章に数多く触れることで、英語を読む楽しさを実感してみましょう。

【授業における到達目標】

数多くの英語の文章に触れることで、さまざまな種類の英文を早く正確に読む能力を培います。また、読んだ英文の内容を英語でまとめ発表することで、英語で自らの考えを発表することに挑戦します。英文を通して、英語圏の社会や文化について学び、国際的視野を身につけることとなります。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力と、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を養います。

【授業の内容】

授業の前半では、テキストに沿って、速読を行います。後半では、各自が選んだ多読本を読み、英語でコメントをまとめます。

- 第1週 インTRODクシヨン 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Unit 6
- 第8週 Unit 7
- 第9週 Unit 8
- 第10週 Unit 9
- 第11週 Unit 10
- 第12週 Unit 11
- 第13週 Unit 12
- 第14週 Unit 13
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。また、授業で読む多読本を選んでおくこと。（学修時間 週3時間）。

【事後学修】授業後には、学んだ語彙や文法をよく復習しておくこと。（学修時間 週1時間）。

【テキスト・教材】

Skills for Success, Reading and Writing[Oxford、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加・多読の量）50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行います。

【参考書】

授業には辞書（英和・和英）を必ず持参してください。

体育

島崎 あかね

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

幼児期は多様な動きを経験しながら基本的な動き・技能を身に付けていく段階です。本授業では、乳幼児期の「運動あそび」から「体育」への移行がスムーズに展開するよう、幼児体育と小学校体育の連動を踏まえて、小学校学習指導要領「体育」の内容を体験しながら、適切な運動指導の在り方を学びます。また、「運動領域」と「保健領域」の各領域を通して「基礎的な身体能力を身に付け、実生活において運動を豊かに実践していくための資質や能力の基礎を培うとともに、身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解」します。さらに各領域の基礎知識と運動技能の習得を自らの生涯にわたるスポーツ活動への実践力に繋がります。

【授業における到達目標】

乳幼児期から学童期における運動指導の在り方を理解し、幼稚園や保育所、小学校での実習やボランティアで子どもたちの発育発達に応じた運動遊び等の指導に生かすことができる力の修得を目指します。また、各領域の実技を通して自己や他者の役割を理解し、他分野との関連性を踏まえて、互いに協力して計画を進める力の修得を目指します。

【授業の内容】

- 第1回 授業ガイダンスおよび身体慣らし
- 第2回 子どものからだの発達と運動の関連について
- 第3回 基本動作と体づくり運動・運動あそび
- 第4回 かけっこ遊びと走運動
- 第5回 跳躍遊びと跳運動
- 第6回 器械運動と運動あそび ①マット運動・跳び箱
- 第7回 器械運動と運動あそび ②鉄棒
- 第8回 リズム運動と表現活動
- 第9回 ボールを使った運動とあそび ①つく・転がす
- 第10回 ボールを使った運動とあそび ①投げる・とる
- 第11回 水遊び（水慣れ、浮く・もぐる遊び）
- 第12回 浮く・泳ぐ運動、水泳
- 第13回 グループでの模擬授業①
- 第14回 グループでの模擬授業②
- 第15回 安全教育および授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 幼少期の運動遊びについて振り返るとともに子どもにとっての運動とは何か考えておきましょう。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業の振り返りを積み上げ、運動実践の重要性を復習し、翌週の授業に備えましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各運動技能の習熟状況(20%)、指導案作成と模擬授業での発表(60%)、授業への取り組みや態度(20%)で総合的に評価します。運動技能は次回授業時の導入で、指導案作成や模擬授業の発表については解説を通して、それぞれフィードバックを行います。

【参考書】

- ・高橋健夫他 『体育の基本』 2011年 1800円+税 (株)学研教育みらい
- ・白石豊他 『どの子どものびる運動神経～幼児編』 2006年 1900円+税 , 『どの子どものびる運動神経～小学生編』 2007年 1900円+税 かもがわ出版

【注意事項】

実技が主体となるので、自らの身体で体験しながら運動技能の修得とその指導法を理解できるよう、積極的な態度で臨みましょう。また運動に適した服装・身だしなみを準備してください。なお、通常の開講曜日以外に学外のプールにおいて水泳実習があります（交通費は自己負担となります）。詳細は授業で説明します。

大衆文化論

児童と少女の文化の変遷 大正から昭和へ

官木 孝子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

大衆文化が社会に浸透し、定着する大正から昭和に時代を、児童と少女を軸に、その発展形態とその実際を資料と事例を用いて辿ります。

新しい児童観に立った「赤い鳥」の放つ児童文化が、教育界だけでなく、やがて大人の「大衆文化」にも貢献する意味や、大正時代にクローズアップされた〈少女〉という世代に支持された「宝塚少女歌劇」の意味を授業では考察します。「大衆性」という言葉の概念も現在とは異なる意味もあり、「大衆文化」とはなにかを考える機会にしてもらえれば、と考えています。

【授業における到達目標】

大衆文化が生まれた時代背景と文化現象をとらえることで、多様化する日本文化の現在を理解し、評価する力をもってほしい。また、海外の文化を日本がどのような形で、吸収し独自のものとしたかを知って、「国際的視野」と「美の探求」に役立ててほしいと願っている。その過程において必要な「研鑽力」を学修の上から、身につけてほしい。

【授業の内容】

1. 大正児童文化の特色・授業紹介
2. 「赤い鳥」の創刊の意義・鈴木三重吉の方針
3. 童謡論 北原白秋
4. 童謡論 西条八十・野口雨情
5. レコード化と流行歌となる童謡
6. 流行歌 劇中歌・浅草オペラ
7. 児童劇の発生と「赤い鳥」の児童劇
8. 「赤い鳥」の児童劇とその普及
9. 〈少女〉という存在
10. 宝塚少女歌劇の誕生 ・小林一三の方針
11. 少女歌劇と児童雑誌
12. お伽歌劇
13. 少女歌劇の流行歌
14. 戦後の展開・まとめ
15. ディスカッション

【事前・事後学修】

事前：配布プリントを読む。与えられ課題をまとめる。週2時間

事後：ノートなどで確認しながら復習し、知識を整理し、質問を用意する。 週2時間

【テキスト・教材】

プリント配布です。プリントをまとめるようにファイルなど用意してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎時間提出コメントシート（20%）とレポート（80%）の総合点。フィードバックは、毎回、理解が曖昧な内容が多い場合、単独でも疑問、質問がある場合に、答えてゆく方法をとる。また、コメントシートから受けた感想や理解の誤りの指摘も行う。

【参考書】

各項目ごとに、プリントで配布します。

【注意事項】

よく聴いて下さい。質問は積極的にして下さい。私語が小さな声でも禁止。できれば、ノートをとることを勧めます。

第二言語習得研究

言語習得・言語学習を考える

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

第二言語習得に関する基礎的な知識とこれまでの代表的な理論・仮説について学習する。第二言語としての日本語、英語の習得についての実証研究も適宜取り上げていく。

【授業における到達目標】

言語習得のメカニズムについて理解を深め、自身の第二言語習得過程を振り返り、効果的な言語学習、言語教育について考察できるようになる。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
第二言語習得とは
- 第2週 対照分析研究
- 第3週 中間言語研究
- 第4週 文法形態素研究
- 第5週 中間言語の要因
- 第6週 自然順序と発達順序
- 第7週 モニター理論
- 第8週 インターアクション仮説
- 第9週 インプット仮説とアウトプット仮説
- 第10週 ノン・インターフェイス・ポジションと
インターフェイス・ポジション
- 第11週 フォーカス・オン・フォームとフィードバック研究
- 第12週 言語習得のプロセス
- 第13週 学習者要因－適性
- 第14週 学習者要因－学習スタイル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に授業内容の復習をし、指示されたテキスト・参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には、前回の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する小レポートを指定された期日に提出すること。

(以上すべて含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

大関浩美：日本語を教えるための第二言語習得論入門[くろしお出版、2010、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験60%、提出課題20%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

第二言語習得研究

言語習得・言語学習を考える

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

第二言語習得に関する基礎的な知識とこれまでの代表的な理論・仮説について学習する。第二言語としての日本語、英語の習得についての実証研究も適宜取り上げていく。

【授業における到達目標】

言語習得のメカニズムについて理解を深め、自身の第二言語習得過程を振り返り、効果的な言語学習、言語教育について考察できるようになる。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
第二言語習得とは
- 第2週 対照分析研究
- 第3週 中間言語研究
- 第4週 文法形態素研究
- 第5週 中間言語の要因
- 第6週 自然順序と発達順序
- 第7週 モニター理論
- 第8週 インターアクション仮説
- 第9週 インプット仮説とアウトプット仮説
- 第10週 ノン・インターフェイス・ポジションと
インターフェイス・ポジション
- 第11週 フォーカス・オン・フォームとフィードバック研究
- 第12週 言語習得のプロセス
- 第13週 学習者要因ー適性
- 第14週 学習者要因ー学習スタイル
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に授業内容の復習をし、指示されたテキスト・参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には、前回の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する小レポートを指定された期日に提出すること。

(以上すべて含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

大関浩美：日本語を教えるための第二言語習得論入門[くろしお出版、2010、¥1,800(税抜)、ISBN978-4-589-03882-1]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験60%、提出課題20%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

男女共同参画社会と生活

細江 容子

1年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

男女共同参画社会と生活

細江 容子

1～3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

男女共同参画社会と生活

細江 容子

1～3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

知覚・認知心理学 a

作田 由衣子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「認知心理学」は、人間を情報処理装置ととらえて理解しようとする学問である。この授業では、認知心理学の様々な研究分野について紹介する。特に、ここでは知覚や感性など、視覚的な情報処理に焦点を当てる。

【授業における到達目標】

認知心理学の基本的な考え方を理解できる。さらに、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 感覚の種類と構造
- 第3週 感覚・知覚の基本的特性
- 第4週 聴覚
- 第5週 多感覚（味覚、体性感覚他）
- 第6週 錯視
- 第7週 空間と運動の知覚
- 第8週 知覚から認知へ（対象認知他）
- 第9週 感性と認知
- 第10週 顔の認知1：顔を見るしくみ
- 第11週 顔の認知2：顔と社会
- 第12週 知覚・認知の発達
- 第13週 脳と心
- 第14週 感覚・知覚の障害
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストあるいは参考書の該当箇所を通読しておくこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

服部雅史・小島治幸・北神慎司：基礎から学ぶ認知心理学 ― 人間の認識の不思議[有斐閣、2015、¥1,944(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、期末試験80%
manabaを利用してフィードバックを行う。

【参考書】

金沢創・市川寛子・作田由衣子、2015、ゼロから始める心理学・入門 ― 人の心を知る科学、有斐閣、1944円
その他授業内で指示します。

知的財産研究

著作権法入門

酒井 麻千子

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。特に文化活動やそれを伝達するメディアなど、人々の表現を取り扱う分野においては、著作権の知識は欠かせない。また日常生活の中でも、デジタル技術やネットワーク技術の発展によって、作品享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。本授業では、著作権法を中心とした知的財産法の基礎的知識を学ぶとともに、コンテンツビジネスと知的財産権との関連についても触れ、知的財産権に関わる幅広い問題を理解することを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・表現活動へたずさわる際や日常生活での作品利用で生じる知的財産権の問題について、「法的に考える」ための足がかりとなる知識を修得する。
- ・学生が習得すべき「行動力」のうち、課題発見力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：知的財産権とは何か
 第2週 著作権（1）著作物とは・作者とは
 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか
 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討
 第5週 著作権（4）著作権関連裁判例の検討（2）
 第6週 著作権（5）パロディ・表現の自由と著作権
 ＊博物館学芸員経験者の方によるゲスト講義を予定
 第7週 産業財産権（1）特許権・意匠権の基礎と著作権法との違い
 第8週 産業財産権（2）産業財産権関連裁判例の検討
 第9週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進
 第10週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進
 第11週 デジタル技術と著作権（1）作品創作・発表の技術的変化と著作権
 第12週 デジタル技術と著作権（2）作品享受・利用の技術的変化と著作権
 ＊弁護士の方によるゲスト講義を予定
 第13週 コンテンツビジネスと著作権
 第14週 小レポート検討、質疑応答
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。

知的財産研究

著作権法入門

酒井 麻千子

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。特に文化活動やそれを伝達するメディアなど、人々の表現を取り扱う分野においては、著作権の知識は欠かせない。また日常生活の中でも、デジタル技術やネットワーク技術の発展によって、作品享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。本授業では、著作権法を中心とした知的財産法の基礎的知識を学ぶとともに、コンテンツビジネスと知的財産権との関連についても触れ、知的財産権に関わる幅広い問題を理解することを目的とする。

【授業における到達目標】

- ・表現活動へたずさわる際や日常生活での作品利用で生じる知的財産権の問題について、「法的に考える」ための足がかりとなる知識を修得する。
- ・学生が習得すべき「行動力」のうち、課題発見力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：知的財産権とは何か
 第2週 著作権（1）著作物とは・作者とは
 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか
 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討
 第5週 著作権（4）著作権関連裁判例の検討（2）
 第6週 著作権（5）パロディ・表現の自由と著作権
 ＊博物館学芸員経験者の方によるゲスト講義を予定
 第7週 産業財産権（1）特許権・意匠権の基礎と著作権法との違い
 第8週 産業財産権（2）産業財産権関連裁判例の検討
 第9週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進
 第10週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進
 第11週 デジタル技術と著作権（1）作品創作・発表の技術的变化と著作権
 第12週 デジタル技術と著作権（2）作品享受・利用の技術的变化と著作権
 ＊弁護士の方によるゲスト講義を予定
 第13週 コンテンツビジネスと著作権
 第14週 小レポート検討、質疑応答
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。

知的財産法

須藤 浩

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

知的財産法は法律科目の一つであるから、法体系の中での位置づけを意識する必要がある。また、知的財産権は、権利者には強大な利益を与える一方で、第三者や社会全体には大きな制約や不便を強いることになるので、常に私益と公益の調和を考慮しなければならない。こうした法的思考（リーガルマインド）を知的財産を学ぶ中で身に付けたい。

また、知的財産は産業活動の中での重要性が大きい分野であるが、近年では、第4次産業革命と言われるAI（人工知能）やビッグデータの保護が問題となっており、政府機関などで検討が進んでいる。このような最新情報も取り入れた授業内容にしたい。

第2週以降、授業開始後15分間を当てて、前回授業内容から出題する設問を○×で回答する形式の小テストを行う。この回答で出欠確認も行う。

【授業における到達目標】

知的財産は資源の乏しい我が国において重要である。近々社会人になるに当たり、特許・実用新案・意匠・商標・著作権などについて基礎的な知識と理解を修得することを目標とする。

特に、知的財産として保護される対象、知的財産権の侵害の態様について修得できるようにする。

また、知的財産権の適切な保護について正しく理解し、課題を発見できるようにする。

さらに、輸出・輸入した商品に係る知的財産権の効力についても正しく理解し、国際的視野で知的財産の意義を把握できるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 知的財産の概要
- 第2週 特許1（特許取得までの流れ、特許要件など）
- 第3週 特許2（特許権の帰属、身近な発明の紹介など）
- 第4週 特許3（特許権の効力など）
- 第5週 特許と実用新案（共通点と相違点、実用新案の意義など）
- 第6週 意匠1（意匠登録要件、意匠特有の制度など）
- 第7週 意匠2（意匠権の効力、意匠登録例の紹介など）
- 第8週 商標1（特許との本質的相違、商標登録例の紹介など）
- 第9週 商標2（商標登録要件、商標権の効力など）
- 第10週 商標3（地域ブランド、小売サービス商標など）
- 第11週 産業財産権の国際問題
- 第12週 著作権1（概要）
- 第13週 著作権2（紛争事例の紹介など）
- 第14週 著作権3（インターネットとの関連など）
- 第15週 その他の知的財産（不正競争防止法など）

【事前・事後学修】

知的財産に関連する新聞記事やTVニュースを目にしたら、積極的に興味を持って接して欲しい。

主テキストによる予習（2時間/回）と復習（2時間/回）をして、講義内容が身につくようにして欲しい。

【テキスト・教材】

主テキスト：『知的財産権制度入門』特許庁
（平成30年度版の必要部分を特許庁サイトからダウンロードしてプリントアウトしたものを初回授業時に配布する予定）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストの成績80%

試験20%

ただし、授業態度が特に悪い場合は大きくマイナス評価する

小テストの回答は受講者に知らせる。

知的財産法入門

酒井 麻千子

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。例えば、表現活動やそれを伝達するメディアにたずさわる者にとって著作権の知識は欠かせない。他方で日常生活の中でも、デジタル・ネットワーク技術の発達により、作品の享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。また発明や意匠といった産業財産権に関わる製品も、日常生活に溢れており、企業内でこのような権利に触れる機会も多くなっている。本授業では、知的財産法の基礎知識を学ぶとともに、特に出版について生じる著作権関連の問題について触れ、知的財産法を手がかりに、日常生活において「法的に考える」ことの土台を作ることを目指す。

【授業における到達目標】

- ・知的財産管理技能検定3級を受験するための基礎的知識を獲得することを目標とする。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、法的問題についての本質を見抜く力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：知的財産権とは何か
- 第2週 著作権（1）著作物とは・著作者とは
- 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか
- 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討
- 第5週 著作権（4）著作権保護期間・著作隣接権
- 第6週 著作権（5）デジタル技術と著作権：作品創作・享受の技術的变化と著作権
- 第7週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進
- 第8週 産業財産権（1）特許権・実用新案権の基礎
- 第9週 産業財産権（2）意匠権・商標権の基礎
- 第10週 産業財産権（3）産業財産権関連裁判例の検討
- 第11週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進
- 第12週 小レポート解説
- 第13週 出版と著作権：電子出版・契約・作品利用など
- 第14週 まとめ（問題解答）
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。

地域エネルギー論

再生可能エネルギーによる地域自立

菅野 元行

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

東日本大震災後の原子力発電の急減にともない、大規模集中型ではない再生可能エネルギー（再エネ）によるエネルギー自給の活動が国内の様々な地域で動き出しています。しかしながら、従来の大規模集中型のエネルギー供給に慣れた生活では、地域自立型の再エネ利用への変遷が容易ではありません。地域自立、環境学、エネルギー学の融合した、現代生活学科の特徴的な科目の一つであり、他大学を見渡しても先端的な科目です。

【授業における到達目標】

- ①地域自立型エネルギーの概要を理解し、その事例研究を通して、地域自立エネルギーの実現に向けた構想について修得する。
- ②再生可能エネルギーの仕組みや、その地域の状況を理解しながら地域自立型エネルギーを運用する可能性を議論できる。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 地域自立エネルギーとは
- 3 再エネの特徴1：水力、風力
- 4 再エネの特徴2：地熱、地中熱
- 5 大規模発電：火力、原子力
- 6 再エネの特徴3：太陽光、固定価格買取制度
- 7 地域エネルギー実践企業の方の講演聴講
- 8 再エネの特徴4：バイオマスのエネルギー転換
- 9 地域エネルギーの事例研究1
- 10 地域エネルギーの三原則、事例研究2
- 11 地域別再エネのポテンシャル、事例研究3
- 12 再エネの資源量の把握、事例研究4
- 13 再エネ事業と地域活性化、事例研究5
- 14 再エネの社会的・環境的制約条件、事例研究6
- 15 系統連系、地域で資金循環、事例研究7

※再生可能エネルギーの特徴を理解していることが必要なため、「現代社会を読み解くd(科学技術と社会)」を修得していることが必要です。

※3年次「地域エネルギー論演習」の履修を意図している場合は、この科目の修得が必要です。

【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】課題A(各授業日の内容を文章にする)を設定しますので、復習に役立ててください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

後半の授業では参考書の書籍(図書館の指定図書)に沿って進めます。必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A(上記参照)で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B(環境・エネルギーに関する新聞記事調査)、課題C(環境・エネルギーに関する展示の感想文)を提出することも可能です。詳細はオリエンテーション時に説明します。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

【参考書】

環境エネルギー政策研究所『地域の資源を活かす再生可能エネルギー事業』(きんざい 2014年)2,000円+税(図書館の指定図書)

地域エネルギー、コミュニティパワーなどの言葉で検索した書籍やwebも役に立ちます。

【注意事項】

※「現代社会を読み解くd」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、自己責任により授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

地域エネルギー論演習

地域エネルギーの確立に向けたプロジェクトの策定

菅野 元行

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

「地域エネルギー論」修得後の学生に対して、地域エネルギー事業の具現化に向けたプロジェクトの策定を行う授業です。

履修生が希望すれば、地域エネルギー事業に関わる企業の方々との連携によりプロジェクトを策定することも可能です。そのため、環境・エネルギーゼミの取り組みと連動した内容となります。

【授業における到達目標】

①地域エネルギーを実践的に理解し、環境や資源に配慮したプロジェクトに主体的に取り組み、効果的な討論手法を習得する姿勢を身につける。

②地域エネルギーの課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。

以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 地域エネルギープロジェクト（PJ）策定の流れ
- 3 地域エネルギーPJの事例研究
- 4 地域エネルギーPJの設定、調査手法
- 5 地域エネルギーPJの調査（1回目）
- 6 地域エネルギーPJの評価検討（1回目）
- 7 地域エネルギーPJの提案発表・討論（1回目）
- 8 地域エネルギーPJの調査（2回目）
- 9 地域エネルギーPJの評価検討（2回目）
- 10 地域エネルギーPJの提案発表・討論（2回目）
- 11 地域エネルギーPJの調査（3回目）
- 12 地域エネルギーPJの評価検討（3回目）
- 13 地域エネルギーPJの提案発表・討論（3回目）
- 14 地域エネルギーPJの評価検討（4回目）
- 15 振り返り・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時まで精度を上げてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【注意事項】

- ※「地域エネルギー論」で修得した内容を基に展開する科目のため、「地域エネルギー論」を修得していることが求められます。
- ※地域エネルギープロジェクトの策定という科目内容に従い、環境・エネルギーゼミの取り組みと連動した専門的な内容となります。
- ※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。
- ※演習科目のため、自己責任による欠席、遅刻、早退は成績に大きく影響します。

地域経済分析特論

角本 伸晃

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

本講義は、地域経済の内で観光地・観光産業に焦点を当てて、それに関するデータや参考文献のネット上での入手方法を修得した上で、観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを分析することを目的とする。はじめに観光産業や観光地に関するデータ分析の方法を講義し、その後で観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを実証的に分析するという手順で講義を進める。

【授業における到達目標】

地域経済の理論的メカニズムを理解し、データ分析においてはExcelや統計解析ソフトを利用して分析ができるようになることを到達目標とする。

【授業の内容】

1. イントロダクション（観光地・観光産業の選定）
2. Excelの操作方法の確認
3. 観光地の検出（従業者数の特化係数分析）
4. 観光地の観光産業の検出（経済基盤分析）
5. 観光地の雇用乗数・雇業者数の推定（経済基盤分析）
6. 観光地の誘客圏（商圏分析の応用）
7. 産業連関表
8. 観光産業の経済効果（産業連関分析）
9. 観光産業の経済効果の推定（産業連関分析）
10. 統計解析ソフトの操作方法
11. 観光施設の順位・規模法則（単回帰分析）
12. 観光商品の普及経路（ロジスティック曲線分析）
13. 観光地の入込み客数の決定要因の選定
14. 観光地の入込み客数の決定要因の推定（重回帰分析）
15. 訪日外国人の消費パターンの類型化（クラスター分析）

【事前・事後学修】

【事前学修】配付プリントやテキストを読んで理解しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で行ったデータ分析を違うデータ（授業中に指示する）で行って復習する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

角本伸晃『観光による地域活性化の経済分析』（成文堂 2011年）4,860円

他に、適宜に邦文・外国語文献やデータなどの資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義中に課すデータ分析のレポート（50%）、授業中の発言・積極的な参加（50%）による。レポートについては次回授業で、授業の取り組みについては最終回授業で講評を行ってフィードバックする。

【参考書】

適宜に参考文献を紹介する。

地域経済論

山本 匡毅

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

グローバル化の一方で、日本国内の地域は異なった様相を呈しており、過疎・過密問題、地域構造の違い、工場の海外移転による産業空洞化、地域間格差の拡大といった問題を抱えています。本講義では、そのような状況がなぜ発生するのか、そのような問題を解決するためにはどのような政策が考えられるのかという視点から地域経済論を学んでいきます。

本講義では、前半が理論篇となります。地域経済論の基礎理論を学びます。後半は政策篇です。地域政策を理論を踏まえて考えられるように、具体的な事例を紹介しながら進めます。

【授業における到達目標】

地域経済の理論的なメカニズムを理解し、地域の課題を解決する能力を修得します。このことを通じて、地域において状況に応じたリーダーシップを発揮できる協働力を修得することを目標とします。

【授業の内容】

1. イントロダクション：地域経済論とは何か
2. 地域概念
3. 都市の成立・発展
4. 産業の地域構造
5. 人口の地域構造
6. 情報化と地域構造
7. 地域経済と地域所得
8. 地域の経済成長
9. 地域間所得格差
10. 人口移動と地域経済
11. 人口減少と大都市経済
12. 人口減少と地方都市経済
13. 地方創生と地域間競争
14. 農山村とコミュニティの地域経済問題
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたことをノートにまとめ、不明点を図書館で調べ、復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用います。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（50%）、レポート課題（20%）、平常点（リアクションペーパー30%）によって総合的に評価します。レポート課題については提出締め切り後の授業で、リアクションペーパーの質問については次の授業で、期末試験については最終回の授業で解説を行ってフィードバックします。

【参考書】

山田浩之・徳岡一幸編著『地域経済学入門〔第3版〕』（有斐閣、2018年）2,700円

山崎朗ほか『地域政策』（中央経済社、2016年）2,592円

【注意事項】

- (1) 大幅な遅刻は減点します。私語厳禁です。
- (2) 出席しないで単位修得することは困難です。
- (3) 毎日、地域経済に関連する新聞記事を読みましょう。

地域研究 a

多様な角度からとらえる世界観と社会のあり方

島崎 裕子

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、私たちの属している社会とは異なる文化をもった地域社会との比較研究を通して、「地域社会」と「文化」という問題に迫る。また本講義では写真や映像、様々な資料を使用し具体的な事例を通じて多様に存在する「世界観」や「社会のあり方」を考察する。これらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。

【授業における到達目標】

- 1) 【態度：国際的視野を養う】
多様な価値観や文化が世界には存在していること知る
- 2) 【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探求】
多角的な視野をもって世界を捉え、理解する
- 3) 【能力：研鑽力／協働力】
上記を踏まえ、自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける
- 4) 【能力：研鑽力／協働力】
深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：地域研究を学ぶにあたって
- 第2週 世界を説明する方法
- 第3週 グローバリゼーションと世界
- 第4週 グローバリゼーションと地域
- 第5週 暮らしと文化① 理論
- 第6週 暮らしと文化② 事例
- 第7週 宗教と文化① 理論
- 第8週 宗教と文化② 事例
- 第9週 住居と文化① 理論
- 第10週 住居と文化② 事例
- 第11週 社会規範とコミュニティ① 導入
- 第12週 社会規範とコミュニティ② 事例
- 第13週 現代社会と人権① 導入
- 第14週 現代社会と人権② 事例
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：講義で提示した資料・主要文献を熟読し、次回の授業へ備える（週2時間）。

事後学修：各回の講義内容を要約し、興味関心をもった点をまとめ、より学習を深める（週2時間）。

【テキスト・教材】

島崎裕子：人身売買と貧困の女性化[明石書店、2018、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験/レポート（50%）、授業内課題（10%）、平常点（積極的な参加や貢献度・フィードバックシート 40%）。
質問内容や、課題への着眼点などに対して、授業内やmanabaを通じて全体ならびに個別にフィードバックを行う。

【参考書】

講義のテーマに合わせて随時、参考図書を提示する。

【注意事項】

本講義では、テーマごとに、アンケート（質疑応答）、ディスカッション、グループワーク、授業内課題を求め、進行させる。授業中に各自、課題に対して作業や考察を行い、発言やリアクションを求める。よって積極的な態度で出席して欲しい。

地域研究 a

江藤 双恵

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

ある地域の文化や社会は、その地域の自然環境や地理条件、民族、宗教、言語、周辺地域との関係など、様々な要因によって歴史的に形成されていく。この授業では、特に東南アジア地域の文化・歴史・社会・地理・民族等を学ぶことを通して、国際的視野や多面的な見方を養う。

また、東南アジアの中でも、特にタイに暮らす人々が直面する問題について具体的な例をあげ、日本で暮らす我々との関わりから理解し、その解決方法を考える。

【授業における到達目標】

- 1、東南アジアという地域とそこに住む人々を身近に感じる。遠くの地域の他人事として捉えるのではなく、自分たちと関わりのある人々として捉える。
- 2、東南アジアの人々が直面する問題について、タイの事例を通じて理解する。
- 3、グローバリゼーションが進む中でのアジアの位置付けとその変化について検討する。

【授業の内容】

- 第1週：導入
- 第2週：地域研究的発想の重要性：地域研究という研究手法の紹介。
- 第3週：アジアの多様性、アジアのイメージ（ヨーロッパ中心主義との対比で）：アジアの多様なイメージ、解釈について理解し、地域研究的な発想によってアジアを捉えるとどのような論点が見えてくるか考える。
- 第4週：東南アジアの多様性および今日のグローバリゼーションの中での位置づけについて考える。
- 第5週：東南アジアと日本（我々の暮らしが東南アジアの人々の活動によってどれだけ支えられているか、製造業、食品加工などの事例から考える）
- 第6週：東南アジアの基層文化（アニミズムと大宗教）：東南アジアを特徴づける基層文化について学ぶ。
- 第7週：タイの政治と文化：タイ仏教と現代政治の関連について理解する。）
- 第8週：タイにおける開発と文化：タイにおいて「開発」はどのように進められてきたか、タイ仏教は「開発」とどのように関連しているか、また、それらが社会にどのような影響を与えているか理解する。
- 第9週：タイにおける農村と都市：格差の問題や価値観の違いについて理解する。
- 第10週：タイにおける環境と文化：環境NGOの活動から、タイの環境問題と文化の関わりについて理解する。
- 第11週：タイにおける「オルタナティブな発展」論の展開：「足るを知る経済」「木の出家」「複合農法」などについて理解する。
- 第12週：タイにおける女性の役割：タイ女性の経済活動の活発さに焦点を当て、その文化的、社会的要因について理解する。
- 第13週：タイにおける高齢化問題と社会保障：タイ政府は急速に進展する高齢化にどのように対応しようとしているか、また社会は政府の政策をどのように受け止めているかについて理解する。
- 第14週：タイにおけるコミュニティ福祉：タイで推進されているコミュニティ福祉とはどのようなものか。村落健康ボランティア、高齢者介護ボランティアの活動を通じて考える。
- 第15週：まとめと整理、これまでの授業の内容と自分のこれからの人生の選択について関連付けて考える。

【事前・事後学修】

事前学修

東南アジアで今どのようなことが起こっているか、メディアの報道やインターネットでの情報収集を通じて理解をしておく。30分程度

でいいので、毎日行う習慣とする（30分×7日間で週210分）。
事後学修
授業中に提示された文献などを参照し、東南アジアへの関心を深め、関連情報をチェックする（30分程度）。できれば実際に現地に行く機会が作れるとよい。

【テキスト・教材】

複数のテキストを授業中に紹介する。また、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題を40パーセント、最終試験を60パーセントとして評価を行う。課題へのコメントを通じてフィードバックを行う。

【参考書】

『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1（2005年6月発行） 『老いてゆくアジア』（中公新書）大泉啓一郎著
北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社（2006年）

地域研究 b

中村 雪子

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

インド地域研究の授業である。近年、経済規模、人口規模ともに世界においてその存在感を増しているインドであるが、同時に「宗教対立」や「女性に対する暴力」も広く報道などで取り上げられることも多くなっている。一見、「伝統的」、「インド固有」とみなされがちなそれらの事象は、歴史的過程において「つくられ」、「変化」してきた。

本授業では、インドの文化、歴史、社会、地理について、多言語多宗教社会であることやジェンダー視点など重視して学ぶ。インド社会は、民族、宗教、カースト、言語、ジェンダー、セクシュアリティ、階級、農村―都市間格差などの文化的社会的経済的差異の諸要素が互いに連関し、構成されている。この多様で複雑な文化・社会は、歴史的に形成されてきたことを踏まえて理解する必要がある。まず、日本におけるインドの影響、衣服や食をはじめとする、身近な事柄から現在のインドについて学ぶ。そのうえで、地理や歴史（特にポストコロナル状況）など地域の全体像をふまえ、さらに、インドの文化・社会・政治・経済状況（言語、宗教、民主主義、カースト、ジェンダーなど）について、写真や映像資料、フィクションの映画なども利用しながら講義する。

【授業における到達目標】

インドの地理や文化、社会、歴史を学ぶことを通じて、異なる社会や文化で起きていることを世界における位置づけや歴史を踏まえたうえで理解することを目標とする。これを通じて、国際的視野や多面的な見方を涵養する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：インド、南アジア地域とは？
- 第2週 日本におけるインドの影響
- 第3週 着る・飲む（インド特有の衣服や食について、歴史的背景と現在の状況について、実際の衣服や食料を手にしながら学ぶ）
- 第4週 インド社会を学ぶための基礎①（多様性：地理、言語、宗教、カースト、政治、経済、産業他）
- 第5週 インド社会を学ぶための基礎②（歴史）
- 第6週 言語政策と多言語社会
- 第7週 カーストとインド社会
- 第8週 多宗教社会を考える（イスラーム教を中心に）①
- 第9週 多宗教社会を考える（イスラーム教徒とジェンダー）②
- 第10週 世界最大の民主主義国家インドとアフターマティブアクション
- 第11週 ジェンダー視点からみるインド社会①（インドにおけるジェンダー問題を学ぶ）
- 第12週 ジェンダー視点からみるインド社会②（インドにおけるジェンダー問題に取り組むNGO・NPOの活動について学ぶ）
- 第13週 グローバル社会におけるインド①（都市新中間層のライフスタイル）
- 第14週 グローバル社会におけるインド②（在外インド人、ディアスポラ）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：予習用のテキストが出されたときには、必ず目を通し、興味を持った点、分からなかった点を明らかにしておくこと。（週2時間）
- ・事後学修：授業の内容を復習し、新聞やニュースなどに積極的に目を通し理解を深める。中間テストと最終レポートに備えて、準備を進める。（週2時間）

【テキスト・教材】

レジメ・資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・成績評価の方法・基準：平常点（毎回のコメントペーパー、授業

への参加) 【40%】 + 中間課題 【20%】 + 最終レポート 【40%】

・フィードバック：毎回のコメントペーパー、中間課題については、次回講義冒頭にいくつか選んで講評を行う。

【参考書】

- ・田中雅一、田辺明生編、2010、『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社.
- ・広瀬崇子他著、2006、『現代インドを知るための60章』明石書店
- ・
- ・金基淑編著、2012、『カーストから現代インドを知るための30章』明石書店.
- ・辛島昇他監修、2012、『【新版】南アジアを知る事典』平凡社.
- ・栗屋利江、井上貴子編、2018、『インドジェンダー研究ハンドブック』東京外国語大学出版会.
- ・その他、講義にて適宜紹介する。

【注意事項】

受講者には、授業外においても、新聞、テレビのニュース・報道番組を通して、インドをはじめとする国際社会の動きを知るとともに授業理解の深化に役立てるよう求めたい。参加者の人数次第では、ディスカッションを組み込んでいく予定である。その際には、他の受講者と調べた情報を共有したり、自らの考えを共有する、積極的な受講態度を重視する。なお、授業内でAV機器やパワーポイントを用いることがある。授業計画は、受講者の希望や講義の進度によって変更される可能性がある。

地域社会学

東南アジアの多民族社会論

高橋 美和

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

民族的に均質性の高い日本に住んでいると、複数の言語や宗教、生活習慣が混在し複合的にからみあっている地域を肌で理解することは容易ではない。しかし、全世界的に見ると、むしろ多民族社会でない社会は少数派である。現代のグローバル化が進んだ世界を理解するためには多民族社会について学んでおくことは必須と言える。この授業では、日本とも様々な方面で関係が深い、東南アジア地域を主な対象とし、この地域における諸社会の実情を、多民族社会という切り口から概説する。

【授業における到達目標】

主として東南アジア地域の諸国家・諸社会の情勢に関する基礎的な知識を身につけ、民族とは何か、多民族国家とは何か、を理解できるようになること。さらに、多民族国家のもつ困難さ・国民統合のために払われている様々な努力、そして多民族複合の生み出すダイナミズムを理解できるようになること。これらを通して、多様な価値観を持つ人々と相互の理解と協力を築こうとする国際的視野を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を身につけること、が総合目標。

【授業の内容】

- 第1週 導入：日本人が多民族社会を理解しづらい理由
- 第2週 東南アジア10カ国の政治体制・政治リーダー・情勢概観
- 第3週 「○○人」の意味：国民・民族・少数民族
- 第4週 人の名前から見る多文化
- 第5週 多民族国家の類型論
- 第6週 東南アジアの言語系統と民族系統
- 第7週 東南アジアの諸民族①：山岳少数民族
- 第8週 東南アジアの諸民族②：国境を越えて居住する民族
- 第9週 東南アジアの諸民族③：都市部に居住する華人
- 第10週 多民族国家の民族政策①：ベトナム
- 第11週 多民族国家の民族政策②：シンガポール
- 第12週 多民族国家の民族政策③：インドネシア
- 第13週 多民族国家の多文化教育：カンボジア
- 第14週 最新の民族問題
- 第15週 まとめの講義

※外部講師を招く回を予定している。

【事前・事後学修】

事前：次回の授業のキーワードを示すので下調べをしてくること。課題を課した週は次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：各回の授業の復習をする他、期末試験にむけて、発展的な読書をする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業終わりにmanabaに提出するコメントの内容20%+提出課題10%+期末試験70%

提出物および試験は授業期間内にフィードバックする。

【参考書】

- 清水 一史/田村 慶子/横山 豪志 編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、2011）
- 今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）
- その他は授業で紹介する。

【注意事項】

新聞やネットのニュースサイトなどで、地域を問わず、「民族」や「外国人住民」に関するニュースをチェックするように心がけてほしい。関心を持つことは、より深い学びにつながる。

地域社会学

原田 謙

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業は、地域をとらえる理論と方法を理解し、今日の地域社会がかかえている諸問題を検討しながら、住民と自治体の協働（パートナーシップ）について学習することを目的とする。具体的には、郊外社会の理想と現実、インナーシティ問題、グローバリゼーションと世界都市、地方都市の衰退と中心市街地活性化、市町村合併と限界集落などの論点を検討する。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、大都市から農山漁村まで、それぞれの地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を習得することである。グローバリゼーションと都市に関する「国際的視野」を身につけるとともに、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」を養成する。

【授業の内容】

1. 地域のとらえ方
2. シカゴ学派：都市空間構造のモデル
3. アーバンイズム：都市は何をうみだすのか？
4. 都市化と地域社会の変容
5. 郊外社会とサバーバンイズム
6. 都市の衰退とインナーシティ問題
7. グローバリゼーションと都市
8. 都市計画とまちづくり
9. 地方の衰退と中心市街地活性化
10. 市町村合併と過疎化
11. 地域開発の構想と帰結
12. 環境問題と地域再生
13. 安全・安心のまちづくり
14. レポート課題について
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学習修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布もしくはmanabaに資料をアップロードする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題の提出（40%）、学期末レポート（60%）にもとづいて評価する。課題およびレポート評価のフィードバックは、授業最終回もしくはmanabaで行う。

【参考書】

- 森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年）
- 松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）
- 中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

地域社会学

原田 謙

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業は、地域をとらえる理論と方法を理解し、今日の地域社会がかかえている諸問題を検討しながら、住民と自治体の協働（パートナーシップ）について学習することを目的とする。具体的には、郊外社会の理想と現実、インナーシティ問題、グローバリゼーションと世界都市、地方都市の衰退と中心市街地活性化、市町村合併と限界集落などの論点を検討する。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、大都市から農山漁村まで、それぞれの地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を習得することである。グローバリゼーションと都市に関する「国際的視野」を身につけるとともに、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」を養成する。

【授業の内容】

1. 地域のとらえ方
2. シカゴ学派：都市空間構造のモデル
3. アーバニズム：都市は何をうみだすのか？
4. 都市化と地域社会の変容
5. 郊外社会とサバーバニズム
6. 都市の衰退とインナーシティ問題
7. グローバリゼーションと都市
8. 都市計画とまちづくり
9. 地方の衰退と中心市街地活性化
10. 市町村合併と過疎化
11. 地域開発の構想と帰結
12. 環境問題と地域再生
13. 安全・安心のまちづくり
14. レポート課題について
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学習修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布もしくはmanabaに資料をアップロードする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題の提出（40%）、学期末レポート（60%）にもとづいて評価する。課題およびレポート評価のフィードバックは、授業最終回もしくはmanabaで行う。

【参考書】

- 森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年）
 松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）
 中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

地域社会学

東南アジアの多民族社会論

高橋 美和

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

民族的に均質性の高い日本に住んでいると、複数の言語や宗教、生活習慣が混在し複合的にからみあっている地域を肌で理解することは容易ではない。しかし、全世界的に見ると、むしろ多民族社会でない社会は少数派である。現代のグローバル化が進んだ世界を理解するためには多民族社会について学んでおくことは必須と言える。この授業では、日本とも様々な方面で関係が深い、東南アジア地域を主な対象とし、この地域における諸社会の実情を、多民族社会という切り口から概説する。

【授業における到達目標】

主として東南アジア地域の諸国家・諸社会の情勢に関する基礎的な知識を身につけ、民族とは何か、多民族国家とは何か、を理解できるようになること。さらに、多民族国家のもつ困難さ・国民統合のために払われている様々な努力、そして多民族複合の生み出すダイナミズムを理解できるようになること。これらを通して、多様な価値観を持つ人々と相互の理解と協力を築こうとする国際的視野を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を身につけること、が総合目標。

【授業の内容】

- 第1週 導入：日本人が多民族社会を理解しづらい理由
 第2週 東南アジア10カ国の政治体制・政治リーダー・情勢概観
 第3週 「〇〇人」の意味：国民・民族・少数民族
 第4週 人の名前から見る多文化
 第5週 多民族国家の類型論
 第6週 東南アジアの言語系統と民族系統
 第7週 東南アジアの諸民族①：山岳少数民族
 第8週 東南アジアの諸民族②：国境を越えて居住する民族
 第9週 東南アジアの諸民族③：都市部に居住する華人
 第10週 多民族国家の民族政策①：ベトナム
 第11週 多民族国家の民族政策②：シンガポール
 第12週 多民族国家の民族政策③：インドネシア
 第13週 多民族国家の多文化教育：カンボジア
 第14週 最新の民族問題
 第15週 まとめ講義

※外部講師を招く回を予定している。

【事前・事後学修】

事前：次回の授業のキーワードを示すので下調べをしてくること。課題を課した週は次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：各回の授業の復習をする他、期末試験にむけて、発展的な読書をする（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業終わりにmanabaに提出するコメントの内容20%+提出課題10%+期末試験70%

提出物および試験は授業期間内にフィードバックする。

【参考書】

- 清水 一史/田村 慶子/横山 豪志 編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、2011）
 今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）
 その他は授業で紹介する。

【注意事項】

新聞やネットのニュースサイトなどで、地域を問わず、「民族」や「外国人住民」に関するニュースをチェックするように心がけてほしい。関心を持つことは、より深い学びにつながる。

地域食料論

フードチェーンから考える食と暮らしの未来

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

私たちは食べなければ生きていくことが出来ません。しかし「食」の産業化が進み、生活との距離が離れている現代では、私たちが「食」について知っていることは意外に多くありません。この授業ではフードチェーン（食料の流れ）を私たちにとって身近な「消費」から逆にたどっていくことによって、食と暮らし、食と産業、食と地域と世界、食と環境の関係について考えることを目的とします。

【授業における到達目標】

- ①フードチェーンの観点から、食と暮らし、産業、地域と世界、環境の関係を考える上で必要な基礎的知識を身につける。
 - ②フードチェーンの観点から、食と暮らし、産業、地域と世界、環境の関係をより良くするための方向性について自分なりの考えを持つようになる。
- これにより、特に学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。
1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
 2. ディスカッション、食の「消費」①（食の安全確保）
 3. 食の「消費」②（消費者の信頼）
 4. 食の「消費」③（暮らしと食の変化）
 5. グループワーク（食の「消費」について考える）
 6. 食の「流通」①（食品産業の動向）
 7. 食の「流通」②（食品ロスと食品リサイクル）
 8. 食の「流通」③（食料品アクセス問題）
 9. グループワーク（食の「流通」について考える）
 10. 食の「生産」①（食料安全保障と自給率）
 11. 食の「生産」②（農業の構造改革）
 12. 食の「生産」③（環境保全と農業）
 13. グループワーク（食の「生産」について考える）
 14. まとめ（これまでの授業の総括）
 15. 授業の理解度確認

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

【参考書】

農林水産省（編）『食料・農業・農村白書＜平成30年度版＞』（日経印刷 2018）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

地域食料論演習

「生産」「流通」「消費」から考える地域と食料

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：行動力

【授業のテーマ】

この授業では課題解決型授業の形式により、地域、食料、農業などが抱える課題と今後の方向性について各自が考え、自分の言葉で説明できるようになることを目的とします。授業は地域食料論を履修していることを前提として進めます。

【授業における到達目標】

- ①地域、食料、農業などが抱える課題と今後の方向性について「生産」「流通」「消費」の3つの視点から、自分の考えを論理的に説明できるようになる。
 - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける
- これにより、学生が習得すべき「協働力」「行動力」を身につけることを目的とします。

【授業の内容】

- 次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。
1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
 2. フィールドワーク①事前検討
 3. フィールドワーク①（地域関係）
 4. フィールドワーク①振り返り
 5. 企画検討
 6. 授業内発表
 7. プレゼンテーション（地域関係）
 8. プレゼンテーション振り返り
 9. フィールドワーク②事前検討
 10. フィールドワーク②（食関係）
 11. フィールドワーク②振り返り
 12. 企画検討
 13. 授業内発表
 14. プレゼンテーション（食関係）
 15. まとめ（これまでの授業の総括）
- ※フィールドワークの回は調査対象先の状況等によって前後する可能性があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自に必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは、プレゼンテーションの次の回に行います。

【参考書】

課題に応じて、講師から適宜指示します。

【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

地域文化形成論

須賀 由紀子

2・3年 後期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

少子高齢化、急速な情報化の進展、都市型暮らしによるコミュニティの希薄化などが危惧される現代生活において、日常の暮らしが営まれる「ローカルな場」の価値が高まっています。その土地のよさに主体的に関わり、愛着を持って楽しむ暮らしは、人と自然、自分と他者、そして生産と消費を結び、サステナブルな関係性の自分を感じ取ることのできる、自立的な生き方の要となることでしょう。この授業では、こうした豊かな味わいある地域の暮らし、ローカルイズムに根ざした暮らしをデザインし、プロデュースしていくための力を身につけることを目的に学びをすすめます。

それぞれの地域には、その土地ならではの文化、歴史、自然、人的資源が内在しています。そうした地域の価値を発見することの意義やステークホルダーの存在に目をむけます。また、日本人が生来持つ美意識やデザイン力を資源として捉え、地域文化形成のプランニングのあり方を検討します。授業後半では、新たな地域文化を創造していくために、どのような関係性をデザインすればよいのか、具体的事例の中で検討し、地域文化形成の課題を自分自身の暮らしのテーマとして捉えていきます。

【授業における到達目標】

- ・現代のまちづくりに必要な考え方がわかる。
- ・それぞれの土地にある地域資源の価値を、どのようにとらえればよいかが説明できる。
- ・望まれるまちづくりの在り方を、描くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 スローライフの理念
- 第3週 「スローなまち」を構成するもの
- 第4週 地域文化政策の変遷
- 第5週 文化・芸術のまちづくり「創造都市」
- 第6週 「創造都市」の実際①内発性と外発性
- 第7週 「創造都市」の実際②アートという手だて
- 第8週 創造都市論の思想的背景
- 第9週 過疎をクリエイティブにする「創造農村」
- 第10週 生活文化でつなぐ都市と農村
- 第11週 地域文化形成の文脈～創造のまちづくりの視点～
- 第12週 地域資源のとらえ方
- 第13週 創造のまちを生むストーリーと関係性のデザイン
- 第14週 創造的地域づくりの課題
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、配布プリントをお渡しします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業内のアクティビティ）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

佐々木雅幸『創造都市への挑戦』（岩波書店）、佐々木雅幸編『創造農村』（学芸出版社）、萩原雅也『創造の場から創造のまちへ』（水曜社）、原研哉『日本のデザイン』（岩波書店）、法政大学エコ地域デザイン研究所編『水の郷 日野』（鹿島出版会）

地球と環境の科学

内山 政弘

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

人類の生産活動が招いた環境問題は複雑な過程を経て発生している。環境問題を科学的に理解するために必要な基礎知識を提供するとともに、その問題を解決するための考え方を提示する。

【授業における到達目標】

現在の環境問題を科学的に理解することにより、将来の新たな環境問題を把握する能力を涵養する。

【授業の内容】

- 第 1 週 環境科学とは
- 第 2 週 地球温暖化問題 (I) 基礎知識
- 第 3 週 地球温暖化問題 (II) モデル
- 第 4 週 科学とは
- 第 5 週 環境化学 (化学反応)
- 第 6 週 オゾン層 (I) 基礎知識
- 第 7 週 オゾン層 (I) オゾンホール
- 第 8 週 POPs (残留性有機化合物) とは
- 第 9 週 環境化学 (移流・拡散)
- 第 10 週 PM_{2.5} 問題とは
- 第 11 週 環境化学 (沈着)
- 第 12 週 重金属汚染 (水銀汚染)
- 第 13 週 放射性物質汚染 (福島第 1 原子力発電所)
- 第 14 週 リスクコミュニケーション
- 第 15 週 環境問題の国際的枠組み (生物多様性 etc.)

【事前・事後学修】

事前学修として、次回の講義のキーワードを提示しますので事前に調べておいて下さい (週 1 時間)

毎授業終了前に 10 分程度の小テストを行ないます。テスト中に気付いた不明な点などについて事後学修を行ない、自己解決できない場合は次回の授業で質問を行なってください。(週 3 時間)。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業毎の小テストを基本として判断する。授業内容の要約 70%、提示されたテーマについての文章 30% で判断する。さらに履修生の希望に応じて提出された感想文やレポートなどにより加点する。必要であれば補習を行う。提出された内容要約をもとに次回の講義でフィードバックを行なう。

地球と環境の科学

君塚 芳輝

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

河川や生きものの情報から地形や生きものとの関係を考え、自然を守り再生する筋道や理論を考えます。

【授業における到達目標】

日本の美しい自然と河川の構造を理解し、そこに住む生きものの生活を守り復元する知識と感性を身に付けることを目標にしています。

【授業の内容】

1. 授業の進め方と評価の方法の説明
2. 川の表情を理解する - 1 平瀬・早瀬・淵を見分ける
3. 川の表情を理解する - 2 早瀬を分ける
4. 川の表情を理解する - 2 淵を分ける
5. 川の表情を理解する - 3 上中下流を分ける
6. 川の表情を理解する - 4 ワンドは川の保育園
7. 川の表情を理解する - 5 残念な川づくり
8. 川の形を再生する努力 - 1 川を再び曲げてみる
9. 川の形を再生する努力 - 2 三面護岸を剥がす
10. 川の形を再生する努力 - 3 街中の川を再生する
11. 川の形を再生する努力 - 4 堤防から湧水を導き出す
12. 外来種と国内移殖種の問題 - 1 外来種を駆除する
13. 外来種と国内移殖種の問題 - 2 国内移殖種に悩む
14. 外来種と国内移殖種の問題 - 3 攪乱させない努力
15. まとめ

【事前・事後学修】

授業の前後にはそれぞれ 120 分以上の予習復習をしてください。プリントと前週のまとめがテキストになります。

【テキスト・教材】

特定の書籍は用いず、配布するプリントで授業を進めます。前週に休んだ方は事前に取りにきて下さい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

2 - 3 回程度のレポート (90%) と毎週書いて出すヒアリングシート (10%) で評価します。課外活動や展示会への参加は加点します。

【参考書】

章の末尾に参考文献を紹介します。

【注意事項】

周囲に迷惑となる私語は止めてください。厳しく注意します。

地理学

地域のとらえ方

竹林 和彦

1年～ 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解に基づく行動力をつけること」である。グローバル化が進む現代社会において、人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず地理学の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地理学の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、地域の課題解決のために主体的に行動する力を養う。

【授業における到達目標】

目標は、現代社会のさまざまな地理的事象に注目し、①それらの地理的な分布や規則性を考察することができること、②それらをまとまりがある地域としてとらえようとする地理的な見方や考え方を理解すること、③諸事象を人文地理学的に考察する意義や有効性を理解することである。最終的には、ある地域を選択し、景観（景観写真）を読み取り、さまざまな資料をもとに地表面にあらわれた諸事象を地図化して考察し、その地域社会を分析する技能を身につけ課題解決のために主体的に行動する力を養うことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 第2週 地理学と地図1（地図の利用と有効性）
- 第3週 地理学と地図2（主題図の作成と考察）
- 第4週 地理学における「地域」1（地域とは）
- 第5週 地理学における「地域」2（分析方法）
- 第6週 地理学における「地域」3（分析の発表）
- 第7週 地理学における「環境」1（環境とは）
- 第8週 地理学における「環境」2（分析方法）
- 第9週 地理学における「環境」3（分析の発表）
- 第10週 地理学における「景観」1（景観とは）
- 第11週 地理学における「景観」2（分析方法）
- 第12週 地理学における「景観」3（分析の発表1）
- 第13週 地理学における「景観」4（分析の発表2）
- 第14週 点（position）と面（site）から地域の特徴をとらえる
- 第15週 地域をとらえるということ

【事前・事後学修】

【事前学修】各自作成したレポートに基づいた発表があるので、必ず指示された課題はこなして授業に参加すること。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業で扱った内容、および他の学生が発表した内容をまとめ内容の理解に努めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

地図帳（高等学校用のものが使いやすい。中学のものでも可）テキストは特に指定はしないが、必要に応じプリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（80%）は半期に3～4回程度課す。それぞれのレポートごとに、①地理的な技法が習得できているか、②内容（の理解度）、③体裁などで評価する。授業中に行った議論をもとに、小レポートまたは感想など（20%）を課し、内容の理解度で評価する。なおプレゼンテーションやレポートにおいて、アドバイスをを行うので参考にすること。

【参考書】

講義内で適宜指示する。

【注意事項】

授業終了後に希望者がいればフィールドワークを行っている。今年度も「地域の環境と地場産業」をテーマに実施する予定である。

地理学概論

地域のとらえ方

竹林 和彦

1年 後期 2単位

◎：行動力

なおプレゼンテーションやレポートにおいて、アドバイスをを行うので各自参考にすること。

【参考書】

講義内で適宜指示する。

【注意事項】

授業終了後の夏季休業中に希望者がいればフィールドワークを行っている。今年度も「地域の環境と地場産業」をテーマに実施する予定である。

【授業のテーマ】

本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解に基づく行動力をつけること」である。

グローバル化が進む現代社会において、人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。

そこで、授業ではまず、地理学の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地理学の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、地域の課題解決のために主体的に行動する力を養う。

【授業における到達目標】

目標は、現代社会のさまざまな地理的事象に注目し、①それらの地理的な分布や規則性を考察することができること、②それらをまとまりがある地域としてとらえようとする地理的な見方や考え方を理解すること、③諸事象を人文地理学的に考察する意義や有効性を理解することである。

最終的には、ある地域を選択し、景観（景観写真）を読み取り、さまざまな資料をもとに地表面にあらわれた諸事象を地図化して考察し、その地域社会を分析する技能を身につけ課題解決のために主体的に行動する力を養うことを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 第2週 地理学と地図1（地図の利用と有効性）
- 第3週 地理学と地図2（主題図の作成と考察）
- 第4週 地理学における「地域」1（地域とは）
- 第5週 地理学における「地域」2（分析方法）
- 第6週 地理学における「地域」3（分析の発表）
- 第7週 地理学における「環境」1（環境とは）
- 第8週 地理学における「環境」2（分析方法）
- 第9週 地理学における「環境」3（分析の発表）
- 第10週 地理学における「景観」1（景観とは）
- 第11週 地理学における「景観」2（分析方法）
- 第12週 地理学における「景観」3（分析の発表1）
- 第13週 地理学における「景観」4（分析の発表2）
- 第14週 点（position）と面（site）から地域の特徴をとらえる
- 第15週 地域をとらえるということ

【事前・事後学修】

【事前学修】各自作成したレポートに基づいた発表があるので、必ず指示された課題はこなして授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った内容、および他の学生が発表した内容をまとめ内容の理解に努めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

地図帳（高等学校用のものが使いやすい。中学のものでも可）
テキストは特に指定はしないが、必要に応じプリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（80%）は半期に3～4回程度課す。
それぞれのレポートごとに、①地理的な技法が習得できているか、②内容（の理解度）、③体裁などで評価する。
授業中に行った議論をもとに、小レポートまたは感想など（20%）を課し、内容の理解度で評価する。

茶道 a

茶の湯という総合文化

谷村 玲子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

本講義では、一九〇六年に米国で出版された『茶の本』（岡倉覚三・<天心>著）を手掛かりに、日本の伝統文化である茶の湯という総合文化（茶道）を、身体技法（作法・点前）、茶道具、茶空間（茶庭・茶座敷）の三要素から考えていく。茶の湯で作法や点前の繰り返し稽古は、非常に深い思想性を持っている。また茶の湯に用いられる工芸品は、外国文化からの影響や自然に対する日本の美意識を知るよい例である。一方で茶道具の「銘」、「箱書」、「写し」からは、日本独自の複層的な芸術鑑賞の姿勢を知ることができる。

正式な茶会（茶事）で供される食事である懐石や、菓子を通じて、日本の食文化についても考えたいと思う。

茶道を嗜む学生もそして経験の無い学生も共に、本授業の茶の湯という総合的なテーマから、日本の文化全般に対して新しい視点を得て欲しいと思う。なお後期の茶道 b では、茶の湯の歴史的な変化や発展を考えることから、できれば前期の茶道 a と後期の茶道 b の両コースを通年で取ることを勧めたい。

【授業における到達目標】

日本の文化を様々な視点から、理解できるようになる。授業中にふれる西洋の茶文化、美術鑑賞、中国磁器と日本の陶器との比較等を通じて、国際的視野に立つて日本文化を考えられるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概観（茶の湯文化とは）
- 第2週 岡倉覚三著 「茶の本」を読む。（茶の湯の三要素）
- 第3週 植物学からみた茶（茶の原産地は）
- 第4週 西洋の茶文化と歴史（紅茶のマナーとは）
- 第5週 茶道具 1（炉と風炉、茶入と棗など）
- 第6週 茶道具 2（水指、茶筥・茶杓・柄杓など）
- 第7週 銘、箱書、写
- 第8週 自然と工芸 1（花、組み合わせ文様）
- 第9週 自然と工芸 2（吉祥文様 など）
- 第10週 日本文化が世界に与えた影響（ジャポニズム）
- 第11週 茶庭と茶室、（禅寺と茶庭、いけばなと茶花）
- 第12週 茶の湯と菓子
- 第13週 懐石の歴史
- 第14週 茶会（茶会にみる象徴 水・火・灰ほか）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題文献を読解。授業に備えて予習。次の授業の歴史的な背景を理解しておく。

事後学修（週2時間）：授業中に説明のあった用語や歴史を復習し、理解できるように努める。授業中に指摘された参考文献で、自分自身の知的興味を確認する。課題宿題を充実する。

【テキスト・教材】

教科書は使用せず、プリントを配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（クラス内での発表や小レポート、受講態度）。学期末レポートまたは学期末試験40%（どちらにするかは、授業中に学生と話し合いたいと思います）。

【参考書】

矢部良明『茶の湯の美術』東京美術 2002年
青木直己『和菓子の今昔』淡交社 2000年
その他図録など多数

【注意事項】

配布プリントを用意します。受講人数にもよりますが、前もって予告した内容での自主的な小発表を期待します。

茶道 a

茶の湯という総合文化

谷村 玲子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

本講義では、一九〇六年に米国で出版された『茶の本』（岡倉覚三・<天心>著）を手掛かりに、日本の伝統文化である茶の湯という総合文化（茶道）を、身体技法（作法・点前）、茶道具、茶空間（茶庭・茶座敷）の三要素から考えていく。茶の湯で作法や点前の繰り返し稽古は、非常に深い思想性を持っている。また茶の湯に用いられる工芸品は、外国文化からの影響や自然に対する日本の美意識を知るよい例である。一方で茶道具の「銘」、「箱書」、「写し」からは、日本独自の複層的な芸術鑑賞の姿勢を知ることができる。

正式な茶会（茶事）で供される食事である懐石や、菓子を通じて、日本の食文化についても考えたいと思う。

茶道を嗜む学生もそして経験の無い学生も共に、本授業の茶の湯という総合的なテーマから、日本の文化全般に対して新しい視点を得て欲しいと思う。なお後期の茶道 b では、茶の湯の歴史的な変化や発展を考えることから、できれば前期の茶道 a と後期の茶道 b の両コースを通年で取ることを勧めたい。

【授業における到達目標】

日本の文化を様々な視点から、理解できるようになる。授業中にふれる西洋の茶文化、美術鑑賞、中国磁器と日本の陶器との比較等を通じて、国際的視野に立つて日本文化を考えられるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概観（茶の湯文化とは）
- 第2週 岡倉覚三著「茶の本」を読む。（茶の湯の三要素）
- 第3週 植物学からみた茶（茶の原産地は）
- 第4週 西洋の茶文化と歴史（紅茶のマナーとは）
- 第5週 茶道具 1（炉と風炉、茶入と棗など）
- 第6週 茶道具 2（水指、茶筥・茶杓・柄杓など）
- 第7週 銘、箱書、写
- 第8週 自然と工芸 1（花、組み合わせ文様）
- 第9週 自然と工芸 2（吉祥文様 など）
- 第10週 日本文化が世界に与えた影響（ジャポニズム）
- 第11週 茶庭と茶室、（禅寺と茶庭、いけばなと茶花）
- 第12週 茶の湯と菓子
- 第13週 懐石の歴史
- 第14週 茶会（茶会にみる象徴 水・火・灰ほか）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題文献を読解。授業に備えて予習。次の授業の歴史的な背景を理解しておく。

事後学修（週2時間）：授業中に説明のあった用語や歴史を復習し、理解できるように努める。授業中に指摘された参考文献で、自分自身の知的興味を確認する。課題宿題を充実する。

【テキスト・教材】

教科書は使用せず、プリントを配布する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（クラス内での発表や小レポート、受講態度）。学期末レポートまたは学期末試験40%（どちらにするかは、授業中に学生と話し合いたいと思います）。

【参考書】

矢部良明『茶の湯の美術』東京美術 2002年
青木直己『和菓子の今昔』淡交社 2000年
その他図録など多数

【注意事項】

配布プリントを用意します。受講人数にもよりますが、前もって予告した内容での自主的な小発表を期待します。

茶道 b

茶の湯（茶道）の歴史

谷村 玲子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

茶は人を介して、中国から日本に伝来したと考えられる。中国から伝わった茶を飲むという行為は、長い時間を経て日本独自の伝統文化へと発展していった。

授業では茶の到来から現在に至るまでの茶の湯の歴史を、時系列順に追っていく。クラスの人数にもよるが、歴史的背景を説明した後に、茶の湯の基本的な翻刻文献資料をクラス内で読むことも計画している。またパワーポイントやDVDといった視覚資料も適宜用いることとし、各学生がより身近に歴史を感じ、生き生きとした時代イメージを持つことを希望する。

茶の湯文化は千利休の茶の湯で完成するのではなく、江戸時代二六〇年は、武家の茶の湯と千家の茶の湯の二つの茶の湯が存在した。授業では江戸時代の武家の思想を、茶の湯から考える。また女性の茶会参会の記録は、明治以前はほとんどない。しかし近年進み始めた女性の茶の湯史も講義の内容に加えこととする。

【授業における到達目標】

日本の茶の湯文化が外国からの影響を受けながら、独自の発展をしてきたことが理解できる。また文化史という視点から、より豊かに日本の歴史を知ることができる。

【授業の内容】

- 第1週 岡倉天心の三要素（なぜ『茶の本』は書かれたか？）
- 第2週 茶に関する世界最古の文献と日本最古の史料
- 第3週 鎌倉時代の茶の湯
- 第4週 室町時代の茶の湯 1（禅院の茶の湯と闘茶）
- 第5週 室町時代の茶の湯 2（冷え枯れる「心の文」）
- 第6週 堺と南蛮文化（南蛮人宣教師の記録）
- 第7週 戦国時代の茶の湯（信長・光秀・秀吉のもてなし）
- 第8週 利休の茶会（利休の茶の湯の変化）
- 第9週 利休の茶室（利休作とされる「待庵とは」）
- 第10週 利休の最後と利休後の茶の湯
- 第11週 江戸時代の茶の湯（武家の茶の湯と千家の茶の湯）
- 第12週 武家の茶の湯（大名茶と江戸城の茶）
- 第13週 女性の茶の湯（たしなみとしての茶）
- 第14週 明治以降の茶の湯
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題文献を前もって予習し、授業に備える。次の授業の歴史的背景を把握する。

事後学修（週2時間）：授業を自分のものとするべく、再度授業中に配布された史資料を読み返し、授業のテーマを理解する。指摘された参考文献で、自分自身の知的関心を確認する。そして次の授業に備える。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。また前もっての宿題もプリントで配ります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点30%（小レポート、受講態度）と最終試験70%で、総合評価したいと思います。

【参考書】

- 熊倉功夫 『茶の湯の歴史』朝日出版社、1990年
- 谷端昭夫 『日本史のなかの茶道』淡交社、2010年
- Varley & Kumakura, *Tea in Japan*, University of Hawaii Press, 1989年

【注意事項】

必要に応じて前期aで講義した内容にも触れますが、できれば前期の茶道aから通年でこの授業を取った方が内容を理解しやすいと思います。

茶道 b

茶の湯（茶道）の歴史

谷村 玲子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

茶は人を介して、中国から日本に伝来したと考えられる。中国から伝わった茶を飲むという行為は、長い時間を経て日本独自の伝統文化へと発展していった。

授業では茶の到来から現在に至るまでの茶の湯の歴史を、時系列順に追っていく。クラスの人数にもよるが、歴史的背景を説明した後に、茶の湯の基本的な翻刻文献資料をクラス内で読むことも計画している。またパワーポイントやDVDといった視覚資料も適宜用いることとし、各学生がより身近に歴史を感じ、生き生きとした時代イメージを持つことを希望する。

茶の湯文化は千利休の茶の湯で完成するのではなく、江戸時代二六〇年は、武家の茶の湯と千家の茶の湯の二つの茶の湯が存在した。授業では江戸時代の武家の思想を、茶の湯から考える。また女性の茶会参会の記録は、明治以前はほとんどない。しかし近年進み始めた女性の茶の湯史も講義の内容に加えこととする。

【授業における到達目標】

日本の茶の湯文化が外国からの影響を受けながら、独自の発展をしてきたことが理解できる。また文化史という視点から、より豊かに日本の歴史を知ることができる。

【授業の内容】

- 第1週 岡倉天心の三要素（なぜ『茶の本』は書かれたか？）
- 第2週 茶に関する世界最古の文献と日本最古の史料
- 第3週 鎌倉時代の茶の湯
- 第4週 室町時代の茶の湯 1（禅院の茶の湯と闘茶）
- 第5週 室町時代の茶の湯 2（冷え枯れる「心の文」）
- 第6週 堺と南蛮文化（南蛮人宣教師の記録）
- 第7週 戦国時代の茶の湯（信長・光秀・秀吉のもてなし）
- 第8週 利休の茶会（利休の茶の湯の変化）
- 第9週 利休の茶室（利休作とされる「待庵とは」）
- 第10週 利休の最後と利休後の茶の湯
- 第11週 江戸時代の茶の湯（武家の茶の湯と千家の茶の湯）
- 第12週 武家の茶の湯（大名茶と江戸城の茶）
- 第13週 女性の茶の湯（たしなみとしての茶）
- 第14週 明治以降の茶の湯
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：課題文献を前もって予習し、授業に備える。次の授業の歴史的背景を把握する。

事後学修（週2時間）：授業を自分のものとするべく、再度授業中に配布された史資料を読み返し、授業のテーマを理解する。指摘された参考文献で、自分自身の知的関心を確認する。そして次の授業に備える。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。また前もっての宿題もプリントで配ります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点30%（小レポート、受講態度）と最終試験70%で、総合評価したいと思います。

【参考書】

- 熊倉功夫 『茶の湯の歴史』朝日出版社、1990年
- 谷端昭夫 『日本史のなかの茶道』淡交社、2010年
- Varley & Kumakura, *Tea in Japan*, University of Hawaii Press, 1989年

【注意事項】

必要に応じて前期aで講義した内容にも触れますが、できれば前期の茶道aから通年でこの授業を取った方が内容を理解しやすいと思います。

中古文学演習 A

『源氏物語』をひろげる

横井 孝

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

『源氏物語』は、成立以後さまざまなジャンルに大きく深い影響を残しました。その後の、特に文学作品に残された影響、受容の痕跡をつぶさに調べることによって、後発の作品の理解が深まります。

まず『源氏物語』とその後の文学の動向を俯瞰した上で、「源氏以後」の個々の作品、ジャンルの解明に迫ってゆきたいと思えます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』が文学のみならず、ひとつの文化現象としてさまざまな分野に影響を及ぼした点を理解し、その一つ一つの状況の意味するところを考究するようでありたいと思えます。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』研究方法の概観
- 第2週 紫式部時代の『源氏物語』
- 第3週 紫式部没後の『源氏物語』
- 第4週 平安後期の文学と『源氏物語』
- 第5週 平安後期の物語と『源氏物語』
- 第6週 藤原定家と『源氏物語』
- 第7週 中世評論と『源氏物語』
- 第8週 中世和歌と『源氏物語』
- 第9週 中世物語と『源氏物語』
- 第10週 室町期の『源氏物語』
- 第11週 江戸時代の『源氏物語』
- 第12週 絵画と『源氏物語』
- 第13週 注釈と『源氏物語』
- 第14週 近代文学における『源氏物語』
- 第15週 現代語訳と『源氏物語』

【事前・事後学修】

第1週に講義全体の構想について説明します。第2週以降は、その都度、前回に参考文献を紹介しますので、それに眼を通し、不明の点、見解が異なって理解の及ばぬ点をまとめ、次回に発表する形式になります。

事前・事後にはそれぞれ2～4時間の学修を要するものと考えられます。それについては、学修内容を含め、相談に応じます。

【テキスト・教材】

固定的な教科書は使いません。必ずレジュメを用いて進めてゆきます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加35%・発表35%）70%・単位レポート30%

ごく少数の授業ですので、出席者全員のなかで、講義内容の理解チェックを図りたいと思えます。

【参考書】

発表内容等にあわせ、その都度指示します。

【注意事項】

関連する学術論文も併読します。授業前後にそれを読破しておく必要があります。

中古文学演習 B

『源氏物語』の諸相

横井 孝

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本の古典文学の中で『源氏物語』は最も有名な作品の一つです。作品そのものの質・量もその理由ですが、それが後代に受容されるにあたって、広範に拡大したことが挙げられます。さまざまなジャンルにその影響力が浸透したからです。その拡散した様相、諸相を探ることによって、『源氏物語』とは何であったのか、影響の及んだ文学や文化自体の存在解明につながるでしょう。

ここでは、そうした後代の諸相を通して『源氏物語』とは何であったか、「『源氏物語』という現象」を調べてゆきたいと思えます。

【授業における到達目標】

上記「『源氏物語』という現象」について理解し、自己の専門範囲に関連した範囲での見解をもつこと。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』の伝流・概観
- 第2週 『源氏物語』のテキスト
- 第3週 国宝『源氏物語絵巻』を読む
- 第4週 『源氏絵』というジャンル
- 第5週 奈良絵本と挿絵
- 第6週 『源氏物語』という文化
- 第7週 中世の展開（和歌）
- 第8週 中世の展開（演劇）
- 第9週 追体験としての『源氏物語』
- 第10週 『源氏物語』幻想
- 第11週 連歌師たちの『源氏物語』
- 第12週 古筆切の世界
- 第13週 茶道と古筆切と『源氏物語』
- 第14週 近代作家たちの『源氏物語』
- 第15週 現代作家たちの『源氏物語』

【事前・事後学修】

半期を通じて、講義全体の構想については第1週に説明します。第2週以降は、前回に必ず参考文献を紹介します。次回までにそれを読み、不明な点、不審な点をまとめて、次回に発表します。

院生であれば事後事前に各週2時間以上の学修時間を設けることは当然のことでしょう。

【テキスト・教材】

固定的なテキストは使いません。毎回レジュメを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加35%・提出課題35%）70%・単位レポート30%

ごく少数の講義ですから、理解の深度は自ずと知れます。到達目標を軽々と超えて考究するよう、出席者同士の切磋琢磨を促します。

【参考書】

授業の展開次第で、その都度紹介します。固定的な参考書は使いません。

【注意事項】

『源氏物語』そのものへの理解は当然として、それに影響を受けた後代の文学作品も同時に検討材料になります。両方を同時に検討する基礎知識を要します。

中古文学基礎演習 1

パソコンで学ぶ中古文学

山口 一樹

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、中古文学の研究に役立つパソコンのさまざまな基礎的な技能を身につけることを目標とします。具体的には、Wordを中心に使用したレポートやゼミ資料の作成方法を学んでいきます。

【授業における到達目標】

Wordのさまざまな機能を用いてレポート・発表資料を作成できるようになることが到達目標です。学生が取得すべき「美の探究」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Wordによる文書作成①Wordの基礎
- 第3週 Wordによる文書作成②文字入力の基本
- 第4週 Wordによる文書作成③文字の編集
- 第5週 Wordによる文書作成④文書のレイアウト
- 第6週 Wordによる文書作成⑤古文の入力
- 第7週 Wordによる文書作成⑥漢文の入力
- 第8週 Wordによる文書作成⑦図の作成
- 第9週 Wordによる文書作成⑧画像の挿入
- 第10週 Wordによる文書作成⑨表の作成
- 第11週 Wordによる文書作成⑩表の編集
- 第12週 Wordによる文書作成⑪レポート・論文のレイアウト
- 第13週 Wordによる文書作成⑫脚注・表紙のつけ方
- 第14週 Wordによる文書作成⑬ポスターの作成
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕小テストのための学習など（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕毎回の小課題の取り組み、授業内容の復習など（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）40%、小課題60%

小課題は次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。授業中に前回及びその回の授業内容に関する課題を出すことがあります。

【注意事項】

パソコン初心者向けの授業内容となっていますので、ゆっくりと授業を進めていくことになります。

授業の性格上、講師の方で詳しく前の授業内容を振り返るようなことはしませんので、遅刻・欠席は避けてください（原則として課題の再実施は行いません）。

中古文学基礎演習 1

『百人一首』を読む—平安・中世の和歌

山本 啓介

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『百人一首』は上代・中古・中世初期にかけての百人の歌人の一首の和歌が精選されたものです。和歌の歴史や歌人、そして和歌そのものを学ぶ入り口として適したもので、これまでの研究成果である注釈書も豊富に刊行されています。この授業では『百人一首』を受講生全員で分担して発表し、その精読を通じて和歌読解の基礎を修得します。

【授業における到達目標】

◎和歌全般についての知識を深める。

◎和歌読解の方法を修得し、調査・考察したことを発表する力をつける。

◎和歌に詠まれた美的世界への理解を深め、他者に伝える力をつける。

◎日本の文化と伝統についての理解を深め、世界にも発信しうる力をつける。

和歌の精読のために自ら疑問を発見する力と調査研究を行う力を養成し、発表と相互の議論を通じてともに考える力を養うことも目標の一つです。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 和歌史の概説
- 第2週 『百人一首』の概説
- 第3週 発表方法の解説（調査方法・資料作成方法等）
- 第4週 受講生の調査報告と研究発表（1～10番）
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表（11～20番）
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表（21～30番）
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表（31～40番）
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表（41～50番）
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表（51～60番）
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表（61～70番）
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表（71～80番）
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表（81～90番）
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表（91～100番）
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表担当者は対象となる和歌について調査し、発表の準備を終えておきます。その他の学生は発表対象の和歌について、複数の注釈書を比較して読み、疑問点を整理し、質問ができるようにしておいてください（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で学んだ和歌や歌人について、各自で復習を行い、さらに理解を深めてください（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

鈴木日出男：百人一首[ちくま文庫、1990、¥734(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表(作成資料・発表の内容)50%、質疑応答(議論への参加度・内容)30%、レポート20%で評価します。発表と質疑について授業内でフィードバックします。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

演習の発表方法や対象については授業内で相談の上、変更する可能性があります。

中古文学基礎演習 2

パソコンで学ぶ中古文学

山口 一樹

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、中古文学の研究に役立つパソコンのさまざまな基礎的な技能を身につけることを目標としています。具体的には、ExcelやPowerPointを使用した資料の作成、データベースを用いたさまざまな検索方法などを学んでいきます。

【授業における到達目標】

ExcelやPowerPointを使用した資料の作成、データベースの使用ができるようになることが目標です。学生が取得すべき「美の探究」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・参考文献の検索①図書の検索
- 第2週 参考文献の検索②論文の検索
- 第3週 参考文献の検索③参考文献一覧の作成
- 第4週 データベースの使用①オンライン上のデータベース
- 第5週 データベースの使用②ジャパンナレッジ
- 第6週 データベースの使用③新編国歌大観
- 第7週 データベースの使用④データベース使用の実習
- 第8週 系図の作成
- 第9週 Excelによる資料作成①Excelの基礎
- 第10週 Excelによる資料作成②簡単な表の作成
- 第11週 Excelによる資料作成③簡単なグラフの作成
- 第12週 Excelによる資料作成④Excelによる参考文献一覧表
- 第13週 PowerPointによる資料作成①PowerPointの基礎
- 第14週 PowerPointによる資料作成②編集とレイアウト
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕小テストのための学習など

(学修時間 週1時間)

〔事後学修〕毎回の小課題の取り組み、授業内容の復習など。

(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度)40%、小課題60%。小課題のフィードバックは、次回授業に行います。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

パソコン初心者向けの授業となっていますので、ゆっくりと授業を進めていくことになります。授業の性格上、講師の方で詳しく前の授業内容を振り返るようなことはしませんので、遅刻・欠席は避けてください(原則として課題の再実施は行いません)。

中古文学基礎演習 2

『百人一首』を研究する一平安・中世の和歌

山本 啓介

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『百人一首』は上代・中古・中世初期にかけての百人の歌人の一首の和歌が精選されたものです。和歌の歴史や歌人、そして和歌そのものを学ぶ入り口として適したもので、これまでの研究成果である注釈書も豊富に刊行されていますが、未だ解決できていない多くの謎を残しています。この授業では『百人一首』について受講生各自がそれぞれの疑問点を見出し、受講生各自が設定したテーマでの発表と議論を行います。

【授業における到達目標】

- ◎和歌全般についての知識をさらに深める。
 - ◎和歌研究の基礎的な方法を修得した上で、疑問点について深く調査・考察し、発表する力をつける。
 - ◎和歌に詠まれた美的世界とその背景への理解をさらに深め、他者に伝える力をつける。
 - ◎日本の文化と伝統についての理解をさらに深め、世界にも発信しうる力をつける。
- 和歌の精読のために自ら疑問を発見する力と調査研究を行う力を養成し、発表と相互の議論を通じてともに考える力を養うことも目標の一つです。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 『百人一首』の概説
- 第2週 『百人一首』の研究史の概説
- 第3週 発表方法の解説(調査方法・資料作成方法等)
- 第4週 受講生の調査報告と研究発表(1~10番)
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表(11~20番)
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表(21~30番)
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表(31~40番)
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表(41~50番)
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表(51~60番)
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表(61~70番)
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表(71~80番)
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表(81~90番)
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表(91~100番)
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 発表担当者は対象となる和歌について調査し、発表の準備を終えておきます。その他の学生は発表対象の和歌について、複数の注釈書を比較して読み、疑問点を整理し、質問ができるようにしておいてください(学修時間 週2時間)。

事後学修 授業で学んだ和歌や歌人について、各自で復習を行い、さらに理解を深めてください(学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

鈴木日出男：百人一首[ちくま文庫、1990、¥734(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表(作成資料・発表の内容)50%、質疑応答(議論への参加度・内容)30%、レポート20%で評価します。発表と質疑について授業内でフィードバックします。

【参考書】

授業内で紹介します。

【注意事項】

演習の発表方法や対象については授業内で相談の上、変更する可能性があります。

中古文学史 a

『源氏物語』以前と『源氏物語』

横井 孝

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

ここでは8世紀末から11世紀までの、いわゆる平安時代を中心に扱います。特にこの時代が生み出した新しい文学ジャンル「物語」の歴史をたどってゆきます。

平安時代に入って、それまでの表意文字である漢字から「かな」という表音文字が発明されると、単なるストーリー展開から、人物の動き・心理が詳細に描けるようになります。と同時に文学作品も成長して、より深い世界が展開します。『竹取物語』から始まって、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』などを経て、もっとも巨大な『源氏物語』に至るまでの軌跡を追いかけてゆきます。

これらの物語は、「上代中古文学」という狭い範囲を超えて、日本の文学全体に大きな影響を残しています。それを分析することは、日本文学の根幹に触れることにもなるはずです。

【授業における到達目標】

日本文学のなかでも特に名高い作品の集中する時代。これらを読み解いてゆくことによって、日本文学の底流がどのようなものであったか、個々の作品を読み味わうとともに、大きく時代の流れを歴史をとおして分析してゆきます。

この授業を通して、文学の美の粋を究め、研究する能力、研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 「かな」が文学に果たした役割
- 第2週 「物語」というものの読み方『竹取物語』
- 第3週 「話型」を読み取る『竹取物語』
- 第4週 『伊勢物語』歌と話型の複合体
- 第5週 主人公はかならず試練に遭う『伊勢物語』
- 第6週 人事を描く物語『大和物語』
- 第7週 『大和物語』の人びと
- 第8週 「日記」の役割・『土佐日記』『蜻蛉日記』
- 第9週 『蜻蛉日記』と「古物語」の関係
- 第10週 長篇物語の模索『うつほ物語』
- 第11週 『うつほ物語』流離譚と音楽譚
- 第12週 「物語」と呼ばれた女性の日記
- 第13週 『源氏物語』を読むために
- 第14週 『源氏物語』は単純な恋愛ドラマではない
- 第15週 『源氏物語』に至る道

【事前・事後学修】

前週の講義資料を再読し、キーワードを確認しておくこと。さまざまなテクニカルターム（専門用語）が出てくるので、それを中心に復習することが必要です。週1.5時間程度の事前学修と、週2.5時間程度の事後学修が必要となります。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意する。固定的な教材を使いません。参考書などは講義のなかで指示し、説明します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課することとします。「平安時代の物語に関する問題点」が中心課題となります。講義中のキーワードなどを踏まえているか否かについても評価しますが、書式に限定があり、これを遵守して提出しなければならない。それらを100点満点に換算して評価します。講義中に詳しく説明します。

リアクション・ペーパー等によって、各時間の事後学修のための資とする。

【参考書】

講義中に指示します。固定的な参考書は用いません。

【注意事項】

単なるテクニカルタームを覚えるだけでなく、作品をどう読み味わって行くのか、その方法を探るようにしたい。さらに、文学の時代的な流れ、ジャンル自体の発生・成長もとらえてゆきたい。

中古文学史 a

『源氏物語』以前と『源氏物語』

横井 孝

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

ここでは8世紀末から11世紀までの、いわゆる平安時代を中心に扱います。特にこの時代が生み出した新しい文学ジャンル「物語」の歴史をたどってゆきます。

平安時代に入って、それまでの表意文字である漢字から「かな」という表音文字が発明されると、単なるストーリー展開から、人物の動き・心理が詳細に描けるようになります。と同時に文学作品も成長して、より深い世界が展開します。『竹取物語』から始まって、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』などを経て、もっとも巨大な『源氏物語』に至るまでの軌跡を追いかけてゆきます。

これらの物語は、「上代中古文学」という狭い範囲を超えて、日本の文学全体に大きな影響を残しています。それを分析することは、日本文学の根幹に触れることにもなるはずです。

【授業における到達目標】

日本文学のなかでも特に名高い作品の集中する時代。これらを読み解いてゆくことによって、日本文学の底流がどのようなものであったか、個々の作品を読み味わうとともに、大きく時代の流れを歴史をとおして分析してゆきます。

この授業を通して、文学の美の粋を究め、研究する能力、研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 「かな」が文学に果たした役割
- 第2週 「物語」というものの読み方『竹取物語』
- 第3週 「話型」を読み取る『竹取物語』
- 第4週 『伊勢物語』歌と話型の複合体
- 第5週 主人公はかならず試練に遭う『伊勢物語』
- 第6週 人事を描く物語『大和物語』
- 第7週 『大和物語』の人びと
- 第8週 「日記」の役割・『土佐日記』『蜻蛉日記』
- 第9週 『蜻蛉日記』と「古物語」の関係
- 第10週 長篇物語の模索『うつほ物語』
- 第11週 『うつほ物語』流離譚と音楽譚
- 第12週 「物語」と呼ばれた女性の日記
- 第13週 『源氏物語』を読むために
- 第14週 『源氏物語』は単純な恋愛ドラマではない
- 第15週 『源氏物語』に至る道

【事前・事後学修】

前週の講義資料を再読し、キーワードを確認しておくこと。さまざまなテクニカルターム（専門用語）が出てくるので、それを中心に復習することが必要です。週1.5時間程度の事前学修と、週2.5時間程度の事後学修が必要となります。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意する。固定的な教材を使いません。参考書などは講義のなかで指示し、説明します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課することとします。「平安時代の物語に関する問題点」が中心課題となります。講義中のキーワードなどを踏まえているか否かについても評価しますが、書式に限定があり、これを遵守して提出しなければならない。それらを100点満点に換算して評価します。講義中に詳しく説明します。

リアクション・ペーパー等によって、各時間の事後学修のための資とする。

【参考書】

講義中に指示します。固定的な参考書は用いません。

【注意事項】

単なるテクニカルタームを覚えるだけでなく、作品をどう読み味わって行くのか、その方法を探るようにしたい。さらに、文学の時代的な流れ、ジャンル自体の発生・成長もとらえてゆきたい。

中古文学史 b

『源氏物語』の世界

横井 孝

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

『源氏物語』は平安時代（8世紀～12世紀）の文学史の最高峰であると同時に、平安時代の文学のエッセンスがそこに込められています。『源氏物語』の全体像を追ってゆくとともに、この巨大な作品を形作る平安時代の文学をも読み取ってゆきます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』という、日本古代のなかで最も巨大で複雑な散文学を読み味わうことが出来るようにする。ただ、それだけではなく、それが日本文学全体のなかで、どのような役割を果たしているのか、古代の作品であるそれが、現代あるいは将来どのような意味があるのかを考えて行きます。

この講義をとおして、文学の美の粋の探究心を喚起し、研鑽する能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』はどのようにして長くなったのか
- 第2週 源氏をとりまく女性たち・桐と藤
- 第3週 源氏をとりまく女性たち・藤と紫
- 第4週 紫の上とは何か
- 第5週 物語主人公の宿命・貴種流離譚
- 第6週 栄花への階梯
- 第7週 大がかりな求婚譚「玉鬘十帖」と『竹取物語』
- 第8週 女三の宮・柏木事件
- 第9週 主人公の死
- 第10週 前編から後編へ
- 第11週 宇治のゆかりの物語
- 第12週 源氏物語は結局何を語ったのか
- 第13週 『源氏物語』とそれ以後の物語
- 第14週 『狭衣物語』
- 第15週 ひとりの女性の物語『夜の寝覚』

【事前・事後学修】

講義中にさまざまなテクニカルターム（専門用語）がキーワードとして提供されます。事後には、それを確認しながら、次回の講義の予告に沿って、さらに文献の紹介があります。その所在を検索・確認し、目を通しておく必要があります。

事前には週1.5時間、事後にも週2.5時間程度の学修を要するでしょう。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意します。固定的な参考書はもちいない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課する。「源氏物語と平安時代の物語作品」が中心課題になります。講義中のキーワードを踏まえているか否かも評価しますが、書式に限定があり、それを遵守して提出しなければなりません。それらを100点満点に換算して評価します。講義中にその説明を詳細にします。

各時間にリアクション・ペーパー等により、学修状況を把握し、補足等によって事後学修の資とする。

【参考書】

特に固定的な参考書はもちいません。参考書が必要な場合は、講義中にその都度指示します。

【注意事項】

重要な参考文献はほとんど本学の図書館にあります。その他、必要に応じて、国文学研究資料館・国会図書館などを利用して下さい。これら公共の図書館をどう使うかでスキルが向上します。

中古文学史 b

『源氏物語』の世界

横井 孝

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

『源氏物語』は平安時代（8世紀～12世紀）の文学史の最高峰であると同時に、平安時代の文学のエッセンスがそこに込められています。『源氏物語』の全体像を追ってゆくとともに、この巨大な作品を形作る平安時代の文学をも読み取ってゆきます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』という、日本古代のなかで最も巨大で複雑な散文学を読み味わうことが出来るようにする。ただ、それだけではなく、それが日本文学全体のなかで、どのような役割を果たしているのか、古代の作品であるそれが、現代あるいは将来どのような意味があるのかを考えて行きます。

この講義をとおして、文学の美の粋の探究心を喚起し、研鑽する能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』はどのようにして長くなったのか
- 第2週 源氏をとりまく女性たち・桐と藤
- 第3週 源氏をとりまく女性たち・藤と紫
- 第4週 紫の上とは何か
- 第5週 物語主人公の宿命・貴種流離譚
- 第6週 栄花への階梯
- 第7週 大がかりな求婚譚「玉鬘十帖」と『竹取物語』
- 第8週 女三の宮・柏木事件
- 第9週 主人公の死
- 第10週 前編から後編へ
- 第11週 宇治のゆかりの物語
- 第12週 源氏物語は結局何を語ったのか
- 第13週 『源氏物語』とそれ以後の物語
- 第14週 『狭衣物語』
- 第15週 ひとりの女性の物語『夜の寝覚』

【事前・事後学修】

講義中にさまざまなテクニカルターム（専門用語）がキーワードとして提供されます。事後には、それを確認しながら、次回の講義の予告に沿って、さらに文献の紹介があります。その所在を検索・確認し、目を通しておく必要があります。

事前には週1.5時間、事後にも週2.5時間程度の学修を要するでしょう。

【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意します。固定的な参考書はもちいない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課する。「源氏物語と平安時代の物語作品」が中心課題になります。講義中のキーワードを踏まえているか否かも評価しますが、書式に限定があり、それを遵守して提出しなければなりません。それらを100点満点に換算して評価します。講義中にその説明を詳細にします。

各時間にリアクション・ペーパー等により、学修状況を把握し、補足等によって事後学修の資とする。

【参考書】

特に固定的な参考書はもちいません。参考書が必要な場合は、講義中にその都度指示します。

【注意事項】

重要な参考文献はほとんど本学の図書館にあります。その他、必要に応じて、国文学研究資料館・国会図書館などを利用して下さい。これら公共の図書館をどう使うかでスキルが向上します。

中古文学特殊演習 A

『源氏物語』本文研究の可能性

横井 孝

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

『源氏物語』は成立して1000年以上経過しました。その間、作者の草稿はもとより、完成稿あるいはその直接の書写本すら失われています。その欠を補うために、現存のさまざまな資料をつかって、作者の執筆時に遡源する試みがなされています。

ここではそうした本文の研究を通して、『源氏物語』とは何か、『源氏物語』の本文を研究するということとはどのような意義があるのかを追究してゆきます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』本文というものにどのような問題点があるかを把握できるようにすること。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』本文研究・概観
- 第2週 『源氏物語』本文伝流史
- 第3週 紫式部時代の『源氏物語』写本のゆくえ
- 第4週 紫式部時代直後の『源氏物語』写本のゆくえ
- 第5週 国宝『源氏物語絵巻』詞書の本文
- 第6週 藤原定家の書写
- 第7週 定家本についての疑義
- 第8週 定家本の意義
- 第9週 河内学派とは何か
- 第10週 河内本の意義
- 第11週 現在の河内本
- 第12週 鎌倉期の写本
- 第13週 別本とは何か
- 第14週 別本の意義と再検討
- 第15週 現代における本文研究の可能性

【事前・事後学修】

第1週は事前の準備が出来ませんので、今後の授業の展開を説明します。第2週以降はそれぞれ課題を出し、その取り組み方について、その都度説明します。

後期課程の院生にとって、研究は生活そのものはず。したがって、講義に望むにあたって事前事後の学修時間は、各2時間などというものではないはず。

【テキスト・教材】

固定的なテキストは使いません。実践女子大学所蔵本の紙焼き写真などを用意します。それによって授業展開や課題を提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加40％・提出課題40％）80％・発表20％
上記の如く、後期課程の院生はすでに研究者です。指導者とともに研鑽しあい、啓発しあい、具体的に論文の形に結晶するよう促します。

【参考書】

授業ごとに資料を用意します。

【注意事項】

原本を紹介するので、テキストが読めることが必要。ひらがなが中心なので、難読の漢字の読解能力はさほど必要としない。

中古文学特殊演習 B

『源氏物語』本文の諸相

横井 孝

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

『源氏物語』は1000年前に成立して以後、さまざまに書写され、伝流してゆきました。書写という行為によって、作者のもたらした物語内容の情報が伝達されていったわけですが、本文は「伝言ゲーム」のようにさまざまな相貌を呈するようになってしまいました。

たとえばテキストの種類も、定家本・河内本・別本と現在では分類されているのですが、そのどれかが紫式部のもたらした原本に匹敵しうなのか、誰も結論づけることはできません。その混沌をきわめる本文の状況、そしてその可能性を見極めるためには、丹念にそれらテキストを読み解いてゆくしかありません。ここでは、そうした本文の諸相を読んでいきたいと思えます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』のテキスト読解からさらに先に進んで、その読解が作品全体の読みとどう関わるかを検討する。

【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』本文の現状
- 第2週 『源氏物語』本文研究の現状
- 第3週 『源氏物語』本文研究の方法・概観
- 第4週 定家本の成立と「青表紙本」
- 第5週 定家本の性質・位況
- 第6週 河内本の成立と河内学派
- 第7週 河内本の性質・位況
- 第8週 鎌倉期以前と以後の状況
- 第9週 鎌倉期の別本
- 第10週 室町期の別本
- 第11週 古筆切を読む（鎌倉初中期）
- 第12週 古筆切を読む（鎌倉期と南北朝期）
- 第13週 古筆切を読む（鎌倉期以降）
- 第14週 古筆切研究の可能性
- 第15週 本文研究とは何だったか

【事前・事後学修】

固定的なテキストは使いません。その都度レジュメ・紙焼き写真（あるいはそのコピー）を用意します。第1週は事前の準備が出来ないので、そこで提示したものを扱います。第2週以降は、提示した資料を次回までに検討することになります。後期課程においては、学修時間は前後4時間など、軽々と凌駕するはず。

【テキスト・教材】

上記のとりの資料を通して展開してゆきます。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加40％・提出課題40％）80％・授業内での発表20％

後期課程ともなれば、フィードバックを必要とする立場ではなく、すでに研究者として、講義担当者とともに研鑽しあい啓発しあって、論文という形で結晶するように促しあいたいものです。

【参考書】

その都度対象が異なっているため、固定的な参考書は使用しません。

【注意事項】

古筆切など、実際に資料そのものを読み込んでゆきます。ひらがななどの簡単なテキスト読解の力が必要です。

中国の思想 a

諸子百家を読む

大橋 義武

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

「中国の思想」を考える際、源として参照される最も重要なものに、春秋・戦国時代の「諸子百家」の思想がある。古代中国で花開いた思想は、その後今日に至るまで中国の内外の人々に影響を与えてきた。

この授業では、「諸子百家」の豊かな思想の中の、とくに人間観や世界観に関わる部分に触れながら、その意義について考える。

【授業における到達目標】

時代背景を学習し、「諸子百家」の文献を実際にも読むことを通じて、中国古代の歴史と思想について理解する。【美の探究・研鑽力】

またその上で、その歴史的役割や今日的意義について考察できるようにする。【国際的視野・研鑽力】

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス——「中国の思想」について
- 第2週 「諸子百家」と現代のわたしたち
- 第3週 「諸子百家」の時代
- 第4週 儒家とその思想（一）孔子
- 第5週 儒家とその思想（二）孟子と荀子
- 第6週 儒家とその思想（三）小結
- 第7週 墨家とその思想（一）墨子
- 第8週 墨家とその思想（二）小結
- 第9週 道家とその思想（一）老子
- 第10週 道家とその思想（二）荘子
- 第11週 道家とその思想（三）小結
- 第12週 法家とその思想（一）韓非子
- 第13週 法家とその思想（二）小結
- 第14週 その他の思想家たち
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕 配付される資料に基づき、授業に関わる事柄について調べておくこと。読書レポートに備えて文献を読むこと。（週2時間）

〔事後学修〕 授業で扱ったものに関わる文献を掘り下げて読み、テーマごとにリアクション・ペーパーを書くこと。読書レポートを書くこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%＋授業への取り組み（リアクション・ペーパー、受講姿勢）30%＋読書レポート20%により評価する。

リアクション・ペーパーに書かれた質問や意見について、適宜授業で取り上げ、フィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

中国語や漢文の知識・能力はとくに前提とはしませんが、さまざまな文章を読む意欲のある方、中国の歴史・思想・文化に関心のある方の受講を歓迎します。

なお、授業の進行は上のスケジュールのように予定していますが、受講者の問題関心等によっては一部変更することもありますので、予めご了承下さい。

中国の思想 b

思想の展開を学ぶ——朱子学・陽明学を中心に

大橋 義武

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

秦・漢以降も、中国の思想・哲学はさまざまに発達を遂げた。とりわけ国家権力との緊張関係、また外来宗教からの影響などによって思想の内実が深められていった過程は重要であり、知的な営みとしての思想の歴史は近現代にまで続くものとなっている。さらに付け加えれば、朝鮮や日本などへの中国の思想からの影響も見逃すことはできない。

この授業では、中国のなかで展開した思想について人間観・世界観に即して追い、その特質と意義について考える。また、日本などへ与えた影響という観点から特に朱子学や陽明学に注目し、関連する文献にも触れる。

【授業における到達目標】

複雑・豊富な中国思想史について整理し、それぞれの思想・哲学がどのような背景から生まれたのかを理解する。さらに、代表的な文献に実際に目を通すことで、中国の古今内外に影響を持った思想の内容を具体的に把握する。【美の探究・研鑽力】

その上で、「中国の思想」の展開の意義と今日的な意味について考察できるようにする。【国際的視野・研鑽力】

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 伝統思想と近現代——「中国の思想」とわたしたち
- 第3週 漢から唐まで（一）漢代の思想
- 第4週 漢から唐まで（二）六朝の思想
- 第5週 漢から唐まで（三）隋唐の思想
- 第6週 宋代の思想（一）朱子学の先駆者たち
- 第7週 宋代の思想（二）朱子（1）
- 第8週 宋代の思想（三）朱子（2）
- 第9週 宋代の思想（四）小結
- 第10週 明代の思想（一）王陽明（1）
- 第11週 明代の思想（二）王陽明（2）
- 第12週 明代の思想（三）陽明学の思想
- 第13週 明代の思想（四）小結
- 第14週 「中国の思想」と日本
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕 配付される資料に基づき、授業に関わる事柄について調べておくこと。読書レポートに備えて文献を読むこと。（週2時間）

〔事後学修〕 授業で扱ったものに関わる文献を掘り下げて読み、テーマごとにリアクション・ペーパーを書くこと。読書レポートを書くこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%＋授業への取り組み（リアクション・ペーパー、受講姿勢）30%＋読書レポート20%により評価する。

リアクション・ペーパーに書かれた質問や意見について、適宜授業で取り上げ、フィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

中国語や漢文の知識・能力はとくに前提とはしませんが、さまざまな文章を読む意欲のある方、中国の歴史・思想・文化に関心のある方の受講を歓迎します。

なお、授業の進行は上のスケジュールのように予定していますが、受講者の問題関心等によっては一部変更することもありますので、予めご了承下さい。

中国語 1 a

蔡 曉軍

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

初心者を対象に、中国語の基本を習得する。
発音と「四声」の理解
文法の相違点
短文の組み合わせ

【授業における到達目標】

前期の授業では、発音に重点を置きながら単語と短い言葉を自分で表現できるようにする。後期の授業では、文の組み合わせを理解し、正確に短文を作れるようになる。簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。学生が習得すべき「行動力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、ごく簡単な文と短い文章を理解できるように努力する。

【授業の内容】

第1回	中国語の基本	ピンイン、声調、基本母音、複合母音
第2回		子音、子音と母音との組み合わせ
第3回	発音	確認
第4回	第1課	文法 断定動詞「是」本文の説明
第5回	第2課	文法 動詞述語文 本文の説明
第6回	第3課	文法 指示代名詞など
第7回	第3課	本文と練習
第8回		確認 第1～3課
第9回	第4課	文法 所有を表す動詞「有」
第10回	第4課	本文と練習
第11回	第5課	文法 存在を表す動詞「有」
第12回	第5課	本文と練習
第13回	第6課	文法 居場所を表す動詞「在」
第14回	第6課	本文と練習
第15回		まとめ

【事前・事後学修】

1. 毎回の文法ポイントを事前に予習すること。
(学修時間 週に1時間)
2. 漢字(ピンインなし)を正確に読むこと。
3. 短い会話を自分で話すこと。
(学修時間 週に1時間)

【テキスト・教材】

喜多山 幸子など：はじめまして！中国語[白水社、2013、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テスト、試験のほかに、授業の態度などを総合的に評価します。
配分基準：授業態度30%、テスト70%。

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

中国語1bとセットで履修することが望ましい。
募集人数は40名です。

中国語 1 a

劉 素英

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

基礎発音を習得した上、簡単な会話勉強を通じて基礎的な文法を勉強する。毎回、文法ポイントの語彙や慣用句をしっかりと勉強し、会話練習をするほか、短文の読み書きなどの練習もする。それを通じて、中国語の日常的な表現を覚え、中国語の基礎力を身につける。

【授業における到達目標】

CEFRのレベルA1を目指す。具体的な語学の学習としては次のことを目指す。1. 中国語の発音文字ピンインを正しく読め、書ける。2. 簡単な日常会話を中国語で言える。3. 中国語1a1bを習得した段階で検定試験準4級以上の語学力を身につけるようにする。

目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、国際的視野を広げ国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

【授業の内容】

第1週	概説、声調(四声、轻声)、単母音、挨拶言葉、
第2週	子音、そり舌音、挨拶言葉
第3週	複合母音、鼻母音、挨拶言葉
第4週	発音知識の復習
第5週	自己紹介(本文とポイントの勉強)
第6週	自己紹介(会話・ポイントの復習と練習)
第7週	わたしの家族(本文とポイントの勉強)
第8週	わたしの家族(会話・ポイントの復習と練習)
第9週	あしたは土曜日(本文とポイントの勉強)
第10週	あしたは土曜日(会話・ポイントの復習と練習)
第11週	夏はとても暑い(本文とポイントの勉強)
第12週	夏はとても暑い(会話・ポイントの復習と練習)
第13週	夏休みの予定(本文とポイントの勉強)
第14週	夏休みの予定(会話・ポイントの復習と練習)
第15週	まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】これから習う授業内容を予習する。会話本文と新出単語を繰り返し清書した上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、会話本文を読み書きができるようにし、さらに暗記できるよう繰り返し練習する。課題もしっかり完成する。学修時間：週2時間以上。

【テキスト・教材】

王亜新他：学ぶ中国語[朝日出版社、2013、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点(授業に取り組む姿勢、課題の完成度、小テストの成績)などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を行います。

【参考書】

授業中指示する。

【注意事項】

中国語1aを履修した上で1bを取るのが望ましい。
受講人数制限40名(制限人数を超える場合、抽選)

中国語 1 b

蔡 曉軍

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

初心者を対象に、中国語の基本を習得する
発音と「四声」の理解
文法の相違点
短文の組み合わせ

【授業における到達目標】

前期の授業では、発音に重点を置きながら
単語と短い言葉を自分で表現できるようにする。
後期の授業では、文の組み合わせを理解し、
正確に短文を作れるようになる。
簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えら
れる。
学生が習得すべき「行動力」のうち、広い視野と深い洞察力を身に
つけることを目標とし、ごく簡単な文と短い文章を理解できるよう
に努力する。

【授業の内容】

第1回	第7課	文法	過去、完了などを表す「了」の用法
第2回	第7課		本文と練習
第3回	第8課	文法	連動文と前置詞の用法
第4回	第8課		本文と練習
第5回	第9課	文法	助動詞（可能など）
第6回	第9課		本文と練習
第7回			確認
第8回	第10課	文法	様態補語
第9回	第10課		本文と練習
第10回	第11課	文法	現在進行形
第11回	第11課		本文と練習
第12回	第12課	文法	結果補語
第13回	第12課		本文と練習
第14回	第1課－12課	文法	文法の確認
第15回			まとめ

【事前・事後学修】

1. 毎回の文法ポイントを事前に予習すること。
(学修時間 週に1時間)
2. 漢字（ピンインなし）を正確に読むこと。
3. 短い会話を自分で話すこと。
(学習時間 週に1時間)

【テキスト・教材】

喜多山 幸子など：はじめまして！中国語[白水社、2013、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、試験のほかに授業の態度などを総合的に評価します。
配分基準：授業態度30%、テスト70%

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行
う。

【注意事項】

中国語1 aとセットで履修することが望ましい。
募集人数は40名です。

中国語 1 b

劉 素英

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

中国語1aで習った中国語の基礎知識を踏まえて、日常会話と短文
の読み書きなどの練習をしながら、引き続き基礎文法を勉強する。
それを通じて中国語の日常的な表現を覚え、中国の基礎力を高め
る。

【授業における到達目標】

C E F R のレベルA 1を目指す。具体的な語学の学習としては次
のことを目指す。1. 中国語の表音文字ピンインを正しく読め、書け
る。2. 簡単な日常会話を中国語で言える。3. 中国語1a1bを習得した
段階で検定試験準4級以上の語学力を身につけるようにする。

目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「
研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得す
る。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随
時学ぶことができるので、国際的視野を広げ国際感覚を身につけ
て、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授
業環境を作る。

【授業の内容】

第1週	香港に行きました（本文とポイントの勉強）
第2週	香港に行きました（会話・ポイントの復習と練習）
第3週	家は学校に近い（本文とポイントの勉強）
第4週	家は学校に近い（会話・ポイントの復習と練習）
第5週	体の調子は悪い（本文とポイントの勉強）
第6週	体の調子は悪い（会話・ポイントの復習と練習）
第7週	卓球をする（本文とポイントの勉強）
第8週	卓球をする（会話・ポイントの復習と練習）
第9週	何をしていますか（本文とポイントの勉強）
第10週	何をしていますか（会話・ポイントの復習と練習）
第11週	中国語の先生（本文とポイントの勉強）
第12週	中国語の先生（会話・ポイントの復習と練習）
第13週	中国語を学ぶ（本文とポイントの勉強）
第14週	中国語を学ぶ（会話・ポイントの復習と練習）
第15週	まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】これから習う授業内容を予習する。会話本文と新出
単語を繰り返し清書した上、CDを聞きながら声を出して読む練習を
する。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、会
話本文の読み書きができるようにし、さらに暗記できるよう繰り返
し練習する。課題もしっかり完成する。学修時間：週2時間以上。

【テキスト・教材】

王亜新他：学ぶ中国語[朝日出版社、2013、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点（授業に取り組む姿勢、課題の完成度、
小テストの成績）などで総合評価します。配分基準：試験60%、平
常点40%。

テストや課題など実施後に正解を公表し、それに基づいて解説を
行います。

【参考書】

授業中指示する。

【注意事項】

中国語1aを履修した上で1bを取るののがぞましい。
受講人数制限40名（制限人数を超える場合、抽選を行う。）

中国語 2 a

2年目の中国語

中嶋 諒

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「中国語 1 a」「中国語 1 b」などで、1年間中国語を学んだ学生を対象とする授業です。すでに学習したであろうピンイン（中国語のローマ字表記）や発音の基礎、基本的な文法事項の復習も随時行っていきます。またその過程で、中国の歴史や文化、日本やアジア諸国との関係などについての紹介も行っていきます。ゆっくり丁寧に授業を進めていくつもりですので、これまでの学習に不安の残る学生も、ぜひ思い切って受講してみてください。

【授業における到達目標】

すでに初級で学修した内容をもとに、さらなる中国語の表現力と読解力を身につけつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

C E F R の A 2 レベルの到達を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 第一課（助動詞「可以」「要」）
- 第3週 第一課（主述述文）
- 第4週 第二課（「的」の用法）
- 第5週 第二課（原因・理由を表す構文）
- 第6週 第三課（連動文）
- 第7週 第三課（「是……的」の文）
- 第8週 第一～三課の復習
- 第9週 第四課（「了」の3つの用法）
- 第10週 第四課（副詞「就」「才」）
- 第11週 第五課（可能性の予測を表す「会」）
- 第12週 第五課（仮定を表す「要是」）
- 第13週 第六課（結果補語〈1〉）
- 第14週 第六課（副詞「有点儿」）
- 第15週 第四～六課の復習・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

尹景春・竹島毅：中国語 つぎへの一步[白水社、2010、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：20%
- 小テスト（単語テスト・確認テストなど）：30%
- 学期末テスト：50%

【フィードバック】

小テストは毎回添削して返却し、コメントとともにフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときに便利ですが、授業中には使用しません。大学図書館にあるもの（渋谷2F参考図書）を利用してもらっても構いません。

【注意事項】

中国語を1年以上学習していること（必ずしも私の授業である必要はありません）が履修の条件です。初めて中国語を学ぶ学生は、「中国語で学ぶ中国語」などを受講して下さい。募集人数は40名です。

中国語 2 a

蔡 晓軍

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

中国語初級を履修した学生を対象に、基本文法を応用し、長文の読解力を高める。

【授業における到達目標】

動詞文と形容詞文などの違いをはっきり区別できる。
中国語検定4級レベル相当な語彙と文型を暗記できる。
簡単な会話を交わし、また計画、習慣、学習など日常的なことをはっきり表現できる。
好きか嫌いかを述べることができる。
学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、常に語学力を高めて行く。

【授業の内容】

- 第1週 第1課 文法 完了表現「了」、仮定条件「要是」
- 第2週 第1課 本文と練習
- 第3週 第2課 文法 副詞「只」
- 第4週 第2課 本文と練習
- 第5週 第3課 文法 助動詞「会、能、可以」
- 第6週 第3課 本文と練習
- 第7週 確認（第1課から第3課まで）
- 第8週 第4課 文法 数量の疑問「多少」
- 第9週 第4課 本文と練習
- 第10週 第5課 文法 方向補語の用法
- 第11週 第5課 本文と練習
- 第12週 第6課 文法 使役表現
- 第13週 第6課 本文と練習
- 第14週 復習（第4課から第6課まで）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修は単語と文型を事前に予習すること
（学修時間 週に1時間）

事後学修は文法と単語を使い、短文を作ること
（学修時間 週に1時間）

【テキスト・教材】

大滝幸子/蔡 晓軍：中国語で読む楽しい四字成語[同学社、1997、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、テスト60%で評価します。

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

中国語 2 a

劉 素英

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。

【授業における到達目標】

CEFRのレベルA2を目指す。具体的には次のことを目指す。
1. 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つようにする。2. 初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを修得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。目的達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、国際的視野を広げ国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

【授業の内容】

第1週 第一課 自己紹介（内容の学習）
第2週 第一課 自己紹介（会話と練習）
第3週 第二課 私たちの大学（内容の学習）
第4週 第二課 私たちの大学（会話と練習）
第5週 第三課 私の家族（内容の学習）
第6週 第三課 私の家族（会話と練習）
第7週 第一、二、三課のまとめと復習
第8週 中国映画など映像資料の観賞
第9週 第四課 私の家は四国にある（内容の学習）
第10週 第四課 私の家は四国にある（会話と練習）
第11週 第五課 日曜日（内容の学習）
第12週 第五課 日曜日（会話と練習）
第13週 第六課 私の趣味（内容の学習）
第14週 第六課 私の趣味（会話と練習）
第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容を予習する。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、会話を暗記できるように練習する。さらに課題をしっかりと完成する。学修時間：週2時間以上。

【テキスト・教材】

王亜新他：学ぶ中国語[朝日出版社、2016、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点（授業に取り組む姿勢、課題の完成度、テストの成績）などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を行います。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

中国語2bも取るのが望ましい。

受講人数制限40名（制限人数を超える場合、抽選を行う）

中国語 2 b

2年目の中国語

中嶋 諒

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「中国語1 a」「中国語1 b」「中国語2 a」などで、中国語の基礎を学んだことのある学生を対象とする授業です。すでに学習したであろうピンイン（中国語のローマ字表記）や発音の基礎、基本的な文法事項の復習も随時行っていきます。またその過程で、中国の歴史や文化、日本やアジア諸国との関係などについての紹介も行っていきます。ゆっくり丁寧に授業を進めていくつもりですので、これまでの学習に不安の残る学生も、ぜひ思い切って受講してみてください。

【授業における到達目標】

これまで学修した内容をもとに、中国語の表現力と読解力に磨きをかけつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。CEFRのA2レベル到達を目指します。

【授業の内容】

第1週 はじめに
第2週 第七課（存現文）
第3週 第七課（「～了～了」の用法）
第4週 第八課（状態の持続を表す「着」）
第5週 第八課（疑問詞の不定用法）
第6週 第九課（方向補語）
第7週 第九課（使役を表す構文）
第8週 第七～九課の復習
第9週 第十課（可能補語）
第10週 第十課（強調表現）
第11週 第十一課（結果補語〈2〉）
第12週 第十一課（受身を表す構文）
第13週 第十二課（「快……了」の用法）
第14週 第十二課（「把」の構文）
第15週 第十～十二課の復習・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

尹景春・竹島毅：中国語 つぎへの一步[白水社、2010、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

平常点（授業中の発言・積極的な参加）：20%

小テスト（単語テスト・確認テストなど）：30%

学期末テスト：50%

【フィードバック】

小テストは毎回添削して返却し、コメントとともにフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにあとと便利ですが、授業中には使用しません。大学図書館にあるもの（渋谷2F参考図書）を利用してもらっても構いません。

【注意事項】

中国語を1年以上学習していること（必ずしも私の授業である必要はありません）が履修の条件です。学習歴が1年に満たない学生は、「中国語で学ぶ中国語」などを受講して下さい。

募集人数は40名です。

中国語 2 b

蔡 曉軍

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

中国語初級を履修した学生を対象に、基本文法を応用し復習し、長文の読解力を高める。

【授業における到達目標】

動詞文と形容詞文などの違いをはっきり区別できる。
中国語検定4級レベル相当な語彙と文型を暗記できる。
簡単な会話を交わし、また計画、習慣、学習など日常のことをはっきり表現できる。
好きか嫌いかを述べることができる。
学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、常に語学力を高めて行く。

【授業の内容】

第1週	第7課	文法 形容詞の比較文型
第2週	第7課	本文と練習
第3週	第8課	文法 状態補語7
第4週	第8課	本文と練習
第5週	第9課	文法 方向補語
第6週	第9課	本文と練習
第7週	確認	(第7課から第9課まで)
第8週	第10課	文法 前置詞の用法
第9週	第10課	本文と練習
第10週	第11課	文法 結果補語
第11週	第11課	本文と練習
第12週	第12課	文法 原因と理由
第13週	第12課	本文と練習
第14週	復習	(第10課から第12課まで)
第15週	まとめ	

【事前・事後学修】

事前学修は単語と文型を事前に予習すること
(学修時間 週に1時間)
事後学修は文法と単語を使い、短文を作ること
(学修時間 週に1時間)

【テキスト・教材】

大滝幸子/蔡 曉軍：中国語で読む楽しい四字成語12[同学社、1997、¥1,600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、平常点(授業への積極参加・提出課題)20%、テスト60%で評価します。
小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

募集人数は40名です。

中国語 2 b

劉 素英

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、今まで習得した中国語の基礎を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。

【授業における到達目標】

C E F RのレベルA2を目指す。具体的には次のことを目指す。
1. 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時(旅行、仕事など)に役に立つようにする。2. 初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを修得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、国際的視野を広げ国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

【授業の内容】

第1週	第七課	旅行(内容の学習)
第2週	第七課	旅行(会話と練習)
第3週	第八課	アルバイト(内容の学習)
第4週	第八課	アルバイト(会話と練習)
第5週	第九課	買い物(内容の学習)
第6週	第九課	買い物(会話と練習)
第7週	第七、八、九課	のまとめと復習
第8週	第十課	テレビを見る(内容の学習)
第9週	第十課	テレビを見る(会話と練習)
第10週	第十一課	携帯電話(内容の学習)
第11週	第十一課	携帯電話(会話と練習)
第12週	第十二課	留学(内容の学習)
第13週	第十二課	留学(会話と練習)
第14週	第十、十一、十二課	のまとめと復習
第15週	第七課から第十二課	までのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容を予習する。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。
【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、会話を暗記できるよう練習する。さらに課題をしっかりと完成する。学修時間：週2時間以上。

【テキスト・教材】

王亜新他：学ぶ中国語[朝日出版社、2016、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点(授業に取り組む姿勢、課題の完成度、テストの成績)などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。
テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を解説を行います。

【参考書】

授業中指示する。

【注意事項】

受講人数制限40名(制限人数を超える場合、抽選を行う)

中国語で学ぶ中国語 a

中嶋 諒

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

これまで中国語を学んだことのない学生を対象とする中国語入門の授業です。発音練習や聞き取り、ピンイン（中国語のローマ字表記）の学習を軸に授業を進めていきます。また随時、中国語のあいさつや常套表現の練習を行い、まずは中国語に慣れ親しむことを目指します。

なお授業は基本的に中国語で行う予定ですが、必要最低限の単語、表現を用いるのみですので、とにかく安心して受講してください。履修者は中国語初心者ばかりのほうですので、それほど難しいことはやりません。「中国に旅行に行ってみたい」、「中国人と会話してみたい」といった学生の履修を待っています。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CEFRのA1レベルの到達を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに、発音のしくみ（声調）
- 第2週 発音のしくみ（単母音、複母音）
- 第3週 発音のしくみ（子音、声調の変化）
- 第4週 第1課（人称代名詞、「是」を使った文）
- 第5週 第1課・第2課（基本的な疑問文）
- 第6週 第2課（動詞述語文）
- 第7週 第3課（指示代名詞）
- 第8週 第3課・第4課（「有」を使った文）
- 第9週 第4課（数詞）
- 第10週 復習1（第1～4課の復習）
- 第11週 第5課（場所を表わす代名詞）
- 第12週 第5課（いろいろな副詞）
- 第13週 第6課（「在」を使った文）
- 第14週 第6課（動詞の重ね型）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書のドリルや小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語の確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

喜多山幸子・鄭幸枝：はじめまして！中国語[白水社、2009、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：30%
- 小テスト（発音テスト・会話テストなど）：30%
- 学期末テスト：40%

【フィードバック】

発音テスト・会話テストは毎回コメントをすることでフィードバックする。学年末テストの解答はmanabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにありと便利ですが、授業中には使用しません。電子辞書版もあります。

【注意事項】

この授業は、中国語初心者のための授業です。中国語のネイティブや帰国子女、留学経験者を対象としたものではありません。

募集人数は40名です。

中国語で学ぶ中国語 b

中嶋 諒

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「中国語で学ぶ中国語 a」などで中国語を学んできた学生を対象とする中国語入門の授業です。発音練習や聞き取り、ピンイン（中国語のローマ字表記）の学習を軸に授業を進めていきます。また随時、中国語のあいさつや常套表現の練習を行い、簡単な中国語で、自分の言いたいことが伝えられるようになることを目指します。

なお授業は基本的に全て中国語で行いますが、必要最低限の単語、表現を用いるのみですので、とにかく安心して受講してください。履修者は中国語初心者ばかりのほうですので、それほど難しいことはやりません。「中国に旅行に行ってみたい」、「中国に留学してみたい」といった学生の履修を待っています。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CEFRのA1レベルの到達を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 前期の復習、第7課（量詞）
- 第2週 第7課（実現・完了を表わす「了」）
- 第3週 第8課（連動文）
- 第4週 第8課（時刻の言い方）
- 第5週 復習2（第5～8課の復習）
- 第6週 第9課（助動詞「会」と「能」）
- 第7週 第9課（主述述語文）
- 第8週 第10課（様態補語）
- 第9週 第10課（比較を表わす「比」）
- 第10週 第11課（進行を表わす「在」）
- 第11週 第11課（方向補語）
- 第12週 第12課（「是……的」の文）
- 第13週 第12課（結果補語）
- 第14週 復習3（第9～12課の復習）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書のドリルや小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語の確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

喜多山幸子・鄭幸枝：はじめまして！中国語[白水社、2009、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：30%
- 小テスト（発音テスト・会話テストなど）：30%
- 学期末テスト：40%

【フィードバック】

発音テスト・会話テストは毎回コメントをすることでフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにありと便利ですが、授業中には使用しません。電子辞書版もあります。

【注意事項】

この授業は、中国語初心者のための授業です。中国語のネイティブや帰国子女、留学経験者を対象としたものではありません。

募集人数は40名です。

中国語コミュニケーション I A

中嶋 諒・董 燕

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

これまで中国語を学んだことのない学生を対象とする、中国語入門の授業です。この授業では、まずは中国語の発音の基礎となるピンインを習得し、その上で簡単な日常会話（50句程度）をマスターすることを目標とします。

履修者はみな中国語の初心者ばかりですから、授業はゆっくり丁寧に進めていきます。中国語や中国文化に少しでも興味があれば、ぜひ思い切って受講してみてください。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行っていきます。

文法事項の確認や教科書本文の講読のみならず、基本文型の暗唱や会話文の実演などを繰り返し、学習内容を身体で覚えていくことを目指します。

- 第1週 はじめに・中国語と中国事情
- 第2週 ピンインの読み方（声調・母音）
- 第3週 ピンインの読み方（-nと-ng）
- 第4週 ピンインの読み方（子音）
- 第5週 ピンインの読み方（舌面音とそり舌音）
- 第6週 基本語順・人称代詞
- 第7週 否定文と疑問文
- 第8週 形容詞述語文・主述述語文
- 第9週 名前の聞き方・答え方
- 第10週 二重目的語・選択疑問文
- 第11週 “多少”と“几”・指示代詞
- 第12週 所有・存在を表わす“有”
- 第13週 助動詞“可以”・量詞
- 第14週 動詞の重ね型・動詞と前置詞の“在”
- 第15週 総合復習・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

董燕 遠藤光暁：理香と王麗 話す中国語1〔朝日出版社、2004、¥2,700(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

後期の「中国語コミュニケーション I B」とセットで履修すると、より理解が深まります。

中国語コミュニケーション I B

中嶋 諒・董 燕

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーション I A」などで半年間中国語を学んだ学生を対象とする、中国語入門の授業です。

具体的には、常用会話文（50句程度）をマスターすると同時に、やや複雑な表現を学んでいきます。また発音の確認、矯正も随時行っていくしますので、前期の学習に不安の残る学生の履修も歓迎します。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行っていきます。

さらに中国語の独得な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・年齢の言い方
- 第2週 助動詞“会”と“能”
- 第3週 助動詞“想”・数詞述語文
- 第4週 曜日と時刻の言い方・時間詞
- 第5週 助動詞“要”と“不用”
- 第6週 禁止を表わす“不要”と“別”
- 第7週 比較の言い方・“一点儿”と“有点儿”
- 第8週 年月日の言い方・お金の言い方
- 第9週 時点と時間量・動量詞
- 第10週 連動文・進行を表わす“在”
- 第11週 完了の“了”と変化の“了”
- 第12週 未来を表わす“要”や“快要～了”
- 第13週 “更”と“最”・“可能”
- 第14週 仮定・「～するはず」を表わす“会”
- 第15週 総合復習・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

董燕 遠藤光暁：理香と王麗 話す中国語2〔朝日出版社、2004、¥2,700(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

前期の「中国語コミュニケーション I A」とセットで履修すると、より理解が深まります。

中国語コミュニケーションⅡA

中嶋 諒・董 燕

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB」などで一年間中国語を学んだ学生を対象とする、中国語の授業です。これまでに学習してきた初級文法の再確認をしながら、発音とリスニングの強化を行い、さらにこまやかな中国語力を身につけることを目標とします。

具体的には、新たな会話表現（50句程度）をマスターすると同時に、論理的、抽象的な語彙を増やし、より複雑な表現ができるようにしていきます。

【授業における到達目標】

中国語を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

「中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB」と同様に、週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行います。

さらに中国語の独特な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・存現文
- 第2週 同一・類似を表わす表現
- 第3週 強調を表わす“是”・逆接の文
- 第4週 “着”の用法・“在+動詞”との違い
- 第5週 結果補語・“再”の用法
- 第6週 数量補語・程度補語
- 第7週 方向補語・“別～了”の文
- 第8週 “把”を使った文・“是～的”の文
- 第9週 可能補語・可能を表わす助動詞との違い
- 第10週 使役・“祝～”の文
- 第11週 受身・後置修飾語
- 第12週 疑問詞+“都”・同一の疑問詞の呼称
- 第13週 様態補語・“～多了”の文
- 第14週 さまざまな表現
- 第15週 総合復習・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

董燕・遠藤光暁著『理香と王麗 話す中国語2』（朝日出版社、2004年4月、2,916円）

*その他 適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

後期の「中国語コミュニケーションⅡB」とセットで履修すると、より理解が深まります。

中国語コミュニケーションⅡB

中嶋 諒・董 燕

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーションⅡA」などで、基礎を習得した学生を対象とする中国語の授業です。これまでに学んできた知識を整理した上で、中国語検定試験を視野に入れて、リスニング力の向上と文法事項の定着を目標とします。

ややハードな内容となりますが、無理なく着実に中国語能力が身につくよう、メリハリのある授業を行っていきます。また受講者の要望に応じて、中国語検定の対策も実施する予定です。

【授業における到達目標】

中国語を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行います。

さらに中国語の独特な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・基礎文法の整理
- 第2週 長文（中国の文化について）の精読
- 第3週 長文（中国の文化について）のまとめと問題演習
- 第4週 長文（中国の社会について）の精読
- 第5週 長文（中国の社会について）のまとめと問題演習
- 第6週 中国語検定試験の対策（中検）
- 第7週 長文（中国の歴史について）の精読
- 第8週 長文（中国の歴史について）のまとめと問題演習
- 第9週 長文（中国の政治について）の精読
- 第10週 長文（中国の政治について）のまとめと問題演習
- 第11週 中国語検定試験の対策（HSK）
- 第12週 長文（中国の時事について）の精読
- 第13週 長文（中国の時事について）のまとめと問題演習
- 第14週 リスニングの対策と問題演習
- 第15週 総合復習・全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【注意事項】

前期の「中国語コミュニケーションⅡA」とセットで履修すると、より理解が深まります。

中国美術史演習 a

作品をよりよく見ることと特徴を語ること

宮崎 法子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

今ではほとんどなじみのない中国絵画ですが、思いがけない魅力的な世界があります。その繊細で強靱な造形を、展覧会見学や原寸大の精巧な複製によって鑑賞し、比較して分析することを通じて、作品の特徴や印象を、作品の表現に即して語れるように訓練をします。また、複製を使い作品の取り扱い方や展示法も身につけます。

【授業における到達目標】

中国絵画に親しむ。
様式的特徴を把握し、言葉で描写する力を身につける。
作品や作者、主題について自分で調べ、また考える方法を学ぶ。それらを統合して資料を作成し、画像を使って分かりやすく発表する力をつける。作品の取り扱い方や展示方法を学ぶ。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション 最近の展覧会評など
第2週 作品の扱い方について
第3週 作品を語る 1 中国画と日本画
第4週 作品を語る 2 時代による差異
第5週 作品を語る 3 文人画と宮廷絵画
第6週 作品を語る 4 画家の個性を言葉にする
第7週 作品を語る 5 絵画を語る語彙
第8週 作品を語る 6 作品の魅力を言葉にする
第9週 展覧会などの見学の準備
第10週 見学授業（日時などは別に指定）
第11週 見学後の発表 第1グループの学生
第12週 見学後の発表 第2グループの学生
第13週 香雪記念館の展示実習
第14週 香雪記念資料館展示の作品解説を行う
第15週 総括とレポートについての指導

【事前・事後学修】

事前に、これまでに履修した中国美術史入門abの内容を復習し理解しておくこと。関連する展覧会や東博東洋館の平常展などを見学し作品に触れる機会を増やすよう努力すること。
授業ごとに、その内容や授業内での発言やコメント、自身の意見をまとめ、報告書としてマナバを使って提出する。
学修時間、事前事後、各週2時間ずつ。

【テキスト・教材】

マナバ等を通じて、必要な資料や画像は配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な関わりや発言、毎回授業後に提出するまとめと感想、発表や作品解説）30%と、その成果としての期末レポート70%。
提出物やレポートはコメントを付けて、授業内やマナバを使って返却フィードバックする。

【参考書】

①『世界美術大全集 東洋編5～8』（小学館）
②宮崎法子『花鳥・山水を読み解く－中国絵画の意味』（角川学芸叢書2003年か、2018年刊のちくま学芸文庫版）。
テーマごとの関係論文などについては、必要に応じて授業中に示します。

【注意事項】

授業では、積極的に発言することが求められる。素朴な感想が本質をとらえていることも多いので、気軽に語り合えるようにしたい。

中国美術史演習 b

作品の見方を深め、人に伝える力を養う

宮崎 法子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

自らの関心に沿った作品を取り上げ、その特徴をより深くとらえ、人に伝えることを学びます。それは、美術史に共通する卒業論文執筆に向けての基礎作業となります。また、短い論文の講読を行い、問題の立て方、分析方法、資料の使い方、絵画をどのように描写するかを学ぶとともに、見学授業を行い、実作品がもつ力を実感する機会をもちます。また、香雪記念資料館の中国美術史入門展の展示作業を共同で行います。

【授業における到達目標】

作品の特徴を比較を通じて的確に把握する。関連資料を調べてそれらをまとめ、配付資料とパワーポイントを作成し発表することが出来る。その内容を文章として分かりやすく表現する。他の学生の発表を聞いて、コメントする力をつける。作品の扱い方と展示作業の基本を身につける。

【授業の内容】

第1週 前期のレポートの講評。授業の進め方、見学について。
第2週 興味ある作品を挙げ、話し合う。発表の順番を決定。
第3週 関連論文の講読 1 論文の構成を学ぶ
第4週 関連論文の講読 2 絵を表す言葉を学ぶ
第5週 関連論文の講読 3 資料の使い方を学ぶ
第6週 各自のテーマについて順次発表、互いにコメントする
第7週 各自のテーマについて順次発表し、互いにコメントする
第8週 見学授業
第9週 見学をふまえて発表 第1グループの学生
第10週 見学をふまえて発表 第2グループの学生
第11週 見学をふまえて発表 第3グループの学生
第12週 学内複製展の展示作業の実習
第13週 学内展覧会の総評と作品を前にした説明の練習
第14週 4年ゼミ生による卒論についての発表と質疑応答
第15週 補足とまとめ

研修旅行として、国内（関西方面）或いは台北故宮など海外の見学旅行を行う予定である（行き先は展覧会と学生の希望などを勘案して決定する）。

【事前・事後学修】

夏季休暇中に関連する展覧会がある場合は、各自見学すること。学期中も、見学授業以外でも東博東洋館などの見学を行うこと。
演習ではプレゼンテーションの準備と事後の見直しが最も重要である。発表者以外も、各回担当者を決め、発表内容についての報告書を作成提出する。事前事後学修時間、各週2時間程度。

【テキスト・教材】

関連の資料などは、マナバで配布する。また、発表の準備に必要な資料については、個別に指導する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業での積極的な発言、毎回のまとめと感想の提出。発表とディスカッション、報告者としての報告書）30%、それらの成果としての期末レポート（発表内容を深めたもの）70%。
提出物やレポートはコメントを付して返却し、授業中やマナバなどでも言及フィードバックを行う。

【参考書】

①宮崎法子『花鳥・山水を読み解く－中国絵画の意味』（角川学芸叢書2003年か、2018年刊のちくま学芸文庫版）。
②『世界美術大全集 東洋編』（北宋・南宋・元・明）小学館。
他、各自のテーマに沿った参考文献は個別に指導する。

【注意事項】

連絡は主にマナバを利用するので必ずチェックすること。

中国美術史特講 c

中国花鳥画の世界——祝祭の花鳥画と文人の花卉図

官崎 法子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

中国絵画史において花鳥画は重要な位置を占めてきました。祝祭の場を飾る華やかな花鳥画から、身近な植物や小動物、野菜や果物など多様な画題が、好ましい意味を担いながら、身近な暮らしを彩るとともに、さらに文人精神の象徴としても描き継がれてきました。授業では、そのような中国花鳥画について、時代や社会の変化と関連づけて学び、中国花鳥画に託された意味とその造型的特徴を、代表的な作品によって把握します。

【授業における到達目標】

花鳥画作品が生み出された背景や、主題モチーフの意味を知る。時代や制作の目的による主題の選択や様式的特徴の変化を把握する。作品の比較を通じ、美術史的な作品分析法を理解する。中国花鳥画の全体の流れを把握する。

【授業の内容】

1. 花鳥画の成立 主題が伝える古代の記憶 唐から宋へ
2. 北宋宮廷（院体）の花鳥画 崔白と徽宗朝の花鳥画
3. 南宋宮廷（院体）の花鳥画 日本伝来の優品を中心に
4. 宋代民間の吉祥の花鳥図 蓮池水禽図、藻魚図、草虫図
5. 宋代文人の墨竹図・墨梅図とその広がり
6. 元 銭選の花卉図と陳琳・王淵の新しい花鳥画
7. 宋元明の墨梅図
8. 元～明の花鳥画 宮廷の花鳥画と民間の草虫図
9. 牧谿から沈周へ 写生花卉雑画の系譜
10. 呉派文人の彩色の花卉画
11. 写意花卉図の広がり 陳淳と徐渭
12. 女性画家の花卉図と草虫図
13. 明末清初の版画と陳洪綬の花鳥画
14. 八大山人、石涛の花卉図
15. 揚州派の墨梅と花鳥画

【事前・事後学修】

参考文献3の花鳥画についての記述に目を通しておくこと。また配布資料をあらかじめ読んでおくこと。重要な作品については参考文献1、2などの図版を見て作品解説を読んで確認してください。展覧会見学などを除き週4時間程度。

【テキスト・教材】

授業の資料をマナバなどで配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、平常点（授業内の提出物。関連する展覧会や香雪記念資料館の中国画複製展の感想など）が30%、問題を事前に示した上で行う授業内試験の結果を70%とする。

試験結果は日程的に可能であれば授業中に答案返却を行い解説する。返却できない場合は、マナバなどを通じフィードバックする。

【参考書】

1. 『世界美術大全集 東洋編』（6、7、8など）
2. 『故宮博物院 清の絵画』NHK出版
3. 官崎法子『花鳥・山水画を読み解く—中国絵画の意味』（ちくま学芸文庫版 2018年）

【注意事項】

オリジナルの内容であり、授業をよく聞いてその内容を理解する。期末試験は、授業中の説明に基づいた解答を求めます。

中国美術史特講 d

明代蘇州の画家たち 繁栄した都市の文化と芸術

官崎 法子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

中国の文人画とくに明代呉派の文人画は、中国文化の精華として中国美術の中心的存在であり、また幕末から近代にかけての日本美術にも大きな影響を与えたにもかかわらず、現在の日本ではなじみが無く理解もされにくい分野である。この授業では、明代随一の文化都市蘇州と、そこで活躍した沈周や文徵明、唐寅などの文人画家や職業画家仇英の作品を、画家の生涯や文人たちの交流と関連づけながら、時系列に沿ってじっくり鑑賞し、画風の展開や特色、影響関係を丹念に読み解いていく。

【授業における到達目標】

明代蘇州の洗練された都市文化とそこで生み出された絵画の魅力や特色を知る。そこで活躍した画家たちの様々な生き方と多様な個性と、その芸術作品の特徴を関連づけながら理解し、作品の特徴を言葉で表現する力を養う。

文人画の見方を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 元末四大家から呉派へ、都市の変貌と時代背景
- 第2週 蘇州の復興と文人文化
- 第3週 沈周 倣古と創作 初期の試み
- 第4週 沈周 自身と身辺への眼差し 山水世界
- 第5週 沈周 身近な生命への眼差し 花鳥
- 第6週 文徵明 生涯と芸術
- 第7週 文徵明 倣古と創造
- 第8週 文徵明 蘇州の風光を描く
- 第9週 文徵明 繊細と強靱
- 第10週 唐寅 早熟の才子
- 第11週 唐寅 挫折と創作
- 第12週 唐寅 文人と妓女を描く
- 第13週 仇英 超絶技巧と洗練
- 第14週 仇英 山水と人物の拮抗
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

中国美術史入門 a b の内容を絵画を中心に復習しておくこと。その際、指定図書『世界美術大全集 東洋編 8 明』所載の総論「明代の絵画」を読み、また授業の前後には、配布された授業用プリントや同書の作品解説を参照して、予習復習を行うこと。学修時間週4時間程度。関連する展覧会や東博東洋館の見学を行い、香雪記念館の中国美術展も積極的に活用すること。

【テキスト・教材】

マナバを通じて、授業で扱う作品などのデータ資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業後に提出するまとめと感想、関連する複製絵画の展示の見学やその感想文）と授業内容に基づいて論じる期末レポート（あるいは問題を事前に提示し、授業内容に即して答える試験）により総合的に評価する。平常点約30%、期末レポート約70%。その結果は、授業やマナバで発表し講評する。

【参考書】

- 官崎法子「明代の絵画」「作品解説」（『世界美術大全集 東洋編 8 明』小学館、2000年 所載）
官崎法子『花鳥・山水を読み解く—中国絵画の意味』（ちくま学芸文庫版）のうち「山水」部分。

【注意事項】

マナバによって資料配付や連絡を行うので、必ず確認すること。

中国美術史入門 a

古代から近世の美術…古代の造形から文人の水墨画まで

宮崎 法子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

現在の日本では中国の美術、特に絵画は、ほとんどなじみのないものです。しかし、中国の文化は、日本人にとって近代に至るまで常に憧れの的であり、その存在なしに日本の文化や美術は存在しえなかったといえます。この授業では、中国の古代から宋元時代までの人々の世界観や価値観を、時代を代表する文物や美術を通じて知り、造形芸術の特徴とそれがどのように変化してきたかを追います。

【授業における到達目標】

中国の各時代の人々の世界観と美術作品の関係を理解する。各時代の代表的作品を知り、中国美術の基本的な流れを把握する。日本美術への影響や係わりを知る。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション 中国文明の空間と時間
 第2週 先史から殷周 祭祀と祭器
 第3週 春秋戦国時代 百花齊放 様々な文化の競演
 第4週 秦・前漢 始皇帝と古代帝国の美術
 第5週 前漢・後漢 日常を映す出土品と漢文化の伝播
 第6週 古代美術のまとめ
 第7週 南北朝時代（北朝） 仏教伝来と異民族支配
 第8週 南北朝時代（南朝） 芸術としての書画のはじまり
 第9週 隋・唐 国際都市長安と華麗な貴族文化
 第10週 唐 唐の壁画墓と出土品 伝世品
 第11週 五代・北宋 新しい絵画 水墨山水画の発展
 第12週 北宋 宮廷美術と文人の文化
 第13週 南宋 宮廷絵画と文人画
 第14週 南宋 日本に伝わった宋元の絵画
 第15週 元 江南の文人画 個性の表出としての山水画

【事前・事後学修】

中国の歴代王朝名や主要河川や都市名を地図上で確認する。配付資料やマナバに上げる画像アルバムを活用し予習復習し、ノートを作成させること。香雪記念資料館で開催する中国美術入門展や東博の見学など、日頃から作品に触れる機会を作るよう努力すること。学修時間 事前・事後各週2時間。

【テキスト・教材】

マナバにあらかじめ上げる配付資料と画像が主な教材となる。他に、指定図書の世界解説などを各自自習に用いること。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末に定期試験を行う。途中小テストや課題提出を実施する。いずれも、授業中、あるいはマナバなどを使って解説、答え合わせを行う。平常点（出席状態・小テスト・提出物・複製展の感想など）30%、定期試験 70%。

【参考書】

- ①『世界美術大全集 東洋編』（1巻～7巻）小学館
- ②『国立故宮博物院と中国美術の至宝』洋泉社 2014年
- ③宮崎法子『花鳥・山水を読み解く—中国絵画の意味』の「ながい序文」（角川学芸叢書、2003年 または、ちくま学芸文庫版 2018年）

【注意事項】

授業はすべてオリジナルな内容であり、毎回新しい内容を扱います。授業に出席しそれを理解することが最も大切です。

中国美術史入門 b

元明清の美術 時代を生きる画家たちの多様な個性と創作

宮崎 法子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

前期で学んだ元代までの中国美術の流れを復習した上で、それを継承しつつ、時代の大きな変化のなかで、新たな展開をみせた美術について、宮廷画家と江南都市の個性的な文人画家の作品を中心に、時代を追って学びます。

【授業における到達目標】

明清時代の時代背景と、そのなかで活躍した代表的な画家やその作品について、特に中国絵画に特有の文人画について基本的な知識を得て、作品の特徴と時代との関係を理解する。

様式の継承と新たな展開という美術史の基礎を作品に即して把握する。

中国近世江南都市の文人文化が日本近世近代の文化に与えた影響を知る。

【授業の内容】

第1週 宋代までの絵画史の復習
 第2週 元の美術の補遺と元末から明初の美術
 第3週 明前期の美術 宮廷の画家と浙派
 第4週 蘇州の復興と文人画家 沈周 身辺への眼差し
 第5週 蘇州の画家たち 文徵明 江南の春
 第6週 蘇州の画家たち 唐寅 江南の風流才子
 第7週 蘇州の画家たち 仇英 細部に宿る神
 第8週 挫折と芸術 徐渭
 第9週 爛熟する都市文化と明末の奇想派
 第10週 正統派の復興 董其昌と南北二宗論
 第11週 王朝交替と正統の継承 清初六大家 四王呉惲
 第12週 亡国と芸術 清初江南都市の画家たち
 第13週 清の宮廷美術
 第14週 揚州の画家たちから清末へ
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前に中国美術史入門aの復習をする。マナバに開示する授業資料と画像アルバムにより予習復習を行うこと。また、展覧会や東博東洋館の展示を積極的に見学し、作品に触れる機会をつくる。香雪記念資料館の中国美術入門展を必ず見学し、授業内容の理解を深める。学修時間 週4時間程度。

【テキスト・教材】

前期と同様、授業の内容をまとめたオリジナル資料と参考画像を、マナバを通じて事前に配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（出席率・複製展の感想などを含む）20%、試験80%。試験のあとマナバなどを通じ、考え方や模範解答、成績結果について周知しフィードバックを行う。

【参考書】

- ①『世界美術大全集』（東洋編7元～8明）小学館
- ②宮崎法子構成執筆『故宮博物院 清の絵画』NHK出版 2000
- ③『国立故宮博物院と中国美術の至宝』洋泉社 2014年。
- ③宮崎法子『花鳥山水画を読み解く—中国画の意味』「第1部 山水」（角川学芸叢書 2003年 或いは、2018年刊の、ちくま学芸文庫版）

【注意事項】

授業はすべてオリジナルな内容で毎回新しい内容を扱います。授業に出席して理解することが最も重要です。

中国文学史 a

中国文学（漢詩）に親しもう

秋谷 幸治

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは中国文学というと、何を想起しますか。近代以前の中国においては、詩こそが文学の中心でした。教養人にとって作詩の能力は必要不可欠でした。

本講義は漢詩の歴史をたどりながら、中国文化の真髄を理解することを目的としています。前期の授業では先秦から六朝時代に至る作品を読みながら文学史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国文化を深く知り、「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 漢民族と異民族
- 第3週 北方と南方の文化の違い
- 第4週 文言と白話について（飾る言葉/飾らない言葉）
- 第5週 『詩経』『楚辞』（北方の歌謡/南方の歌謡）
- 第6週 項羽と劉邦（英雄たちの慷慨のうた）
- 第7週 楽府（たみくさの歌）
- 第8週 中国映画を見よう
- 第9週 曹操と建安の七子（三国志のヒーローたち）
- 第10週 竹林の七賢（隠者の文学）
- 第11週 陸機と潘岳（貴族文学のはじまり）
- 第12週 謝靈運と陶淵明（山水詩と田園詩）
- 第13週 『文選』と『玉台新詠』（貴族文学の爛熟）
- 第14週 民間の恋のうた
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

足立幸代編著/三上英司監修：気ままに漢詩キブン[ちくまプリマー新書、2014、¥850(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト70%（2回実施します）、平常点30%（受講態度）で総合評価します。小テストは、次週に採点の上返却し、解説します。

【参考書】

川合康三『漢詩のレッスン』（岩波ジュニア新書、2014）

川合康三編『新編 中国名詩選』（岩波文庫、2015）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあったら、遠慮なく質問に来てください。

中国文学史 a

中国文学（漢詩）に親しもう

秋谷 幸治

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは中国文学というと、何を想起しますか。近代以前の中国においては、詩こそが文学の中心でした。教養人にとって作詩の能力は必要不可欠でした。

本講義は漢詩の歴史をたどりながら、中国文化の真髄を理解することを目的としています。前期の授業では先秦から六朝時代に至る作品を読みながら文学史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国文化を深く知り、「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 漢民族と異民族
- 第3週 北方と南方の文化の違い
- 第4週 文言と白話について（飾る言葉/飾らない言葉）
- 第5週 『詩経』『楚辞』（北方の歌謡/南方の歌謡）
- 第6週 項羽と劉邦（英雄たちの慷慨のうた）
- 第7週 楽府（たみくさの歌）
- 第8週 中国映画を見よう
- 第9週 曹操と建安の七子（三国志のヒーローたち）
- 第10週 竹林の七賢（隠者の文学）
- 第11週 陸機と潘岳（貴族文学のはじまり）
- 第12週 謝靈運と陶淵明（山水詩と田園詩）
- 第13週 『文選』と『玉台新詠』（貴族文学の爛熟）
- 第14週 民間の恋のうた
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

足立幸代編著/三上英司監修：気ままに漢詩キブン[ちくまプリマー新書、2014、¥850(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト70%（2回実施します）、平常点30%（受講態度）で総合評価します。小テストは、次週に採点の上返却し、解説します。

【参考書】

川合康三『漢詩のレッスン』（岩波ジュニア新書、2014）

川合康三編『新編 中国名詩選』（岩波文庫、2015）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあったら、遠慮なく質問に来てください。

中国文学史 b

中国文学（漢詩）に親しもう

秋谷 幸治

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは中国文学というと、何を想起しますか。近代以前の中国においては、詩こそが文学の中心でした。教養人にとって作詩の能力は必要不可欠でした。

本講義は漢詩の歴史をたどりながら、中国文化の真髄を理解することを目的としています。後期の授業では唐代から清代に至る作品を読みながら文学史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国文化を深く知り、「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 先秦～六朝詩の流れ（復習）
- 第3週 初唐の四傑（近体詩の確立）
- 第4週 王昌齡と岑参（閨怨詩と辺塞詩）
- 第5週 王維と孟浩然（田園詩）
- 第6週 李白と杜甫（伝統の継承と革新）
- 第7週 白居易（政治諷刺の詩）
- 第8週 中国映画を見よう
- 第9週 李商隠（恋愛詩）
- 第10週 蘇軾と王安石（旧法党/新法党）
- 第11週 江西詩派と南宋詩人たち（学識の詩/抒情の詩）
- 第12週 元の四大家
- 第13週 古文辞派と公安派（伝統の模倣/真情の吐露）
- 第14週 清代の三詩家説
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

足立幸代編著/三上英司監修：気ままに漢詩キブン[ちくまプリマー新書、2014、¥850(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト70%（2回実施します）、平常点30%（受講態度）で総合評価します。小テストは、次週に採点の上返却し、解説します。

【参考書】

川合康三『漢詩のレッスン』（岩波ジュニア新書、2014）

川合康三編『新編 中国名詩選』（岩波文庫、2015）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあったら、遠慮なく質問に来てください。

中国文学史 b

中国文学（漢詩）に親しもう

秋谷 幸治

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは中国文学というと、何を想起しますか。近代以前の中国においては、詩こそが文学の中心でした。教養人にとって作詩の能力は必要不可欠でした。

本講義は漢詩の歴史をたどりながら、中国文化の真髄を理解することを目的としています。後期の授業では唐代から清代に至る作品を読みながら文学史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国文化を深く知り、「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 先秦～六朝詩の流れ（復習）
- 第3週 初唐の四傑（近体詩の確立）
- 第4週 王昌齡と岑参（閨怨詩と辺塞詩）
- 第5週 王維と孟浩然（田園詩）
- 第6週 李白と杜甫（伝統の継承と革新）
- 第7週 白居易（政治諷刺の詩）
- 第8週 中国映画を見よう
- 第9週 李商隠（恋愛詩）
- 第10週 蘇軾と王安石（旧法党/新法党）
- 第11週 江西詩派と南宋詩人たち（学識の詩/抒情の詩）
- 第12週 元の四大家
- 第13週 古文辞派と公安派（伝統の模擬/真情の吐露）
- 第14週 清代の三詩家説
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

足立幸代編著/三上英司監修：気ままに漢詩キブン[ちくまプリマー新書、2014、¥850(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト70%（2回実施します）、平常点30%（受講態度）で総合評価します。小テストは、次週に採点の上返却し、解説します。

【参考書】

川合康三『漢詩のレッスン』（岩波ジュニア新書、2014）

川合康三編『新編 中国名詩選』（岩波文庫、2015）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあったら、遠慮なく質問に来てください。

中国文学哲学演習 c 1

文言小説『聊齋志異』（りょうさいしい）をよむ

前野 清太郎

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は漢文基礎の読解能力を文献講読から習得することを目的とします。授業教材には「文言小説」である『聊齋志異』（りょうさいしい）を用います。本テキストは「怪談」を通じて近世中国社会の民俗を現代に伝えてくれる著作であるとともに、翻訳を通じて近代日本の小説家たちの中国イメージへ影響を及ぼした著作でもありました。率直平明な文体で漢文の文法構成を学びつつ、文章の読解に必要なリサーチ能力を身につけます。

【授業における到達目標】

この授業を通じた学習の到達目標は次の3点です。

1. 漢文の文法構造を理解して訳文を作成することが可能になる。
2. 歴史的な用語の意味を自ら調べ文章を読み解く調査力を身につける。
3. 近世中国の社会制度について基礎的な知識を習得する。

【授業の内容】

- 第01講 ガイダンス
 第02講 「三生」「考城隍」①
 第03講 「三生」「考城隍」②
 第04講 「咬鬼」「王六郎」①
 第05講 「咬鬼」「王六郎」②
 第06講 「蛇人」「狐嫁女」①
 第07講 「蛇人」「狐嫁女」②
 第08講 「成仙」①
 第09講 「成仙」②
 第10講 「画皮」①
 第11講 「画皮」② 『画皮 あやかしの恋』
 第12講 「画皮」③ 『画皮 あやかしの恋』
 第13講 「勞山道士」「長清僧」①
 第14講 「勞山道士」「長清僧」②
 第15講 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）初回講義で教材テキストを配布します。第二回の講義では、講師が解説を交えながらテキストの読解を行います。第三回目以降の講義では、講義前に不明な語句について調べ、訳文を作成してきてください。（学修時間 週2時間）

（事後学修）授業中にわからなかった書き下し・訳文および重要語句をリストアップし復習を行ってください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

初回の授業ガイダンスで指示します。原則として各回の授業で次回授業に使用する原文プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の講義での発言・質問（30%）、試験（70%）で評価します。試験は実施後に翌週授業中で解説・フィードバックを行います。

【参考書】

蒲松齡（著）、立間祥介（訳）『聊齋志異』（岩波書店、1997年）
 〈上〉 〈下〉 本体1,500円＋税

中国文学哲学演習 c 2

文言小説『聊齋志異』（りょうさいしい）をよむ

前野 清太郎

3年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は漢文基礎の読解能力を文献講読から習得することを目的とします。授業教材には「文言小説」である『聊齋志異』（りょうさいしい）を用います。本テキストは「怪談」を通じて近世中国社会の民俗を現代に伝えてくれる著作であるとともに、翻訳を通じて近代日本の小説家たちの中国イメージへ影響を及ぼした著作でもありました。率直平明な文体で漢文の文法構成を学びつつ、文章の読解に必要なリサーチ能力を身につけます。

【授業における到達目標】

【授業における到達目標】

この授業を通じた学習の到達目標は次の3点です。

1. 漢文の文法構造を理解して訳文を作成することが可能になる。
2. 歴史的な用語の意味を自ら調べ文章を読み解く調査力を身につける。
3. 近世中国の社会制度について基礎的な知識を習得する。

【授業の内容】

- 第01講 ガイダンス（前期の復習）
 第02講 「尸変」「妖術」①
 第03講 「尸変」「妖術」②
 第04講 「新郎」「王蘭」①
 第05講 「新郎」「王蘭」②
 第06講 「王成」①
 第07講 「王成」②
 第08講 「鷹虎神」「丁前溪」①
 第09講 「鷹虎神」「丁前溪」②
 第10講 「水葬草」「張老相公」①
 第11講 「水葬草」「張老相公」② 『父の初七日』
 第12講 「水葬草」「張老相公」③ 『父の初七日』
 第13講 「陸判」①
 第14講 「陸判」②
 第15講 まとめ

【事前・事後学修】

（事前学修）初回講義で教材テキストを配布します。第二回の講義では、講師が解説を交えながらテキストの読解を行います。第三回目以降の講義では、講義前に不明な語句について調べ、訳文を作成してきてください。（学修時間 週2時間）

（事後学修）授業中にわからなかった書き下し・訳文および重要語句をリストアップし復習を行ってください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

初回の授業ガイダンスで指示します。原則として各回の授業で次回授業に使用する原文プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の講義での発言・質問（30%）、試験（70%）で評価します。試験は実施後に翌週授業中で解説・フィードバックを行います。

【参考書】

蒲松齡（著）、立間祥介（訳）『聊齋志異』（岩波書店、1997年）
 〈上〉 〈下〉 本体1,500円＋税

中国文学哲学演習 d 1

『三国志』武帝紀を読む

田中 靖彦

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、曹操（155-220）に関する基礎史料である『三国志』魏書一・武帝紀を読みます（必要に応じて他の史料も参照します）。同史料の講読を通し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国における歴史書の書かれ方についても理解を深め、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。

【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】演習への参加を通して、相互理解を深めると同時に、協力して物事を進める力を養う。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 『三国志』について（講義）

第3週 最初から

第4週 「光和末黄巾起」から

第5週 「初平元年春正月」から

第6週 「二年春紹馥遂立虞為帝」から

第7週 「興平元年春」から

第8週 「建安元年春正月」から

第9週 「三年春正月公還許」から

第10週 『三国志』魏書七・呂布伝（一部）

第11週 「四年春二月」から

第12週 『三国志』蜀書六・関羽伝（一部）

第13週 「孫策聞公与紹相持」から

第14週 「九年春正月」から

第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布のプリントで、授業範囲をしっかりと予習してください。発表担当者はレジュメを作成してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、しっかりと復習し、身につけてください。発表担当者は、当日の発表を振り返り、誤った点は修正してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表への取り組み50%、質疑応答への参加50%で評価します。フィードバックは、質疑応答および発表に対する教員よりの指導によって行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。

さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

中国文学哲学演習 d 2

『三国志』武帝紀を読む

田中 靖彦

3年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、曹操（155-220）に関する基礎史料である『三国志』魏書一・武帝紀を読みます（必要に応じて他の史料も参照します）。同史料の講読を通し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国における歴史書の書かれ方についても理解を深め、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。

【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】演習への参加を通して、相互理解を深めると同時に、協力して物事を進める力を養う。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 「十二年春二月」から

第3週 『三国志』魏書十四・郭嘉伝（一部）

第4週 「十三年春正月」から

第5週 『三国志』呉書九・周瑜伝（一部）

第6週 「十六年春正月」から

第7週 『三国志』魏書十・荀彧伝（一部）

第8週 「十八年春正月」から

第9週 「十九年春正月」から

第10週 「二十年春二月」から

第11週 「二十一年春二月」から

第12週 「二十二年春正月」から

第13週 「二十四年春正月」から

第14週 「二十五年春正月」から

第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布のプリントで、授業範囲をしっかりと予習してください。発表担当者はレジュメを作成してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、しっかりと復習し、身につけてください。発表担当者は、当日の発表を振り返り、誤った点は修正してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表への取り組み50%、質疑応答への参加50%で評価します。フィードバックは、質疑応答および発表に対する教員よりの指導によって行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。

さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

前期からの継続となります。演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

中国文学哲学研究 c

中国文学（小説）に親しもう

秋谷 幸治

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などの中国の小説を読んだことがあるでしょうか。小説は読んだことはなくともテレビドラマやマンガ、はたまたゲームなどで知っている人もいます。

本講義は中国の小説の歴史をたどりながら、中国文化を深く理解することを目的としています。前期の授業では先秦から唐代に至る小説を読みながら、中国小説史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国の文化を深く知り「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 「小説」とは何だろうか |
| 第3週 | 文言小説と白話小説（知識人/庶民の小説） |
| 第4週 | 中国神話の世界 |
| 第5週 | 諸子百家の寓話①（荘子） |
| 第6週 | 諸子百家の寓話②（列子） |
| 第7週 | 楽府（物語詩） |
| 第8週 | 中国映画を見よう |
| 第9週 | 六朝志怪小説①（動物による報恩説話） |
| 第10週 | 六朝志怪小説②（仙界にまつわる説話） |
| 第11週 | 唐代伝奇小説①（杜子春伝） |
| 第12週 | 唐代伝奇小説②（人虎伝） |
| 第13週 | 唐代伝奇小説③（長恨歌伝） |
| 第14週 | 敦煌変文（寺院で演じられた語り物） |
| 第15週 | まとめ |

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%（2回提出）、平常点30%（受講態度）で総合的に評価します。レポートは採点后、コメントをつけて返却をします。

【参考書】

- 倉石武四郎『中国文学講話』（岩波新書、1963）
 前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版社、1998）
 大木康『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』（NHK出版、2001）
 竹田晃『中国小説史入門』（岩波書店、2002）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあつたら、遠慮なく質問に来て下さい。

中国文学哲学研究 d

中国文学（小説）に親しもう

秋谷 幸治

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

みなさんは『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などの中国の小説を読んだことがあるでしょうか。小説は読んだことはなくともテレビドラマやマンガ、はたまたゲームなどで知っている人もいます。

本講義は中国の小説の歴史をたどりながら、中国文化を深く理解することを目的としています。後期の授業では主に明清の小説を読みながら、中国小説史の流れを見ていきます。

【授業における到達目標】

- ・中国文学の作品精読を通して「研鑽力」を身につける。
- ・中国の文化を深く知り「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 「小説」とは何か |
| 第3週 | 文言小説と白話小説（知識人/庶民の小説） |
| 第4週 | 元曲「竇娥怨」①（前半） |
| 第5週 | 元曲「竇娥怨」②（後半） |
| 第6週 | 『三国志演義』①（諸葛孔明にまつわる話） |
| 第7週 | 『三国志演義』②（関羽、張飛にまつわる話） |
| 第8週 | 中国映画を見よう |
| 第9週 | 『水滸伝』①（宋江にまつわる話） |
| 第10週 | 『水滸伝』②（魯智深、燕青にまつわる話） |
| 第11週 | 『西遊記』①（孫悟空にまつわる話） |
| 第12週 | 『西遊記』②（猪八戒、沙悟浄にまつわる話） |
| 第13週 | 『儒林外史』（落第受験生の悲話） |
| 第14週 | 『紅樓夢』（封建社会に抗した恋愛小説） |
| 第15週 | まとめ |

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：事前に配布した資料を参考に、中国史の流れをしっかりと捉えておく。授業でとりあげる作品をよく読んでおく。

事後学修（週2時間）：授業でとりあげた作品を読み直し、どこがおもしろいのか、自分で考えてまとめてみる。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%（2回提出します）、平常点30%（受講態度）で総合的に評価します。レポートは採点の上、コメントを入れて返却します。

【参考書】

- 倉石武四郎『中国文学講話』（岩波新書、1963）
 前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版社、1998）
 大木康『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』（NHK出版、2001）
 竹田晃『中国小説史入門』（岩波書店、2002）

【注意事項】

講義形式の授業ですが、主体的に考える姿勢で授業に臨んで下さい。分からなかったことや疑問などがあつたら、遠慮なく質問に来て下さい。

中国文学特殊演習 A

『資治通鑑』講読

田中 靖彦

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

『資治通鑑』は、紀元前403年～959年までの中国の歴史を扱った編年体の史書です。同書の講読を通し、漢文読解力および中国史に関する知識、および中国における歴史の描かれ方について、理解を深めることを目指します。前期は、秦紀一から読み始めます。

【授業における到達目標】

『資治通鑑』の講読を通し、漢文読解力および中国史に関する知識を深めることを目指し、また、中国における歴史観、歴史の描かれ方について、理解を深めることを目指します。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 『資治通鑑』について（講義）

第3週 秦紀一 昭襄王五十二年から

第4週 秦紀一 昭襄王五十三年から

第5週 秦紀一 昭襄王五十四年から

第6週 秦紀一 荘襄王元年から

第7週 秦紀一 始皇帝元年から

第8週 秦紀一 始皇帝五年から

第9週 秦紀一 始皇帝十年から

第10週 秦紀一 始皇帝十八年から

第11週 秦紀二 始皇帝二十年から

第12週 秦紀二 始皇帝二十五年から

第13週 秦紀二 始皇帝二十七年から

第14週 秦紀二 始皇帝三十三年から

第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかりと復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（担当箇所の訓読・翻訳の発表、授業への取り組み、質疑応答への参加など）100%で評価します。

毎回、担当箇所の訓読・翻訳を発表していただき、その内容について発表者ごとにフィードバックを行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

授業への積極的な参加をお願いします。

中国文学特殊演習 B

『資治通鑑』講読

田中 靖彦

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

『資治通鑑』は、紀元前403年～959年までの中国の歴史を扱った編年体の史書です。同書の講読を通し、漢文読解力および中国史に関する知識、および中国における歴史の描かれ方について、理解を深めることを目指します。後期は、前期の続きから読み始めます。

【授業における到達目標】

『資治通鑑』の講読を通し、漢文読解力および中国史に関する知識を深めることを目指し、また、中国における歴史観、歴史の描かれ方について、理解を深めることを目指します。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 秦紀二 始皇帝三十七年から

第3週 秦紀二 始皇帝三十三年から

第4週 秦紀二 二世皇帝元年最初から

第5週 秦紀二 二世皇帝元年「九月、沛人劉邦」から

第6週 秦紀三 二世皇帝二年から

第7週 秦紀三 二世皇帝二年「楚王景駒在留」から

第8週 秦紀三 二世皇帝二年「時連雨自七月至九月」から

第9週 秦紀三 二世皇帝三年から

第10週 秦紀三 二世皇帝三年「春二月」から

第11週 秦紀三 二世皇帝三年「王離軍既没」から

第12週 漢紀一 太祖高皇帝元年から

第13週 漢紀一 太祖高皇帝元年「已而項羽至関」から

第14週 漢紀一 太祖高皇帝元年「二月、羽分天下王諸将」から

第15週 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかりと復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（担当箇所の訓読・翻訳の発表、授業への取り組み、質疑応答への参加など）100%で評価します。

毎回、担当箇所の訓読・翻訳を発表していただき、その内容について発表者ごとにフィードバックを行います。

【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

授業への積極的な参加をお願いします。

中国料理実習

原田 美穂子

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

調理を行い総合的な知識技術を学び、それらの取り扱いや料理を実際に作り中国料理の文化を探る。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ○授業の流れについて。
○中国料理について（歴史・地域性・文化など）
○中国料理の調理器具について
○特有な調理性・切り方の説明
○湯について
- 第2週 ○肉類の下処理
○魚介類の下処理
○上漿とは
○油の温度
- 第3週 ○様々な粉の特性
○点心（咸点心・甜点心）
- 第4週 ○麺について。
○蒸し物
○揚げ物
- 第5週 ○鶏の卸方
○中国野菜について。
- 第6週 ○魚の卸方
○授業まとめ1
○ノート提出
- 第7週 ○乾貨について
○授業まとめ2
- 第8週 ○授業まとめ3

【事前・事後学修】

【事前学修】（週2時間）授業資料（レシピ等）の熟読

【事後学修】（週2時間）ノートの作成

【テキスト・教材】

授業資料（レシピ等は）manabaに掲示します。各自印刷して持参ください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- | | | |
|-----------|-----|------------------|
| 実技グループ別評価 | 30% | （授業時にフィードバックする。） |
| 授業態度 | 20% | （授業時にフィードバックする。） |
| ノート評価 | 20% | （提出後にフィードバックする。） |
| 実技試験 | 30% | （実施時に評価する。） |

中世イギリス文学・文化演習 b

— 『カンタベリー物語』 中世イギリスに生きた人々 —

大関 啓子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

初めての中世英文学を読み、イギリスのルーツともいべきその社会や文化を体験します。

【授業における到達目標】

Geoffrey Chaucerの『カンタベリー物語』をとりあげ、その背景となる文化をふまえつつ、英文学における伝統と個性を考えます。全学ディプロマ・ポリシーのうち、学修による「研鑽力」を高め文化の多様性を理解し、「美の探究」と「行動力」を高めることを目標とします。

【授業の内容】

ヨーロッパ中世はよく暗黒の時代と呼ばれます。キリスト教がすべてをつつみこみ、個人が社会に埋没してしまった時代ともいわれます。果たして実際に人々の生活はその通りだったのでしょうか。

この講座では、中世英文学の代表的作品ジェフリー・チョーサーの『カンタベリー物語』の中から、巡礼たちの語る物語を読み、中世イギリス人の考え方を探りたいと思います。特に封建社会の抑圧の中で、意外に強くしなやかに生きた女性たちの生活には、注目したいと考えています。

以下を予定しています。

1. Introduction
2. OE・ME時代
3. 英詩の父ジェフリー・チョーサー
4. 中世装飾写本—エルズミア写本
5. 中世英国の支配層
6. 中世英国の庶民たち
7. 中世英国の女性たち
8. 宗教と道徳
9. カンタベリー大聖堂と英国国教会
10. 『カンタベリー物語』1—巡礼
11. 『カンタベリー物語』2—悪徳
12. 『カンタベリー物語』3—変容
13. 『カンタベリー物語』4—死と再生
14. 『カンタベリー物語』5—遊戯の意味
15. Conclusion

中世英文学に触れるのは初めての経験となりますから、無理をせず、皆が作品を楽しみながら鑑賞できるよう、映画・DVD等も用いる予定です。

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業でとりあげる作品について予習を、2時間程度はしておくこと。また前回の授業で扱った作品について、各自鑑賞し、2時間程度はしっかり復習しておくこと。

【テキスト・教材】

教材は授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題等）40% レポート60%として評価。平常点については、毎週の授業時における貢献度（作品の理解を深めるような意見や質問、発表など）を高く評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

【参考書】

その都度、指示します。

中世イギリス文学・文化演習 c

J. R. R. Tolkien研究

大関 啓子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

『指輪物語』の著者として有名なJ. R. R. Tolkienについて、中世英語英文学者としての姿勢、伝承文学研究とそのimageryを読み解きます。

【授業における到達目標】

『ホビット』をはじめとするJ. R. R. Tolkienの作品を読み、その背景となる文化をふまえつつ、英文学における伝統と個性を考えます。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、学修による「研鑽力」を高め文化の多様性を理解し、「美の探究」と「行動力」を高めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世英語英文学者J. R. R. Tolkienについて
- 第3週 伝承文学研究について
- 第4週 南アフリカ共和国
- 第5週 Oxford University
- 第6週 "The Eagle and ChildとInklings
- 第7週 『サンタ・クロースからの手紙』
- 第8週 『ホビット』
- 第9週 『シルマリルの冒険』
- 第10週 『妖精物語について』
- 第11週 『指輪物語』—elfとdwarf
- 第12週 『指輪物語』—Middle-earth
- 第13週 『指輪物語』—指輪
- 第14週 『指輪物語』—ケルトとの関わり
- 第15週 Conclusion

この他、作品の映画・DVDを用いる予定です。

【事前・事後学修】

事前学修として、各回の授業でとりあげる作品について予習を2時間程度はしておくこと。また前回の授業で扱った作品についても、各自鑑賞し、2時間程度はしっかり復習しておくこと。

【テキスト・教材】

教材は授業開始時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題等）40% レポート60%として評価。平常点としては、毎週の授業時における貢献度（作品の理解を深めるような意見や質問、発表など）を高く評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

【参考書】

その都度、指示します。

中世近世文学演習 d 1

謡曲を読む

姫野 敦子

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

南北朝時代に大成された「能」は、600年の時を経て、現代に生きる人々に今なお感銘を与えている演劇である。その詞章に着目した言い方が「謡曲」である。その大成者である世阿弥はまた、多くの能楽論、『風姿花伝』『三道』などを残し、その中で、どのように「能」を作っていくのか、どのように演じるのかを書き残している。それを踏まえて、謡曲を丁寧に読み解いていくことで、室町時代、江戸時代を経た洗練された演劇である能を深く理解していくのが、この授業の目的である。

【授業における到達目標】

- ・能楽の知識を得る。
- ・能楽の詞章を理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 授業案内
- 第2週 中世芸能史概説
- 第3週 中世芸能史（散楽から猿楽へ）
- 第4週 中世芸能史（大和猿楽と同時代芸能）
- 第5週 中世芸能史（世阿弥の能楽論）
- 第6週 中世芸能史（世阿弥以後の能楽）
- 第7週 謡曲「野宮」を読む（その1、出典）
- 第8週 謡曲「野宮」を読む（その2、前場）
- 第9週 謡曲「野宮」を読む（その3、後場）
- 第10週 謡曲「野宮」を読む（その4、後場）
- 第11週 謡曲「小鍛冶」を読む（その1、出典）
- 第12週 謡曲「小鍛冶」を読む（その2、前場）
- 第13週 謡曲「小鍛冶」を読む（その3、後場）
- 第14週 謡曲「小鍛冶」を読む（その4、後場）
- 第15週 能鑑賞

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）プリントの読解
- 事後学修（週2時間）授業内容の復習

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各自発表の内容から50%、期末レポートを50%で評価する。
発表時のコメントと、期末レポートへのコメントでフィードバックする。

【参考書】

『謡曲集』1, 2（新編 日本古典文学全集58. 59）小山弘志校注、小学館、ISBN4096580589（1）；4096580597（2）

【注意事項】

後半は、受講者にテキストを割り当てての発表を行う。発表者は一週前に発表資料を配付すること。

中世近世文学演習 d 2

謡曲を読む

姫野 敦子

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

南北朝時代に大成された「能」は、600年の時を経て、現代に生きる人々に今なお感銘を与えている演劇である。その詞章に着目した言い方が「謡曲」である。その大成者である世阿弥はまた、多くの能楽論、『風姿花伝』『三道』などを残し、その中で、どのように「能」を作っていくのか、どのように演じるのかを書き残している。それを踏まえて、謡曲を丁寧に読み解いていくことで、室町時代、江戸時代を経た洗練された演劇である能を深く理解していくのが、この授業の目的である。

【授業における到達目標】

- 能楽の知識を得る。
- 中世文学としての謡曲を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 授業案内
- 第2週 発表1 協能1
- 第3週 発表2 協能2
- 第4週 発表3 協能3
- 第5週 発表4 二番目物1
- 第6週 発表5 二番目物2
- 第7週 発表6 二番目物3
- 第8週 発表7 三番目物1
- 第9週 発表8 三番目物2
- 第10週 発表9 三番目物3
- 第11週 発表10 四番目物1
- 第12週 発表11 四番目物2
- 第13週 発表12 四番目物3
- 第14週 発表13 五番目物1
- 第15週 発表14 五番目物2 まとめと振り返り

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）発表資料の読解
- 事後学修（週2時間）授業内容の復習

【テキスト・教材】

授業中にプリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容50%、期末レポート50%で評価する。
発表時のコメントと、期末レポートへのコメントでフィードバックする。

【参考書】

『謡曲集』1, 2（新編 日本古典文学全集58. 59）小山弘志校注、小学館、ISBN4096580589（1）；4096580597（2）

【注意事項】

受講者にテキストを割り当てての発表を行う。発表者は一週前に発表資料を配付すること。

中世近世文学演習 e 1

時代物を読む — 『妹背山婦女庭訓』と『一谷嫩軍記』—

光延 真哉

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

人形浄瑠璃（今日の文楽）や歌舞伎といった近世期の芸能では、江戸時代よりも古い時代におこった事件・出来事を題材にした作品群を「時代物」と称している。歴史的事実を近世の人々はどうのように脚色し、物語化していったのか。

この授業では、こうした時代物の浄瑠璃の代表作のなかから、『妹背山婦女庭訓（いもせやまおんなていきん）』（近松半二ほか作、明和八年（1771）正月、竹本座）と『一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）』（並木宗輔ほか作、宝暦元年（1751）12月、豊竹座初演）の2作を採り上げる。前者は古代に起った「大化の改新」を、後者は源平の合戦のうちの「一の谷の戦い」を題材にした作品である。現代語訳と語釈を付ける作業を通じて浄瑠璃特有の文章表現に習熟しつつ、近世芸能への理解を深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・近世演劇に関する基礎知識を習得する。
- ・特有な文章表現に留意しながら、浄瑠璃作品の特徴を理解することができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（発表担当の決定等）
 第2週 『妹背山婦女庭訓』『一谷嫩軍記』概説
 第3週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」映像鑑賞
 第4週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」p. 257-260
 第5週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」p. 261-264
 第6週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」p. 265-268
 第7週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」p. 269-272
 第8週 『妹背山婦女庭訓』「山の段」p. 273-277
 第9週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」映像鑑賞
 第10週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 231-234
 第11週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 235-238
 第12週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 239-242
 第13週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 243-246
 第14週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 247-250
 第15週 『一谷嫩軍記』「熊谷陣屋」p. 251-253、まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う予定の場面について、予め配布プリントの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った場面について、配布プリントの該当箇所を読み返し、復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（議論への積極参加の度合）30%、発表内容30%、レポート40%。授業時間内に発表内容や議論の場での発言に対してコメントすることでフィードバックを図る。

【参考書】

- 祐田善雄『日本古典文学大系99 文楽浄瑠璃集』（岩波書店、1965年）
 小池章太郎『歌舞伎オン・ステージ4 一谷嫩軍記 近江源氏先陣館 絵本太功記 梶原平三誉石切』（白水社、1985年）
 景山正隆『歌舞伎オン・ステージ2 妹背山婦女庭訓 伊賀越道中 双六』（白水社、1995年）
 李墨『「一谷嫩軍記」の歴史的研究 —歌舞伎・上演と演出』（ペリかん社、2009年）
 橋本治『浄瑠璃を読もう』（新潮社、2012年）

【注意事項】

文楽や歌舞伎の舞台を実際に観に行くことを推奨する。

中世近世文学演習 e 2

時代物を読む — 『絵本太功記』と『伽羅先代萩』—

光延 真哉

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

人形浄瑠璃（今日の文楽）や歌舞伎といった近世期の芸能では、江戸時代よりも古い時代におこった事件・出来事を題材にした作品群を「時代物」と称している。歴史的事実を近世の人々はどうのように脚色し、物語化していったのか。

この授業では、こうした時代物の浄瑠璃の代表作のなかから、『絵本太功記（えほんたいこうき）』（近松やなぎほか作、寛政11年（1799）7月、若太夫芝居）と『伽羅先代萩（めいばくせんだいはぎ）』（松貫四ほか作、天明5年（1785）正月、結城座）の2作を採り上げる。前者は戦国時代の明智光秀の謀反を、後者は江戸時代の伊達家の御家騒動を題材にした作品である。現代語訳と語釈を付ける作業を通じて浄瑠璃特有の文章表現に習熟しつつ、近世芸能への理解を深めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・近世演劇に関する基礎知識を習得する。
- ・特有な文章表現に留意しながら、浄瑠璃作品の特徴を理解することができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（発表担当の決定等）
 第2週 『絵本太功記』『伽羅先代萩』概説
 第3週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」映像鑑賞
 第4週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」p. 353-356
 第5週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」p. 357-360
 第6週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」p. 361-364
 第7週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」p. 365-368
 第8週 『絵本太功記』「尼ヶ崎の段」p. 369-370
 第9週 『伽羅先代萩』「御殿の場」映像鑑賞
 第10週 『伽羅先代萩』「御殿の場」p. 339-342
 第11週 『伽羅先代萩』「御殿の場」p. 343-345
 第12週 『伽羅先代萩』「御殿の場」p. 346-348
 第13週 『伽羅先代萩』「御殿の場」p. 349-351
 第14週 『伽羅先代萩』「御殿の場」p. 352-354
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う予定の場面について、予め配布プリントの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った場面について、配布プリントの該当箇所を読み返し、復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（議論への積極参加の度合）30%、発表内容30%、レポート40%。授業時間内に発表内容や議論の場での発言に対してコメントすることでフィードバックを図る。

【参考書】

- 鶴見誠『日本古典文学大系52 浄瑠璃集下』（岩波書店、1959年）
 祐田善雄『日本古典文学大系99 文楽浄瑠璃集』（岩波書店、1965年）
 小池章太郎『歌舞伎オン・ステージ4 一谷嫩軍記 近江源氏先陣館 絵本太功記 梶原平三誉石切』（白水社、1985年）
 諏訪春雄『歌舞伎オン・ステージ20 伽羅先代萩 伊達競阿国戯場』（白水社、1987年）
 内山美樹子・延広真治『新日本古典文学大系94 近松半二 江戸作者 浄瑠璃集』（岩波書店、1996年）

【注意事項】

文楽や歌舞伎の舞台を実際に観に行くことを推奨する。

中世近世文学演習 f 1

『還魂紙料』の研究

佐藤 悟

3年～ 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

柳亭種彦『還魂紙料』の注釈を通して、近世文学全般の知識を深める。

『還魂紙料』は文政九年（1826）に刊行された考証随筆である。内容は江戸前期のことがらについて古俳諧、仮名草子、浮世草子等の用例から語彙考証、年代考証を行ったものである。その過程で使用したテキストの書誌学的考察を行い、『柳亭種彦俳書文庫』『好色本目録』『吉原書籍目録』等の優れた書誌研究、作者研究を残している。

授業では種彦の考証を後追いすることにより、その考証技法について考察を行い、近世文学全体に対する知識を深めるものとする。

【授業における到達目標】

テキストに対する注釈能力の向上が要求される。そのためには膨大な量の関連資料の調査が必要で、そのための技術や方法論を学ぶ。これらを通じて全学DPが定める二つの態度、三つの能力を獲得し、卒業論文執筆へとつなげる。

【授業の内容】

- 第1週 『還魂紙料』概説・発表担当者割当
- 第2週 柳亭種彦について
- 第3週 担当者による発表 下1
- 第4週 担当者による発表 下2
- 第5週 担当者による発表 下3
- 第6週 担当者による発表 下4
- 第7週 担当者による発表 下21
- 第8週 担当者による発表 下22
- 第9週 担当者による発表 下23
- 第10週 担当者による発表 下24
- 第11週 担当者による発表 下31
- 第12週 担当者による発表 下32
- 第13週 担当者による発表 下33
- 第14週 担当者による発表 下44
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

一つの項目についてAチームとBチームの二つのチームに分かれて準備を行う。各チームは事前の予習が必要である。

発表後は次の発表に備えて、さらなる準備が必要である。

これらの二つのために、担当教員の佐藤に質問に通うことが必要となる。

事後学修は指摘された問題点を整理しておくこと。それぞれ2時間以上が必要であろう。

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点80%、平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）20%。フィードバックは授業中におこなわれる。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

五回欠席すると自動的に失格になる。

参加人数によっては校外実習、小旅行等を行う。

中世近世文学演習 f 2

『還魂紙料』の研究

佐藤 悟

3年～ 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

中世近世文学演習 c 1 に続いて『還魂紙料』の研究を行い、近世文学全体に対する知識、対処能力を高める。

【授業における到達目標】

c 1 と同様に調査、解析、評価する能力を目指す。これらを通じて全学DPが定める二つの態度、三つの能力を身に付け、卒業論文の執筆へとつなげる。

【授業の内容】

- 第1週 担当者を決定する。
- 第2週 佐藤による概説。
- 第3週 担当者による発表 上1
- 第4週 担当者による発表 上2
- 第5週 担当者による発表 上3
- 第6週 担当者による発表 上4
- 第7週 担当者による発表 上21
- 第8週 担当者による発表 上22
- 第9週 担当者による発表 上23
- 第10週 担当者による発表 上24
- 第11週 担当者による発表 上31
- 第12週 担当者による発表 上32
- 第13週 担当者による発表 上33
- 第14週 担当者による発表 上34
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修、事後学修のため、指導教員の佐藤に質問に通うことが要求される。特に事後学修では問題点の整理が必要である。それぞれ2時間以上が必要であろう。

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点80%、平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）20%。フィードバックは授業中におこなう。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

五回以上欠席すると自動的に失格する。

参加人数によっては校外実習、小旅行等を行う。

中世近世文学研究 e

河竹黙阿弥の世界 ―三人吉三と白浪五人男―

光延 真哉

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

河竹黙阿弥（文化13年〈1816〉～明治26年〈1893〉）は、坪内逍遙をして「江戸演劇の大問屋」と言わしめた歌舞伎の大作者である。その作品の多くは、七五調の名ゼリフの数々と共に、何度も上演が繰り返され、現在の歌舞伎のレパートリーにおいて非常に大きな位置を占めている。黙阿弥を知ることは、今日の歌舞伎を知ることであり、あながち過言ではない。

本授業では、黙阿弥の代表作のなかから、江戸時代に初演された、『三人吉三廓初買（さんにんきちさくするわのはつがい）』、『青砥稿花彩画（あおとぞうしはなのにしきえ、通称「白浪五人男」）』の2作を採り上げる。いずれも白浪（盗賊）等の市井の小悪党を題材にした作品である。黙阿弥が幕末江戸の下層社会をどのように描いたのか、考えていきたい。

【授業における到達目標】

- ・歌舞伎の基礎的な知識を得る。
- ・河竹黙阿弥の特に江戸期の経歴を把握する。
- ・河竹黙阿弥の作品について、その内容及び特徴を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 河竹黙阿弥概説
- 第2週 河竹黙阿弥の経歴
- 第3週 『三人吉三廓初買』概説
- 第4週 『三人吉三廓初買』「大川端庚申塚の場」
- 第5週 『三人吉三廓初買』「割下水伝吉内の場」
- 第6週 『三人吉三廓初買』「廓裏大恩寺前の場」
- 第7週 『三人吉三廓初買』「巢鴨在吉祥院の場」
- 第8週 『三人吉三廓初買』「本郷火の見櫓の場」
- 第9週 『青砥稿花彩画』概説
- 第10週 『青砥稿花彩画』「初瀬寺花見の場」
- 第11週 『青砥稿花彩画』「御輿ヶ嶽の場」
- 第12週 『青砥稿花彩画』「雪ノ下浜松屋の場」
- 第13週 『青砥稿花彩画』「同奥座敷の場」
- 第14週 『青砥稿花彩画』「稲瀬川勢揃の場」「極楽寺山門の場」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う予定の場面について、予め配布プリントの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った場面について、配布プリントの該当箇所を読み返し、復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、レポート50%。リアクションペーパーは次回授業で一部を紹介することでフィードバックを図る。

【参考書】

- 河竹繁俊著『人物叢書 新装版 河竹黙阿弥』（吉川弘文館、1987年）
 今尾哲也著『ミネルヴァ日本評伝選 河竹黙阿弥 元のもくあみとならん』（ミネルヴァ書房、2009年）
 吉田弥生著『江戸歌舞伎の残照』（文芸社、2004年）
 吉田弥生著『黙阿弥研究の現在』（雄山閣、2006年）
 渡辺保『岩波現代文庫 黙阿弥の明治維新』（岩波書店、2011年）

【注意事項】

黙阿弥作品をはじめ、歌舞伎の舞台を実際に観に行くことを強く推奨する。

中世近世文学研究 f

河竹黙阿弥の世界 ―髪結新三・河内山と直侍―

光延 真哉

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

河竹黙阿弥（文化13年〈1816〉～明治26年〈1893〉）は、坪内逍遙をして「江戸演劇の大問屋」と言わしめた歌舞伎の大作者である。その作品の多くは、七五調の名ゼリフの数々と共に、何度も上演が繰り返され、現在の歌舞伎のレパートリーにおいて非常に大きな位置を占めている。黙阿弥を知ることは、今日の歌舞伎を知ることであり、あながち過言ではない。

本授業では、黙阿弥の代表作のなかから、明治になって初演された、『梅雨小袖昔八丈（つゆこそでむかしはちじょう、通称「髪結新三」）』、『天衣紛上野初花（くもにまごうえのはつはな、通称「河内山」「直侍」）』の2作を採り上げる。いずれも明治という新しい時代を迎えたなかで、失われた江戸への憧憬に満ちた作品である。黙阿弥は江戸から明治へという激動の時代を歌舞伎作者としてどのように生きたのか、考えてみたい。

【授業における到達目標】

- ・歌舞伎の基礎的な知識を得る。
- ・河竹黙阿弥の特に明治期の経歴を把握する。
- ・河竹黙阿弥の作品について、その内容及び特徴を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 河竹黙阿弥概説
- 第2週 河竹黙阿弥の経歴
- 第3週 『梅雨小袖昔八丈』概説
- 第4週 『梅雨小袖昔八丈』「白子屋見世先の場」
- 第5週 『梅雨小袖昔八丈』「永代橋川端の場」
- 第6週 『梅雨小袖昔八丈』「富吉町新三内の場」
- 第7週 『梅雨小袖昔八丈』「家主長兵衛内の場」
- 第8週 『梅雨小袖昔八丈』「深川閻魔堂橋の場」
- 第9週 『天衣紛上野初花』概説
- 第10週 『天衣紛上野初花』「上州屋見世先の場」
- 第11週 『天衣紛上野初花』「松江家上屋敷の場」
- 第12週 『天衣紛上野初花』「入谷村蕎麦屋の場」
- 第13週 『天衣紛上野初花』「同大口屋別荘の場」
- 第14週 『天衣紛上野初花』浄瑠璃「三千歳」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う予定の場面について、予め配布プリントの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った場面について、配布プリントの該当箇所を読み返し、復習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、レポート50%、リアクションペーパーは次回授業で一部を紹介することでフィードバックを図る。

【参考書】

- 河竹繁俊著『人物叢書 新装版 河竹黙阿弥』（吉川弘文館、1987年）
 今尾哲也著『ミネルヴァ日本評伝選 河竹黙阿弥 元のもくあみとならん』（ミネルヴァ書房、2009年）
 吉田弥生著『江戸歌舞伎の残照』（文芸社、2004年）
 吉田弥生著『黙阿弥研究の現在』（雄山閣、2006年）
 渡辺保『岩波現代文庫 黙阿弥の明治維新』（岩波書店、2011年）

【注意事項】

黙阿弥作品をはじめ、歌舞伎の舞台を実際に観に行くことを強く推奨する。

中世近世文学研究 g

『保元物語』『平治物語』を読む

阿部 亮太

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

『保元物語』『平治物語』は、共に平安時代末期の戦乱である保元の乱と平治の乱を題材とした軍記物語です。両作品は、治承・寿永の源平争乱を扱った『平家物語』と同時期の成立とされますが、この三作品の成立の順序（先後関係）は明らかになっていません。

この授業では、『保元物語』と『平治物語』の読解を通して、軍記物語の成立当時、これらの作品には何が必要とされたのかを考えます。その手掛かりとして、特に人物の描かれ方と戦乱の捉えられ方に注目します。

【授業における到達目標】

- ・『保元物語』『平治物語』がなぜ生まれたのか（軍記物語の成立）についての探究心を涵養する（美の探求）。
- ・『保元物語』『平治物語』の内容や先行研究の概要等を理解し、説明できる（研鑽力）。
- ・『保元物語』『平治物語』（軍記物語）の抱える諸問題について、具体的な考察方法を習得する（行動力）。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 「軍記物語」概説
- 第2週 『保元物語』『平治物語』概説
- 第3週 『保元物語』① 皇族の御国争い
- 第4週 『保元物語』② 摂関家の内紛
- 第5週 『保元物語』③ 源為朝の活躍
- 第6週 『保元物語』④ 源為義一家の悲劇
- 第7週 『保元物語』⑤ 藤原頼長と崇徳院の最期
- 第8週 『保元物語』⑥ 保元の乱に注目する意味
- 第9週 『平治物語』① 藤原信頼の造型
- 第10週 『平治物語』② 源義平の活躍
- 第11週 『平治物語』③ 源義朝の最期
- 第12週 『平治物語』④ 常葉の逃避行
- 第13週 『平治物語』⑤ 源頼朝の描かれ方
- 第14週 『平治物語』⑥ 平治の乱に注目する意味
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕高等学校の国語科（古文）の授業で行われた古文文法や文学史の知識を前提とします（要自習）。（週二時間程度）

〔事後学修〕授業内容を復習し、そこで扱われた作品の全体（または各章段の全体）を通読しましょう。（週三時間程度）

【テキスト・教材】

随時、プリントで用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントペーパー・小テスト等、30%）と試験（70%）で評価します。フィードバックは、毎授業の冒頭にコメントペーパーの質疑応答時間を設けます。

【参考書】

- ・永積安明氏ほか校注・日本古典文学大系『保元物語・平治物語』（岩波書店 1961年7月）
 - ・栃木孝惟氏ほか校注・新日本古典文学大系『保元物語・平治物語・承久記』（岩波書店 1992年7月）
 - ・日下力氏訳注・角川ソフィア文庫『保元物語 現代語訳付き』（角川書店 2015年9月）、同『平治物語 現代語訳付き』（2016年9月）
 - ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010年11月）
- その他の文献は、授業内に適宜紹介します。

【注意事項】

受講を考えている方は、第1週の授業から参加して下さい。

中世近世文学研究 h

平家物語を読む

阿部 亮太

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

平家物語は平安時代末期の源平争乱を中心に、平家の興亡を描いた日本古典文学作品の代表作です。本作品には多くの伝本が残りますが、それぞれの内容は多様で、源平盛衰記や源平闘諍録等、作品名を異にする平家物語も存在します。この授業では、数ある伝本のなかでも南北朝期に検校覚一の校合した覚一本系統の本文を中心に、平家物語の著名な場面を読み込んでゆきたいと思います。その際、他本の記述や同時代史料等も確認し、中世の読者がどのように読んだか、作者・編者は何を意図したのかという点に注意します。

【授業における到達目標】

- ・平家物語がなぜ生まれたのか（軍記物語の成立）についての探究心を涵養する（美の探求）。
- ・平家物語の内容や先行研究の概要等を理解し、説明できる（研鑽力）。
- ・平家物語（軍記物語）の抱える諸問題について、具体的な考察方法を習得する（行動力）。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 平家物語概説
- 第2週 巻一「祇園精舎」平家物語の世界観
- 第3週 巻一「殿下乗合」清盛と重盛の造型
- 第4週 巻一「鹿谷」反平家の動き①
- 第5週 巻三「足摺」俊寛の悲劇
- 第6週 巻四「競」反平家の動き②
- 第7週 巻四「橋合戦」様々な合戦描写
- 第8週 巻六「入道死去」仏罰と救済
- 第9週 巻七「忠教都落」武士と和歌
- 第10週 巻八「猫間」と巻九「木曾最期」木曾義仲の造型
- 第11週 巻九「敦盛最期」武士と父子の情愛
- 第12週 巻十「維盛入水」浄土思想
- 第13週 巻十一「先帝身投」「能登殿最期」知盛の造型
- 第14週 巻十二「六代被斬」と灌頂巻「女院死去」平家物語の終わり方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕高等学校の国語科（古文）の授業で行われた古文文法や文学史の知識を前提としますので、その理解のために自習することを望みます。（週二時間程度）

〔事後学修〕授業内容を復習し、そこで扱われた作品の全体（または各章段の全体）を通読しましょう。（週三時間程度）

【テキスト・教材】

随時、プリントで用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントペーパー・小テスト等、30%）と試験（70%）で評価します。フィードバックは、毎授業の冒頭にコメントペーパーの質疑応答時間を設けます。

【参考書】

- ・水原一氏校注・新潮日本古典集成『平家物語 上（中・下）』（新潮社 1979年4月—81年12月）
 - ・市古貞次氏校注・訳・新編日本古典文学全集『平家物語 上（下）』（小学館 1994年5月—同7月）
 - ・佐伯真一氏校注・三弥井古典文庫『平家物語 上（下）』（三弥井書店 1993年3月—2000年4月）
 - ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010年11月）
- その他の文献は、授業内に適宜紹介します。

【注意事項】

受講を考えている方は、第1週の授業から参加して下さい。

中世文学基礎演習 1

『平家物語』の研究

阿部 亮太

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

『平家物語』は平安時代末期における治承・寿永の源平争乱に取材し、平家の興亡を描きます。本作品は中学校や高等学校の教科書に必ず掲載される日本古典文学の代表作であるだけでなく、今や諸外国語にも翻訳される世界文学です。しかし、複数の異本の発生や度重なる本文の混合により、作者・編者、成立・改編の事情等、依然として不明な点が多く、その全体像を捉えるのは容易ではありません。この演習では『平家物語』の読解を通じて、古典文学研究の基礎を学びましょう。

【授業における到達目標】

- ・『平家物語』について、作品の内容や特徴を正確に理解できる（美の追究）。
- ・自身の読解から課題を設定し、論理的な考証を経て、結論を導き出すことができる（行動力）。
- ・他者と協力して調査・研究を進めることができる。また、自身の意見を他者に正確に伝えつつ、他者の意見を傾聴することができる（協働力）。

【授業の内容】

※受講者数により、発表するグループの人数や回数は変動の余地があります。下記の計画は、あくまで一例に過ぎません。

- 第1週 授業の進め方
- 第2週 『平家物語』概説① 成立と展開について
- 第3週 『平家物語』概説② 先行研究の動向
- 第4週 研究・調査の方法について
- 第5週 発表グループを組み（一グループ二～三人）、研究対象とする章段を決める
- 第6週 図書館での研究・調査
- 第7週 図書館での研究・調査
- 第8週 図書館での研究・調査
- 第9週 受講者Aグループの発表
- 第10週 受講者Bグループの発表
- 第11週 受講者Cグループの発表
- 第12週 受講者Dグループの発表
- 第13週 受講者Eグループの発表
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕発表者は発表の準備（調査・資料作成等）、その他の受講者は討論の準備（該当箇所の自習等）をしましょう。なお、高等学校の国語科（古典）の授業で行われた文法・文学史の知識を前提とします。（週二時間以上）

〔事後学修〕レポート作成のために、討論・講評等を踏まえて問題点を整理し、追調査を行う必要があります。（週二時間以上）

【テキスト・教材】

大津雄一氏・平藤幸氏編：平家物語 覚一本 全〔武蔵野書院、2013、¥2,000（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容や討論への参加具合（50%）とレポート（50%）で評価します。フィードバックは討論を通じて行われます。

【参考書】

- ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010年11月）
- そのほかの文献は、授業内に適宜紹介します。

【注意事項】

受講者ひとりひとりが当事者意識を持ち、積極的に発言しましょう。活発な討論になることを期待します。

中世文学基礎演習 2

『徒然草』の研究

阿部 亮太

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

兼好法師の『徒然草』は、誰もが一度は中学校・高等学校の教科書で読んだことのある親しみやすい日本古典文学作品です。その内容は多岐に亘り、ゆえに様々な読者を受け入れてきました。本作品は近年、「兼好法師」の出自をめぐって新説が提唱され、それに伴い読み直しが求められています。この演習では『徒然草』の読解を通して、古典文学研究の基礎を学びましょう。

【授業における到達目標】

- ・『徒然草』について、作品の内容や特徴を正確に理解できる（美の探究）。
- ・自身の読解から課題を設定し、論理的な考証を経て、結論を導き出すことができる（行動力）。
- ・他者と協力して調査・研究を進めることができる。また、自身の意見を他者に正確に伝えつつ、他者の意見を傾聴することができる（協働力）。

【授業の内容】

※受講者数により、発表するグループの人数や回数は変動の余地があります。下記の計画は、あくまで一例に過ぎません。

- 第1週 授業の進め方
- 第2週 『徒然草』概説① 「兼好法師」とは誰か
- 第3週 『徒然草』概説② 先行研究の動向
- 第4週 研究・調査の方法について
- 第5週 発表グループを組み（一グループ二～三人）、研究対象とする章段を決める
- 第6週 図書館での研究・調査
- 第7週 図書館での研究・調査
- 第8週 図書館での研究・調査
- 第9週 受講者Aグループの発表
- 第10週 受講者Bグループの発表
- 第11週 受講者Cグループの発表
- 第12週 受講者Dグループの発表
- 第13週 受講者Eグループの発表
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

〔事前学修〕発表者は発表の準備（調査・資料作成等）、その他の受講者は討論の準備（該当箇所の自習等）をしましょう。なお、高等学校の国語科（古典）の授業で行われた文法・文学史の知識を前提とします。（週二時間以上）

〔事後学修〕レポート作成のために、討論・講評等を踏まえて問題点を整理し、追調査を行う必要があります。（週二時間以上）

【テキスト・教材】

小川剛生氏訳注：新版 徒然草 現代語訳付き〔角川ソフィア文庫、2015、¥1,080（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容や討論への参加具合（50%）とレポート（50%）で評価します。フィードバックは討論を通じて行われます。

【参考書】

- ・稲田利徳氏『徒然草論』（笠間書院 2008年11月）
- ・小川剛生氏・中公新書『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』（2017年11月）
- そのほかの文献は、授業内に適宜紹介します。

【注意事項】

受講者ひとりひとりが当事者意識を持ち、積極的に発言しましょう。活発な討論になることを期待します。

中世文学史 a

中世日本文学の展開と諸相

姫野 敦子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中世日本文学の展開と諸相を、作品に即しながら講義する。前期は12世紀後半から14世紀半ば頃までを対象とする。

【授業における到達目標】

・12世紀後半～14世紀までの文学史・文学作品の概要を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 中世文学のジャンル
- 第2週 軍記（1）
- 第3週 軍記（2）
- 第4週 歴史物語
- 第5週 説話（1）
- 第6週 説話（2）
- 第7週 和歌（1）
- 第8週 小テスト 和歌（2）
- 第9週 和歌（3）
- 第10週 歌謡・芸能
- 第11週 鎌倉時代物語
- 第12週 随筆
- 第13週 日記
- 第14週 紀行
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）プリントの読解

事後学修（週2時間）重要事項の復讐

【テキスト・教材】

授業中にプリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前期中盤に行う小テスト（30点）期末試験（50点）および平常点（コメントシートを20点分に換算）に基づいて判断する。

小テスト、期末試験後に正答を配付し、フィードバックする。

【参考書】

- ・『編年 中世の文学』、浅見和彦・天野文雄、小島孝之、田村柳壺編、新典社、2000円、ISBN4-7879-0612-7
- ・『ともに読む古典 中世文学編』松尾葦江編、笠間書院、2300円、ISBN978-4-305-70828-1

中世文学史 a

中世日本文学の展開と諸相

姫野 敦子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中世日本文学の展開と諸相を、作品に即しながら講義する。前期は12世紀後半から14世紀半ば頃までを対象とする。

【授業における到達目標】

・12世紀後半～14世紀までの文学史・文学作品の概要を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 中世文学のジャンル
- 第2週 軍記（1）
- 第3週 軍記（2）
- 第4週 歴史物語
- 第5週 説話（1）
- 第6週 説話（2）
- 第7週 和歌（1）
- 第8週 小テスト 和歌（2）
- 第9週 和歌（3）
- 第10週 歌謡・芸能
- 第11週 鎌倉時代物語
- 第12週 随筆
- 第13週 日記
- 第14週 紀行
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間）プリントの読解
- 事後学修（週2時間）重要事項の復讐

【テキスト・教材】

授業中にプリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前期中盤に行う小テスト（30点）期末試験（50点）および平常点（コメントシートを20点分に換算）に基づいて判断する。
小テスト、期末試験後に正答を配付し、フィードバックする。

【参考書】

- ・『編年 中世の文学』、浅見和彦・天野文雄、小島孝之、田村柳壱編、新典社、2000円、ISBN4-7879-0612-7
- ・『ともに読む古典 中世文学編』松尾葦江編、笠間書院、2300円、ISBN978-4-305-70828-1

中世文学史 b

中世日本文学の展開と諸相

姫野 敦子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中世日本文学の展開と諸相を、作品に即しながら講義する。後期は14世紀後半から16世紀までを対象とする。

【授業における到達目標】

14世紀後半から16世紀までの文学作品の概要を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 中世文学の概要
- 第2週 軍記（1）
- 第3週 軍記（2）
- 第4週 室町時代物語（1）
- 第5週 室町時代物語（2）
- 第6週 和歌（1）
- 第7週 和歌（2）
- 第8週 小テスト 連歌（1）
- 第9週 連歌（2）
- 第10週 芸能（1）
- 第11週 芸能（2）
- 第12週 歌謡
- 第13週 紀行
- 第14週 転換期の文学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間） プリントの読解
- 事後学修（週2時間） 授業内容の復習

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前期中盤に行う小テスト（30点）期末試験（50点）および平常点（コメントシートを20点分に換算）に基づいて判断する。
小テスト、期末試験後に正答を配付し、フィードバックする。

【参考書】

- ・『編年 中世の文学』、浅見和彦・天野文雄、小島孝之、田村柳壺編、新典社、2000円、ISBN4-7879-0612-7
- ・『ともに読む古典 中世文学編』松尾葦江編、笠間書院、2300円、ISBN978-4-305-70828-1

中世文学史 b

中世日本文学の展開と諸相

姫野 敦子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中世日本文学の展開と諸相を、作品に即しながら講義する。後期は14世紀後半から16世紀までを対象とする。

【授業における到達目標】

14世紀後半から16世紀までの文学作品の概要を理解する。

【授業の内容】

- 第1週 中世文学の概要
- 第2週 軍記（1）
- 第3週 軍記（2）
- 第4週 室町時代物語（1）
- 第5週 室町時代物語（2）
- 第6週 和歌（1）
- 第7週 和歌（2）
- 第8週 小テスト 連歌（1）
- 第9週 連歌（2）
- 第10週 芸能（1）
- 第11週 芸能（2）
- 第12週 歌謡
- 第13週 紀行
- 第14週 転換期の文学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間） プリントの読解
- 事後学修（週2時間） 授業内容の復習

【テキスト・教材】

授業時にプリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前期中盤に行う小テスト（30点）期末試験（50点）および平常点（コメントシートを20点分に換算）に基づいて判断する。
小テスト、期末試験後に正答を配付し、フィードバックする。

【参考書】

- ・『編年 中世の文学』、浅見和彦・天野文雄、小島孝之、田村柳壺編、新典社、2000円、ISBN4-7879-0612-7
- ・『ともに読む古典 中世文学編』松尾葦江編、笠間書院、2300円、ISBN978-4-305-70828-1

彫刻実習 a (木彫)

巻貝を彫る

菱田 波

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

彫刻は人間の持つ感情や思想を空間の中に表現することができる。古来から人間は自然素材を使って制作表現してきた。ここでは、巻貝をモチーフとし、彫り込むという作業を中心に学ぶ。自然の造形美を表現する喜びと技法を基礎から体得する。巻貝を制作したことにより修得した方法により発展し、幾何形体の形を作ることを試みる。

【授業における到達目標】

彫り込む技法（彫造技法）を木材を使い基礎から修得する。自然の中の美を感じるにより研鑽する力をつける。

【授業の内容】

- 第1週 木彫についての知識と道具の説明
- 第2週 様々な角度から巻貝をスケッチ、デッサンをし図面や制作資料を作成する
- 第3週 基礎的な彫りの実習（刃の持ち方、木目の見方）
- 第4週 木の大まかな部分をノコギリで切り落とす
- 第5週 切り落とした部分に再度デッサンをする
- 第6週 大きな形を意識して、ノミで粗彫りする
- 第7週 巻貝の形の動きに着目しながらノミと彫刻刀で粗彫り
- 第8週 全体と部分の関係を意識しながら彫り進める
- 第9週 細かな部分（巻貝の螺旋 凹凸など）をさらに彫り進める
- 第10週 巻貝の特徴は出ているか確認し修正する
- 第11週 部分的にヤスリ、サンドペーパーで磨き細部を整えて完成させる
- 第12週 巻貝の形から発展しイメージした幾何形体の形のデッサンをする
- 第13週 軟質材（バルサ）という材料で、形を作っていく
- 第14週 カッターナイフ、ヤスリで形を修正する
- 第15週 作品鑑賞 講評

【事前・事後学修】

- 第1週～第4週（事前学修）美術館などで、木彫作品を鑑賞しておくこと。（学修時間 週2時間）
（事後学修）制作資料を参考にして作品進行目標を考えておくこと。（学修時間 週2時間）
- 第5週～第15週（事前学修）使用する道具の特性を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）
（事後学修）完成に向けて制作方法を計画しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

B4程度の手帳スケッチブック、HB～2Bの鉛筆

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

完成作品（70%） 平常点（授業態度 課題への取り組み方・制作課題）（30%）により評価する。
第15週に完成作品について講評する。

【注意事項】

服装は作業に適したものを着用すること。
材料費については別途徴収する。
郊外実習として美術館見学を行うこともありうる。

彫刻実習 b (彫塑)

友人をモデルに頭像を作る

菱田 波

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

彫塑は粘土を使って芯棒などに肉付けして形を作り出すことである。友人同士でモデルになり頭部の見えのまま、感じたままを形作っていく。骨格形成や動勢（顔の動き）を構成する。物を見る目、感じる心を養い、造形的表現の基礎を学ぶことを目標とする。作品を保存するための石膏型取り技法も習得する。（自分の手を型取りする）

【授業における到達目標】

造形の基本となる立体表現を修得する。感受性を深めることにより、学ぶ愉しみをを知る。

【授業の内容】

- 第1週 塑像についての知識と道具の説明
- 第2週 頭像1 友人同士でスケッチ、デッサンを様々な角度から行う
- 第3週 頭像2 スケッチ、デッサンをもとに図面や制作資料を作成する
- 第4週 頭像3 芯棒を組み立てる。粘土の肉付けを行う
- 第5週 頭像4 頭部の肉付けを行い、頭部に粘土ヘラでデッサンをする。頭部の量感を意識しながら行う
- 第6週 頭像5 頭部と首のつながりを見ながら肉付けをする。
- 第7週 頭像6 細部の制作のためのスケッチ、デッサンを交代で行う
- 第8週 型取り1 石膏型取り技法について知識と道具の説明
- 第9週 型取り2 自分の手の石膏型取りを行う。型を作り石膏を流し込み離型する
- 第10週 頭像7 細部（目、鼻、耳、口など）を作り、頭部との関係を意識して形作る
- 第11週 頭像8 全体のバランスを見ながら形を整えていく
- 第12週 頭像9 モデルの特徴をだすように確認しながら修正する
- 第13週 頭像10 髪の毛などに彫刻を施し、仕上げの作業をする
- 第14週 頭像11 表面を磨き完成させる
- 第15週 作品鑑賞 講評 発表

【事前・事後学修】

- 第1週～第7週 第10週～第15週（事前学修）美術館などで、塑像、頭像を鑑賞する。自分や友人をモデルにし、よく観察してデッサンをする（学修時間 週2時間）（事後学修）次回の授業での作品制作進行目標を計画しておくこと（学修時間 週2時間）
- 第8週～第9週（事前学修）石膏素材の特性を調べておくこと（学修時間 週2時間）（事後学修）石膏型取りに使用した道具を復習する（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

B4程度の手帳スケッチブック、HB～2Bの鉛筆

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

完成作品（70%） 平常点（授業態度 課題への取り組み方・課題提出）（30%）により評価する。
第15週に完成作品について講評する。

【注意事項】

服装は作業に適したものを着用すること。
材料費については別途徴収する。
校外実習として授業に関連のあるテーマの美術館見学を行う場合もありうる。

調査・実験データ処理法

竹内 光悦

2年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

知識基盤社会といわれる現在、様々なタイプや大きさのデータを適切に扱える能力は重要である。特に、問題解決を行う際には、調査や実験によるデータの取得、またそのデータの処理・分析は社会人として基礎的であり、必須の知識やスキルといえる。

本講義では表計算ソフト（Microsoft Excel など）を用いて、社会調査や心理実験などで得られるデータを処理、分析する知識やスキルの習得を踏まえ、多様な現場での即戦力育成を目指す。

【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. ガイダンス、データ分析の導入、社会情報の活用
2. 表計算ソフトの導入：数値の入力、表の作成、関数の利用
3. 確率論・標本抽出の理論の基礎
4. データ処理基礎：データ入力・変換・並べ替え・抽出、統計グラフ、簡易データベース
5. データの集計応用：ピボットテーブル、クロス集計、属性相関係数
6. データの要約化：基本統計量（代表値、散布度）
7. データの関係把握：相関関係、相関係数、偏相関係数
8. データの傾向把握：回帰分析の基礎、変数コントロール
9. 統計的推定と統計的仮説検定の理論の導入
10. 統計的仮説検定 I：平均や比率の差の検定
11. 統計的仮説検定 II：独立性の検定
12. 時系列分析入門：時系列分析、変動分解
13. 調査・実習データを用いた報告書作成と社会における表計算ソフトの活用
14. 調査・実習データ処理実習
15. 調査・実習データ処理のまとめ

※関連の外部講師を招聘し特別講演を予定

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

manaba を活用して資料、情報等を提供。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

河本薫 著『最強のデータ分析組織 なぜ大阪ガスは成功したのか』（日経 BP 社 2017 年）1,728 円

【注意事項】

本講義では実践的にデータ分析の演習を行うため、PC教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。なお情報の基礎的な導入に関してはリテラシーの授業を参考にされたい。

調査企画特論

原田 謙

人間社会専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本科目は、社会調査を自ら企画・設計、実施し、分析・集計をおこなうために必要な実践的な知識・方法を習得することを目的とする。

調査方法論、調査倫理をふまえた上で、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリング方法、実査の注意点、調査データの整理の手順といった一連の方法を理解する。さらに簡単な量的・質的分析にもとづく報告ペーパーの作成を行う。

【授業における到達目標】

この授業では、修士論文で自ら調査を実践できる力を身につけることを目標とする。社会調査の方法論を通じて、「研鑽力」の養成に資する本質を見抜く力、「行動力」に必要な現状を正しく把握する能力を高める。

【授業の内容】

- 第1回 社会調査の目的と意義
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査の方法：量的調査と質的調査
- 第4回 理論と検証：仮説構成
- 第5回 調査の企画・設計と調査倫理
- 第6回 サンプリングの考え方と方法
- 第7回 調査票の作成と注意点
- 第8回 尺度開発の方法
- 第9回 調査データの整理：エディティング、コーディング、クリーニング
- 第10回 質的調査の方法（1）：聞き取り調査
- 第11回 質的調査の方法（2）：参与観察法とフィールドノートの作成
- 第12回 統計的分析の基礎（1）：単純集計とクロス集計
- 第13回 統計的分析の基礎（2）：相関と回帰
- 第14回 報告書作成の要領
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査方法、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内課題（50%）および報告ペーパー（50%）に基づいて評価する。課題の評価などのフィードバックは授業内に行う。

【参考書】

森岡清志編（2007）『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社
盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣
佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法』新曜社
社会調査協会編（2014）『社会調査事典』丸善出版
その他の参考文献は、授業内に適宜指示する。

調理科学特別演習 B

数野 千恵子

食物栄養学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

調理は食品素材に調理操作を加え、より好ましい状態で食することができるようにすることである。また、食べ物は単なる味だけでなく食環境により美味しさや吸収率も変わるといわれている。

本講義では、調理操作によって生じる様々な食品の変化にかかわる現象について、水と熱の関連性を踏まえて調理科学の立場から考察する。また、食するとき感じる食べ物のおいしさの機能についても多角的にとらえて講述する。

調理素材の性状、調理操作と、食べ物のおいしさとのかかわりを学修し、その変化を知るための研究方法などを理解することを目標とする。

【授業における到達目標】

調理科学における伝統的な情報や最新の情報を整理・学修して、専門的な観点から説明できる知識と技能の向上を目指す。

【授業の内容】

- 第1回 新しい調理科学と研究手法
- 第2回 美味しさの要因に関連した学術論文の読解
- 第3回 おいしさと水 水の味 水の構造と性質
- 第4回 食品中の水が調理に及ぼす影響
- 第5回 調理と水に関連した学術論文の読解
- 第6回 食品の色に関する化学
- 第7回 調理による色の化学変化に関連した学術論文の読解
- 第8回 食品の香りに関する化学
- 第9回 調理による香りの化学変化に関連した学術論文の読解
- 第10回 熱源の種類と調理機器の特徴
- 第11回 加熱調理による食品の変化に関連した学術論文の読解-1
- 第12回 加熱調理による食品の変化に関連した学術論文の読解-2
- 第13回 食器や盛り付けによる食欲に関連した学術論文の読解
- 第14回 調理による安全性の確保
- 第15回 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

事前に資料、論文などを配布しますので、学習をしておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業内容に関連した課題についてレポートを作成し提出してください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

次回に用いる論文、資料を指定します。

また、必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の教科に対する取組みと理解度 50%、課題レポート 50%を総合的に評価します。

フィードバックは授業中でのディスカッションおよびレポート返却時に行います。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

受講者の研究内容により、適宜、重点とする講義内容を変更する場合があります。

【授業のテーマ】

調理について、「おいしく食べる」という面から考える。食べ物のおいしさは、味、香り、色、テクスチャー等様々な要因により影響される。本講義では調理方法による味覚物質の変化、香気成分の生成、食品の色や変色などの化学変化による嗜好性への影響を中心に理解を深める。また、味覚や食欲に関係するとされる食べ物の外観や食事環境についても合わせて考察し、より良い調理とは何かを討議する。おいしく食べることの意義や手法を理解することを目標とする。

【授業における到達目標】

おいしく食べることの意義や手法を理解し、人にその知識を伝達できるだけの能力を養うことを目標とする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、学修を通して自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 調理科学の意義
- 第2週 おいしさの要因を考える
- 第3週 調理科学の理解を深めるための基礎知識
- 第4週 調理と水のかかわり
- 第5週 水の種類による調理への影響
- 第6週 食品の調理による変化：色の変化
- 第7週 食品の調理による変化：香気成分の変化
- 第8週 食品の調理による変化：テクスチャーの変化
- 第9週 調味料と香辛料の特徴と利用
- 第10週 おいしさを作る調理操作と理論（加熱機器・鍋）
- 第11週 おいしさを作る調理操作と理論（茹でる、煮る）
- 第12週 おいしさを作る調理操作と理論（焼く、揚げる）
- 第13週 おいしさに関与する環境要因
（色、光、盛り付け方法、フードコーディネート）
- 第14週 課題のプレゼンテーション
- 第15週 全体のまとめと総合討議

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容に関連する学習課題を提示するので、取り組んでください。また、授業には、自分の意見を持って参加してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題レポートを作成してください。
日常の調理や食べる過程の中での現象を科学的な目でとらえる習慣を持ってください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要なテキストおよび文献については、適宜指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート 50%、授業への取り組み態度（授業内での発表・積極的な参加）50%

フィードバックは授業中でのディスカッションおよびレポート返却時に行う。

【参考書】

授業の中で適宜、参考文献等を紹介する。

調理学

教野 千恵子

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

調理は食品の栄養性の向上や安全性を配慮し、おいしい食事を作ることを目的とする。そのためには、より良い食事計画を行い調理理論を基礎とした効率的な加工法や調理法を習得する必要がある。本科目では基本的な調理操作および調理過程に伴う食品の科学的・物理的变化を学習する。

【授業における到達目標】

食品素材の調理特性、栄養特性などの理論を修得し、実際の調理に応用できるようにする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信を創出する力を養い、栄養士としての必要な学術的な力を修得する。また、見た目にも食慾を増すような料理を意識できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 食べ物のおいしさ
おいしさを感じる仕組みとおいしさの構成要素
- 第2週 調理操作：調味操作と調味料・香辛料
- 第3週 調理操作：非加熱操作と調理器具
- 第4週 調理操作：加熱操作と調理機器
- 第5週 植物性食品の調理性1：米の調理
- 第6週 植物性食品の調理性2：小麦粉と小麦粉製品の調理
- 第7週 植物性食品の調理性3：いも類、豆類の調理
- 第8週 植物性食品の調理性4：野菜、果実類の調理
- 第9週 植物性食品の調理性5：種実類、きのこ類、海藻類の調理
- 第10週 動物性食品の調理性1：食肉類の調理
- 第11週 動物性食品の調理性2：魚介類の調理
- 第12週 動物性食品の調理性3：鶏卵、乳・乳製品の調理
- 第13週 成分抽出素材の調理性：デンプン、ゲル化剤料
- 第14週 嗜好飲料：茶、コーヒー、ココアなど
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義範囲を指示するので、教科書の該当箇所を読んで専門用語、理解できないところをチェックしておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回小テストを行いますので、教科書、講義資料を参考にノートを整理して復習してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

木戸詔子・池田ひろ：新食品・栄養科学シリーズ 調理学 第3版
[化学同人、2016、¥2,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、小テスト20%で評価します。

小テストについては次回授業で、定期試験については授業最終回でフィードバックします。

【参考書】

食品学の教科書が参考になります。

その他、必要に応じ、授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

毎回、授業の始めに小テストを行います。

欠席者には課題を課します。指定された期限までに必ず提出してください。期限までに未提出の場合は減点します。

調理学

中川 裕子

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

食品学や広義の栄養学分野の中で食べ物に焦点を合わせるなら Why（何故に）、What（何を）、How（如何に）食べるかという三つの観点から考えられる。調理学は、この如何に食べるかを学ぶことを目的としている。調理学の範囲は理論、実験、実習の三本柱から構成されるが、ここでは食べることの意義を起点とし調理学の総論と調理に関する法則性を探り、技術や実践に役立つ理論を構築する。

【授業における到達目標】

管理栄養士国家試験に向けて、理論、実験、実習の関わりについて修得し、応用自在な対応が可能になることを目標にする。自ら課題を発見し、理論、実験に裏付けられた論理的な思考を身につける。

【授業の内容】

- 第1回：調理学とは何か おいしさとは何か
①おいしさの要因 ②おいしさを生かす/コントロールする
- 第2回：おいしさの評価と調味操作
①おいしさの評価 ②調味操作によるおいしさの増幅
- 第3回：調理操作と調理器具(1)
①調理操作のシステム化 ②非加熱調理と調理器具
③加熱操作と調理器具 ④新調理システム
- 第4回：調理操作と調理器具(2)
①非加熱操作 ②調味と調味パーセント
- 第5回：植物性食品の調理特性(1)米の特徴と調理特性
- 第6回：植物性食品の調理特性(2)小麦粉の特徴と調理特性
- 第7回：植物性食品の調理特性(3)雑穀類・豆・イモ類の特徴と調理特性
- 第8回：植物性食品の調理特性(4)野菜・果実類の特徴と調理特性
- 第9回：植物性食品の調理特性(5)種実類・きのこ・藻類の特徴と調理特性
- 第10回：動物性食品の調理特性(1)たんぱく質の調理上の性質
- 第11回：動物性食品の調理特性(2)肉類の特徴と調理特性
- 第12回：動物性食品の調理特性(3)魚介類の特徴と調理特性
- 第13回：動物性食品の調理特性(4)卵類の特徴と調理特性
- 第14回：動物性食品の調理特性(5)乳・乳製品の特徴と調理特性
- 第15回：成分抽出食品の調理
①デンプンの種類と特徴
②ゼリー形成素材：寒天 ゼラチン その他のゲル化素材

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容をあらかじめmanabaに掲載するので予習をすること。（学修時間週2時間）

事後学修：前回の内容について確認テストを行うので、テキスト該当箇所を予習・復習しておくこと。（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

大越ひろ、品川弘子：健康と調理のサイエンス第4版[学文社、2017、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験および小テスト80%、授業態度20%で総合的に評価する。

小テストは次回授業、試験結果は授業最後で解説を行う。

【参考書】

『調理学実験』、『基礎調理1および2』、『調理学実習 a および b』の授業と関連があるので、教科書等参考にすること。

【注意事項】

出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。

調理学 a

中川 裕子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

おいしい食事をつくることを目的とし、食事設計、食べ物のおいしさや評価法、調理操作方法について学ぶ。食品の調理操作により変化する過程および諸現象を科学的に理解することで、調理技術向上につなげることができるよう応用力を身につける。

【授業における到達目標】

食品学をはじめ、化学、生物学、栄養学等の諸分野を基礎として、調理の際に生じる種々の現象を理論的に理解する力を修得する。正しい食生活、調理の意義について考え、食品の側からだけでなくそれを味わう人間側、環境についても考え、時代に合った調理操作の工夫および調理食品の提案につなげることができる能力を修得する。

【授業の内容】

- 第1回：調理学とは何か おいしさとは何か
①おいしさの要因 ②おいしさを生かす/コントロールする
- 第2回：おいしさの評価と調味操作
①おいしさの評価 ②調味操作によるおいしさの増幅
- 第3回：調理操作と調理器具(1)
①調理操作のシステム化 ②非加熱調理と調理器具
③加熱操作と調理器具 ④新調理システム
- 第4回：調理操作と調理器具(2)
①非加熱操作 ②調味と調味パーセント
- 第5回：植物性食品の調理特性(1)米の特徴と調理特性
- 第6回：植物性食品の調理特性(2)小麦粉の特徴と調理特性
- 第7回：植物性食品の調理特性(3)雑穀類・豆・イモ類の特徴と調理特性
- 第8回：植物性食品の調理特性(4)野菜・果実類の特徴と調理特性
- 第9回：植物性食品の調理特性(5)種実類・きのこ・藻類の特徴と調理特性
- 第10回：動物性食品の調理特性(1)たんぱく質の調理上の性質
- 第11回：動物性食品の調理特性(2)肉類の特徴と調理特性
- 第12回：動物性食品の調理特性(3)魚介類の特徴と調理特性
- 第13回：動物性食品の調理特性(4)卵類の特徴と調理特性
- 第14回：動物性食品の調理特性(5)乳・乳製品の特徴と調理特性
- 第15回：成分抽出食品の調理
①デンプンの種類と特徴
②ゼリー形成素材 寒天 ゼラチン その他のゲル化素材

【事前・事後学修】

事前学修：指定した教科書の該当部分を熟読しておくこと。

(学修時間 週2時間)

事後学修：前回の授業内容を確認するための復習小テストを行うので、配布プリントおよび教科書の該当部分を確認しておくこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

大越ひろ、品川弘子編『健康と調理のサイエンス第4版』

(学文社 2017年) 2,700円

授業の資料としてプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験・(60%)、授業参画度・(リアクションペーパー)・小テスト(40%)で総合的に評価する。

小テストは次回授業で解説を行う。

出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。

【参考書】

『日本食品成分表2018』

『NEW調理と理論』(山崎清子ほか著、同文書院)

【注意事項】

質問等はなるべく授業中に積極的にを行うようにする習慣を身につけること。

調理学 b

佐藤 幸子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

本講義では、「調理学a」において習得した調理操作方法など関する調理理論に加えて、食品素材の調理科学的現象および食文化的背景からの伝統的な調理操等について学び、調理に対する意識向上を目指します。さらに日本の調理文化の形成過程を学び、伝承すべき食事様式の知識を習得し、調理に関する探究心を養成する。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「国際的視野」「研鑽力」を育成し、専門的な基礎知識および伝統的な食文化として習得すべき「豊かな教養力」「学術的な力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1回 食べ物と調理
- 第2回 米の調理、小麦粉の調理、芋類の調理
- 第3回 豆類の調理、鶏卵の調理 豆類の種類と調理性
- 第4回 獣鶏肉の調理 肉の部位、肉類の調理性、肉類の調理
- 第5回 魚介類の調理 魚の種類、魚類の調理性、魚・魚介の調理
- 第6回 鶏卵の調理 卵の成分、卵の調理性、卵の調理
- 第7回 牛乳・乳製品の調理、野菜・果物の調理
- 第8回 寒天・ゼラチンの調理、乾物・加工品の調理
- 第9回 調理の歴史と文化 I
縄文・弥生時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代
- 第10回 調理の歴史と文化 II
安土桃山・江戸時代、明治・大正・昭和時代
- 第11回 調理の歴史と文化 III
平成時代、食生活の変化
- 第12回 調味料と美味しさ
調味料の使いわけ、調味のタイミング、調味料の浸透、調味料の割合、
- 第13回 料理の組み合わせ、香味野菜と美味しさ
奇数の盛り付け、食品素材の表裏、吸い口、つま、天盛り
- 第14回 料理の器
材質による分類と特徴
- 第15回 供食形式(西洋料理、中国料理、日本料理)

【事前・事後学修】

【事前学修】：manabaから授業時に使用するワークシートに沿って食に関する情報を予習する。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】：授業における課題をまとめる。(授業後に提出)

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

教科書は使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・確認試験60%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認(第15週授業時に評価しフィードバックする)

・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出(次回授業時にフィードバックする)

・平常点評価10%：真剣な授業態度(授業時にフィードバックする)

【参考書】

『NEW調理と理論』山崎清子等著(同文書院 2015年)

2600円(税別)

『日本の食文化 和食の継承と教育 新版』江原絢子・石川尚子編(アイ・ケイ・ホーレション 2016年) 2500円(税別)

【注意事項】

予習・復習は各自意欲を持って取り組み、授業においては私語を慎み、真摯な態度で受講してください。

調理学及び実習

栗原 幸子

3年 後期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

【授業における到達目標】

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
栗ごはん、つみれ汁、鯨の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）
キャンディテスト、べっ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。

授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。

また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

【テキスト・教材】

『五訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年
802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定

確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認

提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出

平常点評価10%：授業中の活動への参加状況を評価

提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

【参考書】

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

【注意事項】

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成する。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榎大修館出版2016年）
1000円（税別）
食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成する。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榎大修館出版2016年）
1000円（税別）
食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成する。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榊大修館出版2016年）1000円（税別）
食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

調理学及び実習

栗原 幸子

3年 後期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

【授業における到達目標】

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
栗ごはん、つみれ汁、鰯の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）
キャンディテスト、ペッ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。

授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。

また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

【テキスト・教材】

『5訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年 802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定

確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認
提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出
平常点評価10%：授業中の活動への参加状況の評価
提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

【参考書】

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

【注意事項】

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成する。

【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榎大修館出版2016年）
1000円（税別）
食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

調理学及び実習

栗原 幸子

3年 後期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

【授業における到達目標】

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）
栗ごはん、つみれ汁、鯨の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）
キャンディテスト、べっ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。

授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。

また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

【テキスト・教材】

『五訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年
802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定

確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認

提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出

平常点評価10%：授業中の活動への参加状況を評価

提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

【参考書】

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

【注意事項】

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

調理学実験

数野 千恵子

1年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

欠席した場合は、欠席者課題を課します。

【授業のテーマ】

食品は調理過程を経て食べ物として食卓に載せられる。調理学実験では、その調理過程において、どのように操作するとおいしく仕上がるのかを、実験を通して、よく観察し目で見て触ってみて確かめる。日常的に用いられる食品を対象として、その調理特性について検討し、おいしい食べ物を作ることに役立てることを目標とする。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」としての学ぶ楽しみを知り、グループ実習を通して「協働力」としての互いに協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

第1回 授業ガイダンスおよび五味の鑑別

調理室や調理器具・機器の使い方、実験器具の洗い方など
五基本味を含んだ試料液を味見して味質の差を認知する。

第2回 官能検査法

2点比較法と3点比較法を用いて、かつお節だし汁の塩分濃度識別試験を行う。

第3回 炊飯に関する実験

うるち米ともち米の浸水時間と吸水量を測定する。
ピーカーの中で炊飯を行い、米の炊飯特性を観察する。
こわ飯の振り水の回数と食味の違いを認知する。

第4回 卵の熱凝固性に関する実験

卵の熱凝固に対する卵液の希釈倍率や、牛乳、調味料などの副材料の影響を調べる。
温泉卵を作成し、卵白、卵黄の凝固温度を確認する。

第5回 小麦粉生地とグルテン

強力粉と薄力粉による生地の性状の違いを測定する。
グルテンを取り出し、粉の種類による違いを確認する。

第6回 牛乳及び乳製品の調理性

牛乳にレモン汁を加えて、pHを測定しながらカテージチーズを調製する。生クリームの気泡性とバターへの転相を行う。

第7回 砂糖の調理特性および高甘度甘味料の扱い

砂糖液を加熱し、温度上昇に伴う性状の変化を調べる。
高甘度甘味料の調理時のコツを理解し、調理後の味や外観を砂糖と比較する。

第8回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の実験内容を予習して、全体の流れを把握し、理解できないところをチェックしておいてください。

(学修時間 週1時間)

【事後学修】 実験内容を整理して毎回レポートを作成してください。また、課題を出しますのでレポートと一緒に提出してください。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

授業の資料はプリントを使用します。1週間前にmanabaに掲載しますので、各自で印刷して、授業時に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習レポート(毎回提出)70%、実験態度30%で評価します。

レポートは返却時の授業でフィードバックします。

【参考書】

『新版・食品の官能評価・鑑別演習 第3版』(建帛社)

『NEW調理と理論』山崎清子ら(同文書院)

その他、食品学や調理学の教科書が参考になります。

【注意事項】

授業は調理室で行いますので、調理専用の白衣、及び上履きを着用し、髪の毛の長い人は束ね、動きやすい服装を心がけてください。

貴重品は自己管理を徹底してください。

調理学実験 a

中川 裕子

1年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

日常の調理でよく用いられる基本的な食品を取り上げ、その調理性を中心に実験を行い、食品の扱い方や調理技術の要点などについて考える。また、食品評価法として官能評価を行う。

【授業における到達目標】

日常よく用いられる食品について、実験を通じて調理性に関連する科学的視点を学修し、自ら課題を発見できる力を修得する。官能評価により主観的特性を数値化する手法を学び、商品開発やフードスペシャリストで活かせる応用力を修得する。

【授業の内容】

第1回：授業の進め方・官能評価法

実験授業のガイダンスとして、授業の進め方、実験ノートの書き方、調理実習室の使い方、掃除の指導、実験器具の洗浄法などを指導する。調理学実験で度々行う官能評価の導入として、五味の識別試験を行う。

第2回：炊飯特性を修得する。

うるち米ともち米の浸水時間と吸水量を測定する。ピーカーの中で炊飯を行い、乾物でありでんぷんが主成分である米の炊飯特性について学ぶ。

第3回：卵液の熱凝固性について修得する。

鶏卵の鮮度鑑別試験。熱凝固に対する卵液の希釈率や、食塩・砂糖・牛乳添加の影響を調べ、たんぱく質の変性の観点から考察する。

第4回：いもの調理特性を修得する。

ジャガイモの加熱温度の違い、マッシュポテトの調理条件の違いを比較する。さつまいもの食感や甘味に対する加熱方法の影響を、官能評価の順位法を用いて評価し、検定の仕方を学修する。

第5回：小麦粉生地とグルテンの調理特性を修得する。

強力粉と薄力粉による生地の性状の違いを測定し、それぞれの生地からグルテンを取り出す。中力粉で手打ちうどんを調性し、食塩の有無による違いを比較する。

第6回：牛乳および乳製品の調理特性を修得する。

レモン汁で牛乳のpHを下げ、カッテージチーズを調製する。生クリームの起泡性とバターへの転相実験を行う。

第7回：砂糖の調理性として、砂糖溶液の加熱温度とその性質、砂糖の結晶化、砂糖の結晶化防止について修得する。

第8回：調理学実験の総まとめと、重要事項の再確認試験を行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の実験内容を予習し実験の目的、手順などを理解しておいてください。(学修時間週1時間)

【事後学修】 実験内容を整理し、次回までにレポートを作成し提出してください。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

授業の資料はプリントを使用します。授業の1週間前にmanabaに掲載するので、各自で印刷して授業時に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験レポート(毎回提出)(70%)、実験態度(30%)で評価します。レポートに記載された訂正事項や、確認事項は必ず確認、訂正して再評価を受けてください。

【参考書】

『新版・食品の官能評価・鑑別演習 第3版』(日本フードスペシャリスト協会編、建帛社)

『NEW調理と理論』(山崎清子ほか著、同文書院)

その他、食品学や調理学の教科書を参考とする。

【注意事項】

調理室で行いますので、調理専用の白衣、及び上履きを着用し、髪の毛の長い人は束ね、動きやすい服装を心がけてください。

貴重品は自己管理を徹底してください。

調理学実験 b

数野 千恵子

2年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

調理過程により食品の成分は変化する。出来上がった料理の見た目や味が変わるだけでなく栄養性や機能性、テクスチャーにも影響を及ぼす。本講座では、調理方法や材料の配合による違いなどを検討し、栄養的で嗜好にも適う調理を再現する力を養うことを目標とする。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、グループ実習を通して「協働力」としての互いに協力して物事を進める力を修得する。

【授業の内容】

第1回 食べ物の適温

温かい汁物の温度低下及び冷たい飲み物の温度上昇を測定し、飲み頃の温度を把握する。食べ物の温度変化を観察し、適温で美味しく食べられる温度と時間の関係を考える。

第2回 野菜の色の変化とpH

異なる色素を含んだ野菜をpHの異なる溶液で加熱し、色調や硬さの変化を観察し、野菜の色を活かすための調理法を理解する。

第3回 クッキーの性状に及ぼす材料の配合割合

クッキーの性状には用いる材料の配合割合や配合の順序が影響する。バターと砂糖の配合割合がクッキーの色やテクスチャーに及ぼす影響を調べる。

第4回 小豆あんの調製と性状

あんの調製方法を学ぶ。また生あんや練りあんの性状について、テクスチャーを調べたり、顕微鏡で観察したりしてあんとでんぷんの関係を理解する。

第5回 ハンバーグステーキにおける副材料の役割

玉ねぎ、パン粉、卵、牛乳などの副材料や調味料の役割を実験によって理解し、ジューシーで軟らかいハンバーグステーキを調製するための理論を理解する。

第6回 砂糖の調理性および高甘度甘味料の扱い

様々な菓子類などの調理に応用されている砂糖の性質を知る。また、高甘度甘味料の調理時のコツを理解し、調理後の味や外観を砂糖と比較する。

第7回 ゼリーの調理性に関する実験

寒天、カラギーナン、ゼラチンのゲルについて、それらの性質やテクスチャーの違いを知る。また、ゲルの物性に及ぼす砂糖や果汁の影響を観察する。

第8回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の実験内容を予習し実験の目的、手順などを理解しておいてください。(学修時間 週1時間)

【事後学修】 実験内容を整理し、毎回レポートを作成してください。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

授業資料は、プリントを使用します。授業の1週間前にmanabaに掲載しますので、各自で印刷して授業時に持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習レポート(毎回提出)70%、実験態度30%で評価します。

レポートは次回の授業でフィードバックします。

【参考書】

『NEW調理と理論』山崎清子ら(同文書院)

【注意事項】

授業は調理室で行いますので、調理専用の白衣、及び上履きを着用し、髪の毛の長い人は束ね、動きやすい服装を心がけてください。

貴重品は自己管理を徹底してください。

欠席した場合は、欠席者課題を課します。

調理学実習 a

原田 美穂子

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

【授業のテーマ】

調理を行い総合的な知識や技術を学び、それらの取り扱い方や料理を実際に作り中国料理の文化を探る。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ○授業の流れについて
○中国料理について（歴史・地域性・文化など）
○中国料理の調理器具について
○特有な調理性・切り方の説明
○湯について
- 第2週 ○肉類の下処理
○魚介類の下処理
○上漿とは
○油の温度
- 第3週 ○様々な粉の特性
○点心（咸点心・甜点心）
- 第4週 ○麺について
○蒸し物
○揚げ物
- 第5週 ○鶏の卸方
○中国野菜について
- 第6週 ○魚の卸方
○授業まとめ1
○ノート提出
- 第7週 ○乾貨について
○授業まとめ2
- 第8週 ○授業まとめ3

【事前・事後学修】

【事前学修】（週2時間）授業資料（レシピ等）の熟読

【事後学修】（週2時間）ノートの作成

【テキスト・教材】

授業資料（レシピ等は）manabaに掲載いたします。各自印刷して持参してください。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実技グループ別評価 30%（授業時にフィードバックする。）

授業態度 20%（授業時にフィードバックする。）

ノート評価 20%（提出後にフィードバックする。）

実技試験 30%（実施時に評価する）

調理学実習 b

長澤 美明

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

【授業のテーマ】

西洋料理の技術と知識の習得

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を習得する。

【授業の内容】

- ①カナダ産オマール海老のサラダ プランタニエール
マグレ鴨胸肉のロースト ソース ポワヴェルベール
ポテトのガレット
フランス産チーズ・カマンベール・フルーツセック・パン
マンゴーフルーツのシャーベット
- ②ミックスサンドウィッチ（ロースハム・プロセスチーズ）
ポテトの冷製スープ ヴィシソワーズ
トマトとメスクランのサラダ・王冠仕立て
フランス産チーズ・サントモールサンドレ・フルーツセック
ヴァニラのアイスクリーム
- ③フルーツのタルト
スモークサーモンの各種野菜のサラダ
パスタ・アーリオ・オーリオ・ペペロンチーノ
チョコレートの小菓子
パッションのシャーベット
- ④プレーンオムレツ
真鯛の香草風味パン粉焼き・タルタルソース添え
クスクスのカレー風味・野菜サラダ
スイス産チーズ・テートドモアンス・フルーツセック・パン
パマンガのシャーベット
- ⑤フォアグラ・ピクルス・野菜のサラダ仕立て・バルサミコ風味
仔羊のロースト・マスタードソース
グラタンドフィノワーズ
クスクスのカレー風味
フランス産チーズ・ロックフォール・フルーツセック・パン
いちごのムース・フレッシュフランボワーズ添え
フランボワーズのシャーベット
- ⑥パーティー料理各種
ずわい蟹のサラダ・海の幸のマリネ・カツサンド
海老マカロニグラタン・ローストビーフ・お魚ハンバーグ
ショートケーキ・タルト・いちごのアイスクリーム
- ⑦授業のまとめ1
- ⑧授業のまとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続

【事前・事後学修】**【事前学修】**

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】

実習内容について考察し、レポートにまとめ提出すること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

・プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・実技試験・筆記試験50%、授業態度20%、レシピ20%、レポート10%（レポートは必ず提出し、授業時にフィードバックする）

【注意事項】

- ・食材の仕入れ状況によりメニューを変更する可能性があります。
- ・1クラス 20名を定員とする。

調理学特別講義

中川 裕子

4年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業は、前半は「調理学」の内容補足として、個々の食品の調理性の解説を行い、後半は「食品物性論」の解説を行う。

食べ物のおいしさにはさまざまな物理的性質が影響しているが、中でも日本の食文化はテクスチャー文化と言われるほど、テクスチャーに敏感である。そこでテクスチャーを中心に、関連するコロイド、レオロジー、テクスチャーをもたらす我々の口内の運動、さらにえん下困難者食、介護食などの解説を行う。

【授業における到達目標】

管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野に関わる食品物性論、官能評価との関わりについて、実験例から結果を読み取り、理解度を深めることを目標とする。理解・習得した知識をもとに、健常者はもとより、高齢者の豊かな食生活に寄与できる実践力を身につけることを目標とする。学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

I. 調理プロセスにおける食品の変化

1. 炭水化物を多く含む食品、でん粉類、米
2. 炭水化物を多く含む食品、小麦粉
3. 炭水化物を多く含む食品、いも類、豆類
4. タンパク質を多く含む食品、食肉類
5. タンパク質を多く含む食品、魚介類
6. タンパク質を多く含む食品、卵、乳・乳製品
7. ビタミン・無機質を多く含む食品、野菜類・果実類

II. 食品物性論

8. 食品のおいしさと物理的特性
9. 粘性と流動①（コロイド、エマルジョン、ニュートン流体）
10. 粘性と流動②（粘度計、官能評価との関連性）
11. ゾルとゲル
12. 弾性および粘弾性体
13. 大変形の力学的性質①（破断特性）
14. 大変形の力学的性質②（官能評価との関連性）
15. 介護食とテクスチャー

【事前・事後学修】

事前学修：教科書の該当部分を熟読しておくこと。

その他の教材は、授業中に配布するとともにmanabaに掲載するので予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業中に配付された試料は、紛失しないこと。学外実習、就職活動等で欠席した場合は、申し出て資料を受け取ること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要な資料は、授業中に配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、課題提出20%、授業態度20%で総合的に評価する。

出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。課題は提出後評価して返却するので、問題点は訂正し再提出する。課題により、グループでディスカッションし、総合討論に発展させる。

【参考書】

- ・中濱信子『おいしさのレオロジー』アイ・ケイコーポレーション
- ・森友彦、川端晶子編『食品のテクスチャー評価の標準化』（光琳）¥3,240（1997）
- ・古川秀子『おいしさを測る』（幸書房）¥2,330（2012）
- ・古川秀子、上田玲子『続おいしさを測る』（幸書房）¥2,700（2012）
- ・川端晶子著『食品物性学』（建帛社）（1989）2,700円＋税

【注意事項】

- ・2年「調理学」の国家試験範囲の内容補足を行うので、できるだけ受講すること。

哲学入門

哲学的思考法を学ぶ

小須田 健

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

西洋で生まれた哲学という特異な思考様式の特徴を歴史的な観点から理解してもらいたい。

【授業における到達目標】

あらゆる学問が哲学から分岐して誕生していったものであることを理解できるようになる。

【授業の内容】

- 第一回 哲学的思考のはじまり
- 第二回 ソフィストとソクラテス
- 第三回 プラトン
- 第四回 アリストテレス
- 第五回 ヘレニズム時代の哲学
- 第六回 キリスト教の誕生
- 第七回 アウグスティヌス
- 第八回 スコラ哲学
- 第九回 トマス＝アキナス
- 第十回 ベーコン
- 第十一回 デカルト
- 第十二回 ロック
- 第十三回 カント
- 第十四回 ヘーゲル
- 第十五回 ニーチェ

【事前・事後学修】

授業中に紹介する著作は各自で探して読む習慣をつけていただきたい。事前学修に週2時間、事後学修に週2時間くらいはかけてじっくり読書してもらいたい。

【テキスト・教材】

特定のテキストは用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテストで評価する（100%）。結果は授業最終回でフィードバックをおこなう。

【参考書】

哲学初心者にとっての参考書として、アンドレ・コント＝スポンヴィル『哲学』（白水社）を挙げておく。

【注意事項】

継続的な受講を望みたい。

哲学入門 b

近代哲学思想を腑分けする

小須田 健

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

現代社会を用意した近代ないしモダンと呼ばれる時代の哲学思想の展開過程をたどる。

【授業における到達目標】

近代哲学の特徴を知ること、現代を生きるうえでの智恵となりうるものを見つけだしてもらえるようになる。

【授業の内容】

- 第一回 近代哲学の特徴としての世俗化
- 第二回 ルネサンス哲学
- 第三回 ベーコン
- 第四回 デカルト
- 第五回 スピノザ
- 第六回 ライブニッツ
- 第七回 ホッブズ
- 第八回 ロック
- 第九回 バークリーとヒューム
- 第十回 ヴォルテール
- 第十一回 ルソー
- 第十二回 カント
- 第十三回 フィヒテ
- 第十四回 シェリング
- 第十五回 ヘーゲル

【事前・事後学修】

授業中に紹介する著作は各自で探して読む習慣をつけていただきたい。事前学修に週2時間、事後学修に週2時間くらいはかけてじっくり読書してもらいたい。

【テキスト・教材】

とくに指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテストで評価する（100%）。結果は授業最終回でフィードバックをおこなう。

【参考書】

哲学初学者への参考書として、アンドレ・コント＝スポンヴィル『哲学』（白水社）を挙げておく。

【注意事項】

継続的な受講を望む。

点字の世界

指で読む日本語

西脇 智子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、協働力

【授業のテーマ】

小学生のヤフー検索第1位は4年連続「ルイ・ブライユ」です。ルイ・ブライユが考案した「六点点字」は、1890年に石川倉次によって翻案されました。この授業では先駆者たちやとくに点字図書館の活動に注目し、歴史的経緯を踏まえて点字の世界を探ります。さらに「点字」のしくみを学び、点字で読み書きができる基礎知識を身につけます。

【授業における到達目標】

- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。
- ・点字のもつ「国際的視野」を学び、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を身につけます。

【授業の内容】

1. グループワーク：街や暮らしの中の点字
2. 点字の世界の先駆者たち
3. 点字図書館の活動
4. 点字出版事業の活動
5. 点訳奉仕の活動
6. 点字の歴史① 点字以前
7. 点字の歴史② 点字の開発
8. 点字の歴史③ 点字の翻案
9. 点字のしくみ① 清音と濁音と半濁音
10. 点字のしくみ② 拗音と拗濁音と拗半濁音
11. 点字のしくみ③ 数字とアルファベットと符号
12. 点字の実際① 点字の仮名遣い
13. 点字の実際② 点字の分かち書き
14. 点字の実際③ 点字の読み書き
15. 指で読む点字の世界

【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教材は資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート40%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）60%。
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

阿佐博『点字の履歴書』（視覚障害者支援センター 2002年）1600円、本間一夫『指と耳で読む』（岩波書店 1980年）700円、田中徹二『不可能を可能に』（岩波書店 2015年）780円、阿佐博『点字のレッスン』（博文館新社 2006年）

伝統衣服実習

川上 梅

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

大裁ち女物ひとえ長着（ゆかた）の製作・着装を通して、日本の民族衣装である和服に関する理解を深め、製作技術を習得する。反物から無駄なく裁断・製作される和服は、製作、着装、保管のすべての過程において、随所に日本の精神文化が観察できる。国際社会においては、特に日本の衣文化に対する理解を深めることも大切である。

【授業における到達目標】

和服の構成・縫製・着装を実際に行うことで、洋服のそれらとの違いを理解し、同時に日本文化に触れる。

【授業の内容】

- 第1週 平面構成の特徴、採寸と寸法設定
- 第2週 柄合わせ・裁断
- 第3週 袖のしるし付け・袖縫い
- 第4週 前後身頃のしるし付け・衽のしるし付け
- 第5週 背縫い・肩当て付け
- 第6週 居敷き当て付け・衽付け
- 第7週 衽付けの始末・掛け衿の柄合わせ
- 第8週 衿のしるし付け
- 第9週 衿付け
- 第10週 三つ衿芯・衿先の始末・衿くけ
- 第11週 衿付け（衿縫い・衿付けの始末）
- 第12週 脇縫い・脇縫いの始末
- 第13週 裾くけ・袖付け・袖縫い代の始末・仕上げ
- 第14週 着装実習
- 第15週 まとめ（和服の保管・着装の基礎）

【事前・事後学修】

〔事前学修〕 次回授業の内容を予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕 前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）と授業への積極参加（30%）で総合的に評価。提出物は返却時にレポートにコメントを記し、フィードバックを行う。

【参考書】

『衣服製作の科学』（建帛社）2,500円

伝統芸能 a

能の世界—熊野（ゆや）

小倉 伸二郎

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂へ行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

【授業における到達目標】

能は日本の文学、自然、社会から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）

第2週 謡と仕舞の実際、「熊野」の解説

第3週 「熊野」の謡（1）

「鶯のお山の名を残す」から「今熊野」まで

第4週 「熊野」の謡（2）

「稲荷の山乃」から「花ざかり」まで

第5週 「熊野」の謡（3）総まとめ

第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）

第7週 「熊野」の仕舞（1） 扇の持ち方、開き方

第8週 「熊野」の仕舞（2） 姿勢と足の運び方

第9週 舞台にて仕舞の稽古

第10週 「熊野」の仕舞（3） 左右、大左右

第11週 「熊野」の仕舞（4） 打込ミ、ヒラキ

第12週 「熊野」の仕舞（5） サン、角トリ

第13週 「熊野」の仕舞（6） カザシ

第14週 謡「熊野」の仕上げ

第15週 能楽堂での実技試験

「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

【事前・事後学修】

事前学修：謡本を読めるようにしておくこと（週2時間）。

事後学修：前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡いと仕舞の実技を実践させ、それに伴って起こる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

【参考書】

必要なものは授業中に指示します。

【注意事項】

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

伝統芸能 a

能の世界—熊野（ゆや）

小倉 伸二郎

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂へ行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

【授業における到達目標】

能は日本の文学、自然、社会から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）

第2週 謡と仕舞の実際、「熊野」の解説

第3週 「熊野」の謡（1）

「鶯のお山の名を残す」から「今熊野」まで

第4週 「熊野」の謡（2）

「稲荷の山乃」から「花ざかり」まで

第5週 「熊野」の謡（3）総まとめ

第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）

第7週 「熊野」の仕舞（1） 扇の持ち方、開き方

第8週 「熊野」の仕舞（2） 姿勢と足の運び方

第9週 舞台にて仕舞の稽古

第10週 「熊野」の仕舞（3） 左右、大左右

第11週 「熊野」の仕舞（4） 打込ミ、ヒラキ

第12週 「熊野」の仕舞（5） サン、角トリ

第13週 「熊野」の仕舞（6） カザシ

第14週 謡「熊野」の仕上げ

第15週 能楽堂での実技試験

「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

【事前・事後学修】

事前学修：謡本を読むようにしておくこと（週2時間）。

事後学修：前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡いと仕舞の実技を実践させ、それに伴って起こる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

【参考書】

必要なものは授業中に指示します。

【注意事項】

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

伝統芸能 b

能の世界—高砂（たかさご）

小倉 伸二郎

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂に行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

【授業における到達目標】

能は日本の文学、自然、社会から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では、他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）

第2週 謡と仕舞の実際、「高砂」の解説

第3週 「高砂」の謡（1）

「げに様々の舞姫の」から「小忌衣」まで

第4週 「高砂」の謡（2）

「さすかいなには」から「声ぞ楽しむ」まで

第5週 「高砂」の謡（3） 総まとめ

第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）

第7週 「高砂」の仕舞（1）扇の持ち方、開き方

第8週 「高砂」の仕舞（2）姿勢と足の運び方

第9週 舞台にて仕舞の稽古

第10週 「高砂」の仕舞（3）拍子の踏み方

第11週 「高砂」の仕舞（4）マキザシ、ヒラキ

第12週 「高砂」の仕舞（5）サシ、角トリ

第13週 「高砂」の仕舞（6）カザシ、廻返シ

第14週 謡「高砂」の仕上げ

第15週 能楽堂での実技試験

「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

【事前・事後学修】

事前学修：謡本を読めるようにしておくこと（週2時間）。

事後学修：前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡と仕舞の実技を実践させ、それに伴って起こる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

【参考書】

必要なものは授業中に指示します。

【注意事項】

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

伝統芸能 b

能の世界—高砂（たかさご）

小倉 伸二郎

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂に行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

【授業における到達目標】

能は日本の文学、自然、社会から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では、他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）

第2週 謡と仕舞の実際、「高砂」の解説

第3週 「高砂」の謡（1）

「げに様々の舞姫の」から「小忌衣」まで

第4週 「高砂」の謡（2）

「さすかいなには」から「声ぞ楽しむ」まで

第5週 「高砂」の謡（3） 総まとめ

第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）

第7週 「高砂」の仕舞（1）扇の持ち方、開き方

第8週 「高砂」の仕舞（2）姿勢と足の運び方

第9週 舞台にて仕舞の稽古

第10週 「高砂」の仕舞（3）拍子の踏み方

第11週 「高砂」の仕舞（4）マキザシ、ヒラキ

第12週 「高砂」の仕舞（5）サシ、角トリ

第13週 「高砂」の仕舞（6）カザシ、廻返シ

第14週 謡「高砂」の仕上げ

第15週 能楽堂での実技試験

「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

【事前・事後学修】

事前学修：謡本を読めるようにしておくこと（週2時間）。

事後学修：前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡と仕舞の実技を実践させ、それに伴って起こる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

【参考書】

必要なものは授業中に指示します。

【注意事項】

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

伝統文化の理解と実践

ー「伝統文化の精神とマナー」に学ぶー

永井 とも子

2年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

【授業のテーマ】

代表的な伝統文化の講義と演習を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事を目標に学習する。

【授業における到達目標】

- (1) 伝統文化と精神を理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。
- (2) 伝統文化の体験を通じて、物事の真理を探究する態度を深め、他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め、国内外の人々との交流を通じ世界に発進する力をつける。

【授業の内容】

- 第1週 伝統文化、儀礼文化、マナーとは その必要性とはその1（時代の中での変化）
- 第2週 伝統文化、儀礼文化、マナーとは その必要性とはその2（現代のマナー）
- 第3週 人生の通過儀礼について（演習）
「祝儀袋」・・・奉書紙・水引き使用
- 第4週 毛筆（筆ペン）その1
（祝儀袋・贈答の表書きと決まり事）
- 第5週 毛筆（筆ペン）その2
（受付での記帳～慶弔の決まり事）
- 第6週 「源氏物語」から学ぶ有職故実（年中行事・装束～香）
- 第7週 装束（十二単）1/4サイズの実物を見ながら
- 第8週 遊戯文化（百人一首・投扇興）で遊ぶ（演習）
- ※第9週 香道（演習）
- 第10週 華道とは（部屋の室礼・五節供のかざり）
- ※第11週 華道（演習）
- 第12週 茶道とは（和室での決まり事・所作）
- ※第13週 茶道（演習）
- 第14週 総括・「伝統文化の精神とマナー」に学ぶ
「大人の女性」とは
- 第15週 まとめ・総括
◎2週～14週まで交代で1分間スピーチも加え、
人前での立ち姿・所作・話し方までの指導付加
◎※印は外部講師も共に担当予定
◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

【事前・事後学修】

事前学修は、毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習しておくこと。（30分～1時間）
事後学修は、授業で学修したことを生活に取り入れ実践すること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

【テキスト・教材】

適宜プリント配布・DVD視聴
テキスト 永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」（ヒーロー出版、2009年）1800円＋税
教材費 2000円（演習教材実費）
（第3週より教材使用ため、第2週までに納入完了すること）
詳細は開講時に説明

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

都市フィールドワーク

原田 謙

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

【授業のテーマ】

この授業は、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説し、実際にインタビュー調査などを実施するアクティブ科目である。具体的には、観察法にもとづく質的データの収集方法や、KJ法／グラウンデッド・セオリー・アプローチといった分析方法を、ともに社会学における研究事例を通して学ぶ。そして自ら設定したリサーチ・クエスチョンに基づいて質的データを収集し、その分析結果をまとめる。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、ゼミや卒論で自ら質的調査を実践する力を修得することである。フィールドワークを通じて、「研鑽力」にかかわる広い視野と洞察力を身につけ、自己や他者の役割を理解して互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を育む。

【授業の内容】

1. ガイダンス：質的調査／フィールドワークとは
2. 質的データの収集：インタビュー調査、参与／非参与観察法
3. 質的データの分析：ライフストーリー分析、会話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチなど
4. 質的調査研究の実例1：都市社会学における写真観察法
5. 質的調査研究の実例2：KJ法／グラウンデッド・セオリー・アプローチ
6. 写真観察レポートの発表1
7. 写真観察レポートの発表2
8. オリジナル報告の企画：リサーチ・クエスチョンの設定
9. グループ・インタビューの技法
10. グループ・インタビューでの質問項目の作成
11. グループ・インタビューの実施
12. 質的データの整理：トランスクリプトの作成
13. 質的データ分析の実践：コーディング、結果図・ストーリーラインの作成
14. 分析結果の発表1
15. 分析結果の発表2

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査用語などを復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布もしくは必要資料をmanabaにアップロードする。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の成果発表（70%）、レポート（30%）にもとづいて評価する。成果発表およびレポートのフィードバックは授業内に（もしくはmanabaで）行う。

【参考書】

- 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋（2013）『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房
- 佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法——原理・方法・実践』新曜社
- 谷富夫・芦田徹郎編（2009）『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房

【注意事項】

グループワークを中心とする「アクティブ科目」のため、受講人数は30人までとする。また授業時間外に資料収集やフィールドワークを実施する。成果発表も複数回実施するので、これらの点を十分に考慮して登録するように。希望者が上限を超過した場合は、抽選の上、履修登録者を決定する。

都市社会学特論

原田 謙

人間社会専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

本科目は、都市の空間・社会構造をとらえる理論を理解し、実証研究を進めるために必要な社会地区分析やネットワーク分析などの方法を身につけることを目的とする。さらに地域特性に応じた「まちづくり」の現状と構想について、自治体と住民の協働（パートナーシップ）の視点などから検討する。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、都市を分析する理論と方法、そして地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を身につけることである。現代日本における地域社会の現状を正しく把握し、問題解決につなげる「行動力」を養成する。

【授業の内容】

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 シカゴ学派の都市研究
- 第3回 社会地図と地理情報システム
- 第4回 社会的ネットワークと下位文化
- 第5回 都市化と地域社会の変容
- 第6回 郊外社会とサバーバニズム
- 第7回 グローバリゼーションと都市エスニシティ
- 第8回 分極化する都市と貧困層
- 第9回 地方の衰退と中心市街地活性化
- 第10回 コミュニティ論とまちづくり
- 第11回 地域振興とまちづくり
- 第12回 福祉・健康とまちづくり
- 第13回 歴史・景観とまちづくり
- 第14回 安全・安心とまちづくり
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリント等を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内課題（50%）および報告ペーパー（50%）に基づいて評価する。課題の評価などのフィードバックは授業内に行う。

【参考書】

- 森岡清志編（2008）『地域の社会学』有斐閣
 - 森岡清志編（2012）『都市社会学セレクションⅡ都市空間と都市コミュニティ』日本評論社
 - 似田貝香門ほか編（2008）『まちづくりの百科事典』丸善
 - 原田謙（2017）『社会的ネットワークと幸福感——計量社会学でみる人間関係』勁草書房
- その他の参考文献は、授業内に適宜指示する。

都市文化研究

都市文化研究

大倉 恭輔

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

都市はさまざまな部分品から成り立っています。たとえば、オサレなカフェもそのひとつです。そうして、「ドトール」よりも「スタバ」でコーヒーを飲む方が気持ちよく感じる自分がいます。

この授業では、そうした都市にまつわるあれやこれやを、受講生各自が身体を動かし五感を澄ますことによって理解していきます。

【授業における到達目標】

都市文化のしくみと機能について学ぶとともに、受講生相互、自分の体験を調べ直し比較することで、都市文化についてより深く理解することをめざします。

そうして、互いに協力して作業を進めながら、日本と諸外国の文化のあり方をきちんと把握し、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

【授業の内容】

- 01 はじめに 都市とは何か・文化とは何か
- 02 都市型ライフスタイルの成立と発展 a 消費文化とデパート
- 03 都市型ライフスタイルの成立と発展 b 小林一三と宝塚
- 04 メディアとしての都市 a 渋谷の発展
- 05 メディアとしての都市 b アメリカのストリート文化の成立
- 06 メディアとしての都市 c ホラーと実話怪談
- 07 イメージの中の生活と文化 a 欲望のかたち・幸せのかたち
- 08 イメージの中の生活と文化 b 広告の中の日本と日本人の生活
- 09 歌の中の東京
- 10 歌の中の大阪
- 11 都市の文化と伝統文化の接点：観光文化という視点
- 12 都市を歩く
- 13 都市をみる
- 14 都市を聴く
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、内容や順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

【事前・事後学修】

- ・事前学修
事前配付の資料を熟読し、不明な用語などは調べておくこと。
また、資料中に設問がある場合は、回答を準備しておくこと。
(週に2時間以上)
- ・事後学修
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。(週に2時間以上)

【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート70%・平常点30%(受講態度・ノート作成)
manaba の利用度も平常点に加算されます。
- ・成績については manaba 上でフィードバックする予定です。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

- ・この授業は、自ら身体を動かし調べ、他の受講生とともに学ぶことが主眼です。それができない場合、成績評価は低くなります。
- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートをとること。
- ・短期大学部規定の標準受講マナーを守ること。
(manaba上に掲示してあります)

東京ガイド論

英語で日本文化事象を説明する

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

本演習は、通訳ガイドとして日本の観光地や日本文化の紹介を行う際、異文化間の媒介者として必要となるスキルを身につけることを目的とする。授業では日本食や日本文化に関する説明場面が必要となる知識習得、発信練習を行う。

具体的には、スキルの一要素と考えられる外国人の視点や興味に対する察知能力を高め、それらを意識した情報提供を心掛けられるようになるために、日本食や日本文化の説明に必要な知識を身につける。その後、知識に留まらず発信できるようにするため、各自が自分で決めたテーマについてプレゼンテーションを行うことを最終目標とする。

【授業における到達目標】

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度をみにつける。
- ・目標であるプレゼンテーションを自らに課し、計画を立案・実行できる。
- ・英語による日本文化の説明に関わる基礎的な用語・表現を修得する。

【授業の内容】

1. イントロダクション
外国人の視点からみた日本のインバウンド観光
2. 寿司1 (テキストによる用語説明)
3. 寿司2 (小テスト, 聞き取り)
4. 寿司3 (小テスト, 発音練習)
5. 寿司4 (ロールプレイング)
6. 懐石料理1 (テキストによる用語説明)
7. 懐石料理2 (小テスト, 聞き取り)
8. 懐石料理3 (小テスト, 発音練習)
9. 懐石料理4 (ロールプレイング)
10. だし (テキストによる用語説明, 発音練習)
11. テーマ別演習1 (発表テーマ・役割分担の決定)
12. テーマ別演習2 (発表原稿の確定, 発音確認)
13. テーマ別演習3 (プレゼンテーション・リハーサル)
14. プレゼンテーション1 1~6グループ
15. プレゼンテーション2 7~12グループ

【事前・事後学修】

事前学修：配布プリントの文章のなかで、わからない単語は辞書を引き、発音やアクセントが不明な単語は音声を繰り返し聞き、確認する。何度も声を出して発音練習を行う。(事前学修時間 週2時間)

事後学修：プレゼンテーション原稿の作成に向けて、図書館で文献を探し、定められた時間の中で口頭説明が終えられるように繰り返し声を出して練習する。(事後学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：毎回の授業への取り組みや実技への参加 50%, プレゼンテーション 50%

実技後のフィードバックは授業時に都度、フィードバックを行います。

【注意事項】

ガイドは口頭で情報を提供する役割を担います。そのため、必要な情報を調べて、知識を習得する事前準備、聞き手にとってわかりやすい発音、イントネーションを心がけて発話することが重要となります。

東京文化事情

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

の授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

パワーポイントを使用したグループ発表が課されます。

【授業のテーマ】

異文化間における国際コミュニケーションでは、他者に対して自己を呈示するスキルが必要となります。そうしたスキルの獲得には、誰かに説明することを前提に、自分自身に関係する事柄について興味を持つということがその第一歩となるといえるでしょう。授業では外国人向けに作成された東京を特集した映像をみて、どういったところに興味を持たれているのか確認します。異なる視点からみた東京を確認後、毎回の授業では、実際に出かけて見に行くことのできる街、建築物、史跡を取り上げ、江戸から東京の変遷、カルチャーの発信地としての東京という切り口から、東京の成り立ちや文化について学びます。

本授業は「東京シティガイド検定試験」（試験はすべて日本語）を目指す学生の受講を想定し、出題範囲(テキスト)について地図・写真・資料・映像の使用による確認作業を行います。自分が訪ねて確認してみようと思うテーマを見つける意識を持って授業に出席してください。最後に、興味を持ったことについて文献調査、実地調査したことをまとめて、自分の言葉で説明（プレゼンテーション）する機会を持ちます。

【授業における到達目標】

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を身につける。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力してグループ・プレゼンテーションを進めることができる。
- ・教科書の單元ごとのキーワードを説明できるようになる。
- ・東京の地理・歴史に関する基礎的な知識を修得する。

【授業の内容】

1. 授業の進め方の説明
2. メガシティ東京の概略
3. 江戸の変遷1（成り立ち）
4. 江戸の変遷2（江戸城造営）
5. 江戸の変遷3（江戸の文化）
6. 東京の変遷1（明治期）
7. 東京の変遷2（大正昭和初期）
8. 東京の変遷3（東京五輪前後）
9. 東京の変遷4（70年代～90年代）
10. 東京の変遷5（2000年代以降）
11. プレゼンテーションテーマの検討
12. プレゼンテーションテーマの発表
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1（1～5グループ）
15. プレゼンテーション2（6～10グループ）

【事前・事後学修】

事前学修では、授業各回で指示するテキストの箇所を読み、地図で場所を確認してこること。（事前学修時間 週2時間）

事後学修では、各単元の小テストに解答すること。また、レポート作成にあたって、図書館での文献調査、対象とする施設や地域を実際に訪れて観察、インタビュー調査、資料収集などのフィールドワークを行う。これらの成果をグループワークで持ち寄り、グループ発表テーマを討議できるように必要な情報・データを収集する。（事後学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人東京観光財団：江戸東京まち歩きブック[中央経済社、2017、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題提出）10%、プレゼンテーション30%、レポート60%。

毎回の授業で執筆するリアクション・ペーパーの内容や質問については次回の授業でフィードバックを行います。レポートは提出後

東京文化事情

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

の授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

パワーポイントを使用したグループ発表が課されます。

【授業のテーマ】

異文化間における国際コミュニケーションでは、他者に対して自己を呈示するスキルが必要となります。そうしたスキルの獲得には、誰かに説明することを前提に、自分自身に関係する事柄について興味を持つということがその第一歩となるといえるでしょう。授業では外国人向けに作成された東京を特集した映像をみて、どういったところに興味を持たれているのか確認します。異なる視点からみた東京を確認後、毎回の授業では、実際に出かけて見に行くことのできる街、建築物、史跡を取り上げ、江戸から東京の変遷、カルチャーの発信地としての東京という切り口から、東京の成り立ちや文化について学びます。

本授業は「東京シティガイド検定試験」（試験はすべて日本語）を目指す学生の受講を想定し、出題範囲(テキスト)について地図・写真・資料・映像の使用による確認作業を行います。自分が訪ねて確認してみようと思うテーマを見つける意識を持って授業に出席してください。最後に、興味を持ったことについて文献調査、実地調査したことをまとめて、自分の言葉で説明（プレゼンテーション）する機会を持ちます。

【授業における到達目標】

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を身につける。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力してグループ・プレゼンテーションを進めることができる。
- ・教科書の單元ごとのキーワードを説明できるようになる。
- ・東京の地理・歴史に関する基礎的な知識を修得する。

【授業の内容】

1. 授業の進め方の説明
2. メガシティ東京の概略
3. 江戸の変遷1（成り立ち）
4. 江戸の変遷2（江戸城造営）
5. 江戸の変遷3（江戸の文化）
6. 東京の変遷1（明治期）
7. 東京の変遷2（大正昭和初期）
8. 東京の変遷3（東京五輪前後）
9. 東京の変遷4（70年代～90年代）
10. 東京の変遷5（2000年代以降）
11. プレゼンテーションテーマの検討
12. プレゼンテーションテーマの発表
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1（1～5グループ）
15. プレゼンテーション2（6～10グループ）

【事前・事後学修】

事前学修では、授業各回で指示するテキストの箇所を読み、地図で場所を確認してくること。（事前学修時間 週2時間）

事後学修では、各単元の小テストに解答すること。また、レポート作成にあたって、図書館での文献調査、対象とする施設や地域を実際に訪れて観察、インタビュー調査、資料収集などのフィールドワークを行う。これらの成果をグループワークで持ち寄り、グループ発表テーマを討議できるように必要な情報・データを収集する。（事後学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人東京観光財団：江戸東京まち歩きブック[中央経済社、2017、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題提出）10%、プレゼンテーション30%、レポート60%。

毎回の授業で執筆するリアクション・ペーパーの内容や質問については次回の授業でフィードバックを行います。レポートは提出後

東洋の美術 c

中国仏教彫刻史 (2)

萩原 哉

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中国の南北朝時代から隋唐時代を経て五代・宋・元時代にいたるまでの仏教彫刻の歴史について概観する。各時代の代表的な作品について、それぞれの造形的特色とその特色の変化を視覚的に理解するとともに、それらを生み出した歴史的要因や造形の基盤となった思想、文化などについて理解を深める。さらに、中国の仏教彫刻が日本の仏教彫刻に与えた影響についても解説する。

【授業における到達目標】

- ①中国の南北朝時代から隋唐時代を経て五代・宋・元時代にいたるまで仏教彫刻史について、各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的・技法的な特色を理解する。
- ②中国仏教彫刻史の変遷を促した歴史的・文化的な要因について理解を深める。
- ③中国の仏教彫刻が日本の仏教彫刻に与えた影響について理解を深める。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏教伝来から北魏時代までの仏教彫刻
- 第3週 北魏王朝の滅亡
- 第4週 東魏・北齊時代の仏教彫刻
- 第5週 西魏・北周時代の仏教彫刻
- 第6週 南朝の仏教彫刻
- 第7週 隋代の仏教彫刻
- 第8週 初唐様式の形成 初唐時代 (1)
- 第9週 中国統一様式の完成 初唐時代 (2)
- 第10週 盛唐時代の仏教彫刻
- 第11週 四川省の石窟 五代・宋・元時代 (1)
- 第12週 陝西省北部と杭州地区の石窟 五代・宋・元時代 (2)
- 第13週 中国の仏教彫刻と日本
- 第14週 校外実習 東京国立博物館東洋館の見学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 参考書の授業内容に関連する部分をよく読んでおくこと (学修時間 週2時間)。

事後学修 配布資料をよく読み、きちんと復習をすること。主要な作品については、美術全集等の大型図版を参照するとともに、図版解説や事典類をよく読み、基本データ (名称、制作年代、材質、寸法、所蔵者・所在地)、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色などについての理解を深めること (学修時間 週2時間)。

【テキスト・教材】

テキスト (教科書) なし。毎回、プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点 30%。

平常点はリアクションペーパー (毎回、授業の感想、質問等を書いて提出してもらう) の内容により評価する。リアクションペーパーについては、次回授業時にフィードバックする。

なお、博物館、展覧会等の見学レポートを課す場合がある。

【参考書】

- 朴亨國監修『東洋美術史』(武蔵野美術大学出版局 2016年)
『世界美術大全集 東洋編』3・4・5・6 (小学館)
『中国石窟』龍門石窟、鞏県石窟、敦煌莫高窟、雲岡石窟 (平凡社)
松原三郎『中国仏教彫刻史論』(吉川弘文館 1995年)

【注意事項】

中国美術、仏教美術に関連する展覧会、博物館、美術館等に積極的に足を運び、実際に作品を鑑賞する機会を多くもつよう心がけて欲しい。なお、授業期間中に東京国立博物館東洋館 (または授業内容に関連する展覧会) の見学を実施する予定である。

東洋の美術 d

中国の古美術工芸を中心に

徳留 大輔

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

中国の新石器時代から明清時代における青銅器、玉器、漆器、彫刻などの美術工芸史を概観する。また数千年の時間軸の中で、それらの作品の造形性やデザインにおける共通性や相違性を見ていくことで、それらの作品が生み出された背景、美に対する価値観の様相や多様性についても考察したい。

【授業における到達目標】

中国の美術工芸史の学習を通して、美術史を中心に、さらに考古学・歴史学の研究成果を応用した研究の手法を修得する。またそれらの作品に対する評価・説明する能力を身につけることで「美の探求」の姿勢を修得する。そして日本や韓国の美術とを比較する視点を養い、学生が修得すべき「国際的視野」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 新石器時代の美術工芸①
- 第3週 新石器時代の美術工芸②
- 第4週 商周時代の美術 青銅器
- 第5週 商周時代の美術 青銅器と文字の歴史①
- 第6週 商周時代の美術 青銅器と文字の歴史②
- 第7週 漢・魏晋南北朝の美術工芸① 画像石と神話
- 第8週 漢・魏晋南北朝の美術工芸② 鏡 (その1 漢代を中心に)
- 第9週 漢・魏晋南北朝の美術工芸② 鏡 (その2 他の時代の鏡との比較)

- 第10週 唐・五代の美術工芸
- 第11週 宋～清時代の美術工芸と古典へのまなざし
- 第12週 中国の漆芸史
- 第13週 シルクロード上の東西美術交流
- 第14週 博物館見学 (土曜日から日曜日に実施を予定しています。日時未定ですが、見学は前倒して後期の講義期間の前半の週に行う予定です)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】講義の内容に合わせて、下記の参考書の該当する箇所を読むこと (学修時間 週2時間)

【事後学修】ノート・配布資料を読み直すこと。また積極的に授業で紹介した作品などに関して、類品を含め美術館・博物館で見学したり、文献・図録などで確認すること (学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業ごとに適宜資料の提示、参考資料の配付等を行う。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50点 (授業態度、リアクションレポート)、期末レポート50点。

リアクションレポート (授業中に紹介する作品等に関するレポート〈短文〉、質問など) のフィードバックは次回の授業時に行う。

【参考書】

- 『世界美術大全集 東洋編』(小学館)
朴亨國監修『東洋美術史』(武蔵野美術大学出版局 2106年)

【注意事項】

東洋の美術工芸に関する展覧会、博物館、美術館等に積極的に見学することを望みます。作品を実際に鑑賞することで理解できる質感やスケール感を大切にしたい。なお、授業期間中に東京国立博物館東洋館の見学を予定しています。

東洋史

熊谷 滋三

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

アジアの歴史について、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげて講義する。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史のなかではぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め視野をひろげることと、さまざまな史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるよう、講義をしていく。

【授業における到達目標】

講義を聴いて、アジア史の事象や文化について正確に理解し、その内容を適切な文章で表現する力と、文字や映像等の情報を批判して問題点を発見する力を修得することが、この授業の到達目標である。これらは、学生が修得すべき「国際的視野」のうちの相互の理解と協力を築こうとする態度、また「研鑽力」のうちの本質を見抜く力と、「行動力」のうちの課題を発見する力とを修得することに関連するものである。

【授業の内容】

- 第1週 東洋史序説 1 (アジアの歴史的景観)
- 第2週 東洋史序説 2 (アジアの風土と歴史)
- 第3週 中国 1 (食からみる古代・中世)
- 第4週 中国 2 (食からみる近世～現代)
- 第5週 中国 3 (古代の君主と女性)
- 第6週 中国 4 (中世の君主と女性)
- 第7週 中国 5 (歴史と記録)
- 第8週 南アジア 1 (「インド」のイメージと実像)
- 第9週 南アジア 2 (インド古典文化の形成と仏教)
- 第10週 南アジア 3 (インドのヒンドゥーとイスラーム)
- 第11週 東南アジア 1 (海洋生活文化圏の「発見」)
- 第12週 東南アジア 2 (タイの歴史と遺跡)
- 第13週 東南アジア 3 (シンガポールの歴史と文化)
- 第14週 アジアの歴史と文化
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料に目を通し、概略を把握するとともに、不明な点についてチェックしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】講義内容について、配布資料とノートの内容をもとに復習し、指示された課題に取り組むことと、興味を持った点について、参考書やインターネットなどを利用して調べてみること。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点(提出課題)10%。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

松田壽男『アジアの歴史』(岩波同時代ライブラリー)
 なお、個別のテーマごとの参考書は授業で適宜紹介する。

東洋史 b

熊谷 滋三

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アジアの歴史について、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげて講義する。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史によってはぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め視野をひろげることと、さまざまな史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるよう、講義をしていく。

【授業における到達目標】

講義を聴いて、アジア史の事象や文化について正確に理解し、その内容を適切な文章で表現する力と、文字や映像等の情報を批判して問題点を発見する力を修得することが、この授業の到達目標である。これらは、学生が修得すべき「国際的視野」のうちの相互の理解と協力を築こうとする態度、また「研鑽力」のうちの本質を見抜く力と、「行動力」のうちの課題を発見する力とを修得することに関連するものである。

【授業の内容】

- 第1週 東洋史序説 (アジアの風土と文化圏)
- 第2週 アジア史とシルクロード 1
(「草原の道」と「砂漠の道」)
- 第3週 西アジア (古代文明とイスラーム)
- 第4週 北アジア 1 (モンゴル帝国の建国)
- 第5週 北アジア 2 (モンゴル帝国の発展)
- 第6週 北アジア 3 (モンゴル帝国の分裂)
- 第7週 北アジア 4 (モンゴル帝国の遺産)
- 第8週 アジア史とシルクロード 2
(モンゴル帝国とシルクロード)
- 第9週 アジア史とシルクロード 3 (「海の道」)
- 第10週 東アジアと北アジア (中国史と遊牧民)
- 第11週 東アジア 1 (漢字文化圏)
- 第12週 東アジア 2 (漢字と「名前」)
- 第13週 東アジア 3 (漢字と記録)
- 第14週 アジアの歴史と文化
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料に目を通し、概略を把握するとともに、不明な点についてチェックしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】講義内容について、配布資料とノートの内容をもとに復習し、指示された課題に取り組むことと、興味を持った点について、参考書やインターネットなどを利用して調べてみること。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点(提出課題)10%。課題は次回授業、試験は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

松田壽男『アジアの歴史』(岩波同時代ライブラリー)
 なお、個別のテーマごとの参考書は授業で適宜紹介する。

東洋思想入門

中国の歴史と思想

田中 靖彦

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、中国の歴史（主に宋代まで）を概説しつつ、その中で形成されてきた思想と代表的な思想家・著作を紹介していきます。

【授業における到達目標】

1. 【知識力・美の探究】中国の歴史と思想についての知識を深め、自分の言葉で説明できる。
2. 【国際的視野】中国の歴史と思想に対する関心を深め、国際的な視野を持つことができる。
3. 【行動力・研鑽力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 先秦史概説（周～戦国）
- 第3回 諸子百家1（儒家・道家）
- 第4回 諸子百家2（法家・その他）
- 第5回 秦の統一と焚書坑儒
- 第6回 大漢帝国と『史記』
- 第7回 後漢の興亡と三国志の時代
- 第8回 儒教の国教化をめぐる学説
- 第9回 魏晋南北朝
- 第10回 隋唐帝国
- 第11回 儒教・仏教・道教
- 第12回 宋代史概説
- 第13回 朱子学
- 第14回 宋代以後
- 第15回 まとめ

※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】プリントの内容に目を通し、講義内容のおおまかな理解をしておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】予習で不明だった点を明らかにし、講義内容に関する理解を深め、しっかりと身につけてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（質疑応答への参加など）30%、授業内で行う小テスト（複数回実施します）70%で評価します。

小テストは採点・返却・解説を行うことによってフィードバックを行います。

【参考書】

指定参考書はありません。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

【注意事項】

受講に必須の予備知識などはありません。中国の歴史・思想に関心をお持ちの方、あるいは、中国のことに全く興味が無い方、そのほか、多くの方の受講をお待ちしております。

東洋美術史演習A

研究方法の確立

官崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

自らの美術史研究の方法を確立するために、作品について様々な角度から分析考察する力を高めるとともに、論文執筆のための具体的な課題について検討する。研究のためのフィールドワークを自主的に進めるようにする。

【授業における到達目標】

将来自立した研究者となるための基礎を作ることを目標とする。その一環として調査・研修旅行などを準備し実現するための力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 各自の関心や修士論文作成に関連する研究テーマの決定
- 第2週 テーマに沿った研究計画を立てる
- 第3週 作品の題跋の収集と分析
- 第4週 作品の題跋の考察
- 第5週 作品の伝来に関する資料収集と分析
- 第6週 作品調査の準備方法
- 第7週 作品調査の実施
- 第8週 調査結果のまとめ
- 第9週 関連資料の補足と分析
- 第10週 関連資料の分析
- 第11週 受講者による研究の第一次報告
- 第12週 問題点の再確認
- 第13週 資料と作品分析の深化
- 第14週 受講者による研究成果の発表
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

大学院では、各自の学修が基本になるため、日常的に関連資料や作品の収集を行い、分析し解釈する作業を行う。演習は、その報告と方法に関する指導の場である。各回、各自の問題点を整理把握的に示すことができるようにすること。

事前事後学修 各週3～4時間

【テキスト・教材】

必要に応じて、授業中に指示、配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・課題への取り組み）30%
各自の問題意識に基づき、授業中に発表したものをもとに、助言やコメントなどを反映させまとめた期末レポート 70%
提出されたレポートについては、個別に面接してフィードバックを行う。

【参考書】

参考資料や論文は、授業中に指示する。

【注意事項】

中国や台湾を含む研修旅行など必要に応じて行う。積極的に参加し、主体的に準備などを行うことが求められる。

東洋美術史演習B

研究の深化

官崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

東洋美術史演習Aに引き続き、自らの研究方法の確立と、分析考察の能力の一層の向上を図る。論文執筆のための諸問題についても検討する。

【授業における到達目標】

将来自立した研究者となるための基礎を確立することを目標とする。その一環として研修旅行・調査旅行を企画準備、遂行する力も身につける。

【授業の内容】

- 第1週 東洋美術史演習Aの課題レポートについての総評
- 第2週 関連資料Aの講読と分析
- 第3週 関連資料Bの講読と分析
- 第4週 関連資料Cの講読と分析
- 第5週 関連資料A～Cの解釈についてまとめ
- 第6週 関連作品の分析 概要
- 第7週 関連作品に分析 詳細
- 第8週 関連作品と文献の総合的考察
- 第9週 作品実地調査
- 第10週 調査結果の分析
- 第11週 受講者による中間報告
- 第12週 補足資料の分析
- 第13週 受講者による研究成果の発表
- 第14週 問題点の再確認
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

東洋美術史演習Aの成果を確認し、提出したレポートの内容を自身で見直しておくこと。

基本的に学生各自が資料や作品収集を行い、その読解や分析作業を進めた上で、演習に参加することになる。各自がそのなかで問題点や課題を確認発見し、それを持ち寄り、報告することが求められる。

事前事後学修 各週3～4時間

【テキスト・教材】

授業中に指示する。必要があれば配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加、授業中の成果発表）30% 成果発表を深化させたレポート 70%
個別に面談し、レポートへの講評と、フィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

必要に応じて、中国、台北などへの調査・研修旅行を行うことがある。

東洋美術史研究指導特殊演習A

研究方法の確立

宮崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

これまで培った美術史学の方法論を再確認し、中国絵画史の諸問題を具体的作品に即して考察する力を発展させ、作品を適切に位置づけ、作品とそれを取り巻く様々な情報を把握分析する力を深める。

また、作品調査を適切に企画実行する方法を学ぶ。

【授業における到達目標】

受講者の研究課題に関連する諸問題を適切に把握し、分析考察する力を高める。そのために、作品調査を適切に企画準備実行する能力を身につける。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 作品様式の分析の再確認
3. 作品様式の言語化
4. 作品上の文字資料の分析と解釈
5. 作品に付随する資料の分析と解釈
6. 作品に関する文献資料の分析
7. 作品に関する著録の分析と解釈
8. 画家に関する文字資料の解釈
9. 同時代画家の作品比較と分析
10. 先行する画家の作品の分析
11. 先行する画家の作品との相互比較と分析
12. 作品調査の企画
13. 作品調査の方法
14. 作品調査の成果のまとめ方について
15. 発表と総括

作品調査のための国内外の旅行を行う場合がある。

【事前・事後学修】

各回の課題の検討による事前事後学修を行うことが、最も重要である。事前事後学修 合わせて週6時間程度。

【テキスト・教材】

授業内で適宜配付、指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の準備と授業内での発言など平常点が10%。成果のまとめとしての口頭発表20%。期末レポート70%

演習Bの初回にレポートの講評と、フィードバックを行う。

【参考書】

授業内で指示する。

【注意事項】

必要によって調査（国内、国外）を行う場合がある。

東洋美術史研究指導特殊演習B

研究成果をまとめる

宮崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

これまで培った研究成果を統合発展させ、よりよい形でまとめるために、高次の研究能力を養う。

【授業における到達目標】

博士論文に向けて論文のアウトラインを構築し、そのための基礎資料の全体を確実に把握し、整理する。

【授業の内容】

1. 東洋美術史特殊指導演習Aのレポートの検討と新課題の確認。
2. 課題解決に向けての研究方針の検討。
3. 現存作品の再検討と分析。
4. 現存作品に関する新たな関連文献資料の収集と分析。
5. 比較作品と著録に関する新たな関連資料の収集と分析。
6. これまで収集した資料の総合的分析。
7. 作品調査
8. 調査の分析
9. これまでの成果のまとめ方と論述に関する検討。
10. 中間発表。
11. 発表についての総括と新たな検討課題の発見。
12. 新課題解決のための作業。
13. 新課題を含めた成果のまとめ。
14. 最終口頭発表。
15. まとめ。

国内外の調査旅行を行うことがある。

【事前・事後学修】

この授業では、履修者の事前事後学修が最も重要である。毎回履修者は、演習のために準備をし、それについて検討する形で演習を行い、その結果をさらに積み重ね発展させながら、次回の演習に備える。事前事後学修は、週8時間以上。

【テキスト・教材】

適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での発言や準備状況などの平常点10%。口頭発表20%。それらの成果として、博士論文につながる形での期末レポート70%。

個別に面談し、レポートについての講評とフィードバックを行う。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

国内外の調査を行う場合がある。

東洋美術史特殊研究A

美術史研究の諸問題

宮崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

作品を見る力、読み解く力を養い、作品を取り巻く同時代の様々な情報を把握分析する力を養う。

美術史学に共通する様々な方法論を検討し、絵画史の諸問題を中国絵画に即して考察する。

【授業における到達目標】

作品分析や資料解釈の力を高めつ、幅広い視野によって各自の課題を考察できる。

【授業の内容】

1. 課題の設定
2. 日本における中国美術の受容について
3. 世界の中国美術コレクション
4. 作品上の題跋印章について
5. 工具書や、文献資料の引用や扱い方について
6. 作品を読む ディスクリプション
7. 作品を読む 様式の分析
8. 作品の周辺資料を読む 伝来と著録について
9. 作品の調査方法と成果のまとめ方について
10. 見学授業の事前検討
11. 見学授業
12. 見学授業の総括
13. 発表1次
14. 発表2次
15. 総括

【事前・事後学修】

授業中にテキストとして使用するため、受講者各自の興味や問題意識に即した作品や関連漢文資料を受講者が準備すること。

また、毎回、授業のまとめを報告してもらうか必要な課題を課し、次回に提出してもらう。

事前事後学修時間 週5時間

【テキスト・教材】

授業中に指示し、必要があれば配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・中間発表など）20%

期末レポート80%

特殊研究Bにおいて、Aのレポートについての講評と指導を行う。

【参考書】

適宜指示する。

東洋美術史特殊研究B

美術史研究の諸問題解決のために

宮崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

作品を見る力、読み解く力や、作品や画家に関する様々な情報の把握力、分析力をより向上させ、確かなものとする。

具体的な作品を取り上げ、その分析や考察を通じて、美術史学に共通する方法論を深化させ、絵画史の諸問題への総合的な洞察力や解決力を高める。

【授業における到達目標】

美術史学の様々な方法論を適切に応用し、幅広い視野に立って個別の課題を解決することが出来る。

【授業の内容】

1. 東洋美術史特殊研究Aの課題レポートの検討。
2. 新たな問題点の発見と、課題の設定。
3. 関連作品の概要把握。
4. 関連文献資料の概要把握。
5. 作品の分析とその深化。
6. 題跋の読解とその分析。
7. 著録の読解とその分析。
8. 画家資料の読解とその分析。
9. 絵画作品と文献資料の総合的分析。
10. 見学授業。
11. 見学の総括。
12. 中間発表。
13. 中間発表の総括と課題の再確認。
14. 最終発表。
15. 総括

【事前・事後学修】

東洋美術史特殊研究Aのレポートを検討しておくこと。

毎回の授業内容のまとめ或いは授業内で指示した課題を毎回提出してもらう。学修時間 週5時間

【テキスト・教材】

授業中に指示し、必要があれば配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・中間発表など）20%

期末レポート80%

個別に面談し、レポートの講評と指導を行う。

【参考書】

適宜指示する。

東洋美術史特論A

中国美術史研究の諸問題

宮崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

作品を見ること、作品とそれを取り巻く様々な情報を的確に分析し必要な情報をまとめ発表する力を養う。

美術史学の方法論を検討しつつ、中国絵画史の諸問題を具体的作品や事例に即して考察する。

【授業における到達目標】

研究上の課題を解決する力を身につける。

【授業の内容】

まず、数回、中国美術コレクションの現状や中国絵画の特色と日本との関係などについて、東アジア美術全体との関係を展望する視点から講義を行う。後半は、受講者による発表形式をとる。また、見学授業を取り入れるが、国内か近隣海外かの具体的な場所については展覧会情報などが明らかになってから決定する。

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本における中国画受容史
- 第3週 世界の中国画コレクション
- 第4週 中国文化の基礎知識
- 第5週 中国美術史研究の基礎知識と工具書
- 第6週 漢文資料の基礎知識と引用方法
- 第7週 漢文資料の読解
- 第8週 作品を読む 主題について
- 第9週 作品を読む 構図・筆墨法など
- 第10週 作品を読む 様式分析
- 第11週 周辺の情報 伝来と著録について
- 第12週 見学授業
- 第13週 受講学生による発表 1
- 第14週 受講学生による発表 2
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

学部の中国美術史入門abの内容を復習しておくこと。

関連の展覧会を積極的に見学すること。

授業ごとに内容を各自まとめ、報告書として提出する。

事前事後学修 各週2時間以上

【テキスト・教材】

愛知大学：中日大辞典

漢和辞典：新字源[角川書店]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の発表30%。発表の際に指摘された点などを考慮し、まとめたレポート70%。

原則として東洋美術史特論Bを続けて受講すること。

manaにて、レポートについての講評を行い、また東洋美術史特論Bの初回で、添削したレポートを返却する。

【参考書】

宮崎法子『花鳥・山水を読み解くー中国絵画の意味』（角川学芸叢書 2003年刊、或いは2018年刊のちくま学芸文庫版）の前書きと山水画の部分を読んでおくこと。

その他は授業中に適宜指示する。

東洋美術史特論B

中国絵画分析の深化

宮崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

作品の様式分析や、主題、題詩や印章など作品上の様々な情報を把握し、また文献資料の読解や分析方法を学ぶ。

関連する展覧会や作品調査の機会を設け見学授業を行う予定。

【授業における到達目標】

作品分析や関連資料の分析力、理解力を深め、研究を深化させる。

【授業の内容】

具体的な作品に即して、画家、作品の主題、描写などの情報や周辺資料に関する講義を行い、後半は、それに基づき受講者が考察した成果を発表し、さらに発表時の討論やコメントを反映し修正し、再度発表を行う。

国内かあるいは中国か台湾での見学授業を行う予定だが、詳細は、展覧会情報が明らかになってから決定する。

- 第1週 東洋美術史特論Aの課題レポートについての講評と分析
- 第2週 画家の伝記など文献資料の収集について
- 第3週 文献資料の読解について
- 第4週 文献資料の分析について
- 第5週 作品上の情報（款識、題跋、印章）について
- 第6週 作品上の情報を読む（款識）
- 第7週 作品上の情報を読む（題跋）
- 第8週 作品上の情報を読む（印章）
- 第9週 作品の伝来に関する資料について
- 第10週 見学授業
- 第11週 宋～元絵画をテーマとした履修者の発表
- 第12週 明～清絵画をテーマとした履修者の発表
- 第13週 宋～元絵画をテーマとした履修者の改訂内容の発表
- 第14週 明～清絵画をテーマとした履修者の改訂内容の発表
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

自身の前期のレポートを読み直し、総括しておくこと。

見学授業以外でも、日常的に展覧会を見学すること。

課題となっている資料を事前に読み、復習する。

各回の授業や発表について、内容をその都度確認し毎回報告書としてまとめ提出する。

事前事後学修、週3時間程度。

【テキスト・教材】

漢和辞典『新字源』角川書店を主に、愛知大学出版『中日大辞典』、諸橋『大漢和辞典』などを使用する。

他は、授業内で指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・授業内の発表）30%

授業内での発表の際に指摘された点を考慮しまとめた期末レポート70%

manaや個別面談で添削したレポートを返却し、フィードバックする。

【参考書】

宮崎法子『花鳥・山水を読み解くー中国絵画の意味』（ちくま学芸文庫 2018年）。

他、参考文献、資料は授業内で適宜指示配布する。

統計とモデリング

数理的マインド：社会現象を構造化してみるための方法

犬塚 潤一郎

1年 後期 2単位

○：行動力

【授業のテーマ】

社会構造が高度化し、日常生活さえグローバルなつながりの上に成り立っています。目の前に起こっていることを眺めているだけでは、現実の本当の姿を理解することが難しくなっています。一般に、数値化することは現象を理解する有効な方法です。現代人にとって、必須の技術の一つともいえるでしょう。しかし一方で、本来複雑な社会については、数値化することがかえって誤った理解を導くこともあり得ます。現代社会の複合性・複雑性を実感しながら、具体的な技術を習得し、またモデル化することの有効性と限界とを理解するプロセスを学んでゆきます。

技術面では、表計算ソフトを使った数値データ処理・数式構造（フォーミュラ）からはじめます。数値の背後にある、現象の“かたち”を探る手段の学習です。数学に強くない、と思っている方も、コンピュータが自分を支えてくれる道具になることでしょう。

続いて、小型ロボットを使った分かりやすいプログラミング環境を使って、物事の構成記述・論理構造（アルゴリズム）に取り組んでみます。考えたことを書き表すことで実際に動くものができあがる感覚を身に着けます。

そして、身近なものを越えたスケールの把握にも取り組んでみましょう。地球スケールの経済・文明、および地球環境データの視覚化（ビジュアライゼーション）に取り組みます。環境問題は今日すべての人が意識すべき問題です。現状の把握とともに未来予測・対策立案など、大きな視点で物事を見る視点を築きましょう。

【授業における到達目標】

数理的な視点に基づき構造的に物事・社会現象をとらえる力を身につける。

「行動力」として、社会現象を正しく把握し、課題を発見できる力を育成します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 表計算ソフト：数値で表現されるものを実感する
- 第3週 表計算ソフト：比較し関係付ける
- 第4週 表計算ソフト：視覚化・グラフ化
- 第5週 表計算ソフト：予測と計画
- 第6週 ロボットのプログラム：行動のモデル化
- 第7週 ロボットのプログラム：行動の相互関係
- 第8週 ロボットのプログラム：干渉しあう世界
- 第9週 モデル化の手法：説明する能力と予測する能力
- 第10週 システム・ダイナミクス
- 第11週 世界のかたち：OECD諸国の経済・人口データ
- 第12週 世界のかたち：データ探索
- 第13週 アルゴリズム：構造化プログラミング
- 第14週 アルゴリズム：データベース処理
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

PCソフトの技術講習を伴います。段階的に学習しますので、不慣れでも構いませんが、自分で取り組み理解を進める姿勢が必要です。

On-line学習教材を含め、授業後の学習課題を提示します。

事前：次回に使用するソフトの基礎操作について、指示に従い自習し慣れておいてください。（学修時間 週2時間）

事後：達成度確認の課題を提示します。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

基本的なテキストと教材は、そのつど配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題60%、課題研究40%。

提出課題については、次回授業にフィードバックします。

【参考書】

授業時に適宜指示。

統計の応用

赤坂 修一

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

研究を進める際には、実験や調査（アンケートなど）を行い、得られたデータを整理、考察することにより、結論を導く。その上で重要となるのが、バラつきを含むデータから真のデータ、対象とする集団（母集団）の特徴を見つけることである。また、より少ない実験数で現象の要因を特定するのに、実験計画法は非常に有用な方法である。

本講義では、Excelを用いて、データ整理、検定と推定、実験計画法について、演習問題を解きながら習得する。

【授業における到達目標】

Excelを用いた統計的解析（代表値、グラフ化、推定、仮説検定、実験計画法）ができるようになる。これにより、研鑽力、行動力を発揮する手法を身につけ、真理を導き、新たな知を生み出そうとする態度【美の探求】を促進する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データの整理と代表値
- 第3週 相関と回帰
- 第4週 二項分布と正規分布
- 第5週 母数の推定1
- 第6週 母数の推定2
- 第7週 仮説検定1
- 第8週 仮説検定2
- 第9週 実験計画法の考え方（一元配置）
- 第10週 二因子要因実験（二元配置）のデータ解析
- 第11週 多因子要因実験（多元配置）のデータ解析
- 第12週 直交表による実験計画（二水準の場合）
- 第13週 直交表による実験計画（繰返し実験）
- 第14週 直交表による実験計画（三水準の場合）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 「統計の基礎」の知識が必要となるので、復習しておくこと。
- 事前学修：講義前に、講義スライドの予習、前回の講義内容の復習をしておくこと（2時間）
- 事後学修：分からなかった箇所を復習しておくこと（2時間）。

【テキスト・教材】

講義のスライドを毎回授業前にmanabaにアップしておくので、事前にダウンロード、もしくは印刷しておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点（出席点）：40%
- レポート：60%
- レポートについては授業最終回でフィードバックする。

【注意事項】

「統計の基礎」を履修していることを前提に授業を進めるため、履修していることが望ましいが、未履修者でも受講可能とする。

統計の基礎

赤坂 修一

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

実験や調査（アンケート）のデータからどのように結果を導くかは、研究を進める上で重要である。一方、データには多かれ少なかれ、バラつきを含んでいる。例えば、10回測定して毎回同じ値が得られることはないだろうし、100人にアンケートをとっても、別の100人では必ずしも同じ値にならない。また、対象とする全ての物、人に実験や調査ができない場合（「日本人全体」を対象とするなど）、バラつきを含む、限られたデータの中から集団（母集団）の特徴（平均やバラつき）を導くことが重要である。その手法を提供するのが、統計学である。

本講義では、統計学の基本的な考え方を学ぶとともに、基本的な統計的手法について、例題を通して習得する。

【授業における到達目標】

実験やアンケート調査などのデータを扱う上で重要となる、実験結果や調査結果をまとめる方法、データから集団の本質的な特徴（平均やバラつき）を導く手法を学修する。これにより、研鑽力、行動力を発揮する基礎を身につけ、真理を導き、新たな知を生み出そうとする態度【美の探究】を促進する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データの種類と整理（グラフ）
- 第3週 集団の性質を表す代表値（平均や分散など）
- 第4週 二つの集団の関係（相関）
- 第5週 確率変数と期待値
- 第6週 同時確率分布と二項分布
- 第7週 正規分布
- 第8週 母数の推定1（母平均（母分散既知））
- 第9週 母数の推定2（母平均（母分散未知）、母分散、母比率）
- 第10週 仮説検定の考え方
- 第11週 仮説検定（二つの母集団の比較）
- 第12週 仮説検定（適合度検定と分割表）
- 第13週 問題演習
- 第14週 実験計画法の考え方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：授業前に講義スライドの予習、前回の授業の復習をしておくこと（2時間）
- 事後学修：授業内容、小テストで分からなかった箇所を復習しておくこと（2時間）

【テキスト・教材】

講義のスライドを毎回授業前にmanabaにアップしておくので、事前にダウンロード、もしくは印刷しておくこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験：60%
- 平常点（小テスト）：40%
- 小テスト、定期試験は、授業最終回にフィードバックする。

【参考書】

- 「ゼロから学ぶ統計解析」小寺平治著（講談社）2500円（税別）
- 「スバラシク実力がつくと評判の統計学キャンパスゼミ」（マセマ出版社）2200円（税別）
- 「まずはこの一冊から 意味が分かる統計解析」涌井貞美著（ベレ出版）2000円（税別）

統計的思考

統計的なものの見方・考え方を身に付けよう

竹内 光悦

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

AI や IoTがますます社会に普及し、データを活用する力が社会として必要とされています。このことは、産業界はもちろんこと、これまでの学校教育でも毎学年で学ぶほど、重要視されています。そこで本授業ではこれらのことを踏まえ、これまでの学び直しも踏まえながら、ICT の活用を踏まえ、数式をなるべく使わずに、データに基づいた判断力を涵養することを目的とします。このことから雑誌や新聞記事、論文等の社会学的な統計図表（グラフ等）を読み解く力を身に付け、統計的なデータに基づいた政策決定の妥当性について説明できるようになり、これからの大学での学びの基盤づくりを目指します。

【授業における到達目標】

社会人としてデータに基づく意思決定を行う際のデータを読み取る力などの【研鑽力】、データを用いた情報発信力などの【行動力】、統計的リテラシーの習得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 データサイエンス時代の統計的問題解決力について
- 第2週 オープンデータ、公的統計について—データの理解—
- 第3週 統計グラフの誤読
- 第4週 分布をみて、社会集団を把握—代表値、散布度の理解—
- 第5週 時系列データの読み取りと傾向把握
- 第6週 相関関係と因果関係
- 第7週 習熟度確認テスト
- 第8週 確率や確率分布による統計的推測
- 第9週 母集団と標本、調査での標本抽出
- 第10週 比較実験の考え方、実験計画
- 第11週 統計的仮説検定の考え方、使い方
- 第12週 マーケティングによる多次元データの活用
- 第13週 テキスト分析で社会の傾向を把握
- 第14週 ICT を活用したデータ分析
- 第15週 公的統計を用いた戦略決定、統計的問題解決

【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

講義内で適宜紹介。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

【参考書】

講義内で適宜紹介。

【注意事項】

本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

統計的思考

新聞・雑誌・ネット記事などのデータ読解力

河野 康成

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

AIやIoTがますます社会に普及し、データを活用する力が社会として必要とされています。このことは、産業界はもちろんのこと、これまでの学校教育でも毎学年で学ぶほど、重要視されています。そこで本授業ではこれらのことを踏まえ、これまでの学び直しも踏まえながら、ICTの活用を踏まえ数式をなるべく使わずに、データに基づいた判断力を涵養することを目的とします。このことから雑誌や新聞記事、論文等の社会学的な統計図表（グラフ等）を読み解く力を身に付け、統計学的なデータに基づいた政策決定の妥当性について説明できるようになり、これからの大学での学びの基盤づくりを目指します。

【授業における到達目標】

社会人としてデータに基づく意思決定を行う際のデータを読み取る力などの【研鑽力】、データを用いた情報発信力などの【行動力】、統計的リテラシーの習得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 データサイエンス時代の統計的問題解決力について
- 第2週 オープンデータ、公的統計について—データの理解—
- 第3週 統計グラフの誤読
- 第4週 分布をみて、社会集団を把握—代表値、散布度の理解—
- 第5週 時系列データの読み取りと傾向把握
- 第6週 相関関係と因果関係
- 第7週 習熟度確認テスト
- 第8週 確率や確率分布による統計的推測
- 第9週 母集団と標本、調査での標本抽出
- 第10週 比較実験の考え方、実験計画
- 第11週 統計的仮説検定の考え方、使い方
- 第12週 マーケティングによる多次元データの活用
- 第13週 テキスト分析で社会の傾向を把握
- 第14週 ICT を活用したデータ分析
- 第15週 公的統計を用いた戦略決定、統計的問題解決

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：前の週に次の週のテーマを伝達しますので、それについて予習してください。
事後学修（週2時間）：当日の内容について、分からなかったことを復習し、掘り下げたいことを追及してください。

【テキスト・教材】

PowerPoint講義資料を使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題：50%（レポート形式の統計的課題）

平常点：50% 授業内/授業外小課題等

上記を総合的に見て判断します。

・フィードバック

manabaを活用しますが、休憩時間および時間外（メール）で、調べ（分析）してもわからなかったことに対して質問を受けます。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【注意事項】

授業内容は、進行状況や受講生の希望により変更する場合があります。

道徳教育指導論

道徳の授業を実践する力を育てる(文学部 対象)

山田 佳子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

より人間性豊かな生徒を育てることを目指して、中学校では本年度から道徳を教科として実施します。学校では生徒主体に、話し合い、議論し合う道徳の授業を行うことが求められています。そこで、この講義を、学校における道徳教育や道徳の授業のあり方や指導方法を理解する時間にしたいと思います。そして、学校で道徳教育、道徳の授業を実践できる力を身に付けます。そのために、学校で行われている道徳の授業の教材や内容に多く接しながら、学習指導要領の基礎的な理論を理解し、学習指導案を作成し実践できる力を身に付けることを目指します。

【授業における到達目標】

- ・以下の視点を踏まえた道徳の授業を実践できるようになる。
 - ①道徳の授業を通して、多様性を受容し、多角的な視点を持って様々な課題について考えることができる。(国際的視野)
 - ②生きる上での課題について、考え、判断し、よりよい生き方を求めて問題を解決することができる。(行動力)

【授業の内容】

毎時間、道徳の時間に関する教材を配布し、活用方法を考えます。

- 第1週 はじめに(これからの進め方、道徳の時間の概要、本講義での学習目標を立てる)
- 第2週 道徳教育と道徳の時間
- 第3週 道徳の指導内容
- 第4週 道徳教育の歴史と考え方
- 第5週 学習指導要領「道徳」の概要(道徳の目標 道徳の内容)
- 第6週 学習指導要領「道徳」の概要(指導計画の作成と内容の取扱い)
- 第7週 道徳教育の具体例と全体計画
- 第8週 道徳授業の具体例と年間指導計画
- 第9週 道徳授業の特性を踏まえた指導
- 第10週 道徳の学習指導案作成の実際
- 第11週 模擬授業に向けての準備・協議
- 第12週 模擬授業および協議(班で発表する ①1班②2班③3班)
- 第13週 模擬授業および協議(④4班⑤5班⑥6班)
- 第14週 模擬授業および協議(⑦7班⑧8班⑨9班)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修(学修時間 週2時間)

- ・テキストを読み、予習をする。
- ・課題に取り組む。

事後学修(学修時間 週2時間)

- ・授業で配布された教材やテキストで復習をする。

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編[2018、ISBN：978-4-304-04165-5 ※文科省WEBサイトよりダウンロードしてもよい]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度20%、時間内に書くワークシート、レポート40%、模擬授業のための学習指導案の内容40%により総合的に評価します。

レポートは、講評し、後日返却します。

【参考書】

講義の中で、必要な書籍や資料等について紹介します。

道徳教育指導論

(生活科学部 対象)

賞雅 枝子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

2019年4月から、すべての中学校で道徳が教科化され、検定教科書を基に道徳科の授業が年間35時間実施される。

道徳教育の全体像を理解し、道徳科指導の理論と実践を学ぶ。前半は『文部科学省学習指導要領解説編 道徳』を読み進めるとともに、道徳教育の変遷や中学生期の発達の段階を理解するなど幅広く学び、講義・演習を行う。

後半は、道徳科指導のための基礎を学びながら、5回程度の模擬授業を行い道徳科の実践力を養う。

【授業における到達目標】

- 道徳教育及び道徳科の指導について基本を理解していること。
- 中学生期の発達の段階について、その概要を理解し、生徒理解の気を身に付けること。
- 道徳科の目標や内容項目について理解していること。
- 指導案作成の基礎を理解し、展開の工夫等ができること。

【授業の内容】

- 第1週 本講義のガイダンス
- 第2週 道徳教育とは何か。学校における道徳教育の役割と現在の中学校での道徳教育の状況について。
- 第3週 道徳教育と他の教科との関連について。各教科・総合・特別活動における道徳教育はどのように結びつき生徒の成長につながるべきか。
- 第4週 演習：「中学校教育での道徳的な課題」
母校や近隣校の道徳教育の目標を調べるなどして、自分なりに中学校での課題を設定したうえで、授業の中で議論する。レポート①
- 第5週 「特別の教科 道徳」の開始、戦前戦後の道徳教育の変遷について
- 第6週 「特別の教科 道徳」の目標について
- 第7週 「特別の教科 道徳」の指導内容について レポート②
- 第8週 模擬授業のための準備、指導案の構造、授業論
- 第9週 模擬授業Ⅰ 指導案検討 4つの視点と内容項目の構造
- 第10週 模擬授業Ⅰ「主として自分自身に関すること」
- 第11週 模擬授業Ⅱ 指導案検討
「主として他の人との関りに関すること」
- 第12週 模擬授業Ⅱ「主として他の人との関りに関すること」
- 第13週 模擬授業Ⅲ「主として社会との関りに関すること」
- 第14週 模擬授業Ⅳ
「主として生命や自然とのかかわりに関すること」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 週2時間 次回授業の課題調査、指導案作成

事後学修 週2時間 各回の授業で学んだことの総括をA4紙1枚にまとめ、次の授業で提出する。

【テキスト・教材】

文部科学省学習指導要領解説編 道徳[教育出版、¥178(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート①②、指導案①②③④(第10週～第13週) 50%

授業のまとめ(毎回の事後学修、最終回に提出) 30%

授業への参加、取組、 20%

各授業でのレポート①②、指導案①②③④は提出後、次回にフィードバックする。

授業のまとめは回収後一週間以内にフィードバックする。

授業への参加取組はその時間の終末にフィードバックする。

【参考書】

授業で指示する。

【注意事項】

短期間に、多くの内容を学ぶことになるので、すべて出席することが望ましい。

道徳教育指導論

(人間社会学部 対象)

福田 鉄雄

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

生きる力の核となる「豊かな人間性」を育むためには、学校教育全体を通じて道徳教育を推進し、道徳授業を充実する必要があります。そこで、本講座においては、道徳教育の意義や役割等を理解し、自らが教員として道徳教育を担う重要性を認識し、実際に指導をするに当たって必要な基礎的な知識と有効な指導法を身に付けることをねらいとします。そのために、学習指導要領における道徳教育の目標、内容及びその取扱い等を学びます。さらに、道徳授業の多様な教材の生かし方を理解していきます。さらに、道徳授業の構想と学習指導案の作成 及び模擬授業を通して、教員としての実践的な指導力・授業力を身に付けることを目標とします。

【授業における到達目標】

- 1 道徳教育、道徳科の目標について理解できるようになる。
- 2 道徳の内容が理解できるようになる。
- 3 道徳科の教材の分析の方法が理解できるようになる。
- 4 道徳の授業展開力について修得する。
- 5 道徳の評価のしかたについて修得する。

【授業の内容】

- 1 ガイダンスとプロローグ ①履修上の留意点②道徳の教科化の概要③現代の子供の実態
- 2 道徳教育と道徳の時間 ①道徳教育と道徳の時間のちがい②道徳教育の目標③道徳の時間の目標と特質
- 3 道徳教育の現状と内容①道徳教育の現状②道徳の指導内容
- 4 道徳の内容、指導計画、推進体制 ①指導内容の構成と取扱い②指導計画③推進体制の確立
- 5 道徳科の指導 ①指導の基本方針②特質を生かした指導③指導方法
- 6 道徳科の指導の構想 ①教材の生かし方②教材の分析③発問
- 7 道徳科の展開 ①指導方法の工夫に視聴覚教材の活用
- 8 学習指導案の作成 ①盛り込むべき内容②作成の手順
- 9 指導案作成と多様な指導方法の工夫 ①導入における工夫②展開における工夫③終末における工夫
- 10 指導案作成と指導上の留意事項 ①問題解決的な学習②情報モラル等現代的な課題③家庭や地域との連携
- 11 指導案作成と道徳の評価 ①評価の基本的な態度②道徳性の評価③道徳科に関する評価
- 12 模擬授業の展開とその考察1 (グループ1の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 13 模擬授業の展開とその考察2 (グループ2の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 14 模擬授業の展開とその考察3 (グループ3の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 15 まとめ ①模擬授業より学んだこと②これからの道徳教育と教員の役割・責務③この講座で学んだことの定着確認

【事前・事後学修】

- 1 事前学修
道徳教育や道徳科にかかわる新聞記事やニュースに対して関心を持ち、まとめること。小テスト、毎時間提出のレポート等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)
- 2 事後学修
レポート、小テストの復習をすること。次回の授業範囲を予習し、教材の吟味や指導案の作成の下準備をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 [教育出版、2017、¥156(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 1 授業への取組状況(意欲・態度) (20%)
- 2 小テスト (20%)

3 毎時間に作成、提出するレポート (20%)

4 作成、提出する学習指導案の内容と模擬授業の授業展開力 (20%)

5 講義の最後に行うまとめの確認テスト (20%) により、総合的に評価をします。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

講義の中で、必要な書籍や参考資料等は紹介をします。

【注意事項】

1 教師として必要とされる資質・能力の育成を目指します。授業に対して、意欲的、積極的に取り組む姿勢を求めます。

道徳教育指導論（栄養）

道徳授業を実践する力を育てる

山田 佳子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

より人間性豊かな生徒を育てることを目指して、中学校では本年度より道徳を教科として実施することになっています。そこで、この講義をまず学校における道徳教育や道徳の授業のあり方、指導方法等を理解する時間にしたいと思います。

また、食育の推進もますます大切になっていますので、道徳の授業の中で食育をどう進めていくかを考える必要があります。そのために、学校で行われている道徳の授業の教材や内容、食育の授業に接しながら、学習指導要領の基礎的な理論を理解し、学習指導案を作成し実践できる力を身に付けることを目指します。

【授業における到達目標】

- ・以下の視点を踏まえた道徳の授業を実践できるようになる。
- ①道徳の授業を通して、多様性を受容し、多角的な視点をもって様々な課題について考えることができる。（国際的視野）
- ②生きる上での課題について、考え、判断し、よりよい生き方を求めて問題を解決することができる。（行動力）
- ③栄養教諭として、どのような道徳の授業を行い、食育を推進するかを理解できる。（研鑽力）

【授業の内容】

毎時間、道徳に関する教材を配布し、活用方法を考えます。

第1週 はじめに（これからの進め方、道徳の時間の概要、本講義での学習目標を立てる）

第2週 道徳教育と道徳の時間

第3週 道徳の指導内容

第4週 道徳教育の歴史と考え方

第5週 学習指導要領「道徳」の概要（指導の目標 道徳の内容）

第6週 学習指導要領「道徳」の概要（指導計画の作成と内容の取扱い）

第7週 道徳教育の具体例と全体計画

第8週 道徳授業の具体例と年間指導計画

第9週 道徳授業の特性を踏まえた指導

第10週 道徳の学習指導案作成の実際

第11週 模擬授業にむけての準備・協議

第12週 模擬授業及び協議（班で発表する ①1班②2班③3班）

第13週 模擬授業及び協議（④4班⑤5班⑥6班）

第14週 模擬授業及び協議（⑦7班⑧8班⑨9班）

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週2時間）

- ・テキストを読み、予習をする。・課題に取り組む。

事後学修（学修時間 週2時間）

- ・授業で配布された教材の指導案を考える。
- ・テキストで復習する。

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編[2018]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度20%、時間内に書くワークシート、レポート40%、模擬授業の指導案、指導の様子等40%により総合的に評価します。

レポートは、講評し、後日返却します。

【参考書】

講義の中で、必要な書籍や資料等について紹介します。

特殊演習 1

—卒業論文作成の準備—

池田三枝子・田中靖彦・河野龍也・佐藤悟・棚田輝嘉・福嶋健伸

・プルナ、ルカーシュ・横井孝・湯浅茂雄

4年 前期 1単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文は学生生活4年間の研究の集大成です。

この授業では卒業論文を作成するための準備として、テーマの設定、研究史の整理、用例の分析など、各自の問題意識に即して具体的な研究方法を学びます。

【授業における到達目標】

1. 各自の問題意識を明確にする。
2. 研究史を把握する。
3. 注釈能力の向上。
4. 解析能力の向上。
5. 以上を通じて「美の探求」という態度、及び「行動力」「協働力」という能力を身に付けることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 卒論テーマの設定
 - 1 ガイダンス
 - 2 問題意識（1）—対象となる作品・事象は何か—
 - 3 問題意識（2）—対象をどのような観点から研究するか—
- 研究史の把握
 - 4 研究史の調査・整理（1）—先行研究を調べる—
 - 5 研究史の調査・整理（2）—先行研究を的確にまとめる—
- 用例の調査・分析
 - 6 用例の調査・分析（1）—用例を調べる—
 - 7 用例の調査・分析（2）—用例を分析する—
- 口頭発表
 - 8 発表と討論（1）
 - 9 発表と討論（2）
 - 10 発表と討論（3）
 - 11 発表と討論（4）
 - 12 発表と討論（5）
 - 13 発表と討論（6）
- まとめ
 - 14 卒論の章立て —論理の組み立てを考える—
 - 15 まとめ

【事前・事後学修】

卒業論文は各自の問題意識によって執筆するものなので、対象となる作品・事象や参考文献はそれぞれ異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学修は週一時間以上を充てること。

【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは卒業論文の口述試験を通じておこないます。

【参考書】

各自が調査して教員に書名、論文名を挙げ、指示を受ける。

【注意事項】

卒業論文執筆のための重要な授業であり、自覚を持って授業に臨むこと。

特殊演習 2

—卒業論文の作成—

池田三枝子・田中靖彦・河野龍也・佐藤悟・棚田輝嘉・福嶋健伸

・プルナ、ルカーシュ・横井孝・湯浅茂雄

4年 後期 1単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文は学生生活4年間の研究の集大成です。

この授業では卒業論文作成に向けて、章立ての詳細を考えた上で、書式や文体・用語など、各自のテーマに即して具体的な執筆方法を学びます。

【授業における到達目標】

特殊演習1に加え、各自のテーマを論理的な文章として具体化することを求める。そのようなプロセスを通して「美の探求」という態度、及び「行動力」「協働力」という能力を身に付けることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 卒論の章立て
 - 1 ガイダンス
 - 2 章立て（1）—論理の組み立てを考えて章を設定する—
 - 3 章立て（2）—各章の論旨を考えて節を設定する—
- 卒論の書式・凡例・施注
 - 4 書式 —テーマに即した書式を確認する—
 - 5 凡例・施注 —凡例・注の書き方を確認する—
- 卒論の文体・用語
 - 6 文体 —卒論にふさわしい文体を確認する—
 - 7 用語 —卒論にふさわしい用語を確認する—
- 口頭発表
 - 8 発表と討論（1）
 - 9 発表と討論（2）
 - 10 発表と討論（3）
 - 11 発表と討論（4）
 - 12 発表と討論（5）
 - 13 発表と討論（6）
- まとめ
 - 14 卒論の見直し —全体を見直す—
 - 15 まとめ

【事前・事後学修】

卒業論文は各自のテーマによって執筆するものなので、書式や注の付け方はそれぞれの分野によって異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学修は週一時間以上を当てましょう。

【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは卒業論文の口述試験によっておこないます。

【参考書】

卒業論文の進捗状況に応じて指示する。

【注意事項】

卒業論文の論理性に注意すること。

特別活動の指導法

小学校「特別活動」の目標・学習活動内容理解と授業づくり

南雲 成二

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

本授業では、特別活動の成立と発展等の史的变化遷、そして特別活動の学習指導要領における指導内容の構成、それを踏まえて特別活動の学習指導案の作成の方途とその実践の具体的な手順や方法について理解することを目標とする。

授業内容としては、まず、特別活動の成立と発展、特別活動の目標や内容、特別活動の指導法等について確認する。そして、それらを基に特別活動の学習指導案を作成したり、発問計画や板書計画を作成したりして授業を設計し、それを基に模擬授業を試みる。模擬授業における授業記録を基に授業設計や授業実践を振り返り、教員としての実践的指導力の基礎について分析し、考察を加える。

【授業における到達目標】

到達目標①小学校教育における「特別活動」の目的と内容、その歴史と学習領域を理解することができる。②「特別活動」と学級・学年経営の関わりを理解し、「児童教育法」の実践演習と連動しながら「学級(含学年)経営案」をデザインすることができるようになる。③学級活動(1&2)、児童会活動、クラブ活動、学校行事の授業実践をイメージし、「学習指導案」を作成し模擬授業を展開することができるようになる。併せて、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を持って陶冶しようとする態度(=教師の主体性として、人間学習の根幹として、特別活動で育む人間力の本質として)を深めることができる。

【授業の内容】

- 第1回 特別活動とは何か。特別活動の成立と発展 ①昭和22年、26年、33年、43年、52年を中心に。
- 第2回 特別活動の成立と発展②平成元年、10年、20年、29年。教育課程と特別活動、学級学年経営・学校経営と特別活動について。
- 第3回 特別活動の内容構成と実践①：平成20年改定学習指導要領における「特別活動の目標と基本的な役割」について。
- 第4回 特別活動の内容構成と実践②〈学級活動、クラブ活動、児童会活動、学校行事〉で構成されるカリキュラム内容。
- 第5回 特別活動の授業創造と評価・改善について。
- 第6回 学校経営と特別活動、学年・学級経営と特別活動の実際。(出身小学校の特別活動をレポートすることを通して)
- 第7回 保幼小、小中連携と特別活動。低・中・高各学年の課題。
- 第8回 特別活動の指導(学習指導案の形式と構成内容の理解)。本時展開例の分析と学習展開における「主な活動と教師の支援」のおさえ。
- 第9回：模擬授業の準備① 学習指導案の作成と協議
- 第10回：模擬授業の準備② 「発問・板書計画と話し合い活動」を中心に、1時間の学習内容とその構成の適否を検討。
- 第11回：模擬授業の実施に当たって留意点の確認と役割分担。(授業記録のとり方、授業研究観点の明確化等)
- 第12回 第1回模擬授業(授業記録をとる。授業分析①)
- 第13回：第2回模擬授業(授業記録をとる。授業分析②)
- 第14回：授業記録を基に特別活動模擬授業における学習指導を振り返り、成果と課題(問題点も含め)を分析、考察する。
- 第15回：授業のまとめ、ポートフォリオの作成

【事前・事後学修】

【事前学修】レポート・発表等の課題に取り組むこと。資料は次の授業までに読み進め要点・論点整理を行う。課題レポートは随時「手作り教材化」し、互いに共有。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表内容・レポート等は、「特活授業づくりの要点」としてポートフォリオ化し、積み上げる。次の授業範囲を予習し実践課題を明確にすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(東洋館

出版社201円+税)

- ・文部科学省『小学校指導要領解説 特別活動編』(東洋館出版社141円+税)
- ・文部科学省『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料—小学校特別活動—』(教育出版 260円+税)
- その他：文科省『月刊初等教育資料』文部科学省教育課程課・幼児教育課編(基本各月500円+税)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度)40%、課題レポート(指導案、授業記録等)30%、模擬授業・ポートフォリオ30%により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートやポートフォリオは、まとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

本学生活文化学科幼児保育専攻幼小コースI期生～VI期生(先輩方が残してくれた貴重な学習財産)の教育実習実践記録やレポート、卒業論文、「特別活動指導案集」等を積極的に活用し、研鑽を深める。

【注意事項】

授業研究会の参観体験や、小学校の先生方が手作りした「特別活動学習指導案」は、大切な教材・参考書として蓄積していきます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

梅澤 秀監

3年 集前・集後 2単位

【授業のテーマ】

「特別活動」と「総合的な学習の時間」は、教科の学習だけでは育成できない資質・能力を育む機能を持っています。将来教職をめざす皆さんは、「特別活動」や「総合的な学習の時間」の意義や内容、実践に関わる指導法について学習することが必要です。理論と実践を融合した授業を展開します。

【授業における到達目標】

- ・「特別活動」と「総合的な学習の時間」に関する基礎的な知識を習得する。
- ・教育課程における「特別活動」と「総合的な学習の時間」の位置付けと各教科等との関連を理解する。
- ・「特別活動」と「総合的な学習の時間」の指導計画と評価に関する知識・技能を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：特別活動の学習指導要領の改訂と特別活動の目標及び教育的意義（教育課程全体の視点を含む）
 第3回：学級活動・ホームルーム活動の特質と活動内容
 第4回：学級・ホームルーム活動の指導の実際。ワークシート・HR通信の作成・プレゼン等。
 第5回：生徒会活動について（目標及び内容と指導計画の作成及び評価）。体験をレポートにまとめてプレゼン。
 第6回：特別活動と部活動（クラブ活動の廃止について）
 第7回：学校行事の内容と指導方法・実際。体験をレポートにまとめてプレゼン。
 第8回：特別活動の全体計画、指導計画の作成とその取扱い。
 第9回：総合的な学習の時間の目標及び教育的意義。
 第10回：総合的な学習の時間の各学校において定める目標及び内容
 第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成と内容について。
 第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画について。
 第13回：総合的な学習の時間の学習指導について。
 第14回：総合的な学習の時間の評価について。
 第15回：特別活動及び総合的な学習の時間のまとめと振り返り

【事前・事後学修】

【事前学修】中学・高校での学習（経験）を思い出ししながら、教科書を通読して学習内容を確認します。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回課題を出します。次回までに記入して提出する。授業の復習と知識の定着を図ります。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

梅澤・木内・嶋崎：特別活動15講と総合的学習8講[大学図書出版、2019、¥2,100(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末の試験（70%）、提出物やプレゼンテーション（30%）とともに、授業時の平常点を加味して評価します。皆さんの意見、発表（プレゼン）に対して教員よりコメントします。この作業を繰り返すことで知識の定着を図ります。

【参考書】

「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」以上、文部科学省発行の最新版

【注意事項】

「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」に関する基礎知識と指導法について詳しく解説します。授業は毎回出席すること。

特別研究**専任教員**

食物栄養学専攻 通年 12単位

【授業のテーマ】

指導教員の下で、独自の研究テーマを選択・決定し、研究計画とアプローチ方法を定めて研究を遂行する。得られた研究データを解析するとともに、体系的な理論化に取り組み、研究成果の発表・論文作成方法を学修し、修士論文の完成を目指します。

【授業における到達目標】

研究データの解析と体系的な理論化を通じて、栄養学、食品学、調理学あるいは生理学に関する体系的かつ高度な学識を修得し、研究を遂行する能力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

1. 研究倫理教育、安全教育
2. 研究課題に関する情報収集と調査 (1)
研究課題に関わる関連文献の収集について指導する
3. 研究課題に関する情報収集と調査 (2)
関連文献の整理と先行研究をまとめる
4. 研究課題に関する情報収集と調査 (3)
先行研究を踏まえて研究課題を決定する
5. 研究計画立案 (1)
研究の意義、研究方法、予測される結果を検討しながら研究計画を立案する
6. 研究計画立案 (2)
具体的な研究計画書の作成を指導する
7. 研究の遂行 (1)
研究計画に基づく研究の遂行を指導する
8. 研究の遂行 (2)
研究結果の解析と解析結果に基づく研究計画の修正・追加について指導する
9. 研究の遂行 (3)
修正・追加した研究計画に基づいて研究を遂行する
10. 研究結果の中間発表
研究結果を取りまとめ中間発表を行う
11. 中間発表の評価結果に基づく研究計画の追加修正の指導
12. 研究の遂行 (4)
中間発表結果により修正した研究計画に基づく研究の指導
13. 修士論文作成
修士論文の構想と執筆を指導
14. 研究結果の最終発表
修士論文内容の発表と口頭試問による審査
15. 研究論文の完成
修士論文作成の指導

【事前・事後学修】

【事前学修】先行研究の事前調査、関連論文の査読と理解、研究計画の立案、結果のまとめと考察、論文草稿の作成などについて、指導を受ける前に準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】指導を受けた点について速やかに対応して研究が滞らないようにする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

必要なテキスト・論文について適宜指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

修士論文審査基準により判定評価する。

特別研究**専任教員全員**

生活環境学専攻 通年 10単位

【授業のテーマ】

環境人間工学、生活材料学、衣環境設計学、住環境設計学、環境文化化学の各分野において、情報を収集し、文献を検索し、先行研究を調べ、自ら研究テーマを決定する。さらに研究の方法を探り、研究計画を立案、遂行する。

【授業における到達目標】

従来の研究を検討しながら、自らの研究課題を決定し、研究の方法、研究計画を立案、遂行する能力を養う。課題を自ら考え、行動し、解決することができる能力を育む。

関連学会での発表を義務づけ、自分の研究を社会に還元する意味を考えさせ、社会に通用するプレゼンテーション能力を身に付けさせる。

関係分野で技術者として、指導者として自立できるようにする。

【授業の内容】

1. 概要説明
2. 研究課題決定のための情報収集
3. 情報収集により得た文献の解析
4. 情報収集により得た文献の整理
5. 研究課題に対する議論と修正
6. 研究課題の決定
7. 研究計画の立案
8. 研究計画に対する議論と修正
9. 研究方法の検討
10. 研究方法に関する議論と修正
11. 研究の遂行
12. 研究結果に関する議論
13. 議論に基づく研究の遂行
14. 修士論文執筆に関する議論
15. 修士論文完成

【事前・事後学修】

事前学修に関しては、特別研究を推進していくために必要な、情報収集、文献検索などによる先行研究の調査、理解、研究方法の検討、研究計画立案、研究の実施などを、自ら考え実行する。週3時間以上。

事後学修に関しては、指導教員との議論の後に、内容を深め、理解し、速やかなる修正を行う。週3時間以上。

【テキスト・教材】

適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

題目発表、中間発表、修士論文発表会のプレゼンテーションと修士論文の内容により評価する。

特別講義

『ブレード・ランナー』を通して見るポストモダン文化状況

諏訪 友亮

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

講義形式ですが、毎回複数の学生を指名して考えたことを聞いていきます。問いに対して答える姿勢を持ちましょう。
授業中のスマートフォンの操作は禁止です。

【授業のテーマ】

1982年に公開された映画『ブレード・ランナー』は、その影響を多くの分野に波及させてきました。いまから見ると、そこにあるやや風変わりな未来像は、一方で的確に時代や人間を取り巻く状況を捉えていたと言えます。

この授業では、「ポスト・モダン」という用語をキーワードにして映画を読み解いていきます。「ポスト・モダン」とは、〈後〉を意味する接頭辞「ポスト」と〈近代〉を意味する「モダン」の複合語です。ICT、例えばSNSの浸透によって主体が分散する事態や、価値観の多様化、共通の目的を喪失した現況は、このポスト・モダンの状態に当てはまります。ですが、ポスト・モダンを考えることは、この状況をただ追認するのではなく、その価値観を支えているモダンについても改めて考えさせてくれる機会になります。

大学で知を育むためには、まず各分野のキーワードを把握し、そこから自分なりの新しい視点や議論につなげていく思考力が求められます。大学で勉強を開始するにあたり、映像や批評を読み解き、概念を整理する術を学んでいきましょう。

【授業における到達目標】

1. SFというジャンルについて簡単な理解を得られるようになる。
2. 「モダン」、「ポスト・モダン」という語について簡単な知識を持つことができる。
3. 批評を読み、それを作品に応用して試みるができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方、評価方法、参考資料など）
 第2週 映画『ブレード・ランナー』冒頭-30分、日本／日本語の表象について
 第3週 映画『ブレード・ランナー』30分-60分、原作について
 第4週 映画『ブレード・ランナー』60分-90分、リドリー・スコットについて
 第5週 映画『ブレード・ランナー』90分-ラスト、問題点の洗い出し
 第6週 ポスト・モダンとは、モダンとは
 第7週 映画批評の確認①、作品に立ち返る
 第8週 映画批評の確認②、作品に立ち返る
 第9週 映画『ブレード・ランナー 2049』、1982版との違い、35年という期間①
 第10週 映画『ブレード・ランナー 2049』、1982版との違い、35年という期間②
 第11週 映画『ブレード・ランナー 2049』、1982版との違い、35年という期間③
 第12週 問題点の洗い出し、映画批評の確認③
 第13週 立論の仕方、映画批評の確認④
 第14週 まとめ
 第15週 14週へのフィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：教科書や映画評の指定箇所を読み、授業の準備をする（学修時間 週1時間）

事後学修：授業で出た論点を整理し、分からない箇所は資料に当たって理解を深める。関連作品を観る。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

町山智浩：ブレードランナーの未来世紀[新潮文庫、2017、¥724(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のコメントペーパー 30%、教場試験 70%。

15週目に試験の講評を行います。

【参考書】

授業内で適宜配布、紹介します。

【注意事項】

特別講義A

カンボジアと日本の比較文化論

高橋 美和

3年 前期 2単位

◎：国際的視野

【授業のテーマ】

世界遺産アンコール・ワット遺跡群で有名な東南アジアの一国カンボジアは、インドシナ半島部で最も歴史の長い国の一つであり、日本との関わりも古くからある。どのような人々が住み、どのような言葉話し、どのような暮らしが営まれているのだろうか。この授業では、この国の文化と日本の文化とを比較しながら論じる。普段当たり前と思い、その中で暮らしている日本の文化を、違った視点で見つめ直してみよう。

【授業における到達目標】

この授業では、表題の通り、カンボジアの社会・文化に関する基礎知識を学ぶが、カンボジアの具体的なケース・スタディを通して、異文化を自文化との比較を通して理解を深める比較文化の方法を学ぶ。国際感覚を身につけると同時に、日本の文化を世界に発信しようとする態度を養うことを最終目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入：カンボジアの自然地理
- 第2週 国家情勢
- 第3週 食：米と魚の重要性
- 第4週 民族構成・宗教分布
- 第5週 近現代史概説
- 第6週 カンボジア語とは
- 第7週 日常生活・人生と仏教
- 第8週 家族・親族①：誰をどう呼ぶか
- 第9週 家族・親族②：どこまでが家族？
- 第10週 民族衣装
- 第11週 呪い・占い・お祓い
- 第12週 伝統的な出産・身体観
- 第13週 暦と年中行事
- 第14週 結婚式・葬式
- 第15週 まとめの講義

※外部講師を招く回を予定している。

【事前・事後学修】

- 事前：次回のテーマに関連するテキストの箇所をあらかじめ読んでおくこと。（学修時間 週2時間）
- 事後：DVD視聴後のリアクションペーパーの提出。また、期末試験に含まれる論述問題に役立つような発展的な読書や資料収集をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

上田広美・岡田知子：カンボジアを知るための62章[明石書店、2012、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクションペーパー20%＋期末試験80%
提出物および期末試験は授業期間内にフィードバックする。

【参考書】

授業で紹介する。

【注意事項】

「アジア文化論」既習もしくは同時履修が望ましいが必須ではない。東南アジアに関する予備知識が無くても受講できる。

特別講義B

ジェンダーから見る東南アジア

高橋 美和

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

東南アジアの国々のほとんどがいわゆる開発途上国であることから、日本人の東南アジア地域へのまなざしは一般に先進国からの目線にやや偏っているのではないだろうか。実際には、東南アジアには女性の社会進出が日本以上に進んでいる社会や、たとえシングル・マザーであっても貧困に陥らないような社会システムを有する社会もある。日本と東南アジアとは、経済発展の度合いも基層文化も異なるとはいえ、今や多くの共通課題を持つ隣人同士として学ぶ点も数多い。この授業では、日本との相違点・共通点を意識しつつ、ジェンダーという切り口から東南アジアの社会・文化を見直していく。

【授業における到達目標】

東南アジア社会の基礎知識を身につけるとともに、ジェンダーという視点の重要性を理解し、その視点から異文化社会を自文化社会との連続性を意識しながら考察ができるようになることを目標とする。これらをとおして、国際的視野および学修を通して自己成長する力すなわち研鑽力を養成する。

【授業の内容】

- 第1週 導入：東南アジアのイメージとジェンダー
- 第2週 ジェンダー的視点とは何か
- 第3週 「女性の地位が高い」とはどういう意味か
- 第4週 親族組織とジェンダー① 単系制と双系制
- 第5週 親族組織とジェンダー② 婚姻と世帯
- 第6週 イスラム社会とジェンダー
- 第7週 仏教徒社会とジェンダー
- 第8週 比丘尼復興運動
- 第9週 エスニシティとジェンダー
- 第10週 東南アジアにおける性的多様性
- 第11週 健康・寿命とジェンダー
- 第12週 人々の移動とジェンダー① 国際労働移動
- 第13週 人々の移動とジェンダー② 国際結婚と養子
- 第14週 開発とジェンダー
- 第15週 まとめの講義

【事前・事後学修】

- 事前：事前に文献が配布された場合は、目を通してから授業に臨むこと。課題提出が課せられた週は、次回授業時に提出。（学修時間 週2時間）。
- 事後：期末レポート執筆に向けて、文献を検索し読みすすめる。（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テキストは用いない。適宜資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出30%＋期末レポート70%（受業者人数によっては、提出前の簡単な口頭発表を課す）
提出物・レポートは授業期間内にフィードバックする。

【参考書】

宇田川妙子・中谷文美 編『ジェンダー人類学を読む—地域別・テーマ別基本文献レビュー』（世界思想社、2007）3, 240円
この他の文献は授業で紹介する。

【注意事項】

「アジア文化論」既習もしくは同時履修が望ましいが、必須ではない。東南アジア社会の予備知識が無くても受講可能。

特別講義 a

於保 祐子・中村 彰男

4年 前期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人体の構造と機能および疾病の成り立ち、基礎栄養学に係る知識を整理し、管理栄養士国家試験に対応できる能力を養うことを目標として当該分野の演習を行ないます。

【授業における到達目標】

到達目標：

- ・栄養素の構造と機能、その代謝について理解し、説明できる。
- ・臓器・器官の構造と機能及び疾患について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 アミノ酸・たんぱく質の栄養と代謝
- 第2週 糖質の栄養と代謝
- 第3週 脂質の栄養と代謝
- 第4週 ビタミンの栄養と疾病
- 第5週 ミネラルの栄養
- 第6週 主な症候
- 第7週 肥満と代謝疾患
- 第8週 消化器系の構造、機能および疾患
- 第9週 循環器系の構造、機能および疾患
- 第10週 腎尿路系の構造、機能および疾患
- 第11週 神経系の構造、機能および疾患
- 第12週 内分泌疾患と生殖器系の構造、機能および疾患
- 第13週 呼吸器系、運動器系の構造、機能および疾患
- 第14週 血液・リンパ系の構造、機能および疾患
- 第15週 免疫アレルギー疾患と感染症とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】受講分野が多岐にわたります。テキストや過去の学習で使用した当該分野のテキスト、ノート、プリント、参考書などを整理し、受講する上で必要となる知識を整理・確認しておく必要があります（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業内容について、確認テストを行います。復習し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

『クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説』（メディックメディア） 4,500円（税別）

『管理栄養士国家試験過去問解説集5年分徹底解説』（中央法規） 3,000円（税別）

注：テキストはそれぞれ、授業開始時に出版されている最新版

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、受講態度（小テスト等を含む）20%で評価します。小テストや試験の結果については、次回授業でフィードバックします。

特別講義 b

井部 明広・杉山 靖正・中川 裕子

4年 後期 1単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

食べ物と健康に係わる食品学、食品加工学、食品衛生学、調理学分野の知識、理論を整理し、当該分野で発生する応用問題を解決できる能力を養う。

【授業における到達目標】

管理栄養士としての技量や知識を習得することで、「国際的視野」を持ちつつ、学生が修得すべき「行動力」「研鑽力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得する。

【授業の内容】

1. 人間と食品（食文化と食生活、食生活と栄養、食料と環境問題）
2. 食品の分類と食品の成分（分類の種類、植物性食品）
3. 食品の分類と食品の成分（動物性食品、油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料）
4. 食品の分類と食品の成分（微生物利用食品、食品成分表）
5. 食品の安全性（食品衛生と法規、食品の変質、食中毒）
6. 食品の安全性（食品による感染症・寄生虫症）
7. 食品の安全性（食品中の汚染物質、食品添加物、食品衛生管理）
8. 食品の表示と規格基準（表示の種類、健康や栄養に関する表示制度）
9. 食品の表示と規格基準（基準）
10. 食品の機能（一次、二次、三次機能）
11. 食品の生産・加工・保存・流通と栄養（食料生産と栄養、食品加工と栄養、加工食品とその利用）
12. 食品の生産・加工・保存・流通と栄養（食品流通・保存と栄養、器具と容器包装）
13. 食事設計と栄養・調理（食事設計の基礎、調理の基本）
14. 食事設計と栄養・調理（調理操作と栄養）
15. 模擬試験とまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業についてそれぞれ食品学、食品加工学、食品衛生学、調理学の教科書をよく読んでおくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業範囲について、過去の試験問題を解いて理解し、応用力につなげること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

医療情報科学研究所編集『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説2020』（メディックメディア）及び 適宜プリント等を配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度60%、小テスト、模擬試験成績等40%から総合評価する。試験結果及び解答は授業最終日にフィードバックする。

特別講義 c

辛島 順子・高橋 加代子

4年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

特別講義Cでは、管理栄養士として必要な知識及び技術のうち、特に一次予防・二次予防・三次予防に関連する教科の重要な項目を系統的に習得するように組み合わせている。これにより、総合的な視野の形成が強化され、高度な専門知識及び技術を持った資質の高い管理栄養士を目指す。具体的には、一次予防と二次予防に必要な理論やモデルを実際の栄養教育に応用する能力を培う。また、臨床栄養の場において、二次予防と三次予防に必要な傷病者の栄養管理プロセスの応用能力を高める。

【授業における到達目標】

学修成果を実感し、将来管理栄養士として社会に出るための自信を創出する。また、管理栄養士として生涯学び、自己成長する態度や力を身につける。

【授業の内容】

1. 栄養教育の意義と特性
2. 栄養教育に関わる理論とモデル・個人
3. 栄養教育に関わる理論とモデル・集団
4. 行動変容概念と技法
5. カウンセリングの基本と栄養教育への応用
6. 栄養教育プログラム評価の理論
7. 栄養教育プログラム評価の方法
8. 医療・介護・福祉における栄養管理
9. チーム医療における管理栄養士の役割
10. 疾病・身体状況に応じた栄養補給法
11. 臨床症候と栄養障害の評価
12. 臨床における栄養評価
13. 臨床における栄養診断
14. 栄養介入計画の作成
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】1～3年次に使用したテキストや配布資料の該当箇所をよく読むこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】指定した課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

- サクセス管理栄養士講座 栄養教育論[第一出版、2016、¥2,200(税抜)]
- サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ[第一出版、2016、¥1,900(税抜)]
- サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ[第一出版、2016、¥2,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点(受講態度・課題)40%、小テスト10%で評価する。提出された課題を確認し、返却して授業内で解説する。

特別講義 d

森川 希・佐々木 溪平

4年 後期 1単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

「社会・環境と健康」「公衆栄養学」の各分野について、テーマの概念や目的・根拠、方法、評価等を整理し、知識と応用力を確かなものとしします。

【授業における到達目標】

- 1) 当該分野の要点を概説できる。
- 2) 当該分野の管理栄養士国家試験問題に正答できる。

【授業の内容】

1. 公衆衛生学・予防医学の概念、公衆衛生活動、環境衛生
2. 保健統計、疫学
3. 生活習慣の現状と対策、主要疾患の疫学と予防対策
4. 歯科保健、保健・医療・福祉の制度
5. 地域保健、母子保健、学校保健
6. 成人と高齢者の保健、産業保健
7. 感染症対策、精神保健、国際保健
8. 公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題
9. 公衆栄養関連法規
10. 栄養政策の歴史、指針・ツール、健康増進施策
11. 栄養疫学の概要
12. 食事摂取量の測定と評価
13. 公衆栄養マネジメント
14. 公衆栄養プログラムの展開
15. 全体的総括

【事前・事後学修】

事前学修 公衆衛生学の教科書や、授業で使用した配布資料、小テスト、国家試験過去問題、期末テスト問題を整理し、よく復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修 講義内容について必ず復習してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説[メディックメディア、¥4,500(税抜)]
- 古野・伊達・吉池：公衆栄養学[南江堂]
- 古野・辻・吉池：社会・環境と健康[南江堂、※2年次または3年次に使用した教科書]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験(80%)、授業態度(20%)で講義内容の理解度を評価する。評価結果を提示し、また、試験問題は、復習のために試験後正答を示す。

【参考書】

柳川洋・尾島俊之(編著)「社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版」医歯薬出版株式会社

特別支援教育論

柏崎 秀子

2・3年 集後 1単位

【授業のテーマ】

現代の教師は、通常学校の教員であっても、特別支援教育の理解が不可欠である。通常学校にも特別支援を必要とする教育的ニーズを有する生徒が学んでいるからである。また、その指導法が広く生徒達への指導にも役立つため、その教育の基本と指導法の在り方を修得することが求められる。

この授業では、特別支援教育や各種障害の特性や支援の基礎を学び、共生時代の教師としての資質能力を育成する。

【授業における到達目標】

- ・特別支援教育の概要を修得する。
- ・特に通級学級での特別支援を必要とする児童生徒の特徴と困難がわかるようになる。
- ・困難を抱える生徒を支援する方法の基礎が身に付く。

【授業の内容】

- 第1回：基本理念とインクルーシブ教育システムの概要
- 第2回：障害の理解1；視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱
- 第3回：障害の理解1；発達障害、軽度知的障害
- 第4回：発達障害の学習上・生活上の困難
- 第5回：発達障害等の学習支援
- 第6回：特別支援教育の教育課程
- 第7回：個別の指導計画と連携・支援体制
- 第8回：多様な教育的ニーズ（母語の問題や貧困）の理解と支援

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書等の指示された箇所を予め読んで、ワークシートに解答を記入しておく。（学修時間：1時間）

【事後学修】「まとめ問題」に取り組んで内容を復習する。（学修時間：1時間）

【テキスト・教材】

- 『教職ベーシック 発達・学習の心理学（第3版）』（柏崎秀子編著、北樹出版、2019年 1900円＋税）
- 『フィリア』（全国特別支援学校長会編、ジアース教育新社、2014年）1200円＋税（一般書店では入手しにくいいため、学内の教科書販売で確実に入手するように。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（50%）、レポートおよび各授業の小課題（50%）
レポートと小課題はコメントして返却する。試験解答は実施後に示す。

【参考書】

授業中に適宜資料を配布する。

【注意事項】

新カリキュラムで開設された新しい科目である。新カリキュラムによる課程履修者は必修のため、必ず履修すること。
旧カリキュラムによる課程履修者も今後必要となる内容のため、積極的に履修してほしい。

特別支援教育論

柏崎 秀子

2・3年 集後 1単位

【授業のテーマ】

現代の教師は、通常学校の教員であっても、特別支援教育の理解が不可欠である。通常学校にも特別支援を必要とする教育的ニーズを有する生徒が学んでいるからである。また、その指導法が広く生徒達への指導にも役立つため、その教育の基本と指導法の在り方を修得することが求められる。

この授業では、特別支援教育や各種障害の特性や支援の基礎を学び、共生時代の教師としての資質能力を育成する。

【授業における到達目標】

- ・特別支援教育の概要を修得する。
- ・特に通級学級での特別支援を必要とする児童生徒の特徴と困難がわかるようになる。
- ・困難を抱える生徒を支援する方法の基礎が身に付く。

【授業の内容】

- 第1回：基本理念とインクルーシブ教育システムの概要
- 第2回：障害の理解1；視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱
- 第3回：障害の理解1；発達障害、軽度知的障害
- 第4回：発達障害の学習上・生活上の困難
- 第5回：発達障害等の学習支援
- 第6回：特別支援教育の教育課程
- 第7回：個別の指導計画と連携・支援体制
- 第8回：多様な教育的ニーズ（母語の問題や貧困）の理解と支援

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書等の指示された箇所を予め読んで、ワークシートに解答を記入しておく。（学修時間：1時間）

【事後学修】「まとめ問題」に取り組んで内容を復習する。（学修時間：1時間）

【テキスト・教材】

『教職ベーシック 発達・学習の心理学（第3版）』（柏崎秀子編著、北樹出版、2019年 1900円＋税）

『フィリア』（全国特別支援学校長会編、ジアース教育新社、2014年）1200円＋税（一般書店では入手しにくいいため、学内の教科書販売で確実に入手するように。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（50%）、レポートおよび各授業の小課題（50%）
レポートと小課題はコメントして返却する。試験解答は実施後に示す。

【参考書】

授業中に適宜資料を配布する。

【注意事項】

新カリキュラムで開設された新しい科目である。新カリキュラムによる課程履修者は必修のため、必ず履修すること。
旧カリキュラムによる課程履修者も今後必要となる内容のため、積極的に履修してほしい。

毒性学

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

【授業における到達目標】

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

【参考書】

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院
2010年）本体2,500円

【注意事項】

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりとって、参考書を大いに利用してください。

毒性学

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

【授業における到達目標】

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

【参考書】

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院
2010年）本体2,500円

【注意事項】

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりとって、参考書を大いに利用してください。

毒性学

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

【授業における到達目標】

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

【参考書】

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院
2010年）本体2,500円

【注意事項】

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりと、参考書を大いに利用してください。

毒性学

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

【授業における到達目標】

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

【参考書】

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院
2010年）本体2,500円

【注意事項】

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりとって、参考書を大いに利用してください。

読書と豊かな人間性

豊かな人間性を育む読書について考える

松本 美智子

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

児童生徒の読書活動及び読書環境の実態を知り、発達段階に応じた読書指導の理念と方法の理解を図る。

【授業における到達目標】

学校図書館における読書活動について、多くの視点から考察するとともに司書教諭としての基本的・実践的な知識と技術を獲得することを目標とする。

具体的には、学校図書館における読書活動の意義を知り、児童生徒の発達段階に応じた資料の選択、読書指導の方法を学ぶ。さらに心の教育としての読書、教科指導における読書の在り方について考え、豊かな人間性を育む読書習慣の形成、主体的な学習者の育成について実践的に学ぶ。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：児童生徒の読書の実態
- 第2回 読書活動の目的と意義
- 第3回 読書指導の歴史
- 第4回 読書能力の発達段階
- 第5回 発達段階に応じた読書指導計画（1）心の教育としての読書（楽しみや生き方に関わる読書）
- 第6回 発達段階に応じた読書指導計画（2）教科指導における読書（調べ読み）
- 第7回 資料の種類と活用（漫画の利用法も含む）
- 第8回 資料の選択、収集
- 第9回 読書指導の方法（1）読み聞かせ、ブックトークの演習
- 第10回 読書指導の方法（2）ブックトークの発表
- 第11回 読書指導の方法（3）感想文、読書会、ビブリオバトル
- 第12回 読書活動の展開：図書委員会活動、読書イベント、広報活動、家庭・地域・公共図書館との連携
- 第13回 特別な支援を必要とする児童生徒への読書指導
- 第14回 司書教諭の役割と専門性
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】読書に関する図書や新聞記事を読み、読書活動について考える。公共図書館へ行き、児童室、児童サービス、資料等を見学し、子どもの本に関心を深める。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業中に配布の資料や紹介した図書等を読み、復習する。（学修時間 週2時間）

※事前・事後学修を通じ、自ら読書を楽しむこと。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・小テスト（20%）、小レポート（20%）、口頭発表：ブックトークの実演（20%）、積極的な授業参加：グループワーク、ディスカッション等（40%）で総合的に評価する。
- ・小テスト、小レポート、口頭発表は、授業内でフィードバックを実施する。

【参考書】

- ・シリーズ学校図書館学編集委員会編『読書と豊かな人間性』（全国学校図書館協議会、2011）
- ・脇明子著『読む力は生きる力』（岩波書店、2005）

【注意事項】

講義だけでなく、読み聞かせ、ブックトークの演習、DVD鑑賞、大学図書館見学を実施する。大学図書館見学では、大学図書館調査、図書館員の方との交流を計画している。

読書と豊かな人間性

読書活動と児童生徒の学力・人格形成

安藤 友張

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

児童生徒の学力形成のみならず、人格形成にも寄与する読書活動の在り方について検討する。さらに、児童生徒を取り巻く社会環境（情報環境）の現状を分析しつつ、学校教育における読書指導の在り方を考える。地域・家庭との連携を視野に入れた読書推進活動も考える。

【授業における到達目標】

- ・受講生自身の主体的な読書活動を通して、広い視野と洞察力を身につける。
- ・児童生徒に対する多種多様な読書指導（読書推進）の方法を理解する。

【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読書の意義と目的
- 第3回 学校教育における言語活動と読書
- 第4回 読書と人格形成：児童生徒の心の教育
- 第5回 児童生徒の発達段階と読書：発達心理学の視点から
- 第6回 児童生徒向け図書の種類と活用
- 第7回 多様な読書資料の選択・収集・提供
- 第8回 読書指導とは何か
- 第9回 読書指導の実践（1）ブックトーク、ストーリーテリング
- 第10回 読書指導の実践（2）読書のアニメーション
- 第11回 読書指導の実践（3）ビブリオバトル
- 第12回 読書指導の実践（4）リテラチャーサークル
- 第13回 個々の児童生徒に応じた読書支援：特別なニーズをもつ子どもに対する支援
- 第14回 児童生徒をとりまく読書環境
- 第15回 地域・家庭との連携による読書活動の推進

【事前・事後学修】

【事前学修】地方自治体が作成した「子ども読書活動推進計画」を探し、その中で一つ選び、通読しておくこと（学修時間 週2時間）。都道府県又は市町村のどちらの推進計画でもよい。

【事後学修】授業中に配付した各種のプリントを読み返し、復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末レポート50%、小レポート30%、口頭発表（ブックトークなど）20%で総合的に評価する。学生による授業アンケートを実施後、成績評価を含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

【参考書】

山本隆春編『読書教育を学ぶ人のために』（世界思想社、2015年）

【注意事項】

本科目の履修期間中に、文部科学省「子供の読書活動推進に関する有識者会議」の議事録を同省の公式サイトで閲覧しておくこと。

日本の近現代文学

現代テキスト考察

奴田原 論

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

「近現代文学」ということばから想像されるものは何でしょうか。夏目漱石・芥川龍之介・三島由紀夫・安部公房・村上春樹一、この想像は正しいものです。しかし、それだけでしょうか。「文学」ということば、その概念はもっと広いもの、より多くのものを指し示すことが出来るのではないのでしょうか。国語科の教科書には載っていない小説、載せられることになかったジャンル、妙な先入観を押しつけられてしまっている作品。この、いわゆる「文学」からはこぼれ落ちてしまったものもやはり文学作品、日本の近現代文学を支える重要なものです。

そういった作品を扱う上で四つのジャンルを設定し、それぞれを丁寧に読んでいきたいと思えます。それによってジャンルの特性、その表現でなければならなかった必然を見つけ出します。

【授業における到達目標】

一見、学習には不向きに見える作品・ジャンルを考察対象とすることで「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」力を得、その過程で「物事の真理を探究することによって、新たな知を想像しようとする態度」を身に付ける。

【授業の内容】

- 1 〈文学する〉ということ
- 2 (現代文学) 問いを立てる、答えをさぐる
- 3 (現代文学) どこから見るか、誰がしゃべるか
- 4 (現代文学) 並立する世界
- 5 (児童文学) 児童文学の世界
- 6 (児童文学) 童話から児童文学へ
- 7 (児童文学) 彼らの行き先
- 8 (児童文学) それぞれの結末
- 9 (絵本) 絵本の中の桃太郎
- 10 (絵本) 二つの視点
- 11 (絵本) 絵本の独自性
- 12 (マンガ) 概念としての〈作者〉
- 13 (マンガ) 二つの〈視点〉
- 14 (マンガ) 時空間の超越
- 15 視点・語り、表現に於けるポイント

【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品について調べ、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。(学修時間 週二時間)

【事後学修】担当者との意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察する。(学修時間 週二時間)

【テキスト・教材】

担当者作成のプリントを授業時に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末提出の小論文70%、意見表明という形での参加態度30%で評価します。後者の意見表明は毎回提出してもらおうコメントカード(またはコンピュータを介したフォーム)によって実現しますが、翌週にはいくつかのコメントをピックアップし、皆で共有できるよう、担当者による見解を述べます。

【参考書】

特になし

【注意事項】

研究とは自分の中だけで完結してしまうものではありません。深く考えると同時に、いかにして伝えるかということを考えて下さい。また、講義にて扱われる作品はもちろんのこと、映画・ドラマ・テレビ番組・漫画作品、あらゆる事に積極的な興味を持って下さい。

日本の経済

内外の社会経済問題から日本経済を捉える

猪瀬 武則

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

現在の社会経済問題から日本経済の姿をとらえることを目的とします。環境・グローバル化・労働・生命倫理・社会保障・企業倫理などです。そこから日本経済の在り方をとらえ直します。キーワードは、持続可能性、稀少性、限定合理性、効率、正義、幸福などです。

【授業における到達目標】

態度目標 国際的視野：人々が保持する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。「美の探究」：物事の真理を探究することにより、新たな知を創造しようとする事ができる。

能力目標 研鑽力：広い視野と洞察力を身につけ、本質に迫ろうとすることができる。行動力：課題に手順を踏んで問題解決することができる。協働力：自己や他者の役割を理解し、協力して議論を進めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、グループ分けなど
- 第2週 消費行動と効用・倫理「幸せ(効用)の消費、エシカルな消費」
- 第3週 消費行動とグローバル化「フェアトレードは途上国に寄与するか?」
- 第4週 経済社会意識の変容1 高度経済成長の肖像(馬と火鉢)
- 第5週 経済社会意識の変容2「子どもはお金をどのように考えているかー駄菓子屋からコンビニへ」
- 第6週 税制と社会保障の狭間「寄附は偽善か?」効果的利他主義と幸福の王子
- 第7週 税制と地方自治「ふるさと納税の功罪」
- 第8週 日本と海外の税制の課題「タックスヘイブンとGAFAへの課税」
- 第9週 企業の目的と倫理「会社はだれのもの?社長と株主」
- 第10週 企業統治と環境・労働「」
- 第11週 環境問題への日本の取り組み「パリ協定で日本経済は変わるか?」
- 第12週 医療の高度化と社会保障の範囲1・・高額抗がん剤の保険治療での配分的正義
- 第13週 医療の高度化と社会保障の範囲2・トリアージと臓器移植(トロッコ問題と救命ボートの倫理)
- 第14週 格差と貧困・・格差原理、無知のヴェールは可能か?
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：配付された資料を読み、課題映像を視聴(学修時間 週2時間)

事後：専門用語の確認。関連新聞・ネット記事収集(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%(授業参加・シャトルカード記述=質問・感想・意見)。シャトルカードには、毎回、返信・コメントし、試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

特になし

【注意事項】

政治経済に関連する人文・社会科学概念を学修する上で、視聴覚資料や多様な文字資料を活用し、グループでの討論を通して、知識の共有化、それぞれのもつ価値・価値観の明確化・対象化します。

日本の経済

マクロ経済学

畑農 鋭矢

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

国レベルでの経済活動のとらえ方を理解し、経済成長や景気循環といったマクロ経済の変動について学ぶ。また、現実の時系列データを概観し、戦後日本経済の歴史を統計的に理解する。

【授業における到達目標】

現実経済の構造を鳥瞰し、広い視野で理解するために、マクロ経済学の基礎理論を習得するとともに、データを見ながら戦後日本経済の歴史を数量的に理解することを目的とする。具体的な到達目標は、新聞の経済記事の意味を理解できるようになることである。

【授業の内容】

- 第1回 豊かさを測る
- 第2回 経済成長の源泉
- 第3回 日本の高度成長
- 第4回 産業構造の変化
- 第5回 景気循環の見方
- 第6回 失われた20年
- 第7回 インフレとデフレ
- 第8回 貨幣の役割
- 第9回 金融・資産市場
- 第10回 消費と貯蓄
- 第11回 消費税と財政
- 第12回 少子高齢化と財政
- 第13回 社会保障
- 第14回 地域経済
- 第15回 日本経済の課題

【事前・事後学修】

【事前】HPにアップするスライドを入手し、内容を確認すること。指定の資料を読むこと。毎週2時間。

【事後】授業内で紹介した統計を検索し、自分で加工してデータ分析を行ってみること。毎週2時間。

【テキスト・教材】

HP上のスライド

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験60%
- 授業内確認テスト20%
- リアクションペーパー20%

確認テストについては授業内で解説を行う。

リアクションペーパー等については、回答の集計結果を授業の題材とする場合がある。

【参考書】

- 伊藤元重『入門経済学（第4版）』（日本評論社 2015年）
- 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』（有斐閣アルマ 2016年）
- 宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之『日本経済論』（中央経済社 2017年）

日本の芸能

「俊寛」と古典芸能

井上 愛

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本講義は「俊寛」を扱う古典芸能（能・歌舞伎・浄瑠璃）を中心に取りあげる。平安末期に鹿ヶ谷の事件を起こした僧・俊寛は、『平家物語』で取り上げられてから、古典芸能だけでなく、物語や歌謡・俳句・小説などの様々な文芸で扱われてきた人物である。本講義では、『平家物語』を精読したうえで、能・歌舞伎・浄瑠璃を中心に、古典芸能で描かれた「俊寛」を考察する。また、DVDなどの音源資料や映像資料も用いて俊寛の描かれ方を検討していく。幅広い時代の文芸に親しむことで、現代の芸能への関心を高め、より広い視点に立って精察できることが期待される。

【授業における到達目標】

- 1、古典芸能の知識を得ることで、日本の伝統文化を世界に発信できる（国際的視野）。
- 2、「俊寛」を描いた古典芸能を考察することで、自己の感性の幅を広げ、また深めることができる（美の探究）。
- 3、古典芸能を通して現代の芸能が持っている奥行への関心を高められ、継続的に知を探究する研鑽力を身につけられる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 授業の紹介
- 第2週 『平家物語』鹿谷を読む
- 第3週 『平家物語』俊寛沙汰を読む
- 第4週 俊寛の伝承
- 第5週 能楽の特質と歴史
- 第6週 能「俊寛」詞章を読む・前半
- 第7週 能「俊寛」詞章を読む・後半
- 第8週 能「俊寛」を見る（視聴教材）
- 第9週 歌舞伎の特質と歴史
- 第10週 「平家女護島」台詞を学ぶ・前半
- 第11週 「平家女護島」台詞を学ぶ・後半
- 第12週 浄瑠璃の特質と歴史
- 第13週 「平家女護島」の人形を知る
- 第14週 「平家女護島」の俊寛像を考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修（週2時間） 次回の授業範囲を予習しておく。指定した専門用語などを調べる。調べた語句は次回、発表する。
- 事後学修（週2時間） 毎時間の提出物に「授業のまとめ」を記述する。翌週返却するので復習すること。

【テキスト・教材】

教科書は指定しない。授業時に適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テスト…45%（一部持ち込み可）、各授業の提出物（毎時間、感想・質問等を記入）。提出物は次回の授業でフィードバックする…40%、受講態度…15%。

【参考書】

参考書は指定しない。授業時に随時紹介する。

【注意事項】

毎週の提出物に授業内容の質問事項を設けている。翌週の授業で質問に応えることで、学生の皆さんとともに授業の内容をより掘りさげていきたいので、是非積極的に書いてほしい。

日本の古典文学

〈物語〉の愉楽

上野 英子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

今からおよそ1000年前、物語の魅力に取り憑かれ「後の位も何にかはせん」と物語に耽溺していた少女がいました。ことほどさように〈物語〉って、なかなか面白いのです。この講義では日本古来の様々な物語作品を鑑賞し、時に海外の作品との比較等も取り入れて、そこに通底する特徴について議論を深めていきたいと思えます。また今年度から新たに始まった科目なので、実験的にアクティブラーニングを取り入れてみるつもりです。すなわち1作品を2週にわたって扱いますが、第1週目は講師が内容を説明し、最後に課題をお出しします。皆さんは宿題として、朗読を練習したり口語訳を作成したり、さらにはコメントカードに課題に対する回答を書いてきてください。第2週目はそれらを基にしたグループ発表（朗読・口語訳・課題の発表）と、質疑応答や討論を行い、最後に講師が概括します。皆さんは第1週目で書いてきたコメントカードに、第2週目での結果を踏まえて、もう一度意見を書いて提出してください。

【授業における到達目標】

- ①古文を朗読できるようになること
- ②文学史を理解し、作品と時代背景の関連性を理解できるようになること
- ③共同でのグループ学修に馴れること
- ④物語を楽しみ、日本の物語文学の特徴について自身の意見を開陳できるようになること

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・物語文学とは
- 第2週 平安時代の物語享受1：「三宝絵詞」「蜚巻」の物語論
- 第3週 同2：「紫式部日記」「更級日記」
- 第4週 「古事記」をよむ1：作品解説
- 第5週 同2：グループ発表・質疑応答・総括
- 第6週 「竹取物語」をよむ1：作品解説
- 第7週 同2：グループ発表・質疑応答・総括
- 第8週 「伊勢物語」をよむ1：作品解説
- 第9週 同2：グループ発表・質疑応答・総括
- 第10週 「宇津保物語」をよむ1：作品解説
- 第11週 同2：グループ発表・質疑応答・総括
- 第12週 「落窪物語」をよむ1：作品解説
- 第13週 同2：グループ発表・質疑応答・総括
- 第14週 「源氏物語」をよむ1：作品解説
- 第15週 同2：グループ発表・質疑応答・総括・レポート提出

【事前・事後学修】

1作品を2週にわたって扱います。それぞれの事後学修については上記「授業のテーマ」欄を参照してください。また15回の授業を通じて、最低1作品は全篇を読破してください。口語訳のものでも構いません。週4時間程度の学修を見越しています。

【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ①コメントカードの充実度・取り組む意欲
 - ②グループ学修における協力度、リーダー性、質疑応答における積極性・意欲
 - ③試験代わりのレポートにおける思考力・論理性・表現力
- ①②が平常点で60%、③が40%で、総合的に評価します。
なおフィードバックは、各回、第2週目のコメントカード提出後に行います。

【参考書】

小学館『日本古典文学全集』
新潮社『日本古典文学集成』
岩波書店『新日本古典文学大系』
その他、作品に応じて参考資料を紹介します。

日本の古典文学

—井原西鶴『西鶴諸国ばなし』を読む—

越後 敬子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『西鶴諸国ばなし』を読みます。本書には狐の復讐話、死んだ娘が生き返る話、天狗の話など、諸国の奇談全35話が収められています。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。

教材には現代語訳付きの資料を配付しますので、古語・古典文法等の知識は問いません。古典文学作品の世界に触れることを目標にします。

【授業における到達目標】

この授業で江戸時代の文学作品を読むことによって、現在とは異なる社会制度や時代思潮、そして庶民生活の有様を学習することができます。

日本の文化を知り、学ぶことの楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 井原西鶴と『西鶴諸国ばなし』序文
- 第2週 「公事は破らずに勝」（裁判の話）
- 第3週 「不思議のあし音」（足音を聞き分ける盲人の話）
- 第4週 「狐四天王」（狐の復讐の話）
- 第5週 「水筋のぬけ道」（地下水脈に女の死体が流れる話）
- 第6週 「残る物とて金の鍋」（仙人の話）
- 第7週 「夢路の風車」（隠れ里の話）
- 第8週 「面影の焼残り」（死んだ娘が生き返る話）
- 第9週 「行く末の宝舟」（竜宮へ行った者が戻らなかった話）
- 第10週 「忍び扇の長歌」（身分違いの恋の話）
- 第11週 「大晦日はあはぬ算用」（武士の交際の話）
- 第12週 「傘の御託宣」（傘が神様として祀られた話）
- 第13週 「神鳴の病中」（兄弟の遺産相続争いの話）
- 第14週 「銀が落としてある」（正直者が成功する話）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回授業の終わりに配布する次回分プリントを音読してきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業終了後、もう一度読んで復習してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、授業内フィードバックシートの提出40%。フィードバックシートに寄せられた質問・感想等は、次回授業時に紹介し、さらなる考察のきっかけにします。

【参考書】

『好色二代男 西鶴諸国ばなし 本朝二十不孝』（新日本古典文学大系76 岩波書店）

日本の政治

日本の政治の仕組み（政治制度）をまなぶ

斎藤 孝

1年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

概要：

日本の政治の仕組み、とくに、日本国憲法が定める政治制度についてまなぶ。

目的：

日本の政治の仕組み（政治制度）をまなぶことにより、政治に関する基本的な知識と思考方法を身につける。

【授業における到達目標】

到達目標：

日本の政治の仕組みに関する基本的知識と思考方法を理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を習得する。

【授業の内容】

序

1 明治憲法から日本国憲法へ

国会

2 国会の地位

3 国会の組織と活動

4 国会と議院の権能

内閣

5 内閣の権限

6 議院内閣制

7 内閣の組織

裁判所

8 司法権

9 裁判所の組織と運営

10 司法権の独立と民主的統制

11 違憲審査制の意味と本質

財政

12 財政立憲主義

13 租税法律主義

地方自治

14 基本原則

15 地方公共団体の組織と権能

※上記の項目について、できれば新聞記事などを取上げながら、学んでいく予定です。

【事前・事後学修】

事前学修：週2時間

毎回、次回の授業に関することを予習してください。

事後学修：週2時間

学んだことについて、復習してください。

【テキスト・教材】

古野豊秋・畑尻剛編：新・スタンダード憲法[尚学社、2019、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、レポート（30%）

フィードバックは、最終授業日におこなう。

【参考書】

加茂利男ほか著『現代政治学・第3版』有斐閣、1800円。

そのほか、授業において、そのつど推薦したいと思います。

【注意事項】

日頃から新聞を読んだり、テレビのニュース（とくに特別番組）を見たりし、政治について考える力を身につけてください。

日本の伝統文化

日置 貴之

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

能楽・文楽・歌舞伎など日本の伝統芸能および、茶道や和食など生活文化に関する基礎知識や歴史を学ぶ。

【授業における到達目標】

日本の伝統芸能・生活文化に関する基礎的な知識を身につけるとともに、これを他者に紹介する能力を身につける。

【授業の内容】

第1週 インTRODクシヨン～日本・伝統・文化とは何か

第2週 能楽（能・狂言）の概要

第3週 能楽についてどのように「伝える」か

第4週 人形浄瑠璃文楽の概要

第5週 文楽についてどのように「伝える」か

第6週 歌舞伎の概要

第7週 歌舞伎についてどのように「伝える」か

第8週 落語の概要

第9週 落語についてどのように「伝える」か

第10週 組踊・琉球芸能の概要

第11週 組踊・琉球芸能についてどのように「伝える」か

第12週 茶道の概要

第13週 茶道についてどのように「伝える」か

第14週 日本の食文化について

第15週 「和食」についてどのように「伝える」か／まとめ

第1週は「日本」「伝統」「文化」といった概念について、その成り立ちや定義等について考える。第2週以降は、1つのテーマについて2回の授業をあて、1回目にはそのテーマに関する基礎知識や歴史等を講義する。2回目の授業では、個々のテーマについて、それを知らない人々（異なる文化圏の出身者を含む）に対する紹介の方法について、受講者にも積極的に意見を出してもらいながら考えて行きたい。授業を進める上では、当該テーマに関する基礎知識・歴史を正しく知るとともに、それを他者に紹介する上で必要な語彙や方法を意識し、身につけることを重視する。

【事前・事後学修】

事前学修：次回授業に向けた予習を行い、小レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：前回授業の復習を行うこと。（学修時間 週2時間）

この他、各自の関心に応じて、芸能の実演の鑑賞や、伝統文化の体験を積極的に行うこと。

【テキスト・教材】

教科書は指定せず、適宜資料を配付するほか、参考文献を紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加姿勢（授業中の発言およびコメントシートへの意見等の記入、小レポート等の中間課題等により判断する）を50%、学期末レポート（授業内容を踏まえ、日本の伝統文化について他者に紹介する上での受講者の考えを問う）を50%として、総合的に判断する。コメントシートに記入された質問等については翌週の授業時にフィードバックを行う。

【参考書】

観世寿夫『心より心に伝ふる花』（角川ソフィア文庫）角川学芸出版、2008年

三浦しをん『あやつられ文楽鑑賞』（双葉文庫）双葉社、2011年

矢内賢二『ちやぶ台返し』の歌舞伎入門』（新潮選書）新潮社、2017年

松本尚久『落語の聴き方 楽しみ方』（ちくまプリマー新書）筑摩書房、2010年

岡本浩一『一億人の茶道教養講座』（淡交新書）淡交社、2013年

原田信男『和食とはなにか 旨みの文化をさぐる』（角川ソフィア文庫）角川学芸出版、2014年

日本の美術 c

18世紀の京都の絵画史

野口 剛

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

18世紀後半の京都画壇が、円山応挙や伊藤若冲、曾我蕭白、池大雅、与謝蕪村など、日本の美術史に大きな足跡を残す優れた画家を多数輩出したことはよく知られています。しかし、特筆される偉大な「個」が多いゆえに、それらの画家たちが共有する文化的な土壌や、世紀の前半を含めた歴史的連続性が等閑に付される傾向も指摘できるようです。

この授業では、17世紀の京都文化をバックボーンにして生まれた尾形光琳から、18世紀に胚胎して次の19世紀に繁栄を極める円山派・四条派の画家たちまでを範囲として、今日では一般にあまり知られることのない画家も含め、それぞれの作品の魅力や歴史的意義を把握しながら、18世紀の京都の絵画を一続きのものとして捉えることを試みます。

【授業における到達目標】

日本の近世絵画に対する深い理解や多様な観点を獲得します。学生が修得すべき「美の探求」のうち、とくに美術史的な感受性を深めようとする態度を修得します。「国際的視野」の獲得も目指したいと思います。

【授業の内容】

- 第1週 尾形光琳 町衆美術から琳派へ
- 第2週 鶴澤探山と探鯨 京都の狩野派の先進性
- 第3週 渡辺始興 琳派と狩野派、写生派の結節点
- 第4週 校外実習（根津美術館）
- 第5週 望月玉蟾と大西酔月 18世紀中葉の京都の唐絵
- 第6週 円山応挙 写生派の祖の実像
- 第7週 池大雅 中国文化の申し子・日本南画の巨匠
- 第8週 与謝蕪村 和と漢が交錯する絵画世界
- 第9週 伊藤若冲 唐絵から「奇想」へ
- 第10週 曾我蕭白 新奇なアナクロニズム
- 第11週 長沢芦雪 「型破り」の画家
- 第12週 円山派と四条派 「京派工房」という幻想
- 第13週 御所の障壁画と近世京都画壇
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

【事前・事後学修】

【事前学修】

前回授業の終わりに次回授業のプリントを配るので、それを読んで予習すること（4時間）。

【事後学修】

配布プリントと自筆ノートをもとに復習すること。指示に従い小レポートを提出すること（4時間）。

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20点、期末試験50点、平常点（授業態度）30点で評価します。小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

参考図書や文献は、授業において示します。

【注意事項】

授業内容と関連する美術館での校外実習（見学授業）を行う予定にしています。詳細は授業中にお知らせします。見学に関わる費用は自費とします。

日本の美術 d

古代～中世仏教絵画 ー信仰のかたちとその表現ー

白原 由起子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

飛鳥時代から室町時代に制作された仏教絵画の諸相と展開を論じる。毎回、奈良仏教、密教、浄土信仰、神仏習合、禅宗などのテーマを設け、その信仰や教義に基づく絵画の代表作例をとりあげる。それら作品が示す意味を理解し、絵画史研究の立場から、その図像的・表現技法の特色を論じ、さらに研究の現状や課題に言及する。

【授業における到達目標】

仏教絵画への基本的知識を学び、歴史的・文化的環境に対する理解を深めること、また仏画を理解するための様々な研究アプローチを実践的態度で学ぶことを目標とする。またそれにより、美術作品を実践的に学ぶ能力を身につけ、日本美術に対する感性を深めることを目標とする。受講者にとっての具体的な到達目標は、受講による知識の理解、参考書による学習、そして実際に作品を観察する経験を許し口頭発表を行い最終的にレポートを提出することにある。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション：インド～シルクロード～飛鳥
- 第2週 飛鳥時代の仏画：玉虫厨子
- 第3週 飛鳥～奈良時代の仏画：法隆寺金堂壁画・刺繍釈迦說法図
- 第4週 奈良時代の仏画：吉祥天像
仏教尊の図像・素材と彩色技法
- 第5週 密教絵画：両界曼荼羅
- 第6週 密教絵画：別尊曼荼羅・独尊画像
- 第7週 浄土信仰の絵画：当麻曼荼羅・浄土図
- 第8週 浄土信仰の絵画：平等院鳳凰堂の壁扉画・中尊寺の美術
- 第9週 浄土信仰の絵画：来迎図・六道絵
- 第10週 平安時代の名画：仏涅槃図・釈迦金棺出現図
- 第11週 神仏習合の絵画：熊野曼荼羅・那智瀧図
- 第12週 神仏習合の絵画：春日宮曼荼羅
- 第13週 神仏習合の絵画：春日信仰に基づく絵画の諸相
- 第14週 仏教説話画と絵説き：聖徳太子絵伝・善光寺縁起絵
- 第15週 展覧会見学（日時は受講者と相談の上決定する）

【事前・事後学修】

1年次に受講した「仏教美術史入門」の内容を復習しておくこと。
事前学修：各回の講義の際、次回の講義のテーマや参考文献を告知し、参考書や論文を検索、入手し、予備知識を得ておく（学修時間 週2時間）。

事後学修：各回の講義で指定した研究書や展覧会図録の参照と読解を求め、以降に行う口頭発表や最終レポート作成のための資料とする。（学修時間 週2時間 + 最終レポート作成のための時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。
それぞれのジャンルや作品に関する参考書や展覧会図録、論文コピーを、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- レポート 70%
- 事前告知して行う口頭発表（1回）20%
- 宿題に課した文献検索・読解の成果の発表（ほぼ毎週）10%
- 口頭発表、また出題した課題に対する成果の発表時にフィードバックを行う。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【注意事項】

受講者には、講義に関係する作品を展示する美術館・博物館で、作品を実際に詳察することが求められる。展覧会は、東京国立博物館および都内の美術館（1または2館）の予定。東京国立博物館（本館・法隆寺宝物館）は無料で観覧できるが、その他の美術館・博物館の見学の場合にかかる費用（入館料・交通費）は受講者の負担となる。

日本の文学b

『源氏物語』正編の死と哀傷の場面を読む

林 悠子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

54の巻々からなる長大な物語である『源氏物語』には、作中人物の死と、残された人々が故人を悼む哀悼の場面が繰り返し描かれます。死そのものが主題であると同時に、物語が長編化していくための方法であったためだと考えられます。とりわけ『源氏物語』正編の主人公である光源氏は、生涯を通じてたくさんの愛する人との死別を経験し、しかも誰よりも深く豊かに故人を追悼する人物として描かれています。

この授業では、光源氏の生涯を描く正編から、死と哀傷の場面を選んで読んでいきます。死と哀傷の場面を味読し、それぞれの場面に独自の文脈を理解すると同時に、長編物語の方法としての「死・哀傷の場面で詠まれる和歌の表現・作中人物の死と季節・服喪のあり方と妻妾の処遇・『竹取物語』引用など、『源氏物語』の死と哀傷の場面に共通のテーマについても考察を深めます。

また、平安中期の葬送・追悼儀礼についても解説を加えます。

【授業における到達目標】

『源氏物語』正編の死と哀傷の場面に通じることをまずは重視します。また、それぞれの場面の先行研究や、平安中期の葬送・追悼儀礼への理解を深めることで、物語の「国文学研究的」な読み方に触れ、受講者が物語の構成や表現について独自に分析できるようになることを目標とします。全学DPの【研鑽力】のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって学問を続ける力の習得を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 桐壺更衣の死①——「いかまほしきは命なりけり」
- 第3週 桐壺更衣の死②——桐壺巻と長恨歌
- 第4週 夕顔の死①——廃院の「ものけ」
- 第5週 夕顔の死②——葬送から四十九日法要まで
- 第6週 葵の上の死①——生霊事件
- 第7週 葵の上の死②——葬送と左大臣邸での服喪
- 第8週 桐壺院崩御
- 第9週 藤壺崩御——「今年ばかりは」
- 第10週 柏木の恋と死①「あはれとだにのたまはせよ」
- 第11週 柏木の恋と死②——遺された妻への弔問と求婚
- 第12週 一条御息所の死——服喪中の姫君への求婚
- 第13週 紫の上の死①——紫の上葬送と『竹取物語』
- 第14週 紫の上の死②——「幻」巻の一年
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

次の週の授業に関連するプリントの箇所を、前の週の授業で示します。現代語訳の助けを借りながら、内容を把握して来てください（学修時間・週3時間）。授業時間内に、教員が解説を加えられる箇所は限られていますので、あらかじめ各自で通読して来たことを前提に授業を行います。ほぼ毎回予習確認の豆テストがあります。不定期で復習の豆テストを行うので、前回の授業の復習をしてきて下さい（学修時間・週1時間）。

【テキスト・教材】

適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う作業（リアクションペーパーの記入、授業内で行う豆テスト）40%、学期末レポート60%で評価します。リアクションペーパー・ワークシート・豆テストのフィードバックは次週の授業時に行います。レポートの全体への講評をmanaba上に掲載します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します

日本の文学b

万葉びとの生活とこころ

伊藤 好美

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

現在、天皇陛下のご退位や皇太子殿下のご即位、また新元号についてのニュースを、多く目にしていることと思います。これら天皇制や元号といった、現代の日本人の暮らしの仕組みは、およそ奈良時代の前後に整えられ、それが千年以上もの時を経て、脈々と私達に受け継がれています。そこでこの授業では、日本人の現代生活の基礎が作られた古代（主に奈良時代およびそれ以前）日本について、当時生きていた人々の生活と心のありようを知ることを目的に、『万葉集』の歌々を読みます。

前半は、『万葉集』の中でも特に有名で優れているとされる歌を約10首取り上げ、それぞれを解説・鑑賞します。

後半は、古代の人々がどのような心を育みながらどのように生きていたのか、食生活・動物・植物など具体的なテーマを設けて考察していきます。現在の私達の感覚と比べて、似ているところ・違うところを歌の中からたくさん発見し、日本人として今、自分がどのような位置にいるのか、考えるきっかけになればと思います。

【授業における到達目標】

- ・『万葉集』の有名な歌々に触れ、鑑賞する能力を養い、日本人としての基礎的教養を培う。
- ・『万葉集』の中から、日本人らしい思考や感覚とはどういったものかを、客観的に見つけ出す。

【授業の内容】

- 1週 上代文学の概要について1 文学とはなにか
- 2週 上代文学の概要について2 古事記・風土記・日本書紀・万葉集の概説
- 3週 万葉集について1 万葉秀歌の解説・鑑賞
- 4週 万葉集について2 万葉秀歌の解説・鑑賞（3週目とは異なる歌を取り上げる）
- 5週 万葉集について3 万葉秀歌の解説・鑑賞（3・4週目とは異なる歌を取り上げる）
- 6週 万葉集に見る古代の食生活1 酒
- 7週 万葉集に見る古代の食生活2 穀類
- 8週 万葉集に見る古代の食生活3 野菜・魚介類・肉類など
- 9週 万葉集と動物1 馬・鹿
- 10週 万葉集と動物2 馬・鹿以外
- 11週 万葉集と植物1 橘
- 12週 万葉集と植物2 椿
- 13週 万葉集と植物3 葦
- 14週 古代の女性の生活
- 15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントに目を通し、歌の内容などについておよそ理解しておいてください。（週1時間程度か）

事後学修：2～3週を一区切りとし、いくつかのテーマを設けて講義を行うので、それぞれのテーマについて論じ終わるごとに、講義内容を復習し内容をまとめるレポートを課します。半期で3～5回、レポートを提出することになります。（1回のレポート作成に4～5時間程度を要するか）

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、特定の教科書は定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「事後学修」の項に記したレポートによって評価（100%）。レポートの提出は随時受け付けますので、必要と判断した際、より良いレポートの書き方や注意点について示します。そのフィードバックの方法は、全体に向けて提示すべき注意点や評価点であれば授業内で指示し、個別に話すべき内容であれば授業の前後に連絡します。

【参考書】

授業内で指示します。

日本の文学 b

——上代文学の「恋の物語」を読む——

伊藤 好美

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、奈良時代に成立した『古事記』『日本書紀』『万葉集』という書物の中から「恋の物語」を取り上げて読んでいきます。

今から1300年以上も前に記された書物をテキストとして「恋の物語」の原点を味わうと同時に、当時の人々の生活や文化、恋愛スタイルを理解していきましょう。

【授業における到達目標】

- ・上代文学についての理解を深める。
- ・上代の人々の生活や文化、考え方を知る。
- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を身に付ける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身に付ける。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身に付ける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 上代文学の基礎知識
- 第3週 当時の恋愛スタイル —現代とどう違うか
- 第4週 妬む恋(1) —『古事記』のイハノヒメ①(人物紹介・物語前半)
- 第5週 妬む恋(2) —『古事記』のイハノヒメ①(物語後半・物語の主張)
- 第6週 妬む恋(3) —『日本書紀』のイハノヒメ(『古事記』との違い)
- 第7週 待つ恋(1) —『万葉集』のイハノヒメ①(歌の解釈)
- 第8週 待つ恋(2) —『万葉集』のイハノヒメ②(歌と時代背景)
- 第9週 追う恋(1) —但馬皇女①(歌の解釈)
- 第10週 追う恋(2) —但馬皇女②(歌から読み取る物語)
- 第11週 揺れる恋(1) —菟原処女①(歌の解釈)
- 第12週 揺れる恋(2) —菟原処女②(歌から読み取る物語)
- 第13週 誘う恋(1) —石川女郎①(歌の解釈)
- 第14週 誘う恋(2) —石川女郎②(歌から読み取る物語)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業で使用する資料を予め配布するので、内容をよく読んでから授業に臨みましょう。(事前学修 週2時間)

授業後は学修内容を復習し、理解できていない点がないか確認しましょう。(事後学修 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業内で書くリアクションペーパー、授業態度)40%、期末試験60%で評価します。

リアクションペーパーは次回授業、期末試験は授業最終回にフィードバックします。

【参考書】

授業時に紹介します。

【注意事項】

・扱う作品は古文ですが、物語を味わうことを主とする授業ですので、古典文法がわからなくても問題ありません。「古代の『恋の物語』がどのようなものか知りたいけれど、一人で読むのは難しそう」と思っている人に履修してもらいたいと思います。

・毎時間、リアクションペーパーを記入してもらいます。授業を聴くだけでなく、自ら考えることも大切にしてください。

日本の文学 d

—井原西鶴『好色五人女』を読む

越後 敬子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『好色五人女』を読みます。本書は、但馬屋お夏と手代清十郎との密通、八百屋の娘お七と寺小姓吉三郎との恋など、当時よく知られていた五つの恋愛事件を題材に、西鶴が五人の女の運命を描いた作品です。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。

テキストには現代語訳付きのものをを用いますので、古語や古典文法等の知識は問いません。古典文学作品の世界に触れることを目標にします。

【授業における到達目標】

この授業で江戸時代の文学作品を読むことによって、現在とは異なる社会制度や時代思潮、そして庶民生活の有様などについて学習することができます。

日本の文化を知り、学ぶことの楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 井原西鶴と『好色五人女』
- 第2週 巻一「姿姫路清十郎物語」① P 166～176
- 第3週 巻一「姿姫路清十郎物語」② P 177～184
- 第4週 巻一「姿姫路清十郎物語」③ P 185～188
- 第5週 巻二「情を入れし樽屋物語」① P 190～200
- 第6週 巻二「情を入れし樽屋物語」② P 201～212
- 第7週 巻二「情を入れし樽屋物語」③ P 213～217
- 第8週 巻三「中段に見る唇屋物語」① P 220～234
- 第9週 巻三「中段に見る唇屋物語」② P 235～243
- 第10週 巻三「中段に見る唇屋物語」③ P 244～248
- 第11週 巻四「恋草からげし八百屋物語」① P 250～268
- 第12週 巻四「恋草からげし八百屋物語」② P 269～275
- 第13週 巻五「恋の山源五兵衛物語」① P 278～293
- 第14週 巻五「恋の山源五兵衛物語」② P 294～301
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの次回分の該当箇所を音読してきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎週読み終わった範囲をもう一度読んで復習してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、授業内フィードバックシートの提出40%。フィードバックシートに寄せられた質問・感想等については、次回の授業時に紹介し、さらなる考察のきっかけにします。

【参考書】

前田金五郎『好色五人女全注釈』（勉誠社 1992年）

日本近代美術史演習A

修士論文の作成

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

自分の研究テーマに関連する実作品にできるだけ接し、それらを的確に記述していく訓練をする。また文献の収集、読解、整理について実際の作業を通じて学ぶ。

【授業における到達目標】

作品・文献に関する情を積極的に収集し、精査する力を養う。アカデミックな研究論文を読み、理解する力を養う。

【授業の内容】

1. 研究テーマについて考察
2. テーマに即した文献リスト作成
3. 重要な文献を選び入手する
4. 特に今後の研究の手がかりとなる研究論文を読む
5. 様々な文献を整理する
6. テーマに即して先行研究について考える
7. 先行研究をまとめる
8. 作品調査の方法を考える
9. 作品調査の記録の仕方を考える
10. 作品についてディスクリプション
11. 展覧会見学
12. レジュメの作り方
13. パワーポイントのチェック
14. 発表の練習
15. まとめ

*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

【事前・事後学修】

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。

事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

【テキスト・教材】

その都度指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加50%・提出課題50%）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

自分から積極的に展覧会情報を探して見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

日本近代美術史演習B

修士論文の作成、発表、まとめ

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

「日本美術史演習A」を受講した学生を対象に、各自の研究対象に応じて、さらに専門的な研究を進める方法を学ぶ。各自の研究対象に関連する作品や資料の調査をおこない、既存の作家像、作品像にとらわれずに自分の目で見て考える力をつける。研究テーマをより明確にし、修士論文としてまとめていく。

【授業における到達目標】

パワーポイントやレジュメの制作など発表するために必要なスキルを身につける。修士論文を執筆する。修了年次の場合には修士論文を提出する。

【授業の内容】

1. 研究の進捗状況の確認
2. 今後の研究計画の検討
3. 研究上の問題点の確認
4. 問題点を改善するために必要な調査を確認
5. 研究計画の再検討
6. 先行研究、文献リストのアップデート
7. 作品調査 ディスクリプション
8. 調査のまとめ 記述の推敲
9. 作品調査 作品データの取得
10. 調査のまとめ 画像の整理
11. 発表レジュメを整える
12. 参考資料の整理
13. 各自の成果の発表
14. 成果の発表とディスカッション
15. 発表、論文についての反省

【事前・事後学修】

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加50%・提出課題50%）。面談形式でおこなうので、その都度課題を提出し、それに対してフィードバックをおこなう。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

自分から積極的に展覧会情報を探して見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

日本近代美術史演習 a

—作品を言葉で表そう—

児島 薫

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

日本近代、現代の美術についてより深く知り、自主的に研究に取り組むことをめざす。美術館活動や展示も対象に含める。美術史研究の基本態度を身につけるために、実際に作品を見て、言葉で作品を書き表すこと（ディスクリプション）の練習をする。言葉にすることで自分が作品をどう見ているかを確認し、互いの発表を通して他の人との見方の違いを知る。また作者や作品について文献を調べることによって、作者の制作意図を考える。正しい日本語、書き言葉としてふさわしい表現を身につける。

【授業における到達目標】

正しい日本語で的確に作品について述べるができるよう、努力する。自ら問題意識を持って作品に向かい、積極的に文献を調査しようとする姿勢を身につける。

【授業の内容】

1. イントロダクション
 2. 画像を見て作品をディスクリプションする。
 3. ディスクリプションをよりブラッシュアップする。
 4. 見学の予習。
 5. 美術館見学。実際の作品を見てディスクリプションを記し、見学後に提出。
 6. 添削された自分の文章を点検し改善する。
 7. 文献の種類を学ぶ。インターネット検索の活用方法と注意。
 8. 作家略歴などの探し方を学ぶ。
 9. 作品研究発表（1）Aグループ
 10. 作品研究発表（2）Bグループ
 11. 作品研究発表（3）Cグループ
 12. 作品研究発表（4）Dグループ
 13. 作品研究発表（5）Eグループ
- *発表は1回につき3、4人程度としたい。人数があまり多すぎなければグループ発表ではなく、個別に発表を行う予定だが、シラバスでは便宜的にこのように記す。また人数が多い場合には発表の回数が増える可能性がある。
14. ぜひ見るべき展覧会の紹介
 15. まとめと今後の課題の確認

【事前・事後学修】

事前学修 授業中に指示する文献などを読み画集などを参照する。また適宜展覧会を見に行く。（週2時間）

事後学修 課題の復習と予習。また画集や展覧会を見て作品について理解を深める。manabaで意見や感想を募集するので、それについて記述する。（週2時間）

【テキスト・教材】

「指定図書」を参照のこと。その他は適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な取り組み、manabaでのリアクションコメントの提出）50%、レポートなどの提出物50%、として総合的に判断する。授業最終回、またはmanabaにおいて講評を示す。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

「日本近代美術史特講」の授業をまだ受講していない場合には受講すること。授業は展覧会見学に振り返ることがある。見学は時間割以外の日時におこなうが、他の授業と重なるなどの事情以外必ず出席すること。見学の費用は各自の負担となる。展覧会の開催状況によってシラバスの順番を変更することがある。

日本近代美術史演習 b

作品の制作の背景に資料で迫る

児島 薫

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

卒業論文を視野に入れつつ、日本近代、現代の美術についてより深く知り、自主的に研究に取り組むことをめざす。美術館活動や展示も対象に含める。各自個別の作家やその作品などについて課題を見つけ、発表する。また発表について意見を述べ合う。発表には積極的に取り組み、他の人の発表についても意見を述べる。manabaでのリアクションコメントも書く訓練である。4年生のゼミ分けの前提となるので、意欲的に取り組むこと。

【授業における到達目標】

自ら研究テーマを考え、パワーポイントや配付資料を作成して発表することができる。正しい日本語を身につけ、レポートを書く力、話す力、質問する力を身につける。

【授業の内容】

1. イントロダクション
2. 参考文献や資料の種類
3. 展覧会カタログについて
4. 学術論文について
5. 文献の探し方
6. 発表のためのレポートの作成。人数に応じて発表の順番、発表方法などを決め、次週から個々に発表をおこなう。
7. 作品研究発表（1）Aグループ
8. 作品研究発表（2）Bグループ
9. 作品研究発表（3）Cグループ
10. 展覧会カタログの読み方
11. 作品研究発表（4）Dグループ
12. 作品研究発表（5）Eグループ
13. 作品研究発表（6）Fグループ
14. これから見るべき展覧会の紹介
15. まとめと講評

【事前・事後学修】

事前学修 関心を持つ対象について文献、資料などを集めて読む。画集などを参照する。適宜展覧会を見る。（週2時間）

事後学修 他の人の発表を聞いて良かった点などを考える。よくわからなかったことやもっと知りたい内容について本などで調べ、理解を深める。manabaで意見や感想を募集する場合、それについて記述する。（週2時間）

【テキスト・教材】

「指定図書」を参照のこと。その他は適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加、manabaでのリアクションコメントの提出）50%、レポートなどの提出物50%、として総合的に判断する。授業最終回、またはmanabaにおいて講評を示す。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

「日本近代美術史特講」の授業をまだ受講していない場合には必ず受講すること。展覧会「演習a」を履修した上で履修すること。授業は時間割以外の日時の見学に振り返ることがある。見学は他の授業と重なったなどの事情以外必ず参加すること。見学の費用は各自の負担となる。受講生の人数や展覧会の開催状況によって、シラバスの順番を変更することがある。

日本近代美術史研究指導特殊演習A

作品研究を深める1

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会見学などを通して作品を実地調査する。作品をより深く理解するために、作品が制作された背景について知識を深める。また技法、材料についても一定の知識を得る。

【授業における到達目標】

実作品にできるだけ多く接し、多くの文献を積極的に集め、必要な知識を蓄えつつ、的確に記述する力を身につける。

【授業の内容】

1. インTRODククション
2. 展覧会見学の準備（1）作家について
3. 展覧会見学の準備（2）展示作品について
4. カタログ論文を読む（1）内容の理解
5. カタログ論文を読む（2）研究方法の分析
6. 展覧会見学にもとづく討議
7. 作品についてディスクリプション
8. 作品について文献収集
9. 作品解説文の執筆
10. 関連作家、関連作品の検出
11. 関係する文献の調査
12. 文献の理解、読解
13. 作品解説文の発表
14. 展覧会見学報告と意見交換
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を自分の文章に反映する（週2時間）

【テキスト・教材】

その都度指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

【参考書】

その都度指示する。

【注意事項】

自分の研究分野に限らず、積極的に多くの展覧会を見て歩き、美術館などが開く講演会などにも参加して知識を広めること。授業を別の曜日の展覧会見学に振り替えることがある。交通費、観覧料は自費となる。

日本近代美術史研究指導特殊演習B

作品研究を深める2

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本近代美術史の研究では、文献、資料類について、その種類、特徴を知り、それを理解した上で読み進めることが必要である。受講生の研究分野、研究対象に応じた文献を取り上げ、読解する。

【授業における到達目標】

日本近代美術に関する文献、資料について客観的な分析をおこない、読解する力をつける。

【授業の内容】

1. 近代の文献の種類について
2. 雑誌の種類
3. 雑誌記事の種類
4. 雑誌記事を読む
5. 雑誌記事の内容をまとめる
6. 新聞の種類
7. 新聞記事の種類
8. 記事の書き手
9. 展覧会評を読む
10. 展覧会評からわかること
11. 展覧会情報のまとめ
12. 書簡類について
13. 書簡を読む
14. 書簡の翻刻
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を復習し、さらに関連する事柄について調べる。（週2時間）

【テキスト・教材】

その都度指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。これに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

何事にも積極的に関心を持ち、展覧会だけでなく美術館の行う講演会などにも参加して知識を広めること。授業を別の曜日の展覧会見学に振り替えることがある。交通費、観覧料は自費となる。

日本近代美術史特講 c

女性像でたどる近代美術史 明治から昭和まで

児島 薫

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

明治初期から昭和まで、女性像、女性のファッション、を切り口に、日本の近代化のなかでどのような「日本」の姿が求められてきたのか、時代の変遷とともに辿る。

【授業における到達目標】

東西の美術と比較して日本近代美術を考える国際的な視野を身につける。自発的に実作品を見に出かけたり画集で探したりし、作者や作品について知ろうとする姿勢を身につける。

【授業の内容】

1. 皇室の近代化
2. 東京美術学校と日本画の成立
3. 日本美術史編纂と皇室博物館
4. 明治美術会の活動
5. 第三回内国勸業博覧会と シカゴ・コロンプス博覧会
6. 黒田清輝が学んだ女性像
7. 和田英作が学んだアール・ヌーボー
8. 岡田三郎助の描いた「着物美人」
9. 1907年の「美人コンテスト」
10. 雑誌挿絵の発達
11. 雑誌挿絵と読者たち
12. 昭和の「ミス・ニッポン」
13. 雑誌『NIPPON』が見せた日本
14. 展覧会の紹介
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指定図書や授業中に紹介した関連図書、展覧会カタログを読む。東京国立近代美術館などの所蔵品展示や、授業中に指示する美術館などの展覧会を見る。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。（週2時間）

適宜、授業中に指示した展覧会を見に行く。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（90%）、中間レポート（5%）、授業への積極的参加（manabaでのリアクションや出席で判断する）（5%）で総合評価。

授業の最終回またはmanabaで講評をする。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業を別の曜日の展覧会見学に振り返ることがある。その場合は、展覧会のスケジュールによって、シラバスが前後することがある。見学には特別な理由がないかぎり参加すること。その交通費、費用は個人負担である。また課題でなくとも、授業の中で展覧会を紹介するので、できるだけ展覧会には足を運んでほしい。「日本近代美術史演習」を受講しようと考えている2年生は必ず履修すること。3年生以上で特講a、bを受講した人でも、日本近代に関心がある人は受講してほしい。

日本近代美術史特講 d

世界の中の日本の美術

児島 薫

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

大正期以後の絵画を中心に時代を追って作品を見ていく。この頃には多くの画家たちがヨーロッパに渡ったり、東アジアを旅行したりできるようになる。その経験をもとに、画家たちがどのように西洋美術や中国美術を自分の表現に取り入れ、新しい日本美術を考えたのかを考える。さらに大正期後半以後、皇室が美術のパトロンとして存在感を増した。そのことが美術界にどのような影響を及ぼしたのかを考える。また国際化のなかで国民のあいだにナショナリズムが強まった状況、戦中から戦後の動きへと時代を追って様々な美術の展開について取り上げる。

また別枠として、展覧会の機会などを捉え、現代の作家についても紹介する。

【授業における到達目標】

作品は、必ずしも作者一人の意図で成立するのではなく、発注者、受容者の意図にも左右される。自ら進んで歴史を学び、作品に向き合って考える力をつける。

【授業の内容】

1. ポスト印象派に学ぶ
2. 表現主義に学ぶ
3. ルネサンス美術に学ぶ
4. 関東大震災の影響
5. 奉祝の時代 大正天皇即位
6. 奉祝の時代 昭和天皇即位
7. 風景への関心とナショナリズム
8. 風景への関心ー「外地」
9. 日本画のモダニズム
10. 戦時下の表現
11. 戦争の記憶の表現
12. 日本画の危機と革新
13. 現代美術の様々な表現
14. 展覧会の紹介
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指定図書や授業中に紹介した関連図書、展覧会カタログを読む。東京国立近代美術館などの所蔵品展示や、授業中に指示する美術館などの展覧会を見る。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。（週2時間）

適宜、授業中に指示した展覧会を見に行く。（週2時間）

【テキスト・教材】

特に無い。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（90%）、授業への積極的参加（manabaでのリアクションや出席、課題提出で判断する）（10%）

フィードバックはmanabaおよび授業の最後におこなう。

【参考書】

授業中に指示する。また「指定図書」を参照してください。

【注意事項】

授業を別の曜日の展覧会見学に振り返ることがある。その場合は、展覧会のスケジュールによって、シラバスが前後することがある。見学には特別な理由がないかぎり参加すること。その交通費、費用は個人負担である。課題でなくともできるだけ展覧会には足を運ぶこと。「日本近代美術史演習」や将来日本近代ゼミを受講しようと考えている2、3年生は履修すること。

日本近代美術史特殊研究A

作品研究を深める1

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会見学を通して作品を実地調査する。作品をより深く理解するために、作品が制作された背景について知識を深める。また技法、材料についても一定の知識を得る。

【授業における到達目標】

実作品にできるだけ多く接し、多くの文献を積極的に集め、必要な知識を蓄えつつ、的確に記述する力を身につける。

【授業の内容】

1. インTRODククション
2. 展覧会見学の準備（1）作家について
3. 展覧会見学の準備（2）展示作品について
4. カタログ論文を読む（1）
5. カタログ論文を読む（2）
6. 展覧会見学にもとづく意見交換
7. ディスクリプションの発表・討議
8. カタログ解説などとの比較
9. 作品解説文の執筆
10. 関連作家、関連作品の検討
11. 関係する文献の調査
12. 比較すべき作品の選定と比較
13. 展覧会見学にもとづく意見交換
14. 報告と意見交換
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を自分の文章に反映する（週2時間）

【テキスト・教材】

その都度指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

【参考書】

その都度指示する。

【注意事項】

授業は別の曜日の展覧会見学に変更することがある。自分の研究分野に限らず、積極的に多くの展覧会を見て歩き、美術館などが開く講演会などにも参加して知識を広めること。

日本近代美術史特殊研究B

作品研究を深める2

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会見学を利用して引き続き作品調査をおこない、作品についてより深く理解することをめざす。また画家の手紙や日記類を読み、より具体的な作家像を構築し、制作の背景について考える。

【授業における到達目標】

明治、大正時代の文字史料を読解する力をつける。作品についての確かな文章で述べるができるようになる。

【授業の内容】

1. 画家の手紙について
2. いくつかの作例
3. 黒田清輝と関連する手紙について
4. 翻刻作業の注意点
5. 黒田清輝宛書簡（1）友人
6. 黒田清輝宛書簡（2）友人
7. 黒田清輝宛書簡（3）家族
8. 黒田清輝宛書簡（4）家族
9. 展覧会見学
10. 作品研究（1）ディスクリプション
11. 作品研究（2）技法について
12. 作品研究（3）文献調査
13. 作品研究（4）文献の比較、読み込み
14. 作品研究（5）作家の言葉
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を復習し、さらに関連する事柄について調べる。（週2時間）

【テキスト・教材】

その都度指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。これに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

授業を別の曜日の展覧会見学に振り替えることがある。交通費、観覧料は自費となる。何事にも積極的に関心を持ち、展覧会だけでなく美術館の行う講演会などにも参加して知識を広めること。

日本近代美術史特論A

日本近代美術について深く学ぶ

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本近代の作品をより深く知り、専門的な研究とはどのようなものかを学ぶ。今学期は、女性画家について取り上げ、女性画家の置かれた社会状況などについて考察する。特に女性雑誌を手がかりに、その活動について分析する。また開催中の展覧会を活用し、実作品をよく見て調査する。展覧会カタログの論文や解説文を読むことによって作品調査に基づく研究的な文章の書き方を学ぶ。

【授業における到達目標】

作品調査に基づく研究的な文章の書き方を身につける。日本近代美術の研究方法について理解を深める。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 女性画家の諸相
3. 女性画家に関する文章を読む（1）全体の読解
4. 女性画家に関する文章を読む（2）用語などを調べる
5. 女性画家が書いた文章を読む（1）大正期
6. 女性画家が書いた文章を読む（2）昭和期
7. 女性雑誌について
8. 女性雑誌を探す
9. 女性雑誌の実地調査（方法の確認）
10. 女性雑誌の実地調査（目標を定める）
11. 女性雑誌の実地調査（データの記録、まとめ）
12. 発表とディスカッション
13. 発表のまとめと反省
14. 今後の課題についての討議
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業中の課題のための資料、論文などを読む（週2時間）。

事後学修：授業中にわからなかった人名、事項などについて、ノートなどをもとに復習する（週2時間）。

授業に関連する展覧会を自主見学する（随時）。

【テキスト・教材】

適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内課題の提出30%、授業への積極的な取り組み50%、期末レポート20%。課題やレポートはコメントして返却する。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

「日本近代美術史特論B」と合わせて受講してほしい。授業を展覧会見学に振り返ることがある。見学の費用は自費となる。展覧会の開催状況によってシラバスが変更になることがある。

日本近代美術史特論B

日本近代美術について深く考える

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本近代の作品をより深く知り、専門的な研究とはどのようなものかを学ぶ。開催中の展覧会を活用し、実作品をよく見て調査する。またアカデミックな研究論文を読みながら、日本の近代美術について知識を深める。さらに美術作品を通して「日本」の「近代」とは何かを考え、ナショナリズム、コロニアリズム、ジェンダー論などの観点から考察する。

【授業における到達目標】

的確な言葉で作品について述べる力を身につける。研究対象について客観的に分析し、議論する力を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 学術論文を読む（1）論述形式を学ぶ
3. 学術論文を読む（2）資料の扱いを学ぶ
4. 学術論文を読む（3）論述方法を学ぶ
5. 展覧会カタログの読み方
6. 各自自分の関心に応じて作品を選びディスクリプション
7. それに関連する文献を集める
8. 作品研究を深めつつ自分のテーマと比較する
9. 発表とディスカッション（1）以下学生の人数によって調整
10. 発表とディスカッション（2）
11. 発表とディスカッション（3）
12. 発表とディスカッション（4）
13. 発表方法などの反省と課題を見つける
14. 展覧会カタログの活用方
15. まとめ

*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

【事前・事後学修】

事前学修：授業中の課題のための資料、論文などを読む（週2時間）。

事後学修：授業中にわからなかった人名、事項などについて、ノートなどをもとに復習する（週2時間）。

授業に関連する展覧会を自主見学する（随時）。

【テキスト・教材】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内課題の提出40%、授業に対する積極的な態度40%、期末レポート20%。課題については随時フィードバックをおこなう。期末レポートについてはmanabaでコメントする。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

「日本近代美術史特論A」と合わせて受講してほしい。授業は展覧会見学に振り返ることがある。開催状況によって展覧会見学の時期は前後したり見学の回数が増えることがある。見学の費用は自費となる。

日本近代美術史入門 a

幕末から大正期までの日本の美術

児島 薫

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

日本近代美術史入門 b

大正期末の美術から現代アートまで

児島 薫

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

「日本近代美術史入門b」とあわせて、日本の近代から現代までの美術の歴史を、絵画作品を中心にたどります。日本の近現代の作品は、本来私たちにとって一番身近なものであり、美術館で見る機会も多くあります。時代背景とともに主な作品をたどりながら、日本がどのような社会的な変化のなかで美術に向き合ってきたのかを考えていきます。

古い時代と異なり、これこそが重要作品というような評価があまり決まっていないので、授業ではなるべく皆さんが画集や美術館で見る機会の多い作品をとりあげます。

【授業における到達目標】

日本近代美術の作品についての知識を深め、それらが制作された時代状況についても自ら興味を持つようになる。日本の近代美術が多様な文化を取り入れて成立したことを理解する。美術展覧会に積極的に出かける。

【授業の内容】

1. 幕末・西洋文化との出会い
2. 西洋美術教育の始まり
3. 初期の留学生 イタリア・ドイツ
4. 初期の留学生 フランス
5. 日本画の誕生 芳崖・雅邦
6. 日本画の形成 東京美術学校
7. 黒田清輝と白馬会
8. 「彫刻」の誕生
9. 版画、ポスター、デザイン
10. 水彩画の普及
11. 大正期の日本画 東京
12. 大正期の日本画 京都
13. 大正期の洋画
14. 全体の復習
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：東京国立近代美術館、東京国立博物館、東京芸術大学美術館、山種美術館などで日頃から心がけて実際に作品を見る。図書館で美術全集や指定図書の図版を見たりして作品に親しむ。（週2時間）

事後学修：図書館の画集などで、授業で取り上げた作者、作品について確認したり調べたりする。manaba で感想などを求めることができるので、積極的に書き込む。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験と授業への積極的な参加によって評価する。試験の成績90%。授業への参加度10%。授業への参加度は、manabaでおこなうアンケートや小テストの提出状況と出席状況によって判断する。講評は、最終回の授業中、またはmanabaを利用しておこなう。

【参考書】

『日本美術館』（小学館）。「独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システム」のサイト。その他、授業中に指示する。

【注意事項】

「日本近代美術史入門a」は半期で構成されているが、「日本近代美術史入門b」と併せて受講することが望ましい。また不明な点については、授業後等に質問をしてください。授業を別の日の美術館見学授業にふりかえる場合があるが、その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

【授業のテーマ】

この授業では「日本近代美術史入門a」に続いて大正末（関東大震災後）から現代までの作品を取り上げる。日本が戦争に向かい、大きな犠牲のもとに戦後を迎え、その後の困難な時代を経て今日まで、どのような社会状況のもとに作家たちが作品を制作してきたのかを考える。現代美術まで扱うので、幅広い関心を持って美術館を訪れ、実作品をなるべく多く見てほしい。

【授業における到達目標】

日本の近代史上の重要な事柄について一定の知識を身につけ、多くの美術作品がどのような時代背景のなかで制作されてきたかを探求する姿勢を身につける。日本の近現代の美術作品についてどのような世界情勢の中で制作されたのかについて考える力を身につける。

【授業の内容】

1. 大正末～昭和初期の日本画
2. 大正末～昭和初期の洋画
3. 女性画家の活躍
4. 新興美術の展開
5. 帝国の時代1 洋画
6. 帝国の時代2 日本画
7. 戦争の時代1 作戦記録画
8. 戦争の時代2 戦時下の人々
9. 50年代 戦争の記憶
10. 50年代「具体」・「実験工房」・近代美術館の開館
11. 60年代「反芸術」など
12. 70年代「もの派」など
13. 80年代、90年代の日本美術
14. その後の現代美術
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：東京国立近代美術館、その他授業中に紹介する美術館などの展覧会を見に行く。また図書館で画集の図版を見て作品に親しむ。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。manabaで感想などを求めることができるので、それに答える。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験と授業への積極的な参加によって評価する。試験の成績90%。授業への参加度10%。授業への参加度は、manabaでおこなうアンケートや小テストの提出状況と出席状況によって判断する。講評は、最終回の授業中、またはmanabaを利用しておこなう。

【参考書】

『日本美術館』（小学館）、「指定図書」を参照のこと。「独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システム」のサイトや美術館、博物館などの公式サイトの所蔵品データベース。（ネット上の個人のサイトは参照しないこと。）その他適宜指示する。

【注意事項】

授業中に展覧会を紹介するのでなるべく見に行くこと。また不明な点については、授業後等に質問をしてほしい。授業を別の日の美術館見学授業にふりかえる場合がある。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

日本経済論 b

内外の社会経済問題から日本経済を捉える

猪瀬 武則

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

現在の社会経済問題から日本経済の姿をとらえることを目的とします。環境・グローバル化・労働・生命・社会保障・企業倫理などです。そこから日本経済の在り方をとらえ直します。キーワードは、持続可能性、稀少性、限定合理性、効率、正義、幸福などです。

【授業における到達目標】

態度目標 国際的視野：人々が保持する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。「美の探究」：物事の真理を探究することにより、新たな知を創造しようとすることができる。

能力目標 研鑽力：広い視野と洞察力を身につけ、本質に迫ろうとすることができる。行動力：課題に手順を踏んで問題解決することができる。協働力：自己や他者の役割を理解し、協力して議論を進めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、グループ分けなど
- 第2週 消費行動と効用・倫理「幸せ（効用）の消費、エシカルな消費」
- 第3週 消費行動とグローバル化「フェアトレードは途上国に寄与するか？」
- 第4週 経済社会意識の変容1「キューボラのある街」で吉永が演じた時代
- 第5週 経済社会意識の変容2「子どもはお金をどのように考えているかー駄菓子屋からコンビニへ」
- 第6週 税制と社会保障の狭間「寄附は偽善か？」功利主義と幸福の王子
- 第7週 税制と地方自治「ふるさと納税の功罪」
- 第8週 日本と海外の税制の課題「タックスヘイブン・パナマ文書の示唆するもの」
- 第9週 企業の目的と倫理「会社はだれのもの？フリードマンへの手紙」
- 第10週 企業統治と環境・労働「バーゼル条約と汚染企業移動説」
- 第11週 環境問題への日本の取り組み「パリ協定で日本経済は変わるか」
- 第12週 医療の高度化と社会保障の範囲1・・・高額抗がん剤の保険治療
- 第13週 医療の高度化と社会保障の範囲2・・・トリアージと臓器移植
- 第14週 格差と貧困・・・格差原理、無知のヴェールは可能か？
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前：配付された資料を読み、課題映像を視聴 学修時間 週2時間
 事後：専門用語の確認。関連新聞・ネット記事収集 学修時間 週2時間

【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%（授業参加・シャトルカード記述=質問・感想・意見）。シャトルカードには、毎回、返信・コメントし、試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

特になし

【注意事項】

政治経済に関連する人文・社会科学概念を学修する上で、視聴覚資料や多様な文字資料を活用し、グループでの討論を通して、知識の共有化、それぞれのもつ価値・価値観の明確化・対象化します。

日本語 a

鈴木 美恵子

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、日本語で話す能力を高めるための学習・練習を行います。

【授業における到達目標】

この授業では、色々な話題について日本語で詳しく説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

【授業の内容】

- 第1週 「年中行事」トライ、語・表現の学習
- 第2週 「年中行事」練習
- 第3週 「年中行事」まとめ
- 第4週 「スポーツ」トライ、語・表現の学習
- 第5週 「スポーツ」練習
- 第6週 「スポーツ」まとめ
- 第7週 「健康」トライ、語・表現の学習
- 第8週 「健康」練習
- 第9週 「健康」まとめ
- 第10週 「学校教育」トライ、語・表現の学習
- 第11週 「学校教育」練習
- 第12週 「学校教育」まとめ
- 第13週 発表準備
- 第14週 発表
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新しく学ぶ語や表現等に関する課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】新しく学んだ語や表現の復習や、よりスムーズに話すための練習等を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出(50%)、授業への取り組み(50%)で総合的に評価します。課題提出後、日本語の使い方と気を付けるべき点等を次回授業で解説します。

日本語 b

鈴木 美恵子

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、日本語で話す能力を高めるための学習・練習を行います。

【授業における到達目標】

この授業では、色々な話題について日本語で詳しく説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

【授業の内容】

- 第1週 「私の出身地」トライ、語・表現の学習
- 第2週 「私の出身地」練習
- 第3週 「私の出身地」まとめ
- 第4週 「料理の作り方」トライ、語・表現の学習
- 第5週 「料理の作り方」練習
- 第6週 「料理の作り方」まとめ
- 第7週 「有名人」トライ、語・表現の学習
- 第8週 「有名人」練習
- 第9週 「有名人」まとめ
- 第10週 「映画・ドラマのストーリー」トライ、語・表現の学習
- 第11週 「映画・ドラマのストーリー」練習
- 第12週 「映画・ドラマのストーリー」まとめ
- 第13週 「ニュース」トライ、語・表現の学習
- 第14週 「ニュース」練習
- 第15週 「ニュース」まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】新しく学ぶ語や表現等に関する課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】新しく学んだ語や表現の復習や、よりスムーズに話すための練習等を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出(50%)、授業への取り組み(50%)で総合的に評価します。課題提出後、日本語の使い方と気を付けるべき点等を次回授業で解説します。

日本語 c

鈴木 美恵子

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、様々なトピックのドキュメンタリーやニュースなどの映像を視聴します。

【授業における到達目標】

様々な分野の言葉や表現を理解し、感想や意見を述べられるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

【授業の内容】

- 第1週 「科学技術」 視聴、内容理解
- 第2週 「科学技術」 語・表現の学習
- 第3週 「科学技術」 ディスカッション
- 第4週 「ビジネス」 視聴、内容理解
- 第5週 「ビジネス」 語・表現の学習
- 第6週 「ビジネス」 ディスカッション
- 第7週 「労働」 視聴、内容理解
- 第8週 「労働」 語・表現の学習
- 第9週 「労働」 ディスカッション
- 第10週 「福祉」 視聴、内容理解
- 第11週 「福祉」 語・表現の学習
- 第12週 「福祉」 ディスカッション
- 第13週 「経済」 視聴、内容理解
- 第14週 「経済」 語・表現の学習
- 第15週 「経済」 ディスカッション

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業で見るニュースやドキュメンタリーの理解に必要な基礎的な知識を得るために、配布プリント等を読む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 新しく学んだ語や表現を復習する。また、授業で見たニュースやドキュメンタリーに対する自分の感想や意見をまとめる。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出 (50%)、授業への取り組み (50%) で総合的に評価します。課題提出後、日本語の使い方や気を付けるべき点等を次回授業で解説します。

日本語 d

鈴木 美恵子

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、様々なトピックのドキュメンタリーやニュースなどの映像を視聴します。

【授業における到達目標】

様々な分野の言葉や表現を理解し、感想や意見を述べられるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

【授業の内容】

- 第1週 「食品」 視聴、内容理解
- 第2週 「食品」 語・表現の学習
- 第3週 「食品」 ディスカッション
- 第4週 「自然環境」 視聴、内容理解
- 第5週 「自然環境」 語・表現の学習
- 第6週 「自然環境」 ディスカッション
- 第7週 「教育」 視聴、内容理解
- 第8週 「教育」 語・表現の学習
- 第9週 「教育」 ディスカッション
- 第10週 「スポーツ」 視聴、内容理解
- 第11週 「スポーツ」 語・表現の学習
- 第12週 「スポーツ」 ディスカッション
- 第13週 「共生社会」 視聴、内容理解
- 第14週 「共生社会」 語・表現の学習
- 第15週 「共生社会」 ディスカッション

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業で見るニュースやドキュメンタリーの理解に必要な基礎的な知識を得るために、配布プリント等を読む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 新しく学んだ語や表現を復習する。また、授業で見たニュースやドキュメンタリーに対する自分の感想や意見をまとめる。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出 (50%)、授業への取り組み (50%) で総合的に評価します。提出された課題は、日本語の使い方や気を付けたほうが良い点等を次回授業で解説します。

日本語のしくみ

—外来語への理解を深めよう—

大塚 みさ

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

今や外来語を見聞きしない日はありません。ファッション雑誌やネットには外来語があふれており、実際には意味のよくつかめないことばもあることでしょう。一方で、若い世代がよく使う外来語が性別や世代によっては馴染みのないことばであることも珍しくありません。また、同じような意味の和語や漢語が存在することも多いのに、外来語を選ぶのはなぜでしょうか。それがコミュニケーション上障害となることもあれば、逆に効果を発揮することもある理由は何でしょうか。

こうした疑問を解消するために、外来語について多角的にアプローチしていきます。これまで何気なく目にしてきた外来語について、多角的な理解と関心を深めてほしいと願っています。

【授業における到達目標】

- ・外来語をキーとして日本語を外から観察し、「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・日本語における外来語の本質を正しくとらえることで、ことばに対する感性を磨き、「美の探究」を実践します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション—外来語とは？
- 第2週 言語文化論から見た外来語
- 第3週 衣食住にみる外来語 1 ファッション誌の中の外来語
- 第4週 衣食住にみる外来語 2 食文化と外来語
- 第5週 語彙調査にみる外来語 1 外来語は本当に多いのか
- 第6週 語彙調査にみる外来語 2 外来語がどこに多いのか
- 第7週 文化・娯楽場面の外来語 1 近現代小説の中の外来語
- 第8週 文化・娯楽場面の外来語 2 JPOP・映画と外来語
- 第9週 文化・娯楽場面の外来語 3 テレビ番組名の中の外来語
- 第10週 意識調査に見る外来語 1 世論調査結果を分析しよう
- 第11週 意識調査に見る外来語 2 新聞の投書から考えよう
- 第12週 外来語意識の実際—和製外来語とその構造
- 第13週 外来語と言語政策 1 言い換えのメリット・デメリット
- 第14週 外来語と言語政策 2 海外との比較
- 第15週 まとめと学びの振り返り

※外部講師による講義を予定しています（日程未定）

【事前・事後学修】

【事前学修】教員から指示された課題に取り組むこと。
(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業内容をさらに発展させる課題に取り組み、その成果をresponで共有して理解を深めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

ワークシートやプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 小規模のレポート課題（10～11月・12月・1月の3回） …80%
- 授業への積極的参加、事前・事後学修課題 …20%
- レポート課題は翌月ループリック形式でフィードバックを行い、事前・事後学修課題は翌週授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

- 陣内正敬『外来語研究の新展開』（おうふう 2012年）2,080円
 - 沖森卓也・阿久津智（編著）『ことばの借用』（朝倉書店 2015年）2,808円
- そのほか、授業中に適宜紹介する予定です。

【注意事項】

- ・グループワークや、リアルタイムアンケート・システムresponを活用した受講生同士の意見交換を行います。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。

日本語のしくみ

—外来語への理解を深めよう—

大塚 みさ

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

今や外来語を見聞きしない日はありません。ファッション雑誌やネットには外来語があふれており、実際には意味のよくつかめないことばもあることでしょう。一方で、若い世代がよく使う外来語が性別や世代によっては馴染みのないことばであることも珍しくありません。また、同じような意味の和語や漢語が存在することも多いのに、外来語を選ぶのはなぜでしょうか。それがコミュニケーション上障害となることもあれば、逆に効果を発揮することもある理由は何でしょうか。

こうした疑問を解消するために、外来語について多角的にアプローチしていきます。これまで何気なく目にしてきた外来語について、多角的な理解と関心を深めてほしいと願っています。

【授業における到達目標】

- ・外来語をキーとして日本語を外から観察し、「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・日本語における外来語の本質を正しくとらえることで、ことばに対する感性を磨き、「美の探究」を実践します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション—外来語とは？
- 第2週 言語文化論から見た外来語
- 第3週 衣食住にみる外来語 1 ファッション誌の中の外来語
- 第4週 衣食住にみる外来語 2 食文化と外来語
- 第5週 語彙調査にみる外来語 1 外来語は本当に多いのか
- 第6週 語彙調査にみる外来語 2 外来語がどこに多いのか
- 第7週 文化・娯楽場面の外来語 1 近現代小説の中の外来語
- 第8週 文化・娯楽場面の外来語 2 JPOP・映画と外来語
- 第9週 文化・娯楽場面の外来語 3 テレビ番組名の中の外来語
- 第10週 意識調査に見る外来語 1 世論調査結果を分析しよう
- 第11週 意識調査に見る外来語 2 新聞の投書から考えよう
- 第12週 外来語意識の実際—和製外来語とその構造
- 第13週 外来語と言語政策 1 言い換えのメリット・デメリット
- 第14週 外来語と言語政策 2 海外との比較
- 第15週 まとめと学びの振り返り

※外部講師による講義を予定しています（日程未定）

【事前・事後学修】

【事前学修】教員から指示された課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容をさらに発展させる課題に取り組み、その成果をresponで共有して理解を深めること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

ワークシートやプリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 小規模のレポート課題（10～11月・12月・1月の3回） …80%
- 授業への積極的参加、事前・事後学修課題 …20%
- レポート課題は翌月ルーブリック形式でフィードバックを行い、事前・事後学修課題は翌週授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

陣内正敬『外来語研究の新展開』（おうふう 2012年）2,080円

沖森卓也・阿久津智（編著）『ことばの借用』

（朝倉書店 2015年）2,808円

そのほか、授業中に適宜紹介する予定です。

【注意事項】

- ・グループワークや、リアルタイムアンケート・システムresponを活用した受講生同士の意見交換を行います。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。

日本語のバリエーション

日本語の多様性を探る

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「ってか、それやばくね？」

「おいしゅうございました」

「ほんまによう言わんわ」

あなたは自分で言いますか。あるいは、言わないと思いますか。

私たちが日々使っている日本語には様々なバリエーションがある。
この授業では、時に英語の比較例などもまじえながら、日本語にど
のようなバリエーションがあるのか、日本語の多様性を探る。

【授業における到達目標】

身近な「日本語」には実は様々なバリエーションがあることを研究例
を通して学び、日本語についての理解を深める。

また、身近な言語をデータとして分析し、隠れているルールを考察
する楽しさを、研究例や自身の分析レポートを通して学ぶ。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「物事の真理を探究し、新た
な知を創造しようとする態度」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
ことばのバリエーションとは
- 第2週 社会言語学とは
- 第3週 地域方言
- 第4週 地域方言のイメージ
- 第5週 地域方言と標準語
- 第6週 社会方言
- 第7週 社会方言－年齢とことば
- 第8週 言語変化
- 第9週 社会方言－若者ことば
- 第10週 社会方言－性差とことば
- 第11週 役割語
- 第12週 社会方言－階層とことば
- 第13週 スタイル
- 第14週 バリエーションとしての敬語
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に配布プリントを読み直し、授業内容を復習しておくこと。

指示された参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する課題を指定された期日に提出すること。

(以上すべてを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合
して成績評価を行う。

評価配分は、試験40%、提出課題40%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本語のバリエーション

日本語の多様性を探る

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「ってか、それやばくね？」

「おいしゅうございました」

「ほんまによう言わんわ」

あなたは自分で言いますか。あるいは、言わないと思いますか。

私たちが日々使っている日本語には様々なバリエーションがある。この授業では、時に英語の比較例などもまじえながら、日本語にどのようなバリエーションがあるのか、日本語の多様性を探る。

【授業における到達目標】

身近な「日本語」に実は様々なバリエーションがあることを研究例を通して学び、日本語についての理解を深める。

また、身近な言語をデータとして分析し、隠れているルールを考察する楽しさを、研究例や自身の分析レポートを通して学ぶ。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「物事の真理を探究し、新たな知を創造しようとする態度」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
ことばのバリエーションとは
- 第2週 社会言語学とは
- 第3週 地域方言
- 第4週 地域方言のイメージ
- 第5週 地域方言と標準語
- 第6週 社会方言
- 第7週 社会方言－年齢とことば
- 第8週 言語変化
- 第9週 社会方言－若者ことば
- 第10週 社会方言－性差とことば
- 第11週 役割語
- 第12週 社会方言－階層とことば
- 第13週 スタイル
- 第14週 バリエーションとしての敬語
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に配布プリントを読み直し、授業内容を復習しておくこと。

指示された参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する課題を指定された期日に提出すること。

(以上すべて含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験40%、提出課題40%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本語の音声

日本語の音のルールを学ぶ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、言語の最小単位である音に焦点を当て、日本語にどのような音があるのか、どのようなルールに従って音が連なっていくのかを学ぶ。音声学、音韻論の分野である。時に英語と比較することによって、その特徴を明らかにしていく。

【授業における到達目標】

外国語を話す際、母語の影響が最も顕著に現れるのが音声である。日本語の音声について学ぶことによって、様々な言語を母語とする人たちの日本語の多様性を受容し、多角的な視野をもって世界に臨む姿勢を養う。また、自身が英語などの外国語を学ぶ際の困難点を理解することも目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
言語の単位
- 第2週 アクセントとは
- 第3週 日本語のアクセントの型
- 第4週 最近のアクセントの傾向
- 第5週 複合語のアクセント
- 第6週 イントネーション
- 第7週 音節と拍
- 第8週 日本語の音節構造
- 第9週 音素と異音
相補分布と自由分布
- 第10週 母音と子音
- 第11週 子音分類：有声・無声、調音点、調音法
- 第12週 日本語の子音
- 第13週 母音分類：唇の丸め、舌の前後位置、口の開き
- 第14週 日本語の母音
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に授業内容の復習をし、配布プリントを読んでおくこと。
授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。
(以上、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験と平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。評価配分は、試験70%、平常点30%。
試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本語の音声

日本語の音のルールを学ぶ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、言語の最小単位である音に焦点を当て、日本語にどのような音があるのか、どのようなルールに従って音が連なっていくのかを学ぶ。音声学、音韻論の分野である。時に英語と比較することによって、その特徴を明らかにしていく。

【授業における到達目標】

外国語を話す際、母語の影響が最も顕著に現れるのが音声である。日本語の音声について学ぶことによって、様々な言語を母語とする人たちの日本語の多様性を受容し、多角的な視野をもって世界に臨む姿勢を養う。また、自身が英語などの外国語を学ぶ際の困難点を理解することも目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
言語の単位
- 第2週 アクセントとは
- 第3週 日本語のアクセントの型
- 第4週 最近のアクセントの傾向
- 第5週 複合語のアクセント
- 第6週 イントネーション
- 第7週 音節と拍
- 第8週 日本語の音節構造
- 第9週 音素と異音
相補分布と自由分布
- 第10週 母音と子音
- 第11週 子音分類：有声・無声、調音点、調音法
- 第12週 日本語の子音
- 第13週 母音分類：唇の丸め、舌の前後位置、口の開き
- 第14週 日本語の母音
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後に授業内容の復習をし、配布プリントを読んでおくこと。
授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。
(以上、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験と平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。評価配分は、試験70%、平常点30%。
試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本語の発見

鹿島 千穂

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

私たちは日々の生活でごく自然に日本語を使っています。そのなかで、場面や伝える相手、使用するメディアにより、選ぶ言葉や話し方を無意識のうちに変化させています。

この授業のねらいは、日常生活で何気なく使っている日本語に目を向け、そこから見えてくる私たちの文化や思考の特徴に気づき、日本語ならではの面白さを発見することです。まずは日本語表現とコミュニケーションに関するワークで基本事項を押さえ、さらに一歩踏み込んで、それぞれのテーマに関連する日本語の深い世界を探究していきます。

さまざまな角度から日本語について考えてみることで、これまで知ることのなかった日本語の新たな一面を発見する楽しさを味わいましょう。

【授業における到達目標】

- ・日本語への深い理解と外国語との比較を通して、日本文化や思考の特徴に気づき、多角的に物事を捉える「国際的視野」を身につけます。
- ・言語現象の背景を考えることで日本語に対する感受性が高まり、新たな知を創造しようとする「美の探究」ができるようになります。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションー自己紹介
- 第2週 日本語の特徴ー表記と文法
- 第3週 和語・漢語・外来語
- 第4週 日本語の語彙
- 第5週 時代を映す言葉ー新語・造語・流行語
- 第6週 放送で使われる言葉ーテレビの言葉とラジオの言葉
- 第7週 場にふさわしい言葉遣いー改まった書き方と話し方
- 第8週 手紙で使われる言葉
- 第9週 日本語と人間関係ー敬語のはたらき
- 第10週 話の聞き方ー日本語のあいづち表現
- 第11週 話の伝え方ー日本人のコミュニケーションスタイル
- 第12週 日本語の音声ー発声・発音・アクセント
- 第13週 アナウンサーと共通語
- 第14週 朗読ー声に出して読みたい日本語
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：授業中に指示された課題に取り組む。
(学修時間 週2時間)
- 事後学修：ワークブックを使って授業の内容を復習するとともに、授業の要点を各自ノートにまとめる。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

石塚修、小針誠、島田康行：日本語表現&コミュニケーションー社会を生きるための21のワーク[実教出版、2012、¥1,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、平常点(発言、課題や授業への取り組み等)30%
ワーク課題については翌週の授業でフィードバックし、レポートにはコメントを記入して返却します。

【参考書】

各回のテーマに応じて授業時に紹介します。

【注意事項】

授業開始日までにテキストを購入してください。

日本語の歴史

文字・表記を中心に

笹原 宏之

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

日本語の長い歴史は、すべてが文字によって記録されてきた。弥生時代から現代までの間に、日本語は漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字などによって書き表されてきたのである。それらは世界で最も複雑な文字体系を構築し、最も多彩な表記のシステムを形成した。

それらの歴史的な変遷をたどり、外国語との比較を交え、日本語の使用者として主体的に観察と考察を行い、現在の文字の状況を正確に理解していく。

【授業における到達目標】

この講義を通して、世界で最も複雑な日本語の文字とそれによる多彩な表記について、その特質を正確に理解するとともに、それらを自身も効果的に心地よく使用できる力を身に付ける。DPの知を求め、心の美を育む態度のほか、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度や、学修を通して自己成長する研鑽力に関連する。

【授業の内容】

- 第1週 講義の進め方の説明と日本の文字の概説
漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字
- 第2週 現代の文字の使用状況 「艸」「卍」「椀」の新展開
- 第3週 現代の表記の実情 「鮎・寿司」「コーヒー・珈琲」
- 第4週 名字の文字 大姓と珍姓、「谷」「藤」の歴史と分布
- 第5週 人名の文字 「苺」「莉」「翔」「汰」「三二一」
- 第6週 近代の文字 文明開化の新字「俥」・翻訳語「哲学」
- 第7週 近代の表記 文学 漱石「浪漫」、鴎外の「訣」
- 第8週 近世の文字・表記 漢詩「さいざい墨」、戯作「時花」
- 第9週 中世の文字 国字の増加「峠」「鱒」「騾」、50画の謎字
- 第10週 中世の表記 ローマ字の伝来と当時の発音「fa」
- 第11週 中古の文字 カタカナ・ひらがなの登場と「ン」
- 第12週 中古の表記 『源氏』「匂」、『枕草子』「いちご」
- 第13週 古代の文字 『古事記』『日本書紀』『鷹』『檜』
- 第14週 古代の表記 『万葉集』「孤悲」「恋水」、木簡「鯛」
- 第15週 まとめ 文字の変化と表記の多様性の持つ意義

【事前・事後学修】

- 事前学修としてテキストを読んで予習する(この学修時間は週1時間程度)。
- 事後学修としてノートを読み返して復習し、応用として関連する事象について生活の中で観察・考察をする(この学修時間は週3時間程度。簡単な宿題を課すことがある)。

【テキスト・教材】

笹原宏之：日本の漢字[岩波新書、2006、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点(受講姿勢・レビューシート・提出課題)30%
- レポート70%
- 最終回に、レポートに関して解説を行う。

【注意事項】

学期末の試験や小テストは行いません。

日本語を教える a

——日本語教育の基礎知識と教授法——

久池井 紀子

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

最近では町で外国人を見かけることはあたりまえになりました。では、話したことはありますか。アルバイト先のお客さんですか。友達はいらっしゃいますか。みなさんの中には、興味はあるけれどもどのように接したらいいかわからないと思っている人もいないでしょうか。一体、どのような人たちがどのような目的でどのように日本語を学んでいるのでしょうか。

この授業では、日本語学習者の実態や特徴的な文化背景、考え方を紹介します。また、日本語教育の特徴、教授法などの基礎知識を学び、さらに、学習者が受験する試験問題を解く、日本語教育用教科書・教具などに触れるなどの機会も設けたいと思います。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」に関して、異文化と接した場合にどのように考えて行動すればよいか、自分で考えることができるようになります。

また、「美の探究」については、日本語学習者・教育への理解を深めることができます。さらに、自分自身や日本・日本語について深く考えるための基礎力がつきます。

【授業の内容】

- 第1週 世界の中の日本——海外で日本語を教えるには
- 第2週 日本語学習者の実態——多様な学習者
- 第3週 日本語教育の特徴——国語教育・英語教育との比較
- 第4週 学習目的とレベル——日本語学習者のための試験
- 第5週 日本語教育の現状——日本語を日本語で教える直接法
- 第6週 初級用教科書
——連体修飾「これは私が作ったケーキです」を教える
- 第7週 中級用教科書——中級教科書の第1課を教える
- 第8週 副教材・教具と指導例①——聴解力や会話力を養成する
- 第9週 副教材・教具と指導例②——読解力や文章力を養成する
- 第10週 異文化理解①——異文化とは
- 第11週 異文化理解②——社会における異文化理解
- 第12週 異文化理解③——教室における異文化理解
- 第13週 異文化理解④——日本へ来て驚いたこと
※学外の日本語学習者の体験談、質疑応答（時期未定）
- 第14週 日本事情——日本の何を教えるか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：小テストの準備をし、課題を考えておいてください。課題を考えることが、授業の理解につながります。（学修時間 週2時間）

事後学修：小テスト・配付資料の復習と資料の空白の下線部分の再確認をしてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験70%、平常点30%（提出課題15%、授業態度15%）です。

課題・小テストはその授業時間内に確認するか、翌週の授業時にコメントを書いたものを返却する形で、フィードバックします。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

この授業は、日本語の力をつけるための授業ではなく、日本語の力をつけてもらうにはどうすればいいかということを考える授業です。なお、この授業に英語の力は特に必要ありません。

日本語を教える b

——日本語の分析——

久池井 紀子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

私たちは物心ついたときには、もうすでに日本語を話していません。文字や文法規則などを学校で習ってから使い始めたわけではありません。母語として自然に身につけたこの日本語を他言語話者に教える場合は、日本語を外国語として客観的にとらえ直し、分析・整理してから提示していく必要があります。もし、日本語学習者に「『やっど』と『とうとう』『ついに』の違いは何か」と聞かれたら、どのように答えればいいのでしょうか。また、どうすればこれらの違いが明らかにできるのでしょうか。

この授業では、各自の言語生活を内省しながら、日本語を他言語話者の視点から客観的にとらえ直すことを試みます。日本語を意識的に分析・整理することによって日本語に対する理解を深め、さらには語感を少しでも磨いてもらえればと思います。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」に関しては、日本や日本語についての知識を世界に伝える際の考え方や態度が分かります。

また、「美の探究」については、日常生活で日本語の感性を自分で深める際の基本的な考え方や方法が身につきます。

【授業の内容】

- 第1週 音声①——特徴
- 第2週 音声②——拍、母音・半母音・子音、調音法など
- 第3週 音声③——アクセント
- 第4週 文字①——平仮名と片仮名
- 第5週 文字②——中国、台湾、日本の漢字
- 第6週 語彙——媒介語を使わない教え方
- 第7週 初級の語彙——「うれしい」と「楽しい」
- 第8週 中級の語彙——「やっど」と「とうとう」と「ついに」
- 第9週 文法①（品詞）——国文法との違い
- 第10週 文法②（助詞）
——「机の上に本がある」と「本は机の上にある」
- 第11週 文法③（形容詞）
——イ形容詞「忙しい」とナ形容詞「暇な」
- 第12週 文法④（動詞）——「書く」を「書いて」に変える規則
- 第13週 日本語の勉強——難しさと勉強法
※学外の日本語学習者の体験談、質疑応答（時期未定）
- 第14週 初級・中級の語法
——自動詞と他動詞、「～わけにはいかない」の意味
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：小テストの準備をし、課題を考えておいてください。課題を考えることが、授業の理解につながります。（学修時間 週2時間）

事後学修：小テスト・配付資料の復習と資料の空白の下線部分の再確認をしてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験70%、平常点30%（提出課題15%、授業態度15%）です。

課題・小テストはその授業時間内に確認するか、翌週の授業時にコメントを書いたものを返却する形で、フィードバックします。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【注意事項】

この授業では、各自の言語生活を内省しながら日本語を見つめます。自分で考えることで語感が磨かれるということ意識して、日頃から言葉遣いに注意を向けるよう心掛けてください。

日本語コミュニケーション基礎

有賀 千佳子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

日本を生活の場とする我々は、普段日本語を使ってコミュニケーションをしています。多くの場合、自分がコミュニケーションの場をどう認識し、どうふるまっているかを意識的に考えることはありません。

この授業では、普段の自分の言語行動、および、自文化を形成しているものを意識化し、同時に、自分と異なるコミュニケーションパターンを持つ人を理解し、さまざまな場面にうまく対処できるような「頭作り」をします。

【授業における到達目標】

普段無意識に使用している日本語とそのコミュニケーションについて、さまざまな観点から意識化することにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 受講者アンケート 自己紹介
- 第2週 自分の言語生活を振り返る
- 第3週 自分の日本語力を意識してみる。
- 第4週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 1
短くても伝わるもの／ジョーク
- 第5週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 2 誤解、二義文
- 第6週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 3
規範とずれ 言語知識と背景知識
- 第7週 日本語／日本語使用者のバリエーション 1
一どのようなバリエーションがあるのか
- 第8週 日本語／日本語使用者のバリエーション 2
一どのようなコミュニケーションが求められるのか
- 第9週 日本語／日本語使用者のバリエーション 3
一どのように行動すればよいのか
- 第10週 ここまでのふりかえり
- 第11週 待遇表現（敬語）の基礎知識
- 第12週 「感じのよい／感じの悪い」コミュニケーションとは
一話しことば
- 第13週 「感じのよい／感じの悪い」コミュニケーションとは
一書きことば
- 第14週 コミュニケーションを「成功」させるために何を考えるべきか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業で扱った内容はしっかり理解して、次回の授業に臨むようにしてください。また、常に身の回りの日本語を観察して気になる日本語をピックアップし、自分なりの分析をまとめます。不定期に、授業開始時に小テスト／小発表を行います。

（事前・事後学修合わせて週4時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定しません。授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席日程基準を満たした学生について、以下の基準で評価を行います。平常点（授業への参加度、授業時提出物）80%、自宅学習成果物20%

提出物については、提出日以降の授業時に全員で内容を共有し、どのような内容が好ましかったかを評価し、個々の学生が自身の思考を深める作業を行います。

【参考書】

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』2012（ひつじ書房）

定延利之編著『私たちの日本語』2012（朝倉書店）

野田・森口『日本語を話すトレーニング』2004（ひつじ書房）

原沢伊都夫『異文化理解入門』2013（研究社）

【注意事項】

授業中は、さまざまなコミュニケーションサンプルを観察し、分析してもらいます。

また、講義だけでなく、ペアワークやグループワークを行い、お互いのコミュニケーションの中で、自らの言語行動を意識化していきますので、積極的な参加を希望します。

初回的人数によっては履修者の数を調整する可能性もあります。

日本語コミュニケーション実践

有賀 千佳子

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

さまざまなコミュニケーションの場を想定し、それぞれの場面でのようにふるまうのが望ましいのかを考えます。さまざまな場面での困難点・問題点を意識しつつ、よりよい方法を実践と観察を通して考えていきます。

【授業における到達目標】

学生一人一人が自身の言語行動を振り返り、授業時にお互いの言語行動を評価し合うことにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 受講者アンケート 「他己」紹介
- 第2週 コミュニケーション上の困難点を意識化する
- 第3週 自分自身の挨拶行動を観察する
- 第4週 日常会話における自分の話し方／聞き方を意識してみる
1
- 第5週 日常会話における自分の話し方／聞き方を意識してみる
2
- 第6週 「相手の面子にかかわる」否定的な言語行動をしなければ
ならないとき
- 第7週 わかりやすい／わかりにくい伝え方とは
- 第8週 発表練習 1 話しことば
- 第9週 発表練習 2 書きことば
- 第10週 グループワークでのふるまい方
- 第11週 SNS／メールのコミュニケーション
- 第12週 日本語学習者が接する日本語
- 第13週 「やさしい日本語」について
- 第14週 敬語やマナーのマニュアル本を評価する
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】講師が提示したテーマに沿って、各自下調べをしてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った内容はしっかり理解して次回の授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは指定しません。授業中に資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席日程基準を満たした学生について、以下の基準で評価を行います。

平常点（授業への参加度、授業時提出物）70%、下調べ・事前準備30%

提出物や授業中の活動については、実施日以降の授業時に全員で内容を共有し、どのような内容・活動が好ましかったかを評価し、個々の学生が自身の思考を深める作業を行います。

【参考書】

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』2012（ひつじ書房）

定延利之編著『私たちの日本語』2012（朝倉書店）

野田尚史・森口稔『日本語を話すトレーニング』2004（ひつじ書房）

原沢伊都夫『異文化理解入門』2013（研究社）

【注意事項】

授業中は、発表や、ペアワーク・グループワークを行い、お互いのコミュニケーションの中で、自分の言語行動を意識化し、スキルアップを目指します。積極的な参加を希望します。

初回の人数によっては履修者の数を調整する可能性もあります。

日本語コミュニケーション入門

—コミュニケーションについて幅広く学ぶ—

大塚 みさ

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

みなさんは物心ついたころから「コミュニケーション」ということばを耳にしてきたことと思います。実は「コミュニケーション」には言語や文化をはじめ、社会や技術あるいは身体など、さまざまな側面があります。その側面の一つ一つに焦点を当てながら、コミュニケーションについて幅広く学んでいきましょう。

半期間の授業を通して、コミュニケーションに対する関心がますます深まることを期待しています。

【授業における到達目標】

- ・コミュニケーションの本質を探究することによって「美の探究」を実践します。
- ・異なる文化的背景を持つ相手とのコミュニケーションについての理解を深め、「国際的視野」を広げます。
- ・コミュニケーションについて多角的に学ぶことを楽しみ、学び続けられる「研鑽力」を習得します。

【授業の内容】

- 第1週 コミュニケーションの定義と本質
- 第2週 生物学的に見たコミュニケーション
- 第3週 言語的コミュニケーションと思考様式
- 第4週 認知科学的にみたコミュニケーション
- 第5週 ことばの意味と力 1 暗号解読とことばの魔力
- 第6週 ことばの意味と力 2 言外の意味を理解できる理由
- 第7週 動物のコミュニケーション
- 第8週 ノンバーバル・コミュニケーション 1 種類と分類
- 第9週 ノンバーバル・コミュニケーション 2 印象と文化差
- 第10週 異文化コミュニケーション 1
日本のコミュニケーションの特色
- 第11週 異文化コミュニケーション 2 さまざまなモデル
- 第12週 説得的コミュニケーション 1 説得の種類
- 第13週 説得的コミュニケーション 2 説得のテクニック
- 第14週 その他のさまざまなコミュニケーション
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

事後学修：プリントと授業中に実施したrespon課題をもとに授業を振り返ること。さらに、教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

毎回ワークシートを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価基準：期末試験…60%、前回の復習テスト…10%、事前・事後課題提出…20%、授業への積極的参加…10%

期末試験は、授業最終回または後日フィードバックを行います。前回の復習テストは授業内でフィードバックを行います。事前・事後学修課題は、翌週授業時にフィードバックを行います。

【参考書】

授業の中でトピックごとに紹介します。

【注意事項】

- ・みなさんの関心に合わせて、授業内容を多少入れ替える場合があります。
- ・適宜グループワークや、リアルタイムアンケート・システムresponを活用した受講生同士の意見交換を行います。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。

日本語学研究A

違和感を伴う表現の研究

湯浅 茂雄

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

我々の言語生活（読み・書き・話し・聞く）の中では、違和感を伴う（世代差もある）語形や表現、表記に出会うことが少なくない。目を通していたチラシや、町の看板、ポスター、掲示の中に、また、知人や学生との会話やテレビで交わされる談話の中などにおいてである。それらの表現の中には、明らかに不正表現と見られるものもあるが、そうとは決め付けられないものもある。これらの違和感を伴う表現はどのようにして生じたのであろうか。それを見極めることは言葉の変化の要因にせまることでもある。この観点から違和感を伴う表現を取り上げる。受講生の収集した表現も適宜取り上げる。

【授業における到達目標】

現代語の言語現象を鋭く捉え、類例を収集し、さまざまな角度から分析し、論文を仕上げることができるようになることを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 導入（違和感が伴う表現研究の意義）
- 第2週 「夜ごはん」の言い方
- 第3週 「満車中」
- 第4週 「危ないですか」
- 第5週 「荷物挟まり」
- 第6週 「立ち入りません」
- 第7週 「入市」（臨時一語）
- 第8週 「視線」と「目線」
- 第9週 「答えられる」
- 第10週 「リフトをゆらないでください」（方言景観）
- 第11週 「フィンキ（雰囲気）」
- 第12週 「割り込み」「横入り」「ずる込み」
- 第13週 「を」の呼び名
- 第14週 「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ア」の書き方
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

すべてプリントによる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（授業中の発言・積極的な態度）25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

最終週にレポート提出の条件を細かく説明し、成績評価の基準をフィードバックする。

【参考書】

最初の授業および各回の授業で適宜紹介する。

【注意事項】

初回の授業で指示する。

日本語学研究B

違和感を伴う表現の研究

湯浅 茂雄

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

我々の言語生活（読み・書き・話し・聞く）の中では、違和感を伴う（世代差もある）語形や表現、表記に出会うことが少なくない。目を通していたチラシや、町の看板、ポスター、掲示の中に、また、知人や学生との会話やテレビで交わされる談話の中などにおいてである。それらの表現の中には、明らかに不正表現と見られるものもあるが、そうとは決め付けられないものもある。これらの違和感を伴う表現はどのようにして生じたのであろうか。それを見極めることは言葉の変化の要因にせまることでもある。この観点から違和感を伴う表現を取り上げる。受講生の収集した表現も適宜取り上げる。

【授業における到達目標】

現代語の言語現象を鋭く捉え、類例を収集し、さまざまな角度から分析し、論文を仕上げることができるようになることを目指す。

【授業の内容】

- 第1週 導入（違和感が伴う表現研究の意義）
- 第2週 「体育」の発音「タイク」「タイイク」「タイーク」
- 第3週 「シュミレーション」と「シミュレーション」
- 第4週 「ビルディング」「ビルディング」「ビルデング」
- 第5週 「むくもり（温もり）」
- 第6週 「役不足」
- 第7週 「全然大丈夫」
- 第8週 「行かんくなる」
- 第9週 「違かった」
- 第10週 漢字の嘘字
- 第11週 「許可無く撮影を禁ずる」
- 第12週 「こちらパスタになります」
- 第13週 「無断駐車1万円申し受けます」
- 第14週 「月にやるせぬ我が想い」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

全てプリントによる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（授業中の発言・積極的な態度）25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

最終週にレポート提出の条件を細かく説明し、成績評価の基準をフィードバックする。

【参考書】

最初の授業および各回の授業で適宜紹介する。

【注意事項】

初回の授業で指示する。

日本語学特殊演習 A

幕末・明治時代語研究の課題

湯浅 茂雄

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

幕末・明治時代語の様相を明らかにしようとする時、そこには膨大な研究資料群が存在する。未開拓な研究資料もあり、具体的なテーマ研究と平行して、研究資料の全貌に関する見通しと、各資料群の性格を明らかにしておく必要がある。この授業は、幕末・明治時代語研究の問題点を明らかにするとともに、研究資料の全体像の見通しとその性格を明らかにすることを目標とする。

【授業における到達目標】

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力(研鑽力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入(授業の目標と進め方)
- 第2週 幕末・明治時代語研究の課題 概説
- 第3週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(音韻)
- 第4週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(文法)
- 第5週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(語彙)
- 第6週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(文体)
- 第7週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(言語生活)
- 第8週 幕末・明治時代語研究の資料 概説
- 第9週 飛田良文「近代語研究の資料」を読む
- 第10週 研究資料の分類
- 第11週 人情本資料
- 第12週 幕末蘭学資料
- 第13週 蘭和・英和辞書資料
- 第14週 幕末新聞資料
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

全てプリントによる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加)25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。最終週の「総括」において、レポート評価の基準を細かく解説し、評価の手続きをフィードバックする。

【参考書】

最初の授業及び各回の授業で適宜紹介する。

【注意事項】

初回の授業で指示する。

日本語学特殊演習 B

幕末・明治時代語研究の課題

湯浅 茂雄

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

幕末・明治時代語の様相を明らかにしようとする時、そこには膨大な研究資料群が存在する。未開拓な研究資料もあり、具体的なテーマ研究と平行して、研究資料の全貌に関する見通しと、各資料群の性格を明らかにしておく必要がある。この授業は、幕末・明治時代語研究の問題点を明らかにするとともに、研究資料の全体像の見通しとその性格を明らかにすることを目標とする。

【授業における到達目標】

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力(研鑽力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

【授業の内容】

- 第1週 導入(授業の目標と進め方)
- 第2週 幕末・明治時代語研究の課題
- 第3週 幕末・明治時代語研究の資料
- 第4週 西洋人による日本語研究資料
- 第5週 会話書資料・英学資料
- 第6週 『新令字解』他漢語辞書資料
- 第7週 明治期英和・和英辞書資料
- 第8週 『言海』他近代国語辞書資料概説
- 第9週 大槻文彦『言海』を読む
- 第10週 言文一致体資料
- 第11週 文語・口語文典資料
- 第12週 標準語成立関係資料
- 第13週 教科書資料
- 第14週 録音資料
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

全てプリントによる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加)25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。最終週の「総括」において、レポート評価の基準を細かく解説し、評価の手続きをフィードバックする。

【参考書】

最初の授業及び各回の授業で適宜紹介する。

【注意事項】

初回の授業で指示する。

日本語学特別研究A

博士論文の執筆 1

福嶋 健伸

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本授業では、博士論文執筆計画を立ててもらい、その後、博士論文の最も中心となる部分に磨きをかけ、投稿論文に仕上げるという作業を行う。実際に、学術雑誌に投稿してもらうことが、本授業の特徴である。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

【授業における到達目標】

- 1：博士論文執筆の全体流れを理解する。
- 2：各章の内容を踏まえ、この後のスケジュールを決定する。
- 3：学内外の学術雑誌に投稿する。

【授業の内容】

各学生の発表内容や発表方法等は、受講者数や受講者の興味を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 博士論文執筆計画 1：大まかな構想
- 第2週 博士論文執筆計画 2：具体的なスケジュール
- 第3週 どの部分を投稿するべきか
- 第4週 どの雑誌に投稿するべきか—各雑誌の特徴
- 第5週 院生の発表 1
- 第6週 院生の発表 2
- 第7週 院生の発表 3
- 第8週 院生の発表 4
- 第9週 院生の発表 5
- 第10週 カバーレターの書き方
- 第11週 要旨の書き方
- 第12週 院生の発表 6
- 第13週 院生の発表 7
- 第14週 院生の発表 8
- 第15週 学会誌への投稿

【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業中にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表70%、授業への積極参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

【参考書】

必要に応じて指示をする。

【注意事項】

授業中に指示をする。必要に応じて、日本語学会や関東日本語談話会等の学外の学会や研究会に参加してもらう。また、院生の理解度や興味に応じて、授業内容を変更する可能性がある。

日本語学特別研究B

博士論文の執筆 2

福嶋 健伸

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

本授業では、実際に博士論文を執筆してもらう。具体的には、「はじめに」から「引用文献」までを執筆していく。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

【授業における到達目標】

- 1：博士論文の全体的な構成を理解する。
- 2：実際に、博士論文の一部を執筆する。
- 3：研究発表会で、博士論文の一部を発表する。

【授業の内容】

- 第1週 博士論文を書く順序—「はじめに」は最後に書く—
- 第2週 「先行研究のまとめ」の書き方 1
—明らかにされていることは何か—
- 第3週 「先行研究のまとめ」の書き方 2
—明らかにされていないことは何か—
- 第4週 「本研究の位置づけ」の書き方 1—研究の意義—
- 第5週 「本研究の位置づけ」の書き方 2—研究の広がり—
- 第6週 「調査概要」の書き方 1—なぜその資料を選んだのか—
- 第7週 「調査概要」の書き方 2—第三者が再現できるように書く—
- 第8週 「調査結果」の書き方—表や図にまとめる
- 第9週 「考察」の書き方 1—考察対象から独立した現象が必要—
- 第10週 「考察」の書き方 2—再度の調査—
- 第11週 各章の関係—効果的な順序とは—
- 第12週 注の書き方
- 第13週 引用文献の書き方
- 第14週 「はじめに」「おわりに」の書き方
- 第15週 総括及びまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、授業への積極参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業中に指示する。必要に応じて、日本語学会や関東日本語談話会等の学外の学会や研究会に参加してもらう。また、院生の理解度や興味に応じて、授業内容を変更する可能性がある。

日本語学入門 a

—日本語の文字と語彙—

大塚 みさ

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

この科目と「日本語学入門b」（後期開講）で1年間を通して、私たちの用いている日本語に関する基本的なトピックを取り上げて講義します。

前期は、「文字」と「語彙」が主なテーマです。単なる知識の詰め込みではなく、日常生活のさまざまなコミュニケーション場面に分析対象を見出し、日本語のしくみや特徴を自らの目でとらえられるようになることを期待しています。

【授業における到達目標】

- ・日本語の特性を客観的に考察することを通して「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・日本語の特長と価値を見出そうとする「美の探究」の姿勢を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨ—日本語の特徴とは？
- 第2週 日本語の文字・表記 (1) 文字の機能と分類
- 第3週 日本語の文字・表記 (2) 漢字の成り立ちとさまざまな書体
- 第4週 日本語の文字・表記 (3) 漢字音の歴史とそれぞれの特徴
- 第5週 日本語の文字・表記 (4) 万葉仮名・平仮名
・片仮名・ローマ字
- 第6週 日本語の文字・表記 (5) 仮名遣いと送り仮名
- 第7週 日本語の文字・表記 (6) 現代の表記法と常用漢字
- 第8週 日本語の文字・表記 (7) 確認テスト
- 第9週 日本語の語彙 (1) 語の定義・語構成
- 第10週 日本語の語彙 (2) 語種のいろいろ
- 第11週 日本語の語彙 (3) 外来語の歴史
- 第12週 日本語の語彙 (4) 語彙と語彙量
- 第13週 日本語の語彙 (5) 語の意味
- 第14週 日本語の語彙 (6) 語の誕生と歴史
- 第15週 日本語の語彙 (7) 確認テストとまとめ
- ※学外講師による講義を予定しています（日程未定）。

【事前・事後学修】

【事前学修】指定されたテキスト範囲を熟読するとともに、教員から指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テキストとプリントを読み返し、次回授業冒頭で実施する小テストに備えること。その他教員から指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

沖森卓也他著『図解日本語』（三省堂 2006年）2,160円
（「日本語学入門b」でも同一のテキストを使用します。）
併せて、毎回ワークシートを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

単元ごとに実施する「確認テスト」（2回）…80%、前回の「復習テスト」（毎回）…10%、授業への積極的参加・提出物10%
「確認テスト」と提出物は翌週授業時、小テストはその場でフィードバックを行います。

【参考書】

沖森卓也他 著『図解 日本の文字』（三省堂 2011年）2,160円
沖森卓也他 著『図解 日本の語彙』（三省堂 2011年）2,160円
その他、授業中に紹介します。

【注意事項】

- ・学生の理解度に合わせて、内容や順序を多少変更する場合があります。
- ・適宜グループワークや、リアルタイムアンケート・システムresponを活用した受講生同士の意見交換を行います。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・当日の配付資料は3日以内にmanabaにアップします。欠席者は各自で2週間以内にダウンロードしておいてください。

日本語学入門 b

山岡 華菜子

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

前期開講の「日本語学入門a」とこの科目で、私たちの用いている日本語に関する基本的な事柄について学びます。

後期は「音声」と「文法」が主なテーマです。

【授業における到達目標】

- ・日本語の「音声・音韻」と「文法」がどのような特性をもつか、客観的に考察することを通して「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・日本語の「音声・音韻」がどのような特性を持ち、「文法」にどのような規則があるのかを知ることによってことばに対する感性を高め、「美の探究」の基本姿勢を身につけます。

【授業の内容】

- 第1週 日本語の音声・音韻 (1) 音声と音韻の特徴
- 第2週 日本語の音声・音韻 (2) 母音と子音について
- 第3週 日本語の音声・音韻 (3) 音節・モーラ・シラビーム
- 第4週 日本語の音声・音韻 (4) 日本語音声の特徴と特殊音
- 第5週 日本語の音声・音韻 (5) 日本語アクセントの性格
- 第6週 日本語の音声・音韻 (6) 共通語アクセントと方言アクセント
- 第7週 日本語の音声・音韻 (7) イントネーションとプロミネンス
- 第8週 日本語の文法 (1) 文について
- 第9週 日本語の文法 (2) 品詞について
- 第10週 日本語の文法 (3) 自立語・用言
- 第11週 日本語の文法 (4) 自立語・体言その他
- 第12週 日本語の文法 (5) 付属語
- 第13週 日本語の文法 (6) ムード・テンス・ヴォイス
- 第14週 日本語の文法 (7) アスペクト・モダリティ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの指定された範囲を熟読し、教員から指示された課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テキストを読み返し、授業内容を復習して疑問点を解決してください。また、教員から指示された課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

沖森卓也他：図解日本語[三省堂、2006、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加態度と授業内で取り組んでもらう課題（30%）のほか、テスト（70%）で評価します。

毎回の授業の冒頭で前回の課題についてフィードバックをおこないます。

【参考書】

授業中に紹介します。

【注意事項】

- ・「日本語学入門a」（前期）を未履修の学生は、テキストを学外で購入してください。
- ・学生の理解度に合わせて、内容や順序に多少の変更を加えることがあります。

日本語教育文法—初級—

初級学習者のための文法

金庭 久美子

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

初級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。初級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に日本語を教えるための初級文法を身につけることが、この授業の目標である。

【授業の内容】

11課で構成された、以下のような日本語テキストで初級日本語の授業を行なうことを想定し、()内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「自己紹介」1 (普通名詞と固有名詞)
- 第2週 第1課「自己紹介」2 (名詞文、名詞の複数形)
- 第3週 第2課「家族紹介」1 (品詞分類)
- 第4週 第2課「家族紹介」2 (プロトタイプ論)
- 第5週 第3課「学校案内」(指示詞)
- 第6週 第4課「私の一日」1 (動詞と助詞の関係)
- 第7週 第4課「私の一日」2 (日本語の主な文型)
- 第8週 第5課「楽しい日曜日」(テンス)
- 第9週 第6課「楽しいパーティー」(希望文)
- 第10週 第7課「パーティーに招待」(とりたて助詞、並立助詞)
- 第11週 第8課「パーティーの翌日」(終助詞)
- 第12週 第9課「お願い！」(テ形、フィラー)
- 第13週 第10課「私の部屋」(存在動詞、ハとガ)
- 第14週 第11課「教室の中」(アスペクト)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

日本語教育文法—初級—

初級学習者のための文法

金庭 久美子

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

初級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。初級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に日本語を教えるための初級文法を身につけることが、この授業の目標である。

【授業の内容】

11課で構成された、以下のような日本語テキストで初級日本語の授業を行なうことを想定し、()内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「自己紹介」1 (普通名詞と固有名詞)
- 第2週 第1課「自己紹介」2 (名詞文、名詞の複数形)
- 第3週 第2課「家族紹介」1 (品詞分類)
- 第4週 第2課「家族紹介」2 (プロトタイプ論)
- 第5週 第3課「学校案内」(指示詞)
- 第6週 第4課「私の一日」1 (動詞と助詞の関係)
- 第7週 第4課「私の一日」2 (日本語の主な文型)
- 第8週 第5課「楽しい日曜日」(テンス)
- 第9週 第6課「楽しいパーティー」(希望文)
- 第10週 第7課「パーティーに招待」(とりたて助詞、並立助詞)
- 第11週 第8課「パーティーの翌日」(終助詞)
- 第12週 第9課「お願い！」(テ形、フィラー)
- 第13週 第10課「私の部屋」(存在動詞、ハとガ)
- 第14週 第11課「教室の中」(アスペクト)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

日本語教育文法—中級—

中級学習者のための文法

金庭 久美子

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

中級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。中級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に教えるための中級文法を身につけることが、この授業の目標である。

【授業の内容】

9課で構成された、以下のような日本語テキストで中級日本語の授業を行なうことを想定し、()内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「友だち100人」1 (普通体と丁寧体)
- 第2週 第1課「友だち100人」2 (動詞の活用)
- 第3週 第1課「友だち100人」3 (ストラテジー)
- 第4週 第2課「どう違う？」1 (主題のハと対比のハ)
- 第5週 第2課「どう違う？」2 (複文)
- 第6週 第3課「施設案内」(可能)
- 第7週 第4課「事情説明(1)」(ヨウダ・ソウダ・ラシイ)
- 第8週 第5課「事情説明(2)」(ノダ)
- 第9週 第6課「困ったなあ…」1 (英語と日本語の受身文)
- 第10週 第6課「困ったなあ…」2 (日本語の受身文の特徴)
- 第11週 第7課「うれしかった！」(授受表現)
- 第12週 第8課「料理の作り方」(ト・バ・タラ・ナラ)
- 第13週 第9課「交通事故目撃」1 (内の関係と外の関係)
- 第14週 第9課「交通事故目撃」2 (被修飾名詞の格)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

日本語教育文法—中級—

中級学習者のための文法

金庭 久美子

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

中級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。中級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に教えるための中級文法を身につけることが、この授業の目標である。

【授業の内容】

9課で構成された、以下のような日本語テキストで中級日本語の授業を行なうことを想定し、()内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「友だち100人」1 (普通体と丁寧体)
- 第2週 第1課「友だち100人」2 (動詞の活用)
- 第3週 第1課「友だち100人」3 (ストラテジー)
- 第4週 第2課「どう違う？」1 (主題のハと対比のハ)
- 第5週 第2課「どう違う？」2 (複文)
- 第6週 第3課「施設案内」(可能)
- 第7週 第4課「事情説明(1)」(ヨウダ・ソウダ・ラシイ)
- 第8週 第5課「事情説明(2)」(ノダ)
- 第9週 第6課「困ったなあ…」1 (英語と日本語の受身文)
- 第10週 第6課「困ったなあ…」2 (日本語の受身文の特徴)
- 第11週 第7課「うれしかった！」(授受表現)
- 第12週 第8課「料理の作り方」(ト・バ・タラ・ナラ)
- 第13週 第9課「交通事故目撃」1 (内の関係と外の関係)
- 第14週 第9課「交通事故目撃」2 (被修飾名詞の格)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

日本語教授法—初級—

会話教育・聴解教育

金庭 久美子

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、初級における日本語教育の指導方法について、会話教育、聴解教育を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 日本語教育における初級レベルの位置付けが理解できる。
2. 初級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 初級レベルにおける会話教育の指導方法が理解できる。
4. 初級レベルにおける聴解教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. 日本語教育とは
2. コースデザイン1（ニーズ分析・目標言語調査）
3. コースデザイン2（シラバス・カリキュラム）
4. 教室活動と教材教具
5. 外国語教授法：文法翻訳法、直接法
6. 外国語教授法：ASTP、AL法
7. 文法教育1（辞書形を使った文型）
8. 文法教育2（て形を使った文型）
9. 会話教育とは
10. 外国語教授法：コミュニカティブ・アプローチ
11. 「話す」ことを中心とした教室活動
12. 聴解教育とは
13. 外国語教授法：TPR、ナチュラル・アプローチ
14. 総合演習
15. 前期のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

【参考書】

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

小林ミナ著『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』（アルク 2010年）

【注意事項】

授業の資料はmanabaに置く。

日本語教授法—初級—

会話教育・聴解教育

金庭 久美子

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、初級における日本語教育の指導方法について、会話教育、聴解教育を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 日本語教育における初級レベルの位置付けが理解できる。
2. 初級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 初級レベルにおける会話教育の指導方法が理解できる。
4. 初級レベルにおける聴解教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. 日本語教育とは
2. コースデザイン1（ニーズ分析・目標言語調査）
3. コースデザイン2（シラバス・カリキュラム）
4. 教室活動と教材教具
5. 外国語教授法：文法翻訳法、直接法
6. 外国語教授法：ASTP、AL法
7. 文法教育1（辞書形を使った文型）
8. 文法教育2（て形を使った文型）
9. 会話教育とは
10. 外国語教授法：コミュニカティブ・アプローチ
11. 「話す」ことを中心とした教室活動
12. 聴解教育とは
13. 外国語教授法：TPR、ナチュラル・アプローチ
14. 総合演習
15. 前期のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

【参考書】

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

小林ミナ著『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』（アルク 2010年）

【注意事項】

授業の資料はmanabaに置く。

日本語教授法—中級—

読解教育・作文教育

金庭 久美子

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、中級における日本語教育の指導方法について、読解教育、作文教育を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 日本語教育における中級レベルの位置付けが理解できる。
2. 日本語教育における中級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中級レベルにおける読解教育の指導方法が理解できる。
4. 中級レベルにおける作文教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. 日本語教育とは
2. 読解教育とは
3. 外国語教授法：読解教育のための様々なアプローチ
4. 読解発問・読解ストラテジー
5. 「読む」ことを中心とした教室活動
6. 語彙教育1（中級の語彙）
7. 語彙教育2（語彙の指導法）
8. 文法教育1（中級の文法）
9. 文法教育2（文法の指導法）
10. 作文教育とは
11. 外国語教授法：作文教育のための様々なアプローチ
12. 「書く」ことを中心とした教室活動
13. 作文の評価
14. 総合演習
15. 後期のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

【参考書】

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

【注意事項】

授業の資料はmanabaに置く。

日本語教授法—中級—

読解教育・作文教育

金庭 久美子

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、中級における日本語教育の指導方法について、読解教育、作文教育を中心に学ぶ。

【授業における到達目標】

1. 日本語教育における中級レベルの位置付けが理解できる。
2. 日本語教育における中級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中級レベルにおける読解教育の指導方法が理解できる。
4. 中級レベルにおける作文教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. 日本語教育とは
2. 読解教育とは
3. 外国語教授法：読解教育のための様々なアプローチ
4. 読解発問・読解ストラテジー
5. 「読む」ことを中心とした教室活動
6. 語彙教育1（中級の語彙）
7. 語彙教育2（語彙の指導法）
8. 文法教育1（中級の文法）
9. 文法教育2（文法の指導法）
10. 作文教育とは
11. 外国語教授法：作文教育のための様々なアプローチ
12. 「書く」ことを中心とした教室活動
13. 作文の評価
14. 総合演習
15. 後期のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

【参考書】

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

【注意事項】

授業の資料はmanabaに置く。

日本語教授法演習 a

日本語初級前半を教えるということ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本語初級前半を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級前半の日本語テキストを用いて実際に学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う。

【授業における到達目標】

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、日本語初級前半を教えるための基礎的知識と技術を修得する。

その一連の活動・学習を通して「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
日本語教育の基本的知識
- 第2週 初級日本語教科書分析
- 第3週 模擬授業担当課決定
学習項目の分析とは
- 第4週 担当課の学習項目分析
- 第5週 教案とモデル授業
- 第6週 授業例
- 第7週 正確さのための教室活動
- 第8週 なめらかさのための教室活動
- 第9週 模擬授業準備
- 第10週 模擬授業
- 第11週 模擬授業
- 第12週 模擬授業
- 第13週 模擬授業
- 第14週 模擬授業
- 第15週 まとめ

*模擬授業は、グループごとに『みんなの日本語 初級I 第2版』の一つの課を担当し実施する。

【事前・事後学修】

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上全てを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

みんなの日本語 初級I 第2版 本冊[スリーエーネットワーク、2012、¥2,700(税抜)]

みんなの日本語 初級I 第2版 翻訳・文法解説英語版[スリーエーネットワーク、2012、¥2,160(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

発表に際しては十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

日本語教授法演習 a

日本語初級前半を教えるということ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本語初級前半を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級前半の日本語テキストを用いて実際に学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う。

【授業における到達目標】

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、日本語初級前半を教えるための基礎的知識と技術を修得する。

その一連の活動・学習を通して「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
日本語教育の基本的知識
- 第2週 初級日本語教科書分析
- 第3週 模擬授業担当課決定
学習項目の分析とは
- 第4週 担当課の学習項目分析
- 第5週 教案とモデル授業
- 第6週 授業例
- 第7週 正確さのための教室活動
- 第8週 なめらかさのための教室活動
- 第9週 模擬授業準備
- 第10週 模擬授業
- 第11週 模擬授業
- 第12週 模擬授業
- 第13週 模擬授業
- 第14週 模擬授業
- 第15週 まとめ

*模擬授業は、グループごとに『みんなの日本語 初級I 第2版』の一つの課を担当し実施する。

【事前・事後学修】

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上全てを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

みんなの日本語 初級I 第2版 本冊[スリーエーネットワーク、2012、¥2,700(税抜)]

みんなの日本語 初級I 第2版 翻訳・文法解説英語版[スリーエーネットワーク、2012、¥2,160(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

発表に際しては十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

日本語教授法演習 b

日本語初級後半を教えるということ

八木 公子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本語初級後半を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級後半日本語テキストを用いて、実際に初級後半の学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいて初級後半の日本語模擬授業を行う。

【授業における到達目標】

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、日本語初級後半を教えるための基礎知識と技術を修得する。

その一連の活動を通して、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

日本語教育の基礎知識確認

第2週 初級とは

コースデザインとは

第3週 『みんなの日本語 II』分析

第4週 模擬授業担当課決定

学習項目の分析

第5週 担当課の学習項目分析

第6週 模擬授業の流れと教案

第7週 授業例

第8週 模擬授業準備

第9週 模擬授業

第10週 模擬授業

第11週 模擬授業

第12週 模擬授業

第13週 模擬授業

第14週 模擬授業

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上すべてを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊[スリーエーネットワーク、2012、¥2,700(税抜)]

みんなの日本語 初級 I 第2版 翻訳・文法解説英語版[スリーエーネットワーク、2012、¥2,160(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

発表に際しては、十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

日本語教授法演習 b

日本語初級後半を教えるということ

八木 公子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

日本語初級後半を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級後半日本語テキストを用いて、実際に初級後半の学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいて初級後半の日本語模擬授業を行う。

【授業における到達目標】

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、日本語初級後半を教えるための基礎知識と技術を修得する。

その一連の活動を通して、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

日本語教育の基礎知識確認

第2週 初級とは

コースデザインとは

第3週 『みんなの日本語 II』分析

第4週 模擬授業担当課決定

学習項目の分析

第5週 担当課の学習項目分析

第6週 模擬授業の流れと教案

第7週 授業例

第8週 模擬授業準備

第9週 模擬授業

第10週 模擬授業

第11週 模擬授業

第12週 模擬授業

第13週 模擬授業

第14週 模擬授業

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上すべてを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

みんなの日本語 初級II第2版 翻訳・文法解説英語版[スリーエーネットワーク、2012、¥2,160(税抜)]

みんなの日本語 初級I 第2版 翻訳・文法解説英語版[スリーエーネットワーク、2012、¥2,160(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

発表に際しては、十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

日本語研究とコンピュータ a

コンピュータ利用の基礎

植田 麦

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

この授業は、日本語学研究において、より効果的にコンピュータを利用するためのものである。技術的には、日本文学研究でも運用が可能である。また、卒業後の実務においても応用することができる。

【授業における到達目標】

- ・コンピュータの基礎的な知識を身につける。
- ・エクセルを日本語学研究に利用できる。
- ・統計的な思考力を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. コンピュータ利用の基礎知識
3. テキストエディタの使い方と正規表現
4. コーパスの利用 (1)
5. コーパスの利用 (2)
6. 研究ツールとしてのエクセル (1)
7. 研究ツールとしてのエクセル (2)
8. データベースの作成 (1)
9. データベースの作成 (2)
10. 演習発表 (1)
11. 演習発表 (2)
12. 演習発表 (3)
13. 演習発表 (4)
14. 演習発表 (5)
15. 演習発表 (6)

【事前・事後学修】

【事前学修】 (標準：30時間)

演習発表を割り当てるため、発表前は授業内容に基づき、各自でテーマ設定を行い、発表準備をすすめること。

【事後学修】 (標準：30時間)

毎回の授業でコンピュータ利用のための実習を行う。実習後は復習を行い、学習内容の習熟につとめること。

なお、「学修時間」なるものは、個人の裁量によって、自分が適切と思われる時間を確保するべきものである。

【テキスト・教材】

教材は授業中に配布する。

原則として、再配布はしない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習発表……100%

なお、「出席点」なるものは設定しない。ただし、欠席を重ねると授業内容を理解することが難しくなる。

授業内容に応じてフィードバックを行う。

【参考書】

- ・石田基広『Rによるテキストマイニング入門』（森北出版、2017年）
- ・樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』（ナカニシヤ出版、2014年）

【注意事項】

・講義内容は毎回の積み重ねである。そのため、連続して欠席すると授業内容がわからなくなる。公欠の場合はフォローするが、公欠でない場合は各自の自助努力で問題を解決すること。

日本語研究とコンピュータ b

日本語学研究における積極的なコンピュータの利用

植田 麦

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

【この授業は「日本語研究とコンピュータ a」と連続した内容を予定している。そのため、上記授業とあわせての履修が望ましい】

この授業は、コンピュータを積極的に利用することで、より効果的な日本語学研究を行うための技術習得を目的とするものである。

具体的には、

- ・電子的なテキストデータの加工
- ・加工したデータのデータベース化
- ・データベースの形態素解析
- ・形態素解析されたデータの統計処理等の技術を学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・コンピュータの基礎的な知識を身につける。
- ・エクセルを日本語学研究に利用できる。
- ・統計的な思考力を身につける。

【授業の内容】

【この授業は「日本語研究とコンピュータ a」と連続した内容を予定している。そのため、上記授業とあわせての履修が望ましい】

1. ガイダンス
2. 研究ツールとしてのコンピュータ利用 (1)
3. 研究ツールとしてのコンピュータ利用 (2)
4. 研究ツールとしてのコンピュータ利用 (3)
5. エクセルを利用した統計処理 (1)
6. エクセルを利用した統計処理 (2)
7. 形態素解析 (1)
8. 形態素解析 (2)
9. コーパスの加工と形態素解析
10. 形態素解析と統計処理
11. 演習発表 (1)
12. 演習発表 (2)
13. 演習発表 (3)
14. 演習発表 (4)
15. 演習発表 (5)

【事前・事後学修】

【事前学修】 (15時間)

演習発表を割り当てるため、発表前は授業内容に基づき、各自でテーマ設定を行い、発表準備をすすめること。

【事後学修】 (15時間)

毎回の授業でコンピュータ利用のための実習を行う。実習後は復習を行い、学習内容の習熟につとめること。

【テキスト・教材】

教材は授業中に配布する。

原則として、再配布はしない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習発表……100%

なお、「出席点」なるものは設定しない。ただし、欠席を重ねると授業内容を理解することが難しくなる。

授業内容に応じてフィードバックを行う。

【参考書】

- ・石田基広『Rによるテキストマイニング入門』（森北出版、2017年）
- ・樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』（ナカニシヤ出版、2014年）

【注意事項】

講義内容は毎回の積み重ねである。そのため、連続して欠席すると授業内容がわからなくなる。公欠の場合はフォローするが、公欠でない場合は各自の自助努力で問題を解決すること。

日本語日本文学演習A

『一葉日記』を読む

河野 龍也

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

24歳で夭折した樋口一葉の生涯に日記から迫ります。小説の師・半井桃水への淡い思い。遊廓裏手の雑貨店で見た社会の表と裏。これらの経験が「奇蹟の14ヶ月」と呼ばれる名作連発の時期へと繋がる経緯を追いながら、明治の庶民生活の一端を垣間見ます。

【授業における到達目標】

明治文語文の表現に慣れ、意味を正確に理解する。
先行研究、時代資料の調査方法を修得する。
生活の記述から、近代社会のシステムを考察するいとぐちを掴む。

【授業の内容】

- 第1週 樋口一葉概説
- 第2週 一葉小説の世界①—「にぎりえ」
- 第3週 一葉小説の世界②—「たけくらべ」
- 第4週 一葉日記概説
- 第5週 日記「若葉かげ」（明治24年～23年11月）
- 第6週 日記「わか艸」（明治24年4月～6月）
- 第7週 日記「にっ記一」（明治25年1月～2月）
- 第8週 日記「日記」（明治25年3月～4月）
- 第9週 日記「しのぶぐさ」（明治25年6月～8月）
- 第10週 日記「よもぎふにつ記」（明治25年12月～26年2月）
- 第11週 日記「よもぎふにつ記」（明治26年3月～4月）
- 第12週 日記「蓬生日記」（明治26年5月）
- 第13週 日記「塵之中」（明治26年7月～8月）
- 第14週 日記「日記 ちりの中」（明治27年2月～3月）
- 第15週 日記「塵につ記」（明治27年3月～5月）

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：各回で取り上げる範囲につき読解し、疑問点をマークする。
事後学修（週2時間）：授業中に提示された語彙や事項につき調査する。

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の積極性（授業内での調査）50%、考察に基づく発言と内容理解50%で総合評価します。

フィードバック：毎時間、全員交替でテキストを音読しながら、難読箇所や疑問点を確認し、授業時間内に調査を積み重ねます。読み方、調査の結果につき、その場でコメントします。

【参考書】

授業では、鈴木淳・樋口智子・越後敬子編『一葉日記』（2002岩波書店）の翻刻版を併用します。参考として、関礼子注「日記」抄（新日本古典文学大系明治編『樋口一葉集』2001岩波書店）。明治の生活については平出鏗二郎『東京風俗志』（2000ちくま学芸文庫）を活用します。

【注意事項】

各回の日記には前もって目を通し、疑問点をマークしておいてください。読解の進み具合により、各回で扱う内容が変わる可能性があります。

日本語日本文学演習B

『一葉日記』を読む

河野 龍也

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

24歳で夭折した樋口一葉の生涯に日記から迫ります。小説の師・半井桃水への淡い思い。遊廓裏手の雑貨店で見た社会の表と裏。これらの経験が「奇蹟の14ヶ月」と呼ばれる名作連発の時期へと繋がる経緯を追いながら、明治の庶民生活の一端を垣間見ます。

【授業における到達目標】

・明治文語文の表現に慣れ、意味を正確に理解する。
・先行研究、時代資料の調査方法を修得する。
・生活の記述から近代社会のシステムを考察するいとぐちを掴む。

【授業の内容】

- 第1週 樋口一葉概説
- 第2週 一葉小説の世界①—「十三夜」
- 第3週 一葉小説の世界②—「大つごもり」
- 第4週 一葉日記概説
- 第5週 日記「水の上日記」（明治27年6月～7月）
- 第6週 日記「水の上」（明治27年11月）
- 第7週 日記「水の上につ記」（明治28年5月）
- 第8週 日記「みづのうへ」（明治28年5月）
- 第9週 日記「水の上」（明治28年5月～6月）
- 第10週 日記「水のうへ日記」（明治28年10月～11月）
- 第11週 日記「水のうへ」（明治28年12月～29年1月）
- 第12週 日記「みづの上」（明治29年2月）
- 第13週 日記「みづの上日記」（明治29年5月～6月）
- 第14週 日記「みづの上日記」（明治29年6月～7月）
- 第15週 まとめ・討論

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：各回で取り上げる範囲につき読解し、疑問点をマークする。
事後学修（週2時間）：授業中に提示された語彙や事項につき調査する。

【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の積極性（授業内での調査）50%、考察に基づく発言と内容理解50%で総合評価します。

フィードバック：毎時間、全員交替でテキストを音読しながら、難読箇所や疑問点を確認し、授業時間内に調査を積み重ねます。読み方、調査の結果につき、その場でコメントします。

【参考書】

授業では、鈴木淳・樋口智子・越後敬子編『一葉日記』（2002岩波書店）の翻刻版を併用します。参考として、関礼子注「日記」抄（新日本古典文学大系明治編『樋口一葉集』2001岩波書店）。明治の生活については平出鏗二郎『東京風俗志』（2000ちくま学芸文庫）を活用します。

【注意事項】

各回の日記には前もって目を通し、疑問点をマークしておいてください。読解の進み具合により、各回で扱う内容が変わる可能性があります。

日本語日本文学演習 E

修士論文の執筆 1

福嶋 健伸

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

本授業では、修士論文執筆計画を立ててもらい、その後、修士論文の最も中心となる部分に磨きをかけ、研究発表をし、その後、投稿論文に仕上げるという作業を行う。実際に、研究会で発表し、学術雑誌（『実践国文学』等）に投稿してもらうことが、本授業の特徴である。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

【授業における到達目標】

- 1：修士論文のテーマを決定する。
- 2：テーマに沿って先行研究を収集し、先行研究では明らかになっていないことは何かを指摘する。
- 3：上記2を解決するための、適切な調査計画をたて、調査を行う。

【授業の内容】

各学生の発表内容や発表方法等は、受講者数や受講者の興味を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 修士論文執筆計画 1：大まかな構想
- 第2週 修士論文執筆計画 2：具体的なスケジュール
- 第3週 どの部分を投稿するべきか
- 第4週 どの雑誌に投稿するべきか—各雑誌の特徴
- 第5週 院生の発表 1
- 第6週 院生の発表 2
- 第7週 院生の発表 3
- 第8週 院生の発表 4
- 第9週 院生の発表 5
- 第10週 校正の仕方
- 第11週 要旨の書き方
- 第12週 院生の発表 6
- 第13週 院生の発表 7
- 第14週 院生の発表 8
- 第15週 投稿

【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表資料を作成し、事前にリハーサルをしておくこと。（学修時間 週 2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週 2時間）

【テキスト・教材】

授業中にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表70%、授業への積極的参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業中に指示する。なお、必要に応じて、関東日本語談話会や日本語学会等の学外の研究会や学会に参加してもらう。また、院生の理解度や興味に応じて、授業内容を変更する可能性がある。

日本語日本文学演習 F

修士論文の執筆 2

福嶋 健伸

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

本授業では、実際に修士論文を執筆してもらう。具体的には、「はじめに」から「引用文献」までを執筆していく。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

【授業における到達目標】

- 1：修士論文の全体の構成を理解する。
- 2：実際に、修士論文の一部を執筆する。

【授業の内容】

- 第1週 修士論文を書く順序—「はじめに」は最後に書く—
- 第2週 「先行研究のまとめ」の書き方 1
—明らかにされていることは何か—
- 第3週 「先行研究のまとめ」の書き方 2
—明らかにされていないことは何か—
- 第4週 「本研究の位置づけ」の書き方 1—研究の意義—
- 第5週 「本研究の位置づけ」の書き方 2—研究の広がり—
- 第6週 「調査概要」の書き方 1—なぜその資料を選んだのか—
- 第7週 「調査概要」の書き方 2—第三者が再現できるように書く—
- 第8週 「調査結果」の書き方—表や図にまとめる
- 第9週 「考察」の書き方 1—考察対象から独立した現象が必要—
- 第10週 「考察」の書き方 2—再度の調査—
- 第11週 各章の関係—効果的な順序とは—
- 第12週 注の書き方
- 第13週 引用文献の書き方
- 第14週 「はじめに」「おわりに」の書き方
- 第15週 総括及びまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。（学修時間 週 2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週 2時間）

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、授業への積極的参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業中に指示する。必要に応じて、日本語学会や関東日本語談話会等の学外の学や研究会に参加してもらう。また、院生の理解度や興味に応じて、授業内容を変更する可能性がある。

日本語日本文学研究C

明治39年 変動期の文学を読み解く

ブルナ, ルカーシュ

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本近代史において一大事件となり、日本の政治や社会、文化など、あらゆる面に深甚な影響を及ぼした日露戦争は1905年に終了しましたが、翌1906年もまた様々な意味で重要な一年でした。来るべき日本近代文学の大変動をいち早く告げた島崎藤村の長編小説『破壊』が刊行されたのはこの年のことです。

この授業では、同時代の社会的状況や思想的風潮を視野に入れながら、1906（明治39）年の1月から12月までに主な文芸雑誌に発表された短編小説を読み、この一年の日本文学と日本文壇のあり方について考えていきます。

なお、この授業はプレゼンテーション形式ではなく、ディスカッションを中心とした授業です。先行研究や同時代の評価を確認した上で、対象作品に内在する諸問題について話し合います。受講生にはディスカッションへの積極的な参加と意見表明を求めます。

【授業における到達目標】

先行研究や同時代の評価その他の関連資料を調査した上で文学作品のテキストを分析し、考察を行うことによって、自分独自の解釈を導き出す能力が身につく（美の探究、行動力）。

文学作品の諸問題についてディスカッションを行うことによって、自分の意見を発信する能力、相手の指摘をもとに自分の考えを発展させる能力が身につく（協働力、研鑽力）。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 日露戦後の日本文学
3. 1月—伊藤左千夫「野菊の墓」①
4. 1月—伊藤左千夫「野菊の墓」②
5. 2月—正宗白鳥「破調平調」①
6. 2月—正宗白鳥「破調平調」②
7. 3月—小川未明「兄弟」①
8. 3月—小川未明「兄弟」②
9. 4月—高浜虚子「畑打」①
10. 4月—高浜虚子「畑打」②
11. 5月—鈴木三重吉「千鳥」①
12. 5月—鈴木三重吉「千鳥」②
13. 6月—柳川春葉「二おもて」①
14. 6月—柳川春葉「二おもて」②
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 = 対象作品のテキストを事前に確保して読むこと。先行研究や同時代評価など関連資料を調べること（週2時間）。

事後学修 = 作品を再読し、授業中のディスカッションで指摘された問題点を整理し、再考を行うこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

とくになし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（ディスカッションへの参加）70%、レポート30%

疑問点や質問については、随時対応します。

【参考書】

とくになし。

【注意事項】

学部の授業と異なり、個人で行う事前調査や学習の時間が長くなります。指定された作品を読まなければ、ディスカッションに参加できませんので、必ず作品を読み、事前調査を行う必要があります。

日本語日本文学研究D

明治39年 変動期の文学を読み解く

ブルナ, ルカーシュ

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本近代史において一大事件となり、日本の政治や社会、文化など、あらゆる面に深甚な影響を及ぼした日露戦争は1905年に終了しましたが、翌1906年もまた様々な意味で重要な一年でした。来るべき日本近代文学の大変動をいち早く告げた島崎藤村の長編小説『破壊』が刊行されたのはこの年のことです。

この授業では、同時代の社会的状況や思想的風潮を視野に入れながら、1906（明治39）年の1月から12月までに主な文芸雑誌に発表された短編小説を読み、この一年の日本文学と日本文壇のあり方について考えていきます。

なお、この授業はプレゼンテーション形式ではなく、ディスカッションを中心とした授業です。先行研究や同時代の評価を確認した上で、対象作品に内在する諸問題について話し合います。受講生にはディスカッションへの積極的な参加と意見表明を求めます。

【授業における到達目標】

先行研究や同時代の評価その他の関連資料を調査した上で文学作品のテキストを分析し、考察を行うことによって、自分独自の解釈を導き出す能力が身につく（美の探究、行動力）。

文学作品の諸問題についてディスカッションを行うことによって、自分の意見を発信する能力、相手の指摘をもとに自分の考えを発展させる能力が身につく（協働力、研鑽力）。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 日露戦後の日本文学
3. 7月—徳田秋声「老骨」①
4. 7月—徳田秋声「老骨」②
5. 8月—国木田独歩「号外」①
6. 8月—国木田独歩「号外」②
7. 9月—近松秋江「寿命」①
8. 9月—近松秋江「寿命」②
9. 10月—島崎藤村「家畜」①
10. 10月—島崎藤村「家畜」②
11. 11月—泉鏡花「春昼」①
12. 11月—泉鏡花「春昼」②
13. 12月—田山花袋「アリユウシャ」①
14. 12月—田山花袋「アリユウシャ」②
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 = 対象作品のテキストを事前に確保して読むこと。先行研究や同時代評価など関連資料を調べること（週2時間）。

事後学修 = 作品を再読し、授業中のディスカッションで指摘された問題点を整理し、再考を行うこと。（週2時間）

【テキスト・教材】

とくになし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（ディスカッションへの参加）70%、レポート30%

疑問点や質問については、随時対応します。

【参考書】

とくになし。

【注意事項】

学部の授業と異なり、個人で行う事前調査や学習の時間が長くなります。指定された作品を読まなければ、ディスカッションに参加できませんので、必ず作品を読み、事前調査を行う必要があります。

日本語表現を極める a

論理的な文章を書くために

瀧口 翠

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

レポート・論文の文章は、それを読む者が理解し、できれば共鳴してくれるものであることが求められます。そのためには、先行論文を正しく理解し、批評しつつ、自分の意見を論理的に提示することが必要です。具体的にどのようなことに留意すべきなのか、また、文章をどのように構成したら良いかを学んで、論理的な文章を書く方法を身につけることを目指します。

【授業における到達目標】

論説文のスタイルを身に付ける。

学生が修得すべき「美の探求」について、物事を探求することにより、新たな知を創造しようとする態度を身につける。「行動力」について、現状を正しく把握し、課題を発見して追求する態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 小論文の作成
- 第3週 小論文の相互批評
- 第4週 テーマを探す
- 第5週 論文の構成
- 第6週 論文作成の手順
- 第7週 アカデミックワード
- 第8週 先行研究の集め方・読み取り
- 第9週 要約の方法（1）紹介文
- 第10週 要約の方法（2）論説文
- 第11週 先行研究の要約・批評
- 第12週 課題文の相互批評
- 第13週 調査の概要
- 第14週 調査結果と考察
- 第15週 まとめ

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評および添削によって進めます。

【事前・事後学修】

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください（学修時間 週2時間）。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の内容と授業への参加態度（70%）、最終レポート（30%）によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

- 石原千秋著『大学生のための論文執筆法』（ちくま新書）
- 小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

【注意事項】

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

日本語表現を極める b

論理的な文章を書くために

瀧口 翠

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

レポート・論文の文章は、それを読む者が理解し、できれば共鳴してくれるものであることが求められます。そのためには自分の意見はもちろん、意見を導き出す論理や依拠した材料（事実・資料）をはっきり示さなくてはなりません。具体的にどのようなことに留意すべきなのか、また、文章をどのように構成したら良いかを学んで、論理的な文章を書く方法を身につけることを目指します。

【授業における到達目標】

論文の書き方を身につける。

調査結果の分析から、自分の意見を論理的に述べられるようになる。

学生が修得すべき「美の探求」について、物事を探求することにより、新たな知を創造しようとする態度を身につける。「行動力」について、データを正しく分析し、問題提起する力をつける。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 論文・レポートの作法（1）基本的な形式
- 第3週 論文・レポートの作法（2）基本的な構成
- 第4週 先行論文に学ぶ（1）引用の方法
- 第5週 先行論文に学ぶ（2）注のつけ方
- 第6週 文章の整え方（1）悪文を読む
- 第7週 文章の整え方（2）校正する
- 第8週 文章の整え方（3）書き直す
- 第9週 段落の立て方（1）立てるべき場所
- 第10週 段落の立て方（2）練習問題
- 第11週 段落の立て方（3）実作
- 第12週 論文・レポートの構成（1）先輩の論文に学ぶ
- 第13週 論文・レポートの構成（2）データ分析と結果の示し方
- 第14週 論文・レポートの構成（3）論文の相互評価
- 第15週 まとめ

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評及び添削によって進めます。

【事前・事後学修】

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください（学修時間 週2時間）。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の内容と授業への参加態度（70%）、最終レポート（30%）によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

- 石原千秋著『大学生のための論文執筆法』（ちくま新書）
- 小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

【注意事項】

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

日本語表現法 a

—正しく理解し、表現する力を磨く—

高瀬 真理子・西脇 智子・佐藤 辰雄・大塚 みさ・鹿島 千穂

1年 前期・後期 1単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

日常の多様な場面で円滑なコミュニケーションをとるためには、文章や話の内容を正確に理解した上で、自分の思考したことを論理的に組み立てて明快な日本語で表現する能力が不可欠です。

この授業では、文章の要約力養成を目指した演習を積み重ねるとともに、学業上必要なアカデミック・ライティングの基礎力と敬語の運用能力の養成を行います。また、毎授業時には表記能力とボキャブラリーの増強を目指した小テストを実施します。

【授業における到達目標】

・学びの成果を客観的かつ定期的に点検し、到達度を実感することによって「研鑽力」を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・プレテストによる力試し
- 第2週 読解・要約力をつける 1 段落構成と接続語に注目する
- 第3週 読解・要約力をつける 2 話題同士のつながりに注目する
- 第4週 読解・要約力をつける 3 話題や主張を押さえて要約する
- 第5週 読解・要約力をつける 4 論旨展開構造を意識して要約する
- 第6週 アカデミック・ライティング 1 語句・表現を適切に用いる
- 第7週 アカデミック・ライティング 2 説得力のある文を書く
- 第8週 アカデミック・ライティング 3 文章の論理展開を確認する
- 第9週 表現力を磨く 1 日本語を正しく書く
- 第10週 表現力を磨く 2 語彙力・表現力を駆使して書く
- 第11週 表現力を磨く 3 味わい深い文章を書く
- 第12週 ポストテストで要約力の到達度を確認する
- 第13週 敬語の復習と実践演習 1 ビジネス会話に慣れる
- 第14週 敬語の復習と実践演習 2 手紙・季節の挨拶文を書く
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 国語辞書を用いて語句の意味をきちんと理解しながら小テストの準備を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】：小テストおよび要約演習の徹底的な復習を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

『現代文100字要約ドリル 基礎編』（駿台文庫）を使用し、授業中に数回の要約演習（うち5回は添削指導付き）を行います。毎回の使用分を授業で配布しますので、購入の必要はありません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題・提出物・ワーク等70%、授業態度・小テスト等30%。小テストはその日の授業、演習課題は原則として2週間後の授業でフィードバックを行います。

【注意事項】

- ・授業内容や扱う順序は、担当教員によって多少異なることがあります。
- ・国語辞書（電子媒体も可）を用意して、事前・事後学修で活用する習慣を身につけましょう。
- ・語彙力・表現力を磨くために、優れた文章に触れる機会を多く持ちましょう。また、新聞を読み、考える習慣をつけましょう。
- ・アカデミック・ライティングについては「実践入門セミナー」で取り扱う授業内容とも関連するので、図書館の利用方法やレポートの書き方なども含めて十分に理解できるよう努めましょう。

日本語表現法 b

—実社会で役立つ表現能力を身につける—

佐藤 辰雄・鹿島 千穂

1年 後期 1単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

情報化の時代といわれる現在、積極的に正しく情報発信を行うためには、明快かつ簡潔で曖昧さのない表現能力が不可欠です。

この科目は、「実践入門セミナー」で培った基礎力をもとに、日本語力のいっそうの向上と、実習や添削指導を通して実社会で役に立つ表現能力を確実に身につけることを目標とします。

【授業における到達目標】

日本語を的確に読み・書き・話し・聞く能力を高める過程を通して成果を実感し、更なる目標に向けて努力する研鑽力を養います。また、日本語や日本語の特徴を理解し、それに対応した学修を回復することで、若い女性としての感性やマナーを修得していきます。

さらに、履歴書やエントリーシート・志望理由書の作成を通して、社会人になるための基本的な知識と対策を学修していきます。

【授業の内容】

1. オリエンテーション—授業の進め方
 2. 日本語力をみがく (1) —慣用句・四字熟語・定型表現
 3. 日本語力をみがく (2) —類義語・対義語の使い方
 4. 日本語力をみがく (3) —ことわざ・故事成語
 5. 文章表現能力をみがく (1) —文の組み立て
 6. 文章表現能力をみがく (2) —文のつながり
 7. 文章表現能力をみがく (3) —意味の限定・言葉の順序
 8. 文章表現能力をみがく (4) —曖昧文を直す
 9. 文章表現能力をみがく (5) —補助記号を上手に使う
 10. 敬語の運用能力をみがく (1) —敬語の種類を理解する
 11. 敬語の運用能力をみがく (2) —敬語を書く
 12. 敬語の運用能力をみがく (3) —敬語を話す
 13. 敬語の運用能力をみがく (4) —実践敬語を磨く
 14. 社会におけるコミュニケーションの方法を身につける
 15. まとめ
- *随時、グループワークを行います。

*内容は教員によって多少異なる場合もあります。

【事前・事後学修】

【事前学修】

プリントや教科書をよく読んで、授業内容を把握しておきましょう。また、自分の専門の本や小説・新聞を持続的に読んで、漢字書き取りや諺を中心とする小テストに備えましょう。（週2時間）

【事後学修】

授業内容をしっかり復習するとともに、授業中に実施した漢字書き取りや諺を中心とする小テストを、100%解けるように努力しましょう。（週2時間）

【テキスト・教材】

佐藤辰雄：『日本語表現ノート』（500円）を使用します。

鹿島千穂：授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）、小テスト（30%）で評価します。

翌週に小テスト・提出物を返却してフィードバックします。

【参考書】

適宜紹介します。

【注意事項】

- ・毎授業時に、漢字やことわざ・慣用句・四字熟語等の小テストを行います。
- ・意欲に応じてさまざまな課題に挑戦できます。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

日本語文法論 a

自立語を中心して

福嶋 健伸

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業の目標は次の二つである。

1 高校までの古文文法の徹底。

2 上記1を踏まえた上で、古文文法の何が研究対象となるかを押さえる。

大学の授業は、高校までの古文文法の知識があることを前提としている。しかし、高校のカリキュラムによっては古文文法に時間を割かないこともあるのが実状である。古文文法が苦手であれば、古文を読むことが難しいのは言うまでもなく、特に、教員免許を取得する学生は、教育実習で古文を教える立場になる可能性があり、問題は深刻である。

このような状況を踏まえ、この授業では、古文文法を基礎から学び、その後、大学の研究レベルから、高校レベルの古文文法を見直すことにする。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」「学修成果を実感して、自信を創出することができる能力」を修得する。

【授業の内容】

大学入試用に作られたテキストの問題を解いてもらい、解答の解説を行う。高校までの古文文法の基礎ができた段階で、何故そのような入試問題が作られたのかを考え、大学の研究レベルから高校までの古文文法を見直す。

第1週 何故、古文文法を学ぶのか

第2週 歴史的仮名遣い

第3週 文の成分

第4週 文節と単語と品詞

第5週 動詞の活用1—四段、上二段、上一段、下二段、下一段—

第6週 動詞の活用2—ラ変、カ変、ナ変、サ変—

第7週 形容詞の活用

第8週 形容動詞の活用

第9週 助動詞のポイント

第10週 助動詞の接続

第11週 助動詞1—キとケリ—

第12週 助動詞2—ツ・ヌ・タリ・リ—

第13週 助動詞3—ル・ラル—

第14週 助動詞4—ス・サス・シム—

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示された問題を解いて、疑問点をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

望月光著『基礎から学べる 入試古文文法』（代々木ライブラリー、2003年）900+税

なお、適宜、補助プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

80%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）20%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

学生の理解度にあわせて授業中に紹介する。

【注意事項】

詳細は最初の授業において指示をする。暗記中心の授業となるので、楽に単位をとりたい学生にはおすすめできない。また、既に高校までの古文文法を十分に習得している学生には物足りないと思われる。しかし、古文文法を一から徹底的に学びたい学生にはおすすめである（厳しい授業ではあるが、気がつくと、難関大学の入試問題を解けるようになっていく）。テキストの解答は授業中に回収するので、この点は、予め断っておく。なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。

日本語文法論 b

付属語を中心として

福嶋 健伸

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古文離れの傾向は年々顕著になるようであり、その一因として、古文文法の学習がおろそかにされていることが挙げられる。最近では、中学校・高校の国語の教員ですら古文文法が苦手という場合があるという。これでは、「①教員が古文文法を好きではない」→「②学生が古文文法を理解できず、古文離れをおこす」→「③古文を好きではない学生が教員になる」→①に戻る、という悪循環を起し、古文離れが加速してしまう。

このような状況を踏まえ、古文離れを少しでもくい止めるべく、この授業では、以下の二つを目標とする。

- 1 高校までの古文文法（特に付属語）の徹底。
- 2 上記1を踏まえた上で、古文文法の何が研究対象となるかを押さえる。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」「学修成果を実感して、自信を創出することができる能力」を修得する。

【授業の内容】

大学入試用に作られたテキストの問題を解いてもらい、解答の解説を行う。高校までの古文文法の基礎ができた段階で、何故そのような入試問題が作られたのかを考え、大学の研究レベルから、高校レベルの古文文法を見直す。

- 第1週 古文文法の基礎知識の復習
- 第2週 助動詞1ーム・ムズー
- 第3週 助動詞2ーラム・ケムー
- 第4週 助動詞3ーナリー
- 第5週 助動詞4ーラシ・メリ・ベシー
- 第6週 助動詞5ーマシ・マホシー
- 第7週 助動詞6ーズ・ジ・マジー
- 第8週 助詞1ーノ・ガ・ヨリ・ニテ・シテ
- 第9週 助詞2ーバ・トモ・ドモ・テ・デ・モノノ・モノカラ・モノユエ等ー
- 第10週 助詞3ーゾ・ナム・ヤ・カ・コソ・ハ・モー
- 第11週 助詞4ーダニ・スラ・サヘ・シ・バカリ・ノミー
- 第12週 助詞5ーカシ・カナ・バヤ・テンガナ・ニシガナ等ー
- 第13週 敬語ー多方面への敬語だって本当は難しくないんですー
- 第14週 古文文法の知識を用いて文学作品を読解する
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】指示された問題を解いて、疑問点をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

『基礎から学べる 入試古文文法』（望月光著 代々木ライブラリー、2003年）900円+税

なお、適宜、補助プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト80%・平常点（授業態度・積極的参加・提出課題）20%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックは疑問点の解消を中心とする。

【参考書】

学生の理解度にあわせて紹介する。

【注意事項】

詳細は最初の授業において指示をする。暗記中心の授業となるので、楽に単位をとりたい学生にはおすすめでできない。また、既に高校までの古文文法を十分に習得している学生には物足りないと思われる。しかし、古文文法を一から徹底的に学びたい学生にはおすすめである（厳しい授業ではあるが、気がつくと、難関大学の入試問題を解けるようになっていく）。テキストの解答は授業中に回収するので、この点は、予め断っておく。なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。

日本国憲法

日本国憲法により国民に保障された「権利」について学ぶ

斎藤 孝

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

概要：

憲法により国民に保障されたさまざまな「権利」（憲法上の権利）一たとえば自由権・社会権・参政権などとはいかなるものかについて学ぶ。

目的：

「憲法上の権利」とは、具体的にどのようなものかについて学ぶ。

【授業における到達目標】

到達目標：

憲法上の権利を学ぶことについて理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が習得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を習得する。

【授業の内容】

第1週 序 ―日本国憲法はどのように制定されたか―

第2週 「権利」はどのように分類（体系化）されるか

第3週 「権利」はすべての人に保障されるか

第4週 「権利」は私人間の契約に適用されるか

第5週 「幸福追求権」により何が保障されるか

第6週 「法の下での平等」により何が保障されるか

第7週 「表現の自由」により何が保障されるか

第8週 「職業選択の自由」により何が保障されるか

第9週 「生存権」により何が保障されるか

第10週 「適正手続きの保障」により何が保障されるか

第11週 「参政権」により何が保障されるか

第12週 「司法権」により何が保障されるか

第13週 「違憲審査権」とはどのようなものか

第14週 「労働基本権」の特異性について

第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：週2時間

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修：週2時間

毎回の授業後に、学んだことを復習したり、関係する事例について考えたりすること。

【テキスト・教材】

古野豊秋・畑尻剛編：新・スタンダード憲法〔第4版〕〔尚学社、2015、¥3,000(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、レポート（30%）。

フィードバックは、授業最終日におこなう。

【参考書】

六法（『ポケット六法』有斐閣 1800円、『法学六法』信山社 1000円など）。

【注意事項】

試験は事例問題を予定しております。憲法の視点から考えて問題を解決する力（リーガル・マインド）を身につけてもらいたいと思います。そのためには、つねに、テレビや新聞のニュースに関心をもち、自分の考え（問題を解決する方法）を持つように心がけてください。

※募集人数は140名です。

日本国憲法

金津 謙

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本国憲法が保障する基本原理（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）とはどのようなものか。本講義では、とりわけ、基本的人権を中心に学んでいきたい。また、ビデオを鑑賞して憲法について考えてもらいたいと思います。

【授業における到達目標】

基本的人権について理解し、さまざま社会問題を人権規定から考察し課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

1. 日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権総論（私人間効力など）
3. 幸福追求権
4. 法の下での平等
5. 精神的自由（表現の自由など）
6. 経済的自由（職業選択の自由など）
7. 人身の自由（適正手続きの保障など）
8. 社会権（生存権など）
9. 参政権（選挙制度など）
10. 国会
11. 内閣
12. 裁判所
13. 違憲審査制
14. 地方自治
15. その他

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

伊藤正己：憲法入門〔第4版補訂版〕〔有斐閣、2006、¥1,600(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テストの結果、出席状況・授業内レポートによって総合的に評価します。テスト80点、授業内提出物20点の配点です。日程により可能であれば試験結果については最終回でフィードバックの予定です。

【参考書】

授業時に指示。

【注意事項】

授業時に指示。

*募集人数は200名です。

日本史

千本 秀樹
1年～ 前期 2単位
◎：国際的視野 ○：行動力

日本史 b

千本 秀樹
2年～ 後期 2単位
◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本列島には地域によってさまざまな文化が存在し、それゆえに豊かであった。しかし「日本」とはどの地域をさすのか、わたしたちが「日本文化」と認識しているものは何なのか。日本の範囲は時代によって異なつたし、観念的に考えられている「日本文化」とは明治維新以降、文化の均質化によって政治的に作られたものである。地域文化の差異性こそが重要なのだということに気がついてもらいたい。原始時代からの日本列島の歴史を概観しつつ、日本人とは何か、「日本文化」とは何かを考える。

【授業における到達目標】

現在の自己と社会が過去の人間と自然の営みの蓄積のうえにあることを理解し、現在の自己と歴史が接続していることを体感できるようにする。

歴史を通して、現在と未来の生き方を考えられるようになる。
学生が修得すべき「研鑽力」のうち、国際的な視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜き、行動力のうち、課題を発見し問題解決につなげる力を獲得する。

【授業の内容】

1. 「日本」とはどこか
2. 縄文人と弥生人
3. 大和と蝦夷
4. 二重政権の鎌倉時代
5. 命が危険で自由な中世
6. 平和で不自由な江戸時代
7. 開国か攘夷か
8. 日本的近代化か西洋的近代化か
9. 自由民権運動と日清・日露戦争
10. 大正デモクラシーからアジア・太平洋戦争へ
11. 「戦後民主主義」とは
12. 明治維新後に作られた「国語」
13. 明治民法で作られた家制度
14. 国家神道とは何か
15. 「日本人」とは何か

【事前・事後学修】

事前学修 テキストと配布プリントを熟読し、関連する事項について調べておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修 授業時間内に興味を持ったことについて、さらに深めるような学修をすること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

千本秀樹他：「伝統・文化」のタネあかし[アドバンテージ・サーバー、2008、¥540(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のリアクション・ペーパー(感想文)によって、教員との間でどの程度のコミュニケーションが成り立っているかという点を重視する。

毎回のリアクション・ペーパーの提出は必須とする。その内容評価を50%とし、最終週の課題文作成を50%とする。

リアクション・ペーパーについては、翌週配布してコメントし、最終週の課題文については、実施後に課題について講評する。

【授業のテーマ】

差別はこれまでの日本文化を特徴づける重要な要素である。この講義では、いわゆる「賤民」とされてきた人々の歴史と、差別に反対する運動の歴史をとりあげる。部落「間」差別は、過去の問題でも西日本だけに存在するものでもない。また差別されている人々にとってだけの問題ではなく、内閣同和対策審議会の答申のように、その差別の解消は「国の責務であり、国民的課題」である。差別する側、差別の存続を許している側の問題なのである。現在の差別の実態はどうか、芸能にたずさわったり、社会にとって不可欠な技術を持っている人々がなぜ差別されるようになったのかという歴史をふまえて、差別撤廃の展望をさぐる。

【授業における到達目標】

隠されている日本社会の現実を知り、それが自分と無関係でないことを自覚する。

日本社会の差別構造が、日本列島の文化史、日本人の精神史のうえに成り立っていることを理解する。

弱者、被差別者を憐れむのではなく、すべての他者と互いに尊敬しあえる関係をめざす生き方を追求できるようにする。

学生が修得すべき協働力のうち、互いを尊重・尊敬し信頼を醸成して豊かな人間関係と社会を構築する力を獲得する。

世界の様々な差別と比較して考えることによって、日本社会を相対化して把握する力を身につける。

【授業の内容】

1. 「誇りうる部落の歴史」
2. 就職差別の実像
3. 結婚差別の実像
4. 日本の資本制はなぜ差別を必要としたか。
5. 狭山事件
6. 「造花の判決」
7. 石川一雄さんのおいたち
8. 石川一雄さんはなぜ自白を維持したか
9. 読み書きができる、できないとはどういうことか
10. 古代国家と身分
11. 中世における技術と芸能
12. 近世身分制度
13. 賤民制廃止令
14. 全国水平社の創立
15. 差別行政と解放運動

【事前・事後学修】

事前学修 毎回配布するプリントを読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修 授業内で興味を持ったテーマについて、さらに学修を深める。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

資料を印刷して配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のリアクション・ペーパー(感想文)によって、教員との間でどの程度のコミュニケーションが成り立っているかを重視する。

毎回のリアクション・ペーパーの提出は必須とする。その内容評価を50%とし、学期末レポートを50%とする。

リアクション・ペーパーについては翌週コメントし、レポートについては最終週に課題について講評する。

【参考書】

- 『部落問題・人権事典』(解放出版社)
- 『部落問題論への招待』(解放出版社)
- 『同和教育への招待』(解放出版社)
- そのほか、随時紹介する。

日本事情

日本語教育の周辺

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本語教育に関わる上で必要とされる事柄について学び、考えることを目標とする。

日本語教育の歴史と現状を社会との関係の中で見ていく。

関連する言語政策、移民政策についても扱う。

多文化共生のために必要な事柄について学ぶ。

【授業における到達目標】

多様化が進む日本社会あるいは世界において、様々な人々と互いの価値を認め合い共生することの意味を学ぶ。

これからの日本社会のあり方に関心を持ち、一人ひとりが自分の考えを持つ。

グループで協働して課題に取り組むことを通し「協働力」を磨き、

また授業全般を通して「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

受講生は、少人数のグループに分かれ、授業テーマに関係する課題を分担し調べ発表する。発表後に質疑応答をする。

第1週 オリエンテーション

第2週 日本語教育の歴史と現状

レポーター担当決定

第3週 多文化社会日本の現状と移民政策

第4週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表① ブラジル人 保見団地の場合など

第5週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表② 農村の国際結婚 新潟の場合など

第6週 日本の言語政策

第7週 多文化共生社会とは

第8週 多文化共生への実践

ーレポーター発表③ 身近な自治体の取り組み例など

第9週 多文化共生への実践

ーレポーター発表④ 「やさしい日本語」など

第10週 年少者日本語教育の現状と問題

第11週 年少者日本語教育 実践例

第12週 異文化接触と異文化適応

第13週 異文化摩擦と異文化理解

第14週 異文化トレーニング

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後、配布資料と授業ノートを読み返し、復習しておくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

レポーター発表の際は、授業外にグループメンバーで集まり十全の準備を進めること。

レポーター発表を聞いた後、発表内容についての小レポートを翌週提出することもある。

(以上全てを含め、事前・事後学修時間 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

特に使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物30%、レポーター発表30%、学期末試験30%、平常点（授業への取り組み）10%により、総合的に評価する。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本事情

日本語教育の周辺

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本語教育に関わる上で必要とされる事柄について学び、考えることを目標とする。

日本語教育の歴史と現状を社会との関係の中で見ていく。

関連する言語政策、移民政策についても扱う。

多文化共生のために必要な事柄について学ぶ。

【授業における到達目標】

多様化が進む日本社会あるいは世界において、様々な人々と互いの価値を認め合い共生することの意味を学ぶ。

これからの日本社会のあり方に関心を持ち、一人ひとりが自分の考えを持つ。

グループで協働して課題に取り組むことを通し「協働力」を磨き、

また授業全般を通して「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

受講生は、少人数のグループに分かれ、授業テーマに関係する課題を分担し調べ発表する。発表後に質疑応答をする。

第1週 オリエンテーション

第2週 日本語教育の歴史と現状

レポーター担当決定

第3週 多文化社会日本の現状と移民政策

第4週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表① ブラジル人 保見団地の場合など

第5週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表② 農村の国際結婚 新潟の場合など

第6週 日本の言語政策

第7週 多文化共生社会とは

第8週 多文化共生への実践

ーレポーター発表③ 身近な自治体の取り組み例など

第9週 多文化共生への実践

ーレポーター発表④ 「やさしい日本語」など

第10週 年少者日本語教育の現状と問題

第11週 年少者日本語教育 実践例

第12週 異文化接触と異文化適応

第13週 異文化摩擦と異文化理解

第14週 異文化トレーニング

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

授業後、配布資料と授業ノートを読み返し、復習しておくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

レポーター発表の際は、授業外にグループメンバーで集まり十全の準備を進めること。

レポーター発表を聞いた後、発表内容についての小レポートを翌週提出することもある。

(以上全てを含め、事前・事後学修時間 各々週2時間程)

【テキスト・教材】

特に使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物30%、レポーター発表30%、学期末試験30%、平常点（授業への取り組み）10%により、総合的に評価する。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

日本美術史演習A

美術史学の方法と実践

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

美術史研究に関する、より高度な専門的知識及びその研究方法を学ぶ。将来専門職に就いて、自立した研究者として活躍できるようになることを目指す。

【授業における到達目標】

高度な知識に基づく研究成果を論文としてまとめる。

【授業の内容】

受講者の修士論文作成に関連した問題の中から、この演習で取り組む研究テーマを決め、研究計画を立てて、途中経過を順次発表する。発表後は教師や他の受講者の意見やコメントを踏まえて、引き続きテーマを展開してゆく。必要に応じて、作品の実地調査を行う。日程は受講者や先方研究機関等と相談の上決めるので、下記の順番は入れ替わることがある。作品調査の方法全般（所蔵者との交渉段階から、調書の取り方、撮影など）についても指導する。

- 第1週、イントロダクション（テーマ設定と授業計画の確認）
- 第2週、発表（1）研究テーマの決定・方法の確認
- 第3週、発表（2）これまでの成果と今後の方針を発表
- 第4週、発表（3）（2）を踏まえて、問題点の指摘と討論
- 第5週、作品調査—方法と実演（1）
- 第6週、作品調査—方法と実演（2）
- 第7週、美術史学会全国大会に参加
- 第8週、美術史学会全国大会にて、他大学の院生と交流
- 第9週、学会発表へのコメントと討論
- 第10週、史料操作（1）古文書の解説
- 第11週、史料操作（2）手紙の解説
- 第12週、発表（4）成果を報告、疑問点の提示
- 第13週、発表（5）論文の中間発表
- 第14週、展覧会の見学
- 第15週、作品の実地調査

【事前・事後学修】

【事前学修】学部の基礎演習で配布された資料を読み返す。研究計画をたて、文章化するとともに、研究の進展具合と問題点などをもその都度文章で書く。（週4時間）

【事後学修】発表後には、教師や他の院生のコメントや感想などを考慮しつつ、テーマを再考する。（週4時間）

【テキスト・教材】

特になし。
テーマごとに示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業時の発表と発言）80% レポート20%
授業時の発表と発言については、その都度フィードバックする。

日本美術史演習B

作品研究の方法と実践

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

美術史研究に関する、より高度な専門的知識及びその研究方法を学ぶ。将来専門職に就いて、自立した研究者として活躍できるようになることを目指す。

【授業における到達目標】

九度名知識に基づく研究成果を論文としてまとめる。

【授業の内容】

受講者は修士論文作成に関連した問題の中から、この演習で取り組むべき研究テーマを決める。日本美術史演習Aの受講を踏まえ、継続的かつ発展的なテーマを選ぶことが肝要である。研究計画を立てて、途中経過（成果）を順次発表する。発表後、教師や他の受講者の意見やコメント等を踏まえて、引き続きそのテーマを発展させる。必要に応じて作品の実地調査や他の研究機関での資料調査等を行う。日程は、受講者や先方研究機関との相談の上決める。そのため下記の順番は入れ替わることがある。

- 第1週、イントロダクション（研究計画と研究方法の確認）
- 第2週、発表（1）テーマと研究方法の確認
- 第3週、発表（2）これまでの成果を報告
- 第4週、発表（3）（2）を踏まえて、問題点を指摘、討論
- 第5週、作品調査の計画
- 第6週、作品の実地調査の準備（先方への連絡他）
- 第7週、作品の実地調査（1）
- 第8週、作品の実地調査（2）
- 第9週、京都方面への研究旅行（京博ほか）
- 第10週、京都方面への研究旅行（大和文華館ほか）
- 第11週、研修旅行の反省と問題点（討論）
- 第12週、発表（4）現在の問題点と今後の計画
- 第13週、発表（5）論文のまとめ方指導
- 第14週、展覧会の見学
- 第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各自の研究計画をまとめる（週4時間）

【事後学修】発表後には、教師や他の院生のコメントや感想を考慮しつつ、テーマについて再考する（週4時間）

【テキスト・教材】

特になし

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、平常点（授業への積極参加による発言・発表）60%
授業時の発言・発表については、その都度フィードバックする。

日本美術史演習 a

—日本美術を読む・語る・考える—

仲町 啓子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

絵画作品を言葉で説明し、その表現について語ることは必ずしも容易なことではない。「見えること」と「見ること」には大きな違いがある。授業では作品を見ながら分析し、そこに潜む多様なメッセージをどのようにしたら読み解けるかについて、具体的な作品に沿いながら考えて行く。

【授業における到達目標】

テーマを設定し、それに対して、適切な研究方法を考え、研究を遂行し、効果的なプレゼンテーションを行う。学生が修得すべき「研鑽力」より、作品や資料を適切に調査・分析して、それが生み出された社会を深く洞察し、その分析内容を他者に的確に伝えるする能力を養うとともに、「美の探求」より、日本の文化・美術を理解し、感受性を深める力を修得し、同時に地道かつ積極的に目的に向かって調査研究を行う「行動力」を養う。

【授業の内容】

1. インTRODダクション。
各自、発表する作品を選ぶ。
2. 分析方法について、教師と相談して発表の方針を決める。
3. ワーポイントを作成し、発表の準備をする。
4. 研究発表1 (Aグループ)
5. 研究発表2 (Bグループ)
6. 研究発表3 (Cグループ)
7. 研究発表4 (Dグループ)
8. 研究発表5 (Eグループ)
9. 研究発表6 (Fグループ)
10. 研究発表7 (Gグループ)
11. 研究発表8 (Hグループ)
12. 研究発表9、発表時は、知識の伝達だけでなく、作品のディスクリプションを丁寧に言うように心掛ける。
13. 研究論文の講読1
14. 研究論文の講読2
異なった立場の論文を作品の分析方法に注目しながら読み進める。各自が順に担当箇所の内容を要約して発表する。関連事項を調べ、かつ自らの意見や感想等も加える。
15. 展覧会の見学。

【事前・事後学修】

【事前学修】 図書館の美術図版集や東京国立博物館・京都国立博物館のホームページ上で公開されている収蔵品を見て、研究してみたい作品を選ぶ。作品研究上の比較作品を教員と相談しつつ決定して、参考論文などを集める。(週2時間)

【事後学修】 授業時の教師や他の学生からのコメント(口頭及びペーパー)を吟味し、研究を発展させる。(週2時間)

【テキスト・教材】

各自のテーマごとに教師が指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

自ら問題点・疑問点を見つけるとともに、興味を抱いた問題についてはどんどん掘り下げて行く積極性を期待している。レポートは発表内容を発展させたものとする。なお、展覧会見学の後は、作品のディスクリプションや感想(ミニレポート)を提出してもらう。授業時の発表や発言が50点、学期末のレポートが40点。途中のミニレポートは10点。授業時の発表や発言及びレポート類はフィードバックする。

【注意事項】

授業時の発表・発言を重視する。

日本美術史演習 b

—日本美術を体験する・語る・研究する—

仲町 啓子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

絵画作品を言葉で説明し、その表現について語ることは必ずしも容易なことではない。「見えること」と「見ること」には大きな違いがある。授業では作品を見ながら分析し、そこに潜む多様なメッセージをどのようにしたら読み解けるかについて、具体的な作品に沿いながら考えて行く。

【授業における到達目標】

実見した作品から問題を設定し、適切な研究方法によって、研究を遂行し、最後にわかりやすいプレゼンテーションを行う力を養う学生が修得すべき「研鑽力」より、作品や資料を適切に調査・分析して、それが生み出された社会を深く洞察し、その分析内容を他者に的確に伝えるする能力を養うとともに、「美の探求」より、日本の文化・美術を理解し、感受性を深める力を修得し、同時に地道かつ積極的に目的に向かって調査研究を行う「行動力」を養う。

【授業の内容】

1. インTRODダクション。
関西方面への研修旅行の日程・見学場所等を決定する。
2. 見学する場所・作品などを分担して調べる。
3. 研究調査内容の発表1 (角屋の襖絵を中心に)
パワーポイントで、作品の特徴を具体的に指摘すること
4. 研究調査内容の発表2 (展覧会を中心に)
5. 研究調査内容の発表3 (寺院の襖絵を中心に)
6. 研修旅行 (角屋ほか)
7. 研修旅行 (京都国立博物館ほか)
8. 研修旅行 (寺院の襖絵ほか)
9. 研修旅行 (大和文華館ほか)
10月末から12月初めの時期を予定している。
二泊三日の日程なので4回分の授業とする。
展覧会や特別公開などの日程を見て決める。
直に作品を見て、存在感、質感、スケールに触れる。
実際に使用された場と作品の関係も、現場で確かめる。
このような体験は美術史研究の出発点である。
じっくり見ることを心がけて欲しい。
10. 実見に基づく調査内容の発表1 (京博の展覧会)
旅行後の感想や意見を話し合う。
パワーポイントに整理して順次発表する。
11. 実見に基づく調査内容の発表1 (京博の展覧会)
12. 実見に基づく調査内容の発表2 (その他の展覧会)
13. 実見に基づく調査内容の発表3 (寺院の襖絵など)
14. 実見に基づく調査内容の発表4 (西本願寺ほか)
15. 展覧会の見学。
授業時間内の見学は困難ではあるが、受講者のみなさんの都合をできるかぎり考慮しながら日程を決める。

【事前・事後学修】

【事前学修】 京都・奈良・大阪の今秋の特別展、及び公開されている寺社(特別公開も含めて)を確認し、出品作について調べる。発表テーマを決め、発表の準備をする。(週2時間)

【事後学修】 発表後には、教員や他の学生からのコメントや感想を考慮しつつ、発表内容を再考してレポートにまとめる。(週2時間)

【テキスト・教材】

各自のテーマに合わせて、その都度、教員が指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の発表・発言を重視する。自ら問題点・疑問点を見つけるとともに、興味を抱いた問題についてはどんどん自分で掘り下げて行く積極性を期待している。
授業時の発表が50点、研修旅行後のレポート10点、学期末のレポート40点。

授業時の発表や発言及びレポート類はフィードバックする。

【注意事項】

研修旅行への欠席は原則として認めない。

日本美術史研究指導特殊演習A

より高度な作品研究と資料分析方法の研究

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読と分析の能力を養う。

【授業における到達目標】

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

【授業の内容】

下記の順に進めるが、一部順番が入れ替わることもある。

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（調査計画の作成、交渉、調査方法の確認）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（賛などの画中記載の解説）
- 第11週、文献研究（関係文書の解説）
- 第12週、文献研究（手紙の解説）
- 第13週、文献研究（画史の講読）
- 第14週、文献研究（画論の講読）
- 第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】調査作品を決定し、次回の学習内容を確認し、十全に予習する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、反省点をまとめ、改善策を考える（週4時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前事後学修50%、授業時での考察内容50%。

各授業では、発言・リアクションをもとめ、その都度フィードバックする。

日本美術史研究指導特殊演習B

より高度な作品研究と資料分析方法の研究（2）

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、未紹介の実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読し分析する能力を養う。

【授業における到達目標】

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

【授業の内容】

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（Aで扱った作品とは異なる調査作品を選定）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史を調査）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（古文書の読み方）
- 第11週、文献研究（海外の文献の収集）
- 第12週、文献研究（賛や詞書の解説）
- 第13週、文献研究（手紙の解説）
- 第14週、文献研究（模写・縮図の解説）
- 第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回の予習を徹底する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、改善策を考え、事前学修の内容を改善する（週4時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前学修40%、授業時での取り組み60%。

各授業では、発言・リアクションを求め、その都度フィードバックする。

【参考書】

その都度授業時に指示する。

日本美術史特講 c

桃山時代の風俗画―〈弥勒の世〉を描く

仲町 啓子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

室町時代末から江戸時代初期に好まれた画題のひとつに、風俗画がある。この時期の風俗画の隆盛は、長い内戦後の平和を謳歌する人々の心性と深く関わっているが、しかしながら、何故、室内装飾画（襖絵や屏風絵など）として制作されねばならなかったのだろうか。実はそこにこそ、この時期の風俗画の特徴の一端を垣間見ることができる。

また、風俗画は、歴史書の挿図としてよく使われることからわかるように、往々にして当時の「ありのまま」を写したものであるかのように考えられがちだが、それは間違いである。確かに一定の事実を踏まえてはいるが、事実の記録そのものではなく、あくまで人間の特定の意図や願望によって生み出された絵画つまり「表現されたもの」なのである。授業では、テーマごとにひとつひとつの画面を読み解きながら、当時の人々の制作意図とその背景にある時代の影響、及び造形的な特色を分析する。

【授業における到達目標】

各テーマにおける代表的作品の特徴を理解するとともに、桃山風俗画全体の特色を把握する。

【授業の内容】

下記の順に、ひとつの主題や作品に焦点を当てて論じて行く。

- 1、大和絵の風俗表現と室町末期の月次風俗図・月次祭祀図
- 2、風俗画の発生―町田本洛中洛外図屏風と洛中図扇面
- 3、風俗画の展開―狩野永徳の風俗画
- 4、各論Ⅰ―高雄観楓図屏風と近江名所図屏風など
- 5、各論Ⅱ―武家風俗図（厩図など）
- 6、各論Ⅲ―襖絵として描かれた風俗図・花下風俗図屏風など
- 7、各論Ⅳ―豊国祭祀図屏風
- 8、各論Ⅴ―洛中洛外図屏風の展開
- 9、各論Ⅵ―祭祀図屏風（祇園祭礼・日吉山王祭礼など）
- 10、各論Ⅶ―南蛮屏風と洋風画
- 11、各論Ⅷ―阿国歌舞伎図屏風・四条河原図屏風・相応寺屏風
- 12、各論Ⅸ―遊楽図の変容（彦根屏風・遊郭図など）
- 13、近世初期風俗画の終焉（誰袖図屏風・寛文美人図など）
- 14、統括
- 15、展覧会見学（場所と日時は授業時に指示する）

【事前・事後学修】

【事前学修】 『辻惟雄集4 風俗画の展開』（岩波書店）、あるいは山根有三『桃山の風俗画』（平凡社）の関係箇所（授業テーマに関連した）をを読み、代表的な作品を把握しておく。週2時間

【事後学修】 大学図書館には多くの風俗画関係の本が所蔵されているので、それらで作品の特色と時代背景を確認する。特に『日本屏風絵集成』の風俗画の巻は充実しているので、授業中に配布したプリントと合わせて復習すること。週2時間

【テキスト・教材】

授業時に独自のプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）・課題（20%）・授業への取り組み（遅刻・無断欠席をしない・私語をしない）（10%）。

なお、試験は論述形式で、問題は予め公表する。課題は展覧会見学に関するレポート。

課題（レポート）はコメントを入れてフィードバックする。

【参考書】

- 『日本屏風絵集成』1、10～15巻、（講談社）
- 『国宝彦根屏風』東文研編、（中央公論美術出版社 2008）
- 『躍動と快楽：近世色風俗画』（たばこと塩の博物館開館30周年記念特別展）（たばこと塩の博物館編 2008）
- 『近世風俗画』1～5巻、狩野博幸編著、（淡交社）
- その他は授業時にその都度指示する。

日本美術史特講 d

江戸時代中・後期の絵画史―百花繚乱の絵師たちを巡る―

仲町 啓子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

およそ18世紀半ば頃から19世紀半ば頃までの百年余りの絵画史を論じる。その時期には、社会・経済の安定と都市や近郊農村の富裕層の繁栄に支えられ、多彩な絵師たちが輩出し、江戸時代ならではのなお特色ある絵画が開花した。しかも政治の中心であった「江戸」、長らく都の置かれた「京都」、天下の台所と呼ばれた〈大坂〉、外国船が入港した〈長崎〉では、それぞれに特有な美術活動が展開した。それは美術も、政治や社会の動きと無関係には存在し得ないことを端的に表している。授業では、新しく中国・明清の絵画の影響を受けた18世紀の絵画作品を中心に取り上げ、それらを分析しながら、当時の人々（制作者・受容者）が制作に込めた意図を読み解いてゆく。なお、琳派及び浮世絵は時間の関係上触れない。

【授業における到達目標】

各作品の造形的な特色を把握するとともに、そこに制作者と受容者の意図や価値観、あるいは制作地の問題等がどのような関わりを有しているかを理解する。ひとつのテーマを多角的に深く考える「研鑽力」を養うとともに、日本美術の特色を世界の美術の中で位置付ける「国際的視野」を身につけ、かつ美術表現を分析する点で「美の探求」を深める。

【授業の内容】

下記のようなテーマを順に考える。

- 1、黄檗宗と明清の文化の紹介・南画の先駆者Ⅰ（柳澤淇園）
- 2、画譜の舶載と倭刻・南画の先駆者Ⅱ（祇園南海など）
- 3、南画の大成（池大雅）
- 4、崎人たちの時代（池大雅Ⅱ・徳山玉瀾など）
- 5、南画と俳画（与謝蕪村）・新たな花鳥画（南蘋派）
- 6、個性的な花鳥画（伊藤若冲）
- 7、西洋画との出会い：秋田蘭画（小田野直武・佐竹曙山など）
- 8、西洋画法を再現する（司馬江漢など）
- 9、写生への意欲（円山応挙）
- 10、京都における円山・四条派の隆盛（呉春・長沢芦雪など）
- 11、個性的な絵画（曾我蕭白など）と異国の表象
- 12、江戸の知識人と絵画（谷文晁・渡辺崋山など）
- 13、輩出する女性画家たち
- 14、総括
- 15、展覧会の見学（場所と日時は授業時に指示する）

【事前・事後学修】

【事前学修】 『江戸絵画入門：驚くべき奇才たちの時代』（別冊太陽150、河野元昭監修、平凡社、2007）の関係箇所を読む。週2時間

【事後学修】 大学図書館には、江戸時代の絵画に関する本及び展覧会図録が多数所蔵されている。授業中に配布したプリントも参照しつつ、それらで授業中に言及した絵師や作品を確かめること。週2時間

【テキスト・教材】

授業時に独自のプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）・課題（20%）授業態度（遅刻・無断欠席や私語をしない）（10%）。

なお、試験は論述形式で、問題は予め公表する。

課題は展覧会見学に関するレポート

課題（レポート）はコメントを入れてフィードバックする。

【参考書】

- 『江戸の絵画』小林忠、（藝華書院 2010）
- その他は授業時にその都度指示する。

日本美術史特殊研究A

独創的な研究論文の作成

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

研究史を踏まえて適切な研究テーマを設定し、実証的な調査研究を重ね、オリジナリティの高い研究論文を完成させる。また将来、専門家として活躍できる能力を身につける。

【授業における到達目標】

研究成果を段階的に発展させ、博士論文にする。

【授業の内容】

原則として以下の順を追うが、作品調査等は先方の都合で変更することがある。

- 第1週、イントロダクション（テーマと研究計画の確認）
- 第2週、作品調査の計画を立て、手配の方法等の指導
- 第3週、作品調査に必要な情報の収集方法の指導
- 第4週、作品調査に関連した資料の教示
- 第5週、作品調査
- 第6週、作品調査資料の整理と反省
- 第7週、美術史学会全国大会に参加（3年目の院生は発表）
- 第8週、美術史学会全国大会にて、他大学の院生と交流
- 第9週、学会発表へのコメントと討論
- 第10週、これまでの研究成果の発表
- 第11週、前回のコメントを踏まえて発表内容を修正して発表
- 第12週、手紙等の原資料の読解
- 第13週、関連資料の読解
- 第14週、これまでの成果を発表
- 第15週、展覧会の見学

【事前・事後学修】

【事前学修】次週の学習内容を確認し、質問・意見・感想などの発言が出来るように準備する（週4時間）

【事後学修】授業の内容を踏まえて、自分の研究テーマを進展あるいは修正する。（週4時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の発表と発言80%、レポート20%

授業時の発表と発言に関しては、その都度フィードバックする。

レポートは返却時にフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

日本美術史特殊研究B

より高度な作品研究と資料分析方法の研究（2）

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、未紹介の実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読し分析する能力を養う。

【授業における到達目標】

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

【授業の内容】

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（Aで扱った作品とは異なる調査作品を選定）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史を調査）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（古文書の読み方）
- 第11週、文献研究（海外の文献の収集）
- 第12週、文献研究（賛や詞書の解説）
- 第13週、文献研究（手紙の解説）
- 第14週、文献研究（模写・縮図の解説）
- 第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次回の予習を徹底する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、改善策を考え、事前学修の内容を改善する（週4時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前学修40%、授業時での取り組み60%。

各授業では、発言・リアクションを求め、その都度フィードバックする。

【参考書】

その都度授業時に指示する。

日本美術史特論A

江戸時代の画家研究

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

画家研究の問題点と可能性を多角的に考察する。作品研究の方法や文献資料の解読法を、具体的な例に則して検討するとともに、歴史的存在としての画家のあり方についての洞察を深める。伊藤若冲を中心に18世紀の画家を対象とする。

【授業における到達目標】

江戸時代の美術や文化について深く理解し、作品や資料を適切に分析する能力を養うとともに、それを適切に言葉や文章によって伝える力を身につける。

【授業の内容】

江戸時代の絵師について、詳しく論じる。各テーマごとに、講義を行うとともに課題を課し、絵師研究の問題点について討論を行う。

第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）

第2週、江戸時代の絵師の研究（1）－1

第3週、江戸時代の絵師の研究（1）－2

第4週、江戸時代の絵師の研究（1）－3

第5週、江戸時代の絵師の研究（1）－4

第6週、江戸時代の絵師の研究（2）－1

第7週、江戸時代の絵師の研究（2）－2

第8週、江戸時代の絵師の研究（2）－3

第9週、江戸時代の絵師の研究（2）－4

第10週、江戸時代の絵師の研究（3）－1

第11週、江戸時代の絵師の研究（3）－2

第12週、江戸時代の絵師の研究（3）－3

第13週、江戸時代の絵師の研究（3）－4

第14週、展覧会见学

第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各画家についての参考文献を集め、代表作についての研究史を把握する。（週2時間）

【事後学修】作品と資料を再検討し、授業内容を確実なものとするとともに、問題点を再検討して掘り下げる。（週3時間）

【テキスト・教材】

授業時に示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60%、平常点（授業中での発言と発表）40%

授業時の発言と発表はその都度、レポートは返却時にフィードバックする

【参考書】

授業時に指示する。

日本美術史特論B

江戸時代の画家研究

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

画家研究の問題点と可能性を多角的に考察する。作品研究の方法や文献資料の解読法を、具体的な例に則して検討するとともに、歴史的存在としての画家のあり方についての洞察を深める。

【授業における到達目標】

江戸時代の美術や文化について深く理解し、作品や資料を適切に分析する能力を養うとともに、それを適切に言葉や文章によって伝える力を身につける。池大雅と与謝蕪村を中心に18世紀の画家を対象とする。

【授業の内容】

日本美術史特論Aに引き続き、江戸時代の絵師の研究を行う。テーマごとに講義を行うと同時に、課題を課し、絵師研究の問題点について討論を行う。

第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）

第2週、江戸時代の絵師の研究（4）－1

第3週、江戸時代の絵師の研究（4）－2

第4週、江戸時代の絵師の研究（4）－3

第5週、江戸時代の絵師の研究（4）－4

第6週、江戸時代の絵師の研究（5）－1

第7週、江戸時代の絵師の研究（5）－2

第8週、江戸時代の絵師の研究（5）－3

第9週、江戸時代の絵師の研究（5）－4

第10週、江戸時代の絵師の研究（6）－1

第11週、江戸時代の絵師の研究（6）－2

第12週、江戸時代の絵師の研究（6）－3

第13週、江戸時代の絵師の研究（6）－4

第14週、展覧会见学

第15週、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各画家についての参考文献を集め、代表作についての研究史を把握する。（週2時間）

【事後学修】作品と資料を再検討し、授業内容を確実なものとするとともに、問題点を再検討して掘り下げる。（週3時間）

【テキスト・教材】

授業時に示す。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60%、平常点（授業中での発言と発表）40%

授業時の発言と発表はその都度、レポートは返却時にフィードバックする。

【参考書】

授業時に指示する。

日本美術史入門 a

—日本の美術に親しむ—

仲町 啓子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

代表的な作品を中心に、古代から室町時代半ば頃までの日本美術の歴史を概観する。作品名・制作者名・制作年代などの基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現内容を考える。また、作品の魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。文化史・社会史背景も踏まえながら、ひとつの作品が歴史的にどのような意味を有しているか、あるいは有してきたかについて考える。

【授業における到達目標】

室町時代末までの日本美術史の流れを理解し、各時代の美術の特徴を把握する。代表的な作品の画像を見て、作品名（ある場合は制作者名）を漢字で書けるようになる。重要事項について簡単に説明ができるようになる。学生が修得すべき「美の探求」のうち、日本の文化・美術への理解を深め、感受性を深める力を修得するとともに、世界のなかにおける日本美術の特色を考える「国際的視野」を養います。

【授業の内容】

下記のような順に行う。

1. 日本文化の黎明と仏教東漸
2. 東アジア文化圏のなかの日本美術
3. 平安時代の仏画
4. 平安時代の唐絵と大和絵・絵巻Ⅰ（源氏物語絵巻など）
5. 平安時代の絵巻Ⅱ（鳥獣戯画など）
6. 平安時代の書・料紙装飾・工芸・鎌倉時代の仏画
7. 鎌倉時代の神道美術・大和絵・絵巻
8. 鎌倉時代後半から南北朝の美術—新たな唐絵・大和絵の変化
9. 室町時代の大和絵Ⅰ—宮廷絵所・絵巻・屏風絵の変化
10. 室町時代の大和絵Ⅱ—金屏風
11. 室町時代の唐物の輸入と鑑賞・将軍周辺の文化と造形
12. 室町時代後半の美術Ⅰ—狩野派の登場
13. 室町時代後半の美術Ⅱ—中央（京都）と地方（小京都）
14. 展覧会見学
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館2009年）のpp. 12-94を授業の流れに沿って関係箇所を読む。（週1時間）

【事後学修】manaba上に公開している画像及び配布したプリントを見て、授業内容を確認するとともに、関連作品を図版集などで確認する。（週3時間）

【テキスト・教材】

授業時に基本的な作者名・作品名・用語等を書いたプリントを配布する。そのうち、特に重要な項目には*マークがついているので、最低限それらに関しては正確な漢字で書けるようにすること。テキストは特に指定しないので、配布されたプリントをもとに、授業時の説明を各自ノートに書き留める必要がある。授業はすべてデジタル画像を使って行われる。また、*マークがついた重要作品の画像は、manaba上で公開しているので、家のパソコン等からもアクセスすることができる。上記のプリントとデジタル画像が、実質上の教科書となる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末の試験（90%）、授業への取り組み（10%）（私語・遅刻・居眠りなどなく、授業に取り組めたかどうか）
試験結果は、最終回の授業でフィードバックする。

【参考書】

『日本美術館』（小学館 1997年）

日本美術史入門 b

—日本の美術に親しむ—

仲町 啓子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

絵画史を中心に室町時代末より江戸時代終りまでの日本美術の歴史を概観する。代表的な作品を取り上げ、作品名・制作者名・制作年代などの基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現内容を考える。また、作品の魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。文化史・社会史背景も踏まえながら、ひとつの作品が歴史的にどのような意味を有しているか、あるいは有してきたかについて考える。なお、工芸作品（特にその意匠）も適宜取り上げる。

【授業における到達目標】

室町時代末より江戸時代末に至る日本美術史の流れを理解し、その特色を理解する。同時代の代表的作品の題名と制作者名を漢字で書けるようになる。重要事項について簡単に説明ができるようになる。学生が修得すべき「美の探求」のうち、日本の文化・美術への理解を深め、感受性を深める力を修得する。また世界における「日本美術」の特色を把握する「国際的視野」を養う。

【授業の内容】

下記のような順に行う。

1. 桃山時代の美術Ⅰ—城と襖絵
2. 桃山時代の美術Ⅱ—長谷川等伯・海北友松ほか
3. 桃山時代の美術Ⅲ—風俗画の隆盛
4. 桃山から江戸時代の工芸
5. 桃山から江戸初期の美術Ⅰ—俵屋宗達と江戸初期京都の文化
6. 桃山から江戸初期の美術Ⅱ—狩野探幽・岩佐又兵衛など
7. 桃山から江戸初期の美術Ⅲ—風俗画の変容と浮世絵の誕生
8. 江戸時代の美術Ⅰ—明清文化と南画の隆盛（池大雅ほか）
9. 江戸時代の美術Ⅱ—18世紀京都のユニークな絵師たち（伊藤若沖・曾我蕭白・与謝蕪村ほか）
10. 江戸時代の美術Ⅲ—18世紀京都・江戸の多彩な絵師たち（円山応挙・小田野直武・司馬江漢ほか）
11. 江戸時代の美術Ⅳ—浮世絵の盛期（錦絵の展開）（春信・春章・清長・歌麿・写楽）
12. 江戸時代の美術Ⅴ—19世紀前半の絵師たち—江戸と上方（渡辺崋山・浦上玉堂・田能村竹田ほか）
13. 江戸時代の美術Ⅵ—幕末期の琳派と浮世絵（酒井抱一・北斎・広重・国芳など）
14. 展覧会見学
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館2009年）のpp. 96-141を、授業の進展に沿って読む。（週1時間）

【事後学修】manabaで公開している画像及びプリントで、授業内容を確認するとともに、関連図版などを探して、授業内容をより深める。（週3時間）

【テキスト・教材】

授業時に基本的な作者名・作品名・用語等を書いたプリントを配布する。そのうち、特に重要な項目には*マークがついているので、最低限それらに関しては正確な漢字で書けるようにすること。テキストは特に指定しないので、配布されたプリントをもとに、授業時の説明を各自ノートに書き留める必要がある。授業はすべてデジタル画像を使って行なう。*マークがついた重要作品の画像は、manabaで公開しているので、家のパソコン等からもアクセスすることができる。上記のプリントとデジタル画像が、実質上の教科書となる。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末の試験（90%）、授業態度（10%）遅刻・無断欠席・私語をしない。最終回の授業で、試験内容をフィードバックする。

【参考書】

『日本美術館』（小学館 1997年）

日本文化研究

飯野 智子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本に住んでいると、日本文化、日本社会を当たり前のものと思いき、格段の意識をせずに暮らしているものです。しかし自国の文化や社会についてその構造を知り自分なりの分析ができることは、グローバル社会においてこそ重要です。そこでこの授業では以下のようなことを学びます。

1. 現代の日本社会を分析するための基本概念や知識について学ぶ。
2. 日本文化、日本の近代史、戦争と戦後史について学ぶ。
3. 現代社会の様々な分野で現在問題となっていることの構造を理解し、分析する。
4. 流布する常識や俗説と実際の違いを明らかにし、日本社会について正しい認識を持つ。

【授業における到達目標】

日本の文化、近代化、戦争と現在に至るまでの概括的知識を得て、現状の問題を研究、分析できるようにする。様々な分野の問題について考えることによって、個別の問題を深く追求する姿勢とともに、常に全体社会を考える視野を身につける。社会の変化に敏感になり、多様性を受け入れ、よりよい社会の建設のために自分に何ができるか、主体的に考える姿勢を身に付ける。日本社会について学ぶことを通して「国際的視野」に立とうという姿勢や、問題に対する深い洞察力や「研鑽力」を鍛えようという態度を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンスー日本文化、日本社会を学ぶ意味
2. 日本文化論の系譜
3. 近代化と日本①制度や法律の変化
4. 近代化と日本②思想や行動の変化
5. 戦争と日本ー世界の中の日本と日本ファシズム
6. 戦後の日本社会①政治ー日本の政治の特徴
7. ②社会階層ー格差の構造
8. ③労働ーなぜ「働きすぎ」なのか
9. ④教育ー日本の学校制度
10. ⑤宗教ー近代化と新宗教、若者と新しい宗教
11. ⑥犯罪ー戦後の犯罪から社会を見る
12. ⑦環境問題ー公害問題から環境問題へ
13. ⑧エスノシティー変わる社会、日本の中のグローバル化
14. ⑨家族ー近代家族の変遷、新しい家族観
15. まとめ

【事前・事後学修】

事前学修週2時間：次回の授業で扱う分野に関して調べる。

事後学修週2時間：授業で扱った内容に関して、さらに自分で詳しく調べる。

【テキスト・教材】

使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、授業内容に関する質問、意見の提出10%（次回授業でフィードバックする）。

日本文化事情 a

政井 美穂

1年 前期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、日本の文化や社会に関する文章を読みます。文章を読んで、日本の文化や社会について学び、日本への理解を深めます。また、文章を読むために必要な言葉や表現を勉強します。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、日本の文化や社会に関する文章を読み、日本に関する様々な知識を修得することです。

日本のことをよく知ることによって、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に臨むことができるようになります。

【授業の内容】

第 1週 印象に残る自己紹介を考えよう！

日本の食①

第 2週 日本の食②

第 3週 旅行とお土産

第 4週 贈答の習慣

第 5週 結婚

第 6週 子育て

第 7週 日本の地理

第 8週 日本の家

第 9週 日本の学校

第10週 人間関係

第11週 映画

第12週 アニメとマンガ

第13週 年中行事

第14週 日本の歴史

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で読む文章を読んでおく。分からない言葉の意味を調べておく。(学修時間 2時間)

【事後学修】 新しく学んだ言葉や表現を復習する。自国と比べて意見をまとめる。(学修時間 2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み (70%)、レポート (30%) で総合的に評価します。レポートへのフィードバックは、返却時に行ないます。

日本文化事情 b

政井 美穂

1年 後期 2単位

【授業のテーマ】

この授業では、日本の文化や社会に関する文章を読みます。文章を読んで、日本の文化や社会について学び、日本への理解を深めます。また、文章を読むために必要な言葉や表現を勉強します。

【授業における到達目標】

この授業の目標は、日本の文化や社会に関する文章を読み、日本に関する様々な知識を修得することです。

日本のことをよく知ることによって、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に臨むことができるようになります。

【授業の内容】

第 1週 日本人の県民性

第 2週 関東と関西

第 3週 落語

第 4週 歌舞伎

第 5週 出版技術の進歩と本

第 6週 電子書籍

第 7週 雑誌の廃刊とスマートフォン

第 8週 流行ファッション

第 9週 コンピュータとタッチパネル

第10週 IT断食

第11週 日本の金融・経済

第12週 日本の政治

第13週 社会問題

第14週 少子高齢化社会

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で読む文章を読んでおく。分からない言葉の意味を調べておく。(学修時間 2時間)

【事後学修】 新しく学んだ言葉や表現を復習する。自国と比べて、意見をまとめる。(学修時間 2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み (70%)、レポート (30%) で総合的に評価します。レポートへのフィードバックは、返却時に行ないます。

日本文学の歴史 a 古代

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

古い時代の作品ほど創作の動機は公的な意味合いが強く、その影響は作品の構想や文学性ばかりかジャンルの問題にまで及びます。私的で娯楽的に見える作品群にあっても事情は同様で、本講ではこの点を基軸に据えて諸作品の意義とありようを考えていきます。

授業では、文学の黎明から奈良時代までを取り上げます。

【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本文学の価値と美意識を知ることができます（美の探究）。

【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 文学の発生と呪術文学
3. 神話と伝説 (1) 総説
4. 神話と伝説 (2) 各説
5. 『古事記』 (1) 総説
6. 『古事記』 (2) 各説
7. 『日本書紀』
8. 『風土記』
9. 氏族伝承『高橋氏文』
10. 氏族伝承『古語拾遺』
11. 『日本霊異記』 (1) 総説
12. 『日本霊異記』 (2) 各説
13. 『万葉集』 (1) 総説
14. 『万葉集』 (2) 各説
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を熟読して、登場人物や当時の通念と慣習を調べておきましょう。（週2時間）

【事後学修】授業内容をよく整理し、要点を指定用紙に記入して、翌週提出します。（週2時間）

【テキスト・教材】

上代文学史ノート [¥600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。

提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。

翌週にその成果をフィードバックします。

【参考書】

『日本文学の歴史』（角川書店）、『岩波講座日本文学史』（岩波書店）

【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、浮ついた性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟を持ちましょう。

日本文学の歴史 b 中近世

中世文学

佐藤 辰雄

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

中世文学の流れをジャンル交代の視点から考えます。ジャンルの交代は流行の推移でもあります。何が、どの点が、どうして、誰に求められ飽きられたのか、を作品に具体的に即して究明して行きます。なお、対象は中世散文に限って講じます。

【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学の価値と美意識を知ることができます（美の探究）。

【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 『方丈記』 (1) 総説
3. 『方丈記』 (2) 各説
4. 『徒然草』 (1) 総説
5. 『徒然草』 (2) 各説
6. 『保元物語』『平治物語』
7. 『平家物語』 (1) 総説
8. 『平家物語』 (2) 各説
9. 『太平記』『曾我物語』『義経記』
10. 説話文学 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『古今著聞集』
11. 歴史物語 『水鏡』『増鏡』
12. 史論 『愚管抄』『神皇正統記』
13. 擬古物語総説
14. 『松浦宮物語』 (1) 総説
15. 『松浦宮物語』 (2) 各説

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を熟読して、講義内容に関わる文学・歴史の概略を調べておきましょう。（週2時間）

【事後学修】授業内容をよく整理した上で、要点を指定用紙に記入し、翌週提出します。（週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省 [¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。

提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。

提出した回の翌週にその成果をフィードバックします。

【参考書】

『日本文学の歴史』（角川書店）、『岩波講座日本文学史』（岩波書店）

【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。授業中の飲食不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生にとっては相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟を持ちましょう。

日本文学の歴史 c 近代

明治大正の文学

宮木 孝子

1・2年 前期 2単位

◎：美的探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

近代日本の誕生とともに、近代化の必要として、日本文学の改革が行われます。そのため、西洋文学の基準が日本に移入され、常に近代以前の文学の継承と否定という、問題を含んだ展開となりました。こうした歴史から、現在の小説、詩歌が生まれたのです。

この授業では、歴史的時間の流れに添って、近代文学をそれぞれの時代ごとに、思想的特徴と代表作品を中心に学んでいきます。

【授業における到達目標】

近代文学は、国内外の社会状況と密接な繋がりががあります。文学を通じて、日本近代の歴史を知ることで、「国際的視野」を養います。また、文学作品の背景にある文芸思潮もまた海外の芸術からの影響もあり、主題、文体を通して、「美的探究」を行い、多くの作品を知ることで、自己の「研鑽力」を磨きます。

【授業の内容】

1. 授業案内・日本文学と近代
2. 啓蒙時代
3. 写実主義の文学・「小説神髓」と「当世書生気質」
4. 「浮雲」
5. 擬古典主義の文学・尾崎紅葉・硯友社・幸田露伴
6. 「文学界」と樋口一葉の時代
7. 浪漫主義の展開と前期自然主義
8. 自然主義 理論と作品
9. 私小説・心境小説
10. 耽美主義・永井荷風・谷崎潤一郎
11. 森鷗外・夏目漱石
12. 理知派・「奇跡」の人々
13. 「種蒔く人」プロレタリア文学
14. 新感覚派の登場
15. まとめ・昭和文学へ

【事前・事後学修】

事前：指定ページを読む。プリントの課題作成 週2時間

事後：配布プリントを確認し、自作ノートのまとめ 週2時間

【テキスト・教材】

大久保典夫・岡保生：現代日本文学史[おうふう、1988、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎時間提出するコメントシート20%と、定期試験レポート80%で、評価。フィードバックは、コメントシートの質問から行う。

【参考書】

坪内祐三著『「近代日本文学」の誕生』PHP新書421 840円＋税
安藤 宏著『日本近代小説史』中公選書020 2000＋税

【注意事項】

授業は講義中心です。プリント配布もしますが、できればノートを作成することを勧めます。質問歓迎。私語厳禁。

日本文学の歴史 d 現代

昭和の文学

宮木 孝子

1・2年 後期 2単位

◎：美的探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

関東大震災前後から昭和末までの激動の時代の文学を、その文芸思潮と作品から変遷を辿る。この時代、文学の変質や変化、使命ということが問題となる。そうした時代を通じて、現在の文学を、受講者と考える。

【授業における到達目標】

日本文学の歴史的展開を知ることで、「国際的視野」を形成する助けとしたい。また、海外の文学や芸術からの影響を実際の作品にみることにより、「美的探究」の意識を高め、そうした作品への理解を深める考察を各自することによって、「研鑽力」を磨く。

【授業の内容】

1. 授業紹介・大正から昭和へ
2. 新感覚派
3. プロレタリア文学
4. 転向と文芸復興の時代
5. 従軍作家と文学報国会
6. 戦争小説
7. 戦後文学・「新日本文学」「近代文学」
8. 無頼派・戦後派①
9. 戦後派②・その他
10. 昭和30年代の文学
11. 昭和40年代の文学
12. 女性文学
13. 昭和50年代の文学
14. 昭和の終焉
15. まとめ・意見交換

【事前・事後学修】

事前：プリントを読む。質問を用意する。 2時間

事後：ノート作成。 2時間

【テキスト・教材】

大久保典夫・岡保生：現代日本文学史[おうふう、1988、¥1,500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

コメントシート20%と、定期試験レポート80%
フィードバックはコメントシートの質問から。

【参考書】

川村湊著『戦後文学を問う』岩波新書
斎藤美奈子著『日本の同時代小説』岩波新書

【注意事項】

質問歓迎。私語厳禁。

日本文学史 a

日本の古典文学

佐藤 悟

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本の古典文学についての深い理解を身につけることを目的とする。単なることからの暗記ではなく、それらのことがらがなぜ起きたのか、その背景等の理解を深めることを、授業を通じて学習する。

【授業における到達目標】

事象の事実関係を把握し、それらの相互関係を確認し、自らの文学史を構築することを到達目標とする。

【授業の内容】

第1回	文学史とは何か・上代文学 I	古事記 日本書紀 風土記
第2回	上代文学 II	万葉集
第3回	中古文学 I	勅撰集
第4回	中古文学 II	源氏物語以前
第5回	中古文学 III	源氏物語
第6回	中古文学 IV	源氏物語以後
第7回	中世文学 I	和歌と連歌
第8回	中世文学 II	軍記物語
第9回	中世文学 III	徒然草 説話集
第10回	中世文学 IV	中世小説
第11回	近世文学 I	俳諧史
第12回	近世文学 II	仮名草子・浮世草子
第13回	近世文学 III	前期読本・後期読本
第14回	近世文学 IV	草双紙
第15回	まとめ	

【事前・事後学修】

各二時間を必要とする。事前学修はテキストを読み込んでおくこと。事後学修は図書館で、授業中指定された文献を読むこと。

【テキスト・教材】

秋山虔・三好行雄編：シグマ新日本文学史 増補版[文英堂、2016、¥702(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストを毎回行う。全14回。70パーセント。

授業中の発言。30パーセント。

そのための勉強と復習が必要である。

小テストを返還するので、結果を見て、質問等を行うこと。

【参考書】

授業中、適宜指示する。

新書等を大量に指定する予定である。

【注意事項】

五回以上欠席すると自動的に失格となる。

日本文学史 b

近代・現代の文学

河野 龍也

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本の近代はすでに150年の歴史を持つに至りました。しかし明治の初期に整えられた社会の制度は今なお日本社会の基礎にそのまま生きており、今日の我々の生活を様々な形で規定しています。それはものの考え方についても同様で、例えば「出世」「恋愛」といった明治生まれの新しい価値観は、「仕事と恋」と言いなおせば現代人にとっての人生の課題そのものと言えるでしょう。近代の文学はこの新しい時代の価値観に翻弄される人々の心を映し出してきました。この授業では、単に文学流派の暗記的学习を目指すのではなく、文学を通して近代の歴史を、そして現代の社会を考える機会にしたいと思います。

【授業における到達目標】

- ・近現代における日本語・日本文学の表現の変遷について考え、自らの見解を述べられるようになる。
- ・具体的な文学作品を通じて、当時の社会情勢や価値観を知り、表現することの意義について考える習慣をつける。
- ・それぞれの時代の文学思潮がどのような背景から生まれてきたのかを理解しつつ、文学史の明確なイメージが持てるようになる。
- ・作家・作品についての知識を増やし、その時代的意義を説明できるようにする。

【授業の内容】

第1週	近代文学史概観
第2週	近世から近代へ
第3週	近代の出発（明治20年代）
第4週	近代の成立①（浪漫主義の文学）
第5週	近代の成立②（自然主義の文学）
第6週	近代の成立③（反自然主義の文学）
第7週	大正の文学①（白樺派・耽美派など）
第8週	大正の文学②（新現実主義）
第9週	大正の文学③（私小説その他）
第10週	近代から現代へ①（新感覚派など）
第11週	近代から現代へ②（プロレタリア文学）
第12週	戦争と文学（転向小説・従軍小説・戦争詩）
第13週	戦後の文学①
第14週	戦後の文学②
第15週	まとめ

【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：教科書を使って次の授業単元を予習する。

事後学修（週2時間）：授業のメモを教科書に照らして整理する。

【テキスト・教材】

秋山虔・三好行雄編著『シグマ新日本文学史 増補版』（2016、文英堂）702円を教科書として使用する。前期授業「日本文学史a」の履修者は、同じ教科書をこの授業でも使うことができる（指定教科書が共通）。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度50%、小テスト50%で総合的に評価する。

日本文学特別研究A

近代文学、詩をよむ

棚田 輝嘉

国文学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

いわゆる「文学者」の詩、だけでなく、広く「詩的」なるものについて、収集し、分析研究する。

【授業における到達目標】

詩とは何かという根本的な問題について検討し、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

【授業の内容】

- 第1週 本研究の進め方と手順
- 第2週 詩とは何か
- 第3週 詞とは何か
- 第4週 散文・韻文という区分けとジャンル意識
- 第5週 教科書的な詩1 小学校教科書
- 第6週 教科書的な詩2 中学校教科書
- 第7週 教科書的な詩3 高等学校
- 第8週 歌詞1 演歌 70年代まで
- 第9週 歌詞2 演歌 現在まで
- 第10週 歌詞3 歌謡曲 50～60年代
- 第11週 歌詞4 歌謡曲 70～80年代
- 第12週 歌詞5 歌謡曲 90～0年代
- 第13週 歌詞6 歌謡曲 ～現在
- 第14週 歌詞という詩、普遍性と流行り廃り
- 第15週 詩の本質について

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

【テキスト・教材】

こちらで用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

積極的に参加すること。

日本文学特別研究B

近代文学、詩を読む

棚田 輝嘉

国文学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

詩作品、さらにその周辺に位置するとされる、詩的な営為について検討し、その意義、問題点などについて考察する。

【授業における到達目標】

詩について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と手順
- 第2週 歌詞の可能性・韻文の意味
- 第3週 フォークソング
- 第4週 アイドル歌謡1 70～90年代
- 第5週 アイドル歌謡2 0～現在
- 第6週 J-pop1 80～90年代
- 第7週 J-pop2 0～現在
- 第8週 ロック的なもの1 アメリカロックの歴史
- 第9週 ロック的なもの2 アメリカロックの歌詞
- 第10週 ロック的なもの3 日本での受容
- 第11週 ロック的なもの4 GS
- 第12週 ロック的なもの5 80年代まで
- 第13週 ロック的なもの6 インディーズロック
- 第14週 様々な詩表現
- 第15週 詩を読むということ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め与えられた課題を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で検討した内容を再整理すること。

【テキスト・教材】

こちらで用意する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

積極的に参加すること。

日本料理実習

館野 雄二

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

日本料理の基本的な知識、調理法と技術を習得する。食文化についても考慮しながら、日本料理の特色を生かした献立作成ができる実践力を養い、日常食への応用意欲を高めたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての修得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

【授業の内容】

第1回目…基本の出汁 魚、野菜の扱い

1. 白身魚の昆布ダマ あしらい一通り
2. ふきのとうのチーズ射込み 姿揚げ
3. 赤だし 豆腐 なめこ 粉山椒

第2回目…先付 小鉢

1. 牛蒡の胡麻和え 蓮根 ほうれん草
2. 白身魚と菜の花昆布ダマ 辛子醤油和え
3. ホタル伊のこチュジャン酢味噌和え 分葱 わかめ

第3回目…お椀もの お造り

1. 桜鯛の潮椀 野菜のしんじょ 二色の針葱
2. 鯡の刺身
3. 烏賊の刺身

第4回目…焼き物 煮物

1. 鱈の木の芽焼き
2. 焼き胡麻豆腐 胡麻醤油 ほうれん草 酢炊き蓮根
3. 金目鯛の煮付け 豆腐 独活 隠元 針生姜

第5回目…揚げ物 蒸し物

1. 天ぷら
2. 鯛のチリ蒸し 豆腐 椎茸 エノキタケ 青味
3. 茶碗蒸し 湯葉の餡かけ 生姜汁
4. 助六寿司 太巻き 稲荷寿司

第6回目…おまとめ会席

1. 先付 海老と野菜の白和え風 南瓜衣 笹巻寿司
2. お椀 野菜のしんじょ椀 木の芽
3. お造り 白身魚の昆布ダマ 花丸胡瓜 あしらい一通り
4. 焼き物 鮎の一夜干し 茗荷の酢漬け 酢だち
5. 煮物 金目鯛の煮付け 豆腐 隠元 生姜
6. 揚げ物 アスパラ とうもろこしのかき揚げ
7. 食事 混ぜ御飯 焼き鯡 生姜ご飯 胡麻 万能ねぎ
8. 水菓子 葛切 桜の塩漬け

第7回目…まとめ1

第8回目…まとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続

【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲載された資料をよく読んで、実習内容を把握しておいてください。(学修時間 週1時間)

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

プリント使用。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習への取り組み (20%) (授業時にフィードバックする)

記録ノート (40%) (次回授業後にフィードバックする)

定期試験 (40%) (実施時に評価する)

【参考書】

調理学全般

【注意事項】

衛生管理のため指定された身支度を整え、各自で清潔と安全に十分留意する。材料の仕入れ状況により内容を変更する可能性がある。

乳児保育

乳児保育の歴史と現状及び意義と役割

齋藤 政子・山下 晶子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

乳児保育における様々な問題は、保育学はもとより発達心理学や児童福祉学など隣接諸科学と協働で行わなければ解決できないことがほとんどです。したがって、本授業では、保育原理など1, 2年で学んだことを踏まえつつ、乳児保育が社会の中でどのような役割を果たしているのか、どんな意義を持ち、どのようにあるべきなのかについて学びます。また、3歳未満児の発達と保育、環境のあり方、3歳未満児保育を取り巻く理論や思想、乳児保育の歴史と課題について学びます。

また、後期は乳児保育の方法と内容と乳児保育担当者の連携の在り方、乳児保育の今度の課題、子育て支援における役割や乳児院などでの乳児保育の在り方などについて学びます。

【授業における到達目標】

1. 乳児保育の意義・社会に果たす役割などについて理解する。
2. 乳児保育を取り巻く思想について歴史的経緯と保育の課題を理解したうえでの思考ができる。
3. 子育てする保護者の状況を理解したうえで乳児保育担当者としての支援の在り方を考え、判断することができる。
4. 3歳未満児の発達と、それを踏まえたより保育の内容・方法について理解し、指導計画を立てることができる。
5. 乳児保育における職員間の協働や、保護者・地域の専門機関との連携のあり方について理解が深まる。

【授業の内容】

- 第1週 乳児保育の意義 子育て・保育を取り巻く状況と課題
(ディスカッション・グループワーク)
- 第2週 発達とは何かー3歳未満児の発達と保育と環境
- 第3週 3歳未満児の発達-0歳前半後半
- 第4週 3歳未満児の発達-1歳前半後半
- 第5週 3歳未満児の発達-2歳児・3歳児
- 第6週 3歳未満児の保育と環境 発達に関するミニテスト
- 第7週 3歳未満児クラスの複数担任制と連携
-子ども同士のトラブルの事例から-
(ディスカッション・グループワーク)
- 第8週 乳児保育と児童文化財
- 第9週 乳児保育を取り巻く理論と思想-アタッチメントと担当制
- 第10週 乳児保育を取り巻く理論と思想-母性神話・3歳児神話
- 第11週 乳児保育を取り巻く理論と思想-親としての発達と子育て
- 第12週 乳児保育を取り巻く理論と思想-乳児の仲間関係と援助
- 第14週 乳児院の保育
- 第15週 これまでの振り返りテストと解説
- 第16週 子育て支援と乳児保育
(ディスカッション・グループワーク)
- 第17週 3歳未満児の基本的な生活-食事・排泄・清潔
- 第18週 3歳未満児の基本的な生活-着脱・睡眠
- 第19週 3歳未満児の遊び-児童文化財
- 第20週 0歳児の指導計画
- 第21週 1歳児の指導計画
- 第22週 2歳児の指導計画
- 第23週 全体的な計画と保育所保育指針
- 第24週 乳児保育を取り巻く問題-育児不安
- 第25週 乳児保育を取り巻く問題-虐待防止と対応
- 第26週 子育て支援と乳児保育
- 第27週 乳児保育のこれまでとこれから-戦後の歴史と乳児保育
- 第28週 乳児保育のこれまでとこれから-少子化対策と乳児保育
- 第29週 子ども・子育て支援制度と乳児保育
- 第30週 これまでの振り返りとテストとその解説

【事前・事後学修】

事前学修 各週のテーマのについてテキスト・教材の予習

(週2時間)

事後学修 各週のテーマについての復習 テスト範囲のまとめなど
(週2時間)**【テキスト・教材】**

齋藤政子：安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと 環境との対話から未来の希望へ[明星大学出版部、2017]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、平常点50%（ミニテスト、コメントカードの提出、受講態度など）と筆記試験50%の総合評価とします。

【参考書】

秋田喜代美ほか監修 阿部和子編『保育士等キャリアアップ研修テキスト 乳児保育』（中央法規、2018）

高山静子著『学びを支える保育環境づくり』（小学館、2017）

入門演習

スキルを学ぶレポート作成トレーニング

串田 紀代美・阿部 美菜子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

大学の授業では、さまざまなタイプの文章を書くことが要求されます。レポートを書く場合、何をどの順番で書けばよいのでしょうか。また大学教員が学生に求めるレポートは、どんな内容なのでしょう。

この授業では、自分で問いを立て、情報を集めて整理し、論理的に考えた結果をまとめ、レポートにふさわしい日本語で表現する技術を学びます。特に「読む」「書く」行為に焦点を当てながら、レポート作成技術を段階的に身につけます。同時に自ら課題を発見し、考える力を養い、問題解決力を鍛えます。

【授業における到達目標】

- ・レポートの構成を知り、自分で問いを立てることができる。
- ・論点を絞り、事実と意見を区別し文章化できる。
- ・自分の主張を支える論拠を具体的に示すことができる。
- ・レポートの文章にふさわしい定型表現で書くことができる。
- ・引用や参考文献表記のルールを理解することができる。
- ・フィードバックをもとに、書いた文章を推敲し修正ができる。

【授業の内容】

- 第1週 レポート・論文の構成要素 (p.10-12, p.34-35)
- 第2週 パラグラフ・ライティングの作法 (p.13, p.24, p.27)
- 第3週 パラグラフ作成①、brainstormingとmapping (p.38-39)
- 第4週 発散型思考と収束型思考 (p.39-40)、パラグラフ作成②
- 第5週 戦略的読解と要約の重要性 (p.42-44)、5W1Hの質問と課題発見力の関係 (p.74-75)
- 第6週 リサーチ・クエスションと批判的思考 (p.50-55, p.76-79)、論点の主張 (p.56)、骨子の設計 (p.102-105)
- 第7週 序論・結論の執筆 (p.106-107)、モデル論文読解
- 第8週 骨子の検討 (p.100-101)、論文の定型表現 (p.66-67)
- 第9週 論点と論拠の決定 (p.78-81)、情報検索 (p.86-89)、情報の取捨選択 (p.90-93)
- 第10週 文章構成力 (p.106-110)、情報の取捨選択と骨子の修正 (p.100-101, p.106-109)
- 第11週 剽窃を防ぐ引用方法 (p.14-17)、文献表記 (p.20-23)
- 第12週 引用・脚注 (p.61-65)、日本語の確認 (p.58-60)
- 第14週 章立ての確定 (p.110-111)、推敲・点検 (p.112-113)
- 第14週 フィードバックと修正、学習プロセスの振り返り
- 第15週 教員のレポート評価観点とルーブリック

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業範囲や論文は精読してください。内容確認の小テストを実施します。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業後にテキストや配付資料を見直してください。提出課題は内容を点検してください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

桑田てるみ：学生のレポート・論文作成トレーニング[実教出版、2015、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加(リアクション・ペーパー、ピア・レスポンスやグループでの話し合い等)30%、提出物(小テスト、課題提出)20%、期末レポート50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【注意事項】

授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、グループでの話し合いやピア活動を中心に協働的に進めます。そのため授業への参加姿勢を重視します。

認知心理学

粟津 俊二

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

この授業では、ヒトが何かを見聞きし、判断し、理解し、記憶し、考える仕組みを扱います。ヒトの基本的な仕組みに関わる内容ですので、現在の様々な心理学の根幹となっています。また、用語や考え方は他の心理学や他の学問でも利用されています。

【授業における到達目標】

人の感覚・知覚、認知、記憶、理解、思考等の仕組みと障害について理解し、概説できるようになることを目標とします。また、これを応用して、よりよく認知、記憶、思考する方法などが提案できるようになることも目指します。これらは、多様な人間を文化や状況を超えて理解・受容しようとする態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへ繋がります。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 認知心理学とは何か
3. 知覚と認知1-見るとはどういうことか
4. 知覚と認知2-知覚の特性
5. 知覚と認知3-知覚認知の仕組みと障害
6. 記憶1-記憶の分類
7. 記憶2-記銘と保持の仕組みと障害
8. 記憶3-再生と忘却の仕組みと障害
9. 知識の構造
10. 理解1-理解とはどういうことか
11. 理解2-単語と文の理解の仕組みと障害
12. 理解3-文章理解の仕組みと障害
13. 思考1-推論とヒューリスティックス
14. 思考2-問題解決
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・授業内容について参考書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。
 - ・授業内容にあう事例を、自らの体験等に照らし合わせて考えておくこと。
- 学修時間 週4時間程度。

【テキスト・教材】

無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治：心理学[有斐閣、2004、¥3,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(100%)
試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行います。

【参考書】

「認知心理学」や「認知科学」というタイトルの本は多く出版されています。比較的最近(2000年以降程度)であれば、どれを見ても参考になるでしょう。

認知心理学 b

作田 由衣子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「認知心理学」は、人間を情報処理装置ととらえて理解しようとする学問である。この授業では、認知心理学の様々な研究分野について紹介する。特に、ここでは言語や意思決定などの認知過程に焦点を当てる。

【授業における到達目標】

認知心理学の歴史と重要な研究事例について知識を深めることができる。さらに、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 認知の発達1：色と形の知覚
- 第3週 認知の発達2：顔の認知
- 第4週 言語
- 第5週 概念と知識
- 第6週 問題解決と推論
- 第7週 確率の判断
- 第8週 意思決定
- 第9週 潜在認知
- 第10週 感情と情報処理
- 第11週 脳と心
- 第12週 障害と認知
- 第13週 心の文化差
- 第14週 認知心理学の歩み
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストあるいは参考書の該当箇所を通読しておくこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。

（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

服部雅史・小島治幸・北神慎司：基礎から学ぶ認知心理学 ― 人間の認識の不思議[有斐閣、2015、¥1,944(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、期末試験80%

manabaを利用してフィードバックを行う。

【参考書】

金沢創・市川寛子・作田由衣子、2015、ゼロから始める心理学・入門 ― 人の心を知る科学、有斐閣、1944円

その他、授業内で指示します。

【授業のテーマ】

文章を用いた他者とのコミュニケーションでは、口頭でのコミュニケーション同様に、相手が理解できるように伝えることが根本となる。しかし、文章には表情や身振りなどの非言語的コミュニケーションが使えないため、特別な工夫をしなくては情報の伝達精度が低下する。講義では、文章理解の認知過程と、図解による理解支援について扱う。

【授業における到達目標】

どのような文章が、なぜわかりにくいのか、理解を補助するためにはどうしたら良いのかについて、認知心理学の理論にもとづいて考えられ、提案できるようになることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 認知心理学の位置づけ
- 第2週 認知心理学における記憶のモデル
- 第3週 文章理解とワーキングメモリ、外的資源
- 第4週 言語理解における単語処理
- 第5週 言語理解における統語処理
- 第6週 言語理解における意味処理
- 第7週 言語理解におけるメンタルモデル
- 第8週 文章理解とメンタルモデル
- 第9週 外国語と母語の理解過程の比較
- 第10週 様々な理解支援方法
- 第11週 情報探索の補助としての図解
- 第12週 メンタルモデル構築の補助としての図解
- 第13週 図解と協同学習
- 第14週 図解の作成過程
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

次週までの課題という形で、その都度指定します。

学修時間：週4時間程度

【テキスト・教材】

指定しない

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の質問、議論への参加等の平常点20%とレポート80%によって評価する。事前学修の程度、授業中のコメント等については、その都度フィードバックを行う。提出物については、次回授業を目途として、できるだけ速やかにフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適時紹介する

【注意事項】

学部科目「認知心理学」あるいは相当する科目を履修していることが望ましい。

脳と心（神経・生理心理学）

脳からヒトの知覚・認知・こころを探る

雨宮 薫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

先端的な神経科学の視点から、ヒトの心についての理解を深め、またさらには、ヒトとは何か、心とは何かという大きな命題を考えます。

認知神経科学とは、脳がどのように心を有効に働かせているかを研究する、比較的新しい研究分野です。

ヒトの知覚から認知、そして行動、思考、そして感情、意思決定などが脳とどのように関係するかを理解し、その根底となるヒトの概念の構成の仕方、言語、記憶、学習や運動といったところから、ヒトが認知する世界を考え、その上で「こころ」とは何かを考えます。

また、ヒトの認知を検証するためには、どのような実験がありうるのか、どのような実験的手法があるのかを理解し、そこから得られる知識がどういったものなのかを理解・把握できるようにします。

【授業における到達目標】

授業では以下を到達目標とします：学習がいかに脳にとって重要かという視点を学び取ることで、自ら研鑽力を磨く契機とすること。実験的に検証する視点を学ぶことで、問題解決に至る道程を理解すること。他者の理解が自己の研鑽の上に成り立っていることを理解することで、相互の役割を理解し、協力関係に生かすこと。

【授業の内容】

第1週 脳の解剖・脳神経系の構造

実験心理学手法と脳神経系の研究法

第2週 視覚・概念

第3週 高次視覚認知・視覚障害・聴覚

第4週 注意

第5週 注意の障害

第6週 記憶

第7週 記憶の障害

第8週 運動・感覚

第9週 運動の障害

第10週 言語・音楽

第11週 感情・情動・生理的な反応

第12週 認知的制御・倫理・意思決定

第13週 社会的認知

第14週 意識・自由意志

第15週 新たな知見

出席者の興味により、変更可能とします。

公認心理師試験対応科目として、認定心理士にも関連する神経・整理心理学項目にも対応しています。

脳神経系の構造を最初に一通り学習した後、それぞれの機能、高次機能、その障害について勉強します。

【事前・事後学修】**【事前学修】**

小中高の理科・生物の教科書、他の心理学で学修した内容などを復習すること。（週2時間）

【事後学修】

学修した内容を復習すること。（週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・授業内レポート・授業内小テスト）

100%

レポートや小テスト、受講者の興味対象などから、適宜授業内容を修正します。

またレポートなどの疑問点や間違えた把握などは、次週以降に追加

で講義します。

【参考書】

Michel S. Gazzanigaら（著）、「Cognitive Neuroscience: The Biology of the mind」(W W Norton and Co Inc. 2013)

日本語にしてレジュメに使用します。

【注意事項】

興味を持ち積極的に授業に参加すること。

知りたい心と脳のかかわりがあれば、随時希望は受け付けます。

疑問点はその場で聞いてもらっても可能ですが、履修生同士の私語・飲食など授業聴講にあまりに不適切かつ他の履修生に迷惑をかける行為が目にする場合、退席していただくことがあります。その場合、出席点は加味できません。

農業と食料

岡田 美香

1年 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

農業は食物を生産する産業であるとともに、生産過程で農薬を使用し環境を汚染し、生産活動を通じて農村景観を形成し生態系を保全しています。農業は生産者だけではなく消費者であり生活者である私たちに深くかかわっています。現状をみると、先進国で過食が問題となる一方、多くの人々が飢餓に陥っています。日本では、市場経済の国際化と過疎高齢化により、地域社会の維持が困難になっています。このような時代において、私たちの生活と深く関係する農業と食料について、地球的な視野から問題をとらえ、今後の社会経済を展望したいと思います。

【授業における到達目標】

①自分たちの食物消費がどのように環境とつながっているのか、②日本の農業・農村はどのような問題に直面しているのか、③どのような処方箋が提案されているのか、について理解を深め、文章や口頭で説明し、自分の意見が述べられるようになることです。

これらを通じて、「国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度【国際的視野】」と「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度【美の探究】」を身につけることができます。

【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい）
2. 農業と環境の相互関係
3. 農耕と農業の歴史
4. 農業の近代化と食料問題
5. 国際貿易（1）理論
6. 国際貿易（2）制度
7. 国際貿易（3）実態
8. 小テスト及び解説／質疑応答
9. 多国籍企業による食の支配
10. 日本の農業・農村の歴史と現況
11. 環境保全型農業
12. 都市と農村
13. バイオマスエネルギー
14. 世界の農業・農村
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくるのが求められます（学修時間 週2時間）。

【事後学修】①その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に努めること、②参考資料に目を通すことが求められます（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

配布資料。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、小テスト30%、平常点20%

平常点は、授業におけるリアクション・ペーパーが対象となります。小テストやリアクション・ペーパー等のフィードバックは、授業の中で適宜行います。

【参考書】

寺西俊一・石田信隆・山下英俊（2018）『農家が消える』みすず書房

その他は、授業の進行に応じ適宜紹介します。

【注意事項】

各回の講義内容は、時間の関係で若干前後する場合があります。できるだけ受講者の興味関心や世の中の動きに合わせた講義にしたため、多少の内容の変更の可能性があります。

授業中の私語は他の受講者にとって迷惑となります。授業の妨げになると判断した場合、席替えや退席を命じます。

博士特別研究**専門教員**

食物栄養学専攻 通年 8単位

【授業のテーマ】

指導教員の下で、自ら研究テーマを定め、研究の計画・進め方を構築する。さらに、得られた研究データの解析と体系的な理論化に実践的に取り組み、研究成果の学会発表、学会誌への投稿、博士学位論文の執筆に必要な能力を身に付ける。

【授業における到達目標】

博士特別研究を通して得られたデータから、自ら課題を発見しそれを解決することにより新規性のある研究成果を挙げ、学問的価値の高い博士学位論文を完成させることを目標とします。

【授業の内容】

1. 研究倫理教育、安全教育
2. 研究課題に関する情報収集と調査
研究課題に関わる関連文献の収集と整理、調査結果の集約
3. 研究課題の決定
先行研究を踏まえ未解明の問題を博士論文課題として設定
4. 研究計画立案（1）
研究方法、予測される結果と研究の意義を検討しながら研究計画を立案
5. 研究計画立案（2）
研究計画書の作成
6. 研究の遂行（1）
研究計画に基づいて研究を進める
7. 研究結果の報告と評価
研究結果を発表し評価を受け、評価に基づき研究計画を修正する
8. 研究の遂行（2）
修正した研究計画に基づいて研究を継続する
9. 研究結果の中間発表と評価
研究結果を発表し評価を受け、評価に基づき研究計画を修正する
10. 研究の遂行（3）
中間発表の審査結果に基づいて研究計画を修正し予備審査に備えた研究を進める
11. 学会誌への投稿と掲載
研究成果を取りまとめ、査読付き学会誌に発表する
12. 予備審査会
学位論文とする研究成果を発表し審査を受ける
13. 博士学位論文の最終構成
予備審査会での評価・助言を加味して博士学位論文の完成を目指す
14. 博士学位論文の提出
15. 博士学位論文の審査と学位認定

【事前・事後学修】

【事前学修】先行研究の事前調査、関連論文の査読と理解、研究計画の立案、結果のまとめと考察、論文草稿の作成などについて、自ら積極的に取り組んで指導を受けること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】指導を受けた点について、その都度速やかに対応して研究が滞らないようにする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

研究遂行に必要な専門書・学術論文について適宜指定する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

博士学位論文審査基準により判定評価する。

博物館学入門

ミュージアムとはなにか

村田 真

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

ミュージアム（美術館・博物館など）に関する基礎知識を修得し、なぜミュージアムが必要なのか、いかにミュージアムはあるべきかを理解する。最初はミュージアムの語源・起源をたどりながらその成り立ちを探り、次にそれがいかに日本に伝わり、定着したかを学び、ミュージアムの役割と学芸員の仕事についての理解を深める。最後はミュージアムを超えた活動にも触れ、今後のミュージアムのあり方を考える。また、そのつどミュージアムに関する新鮮な話題や重要な情報があれば採り入れていく。

【授業における到達目標】

〈態度〉国内外のさまざまなミュージアムについて学ぶことで、多様な価値観と国際感覚を身につける。

〈能力〉広い視野と深い洞察力を身につけ、芸術と文化の本質を見抜くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 博物館学とはなにか、博物館法について
- 第2週 ミュージアムの歴史1その語源と起源
- 第3週 ミュージアムの歴史2コレクションの形成
- 第4週 ミュージアムの歴史3ルーヴル美術館誕生
- 第5週 ミュージアムの歴史4万博と博物館
- 第6週 ミュージアムの歴史5美学・美術史の発展
- 第7週 ミュージアムの歴史6MoMAの功績
- 第8週 学芸員の役割
- 第9週 日本のミュージアム1東京国立博物館の成り立ち
- 第10週 日本のミュージアム2東京都美術館の功罪
- 第11週 日本のミュージアム3私立美術館と百貨店
- 第12週 日本のミュージアム4パブル以降の美術館
- 第13週 日本のミュージアム5美術館建築の移り変わり
- 第14週 アートツーリズム
- 第15週 ミュージアムの未来

【事前・事後学修】

〈事前学修〉美術館（展覧会）を訪れる（週2時間）。

〈事後学修〉訪れた美術館（展覧会）について、授業で学んだ点を中心に小レポートを作成する（週2時間）。

【テキスト・教材】

とくにない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、平常点（小レポート、授業中の発言・発表など）50%。

小レポートは毎回、試験は最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

そのつど紹介する。

【注意事項】

授業に関連の深いテーマの美術館・展覧会の見学を行う場合がある。

博物館教育論

社会教育機関としての博物館

小勝 禮子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

博物館（美術館）が社会教育機関であることを前提として理解し、博物館の教育的役割の歴史や博物館教育の目的などの理念を学ぶ。その上で、博物館教育の方法について実践的な取り組みを含めて理解を深め、学校教育との連携や教育目標の達成、博物館教育の課題と展望について総合的に理解する基礎的能力を養う。

【授業における到達目標】

・博物館教育史を日本だけではなく、世界の博物館について学ぶことにより、学生が身につけるべき「国際的視野」を修得する。

・博物館（美術館）教育の目的や理念を学ぶことにより、知を求め心の美を育む態度「美の探究」を身につける。

・博物館の生涯教育の役割を学ぶことにより、生涯にわたり、知を探究する「研鑽力」を習得する。

・博物館教育の企画と実践を経験することにより、より良い教育プログラムを考え、提案する「行動力」と、仲間とともに相談・協力する「協働力」を習得する。

【授業の内容】

- 第1週 授業の目的・ガイダンス
- 第2週 博物館教育史 近代教育史における博物館
- 第3週 世界の博物館教育
- 第4週 博物館教育 学芸員の教育的役割
- 第5週 博物館教育の目的 博学連携と生涯学習
- 第6週 博物館利用の促進 ボランティア養成
- 第7週 博物館教育の方法 ①展示と展示解説
- 第8週 博物館教育の方法 ②ワークショップ
- 第9週 博物館教育の方法 ③アウトリーチ活動
- 第10週 博物館教育の方法 対話型鑑賞教育について
- 第11週 博物館教育の方法 対話型鑑賞教育について②
- 第12週 博物館教育の企画 ①教育プログラムの作成
- 第13週 博物館教育の企画 ②教育プログラムの実践
- 第14週 博物館見学（校外実習）博物館教育論の実践を見学
- 第15週 博物館教育の課題と展望 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に次回の授業の課題を出すので、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポート、発表等の内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、問題点を考え、専門用語等を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業において適宜、必要なプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（20%）、試験（50%）、平常点（授業への積極的参加、提出課題）（30%）小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）、2012年

その他、授業で随時、参考文献を指示する。

【注意事項】

博物館見学は通常の授業と別の日時で実施することもある。授業を見学に振り替えることがある。見学の都合によりシラバスの順番が変更になることがある。

特別な事情が無い限り、授業も見学も自己都合で欠席しないようにすること。3回以上の欠席は減点の対象とする。

博物館経営論

博物館運営の理念とミュージアム・マネジメントの実践

小勝 禮子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

博物館は社会に対して開かれており、社会とのコミュニケーションが取られている社会的存在であることをまず前提として理解する。そのために博物館の経営は、基本的には営利を目的とするものではなく、ミュージアム・マネジメントの考え方によって行われるべきであることを理解する。ミュージアム・マネジメントとは、「社会環境の変化を予測して、博物館の持つ経営資源を組み合わせ、環境に適応し、利用者の満足を生み出し、市民生活の豊かさに資することを目的とする科学」である。今後ますます多様な変化を遂げる現代社会において、博物館が地域や市民にとって必要不可欠な存在であり続けるための運営について考え、提言する能力を養う。

【授業における到達目標】

- ・日本国内ばかりではなく、海外の博物館の制度と組織を学ぶことにより、学生の身につける態度のうち「国際的視野」を修得する。
- ・博物館経営の運営と管理を学ぶことにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、「課題を発見する力」を修得する。
- ・博物館経営の実際と課題を学んで考えることにより、「行動力」のうち、「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる」力を修得する。
- ・博物館と社会連携を学ぶことにより、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 授業の目的・ガイダンス
- 第2週 博物館経営の意義、ミュージアム・マネジメント
- 第3週 博物館運営方法の制度的な変化（海外と国内）
- 第4週 ミュージアム・マーケティングと博物館評価
- 第5週 博物館の制度と組織
- 第6週 博物館行政と運営組織
- 第7週 博物館の行動規範（倫理規定）
- 第8週 博物館と社会連携① 広報活動
- 第9週 博物館と社会連携② 学習支援
- 第10週 博物館と社会連携③ ネットワーク活動
- 第11週 博物館と社会連携④ ホスピタリティとボランティア
- 第12週 博物館見学（校外実習）博物館経営の実際を実地に見学
- 第13週 博物館経営の実際
- 第14週 博物館経営の課題
- 第15週 博物館の未来・まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に次回の授業の課題を出すので、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポート、発表等の内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、問題点を考え、専門用語等を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業において適宜、必要なプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（20%）、試験（50%）、平常点（授業の積極的参加、提出課題）（30%） 小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践2—博物館を動かす』（藝術学舎）、2017年

その他、授業で随時、参考文献を指示する。

【注意事項】

博物館見学は通常の授業と別の日時で実施する場合がある。授業を見学に振り替えることがある。見学の都合によりシラバスの順番が変更になることがある。

特別な事情が無い限り、授業も見学も自己都合で欠席しないようにすること。3回以上の欠席は減点の対象とする。

博物館資料保存論

山盛 弥生

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

美術館や博物館には、大切に守り伝えられてきたさまざまな種類の資料が収蔵されています。それらの資料を、良好な状態で保存し次世代に伝えていくことは、美術館・博物館の大きな役割の一つです。しかし、資料は時間とともに劣化していくものでもあります。資料の劣化を最小限にとどめるためには、資料保存に関する基本的な知識が必要とされます。本講義では、資料保存の意義、資料の修理、資料の劣化要因とその対策、資料に適した保存環境、保存と公開の両立の問題点などについて学び、資料保存に関する基本的な知識と技術についての理解を深めることを目標とします。

【授業における到達目標】

博物館における資料保存及びその保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を修得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を身につけられるようになります。

博物館見学時には、授業で学んだことを活用して、各自で、資料保存対策の現状や、その効果、問題点を見つけ、問題解決の方法等についてレポートし、提出してもらいます。

【授業の内容】

- 第1週 授業の目的・内容・進め方
- 第2週 資料保存の意義
- 第3週 資料の状態調査
- 第4週 資料の修理① 修理の目的
- 第5週 資料の修理② 修理の方法
- 第6週 資料の劣化の要因と対策① 温湿度・光
- 第7週 資料の劣化の要因と対策② 大気
- 第8週 資料の劣化の要因と対策③ 生物被害
- 第9週 資料の劣化の要因と対策④ 災害
- 第10週 資料の劣化の要因と対策⑤ 衝撃、振動
- 第11週 資料の保存と活用① 収蔵庫、展示室、展示ケース
- 第12週 資料の保存と活用② 伝統的保存方法
- 第13週 資料の保存と活用③ 資料保存対策とその効果、問題点
見学にふりかえることがある。
- 第14週 資料の保存と活用④ 資料の科学調査
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】講義内容の理解をより深めるため、博物館、美術館、文化財、保存、修復などをキーワードに、新聞やニュース、インターネット等で資料保存に関する情報を収集し、資料保存に関する最新の考え方や問題点を理解しておくこと（学修時間：週2時間）。

【事後学修】前回の授業ノート・配布プリントを次回授業までによく読んで復習しておくこと（学修時間：週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、平常点（授業態度、課題提出）30%で評価します。小レポート等の授業内提出課題については次回授業でフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

美術館・博物館見学授業は、土曜、日曜、祝日のいずれかに振り替えて実施します。特別な事情がない限り欠席しないこと。見学のための交通費は各自負担となります。特別な理由で見学実習を欠席する場合は、必ず事前に申し出て、別の日に見学をすること。

博物館資料論

博物館における「資料」

安井 裕雄

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

博物館・美術館資料の種類を理解し、収集、分類、整理と保管等、資料の取扱いの基本的な知識や技術を習得する。また資料公開のために必要な博物館の調査研究について理解を深める。

博物館資料は多岐に渡り、扱う資料に応じて公開施設（博物館、美術館、資料館等）の性質も多様である。博物館資料の基礎的な技術や知識を身につけるために、授業は配布プリントを用いる。また具体例の紹介にパワーポイントを使うが、授業内容の偏りを防ぐとともに、多角的な「資料」の価値を理解するために、適宜映像資料も用いる。

【授業における到達目標】

博物館における資料の位置づけと重要性を理解する。資料に関する基礎的な知識を学び、資料を扱う能力を身につける。博物館資料を調査研究、公開する際の基礎理念を修得する。

【授業の内容】

第1週	ガイダンス	授業目的の説明・課題
第2週	資料の概念	博物館資料の意義と価値
第3週	資料の収集	購入、寄贈、遺贈と寄託
第4週	資料の収集	資料化、収集理念と倫理、法規定
第5週	資料の種類	一次資料、二次資料、史料、その他資料
第6週	資料の整理	分類、管理、目録化
第7週	資料の管理	保存、修復、額装
第8週	資料の公開	公開の理念と方法 (校外見学：ラファエル前派の軌跡展を予定)
第9週	資料の研究	研究の手法、成果の還元
第10週	資料の研究	映像の使用 (可視光線・赤外線・紫外線写真)
第11週	地域の資料	地域と資料
第12週	資料の公開	公開と保存・展示環境、 公開と研究成果の還元 (校外見学：マリアノ・フォルチュニ展を予定)
第13週	研究課題①	台帳の作成
第14週	研究課題②	公開と研究成果の還元
第15週	まとめ	

【事前・事後学修】

1 事前学修

- ・第1週から第5週：週2時間程度、参考文献の指定箇所を読む。
- ・第6週から第15週：研究課題①の準備として、博物館資料について週2時間程度、紙媒体やWeb上のデータベースにより調べる。また研究課題②の準備として会場配布物、会場解説について調べる。

2 事後学修

- ・週2時間程度、授業中に配布した課題に応じて、小レポートを作成する。また配布資料とノートを読み返し、疑問点をまとめる。

【テキスト・教材】

授業において、必要なプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、研究課題30%、小レポート10%。

研究課題の発表はグループ形式で行い、その都度フィードバックする。小レポートは、次回授業でフィードバックする。試験は最終回に、フィードバックする。

【参考書】

青木豊編『人文系博物館資料論』、雄山閣（2012年）。

その他、授業で随時、参考文献を示す。

【注意事項】

第8週の授業は「ラスキン生誕200年記念 ラファエル前派の軌跡展」（5月中旬の土日）、第12週の授業は「マリアノ・フォルチュニ 織りなすデザイン展（仮）」（7月中旬の土日）での、校外見学に振り替える。

博物館実習 1 a

作品の取り扱いと学芸員の実務について学ぶ

佐々木 英理子・廣海 伸彦・水田 至摩子

3年 前期・後期 1単位

【授業のテーマ】

前、後期各2クラス、全4クラスに分かれ、少人数で学芸員の仕事や倫理などについて学び、作品の取り扱いの実習をおこなう。「博物館実習1b」と併せて「学内実習」とする。

作品に対する敬意をもって安全、丁寧に扱うこと、礼儀正しくふるまうこと、間違いなく正確に物事を理解すること、互いにコミュニケーションを取りグループで行動することなど、学芸員に必要な態度について理解を深める。

クラス分けは博物館学課程が決定するが、合同でおこなうこともあるのでこの時間帯に他の授業を登録することはできない。

【授業における到達目標】

日本に伝わる美術作品の成り立ちを考えながらそれぞれの特徴を知り、適切に扱えるようになる。互いにコミュニケーションを取り適切な行動をとることができるようになる。

【授業の内容】

1. イントロダクション 美術館の活動と施設について
2. 美術館の活動と施設について
3. 美術工芸品を扱う心構えと注意事項
4. 掛軸・箱の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
5. 掛軸・箱の取り扱い（2）取り扱い練習
6. 巻子の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
7. 巻子の取り扱い（2）取り扱い練習
8. 屏風の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
9. 屏風の取り扱い（2）取り扱い練習
10. 美術館の展示について
11. 展覧会の作り方（1）展示プランの作成
12. 展覧会の作り方（2）図録の作成
13. 冊子・帖の取り扱い
14. 茶碗・茶器の取り扱い
15. まとめ、ノートの作成

*授業を見学実習として土曜、日曜などに行なうことがある。

*授業内容は見学館、教材使用の都合等からクラスによって順番が異なる。クラスごとの授業内容は、最初の授業時に配布する。

【事前・事後学修】

事前学修：自主的に美術館、博物館見学をおこない適切な展示方法・展示什器・器具などを観察しておくこと。取り扱い実習の前週にこれから触れる作品の形態について解説するので、どのような動作をすればスムーズで安全に扱えるかをよくシミュレーションしておくこと。（週1時間）

事後学修：授業後に学んだことを整理してノートに記すこと。また実習後は自分の作業を客観的に振り返り、動作の内容をよく覚えておくこと。（週1時間）

【テキスト・教材】

授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な取り組み、実習への熱心な参加、実習内容の習熟度）70%、レポート30%。授業の最終回に実習ノートなどをもとにフィードバックをおこなう。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

授業中の指示に従い、服装や持ち物など、実習にふさわしい身だしなみに気を配ること。

やむをえない事情以外の遅刻、欠席は認めない。実習には見学実習も含まれ、日曜、祝日に振り替えることがあるが、特別な事情が無いかがり欠席は認めない。万一欠席する場合は、事前に申し出て指示に従うこと。見学のための交通費等は自費となる。

博物館実習 1 b

学外実習をおこなうための予備学習

児島 薫・糸 和沙

3年 集通 1単位

【授業のテーマ】

通年集中授業形式で実施する（登録時に時間割には表示されない
ので注意が必要）。4年次に履修する学外実習のために必要な心が
まえ、社会人としてのルール、作品の取り扱いなどを総合的に学
ぶ。「博物館実習1a」とともに、学外実習のための予備学習をおこ
なう必修授業であるため、両方を受講した上で4年次の学外実習に
進むことができる。香雪記念資料館および学外の美術館の見学実習
をおこない、多様な施設、活動についても理解を広げる。外部講師
を招いての梱包実習も含む。

また随時、学外実習館に応募するための個別指導も行い、4年次
に学外実習に主体的に参加できるよう準備する。

【授業における到達目標】

必要な書類手続き、課題提出などについてよく確認し、遅延なく
実行できるように自己管理することができる。学修成果を実感して
自信を創出する。目標を設定して、計画を立案・実行できる。自己
や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができ
る。

【授業の内容】

1. ガイダンス 履修登録、履修の注意、日程表配布（集中授業のため、時間割表に表示されない授業なので、充分注意すること）
 2. 事前指導：身上書など書類の記入方法、manabaでのレポート提出方法について。
 3. 事前指導：受講手続きの注意と自己点検
 4. 来年度実習を希望する博物館、美術館の事前調査
 5. 実習希望館についての調査レポート作成
 6. 実習を希望する理由についてレポート作成
 7. 香雪記念資料館見学実習（収藏品、展示方法、設備など）
 8. 実習ノートの使い方・書き方
 9. 履歴書の作成
 10. 作品の取り扱いと梱包：作品の種類と運搬、梱包、輸送の注意
 11. 梱包実習（外部講師を招聘する）
 12. 梱包実習の復習、まとめ
 13. 見学実習①東京東部の美術館（収藏品、展示方法、設備など）
 14. 見学実習②東京西部の美術館（収藏品、展示方法、設備など）
 15. 来年度の実習に向けてのまとめ
- *シラバスの順番は前後することがある。

【事前・事後学修】

事前学修：キャンパス・メンバーズや「ぐるっとパス」を活用し、
自主的にできるだけ多くの美術館、博物館を見学し展示や活動につ
いて調査する（週平均1時間）。

事後学修：授業内で指示された提出物を準備する。実習ノートや配
布物を読み返す。（週平均1時間）

【テキスト・教材】

授業中に配布するプリント、実習ノート。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極的な参加態度50%。遅刻は欠席とみなす。無断欠席は
認めない。課題に対する提出物50%。期日に遅れた提出物は受理し
ない。課題に対するフィードバックは授業内で随時おこなう。

【参考書】

指定図書コーナーに指定図書として配架する。

【注意事項】

不定期に集中形式でおこなう授業のため、時間割内に表示されない
ため、受講の登録には充分注意すること。掲示で日時を周知するの
で掲示に注意すること。授業は5時限後などにおこなうことが多く
休日に見学をおこなう場合もある。絶対に自己都合で欠席しないこ
と。期限内に提出できなかった提出物は原則として受理しない。博
物館学課程の掲示板やmanabaに注意し、呼び出しには速やかに対応
すること。観覧会見学にかかる交通費等は学生の自己負担である。

博物館実習 2

—学外で美術館活動を体験する—

児島 薫・仲町 啓子・中村 玲・糸 和沙

4年 集通 1単位

【授業のテーマ】

学芸員資格取得希望者の「学外実習」に相当する授業。各自学外
の博物館、美術館、香雪記念資料館などの実習先に決められた期間
通い、実習先の指示にしたがって実際に美術館や博物館などの学芸
員やその他の館員がどのような仕事をしているか学ぶ。事前指導と
して、実習に関する注意事項や心構えなどについて講義し、提出書
類については適宜個別指導もおこなう。実習後には、実習ノート・
レポートを作成し提出する。

博物館・美術館の仕事の内容は館によって異なり、実習先の機関
によって学ぶ内容は様々である。実習先では実際に仕事をしている
方々のなかで行動するので、周囲に迷惑をかけないように、責任をも
って自ら考える力を身につけてほしい。博物館学課程の総仕上げと
もいべき貴重な機会なので、社会人になったつもりで積極的に取
り組んでほしい。

【授業における到達目標】

実習中は適宜自分がおこなうべき行動を考えて主体的に行動する
ことができる。挨拶に始まり礼儀正しい態度で臨み、自己や他者の
役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。互いを
尊重し、信頼関係を構築することができる。

【授業の内容】

1. 博物館実習の目的と意義
2. 事前見学とアクセス方法、緊急時の対応などについて確認
3. 事前レポート、履歴書の作成
4. 実習についての注意事項、心構え、マナー等の確認
5. 実習ノートの配布と記入方法の確認
- 6～13. 各自の実習先（学外の博物館・美術館・香雪記念資料館など）で学外実習
*実習先の指示に従い、積極的に参加すること。
14. 実習ノートの整理と提出
15. レポートの作成および報告

【事前・事後学修】

事前学修：実習館への経路、所要時間、緊急の場合の連絡方法、迂
回経路を確認。ガイダンスなどでの配布プリントをよく読み、注意
事項を確認する。実習ノートにあらかじめ必要な事項を記入する。
実習予定先の館へ随時繰り返し訪問する。（週平均2時間）
事後学修：実習ノートを清書し、実習で学んだことをよく復習す
る。（週平均2時間）

【テキスト・教材】

ガイダンス授業で適宜プリントを配布する。また、実習ノートを
配布する。その他は実習先の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習先での評価50%、ガイダンス授業の出欠状況等の平常点
20%、実習ノート・レポート30%とし、総合的に評価する。実習の
遅刻欠席はいかなる理由でも原則認めない。万一そのような場合に
は失格とする可能性がある。提出物の遅延は大幅な減点となる。

実習後に提出するレポート、実習ノートを提出後チェックし、コ
メントとともに返却する。

【参考書】

無し。

【注意事項】

ガイダンス授業の無断欠席・遅刻は認めない。実習中の遅刻・欠
席は絶対に許されない。実習先ではふさわしい身だしなみに注意
し、実習先の指示を厳守すること。実習先では課題に積極的に取り
組むこと。体調管理に気をつけること。その他、ガイダンスでの注
意をよく守ること。

実習終了後は、すみやかに報告し、レポート、実習ノートを指示
にしたがって提出すること。提出物は締切り厳守。

博物館情報・メディア論

情報化社会における博物館の活動

西川 美穂子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

博物館・美術館が取り扱う資料・作品そのものが、「メディア」の一種であり、広い意味で「情報」です。博物館・美術館は、それらを記録・保管し、広く伝える役割を持ち、学芸員は、情報を扱う専門家です。展覧会は情報を伝える一つの方法ですが、それにとまなうカタログ作成や広報など、二次的な情報発信も同時におこなわれます。また、資料・作品にまつわる基本情報のデータベース化をおこない、アーカイブすることも博物館・美術館の大切な仕事です。本講義では、博物館・美術館における多岐にわたる情報の種類とその扱い方を正しく理解するために、実際の事例にもとづきながら学びます。

【授業における到達目標】

博物館情報の提供、活用に関する基礎的能力を養います。学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに（授業内容の確認と講師紹介）
- 第2週 博物館における情報とメディアの意義
- 第3週 メディアとしての博物館
- 第4週 メディアとしての展覧会と展覧会カタログ
- 第5週 メディアを活用した展示方法
- 第6週 見学授業 博物館・美術館見学1
- 第7週 見学授業のまとめ（ディスカッションと質疑応答）
- 第8週 アーカイブとしての博物館
（資料のドキュメンテーションとデータベース化）
- 第9週 デジタルアーカイブの現状と課題
- 第10週 作品形態の多様化に伴う情報の変遷と博物館の課題
- 第11週 見学授業 博物館・美術館見学2
- 第12週 見学授業のまとめ（ディスカッションと質疑応答）
- 第13週 博物館における情報発信
- 第14週 著作権と博物館
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

自ら博物館・美術館に積極的に出かけ、課題をみつけながら見学すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】

レポートなどの課題に取り組むこと。また、自ら博物館・美術館に積極的に出かけ、授業内容を踏まえながら見学すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

授業において、適宜、必要なプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート（60%）、授業内提出物および授業への積極的な取り組み（40%）。

授業内提出物は、正解を求めるものではなく、授業への積極的な取り組みを評価します。期末レポートは、最終授業でフィードバックをおこないます。

【参考書】

参考図書や文献は、授業において示します。

【注意事項】

美術館・博物館での見学授業を2回程度おこなう予定です。見学は、授業内容に記載した順とは異なる場合があります、土曜日もしくは日曜日に実施します。（日時や行き先等、詳細は授業中にお知らせします。）特別な事情が無いかぎり欠席は認めません。万一欠席する場合は、事前に申し出て指示に従うこと。見学のための交通費等は自費となります。

博物館展示論

「展示」の理論と実践

前山 裕司

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

美術館・博物館における展示という機能について多角的に検証し、理論および方法に関する基礎的な知識・技術を習得することを目標とする。日本の美術館で行われる一般的な巡回展や現代美術の展示をモデルに、美術館における展示の重要性を学び、展示を実現するためのさまざまな実務や感性について具体的な事例をもとに考察する。

【授業における到達目標】

展覧会の背景にある企画者の意図や工夫を読み解く能力を身につけ、展示の重要性を学ぶことができる。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに（授業内容の確認、注意事項など）
- 第2週 美術館・博物館における展示の役割と意義
- 第3週 展示の歴史の変遷
- 第4週 展覧会調査 1（展覧会構成要素の確認）
- 第5週 展覧会調査内容の検証（発表、討議）
- 第6週 展示の実際① 展覧会の実務の概要
- 第7週 展示の実際② 出品条件、作品の扱い
- 第8週 展示の実際③ 作品管理と保存
- 第9週 展示の実際④ コンディション・チェック
- 第10週 展示の実際⑤ 空間構成としての展示
- 第11週 展示の実際⑥ 展示解説と関連印刷物
- 第12週 展示の実際⑦ 照明と展示用具
- 第13週 展示と社会
- 第14週 展覧会調査 2（総合的検証）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト、レポートなどの課題に取り組むこと。また配布するチェックリストに基づいて、美術館・博物館の展示を見ること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントの内容を復習すること。展覧会カタログを手に取り、デザインの工夫、前／後付け部分の文字情報などにも留意して目を通す。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

・テキストは使用せず、プリントや資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・期末レポート（50%）、その他レポート（40%）、平常点（10%）。平常点は毎回の授業に対する積極的な取り組み、および授業内提出物において評価する。レポートや課題は次回授業で、期末レポートは最終授業でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学II 博物館展示論・博物館教育論』（学文社、2012年）
- ・黒沢浩編著『博物館展示論』（講談社、2014年）

【注意事項】

・展示論を学ぶにあたり、実際の展示を検証することが不可欠となるため、期間中に都内で開催されている展覧会見学を1回行う予定（授業の振り替えとする）。なお見学のための交通費は自費とする。

・見学する展覧会の会期の関係上、講義の順番が記載されたものと変更になる場合がある。

発音演習A

—ネイティブミたく発音すんねん♪—

藤原 正道

1年 前期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

英語のネイティブスピーカーの発音を聞いて、まねをしようとしても上手くいかない。そんなときには、日本語の音と比べて英語はどこが違う、その違いはどのくらいなのかを学ぶことが、英語の発音上達への近道です。

英語と日本語の音を比較しながら、舌の位置や唇の形などの特徴を理解しながら、発音練習や聞き取り練習も行います。英語の子音を身につけましょう。

【授業における到達目標】

日本語の発音を知り、英語の発音を磨き、世界に発信していく態度を身につけること、学修成果を実感して、自信を創出すること、コミュニケーション能力を向上し、英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを目標とします。

【授業の内容】

- はじめに
- 破裂音1 Part, aBoutなど
- 破裂音2 Top, Deskなど
- 摩擦音1 Face, Violinなど
- 摩擦音2 THink, THenなど
- 摩擦音3 Son, waSなど
- 摩擦音4 SHoe, viSIonなど
- 破裂音 CHange, aDJustなど
- 鼻音1 hoMe, Milkなど
- 鼻音2 aNgel, aNgleなど
- 側音 appLe, Lateなど
- 半母音1 bRown, fRiendなど
- 半母音2 beYond, aWakeなど
- 氣息音 Hot, Howなど
- まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：英語の歌の課題に取り組むこと。週1時間以上

事後学修：授業内容の復習など各自が発音の上達に取り組むこと。週1時間以上

【テキスト・教材】

資料を配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、歌のテスト40%＋発音のテスト50%＋授業への積極的参加度10%。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

今井邦彦『新しい発想による英語発音指導』（大修館）
川越いつえ『英語の音声を科学する』（大修館）
松澤喜好『英語耳』（ASCII）
小川貴宏『Sound Right!』（The Japan Times）
小野昭一『英語音声学概論』（リーベル出版）
竹林滋他『英語音声学入門』（大修館）
安井 泉『音声学：現代の英語学シリーズ』（開拓社）

【注意事項】

受講人数制限35名です。（制限人数を超えた場合、抽選です。）英語の「歌」を歌う小テストも行います。

私語などの授業の妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることはわかるわね。

発音演習B

—ネイティブミたく発音したいねん♪—

藤原 正道

1年 後期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

英語のネイティブスピーカーの発音を聞いて、まねをしようとしても上手くいかない。そんなときには、日本語の音と比べて英語はどこが違う、その違いはどのくらいなのかを学ぶことが、英語の発音上達への近道でっせ。

英語と日本語の音を比較しながら、舌の位置や唇の形などの特徴を理解しながら、発音練習や聞き取り練習も行います。英語の母音を身につけましょう。

【授業における到達目標】

日本語の発音を知り、英語の発音を磨き、世界に発信していく態度を身につけること、学修成果を実感して自信を創出すること、コミュニケーション能力を向上し、英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

【授業の内容】

- はじめに
- 前舌母音1 bE, Itなど
- 前舌母音2 vAcation, pEnなど
- 前舌母音3 hAt, Addなど
- 後舌母音1 hOt, dOOrなど
- 後舌母音2 Ago, Obeyなど
- 後舌母音3 bOOk, blUEなど
- 中央母音1 cUt, AppLyなど
- 中央母音2 wORld, EARlyなど
- 二重母音1 bAyなど
- 二重母音2 Oilなど
- 二重母音3 Oldなど
- 二重母音4 nOWなど
- 二重母音5 Iceなど
- まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：歌の課題に取り組むこと。週1時間以上

事後学修：授業内容の復習や各自が音読などに取り組むこと。週1時間以上

【テキスト・教材】

こちらで用意したプリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行いません。評価基準は、歌のテスト40%＋発音のテスト50%＋積極的に授業に参加しているかなど10%。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

【参考書】

今井邦彦『新しい発想による英語発音指導』（大修館）
川越いつえ『英語の音声を科学する』（大修館）
松澤喜好『英語耳』（ASCII）
小川貴宏『Sound Right!』（The Japan Times）
小野昭一『英語音声学概論』（リーベル出版）
竹林滋他『英語音声学入門』（大修館）
安井 泉『音声学：現代の英語学シリーズ』（開拓社）

【注意事項】

受講人数制限35名です。（制限人数を超えた場合、抽選です。）英語の「歌」を歌う小テストも行います。

私語などの授業の妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることはわかってるわね。

発達・学習理論

(国文学科、美学美術史学科、生活科学部各学科 対象)

柏崎 秀子

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

より良い教師になる基礎力を修得するために、ここでは、学習者の発達と学習に関する様々な理論を学ぶ。

なぜなら、具体的な教育指導や働きかけを行うには、教師は学習者がいかに物事を認識しているかを把握し、発達の状況を考慮することが必要だからである。学習者の年齢・発達段階によって、どのような特徴があるかを、諸理論から学び取る。また、学習や教育という行動はいかに行なわれているのか、学ぶこと・覚えること・意欲的になることなどに関する基本原則についても、諸理論から学び取る。さらに、教師を目指す者として、知っておくべき様々な障害の基礎についても理解を深める。

【授業における到達目標】

- ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。
- ・特別支援教育および発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる。

【授業の内容】

1. 教育の心理学とは
2. 発達の原理（発達の可能性、遺伝と環境、発達段階）
3. 乳児期の発達
4. 幼児期の発達
5. 児童期の発達
6. 青年期の発達
7. 発達と教育（発達の最近接領域、文化と発達等）
8. 学習の理論1：連合説
9. 学習の理論2：認知説
10. 学習と記憶
11. 動機づけーやる気を育てるー
12. 特別支援教育
13. 障害のある生徒の心身の発達
14. 障害のある生徒の学習の過程
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストで該当箇所を読み、内容の理解に重要だと思われるキーワードを複数、挙げておく。加えて、考えておくべき項目を指示する場合もある。（学修時間：2時間）

【事後学修】学修した箇所のテキストの「まとめ」を実施して復習し、扱った内容を自分の経験と関連付けて文章化する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

『教職ベーシック 発達・学習の心理学（第3版）』柏崎秀子（北樹出版 2019年）1,900円＋税

および、プリント資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（小課題・授業への積極的参加）30%

小課題は基本的に翌週に返却してフィードバックする。

試験解答は実施後に示す。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

各自がこれまでに経験してきた教育・学習を思い出し、その背後にある理論との関連性を具体的に考えるようにしてほしい。

発達・学習理論

(英文学科、人間社会学部各学科 対象)

宮脇 郁

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

効果的な教育を行うためには、子供の発達の流れや学習・記憶の仕組みを理解し、児童・生徒の状態に合わせて教えていく必要がある。そこでこの授業では、発達と学習・記憶について基礎的な知識を身に付け、さらに教育場面への応用を考えていく。また、障害を持つ児童・生徒に対する教育についても学ぶ。

【授業における到達目標】

- ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。
- ・発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる。

【授業の内容】

1. イントロダクション
発達
2. 乳児期の発達の特徴
3. 幼児期の発達の特徴
4. 児童期の発達の特徴
5. 青年期の発達の特徴
6. 発達の理論、発達と教育
学習と記憶
7. 古典的条件づけ
8. オペラント条件づけ
9. 認知的な学習、技能学習
10. 短期記憶と長期記憶
学習意欲
11. 内発的動機づけと外発的動機づけ
12. 学習意欲を高めるには
障害をもつ子どもの理解
13. 概論、発達障害の種類
14. 特別支援教育
15. まとめと振り返り

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の授業は教科書の各章に対応しているので、事前に対応する章を読んで予習すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】教科書の対応する章の穴埋め問題をやること。また、宿題が出た場合は次回の授業時までにはやってくるように。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

柏崎秀子編著『教職ベーシック 発達・学習の心理学 [第3版]』（北樹出版 2019年）2,052円

また、適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、授業時の演習と宿題25%、平常点（授業への積極的参加度）5%で評価する。演習と宿題については添削の上、次回授業時に返却する。

【注意事項】

講義を受動的に聞くのではなく、積極的に自分の頭で考えることが必要である。このため、時々演習や宿題の提出を求める。

発達・学習理論

柏崎 秀子

2年 前期 2単位

【授業のテーマ】

より良い教師になる基礎力を修得するために、ここでは、学習者の発達と学習に関する様々な理論を学ぶ。

なぜなら、具体的な教育指導や働きかけを行うには、教師は学習者がいかに物事を認識しているかを把握し、発達の状況を考慮することが必要だからである。学習者の年齢・発達段階によって、どのような特徴があるかを、諸理論から学び取る。また、学習や教育という行動はいかに行なわれているのか、学ぶこと・覚えること・意欲的になることなどに関する基本原則についても、諸理論から学び取る。さらに、教師を目指す者として、知っておくべき様々な障害の基礎についても理解を深める。

【授業における到達目標】

- ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。
- ・特別支援教育および発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる。

【授業の内容】

1. 教育の心理学とは
2. 発達の原理（発達の可能性、遺伝と環境、発達段階）
3. 乳児期の発達
4. 幼児期の発達
5. 児童期の発達
6. 青年期の発達
7. 発達と教育（発達の最近接領域、文化と発達等）
8. 学習の理論1：連合説
9. 学習の理論2：認知説
10. 学習と記憶
11. 動機づけーやる気を育てるー
12. 特別支援教育
13. 障害のある生徒の心身の発達
14. 障害のある生徒の学習の過程
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストで該当箇所を読み、内容の理解に重要だと思われるキーワードを複数、挙げておく。加えて、考えておくべき項目を指示する場合もある。（学修時間：2時間）

【事後学修】学修した箇所のテキストの「まとめ」を実施して復習し、扱った内容を自分の経験と関連付けて文章化する。（学修時間：2時間）

【テキスト・教材】

『教職ベーシック 発達・学習の心理学（第3版）』柏崎秀子（北樹出版 2019年）1,900円＋税

および、プリント資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（小課題・授業への積極的参加）30%

小課題は基本的に翌週に返却してフィードバックする。

試験解答は実施後に示す。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

各自がこれまでに経験してきた教育・学習を思い出し、その背後にある理論との関連性を具体的に考えるようにしてほしい。

発達心理学 a

前川 真奈美

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の心身は、受精による個体の発生から死に至るまで、常に発達しています。特に乳幼児期は生涯のなかでも心身の変化が大きく、その後の対人関係や物事の捉え方にも影響を与えていると言われています。本講義では、胎生期から幼児期までの各段階について、心身の発達に関する理解を深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

胎生期から幼児期にみられる心理的・身体的発達の特徴について修得します。心理的発達については、情動（気持ち、感情）や認知（物事のとらえ方）、対人関係（親子、友人）がどのように変化していくのかに着目して理解を深めます。さらに、発達障害を持つ子どもにみられる特徴や求められる対応についても学びます。本講義を通じて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力を習得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：発達心理学とは？
- 第2週 発達の規定要因：遺伝？環境？
- 第3週 胎生期から新生児期へ
- 第4週 新生児の認知・運動能力
- 第5週 愛着の形成：アタッチメント、基本的信頼感
- 第6週 感情の発達：心の理論、共同注意
- 第7週 自律性の発達：生活習慣の獲得
- 第8週 自我の発達：第一次反抗期
- 第9週 ことばの発達：喃語、一語文、二語文、外言、内言
- 第10週 遊びの意義と発達：象徴遊び、一人遊び～協同遊び
- 第11週 認知機能の発達：感覚運動期～前操作期
- 第12週 対人関係の発達：仲間関係のはじまり、けんかの役割
- 第13週 発達障害の理解
- 第14週 発達障害を持つ子どもへの支援
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「授業の内容」に書かれた用語について、自分なりにインターネット等で調べてみましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業後、その日のうちにコメントペーパーを提出しましょう。配布プリントをもとに復習しましょう。日常生活で見かける子どもの様子を、授業で習得した知識と結び付けて観察するよう心がけましょう。あわせて、授業の内容をもとに、いま現在の自分に至るまでにどのような発達過程を経てきたのかを振り返る機会を作りましょう。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、スライドを用いて授業を進めます。穴埋めプリントを授業時に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（80%）、コメントペーパーの提出（20%）により評価します。

コメントペーパーでいただいた疑問や質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行います。

【注意事項】

本講義ではmanabaのrespon機能を利用します。他の受講生の迷惑となる行為（私語、スライドを携帯電話等で撮影する、など）は固く禁じます。

発達心理学 a

佐藤 恵美

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の発達には、受精から死に至るまでの身体的・精神的変化の過程である。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達している。本講義では、乳幼児期の発達について、身体的、心理的变化に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。特に、発達初期の重要性に重点を置き、胎児期から乳児期の身体的発達と成長、そして幼児期の社会的環境に伴う心理的発達に関する過程から発達初期の重要性を学びます。さらに、発達初期の自己と他者の精神的発達の理解を重視し、豊かな対人関係構築のためのソーシャルスキルの発達過程と発達障がい児に関する理解も深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

本講義では、発達の初期である胎児期から乳幼児期の発達について、身体的、心理的变化に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。特に、発達初期の重要性に重点を置き、胎児期の脳と身体形成、遺伝的要因、乳児期の身体的発達、そして幼児期の社会的環境に伴う心理的発達を学びます。さらに、発達初期の環境的側面でも重要な愛着（アタッチメント）の理解と、豊かな対人関係構築のためのソーシャルスキルの発達過程を深めることを目的とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：発達とは、発達心理学について
- 第2週 発達の規定要因と発達課題
- 第3週 胎児期から周産期：ヒトから人へ
- 第4週 新生児期：新生児の運動能力と認知
- 第5週 乳児期：アタッチメントと基本的信頼感
- 第6週 乳児期：知能の発達
- 第7週 幼児期Ⅰ：環境への適応と身体発達の分化
- 第8週 幼児期Ⅱ：自我の発達と第一反抗期
- 第9週 幼児期Ⅲ：感情の発達
- 第10週 幼児期Ⅳ：遊びの展開
- 第11週 幼児期Ⅴ：ことばの発達
- 第12週 幼児期Ⅵ：生活習慣の確立と自律性
- 第13週 認知機能の発達と分化
- 第14週 発達障害の理解：広汎性発達障がいについて
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

毎時間、授業ごとに指定する教科書の章を熟読し、専門用語をピックアップしてくること（週2時間）。毎回授業で取り上げたテーマを200字程度でまとめ、次回の授業時に提出すること（週2時間）。これらの学生からのトピックについて、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

【テキスト・教材】

無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編：よくわかる発達心理学[ミネルヴァ書房、2004、¥2,700(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中レポート30%、期末テスト70%
内容の発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

発達心理学 b

前川 真奈美

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

“発達の終わり”を迎えるのはいつ頃だと思いますか？身長伸びが止まったときでしょうか？二十歳を迎えたときでしょうか？就職して社会人になったときでしょうか？人間の身体や心は、一生を通じて変化し続け、絶えず発達しています。“大人になること”が発達のゴールではないのです。本講義では、児童期から老年期までの各段階について、心身の発達に関する理解を深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

児童期および思春期は学校教育現場に、青年期以降は家庭や職場といった場に焦点を当て、そこでどのような成長・発達を遂げるのかについて修得します。また、「女性のライフスタイルの変化」にも焦点を当て、現代社会において、個人がより適応的に生きるために必要な要因についても学びます。

本講義を通じて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力を習得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：生涯発達という視点
- 第2週 児童期の認知機能：具体的操作期、メタ認知
- 第3週 児童期の対人関係：ギャンググループ、二次的信念
- 第4週 児童期の道徳性：向社会的道徳判断、役割取得能力、共感
- 第5週 学校教育と発達：いじめ、不登校、発達障害
- 第6週 思春期：第二性徴、性役割
- 第7週 青年期：形式的操作期、アイデンティティの確立
- 第8週 青年期の対人関係：心理的離乳、チャム／ピアグループ
- 第9週 キャリア選択：女性のライフスタイルの変化
- 第10週 働く意味：仕事と家庭の両立
- 第11週 結婚と出産：子育ての楽しさ・つらさ
- 第12週 成人期：中年期危機
- 第13週 老年期：身体の変化、こころの変化、認知症
- 第14週 成人期以降の危機への対処
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「授業の内容」に書かれた用語について、自分なりにインターネット等で調べてみましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業後、その日のうちにコメントペーパーを提出しましょう。配布プリントをもとに復習しましょう。授業の内容を実生活と結び付けて理解するよう心がけましょう。いま現在の自分に至るまでにどのような発達過程を経てきたのか、いまの自分はどのような状態なのか、今後自分はどのように生きていきたいかを考える機会を作りましょう。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、スライドを用いて授業を進めます。穴埋めプリントを授業時に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（80%）、コメントペーパーの提出（20%）により評価します。

コメントペーパーでいただいた疑問や質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行います。

【注意事項】

本講義では、manabaのrespon機能を利用します。授業中に心理尺度を体験していただく機会があります。他の受講生の迷惑になる行為（私語、スライドを携帯電話等で撮影する、など）は固く禁じます。

発達心理学 b

佐藤 恵美

2年～ 後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の身体的、心理的变化による発達過程に関する生涯発達の基礎知識を学ぶことを目的とします。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達しています。本講義では、児童期から高齢期までの発達の基礎的な知識と心理的側面に関する理解を深めることを目的とします。社会的役割における自己と他者の重要性を理解し、尊重することで、多様な価値観を持つ人々と共生し、理解し合うことで、社会へのより良い適応を目指します。青年期以降は身体的発達よりも心理的発達に焦点を置き、アイデンティティ獲得から職業生活、恋愛と結婚、親になることなど環境的变化に適応する人間の心理的变化に関する発達過程について知識を習得してください。

【授業における到達目標】

本講義では、児童期から高齢期までの発達の基礎的な知識と心理的側面に関する理解を深めることを目的とします。特に、学校、家庭、職場などさまざまな社会的環境の適応の視点から、身体的発達と心理的な発達課題の知識を習得する。これにより、さまざまな社会的環境の適応に重要なライフイベントを取り上げ、多様な環境の人々と共生し、より良く生きていくための方略を考えていくことができるようにする。さらに、自分自身と自分を取り巻く人々との将来的な精神的成長を考えながら現在の生き方の目標を生生涯発達の観点から設定できることを目的とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：児童期から老年期の発達の特徴について
- 第2週 児童期：身体発達と発達加速現象
- 第3週 児童期：学校教育と発達（集団生活と自己効力感について）
- 第4週 児童期：自己意識と知能・認知の質的变化について
- 第5週 道徳性の発達と社会的スキル
- 第6週 思春期：第二性徴と性役割について
- 第7週 青年期：アイデンティティの獲得と危機
- 第8週 青年期：時間的展望と将来計画
- 第9週 成人前期：職業選択とキャリア発達
- 第10週 成人期：恋愛と結婚
- 第11週 成人期：親になること
- 第12週 中年期：身体的変化と心理・社会的発達
- 第13週 高齢期：高齢期の身体と心理的機能
- 第14週 高齢期：痴呆と介護、死の受容
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること（2時間）。毎回授業で取り上げたテーマを200字程度でまとめ、自分の意見を200字程度書いて次回の授業時に提出すること（2時間）。これらの学生からのトピックについて、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

【テキスト・教材】

無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編「よくわかる発達心理学」（ミネルヴァ書房、2004年）2,700円
適宜プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業レポート30%、期末テスト70%
発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

発達臨床心理学

佐藤 恵美

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

発達とは、受精から死に至るまでの時間的変化に伴う身体的・精神的变化の過程である。人は生きる上で、遺伝や環境などの要因によって生じるさまざまな臨床的問題があります。人がより良く生きていくためには、身体的、精神的障害などの臨床的な問題に対する基礎的知識を身につけ、心理的課題を発見し、周囲との連携を保ちながら問題に対処することが重要です。この授業では、受精から誕生、乳幼児期から高齢期までの発達上の先天的・後天的要因における臨床的問題を学び、日常生活でケアを必要とする人々を見極め、その人々に対する日常生活上の課題発見、家族など周囲との調整を行う能力を身につけるための実践的な支援活動の知識を獲得することを目的とします。

【授業における到達目標】

この授業では、発達上の先天的・後天的要因における臨床的問題を学び、環境に適応しながらより良く生きていくための知識と支援の方法を習得し、社会におけるさまざまな身体的障害、発達障害、精神的疾患に対する理解を深める。特に、教育、介護、保育現場など発達上心理的支援が必要な人々に対し、誰がケアを必要とする人かを見極め、本人とその周囲の人々に対する課題発見を行うための実践的な支援活動の知識の獲得と、家族や行政など周囲との調整を行いながら問題解決を図る協働力の向上を図ることを目的とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：心理学，発達心理学，発達臨床心理学の関連性
- 第2週 身体的・精神的発達における心理・社会的課題とその支援
- 第3週 ケアを必要とする人と問題行動の捉え方：正常と異常について
- 第4週 胎児期：身体障害・知的障害など先天的異常について
- 第5週 乳幼児期：知的障害と発達の支援
- 第6週 広汎性発達障害：自閉症、注意欠陥・多動性障害，学習障害
- 第7週 愛着障害：アタッチメントとマザリング、虐待について
- 第8週 学校生活の適応と不適応：不登校・いじめ、情緒障害
- 第9週 気分障害
- 第10週 統合失調症、パーソナリティ障害
- 第11週 神経症・心身症・小児心身症
- 第12週 摂食障害
- 第13週 認知行動療法、精神分析療法などの治療概要とその支援
- 第14週 高齢期の精神障害と認知症
- 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

事前学習として、授業で指定された章を熟読し、概要と疑問点をまとめること（週3時間）。

事後学習として、授業で取り上げたテーマの内容と重要だった点、およびに教科書の臨床例について400字程度でまとめ、次の授業時に提出すること（週1時間）。

【テキスト・教材】

「発達臨床心理学ハンドブック」 2008 大石史博・西川隆蔵・中村義行 編 ナカニシヤ出版 2600円
適宜プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業レポート30%，期末テスト70%

事後学習についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回到フィードバックします。

比較文化論A

事例にみる比較文化

久保田 佳枝

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この授業は、目では見えない境界線を考慮するために、文化を学習しながら、日本だけでなく、さまざまな国における文化の相違を見ていきます。前半は文化に関する理論を主に学習し、また後半には実際の事例（ケース）などを通して、文化を比較し、世界の中での日本を見ていきます。

【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、多様な文化の共生・共存を目指す現代社会を理解しながら、多様な物の見方や考え方を養うことです。また、文化への理解を深めることで、国際的視野をも養いながら、美の探究および研鑽力の育成も目指します。

【授業の内容】

01. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方等の説明）
02. コミュニケーションは文化を語る（言語・非言語）
03. 異質な他者（自文化中心主義・文化相対主義）
04. 外国から見た日本社会
05. 文化を比較するという事
06. 文化の構造
07. 文化の特徴
08. ケース①日本在住外国人
09. ケース②日本在住外国人
10. ケース③帰国日本人
11. ケース④共文化コミュニケーション
12. ケース⑤海外留学
13. ケース⑥海外留学
14. ケース⑦海外旅行
15. まとめ

※ 学外講師による講義を予定しています（日程は未定）。

※ クラスの状況により、順番が変更される場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】前もって配布される教材をよく読む。

（学修時間は週2時間）

【事後学修】プリントを復習すること。授業で扱ったテーマに関連する文献等を読んで、理解を深めておくこと。（学修時間は週2時間）

【テキスト・教材】

教材は、適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・定期試験は行わず、平常点（授業への積極的な参加および貢献等含む）25%、小テスト75%として総合評価を行う。
- ・リアクションシート等は次回授業においてフィードバックを行う。

【注意事項】

- ・この授業では、講師と学生のインタラクションのスタイルをとって質疑応答、グループディスカッションなどを行います。
- ・後列は空席にし、それより前に着席してください。
- ・15分以内の遅刻の場合には、前にある出席票に記入し、退出前に提出してください。遅刻は3回で1回の欠席、また授業開始15分を過ぎた場合には欠席扱いとなるため、注意されたい。

比較文化論B

数値データにみる比較文化

久保田 佳枝

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

グローバル社会になってきた現代において、多様な人々とうまくやっていくためには多様な文化を理解し、それらを柔軟に対応することが求められるようになってきました。この授業では、比較文化論Aに続き、目では見えない文化による境界を学びながら、さまざまな国における文化の相違をみていきます。

【授業における到達目標】

この授業は、多様な文化に共生・共存を目指す現代社会を理解しながら、多様な物の見方や考え方を養うことを目標としています。また文化の違いに対する理解を深めながら国際的視野を養い、美の探究、研鑽力の育成を目指します。

【授業の内容】

01. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方等の説明）
02. 文化とは：比較文化論Aの復習（文化の構造・特徴）
03. 文化とは：比較文化論Aの復習（コンテキスト）
04. 文化を比較するとは
05. しつけ
06. 思考パターン
07. 人間観・世界観
08. 文化と心
09. 中間クイズ
10. 中間クイズ解説・復習
11. 世界価値観調査（第1章前半）
12. 世界価値観調査（第1章後半）
13. Hofstedeによる文化的指標（内容）
14. Hofstedeによる文化的指標（データの読み方）
15. 期末課題提出・まとめ

※ 学外講師による講義を予定しています（日程は未定）。

※ クラスの状況などにより、順番が変更される場合があります。

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料の該当範囲を読んでおくこと。（学修時間は週2時間）

【事後学修】理解を深めるために、授業で学んだ内容と専門用語の理解を深めておくこと。（学修時間は週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点40%（授業への積極的な参加・貢献等含む）、中間クイズ30%、期末課題30%として総合評価を行う。
- ・リアクションペーパー等は次回授業でフィードバックを行なう。

【参考書】

池田謙一『日本人の考え方世界の人の考え方：世界価値観調査から見えるもの』（勁草書房、2016）

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』（有斐閣、2013）

山岸俊男『文化を実験する：社会行動の文化・制度的基盤』（勁草書房、2014）

【注意事項】

- ・この授業では、講師と学生のインタラクションのスタイルをとって、質疑応答、グループディスカッションなどを行います。
- ・15分以内の遅刻の場合には、前にある出席票に記入し、退出前に提出をしてください。遅刻は3回で1回の欠席、また15分を過ぎた遅刻は欠席扱いとなるため、注意してください。

比較文化論 a

マルチェフ, ミレン・アングロフ

2年～ 前期・後期 2単位

○: 国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

特定の国や社会の文化に「どのような特徴があるか」を知るための不可欠な要素の一つは、「どのような特徴がないか」を同時に知ることです。文化と文化の比較からこそ、それぞれの社会の行動様式や考え方がより明瞭に見えてきます。この授業では、日本と西洋の国、また西洋国同士の文化を「音」、「言語文化」、「時空間」、「物語」等の幅広い観点から対照し、マルチメディアの教材を使用しながら考えていきます。

【授業における到達目標】

国際コミュニティの中の様々な社会について知識や洞察を重ねることにより、自らが属する社会の特徴と位置づけに対する理解を深める（国際的視野）。学生が習得すべき「研鑽力」のうち、特に「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 文化とは 導入
- 第2週 文化とは 事例
- 第3週 挨拶から見た文化 導入
- 第4週 挨拶から見た文化 事例
- 第5週 入浴とパーニャ
- 第6週 「音」から見た文化 導入
- 第7週 「音」から見た文化 事例
- 第8週 「選択」の文化
- 第9週 「訳」で失われるものと得られるもの
- 第10週 外国人から見た日本文化 導入
- 第11週 外国人から見た日本文化 事例
- 第12週 クジラ類に対する価値観とイデオロギー：英語圏と日本
- 第13週 映画「Baraka」の世界
- 第14週 オンライン文化の比較
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、次回のテーマを発表しますので、それについての予備知識・問題意識を備えた上で講義を聞いて下さい（事前学修時間 週1時間半）。さらに、授業中に紹介された文献・資料などを読み理解を深めること（事後学修時間 週2時間半）。

【テキスト・教材】

教材は適宜プリントにて配布します。オンラインでアクセスできる関連情報がある場合、授業中に案内します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容に対する理解度（60%）と学生独自の考え方（40%）をはかる期末クイズで評価します。期末クイズの解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

比較文化論 b

マルチェフ, ミレン・アングロフ

2年～ 後期 2単位

○: 国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

異文化と接したり、異文化を考えることは、他の社会や人間集団の行動・思考様式に関する知識が増えるとともに、自らの文化をより深く知る大きなきっかけにもなります。この授業では、日本と西洋の国、また西洋国同士の文化を「音楽」、「スポーツ」、「生活環境」、「コミュニケーション媒体」、「宗教やスピリチュアリティ」、「ことわざ」等の幅広い観点から対照し、マルチメディアの教材使用しながら考えていきます。

【授業における到達目標】

国際コミュニティの中の様々な社会について知識や洞察を重ねることにより、自らが属する社会の特徴と位置づけに対する理解を深める（国際的視野）。学生が習得すべき「研鑽力」のうち、特に「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 授業イントロダクション
- 第2週 異文化を考えるときの気を付けること
- 第3週 異文化の「異」が生み出す価値
- 第4週 楽器・音楽の文化比較 導入
- 第5週 楽器・音楽の文化比 事例
- 第6週 外から見た日本
- 第7週 スポーツから見た文化比較
- 第8週 ドッキリ！隠しカメラから見た異文化
- 第9週 「諺」から見た文化
- 第10週 コミュニケーション媒体と文化
- 第11週 臨死体験の文化比較
- 第12週 スピリチュアリティの文化比較
- 第13週 戦争と平和の文化
- 第14週 映画「Samsara」の世界
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回、次回のテーマを発表しますので、それについての予備知識・問題意識を備えた上で講義を聞いて下さい（事前学修時間 週1時間半）。さらに、授業中に紹介された文献・資料などを読み理解を深めること（事後学修時間 週2時間半）。

【テキスト・教材】

教材は適宜プリントにて配布します。オンラインでアクセスできる関連情報がある場合、授業中に案内します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容に対する理解度（60%）と学生独自の考え方（40%）をはかる期末クイズで評価します。期末クイズの解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

比較文学 a

世界文学の解釈と理論

小林 真知子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

比較文学は文芸学の発展にともない、文学過程をより広範な文学間のなかで認識することを求めることから生まれてきた。世界文学の脈絡のなかで、もろもろの関係や類似性を明らかにすることにより、文芸現象の生成と本質を理解することにつとめる。ミメシス、曖昧の問題、解釈学、古典、作の意図、叙事詩、詩型、小説、物語論、ミリュエなど文学の発生論上、または類型論上の関係を認識するための基本的な方法技法、言語芸術の美的構造、定説および学術用語を概説する。作品間に共通なもの、普遍的なものを見ようとする文学批評の原理は比較文学の実践であり、作品解釈をする上で必須となる体系的知識を通時的かつ共時的に例証を通して学んでいく。

【授業における到達目標】

普遍性と共通性を求める比較文学の方法論と言語芸術への批評的アプローチの技法を学び、言語のもつ比喩的な喚起力、論証的な思考力、感受性、審美眼、想像力、読解力、表現力を養い、主体的に作品研究に取り組むことを目標とする。

【授業の内容】

- 1 比較文学とは何か？ 定義、定説、学問の成立過程
- 2 表現の比較—アウエルバッハ『ミメシス』
- 3 曖昧の問題—ウィリアム・エンブソン『曖昧の七つの型』
- 4 解釈学—バルトのバルサク、カーモード『秘義の発生』
- 5 古典とはなにか—アーノルド、T. S. エリオット、
- 6 作家の意図—ポープ、ゲーテ、ロラン・バルト
- 7 カタルシスとしての芸術—アリストテレス、フロイド
- 8 Narrative Story 物語論—行為の統一
- 9 叙事詩—ホメロス、ヴェルギリウス、ダンテ、ミルトン
- 10 叙情詩、イメージ論—ワーズワス、コールリッジ、イェイツ
- 11 ゴシック—ジェイン・オースティン、シェレイ、ブロンテ
- 12 文芸翻訳特有の問題 Translation
- 13 象徴主義の文学運動とニュークリティシズム
- 14 自伝と告白文学—ルソー、フランクリン
- 15 比較文学のシェイクスピア

【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、問題提起をする。
(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、要点を整理し、文献表を参考に関連書籍を読み、研究課題に取り組む。(週3時間程度)

【テキスト・教材】

資料配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎月の課題 40% 課題文の論評を通して問題意識を確認し
次回授業にフィードバックする。
期末レポート 60% (フィードバックは行わない)

【参考書】

イヴ・シュヴレル著 福田隆太郎訳『比較文学』(白水社 2001年)
ディオニーズ・デュリシン 谷口勇訳『比較文学』(而立書房 2003年)
亀井俊介編『現代の比較文学』(講談社学術文庫 1994年)
その他、文献情報をプリント配布

比較文学 b

文学のトポグラフィー

小林 真知子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

景観(Landscape)と内観(Innerscape)の描写による現実の土地と心の土地(内的空間、文学空間)、心象風景と記憶により想起される出来事、文化上、歴史上の背景の確立を通して状況の詳細により明らかになる人物像の開示などを諸作品の中に辿る。
パリ、ロンドン、ダブリン、ウィーンなどの都市を舞台とした作品世界の登場人物の空間移動とそこに内包される社会的要素との関係で構成される「場」の構造から生活情景と人間関係を解釈することを試みる。

【授業における到達目標】

読解力、表現力を養い、解釈学と文学批評の方法論を身につける。都市生活者の生活様式的具体相が人間関係や人の心とどのように連結しているのかを社会成層と人間生活を念入りに解釈して構築された作品世界の理解により読解力を養う。心象風景と記憶が現実の選択や行動また美意識に深く結びついている関係性を作品がどのような手法を用いて表現しているのかを考察する。

【授業の内容】

- 1) 文学のトポグラフィー、パルザックのパリ
- 2) フローベルのパリ
- 3) ゴラのバリの社会成層
- 4) マルセル・ブルーストのパリ 土地の名前の独自性
- 5) ディケンズ『二都物語』のパリとロンドン
- 6) スペンサー、ミルトンのロンドン
- 7) ワーズワス、ブレイク、詩人たちのロンドン
- 8) T・S・エリオットのロンドン
- 9) ヴァージニア・ウルフ 『ダロウェイ夫人』のロンドン
- 10) ジェイムズ・ジョイス 『ダブリン市民』『ユリシーズ』
- 11) グレアム・グリーン 『第三の男』のウィーン
- 12) ヴォネガット 『スローターハウス5』のドレスデン
- 13) アルベール・カミュ『ペスト』のオラン
- 14) ウィリアム・フォークナー『八月の光』のヨクナパトーファ郡
- 15) ポストコロニアル文学—ジェーン・エアと『サルガッソーの青い海』

【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、問題提起をする。(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、要点を整理し、文献表を参考に関連書籍を読み、研究課題に取り組む。(週3時間程度)

【テキスト・教材】

資料配布。
講義で扱う文学作品

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎月の課題 40% 課題文の論評を通して問題意識を確認し
授業中にフィードバックする。
期末レポート 60%
(フィードバックは行わない)

【参考書】

亀井俊介編『現代の比較文学』(講談社学術文庫 1994年)
イヴ・シュヴレル著 福田隆太郎訳『比較文学』(白水社 2001年)
ディオニーズ・デュリシン 谷口勇訳『比較文学』(而立書房 2003年)

被服衛生学

齊藤 秀子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

生活環境に関わる被服に着目して、その着心地や快適性をテーマに学ぶ。主に被服の体温調節との関わりについて学び、被服設計、被服選択の基礎となる理論を理解する。さらに、被服の運動快適性と衣服圧について、安全との関わりについて学ぶ。

【授業における到達目標】

被服気候、クロー値や衣服圧をはじめとする被服衛生学の基本的事項を説明でき、被服衛生学の理論を用いて、被服の快適性について議論できることを到達目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 被服衛生学の定義、歴史、方法論
- 第2週 温熱環境条件とその測定法
- 第3週 温熱環境の快適性評価と日本の衣生活
- 第4週 人の体温と皮膚温
- 第5週 人の体温調節と体熱の産生
- 第6週 人と環境間の熱移動
- 第7週 不感蒸泄と発汗
- 第8週 衣服素材の熱的特性、水分特性
- 第9週 衣服気候とクロー値
- 第10週 着衣の熱抵抗を左右する要因
- 第11週 運動の側面からみた衣服の機能性と評価
- 第12週 衣服圧、その測定と人体への影響
- 第13週 衣服と安全、高齢者の衣服
- 第14週 衣環境に関する研究例
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

配付プリントを読み、次回授業の内容を把握して授業に臨むことまたは、調べ学修の課題を作成すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業後はノートを見て、理解できてない点をプリント、参考書等で確認すること。課題がある場合は、課題を作成し提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

各授業の内容、また、演習のための説明プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度20%、授業時レポート15%、試験65%

レポートについては、データ、レポート内容をパワーポイントに集約し、コメントすることでフィードバックする。

試験の解答、採点方法等を試験終了時にパワーポイントを用いて説明する。

【参考書】

- 齊藤秀子、呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう（2006）
- 日本家政学会編『環境として衣服』朝倉書店（1991）
- 田村照子著『基礎衣服衛生学』文化出版局（1985）
- 田村照子編著『衣環境の科学』建帛社（2004）
- 日本家政学会被服衛生学部会編『アパレルと健康-基礎から進化する衣服まで-』井上書院（2012）

【注意事項】

授業時に必ず配布プリントを持参すること。

微生物学

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

秋田 修

4年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

【授業における到達目標】

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 微生物と微生物利用技術の概要
- 第2週 生命の誕生と生物が生きる仕組み
- 第3週 ウイルスは生物なのか（ヒトへの感染の仕組み）
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の増殖と環境要因
- 第5週 食中毒菌の特徴と食中毒予防法
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 独立栄養微生物と従属栄養微生物
- 第8週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第9週 微生物とバイオテクノロジー
- 第10週 乳酸菌とヒトとの共生（乳酸発酵食品）
- 第11週 微生物発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母：ヒトの暮らしに深く関わる酵母
- 第13週 カビ：ヒトの暮らしに深く関わるカビ
- 第14週 麹菌：ヒトの暮らしに深く関わる麹菌
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題は採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義で学ぶべき重要事項を課題として出題します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

【参考書】

- 『食品微生物の基礎』（講談社）『暮らしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助ける へんな細菌 すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）

【注意事項】

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。

微生物学

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

秋田 修

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

【授業における到達目標】

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 微生物の概要と微生物利用技術の概要
- 第2週 原核微生物と真核微生物（細胞の構造と機能）
- 第3週 ウイルスの世界とヒトとの関わり
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の性質とその取り扱い方法
- 第5週 微生物の増殖と環境要因
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第8週 極限環境に生きる微生物とバイオテクノロジー
- 第9週 共生により生きている微生物
- 第10週 狭義の発酵：酸素を利用しないエネルギー獲得方法
- 第11週 広義の発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母の世界：ヒトの暮らしに深く関わる酵母たち
- 第13週 カビの世界：ヒトの暮らしに深く関わるカビたち
- 第14週 微生物利用技術の将来とその可能性
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題を採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義で学ぶべき重要事項を課題として出題します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

【参考書】

- 『食品微生物学の基礎』（講談社）『くらしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助けるへんな細菌すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）『微生物学』（裳華房）

【注意事項】

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。また講義で判らなかったことを調べるのにも役立ちます。

微生物学

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

秋田 修

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

【授業における到達目標】

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 微生物の概要と微生物利用技術の概要
- 第2週 原核微生物と真核微生物（細胞の構造と機能）
- 第3週 ウイルスの世界とヒトとの関わり
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の性質とその取り扱い方法
- 第5週 微生物の増殖と環境要因
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第8週 極限環境に生きる微生物とバイオテクノロジー
- 第9週 共生により生きていく微生物
- 第10週 狭義の発酵：酸素を利用しないエネルギー獲得方法
- 第11週 広義の発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母の世界：ヒトの暮らしに深く関わる酵母たち
- 第13週 カビの世界：ヒトの暮らしに深く関わるカビたち
- 第14週 微生物利用技術の将来とその可能性
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題は採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習をすること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義での重要事項を課題として出題します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

【参考書】

- 『食品微生物の基礎』（講談社）『暮らしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助けるへんな細菌すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）

【注意事項】

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。

美しい文字を書く a

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

今日、パソコンが発達したとはいえ、わたくしたちの日常生活では、手書き文字がなお重んじられる。

本講座では、硬筆と毛筆によって、楷書と行書の基礎を学び、実用書法へとつなげていきたい。

あわせて、書道に関する基礎的な知識や展覧会情報なども発信したいと思う。

【授業における到達目標】

- ・硬筆の楷書と行書によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・毛筆の楷書によって、美しい文字を書けるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 自己紹介 授業方針 授業計画
 第2週 硬筆 楷書1
 第3週 硬筆 楷書2
 第4週 硬筆 楷書3 書道の用具用材
 第5週 硬筆 行書1
 第6週 硬筆 行書2
 第7週 硬筆 楷書・行書による実用語句1
 第8週 硬筆 楷書・行書による実用語句2
 第9週 毛筆 楷書1
 第10週 毛筆 楷書2
 第11週 毛筆 楷書3
 第12週 毛筆 楷書4
 第13週 毛筆 楷書による実用語句1
 第14週 毛筆 楷書による実用語句2
 第15週 毛筆 楷書による実用語句3

【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキスト：蔵中しのぶ監修・高城弘一書『美しい文字と教養が身につく なぞり書き百人一首』（東京書店）1296円

※その他コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中添削回数、参加度） 30%

レポート 20%

期末の提出物 50%

以上で、総合評価をする。

通常は、その場で作品を添削し、レポートは、感想や評価を加え、

期末の提出物は、当該時間内に採点し、それぞれ返却する。

【参考書】

高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社）

【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。したがって、展覧会情報なども、随時紹介したい。

美しい文字を書く a

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

2年～ 前期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

今日、パソコンが発達したとはいえ、わたくしたちの日常生活では、手書き文字がなお重んじられる。

本講座では、硬筆と毛筆によって、楷書と行書の基礎を学び、実用書法へとつなげていきたい。

あわせて、書道に関する基礎的な知識や展覧会情報なども発信したいと思う。

【授業における到達目標】

- ・硬筆の楷書と行書によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・毛筆の楷書によって、美しい文字を書けるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 自己紹介 授業方針 授業計画
- 第2週 硬筆 楷書1
- 第3週 硬筆 楷書2
- 第4週 硬筆 楷書3 書道の用具用材
- 第5週 硬筆 行書1
- 第6週 硬筆 行書2
- 第7週 硬筆 楷書・行書による実用語句1
- 第8週 硬筆 楷書・行書による実用語句2
- 第9週 毛筆 楷書1
- 第10週 毛筆 楷書2
- 第11週 毛筆 楷書3
- 第12週 毛筆 楷書4
- 第13週 毛筆 楷書による実用語句1
- 第14週 毛筆 楷書による実用語句2
- 第15週 毛筆 楷書による実用語句3

【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキスト：蔵中しのぶ監修・高城弘一書『美しい文字と教養が身につく なぞり書き百人一首』（東京書店）1296円

※その他コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中添削回数、参加度） 30%

レポート 20%

期末の提出物 50%

以上で、総合評価をする。

通常は、その場で作品を添削し、レポートは、感想や評価を加え、

期末の提出物は、当該時間内に採点し、それぞれ返却する。

【参考書】

高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社）

【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。したがって、展覧会情報なども、随時紹介したい。

美しい文字を書く b

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

毛筆によって行書の基礎を学び、実用語句を楷書と行書で書けるようにする。仮名を硬筆によって学び、引き続き、毛筆でも学ぶ。また、漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにしたい。

【授業における到達目標】

- ・毛筆の楷書と行書によって、実用語句を美しく書けるようにする。
- ・硬筆と毛筆の仮名によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 授業方針 授業計画 書道用具用材
 第2週 毛筆 行書1
 第3週 毛筆 行書2
 第4週 毛筆 行書3
 第5週 毛筆 実用語句1
 第6週 毛筆 実用語句2
 第7週 硬筆 仮名1
 第8週 硬筆 仮名2
 第9週 硬筆 漢字仮名交じり文
 第10週 毛筆 仮名1
 第11週 毛筆 仮名2
 第12週 毛筆 仮名3
 第13週 毛筆 仮名4
 第14週 毛筆 漢字仮名交じり文1
 第15週 毛筆 漢字仮名交じり文2

【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト：高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社、2011年）1,728円

その他、コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）および半紙を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業の添削回数、参加度） 30%

レポート 20%

期末の提出物 50%

以上で、総合評価をする。

通常は、その場で作品を添削し、レポートは、感想や評価を加え、期末の提出物は、当該時間内に採点し、それぞれ返却する。

【参考書】

高城弘一編『平安かなの美』（二玄社、2004年）2,808円

その他、授業内で随時紹介

【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。また、美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。

できるだけ、「美しい文字を書く a」を受講していることが望ましい。受講していない場合、「美しい文字を書く a」の内容を行うので、そちらのシラバスを参照のこと。

美しい文字を書く b

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

2年～ 後期 1単位

◎：美の探究 ○：行動力

【授業のテーマ】

毛筆によって行書の基礎を学び、実用語句を楷書と行書で書けるようにする。仮名を硬筆によって学び、引き続き、毛筆でも学ぶ。また、漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにしたい。

【授業における到達目標】

- ・毛筆の楷書と行書によって、実用語句を美しく書けるようにする。
- ・硬筆と毛筆の仮名によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 授業方針 授業計画 書道用具用材
 第2週 毛筆 行書1
 第3週 毛筆 行書2
 第4週 毛筆 行書3
 第5週 毛筆 実用語句1
 第6週 毛筆 実用語句2
 第7週 硬筆 仮名1
 第8週 硬筆 仮名2
 第9週 硬筆 漢字仮名交じり文
 第10週 毛筆 仮名1
 第11週 毛筆 仮名2
 第12週 毛筆 仮名3
 第13週 毛筆 仮名4
 第14週 毛筆 漢字仮名交じり文1
 第15週 毛筆 漢字仮名交じり文2

【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキスト：高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社、2011年）1,728円

その他、コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）および半紙を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業の添削回数、参加度） 30%

レポート 20%

期末の提出物 50%

以上で、総合評価をする。

通常は、その場で作品を添削し、レポートは、感想や評価を加え、期末の提出物は、当該時間内に採点し、それぞれ返却する。

【参考書】

高城弘一編『平安かなの美』（二玄社、2004年）2,808円

その他、授業内で随時紹介

【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。また、美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。

できるだけ、「美しい文字を書く a」を受講していることが望ましい。受講していない場合、「美しい文字を書く a」の内容を行うので、そちらのシラバスを参照のこと。

美学 a

「美」を考える美学

樋笠 勝士

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【注意事項】

共通教育科目「美学」は今年度を以て廃止されます。最後の機会となりますので、その点、よく考えてください。

【授業のテーマ】

「美学」とはどのような学的探求なのかを学ぶ。本科目は本年度を以て廃止されるため、全学科学学生の教養に資するために、広い視野の下に講義したい。さて、「美学」の名称そのものを見れば、我々は「美」が主題化されている学問であると想定してしまうが、しかし、名称を意識しない限りでは「芸術」を思い浮かべてもいるであろう。はたして「美」と「芸術」は繋がるものであるのだろうか、さらには「美学」という邦訳となった元の言葉 Aesthetics が「感性」の意味をもつことを知れば、かなり錯綜してくるのではないだろうか。本講義では「美学」について一般的に総括的に、その「何であるか」について論じ、「美学」の学的探求自体を歴史的にも体系的にも吟味してゆきたい。

前期は上記の体系的な説明の後、「美」を考える美学を論究することとしたい。その内容は「美とは何か」という根本的な問いを徹底的に洞察することにある。それは自然美もあれば芸術美もある。また精神的な美もあれば物的な美もある。更には、儂さや悲壮などのように「美的なもの」「美意識」など感性的領域にも展開してゆく概念である。これを考えていきたい。

【授業における到達目標】

「美学」の学問的理解と共に、前期は「美」に関する問題意識をもつことを目指します。「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：「美とは何か」の問い
- 第2週 学問としての美学の始まり…西洋近代
- 第3週 美学的探求の始まり…西洋古代
- 第4週 西洋哲学史における「真・善・美」について
- 第5週 西洋思想の二つの源流…ギリシャ思想とキリスト教
- 第6週 美学のテーマ：「美・芸術・感性」
- 第7週 「美の哲学」の源流としてのプラトン哲学
- 第8週 プラトンの「美」の思想
- 第9週 プラトンにおける芸術論の両義性
- 第10週 「美」と「恋」の本質的な関係
- 第11週 「恋」と「哲学」の本質的な関係
- 第12週 「美とは何か」の問いの意義
- 第13週 「美」の拡張：「美的なもの」
- 第14週 「美」と「芸術・感性」との関係
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

美学について特に予備知識は不要です。

事前に必要なのは、「美学」に対して予断することなく問題意識をもつことです。可能な範囲で、自ら「美」を定義する試みをしてください。事後に大切なのは、講義前の自己の認識との比較によって、学問の意義や教育の効果を評価して下さい。

これらに全部で週4時間程度かけることを勧めます。

【テキスト・教材】

資料は適宜配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、リアクションペーパー提出）（30%）と試験（70%）にて総合的に判断します。評価基準や評価結果について質問があれば必要に応じて回答します。答案用紙の返却にも応じます。

【参考書】

- 今道友信編『講座美学』（全五巻、東大出版会）
- 竹内敏雄編『美学事典』（弘文堂）
- 木幡順三『美と芸術の論理』（勁草書房）
- ドニ・ユイスマン『美学』（白水社クセジュ文庫）
- 今道友信『美について』（講談社現代新書）

美学 b

「芸術哲学」としての美学

樋笠 勝士

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

前期では「美学」とはどのような学的探求なのかを、その古典的規範的視点から学んだ。「美学」は廃止科目なので、最後の半期授業として、後期では更に発展的に「美学」の学的探求の内実を洞察し、現代的な課題をも考慮しつつ、「美学」の学問的可能性を論じてみたい。西洋近代は「美学」における探求を「芸術」に集中させてきた。そこから「芸術は美しい」という言説が規範化してきたが、しかし、大戦前後からその考え方は崩れ、今や、芸術は美と無縁であり、むしろ一般的に感性を刺激する事象であるという考え方が学究的な場に浸透してきた。このような状況において「美学」の学的可能性はどのようなものとなるのであろうか。「美学」は、もはや「美しき芸術」や「(芸術の起源としての) 宗教」から一層離れた学的探求へと進んでいくのであろうか。それとも別の考え方もありうると見るべきであらうか。このあたりを具体的な作品事象を紹介しつつ考えてみたい。後期は近代的な「芸術」の概念を出発点にしつつ現代的な課題にも応える内容を提供していきたい。

【授業における到達目標】

「芸術」と「文化」の共通点と相違点、或る事物を「芸術」と見做す行為の意義、芸術における古典と現代の相違と(しかし)連続性、といった事柄についての理解を目指します。「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：規範としての古典美学
- 第2週 芸術哲学の源流…アリストテレス
- 第3週 アリストテレスの美学
- 第4週 アリストテレスの芸術哲学
- 第5週 近代美学の基礎…バウムガルテン美学(感性学)
- 第6週 近代美学の展開…カント批判哲学からドイツ観念論へ
- 第7週 近代美学の終焉…ロマン主義の意義
- 第8週 近代美学の超克…ニーチェ(生の美学)
- 第9週 現代芸術の始まりとしてのダダイズム
- 第10週 「芸術とは何か」の問い
- 第11週 現代の美学の諸相：実存主義の美学
- 第12週 現代の美学の諸相：現象学と分析哲学
- 第13週 現代の美学の諸相：感性学
- 第14週 文化相対主義と芸術
- 第15週 新たな感性学

【事前・事後学修】

事前学修として、前期の科目を受講済みであることが望ましいです。そうでない場合は、下記の任意の参考文献を事前に読んでください。事後に大切なのは、講義前の自己の認識との比較によって、学問の意義や教育の効果を評価して下さい。これらについて通算週4時間程度の時間をかけることをお勧めします。

【テキスト・教材】

教材は授業中に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度、リアクションペーパー提出)(30%)、試験(70%)とにより総合的に判断します。評価基準や評価結果について質問があれば必要に応じて回答します。答案用紙の返却にも応じません。

【参考書】

今道友信編『講座美学』(全五巻、東大出版会)、竹内敏雄編『美学事典』(弘文堂)、木幡順三『美と芸術の論理』(勁草書房)、ドニ・ユイスマン『美学』(白水社クセジュ文庫)、今道友信『美について』(講談社現代新書)

【注意事項】

共通教育科目「美学」は今年度を以て廃止されます。最後の機会となります。

美学演習 a

美学の基礎概念

椎原 伸博

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995）における、「基礎的な諸理念」を題材にして、ペアワークやグループワーク等のアクティブラーニングの手法をもちいて、美と芸術についての基本的知識を習得する。前期では、卒業論文のテーマ設定の準備を行う。

【授業における到達目標】

基本的知識の修得と思考能力を身につける。修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、アクティブラーニングの手法により、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につけます。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション
 第2週 美学① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定
 第3週 美学② グループ学習
 第4週 美学③ グループ発表
 第5週 美① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定
 第6週 美② グループ学習
 第7週 美③ グループ発表
 第8週 学外見学 現代美術関連施設
 第9週 自然美① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定
 第10週 自然美② グループ学習
 第11週 自然美③ グループ発表
 第12週 芸術① 読解とペアワークによる問題設定
 第13週 芸術② グループ学習
 第14週 芸術③ グループ発表
 第15週 全体振り返りと個別研究テーマ発表（卒論を見据えて）

【事前・事後学修】

事前学修：教科書の「I：基礎的な諸理念」を課題とする。授業時に該当する章は、必ず前もって良く読み、必ずノートに要点をまとめておくこと。また、該当箇所にある参考文献等も、図書館等で確認しておくこと。グループ学習時は、それぞれ与えられたテーマに関する学習に基づいて行われるので、予習を怠らないようにすること。（学修時間：週2時間）事後学修：グループ発表後に他の学生や教員の意見を参考にして、グループ毎にレポート作成する。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

佐々木健一：美学辞典[東京大学出版会、1995、¥3,990(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の発表50%、レポート50%
 提出されたレポートのうち優れているものは、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会 2009年）2940円
 竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂）
 W.ヘンクマン、K.ロッター [後藤 狷士 他訳]『美学のキーワード』（勁草書房 2001年）4200円

【注意事項】

理論的考察の理解を深める為に、現代美術作品の見学授業を行います。グループ学習を行いますので安易な欠席は、他の学生に迷惑になるため厳禁です。レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

美学演習 b

美学の基礎概念

椎原 伸博

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995）における、「再生産に関する諸概念」を題材にして、ペアワークやグループワーク等のアクティブラーニングの手法をもちいて、美と芸術についての基本的知識の習得と、基本的な問題に対する思考能力を養成することを目標とする。また、最終週には卒論の研究計画の準備を行う。

【授業における到達目標】

基本的知識の修得と思考能力を身につける。修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、アクティブラーニングの手法により、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につける。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション
 第2週 趣味① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定
 第3週 趣味② グループ学習
 第4週 趣味③ グループ発表
 第5週 解釈① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定
 第6週 解釈② グループ学習
 第7週 解釈③ グループ発表
 第8週 批評① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定
 第9週 批評② グループ学習
 第10週 批評③ グループ発表
 第11週 コミュニケーション① 読解とペアワーク：問題設定
 第12週 コミュニケーション② グループ学習
 第13週 コミュニケーション③ グループ発表
 第14週 学外実地研究 金沢21世紀美術館
 第15週 学外実地研究 富山県美術館

【事前・事後学修】

事前学修：教科書の「消費と再生産に関する諸概念」を課題とする」を課題とする。授業時に該当する章は、必ず前もって良く読み、必ずノートに要点をまとめておくこと。また、該当箇所にある参考文献等も、図書館等で確認しておくこと。グループ学習時は、それぞれ与えられたテーマに関する学習に基づいて行われるので、予習を怠らないようにすること。（学修時間：週2時間）事後学修：グループ発表後に他の学生や教員の意見を参考にして、グループ毎にレポート作成する。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

佐々木健一：美学辞典[東京大学出版会、1995、¥3,990(税抜)]
 カルロス・タロン＝ユゴン：美学への手引き[文庫クセジュ、白水社、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の発表50%、レポート50%
 提出されたレポートのうち優れているものは、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会 2009年）2940円
 竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂）カルロス・タロン＝ユゴン（上村博訳）『美学への手引き』（文庫クセジュ、白水社）1200円

【注意事項】

理論的考察の理解を深める為に、金沢21世紀美術館、富山県美術館など北陸の実地見学を行う予定です。グループ学習を行いますので、安易な欠席は、他の学生に迷惑になるため厳禁です。レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

美学特講 c

都市の美学

椎原 伸博

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

「美学」とは、人間の感性的な関心全般に関わり、それらを理論的に考えようとする学問です。この講義では、そういった人間の感性的な関心が複雑に絡まっている「都市」に注目し、そこから「美学」の問題を抽出することを目的とします。授業は主として、パリと東京を比較しながら、都市における「美学」について考察することになります。

【授業における到達目標】

都市環境における美的現象について、美学の立場から分析検討できるようになることをめ目指します。それにより、修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。それぞれのパリと日本の都市芸術の比較を行うことで、国際的視野を養います。

【授業の内容】

- 1：イントロダクション 都市における美とは
- 2：パブリックアートについて
- 3：パリの「大都市軸」という実験
- 4：フィールドワーク① パブリックアート見学
- 5：モニュメントについて①ロダン「カレーの市民」について
- 6：モニュメントについて②
A・リーグル「現代の記念物崇拝 その特質と起源」について
- 7：歴史的な街並みについてと美意識
- 8：近代化産業遺産と美意識 軍艦島をめぐる 廃墟とは
- 9：美術館都市という創造都市政策
- 10：公園の美学 ラ・ヴィレット公園の現在
- 11：人工地盤の風景 デファンス地区と都市開発
- 12：郊外について モダニズムのユートピア
- 13：映画と都市 東京とパリ
- 14：フィールドワーク② 表参道周辺の都市景観調査
- 15：全体の振り返りとまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、良く読んでおいて授業の準備をしてください。（学修時間：週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学修：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト40%、フィールドワークのレポート30%×2=60%
授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

西村清和編『日常性の環境美学』（勁草書房）
アロイス・リーグル（尾関幸訳）『現代の記念物崇拝 その特質と起源』（中央公論美術出版）
芦原義信『東京の美学』（岩波新書）

【注意事項】

フィールドワークとして、新宿アイランドアートやファーレ立川などのパブリックアートの見学を行います。また、必要に応じて、その他の展覧会、都市景観の見学会も行います。小テスト、レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

美学特講 d

オペラの美学

椎原 伸博

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

この授業は、総合芸術としてのオペラの歴史について概略しつつ、それぞれのオペラを美学や芸術学、表象文化論、ジェンダー論といった視点から、再解釈していきます。授業の前半に講義を行い、後半はそれぞれのオペラのダイジェストの鑑賞になります。

【授業における到達目標】

総合芸術であるオペラについて、美学芸術学的視点から分析、検討できるようになることを目指す。それは修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、様々な国で上演されてきたオペラの実態をすることで、国際的視野を養う。

【授業の内容】

- 1：はじめに オペラとは何か オペラの詩学
- 2：ペーリ《エウリディーチェ》とモンテヴェルディ《オルフェオ》
- 3：フランスオペラの誕生について リュリのオペラについて
- 4：フランスとイタリア プフォン論争について ラモーとルソー
- 5：オペラと社会 モーツァルトのダ・ポンテ三部作
- 6：オペラと社会 ベートーヴェン《フィデリオ》
- 7：グループワーク① オペラとジェンダー
- 8：ベルカントとヴェリズモ
- 9：ワーグナーの総合芸術論①
- 10：ワーグナーの総合芸術論②《ニーベルングの指輪》
- 11：現代アートとオペラ① ヤン・ファープル
- 12：現代アートとオペラ② ビル・ヴィオラ
- 13：現代アートとオペラ③ ウィリアム・ケントリッジ
- 14：グループワーク② オペラにおける声 初音ミクのオペラ
- 15：振り返りとまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、良く読んでおいて授業の準備をしてください。（学修時間：週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学修：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、小レポート30%、取り上げるオペラを全曲鑑賞した上でのレポート50%で評価します。授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

岡田暁生『オペラの運命 十九世紀を魅了した「一夜の夢」』中公新書

【注意事項】

授業における映像は、時間的制限からダイジェストのものとなるため、できるだけ授業時間以外で全曲鑑賞するようこころがけてください。また、授業中に案内を出しますので、実際に劇場に足を運び、生の舞台を鑑賞してください。

レポート、小テスト等の指示はすべてmanabaを通して行うので、各自リマインダーを設定し、告知を見逃さないようにしてください。

美学入門 a

—美学の歴史 古代から近世まで—

椎原 伸博

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

この講義は、古代ギリシア哲学の中に生まれた「美」に関する思想や理論が、中世キリスト教社会、ルネサンス文明を経て、18世紀の啓蒙主義の時代に至り、どのように進展していったかを学ぶ。また、それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を通して「芸術」概念がどのように形成されていったのかを確認する。

【授業における到達目標】

古代ギリシアから18世紀啓蒙主義まで「芸術」に関する概念がどのように変化していったかを理解する。修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めようとする態度を身につけます。

【授業の内容】

- 1：はじめに 学習方法についてオリエンテーション
- 2：美の形而上学 プラトン
- 3：古代ギリシアの芸術観①プラトン 詩人追放論について
- 4：芸術の諸相「ギリシア悲劇」ソポクレス「オイディプス王」鑑賞とディスカッション
- 5：古代ギリシアの芸術観②アリストテレス「詩学」1～8章
- 6：古代ギリシアの芸術観③アリストテレス「詩学」9章以降
- 7：古代ローマの芸術観 ホラティウス「詩法」
- 8：芸術の諸相「キリスト教中世芸術」と美意識
- 9：ルネサンスの芸術観 レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術論
- 10：ル・シッド論争とフランス古典主義
- 11：芸術の諸相：演劇 モリエール「才女気取り」について 鑑賞とディスカッション
- 12：バロックの美学 オペラの誕生
- 13：近代的芸術の成立と新旧論争
- 14：理想的人間をめぐる美学と趣味論
- 15：振り返りとまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指示された教科書の該当箇所を読んでおいてください。事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして良く読んでおいてください。（学修時間 週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学修：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

カルロス・タロン＝ユゴン：美学への手引き[文庫クセジュ、白水社、2015、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、レポート30%、定期試験50%で評価します。授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂、1974年）佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995年）W.ヘンクマン、K.ロッター（後藤狷士監訳）『美学のキーワード』（勁草書房、2001年）小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会、2009年）アリストテレス『詩学』、ホラティウス『詩論』[松本仁助、岡道男訳]（岩波文庫、1997年）

【注意事項】

小テスト、レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

美学入門 b

—美学の歴史 啓蒙主義時代から現代へ—

椎原 伸博

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

この講義は、前期の「美学入門a」に引き続き、「美」に関する思想や理論について、18世紀の啓蒙主義時代から現代へどのように進展していったのかを学ぶ。また、それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を通して「芸術」概念がどのように変化していったのかも確認する。

【授業における到達目標】

18世紀に「美学」という学問は成立するが、その思想的背景を理解する。また、カントからヘーゲルを経て、現在に至るまでの「美学」的思想の流れを理解する。学生が修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めようとする態度を身につけます。

【授業の内容】

- 1：イントロダクション 前期の再確認
- 2：味覚と趣味 プリア・サヴァランの『味覚の生理学』
- 3：芸術の諸相：演劇 モリエール「ヴェルサイユ即興劇」鑑賞とディスカッション
- 4：「美学」の成立について①ライプニッツの影響
- 5：「美学」の成立について②バウムガルテンの『美学』
- 6：カント『純粋理性批判』と超越論的感性論
- 7：カント『判断力批判』について
- 8：芸術の諸相：音楽 モーツァルトと18世紀
- 9：美的範疇としての崇高とピクチャレスク
- 10：ロマン主義の美学 シェリングと模倣
- 11：ヘーゲル『美学講義』芸術の終焉について
- 12：芸術の終焉の後の芸術について
- 13：わからなさの美学 現代芸術の問題
- 14：関係性の美学 グループワークとディスカッション
- 15：感性に再び向かい合う美学 振り返りとまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：指示された教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、事前に良く読んでおいてください。（学修時間 週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学修：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

カルロス・タロン＝ユゴン：美学への手引き[文庫クセジュ、白水社、2015、¥1,200(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、レポート30%、定期試験50%で評価します。授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（1974年、弘文堂）佐々木健一『美学辞典』（1995年、東京大学出版会）W.ヘンクマン、K.ロッター（後藤狷士監訳）『美学のキーワード』（2001年、勁草書房）小田部胤久『西洋美学史』（2009年、東京大学出版会）

【注意事項】

資料とハンドアウトの提示、小テスト、レポートの指示は全てmanabaで行うので、各自リマインダー設定すること。

美術と社会 c

近現代日本における女性の作り手とジェンダー

吉良 智子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

日本の美術家の名前を思い浮かべるとき、そこに「女性」はいるでしょうか。もし、名前や作品を挙げるができなかったとしたら、どのような理由があるのでしょうか。この授業では、日本の女性美術家の歴史や一部の著名な人物を紹介するのではなく、近現代日本の「女性の作り手」を取り巻く問題や社会的状況を、ジェンダーの視点を用いつつ、制度、教育、パートナーシップ、戦争などの切り口から、分析していきます。

【授業における到達目標】

女性の作り手による作品や、表現された女性像を、ジェンダーの視点から分析・考察できるようになることが目標です。

学生が修得すべき態度のうち、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を養います。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 「美術」の成立と女性の作り手
- 第3週 前近代における女性の作り手
- 第4週 「美術」教育と女性
- 第5週 教育者としての女性
- 第6週 女性と「手芸」
- 第7週 女性の作り手と「ネットワーク」
- 第8週 女性の作り手と「モチーフ」
- 第9週 アヴァンギャルドと女性
- 第10週 戦争と女性の作り手1（戦争美術における「銃後」）
- 第11週 戦争と女性の作り手2（戦争と女性美術家）
- 第12週 戦後の女性アーティストの作品と評価
- 第13週 現代の女性アーティストの作品と評価
- 第14週 現代における女性の作り手
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

全国の美術館・博物館では、一年を通してさまざまな展覧会が開催されていますが、女性の作り手に関するものは多いとはいえません。事前・事後学修ともに、授業に使用するプリントを参照しながら、洋画・日本画・彫刻・工芸などの従来の美術ジャンルにとらわれずに、広く女性の作り手の作品を見てください。また授業では事前学習用のプリントを配布します。次回の授業までに熟読してください（事前・事後学修時間 各週2時間）。

【テキスト・教材】

プリントを使用します。また展覧会見学をする場合があります。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート70%、授業内小レポート30%とし、総合的に評価します。レポートの内容を次回授業時に紹介し、更なる考察を深めます。

【参考書】

- 若桑みどり『女性画家列伝』岩波新書、1985
- パトリシア・フィスター『近世の女性画家たち』思文閣出版、1994
- 小勝禮子他編『奔（はし）る女たち 女性画家の戦前・戦後 1930-1950年代』栃木県立美術館、2001
- 草薙奈津子監修『女性画家の全貌。』美術年鑑社、2003
- 山崎明子『近代日本の「手芸」とジェンダー』世織書房、2005
- 吉良智子『戦争と女性画家』ブリュッケ、2013
- 吉良智子『女性画家たちの戦争』平凡社新書、2015

美術と社会 d

美術における社会と公共性

工藤 安代

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

【授業のテーマ】

本講義は、美術と社会の関係について、社会性及び公共性を軸として学んでいく。本講義を通して、人びとや地域社会と密接な関わりを築きはじめた芸術活動の諸相やその意義について、米国やヨーロッパ諸国などの事例を取り上げ、国際的な視点から捉えていく。社会、人びとに深く関わろうとする芸術が担う公共性とは何か、現代社会における展望と課題を理解し、その背景となった社会や思想など、歴史的な流れを追いつつ幅広い観点から学んでいく。

【授業における到達目標】

- ①20世紀中頃から現代まで、欧米や日本社会において美術が時代の変化と共にいかに変化してきたか把握することができる。
- ②多様な価値観を持ち、異なる文化背景を持つ人々が共存する現代社会において、美術の役割がいかなるものか思考する力を養う。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス&芸術と公共性について（シラバス説明、参考書説明など）
- 第2回 社会的コンテクストに関わる美術Ⅰ（1930年代～ 銅像、記念碑、公共空間の彫刻）
- 第3回 社会的コンテクストに関わるアートⅡ（1960年代～ パブリックアートのはじまり）
- 第4回 国家と芸術Ⅰ—芸術とデモクラシー（芸術家支援と芸術による国家統治）
- 第5回 国家と芸術Ⅱ—変わりゆく公共性（アースワークの現れによる場と美術の変化）
- 第6回 社会的コンテクストに関わるアートⅢ（芸術の表現拡張と制度批判）
- 第7回 国家と芸術Ⅲ—芸術の公共性を見直し（芸術の社会的価値への問い）
- 第8回 芸術と社会の新たな関わりへの模索Ⅰ（アート・アクティビズム）
- 第9回 芸術と社会の新たな関わりへの模索Ⅱ（社会化するアーティストとソーシャル・アクション）
- 第10回 社会に関わるアート 今日の流れⅠ（アーティストの活動とその実践）
- 第11回 社会に関わるアート 今日の流れⅡ（理論と手法）
- 第12回 アートと関係性のワークショップⅠ
- 第13回 アートと関係性のワークショップⅡ
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 フォローアップ

【事前・事後学修】

【事前学修】小レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小レポート・発表等を復習すること。授業で学んだ専門用語等を理解し、次回の授業範囲を予習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

随時配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート2回〔40%〕、プレゼンテーション2回〔30%〕、平常点〔30%〕。

小レポートは次回又は次々回の授業にて、プレゼンテーションの結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

- ・『パブリックアート政策』工藤安代 著
- ・『アーツ・マネジメント概論』小林真理 他
- ・『ソーシャル・エンゲイジド・アート系譜・理論・実践』アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会 著、編集

【注意事項】

第12、13回での「アートと関係性のワークショップⅠ、Ⅱ」では、授業に関連の深いテーマの美術館、展覧会の見学学習を行う。

第14回では学生による見学学習へのフィードバックをワークショップ形式により行なう。

美術の世界

西洋美術史入門～古代ギリシアから20世紀まで

久保寺 紀江

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

西洋の絵画や彫刻をみて、なんとなくわからないなと思ったことはありませんか？本講義では、古代ギリシア美術から時間を追って西洋美術の流れを学びます。その結果、西洋の絵画や彫刻、建築を見て楽しいもの、身近な親しみやすいものへ変えてゆく講義です。西洋美術に独自の時代区分や様式、各時代や流派の知っておきたい代表作品を、パワーポイントで鑑賞しながら、その特徴を学びましょう。

また、西洋美術をより深く知るため、ギリシア・ローマ神話や聖書についても学びます。神話や聖書は、西洋美術において多く扱われるテーマやエピソードの源泉であるからです。

ギリシアやイタリア、フランスなど西欧諸国の美術館や教会を実際に訪問するかのよう、西洋美術の世界を一緒に探検しましょう。西洋美術史は、知れば知るほど本当に楽しい学問です。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「国際的視野」および「美の追求」において、古代ギリシアから20世紀初頭までの大きな流れや各時代の特徴、西洋美術における重要作品がわかるようになる。西洋文化の基本であるギリシア神話や聖書の初歩的知識を持てるようになる。

【授業の内容】

- 1 インTRODクシヨン 授業の進め方、西洋美術史とは？
- 2 古代 ギリシア美術・ローマ美術
- 3 中世1 西欧初期中世美術とビザンティン美術
- 4 中世2 ロマネスク美術とゴシック美術
- 5 ギリシア神話と西洋美術史
- 6 聖書と西洋美術史
- 7 初期ルネサンス美術（マザッチョ、ブルネレスキなど）
- 8 盛期ルネサンス美術（ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど）
- 9 バロック美術（カラヴァッジョ、レンブラントなど）
- 10 ロココ美術・新古典主義（ブーシェ、ダヴィッドなど）
- 11 ロマン主義・写実主義（ドラクロワ、クールベなど）
- 12 印象主義（マネ、モネ、ルノワールなど）
- 13 新印象主義・ポスト印象主義（スーラ、セザンヌなど）
- 14 20世紀前半の流れ（マティス、ピカソなど）
- 15 総復習

【事前・事後学修】

事前学修：気になる展覧会を見つけ、積極的に足を運んでみましょう。また、美術全集等で各時代の代表作品を鑑賞しておいてください（週2時間）

事後学修：授業で配布した資料を参考に、その回で紹介した様式の特徴、代表作品の復習をしておいてください。（週2時間）

【テキスト・教材】

毎回資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート50%、試験50%

小レポート課題として、指定の展覧会（入場料等の費用がかかります）を訪問していただきます。小レポートは提出後の授業でフィードバックを行います。

【参考書】

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社 2002年

【注意事項】

期末に試験を実施しますが、試験を受験するためには、後期の期間中に課される小レポートを提出している必要があります。

美術科教育法（1）

中村 一哉

2年 後期 2単位

【授業のテーマ】

学校教育における美術教育の意義や目的についての理解を深めるとともに、中・高等学校の美術科及び芸術（美術）科の目標や内容、指導・評価計画の作成や授業構想の立案等に向けての基礎的な知識や技能を身に付ける。

本授業では、美術科教員としての基礎的な内容の正しい理解と確実な修得をねらいとしている。従って、これからの美術教育の基盤となる新学習指導要領を正しく理解し、その趣旨に基づいて、美術科の教科目標や全体的な指導内容、授業を構想していく上で必要となる指導計画や教材研究等について、演習などを通して幅広く学修することを内容とする。

【授業における到達目標】

- ・中・高等学校の美術科及び芸術（美術）科の教科指導の目標や内容、美術科教師としての基本的な資質・能力等について理解し、発信することができる。
- ・美術科の授業を成立させる条件や方法、授業における教材の取扱いや題材設定の在り方等を理解し、自ら授業の構想が立てられるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 美術教育の目的と意義
 第2週 子供の造形的な発達特性と各校種の学習指導要領の目標
 第3週 学習指導要領の変遷とこれからの美術教育の方向性
 第4週 美術で育成する資質・能力と指導内容、学習評価
 第5週 美術科教師としての心得と留意点
 第6週 美術科経営計画の作成と協議
 第7週 絵に表現する活動の教材と指導（教材研究と協議）
 第8週 彫刻に表現する活動の教材と指導（教材研究と協議）
 第9週 デザインに表現する活動の教材と指導
 （教材研究と協議）
 第10週 工芸に表現する活動の教材と指導（教材研究と協議）
 第11週 絵や彫刻の鑑賞に関する活動の教材と指導
 （教材研究と協議）
 第12週 デザインや工芸の鑑賞に関する活動の教材と指導
 （教材研究と協議）
 第13週 美術科の指導計画と題材配列表の作成
 第14週 美術館等との連携による指導
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 事前にレポートの作成等を課題として課すことがある。教材研究では、あらかじめ作品を制作して持ち寄っての協議を原則とする。（学修時間：週2時間）

【事後学修】 授業での協議や講評を受けて、提出資料の修正や作り替えを課題として課すことがある。提出した課題等については、講評して返却をすることでフィードバックする。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編 [教育出版、¥290(税抜)、※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。]

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校美術】[教育出版、¥320(税抜)]

中学校学習指導要領解説 美術編 平成20年9月 [日本文教出版、¥91(税抜)]

中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年3月[日本文教出版、¥115(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点（提出課題、協議や発表の態度等）40%。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。授業態度は、主として教材研究や指導計画等の成果の発表や協議、

プレゼンテーション等で、原則として授業で講評する。

【参考書】

美術教育を学ぶ人のために 世界思想社 1,900円
 美術科教育の基礎知識 建帛社 2,916円

【注意事項】

美術科教育法の出発点となる授業であり、美術科の「教材研究」と「指導の在り方」の2つの側面からこれまでの自分の経験を見つめ直し、これから求められる美術教育の方向性について学修していく態度が望まれる。

表現の教材研究については、実習科目との関連も重要であり、積極的に履修して教材研究に生かせるようにすることを期待する。

美術科教育法（２）

中村 一哉

3年 前期 2単位

美術科の授業を実際に進めていける授業の構想力や指導力を身に付けることを目指すこととなる。その際に基盤となるのは、新学習指導要領であり、決して自分たちが中学、高校で受けてきた美術の授業がモデルとはならないことに留意する必要がある。

【授業のテーマ】

美術科教育法（１）で学修した美術教育に関する基礎的な理解や教材の取扱い等の内容を踏まえて、中・高等学校の美術科及び芸術（美術）科における指導・評価計画の作成や授業構想の具体的な立案等に向けての知識や技能を身に付ける。

本授業は、美術科教員に求められる表現や鑑賞の授業の構築力や指導力を高めることがねらいである。従って、新学習指導要領の趣旨に基づく授業の実現を図るための指導計画や学習指導案等を作成するとともに、その内容について相互に発表、協議、演習等を行うことを通して理解を深めていくことを主な学修内容とする。

【授業における到達目標】

・中・高等学校の美術科及び芸術（美術）科の教科指導の実施上の課題を理解し、自ら指導計画を作成し、具体的な授業の構想が立案できるようになる。

・教材研究や材料・用具の取扱い等に関する知識を活かしながら、自らが立案した授業構想に基づく指導案を作成し、模擬授業として実践することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 美術教育の目的と意義
- 第2週 新学習指導要領における小・中・高等学校の指導
- 第3週 美術科の教科指導の重点と教科経営案の作成
- 第4週 題材設定、教材選定の留意点と題材配列表の作成
- 第5週 美術科の評価と指導・評価計画の作成
- 第6週 表現における授業構想案の作成
- 第7週 鑑賞における授業構想案の作成
- 第8週 美術科の学習指導案と略案の作成
- 第9週 映像メディア表現の指導
- 第10週 模擬授業（絵画表現）と協議
- 第11週 模擬授業（立体表現）と協議
- 第12週 模擬授業（デザイン表現）と協議
- 第13週 模擬授業（工芸表現）と協議
- 第14週 模擬授業（鑑賞活動）と協議
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表や模擬授業の際には、事前に教材研究を行い、指導略案を作成するなどの事前学習を行う。（学修時間：週2時間）

【事後学修】学修した指導計画や授業構想案等は、授業での協議や講評を受けて、修正、改善などの作り替え等を課題として課す。提出した課題等については、講評して返却をすることでフィードバックする。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編 [教育出版、¥290(税抜)]

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校美術】[教育出版、¥320(税抜)]

中学校学習指導要領解説 美術編 平成20年9月 [日本文教出版、¥91(税抜)]

中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年3月[日本文教出版、¥115(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点（提出課題、協議や発表の態度等）40%。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。授業態度は、主として教材研究や指導計画等の成果の発表や協議、プレゼンテーション等で、原則として授業で講評する。

【参考書】

美術教育を学ぶ人のために 世界思想社 1,900円

美術科教育の基礎知識 建帛社 2,916円

【注意事項】

美術科教育法（２）では、高等学校の指導内容を扱うとともに、

美術科教育法（3）

島田 佳枝

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

中学校美術科における鑑賞活動の意義や目的の理解に立って、具体的な活動方法について実践的に研究し、授業の組み立て方や、学習支援のあり方について学ぶ。

【授業における到達目標】

中学校美術科における鑑賞活動の意義と目的を理解することができる。

対話型の美術鑑賞の背景にある作品観や観衆観の理解に立って、生徒の参加を促す授業づくりができる。

表現活動とのつながりを視野に入れた鑑賞授業の必要性を理解し、授業を構築することができる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、計画を立案・実行できる力を身につける。

【授業の内容】

第1週 授業ガイダンス

第2週 学習指導要領における鑑賞活動

第3週 対話型の美術鑑賞について（1）対話型の美術鑑賞とは？

第4週 対話型の美術鑑賞について（2）対話型美術鑑賞における作品の捉え方について

第5週 授業案の作成

第6週 模擬授業（1）A, B, C班

第7週 模擬授業（2）D, E, F班

第8週 模擬授業（3）G, H, I班

第9週 模擬授業（4）J, K班

第10週 表現活動とのつながりを意識した鑑賞題材について

第11週 授業案の作成

第12週 授業案のプレゼンテーション（1）A, B, C班

第13週 授業案のプレゼンテーション（2）D, E, F班

第14週 授業案のプレゼンテーション（3）G, H, I班

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントに目を通し予習すること。学習指導案作成及び模擬授業やプレゼンテーション実施に向けた準備を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布されたプリントを活用し授業内容を復習すること。模擬授業やプレゼンテーションを実施した際には、自らの得た成果と課題を文章化すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：中学校学習指導要領解説－美術編[2017、¥115(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物および模擬授業60%、期末レポート40%の割合で評価する。

提出物については最終提出日の翌週に、期末レポートについては授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

参考書は授業時に紹介する。

また参考資料は授業時にプリントで配布するほか、ビデオ等で提示する。

【注意事項】

・原則として出席確認時（授業開始時）に教室にいない場合は遅刻とみなす。

・30分以上の遅刻は出席扱いとはできないので注意すること。

・遅刻3回で欠席1回とみなす。

・授業への積極的な参加を期待する。

美術科教育法（4）

中村 一哉

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

新学習指導要領に基づいて、これからの美術教育が目指す目標や内容を正しく理解し、その趣旨を実現する美術の授業の実践的な指導力を学修する。

本授業では、実際に授業が進められる美術科教員としての実践力を高めることをねらいとする。そのために、各自が作成した学習指導案に基づく模擬授業と協議を通して、相互に学び合い、多様な視点から授業に対する見方や考え方を深めて、指導及び評価力の向上を図っていく。

【授業における到達目標】

・具体的な生徒の状況を想定した上で、指導と評価の一体化に基づく美術科の指導・評価計画や学習指導案が自ら作成できるようになる。

・模擬授業及びその後の協議を通して、美術科教員として、新学習指導要領の趣旨に基づく適切な授業の実施ができるようになる。

【授業の内容】

第1週 オリエンテーション 中学校美術科の授業の現状と課題

第2週 新学習指導要領の趣旨の理解（美術の教科目標と指導内容等に関する理解）

第3週 学年ごとの題材配列の考え方（美術の指導内容と題材設定に関する理解）

第4週 指導・評価計画の作成（各題材の指導ねらいと学習活動に関する理解）

第5週 授業構想の立案（美術で育成する資質・能力と学習評価に関する理解）

第6週 指導案の作成（美術の授業構想の具体化に関する理解）

第7週 指導案に基づく授業の実際（美術の指導上の留意点に関する理解）

第8週 模擬授業（テーマ：材料や用具）

第9週 模擬授業（テーマ：視聴覚機器の活用）

第10週 模擬授業（テーマ：表現題材）

第11週 模擬授業（テーマ：鑑賞題材）

第12週 模擬授業（テーマ：表現と鑑賞の相互の関連題材）

第13週 模擬授業（テーマ：評価の方法）

第14週 美術館等と連携した授業の工夫（学芸員等との連携等に関する理解）

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 指導計画や学習指導案等を予め作成して授業に臨むこと。模擬授業やその他の発表等に当たっては、必要な準備を事前に行う。（学修時間：週2時間）

【事後学修】 授業内容を確実に復習すると同時に、作成した資料は、協議や講評を受けて修正や作り替え等を課題として課す。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月 [日本文教出版、¥115(税抜)]

中学校学習指導要領解説 美術編 平成20年9月 [日本文教出版、¥91(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、平常点（提出課題、授業態度等）60%。

提出課題は、授業で学修したことの振り返りの課題、年間指導計画や学習指導案等。提出した課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。授業態度は、主として模擬授業やその他の発表、プレゼンテーション等で、原則として授業で講評する。

【参考書】

美術教育を学ぶ人のために 世界思想社 1,900円

美術科教育の基礎知識 建帛社 2,916円

【注意事項】

美術科教育法（１）から（３）のまとめであり、美術科教育法の出口となる授業であることから、これまで学修してきた成果を活用しながら、美術教育の担い手となる自覚をもって授業に臨むことが求められます。本授業では協議を重視することから、自ら考え、学修していく主体的な態度を期待する。

これからの美術教育の方向性を踏まえて、美術を自分の経験の中だけで捉えるのではなく、生活や社会との関わりなどの開かれた視点をもって捉えていくことが重要となる。

美術史概論 a

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

【授業における到達目標】

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、日本美術と現代社会の関わりについて、自分なりに考えてゆくための問題意識を養うこと。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

【参考書】

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

【注意事項】

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。

美術史概論 a

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

【授業における到達目標】

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、日本美術と現代社会の関わりについて、自分なりに考えてゆくための問題意識を養うこと。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

【参考書】

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

【注意事項】

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。

美術史概論 a

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

【授業における到達目標】

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、日本美術と現代社会の関わりについて、自分なりに考えてゆくための問題意識を養うこと。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

【参考書】

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

【注意事項】

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。

美術史概論 b

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

【授業における到達目標】

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出發
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

【事後学修】 取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)リアクションペーパーは次回授業で、期末レポートは授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

美術史概論 b

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

【授業における到達目標】

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出発
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

【事後学修】 取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)リアクションペーパーは次回授業で、期末レポートは授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

美術史概論 b

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

【授業における到達目標】

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出發
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

【事後学修】 取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

【テキスト・教材】

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)リアクションペーパーは次回授業で、期末レポートは授業最終回にフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

美術史実地研究 a

仏像や襖絵の実物を見る

武笠 朗・串田 紀代美

2年～ 集前 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

美術史を学ぶ上で作品の実物を見ることは何よりも重要である。実際にお寺などに行つて、画像で見た作品が、どのような状況に置かれ、そこでどのように見えるのか、それを実感することが大切であり、その時の感動こそが美術史の醍醐味である。この授業は日本・東洋の古美術の実地見学として、7月初め頃に、奈良・京都方面へ2泊3日の見学旅行を実施する。入門で出る基本作品を見学する。実物を見ることで作品の理解を深めよう。

【授業における到達目標】

現地で寺や博物館等に実際に行くことで行動力が養える。また実際に作品を見ることによって、作品を見る目を養う。またグループ行動の中で、作品についてお互いの意見を交換し話し合うことも重要である。

【授業の内容】

この授業は実習形式の授業で、毎週授業があるわけではないので注意。授業の展開は次の通り。

1. ガイダンス
2. 見学旅行に行く。旅行中に「今日の一品」（その日の各自のベスト作品）について意見交換する。
3. 旅行後、感想レポートを提出する

4月の履修登録前に旅行日程（予定）、費用（概算）等を提示する。費用は6.3万円ぐらいとみておくこと。

主な見学先は次の通り（予定）。

奈良＝興福寺、東大寺、奈良国立博物館、法隆寺、中宮寺
京都＝東寺、正伝寺、三十三間堂、京都国立博物館、養源院、智積院

【事前・事後学修】

事前学修 日本美術史、仏教美術史などの入門の授業資料、参考文献等で見学作例の勉強をしておくこと。何をメインに見に行くのかしっかり目標を立てること。（学修時間4時間）

事後学修 課題レポートをしっかりと書くこと。（学修時間4時間）

【テキスト・教材】

なし。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

見学旅行への参加90%（意見交換の時の発言、見学の際の態度を重視する）、旅行後提出のレポート10%で成績を付ける。見学の際に、具体的な見方を指導し、質問意見等に対応する。レポートについては後日MANABAで対応する。

【参考書】

なし。

【注意事項】

この授業は、団体旅行による旅行費用算出の関係等で、直前の旅行中止（履修取り止め）は原則として認めない（やむをえない事情の場合はこの限りにあらず）。日程の都合、旅行費用の捻出等を考えた上で、履修するかどうかを決定すること。ただし、履修するかどうか（つまり旅行に行くか行かないか）の最終決定日を別に設ける予定なので、悩んでいる人は、履修登録をした上で考えること。旅行費用は参加人数が多いほど安くなるので、なるべく多くの人が参加することを希望する。

美術史実地研究 b

芸術経験を通して学ぶ

六人部 昭典

2年～ 集後 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

美術史を学ぶためには、実際に「作品」を見ること（芸術経験）が何より大切である。この授業では、美術館や画廊で実際に作品を前にして、「作品」を見ること、そして「作品」を記述することを学ぶ。

【授業における到達目標】

現地で作品を見ることを通して、作品を見る目を養う。この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、「行動力」と「協働力」を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
大学で実施する(10月を予定、日時・場所は掲示)。
授業の進め方(日程と注意事項)を確認する。
2. 見学授業
11月～1月の日曜日のうち3回を使い(終日)、現地で実施。
内容は、主に近・現代の西洋美術を見学する。川村記念美術館やポーラ美術館など、首都圏近郊の美術館を見学する予定。
見学日程(日時と場所)は、第1回目のガイダンスで発表するので、必ず出席すること。

【事前・事後学修】

事前：ガイダンス時に配布するプリントを熟読して、当日の見学に備える。また、当日は作品についてコメントを求めするので、基礎演習等の授業で学んだ内容を再確認する(計1時間)。

事後：見学内容を整理し、レポートを作成する(計4時間)。

【テキスト・教材】

テキスト(教科書)は使用しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：平常点(ガイダンスを含む授業への積極的参加、見学態度 50% レポート(50%))

フィードバック：レポート提出時に行う

【参考書】

授業時に指示。

【注意事項】

見学授業は、「授業」であることを自覚して参加する。美術館内でメモは鉛筆を使用。一般の来館者も鑑賞しておられることに留意すること。遅刻や私語は厳禁。

美術館の観覧料、現地までの往復交通費等は自己負担。

美術史実地研究 c

総合芸術としての舞台

椎原 伸博

2年～ 集前 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

東京は世界でも有数の舞台芸術が盛んな都市である。歌舞伎や文楽のような伝統芸能から、新劇、ミュージカル、バレエ、オペラ、ダンス等々様々な舞台が毎日のかかっている。また、神奈川、埼玉、静岡といった地方公共団体も、公共財としての芸術という意識の下で、舞台芸術に対する支援をおこなっている。この授業は、このような舞台芸術の実際に立ち会い、その鑑賞体験に基づいて、舞台芸術作品に関する記述を行うことを学ぶ。舞台芸術は、様々な芸術のジャンルの複合体であり、そこには当然美術史的視点、芸術学的視点、美学的視点も含まれており、それらを総合的に考察する力を養うことを目指す。また、地方公共団体が主催する演劇公演が、都市の創造性を高めていることを確認し、アートマネジメント、文化政策の視点から舞台芸術の意味を再考察することを目指す。

【授業における到達目標】

舞台芸術作品が総合芸術であることを理解する。学生が修得すべき修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につける。またそれぞれの舞台芸術が有する公共性について考察する能力を身につける。

【授業の内容】

この授業は実習形式の授業であり、毎週授業があるわけではない。授業の流れは以下の通りである。

- 1：ガイダンス 4月上旬
- 2：舞台の鑑賞（4作品）
- 3：実際に見た演劇毎にレポートを提出
- 4：見た作品に関するディスカッション
- 5：7月中旬 ディスカッションに基づく発表会

鑑賞する舞台芸術は静岡芸術劇場を中心として、ゴールドデンウィーク中に開催される「ふじのくに 世界演劇祭」から2作品と、神奈川芸術劇場、彩の国さいたま劇場、世田谷パブリックシアターなど、地方公共団体が運営する劇場から2作品を予定している。

【事前・事後学修】

この授業では四本の舞台芸術作品を鑑賞します。事前学修として上演作品に関する資料（脚本、映像資料等）を提示しますので、鑑賞前に確認しておいて下さい。（学修時間：一作品につき4時間 全体で16時間）鑑賞後に、事後学修として当該作品の批評文や研究論文を提示しますので、それらを参考にして事後学修として鑑賞した舞台芸術に関するレポートを作成します。（学修時間：一作品につき4時間 全体で16時間）

【テキスト・教材】

上演作品の台本等、適宜指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、ディスカッションおよび発表50%
7月に行うディスカッションに基づく発表会にて、全体のフィードバックを行います。また、優れレポートは授業内で紹介しフィードバックします。

【参考書】

適宜指示します。

【注意事項】

チケットを手配する関係から、この授業の定員は20名とします。また、静岡県静岡市への旅費、滞在費、チケット代が別途（2万円程度）かかります。

品質管理統計演習

松岡 康浩

2年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

食品開発および食品製造において必要な品質管理の手法について学びます。品質管理の基本となる統計の基礎演習および製品製造における品質規格・品質保証についての講義と演習、さらに食品の官能評価の検定演習を行います。PCを使用し、例題を授業の中で解く演習で学び、問題を自分の力で解く課題で理解度を確認します。

【授業における到達目標】

マイクロソフトエクセルおよびSPSSを用いた演習と課題を通じ、基本的な統計解析についての理解および食品の品質管理の方法を修得することが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 食品の品質管理および品質保証
- 第2週 基本統計①平均、分散、標準偏差
- 第3週 基本統計②PCによる基本操作演習
- 第4週 基本統計③確率分布
- 第5週 基本統計④検定
- 第6週 基本統計⑤課題 1
- 第7週 食品の品質管理①品質規格と品質評価法
- 第8週 食品の品質管理②工程検査と出荷判定
- 第9週 食品の品質管理③課題 2
- 第10週 食品の官能評価①食品のおいしさとは
- 第11週 食品の官能評価②官能評価の検定
- 第12週 食品の官能評価③課題 3
- 第13週 食品の官能評価④平均値の検定
- 第14週 食品の官能評価⑤順位法
- 第15週 食品の官能評価⑥課題 4

【事前・事後学修】

事前学修：前回の演習内容を復習することによって、次回講義の内容理解が増します。できればマイクロソフトエクセルを用いた簡単な計算ができることが望ましい。（学修時間 2時間）

事後学修：授業で行った演習をもう一度繰り返して行い、PCの操作だけでなく、処理の意味を理解する。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート 90%、演習での積極的参加10%
演習および課題はmanabaにて解を提示します。

【参考書】

- 石村貞夫 著『入門はじめての統計解析』
（東京図書 2014年）2400円＋税
- 鐵 健司 著『品質管理のための統計的方法入門』
（日科技連 2014年）3000円＋税
- 大越ひろ、神宮英夫 編著『食の官能評価入門』
（光生館 2009年）1800円＋税
- 内田治、平野綾子 著『官能評価の統計解析』
（日科技連 2012年）2800円＋税

福祉住環境論

橋 弘志

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

少子高齢社会を迎えるにあたり、「福祉」の考え方は大きく変容しており、住まいや地域の役割はますます重要になっています。高齢者や障害者にとっての住環境のあり方を学ぶことは、私たち自身の生活と環境との関わり方を見直す上でも有用です。ここでは、福祉の概念の変化を背景に、高齢者や障害者のための制度や住まい、環境整備のあり方などについて、幅広く学んでいきます。

【授業における到達目標】

現代における「福祉」の理念（とその変化）について理解する。
日本の福祉制度や福祉の取り組みについて理解する。
高齢者や障害者の住環境のあり方について、身体的・心理的・社会的な側面も含めて幅広く理解する。

【授業の内容】

- 第1週 福祉の意味
- 第2週 障害の捉え方
- 第3週 高齢者と高齢社会
- 第4週 高齢者・障害者の特性
- 第5週 福祉の制度
- 第6週 高齢者と住まい
- 第7週 在宅高齢者の生活と住宅環境
- 第8週 在宅高齢者の生活と地域環境
- 第9週 まちの居場所
- 第10週 高齢者施設における生活
- 第11週 身の置き処をつくる
- 第12週 居場所をつくる
- 第13週 生活のかたちをつくる
- 第14週 さまざまな高齢者施設
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の小課題40%、定期試験60%とします。小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

『福祉住環境コーディネーター2級テキスト』（東京商工会議所）
その他授業の中で追って紹介します。

仏教思想史 a

水上 文義

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

世界宗教は、伝わった地域と民族文化や特性により変容されて受容され、人々のアイデンティティーとなってきた。

古代インドでゴータマ・ブッダ(釈迦)により始められた仏教は、「神」ではなく、「人」を中心に考える、見方によっては特異な宗教である。その仏教がどのように変容して形成され、各地に伝わってきたかを探る。

前期ではブッダの生涯と思惟、そして日本にも伝わった大乘仏教の発達と考え方を中心に、その思想的特色を概観する。

【授業における到達目標】

宗教思想は一見難解に見えるが、可能な限り分かりやすく説明する。この科目では仏教を無批判に受け入れたり拒絶するのではなく、自分なりに考え、評価し批判する判断力を養いたい。そして他者とのかかわりや協調性を改めて見直し、仏教美術や文化や思考方法を世界の人々にも多少の説明ができるなど、広い視野に立つ考察ができることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction ブッダと「神」はどう違う？
- 第2週 インドの宗教哲学と仏教
- 第3週 ゴータマ・ブッダの歩んだ道
- 第4週 原始仏教と上座部仏教
- 第5週 大乘仏教の誕生～菩薩の変容
- 第6週 さとりの智慧と空～般若思想
- 第7週 異世界の仏～極楽浄土へのいざない
- 第8週 人は誰でも仏になれる～『法華経』の教え
- 第9週 さとりの宇宙と現世のつながり～『華嚴経』の世界観
- 第10週 人の心にある仏の素質～如来蔵思想
- 第11週 仏と一体になる～ヨーガと密教思想
- 第12週 仏教東漸～ガンダーラからパミールを越えて
- 第13週 中国仏教の開花
- 第14週 東アジア仏教の特色
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週該当部分と関連する事柄を予め図書館などで調べておく。授業で示した参考書や高校倫理や世界史の教科書などに目を通しておくことも一方法。学修時間：週2時間

事後学修：ノートや授業ごとに配布するプリントなどを読み返し、専門用語の理解につとめ、疑問点などを整理しておくこと。学修時間 週2時間

【テキスト・教材】

授業の進行に合わせて要点を要約したプリントを配布する。特定の教科書は用いない。場合によりビデオなども使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（とくにビデオ鑑賞後の感想など）30%、試験50%、授業への取り組み（積極的な質問や意見など）20%。小レポートでの疑問には次回に、質問等にはできるだけその場でフィードバックする。

【参考書】

- 平川彰『インド・中国・日本、仏教通史』（春秋社）
- 三枝充恵『仏教入門』（岩波新書）
- 中村元『ブッダ伝―生涯と思想』（角川ソフィア文庫）、『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）

【注意事項】

宗教も独自には成り立たず、必ず地域や民族の政治・経済・文化や時代などに影響される。物事を一つの視点からだけ見るのではなく、広い視野からの意見・評価・判断力を持つよう心がけたい。

仏教思想史 b

水上 文義

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

古代インドで成立した仏教は、東アジアに伝わると中国仏教として大きく変容し、それを基盤とした日本仏教はさらに独自に変容した。後期は日本への仏教公伝からはじめ、今日の日本仏教を形成した主要各派の思想と変遷を、歴史的な流れにそって概観する。

【授業における到達目標】

仏教の日本文化と思惟への影響と形成を視点に、日本人にとっての仏教あるいは宗教とはなにかを考える。それにより、日本の文化や芸術まで含めた広い視野に立つ考察力と、自分なりの判断力を養い、なおかつ外国の人にも簡単な説明ができる知識を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction 中国仏教と日本仏教
—漢訳仏典の功罪～本当は怖い読み下し漢文
- 第2週 仏教公伝～日本人は仏教をどのように受けとめたか
- 第3週 「聖徳太子」というスーパーヒーローは実在したか
- 第4週 聖武天皇の理想国家～大仏開眼と鑑真招聘
- 第5週 日本仏教の確立～すべての人を仏に～最澄の願い
- 第6週 総合仏教の成立～比叡山の天台仏教
- 第7週 天才空海の登場～真言密教1
- 第8週 華麗なる曼荼羅の宇宙～真言密教2
- 第9週 鎌倉新仏教は本当に「新」仏教か～末法思想の影響
- 第10週 極楽往生を祈る～法然と親鸞
- 第11週 座禅こそ悟りへの道～栄西と道元
- 第12週 われ日本の柱とならん～日蓮と蒙古襲来
- 第13週 神と仏のコスモロジー～神仏習合
- 第14週 日本人の神仏観と自然～日本文化への仏教の影響
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で示した参考書や高校教科書レベルでの倫理や日本史などに目を通し、授業を理解する助けとしたい。週2時間

事後学修：授業で配布したプリントやノートをみて、内容の概要や専門用語を確認し、疑問点などを整理する。週2時間

【テキスト・教材】

各週のテーマにそったプリントを配布する。特定の教科書は用いない。ビデオを使う場合もある。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（とくにビデオ鑑賞後の感想など）30%、試験50%、授業への取り組み（積極的な質問や意見など）20%。小レポートでの疑問には次回に、質問等にはできるだけその場でフィードバックする

【参考書】

- 前期のものに加えて
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮文庫）、『日本仏教入門』（角川選書）
- 立川武蔵『最澄と空海―日本仏教思想の誕生』（角川ソフィア文庫）
- ポール・L・スワンソン『異文化から見た日本宗教の世界』（法蔵館 叢書現代世界と宗教2）

【注意事項】

後期のみ受講する方へ。後期では、前期で学んだことを前提に進めることがあるので、可能なら通年で受講した方が理解しやすい。

仏教美術史演習A

研究方法基礎編

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史を研究する際の具体的な研究方法、調査方法を知った上で、各自の研究テーマに即した具体的な問題を検討する。

【授業における到達目標】

各自が研究テーマを設定し、それに即した作品調査・資料収集を行えるようになる。資料の読解・分析を通じて研究史を批判的に検証する能力を身につける。研究テーマに対するアプローチの仕方を複数見出すことができるようになる。

【授業の内容】

研究の具体的方法として、評価史・研究史の意義とその方法、古記録・古文書の読み方などを身につける。基礎編。また各自の研究テーマ（修士論文研究に向けての）を設定し、研究過程で生じた具体的な問題を検討し、それを総合して研究の中間発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 研究テーマの検討1 対象作品の選択

第3週 研究テーマの検討2 アプローチの仕方

第4週 研究テーマの検討3 分析事項の整理

第5週 評価史・研究史の意義とその方法1 見出され方

第6週 評価史・研究史の意義とその方法2 文化財的な評価

第7週 評価史・研究史の意義とその方法3 美術史的な評価

第8週 研究テーマに関する具体的問題の検討1 文献の指導

第9週 古記録・古文書の読み方1 資財帳など

第10週 古記録・古文書の読み方2 公卿日記・古文書

第11週 造像銘記の研究

第12週 研究テーマに関する具体的問題の検討2 作品研究の実際

第13週 学生の研究発表1 造像銘記について

第14週 学生の研究発表2 研究テーマ

第15週 まとめ

展覧会等の見学を行なう場合がある。

【事前・事後学修】

事前学修 それぞれのテーマについて、自分の研究課題に即して十分に予習しておくこと（週2時間）。

事後学修 授業の内容を自分の研究課題に反映させること（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に資料・文献を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加の仕方30%、課題への取り組み方20%、研究発表50%を総合して評価する。課題や研究発表へのコメント等フィードバックは授業内で行なう。

【参考書】

授業中に適宜参考文献を示す。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史演習B

研究方法応用編

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史を研究する際の具体的な研究方法、調査方法を知った上で、各自の研究テーマに即した具体的な問題を検討する。自分の研究テーマに対するアプローチの仕方を固めていく。応用編。

【授業における到達目標】

さまざまな研究方法を踏まえて各自が研究テーマを設定し、それに即した作品調査・資料収集を行なえるようになる。関連諸学の文献や史料の読解、作品調査、調書の作成ができるようになる。

【授業の内容】

研究の具体的方法として、関連諸学との関わり、経典等仏教文献の読み方、作品の実地調査・見学の仕方、作品の調書の書き方などを身につける。応用編。また各自の研究テーマについて、研究過程で生じた具体的な問題を検討し、それを総合して研究発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 関連諸学と美術史

第3週 仏教系諸学と美術史

第4週 経典の講読1 『法華経』

第5週 経典の講読2 『金光明最勝王経』

第6週 『往生要集』の講読

第7週 作品テーマに関する具体的問題の検討1 分析事項の絞込み

第8週 作品の見学の仕方

第9週 作品の調査の仕方

第10週 作品の調書の書き方

第11週 作品の写真の撮り方

第12週 作品テーマに関する具体的問題の検討2 分析結果の検討

第13週 学生の研究発表1 経典関係

第14週 学生の研究発表2 研究テーマ

第15週 まとめ

展覧会等の見学授業をすることがある。

【事前・事後学修】

事前学修 講読の場合は予習を、発表の場合はその準備を、調査の場合は事前の作品研究を求める（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究課題に反映させることが重要（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加の仕方30%、課題への取り組み方20%、研究発表50%を総合して評価する。フィードバックはすべて授業内に行なう。

【参考書】

授業内に適宜参考文献を示す。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史演習 a

仏教美術の研究方法を知る

武笠 朗

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

仏教美術史（あるいは日本・東洋の彫刻史）を研究する上での基本事項や文献の読み方など研究方法全般を学び、その方法を踏まえて各自作品や作家についての研究発表を行なう。

【授業における到達目標】

- 1、仏像の名前がわかるようになり、仏像関係の論文が読めるようになる。
- 2、研究発表の方法がわかるようになる。
- 3、1、2を通じて、学ぶ喜びを知り、生涯にわたって知を探求する力を身につける。
- 4、1、2を通じて、日本の文化を世界に発信する意識、感受性を高め真理を探究する能力、そして課題を見出して問題解決につなげる力を身につける。
- 5、1、2を通じて美を探求する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 仏教美術の研究方法
 第3週 彫刻史の研究手法
 第4週 尊像の姿形とその信仰（1）如来・菩薩
 第5週 尊像の姿形とその信仰（2）明王・天
 第6週 尊像の姿形とその信仰（3）その他、小テスト
 第7週 研究発表テーマ個別指導
 第8週 作品を記述する（1）形状
 第9週 作品を記述する（2）作風
 第10週 作品を記述する（3）比較
 第11週 研究発表（1）インド・中国
 第12週 研究発表（2）飛鳥～奈良
 第13週 研究発表（3）平安～鎌倉
 第14週 研究発表（4）その他
 第15週 まとめ

研究発表は、各自が関心のある作品や作家、テーマを選び、それについて研究発表を行なう。テーマは相談の上決定する。発表は口頭で20分程度。発表原稿を書き、パワーポイント等で画像を提示し、かつ資料を作成して発表を行なう。

授業時間内に展覧会見学を行なう場合がある。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料等で予習し、小テスト、研究発表に際しては十分な準備をすること（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で出た作品について勉強すること。発表後はその反省を十分にすること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究発表を60%、小テスト20%、授業への取り組み方20%で成績を付ける。レポートとして研究発表原稿の訂正版の提出を求められることがある（成績に加算する）。研究発表や小テストの講評は授業時に行なう。

【参考書】

研究発表の際は、個別に面接し参考文献を指導する。

【注意事項】

授業時間外で展覧会等の見学を課すことがある。

仏教美術史演習 b

見学旅行に行つて実物を見る

武笠 朗

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

仏教美術史（あるいは日本・東洋の彫刻史）を研究する上での基本事項や文献の読み方など研究方法全般を学ぶ。また関西方面への見学旅行を実施する。見学作品の研究発表とその実地見学により作品の理解を深める。

【授業における到達目標】

- 1、仏像の具体的な研究方法や、実地見学の仕方を理解する。
- 2、研究発表のテーマ設定や効果的な発表の仕方を身につける。
- 3、1、2を通じて、学ぶ喜びを知り、生涯にわたって知を探求する意識を身につける。
- 4、1、2を通じて、日本の文化を世界に発信する積極的意識、感受性を高め真理を探究する能力、そして課題を見出して問題解決につなげる力を身につける。
- 5、1、2を通じて、美を探求する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 見学作品研究発表テーマ決定個人相談
 第3週 見学作品研究発表（1）飛鳥・奈良時代
 第4週 見学作品研究発表（2）平安時代
 第5週 見学作品研究発表（3）鎌倉時代
 第6週 素材技法（1）石仏・金銅仏・塑像
 第7週 素材技法（2）乾漆像・木彫像、表面仕上げ
 第8週 様式について考える（1）形式論
 第9週 様式について考える（2）様式論（作風）
 第10週 基本文献を読む（1）『奈良六大寺大観』
 第11週 基本文献を読む（2）『日本彫刻史基礎資料集成』
 第12週 古文書・古記録などを読む
 第13週 作品の調査・見学の仕方
 第14週 期末レポート個人指導
 第15週 まとめ

見学旅行は関西方面へ2泊3日を予定している。時期は未定だが、11月中旬を予定している。見学先は、美術史実地研究aの旅行で行ったところ以外で、重要作例のある寺社などを中心に、受講者の希望を取り入れて決める予定である。見学作品研究発表は、見学する作例をテーマに発表する。テーマは個人相談を経て決定する。発表は口頭で20分程度。授業時間内あるいは時間外に展覧会等見学を課す場合がある。期末レポートは、仏教美術系で卒論執筆希望者は卒論を見据えたテーマで、そうでない者は見学作例などをテーマとする。個人指導で決定する。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料等で授業の予習をすること。発表の際は準備を十分に行なうこと（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で出た作品見直すこと。専門用語をしっかりと覚えること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究発表40%、期末レポート40%、授業への取り組み方20%で成績を付ける。研究発表については、授業内で講評し、作品見学の際にさらに指導する。期末レポートについては最終授業時に講評する。

【参考書】

研究発表の際は、個別に参考文献を指示する。

【注意事項】

経済的事情等で見学旅行には行けないのだが、この演習を取りたいという人は事前に相談すること。

仏教美術史研究指導特殊演習A

調査の仕方

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

仏教美術及び彫刻作例の調査の仕方を知る。作品の調査は、研究上必須である。作品データや写真のない作例の場合、自分で調査をしてそれを得る他ない。その方法を具体的に学ぶ。

【授業における到達目標】

作品の調査（調査ノート作成、写真撮影）ができるようになる。

【授業の内容】

教室内で講義と実習を交えて授業をするが、最後に実際に作品調査を実施し、その調査報告を発表の形で行なう。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏像の調査の実際
- 第3週 調査依頼の仕方
- 第4週 法量を取る
- 第5週 形状を見る
- 第6週 品質構造を見る
- 第7週 伝来を調べる
- 第8週 保存状態を確かめる
- 第9週 備考を考える
- 第10週 写真撮影 ライティング
- 第11週 写真撮影 フレーミング
- 第12週 調査に行く
- 第13週 調査報告 木彫像
- 第14週 調査報告 金銅仏
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 調査の前、及び研究発表の前にその準備を十分にしておくこと（週2時間）。

事後学修 ノートの補完等を十分にすること（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、研究発表40%、レポート30%で成績を付ける。フィードバックは授業内で、あるいは見学・調査時に行なう。

【参考書】

適宜文献を紹介する。

【注意事項】

土・日・祝日などに見学・調査を行なう予定である。関東地方の寺院など。

仏教美術史研究指導特殊演習B

調書の書き方

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

仏教美術及び彫刻作例の調書の書き方を知る。作品の調査報告としての調書をまとめることは、研究上また美術館等での実践においても必須の作業である。各自の研究の総合力がそこに反映される。どのようにしてその作品の特徴を浮かび上がらせるか、そのまとめ方を理解する。

【授業における到達目標】

作品の調書をまとめることができるようになる。さまざまなアプローチから取捨選択して、一つの作品の性格をまとめることができるようになる。

【授業の内容】

授業を通じて専門用語を習得し、最終的に実際に調書を書いてみる。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 正しい調書のあり方を学ぶ
- 第3週 『日本彫刻史基礎資料集成』という本
- 第4週 『平安時代重要作品篇』を読む
- 第5週 『平安時代造像銘記篇』を読む
- 第6週 『鎌倉時代造像銘記篇』を読む
- 第7週 「形状」を記述する
- 第8週 「法量」を記述する
- 第9週 「品質構造」を記述する
- 第10週 「伝来」を記述する
- 第11週 「保存状態」を記述する
- 第12週 「備考」を記述する
- 第13週 調書を書く 木彫像の場合
- 第14週 調書を書く 金銅仏の場合
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 授業の対象になる文献を読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 それぞれの項目の記述のまとめをすること（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、調書作成70%で成績を付ける。フィードバックは授業内に行なう。

【参考書】

『日本彫刻史基礎資料集成』中央公論美術出版

【注意事項】

特になし。

仏教美術史特講 c

法隆寺金堂釈迦三尊像から薬師寺金堂薬師三尊像へ

武笠 朗

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

飛鳥時代前期・後期、奈良時代前期の仏教美術史・彫刻史を、主要作例や重要課題を中心に詳しく検討する。作品やテーマへのさまざまなアプローチのあり方を知り、それとともに社会や信仰と作品の多様な絡み方を理解する。重要作例の現状を詳細に見た上で、研究史の問題点を指摘し、今後のアプローチのあり方を示していく。それに則って各自研究レポートを提出する。

【授業における到達目標】

- ①飛鳥時代、奈良時代における、朝鮮半島や中国からの仏教や美術の影響のあり様を学ぶことで、東アジア的な視野に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。
- ②飛鳥奈良時代の仏教美術へのさまざまなアプローチのあり方を知ること、知の探求と感受性を深める態度と、併せて学修を通して自己成長し、課題解決に向けて主体的に行動する力を身につける。
- ③飛鳥奈良時代の優品を学ぶことで、美を探究する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 仏教美術の研究方法
- 第3週 比べてみる
- 第4週 仏教伝来
- 第5週 聖徳太子と法隆寺金堂釈迦三尊像
- 第6週 救世観音像
- 第7週 百済観音像
- 第8週 広隆寺と中宮寺の半跏思惟像
- 第9週 興福寺仏頭
- 第10週 伝橘夫人厨子阿弥陀三尊像
- 第11週 法隆寺五重塔塔本塑像
- 第12週 薬師寺金堂薬師三尊像
- 第13週 玉虫厨子
- 第14週 法隆寺金堂壁画
- 第15週 まとめ

寺社あるいは美術館博物館の常設展特別展の見学を行なう予定。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料及び入門aの配付資料などを見て、授業内容をイメージしておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修 配付資料の見直し及び関連参考文献を読んでみること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テーマごとに資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート60%、課題レポート（寺社、展覧会見学など）30%、授業態度10%で成績を付ける。レポートは授業時間内で講評する。

【参考書】

- ・『日本美術全集』2・3・4（講談社）
- ・『日本美術全集』2・3（小学館）
- ・『奈良六大寺大観』（岩波書店）

【注意事項】

講義を聴く中で、専門用語に対する基礎知識（読み、意味、使い方）を吸収し、また自分の好きな作品を見出してほしい。事前・事後学修はもちろん大事だが、まずは授業に集中すること。

仏教美術史特講 d

阿修羅から大仏、そして鑑真像へ

武笠 朗

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

【授業のテーマ】

奈良時代の彫刻と仏教絵画、正倉院宝物を取り上げ、主要作例や重要課題を詳しく検討する。作品やテーマへのさまざまなアプローチのあり方を知り、それとともに社会や信仰と作品の多様な絡み方を理解する。重要作例の現状を詳細に見た上で、研究史の問題点を指摘し、今後のアプローチのあり方を示していく。それに則って各自研究レポートを提出する。

【授業における到達目標】

- ①奈良時代盛期後期の仏教美術における中国仏教・美術の影響を学ぶことで、東アジア的な視野に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。
- ②奈良時代盛期後期の仏教美術へのさまざまなアプローチのあり方を知ること、知の探求と感受性を深める態度と、併せて学修を通して自己成長し、課題解決に向けて主体的に行動する力を身につける。
- ③奈良時代盛期後期の優品を学ぶことで、美を探究する能力を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 光明皇后と興福寺十大弟子八部衆像
- 第3週 東大寺法華堂諸像（乾漆像）
- 第4週 東大寺法華堂諸像（塑像）
- 第5週 戒壇院四天王像
- 第6週 聖武天皇と大仏
- 第7週 大仏蓮弁線刻画と二月堂光背
- 第8週 正倉院宝物
- 第9週 伎楽面
- 第10週 唐招提寺金堂諸像と鑑真像
- 第11週 唐招提寺の木彫像
- 第12週 聖林寺と観音寺の十一面観音像
- 第13週 葛井寺と唐招提寺の千手観音像
- 第14週 西大寺と秋篠寺の諸像
- 第15週 まとめ

寺社あるいは美術館博物館の常設展特別展の見学を行なう予定である。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料及び入門aの配付資料などを見て、授業内容をイメージしておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修 配付資料の見直し及び関連参考文献を読んでみること（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

テーマごとに資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート60%、課題レポート（寺社、展覧会見学など）30%、授業態度10%で成績を付ける。レポートは授業時間内で講評する。

【参考書】

- ・『日本美術全集』2・3・4（講談社）
- ・『日本美術全集』3（小学館）
- ・『奈良六大寺大観』（岩波書店）

【注意事項】

講義を聴く中で、専門用語に対する基礎知識（読み、意味、使い方）を吸収し、また自分の好きな作品を見出してほしい。事前・事後学修はもちろん大事だが、まずは授業に集中すること。

仏教美術史特殊研究A

仏教美術史研究の諸問題（作品に即して）

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本の飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術（主に仏像彫刻）の展開についての具体的な個別作例研究を通じ、作例に対するさまざまな研究方法・視座を理解する。その方法を応用して各自作品研究に取り組む。

【授業における到達目標】

多様な研究スタンスの実際とその長所短所を理解し、個々の作品に即して研究方法を選択することができるようになる。

【授業の内容】

この授業では、様式論、形式論、素材技法論について考える。いずれかの方法による作品研究を行なう。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 様式論（国や地域）
- 第3週 様式論（時代）
- 第4週 様式論（作家論）
- 第5週 形式論（着衣及びその形式）
- 第6週 形式論（その他部分形式）
- 第7週 形式論（荘厳具）
- 第8週 素材論（金銅仏の場合）
- 第9週 素材論（木彫像の場合）
- 第10週 技法論（金銅仏の場合）
- 第11週 技法論（乾漆像、塑像の場合）
- 第12週 技法論（木彫像の場合）
- 第13週 学生の研究発表1 様式論、形式論
- 第14週 学生の研究発表2 素材技法論
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

各回のテーマについて事前学修をしておくこと（週2時間）。事後学修としては、自分の研究に照らしてどの方法がふさわしいかその都度考えてみる（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み方30%、研究発表40%、期末レポート30%を総合して評価する。フィードバックは授業内に行なう。

【参考書】

授業内に適宜文献を紹介する。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史特殊研究B

仏教美術史研究の諸問題（作品の周囲）

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本の飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術（主に仏像彫刻）の展開についての具体的な個別作例研究を通じ、作例に対するさまざまな研究方法・視座を理解する。その方法を応用して各自作品研究に取り組む。

【授業における到達目標】

図像研究や作品の制作背景全般に対する方法論の実際を理解し、それを自らの研究に応用することができるようになる。

【授業の内容】

この授業では、図像検討から願意・発願主の問題に及ぶ。いずれかのアプローチに従って作品研究及び発表を行う。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 像の姿かたち
- 第3週 図像のこと
- 第4週 経典、注釈書、図像類
- 第5週 図像的考察
- 第6週 経典との関係
- 第7週 教義との関係
- 第8週 願意の問題
- 第9週 発願主の問題
- 第10週 プロデューサーとしての僧
- 第11週 造像銘記の意義
- 第12週 新しい方法論
- 第13週 学生の研究発表1 古代
- 第14週 学生の研究発表2 中世
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

各回のテーマについて事前研究し、テーマに対する認識を作っておくこと（週2時間）。事後は、自分のテーマに照らしてその方法の適否を考えてみる（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み方30%、研究発表40%、期末レポート30%を総合して評価する。フィードバックは授業内に行なう。

【参考書】

授業内に適宜文献を紹介する。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史特論A

大日如来の信仰と造像

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

【授業のテーマ】

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史の諸問題を検討する。修士論文研究に向けて、さまざまな方法論を理解し、作品へのアプローチの仕方を考える。本年度は大日如来の信仰と造像を検討する。

【授業における到達目標】

大日如来に対する信仰と造像の変遷を学ぶことで、さまざまな尊像に対する信仰と造像の変遷をたどる方法を理解する。またそれを自らの研究のテーマ設定に活かすことができる。

【授業の内容】

講義形式で平安時代前期から鎌倉時代までの各時代の様相を検討する。それを踏まえて、各自関連のテーマについて研究発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 大日如来の信仰と造像総論1 平安時代前期

第3週 大日如来の信仰と造像総論2 平安時代後期

第4週 大日如来の信仰と造像総論3 鎌倉時代

第5週 東寺講堂諸尊

第6週 高野山の大日如来像

第7週 天台系の大日造像

第8週 院政期の大日造像

第9週 金剛峯寺大日如来像（谷上大日堂像）

第10週 覚鑿の信仰と新義真言系造像

第11週 中尊寺の一字金輪像

第12週 運慶の大日如来像

第13週 学生の研究発表1 平安前期・後期

第14週 学生の研究発表2 鎌倉時代

第15週 まとめ

授業内に展覧会等見学を行なうことがある。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料、関連論文で予習をすること（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究対象に照らしあわせて、どのような方法論が有効か常に考えること（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料や関連論文を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への関わり方50%、研究発表50%を総合して成績を付ける。フィードバックは授業内で行なう。

【参考書】

関連文献を授業中に指示する。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史特論B

平安後期の神将形彫像

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

【授業のテーマ】

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史の諸問題を検討する。修士論文研究に向けて、さまざまな方法論を理解し、作品へのアプローチの仕方を考える。今回は、院政期を中心とする平安後期の神将形彫像の展開を検討する。

【授業における到達目標】

平安後期の神将形像を例に様式展開のあり様を正しく理解し、それを自らの研究テーマに還元して、そこから課題を見出すことができるようになる。

【授業の内容】

院政期を中心とする平安後期の神将形彫像の展開を、主要造像を中心に検討する。各自の研究テーマに即して、それぞれの時代の神将形像を取り上げ研究発表をする。

第1回 ガイダンス

第2回 飛鳥時代の神将形像

第3回 奈良時代の神将形像

第4回 平安時代前期の神将形像

第5回 平安後期の神将形像総説

第6回 定朝の神将形像とは

第7回 広隆寺十二神将像

第8回 定朝様神将形像

第9回 浄瑠璃寺四天王像

第10回 大阪大門寺四天王像

第11回 兵庫東山寺と東大寺の十二神将像

第12回 興福寺の四天王像

第13回 学生の研究発表 1 平安鎌倉時代の作例

第14回 学生の研究発表 2 その他の作例

第15回 まとめ

展覧会等の見学授業をすることがある。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料等で予習をすること。自分の研究している時代の神将形像について十分に把握しておくこと（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究対象に照らして考えてみる（週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜資料や関連論文を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への関わり方50%、研究発表50%を総合して成績を付ける。フィードバックは、研究発表の時など授業内で行なう。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

特になし。

仏教美術史入門 a

中国と日本の飛鳥奈良時代の仏像

武笠 朗

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

中国の秦から唐代までと、朝鮮半島及び日本の飛鳥・奈良時代の仏教美術（特に彫刻＝仏像）について考える。国、時代を追って代表的な作品を見ながら、仏教美術や立体造形としての彫刻の見方の基礎を学び、国や時代による作品の表現の違いを理解する。

【授業における到達目標】

- ① 仏教美術の基本的な見方・考え方を学ぶことにより、「美の探求」に取り組み、感受性を深めようとする態度を身につける。
- ② 国や時代による表現のちがいを学ぶことにより、「国際的視野」に立ち、多様な価値観を理解しようとする態度を身につける。
- ③ 日本の飛鳥から奈良時代の仏教美術における中国や朝鮮半島からの影響のあり方を学ぶことにより、「国際的視野」に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏教美術・彫刻の見方・考え方
- 第3週 中国1 兵馬俑と最初期の仏像
- 第4週 中国2 敦煌莫高窟の塑像
- 第5週 中国3 敦煌莫高窟の壁画
- 第6週 中国4 雲岡石窟
- 第7週 中国5 龍門石窟
- 第8週 朝鮮半島 三国時代の仏像
- 第9週 日本1 飛鳥前期1 金銅仏
- 第10週 日本2 飛鳥前期2 木彫像
- 第11週 日本3 飛鳥後期（白鳳）
- 第12週 日本4 奈良1 大仏以前
- 第13週 日本5 奈良2 大仏以後
- 第14週 日本6 飛鳥奈良時代の仏教絵画
- 第15週 まとめ

授業時間外に、展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料を読み、さらに参考図書の該当部分をよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 配付資料や参考図書の該当部分を読み返し、授業中に「これ重要です」と言った作例の名称とイメージをしっかりと覚え、授業で見た作品を図書館等で見直すこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業内容に沿った資料（文字資料と図版資料）を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業態度20%。見学レポートを課す予定である（成績評価の対象となる）。試験の講評は最終回授業時に、レポートの講評はその授業内で行なう。

【参考書】

- ・『世界美術全集 東洋編』2・3・4以上中国、10朝鮮半島（小学館）
- ・『日本美術全集』2・4（講談社）
- ・『日本美術全集』2・3（小学館）
- ・『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局）
- ・『カラー版日本仏像史』（美術出版社）

【注意事項】

- ・授業で出てくる作品を楽しむこと。
- ・授業中に「これ重要です」と言った作品は覚えること。
- ・授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定である。

仏教美術史入門 b

日本の平安鎌倉時代とインドの仏像

武笠 朗

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

仏教美術（あるいは彫刻）の研究方法の基礎を学び、その上で日本の平安・鎌倉時代と、インドの初期仏教美術の代表的作品を見る。平安時代の密教美術や和様美術、鎌倉時代の運慶・快慶の仏像、そしてさかのぼってインドにおける仏像の出現、ガンダーラ仏・マトゥラー仏などを理解する。

【授業における到達目標】

- ① 仏教美術の基本的な見方・考え方を学ぶことにより、「美の探求」に取り組み、感受性を深めようとする態度を身につける。
- ② 国や時代による表現のちがいを学ぶことにより、「国際的視野」に立ち、多様な価値観を理解しようとする態度を身につける。
- ③ 日本の平安前期や鎌倉時代における中国美術の影響を知ること、で、「国際的視野」に立って日本文化を理解する態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏教美術・彫刻の研究基礎知識
- 第3週 日本1 平安前期 密教美術
- 第4週 日本2 平安後期 和様美術
- 第5週 日本3 院政期 美麗と生身と
- 第6週 日本4 鎌倉1 運慶
- 第7週 日本5 鎌倉2 快慶
- 第8週 日本6 平安鎌倉仏画と仏教工芸
- 第9週 インド1 パールフトとサーンチャー
- 第10週 インド2 仏像の出現
- 第11週 インド3 ガンダーラ仏
- 第12週 インド4 マトゥラー仏
- 第13週 インド5 石窟寺院 アジャンター
- 第14週 インド・中国 本生図と仏伝図
- 第15週 まとめ

授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。

【事前・事後学修】

事前学修 配付資料を読み、さらに参考図書の該当部分をよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 配付資料や参考図書の該当部分を読み返し、授業中に「これ重要です」と言った作品の名称とイメージをしっかりと覚え、授業で見た作品を図書館等で見直すこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

授業内容に沿った資料（文字資料・画像資料）を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、授業態度20%。見学レポートを課す予定（成績評価に反映する）。試験の講評は授業最終回で、レポート講評は授業内で行なう。

【参考書】

- ・『カラー版日本仏像史』美術出版社
- ・『日本美術全集』5・6・7・10（講談社）
- ・『日本美術全集』4・7
- ・『世界美術大全集 東洋編』13・14・15（小学館）
- ・『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局）
- ・宮治昭『インド美術史』（吉川弘文館）

【注意事項】

- ・授業に出てくる作品を楽しむこと。
- ・これ重要、と書いた作品は覚えること。
- ・授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。

物語の世界 a

大正～昭和期の短篇小説を読む

能地 克宣

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

日本の近代文学の中で、特に大正末期から昭和初年代にかけて発表された小説には、それまでに物語られてきたものとは異なるものを物語ろうとするさまを読み取ることができます。私たち人間が「物語る欲望」に取り憑かれた動物（野家啓一）であるなら、この変容は人間の欲望が次第に複雑になっていくことと連動しているとも言えるでしょう。この授業では大正から昭和初期に発表された短篇小説を対象とし、それらの欲望がどのように語られていくのか、また、この時期の文学の語りの特徴とは何かについて検討していきます。また、そこで物語られた欲望が、今日の私たちにとってどのような意味を持つのかについても検討を加えていきます。

【授業における到達目標】

- ・大正から昭和初期の近代文学における物語の特徴をそれぞれの小説ごとに説明することができる。
- ・大正から昭和初期の近代文学の特徴を概観し、それを説明することができる。
- ・近代文学の物語が持つ現代的意義を説明することができる。

【授業の内容】

- 第1週 物語の世界概観
- 第2週 谷崎潤一郎「人面獣」
- 第3週 室生犀星「香爐を盗む」
- 第4週 徳田秋声「フアイヤガン」
- 第5週 梶井基次郎「檸檬」
- 第6週 葉山嘉樹「淫売婦」
- 第7週 江戸川乱歩「鏡地獄」
- 第8週 まとめ①
- 第9週 夢野久作「瓶詰の地獄」
- 第10週 堀辰雄「水族館」
- 第11週 横光利一「機械」
- 第12週 坂口安吾「風博士」
- 第13週 太宰治「ダス・ゲマイネ」
- 第14週 中島敦「文字禍」
- 第15週 まとめ②

【事前・事後学修】

事前学修：第1週はシラバスを熟読し、関心を持った小説や作家について調べておくこと。また、第2週以降は、次回扱う小説を熟読の上、各自の関心に沿って疑問点や問題点をまとめておくこと。

(学修時間 2時間)

事後学修：授業で扱った小説や配付された資料等を再読し、授業内容をふまえてそれぞれの小説の特徴や要点をまとめておくこと。

(学修時間 2時間)

【テキスト・教材】

テキストはプリントを使用する予定です。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート80%、平常点（コメントペーパー）20%
提出されたコメントペーパーのうち、教室全体で共有しうる読み方や枠組み、着眼点などが示されたものは、次回プリントで配付し、解説します。

【参考書】

必要に応じて授業時に指示します。

【注意事項】

毎回授業の最後にコメントを書いてもらいます。また、授業の最初に読後の感想を受講者から求める場合がありますので、それぞれの小説に対する自分なりの意見をまとめておくようにしてください。なお、受講の際はマナーを守って積極的な姿勢で参加することを心がけてください。

物語の世界 b

—平家物語—

佐藤 辰雄

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

物語の全体像を把握すると共に、主要人物に焦点を当てて人物造型の方法や作品の特質を探ります。取り上げる人物は、ダーティヒーローとして描かれる平清盛と、神仏の意志を見た平知盛、戦場の英雄源義経の3人です。

【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修をとおして、日本の文学の価値と美意識を知ることができます（美の探究）。

【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 作者と成立および諸本の説明
3. 物語の結構と構想 (1) 総説
4. 物語の結構と構想 (2) 序章の構造
5. 平清盛論 (1) 一栄華の道のり
6. 平清盛論 (2) 一地獄行きの悪行① 殿下の乗合事件
7. 平清盛論 (3) 一地獄行きの悪行② 南都炎上
8. 平清盛論 (4) 一死と人柄
9. 平知盛論 (1) 一智略の武将
10. 平知盛論 (2) 一温情の武将
11. 平知盛論 (3) 一運命の洞察者
12. 源義経論 (1) 一出自
13. 源義経論 (2) 一戦の名将
14. 源義経論 (3) 一勇者の泣き所・風貌と人柄
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を熟読して、登場人物と事件の歴史的背景を調べておきましょう。(週2時間)

【事後学修】授業内容をよく整理し、要点を指定用紙に記入して、翌週提出します。(週2時間)

【テキスト・教材】

平家物語研究ノート[¥600(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。
提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。
提出した回の翌週に成果をフィードバックします。

【参考書】

- 新日本古典文学大系『平家物語』上・下 梶原正昭・山下宏明 (岩波書店)
- 新編日本古典文学全集『平家物語』1・2 市古貞次 (小学館)
- 『平家物語全注釈』全4巻 富倉徳次郎 (角川書店)

【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。授業中の飲食不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、浮ついた性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、有名な作品だから、といったお気楽な動機で受講することがないよう、強く戒めます。

分子生物学

生命を営む分子

阿尻 貞三

4年 後期 2単位

○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が専門家以外の人々以外にも次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの分子とその仕組みについて紹介します。基礎的な化学、生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する内容の場合があります。

【授業における到達目標】

生体を構成している多種多様な分子の機能を理解し、生体の中でいかに機能しているのかを他の方に説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の持つ機能を説明していきますが、実際は各分子が複雑に絡み合って生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。それを知る喜びをつかんでください。この分子を知ったら終わりというのではなく、分子の相互関係がつつぎと発見されております。新しい知識の習得につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な理解力を養って、当面の課題を主体的に解決する能力を培ってください。

【授業の内容】

- 第1週 分子生物学の概要
- 第2週 細胞、核、細胞内小器官
- 第3週 細胞膜の構造、膜タンパク質
- 第4週 細胞質 細胞骨格分子、物質輸送分子
- 第5週 細胞の分化とアポトーシス
- 第6週 タンパク質 酵素、ホルモン
- 第7週 収縮性タンパク質・モーターたんぱく質。
- 第8週 リセプター、GPCR、トランスポーター、チャネル
- 第9週 糖類と脂質～プロスタグランジン
- 第10週 核酸 DNAとRNA、その構造、塩基の相補性、DNA複製
- 第11週 免疫臓器と免疫に関与する細胞とそれらが分泌する分子
- 第12週 リンパ球と抗原提示（マクロファージ、樹状細胞など）
- 第13週 抗原と抗体と形質細胞
- 第14週 細菌およびウイルスに侵された場合。アレルギーとは
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

1年次で学習した生化学、有機化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは適宜プリントを配布します。参考図書は中村桂子監訳『Essential細胞生物学 原書第2版』（南江堂 2005年）石崎他監訳『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』（講談社BLUR BACKS 2013年版）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験と臨時的試験およびレポート提出、受講態度などで総合評価します。試験及びレポート6割、受講態度4割で判定します。小テストなどは返却しフィードバックとして問題を解説しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

【注意事項】

出席して聞いていても、理解できなければ何なりません。自分で理解するための工夫を考えてください。

分子生物学

生命を営む分子

阿尻 貞三

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

適宜プリントを配布します。

【注意事項】

出席して聞いていても、理解できなければ何なりません。
自分で理解するための工夫を考えてください。

【授業のテーマ】

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が専門家以外の人々以外にも次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの分子とその仕組みについて紹介します。基礎的な化学、生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する場合があります。

【授業における到達目標】

生体を構成している多種多様な分子の機能を理解し、生体の中でいかに機能しているのかを他の方に説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の持つ機能を説明していきますが、実際は各分子が複雑に絡み合って生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。それを知る喜びをつかんでください。この分子を知ったら終わりというのではなく、分子の相互関係がつつぎと発見されております。あたらしい知識の習得につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な理解力を養って、当面の課題を主体的に解決する能力を培ってください。

【授業の内容】

- 第1週 分子生物学の概要
- 第2週 細胞、核、細胞内小器官
- 第3週 細胞膜の構造、膜タンパク質
- 第4週 細胞質 細胞骨格分子、物質輸送分子
- 第5週 細胞の分化とアポトーシス
- 第6週 タンパク質 酵素、ホルモン、
- 第7週 収縮性タンパク質・モーターたんぱく質。
- 第8週 リセプター、GPCR、トランスポーター、チャネル
- 第9週 糖類と脂質～プロスタグランジン
- 第10週 核酸 DNAとRNA、その構造、塩基の相補性、DNA複製
- 第11週 免疫臓器と免疫に関与する細胞とそれらが分泌する分子
- 第12週 リンパ球と抗原提示（マクロファージ、樹状細胞など）
- 第13週 抗原と抗体と形質細胞
- 第14週 細菌およびウイルスに侵された場合。アレルギーとは
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

1年次で学習した生化学、有機化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

前野・磯川著『改定第3版はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学』2016 4,104円（羊土社）

適宜プリントを配布します

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験と臨時的試験およびレポート提出、受講態度などで総合評価します。試験及びレポート6割、受講態度4割で判定します。

小テスト等は採点のうえ返却し解説しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

【参考書】

中村桂子監訳『Essential細胞生物学 原書第2版』（南江堂 2005年）

石崎ほか監訳『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』（講談社BLUE BACKS 2013年版）

文化史概論 a

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

3年 前期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

【授業における到達目標】

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：①配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。（週1.5時間）

②授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週1時間）

【テキスト・教材】

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%

見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

【参考書】

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館

古代オリエント博物館編『古代オリエントの世界』山川出版社

【注意事項】

授業に関連のある美術館・博物館・展覧会の見学を行う場合があります。その際の費用は全額自己負担です。

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

文化史概論 a

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

2年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

【授業における到達目標】

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：①配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。（週1.5時間）

②授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週1時間）

【テキスト・教材】

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%

見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

【参考書】

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館

古代オリエント博物館篇『古代オリエントの世界』山川出版社

【注意事項】

授業に関連のある美術館・博物館・展覧会の見学を行う場合があります。その際の費用は全額自己負担です。

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

文化史概論 a

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

3年～ 前期 2単位

【授業のテーマ】

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

【授業における到達目標】

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：①配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。（週1.5時間）

②授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週1時間）

【テキスト・教材】

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%

見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

【参考書】

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館

古代オリエント博物館篇『古代オリエントの世界』山川出版社

【注意事項】

授業に関連のある美術館・博物館・展覧会の見学を行う場合があります。その際の費用は全額自己負担です。

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

文化史概論 b

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

3年 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義をします。西洋美術史、芸術運動との関連にも触れながらすすめます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

人気の高級ブランドというイメージだけが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

【授業における到達目標】

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展を例にして
- 第13週 松濤美術館の建築、家具調度品及び展覧会見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業ごとに資料コピーを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

【参考書】

授業時に指示します。

【注意事項】

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。

文化史概論 b

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

2年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義をします。西洋美術史、芸術運動との関連にも触れながらすすめます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

人気の高級ブランドというイメージだけが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

【授業における到達目標】

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展を例にして
- 第13週 松濤美術館の建築、家具調度品及び展覧会見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業ごとに資料コピーを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

【参考書】

授業時に指示します。

【注意事項】

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。

文化史概論 b

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義をします。西洋美術史、芸術運動との関連にも触れながらすすめます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

人気の高級ブランドというイメージだけが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

【授業における到達目標】

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展を例にして
- 第13週 松濤美術館の建築、家具調度品及び展覧会見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業ごとに資料コピーを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

【参考書】

授業時に指示します。

【注意事項】

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。

文化人類学b

多様な角度からとらえる文化

島崎 裕子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

文化人類学は、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫ろうとする学問である。本講義では写真や映像、様々な資料を使用し、文化を多様な角度からとらえ「文化とは何か」を考察する。またこれらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに、世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。

【授業における到達目標】

- 1) 【態度：国際的視野を養う】
多様な価値観や文化が世界には存在していること知る
- 2) 【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探求】
多角的な視野をもって世界を捉え、理解する
- 3) 【能力：研鑽力／協働力】
上記を踏まえ、自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける
- 4) 【能力：研鑽力／協働力】
深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：文化人類学を学ぶにあたって
- 第2週 文化人類学への誘い
- 第3週 文化を比較すること① 理論
- 第4週 文化を比較すること② 事例
- 第5週 言語と文化① 導入
- 第6週 言語と文化② 事例
- 第7週 創り出されるイメージ① 理論
- 第8週 創り出されるイメージ② 事例
- 第9週 コミュニティと相互扶助① 理論
- 第10週 コミュニティと相互扶助② 事例
- 第11週 家族と親族① 理論
- 第12週 家族と親族② 事例
- 第13週 境界① 理論
- 第14週 境界② 事例
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：講義で提示した資料・主要文献を熟読し、次回の授業へ備える（週2時間）。
事後学修：各回の講義内容を要約し、興味関心をもった点をまとめ、より学習を深める（週2時間）。

【テキスト・教材】

なし

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終試験/レポート（50%）、課題（10%）、平常点（授業への積極的参加・フィードバックシート 40%）。
質問内容や、課題への着眼点などに対して、授業内やmanabaを通じて全体ならびに個別にフィードバックを行う。

【参考書】

- 講義のテーマに合わせて随時、参考図書を提示する。
文化人類学の入門書・辞典
- ・波平恵美子著『文化人類学（カレッジ版）』（医学書院）
 - ・クラック・ホーン、C『文化人類学入門』（講談社）
 - ・『文化人類学事典』弘文堂

【注意事項】

本講義では、テーマごとに、アンケート（質疑応答）、ディスカッション、グループワーク、授業内課題を求め、進行させる。授業中に各自、課題に対して作業や考察を行い、発言やリアクションを求める。よって積極的な態度で出席して欲しい。

文化人類学入門

生駒 美樹

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

文化人類学とは、世界各地の生活様式・言語・習慣・ものの考え方など文化の比較研究を通して、人間文化の多様性と共通性を理解しようとする学問です。この授業では、文化人類学を学ぶことにより、多文化共生時代を生きるうえで不可欠な、自文化を相対化し異文化を理解する力を身につけることを目指します。

授業では、毎回ひとつのトピックを取り上げ、文化人類学の方法論や世界中の多様な文化について紹介します。授業終盤では、これまで学んだテーマのなかから一つを選んで、自ら観察し分析した内容について発表し、レポートにまとめます。これらを通じて、文化人類学的に考察・議論する訓練を行います。

【授業における到達目標】

- (1) 文化人類学の方法論を知る
- (2) 自分たちの「あたりまえ」を相対化する力を修得する
- (3) 異文化を理解し想像する力を修得する
- (4) 文化人類学の考え方を社会にどういかせるのか考える

【授業の内容】

- 第1週 文化人類学とは
- 第2週 文化人類学の方法論
- 第3週 食文化（1）
- 第4週 食文化（2）
- 第5週 経済
- 第6週 文化遺産
- 第7週 観光
- 第8週 災害
- 第9週 ジェンダー
- 第10週 民族
- 第11週 宗教
- 第12週 多文化共生
- 第13週 発表準備
- 第14週 発表とディスカッション
- 第15週 復習とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：ディスカッションや発表、レポートの準備を行う（学修時間週2時間）
事後学修：授業で学んだテーマについて、次の授業で議論できるよう身近な例を考えてみる（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントペーパーとディスカッション）40%
発表40%
レポート20%

コメントペーパーへのフィードバックは、次回授業の冒頭で行います。また、発表やレポートへのフィードバックは最終授業で行います。

【参考書】

授業開始時に指示します。

【注意事項】

積極的な参加を期待します。

文化人類学入門

人類学的に探求する人の一生

高橋 美和

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

人類が他の動物と決定的に異なるのは、言語を土台とした文化を持つという点である。文化があるからこそ、人類は多様な環境に適応して生き延びてきただけでなく、新しい文明を次々に生み出しながら世界を発展させて来た。文化は私たちに前進させるすばらしいものだが、その反面、各地域の文化は私たちの考え方や行動を拘束もしている。文化のもつ、この相反した本質を考察するために、人の一生の各段階が世界諸地域によってどれほどの多様性があるのか、その一方で、日本人である我々の行動を拘束しているものは何なのかを論じる。

【授業における到達目標】

文化人類学における「文化」の意味、およびこの学問分野の必須用語の意味を学ぶことにより、文化人類学的な見方・考え方を理解できるようになる。さらに、人類文化の多様性に関心を持ち、日々あたりまえと思っている日常生活の様々な事柄を文化人類学的に見つめなおすことができるようになることをめざす。

【授業の内容】

- 第1週 導入：文化人類学という学問分野の見取り図
- 第2週 文化人類学でいう「文化」とは？
- 第3週 言語：このすばらしく不思議なもの
- 第4週 「生まれる」「人になる」
- 第5週 「子ども」でいる
- 第6週 「大人」になる
- 第7週 「結婚」する① 夫・妻になる
- 第8週 「結婚」する② 親戚を増やす
- 第9週 「親」になる
- 第10週 「男/女」を生きる
- 第11週 「遊ぶ」「祝う」
- 第12週 「祈る」「呪う」
- 第13週 「病む」「治る・治す」
- 第14週 「死ぬ」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前・事後学修：数回出題される予習・復習用の課題をmanaba上に提出する。期末試験のためのノート整理と復習（合計週4時間）。

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題20%＋期末試験80%（＋ブック・レポートで若干の加点）

フィードバックはmanabaを通して行う。

なお、自主的に提出されたブック・レポートの成績によって若干の加点をする。

【参考書】

ブック・レポート用の本リストは授業で伝える。

文学 a (日本文学)

—知と情と意—

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

本講では、文学の中で女性がどのようなものとして描かれ、文学をどのように創造したかを考えます。登場する人物は世界的に有名な女性もいれば、反対に全く無名の人もあるし虚構の人ありとさまざまですが、彼女らは皆、各々の美意識や愛情・情念・人生観に基づいて、真剣に生きた人達です。

卑弥呼と三人の尼僧は、別に文学と関わりが深いわけではありませんが、過去の女性観を知る上で貴重な足跡を残した歴史上の人物です。女性に対する当時の社会通念を踏まえないで「女性と古典文学」を語ることはできませんので、導入として取り上げます。

【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます(国際的視野)。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学の価値と美を知ることができます(美の探求)。また、女性の活躍と努力を再認識することで、感受性を高め、自分の生き方を発見・創造する一助とすることができます(研鑽力)。

【授業の内容】

1. 授業内容の説明
2. 大昔人の女性観—卑弥呼と尼僧たち(含む映像鑑賞)
3. 神々を統べる女性神・天照大神
4. 呪的聖性を持つ万葉歌人・額田王
5. 省察に秀でた稀代の才媛・紫式部(1) 総説
6. 省察に秀でた稀代の才媛・紫式部(2) 各説
7. 機知に富む後宮サロンの華・清少納言(1) 総説
8. 機知に富む後宮サロンの華・清少納言(2) 各説
9. 平安時代の貴族女性の修養
10. 『今昔物語集』から—安義橋の鬼女
11. 『平家物語』から—美しい勇士・巴御前
12. 『伽婢子』から—乳児に注いだ亡母の愛情
13. 『さんせう太夫』から—女性原理としての安寿(映像鑑賞を中心に)
14. 『雨月物語』から—嫉妬のあまり怨霊となった磯良
15. まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：教科書を熟読し、登場人物について調べておきましょう。(週2時間)
- ・事後学修：授業の要点を指定用紙に記入し、翌週提出します。(週2時間)

【テキスト・教材】

女性と文学ノート[¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認(65字前後のまとめを二つ。最大4点)と、意見や感想(最大2点)の二項目。翌週に成果をフィードバックします。

【参考書】

- 直木孝次郎『額田王』(吉川弘文館)
 角田文衛『紫式部伝』(法蔵館)
 萩野敦子『清少納言』(勉誠社)
 酒向伸行『山椒太夫伝説の研究』(名著出版会)など。

【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。授業中の飲食不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、チャライ性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟が必要です。

文学 b (文学の世界)

日本近代文学と美術の関係(漱石文学との関係)

高瀬 真理子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

夏目漱石は、英文学というものを本場からしっかり持ち帰ることを使命としたが、自分の創作の中に留学体験を生かすことによって、日本近代文学にも大きな貢献を果たした。また、漱石自身が英文学だけでなく、漢詩や俳句にも長けており、友人や弟子たちとの交流から、洋画だけでなく、日本画からの影響もあり、漱石自身も美術評論を書いたり、文人画のような実作をしたりもあった。ここでは、主に文学と美術の影響関係を漱石の文学作品を軸に据えて見ていくことにより、ジャンルを越えた影響関係を見ていきたい。

【授業における到達目標】

文学作品と美術の関係性を知ることから美の探求を行い、また、近代日本に英国文学や絵画がどのように関わったかを知ることによって国際的視野を広げ、その正しい理解に自分でもしっかり学修することにより、研鑽力を磨く。

【授業の内容】

- 第1週 作家たちと美術の関係(概説)
- 第2週 夏目漱石と留学
- 第3週 「坊っちゃん」とターナー
- 第4週 「倫敦塔」とドラローシュ 1
- 第5週 「倫敦塔」とドラローシュ 2
- 第6週 「薙露行」とホルマン・ハント
- 第7週 詩小説「草枕」の背景
- 第8週 「夢十夜」の世界 1
- 第9週 「夢十夜」の世界 2
- 第10週 「夢十夜」の世界 3
- 第11週 「夢十夜」の世界 4
- 第12週 「三四郎」の世界 1
- 第13週 「三四郎」の世界 2
- 第14週 漱石と絵画
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：文学作品をしっかり読んで講義に参加します。意味の分からないことばがないように調べる。(学修時間 週2時間)
- 事後学修：文学作品と絵画を見比べ、講義内容を復習し、ノートをまとめる。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

- 草枕[新潮文庫、¥430(税抜)]
 文鳥・夢十夜[新潮文庫、¥430(税抜)]
 倫敦塔・幻影の盾[新潮文庫、¥490(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験扱いのレポートで評価します。
 配分基準：定期試験80%、課題、リアクションペーパー、レスポンス等20%
 質問やリアクションペーパーからフィードバックします。
 課題で練り上げ、定期試験で仕上げの感じになればと思います。

【参考書】

あまりにも多様であるので、授業中に紹介する。

【注意事項】

短期大学部受講ルール遵守

文学c (児童文学論)

横田 順子

1年・日コミ2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

ほか授業時に随時紹介する。

【注意事項】

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等は厳禁である。授業妨害がはなはだしい場合には、退出させることもある。良識をもって、楽しく実りある授業にしたい。

【授業のテーマ】

昔話、寓話、ファンタジー、リアリズム、絵本など児童文学におけるさまざまなジャンルの作品を取り上げる。それぞれの作品の特徴を理解し、児童文学の評価について学ぶことを通して、児童文学とは何かを考える。また読者が作品のどこに魅力を感じるのか、物語が人間のどんな欲求を満たすのかを考え、物語の重要性を認識する。

授業で学ぶ作品分析の手法や視点は、他の作品にも適用できるアプローチである。授業終了後の読書にも役立ててもらいたい。また物語の子どもたちが直面する諸問題を知ること、幅広い価値観や思考力を養ってもらいたい。

【授業における到達目標】

- 1 児童文学のジャンルの特性や授業で学んだ各作品の特徴を理解し、説明できる。
- 2 授業で学んだ文学作品の分析と評価の手法を、ほかの作品にも適用できる。
- 3 作品に対する自分の意見を発表し、また他の人の意見を理解し、論点を見極めることができる。
- 4 各作品で描かれる諸問題を通して、多様な価値観を学び、国際的な視野をもつ一助とする。
- 5 児童文学の価値を認識し、授業終了後も自ら進んで作品を読み、文学に対する感受性を高めていく力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 幼年童話——寺村輝夫『ぼくは王さま』
- 第3週 イソップ寓話
- 第4週 ファンタジー1——『不思議の国のアリス』の言葉遊び
- 第5週 ファンタジー1——ルイス・キャロルについて
- 第6週 ファンタジー2——ボーム『オズの魔法使い』
- 第7週 ファンタジー2——ドロシーの少女像をめぐるディスカッション
- 第8週 昔話——「赤ずきん」のヴァリエーションをめぐるプレゼンテーション
- 第9週 残酷性の問題をめぐるプレゼンテーション——ハインリヒ・ホフマン『もじゃもじゃペーター』
- 第10週 現代のリアリズム児童文学
- 第11週 ウルズラ・ヴェルフェル『灰色の畑と緑の畑』をめぐるディスカッション
- 第12週 梨木香歩『西の魔女が死んだ』
- 第13週 絵本
- 第14週 子どものためのエンターテインメント——原ゆたか「かいけつゾロリ」シリーズ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

(事前学修) 授業で取り上げる作品や配布プリントを読むこと。

(事後学修) 授業で取り上げる作品を読むこと。授業内容を自分の言葉で説明できるようにまとめること。

学修時間はそれぞれ週2時間 計週4時間以上。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%

平常点 30% (授業態度、提出課題)

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業で返却する。

【参考書】

日本イギリス児童文学学会編『英語圏諸国の児童文学I 物語ジャンルと歴史』(ミネルヴァ書房 2003年)

文学とコミュニケーション

— 短編小説から読み取るコミュニケーションの姿 —

高瀬 真理子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

私たちが日常何気なく行っているコミュニケーションとはどのようなものなのでしょうか。

私たちは、言葉だけでコミュニケーションをとっているわけでもありませんし、また、他者とのみコミュニケーションをとっているわけでもありません。

そのように、間口も奥行きも広くて深いコミュニケーションというもののさまざまな様態を日本の近現代小説に求め、作品講読を通して内容を理解していくと同時に、登場人物の行動や心情を理解しながら、そのようなコミュニケーションの有り様を追体験できればと思います。それらの作業の中から、私たちそれぞれの内界を豊かに育み、多様なコミュニケーションについて考えられるようになることを目指します。How toではないコミュニケーションの姿を捉えるところに主眼があります。

【授業における到達目標】

具体的な作品をコミュニケーションという視点から作品分析を行うことによって、日本語力はもちろん、コミュニケーション力、読み解く努力において、研鑽力を培い、コミュニケーションの有り様を把握することによってそれらが社会人力として身につくことを目標としています。

【授業の内容】

- 第1週 コミュニケーションとは何か……授業の進め方
 第2週 川端康成「伊豆の踊子」(1)……学生と踊り子の身分
 第3週 川端康成「伊豆の踊子」(2)……二人の交流
 第4週 川端康成「伊豆の踊子」(3)
 ……コミュニケーションのあり様
 第5週 横光利一「春は馬車に乗って」(1)……病妻との会話
 第6週 横光利一「春は馬車に乗って」(2)
 ……「檻の中の理論」との格闘
 第7週 横光利一「春は馬車に乗って」(3)
 ……夫婦のコミュニケーションの姿
 第8週 樋口一葉「にぎりえ」(1)……括弧のない会話文
 第9週 樋口一葉「にぎりえ」(2)
 ……お力と朝之助、お初と源七
 第10週 樋口一葉「にぎりえ」(3)
 ……コミュニケーションと真意
 第11週 三島由紀夫「班女」(1)……観念の愛とエゴイズム
 第12週 三島由紀夫「班女」(2)
 ……パラレルなコミュニケーション
 第13週 深沢七郎「楢山節考」(1)……村社会の成り立ちと食
 第14週 深沢七郎「楢山節考」(2)……村社会の秩序構成
 第15週 深沢七郎「楢山節考」(3)
 ……村におけるコミュニケーションとは

【事前・事後学修】

事前学修：テキストを前もって読んで授業に参加し、分からない語句などはあらかじめ調べておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業で理解したコミュニケーションの有り様をノートにまとめること。作品ごとにコミュニケーションの立場から見た作品レポートをまとめます。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

あらかじめテキストになる作品をプリント配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験扱いのレポート実施

レポートは、授業内容を理解の上でまとめ、調査を行った場合は、その根拠や引用を明示して作成して下さい。

レポート 70% 平常点 30% (毎回のリアクションペーパーを含む)

課題レポートを作品ごとに提出してもらい、そこに講評を書き込む

ことによって理解の不足を補い、その積み上げの上に最終のレポートをまとめてもらう形でのフィードバックを行います。

【参考書】

作家が複数に及び煩瑣なので、授業中に説明を加えながら紹介します。

【注意事項】

「文学」分野と「コミュニケーション」の分野をつなぐような科目ですので、その点に留意しながらしっかり授業を聴いて下さい。ノートなどは、各自で自分の参考になるように工夫して下さい。短期大学部受講ルール厳守。

文学とジェンダー

翻案と変容する女性像

大石 紗都子

1年～ 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

現在では、男女平等や女性の活躍といった発想が浸透して久しい観がありますが、一方で、性差に応じて向き合わなければならない制約・問題といったものが皆無となることはありません。またそれらの中には、比較的普遍性をもつものもあれば、時代背景によって変遷するものもあるでしょう。本講義では、近現代の作家による、先行の文学作品を典拠とした作品・翻案ものを数作品取り上げ、読解や典拠との比較を行います。

たとえば、平安時代の「女流日記文学」は近代に入ってから、その評価や解明がすすんだものでもあり、そこには近代の女性観やジェンダー認識も介在するものと思われまます。

総じて、文学作品を糸口にして、どのような女性像が求められてきたのか、あるいは女性作家達はどのような題材やテーマを選び取っていったのかを考えていきます。

【授業における到達目標】

近現代文学を、表現や時代性などいくつかの視点から読み直し、文学作品に対する読解力や想像力を深めることを目標とします。

【授業の内容】

第1回：概説

第2回：女性ならではのテーマとは何か・性差はどのように表現されるのか

第3回：近代に見出された古典文学の女性たち（作品読解）

第4回：近代に見出された古典文学の女性たち（作品注釈）

第5回：近代に見出された古典文学の女性たち（典拠・原典）

第6回：近代に見出された古典文学の女性たち（原典比較）

第7回：近代に見出された古典文学の女性たち

（「女流日記文学」と近代 1）

第8回：近代に見出された古典文学の女性たち

（「女流日記文学」と近代 2）

第9回：女流作家の作品（近代文学 作家紹介）

第10回：女流作家の作品（近代文学 読解）

第11回：女流作家の作品（近代文学 考察）

第12回：女流作家の作品（現代文学 作家紹介）

第13回：女流作家の作品（現代文学 読解）

第14回：女流作家の作品（現代文学 考察）

第15回：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲となる作品の該当箇所を読み、内容を把握するようにしてください。（週2時間）

【事後学修】 講義内容や配布資料、他の生徒の意見などと絡めて、各自の作品解釈や考えをさらに進めてもらいます。（週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で適宜配布・紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点40%（出席及び毎回の授業内で書いてもらうコメントペーパー）、レポート60%で評価します。前の回の授業で書いてもらったコメントをもとに、適宜教師の方で、紹介や回答などを述べます。

文学概論

〈古典の森〉によるこそ

上野 英子

2年～ 前期・後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

この講義では、大学生の教養としてこれくらいは知っておいて欲しいと思う古典の文学作品を、毎回さまざまなジャンルから取り上げて行きます。

日本文学が中心となりますが、世界文学史からの位置づけも行います。作品の時代背景を探りながら内容を分析し、朗読して文章を良く味わい、日本文学の底流に流れている特質について、皆さんと一緒に考えていこうと思います。

なお理解を深めるために、講義ではパワーポイントや視聴覚教材も併用します。また朗読を重視し、時には群読や分担読みも試みます。

皆さんのなかには古典文学に馴染みの薄い方もおいでかもしれませんね。でも判りやすく解説していきますので、大丈夫。〈古典の森〉の散策を一緒に楽しんでいきましょう。

【授業における到達目標】

古典文学を楽しむこと。

また皆さんが社会にでた時に、日本の古典文学について、またそこに垣間見られる私たち日本人の特質について、なにがしかの意見を述べられるようになること。それが目標です。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス〈文学って何だろう〉：錦絵新聞をよむ

第2週 儒教文化圏の考え方：論語

第3週 唐代漢詩と科挙制度

第4週 世界神話のなかの日本の神話：古事記

第5週 万葉の恋歌：万葉集

第6週 仏教説話の世界：日本霊異記

第7週 百人一首の世界

第8週 父親たちの遺言：宇津保物語・源氏物語・栄花物語

第9週 源氏物語1：概説

第10週 源氏物語2：作品鑑賞

第11週 武士の道：平家物語

第12週 大衆化された平家物語

第13週 草庵文学の世界：徒然草

第14週 江戸を旅する：奥の細道

第15週 華麗なる詞章：曾根崎心中

【事前・事後学修】

講義終了後は毎回課題を出しますので、自分で調べて簡易レポートをまとめてきてください。優れたレポートは読み上げて、皆さんに紹介していきます。

15回の講義を通じて、最低1作品は全編読破すること（現代語訳で可）が条件となります。以上、週4時間程度の学修を見越しています。

【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

①平常点60%（簡易レポートの充実度・積極的な授業参加）

②定期試験40%（場合によっては試験代わりのレポートに切り替えます）

①②の合計で総合的に評価します。

なおフィードバックは①の簡易レポート提出後に、毎回行います。

【参考書】

作品にあわせて、毎回の講義で紹介いたします。

文学散歩プロジェクト

文学の時間と空間を歩く

棚田 輝嘉・湯浅 茂雄

1・2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

【授業のテーマ】

文学者は、ある「時代」のある「場所」で確かに生きていました。そして、作品の舞台もまた、「リアルに」「バーチャルに」迎えることが可能な作品がたくさんあります。そうした作品の背景となる「時空（時間と空間）」を、実際に歩いて、体験することで、立体的に作品の意味を探って行きたいと思います。

具体的には、本年度は、本学と縁の深い向田邦子や、もっとも面白い推理小説作家（と私は思っている）東野圭吾の世界、相撲の舞台両国や、芥川龍之介、さらに忠臣蔵という江戸の世界、などに縁のある隅田川兩岸を歩いてみようと思います。

【授業における到達目標】

文学作品を、立体的に読み解く。

特にPDの「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深める」ことを目標とし、さらに「目標を設定して、計画を立案・実行する」能力、及び「自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める」能力の獲得を、基本的な目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 授業の目的と方法
- 第2週 演習の手順と方法
- 第3週 水天宮界限：水天宮・人形町・谷崎潤一郎・玉ひで 他
- 第4週 東野圭吾：新参者・麒麟の翼他
- 第5週 食の街：甘酒横丁・向田邦子・明治座・隅田川右岸 他
- 第6週 両国界限：両国橋・国技館・回向院・忠臣蔵・芥川 他
- 第7週 隅田川左岸：松尾芭蕉・田川水泡・江戸深川資料館 他
- 第8週 深川不動尊・富岡八幡宮・そして月島へ
- 第9週 （実地踏査に替える）
- 第10週 （実地踏査に替える）
- 第11週 以上の3回を実地踏査に替える（下の注意事項、必読）
- 第12週 報告パンフレットの作成1：前半部
- 第13週 報告パンフレットの作成2：後半部
- 第14週 報告パンフレットの完成
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学習】発表者は、必ず相談に来ること。

他の学生は、予め配布されたレジメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学習】改めてレジメを読み直し、実地踏査や報告パネルの作成に備えること。（週2時間）

【テキスト・教材】

こちらから配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み、課題・質疑など）65%

演習発表、または、レポート 35%

提出された課題、レジメ等については、授業中などにフィードバックを行う。

【参考書】

発表者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

【注意事項】

- ① 受講者が25名を超える場合には、抽選とする。
- ② 実地踏査（文学散歩）は、6月23日（日）13:00～18:00頃、雨天の場合には
6月30日（日）13:00～18:00頃（この日は、雨天でも行う）
- ③ 上記の日程の文学散歩に参加できるように日程調整を行って下さい。なお、公式の理由で、急に参加できなくなった場合には、レポート等で対処します。

編集・校正インターンシップ

毎日新聞社でのインターンシップ

1・2年 集中 1単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

学生が在学中に出版編集コースでの学びに関連した就業体験を行う。

【授業における到達目標】

学科教育において身につけた日本語力・コミュニケーション力を基礎とし、出版編集コースにおける授業、特に校正技能等の授業を通じて学んだものを現場での体験を通じて、実践的な能力に高めることを目標とする。

【授業の内容】**I. 実習期間及び時間数**

毎日新聞社大学センターとそこに関連、あるいは連携する現場において、5日間以上、各日7時間（総計35時間）を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。

履修している授業に支障がないよう、原則として夏期休暇中などの授業期間外の日程を設定すること。

実習のための欠席は公欠扱いにならない。

II. 実習内容

・社内見学により新聞社の仕事内容全般を掌握する。

・取材体験

・記事執筆体験

・校閲体験

・教育事業（イベント関連）の補助体験

就業体験のため無報酬、食費・交通費等は自費負担

その他、本学とのインターンシップ協定書に基づく。

【事前・事後学修】

事前学修：毎日新聞社大学センターについての情報収集、調査を行うこと（2時間程度）。

各日ごとの実習内容を意識して、当日の目標設定を行うこと。また実習日ごとに目標に照らした振り返りと反省とそこからの学びについて書き留めておくこと（各日1時間程度）。

事後学修：インターンシップの報告書を作成し、事前学修の作成書類と合せて冊子を作成すること（報告書について3時間程度、冊子作成時間含まず）。

【テキスト・教材】

インターンシップについて、本学、並びに毎日新聞社の受け入れ部署から配付される資料

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前事後学修で製作された冊子と口頭発表をもとに単位を認定する。

【注意事項】

実習で体験した内容を的確にまとめ、報告書を作成すること。報告書については、毎日新聞社の受け入れ部署から評価の記入・印をいただくこと。印のないものは無効となる。

単位認定を希望する者は、所定の期間に日本語コミュニケーション学科に申請すること。

保育・教育指導の基礎

井口 眞美・大澤 朋子・松田 純子・渡辺 敏

1年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

本授業では、初学の学生が、保育・教育現場等での実際の子どもの生活や学びの様子から、子どもたちに求められる資質・能力を環境を通して一体的に育む保育・教育の方法及び技術を、実践的に学び身に付ける。まずは幼保小連携の重要性を踏まえ、幼稚園教育、小学校教育及び保育の基本と目標を理解した上で、幼稚園、小学校、保育所、さらに地域の児童館での見学観察、日野市主催の行事（こどもまつり）への参加、ボランティア活動などの様々な実地経験をを通して、子どもの発達と学びの実際を知り、環境を通して行う保育・教育における方法及び技術を具体的に理解し、身に付けていく。

【授業における到達目標】

- ・保育・教育の方法について、基礎的な理論を理解する。
- ・実際の保育・教育現場の子どもの生活や学びの環境を理解する。
- ・保育・教育の基礎的な技術の必要性を理解し、身に付ける。
- ・問題解決に向けて主体的に行動する力を身に付ける。
- ・広い視野と洞察力を身に付ける。
- ・他者と協働する力を身に付ける。

【授業の内容】

1. 前期ガイダンス（本授業のテーマ及び到達目標、授業の概要、事前学習内容）
2. 幼児期における保育・教育方法の基礎
3. 保育者としての姿勢と基礎的技術の修得〔外部講師〕
4. 保育者の援助とその基本
5. 保育者の援助とその方法
6. 幼稚園教育の実際〔見学観察〕
7. 幼稚園教育の実際〔振り返り〕
8. 幼稚園教育の実際〔発表〕
9. 幼稚園における指導計画と評価
10. 幼児期から学童期へかけての保育・教育方法及び技術の理解
11. 小学校教育の実際〈1年生〉〔見学観察〕
12. 小学校教育の実際〈1年生〉〔振り返り〕
13. 地域の中の保育・教育方法及び技術の理解
14. 児童館職員の支援の実際〔見学観察〕
15. 児童館職員の支援の実際〔振り返り〕
16. 後期ガイダンス、保育・教育現場でのボランティア活動
17. 家庭・地域との連携と子育て支援の方法及び技術の理解
18. 家庭・地域との連携と子育て支援の実際〔こどもまつり参加〕
19. 家庭・地域との連携と子育て支援の実際〔振り返り〕
20. 発達過程に即した保育・教育方法及び技術の理解
21. 乳児期から学童期にわたる保育・教育の方法
22. 乳幼児から学童期にわたる保育・教育の技術
23. 乳児期から学童期にわたる保育・教育の実際〔保育園・小学校見学観察〕
24. 乳児期から学童期にわたる保育・教育の実際〔振り返り〕
25. 乳児期から学童期にわたる保育・教育の実際〔発表〕
26. 発達過程に即した指導計画と評価の考え方
27. 保育・教育における情報機器及び教材の活用
28. 保育・教育現場でのボランティア活動〔振り返り〕
29. 現代の「しつけ」と保育者の方法及び技術〔外部講師〕
30. 総括

【事前・事後学修】

- ・授業時に出される課題に取り組む（学修時間 週1時間）
- ・授業内容について復習を行う（学修時間 週1時間）
- ・見学観察先の調査・学修（学修時間 各実習2時間）
- ・見学観察記録の作成（学修時間 各実習3時間）
- ・ボランティア先の調査・学修（学修時間 3時間×3施設）
- ・ボランティア活動を行う（学修時間 8時間×3日間）

【テキスト・教材】

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉〔チャイルド本社、2017、¥500(税抜)〕

小学校学習指導要領（平成29年告示）〔¥200(税抜)〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習への取り組み及びレポート課題40%、平常点（授業への積極参加・課題提出）30%、ボランティア課題30%
- ・課題等評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

【参考書】

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・見学観察日は、先方の都合により変更になる場合がある。
- ・外部講師による特別講義日は、講師の都合により変更になる場合がある。

保育・教育指導の実践

大澤 朋子・山下 晶子・井口 眞美・南雲 成二

2年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育所や幼稚園、小学校、児童福祉施設での見学観察実習により、子どもの発達や学びの実際を理解し、保育・教育の場の機能や役割について現実的な認識を深めるとともに、先輩の実習報告や外部講師の講話を聞き見聞を広める。また日野市主催の子育て支援行事「手をつなごう こどもまつり」への参加を通して、行事等の企画・運営の体験をすると同時に、子どもをめぐる地域活動の意義や取組の実際を理解する。

【授業における到達目標】

保育者・教師としての基礎を培い、3、4年次に行われる保育実習（保育所及び児童福祉施設）、教育実習（幼稚園及び小学校）、介護等体験に備えるとともに、さまざまな経験を積みながら幅広い実践力を身に付ける。見学観察実習を通して、子どもの発達や保育者・教師の役割を理解し、実際に子どもに関わる経験を通して保育・教育技術を身に付ける。更に、学生同士の作業の中で自らの役割を果たすことで協働力を養い、保育者・教師としての自己課題を見つける。

【授業の内容】

- 第1回：2年次実習ガイダンス
- 第2回：礼法の学習（社会人としてのマナー、作法、話法の習得）
＜外部講師による指導＞
- 第3回：保育所・小学校の一日（保育方法の理論）
- 第4回：保育所・小学校観察の事前指導1（観察の概要、手続き）
- 第5回：保育所・小学校観察の事前指導2（実践の観察と評価の視点）
- 第6回：保育所・小学校観察の事前指導3（日誌記録の書き方）
- 第7回：保育所・小学校観察実習（学外実習：教育方法実践の理解）
- 第8回：実習事後指導1（礼状の作成、子ども理解と教育方法の理解）
- 第9回：実習事後指導2（子ども理解のための日誌記録）
- 第10回：実習事後指導3（「事例と考察」に基づく評価の在り方）
- 第11回：福祉施設について（概要）
- 第12回：福祉施設ボランティアについて（心得等）
- 第13回：夏休み課題について（情報機器を活用した保育教材の作成）
- 第14回：福祉施設の役割と機能
- 第15回：福祉施設における支援の在り方
- 第16回：地域の子育て支援の理論と実践
＜外部講師による指導＞
- 第17回：地域の子育て支援活動「こどもまつり」の概要
- 第18回：「こどもまつり」への参加準備、教材作成
- 第19回：「こどもまつり」への参加（学外実習）
- 第20回：「こどもまつり」の振り返り
- 第21回：実習事前指導1（幼児理解、指導法等観察の視点、手続き）
- 第22回：実習事前指導2（作成した保育教材〔夏休み課題〕の発表、情報機器の活用）
- 第23回：実習事前指導3（教育方法理解のための日誌の書き方）
- 第24回：幼稚園観察実習（学外実習：教育方法実践の理解）
- 第25回：実習事後指導1（教育方法の理解）
- 第26回：実習事後指導2（指導案の作成と評価）
- 第27回：保育所・幼稚園実習園開拓について
- 第28回：施設実習・介護等体験について（種別ごとの学習内容）
- 第29回：施設実習・介護等体験の心得
- 第30回：施設実習・介護等体験で身に付けておくこと

【事前・事後学修】

【事前学修】

観察実習、こどもまつりへの参加、外部講師による指導等で出され

た課題は（基本的に）次週までに提出すること。日頃からボランティア活動にも自主的に取り組むこと。（週1時間）

【事後学修】

施設ボランティアの課題、夏休み課題については早め実施し、期日までに必ず提出すること。（週1時間）

【テキスト・教材】

内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針〔チャイルド本社〕
文部科学省：小学校学習指導要領〔東洋館出版社〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度〔授業への取り組み方等〕30%、授業内課題40%、実習30%
実習内容の発表や課題の提出の機会には、指導教員からのコメントをつけ、学修のフィードバックを行う。

【参考書】

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編
ジアース教育新社 2014年（933円＋税）
『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編 全国社会福祉協議会 2015年（600円＋税）

【注意事項】

- ・実習関連科目であるため、実践的な内容が中心となる。こどもまつりや観察実習、ボランティア等にも意欲的に参加すること。
- ・外部講師による指導や観察実習については、先方の都合により日程が変更になる可能性がある。
- ・幼保コースと幼小コースが合同で学習する日もある。担当教員に日程や教室を確認して受講すること。

保育・教職実践演習（幼稚園）

井口 眞美・田中 正浩

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

この授業では、指導案の作成、現職幼稚園教諭、保育士からの指導（求められる保育者像、資質、技能について）等から、4年間の学びを振り返る。また、グループ討議や実地観察を行い、「専門的知識・技術を備え、実践力を発揮できる保育者」を育てることを最終目的とする。

【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、保育者になるにあたっての自己課題を明らかにし、主体的に解決できる力を身につける。
- ・保育者としての専門的知識・技術を身につけ、実践力を高めて、「研鑽力」「協働力」を身につける。
- ・外部講師の話や実地見学を通して、保育者としての将来に期待と自信をもつことができる。

【授業の内容】

- 第1週 実践演習カルテについて
- 第2週 自己課題解決に向けてのディスカッション
- 第3週 前週の内容に関するグループ発表
- 第4週 園長講話…現職幼稚園長を招く
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第5週 自己の学びの振り返り（文章化）
- 第6週 幼小の接続において大切にしたいこと
- 第7週 先輩保育者の話…卒業生である保育者6名程度を招く
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第8、9週 幼稚園、保育所での観察
 <日野市内の園でのフィールドワーク：日程未定>
- 第10週 園見学の発表①（遊びの記録についての発表）
- 第11週 園見学の発表②（環境構成の工夫についての発表）
- 第12週 子育て支援活動の話…NPO活動団体の方を招く
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第13週 実践力の育成（自己紹介）
- 第14週 実践力の育成（伝承遊び）
- 第15週 カルテ作成、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

これまでに記入したカルテを見直し、不備がないか確認しておくこと。カルテにより自己課題と考えられる内容に関しては、補完的に学修を進めておくこと。（週1時間）

【事後学修】

授業で配布されたプリント等は、翌週までによく読んでおくこと。（週1時間）

【テキスト・教材】

生野金三他：保育・教職実践演習[萌文書林、2016、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（授業への取り組み）50%、提出物やレポート50%

- ・教職カルテは返却し、学修成果の自己評価を行う場を設ける。
- ・各回の課題は振り返りの機会を設ける。

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）

厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年）

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）

【注意事項】

授業への積極的な参加が求められる。成績評価は、授業への取り組み方や授業態度を重視する。

保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（保育の質）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（保育の質）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（保育の質）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（保育の質）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（保育の質）
- 15 まとめ

【事前・事後学修】**【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

保育学演習

松田 純子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

『育つ・つながる子育て支援—具体的な技術・態度を身につける32のリスト』（チャイルド社 2009年）1,800円

・『発達』第140号 [子育て支援のこれから]（ミネルヴァ書房 2014年10月25日）1,500円

【注意事項】

- ・諸外国の保育と子育て支援については、1カ国を選び、グループ発表を行う。
- ・実地見学日は、見学先の都合により変更になる場合がある。

【授業のテーマ】

「保育」とは、幼い子どもの生命を保護する養護（care）的側面と、心身の健全な成長・発達を促す教育（education）的側面とを併せ持つ営みである。その意味では「子育て」も広義の「保育」と捉えることができるだろう。しかし、家庭や地域での「子育て」が経験的で無意図的に行われる場合が多いのに対して、保育施設では専門の保育者によって意図的・計画的に保育が行われている。子育てを社会全体で支援しようという「子ども・子育て支援新制度」時代を迎え、保育の場（保育施設等）における保育の専門家による子育て支援は、今後ますます重要性を増すと考えられる。

本授業では、さまざまな子育て支援の在り方を国内外の例に学びながら、地域での実地見学の体験も交え、改めて保育者の専門性を基盤とする子育て支援について考察する。

【授業における到達目標】

- ・保育者の専門性への理解を深める。
- ・多様な子育て支援の在り方について理解する。
- ・子育て支援の現状と課題について理解し、広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができるようになる。
- ・保育の専門性を基盤とした子育て支援についての理解を深め、改めて保育者の役割と責任について自覚を持ち、自らの人間性を高めようとする態度を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業の概要と進め方）
2. 「子育て」と「保育」
3. 日本の保育と子育て支援
4. デンマークの保育と子育て支援
5. スウェーデンの保育と子育て支援
6. フランスの保育と子育て支援
7. ニュージーランドの保育と子育て支援
8. カナダの保育と子育て支援
9. アメリカの保育と子育て支援
10. 実地見学事前指導
11. 実地見学（地域の子育て支援の場）
12. 実地見学振り返り
13. 保育者の専門性
14. 子育て支援と保育者の専門性
15. 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・次回の授業内容について、資料を読み、疑問点をまとめておくこと。発表担当者は、レジュメを準備する。（学修時間 週2時間、発表準備5時間）

【事後学修】

- ・授業内容について、ノート・資料をもとに復習し、理解を確実にしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・発表 30%、平常点（授業への積極参加・課題提出）40%
レポート課題 30%
- ・レポート課題の評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

【参考書】

- ・汐見稔幸編著
『世界に学ぼう！子育て支援—デンマーク・スウェーデン・フランス・ニュージーランド・カナダ・アメリカに見る子育て環境』（フレーベル館 2003年）1,800円
- ・子育て支援者コンピテンシー研究会編著

保育活動の実際a

越山 沙千子

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く音環境と「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びの中で音や音楽にかかわる活動を豊かに展開するために必要な知識および技術を実践的に学ぶ。

【授業における到達目標】

- ①子どもの発達に即した手遊び歌や子どもの歌を選び、実践できるようにする。
- ②子どもの感性を育むことのできるような弾き歌いと伴奏づけの技術を習得する。
- ③身の回りのモノや楽器の特性を理解し、活用するための知識および技術を習得する。

音や音楽を聴き、自ら表現する活動を通して美を探求する力と研鑽力および協働力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、ピアノの演奏法と五線譜の読み方
 - 第2週 ピアノの演奏法と音楽用語と記号
 - 第3週 わらべうた遊び
 - 第4週 子どもの歌を歌おう
 - 第5週 身体を使った音遊び
 - 第6週 身体を使った音遊びの計画と実践
 - 第7週 自然や身の回りの様々な素材を用いた活動
 - 第8週 自然身の回りの様々な素材を用いた活動の計画と実践
 - 第9週 弾き歌い中間発表会
 - 第10週 楽器を用いた活動
 - 第11週 楽器を用いた活動の計画と実践
 - 第12週 コードネーム概要
 - 第13週 コードネームによる伴奏づけ
 - 第14週 弾き歌いまとめ
 - 第15週 弾き歌い発表会
- 授業内で弾き歌いの個人指導も行う（第9・15週を除く）。

【事前・事後学修】

【事前学修】ピアノの課題等は、必ず練習をしておくこと。毎日継続することが望ましい。（学修時間 週2時間30分）

【事後学修】授業の内容をノートにまとめておくこと。授業で課した課題に取り組むこと。楽語や演奏記号は必ず復習すること。（学修時間 週1時間30分）

【テキスト・教材】

小西行郎ほか：乳幼児の音楽表現——赤ちゃんから始まる音環境の創造（保育士・幼稚園教諭養成課程）[中央法規、2016、¥1,800（税抜）]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間発表（20%）、学期末発表（20%）、授業内課題発表（30%）、授業への取り組み（30%）とする。弾き歌いは個人指導をし、その他の課題はコメントをして返却することでフィードバックとする。

【注意事項】

楽器を扱うため、爪を伸ばした状態で受講することを禁止する（指より爪がはみ出さない程度）。ピアノを演奏したり、身体表現を伴う活動も行うので、動きやすい服装で受講すること。配布した楽譜などは、A4のノートやスケッチブックに貼り付けること。

保育活動の実際b

宮野 周

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な感性や実践的な力をつけることを目的とします。様々な表現や材料体験を通して、自ら感じ、考え行動する子どもを育てるための造形的な見方・考え方や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

【授業における到達目標】

子どもの造形表現を理解するために学生が育むべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を育むとともに、修得すべき「研鑽力」「行動力」「協働力」のうち、とくに学修成果を実感して自信を創出することや互いを尊重しながら自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 身近にある材料を使った表現 新聞紙①（活動）
- 第3週 身近にある材料を使った表現 新聞紙②（ふりかえり）
- 第4週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について 指絵の具
- 第5週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について 絵の具
- 第6週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について クレヨン
- 第7週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について マーカー
- 第8週 身近にある材料を使った表現（粘土）①（活動）
- 第9週 身近にある材料を使った表現（粘土）②（ふりかえり）
- 第10週 身近にある材料を使った表現（色画用紙）
- 第11週 身近にある材料を使った表現（空き箱）
- 第12週 身近な材料でつくって遊ぶ（かく）
- 第13週 身近な材料でつくって遊ぶ（つくる）
- 第14週 幼児の造形表現
- 第15週 子どもの発達と描画表現

【事前・事後学修】

（事前学修）シラバスにある各授業の内容を教科書等を活用して確認するとともに、必要に応じて授業で使用材料・用具を準備すること。（学修時間週60分）

（事後学修）教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（学修時間週60分）

【テキスト・教材】

磯部錦司『造形表現・図画工作 第2版』（建帛社 2018年）2592円（本体価格2400円）
その他、適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。フィードバックは毎授業時間内の活動の課題後に行う。

【参考書】

- ・平田智久監修・小野和・宮野周『みんないきいき絵の具で描こう!0歳児～5歳児』サクラクレパス出版部
- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の

【注意事項】

実技を含めた授業内容となり、各自、授業に必要な道具・材料を準備すること。絵の具や粘土などの素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

保育活動の実際c

保育内容の理解と方法

森田 陽子・中澤 歩

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

保育の健康及び環境領域の内容を理解し、子どもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な身体や身近な環境に関する知識や技術を習得する。また、教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。

【授業における到達目標】

身体を使った運動遊びでは、保育に必須の様々な遊具の特性や活用方法及び保育環境の留意点を学び、運動遊びを楽しく展開するための技術を身につける。

身体を使った表現遊びでは、リズム遊び、および、子どもの生活やイメージと身体表現をつなぐ基本をとらえ、身体表現遊びを通して子どもの想像性を引き出す工夫を知る。

運動遊び、表現あそびの展開に必要な視点を学び、自ら身体を動かし、子どもの発育発達に即した身体活動を活発に展開できる態度・構えを養う。また、学生の習得すべき「協働性」の中から、状況に応じたリーダーシップを発揮できる力を習得する。

【授業の内容】

- 1、オリエンテーション
(身体を使った運動遊び)
- 2、身体を使った運動遊び
- 3、手具を使った運動遊び
- 4、布を使った運動遊び
- 5、ボールを使った運動遊び
- 6、身近にあるものを使った運動遊び
- 7、手作り遊具を使った運動遊び
- 8、運動遊びから運動会への展開
(身体を使った表現遊び)
- 9、リズムを使った表現遊び
- 10、手具を使った表現遊び
- 11、布を使った表現遊び
- 12、ボールを使った表現遊び
- 13、歌遊びを使った表現遊び
- 14、手遊びを使った表現遊び
- 15、身体表現遊びからお遊戯会への展開

【事前・事後学修】

(事前)

子どもが運動遊び、身体表現遊びを展開する様子を観察する。自らの身体を動かし、活発な活動が展開できるような身体づくりをする。(学修時間週60分)

(事後)

毎回の授業の学び、指導のポイント等をレポートし、次の授業時に提出する。(学修時間週60分)

【テキスト・教材】

コンパス保育内容 表現[建帛社、2019]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

(成績評価)

授業内実技試験 50%、レポート 25%、授業態度 25%。

【参考書】

適時紹介する。

【注意事項】

運動着着用・運動用シューズを持参すること。屋外で活動することもあるので指示に気をつけること。自ら意欲的に取り組む姿勢、および、仲間と協力して取り組む姿勢が大事です。欠席をすると授業内容から遅れてしまうので、体調を整え万全の状態で開催できるように心がけましょう。

保育活動の実際d

浅見 均

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

【授業のテーマ】

保育の「言葉」「人間関係」領域の内容を理解し、子どもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な言語や、コミュニケーションに関する知識、技能を修得する。また、教材等の活用及び作成、保育の環境構成および具体的展開の為の技術を習得する。

【授業における到達目標】

- 1、絵本、紙芝居、素話などの児童文化を発達段階に応じて、どのように活用したら良いかその意義が理解でき、児童文化の中に価値を見出し、感受性を豊かにしようとする態度を修得する。
- 2、絵本、紙芝居、素話、劇遊びなどを実際に演じて、どのように演じることが効果的か理解、体得することを通して、相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】を修得する。

【授業の内容】

- 第1回 本授業における目的及び授業内容について
- 第2回 絵本読み聞かせの意義及び方法と実際 絵本
- 第3回 絵本読み聞かせの実際 絵本
- 第4回 本読み聞かせの意義及び方法と実際 絵のない本
- 第5回 紙芝居の意義及び演じ方と実際 ①低年齢児向け紙芝居
- 第6回 紙芝居の演じ方と実際 ② 幼児向け紙芝居
- 第7回 素話の意義及び演じ方と実際 ①話し合い及び準備
- 第8回 素話の実際 ②発表及び評価
- 第9回 教材作成及びその活用 手袋人形 製作
- 第10回 劇遊びの意義及び実際 ①劇に向けての話し合い及び準備
- 第12回 劇遊びの実際 ②具体的な計画、準備
- 第13回 劇遊びの実際 ③発表及び振り返り
- 第14回 まとめ及びレポート作成
- 第15回 レポートに対してのフィードバック

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業内容に対しての教材研究、及び教材準備、発表に向けての準備学修があります。（学修時間週60分）

事後学修：授業終了時に出题する学修成果レポートの提出があります。（学修時間週60分）

【テキスト・教材】

特に定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ミニ・レポート30%、発表30%、まとめのレポート40%の総合評価です。

ミニレポートは、次の授業にてフィードバックし、解説していきま。発表については発表後皆で振り返りをする中でフィードバックしていきま。まとめのレポートについても次の授業でフィードバックします。

【参考書】

授業内で参考書等の紹介をします。

【注意事項】

グループワークが多くなるので欠席はしないこと。

保育原理 1

松田 純子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

保育とは、幼い子どもの生命を保護し、その心身の健全な成長・発達を促す養護（care）と教育（education）とが一体となった営みである。本授業では、保育の意義と目的を踏まえ、わが国の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。さらに、諸外国や日本の保育の思想や歴史を学習した上で、現代の保育に目を向け、その現状と課題を考察し理解を深めることで、これからの保育を考える力を身に付けたい。

【授業における到達目標】

- ・保育の意義及び目的について理解する。
- ・保育に関する法令及び制度を理解する。
- ・乳幼児期の保育の基本について理解する。
- ・保育の思想と歴史の変遷について理解する。
- ・保育の現状と課題について理解する。
- ・広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができる。
- ・保育者（次世代を育てる者）としての自覚を持ち、人間性を高めようとする態度を身に付ける。

【授業の内容】

1. 保育の理念と概念
2. 保育の社会的役割と責任
3. 保育の制度的位置づけ
4. 幼稚園と幼稚園教育要領
5. 保育所と保育所保育指針
6. 幼保連携型認定こども園と教育・保育要領
7. 保育の目標・内容・方法
8. 子どもの理解に基づく保育の過程
9. 子ども観の変遷
10. 諸外国の保育の思想と歴史 (1) 近代以前
11. 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 近代以降
12. 日本の保育の思想と歴史 (1) 近代以前
13. 日本の保育の思想と歴史 (2) 近代以降
14. 諸外国の保育の現状と課題
15. 日本の保育の現状と課題

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）
- ・別途プリントも使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・試験80%、平常点（授業への積極参加・授業内課題）20%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントにて行う。

【参考書】

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・授業の中でディスカッションの時間を設けるので、積極的に取り組むこと。

保育原理 2

松田 純子

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

保育者を志す者にとって、保育の対象となる子どもの理解は欠かせない。本授業では、子どもの発達と遊びの理論について学習し、子どもの理解を深めると共に、発達過程に応じた保育、遊びを通した総合的な指導の重要性を学ぶ。また、子どもの発達に大きな影響力を持つ環境について考察し、改めて保育の基本である「環境を通しての保育」への理解を深める。さらに子育て支援や保幼小連携・接続等にも触れ、これからの保育者の役割と協働等について考え、保育者の専門性を理解する。

【授業における到達目標】

- ・乳幼児期の発達について理解する。
- ・子どもの遊びの意義について理解する。
- ・保育の環境について理解する。
- ・子育て支援の重要性について理解する。
- ・保育者の専門性について理解する。
- ・保育者（次世代を育てる者）としての自覚を持ち、人間性を高めようとする態度を身につける。
- ・多様な保育の在り方について理解し、広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができるようになる。

【授業の内容】

1. 子どもの理解
2. 子どもの発達と保育 (1) 人の発達の特殊性と保育の可能性
3. 子どもの発達と保育 (2) 遺伝と環境
4. 3歳未満児の保育
5. 3歳以上児の保育
6. 遊びの意義
7. 遊びの理論と発達
8. 遊びを通しての指導・援助
9. 保育の環境 (1) 自然/物/人
10. 保育の環境 (2) 時間・空間/社会・文化
11. 環境を通しての保育
12. 家庭及び地域との連携と子育て支援
13. 小学校との連携・接続
14. 保育者の専門性
15. 多様な保育の在り方

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）
- ・別途プリントも使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・試験80%、平常点（授業への積極参加・授業内課題）20%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントで行う。

【参考書】

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・受講者は必ず「保育原理1」を履修しておくこと。
- ・授業の中でディスカッションやワークシートを基にした質疑応答の時間を設けるので、積極的に取り組むこと。

保育実習 1 a（保育園）

松田 純子・山下 晶子

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設等での実習が必修となる。

「保育実習1a」では、保育所において実習を行い、保育所保育の現状を把握し、実際の保育士の仕事や役割について具体的に学ぶと同時に、子どもと実際にふれあう体験を通して乳幼児への理解を深める。また、これまで大学で学んできた知識や技能を基礎としながら、保育の現場において、これらを総合的に実践する応用能力を養う。保育の理論と実践の有機的なつながりを理解し、自己課題を明確化して次の学びにつなげたい。

【授業における到達目標】

- ・保育所保育の現状を理解する。
- ・保育士の実際の仕事や役割を理解する。
- ・乳幼児への理解を深める。
- ・保育実践力を身につける。

【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導1」の授業において行う
- ・実習
 - 実習時期： 6月（予定）
 - 実習期間： 2週間
 - 実習園： 日野市立保育園 他
- ・事後指導 ※「保育実習指導1」の授業と個人面談指導にて行う
 - 実習のまとめ及び反省
 - 実習報告会
 - 実習の評価及び今後の課題の明確化（個人面談指導）

【事前・事後学修】

【事前学修】

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける（1時間）
- ・実習の手引きやテキストを読み直す（5時間）
- ・保育教材の準備や実技練習〔実習期間〕（1時間×11日間）

【事後学修】

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕（3時間×11日間）
- ・実習報告書を作成する（3時間）
- ・自己評価シートで課題を明確にする（1時間）

【テキスト・教材】

基本保育シリーズ⑩ 保育実習〔中央法規、2016、¥2,400（税抜）〕

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面談等に基づく評価50%
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

【参考書】

- ・適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・実習要件科目の単位を修得しておくこと。
- ・原則として遅刻や欠席は認めない。

保育実習 1 b (児童福祉施設)

松井 利恵・大澤 朋子

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設での実習が必要となる。実習は、これまで学んできた教科全体の知識・技術を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養うことをねらいとする。また、実習後の振り返りや評価を通じて、次の学びに向けた課題を明らかにすることも重要である。

保育実習 1 b は、厚生労働省が保育実習実施基準で指定する種別の施設（乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設など）における実習を行い、施設保育の現状を理解し、利用児者との実際のふれあいを通して、児童福祉についての理解を深める。

【授業における到達目標】

- ・施設の機能と役割を理解する。
- ・施設保育の現状と施設保育士の実際の仕事や役割を理解する。
- ・施設を利用する子ども・利用者の生活と家族の状況を理解する。
- ・専門職としての自己覚知に努め、多職種連携について学ぶ。
- ・保育者としての倫理を学び、修得すべき「美の探究」の内、人格を陶冶しようとする態度を身につける。
- ・修得すべき「行動力」の内、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を身につける。
- ・実際の福祉現場で総合的な「協働力」を身につける。

【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導 1」の授業において行う
- ・実習
 - 実習期間：原則 9月～12月
 - 実習期間：実働11日以上（2週間程度）
 - 実習施設：東京都、埼玉県、山梨県、神奈川県、乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設 等のいずれか 1 施設
- ・事後指導 ※「保育実習指導 1」の授業と連携して行う
 - 実習のまとめ及び反省
 - 実習報告会
 - 実習の評価及び今後の課題の明確化（個人面談指導）

【事前・事後学修】

【事前学修】

- ・実習施設によるオリエンテーションを受ける（1時間）
- ・実習施設についての学習（3時間）
- ・実習の手引きやテキストを読み直す（5時間）

【事後学修】

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕（3時間×11日間）
- ・実習報告書を作成する（3時間）
- ・自己評価シートで課題を明確にする（1時間）

【テキスト・教材】

- ・『基本保育シリーズ20 保育実習』（中央法規 2016年）2,592円（税込）
- ・資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習施設による評価50%、実習日誌、実習報告、個人面談等に基づいた評価50%。
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

【参考書】

- ・施設の種別にあわせて紹介する。

【注意事項】

- ・実習の実施には、必修科目の単位取得を要する。
- ・原則として、遅刻や欠席は認めない。

保育実習 2 a (保育園)

松田 純子・山下 晶子

4年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習 2 a」では、「保育実習 1 a」での経験と学びを基に、保育所保育について、さらに実際的な理解を深め、保育士としての総合的な実践力を養う。自ら指導計画案を立案して実施する責任実習等の経験を通して、乳幼児理解をさらに深めると同時に、保育の実践的スキルや指導力の向上を図り、保育士としての資質を高めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・保育所の機能について理解を深める。
- ・保育士の役割について理解を深める。
- ・乳幼児への理解を深め、適切な援助を考えることができる。
- ・保育を構想・立案して実践し、省察・評価する総合的な保育実践力を身に付ける。
- ・実習を通して自己課題を明らかにする。

【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導 2」の授業において行う
- ・実習
 - 実習時期：9月（予定）
 - 実習期間：2週間
 - 実習園：日野市立保育園 他
- ・事後指導 ※「保育実習指導 2」の授業と個人面談指導にて行う
 - 実習のまとめおよび反省
 - 実習報告会
 - 実習の評価および今後の課題の明確化（個人面談指導）

【事前・事後学修】

【事前学修】

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける（1時間）
- ・乳幼児に関わるボランティア活動を行う（任意）
- ・保育教材の準備や実技練習〔実習期間〕（1時間×11日間）

【事後学修】

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕（3時間×11日間）
- ・実習報告書を作成する（3時間）
- ・自己評価シートで課題を明確にする（1時間）

【テキスト・教材】

- ・「保育実習 2 a (保育園)の手引き」（『保育実習 2 a日誌』）
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）
- ・『基本保育シリーズ⑳ 保育実習』（中央法規 2016年）2,400円（税別）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面談等に基づいた評価50%
- ・実習評価のフィードバックは個人面談にて行う。

【参考書】

- ・適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・「保育実習 1 a」「保育実習 1 b」と実習要件科目の単位を修得しておくこと。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。

保育実習 2 b (児童福祉施設)

大澤 朋子・松井 利恵

4年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士の資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設での実習が必要となる。

保育実習 2 b は、保育実習 1 b で実施した保育所以外の児童福祉施設等における実習の内容をより深め、施設利用児・者に対する直接的援助に加え、児童福祉施設の持つ社会的機能や、児童の家庭や地域社会における支援など、児童を取り巻く社会環境にも視野を広げた実習を行う。また、これまで大学で学んできた知識や技能を、施設の現場において総合的に実践する応用能力を高める。

【授業における到達目標】

- ・児童福祉施設の機能や保育士の役割について理解を深める。
- ・施設利用児・者への理解を深め、支援の基本を身につける。
- ・多様な専門職や地域社会との連携・協働の実践を学ぶ。
- ・保育者としての倫理観を高め、人格を陶冶しようとする態度を身につける。
- ・現状を正しく把握し、課題を発見できる力をより確かなものにする。
- ・実際の福祉現場で総合的な「協働力」を修得する。

【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導 2」の授業において行う
- ・実習
 - 実習期間：9月（予定）
 - 実習期間：実働11日以上（2週間程度）
 - 実習施設：乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設、児童厚生施設 等のいずれか1施設
- ・事後指導 ※「保育実習指導 2」の授業と連携して行う
 - 実習のまとめ及び反省
 - 実習報告会
 - 実習の評価及び今後の課題の明確化（個人面談指導）

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・実習施設によるオリエンテーションを受ける（1時間）
- ・実習施設についての学習（3時間）
- ・実習の手引きやテキストを読み直す（5時間）

【事後学修】

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕（3時間×11日間）
- ・実習報告書を作成する（3時間）
- ・自己評価シートで課題を明確にする（1時間）

【テキスト・教材】

- ・『基本保育シリーズ20 保育実習』（中央法規 2016年）2,592円（税込）
- ・資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習施設による評価（50%）、実習日誌、実習報告、個人面接等に基づいた評価（50%）
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

【参考書】

- ・適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・実習の実施には、必修科目の単位取得を要する。
- ・原則として、遅刻や欠席は認めない。

保育実習指導 1

松井 利恵・松田 純子・大澤 朋子

3年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習指導 1」では、保育実習 1 a（保育園）および保育実習 1 b（児童福祉施設）のための事前・事後指導を行う。保育所保育・施設保育の現状を把握し、利用児・者の発達や保育士の役割についての理解を深めるとともに、先輩の実習報告や外部講師の講話を聞くなどして、これまでに学んできた知識や技能を実際の保育の現場において総合的に実践する応用能力と心構えを養う。また自らの実習体験を省察する力を身につける。

【授業における到達目標】

- ・保育所保育・施設保育の目的を理解する。
- ・保育所/施設の利用児・者の発達を理解する。
- ・保育士の役割について理解する。
- ・これまでの授業で修得してきた知識や技能を実践する応用能力を身に付ける。
- ・実習に臨むための心構えと実際のマナーを身に付ける。

【授業の内容】

1. 保育実習 1 a・保育実習 1 bの意義・目的
2. 実習園（施設）オリエンテーションについて
3. 実習の心構えとマナー（外部講師）
4. 実習課題の明確化【保育実習 1 a】
5. 実習記録の書き方【保育実習 1 a】
6. 保育指導案の作成
7. 実技指導（乳幼児の保育）
8. 実習に向けて諸注意【保育実習 1 a】
9. 保育所保育の実践（1）子どもの発達と保育
10. 保育所保育の実践（2）保育士の役割
11. 保育実習 1 a振り返り（グループ・ディスカッション）
12. 実習報告【1 a】①/実習課題の明確化【1 b】
13. 実習報告【1 a】②/実習施設の種別と概要【1 b】
14. 実習報告【1 a】③/職員の仕事と実習生の取り組み【1 b】
15. 実習報告【1 a】④/実習記録の書き方【1 b】
16. 前期の総括と実習に向けての諸注意【保育実習 1 b】
17. 実習報告【保育実習 1 b】①グループ
18. 実習報告【保育実習 1 b】②グループ
19. 実習報告【保育実習 1 b】③グループ
20. 実習報告【保育実習 1 b】④グループ
21. 保育実習 2 実習園（施設）選択について
22. 児童福祉施設で働く（1）保育所（※外部講師）
23. 児童福祉施設で働く（2）障害児・者施設（※外部講師）
24. 児童福祉施設で働く（3）養護系施設（※外部講師）
25. 児童福祉施設で働く（4）児童厚生施設（※外部講師）
26. 保育と儀礼文化（外部講師）
27. 気になる子どもと家族への支援
28. 児童虐待と施設養護
29. 保育実習 2 に向けて
30. 総括

【事前・事後学修】**【事前学修】**

- ・保育所や施設でのボランティア等の経験（8時間×3日間）
- ・保育教材の準備や実技練習（週6時間×8週）
- ・実習先の調査・学修（5時間×2実習分）

【事後学修】

- ・授業の内容についての復習（週1時間）
- ・「保育実習 1 a/1 b報告書」作成（3時間×2実習分）

【テキスト・教材】

- ・「保育実習 1 a（保育園）の手引き」（『保育実習 1 a日誌』）

- ・「保育実習1b（児童福祉施設）の手引き」（『保育実習1b 日誌』）
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）
- ・『基本保育シリーズ⑩ 保育実習』（中央法規 2016年）2,400円（税別）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・レポート課題30%、平常点（授業への積極参加・提出課題）40% 実習報告30%
- ・課題等評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

【参考書】

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・原則として遅刻や欠席は認めない。
- ・外部講師による特別講義は、講師の都合により日時を変更する場合がある。
- ・※の外部講師は、いずれかの種別より2名を招聘する予定。

保育実習指導2

松井 利恵・松田 純子・大澤 朋子

4年 通年隔週 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習指導2」では、「保育実習2a（保育園）」「保育実習2b（児童福祉施設）」のための事前・事後指導を行う。「保育実習1a（保育園）」「保育実習1b（児童福祉施設）」での経験と学びを基に、保育所保育・施設保育について、さらに実践的な学びを深める。また自ら指導案/個別支援計画を作成して実施する責任実習等の事前準備や振り返りを通して、子ども理解の深化と保育の実践的スキルや指導力の向上を図ると同時に、外部講師の講話を聞くなどして、保育士としての資質を高めることを目標とする。

【授業における到達目標】

- ・保育所や児童福祉施設の社会的機能を理解する。
- ・保育所保育士や施設保育士の役割について理解を深める。
- ・保育を構想、立案して実践する力を身に付ける。
- ・実習（準備や振り返りの過程を含む）を通して、自己課題を明らかにする。

【授業の内容】

1. 「保育実習2」ガイダンス
2. 実習の心構えとマナー（外部講師）
3. 実習記録（日課）
4. 実習記録（事例と考察）
5. 指導案/個別支援計画
6. 教材研究/施設研究
7. 乳児の発達と援助
8. 特別な配慮を必要とする子どもの保育
9. 保育士資格手続きと就職
10. 「保育実習2」振り返り①グループ討議
11. 「保育実習2」振り返り②グループ発表
12. 保育と儀礼文化（外部講師）
13. 保育の現場から（1）子ども理解（外部講師）
14. 保育の現場から（2）子育て支援（外部講師）
15. 実習報告会
16. 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】

- ・実習先の調査・学修（3時間）
- ・保育教材の準備や実技練習（週5時間×8週）
- ・指導案作成（10時間）
- ・保育所や施設でのボランティア等の経験（任意）

【事後学修】

- ・授業内容についての復習（週1時間）
- ・「保育実習2報告書」作成（3時間）

【テキスト・教材】

基本保育シリーズ⑩ 保育実習[中央法規、2016、¥2,400(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・レポート課題30%、平常点（授業への積極参加・課題提出）40% 実習報告30%
- ・課題等評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

【参考書】

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

【注意事項】

- ・原則として遅刻や欠席は認めない。
- ・外部講師による特別講義は、講師の都合により日時を変更する場合がある。

保育者論

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

本授業では、将来、幼稚園、保育所等の現場に立つ自身の姿を描きながら、教職・保育職の意義、教員・保育士の専門性について、ときには事例などを基に考察し、理解を深める。

【授業における到達目標】

本授業では、教員・保育士の仕事と役割、教職・保育職の意義、教員・保育士の専門性などを中心に学習し、基礎的知識を身に付けることをめざす。また、実際の教育・保育現場で必要となる保護者への対応の仕方、保護者会や個人面談における話し方・聴き方、職員会議の運営方法やそこでの発言の仕方、職員関係における諸問題の対応についても考えながら、身に付けていきたい。

【授業の内容】

- 第1回 教員・保育士の仕事と役割
- 第2回 教員・保育士の存在意義と制度的位置付け
- 第3回 教職観・保育職観の変遷と教職・保育職の歴史
- 第4回 教職・保育職の意義と職業的特徴
- 第5回 教員・保育士の職務と倫理
- 第6回 教員養成・保育士養成の歴史
- 第7回 教員・保育士の任用と服務
- 第8回 教員・保育士に係わる規則
- 第9回 教職・保育職の専門性－専門的能力の形成－
- 第10回 教員・保育士の資質能力向上と評価
- 第11回 教員・保育士の資質能力向上
－キャリア形成と研修体制－
- 第12回 教員・保育士を守る権利と支援
- 第13回 教員・保育士を取り巻く教育課題
- 第14回 チーム学校運営
－幼稚園（保育所も含む）内外の専門家との連携－
- 第15回 チーム学校（保育所も含む）としての諸課題の対応－

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、レポート、発表等の課題に取り組む。
(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

浅見均・田中正浩編著『現代保育者論』
(大学図書出版 2019年) 2,100円＋税

この他、適宜、資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、試験(60%) ※資料プリント、ノート等の持ち込みは不可、平常点(20%) [授業への取組・提出課題]により総合的に評価する。小テストについては次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2018)
240円＋税

厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレーベル館 2018)
320円＋税

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館 2018) 350円＋税

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

保育相談支援

保育相談支援の基礎を学ぶ。

松井 利恵

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

保育所保育指針が改正され、保育相談支援は保育士の大きな役割として位置づけられている。保育士の保育に関する専門的知識・技術をもって保護者の相談を受け、保護者・地域と共に課題に向けた支援を目指すことが役割となった。保育相談支援では、保育相談支援の意義、保護者支援の基本を学び、保護者への支援が保育現場で実践できることを個別学習・ディスカッション・グループワークなどの演習を通して目指す。

【授業における到達目標】

保育相談支援では、自ら積極的に学修し考える力と、他者と話し合い協働して目標を修得する。

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

【授業の内容】

- 第1週 保護者に対する保育相談支援の意義を知る
- 第2週 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援の理解
- 第3週 保護者と子どもの成長の喜びを共有する支援を学ぶ
- 第4週 保護者の養育力の向上に資する支援を考える
- 第5週 支援の基本原則を理解する
- 第6週 地域資源の活用と関係機関の連携と協働を学ぶ
- 第7週 保育に関する保護者への指導・助言の方法を学ぶ
- 第8週 保護者支援の内容と方法
- 第9週 保護者支援の方法と技術(事例を通して)
- 第10週 保護者支援の計画、評価、記録の理解
- 第11週 保育所における保育相談支援(事例を通して)
- 第12週 保育所における特別な対応を要する家庭への支援(事例を通して)
- 第13週 児童養護施設の要保護児童の家庭への支援(事例を通して)
- 第14週 障害児施設、母子生活支援施設等における支援(事例を通して)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修 関連の新聞記事や関連書籍を読み情報収集、レポート、課題の取り組み(学修時間 週2時間)

事後学修 講義プリントの整理、リアクションペーパー、復習を行う(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業の積極的参加・発言、リアクションペーパー)40%
期末レポート60%

リアクションペーパー・レポートのフィードバックは授業内で適宜行います。

【参考書】

西村重稀・青井夕貴編集「保育相談支援」中央法規 2000円

青木紀久代編著「実践・保育相談支援」みらい 2000円

【注意事項】

演習科目のため、グループワークやディスカッションを通して意欲的に学ぶ姿勢を期待します。

保育内容 a (総論)

井口 眞美

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

授業では、保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき保育内容に関する基本的理解がすすめられるよう、DVD視聴等、具体的な事例をもとに解説する。また、課題レポートやリアクションペーパーを作成し、受講生が自分の意見を記述する機会を大切にします。

【授業における到達目標】

1. 幼稚園、保育所、認定こども園の実際に関心を持ち、発達・生活についての専門的知識を身に付ける。
2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育・教育の目標、子どもの発達、保育内容の基本を学ぶ。
3. 保育内容と保育計画の基本を学び、保育者の役割や現代の保育課題を学ぶ。
4. 保育の多様な展開について関心を持ち、広い視野と洞察力をもって学習を深める。

【授業の内容】

- 第1回：オリエンテーション（幼稚園、保育所、認定こども園の保育・教育とは）
 第2回：幼稚園の保育内容（遊びを中心とした保育）
 第3回：幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領
 第4回：子どもの発達
 第5回：基本的生活習慣について
 第6回：短期指導計画の作成と評価（保育の実施と振り返り）
 第7回：長期指導計画の作成と評価（教育課程、年間指導計画、保育の全体的計画）
 第8回：特色ある保育内容1（自然体験を重視した保育）
 第9回：特色ある保育内容2（個の思いを大切にされた保育）
 第10回：特色ある保育内容3（豊かな保育環境）
 第11回：保育の現代的課題1（幼小の接続：5歳児終期の指導場面に係る模擬保育）
 第12回：保育の現代的課題2（保育施設の運営、保育の質向上と改善に向けて）
 第13回：保育の現代的課題3（地域、保護者との連携）
 第14回：これからの保育に求められるもの（情報機器の活用）
 第15回：まとめ（保育内容の総合性とは）

【事前・事後学修】

【事前学修】保育に関する文献を読んだ上で、保育現場に足を運び、レポートや課題の作成を行うこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】配布されたプリントは、翌週までに読み、復習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針[チャイルド社、2017、¥500(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度 [授業への取り組み方等] 50%、提出物 [レポートや課題] 50%

振り返りレポート等は返却し、フィードバックを行う。

【参考書】

『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林 2018年 (2100円)

【注意事項】

意欲的に授業に参加し、保育に対する自分の見解を記述や口頭で発表できるようにしてほしい。なお、受講生の実態やニーズに即して履修内容を若干変更することがある。

保育内容 b (健康)

森田 陽子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

子どもと保育者が未来をつくっていく「健康」とは「生きる力」の源であり、未来をつくる原動力である。

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「健康」領域に対する理解を深める。

【授業における到達目標】

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことについて学習する。

この領域のねらいである (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう (2) 自分の体を十分に動かし、進んで行動しようとする (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けるを具体的に学習する。

乳幼児の発達過程に即して理解し、総合的に援助する力を培う。また、併せて「協働力」を習得することで保育者としての学びに繋げる。

【授業の内容】

1. 近年の子どもの状況
2. 保育における「健康」とは
3. 健康管理と安全能力を育む援助
4. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1）
5. 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）
6. 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1）
7. 健康な心と体を育む保育の評価と改善1
8. 多様な動きの経験を促す援助
9. 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
10. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2）
11. 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究2）
12. 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2）
13. 健康な心と体を育む保育の評価と改善2
14. 幼児期に育まれる健康な心と小学校への生活や学習に活かされる力
15. 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践

【事前・事後学修】

（事前学修）

「健康」の指導ができるよう、自らの心と体の健康管理はもちろん、基本的な生活習慣を身に付ける。次の時間の予習をする。（学修時間 週2時間）

（事後学修）

テキストや配布した資料を、将来活用しやすいようにファイルすること。授業での学びをレポートにする。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

コンパス 保育内容「健康」[建帛社、2018]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内レポート50%、課題レポート50%。授業内レポートについては、毎回実施し、次の授業にてフィードバックを行う。

【参考書】

「幼稚園教育要（最新版）」文部科学省、「保育所保育指針（最新版）」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）」を参考書として使用する。

【注意事項】

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解すること。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけるよう努めること。

保育内容 c (人間関係)

井上 宏子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この科目は、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の領域「人間関係」の指導・援助方法について学びます。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の援助のあり方を、具体的な事例を通して学びます。

【授業における到達目標】

○領域「人間関係」のねらいと内容及び乳幼児期の人間関係の発達を理解し、さまざまな場面における子どもの人間関係、人とのかかわりを援助する保育者の役割について修得する。

○学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

【授業の内容】

- 第一週 幼児教育の特質、保育所保育指針・幼稚園教育要領における5領域
- 第二週 領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い
- 第三週 乳児期の発達と人間関係
- 第四週 幼児期の発達と人間関係(幼児期前半)
- 第五週 幼児期の発達と人間関係(幼児期後半)
- 第六週 個と集団の育ち
- 第七週 遊びの中で生まれる人と関わる力
- 第八週 ごっこ遊びとは(事例検討)
- 第九週 ごっこ遊びの中の役割分担(事例検討)
- 第十週 ごっこ遊びをしてみよう(ロールプレイ)
- 第十一週 子ども同士のいざごどとその援助(事例検討)
- 第十二週 協同する姿を育む保育者の役割(事例検討)
- 第十三週 人との関わりが生まれやすい保育環境
- 第十四週 人と関わる力を育む保育者の働きかけ
- 第十五週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前準備】 事前には配布されたプリントを読み、自分なりの考えをもって授業に参加する。発表する場合は、その準備をしておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 事例を通して学んだときは、子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどう援助するかなどについて考えをまとめておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキストについては検討中

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業及び発表態度(20%)、レポート課題・提出物(40%)、小テスト(40%)、小テスト及びレポート課題については、次回授業で解説しフィードバックする。

【参考書】

【教科書】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

【推薦書】 **【参考図書】** 授業の中で、図書の紹介や資料の配布を行います。

保育内容 d (ことば)

松田 純子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に示される五領域のなかの「言葉の獲得に関する領域」「言葉」の内容・方法について、保育の実践に即して学ぶ。

子どもの言葉は、保育者(養育者)や友だちとの豊かな心の通じ合いを通して生まれるものである。また領域「言葉」は、子どもの生活や遊びのなかで他の領域とも密接に関連している。乳幼児期の言葉の習得や発達に関する理論を知り、保育者として日々子どもと生活を共にするなかで、言葉を育てる機会や素材を見つけ、それを保育の実践へと結び付けていく力や、言葉に対する感性を身に付けたい。

【授業における到達目標】

- ・乳幼児期の言葉の習得や発達を理解する。
- ・領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。
- ・言葉を育む児童文化財の特性を知り、活用のための知識と技能を身に付ける。
- ・子どもを取り巻く言語環境に関心をもち、課題を発見したり、質を見極められるようになる。
- ・言葉を育む保育者の役割や専門性について理解し、他者と協働する力を身に付ける。

【授業の内容】

1. 言葉とは何か
2. 領域「言葉」のねらいと内容
3. 子どもの発達と言葉の獲得(1) 乳児期・幼児期前期
4. 子どもの発達と言葉の獲得(2) 幼児期後期
5. 言葉の発達と環境
6. 保育者の役割と援助(1) 乳児期・幼児期前期
7. 保育者の役割と援助(2) 幼児期後期
8. 言葉に表れる問題の理解
9. 保育者の言葉
10. 言葉を育てる児童文化財(1) お話・絵本・紙芝居
11. 言葉を育てる児童文化財(2) 言葉遊び
12. 言葉を育てる児童文化財(3) 劇遊び
13. 領域「言葉」と指導計画
14. 領域「言葉」と国語教育
15. 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。絵本、紙芝居、素話などの練習をすること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(原本)[チャイルド本社、2017、¥500(税抜)]

駒井美智子：保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版[みらい、2018、¥2,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・試験40%、平常点(授業への積極的参加、課題への取り組み)30%、レポート30%、
- ・試験及びレポートの結果に関するフィードバックは、授業評価へのコメントにて行う。

【参考書】

・授業時に適宜紹介・指示する。

【注意事項】

・授業の中で行うディスカッション、グループワーク、実演などには積極的に取り組むこと。

保育内容 e (環境)

井上 宏子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、それは環境を通して行われる。幼児が様々な環境にかかわりながら遊びを展開し、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる。その過程をつくり出すのが保育者の役割であり、保育者自身が新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする力を身に付けることが大切である。学生自身も持続可能な社会の担い手となる幼児を育成するために感覚を研ぎ澄まししながら、自らを高めていくことが望まれる。

【授業における到達目標】

- 領域「環境」についての理解を深め、身近な自然と子どものかかわりを通して、子どもに育つ力について修得する。
- 身近な自然や物とのかかわりを体験し、領域「環境」について修得する。
- 学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・領域について
- 第2週 領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱い 及び 他領域との関連
- 第3週 領域「環境」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 第4週 身近な自然との関わり
- 第5週 好奇心・探究心を育てる
- 第6週 思考力の芽生えを育む
- 第7週 文字や標識、数量や図形に関心を持つ
- 第8週 自然環境としての動植物
獣医師さんの講義と体験学習 講師の都合により変更あり
- 第9週 物的環境としての遊具・素材
- 第10週 遊びに活かせる素材を考える
- 第11週 遊びに活かせるものを作る
- 第12週 社会・地域の中での園行事について
- 第13週 子どもをとりまく現代社会と環境
- 第14週 幼児期からの環境教育
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業に向けて、レポート・観察記録などの課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】レポート・観察記録などの復習をすること。次回の授業範囲を予習し、参考図書・幼稚園教育要領などを理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

テキストについては検討中

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加及び態度(20%) レポート・発表・提出物(40%) 筆記試験(40%) とし、レポート及び小テストは次回授業で解説しフィードバックする。

【参考書】

田宮縁『領域「環境」』(萌文書林)2,000円

保育内容 f (表現)

羽岡 佳子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

子どもは、日常のあらゆる場面で思ったり感じたりしたことを様々な方法で表現している。子どもの表現する力が豊かになるためには、豊かな感性を育てることが重要であり、保育者自身が子どもの表現を受け止め、共感できる感性を養う必要がある。本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における領域「表現」について学び、子どもの表現について考える。特に、音楽・身体・言語活動を体験したり、実際にグループ毎に劇を創作し発表したりすることを通して、子どもが様々な表現を楽しみ、表現力を育成できるように、保育者としての知識や技術習得を目的とする。

【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、計画を立てて実行する力を身に付けることができるようになる。
- ・学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進め、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション、「表現」とは
- 第2週：領域「表現」
- 第3週：子どもの発達と表現
- 第4週：ごっこ遊び、劇的表現
- 第5週：ボディパーカッション、劇の創作・発表方法について
- 第6週：物語と音楽、効果音作り
- 第7週：音楽と身体表現
- 第8週：劇の創作活動① 配役、脚本読み合わせ
- 第9週：劇の創作活動② 台詞・動きの練習
- 第10週：劇の創作活動③ 台詞・動き・振付の練習
- 第11週：劇の創作活動④ 効果音・衣装・大道具・小道具制作
- 第12週：劇の創作活動⑤ 通し練習
- 第13週：劇の創作活動⑥ゲネプロ
- 第14週：劇の発表
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】自身の感性を磨くために、日頃から心が動いた状況を書き留めておくこと。また、ピアノなどの楽器練習に日頃から取り組むこと。特に第8週以降は役の練習、衣装・小道具づくりに取り組むこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】毎回の授業の振り返りを行い、記録しておく。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

文部科学省：幼稚園教育要領<平成29年告示>[フレーベル館、2017、¥149(税抜)]

厚生労働省：保育所保育指針<平成29年告示>[フレーベル館、2017、¥149(税抜)]

内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>[フレーベル館、2017、¥149(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出60%(授業記録シート、レポート)、劇発表20%、授業姿勢(授業への積極参加、準備物含む)20%にて評点を行う。授業記録シートは目を通したうえで返却し、劇発表に関しては授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【注意事項】

- ・身体表現を伴う授業であるため、動きやすい服装で受講してください。
- ・劇発表に向けて、授業外での活動も積極的に行ってください。
- ・グループワークでは、意欲的・積極的な態度で臨んでください。

保育方法論

田中 正浩

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

子どもに対する適切な対応や援助の仕方を学ぶことは、保育実践力の基礎・基本になる。ただ、保育の現場は、養成校において得た知識や技術だけでは対応しきれるものではなく、その時々状況に応じた方法を自ら考え、判断し、用いる能力が必要になってくる。本授業では、このような問題意識を持ち、実践例を基に保育方法を考察していく。

【授業における到達目標】

本授業では、いかなる保育方法が子どもの活動や成長・発達を豊かに保障できるかということを実践例を基に考察し、これまで理論的に解明されてきた幼児期における保育の方法・技術の理解、習得をめざす。

【授業の内容】

- 第1回 「保育方法論」で何を学ぶのか
- 第2回 保育方法についての基本的理解－援助と指導の捉え方－
- 第3回 乳幼児理解と保育方法－環境による保育－
- 第4回 乳幼児理解と保育方法－保育における個と集団－
- 第5回 様々な主義の保育－キリスト教保育、仏教保育等－
- 第6回 様々な保育形態－自由保育、一斉保育、ティーム保育－
- 第7回 子ども「遊び」への援助
- 第8回 子ども「生活」への援助
- 第9回 保育の記録に見る保育方法
- 第10回 カリキュラム・指導計画と保育方法
- 第11回 実習日誌から考える保育方法
- 第12回 保育における園行事の捉え方
- 第13回 環境としての「遊具」の捉え方
- 第14回 保育におけるメディア（情報機器等）の捉え方
- 第15回 総括

【事前・事後学修】

事前学修…小テスト、レポート、発表等の課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

浅見均・田中正浩編著『保育方法の探究』

（大学図書出版 2013年）2,415円

この他、適宜、資料プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（20%）、試験（60% ※テキスト、ノート、資料プリントの持ち込みは不可）、平常点〔授業への取り組み・提出課題〕（20%）により総合的に評価する。小テストについては次回授業で解説し、フィードバックを行う。

【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）

240円＋税

厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2018）

320円＋税

この他、適宜、紹介する。

【注意事項】

双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

保険論

中居 芳紀

3年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

私達は人生で様々なリスクに遭遇します。リスクに備える経済的処理手段として保険が誕生し、現在広く普及しています。しかし、家計の中で住居費に次いで重い負担と言われる保険が「内容が分かりにくい」と、消費者から指摘されてきました。

この講義では、保険の歴史・理論の基礎から学び始め、家庭生活で利用する機会の多い主要保険の内容までを概観します。授業の中で、将来家庭を築いた時に、どのような保険を利用したら良いか考える時間を設け、グループ内で情報交換する時間を持ちたいと思います。

また、現職の損害保険会社女性社員を授業に招き、女性社員の日々の仕事について話してもらおう機会を設ける予定です。

【授業における到達目標】

将来、家計の主体として保険を利用する際に必要な、基礎的知識の習得を目指します。それによって家庭のリスクを正しく把握し、リスク処理のため、各種保険を有効活用できる力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス～人生のリスクとリスク対策
- 第2週 リスクへの社会的備え～社会保険制度
- 第3週 高齢社会と年金・健康保険制度
- 第4週 保険の原理と保険の歴史
- 第5週 保険の仕組みと保険料
- 第6週 生命保険の仕組み
- 第7週 ライフステージと生命保険
- 第8週 ケーススタディ～ライフプランと必要保障額
- 第9週 保険約款とアンダーライティング
- 第10週 保険会社経営・資産運用・保険流通
- 第11週 損害保険（1）火災保険と地震保険
- 第12週 損害保険（2）自動車保険
- 第13週 損害保険（3）その他各種保険
- 第14週 保険業界の課題と展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：難しい専門用語が授業に出てきます。下記参考書で事前に目を通しておくと理解が容易です。（学修時間 週2時間）

事後学修：配布プリント・ノートをもとに復習してください。各家庭で加入している保険の証券を、授業で学んだ視点でチェックすると一層理解が深まります。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

教科書は使いません。各回の授業でプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（ミニレポート・ミニテストなど）40%、定期試験60%で評価します。ミニレポート・ミニテストについて、次回授業の中で振り返りを行い、次のステップに進む力を養います。

【参考書】

- ・家森信義（編著）『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』（中央経済社 2015年）
 - ・近見正彦、堀田一吉、江澤雅彦 『保険学』（有斐閣 2011年）
- ほか、適宜講義の中で紹介します。

【注意事項】

教科書を使用しないため、試験は、講義で話した内容・板書・配布プリント等から出題します。配布プリントは要点をまとめたものですから、授業の際は、ノートを取り整理・補充してください。

保存修復 a

油彩画を中心とした技法と材料、及び保存・修復について

村松 裕美

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

近年、博物館・美術館では作品の研究調査のみならず、その保存管理の重要性が益々強く求められている。伝統的な技法・材料によって構成された作品は、その保存や修復など比較的幅をもって対処可能であるが、現代においては、多様な材料の存在がかえって構造を複雑化させ、保存や修復が困難な状況となっていることも事実である。この授業では、保存・修復という表には現れにくい工程を通して、技法・材料の見識を深め、さらに良好な状態で作品を保存するための知識を習得することを目的とする。

【授業における到達目標】

- 絵画の歴史、主に技法材料の歴史を踏まえ、作品がどのようにして現代まで残されてきたのかを理解する。
 - 作品が構成されている材料の知識を習得する。
 - ◎劣化の原因物質を確認し、保存に対する知識を習得する。
 - ◎実際の作品を調査し保存のあり方を判断する能力を習得する。
- 以上を習得することにより、安全に作品を取り扱う態度を身に付け、状態を正しく把握し、問題点を早期に発見し解決できる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要説明
- 第2週 作品を構成している様々な材料を確認する。
- 第3週 技法・材料の概略：絵画の技法・材料の問題を考える。
- 第4週 経年による劣化と二次的劣化の違いを確認する。
- 第5週 材質と環境の問題から、原因物質を考える。
- 第6週 劣化の工程を考察する。
- 第7週 劣化事例1：画像を中心に、支持体の劣化を紹介する。
- 第8週 劣化事例2：画像を中心に、絵具の劣化を紹介する。
- 第9週 劣化事例3：画像を中心に、損傷への対処を紹介する。
- 第10週 作品の調査と記録方法について説明する。
- 第11週 調査1：実際の油彩画作品の損傷状態を確認する。
- 第12週 調査2：実際の油彩画作品の損傷状態を確認する。
- 第13週 各自の調査書をもとに、作品の状態を発表し討議する。
- 第14週 修復事例：画像を中心に、修復の事例を紹介する。
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

多くの作品を見ること(展覧会等)。見ることは鑑賞することだけでなく観察するということである。実際の作品を観察することで見えにくい材質や状態が見えてくる(事前事後学修週2時間)。本授業では材料と技法がキーワードとなるため材料の知識が求められる。油彩画材料について画材店等で実際の材料を確認しておくこと、技法についても技法書等で予備学修しておくこと(事前学修週1時間)。調査書を作成する(事後学修週1時間)。

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業内で小テストを行う。授業中に配布したプリント、自作のノートの持ち込みは可。1/3以上の欠席の場合受験資格はない。
 - ・展覧会を鑑賞して展示、保存についてのレポートの提出。
 - ・授業内で行った作品調査書の提出。
 - ・作品調査後、調査書をもとにフィードバックを行う。
- 授業への積極的な参加態度及びレポート提出40%、調査書30%、小テスト30%等をもとに、総合的に評価する。

【参考書】

なし

【注意事項】

遅刻厳禁、遅刻した場合は欠席となる。途中退室及び撮影・録音不可、授業中のパソコン、タブレット等の使用は許可が必要。調査用に各自で用意するもの：筆記用具(鉛筆)、色鉛筆(12色程度)、メジャー(布製)、小型ライト、ルーペ

保存修復 a

油彩画を中心とした技法と材料、及び保存・修復について

村松 裕美

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

近年、博物館・美術館では作品の研究調査のみならず、その保存管理の重要性が益々強く求められている。伝統的な技法・材料によって構成された作品は、その保存や修復など比較的幅をもって対処可能であるが、現代においては、多様な材料の存在がかえって構造を複雑化させ、保存や修復が困難な状況となっていることも事実である。この授業では、保存・修復という表には現れにくい工程を通して、技法・材料の見識を深め、さらに良好な状態で作品を保存するための知識を習得することを目的とする。

【授業における到達目標】

- 絵画の歴史、主に技法材料の歴史を踏まえ、作品がどのようにして現代まで残されてきたのかを理解する。
 - 作品が構成されている材料の知識を習得する。
 - ◎劣化の原因物質を確認し、保存に対する知識を習得する。
 - ◎実際の作品を調査し保存のあり方を判断する能力を習得する。
- 以上を習得することにより、安全に作品を取り扱う態度を身に付け、状態を正しく把握し、問題点を早期に発見し解決できる。

【授業の内容】

- 第1週 授業の概要説明
- 第2週 作品を構成している様々な材料を確認する。
- 第3週 技法・材料の概略：絵画の技法・材料の問題を考える。
- 第4週 経年による劣化と二次的劣化の違いを確認する。
- 第5週 材質と環境の問題から、原因物質を考える。
- 第6週 劣化の工程を考察する。
- 第7週 劣化事例1：画像を中心に、支持体の劣化を紹介する。
- 第8週 劣化事例2：画像を中心に、絵具の劣化を紹介する。
- 第9週 劣化事例3：画像を中心に、損傷への対処を紹介する。
- 第10週 作品の調査と記録方法について説明する。
- 第11週 調査1：実際の油彩画作品の損傷状態を確認する。
- 第12週 調査2：実際の油彩画作品の損傷状態を確認する。
- 第13週 各自の調査書をもとに、作品の状態を発表し討議する。
- 第14週 修復事例：画像を中心に、修復の事例を紹介する。
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

多くの作品を見ること(展覧会等)。見ることは鑑賞することだけでなく観察するということである。実際の作品を観察することで見えにくい材質や状態が見えてくる(事前事後学修週2時間)。本授業では材料と技法がキーワードとなるため材料の知識が求められる。油彩画材料について画材店等で実際の材料を確認しておくこと、技法についても技法書等で予備学修しておくこと(事前学修週1時間)。調査書を作成する(事後学修週1時間)。

【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業内で小テストを行う。授業中に配布したプリント、自作のノートの持ち込みは可。1/3以上の欠席の場合受験資格はない。
 - ・展覧会を鑑賞して展示、保存についてのレポートの提出。
 - ・授業内で行った作品調査書の提出。
 - ・作品調査後、調査書をもとにフィードバックを行う。
- 授業への積極的な参加態度及びレポート提出40%、調査書30%、小テスト30%等をもとに、総合的に評価する。

【参考書】

なし

【注意事項】

遅刻厳禁、遅刻した場合は欠席となる。途中退室及び撮影・録音不可、授業中のパソコン、タブレット等の使用は許可が必要。調査用に各自で用意するもの：筆記用具(鉛筆)、色鉛筆(12色程度)、メジャー(布製)、小型ライト、ルーペ

保存修復 b

古代仏像の保存修理

明珍 素也

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

仏教が日本へ伝わり現代にいたるおよそ1500年もの間、たくさんの仏像が生まれている。現在まで大切に守られてきたこれらの仏像は世界中の彫像と比べ質・量ともにハイレベルにある。その作り方（造像技法）はプリミティブなものから、様々な造像環境に合わせるため、高度な技術を要する技法へと進化し、日本固有のものとして発展していった。

仏像は造像から長い年月を経てさまざまな損傷を抱えているのが現状である。現代まで信仰され伝世する像を後世へ伝えるためにどのような保存処置および修理が必要であるのか。

仏像を宗教と文化財、双方の視点からとらえ、多数の写真による実例を挙げながら授業を進める。はじめに造像技法を概観し、保存状態に応じた修理工程を解説する。そして修理を進めるうえでの問題点を指摘しながら最新の修理方針を考察する。また、文化財を対象とする科学的な分析法をやさしく概説し、理系のものの見方を紹介する。

【授業における到達目標】

仏像内部の画像を多数みていきながら、文化財修理の概念を様々な視点から修得することが本講座の目標である。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と概略
- 第2週 仏像の造像技法1（木造仏の材料）
- 第3週 仏像の造像技法2（木造仏の進化過程）
- 第4週 近代までの修理
- 第5週 修理前の処置
- 第6週 構造の修理例1（補強の必要性）
- 第7週 構造の修理例2（造像時と後補時における改変事例）
- 第8週 荘厳の修理例1（クリーニングと剥落止め）
- 第9週 荘厳の修理例2（補修と補彩）
- 第10週 欠損部位の修理例
- 第11週 虫蝕部位の修理例
- 第12週 科学の眼から見た美術
- 第13週 文化財における科学分析結果のみかた
- 第14週 修理の問題点
- 第15週 後期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容および配布プリントを予習すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布し、その他は適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%（コメントカードの提出・授業態度）で総合評価します。コメントカードの内容は次回以降にフィードバックを行い、考察を深めます。

保存修復 b

古代仏像の保存修理

明珍 素也

3年～ 後期 2単位

【授業のテーマ】

仏教が日本へ伝わり現代にいたるおよそ1500年もの間、たくさんの仏像が生まれている。現在まで大切に守られてきたこれらの仏像は世界中の彫像と比べ質・量ともにハイレベルにある。その作り方（造像技法）はプリミティブなものから、様々な造像環境に合わせるため、高度な技術を要する技法へと進化し、日本固有のものとして発展していった。

仏像は造像から長い年月を経てさまざまな損傷を抱えているのが現状である。現代まで信仰され伝世する像を後世へ伝えるためにどのような保存処置および修理が必要であるのか。

仏像を宗教と文化財、双方の視点からとらえ、多数の写真による実例を挙げながら授業を進める。はじめに造像技法を概観し、保存状態に応じた修理工程を解説する。そして修理を進めるうえでの問題点を指摘しながら最新の修理方針を考察する。また、文化財を対象とする科学的な分析法をやさしく概説し、理系のものの見方を紹介する。

【授業における到達目標】

仏像内部の画像を多数みていきながら、文化財修理の概念を様々な視点から修得することが本講座の目標である。

【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と概略
- 第2週 仏像の造像技法1（木造仏の材料）
- 第3週 仏像の造像技法2（木造仏の進化過程）
- 第4週 近代までの修理
- 第5週 修理前の処置
- 第6週 構造の修理例1（補強の必要性）
- 第7週 構造の修理例2（造像時と後補時における改変事例）
- 第8週 荘厳の修理例1（クリーニングと剥落止め）
- 第9週 荘厳の修理例2（補修と補彩）
- 第10週 欠損部位の修理例
- 第11週 虫蝕部位の修理例
- 第12週 科学の眼から見た美術
- 第13週 文化財における科学分析結果のみかた
- 第14週 修理の問題点
- 第15週 後期のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容および配布プリントを予習すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布し、その他は適宜指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%（コメントカードの提出・授業態度）で総合評価します。コメントカードの内容は次回以降にフィードバックを行い、考察を深めます。

暮らしと環境

一身の回りの自然と文化一

西脇 智子

1年 後期 2単位

◎：美の探究、○：研鑽力

【授業のテーマ】

私たち人間の生活は周囲の環境との相互作用によって作られてきました。人間は自然に働きかけてそれを改変し、独自の文化的な環境を作り出しました。環境の善し悪しは私たちの生活の質に結びついています。この授業では、身近な環境を「自然」と「文化」の両面から見ていきます。都市の中に残された自然の意味や「まち」の環境の問題点や課題をチェックして、人間が人間らしく暮らしていくための環境づくりの進め方について考えます。

【授業における到達目標】

- ・広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を修得することをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

【授業の内容】

- 第1週 環境と人間
- 第2週 地球のなりたちと自然の働き
- 第3週 人間活動と環境問題
- 第4週 地球温暖化の問題
- 第5週 ゴミ問題（家庭内）
- 第6週 ゴミ問題（地域社会）
- 第7週 環境省の取り組み
- 第8週 3Rと廃棄物
- 第9週 グリーンコンシューマー
- 第10週 グループワーク：世界遺産
- 第11週 エコな江戸の暮らし方
- 第12週 ふろしきにみる文化
- 第13週 グループワーク：ふろしきの包み方
- 第14週 エコツーリズム
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業の内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

配布資料のプリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート60%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）40%。
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店、2002年、2700円

暮らしと経済

私たちの暮らしに関わる消費、流通、生産、そして社会保障

福田 幸夫

1・2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

私たちは、民主主義国家、資本主義経済のもとで日々の暮らしを続けている。小中学校の義務教育の課程である社会科において、基本的な社会の仕組みを学習している。その上で、高等学校の公民では、政治、経済についての基礎的な知識を身につける教育内容がとられている。

しかし、ごく普通の日常生活の維持においても、それを支える様々な制度の存在や、その活用内容に関する知識の有無により、私たちの生活が左右されることが大いにあり得る。私たちの日常生活をより豊かなものにするために、資本主義社会としての消費、流通、生産に関する基礎知識や、それに関連する労働環境、納税、消費者保護制度、また、年金、医療保険、雇用保険制度等の社会保障制度についても概観していく。

【授業における到達目標】

- ・日常生活の維持について、民主主義における基本的人権の意味を理解することができる。
- ・資本主義経済のもとでの、市場原理に基づく消費、流通、生産の仕組みを理解することができる。
- ・税金の種類、活用の仕組みを理解することができる。
- ・年金、医療保険、雇用保険等の社会保障制度を理解することができる。
- ・消費者保護制度の仕組みと活用方法を説明できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 講義の全体の流れの説明
- 第2週 民主主義社会の仕組みと日常生活
- 第3週 基本的人権と権利擁護制度
- 第4週 資本主義社会と市場原理の仕組み
- 第5週 消費行動と消費者
- 第6週 流通の仕組み
- 第7週 生産の仕組み
- 第8週 働き方改革と労働
- 第9週 消費者保護制度
- 第10週 税金の仕組みと納税
- 第11週 日常生活維持のための社会保障の仕組み
- 第12週 年金と医療保険
- 第13週 雇用保険と労働者災害補償保険
- 第14週 災害時の生活保障
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修(週2時間):シラバスの内容に基づく基礎知識の理解(講義終了時、事前学修の内容を指示)
- ・事後学修(週2時間):講義内容の復習(講義終了時、事後学修の内容を指示)

【テキスト・教材】

講義中に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%(小テスト、受講態度等)及びレポート提出等40%で、総合的に評価します。

【参考書】

講義中に指示する。

【注意事項】

本講義の内容をふまえて、興味関心のある学生の受講を期待します。

暮らしの中の科学 a

標葉 隆馬

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

行われます。積極的な参加が求められます。

【授業のテーマ】

食品供給、医療、経済や産業、天気予報、交通インフラなど、現代社会は多様な科学技術を基盤とした知識基盤社会となっています。

また、最近では、人工知能（AI）に関する話題も様々なニュースで見られるようになってきました。このような科学技術が生活とどう関わっているのか、またそこにはどのような社会的、経済的、倫理的な課題があるのかを知ること／考えることがこの講義のテーマとなります。

講義の中では、飛躍的な発展を遂げている科学技術と今日の社会のあり方を分かりやすく解説を行い、一緒に色々な問題について考えていく中で、現代社会に対する社会科学的な視点を身につけていきます。

【授業における到達目標】

現代社会における生活と科学技術の関わりについて理解する。
またとりわけ、再生医療、AI、地球温暖化、遺伝子組換え技術などの先端的科学技術が社会にもたらすインパクトと課題について知ることが目標となります。

この過程を通じて、現代社会における様々な事象の背景にある科学技術の理解すると共に、社会的課題を見る分析力の研鑽を行います。

【授業の内容】

- 1：イントロダクション
- 2：食品安全基準の決め方
- 3：遺伝子検査の問題を知る
- 4：遺伝子組換え技術と食品①
- 5：遺伝子組換え技術と食品②
- 6：再生医療技術について知る
- 7：再生医療と社会①
- 8：再生医療と社会②
- 9：人工知能研究と社会①
- 10：人工知能研究と社会②
- 11：人工知能研究と社会③
- 12：地球温暖化の問題①
- 13：地球温暖化の問題②
- 14：公害の歴史を知る
- 15：講義のまとめ

講義内容の順番は、参加者の興味・関心に応じて若干前後する場合があります。詳細については講義中の情報・指示をよく聞くこと。

【事前・事後学修】

講義中に提示された文献を丁寧に読むことが求められる。

それ相応の時間が必要となる。

【テキスト・教材】

特に指定しない。

講義中に必要な情報や資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義への積極的な参加：30%

期末のレポート課題（文献のまとめと考察）：70%

詳細は講義中に指示します。

【参考書】

下記が参考図書となります。なお、講義中に資料などを配布するので、購入は必須ではありません。

村上道夫ほか『基準値のからくり - 安全はこうして数字になった』（講談社）

藤垣裕子（編）『科学技術社会論の技法』（東京大学出版会）

【注意事項】

講義では、グループでのディスカッションや、参加者との応答が

暮らしの中の科学 b

—キッチンからみた生活科学—

伊藤 美穂

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

私たち身の回りには科学の世界が溢れています。本授業では、日常生活の「食べる」という行動の中の科学の仕組みを解説します。何かを口にした時においしいと感じたり、おいしくないと感じるのはなぜか。調理することで食材がどのように変化するのか。普段の何気ない食行動や食習慣の中に、その行動の裏付けとなる科学的な根拠が潜んでいることを見つけ出していきます。

【授業における到達目標】

- ①物を食べておいしいと感じるしくみを説明できるようになる。
- ②味の種類と、味と味の相互作用を説明できるようになる。
- ③味の付与以外の調味料の役割を説明できるようになる。
- ④調理中の食材の変化を化学的根拠に基づいて説明できる。
- ⑤冷却や加熱調理の仕組みを説明できるようになる。
- ⑥食中毒の原因や疾病と食生活の関係を説明できるようになる。
- ⑦食生活が環境に及ぼす影響について修得し、自ら考える。

【DPとの関連】美を探究し、研鑽力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 生活の中の科学について
- 第2週 おいしさの科学
- 第3週 味覚の科学（味の足し算、味と香り、味と食感）
- 第4週 調理と科学①（調味料の様々な役割）
- 第5週 調理と科学②（穀物の調理）
- 第6週 調理と科学③（いも・野菜の調理）
- 第7週 調理と化学④（肉・魚・卵の調理）
- 第8週 調理と化学⑤（油脂の調理）
- 第9週 保存の科学（塩蔵、乾燥、冷凍・冷蔵）
- 第10週 加熱の科学（湿式加熱、乾式加熱、電子レンジ）
- 第11週 水と調理、水と生活
- 第12週 食中毒、身近な疾病と食の関係
- 第13週 食品表示、食品添加物
- 第14週 食と環境
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修：出された課題について、日々の生活と結び付けて考えたり、調べたりする。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：講義内容や配布されたプリントをノートにまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、提出課題30%、平常点（授業への積極参加）20%
（提出課題は次回授業時にフィードバックする。）

【参考書】

山本直成著『生活科学 第6版』（オーム社 2014年）2,484円

簿記論 I

小澤 康裕

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

簿記は、家計や企業の活動を「お金」の流れという側面からとらえるための技術です。家計の簿記が「家計簿」で、企業の簿記が本講義で学ぶ「複式簿記」です。「家計簿」は、家のお金を管理（やりくり）するため、一方、本講義で学ぶ複式簿記は、企業のお金を管理（やりくり）し、企業の活動を「お金」という測定単位を使って（一般に決算書と呼ばれるもので）表現するための技術です。

本講義では、複式簿記の基本的なルール、つまり、将棋やチェスで例えれば、コマの動かし方を覚えていくレベルを扱います。

【授業における到達目標】

一応の目安として、日商簿記検定3級レベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに強毒して物事を進める力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 簿記とは（なぜ簿記が必要か）
- 第2週 取引と仕訳
- 第3週 取引の分類と仕訳帳
- 第4週 決算全体の流れ
- 第5週 決算と簿記一巡の手続
- 第6週 精算表
- 第7週 勘定の締切
- 第8週 現金・預金
- 第9週 商品・売掛金・買掛金
- 第10週 手形
- 第11週 未収入金・未払金・前払金・前受金
- 第12週 立替金・預り金など
- 第13週 手形の取り立て・不渡・裏書譲渡等
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、事前学修としてmanabaにアップした予習用動画を視聴していただくことが前提であり、反転授業も行う予定です。

【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、予習用動画を視聴し、また、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版（2019年）の活用をおすすめします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

【参考書】

苦手意識がある人は、書店で様々なテキストを手にとって自分にとって分かりやすそうなものを購入してください。

簿記論 I

小澤 康裕

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

簿記は、家計や企業の活動を「お金」の流れという側面からとらえるための技術です。家計の簿記が「家計簿」で、企業の簿記が本講義で学ぶ「複式簿記」です。「家計簿」は、家のお金を管理（やりくり）するため、一方、本講義で学ぶ複式簿記は、企業のお金を管理（やりくり）し、企業の活動を「お金」という測定単位を使って（一般に決算書と呼ばれるもので）表現するための技術です。

本講義では、複式簿記の基本的なルール、つまり、将棋やチェスで例えれば、コマの動かし方を覚えていくレベルを扱います。

【授業における到達目標】

一応の目安として、日商簿記検定3級レベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに強毒して物事を進める力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 簿記とは（なぜ簿記が必要か）
- 第2週 取引と仕訳
- 第3週 取引の分類と仕訳帳
- 第4週 決算全体の流れ
- 第5週 決算と簿記一巡の手続
- 第6週 精算表
- 第7週 勘定の締切
- 第8週 現金・預金
- 第9週 商品・売掛金・買掛金
- 第10週 手形
- 第11週 未収入金・未払金・前払金・前受金
- 第12週 立替金・預り金など
- 第13週 手形の取り立て・不渡・裏書譲渡等
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、事前学修としてmanabaにアップした予習用動画を視聴していただくことが前提であり、反転授業も行う予定です。

【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、予習用動画を視聴し、また、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版（2019年）の活用をおすすめします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

【参考書】

苦手意識がある人は、書店で様々なテキストを手にとって自分にとって分かりやすそうなものを購入してください。

簿記論Ⅱ

小澤 康裕

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講義では、簿記論Ⅰにひきつづいて、複式簿記の基本的なルールを学習していきます。特に、個別論点をより詳細に取扱い、最終的に総合問題にも対応できるようにします。

【授業における到達目標】

簿記論Ⅰと本講義を合わせて、日商簿記検定3級に合格するレベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、また「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 簿記論Ⅰの復習と手形
- 第2週 手形貸付金と有価証券
- 第3週 有形固定資産の取得
- 第4週 有形固定資産の売却
- 第5週 減価償却
- 第6週 資本金と引出金
- 第7週 収益と費用の見越し・繰延べ
- 第8週 消耗品・税金
- 第9週 3伝票制
- 第10週 現金出納帳・小口現金出納帳
- 第11週 仕入帳・受取手形記入帳など
- 第12週 売掛金元帳・商品有高帳など
- 第13週 貸倒引当金
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、事前学修のために予習用動画を用意します。それを視聴していただくを前提に、反転授業を行う予定です。

【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版（2019年）の活用をおすすめします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

【参考書】

苦手意識がある人は、書店で様々なテキストを手にとって、自分にとって分かりやすいものを選んで購入してください。

簿記論Ⅱ

小澤 康裕

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

本講義では、簿記論Ⅰにひきつづいて、複式簿記の基本的なルールを学習していきます。特に、個別論点をより詳細に取扱い、最終的に総合問題にも対応できるようにします。

【授業における到達目標】

簿記論Ⅰと本講義を合わせて、日商簿記検定3級に合格するレベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、また「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 簿記論Ⅰの復習と手形
- 第2週 手形貸付金と有価証券
- 第3週 有形固定資産の取得
- 第4週 有形固定資産の売却
- 第5週 減価償却
- 第6週 資本金と引出金
- 第7週 収益と費用の見越し・繰延べ
- 第8週 消耗品・税金
- 第9週 3伝票制
- 第10週 現金出納帳・小口現金出納帳
- 第11週 仕入帳・受取手形記入帳など
- 第12週 売掛金元帳・商品有高帳など
- 第13週 貸倒引当金
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、事前学修のために予習用動画を用意します。それを視聴していただくを前提に、反転授業を行う予定です。

【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版（2019年）の活用をおすすめします。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

【参考書】

苦手意識がある人は、書店で様々なテキストを手にとって、自分にとって分かりやすいものを選んで購入してください。

法と生活

清水 弥生

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席は減点対象となります。
- ②社会のさまざまな出来事、ニュースに敏感になってください。また、日本国内だけでなく、諸外国で起きている問題についても、日本と比較しながらの関心をもつようにしてください
- ③皆さんの理解度に応じて、講義内容の順序や範囲を変更する場合があります。

【授業のテーマ】

この講義では、私たちの生活に法がどのようにかかわり、どのように法で守られているのかを学び知識を習得します。

まず、大学生とは法的にどのような立場なのかを学びます。次に、契約社会の仕組みと法的な観点からの注意点を学びます。また、アルバイトを含めて気持ち良く働き続けるための基礎知識を労働法を通じて学びます。また、結婚生活について、婚姻に伴う法的なルールを学びます。また、生活設計と生活上のトラブルを、犯罪や借金という観点から法的に学びます。さらに、健康と高齢化について社会保障法を通じて学びます。

折に触れ、テーマごとに、他国の法的状況についても学ぶ。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を築くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 はじめに（講義で学ぶ内容の説明。法の体系など）
- 第2回 大学生の法的立場を考える（1. 大学生の身分を考える2. 18歳の法的位置づけを考える3. 民法における未成年者の保護。喫煙・飲酒4. 未成年者とギャンブルなど）
- 第3回 **契約と消費者トラブル**（1. 契約とは？2. 民法上の契約の類型3. 消費者契約～民法と消費者法4. 消費者法と消費者トラブル）
- 第4回 **学生生活**（1. アパートを借りる2. アルバイトを考える3. SNSトラブル）
- 第5回 **働くことを考える**（1. ほしいモノをどうやって手に入れるか2. 働くことの意味3. 資本主義と労働者4. 働く場としての法人5. 会社とは何か？）
- 第6回 **就職活動と法律**（1. 日本独自の新卒採用システム2. 就職活動をめぐる問題3. 就職差別4. 身元保証）
- 第7回 **労働者の保護**（1. 労働法とその意義2. 多用化する雇用形態3. 労働組合4. 労働法による労働者保護）
- 第8回 **結婚①**（1. 婚約とは 2. 婚姻の成立要件）
- 第9回 **結婚②**（3. 夫婦に関する主な法律等4. 婚姻の解消（死別と離婚）5. 同性パートナー制度）
- 第10回 **生活設計**（1. 税金と社会保険料2. 借金の仕組み）
- 第11回 **犯罪と私たちの生活①**（1. 犯罪とは？2. 刑事裁判とは？）
- 第12回 **犯罪と私たちの生活②**（3. 刑罰を考える4. 被害者の人権5. 裁判員制度）
- 第13回 **公的医療保険・介護保険制度①**（1. 社会保障制度を考える2. 公的医療保険制度3. 介護保険制度）
- 第14回 **年金・相続**（1. 年金制度2. 相続）
- 第15回 学び残したこと、および全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 小テスト等を復習すること、（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

細川 幸一：大学生が知っておきたい生活のなかの法律[慶応大学出版会、2016、¥1,800(税抜)、ISBN：978-4-7664-2320-4]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanabaを通じた小テスト30%。小テストは受験後フィードバックされる。期末試験50%。フィードバックシートの提出20%。フィードバックシートの内容のうち、共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【参考書】

白書などを、必要がある場合に授業内でその都度適宜紹介します。

法学入門

斎藤 孝

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

概要：

「法」の特質・目的・形式・効力・解釈・運用などについてまなぶ。

目的：

国民の生活を規律する「法」について学ぶ。

【授業における到達目標】

到達目標：

国民の生活を規律する「法」について理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力をまなぶ。

【授業の内容】

- 第1回 私たちはどんな社会規範に拘束されるか
- 第2回 法と道徳はどこが違うか
- 第3回 法と道徳はどんな関わりをもっているか
- 第4回 法の目的である「法的安定性」とはなにか
- 第5回 法の目的である「正義」とはなにか
- 第6回 裁判の根拠となる「成文法」とはなにか
- 第7回 裁判の根拠となる「不文法」とはなにか
- 第8回 法の効力とはなにか
- 第9回 法の効力はどこまでおよぶか
- 第10回 法の解釈とはなにか
- 第11回 法の解釈は、どんな種類（方法）があるか
- 第12回 法の解釈は、正しくなければならぬか
- 第13回 法はどのように運用されるか
- 第14回 働く人の権利は、どのように保障されるか
- 第15回 総括

*ビデオを利用した授業も予定しています。

【事前・事後学修】

事前学修：週2時間

毎回、授業でまなぶ項目について予習しておくこと。

事後学修：週2時間

授業で学んだ項目について、身の回りで起きる事例を参考に、復習すること。

【テキスト・教材】

テキスト：

とくに指定しません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、レポート（30%）

フィードバックは、最終授業日におこなう。

【参考書】

参考書：

六法（『ポケット六法』有斐閣11800円、『法学六法』信山社1000円など）。

その他、授業において指摘します。

【注意事項】

日頃から、新聞を読んだり、テレビのニュース（とくに特別番組）を見たりして、法的に思考する能力を身につけてください。

法学入門

金津 謙

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

昨今の法律ブーム(?)により、専門家が参加したテレビ番組や法廷ドラマが放送されているが、法律を身近なものとして紹介する一方で、その難解さ矛盾点が強調された企画も多く、逆に法律は「むずかしい」という印象を与えていることも否定できない。また学生の意識としても、卒業すれば自分の進路に法律は直接関係ないと考えることもあると想像する。しかし、法律は「社会規範（社会のルール）」として我々の権利・義務を確定する重要な役割を果たしており、身につけておかなければならない必要不可欠な知識である。

授業では教科書の記述に従い、交通事故が発生した場合を想定し、法律に基づくさまざまなストーリーを展開してゆく。また、人間社会学部必修科目の法律学(金津担当のみ)では論及しなかった、刑事法分野について扱う予定であるので、法律学履修者であっても積極的に受講してほしい。

【授業における到達目標】

法律の基礎を学び、日本の法システム全体を概観することを通じて、社会に生じるさまざまな課題について法的側面から考察する能力を修得する。すなわち、本学DPにおける学生が習得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を習得することとなる。

【授業の内容】

- 第1週 罪を犯すと処罰される理由（刑法概論）
- 第2週 犯罪と裁判（刑事訴訟法①）
- 第3週 交通事故により生じる責任（刑事的責任）
- 第4週 公判手続の概要（刑事訴訟法②）
- 第5週 少年事件における裁判制度
- 第6週 裁判員制度の概要
- 第7週 交通事故により生じる責任（民事的責任）
- 第8週 損害賠償請求制度の概要
- 第9週 パッケージ旅行と事故（契約法①）
- 第10週 医療過誤と法的責任（契約法②）
- 第11週 親子の法律関係（家族法①）
- 第12週 結婚と離婚（家族法②）
- 第13週 安楽死・尊厳死（基本的人権、憲法①）
- 第14週 法律の制定（統治機構、憲法②）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

松井茂記 他：はじめての法律学（第5版）[有斐閣アルマ、¥1,700（税抜）、※開講までに新版が発売された場合はその新版を教科書とする]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30点、期末試験70点。試験結果は授業最終回でフィードバックを行う予定である。

【参考書】

「六法」（指定なし。持参任意）

但し、人間社会学部の学生は「法律学」指定六法を持参のこと。

【注意事項】

なし

法学入門

清水 弥生

1・2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

来事、ニュースに敏感になってください。また、日本国内だけでなく、諸外国で起きている問題についても、日本と比較しながらの関心をもつようにしてください。③皆さんの理解度に応じて、講義内容の順序や範囲を変更する場合があります。

【授業のテーマ】

この講義では、私たちの生活に法がどのようにかかわり、どのように法で守られているのかを学び知識を習得します。

まず、法的生活の背景である民主主義の社会について憲法の視点から学びます。そして、大学生とは法的にどのような立場なのかを学びます。

次に、契約社会の仕組みと法的な観点からのその注意点を学びます。また、アルバイトを含めて気持ち良く働き続けるための基礎知識を労働法を通じて学びます。また、結婚生活について、婚姻に伴う法的なルールを学びます。また、生活設計と生活上のトラブルを、犯罪や借金という観点から法的に学びます。

社会に出た時に知っておいた方がよいことを学びましょう。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を築くことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1回 はじめに（講義で学ぶ内容の説明。法の体系など）
 - 第2回 民主主義とそのための仕組み（1. 民主主義とは何か？2. 日本国憲法の理念）
 - 第3回 大学生の法的立場を考える（1. 大学生の身分を考える2. 民法における未成年者の保護、喫煙・飲酒・ギャンブルなど）
 - 第4回 契約と消費者トラブル（1. 契約とは？2. 民法上の契約の種類3. 消費者契約～民法と消費者法4. 消費者法と消費者トラブル）
 - 第5回 学生生活（1. アパートを借りる2. アルバイトを考える3. SNSトラブル）
 - 第6回 働くことを考える（1. 働くことの意味2. 資本主義と労働者3. 会社とは何か？）
 - 第7回 就職活動と法律（1. 日本独自の新卒採用システム2. 就職活動をめぐる問題3. 就職差別4. 身元保証）
 - 第8回 労働者の保護（1. 労働法とその意義2. 多用化する雇用形態3. 労働組合4. 労働法による労働者保護）
 - 第9回 結婚①（1. 婚約とは 2. 婚姻の成立要件）
 - 第10回 結婚②（3. 夫婦に関する主な法律等4. 婚姻の解消（死別と離婚）5. 同性パートナー制度）
 - 第11回 生活設計（1. 税金と社会保険料2. 借金の仕組み）
 - 第12回 犯罪と私たちの生活①（1. 犯罪とは？2. 刑事裁判とは？）
 - 第13回 犯罪と私たちの生活②（3. 刑罰を考える4. 被害者の人権）
 - 第14回 公的医療保険①（1. 社会保障制度を考える2. 公的医療保険）
 - 第15回 年金・相続（1. 年金制度2. 相続）
- 学び残したこと、および全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと（学修時間2時間）

【事後学修】 小テスト等を復習すること（学修時間2時間）

【テキスト・教材】

大学生が知っておきたい生活のなかの法律[応大学出版会、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanabaを通じた小テスト30%。小テストは受験後フィードバックされる。期末試験50%。フィードバックシートの提出20%。フィードバックシートの内容のうち、共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席は減点対象となります。
- ②社会のさまざまな出

法律学

金津 謙

1年 前期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

法律は、堅苦しい、冷たい、そして縁遠いなどと思われ、また自由を奪うものと非難されることもある。しかし、社会生活の秩序を維持するためには必須のものであり、身近に存在しているのである。

「社会あるところ法あり」という言葉で表現される法律について理解を深める。

【授業における到達目標】

法制度の概要について理解し、さまざまな社会課題を法律的側面から考察する能力を修得する。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得することを目的とする。

【授業の内容】

社会問題および裁判例等を通し法的なものの考え方について具体的に概説する。

第1回：法は身近な存在

第2回：法とは何か① 一六法の使用法

第3回：法とは何か② 一法と他の社会規範

第4回：国家と法

第5回：家族と法① 一親族法

第6回：家族と法② 一相続法

第7回：財産と法① 一物権法

第8回：財産と法② 一債権法

第9回：契約と法① 一売買契約

第10回：契約と法② 一賃貸借契約

第11回：企業と法

第12回：犯罪と法

第13回：裁判と法

第14回：国際社会と法

第15回：総括

【事前・事後学修】

【事前学修】法律学として初めて法を学ぶので、各回の授業内容を参考書の該当箇所ですべて予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは特に指定せず、適宜プリントを配布する。教材として六法を必ず持参すること。

池田真朗他編『法学六法'19』（信山社）本体1,000+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80点、小テスト10点、平常点（授業に関する質問等授業態度）10点とする。試験結果は授業最終回でフィードバックする予定である。

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

授業開講時指示する。

法律学

数野 昌三

1年 後期 2単位

◎：行動力

【授業のテーマ】

法律は、堅苦しい、冷たい、そして縁遠いなどと思われ、また自由を奪うものと非難されることもある。しかし、社会生活において秩序を維持するためには必須のものであり、身近に存在しているのである。法律は、社会の扇の要とも表現される。その法律に関して、社会問題および裁判例を通し、法的なものの考え方について具体的に概観する。

【授業における到達目標】

基本的な法制度を学修し、社会において発生する様々な問題につき、法的視点から捉えるとどのような内容が問題となるのかを発見し、それら諸問題解決への糸口につなげる行動力を培うことができるようになる。

【授業の内容】

第1週 法は身近な存在

第2週 法とは何か①一六法の使用法

第3週 法とは何か②一法とその他の社会規範

第4週 国家と法

第5週 家族と法①一親族法

第6週 家族と法②一相続法

第7週 財産と法①一物権法

第8週 財産と法②一債権法

第9週 契約と法①一売買契約

第10週 契約と法②一賃貸借契約

第11週 企業と法

第12週 犯罪と法

第13週 裁判と法

第14週 国際社会と法

第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】

法律学として初めて法を学ぶので、各週の授業内容を参考書の該当箇所ですべて予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業時間帯に表現されたテクニカルタームを調べなおし、理解しておくこと。そして、小テストのため、何回もノートを読み直し、理解できていない箇所をなくしておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

【テキスト】

とくに指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】

下記六法を持参すること。

池田真朗他編『法学六法'19』（信山社）本体1,000+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とする。

【フィードバック】

総括において受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

池田真朗他『法の世界へ』【第7版】（有斐閣 2017年）本体1,700円+税

翻訳演習

英文解釈と日本語表現

宮上 久仁子

2年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、ある事故をきっかけに次々と謎が展開されていくという、イギリスを舞台にした現代的な話の英文を日本語に翻訳します。一話ごとに隠されている「謎解明のヒント」を読み取りながら、状況にふさわしい表現を検討します。翻訳という二言語に関わる作業を通じて、日本語の特徴や日本の文化と、英語ならではの表現と英国の文化への洞察を深めます。英文を解釈する楽しさと、英語と日本語を比較して、より適切な表現を考え出す楽しさを味わう機会にしたいと思います。「人とは・社会とは・文化とは何か」という普遍的な問いに対する自分の意見を構築する一助となれば幸いです。

【授業における到達目標】

はじめに読解力を向上させ、正確に能率よく英文を読むことを習得します。英文をよりよく理解するために、一話ごとに、中心となる文法事項と重要な語彙の確認をします。そして適切に訳出するために内容把握の設問に答え、内容理解に努めます。以上のステップを踏んで練習を重ねて、ニュアンスをおさえつつ自然な日本語に訳出できることを目標にします。テキストの理解と訳出技能の定着のために、毎授業で、その日の学習内容に関する小テストを行います。自ら翻訳に取り組むことで、訳すという仕事が創造的であると実感し、学びを続ける気持ちを養う機会となれば幸いです。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：翻訳にの留意点と英国の英語と生活について
- 第2週 エピソード1と文法：現在形と過去形
- 第3週 エピソード2と文法：There is構文
- 第4週 エピソード3と文法：冠詞
- 第5週 エピソード4と文法：可算名詞と不可算名詞
- 第6週 エピソード5と文法：比較
- 第7週 エピソード6と文法：形容詞
- 第8週 エピソード7と文法：未来形と完了形
- 第9週 エピソード8と文法：受動態と使役動詞
- 第10週 エピソード9と文法：話法
- 第11週 エピソード10と文法：現在分詞と助動詞
- 第12週 エピソード11と文法：不定詞と動名詞
- 第13週 エピソード12と文法：前置詞と接続詞
- 第14週 エピソード13と文法：命令文と感嘆文
- 第15週 エピソード14と文法：仮定法

【事前・事後学修】

事前学修について：翻訳の準備として、語彙と内容理解補助の設問プリントを事前に配布しますので、それを行ったのち、指定された範囲の英文を日本語に訳してください。（学修時間：週2時間）

事後学修について：授業中に学習した訳例を参考にして再び英文を読むと、文法事項や語彙がいつそう定着し、英文読解力と訳の技術もさらに高まります。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

プリント使用のためテキスト購入の必要はありません。教材については初回授業時に説明します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価について：毎回行う理解定着の確認の小テストが80%、翻訳準備のプリント作成および授業への積極的な参加と発表が20%として評価します。

フィードバックについて：理解定着の確認小テストについては次回授業時に行います。翻訳準備プリント作成については当日の授業時に、発表についてはその都度行います。

翻訳演習

童話とエッセイを翻訳する

志渡岡 理恵

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

翻訳という作業に必要な意識とスキルについて学んだうえで、英語で書かれた2つのジャンル（童話とエッセイ）の作品を日本語に翻訳する。

【授業における到達目標】

翻訳者の役割について理解し、正確で、かつジャンルや作品世界にふさわしい翻訳ができるようになることを目指す。これらを通じて「国際的視野」および「研鑽力、行動力」を養う。

【授業の内容】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：翻訳とは？
- 第3回：童話を翻訳する（冒頭）
- 第4回：童話を翻訳する（中盤）
- 第5回：童話を翻訳する（結末）
- 第6回：童話の翻訳を仕上げる
- 第7回：エッセイを翻訳する（冒頭）
- 第8回：エッセイを翻訳する（前半）
- 第9回：エッセイを翻訳する（中盤）
- 第10回：エッセイを翻訳する（後半）
- 第11回：エッセイを翻訳する（結末）
- 第12回：エッセイの翻訳を仕上げる
- 第13回：プレゼンテーション（前半）
- 第14回：プレゼンテーション（後半）
- 第15回：総括

【事前・事後学修】

事前学修：課題の英文を翻訳してくる。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業で学んだことを踏まえ、自分の翻訳の完成度を高める（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題60%、プレゼンテーション40%。各回の課題へのフィードバックは授業内で行う。

【参考書】

鴻巣友季子『翻訳ってなんだろう？——あの名作を訳してみる』（ちくま書房、2018年）820円＋税

【注意事項】

・辞書を丁寧に引き、必要なりサーチを行い、課題に真摯に取り組むこと。

民俗学

語りの伝承と絵解き

久野 俊彦

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

人間のいとなみの中で、過去から伝承されてきて現在に至る私たちの生活文化を明らかにするのが、民俗学です。日本民俗学の創始者の一人である柳田國男は、「今にある昔」と言いました。今にあることがらの中に、昔のことがらが含まれているのです。この授業では、民俗学の諸分野うちの口承文芸と芸能の分野から、「語りの伝承」として、「昔話・伝説・世間話」と「絵解き」をとりあげます。「絵解き」とは、物語や仏教の教えを絵にあらわして、その絵を指しながら、物語を説き語ることです。物語と絵と語りが出会うところに、「絵解き」が成立しました。紙芝居やアニメーションの源流です。絵解きから絵画の社会的機能を考えます。

【授業における到達目標】

伝承文化が、「昔のいなか」に存在するのではなく、「現代の都市社会」に存在していることを認識して発見し、民俗学を学ぶことで、多角的な視点をもって、学際的な研究の視座を持つことをことを目標とします。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 柳田國男の生涯と日本民俗学
- 第2週 『遠野物語』と口承文芸（昔話・伝説・世間話）の特質
- 第3週 〈私のおの物語（世間話）〉を語る
- 第4週 伝説の地を歩く
- 第5週 昔語りの芸能
- 第6週 生活における昔話の機能
- 第7週 昔話と方言 〈自分のことばで昔話を語る〉
- 第8週 絵解き 絵の物語を語る芸能
- 第9週 寺社縁起絵と絵解き 道成寺縁起
- 第10週 高僧伝記絵の絵解き 親鸞絵伝
- 第11週 絵解きの成立過程 高野山荊堂 磔茂左衛門
- 第12週 絵解きの復活と継承 荊萱道心石童丸親子絵伝
- 第13週 地獄極楽の絵解き 熊野観心十界曼荼羅 地獄巡り
- 第14週 総括 語りの芸能と絵解き
- 第15週 総括 絵画の機能 絵解きと美術史

【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・『遠野物語』および配布した教材を読んでおいてください。
- ・授業で指示した課題に取り組んでください。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テストについて復習してください。
- ・自分の身近な伝承文化・民俗事象について想起し、関連性について考察してください。

【テキスト・教材】

柳田國男『遠野物語』（新潮文庫 新潮社、2016年）465円 ほか、角川ソフィア文庫・岩波文庫・集英社文庫等の『遠野物語』でもよい。ほかにプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テスト60点、レポート40点。

テストとレポートの評価は、最終週にフィードバックします。

【参考書】

- 聖和学園短期大学国文学科学生著・久野俊彦・錦仁（案内人）『1976年夏 東北の昔ばなし』（笠間書院 2014年）
- 久野俊彦『縁起と絵解きのフォークロア』（森話社 2008年）
- 林 雅彦『増補 日本の絵解き』（三弥井書店 1982年）
- 赤井達郎『絵解きの系譜』（教育社 1989年）

【注意事項】

- ・授業に関連の深いテーマの博物館等の展覧会や寺社の見学を行う場合がある。その場合の費用は全額自己負担である。

民俗学

語りの伝承と絵解き

久野 俊彦

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

人間のいとなみの中で、過去から伝承されてきて現在に至る私たちの生活文化を明らかにするのが、民俗学です。日本民俗学の創始者の一人である柳田國男は、「今にある昔」と言いました。今にあることがらの中に、昔のことがらが含まれているのです。この授業では、民俗学の諸分野うちの口承文芸と芸能の分野から、「語りの伝承」として、「昔話・伝説・世間話」と「絵解き」をとりあげます。「絵解き」とは、物語や仏教の教えを絵にあらわして、その絵を指しながら、物語を説き語ることです。物語と絵と語りが出会うところに、「絵解き」が成立しました。紙芝居やアニメーションの源流です。絵解きから絵画の社会的機能を考えます。

【授業における到達目標】

伝承文化が、「昔のいなか」に存在するのではなく、「現代の都市社会」に存在していることを認識して発見し、民俗学を学ぶことで、多角的な視点をもって、学際的な研究の視座を持つことをことを目標とします。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 柳田國男の生涯と日本民俗学
- 第2週 『遠野物語』と口承文芸（昔話・伝説・世間話）の特質
- 第3週 〈私のおの物語（世間話）〉を語る
- 第4週 伝説の地を歩く
- 第5週 昔語りの芸能
- 第6週 生活における昔話の機能
- 第7週 昔話と方言 〈自分のことばで昔話を語る〉
- 第8週 絵解き 絵の物語を語る芸能
- 第9週 寺社縁起絵と絵解き 道成寺縁起
- 第10週 高僧伝記絵の絵解き 親鸞絵伝
- 第11週 絵解きの成立過程 高野山荊堂 磔茂左衛門
- 第12週 絵解きの復活と継承 荊萱道心石童丸親子絵伝
- 第13週 地獄極楽の絵解き 熊野観心十界曼荼羅 地獄巡り
- 第14週 総括 語りの芸能と絵解き
- 第15週 総括 絵画の機能 絵解きと美術史

【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・『遠野物語』および配布した教材を読んでおいてください。
- ・授業で指示した課題に取り組んでください。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テストについて復習してください。
- ・自分の身近な伝承文化・民俗事象について想起し、関連性について考察してください。

【テキスト・教材】

柳田國男『遠野物語』（新潮文庫 新潮社、2016年）465円 ほか、角川ソフィア文庫・岩波文庫・集英社文庫等の『遠野物語』でもよい。ほかにプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テスト60点、レポート40点。

テストとレポートの評価は、最終週にフィードバックします。

【参考書】

聖和学園短期大学国文学科学生著・久野俊彦・錦仁（案内人）『1976年夏 東北の昔ばなし』（笠間書院 2014年）
久野俊彦『縁起と絵解きのフォークロア』（森話社 2008年）
林 雅彦『増補 日本の絵解き』（三弥井書店 1982年）
赤井達郎『絵解きの系譜』（教育社 1989年）

【注意事項】

・授業に関連の深いテーマの博物館等の展覧会や寺社の見学を行う場合がある。その場合の費用は全額自己負担である。

民俗芸能 a

列島各地の民俗芸能を「歴史」という観点から捉える

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

民俗芸能とは何か、いつ頃から研究対象となったのか。この疑問に答えるべく、この授業では、民俗芸能という用語が示す範囲と学問の成立をまず確認します。そして、日本各地の主要な社寺仏閣の祭礼や村落共同体の氏子組織によって伝承されてきた民俗芸能を、「歴史を語る生きた資料」という視点から考察します。映像資料を参考にしながら、日本列島に点在するまつりの芸能の多様性と各時代の価値観を理解します。

【授業における到達目標】

- ・各時代の政治性や地域性を理解し、多様な価値観で芸能文化を理解することができる。
- ・絵画資料等と関連づけて民俗芸能を理解することができる。

【授業の内容】

- 第1週 民俗芸能とは何かを知る、2つの「ミンゾク」
- 第2週 古代の祭りと神楽（岩清水八幡宮の御神楽、春日大社の巫女舞）
- 第3週 仏教儀礼と芸能（四天王の舞楽、隠岐国分寺蓮華会舞、當麻寺の舞楽）
- 第4週 春を告げる祭り（東大寺のお水取り、毛越寺の延年）
- 第5週 中世の祭礼と地方伝播（春日若宮御祭、壬生の花田植、西浦の田楽）
- 第6週 描かれた中世の芸能民（「洛中洛外図屏風」「職人歌合絵巻」「豊国祭礼図屏風」）
- 第7週 神事と伝承組織（上鴨川住吉神社神事舞、黒川能）
- 第8週 修験と芸能（那智の火祭、奥三河の花祭、大元神楽）
- 第9週 風流の系譜（やすらい花、久多の花笠踊、津和野の鷺舞、三匹獅子舞、窪野の八つ鹿踊り）
- 第10週 風流踊り（西馬音内の盆踊、姫島の盆踊、綾子舞）
- 第11週 かぶく人々（擬音祭、烏山山揚祭、金毘羅大歌舞伎）
- 第12週 万歳と門付芸（三河萬歳、尾張萬歳、秋田萬歳、伊予萬歳、伊勢太神楽、春駒）
- 第13週 大道芸と見世物（軽業・曲芸・細工、つく舞、猿まわし、のぞきからくり、瞽女）
- 第14週 沖縄とアイヌのカミまつり
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業で扱う資料や論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容や資料を必ず復習し、授業で配付した資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。提出すべき課題には積極的に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ペアやグループでの話し合い）30%、提出物（クイズ、課題提出）20%、期末レポート（あるいは授業内試験）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

網野善彦他編『大系日本歴史と芸能』全14巻、平凡社、1992年

【注意事項】

シラバスは前後することがあります。首都圏での民俗芸能や祭礼行事に関する情報は、授業内で紹介します。個々の興味に応じて、積極的に現地での実演を見る機会を作るよう心がけてください。その場合、交通費等は個人負担となります。

民俗芸能 a

列島各地の民俗芸能を「歴史」という観点から捉える

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野2019

【授業のテーマ】

民俗芸能とは何か、いつ頃から研究対象となったのか。この疑問に答えるべく、この授業では、民俗芸能という用語が示す範囲と学問の成立をまず確認します。そして、日本各地の主要な社寺仏閣の祭礼や村落共同体の氏子組織によって伝承されてきた民俗芸能を、「歴史を語る生きた資料」という視点から考察します。映像資料を参考にしながら、日本列島に点在するまつりの芸能の多様性と各時代の価値観を理解します。

【授業における到達目標】

- ・各時代の政治性や地域性を理解し、多様な価値観で芸能文化を理解することができる。
- ・絵画資料等と関連づけて民俗芸能を理解することができる。

【授業の内容】

- 第1週 民俗芸能とは何かを知る、2つの「ミンゾク」
- 第2週 古代の祭りと神楽（岩清水八幡宮の御神楽、春日大社の巫女舞）
- 第3週 仏教儀礼と芸能（四天王の舞楽、隠岐国分寺蓮華会舞、當麻寺の舞楽）
- 第4週 春を告げる祭り（東大寺のお水取り、毛越寺の延年）
- 第5週 中世の祭礼と地方伝播（春日若宮御祭、壬生の花田植、西浦の田楽）
- 第6週 描かれた中世の芸能民（「洛中洛外図屏風」「職人歌合絵巻」「豊国祭礼図屏風」）
- 第7週 神事と伝承組織（上鴨川住吉神社神事舞、黒川能）
- 第8週 修験と芸能（那智の火祭、奥三河の花祭、大元神楽）
- 第9週 風流の系譜（やすい花、久多の花笠踊、津和野の鷺舞、三匹獅子舞、窪野の八つ鹿踊り）
- 第10週 風流踊り（西馬音内の盆踊、姫島の盆踊、綾子舞）
- 第11週 かぶく人々（擬音祭、烏山山揚祭、金毘羅大歌舞伎）
- 第12週 万歳と門付芸（三河萬歳、尾張萬歳、秋田萬歳、伊予萬歳、伊勢太神楽、春駒）
- 第13週 大道芸と見世物（軽業・曲芸・細工、つく舞、猿まわし、のぞきからくり、瞽女）
- 第14週 沖縄とアイヌのカミまつり
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業で扱う資料や論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容や資料を必ず復習し、授業で配付した資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。提出すべき課題には積極的に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ペアやグループでの話し合い）30%、提出物（クイズ、課題提出）20%、期末レポート（あるいは授業内試験）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

網野善彦他編『大系日本歴史と芸能』全14巻、平凡社、1992年

【注意事項】

シラバスは前後することがあります。首都圏での民俗芸能や祭礼行事に関する情報は、授業内で紹介します。個々の興味に応じて、積極的に現地での実演を見る機会を作るよう心がけてください。その場合、交通費等は個人負担となります。

民俗芸能 b

現代の視点から民俗芸能の可変性、流動性、多様性を考える

串田 紀代美

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

民俗芸能を知る第一歩として、現代生活の中の祭りや国家的行事に目を向けながら、民俗芸能が演じられる空間について考えます。民俗芸能は今日まで、途絶え、復活し、変化しながら多くの人々が関わることで今日に伝承されてきました。この授業では、特に民俗芸能をとりまく近年の社会的変化に注目しながら、日本という狭い範囲にとらわれず、海外への民俗芸能の発信力とその可能性について考察します。

【授業における到達目標】

- ・民俗芸能を研究するための基本概念と研究小史を理解し、説明することができるようになる。
- ・民俗芸能を学際的な視点から捉え、具体的な活用策を考えることができるようになる。
- ・民俗芸能が直面している問題を直視し、民俗芸能の多様な価値観が発見できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ディスカバー・ジャパン、海外に発信する日本文化
- 第2週 民俗芸能研究の対象、“民俗”+“芸能”=“民俗芸能”なのか？
- 第3週 民俗芸能研究の歴史と調査方法（インタビューとフィールドワーク入門）
- 第4週 観光資源と民俗芸能
- 第5週 占領期の祭礼と日本の伝統文化、文化財保護法の成立
- 第6週 ユネスコ無形文化遺産と文化財保護制度との比較
- 第7週 映像民俗学—映像資料の比較とメディアリテラシー
- 第8週 郷土芸能ブームとマスメディア（民謡、和太鼓）
- 第9週 宝塚歌劇における民俗舞踊の舞台化：複数の日本を展示する空間の創出
- 第10週 民俗舞踊から民族舞踊へ：国際民族舞踊団と国際芸術家センター、大阪万博“おまつり広場”
- 第11週 オリンピック開会式における民俗芸能を用いた演出
- 第12週 学校教育の中の民俗芸能の事例
- 第13週 民俗芸能の福祉的な活用：音楽療法としての取り組み
- 第14週 クールジャパンと日本の伝統文化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：次週の授業で扱う資料や論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：授業内容や資料を必ず復習し、授業で配付した資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。提出すべき課題には積極的に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ペアやグループでの話し合い等）30%、提出物（クイズ、課題提出）20%、期末レポート（あるいは授業内試験）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

俵木悟『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』（勉誠出版、2018年）

【注意事項】

シラバスは前後することがあります。本授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、ピア活動やグループでの話し合いを中心に協働的に進めます。そのため、授業への参加姿勢を重視します。

民俗芸能 b

現代の視点から民俗芸能の変容性、流動性、多様性を考える

串田 紀代美

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

民俗芸能を知る第一歩として、現代生活の中の祭りや国家的行事に目を向けながら、民俗芸能が演じられる空間について考えます。民俗芸能は今日まで、途絶え、復活し、変化しながら多くの人々が関わることで今日に伝承されてきました。この授業では、特に民俗芸能をとりまく近年の社会的変化に注目しながら、日本という狭い範囲にとらわれず、海外への民俗芸能の発信力とその可能性について考察します。

【授業における到達目標】

- ・民俗芸能を研究するための基本概念と研究小史を理解し、説明することができるようになる。
- ・民俗芸能を学際的な視点から捉え、具体的な活用策を考えることができるようになる。
- ・民俗芸能が直面している問題を直視し、民俗芸能の多様な価値観が発見できるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 ディスカバー・ジャパン、海外に発信する日本文化
- 第2週 民俗芸能研究の対象、“民俗”+“芸能”=“民俗芸能”なのか？
- 第3週 民俗芸能研究の歴史と調査方法（インタビューとフィールドワーク入門）
- 第4週 観光資源と民俗芸能
- 第5週 占領期の祭礼と日本の伝統文化、文化財保護法の成立
- 第6週 ユネスコ無形文化遺産と文化財保護制度との比較
- 第7週 映像民俗学—映像資料の比較とメディアリテラシー
- 第8週 郷土芸能ブームとマスメディア（民謡、和太鼓）
- 第9週 宝塚歌劇における民俗舞踊の舞台化：複数の日本を展示する空間の創出
- 第10週 民俗舞踊から民族舞踊へ：国際民族舞踊団と国際芸術家センター、大阪万博“おまつり広場”
- 第11週 オリンピック開会式における民俗芸能を用いた演出
- 第12週 学校教育の中の民俗芸能の事例
- 第13週 民俗芸能の福祉的な活用：音楽療法としての取り組み
- 第14週 クールジャパンと日本の伝統文化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- 事前学修：次週の授業で扱う資料や論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：授業内容や資料を必ず復習し、授業で配付した資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。提出すべき課題には積極的に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（リアクション・ペーパー、ペアやグループでの話し合い等）30%、提出物（クイズ、課題提出）20%、期末レポート（あるいは授業内試験）50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

【参考書】

俵木悟『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』（勉誠出版、2018年）

【注意事項】

シラバスは前後することがあります。本授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、ピア活動やグループでの話し合いを中心に協働的に進めます。そのため、授業への参加姿勢を重視します。

民法概論

教野 昌三

2年 前期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

民法は、われわれ市民の日常生活における紛争が訴訟になった場合、その解決の判断基準を示す基本となる法律である。本法は、取引の中心となる権利主体や、どのような取引においても問題とされる規定などからなる民法総則、人の財産の支配および取引に関する財産法および家族関係に関する家族法から構成されている。この民法に関して、現代的な諸問題を視野に入れ、関連する裁判例をも踏まえ具体的に概説する。

【授業における到達目標】

民法は日常生活上最も身近な法律である。民法上規定されている諸制度を概観し、外国企業との契約上の諸注意にも触れ、民事紛争を未然に予防する法的思考力を身に付けることを到達目標とする。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 民法とはどのような法律か
- 第2週 民法の指導原理
- 第3週 権利と義務
- 第4週 契約の成立・効力
- 第5週 債務不履行責任
- 第6週 売買契約
- 第7週 賃貸借契約
- 第8週 金銭消費貸借契約
- 第9週 物的担保
- 第10週 人的担保
- 第11週 不法行為責任
- 第12週 製造物責任
- 第13週 親族法
- 第14週 相続法
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で予習し、それに加え、小テストに備え準備学修しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で復習し、それに加え、返却された小テストに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】特に指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】六法を必ず持参のこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とする。

【フィードバック】

総括において、受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

- ・ 池田真朗『民法への招待』【第5版】（税務経理協会 2018年）2,400円＋税
- ・ 我妻榮・良永和隆・遠藤浩補訂『民法』【第10版】（勁草書房 2018年）2,300円＋税

民法概論

数野 昌三

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野

【授業のテーマ】

民法は、われわれ市民の日常生活における紛争が訴訟になった場合、その解決の判断基準を示す基本となる法律である。本法は、取引の中心となる権利主体や、どのような取引においても問題とされる規定などからなる民法総則、人の財産の支配および取引に関する財産法および家族関係に関する家族法から構成されている。この民法に関して、現代的な諸問題を視野に入れ、関連する裁判例をも踏まえ具体的に概説する。

【授業における到達目標】

民法は日常生活上最も身近な法律である。民法上規定されている諸制度を概観し、外国企業との契約上の諸注意にも触れ、民事紛争を未然に予防する法的思考力を身に付けることを到達目標とする。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

【授業の内容】

- 第1週 民法とはどのような法律か
- 第2週 民法の指導原理
- 第3週 権利と義務
- 第4週 契約の成立・効力
- 第5週 債務不履行責任
- 第6週 売買契約
- 第7週 賃貸借契約
- 第8週 金銭消費貸借契約
- 第9週 物的担保
- 第10週 人的担保
- 第11週 不法行為責任
- 第12週 製造物責任
- 第13週 親族法
- 第14週 相続法
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で予習し、それに加え、小テストに備え準備学修しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週の授業内容を参考書の該当部分で復習し、それに加え、返却された小テストに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

【テキスト】特に指定せず、適宜プリントを配布する。

【教材】六法を必ず持参のこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とする。

【フィードバック】

総括において、受講生からの意見を参考に今後検討すべき事項をフィードバックする。

【参考書】

- ・ 池田真朗『民法への招待』【第5版】（税務経理協会 2018年）2,400円＋税
- ・ 我妻榮・良永和隆・遠藤浩補訂『民法』【第10版】（勁草書房 2018年）2,300円＋税

名所旧跡プロジェクト

文学の土壌を旅する

湯浅 茂雄・棚田 輝嘉

2年 集通 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

組み40パーセント、終わり4週の授業への取り組み30パーセント。
最終週に評価に関するフィードバックを行う。

【参考書】

最初の授業、及び毎回到授業時に適宜指示する。

【注意事項】

- ① 本授業は2泊3日の名所旧跡を訪ねる旅への参加が必須である。
- ② 受講者が25名を超える場合には抽選とする。
- ③ 受講生が15名に満たない場合には、授業テーマを損なわない範囲で日帰り旅行とすることもある。
- ④ 日程は上記の期間なので、日程の調整をしてください。また費用は4万円から5万円と考えてください。
- ⑤ 旅行地は現在、明治村・神島を考えていますが、他に、函館や小樽、仙台、新潟なども考えられます。

【授業のテーマ】

日本文学に関わる名所・旧跡を実際に旅することを前提として、学生が事前に主体的に調べ、コースも十分に検討した上で、旅行用資料を冊子にまとめる。旅行の実施にあたっては、冊子を基にして、適宜、勉強会・反省会を行う。旅行後、名所・旧跡の旅から得られたものを検証し、報告冊子・パネル（大学祭の展示を想定）にまとめる作業を行う。

これらの事前・事後の学習・作業を通して、文学の生まれた土壌（言語を含む）に直接的に触れた体験を確かな理解へと導くとともに、さらに関連する分野への興味を広げたい。また、現場に立つ、実物に触れることの大切さも学ぶ。合わせて学科の専門科目を学ぶ上での意識を高めていきたい。

【授業における到達目標】

人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度（美の探究）を養い、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力と、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる協働力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

第1週（6月29日 土曜3限）

・導入 授業の目的と方法

（名所・旧跡を訪ねることの意味とは）

・明治村と神島について調べる項目の分担。

明治村—愛知県犬山市にある広大な敷地の博物館。漱石や鴎外の旧宅を始め、明治の文学者や明治の文化文物にかかわる現物・本物が数多く展示されている。

神島—鳥羽湾に浮かぶ小島。三島由紀夫の『潮騒』の舞台となった。三島が度々取材に訪れている。

***なお実地踏査の場所は変更になることもあります。**

第2週（7月13日 土曜3限）

・明治の文物と近代文学・明治の言葉と近代文学

・三島由紀夫『潮騒』と神島

・神島の言葉と『潮騒』等調査項目と発表と討議

第3週、4週（7月27日 土曜3限4限）

コースの検討と旅程の決定・旅行冊子作成

第5週 8月26日～8月30日の内3日間で実地踏査（明治村・神島）へ

第6週 （実地踏査に替える）

第7週 （実地踏査に替える）

第8週 （実地踏査に替える）

第9週 （実地踏査に替える）

第10週 （実地踏査に替える）

第11週 （実地踏査に替える）

第12週（9月21日 土曜3限）報告冊子・パネル作成（1）

第13週（9月28日 土曜3限）報告冊子・パネル作成（2）

第14週（10月5日 土曜3限）報告冊子・パネル作成（3）

第15週（10月11日～13日 この期間の90分）まとめ（常磐祭参加）

【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

こちらから配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

はじめ3週の授業への取り組み30パーセント、旅行参加中の取り

幼児教育法

井口 眞美・長谷川 恭子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

教育実習を行う準備として事前指導を中心に進める。教育実習における意義・心得について理解をした上で、子ども理解の方法、日誌や指導案の書き方、具体的な実習手続き等について学ぶ。更に、表現活動の教材研究を行う、日野市の子育て支援活動「手をつなごうこどもまつり」に参加する、指導案（部分実習）を作成し模擬保育を行う等により、実践力の向上を図る。

（幼小コースは3年2月、幼保コースは4年6月に教育実習を行う）

【授業における到達目標】

本授業では、教育実習（幼稚園）に向けて、実習の意義・心得、諸手続き等について理解し、主体的に教育実習に臨む姿勢を養う。地域の子育て支援活動へ主体的に参加したり、模擬保育を実施したりすることを通して、保育の現場で必要な問題解決力を身に付け、実践的な能力を高める。

【授業の内容】

- 第1回：授業のオリエンテーション、実習の意義について
- 第2回：幼稚園教育要領の概要（ねらいと内容）
- 第3回：子どもの発達と表現（発達を踏まえた保育者の援助）
- 第4回：遊びを中心とした保育の展開
- 第5回：歌唱と鑑賞（第1グループの模擬保育）
- 第6回：歌唱と鑑賞（第2グループの模擬保育）
- 第7回：保育における表現とは1（表現領域のねらいと内容）
- 第8回：保育における表現とは2（体験を重視した保育の構想）
- 第9回：保育者の役割
- 第10回：保育における表現の実際1（わらべうた 保育実践の基礎）
- 第11回：保育における表現の実際2（わらべうた 保育実践の計画）
- 第12回：保育における表現の実際3（わらべうた 保育実践の展開）
- 第13回：実習園の開拓について
- 第14回：教材研究1（第1グループの模擬保育とその振り返り）
- 第15回：教材研究2（第2グループの模擬保育とその振り返り）
- 第16回：こどもまつり準備1（子どもの実態を踏まえた教材作成）
- 第17回：こどもまつり準備2（情報機器を活用した保育教材作成）
- 第18回：こどもまつり当日の運営（子ども理解と援助の実際）
- 第19回：こどもまつりの振り返り（子ども理解と援助の在り方）
- 第20回：日誌の書き方（子ども理解をふまえた記録の在り方）
- 第21回：幼稚園教育要領と保育の全体的計画、指導計画
- 第22回：保育の評価（「10の姿」について）
- 第23回：指導案の書き方
- 第24回：幼児教育の実際（現職園長の講話：保育内容の理解、小学校との連携）
- 第25回：模擬保育（第1グループによる模擬保育、情報機器を活用した振り返り）
- 第26回：模擬保育（第2グループによる模擬保育、情報機器を活用した振り返り）
- 第27回：模擬保育（第3グループによる模擬保育、情報機器を活用した振り返り）
- 第28回：模擬保育（第4グループによる模擬保育、情報機器を活用した振り返り）
- 第29回：子育て支援の実際（子育て支援活動団体代表の講話）
- 第30回：実習壮行式、まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間

教材研究、模擬保育、こどもまつりにおいては、事前に周知な準備を行い当日を迎えること。

【事後学修】週2時間

授業を踏まえ、子どもと関わる機会を設けたり、保育に関する文献を読んだりして知識を確実にすること。

【テキスト・教材】

なし。必要に応じてプリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度〔授業への取り組み等〕30%、授業内課題〔指導案等〕

40%、模擬保育30%

課題については振り返りの場をもち、観察学習での学びを定着させる。また、模擬保育に関しては、個別にフィードバックを行い、再度自分の保育を見直す機会を設ける。

【参考書】

『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省（チャイルド本社）2017年 540円

【注意事項】

実習に向けての手続きなども含まれる授業である。やむなく欠席した場合は、必ず井口研究室を訪問し、授業内容を確認し資料を受け取ること。

外部講師による講話は、講師の都合により日程が変更になることがある。

理化学実験

山崎 壮

1年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：行動力

【授業のテーマ】

物質の化学的性状や変化を理解し、化学的なものの見方、考え方を修得するためには、実験は大変有効です。この授業では、化学実験の基本的操作、化学反応式で示される量的関係に基づく定量分析、実験データのまとめ方などを学修します。

特に、高校で化学実験をあまり行ってこなかった学生には履修してほしい科目です。

【授業における到達目標】

実験の基礎的操作手法と実験態度、さらには実験レポートの書き方の基礎を修得することをめざします。2年次以降の実験系授業を履修するために必要な知識と実験技術の修得になります。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

- ①実験に関する安全上の注意
- ②実験レポートの書き方
- ③基本的な実験器具類の取り扱い方

第2週 定性分析

- ①食品中のタンパク質、でんぷん、塩分の検出
- ②炎色反応による金属イオンの検出

第3週 溶液の調製法と希釈法、液性測定

第4週 中和滴定

- ①中和滴定曲線の作成
- ②食酢中の酢酸の定量

第5週 酸化・還元滴定 アスコルビン酸（還元型）の定量

第6週 物質の分離

- ①ペーパークロマトグラフィーによる水溶性色素の分離
- ②薄層クロマトグラフィー（TLC）によるアントシアニン系色素の分離

第7週 有機合成

- ①香りをもつエステル合成
- ②ナイロンの合成

第8週 Excelで実験データを整理する（PC演習室で実施）

【事前・事後学修】**【事前学修】**

毎回、実験操作手順を予習する。（学修時間 週1時間）

【事後学修】

実験結果を実験レポートにまとめる。（学修時間 週3時間）

提出期限は、原則として授業の1週間後。未提出と期限後提出は減点します。

【テキスト・教材】

実験テキストを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業ごとに提出する実験レポート（90%）と実験への取り組み態度（10%）で評価します。

実験レポートは採点し、コメントをつけて返却します。実験結果の解釈やレポート課題を解説した文書も、必要に応じて返却レポートに添えて渡します。

【参考書】

『サイエンスビュー化学総合資料』（実教出版）や『フォトサイエンス化学図録』（数研出版）などの高校化学副教材の図録集。800円程度。

Excelおよび関数の操作法解説書

【注意事項】

薬品や実験器具による災害防止のため、白衣（ダブル仕立て）を着用する、長髪は束ねる、マニキュアはとるなど、実験授業のルールを守ること。実験室内は飲食禁止。詳しくは第1回授業「ガイダンス」の中で説明します。

理化学実験

山崎 壮

1年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

物質の化学的性状や変化を理解し、化学的なものの見方、考え方を修得するためには、実験は大変有効です。この授業では、化学実験の基本的操作、化学反応式で示される量的関係に基づく定量分析、実験データのまとめ方などを学修します。

特に、高校で化学実験をあまり行ってこなかった学生には履修してほしい科目です。

【授業における到達目標】

実験の基礎的操作手法と実験態度、さらには実験レポートの書き方の基礎を修得することをめざします。2年次以降の実験系授業を履修するために必要な知識と実験技術の修得になります。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス

- ①実験に関する安全上の注意
- ②実験レポートの書き方
- ③基本的な実験器具類の取り扱い方

第2週 定性分析

- ①食品中のタンパク質、でんぷん、塩分の検出
- ②炎色反応による金属イオンの検出

第3週 溶液の調製法と希釈法、液性測定

第4週 中和滴定

- ①中和滴定曲線の作成
- ②食酢中の酢酸の定量

第5週 酸化・還元滴定 アスコルビン酸(還元型)の定量

第6週 物質の分離

- ①ペーパークロマトグラフィーによる水溶性色素の分離
- ②薄層クロマトグラフィー (TLC) によるアントシアニン系色素の分離

第7週 有機合成

- ①香りをもつエステル合成
- ②ナイロンの合成

第8週 Excelで実験データを整理する (PC演習室で実施)

【事前・事後学修】

【事前学修】

毎回、実験操作手順を予習する。(学修時間 週1時間)

【事後学修】

実験結果を実験レポートにまとめる。(学修時間 週3時間)

提出期限は、原則として授業の1週間後。未提出と期限後提出は減点します。

【テキスト・教材】

実験テキストを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業ごとに提出する実験レポート (90%) と実験への取り組み態度 (10%) で評価します。

実験レポートは採点し、コメントをつけて返却します。実験結果の解釈やレポート課題を解説した文書も、必要に応じて返却レポートに添えて渡します。

【参考書】

『サイエンスビュー化学総合資料』(実教出版)や『フォトサイエンス化学図録』(数研出版)などの高校化学副教材の図録集。800円程度。

Excelの操作法および関数の解説書

【注意事項】

薬品や実験器具による災害防止のため、白衣(ダブル仕立て)を着用する、長髪は束ねる、マニキュアはとるなど、実験授業のルールを守ること。実験室内は飲食禁止。詳しくは第1回授業「ガイダンス」の中で説明します。

理科

小島 敏光

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

【授業のテーマ】

小学校理科の目標、各学年・各区分における指導内容、指導のあり方について理解する。

小学校理科における各学年の目標と内容構成の考え方を理解するとともに、系統性を踏まえた指導、小学校理科で取り扱う観察・実験の基本的操作、安全指導、観察・実験の準備、授業づくりにおける留意点などを修得する。

【授業における到達目標】

・小学校理科の目標や各学年・各区分における内容の構成について修得する。また、各学年の系統性を踏まえた指導、取り扱う観察・実験の基本的な操作、安全指導、観察・実験の準備、授業づくりにおける留意点などを修得する。

・学生は、自信を創出する力、互いに協力して物事を進める力、新たな知を創造しようとする態度を特に意識して修得する。

【授業の内容】

- 第1週：小学校教員の理科指導に求められる力
- 第2週：小学校理科の目標と内容の構成
- 第3週：理科指導と問題解決
- 第4週：理科指導における観察・実験の意義
- 第5週：実験器具の取扱いと安全指導
- 第6週：第3学年の内容（自然の観察・昆虫と植物・太陽と地面）
- 第7週：第3学年の内容（風、ゴム・光・音・物と重さ）
- 第8週：第3・4学年の内容（電気・磁石・空気と水）
- 第9週：第4学年の内容（月・星・天気・人体・温度と体積）
- 第10週：第4学年の内容（温まり方・水の三態・自然蒸発）
- 第11週：第5学年の内容（植物・動物・流水・天気）
- 第12週：第5学年の内容（電磁石・ものの溶け方・振り子）
- 第13週：第6学年の内容（燃焼・植物・人体・月と太陽・土地）
- 第14週：第6学年の内容（てこ・電気の利用・水溶液）
- 第15週：まとめと各自の課題

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲について予習し、専門用語や内容の概要を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 レポート課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

文部科学省：小学校学習指導要領解説理科編[大日本図書、2008、¥65(税抜)]

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編[東洋館出版社、2018、¥111(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）20%、授業後のレポート40%、提出課題40%により、総合的に評価します。

レポート及び提出課題は、次回授業でフィードバックします。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【注意事項】

教職に就くことを前提にして授業を進めていきます。理科の指導力を身に付けるべく、意欲をもって積極的に講義に臨んでほしい。

流通サービス論

井上 綾野

3年 前期 2単位

©：研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、流通の基礎概念、現代社会・経済において流通サービスが果たす役割について説明する。まず、商業の起源とその歴史的発展過程および社会経済における役割について概観する。次に、流通の基本的機能と構造および主要な流通業態・機関とそれらの基本的活動について順次説明する。本講義の狙いは、一連の講義を通じて、受講生が流通サービスに関し、深い理解を得ることである。

【授業における到達目標】

1. 流通の役割を理解する
2. 流通論に関する基本的な概念を理解する
3. 主要な小売業態について理解する

【授業の内容】

- 第 1回 インTRODクシヨン 講義の概要
 第 2回 商業の概念 「商業」に関する定義について
 第 3回 商業の歴史 日本並びに世界における商業の起源について
 第 4回 交換の概念 (社会的分業と交換の概念)
 第 5回 流通の機能 (売買契約と所有権の移転)
 第 6回 流通機構
 ～流通機構の概念と流通経路、小売業の分類
 ～日本の流通機構の特徴、戦後における日本の流通機構、日本型取引慣行
 第 7回 流通革新と革新的な小売業の動き
 ～流通革新のはじまり
 ～高度経済成長を前に進んだ流通革命の内容
 ～新しい小売業界の動き
 第 8回 中間試験
 第 9回 小売機能・構造① (変化する流通構造、日本の流通構造)
 第10回 小売機能・構造② (小売業態とは何か、業態革新と業態技術)
 第11回 主要小売業態の理解 ①百貨店と総合スーパー
 第12回 主要小売業態の理解 ②食品スーパーとCVS
 第13回 主要小売業態の理解 ③ディスカウント・ストアとSPA
 第14回 新しい流通サービスの理解 インターネットと小売業
 第15回 講義のまとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
 テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること (学修時間：1.5時間)
- ・事後学修
 授業で学んだ理論やモデルを用い、実際の流通業者について調べまわってこること (学修時間：2時間)

【テキスト・教材】

石原武政、竹村正明、細井 謙一：1からの流通論<第2版>[碩学舎、2018]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法] 中間試験：25%，期末試験：50%，平常点（授業内課題等）：25%で評価する。

[成績評価の基準] 1. 流通の役割を理解する：25%、2. 流通論に関する基本的な概念を理解する：50%、3. 主要な小売業態について理解する：25%で評価する。

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は次回の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

住谷宏編著『流通論の基礎(第2版)』（中央経済社、2013）
 田村正紀『流通原理』（千倉書房、2002）

【注意事項】

マーケティング論（2年前期）とともに履修することが望ましい

流通サービス論

井上 綾野

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、流通の基礎概念、現代社会・経済において流通サービスが果たす役割について説明する。まず、商業の起源とその歴史的発展過程および社会経済における役割について概観する。次に、流通の基本的機能と構造および主要な流通業態・機関とそれらの基本的活動について順次説明する。本講義の狙いは、一連の講義を通じて、受講生が流通サービスに関し、深い理解を得ることである。

【授業における到達目標】

1. 流通の役割を理解する
2. 流通論に関する基本的な概念を理解する
3. 主要な小売業態について理解する

【授業の内容】

- 第 1回 インTRODクシヨン 講義の概要
 第 2回 商業の概念 「商業」に関する定義について
 第 3回 商業の歴史 日本並びに世界における商業の起源について
 第 4回 交換の概念 (社会的分業と交換の概念)
 第 5回 流通の機能 (売買契約と所有権の移転)
 第 6回 流通機構
 ～流通機構の概念と流通経路、小売業の分類
 ～日本の流通機構の特徴、戦後における日本の流通機構、日本型取引慣行
 第 7回 流通革新と革新的な小売業の動き
 ～流通革新のはじまり
 ～高度経済成長を前に進んだ流通革命の内容
 ～新しい小売業界の動き
 第 8回 中間試験
 第 9回 小売機能・構造① (変化する流通構造、日本の流通構造)
 第10回 小売機能・構造② (小売業態とは何か、業態革新と業態技術)
 第11回 主要小売業態の理解 ①百貨店と総合スーパー
 第12回 主要小売業態の理解 ②食品スーパーとCVS
 第13回 主要小売業態の理解 ③ディスカウント・ストアとSPA
 第14回 新しい流通サービスの理解 インターネットと小売業
 第15回 講義のまとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修
 テキストの次回講義範囲となる箇所を読み、その内容を理解すること (学修時間：1.5時間)
- ・事後学修
 授業で学んだ理論やモデルを用い、実際の流通業者について調べまわるとめてくること (学修時間：2時間)

【テキスト・教材】

石原武政、竹村正明、細井 謙一：1からの流通論<第2版>[碩学舎、2018]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

[成績評価の方法] 中間試験：25%、期末試験：50%、平常点 (授業内課題等)：25%で評価する。

[成績評価の基準] 1. 流通の役割を理解する：25%、2. 流通論に関する基本的な概念を理解する：50%、3. 主要な小売業態について理解する：25%で評価する。

[フィードバックについて]

中間試験は授業内で解答を提示し返却する。授業内課題は次回の授業内で内容をフィードバックする。

【参考書】

住谷宏編著『流通論の基礎(第2版)』(中央経済社、2013)
 田村正紀『流通原理』(千倉書房、2002)

【注意事項】

マーケティング論(2年前期)とともに履修することが望ましい

旅行実務

旅行実務の基礎知識

古谷 昌重

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

旅行は、私たちにとって身近なものであると同時に、産業としても存在感を高めています。その旅行を取り巻く現状と旅行業界の仕組みや仕事について幅広く学びます。

添乗業務をはじめ旅行業務全般における実務の基礎を学び、グループワークや発表を通じて理解を深めてゆきます。また、国内旅行の計画を立てる際に必要となる情報収集方法を身に付け、旅行の計画を立ててみます。

添乗員や旅行業界への就職を目指す学生だけでなく、皆さんが今後旅行を計画する際に役立つ知識を修得し、旅行を「実施する側」からの視点でも捉えることができる幅広い視野を育むことを目指します。

【授業における到達目標】

- ・旅行業の仕組みと役割について理解し説明できるようになる。
- ・添乗員の仕事と役割について理解し説明できるようになる。
- ・国内旅程管理主任者（国内添乗員）の資格取得の一助となる基礎知識を修得する。
- ・国内旅行の計画を立てることができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業内容説明、旅行産業概説）
- 第2週 旅行業のあらし
- 第3週 旅行の種類と旅程管理・旅程保証
- 第4週 ツアーコンダクターになるには
- 第5週 国内旅行の基礎知識（日本の観光地と世界遺産）
- 第6週 国内旅行の基礎知識（鉄道とJRの基礎）
- 第7週 国内旅行の基礎知識（航空、その他の運送機関）
- 第8週 国内旅行の基礎知識（観光情報、宿泊、食事）
- 第9週 海外旅行の基礎知識（国内旅行との違い）
- 第10週 海外旅行の基礎知識（交通機関）
- 第11週 海外旅行の基礎知識（宿泊・観光・食事）
- 第12週 海外旅行の基礎知識（渡航手続と出入国管理）
- 第13週 旅のルール（旅行パンフレットの見方、業法・約款）
- 第14週 トラブル対応と危機管理、復習テスト
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

事前学修：旅番組や雑誌、ガイドブックや旅行パンフレットなどを見て、旅への興味と関心を深めてください。自分が旅してみたいと思う国内旅行先の観光施設、宿泊先、食事場所などについての情報収集を行ってください。

事後学修：配布プリントの内容を復習し、用語や意味を確実に理解してください。（事前・事後学修合わせて週1時間以上）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

（高校または中学で使用した地図帳の活用を勧めます。）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

復習テスト40%、提出課題30%、平常点（コメントカードの提出や授業への積極参加）30%で総合評価します。提出課題は次回授業で、復習テストは最終回でフィードバックを行いません。

【参考書】

原 好正『「日本一の添乗員」が大切に作る接客の作法』2015 朝日新聞出版

その他、必要に応じて授業で紹介します。

【注意事項】

第一回目の授業で授業の進め方と成績評価に関する説明を行いますので必ず出席してください。羽田空港でのインターンシップを希望する学生はこの授業を履修することを勧めます。また、前期「観光地理」とあわせて受講することを勧めます。

倫理学入門

倫理学史と現代の正義論

岡部 英男

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本講義のねらいは、そうした価値について考察しそれを自らの行動に活かすこと、つまり損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことです。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的です。授業では過去の代表的思想を解説し、最後に再び現代の問題（正義論）を考え、格差社会と公正な社会について考察します。

【授業における到達目標】

- 1 さまざまな価値観があることを理解し、自分の価値観を他者に強制しない態度、優しさと強さを兼ね備え、倫理観をもって人格を陶冶しようとする態度を身につけることができる（協働力）。
- 2 格差や不正といった現在の社会の問題点について、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる（研鑽力）。

【授業の内容】

- 第1週 倫理学 (ethics) の語義・対象・課題。道徳との異同。過去の倫理学史を学ぶことにどんな意味があるのかを現代の経営倫理との比較で考える。人間の自己理解の変遷、近代主体性、習俗、道徳性、人倫。
- 第2週 古代ギリシアの正義観の変遷、ノモス観の変遷
- 第3週 ソフィスト 対 ソクラテス
- 第4週 プラトンの理想国家、アリストテレスの現実的倫理学
- 第5週 ユダヤ教（契約、律法、メシア思想）、キリスト教（イエスの教え、パウロ、十字架による贖罪、アガペー）
- 第6週 ルネッサンスのユマニスム、教養概念の成立、宗教改革と禁欲的職業倫理。
- 第7週 社会契約説1（ホッブズ）
- 第8週 社会契約説2（ロック、ルソー）
- 第9週 カントの倫理学1（条件付きの善と無条件の善、善い意志）
- 第10週 カントの倫理学2（道徳法則、意志の自律としての自由、カントへの批判）
- 第11週 ヘーゲルの市民社会論（家族、市民社会、国家）
- 第12週 功利主義（快楽、最大多数の最大幸福、制裁）
- 第13週 ニーチェの道徳批判（力への意志、ルサンチマン）
- 第14週 正義論（公正な社会と自由な社会、ロールズの正義論とそれへの批判）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。関連する諸テーマ（とりわけ正義論）について、テレビ・新聞・インターネットなどで報道されるものを積極的に見て、関心をもつこと（学修時間 週1時間）。【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、教科書の該当箇所を読み返し、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

【テキスト・教材】

小坂国継・岡部英男（編）：倫理学概説[ミネルヴァ書房、2005、¥3,000(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

【参考書】

必要に応じて指示します。

倫理学入門 b

「神道的思考」を通して見た日本倫理学史

尾形 弘紀

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

この国の倫理・道徳観念の裏側には、ある種の宗教的感覚、とくに「聖なるもの」をめぐる人々の思考の歴史が刻まれている。とりわけ神道の歴史のうちに示されているカミという存在の捉え方や、それへの対応の仕方は、おそらく現代の我々の意識の底にも残存し、言わば「思考の体幹」を形づくっているはずである。

そこで本講義では、「神道的思考」の歴史を古代から近代まで概観することを通して、我々が常日頃、抽象的思考や具体的態度決定の物差しとして用いていながら、普段はほとんど意識することのない「思考のくせ」を見つめ直すことをしてみたい。

【授業における到達目標】

古代から近代までの日本人の「神道的思考」の推移に焦点を当て、人々がカミという「聖なるもの」とどのように交渉を持ち、社会を営んできたかを明確に理解することを到達目標とする。そしてこの歴史的考察を通じ、現代倫理学上のさまざまな問題に斬り込む新たな視点をより多く身に付けることができたらよいと考える。

それらの目標を見すえて学修を進めることは、全学ディプロマポリシーに掲げられた、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」や、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を養うことに結びつくはずである。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション：「神道的思考」の本質
- 第2週 神とはなにか：「カミ」という語の定義
- 第3週 「天地開闢神話」を読む：日本神話にみる世界観
- 第4週 「国生み神話」を読む：日本神話にみる性の観念
- 第5週 「黄泉国訪問神話」を読む：日本神話にみる死生観
- 第6週 「ウケヒ神話」を読む：日本神話にみる善悪の観念
- 第7週 神仏習合：「仏教的思考」の受容と反発
- 第8週 中世神道①：世界の始原の場の探究
- 第9週 中世神道②：人の心とカミとの接点
- 第10週 国学の思想①：本居宣長について
- 第11週 国学の思想②：平田篤胤について
- 第12週 国学の思想③：富士谷御杖について
- 第13週 民俗学の語るカミ①：柳田國男について
- 第14週 民俗学の語るカミ②：折口信夫について
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】日本人の心の問題を問うため、日頃の自身の常識を疑う心構えが必要である。また、講義前には、前回は配布されたプリントを読み直し、不明の語を調べるなどしてから、講義に臨んでほしい。（学修時間：週2時間）

【事後学修】講義後早いうちにノートや配布されたプリントを読み直し、知識の定着を図ってほしい。さらに、関心を持った事項については、事典やインターネット等で調べるようにすると、次週の講義の理解が格段に進むはずである。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

毎週プリントを配布するので、特定の教科書は用いない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

60%：平常点（出席回数、授業態度、リアクション・ペーパーの内容などを考慮する）

40%：試験（試験はプリントとノートの持ち込みを許可する。出題内容については講義内で数週前に予告する）

なお、試験結果は授業最終週にフィードバックを行う予定。

【参考書】

講義内で随時指示する。

【注意事項】

毎週配布されるプリントは、後の週に再度読み返す可能性があるため、念のためすべて持参するようにしてほしい。

臨床医学概論

松島 照彦

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

人体を含む生命、生物はその進化の過程において極めて精緻な適応の仕組みと、様々な内部や環境の変化に対して「元の状態に戻る」恒常性（ホメオスタシス）を維持する性質を備えてきた。その元に戻る仕組みに障害が起きた状態が疾病であり、個体全体の恒常性を維持できなくなった状態が死である。

人にとって避けがたい病気はどの様に起こるのであろうか。病気の原因、その時、体の中でどのような変化が起こり、どの様に現れてくるか。それをどの様に把握、評価し、対応するか。種々の疾患において現れる細胞、組織の変化、また全身の変化、さらに、個々の臓器、器官の障害としての疾病について学ぶ。

この教科では、今日の医学の概観を展望することを通じ、生命と死、細胞と組織の傷害、症候と診断と治療について学修する。主な疾患として、貧血、高血圧、内分泌疾患、免疫疾患について学修する。

【授業における到達目標】

病を持つ人の身になって考え、気持ちを理解する心を養うことができる。病気の時に、体全体、組織、細胞の中で何が起きているかを理解することができる。貧血、高血圧などのいくつかの疾患について、原因、診断、治療の方針を理解し、栄養学的な対応を行うことができるようになる。

知を求め、心の美を育む態度として、①人文・社会・自然の中に価値を見出す態度。②物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。③優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度を養うことにつながる。

【授業の内容】

- 第1週 生命と個体の死
- 第2週 細胞の障害
事後学修：変性を主体とする病態についてのレポート
- 第3週 組織の障害
事後学修：組織の障害についての課題
- 第4週 診断の手順
- 第5週 全身徴候
事後学修：全身徴候についての課題
- 第6週 身体の症状
事後学修：浮腫、黄疸を中心とした課題
- 第7週 臨床検査
事後学修：臨床検査についての課題
- 第8週 造血、鉄代謝、赤血球の産生と代謝
事後学修：鉄代謝と赤血球産生を中心とした課題
- 第9週 種々の貧血
事後学修：貧血についての課題
- 第10週 白血球と自己免疫疾患
事後学修：免疫とアレルギーについての課題
- 第11週 内分泌とホメオスタシス
事後学修：甲状腺を中心とした課題
- 第12週 内分泌疾患
事後学修：副腎皮質を中心とした課題
- 第13週 循環器と血圧の調節
事後学修：血圧調節を中心とした課題
- 第14週 高血圧症
事後学修：高血圧についての課題
- 第15週 治療法の概要
事後学修：治療法についての課題

【事前・事後学修】

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけではなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。週当たり3時間を要する。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（授業中の積極的な発言を評価する。遅刻、提出物の遅れ、授業中の不活発な態度は減点する。欠席と課題の不提出は大きく減点する。1回欠席につき8%の減点となる）課題は答え合わせと解説を行う。

【参考書】

全国栄養士養成施設協会監修『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』（第一出版）
日野原重明『日野原重明 医学概論』（医学書院）1,600円
福井次矢ら著『臨床医学概論 第2版』（建帛社）3,360円
高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

【注意事項】

教科書は指定しないが、他の解剖、生理系の教科も含めて、「人体の構造と機能」に関する教科書を購入しておくことは管理栄養士の国家試験を受ける上で必須である。貧血、高血圧などの単元もあるので、臨床栄養学の教科書も参考になる。参考書を含めそれらの書物は随時、予習、復習に用いること。

臨床栄養学 a

松島 照彦

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どのような栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学修する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見いだし、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を習得することを目標とする。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、糖尿病、肥満、脂質代謝異常、痛風、腎疾患、貧血、呼吸器疾患、老年性疾患についてその発症の仕組みと疾患による栄養の障害を理解し、それらに対する基本的な栄養管理ができるようになる。

物事の真理を探究する態度、深い洞察力と本質を見抜く力を育てることができる。学修成果を通じて自信を創出し、課題発見、課題解決力を育てることができる。

【授業の内容】

- 第1週 糖尿病の病態と症候
 第2週 糖尿病の診断と合併症
 第3週 糖尿病の治療と栄養管理
 事後学修：糖尿病に良い、血糖の上昇を抑えるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第4週 脂質代謝と栄養
 第5週 脂質代謝異常と栄養
 第6週 動脈硬化と栄養
 事後学修：動脈硬化に良い、コレステロールを低下させるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第7週 痛風と高尿酸血症
 事後学修：アルコールと健康の関係について調査する。アルコールが体に有益な作用を及ぼしうるか調査する。
- 第8週 腎臓の構造と機能
 第9週 腎疾患と栄養
 第10週 肥満とメタボリック症候群
 事後学修：肥満に良い、体重の増加を抑えるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第11週 血液と栄養
 第12週 貧血とアレルギーと栄養
 事後学修：アレルギーを起こしやすい食材を除いた献立、食品を開発する。
- 第13週 呼吸器疾患と栄養
 第14週 老年症候群と栄養
 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

事後学修：單元ごとに課題を与える。週当たり3時間程度の取り組みを要する。

【テキスト・教材】

栄養ケアマネジメント「新臨床栄養学第3版」（医師薬出版, 2016年）3996円

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%：授業での積極的な態度、課題の内容を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題

の未提出は大きく減点する。十分な調査と深い考察を行った優秀なレポートは高く評価する。

課題とレポートは返却時に優秀な取り組みを紹介し、解説を行う。

【参考書】

『栄養科学NEXT 新・臨床栄養学』（竹谷豊ら監修, 講談社サイエンティフィック, 2016）

4, 104円

『わかりやすい内科学』（井村裕夫ら監修, 文光堂, 2014）9, 720円

【注意事項】

講義中はプリントを用い、教科書は用いないが、教科書は予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。

臨床栄養学 a

松島 照彦

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どのような栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では（a、bを通じ）栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学習する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見だして、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を修得することを目標とする。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、ビタミン関連疾患、糖尿病、消化管疾患および肝胆膵疾患の病態を理解し、基本的な栄養管理を行うことができるようになる。

物事の真理を探究する態度をはぐくむことができる。研鑽力の内、自信創出力、広い視野と深い洞察力を培うことができる。行動力の内、課題発見力、計画立案力、問題解決力を養うことができる。

病をもつ人の心や体のつらさや苦しみを理解し、栄養管理を行うに当たってもその人の立場になって考える優しさを身につける。

【授業の内容】

- 第1週 水溶性ビタミンと栄養管理
事後学修：水溶性ビタミンの課題
- 第2週 脂溶性ビタミンと栄養管理
事後学修：脂溶性ビタミンの課題
- 第3週 糖質、エネルギー代謝の調節
事後学修：糖質と糖質代謝の課題
- 第4週 糖尿病の病態
事後学修：糖尿病の病態の課題
- 第5週 糖尿病の症候と診断
事後学修：糖尿病の診断の課題
- 第6週 糖尿病の合併症と栄養管理
事後学修：糖尿病の治療の課題
- 第7週 消化吸収の仕組みと消化管ホルモン
事後学修：消化と吸収の課題
- 第8週 上部消化管と栄養
事後学修：上部消化管疾患と栄養管理の課題
- 第9週 肝臓における栄養の代謝
事後学修：肝臓の構造と機能の課題
- 第10週 肝炎、脂肪肝と栄養
事後学修：肝炎・脂肪肝と栄養管理の課題
- 第11週 肝硬変と栄養
事後学修：肝硬変と栄養管理の課題
- 第12週 胆嚢の疾患と栄養
事後学修：胆嚢疾患と栄養管理の課題
- 第13週 膵臓の疾患と栄養
事後学修：膵臓疾患と栄養管理の課題
- 第14週 下部消化管と栄養①炎症性腸疾患
事後学修：炎症性腸疾患と栄養管理の課題
- 第15週 下部消化管と栄養②腸閉塞など
事後学修：腸閉塞などと栄養管理の課題

【事前・事後学修】

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。過当たり1時間を要する。

事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけでなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。過当たり3時間を要する。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（課題への取り組み、授業での積極的な態度を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題の未提出は大きく減点する）。

課題は答え合わせと解説を行う。

【参考書】

『管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ第2版』鈴木博ら編（建帛社）3,990円

『栄養科学NEXT臨床栄養学（講談社サイエンティフィック）2,730円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅰ』（第一出版）1,575円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅱ』（第一出版）1,995円

岡田正ら著『新臨床栄養学』（医学書院）9,975円

高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

【注意事項】

教科書は指定しないが、使いやすいものを購入しておくこと。講義中には用いないが予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。過去問を用いた宿題はその日のうちに挑戦して解くことが、実力を付ける上でとても有用である。

臨床栄養学 b

加藤 テイ

3年 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

疾患と栄養・食事の摂りかたには深いかわりがあります。傷病者に対してどのような食事を提供したらよいか、病態の改善にはどのような栄養・食事療法が適応となるのかについて学びます。内科・外科疾患と栄養・食事療法、小児や高齢者などライフステージを視野にいたした栄養・食事療法、薬と食品成分の相互作用や臨床における栄養管理の方法論、チーム医療の仕組みなどを学びます。

【授業における到達目標】

病気の時では身体の仕組みが健常時と異なることを理解する。身体の仕組みと栄養の利用について理解し、病態に合わせた栄養の摂り方を考えることができる。病態を考慮して食品や調理法を適切に選び、おいしい食事を考えることができる。チーム医療における栄養士の役割を理解する。研鑽力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 臨床栄養における栄養士の役割、栄養補給法
- 第2週 肥満症・糖尿病などの栄養（糖尿病食品交換表含む）
- 第3週 脂質異常症・高尿酸血症の栄養
- 第4週 胃腸など消化管疾患の栄養
- 第5週 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養
- 第6週 腎疾患の栄養（1）
- 第7週 腎疾患の栄養（2）腎臓病食品交換表含む
- 第8週 循環器疾患の栄養
- 第9週 呼吸器疾患・血液疾患の栄養
- 第10週 骨、アレルギー疾患の栄養
- 第11週 外傷（熱傷、褥瘡、外科手術後を含む）の栄養
- 第12週 高齢者に多い健康障害と栄養、緩和ケア
- 第13週 妊産婦・小児領域の疾患と栄養
- 第14週 まとめ
- 第15週 チーム医療と記録の書き方

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業予定を確認しテキスト該当ページ、関連図書にて予習する。わからない語句は調べておく（週2時間）。

【事後学修】 配布プリント、講義内容を復習する。小テストを実施した際には誤った箇所を直して、学習内容を理解する（週2時間）

【テキスト・教材】

黒川清：腎臓病食品交換表 第9版[医歯薬出版株式会社、¥1,300(税抜)]

渡辺早苗：臨床栄養学概論[建帛社、¥2,200(税抜)、※最新版を購入すること]

日本糖尿病学会：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版[文光堂、¥900(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%

フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、課題はコメントをつけて返却。

【参考書】

川崎英二ほか監修『症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト 増補』（医歯薬出版株式会社）2300円+税

奈良信雄著『栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方、考え方、ケーススタディ』（医歯薬出版株式会社）2500円+税

日本糖尿病学会編著『糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 献立例とその実践』（文光堂）1200円+税

【注意事項】

食事療法に関して、病態と食品選択、調理法を関連づけて理解してください。

臨床栄養学 b

松島 照彦

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どのような栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では（a、bを通じ）栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学習する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見いだして、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を修得することを目標とする。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、ミネラルに関連した疾患、水・酸塩基平衡に関連した疾患、腎疾患、呼吸器疾患、術前術後とクリティカルケア、痛風、脂質代謝異常と動脈硬化について理解し、基本的な栄養管理を行うことができるようになる。

物事の真理を探究する態度をはぐくむことができる。研鑽力の内、自信創出力、深い洞察力を培うことができる。行動力の内、課題発見力、計画立案力、問題解決力を養うことができる。

病をもつ人の心や体のつらさや苦しみを理解し、栄養管理を行うに当たってもその人の立場になって考える優しさを身につける。

【授業の内容】

- 第1週 急性糸球体腎炎と栄養
事後学修：腎臓の構造と機能に関する課題
- 第2週 ネフローゼ症候群と栄養
事後学修：ネフローゼ症候群と栄養管理に関する課題
- 第3週 ミネラルと骨粗鬆症①カルシウムとビタミンD
事後学修：カルシウムとビタミンDに関する課題
- 第4週 ミネラルと骨粗鬆症②骨代謝と骨粗鬆症
事後学修：骨粗鬆症と栄養管理に関する課題
- 第5週 水電解質代謝と酸塩基平衡①水電解質代謝
事後学修：脱水に関する課題
- 第6週 水電解質代謝と酸塩基平衡②酸塩基平衡
事後学修：酸塩基平衡に関する課題
- 第7週 慢性腎疾患と栄養
事後学修：CKD・糖尿病腎症と栄養管理に関する課題
- 第8週 腎不全・人工透析と栄養
事後学修：腎不全・人工透析と栄養管理に関する課題
- 第9週 呼吸器疾患と栄養①COPD
事後学修：COPDと栄養管理に関する課題
- 第10週 呼吸器疾患と栄養②拘束性肺疾患など
事後学修：拘束性肺疾患と栄養管理に関する課題
- 第11週 術前術後とクリティカルケア①術前術後
事後学修：術前術後の栄養管理に関する課題
- 第12週 術前術後とクリティカルケア②クリティカルケア
事後学修：クリティカルケアに関する課題
- 第13週 アルコールと痛風
事後学修：痛風と栄養管理に関する課題
- 第14週 脂質代謝と動脈硬化①脂質異常症
事後学修：脂質代謝異常と栄養管理に関する課題
- 第15週 脂質代謝と動脈硬化②動脈硬化
事後学修：動脈硬化と栄養管理に関する課題

【事前・事後学修】

・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

・事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけでなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。週当たり3時間を要する。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（授業での積極的な態度、課題の内容を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題の未提出は大きく減点する）

課題は答え合わせと解説を行う。

【参考書】

『管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ第2版』鈴木博ら編（建帛社）3,990円

『栄養科学NEXT臨床栄養学（講談社サイエンティフィック）2,730円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅰ』（第一出版）1,575円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅱ』（第一出版）1,995円

『新臨床栄養学』岡田正ら著（医学書院）9,975円

『新臨床内科学』高久文麿ら監修（医学書院）9,975円

【注意事項】

教科書は指定しないが、使いやすいものを購入しておくこと。講義中には用いないが予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。過去問を用いた宿題はその日のうちに挑戦して解くことが、実力を付ける上でとても有用である。

臨床栄養学実習 a

加藤 ティ

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

講義で学んだ臨床栄養学の知識をもとに、実際に治療食を調整して理解を深める。病気にかかったときのからだの状態を理解し、その状態に合わせた食事、病態を改善する食事について学ぶ。また、患者さんの心理を考慮した食事支援についても考える。

【授業における到達目標】

身体の仕組みと栄養の利用について理解し、病気の状態に合わせた栄養を補給する献立を作成し、調理する。

病気の回復を促進する食事を調整する。

栄養素を調整した治療用特殊食品の上手な利用のしかたを知る。

また、病状の回復が見込めない病態において、患者さんや家族のQOLを考慮した食事提供について考えることができる。

見た目に食欲を促し、おいしい治療食をつくることができる。

研鑽力、行動力、協働力を養う。

【授業の内容】

第1週 エネルギーナトリウムコントロール食

第2週 易消化食（胃腸疾患、術後）

第3週 たんぱく質ナトリウムコントロール食

第4週 嚥下・咀嚼障害に対応した食事

第5週 アレルギーに対応した食事

第6週 外傷の食事療法（褥瘡・熱傷含む）

第7週 緩和ケアに対応した食事

第8週 栄養評価

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のテーマとなる疾患や病態について調べて理解しておく。

【事後学修】レポートを作成し、指示された形式で提出する。

※各回の内容、理解度により事前・事後学修に要する時間は個々により異なる。授業に支障がないように各自取り組むこと。

【テキスト・教材】

日本標準食品成分表[※最新版を購入すること]

黒川清：腎臓病食品交換表 第9版[医歯薬出版株式会社、¥1,300(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]

玉川和子他：臨床調理 第7版[医歯薬出版株式会社、¥2,400(税抜)、※最新版を購入すること]

日本糖尿病学会：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版[文光堂、¥900(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内試験30%、平常点（授業への積極参加・提出課題）70%

フィードバック：試験は事後に解説、提出物はコメントを記入し返却。

【参考書】

宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円+税

宗像伸子編著『カラー版 一品料理500選 治療食への展開』（医歯薬出版株式会社）4800円+税

手嶋登志子・大越ひろ編著『おいしく食べてQOLを高める高齢者の食介護ハンドブック』（医歯薬出版株式会社）3000円+税

佐藤和人ほか編『エッセンシャル臨床栄養学』（医歯薬出版株式会社）3700円+税

【注意事項】

実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた場合、体調不良、化膿創がある場合は実習ができません。忘れ物に関して、研究室の貸し出しはありません。頭髮、化粧など実習にふさわしい身だしなみとする。実習着は指定されたものを着用する。

臨床栄養学実習 a

松島 照彦・佐々木 溪円

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：美の探究 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

傷病者に対する栄養の評価と対応はどの様に行われるのであろうか。この科目では、適切な栄養管理を行うために、実習を通じて、人体の構造、臨床診査、診察の方法と評価、栄養状態の実施方法と評価、生理機能の反応の測定と評価、栄養剤と栄養の補給法、試験食、血球の観察、血糖や尿糖などの簡易的な臨床検体検査の方法と評価を学修し、栄養の評価と管理の基礎的な知識と技術を身につける。

【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、傷病者の病態と栄養状態を把握、評価し、適切な栄養補給法を選択し、栄養管理を実施できるようになる。

研鑽力の内、探求力、自信創出力、洞察力を身に着けることができる。行動力の内、把握力、課題発見力、計画立案力、課題解決力を身に着けることができる。協働力の内、役割分担、信頼醸成、人間関係を構築する力の醸成に寄与することができる。

【授業の内容】

第1回 1) 心音・呼吸音の聴取、血圧測定、脈拍測定

2) 運動による血圧および心拍数の変化の測定

事後学修：実習のレポート、課題：①脈拍の異常をきたす疾患についてまとめて、鑑別できるように記載すること。②血圧の異常をきたす疾患についてまとめて、鑑別できるように記載すること。③身体運動についての事後学修は全体が終了してから行う。

第2回 1) 介護用品を用いた要介護者の給食の方法の理解

2) 経腸・経静脈栄養器具の使用法の理解

事後学修：実習のレポート、課題①栄養剤、②種々の栄養補給法の方法と適応、③種々の栄養剤法の利点と注意点

第3回 1) 尿検査

2) 血糖測定

事後学修：実習のレポート、課題①血糖値と尿糖の関係、②蛋白尿が現れる仕組みと疾患、③浸透圧とは(例を挙げて)、④酸化還元とNADの役割

第4回 末梢血中の血球数の測定および血液像の観察

事後学修：実習のレポート、課題①貧血の分類と特徴。特にヘマトクリットとの関係、②白血球の分類とそれぞれの働き、③白血球の増減および白血球分画の増減

第5回 皮下脂肪厚、上腕筋肉量、体脂肪率の測定

事後学修：実習のレポート、課題：①るいそうと肥満をきたす病態と原因、②栄養状態の把握法

第6回 HbA1cの測定

事後学修：実習のレポート、課題①糖尿病の検査と診断基準（GTT、GA、1・5AG含む）、②HbA1cについて（原理、管理基準（目標値）、血糖以外の変動要因、血糖値との解離等）

第7回 まとめ

身体測定結果についての分析と相関の解析：集計したデータの一覧はmanabaに掲載するので、それを用いて解析すること。

①V02maxと階段昇降のデータの比較と考察、②皮下脂肪厚、体組成計、および超音波Bモードのそれぞれデータから得られた体脂肪率についての比較と考察、③実身長・体重と推定身長・体重の比較と考察

【事前・事後学修】

・事前学修：履修した臨床栄養学について、栄養の評価法、補給法、管理法を復習しておくこと。

・事後学修：実習した内容について目的、方法、結果を記載して考察しレポートを作成する。考察では結果を述べるだけではなく、実験にあたっての仮説（予想）を立て、なぜそのような仮説を立てたか、結果は仮説と合致していたか、異なったならなぜそのような結果が出たのか考察すること。また、示された課題について調査し考

察すること。合わせて、1回当たり3時間を要する。

【テキスト・教材】

適宜、資料を配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（授業中の質疑応答、技術の習得、レポートおよび課題への取り組み）、試験50%。授業中のの質疑について解説を行う。課題とレポートは評価を付して返却する。

【参考書】

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養管理学総論』（中坊幸弘ら編、講談社）2600円

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養管理学各論』（寺本房子ら編、講談社）2600円

臨床栄養学実習 b

加藤 ティ

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

【授業のテーマ】

講義で学んだ臨床栄養学の知識をもとに献立を作成し、治療食を調整して理解を深める。病気にかかったときのからだの状態を理解し、その状態に合わせた食事、病気の回復を促進する食事について学ぶ。約束食事箋基準の考え方など臨床栄養を実践するために必要な内容を実習する。

【授業における到達目標】

栄養評価に基づく栄養ケアプランの作成を理解する。
代表的な病態食の約束食事箋基準を作成し、献立作成、調理を行う。
研鑽力、行動力、協働力を養う。

【授業の内容】

第1週 栄養評価 食事の聞き取りと栄養価計算
第2週 約束食事箋基準 食品構成作成
第3週 複数食種の献立（1）献立案
第4週 複数食種の献立（2）献立作成
第5週 複数食種の調理実習（1）
第6週 複数食種の献立（3）
第7週 複数食種の調理実習（2）
第8週 テーマ別調理実習 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回のテーマとなる疾患や病態、栄養管理について調べて理解しておく。

【事後学修】治療食献立について関連図書で調べ、食品や調理法の知識を増やす。

※各回の内容、理解度により事前・事後学修に要する時間は個々により異なる。授業に支障がないように各自取り組むこと。

【テキスト・教材】

日本標準食品成分表

黒川清：腎臓病食品交換表 第9版[医歯薬出版株式会社、¥1,300(税抜)、※出版社を問わない。 ※最新版を購入すること]

玉川和子他：臨床調理 第7版[医歯薬出版株式会社、¥2,400(税抜)、※最新版を購入すること]

日本糖尿病学会：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版[文光堂、¥900(税抜)、※最新版を購入すること]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%。フィードバック：試験は事後に解説、提出物はコメントを記入して返却。

【参考書】

宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円+税

宗像伸子編著『カラー版 一品料理500選 治療食への展開』（医歯薬出版株式会社）4800円+税

佐藤和人ほか編『エッセンシャル臨床栄養学』（医歯薬出版株式会社）3700円+税

【注意事項】

調理実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた場合、体調不良、化膿創がある場合は実習ができません。忘れ物に関して、研究室の貸し出しはありません。頭髪、化粧など実習にふさわしい身だしなみとする。実習着は指定されたものを着用する。その他、献立作成に必要な図書、資料を準備する。

臨床栄養学実習 b

松島 照彦・高橋 加代子

3年 通年 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

病院において実習を行い、実際の傷病者やそのデータに基づいて、病期・病態や栄養状態の把握と診断、特徴に応じた適正な栄養管理について学び、栄養スクリーニング・栄養アセスメントに基づいた栄養治療実施計画の作成・実践・実施・栄養評価などの総合的マネジメントの手法、考え方を学ぶ。病院における管理栄養士の役割、医療チームの中での管理栄養士の役割について学ぶ。

【授業における到達目標】

実践活動での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養い、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方など実践的能力を養う。

自ら学ぶ力、実行に移す力とともに、「協働力」のうち、互いを尊重して信頼を醸成することや状況に応じてリーダーシップを発揮する力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

1. 実習前学習
 - 1) 概要説明
 - 2) 心構え・諸注意・患者接遇
 - 3) 実習ノート作成の諸注意
 - 4) 実習目的の作成
 - 5) 個人課題の検討
 - 6) 医療機関における管理栄養士の使命と役割
 - 7) 診療報酬制度
 - 8) 傷病者の栄養ケアマネジメント
 - 9) チーム医療・多職種協働
 - 10) 傷病者への栄養教育①指導案作成
 - 11) 傷病者への栄養教育②媒体作成
 - 12) 傷病者への栄養教育③グループ発表
 - 13) 栄養・食事療法と栄養補給法
 - 14) 栄養ケアの記録
 - 15) まとめ
2. 臨地実習（医療機関・90時間）
 - 1) 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理
 - 2) チーム医療・多職種協働
 - 3) 栄養ケアプランの作成
 - 4) 栄養教育・栄養食事指導
 - 5) 栄養ケア記録の作成
 - 6) 栄養部門業務の全体把握
3. 実習後学習
 - 1) 臨地実習の振り返り
 - 2) 実習報告書の作成
 - 3) テーマ別学習①栄養食事指導
 - 4) テーマ別学習②入院患者の栄養管理
 - 5) テーマ別学習③栄養・食事療法と給食経営管理
 - 6) 実習報告会準備
 - 7) 実習報告会

【事前・事後学修】

【事前学修】 臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理について十分復習し、実習に臨む目的を明確にすること。また、実習中に取り組むべき課題を設定すること。（学修時間：週1時間）

【事後学修】 実習終了後は、実習内容を振り返り、実習報告会へ向けて資料作成を行うとともに、プレゼンテーションの方法について検討すること。（学修時間：週1時間）

【テキスト・教材】

臨地実習ノート・プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習先施設からの評価60%、実習報告書20%、平常点（授業態度・課題）20%

実習目的等の課題を添削し、コメントと共にフィードバックする。

【注意事項】

事前学習の状況（授業態度・課題等）によっては、病院実習を実施できないことがあります。

臨床栄養学実習 c

高橋 加代子

3年 集通 1単位

◎：行動力 ○：協働力

【授業のテーマ】

臨床栄養学実習 c では、臨床栄養学実習 b に続き、医療機関における臨地実習（45時間）を行う。

実践活動での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養い、チーム医療の必要性、管理栄養士と多職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方など実践的能力を養う。栄養の側面から、傷病者の病期・病態や栄養状態の特徴に応じた適正な栄養管理について学び、栄養スクリーニング・栄養アセスメントに基づいた栄養治療実施計画の作成・実践・実施・栄養評価などの総合的マネジメントの手法、考え方を学ぶ。

【授業における到達目標】

互いを尊重して信頼を醸成することや状況に応じてリーダーシップを発揮する力を身につける。

【授業の内容】

1. 実習前指導
 - 1) 実習施設別オリエンテーション
 - 2) 実習目的の作成
 - 3) 個人実習課題の検討
2. 臨地実習（医療機関・45時間）
 - 1) 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理
 - 2) チーム医療・多職種協働
 - 3) 栄養ケアプランの作成
 - 4) 栄養教育・栄養食事指導
 - 5) 栄養ケア記録の作成
 - 6) 栄養部門業務の全体把握
3. 実習後指導
 - 1) 実習報告書の作成
 - 2) 実習報告会

【事前・事後学修】

【事前学修】臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理について十分復習し、実習に臨む目的を明確にすること。また、実習中に取り組むべき課題を設定すること。（学修時間：週1時間）

【事後学修】実習終了後は、実習内容を振り返り、実習報告会へ向けて資料作成を行うとともに、プレゼンテーションの方法について検討すること。（学修時間：週1時間）

【テキスト・教材】

臨地実習ノート・プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習先施設からの評価60%、実習報告書20%、平常点（授業態度・課題）20%

実習目的等の課題を添削し、コメントと共にフィードバックする。

【参考書】

- 『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂）
- 『臨床検査ハンドブック』（医歯薬出版）
- 『臨床栄養学実習—フローチャートで学ぶ臨床栄養管理』（建帛社）
- 『すぐに使える栄養管理事例50疾病別栄養管理計画書の作り方』（日本医療企画）
- 『実践栄養管理パーフェクトマスター』（学研メディカル秀潤社）
- 『実践クリニカルニュートリション全身状態からみる栄養管理』（日本医療企画）
- 『検査値に基づいた栄養指導』（チーム医療）

【注意事項】

事前学習の状況（授業態度・課題等）によっては、病院実習を実施できないことがあります。

臨床栄養管理学

加藤 チイ

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

症例を通して臨床栄養の実際を学ぶ。各症例の体格、臨床データ、病態などの条件を考慮して算出した栄養量を食品として具体化し、実際に喫食できる献立を作成することを学習する

【授業における到達目標】

代表的な疾患と症例を通して「患者さんの身体はどのような栄養代謝状態であるか」について考えることができる。
各診療ガイドラインに沿った必要栄養量が算出できる。
病態に応じた目標栄養量を満たす食品構成、献立が作成できる。
栄養情報をまとめ、他者に伝えることができる。研鑽力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 食事評価（1）糖尿病食品交換表の活用
- 第2週 食事評価（2）腎臓病食品交換表の活用
- 第3週 栄養評価
- 第4週 易消化食（1）栄養量と食品構成
- 第5週 易消化食（2）献立作成
- 第6週 エネルギー・ナトリウム調整食（1）栄養量と食品構成
- 第7週 エネルギー・ナトリウム調整食（2）献立作成
- 第8週 たんぱく・ナトリウム調整食（1）栄養量と食品構成
- 第9週 たんぱく・ナトリウム調整食（2）献立作成
- 第10週 食事の聞き取りと記録
- 第11週 食事の聞き取りと改善案の作成
- 第12週 各病態食の調理のポイント
- 第13週 食生活支援の実際
- 第14週 食事療法に役立つ特殊食品
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】すでに学習した臨床栄養学関連科目を復習しておく。学習予定を確認し予習する。特に食品交換表（糖尿病、腎臓病）を使えるようにしておく（週2時間）。

【事後学修】各病態の栄養基準に合わせた栄養量の算出と食品構成、献立作成について復習する（週2時間）。

【テキスト・教材】

症例プリントを配布します。

2、3年次に使用した臨床栄養学のテキスト、食品交換表、食品成分表（必要時に指示します）。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題提出）50%、試験50%。

フィードバック：提出課題はコメントをつけ返却。試験得点分布傾向公開、問題解説。

【参考書】

宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円+税
月刊誌『Nutrition Care』（メディカ出版）1800円+税

【注意事項】

受け身でなく能動的に授業に臨んで下さい。臨床栄養管理の対象は「患者さん」であることを認識し、授業に参加すること。
ディスカッション、発表など能動的な学習を取り入れる。
学習の進行によって、内容を入れ替える場合があります。
計算が必須のため、食品成分表、電卓を持参する。シラバスを確認の上、交換表（糖尿病・腎臓病）など学習に必要な物を準備する。

臨床栄養管理学各論

高橋 加代子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

臨床栄養管理学各論では、傷病者や要支援者・要介護者を対象とした適切な栄養管理を理解し、疾患・病態や心身機能の特徴に基づいた具体的なマネジメント能力の習得を目標とする。

疾患別・ライフステージ別に適切な栄養管理や栄養・食事支援を行うためには、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理について学ぶことが必要である。それらを踏まえて、チーム医療での役割を理解し、臨床における栄養管理能力を培う。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」のうち、目標設定・計画立案を行う力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

1. 栄養ケアマネジメント
2. 栄養障害
3. 代謝疾患
4. 消化器疾患1（炎症性腸疾患）
5. 消化器疾患2（胆・肝・膵疾患）
6. 循環器疾患
7. 腎・尿路疾患
8. 感覚器・神経疾患
9. 血液系の疾患
10. がん
11. クリティカルケア
12. 摂食機能の障害
13. 口腔の状態とケア
14. ライフステージ別栄養管理
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。
(学修時間：週2時間)

【事後学修】授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること。
(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

- 腎臓病食品交換表[医歯薬出版(株)、2016、¥1,500(税抜)]
サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ—疾患・病態別—[第一出版、2016、¥2,100(税抜)]
糖尿病食事療法のための食品交換表[文光堂、2013、¥900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点(受講態度・課題)30%、で評価する。課題を確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

- 『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ』(第一出版)
『サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ解剖生理学・病理学』(第一出版)

臨床栄養管理学総論

高橋 加代子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

臨床栄養管理学総論では、傷病者や要支援者・要介護者の適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)を理解し、臨床における総合的なマネジメント能力の習得を目標とする。

傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理や栄養・食事支援を行うためには、医療・介護制度、栄養状態の具体的な評価・判定の方法、栄養補給方法、臨床における栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶことが必要である。それらを踏まえて、臨床における管理栄養士業務をとらえ、他の医療職種と連携できる能力を培う。

【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」のうち、目標設定・計画立案を行う力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

1. 職業倫理
2. 臨床栄養の概念1(意義と目的)
3. 臨床栄養の概念2(医療・介護制度、医療と臨床栄養)
4. 臨床検査
5. 傷病者の栄養スクリーニングと栄養アセスメント
6. 栄養アセスメントによる栄養必要量の算定
7. 栄養・食事療法と栄養補給法
8. 経口栄養補給法
9. 経腸栄養補給法
10. 静脈栄養補給法
11. 傷病者・要介護者への栄養教育
12. 臨床経過のモニタリングと再評価
13. 薬と栄養・食事の相互作用
14. 栄養ケアの記録
15. まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。
(学修時間：週2時間)

【事後学修】授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

- サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ—総論—[第一出版、2017、¥1,900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点(受講態度・課題)30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

【参考書】

- 『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ』(第一出版)
『臨床栄養学Ⅰ基礎編』(第一出版)
『栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養管理学総論』
(講談社サイエンティフィク)

臨床栄養管理実習

高橋 加代子

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ—総論—』（第一出版
2017年）本体1,900円『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ—疾患・病態別—』（第
一出版 2016年）本体2,100円**【注意事項】**実習に向けて、実践女子大学の学生らしく、誇りある態度で授業に
望んでください。**【授業のテーマ】**

臨床栄養管理実習では、傷病者や要支援者・要介護者の病態や栄養状態、摂食・嚥下機能に基づいた適正な栄養管理が実践できる能力を養う。適切な栄養・食事管理の実際を理解し、食事療法のための栄養成分コントロール食や摂食・嚥下機能に応じた食事形態の献立作成・管理のあり方について実習を通して習得する。また、関連職種と連携した栄養管理を行うための技術を培う。

【授業における到達目標】

校外実習時に求められる広い視野と深い洞察力などの基礎力を身につけるために、学生が習得すべき「行動力」を実習を通して養い、グループ単位での作業等により「協働力」を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

1. 栄養管理計画と経口栄養補給法
 - 1) 栄養補給法の選択
 - 2) 一般治療食・特別治療食
2. エネルギーコントロール食
 - 1) 適応疾患
 - 2) 栄養管理計画
 - 3) 献立作成・展開と調製
3. たんぱく質コントロール食
 - 1) 適応疾患
 - 2) 栄養管理計画
 - 3) 献立作成・展開と調製
4. 脂質コントロール食
 - 1) 適応疾患
 - 2) 栄養管理計画
 - 3) 献立作成・展開と調製
5. 嚥下食
 - 1) 適応疾患
 - 2) 栄養管理計画
 - 3) 調製・嚥下訓練・食事介助
6. 症例に基づく栄養管理プロセス
 - 1) 栄養管理プロセスの記録
 - 2) チーム医療におけるコミュニケーションスキル
 - 3) カンファレンスにおけるプレゼンテーション
7. 総合実習（まとめ）

【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。事前に提示する課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】指定した課題を提出すること。実習レポートを作成すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

腎臓病食品交換表[医歯薬出版(株)、2016、¥1,500(税抜)]
 栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント[医歯薬出版(株)、
 2017、¥2,700(税抜)]
 糖尿病食事療法のための食品交換表[文光堂、2013、¥900(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

本試験50%、平常点（レポート・課題、授業態度）50%で評価する。

提出された課題等の内容を確認後返却し、授業内で解説する。

【参考書】

『臨床栄養管理学実習』（講談社サイエンティフィク）
 『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版）
 『摂食・嚥下障害患者のリスクマネジメント』（中山書店）
 『検査値に基づいた栄養指導』（チーム医療）

臨床心理学

齋藤 順一

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

臨床心理学とは、心理的に不適応、不健康な状態について理解を深め、より適応的、健康な状態をもたらすための効果的な援助を目指して、科学的な研究、実践を行なっている学問です。心の問題を抱えた人への適切な援助のためには、様々な援助技法について知っているだけでなく、不適応的な臨床像についての知識を持つておくことも求められます。本講義では、臨床心理学における対象理解と援助の視点を養うことを目指します。

【授業における到達目標】

- ・心の状態について、正常と異常の基準について説明できる。
- ・様々な心の問題について概要を説明できる。
- ・臨床心理学における心の査定法や援助手法を理解している。

心の問題についての理解を深めることで、学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目指します。

【授業の内容】

第1週 ガイダンス：臨床心理学とは
 第2週 正常と異常の判断基準
 第3週 様々な心理アセスメント
 第4週 心理アセスメントの体験
 第5週 心の発達
 第6週 心の問題の理解① うつ病
 第7週 心の問題の理解② 統合失調症
 第8週 心の問題の理解③ 不安症
 第9週 心の問題の理解④ 心身症
 第10週 心の問題の理解⑤ パーソナリティ障害
 第11週 心の問題の理解⑥ 発達障害
 第12週 心理的援助の理論① 精神分析
 第13週 心理的援助の理論② クライアント中心療法
 第14週 心理的援助の理論③ 認知行動療法
 第15週 総括および達成度の確認

【事前・事後学修】

事前学修：次の授業で扱うテーマについて、関連書籍などにあたり、問題意識をもって授業に臨めるようにしておいてください。
 （学修時間 週2時間）
 事後学修：各回の授業内容および小テスト・小レポートを復習し、自分の言葉で説明できるように、内容の理解を深めておいてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストの指定はありません。
 必要な資料については授業中にプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（小テスト・小レポートなど）30%
 最終試験 70%
 小テスト・小レポートは次回授業時にフィードバックします。

【参考書】

下山晴彦（編）（2009）よくわかる臨床心理学（改定新版）ミネルヴァ書房

臨床心理学 1

五味 美奈子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

臨床心理学の成り立ち、歴史、実践の領域と内容を学んだ上で臨床心理学的支援を必要とする様々な心の問題・病気について学ぶことを目的とする。また、各発達段階における心の特徴と心の課題・問題について臨床心理学的な視点から学ぶことも目的とする。

【授業における到達目標】

臨床心理学で取り扱う心の問題、病気を正しく理解することを通して自己理解、他者理解を深め、周囲の人と共同し、豊かな人間関係を構築することができる。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 臨床心理学とは何か（理論と方法）
- 第2週 臨床心理学の実践の領域と内容
- 第3週 臨床心理学の歴史（米国における創始・日本における臨床心理学の歴史）
- 第4週 臨床心理学と主な心理学諸領域とのつながり
- 第5週 こころの問題・病気（1）不安障害
- 第6週 こころの問題・病気（2）統合失調症
- 第7週 こころの問題・病気（3）気分障害
- 第8週 こころの問題・病気（4）パーソナリティ障害
- 第9週 こころの問題・病気（5）物質関連障害
- 第10週 発達段階と心の課題・問題（1）乳幼児期
- 第11週 発達段階と心の課題・問題（2）学童期
- 第12週 発達段階と心の課題・問題（3）思春期・青年期
- 第13週 発達段階と心の課題・問題（4）成人期（外部講師を予定）
- 第14週 発達段階と心の課題・問題（5）老年期
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノート・配布プリント等を一読しておくこと（学修時間週2時間）。

事後学修：授業終了時に授業内容を振り返り考察、質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（60%）、平常点（授業への取り組み・提出物等）（40%）

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

【参考書】

改訂版臨床心理学概説 馬場禮子著（財団法人放送大学教育振興会）
 これからの心理臨床 杉山崇・前田泰宏・坂本真士（ナカニシヤ出版）

【注意事項】

外部から講師を招き講演を行うことを予定している（第13回）。

臨床心理学 2

五味 美奈子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

臨床心理学的援助の実際、様々な心理療法、臨床心理アセスメント等、心のケアの基本を学ぶことを目的とする。また、基本的な心理検査と使い方について体験を通して理解することにより、理論と実践を結びつける力を養う。

【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、知を探究し、学問を続けることを目標とする。学びを通して心の問題に対する様々な援助の方法を理解し、ひとりひとりに応じた援助の提供について探究し続ける力を修得する。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 臨床心理学的援助とは
- 第2週 心理療法の実践（心理療法の構造等）
- 第3週 精神分析的な心理療法
- 第4週 ユング派の心理療法
- 第5週 クライエント中心療法
- 第6週 行動療法
- 第7週 認知療法
- 第8週 遊戯療法
- 第9週 統合的心理療法
- 第10週 臨床心理アセスメント（1）アセスメント面接
- 第11週 臨床心理アセスメント（2）アセスメントのまとめ方・伝え方
- 第12週 臨床心理アセスメント（3）知能検査・質問紙法・作業検査法
- 第13週 臨床心理アセスメント（4）投映法（1）（ロールシャッハ・TAT・SCT）
- 第14週 臨床心理アセスメント（5）投映法（2）（描画法など）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノート・配布プリント等を一読しておくこと（学修時間週2時間）。

事後学修：授業終了時に授業内容の考察、質問等をリアクションペーパーに記入し、関連文献等を用いて調べる（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法・基準 試験（60%）、平常点（出席への取り組み・提出物等）（40%）

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問に答える。

【参考書】

改訂版臨床心理学概説 馬場禮子著（財団法人放送大学教育振興会）
 これからの心理臨床 杉山崇・前田泰宏・坂本真士（ナカニシヤ出版）

【注意事項】

外部講師による講演を予定している（第13回）。

臨床発達心理学 1

五味 美奈子

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

臨床発達心理学は「発達の観点を持ち、人や人を取り巻く環境と関わることを通して、人々が抱える問題にアプローチし、人の健やかな育ちを支援する」学問である。本科目では発達の基礎を踏まえた上でその多様性を理解し、さらに客観的な視点を持ち発達支援のニーズがある人に向き合う姿勢を学ぶ。

【授業における到達目標】

人について発達の観点から広い視野と洞察力を身に付けて本質を見つめる目を養う。授業のテーマを土台に、人の発達の各ステージにおいて求められる支援について現状を正しく把握し、課題を発見できる。

【授業の内容】

- 第1週 臨床発達心理学とは 臨床発達心理学における臨床の意味
- 第2週 臨床発達心理学における専門性、実践性、学際性
- 第3週 生涯発達 生まれて死ぬまでの人間の多様性
- 第4週 子どもが生まれるまで 胎生期、周産期
- 第5週 新生児期
- 第6週 発達アセスメントとは何か
- 第7週 乳児期前半の発達の特徴と実践上の留意点
- 第8週 乳児期後半の発達の特徴と実践上の留意点
- 第9週 幼児期前期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第10週 幼児期中期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第11週 幼児期後期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第12週 乳幼児期の発達の特徴と障害
- 第13週 児童期(小学校低学年)の特徴と発達障害
(外部から講師を招き講演を行うことを予定)
- 第14週 児童期(小学校中学年、高学年)から思春期へ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修:授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のノート、配布物等を一読しておくこと(学修時間2時間)

事後学修:授業終了時に授業内容を振り返り、考察や質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる(学修時間2時間)

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、平常点(授業への取り組み、提出物等)(40%)

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

【参考書】

臨床発達心理学の基礎 山崎昇・藤崎春代(ミネルヴァ書房)

臨床発達心理学 2

五味 美奈子

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

臨床発達心理学1で学んだことを踏まえ、臨床発達心理学と発達心理学の関係を理解し、臨床発達心理学の知見が保育・教育現場にどのように影響を与えているか具体的に学ぶ。特別な支援を必要とする人の現状を把握し、問題解決に向けたアセスメント、支援について理解を深める。

【授業における到達目標】

臨床発達心理学的支援のプロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができるよう努める。臨床発達心理学的支援を必要とする側、支援する側、さらにその周囲の人や環境も含めて捉えることができるよう、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

- 第1週 臨床発達心理学と発達心理学の関係
- 第2週 発達アセスメントと支援を考える 乳幼児期
- 第3週 発達アセスメントと支援を考える 学童期
- 第4週 特別支援が必要な子ども達の発達とアセスメント
- 第5週 発達障害 知的障害がある子ども達の発達
- 第6週 発達障害 知的障害があることも達の支援
- 第7週 発達障害 自閉症スペクトラム症の発達
- 第8週 発達障害 自閉症スペクトラム症の支援
- 第9週 発達障害 注意欠陥多動性症の発達
- 第10週 発達障害 注意欠陥多動性症の支援
- 第11週 限局性学習症の発達と支援
- 第12章 コミュニケーション、心の理解の発達と支援
- 第13章 育児・保育現場における支援(親の心理を理解する)
(外部からの講師を招き講演を行うことを予定)
- 第14章 育児・保育現場における支援(幼稚園・保育所への支援)
- 第15章 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修:授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のノート、配布資料等を一読しておくこと(学修時間2時間)

事後学修:授業終了時に授業内容を振り返り、考察、質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる(学修時間2時間)

【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、平常点(授業への取り組み、提出物等)(40%)

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

【参考書】

シリーズ臨床発達心理学・実践と理論(全5巻)日本臨床発達心理士会 企画/監修 ミネルヴァ書房
杉山崇『子どもの行動が気になり始めたなら読む本』誠信書房

礼法 a

—美しい大人の女性の所作を学ぶ—

永井 とも子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

日本の儀礼（礼法）の歴史から明治以前（左上位）以後（右上位）、公家と武家の行事、作法のちがいを理解し、社会生活に対応できる基礎的な美しい所作（立居ふるまい）を徹底して身につけ「品格をそなえた大人の女性」をめざすことを目標にする。

【授業における到達目標】

（1）日本の儀礼（礼法）の流れを理解し今後の実社会の行動に役立つようにする。（2）礼法の体験を通じて、物事の真理を探究する態度の基礎を作り、日本の礼法から世界の礼法（国際儀礼＝プロトコル）へと目を向け、国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 日本の礼法とは
- 第2週 日本の儀礼（礼法）の移り変わり
- 第3週 礼法（立ち居ふるまい）の必要性と表現方法
- 第4週 国際儀礼（プロトコル）とは
- 第5週 美しい所作の基本1
「立ち方」「お辞儀の仕方」「歩き方」「座り方」
「笑顔の作り方」
- 第6週 ビジネスでの作法
「名刺の交換」「エレベータ・ドア開閉」
「着座・お茶のいただき方」「車の乗降」
- 第7週 日本の和室の決まり
「上座・下座」「玄関での心得」「はきもののあつかい」
- 第8週 美しい所作の基本2
「座礼」「方向転換・足の運び」「物の受け渡し・あつかい」
- 第9週 和食の作法1
「和食の作法の特徴」「箸の知識とあつかい」
- 第10週 和食の作法2
「食事のいただき方」
- 第11週 洋食の作法
「着席の仕方」「ナプキンのあつかい」
「ナイフ・フォークの基本」
- 第12週 冠婚葬祭の作法
- 第13週 折形
「折形とは」「折形の種類」「かいしき・吉と凶の作成」
- 第14週 総括・礼法のチェックポイント
- 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

〈事前学修〉毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習しておくこと。（30分～1時間）

〈事後学修〉授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

【テキスト・教材】

適宜プリント配布、DVD視聴
テキスト 永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」（ヒーロー出版）1800円＋税。詳細は開講時に説明

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60% レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

礼法 a

—美しい大人の女性の所作を学ぶ—

永井 とも子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

日本の儀礼（礼法）の歴史から明治以前（左上位）以後（右上位）、公家と武家の行事、作法のちがいを理解し、社会生活に対応できる基礎的な美しい所作（立居ふるまい）を徹底して身につけ「品格をそなえた大人の女性」をめざすことを目標にする。

【授業における到達目標】

（1）日本の儀礼（礼法）の流れを理解し今後の実社会の行動に役立つようにする。（2）礼法の体験を通じて、物事の真理を探究する態度の基礎を作り、日本の礼法から世界の礼法（国際儀礼＝プロトコル）へと目を向け、国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 日本の礼法とは
 第2週 日本の儀礼（礼法）の移り変わり
 第3週 礼法（立ち居ふるまい）の必要性と表現方法
 第4週 国際儀礼（プロトコル）とは
 第5週 美しい所作の基本1
 「立ち方」「お辞儀の仕方」「歩き方」「座り方」
 「笑顔の作り方」
 第6週 ビジネスでの作法
 「名刺の交換」「エレベータ・ドア開閉」
 「着座・お茶のいただき方」「車の乗降」
 第7週 日本の和室の決まり
 「上座・下座」「玄関での心得」「はきもののあつかい」
 第8週 美しい所作の基本2
 「座礼」「方向転換・足の運び」「物の受け渡し・あつかい」
 第9週 和食の作法1
 「和食の作法の特徴」「箸の知識とあつかい」
 第10週 和食の作法2
 「食事のいただき方」
 第11週 洋食の作法
 「着席の仕方」「ナプキンのあつかい」
 「ナイフ・フォークの基本」
 第12週 冠婚葬祭の作法
 第13週 折形
 「折形とは」「折形の種類」「かいしき・吉と凶の作成」
 第14週 総括・礼法のチェックポイント
 第15週 まとめ・総括

【事前・事後学修】

〈事前学修〉毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習しておくこと。（30分～1時間）

〈事後学修〉授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

【テキスト・教材】

適宜プリント配布、DVD視聴
 テキスト 永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」（ヒーロー出版）1800円＋税。詳細は開講時に説明

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60% レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

礼法 b

—日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）—

永井 とも子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）を比較しながら「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、グローバル化された社会生活に対応できる基礎的マナー（エチケット）力をつける、キャリア形成に役立てる、を目標にする。

【授業における到達目標】

（1）日本と世界の儀礼を比較、理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。

（2）伝統文化とプロトコールの体験を通じて、物事の真理を探究する態度・国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 日本の礼法・国際儀礼（プロトコール）とは
- 第2週 日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）の違い
- 第3週 礼法（作法）・プロトコールの必要性和表現方法
- 第4週 紹介の意義
- 第5週 自己紹介
- 第6週 名刺とは
- 第7週 乗り物の注意点
- 第8週 テーブルプランとは
- 第9週 テーブルプランの実践
- 第10週 日本の和室の決まり
- 第11週 テーブルセッティング
- 第12週 和食器のセッティング
- 第13週 ビジネスにおける食事
- 第14週 総括・プロトコールチェックポイント
- 第15週 まとめ・総括

◎2週～14週まで人前での立ち姿・所作

話し方までの指導付加

◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

【事前・事後学修】

〈事前学修〉毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習しておくこと。（30分～1時間）

〈事後学修〉授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

【テキスト・教材】

永井とも子著：儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く[ヒーロー出版、¥1,800(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

礼法 b

—日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）—

永井 とも子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

【授業のテーマ】

日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）を比較しながら「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、グローバル化された社会生活に対応できる基礎的マナー（エチケット）力をつける、キャリア形成に役立てる、を目標にする。

【授業における到達目標】

(1) 日本と世界の儀礼を比較、理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。

(2) 伝統文化とプロトコールの体験を通じて、物事の真理を探究する態度・国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

【授業の内容】

- 第1週 日本の礼法・国際儀礼（プロトコール）とは
- 第2週 日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）の違い
- 第3週 礼法（作法）・プロトコールの必要性和表現方法
- 第4週 紹介の意義
- 第5週 自己紹介
- 第6週 名刺とは
- 第7週 乗り物の注意点
- 第8週 テーブルプランとは
- 第9週 テーブルプランの実践
- 第10週 日本の和室の決まり
- 第11週 テーブルセッティング
- 第12週 和食器のセッティング
- 第13週 ビジネスにおける食事
- 第14週 総括・プロトコールチェックポイント
- 第15週 まとめ・総括

◎2週～14週まで人前での立ち姿・所作

話し方までの指導付加

◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

【事前・事後学修】

〈事前学修〉毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習をしておくこと。（30分～1時間）

〈事後学修〉授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

【テキスト・教材】

適宜プリント配布、DVD視聴

テキスト 仙石宗久著

「NIVEAU ELEMENTAIRE DETIQUETTE ET DE PROTOCOLE」2000円

永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」

（ヒーロー出版）1800円＋税

詳細は開講時に説明

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

労働法

清水 弥生

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、最高裁判例や最新判例を通じて、労働法の基本的な知識と流れを身につけます。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

道幸哲也他：18歳から考えるワークルール（第2版）[法律文化社、2018、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。毎回のフィードバックシート20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【参考書】

厚生労働省の白書や統計をういます。

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。

労働法

清水 弥生

2～3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、最高裁判例や最新判例を通じて、労働法の基本的な知識と流れを身につけます。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

道幸哲也他：18歳から考えるワークルール（第2版）[法律文化社、2018、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。毎回のフィードバックシート20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【参考書】

厚生労働省の白書や統計をういます。

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。

労働法

清水 弥生

2・3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

【授業のテーマ】

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、最高裁判例や最新判例を通じて、労働法の基本的な知識と流れを身につけます。

【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間週2時間）

【テキスト・教材】

道幸哲也他：18歳から考えるワークルール（第2版）[法律文化社、2018、¥2,300(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。毎回のフィードバックシート20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

【参考書】

厚生労働省の白書や統計を用います。

【注意事項】

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。

和食の文化

一生の栄養学と健康の意味を考える

関 登実子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

【授業のテーマ】

生涯における食物の選択と健康について考え、自分自身の生活のなかで実践できるようにします。

【授業における到達目標】

日本の食事が社会や自然のなかで成立した現状を国際的視野からとらえ、感受性を深めようとする態度を育てます。見た目の華やかさではなく、実践的な美の探究をはかります。

世界の食事と日本食の違いを知り、いろいろな環境下にある人々との交流ができるように食事をとらえます。

【授業の内容】

- 第1週 からだにとって良い食事と栄養とは。
食習慣をチェックし問題点を見つける。
- 第2週 健康維持のための適切な食生活とは。
- 第3週 栄養素の基礎知識（1）炭水化物、脂質、たんぱく質
- 第4週 栄養素の基礎知識（2）ビタミン、ミネラル
- 第5週 栄養学の基礎知識 栄養素の消化と吸収
- 第6週 美しい体作りと食事 学生が表題にふさわしいと思われる献立をたて発表等のパフォーマンスを含め評価をする。
特別講師 初風緑氏の講義・質疑を予定
- 第7週 情報検索（1）インターネットを使ってみよう。
- 第8週 情報検索（2）情報の信頼性を討議する。
- 第9週 病気を予防する。食品の表示とは。
- 第10週 食事療法とは。美容と健康のための食事とは。
- 第11週 情報検索（3）介護食とは。
- 第12週 演習（1）課題発表と評価。
研究課題を決め、プレゼンテーションを実施。受講者全員が相互評価をすることにより、プレゼンテーション力の向上をはかる。
- 第13週 演習（2）課題発表と評価。
- 第14週 演習（3）課題発表と評価。
- 第15週 小テストおよび総括。

【事前・事後学修】

- ・事前学修：レポート・発表課題への取り組み。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：他の人々の発表を聞いての評価。次回の予習と専門用語の理解をする。質問を準備する。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

本多京子：『図解でわかる体にいい食事と栄養の教科書[永岡書店、2015、¥1,650(税抜)]

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、毎回の提出課題40%、課題発表40%
毎回の課題は次回授業でフィードバックする。小テストは終了後解説を実施。

【参考書】

大久保洋子ほか著「日本の食文化—和食の継承と食育」（アイ・ケーコーポレーション2017年）2500円

【注意事項】

心身ともに健康であり、一生涯の美しさをめざし、より良い食生活を送るための努力をしたいとの情熱をもって授業に臨むこと。
毎時間のレポート課題および発表あり。